

改訂一覧は改訂箇所をまとめたものであり、
詳細については必ず本文の内容をご確認ください。

SH72546R

ユーザーズマニュアル ハードウェア編

ルネサス 32 ビット RISC マイクロコンピュータ
SuperH™ RISC engine ファミリ

SH72546R R5F72546RKBGV

ご注意書き

1. 本資料に記載された回路、ソフトウェアおよびこれらに関連する情報は、半導体製品の動作例、応用例を説明するものです。お客様の機器・システムの設計において、回路、ソフトウェアおよびこれらに関連する情報を使用する場合には、お客様の責任において行ってください。これらの使用に起因して、お客様または第三者に生じた損害に関し、当社は、一切その責任を負いません。
2. 本資料に記載されている情報は、正確を期すため慎重に作成したのですが、誤りがないことを保証するものではありません。万一、本資料に記載されている情報の誤りに起因する損害がお客様に生じた場合においても、当社は、一切その責任を負いません。
3. 本資料に記載された製品データ、図、表、プログラム、アルゴリズム、応用回路例等の情報の使用に起因して発生した第三者の特許権、著作権その他の知的財産権に対する侵害に関し、当社は、何らの責任を負うものではありません。当社は、本資料に基づき当社または第三者の特許権、著作権その他の知的財産権を何ら許諾するものではありません。
4. 当社製品を改造、改変、複製等しないでください。かかる改造、改変、複製等により生じた損害に関し、当社は、一切その責任を負いません。
5. 当社は、当社製品の品質水準を「標準水準」および「高品質水準」に分類しており、各品質水準は、以下に示す用途に製品が使用されることを意図しております。

標準水準： コンピュータ、OA 機器、通信機器、計測機器、AV 機器、
家電、工作機械、パーソナル機器、産業用ロボット等

高品質水準： 輸送機器（自動車、電車、船舶等）、交通用信号機器、
防災・防犯装置、各種安全装置等

当社製品は、直接生命・身体に危害を及ぼす可能性のある機器・システム（生命維持装置、人体に埋め込み使用するもの等）、もしくは多大な物的損害を発生させるおそれのある機器・システム（原子力制御システム、軍事機器等）に使用されることを意図しておらず、使用することはできません。たとえ、意図しない用途に当社製品を使用したことによりお客様または第三者に損害が生じても、当社は一切その責任を負いません。なお、ご不明点がある場合は、当社営業にお問い合わせください。

6. 当社製品をご使用の際は、当社が指定する最大定格、動作電源電圧範囲、放熱特性、実装条件その他の保証範囲内でご使用ください。当社保証範囲を超えて当社製品をご使用された場合の故障および事故につきましては、当社は、一切その責任を負いません。
7. 当社は、当社製品の品質および信頼性の向上に努めていますが、半導体製品はある確率で故障が発生したり、使用条件によっては誤動作したりする場合があります。また、当社製品は耐放射線設計については行っておりません。当社製品の故障または誤動作が生じた場合も、人身事故、火災事故、社会的損害等を生じさせないよう、お客様の責任において、冗長設計、延焼対策設計、誤動作防止設計等の安全設計およびエンジニアリング処理等、お客様の機器・システムとしての出荷保証を行ってください。特に、マイコンソフトウェアは、単独での検証は困難なため、お客様の機器・システムとしての安全検証をお客様の責任で行ってください。
8. 当社製品の環境適合性等の詳細につきましては、製品個別に必ず当社営業窓口までお問合せください。ご使用に際しては、特定の物質の含有・使用を規制する RoHS 指令等、適用される環境関連法令を十分調査のうえ、かかる法令に適合するようご使用ください。お客様がかかる法令を遵守しないことにより生じた損害に関して、当社は、一切その責任を負いません。
9. 本資料に記載されている当社製品および技術を国内外の法令および規則により製造・使用・販売を禁止されている機器・システムに使用することはできません。また、当社製品および技術を大量破壊兵器の開発等の目的、軍事利用の目的その他軍用用途に使用しないでください。当社製品または技術を輸出する場合は、「外国為替及び外国貿易法」その他輸出関連法令を遵守し、かかる法令の定めるところにより必要な手続を行ってください。
10. お客様の転売等により、本ご注意書き記載の諸条件に抵触して当社製品が使用され、その使用から損害が生じた場合、当社は何らの責任も負わず、お客様にてご負担して頂きますのでご了承ください。
11. 本資料の全部または一部を当社の文書による事前の承諾を得ることなく転載または複製することを禁じます。

注 1. 本資料において使用されている「当社」とは、ルネサス エレクトロニクス株式会社およびルネサス エレクトロニクス株式会社とその総株主の議決権の過半数を直接または間接に保有する会社をいいます。

注 2. 本資料において使用されている「当社製品」とは、注 1 において定義された当社の開発、製造製品をいいます。

製品に関する一般的注意事項

1. NC 端子の処理

【注意】NC 端子には、何も接続しないようにしてください。

NC(Non-Connection)端子は、内部回路に接続しない場合の他、テスト用端子やノイズ軽減などの目的で使用します。このため、NC 端子には、何も接続しないようにしてください。接続された場合については保証できません。

2. 未使用入力端子の処理

【注意】未使用の入力端子はハイまたはローレベルに固定してください。

CMOS 製品の入力端子は、一般にハイインピーダンス入力となっています。未使用端子を開放状態で動作させると、周辺ノイズの誘導により中間レベルが発生し、内部で貫通電流が流れて誤動作を起こす恐れがあります。未使用の入力端子は、ハイまたはローレベルに固定してください。

3. 初期化前の処置

【注意】電源投入時は、製品の状態は不定です。

すべての電源に電圧が印加され、リセット端子にローレベルが入力されるまでの間、内部回路は不確定であり、レジスタの設定や各端子の出力状態は不定となります。この不定状態によってシステムが誤動作を起こさないようにシステム設計を行ってください。リセット機能を持つ製品は、電源投入後は、まずリセット動作を実行してください。

4. 未定義・リザーブアドレスのアクセス禁止

【注意】未定義・リザーブアドレスのアクセスを禁止します。

未定義・リザーブアドレスは、将来の機能拡張用の他、テスト用レジスタなどが割り付けられている場合があります。これらのレジスタをアクセスしたときの動作および継続する動作については、保証できませんので、アクセスしないようにしてください。

5. 各レジスタリザーブビットの読み出し／書き込み

各モジュールで使用されるレジスタのリザーブビットは、その説明記述中に読み出し／書き込み値の指定が特にない限り以下のように取り扱ってください。

読み出すと常に0が読み出されます。書き込む場合は、0を書き込むか、直前に読み出した値を書き込むかいずれかにしてください。

直前に読み出した値を書き込むようにしておくと、将来このビットに拡張機能を割り当てることがある場合、その拡張機能に影響を与えない利点があります。

本書の構成

本書は、以下の構成で制作しています。

1. 製品に関する一般的注意事項
2. 本書の構成
3. はじめに
4. 目次
5. 概要
6. 各機能モジュールの説明
 - CPUおよびシステム制御系
 - 内蔵周辺モジュール

各モジュールの機能説明の構成は、モジュールごとに異なりますが、一般的には、
①特長、②入出力端子、③レジスタの説明、④動作説明、⑤使用上の注意事項、
等の節で構成されています。

本 LSI を用いた応用システムを設計する際、注意事項を十分確認のうえ設計してください。
各章の本文中には説明に対する注意事項、各章の最後には使用上の注意事項があります。
必ずお読みください（使用上の注意事項は必要により記載されます）。

7. レジスタ一覧
8. 電気的特性
9. 付録
 - 製品型名、外形寸法図など
10. 索引

はじめに

本 LSI は、ルネサスオリジナルの RISC 方式の CPU をコアにして、システム構成に必要な周辺機能を集積した RISC マイコンです。

対象者 本マニュアルは、本 LSI を用いた応用システムを設計するユーザを対象としています。本マニュアルを使用される読者には、電気回路、論理回路、およびマイクロコンピュータに関する基本的な知識を必要とします。

目的 本マニュアルは、本 LSI のハードウェア機能と電気的特性をユーザに理解していただくことを目的としています。

読み方

- 機能全体を理解しようとするとき

→ 目次に従って読んでください。

本書は、大きく分類すると、CPU、システム制御機能、周辺機能、電気的特性の順に構成されています。

- CPU機能の詳細を理解したいとき

→ 別冊の「SH-2A、SH2A-FPU ユーザーズマニュアル ソフトウェア編」を参照してください。

- レジスタ名がわかっていて、詳細機能を知りたいとき

→ 本書の後ろに、「索引」があります。索引からページ番号を検索してください。

「第31章 レジスター一覧」にアドレス、ビット内容、初期化についてまとめています。

- 凡例

本マニュアルで使用するレジスタ名やビット名、数字や記号の表記の凡例を以下に説明します。

(1) レジスタの表記

同一または類似した機能が複数チャンネルに存在する場合に、レジスタ名_チャンネル番号、の表記を使用します。

(例) CMCSR_0

(2) ビットの表記

本文中に記載されているビット名は、左側が上位ビット、右側が下位ビットの順になります。

(例) CKS1、CKS0

(3) 数字の表記

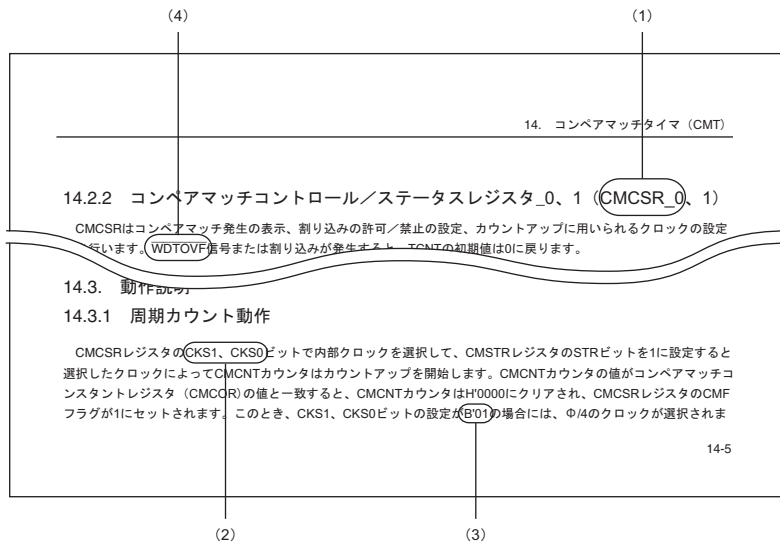
2進数はB'xxxxまたはxxxx、16進数はH'xxxx、10進数はxxxxで表します。

(例) B'11または11、H'EFA0、1234

(4) 記号の表記

ローアクティブの信号にはオーバーバーを付けています。

(例) $\overline{\text{WDTOVF}}$



【注】 上記した図中のビット名や文章は例であり、本マニュアルの内容とは関係がありません。

● ビット図とビット表の表記

各レジスタの説明には、ビットの並びを示すビット図とビットに設定する内容を説明するビット表があります。

(1) ビット

ビット番号を示します。

32ビットレジスタの場合は31から0の順に、16ビットレジスタの場合は15から0の順に示します。

(2) ビット名

レジスタのビット名またはフィールド名を示します。

フィールドでビット桁数を明示する必要があるときは、ASID[3:0]というように桁数の表記を追加します。

また、リザーブビットの場合は「-」と表記します。

ただし、タイムカウンタなどははじめとして、ビット名の記載をせずに空白のままとしているものもあります。

(3) 初期値

各ビットのパワーオンリセット後の値を初期値として示します。

0 : 初期値は0であることを示します。

1 : 初期値は1であることを示します。

- : 初期値は不定であることを示します。

(4) R/W

各ビットが読み出し可能か、書き込み可能か、または書き込みも読み出しも不可であることを示します。

使用する表記を以下に説明します。

R/W : 読み出しおよび書き込みが可能なビットまたはフィールドです。

R(W) : 読み出しおよび書き込みが可能なビットまたはフィールドです。

ただし書き込みは、フラグをクリアするための書き込みのみ可能です。

R : 読み出しが可能なビットまたはフィールドです。

ただし、リザーブビットはすべて「R」と表記します。書き込む必要がある場合は、

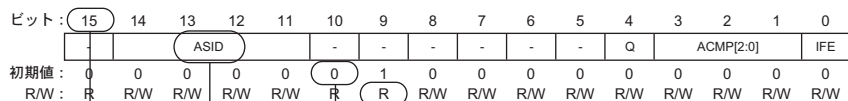
ビット表で指定された値または初期値を書き込んでください。

W : 書き込みが可能なビットまたはフィールドです。

ただし、読み出すときの値は、ビット表に記載してある場合以外は保証されません。

(5) 説明

ビットを設定することで可能となる機能について説明しています。



ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15	-	0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。
14~11	ASID	0000	R/W	アドレス識別子 端子機能の有効/無効を設定できます。
10	-	0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。
9	-	1	R	リザーブビット 読み出すと常に1が読み出されます。
-	-	0		

【注】 上記した図中のビット名や文章は例であり、本マニュアルの内容とは関係がありません。

すべての商標および登録商標は、それぞれの所有者に帰属します。

目次

1. 概要	1-1
1.1 SH72546Rの特長	1-1
1.2 ブロック図	1-9
1.3 端子説明	1-10
1.3.1 ピン配置	1-10
1.3.2 端子機能	1-11
1.3.3 端子一覧	1-19
2. CPU	2-1
2.1 データフォーマット	2-1
2.2 レジスタ構成	2-1
2.2.1 汎用レジスタ	2-1
2.2.2 コントロールレジスタ	2-2
2.2.3 システムレジスタ	2-4
2.2.4 浮動小数点レジスタ	2-5
2.2.5 浮動小数点システムレジスタ	2-6
2.2.6 レジスタバンク	2-7
2.2.7 レジスタの初期値	2-8
2.3 データ形式	2-9
2.3.1 レジスタのデータ形式	2-9
2.3.2 メモリのデータ形式	2-9
2.3.3 イミディエイトデータのデータ形式	2-10
2.4 命令の特長	2-11
2.4.1 RISC 方式	2-11
2.4.2 アドレッシングモード	2-15
2.4.3 命令形式	2-19
2.5 命令セット	2-23
2.5.1 分類順命令セット	2-23
2.5.2 データ転送命令	2-28
2.5.3 算術演算命令	2-31
2.5.4 論理演算命令	2-33
2.5.5 シフト命令	2-34
2.5.6 分岐命令	2-35
2.5.7 システム制御命令	2-36
2.5.8 浮動小数点演算命令	2-37

2.5.9	FPUに関するCPU命令.....	2-39
2.5.10	ビット操作命令.....	2-39
2.6	処理状態.....	2-41
3.	動作モード.....	3-1
3.1	動作モードの種類と選択.....	3-1
4.	クロック発振器 (CPG).....	4-1
4.1	概要.....	4-1
4.2	入出力端子.....	4-2
4.3	周波数範囲とクロック選択.....	4-3
4.4	クロックソース.....	4-4
4.4.1	水晶発振子の接続方法.....	4-4
4.4.2	外部クロックの入力方法.....	4-5
4.5	使用上の注意事項.....	4-6
4.5.1	ボード設計上の注意.....	4-6
4.5.2	PLL 発振器用電源接続時の注意.....	4-6
5.	アドレス空間.....	5-1
6.	リセット.....	6-1
6.1	リセット動作.....	6-1
6.1.1	電源投入時のリセット.....	6-2
6.1.2	動作中のリセット.....	6-2
6.1.3	リセット時の内蔵RAMデータ保持.....	6-2
6.2	リセット解除時の内部状態.....	6-3
7.	例外処理.....	7-1
7.1	概要.....	7-1
7.1.1	例外処理の種類と優先順位.....	7-1
7.1.2	例外処理の動作.....	7-2
7.1.3	例外処理ベクタテーブル.....	7-4
7.2	リセット.....	7-6
7.2.1	リセットの種類.....	7-6
7.2.2	パワーオンリセット.....	7-6
7.3	アドレスエラー.....	7-8
7.3.1	アドレスエラー発生要因.....	7-8
7.3.2	アドレスエラー例外処理.....	7-9
7.4	レジスタバンクエラー.....	7-10
7.4.1	レジスタバンクエラー発生要因.....	7-10
7.4.2	レジスタバンクエラー例外処理.....	7-10

7.5	割り込み	7-11
7.5.1	割り込み要因	7-11
7.5.2	割り込み優先順位	7-12
7.5.3	割り込み例外処理	7-13
7.6	命令による例外	7-14
7.6.1	命令による例外の種類	7-14
7.6.2	トラップ命令	7-14
7.6.3	スロット不当命令	7-15
7.6.4	一般不当命令	7-15
7.6.5	整数除算例外	7-15
7.6.6	FPU 例外	7-16
7.7	例外処理が受け付けられない場合	7-17
7.8	例外処理後のスタックの状態	7-18
7.9	使用上の注意事項	7-19
7.9.1	スタックポインタ (SP) の値	7-19
7.9.2	ベクタベースレジスタ (VBR) の値	7-19
7.9.3	アドレスエラー例外処理のスタッキングで発生するアドレスエラー	7-19
8.	割り込みコントローラ (INTC)	8-1
8.1	特長	8-1
8.2	入出力端子	8-3
8.3	レジスタの説明	8-4
8.3.1	割り込み優先レベル設定レジスタ 01~29 (IPR01~IPR29)	8-6
8.3.2	割り込みコントロールレジスタ 0 (ICR0)	8-8
8.3.3	割り込みコントロールレジスタ 1 (ICR1)	8-9
8.3.4	IRQ 割り込み要求レジスタ (IRQRR)	8-10
8.3.5	バンクコントロールレジスタ (IBCR)	8-11
8.3.6	バンク番号レジスタ (IBNR)	8-12
8.3.7	ソフトウェア割り込みレジスタ 1~15 (SINTR1~SINTR15)	8-13
8.4	割り込み要因	8-14
8.4.1	NMI 割り込み	8-14
8.4.2	ユーザブレイク割り込み	8-14
8.4.3	IRQ 割り込み	8-14
8.4.4	メモリエラー割り込み	8-15
8.4.5	ソフトウェア割り込み (SINT)	8-15
8.4.6	内蔵周辺モジュール割り込み	8-15
8.5	割り込み例外処理ベクタテーブルと優先順位	8-16
8.6	動作説明	8-25
8.6.1	割り込み動作の流れ	8-25
8.6.2	割り込み例外処理終了後のスタックの状態	8-27
8.7	割り込み応答時間	8-28

8.8	レジスタバンク	8-33
8.8.1	バンクの対象レジスタと入出力方式	8-33
8.8.2	バンク退避、復帰の動作	8-34
8.8.3	すべてのバンクに退避が行われた状態での退避、復帰	8-36
8.8.4	レジスタバンクの例外	8-37
8.8.5	レジスタバンクエラー例外処理	8-37
8.9	割り込み要求信号によるデータ転送	8-38
8.9.1	割り込み要求信号を CPU の割り込み要因とし、DMAC の起動要因としない場合	8-39
8.9.2	割り込み要求信号を DMAC の起動要因とし、CPU の割り込み要因としない場合	8-39
8.9.3	割り込み要求信号を A-DMAC の起動要因とし、CPU の割り込み要因としない場合	8-40
8.10	使用上の注意事項	8-41
8.10.1	割り込み要因クリアのタイミング	8-41
9.	ユーザブレイクコントローラ (UBC)	9-1
9.1	特長	9-1
9.2	入出力端子	9-3
9.3	レジスタの説明	9-4
9.3.1	ブレイクアドレスレジスタ_0 (BAR_0)	9-4
9.3.2	ブレイクアドレスマスクレジスタ_0 (BAMR_0)	9-5
9.3.3	ブレイクバスサイクルレジスタ_0 (BBR_0)	9-6
9.3.4	ブレイクアドレスレジスタ_1 (BAR_1)	9-8
9.3.5	ブレイクアドレスマスクレジスタ_1 (BAMR_1)	9-9
9.3.6	ブレイクバスサイクルレジスタ_1 (BBR_1)	9-10
9.3.7	ブレイクアドレスレジスタ_2 (BAR_2)	9-11
9.3.8	ブレイクアドレスマスクレジスタ_2 (BAMR_2)	9-12
9.3.9	ブレイクバスサイクルレジスタ_2 (BBR_2)	9-13
9.3.10	ブレイクアドレスレジスタ_3 (BAR_3)	9-15
9.3.11	ブレイクアドレスマスクレジスタ_3 (BAMR_3)	9-16
9.3.12	ブレイクバスサイクルレジスタ_3 (BBR_3)	9-17
9.3.13	ブレイクコントロールレジスタ (BRCR)	9-19
9.4	動作説明	9-22
9.4.1	ユーザブレイク動作の流れ	9-22
9.4.2	命令フェッチサイクルでのブレイク	9-23
9.4.3	データアクセスサイクルでのブレイク	9-24
9.4.4	退避されるプログラムカウンタの値	9-25
9.4.5	使用例	9-25
9.5	使用上の注意事項	9-28
10.	バスステートコントローラ (BSC)	10-1
10.1	特長	10-1
10.2	入出力端子	10-3

10.3	エリアの概要	10-4
10.3.1	アドレスマップ	10-4
10.3.2	動作モードと CS0 空間のデータバス幅	10-6
10.4	レジスタの説明	10-7
10.4.1	CSn 空間バスコントロールレジスタ (CSnBCR) (n=0~3)	10-7
10.4.2	CSn 空間ウェイトコントロールレジスタ (CSnWCR) (n=0~3)	10-10
10.5	動作説明	10-14
10.5.1	エンディアン/アクセスサイズとデータアライメント	10-14
10.5.2	外部空間インタフェース	10-15
10.5.3	アクセスウェイト制御	10-21
10.5.4	$\overline{\text{CSn}}$ アサート期間拡張	10-23
10.5.5	バイト選択付き SRAM インタフェース	10-24
10.5.6	アクセスサイクル間アイドル	10-29
10.5.7	その他	10-31
10.6	SRAMアクセスタイミング	10-32
10.6.1	標準的な SRAM	10-32
10.6.2	バイト選択付き SRAM (BAS=0)	10-32
10.6.3	バイト選択付き SRAM (BAS=1)	10-32
11.	ダイレクトメモリアクセスコントローラ (DMAC)	11-1
11.1	特長	11-1
11.2	レジスタの説明	11-4
11.2.1	DMA ソースアドレスレジスタ 0~7 (SAR0~SAR7)	11-8
11.2.2	DMA デスティネーションアドレスレジスタ 0~7 (DAR0~DAR7)	11-9
11.2.3	DMA トランスファカウンタレジスタ 0~7 (DMATCR0~DMATCR7)	11-9
11.2.4	DMA チャンネルコントロールレジスタ 0~7 (CHCR0~CHCR7)	11-10
11.2.5	DMA チャンネルフラグビットレジスタ 0~7 (CHFR0~CHFR7)	11-14
11.2.6	DMA TE フラグマスク設定レジスタ (TEMSK0~TEMSK7)	11-16
11.2.7	DMA リロードソースアドレスレジスタ 0~7 (RSAR0~RSAR7)	11-18
11.2.8	DMA リロードデスティネーションアドレスレジスタ 0~7 (RDAR0~RDAR7)	11-19
11.2.9	DMA リロードトランスファカウンタレジスタ 0~7 (RDMATCR0~RDMATCR7)	11-20
11.2.10	DMA アドレスリロードカウンタレジスタ 4~7 (ARCR4~ARCR7)	11-21
11.2.11	DMA リロードアドレスリロードカウンタレジスタ 4~7 (RARCR4~RARCR7)	11-21
11.2.12	DMA オペレーションレジスタ (DMAOR)	11-22
11.2.13	DMA オペレーションフラグビットレジスタ (DMAFR)	11-24
11.2.14	DMA 拡張リソースセクタ 0~3 (DMARS0~DMARS3)	11-26
11.3	動作説明	11-29
11.3.1	転送フロー	11-29
11.3.2	DMA 転送要求	11-32
11.3.3	チャンネルの優先順位	11-35
11.3.4	DMA 転送の種類	11-38

11.4	特別な動作について.....	11-44
11.4.1	アドレスエラー発生時の動作.....	11-44
11.4.2	NMI 時の動作.....	11-44
11.4.3	リロード機能 1 の動作.....	11-44
11.4.4	リロード機能 2 の動作.....	11-44
11.4.5	内蔵周辺モジュールとのインタフェース.....	11-45
11.4.6	Integer→Floating-point 変換の動作.....	11-45
11.5	使用上の注意.....	11-48
12.	専用ダイレクトメモリアクセスコントローラ (A-DMAC)	12-1
12.1	特長.....	12-1
12.1.1	入出力端子.....	12-4
12.2	レジスタの説明.....	12-5
12.2.1	A-DMAC オペレーションレジスタ (ADMAOR)	12-8
12.2.2	A-DMAC エイリアスペースレジスタ (ADMAABR)	12-8
12.2.3	A-DMAC 割り込みコントロールレジスタ (ADMAIE)	12-9
12.2.4	A-DMAC データ有効レジスタ (ADMADV)	12-10
12.2.5	A-DMAC トランスファエンドレジスタ (ADMATE)	12-11
12.2.6	A-DMAC イネーブルレジスタ (ADMADE)	12-12
12.2.7	A-DMAC 転送モードレジスタ (ADMAMODE)	12-13
12.2.8	A-DMAC 転送カウントレジスタ (ADMATCR)	12-14
12.2.9	A-DMAC エイリアスポインタレジスタ (ADMAAR)	12-14
12.2.10	A-DMAC リロード転送カウントレジスタ (ADMARTCR)	12-15
12.2.11	A-DMAC リロードエイリアスポインタレジスタ (ADMARAR)	12-15
12.2.12	A-DMAC バッファレジスタ (ADMABUF)	12-15
12.2.13	A-DMAC 受信待ちレジスタ (ADMARVPR)	12-16
12.2.14	A-DMAC 送信待ちレジスタ (ADMATVPR)	12-17
12.3	動作説明.....	12-18
12.3.1	エイリアス領域.....	12-18
12.3.2	各チャンネルの動作.....	12-19
12.3.3	転送の中断と再開.....	12-34
12.3.4	A-DMAC によるデータ転送でのバス動作.....	12-34
12.3.5	チャンネルの優先順位.....	12-39
12.3.6	転送許可/禁止の条件と割り込み要求.....	12-39
12.4	使用上の注意.....	12-41
13.	アドバンスタイマユニット-III (ATU-III)	13-1
13.1	特長.....	13-1
13.2	各レジスタのアドレス空間.....	13-5
13.3	入出力端子.....	13-20
13.4	共通制御部の概要.....	13-21

13.4.1	クロックバス	13-21
13.5	共通制御部のレジスタの説明	13-22
13.5.1	ATU-III マスタイネーブルレジスタ (ATUENR)	13-22
13.5.2	クロックバスコントロールレジスタ (CBCNT)	13-25
13.5.3	ノイズキャンセルモードレジスタ (NCMR)	13-26
13.6	プリスケアラの概要	13-29
13.7	プリスケアラのレジスタの説明	13-30
13.7.1	プリスケアラレジスタ 0~3 (PSCR0~3)	13-30
13.8	プリスケアラの動作説明	13-31
13.8.1	動作の開始	13-31
13.8.2	動作の停止と再開	13-31
13.9	タイマAの概要	13-32
13.9.1	ブロック図	13-33
13.10	タイマAのレジスタの説明	13-34
13.10.1	タイマコントロールレジスタ A (TCRA)	13-34
13.10.2	タイマ I/O コントロールレジスタ 1A (TIOR1A)	13-36
13.10.3	タイマ I/O コントロールレジスタ 2A (TIOR2A)	13-37
13.10.4	タイマステータスレジスタ A (TSRA)	13-39
13.10.5	タイマインタラプトイネーブルレジスタ A (TIERA)	13-41
13.10.6	インプットキャプチャレジスタ A0~5 (ICRA0~5)	13-42
13.10.7	フリーランニングカウンタ A (TCNTA)	13-43
13.10.8	ノイズキャンセルカウンタ A0~5 (NCNTA0~5)	13-44
13.10.9	ノイズキャンセルレジスタ A0~5 (NCRA0~5)	13-45
13.11	タイマAの動作説明	13-46
13.11.1	ノイズキャンセル動作	13-46
13.11.2	フリーランニング動作	13-49
13.11.3	インプットキャプチャ動作	13-50
13.11.4	DMA 転送	13-51
13.12	タイマBの概要	13-52
13.12.1	ブロック図	13-53
13.13	タイマBのレジスタの説明	13-54
13.13.1	タイマコントロールレジスタ B (TCRB)	13-54
13.13.2	タイマ I/O コントロールレジスタ B (TIORB)	13-55
13.13.3	タイマステータスレジスタ B (TSRB)	13-57
13.13.4	タイマインタラプトイネーブルレジスタ B (TIERB)	13-59
13.13.5	入力エッジ間計測カウンタ B0 (TCNTB0)	13-61
13.13.6	インプットキャプチャレジスタ B0 (ICRB0)	13-62
13.13.7	アウトプットコンペアレジスタ B0 (OCRB0)	13-62
13.13.8	イベントカウンタ B1 (TCNTB1)	13-63
13.13.9	アウトプットコンペアレジスタ B1 (OCRB1)	13-63
13.13.10	インプットキャプチャレジスタ B1 (ICRB1)	13-64

13.13.11	インプットキャプチャレジスタ B2 (ICRB2)	13-64
13.13.12	ロードレジスタ B (LDB)	13-65
13.13.13	リロードレジスタ B (RLDB)	13-66
13.13.14	リロードカウンタ B2 (TCNTB2)	13-67
13.13.15	パルスインターバルマルチプライヤレジスタ (PIMR)	13-68
13.13.16	倍周クロックカウンタ B6 (TCNTB6)	13-69
13.13.17	アウトプットコンペアレジスタ B6 (OCRB6)	13-70
13.13.18	アウトプットコンペアレジスタ B7 (OCRB7)	13-71
13.13.19	補正イベントカウンタ B3 (TCNTB3)	13-72
13.13.20	倍周補正クロックカウンタ B4 (TCNTB4)	13-73
13.13.21	倍周補正クロック生成カウンタ B5 (TCNTB5)	13-74
13.13.22	補正カウンタクリアレジスタ B (TCCLR)	13-75
13.14	タイマBの動作説明	13-76
13.14.1	エッジ間計測機能およびエッジ入力停止検出機能	13-76
13.14.2	倍周クロック生成機能	13-78
13.14.3	倍周クロック補正機能	13-82
13.15	タイマCの概要	13-87
13.15.1	ブロック図	13-88
13.16	タイマCのレジスタの説明	13-89
13.16.1	タイマスタートレジスタ C (TSTRC)	13-89
13.16.2	ノイズキャンセラコントロールレジスタ C0~4 (NCCRC0~4)	13-90
13.16.3	タイマコントロールレジスタ C0~4 (TCRC0~4)	13-91
13.16.4	タイマステータスレジスタ C0~4 (TSRC0~4)	13-93
13.16.5	タイマインタラプトイネーブルレジスタ C0~4 (TIERC0~4)	13-95
13.16.6	タイマ I/O コントロールレジスタ C0~4 (TIORC0~4)	13-96
13.16.7	タイマカウンタ C0~4 (TCNTC0~4)	13-98
13.16.8	汎用レジスタ C00~43 (GRC00~43)	13-98
13.16.9	ノイズキャンセルカウンタ C00~43 (NCNTC00~43)	13-99
13.16.10	ノイズキャンセルレジスタ C00~43 (NCRC00~43)	13-101
13.17	タイマCの動作説明	13-102
13.17.1	インプットキャプチャ機能	13-102
13.17.2	コンペアマッチ機能	13-104
13.17.3	PWM 機能	13-106
13.18	タイマDの概要	13-107
13.18.1	ブロック図	13-108
13.19	タイマDのレジスタの説明	13-109
13.19.1	タイマスタートレジスタ (TSTRD)	13-109
13.19.2	タイマコントロールレジスタ D0~3 (TCRD0~3)	13-110
13.19.3	タイマ I/O コントロールレジスタ 1D0~3 (TIOR1D0~3)	13-113
13.19.4	タイマ I/O コントロールレジスタ 2D0~3 (TIOR2D0~3)	13-115
13.19.5	ダウンカウントスタートレジスタ D0~3 (DSTRD0~3)	13-117

13.19.6	ダウンカウンタステータスレジスタ D0~3 (DSRD0~3)	13-118
13.19.7	ダウンカウンタコントロールレジスタ D0~3 (DCRD0~3)	13-119
13.19.8	タイマステータスレジスタ D0~3 (TSRD0~3)	13-121
13.19.9	タイマインタラプトイネーブルレジスタ D0~3 (TIERD0~3)	13-125
13.19.10	コンペアマッチパルス出力コントロールレジスタ D0、1 (CMPOD0、CMPOD1)	13-126
13.19.11	タイマアウトプットコントロールレジスタ D0~3 (TOCRD0~TOCRD3)	13-127
13.19.12	タイマオフセットベースレジスタ D0~3 (OSBRD0~3)	13-128
13.19.13	タイマカウンタ 1D0~3 (TCNT1D0~3)	13-128
13.19.14	タイマカウンタ 2D0~3 (TCNT2D0~3)	13-129
13.19.15	アウトプットコンペアレジスタ D00~33 (OCRD00~33)	13-130
13.19.16	汎用レジスタ D00~33 (GRD00~33)	13-131
13.19.17	タイマダウンカウンタ D00~33 (DCNTD00~33)	13-132
13.20	タイマDの動作説明	13-133
13.21	タイマEの概要	13-139
13.21.1	ブロック図	13-140
13.22	タイマEのレジスタの説明	13-141
13.22.1	タイマスタートレジスタ E (TSTRE)	13-141
13.22.2	サブブロックスタートレジスタ E0~5 (SSTRE0~5)	13-142
13.22.3	プリスケアラレジスタ E0~5 (PSCRE0~5)	13-143
13.22.4	タイマコントロールレジスタ E0~5 (TCRE0~5)	13-144
13.22.5	リロードコントロールレジスタ E0~5 (RLDCRE0~5)	13-145
13.22.6	タイマステータスレジスタ E0~5 (TSRE0~5)	13-146
13.22.7	タイマインタラプトイネーブルレジスタ E0~5 (TIERE0~5)	13-148
13.22.8	タイマアウトプットコントロールレジスタ E0~5 (TOCRE0~5)	13-149
13.22.9	タイマカウンタ E00~53 (TCNTE00~53)	13-150
13.22.10	サイクルレジスタ E00~53 (CYLRE00~53)	13-151
13.22.11	デューティレジスタ E00~53 (DTRE00~53)	13-152
13.22.12	サイクルリロードレジスタ E00~53 (CRLDE00~53)	13-152
13.22.13	デューティリロードレジスタ E00~53 (DRLDE00~53)	13-153
13.23	タイマEの動作説明	13-154
13.24	タイマFの概要	13-158
13.24.1	ブロック図	13-159
13.24.2	割り込み	13-160
13.25	タイマFのレジスタの説明	13-161
13.25.1	タイマスタートレジスタ F (TSTRF)	13-161
13.25.2	ノイズキャンセラコントロールレジスタ F (NCCRF)	13-162
13.25.3	タイマコントロールレジスタ F0~19 (TCRF0~19)	13-164
13.25.4	タイマインタラプトイネーブルレジスタ F0~19 (TIERF0~19)	13-166
13.25.5	タイマステータスレジスタ F0~19 (TSRF0~19)	13-167
13.25.6	時間計測カウンタ AF0~19 (ECNTAF0~19)	13-169
13.25.7	イベントカウンタ BF0~19 (ECNTBF0~19)	13-170

13.25.8	時間計測カウンタ CF0~19 (ECNTCF0~19)	13-171
13.25.9	汎用レジスタ AF0~19 (GRAF0~19)	13-172
13.25.10	汎用レジスタ BF0~19 (GRBF0~19)	13-173
13.25.11	汎用レジスタ CF0~19 (GRCF0~19)	13-174
13.25.12	汎用レジスタ DF12~15 (GRDF12~15)	13-175
13.25.13	キャプチャ出力レジスタ F0~19 (CDRF0~19)	13-176
13.25.14	ノイズキャンセルカウンタ FA0~19 (NCNTFA0~19)	13-177
13.25.15	ノイズキャンセルカウンタ FB0~2 (NCNTFB0~2)	13-178
13.25.16	ノイズキャンセルレジスタ FA0~19 (NCRFA0~19)	13-180
13.25.17	ノイズキャンセルレジスタ FB0~2 (NCRFB0~2)	13-181
13.26	タイマFの動作説明.....	13-182
13.26.1	一定時間内エッジカウント.....	13-182
13.26.2	有効エッジ入力間隔計測.....	13-184
13.26.3	入力ハイ/ローレベル期間計測.....	13-186
13.26.4	PWM 入力波形計測.....	13-188
13.26.5	回転速度/パルス計測.....	13-190
13.26.6	アップ/ダウンイベントカウント.....	13-192
13.26.7	4 通倍イベントカウント.....	13-194
13.26.8	オーバフロー/アンダフロー.....	13-196
13.27	タイマGの概要.....	13-197
13.27.1	ブロック図.....	13-197
13.27.2	割り込み.....	13-197
13.28	タイマGのレジスタの説明.....	13-198
13.28.1	タイマスタートレジスタ G (TSTRG)	13-198
13.28.2	タイマコントロールレジスタ G0~5 (TCRG0~5)	13-199
13.28.3	タイマステータスレジスタ G0~5 (TSRG0~5)	13-200
13.28.4	タイマカウンタ G0~5 (TCNTG0~5)	13-201
13.28.5	コンペアマッチレジスタ G0~5 (OCRG0~5)	13-201
13.29	タイマGの動作説明.....	13-202
13.30	タイマHの概要.....	13-203
13.30.1	ブロック図.....	13-203
13.30.2	割り込み.....	13-203
13.31	タイマHのレジスタの説明.....	13-204
13.31.1	タイマコントロールレジスタ H (TCRH)	13-204
13.31.2	タイマステータスレジスタ H (TSRH)	13-205
13.31.3	タイマカウンタ 1H (TCNT1H)	13-207
13.31.4	コンペアマッチレジスタ 1H (OCR1H)	13-208
13.31.5	タイマカウンタ 2H (TCNT2H)	13-209
13.32	タイマHの動作説明.....	13-210
13.33	タイマJの概要.....	13-211
13.33.1	ブロック図.....	13-211

13.34	タイマJのレジスタの説明	13-212
13.34.1	タイマスタートレジスタ J (TSTRJ)	13-212
13.34.2	タイマコントロールレジスタ J0、1 (TCRJ0、1)	13-213
13.34.3	FIFO コントロールレジスタ J0、1 (FCRJ0、1)	13-216
13.34.4	タイマステータスレジスタ J0、1 (TSRJ0、1)	13-217
13.34.5	タイマインタラプトイネーブルレジスタ J0、1 (TIERJ0、1)	13-221
13.34.6	タイマカウンタ J0、1 (TCNTJ0、1)	13-222
13.34.7	コンペアマッチレジスタ J0、1 (OCRJ0、1)	13-222
13.34.8	FIFO レジスタ J0、1 (FIFOJ0、1)	13-223
13.34.9	FIFO データ数レジスタ J0、1 (FDNRJ0、1)	13-224
13.34.10	ノイズキャンセルカウンタ J0、1 (NCNTJ0、1)	13-224
13.34.11	ノイズキャンセルレジスタ 0、1 (NCRJ0、1)	13-226
13.35	タイマJの動作説明	13-227
13.36	使用上の注意事項	13-230
13.36.1	インプットキャプチャ競合動作	13-230
13.36.2	コンペアマッチ競合動作	13-234
13.36.3	ロード/リロード競合動作	13-244
13.36.4	カウンタ競合動作	13-246
13.36.5	ノイズキャンセラ競合動作	13-251
13.36.6	ダウンカウンタ D の競合	13-253
13.36.7	タイマ B とタイマ D の競合	13-257
13.36.8	コンペアマッチ動作仕様の混在	13-260
14.	ウォッチドッグタイマ (WDT)	14-1
14.1	特長	14-1
14.2	入出力端子	14-2
14.3	レジスタの説明	14-3
14.3.1	ウォッチドッグタイマコントロールレジスタ (WTCR)	14-3
14.3.2	ウォッチドッグタイマカウンタ (WTCNT)	14-5
14.3.3	ウォッチドッグタイマステータスレジスタ (WTSR)	14-6
14.3.4	ウォッチドッグリセットコントロールレジスタ (WRCR)	14-7
14.3.5	レジスタアクセス時の注意	14-9
14.4	WDTの使用法	14-10
14.4.1	ウォッチドッグタイマモードの使用法	14-10
14.4.2	インターバルタイマモードの使用法	14-11
14.5	使用上の注意事項	14-12
14.5.1	タイマ誤差	14-12
14.5.2	分周比の変更	14-12
14.5.3	ウォッチドッグタイマモードとインターバルタイマモードの切り替え	14-12
14.5.4	<u>WDTOVF</u> 信号によるシステムリセット	14-12

15. コンペアマッチタイマ (CMT)	15-1
15.1 特長	15-1
15.2 レジスタの説明	15-2
15.2.1 コンペアマッチタイマスタートレジスタ (CMSTR)	15-3
15.2.2 コンペアマッチタイマコントロールレジスタ (CMCR)	15-4
15.2.3 コンペアマッチタイマステータスレジスタ (CMSR)	15-5
15.2.4 コンペアマッチカウンタ (CMCNT)	15-6
15.2.5 コンペアマッチコンスタントレジスタ (CMCOR)	15-6
15.3 動作説明	15-7
15.3.1 期間カウント動作	15-7
15.3.2 CMCNT カウントタイミング	15-7
15.4 割り込み	15-8
15.4.1 割り込み要因と DMA 転送要求	15-8
15.4.2 コンペアマッチフラグのセットタイミング	15-8
15.4.3 コンペアマッチフラグのクリアタイミング	15-9
15.5 使用上の注意事項	15-10
15.5.1 CMCNT の書き込みとコンペアマッチの競合	15-10
15.5.2 CMCNT のワード書き込みとカウントアップの競合	15-10
15.5.3 CPU によるコンペアマッチフラグのクリアとセットの競合	15-11
16. シリアルコミュニケーションインタフェース (SCI)	16-1
16.1 特長	16-1
16.2 入出力端子	16-4
16.3 レジスタの説明	16-5
16.3.1 レシーブシフトレジスタ (SCRSR1)	16-7
16.3.2 レシーブデータレジスタ (SCRDR1)	16-7
16.3.3 トランスミットシフトレジスタ (SCTSR1)	16-7
16.3.4 トランスミットデータレジスタ (SCTDR1)	16-8
16.3.5 シリアルモードレジスタ (SCSMR1)	16-8
16.3.6 シリアルコントロールレジスタ (SCSCR1)	16-10
16.3.7 シリアルステータスレジスタ (SCSSR1)	16-13
16.3.8 ビットレートレジスタ (SCBRR1)	16-17
16.4 動作説明	16-22
16.4.1 概要	16-22
16.4.2 調歩同期式モード時の動作	16-24
16.4.3 クロック同期式モード時の動作	16-32
16.5 SCIの割り込み要因とA-DMAC	16-41
16.6 使用上の注意事項	16-42
16.6.1 SCTDR1 への書き込みと TDRE フラグの関係について	16-42
16.6.2 複数の受信エラーが同時に発生した場合の動作について	16-42

16.6.3	ブレークの検出と処理について.....	16-43
16.6.4	ブレークの送り出し.....	16-43
16.6.5	調歩同期式モードの受信データサンプリングタイミングと受信マージン.....	16-43
16.6.6	A-DMAC 使用上の注意事項.....	16-44
16.6.7	クロック同期外部クロックモード時の注意事項.....	16-45
16.6.8	A-DMAC 使用時の注意事項.....	16-45
16.6.9	シリアルポート.....	16-45
16.6.10	クロック同期式モードにおける SCK 出力、受信のみでの使用時の注意事項.....	16-45
17.	ルネサスシリアルペリフェラルインタフェース (RSPI)	17-1
17.1	特長.....	17-1
17.2	入出力端子.....	17-4
17.3	レジスタの説明.....	17-5
17.3.1	RSPI 制御レジスタ (SPCR)	17-7
17.3.2	RSPI スレーブセレクト極性レジスタ (SSLP)	17-9
17.3.3	RSPI 端子制御レジスタ (SPPCR)	17-10
17.3.4	RSPI ステータスレジスタ (SPSR)	17-11
17.3.5	RSPI データレジスタ (SPDR)	17-13
17.3.6	RSPI シーケンス制御レジスタ (SPSCR)	17-14
17.3.7	RSPI シーケンスステータスレジスタ (SPSSR)	17-15
17.3.8	RSPI ビットレートレジスタ (SPBR)	17-17
17.3.9	RSPCK 遅延レジスタ (SPCKD)	17-18
17.3.10	RSPI スレーブセレクトネゲート遅延レジスタ (SSLND)	17-19
17.3.11	RSPI 次アクセス遅延レジスタ (SPND)	17-20
17.3.12	RSPI コマンドレジスタ (SPCMD)	17-21
17.4	動作説明.....	17-25
17.4.1	RSPI 動作の概要.....	17-25
17.4.2	RSPI 端子の制御.....	17-27
17.4.3	RSPI システム構成例.....	17-28
17.4.4	転送フォーマット.....	17-34
17.4.5	データフォーマット.....	17-36
17.4.6	送信バッファエンプティ/受信バッファフルフラグ.....	17-40
17.4.7	エラー検出.....	17-42
17.4.8	RSPI の初期化.....	17-45
17.4.9	マスタモード動作.....	17-46
17.4.10	スレーブモード動作.....	17-53
17.4.11	ループバックモード.....	17-57
18.	コントローラエリアネットワーク (RCAN-TL1)	18-1
18.1	特長.....	18-1
18.1.1	RCAN-TL1 の特長.....	18-1

18.1.2	本マイコンにおける特長.....	18-2
18.2	構成	18-3
18.2.1	ブロック図.....	18-3
18.2.2	各ブロックの機能.....	18-5
18.2.3	端子構成.....	18-6
18.2.4	メモリマップ.....	18-7
18.3	メールボックス.....	18-8
18.3.1	メールボックスの構成.....	18-8
18.3.2	メッセージコントロールフィールド	18-13
18.3.3	ローカルアクセプタンスフィルタマスク (LAFM)	18-18
18.3.4	メッセージデータフィールド.....	18-19
18.3.5	タイムスタンプ.....	18-20
18.3.6	送信トリガタイム (TTT) とタイムトリガコントロール.....	18-21
18.4	RCAN-TL1のコントロールレジスタ	18-25
18.4.1	マスタコントロールレジスタ (MCR)	18-25
18.4.2	ジェネラルステータスレジスタ (GSR)	18-31
18.4.3	ビットコンフィギュレーションレジスタ 0, 1 (BCR0, BCR1)	18-33
18.4.4	インタラプトリクエストレジスタ (IRR)	18-37
18.4.5	メッセージバッファエラーステータスレジスタ (MBESR)	18-44
18.4.6	インタラプトマスクレジスタ (IMR)	18-44
18.4.7	メッセージバッファエラーコントロールレジスタ (MBECCR)	18-45
18.4.8	送信エラーカウンタ (TEC) /受信エラーカウンタ (REC)	18-46
18.5	RCAN-TL1のメールボックスレジスタ	18-47
18.5.1	送信待ちレジスタ 1, 0 (TXPR1, TXPR0)	18-48
18.5.2	送信キャンセルレジスタ 1, 0 (TXCR1, TXCR0)	18-51
18.5.3	送信アクノリッジレジスタ 1, 0 (TXACK1, TXACK0)	18-52
18.5.4	アポートアクノリッジレジスタ 1, 0 (ABACK1, ABACK0)	18-53
18.5.5	データフレーム受信完了レジスタ 1, 0 (RXPR1, RXPR0)	18-54
18.5.6	リモートフレーム受信完了レジスタ 1, 0 (RFPR1, RFPR0)	18-55
18.5.7	メールボックスインタラプトマスクレジスタ 1, 0 (MBIMR1, MBIMR0)	18-56
18.5.8	未読メッセージステータスレジスタ 1, 0 (UMSR1, UMSR0)	18-57
18.6	タイマレジスタ	18-58
18.6.1	タイムトリガコントロールレジスタ 0 (TTCR0)	18-59
18.6.2	サイクルマキシマム/Tx_Enable_Window レジスタ (CMAX_TEW)	18-61
18.6.3	リファレンストリガオフセットレジスタ (RFTROFF)	18-62
18.6.4	タイマステータスレジスタ (TSR)	18-63
18.6.5	サイクルカウンタレジスタ (CCR)	18-65
18.6.6	タイマカウンタレジスタ (TCNTR)	18-66
18.6.7	サイクルタイムレジスタ (CYCTR)	18-67
18.6.8	リファレンスマークレジスタ (RFMK)	18-67
18.6.9	タイマコンペアマッチレジスタ 0~2 (TCMR0~2)	18-67

18.6.10	送信トリガタイムセレクトレジスタ (TTTSEL)	18-69
18.7	動作説明	18-71
18.7.1	RCAN-TL1 の設定	18-71
18.7.2	テストモードの設定	18-77
18.7.3	メッセージ送信シーケンス	18-79
18.7.4	メッセージ受信シーケンス	18-91
18.7.5	メールボックスの再設定	18-93
18.8	パリティ検出	18-95
18.9	割り込み要因	18-96
18.10	DMACインタフェース	18-97
18.11	CANバスインタフェース	18-98
18.12	A-DMACインタフェース	18-98
18.13	RCAN-TL1 端子ポート設定	18-99
18.14	使用上の注意事項	18-101
18.14.1	1チャンネル 64/96 メールボックスでのポート設定についての注意事項	18-101
19.	A/D 変換器 (ADC)	19-1
19.1	特長	19-1
19.2	入出力端子	19-4
19.3	チャンネル別割り当て機能一覧表	19-6
19.4	レジスタの説明	19-7
19.4.1	A/D データレジスタ 0~27、40~48、Diag0、Diag1 (ADR0~27、40~48、ADRD0、1)	19-9
19.4.2	A/D コントロールレジスタ 0、1 (ADCSR0、1)	19-12
19.4.3	A/D コントロール拡張レジスタ 0、1 (ADCER0、1)	19-14
19.4.4	A/D チャンネル選択レジスタ 0、1、3 (ADANS0、1、3)	19-16
19.4.5	A/D 変換ステータスレジスタ 0、1 (ADREF0、1)	19-17
19.4.6	A/D 変換値加算モード選択レジスタ 0、1 (ADADS0、1)	19-19
19.4.7	A/D 変換値加算回数選択レジスタ 0、1 (ADADC0、1)	19-21
19.4.8	A/D 割り込みトリガイネーブルレジスタ 0、1 (ADTRE0、1)	19-22
19.4.9	A/D 割り込みトリガソース選択レジスタ 0、1 (ADTRS0、1)	19-24
19.4.10	A/D 割り込みソフトトリガレジスタ 0、1 (ADSTRG0、1)	19-26
19.4.11	A/D 割り込みトリガ処理終了フラグレジスタ 0、1 (ADTRF0、1)	19-28
19.4.12	A/D 割り込みトリガ処理終了割り込みイネーブルレジスタ 0、1 (ADTRD0、1)	19-30
19.4.13	CPU とのインタフェース	19-31
19.5	動作説明	19-32
19.5.1	スキャン変換動作	19-32
19.5.2	1 サイクルスキャンモード	19-32
19.5.3	連続スキャンモード	19-34
19.5.4	割り込み変換	19-36
19.5.5	割り込み変換の動作例	19-37
19.5.6	スキャン変換中の割り込み変換	19-39

19.5.7	アナログ入力のサンプリングとスキャン変換時間	19-41
19.5.8	外部トリガによるスキャン変換の起動	19-43
19.5.9	ATU-III のタイマトリガによるスキャン変換の起動	19-43
19.5.10	ADEND_A、ADEND_B 出力端子によるモニタ機能	19-44
19.6	割り込み要因とDMA転送要求	19-45
19.6.1	スキャン変換終了時の割り込み要求	19-45
19.6.2	割り込み変換終了時の割り込み要求	19-45
19.7	A/D変換精度の定義	19-46
19.8	使用上の注意事項	19-47
19.8.1	アナログ入力電圧の範囲	19-47
19.8.2	AVcc、AVss と Vcc、Vss の関係	19-47
19.8.3	AVrefh_A/B、AVrefl_A/B 端子の設定範囲	19-47
19.8.4	ボード設計上の注意事項	19-47
20.	JTAG インタフェース	20-1
20.1	特長	20-1
20.2	入出力端子	20-3
20.3	レジスタの説明	20-4
20.3.1	インストラクションレジスタ (SDIR)	20-5
20.3.2	ID レジスタ (SDID)	20-5
20.3.3	バイパスレジスタ (SDBPR)	20-5
20.3.4	バウンダリスキャンレジスタ (SDBSR)	20-5
20.4	動作説明	20-19
20.4.1	TAP コントローラ	20-19
20.4.2	サポートするコマンド	20-20
20.4.3	注意事項	20-21
20.5	使用上の注意事項	20-22
21.	アドバンストユーザデバッガ-II (AUD-II)	21-1
21.1	特長	21-1
21.2	入出力端子	21-3
21.2.1	共通に使用する端子の説明	21-3
21.2.2	AUD トレースモードでの端子説明	21-4
21.2.3	RAM モニタモードでの端子説明	21-4
21.3	AUD トレースモード	21-5
21.3.1	レジスタの説明	21-5
21.3.2	AUD コントロールレジスタ (AUCSR)	21-5
21.3.3	AUD ウィンドウ A スタートアドレスレジスタ (AUWASR)	21-8
21.3.4	AUD ウィンドウ A エンドアドレスレジスタ (AUWAER)	21-8
21.3.5	AUD ウィンドウ B スタートアドレスレジスタ (AUWBSR)	21-9
21.3.6	AUD ウィンドウ B エンドアドレスレジスタ (AUWBER)	21-9

21.3.7	AUD 拡張コントロールレジスタ (AUECSR)	21-10
21.3.8	動作説明	21-11
21.3.9	AUD トレースモードに関しての使用上の注意事項	21-20
21.4	RAM モニタモード	21-22
21.4.1	通信プロトコル	21-22
21.4.2	動作説明	21-22
21.4.3	RAM モニタモードに関しての使用上の注意事項	21-25
22.	ピンファンクションコントローラ (PFC)	22-1
22.1	レジスタの説明	22-7
22.1.1	ポート A・IO レジスタ (PAIOR)	22-9
22.1.2	ポート A コントロールレジスタ 1~4 (PACR1~PACR4)	22-9
22.1.3	ポート B・IO レジスタ (PBIOR)	22-18
22.1.4	ポート B コントロールレジスタ 1~4 (PBCR1~PBCR4)	22-18
22.1.5	ポート C・IO レジスタ (PCIOR)	22-29
22.1.6	ポート C コントロールレジスタ 1~4 (PCCR1~PCCR4)	22-29
22.1.7	ポート D・IO レジスタ (PDIOR)	22-38
22.1.8	ポート D コントロールレジスタ 1, 2 (PDCR1, PDCR2)	22-38
22.1.9	ポート E・IO レジスタ (PEIOR)	22-42
22.1.10	ポート E コントロールレジスタ 1, 2 (PECR1, PECR2)	22-42
22.1.11	ポート F・IO レジスタ (PFIOR)	22-46
22.1.12	ポート F コントロールレジスタ 1, 2 (PFCR1, PFCR2)	22-46
22.1.13	ポート G・IO レジスタ (PGIOR)	22-50
22.1.14	ポート G コントロールレジスタ 1, 2 (PGCR1, PGCR2)	22-50
22.1.15	ポート H・IO レジスタ (PHIOR)	22-54
22.1.16	ポート H コントロールレジスタ (PHCR)	22-54
22.1.17	ポート J・IO レジスタ (PJIOR)	22-56
22.1.18	ポート J コントロールレジスタ 1, 2 (PJCR1, PJCR2)	22-56
22.1.19	ポート K・IO レジスタ (PKIOR)	22-59
22.1.20	ポート K コントロールレジスタ 1, 2 (PKCR1, PKCR2)	22-59
22.1.21	ポート L・IO レジスタ (PLIOR)	22-62
22.1.22	ポート L コントロールレジスタ 1, 2 (PLCR1, PLCR2)	22-62
23.	I/O ポート	23-1
23.1	概要	23-1
23.2	レジスタの説明	23-2
23.3	ポート A	23-4
23.3.1	ポート A データレジスタ (PADR)	23-5
23.3.2	ポート A ポートレジスタ (PAPR)	23-6
23.4	ポート B	23-7
23.4.1	ポート B データレジスタ (PBDR)	23-8

23.4.2	ポート B ポートレジスタ (PBPR)	23-9
23.4.3	ポート B インバートレジスタ (PBIR)	23-10
23.4.4	ポート B ドライバビリティ設定レジスタ (PBDSR)	23-11
23.4.5	ポート B 端子状態設定レジスタ (PBPSR)	23-12
23.5	ポート C	23-13
23.5.1	ポート C データレジスタ (PCDR)	23-14
23.5.2	ポート C ポートレジスタ (PCPR)	23-15
23.6	ポート D	23-16
23.6.1	ポート D データレジスタ (PDDR)	23-17
23.6.2	ポート D ポートレジスタ (PDPR)	23-18
23.6.3	ポート D インバートレジスタ (PDIR)	23-19
23.7	ポート E	23-20
23.7.1	ポート E データレジスタ (PEDR)	23-21
23.7.2	ポート E ポートレジスタ (PEPR)	23-22
23.7.3	ポート E インバートレジスタ (PEIR)	23-23
23.7.4	ポート E ドライバビリティ設定レジスタ (PEDSR)	23-24
23.8	ポート F	23-25
23.8.1	ポート F データレジスタ (PFDR)	23-26
23.8.2	ポート F ポートレジスタ (PFPR)	23-27
23.8.3	ポート F インバートレジスタ (PFIR)	23-28
23.8.4	ポート F ドライバビリティ設定レジスタ (PFDSR)	23-29
23.8.5	ポート F 端子状態設定レジスタ (PFPSR)	23-30
23.9	ポート G	23-31
23.9.1	ポート G データレジスタ (PGDR)	23-32
23.9.2	ポート G ポートレジスタ (PGPR)	23-34
23.9.3	ポート G インバートレジスタ (PGIR)	23-35
23.9.4	ポート G ドライバビリティ設定レジスタ (PGDSR)	23-36
23.9.5	ポート G エッジ選択レジスタ (PGER)	23-37
23.10	ポート H	23-38
23.10.1	ポート H データレジスタ (PHDR)	23-38
23.10.2	ポート H ポートレジスタ (PHPR)	23-39
23.11	ポート J	23-40
23.11.1	ポート J データレジスタ (PJDR)	23-41
23.11.2	ポート J ポートレジスタ (PJPR)	23-42
23.11.3	ポート J インバートレジスタ (PJIR)	23-43
23.11.4	ポート J ドライバビリティ設定レジスタ (PJDSR)	23-44
23.11.5	ポート J 端子状態設定レジスタ (PJPSR)	23-46
23.12	ポート K	23-47
23.12.1	ポート K データレジスタ (PKDR)	23-48
23.12.2	ポート K ポートレジスタ (PKPR)	23-49
23.12.3	ポート K インバートレジスタ (PKIR)	23-50

23.12.4	ポート K ドライバピリティ設定レジスタ (PKDSR)	23-51
23.12.5	ポート K 端子状態設定レジスタ (PKPSR)	23-52
23.13	ポート L	23-53
23.13.1	ポート L データレジスタ (PLDR)	23-54
23.13.2	ポート L ポートレジスタ (PLPR)	23-55
23.13.3	ポート L インバートレジスタ (PLIR)	23-56
23.14	CKコントロールレジスタ (CKCR)	23-57
23.15	$\overline{\text{POD}}$ (ポートアウトプットディスエーブル)	23-57
23.16	使用上の注意	23-58
23.16.1	リセット直後の状態に関する注意点	23-58
23.16.2	内部要因リセット時の入出力端子動作に関する注意点	23-58
24.	マルチインプットシグネチャジェネレータ (MISG)	24-1
24.1	概要	24-1
24.2	レジスタの説明	24-2
24.2.1	カルキュレーションデータレジスタ (MISRCDR)	24-2
24.2.2	マルチインプットシグネチャレジスタ (MISR)	24-3
24.2.3	MISR コントロールレジスタ (MISRCR)	24-4
25.	ROM	25-1
25.1	特長	25-1
25.2	入出力端子	25-4
25.3	レジスタの説明	25-5
25.3.1	フラッシュ端子モニタレジスタ (FPMON)	25-6
25.3.2	フラッシュモードレジスタ (FMODR)	25-7
25.3.3	フラッシュアクセスステータスレジスタ (FASTAT)	25-7
25.3.4	フラッシュアクセスエラー割り込み許可レジスタ (FAEINT)	25-10
25.3.5	ROM マット選択レジスタ (ROMMAT)	25-11
25.3.6	FCU RAM イネーブルレジスタ (FCURAME)	25-12
25.3.7	フラッシュステータスレジスタ 0 (FSTATR0)	25-13
25.3.8	フラッシュステータスレジスタ 1 (FSTATR1)	25-15
25.3.9	FCU RAM ECC エラーコントロールレジスタ (FRAMECCR)	25-17
25.3.10	フラッシュ P/E モードエントリレジスタ (FENTRYR)	25-18
25.3.11	フラッシュプロテクトレジスタ (FPROTR)	25-24
25.3.12	フラッシュリセットレジスタ (FRESETR)	25-25
25.3.13	FCU コマンドレジスタ (FCMDR)	25-26
25.3.14	FCU 処理切り替えレジスタ (FCPSR)	25-27
25.3.15	フラッシュ P/E ステータスレジスタ (FPESTAT)	25-28
25.4	ROM関連モード概要	25-29
25.5	ブートモード	25-31
25.5.1	システム構成	25-31

25.5.2	ブートモードの状態遷移.....	25-32
25.5.3	ビットレートの自動調整.....	25-34
25.5.4	問い合わせ設定ホストコマンド待ち状態.....	25-36
25.5.5	書き込み／消去ホストコマンド待ち状態.....	25-49
25.6	ユーザプログラムモード.....	25-58
25.6.1	FCU コマンド一覧.....	25-58
25.6.2	FCU コマンド受け付け条件.....	25-60
25.6.3	FCU コマンド使用方法.....	25-64
25.6.4	サスペンド動作.....	25-79
25.7	ユーザブートモード.....	25-82
25.7.1	ユーザブートモードの起動シーケンス.....	25-82
25.7.2	ユーザマットのプログラミング方法.....	25-83
25.8	プロテクト.....	25-84
25.8.1	ハードウェアプロテクト.....	25-84
25.8.2	ソフトウェアプロテクト.....	25-85
25.8.3	エラープロテクト.....	25-85
25.9	使用上の注意事項.....	25-88
25.9.1	ユーザマットとユーザブートマットの切り替え.....	25-88
25.9.2	その他のご注意.....	25-90
26.	EEPROM.....	26-1
26.1	特長.....	26-1
26.2	入出力端子.....	26-5
26.3	レジスタの説明.....	26-6
26.3.1	フラッシュモードレジスタ (FMODR).....	26-7
26.3.2	フラッシュアクセスステータスレジスタ (FASTAT).....	26-8
26.3.3	フラッシュアクセスエラー割り込み許可レジスタ (FAEINT).....	26-11
26.3.4	EEPROM 読み出し許可レジスタ 0 (EEPWE0).....	26-13
26.3.5	EEPROM 読み出し許可レジスタ 1 (EEPWE1).....	26-14
26.3.6	EEPROM 書き込み／消去許可レジスタ 0 (EEPWE0).....	26-15
26.3.7	EEPROM 書き込み／消去許可レジスタ 1 (EEPWE1).....	26-16
26.3.8	フラッシュ P/E モードエントリレジスタ (FENTRYR).....	26-17
26.3.9	EEPROM ブランクチェック制御レジスタ (EEPBCCNT).....	26-18
26.3.10	EEPROM ブランクチェックステータスレジスタ (EEPBCSTAT).....	26-19
26.3.11	EEPROM マット選択レジスタ (EEPSTAT).....	26-20
26.4	EEPROM関連モード概要.....	26-21
26.5	ブートモード.....	26-23
26.5.1	問い合わせ設定ホストコマンド.....	26-23
26.5.2	書き込み／消去ホストコマンド.....	26-25
26.6	ユーザモード／ユーザプログラムモード／ユーザブートモード.....	26-27
26.6.1	FCU コマンド一覧.....	26-27

26.6.2	FCU コマンド受け付け条件.....	26-29
26.6.3	FCU コマンド使用方法.....	26-33
26.7	プロテクト.....	26-37
26.7.1	ハードウェアプロテクト.....	26-37
26.7.2	ソフトウェアプロテクト.....	26-37
26.7.3	エラープロテクト.....	26-38
26.8	製品情報マット.....	26-39
26.9	使用上の注意事項.....	26-40
27.	ROM キャッシュ (ROMC)	27-1
27.1	特長.....	27-1
27.2	構成.....	27-1
27.3	レジスタの説明.....	27-3
27.3.1	ROM キャッシュ制御レジスタ (RCCR)	27-3
27.3.2	ROM キャッシュ制御レジスタ 2 (RCCR2)	27-5
27.4	動作説明.....	27-8
27.4.1	データキャッシュの検索.....	27-8
27.4.2	命令キャッシュの検索.....	27-9
27.4.3	ハードウェアプリフェッチ.....	27-10
27.5	使用上の注意事項.....	27-10
28.	RAM.....	28-1
28.1	特長.....	28-1
28.2	レジスタの説明.....	28-4
28.2.1	RAM イネーブルコントロールレジスタ 0、1 (RAMEN0、1)	28-4
28.2.2	RAM 書き込みイネーブルコントロールレジスタ 0、1 (RAMWEN0、1)	28-11
28.2.3	RAM ECC イネーブルコントロールレジスタ (RAMECC)	28-17
28.2.4	RAM エラーステータスレジスタ (RAMERR)	28-18
28.2.5	RAM エラー割り込みコントロールレジスタ (RAMINT)	28-21
28.2.6	RAM アクセスサイクル設定レジスタ (RAMACYC)	28-23
28.2.7	レジスタアクセス時の注意.....	28-26
28.3	動作説明.....	28-28
28.4	RAMのデータ保持.....	28-29
28.4.1	リセット時のデータ保持.....	28-29
28.4.2	ハードウェアスタンバイ時のデータ保持.....	28-29
28.5	使用上の注意事項.....	28-30
28.5.1	ページ競合.....	28-30
28.5.2	電源立ち上げ後の状態.....	28-30
28.5.3	RAM 書き込み無効設定時の書き込み動作.....	28-30

29. 低消費電力モード	29-1
29.1 特長	29-1
29.1.1 低消費電力モードの種類	29-1
29.2 入出力端子	29-3
29.3 レジスタの説明	29-3
29.3.1 スタンバイコントロールレジスタ (STBCR)	29-3
29.3.2 レジスタアクセス時の注意	29-5
29.4 動作説明	29-6
29.4.1 ハードウェアスタンバイモード	29-6
29.4.2 スリープモード	29-7
29.4.3 モジュールスタンバイ機能	29-8
30. 信頼性について	30-1
30.1 信頼性について	30-1
31. レジスタ一覧	31-1
31.1 レジスタアドレス一覧 (機能モジュールごと、マニュアル章番号順)	31-2
31.2 レジスタビット一覧	31-68
31.3 各動作モードにおけるレジスタの状態の一覧	31-152
32. 電気的特性	32-1
32.1 絶対最大定格	32-1
32.2 DC特性	32-3
32.3 AC特性	32-22
32.3.1 電源投入・切断タイミング	32-22
32.3.2 動作モードと発振タイミング	32-23
32.3.3 クロックタイミング	32-25
32.3.4 制御信号タイミング	32-27
32.3.5 バスタイミング	32-29
32.3.6 アドバンストタイムユニットタイミング、アドバンストパルスコントローラタイミング	32-36
32.3.7 I/O ポートタイミング	32-38
32.3.8 ウォッチドッグタイマタイミング	32-39
32.3.9 シリアルコミュニケーションインタフェースタイミング	32-40
32.3.10 CAN タイミング	32-43
32.3.11 SPI タイミング	32-44
32.3.12 A/D 変換器タイミング	32-49
32.3.13 UBC トリガタイミング	32-50
32.3.14 出力スルーレート	32-51
32.3.15 JTAG インタフェースタイミング	32-52
32.3.16 AUD タイミング	32-54

32.3.17	AC 特性測定条件	32-57
32.4	A/D変換器特性	32-58
32.5	フラッシュメモリ特性	32-59
32.6	EEPROM特性	32-61
32.7	使用上の注意事項	32-62
32.7.1	電流安定用の外部外付けコンデンサの接続に関する注意	32-62
付録	付録-1
A.	端子状態	付録-1
B.	型名一覧	付録-5
C.	外形寸法図	付録-6
本版で修正または追加された箇所	改訂-1
索引	索引-1

1. 概要

1.1 SH72546R の特長

本 LSI は、ルネサスオリジナルの RISC (Reduced Instruction Set Computer) 方式の CPU をコアにして、システム構成に必要な周辺機能を集積したシングルチップ RISC マイコンです。

本 LSI の CPU によって、従来のマイコンでは実現が不可能だった、高速性が要求されるリアルタイム制御等のアプリケーションでも、より低コストでかつ高性能／高機能なシステムを組むことができるようになります。CPU の性能も、スーパースカラアーキテクチャやハーバードアーキテクチャを採用することにより向上しています。

本 LSI は、32 ビットの RISC 方式の SH-2A コアを採用しています。SH-2A コアは、オブジェクトコードレベルで SH-2E と上位互換です。また、SH-2A コアは、従来の SH-2E コアの命令セットに新しい命令を追加しており、コード効率と実行速度をさらに向上しています。

本 LSI は、システム構成に必要な周辺機能として、浮動小数点演算ユニット (FPU)、大容量の ROM と RAM、ダイレクトメモリアクセスコントローラ (DMAC)、各種タイマ、専用ダイレクトメモリアクセスコントローラ (A-DMAC)、ルネサスシリアルペリフェラルインタフェース (RSPI)、ユーザブレイクコントローラ (UBC)、アドバンスドユーザデバッグ-II (AUD-II)、アドバンスドタイマユニット-III (ATU-III)、シリアルコミュニケーションインタフェース (SCI)、コントローラエリアネットワーク (RCAN-TL1)、A/D 変換器 (ADC)、割り込みコントローラ (INTC)、I/O ポートなどを内蔵しています。

また、本 LSI では外部メモリアクセスサポート機能により、メモリや周辺 LSI と直接接続を行えます。これらにより、システムコストの大幅な低減が可能です。

内蔵 ROM は、フラッシュメモリを内蔵した F-ZTAT™ (Flexible Zero Turn Around Time) 版です。ソフトウェアでプログラムの書き換えや消去を行うことができます。したがって、ボードに実装した状態でユーザによる書き換えも可能です。

本 LSI の特長を表 1.1 に示します。

【注】 F-ZTAT™はルネサス エレクトロニクス株式会社の商標です。

表 1.1 SH72546R の特長

項目	特 長
CPU	<ul style="list-style-type: none"> • ルネサス独自の SuperH アーキテクチャ • SH-1、SH-2、SH-2E とオブジェクトコードレベルで互換性あり • 32 ビット内部データバス • 汎用レジスタアーキテクチャ <ul style="list-style-type: none"> 16 本の 32 ビット汎用レジスタ 4 本の 32 ビットコントロールレジスタ 4 本の 32 ビットシステムレジスタ • 高速割り込み応答のためのレジスタバンク • RISC タイプ命令セット (SH-2E シリーズと上位互換性) <ul style="list-style-type: none"> 命令長：コードの効率改善のための 16 ビット基本命令と、性能、使い勝手向上のための 32 ビット命令 ロードストアアーキテクチャ 遅延分岐命令 C 言語に基づく命令セット • FPU を含む 2 命令同時実行スーパースカラ • 命令実行時間：最大 2 命令/サイクル • アドレス空間：4G バイト • 乗算器内蔵 • 5 段パイプライン • ハーバードアーキテクチャ
浮動小数点演算 ユニット (FPU)	<ul style="list-style-type: none"> • 浮動小数点コプロセッサ内蔵 • 単精度 (32 ビット) および倍精度 (64 ビット) をサポート • IEEE754 に準拠したデータタイプおよび例外をサポート • 2 つの丸めモード：近傍および 0 方向への丸め • 非正規化数の扱い：0 への切り捨て • 浮動小数点レジスタ <ul style="list-style-type: none"> 16 本の 32 ビット浮動小数点レジスタ (単精度×16 ワード、倍精度×8 ワード) 2 本の 32 ビット浮動小数点システムレジスタ • FMAC (乗算およびアキュムレート) 命令をサポート • FDIV (除算) / FSQRT (平方根) 命令をサポート • FLDI0/FLDI1 (ロード定数 0/1) 命令をサポート • 命令実行時間 <ul style="list-style-type: none"> レイテンシ (FMAC/FADD/FSUB/FMUL)：3 サイクル (単精度)、8 サイクル (倍精度) ピッチ (FMAC/FADD/FSUB/FMUL)：1 サイクル (単精度)、6 サイクル (倍精度) • 【注】 FMAC は単精度に対してのみサポートしています • 5 段パイプライン • qNaN あるいは ±∞ の入力による例外を発生可能

項目	特 長
動作モード	<ul style="list-style-type: none"> • 動作モード <ul style="list-style-type: none"> シングルチップモード 8/16 ビットバス拡張モード：内蔵 ROM ありモード、内蔵 ROM なしモード • オンボードプログラミングモード <ul style="list-style-type: none"> ブートモード ユーザブートモード ユーザプログラムモード • 処理状態 <ul style="list-style-type: none"> リセット状態 プログラム実行状態 例外処理状態 • 低消費電力機能 <ul style="list-style-type: none"> スリープモード ハードウェアスタンバイモード モジュールスタンバイモード
クロックパルス 発振器 (CPG)	<ul style="list-style-type: none"> • 内蔵発振回路 (最大動作周波数：200MHz) • 2 種類のクロックを生成 <ul style="list-style-type: none"> 内部クロック (最大 200MHz) 周辺クロック (最大 40MHz) • 内蔵 PLL により内部クロックおよび周辺クロックの逡倍が可能 <ul style="list-style-type: none"> MD_CLK0/1 端子の設定により内部クロックの逡倍比×4、×6、×8、×10 の選択が可能 MD_CLKP 端子の設定により周辺クロックの逡倍比×1、×2 の選択が可能 • 入力クロック周波数 16~20MHz
割り込み コントローラ (INTC)	<ul style="list-style-type: none"> • 9 本の外部割り込み端子 (NMI、$\overline{IRQ7}$~$\overline{IRQ0}$) • 15 種類のソフトウェア割り込みの優先レベルを 1~15 に設定可能 • 16 レベルの優先順位設定が可能
ユーザブレイク コントローラ (UBC)	<ul style="list-style-type: none"> • 4 チャンネル • CPU や DMAC や A-DMAC が、ある設定した条件のバスサイクルを生成すると割り込みを発生 (割り込みマスクも可能) • ブレイク条件 (CK 幅×1、×2、×4、×8) でトリガパルス出力 (\overline{UBCTRG}) が可能 <ul style="list-style-type: none"> CK 幅×1 でのトリガパルス出力は周辺クロック逡倍比×1 の設定のときのみ可能

項目	特 長
バスステート コントローラ (BSC)	<ul style="list-style-type: none"> • 外部のメモリアクセスをサポート (SRAM、ROM をダイレクトに接続可能) • 8/16 ビットバス • 3.3V バスインタフェース • 16MB のアドレス空間を 4 空間に分割、それぞれ以下のパラメータを選択可能 バスサイズ : 8/16 ビット ウェイトサイクル数 エリアに対応したチップセレクト信号 ($\overline{CS0} \sim \overline{CS3}$) を出力 • 外部 \overline{WAIT} 信号によるウェイトサイクルの挿入可能 • バス衝突回避のためのアイドルサイクル挿入可能
ダイレクト メモリアクセス コントローラ (DMAC)	<ul style="list-style-type: none"> • 8 チャネル • 下記デバイス間の DMA 転送が可能 外部メモリ、内蔵メモリ、内蔵周辺モジュール (DMAC、A-DMAC 除く) • サイクルスチールモードまたはバーストモード転送可能 • デュアルアドレスモード • リロード機能 ソースアドレスまたは/かつデスティネーションアドレス、およびアドレスリロードカウンタの各レジスタをリロード ソースアドレスかつデスティネーションアドレス、およびアドレスリロードカウンタの各レジスタをリロード • 転送中に Integer→Floating-point 変換が可能 • 転送データ幅 : バイト/ワード/ロングワード/16B

項目	特 長
専用ダイレクトメモリアクセスコントローラ (A-DMAC)	<ul style="list-style-type: none"> • 66 チャンネル • イベント発生により指定されたモジュールからエイリアス領域へ、あるいはエイリアス領域（特定の RAM アドレス）から指定されたモジュールへのデータ転送が可能 • 以下のモジュールをサポート <ul style="list-style-type: none"> ADC 用チャンネル（1 チャンネル）：A/D 変換値転送 ATU-III（タイマ G）用チャンネル（1 チャンネル）：RAM からポートへ RAM の値を転送 ATU-III（タイマ A、C、F）用チャンネル：タイマ A（6 チャンネル）、タイマ C（20 チャンネル）、タイマ F（20 チャンネル）のインプットキャプチャレジスタ値転送 RSPI 用チャンネル（6 チャンネル）：MISOA~C、MOSIA~C SCI 用チャンネル（10 チャンネル）：RxD_A~E、TxD_A~E RCAN 用チャンネル（2 チャンネル）：CRx_A~C と CTx_A~C • エイリアスアドレスポインタ <ul style="list-style-type: none"> 1 種類の基本ポインタ：基本アドレスに対応する ATU-III（タイマ A、C、F）用チャンネルと RCAN 用チャンネルのエイリアス領域のアドレスは固定 18 種類のエイリアスポインタ：それぞれ ATU-III（タイマ G）用チャンネル、ADC 用チャンネル、RSPI 用チャンネル、SCI 用チャンネル
アドバンスドタイマユニット-III (ATU-III)	<ul style="list-style-type: none"> • タイマ A：32 ビットインプットキャプチャインプット×6 チャンネル • タイマ B：アングルクロック生成タイマ×1 チャンネル • タイマ C：24 ビットインプットキャプチャ/アウトプットコンペア×20 チャンネル • タイマ D：24 ビットワンショットパルス×16 チャンネル 24 ビットアウトプットコンペア×16 チャンネル • タイマ E：16 ビット PWM×24 チャンネル • タイマ F：24 ビットイベントカウンタ×20 チャンネル • タイマ G：16 ビットインターバルタイマ×6 チャンネル • タイマ H：32 ビットインターバルタイマ×1 チャンネル • タイマ J：9 段の FIFO 付き 16 ビットインプットキャプチャ×2 チャンネル クロックソースとして 2 種類の外部クロックが入力可能 • 外部入力端子にノイズキャンセル機能あり（タイマ A、タイマ C、タイマ F、タイマ J）
ウォッチドッグタイマ (WDT)	<ul style="list-style-type: none"> • ウォッチドッグタイマ/インターバルタイマの切り替えが可能 • カウンタオーバーフロー時、内部リセット、外部信号、または割り込みを発生 • パワーオンリセット
コンペアマッチタイマ (CMT)	<ul style="list-style-type: none"> • 2 チャンネル • 4 種類のカウンタ入力クロック選択可能 • コンペアマッチ割り込みを各チャンネル独立に要求可能

項目	特 長
シリアル コミュニケーション インタフェース (SCI)	<ul style="list-style-type: none"> • 5チャンネル • クロック同期式／調歩同期式モードの選択が可能 • 送受信を同時に行うことが可能（全二重） • 最大ボーレート 調歩同期式：1.25Mbps クロック同期式：2.5Mbps
ルネサスシリアル ペリフェラル インタフェース (RSPI)	<ul style="list-style-type: none"> • 3チャンネル • 同期式のシリアル通信 • マスタ／スレーブモードをサポート • プログラマブルなビット長、クロック極性、クロック位相 • 転送をシーケンシャルにループ実行可能 • MSB ファースト／LSB ファーストの選択が可能 • 最大転送レート：10MHz • チャンネル A ではシングルマスタモードで最大 8 スレーブを制御可能（PFC の設定に依存） チャンネル A ではマルチマスタモードで最大 7 スレーブを制御可能（PFC の設定に依存） • チャンネル B と C ではシングルマスタモードで最大 4 スレーブを制御可能（PFC の設定に依存） チャンネル B と C ではマルチマスタモードで最大 3 スレーブを制御可能（PFC の設定に依存）
コントローラエリア ネットワーク (RCAN-TL1)	<ul style="list-style-type: none"> • 3チャンネル • TTCAN レベル 1 はすべてのチャンネルでサポート • Bosch 2.0B active 対応 • バッファサイズ：送受信×31、受信のみ×1 • 32チャンネル入力のバッファを増やすために複数の RCAN チャンネルを 1つのバスに割り当て可能 • メッセージバッファ 8ビットにつき 1ビットのパリティエラー検出が可能 • パリティエラー割り込みの発生が可能

項目	特 長
A/D 変換器 (ADC)	<ul style="list-style-type: none"> • 37 チャンネル • サンプル&ホールド回路を 2 系統搭載 12 ビット 28 チャンネル、9 チャンネル独立動作 • 3 種類の変換モード選択可能 連続スキャンモード 1 サイクルスキャンモード A/D 変換値加算モード (同じチャンネルを 2~4 回連続で A/D 変換し変換値を加算) • 変換トリガ 外部トリガと ATU-III のコンペアマッチによる起動が可能 • 自己診断機能 内部で $0 \times AVref$、$0.5 \times AVref$、$1 \times AVref$ 電圧 ($\pm 40LSB$) 生成可能 • 変換時間: 周辺クロック通倍比 $\times 1$ 設定時: 25/50 ステート (Pϕ) 周辺クロック通倍比 $\times 2$ 設定時: 50 ステート (Pϕ) • 精度: $\pm 8LSB$、非直線性誤差: $\pm 4LSB$
JTAG インタフェース	<ul style="list-style-type: none"> • JTAG ポート IEEE1149.1 に準拠したバウンダリスキャンテストポート
アドバンストユーザ デバッグ-II (AUD-II)	<ul style="list-style-type: none"> • 8 本の専用端子 • RAM モニタモード データ入出力周波数: 周辺クロック周波数 (Pϕ) 以下かつ 20MHz 以下 内部/外部バスに接続されているモジュールのリード/ライトが可能 • AUD トレースモード
I/O ポート	<ul style="list-style-type: none"> • 特定の I/O 端子の出力ドライブ能力を選択可能 • 特定の I/O 端子の出力値の反転有無を選択可能 • MISO、RxD はプルダウン/プルダウンオフを選択可能 • レジスタを設定することで CK 端子の出力の有無を選択可能 • 特定のポートはエッジ検出レジスタを備えています
マルチインプット シグネチャジェネレータ (MISG)	<ul style="list-style-type: none"> • CPU による特定のアドレスへのライトアクセスを監視し、そのライトデータを用いて 32 ビットのシグネチャを生成
ROM	<ul style="list-style-type: none"> • 3.75MB フラッシュメモリ • ROM キャッシュ 命令キャッシュ: フルアソシアティブ、8 ライン、16 バイト/ライン データキャッシュ: フルアソシアティブ、4 ライン、16 バイト/ライン ラインサイズ: 16 バイト/ライン
EEPROM	<ul style="list-style-type: none"> • 128KB EEPROM • 8KB \times 16 ブロック • 書き込みは 8 バイト単位、消去は 8KB 単位で可能

項目	特 長
RAM	<ul style="list-style-type: none">• 256KB SRAM• ECC : 1 ビットの誤り訂正、2 ビットの誤り検出が可能• ECC のオン/オフを選択可能
パッケージ	<ul style="list-style-type: none">• 272 ピン BGA

1.2 ブロック図

図 1.1 に SH72546R のブロック図を示します。

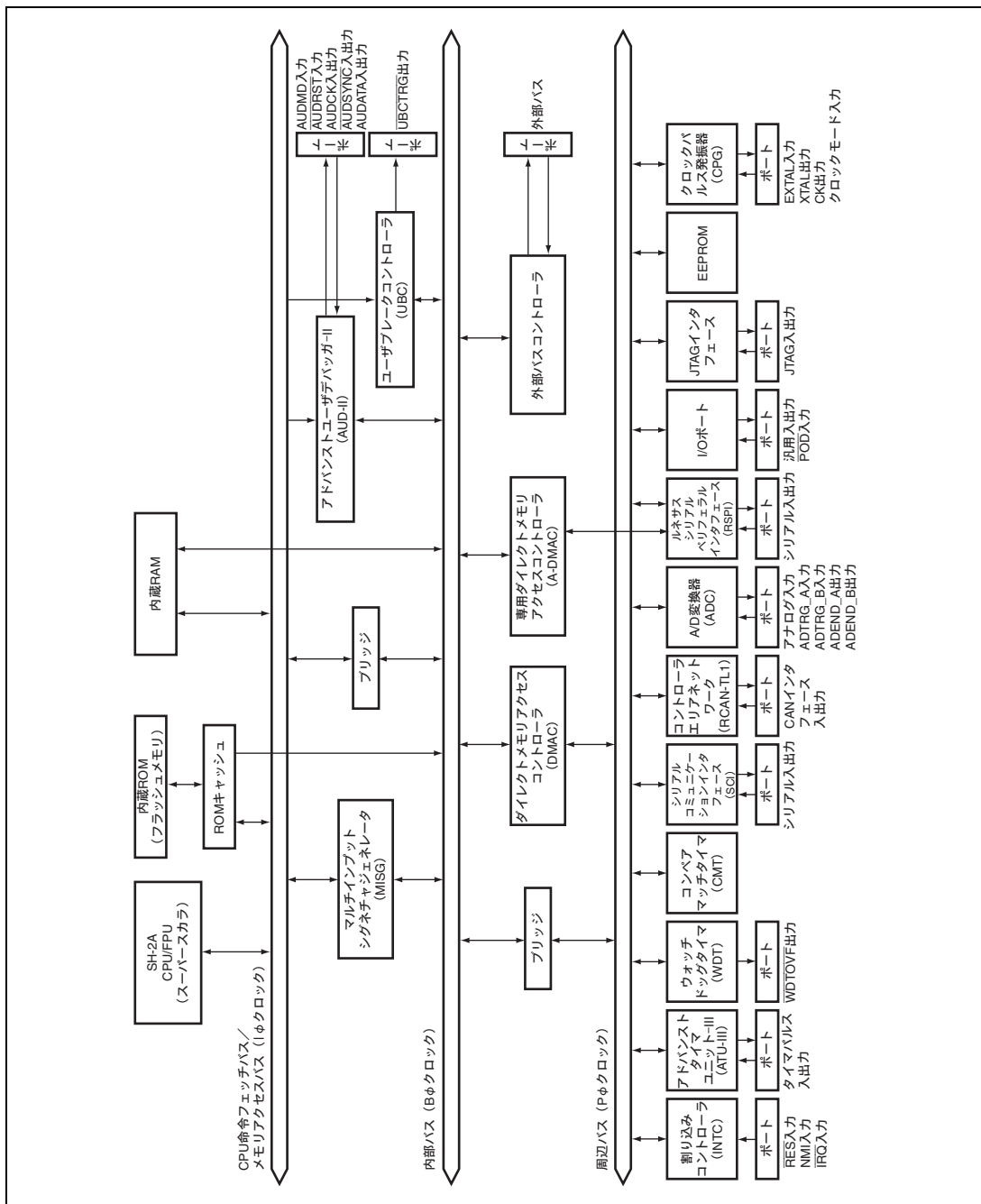


図 1.1 ブロック図

1.3 端子説明

1.3.1 ピン配置

図 1.2 に SH72546R のピン配置図を示します。

		Index																					
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20		
A	V _{ss}	PE10/ TOE10	PE11/ TOE11	PD2/ TIOC09/ TOE21/ TOE2	PD3/ TIOC03/ TOE22/ TOE3	PD6/ TIOC12/ TOE41	PD7/ TIOC13/ TOE42	PD8/ TIOC20/ TIOC33/ TOE53	PD11/ TIOC23/ TIF20/ TOE51	V _{ss}	FWE	MD1	CK	EXTAL	XTAL	PLL _{ss}	PLL _{Vcc}	ASEMD	TDI	V _{ss}	A		
B	PH0/ ADTRG_A/ TIF9A	PH3/ TIF3	PE5/ TIA05	PE6/ TOE09/ CTX_B	PE8/ TOE02	PD0/ TIOC00/ TIOC31	PD1/ TIOC01/ TOE20	PD5/ TIOC11/ TOE23/ TOE40	PD8/ TIOC21/ TIF09/ TOE43	VCL	WDTVGF	RES	V _{ss}	V _{cc}	MD_CLKP	MD_CLK1	TRST	TCK	PA1/ A1	PA7/ A7	B		
C	PK7/ TAD_E	PK11/ MISOC	PH5/ TIF5	PE4/ TIA04	PE3/ TIA03	PE2/ TIA02/ TIOC43/ TIOC30	PE8/ TOE03	PE12/ TOE12	PD4/ TIOC10/ TIOC32/ TOE52	PD10/ TIOC22/ TIF18/ TOE50	PD13/ TCLKB/ TJ1	MD0	MD3	MD4	NMI	TDO	AUDMD	PA0/ A0	PA2/ A2	PA9/ A9	C		
D	PK6/ SCK_E	PK10/ MOSIC	PH4/ TIF4	PE0/ TIA00	PE1/ TIA01/ TIOC42/ TIOC40	PE7/ TOE01/ CRK_B	V _{cc}	PE13/ TOE13	PV _{cc} 2	PD12/ TCLKA/ TIOC41/ TJ0	HSTBY	MD2	V _{cc}	MD_CLK0	TMS	AUDRST	AUDATA3	AUDSYNC	PA4/ A4	PA12/ A12	D		
E	PK3/ SCK_D/ RSPCKB	PK8/ RxD_E	PH1/ ADTRG_B/ TIF1A	PV _{cc} 2													AUDATA1	AUDATA0	PA3/ A3	PA13/ A13	E		
F	PK2/ RxD_C/ MISOA	PK5/ RxD_D/ MISOB	PK9/ RSPCKC	PH2/ TIF2A													V _{cc}	AUDATA2	PA6/ A6	PA15/ A15	F		
G	PG0/ TOD00A/ SSLA0	PK0/ SCK_C/ RSPCKA/ USCTRQ	PK4/ TxD_D/ MOSIB	V _{cc}													PA5/ A5	AUDCK	PA11/ A11	PB0/ A16/ MOSIA	G		
H	PG3/ TOD03A/ SSLA3	PG2/ TOD02A/ SSLA2	PG1/ TOD01A/ SSLA1	PK1/ TxD_C/ MOSIA													PV _{cc} 1	PA8/ A8	PA14/ A14	PB4/ A20/ CTX_B/ TIF6	H		
J	PG4/ TOD10A/ SSLB3	PG6/ TOD12A/ SSLB0	PG5/ TOD11A/ SSLA5/ SSLC3	PV _{cc} 2													PV _{cc} 1	PA10/ A10	PB2/ A18/ MOSIB	PB5/ A21/ CRK_B/ TIF7	J		
K	V _{ss}	VCL	PG9/ TOD01A/ SSLC0/ TIF7	PG7/ TOD13A/ SSLB1													PV _{cc} 1	PB1/ A17/ MISOA	PB6/ WEO	PB8/ WAIT/ TOE20	K		
L	PG8/ TOD20A/ SSLB2/ TIF9	PG10/ TOD22A/ SSLC1/ TIF9	PG11/ TOD23A/ SSLC2/ TIF9	V _{cc}													PB7/ WE1	PB3/ A19/ MISOB	VCL	V _{ss}	L		
M	PG12/ TOD30A/ SSLA7/ TIF10	PG14/ TOD32A/ SSLA6/ TIF12	PL7/ TOE2/ IRQ7	PG13/ TOD31A/ SSLA6/ TIF11													V _{cc}	PB10/ CS0	PB9/ RD	PB11/ SS1/ TOE21	M		
N	PG15/ TOD33A/ SSLA7/ TIF13	PL6/ TOE31/ IRQ6	PL2/ TOE21/ IRQ2	PV _{cc} 2													PC3/ D3	PC0/ D0	PB13/ CS5/ RSPCKB	PB12/ CS2/ RSPCKA	N		
P	PL8/ TOE33	PL4/ TOE23/ IRQ4	PL0/IRQ0	PL1/ TOE29/ IRQ1/ RCD													PV _{cc} 1	PC7/ D7	PC2/ D2	PC14/ RDWR	P		
R	PL5/ TOE30/ IRQ5	PL3/ TOE22/ IRQ3	AN_B44	AN_B46													PV _{cc} 1	PC10/ D10	PC5/ D5	PC1/ D1	R		
T	AV _{cc}	AN_B48	AN_B40	AN_B43													PJ4/ SCK_A/ ADEND_B/ TJ0	PC15/ D15	PC6/ D6	PC4/ D4	T		
U	AV _{ss}	AN_B47	AN_B42	AN_B41	AN_A23	AN_A21	AN_A19	V _{cc}	AN_A8	AN_A4	AN_A1	PV _{cc} 2	PF7/ TOD13B/ TIF13	V _{cc}	PJ7/ SCK_B/ ADEND_A/ TJ1	PV _{cc} 2	PC8/ A/ CRK_C/ CRK_A/CB/ B&CRx_C	PC14/ D14	PC9/ D9	PC8/ D8	U		
V	AVREFL_B	AN_B45	AN_A26	AN_A27	AN_A22	AN_A20	AN_A15	AN_A13	AN_A6	AN_A3	PF0/ TOD00B/ TIF6	PF4/ TOD10B/ TIF10	PF10/ TOD22B/ TIF16	PF12/ TOD30B/ TIF16	PL5/ TxD_A	PF17/ TxD_A/ CTX_A/ACT/ B&MCTX_C	PF0/ RxD_A/ CRK_A/ CRK_A/CB/ CRK_B	PF0/ TxD_A/ CTX_A/ CTX_A/CB/ CTX_B	PC13/ D13	PC11/ D11	V		
W	AVREFL_B	AN_A25	AVREFL_A	AV _{ss}	AN_A18	AN_A17	AN_A16	AN_A12	AN_A7	AV _{cc}	AN_A0	VCL	PF3/ TOD03B/ TIF9	PF8/ TOD20B/ TIF14	PF13/ TOD31B/ TIF19	PF15/ TOD33B/ GRx_B/ RxD_A	PJ8/ RxD_B	PJ8/ TxD_B	PC12/ D12	W			
Y	NC	AN_A24	AVREFL_A	AV _{cc}	AN_A14	AN_A11	AN_A10	AN_A9	AN_A5	AV _{ss}	AN_A2	V _{ss}	PF1/ TOD01B/ TIF7	PF2/ TOD02B/ TIF8	PF5/ TOD11B/ TIF11	PF6/ TOD12B/ TIF12	PF10/ TOD21B/ TIF15	PF11/ TOD23B/ TIF17	PF14/ TOD32B/ CTX_B/ TxD_A	V _{ss}	Y		
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20		

図 1.2 ピン配置図

1.3.2 端子機能

各端子の機能を表 1.2 に示します。

表 1.2 端子機能

分類	端子名	端子番号	入出力	名称	機能
電源	Vcc	B14、D7、 D13、F17、 G4、L4、M17、 U8、U14	入力	電源	LSI 内部およびシステム系端子用の電源です。Vcc 端子は、すべてシステムのシステム系電源に接続してください。開放端子があると動作しません。
	PVcc1	H17、J17、 K17、P17、 R17	入力	5V/3.3V 電源 (拡張バス用)	バス系ポート（ポート A、ポート B、ポート C）用電源です。PVcc1 端子は、すべてシステムのバス系電源に接続してください。開放端子があると動作しません。
	PVcc2	D9、E4、J4、 N4、U12、U16	入力	5V 電源	周辺モジュール系ポート（ポート D、ポート E、ポート F、ポート G、ポート H、ポート J、ポート K、ポート L）用電源です。PVcc2 端子は、すべてシステムの周辺モジュール系電源に接続してください。開放端子があると動作しません。
	Vcl	B10、K2、 L19、W12	入力	内部降圧電源	内部降圧電源の電圧安定用のコンデンサを接続する端子です。コンデンサを介して Vss に接続してください。端子近くに配置してください。外部電源に接続しないでください。
	Vss	A1、A10、 A20、B13、J9、 J10、J11、 J12、K1、K9、 K10、K11、 K12、L9、L10、 L11、L12、 L20、M9、 M10、M11、 M12、Y12、 Y20	入力	グラウンド	グラウンド端子です。すべての Vss 端子をシステム電源（0V）に接続してください。開放端子があると動作しません。
クロック	PLL Vcc	A17	入力	PLL 用電源	内蔵 PLL 発振器用の電源です。
	PLL Vss	A16	入力	PLL 用グラウンド	内蔵 PLL 発振器用のグラウンドです。
	EXTAL	A14	入力	外部クロック	水晶発振子を接続します。また、EXTAL 端子は外部クロックを入力することもできます。
	XTAL	A15	出力	クリスタル	水晶発振子を接続します。
	CK	A13	出力	周辺クロック	周辺デバイスに周辺クロックを供給します。

分類	端子名	端子番号	入出力	名称	機能
動作モード コントロール	ASEMD	A18	入力	ASE モード	エミュレータ機能を有効にします。デバッグモード以外の通常動作時はローレベルを入力します。デバッグモード時はユーザシステムボード上でハイレベルを入力します。
	FWE	A11	入力	フラッシュ書き込みイネーブル	通常動作時はローレベルを入力します。オンボードプログラミング時はハイレベルを入力します。
	MD4~MD0	C12、A12、 D12、C13、 C14	入力	モード設定	動作モードを決める端子です。動作中は、入力値を変化させないでください。
	MD_CLK1、 MD_CLK0、 MD_CLKP	D14、B16、 B15	入力	クロックモード 設定	クロックモードを決める端子です。動作中は、入力値を変化させないでください。
システム制御	HSTBY	D11	入力	ハードウェア スタンバイ	この端子がローレベルになると、ハードウェアスタンバイモードに移ります。
	RES	B12	入力	パワーオン リセット	この端子がローレベルになると、パワーオンリセット状態になります。
	WDTOVF	B11	出力	ウォッチドッグ タイマオーバ フロー	WDT からのオーバフロー出力信号です。
割り込み	NMI	C15	入力	ノンマスクابل 割り込み	ノンマスクابل割り込み要求端子です。
	IRQ7~IRQ0	P3、P4、N3、 R2、P2、R1、 N2、M3	入力	割り込み要求 7~0	マスク可能な割り込み要求端子です。レベル入力、エッジ入力の選択が可能です。エッジ入力の場合、立ち上がり、立ち下がり、両エッジの選択が可能です。
アドレスバス	A21~A0	C18、B19、 C19、E19、 D19、G17、 F19、B20、 H18、C20、 J18、G19、 D20、E20、 H19、F20、 G20、K18、 J19、L18、 H20、J20	出力	アドレスバス	アドレスを出力します。

分類	端子名	端子番号	入出力	名称	機能
データバス	D15~D0	N18、R20、 P19、N17、 T20、R19、 T19、P18、 U20、U19、 R18、V20、 W20、V19、 U18、T18	入出力	データバス	双方向のデータバスです。
バス制御	$\overline{CS3} \sim \overline{CS0}$	M18、M20、 N20、N19	出力	チップセレクト 3~0	外部メモリまたはデバイスのためのチップセレクト 信号です。
	\overline{RD}	M19	出力	リード	外部のデバイスからリードすることを示します。
	$\overline{RD}/\overline{WR}$	P20	出力	リード/ライト	リード信号またはライト信号です。
	\overline{WAIT}	K20	入力	ウェイト	外部空間をアクセスするときのバスサイクルにウェ イトサイクルを挿入させる入力です。
	$\overline{WE0}$	K19	出力	ライト/バイト 指定	外部メモリまたはデバイスのデータのビット7~0 に書き込みすることを示します。
	$\overline{WE1}$	L17	出力	ライト/バイト 指定	外部メモリまたはデバイスのデータのビット15~8 に書き込みすることを示します。
アドバンスト タイマユニッ ト-III (ATU-III)	TCLKA、 TCLKB	D10、C11	入力	ATU-III タイマ入 力	ATU-III カウンタの外部クロックを入力する端子で す。
	TIA05~TIA00	D4、D5、C6、 C5、C4、B3	入力	ATU-III インプッ トキャプチャ (タイマ A)	タイマ A の各チャンネルへのインプットキャプチャト リガを入力する端子です。
	TI0C43~40、 TI0C33~30、 TI0C23~20、 TI0C13~10、 TI0C03~00	B6、B7、C10、 A9、D10、A4、 A5、C9、B8、 A6、A7、A8、 B9、D5、C6	入出力	ATU-III インプッ トキャプチャ/ アウトプットコ ンペア (タイマ C)	タイマ C へのインプットキャプチャトリガ入力、お よびアウトプットコンペアマッチを出力する端子で す。
	TOD33A~ 30A、 TOD23A~ 20A、 TOD13A~ 10A、 TOD03A~ 00A	G1、H3、L2、 L3、M1、M4、 M2、N1、H2、 H1、J1、J3、 J2、K4、L1、 K3	出力	ATU-III コンペア マッチ (タイマ D)	タイマ D のコンペアマッチを出力する端子です。

分類	端子名	端子番号	入出力	名称	機能
アドバンスド タイマユニット-III (ATU-III)	TOD33B~ 30B、 TOD23B~ 20B、 TOD13B~ 10B、 TOD03B~ 00B	V11、Y13、 V13、Y18、 V14、W15、 Y19、W16、 Y14、W13、 V12、Y15、 Y16、U13、 W14、Y17	出力	ATU-III ワンショットパルス (タイムD)	タイムDのワンショットパルスを出力する端子です。
	TOE53~50、 TOE43~40、 TOE33~30、 TOE23~20、 TOE13~10、 TOE03~00	B4、D6、B5、 C7、A2、A3、 C8、D8、P4、 K20、B7、N3、 M20、A4、R2、 A5、P2、B8、 R1、N2、M3、 P1、A6、A7、 B9、C10、A9、 C9、A8	出力	ATU-III PWM 出力 (タイムE)	タイムEのアウトプットコンペアマッチを出力、およびPWM信号を出力する端子です。
	TIF2A~ TIF0A	B1、E3、F4	入力	ATU-III イベント入力 (フェーズA、タイムF)	タイムFのイベントインプットを入力する端子です。(フェーズA)
	TIF2B~ TIF0B	B9、C10、A9	入力	ATU-III イベント入力 (フェーズB、タイムF)	タイムFのイベントインプットを入力する端子です。(フェーズB)
	TIF19~TIF3	V12、M1、 Y15、M4、 Y16、M2、 U13、N1、 W14、Y17、 V13、Y18、 V14、W15、 B2、D3、C3、 V11、H20、 L1、Y13、J20、 K3、Y14、L2、 W13、L3	入力	ATU-III イベント入力 (タイムF)	タイムFのイベントインプットを入力する端子です。
	TIJ1、TIJ0	D10、T17、 C11、U15	入力	ATU-III 入力 (タイムJ)	タイムJのインプットキャプチャトリガを入力する端子です。
コントローラ エリアネット ワーク (RCAN-TL1)	CTx_A~ CTx_C	V18、V16、 H20、B4、Y19	出力	チャンネルA~C 送信データ	CANバスに送信するデータを出力する端子です。
	CRx_A~ CRx_C	V17、U17、 J20、D6、W16	入力	チャンネルA~C 受信データ	CANバスから受信するデータを入力する端子です。

分類	端子名	端子番号	入出力	名称	機能
シリアルコミュニケーションインタフェース (SCI)	TxD_A~ TxD_E	V18、V16、 V15、Y19、 W18、H4、 G3、C1	出力	チャンネル A~E 送信データ	チャンネル A~E の送信データを出力する端子です。
	RxD_A~ RxD_E	V17、U17、 W19、W16、 W17、F1、F2、 E2	入力	チャンネル A~E 受信データ	チャンネル A~E の受信データを入力する端子です。
	SCK_A~ SCK_E	T17、U15、 G2、E1、D1	入出力	チャンネル A~E シリアルクロック	チャンネル A~E のクロックを入出力する端子です。
ルネサスシリアルペリフェラルインタフェース (RSPI)	MOSIA~ MOSIC	G20、H4、 J19、G3、D2	入出力	チャンネル A~C 送信データ	チャンネル A~C の送信データを入出力する端子です。
	MISOA~ MISOC	K18、F1、L18、 F2、C2	入出力	チャンネル A~C 受信データ	チャンネル A~C の受信データを入出力する端子です。
	RSPCKA~ RSPCKC	N20、G2、 N19、E1、F3	入出力	チャンネル A~C シリアルクロック	チャンネル A~C のクロックを入出力する端子です。
	SSLA0、 SSLB0、 SSLC0	G1、J2、K3	入出力	チャンネル A~C チップセレクト	チャンネル A~C チップセレクトを入出力する端子です。
	SSLA1~7、 SSLB1~3、 SSLC1~3	H3、H2、H1、 M1、J1、M4、 J3、M2、N1、 K4、L1、L2、 L3	出力	チャンネル A~C チップセレクト	チャンネル A~C チップセレクトを入出力する端子です。
ユーザブ레이크コントローラ (UBC)	UBCTRG	G2	出力	ユーザブ레이크トリガ出力	UBC 条件一致のトリガ出力です。
A/D 変換器 (ADC)	AVcc	T1、W10、Y4	入力	アナログ電源	A/D 変換器用電源を供給する端子です。
	AVss	U1、W4、Y10	入力	アナロググランド	A/D 変換器用グランド端子です。
	AN_A27~ AN_A0、 AN_B48~ AN_B40	W11、U11、 Y7、Y6、W8、 V8、Y5、V7、 W7、W6、W5、 U7、Y11、V6、 U6、V5、U5、 Y2、W2、V3、 V4、V10、 U10、Y9、V9、 W9、U9、Y8、 T3、U4、U3、 T4、R3、V2、 R4、U2、T2	入力	アナログ入力	アナログ信号を入力する端子です。

分類	端子名	端子番号	入出力	名称	機能
A/D 変換器 (ADC)	ADTRG_A, ADTRG_B	B1、E3	入力	A/D 変換トリガ 入力	A/D 変換を開始する外部トリガを入力する端子で す。
	ADEND_A, ADEND_B	U15、T17	出力	ADEND 出力	A/D 変換のタイミングをモニタするための出力端 子です。
	AVREFH_A, AVREFH_B	Y3、W1	入力	アナログ基準電圧	アナログハイレベルの基準電圧を入力する端子で す。
	AVREFL_A, AVREFL_B	W3、V1	入力	アナログ基準電圧	アナログローレベルの基準電圧を入力する端子で す。
JTAG インタ フェース	TCK	B18	入力	テストクロック	テストクロック入力端子です。
	TMS	D15	入力	テストモード セレクト	テストモードセレクト信号入力端子です。
	TDI	A19	入力	テストデータ入力	インストラクションとデータのシリアル入力端子 です。
	TDO	C16	出力	テストデータ出力	インストラクションとデータのシリアル出力端子 です。
	TRST	B17	入力	テストリセット	初期化信号入力端子です。
アドバンスト ユーザデバッ ガ-II (AUD-II)	AUDATA3~ AUDATA0	E18、E17、 F18、D17	入出力	AUD データ	ブランチトレースモードでは分岐先アドレス出力 端子です。RAM モニタモードではモニタアドレ ス入力、データ入出力端子です。
	$\overline{\text{AUDRST}}$	D16	入力	AUD リセット	AUD-II リセット信号を入力する端子です。
	AUDMD	C17	入力	AUD モード	モード選択信号を入力する端子です。ブランチト レースモードではローレベルを、RAM モニタモ ードではハイレベルを入力してください。
	AUDCK	G18	入出力	AUD クロック	ブランチトレースモードではクロックを出力し、 RAM モニタモードではクロックを入力する端子 です。
	$\overline{\text{AUDSYNC}}$	D18	入出力	AUD 同期信号	ブランチトレースモードではデータ先頭位置認識 信号を出力、RAM モニタモードではデータ先頭 位置認識信号を入力する端子です。

分類	端子名	端子番号	入出力	名称	機能
I/O ポート	\overline{POD}	P4	入力	ポート出力無効	汎用ポートが出力に設定されている場合、端子の駆動制御信号を入力する端子です。
	PA15~0	C18、B19、 J18、G19、 D20、E20、 H19、F20、 C19、E19、 D19、G17、 F19、B20、 H18、C20	入出力	ポート A	汎用入出力端子 入力／出力の選択はビットごとに設定できます。
	PB14~0	G20、K18、 M18、M20、 N20、N19、 P20、J19、 L18、H20、 J20、K19、 L17、K20、 M19	入出力	ポート B	汎用入出力端子 入力／出力の選択はビットごとに設定できます。
	PC15~0	N18、R20、 R18、V20、 W20、V19、 U18、T18、 P19、N17、 T20、R19、 T19、P18、 U20、U19	入出力	ポート C	汎用入出力端子 入力／出力の選択はビットごとに設定できます。
	PD13~0	B6、B7、C10、 A9、D10、 C11、A4、A5、 C9、B8、A6、 A7、A8、B9	入出力	ポート D	汎用入出力端子 入力／出力の選択はビットごとに設定できます。
	PE13~0	D4、D5、A2、 A3、C8、D8、 C6、C5、C4、 B3、B4、D6、 B5、C7	入出力	ポート E	汎用入出力端子 入力／出力の選択はビットごとに設定できます。

分類	端子名	端子番号	入出力	名称	機能
I/O ポート	PF15~0	V11、Y13、 V13、Y18、 V14、W15、 Y19、W16、 Y14、W13、 V12、Y15、 Y16、U13、 W14、Y17	入出力	ポート F	汎用入出力端子 入力/出力の選択はビットごとに設定できます。
	PG15~0	G1、H3、L2、 L3、M1、M4、 M2、N1、H2、 H1、J1、J3、 J2、K4、L1、 K3	入出力	ポート G	汎用入出力端子 入力/出力の選択はビットごとに設定できます。
	PH5~0	B1、E3、F4、 B2、D3、C3	入出力	ポート H	汎用入出力端子 入力/出力の選択はビットごとに設定できます。
	PJ9~0	V18、V17、 V16、U17、 T17、V15、 W19、U15、 W18、W17	入出力	ポート J	汎用入出力端子 入力/出力の選択はビットごとに設定できます。
	PK11~0	G2、H4、D2、 C2、F1、E1、 G3、F2、D1、 C1、E2、F3	入出力	ポート K	汎用入出力端子 入力/出力の選択はビットごとに設定できます。
	PL8~0	P3、P4、N3、 R2、P2、R1、 N2、M3、P1	入出力	ポート L	汎用入出力端子 入力/出力の選択はビットごとに設定できます。
その他	N.C.	Y1	—	No Connection	何も接続しないでください。

1.3.3 端子一覧

表 1.3 端子一覧

ピン番号	MCU 拡張モード、MCU シングルチップモード、ブートモード、 ユーザプログラムモード、ユーザブートモード
A18	ASEMD
C14	MD4
C13	MD3
D12	MD2
A12	MD1
C12	MD0
A11	FWE
B16	MD_CLK1
D14	MD_CLK0
B15	MD_CLKP
D11	HSTBY
B12	RES
C15	NMI
A14	EXTAL
A15	XTAL
A13	CK
B11	WDTOVF
B17	TRST
B18	TCK
D15	TMS
A19	TDI
C16	TDO
C17	AUDMD
D16	AUDRST
G18	AUDCK
D18	AUDSYNC
D17	AUDATA3
F18	AUDATA2
E17	AUDATA1
E18	AUDATA0
C18	PA0/A0
B19	PA1/A1
C19	PA2/A2

ピン番号	MCU 拡張モード、MCU シングルチップモード、ブートモード、 ユーザプログラムモード、ユーザブートモード
E19	PA3/A3
D19	PA4/A4
G17	PA5/A5
F19	PA6/A6
B20	PA7/A7
H18	PA8/A8
C20	PA9/A9
J18	PA10/A10
G19	PA11/A11
D20	PA12/A12
E20	PA13/A13
H19	PA14/A14
F20	PA15/A15
G20	PB0/A16/MOSIA
K18	PB1/A17/MISOA
J19	PB2/A18/MOSIB
L18	PB3/A19/MISOB
H20	PB4/A20/CTx_B/TIF6
J20	PB5/A21/CRx_B/TIF7
K19	PB6/ $\overline{WE0}$
L17	PB7/ $\overline{WE1}$
K20	PB8/ \overline{WAIT} /TOE20
M19	PB9/ \overline{RD}
M18	PB10/ $\overline{CS0}$
M20	PB11/ $\overline{CS1}$ /TOE21
N20	PB12/ $\overline{CS2}$ /RSPCKA
N19	PB13/ $\overline{CS3}$ /RSPCKB
P20	PB14/ \overline{RD} / \overline{WR}
N18	PC0/D0
R20	PC1/D1
P19	PC2/D2
N17	PC3/D3
T20	PC4/D4
R19	PC5/D5
T19	PC6/D6
P18	PC7/D7

ピン番号	MCU 拡張モード、MCU シングルチップモード、ブートモード、 ユーザプログラムモード、ユーザブートモード
U20	PC8/D8
U19	PC9/D9
R18	PC10/D10
V20	PC11/D11
W20	PC12/D12
V19	PC13/D13
U18	PC14/D14
T18	PC15/D15
B6	PD0/TIOC00/TIOC31
B7	PD1/TIOC01/TOE20
A4	PD2/TIOC02/TOE21/TOE52
A5	PD3/TIOC03/TOE22/TOE53
C9	PD4/TIOC10/TIOC32/TOE52
B8	PD5/TIOC11/TOE23/TOE40
A6	PD6/TIOC12/TOE41
A7	PD7/TIOC13/TOE42
A8	PD8/TIOC20/TIOC33/TOE53
B9	PD9/TIOC21/TIF0B/TOE43
C10	PD10/TIOC22/TIF1B/TOE50
A9	PD11/TIOC23/TIF2B/TOE51
D10	PD12/TCLKA/TIOC41/TIJ0
C11	PD13/TCLKB/TIJ1
D4	PE0/TIA00
D5	PE1/TIA01/TIOC42/TIOC40
C6	PE2/TIA02/TIOC43/TIOC30
C5	PE3/TIA03
C4	PE4/TIA04
B3	PE5/TIA05
B4	PE6/TOE00/CTx_B
D6	PE7/TOE01/CRx_B
B5	PE8/TOE02
C7	PE9/TOE03
A2	PE10/TOE10
A3	PE11/TOE11
C8	PE12/TOE12
D8	PE13/TOE13

ピン番号	MCU 拡張モード、MCU シングルチップモード、ブートモード、 ユーザプログラムモード、ユーザブートモード
V11	PF0/TOD00B/TIF6
Y13	PF1/TOD01B/TIF7
Y14	PF2/TOD02B/TIF8
W13	PF3/TOD03B/TIF9
V12	PF4/TOD10B/TIF10
Y15	PF5/TOD11B/TIF11
Y16	PF6/TOD12B/TIF12
U13	PF7/TOD13B/TIF13
W14	PF8/TOD20B/TIF14
Y17	PF9/TOD21B/TIF15
V13	PF10/TOD22B/TIF16
Y18	PF11/TOD23B/TIF17
V14	PF12/TOD30B/TIF18
W15	PF13/TOD31B/TIF19
Y19	PF14/TOD32B/CTx_B/TxD_A
W16	PF15/TOD33B/CRx_B/RxD_A
G1	PG0/TOD00A/SSLA0
H3	PG1/TOD01A/SSLA1
H2	PG2/TOD02A/SSLA2
H1	PG3/TOD03A/SSLA3
J1	PG4/TOD10A/SSLA4/SSLB3
J3	PG5/TOD11A/SSLA5/SSLC3
J2	PG6/TOD12A/SSLB0
K4	PG7/TOD13A/SSLB1
L1	PG8/TOD20A/SSLB2/TIF6
K3	PG9/TOD21A/SSLC0/TIF7
L2	PG10/TOD22A/SSLC1/TIF8
L3	PG11/TOD23A/SSLC2/TIF9
M1	PG12/TOD30A/SSLA4/TIF10
M4	PG13/TOD31A/SSLA5/TIF11
M2	PG14/TOD32A/SSLA6/TIF12
N1	PG15/TOD33A/SSLA7/TIF13
B1	PH0/ADTRG_A/TIF0A
E3	PH1/ADTRG_B/TIF1A
F4	PH2/TIF2A
B2	PH3/TIF3

ピン番号	MCU 拡張モード、MCU シングルチップモード、ブートモード、 ユーザプログラムモード、ユーザブートモード
D3	PH4/TIF4
C3	PH5/TIF5
V18	PJ0/TxD_A/CTx_A/CTx_A&CTx_B
V17	PJ1/RxD_A/CRx_A/CRx_A&CRx_B
V16	PJ2/TxD_A/CTx_C/CTx_A&CTx_B&CTx_C
U17	PJ3/RxD_A/CRx_C/CRx_A&CRx_B&CRx_C
T17	PJ4/SCK_A/ADEND_B/TIJ0
V15	PJ5/TxD_A
W19	PJ6/RxD_A
U15	PJ7/SCK_B/ADEND_A/TIJ1
W18	PJ8/TxD_B
W17	PJ9/RxD_B
G2	PK0/SCK_C/RSPCKA/UBCTRG
H4	PK1/TxD_C/MOSIA
F1	PK2/RxD_C/MISOA
E1	PK3/SCK_D/RSPCKB
G3	PK4/TxD_D/MOSIB
F2	PK5/RxD_D/MISOB
D1	PK6/SCK_E
C1	PK7/TxD_E
E2	PK8/RxD_E
F3	PK9/RSPCKC
D2	PK10/MOSIC
C2	PK11/MISOC
P3	PL0/IRQ0
P4	PL1/TOE20/IRQ1/POD
N3	PL2/TOE21/IRQ2
R2	PL3/TOE22/IRQ3
P2	PL4/TOE23/IRQ4
R1	PL5/TOE30/IRQ5
N2	PL6/TOE31/IRQ6
M3	PL7/TOE32/IRQ7
P1	PL8/TOE33
W11	AN_A0
U11	AN_A1
Y11	AN_A2

ピン番号	MCU 拡張モード、MCU シングルチップモード、ブートモード、 ユーザプログラムモード、ユーザブートモード
V10	AN_A3
U10	AN_A4
Y9	AN_A5
V9	AN_A6
W9	AN_A7
U9	AN_A8
Y8	AN_A9
Y7	AN_A10
Y6	AN_A11
W8	AN_A12
V8	AN_A13
Y5	AN_A14
V7	AN_A15
W7	AN_A16
W6	AN_A17
W5	AN_A18
U7	AN_A19
V6	AN_A20
U6	AN_A21
V5	AN_A22
U5	AN_A23
Y2	AN_A24
W2	AN_A25
V3	AN_A26
V4	AN_A27
Y3	AVREFH_A
W3	AVREFL_A
T3	AN_B40
U4	AN_B41
U3	AN_B42
T4	AN_B43
R3	AN_B44
V2	AN_B45
R4	AN_B46
U2	AN_B47
T2	AN_B48

ピン番号	MCU 拡張モード、MCU シングルチップモード、ブートモード、 ユーザプログラムモード、ユーザブートモード
W1	AVREFH_B
V1	AVREFL_B
A17	PLLVcc
A16	PLLVss
B10	VCL
K2	VCL
L19	VCL
W12	VCL
B14	Vcc
D7	Vcc
D13	Vcc
F17	Vcc
G4	Vcc
L4	Vcc
M17	Vcc
U8	Vcc
U14	Vcc
H17	PVcc1
J17	PVcc1
K17	PVcc1
P17	PVcc1
R17	PVcc1
D9	PVcc2
E4	PVcc2
J4	PVcc2
N4	PVcc2
U12	PVcc2
U16	PVcc2
A1	Vss
A10	Vss
A20	Vss
B13	Vss
J9	Vss
J10	Vss
J11	Vss
J12	Vss

ピン番号	MCU 拡張モード、MCU シングルチップモード、ブートモード、 ユーザプログラムモード、ユーザブートモード
K1	Vss
K9	Vss
K10	Vss
K11	Vss
K12	Vss
L9	Vss
L10	Vss
L11	Vss
L12	Vss
L20	Vss
M9	Vss
M10	Vss
M11	Vss
M12	Vss
Y12	Vss
Y20	Vss
T1	AVcc
W10	AVcc
Y4	AVcc
U1	AVss
W4	AVss
Y10	AVss
Y1	NC

2. CPU

2.1 データフォーマット

SH-2A/SH2A-FPU でサポートしているデータフォーマットを図 2.1 に示します。

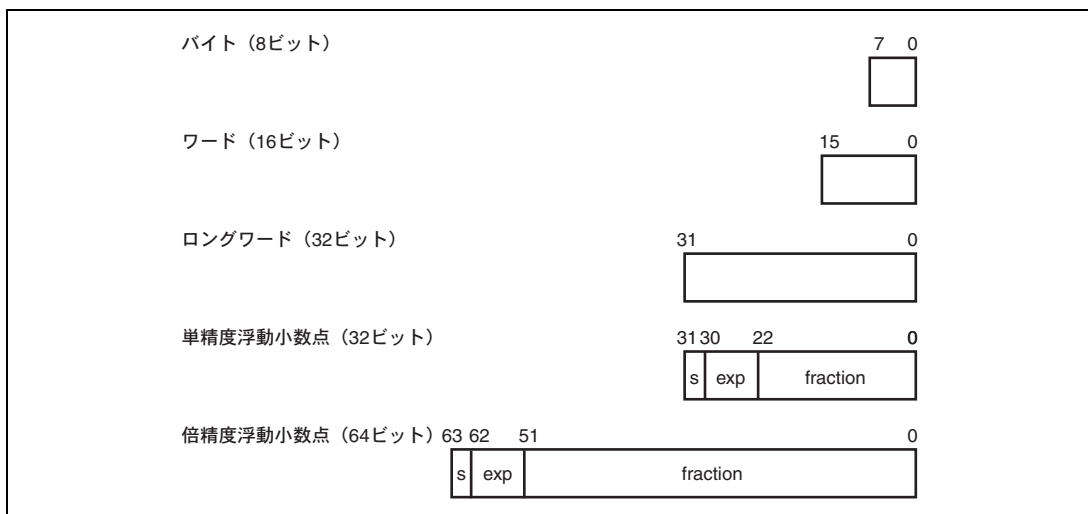


図 2.1 データフォーマット

2.2 レジスタ構成

レジスタは、汎用レジスタ (32 ビット×16 本)、コントロールレジスタ (32 ビット×4 本)、システムレジスタ (32 ビット×4 本)、浮動小数点レジスタ、浮動小数点システムレジスタの 5 種類があります。

2.2.1 汎用レジスタ

図 2.2 に汎用レジスタを示します。汎用レジスタは 32 ビットの長さで、R0 から R15 までの 16 本あります。汎用レジスタは、データ処理、アドレス計算に使われます。R0 は、インデックスレジスタとしても使用します。いくつかの命令では使用できるレジスタが R0 に固定されています。R15 は、ハードウェアスタックポインタ (SP) として使われます。例外処理でのステータスレジスタ (SR) とプログラムカウンタ (PC) の退避、回復は、R15 を用いてスタックを参照し行います。

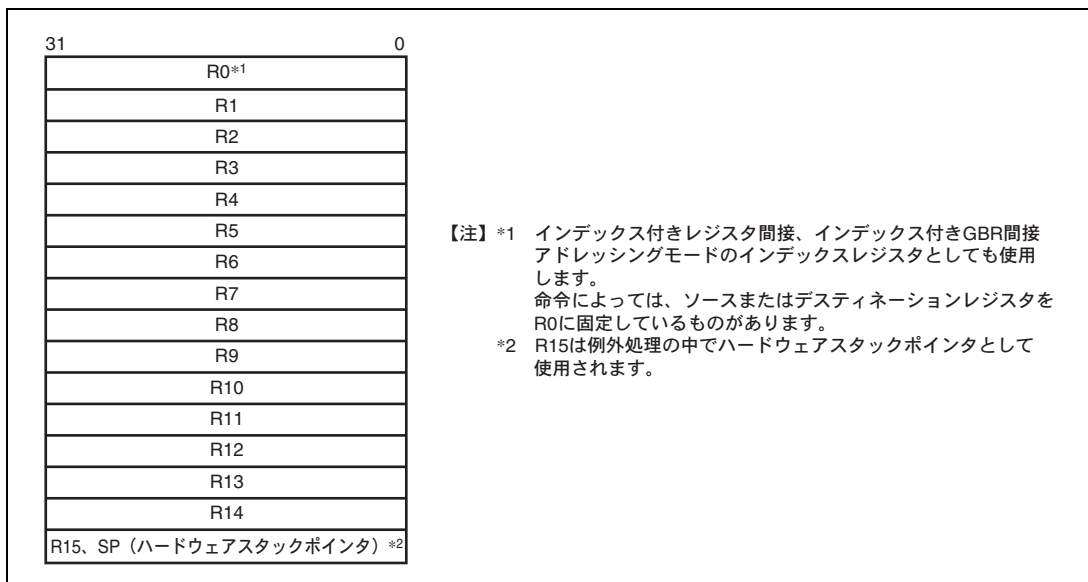


図 2.2 汎用レジスタ

2.2.2 コントロールレジスタ

コントロールレジスタは32ビットの長さで、ステータスレジスタ (SR)、グローバルベースレジスタ (GBR)、ベクタベースレジスタ (VBR)、ジャンプテーブルベースレジスタ (TBR) の4本があります。

SR は各種命令の処理の状態を表します。

GBR は GBR 間接アドレッシングモードのベースアドレスとして使用し、内蔵周辺モジュールのレジスタのデータ転送などに使用します。

VBR は割り込みを含む例外処理ベクタ領域のベースアドレスとして使用します。

TBR は関数テーブル領域のベースアドレスとして使用します。

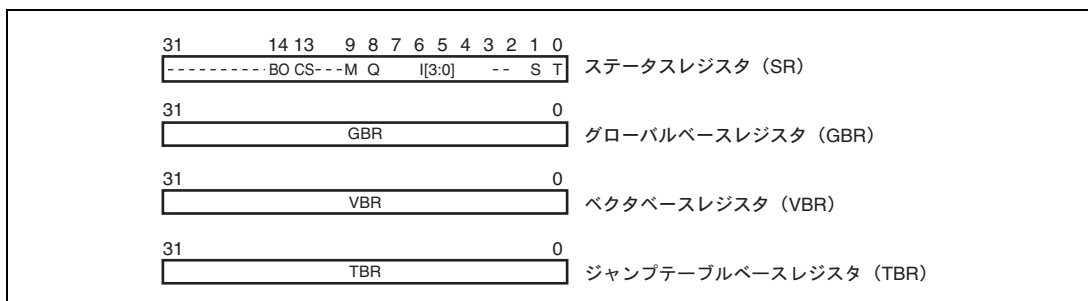


図 2.3 コントロールレジスタ

(1) ステータスレジスタ (SR)

ビット:	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R
ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	BO	CS	—	—	—	M	Q	I[3:0]			—	—	S	T	
初期値:	0	0	0	0	0	0	—	—	1	1	1	1	0	0	—	—
R/W:	R	R/W	R/W	R	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R	R	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
31~15	—	すべて0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。
14	BO	0	R/W	BO ビット レジスタバンクがオーバフローしていることを示します。
13	CS	0	R/W	CS ビット CLIP 命令の実行で、飽和上限値を上回ったまたは飽和下限値を下回ったことを示します。
12~10	—	すべて0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。
9	M	—	R/W	M ビット Q ビット DIV0S、DIV0U、DIV1 命令で使用します。
8	Q	—	R/W	
7~4	I[3:0]	1111	R/W	割り込みマスクレベル
3、2	—	すべて0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。
1	S	—	R/W	S ビット MAC 命令の飽和動作を指定します。
0	T	—	R/W	T ビット 真/偽条件またはキャリー/ポロービット

(2) グローバルベースレジスタ (GBR)

GBR は GBR 参照 MOV 命令のベースアドレスとして参照されます。

(3) ベクタベースレジスタ (VBR)

VBR は例外および割り込み発生時、分岐先のベースアドレスとして参照されます。

(4) ジャンプテーブルベースレジスタ (TBR)

テーブル参照サブルーチンコール命令 JSR/N @@(disp8,TBR)で、メモリに配置された関数テーブルの先頭アドレスとして参照します。

2.2.3 システムレジスタ

システムレジスタは32ビットの長さで、積和レジスタ（MACH、MACL）、プロシージャレジスタ（PR）、プログラムカウンタ（PC）の4本があります。MACH、MACLは、乗算または積和演算の結果を格納します。PRはサブルーチンプロシージャからの戻り先アドレスを格納します。PCは実行中のプログラムのアドレスを示し、処理の流れを制御します。

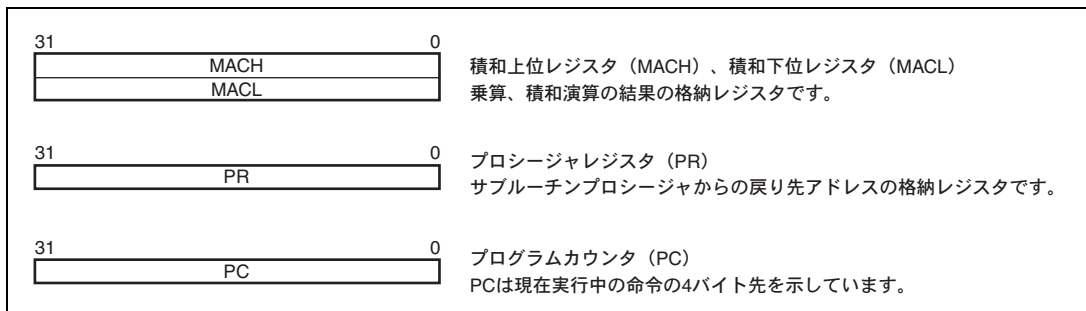


図 2.4 システムレジスタ

(1) 積和上位レジスタ（MACH）、積和下位レジスタ（MACL）

MACH および MACL は、MAC 命令の加算値として用いられます。また、MAC 命令、MUL 命令の演算結果を格納するためにも用いられます。

(2) プロシージャレジスタ（PR）

BSR、BSRF、JSR 命令を用いたサブルーチンコールの戻りアドレスは PR に格納されます。PR は、サブルーチンからの復帰命令（RTS）によって参照されます。

(3) プログラムカウンタ（PC）

PC は現在実行中の命令の 4 バイト先を示しています。

2.2.4 浮動小数点レジスタ

図 2.5 に浮動小数点レジスタを示します。16本の32ビット浮動小数点レジスタ FPR0～FPR15があります。この16本のレジスタはFR0～FR15、DR0/2/4/6/8/10/12/14として参照されます。FPRnと参照名の対応はFPSCRのPRビットとSZビットによって決まります。図 2.5を参照してください。

(1) 浮動小数点レジスタ：FPRn（16レジスタ）

FPR0、FPR1、FPR2、FPR3、FPR4、FPR5、FPR6、FPR7、
FPR8、FPR9、FPR10、FPR11、FPR12、FPR13、FPR14、FPR15

(2) 単精度浮動小数点レジスタ：FRi（16レジスタ）

FR0～FR15はFPR0～FPR15に割り当てられます。

(3) 倍精度浮動小数点レジスタまたは単精度浮動小数点レジスタのペア：DRi（8レジスタ）

DRレジスタは、2つのFRレジスタから構成されます。

DR0={FPR0、FPR1}、DR2={FPR2、FPR3}、
DR4={FPR4、FPR5}、DR6={FPR6、FPR7}、
DR8={FPR8、FPR9}、DR10={FPR10、FPR11}、
DR12={FPR12、FPR13}、DR14={FPR14、FPR15}

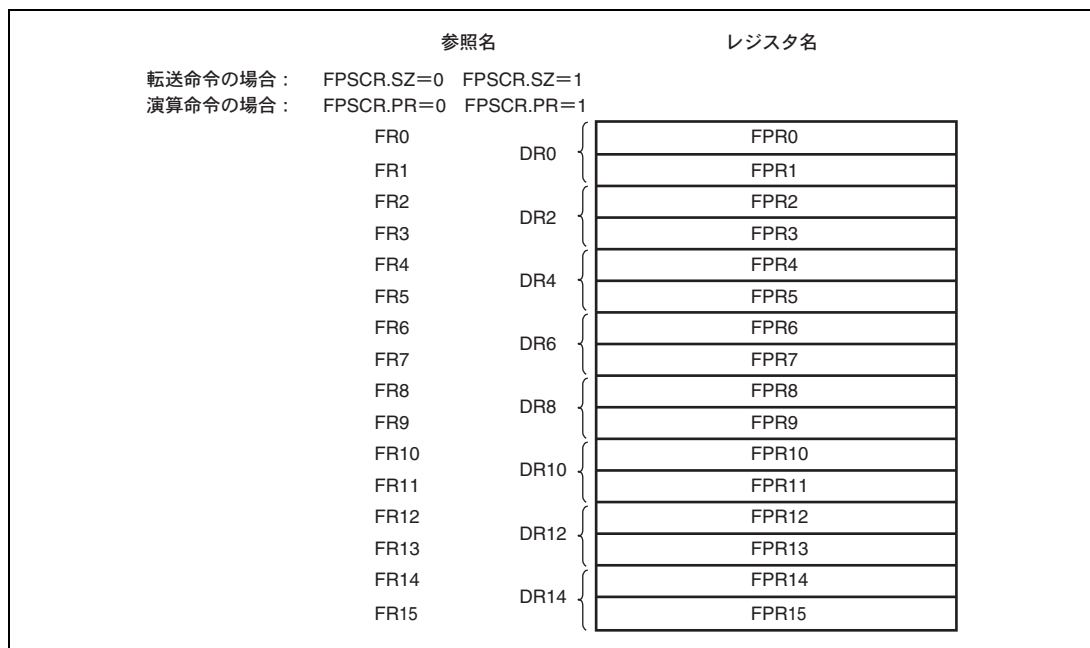


図 2.5 浮動小数点レジスタ

【プログラミング上の注意】

リセット後のFPR0～FPR15の値は不定です。

2.2.5 浮動小数点システムレジスタ

(1) 浮動小数点通信レジスタ (FPUL)

FPU レジスタと CPU レジスタ間のデータ転送は、FPUL を介して行われます。

(2) 浮動小数点ステータス/コントロールレジスタ (FPSCR)

ビット:	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	QIS	—	SZ	PR	DN	Cause		
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
R/W:	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R/W	R	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0	
	Cause				Enable				Flag				RM[1:0]				
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
31~23	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
22	QIS	0	R/W	qNaN あるいは $\pm\infty$ を sNaN として扱います。 本ビットの設定は、FPU 例外イネーブルフィールド (Enable) の V ビットが 1 のときのみ有効です。 0 : qNaN あるいは $\pm\infty$ として処理 1 : 例外発生 (sNaN と同様に処理)
21	—	0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
20	SZ	0	R/W	転送サイズモード 0 : FMOV 命令のデータサイズは 32 ビットです。 1 : FMOV 命令のデータサイズは 32 ビットペア (64 ビット) です。
19	PR	0	R/W	精度モード 0 : 浮動小数点命令を単精度で実行します。 1 : 浮動小数点命令を倍精度で実行します (倍精度がサポートされていない命令の結果は未定義です)。
18	DN	1	R/W	非正規化モード 本ビットは常に 1 です。 1 : 非正規化数を 0 として扱います。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
17~12	Cause	すべて 0	R/W	FPU 例外要因フィールド
11~7	Enable	すべて 0	R/W	FPU 例外イネーブルフィールド
6~2	Flag	すべて 0	R/W	FPU 例外フラグフィールド FPU 演算命令を実行すると、FPU 例外要因フィールドは最初に 0 に設定されます。次に FPU 例外が発生すると、FPU 例外要因フィールドと FPU 例外フラグフィールドの該当ビットが 1 にセットされます。 FPU 例外フラグフィールドは、FPU 例外フラグフィールドが最後にクリアされたそれ以降に発生した例外のステータスを保持します。 各フィールドのビットの割り付けについては表 2.1 を参照してください。
1, 0	RM[1:0]	01	R/W	丸めモード 00 : 近傍への丸め 01 : 0 方向への丸め 10 : 予約 11 : 予約

表 2.1 FPU 例外処理に関連するビットの割り付け

		FPU エラー (E)	無効演算 (V)	0 除算 (Z)	オーバ フロー (O)	アンダ フロー (U)	不正確 (I)
Cause	FPU 例外要因 フィールド	ビット 17	ビット 16	ビット 15	ビット 14	ビット 13	ビット 12
Enable	FPU 例外イネーブル フィールド	なし	ビット 11	ビット 10	ビット 9	ビット 8	ビット 7
Flag	FPU 例外フラグフィールド	なし	ビット 6	ビット 5	ビット 4	ビット 3	ビット 2

【注】 SH-2A では FPU エラーは発生しません。

2.2.6 レジスタバンク

汎用レジスタの R0~R14、コントロールレジスタの GBR、システムレジスタの MACH、MACL、PR の 19 本の 32 ビットレジスタは、レジスタバンクを使って、高速なレジスタ退避、復帰を行うことが可能です。バンクへの退避は、CPU がレジスタバンクを使用する割り込みを受け付けた後、自動的に行われます。バンクからの復帰は、割り込み処理ルーチンで RESBANK 命令を発行することで実行されます。

詳細については「SH-2A、SH2A-FPU ユーザーズマニュアル ソフトウェア編」を参照してください。

2.2.7 レジスタの初期値

リセット後のレジスタの値を表 2.2 に示します。

表 2.2 レジスタの初期値

区分	レジスタ	初期値
汎用レジスタ	R0~R14	不定
	R15 (SP)	ベクタアドレステーブル中の SP の値
コントロールレジスタ	SR	I[3:0]は 1111 (H'F)、BO、CS は 0、リザーブビットは 0、その他は不定
	GBR、TBR	不定
	VBR	H'00000000
システムレジスタ	MACH、MACL、PR	不定
	PC	ベクタアドレステーブル中の PC の値
浮動小数点レジスタ	FPR0~FPR15	不定
浮動小数点システムレジスタ	FPUL	不定
	FPSCR	H'00040001

2.3 データ形式

2.3.1 レジスタのデータ形式

レジスタオペランドのデータサイズは常にロングワード（32ビット）です。メモリ上のデータをレジスタへロードするとき、メモリオペランドのデータサイズがバイト（8ビット）、もしくはワード（16ビット）の場合は、ロングワードに符号拡張またはゼロ拡張し、レジスタに格納します。

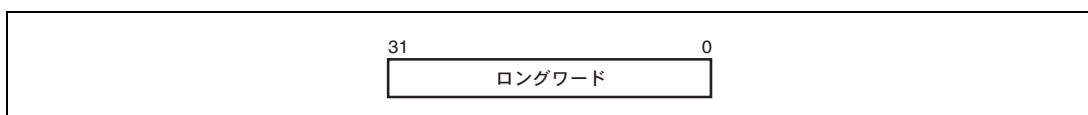


図 2.6 レジスタのデータ形式

2.3.2 メモリのデータ形式

バイト、ワード、ロングワードのデータ形式があります。メモリは8ビットのバイト、16ビットのワード、および32ビットのロングワードいずれの形でもアクセスすることができます。32ビットに満たないメモリオペランドは、符号拡張またはゼロ拡張されてレジスタに格納されます。

ワードオペランドはワード境界（2バイト刻みの偶数番地：2n番地）から、ロングワードオペランドはロングワード境界（4バイト刻みの偶数番地：4n番地）からアクセスしてください。これを守らない場合は、アドレスエラーになります。バイトオペランドは、どの番地からでもアクセスできます。

データフォーマットは、ビッグエンディアンのバイト順のみ選択できます。

メモリ上のデータ形式を図 2.7 に示します。

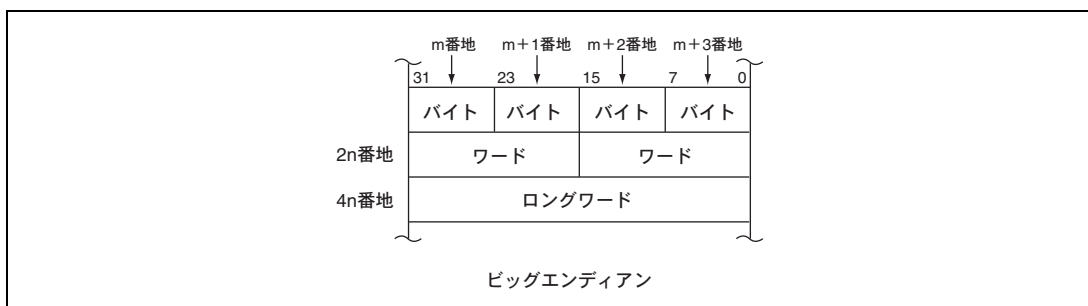


図 2.7 メモリのデータ形式

2.3.3 イミディエイトデータのデータ形式

バイト (8 ビット) のイミディエイトデータは命令コードの中に配置します。

MOV、ADD、CMP/EQ 命令ではイミディエイトデータを符号拡張後、レジスタとロングワードで演算します。一方、TST、AND、OR、XOR 命令ではイミディエイトデータをゼロ拡張後、ロングワードで演算します。したがって、AND 命令でイミディエイトデータを用いると、デスティネーションレジスタの上位 24 ビットは常にクリアされます。

20 ビットのイミディエイトデータは 32 ビット長の転送命令 MOVI20 および MOVI20S のコードの中に配置します。MOVI20 命令は、イミディエイトを符号拡張してデスティネーションレジスタに格納します。MOVI20S 命令は、イミディエイトを上位に 8 ビットシフトし、符号拡張してデスティネーションレジスタに格納します。

ワードとロングワードのイミディエイトデータは命令コードの中に配置せず、メモリ上のテーブルに配置します。メモリ上のテーブルは、ディスプレイメント付き PC 相対アドレッシングモードを使ったイミディエイトデータのデータ転送命令 (MOV) で、参照します。

具体例については、「2.4.1 (10) イミディエイトデータ」を参照してください。

2.4 命令の特長

2.4.1 RISC 方式

命令は RISC 方式です。特長は次のとおりです。

(1) 16 ビット固定長命令

基本命令は 16 ビット固定長です。これによりプログラムのコード効率が向上します。

(2) 32 ビット固定長命令

SH-2A/SH2A-FPU では、32 ビット固定長の命令が追加されています。これにより、性能および使い勝手が向上します。

(3) 1 命令/1 ステート

パイプライン方式を採用し、基本命令は、1 命令を 1 ステートで実行できます。

(4) データサイズ

演算の基本的なデータサイズはロングワードです。メモリのアクセスサイズは、バイト/ワード/ロングワードを選択できます。メモリのバイトとワードのデータは符号拡張後、ロングワードで演算されます。イミディエイトデータは算術演算では符号拡張後、論理演算ではゼロ拡張後、ロングワードで演算されます。

表 2.3 ワードデータの符号拡張

SH-2A/SH2A-FPU CPU	説明	他の CPU の例
MOV.W @(disp,PC),R1 ADD R1,R0DATA.W H'1234	32 ビットに符号拡張され、R1 は H'00001234 になります。次に ADD 命令で演算されます。	ADD.W #H'1234,R0

【注】 @(disp,PC)でイミディエイトデータを参照します。

(5) ロードストアアーキテクチャ

基本演算はレジスタ間で実行します。メモリとの演算は、レジスタにデータをロードし実行します（ロードストアアーキテクチャ）。ただし、AND などのビットを操作する命令は直接メモリに対して実行します。

(6) 遅延分岐

無条件分岐命令などは、一部の命令を除き遅延分岐命令です。遅延分岐命令の場合、遅延分岐命令の直後の命令を実行してから分岐します。これにより、分岐時のパイプラインの乱れを軽減しています。

遅延分岐においては、分岐という動作そのものはスロット命令の実行後に発生しますが、命令の実行（レジスタの更新など）は、あくまでも遅延分岐命令→遅延スロット命令の順に行われます。たとえば、遅延スロットで分岐先アドレスが格納されたレジスタを変更しても、変更前のレジスタ内容が分岐先アドレスとなります。

表 2.4 遅延分岐命令

SH-2A/SH2A-FPU CPU	説明	他の CPU の例
BRA TRGET	TRGET に分岐する前に ADD を実行します。	ADD.W R1,R0
ADD R1,R0		BRA TRGET

(7) 遅延スロットなし無条件分岐命令

SH-2A/SH2A-FPU では、遅延スロット命令を実行しない無条件分岐命令を追加しました。これにより、不要な NOP 命令の削減が可能となり、コードサイズを削減できます。

(8) 乗算／積和演算

16×16→32 の乗算を 1～2 ステート、16×16+64→64 の積和演算を 2～3 ステートで実行します。32×32→64 の乗算や、32×32+64→64 の積和演算を 2～4 ステートで実行します。

(9) T ビット

比較結果はステータスレジスタ (SR) の T ビットに反映し、その真、偽によって条件分岐します。必要最小限の命令によってのみ T ビットを変化させ、処理速度を向上させています。

表 2.5 T ビット

SH-2A/SH2A-FPU CPU	説明	他の CPU の例
CMP/GE R1,R0	$R0 \geq R1$ のとき T ビットがセットされます。	CMP.W R1,R0
BT TRGET0	$R0 \geq R1$ のとき TRGET0 へ	BGE TRGET0
BF TRGET1	$R0 < R1$ のとき TRGET1 へ分岐します。	BLT TRGET1
ADD #-1,R0	ADD では T ビットが変化しません。	SUB.W #1,R0
CMP/EQ #0,R0	$R0 = 0$ のとき T ビットがセットされます。	BEQ TRGET
BT TRGET	$R0 = 0$ のとき分岐します。	

(10) イミディエイトデータ

バイトのイミディエイトデータは命令コードの中に配置します。ワードとロングワードのイミディエイトデータは命令コードの中に配置せず、メモリ上のテーブルに配置します。メモリ上のテーブルは、ディスプレイメント付き PC 相対アドレッシングモードを使ったイミディエイトデータのデータ転送命令 (MOV) で参照します。

また SH-2A/SH2A-FPU では、17~28 ビットのイミディエイトデータを命令コードの中に配置することも可能です。ただし、21~28 ビットのイミディエイトデータについては、レジスタ転送後、OR 命令を実行する必要があります。

表 2.6 イミディエイトデータによる参照

区分	SH-2A/SH2A-FPU CPU	他の CPU の例
8 ビットイミディエイト	MOV #H'12,R0	MOV.B #H'12,R0
16 ビットイミディエイト	MOVI20 #H'1234, R0	MOV.W #H'1234,R0
20 ビットイミディエイト	MOVI20 #H'12345, R0	MOV.L #H'12345,R0
28 ビットイミディエイト	MOVI20S #H'12345, R0 OR #H'67, R0	MOV.L #H'1234567,R0
32 ビットイミディエイト	MOV.L @(disp,PC),R0DATA.L H'12345678	MOV.L #H'12345678,R0

【注】 @(disp,PC)でイミディエイトデータを参照します。

(11) 絶対アドレス

絶対アドレスでデータを参照するときは、あらかじめ絶対アドレスの値をメモリ上のテーブルに配置しておきます。命令実行時にイミディエイトデータをロードする方法で、この値をレジスタに転送し、レジスタ間接アドレッシングモードでデータを参照します。

また SH-2A/SH2A-FPU では、28 ビット以下の絶対アドレスでデータを参照するとき、命令コード中に配置したイミディエイトデータをレジスタに転送し、レジスタ間接アドレッシングモードでデータを参照することも可能です。ただし、21~28 ビットの絶対アドレスでデータを参照するときは、レジスタ転送後、OR 命令を使用する必要があります。

表 2.7 絶対アドレスによる参照

区分	SH-2A/SH2A-FPU CPU	他の CPU の例
20 ビット以下	MOV.I20 #H'12345, R1 MOV.B @R1, R0	MOV.B @H'12345,R0
21~28 ビット	MOV.I20S #H'12345, R1 OR #H'67, R1 MOV.B @R1, R0	MOV.B @H'1234567,R0
29 ビット以上	MOV.L @(disp,PC),R1 MOV.B @R1,R0DATA.L H'12345678	MOV.B @H'12345678,R0

(12) 16 ビット/32 ビットディスプレイースメント

16 ビットまたは 32 ビットディスプレイースメントでデータを参照するときは、あらかじめディスプレイースメントの値をメモリ上のテーブルに配置しておきます。命令実行時にイミディエイトデータをロードする方法でこの値をレジスタに転送し、インデックス付きレジスタ間接アドレッシングモードでデータを参照します。

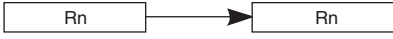
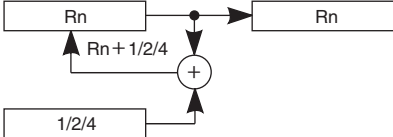
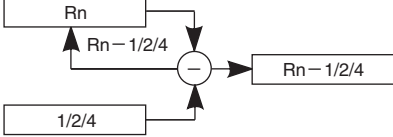
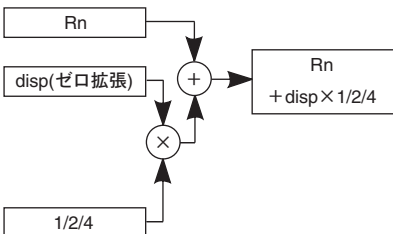
表 2.8 ディスプレースメントによる参照

区分	SH-2A/SH2A-FPU CPU	他の CPU の例
16 ビットディスプレイースメント	MOV.W @(disp,PC),R0 MOV.W @(R0,R1),R2DATA.W H'1234	MOV.W @(H'1234,R1),R2

2.4.2 アドレッシングモード

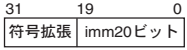
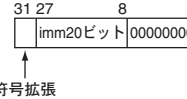
アドレッシングモードと実効アドレスの計算方法は次のとおりです。

表 2.9 アドレッシングモードと実効アドレス

アドレッシングモード	命令フォーマット	実効アドレスの計算方法	計算式
レジスタ直接	Rn	実効アドレスはレジスタ Rn です。 (オペランドはレジスタ Rn の内容です。)	—
レジスタ間接	@Rn	実効アドレスはレジスタ Rn の内容です。 	Rn
ポストインクリメント レジスタ間接	@Rn+	実効アドレスはレジスタ Rn の内容です。命令実行後 Rn に定数を加算します。定数はオペランドサイズがバイトのとき 1、ワードのとき 2、ロングワードのとき 4 です。 	Rn 命令実行後 バイト : Rn+1→Rn ワード : Rn+2→Rn ロングワード : Rn+4→Rn
プリデクリメント レジスタ間接	@-Rn	実効アドレスは、あらかじめ定数を減算したレジスタ Rn の内容です。定数はバイトのとき 1、ワードのとき 2、ロングワードのとき 4 です。 	バイト : Rn-1→Rn ワード : Rn-2→Rn ロングワード : Rn-4→Rn (計算後の Rn で命令実行)
ディスプレースメント 付きレジスタ間接	@(disp:4,Rn)	実効アドレスはレジスタ Rn に 4 ビットディスプレースメント disp を加算した内容です。disp はゼロ拡張後、オペランドサイズによってバイトで 1 倍、ワードで 2 倍、ロングワードで 4 倍します。 	バイト : Rn+disp ワード : Rn+disp×2 ロングワード : Rn+disp×4

アドレッシングモード	命令フォーマット	実効アドレスの計算方法	計算式
ディスプレイースメント付きレジスタ間接	@(disp:12,Rn)	<p>実効アドレスはレジスタ Rn に 12 ビットディスプレイースメント disp を加算した内容です。disp はゼロ拡張します。</p>	バイト : $Rn + disp$ ワード : $Rn + disp$ ロングワード : $Rn + disp$
インデックス付きレジスタ間接	@(R0,Rn)	<p>実効アドレスはレジスタ Rn に R0 を加算した内容です。</p>	$Rn + R0$
ディスプレイースメント付き GBR 間接	@(disp:8,GBR)	<p>実効アドレスはレジスタ GBR に 8 ビットディスプレイースメント disp を加算した内容です。disp はゼロ拡張後、オペランドサイズによってバイトで 1 倍、ワードで 2 倍、ロングワードで 4 倍します。</p>	バイト : $GBR + disp$ ワード : $GBR + disp \times 2$ ロングワード : $GBR + disp \times 4$
インデックス付き GBR 間接	@(R0,GBR)	<p>実効アドレスはレジスタ GBR に R0 を加算した内容です。</p>	$GBR + R0$
ディスプレイースメント付き TBR 二重間接	@@ (disp:8,TBR)	<p>実効アドレスはレジスタ TBR に 8 ビットディスプレイースメント disp を加算したアドレスの内容です。disp はゼロ拡張後 4 倍します。</p>	($TBR + disp \times 4$) アドレスの内容

アドレッシングモード	命令フォーマット	実効アドレスの計算方法	計算式
ディスプレイースメント付き PC 相対	@(disp:8,PC)	<p>実効アドレスはレジスタ PC に 8 ビットディスプレイースメント disp を加算した内容です。disp はゼロ拡張後、オペランドサイズによってワードで 2 倍、ロングワードで 4 倍します。さらにロングワードのときは PC の下位 2 ビットをマスクします。</p> <p>* ロングワードのとき</p>	<p>ワード : $PC + disp \times 2$</p> <p>ロングワード :</p> $PC \& H'FFFFFFFC + disp \times 4$
PC 相対	disp:8	<p>実効アドレスはレジスタ PC に 8 ビットディスプレイースメント disp を符号拡張後 2 倍し、加算した内容です。</p>	$PC + disp \times 2$
	disp:12	<p>実効アドレスはレジスタ PC に 12 ビットディスプレイースメント disp を符号拡張後 2 倍し、加算した内容です。</p>	$PC + disp \times 2$
	Rn	<p>実効アドレスはレジスタ PC に Rn を加算した内容です。</p>	$PC + Rn$

アドレッシングモード	命令フォーマット	実効アドレスの計算方法	計算式
イミディエイト	#imm:20	MOVI20 命令の 20 ビットイミディエイト imm は符号拡張します。 	—
		MOVI20S 命令の 20 ビットイミディエイト imm は 8 ビット左にシフトし、上位側 は符号拡張、下位側はゼロ詰めを行います。 	—
	#imm:8	TST、AND、OR、XOR 命令の 8 ビットイ ミディエイト imm はゼロ拡張します。	—
	#imm:8	MOV、ADD、CMP/EQ 命令の 8 ビットイ ミディエイト imm は符号拡張します。	—
	#imm:8	TRAPA 命令の 8 ビットイミディエイト imm はゼロ拡張後、4 倍します。	—
#imm:3	BAND、BOR、BXOR、BST、BLD、BSET、 BCLR 命令の 3 ビットイミディエイト imm はビット位置を表します。	—	

2.4.3 命令形式

命令形式とソースオペランドとデスティネーションオペランドの意味を示します。命令コードによりオペランドの意味が異なります。記号は次のとおりです。

xxxx : 命令コード

mmmm : ソースレジスタ

nnnn : デスティネーションレジスタ


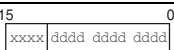

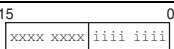
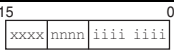
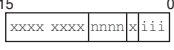
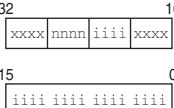
iiii : イミディエイトデータ

dddd : ディスプレースメント

表 2.10 命令形式

命令形式		ソースオペランド	デスティネーション オペランド	命令の例
0 形式		—	—	NOP
n 形式		—	nnnn : レジスタ直接	MOV T Rn
		コントロールレジスタ またはシステムレジスタ	nnnn : レジスタ直接	STS MACH,Rn
		R0 (レジスタ直接)	nnnn : レジスタ直接	DIVU R0, Rn
		コントロールレジスタ またはシステムレジスタ	nnnn : プリデクリメント レジスタ間接	STC.L SR,@-Rn
		mmmm : レジスタ直接	R15 (プリデクリメント レジスタ間接)	MOVMU.L Rm, @-R15
		R15 (ポストインクリメント レジスタ間接)	nnnn : レジスタ直接	MOVMU.L @R15+, Rn
		R0 (レジスタ直接)	nnnn : ポストインクリメント レジスタ間接	MOV.L R0,@Rn+
m 形式		mmmm : レジスタ直接	コントロールレジスタ またはシステムレジスタ	LDC Rm,SR
		mmmm : ポストインクリメント レジスタ間接	コントロールレジスタ またはシステムレジスタ	LDC.L @Rm+,SR
		mmmm : レジスタ間接	—	JMP @Rm
		mmmm : プリデクリメント レジスタ間接	R0 (レジスタ直接)	MOV.L @-Rm, R0
		mmmm : Rm を用いた PC 相対	—	BRAF Rm

命令形式	ソースオペランド	デスティネーション オペランド	命令の例
nm 形式 <div style="display: flex; align-items: center;"> 15 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; text-align: center;"> xxxx nnnn mmmm xxxx </div> 0 </div>	mmmm : レジスタ直接	nnnn : レジスタ直接	ADD Rm,Rn
	mmmm : レジスタ直接	nnnn : レジスタ間接	MOV.L Rm,@Rn
	mmmm : ポストインクリメント レジスタ間接 (積和演算) nnnn : * ポストインクリメント レジスタ間接 (積和演算)	MACH,MACL	MAC.W @Rm+,@Rn+
	mmmm : ポストインクリメント レジスタ間接	nnnn : レジスタ直接	MOV.L @Rm+,Rn
	mmmm : レジスタ直接	nnnn : プリデクリメント レジスタ間接	MOV.L Rm,@-Rn
	mmmm : レジスタ直接	nnnn : インデックス付き レジスタ間接	MOV.L Rm,@(R0,Rn)
md 形式 <div style="display: flex; align-items: center;"> 15 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; text-align: center;"> xxxx xxxx mmmm dddd </div> 0 </div>	mmmmdddd : ディスプレイメント付き レジスタ間接	R0 (レジスタ直接)	MOV.B @(disp,Rm),R0
nd4 形式 <div style="display: flex; align-items: center;"> 15 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; text-align: center;"> xxxx xxxx nnnn dddd </div> 0 </div>	R0 (レジスタ直接)	nnnndddd : ディスプレイメント 付きレジスタ間接	MOV.B R0,@(disp,Rn)
nmd 形式 <div style="display: flex; align-items: center;"> 15 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; text-align: center;"> xxxx nnnn mmmm dddd </div> 0 </div>	mmmm : レジスタ直接	nnnndddd : ディスプレイメント 付きレジスタ間接	MOV.L Rm,@(disp,Rn)
	mmmmdddd : ディスプレイメント付き レジスタ間接	nnnn : レジスタ直接	MOV.L @(disp,Rm),Rn
nmd12 形式 <div style="display: flex; align-items: center;"> 32 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; text-align: center;"> xxxx nnnn mmmm xxxx </div> 16 </div> <div style="display: flex; align-items: center; margin-top: 5px;"> 15 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; text-align: center;"> xxxx dddd dddd dddd </div> 0 </div>	mmmm : レジスタ直接	nnnndddd : ディスプレイメント 付きレジスタ間接	MOV.L Rm,@(disp12,Rn)
	mmmmdddd : ディスプレイメント付き レジスタ間接	nnnn : レジスタ直接	MOV.L @(disp12,Rm),Rn

命令形式		ソースオペランド	デスティネーション オペランド	命令の例	
d 形式		ddddddd :	R0 (レジスタ直接)	MOV.L @(disp,GBR),R0	
		ディスプレイメント付き GBR 間接			
		R0 (レジスタ直接)	ddddddd :	MOV.L R0,@(disp,GBR)	
		ディスプレイメント付き PC 相対	ddddddd :	R0 (レジスタ直接)	MOVA @(disp,PC),R0
		ディスプレイメント付き TBR 二重間接	—	JSR/N @@(disp8,TBR)	
	ddddddd : PC 相対	—	BF label		
d12 形式		ddddddddddd : PC 相対	—	BRA label (label=disp+PC)	
nd8 形式		ddddddd :	nnnn : レジスタ直接	MOV.L @(disp,PC),Rn	
i 形式		iiiiiiiiii : イミディエイト	インデックス付き GBR 間接	AND.B #imm,@(R0,GBR)	
		iiiiiiiiii : イミディエイト	R0 (レジスタ直接)	AND #imm,R0	
		iiiiiiiiii : イミディエイト	—	TRAPA #imm	
ni 形式		iiiiiiiiii : イミディエイト	nnnn : レジスタ直接	ADD #imm,Rn	
ni3 形式		nnnn : レジスタ直接 iii : イミディエイト	—	BLD #imm3,Rn	
		—	nnnn : レジスタ直接 iii : イミディエイト	BST #imm3,Rn	
ni20 形式		iiiiiiiiiiiiiiiiiiiiiiiiiiiii : イミディエイト	nnnn : レジスタ直接	MOVI20 #imm20, Rn	

命令形式		ソースオペランド	デスティネーション オペランド	命令の例
nid 形式	<div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> 32 xxxx xxxx nnnn xxxx 16 </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> 15 xiii dddd dddd dddd 0 </div>	nnnndddddddddddd : ディスプレースメント 付きレジスタ間接 iii: イミディエイト	—	BLD.B #imm3,@ (disp12,Rn)
		—	nnnndddddddddddd : ディスプレースメント 付きレジスタ間接 iii: イミディエイト	BST.B #imm3,@ (disp12,Rn)

【注】 * 積和命令では nnnn はソースレジスタです。

2.5 命令セット

2.5.1 分類順命令セット

命令を分類順に表 2.11 に示します。

表 2.11 命令の分類

分類	命令の種類	オペコード	機能	命令数
データ転送命令	13	MOV	データ転送 イミディエイトデータの転送 周辺モジュールデータの転送 構造体データの転送 逆スタック転送	62
		MOVA	実行アドレスの転送	
		MOVI20	20 ビットイミディエイトデータの転送	
		MOVI20S	20 ビットイミディエイトデータの転送 左 8 ビットシフト	
		MOVML	R0~Rn のレジスタ退避・復帰	
		MOVMMU	Rn~R14、PR のレジスタ退避・復帰	
		MOVVRT	T ビット反転 Rn への転送	
		MOVMT	T ビットの転送	
		MOVU	無符号データの転送	
		NOTT	T ビット反転	
		PREF	オペランドキャッシュへのプリフェッチ	
		SWAP	上位と下位の交換	
		XTRCT	連結レジスタの中央切り出し	
算術演算命令	26	ADD	2 進加算	40
		ADDC	キャリー付き 2 進加算	
		ADDV	オーバフロー付き 2 進加算	
		CMP/cond	比較	
		CLIPS	符号付き飽和値比較	
		CLIPU	符号なし飽和値比較	
		DIVS	符号付き除算 (32÷32)	
		DIVU	符号なし除算 (32÷32)	
		DIV1	1 ステップ除算	
		DIV0S	符号付き 1 ステップ除算の初期化	

分類	命令の種類	オペコード	機能	命令数
算術演算命令	26	DIV0U	符号なし 1 ステップ除算の初期化	40
		DMULS	符号付き倍精度乗算	
		DMULU	符号なし倍精度乗算	
		DT	デクリメントとテスト	
		EXTS	符号拡張	
		EXTU	ゼロ拡張	
		MAC	積和演算、倍精度積和演算	
		MUL	倍精度乗算	
		MULR	Rn 結果格納符号付き乗算	
		MULS	符号付き乗算	
		MULU	符号なし乗算	
		NEG	符号反転	
		NEGC	ポロー付き符号反転	
		SUB	2 進減算	
		SUBC	ポロー付き 2 進減算	
SUBV	アンドフロー付き 2 進減算			
論理演算命令	6	AND	論理積演算	14
		NOT	ビット反転	
		OR	論理和演算	
		TAS	メモリテストとビットセット	
		TST	論理積演算の T ビットセット	
		XOR	排他的論理和演算	
シフト命令	12	ROTL	1 ビット左回転	16
		ROTR	1 ビット右回転	
		ROTCL	T ビット付き 1 ビット左回転	
		ROTCR	T ビット付き 1 ビット右回転	
		SHAD	ダイナミック算術的シフト	
		SHAL	算術的 1 ビット左シフト	
		SHAR	算術的 1 ビット右シフト	
		SHLD	ダイナミック論理的シフト	
		SHLL	論理的 1 ビット左シフト	
		SHLLn	論理的 n ビット左シフト	
		SHLR	論理的 1 ビット右シフト	
		SHLRn	論理的 n ビット右シフト	

分類	命令の種類	オペコード	機能	命令数
分岐命令	10	BF	条件分岐、遅延付き条件分岐 (T=0 で分岐)	15
		BT	条件分岐、遅延付き条件分岐 (T=1 で分岐)	
		BRA	遅延付き無条件分岐	
		BRAF	遅延付き無条件分岐	
		BSR	遅延付きサブルーチンプロシージャへの分岐	
		BSRF	遅延付きサブルーチンプロシージャへの分岐	
		JMP	遅延付き無条件分岐	
		JSR	サブルーチンプロシージャへの分岐 遅延付きサブルーチンプロシージャへの分岐	
		RTS	サブルーチンプロシージャからの復帰 遅延付きサブルーチンプロシージャからの復帰	
		RTV/N	Rm→R0 転送付きサブルーチンプロシージャからの復帰	
システム制御命令	14	CLRT	T ビットのクリア	36
		CLRMAC	MAC レジスタのクリア	
		LDBANK	指定レジスタバンクエントリからのレジスタ復帰	
		LDC	コントロールレジスタへのロード	
		LDS	システムレジスタへのロード	
		NOP	無操作	
		RESBANK	レジスタバンクからのレジスタ復帰	
		RTE	例外処理からの復帰	
		SETT	T ビットのセット	
		SLEEP	低消費電力状態への遷移	
		STBANK	指定レジスタバンクエントリへのレジスタ退避	
		STC	コントロールレジスタからのストア	
		STS	システムレジスタからのストア	
		TRAPA	トラップ例外処理	
浮動小数点演算命令	19	FABS	浮動小数点数絶対値	48
		FADD	浮動小数点数加算	
		FCMP	浮動小数点数比較	
		FCNVDS	倍精度から単精度への変換	
		FCNVSD	単精度から倍精度への変換	
		FDIV	浮動小数点数除算	
		FLDI0	浮動小数点数ロードイミディエイト 0	
		FLDI1	浮動小数点数ロードイミディエイト 1	
		FLDS	システムレジスタ FPUL への浮動小数点数ロード	
		FLOAT	整数から浮動小数点数への変換	
		FMAC	浮動小数点数積和演算	
		FMOV	浮動小数点数転送	

分 類	命令の種類	オペコード	機 能	命令数
浮動小数点演算命令	19	FMUL	浮動小数点数乗算	48
		FNEG	浮動小数点数符号反転	
		FSCHG	SZ ビット反転	
		FSQRT	浮動小数点平方根	
		FSTS	システムレジスタ FPUL からの浮動小数点数ストア	
		FSUB	浮動小数点数減算	
		FTRC	浮動小数点数の整数への切り捨て変換	
FPU に関する CPU 命令	2	LDS	浮動小数点システムレジスタへのロード	8
		STS	浮動小数点システムレジスタからのストア	
ビット操作命令	10	BAND	ビット論理積	14
		BCLR	ビットクリア	
		BLD	ビットロード	
		BOR	ビット論理和	
		BSET	ビットセット	
		BST	ビットストア	
		BXOR	ビット排他的論理和	
		BANDNOT	ビットノット論理積	
		BORNOT	ビットノット論理和	
		BLDNOT	ビットノットロード	
	計 112			253

命令の命令コード、動作、実行ステートを、以下の形式で分類順に説明します。

命令	命令コード	動作の概略	実行ステート	Tビット
<p>ニーモニックで表示しています。</p> <p>【記号説明】</p> <p>OP.Sz SRC, DEST</p> <p>OP : オペコード</p> <p>Sz : サイズ</p> <p>SRC : ソース</p> <p>DEST : デスティネーション</p> <p>Rm : ソースレジスタ</p> <p>Rn : デスティネーションレジスタ</p> <p>imm : イミディエイトデータ</p> <p>disp : ディスプレースメント^{*2}</p>	<p>MSB ↔ LSB の順で表示しています。</p> <p>【記号説明】</p> <p>mmmm : ソースレジスタ</p> <p>nnnn : デスティネーションレジスタ</p> <p>0000 : R0</p> <p>0001 : R1</p> <p>.....</p> <p>1111 : R15</p> <p>iiii : イミディエイトデータ</p> <p>dddd : ディスプレースメント</p>	<p>動作の概略を表示しています。</p> <p>【記号説明】</p> <p>→, ← : 転送方向</p> <p>(xx) : メモリオペランド</p> <p>M/Q/T : SR 内のフラグビット</p> <p>& : ビットごとの論理積</p> <p> : ビットごとの論理和</p> <p>^ : ビットごとの排他的論理和</p> <p>~ : ビットごとの論理否定</p> <p><<n : 左 n ビットシフト</p> <p>>>n : 右 n ビットシフト</p>	<p>ノーウェイトのときの値です。^{*1}</p>	<p>命令実行後の、Tビットの値を表示しています。</p> <p>【記号説明】</p> <p>- : 変化しない</p>

【注】 *1 命令の実行ステートについて

表に示した実行ステートは最小値です。実際は、

- (1) 命令フェッチとデータアクセスの競合が起こる場合
- (2) ロード命令（メモリ→レジスタ）のデスティネーションレジスタと、その直後の命令が使うレジスタが同一の場合

などの条件により、命令実行ステート数は増加します。

*2 命令のオペランドサイズなどに応じてスケールリング（×1、×2、×4）されます。

詳しくは、「SH-2A、SH2A-FPU ユーザーズマニュアル ソフトウェア編」を参照してください。

2.5.2 データ転送命令

表 2.12 データ転送命令

命 令	命令コード	動 作	実行 ステート	Tビット	互換性		
					SH2E	SH4	SH-2A/ SH2A- FPU
MOV #imm, Rn	1110nnnniiiiiiii	imm→符号拡張→Rn	1	—	○	○	
MOV.W @(disp, PC), Rn	1001nnnnddddddd	(disp×2+PC)→符号拡張→Rn	1	—	○	○	
MOV.L @(disp, PC), Rn	1101nnnnddddddd	(disp×4+PC)→Rn	1	—	○	○	
MOV Rm, Rn	0110nnnnmmmm0011	Rm→Rn	1	—	○	○	
MOV.B Rm, @Rn	0010nnnnmmmm0000	Rm→(Rn)	1	—	○	○	
MOV.W Rm, @Rn	0010nnnnmmmm0001	Rm→(Rn)	1	—	○	○	
MOV.L Rm, @Rn	0010nnnnmmmm0010	Rm→(Rn)	1	—	○	○	
MOV.B @Rm, Rn	0110nnnnmmmm0000	(Rm)→符号拡張→Rn	1	—	○	○	
MOV.W @Rm, Rn	0110nnnnmmmm0001	(Rm)→符号拡張→Rn	1	—	○	○	
MOV.L @Rm, Rn	0110nnnnmmmm0010	(Rm)→Rn	1	—	○	○	
MOV.B Rm, @- Rn	0010nnnnmmmm0100	Rn-1→Rn, Rm→(Rn)	1	—	○	○	
MOV.W Rm, @- Rn	0010nnnnmmmm0101	Rn-2→Rn, Rm→(Rn)	1	—	○	○	
MOV.L Rm, @- Rn	0010nnnnmmmm0110	Rn-4→Rn, Rm→(Rn)	1	—	○	○	
MOV.B @Rm+, Rn	0110nnnnmmmm0100	(Rm)→符号拡張→Rn, Rm+1→Rm	1	—	○	○	
MOV.W @Rm+, Rn	0110nnnnmmmm0101	(Rm)→符号拡張→Rn, Rm+2→Rm	1	—	○	○	
MOV.L @Rm+, Rn	0110nnnnmmmm0110	(Rm)→Rn, Rm+4→Rm	1	—	○	○	
MOV.B R0, @(disp, Rn)	1000000nnnnddd	R0→(disp+Rn)	1	—	○	○	
MOV.W R0, @(disp, Rn)	1000001nnnnddd	R0→(disp×2+Rn)	1	—	○	○	
MOV.L Rm, @(disp, Rn)	0001nnnnmmmmddd	Rm→(disp×4+Rn)	1	—	○	○	
MOV.B @(disp, Rm), R0	10000100mmmmddd	(disp+Rm)→符号拡張→R0	1	—	○	○	
MOV.W @(disp, Rm), R0	10000101mmmmddd	(disp×2+Rm)→符号拡張→R0	1	—	○	○	
MOV.L @(disp, Rm), Rn	0101nnnnmmmmddd	(disp×4+Rm)→Rn	1	—	○	○	
MOV.B Rm, @(R0, Rn)	0000nnnnmmmm0100	Rm→(R0+Rn)	1	—	○	○	
MOV.W Rm, @(R0, Rn)	0000nnnnmmmm0101	Rm→(R0+Rn)	1	—	○	○	
MOV.L Rm, @(R0, Rn)	0000nnnnmmmm0110	Rm→(R0+Rn)	1	—	○	○	
MOV.B @(R0, Rm), Rn	0000nnnnmmmm1100	(R0+Rm)→符号拡張→Rn	1	—	○	○	
MOV.W @(R0, Rm), Rn	0000nnnnmmmm1101	(R0+Rm)→符号拡張→Rn	1	—	○	○	
MOV.L @(R0, Rm), Rn	0000nnnnmmmm1110	(R0+Rm)→Rn	1	—	○	○	
MOV.B R0, @(disp, GBR)	11000000ddddddd	R0→(disp+GBR)	1	—	○	○	
MOV.W R0, @(disp, GBR)	11000001ddddddd	R0→(disp×2+GBR)	1	—	○	○	
MOV.L R0, @(disp, GBR)	11000010ddddddd	R0→(disp×4+GBR)	1	—	○	○	

命 令	命令コード	動 作	実行 ステート	Tビット	互換性		
					SH2E	SH4	SH-2A/ SH2A- FPU
MOV.B @ (disp, GBR), R0	11000100dddddddd	(disp+GBR)→符号拡張→R0	1	—	○	○	
MOV.W @ (disp, GBR), R0	11000101dddddddd	(disp×2+GBR)→符号拡張→R0	1	—	○	○	
MOV.L @ (disp, GBR), R0	11000110dddddddd	(disp×4+GBR)→R0	1	—	○	○	
MOV.B R0, @Rn+	0100nnnn10001011	R0→(Rn), Rn+1→Rn	1	—			○
MOV.W R0, @Rn+	0100nnnn10011011	R0→(Rn), Rn+2→Rn	1	—			○
MOV.L R0, @Rn+	0100nnnn10101011	R0→(Rn), Rn+4→Rn	1	—			○
MOV.B @-Rm, R0	0100mmmm11001011	Rm-1→Rm, (Rm)→符号拡張→R0	1	—			○
MOV.W @-Rm, R0	0100mmmm11011011	Rm-2→Rm, (Rm)→符号拡張→R0	1	—			○
MOV.L @-Rm, R0	0100mmmm11101011	Rm-4→Rm, (Rm)→R0	1	—			○
MOV.B Rm, @ (disp12, Rn)	0011nnnnmmmm0001 0000dddddddddddd	Rm→(disp+Rn)	1	—			○
MOV.W Rm, @ (disp12, Rn)	0011nnnnmmmm0001 0001dddddddddddd	Rm→(disp×2+Rn)	1	—			○
MOV.L Rm, @ (disp12, Rn)	0011nnnnmmmm0001 0010dddddddddddd	Rm→(disp×4+Rn)	1	—			○
MOV.B @ (disp12, Rm), Rn	0011nnnnmmmm0001 0100dddddddddddd	(disp+Rm)→符号拡張→Rn	1	—			○
MOV.W @ (disp12, Rm), Rn	0011nnnnmmmm0001 0101dddddddddddd	(disp×2+Rm)→符号拡張→Rn	1	—			○
MOV.L @ (disp12, Rm), Rn	0011nnnnmmmm0001 0110dddddddddddd	(disp×4+Rm)→Rn	1	—			○
MOVA @ (disp, PC), R0	11000111dddddddd	disp×4+PC→R0	1	—	○	○	
MOVI20 #imm20, Rn	0000nnnniiii0000 iiiiiiiiiiiiiiii	imm→符号拡張→Rn	1	—			○
MOVI20S #imm20, Rn	0000nnnniiii0001 iiiiiiiiiiiiiiii	imm<<8→符号拡張→Rn	1	—			○
MOVMLL Rm, @-R15	0100mmmm11110001	R15-4→R15, Rm→(R15) R15-4→R15, Rm-1→(R15) : R15-4→R15, R0→(R15) ※Rm=R15 のとき、Rm を PR に 読み替え	1~16	—			○

命 令	命令コード	動 作	実行 ステート	Tビット	互換性		
					SH2E	SH4	SH-2A/ SH2A- FPU
MOVML.L @R15+, Rn	0100nnnn11110101	(R15)→R0, R15+4→R15 (R15)→R1, R15+4→R15 : (R15)→Rn ※Rn=R15 のとき、Rm を PR に 読み替え	1~16	—			○
MOVML.L Rm, @-R15	0100mmmm11110000	R15-4→R15, PR→(R15) R15-4→R15, R14→(R15) : R15-4→R15, Rm→(R15) ※Rm=R15 のとき、Rm を PR に読み替え	1~16	—			○
MOVML.L @R15+, Rn	0100nnnn11110100	(R15)→Rn, R15+4→R15 (R15)→Rn+1, R15+4→R15 : (R15)→R14, R15+4→R15 (R15)→PR ※Rn=R15 のとき、Rm を PR に 読み替え	1~16	—			○
MOVRT Rn	0000nnnn00111001	~T→Rn	1	—			○
MOV T Rn	0000nnnn00101001	T→Rn	1	—	○	○	
MOVU.B @(disp12,Rm), Rn	0011nnnnmmmm0001 1000ddddddddddd	(disp+Rm)→ゼロ拡張→Rn	1	—			○
MOVU.W @(disp12,Rm),Rn	0011nnnnmmmm0001 1001ddddddddddd	(disp×2+Rm)→ゼロ拡張→Rn	1	—			○
NOTT	000000001101000	~T→T	1	演算結果			○
PREF @Rn	0000nnnn10000011	(Rn)→オペランドキャッシュ	1	—		○	
SWAP.B Rm, Rn	0110nnnnmmmm1000	Rm→下位 2 バイトの上下バイ ト交換→Rn	1	—	○	○	
SWAP.W Rm, Rn	0110nnnnmmmm1001	Rm→上下ワード交換→Rn	1	—	○	○	
XTRCT Rm, Rn	0010nnnnmmmm1101	Rm:Rn の中央 32 ビット→Rn	1	—	○	○	

2.5.3 算術演算命令

表 2.13 算術演算命令

命 令	命令コード	動 作	実行 ステート	Tビット	互換性		
					SH2E	SH4	SH-2A/ SH2A- FPU
ADD Rm, Rn	0011nnnnmmmm1100	Rn+Rm→Rn	1	—	○	○	
ADD #imm, Rn	0111nnnniiiiiii	Rn+imm→Rn	1	—	○	○	
ADDC Rm, Rn	0011nnnnmmmm1110	Rn+Rm+T→Rn, キャリー→T	1	キャリー	○	○	
ADDV Rm, Rn	0011nnnnmmmm1111	Rn+Rm→Rn, オーバフロー→T	1	オーバ フロー	○	○	
CMP/EQ #imm, R0	10001000iiiiiii	R0=imm のとき 1→T それ以外るとき 0→T	1	比較結果	○	○	
CMP/EQ Rm, Rn	0011nnnnmmmm0000	Rn=Rm のとき 1→T それ以外るとき 0→T	1	比較結果	○	○	
CMP/HS Rm, Rn	0011nnnnmmmm0010	無符号で Rn≥Rm のとき 1→T それ以外るとき 0→T	1	比較結果	○	○	
CMP/GE Rm, Rn	0011nnnnmmmm0011	有符号で Rn≥Rm のとき 1→T それ以外るとき 0→T	1	比較結果	○	○	
CMP/Hi Rm, Rn	0011nnnnmmmm0110	無符号で Rn>Rm のとき 1→T それ以外るとき 0→T	1	比較結果	○	○	
CMP/GT Rm, Rn	0011nnnnmmmm0111	有符号で Rn>Rm のとき 1→T それ以外るとき 0→T	1	比較結果	○	○	
CMP/PL Rn	0100nnnn00010101	Rn>0 のとき 1→T それ以外るとき 0→T	1	比較結果	○	○	
CMP/PZ Rn	0100nnnn00010001	Rn≥0 のとき 1→T それ以外るとき 0→T	1	比較結果	○	○	
CMP/STR Rm, Rn	0010nnnnmmmm1100	いずれかのバイトが等しいとき 1→T それ以外るとき 0→T	1	比較結果	○	○	
CLIPS.B Rn	0100nnnn10010001	Rn>(H'0000007F)のとき、 (H'0000007F) →Rn, 1→CS Rn<(H'FFFFFF80)のとき、 (H'FFFFFF80) →Rn, 1→CS	1	—			○
CLIPS.W Rn	0100nnnn10010101	Rn>(H'00007FFF)のとき、 (H'00007FFF) →Rn, 1→CS Rn<(H'FFFF8000)のとき、 (H'FFFF8000) →Rn, 1→CS	1	—			○

命 令	命令コード	動 作	実行 ステート	Tビット	互換性		
					SH2E	SH4	SH-2A/ SH2A- FPU
CLIPU.B Rn	0100nnnn10000001	Rn>(H'000000FF)のとき、 (H'000000FF) →Rn, 1→CS	1	—			○
CLIPU.W Rn	0100nnnn10000101	Rn>(H'0000FFFF)のとき、 (H'0000FFFF) →Rn, 1→CS	1	—			○
DIV1 Rm, Rn	0011nnnnmmmm0100	1ステップ除算(Rn÷Rm)	1	計算結果	○	○	
DIV0S Rm, Rn	0010nnnnmmmm0111	RnのMSB→Q, RmのMSB→M, M ^ Q→T	1	計算結果	○	○	
DIV0U	0000000000011001	0→M/Q/T	1	0	○	○	
DIVS R0, Rn	0100nnnn10010100	符号付きで Rn÷R0→Rn 32÷32 →32ビット	36	—			○
DIVU R0, Rn	0100nnnn10000100	符号なしで Rn÷R0→Rn 32÷32 →32ビット	34	—			○
DMULS.L Rm, Rn	0011nnnnmmmm1101	符号付きで Rn×Rm→MACH, MACL 32×32→64ビット	2	—	○	○	
DMULU.L Rm, Rn	0011nnnnmmmm0101	符号なしで Rn×Rm→MACH, MACL 32×32→64ビット	2	—	○	○	
DT Rn	0100nnnn00010000	Rn-1→Rn, Rnが0のとき 1→T Rnが0以外のとき 0→T	1	比較結果	○	○	
EXTS.B Rm, Rn	0110nnnnmmmm1110	Rmをバイトから符号拡張→Rn	1	—	○	○	
EXTS.W Rm, Rn	0110nnnnmmmm1111	Rmをワードから符号拡張→Rn	1	—	○	○	
EXTU.B Rm, Rn	0110nnnnmmmm1100	Rmをバイトからゼロ拡張→Rn	1	—	○	○	
EXTU.W Rm, Rn	0110nnnnmmmm1101	Rmをワードからゼロ拡張→Rn	1	—	○	○	
MAC.L @Rm+, @Rn+	0000nnnnmmmm1111	符号付きで(Rn)×(Rm)+MAC→MAC 32×32+64→64ビット	4	—	○	○	
MAC.W @Rm+, @Rn+	0100nnnnmmmm1111	符号付きで(Rn)×(Rm)+MAC→MAC 16×16+64→64ビット	3	—	○	○	
MUL.L Rm, Rn	0000nnnnmmmm0111	Rn×Rm→MACL 32×32→32ビット	2	—	○	○	
MULR R0, Rn	0100nnnn10000000	R0×Rn→Rn 32×32→32ビット	2				○
MULS.W Rm, Rn	0010nnnnmmmm1111	符号付きで Rn×Rm→MACL 16×16→32ビット	1	—	○	○	
MULU.W Rm, Rn	0010nnnnmmmm1110	符号なしで Rn×Rm→MACL 16×16→32ビット	1	—	○	○	
NEG Rm, Rn	0110nnnnmmmm1011	0-Rm→Rn	1	—	○	○	
NEGC Rm, Rn	0110nnnnmmmm1010	0-Rm-T→Rn, ポロー→T	1	ポロー	○	○	
SUB Rm, Rn	0011nnnnmmmm1000	Rn-Rm→Rn	1	—	○	○	

命 令	命令コード	動 作	実行 ステート	Tビット	互換性		
					SH2E	SH4	SH-2A/ SH2A- FPU
SUBC Rm, Rn	0011nnnnmmmm1010	Rn-Rm-T→Rn, ボロー→T	1	ボロー	○	○	
SUBV Rm, Rn	0011nnnnmmmm1011	Rn-Rm→Rn, アンダフロー→T	1	オーバ フロー	○	○	

2.5.4 論理演算命令

表 2.14 論理演算命令

命 令	命令コード	動 作	実行 ステート	Tビット	互換性		
					SH2E	SH4	SH-2A/ SH2A- FPU
AND Rm, Rn	0010nnnnmmmm1001	Rn & Rm→Rn	1	—	○	○	
AND #imm, R0	11001001iiiiiiii	R0 & imm→R0	1	—	○	○	
AND.B #imm, @(R0, GBR)	11001101iiiiiiii	(R0+GBR) & imm→(R0+GBR)	3	—	○	○	
NOT Rm, Rn	0110nnnnmmmm0111	~Rm→Rn	1	—	○	○	
OR Rm, Rn	0010nnnnmmmm1011	Rn Rm→Rn	1	—	○	○	
OR #imm, R0	11001011iiiiiiii	R0 imm→R0	1	—	○	○	
OR.B #imm, @(R0, GBR)	11001111iiiiiiii	(R0+GBR) imm→(R0+GBR)	3	—	○	○	
TAS.B @Rn	0100nnnn00011011	(Rn)が0のとき1→T, それ以外のとき0→T, 1→MSB of(Rn)	3	テスト 結果	○	○	
TST Rm, Rn	0010nnnnmmmm1000	Rn & Rm, 結果が0のとき1→T, その他0→T	1	テスト 結果	○	○	
TST #imm, R0	11001000iiiiiiii	R0 & imm, 結果が0のとき1→T その他0→T	1	テスト 結果	○	○	
TST.B #imm, @(R0, GBR)	11001100iiiiiiii	(R0+GBR) & imm, 結果が0のとき1→T その他0→T	3	テスト 結果	○	○	
XOR Rm, Rn	0010nnnnmmmm1010	Rn ^ Rm→Rn	1	—	○	○	
XOR #imm, R0	11001010iiiiiiii	R0 ^ imm→R0	1	—	○	○	
XOR.B #imm, @(R0, GBR)	11001110iiiiiiii	(R0+GBR) ^ imm→(R0+GBR)	3	—	○	○	

2.5.5 シフト命令

表 2.15 シフト命令

命 令	命令コード	動 作	実行 ステート	Tビット	互換性		
					SH2E	SH4	SH-2A/ SH2A- FPU
ROTL Rn	0100nnnn00000100	$T \leftarrow Rn \leftarrow MSB$	1	MSB	○	○	
ROTR Rn	0100nnnn00000101	$LSB \rightarrow Rn \rightarrow T$	1	LSB	○	○	
ROTCL Rn	0100nnnn00100100	$T \leftarrow Rn \leftarrow T$	1	MSB	○	○	
ROTCR Rn	0100nnnn00100101	$T \rightarrow Rn \rightarrow T$	1	LSB	○	○	
SHAD Rm, Rn	0100nnnnmmmm1100	$Rm \geq 0$ のとき $Rn \ll Rm \rightarrow Rn$ $Rm < 0$ のとき $Rn \gg Rm \rightarrow [MSB \rightarrow Rn]$	1	—		○	
SHAL Rn	0100nnnn00100000	$T \leftarrow Rn \leftarrow 0$	1	MSB	○	○	
SHAR Rn	0100nnnn00100001	$MSB \rightarrow Rn \rightarrow T$	1	LSB	○	○	
SHLD Rm, Rn	0100nnnnmmmm1101	$Rm \geq 0$ のとき $Rn \ll Rm \rightarrow Rn$ $Rm < 0$ のとき $Rn \gg Rm \rightarrow [0 \rightarrow Rn]$	1	—		○	
SHLL Rn	0100nnnn00000000	$T \leftarrow Rn \leftarrow 0$	1	MSB	○	○	
SHLR Rn	0100nnnn00000001	$0 \rightarrow Rn \rightarrow T$	1	LSB	○	○	
SHLL2 Rn	0100nnnn00001000	$Rn \ll 2 \rightarrow Rn$	1	—	○	○	
SHLR2 Rn	0100nnnn00001001	$Rn \gg 2 \rightarrow Rn$	1	—	○	○	
SHLL8 Rn	0100nnnn00011000	$Rn \ll 8 \rightarrow Rn$	1	—	○	○	
SHLR8 Rn	0100nnnn00011001	$Rn \gg 8 \rightarrow Rn$	1	—	○	○	
SHLL16 Rn	0100nnnn00101000	$Rn \ll 16 \rightarrow Rn$	1	—	○	○	
SHLR16 Rn	0100nnnn00101001	$Rn \gg 16 \rightarrow Rn$	1	—	○	○	

2.5.6 分岐命令

表 2.16 分岐命令

命 令	命令コード	動 作	実行 ステート	Tビット	互換性		
					SH2E	SH4	SH-2A/ SH2A- FPU
BF label	10001011dddddddd	T=0 のとき disp×2+PC→PC, T=1 のとき nop	3/1*	—	○	○	
BF/S label	10001111dddddddd	遅延分岐、T=0 のとき disp×2+PC→PC, T=1 のとき nop	2/1*	—	○	○	
BT label	10001001dddddddd	T=1 のとき disp×2+PC→PC, T=0 のとき nop	3/1*	—	○	○	
BT/S label	10001101dddddddd	遅延分岐、T=1 のとき disp×2+PC→PC, T=0 のとき nop	2/1*	—	○	○	
BRA label	1010dddddddddddd	遅延分岐、disp×2+PC→PC	2	—	○	○	
BRAF Rm	0000mmmm00100011	遅延分岐、Rm+PC→PC	2	—	○	○	
BSR label	1011dddddddddddd	遅延分岐、PC→PR, disp×2+PC→PC	2	—	○	○	
BSRF Rm	0000mmmm00000011	遅延分岐、PC→PR, Rm+PC→PC	2	—	○	○	
JMP @Rm	0100mmmm00101011	遅延分岐、Rm→PC	2	—	○	○	
JSR @Rm	0100mmmm00001011	遅延分岐、PC→PR, Rm→PC	2	—	○	○	
JSR/N @Rm	0100mmmm01001011	PC-2→PR, Rm→PC	3	—			○
JSR/N @@(disp8, TBR)	10000011dddddddd	PC-2→PR, (disp×4+TBR)→PC	5	—			○
RTS	0000000000001011	遅延分岐、PR→PC	2	—	○	○	
RTS/N	0000000001101011	PR→PC	3	—			○
RTV/N Rm	0000mmmm01111011	Rm→R0, PR→PC	3	—			○

【注】 * 分岐しないときは1ステートになります。

2.5.7 システム制御命令

表 2.17 システム制御命令

命 令	命令コード	動 作	実行 ステート	Tビット	互換性		
					SH2E	SH4	SH-2A/ SH2A- FPU
CLRT	000000000001000	0→T	1	0	○	○	
CLRMAC	000000000101000	0→MACH,MACL	1	—	○	○	
LDBANK @Rm, R0	0100mmmm11100101	(指定レジスタバンクエントリ) → R0	6	—			○
LDC Rm, SR	0100mmmm00001110	Rm→SR	3	LSB	○	○	
LDC Rm, TBR	0100mmmm01001010	Rm→TBR	1	—			○
LDC Rm, GBR	0100mmmm00011110	Rm→GBR	1	—	○	○	
LDC Rm, VBR	0100mmmm00101110	Rm→VBR	1	—	○	○	
LDC.L @Rm+, SR	0100mmmm00000111	(Rm)→SR, Rm+4→Rm	5	LSB	○	○	
LDC.L @Rm+, GBR	0100mmmm00010111	(Rm)→GBR, Rm+4→Rm	1	—	○	○	
LDC.L @Rm+, VBR	0100mmmm00100111	(Rm)→VBR, Rm+4→Rm	1	—	○	○	
LDS Rm, MACH	0100mmmm00001010	Rm→MACH	1	—	○	○	
LDS Rm, MACL	0100mmmm00011010	Rm→MACL	1	—	○	○	
LDS Rm, PR	0100mmmm01010101	Rm→PR	1	—	○	○	
LDS.L @Rm+, MACH	0100mmmm00000110	(Rm)→MACH, Rm+4→Rm	1	—	○	○	
LDS.L @Rm+, MACL	0100mmmm00010110	(Rm)→MACL, Rm+4→Rm	1	—	○	○	
LDS.L @Rm+, PR	0100mmmm00100110	(Rm)→PR, Rm+4→Rm	1	—	○	○	
NOP	0000000000001001	無操作	1	—	○	○	
RESBANK	0000000001011011	バンク→R0~R14, GBR, MACH, MACL, PR	9*	—			○
RTE	000000000101011	遅延分岐、スタック領域→PC/SR	6	—	○	○	
SETT	0000000000011000	1→T	1	1	○	○	
SLEEP	0000000000011011	スリープ	5	—	○	○	
STBANK R0, @Rn	0100nnnn11100001	R0→(指定レジスタバンクエントリ)	7	—			○
STC SR, Rn	0000nnnn00000010	SR→Rn	2	—	○	○	
STC TBR, Rn	0000nnnn01001010	TBR→Rn	1	—			○
STC GBR, Rn	0000nnnn00010010	GBR→Rn	1	—	○	○	
STC VBR, Rn	0000nnnn00100010	VBR→Rn	1	—	○	○	
STC.L SR, @- Rn	0100nnnn00000011	Rn-4→Rn, SR→(Rn)	2	—	○	○	
STC.L GBR, @- Rn	0100nnnn00010011	Rn-4→Rn, GBR→(Rn)	1	—	○	○	
STC.L VBR, @- Rn	0100nnnn00100011	Rn-4→Rn, VBR→(Rn)	1	—	○	○	

命 令	命令コード	動 作	実行 ステート	Tビット	互換性		
					SH2E	SH4	SH-2A/ SH2A- FPU
STS MACH, Rn	0000nnnn00001010	MACH→Rn	1	—	○	○	
STS MACL, Rn	0000nnnn00011010	MACL→Rn	1	—	○	○	
STS PR, Rn	0000nnnn00101010	PR→Rn	1	—	○	○	
STS.L MACH, @-Rn	0100nnnn00000010	Rn-4→Rn, MACH→(Rn)	1	—	○	○	
STS.L MACL, @-Rn	0100nnnn00010010	Rn-4→Rn, MACL→(Rn)	1	—	○	○	
STS.L PR, @-Rn	0100nnnn00100010	Rn-4→Rn, PR→(Rn)	1	—	○	○	
TRAPA #imm	11000011iiiiiiii	PC/SR→スタック領域、 (imm×4+VBR)→PC	5	—	○	○	

【注】 命令の実行ステートについて

表に示した実行ステートは最小値です。実際は、

- (1) 命令フェッチとデータアクセスの競合が起こる場合
- (2) ロード命令（メモリ→レジスタ）のデスティネーションレジスタと、その直後の命令が使うレジスタが同一な場合などの条件により、命令実行ステート数は増加します。

* バンクのオーバーフロー時は、ステート数が 19 です。

2.5.8 浮動小数点演算命令

表 2.18 浮動小数点演算命令

命 令	命令コード	動 作	実行 ステート	Tビット	互換性		
					SH2E	SH4	SH-2A/ SH2A- FPU
FABS FRn	1111nnnn01011101	FRn →FRn	1	—	○	○	
FABS DRn	1111nnn01011101	DRn →DRn	1	—		○	
FADD FRm, FRn	1111nnnnnnmm0000	FRn+FRm→FRn	1	—	○	○	
FADD DRm, DRn	1111nnn0mmmm0000	DRn+DRm→DRn	6	—		○	
FCMP/EQ FRm, FRn	1111nnnnnnmm0100	(FRn=FRm)? 1:0→T	1	比較結果	○	○	
FCMP/EQ DRm, DRn	1111nnn0mmmm00100	(DRn=DRm)? 1:0→T	2	比較結果		○	
FCMP/GT FRm, FRn	1111nnnnnnmm0101	(FRn>FRm)? 1:0→T	1	比較結果	○	○	
FCMP/GT DRm, DRn	1111nnn0mmmm00101	(DRn>DRm)? 1:0→T	2	比較結果		○	
FCNVDS DRm, FPUL	1111mmmm010111101	(float)DRm→FPUL	2	—		○	
FCNVSD FPUL, DRn	1111nnn010101101	(double)FPUL→DRn	2	—		○	
FDIV FRm, FRn	1111nnnnnnmm0011	FRn/FRm→FRn	10	—	○	○	
FDIV DRm, DRn	1111nnn0mmmm00011	DRn/DRm→DRn	23	—		○	
FLDI0 FRn	1111nnnn10001101	0×00000000→FRn	1	—	○	○	
FLDI1 FRn	1111nnnn10011101	0×3F800000→FRn	1	—	○	○	

命 令	命令コード	動 作	実行 ステート	Tビット	互換性		
					SH2E	SH4	SH-2A/ SH2A- FPU
FLDS FRm, FPUL	1111mmmm00011101	FRm→FPUL	1	—	○	○	
FLOAT FPUL,FRn	1111nnnn00101101	(float)FPUL→FRn	1	—	○	○	
FLOAT FPUL,DRn	1111nnn000101101	(double)FPUL→DRn	2	—		○	
FMAC FR0,FRm,FRn	1111nnnnmmmm1110	FR0×FRm+FRn→FRn	1	—	○	○	
FMOV FRm, FRn	1111nnnnmmmm1100	FRm→FRn	1	—	○	○	
FMOV DRm, DRn	1111nnn0mmmm01100	DRm→DRn	2	—		○	
FMOV.S @(R0, Rm), FRn	1111nnnnmmmm01110	(R0+Rm)→FRn	1	—	○	○	
FMOV.D @(R0, Rm), DRn	1111nnn0mmmm01110	(R0+Rm)→DRn	2	—		○	
FMOV.S @Rm+, FRn	1111nnnnmmmm1001	(Rm)→FRn, Rm+=4	1	—	○	○	
FMOV.D @Rm+, DRn	1111nnn0mmmm1001	(Rm)→DRn, Rm+=8	2	—		○	
FMOV.S @Rm, FRn	1111nnnnmmmm1000	(Rm)→FRn	1	—	○	○	
FMOV.D @Rm, DRn	1111nnn0mmmm1000	(Rm)→DRn	2	—		○	
FMOV.S @(disp12,Rm),FRn	0011nnnnmmmm0001 0111ddddddddddd	(disp×4+Rm)→FRn	1	—			○
FMOV.D @(disp12,Rm),DRn	0011nnn0mmmm0001 0111ddddddddddd	(disp×8+Rm)→DRn	2	—			○
FMOV.S FRm, @(R0,Rn)	1111nnnnmmmm0111	FRm→(R0+Rn)	1	—	○	○	
FMOV.D DRm, @(R0,Rn)	1111nnnnmmmm0011	DRm→(R0+Rn)	2	—		○	
FMOV.S FRm, @-Rn	1111nnnnmmmm1011	Rn-=4, FRm→(Rn)	1	—	○	○	
FMOV.D DRm, @-Rn	1111nnnnmmmm0101	Rn-=8, DRm→(Rn)	2	—		○	
FMOV.S FRm, @Rn	1111nnnnmmmm1010	FRm→(Rn)	1	—	○	○	
FMOV.D DRm, @Rn	1111nnnnmmmm0100	DRm→(Rn)	2	—		○	
FMOV.S FRm, @(disp12,Rn)	0011nnnnmmmm0001 0011ddddddddddd	FRm→(disp×4+Rn)	1	—			○
FMOV.D DRm, @(disp12,Rn)	0011nnnnmmmm0001 0011ddddddddddd	DRm→(disp×8+Rn)	2	—			○
FMUL FRm, FRn	1111nnnnmmmm0010	FRn×FRm→FRn	1	—	○	○	
FMUL DRm, DRn	1111nnn0mmmm00010	DRn×DRm→DRn	6	—		○	
FNEG FRn	1111nnnn01001101	-FRn→FRn	1	—	○	○	
FNEG DRn	1111nnn001001101	-DRn→DRn	1	—		○	
FSCHG	1111001111111101	FPSCR.SZ=-FPSCR.SZ	1	—		○	
FSQRT FRn	1111nnnn01101101	√FRn→FRn	9	—		○	
FSQRT DRn	1111nnn001101101	√DRn→DRn	22	—		○	
FSTS FPUL,FRn	1111nnnn00001101	FPUL→FRn	1	—	○	○	
FSUB FRm, FRn	1111nnnnmmmm0001	FRn-FRm→FRn	1	—	○	○	
FSUB DRm, DRn	1111nnn0mmmm00001	DRn-DRm→DRn	6	—		○	
FTRC FRm, FPUL	1111mmmm00111101	(long)FRm→FPUL	1	—	○	○	
FTRC DRm, FPUL	1111mmmm00011101	(long)DRm→FPUL	2	—		○	

2.5.9 FPU に関する CPU 命令

表 2.19 FPU に関する CPU 命令

命 令	命令コード	動 作	実行 ステート	Tビット	互換性		
					SH2E	SH4	SH-2A/ SH2A- FPU
LDS Rm,FPSCR	0100mmmm01101010	Rm→FPSCR	1	—	○	○	
LDS Rm,FPUL	0100mmmm01011010	Rm→FPUL	1	—	○	○	
LDS.L @Rm+, FPSCR	0100mmmm01100110	(Rm)→FPSCR, Rm+=4	1	—	○	○	
LDS.L @Rm+, FPUL	0100mmmm01010110	(Rm)→FPUL, Rm+=4	1	—	○	○	
STS FPSCR, Rn	0000nnnn01101010	FPSCR→Rn	1	—	○	○	
STS FPUL, Rn	0000nnnn01011010	FPUL→Rn	1	—	○	○	
STS.L FPSCR, @-Rn	0100nnnn01100010	Rn-=4, FPSCR→(Rn)	1	—	○	○	
STS.L FPUL, @-Rn	0100nnnn01010010	Rn-=4, FPUL→(Rn)	1	—	○	○	

2.5.10 ビット操作命令

表 2.20 ビット操作命令

命 令	命令コード	動 作	実行 ステート	Tビット	互換性		
					SH2E	SH4	SH-2A/ SH2A- FPU
BAND.B #imm3, @(disp12, Rn)	0011nnnn0iii1001 0100ddddddddddd	(imm of (disp+ Rn))&T → T	3	演算結果			○
BANDNOT.B #imm3, @(disp12, Rn)	0011nnnn0iii1001 1100ddddddddddd	~(imm of (disp+ Rn))&T → T	3	演算結果			○
BCLR.B #imm3, @(disp12, Rn)	0011nnnn0iii1001 0000ddddddddddd	0→ (imm of (disp+ Rn))	3	—			○
BCLR #imm3, Rn	10000110nnnn0iii	0→ imm of Rn	1	—			○
BLD.B #imm3, @(disp12, Rn)	0011nnnn0iii1001 0011ddddddddddd	(imm of (disp+Rn)) → T	3	演算結果			○
BLD #imm3, Rn	10000111nnnnliii	imm of Rn → T	1	演算結果			○
BLDNOT.B #imm3, @(disp12, Rn)	0011nnnn0iii1001 1011ddddddddddd	~(imm of (disp+Rn)) → T	3	演算結果			○
BOR.B #imm3, @(disp12, Rn)	0011nnnn0iii1001 0101ddddddddddd	(imm of (disp+ Rn)) T → T	3	演算結果			○
BORNOT.B #imm3, @(disp12, Rn)	0011nnnn0iii1001 1101ddddddddddd	~(imm of (disp+ Rn)) T → T	3	演算結果			○

命 令	命令コード	動 作	実行 ステート	Tビット	互換性		
					SH2E	SH4	SH-2A/ SH2A- FPU
BSET.B #imm3,@(disp12,Rn)	0011nnnn0iii1001 0001000000000000	1→ (imm of (disp+Rn))	3	—			○
BSET #imm3, Rn	10000110nnnn1iii	1→ imm of Rn	1	—			○
BST.B #imm3,@(disp12,Rn)	0011nnnn0iii1001 0010000000000000	T→(imm of (disp+Rn))	3	—			○
BST #imm3, Rn	10000111nnnn0iii	T→ imm of Rn	1	—			○
BXOR.B #imm3, @(disp12, Rn)	0011nnnn0iii1001 0110000000000000	(imm of (disp+ Rn)) ^ T → T	3	演算結果			○

2.6 処理状態

CPUの処理状態には、リセット状態、例外処理状態、プログラム実行状態、低消費電力状態の4種類があります。状態間の遷移を図2.8に示します。

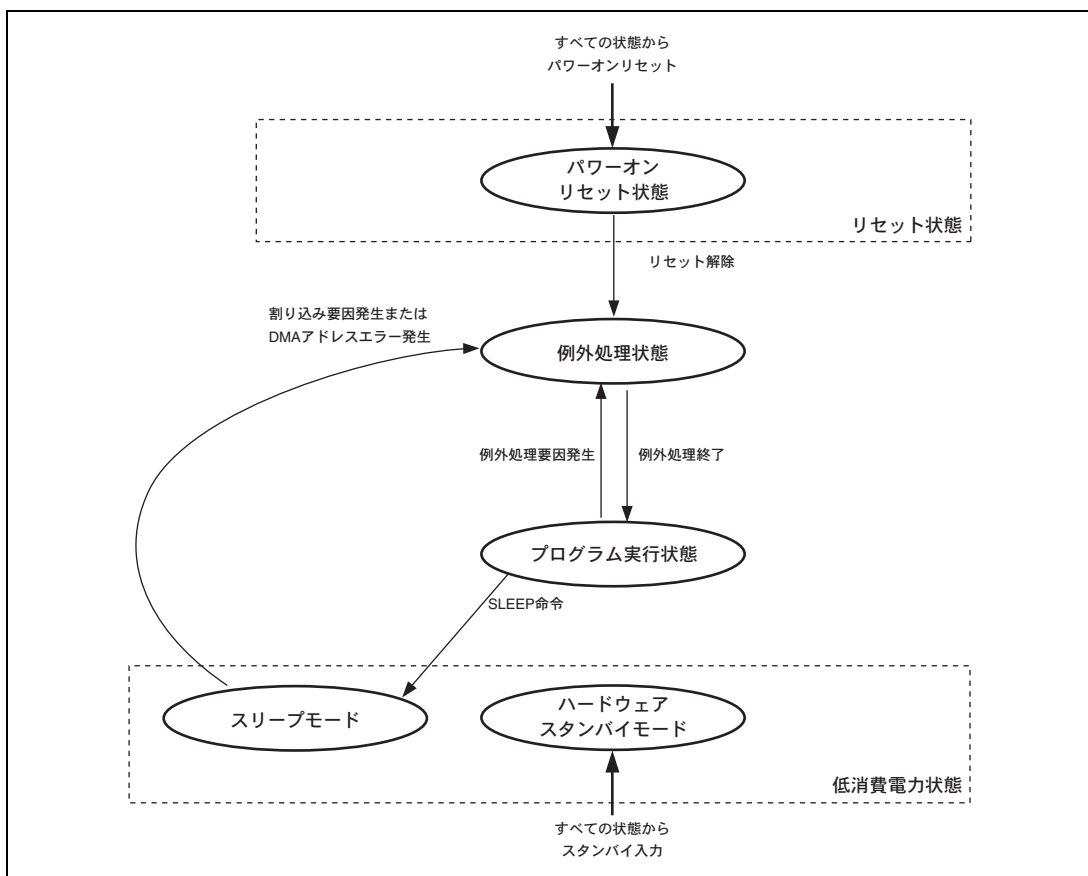


図 2.8 処理状態の状態遷移図

(1) リセット状態

CPUがリセットされている状態です。CPUは、パワーオンリセットによりリセット状態になります。

(2) 例外処理状態

リセットや割り込みなどの例外処理要因によって、CPUが処理状態の流れを変えるときの過渡的な状態です。

リセットの場合は、例外処理ベクタテーブルからプログラムカウンタ（PC）の初期値としての実行開始アドレスとスタックポインタ（SP）の初期値を取り出しそれぞれ格納し、スタートアドレスに分岐してプログラムの実行を開始します。

割り込みなどの場合は、SPを参照して、PCとステータスレジスタ（SR）をスタック領域に退避します。例外処

理ベクタテーブルから例外サービスルーチンの開始アドレスを取り出し、そのアドレスに分岐してプログラムの実行を開始します。

その後、処理状態はプログラム実行状態となります。

(3) プログラム実行状態

CPU が順次プログラムを実行している状態です。

(4) 低消費電力状態

CPU の動作が停止し消費電力が低い状態です。スリープ命令でスリープモードになります。ハードウェアスタンバイ入力が入るとハードウェアスタンバイモードになります。

3. 動作モード

本 LSI は JTAG インタフェースを搭載しているため、通常動作モードであっても JTAG インタフェース機能の利用の有無にかかわらず、電源投入時に $\overline{\text{TRST}}$ を一定期間ローレベルにしなければなりません。

3.1 動作モードの種類と選択

本 LSI には、6 種類の動作モードがあります。動作モードは、MD4～MD0、FWE 端子で設定します。モード設定端子は、LSI の動作中に変化させないでください。ただし、内蔵 ROM 有効の MCU 拡張モード、および MCU シングルチップモードと、ユーザプログラムモード間の遷移については、FWE 端子のみ動作中の変更が可能です。また、表 3.2 にない組み合わせは設定しないでください。

PVcc1 の電源電圧は表 3.1 に示す範囲で使用してください。

表 3.1 動作モードの選択

動作モード番号	モード名	内蔵 ROM	外部バス	バス幅 (エリア 0)	ROM 書き込み	PVcc1 電圧
モード 0	MCU 拡張モード	無効	有効	8 ビット	—	3.3V±0.3V
モード 1		無効	有効	16 ビット	—	3.3V±0.3V
モード 2		有効	有効	CS0BCR*	不可	3.3V±0.3V
モード 3	MCU シングルチップモード	有効	無効	—	不可	5.0V±0.5V
モード 4	ブートモード	有効	有効	CS0BCR*	可	3.3V±0.3V
モード 5		有効	無効	—	可	5.0V±0.5V
モード 6	ユーザプログラムモード	有効	有効	CS0BCR*	可	3.3V±0.3V
モード 7		有効	無効	—	可	5.0V±0.5V
モード 8	ユーザブートモード	有効	有効	CS0BCR*	可	3.3V±0.3V
モード 9		有効	無効	—	可	5.0V±0.5V

【注】 * CS0 空間バスコントロールレジスタ (CS0BCR) はバスステートコントローラ (BSC) のレジスタです。バス幅は、8 ビットと 16 ビットのどちらかを選択できます。

表 3.2 動作モードの端子設定

動作モード 番号	モード名	端子設定				
		MD4/MD3* ¹	MD2	MD1	MD0	FWE
モード 0	MCU 拡張モード	0	1	1	1	0* ²
モード 1			1	1	1	1* ²
モード 2			0	0	1	0
モード 3	MCU シングルチップモード		0	0	0	0
モード 4	ブートモード		0	1	1	1
モード 5			0	1	0	1
モード 6	ユーザプログラムモード		0	0	1	1
モード 7			0	0	0	1
モード 8	ユーザブートモード		1	0	1	1
モード 9		1	0	0	1	

【注】 *1 MD4 および MD3 端子は常に 0 にする必要があります。

*2 内蔵 ROM 無効となるモードにおいて、FWE 端子は外部バス幅を選択するモード設定端子として機能します。

MCU 動作モードとして、MCU 拡張モードと MCU シングルチップモードがあります。

フラッシュメモリにプログラムを書き込むモードとして、オンボードプログラミングモードであるブートモード、ユーザブートモード、およびユーザプログラムモードがあります。

また、本 LSI は上記の動作モードとは独立に、外部にエミュレータを接続してデバッグを行うためのモードとして ASE モードを持っています。ASEMD 端子に 1 を入力すると ASE モードとして動作します。たとえば、MD4～MD0、FWE 端子の設定によって MCU シングルチップモードが選択されていれば、ASE モードの MCU シングルチップモードとして動作することになります。

ただし、エミュレータを接続しないで ASE モードに設定した場合の動作は保証されません。エミュレータを接続せずに通常動作させる場合には、必ず ASEMD 端子に 0 を入力して、通常動作モードにしてください。

なお、本マニュアルにおいては、特に明記してある場合を除き、通常動作モードであることを前提として説明します。

4. クロック発振器 (CPG)

4.1 概要

クロック発振器 (CPG) は、本 LSI 内部と外部デバイスにクロックパルスを供給します。本 LSI の CPG は、発振回路と PLL 通倍回路で構成されています。CPG でクロックを発生させる方法としては、水晶発振子を接続する方法と、外部クロックを入力する方法の 2 通りがあります。

発振回路は入力クロックと同じ周波数で発振します。

LSI の内部には内部クロック (ϕ) と周辺クロック ($P\phi$) の 2 種類のクロックがあります。

内部クロック (ϕ) は、CPU、FPU、内蔵 RAM、ROM キャッシュなどのモジュールに供給されます。周波数は、EXTAL 端子からの入力クロック周波数の 4、6、8、10 通倍のいずれかを選択可能です。通倍比の変更は、MD_CLK1、MD_CLK0 端子による設定でのみ変更可能です。LSI の動作中に通倍比を切り換えることはできません。

周辺クロック ($P\phi$) は、主に内蔵周辺モジュールに供給されます。その周波数は EXTAL 端子からの入力クロック周波数の 1、2 通倍のいずれかを選択可能です。通倍比の変更は、MD_CLKP 端子による設定でのみ変更可能です。LSI の動作中に通倍比を切り換えることはできません。CK 端子からは周辺クロック ($P\phi$) が出力されます。

CPG はハードウェアスタンバイモード時に停止します。

図 4.1 にクロック発振器のブロック図を示します。

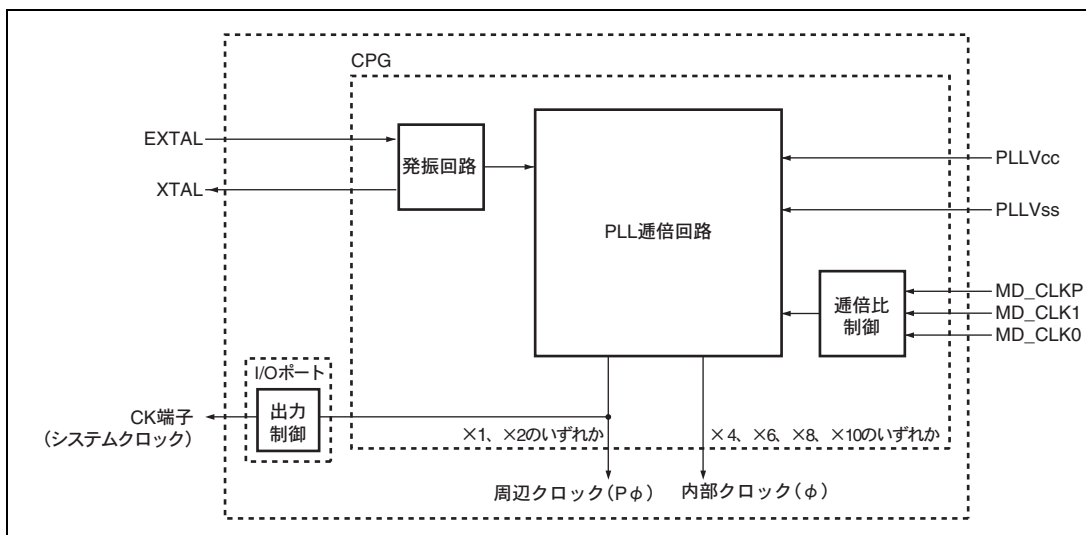


図 4.1 クロック発振器のブロック図

4.2 入出力端子

クロック発振器に関連する端子を表 4.1 に示します。

表 4.1 端子構成

名称	端子名	入出力	機能
外部クロック	EXTAL	入力	水晶発振子または外部クロックの入力
クリスタル	XTAL	出力	水晶発振子を接続
システムクロック	CK	出力	システムクロック出力
クロックモード設定	MD_CLKP	入力	周辺クロック周波数を設定
	MD_CLK0、1	入力	PLL 逡倍比を設定
PLL 電源	PLL _{cc}	入力	PLL 逡倍回路用電源
PLL グランド	PLL _{ss}	入力	PLL 逡倍回路用グランド

4.3 周波数範囲とクロック選択

LSI の内部に供給されるクロックは、内部クロック (ϕ) と周辺クロック (P ϕ) の 2 種類のクロックがあります。

内部クロック (ϕ) は、CPU、FPU、内蔵 RAM、ROM キャッシュなどのモジュールに供給されます。内部クロック (ϕ) 周波数は、端子設定 (MD_CLK1、MD_CLK0) によって、EXTAL 端子からの入力クロック周波数の 4 倍、6 倍、8 倍、10 倍のいずれかから選択できます。

周辺クロック (P ϕ) は、主に内蔵周辺モジュールに供給され、端子設定 (MD_CLKP) によって、入力周波数 (EXTAL 端子) の 1 倍、2 倍のいずれかを選択できます。CK 端子から出力するシステムクロックには、周辺クロック (P ϕ) を出力します。

端子設定ごとの入力周波数と動作周波数の範囲を表 4.2 に示します。

CK 端子は、I/O ポートの CK コントロールレジスタ (CKCR) を設定することで、端子出力の有効/無効を制御できます。CKCR の詳細は「第 23 章 I/O ポート」を参照してください。

表 4.2 周波数範囲とクロック選択

端子設定			入力周波数 (MHz)	PLL 通倍比	内部クロック周波数 (MHz)	周辺クロック周波数 (MHz)		
MD_CLKP	MD_CLK1	MD_CLK0						
0	0	0	16~20	×4	64~80	16~20		
		1		×6	96~120			
	1	0		×10	160~200			
		1		×8	128~160			
1	0	0		32~40	×4		64~80	32~40
		1			×6		96~120	
	1	0			×10		160~200	
		1			×8		128~160	

【注】 LSI の動作中に通倍比を切り換えることはできません。また、LSI の動作中に端子設定を変更しないでください。

4.4 クロックソース

クロックソースとして、水晶発振器と外部クロックのどちらかを選ぶことができます。

4.4.1 水晶発振器の接続方法

(1) 回路構成

図 4.2 に水晶発振器の接続方法を示します。ダンピング抵抗 R_d は表 4.3 に示すものを使用してください。水晶発振器は、AT カット基本波仕様のものを使用してください。また、図 4.2 のように負荷容量 (CL1、CL2) を必ず接続してください。

水晶発振器と内部の発振器によって生成されたクロックパルスは、PLL 逡倍回路に送られ、そこで設定した周波数に逡倍されて、本 LSI の内部と外部デバイスに供給されます。

なお、水晶発振器と LSI の相性については、水晶発振器メーカーとご相談ください。

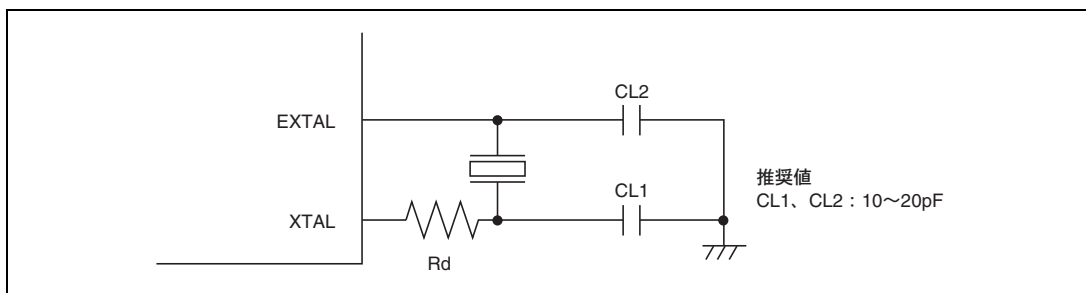


図 4.2 水晶発振器の接続例

表 4.3 ダンピング抵抗値 (推奨値)

周波数 (MHz)	16	20
R_d (Ω)	0	0

(2) 水晶発振子

図 4.3 に水晶発振子の等価回路を示します。水晶発振子は、表 4.4 に示す特性のものを使ってください。

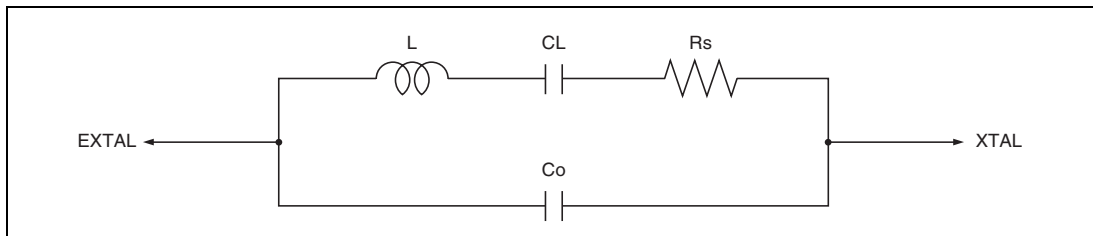


図 4.3 水晶発振子の等価回路

表 4.4 水晶発振子の特性 (推奨値)

パラメータ	周波数 (MHz)	
	16	20
Rs (Ω)	22	20
Co (pF)	1	1

4.4.2 外部クロックの入力方法

外部クロック入力の接続例を図 4.4 に示します。

XTAL 端子をオープン状態にしてください。XTAL 端子の寄生容量は 1pF 以下としてください。

外部クロックを入力する場合でも、PLL 安定時間の確保のため、電源投入時や、スタンバイ解除時は、発振安定時間以上待つようにしてください。

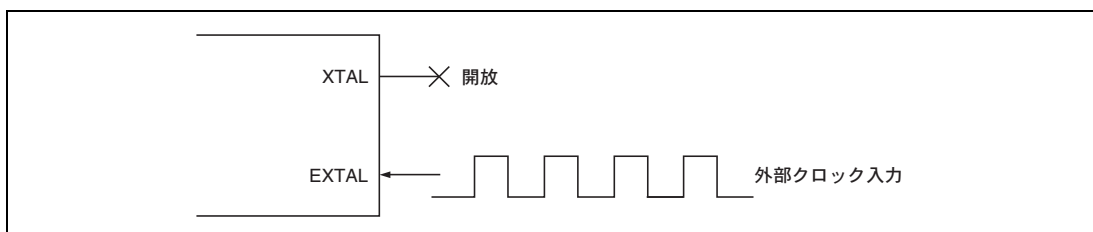


図 4.4 外部クロックの入力方法

4.5 使用上の注意事項

4.5.1 ボード設計上の注意

水晶発振子と負荷容量は、できるだけ EXTAL、XTAL 端子の近くに置いてください。また、EXTAL、XTAL 端子の信号線に他の信号線を交差させないでください (図 4.5)。誘導のために正しい発振ができなくなることがあります。

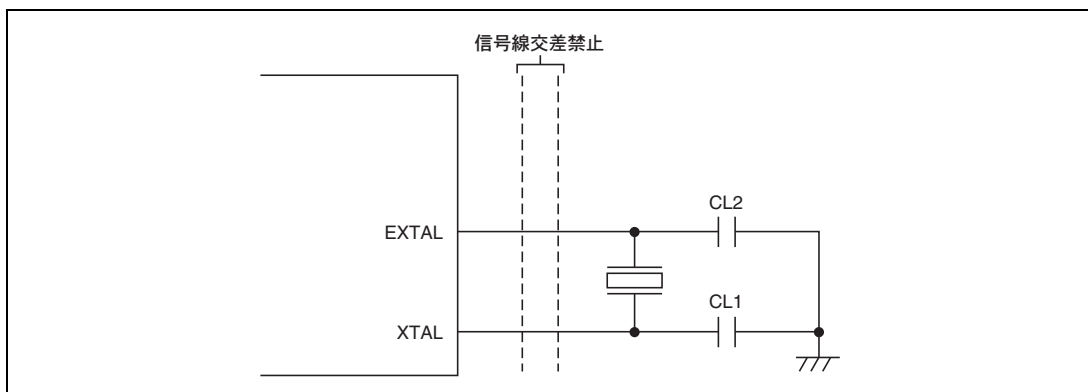


図 4.5 ボード設計上の注意

4.5.2 PLL 発振器用電源接続時の注意

PLL V_{CC} と PLL V_{SS} は、その他の V_{CC} 、 V_{SS} とはボードの電源供給元から分離し、端子の近くにバイパスコンデンサ C_{PB} および C_B を必ず挿入してください。

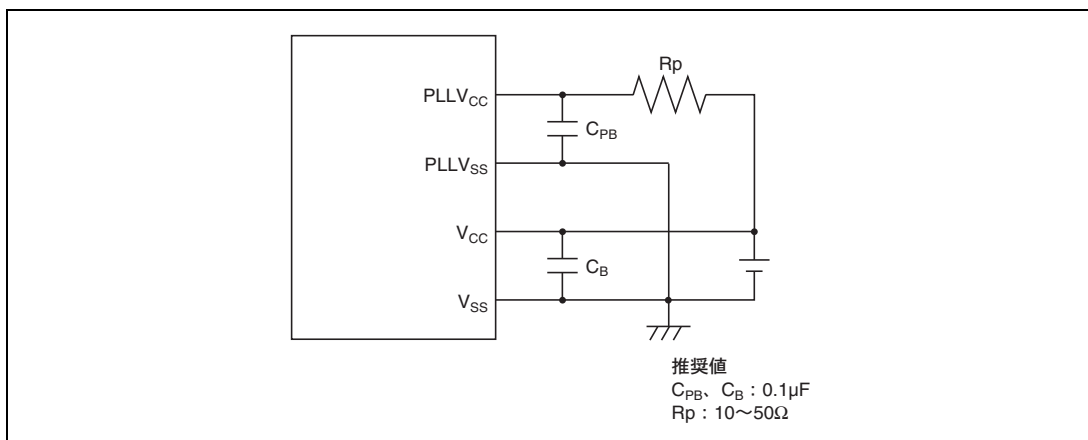


図 4.6 PLL 発振器用電源接続時の注意

5. アドレス空間

表 5.1 に SH72546RFCC の内蔵 ROM 有効モード（シングルチップモードを除く）のアドレス空間、表 5.2 に SH72546RFCC の内蔵 ROM 無効モードのアドレス空間、表 5.3 に SH72546RFCC のシングルチップモードのアドレス空間を示します。

内蔵 I/O レジスタ空間へのアクセスは、「第 31 章 レジスタ一覧」に示すアドレスにアクセスしてください。これらに記載のないアドレスおよび予約エリアにはアクセスしないでください。アクセスした場合は、動作の保証はできません。

表 5.1 SH72546RFCC 内蔵 ROM 有効モードのアドレス空間（シングルチップモードは除く）

アドレス	アドレス空間の種類	サイズ
H'0000 0000~H'003B FFFF (H'0000 0000~H'0000 7FFF) *1	内蔵 ROM (ユーザマット リード) (内蔵 ROM (ユーザブートマット リード))	3.75MB (32KB)
H'003C 0000~H'0040 1FFF	予約エリア	
H'0040 2000~H'0040 3FFF	FCU ファーム領域	8KB
H'0040 4000~H'01FF FFFF	予約エリア	
H'0200 0000~H'023F FFFF	外部アドレス空間 (CS0)	4MB
H'0240 0000~H'03FF FFFF	CS0 シャドウ空間	28MB
H'0400 0000~H'043F FFFF	外部アドレス空間 (CS1)	4MB
H'0440 0000~H'07FF FFFF	CS1 シャドウ空間	60MB
H'0800 0000~H'083F FFFF	外部アドレス空間 (CS2)	4MB
H'0840 0000~H'0BFF FFFF	CS2 シャドウ空間	60MB
H'0C00 0000~H'0C3F FFFF	外部アドレス空間 (CS3)	4MB
H'0C40 0000~H'0FFF FFFF	CS3 シャドウ空間	60MB
H'1000 0000~H'800F FFFF	予約エリア	
H'8010 0000~H'8011 FFFF	EEPROM (リード/ライト) *2	128KB
H'8012 0000~H'807F FFFF	予約エリア	
H'8080 0000~H'80BB FFFF (H'8080 0000~H'8080 7FFF) *1	内蔵 ROM (ユーザマット ライト) (内蔵 ROM (ユーザブートマット ライト))	3.75MB (32KB)
H'80BC 0000~H'80FF 7FFF	予約エリア	
H'80FF 8000~H'80FF 9FFF	FCU RAM 領域	8KB
H'80FF A000~H'FFF7 FFFF	予約エリア	
H'FFF8 0000~H'FFFB FFFF	内蔵 RAM	256KB
H'FFFC 0000~H'FFFF FFFF	内蔵 I/O レジスタ	256KB (Max.)

【注】 *1 内蔵 ROM のユーザブートマットを選択した場合です。詳細は、「第 25 章 ROM」を参照してください。

*2 EEPROM 領域には、ロットトレース情報が含まれます。詳細は、「第 26 章 EEPROM」を参照してください。

表 5.2 SH72546RFCC 内蔵 ROM 無効モードのアドレス空間

アドレス	アドレス空間の種類	サイズ
H'0000 0000~H'003F FFFF	外部アドレス空間 (CS0)	4MB
H'0040 0000~H'03FF FFFF	CS0 シャドウ空間	60MB
H'0400 0000~H'043F FFFF	外部アドレス空間 (CS1)	4MB
H'0440 0000~H'07FF FFFF	CS1 シャドウ空間	60MB
H'0800 0000~H'083F FFFF	外部アドレス空間 (CS2)	4MB
H'0840 0000~H'0BFF FFFF	CS2 シャドウ空間	60MB
H'0C00 0000~H'0C3F FFFF	外部アドレス空間 (CS3)	4MB
H'0C40 0000~H'0FFF FFFF	CS3 シャドウ空間	60MB
H'1000 0000~H'FFF7 FFFF	予約エリア	
H'FFF8 0000~H'FFFB FFFF	内蔵 RAM	256KB
H'FFFC 0000~H'FFFF FFFF	内蔵 I/O レジスタ	256KB (Max.)

表 5.3 SH72546RFCC シングルチップモードのアドレス空間

アドレス	アドレス空間の種類	サイズ
H'0000 0000~H'003B FFFF (H'0000 0000~H'0000 7FFF) * ¹	内蔵 ROM (ユーザマット リード) (内蔵 ROM (ユーザブートマット リード))	3.75MB (32KB)
H'003C 0000~H'0040 1FFF	予約エリア	
H'0040 2000~H'0040 3FFF	FCU ファーム領域	8KB
H'0040 4000~H'800F FFFF	予約エリア	
H'8010 0000~H'8011 FFFF	EEPROM (リード/ライト) * ²	128KB
H'8012 0000~H'807F FFFF	予約エリア	
H'8080 0000~H'80BB FFFF (H'8080 0000~H'8080 7FFF) * ¹	内蔵 ROM (ユーザマット ライト) (内蔵 ROM (ユーザブートマット ライト))	3.75MB (32KB)
H'80BC 0000~H'80FF 7FFF	予約エリア	
H'80FF 8000~H'80FF 9FFF	FCU RAM 領域	8KB
H'80FF A000~H'FFF7 FFFF	予約エリア	
H'FFF8 0000~H'FFFB FFFF	内蔵 RAM	256KB
H'FFFC 0000~H'FFFF FFFF	内蔵 I/O レジスタ	256KB (Max.)

【注】 *¹ 内蔵 ROM のユーザブートマットを選択した場合です。詳細は、「第 25 章 ROM」を参照してください。

*² EEPROM 領域には、ロットトレース情報が含まれます。詳細は、「第 26 章 EEPROM」を参照してください。

6. リセット

$\overline{\text{RES}}$ 端子にローレベル信号を入力するとパワーオンリセット状態になります。その後、 $\overline{\text{RES}}$ 端子にハイレベルを入力するとリセット状態が解除され、CPU はパワーオンリセット例外処理を開始します。

6.1 リセット動作

$\overline{\text{RES}}$ 端子にノイズキャンセル幅 (t_{RESNCW}) 以上のローレベルパルスが入力されると、リセットが受け付けられます。リセットが受け付けられると端子がリセットされ、各端子はリセット状態に遷移します。各端子のリセット中の状態は、「付録 A. 端子状態」に示している状態になります。

リセット受け付け後、3~4Pφサイクル後に CPU を含む内蔵回路がリセットされます。 $\overline{\text{RES}}$ 端子に入力するローレベルパルス幅は、 t_{RESW} (t_{cyc}) 以上の期間入力する必要があります。その後、 $\overline{\text{RES}}$ 端子にハイレベルを入力すると、3~4Pφサイクル後に内蔵回路のリセットが解除され、CPU はパワーオンリセット例外処理を開始します。

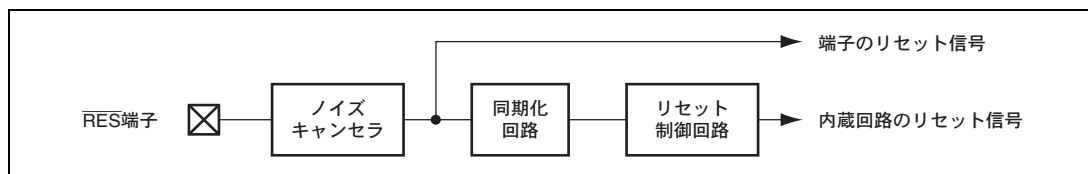


図 6.1 リセット回路

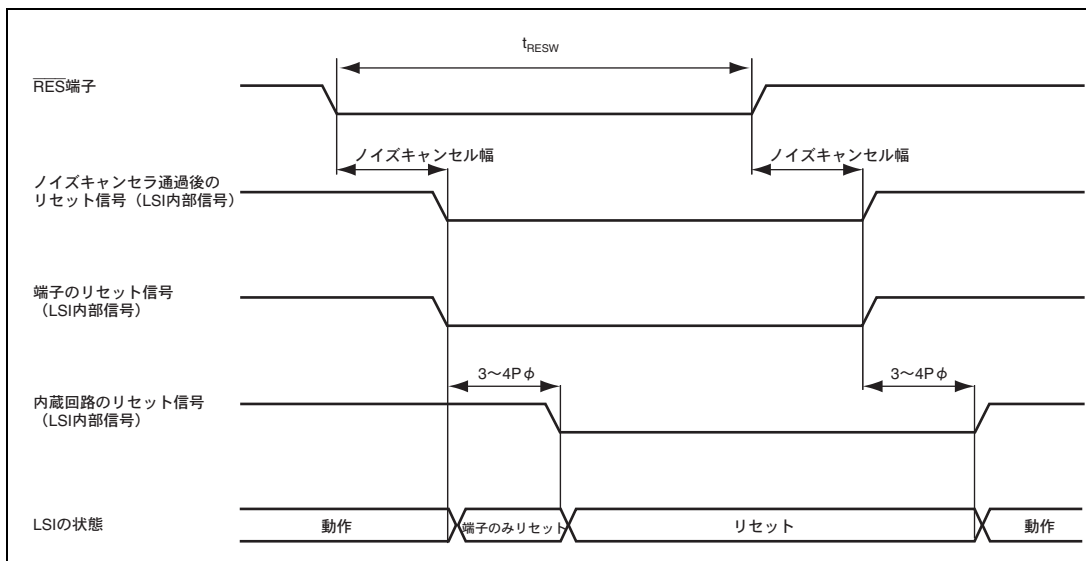


図 6.2 リセットシーケンス

6.1.1 電源投入時のリセット

電源投入時は、電源電圧が規格内に入り、 $\overline{\text{HSTBY}}$ 端子にハイレベルが入力されてから内蔵 PLL の発振が安定するまでの期間は、 $\overline{\text{RES}}$ 端子にローレベルを入力してください。発振安定時間は t_{OSCI} として規定されます。詳細は「第 32 章 電気的特性」を参照してください。

6.1.2 動作中のリセット

動作中のリセットは、リセットパルス幅以上のローレベルを $\overline{\text{RES}}$ 端子に入力してください。リセットパルス幅は t_{RESW} として規定されます。詳細は「第 32 章 電気的特性」を参照してください。

6.1.3 リセット時の内蔵 RAM データ保持

CPU などの内蔵バスマスタが RAM アクセス中に、 $\overline{\text{RES}}$ 端子にローレベルを入力しパワーオンリセットが発生すると、アクセスアドレスのデータは破壊される可能性があります。アクセスされていないアドレスのデータは保持します。RAM のデータを完全に保持するためには、 $\overline{\text{RES}}$ 端子にローレベルを入力する前に、RAM イネーブルレジスタ (RAMEN) により、当該 RAM を、無効にする必要があります。RAM イネーブルレジスタの詳細については「第 28 章 RAM」を参照してください。

6.2 リセット解除時の内部状態

以下にリセット解除時の内部状態を示します。各内蔵周辺 I/O のレジスタ初期状態については、それぞれの章を参照してください。

表 6.1 レジスタの初期値

区分		レジスタ	初期値
CPU	汎用レジスタ	R0~R14	不定
		R15 (SP)	ベクタアドレステーブル中の SP の値
	コントロールレジスタ	SR	I[3:0]は 1111 (H'F)、BO、CS は 0、リザーブビットは 0、その他は不定
		GBR、TBR	不定
		VBR	H'00000000
	システムレジスタ	MACH、MACL、PR	不定
		PC	ベクタアドレステーブル中の PC の値
	浮動小数点レジスタ	FPR0~FPR15	不定
	浮動小数点システムレジスタ	FPUL	不定
		FPSCR	H'00040001
RAM	—	電源投入後、不定	

7. 例外処理

7.1 概要

7.1.1 例外処理の種類と優先順位

例外処理は、表 7.1 に示すようにリセット、アドレスエラー、メモリエラー、レジスタバンクエラー、割り込み、および命令の各要因によって起動されます。例外要因には、表 7.1 に示すように優先順位が設けられており、複数の例外要因が同時に発生した場合は、この優先順位に従って受け付けられ、処理されます。

表 7.1 例外要因の種類と優先順位

種類	例外処理	優先順位	
リセット	パワーオンリセット		
アドレスエラー	CPU アドレスエラー		
	DMAC アドレスエラー		
命令	FPU 例外		
	整数除算例外 (0 除算)		
	整数除算例外 (オーバフロー)		
レジスタバンクエラー	バンクアンダフロー		
	バンクオーバフロー		
割り込み	NMI		
	ユーザブレイク		
	IRQ		
	メモリエラー (RAM エラー/ROM エラー)		
	ソフトウェア割り込み (SINT)		
	内蔵周辺 モジュール		ダイレクトメモリアクセスコントローラ (DMAC)
			コンパスマッチタイマ (CMT)
			ウォッチドッグタイマ (WDT)
		アドバンスドタイマユニット-III (ATU-III)	
		A/D 変換器 (ADC)	
		シリアルコミュニケーションインタフェース (SCI)	
		ルネサスシリアルペリフェラルインタフェース (RSPI)	
		コントローラエリアネットワーク (RCAN-TL1)	
専用ダイレクトメモリアクセスコントローラ (A-DMAC)			

種類	例外処理	優先順位
命令	トラップ命令 (TRAPA 命令)	高 ↑ ↓ 低
	一般不当命令 (未定義コード)	
	スロット不当命令 (遅延分岐命令*1直後に配置された未定義コード (FPU モジュールスタンバイ時における FPU 命令および FPU に関する CPU 命令を含む)、PC を書き換える命令*2、32 ビット命令*3、RESBANK 命令、DIVS 命令または DIVU 命令)	

【注】 *1 遅延分岐命令 : JMP、JSR、BRA、BSR、RTS、RTE、BF/S、BT/S、BSRF、BRA F

*2 PC を書き換える命令 : JMP、JSR、BRA、BSR、RTS、RTE、BT、BF、TRAPA、BF/S、BT/S、BSRF、BRA F、JSR/N、RTV/N

*3 32 ビット命令 : BAND.B、BANDNOT.B、BCLR.B、BLD.B、BLDNOT.B、BOR.B、BORNOT.B、BSET.B、BST.B、BXOR.B、FMOV.S@disp12、FMOV.D@disp12、MOV.B@disp12、MOV.W@disp12、MOV.L@disp12、MOVI20、MOVI20S、MOVU.B、MOVU.W

7.1.2 例外処理の動作

各例外要因は表 7.2 に示すタイミングで検出され、処理が開始されます。

表 7.2 例外要因検出と例外処理開始タイミング

例外処理		要因検出および処理開始タイミング
リセット	パワーオンリセット	RES 端子のローレベルからハイレベルへの変化または WDT のオーバフローで開始されます。
アドレスエラー		命令のデコード時に検出され、この前までに実行中の命令が完了後開始されます。
割り込み		
レジスタバンクエラー	バンクアンダフロー	レジスタバンクに退避が行われていないときに、RESBANK 命令を実行しようとする開始されます。
	バンクオーバフロー	割り込みコントローラでレジスタバンクオーバフロー例外を受け付けるように設定 (INTC の IBNR の BOVE ビット=1) されており、レジスタバンクを使用する割り込みが発生し、CPU に受け付けられた場合、レジスタバンクのすべての領域に退避がすでに行われていたときに開始されます。
命令	トラップ命令	TRAPA 命令の実行により開始されます。
	一般不当命令	遅延分岐命令直後 (遅延スロット) 以外にある未定義コード (FPU モジュールスタンバイ時における FPU 命令および FPU に関する CPU 命令を含む) がデコードされると開始されます。
	スロット不当命令	遅延分岐命令直後 (遅延スロット) に配置された未定義コード (FPU モジュールスタンバイ時における FPU 命令および FPU に関する CPU 命令を含む)、PC を書き換える命令、32 ビット命令、RESBANK 命令、DIVS 命令または DIVU 命令がデコードされると開始されます。
	整数除算例外	ゼロによる除算例外、または負の最大値 (H'80000000) を -1 で除算することによるオーバフロー例外が検出されると開始されます。

例外処理		要因検出および処理開始タイミング
命令	FPU 例外	浮動小数点演算命令の無効演算例外（IEEE754 規格）、ゼロによる除算例外、オーバフロー、アンダフロー、または不正確例外により開始されます。また、FPSCR の QIS ビットがセットされているとき、qNaN または $\pm\infty$ を浮動小数点演算命令のソースに入力すると開始されます。

例外処理が起動されると、CPU は次のように動作します。

(1) リセットによる例外処理

プログラムカウンタ（PC）とスタックポインタ（SP）の初期値を例外処理ベクタテーブル（PC、SP をそれぞれ、H'00000000 番地、H'00000004 番地）から取り出します。例外処理ベクタテーブルについては、「7.1.3 例外処理ベクタテーブル」を参照してください。次にベクタベースレジスタ（VBR）を H'00000000 に、ステータスレジスタ（SR）の割り込みマスクレベルビット（I3～I0）を H'F（B'1111）に、BO ビットおよび CS ビットを 0 に初期化します。また割り込みコントローラ（INTC）の IBNR の BN ビットを 0 に初期化します。さらにパワーオンリセット時には、FPSCR を H'00040001 に初期化します。例外処理ベクタテーブルから取り出した PC のアドレスからプログラムの実行を開始します。

(2) アドレスエラー、レジスタバンクエラー、割り込み、命令による例外処理

SR と PC を R15 で示すスタック上に退避します。NMI およびユーザブレイク以外の割り込み例外処理で、レジスタバンクを使用する設定が行われている場合、汎用レジスタ R0～R14、コントロールレジスタ GBR、システムレジスタ MACH、MACL、PR および実行される割り込み例外処理のベクタテーブルアドレスオフセットを、レジスタバンクに退避します。アドレスエラー、レジスタバンクエラー、NMI 割り込み、ユーザブレイク割り込み、命令による例外処理の場合、レジスタバンクへの退避は行われません。また、レジスタバンクのすべてのバンクに退避が行われていた場合には、レジスタバンクの代わりにスタックへの自動退避が行われます。この場合、割り込みコントローラにおいて、レジスタバンクオーバフロー例外を受け付けないように設定（INTC の IBNR の BOVE ビット=0）されている必要があります。レジスタバンクオーバフロー例外を受け付けるように設定（INTC の IBNR の BOVE ビット=1）されている場合には、レジスタバンクオーバフロー例外が発生します。割り込み例外処理の場合、割り込み優先レベルを SR の I3～I0 ビットに書き込みます。アドレスエラー、命令による例外処理の場合、I3～I0 ビットは影響を受けません。次に例外処理ベクタテーブルから例外サービスルーチンの開始アドレスを取り出し、そのアドレスからプログラムの実行を開始します。

7.1.3 例外処理ベクタテーブル

例外処理実行前には、あらかじめ例外処理ベクタテーブルがメモリ上に設定されている必要があります。例外処理ベクタテーブルには、例外サービスルーチンの開始アドレスを格納しておきます（リセット例外処理のテーブルには、PCとSPの初期値を格納しておきます）。

各例外要因には、それぞれ異なるベクタ番号とベクタテーブルアドレスオフセットが割り当てられています。ベクタテーブルアドレスは、対応するベクタ番号やベクタテーブルアドレスオフセットから算出されます。例外処理では、このベクタテーブルアドレスが示す例外処理ベクタテーブルから、例外サービスルーチンの開始アドレスが取り出されます。

ベクタ番号とベクタテーブルアドレスオフセットを表7.3に、ベクタテーブルアドレスの算出法を表7.4に示します。

表 7.3 例外処理ベクタテーブル

例外要因		ベクタ番号	ベクタテーブルアドレスオフセット
パワーオンリセット	PC	0	H'00000000~H'00000003
	SP	1	H'00000004~H'00000007
(システム予約)		2	H'00000008~H'0000000B
		3	H'0000000C~H'0000000F
一般不当命令		4	H'00000010~H'00000013
(システム予約)		5	H'00000014~H'00000017
スロット不当命令		6	H'00000018~H'0000001B
(システム予約)		7	H'0000001C~H'0000001F
		8	H'00000020~H'00000023
CPU アドレスエラー		9	H'00000024~H'00000027
DMAC アドレスエラー		10	H'00000028~H'0000002B
割り込み	NMI	11	H'0000002C~H'0000002F
	ユーザブレイク	12	H'00000030~H'00000033
FPU 例外		13	H'00000034~H'00000037
(システム予約)		14	H'00000038~H'0000003B
バンクオーバフロー		15	H'0000003C~H'0000003F
バンクアンダフロー		16	H'00000040~H'00000043
整数除算例外 (0 除算)		17	H'00000044~H'00000047
整数除算例外 (オーバフロー)		18	H'00000048~H'0000004B
(システム予約)		19	H'0000004C~H'0000004F
		:	:
		31	H'0000007C~H'0000007F

例外要因	ベクタ番号	ベクタテーブルアドレスオフセット
トラップ命令 (ユーザベクタ)	32	H'00000080~H'00000083
	:	:
	63	H'000000FC~H'000000FF
外部割り込み (IRQ)、内蔵周辺モジュール*	64	H'00000100~H'00000103
	:	:
	511	H'000007FC~H'000007FF

【注】 * 外部割り込み、各内蔵周辺モジュール割り込みのベクタ番号とベクタテーブルアドレスオフセットは「第8章 割り込みコントローラ (INTC)」の表 8.4 を参照してください。

表 7.4 例外処理ベクタテーブルアドレスの算出法

例外要因	ベクタテーブルアドレス算出法
リセット	ベクタテーブルアドレス = (ベクタテーブルアドレスオフセット) = (ベクタ番号) × 4
アドレスエラー、 レジスタバンクエラー、 割り込み、命令	ベクタテーブルアドレス = VBR + (ベクタテーブルアドレスオフセット) = VBR + (ベクタ番号) × 4

- 【注】 1. ベクタテーブルアドレスオフセット : 表 7.3 を参照
2. ベクタ番号 : 表 7.3 を参照

7.2 リセット

7.2.1 リセットの種類

リセットは最も優先順位の高い例外処理要因です。本製品はパワーオンリセットのみサポートします。表 7.5 に示すように、CPU 状態、FPU 状態、内蔵周辺モジュールのレジスタは、パワーオンリセットで初期化されます。

表 7.5 例外要因検出と例外処理開始タイミング

種類	リセット状態への遷移条件		内部状態		
	$\overline{\text{RES}}$	WDT オーバーフロー	CPU	内蔵周辺 モジュール、 I/O ポート	WDT の WTSR
パワーオンリセット	ロー	—	初期化	初期化	初期化
	ハイ	パワーオン	初期化	初期化	初期化しない

7.2.2 パワーオンリセット

(1) $\overline{\text{RES}}$ 端子によるパワーオンリセット

$\overline{\text{RES}}$ 端子をローレベルにすると、本 LSI はパワーオンリセット状態になります。パワーオンリセット状態では、CPU の内部状態と内蔵周辺モジュールのレジスタがすべて初期化されます。パワーオンリセットの詳細は、「第 6 章 リセット」を参照してください。また、パワーオンリセット状態での各端子の状態は「付録 A. 端子状態」を参照してください。

パワーオンリセット状態で、 $\overline{\text{RES}}$ 端子を一定期間ローレベルに保持した後ハイレベルにすると、パワーオンリセット例外処理が開始されます。このとき、CPU は次のように動作します。

1. プログラムカウンタ (PC) の初期値 (実行開始アドレス) を、例外処理ベクタテーブルから取り出します。
2. スタックポインタ (SP) の初期値を、例外処理ベクタテーブルから取り出します。
3. ベクタベースレジスタ (VBR) を H'00000000 にクリアし、ステータスレジスタ (SR) の割り込みマスクレベルビット (I3~I0) を H'F (B'1111) に、BO ビットおよび CS ビットを 0 に初期化します。また INTC の IBNR の BN ビットを 0 に初期化します。
4. 例外処理ベクタテーブルから取り出した値をそれぞれ PC と SP に設定し、プログラムの実行を開始します。

なお、パワーオンリセット処理は、システムの電源投入時、必ず行うようにしてください。

(2) WDT によるパワーオンリセット

WDT のウォッチドッグタイマモードでパワーオンリセットを発生する設定にし、WDT の WTCNT がオーバーフローするとパワーオンリセット状態になります。

このとき、WDT によるリセット信号では WDT の WTSR は初期化されません。

また、 $\overline{\text{RES}}$ 端子からの入力信号によるリセットと WDT のオーバーフローによるリセットが同時に発生したときは $\overline{\text{RES}}$ 端子によるリセットが優先され、WTSR の WOVF ビットは 0 にクリアされます。WDT によりパワーオンリセット例外処理が開始されたときの CPU 動作は、 $\overline{\text{RES}}$ 端子によるパワーオンリセットのときと同様です。

7.3 アドレスエラー

7.3.1 アドレスエラー発生要因

アドレスエラーは、表 7.6 に示すように命令フェッチ、データ読み出し／書き込み時に発生します。

表 7.6 バスサイクルとアドレスエラー

バスサイクル		バスサイクルの内容	アドレスエラーの発生
種類	バスマスタ		
命令フェッチ	CPU	偶数アドレスから命令をフェッチ	なし（正常）
		奇数アドレスから命令をフェッチ	アドレスエラー発生
		内蔵 I/O レジスタ空間以外から命令をフェッチ	なし（正常）
		内蔵 I/O レジスタ空間から命令をフェッチ	アドレスエラー発生
		シングルチップモード時に外部メモリ空間から命令をフェッチ	アドレスエラー発生
データ読み出し ／書き込み	CPU または DMAC	ワードデータを偶数アドレスからアクセス	なし（正常）
		ワードデータを奇数アドレスからアクセス	アドレスエラー発生
		ロングワードデータをロングワード境界からアクセス	なし（正常）
		ロングワードデータをロングワード境界以外からアクセス	アドレスエラー発生
		ワードデータ、バイトデータを内蔵 I/O レジスタ空間 ^{*1} でアクセス	なし（正常）
		ロングワードデータを 16 ビットの内蔵 I/O レジスタ空間 ^{*1} でアクセス	なし（正常）
		ロングワードデータを 8 ビットの内蔵 I/O レジスタ空間 ^{*1} でアクセス	なし（正常）
シングルチップモード時に外部メモリ空間をアクセス	アドレスエラー発生		

【注】 *1 内蔵 I/O レジスタ空間については、「第 5 章 アドレス空間」を参照してください。

*2 内蔵 RAM 空間の最終アドレスから 10 バイト以内に命令を置いた場合、CPU が内蔵 I/O レジスタ空間にオーバランフェッチし、アドレスエラーが発生することがあります。

7.3.2 アドレスエラー例外処理

アドレスエラーが発生すると、アドレスエラーを起こしたバスサイクルが終了し*、実行中の命令が完了してからアドレスエラー例外処理が開始されます。このとき、CPU は次のように動作します。

1. 発生したアドレスエラーに対応する例外サービスルーチンの開始アドレスを、例外処理ベクタテーブルから取り出します。
2. ステータスレジスタ (SR) をスタックに退避します。
3. プログラムカウンタ (PC) をスタックに退避します。退避するPCの値は、最後に実行した命令の次命令の先頭アドレスです。
4. 例外処理ベクタテーブルから取り出した例外サービスルーチンの開始アドレスにジャンプして、プログラムの実行を開始します。このときのジャンプは遅延分岐ではありません。

【注】 * データ読み出し/書き込みによるアドレスエラーの場合です。命令フェッチによるアドレスエラーは、上記動作3のPCスタック退避終了までにアドレスエラーを起こしたバスサイクルが終了しない場合、当該バスサイクル終了まで、CPU はアドレスエラー例外処理を繰り返します。

7.4 レジスタバンクエラー

7.4.1 レジスタバンクエラー発生要因

(1) バンクオーバーフロー

割り込みコントローラにおいて、レジスタバンクオーバーフロー例外を受け付けるように設定（INTC の IBNR の BOVE ビット=1）されており、レジスタバンクを使用する割り込みが発生し、CPU に受け付けられたとき、レジスタバンクのすべての領域に退避がすでに行われていた場合

(2) バンクアンダフロー

レジスタバンクに退避が行われていないときに、RESBANK 命令を実行しようとした場合

7.4.2 レジスタバンクエラー例外処理

レジスタバンクエラーが発生すると、レジスタバンクエラー例外処理が発生します。このとき、CPU は次のように動作します。

1. 発生したレジスタバンクエラーに対応する例外サービスルーチンの開始アドレスを、例外処理ベクタテーブルから取り出します。
2. ステータスレジスタ（SR）をスタックに退避します。
3. プログラムカウンタ（PC）をスタックに退避します。退避するPCの値は、バンクオーバーフロー時は最後に実行した命令の次命令の先頭アドレス、アンダフロー時は実行したRESBANK命令の先頭アドレスです。
バンクオーバーフロー時は多重割り込みを防止するために、バンクオーバーフローの要因となった割り込みのレベルをステータスレジスタ（SR）の割り込みマスクレベルビット（I3～I0）に書き込みます。
4. 例外処理ベクタテーブルから取り出した例外サービスルーチンの開始アドレスにジャンプして、プログラムの実行を開始します。このときのジャンプは遅延分岐ではありません。

7.5 割り込み

7.5.1 割り込み要因

割り込み例外処理を起動させる要因には、表 7.7 に示すように NMI、ユーザブレイク、IRQ、SINT、内蔵周辺モジュールがあります。

表 7.7 割り込み要因

種類	要求元	要因数
NMI	NMI 端子 (外部からの入力)	1
ユーザブレイク	ユーザブレイクコントローラ (UBC)	1
IRQ	IRQ0~IRQ7 端子 (外部からの入力)	8
メモリエラー	RAM/ROM	2
SINT	ソフトウェア割り込み	15
内蔵周辺モジュール	ダイレクトメモリアクセスコントローラ (DMAC)	16
	コンペアマッチタイマ (CMT)	2
	ウォッチドッグタイマ (WDT)	1
	アドバンスドタイマユニット-III (ATU-III)	153
	A/D 変換器 (ADC)	26
	シリアルコミュニケーションインタフェース (SCI)	20
	ルネサスシリアルペリフェラルインタフェース (RSPI)	9
	コントローラエリアネットワーク (RCAN-TL1)	18
	専用ダイレクトメモリアクセスコントローラ (A-DMAC)	1

各割り込み要因には、それぞれ異なるベクタ番号とベクタテーブルオフセットが割り当てられています。ベクタ番号とベクタテーブルアドレスオフセットについては「第 8 章 割り込みコントローラ (INTC)」の表 8.4 を参照してください。

7.5.2 割り込み優先順位

割り込み要因には優先順位が設けられており、複数の割り込みが同時に発生した場合（多重割り込み）、割り込みコントローラ（INTC）によって優先順位が判定され、その判定結果に従って例外処理が起動されます。

割り込み要因の優先順位は、優先レベル 0～16 の値で表され、優先レベル 0 が最低で、優先レベル 16 が最高です。NMI 割り込みは、優先レベル 16 のマスクできない最優先の割り込みで、常に受け付けられます。ユーザブ레이크割り込みおよびメモリエラー割り込みの優先レベルは 15 です。ソフトウェア割り込み（SINT）は、SINT15 は優先レベル 15、SINT14 は優先レベル 14 というように、SINT15～1 の要因ごとに優先レベルは 15～1 に固定されています。IRQ 割り込み、内蔵周辺モジュール割り込みの優先レベルは、INTC の割り込み優先レベル設定レジスタ 01～29（IPR01～29）で自由に設定することができます（表 7.8）。設定できる優先レベルは 0～15 で、優先レベル 16 は設定できません。IPR01～IPR29 については「8.3.1 割り込み優先レベル設定レジスタ 01～29（IPR01～IPR29）」を参照してください。

表 7.8 割り込み優先順位

種類	優先レベル	備考
NMI	16	優先レベル固定、マスク不可能
ユーザブ레이크	15	優先レベル固定
IRQ	0～15	割り込み優先レベル設定レジスタ（IPR）により設定
メモリエラー	15	優先レベル固定
SINT15～1	15～1	優先レベル固定
内蔵周辺モジュール	0～15	割り込み優先レベル設定レジスタ（IPR）により設定

7.5.3 割り込み例外処理

割り込みが発生すると、割り込みコントローラ (INTC) によって優先順位が判定されます。NMI は常に受け付けられますが、それ以外の割り込みは、その優先レベルがステータスレジスタ (SR) の割り込みマスクレベルビット (I3~I0) に設定されている優先レベルより高い場合だけ受け付けられます。

割り込みが受け付けられると割り込み例外処理が開始されます。割り込み例外処理では、CPU は受け付けた割り込みに対応する例外サービスルーチン開始アドレスを例外処理ベクタテーブルから取り出し、SR とプログラムカウンタ (PC) をスタックに退避します。NMI、ユーザブレイク以外の割り込み例外処理で、レジスタバンクを使用する設定が行われている場合には、汎用レジスタ R0~R14、コントロールレジスタ GBR、システムレジスタ MACH、MACL、PR および実行される例外処理のベクタテーブルアドレスオフセットをレジスタバンクに退避します。アドレスエラー、NMI 割り込み、ユーザブレイク割り込み、命令による例外処理の場合、レジスタバンクへの退避は行われません。また、レジスタバンクのすべてのバンク (0~14) に退避が行われていた場合には、レジスタバンクの代わりにスタックへの自動退避が行われます。この場合、割り込みコントローラにおいて、レジスタバンクオーバーフロー例外を受け付けないように設定 (INTC の IBNR の BOVE ビット=0) されている必要があります。レジスタバンクオーバーフロー例外を受け付けるように設定 (INTC の IBNR の BOVE ビット=1) されている場合には、レジスタバンクオーバーフロー例外が発生します。次に、受け付けた割り込みの優先レベル値を SR の I3~I0 ビットに書き込みます。ただし、NMI の場合の優先レベルは 16 ですが、I3~I0 ビットに設定される値は HF (レベル 15) です。その後、例外処理ベクタテーブルから取り出した開始アドレスにジャンプして、プログラムの実行を開始します。このときのジャンプは遅延分岐ではありません。割り込み例外処理の詳細については「8.6 動作説明」を参照してください。

7.6 命令による例外

7.6.1 命令による例外の種類

例外処理を起動する命令には、表 7.9 に示すように、トラップ命令、スロット不当命令、一般不当命令、整数除算例外、FPU 例外があります。

表 7.9 命令による例外の種類

種類	要因となる命令	備考
トラップ命令	TRAPA	
スロット不当命令	遅延分岐命令直後（遅延スロット）に配置された未定義コード（FPU モジュールスタンバイ時における FPU 命令および FPU に関する CPU 命令を含む）、PC を書き換える命令、32 ビット命令、RESBANK 命令、DIVS 命令または DIVU 命令	遅延分岐命令：JMP、JSR、BRA、BSR、RTS、RTE、BF/S、BT/S、BSRF、BRA PC を書き換える命令：JMP、JSR、BRA、BSR、RTS、RTE、BT、BF、TRAPA、BF/S、BT/S、BSRF、BRA、JSR/N、RTV/N 32 ビット命令：BAND.B、BANDNOT.B、BCLR.B、BLD.B、BLDNOT.B、BOR.B、BORNOT.B、BSET.B、BST.B、BXOR.B、FMOV.S@disp12、FMOV.D@disp12、MOV.B@disp12、MOV.W@disp12、MOV.L@disp12、MOVI20、MOVI20S、MOVU.B、MOVU.W
一般不当命令	遅延スロット以外にある未定義コード（FPU モジュールスタンバイ時における FPU 命令および FPU に関する CPU 命令を含む）	
整数除算例外	ゼロ除算	DIVU、DIVS
	負の最大値 ÷ (-1)	DIVS
FPU 例外	IEEE754 規格で定義された無効演算例外またはゼロによる除算例外を引き起こす命令、オーバフロー、アンダフロー、および不正確例外を引き起こす可能性のある命令	FADD、FSUB、FMUL、FDIV、FMAC、FCMP/EQ、FCMP/GT、FNEG、FABS、FLOAT、FTRC、FCNVDS、FCNVSD、FSQRT

7.6.2 トラップ命令

TRAPA 命令を実行すると、トラップ命令例外処理が開始されます。このとき、CPU は次のように動作します。

1. TRAPA 命令で指定したベクタ番号に対応する例外サービスルーチンの開始アドレスを、例外処理ベクタテーブルから取り出します。
2. ステータスレジスタ (SR) をスタックに退避します。
3. プログラムカウンタ (PC) をスタックに退避します。退避する PC の値は、TRAPA 命令の次命令の先頭アドレスです。
4. 例外処理ベクタテーブルから取り出した例外サービスルーチンの開始アドレスにジャンプして、プログラムの実行を開始します。このときのジャンプは遅延分岐ではありません。

7.6.3 スロット不当命令

遅延分岐命令の直後に配置された命令のことを「遅延スロットに配置された命令」と呼びます。遅延スロットに配置された命令が未定義コード（FPU モジュールスタンバイ時における FPU 命令および FPU に関する CPU 命令を含む）、PC を書き換える命令、32 ビット命令、RESBANK 命令、DIVS 命令、または DIVU 命令のとき、これらの命令がデコードされるとスロット不当命令例外処理が開始されます。スロット不当命令例外処理のとき、CPU は次のように動作します。

1. 例外サービスルーチンの開始アドレスを例外処理ベクタテーブルから取り出します。
2. ステータスレジスタ（SR）をスタックに退避します。
3. プログラムカウンタ（PC）をスタックに退避します。退避するPCの値は、未定義コード（FPUモジュールスタンバイ時におけるFPU命令およびFPUに関するCPU命令を含む）、PCを書き換える命令、32ビット命令、RESBANK命令、DIVS命令、またはDIVU命令の直前にある遅延分岐命令の飛び先アドレスです。
4. 例外処理ベクタテーブルから取り出した例外サービスルーチンの開始アドレスにジャンプして、プログラムの実行を開始します。このときのジャンプは遅延分岐ではありません。

7.6.4 一般不当命令

遅延分岐命令の直後（遅延スロット）以外に配置された未定義コード（FPU モジュールスタンバイ時における FPU 命令および FPU に関する CPU 命令を含む）をデコードすると、一般不当命令例外処理が開始されます。このとき、CPU はスロット不当命令例外処理と同じ手順で動作します。ただし、退避する PC の値は、スロット不当命令例外処理と異なり、この未定義コードの先頭アドレスになります。

7.6.5 整数除算例外

整数除算命令がゼロによる除算を実行した場合、または整数除算の結果がオーバーフローしたとき、整数除算例外が発生します。ゼロによる除算例外の要因となる命令は DIVU と DIVS です。オーバーフロー例外の要因となる命令は DIVS のみで、負の最大値を -1 で除算する場合にのみ発生します。整数除算例外が発生すると CPU は次のように動作します。

1. 発生した整数除算命令例外に対応する例外サービスルーチンの開始アドレスを、例外処理ベクタテーブルから取り出します。
2. ステータスレジスタ（SR）をスタックに退避します。
3. プログラムカウンタ（PC）をスタックに退避します。退避するPCの値は、例外が発生した整数除算命令の先頭アドレスです。
4. 例外処理ベクタテーブルから取り出した例外サービスルーチンの開始アドレスにジャンプして、プログラムの実行を開始します。このときのジャンプは遅延分岐ではありません。

7.6.6 FPU 例外

浮動小数点ステータス/コントロールレジスタ (FPSCR) の FPU 例外イネーブルフィールド (Enable) 中の V、Z、O、U、または I ビットがセットされているとき、FPU 例外処理が発生します。これは浮動小数点演算命令が IEEE754 規格で定義された無効演算例外、ゼロによる除算例外、オーバフロー（可能性のある命令）、アンダフロー（可能性のある命令）、および不正確例外（可能性のある命令）を引き起こしたことを示します。

FPU 例外処理の発生要因となる浮動小数点演算命令には以下の命令があります。

FADD、FSUB、FMUL、FDIV、FMAC、FCMP/EQ、FCMP/GT、FLOAT、FTRC、FCNVDS、FCNVSD、FSQRT

該当する FPU 例外イネーブルビット (Enable) がセットされているときのみ、FPU 例外が発生します。FPU が浮動小数点演算による例外要因を検出すると、FPU の動作は中断されて CPU に FPU 例外処理の発生を通知します。CPU は例外処理を開始すると次のように動作します。

1. 発生した FPU 例外処理に対応する例外サービスルーチンの開始アドレスを、例外処理ベクタテーブルから取り出します。
2. ステータスレジスタ (SR) をスタックに退避します。
3. プログラムカウンタ (PC) をスタックに退避します。退避する PC の値は最後に実行した命令の次の命令の先頭アドレスです。
4. 例外処理ベクタテーブルから取り出した例外サービスルーチンの開始アドレスにジャンプして、プログラムの実行を開始します。このときのジャンプは遅延分岐ではありません。

FPSCR の FPU 例外フラグフィールド (Flag) は、FPU 例外処理が受け付けられたか否かにかかわらず常に更新され、ユーザが明示的に命令でクリアするまでセットされたままです。FPSCR の FPU 例外要因フィールド (Cause) は浮動小数点演算命令が実行されるごとに変化します。

また、FPSCR の FPU 例外イネーブルフィールド (Enable) 中の V ビットがセットされ、かつ FPSCR の QIS ビットがセットされているとき、qNaN または $\pm\infty$ を浮動小数点演算命令のソースに入力すると FPU 例外処理が発生します。

7.7 例外処理が受け付けられない場合

アドレスエラー、FPU 例外、レジスタバンクエラー（オーバフロー）および割り込みは、表 7.10 に示すように、遅延分岐命令の直後に発生すると、すぐに受け付けられず保留される場合があります。この場合、例外を受け付けられる命令がデコードされたときに受け付けられます。

表 7.10 遅延分岐命令の直後の例外要因発生

発生した時点	例外要因			
	アドレスエラー	FPU 例外	レジスタバンクエラー (オーバフロー)	割り込み
遅延分岐命令*の直後	×	×	×	×

【記号説明】 ×：受け付けられない

【注】 * 遅延分岐命令：JMP、JSR、BRA、BSR、RTS、RTE、BF/S、BT/S、BSRF、BRA

7.8 例外処理後のスタックの状態

例外処理終了後のスタックの状態は、表 7.11 に示すようになります。

表 7.11 例外処理終了後のスタックの状態

種類	スタックの状態	種類	スタックの状態
アドレス エラー		レジスタ バンク エラー (オーバ フロー)	
レジスタ バンク エラー (アンダ フロー)		FPU 例外	
トラップ 命令		スロット 不当命令	
一般不当 命令		整数除算 命令	
割り込み			

7.9 使用上の注意事項

7.9.1 スタックポインタ (SP) の値

SP の値は必ず 4 の倍数になるようにしてください。SP が 4 の倍数以外るとき、例外処理でスタックがアクセスされるとアドレスエラーが発生します。

7.9.2 ベクタベースレジスタ (VBR) の値

VBR の値は必ず 4 の倍数になるようにしてください。VBR が 4 の倍数以外るとき、例外処理でスタックがアクセスされるとアドレスエラーが発生します。

7.9.3 アドレスエラー例外処理のスタッキングで発生するアドレスエラー

SP が 4 の倍数になっていないと、例外処理 (割り込みなど) のスタッキングでアドレスエラーが発生し、その例外処理終了後、アドレスエラー例外処理に移ります。アドレスエラー例外処理でのスタッキングでもアドレスエラーが発生しますが、無限にアドレスエラー例外処理によるスタッキングが続かないように、そのときのアドレスエラーは受け付けなくなっています。これにより、プログラムの制御をアドレスエラー例外サービスルーチンに移すことができ、エラー処理を行うことができます。

なお、例外処理のスタッキングでアドレスエラーが発生した場合、スタッキングのバスサイクル (ライト) は実行されます。SR と PC のスタッキングでは、SP がそれぞれ-4 されるので、スタッキング終了後も SP の値は 4 の倍数になっていません。また、スタッキング時に出力されるアドレスの値は SP の値で、エラーの発生したアドレスそのものが出力されます。このとき、スタッキングされたライトデータは不定です。

8. 割り込みコントローラ（INTC）

割り込みコントローラ（INTC）は、割り込み要因の優先順位を判定し、CPU への割り込み要求を制御します。INTC には、各割り込みの優先順位を設定するためのレジスタがあり、ユーザがこのレジスタに設定した優先順位に従って、割り込み要求が処理されます。

8.1 特長

- 割り込み優先順位を16レベル設定可能

29本の割り込み優先レベル設定レジスタにより、IRQ割り込み、および内蔵周辺モジュール割り込みの優先順位を要求元別に16レベルまで設定することができます。

- NMIノイズキャンセラ機能

NMI端子の状態を示すNMI入力レベルビットを持っています。割り込み例外サービスルーチンでこのビットを読むことにより端子状態を確認でき、ノイズキャンセラ機能として使用できます。

- レジスタバンク

本LSIでは、レジスタバンクを内蔵しており、割り込み処理に伴うレジスタの退避、復帰を高速に行うことができます。

- ソフトウェア割り込み（SINT）

ソフトウェア割り込みレジスタにより、任意の優先順位の割り込みをプログラムから発生させることができます。

図 8.1 に INTC のブロック図を示します。

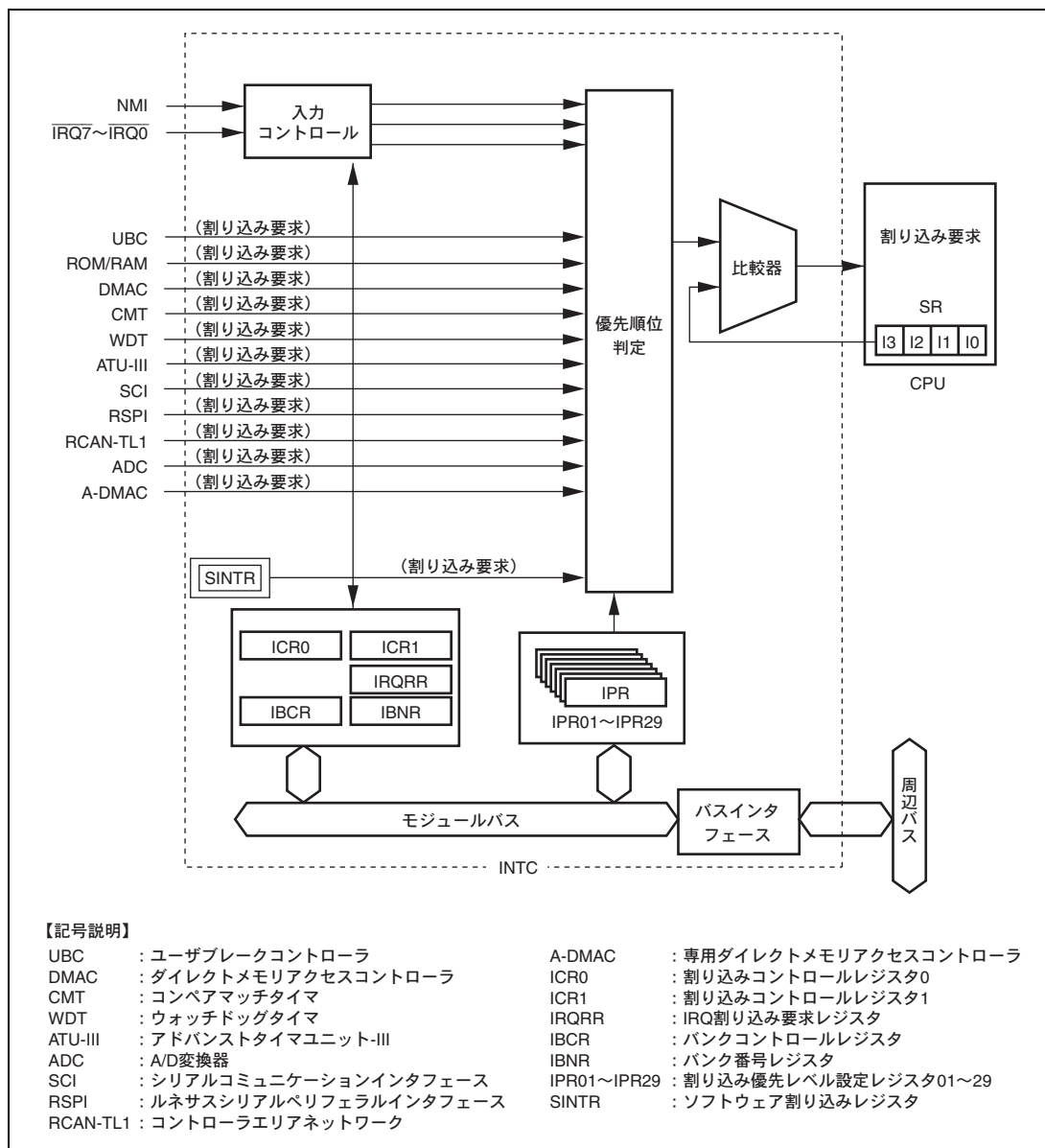


図 8.1 INTC のブロック図

8.2 入出力端子

INTC の端子を表 8.1 に示します。

表 8.1 端子構成

名称	端子名	入出力	機能
ノンマスクブル割り込み入力端子	NMI	入力	マスク不可能な割り込み要求信号を入力
割り込み要求入力端子	$\overline{\text{IRQ7}} \sim \overline{\text{IRQ0}}$	入力	マスク可能な割り込み要求信号を入力

8.3 レジスタの説明

INTC には以下のレジスタがあります。これらのレジスタにより、割り込み優先順位の設定や、外部割り込み入力信号の検出制御などを行います。

表 8.2 レジスタ構成

レジスタ名	略称	R/W	初期値	アドレス	アクセス サイズ
割り込みコントロールレジスタ 0	ICR0	R/W	* ¹	H'FFFE0800	16、32
割り込みコントロールレジスタ 1	ICR1	R/W	H'0000	H'FFFE0802	16、32
IRQ 割り込み要求レジスタ	IRQRR	R/(W)* ²	H'0000	H'FFFE0806	8、16、32
バンクコントロールレジスタ	IBCR	R/W	H'0000	H'FFFE080C	16、32
バンク番号レジスタ	IBNR	R/W	H'0000	H'FFFE080E	16、32
ソフトウェア割り込みレジスタ1	SINTR1	R/W	H'00	H'FFFE0810	8、16、32
ソフトウェア割り込みレジスタ2	SINTR2	R/W	H'00	H'FFFE0811	8、16、32
ソフトウェア割り込みレジスタ3	SINTR3	R/W	H'00	H'FFFE0812	8、16、32
ソフトウェア割り込みレジスタ4	SINTR4	R/W	H'00	H'FFFE0813	8、16、32
ソフトウェア割り込みレジスタ5	SINTR5	R/W	H'00	H'FFFE0814	8、16、32
ソフトウェア割り込みレジスタ6	SINTR6	R/W	H'00	H'FFFE0815	8、16、32
ソフトウェア割り込みレジスタ7	SINTR7	R/W	H'00	H'FFFE0816	8、16、32
ソフトウェア割り込みレジスタ8	SINTR8	R/W	H'00	H'FFFE0817	8、16、32
割り込み優先レベル設定レジスタ 01	IPR01	R/W	H'0000	H'FFFE0818	16、32
割り込み優先レベル設定レジスタ 02	IPR02	R/W	H'0000	H'FFFE081A	16、32
ソフトウェア割り込みレジスタ 9	SINTR9	R/W	H'00	H'FFFE0828	8、16、32
ソフトウェア割り込みレジスタ 10	SINTR10	R/W	H'00	H'FFFE0829	8、16、32
ソフトウェア割り込みレジスタ 11	SINTR11	R/W	H'00	H'FFFE082A	8、16、32
ソフトウェア割り込みレジスタ 12	SINTR12	R/W	H'00	H'FFFE082B	8、16、32
ソフトウェア割り込みレジスタ 13	SINTR13	R/W	H'00	H'FFFE082C	8、16、32
ソフトウェア割り込みレジスタ 14	SINTR14	R/W	H'00	H'FFFE082D	8、16、32
ソフトウェア割り込みレジスタ 15	SINTR15	R/W	H'00	H'FFFE082E	8、16、32
割り込み優先レベル設定レジスタ 03	IPR03	R/W	H'0000	H'FFFE0C00	16、32
割り込み優先レベル設定レジスタ 04	IPR04	R/W	H'0000	H'FFFE0C02	16、32
割り込み優先レベル設定レジスタ 05	IPR05	R/W	H'0000	H'FFFE0C04	16、32
割り込み優先レベル設定レジスタ 06	IPR06	R/W	H'0000	H'FFFE0C06	16、32
割り込み優先レベル設定レジスタ 07	IPR07	R/W	H'0000	H'FFFE0C08	16、32
割り込み優先レベル設定レジスタ 08	IPR08	R/W	H'0000	H'FFFE0C0A	16、32
割り込み優先レベル設定レジスタ 09	IPR09	R/W	H'0000	H'FFFE0C0C	16、32
割り込み優先レベル設定レジスタ 10	IPR10	R/W	H'0000	H'FFFE0C0E	16、32

レジスタ名	略称	R/W	初期値	アドレス	アクセス サイズ
割り込み優先レベル設定レジスタ 11	IPR11	R/W	H'0000	H'FFFE0C10	16、32
割り込み優先レベル設定レジスタ 12	IPR12	R/W	H'0000	H'FFFE0C12	16、32
割り込み優先レベル設定レジスタ 13	IPR13	R/W	H'0000	H'FFFE0C14	16、32
割り込み優先レベル設定レジスタ 14	IPR14	R/W	H'0000	H'FFFE0C16	16、32
割り込み優先レベル設定レジスタ 15	IPR15	R/W	H'0000	H'FFFE0C18	16、32
割り込み優先レベル設定レジスタ 16	IPR16	R/W	H'0000	H'FFFE0C1A	16、32
割り込み優先レベル設定レジスタ 17	IPR17	R/W	H'0000	H'FFFE0C1C	16、32
割り込み優先レベル設定レジスタ 18	IPR18	R/W	H'0000	H'FFFE0C1E	16、32
割り込み優先レベル設定レジスタ 19	IPR19	R/W	H'0000	H'FFFE0C20	16、32
割り込み優先レベル設定レジスタ 20	IPR20	R/W	H'0000	H'FFFE0C22	16、32
割り込み優先レベル設定レジスタ 21	IPR21	R/W	H'0000	H'FFFE0C24	16、32
割り込み優先レベル設定レジスタ 22	IPR22	R/W	H'0000	H'FFFE0C26	16、32
割り込み優先レベル設定レジスタ 23	IPR23	R/W	H'0000	H'FFFE0C28	16、32
割り込み優先レベル設定レジスタ 24	IPR24	R/W	H'0000	H'FFFE0C2A	16、32
割り込み優先レベル設定レジスタ 25	IPR25	R/W	H'0000	H'FFFE0C2C	16、32
割り込み優先レベル設定レジスタ 26	IPR26	R/W	H'0000	H'FFFE0C2E	16、32
割り込み優先レベル設定レジスタ 27	IPR27	R/W	H'0000	H'FFFE0C30	16、32
割り込み優先レベル設定レジスタ 28	IPR28	R/W	H'0000	H'FFFE0C32	16、32
割り込み優先レベル設定レジスタ 29	IPR29	R/W	H'0000	H'FFFE0C34	16、32

【注】 *1 NMI 端子がハイレベルのとき：H'8000、ローレベルのとき：H'0000 です。

*2 フラグをクリアするため、1を読み出した後に0を書き込むことのみ可能です。

8.3.1 割り込み優先レベル設定レジスタ 01~29 (IPR01~IPR29)

IPR01~IPR29は、それぞれ読み出し/書き込み可能な16ビットのレジスタで、IRQ割り込みおよび内蔵周辺モジュール割り込みの優先順位(レベル0~15)を設定します。割り込み要求元とIPR01~IPR29の各ビットの対応を表8.3に示します。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

表 8.3 割り込み要求元と IPR01~IPR29

レジスタ名	ビット			
	15~12	11~8	7~4	3~0
割り込み優先レベル設定レジスタ 01	IRQ0	IRQ1	IRQ2	IRQ3
割り込み優先レベル設定レジスタ 02	IRQ4	IRQ5	IRQ6	IRQ7
割り込み優先レベル設定レジスタ 03	DMAC0	DMAC1	DMAC2	DMAC3
割り込み優先レベル設定レジスタ 04	DMAC4	DMAC5	DMAC6	DMAC7
割り込み優先レベル設定レジスタ 05	CMT0	CMT1	予約	WDT
割り込み優先レベル設定レジスタ 06	ATU-A (ICIA0、ICIA1)	ATU-A (ICIA2、ICIA3)	ATU-A (ICIA4、ICIA5)	ATU-A (OVIA)
割り込み優先レベル設定レジスタ 07	ATU-B (CMIB0、CMIB1)	ATU-B (CMIB6、ICIB0)	ATU-C0 (IMIC00~ IMIC03)	ATU-C0 (OVIC0)
割り込み優先レベル設定レジスタ 08	ATU-C1 (IMIC10~ IMIC13)	ATU-C1 (OVIC1)	ATU-C2 (IMIC20~ IMIC23)	ATU-C2 (OVIC2)
割り込み優先レベル設定レジスタ 09	ATU-C3 (IMIC30~ IMIC33)	ATU-C3 (OVIC3)	ATU-C4 (IMIC40~ IMIC43)	ATU-C4 (OVIC4)
割り込み優先レベル設定レジスタ 10	ATU-D0 (CMID00~ CMID03)	ATU-D0 (OVI1D0、 OVI2D0)	ATU-D0 (UDID00~ UDID03)	ATU-D1 (CMID10~ CMID13)
割り込み優先レベル設定レジスタ 11	ATU-D1 (OVI1D1、 OVI2D1)	ATU-D1 (UDID10~ UDID13)	ATU-D2 (CMID20~ CMID23)	ATU-D2 (OVI1D2、 OVI2D2)
割り込み優先レベル設定レジスタ 12	ATU-D2 (UDID20~ UDID23)	ATU-D3 (CMID30~ CMID33)	ATU-D3 (OVI1D3、 OVI2D3)	ATU-D3 (UDID30~ UDID33)
割り込み優先レベル設定レジスタ 13	予約	予約	予約	予約
割り込み優先レベル設定レジスタ 14	予約	予約	ATU-E0 (CMIE00~ CMIE03)	ATU-E1 (CMIE10~ CMIE13)

レジスタ名	ビット			
	15~12	11~8	7~4	3~0
割り込み優先レベル設定レジスタ 15	ATU-E2 (CMIE20~ CMIE23)	ATU-E3 (CMIE30~ CMIE33)	ATU-E4 (CMIE40~ CMIE43)	ATU-E5 (CMIE50~ CMIE53)
割り込み優先レベル設定レジスタ 16	ATU-F (ICIF0~ICIF3)	ATU-F (ICIF4~ICIF7)	ATU-F (ICIF8~ICIF11)	ATU-F (ICIF12~ICIF15)
割り込み優先レベル設定レジスタ 17	ATU-F (ICIF16~ICIF19)	予約	予約	予約
割り込み優先レベル設定レジスタ 18	ATU-F (OVIF0~OVIF3)	ATU-F (OVIF4~OVIF7)	ATU-F (OVIF8~ OVIF11)	ATUF (OVIF12~ OVIF15)
割り込み優先レベル設定レジスタ 19	ATU-F (OVIF16~ OVIF19)	予約	予約	予約
割り込み優先レベル設定レジスタ 20	ATU-G (CMIG0~ CMIG3)	ATU-G (CMIG4, CMIG5)	ATU-H (CMIH)	予約
割り込み優先レベル設定レジスタ 21	ATU-J (DFIJ0, DFIJ1)	ATU-J (OVIJ0, OVIJ1)	ATU-J (DOVIJ0, DOVIJ1)	予約
割り込み優先レベル設定レジスタ 22	ADC (ADI0)	ADC (ADI1)	ADC (ADID0~ADID3)	ADC (ADID4~ADID7)
割り込み優先レベル設定レジスタ 23	ADC (ADID8~ ADID11)	ADC (ADID12~ ADID15)	ADC (ADID40)	ADC (ADID41)
割り込み優先レベル設定レジスタ 24	ADC (ADID42)	ADC (ADID43)	ADC (ADID44)	ADC (ADID45)
割り込み優先レベル設定レジスタ 25	ADC (ADID46)	ADC (ADID47)	予約	予約
割り込み優先レベル設定レジスタ 26	SCI_A	SCI_B	SCI_C	SCI_D
割り込み優先レベル設定レジスタ 27	SCI_E	RSPI_A	RSPI_B	RSPI_C
割り込み優先レベル設定レジスタ 28	RCAN_A	RCAN_B	RCAN_C	予約
割り込み優先レベル設定レジスタ 29	A-DMAC	予約	予約	予約

表 8.3 に示すように、ビット 15~12、ビット 11~8、ビット 7~4、ビット 3~0 の各 4 ビットに H'0 (0000) から H'F (1111) の範囲の値をセットすることによって、それぞれに対応する割り込みの優先順位が設定されます。割り込み優先順位は、H'0 をセットすると優先レベル 0 (最低) に、H'F をセットすると優先レベル 15 (最高) になります。

IPR01~IPR29 は、パワーオンリセットで H'0000 に初期化されます。

8.3.2 割り込みコントロールレジスタ 0 (ICR0)

ICR0 は、16 ビットのレジスタで、外部割り込み入力端子 NMI の入力信号検出モードを設定し、NMI 端子への入力レベルを示します。ICR0 はパワーオンリセットで初期化されます。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	NMIL	—	—	—	—	—	—	NMIE	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値:	*	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R	R	R	R	R	R/W	R	R	R	R	R	R	R	R

【注】* NMI端子がハイレベルのとき1、ローレベルのとき0です。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15	NMIL	*	R	NMI 入力レベル NMI 端子に入力されている信号のレベルが設定されます。本ビットを読むことによって、NMI 端子のレベルを知ることができます。書き込みは無効です。 0 : NMI 端子にローレベルが入力されている。 1 : NMI 端子にハイレベルが入力されている。
14~9	—	すべて0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。
8	NMIE	0	R/W	NMI エッジセレクト NMI 入力の立ち下がりまたは立ち上がりのどちらで割り込み要求信号を検出するかを選択します。 0 : NMI 入力の立ち下がりエッジで割り込み要求を検出。 1 : NMI 入力の立ち上がりエッジで割り込み要求を検出。
7~0	—	すべて0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。

8.3.3 割り込みコントロールレジスタ 1 (ICR1)

ICR1 は、外部割り込み入力端子 $\overline{\text{IRQ7}}\sim\overline{\text{IRQ0}}$ に対してローレベル、立ち下がりエッジ、立ち上がりエッジ、両エッジの検出モードを個別に指定する 16 ビットのレジスタです。ICR1 はパワーオンリセットで初期化されます。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	IRQ71S	IRQ70S	IRQ61S	IRQ60S	IRQ51S	IRQ50S	IRQ41S	IRQ40S	IRQ31S	IRQ30S	IRQ21S	IRQ20S	IRQ11S	IRQ10S	IRQ01S	IRQ00S
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15	IRQ71S	0	R/W	IRQ センスセレクト
14	IRQ70S	0	R/W	$\overline{\text{IRQ7}}\sim\overline{\text{IRQ0}}$ 端子に対する割り込み信号をローレベル、立ち下がりエッジ、立ち上がりエッジ、両エッジのどれで検出するかを選択します。 00: 割り込み要求を $\overline{\text{IRQn}}$ 入力のローレベルで検出する。 01: 割り込み要求を $\overline{\text{IRQn}}$ 入力の立ち下がりエッジで検出する。 10: 割り込み要求を $\overline{\text{IRQn}}$ 入力の立ち上がりエッジで検出する。 11: 割り込み要求を $\overline{\text{IRQn}}$ 入力の両エッジで検出する。
13	IRQ61S	0	R/W	
12	IRQ60S	0	R/W	
11	IRQ51S	0	R/W	
10	IRQ50S	0	R/W	
9	IRQ41S	0	R/W	
8	IRQ40S	0	R/W	
7	IRQ31S	0	R/W	
6	IRQ30S	0	R/W	
5	IRQ21S	0	R/W	
4	IRQ20S	0	R/W	
3	IRQ11S	0	R/W	
2	IRQ10S	0	R/W	
1	IRQ01S	0	R/W	
0	IRQ00S	0	R/W	

【記号説明】 n=7~0

8.3.4 IRQ 割り込み要求レジスタ (IRQRR)

IRQRR は、16 ビットのレジスタで、外部割り込み入力端子 $\overline{\text{IRQ7}} \sim \overline{\text{IRQ0}}$ の割り込み要求を示します。IRQ7~IRQ0 割り込みをエッジ検出に設定している場合、IRQ7F~IRQ0F=1 をリード後、IRQ7F~IRQ0F に 0 をライトすることにより、保持されている割り込み要求を取り下げることができます。

IRQRR はパワーオンリセットで初期化されます。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	IRQ7F	IRQ6F	IRQ5F	IRQ4F	IRQ3F	IRQ2F	IRQ1F	IRQ0F
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R	R	R	R	R	R	R/(W)*	R/(W)*	R/(W)*	R/(W)*	R/(W)*	R/(W)*	R/(W)*	R/(W)*

【注】 * フラグをクリアするため、1を読み出した後に0を書き込むことのみ可能です。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~8	—	すべて0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。
7	IRQ7F	0	R/(W)*	IRQ 割り込み要求 IRQ7~IRQ0 割り込み要求のステータスを表示します。 レベル検出時 0: IRQn 割り込み要求が存在しません。 [クリア条件] • $\overline{\text{IRQn}}$ 入力がハイレベルのとき 1: IRQn 割り込み要求が存在します。 [セット条件] • $\overline{\text{IRQn}}$ 入力がローレベルのとき エッジ検出時 0: IRQn 割り込み要求が検出されていません。 [クリア条件] • IRQnF=1 の状態をリード後に0をライトしたとき • IRQn 割り込み例外処理を実行したとき 1: IRQn 割り込み要求が検出されています。 [セット条件] • $\overline{\text{IRQn}}$ 端子に ICR1 の IRQn1S、IRQn0S に対応するエッジが発生したとき
6	IRQ6F	0	R/(W)*	
5	IRQ5F	0	R/(W)*	
4	IRQ4F	0	R/(W)*	
3	IRQ3F	0	R/(W)*	
2	IRQ2F	0	R/(W)*	
1	IRQ1F	0	R/(W)*	
0	IRQ0F	0	R/(W)*	

【記号説明】 n=7~0

8.3.5 バンクコントロールレジスタ (IBCR)

IBCR は、割り込み優先レベルに対してレジスタバンク使用の許可/禁止を設定することができます。IBCR はパワーオンリセットで H'0000 に初期化されます。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	E15	E14	E13	E12	E11	E10	E9	E8	E7	E6	E5	E4	E3	E2	E1	—
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15	E15	0	R/W	イネーブル 割り込み優先レベル 15~1 に対してレジスタバンク使用の許可/禁止を設定します。ただし、ユーザブレイク割り込みは常にレジスタバンク使用禁止です。 0 : レジスタバンクの使用を禁止します。 1 : レジスタバンクの使用を許可します。
14	E14	0	R/W	
13	E13	0	R/W	
12	E12	0	R/W	
11	E11	0	R/W	
10	E10	0	R/W	
9	E9	0	R/W	
8	E8	0	R/W	
7	E7	0	R/W	
6	E6	0	R/W	
5	E5	0	R/W	
4	E4	0	R/W	
3	E3	0	R/W	
2	E2	0	R/W	
1	E1	0	R/W	
0	—	0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。

8.3.6 バンク番号レジスタ (IBNR)

IBNR は、レジスタバンク使用の許可/禁止、およびレジスタバンクオーバフロー例外の許可/禁止を設定します。また、BN3~BN0 により次に退避されるバンク番号を示します。

IBNR はパワーオンリセットで H'0000 に初期化されます。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	BE[1:0]		BOVE	—	—	—	—	—	—	—	—	—	BN[3:0]			
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15, 14	BE[1:0]	00	R/W	レジスタバンクイネーブル レジスタバンク使用の許可/禁止を設定します。 00: すべての割り込みでバンクの使用を禁止します。IBCR の設定は無視します。 01: NMI、ユーザブレイク以外のすべての割り込みでバンクの使用を許可します。IBCR の設定は無視されます。 10: 予約 (設定禁止) 11: レジスタバンクの使用は、IBCR の設定に従います。
13	BOVE	0	R/W	レジスタバンクオーバフローイネーブル レジスタバンクオーバフロー例外の許可/禁止を設定します。 0: レジスタバンクオーバフロー例外の発生を禁止します。 1: レジスタバンクオーバフロー例外の発生を許可します。
12~4	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
3~0	BN[3:0]	0000	R	バンク番号 次に退避されるバンク番号を示します。レジスタバンクを使用した割り込みが受け付けられたとき、BN3~BN0 が示すレジスタバンクに退避を行い、BN を +1 します。レジスタバンク復帰命令の実行により、BN を -1 した後、レジスタバンクから復帰を行います。

8.3.7 ソフトウェア割り込みレジスタ 1~15 (SINTR1~SINTR15)

SINTR1~SINTR15は、ソフトウェア割り込み 1~15 (SINT1~SINT15) を制御する 8 ビットのレジスタです。本レジスタに H'01 をライトすることでソフトウェア割り込み 1~15 (SINT1~SINT15) が発生します。発生した割り込みハンドラ中に H'00 をライトすると、割り込み要因をクリアできます。リードした場合、現在のレジスタ値が読み出されます。

SINTR1~SINTR15は、パワーオンリセットにより H'00 に初期化されます。

ビット:	7	6	5	4	3	2	1	0
	-	-	-	-	-	-	-	SINTC
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R	R	R	R	R	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7~1	-	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
0	SINTC	0	R/W	ソフトウェア割り込み要求 ソフトウェア割り込み 1~15 (SINT1~SINT15) を発生します。 [リード動作] 現在のビットの値が読み出されます。 [ライト動作] 1 をライト : 割り込みを発生します。 SINTC ビットが 1 の状態のときに 1 を書き込むことは禁止です。 0 をライト : 割り込み要因をクリアします。

8.4 割り込み要因

割り込み要因は、NMI、ユーザブ레이크、IRQ、メモリエラー、ソフトウェア割り込み (SINT)、内蔵周辺モジュールの6つに分類されます。各割り込みの優先順位は割り込み優先レベル値 (0~16) で表され、レベル0が最低でレベル16が最高です。レベル0に設定すると、その割り込みは常にマスクされます。

8.4.1 NMI 割り込み

NMI 割り込みは、レベル16の割り込みで、常に受け付けられます。NMI 端子からの入力はエッジで検出され、検出エッジは、割り込みコントロールレジスタ0 (ICR0) のNMIエッジセレクトビット (NMIE) の設定によって立ち上がりエッジまたは立ち下がりエッジを選択できます。

NMI 割り込み例外処理によって、NMI 割り込みの優先レベルは16ですがステータスレジスタ (SR) の割り込みマスクレベルビット (I3~I0) は15に設定されます。

8.4.2 ユーザブ레이크割り込み

ユーザブ레이크割り込みは、ユーザブ레이크コントローラ (UBC) で設定したブ레이크条件が成立したときに発生する割り込みで、優先レベルは15です。ユーザブ레이크割り込み例外処理によって、SRのI3~I0ビットは15に設定されます。ユーザブ레이크については、「第9章 ユーザブ레이크コントローラ (UBC)」を参照してください。

8.4.3 IRQ 割り込み

IRQ 割り込みは $\overline{\text{IRQ7}}\sim\overline{\text{IRQ0}}$ 端子からの入力による割り込みです。IRQ 割り込みは、割り込みコントロールレジスタ1 (ICR1) のIRQセンスセレクトビット (IRQ7IS~IRQ0IS, IRQ70S~IRQ00S) の設定によって、端子ごとにローレベル、立ち下がりエッジ、立ち上がりエッジ、両エッジ検出を選択できます。また、割り込み優先レベル設定レジスタ01, 02 (IPR01, IPR02) によって、端子ごとに優先レベルを0~15の範囲で設定できます。

IRQ 割り込みをローレベル検出に設定している場合、 $\overline{\text{IRQ7}}\sim\overline{\text{IRQ0}}$ 端子がローレベルの期間、INTCに割り込み要求信号が送られます。 $\overline{\text{IRQ7}}\sim\overline{\text{IRQ0}}$ 端子がハイレベルになると、割り込み要求信号はINTCに送られません。IRQ 割り込み要求レジスタ (IRQRR) のIRQ 割り込み要求ビット (IRQ7R~IRQ0R) をリードすることにより割り込み要求を確認できます。

IRQ 割り込みをエッジ検出に設定している場合、 $\overline{\text{IRQ7}}\sim\overline{\text{IRQ0}}$ 端子の変化により割り込み要求が検出され、INTCに割り込み要求信号が送られます。IRQ 割り込み要求の検出結果は、その割り込み要求が受け付けられるまで保持されます。また、IRQRRのIRQ7R~IRQ0RビットをリードすることによりIRQ 割り込み要求が検出されているかどうかを確認でき、1をリードした後に0をライトすることによりIRQ 割り込み要求の検出結果を取り下げることができます。

IRQ 割り込み例外処理では、SRのI3~I0ビットは、受け付けたIRQ 割り込みの優先レベル値に設定されます。

IRQ 割り込み例外サービスルーチンから復帰する際は、誤って再度受け付けないように、IRQ 割り込み要求レジスタ (IRQRR) で割り込み要求がクリアされていることを確認してからRTE命令を実行してください。

8.4.4 メモリエラー割り込み

メモリエラーの発生要因の詳細については、「第 25 章 ROM」、「第 28 章 RAM」を参照してください。

8.4.5 ソフトウェア割り込み (SINT)

ソフトウェア割り込み (SINT) は、ソフトウェアによって SINTR1～SINTR15 レジスタを設定することで発生する割り込みです。

ソフトウェア割り込み (SINT) の割り込み優先順位は表 8.4 に示すとおりに固定されています。ソフトウェア割り込み (SINT) 例外処理では、SR の I3～I0 ビットは、受け付けたソフトウェア割り込み (SINT) の優先レベル値に設定されます。

8.4.6 内蔵周辺モジュール割り込み

内蔵周辺モジュール割り込みは、以下に示す内蔵周辺モジュールで発生する割り込みです。

- ダイレクトメモリアクセスコントローラ (DMAC)
- コンペアマッチタイマ (CMT)
- ウォッチドッグタイマ (WDT)
- アドバンスドタイマユニット-III (ATU-III)
- A/D変換器 (ADC)
- シリアルコミュニケーションインタフェース (SCI)
- ルネサスシリアルペリフェラルインタフェース (RSPI)
- コントローラエリアネットワーク (RCAN-TL1)
- 専用ダイレクトメモリアクセスコントローラ (A-DMAC)

要因ごとに異なる割り込みベクタが割り当てられているため、割り込み例外サービスルーチンで要因を判定する必要はありません。優先順位は、割り込み優先レベル設定レジスタ 03～29 (IPR03～IPR29) によって、モジュールごとに優先レベル 0～15 の範囲で設定できます。内蔵周辺モジュール割り込み例外処理では、SR の I3～I0 ビットは、受け付けた内蔵周辺モジュール割り込みの優先レベル値に設定されます。

8.5 割り込み例外処理ベクタテーブルと優先順位

表 8.4 に、割り込み要因とベクタ番号、ベクタテーブルアドレスオフセット、割り込み優先順位を示します。

各割り込み要因には、それぞれ異なるベクタ番号とベクタテーブルアドレスオフセットが割り当てられています。ベクタテーブルアドレスは、このベクタ番号やベクタテーブルアドレスオフセットから算出されます。割り込み例外処理では、このベクタテーブルアドレスが示すベクタテーブルから割り込み例外サービスルーチンの開始アドレスが取り出されます。ベクタテーブルアドレスの算出法は、「第 7 章 例外処理」の表 7.4 の例外処理ベクタテーブルアドレスの算出方法を参照してください。

IRQ 割り込みおよび内蔵周辺モジュール割り込みの優先順位は、割り込み優先レベル設定レジスタ 01~29 (IPR01~IPR29) によって、端子またはモジュールごとに優先レベル 0~15 の範囲で任意に設定できます。ただし、IPR03~IPR29 で同一 IPR 内の割り込みが複数発生した場合の優先順位は、表 8.4 の IPR 設定単位内の優先順位に示すように定められており、変更できません。IRQ 割り込みおよび内蔵周辺モジュール割り込みの優先順位は、パワーオンリセットによって優先レベル 0 に設定されます。複数の割り込み要因の優先順位を同じレベルに設定した場合、それらの割り込みが同時に発生したときは、表 8.4 に示すデフォルト優先順位に従って処理されます。

割り込み要因番号			割り込みベクタ		割り込み優先順位 (初期値)	対応する IPR (ビット)	IPR 設定 単位内の 優先順位	デフォルト 優先順位	
			ベクタ	ベクタテーブル アドレスオフセット					
DMAC	DMAC3	DEI3	120	H'000001E0~H'000001E3	0~15(0)	IPR03(3~0)	1		
		HEI3	121	H'000001E4~H'000001E7					2
	DMAC4	DEI4	124	H'000001F0~H'000001F3	0~15(0)	IPR04(15~12)	1		
		HEI4	125	H'000001F4~H'000001F7					2
	DMAC5	DEI5	128	H'00000200~H'00000203	0~15(0)	IPR04(11~8)	1		
		HEI5	129	H'00000204~H'00000207					2
	DMAC6	DEI6	132	H'00000210~H'00000213	0~15(0)	IPR04(7~4)	1		
		HEI6	133	H'00000214~H'00000217					2
	DMAC7	DEI7	136	H'00000220~H'00000223	0~15(0)	IPR04(3~0)	1		
		HEI7	137	H'00000224~H'00000227					2
	CMT	CMI0		140	H'00000230~H'00000233	0~15(0)	IPR05(15~12)		—
		CMI1		144	H'00000240~H'00000243	0~15(0)	IPR05(11~8)		—
	WDT	ITI		148	H'00000250~H'00000253	0~15(0)	IPR05(3~0)		—
	ATU-A	ICIA0		152	H'00000260~H'00000263	0~15(0)	IPR06(15~12)		1
ICIA1		153	H'00000264~H'00000267	2					
ICIA2		156	H'00000270~H'00000273	0~15(0)	IPR06(11~8)	1			
ICIA3		157	H'00000274~H'00000277				2		
ICIA4		160	H'00000280~H'00000283	0~15(0)	IPR06(7~4)	1			
ICIA5		161	H'00000284~H'00000287	0~15(0)	IPR06(3~0)	—			
OVIA		164	H'00000290~H'00000293	0~15(0)	IPR06(3~0)	—			
ATU-B	CMIB0		168	H'000002A0~H'000002A3	0~15(0)	IPR07(15~12)	1		
	CMIB1		169	H'000002A4~H'000002A7				2	
	CMIB6		172	H'000002B0~H'000002B3	0~15(0)	IPR07(11~8)	1		
	ICIB0		173	H'000002B4~H'000002B7				2	
ATU-C	ATU-C0	IMIC00	176	H'000002C0~H'000002C3	0~15(0)	IPR07(7~4)	1		
		IMIC01	177	H'000002C4~H'000002C7				2	
		IMIC02	178	H'000002C8~H'000002CB				3	
		IMIC03	179	H'000002CC~H'000002CF				4	
		OVIC0	180	H'000002D0~H'000002D3				0~15(0)	IPR07(3~0)
	ATU-C1	IMIC10	184	H'000002E0~H'000002E3	0~15(0)	IPR08(15~12)	1		
		IMIC11	185	H'000002E4~H'000002E7				2	
		IMIC12	186	H'000002E8~H'000002EB				3	
		IMIC13	187	H'000002EC~H'000002EF				4	
		OVIC1	188	H'000002F0~H'000002F3				0~15(0)	IPR08(11~8)

割り込み要因番号			割り込みベクタ		割り込み 優先順位 (初期値)	対応する IPR (ビット)	IPR 設定 単位内の 優先順位	デフォルト 優先順位
			ベクタ	ベクタテーブル アドレスオフセット				
ATU-C	ATU-C2	IMIC20	192	H'00000300~H'00000303	0~15(0)	IPR08(7~4)	1	↑ 高
		IMIC21	193	H'00000304~H'00000307				
		IMIC22	194	H'00000308~H'0000030B				
		IMIC23	195	H'0000030C~H'0000030F				
		OVIC2	196	H'00000310~H'00000313				
	ATU-C3	IMIC30	200	H'00000320~H'00000323	0~15(0)	IPR09(15~12)	1	
		IMIC31	201	H'00000324~H'00000327				
		IMIC32	202	H'00000328~H'0000032B				
		IMIC33	203	H'0000032C~H'0000032F				
		OVIC3	204	H'00000330~H'00000333				
	ATU-C4	IMIC40	208	H'00000340~H'00000343	0~15(0)	IPR09(7~4)	1	
		IMIC41	209	H'00000344~H'00000347				
		IMIC42	210	H'00000348~H'0000034B				
		IMIC43	211	H'0000034C~H'0000034F				
		OVIC4	212	H'00000350~H'00000353				
	ATU-D	ATU-D0	CMID00	216	H'00000360~H'00000363	0~15(0)	IPR10(15~12)	
CMID01			217	H'00000364~H'00000367				
CMID02			218	H'00000368~H'0000036B				
CMID03			219	H'0000036C~H'0000036F				
OVI1D0			220	H'00000370~H'00000373	0~15(0)	IPR10(11~8)	1	
OVI2D0			221	H'00000374~H'00000377				
UDID00			224	H'00000380~H'00000383	0~15(0)	IPR10(7~4)	1	
UDID01			225	H'00000384~H'00000387				
UDID02			226	H'00000388~H'0000038B				
UDID03		227	H'0000038C~H'0000038F					
ATU-D1		CMID10	228	H'00000390~H'00000393	0~15(0)	IPR10(3~0)	1	
		CMID11	229	H'00000394~H'00000397				
		CMID12	230	H'00000398~H'0000039B				
		CMID13	231	H'0000039C~H'0000039F				
		OVI1D1	232	H'000003A0~H'000003A3	0~15(0)	IPR11(15~12)	1	
		OVI2D1	233	H'000003A4~H'000003A7				
	UDID10	236	H'000003B0~H'000003B3	0~15(0)	IPR11(11~8)	1		
	UDID11	237	H'000003B4~H'000003B7					
	UDID12	238	H'000003B8~H'000003BB					
UDID13	239	H'000003BC~H'000003BF						
							↓ 低	

割り込み要因番号		割り込みベクタ		割り込み 優先順位 (初期値)	対応する IPR (ビット)	IPR 設定 単位内の 優先順位	デフォルト 優先順位	
		ベクタ	ベクタテーブル アドレスオフセット					
ATU-D	ATU-D2	CMID20	240	H'000003C0~H'000003C3	0~15(0)	IPR11(7~4)	1	↑ 高
		CMID21	241	H'000003C4~H'000003C7				
		CMID22	242	H'000003C8~H'000003CB				
		CMID23	243	H'000003CC~H'000003CF				
		OVI1D2	244	H'000003D0~H'000003D3	0~15(0)	IPR11(3~0)	1	
		OVI2D2	245	H'000003D4~H'000003D7				
		UDID20	248	H'000003E0~H'000003E3	0~15(0)	IPR12(15~12)	1	
		UDID21	249	H'000003E4~H'000003E7				
		UDID22	250	H'000003E8~H'000003EB				
		UDID23	251	H'000003EC~H'000003EF				
	UDID23	251	H'000003EC~H'000003EF					
	ATU-D3	CMID30	252	H'000003F0~H'000003F3	0~15(0)	IPR12(11~8)	1	
		CMID31	253	H'000003F4~H'000003F7				
		CMID32	254	H'000003F8~H'000003FB				
		CMID33	255	H'000003FC~H'000003FF				
		OVI1D3	256	H'00000400~H'00000403	0~15(0)	IPR12(7~4)	1	
		OVI2D3	257	H'00000404~H'00000407				
		UDID30	260	H'00000410~H'00000413	0~15(0)	IPR12(3~0)	1	
		UDID31	261	H'00000414~H'00000417				
		UDID32	262	H'00000418~H'0000041B				
UDID33		263	H'0000041C~H'0000041F					
UDID33	263	H'0000041C~H'0000041F						
ATU-E	ATU-E0	CMIE00	288	H'00000480~H'00000483	0~15(0)	IPR14(7~4)	1	
		CMIE01	289	H'00000484~H'00000487				
		CMIE02	290	H'00000488~H'0000048B				
		CMIE03	291	H'0000048C~H'0000048F				
	ATU-E1	CMIE10	292	H'00000490~H'00000493	0~15(0)	IPR14(3~0)	1	
		CMIE11	293	H'00000494~H'00000497				
		CMIE12	294	H'00000498~H'0000049B				
		CMIE13	295	H'0000049C~H'0000049F				
	ATU-E2	CMIE20	296	H'000004A0~H'000004A3	0~15(0)	IPR15(15~12)	1	
		CMIE21	297	H'000004A4~H'000004A7				
		CMIE22	298	H'000004A8~H'000004AB				
		CMIE23	299	H'000004AC~H'000004AF				
	ATU-E3	CMIE30	300	H'000004B0~H'000004B3	0~15(0)	IPR15(11~8)	1	
		CMIE31	301	H'000004B4~H'000004B7				
		CMIE32	302	H'000004B8~H'000004BB				
		CMIE33	303	H'000004BC~H'000004BF				
								↓ 低

割り込み要因番号			割り込みベクタ		割り込み 優先順位 (初期値)	対応する IPR (ビット)	IPR 設定 単位内の 優先順位	デフォルト 優先順位
			ベクタ	ベクタテーブル アドレスオフセット				
ATU-E	ATU-E4	CMIE40	304	H'000004C0~H'000004C3	0~15(0)	IPR15(7~4)	1	↑ 高
		CMIE41	305	H'000004C4~H'000004C7			2	
		CMIE42	306	H'000004C8~H'000004CB			3	
		CMIE43	307	H'000004CC~H'000004CF			4	
	ATU-E5	CMIE50	308	H'000004D0~H'000004D3	0~15(0)	IPR15(3~0)	1	
		CMIE51	309	H'000004D4~H'000004D7			2	
		CMIE52	310	H'000004D8~H'000004DB			3	
		CMIE53	311	H'000004DC~H'000004DF			4	
ATU-F	ICIF0	312	H'000004E0~H'000004E3	0~15(0)	IPR16(15~12)	1		
	ICIF1	313	H'000004E4~H'000004E7			2		
	ICIF2	314	H'000004E8~H'000004EB			3		
	ICIF3	315	H'000004EC~H'000004EF			4		
	ICIF4	316	H'000004F0~H'000004F3	0~15(0)	IPR16(11~8)	1		
	ICIF5	317	H'000004F4~H'000004F7			2		
	ICIF6	318	H'000004F8~H'000004FB			3		
	ICIF7	319	H'000004FC~H'000004FF			4		
	ICIF8	320	H'00000500~H'00000503	0~15(0)	IPR16(7~4)	1		
	ICIF9	321	H'00000504~H'00000507			2		
	ICIF10	322	H'00000508~H'0000050B			3		
	ICIF11	323	H'0000050C~H'0000050F			4		
	ICIF12	324	H'00000510~H'00000513	0~15(0)	IPR16(3~0)	1		
	ICIF13	325	H'00000514~H'00000517			2		
	ICIF14	326	H'00000518~H'0000051B			3		
	ICIF15	327	H'0000051C~H'0000051F			4		
	ICIF16	328	H'00000520~H'00000523	0~15(0)	IPR17(15~12)	1		
	ICIF17	329	H'00000524~H'00000527			2		
	ICIF18	330	H'00000528~H'0000052B			3		
	ICIF19	331	H'0000052C~H'0000052F			4		
	OVIF0	340	H'00000550~H'00000553	0~15(0)	IPR18(15~12)	1		
	OVIF1	341	H'00000554~H'00000557			2		
	OVIF2	342	H'00000558~H'0000055B			3		
	OVIF3	343	H'0000055C~H'0000055F			4		
	OVIF4	344	H'00000560~H'00000563	0~15(0)	IPR18(11~8)	1		
	OVIF5	345	H'00000564~H'00000567			2		
	OVIF6	346	H'00000568~H'0000056B			3		
	OVIF7	347	H'0000056C~H'0000056F			4		
								↓ 低

割り込み要因番号		割り込みベクタ		割り込み優先順位(初期値)	対応する IPR (ビット)	IPR 設定単位内の優先順位	デフォルト優先順位
		ベクタ	ベクタテーブル アドレスオフセット				
ATU-F	OVIF8	348	H'00000570~H'00000573	0~15(0)	IPR18(7~4)	1	↑ 高
	OVIF9	349	H'00000574~H'00000577			2	
	OVIF10	350	H'00000578~H'0000057B			3	
	OVIF11	351	H'0000057C~H'0000057F			4	
	OVIF12	352	H'00000580~H'00000583	0~15(0)	IPR18(3~0)	1	
	OVIF13	353	H'00000584~H'00000587			2	
	OVIF14	354	H'00000588~H'0000058B			3	
	OVIF15	355	H'0000058C~H'0000058F			4	
	OVIF16	356	H'00000590~H'00000593	0~15(0)	IPR19(15~12)	1	
	OVIF17	357	H'00000594~H'00000597			2	
	OVIF18	358	H'00000598~H'0000059B			3	
	OVIF19	359	H'0000059C~H'0000059F			4	
ATU-G	CMIG0	368	H'000005C0~H'000005C3	0~15(0)	IPR20(15~12)	1	
	CMIG1	369	H'000005C4~H'000005C7			2	
	CMIG2	370	H'000005C8~H'000005CB			3	
	CMIG3	371	H'000005CC~H'000005CF			4	
	CMIG4	372	H'000005D0~H'000005D3	0~15(0)	IPR20(11~8)	1	
	CMIG5	373	H'000005D4~H'000005D7			2	
ATU-H	CMIH	376	H'000005E0~H'000005E3		IPR20(7~4)		
ATU-J	DFIJ0	380	H'000005F0~H'000005F3	0~15(0)	IPR21(15~12)	1	
	DFIJ1	381	H'000005F4~H'000005F7			2	
	OVIJ0	384	H'00000600~H'00000603	0~15(0)	IPR21(11~8)	1	
	OVIJ1	385	H'00000604~H'00000607			2	
	DOVIJ0	388	H'00000610~H'00000613	0~15(0)	IPR21(7~4)	1	
	DOVIJ1	389	H'00000614~H'00000617			2	
ADC	ADI0	392	H'00000620~H'00000623	0~15(0)	IPR22(15~12)	-	
	ADI1	396	H'00000630~H'00000633	0~15(0)	IPR22(11~8)	-	
	ADID0	400	H'00000640~H'00000643	0~15(0)	IPR22(7~4)	1	
	ADID1	401	H'00000644~H'00000647			2	
	ADID2	402	H'00000648~H'0000064B			3	
	ADID3	403	H'0000064C~H'0000064F			4	
	ADID4	404	H'00000650~H'00000653	0~15(0)	IPR22(3~0)	1	
	ADID5	405	H'00000654~H'00000657			2	
	ADID6	406	H'00000658~H'0000065B			3	
	ADID7	407	H'0000065C~H'0000065F			4	

割り込み要因番号		割り込みベクタ		割り込み 優先順位 (初期値)	対応する IPR (ビット)	IPR 設定 単位内の 優先順位	デフォルト 優先順位
		ベクタ	ベクタテーブル アドレスオフセット				
ADC	ADID8	408	H'00000660~H'00000663	0~15(0)	IPR23(15~12)	1	高 ↑
	ADID9	409	H'00000664~H'00000667			2	
	ADID10	410	H'00000668~H'0000066B			3	
	ADID11	411	H'0000066C~H'0000066F			4	
	ADID12	412	H'00000670~H'00000673	0~15(0)	IPR23(11~8)	1	
	ADID13	413	H'00000674~H'00000677			2	
	ADID14	414	H'00000678~H'0000067B			3	
	ADID15	415	H'0000067C~H'0000067F			4	
	ADID40	416	H'00000680~H'00000683	0~15(0)	IPR23(7~4)	-	
	ADID41	417	H'00000684~H'00000687	0~15(0)	IPR23(3~0)	-	
	ADID42	418	H'00000688~H'0000068B	0~15(0)	IPR24(15~12)	-	
	ADID43	419	H'0000068C~H'0000068F	0~15(0)	IPR24(11~8)	-	
	ADID44	420	H'00000690~H'00000693	0~15(0)	IPR24(7~4)	-	
	ADID45	421	H'00000694~H'00000697	0~15(0)	IPR24(3~0)	-	
	ADID46	422	H'00000698~H'0000069B	0~15(0)	IPR25(15~12)	-	
	ADID47	423	H'0000069C~H'0000069F	0~15(0)	IPR25(11~8)	-	
SCI	SCI_A	ERIA	424	H'000006A0~H'000006A3	0~15(0)	IPR26(15~12)	1
		RXIA	425	H'000006A4~H'000006A7			2
		TXIA	426	H'000006A8~H'000006AB			3
		TEIA	427	H'000006AC~H'000006AF			4
	SCI_B	ERIB	428	H'000006B0~H'000006B3	0~15(0)	IPR26(11~8)	1
		RXIB	429	H'000006B4~H'000006B7			2
		TXIB	430	H'000006B8~H'000006BB			3
		TEIB	431	H'000006BC~H'000006BF			4
	SCI_C	ERIC	432	H'000006C0~H'000006C3	0~15(0)	IPR26(7~4)	1
		RXIC	433	H'000006C4~H'000006C7			2
		TXIC	434	H'000006C8~H'000006CB			3
		TEIC	435	H'000006CC~H'000006CF			4
	SCI_D	ERID	436	H'000006D0~H'000006D3	0~15(0)	IPR26(3~0)	1
		RXID	437	H'000006D4~H'000006D7			2
		TXID	438	H'000006D8~H'000006DB			3
		TEID	439	H'000006DC~H'000006DF			4
	SCI_E	ERIE	440	H'000006E0~H'000006E3	0~15(0)	IPR27(15~12)	1
		RXIE	441	H'000006E4~H'000006E7			2
		TXIE	442	H'000006E8~H'000006EB			3
		TEIE	443	H'000006EC~H'000006EF			4
						低 ↓	

割り込み要因番号		割り込みベクタ		割り込み 優先順位 (初期値)	対応する IPR (ビット)	IPR 設定 単位内の 優先順位	デフォルト 優先順位		
		ベクタ	ベクタテーブル アドレスオフセット						
RSPI	RSPI_A	SPEIA	444	H'000006F0~H'000006F3	0~15(0)	IPR27(11~8)	1	↑ 高 ↓ 低	
		SPRIA	445	H'000006F4~H'000006F7					2
		SPTIA	446	H'000006F8~H'000006FB					3
	RSPI_B	SPEIB	448	H'00000700~H'00000703	0~15(0)	IPR27(7~4)	1		
		SPRIB	449	H'00000704~H'00000707					2
		SPTIB	450	H'00000708~H'0000070B					3
	RSPI_C	SPEIC	452	H'00000710~H'00000713	0~15(0)	IPR27(3~0)	1		
		SPRIC	453	H'00000714~H'00000717					2
		SPTIC	454	H'00000718~H'0000071B					3
RCAN- TL1	RCAN_A	ERSA	456	H'00000720~H'00000723	0~15(0)	IPR28(15~12)	1		
		OVRA	457	H'00000724~H'00000727				2	
		RMA0	458	H'00000728~H'0000072B				3	
		RMA1	459	H'0000072C~H'0000072F				4	
		SLEA	460	H'00000730~H'00000733				5	
		MBEA	461	H'00000734~H'00000737				6	
	RCAN_B	ERSB	464	H'00000740~H'00000743	0~15(0)	IPR28(11~8)	1		
		OVRB	465	H'00000744~H'00000747				2	
		RMB0	466	H'00000748~H'0000074B				3	
		RMB1	467	H'0000074C~H'0000074F				4	
		SLEB	468	H'00000750~H'00000753				5	
		MBEB	469	H'00000754~H'00000757				6	
	RCAN_C	ERSC	472	H'00000760~H'00000763	0~15(0)	IPR28(7~4)	1		
		OVRC	473	H'00000764~H'00000767				2	
		RMC0	474	H'00000768~H'0000076B				3	
		RMC1	475	H'0000076C~H'0000076F				4	
		SLEC	476	H'00000770~H'00000773				5	
		MBEC	477	H'00000774~H'00000777				6	
A-DMAC	TE74	488	H'000007A0~H'000007A3	0~15(0)	IPR29 (15~12)	1			

8.6 動作説明

8.6.1 割り込み動作の流れ

割り込み発生時の動作の流れを以下に説明します。また、**図 8.2** に動作フローを示します。

1. 割り込みコントローラに対して、各割り込み要求元から割り込み要求信号が送られます。
2. 割り込みコントローラでは、送られた割り込み要求の中から、割り込み優先レベル設定レジスタ01~29 (IPR01~IPR29) に従って最も優先順位の高い割り込みが選択され、それより優先順位の低い割り込みは無視*されます。このとき、同一優先順位に設定された割り込みまたは同一モジュール内の割り込みが複数発生した場合は、**表8.4**に示すデフォルト優先順位とIPR設定単位内の優先順位に従って、最も優先順位の高い割り込みが選択されます。
3. 割り込みコントローラで選択された割り込みの優先レベルとCPUのステータスレジスタ (SR) の割り込みマスクレベルビット (I3~I0) とが比較されます。I3~I0ビットに設定されているレベルと同じか低い優先レベルの割り込みは無視されます。I3~I0ビットのレベルより高い優先レベルの割り込みだけが受け付けられ、CPUへ割り込み要求信号が送られます。
4. 割り込みコントローラから送られた割り込み要求は、CPUが実行しようとしている命令のデコード時に検出され、その命令の実行が割り込み例外処理に置き換えられます (**図8.4**参照)。
5. 受け付けられた割り込みに対応する例外処理ベクタテーブルから、割り込み例外サービスルーチンの開始アドレスを取り出します。
6. ステータスレジスタ (SR) がスタックに退避され、SRのI3~I0ビットに受け付けられた割り込みの優先レベルが書き込まれます。
7. プログラムカウンタ (PC) がスタックに退避されます。
8. 取り出した割り込み例外サービスルーチンの開始アドレスにジャンプして、プログラムの実行が開始されます。このときのジャンプは遅延分岐ではありません。

【注】 割り込み要因フラグは、割り込みハンドラ中でクリアしてください。割り込み要因フラグをクリアしてから実際に CPU への割り込み要因が取り下げられるまでに、**表 8.5**に記載している「割り込み要求発生から、割り込みコントローラで優先順位判定およびSRのマスクビットとの比較後、CPUへ割り込み要求信号が送られるまでの時間」を必要とします。そのためクリアしたはずの割り込み要因を誤って再度受け付けないように、クリア後割り込み要因フラグをリードし、その後 RTE 命令を実行します。

- * エッジ検出に設定されている割り込み要求は受け付けられるまで保留されます。ただし IRQ 割り込みの場合は、IRQ 割り込み要求レジスタ (IRQRR) のアクセスにより取り下げることができます。詳しくは「8.4.3 IRQ 割り込み」を参照してください。
また、エッジ検出により保留されている割り込みはパワーオンリセットでクリアされます。

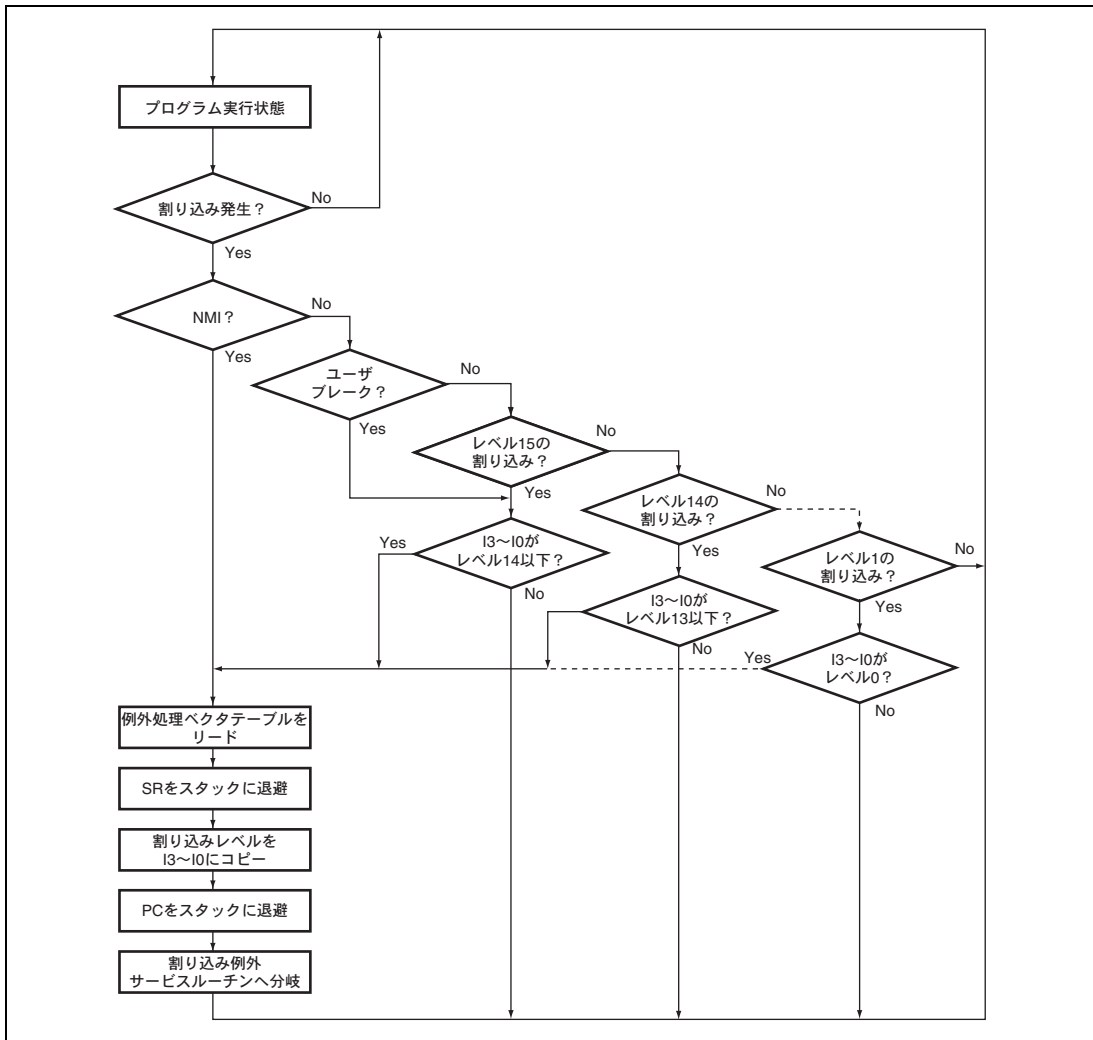


図 8.2 割り込み動作フロー

8.6.2 割り込み例外処理終了後のスタックの状態

割り込み例外処理終了後のスタックの状態は、図 8.3 に示すようになります。

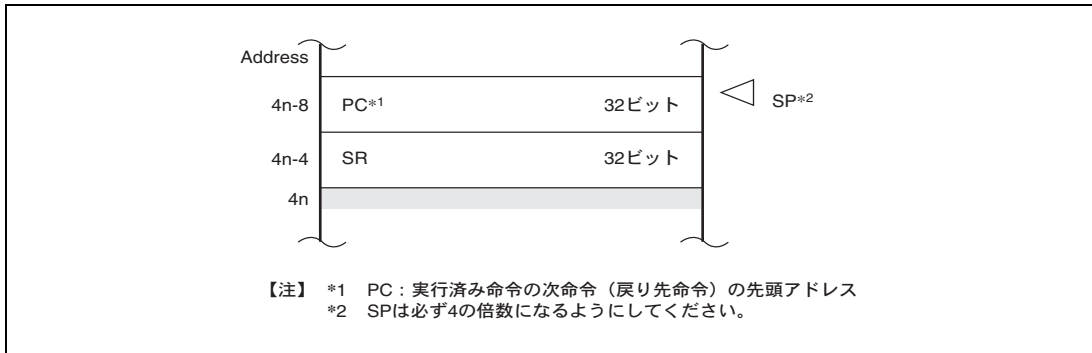


図 8.3 割り込み例外処理終了後のスタック状態

8.7 割り込み応答時間

割り込み要求が発生してから、割り込み例外処理が行われ、例外サービスルーチンの先頭命令のフェッチが開始されるまでの時間（割り込み応答時間）を表 8.5 に示します。割り込み処理は、バンキングなし、バンキングありかつレジスタバンクオーバーフローなし、バンキングありかつレジスタバンクオーバーフローありのときで動作が異なります。バンキングなしのときの、パイプライン動作例を図 8.4、図 8.5 に示します。バンキングありかつレジスタバンクオーバーフローなしのときの、パイプライン動作例を図 8.6、図 8.7 に示します。バンキングありかつレジスタバンクオーバーフローありのときの、パイプライン動作例を図 8.8、図 8.9 に示します。

なお、表 8.5、図 8.4～図 8.9 において、Icyc= ϕ の周期、Bcyc=Pcyc=P ϕ の周期です。

表 8.5 割り込み応答時間

項 目			ステート数					備考
			NMI	ユーザ ブレイク	IRQ	SINT	周辺 モジュール	
割り込み要求発生から、割り込みコントローラで優先順位判定および SR のマスクビットとの比較後、CPU へ割り込み要求信号が送られるまでの時間			2Icyc+ 3Pcyc	3Icyc	2Icyc+ 1Bcyc+ 3Pcyc	2Icyc+ 1Bcyc	2Icyc+ 1Bcyc+ 1Pcyc	
CPU に割り込み要求信号が入力されてから、実行中のシーケンスを終了後、割り込み例外処理を開始し、割り込み例外サービスルーチンの先頭命令をフェッチするまでの時間	レジスタバンクなし。	最小値	3Icyc+m1+m2					最小値は、割り込み待ち時間 0 のとき。 最大値は、割り込み例外処理中に、さらに上位の割り込み要求が発生したとき。
		最大値	4Icyc+2(m1+m2)+m3					
	レジスタバンクあり。 レジスタバンクオーバーフローなし。	最小値	—	—	3Icyc+m1+m2			最小値は、割り込み待ち時間 0 のとき。 最大値は、RESBANK 命令実行中に割り込み要求が発生したとき。
		最大値	—	—	12Icyc+m1+m2			
	レジスタバンクあり。 レジスタバンクオーバーフローあり。	最小値	—	—	3Icyc+m1+m2			最小値は、割り込み待ち時間 0 のとき。 最大値は、RESBANK 命令実行中に割り込み要求が発生したとき。
		最大値	—	—	3Icyc+m1+m2+19(m4)			

項目			ステート数					備考
			NMI	ユーザ ブ레이크	IRQ	SINT	周辺 モジュール	
応答時間	レジスタバンク なし。	最小値	5cyc+ 3Pcyc+m1+ m2	6lcyc+m1+ m2	5cyc+ 1Bcyc+ 3Pcyc+m1+ m2	5cyc+ 1Bcyc+ m1+m2	5cyc+ 1Bcyc+ 1Pcyc+m1+ m2	200MHz 動作時 *1*2 : 0.040~0.135 μ s
		最大値	6lcyc+ 3Pcyc+ 2(m1+m2)+ m3	7lcyc+ 2(m1+m2)+ m3	6lcyc+ 1Bcyc+ 3Pcyc+ 2(m1+m2)+ m3	6lcyc+ 1Bcyc+ 2(m1+m2)+ m3	6lcyc+ 1Bcyc+ 1Pcyc+ 2(m1+m2)+ m3	200MHz 動作時 *1*2 : 0.060~0.155 μ s
	レジスタバンク あり。 レジスタバンク オーバーフローなし。	最小値	—	—	5cyc+ 1Bcyc+ 3Pcyc+m1+ m2	5cyc+ 1Bcyc+m1+ m2	5cyc+ 1Bcyc+ 1Pcyc+m1+ m2	200MHz 動作時 *1*2 : 0.060~0.135 μ s
		最大値	—	—	14lcyc+ 1Bcyc+ 3Pcyc+m1+ m2	14lcyc+ 1Bcyc+m1+ m2	14lcyc+ 1Bcyc+ +1Pcyc+m1+ m2	200MHz 動作時 *1*2 : 0.105~0.180 μ s
	レジスタバンク あり。 レジスタバンク オーバーフローあり。	最小値	—	—	5cyc+ 1Bcyc+ 3Pcyc+m1+ m2	5cyc+ 1Bcyc+ +m1+m2	5cyc+ 1Bcyc+ 1Pcyc+m1+ m2	200MHz 動作時 *1*2 : 0.060~0.135 μ s
		最大値	—	—	5cyc+ 1Bcyc+ 3Pcyc+m1+ m2+19(m4)	5cyc+ 1Bcyc+ m1+m2+ 19(m4)	5cyc+ 1Bcyc+ 1Pcyc+m1+ m2+19(m4)	200MHz 動作時 *1*2 : 0.155~0.230 μ s

【注】 m1~m4 は下記のメモリアクセスに要するステート数です。

m1 : ベクタアドレスリード (ロングワードリード)

m2 : SR の退避 (ロングワードライト)

m3 : PC の退避 (ロングワードライト)

m4 : バンク対象レジスタ (R0~R14, GBR, MACH, MACL, PR) のスタックからの復帰

*1 : m1=m2=m3=m4=1cyc の場合

*2 : (ϕ , P ϕ) = (200MHz, 40MHz) の場合

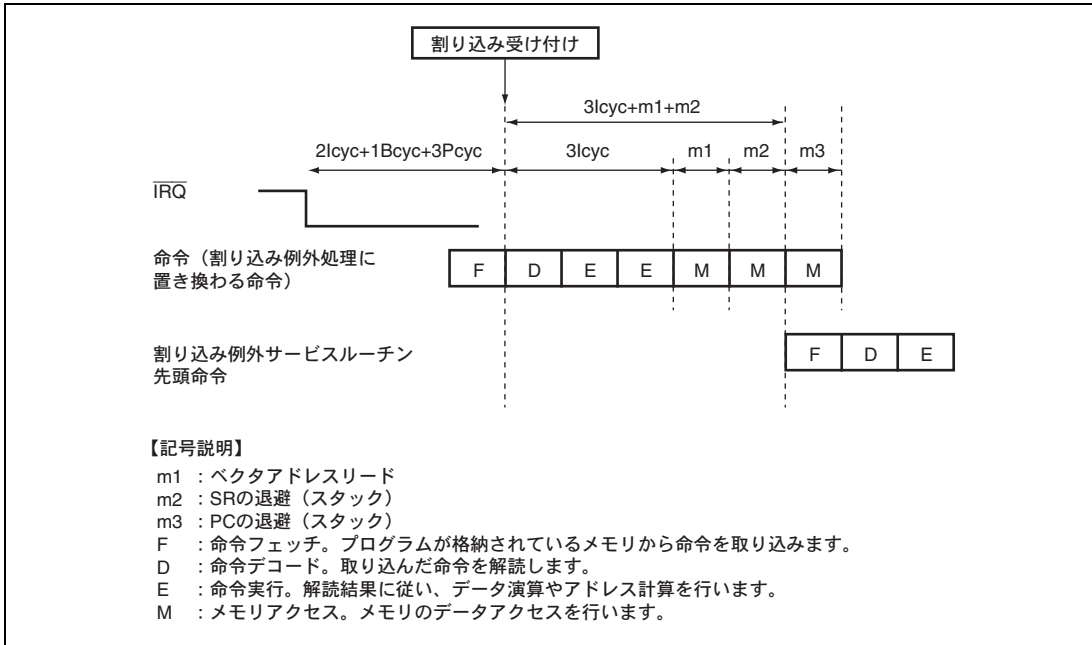


図 8.4 IRQ 割り込みを受け付けるときのパイプライン動作例 (レジスタバンクなし)

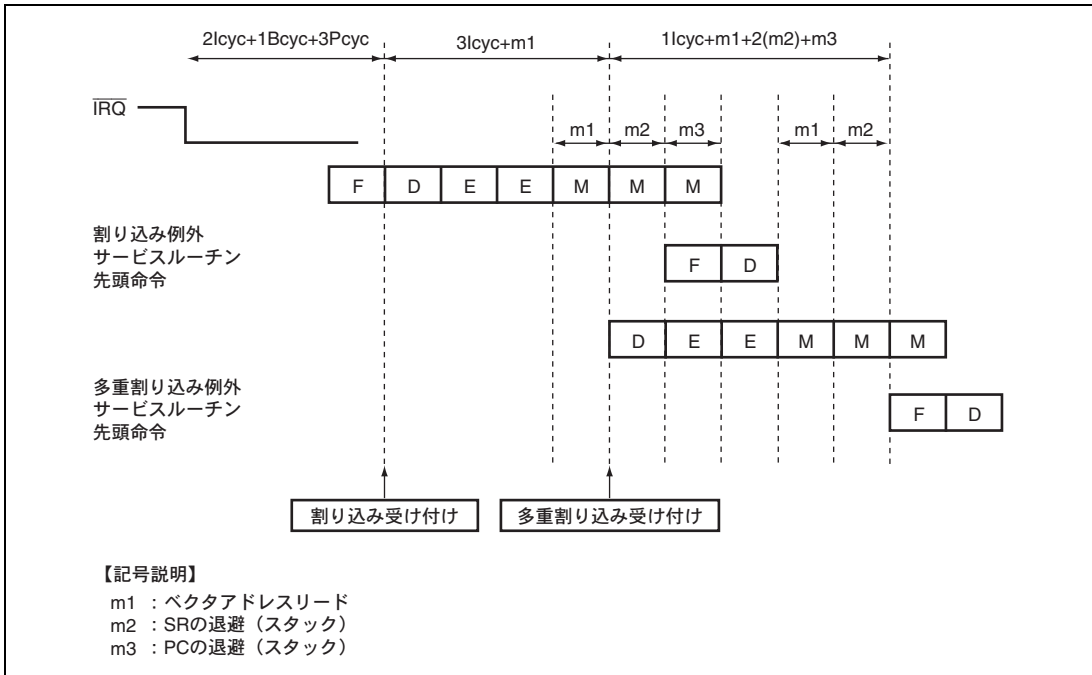


図 8.5 多重割り込み時のパイプライン動作例 (レジスタバンクなし)

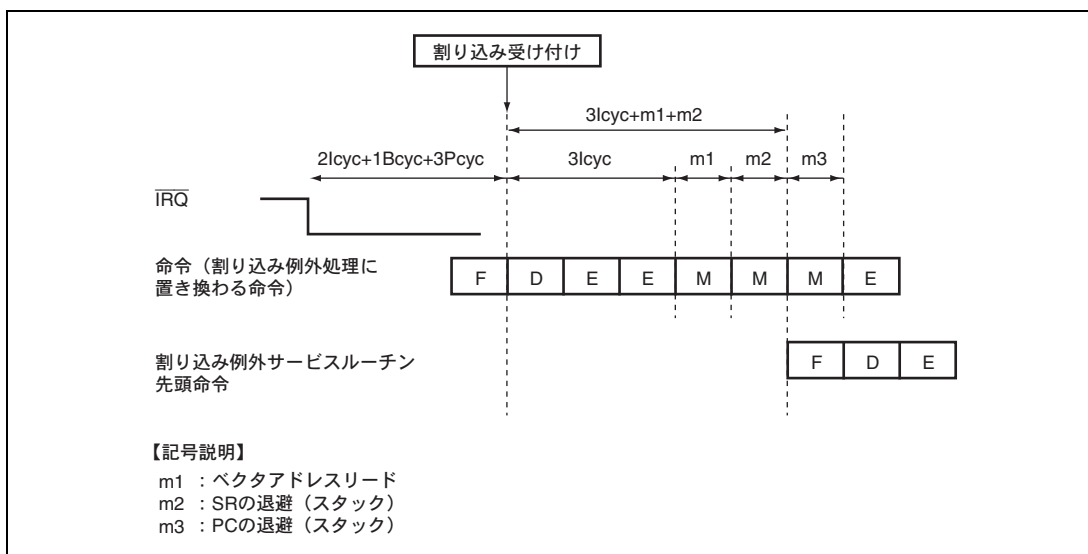


図 8.6 IRQ 割り込みを受け付けるときのパイプライン動作例
 (レジスタバンクあり、レジスタバンクオーバーフローなし)

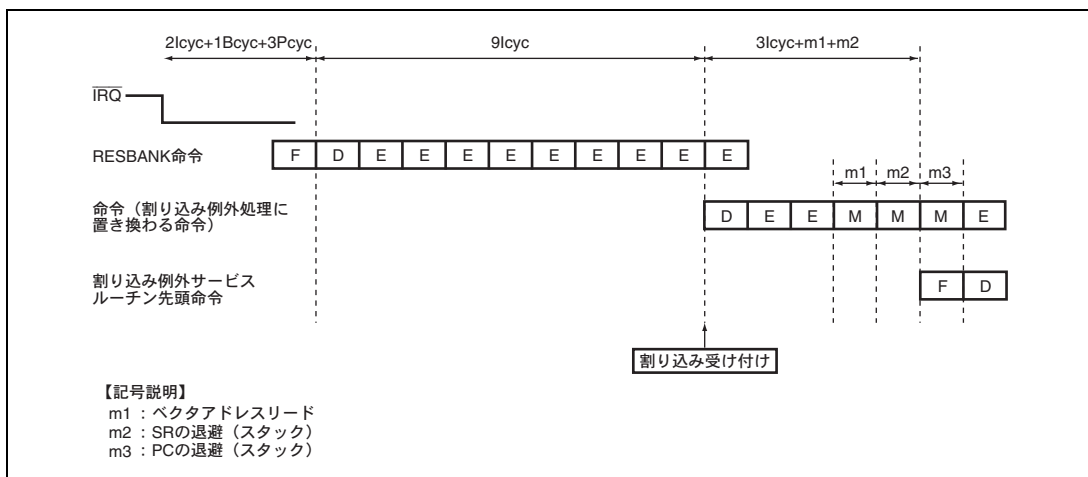


図 8.7 RESBANK 命令時に割り込みを受け付けるときのパイプライン動作例
 (レジスタバンクあり、レジスタバンクオーバーフローなし)

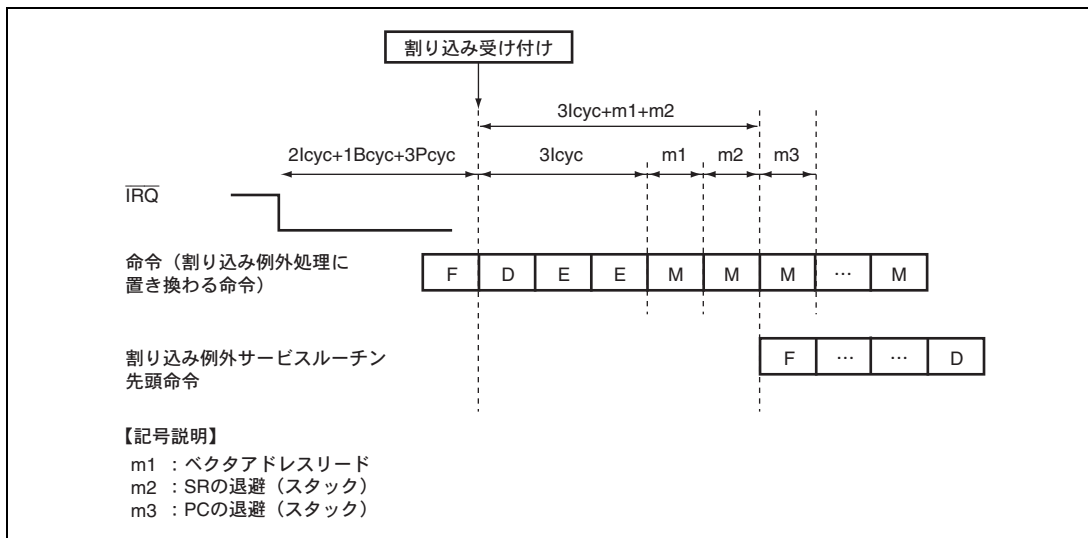


図 8.8 IRQ 割り込みを受け付けるときのパイプライン動作例 (レジスタバンクあり、レジスタバンクオーバーフローあり)

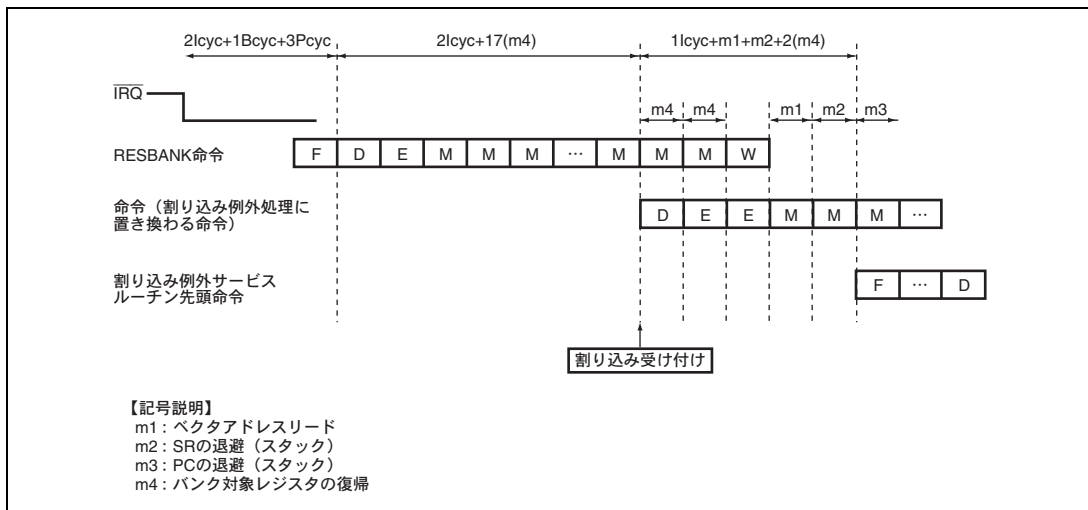


図 8.9 RESBANK 命令時に割り込みを受け付けるときのパイプライン動作例 (レジスタバンクあり、レジスタバンクオーバーフローあり)

8.8 レジスタバンク

本 LSI は、割り込み処理に伴うレジスタの退避、復帰を高速に行うために 15 本のレジスタバンクを内蔵しています。レジスタバンクの構成を図 8.10 に示します。

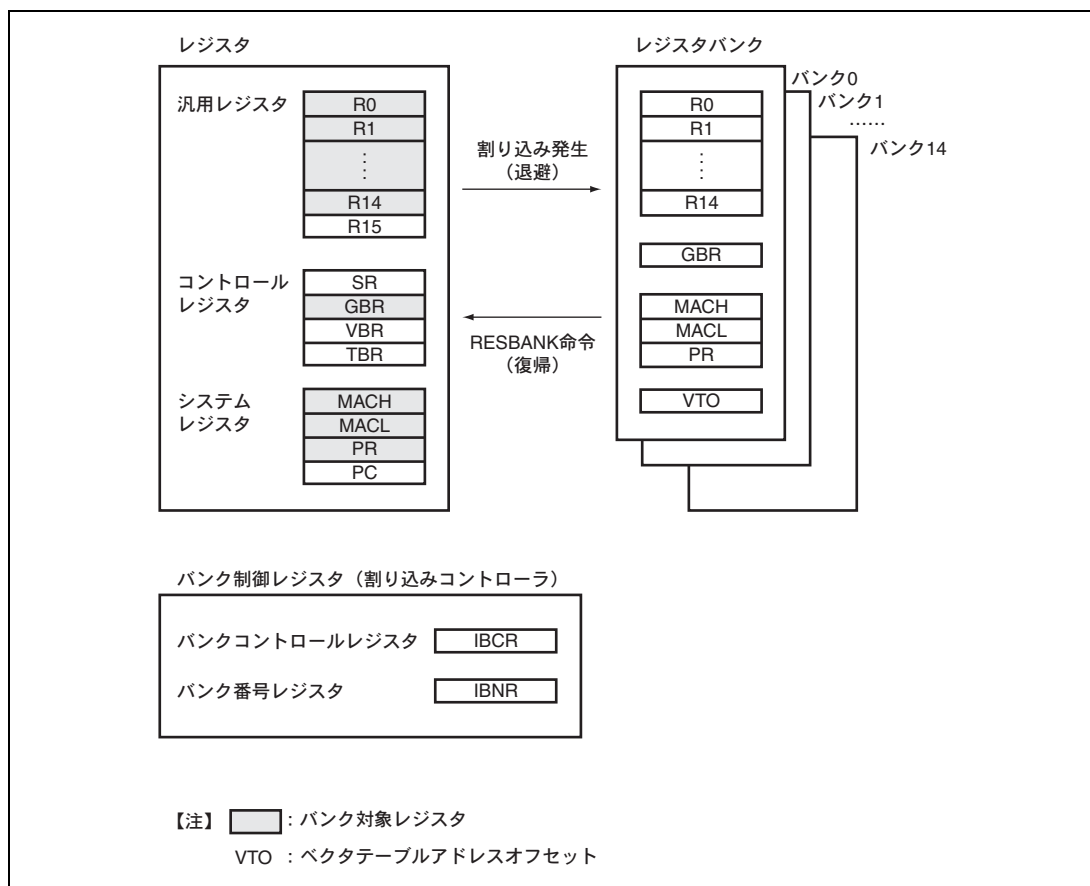


図 8.10 レジスタバンクの構成の概要

8.8.1 バンクの対象レジスタと入出力方式

(1) バンクの対象レジスタ

汎用レジスタ (R0~R14)、グローバルベースレジスタ (GBR)、積和レジスタ (MACH、MACL)、プロシージャレジスタ (PR) と、ベクタテーブルアドレスオフセットをバンクの対象とします。

(2) バンクの入出力方式

レジスタバンクは、バンク 0 からバンク 14 までの 15 個のバンクを持ちます。レジスタバンクは先入れ後出し (FILO) 式のスタックになっており、退避はバンク 0 から順番に行い、復帰は最後に退避したバンクから行います。

8.8.2 バンク退避、復帰の動作

(1) バンクへの退避

図 8.11 にレジスタバンクへの退避の動作を示します。割り込みが発生し、CPU で受け付けられた割り込みのレジスタバンク使用が許可されている場合、次のように動作します。

- (a) 割り込み発生前のバンク番号レジスタ (IBNR) のバンク番号ビット (BN) の値を i とします。
- (b) BN の示すバンク i に、レジスタ R0~R14、GBR、MACH、MACL、PR と、受け付けられた割り込みのベクタテーブルアドレスオフセット (VTO) を退避します。
- (c) BN の値を +1 します。

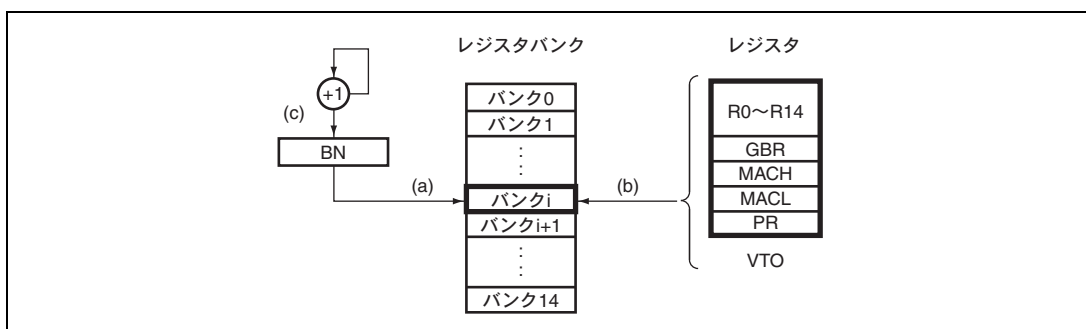


図 8.11 バンク退避の動作

図 8.12 にレジスタバンク退避のタイミングを示します。レジスタバンクへの退避は、割り込み例外処理開始から割り込み例外サービスルーチンの先頭命令のフェッチを開始するまでの間に実行されます。

なお、図 8.12 において、 $I_{cyc} = \phi$ の周期、 $B_{cyc} = P_{cyc} = P\phi$ の周期です。

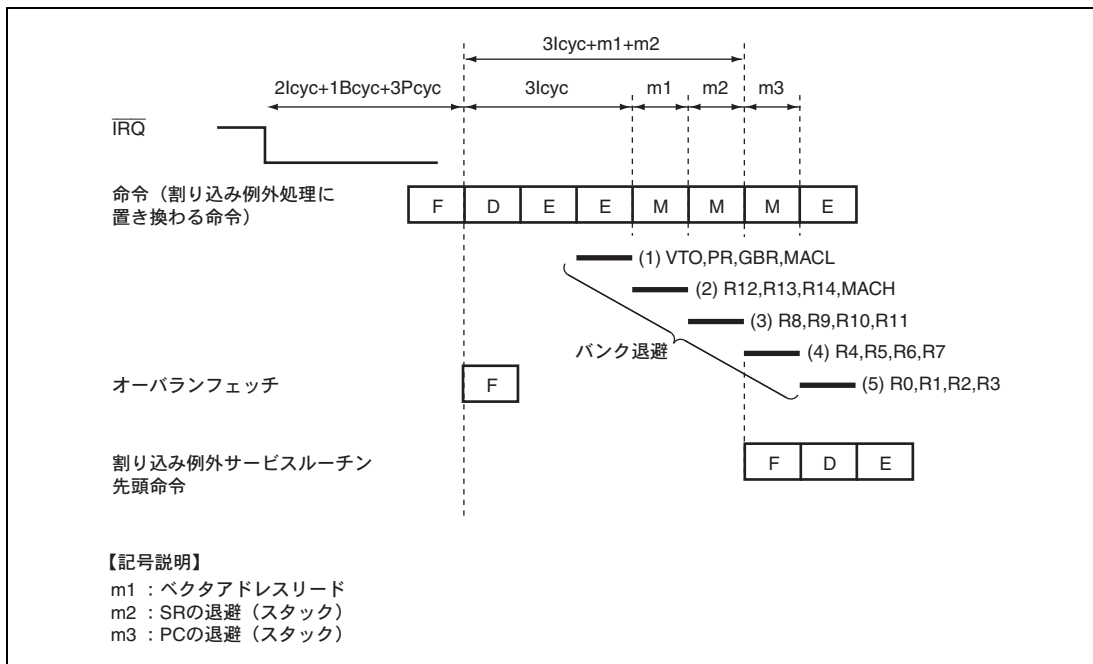


図 8.12 バンク退避のタイミング

(2) バンクからの復帰

バンクに退避したデータを復帰するには、バンク復帰命令 RESBANK を使います。割り込み例外サービスルーチンの最後に、RESBANK 命令でバンク復帰を行った後、RTE 命令で割り込み例外サービスルーチンからの復帰を行ってください。

8.8.3 すべてのバンクに退避が行われた状態での退避、復帰

レジスタバンクのすべてのバンクに退避が行われている状態で、割り込みが発生し、CPUで受け付けられた割り込みがレジスタバンクの使用を許可されている場合、バンク番号レジスタ (IBNR) の BOVE ビットが0のとき、レジスタバンクの代わりに自動的にスタックに退避を行います。また、IBNRのBOVEビットを1にセットしているときは、レジスタバンクオーバフロー例外が発生し、スタックへの退避は行われません。

スタックへの退避、復帰の動作は次のようになります。

(1) スタックへの退避

1. 割り込み例外処理時に、ステータスレジスタ (SR)、プログラムカウンタ (PC) をスタックします。
2. バンク対象レジスタ (R0~R14、GBR、MACH、MACL、PR) をスタックに退避します。スタックに退避するレジスタの順番は、MACL、MACH、GBR、PR、R14、R13、……、R1、R0の順となります。
3. SRのレジスタバンクオーバフロービット (BO) を1にセットします。
4. バンク番号レジスタ (IBNR) のバンク番号ビット (BN) は最大値15のまま変化しません。

(2) スタックからの復帰

SRのレジスタバンクオーバフロービット (BO) が1にセットされている状態で、バンク復帰命令 RESBANKを実行すると、次のように動作します。

1. バンク対象レジスタ (R0~R14、GBR、MACH、MACL、PR) をスタックから復帰します。スタックから復帰するレジスタの順番は、R0、R1、……、R13、R14、PR、GBR、MACH、MACLの順となります。
2. バンク番号レジスタ (IBNR) のバンク番号ビット (BN) は最大値15のまま変化しません。

8.8.4 レジスタバンクの例外

レジスタバンクの例外（レジスタバンクエラー）には、レジスタバンクオーバフローとレジスタバンクアンダフローの2種類があります。

(1) レジスタバンクオーバフロー

レジスタバンクのすべてのバンクに退避が行われている状態で、割り込みが発生し、CPU で受け付けられた割り込みがレジスタバンクの使用を許可されている場合、バンク番号レジスタ (IBNR) の BOVE ビットが 1 にセットされているときに発生します。このとき、バンク番号レジスタ (IBNR) のバンク番号ビット (BN) はバンク数 15 のまま変化せず、レジスタバンクへの退避は行われません。

(2) レジスタバンクアンダフロー

レジスタバンクに退避がまったく行われていない状態で、レジスタバンク復帰命令を実行した場合に発生します。このとき R0~R14、GBR、MACH、MACL、PR の値は変化しません。また、バンク番号レジスタ (IBNR) のバンク番号ビット (BN) は 0 のまま変化しません。

8.8.5 レジスタバンクエラー例外処理

レジスタバンクエラーが発生すると、レジスタバンクエラー例外処理が開始されます。このとき、CPU は次のように動作します。

1. 発生したレジスタバンクエラーに対応する例外処理ベクタテーブルから例外サービスルーチンの開始アドレスを取り出します。
2. ステータスレジスタ (SR) をスタックに退避します。
3. プログラムカウンタ (PC) をスタックに退避します。レジスタバンクオーバフロー時の退避するPCの値は、最後に実行した命令の次命令の先頭アドレスです。レジスタバンクアンダフロー時の退避するPCの値は、当該のRESBANK命令の先頭アドレスです。また、レジスタバンクオーバフロー時は多重割り込みを防止するためにレジスタバンクオーバフローの要因となった割り込みのレベルをステータスレジスタ (SR) の割り込みマスクレベルビット (I3~I0) に書き込みます。
4. 例外サービスルーチンの開始アドレスからプログラムを実行します。

8.9 割り込み要求信号によるデータ転送

割り込み要求信号により DMAC または A-DMAC を起動し、データ転送を行うことができます。

割り込み要因の中で DMAC または A-DMAC 起動要因に指定されているものは INTC に入力されずにマスクされます。DMAC、A-DMAC のそれぞれのマスク条件は次のように表されます。

- DMACのマスク条件

マスク条件 = $DME \cdot (DE0 \cdot \text{要因選択}0 + DE1 \cdot \text{要因選択}1 + DE2 \cdot \text{要因選択}2 + DE3 \cdot \text{要因選択}3 + DE4 \cdot \text{要因選択}4 + DE5 \cdot \text{要因選択}5 + DE6 \cdot \text{要因選択}6 + DE7 \cdot \text{要因選択}7)$

ここで DME は DMAC の DMAOR レジスタのビット 0、DE_n (n=0~7) は DMAC の CHCR0~CHCR7 レジスタのビット 0 です。

- A-DMACのマスク条件

マスク条件 = $NMI + (DME \cdot DE_n) [ADC, ATU-III]$ または
 $NMI + (DME \cdot (TCR_n + TE_n)) [RSPI, SCI]$

ここで NMI は DMAC の DMAOR レジスタのビット 1、DME は A-DMAC の ADMAOR レジスタのビット 0、DE_n は A-DMAC のチャンネル n に対応する ADMAD レジスタのビット、TCR_n は A-DMAC のチャンネル n に対応する ADMATCR レジスタの値が 0 でない状態、TE_n は A-DMAC のチャンネル n に対応する ADMATE レジスタのビットを示します。

ただし、A-DMAC による RCAN-TL1 の転送機能は、RCAN-TL1 からの割り込み要求信号を用いません。したがって、A-DMAC の起動要因に指定しても、INTC にマスクされません。

DMAC または A-DMAC は、割り込み要求信号に応じてデータ転送を行うと、割り込み要求元に対して割り込み要因フラグのクリアを行います。

詳細は「第 11 章 ダイレクトメモリアクセスコントローラ (DMAC)」および「第 12 章 専用ダイレクトメモリアクセスコントローラ (A-DMAC)」を参照してください。

割り込み制御ブロック図を図 8.13 に示します。

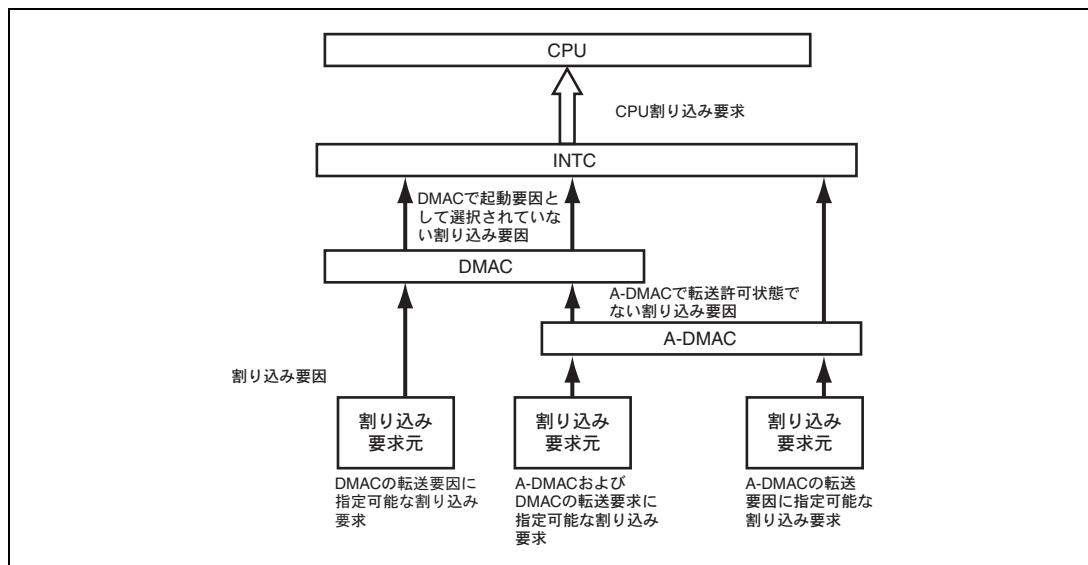


図 8.13 割り込み制御ブロック図

8.9.1 割り込み要求信号を CPU の割り込み要因とし、DMAC の起動要因としない場合

1. DMACで要因を選択しないか、またはDMEビットを0にクリアします。また、DMACで要因を選択している場合には、DMACの当該チャンネルのDEビットを0にクリアします。
2. 割り込みが発生すると、CPUに割り込みを要求します。
3. CPUは割り込み例外サービスルーチンで、割り込み要因をクリアし、所要の処理をします。

8.9.2 割り込み要求信号を DMAC の起動要因とし、CPU の割り込み要因としない場合

1. DMACで要因を選択し、DE=1、DME=1にセットします。割り込み優先レベル設定レジスタの設定によらずCPU割り込み要因はマスクされます。
2. 割り込みが発生すると、DMACに起動要因が与えられます。
3. DMACは、転送時に起動要因をクリアします。

8.9.3 割り込み要求信号を A-DMAC の起動要因とし、CPU の割り込み要因としない場合

1. A-DMACのDMEビットを1にセットし、当該チャネルのDEビットを1にセットまたはADMATCRレジスタに0以外の値（転送回数）を設定します。割り込み優先レベル設定レジスタの設定によらずCPU割り込み要因はマスクされます。
2. 割り込みが発生すると、A-DMACに起動要因が与えられます。
3. A-DMACは、転送時に起動要因をクリアします。

8.10 使用上の注意事項

8.10.1 割り込み要因クリアのタイミング

割り込み要因フラグは、割り込み例外サービスルーチン中でクリアしてください。割り込み要因フラグをクリアしてから実際に CPU への割り込み要因が取り下げられるまでに、表 8.5 に記載している「割り込み要求発生から、割り込みコントローラで優先順位判定および SR のマスクビットとの比較後、CPU へ割り込み要求信号が送られるまでの時間」を必要とします。そのため、クリアしたはずの割り込み要因を誤って再度受け付けないように、クリア後割り込み要因フラグをダミーリードしてください。その後 RTE 命令を実行すれば、当該割り込みを誤って再度受け付けることはありません。また、LDC 命令により割り込みレベルを変更する際には、割り込み要因フラグをダミーリード後、NOP 命令を最低 3 つ実行してから LDC 命令を実行してください。

9. ユーザブレイクコントローラ (UBC)

ユーザブレイクコントローラ (UBC) は、プログラムデバッグを容易にする機能を提供します。この機能を使用することにより、セルフモニタデバッグを容易に作成でき、インサーキットエミュレータを使用しなくても、本 LSI 単体で手軽にプログラムをデバッグできます。UBC に設定できるブレイク条件として、命令フェッチまたはデータの読み出し/書き込み (データの読み出し/書き込みの場合はバスマスタ (CPU、DMAC、A-DMAC))、データのサイズ、アドレスの値、および命令フェッチのときの停止タイミングをサポートします。本 LSI はハードウェアアーキテクチャを採用しているため、CPU バス (C バス) 上での命令フェッチは命令フェッチバス (F バス) にバスサイクルを発行し、C バス上のデータアクセスはメモリアクセスバス (M バス) にバスサイクルを発行します。UBC はこれら C バスと内部バス (I バス) をモニタします。

9.1 特長

1. 次のようなブレイク比較条件を設定できます

ブレイクチャンネル数：4チャンネル (チャンネル0~3)

ユーザブレイクは、チャンネル0~3をそれぞれ独立に設定することができます。

- アドレス

アドレス32ビットの比較はビットごとにマスク可能です。

3種類のアドレスバス (Fバスアドレス (FAB)、Mバスアドレス (MAB)、Iバスアドレス (IAB)) を選択できます。

- Iバス選択時のバスマスタ

CPUサイクル、DMACサイクル、A-DMACサイクル

- バスサイクル

命令フェッチ (Cバス選択時のみ) またはデータアクセス

- 読み出しまたは書き込み

- オペランドサイズ

バイト、ワード、およびロングワードをサポート。

2. ユーザ指定のユーザブレイク条件例外処理ルーチンを実行可能。
3. 命令フェッチサイクルにおいて、ブレイクを命令の実行の前に設定するか、後に設定するかを指定可能。
4. ブレイク条件成立を $\overline{\text{UBCTRG}}$ 端子に出力できます。

図 9.1 に UBC のブロック図を示します。

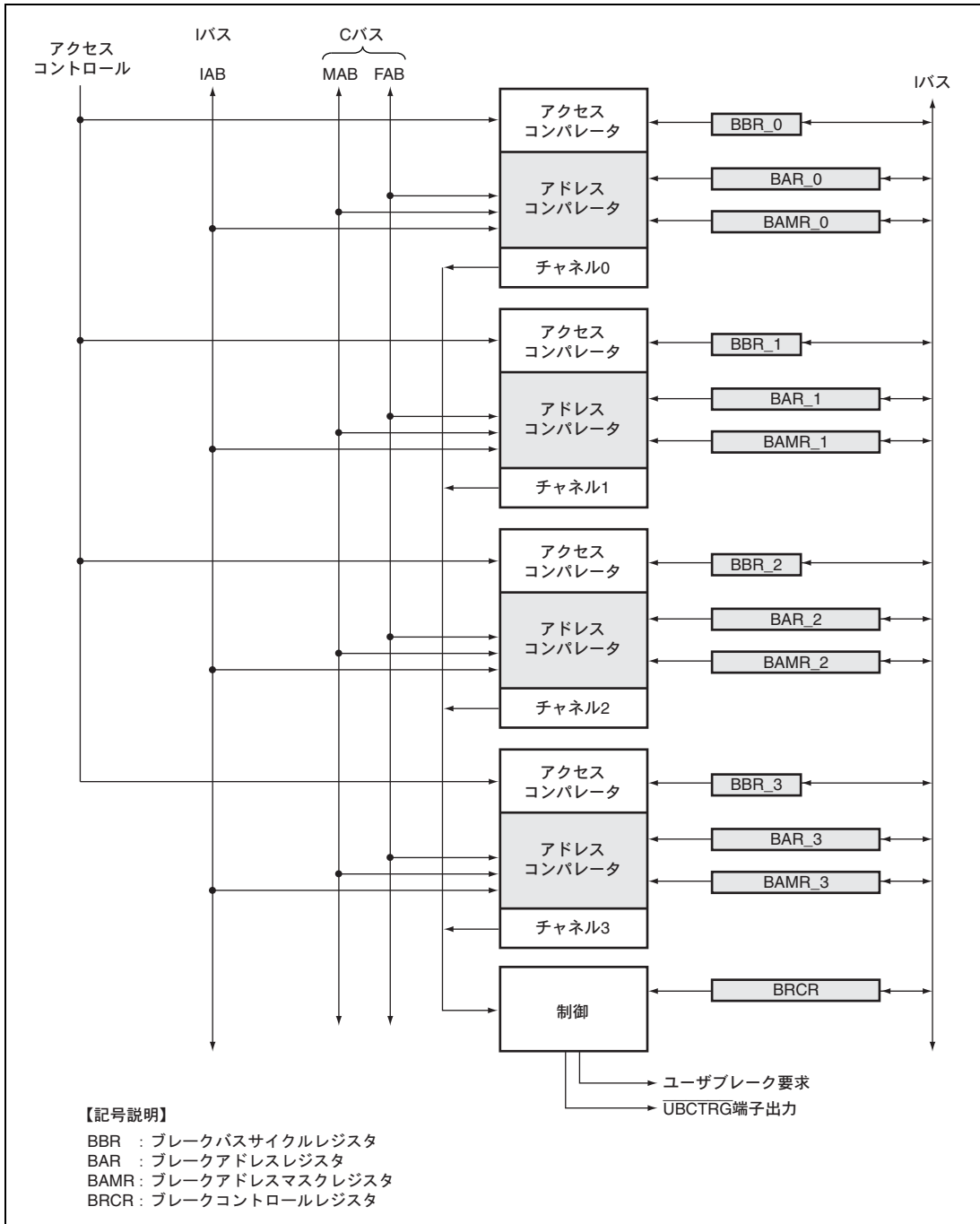


図 9.1 UBC のブロック図

9.2 入出力端子

UBC の端子構成を表 9.1 に示します。

表 9.1 UBC の端子構成

名称	端子名	入出力	機能
UBC トリガ	$\overline{\text{UBCTR}}\overline{\text{G}}$	出力	UBC のチャンネル 0~3 のいずれかで設定条件が成立したことを示します

9.3 レジスタの説明

UBC には以下のレジスタがあります。

表 9.2 レジスタ構成

チャンネル	レジスタ名	略称	R/W	初期値	アドレス	アクセス サイズ
0	ブレークアドレスレジスタ_0	BAR_0	R/W	H'00000000	H'FFFC0400	32
	ブレークアドレスマスクレジスタ_0	BAMR_0	R/W	H'00000000	H'FFFC0404	32
	ブレークバスサイクルレジスタ_0	BBR_0	R/W	H'0000	H'FFFC04A0	16
1	ブレークアドレスレジスタ_1	BAR_1	R/W	H'00000000	H'FFFC0410	32
	ブレークアドレスマスクレジスタ_1	BAMR_1	R/W	H'00000000	H'FFFC0414	32
	ブレークバスサイクルレジスタ_1	BBR_1	R/W	H'0000	H'FFFC04B0	16
2	ブレークアドレスレジスタ_2	BAR_2	R/W	H'00000000	H'FFFC0420	32
	ブレークアドレスマスクレジスタ_2	BAMR_2	R/W	H'00000000	H'FFFC0424	32
	ブレークバスサイクルレジスタ_2	BBR_2	R/W	H'0000	H'FFFC04A4	16
3	ブレークアドレスレジスタ_3	BAR_3	R/W	H'00000000	H'FFFC0430	32
	ブレークアドレスマスクレジスタ_3	BAMR_3	R/W	H'00000000	H'FFFC0434	32
	ブレークバスサイクルレジスタ_3	BBR_3	R/W	H'0000	H'FFFC04B4	16
共通	ブレークコントロールレジスタ	BRCR	R/W	H'00000000	H'FFFC04C0	8、32

9.3.1 ブレークアドレスレジスタ_0 (BAR_0)

BAR_0 は、32 ビットの読み出し／書き込み可能なレジスタです。BAR_0 は、チャンネル 0 のブレーク条件とするアドレスを指定します。BAR_0 はパワーオンリセットで H'00000000 に初期化されますが、スリープモードでは前の値を保持します。

ビット :	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	BA0_31	BA0_30	BA0_29	BA0_28	BA0_27	BA0_26	BA0_25	BA0_24	BA0_23	BA0_22	BA0_21	BA0_20	BA0_19	BA0_18	BA0_17	BA0_16
初期値 :	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W :	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ビット :	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	BA0_15	BA0_14	BA0_13	BA0_12	BA0_11	BA0_10	BA0_9	BA0_8	BA0_7	BA0_6	BA0_5	BA0_4	BA0_3	BA0_2	BA0_1	BA0_0
初期値 :	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W :	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
31~0	BA0_31 ~ BA0_0	すべて0	R/W	ブレイクアドレス0 チャンネル0のブレイク条件を指定するCPUアドレスバス (FABまたはMAB) またはIABのアドレスを格納します。 BBR_0によりCバスかつ命令フェッチサイクルを選択した場合は、BA0_31~BA0_0にFABのアドレスを指定します。 BBR_0によりCバスかつデータアクセスサイクルを選択した場合は、BA0_31~BA0_0にMABのアドレスを指定します。

【注】 ブレイク条件として命令フェッチサイクルを設定する場合は、BAR_0のLSBを0にクリアしてください。

9.3.2 ブレイクアドレスマスクレジスタ_0 (BAMR_0)

BAMR_0は、32ビットの読み出し/書き込み可能なレジスタです。BAMR_0は、BAR_0で指定するブレイクアドレスビットのうち、マスクするビットを指定します。BAMR_0はパワーオンリセットでH'00000000に初期化されますが、スリープモードでは前の値を保持します。

ビット:	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	BAM0_31	BAM0_30	BAM0_29	BAM0_28	BAM0_27	BAM0_26	BAM0_25	BAM0_24	BAM0_23	BAM0_22	BAM0_21	BAM0_20	BAM0_19	BAM0_18	BAM0_17	BAM0_16
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	BAM0_15	BAM0_14	BAM0_13	BAM0_12	BAM0_11	BAM0_10	BAM0_9	BAM0_8	BAM0_7	BAM0_6	BAM0_5	BAM0_4	BAM0_3	BAM0_2	BAM0_1	BAM0_0
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
31~0	BAM0_31 ~ BAM0_0	すべて0	R/W	ブレイクアドレスマスク0 BAR_0 (BA0_31~BA0_0) によって指定されるチャンネル0のブレイクアドレスビットのうち、マスクするビットを指定します。 0: ブレイクアドレスビット BA0_nは、ブレイク条件に含まれる 1: ブレイクアドレスビット BA0_nはマスクされ、ブレイク条件に含まれない 【注】 n=31~0

9.3.3 ブレークバスサイクルレジスタ_0 (BBR_0)

BBR_0は、チャンネル0のブレーク条件として(1)ユーザブレイク割り込みの禁止/許可、(2)Iバスのバスマスタ、(3)CバスサイクルまたはIバスサイクル、(4)命令フェッチまたはデータアクセス、(5)読み出しまたは書き込み、および(6)オペランドサイズを指定する16ビットの読み出しまたは書き込み可能なレジスタです。BBR_0はパワーオンリセットでH'0000に初期化されますが、スリープモードでは前の値を保持します。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	UBID0	—	—	CP0_[2:0]		CD0_[1:0]		ID0_[1:0]		RW0_[1:0]		SZ0_[1:0]		
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R/W	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15, 14	—	すべて0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。
13	UBID0	0	R/W	ユーザブレイク割り込みディスエーブル0 チャンネル0の条件一致時にユーザブレイク割り込み要求の禁止/許可を指定します。 0: ユーザブレイク割り込み要求を許可する 1: ユーザブレイク割り込み要求を禁止する
12, 11	—	すべて0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。
10~8	CP0_[2:0]	000	R/W	Iバスのバスマスタセレクト0 チャンネル0ブレーク条件のバスサイクルがIバスサイクルの場合のバスマスタを選択します。ただし、バスサイクルがCバスサイクルの場合、本ビットは無効(CPUサイクルのみ)となります。 xx1: ブレーク条件は、CPUサイクルを含みます x1x: ブレーク条件は、DMACサイクルを含みます 1xx: ブレーク条件は、A-DMACサイクルを含みます
7, 6	CD0_[1:0]	00	R/W	Cバスサイクル/Iバスサイクルセレクト0 チャンネル0ブレーク条件のバスサイクルとしてCバスサイクルまたはIバスサイクルを選択します。 00: 条件比較を行わない 01: ブレーク条件は、Cバス(Fバス、Mバス)サイクル 10: ブレーク条件は、Iバスサイクル 11: ブレーク条件は、Cバス(Fバス、Mバス)サイクル

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
5、4	ID0_ [1:0]	00	R/W	<p>命令フェッチ/データアクセスセレクト 0</p> <p>チャンネル 0 ブレーク条件のバスサイクルとして命令フェッチサイクルまたはデータアクセスサイクルを選択します。命令フェッチサイクルを選択した場合は C バスサイクルを選択してください。</p> <p>00 : 条件比較を行わない</p> <p>01 : ブレーク条件は、命令フェッチサイクル</p> <p>10 : ブレーク条件は、データアクセスサイクル</p> <p>11 : ブレーク条件は、命令フェッチサイクルまたはデータアクセスサイクル</p>
3、2	RW0_ [1:0]	00	R/W	<p>読み出し/書き込みセレクト 0</p> <p>チャンネル 0 ブレーク条件のバスサイクルとして読み出しサイクルまたは書き込みサイクルを選択します。</p> <p>00 : 条件比較を行わない</p> <p>01 : ブレーク条件は、読み出しサイクル</p> <p>10 : ブレーク条件は、書き込みサイクル</p> <p>11 : ブレーク条件は、読み出しサイクルまたは書き込みサイクル</p>
1、0	SZ0_ [1:0]	00	R/W	<p>オペランドサイズセレクト 0</p> <p>チャンネル 0 ブレーク条件のバスサイクルのオペランドサイズを選択します。</p> <p>00 : ブレーク条件は、オペランドサイズを含まない</p> <p>01 : ブレーク条件は、バイトアクセス</p> <p>10 : ブレーク条件は、ワードアクセス</p> <p>11 : ブレーク条件は、ロングワードアクセス</p>

【記号説明】 x : Don't care

9.3.4 ブレークアドレスレジスタ_1 (BAR_1)

BAR_1 は、32 ビットの読み出し/書き込み可能なレジスタです。BAR_1 は、チャンネル 1 のブ레이크条件とするアドレスを指定します。チャンネル 1 ブ레이크条件の対象とするアドレスバスは 2 種類あり、ブ레이크バスサイクルレジスタ_1 (BBR_1) の制御ビット CD1_1、CD1_0 により選択します。BAR_1 はパワーオンリセットで H'00000000 に初期化されますが、スリープモードでは前の値を保持します。

ビット:	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	BA1_31	BA1_30	BA1_29	BA1_28	BA1_27	BA1_26	BA1_25	BA1_24	BA1_23	BA1_22	BA1_21	BA1_20	BA1_19	BA1_18	BA1_17	BA1_16
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	BA1_15	BA1_14	BA1_13	BA1_12	BA1_11	BA1_10	BA1_9	BA1_8	BA1_7	BA1_6	BA1_5	BA1_4	BA1_3	BA1_2	BA1_1	BA1_0
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
31~0	BA1_31 ~ BA1_0	すべて 0	R/W	ブ레이크アドレス 1 チャンネル 1 のブ레이크条件を指定する CPU アドレスバス (FAB または MAB) または IAB のアドレスを格納します。 BBR_1 により C バスかつ命令フェッチサイクルを選択した場合は、BA1_31 ~BA1_0 に FAB のアドレスを指定します。 BBR_1 により C バスかつデータアクセスサイクルを選択した場合は、BA1_31~BA1_0 に MAB のアドレスを指定します。

【注】 ブ레이크条件として命令フェッチサイクルを設定する場合は、BAR_1 の LSB を 0 にクリアしてください。

9.3.5 ブレークアドレスマスクレジスタ_1 (BAMR_1)

BAMR_1 は、32 ビットの読み出し/書き込み可能なレジスタです。BAMR_1 は、BAR_1 で指定するブレークアドレスビットのうち、マスクするビットを指定します。BAMR_1 はパワーオンリセットで H'00000000 に初期化されますが、スリープモードでは前の値を保持します。

ビット:	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	BAM1_31	BAM1_30	BAM1_29	BAM1_28	BAM1_27	BAM1_26	BAM1_25	BAM1_24	BAM1_23	BAM1_22	BAM1_21	BAM1_20	BAM1_19	BAM1_18	BAM1_17	BAM1_16
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	BAM1_15	BAM1_14	BAM1_13	BAM1_12	BAM1_11	BAM1_10	BAM1_9	BAM1_8	BAM1_7	BAM1_6	BAM1_5	BAM1_4	BAM1_3	BAM1_2	BAM1_1	BAM1_0
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
31~0	BAM1_31 ~ BAM1_0	すべて 0	R/W	ブレークアドレスマスク 1 BAR_1 (BA1_31~BA1_0) によって指定されるチャンネル 1 のブレークアドレスビットのうち、マスクするビットを指定します。 0 : ブレークアドレスビット BA1_n は、ブレーク条件に含まれる 1 : ブレークアドレスビット BA1_n はマスクされ、ブレーク条件に含まれない 【注】 n=31~0

9.3.6 ブレークバスサイクルレジスタ_1 (BBR_1)

BBR_1は、チャンネル1のブレーク条件として(1)ユーザブレイク割り込みの禁止/許可、(2)Iバスのバスマスタ、(3)CバスサイクルまたはIバスサイクル、(4)命令フェッチまたはデータアクセス、(5)読み出しまたは書き込み、および(6)オペランドサイズを指定する16ビットの読み出しまたは書き込み可能なレジスタです。BBR_1はパワーオンリセットでH'0000に初期化されますが、スリープモードでは前の値を保持します。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	UBID1	—	—	CP1_[2:0]		CD1_[1:0]		ID1_[1:0]		RW1_[1:0]		SZ1_[1:0]		
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R/W	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15, 14	—	すべて0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。
13	UBID1	0	R/W	ユーザブレイク割り込みディスエーブル1 チャンネル1の条件一致時にユーザブレイク割り込み要求の禁止/許可を指定します。 0: ユーザブレイク割り込み要求を許可する 1: ユーザブレイク割り込み要求を禁止する
12, 11	—	すべて0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。
10~8	CP1_[2:0]	000	R/W	Iバスのバスマスタセレクト1 チャンネル1ブレーク条件のバスサイクルがIバスサイクルの場合のバスマスタを選択します。ただし、バスサイクルがCバスサイクルの場合、本ビットは無効(CPUサイクルのみ)となります。 xx1: ブレーク条件は、CPUサイクルを含みます x1x: ブレーク条件は、DMACサイクルを含みます 1xx: ブレーク条件は、A-DMACサイクルを含みます
7, 6	CD1_[1:0]	00	R/W	Cバスサイクル/Iバスサイクルセレクト1 チャンネル1ブレーク条件のバスサイクルとしてCバスサイクルまたはIバスサイクルを選択します。 00: 条件比較を行わない 01: ブレーク条件は、Cバスサイクル 10: ブレーク条件は、Iバスサイクル 11: ブレーク条件は、Cバスサイクル

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
5、4	ID1_[1:0]	00	R/W	命令フェッチ/データアクセスセレクト1 チャンネル1ブ레이크条件のバスサイクルとして命令フェッチサイクルまたはデータアクセスサイクルを選択します。命令フェッチサイクルを選択した場合はCバスサイクルを選択してください。 00：条件比較を行わない 01：ブ레이크条件は、命令フェッチサイクル 10：ブ레이크条件は、データアクセスサイクル 11：ブ레이크条件は、命令フェッチサイクルまたはデータアクセスサイクル
3、2	RW1_[1:0]	00	R/W	読み出し/書き込みセレクト1 チャンネル1ブ레이크条件のバスサイクルとして読み出しサイクルまたは書き込みサイクルを選択します。 00：条件比較を行わない 01：ブ레이크条件は、読み出しサイクル 10：ブ레이크条件は、書き込みサイクル 11：ブ레이크条件は、読み出しサイクルまたは書き込みサイクル
1、0	SZ1_[1:0]	00	R/W	オペランドサイズセレクト1 チャンネル1ブ레이크条件のバスサイクルのオペランドサイズを選択します。 00：ブ레이크条件は、オペランドサイズを含まない 01：ブ레이크条件は、バイトアクセス 10：ブ레이크条件は、ワードアクセス 11：ブ레이크条件は、ロングワードアクセス

【記号説明】 x : Don't care

9.3.7 ブ레이크アドレスレジスタ_2 (BAR_2)

BAR_2は、32ビットの読み出し/書き込み可能なレジスタです。BAR_2は、チャンネル2のブ레이크条件とするアドレスを指定します。チャンネル2ブ레이크条件の対象とするアドレスバスは2種類あり、ブ레이크バスサイクルレジスタ_2 (BBR_2) の制御ビットのCD2_1、CD2_0により選択します。BAR_2はパワーオンリセットでH'00000000に初期化されますが、スリープモードでは前の値を保持します。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	BA2_31	BA2_30	BA2_29	BA2_28	BA2_27	BA2_26	BA2_25	BA2_24	BA2_23	BA2_22	BA2_21	BA2_20	BA2_19	BA2_18	BA2_17	BA2_16
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	BA2_15	BA2_14	BA2_13	BA2_12	BA2_11	BA2_10	BA2_9	BA2_8	BA2_7	BA2_6	BA2_5	BA2_4	BA2_3	BA2_2	BA2_1	BA2_0
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
31~0	BA2_31 ~ BA2_0	すべて0	R/W	ブレイクアドレス2 チャンネル2のブレイク条件を指定するCPUアドレスバス (FABまたはMAB) またはIABのアドレスを格納します。 BBR_2によりCバスかつ命令フェッチサイクルを選択した場合は、BA2_31~BA2_0にFABのアドレスを指定します。 BBR_2によりCバスかつデータアクセスサイクルを選択した場合は、BA2_31~BA2_0にMABのアドレスを指定します。

【注】 ブレイク条件として命令フェッチサイクルを設定する場合は、BAR_2のLSBを0にクリアしてください。

9.3.8 ブレイクアドレスマスクレジスタ_2 (BAMR_2)

BAMR_2は、32ビットの読み出し/書き込み可能なレジスタです。BAMR_2は、BAR_2で指定するブレイクアドレスビットのうち、マスクするビットを指定します。BAMR_2はパワーオンリセットでH'00000000に初期化されますが、スリープモードでは前の値を保持します。

ビット:	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	BAM2_31	BAM2_30	BAM2_29	BAM2_28	BAM2_27	BAM2_26	BAM2_25	BAM2_24	BAM2_23	BAM2_22	BAM2_21	BAM2_20	BAM2_19	BAM2_18	BAM2_17	BAM2_16
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	BAM2_15	BAM2_14	BAM2_13	BAM2_12	BAM2_11	BAM2_10	BAM2_9	BAM2_8	BAM2_7	BAM2_6	BAM2_5	BAM2_4	BAM2_3	BAM2_2	BAM2_1	BAM2_0
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
31~0	BAM2_31 ~ BAM2_0	すべて0	R/W	ブレイクアドレスマスク2 BAR_2 (BA2_31~BA2_0) によって指定されるチャンネル2のブレイクアドレスビットのうち、マスクするビットを指定します。 0: ブレイクアドレスビット BA2_nは、ブレイク条件に含まれる 1: ブレイクアドレスビット BA2_nはマスクされ、ブレイク条件に含まれない 【注】 n=31~0

9.3.9 ブレークバスサイクルレジスタ_2 (BBR_2)

BBR_2は、チャンネル2のブレーク条件として(1)ユーザブレイク割り込みの禁止/許可、(2)Iバスのバスマスタ、(3)CバスサイクルまたはIバスサイクル、(4)命令フェッチまたはデータアクセス、(5)読み出しまたは書き込み、および(6)オペランドサイズを指定する16ビットの読み出しまたは書き込み可能なレジスタです。BBR_2はパワーオンリセットでH'0000に初期化されますが、スリープモードでは前の値を保持します。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	UBID2	—	—	CP2_[2:0]		CD2_[1:0]		ID2_[1:0]		RW2_[1:0]		SZ2_[1:0]		
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R/W	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15, 14	—	すべて0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。
13	UBID2	0	R/W	ユーザブレイク割り込みディスエーブル2 チャンネル2の条件一致時にユーザブレイク割り込み要求の禁止/許可を指定します。 0: ユーザブレイク割り込み要求を許可する 1: ユーザブレイク割り込み要求を禁止する
12, 11	—	すべて0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。
10~8	CP2_[2:0]	000	R/W	Iバスのバスマスタセレクト2 チャンネル2ブレーク条件のバスサイクルがIバスサイクルの場合のバスマスタを選択します。ただし、バスサイクルがCバスサイクルの場合、本ビットは無効(CPUサイクルのみ)となります。 xx1: ブレーク条件は、CPUサイクルを含みます x1x: ブレーク条件は、DMACサイクルを含みます 1xx: ブレーク条件は、A-DMACサイクルを含みます
7, 6	CD2_[1:0]	00	R/W	Cバスサイクル/Iバスサイクルセレクト2 チャンネル2ブレーク条件のバスサイクルとしてCバスサイクルまたはIバスサイクルを選択します。 00: 条件比較を行わない 01: ブレーク条件は、Cバスサイクル 10: ブレーク条件は、Iバスサイクル 11: ブレーク条件は、Cバスサイクル

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
5、4	ID2_ [1:0]	00	R/W	<p>命令フェッチ/データアクセスセレクト 2</p> <p>チャンネル 2 ブレーク条件のバスサイクルとして命令フェッチサイクルまたはデータアクセスサイクルを選択します。命令フェッチサイクルを選択した場合は C バスサイクルを選択してください。</p> <p>00 : 条件比較を行わない</p> <p>01 : ブレーク条件は、命令フェッチサイクル</p> <p>10 : ブレーク条件は、データアクセスサイクル</p> <p>11 : ブレーク条件は、命令フェッチサイクルまたはデータアクセスサイクル</p>
3、2	RW2_ [1:0]	00	R/W	<p>読み出し/書き込みセレクト 2</p> <p>チャンネル 2 ブレーク条件のバスサイクルとして読み出しサイクルまたは書き込みサイクルを選択します。</p> <p>00 : 条件比較を行わない</p> <p>01 : ブレーク条件は、読み出しサイクル</p> <p>10 : ブレーク条件は、書き込みサイクル</p> <p>11 : ブレーク条件は、読み出しサイクルまたは書き込みサイクル</p>
1、0	SZ2_ [1:0]	00	R/W	<p>オペランドサイズセレクト 2</p> <p>チャンネル 2 ブレーク条件のバスサイクルのオペランドサイズを選択します。</p> <p>00 : ブレーク条件は、オペランドサイズを含まない</p> <p>01 : ブレーク条件は、バイトアクセス</p> <p>10 : ブレーク条件は、ワードアクセス</p> <p>11 : ブレーク条件は、ロングワードアクセス</p>

【記号説明】 x : Don't care

9.3.10 ブ레이크アドレスレジスタ_3 (BAR_3)

BAR_3 は、32 ビットの読み出し/書き込み可能なレジスタです。BAR_3 は、チャンネル 3 のブ레이크条件とするアドレスを指定します。チャンネル 3 ブ레이크条件の対象とするアドレスバスは 2 種類あり、ブ레이크バスサイクルレジスタ_3 (BBR_3) の制御ビット CD3_1、CD3_0 により選択します。BAR_3 はパワーオンリセットで H'00000000 に初期化されますが、スリープモードでは前の値を保持します。

ビット:	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	BA3_31	BA3_30	BA3_29	BA3_28	BA3_27	BA3_26	BA3_25	BA3_24	BA3_23	BA3_22	BA3_21	BA3_20	BA3_19	BA3_18	BA3_17	BA3_16
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	BA3_15	BA3_14	BA3_13	BA3_12	BA3_11	BA3_10	BA3_9	BA3_8	BA3_7	BA3_6	BA3_5	BA3_4	BA3_3	BA3_2	BA3_1	BA3_0
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
31~0	BA3_31 ~ BA3_0	すべて 0	R/W	ブ레이크アドレス 3 チャンネル 3 のブ레이크条件を指定する CPU アドレスバス (FAB または MAB) または IAB のアドレスを格納します。 BBR_3 により C バスかつ命令フェッチサイクルを選択した場合は、BA3_31 ~BA3_0 に FAB のアドレスを指定します。 BBR_3 により C バスかつデータアクセスサイクルを選択した場合は、BA3_31~BA3_0 に MAB のアドレスを指定します。

【注】 ブ레이크条件として命令フェッチサイクルを設定する場合は、BAR_3 の LSB を 0 にクリアしてください。

9.3.11 ブレークアドレスマスクレジスタ_3 (BAMR_3)

BAMR_3は、32ビットの読み出し/書き込み可能なレジスタです。BAMR_3は、BAR_3で指定するブレークアドレスビットのうち、マスクするビットを指定します。BAMR_3はパワーオンリセットでH'00000000に初期化されますが、スリープモードでは前の値を保持します。

ビット:	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	BAM3_31	BAM3_30	BAM3_29	BAM3_28	BAM3_27	BAM3_26	BAM3_25	BAM3_24	BAM3_23	BAM3_22	BAM3_21	BAM3_20	BAM3_19	BAM3_18	BAM3_17	BAM3_16
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	BAM3_15	BAM3_14	BAM3_13	BAM3_12	BAM3_11	BAM3_10	BAM3_9	BAM3_8	BAM3_7	BAM3_6	BAM3_5	BAM3_4	BAM3_3	BAM3_2	BAM3_1	BAM3_0
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
31~0	BAM3_31 ~ BAM3_0	すべて0	R/W	<p>ブレークアドレスマスク 3</p> <p>BAR_3 (BA3_31~BA3_0) によって指定されるチャンネル3のブレークアドレスビットのうち、マスクするビットを指定します。</p> <p>0: ブレークアドレスビット BA3_n は、ブレーク条件に含まれる</p> <p>1: ブレークアドレスビット BA3_n はマスクされ、ブレーク条件に含まれない</p> <p>【注】 n=31~0</p>

9.3.12 ブレークバスサイクルレジスタ_3 (BBR_3)

BBR_3は、チャンネル3のブレーク条件として(1)ユーザブレイク割り込みの禁止/許可、(2)Iバスのバスマスタ、(3)CバスサイクルまたはIバスサイクル、(4)命令フェッチまたはデータアクセス、(5)読み出しまたは書き込み、および(6)オペランドサイズを指定する16ビットの読み出しまたは書き込み可能なレジスタです。BBR_3はパワーオンリセットでH'0000に初期化されますが、スリープモードでは前の値を保持します。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	UBID3	—	—	CP3_[2:0]		CD3_[1:0]		ID3_[1:0]		RW3_[1:0]		SZ3_[1:0]		
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R/W	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15, 14	—	すべて0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。
13	UBID3	0	R/W	ユーザブレイク割り込みディスエーブル3 チャンネル3の条件一致時にユーザブレイク割り込み要求の禁止/許可を指定します。 0: ユーザブレイク割り込み要求を許可する 1: ユーザブレイク割り込み要求を禁止する
12, 11	—	すべて0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。
10~8	CP3_[2:0]	000	R/W	Iバスのバスマスタセレクト3 チャンネル3ブレーク条件のバスサイクルがIバスサイクルの場合のバスマスタを選択します。ただし、バスサイクルがCバスサイクルの場合、本ビットは無効(CPUサイクルのみ)となります。 xx1: ブレーク条件は、CPUサイクルを含みます x1x: ブレーク条件は、DMACサイクルを含みます 1xx: ブレーク条件は、A-DMACサイクルを含みます
7, 6	CD3_[1:0]	00	R/W	Cバスサイクル/Iバスサイクルセレクト3 チャンネル3ブレーク条件のバスサイクルとしてCバスサイクルまたはIバスサイクルを選択します。 00: 条件比較を行わない 01: ブレーク条件は、Cバスサイクル 10: ブレーク条件は、Iバスサイクル 11: ブレーク条件は、Cバスサイクル

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
5、4	ID3_[1:0]	00	R/W	<p>命令フェッチ/データアクセスセレクト 3</p> <p>チャンネル 3 ブレイク条件のバスサイクルとして命令フェッチサイクルまたはデータアクセスサイクルを選択します。命令フェッチサイクルを選択した場合は C バスサイクルを選択してください。</p> <p>00 : 条件比較を行わない</p> <p>01 : ブレイク条件は、命令フェッチサイクル</p> <p>10 : ブレイク条件は、データアクセスサイクル</p> <p>11 : ブレイク条件は、命令フェッチサイクルまたはデータアクセスサイクル</p>
3、2	RW3_[1:0]	00	R/W	<p>読み出し/書き込みセレクト 3</p> <p>チャンネル 3 ブレイク条件のバスサイクルとして読み出しサイクルまたは書き込みサイクルを選択します。</p> <p>00 : 条件比較を行わない</p> <p>01 : ブレイク条件は、読み出しサイクル</p> <p>10 : ブレイク条件は、書き込みサイクル</p> <p>11 : ブレイク条件は、読み出しサイクルまたは書き込みサイクル</p>
1、0	SZ3_[1:0]	00	R/W	<p>オペランドサイズセレクト 3</p> <p>チャンネル 3 ブレイク条件のバスサイクルのオペランドサイズを選択します。</p> <p>00 : ブレイク条件は、オペランドサイズを含まない</p> <p>01 : ブレイク条件は、バイトアクセス</p> <p>10 : ブレイク条件は、ワードアクセス</p> <p>11 : ブレイク条件は、ロングワードアクセス</p>

【記号説明】 x : Don't care

9.3.13 ブ레이크コントロールレジスタ (BRCR)

BRCR は、次の条件を設定します。

1. ブ레이크を命令実行の前に設定するか後に設定するかを指定します。
2. ブ레이크条件一致時の $\overline{\text{UBCTR}}\overline{\text{G}}$ 出力のパルス幅を設定します。
3. ブ레이크条件一致時の $\overline{\text{UBCTR}}\overline{\text{G}}$ 出力するかどうかを設定します。

BRCR は、ブ레이크条件一致フラグとその他のブ레이크条件をセットするためのビットを持つ 32 ビットの読み出し/書き込み可能なレジスタです。ビット 15~8 の条件一致フラグのみ、1 書き込みは無効（前値保持）で 0 書き込みのみ可能なビットですので、クリアする場合はクリアするフラグビットに 0、それ以外のフラグビットに 1 を書き込んでください。BRCR はパワーオンリセットで H'00000000 に初期化されますが、スリープモードでは前の値を保持します。

ビット:	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	UTOD3	UTOD2	UTOD1	UTOD0	—	CKS[1:0]
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	SCMFC ₀	SCMFC ₁	SCMFC ₂	SCMFC ₃	SCMFD ₀	SCMFD ₁	SCMFD ₂	SCMFD ₃	PCB3	PCB2	PCB1	PCB0	—	—	—	—
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
31~22	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
21	UTOD3	0	R/W	$\overline{\text{UBCTR}}\overline{\text{G}}$ 出力ディスエーブル 3 チャンネル 3 の条件一致時に $\overline{\text{UBCTR}}\overline{\text{G}}$ 出力するかどうかを指定します。 0: チャンネル 3 に対する条件一致で $\overline{\text{UBCTR}}\overline{\text{G}}$ へ出力する 1: チャンネル 3 に対する条件一致で $\overline{\text{UBCTR}}\overline{\text{G}}$ へ出力しない
20	UTOD2	0	R/W	$\overline{\text{UBCTR}}\overline{\text{G}}$ 出力ディスエーブル 2 チャンネル 2 の条件一致時に $\overline{\text{UBCTR}}\overline{\text{G}}$ 出力するかどうかを指定します。 0: チャンネル 2 に対する条件一致で $\overline{\text{UBCTR}}\overline{\text{G}}$ へ出力する 1: チャンネル 2 に対する条件一致で $\overline{\text{UBCTR}}\overline{\text{G}}$ へ出力しない
19	UTOD1	0	R/W	$\overline{\text{UBCTR}}\overline{\text{G}}$ 出力ディスエーブル 1 チャンネル 1 の条件一致時に $\overline{\text{UBCTR}}\overline{\text{G}}$ 出力するかどうかを指定します。 0: チャンネル 1 に対する条件一致で $\overline{\text{UBCTR}}\overline{\text{G}}$ へ出力する 1: チャンネル 1 に対する条件一致で $\overline{\text{UBCTR}}\overline{\text{G}}$ へ出力しない
18	UTOD0	0	R/W	$\overline{\text{UBCTR}}\overline{\text{G}}$ 出力ディスエーブル 0 チャンネル 0 の条件一致時に $\overline{\text{UBCTR}}\overline{\text{G}}$ 出力するかどうかを指定します。 0: チャンネル 0 に対する条件一致で $\overline{\text{UBCTR}}\overline{\text{G}}$ へ出力する 1: チャンネル 0 に対する条件一致で $\overline{\text{UBCTR}}\overline{\text{G}}$ へ出力しない

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
17, 16	CKS[1:0]	00	R/W	<p>クロックセレクト</p> <p>条件一致時、\overline{UBCTRG} に出力するパルス幅を指定します。</p> <p>00: \overline{UBCTRG} のパルス幅を Pϕ1 周期分にする (周辺クロック 2 逓倍設定時 禁止)</p> <p>01: \overline{UBCTRG} のパルス幅を Pϕ2 周期分にする</p> <p>10: \overline{UBCTRG} のパルス幅を Pϕ4 周期分にする</p> <p>11: \overline{UBCTRG} のパルス幅を Pϕ8 周期分にする</p>
15	SCMFC0	0	R/W	<p>C バスサイクル条件一致フラグ 0</p> <p>チャンネル 0 にセットしたブレーク条件の C バスサイクル条件を満足すると、このフラグは 1 にセットされます。このフラグをクリアするには、このビットに 0 を書き込みます。</p> <p>0: チャンネル 0 に対する C バスサイクル条件不一致</p> <p>1: チャンネル 0 に対する C バスサイクル条件一致</p>
14	SCMFC1	0	R/W	<p>C バスサイクル条件一致フラグ 1</p> <p>チャンネル 1 にセットしたブレーク条件の C バスサイクル条件を満足すると、このフラグは 1 にセットされます。このフラグをクリアするには、このビットに 0 を書き込みます。</p> <p>0: チャンネル 1 に対する C バスサイクル条件不一致</p> <p>1: チャンネル 1 に対する C バスサイクル条件一致</p>
13	SCMFC2	0	R/W	<p>C バスサイクル条件一致フラグ 2</p> <p>チャンネル 2 にセットしたブレーク条件の C バスサイクル条件を満足すると、このフラグは 1 にセットされます。このフラグをクリアするには、このビットに 0 を書き込みます。</p> <p>0: チャンネル 2 に対する C バスサイクル条件不一致</p> <p>1: チャンネル 2 に対する C バスサイクル条件一致</p>
12	SCMFC3	0	R/W	<p>C バスサイクル条件一致フラグ 3</p> <p>チャンネル 3 にセットしたブレーク条件の C バスサイクル条件を満足すると、このフラグは 1 にセットされます。このフラグをクリアするには、このビットに 0 を書き込みます。</p> <p>0: チャンネル 3 に対する C バスサイクル条件不一致</p> <p>1: チャンネル 3 に対する C バスサイクル条件一致</p>
11	SCMFD0	0	R/W	<p>I バスサイクル条件一致フラグ 0</p> <p>チャンネル 0 にセットしたブレーク条件の I バスサイクル条件を満足すると、このフラグは 1 にセットされます。このフラグをクリアするには、このビットに 0 を書き込みます。</p> <p>0: チャンネル 0 に対する I バスサイクル条件不一致</p> <p>1: チャンネル 0 に対する I バスサイクル条件一致</p>

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
10	SCMFD1	0	R/W	Iバスサイクル条件一致フラグ 1 チャンネル 1 にセットしたブ레이크条件の Iバスサイクル条件を満足すると、このフラグは 1 にセットされます。このフラグをクリアするには、このビットに 0 を書き込みます。 0 : チャンネル 1 に対する Iバスサイクル条件不一致 1 : チャンネル 1 に対する Iバスサイクル条件一致
9	SCMFD2	0	R/W	Iバスサイクル条件一致フラグ 2 チャンネル 2 にセットしたブ레이크条件の Iバスサイクル条件を満足すると、このフラグは 1 にセットされます。このフラグをクリアするには、このビットに 0 を書き込みます。 0 : チャンネル 2 に対する Iバスサイクル条件不一致 1 : チャンネル 2 に対する Iバスサイクル条件一致
8	SCMFD3	0	R/W	Iバスサイクル条件一致フラグ 3 チャンネル 3 にセットしたブ레이크条件の Iバスサイクル条件を満足すると、このフラグは 1 にセットされます。このフラグをクリアするには、このビットに 0 を書き込みます。 0 : チャンネル 3 に対する Iバスサイクル条件不一致 1 : チャンネル 3 に対する Iバスサイクル条件一致
7	PCB3	0	R/W	PC ブ레이크セレクト 3 チャンネル 3 に対する命令フェッチサイクルのブ레이크タイミングが命令実行の前か後かを選択します。 0 : チャンネル 3 の PC ブ레이크を命令実行前に設定 1 : チャンネル 3 の PC ブ레이크を命令実行後に設定
6	PCB2	0	R/W	PC ブ레이크セレクト 2 チャンネル 2 に対する命令フェッチサイクルのブ레이크タイミングが命令実行の前か後かを選択します。 0 : チャンネル 2 の PC ブ레이크を命令実行前に設定 1 : チャンネル 2 の PC ブ레이크を命令実行後に設定
5	PCB1	0	R/W	PC ブ레이크セレクト 1 チャンネル 1 に対する命令フェッチサイクルのブ레이크タイミングが命令実行の前か後かを選択します。 0 : チャンネル 1 の PC ブ레이크を命令実行前に設定 1 : チャンネル 1 の PC ブ레이크を命令実行後に設定
4	PCB0	0	R/W	PC ブ레이크セレクト 0 チャンネル 0 に対する命令フェッチサイクルのブ레이크タイミングが命令実行の前か後かを選択します。 0 : チャンネル 0 の PC ブ레이크を命令実行前に設定 1 : チャンネル 0 の PC ブ레이크を命令実行後に設定
3~0	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。

9.4 動作説明

9.4.1 ユーザブレーク動作の流れ

ブレーク条件の設定からユーザブレーク例外処理までの動作の流れは、次のとおりです。

1. ブレークアドレスは、ブレークアドレスレジスタ (BAR) にセットします。マスクするアドレスは、ブレークアドレスマスクレジスタ (BAMR) にセットします。バスブレーク条件は、ブレークバスサイクルレジスタ (BBR) にセットします。BBRの3つの制御ビットペア、すなわちCバスサイクルまたはIバスサイクルセレクト、命令フェッチまたはデータアクセスセレクト、読み出しまたは書き込みセレクトの3つの制御ビットペアのどれか1つでも00の場合は、ユーザブレークは発生しません。ブレーク制御は、BRCRのビットにセットします。すべてのブレーク関連レジスタの設定後にBBRの設定を行い、最後に書き込んだレジスタを読み出し後、NOP命令を5個以上実行してから分岐を発生させてください。分岐先の命令から新しく書き込んだレジスタ値が有効となります。
2. ブレーク条件を満足すると、UBCはユーザブレーク要求をCPUに通知するとともに、それぞれのチャンネルに対するCバス条件一致フラグ (SCMFC)、Iバス条件一致フラグ (SCMFD) をセットし、 \overline{UBCTRG} 端子にCKS1、CKS0ビットで設定されたパルス幅で出力します。また、BBRのUBIDビットを1にセットすることにより、ユーザブレーク割り込みを要求せず外部でトリガ出力をモニタすることも可能です。
3. ユーザブレーク割り込み要求信号を受け取ると、INTCは優先順位判定を行います。ユーザブレーク割り込みは優先レベル15なので、ステータスレジスタ (SR) の割り込みマスクレベルビット (I3~I0) がレベル14以下のとき、受け付けられます。I3~I0ビットがレベル15のとき、ユーザブレーク割り込みは受け付けられませんが、条件判定は行われ、一致した場合は条件一致フラグがセットされます。優先順位判定については、「第8章 割り込みコントローラ (INTC)」を参照してください。
4. 設定条件の一致または不一致をチェックするため、該当する条件一致フラグ (SCMFC、SCMFD) を使用することができます。フラグは条件一致によりセットされますが、リセットされません。フラグを再び使用できるようにするためには、まず0を書き込まなければなりません。ユーザブレーク割り込み例外処理ルーチン中に条件一致フラグビットをクリアする動作を行ってください。この動作を行わないと再度割り込みが発生してしまいます。
5. チャンネル0およびチャンネル1で設定したブレークがほぼ同時に発生する場合があります。CPUに対するブレーク割り込み要求は1つだけであっても、これらの2つのブレークチャンネル一致フラグは2つともセットされる場合があります。
6. ブレーク条件としてIバスを選択した場合は、次のことに注意してください。
 - Iバスには、CPUとDMACを含む複数のバスマスタが接続されています。UBCはBBRで指定したバスマスタの生成するバスサイクルを監視し、条件一致判定を行います。
 - CPUのCバス上での命令フェッチに起因したIバスサイクルをIバスでの命令フェッチサイクル、それ以外をデータアクセスサイクルと定義します。
 - DMAC、A-DMACが発行するIバスサイクルは、データアクセスサイクルのみです。

- Iバスにブレイク条件を設定している場合は、CPUが実行した命令に起因したIバスサイクルで条件が一致したときでも、どの命令でブレイクを受け付けるかを一意に決定することはできません。

9.4.2 命令フェッチサイクルでのブレイク

1. ブレイクバスサイクルレジスタ (BBR) にCバス/命令フェッチ/読み出し/ワードまたはロングワードが設定されると、ブレイク条件はFABバスの命令フェッチになります。命令実行の前にブレイクするか後にブレイクするかは、該当するチャンネルに対するブレイクコントロールレジスタ (BRCR) のPCBビットで選択できます。ブレイク条件として命令フェッチサイクルを設定する場合は、ブレイクアドレスレジスタ (BAR) のLSBを0にクリアしてください。このビットが1にセットされているとブレイクは発生しません。
2. 命令フェッチによるブレイクがその命令を実行する前に行われるように設定されている状態で条件が一致した場合は、命令がフェッチされて命令を実行することが確定した時点でブレイクが生じます。したがって、この機能はオーバラン (分岐または割り込みの遷移中にフェッチされ、しかも実行されない命令) によってフェッチされる命令には使用できません。遅延分岐命令の遅延スロットに対してこの種のブレイクが設定されると、分岐先の最初の命令実行前までブレイクは発生しません。

【注】遅延条件分岐命令が分岐しなかった場合は、その後続命令は遅延スロットとはみなされません。

3. ブレイク条件でブレイクが命令実行後に起こるように設定している場合は、ブレイク条件と一致した命令が実行され、次の命令の実行前にブレイクが発生します。実行前のブレイクの場合と同様、オーバランフェッチ命令では使用できません。遅延分岐命令およびその遅延スロットに対してこの種のブレイクが設定されると、分岐先の最初の命令までブレイクは発生しません。
4. 命令フェッチサイクルでのブレイクにおいてIバスを設定した場合は無効となります。

9.4.3 データアクセスサイクルでのブレイク

1. データアクセスブレイクにおいて、ブレイク条件としてCバスを指定した場合は、実行された命令によりアクセスされた論理アドレスに対して条件比較を行いブレイクを発生します。ブレイク条件としてIバスを指定した場合は、Iバスのバスマスタセレクトで指定したバスマスタが発行するデータアクセスサイクルの物理アドレスに対して条件比較を行いブレイクを発生します。Iバス上に発行されるCPUのバスサイクルに関しては、「9.4.1 ユーザブレイク動作の流れ」の6.の項を参照してください。
2. 表9.3にデータアクセスサイクルアドレスと各オペランドサイズについての比較条件の関係を示します。

表 9.3 データアクセスサイクルアドレスおよびオペランドサイズの比較条件

アクセスサイズ	比較アドレス
ロングワード	ブレイクアドレスレジスタのビット 31~2 とアドレスバスのビット 31~2 を比較
ワード	ブレイクアドレスレジスタのビット 31~1 とアドレスバスのビット 31~1 を比較
バイト	ブレイクアドレスレジスタのビット 31~0 とアドレスバスのビット 31~0 を比較

これは、たとえばブレイクアドレスレジスタ (BAR) にアドレスH'00001003を設定するとき、ブレイク条件を満足するバスサイクルには、(他のすべての条件が満足されると仮定した場合) 以下が含まれることを意味します。

H'00001000 でのロングワードアクセス
 H'00001002 でのワードアクセス
 H'00001003 でのバイトアクセス

3. データアクセスサイクルを選択している場合は、ブレイクの発生する命令を特定することはできません。

9.4.4 回避されるプログラムカウンタの値

ブレイク発生時は、実行を再開すべき命令のアドレスをスタックに退避し、例外処理状態に移行します。ブレイク条件としてCバス (FAB) /命令フェッチを指定している場合は、ブレイクの発生する命令を一意に決定することができます。ブレイク条件としてCバス/データアクセスサイクル、またはIバス/データアクセスサイクルを指定している場合は、ブレイクの発生する命令を一意に決定することはできません。

1. Cバス (FAB) /命令フェッチを (命令実行前) ブレイク条件として指定する場合

スタックには、ブレイク条件と一致した命令のアドレスが退避されます。条件が一致した命令は実行されず、その前にブレイクが発生します。ただし、遅延スロット命令で条件が一致した場合は、それらの命令は実行され、分岐先のアドレスがスタックに退避されます。

2. Cバス (FAB) /命令フェッチを (命令実行後) ブレイク条件として指定する場合

スタックには、ブレイク条件と一致した命令の次の命令のアドレスが退避されます。条件が一致した命令は実行され、次の命令の実行前にブレイクが発生します。遅延分岐命令やその遅延スロットで一致した場合は、それらの命令は実行され、分岐先のアドレスがスタックに退避されます。

3. Cバス/データアクセスまたはIバス/データアクセスをブレイク条件として指定する場合

スタックには、ブレイク条件と一致した命令の数命令分の命令実行後のアドレスが退避されます。

9.4.5 使用例

(1) Cバス命令フェッチサイクルに指定したブレイク条件

(例 1-1)

• レジスタ指定

BAR_0=H'00000404, BAMR_0=H'00000000, BBR_0=H'0054, BAR_1=H'00008010, BAMR_1=H'00000006,
BBR_1=H'0054, BRCCR=H'00000010

<チャンネル0>

アドレス: H'00000404、アドレスマスク: H'00000000

バスサイクル: Cバス/命令フェッチ (命令実行後) /読み出し (オペランドサイズは条件に含まれません)

<チャンネル1>

アドレス: H'00008010、アドレスマスク: H'00000006

データ: H'00000000、データマスク: H'00000000

バスサイクル: Cバス/命令フェッチ (命令実行前) /読み出し (オペランドサイズは条件に含まれません)

ユーザブレイクは、アドレスH'00000404の命令実行後、またはアドレスH'00008010~H'00008016の命令の実行前に発生します。

(例 1-2)

- レジスタ指定

BAR_0=H'00027128、BAMR_0=H'00000000、BBR_0=H'005A、BAR_1=H'00031415、BAMR_1=H'00000000、
BBR_1=H'0054、BRCCR=H'00000000

<チャンネル 0>

アドレス：H'00027128、アドレスマスク：H'00000000

バスサイクル：Cバス／命令フェッチ（命令実行前）／書き込み／ワード

<チャンネル 1>

アドレス：H'00031415、アドレスマスク：H'00000000

データ：H'00000000、データマスク：H'00000000

バスサイクル：Cバス／命令フェッチ（命令実行前）／読み出し（オペランドサイズは条件に含まれません）

チャンネル0では、命令フェッチは書き込みサイクルではないのでユーザブレイクは生じません。チャンネル1では、命令フェッチは偶数アドレスに対して実行されるのでユーザブレイクは発生しません。

(例 1-3)

- レジスタ指定

BAR_0=H'00008404、BAMR_0=H'00000FFF、BBR_0=H'0054、BAR_1=H'00008010、BAMR_1=H'00000006、
BBR_1=H'0054、BRCCR=H'00000010

<チャンネル 0>

アドレス：H'00008404、アドレスマスク：H'00000FFF

バスサイクル：Cバス／命令フェッチ（命令実行後）／読み出し（オペランドサイズは条件に含まれません）

<チャンネル 1>

アドレス：H'00008010、アドレスマスク：H'00000006

データ：H'00000000、データマスク：H'00000000

バスサイクル：Cバス／命令フェッチ（命令実行前）／読み出し（オペランドサイズは条件に含まれません）

ユーザブレイクは、アドレスH'00008000～H'00008FFEの命令の実行後、またはアドレスH'00008010～H'00008016の命令の実行前に生じます。

(2) Cバスデータアクセスサイクルに指定したブレイク条件

(例 2-1)

• レジスタ指定

BAR_0=H'00123456、BAMR_0=H'00000000、BBR_0=H'0064、BAR_1=H'000ABCDE、
BAMR_1=H'000000FF、BBR_1=H'006A、BRCCR=H'00000000

<チャンネル 0>

アドレス：H'00123456、アドレスマスク：H'00000000

バスサイクル：Cバス/データアクセス/読み出し（オペランドサイズは条件に含まれません）

<チャンネル 1>

アドレス：H'000ABCDE、アドレスマスク：H'000000FF

データ：H'0000A512、データマスク：H'00000000

バスサイクル：Cバス/データアクセス/書き込み/ワード

チャンネル0では、ユーザブレイクはアドレスH'00123456に対するロングワードの読み出し、アドレスH'00123456に対するワード読み出し、あるいはアドレスH'00123456に対するバイト読み出しで生じます。チャンネル1では、ユーザブレイクはH'000ABC00~H'000ABCFEにワードデータを書き込むときに生じます。

(3) Iバスデータアクセスサイクルに指定されたブレイク条件

(例 3-1)

• レジスタ指定：

BAR_0=H'00314156、BAMR_0=H'00000000、BBR_0=H'0094、BAR_1=H'00055555、BAMR_1=H'00000000、
BBR_1=H'02A9、BRCCR=H'00000000

<チャンネル 0>

アドレス：H'00314156、アドレスマスク：H'00000000

バスサイクル：Iバス/命令フェッチ/読み出し（オペランドサイズは条件に含まれません）

<チャンネル 1>

アドレス：H'00055555、アドレスマスク：H'00000000

データ：H'00000078、データマスク：H'0000000F

バスサイクル：Iバス/データアクセス/書き込み/バイト

チャンネル0では、Iバス上の命令フェッチの設定であり無効となります。チャンネル1では、ユーザブレイクはIバス上でDMACがバイトデータをアドレスH'00055555に書き込むときに生じます（CPUの場合は生じません）。

9.5 使用上の注意事項

1. UBCのレジスタの読み出しまたは書き込みは、Iバス経由で行われます。したがって、UBCのレジスタを書き換える命令を実行してから実際にその値が反映されるまでの期間は、所望のブレイクが発生しない場合があります。UBCレジスタが変更されるタイミングを知るためには、最後に書き込んだレジスタを読み出し後、NOP命令を5個以上実行してください。それ以降の命令は、新しく書き込んだレジスタ値に対して有効です。
2. UBCはCバスサイクルとIバスサイクルを同じチャンネルで監視することはできません。
3. ユーザブレイクと他の例外が同一命令で発生した場合は、「第7章 例外処理」の表7.1に定められた優先順位で判定が行われます。より高い優先度の例外が発生した場合は、ユーザブレイクは発生しません。
4. 遅延スロットでブレイクが発生する場合は、次の注意事項があります。
遅延スロット命令に対して命令実行前ブレイクを設定した場合は、その分岐先の実行前までブレイクは発生しません。
5. UBCモジュールスタンバイ時は、ユーザブレイク機能を使用できません。また、モジュールスタンバイ中は、UBCレジスタを読み書きしないでください。読み書きした場合は、その値は保証されません。
6. 割り込み優先レベルが15以上（ユーザブレイク割り込みを含む）である割り込み例外処理のルーチンが置かれるアドレスをブレイクアドレスとして設定しないでください。
7. SLEEP命令および遅延スロットがSLEEP命令となる分岐命令には命令実行後ブレイクを設定しないでください。
8. 32ビット命令にブレイクアドレスを設定する場合、前の16ビット側になるように設定してください。後ろ16ビット側にブレイクアドレスを設定した場合、ブレイク条件として命令実行前に設定したとしても命令実行後扱いとなります。
9. DIVU、DIVS命令の次命令に命令実行前ブレイクを設定しないでください。DIVU、DIVS命令の次命令に対して命令実行前ブレイクを設定した場合、DIVU、DIVS命令実行中に例外、割り込みが発生し、DIVU、DIVS命令の実行が中断されても、次命令の命令実行前ブレイクが発生します。

10. バスステートコントローラ（BSC）

外部バスコントローラ（BSC）は、外部アドレス空間に接続された外部メモリ、外部デバイスに対し制御信号を出力します。これにより、SRAMやROM、バイト選択付きSRAMなどのメモリ、および外部デバイスを直接接続することができます。

10.1 特長

1. 外部アドレス空間

- CS0～CS3空間は、それぞれ最大4Mバイトのリニア空間アクセスをサポート
- 空間ごとに、データバス幅（8ビットまたは16ビット）を選択可能
- 空間ごとに、ウェイトステートの挿入を制御可能
- リードアクセス、ライトアクセスごとにウェイトステートの挿入を制御可能
- 連続するアクセスがリーダーライト（同一空間または別空間）、リーダーリード（同一空間または別空間）、および先頭サイクルがライトの場合の5種類独立にアイドルサイクルを設定可能

図 10.1 に BSC のブロック図を示します。

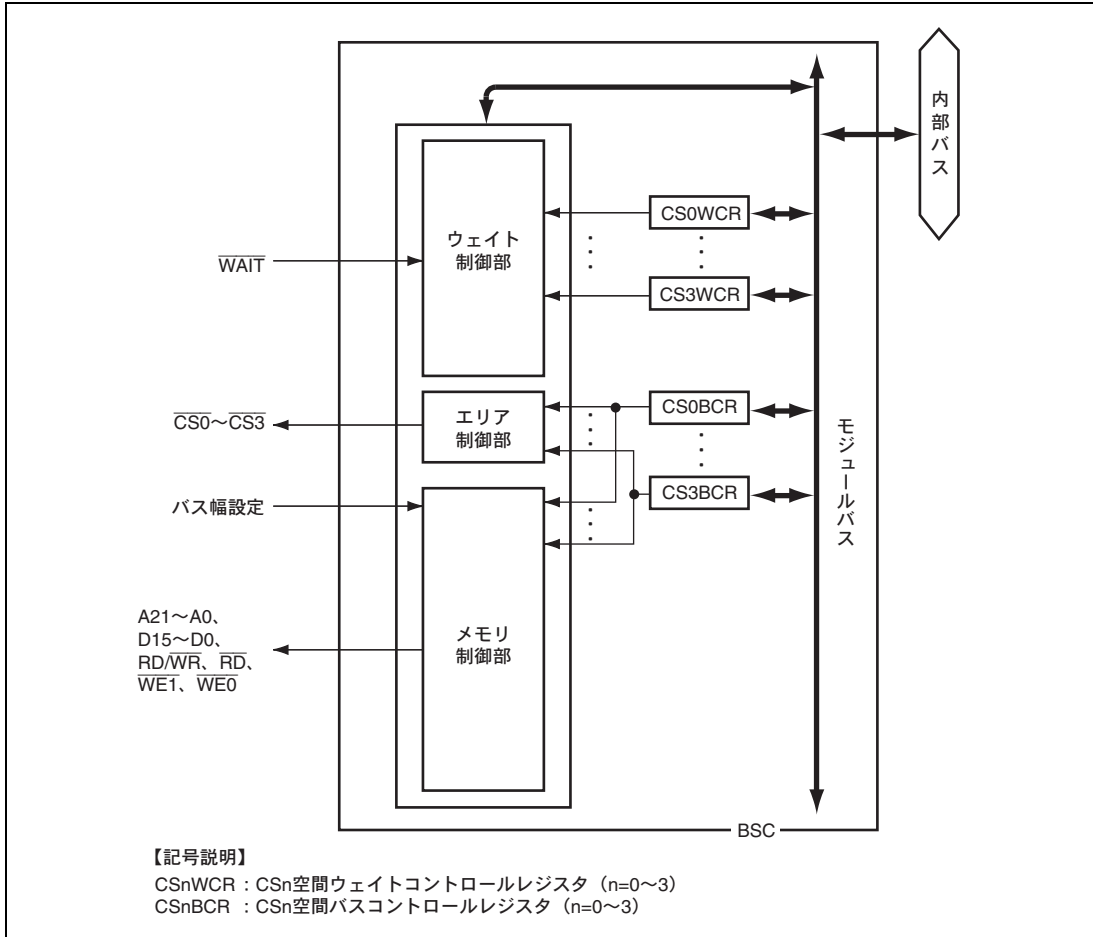


図 10.1 BSC のブロック図

10.2 入出力端子

BSC の端子構成を表 10.1 に示します。

表 10.1 端子構成

端子名	入出力	機能
A21~A0	出力	外部アドレスバス
D15~D0	入出力	外部データバス
$\overline{CS0}$ ~ $\overline{CS3}$	出力	チップセレクト
\overline{RD} / \overline{WR}	出力	リードまたはライト信号 バイト選択付き SRAM 接続時に \overline{WE} 端子に接続可能
\overline{RD}	出力	リードパルス信号 (リードデータ出力許可信号)
$\overline{WE1}$	出力	D15~D8 対応のバイト書き込み指示 バイト選択付き SRAM 接続時は、バイトセレクト指示
$\overline{WE0}$	出力	D7~D0 対応のバイト書き込み指示 バイト選択付き SRAM 接続時は、バイトセレクト指示
\overline{WAIT}	入力	外部ウェイト入力
バス幅設定	入力	CS0~CS3 空間のバス幅初期値選択

10.3 エリアの概要

10.3.1 アドレスマップ

本 LSI は、アーキテクチャとして 32 ビットのアドレス空間を有しており、上位 6 ビットで、内部アドレス空間 (内蔵 RAM、内蔵 I/O レジスタ、予約)、外部アドレス空間、内蔵 ROM 空間に分割されています。

CS0～CS3 のどの空間でも、SRAM またはバイト選択付き SRAM のいずれかのインタフェースを選択できます。ただし、内蔵 ROM 無効モード時の CS0 空間は SRAM インタフェースで起動します。外部アドレス空間のアドレスマップは表 10.2 と表 10.3 に示すとおりです。

表 10.2 内蔵 ROM 有効モード時のアドレスマップ

アドレス	アドレス空間の種類	サイズ
H'0000 0000～H'003B FFFF (H'0000 0000～H'0000 7FFF) *1	内蔵 ROM (ユーザマットリード) (内蔵 ROM (ユーザブートマットリード))	3.75MB (32KB)
H'003C 0000～H'0040 1FFF	予約エリア	
H'0040 2000～H'0040 3FFF	FCU ファーム領域	8KB
H'0040 4000～H'01FF FFFF	予約エリア	
H'0200 0000～H'023F FFFF	外部アドレス空間 (CS0)	4MB
H'0240 0000～H'03FF FFFF	CS0 シャドウ空間	28MB
H'0400 0000～H'043F FFFF	外部アドレス空間 (CS1)	4MB
H'0440 0000～H'07FF FFFF	CS1 シャドウ空間	60MB
H'0800 0000～H'083F FFFF	外部アドレス空間 (CS2)	4MB
H'0840 0000～H'0BFF FFFF	CS2 シャドウ空間	60MB
H'0C00 0000～H'0C3F FFFF	外部アドレス空間 (CS3)	4MB
H'0C40 0000～H'0FFF FFFF	CS3 シャドウ空間	60MB
H'1000 0000～H'800F FFFF	予約エリア	
H'8010 0000～H'8011 FFFF	EEPROM (リード/ライト) *2	128KB
H'8012 0000～H'807F FFFF	予約エリア	
H'8080 0000～H'80BB FFFF (H'8080 0000～H'8080 7FFF) *1	内蔵 ROM (ユーザマットライト) (内蔵 ROM (ユーザブートマットライト))	3.75MB (32KB)
H'80BC 0000～H'80FF 7FFF	予約エリア	
H'80FF 8000～H'80FF 9FFF	FCU RAM 領域	8KB
H'80FF A000～H'FFF7 FFFF	予約エリア	
H'FFF8 0000～H'FFFB FFFF	内蔵 RAM*3	256KB
H'FFFC 0000～H'FFFF FFFF	内蔵 I/O レジスタ*3	256KB (Max.)

【注】 *1 内蔵 ROM のユーザブートマットを選択した場合です。詳細は「第 25 章 ROM」を参照してください。

*2 EEPROM 領域には、ロットトレース情報が含まれます。詳細は「第 26 章 EEPROM」を参照してください。

*3 内蔵 RAM 空間は「第 5 章 アドレス空間」で示すアドレスにアクセスしてください。内蔵 I/O レジスタ空間のアクセスは「第 31 章 レジスタ一覧」で示すアドレスにアクセスしてください。これらに記載のないアドレスにはアクセスしないでください。アクセスした場合は、動作の保証はできません。

表 10.3 内蔵 ROM 無効モード時のアドレスマップ

アドレス	アドレス空間の種類	サイズ
H'0000 0000~H'003F FFFF	外部アドレス空間 (CS0)	4MB
H'0040 0000~H'03FF FFFF	CS0 シャドウ空間	60MB
H'0400 0000~H'043F FFFF	外部アドレス空間 (CS1)	4MB
H'0440 0000~H'07FF FFFF	CS1 シャドウ空間	60MB
H'0800 0000~H'083F FFFF	外部アドレス空間 (CS2)	4MB
H'0840 0000~H'0BFF FFFF	CS2 シャドウ空間	60MB
H'0C00 0000~H'0C3F FFFF	外部アドレス空間 (CS3)	4MB
H'0C40 0000~H'0FFF FFFF	CS3 シャドウ空間	60MB
H'1000 0000~H'FFFF 7FFF	予約エリア	
H'FFF8 0000~H'FFFB FFFF	内蔵 RAM*	256KB
H'FFFC 0000~H'FFF FFFF	内蔵 I/O レジスタ*	256KB (Max.)

【注】 * 内蔵 RAM 空間は「第 5 章 アドレス空間」で示すアドレスにアクセスしてください。内蔵 I/O レジスタ空間のアクセスは「第 31 章 レジスタ一覧」で示すアドレスにアクセスしてください。これらに記載のないアドレスにはアクセスしないでください。アクセスした場合は、動作の保証はできません。

10.3.2 動作モードと CS0 空間のデータバス幅

本 LSI は、パワーオンリセット時にモード設定端子を用いて、以下に示す動作モードの設定を行うことができます。

(1) シングルチップモード／外部アドレス空間アクセス可能モード

シングルチップモードでは外部アドレス空間のアクセスは行われません。外部アドレス空間アクセス可能モードで使用されるアドレス、データ、制御の端子をポート機能などに行うことができます。

(2) 内蔵 ROM 有効モード／内蔵 ROM 無効モード

内蔵 ROM 有効モードでは、CS0 空間の前半が内蔵 ROM に割り当てられるため、パワーオンリセットから内蔵 ROM プログラムで起動できます。

内蔵 ROM 無効モードでは、CS0 空間に割り当てられた外部メモリに格納されているプログラムで起動します。この場合、CS0 空間の外部メモリは SRAM インタフェースとなりますので、バイト選択付き SRAM は接続できません。

RD/ $\overline{\text{WR}}$ 信号や $\overline{\text{CS1}}$ ～ $\overline{\text{CS3}}$ 信号を使用する場合、ピンファンクションコントローラでの端子設定が必要です。詳細は「第 22 章 ピンファンクションコントローラ (PFC)」を参照してください。なお、プログラムによる端子設定が完了するまでは CS0 空間のアクセス以外には行わないでください。

(3) CS0 空間のデータバス幅

内蔵 ROM 無効モードの場合には、CS0 空間のデータバス幅を 8 ビットまたは 16 ビットから選択できます。CS1～CS3 空間のデータバス幅はレジスタで設定します。内蔵 ROM 有効モードでは、CS0～CS3 空間のすべてのデータバス幅をレジスタで設定します。

モード設定の方法については、「第 3 章 動作モード」を参照してください。

10.4 レジスタの説明

BSC には以下のレジスタがあります。

これらのレジスタのアドレスおよびアクセスサイズについては、「第 31 章 レジスタ一覧」を参照してください。内蔵 ROM 無効モード時には、メモリとのインタフェースの設定が終了するまでは、CS0 空間以外はアクセスしないでください。

表 10.4 レジスタ構成

レジスタ名	略称	R/W	初期値	アドレス	アクセスサイズ
CSn 空間バスコントロールレジスタ	CSnBCR	R/W	H'36DB0400* H'36DB0200*	H'FFFC0004~ H'FFFC0010	32
CSn 空間ウェイトコントロールレジスタ	CSnWCR	R/W	H'00000500	H'FFFC0028~ H'FFFC0034	32

【注】 * 内蔵 ROM 有効モードまたは内蔵 ROM 無効モードで初期値は異なります。さらに内蔵 ROM 無効モードの場合には、モード端子の設定によって初期値は異なります。詳細については、「10.4.1 CSn 空間バスコントロールレジスタ (CSnBCR) (n=0~3)」を参照してください。

10.4.1 CSn 空間バスコントロールレジスタ (CSnBCR) (n=0~3)

CSnBCR は、各空間に接続するメモリの種類、空間のデータバス幅、およびアクセスサイクル間ウェイト数を設定します。パワーオンリセット時、内蔵 ROM 有効モードでは H'36DB0400、内蔵 ROM 無効モードの場合はモード端子の設定により H'36DB0400 (16 ビットバス幅のとき) または H'36DB0200 (8 ビットバス幅のとき) に初期化されます。

レジスタの初期設定が終了するまでは、CS0 以外の外部メモリをアクセスしないでください。

アイドルサイクルなしの指定でも、アイドルサイクルが挿入される場合があります。詳細は、「10.5.6 アクセスサイクル間アイドル」を参照ください。

ビット:	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	IWW[2:0]		IWRWD[2:0]			IWRWS[2:0]			IWRRD[2:0]			IWRRS[2:0]			
初期値:	0	0	1	1	0	1	1	0	1	1	0	1	1	0	1	1
R/W:	R	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	TYPE[1:0]		—	BSZ[1:0]		—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値:	0	0	0	0	0	1/0	0/1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R/W	R/W	R	R/W	R/W	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
31	—	0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。
30~28	IWW[2:0]	011	R/W	ライトリード/ライトライトサイクル間アイドル指定 本ビットは、空間に接続されたメモリをアクセスした後に挿入するアイドルサイクル数を指定します。対象となるサイクルは、ライトリードサイクルとライトライトサイクルの場合です。 000: アイドルサイクルなし (周辺クロック 2 通倍設定時 設定禁止) 001: 1 アイドルサイクル挿入 (周辺クロック 2 通倍設定時 設定禁止) 010: 2 アイドルサイクル挿入 011: 4 アイドルサイクル挿入 100: 6 アイドルサイクル挿入 101: 8 アイドルサイクル挿入 110: 10 アイドルサイクル挿入 111: 12 アイドルサイクル挿入
27~25	IWRWD[2:0]	011	R/W	別空間リード-ライトサイクル間アイドル指定 本ビットは、空間に接続されたメモリをアクセスした後に挿入するアイドルサイクル数を指定します。対象となるサイクルは、連続するアクセスが別空間でかつリード-ライトサイクルの場合です。 000: アイドルサイクルなし (周辺クロック 2 通倍設定時 設定禁止) 001: 1 アイドルサイクル挿入 (周辺クロック 2 通倍設定時 設定禁止) 010: 2 アイドルサイクル挿入 011: 4 アイドルサイクル挿入 100: 6 アイドルサイクル挿入 101: 8 アイドルサイクル挿入 110: 10 アイドルサイクル挿入 111: 12 アイドルサイクル挿入
24~22	IWRWS[2:0]	011	R/W	同一空間リード-ライトサイクル間アイドル指定 本ビットは、空間に接続されたメモリをアクセスした後に挿入するアイドルサイクル数を指定します。対象となるサイクルは、連続するアクセスが同一空間でかつリード-ライトサイクルの場合です。 000: アイドルサイクルなし (周辺クロック 2 通倍設定時 設定禁止) 001: 1 アイドルサイクル挿入 (周辺クロック 2 通倍設定時 設定禁止) 010: 2 アイドルサイクル挿入 011: 4 アイドルサイクル挿入 100: 6 アイドルサイクル挿入 101: 8 アイドルサイクル挿入 110: 10 アイドルサイクル挿入 111: 12 アイドルサイクル挿入

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
21~19	IWRRD[2:0]	011	R/W	別空間リード-リードサイクル間アイドル指定 本ビットは、空間に接続されたメモリをアクセスした後に挿入するアイドルサイクル数を指定します。対象となるサイクルは、連続するアクセスが別空間でかつリード-リードサイクルの場合です。 000 : アイドルサイクルなし (周辺クロック 2 通倍設定時 設定禁止) 001 : 1 アイドルサイクル挿入 (周辺クロック 2 通倍設定時 設定禁止) 010 : 2 アイドルサイクル挿入 011 : 4 アイドルサイクル挿入 100 : 6 アイドルサイクル挿入 101 : 8 アイドルサイクル挿入 110 : 10 アイドルサイクル挿入 111 : 12 アイドルサイクル挿入
18~16	IWRRS[2:0]	011	R/W	同一空間リード-リードサイクル間アイドル指定 本ビットは、空間に接続されたメモリをアクセスした後に挿入するアイドルサイクル数を指定します。対象となるサイクルは、連続するアクセスが同一空間でかつリード-リードサイクルの場合です。 000 : アイドルサイクルなし (周辺クロック 2 通倍設定時 設定禁止) 001 : 1 アイドルサイクル挿入 (周辺クロック 2 通倍設定時 設定禁止) 010 : 2 アイドルサイクル挿入 011 : 4 アイドルサイクル挿入 100 : 6 アイドルサイクル挿入 101 : 8 アイドルサイクル挿入 110 : 10 アイドルサイクル挿入 111 : 12 アイドルサイクル挿入
15, 14	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
13, 12	TYPE[1:0]	00	R/W	本ビットは、空間に接続するメモリの種類を設定します。 00 : 通常空間 (SRAM) 01 : 予約 (設定禁止) 10 : 予約 (設定禁止) 11 : バイト選択付き SRAM
11	—	0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
10、9	BSZ[1:0]	10/01	R/W	<p>データバス幅指定</p> <p>本ビットは、空間のデータバス幅を指定します。</p> <p>00：予約（設定禁止）</p> <p>01：8ビット</p> <p>10：16ビット</p> <p>11：予約（設定禁止）</p> <p>【注】内蔵 ROM 無効モード時には、CS0～CS3 の初期状態のデータバス幅は、モード設定端子で設定します。BSZ[1:0]ビットには、パワーオンリセット時にサンプリングしたモード設定端子の情報が反映されます。また内蔵 ROM 無効モード時は、CS0BCR の BSZ[1:0]ビットへの書き込みのみは無視されますが、CS1BCR～CS3BCR のバス幅の変更は可能です。</p> <p>内蔵 ROM 有効モード時には、CS0～CS3 の初期状態のデータバス幅は16ビットとなります。このとき CS0BCR～CS3BCR のバス幅の変更は可能です。</p>
8～0	—	すべて0	R	<p>リザーブビット</p> <p>読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。</p>

10.4.2 CSn 空間ウェイトコントロールレジスタ (CSnWCR) (n=0～3)

CSnWCR は、メモリアクセスに関する各種ウェイトサイクルの設定を行います。CSnWCR は、CSnBCR レジスタを設定後に設定してください。

CSnWCR は、パワーオンリセット時に H'00000500 に初期化されます。

ビット：	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	BAS	—	—	—	WW[2:0]
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R/W	R	R/W	R/W	R/W
ビット：	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	SW[1:0]	—	—	—	—	—	—	—	—	—	HW[1:0]
初期値：	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R	R	R	R	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
31～21	—	すべて0	R	<p>リザーブビット</p> <p>読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。</p>
20	BAS	0	R/W	<p>バイト選択付き SRAM バイトアクセス選択</p> <p>本ビットは、バイト選択付き SRAM インタフェース時の $\overline{WE}n$ および RD/\overline{WR} 信号のタイミングを設定します。</p> <p>0：$\overline{WE}n$ はリードライトタイミングでアサート、RD/\overline{WR} はライトアクセスサイクル中アサート</p> <p>1：$\overline{WE}n$ はリードライトアクセスサイクル中アサート、RD/\overline{WR} はライトタイミングでアサート</p>

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
19	—	0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。
18~16	WW[2:0]	000	R/W	ライトアクセスウェイトサイクル数 本ビットには、ライトアクセスに必要なサイクル数を指定します。 000 : WR[3:0]設定 (リードアクセスウェイト数)と同じサイクル 001 : ウェイトサイクルなし (周辺クロック 2 通倍設定時 設定禁止) 010 : 1 サイクル 011 : 2 サイクル 100 : 3 サイクル 101 : 4 サイクル 110 : 5 サイクル 111 : 6 サイクル
15~13	—	すべて0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。
12, 11	SW[1:0]	00	R/W	[通常 SRAM 接続の場合およびバイト選択付き SRAM 接続で BAS=0 の場合] • アドレス、 \overline{CSn} アサート→ \overline{RD} 、 \overline{WEn} アサート遅延サイクル数 本ビットは、アドレス、 \overline{CSn} アサートから \overline{RD} 、 \overline{WEn} アサートまでの遅延サイクル数を指定します。 00 : 0.5 サイクル 01 : 1.5 サイクル 10 : 2.5 サイクル 11 : 3.5 サイクル [バイト選択付き SRAM 接続で BAS=1 の場合] • アドレス、 \overline{CSn} アサート→ \overline{RD} アサート遅延サイクル数 本ビットは、アドレス、 \overline{CSn} アサートから \overline{RD} アサートまでの遅延サイクル数を指定します。 00 : 0.5 サイクル 01 : 1.5 サイクル 10 : 2.5 サイクル 11 : 3.5 サイクル • アドレス、 \overline{CSn} アサート→RD/ \overline{WR} アサート遅延サイクル数 本ビットは、アドレス、 \overline{CSn} アサートから RD/ \overline{WR} アサートまでの遅延サイクル数を指定します。 00 : 1 サイクル 01 : 2 サイクル 10 : 3 サイクル 11 : 4 サイクル

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
10~7	WR[3:0]	1010	R/W	<p>リードアクセスウェイトサイクル数</p> <p>本ビットは、リードアクセスに必要なウェイトサイクル数を指定します。</p> <p>0000 : ウェイトサイクルなし (周辺クロック 2 週倍設定時 設定禁止)</p> <p>0001 : 1 サイクル</p> <p>0010 : 2 サイクル</p> <p>0011 : 3 サイクル</p> <p>0100 : 4 サイクル</p> <p>0101 : 5 サイクル</p> <p>0110 : 6 サイクル</p> <p>0111 : 8 サイクル</p> <p>1000 : 10 サイクル</p> <p>1001 : 12 サイクル</p> <p>1010 : 14 サイクル</p> <p>1011 : 18 サイクル</p> <p>1100 : 24 サイクル</p> <p>1101 : 予約 (設定禁止)</p> <p>1110 : 予約 (設定禁止)</p> <p>1111 : 予約 (設定禁止)</p>
6	WM	0	R/W	<p>外部ウェイトマスク指定</p> <p>本ビットは、外部ウェイト入力を有効にするか無視するかを指定します。アクセスウェイトサイクル数が 0 の場合でも、本ビットの設定は有効です</p> <p>0 : 外部ウェイト入力有効</p> <p>1 : 外部ウェイト入力無視</p>
5~2	—	すべて 0	R	<p>リザーブビット</p> <p>読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。</p>

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
1、0	HW[1:0]	00	R/W	<p>[通常 SRAM 接続の場合およびバイト選択付き SRAM 接続で BAS=0 の場合]</p> <ul style="list-style-type: none"> • \overline{RD}、\overline{WEn} ネゲート→アドレス、\overline{CSn} ネゲート遅延サイクル数 <p>本ビットは、\overline{RD}、\overline{WEn} ネゲートから、アドレス、\overline{CSn} ネゲートまでの遅延サイクル数を指定します。</p> <p>00 : 0.5 サイクル 01 : 1.5 サイクル 10 : 2.5 サイクル 11 : 3.5 サイクル</p> <p>[バイト選択付き SRAM 接続で BAS=1 の場合]</p> <ul style="list-style-type: none"> • \overline{RD} ネゲート→アドレス、\overline{CSn} ネゲート遅延サイクル数 <p>本ビットは、\overline{RD} ネゲートから、アドレス、\overline{CSn} ネゲートまでの遅延サイクル数を指定します。</p> <p>00 : 0.5 サイクル 01 : 1.5 サイクル 10 : 2.5 サイクル 11 : 3.5 サイクル</p> <ul style="list-style-type: none"> • $\overline{RD/\overline{WR}}$ ネゲート→アドレス、\overline{CSn} ネゲート遅延サイクル数 <p>本ビットは、$\overline{RD/\overline{WR}}$ ネゲートから、アドレス、\overline{CSn} ネゲートまでの遅延サイクル数を指定します。</p> <p>00 : 0 サイクル 01 : 1 サイクル 10 : 2 サイクル 11 : 3 サイクル</p>

10.5 動作説明

10.5.1 エンディアン/アクセスサイズとデータアライメント

本 LSI では、バイトデータの並び方を上位バイト (MSB) が 0 番地側になるビッグエンディアンをサポートしています。データバス幅は、8 ビットおよび 16 ビット幅の 2 種類から選べます。

データのアライメントは、各 CS 空間のデータバス幅にあわせて行われます。したがって、8 ビット幅の CS 空間からロングワードデータを読み出すためには、4 回の読み出し動作が必要です。本 LSI では、それぞれの CS 空間で、データのアライメントおよびデータ長の変換を自動的に行います。

デバイスのデータ幅とアクセスの単位との関係を表 10.5、表 10.6 に示します。

表 10.5 16 ビット外部デバイスのアクセスとデータアライメント

オペレーション		データバス		ストロープ信号	
		D15~D8	D7~D0	WE $\bar{1}$	WE $\bar{0}$
0 番地バイトアクセス		データ 7~0	—	アサート	—
1 番地バイトアクセス		—	データ 7~0	—	アサート
2 番地バイトアクセス		データ 7~0	—	アサート	—
3 番地バイトアクセス		—	データ 7~0	—	アサート
0 番地ワードアクセス		データ 15~8	データ 7~0	アサート	アサート
2 番地ワードアクセス		データ 15~8	データ 7~0	アサート	アサート
0 番地ロング ワードアクセス	1 回目 (0 番地)	データ 31~24	データ 23~16	アサート	アサート
	2 回目 (2 番地)	データ 15~8	データ 7~0	アサート	アサート

表 10.6 8 ビット外部デバイスのアクセスとデータアライメント

オペレーション		データバス		ストロープ信号	
		D15~D8	D7~D0	WE $\bar{1}$	WE $\bar{0}$
0 番地バイトアクセス		—	データ 7~0	—	アサート
1 番地バイトアクセス		—	データ 7~0	—	アサート
2 番地バイトアクセス		—	データ 7~0	—	アサート
3 番地バイトアクセス		—	データ 7~0	—	アサート
0 番地ワード アクセス	1 回目 (0 番地)	—	データ 15~8	—	アサート
	2 回目 (1 番地)	—	データ 7~0	—	アサート
2 番地ワード アクセス	1 回目 (2 番地)	—	データ 15~8	—	アサート
	2 回目 (3 番地)	—	データ 7~0	—	アサート
0 番地ロング ワードアクセス	1 回目 (0 番地)	—	データ 31~24	—	アサート
	2 回目 (1 番地)	—	データ 23~16	—	アサート
	3 回目 (2 番地)	—	データ 15~8	—	アサート
	4 回目 (3 番地)	—	データ 7~0	—	アサート

10.5.2 外部空間インタフェース

(1) 周辺クロック 1 週目設定時の基本タイミング

外部空間アクセスは、SRAM または ROM の直結を考慮してストロープ信号を出力します。図 10.2 に基本タイミングを示します。ウェイトのない通常アクセスは、2 サイクルで終了します。

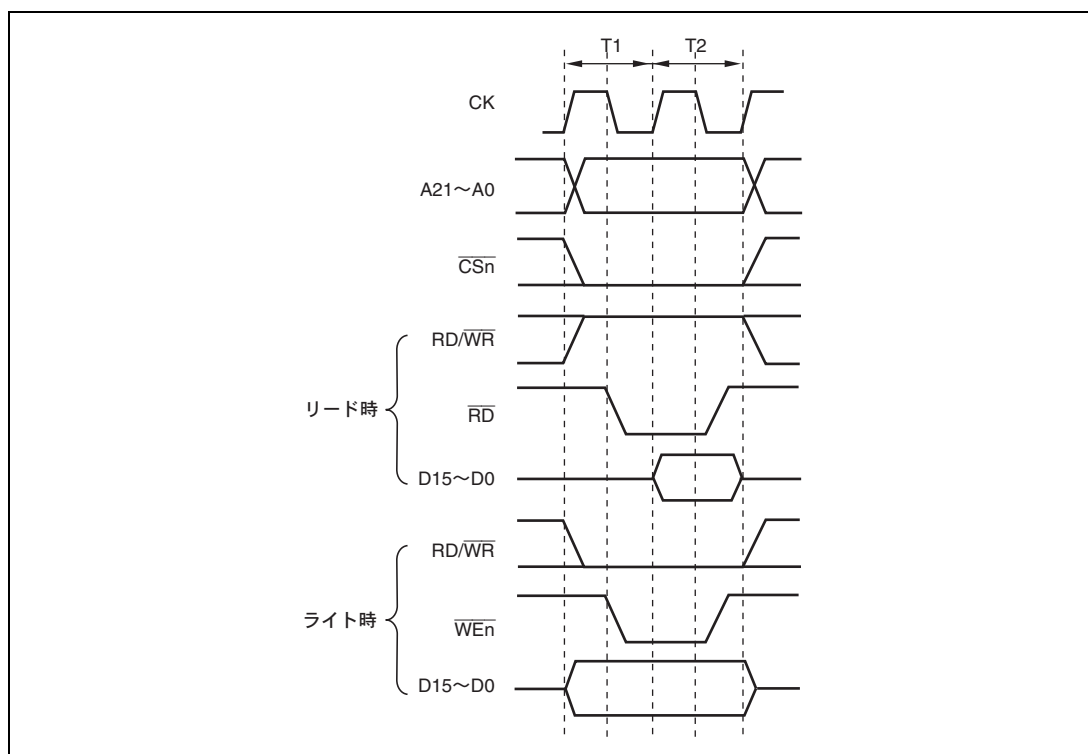


図 10.2 基本アクセス（アクセスウェイト 0）

リード時は、外部バスに対してアクセスサイズの指定がありません。アドレスの最下位ビットに正しいアクセス開始アドレスが出力されていますがアクセスサイズの指定がないので、16 ビット空間では 16 ビットを、8 ビット空間では 8 ビットを常に読み出すことになります。ライト時には、書き込みを行うバイトの \overline{WE}_n 信号のみがアサートされます。

データバスにバッファを設ける場合には、 \overline{RD} を用いてリードデータの出力制御を行う必要があります。 $\overline{RD}/\overline{WR}$ 信号は、アクセスを行っていないときはリード状態（ハイレベル出力）となっているため、これを用いて外付けデータバッファの制御を行うと出力が衝突する危険性があるので注意が必要です。

図 10.3、図 10.4 に連続アクセスの例を示します。CSnWCR の WM ビットを 0 に設定すると、設定した CSn 空間アクセスの後に外部ウェイトを評価するために 1 サイクル T_{nop} が挿入されます（図 10.3）。しかし、CSnWCR の WM ビットを 1 に設定すると、外部ウェイトが無視され T_{nop} サイクルの挿入を抑制することができます（図 10.4）。

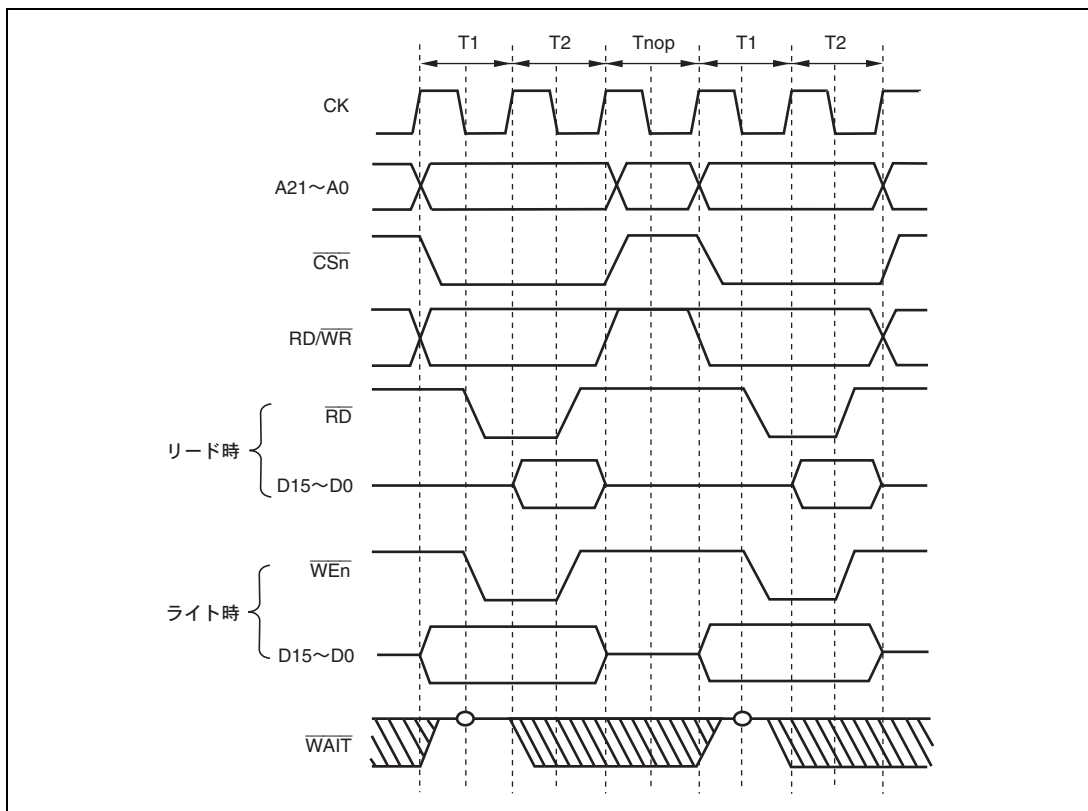


図 10.3 連続アクセス例 1

バス幅 16 ビット、ロングワードアクセス、CSnWCR.WM ビット=0
 (アクセスウェイト 0、サイクル間ウェイト 0)

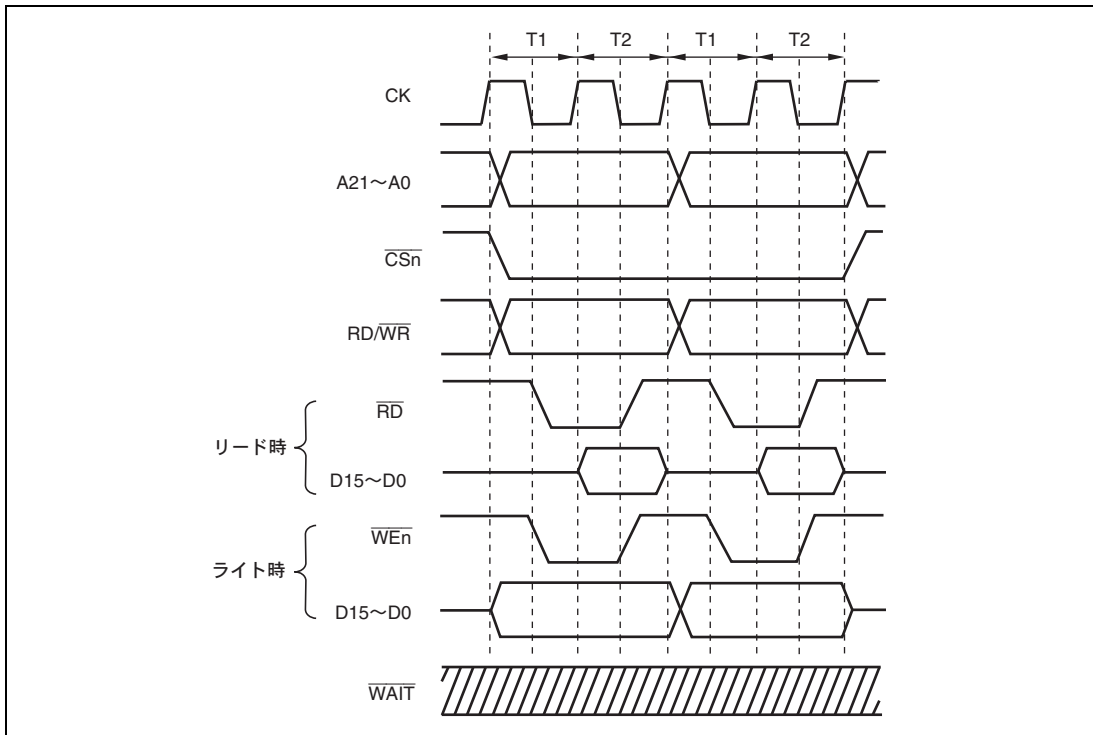


図 10.4 連続アクセス例 2

バス幅 16 ビット、ロングワードアクセス、CSnWCR.WM ビット=1
 (アクセスウェイト 0、サイクル間ウェイト 0)

(2) 周辺クロック 2 通倍設定時の基本タイミング

周辺クロック 2 通倍設定時では、 T_w が 1 サイクル以上、 T_{id} が 2 サイクル以上挿入されるように $CSnBCR$ と $CSnWCR$ を設定する必要があります。図 10.5 に周辺クロック 2 通倍設定時の基本タイミングを示します。また図 10.6 に周辺クロック 2 通倍設定時の通常空間連続アクセスを示します。 $CSnWCR.WR[3:0]$ ビットを 0001 に設定することにより 1 サイクルの T_w が挿入されます (図 10.5)。 $CSnBCR$ の $IWW[2:0]$ 、 $IWRWD[2:0]$ 、 $IWRWS[2:0]$ 、 $IWRRD[2:0]$ 、 $IWRRS[2:0]$ ビットをそれぞれ 010 に設定することにより、 CSn 空間アクセスの後に 2 サイクルの T_{id} が挿入されます (図 10.6)。また、 $CSnWCR.WM$ ビットが 0 の場合でも T_{nop} は挿入されません (「10.5.6 アクセスサイクル間アイドル」を参照してください)。

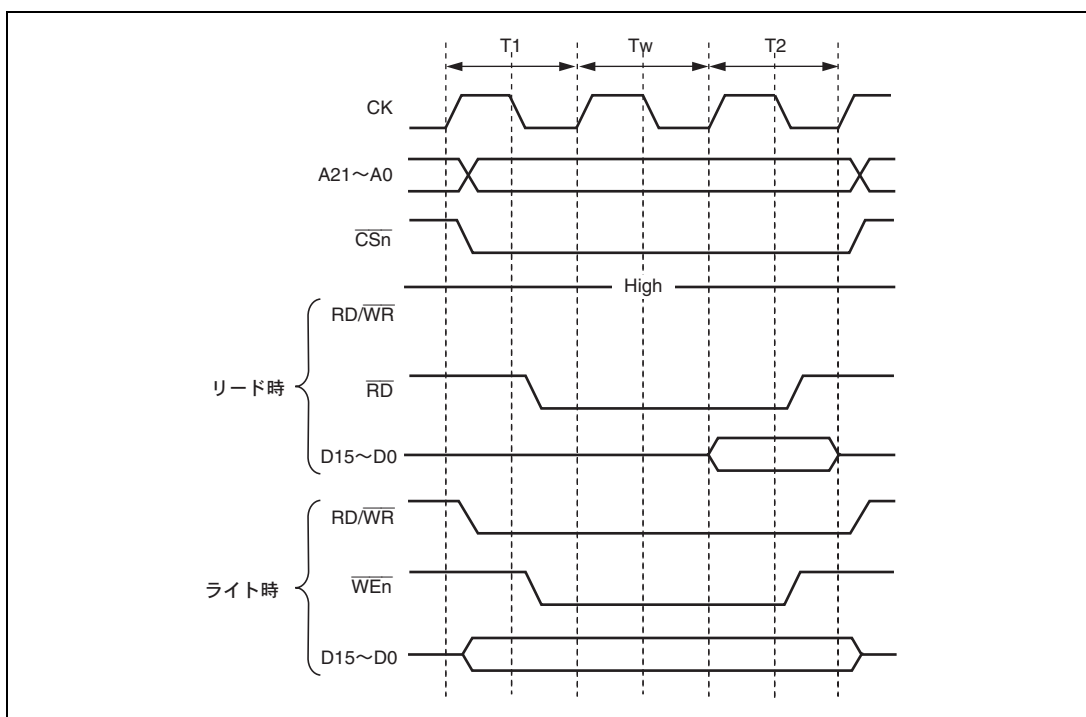


図 10.5 周辺クロック 2 通倍設定時の基本アクセス (アクセスウェイト 1)

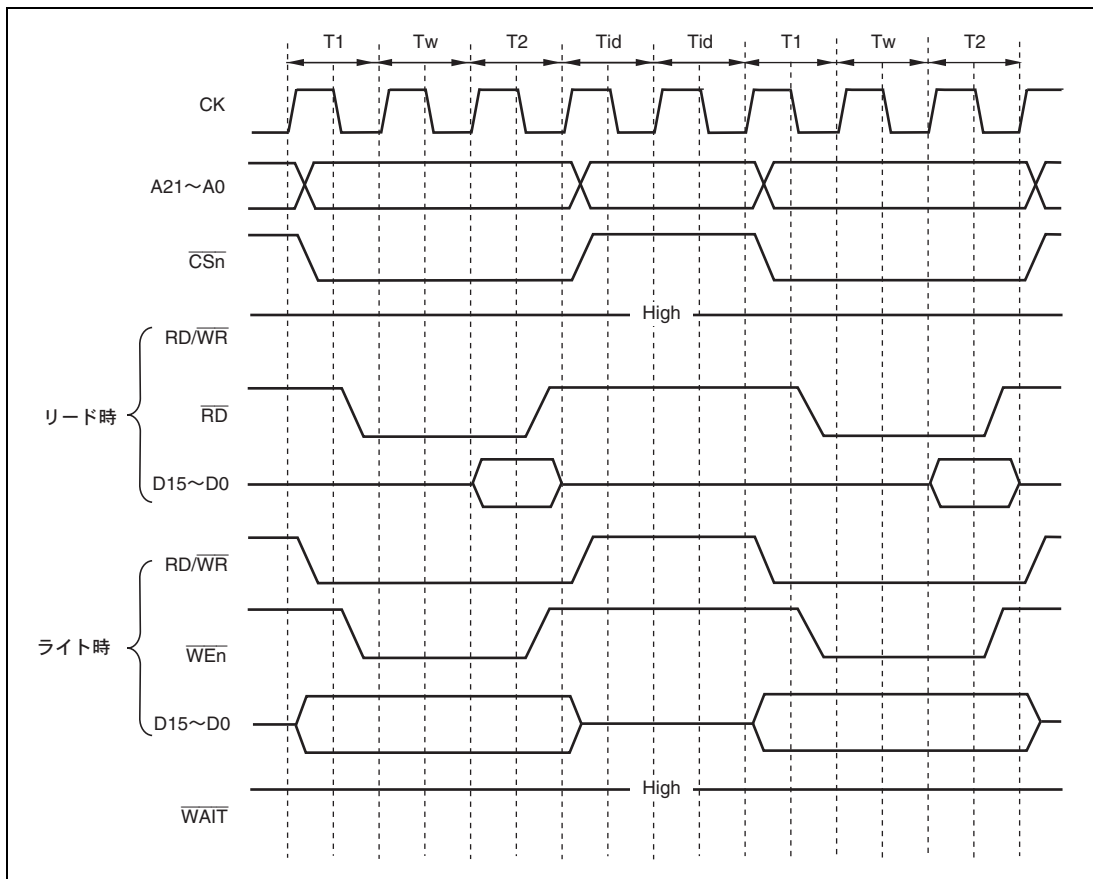


図 10.6 周辺クロック 2 通倍設定時の連続アクセス
 バス幅 16 ビット、ロングワードアクセス
 (アクセスウェイト 1、サイクル間ウェイト 2)

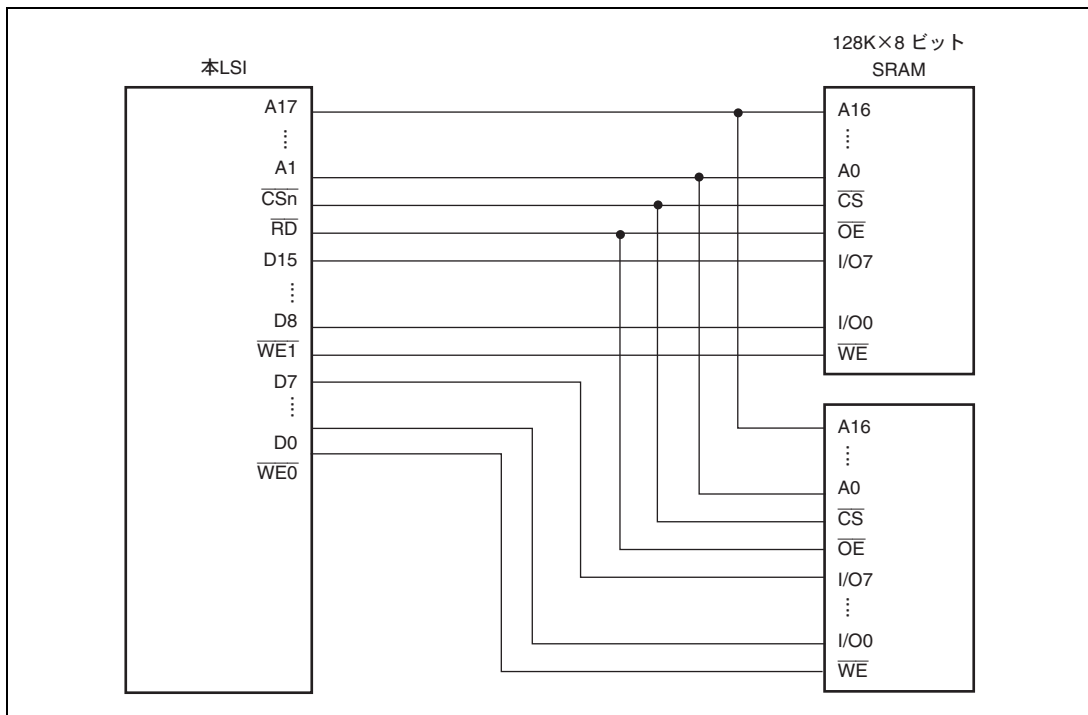


図 10.7 16 ビットデータ幅 SRAM 接続例

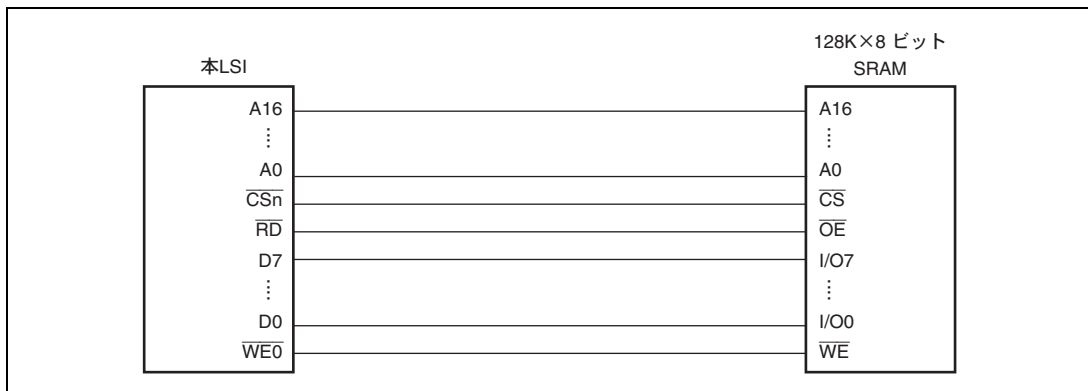


図 10.8 8 ビットデータ幅 SRAM 接続例

10.5.3 アクセスウェイト制御

CSnWCR の WR[3:0]ビットの設定により、通常空間アクセスのウェイトサイクルの挿入を制御できます。リードアクセスとライトアクセスで独立にウェイトサイクルを挿入することが可能です。図 10.9 に示すアクセスでは、 T_w のサイクルがウェイトサイクルとして指定サイクル数だけ挿入されます。

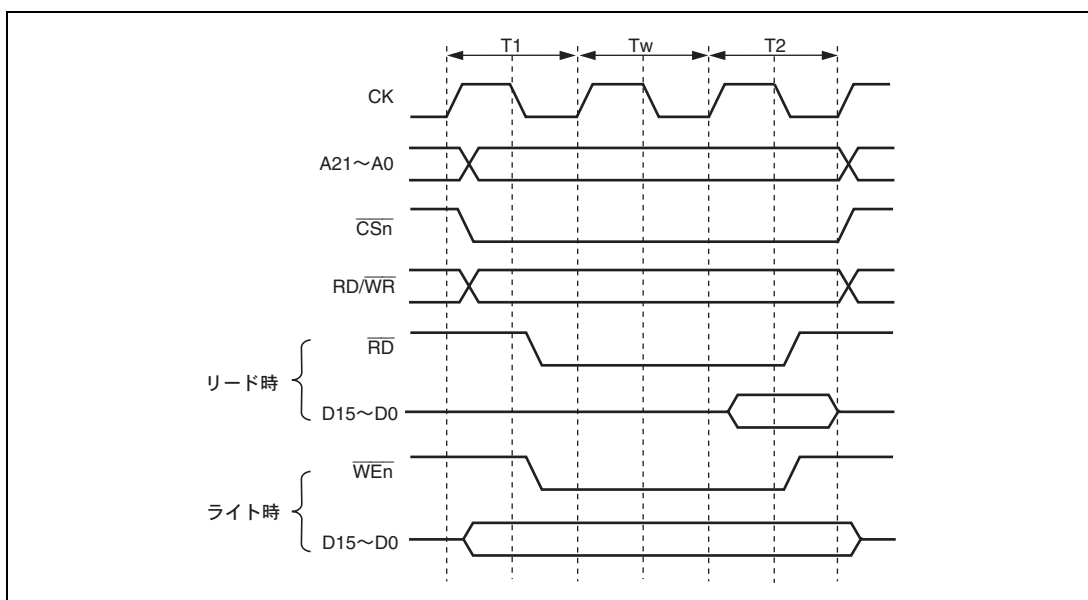


図 10.9 外部空間アクセスのウェイトタイミング (ソフトウェアウェイトのみ)

CSnWCR の WM ビットを 0 としたときには、外部からのウェイト入力 $\overline{\text{WAIT}}$ 信号もサンプリングされます。 $\overline{\text{WAIT}}$ 信号のサンプリングを図 10.10 に示します。ソフトウェアウェイトとして 2 サイクルのウェイトを指定しています。 $\overline{\text{WAIT}}$ 信号は、T1 または Tw サイクルから T2 サイクルに移行する際に、CK の立ち下がりでサンプリングされます。

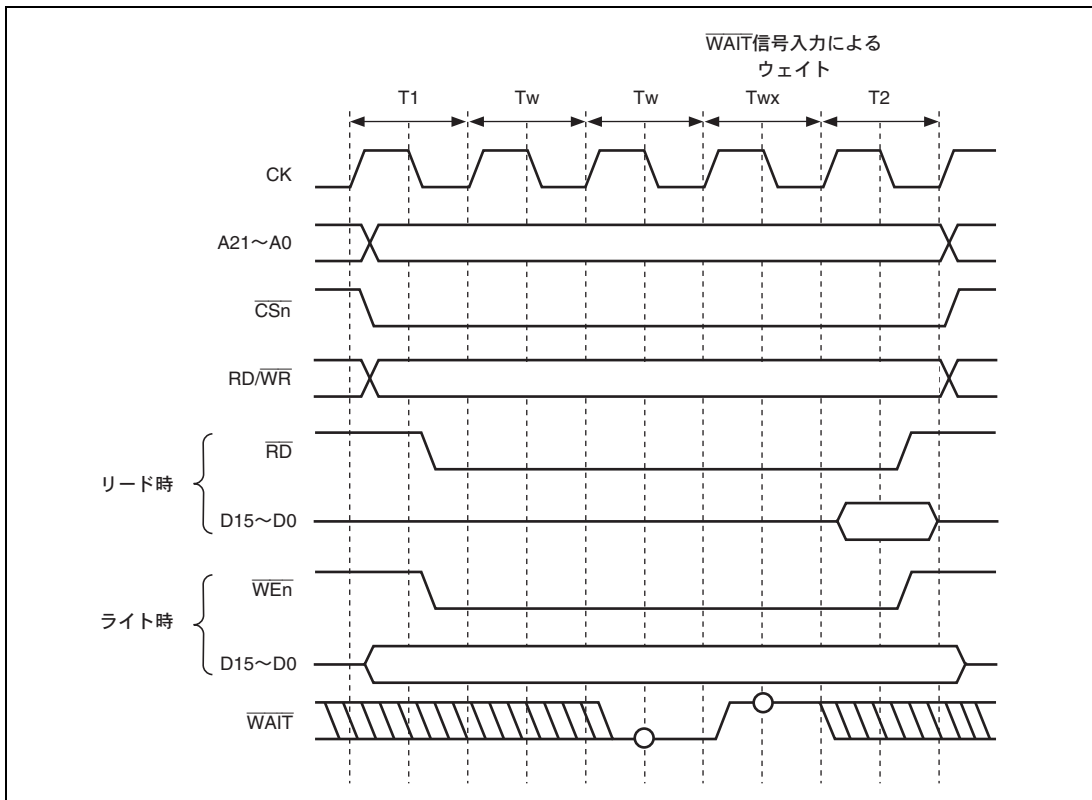


図 10.10 外部空間アクセスのウェイトタイミング (WAIT 信号によるウェイト挿入)

10.5.4 \overline{CSn} アサート期間拡張

\overline{CSnWCR} の SW[1:0] ビットの設定により、 \overline{CSn} アサートから \overline{RD} と \overline{WEn} アサートまでのサイクル数を指定できます。また、HW[1:0] ビットの設定により、 \overline{RD} と \overline{WEn} ネゲートから \overline{CSn} ネゲートまでのサイクル数を指定できます。これにより、外部デバイスとのフレキシブルなインタフェースがとれます。例を図 10.11 に示します。Th および Tf サイクルが通常サイクルの前と後ろにそれぞれ付加されています。これらのサイクルでは、 \overline{RD} と \overline{WEn} 以外はアサートされますが、 \overline{RD} と \overline{WEn} はアサートされません。また、データは Tf サイクルまで延長して出力されるので、書き込み動作の遅いデバイスなどに有効です。

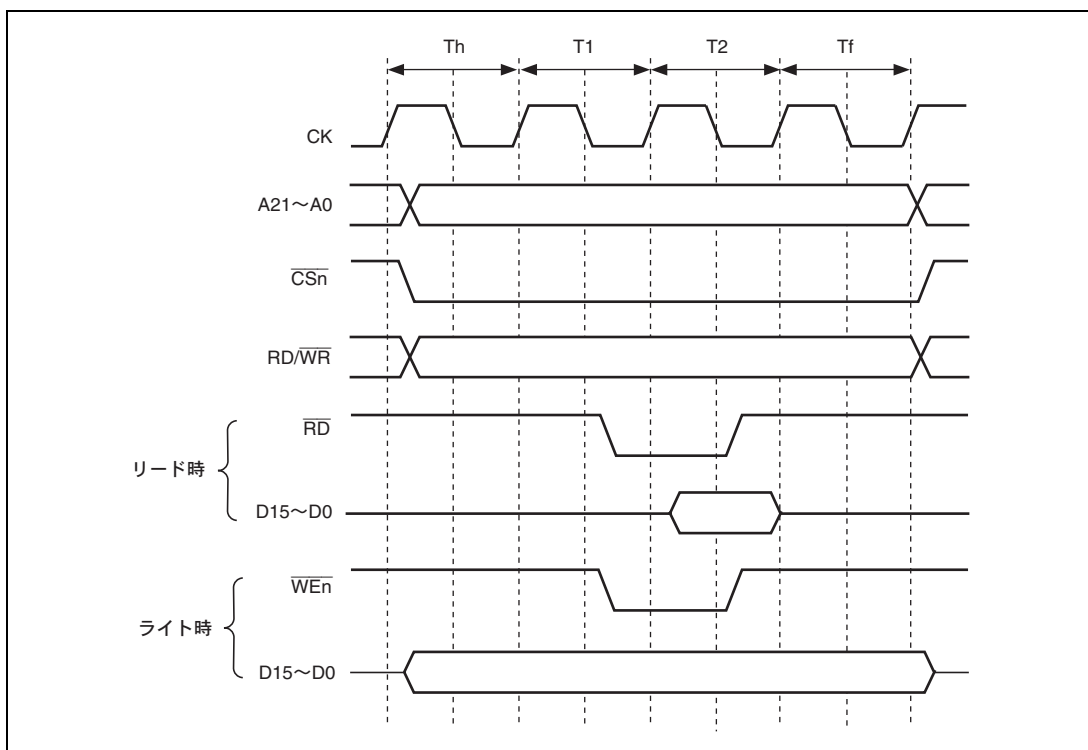


図 10.11 \overline{CSn} アサート期間拡張

【注】 周辺クロック 2 通倍設定時では、Tw を 1 サイクル以上、Tid を 2 サイクル以上挿入してください。

10.5.5 バイト選択付き SRAM インタフェース

(1) 周辺クロック 1 通倍設定時の基本タイミング

バイト選択付き SRAM インタフェースは、リードまたはライトいずれのバスサイクルでもバイト選択端子 (\overline{WEn}) を出力するメモリインタフェースです。このインタフェースは 16 ビットのデータ端子を持ち、UB あるいは LB のような上位バイト選択端子および下位バイト選択端子のある SRAM をアクセスするためのものです。

CSnWCR の BAS ビットが 0 (初期値) のとき、バイト選択付き SRAM インタフェースのライトアクセスタイミングは、通常空間インタフェースと同一です。一方、リード動作では、 \overline{WEn} 端子のタイミングが通常空間インタフェースと異なり、 \overline{WEn} 端子からバイト選択信号を出力します。図 10.12 に基本アクセスタイミングを示します。特にライト時は、バイト選択端子 (\overline{WEn}) のタイミングでメモリに書き込まれます。ご使用になるメモリのデータシートをご確認ください。

CSnWCR の BAS ビットが 1 のとき、 \overline{WEn} 端子と RD/ \overline{WR} 端子のタイミングが変化します。図 10.13 に基本アクセスタイミングを示します。特にライト時は、ライトイネーブル端子 (RD/ \overline{WR}) のタイミングでメモリに書き込まれます。RD/ \overline{WR} のネゲートタイミングからのライトデータのホールドタイミングは、CSnWCR の HW[1:0] ビットを設定することにより確保してください。図 10.14 にソフトウェア設定時のアクセスタイミングを示します。

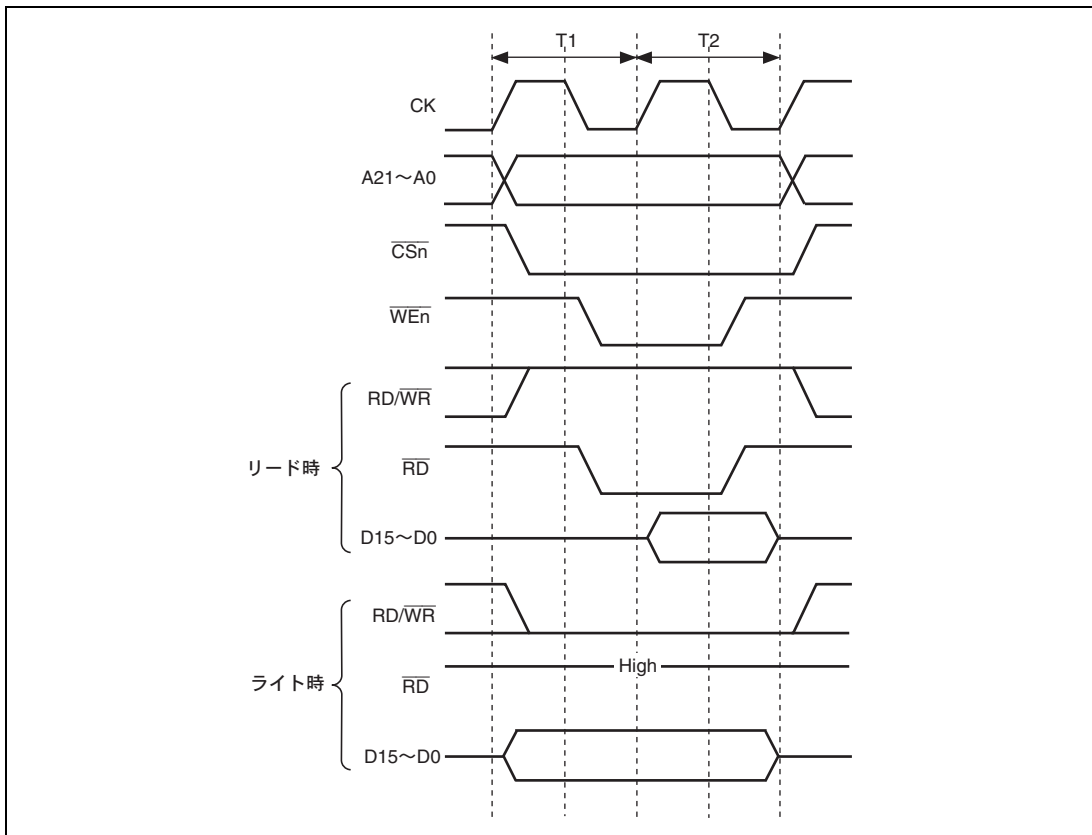


図 10.12 BAS=0、バイト選択付き SRAM 基本アクセスタイミング

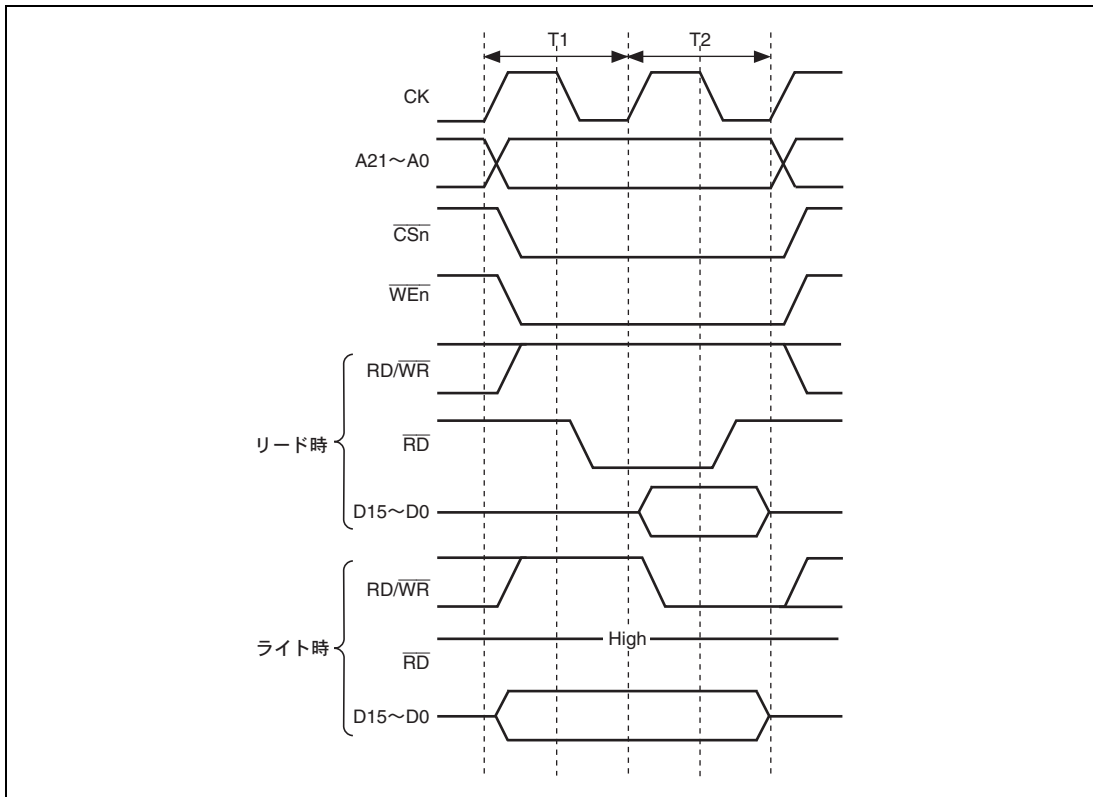


図 10.13 BAS=1、バイト選択付き SRAM 基本アクセスタイミング

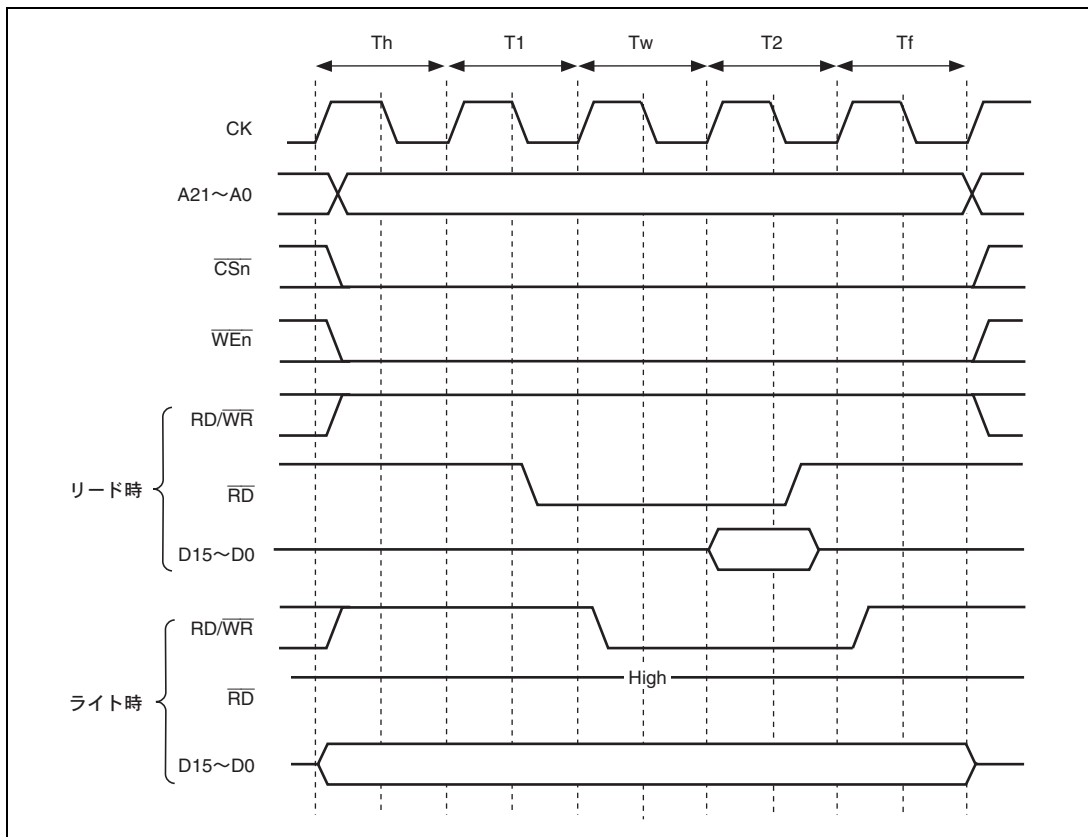


図 10.14 BAS=1、バイト選択付き SRAM ウェイトタイミング
(SW[1:0]=01、WR[3:0]=0001、HW[1:0]=01)

(2) 周辺クロック 2 通倍設定時の基本タイミング

周辺クロック 2 通倍設定時では、通常空間インタフェースと同様 T_w を 1 サイクル以上、 T_{id} を 2 サイクル以上挿入する必要があります (T_{id} については図 10.6 を参照してください)。図 10.15 に周辺クロック 2 通倍設定時の BAS=0 バイト選択付き SRAM 基本アクセスタイミングを示します。また図 10.16 に周辺クロック 2 通倍設定時の BAS=1 バイト選択付き SRAM 基本アクセスタイミングを示します。

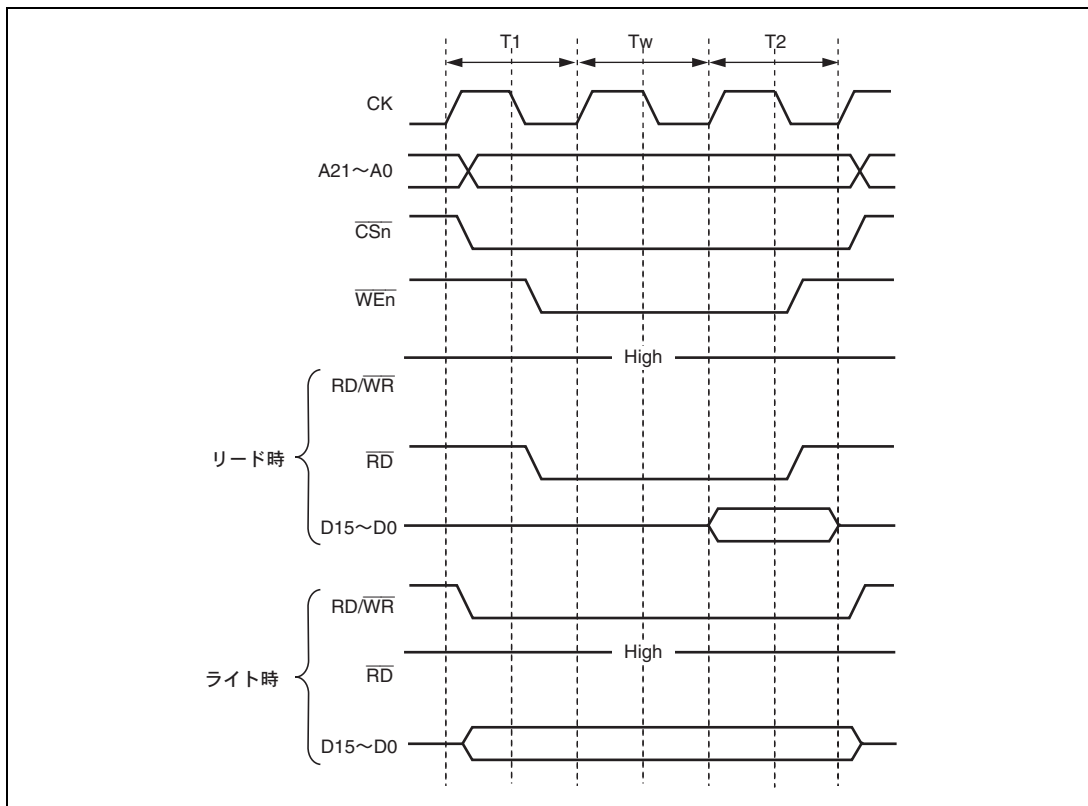


図 10.15 周辺クロック 2 通倍設定時の BAS=0 バイト選択付き SRAM 基本アクセスタイミング

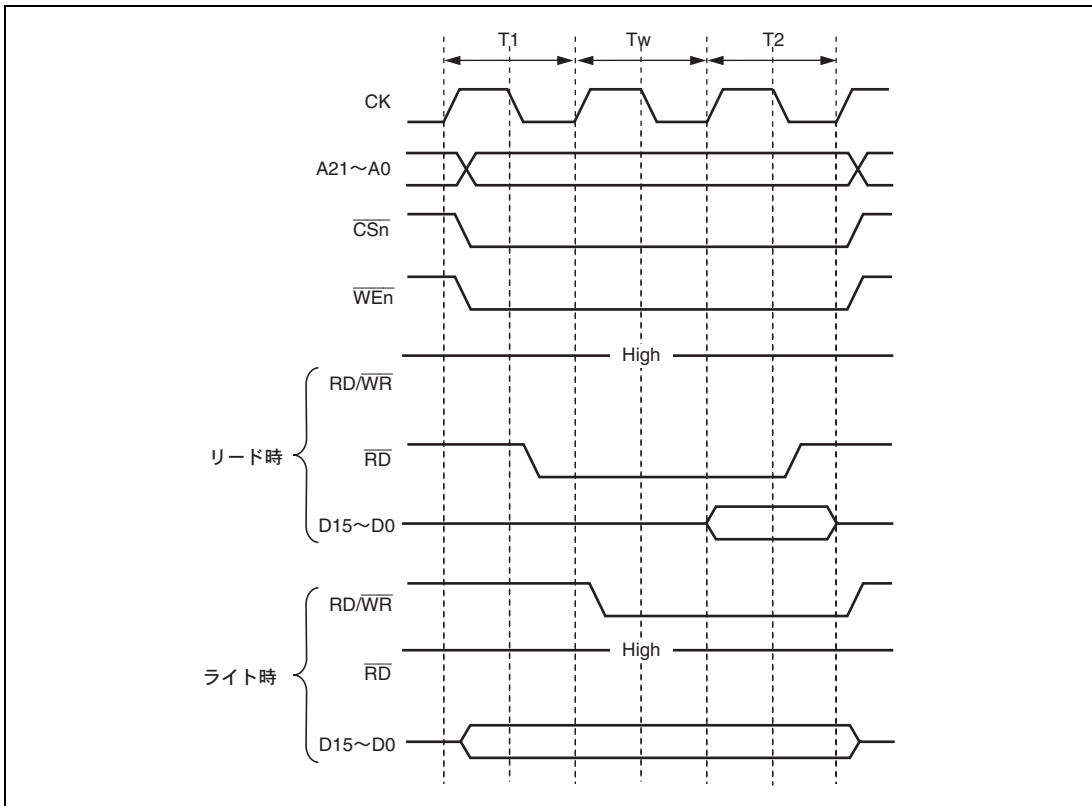


図 10.16 周辺クロック 2 通倍設定時の BAS=1 バイト選択付き SRAM 基本アクセスタイミング

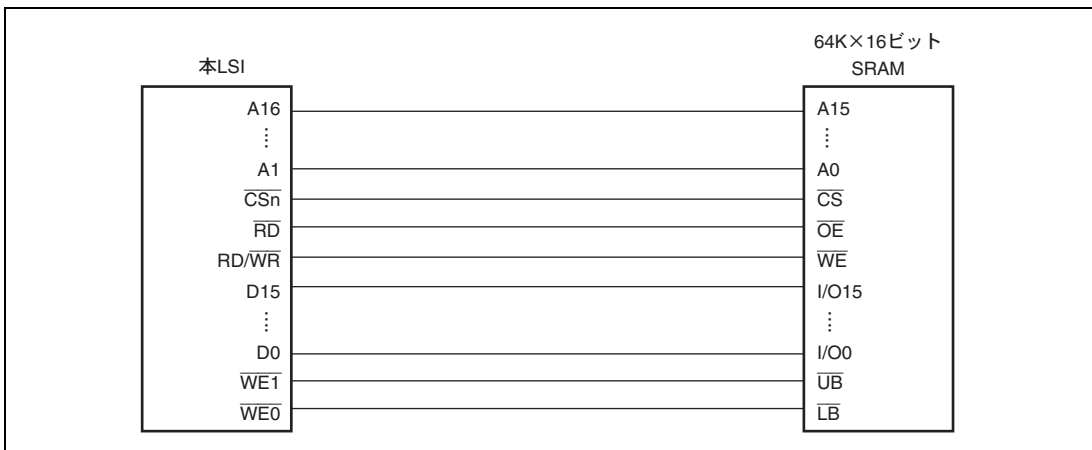


図 10.17 16 ビットデータ幅バイト選択付き SRAM 接続例

10.5.6 アクセスサイクル間アイドル

LSI の動作周波数が高くなってきたため、低速なデバイスからのデータ出力が完了した際のデータバッファのオフが間に合わず、次のデバイスのデータ出力と衝突してデバイスの信頼度を低下させたり、誤動作を引き起こす場合があります。これを防止するため、連続するアクセス間にアクセスサイクル間アイドル（ウェイト）を挿入して、データの衝突を回避する機能を設けました。

アクセスサイクル間アイドルのサイクル数は、CSnBCR の IWW[2:0]、IWRWD[2:0]、IWRWS[2:0]、IWRRD[2:0]、IWRRS[2:0]の各ビットで指定します。アクセスサイクル間アイドルは、以下の条件のとき挿入が可能です。

1. 連続するアクセスがライト→リード、ライト→ライトの場合
2. 連続するアクセスが別空間でかつリード→ライトの場合
3. 連続するアクセスが同一空間でかつリード→ライトの場合
4. 連続するアクセスが別空間でかつリード→リードの場合
5. 連続するアクセスが同一空間でかつリード→リードの場合

上記のアクセスサイクル間アイドルサイクル数の指定につきましては、CSnBCR の説明をご覧ください。

上記レジスタで指定するアクセスサイクル間ウェイトのアイドルサイクル以外に、内部バスとのインタフェースのため、アイドルサイクルを挿入する場合があります。以下に \overline{CSn} ネゲートから \overline{CSn} または \overline{CSm} アサートまでのアイドルサイクルの詳細について説明します。

外部バスのアイドルサイクル数を決める項目としては、表 10.7 の 6 項目あります。

表 10.7 アイドルサイクル数を決める項目

項番	内容	説明	範囲	注意事項
(1)	CSnBCR.IW***[2:0] 設定	外部アドレス空間アクセスのアイドルサイクル数を指定します。前後サイクルの組み合わせごとに指定できます。たとえば CS1 空間リード後の他 CS 空間リードの場合に、アイドル数を 6 サイクル以上に設定したい場合、CS1BCR.IWRRD[2:0]を B'100 に設定します。アクセス終了後に発生するアイドルサイクルです。	0~12	連続アクセスできないメモリ種の場合には、0 に設定しないようご注意ください。
(2)	CSnWCR.WM ビット設定	外部 WAIT 端子入力を有効/無効にする設定ができます。B'0 (外部 WAIT 有効) の場合、外部 WAIT 端子状態の評価のための 1 アイドルサイクルがアクセス終了後に挿入されます。B'1 (無効) の場合には、本アイドルサイクルは発生しません。	0~1	
(3)	リードデータ転送 サイクル	リードアクセスの終了後に発生する 1 アイドルサイクルです。分割されたアクセスの最初および途中のアクセスでは発生しません。また、CSnWCR.HW[1:0]が B'00 以外の場合にも発生しません。	0~1	
(4)	内部バスアイドル他	CPU、DMAC などからの外部バスアクセス要求および結果の受け渡しは、内部バスを経由します。内部バスのアイドルサイクルおよび外部バス以外のアクセス中は、外部バスはアイドル状態になります。外部データバス幅以上のアクセスサイズの場合、BSC で分割アクセスを行います。分割サイクル間では内部バスアイドルサイクル他の影響はありません。	0~	CPU 動作のリード/ライト→ライトアクセスの場合、最小アイドル数は 1 になります。リード/ライト→リードアクセスの場合、最小アイドル数は 0 になります。DMAC 動作の場合は、リード→ライト間の最小アイドル数は 0 です。
(5)	ライトデータ到着 待ちサイクル	ライトアクセスの場合、ライトデータの到着を待ってから外部バスのライトサイクルが発生します。このライトデータ待ちがライトサイクルの前に発生するアイドルサイクルになります。ただし、前サイクルがライトの場合で、内部バスアイドル他が前アクセスのライトサイクル長より短い場合、前アクセスと平行して処理されるため、本アイドルサイクルは発生しません (ライトバッファ効果)。	0~1	ライト→ライトおよびライト→リードアクセスの場合、左記ライトバッファの効果で、連続アクセスが発生しやすくなります。連続アクセスできない場合は、CSnBCR などでサイクル間アイドルの最低数を指定してください。
(6)	異種メモリ間 アイドル	ピンマルチ端子の最小パルス幅確保のために、メモリ種切り替え後のアクセスが発生する前に、アイドルサイクルが挿入される場合があります。	0~1	SRAM アクセスまたは BAS=0 のバイト選択付き SRAM アクセスと BAS=1 のバイト選択付き SRAM アクセスとの間で 1 サイクルのアイドルサイクルが発生します。

(1)項、(2)項、(3)+(4)+(5)項（順番に発生するので加算されます）、および(6)項の4項目が平行して発生しますので、これらのうちの最大のものが外部バスアイドル数となります。最低アイドル数を確保する場合には、(1)項のレジスタ設定を行ってください。

10.5.7 その他

(1) リセット

バスステートコントローラ (BSC) は、パワーオンリセットでのみ完全な初期化が行われます。パワーオンリセット時には、バスサイクルの途中であるなしにかかわらずただちにすべての信号をネゲートし、データ出力バッファをオフにします。また、制御レジスタはすべて初期化されます。

(2) ライトバッファ動作

バスステートコントローラには一段のライトバッファがあるため、ライトサイクルではチップ外部のバスサイクルが完了しなくても内部バスを別のアクセスに使用することができます。チップ外部の低速メモリに対して書き込みを行った後に、内蔵周辺モジュールに対する読み出しまたは書き込みを行う場合は、低速メモリへの書き込みの完了を待たずに内蔵周辺モジュールへのアクセスが可能です。

読み出しでは、常に動作の完了まで CPU は待たされるので、実際のデバイスに対するデータの書き込みが完了したことを確認してから処理を続行したい場合は、続けて同じアドレスに対するダミーの読み出しアクセスを行うと書き込みの終了を確認できます。

DMAC などの別のバスマスタからのアクセスでも同様にバスステートコントローラのライトバッファは働きます。したがって、外部アドレス空間に対する DMA 転送を行う場合は、書き込みサイクルの完了を待たずに次の読み出しサイクルの起動がかけられます。ただし、DMA のソースアドレスとデスティネーションアドレスがともに外部アドレス空間である場合には、前の書き込みサイクルが完了するまで次の読み出しサイクルの開始は待たされます。

(3) 内蔵周辺モジュールのアクセス

内蔵周辺モジュールのレジスタへのアクセスは、内部バスから周辺モジュールクロック (Pφ) で2サイクル以上かかります。システム設計の見積もり時にはご注意ください。

10.6 SRAM アクセスタイミング

10.6.1 標準的な SRAM

図 10.18 に、CS0 空間における図 10.2 に示した SRAM の基本アクセスタイミングに対応した詳細な内容およびウェイトを入れた場合のアクセスタイミングを示します。

図中において、「SW」で示されている部分は CSnWCR レジスタの SW1、SW0 ビットの設定による遅延サイクル、「WW」で示されている部分は CSnWCR レジスタの WW2~WW0 ビットの設定による遅延サイクル、「HW」で示されている部分は CSnWCR レジスタの HW1、HW0 ビットの設定による遅延サイクル、「WR」で示されている部分は CSnWCR レジスタの WR3~WR0 ビットの設定による遅延サイクルをそれぞれ表しています。

10.6.2 バイト選択付き SRAM (BAS=0)

図 10.19 に、CS0 空間における図 10.12 に示した BAS=0 でのバイト選択付き SRAM の基本アクセスタイミングに対応した詳細な内容およびウェイトを入れた場合のアクセスタイミングを示します。

図中における「SW」、「WW」、「HW」、「WR」の内容については「10.6.1 標準的な SRAM」で説明した内容と同じです。

10.6.3 バイト選択付き SRAM (BAS=1)

図 10.20 に、CS0 空間における図 10.13 に示した BAS=1 でのバイト選択付き SRAM の基本アクセスタイミングに対応した詳細な内容およびウェイトを入れた場合のアクセスタイミングを示します。

図中における「SW」、「WW」、「HW」、「WR」の内容については「10.6.1 標準的な SRAM」で説明した内容と同じです。

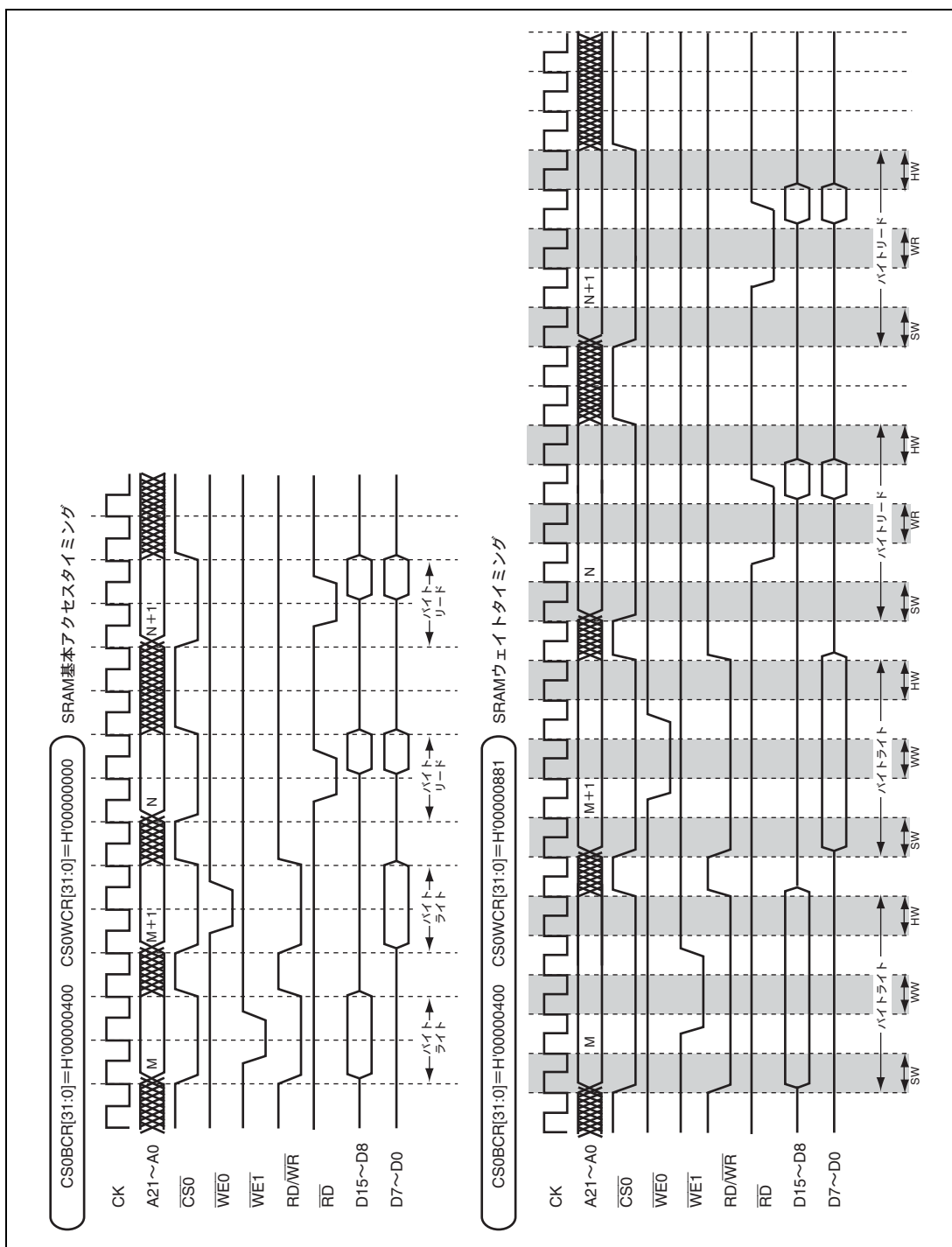


図 10.18 SRAM アクセスタイミング (基本アクセスタイミング、ウェイト付き)

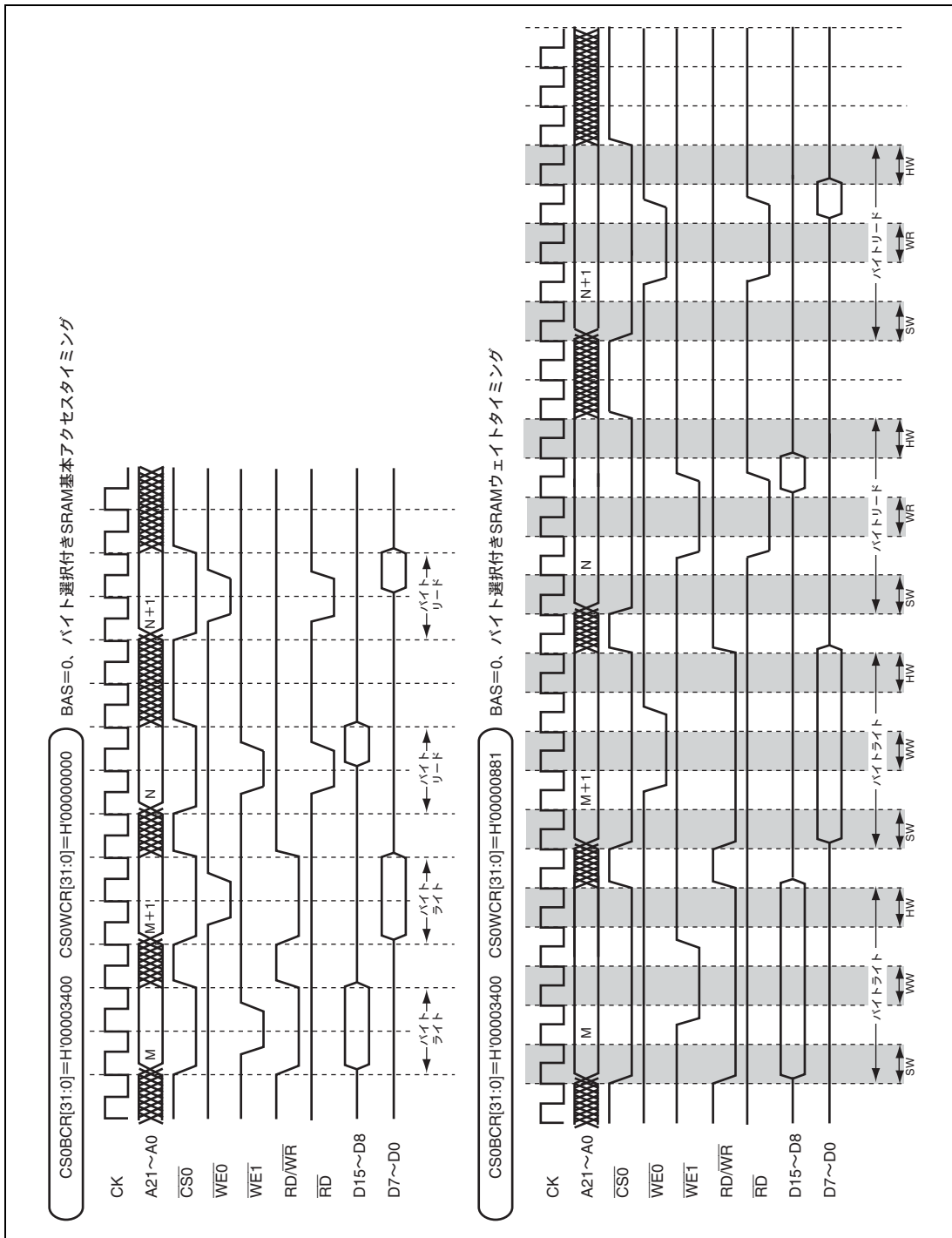


図 10.19 BAS=0、バイト選択付き SRAM 基本アクセスタイミング (基本アクセスタイミング、ウェイト付き)

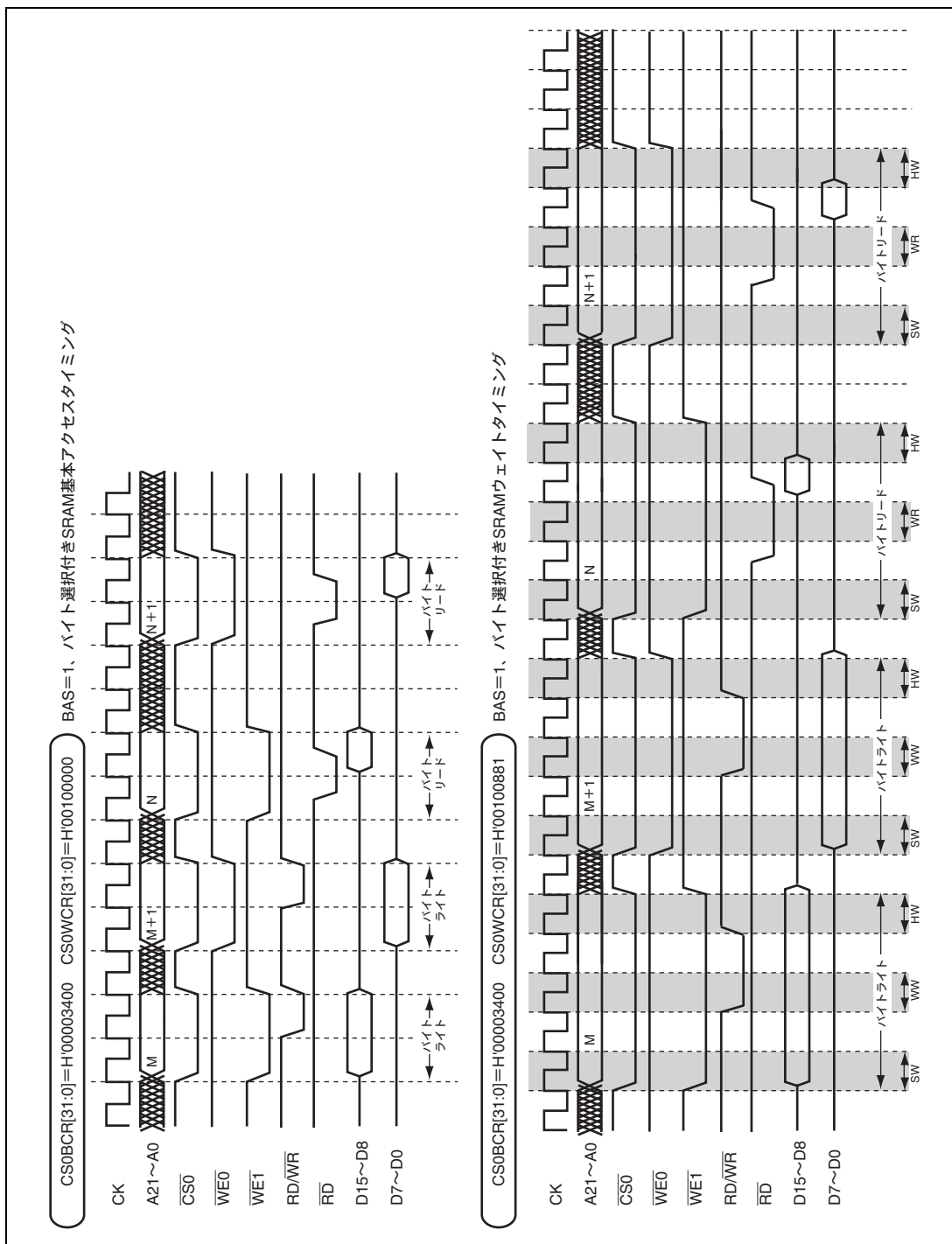


図 10.20 BAS=1, バイト選択付き SRAM 基本アクセスタイミング (基本アクセスタイミング、ウェイト付き)

11. ダイレクトメモリアクセスコントローラ (DMAC)

ダイレクトメモリアクセスコントローラ (DMAC) は、外部メモリ、内蔵メモリ、外部アドレス空間に接続された外部デバイス、および内蔵周辺モジュール間のデータ転送を CPU に代わって高速に行うことができます。

11.1 特長

- チャンネル数： CH0～CH7の8チャンネル
- アドレス空間：アーキテクチャ上は4GB
- 転送データ単位：バイト、ワード (2バイト)、ロングワード (4バイト)、16バイト (ロングワード×4)
- 最大転送回数：16,777,216 (24ビット) 回
- アドレスモード：デュアルアドレスモード
- 転送要求：
 - 内蔵周辺モジュールリクエスト、オートリクエストの2種類から選択可能
 - 内蔵周辺モジュールリクエストを発行できるモジュールには以下のモジュールがあります。
RCAN-TL1：3要因、ADC：10要因、ATU-III：35要因、CMT：2要因
- バスモード：サイクルスチールモード (通常モードとインターミットモード) とバーストモードから選択可能
- 優先順位：2種類のチャンネル優先順位固定モードとラウンドロビンモードから選択可能
- 割り込み要求：データ転送1/2終了時またはデータ転送終了時にCPUへ割り込み要求を発生可能
- レジスタのリロード機能：
 - リロード機能は、チャンネルごとに有効/無効の設定が可能で、以下の2種類をサポートしています。リロード動作は、DMA転送中でも設定可能なリロード設定レジスタの値を対応レジスタに転送します。
 - リロード機能1：転送カウンタが0になるタイミングでソース/デスティネーションアドレス、転送/アドレスリロードカウンタの各レジスタをリロード。さらに、リロード機能2が有効な場合にはCH4～CH7のアドレスリロードカウンタもリロード
 - リロード機能2：アドレスリロードカウンタが0になるタイミングで、ソースアドレスまたは/かつデスティネーションアドレス、およびアドレスリロードカウンタの各レジスタをリロード (ただしCH4～CH7のみでサポート)
- リロード機能1有効時の連続転送機能：
 - リロード機能1が有効に設定されているチャンネルでは、転送カウンタが0になるタイミングで、転送を停止または転送を停止せずに連続して行うかを設定可能です。

- Integer→Floating-point変換機能：

DMA転送の転送元となる16ビットレジスタの値を、MSBの左に小数点があり、レジスタの左14ビットに格納された値を符号なし整数フォーマットとみなして、IEEE754準拠の単精度（32ビット）浮動小数点フォーマットへの変換を転送の途中で行うことが可能です。

変換機能はCH4～CH7でのみサポートしており、各チャンネルで有効／無効の設定が可能です。変換機能を使用する場合は、転送データ単位はワード（2バイト）に設定してください。

図 11.1 に DMAC のブロック図を示します。

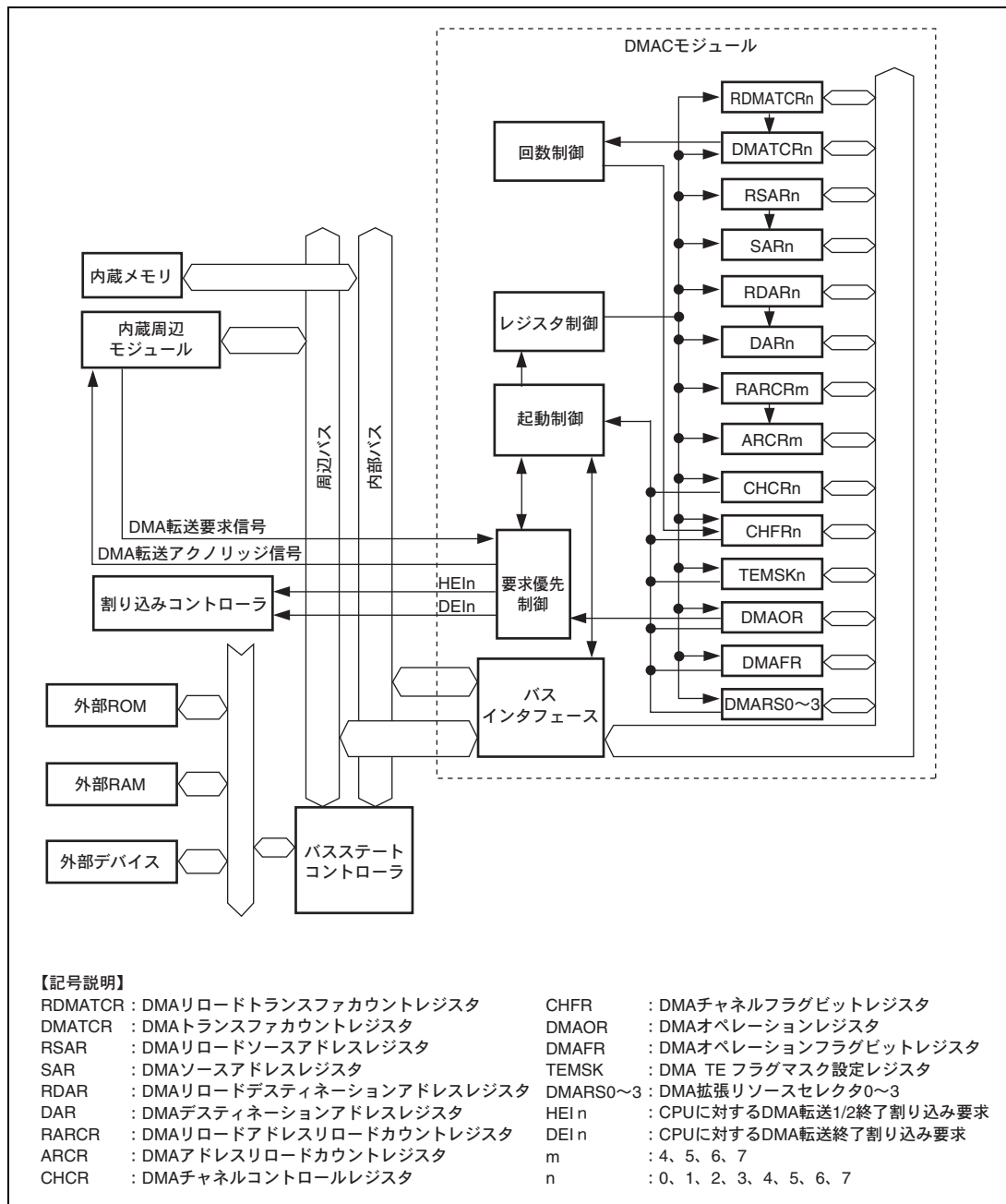


図 11.1 DMAC のブロック図

11.2 レジスタの説明

DMAC には以下のレジスタがあります。各チャンネルに 5 本 (CH0~CH3) または 6 本 (CH4~CH7) の制御レジスタ、3 本または 4 本のリロードレジスタと 1 本のフラグビットレジスタがあり、すべてのチャンネルに共通な制御レジスタとフラグビットレジスタが 1 本ずつあります。さらに、2 チャンネルごとに 1 本の拡張リソースセクタレジスタがあります。表 11.1 では、各チャンネルのレジスタについては、チャンネル 0 の SAR は SAR0 のように表記しています。

表 11.1 レジスタ構成

チャンネル	レジスタ名	略称	R/W	初期値	アドレス	アクセス サイズ
0	DMA ソースアドレスレジスタ 0	SAR0	R/W	H'00000000	H'FFFE1000	16、32
	DMA デスティネーションアドレス レジスタ 0	DAR0	R/W	H'00000000	H'FFFE1004	16、32
	DMA トランスファカウンタレジスタ 0	DMATCR0	R/W	H'00000000	H'FFFE1008	16、32
	DMA チャンネルコントロールレジスタ 0	CHCR0	R/W	H'00000000	H'FFFE100C	8、16、32
	DMA チャンネルフラグビットレジスタ 0	CHFR0	R/W*1	H'00	H'FFFE108C	8
	DMA TE フラグマスク設定レジスタ 0	TEMSK0	R/W*2	H'0000	H'FFFE108E	8、16
	DMA リロードソースアドレス レジスタ 0	RSAR0	R/W	H'00000000	H'FFFE1100	16、32
	DMA リロードデスティネーション アドレスレジスタ 0	RDAR0	R/W	H'00000000	H'FFFE1104	16、32
	DMA リロードトランスファカウンタ レジスタ 0	RDMATCR0	R/W	H'00000000	H'FFFE1108	16、32
1	DMA ソースアドレスレジスタ 1	SAR1	R/W	H'00000000	H'FFFE1010	16、32
	DMA デスティネーションアドレス レジスタ 1	DAR1	R/W	H'00000000	H'FFFE1014	16、32
	DMA トランスファカウンタレジスタ 1	DMATCR1	R/W	H'00000000	H'FFFE1018	16、32
	DMA チャンネルコントロールレジスタ 1	CHCR1	R/W	H'00000000	H'FFFE101C	8、16、32
	DMA チャンネルフラグビットレジスタ 1	CHFR1	R/W*1	H'00	H'FFFE109C	8
	DMA TE フラグマスク設定レジスタ 1	TEMSK1	R/W*2	H'0000	H'FFFE109E	8、16
	DMA リロードソースアドレス レジスタ 1	RSAR1	R/W	H'00000000	H'FFFE1110	16、32
	DMA リロードデスティネーション アドレスレジスタ 1	RDAR1	R/W	H'00000000	H'FFFE1114	16、32
	DMA リロードトランスファカウンタ レジスタ 1	RDMATCR1	R/W	H'00000000	H'FFFE1118	16、32

チャンネル	レジスタ名	略称	R/W	初期値	アドレス	アクセス サイズ
2	DMA ソースアドレスレジスタ 2	SAR2	R/W	H'00000000	H'FFFE1020	16、32
	DMA デスティネーションアドレス レジスタ 2	DAR2	R/W	H'00000000	H'FFFE1024	16、32
	DMA トランスファカウントレジスタ 2	DMATCR2	R/W	H'00000000	H'FFFE1028	16、32
	DMA チャンネルコントロールレジスタ 2	CHCR2	R/W	H'00000000	H'FFFE102C	8、16、32
	DMA チャンネルフラグビットレジスタ 2	CHFR2	R/W* ¹	H'00	H'FFFE10AC	8
	DMA TE フラグマスク設定レジスタ 2	TEMSK2	R/W* ²	H'0000	H'FFFE10AE	8、16
	DMA リロードソースアドレス レジスタ 2	RSAR2	R/W	H'00000000	H'FFFE1120	16、32
	DMA リロードデスティネーション アドレスレジスタ 2	RDAR2	R/W	H'00000000	H'FFFE1124	16、32
	DMA リロードトランスファカウント レジスタ 2	RDMATCR2	R/W	H'00000000	H'FFFE1128	16、32
3	DMA ソースアドレスレジスタ 3	SAR3	R/W	H'00000000	H'FFFE1030	16、32
	DMA デスティネーションアドレス レジスタ 3	DAR3	R/W	H'00000000	H'FFFE1034	16、32
	DMA トランスファカウントレジスタ 3	DMATCR3	R/W	H'00000000	H'FFFE1038	16、32
	DMA チャンネルコントロールレジスタ 3	CHCR3	R/W	H'00000000	H'FFFE103C	8、16、32
	DMA チャンネルフラグビットレジスタ 3	CHFR3	R/W* ¹	H'00	H'FFFE10BC	8
	DMA TE フラグマスク設定レジスタ 3	TEMSK3	R/W* ²	H'0000	H'FFFE10BE	8、16
	DMA リロードソースアドレス レジスタ 3	RSAR3	R/W	H'00000000	H'FFFE1130	16、32
	DMA リロードデスティネーション アドレスレジスタ 3	RDAR3	R/W	H'00000000	H'FFFE1134	16、32
	DMA リロードトランスファカウント レジスタ 3	RDMATCR3	R/W	H'00000000	H'FFFE1138	16、32
4	DMA ソースアドレスレジスタ 4	SAR4	R/W	H'00000000	H'FFFE1040	16、32
	DMA デスティネーションアドレス レジスタ 4	DAR4	R/W	H'00000000	H'FFFE1044	16、32
	DMA トランスファカウントレジスタ 4	DMATCR4	R/W	H'00000000	H'FFFE1048	16、32
	DMA チャンネルコントロールレジスタ 4	CHCR4	R/W	H'00000000	H'FFFE104C	8、16、32
	DMA チャンネルフラグビットレジスタ 4	CHFR4	R/W* ¹	H'00	H'FFFE10CC	8
	DMA TE フラグマスク設定レジスタ 4	TEMSK4	R/W* ²	H'0000	H'FFFE10CE	8、16
	DMA リロードソースアドレス レジスタ 4	RSAR4	R/W	H'00000000	H'FFFE1140	16、32
	DMA リロードデスティネーション アドレスレジスタ 4	RDAR4	R/W	H'00000000	H'FFFE1144	16、32

チャンネル	レジスタ名	略称	R/W	初期値	アドレス	アクセス サイズ
4	DMA リロードトランスファカウント レジスタ 4	RDMATCR4	R/W	H'00000000	H'FFFE1148	16、32
	DMA アドレスリロードカウント レジスタ 4	ARCR4	R/W	H'0000	H'FFFE114C	16、32
	DMA リロードアドレスリロード カウントレジスタ 4	RARCR4	R/W	H'0000	H'FFFE114E	16
5	DMA ソースアドレスレジスタ 5	SAR5	R/W	H'00000000	H'FFFE1050	16、32
	DMA デスティネーションアドレス レジスタ 5	DAR5	R/W	H'00000000	H'FFFE1054	16、32
	DMA トランスファカウントレジスタ 5	DMATCR5	R/W	H'00000000	H'FFFE1058	16、32
	DMA チャンネルコントロールレジスタ 5	CHCR5	R/W	H'00000000	H'FFFE105C	8、16、32
	DMA チャンネルフラグビットレジスタ 5	CHFR5	R/W* ¹	H'00	H'FFFE10DC	8
	DMA TE フラグマスク設定レジスタ 5	TEMSK5	R/W* ²	H'0000	H'FFFE10DE	8、16
	DMA リロードソースアドレス レジスタ 5	RSAR5	R/W	H'00000000	H'FFFE1150	16、32
	DMA リロードデスティネーション アドレスレジスタ 5	RDAR5	R/W	H'00000000	H'FFFE1154	16、32
	DMA リロードトランスファカウント レジスタ 5	RDMATCR5	R/W	H'00000000	H'FFFE1158	16、32
	DMA アドレスリロードカウント レジスタ 5	ARCR5	R/W	H'0000	H'FFFE115C	16、32
DMA リロードアドレスリロード カウントレジスタ 5	RARCR5	R/W	H'0000	H'FFFE115E	16	
6	DMA ソースアドレスレジスタ 6	SAR6	R/W	H'00000000	H'FFFE1060	16、32
	DMA デスティネーションアドレス レジスタ 6	DAR6	R/W	H'00000000	H'FFFE1064	16、32
	DMA トランスファカウントレジスタ 6	DMATCR6	R/W	H'00000000	H'FFFE1068	16、32
	DMA チャンネルコントロールレジスタ 6	CHCR6	R/W	H'00000000	H'FFFE106C	8、16、32
	DMA チャンネルフラグビットレジスタ 6	CHFR6	R/W* ¹	H'00	H'FFFE10EC	8
	DMA TE フラグマスク設定レジスタ 6	TEMSK6	R/W* ²	H'0000	H'FFFE10EE	8、16
	DMA リロードソースアドレス レジスタ 6	RSAR6	R/W	H'00000000	H'FFFE1160	16、32
	DMA リロードデスティネーション アドレスレジスタ 6	RDAR6	R/W	H'00000000	H'FFFE1164	16、32
	DMA リロードトランスファカウント レジスタ 6	RDMATCR6	R/W	H'00000000	H'FFFE1168	16、32
	DMA アドレスリロードカウント レジスタ 6	ARCR6	R/W	H'0000	H'FFFE116C	16、32
DMA リロードアドレスリロード カウントレジスタ 6	RARCR6	R/W	H'0000	H'FFFE116E	16	

チャンネル	レジスタ名	略称	R/W	初期値	アドレス	アクセス サイズ
7	DMA ソースアドレスレジスタ 7	SAR7	R/W	H'00000000	H'FFFE1070	16、32
	DMA デスティネーションアドレス レジスタ 7	DAR7	R/W	H'00000000	H'FFFE1074	16、32
	DMA トランスファカウンタレジスタ 7	DMATCR7	R/W	H'00000000	H'FFFE1078	16、32
	DMA チャンネルコントロールレジスタ 7	CHCR7	R/W	H'00000000	H'FFFE107C	8、16、32
	DMA チャンネルフラグビットレジスタ 7	CHFR7	R/W* ¹	H'00	H'FFFE10FC	8
	DMA TE フラグマスク設定レジスタ 7	TEMSK7	R/W* ²	H'0000	H'FFFE10FE	8、16
	DMA リロードソースアドレス レジスタ 7	RSAR7	R/W	H'00000000	H'FFFE1170	16、32
	DMA リロードデスティネーション アドレスレジスタ 7	RDAR7	R/W	H'00000000	H'FFFE1174	16、32
	DMA リロードトランスファカウンタ レジスタ 7	RDMATCR7	R/W	H'00000000	H'FFFE1178	16、32
	DMA アドレスリロードカウンタ レジスタ 7	ARCR7	R/W	H'0000	H'FFFE117C	16、32
	DMA リロードアドレスリロード カウンタレジスタ 7	RARCR7	R/W	H'0000	H'FFFE117E	16
	共通	DMA オペレーションレジスタ	DMAOR	R/W	H'0000	H'FFFE1200
DMA オペレーションフラグビット レジスタ		DMAFR	R/W* ³	H'00	H'FFFE1204	8
0/1	DMA 拡張リソースセクタ 0	DMARS0	R/W	H'0000	H'FFFE1300	8、16
2/3	DMA 拡張リソースセクタ 1	DMARS1	R/W	H'0000	H'FFFE1304	8、16
4/5	DMA 拡張リソースセクタ 2	DMARS2	R/W	H'0000	H'FFFE1308	8、16
6/7	DMA 拡張リソースセクタ 3	DMARS3	R/W	H'0000	H'FFFE130C	8、16

- 【注】 *1 CHFRn の HE、TE ビットは、フラグをクリアするために、1 リード後の 0 ライトのみ可能です。
- *2 TEMSKn レジスタは、ライトキーコード付きのレジスタです。
ライトアクセスは、ワードアクセスのみで、上位バイトがキーコード (H'5B) に一致している場合のみ可能です。
- *3 DMAFR の AE、NMIF ビットは、フラグをクリアするために、1 リード後の 0 ライトのみ可能です。

11.2.1 DMA ソースアドレスレジスタ 0~7 (SAR0~SAR7)

SAR は、読み出し／書き込み可能な 32 ビットのレジスタで、DMA 転送元のアドレスを指定します。DMA 転送中は、次の転送元アドレスを示しています。

ワード (2 バイト)、ロングワード (4 バイト)、16 バイト単位のデータ転送を行う場合は、それぞれ、2 バイト、4 バイト、16 バイト境界のアドレスを指定してください。

パワーオンリセット時およびハードウェアスタンバイ時には H'00000000 に初期化され、モジュールスタンバイ機能使用時には値を保持します。

ビット:	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

11.2.2 DMA デスティネーションアドレスレジスタ 0~7 (DAR0~DAR7)

DAR は、読み出し/書き込み可能な 32 ビットのレジスタで、DMA 転送先のアドレスを指定します。DMA 転送中は、次の転送先アドレスを示しています。

ワード (2 バイト)、ロングワード (4 バイト)、16 バイト単位のデータ転送を行う場合は、それぞれ、2 バイト、4 バイト、16 バイト境界のアドレスを指定してください。

パワーオンリセット時およびハードウェアスタンバイ時には H'00000000 に初期化され、モジュールスタンバイ機能使用時には値を保持します。

ビット:	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

11.2.3 DMA トランスファカウントレジスタ 0~7 (DMATCR0~DMATCR7)

DMATCR は、読み出し/書き込み可能な 32 ビットのレジスタで、DMA 転送回数を指定します。転送回数は、設定値が H'00000001 のときは 1 回、H'00FFFFFF のときは 16,777,215 回で、H'00000000 のときは 16,777,216 回 (最大転送回数) になります。DMA 転送中は、残りの転送回数を示しています。

DMATCR の上位 8 ビットは、読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。

16 バイト転送のときは、16 バイト転送 1 回 (128 ビット) で 1 回のカウントをします。

パワーオンリセット時およびハードウェアスタンバイ時には H'00000000 に初期化され、モジュールスタンバイ機能使用時には値を保持します。

ビット:	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	-	-	-	-	-	-	-									
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R	R	R	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

11.2.4 DMA チャンネルコントロールレジスタ 0~7 (CHCR0~CHCR7)

CHCR は、読み出し／書き込み可能な 32 ビットのレジスタで、DMA 転送モードを制御します。

TC[0]、RLD2[1:0]、IFT ビットについては、チャンネル 4~7 で読み書き可能となっていますが、チャンネル 0~3 では対応するビットはリザーブビットとなっています。

パワーオンリセット時およびハードウェアスタンバイ時には H'00000000 に初期化され、モジュールスタンバイ機能使用時には値を保持します。

ビット:	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	TC[1:0]		—	RLD1	RLD2[1:0]		—	IFT	—	—	—	—	—	HIE	—	—
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R	R/W	R/W	R/W	R	R/W	R	R	R	R	R	R/W	R	R
ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	DM[1:0]		SM[1:0]		RS[3:0]			—	—	TB	TS[1:0]		IE	—	DE	
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W	R	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
31、30	TC[1:0]	00	R/W	<p>トランスファカウントモード</p> <p>1 回の転送要求で 1 回転送するか、DMATCR の設定回数転送するか、ARCR の転送回数転送するかを設定します。TC[0]ビットは CHCR4~7 でのみ有効です。CHCR0~3 ではリザーブビットで、読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値は常に 0 にしてください。</p> <p>また TC を B'10 以外に設定した場合には、TB ビットを 1 (バーストモード) に設定しないでください。</p> <p>TC を B'01 に設定した場合には、RLD2[1:0]ビットを B'00 以外 (リロード機能 2 が有効) に設定してください。RLD2[1:0]ビットを B'00 (リロード機能 2 が無効) に設定した場合の動作は保証できません。</p> <p>00: 1 回の転送要求で 1 回転送 01: 1 回の転送要求で ARCR の設定回数転送 10: 1 回の転送要求で DMATCR の設定回数転送 11: 設定禁止</p>
29	—	0	R	<p>リザーブビット</p> <p>読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。</p>
28	RLD1	0	R/W	<p>リロード機能 1 ON/OFF</p> <p>DMATCR=0 に変化するタイミングで SAR、DAR、DMATCR、ARCR レジスタをリロードするリロード機能 1 を有効 (ON) にするか無効 (OFF) にするかを設定します。ただし、ARCR レジスタは CH4~CH7 においてリロード機能 2 が有効な場合にのみリロードされます。</p> <p>0: リロード機能 1 は無効 (OFF) 1: リロード機能 1 は有効 (ON)</p>

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
27、26	RLD2[1:0]	00	R/W	<p>リロード機能 2 ON/OFF</p> <p>ARCR=0 に変化するタイミングで SAR、DAR、ARCR レジスタをリロードするリロード機能 2 を有効 (ON) にするか無効 (OFF) にするかを設定します。本ビットは CHCR4~7 でのみ有効です。CHCR0~3 ではリザーブビットで、読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。</p> <p>00: リロード機能 2 は無効 (OFF)</p> <p>01: リロード機能 2 は有効 (ON)、DAR、ARCR をリロード</p> <p>10: リロード機能 2 は有効 (ON)、SAR、ARCR をリロード</p> <p>11: リロード機能 2 は有効 (ON)、SAR、DAR、ARCR をリロード</p>
25	—	0	R	<p>リザーブビット</p> <p>読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。</p>
24	IFT	0	R/W	<p>Integer→Floating-point 変換機能 ON/OFF</p> <p>Integer→Floating-point 変換 (整数フォーマット→浮動小数点フォーマット) 機能を有効 (ON) にするか無効 (OFF) にするかを設定します。</p> <p>対応する整数フォーマットは、16 ビットレジスタに左詰で格納された左端から 14 ビットに格納されたデータを符号なしの値とみなし、さらに MSB の左に小数点があると仮定した値です。</p> <p>変換後の浮動小数点フォーマットは、IEEE754 に準拠した単精度浮動小数点フォーマット (指数部は H'7F オフセットあり、仮数部は 1.xxx で表現されて、最初の 1 は隠しビット) で 32 ビットの値となります。</p> <p>本ビットは CHCR4~7 でのみ有効です。CHCR0~3 ではリザーブビットで、読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。</p> <p>また Integer→Floating-point 変換機能を有効にした場合には、転送データ単位をワードに設定 (CHCR.TS=B'01) してください。この場合には、転送元として 16 ビット値を読み出し、Integer→Floating-point 変換を行い、その結果である 32 ビット値を書き込みます。したがって、ソースレジスタはワードアクセスによる更新、デスティネーションアドレスはロングワードアクセスによる更新となります。さらに、デスティネーションアドレスがロングワード境界のアドレスでない場合にはアドレスエラーが発生します。</p> <p>なお、Integer→Floating-point 変換が有効な場合には、変換にサイクルが必要となるため DMAC の内部処理動作は、変換しない場合はリード (転送元→DMAC 内部) →ライト (DMAC 内部→転送先)、変換する場合はリード→Nop (変換処理) →ライトとなります。</p> <p>0: Integer→Floating-point 変換機能は無効 (OFF)</p> <p>1: Integer→Floating-point 変換機能は有効 (ON)</p>
23~19	—	すべて 0	R	<p>リザーブビット</p> <p>読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。</p>

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
18	HIE	0	R/W	<p>ハーフエンドインタラプトイネーブル</p> <p>転送回数が、転送開始前にセットした DMATCR の値に半分になった時点で、CPU に割り込み要求するかどうかを指定します。HIE ビットを 1 にセットした場合、CHFR の HE ビットがセットされると、CPU に対し割り込みを要求します。</p> <p>0 : DMATCR = (転送前にセットした DMATCR) / 2 で、割り込み要求を禁止 1 : DMATCR = (転送前にセットした DMATCR) / 2 で、割り込み要求を許可</p>
17, 16	—	すべて 0	R	<p>リザーブビット</p> <p>書き込む値は必ず 0 にしてください。1 を書き込んだ場合の動作は保証できません。</p>
15, 14	DM[1:0]	00	R/W	<p>デスティネーションアドレスモード</p> <p>DMA 転送先のアドレスの増減を指定します。</p> <p>00 : デスティネーションアドレスは固定 (16 バイト単位転送時は設定禁止) 01 : デスティネーションアドレスは増加 (バイト単位転送時は+1、ワード単位転送時は+2、ロングワード単位転送時は+4、16 バイト単位転送時は+16) 10 : デスティネーションアドレスは減少 (バイト単位転送時は-1、ワード単位転送時は-2、ロングワード単位転送時は-4、16 バイト単位転送時は設定禁止) 11 : 設定禁止</p>
13, 12	SM[1:0]	00	R/W	<p>ソースアドレスモード</p> <p>DMA 転送元のアドレスの増減を指定します。</p> <p>00 : ソースアドレスは固定 (16 バイト単位転送時は設定禁止) 01 : ソースアドレスは増加 (バイト単位転送時は+1、ワード単位転送時は+2、ロングワード単位転送時は+4、16 バイト単位転送時は+16) 10 : ソースアドレスは減少 (バイト単位転送時は-1、ワード単位転送時は-2、ロングワード単位転送時は-4、16 バイト単位転送時は設定禁止) 11 : 設定禁止</p>

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
11~8	RS[3:0]	0000	R/W	<p>リソースセレクト</p> <p>DMAC に入力する転送要求元を指定します。転送要求元の変更は、必ず DMA イネーブルビット (DE) が 0 の状態で行ってください。</p> <p>0000 : 初期値 (リソース非選択時)</p> <p>0001 : 設定禁止</p> <p>0010 : 設定禁止</p> <p>0011 : 設定禁止</p> <p>0100 : オートリクエスト</p> <p>0101 : 設定禁止</p> <p>0110 : 設定禁止</p> <p>0111 : 設定禁止</p> <p>1000 : DMA 拡張リソースセクタ</p> <p>1001 : RCAN_A</p> <p>1010 : RCAN_B</p> <p>1011 : RCAN_C</p> <p>1100 : ADC_A (A/D 変換終了)</p> <p>1101 : ADC_B (A/D 変換終了)</p> <p>1110 : 設定禁止</p> <p>1111 : 設定禁止</p>
7, 6	—	すべて 0	R	<p>リザーブビット</p> <p>書き込む値は必ず 0 にしてください。1 を書き込んだ場合の動作は保証できません。</p>
5	TB	0	R/W	<p>トランスファバスモード</p> <p>DMA 転送のバスモードを選択します。ただし、TC を B*10 以外に設定した場合には、バーストモードに設定しないでください。</p> <p>0 : サイクルスチールモード</p> <p>1 : バーストモード</p>
4, 3	TS[1:0]	00	R/W	<p>トランスファサイズ</p> <p>DMA 転送の単位を選択します。転送元または転送先が、転送サイズが指定された内蔵周辺モジュールのレジスタの場合には、必ずその転送サイズを選んでください。</p> <p>00 : バイト単位</p> <p>01 : ワード (2 バイト) 単位</p> <p>10 : ロングワード (4 バイト) 単位</p> <p>11 : 16 バイト (ロングワード×4) 単位</p>

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
2	IE	0	R/W	<p>インタラプトイネーブル</p> <p>DMA 転送終了時に CPU に割り込み要求するかどうかを指定します。IE ビットを 1 にセットした場合、CHFR レジスタの TE ビットがセットされると、CPU に対し割り込み (DEI) を要求します。</p> <p>0 : 割り込み要求を禁止 1 : 割り込み要求を許可</p>
1	—	0	R	<p>リザーブビット</p> <p>読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。</p>
0	DE	0	R/W	<p>DMA イネーブル</p> <p>DMA 転送を許可または禁止します。オートリクエストモードでは、DE ビットおよび DMAOR の DME ビットを 1 にセットすると転送を開始します。ただし、CHFR の TE ビット、DMAFR の NMIF ビット、AE ビットのすべてが 0 であることが必要です。周辺モジュールリクエストでは、DE ビットと DME ビットを 1 にセットした後で、さらに該当周辺モジュールから DMA 転送要求があると転送を開始します。ただし、この場合にもオートリクエストモードと同じく、CHFR の TE ビット、DMAFR の NMIF ビット、AE ビットのすべてが 0 であることが必要です。DE ビットをクリアすると、転送を中断することができます。</p> <p>0 : DMA 転送を禁止 1 : DMA 転送を許可</p>

11.2.5 DMA チャネルフラグビットレジスタ 0~7 (CHFR0~CHFR7)

CHFR は、読み出し／書き込み可能な 8 ビットのレジスタで、DMA 転送結果のフラグビットを持っています。パワーオンリセット時およびハードウェアスタンバイ時には H'00 に初期化され、モジュールスタンバイ機能使用時には値を保持します。

ビット :	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	HE	—	—	—	TE
初期値 :	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W :	R	R	R	R/(W)*	R	R	R	R/(W)*

【注】 * フラグをクリアするためには、レジスタを読み出して 1 を読み出せたクリア対象のビットにのみ、0 を書き込んでください。

クリアしない HE ビットもしくは TE ビットには、読み出した値が 0 の場合でも 1 を書き込み、リザーブビットには 0 のみを書き込むようにしてください。

CPU がフラグをリードした際に、CPU は 0 をリードしたにもかかわらず、フラグは 1 にセットされ内部的に 1 をリードされた状態になる場合があります。このとき、当該ビットに 0 を書き込むと、CPU が 1 をリードしていなくてもフラグがクリアされてしまいます。

本レジスタのフラグビットは他のモジュールのフラグと仕様異なるため、CPU のライトによるフラグクリアの操作に注意してください。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
7~5	—	すべて0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。
4	HE	0	R/(W)*	<p>ハーフエンドフラグ</p> <p>転送回数が、転送開始前にセットした DMATCR の値の半分以上になったとき、HE ビットは1にセットされます。転送回数が、転送開始前にセットした DMATCR の半分に満たない状態で、NMI 割り込み、DMA アドレスエラーによって転送が終了した場合、および CHCR の DE ビット、DMAOR の DME ビットをクリアして転送を終了させた場合には、HE ビットはセットされません。また、HE ビットがセットされてから、NMI 割り込み、DMA アドレスエラーによって転送が終了した場合、および CHCR の DE ビット、DMAOR の DME ビットをクリアして転送を終了させた場合には、HE ビットはセットされたままです。HE ビットをクリアするには、HE ビットの1を読み出してから0を書き込んでください。なお、転送回数が、転送開始前にセットした DMATCR の値の半分以上になっている間は、HE ビットをクリアしても再度セットされることはありません。</p> <p>0 : DMA 転送中または DMA 転送中断で、 $DMATCR > (\text{転送前にセットした DMATCR}) / 2$</p> <p>1 : $DMATCR \leq (\text{転送前にセットした DMATCR}) / 2$</p> <p>[クリア条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • HE ビットの1を読み出してから0を書き込む
3~1	—	すべて0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。
0	TE	0	R/(W)*	<p>トランスファエンドフラグ</p> <p>DMATCR の値が0になり、DMA 転送が終了すると、TE ビットは1にセットされます。DMATCR が0にならないときに、NMI 割り込み、DMA アドレスエラーによって転送が終了した場合、および CHCR の DE ビット、DMA オペレーションレジスタ (DMAOR) の DME ビットをクリアして転送を終了させた場合には、TE ビットはセットされません。TE ビットをクリアするには、TE ビットの1を読み出してから0を書き込みます。</p> <p>TE ビットがセットされていると、DE ビットを1にしても転送は許可されません。</p> <p>0 : DMA 転送中または DMA 転送中断</p> <p>1 : (DMATCR=0 により) DMA 転送終了</p> <p>[クリア条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • TE ビットの1を読み出してから0を書き込む

11.2.6 DMA TE フラグマスク設定レジスタ (TEMSK0~TEMSK7)

TEMSK は、読み出し/書き込み可能な 16 ビットのレジスタで、8 ビットのライトキー付きです。リロード機能が有効な場合に、TE フラグのセットによって DMA 転送を停止するか継続するかを制御します。リロード機能が無効な場合には、本レジスタの設定は無視され、TE フラグのセットによって DMA 転送を停止します。

パワーオンリセット時およびハードウェアスタンバイ時には H'0000 に初期化され、モジュールスタンバイ機能使用時には値を保持します。

TEMSK はライトキー付きであるため、書き込みはワード単位で行う必要があります。TEMASK ビットの値を書き換えるには、同時に TEMKEY ビットに H'5B を書き込んでください。TEMKEY ビットに H'5B 以外の値が書き込まれた場合やバイト単位での書き込みは無視されます。

TEMSK の読み出しはワード単位、バイト単位のどちらでも可能です。ただし、TEMKEY ビットへの書き込みデータは保持されませんので、TEMKEY ビットの読み出し値は常に H'00 になります。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	TEMKEY[7:0]								—	—	—	—	—	—	—	TEMASK
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R	R	R	R	R	R	R	R/W

【注】* 書き込みデータは保持されません。常に0が読み出されます。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~8	TEMKEY [7:0]	すべて0	R/W*	TEMSK ライトキーコード TEMSK のライトキーコードで、TEMASK ビットの書き換えの可否を制御します。本ビットへの書き込みデータは保持されませんので、読み出し値は常に H'00 になります。 H'5B : TEMASK ビットの書き換え可能 H'5B 以外 : TEMASK ビットの書き換え不可
7~1	—	すべて0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
0	TEMASK	0	R/W	<p>TE フラグマスク設定ビット</p> <p>TE ビットが 1 にセットされたときに、DMA 転送を停止するか停止しないかを設定します。リロード機能 1 を有効にして本ビットを 1 に設定することで、転送要求を取りやめるまでの期間、DMA 転送を実行することができます。</p> <p>本機能はリロード機能 1 が有効な場合にのみ有効となります。</p> <p>なお、リロード機能 1 を有効にして TEMASK ビットを 1 に設定することで、TE フラグが 1 にセットされても DMA 転送を継続して行う場合の CHFR レジスタの HE ビットおよび TE ビットの動作は下記ようになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • HE ビットを途中でクリアした場合には、次に DMATCR の値が転送開始前にセットした値の半分以下になった時点で再びセットされます。 • TE ビットを途中でクリアした場合には、次に DMATCR の値が 0 になった時点で再びセットされます。 • セットされた HE ビットまたは TE ビットをクリアするために 1 リードを行った情報は、該当ビットがクリアされるまで保持されます。そのため、セットされた後に 1 リードを行った HE ビットまたは TE ビットは、次にリロード機能 1 が働いて各レジスタ値が更新された後でも 0 ライトのみでクリアすることができます。 <p>0 : TE フラグが 1 にセットされると DMA 転送を停止 1 : TE フラグが 1 にセットされても DMA 転送を継続</p> <p>【注】本機能を有効にした場合には、DMA 転送によるバス占有率が高くなることに注意してください。本機能を有効にして、リクエスト要求としてオートリクエストを設定し、バスモードとしてバースト転送モードを設定しないでください。この設定をした場合の動作は保証できません。</p>

11.2.7 DMA リロードソースアドレスレジスタ 0~7 (RSAR0~RSAR7)

RSAR は、読み出し／書き込み可能な 32 ビットのレジスタで、DMA 転送中でも設定変更が可能です。

リロード機能 1 を ON に設定 (CHCR の RLD1 ビットが 1) している場合には、現在の DMA 転送が終了 (DMATCR = 0) した時点で、RSAR の内容がソースアドレスレジスタ (SAR) に書き込まれます。また、リロード機能 2 を ON に設定 (CHCR の RLD2[1] ビットが 1) している場合には、現在のアドレスリロードカウンタが 0 (ARCR = 0) になった時点で、RSAR の内容がソースアドレスレジスタ (SAR) に書き込まれます。あらかじめ設定を行っておくことで、次の DMA 転送のための設定をプリセットしておくことができます。リロード機能をすべて OFF に設定している場合には、動作に何も影響を与えません。

ワード (2 バイト)、ロングワード (4 バイト)、16 バイト単位のデータ転送を行う場合は、それぞれ、2 バイト、4 バイト、16 バイト境界のアドレスを指定してください。

パワーオンリセット時およびハードウェアスタンバイ時には H'00000000 に初期化され、モジュールスタンバイ機能使用時には値を保持します。

ビット:	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

11.2.8 DMA リロードデスティネーションアドレスレジスタ 0~7 (RDAR0~RDAR7)

RDAR は、読み出し／書き込み可能な 32 ビットのレジスタで、DMA 転送中でも設定変更が可能です。

リロード機能 1 を ON に設定 (CHCR の RLD1 ビットが 1) している場合には、現在の DMA 転送が終了 (DMATCR = 0) した時点で、RDAR の内容がデスティネーションアドレスレジスタ (DAR) に書き込まれます。また、リロード機能 2 を ON に設定 (CHCR の RLD2[0] ビットが 1) している場合には、現在のアドレスリロードカウンタが 0 (ARCR = 0) になった時点で、RDAR の内容がデスティネーションアドレスレジスタ (DAR) に書き込まれます。あらかじめ設定を行っておくことで、次回の DMA 転送のための設定をプリセットしておくことができます。リロード機能をすべて OFF に設定している場合には、動作に何も影響を与えません。

ワード (2 バイト)、ロングワード (4 バイト)、16 バイト単位のデータ転送を行う場合は、それぞれ、2 バイト、4 バイト、16 バイト境界のアドレスを指定してください。

パワーオンリセット時およびハードウェアスタンバイ時には H'00000000 に初期化され、モジュールスタンバイ機能使用時には値を保持します。

ビット:	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

11.2.9 DMA リロードトランスファカウンタレジスタ 0~7 (RDMATCR0~RDMATCR7)

RDMATCR は、読み出し/書き込み可能な 32 ビットのレジスタで、DMA 転送中でも設定変更が可能です。

リロード機能 1 を ON に設定 (CHCR の RLD1 ビットが 1) している場合には、現在の DMA 転送が終了 (DMATCR = 0) した時点で、RDMATCR の内容が DMA トランスファカウンタレジスタ (DMATCR) に書き込まれます。あらかじめ設定を行っておくことで、次回の DMA 転送のための設定をプリセットしておくことができます。リロード機能 1 を OFF に設定 (CHCR の RLD1 ビットが 0) している場合には、動作に何も影響を与えません。

RDMATCR の上位 8 ビットは、読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。

DMATCR 同様、転送回数は、設定値が H'00000001 のときは 1 回、H'00FFFFFF のときは 16,777,215 回で、H'00000000 のときは 16,777,216 回 (最大転送回数) になります。また、16 バイト転送のときは、16 バイト転送 1 回 (128 ビット) で 1 回のカウントをします。

パワーオンリセット時およびハードウェアスタンバイ時には H'00000000 に初期化され、モジュールスタンバイ機能使用時には値を保持します。

ビット:	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	-	-	-	-	-	-	-	-								
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R	R	R	R	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

11.2.10 DMA アドレスリロードカウントレジスタ 4~7 (ARCR4~ARCR7)

ARCR は、読み出し／書き込み可能な 16 ビットのレジスタです。

リロード機能 2 を ON に設定 ((ICHCR.RLD2[1:0]) =1) している場合には、このレジスタが 0 になるタイミングで、この ARCR 自体とソースアドレスレジスタ (SAR) または /かつ デスティネーションアドレスレジスタ (DAR) がリロードされます。リロード機能 2 を OFF に設定 ((ICHCR.RLD2[1:0]) =0) している場合には、動作に何も影響を与えません。なお、ARCR レジスタは、リロード機能 2 を ON に設定 ((ICHCR.RLD2[1:0]) =1) している場合にのみリロード動作を行います。

ARCR の上位 8 ビットは、読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。

DMATCR 同様、転送回数は、設定値が H'0001 のときは 1 回、H'00FF のときは 255 回で、H'0000 のときは 256 回 (最大カウント数) になります。また、16 バイト転送のときは、16 バイト転送 1 回 (128 ビット) で 1 回のカウントをします。

パワーオンリセット時およびハードウェアスタンバイ時には H'0000 に初期化され、モジュールスタンバイ機能使用時には値を保持します。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	-	-	-	-	-	-	-	-								
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R	R	R	R	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

11.2.11 DMA リロードアドレスリロードカウントレジスタ 4~7 (RARCR4~RARCR7)

RARCR は、読み出し／書き込み可能な 16 ビットのレジスタで、DMA 転送中でも設定変更が可能です。

リロード機能 2 を ON に設定 (CHCR の RLD2[1] ビットまたは RLD2[0] ビットが 1) している場合には、現在のリロードカウンタが 0 (ARCR=0) になった時点で、RARCR の内容が DMA アドレスリロードカウントレジスタ (ARCR) に書き込まれます。あらかじめ設定を行っておくことで、次の DMA 転送のための設定をプリセットしておくことができます。リロード機能 2 を OFF に設定 (CHCR の RLD2[1] ビットおよび RLD2[0] ビットがともに 0) している場合には、動作に何も影響を与えません。

リロード機能 1 とリロード機能 2 をともに ON に設定している場合には、現在の DMA 転送が終了 (DMATCR =0) した時点で、RARCR の内容がアドレスリロードカウントレジスタ (ARCR) に書き込まれます。

RARCR の上位 8 ビットは、読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。

ARCR 同様、転送回数は、設定値が H'0001 のときは 1 回、H'00FF のときは 255 回で、H'0000 のときは 256 回 (最大カウント数) になります。また、16 バイト転送のときは、16 バイト転送 1 回 (128 ビット) で 1 回のカウントをします。

パワーオンリセット時およびハードウェアスタンバイ時には H'0000 に初期化され、モジュールスタンバイ機能使用時には値を保持します。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	-	-	-	-	-	-	-	-								
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R	R	R	R	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

11.2.12 DMA オペレーションレジスタ (DMAOR)

DMAOR は、読み出し／書き込み可能な 16 ビットのレジスタで、DMA 転送時のチャンネルの優先順位を指定します。

パワーオンリセット時およびハードウェアスタンバイ時には H'0000 に初期化され、モジュールスタンバイ機能使用時には値を保持します。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	CMS[1:0]		—	—	PR[1:0]		—	—	—	—	—	—	—	DME
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R/W	R/W	R	R	R/W	R/W	R	R	R	R	R	R	R	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15, 14	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
13, 12	CMS[1:0]	00	R/W	サイクルスチールモードセレクト サイクルスチールモード時に通常モードとインターミットモードを選択します。インターミットモードを有効にするためには、全チャンネルのバスモードがサイクルスチールモードであることが必要です。 00: 通常モード 01: 設定禁止 10: インターミットモード 16 Pφクロックで 16 クロックに 1 回 DMA 転送を実行 11: インターミットモード 64 Pφクロックで 64 クロックに 1 回 DMA 転送を実行
11, 10	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
9, 8	PR[1:0]	00	R/W	プライオリティモード 同時に複数のチャンネルに転送要求があった場合に、実行するチャンネルの優先順位を決定するビットです。 00: 固定モード 1: CH0>CH1>CH2>CH3>CH4>CH5>CH6>CH7 01: 固定モード 2: CH0>CH4>CH1>CH5>CH2>CH6>CH3>CH7 10: 設定禁止 11: ラウンドロビンモード (CH0~CH3 のみラウンドロビン対象)
7~1	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
0	DME	0	R/W	<p>DMA マスタイネーブル</p> <p>すべてのチャンネルの DMA 転送を許可または禁止します。DME ビットおよび CHCR の DE ビットを 1 にセットすると、DMA 転送が許可されます。ただし、転送を行うチャンネルの CHFR にある TE ビットが 0 または CHCR の RLD1 ビットが 1 かつ TEMASK ビットが 1 であり、さらに DMAFR の NMIF ビット、AE ビットのすべてが 0 であることが必要です。DME ビットをクリアすると、すべてのチャンネルの DMA 転送が中断されます。</p> <p>0 : 全チャンネルの DMA 転送を禁止 1 : 全チャンネルの DMA 転送を許可</p>

1 転送終了後にプライオリティモードビットの設定が変更された場合、優先順位が初期化されます。

たとえば、固定モード 2 で再設定した場合、優先順位は CH0>CH4>CH1>CH5>CH2>CH6>CH3>CH7 となり、固定モード 1 で再設定した場合は優先順位は CH0>CH1>CH2>CH3>CH4>CH5>CH6>CH7 となります。また、ラウンドロビンモードに再設定した場合は、転送終了チャンネルはリセットされます。

表 11.2 に、プライオリティモードビットの各モード (モード 0~2) の優先順位の遷移を示します。ラウンドロビンモードは転送終了したチャンネルによって、次にリクエストを受けるチャンネルの優先順位が最大 3 通りに変化します。

たとえば、転送終了したチャンネルが CH1 のとき、次にリクエストを受け付けるチャンネルの優先順位は、CH2>CH3>CH0>CH1>CH4>CH5>CH6>CH7 となります。また、転送終了したチャンネルが CH4、CH5、CH6、CH7 の場合にはラウンドロビンの対象外となるため、チャンネル 4、チャンネル 5、チャンネル 6、またはチャンネル 7 が転送終了しても優先順位は変化しません。

表 11.2 プライオリティモードビットの組み合わせ

モード	転送終了	プライオリティモードビット		転送終了後の優先順位：高←→低							
		CH No.	PR1	PR0	優先順位 0	優先順位 1	優先順位 2	優先順位 3	優先順位 4	優先順位 5	優先順位 6
モード 0 (固定モード 1)	任意	0	0	CH0	CH1	CH2	CH3	CH4	CH5	CH6	CH7
モード 1 (固定モード 2)	任意	0	1	CH0	CH4	CH1	CH5	CH2	CH6	CH3	CH7
モード 2 (ラウンドロビンモード)	CH0	1	1	CH1	CH2	CH3	CH0	CH4	CH5	CH6	CH7
	CH1	1	1	CH2	CH3	CH0	CH1	CH4	CH5	CH6	CH7
	CH2	1	1	CH3	CH0	CH1	CH2	CH4	CH5	CH6	CH7
	CH3	1	1	CH0	CH1	CH2	CH3	CH4	CH5	CH6	CH7
	CH4	1	1	CH0	CH1	CH2	CH3	CH4	CH5	CH6	CH7
	CH5	1	1	CH0	CH1	CH2	CH3	CH4	CH5	CH6	CH7
	CH6	1	1	CH0	CH1	CH2	CH3	CH4	CH5	CH6	CH7
	CH7	1	1	CH0	CH1	CH2	CH3	CH4	CH5	CH6	CH7

11.2.13 DMA オペレーションフラグビットレジスタ (DMAFR)

DMAFR は、読み出し／書き込み可能な 8 ビットのレジスタで、DMA 転送状態 (ステータス) を示す DMA オペレーションのフラグビットを持っています。

パワーオンリセット時およびハードウェアスタンバイ時には H'00 に初期化され、モジュールスタンバイ機能使用時には値を保持します。

ビット :	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	AE	—	—	—	NMIF
初期値 :	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W :	R	R	R	R/(W)*	R	R	R	R/(W)*

【注】* フラグをクリアするためには、レジスタを読み出して1を読み出せたクリア対象のビットにのみ、0を書き込んでください。

クリアしないAEビットもしくはNMIFビットには、読み出した値が0の場合でも1を書き込み、リザーブビットには0のみを書き込むようにしてください。

CPUがフラグをリードした際に、CPUは0をリードしたにもかかわらず、フラグは1にセットされ内部的に1をリードされた状態になる場合があります。このとき、当該ビットに0を書き込むと、CPUが1をリードしていなくてもフラグがクリアされてしまいます。

本レジスタのフラグビットは他のモジュールのフラグと仕様が異なるため、CPUのライトによるフラグクリアの操作に注意してください。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
7~5	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
4	AE	0	R/(W)*	<p>アドレスエラーフラグ</p> <p>DMAC によるアドレスエラーが生じたことを示します。AE ビットがセットされると、CHCR の DE ビットと DMAOR の DME ビットを 1 にセットしても、DMA 転送は許可されません。AE ビットをクリアするには、AE ビットの 1 を読み出してから 0 を書き込みます。また、アドレスエラー発生時の DMAC の内部処理動作は次のようになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • アドレスエラーが発生しない場合：リード (転送元→DMAC 内部) → ライト (DMAC 内部→転送先) • アドレスエラーがソースアドレスで発生した場合：Nop→Nop • アドレスエラーがデスティネーションアドレスで発生した場合：リード→Nop <p>0 : DMAC によるアドレスエラーなし 1 : DMAC によるアドレスエラー発生</p> <p>[クリア条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • AE ビットの 1 を読み出してから 0 を書き込む
3~1	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
0	NMIF	0	R/(W)*	<p>NMI フラグ</p> <p>NMI 割り込みが発生したことを示します。NMIF ビットがセットされると、CHCR の DE ビットと DMAOR の DME ビットを 1 にセットしても、DMA 転送は許可されません。NMIF ビットをクリアするには、NMIF ビットの 1 を読み出してから 0 を書き込みます。</p> <p>NMI が入力されたとき、実行中の DMA 転送の一転送単位までは行われま す。また NMI によって DMAC の動作が中断された場合には、NMIF ビット の 1 を読み出した後 0 にクリアすることで、DMAC の動作を再開すること が可能です。これはすべてのリロード機能の有効/無効にかかわらず同じ 動作をします。DMAC が動作していないときに、NMI 割り込みが入力され ても、NMIF ビットは 1 にセットされます。</p> <p>0 : NMI 割り込みなし 1 : NMI 割り込み発生</p> <p>[クリア条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • NMIF ビットの 1 を読み出してから 0 を書き込む

11.2.14 DMA 拡張リソースセクタ 0~3 (DMARS0~DMARS3)

DMARS は、読み出し／書き込み可能な 16 ビットのレジスタで、チャンネルごとに周辺モジュールからの DMA 転送要求元を指定します。DMARS0 はチャンネル 0 および 1、DMARS1 はチャンネル 2 および 3、DMARS2 はチャンネル 4 および 5、DMARS3 はチャンネル 6 および 7 を設定します。設定可能な組み合わせを表 11.3 に示します。

ATU-III からの 35 要因、ADC からの 8 要因 (DMARS のみ)、CMT からの 2 要因に対して転送要求を受け付けることができるように設定できます。

パワーオンリセット時およびハードウェアスタンバイ時には H'0000 に初期化され、モジュールスタンバイ機能使用時には値を保持します。

- DMARS0

ビット :	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	CH1 MID[5:0]					CH1 RID[1:0]		CH0 MID[5:0]					CH0 RID[1:0]			
初期値 :	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W :	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

- DMARS1

ビット :	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	CH3 MID[5:0]					CH3 RID[1:0]		CH2 MID[5:0]					CH2 RID[1:0]			
初期値 :	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W :	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

- DMARS2

ビット :	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	CH5 MID[5:0]					CH5 RID[1:0]		CH4 MID[5:0]					CH4 RID[1:0]			
初期値 :	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W :	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

- DMARS3

ビット :	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	CH7 MID[5:0]					CH7 RID[1:0]		CH6 MID[5:0]					CH6 RID[1:0]			
初期値 :	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W :	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

各モジュールからの転送要求は、以下のMID、RIDを設定します。

表 11.3 DMARS の設定

周辺モジュール	1チャンネル分の 設定値((MID,RID))	MID	RID	機能
ATU-III_C0	H'03	B'000000	B'11	—
ATU-III_C1	H'07	B'000001	B'11	—
ATU-III_C2	H'0B	B'000010	B'11	—
ATU-III_D00	H'13	B'000100	B'11	—
ATU-III_D01	H'17	B'000101	B'11	—
ATU-III_D02	H'1B	B'000110	B'11	—
ATU-III_D03	H'1F	B'000111	B'11	—
ATU-III_E0	H'23	B'001000	B'11	—
ATU-III_E1	H'27	B'001001	B'11	—
ATU-III_E2	H'2B	B'001010	B'11	—
ATU-III_E3	H'2F	B'001011	B'11	—
ATU-III_E4	H'33	B'001100	B'11	—
ATU-III_E5	H'37	B'001101	B'11	—
ATU-III_C3	H'3B	B'001110	B'11	—
ATU-III_C4	H'3F	B'001111	B'11	—
ATU-III_G0	H'43	B'010000	B'11	—
ATU-III_G1	H'47	B'010001	B'11	—
ATU-III_G2	H'4B	B'010010	B'11	—
ATU-III_G3	H'4F	B'010011	B'11	—
ATU-III_D10	H'53	B'010100	B'11	—
ATU-III_D11	H'57	B'010101	B'11	—
ATU-III_D12	H'5B	B'010110	B'11	—
ATU-III_D13	H'5F	B'010111	B'11	—
ADC_B AN40	H'63	B'011000	B'11	—
ADC_B AN41	H'67	B'011001	B'11	—
ADC_B AN42	H'6B	B'011010	B'11	—
ADC_B AN43	H'6F	B'011011	B'11	—
ADC_B AN44	H'73	B'011100	B'11	—
ADC_B AN45	H'77	B'011101	B'11	—
ADC_B AN46	H'7B	B'011110	B'11	—
ADC_B AN47	H'7F	B'011111	B'11	—
ATU-III_D20	H'93	B'100100	B'11	—
ATU-III_D21	H'97	B'100101	B'11	—

周辺モジュール	1チャンネル分の 設定値((MID,RID))	MID	RID	機能
ATU-III_D22	H'9B	B'100110	B'11	—
ATU-III_D23	H'9F	B'100111	B'11	—
ATU-III_D30	H'D3	B'110100	B'11	—
ATU-III_D31	H'D7	B'110101	B'11	—
ATU-III_D32	H'DB	B'110110	B'11	—
ATU-III_D33	H'DF	B'110111	B'11	—
ATU-III_J0	H'E3	B'111000	B'11	—
ATU-III_J1	H'E7	B'111001	B'11	—
ATU-III_G4	H'EF	B'111011	B'11	—
ATU-III_G5	H'F3	B'111100	B'11	—
CMT_0	H'FB	B'111110	B'11	—
CMT_1	H'FF	B'111111	B'11	—

表 11.3 以外の MID または RID を設定したときの動作は保証できません。DMARS レジスタからの転送要求は、CHCR0~7 レジスタのリソースセレクトビット (RS[3:0]) = B'1000 に設定したときのみ有効です。B'1000 以外の場合は、DMARS を設定しても転送要求元として受け付けられません。

11.3 動作説明

DMACはDMA転送要求が発生すると決められたチャネルの優先順位に従って転送を開始し、転送終了条件が満たされると転送を終了します。転送要求にはオートリクエスト、内蔵周辺モジュールリクエストの2種類のモードがあります。バスモードはバーストモードとサイクルスチールモードを選択することができます。

11.3.1 転送フロー

DMA ソースアドレスレジスタ (SAR)、DMA デスティネーションアドレスレジスタ (DAR)、DMA トランスファカウントレジスタ (DMATCR)、DMA チャネルコントロールレジスタ (CHCR)、DMA オペレーションレジスタ (DMAOR)、DMA 拡張リソースセレクト (DMARS) に目的の転送条件を設定します。

さらにリロード機能を使用する場合にはDMA アドレスリロードカウントレジスタ (ARCR)、DMA リロードアドレスリロードカウントレジスタ (RARCR)、DMA リロードソースアドレスレジスタ (RSAR)、DMA リロードデスティネーションアドレスレジスタ (RDAR)、DMA リロードトランスファカウントレジスタ (RDMATCR) を必要に応じて設定します。また、すでに転送を行っていたり、NMI 割り込みやアドレスエラーが発生していた場合には、DMA チャネルフラグビットレジスタ (CHFR)、DMA オペレーションフラグビットレジスタ (DMAFR) を必要に応じてクリアします。

以上のレジスタを設定した後、DMAC は以下の順序でデータを転送します。

1. 転送許可状態かどうか (DE=1、DME=1、(TE=0または (RLD=1かつTEMASK=1))、AE=0、NMIF=0) をチェックします。
2. 転送許可状態で転送要求が発生すると1転送単位のデータ (TS[1:0]ビットの設定により決定) を転送します。オートリクエストモードの場合はDEビットおよびDMEビットが1にセットされると自動的に転送を開始します。1回の転送を行うごとにDMATCRの値を1デクリメントします。さらにCHCRのRLD2[1:0]ビットがB'00以外に設定されていればARCRの値を1デクリメントします。具体的な転送フローは、アドレスモード、バスモードにより異なります。
3. CHCRのTC[1:0]ビットがB'00に設定されており、内蔵周辺モジュールからのリクエストであれば当該モジュールに対して転送アクノリッジ信号を返します。
4. CHCRのRLD2[1:0]ビットがB'00以外に設定されており、ARCRに設定された回数の転送が行われると、リロード機能2が働きます。これは、RLD2[1]ビットが1の場合には「RSAR→SAR、RARCR→ARCR」の動作を、RLD2[0]ビットが1の場合には「RDAR→DAR、RARCR→ARCR」の動作を行います。さらにCHCRのTC[1:0]ビットがB'01に設定されており、内蔵周辺モジュールからのリクエストであれば当該モジュールに対して転送アクノリッジ信号を返します。
5. 指定された回数の半分の転送を超える (DMATCRの値が初期値の1/2になる) と、CHFRのHEビットを1にセットし、CHCRのHIEビットに1がセットしてあれば、CPUにHEI割り込みを発生します。
6. 指定された回数の転送を終える (DMATCRの値が0になる) と、CHFRのTEビットを1にセットし、転送を正常に終了します。このときCHCRのIEビットに1がセットしてあれば、CPUにDEI割り込みを発生します。またCHCRのRLD1ビットが1に設定されていればリロード機能1が働きます。これは「RSAR→SAR、RDAR→

DAR、RDMATCR→DMATCR、RARCR→ARCR（リロード機能2が有効な場合のみ）」の動作を行います。さらに、RDL1=1かつTEMASK=1に設定されている場合には「1.」へ戻り、転送要求がなくなるまで転送動作を継続します。加えてCHCRのTC[0]ビットが0に設定されており、内蔵周辺モジュールからのリクエストであれば当該モジュールに対して転送アクノリッジ信号を返します。

7. DMACによるアドレスエラーかNMI割り込みが発生した場合には、転送を中断します。またCHCRのDEビットかDMAORのDMEビットを0にしても中断します。

図 11.2 に上記のフローチャートを示します。

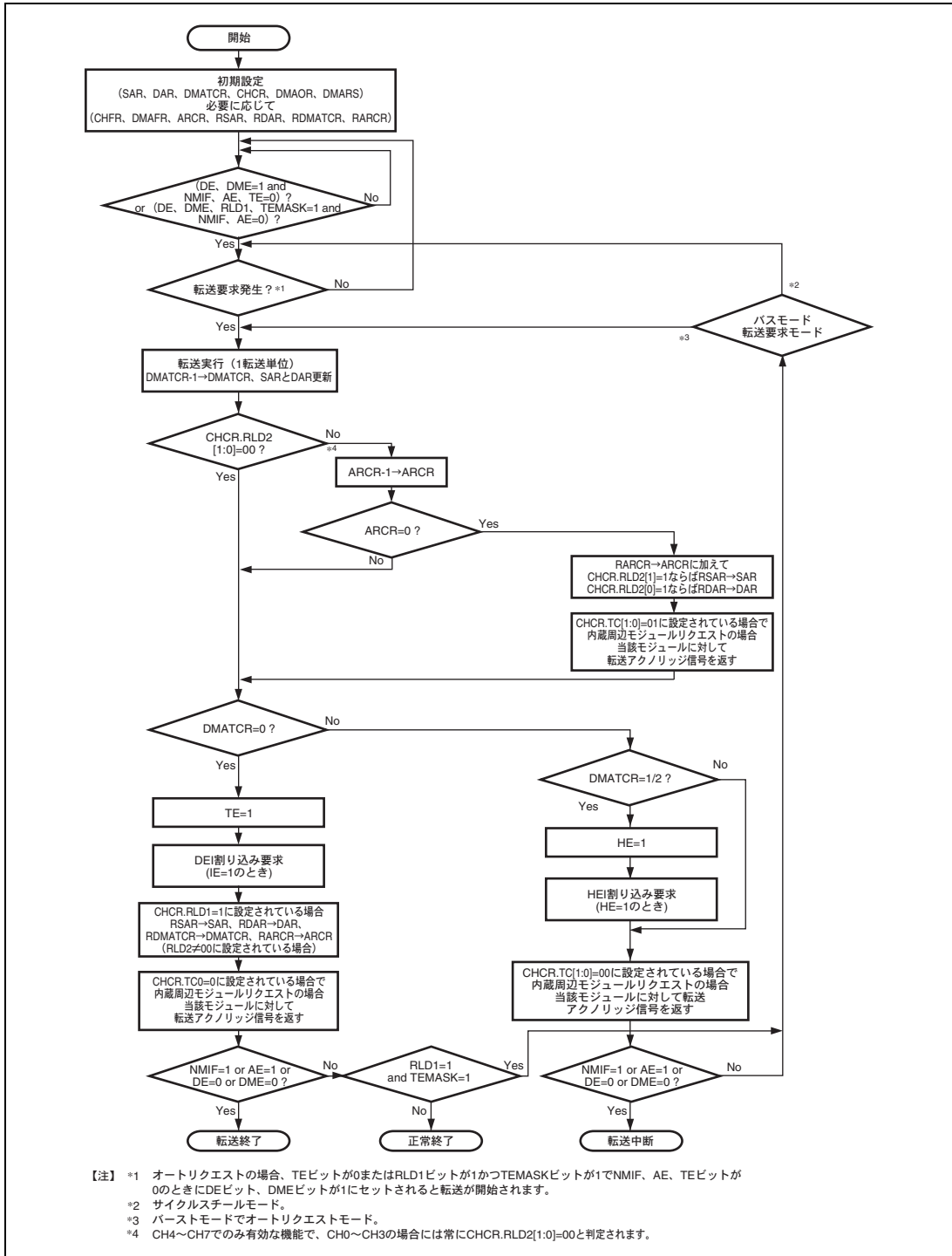


図 11.2 DMA 転送フローチャート

11.3.2 DMA 転送要求

DMA 転送要求はデータの転送元または転送先に発生させるのが基本的な使い方ですが、転送元でも転送先でもない外部デバイスや内蔵周辺モジュールに発生させる使い方もできます。

転送要求にはオートリクエスト、内蔵周辺モジュールリクエストの2種類があります。転送要求の選択はCHCR0～CHCR7のRS[3:0]ビットおよびDMARS0、DMARS1、DMARS2、DMARS3レジスタによって行います。

(1) オートリクエストモード

オートリクエストモードは、メモリ同士の転送や、転送要求を発生できない内蔵周辺モジュールとメモリ転送のように、転送要求信号が外部から来ない場合に、DMAC 内部で自動的に転送要求信号を発生するモードです。CHCR0～CHCR7のDEビットおよびDMAORのDMEビットを1にセットすると転送が開始されます。ただしCHFR0～CHFR7のTEビット、DMAFRのAEビット、NMIFビットがすべて0である必要があります。

(2) 内蔵周辺モジュールリクエストモード

内蔵周辺モジュールリクエストモードでは、内蔵周辺モジュールからのDMA転送要求信号によって転送が実行されます。

内蔵周辺モジュールからDMACに対するDMA転送要求信号としては、ADCからのA/D変換転送終了要求、RCAN-TL1やATU-IIIからの転送要求、CMTからのコンペアマッチ転送要求があります。

内蔵周辺モジュールリクエストモード選択時に、DMA転送許可状態（DE=1、DME=1、TE=0、AE=0、NMIF=0）ならば、転送要求信号によって転送が実行されます。

転送要求がADCからの場合、転送元をA/Dデータレジスタ(ADDR)とする必要があります。転送要求がCMT、ATU-IIIからの場合、データの転送元、転送先ともに任意のアドレス設定が可能です。

表 11.4 RS3~RS0 ビットによる内蔵周辺モジュールリクエストモードの選択

CHCR	DMARS		DMA 転送 要求元	DMA 転送要求信号	転送元	転送先	バスモード
	RS[3:0]	MID					
1001	任意	任意	RCAN_A	RMA0 (受信完了)	RCAN0 (MB0)	任意	サイクル スチール
1010	任意	任意	RCAN_B	RMB0 (受信完了)	RCAN1 (MB0)	任意	
1011	任意	任意	RCAN_C	RMC0 (受信完了)	RCAN2 (MB0)	任意	
1100	任意	任意	ADC_A	ADI0 (スキャン変換終了)	ADDR0、ADR0 ~ADR27	任意	サイクル スチール/ バースト
1101	任意	任意	ADC_B	ADI1 (スキャン変換終了)	ADDR1、ADR40 ~ADR48	任意	
1000	000000	11	ATU-III_C0	IMIC00 (インプットキャプチャ /コンペアマッチ)	任意	任意	サイクル スチール/ バースト
	000001	11	ATU-III_C1	IMIC10 (インプットキャプチャ /コンペアマッチ)	任意	任意	
	000010	11	ATU-III_C2	IMIC20 (インプットキャプチャ /コンペアマッチ)	任意	任意	
	001110	11	ATU-III_C3	IMIC30 (インプットキャプチャ /コンペアマッチ)	任意	任意	
	001111	11	ATU-III_C4	IMIC40 (インプットキャプチャ /コンペアマッチ)	任意	任意	
	000100	11	ATU-III_D00	UDID00 (ダウンカウンタ アンドフロー)	任意	任意	サイクル スチール/ バースト
	000101	11	ATU-III_D01	UDID01 (ダウンカウンタ アンドフロー)	任意	任意	
	000110	11	ATU-III_D02	UDID02 (ダウンカウンタ アンドフロー)	任意	任意	
	000111	11	ATU-III_D03	UDID03 (ダウンカウンタ アンドフロー)	任意	任意	
	001000	11	ATU-III_E0	CMIE00 (コンペアマッチ)	任意	任意	サイクル スチール/ バースト
	001001	11	ATU-III_E1	CMIE10 (コンペアマッチ)	任意	任意	
	001010	11	ATU-III_E2	CMIE20 (コンペアマッチ)	任意	任意	
	001011	11	ATU-III_E3	CMIE30 (コンペアマッチ)	任意	任意	
	001100	11	ATU-III_E4	CMIE40 (コンペアマッチ)	任意	任意	
	001101	11	ATU-III_E5	CMIE50 (コンペアマッチ)	任意	任意	サイクル スチール/ バースト
	010000	11	ATU-III_G0	CMIG0 (コンペアマッチ)	任意	任意	
010001	11	ATU-III_G1	CMIG1 (コンペアマッチ)	任意	任意		
010010	11	ATU-III_G2	CMIG2 (コンペアマッチ)	任意	任意		
010011	11	ATU-III_G3	CMIG3 (コンペアマッチ)	任意	任意		

CHCR	DMARS		DMA 転送 要求元	DMA 転送要求信号	転送元	転送先	バスモード
	RS[3:0]	MID					
1000	010100	11	ATU-III_D10	UDID10 (ダウンカウンタ アンドフロー)	任意	任意	サイクル スチール/ バースト
	010101	11	ATU-III_D11	UDID11 (ダウンカウンタ アンドフロー)	任意	任意	
	010110	11	ATU-III_D12	UDID12 (ダウンカウンタ アンドフロー)	任意	任意	
	010111	11	ATU-III_D13	UDID13 (ダウンカウンタ アンドフロー)	任意	任意	
	011000	11	ADC_B AN40	ADID40 (割り込み変換終了)	ADR40	任意	サイクル スチール
	011001	11	ADC_B AN41	ADID41 (割り込み変換終了)	ADR41	任意	
	011010	11	ADC_B AN42	ADID42 (割り込み変換終了)	ADR42	任意	
	011011	11	ADC_B AN43	ADID43 (割り込み変換終了)	ADR43	任意	
	011100	11	ADC_B AN44	ADID44 (割り込み変換終了)	ADR44	任意	
	011101	11	ADC_B AN45	ADID45 (割り込み変換終了)	ADR45	任意	
	011110	11	ADC_B AN46	ADID46 (割り込み変換終了)	ADR46	任意	
	011111	11	ADC_B AN47	ADID47 (割り込み変換終了)	ADR47	任意	
	100100	11	ATU-III_D20	UDID20 (ダウンカウンタ アンドフロー)	任意	任意	サイクル スチール/ バースト
	100101	11	ATU-III_D21	UDID21 (ダウンカウンタ アンドフロー)	任意	任意	
	100110	11	ATU-III_D22	UDID22 (ダウンカウンタ アンドフロー)	任意	任意	
	100111	11	ATU-III_D23	UDID23 (ダウンカウンタ アンドフロー)	任意	任意	
	110100	11	ATU-III_D30	UDID30 (ダウンカウンタ アンドフロー)	任意	任意	サイクル スチール/ バースト
	110101	11	ATU-III_D31	UDID31 (ダウンカウンタ アンドフロー)	任意	任意	
	110110	11	ATU-III_D32	UDID32 (ダウンカウンタ アンドフロー)	任意	任意	
	110111	11	ATU-III_D33	UDID33 (ダウンカウンタ アンドフロー)	任意	任意	
111000	11	ATU-III_J0	DFIJ0 (FIFO フル)	任意	任意	サイクル スチール/ バースト	
111001	11	ATU-III_J1	DFIJ1 (FIFO フル)	任意	任意		
111011	11	ATU-III_G4	CMIG4 (コンペアマッチ)	任意	任意		
111100	11	ATU-III_G5	CMIG5 (コンペアマッチ)	任意	任意		
111110	11	CMT_0	CMI0 (コンペアマッチ)	任意	任意		
111111	11	CMT_1	CMI1 (コンペアマッチ)	任意	任意		

【注】 表 11.4 において転送元と転送先がともに任意になっている DMA 転送要求元以外を使用する場合には、CHCR レジスタの TC[1:0]ビットを B'00 以外に設定しないでください。B'00 以外に設定した場合の動作は保証しません。ただし、ADC_A、ADC_B の場合は、例外的に TC[1:0]ビットを B'00 以外に設定可能となっています。

11.3.3 チャンネルの優先順位

DMAC は同時に複数のチャンネルに対して転送要求があった場合には、決められた優先順位に従って転送を行います。チャンネルの優先順位は固定モード 1、固定モード 2、ラウンドロビンモードの 3 種類のモードから選択できます。モードの選択は DMAOR の PR[1:0]ビットにより行います。

(1) 固定モード

固定モード 1 および 2 ではチャンネルの優先順位は変化しません。

各モードの優先順位は以下のとおりです。

- 固定モード 1 : CH0>CH1>CH2>CH3>CH4>CH5>CH6>CH7
- 固定モード 2 : CH0>CH4>CH1>CH5>CH2>CH6>CH3>CH7

これらの選択は DMAOR の PR[1:0]ビットにより行います。

(2) ラウンドロビンモード

ラウンドロビンモードでは、1つのチャンネルで 1 転送単位 (バイト、ワード、ロングワード、または 16 バイト単位) の転送が終了するごとにそのチャンネルの優先順位がラウンドロビン対象チャンネル内で一番低くなるように優先順位を変更します。なお、ラウンドロビンの対象となるチャンネルは CH0~CH3 の 4 チャンネルのみです。これ以外のチャンネルはラウンドロビンモードでも優先順位は変更されません。この動作を図 11.3 に示します。なおリセット直後のラウンドロビンモードの優先順位は、CH0>CH1>CH2>CH3>CH4>CH5>CH6>CH7 です。

ラウンドロビンモードを指定した場合、複数のチャンネルのパスモードでサイクルスチールモードとパーストモードを混在させないでください。

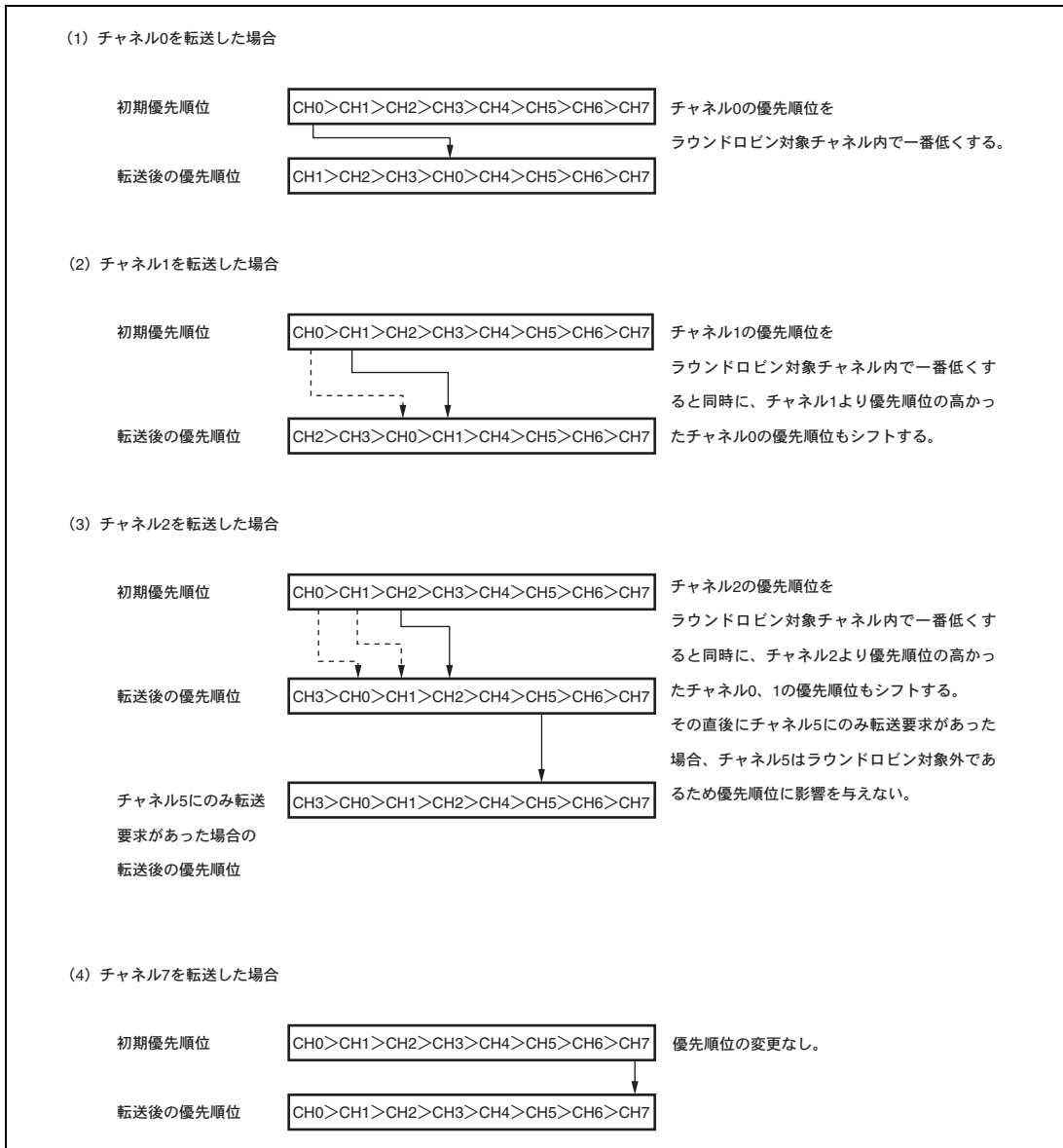


図 11.3 ラウンドロビンモード

図 11.4 にチャンネル 0 とチャンネル 3 に同時に転送要求が発生し、チャンネル 0 の転送中にチャンネル 1 の転送要求が発生した場合のチャンネルの優先順位の変化を示します。この場合の DMAC の動作は以下のようになります。

1. チャンネル0とチャンネル3に同時に転送要求が発生します。
2. チャンネル0のほうがチャンネル3より優先順位が高いため、チャンネル0の転送を開始します（チャンネル3は転送待ち）。
3. チャンネル0の転送中にチャンネル1に転送要求が発生します（チャンネル1とチャンネル3は転送待ち）。
4. チャンネル0の転送を終了すると、チャンネル0の優先順位をラウンドロビン対象チャンネル内で一番低くします。
5. この時点でチャンネル1のほうがチャンネル3より優先順位が高いため、チャンネル1の転送を開始します（チャンネル3は転送待ち）。
6. チャンネル1の転送を終了すると、チャンネル1の優先順位をラウンドロビン対象チャンネル内で一番低くします。
7. チャンネル3の転送を開始します。
8. チャンネル3の転送を終了すると、チャンネル3の優先順位がラウンドロビン対象チャンネル内で一番低くなるように、チャンネル3と一緒にチャンネル2の優先順位を低くします。

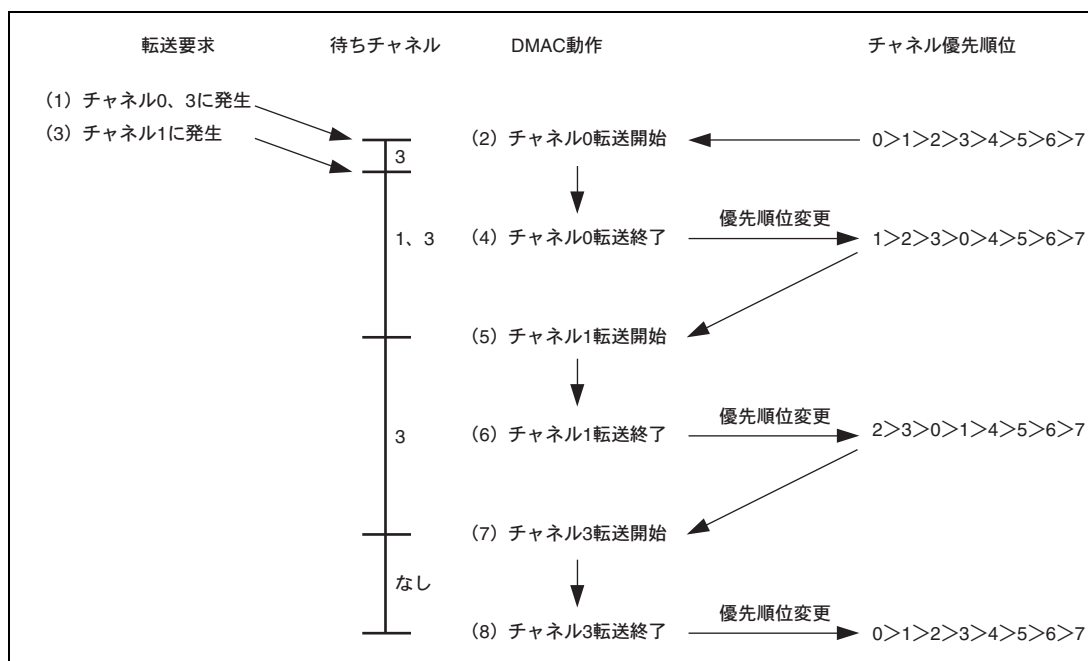


図 11.4 ラウンドロビンモードでのチャンネル優先順位

11.3.4 DMA 転送の種類

本 LSI でサポートできる DMA 転送はデュアルアドレスモード転送です。具体的な転送動作タイミングは、バスモードによって違います。バスモードには、サイクルスチールモードとバーストモードがあります。表 11.5 に DMAC がサポートできる転送を示します。

表 11.5 サポートできる DMA 転送

転送元	転送先			
	外部メモリ	外部デバイス ^{*3}	内蔵周辺モジュール	内蔵メモリ
外部メモリ	デュアル	デュアル	デュアル	デュアル
外部デバイス ^{*3}	デュアル	デュアル	デュアル	デュアル
内蔵周辺モジュール	デュアル	デュアル	デュアル	デュアル
内蔵メモリ	デュアル	デュアル	デュアル	デュアル

- 【注】
1. デュアル：デュアルアドレスモード
 2. 内蔵周辺モジュールは、ロングワードサイズのアクセスを許可しているレジスタに限り 16 バイト転送ができます。
 3. 外部アドレス空間に接続された外部デバイスです。

(1) アドレスモード

(a) デュアルアドレスモード

デュアルアドレスモードは、転送元と転送先をともにアドレスによってアクセス（選択）する場合に使うモードです。転送元と転送先は外部でも内部でも構いません。このモードでは、DMACは、読み出しサイクルで転送元を、書き込みサイクルで転送先をアクセスし、2つのバスサイクルで転送を行います。このとき、転送データは一時的にDMACに格納されます。

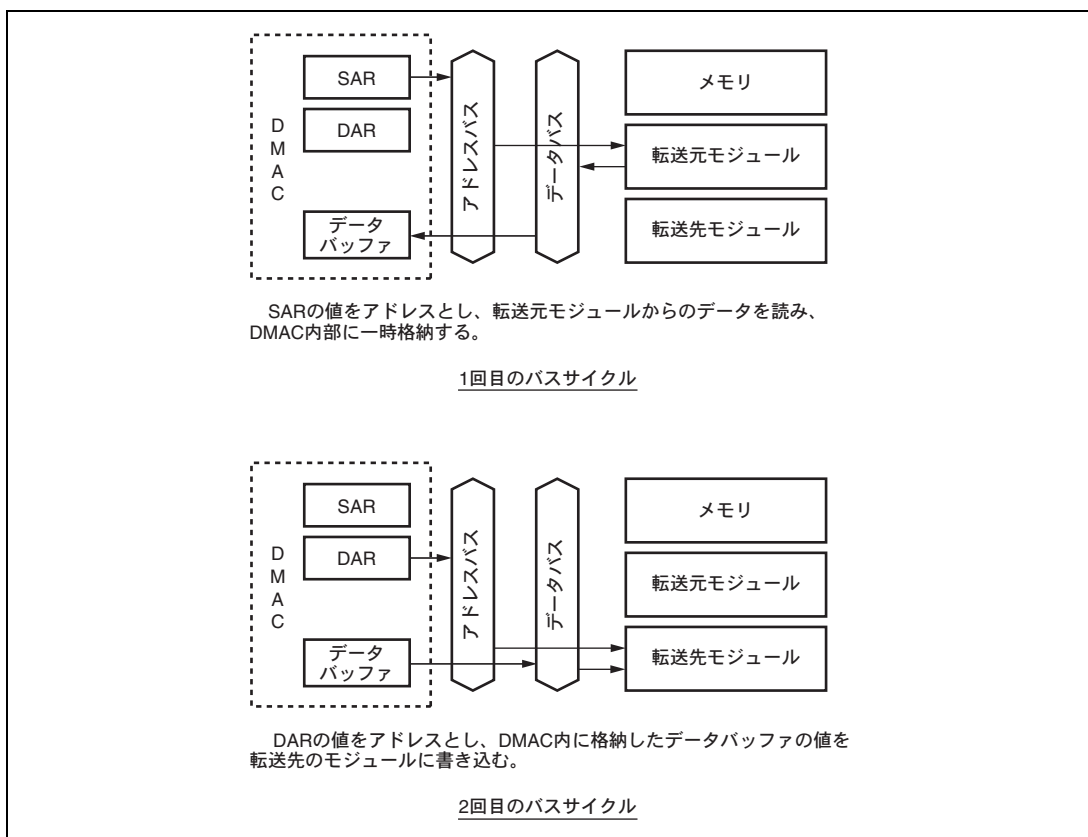


図 11.5 デュアルアドレスモードのデータフロー

転送要求は、オートリクエスト、内蔵周辺モジュールリクエストのいずれでも可能です。

図 11.6 にデュアルアドレスモードでの DMA 転送タイミング例を示します。

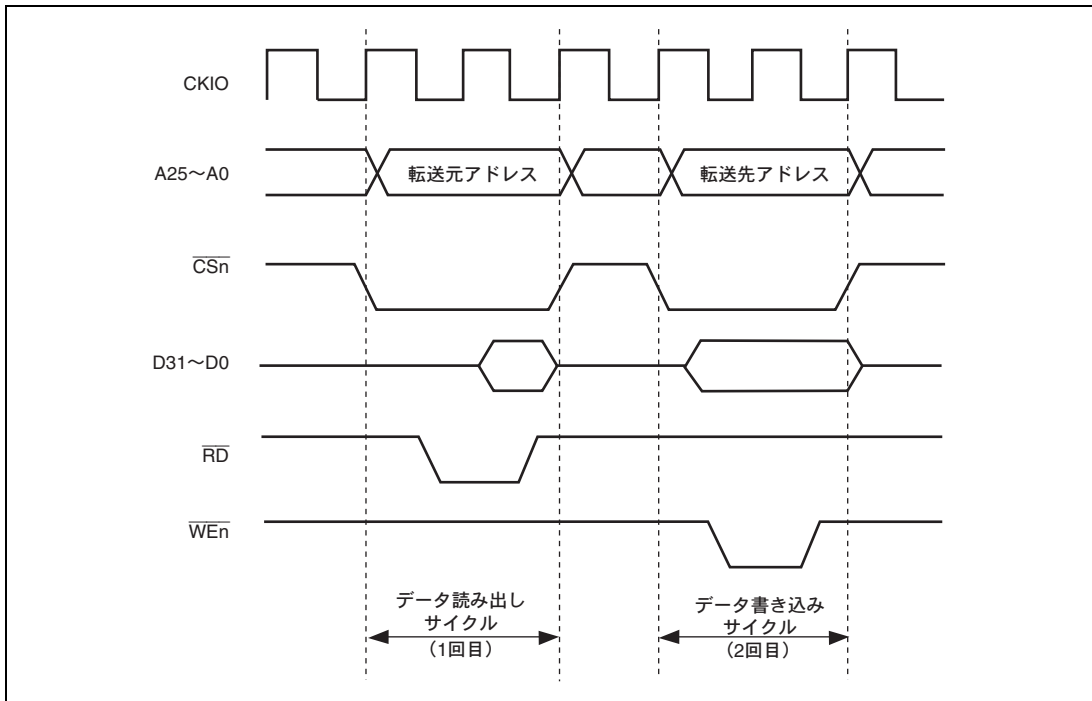


図 11.6 デュアルアドレスモードの DMA 転送タイミング例
(転送元：外部メモリ、転送先：外部メモリ)

(2) バスモード

バスモードにはサイクルスチールモードとバーストモードがあります。モードの選択は、CHCR の TB ビットで行います。

(a) サイクルスチールモード

• 通常モード

サイクルスチールの通常モードでは、DMACは一回の転送単位（バイト、ワード、ロングワード、または16バイト単位）の転送を終了するたびにバス権を他のバスマスタに渡します。その後転送要求があれば、他のバスマスタからバス権を取り戻し、再び1転送単位の転送を行い、その転送を終了するとまたバス権を他のバスマスタに渡します。これを転送終了条件が満たされるまで繰り返します。

サイクルスチール通常モードは、転送要求元、転送元、転送先にかかわらずすべての転送区間で使えます。

図11.7にサイクルスチール通常モードでのDMA転送タイミング例を示します。図の例での転送条件は以下のとおりです。

- デュアルアドレスモード

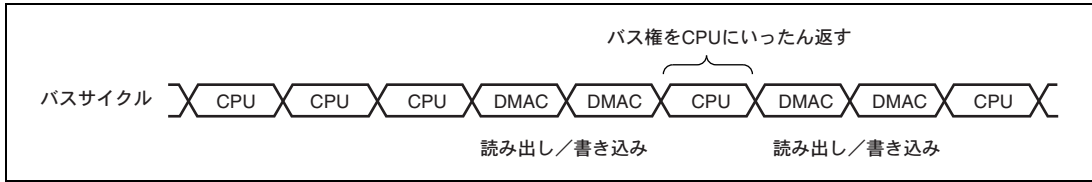


図 11.7 サイクルスチール通常モードの DMA 転送例 (デュアルアドレス)

- インターミットモード16、インターミットモード64

サイクルスチールのインターミットモードでは、DMACは一回の転送単位 (バイト、ワード、ロングワード、または16バイト単位) の転送を終了するたびにバス権を他のバスマスタに渡します。その後転送要求があれば、Pφクロックカウントで16クロックまたは64クロック待った後に、他のバスマスタからバス権を取り戻し、再び転送単位の転送を行い、その転送を終了するとまたバス権を他のバスマスタに渡します。これを転送終了条件が満たされるまで繰り返します。このためDMA転送によるバス占有割合をサイクルスチール通常モードに比べ、低く抑えることが可能です。

DMACが再びバス権を取り戻すときに、キャッシュミスによるエントリの更新などが行われているときなどは、DMA転送がさらに待たされる場合があります。

インターミットモードは、転送要求元、転送元、および転送先にかかわらずすべての転送区間で使えますが、すべてのチャンネルのバスモードがサイクルスチールモードである必要があります。

図11.8にサイクルスチールインターミットモードでのDMA転送タイミング例を示します。図の例での転送条件は以下のとおりです。

- デュアルアドレスモード

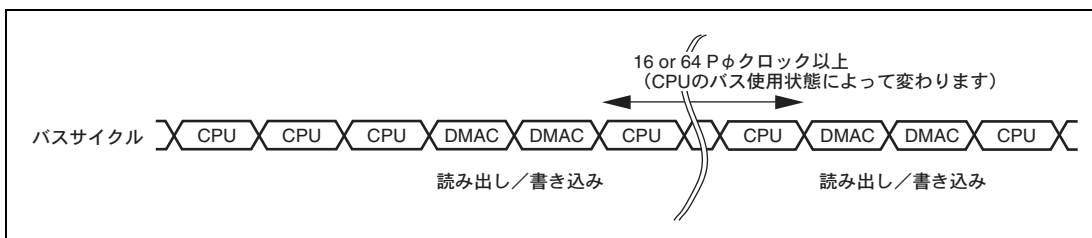


図 11.8 サイクルスチールインターミットモードの DMA 転送例 (デュアルアドレス)

(b) バーストモード

バーストモードでは、DMAC は一度バス権を取ると、転送終了条件が満たされるまでバス権を解放せずに転送を続けます。

図 11.9 にバーストモードでの DMA 転送タイミングを示します。

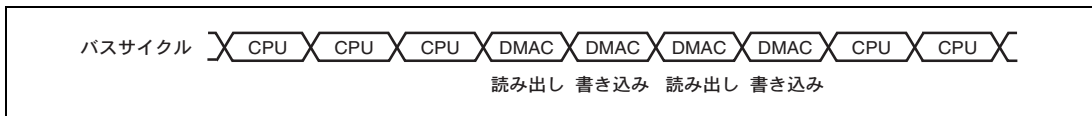


図 11.9 バーストモードの DMA 転送例 (デュアルアドレス)

(3) DMA 転送区間とリクエストモード、バスモードの関係

表 11.6 に DMA 転送区間とリクエストモードおよびバスモードなどの関連事項を示します。

表 11.6 DMA 転送区間とリクエストモード、バスモードとの関連一覧

アドレスモード	転送区間	リクエストモード	バスモード	転送サイズ (ビット)	使用可能チャンネル
デュアル	外部メモリと外部メモリ	すべて可 ^{*3}	B/C	8/16/32/128	0~7
	外部メモリと外部デバイス ^{*5}	すべて可 ^{*3}	B/C	8/16/32/128	0~7
	外部デバイス ^{*5} と外部デバイス ^{*5}	すべて可 ^{*3}	B/C	8/16/32/128	0~7
	外部メモリと内蔵周辺モジュール	すべて可 ^{*1}	B/C ^{*4}	8/16/32/128 ^{*2}	0~7
	外部デバイス ^{*5} と内蔵周辺モジュール	すべて可 ^{*1}	B/C ^{*4}	8/16/32/128 ^{*2}	0~7
	内蔵周辺モジュールと内蔵周辺モジュール	すべて可 ^{*1}	B/C ^{*4}	8/16/32/128 ^{*2}	0~7
	内蔵メモリと内蔵メモリ	すべて可 ^{*3}	B/C	8/16/32/128	0~7
	内蔵メモリと外部デバイス ^{*5}	すべて可 ^{*3}	B/C	8/16/32/128	0~7
	内蔵メモリと内蔵周辺モジュール	すべて可 ^{*1}	B/C ^{*4}	8/16/32/128 ^{*2}	0~7
内蔵メモリと外部メモリ	すべて可 ^{*3}	B/C	8/16/32/128	0~7	

【記号説明】

B : バースト

C : サイクルスチール

- 【注】 *1 オートリクエスト、内蔵周辺モジュールリクエストのいずれでも可能です。
ただし、内蔵周辺モジュールリクエストの場合には、転送要求元が CMT、ATU-III の場合を除いて、転送元または転送先がそれぞれの要求元レジスタである必要があります。
- *2 転送元または転送先である内蔵周辺モジュールのレジスタで許されるアクセスサイズです。
- *3 オートリクエスト、内蔵周辺モジュールリクエストのいずれでも可能です。
ただし、内蔵周辺モジュールリクエストの場合には、CMT、ATU-III の場合のみ可能です。
- *4 内蔵周辺モジュールリクエストの場合には、転送要求元が CMT、ATU-III、12 ビット ADC_A、および 12 ビット ADC_B の場合を除いてサイクルスチールのみ。
- *5 外部アドレス空間に接続された外部デバイスです。

(4) バスモードとチャンネルの優先順位

優先順位固定モード (CH0>CH1) において、チャンネル1がバーストモードで転送中でも、それより優先順位の高いチャンネル0に転送要求が発生すると、ただちにチャンネル0の転送を開始します。

このとき、チャンネル0もバーストモードの場合は優先順位の高いチャンネル0の転送がすべて終了してから、チャンネル1が転送を継続します。

また、チャンネル0がサイクルスチールモードの場合、まず優先順位の高いチャンネル0が1転送単位の転送を行った後、バス権を解放せずに連続してチャンネル1が転送されます。その後も、チャンネル0→チャンネル1→チャンネル0→チャンネル1というように交互に転送が行われます。つまりバス状態は、サイクルスチールモード転送終了後のCPUサイクルがバーストモード転送に置き換わった形になります (以後バーストモードの優先実行と呼ぶ)。この例を図11.10に示します。競合するバーストモードが複数チャンネルある場合は、その中で一番優先順位の高いチャンネルが優先実行されます。

DMA転送を複数チャンネルで行う場合は、競合するすべてのバースト転送が終了するまでバス権はバスマスタに解放しません。

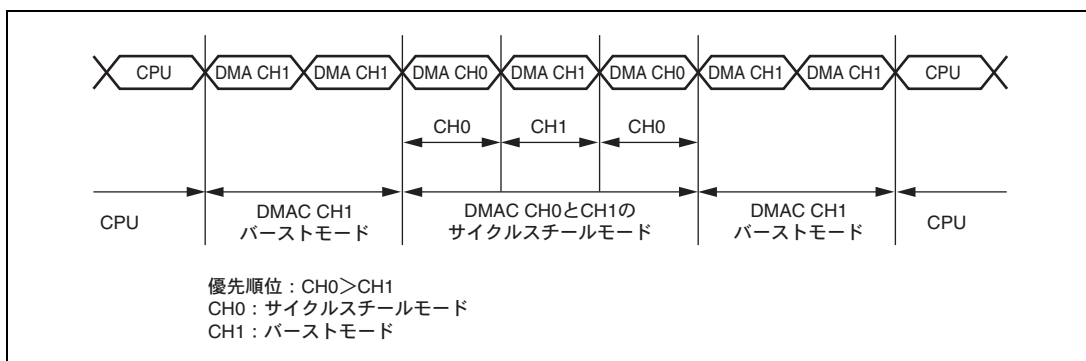


図 11.10 複数チャンネルが動作する場合のバス状態

ラウンドロビンモードでは、図11.4に示した仕様で優先順位が変化します。ただし、サイクルスチールモードのチャンネルとバーストモードのチャンネルを混在しないでください。

11.4 特別な動作について

DMAC において、特別な動作の場合に関して以下にまとめます。

11.4.1 アドレスエラー発生時の動作

DMAC での転送中にアドレスエラーが発生した場合には、「11.2.13 DMA オペレーションフラグビットレジスタ (DMAFR)」のアドレスエラーフラグビット (AE) で示したように、下記のような動作となります。

- アドレスエラーが発生しない場合：リード (転送元→DMAC内部) →ライト (DMAC内部→転送先)
- アドレスエラーがソースアドレス発生：Nop→Nop
- アドレスエラーがデスティネーションアドレス発生：リード→Nop

11.4.2 NMI 時の動作

DMA 転送中に NMI が発生した場合には、「11.2.13 DMA オペレーションフラグビットレジスタ (DMAFR)」の NMI フラグビット (NMIF) で示したように、実行中の DMA 転送の一転送単位まで転送が行われます。

この場合には、NMIF ビットが 1 の状態を読み出した後に 0 にクリアすることで、DMAC の動作を再開することが可能です。これはすべてのリロード機能の有効/無効にかかわらず再開します。

11.4.3 リロード機能 1 の動作

リロード機能 1 が有効な場合の動作を、リロード機能 2 が有効な場合の動作と内蔵周辺モジュールへの転送アクノリッジ信号のアサートタイミングとを合わせて図 11.11 に示します。

また、図 11.12 に内部バスにおけるアドレス、コマンド、およびデータと、周辺バスの状態、各レジスタの更新の状態を示します。

【注】 リロード機能 1 が有効でも、リロード機能 2 が無効な場合には、RARCR→ARCR のリロードは行われません。
リロード機能 1 が有効で、リロード機能 2 が有効な場合のみ、RARCR→ARCR のリロードが行われます。

11.4.4 リロード機能 2 の動作

リロード機能 2 が有効な場合の動作を、リロード機能 1 が有効な場合の動作と内蔵周辺モジュールへの転送アクノリッジ信号のアサートタイミングとを合わせて図 11.11 に示します。

11.4.5 内蔵周辺モジュールとのインタフェース

内蔵周辺モジュールへの転送アクノリッジ信号のアサートタイミングを、リロード機能 1 が有効な場合の動作とリロード機能 2 が有効な場合の動作とを合わせて図 11.11 に示します。

CHCR の TC[1:0]ビットの設定によって、アクノリッジ信号のアサート方法は変わります。

CH0～CH3 では TC[0]ビットは常に 0 に固定されています。また、CH4～CH7 において TC[1:0]ビットを B'11 に設定することは禁止です。さらに TC [1:0]ビットを B'01 に設定する場合は、CHCR の RLD2[1]ビット、RLD2[0]ビットのいずれかまたは両方を必ず 1 に設定してください。RLD2[1:0]ビットが B'00 の場合の動作は保証できません。

11.4.6 Integer→Floating-point 変換の動作

Integer→Floating-point 変換時の有効な場合には、「11.2.4 DMA チャンネルコントロールレジスタ 0～7 (CHCR0～CHCR7)」の Integer→Floating-point 変換機能 ON/OFF ビット (IFT) でも示したように、下記のように変換処理のための動作が必要となります。

- 変換しない場合：リード (転送元→DMAC内部) →ライト (DMAC内部→転送先)
- 変換する場合：リード→Nop (変換処理) →ライト

処理においては、転送元のデータとして 16 ビットデータを読み出し、転送先のデータとして 32 ビットデータを書き込むという変則的な動作を行います。そのため、CHCR の TS[1:0]ビットは転送元のデータサイズに合わせて B'01 に設定してください。これ以外に設定した場合には動作を保証できません。さらに転送先アドレスは 4 バイトアドレス境界の値を指定してください。

いくつかの値に対する変換の例を表 11.7 に示します。なお、変換前の値において LSB と LSB から 2 ビット目は変換対象外のビットです。さらに変換前の値には小数点位置を「.」で示しています。

表 11.7 Integer→Floating-point 変換の例

変換前の値 (16 進数)	変換後の値 (16 進数)
.0000 0000 0000 00 00 (.0000)	0000 0000 0000 0000 0000 0000 00000000 (00000000)
.0000 0000 0000 01 00 (.0004)	0011 1000 1000 0000 0000 0000 00000000 (38800000)
.0000 0000 0000 10 00 (.0008)	0011 1001 0000 0000 0000 0000 00000000 (39000000)
.0100 0000 0000 00 00 (.4000)	0011 1110 1000 0000 0000 0000 00000000 (3E800000)
.1000 0000 0000 00 00 (.8000)	0011 1111 0000 0000 0000 0000 00000000 (3F000000)
.0101 0101 0101 01 00 (.5554)	0011 1110 1010 1010 1010 1000 00000000 (3EAAA800)
.1010 1010 1010 10 00 (.AAA8)	0011 1111 0010 1010 1010 1000 00000000 (3F2AA800)
.1100 1100 1100 11 00 (.CCCC)	0011 1111 0100 1100 1100 1100 00000000 (3F4CCC00)
.0011 0011 0011 00 00 (.3330)	0011 1110 0100 1100 1100 0000 00000000 (3F4CC000)
.1110 0011 1000 11 00 (.E38C)	0011 1111 0110 0011 1000 1100 00000000 (3F638C00)
.0001 1100 0111 00 00 (.1C70)	0011 1101 1110 0011 1000 0000 00000000 (3DE38000)
.1111 0000 1111 00 00 (.F0F0)	0011 1111 0111 0000 1111 0000 00000000 (3F70F000)

変換前の値 (16 進数)	変換後の値 (16 進数)
.0000 1111 0000 11 00 (.0F03)	0011 1101 0111 0000 0011 0000 00000000 (3D703000)
.1111 1111 1111 00 00 (.FFF0)	0011 1111 0111 1111 1111 0000 00000000 (3F7FF000)

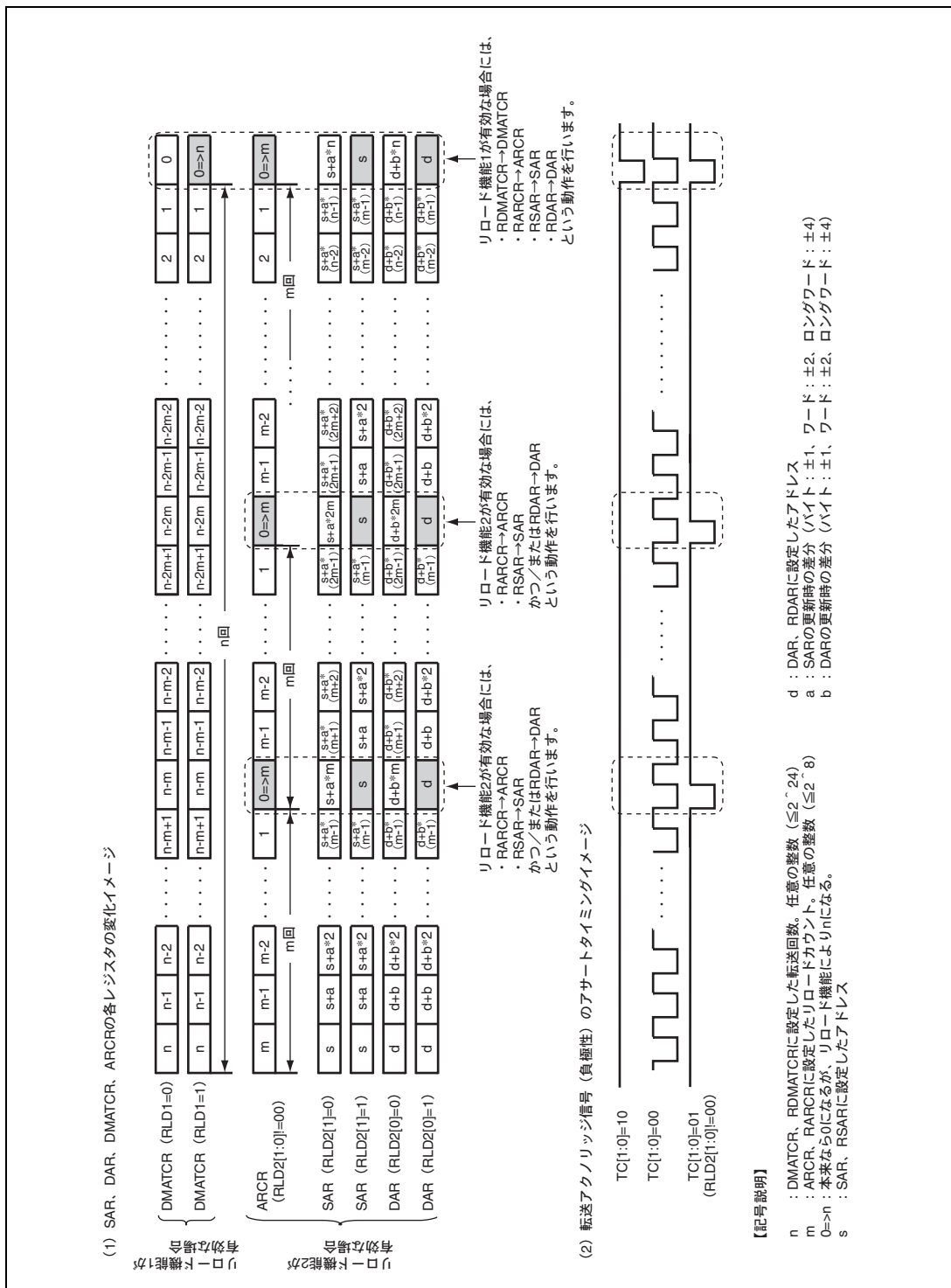


図 11.11 リロード機能と周辺アクノリッジの関係

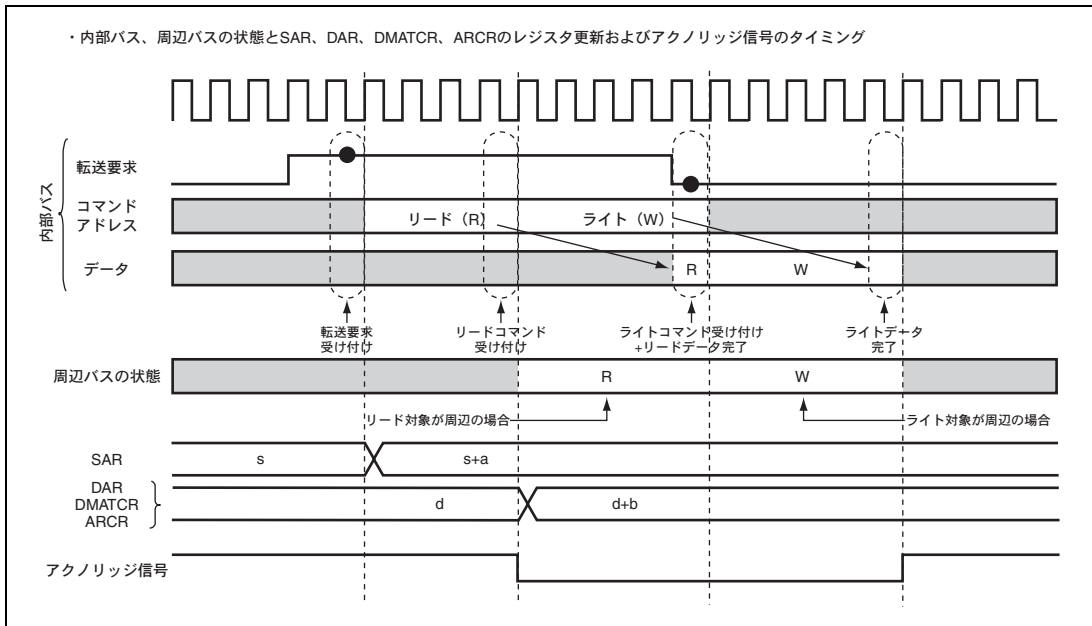


図 11.12 各レジスタとアクノリッジの変化タイミング

11.5 使用上の注意

CHFR0~CHFR7, DMAFR では、CPU がフラグをリードした際に、CPU は 0 をリードしたにもかかわらず、フラグは 1 にセットされ内部的に 1 をリードされた状態になる場合があります。

このとき、当該ビットに 0 を書き込むと、CPU が 1 をリードしていてもフラグがクリアされてしまいます。これを防ぐため、CHFR0~CHFR7, DMAFR の【注】に記載されているクリア条件を守ってください。

CHFR0~CHFR7, DMAFR のフラグビットは他のモジュールのフラグと仕様異なるため、CPU のライトによるフラグクリアの操作に注意してください。

12. 専用ダイレクトメモリアクセスコントローラ (A-DMAC)

専用ダイレクトメモリアクセスコントローラ (A-DMAC) は、内蔵周辺モジュールと内蔵 RAM とのデータ転送を CPU に代わって高速に行うことができます。A-DMAC を使うと、CPU の負担を減らすとともに本 LSI の動作効率を上げることができます。

12.1 特長

- 基本機能：

A-DMAC は、内蔵周辺モジュールと内蔵 RAM との間のデータ転送を CPU に代わって行います。転送先または転送元となる内蔵周辺モジュールのレジスタはチャンネルごとに固定です。

- 対応する内蔵周辺モジュール：

ADC、ATU-III (タイマ A、C、F、G)、RSPI、SCI、RCAN-TL1 (以下 RCAN と省略します)

- エイリアス領域：

A-DMAC によるデータ転送で、転送先および転送元となる内蔵 RAM 上の領域をエイリアス領域と呼びます。エイリアス領域の先頭アドレスは、デフォルトで内蔵 RAM の先頭 (H'FFF80000) ですが、変更することも可能です。各チャンネル用のエイリアス領域の先頭アドレスを基準としたオフセットは、ATU-III (タイマ G) 用チャンネル、ADC 用チャンネル、RSPI 用チャンネル、SCI 用チャンネルはアドレスレジスタで指定し、ATU-III (タイマ A、C、F) 用チャンネルと RCAN 用チャンネルでは固定です。

- チャンネル数：66

- 転送要求：転送要求はチャンネルごとに固定です。

ADC 用チャンネル：ADC (ADC_A、AN0) の割り込み変換終了

ATU-III (タイマ A、C、F) 用チャンネル：インプットキャプチャ

ATU-III (タイマ G) 用チャンネル：コンペアマッチ

RSPI 用チャンネル：受信バッファフル、送信バッファエンプティ

SCI 用チャンネル：受信データフル、送信データエンプティ

RCAN 用チャンネル (受信)：メールボックスフル

RCAN 用チャンネル (送信)：ソフトウェアによる起動

- チャンネル機能：

ADC 用チャンネル：ADC の AN0 の値を内蔵 RAM に、リングバッファ型の転送で転送を行います。

ATU-III (タイマ G) 用チャンネル：内蔵 RAM の値をポート G に、リングバッファ型の転送で転送を行います。

- ATU-III (タイマA、C、F) 用チャンネル：レジスタ読み出しをサポートします。タイマA用のチャンネルは、
 インプットキャプチャレジスタの読み出しを行い、読み出された値と、A-DMAC内部にバッファされていた前回値をエイリアス領域に転送します。
- タイマC、F用のチャンネルは、インプットキャプチャレジスタからエイリアス領域に転送します。タイマF用チャンネルは、2レジスタの転送 (PWM入力波形計測モード) か1レジスタの転送 (それ以外) をチャンネルごとに設定可能です。
- RSPI用チャンネル、SCI用チャンネル：偶数チャンネルは、レジスタからエイリアス領域へ受信データを転送します。一方、奇数チャンネルは、エイリアス領域からレジスタへ送信データを転送します。
- RCAN用チャンネル：受信用チャンネルは、メールボックスのデータをエイリアス領域に転送します。一方、送信用チャンネルは、エイリアス領域のデータをメールボックスに転送します。
- 指定可能な転送回数の最大値：
 - ADC用チャンネル、ATU-III (タイマG) 用チャンネル：1,023回。リロード機能あり。
 - ATU-III (タイマA、C、F) 用チャンネル：転送回数は指定できません。転送許可状態では、回数の制限なく、転送要求を受け付けるたびにデータ転送が行われます。
 - RSPI用チャンネル、SCI用チャンネル：1,023回
 - RCAN用チャンネル (受信)：転送回数は指定できません。転送許可状態では、回数の制限なく、転送要求を受け付けるたびにメールボックスの転送が行われます。
 - RCAN用チャンネル (送信)：同時に93メールボックスの転送を指定できます。
 - 割り込み要求：割り込み要求はチャンネルごとにマスク可能です。
 - ATU-III (タイマG) 用チャンネル、ADC用チャンネル：割り込みを発生しません。
 - ATU-III (タイマA、C、F) 用チャンネル：1回転送終了後、CPUに割り込み要求を発生可能です。
 - RSPI用チャンネル、SCI用チャンネル：指定した転送回数終了後、CPUに割り込み要求を発生可能です。
 - RCAN用チャンネル：受信用チャンネルは割り込みを発生しません。一方、送信用チャンネルは、指定したメールボックスの転送終了後、CPUに割り込みを発生可能です。
 - アドレスモード：転送元、転送先の双方をアドレスアクセスします (デュアルアドレスモード)
 - バスモード：サイクルスチールモード
 - 優先順位：チャンネル優先順位は固定です (Ch0>Ch1>…>Ch74)
 - リロード機能：ATU-III (タイマG) 用チャンネル、ADC用チャンネルのみサポート

A-DMAC の機能の概要を表 12.1 に示します。

表 12.1 A-DMAC のチャンネルの概要

	ATU-III 用チャンネル (タイム G)	ADC 用チャンネル	ATU-III 用チャンネル (タイム A、C、F)	RSPI 用チャンネル	SCI 用チャンネル	RCAN 用チャンネル
チャンネル名	0	1	2~47*1	56~61	62~71	72、74*1
チャンネル数	1	1	46	6	10	2
転送要求	タイム G2	ADC_A、AN0 の 割り込み変換終了	Ch2~7: タイム A Ch8~27: タイム C Ch28~47: タイム F	Ch56、57 : RSPI_A Ch58、59 : RSPI_B Ch60、61 : RSPI_C	Ch62、63 : SCI_A Ch64、65 : SCI_B Ch66、67 : SCI_C Ch68、69 : SCI_D Ch70、71 : SCI_E	Ch72 : RCAN_A—RCAN_C Ch74 : ソフトウェアトリガ
転送方向	RAM→ポート	レジスタ→RAM	レジスタ→RAM	偶数チャンネル : レジスタ→RAM 奇数チャンネル : RAM→レジスタ	偶数チャンネル : レジスタ→RAM 奇数チャンネル : RAM→レジスタ	Ch72 : レジスタ→RAM Ch74 : RAM→レジスタ
データ転送長	8 ビット	16 ビット	Ch2~7 : 32 ビット×2 Ch8~27 : 32 ビット Ch28~47 : 32 ビット×2 または 32 ビット×1	16 ビット	8 ビット	20 バイト
最大転送回数	1,023 回 (リロード機能あり)	1,023 回 (リロード機能あり)	制限なし	1,023 回	1,023 回	制限なし
割り込み要求	発生しない	発生しない	最初の転送が終了し たとき	転送終了 (TCR=0)	転送終了 (TCR=0)	Ch72 : 発生しない Ch74 : 転送終了
アドレッシング	転送元アドレス : インクリメント、 リングバッファ型 転送*2 転送先アドレス : 固定	転送元アドレス : 固定 転送先アドレス : インクリメント、 リングバッファ型 転送*2	転送元および転送先 のどちらのアドレス も固定	レジスタ側 : 固定 RAM 領域側 : 1 転送単位で 2 番地 をインクリメント	レジスタ側 : 固定 RAM 領域側 : 1 転送単位で 1 番 地をインクリメ ント	送信元および送信先 ともにインクリメン ト

【注】 *1 Ch48~55 および Ch73 はリザーブになります。

*2 TCR=0 のとき、TCR とエイリアスポイントはリロードされます。

図 12.1 に A-DMAC のブロック図を示します。

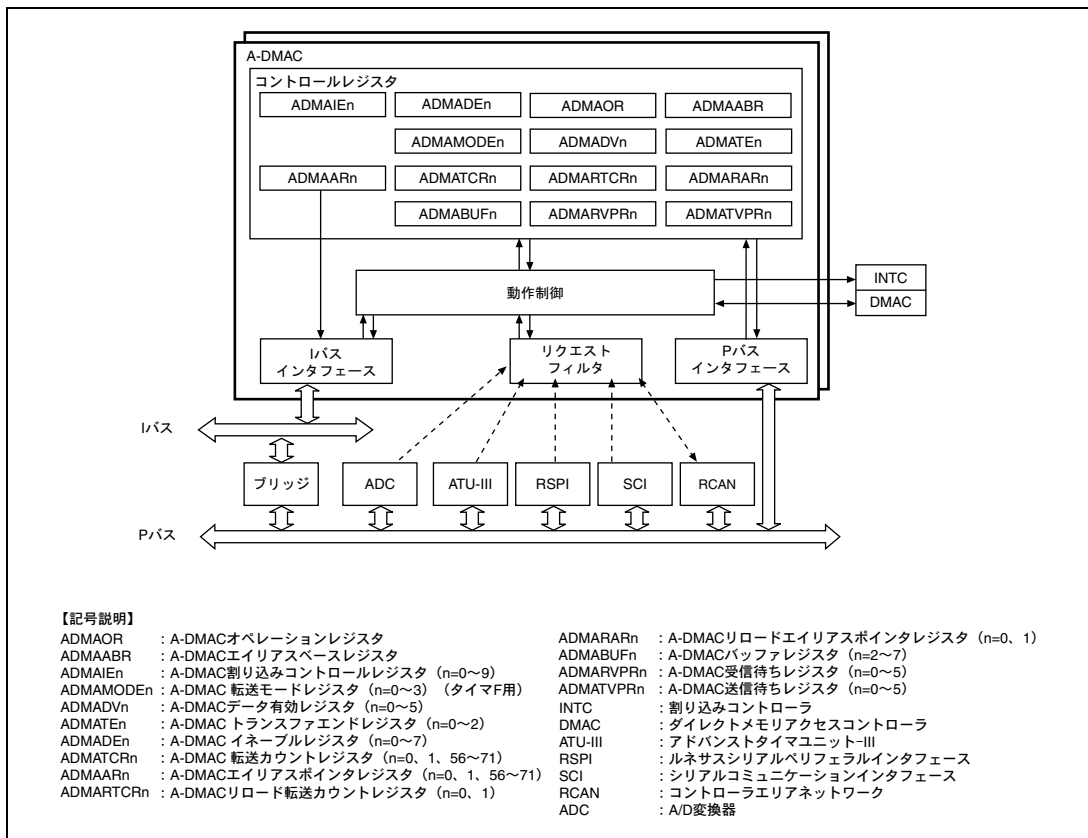


図 12.1 A-DMAC のブロック図

12.1.1 入出力端子

入出力端子はありません。

12.2 レジスタの説明

A-DMAC には以下のレジスタがあります。

表 12.2 レジスタ構成

チャンネル	レジスタ名	略称	R/W	初期値	アドレス	アクセス サイズ
全チャンネル共通	A-DMAC オペレーションレジスタ	ADMAOR	R/W	H'00	H'FFFE6000	8
	A-DMAC エイリアスペースレジスタ	ADMAABR	R/W	H'00	H'FFFE6002	8
各チャンネル対応	A-DMAC 割り込みコントロールレジスタ 0	ADMAIE0	R/W	H'00	H'FFFE6010	8
	A-DMAC 割り込みコントロールレジスタ 1	ADMAIE1	R/W	H'00	H'FFFE6011	8
	A-DMAC 割り込みコントロールレジスタ 2	ADMAIE2	R/W	H'00	H'FFFE6012	8
	A-DMAC 割り込みコントロールレジスタ 3	ADMAIE3	R/W	H'00	H'FFFE6013	8
	A-DMAC 割り込みコントロールレジスタ 4	ADMAIE4	R/W	H'00	H'FFFE6014	8
	A-DMAC 割り込みコントロールレジスタ 5	ADMAIE5	R/W	H'00	H'FFFE6015	8
	A-DMAC 割り込みコントロールレジスタ 7	ADMAIE7	R/W	H'00	H'FFFE6017	8
	A-DMAC 割り込みコントロールレジスタ 8	ADMAIE8	R/W	H'00	H'FFFE6018	8
	A-DMAC 割り込みコントロールレジスタ 9	ADMAIE9	R/W	H'00	H'FFFE6019	8
	A-DMAC データ有効レジスタ 0	ADMADV0	R/(W) ^{*1}	H'00	H'FFFE6020	8
	A-DMAC データ有効レジスタ 1	ADMADV1	R/(W) ^{*1}	H'00	H'FFFE6021	8
	A-DMAC データ有効レジスタ 2	ADMADV2	R/(W) ^{*1}	H'00	H'FFFE6022	8
	A-DMAC データ有効レジスタ 3	ADMADV3	R/(W) ^{*1}	H'00	H'FFFE6023	8
	A-DMAC データ有効レジスタ 4	ADMADV4	R/(W) ^{*1}	H'00	H'FFFE6024	8
	A-DMAC データ有効レジスタ 5	ADMADV5	R/(W) ^{*1}	H'00	H'FFFE6025	8
	A-DMAC トランスファエンドレジスタ 0	ADMATE0	R/(W) ^{*1}	H'00	H'FFFE6030	8
	A-DMAC トランスファエンドレジスタ 1	ADMATE1	R/(W) ^{*1}	H'00	H'FFFE6031	8
	A-DMAC トランスファエンドレジスタ 2	ADMATE2	R/(W) ^{*1}	H'00	H'FFFE6032	8
	A-DMAC イネーブルレジスタ 0	ADMADE0	R/W	H'00	H'FFFE6040	8
	A-DMAC イネーブルレジスタ 1	ADMADE1	R/W	H'00	H'FFFE6041	8
	A-DMAC イネーブルレジスタ 2	ADMADE2	R/W	H'00	H'FFFE6042	8
	A-DMAC イネーブルレジスタ 3	ADMADE3	R/W	H'00	H'FFFE6043	8
	A-DMAC イネーブルレジスタ 4	ADMADE4	R/W	H'00	H'FFFE6044	8
	A-DMAC イネーブルレジスタ 5	ADMADE5	R/W	H'00	H'FFFE6045	8
	A-DMAC イネーブルレジスタ 7	ADMADE7	R/W	H'00	H'FFFE6047	8
	A-DMAC 転送モードレジスタ 0	ADMAMODE0	R/W	H'00	H'FFFE6050	8
	A-DMAC 転送モードレジスタ 1	ADMAMODE1	R/W	H'00	H'FFFE6051	8
	A-DMAC 転送モードレジスタ 2	ADMAMODE2	R/W	H'00	H'FFFE6052	8
A-DMAC 転送カウントレジスタ 0	ADMATCR0	R/W	H'0000	H'FFFE6060	16	

チャンネル	レジスタ名	略称	R/W	初期値	アドレス	アクセス サイズ
各チャンネル対応	A-DMAC リロード転送カウントレジスタ 0	ADMARTCR0	R/W	H'0000	H'FFFE6062	16
	A-DMAC 転送カウントレジスタ 1	ADMATCR1	R/W	H'0000	H'FFFE6064	16
	A-DMAC リロード転送カウントレジスタ 1	ADMARTCR1	R/W	H'0000	H'FFFE6066	16
	A-DMAC 転送カウントレジスタ 56	ADMATCR56	R/W	H'0000	H'FFFE6070	16
	A-DMAC 転送カウントレジスタ 57	ADMATCR57	R/W	H'0000	H'FFFE6072	16
	A-DMAC 転送カウントレジスタ 58	ADMATCR58	R/W	H'0000	H'FFFE6074	16
	A-DMAC 転送カウントレジスタ 59	ADMATCR59	R/W	H'0000	H'FFFE6076	16
	A-DMAC 転送カウントレジスタ 60	ADMATCR60	R/W	H'0000	H'FFFE6078	16
	A-DMAC 転送カウントレジスタ 61	ADMATCR61	R/W	H'0000	H'FFFE607A	16
	A-DMAC 転送カウントレジスタ 62	ADMATCR62	R/W	H'0000	H'FFFE607C	16
	A-DMAC 転送カウントレジスタ 63	ADMATCR63	R/W	H'0000	H'FFFE607E	16
	A-DMAC 転送カウントレジスタ 64	ADMATCR64	R/W	H'0000	H'FFFE6080	16
	A-DMAC 転送カウントレジスタ 65	ADMATCR65	R/W	H'0000	H'FFFE6082	16
	A-DMAC 転送カウントレジスタ 66	ADMATCR66	R/W	H'0000	H'FFFE6084	16
	A-DMAC 転送カウントレジスタ 67	ADMATCR67	R/W	H'0000	H'FFFE6086	16
	A-DMAC 転送カウントレジスタ 68	ADMATCR68	R/W	H'0000	H'FFFE6088	16
	A-DMAC 転送カウントレジスタ 69	ADMATCR69	R/W	H'0000	H'FFFE608A	16
	A-DMAC 転送カウントレジスタ 70	ADMATCR70	R/W	H'0000	H'FFFE608C	16
	A-DMAC 転送カウントレジスタ 71	ADMATCR71	R/W	H'0000	H'FFFE608E	16
	A-DMAC エイリアスポインタレジスタ 0	ADMAAR0	R/W	H'0000	H'FFFE6090	16
	A-DMAC リロードエイリアスポインタ レジスタ 0	ADMARAR0	R/W	H'0000	H'FFFE6092	16
	A-DMAC エイリアスポインタレジスタ 1	ADMAAR1	R/W	H'0000	H'FFFE6094	16
	A-DMAC リロードエイリアスポインタ レジスタ 1	ADMARAR1	R/W	H'0000	H'FFFE6096	16
	A-DMAC エイリアスポインタレジスタ 56	ADMAAR56	R/W	H'0000	H'FFFE60A0	16
	A-DMAC エイリアスポインタレジスタ 57	ADMAAR57	R/W	H'0000	H'FFFE60A2	16
	A-DMAC エイリアスポインタレジスタ 58	ADMAAR58	R/W	H'0000	H'FFFE60A4	16
	A-DMAC エイリアスポインタレジスタ 59	ADMAAR59	R/W	H'0000	H'FFFE60A6	16
	A-DMAC エイリアスポインタレジスタ 60	ADMAAR60	R/W	H'0000	H'FFFE60A8	16
	A-DMAC エイリアスポインタレジスタ 61	ADMAAR61	R/W	H'0000	H'FFFE60AA	16
	A-DMAC エイリアスポインタレジスタ 62	ADMAAR62	R/W	H'0000	H'FFFE60AC	16
	A-DMAC エイリアスポインタレジスタ 63	ADMAAR63	R/W	H'0000	H'FFFE60AE	16
	A-DMAC エイリアスポインタレジスタ 64	ADMAAR64	R/W	H'0000	H'FFFE60B0	16
	A-DMAC エイリアスポインタレジスタ 65	ADMAAR65	R/W	H'0000	H'FFFE60B2	16

チャンネル	レジスタ名	略称	R/W	初期値	アドレス	アクセス サイズ
各チャンネル対応	A-DMAC エイリアスポインタレジスタ 66	ADMAAR66	R/W	H'0000	H'FFFE60B4	16
	A-DMAC エイリアスポインタレジスタ 67	ADMAAR67	R/W	H'0000	H'FFFE60B6	16
	A-DMAC エイリアスポインタレジスタ 68	ADMAAR68	R/W	H'0000	H'FFFE60B8	16
	A-DMAC エイリアスポインタレジスタ 69	ADMAAR69	R/W	H'0000	H'FFFE60BA	16
	A-DMAC エイリアスポインタレジスタ 70	ADMAAR70	R/W	H'0000	H'FFFE60BC	16
	A-DMAC エイリアスポインタレジスタ 71	ADMAAR71	R/W	H'0000	H'FFFE60BE	16
	A-DMAC バッファレジスタ 2	ADMABUF2	R	H'00000000	H'FFFE60C0	32
	A-DMAC バッファレジスタ 3	ADMABUF3	R	H'00000000	H'FFFE60C4	32
	A-DMAC バッファレジスタ 4	ADMABUF4	R	H'00000000	H'FFFE60C8	32
	A-DMAC バッファレジスタ 5	ADMABUF5	R	H'00000000	H'FFFE60CC	32
	A-DMAC バッファレジスタ 6	ADMABUF6	R	H'00000000	H'FFFE60D0	32
	A-DMAC バッファレジスタ 7	ADMABUF7	R	H'00000000	H'FFFE60D4	32
	A-DMAC 受信待ちレジスタ 0	ADMARVPR0	R/(W) ^{*2}	H'0000	H'FFFE60E0	8、16
	A-DMAC 受信待ちレジスタ 1	ADMARVPR1	R/(W) ^{*2}	H'0000	H'FFFE60E2	8、16
	A-DMAC 受信待ちレジスタ 2	ADMARVPR2	R/(W) ^{*2}	H'0000	H'FFFE60E4	8、16
	A-DMAC 受信待ちレジスタ 3	ADMARVPR3	R/(W) ^{*2}	H'0000	H'FFFE60E6	8、16
	A-DMAC 受信待ちレジスタ 4	ADMARVPR4	R/(W) ^{*2}	H'0000	H'FFFE60E8	8、16
	A-DMAC 受信待ちレジスタ 5	ADMARVPR5	R/(W) ^{*2}	H'0000	H'FFFE60EA	8、16
	A-DMAC 送信待ちレジスタ 0	ADMATVPR0	R/W	H'0000	H'FFFE60F0	8、16
	A-DMAC 送信待ちレジスタ 1	ADMATVPR1	R/W	H'0000	H'FFFE60F2	8、16
	A-DMAC 送信待ちレジスタ 2	ADMATVPR2	R/W	H'0000	H'FFFE60F4	8、16
	A-DMAC 送信待ちレジスタ 3	ADMATVPR3	R/W	H'0000	H'FFFE60F6	8、16
	A-DMAC 送信待ちレジスタ 4	ADMATVPR4	R/W	H'0000	H'FFFE60F8	8、16
	A-DMAC 送信待ちレジスタ 5	ADMATVPR5	R/W	H'0000	H'FFFE60FA	8、16

【注】 *1 フラグをクリアするため、1を読み出した後に0を書き込むことのみ可能です。

*2 フラグをクリアするため、1を書き込むことのみ可能です。

12.2.1 A-DMAC オペレーションレジスタ (ADMAOR)

ADMAOR は、読み出し／書き込み可能な 8 ビットのレジスタで、A-DMAC のすべてのチャンネルの動作を指定します。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	-	-	-	-	-	-	-	DME
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7~1	-	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
0	DME	0	R/W	DMA マスタイネーブルフラグ すべてのチャンネルの DMA 転送を許可または禁止します。DME ビットおよび各チャンネルの DE ビットを 1 に設定すると、DMA 転送が許可されます。 DME ビットをクリアすると、すべてのチャンネルの DMA 転送が中断されます。

【注】 A-DMAC は NMI が発生すると DMA 転送禁止状態になりますが（「12.3.3 転送の中断と再開」を参照）、転送を再開するための制御ビットは ADMAOR 内に持たず、DMAC の DMA オペレーションフラグビットレジスタ (DMAFR) の NMIF ビットを利用します（「第 11 章 ダイレクトメモリアクセスコントローラ (DMAC)」を参照）。DMAC の NMIF ビットをクリアすることで、A-DMAC の DMA 転送もあわせて許可されます。

12.2.2 A-DMAC エイリアスペースレジスタ (ADMAABR)

ADMAABR は、読み出し／書き込み可能な 8 ビットのレジスタで、A-DMAC 用のエイリアス領域（内蔵周辺モジュールとの転送に用いる内蔵 RAM 領域）の先頭アドレスを指定します。エイリアス領域は 32K バイト単位で指定できます。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	-	-	-	-	-	AA[2:0]		
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7~3	-	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
2~0	AA[2:0]	000	R/W	<p>エイリアス領域アドレス エイリアス領域の先頭アドレスを指定します。</p> <p>000 : H'FFF8000 001 : H'FFF8800 010 : H'FFF9000 011 : H'FFF9800 100 : H'FFFA000 101 : H'FFFA800 110 : H'FFFB000 111 : H'FFFB800</p>

12.2.3 A-DMAC 割り込みコントロールレジスタ (ADMAIE)

ADMAIE は、読み出し／書き込み可能な 8 ビットのレジスタです。

各ビット (IE ビット) はチャンネルごとの CPU への割り込みの許可／禁止を設定します。IE ビットを 1 に設定した場合は、対応する DV ビット、または、TE ビットがセットされると、転送完了割り込みを要求します(「12.3.6 転送許可／禁止の条件と割り込み要求」を参照)。

チャンネルと各ビットの対応を表 12.3 に示します。

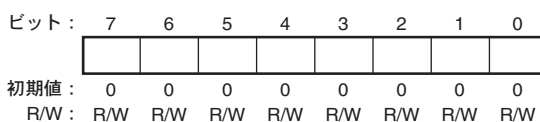


表 12.3 ADMAIE レジスタとチャンネルの対応

レジスタ名	ビット							
	7	6	5	4	3	2	1	0
ADMAIE0	Ch7	Ch6	Ch5	Ch4	Ch3	Ch2	リザーブ	リザーブ
ADMAIE1	Ch15	Ch14	Ch13	Ch12	Ch11	Ch10	Ch9	Ch8
ADMAIE2	Ch23	Ch22	Ch21	Ch20	Ch19	Ch18	Ch17	Ch16
ADMAIE3	Ch31	Ch30	Ch29	Ch28	Ch27	Ch26	Ch25	Ch24
ADMAIE4	Ch39	Ch38	Ch37	Ch36	Ch35	Ch34	Ch33	Ch32
ADMAIE5	Ch47	Ch46	Ch45	Ch44	Ch43	Ch42	Ch41	Ch40
ADMAIE7	Ch63	Ch62	Ch61	Ch60	Ch59	Ch58	Ch57	Ch56
ADMAIE8	Ch71	Ch70	Ch69	Ch68	Ch67	Ch66	Ch65	Ch64
ADMAIE9	リザーブ					Ch74	リザーブ	リザーブ

【注】 リザーブビットは読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。

12.2.4 A-DMAC データ有効レジスタ (ADMADV)

ADMADV は、読み出し/書き込み可能な 8 ビットのレジスタです。

各ビット (DV ビット) は、対応するチャンネルの DMA 転送の状態を示します。DV ビットは、DE ビットが 1 に設定された後で、1 回の DMA 転送が終了すると 1 にセットされ、エイリアス領域のデータが有効であることを示します。

DV ビットに 1 を書き込むことは無効です。DV ビットをクリアするには、DV ビットの 1 を読み出してから 0 を書き込みます。

チャンネルと各ビットの対応を表 12.4 に示します。

ビット :	7	6	5	4	3	2	1	0
初期値 :	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W :	R/(W)*	R/(W)*	R/(W)*	R/(W)*	R/(W)*	R/(W)*	R/(W)*	R/(W)*

【注】 * フラグをクリアするためには、レジスタを読み出して 1 を読み出せたクリア対象のビットにのみ、0 を書き込んでください。

クリアしないビットには、読み出した値が 0 の場合でも 1 を書き込んでください。

なお、その際もリザーブビットには 0 を書き込んでください。

CPU がフラグをリードした際に、CPU は 0 をリードしたにもかかわらず、フラグは 1 にセットされ内部的に 1 をリードされた状態になる場合があります。このとき、当該ビットに 0 を書き込むと、CPU が 1 をリードしていなくてもフラグがクリアされてしまいます。

本レジスタのフラグビットは他のモジュールのフラグと仕様異なるため、CPU のライトによるフラグクリアの操作に注意してください。

表 12.4 ADMADV レジスタとチャンネルの対応

レジスタ名	ビット							
	7	6	5	4	3	2	1	0
ADMADV0	Ch7	Ch6	Ch5	Ch4	Ch3	Ch2	リザーブ	リザーブ
ADMADV1	Ch15	Ch14	Ch13	Ch12	Ch11	Ch10	Ch9	Ch8
ADMADV2	Ch23	Ch22	Ch21	Ch20	Ch19	Ch18	Ch17	Ch16
ADMADV3	Ch31	Ch30	Ch29	Ch28	Ch27	Ch26	Ch25	Ch24
ADMADV4	Ch39	Ch38	Ch37	Ch36	Ch35	Ch34	Ch33	Ch32
ADMADV5	Ch47	Ch46	Ch45	Ch44	Ch43	Ch42	Ch41	Ch40

【注】 リザーブビットは読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。

12.2.5 A-DMAC トランスファエンドレジスタ (ADMATE)

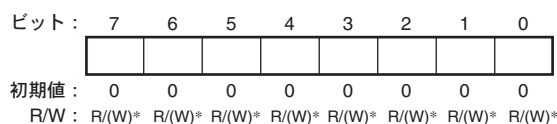
ADMATE は、読み出し／書き込み可能な 8 ビットのレジスタです。

各ビット (TE ビット) は、対応するチャンネルの DMA 転送の状態を示します。TE ビットは、設定された回数の DMA 転送が終了すると 1 にセットされます。

TE ビットに 1 を書き込むことは無効です。TE ビットをクリアするには、TE ビットの 1 を読み出してから 0 を書き込みます。

TE ビットが 1 の場合は、対応するチャンネルは転送要求を受け付けません。

チャンネルと各ビットの対応を表 12.5 に示します。



【注】* フラグをクリアするためには、レジスタを読み出して1を読み出せたクリア対象のビットにのみ、0を書き込んでください。

クリアしないビットには、読み出した値が0の場合でも1を書き込んでください。

なお、その際もリザーブビットには0を書き込んでください。

CPUがフラグをリードした際に、CPUは0をリードしたにもかかわらず、フラグは1にセットされ内部的に1をリードされた状態になる場合があります。このとき、当該ビットに0を書き込むと、CPUが1をリードしていなくてもフラグがクリアされてしまいます。

本レジスタのフラグビットは他のモジュールのフラグと仕様異なるため、CPUのライトによるフラグクリアの操作に注意してください。

表 12.5 ADMATE レジスタとチャンネルの対応

レジスタ名	ビット							
	7	6	5	4	3	2	1	0
ADMATE0	Ch63	Ch62	Ch61	Ch60	Ch59	Ch58	Ch57	Ch56
ADMATE1	Ch71	Ch70	Ch69	Ch68	Ch67	Ch66	Ch65	Ch64
ADMATE2	リザーブ					Ch74	リザーブ	リザーブ

【注】 リザーブビットは読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。

12.2.6 A-DMAC イネーブルレジスタ (ADMADE)

ADMADE は、読み出し／書き込み可能な 8 ビットのレジスタです。

各ビット (DE ビット) は ATU-III (タイマ A、C、F) 用チャンネル、RCAN 用チャンネルの DMA 転送を許可または禁止します。各チャンネルに対応した DE ビットおよび ADMAOR の DME ビットを 1 に設定すると、DMA 転送を許可します。

チャンネルと各ビットの対応を表 12.6 に示します。

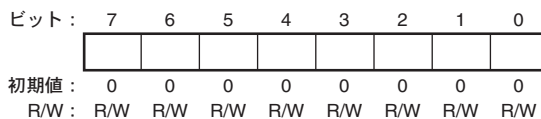


表 12.6 ADMADE レジスタとチャンネルの対応

レジスタ名	ビット							
	7	6	5	4	3	2	1	0
ADMADE0	Ch7	Ch6	Ch5	Ch4	Ch3	Ch2	リザーブ	リザーブ
ADMADE1	Ch15	Ch14	Ch13	Ch12	Ch11	Ch10	Ch9	Ch8
ADMADE2	Ch23	Ch22	Ch21	Ch20	Ch19	Ch18	Ch17	Ch16
ADMADE3	Ch31	Ch30	Ch29	Ch28	Ch27	Ch26	Ch25	Ch24
ADMADE4	Ch39	Ch38	Ch37	Ch36	Ch35	Ch34	Ch33	Ch32
ADMADE5	Ch47	Ch46	Ch45	Ch44	Ch43	Ch42	Ch41	Ch40
ADMADE7	リザーブ					Ch74	リザーブ	Ch72

【注】 リザーブビットは読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。

12.2.7 A-DMAC 転送モードレジスタ (ADMAMODE)

ADMAMODE は、読み出し／書き込み可能な 8 ビットのレジスタです。

各ビット (MODE ビット) は、ATU-III (タイマ F) 用チャンネルの転送モードをチャンネル単位で設定可能です。

本レジスタへの書き込みは、転送禁止の状態 (DE=0 または DME=0) で行ってください。

タイマ F を PWM 入力波形計測モードで用いる場合には 1 を、それ以外は 0 を設定してください。

チャンネルと各ビットの対応を表 12.7 に示します。

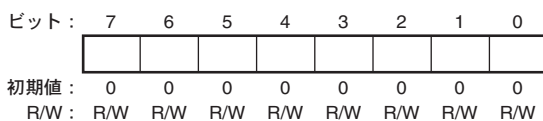


表 12.7 ADMAMODE レジスタとチャンネルの対応

レジスタ名	ビット							
	7	6	5	4	3	2	1	0
ADMAMODE0	Ch31	Ch30	Ch29	Ch28	リザーブ	リザーブ	リザーブ	リザーブ
ADMAMODE1	Ch39	Ch38	Ch37	Ch36	Ch35	Ch34	Ch33	Ch32
ADMAMODE2	Ch47	Ch46	Ch45	Ch44	Ch43	Ch42	Ch41	Ch40

【注】 リザーブビットは読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。

12.2.8 A-DMAC 転送カウントレジスタ (ADMATCR)

ADMATCR は、読み出し／書き込み可能な 16 ビットのレジスタで、ATU-III (タイマ G) 用チャンネル、ADC 用チャンネル、RSPI 用チャンネル、および SCI 用チャンネルの DMA 転送の回数を指定します。DMA 転送許可の状態では、1 回の DMA 転送を行うたびにカウンタは更新 (ポストデクリメント) され、転送終了まで残りの転送回数を示します。H'0000~H'03FF を指定できます。

ADMATCR レジスタに 0 を設定することで、転送を中断することができます。ただし、ADMATCR≠0 の状態で、0 以外の値を書き込むことは禁止です。

ATU-III (タイマ G) 用チャンネル、ADC 用チャンネルに対応する ADMATCR レジスタは、ADMATCR=1 かつ ADMATCR≠0 の状態で転送を行うと、ADMATCR レジスタの値がリロードされます。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—										
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R	R	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

12.2.9 A-DMAC エイリアスポインタレジスタ (ADMAAR)

ADMAAR は、読み出し／書き込み可能な 16 ビットのレジスタで、ATU-III (タイマ G) 用チャンネル、ADC 用チャンネル、RSPI 用チャンネル、および SCI 用チャンネルに対して、エイリアス領域を指定することができます。1 回の DMA 転送を行うたびにレジスタ値は更新 (ポスト更新) され、エイリアス領域において次に転送するアドレスを常に示します。書き込みは、対応する ADMATCR が 0 のときに設定してください。

ADMAAR に指定されたアドレスを先頭に、ADMATCR で指定された転送回数×2 バイト (RSPI 用チャンネルおよび ADC 用チャンネル)、または ADMATCR で指定された転送回数×1 バイト (SCI 用チャンネルおよび ATU-III (タイマ G) 用チャンネル) の領域が、それぞれのチャンネルのエイリアス領域として用いられます。

指定する転送先アドレスは、エイリアス領域の先頭アドレスからの相対アドレスを指定します。指定可能な相対アドレスは H'0000~H'7FFF です。

ATU-III (タイマ G) 用チャンネルおよび ADC 用チャンネルに対応する ADMAAR レジスタは、ADMATCR=1 かつ ADMATCR≠0 の状態で転送を行うと、ADMAAR レジスタの値がリロードされます。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—															
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W*

【注】* ADC用チャンネルおよびすべてのRSPI用チャンネルではビット0への書き込みは無効です。

12.2.10 A-DMAC リロード転送カウントレジスタ (ADMARTCR)

ADMARTCR は、読み出し／書き込み可能な 16 ビットのレジスタです。ATU-III (タイマ G) 用チャンネルおよび ADC 用チャンネルで、対応する ADMATCR のリロード値を指定します。H'0000~H'03FF を指定できます。

ADMATCR=1 かつ ADMARTCR≠0 の状態で転送を行うと、ADMARTCR の値は ADMATCR にリロードされます。

ADMATCR を設定する前に、ADMARTCR を設定してください。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—										
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R	R	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

12.2.11 A-DMAC リロードエイリアスポインタレジスタ (ADMARAR)

ADMARAR は、読み出し／書き込み可能な 16 ビットのレジスタです。ATU-III (タイマ G) 用チャンネルおよび ADC 用チャンネルで、対応する ADMAAR レジスタのリロード値を指定します。H'0000~H'7FFF を指定できます。

ADMATCR=1 かつ ADMARTCR≠0 の状態で転送を行うと、ADMARAR の値は ADMAAR にリロードされます。

ADMAAR を設定する前に、ADMARAR を設定してください。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—															
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W*

【注】* ADC用チャンネルではビット0への書き込みは無効です。

12.2.12 A-DMAC バッファレジスタ (ADMABUF)

ADMABUF は、読み出し専用の 32 ビットのレジスタです。ADMABUF レジスタには ADMABUF2~7 があり、それぞれタイマ A 用チャンネル (Ch2~7) に対応します。

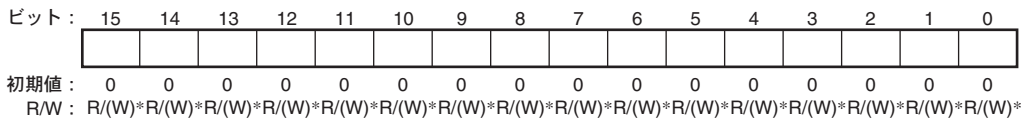
ADMABUF レジスタは、タイマ A からの転送要求に応じて読み出されたインプットキャプチャレジスタの値を保持します。タイマ A 用の転送要求をトリガとして、ADMABUF に保持された値 (= 前回の転送要求でタイマ A から読み出されたインプットキャプチャレジスタの値) およびタイマ A から読み出されたインプットキャプチャレジスタの値の 2 値がエイリアス領域に転送されます。

ビット:	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R
ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

12.2.13 A-DMAC 受信待ちレジスタ (ADMARVPR)

ADMARVPR は、読み出し／書き込み可能な 16 ビットのレジスタで、RCAN のモジュールの各メールボックス (MBx) に対応したフラグを持ちます。書き込みは、フラグをクリアするための 1 書き込みのみ可能です。

ADMARVPR と RCAN の MBx の対応を表 12.8 に示します。



【注】 * フラグをクリアするためには、レジスタを読み出して1を読み出せたクリア対象のビットにのみ、1を書き込んでください。

クリアしないビットには、読み出した値が0の場合でも0を書き込んでください。

CPUがフラグをリードした際に、CPUは0をリードしたにもかかわらず、フラグは1にセットされ内部的に1をリードされた状態になる場合があります。このとき、当該ビットに1を書き込むと、CPUが1をリードしていなくてもフラグがクリアされてしまいます。

本レジスタのフラグビットは他のモジュールのフラグと仕様が異なるため、CPUのライトによるフラグクリアの操作に注意してください。

表 12.8 ADMARVPR レジスタと RCAN のメールボックスの対応

ADMARVPR	ビット	RCAN のモジュール	MBx
ADMARVPR0	15~0	RCAN_A	31~16
ADMARVPR1	15~0		15~0
ADMARVPR2	15~0	RCAN_B	31~16
ADMARVPR3	15~0		15~0
ADMARVPR4	15~0	RCAN_C	31~16
ADMARVPR5	15~0		15~0

RCAN からの転送要求に応じて MBx の内容をエイリアスに転送が完了した際に、MBx に対応するフラグが 1 にセットされます。RV ビットをクリアするには、RV ビットの 1 を読み出してから 1 を書き込みます。

12.2.14 A-DMAC 送信待ちレジスタ (ADMATVPR)

ADMATVPR は、読み出し／書き込み可能な 16 ビットのレジスタで、RCAN のモジュールの各メールボックス (MBx) に対応したフラグを持ちます。

ADMATVPR は、エイリアス領域から MBx に転送するメールボックス ID をソフトウェアから指定します。転送する MBx に対応するビットに 1 が設定されると、転送許可状態 (DME=1、DE=1、TE=0) でエイリアス領域から MBx への転送を行います。転送が完了した際に、MBx に対応するフラグがハードウェアにより 0 クリアされます。

RCAN モジュール側で送信に設定されていない MBx に対応するビットを 1 に設定することは禁止です。

RCAN 送信用チャンネルが転送許可状態および中断状態 (「12.3.3 転送の中断と再開」を参照) では、すべての ADMATVPR への書き込みは禁止です。

ADMATVPR と RCAN の MBx の対応を表 12.9 に示します。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

表 12.9 ADMATVPR レジスタと RCAN のメールボックスの対応

ADMATVPR	ビット	RCAN のモジュール	MBx
ADMATVPR0	15~0	RCAN_A	31~16
ADMATVPR1	15~1*		15~1*
ADMATVPR2	15~0	RCAN_B	31~16
ADMATVPR3	15~1*		15~1*
ADMATVPR4	15~0	RCAN_C	31~16
ADMATVPR5	15~1*		15~1*

【注】 * MB0 は受信専用のメールボックスのため指定不可です。したがって、対応する ADMATVPR レジスタのビット 0 への書き込みは無効です。

12.3 動作説明

12.3.1 エイリアス領域

A-DMAC によるデータ転送で、転送先および転送元となる内蔵 RAM 上の領域をエイリアス領域と呼びます。エイリアス領域の先頭アドレスは ADMAABR レジスタを用いて 32KB 単位で指定可能です。エイリアス領域のメモリマップ概要を図 12.2 に示します (ADMAABR がデフォルトの場合)。

ATU-III (タイマ A、C、F) 用チャンネルと RCAN 用チャンネルでは、各チャンネル用のエイリアス領域の ADMAABR で指定したアドレスに対する相対アドレスは固定です (「12.3.2 (2) ATU-III (タイマ A、C、F) 用チャンネルの動作」および「12.3.2 (4) RCAN 用チャンネルの動作」を参照)。

一方、ATU-III (タイマ G) 用チャンネル、ADC 用チャンネル、RSPI 用チャンネル、および SCI 用チャンネルは、各チャンネル用のエイリアス領域を設定可能です。ADMAAR レジスタと ADMATCR レジスタで、それぞれ先頭アドレスと領域サイズを指定します (「12.2.8 A-DMAC 転送カウントレジスタ (ADMATCR)」および「12.2.9 A-DMAC エイリアスポインタレジスタ (ADMAAR)」を参照)。

【注】 ADMAAR と ADMATCR の設定によっては、各チャンネル用のエイリアス領域同士のオーバーラップまたは内蔵 RAM の最大アドレスを超えたエイリアス領域といった不正な設定は可能ですが、こうした不正な設定をハードウェアでは検出しません。

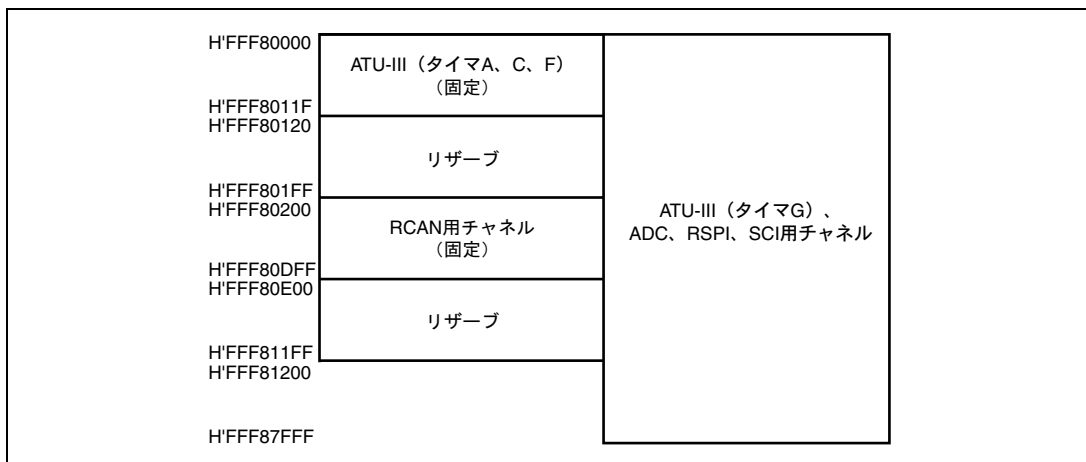


図 12.2 エイリアス領域のメモリマップ概要

12.3.2 各チャネルの動作

(1) ATU-III (タイマG) 用チャネル、ADC 用チャネルの動作

● 概要

ATU-III (タイマG) 用チャネル (Ch0) は、ポートを介したADCの入力信号の切り替え設定を補助します。タイマGからの転送要求を要因とし、エイリアス領域からADCの入力を制御するポートGへの転送を行います。

ADC用のチャネル (Ch1) は、ADCのA/D変換結果の読み出しを補助します。Ch1は、ADCのA/D変換結果を格納するレジスタのADR0からエイリアス領域への転送を行います。

ATU-III (タイマG) 用チャネルおよびADC用チャネルのエイリアス領域は、ADMAARレジスタとADMATCRレジスタを設定することで指定できます。

転送の概要を図12.3に示します。

● 転送要求

Ch0 : タイマG2のコンペアマッチ

Ch1 : ADCのADC_A、AN0の割り込み変換終了

● アドレッシング

レジスタ側のアドレッシングは固定 (増減しない) です。

エイリアス領域のアドレッシングは1転送単位を実行するごとにポストインクリメントします (Ch0は1番地、Ch1は2番地ずつ)。

ADMATCR=1かつADMARTCR≠0の状態、次の転送が行われた場合、ADMATCRとADMAARは、それぞれのリロードレジスタの値に更新されます。したがって、ADMAAR=ADMARAR、ADMATCR=ADMARTCRと設定することで、エイリアス領域に環状リスト (リングバッファ) のデータ構造を実現します。

● 転送フロー

以下の順序でデータを転送します。データ転送のフローチャートを図12.4に示します。

1. リロードレジスタのADMATCRとADMAARを設定します。
2. エイリアス領域の先頭番地をADMAARで指定します。次に転送回数をADMATCRで指定します。
3. 転送許可状態 (DME=1、NMIF=0、ADMATCR≠0) で転送要求が発生すると1回の転送を行い、ADMATCRがデクリメントされ、ADMAARが更新されます。
4. ADMATCR=1かつADMARTCR≠0の状態で転送を行ったときに、ADMATCRとADMAARの値に、それぞれのリロードレジスタの値が転送されます。
5. NMI割り込みが発生した場合およびDMEビットが0に設定された場合には、転送を中断します。また、ADMATCR≠0のときにADMATCRに0を書き込んだ場合は、転送禁止になります。

- 注意事項

ADMAAR、ADMATCRの設定に先立ち、それぞれのリロードレジスタ（ADMARAR、ADMARTCR）の設定を行ってください。この手順でレジスタが設定されない場合、意図どおりにリロード機能が動作しない場合があります。

Ch0の転送元のエイリアス領域には、ADCの入力信号の切り替え設定データを、各バイトの上位4ビットに設定してください。

Ch1について、転送許可状態では、転送先のエイリアス領域の内容は転送要求のたびにアドレスレジスタが更新されます。したがって、読み出しを行う前にエイリアスの内容が上書きされることがあります。

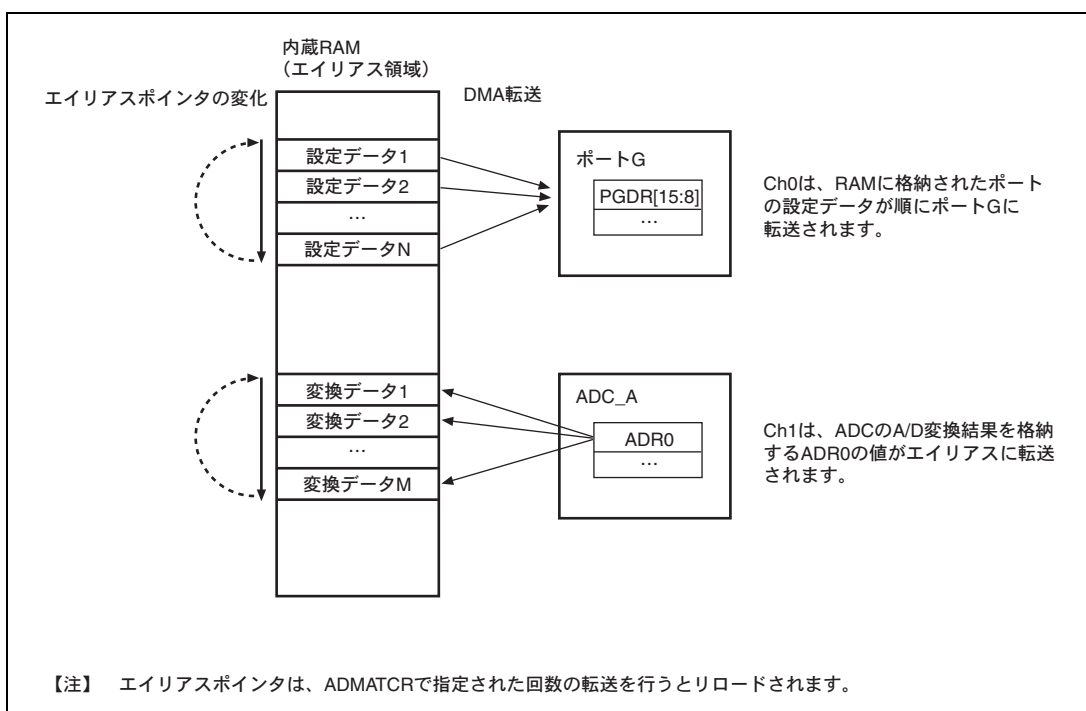


図 12.3 転送の概要 (ATU-III (タイマ G) 用チャンネル、ADC 用チャンネル)

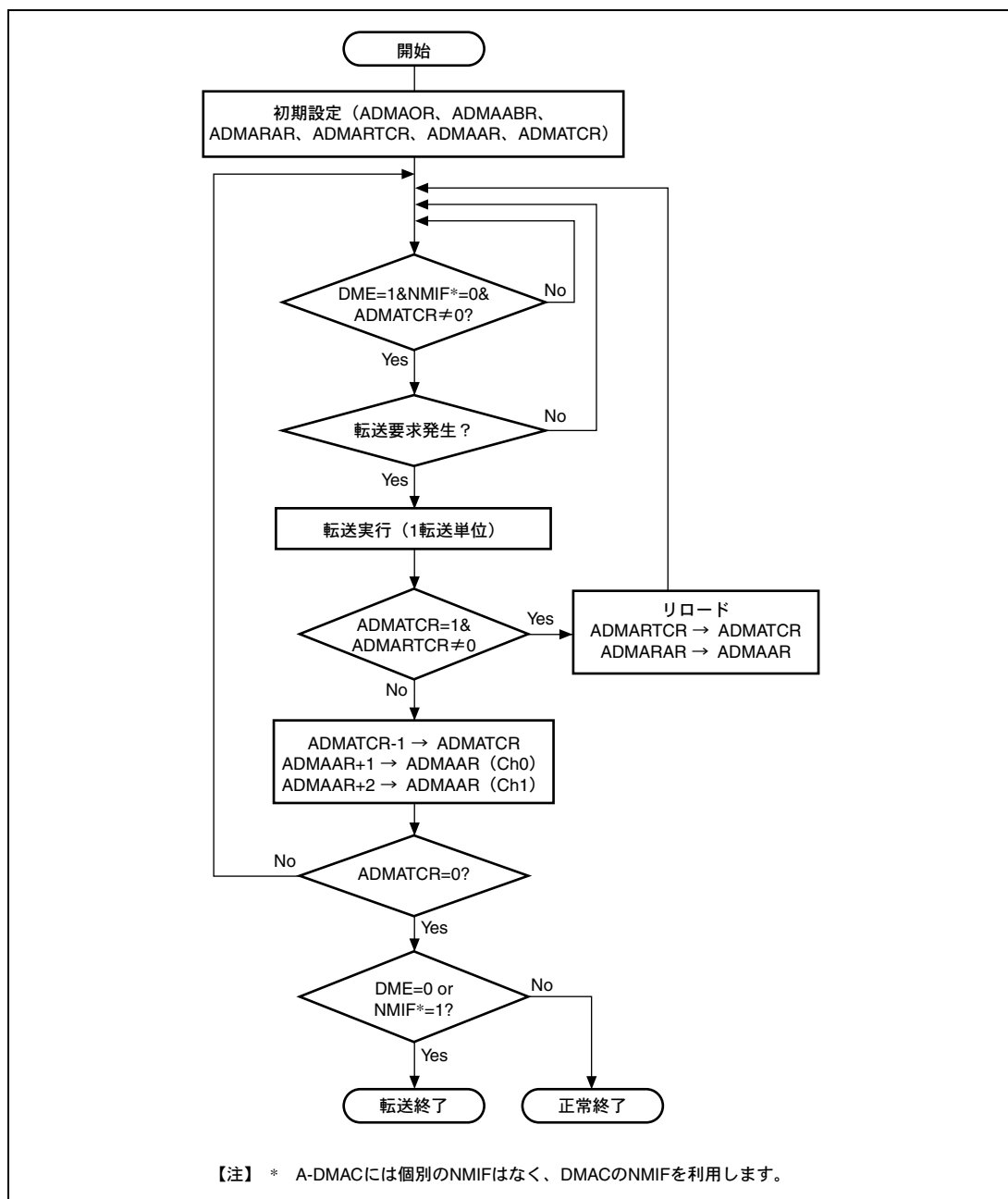


図 12.4 DMA 転送フローチャート (ATU-III (タイマ G) 用チャンネル、ADC 用チャンネル)

(2) ATU-III (タイマ A、C、F) 用チャンネルの動作

● 概要

ATU-III (タイマ A、C、F) 用チャンネルは、ATU-IIIのレジスタからエイリアス領域への転送を行います。

各チャンネルのエイリアス領域のサイズは以下のとおりです。

タイマA用チャンネル：8バイト (32ビットレジスタ2値分の領域)

タイマC用チャンネル：4バイト

タイマF用チャンネル：8バイト (32ビットレジスタ2値分の領域)

各チャンネルの転送元レジスタの名称と転送先アドレスの関係は、表12.10を参照してください。転送の概要を図12.5に示します。

● 転送要求

各チャンネルに対応するATU-IIIのチャンネルのインプットキャプチャ割り込みを転送要求として用います。

● アドレッシング

転送元アドレスおよび転送先アドレスはともに固定 (増減しない) です。

● 転送フロー

以下の順序でデータを転送します。データ転送のフローチャートを図12.6に示します。

1. 転送許可状態 (DE=1、DME=1、NMIF=0) で転送要求が発生すると1回の転送が行われ、DVに1がセットされます。割り込み許可 (IE=1) であれば、CPUに転送完了割り込みを要求します。
2. 転送許可状態である間は、転送要求が発生するごとに1転送単位の転送が行われます。
3. NMI割り込みが発生した場合、あるいはDMEビットまたはDEビットが0に設定された場合は転送禁止になります。

● 注意事項

転送許可状態では、転送先のエイリアス領域の内容は転送要求のたびに上書きされ、最新のレジスタ値が常にエイリアス領域に反映されます。

タイマA用チャンネルでは、1回の転送要求に対して、読み出されたインプットキャプチャ値およびADMABUFレジスタに保持された値 (=前回の転送要求で読み出されたインプットキャプチャの値) がエイリアス領域に転送されます (「12.3.4 (1) ATU-III (タイマA) 用チャンネルに関する補足」を参照)。

タイマF用チャンネルは、対応するADMAMODEレジスタの設定によって、転送されるレジスタが異なります。ADMAMODEビットが0 (デフォルト) の場合、CDRFレジスタが各チャンネルのエイリアス領域の上位4バイトに転送されます。ADMAMODEビットが1の場合、CDRFレジスタとGRCFレジスタがそれぞれエイリアス領域の上位4バイト、下位4バイトに転送されます。

表 12.10 ATU-III (タイマ A、C、F) 用チャネルの一覧

チャネル番号	転送要求元		転送レジスタ	エイリアス領域 相対アドレス	
2	ATU-III (タイマ A)	チャンネル 0	ICRA0	H'000~H'007	
3		チャンネル 1	ICRA1	H'008~H'00F	
4		チャンネル 2	ICRA2	H'010~H'017	
5		チャンネル 3	ICRA3	H'018~H'01F	
6		チャンネル 4	ICRA4	H'020~H'027	
7		チャンネル 5	ICRA5	H'028~H'02F	
8	ATU-III (タイマ C)	サブブロック C0	チャンネル 0	GRC00	H'030~H'033
9			チャンネル 1	GRC01	H'034~H'037
10			チャンネル 2	GRC02	H'038~H'03B
11			チャンネル 3	GRC03	H'03C~H'03F
12		サブブロック C1	チャンネル 0	GRC10	H'040~H'043
13			チャンネル 1	GRC11	H'044~H'047
14			チャンネル 2	GRC12	H'048~H'04B
15			チャンネル 3	GRC13	H'04C~H'04F
16		サブブロック C2	チャンネル 0	GRC20	H'050~H'053
17			チャンネル 1	GRC21	H'054~H'057
18			チャンネル 2	GRC22	H'058~H'05B
19			チャンネル 3	GRC23	H'05C~H'05F
20		サブブロック C3	チャンネル 0	GRC30	H'060~H'063
21			チャンネル 1	GRC31	H'064~H'067
22			チャンネル 2	GRC32	H'068~H'06B
23			チャンネル 3	GRC33	H'06C~H'06F
24		サブブロック C4	チャンネル 0	GRC40	H'070~H'073
25			チャンネル 1	GRC41	H'074~H'077
26			チャンネル 2	GRC42	H'078~H'07B
27			チャンネル 3	GRC43	H'07C~H'07F
28	ATU-III (タイマ F)	チャンネル 0	CDRF00、GRCF00	H'080~H'087	
29		チャンネル 1	CDRF01、GRCF01	H'088~H'08F	
30		チャンネル 2	CDRF02、GRCF02	H'090~H'097	
31		チャンネル 3	CDRF03、GRCF03	H'098~H'09F	
32		チャンネル 4	CDRF04、GRCF04	H'0A0~H'0A7	
33		チャンネル 5	CDRF05、GRCF05	H'0A8~H'0AF	
34		チャンネル 6	CDRF06、GRCF06	H'0B0~H'0B7	
35		チャンネル 7	CDRF07、GRCF07	H'0B8~H'0BF	
36		チャンネル 8	CDRF08、GRCF08	H'0C0~H'0C7	

チャンネル番号	転送要求元	転送レジスタ	エイリアス領域 相対アドレス
37	ATU-III (タイムF)	チャンネル 9	H'0C8~H'0CF
38		チャンネル 10	H'0D0~H'0D7
39		チャンネル 11	H'0D8~H'0DF
40		チャンネル 12	H'0E0~H'0E7
41		チャンネル 13	H'0E8~H'0EF
42		チャンネル 14	H'0F0~H'0F7
43		チャンネル 15	H'0F8~H'0FF
44		チャンネル 16	H'100~H'107
45		チャンネル 17	H'108~H'10F
46		チャンネル 18	H'110~H'117
47		チャンネル 19	H'118~H'11F

(3) RSPI 用チャンネル、SCI 用チャンネルの動作

● 概要

RSPI用チャンネルおよびSCI用チャンネルは、偶数チャンネルではレジスタからエイリアス領域への転送を、奇数チャンネルでは逆方向の転送を行います。転送の概要を図12.5に示します。

チャンネルのエイリアス領域のサイズは、[読み出し(書き込み)レジスタのサイズ] × [ADMATCRで指定する転送回数]に等しく、最大でRSPI用チャンネルは2046バイト、SCI用チャンネルは1023バイトです（「12.2.7 A-DMAC転送モードレジスタ (ADMAMODE)」および「12.2.9 A-DMACエイリアスポインタレジスタ (ADMAAR)」を参照）。

各チャンネルの転送要求、転送元レジスタの名称と転送方向を表12.11に示します。

● 転送要求

各チャンネルに対応するRSPI/SCIの受信/送信割り込みを転送要求として用います。転送許可状態では、1回の転送要求に対し1データの転送を行います。

RSPI用チャンネルでは、偶数チャンネルではRSPIの受信バッファフルに伴うDMA転送要求を、奇数チャンネルではRSPIの送信バッファエンブティに伴うDMA転送要求を用います。

SCI用チャンネルでは、偶数チャンネルではSCIの受信データフルに伴うDMA転送要求を、奇数チャンネルではSCIの送信データエンブティに伴うDMA転送要求を用います。

各チャンネルに対応したADMATCRレジスタに転送回数を設定し、TEビットをクリアし（TEビットが1の場合のみ）、ADMAORのDMEビットを1に設定すると転送許可状態になります（「12.3.6 転送許可/禁止の条件と割り込み要求」を参照）。

● アドレッシング

レジスタ側のアドレッシングは固定（増減しない）です。

エイリアス領域のアドレッシングは1転送単位を実行するごとに増加します（RSPIは2番地、SCIは1番地ずつ）。

● 転送フロー

以下の順序でデータを転送します。データ転送のフローチャートを図12.6に示します。

1. エイリアス領域の先頭をADMAARで指定します。次に転送回数をADMATCRで指定します。
2. 転送許可状態（DME=1、NMIF=0、ADMATCR≠0、TE=0）で転送要求が発生すると1回の転送を行い、ADMATCRが1デクリメントされ、ADMAARがインクリメントされます。
3. ADMATCRが0になり指定された回数の転送を終えると、TEに1がセットされます。このとき、割り込み許可（IE=1）であれば、CPUに割り込みを要求します。
4. NMI割り込みが発生した場合およびDMEビットが0に設定された場合には、転送を中断します。また、ADMATCR≠0のときにADMATCRに0を書き込んだ場合は、転送禁止になります。

● 注意事項

転送が終了した状態（TE=1、ADMATCR=0）で再び転送許可に設定する場合は、ADMATCRの設定を行っ

てからTEピットを0にクリアしてください。TEピットの0クリアが先に行われた場合は、転送要求がそのまま割り込みコントローラに通知される場合があります（「12.3.6 転送許可／禁止の条件と割り込み要求」を参照）。

表 12.11 RSPI 用チャネル、SCI 用チャネルの一覧

チャネル番号	転送要求元		転送要求信号	転送レジスタ	転送方向	転送バイト
56	RSPI	チャネル A	受信バッファフル (SPRI)	SPDRA	IO→RAM	2
57			送信バッファエンブティ (SPTI)	SPDRA	IO←RAM	2
58		チャネル B	受信バッファフル (SPRI)	SPDRB	IO→RAM	2
59			送信バッファエンブティ (SPTI)	SPDRB	IO←RAM	2
60		チャネル C	受信バッファフル (SPRI)	SPDRC	IO→RAM	2
61			送信バッファエンブティ (SPTI)	SPDRC	IO←RAM	2
62	SCI	チャネル A	受信データフル	SCRDR1A	IO→RAM	1
63			送信データエンブティ	SCTDR1A	IO←RAM	1
64		チャネル B	受信データフル	SCRDR1B	IO→RAM	1
65			送信データエンブティ	SCTDR1B	IO←RAM	1
66		チャネル C	受信データフル	SCRDR1C	IO→RAM	1
67			送信データエンブティ	SCTDR1C	IO←RAM	1
68		チャネル D	受信データフル	SCRDR1D	IO→RAM	1
69			送信データエンブティ	SCTDR1D	IO←RAM	1
70		チャネル E	受信データフル	SCRDR1E	IO→RAM	1
71			送信データエンブティ	SCTDR1E	IO←RAM	1

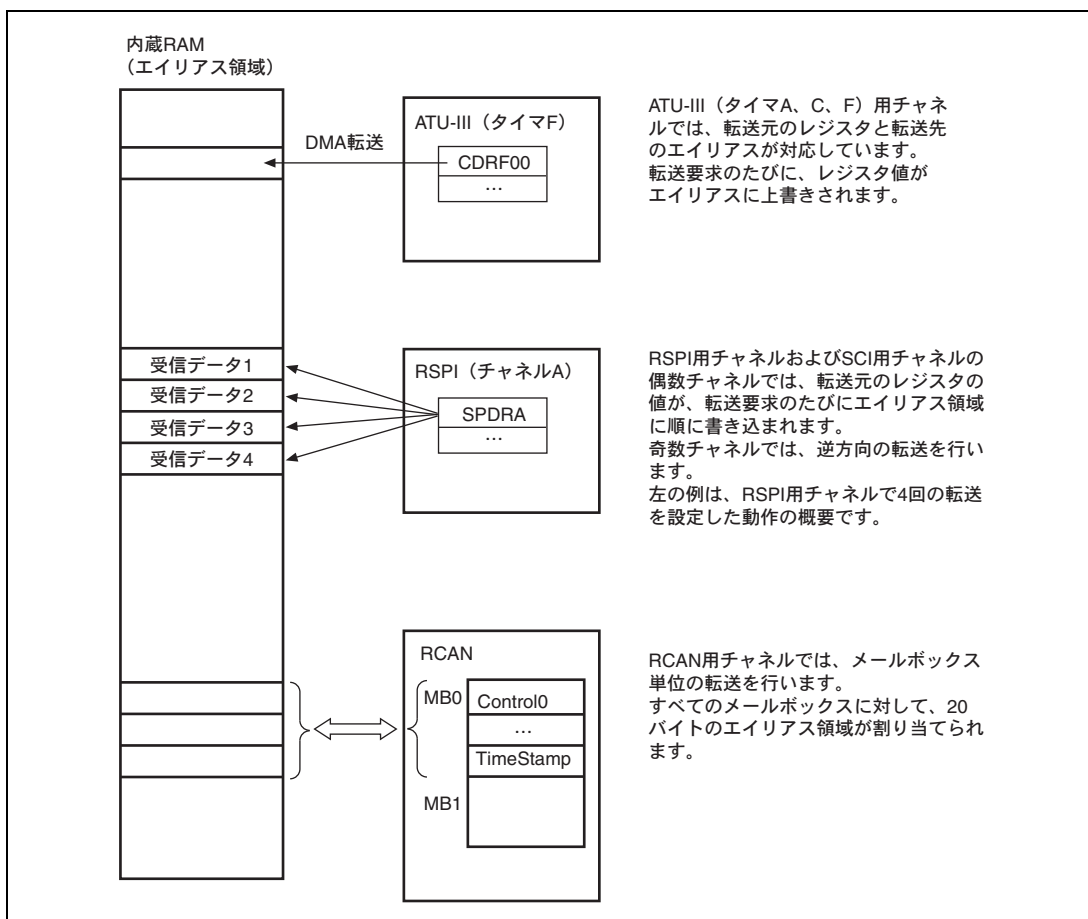


図 12.5 転送の概要

(ATU-III (タイマ A、C、F) 用チャンネル、RSPI 用チャンネル、SCI 用チャンネル、RCAN 用チャンネル)

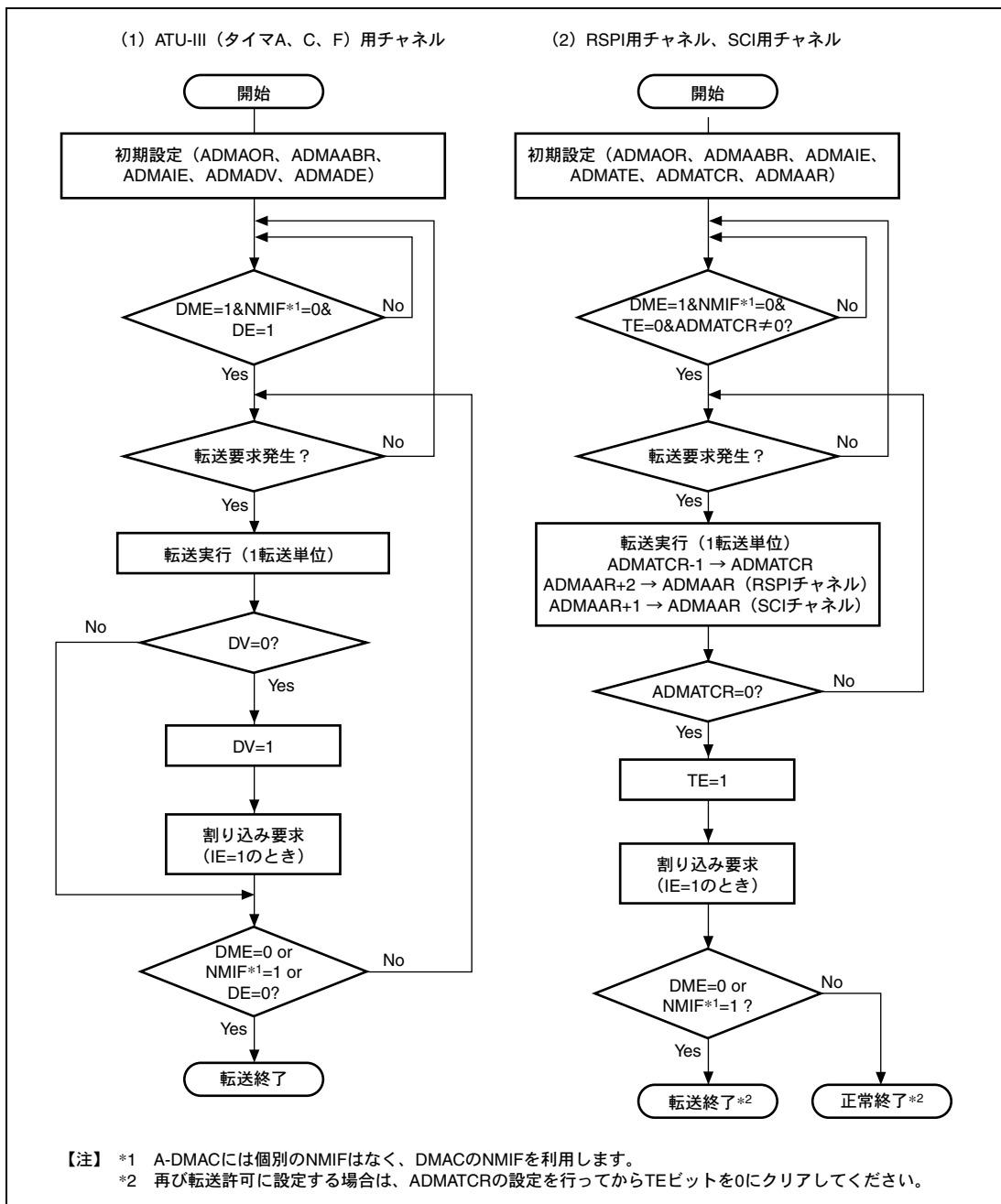


図 12.6 DMA 転送フローチャート
(ATU-III (タイマ A、C、F) 用チャンネル、RSPI 用チャンネル、SCI 用チャンネル)

(4) RCAN用チャネルの動作

• 概要

RCAN用チャネルは、RCANモジュールのメールボックス (MBx) とエイリアス領域の転送を行います。Ch72は受信転送 (MBxからエイリアスへ) を行います。Ch74は送信転送 (エイリアスからMBxへ) を行います。転送の概要を図12.5に示します。

転送するMBxとエイリアス領域のアドレスの対応を表12.12に示します。各MBxのエイリアス領域は、32バイトごとに配置されています。受信および送信のエイリアス領域は共通です。

表 12.12 メールボックスとエイリアス領域のアドレスの対応

MBx	RCAN_A	RCAN_B	RCAN_C
0	H'0200~H'0213	H'0600~H'0613	H'0A00~H'0A13
1	H'0220~H'0233	H'0620~H'0633	H'0A20~H'0A33
2	H'0240~H'0253	H'0640~H'0653	H'0A40~H'0A53
3	H'0260~H'0273	H'0660~H'0673	H'0A60~H'0A73
4	H'0280~H'0293	H'0680~H'0693	H'0A80~H'0A93
5	H'02A0~H'02B3	H'06A0~H'06B3	H'0AA0~H'0AB3
6	H'02C0~H'02D3	H'06C0~H'06D3	H'0AC0~H'0AD3
7	H'02E0~H'02F3	H'06E0~H'06F3	H'0AE0~H'0AF3
8	H'0300~H'0313	H'0700~H'0713	H'0B00~H'0B13
9	H'0320~H'0333	H'0720~H'0733	H'0B20~H'0B33
10	H'0340~H'0353	H'0740~H'0753	H'0B40~H'0B53
11	H'0360~H'0373	H'0760~H'0773	H'0B60~H'0B73
12	H'0380~H'0393	H'0780~H'0793	H'0B80~H'0B93
13	H'03A0~H'03B3	H'07A0~H'07B3	H'0BA0~H'0BB3
14	H'03C0~H'03D3	H'07C0~H'07D3	H'0BC0~H'0BD3
15	H'03E0~H'03F3	H'07E0~H'07F3	H'0BE0~H'0BF3
16	H'0400~H'0413	H'0800~H'0813	H'0C00~H'0C13
17	H'0420~H'0433	H'0820~H'0833	H'0C20~H'0C33
18	H'0440~H'0453	H'0840~H'0853	H'0C40~H'0C53
19	H'0460~H'0473	H'0860~H'0873	H'0C60~H'0C73
20	H'0480~H'0493	H'0880~H'0893	H'0C80~H'0C93
21	H'04A0~H'04B3	H'08A0~H'08B3	H'0CA0~H'0CB3
22	H'04C0~H'04D3	H'08C0~H'08D3	H'0CC0~H'0CD3
23	H'04E0~H'04F3	H'08E0~H'08F3	H'0CE0~H'0CF3
24	H'0500~H'0513	H'0900~H'0913	H'0D00~H'0D13
25	H'0520~H'0533	H'0920~H'0933	H'0D20~H'0D33
26	H'0540~H'0553	H'0940~H'0953	H'0D40~H'0D53
27	H'0560~H'0573	H'0960~H'0973	H'0D60~H'0D73
28	H'0580~H'0593	H'0980~H'0993	H'0D80~H'0D93
29	H'05A0~H'05B3	H'09A0~H'09B3	H'0DA0~H'0DB3
30	H'05C0~H'05D3	H'09C0~H'09D3	H'0DC0~H'0DD3
31	H'05E0~H'05F3	H'09E0~H'09F3	H'0DE0~H'0DF3

【注】 アドレスは16進数で、下位アドレスのみ表示しています。

1つのMBxあたり、ロングワード単位で5回転送し、合計20バイトが転送されます。転送するフィールドは、ID (4バイト)、LAFM (4バイト)、Data (8バイト)、Control1 (2バイト)、TimeStamp (2バイト) です。

- **転送要求**

受信用チャンネルはRCANからのMBxフルの通知を転送要求として用います。転送すべきMBxは、RCAN側のMBxのステータスをスキャンすることで検出しています。

送信用チャンネルは、ソフトウェアにより転送が起動されます。

- **アドレッシング**

アドレッシングは、送信元および送信先とも増加です。

- **動作の詳細と転送フロー**

Ch72 :

1回の転送要求で、1MBxの転送を行います。転送するMBx番号は、転送要求と同期してRCANから通知されます。

転送が完了したMBxに対しては、RVビットに1がセットされます。

RVビットに1がセットされたMBxの転送をRCANから要求された場合、A-DMACは転送を受け付けません。A-DMACはMBxの転送を完了したことをRCANに通知し、RCANは受信待ちレジスタ（またはフレーム待ちレジスタ）の対応するビットをクリアします。

データ転送のフローを以下に示します（図12.7）。

1. 転送許可状態（DME=1、NMIF=0、DE=1）で、転送許可状態で転送要求が発生すると1MBxの転送が行われます。
2. 転送を行ったMBxに対応するRVビットに1がセットされます。
3. NMI割り込みが発生した場合、あるいは、DMEビットまたはDEビットに0が設定された場合は、転送を中断します（「12.3.3 転送の中断と再開」を参照）。また、1MBx転送中に、優先度の高いDMAチャンネルに転送要求が発生した場合、チャンネルは転送待ちになります。

Ch74 :

送信待ちレジスタに転送するMBx番号をソフトウェアにより設定します。その後、転送許可状態とすると、指定されたMBxを優先度順に転送します（優先度はRCAN_A-MBx1→RCAN_A-MBx2→…）。

データ転送のフローを以下に示します（図12.8）。

1. 転送するMBx番号に対応するビットをADMATVPRに設定し、DEビットに1を設定します。MBxをまったく指定せずにDEビットに1を設定した場合は、5.に進みます。
2. 転送許可状態（DME=1、NMIF=0、DE=1、TE=0）では、1に設定されたTVビットに対応する1MBxの転送が行われます。
3. 転送を行ったMBxに対応するTVビットが0クリアされます。
4. 上記2.と3.のステップが、すべてのTVビットが0になるまで行われます。
5. すべてのTVビットが0となり、指定された転送を終えると、TEに1がセットされます。このとき、割り込

み許可 (IE=1) であれば、CPUに割り込みを要求します。

6. TEに1がセットされている期間は、TVビットを設定しても転送は行われません。
7. NMI割り込みが発生した場合、あるいは、DMEビットまたはDEビットに0が設定された場合は、転送を中断します（「12.3.3 転送の中断と再開」を参照）。また、IMBx転送中に、優先度の高いDMAチャンネルに転送要求が発生した場合、チャンネルは転送待ちになります。

- **注意事項**

受信転送では、RVビットがクリアされた時点で許可されます。したがって、エイリアス領域の参照は、矛盾を避けるためRVビットをクリアする前に行ってください。

RCANのMBxがフルになる順番と、エイリアス領域に転送される順番（RVビットが1になる順番）は一致しません。これは、RVビットに1がセットされているとA-DMACは転送をMBx単位で受け付けないのと、転送するMBxを選択するアルゴリズムがFIFOではないからです。

送信転送では、すべてのTVビットが0の状態転送許可に設定すると、何も転送を行わずにTEビットに1がセットされます。また、転送許可状態でTVビットに書き込むことは禁止です。

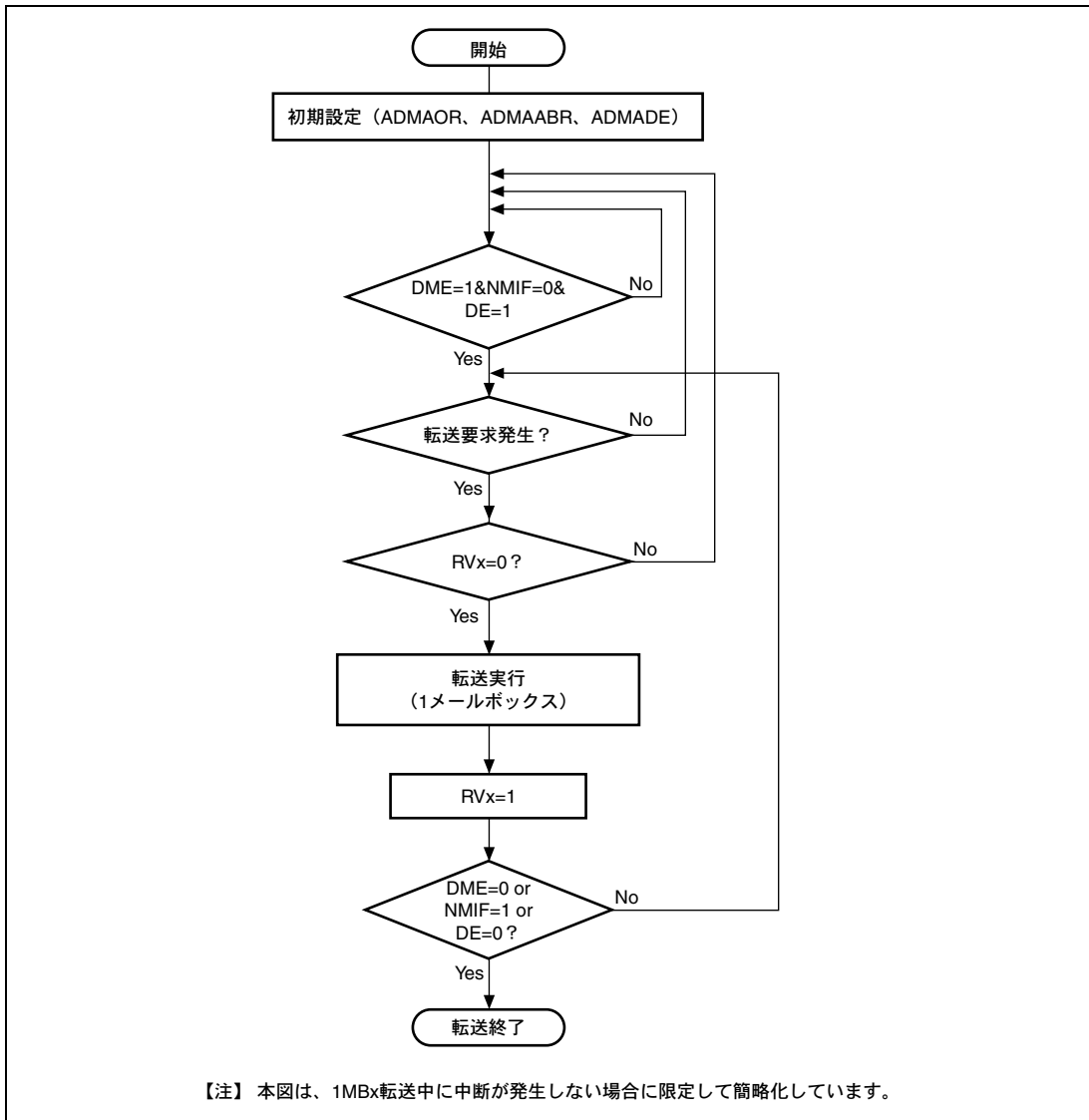


図 12.7 DMA 転送フローチャート (RCAN 用受信用チャンネル)

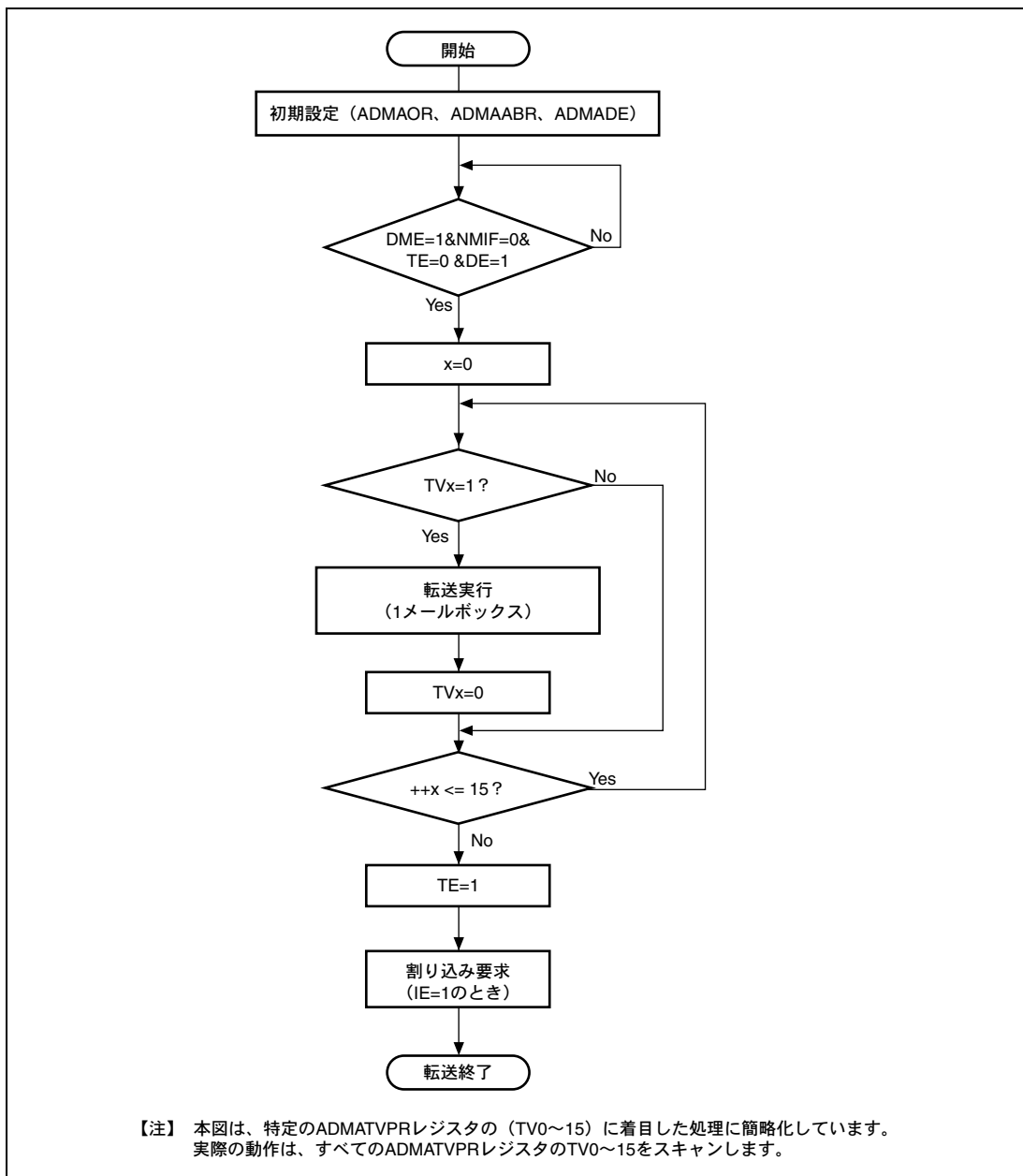


図 12.8 DMA 転送フローチャート (RCAN 用送信用チャネル)

12.3.3 転送の中断と再開

表 12.13 に示す要因が発生すると、転送禁止になります（転送の中断）。1 転送単位の DMA 転送中にこれらの要因が発生した場合は、その 1 転送単位の転送は正常に行われ、各種レジスタ (ADMADV、ADMATE、ADMATCR、ADMAAR、ADMARVPR、ADMATVPR) は適宜更新されます。

表 12.13 転送中断の要因一覧

要 因	転送中断の対象
NMI 割り込みの発生 (DMAC の NMIF=1)	全チャンネル
DME ビットの 0 クリア	
DE ビットの 0 クリア	対応するチャンネル

これらの要因が解除された場合、転送許可状態（転送要求待ち）になります。次の転送要求に対し、RSPI/SCI 用チャンネルでは現在のレジスタ値を参照し、転送を行います（転送の再開）。一方、RCAN 用チャンネルでは、MBx 転送中に中断となった場合、中断となった要因によって動作が異なります。

NMI 割り込みの解除：転送中の MBx の次データを転送（転送の再開）

DME (DE) ビットに 1 を設定：MBx の先頭からデータを転送（RCAN 受信用チャンネルでは次の転送要求と同期して通知される MBx、RCAN 送信用チャンネルでは最も優先度高い MBx）

12.3.4 A-DMAC によるデータ転送でのバス動作

• アドレスモード

DMACのデュアルアドレスモードに相当する動作を行います。つまり、読み出しサイクルで転送元を、書き込みサイクルで転送先をアクセスします。転送サイズはチャンネルごとに固定です。

• バスサイクル

A-DMACは、転送要求を受けるとIバスのバス権を要求し、バス権を得るとIバスに対し「読み出し→書き込み」の2回のバスサイクルからなる1転送単位のDMA転送を開始します。1転送単位の間、A-DMACはIバスのバス権を離しません。内蔵周辺モジュールから内蔵RAMへの転送を例に、データフローを図12.9に示します。

【注】 ATU-III (タイマ A および F) 用チャンネル、RSPI チャンネルでは、1 転送単位は 2 回のバスサイクルではありません。

• バスモード

サイクルスチールモードで転送します。1転送単位の転送を終えて、他に転送待ちのチャンネル（「12.3.5 チャンネルの優先順位」を参照）がある場合でも、いったんIバスのバス権を解放します。

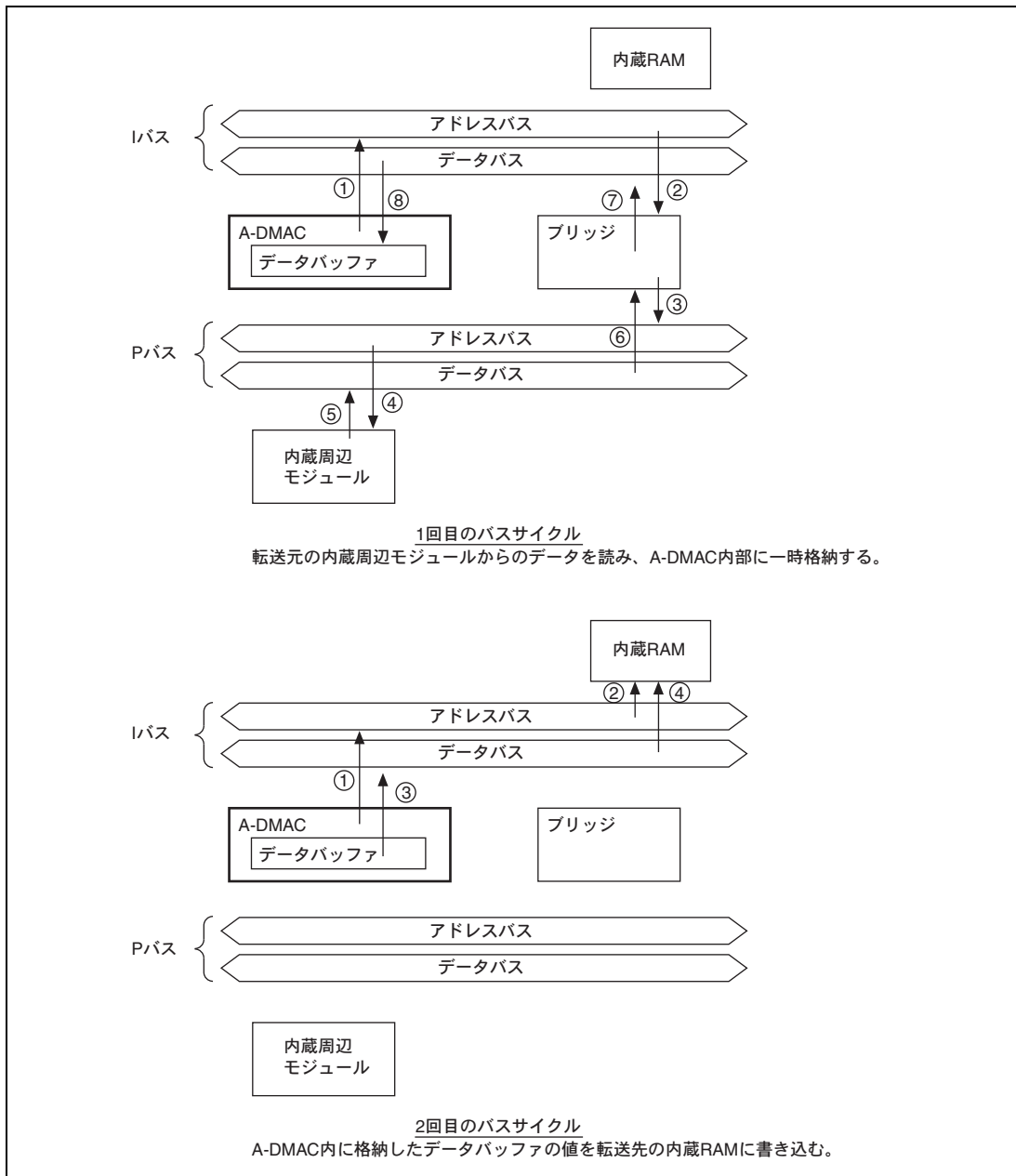


図 12.9 データフロー

(1) ATU-III (タイマ A) 用チャンネルに関する補足

1 転送単位の転送は、「読み出し→書き込み→書き込み」の 3 回のバスサイクルから成ります。タイマ A 用チャンネルのデータフローを図 12.10 に示します。

【注】 DE が 0 から 1 に設定された後に、最初にエイリアス領域に転送された ADMABUF レジスタの値はインプットキャプチャされた値ではないので、値に意味がありません。したがって、この値は読み飛ばす必要があります。

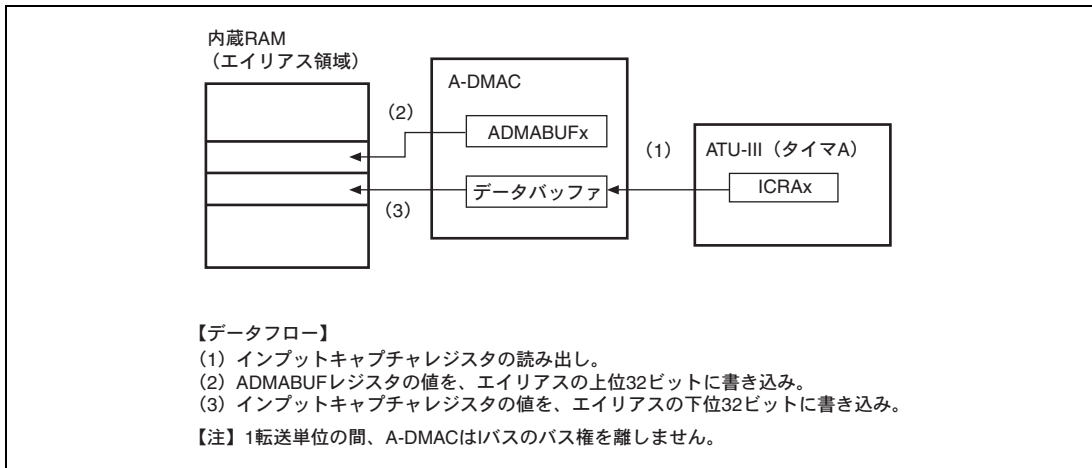


図 12.10 タイマ A 用チャンネルのデータフロー

(2) ATU-III (タイムF) 用チャンネルに関する補足

ADMAMODEレジスタのMODEビットが1の場合、1転送単位の転送は、「読み出し→書き込み→読み出し→書き込み」の4回のバスサイクルから成ります。タイムF用チャンネルのデータフローを図12.11に示します。

ADMAMODEレジスタのMODEビットが0の場合は、1転送単位の転送は、「読み出し→書き込み」の2回のバスサイクルからなります（「12.3.4 A-DMACによるデータ転送でのバス動作」を参照）。

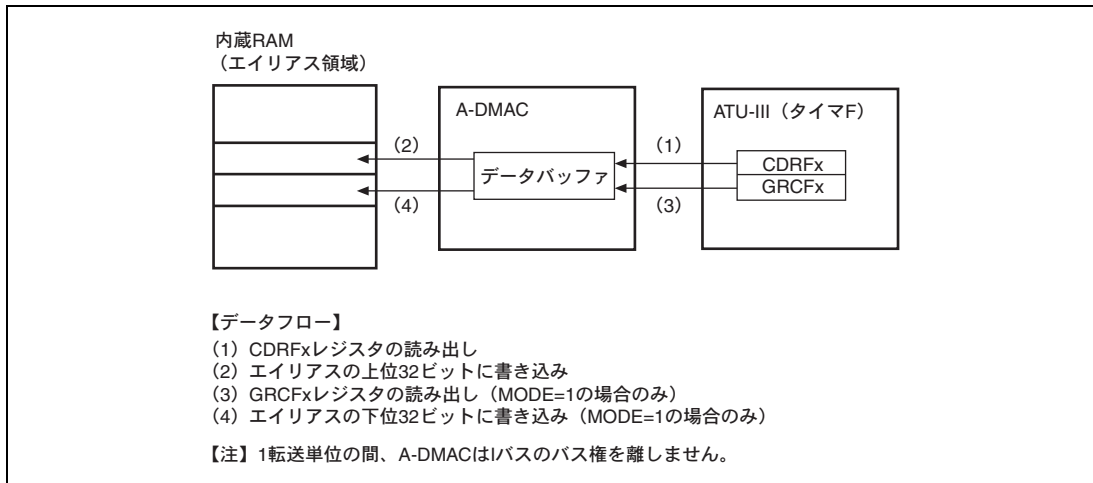


図 12.11 タイムF用チャンネルのデータフロー

(3) RSPI 用チャンネルに関する補足

RSPI と A-DMAC とは専用のバスで接続され、A-DMAC から RSPI のデータレジスタ (SPDR) は、P バスを経由せずにアクセスすることが可能です。したがって、1 転送単位の転送は、送信チャンネルでは I バスへの読み出し (エイリアス領域の読み出し)、受信チャンネルは I バスへの書き込み (エイリアス領域の書き込み) という 1 回のバスサイクルで実現できます。この結果、RSPI との 1 データ転送は、より高速に行うことが可能となります。

RSPI 用チャンネルのデータフローを図 12.12 に示します。

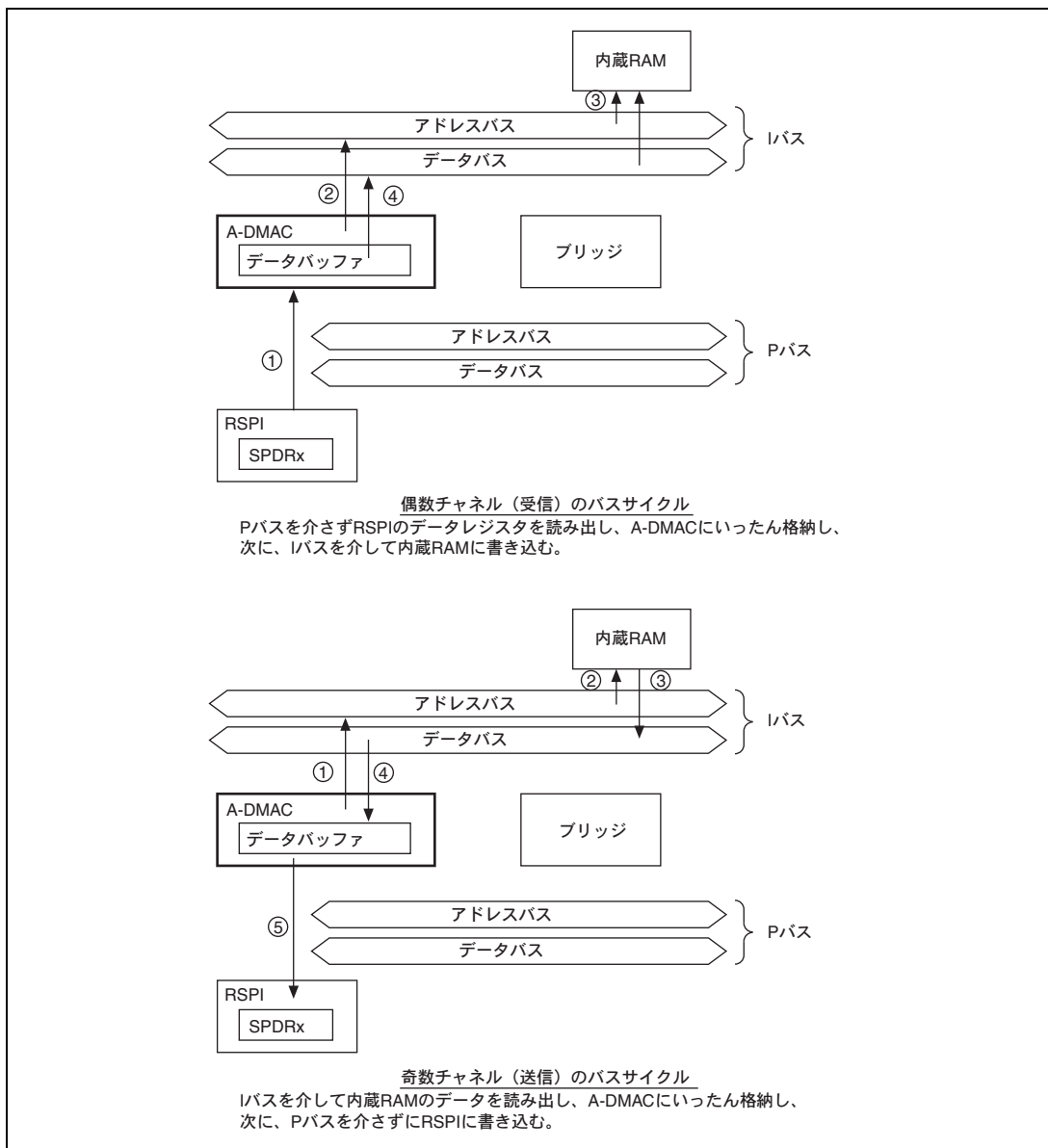


図 12.12 RSPI 用チャンネルのデータフロー

12.3.5 チャンネルの優先順位

複数のチャンネルに同時に要求があった場合は優先度の高い順に処理されます。この優先順位は固定です (Ch0 > … > Ch74)。

RCAN 用チャンネルの転送中に、優先度の高いチャンネルに要求があった場合は、RCAN 用チャンネルの転送は割り込まれ、優先度の高い割り込みが先に処理されます。RCAN の送信チャンネルの転送中に RCAN 受信チャンネルの要求があった場合は、同様に、RCAN の送信転送は割り込まれ、RCAN 受信転送が終了するまで RCAN 送信転送は待ち状態になります。

Ch0 と Ch72 に同時に転送要求が発生し、Ch72 の動作中に Ch1 の転送要求が発生した場合の A-DMAC の動作を図 12.13 に示します。

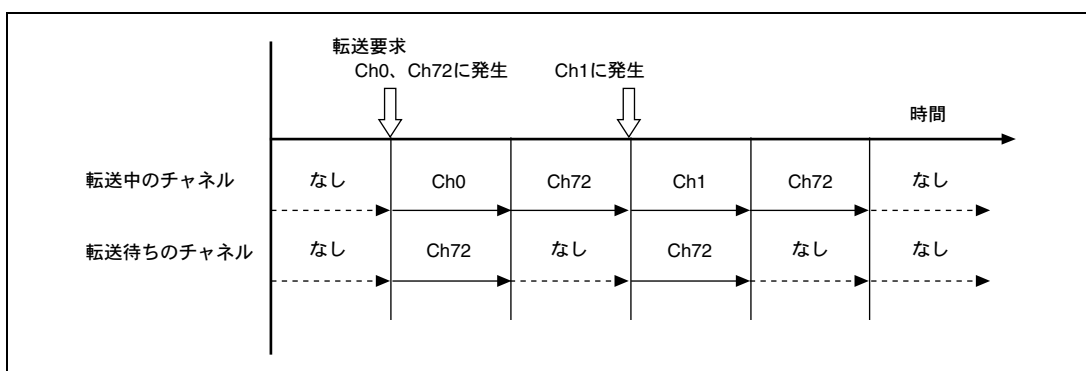


図 12.13 チャンネルの優先順位

12.3.6 転送許可/禁止の条件と割り込み要求

各チャンネルの転送許可/禁止の条件を表 12.14 に示します。

周辺モジュールからの割り込み要求信号を、A-DMAC では転送起動要因として用います。A-DMAC が割り込み要求を発生する条件は以下の 2 つです。

(1) A-DMAC による転送完了割り込み (Ch0、Ch1、Ch72 以外)

転送許可状態の場合、周辺モジュールからの割り込み要求信号は A-DMAC の転送起動要因として利用され、INTC 側に通知されません。その代わりに、その割り込み要因を用いた A-DMAC による転送が完了し、DV ビットまたは TE ビットに 1 がセットされるタイミングで、INTC に転送完了を通知します (転送完了割り込み)。TE ビットまたは DV ビットをクリアすることで、転送完了割り込みはクリアされます。

転送完了割り込みは、IE を 0 に設定することでマスクすることができます。

(2) 周辺モジュールによる転送要求割り込みのスルー (Ch72、Ch74 以外)

周辺モジュールからの割り込み要求信号は、表 12.14 に示す転送禁止 (マスク) 状態では A-DMAC でマスクされ、一方、転送禁止 (スルー) の状態では INTC にそのまま通知されます。スルーされた転送要求割り込みは IE を 0 に設定してもマスクできません。

【注意事項】

- A-DMACとINTCの接続関係およびA-DMACやDMACによる転送要因のマスクの概要は、「第8章 割り込みコントローラ (INTC)」を参照してください。
- 各チャンネルの割り込み要求は、INTCでは異なる割り込み要因として扱われます。また、周辺モジュールからの同じ割り込み要求に対する、A-DMACによる転送完了割り込みと転送要求割り込み（スルー）はINTC側では同じ割り込みベクタに割り当てられます。
- タイマCのGRCx0に対応するチャンネル（Ch8、Ch12、Ch16、Ch20、Ch24）からの転送要求割り込みはDMAC経由でINTCに通知され、その他のチャンネルはINTCに直接通知されます。
- 転送禁止（マスク）状態では、DMA転送要求はA-DMACによりマスクされます。つまり、転送は行われず、かつ転送要求割り込みもINTCに通知しません。
- 転送完了割り込みがクリアされない状態で転送中断状態（「12.3.3 転送の中断と再開」を参照）となる事象が発生した場合、割り込み要求は保持されます。

表 12.14 (1) ATU-III (タイマ G) 用チャンネル、ADC 用チャンネルの転送許可／禁止の条件

NMI	DME	TCR	転送要求
1	x	x	転送禁止（マスク）
0	0	x	転送禁止（スルー）
	1	TCR=0	転送禁止（スルー）
		TCR!=0	転送許可

【記号説明】 x : Don't care

表 12.14 (2) ATU-III (タイマ A、C、F) 用チャンネルの転送許可／禁止の条件

NMI	DME	DE	DV	転送要求
1	x	x	x	転送禁止（マスク）
0	0	x	x	転送禁止（スルー）
	1	0	x	転送禁止（スルー）
		1	x	転送許可

【記号説明】 x : Don't care

表 12.14 (3) RSPI/SCI 用チャネルの転送許可/禁止の条件

NMI	DME	TCR	TE	転送要求
1	x	x	x	転送禁止 (マスク)
0	0	x	x	転送禁止 (スルー)
			0	転送禁止 (スルー)
	1	TCR=0	0	転送禁止 (マスク)
			1	転送許可
1	TCR!=0	0	転送許可	
		1	転送禁止 (マスク)	

【記号説明】 x : Don't care

表 12.14 (4) RCAN 用受信チャネルの転送許可/禁止の条件

NMI	DME	DE	転送要求
1	x	x	転送禁止
0	0	x	転送禁止
		0	転送禁止
	1	0	転送許可

【記号説明】 x : Don't care

表 12.14 (5) RCAN 用送信チャネルの転送許可/禁止の条件

NMI	DME	DE	TE	転送要求
1	x	x	x	転送禁止
0	0	x	x	転送禁止
			0	転送禁止
	1	0	x	転送禁止
			0	転送許可
1	1	0	転送禁止	

【記号説明】 x : Don't care

12.4 使用上の注意

ADMADV、ADMATE、および ADMARVPR では、CPU がフラグをリードした際に、CPU は 0 をリードしたにもかかわらず、フラグは 1 にセットされ内部的に 1 をリードされた状態になる場合があります。

このとき、当該ビットに 0 (ADMADV、ADMATE の場合) もしくは 1 (ADMARVPR の場合) を書き込むと、CPU が 1 をリードしていなくてもフラグがクリアされてしまいます。

これを防ぐため、各レジスタの【注】に記載されているクリア条件を守ってください。

これらレジスタのフラグビットは他のモジュールのフラグと仕様が異なるため、CPU のライトによるフラグクリアの操作に注意してください。

13. アドバンストタイマユニット-III (ATU-III)

ATU-IIIは、タイマA~Jの9種類のタイマブロックと、プリスケアラ、および共通制御部から構成されています。各タイマブロックは、それぞれが異なる機能を備えており、互いに独立して動作することができます。また、クロックバスを介して複数のタイマを連動して動作させることもできます。タイマブロックは、同一の機能を持った1個以上のタイマサブブロックによって構成され、各サブブロックはさらに1個以上のチャンネルを備えています。

13.1 特長

- 最大106本のパルス入出力処理が可能です。
- 153本の割り込み要因を生成可能です。これによって、ダイレクトメモリアクセスコントローラ (DMAC) および専用ダイレクトメモリアクセスコントローラ (A-DMAC) の起動、あるいはCPUによる割り込み処理の起動が可能です。
- A/D専用22本のパルス出力 (タイマD: 16本、タイマG: 6本) を備えています。
- 4チャンネルのプリスケアラを内蔵しており、内部周辺クロック (Pφ) を1/1~1/1024に分周した4種類のクロックを生成可能です。
- タイマの各チャンネルは、カウントソースとして、プリスケアラの生成する4つの分周クロック、2本の外部クロック、タイマBの生成するアングルクロックを選択可能です。

(1) タイマA

タイマAは、32ビットフリーランカウンタと、6本の32ビットインプットキャプチャレジスタを備え、次の動作が可能です。

- 立ち上がりエッジ、立ち下がりエッジ、および両エッジの検出が可能。
- キャプチャタイミングでA-DMACを起動可能。
- 各外部入力端子に最大1.64msecのノイズキャンセル機能あり。
- キャプチャ割り込み、カウンタオーバフロー割り込み発生可能。

(2) タイマ B

タイマ B は、エッジ間計測ブロック、倍周クロック生成ブロック、倍周クロック補正ブロックの3つのブロックを持ちます。

1. エッジ間計測ブロックは、32ビット入力エッジ間計測タイマ、アウトプットコンペア、インプットキャプチャレジスタ (3本)、8ビットイベントカウンタ、アウトプットコンペアレジスタを備え、次の動作が可能です。
 - 外部入力イベントのエッジ入力キャプチャ可能 (エッジは立ち上がり / 立ち下がり / 両エッジを選択可能)
 - 外部入力イベントのイベントコンペアマッチでキャプチャ可能。
 - キャプチャ割り込み、コンペアマッチ割り込み (エッジ間計測コンペアマッチ、イベントコンペアマッチ) 発生可能。
2. 倍周クロック生成ブロックは、24ビットのリロードカウンタ、リロードレジスタ、20ビット倍周クロックカウンタ、アウトプットコンペアレジスタを備え、次の動作が可能です。
 - エッジ間計測ブロックでキャプチャされた値を任意値 (1~4095倍) でリロードカウント可能。
 - リロードカウンタのアンダフローで生成した内部クロックを20ビット倍周クロックカウンタの入力として使用可能。
 - コンペアマッチ割り込み発生可能。
3. 倍周クロック補正ブロックでは、20ビットの補正イベントカウンタ、20ビットの補正倍周クロックカウンタ、倍周補正クロック生成カウンタに、補正カウンタクリアレジスタを備え、次の動作が可能です。
 - 倍周クロック生成ブロックのリロードカウントをもとに、他のタイマのカウントソースとなる倍周補正クロックを出力可能。
 - 倍周補正クロック生成カウンタと補正カウンタクリアレジスタのコンペアマッチで、タイマDのフリーランカウンタのクリアが可能。

(3) タイマ C

タイマ C は、同一の機能を持つ5個のサブブロックによって構成され、各サブブロックはさらに4つのチャンネルによって構成されます。各サブブロックは24ビットのフリーランニングカウンタ1本と4本の24ビット汎用レジスタを備え、次の動作が可能です。

- インプットキャプチャ、アウトプットコンペアの選択が可能。
- インプットキャプチャの検出エッジを、立ち上がり、立ち下がり、または両エッジから選択可能。
- 各インプットキャプチャトリガ入力に最大1.64msecのノイズキャンセル機能あり。
- コンペアマッチによって、1出力、0出力、またはトグル出力の波形出力が可能。
- PWMモードで、各サブブロック3本のPWM波形出力が可能。
- インプットキャプチャ / コンペアマッチ割り込み、およびオーバーフロー割り込みの発生が可能です。20本のインプットキャプチャ / コンペアマッチ割り込みはA-DMACの起動、5本はDMACの起動が可能です。

(4) タイマ D

タイマ D は、同一の機能を持つ 4 個のサブブロックによって構成され、各サブブロックはさらに 4 つのチャンネルによって構成されます。各サブブロックは、24 ビットフリーランカウンタを 2 本、オフセットベースレジスタ、および 4 本のチャンネルからなり、各チャンネルには、4 本の 24 ビットアウトプットコンペアレジスタ、4 本のジェネラルレジスタ、4 本の 24 ビットワンショットパルス出力用ダウンカウンタを備えています。タイマ D は次の動作が可能です。

- ソフトウェアによるダウンカウンタのカウント開始が可能であり、ワンショットパルスの生成が可能。
- コンペアマッチレジスタ、ジェネラルレジスタのコンペアマッチをダウンカウンタのスタートトリガとすることができ、オフセット付きワンショットパルス生成が可能。
- ジェネラルレジスタでのコンペアマッチによりダウンカウントを停止させることができ、ワンショットパルス出力波形の強制遮断が可能。
- コンペアマッチレジスタ、ジェネラルレジスタによるコンペアマッチ出力が可能。
- コンペアマッチレジスタのコンペアマッチをトリガとし、ジェネラルレジスタでカウント値をキャプチャすることが可能。
- タイマ A からのトリガによりフリーランカウンタ値のキャプチャが可能。
- タイマ B からのカウンタクリア機能を搭載。
- コンペアマッチ割り込み 16 本、カウンタオーバフロー割り込み 8 本、アンダフロー割り込み 16 本が発生可能。アンダフロー割り込みの 16 本は DMAC の起動に対応。
- A/D 起動用にコンペアマッチ A、コンペアマッチ B 割り込みを示すパルス出力が可能 (A : 8 本、B : 8 本)。
- 出力波形の反転切り替えが可能。

(5) タイマ E

タイマ E は、同一の機能を持つ 6 個のサブブロックによって構成され、各サブブロックはさらに 4 つのチャンネルによって構成されます。各チャンネルは、16 ビットフリーランカウンタ、デューティレジスタ、サイクルレジスタ、デューティリロードレジスタ、および、サイクルリロードレジスタを備え、次の動作が可能です。

- 周期とデューティ 0、100% を任意に設定した PWM 出力が可能です。
- オンデューティとオフデューティを切り替え可能です。
- デューティリロードレジスタ/サイクルリロードレジスタの値を周期ごとに、デューティレジスタ/サイクルレジスタに転送することができます。
- カウンタの H'0000 書き込みによって PWM サイクルを強制的に終了し、新たな PWM サイクルを開始できます。
- 周期ごとに割り込み要求 (24 本) を出力可能です (うち 6 本は DMAC 起動対応)。

(6) タイマ F

タイマ F は、20 個のサブブロックによって構成されます。各サブブロックは、2 本の 24 ビットカウンタと、1 本の 16 ビットカウンタ、3 本（サブブロック 12~15 のみ、その他は 2 本）の 24 ビット汎用レジスタ、1 本の 16 ビット汎用レジスタを備え、次の動作が可能です。

- 外部入力端子に最大1.64msecのノイズキャンセル機能あり。
- 7つの動作モードをもち、一定時間内入力エッジカウント、有効エッジ入力間隔、入力ハイ/ローレベル期間の計測、PWM入力波形計測、回転速度/パルス計測、およびアップ/ダウンカウント、4逓倍イベントカウントが可能。
- インプットキャプチャ割り込みによってA-DMACを起動可能。
- オーバフロー割り込み発生可能。

(7) タイマ G

タイマ G は、同一の機能を持つ 6 個のサブブロックによって構成されます。各サブブロックは、16 ビットフリーランカウンタ、アウトプットコンペアレジスタを備え、次の動作が可能です。

- コンペアマッチをトリガにイベント出力可能であり、AD起動/割り込みトリガとして使用可能。
- コンペアマッチ割り込みによってDMACを起動可能。

(8) タイマ H

タイマ H は、1 組の 16 ビットカウンタと 16 ビットコンペアマッチレジスタ、および 1 本の 32 ビットカウンタからなるタイマです。次の動作が可能です。

- 16ビットカウンタと16ビットコンペアマッチレジスタにより、内部周辺クロック（Pφ）の1~2²⁶倍の時間計測が可能。またコンペアマッチ割り込みとして出力可能。
- コンペアマッチ発生回数をカウントする32ビットカウンタ搭載。

(9) タイマ J

タイマ J は、同一の機能を持つ 2 個のサブブロックによって構成されます。各サブブロックは、16 ビットカウンタ、アウトプットコンペアレジスタ、9 段の FIFO レジスタを備え、次の動作が可能です。

- 立ち上がりエッジ、立ち下がりエッジ、および両エッジの検出が可能。
- 各外部入力端子に最大1.64msecのノイズキャンセル機能あり。
- 外部入力端子のエッジ検出時に、FIFOレジスタにカウンタ値（エッジ入力間隔）をキャプチャ可能。
- FIFOフルとなったタイミングでDMACを起動可能。
- コンペアマッチレジスタを用いてFIFOのキャプチャ有効期間を制御可能。
- FIFOフル割り込み、カウンタオーバフロー、FIFOオーバフロー割り込み発生可能。

13.2 各レジスタのアドレス空間

ATU-III の各レジスタのアドレス配置について以下に示します。レジスタのアクセスについては、次の点に注意してください。

- リザーブビットへの書き込み動作では、必ず0を書き込んでください。
- 16ビットを超えるカウンタ、インプットキャプチャ、アウトプットコンペア、汎用レジスタへのアクセスは、書き込み、読み出しともに32ビットアクセスのみ可能です。16ビットおよび8ビットアクセスはできません。

表 13.1 共通制御部関連レジスタ

番 地	31	+0 番地	24	23	+1 番地	16	15	+2 番地	8	7	+3 番地	0
H'FFFF F000	ATUENR						CBCNT			NCMR		
H'FFFF F004	(使用禁止領域)											
:												
H'FFFF F0FC												

表 13.2 プリスケーラ関連レジスタ

番 地	31	+0 番地	24	23	+1 番地	16	15	+2 番地	8	7	+3 番地	0
H'FFFF F100	PSCR0						PSCR1					
H'FFFF F104	PSCR2						PSCR3					
H'FFFF F108	(使用禁止領域)											
:												
H'FFFF F1FC												

表 13.3 タイマ A 関連レジスタ

番 地	31	+0 番地	24	23	+1 番地	16	15	+2 番地	8	7	+3 番地	0
H'FFFF F200	(使用禁止領域)						TCRA		(使用禁止領域)			
H'FFFF F204	TIOR1A						TIOR2A					
H'FFFF F208	TSRA			TIERA			(使用禁止領域)					
H'FFFF F20C	(使用禁止領域)											
H'FFFF F210	NCNTA0			NCRA0			NCNTA1			NCRA1		
H'FFFF F214	NCNTA2			NCRA2			NCNTA3			NCRA3		
H'FFFF F218	NCNTA4			NCRA4			NCNTA5			NCRA5		
H'FFFF F21C	(使用禁止領域)											
H'FFFF F220	TCNTA											
H'FFFF F224	(使用禁止領域)											
H'FFFF F228	ICRA0											
H'FFFF F22C	ICRA1											
H'FFFF F230	ICRA2											
H'FFFF F234	ICRA3											
H'FFFF F238	ICRA4											
H'FFFF F23C	ICRA5											
H'FFFF F240 : H'FFFF F2FC	(使用禁止領域)											

表 13.4 タイマ B 関連レジスタ

番 地	31	+0 番地	24	23	+1 番地	16	15	+2 番地	8	7	+3 番地	0
H'FFFF F300	(使用禁止領域)											
H'FFFF F304	TCRB			TIORB			TSRB			TIERB		
H'FFFF F308 : H'FFFF F30C	(使用禁止領域)											
H'FFFF F310	TCNTB0											
H'FFFF F314	ICRB0											
H'FFFF F318	OCRB0											
H'FFFF F31C	TCNTB1			OCRB1			(使用禁止領域)					
H'FFFF F320	ICRB1											
H'FFFF F324	ICRB2											
H'FFFF F328 : H'FFFF F32C	(使用禁止領域)											
H'FFFF F330	LDB											
H'FFFF F334	RLDB											
H'FFFF F338	PIMR						(使用禁止領域)					
H'FFFF F33C	TCNTB2											
H'FFFF F340	TCNTB6											
H'FFFF F344	OCRB6											
H'FFFF F348	OCRB7											
H'FFFF F34C	(使用禁止領域)											
H'FFFF F350	TCNTB3											
H'FFFF F354	TCNTB4											
H'FFFF F358	TCNTB5											
H'FFFF F35C	TCCLRB											
H'FFFF F360 : H'FFFF F3FC	(使用禁止領域)											

表 13.5 タイマ C 関連レジスタ

番 地	31 +0 番地 24	23 +1 番地 16	15 +2 番地 8	7 +3 番地 0
H'FFFF F400	TSTRC	(使用禁止領域)	NCCRC0	NCCRC1
H'FFFF F404	NCCRC2	NCCRC3	NCCRC4	(使用禁止領域)
H'FFFF F408	(使用禁止領域)			
H'FFFF F40C				
H'FFFF F410	NCNTC00	NCNTC01	NCNTC02	NCNTC03
H'FFFF F414	NCRC00	NCRC01	NCRC02	NCRC03
H'FFFF F418	NCNTC10	NCNTC11	NCNTC12	NCNTC13
H'FFFF F41C	NCRC10	NCRC11	NCRC12	NCRC13
H'FFFF F420	NCNTC20	NCNTC21	NCNTC22	NCNTC23
H'FFFF F424	NCRC20	NCRC21	NCRC22	NCRC23
H'FFFF F428	NCNTC30	NCNTC31	NCNTC32	NCNTC33
H'FFFF F42C	NCRC30	NCRC31	NCRC32	NCRC33
H'FFFF F430	NCNTC40	NCNTC41	NCNTC42	NCNTC43
H'FFFF F434	NCRC40	NCRC41	NCRC42	NCRC43
H'FFFF F438	(使用禁止領域)			
H'FFFF F43C				
H'FFFF F440	TCRC0	TIERC0	TIORC0	
H'FFFF F444	TSRC0	(使用禁止領域)		
H'FFFF F448	GRC00			
H'FFFF F44C	GRC01			
H'FFFF F450	GRC02			
H'FFFF F454	GRC03			
H'FFFF F458	TCNTC0			
H'FFFF F45C	(使用禁止領域)			
H'FFFF F460	TCRC1	TIERC1	TIORC1	
H'FFFF F464	TSRC1	(使用禁止領域)		
H'FFFF F468	GRC10			
H'FFFF F46C	GRC11			
H'FFFF F470	GRC12			
H'FFFF F474	GRC13			
H'FFFF F478	TCNTC1			
H'FFFF F47C	(使用禁止領域)			
H'FFFF F480	TCRC2	TIERC2	TIORC2	
H'FFFF F484	TSRC2	(使用禁止領域)		
H'FFFF F488	GRC20			
H'FFFF F48C	GRC21			

番 地	31	+0 番地	24	23	+1 番地	16	15	+2 番地	8	7	+3 番地	0
H'FFFF F490	GRC22											
H'FFFF F494	GRC23											
H'FFFF F498	TCNTC2											
H'FFFF F49C	(使用禁止領域)											
H'FFFF F4A0	TCRC3			TIERC3			TIORC3					
H'FFFF F4A4	TSRC3			(使用禁止領域)								
H'FFFF F4A8	GRC30											
H'FFFF F4AC	GRC31											
H'FFFF F4B0	GRC32											
H'FFFF F4B4	GRC33											
H'FFFF F4B8	TCNTC3											
H'FFFF F4BC	(使用禁止領域)											
H'FFFF F4C0	TCRC4			TIERC4			TIORC4					
H'FFFF F4C4	TSRC4			(使用禁止領域)								
H'FFFF F4C8	GRC40											
H'FFFF F4CC	GRC41											
H'FFFF F4D0	GRC42											
H'FFFF F4D4	GRC43											
H'FFFF F4D8	TCNTC4											
H'FFFF F4DC	(使用禁止領域)											
H'FFFF F4E0 : H'FFFF F4FC	(使用禁止領域)											

表 13.6 タイマ D 関連レジスタ

番 地	31	+0 番地	24	23	+1 番地	16	15	+2 番地	8	7	+3 番地	0
H'FFFF F500	TSTRD		(使用禁止領域)									
H'FFFF F504 : H'FFFF F51F	(使用禁止領域)											
H'FFFF F520	TCNT1D0											
H'FFFF F524	TCNT2D0											
H'FFFF F528	OSBRD0											
H'FFFF F52C	TCRD0				TOCRD0				CMPOD0			
H'FFFF F530	TCNT1D1											
H'FFFF F534	TCNT2D1											
H'FFFF F538	OSBRD1											
H'FFFF F53C	TCRD1				TOCRD1				CMPOD1			
H'FFFF F540	TCNT1D2											
H'FFFF F544	TCNT2D2											
H'FFFF F548	OSBRD2											
H'FFFF F54C	TCRD2				TOCRD2				(使用禁止領域)			
H'FFFF F550	TCNT1D3											
H'FFFF F554	TCNT2D3											
H'FFFF F558	OSBRD3											
H'FFFF F55C	TCRD3				TOCRD3				(使用禁止領域)			
H'FFFF F560 : H'FFFF F57C	(使用禁止領域)											
H'FFFF F580	TIOR1D0						TIOR2D0					
H'FFFF F584	(使用禁止領域)			DSTRD0			(使用禁止領域)			DSRD0		
H'FFFF F588	DCRD0						(使用禁止領域)					
H'FFFF F58C	TSRD0						TIERD0					
H'FFFF F590	OCD00											
H'FFFF F594	OCD01											
H'FFFF F598	OCD02											
H'FFFF F59C	OCD03											
H'FFFF F5A0	GRD00											
H'FFFF F5A4	GRD01											
H'FFFF F5A8	GRD02											
H'FFFF F5AC	GRD03											

番 地	31	+0 番地	24	23	+1 番地	16	15	+2 番地	8	7	+3 番地	0
H'FFFF F5B0	DCNTD00											
H'FFFF F5B4	DCNTD01											
H'FFFF F5B8	DCNTD02											
H'FFFF F5BC	DCNTD03											
H'FFFF F5C0	TIOR1D1						TIOR2D1					
H'FFFF F5C4	(使用禁止領域)			DSTRD1			(使用禁止領域)			DSRD1		
H'FFFF F5C8	DCRD1						(使用禁止領域)					
H'FFFF F5CC	TSRD1						TIERD1					
H'FFFF F5D0	OCD10											
H'FFFF F5D4	OCD11											
H'FFFF F5D8	OCD12											
H'FFFF F5DC	OCD13											
H'FFFF F5E0	GRD10											
H'FFFF F5E4	GRD11											
H'FFFF F5E8	GRD12											
H'FFFF F5EC	GRD13											
H'FFFF F5F0	DCNTD10											
H'FFFF F5F4	DCNTD11											
H'FFFF F5F8	DCNTD12											
H'FFFF F5FC	DCNTD13											
H'FFFF F600	TIOR1D2						TIOR2D2					
H'FFFF F604	(使用禁止領域)			DSTRD2			(使用禁止領域)			DSRD2		
H'FFFF F608	DCRD2						(使用禁止領域)					
H'FFFF F60C	TSRD2						TIERD2					
H'FFFF F610	OCD20											
H'FFFF F614	OCD21											
H'FFFF F618	OCD22											
H'FFFF F61C	OCD23											
H'FFFF F620	GRD20											
H'FFFF F624	GRD21											
H'FFFF F628	GRD22											
H'FFFF F62C	GRD23											
H'FFFF F630	DCNTD20											
H'FFFF F634	DCNTD21											
H'FFFF F638	DCNTD22											
H'FFFF F63C	DCNTD23											

番 地	31	+0 番地	24	23	+1 番地	16	15	+2 番地	8	7	+3 番地	0
H'FFFF F640	TIOR1D3						TIOR2D3					
H'FFFF F644	(使用禁止領域)			DSTRD3			(使用禁止領域)			DSRD3		
H'FFFF F648	DCRD3						(使用禁止領域)					
H'FFFF F64C	TSRD3						TIERD3					
H'FFFF F650	OCRD30											
H'FFFF F654	OCRD31											
H'FFFF F658	OCRD32											
H'FFFF F65C	OCRD33											
H'FFFF F660	GRD30											
H'FFFF F664	GRD31											
H'FFFF F668	GRD32											
H'FFFF F66C	GRD33											
H'FFFF F670	DCNTD30											
H'FFFF F674	DCNTD31											
H'FFFF F678	DCNTD32											
H'FFFF F67C	DCNTD33											
H'FFFF F680 : H'FFFF F6FF	(使用禁止領域)											

表 13.7 タイマ E 関連レジスタ

番 地	31	+0 番地	24	23	+1 番地	16	15	+2 番地	8	7	+3 番地	0
H'FFFF F700	TSTRE		(使用禁止領域)									
H'FFFF F704 : H'FFFF F7FC	(使用禁止領域)											
H'FFFF F800	TCRE0		TOCRE0			TIERE0			RLDCRE0			
H'FFFF F804	TSRE0		(使用禁止領域)									
H'FFFF F808	PSCRE0		(使用禁止領域)									
H'FFFF F80C	SSTRE0		(使用禁止領域)									
H'FFFF F810	CYLRE00					CYLRE01						
H'FFFF F814	CYLRE02					CYLRE03						
H'FFFF F818	DTRE00					DTRE01						
H'FFFF F81C	DTRE02					DTRE03						
H'FFFF F820	CRLDE00					CRLDE01						
H'FFFF F824	CRLDE02					CRLDE03						
H'FFFF F828	DRLDE00					DRLDE01						
H'FFFF F82C	DRLDE02					DRLDE03						
H'FFFF F830	TCNTE00					TCNTE01						
H'FFFF F834	TCNTE02					TCNTE03						
H'FFFF F838 H'FFFF F83C	(使用禁止領域)											
H'FFFF F840	TCRE1		TOCRE1			TIERE1			RLDCRE1			
H'FFFF F844	TSRE1		(使用禁止領域)									
H'FFFF F848	PSCRE1		(使用禁止領域)									
H'FFFF F84C	SSTRE1		(使用禁止領域)									
H'FFFF F850	CYLRE10					CYLRE11						
H'FFFF F854	CYLRE12					CYLRE13						
H'FFFF F858	DTRE10					DTRE11						
H'FFFF F85C	DTRE12					DTRE13						
H'FFFF F860	CRLDE10					CRLDE11						
H'FFFF F864	CRLDE12					CRLDE13						
H'FFFF F868	DRLDE10					DRLDE11						
H'FFFF F86C	DRLDE12					DRLDE13						
H'FFFF F870	TCNTE10					TCNTE11						
H'FFFF F874	TCNTE12					TCNTE13						
H'FFFF F878 H'FFFF F87C	(使用禁止領域)											

番 地	31	+0 番地	24	23	+1 番地	16	15	+2 番地	8	7	+3 番地	0
H'FFFF F880		TCRE2			TOCRE2			TIERE2				RLDCRE2
H'FFFF F884		TSRE2		(使用禁止領域)								
H'FFFF F888		PSCRE2		(使用禁止領域)								
H'FFFF F88C		SSTRE2		(使用禁止領域)								
H'FFFF F890			CYLRE20								CYLRE21	
H'FFFF F894			CYLRE22								CYLRE23	
H'FFFF F898			DTRE20								DTRE21	
H'FFFF F89C			DTRE22								DTRE23	
H'FFFF F8A0			CRLDE20								CRLDE21	
H'FFFF F8A4			CRLDE22								CRLDE23	
H'FFFF F8A8			DRLDE20								DRLDE21	
H'FFFF F8AC			DRLDE22								DRLDE23	
H'FFFF F8B0			TCNTE20								TCNTE21	
H'FFFF F8B4			TCNTE22								TCNTE23	
H'FFFF F8B8	(使用禁止領域)											
H'FFFF F8BC	(使用禁止領域)											
H'FFFF F8C0		TCRE3			TOCRE3			TIERE3				RLDCRE3
H'FFFF F8C4		TSRE3		(使用禁止領域)								
H'FFFF F8C8		PSCRE3		(使用禁止領域)								
H'FFFF F8CC		SSTRE3		(使用禁止領域)								
H'FFFF F8D0			CYLRE30								CYLRE31	
H'FFFF F8D4			CYLRE32								CYLRE33	
H'FFFF F8D8			DTRE30								DTRE31	
H'FFFF F8DC			DTRE32								DTRE33	
H'FFFF F8E0			CRLDE30								CRLDE31	
H'FFFF F8E4			CRLDE32								CRLDE33	
H'FFFF F8E8			DRLDE30								DRLDE31	
H'FFFF F8EC			DRLDE32								DRLDE33	
H'FFFF F8F0			TCNTE30								TCNTE31	
H'FFFF F8F4			TCNTE32								TCNTE33	
H'FFFF F8F8	(使用禁止領域)											
H'FFFF F8FC	(使用禁止領域)											

番 地	31	+0 番地	24	23	+1 番地	16	15	+2 番地	8	7	+3 番地	0
H'FFFF F900		TCRE4		TOCRE4			TIERE4			RLDCRE4		
H'FFFF F904		TSRE4		(使用禁止領域)								
H'FFFF F908		PSCRE4		(使用禁止領域)								
H'FFFF F90C		SSTRE4		(使用禁止領域)								
H'FFFF F910			CYLRE40							CYLRE41		
H'FFFF F914			CYLRE42							CYLRE43		
H'FFFF F918			DTRE40							DTRE41		
H'FFFF F91C			DTRE42							DTRE43		
H'FFFF F920			CRLDE40							CRLDE41		
H'FFFF F924			CRLDE42							CRLDE43		
H'FFFF F928			DRLDE40							DRLDE41		
H'FFFF F92C			DRLDE42							DRLDE43		
H'FFFF F930			TCNTE40							TCNTE41		
H'FFFF F934			TCNTE42							TCNTE43		
H'FFFF F938		(使用禁止領域)										
H'FFFF F93C		(使用禁止領域)										
H'FFFF F940		TCRE5		TOCRE5			TIERE5			RLDCRE5		
H'FFFF F944		TSRE5		(使用禁止領域)								
H'FFFF F948		PSCRE5		(使用禁止領域)								
H'FFFF F94C		SSTRE5		(使用禁止領域)								
H'FFFF F950			CYLRE50							CYLRE51		
H'FFFF F954			CYLRE52							CYLRE53		
H'FFFF F958			DTRE50							DTRE51		
H'FFFF F95C			DTRE52							DTRE53		
H'FFFF F960			CRLDE50							CRLDE51		
H'FFFF F964			CRLDE52							CRLDE53		
H'FFFF F968			DRLDE50							DRLDE51		
H'FFFF F96C			DRLDE52							DRLDE53		
H'FFFF F970			TCNTE50							TCNTE51		
H'FFFF F974			TCNTE52							TCNTE53		
H'FFFF F978		(使用禁止領域)										
:		(使用禁止領域)										
H'FFFF F9FC		(使用禁止領域)										

表 13.8 タイマ F 関連レジスタ

番 地	31	+0 番地	24	23	+1 番地	16	15	+2 番地	8	7	+3 番地	0
H'FFFF FA00	TSTRF											
H'FFFF FA04	NCCRF											
H'FFFF FA08	(使用禁止領域)											
H'FFFF FA0C												
H'FFFF FA10	NCNTFA0			NCRFA0			NCNTFA1			NCRFA1		
H'FFFF FA14	NCNTFA2			NCRFA2			NCNTFA3			NCRFA3		
H'FFFF FA18	NCNTFA4			NCRFA4			NCNTFA5			NCRFA5		
H'FFFF FA1C	NCNTFA6			NCRFA6			NCNTFA7			NCRFA7		
H'FFFF FA20	NCNTFA8			NCRFA8			NCNTFA9			NCRFA9		
H'FFFF FA24	NCNTFA10			NCRFA10			NCNTFA11			NCRFA11		
H'FFFF FA28	NCNTFA12			NCRFA12			NCNTFA13			NCRFA13		
H'FFFF FA2C	NCNTFA14			NCRFA14			NCNTFA15			NCRFA15		
H'FFFF FA30	NCNTFA16			NCRFA16			NCNTFA17			NCRFA17		
H'FFFF FA34	NCNTFA18			NCRFA18			NCNTFA19			NCRFA19		
H'FFFF FA38 : H'FFFF FA4C	(使用禁止領域)											
H'FFFF FA50	NCNTFB0			NCRFB0			NCNTFB1			NCRFB1		
H'FFFF FA54	NCNTFB2			NCRFB2			(使用禁止領域)					
H'FFFF FA58 : H'FFFF FA7C	(使用禁止領域)											
H'FFFF FA80	TCRF0			TIERF0			(使用禁止領域)			TSRF0		
H'FFFF FA84	ECNTAF0											
H'FFFF FA88	ECNTBF0						GRBF0					
H'FFFF FA8C	ECNTCF0											
H'FFFF FA90	GRAF0											
H'FFFF FA94	CDRF0											
H'FFFF FA98	GRCF0											
H'FFFF FA9C	(使用禁止領域)											
H'FFFF FAA0 : H'FFFF FBFC	(F01~F11) 省略											

番 地	31	+0 番地	24	23	+1 番地	16	15	+2 番地	8	7	+3 番地	0
H'FFFF FC00	TCRF12			TIERF12			(使用禁止領域)			TSRF12		
H'FFFF FC04	ECNTAF12											
H'FFFF FC08	ECNTBF12						GRBF12					
H'FFFF FC0C	ECNTCF12											
H'FFFF FC10	GRAF12											
H'FFFF FC14	CDRF12											
H'FFFF FC18	GRCF12											
H'FFFF FC1C	GRDF12 (F12~F15のみ)											
H'FFFF FC20 : H'FFFF FC7C	(F13~F15) 省略											
H'FFFF FC80	TCRF16			TIERF16			(使用禁止領域)			TSRF16		
H'FFFF FC84	ECNTAF16											
H'FFFF FC88	ECNTBF16						GRBF16					
H'FFFF FC8C	ECNTCF16											
H'FFFF FC90	GRAF16											
H'FFFF FC94	CDRF16											
H'FFFF FC98	GRCF16											
H'FFFF FC9C	(使用禁止領域)											
H'FFFF FCA0 : H'FFFF FCFC	(F17~F19) 省略											
H'FFFF FD00 : H'FFFF FDFC	(使用禁止領域)											

表 13.9 タイマ G 関連レジスタ

番 地	31 +0 番地 24	23 +1 番地 16	15 +2 番地 8	7 +3 番地 0
H'FFFF FE00	(使用禁止領域)	TSTRG	(使用禁止領域)	
H'FFFF FE04 :	(使用禁止領域)			
H'FFFF FE7C	(使用禁止領域)			
H'FFFF FE80	TCRG0	TSRG0	(使用禁止領域)	
H'FFFF FE84	TCNTG0		OCRG0	
H'FFFF FE88	(使用禁止領域)			
H'FFFF FE8C	(使用禁止領域)			
H'FFFF FE90	TCRG1	TSRG1	(使用禁止領域)	
H'FFFF FE94	TCNTG1		OCRG1	
H'FFFF FE98	(使用禁止領域)			
H'FFFF FE9C	(使用禁止領域)			
H'FFFF FEA0	TCRG2	TSRG2	(使用禁止領域)	
H'FFFF FEA4	TCNTG2		OCRG2	
H'FFFF FEA8	(使用禁止領域)			
H'FFFF FEAC	(使用禁止領域)			
H'FFFF FEB0	TCRG3	TSRG3	(使用禁止領域)	
H'FFFF FEB4	TCNTG3		OCRG3	
H'FFFF FEB8	(使用禁止領域)			
H'FFFF FEBC	(使用禁止領域)			
H'FFFF FEC0	TCRG4	TSRG4	(使用禁止領域)	
H'FFFF FEC4	TCNTG4		OCRG4	
H'FFFF FEC8	(使用禁止領域)			
H'FFFF FECC	(使用禁止領域)			
H'FFFF FED0	TCRG5	TSRG5	(使用禁止領域)	
H'FFFF FED4	TCNTG5		OCRG5	
H'FFFF FED8 :	(使用禁止領域)			
H'FFFF FEFC	(使用禁止領域)			

表 13.10 タイマ H 関連レジスタ

番 地	31	+0 番地	24	23	+1 番地	16	15	+2 番地	8	7	+3 番地	0
H'FFFF FF00 : H'FFFF FF3C	(使用禁止領域)											
H'FFFF FF40	TCRH			TSRH			(使用禁止領域)					
H'FFFF FF44	TCNT1H						OCR1H					
H'FFFF FF48	TCNT2H											
H'FFFF FF4C : H'FFFF FF7C	(使用禁止領域)											

表 13.11 タイマ J 関連レジスタ

番 地	31	+0 番地	24	23	+1 番地	16	15	+2 番地	8	7	+3 番地	0
H'FFFF FF80	TSTRJ			(使用禁止領域)								
H'FFFF FF84 : H'FFFF FF8C	(使用禁止領域)											
H'FFFF FF90	TCRJ0			FCRJ0			TSRJ0			(使用禁止領域)		
H'FFFF FF94	TIERJ0			FDNRJ0			NCNTJ0			NCRJ0		
H'FFFF FF98	TCNTJ0						OCRJ0					
H'FFFF FF9C	FIFOJ0						(使用禁止領域)					
H'FFFF FFA0	TCRJ1			FCRJ1			TSRJ1			(使用禁止領域)		
H'FFFF FFA4	TIERJ1			FDNRJ1			NCNTJ1			NCRJ1		
H'FFFF FFA8	TCNTJ1						OCRJ1					
H'FFFF FFAC	FIFOJ1						(使用禁止領域)					
H'FFFF FFB0 : H'FFFF FFFC	(使用禁止領域)											

13.3 入出力端子

表 13.12 端子構成

項目	端子名	入出力	機能
共通制御部	TCLKA	入力	クロックバス 4 への外部クロック入力
	TCLKB	入力	クロックバス 5 への外部クロック入力
タイマ A	TIA00~TIA05	入力	タイマ A の各チャンネルへのインプットキャプチャトリガ
タイマ C	TIOC00~03、 TIOC10~13、 TIOC20~23、 TIOC30~33、 TIOC40~43	入出力	タイマ C (サブブロック C0~C4/チャンネル 0~3) へのインプットキャプチャトリガ、およびアウトプットコンペア出力
タイマ D	TOD00A~03A、 TOD10A~13A、 TOD20A~23A、 TOD30A~33A	出力	タイマ D (サブブロック D0~D3/チャンネル 0~3) のコンペアマッチ出力
	TOD00B~03B、 TOD10B~13B、 TOD20B~23B、 TOD30B~33B	出力	タイマ D (サブブロック D0~D3/チャンネル 0~3) のワンショットパルス出力
タイマ E	TOE00~03、 TOE10~13、 TOE20~23、 TOE30~33、 TOE40~43、 TOE50~53	出力	タイマ E (サブブロック E0~E5/チャンネル 0~3) の PWM 出力
タイマ F	TIF0A~TIF2A、 TIF3~TIF19	入力	タイマ F (サブブロック F0~F19) へのイベント入力信号 TIF0A~TIF2A : サブブロック F0~F2 入力端子 TIF3~TIF19 : サブブロック F3~F19 用入力端子
	TIF0B~TIF2B	入力	サブブロック F0~F2 へのイベント入力信号
タイマ J	TIJ0、TIJ1	入力	タイマ J の各サブブロックへのインプットキャプチャトリガ

13.4 共通制御部の概要

共通制御部は、ATU-III モジュール全体にかかわる動作を制御します。プリスケアラやタイマ A~J の各ブロックのタイマカウンタ動作許可/禁止の制御、クロックバスの制御がこれに該当します。

13.4.1 クロックバス

クロックバスは、タイマの各チャンネルのカウンタソースとなるクロック信号（カウントイネーブル信号）を分配するためのものであり、6本の信号線によって構成されています。各タイマカウンタのカウント動作は、内部周辺クロック（Pφ）に同期して行われます。クロックバス上の信号は、これらカウンタに対するカウントイネーブル信号として作用します。

各クロックバスに入力可能な信号は以下のとおりです。

表 13.13 クロックバスに入力可能な信号

クロックバス ビット番号	入力可能信号
5	タイマ B 出力（倍周補正クロック）または外部クロック入力 B（TCLKB）
4	外部クロック入力 A（TCLKA）
3	プリスケアラ 3 出力
2	プリスケアラ 2 出力
1	プリスケアラ 1 出力
0	プリスケアラ 0 出力

13.5 共通制御部のレジスタの説明

13.5.1 ATU-III マスタイネーブルレジスタ (ATUENR)

ATUENR は、16 ビットの読み出し／書き込み可能なレジスタです。本レジスタは、ATU-III モジュールに含まれる各タイマのカウント動作を制御します。対応するイネーブルビットがセットされている場合に各タイマは所定の動作を行います。対応するイネーブルビットがクリアされている場合、これらのタイマはカウント動作を行いません。ただし、イネーブルビットがクリアされている場合にも、対応するタイマの各レジスタをアクセスすることはできます。

本レジスタの複数のビットを同時にセットすることで、セットしたタイマ同士の同期をとることができます。ただし、動作中に他のサブブロックの動作を止めることなく、特定のサブブロックの同期をとり直すことはできません。

ATUENR は、バイトおよびワード単位で読み出し／書き込みが可能です。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	TJE	THE	TGE	TFE	TEE	TDE	TCE	TBE	TAE	PSCE
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R	R	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~10	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
9	TJE	0	R/W	タイマ J イネーブル タイマ J のカウンタを動作させるか、停止させるかを設定します。 停止時はカウンタ値をそのまま保持し、再度 TJE ビットを 1 にセットした場合には、その値から動作を再開します。ただし、タイマ J スタートレジスタの対応ビットがセットされていない場合、TJE ビットがセットされても、そのサブブロックのカウンタは動作しません。 0 : タイマ J のカウント動作を停止 1 : タイマ J のカウント動作を許可
8	THE	0	R/W	タイマ H イネーブル タイマ H のカウンタを動作させるか、停止させるかを設定します。 停止時はカウンタ値をそのまま保持し、再度 THE ビットを 1 にセットした場合には、その値から動作を再開します。 0 : タイマ H のカウント動作を停止 1 : タイマ H のカウント動作を許可

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
7	TGE	0	R/W	<p>タイマ G イネーブル</p> <p>タイマ G のカウンタを動作させるか、停止させるかを設定します。</p> <p>停止時はカウンタ値をそのまま保持し、再度 TGE ビットを 1 にセットした場合には、その値から動作を再開します。ただし、タイマ G スタートレジスタの対応ビットがセットされていない場合、TGE ビットがセットされても、そのサブブロックのカウンタは動作しません。</p> <p>0 : タイマ G のカウント動作を停止 1 : タイマ G のカウント動作を許可</p>
6	TFE	0	R/W	<p>タイマ F イネーブル</p> <p>タイマ F のカウンタを動作させるか、停止させるかを設定します。</p> <p>停止時はカウンタ値をそのまま保持し、再度 TFE ビットを 1 にセットした場合には、その値から動作を再開します。ただし、タイマ F スタートレジスタの対応ビットがセットされていない場合、TFE ビットがセットされても、そのサブブロックのカウンタは動作しません。</p> <p>0 : タイマ F のカウント動作を停止 1 : タイマ F のカウント動作を許可</p>
5	TEE	0	R/W	<p>タイマ E イネーブル</p> <p>タイマ E のカウンタを動作させるか、停止させるかを設定します。</p> <p>停止時はカウンタ値をそのまま保持し、再度 TEE ビットを 1 にセットした場合には、その値から動作を再開します。ただし、タイマ E スタートレジスタの対応ビットがセットされていない場合、TEE ビットがセットされても、そのサブブロックのカウンタは動作しません。</p> <p>0 : タイマ E のカウント動作を停止 1 : タイマ E のカウント動作を許可</p>
4	TDE	0	R/W	<p>タイマ D イネーブル</p> <p>タイマ D のカウンタを動作させるか、停止させるかを設定します。</p> <p>停止時はカウンタ値をそのまま保持し、再度 TDE ビットを 1 にセットした場合には、その値から動作を再開します。ただし、タイマ D スタートレジスタの対応ビットがセットされていない場合、TDE ビットがセットされても、そのサブブロックのカウンタは動作しません。</p> <p>0 : タイマ D のカウント動作を停止 1 : タイマ D のカウント動作を許可</p>
3	TCE	0	R/W	<p>タイマ C イネーブル</p> <p>タイマ C のカウンタを動作させるか、停止させるかを設定します。</p> <p>停止時はカウンタ値をそのまま保持し、再度 TCE ビットを 1 にセットした場合には、その値から動作を再開します。ただし、タイマ C スタートレジスタの対応ビットがセットされていない場合、TCE ビットがセットされても、そのサブブロックのカウンタは動作しません。</p> <p>0 : タイマ C のカウント動作を停止 1 : タイマ C のカウント動作を許可</p>

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
2	TBE	0	R/W	<p>タイマ B イネーブル</p> <p>タイマ B のカウンタを動作させるか、停止させるかを設定します。</p> <p>停止時はカウンタ値をそのまま保持し、再度 TBE ビットを 1 にセットした場合には、その値から動作を再開します。</p> <p>0 : タイマ B のカウント動作を停止</p> <p>1 : タイマ B のカウント動作を許可</p>
1	TAE	0	R/W	<p>タイマ A イネーブル</p> <p>タイマ A のカウンタを動作させるか、停止させるかを設定します。</p> <p>停止時はカウンタ値をそのまま保持し、再度 TAE ビットを 1 にセットした場合には、その値から動作を再開します。</p> <p>0 : タイマ A のカウント動作を停止</p> <p>1 : タイマ A のカウント動作を許可</p>
0	PSCE	0	R/W	<p>プリスケラ イネーブル</p> <p>プリスケラのカウンタを動作させるか、停止させるかを設定します。</p> <p>停止時はカウンタ値をそのまま保持し、再度 PSCE ビットを 1 にセットした場合には、その値から動作を再開します。</p> <p>0 : プリスケラのカウンタ動作を停止</p> <p>1 : プリスケラのカウンタ動作を許可</p>

13.5.2 クロックバスコントロールレジスタ (CBCNT)

CBCNT は、8 ビットの読み出し／書き込み可能なレジスタで、クロックバスに供給するクロックソースの選択と外部クロックを選択した場合のエッジを選択します。

CBCNT は、バイト単位で読み出し／書き込みが可能です。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	CB4EG[1:0]	—	—	CB5SEL	CB5EG[1:0]	
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R/W	R/W	R	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7、6	—	すべて0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。
5、4	CB4EG[1:0]	00	R/W	クロックバス 4 エッジセレクト クロックバス 4 に出力する外部クロック入力 A (TCLKA) のエッジを選択します。クロックバス 4 をカウントソースクロックとして指定したカウンタは、ここで選択したエッジでのみカウント動作を行います。 00：外部クロックのエッジ検出をしない 01：外部クロックの立ち上がりエッジ 10：外部クロックの立ち下がりエッジ 11：外部クロックの立ち上がり／立ち下がりの両エッジ
3	—	0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。
2	CB5SEL	0	R/W	クロックバス 5 ソースセレクト クロックバス 5 に出力するクロックソースを選択します。 0：外部クロック入力 B (TCLKB) 1：タイマ B 出力の倍周補正クロック
1、0	CB5EG[1:0]	00	R/W	クロックバス 5 エッジセレクト クロックバス 5 に出力する外部クロック入力 B (TCLKB) のエッジを選択します。クロックバス 5 をカウントソースクロックとして指定したカウンタは、ここで選択したエッジでのみカウント動作を行います。ただし、本ビットはクロックバス 5 ソースクロックに TCLKB を選択した場合にのみ有効です。ソースクロックにタイマ B 出力の倍周補正クロックを選択した場合、本ビットの設定は無視されます。 00：外部クロックのエッジ検出をしない 01：外部クロックの立ち上がりエッジ 10：外部クロックの立ち下がりエッジ 11：外部クロックの立ち上がり／立ち下がりの両エッジ

13.5.3 ノイズキャンセルモードレジスタ (NCMR)

NCMR は、8 ビットの読み出し／書き込み可能なレジスタで、タイマ A、C、F、J にあるノイズキャンセラの動作モードおよびカウントクロックを選択します。

後続エッジキャンセルモードは、入力信号のレベル変化を検出した後、指定期間内の入力信号のレベル変化を無視します。最初のレベル変化以降、指定期間内の信号レベルの変化をノイズとみなすモードです。

先行エッジキャンセルモードは、入力信号のレベル変化を検出した後、指定期間内に入力信号のレベルが変化した場合、最初のレベル変化と、それに続くレベル変化を無視します。信号レベルが指定期間以上一定でないものはノイズとみなすモードです。

それぞれ期間の指定は、各ブロック（タイマ A、C、F、J）のノイズキャンセルレジスタで行い、ノイズキャンセルカウンタが時間を計測します。

図 13.1 に後続エッジキャンセルモード、図 13.2 に先行エッジキャンセルモードでのノイズキャンセル動作（タイマ A の TIA00 入力の例）の概略を示します。

各タイマ（A、C、F、J）は、ノイズキャンセラ通過後の信号に対してエッジ検出を行います。図 13.1 と図 13.2 は、それぞれノイズキャンセラ通過後の信号に対して立ち上がりエッジ検出を行う場合の例を示しています。

NCMR は、バイト単位で読み出し／書き込みが可能です。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	NCC SEL	—	—	—	NCMJ	NCMF	NCMC	NCMA
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
7	NCCSEL	0	R/W	ノイズキャンセラカウントクロックセレクト ノイズキャンセラのカウントクロックを設定します。内部周辺クロック（Pφ）の 128 分周と内部周辺クロックのいずれかを選択可能です。初期設定は 128 分周です。タイマごとに異なる動作カウントクロックを設定することはできません。ただし、タイマ A のみ、クロックバス 5 もカウントソースに選択することが可能です。設定は「13.10.3 タイマ I/O コントロールレジスタ 2A (TIOR2A)」を参照してください。 0：内部周辺クロック（Pφ）の 128 分周でカウントアップ 1：内部周辺クロック（Pφ）でカウントアップ
6~4	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
3	NCMJ	0	R/W	タイマ J ノイズキャンセルモード タイマ J のノイズキャンセラの動作モードを設定します。タイマ J のチャネルごとに異なる動作モードを設定することはできません。 0：後続エッジキャンセルモード 1：先行エッジキャンセルモード

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
2	NCMF	0	R/W	タイマFノイズキャンセルモード タイマFのノイズキャンセラの動作モードを設定します。タイマFのチャンネルごとに異なる動作モードを設定することはできません。 0：後続エッジキャンセルモード 1：先行エッジキャンセルモード
1	NCMC	0	R/W	タイマCノイズキャンセルモード タイマCのノイズキャンセラの動作モードを設定します。タイマCのチャンネルごとに異なる動作モードを設定することはできません。 0：後続エッジキャンセルモード 1：先行エッジキャンセルモード
0	NCMA	0	R/W	タイマAノイズキャンセルモード タイマAのノイズキャンセラの動作モードを設定します。タイマAのチャンネルごとに異なる動作モードを設定することはできません。 0：後続エッジキャンセルモード 1：先行エッジキャンセルモード

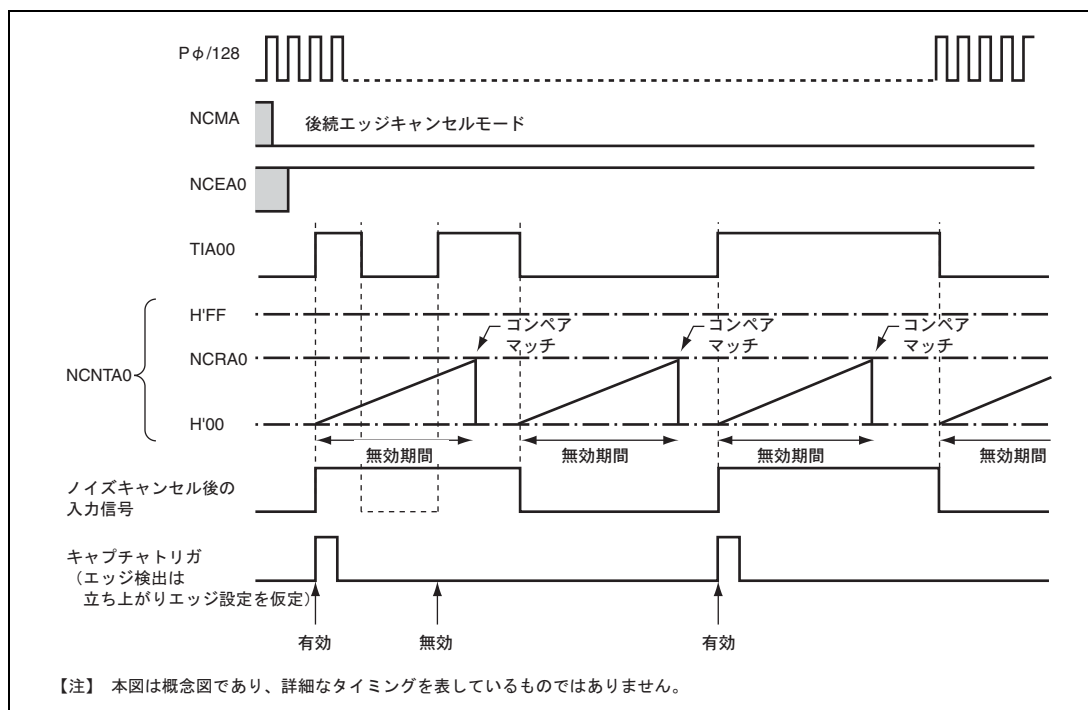


図 13.1 後続エッジキャンセルモードでのノイズキャンセル動作の概略図

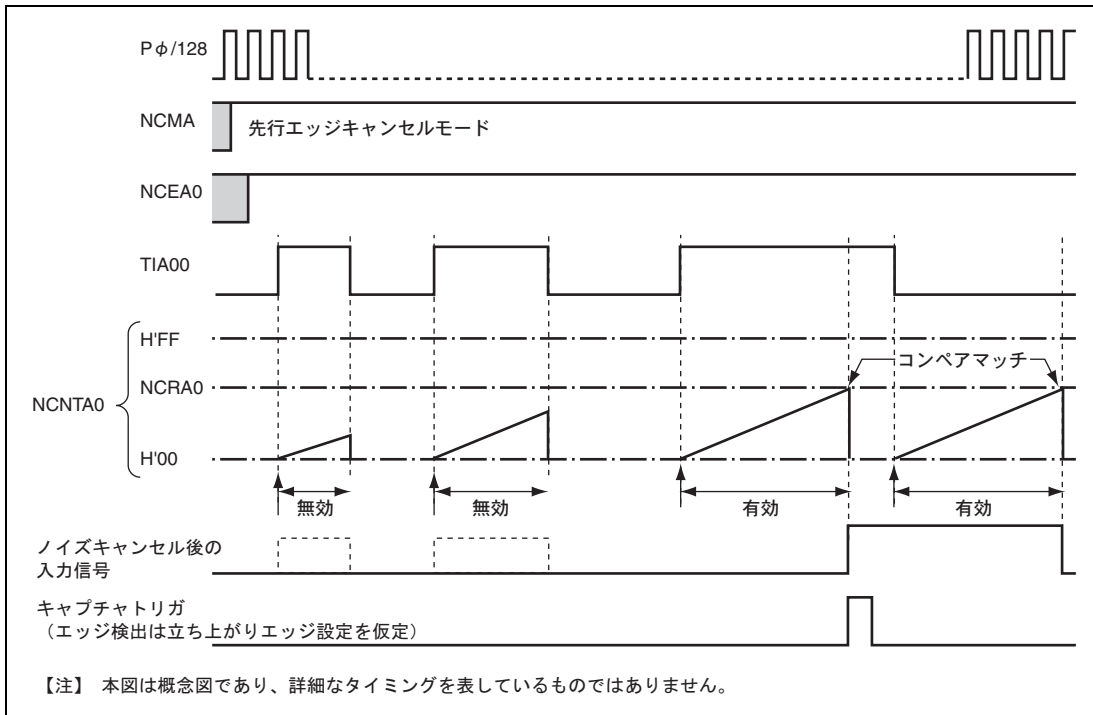


図 13.2 先行エッジキャンセルモードでのノイズキャンセル動作の概略図

13.6 プリスケーラの概要

ATU-III は、4チャンネルの汎用プリスケーラとノイズキャンセルクロック用プリスケーラ1本を内蔵しています。

汎用プリスケーラは10ビットのダウンカウンタによって構成されており、内部周辺クロック (Pφ) を 1/N (1 ≤ N ≤ 1024) に分周して新しいクロックを生成します。

プリスケーラの分周比は以下の計算式で計算されます。

- プリスケーラの分周比の計算式

$$\text{プリスケーラ分周比} = \frac{1}{\text{PSCn}[9:0]+1} \quad (\text{分周設定範囲: } 1/1 \sim 1/1024)$$

また、プリスケーラの出力するクロックは、50%のデューティを保証していません。Pφクロックの1サイクル期間のみハイレベル (H) であり、残りの期間はすべてローレベル (L) となります。分周比を 1/1 に指定した場合、クロックパスには常にハイレベルの信号が出力されます。生成されたクロックは、クロックパスを介して各タイマに供給されます。各チャンネルのプリスケーラは互いに独立に動作可能です。リセット後にかぎり、プリスケーラの各チャンネルの設定後に ATUENR の PSCE ビットを 1 にセットすることで、チャンネル間の同期をとったスタートが可能です。動作開始後にプリスケーラの分周比を切り替え、かつ各チャンネルの同期をとることはできません。

一方、ノイズキャンセルクロック用プリスケーラは7ビットのダウンカウンタによって構成されており、内部周辺クロック (Pφ) を 1/128 に分周してクロックを生成します。生成されたノイズキャンセルクロックは、タイマ A、C、F、J に供給されます。

ノイズキャンセル用クロックは、共通制御部の NCMR の NCCSEL ビットにより、内部周辺クロックの 1/1 分周、もしくは 1/128 分周から選択可能です。分周比設定用レジスタは設けておりません。

プリスケーラのダウンカウンタは、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時に H'000 に初期化されます。

13.7 プリスケーラのレジスタの説明

13.7.1 プリスケーラレジスタ 0~3 (PSCR0~3)

PSCR0~3 は、16 ビットの読み出し／書き込み可能なレジスタで、4 チャンルのプリスケーラに 1 個ずつ用意されており、プリスケーラの分周比を設定します。

プリスケーラレジスタの設定値を書き換えると、プリスケーラのアンダフローに同期して、その書き換え値による動作を開始します。設定値として、H'000 から H'3FF の範囲の値を設定することができます。

PSCR0~3 は、ワード単位でのみ読み出し／書き込みが可能です。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	PSCn[9:0]									
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R	R	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

【注】 n = 0~3

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~10	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
9~0	PSCn[9:0]	すべて 0	R/W	分周比 プリスケーラの分周比を設定します。

13.8 プリスケーラの動作説明

13.8.1 動作の開始

プリスケーラは、ATU-III マスタイネーブルレジスタ (ATUENR) の PSCE ビットが 1 にセットされると動作を開始し、PSCn ビットに指定された分周比のクロックを生成します。プリスケーラの動作中、クロックには、カウンタのアンダフローに同期して、Pφクロックの 1 周期分のハイレベル (H) が出力されます。

動作中に PSCn ビットの値が変更された場合、カウンタのアンダフローに同期して出力クロックの分周比が切り替わります。

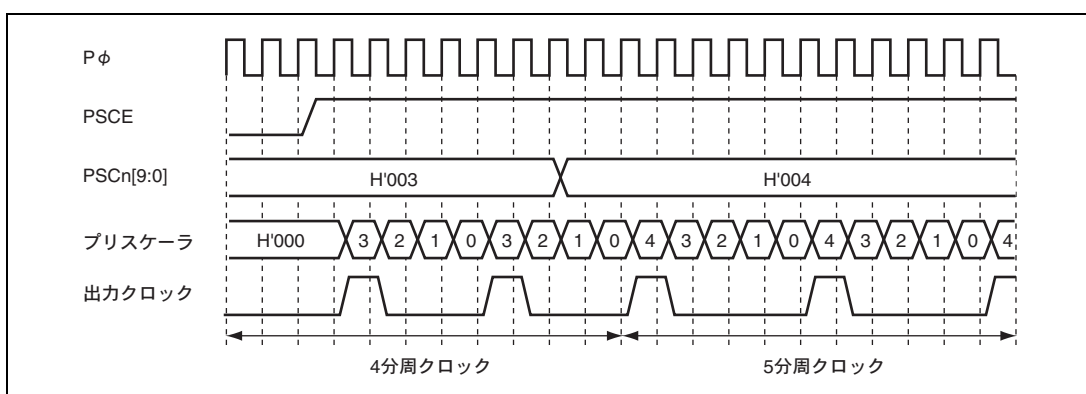


図 13.3 プリスケーラの動作開始

13.8.2 動作の停止と再開

プリスケーラは、ATU-III マスタイネーブルレジスタ (ATUENR) の PSCE ビットが 0 にクリアされると動作を停止します。停止期間中、クロックにはローレベル (L) が出力されます。また、停止期間中は、停止時のカウンタ値をそのまま保持します。再度 PSCE ビットを 1 にセットすると、停止時の値から動作を再開します。

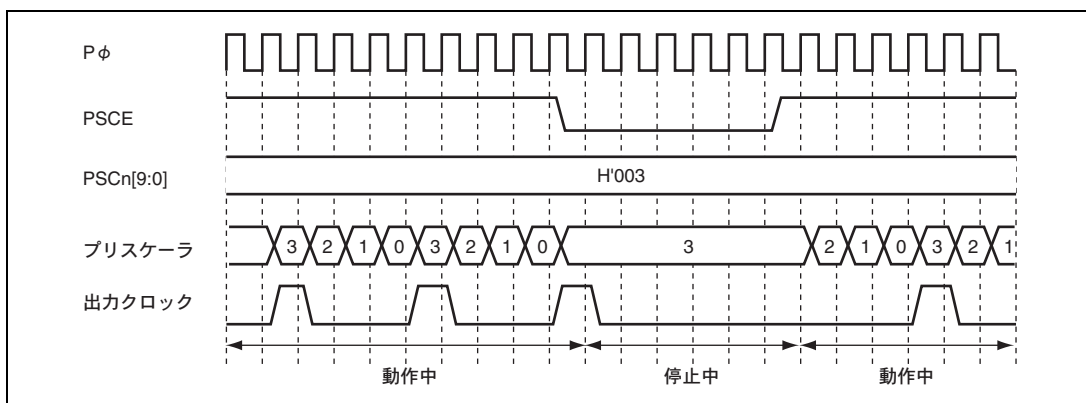


図 13.4 プリスケーラの動作停止

13.9 タイマ A の概要

タイマ A はフリーランニングカウンタ A (TCNTA) と 6 本のインプットキャプチャレジスタ A0~5 (ICRA0~5) を内蔵しています。TCNTA はアップカウンタで、フリーランニング動作を行います。カウンタのオーバフロー時に割り込み要求が可能です。

6 本のインプットキャプチャレジスタ A0~5 (ICRA0~5) は、それぞれに対応する外部信号入力端子 (TIA00~05) からの入力によりフリーランニングカウンタ A (TCNTA) の値をキャプチャします。外部信号入力端子からの入力によるキャプチャは、タイマ I/O コントロールレジスタ 1A (TIOR1A) により立ち上がり/立ち下がり/両エッジから選択できます。それぞれ、キャプチャするタイミングで A-DMAC の起動および割り込み要求が可能です。

外部信号入力端子からの入力は、入力キャンセル機能を使用してノイズをキャンセルすることができます。また、一部の入力端子 (TIA00~02) のノイズキャンセル、エッジ処理後の信号については、タイマ B およびタイマ D へイベント信号として出力することが可能です。タイマ B へは、TIA00~02 の 3 本のいずれかのイベント信号を出力 (イベント出力 1) できます。一方、タイマ D へは TIA01/TIA02 から選択したイベント信号をタイマ D0~D2 用、D3 用それぞれに出力 (イベント出力 2A、2B) し、タイマオフセットベースレジスタ D0~3 (OSBRD0~3) のキャプチャトリガとして使用できます。

キャプチャタイミングで A-DMAC を起動した場合、A-DMAC は割り込み要求元のキャプチャレジスタの値を読み出します。A-DMAC は、読み出したキャプチャ値と A-DMAC 内部に保持する前回キャプチャ値を内蔵 RAM へ転送します。

13.9.1 ブロック図

図 13.5 に、タイマ A のブロック図を示します。

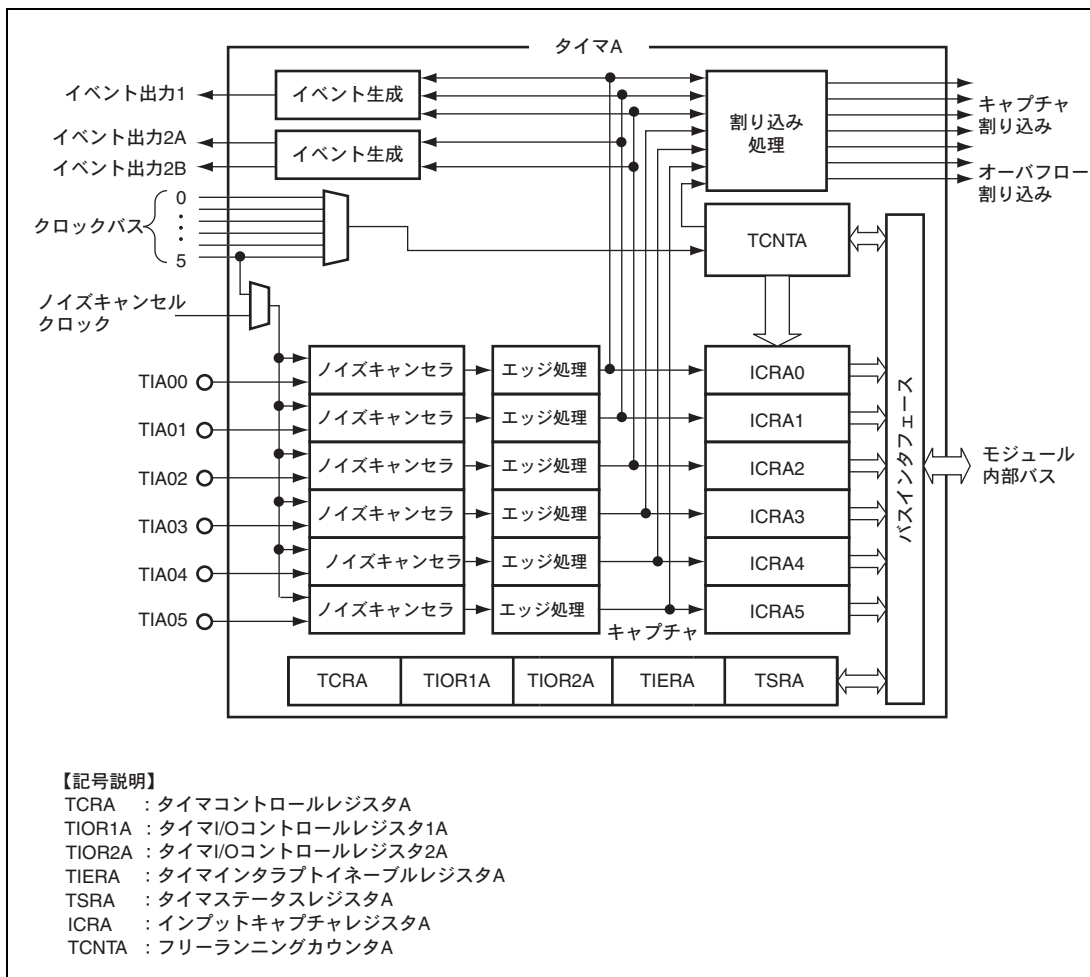


図 13.5 タイマ A のブロック図

13.10 タイマ A のレジスタの説明

13.10.1 タイマコントロールレジスタ A (TCRA)

TCRA は、8 ビットの読み出し／書き込み可能なレジスタで、外部入力エッジ (TIA00~02) のイベント出力設定、カウントクロックの選択を行います。

TCRA は、バイト単位で読み出し／書き込みが可能です。

TCRA は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時に H'00 に初期化されます。

ビット :	7	6	5	4	3	2	1	0
	EVO SEL2A	EVO SEL2B	EVOSEL1			CKSELA		
初期値 :	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W :	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
7	EVOSEL2A	0	R/W	イベント出力 2A セレクト 本ビットの設定により、外部入力 TIA01、TIA02 (ノイズキャンセル、エッジ検出後の信号)のいずれかをイベント 2A として出力することができます。 タイマ D0~2 は、このイベント 2A 信号をタイマオフセットベースレジスタ D0~2 (OSBRD0~2) のキャプチャトリガとして使用できます。 0 : TIA01 の入力エッジを出力 1 : TIA02 の入力エッジを出力
6	EVOSEL2B	0	R/W	イベント出力 2B セレクト 本ビットの設定により、外部入力 TIA01、TIA02 (ノイズキャンセル、エッジ検出後の信号)のいずれかをイベント 2B として出力することができます。 タイマ D3 は、このイベント 2B 信号をタイマオフセットベースレジスタ D3 (OSBRD3) のキャプチャトリガとして使用できます。 0 : TIA01 の入力エッジを出力 1 : TIA02 の入力エッジを出力
5~3	EVOSEL1	000	R/W	イベント出力 1 セレクト 本ビットの設定により、外部入力 TIA00~TIA02 (ノイズキャンセル、エッジ検出後の信号)のいずれかをイベント 1 としてタイマ B へ出力することができます。 000 : イベント出力なし 001 : TIA00 の入力エッジを出力 010 : TIA01 の入力エッジを出力 011 : リザーブ 100 : TIA02 の入力エッジを出力 101 : リザーブ 110 : リザーブ 111 : リザーブ

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
2~0	CKSELA	000	R/W	<p>クロックセレクト A</p> <p>カウントクロックとしてクロックバス 0~5 のいずれかを選択します。クロックバス 0~3 はプリスケアラ 0~3 の出力する分周クロック、クロックバス 4 は外部クロック入力 A (TCLKA) に対応し、クロックバス 5 には、クロックバスコントロールレジスタ (CBCNT) の設定によって、外部クロック入力 B (TCLKB)、あるいはタイマ B の出力する倍周補正クロックが出力されます。</p> <p>カウントクロックの選択は、タイマ A の動作が停止している状態で行ってください。</p> <p>000 : クロックバス 0 を選択 (プリスケアラ 0) 001 : クロックバス 1 を選択 (プリスケアラ 1) 010 : クロックバス 2 を選択 (プリスケアラ 2) 011 : クロックバス 3 を選択 (プリスケアラ 3) 100 : クロックバス 4 を選択 (TCLKA) 101 : クロックバス 5 を選択 (TCLKB または倍周補正クロック) 110 : 設定禁止 111 : 設定禁止</p>

【注】 外部クロック入力のエッジ検出は、クロックバスへの出力前に行われます。外部クロック入力 A、B を使用する場合には、クロックバスコントロールレジスタ (CBCNT) の CB4EG、CB5EG ビットでそれぞれ検出エッジを設定してください。

13.10.2 タイマ I/O コントロールレジスタ 1A (TIOR1A)

TIOR1A は、16 ビットの読み出し／書き込み可能なレジスタで、外部入力 (TIA00~05) のエッジ検出の設定を行います。

TIOR1A は、バイトおよびワード単位で読み出し／書き込みが可能です。

TIOR1A は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時に H'0000 に初期化されます。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	IOA5	IOA4	IOA3	IOA2	IOA1	IOA0						
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~12	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
11、10	IOA5	00	R/W	I/O コントロール An インプットキャプチャのトリガとなる外部入力 (TIA00~05) のエッジ検出を選択します。これらのビットを B'00 にセットした場合、インプットキャプチャ動作は行われません。B'00 以外にセットしたとき、選択したエッジを検出すると、フリーランニングカウンタ A (TCNTA) の値が、対応するインプットキャプチャレジスタ A (ICRA) に転送されます。 エッジ検出は、Pφクロックに同期して行われます。また、外部入力信号の周期が、Pφクロック周期の 2 倍以上なければ正しくエッジ検出が行われませんのでご注意ください。 また、エッジ検出は、ノイズキャンセル後の信号に対して行われます。ノイズキャンセル機能が無効であれば外部入力 (TIA00~05) に対して、ノイズキャンセル機能が有効であればノイズキャンセル後の信号に対してエッジ検出が行われることになります。 TCRA レジスタの EVOSEL1、EVOSEL2 ビットの設定によっては、ここで検出したエッジが他のタイマモジュールなどに出力されます (出力されるエッジ検出後の信号は正論理で生成されます)。 00: TIA のインプットキャプチャ禁止 01: TIA の立ち上がりで ICRA にキャプチャ 10: TIA の立ち下がりで ICRA にキャプチャ 11: TIA の立ち上がり／立ち下がり両エッジで ICRA にキャプチャ
9、8	IOA4	00	R/W	
7、6	IOA3	00	R/W	
5、4	IOA2	00	R/W	
3、2	IOA1	00	R/W	
1、0	IOA0	00	R/W	

【注】 n=0~5

13.10.3 タイマ I/O コントロールレジスタ 2A (TIOR2A)

TIOR2A は、16 ビットの読み出し／書き込み可能なレジスタで、外部入力 (TIA00～05) のノイズキャンセラ機能の設定およびノイズキャンセルクロックの選択を行います。

TIOR2A は、バイトおよびワード単位で読み出し／書き込みが可能です。

TIOR2A は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時に H'0000 に初期化されます。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	NCKA5	NCKA4	NCKA3	NCKA2	NCKA1	NCKA0	—	—	NCEA5	NCEA4	NCEA3	NCEA2	NCEA1	NCEA0
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15, 14	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
13	NCKA5	0	R/W	ノイズキャンセルクロックセレクト An ノイズキャンセルカウンタ An (NCNTAn) のカウントソースクロックを選択します。カウントソースクロックには、ノイズキャンセラカウントクロックもしくはクロックバス 5 を選択することが可能です。ノイズキャンセラカウントクロックには、共通制御部の NCCSEL ビットの設定によって Pφクロックの 128 分周あるいは Pφクロックのいずれかを選択できます。 0: NCNTAn のカウントソースクロックにノイズキャンセラカウントクロックを選択 1: NCNTAn のカウントソースクロックにクロックバス 5 を選択
12	NCKA4	0	R/W	
11	NCKA3	0	R/W	
10	NCKA2	0	R/W	
9	NCKA1	0	R/W	
8	NCKA0	0	R/W	
7, 6	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
5	NCEA5	0	R/W	<p>ノイズキャンセラライネーブル An</p> <p>外部入力 (TIA00~05) に対してノイズキャンセル機能の有効/無効を選択します。</p> <p>本ビットを 1 にセットしたあと、外部入力 TIA00~05 のエッジを検出すると、共通制御部内のノイズキャンセルモードレジスタ (NCMR) の設定にあわせて、後続エッジキャンセルモードあるいは先行エッジキャンセルモードのいずれかの処理を開始します。</p> <p>後続エッジキャンセルモードでは、外部入力信号のレベル変化を検出すると、ノイズキャンセル後の信号として、その変化を出力します。また同時に、対応するノイズキャンセルカウンタ A0~5 (NCNTA0~5) がアップカウントを開始します。このノイズキャンセルカウンタがノイズキャンセルレジスタ A0~5 (NCRA0~5) の値とコンペアマッチするまでの間、外部入力信号のレベル変化はマスクされます。コンペアマッチ時には、そのときの外部入力信号のレベルがノイズキャンセル後の信号として出力されます。</p> <p>NCNTA0~5 がカウント動作中にこれらのビットを 0 にクリアした場合、クリア後もコンペアマッチするまでカウント動作は停止せず、その間も TIA00~05 のレベル変化はマスクされ続けます。</p> <p>先行エッジキャンセルモードでは、入力信号のレベル変化を検出すると、対応するノイズキャンセルカウンタ A0~5 (NCNTA0~5) がアップカウントを開始し、ノイズキャンセルレジスタ A0~5 (NCRA0~5) の値とコンペアマッチするまでの間に、外部入力信号のレベルに変化がなければ、コンペアマッチタイミングで初めてレベル変化をノイズキャンセル後の信号として出力します。コンペアマッチまでに入力信号レベルが変化した場合は、ノイズとみなされ、ノイズキャンセラは外部入力信号のレベル変化がなかったものとして、ノイズキャンセル後の信号を変化させません。</p> <p>NCNTA0~5 がカウント動作中にこれらのビットを 0 にクリアした場合、クリア後もコンペアマッチするか、あるいは入力信号レベルに変化があるまでの間、カウント動作は停止せずノイズキャンセル処理を継続します。各キャンセルモードの動作例は、図 13.1、図 13.2 を参照してください。</p> <p>0 : TIA 入力のノイズキャンセル機能を無効 1 : TIA 入力のノイズキャンセル機能を有効</p>
4	NCEA4	0	R/W	
3	NCEA3	0	R/W	
2	NCEA2	0	R/W	
1	NCEA1	0	R/W	
0	NCEA0	0	R/W	

【注】 n=0~5

13.10.4 タイマステータスレジスタ A (TSRA)

TSRA は、8 ビットの読み出し／書き込み可能なレジスタで、フリーランニングカウンタ A (TCNTA) のオーバフローの発生、インプットキャプチャレジスタ A0~5 (ICRA0~5) でのインプットキャプチャの発生を示します。

これらのフラグは割り込み要因であり、タイマインタラプトイネーブルレジスタ A (TIERA) の対応するビットの設定によって割り込みが許可されていれば、A-DMAC へ DMA 転送を要求したり、A-DMAC 経由で CPU に割り込みを要求したりすることができます。

TSRA は、バイト単位で読み出し／書き込みが可能です。

TSRA は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時に H'00 に初期化されます。

ビット:	7	6	5	4	3	2	1	0
	OVFA	—	ICFA5	ICFA4	ICFA3	ICFA2	ICFA1	ICFA0
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/(W)*	R	R/(W)*	R/(W)*	R/(W)*	R/(W)*	R/(W)*	R/(W)*

【注】 * フラグをクリアするため、1を読み出した後に0を書き込むことのみ可能です。1の書き込みは無効です。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
7	OVFA	0	R/(W)*	<p>オーバフローフラグ A</p> <p>フリーランニングカウンタ A (TCNTA) のオーバフローの発生を示すステータスフラグです。本フラグの読み出し値が 1 であるとき、TCNTA でオーバフローが発生したことが分かります。</p> <p>本フラグをソフトウェアにより 1 にセットすることはできません。</p> <p>フラグのクリアは、OVFA が 1 の状態でフラグを読み出した後に 0 を書き込むことで行います。1 を読み出さずに 0 を書き込んだ場合、その書き込みは無視されます。</p> <p style="padding-left: 20px;">0 : オーバフローなし</p> <p>[クリア条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • OVFA=1 の状態を読み出した後、OVFA に 0 を書き込んだとき <p style="padding-left: 20px;">1 : オーバフロー発生</p> <p>[セット条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • TCNTA の値がオーバフロー (H'FFFFFFF→H'0000000) したとき
6	—	0	R	<p>リザーブビット</p> <p>読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。</p>

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
5	ICFA5	0	R/(W)*	インプットキャプチャフラグ An インプットキャプチャレジスタ An (ICRAn) のインプットキャプチャ発生を示すステータスフラグです。本フラグの読み出し値が 1 であるとき、フラグに対応するインプットキャプチャレジスタでインプットキャプチャが発生したことが分かります。 本フラグをソフトウェアにより 1 にセットすることはできません。 本フラグは、対応するインプットキャプチャレジスタの値が A-DMAC アクセスによって読み出されると自動的に 0 にクリアされます。ただし、CPU、AUD、および DMAC によるアクセスではクリアされません。また、インプットキャプチャフラグが 1 であることを読み出した後 0 を書き込むことによってもフラグのクリアが可能です。1 を読み出さずに 0 を書き込んだ場合、その書き込みは無視されます。 0 : インプットキャプチャなし [クリア条件] • ICFAn=1 の状態を読み出した後、ICFAn に 0 を書き込んだとき フラグに対応するインプットキャプチャレジスタの値が A-DMAC アクセスによって読み出されると、自動的に 0 にクリアされます。ただし、CPU、AUD、および DMAC によるアクセスではクリアされません。 1 : インプットキャプチャ発生 [セット条件] • インプットキャプチャ信号 (TIA) により TCNTA の値が ICRAn に転送されたとき
4	ICFA4	0	R/(W)*	
3	ICFA3	0	R/(W)*	
2	ICFA2	0	R/(W)*	
1	ICFA1	0	R/(W)*	
0	ICFA0	0	R/(W)*	

【注】 * フラグをクリアするため、1 を読み出した後に 0 を書き込むことのみ可能です。1 の書き込みは無効です。

n=0~5

13.10.5 タイマインタラプトイネーブルレジスタ A (TIERA)

TIERA は、8 ビットの読み出し／書き込み可能なレジスタで、フリーランニングカウンタ A (TCNTA) のオーバフロー割り込み要求、インプットキャプチャレジスタ A0~5 (ICRA0~5) のインプットキャプチャ割り込み要求の許可／禁止を制御します。また、A-DMAC を設定することにより、このインプットキャプチャ割り込み要求で、インプットキャプチャレジスタ、内蔵 RAM 間の DMA 転送の起動が可能です。

TIERA は、バイト単位で読み出し／書き込みが可能です。

TIERA は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時に H'00 に初期化されます。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	OVEA	—	ICEA5	ICEA4	ICEA3	ICEA2	ICEA1	ICEA0
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7	OVEA	0	R/W	オーバフローインタラプト A イネーブル タイマステータスレジスタ A (TSRA) のオーバフローフラグ A (OVFA) が 1 にセットされているとき、OVFA による割り込み要求の出力を許可または禁止します。 0：オーバフロー割り込み A 要求の出力を禁止する 1：オーバフロー割り込み A 要求の出力を許可する
6	—	0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
5	ICEA5	0	R/W	インプットキャプチャインタラプト An イネーブル TSRA の ICFAn ビットが 1 にセットされているとき、ICFAn による割り込み要求の出力を許可または禁止します。また、割り込み要求の出力が許可されている状態で A-DMAC を設定することにより、割り込み要求による A-DMAC の起動ができます。 0：インプットキャプチャ割り込み An 要求の出力を禁止する 1：インプットキャプチャ割り込み An 要求の出力を許可する
4	ICEA4	0	R/W	
3	ICEA3	0	R/W	
2	ICEA2	0	R/W	
1	ICEA1	0	R/W	
0	ICEA0	0	R/W	

【注】 n=0~5

13.10.6 インプットキャプチャレジスタ A0~5 (ICRA0~5)

ICRA0~5 は、32 ビットの読み出し専用のレジスタで、インプットキャプチャ専用です。ただし、本レジスタは、書き込み禁止です。

本レジスタは、外部からのインプットキャプチャ信号 (TIA00~05) を検出して、フリーランニングカウンタ A (TCNTA) の値を格納します。このとき、対応するタイムステータスレジスタ A (TSRA) の ICFA ビットが 1 にセットされます。また、このレジスタ値が A-DMAC アクセスによって読み出されると、TSRA の対応するインプットキャプチャフラグが 0 にクリアされます。

インプットキャプチャ信号の検出エッジはタイム I/O コントロールレジスタ 1A (TIOR1A) の I/O コントロールビット (IOA) により設定します。

ICRA0~5 は、ロングワード単位でのみ読み出しが可能です。

ICRA0~5 は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時に H'0000 0000 に初期化されます。

ビット:	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	ICAn[31:16]															
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R
ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	ICAn[15:0]															
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

【注】 n=0~5

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
31~0	ICAn[31:0]	すべて 0	R	インプットキャプチャ An 32 ビットのインプットキャプチャ値を格納します。

13.10.7 フリーランニングカウンタ A (TCNTA)

TCNTA は、32 ビットの読み出し／書き込み可能なレジスタで、クロックバス経由で入力されるプリスケアラ出力、外部入力クロック、タイマ B 出力の倍周補正クロックのいずれかでカウント動作を行います。

ATU-III マスタイネーブルレジスタ (ATUENR) の TAE ビットを 1 にセットすると、タイマ A はアップカウンタ動作を開始します。入力するクロックは、タイマコントロールレジスタ A (TCRA) のクロックセレクトビット (CKSELA) により選択します

TCNTA がオーバフロー (H'FFFF FFFF→H'0000 0000) すると、タイマステータスレジスタ A (TSRA) のオーバフローフラグ A (OVFA) が 1 にセットされます。

TCNTA は、ロングワード単位でのみ読み出し／書き込みが可能です。

TCNTA は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時に H'0000 0000 に初期化されます。

ビット:	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	CNTA[31:16]															
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	CNTA[15:0]															
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
31~0	CNTA[31:0]	すべて 0	R/W	タイマカウンタ A 32 ビットのカウンタ値を格納します。

13.10.8 ノイズキャンセルカウンタ A0~5 (NCNTA0~5)

NCNTA0~5は、8ビットの読み出し/書き込み可能なレジスタです。

タイマ I/O コントロールレジスタ 2A (TIOR2A) のノイズキャンセライネーブルビット (NCEA5~0) でノイズキャンセラ機能を有効にしたとき、外部入力端子 (TIA00~05) からの信号をトリガとして、アップカウント動作を行います。カウントソースには、TIOR2A のノイズキャンセルクロックセレクトビット (NCKA5~0) で、ノイズキャンセラ用カウントクロックまたはクロックバス 5 を選択可能です。

共通制御部にある NCMR の NCMA ビットの設定によって、後続エッジキャンセルモードおよび先行エッジキャンセルモードの 2 通りの動作を行います。

● 後続エッジキャンセルモード

NCEA5~0ビットが1で、NCNTA0~5がカウント停止しているとき、TIA00~05の入力信号レベルが変化すると、NCNTA0~5はアップカウント動作を開始します。カウント値がノイズキャンセルレジスタA0~5 (NCRA0~5) と一致すると、次のPφクロックに同期してカウント値をH'00にクリアしてカウント動作を停止します。NCNTA0~5は、ATUENRのTAEビットの設定にかかわらず、カウント動作を行います。

カウント動作開始時のレベル変化は、そのままノイズキャンセル後の信号として出力されてエッジ検出の対象となりますが、以降のカウント値がNCRA0~5と一致するまでの間、すべての入力レベルの変化がマスクされるため、ノイズキャンセル後の信号は変化しません。カウント値がNCRA0~5と一致したときは、そのときの入力信号レベルをノイズキャンセル後の信号として出力します。

カウント動作中にNCEAビットがクリアされても、カウント値がNCRA5~0と一致するまでの間はカウント動作を継続します。その間も入力信号はマスクされ続けます。

● 先行エッジキャンセルモード

NCEA5~0ビットが1で、NCNTA0~5がカウント停止しているとき、TIA00~05の入力信号レベルが変化すると、NCNTA5~0はアップカウント動作を開始します。カウント動作中に入力信号のレベルが変化するか、あるいはカウント値がノイズキャンセルレジスタA0~5 (NCRA0~5) と一致した場合には、次のPφクロックに同期してカウント値をH'00にクリアしカウント動作を停止します。

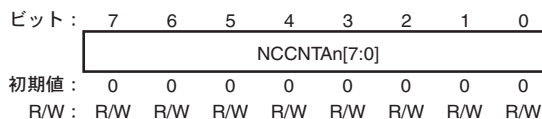
NCNTA0~5は、ATUENRのTAEビットの設定にかかわらず、カウント動作を行います。

ノイズキャンセル後の信号は、カウント値がNCRA0~5と一致したときのみ、カウント開始時のレベル変化にあわせて変化します。NCRA0~5と一致する前にカウント動作が停止した場合には、カウント開始時のレベル変化およびカウント停止時のレベル変化はマスクされるため、ノイズキャンセル後の信号は変化しません。

カウント動作中にNCEAビットがクリアされても、コンペアマッチあるいは入力信号レベルに変化があるまでの間、カウント動作は停止せずにノイズキャンセル処理を継続します。

NCNTA5~0 は、バイト単位で読み出し／書き込みが可能です。

NCNTA5~0 は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時に H'00 に初期化されます。



【注】 n=0~5

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
7~0	NCCNTAn[7:0]	すべて 0	R/W	ノイズキャンセルカウンタ An 8 ビットのカウンタ値を格納します。

13.10.9 ノイズキャンセルレジスタ A0~5 (NCRA0~5)

NCRA0~5 は、8 ビットの読み出し／書き込み可能なレジスタで、ノイズキャンセルカウンタ A0~5 (NCNTA0~5) の上限値を設定します。Pφクロックの 128 分周をノイズキャンセルクロックに選択している場合、H'FF 設定で最大 1.64msec (Pφ=20MHz 時) のノイズをキャンセルすることができます。

共通制御部にある NCMR の NCMA ビットの設定によって、後続エッジキャンセルモードおよび先行エッジキャンセルモードの 2 通りの動作を行います。

- 後続エッジキャンセルモード

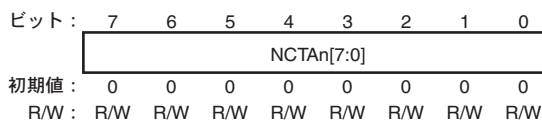
NCNTA0~5 のカウンタ動作中、後続する入力信号のレベル変化がマスクされます。NCNTA0~5 と NCRA0~5 の値は常時比較されており、コンペアマッチが発生すると、次の Pφクロックに同期して NCNTA0~5 のカウンタ値をクリアし、カウンタ動作を停止させて入力信号のマスク解除を行います。

- 先行エッジキャンセルモード

NCNTA0~5 のカウンタ動作中は、ノイズキャンセラの処理待ち状態となります。NCNTA0~5 と NCRA0~5 の値は常時比較されており、コンペアマッチが発生すると、次の Pφクロックに同期して NCNTA0~5 のカウンタ値をクリアし、カウンタ動作を停止させると同時にノイズキャンセラはノイズキャンセル後の入力信号の出力を行います。

NCRA0~5 は、バイト単位で読み出し／書き込みが可能です。

NCRA0~5 は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時に H'00 に初期化されます。



【注】 n=0~5

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
7~0	NCTAn[7:0]	すべて 0	R/W	ノイズキャンセルタイム An TIA ノイズキャンセル期間 (8 ビットコンペア値)

13.11 タイマ A の動作説明

13.11.1 ノイズキャンセル動作

ノイズキャンセラの動作モードは、後続エッジキャンセルモードと先行エッジキャンセルモードの 2 種類あります。共通制御部内のノイズキャンセルモードレジスタ (NCMR) の NCMA ビットによって、どちらのモードに設定するかを選択できます。

図 13.6 に後続エッジキャンセルモードでのノイズキャンセル動作例、図 13.8 に先行エッジキャンセルモードでのノイズキャンセル動作例を示します。いずれも TIA00 入力を例にとり、図 13.6 および図 13.8 ではエッジ検出が立ち上がりエッジ検出設定の場合を示しています。

後続エッジキャンセルモードでは、ノイズキャンセルカウンタ A (NCNTA) は入力信号のレベル変化をトリガとしてカウント動作を開始します。また、カウント開始と同時に、入力信号のレベル変化をノイズキャンセル処理後の信号として出力します。

カウント動作は、カウント値がノイズキャンセルレジスタ A (NCRA) の設定値と一致するまで続きます。このカウント期間中の入力信号のレベル変化はすべて無視され、ノイズキャンセル処理後の信号として出力されません。カウント値がノイズキャンセルレジスタの設定値と一致したときは、ノイズキャンセル処理後の信号として、そのときの入力信号レベルを出力します。そのため、カウント動作開始時 (変化後のレベル) と、コンペアマッチ時で入力レベルが異なる場合は、コンペアマッチタイミングでノイズキャンセル処理後の信号が変化することになりますのでご注意ください。

図 13.7 に、後続エッジキャンセルモードでの 2 種類の入力波形に対するノイズキャンセル処理の例を示します。

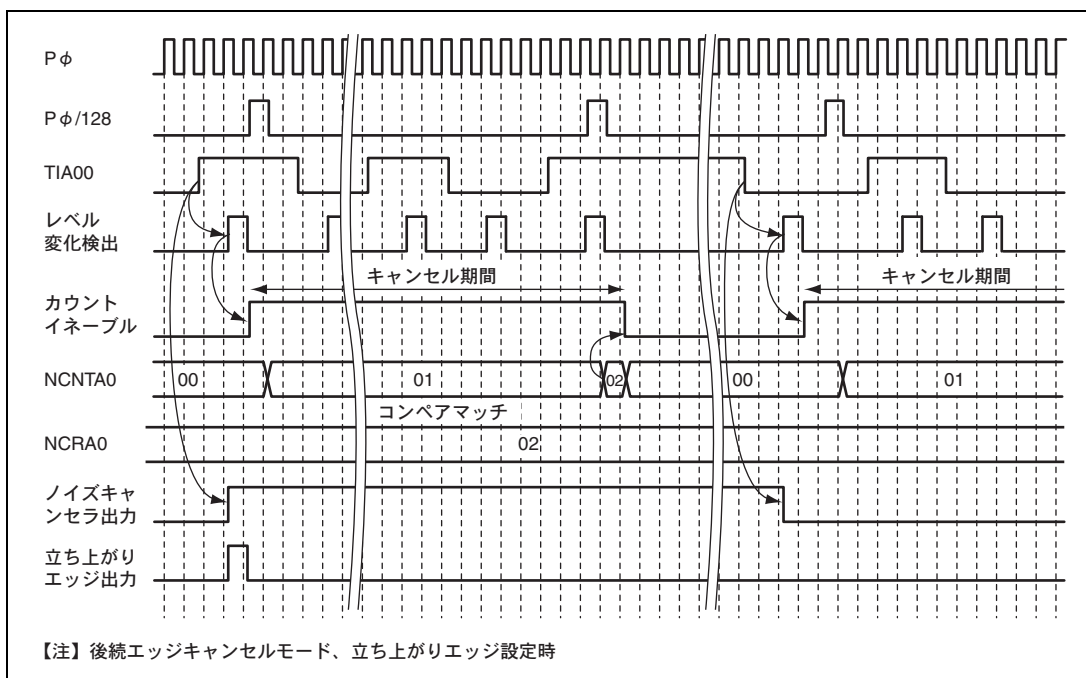


図 13.6 後続エッジキャンセルモードでのノイズキャンセル動作例

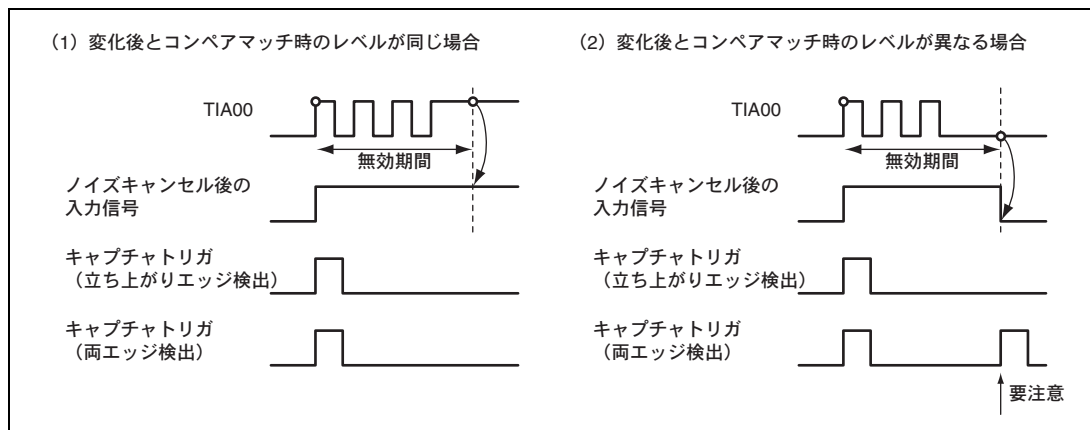


図 13.7 入力波形ごとのノイズキャンセル処理例 (後続エッジキャンセルモード)

先行エッジキャンセルモードでは、ノイズキャンセルカウンタ A (NCNTA) は入力信号のレベル変化をトリガとしてカウント動作を開始します。カウント動作は、カウント値がノイズキャンセルレジスタ A (NCRA) の設定値と一致するか、あるいはカウント開始後に入力信号のレベルが変化するまで続きます。

カウント値がノイズキャンセルレジスタの設定値と一致したとき、カウント動作開始時の入力信号のレベル変化をノイズキャンセル処理後の信号として出力します。カウント値がノイズキャンセルレジスタ A (NCRA) の設定値と一致する前に入力信号のレベルが変化した場合、そのレベル変化とカウント動作開始時のレベル変化はノイズとみなされ、ノイズキャンセル処理後の信号として出力されません。

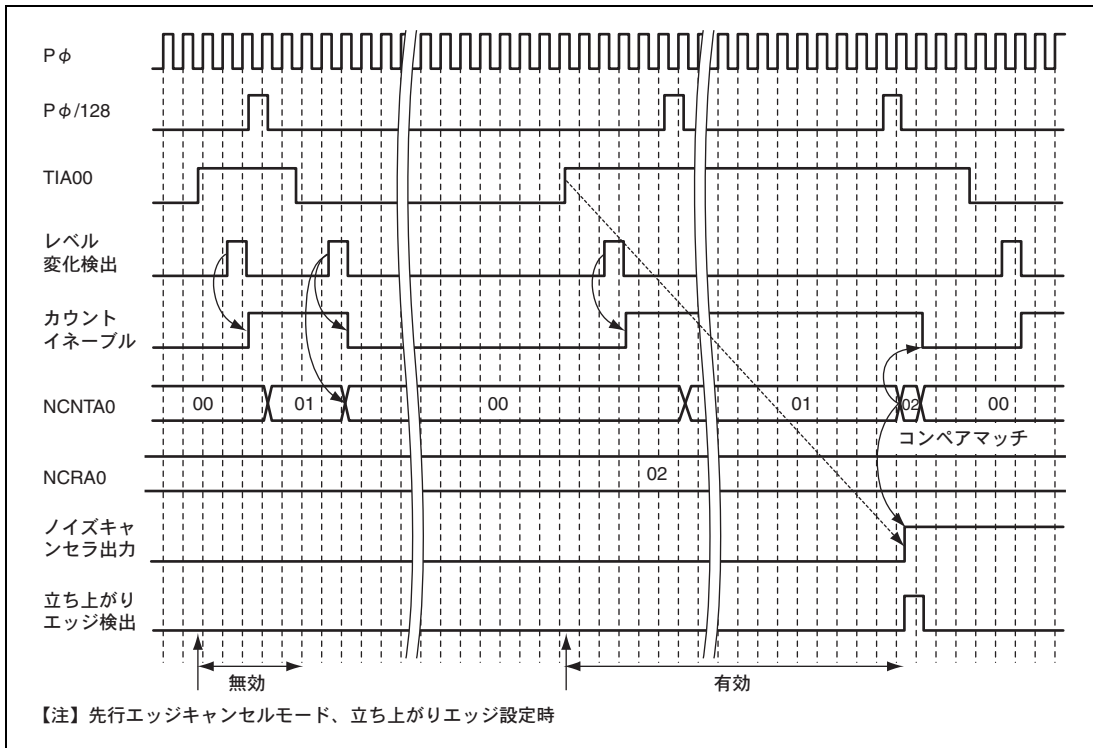


図 13.8 先行エッジキャンセルモードでのノイズキャンセル動作例

13.11.2 フリーランニング動作

フリーランニングカウンタ A (TCNTA) は、ATU-III マスタイネーブルレジスタ (ATUENR) の TAE ビットを 1 にセットするとアップカウント動作を開始します。TCNTA がオーバーフロー (H'FFFFFFF→H'0000000) するとタイマステータスレジスタ A (TSRA) の OVFA ビットが 1 にセットされます。このとき、タイマインタラプトイネーブルレジスタ A (TIERA) の OVEA ビットが 1 ならば CPU に割り込みを要求します。TCNTA は、オーバーフロー後、H'00000000 からアップカウントを継続します。

TCNTA の動作中に ATUENR の TAE ビットを 0 にクリアすると、TCNTA は動作を停止します。このとき TCNTA はリセットされません。再び TAE ビットを 1 にセットした場合には、動作停止時のカウント値からカウント動作を再開します。

カウント動作中に TCNTA への書き込みを行った場合、書き込みをカウント動作に優先して行い、以降書き込まれた値でカウント動作を継続します。また、書き込みはカウントソースに関係なく Pφ クロックの 2 サイクルで完了します。

なお、プリスケアラは、TAE ビットの設定に関係なく動作しており、TCNTA の動作許可時にも初期化は行われません。したがって、起動から実際に TCNTA がカウント動作を開始するまでの時間には、選択されたカウントソースの周期 (分解能) 以下のハードウェア的な不確定さが伴います。

図 13.9 に、フリーランニングカウンタ A (TCNTA) の動作を示します。

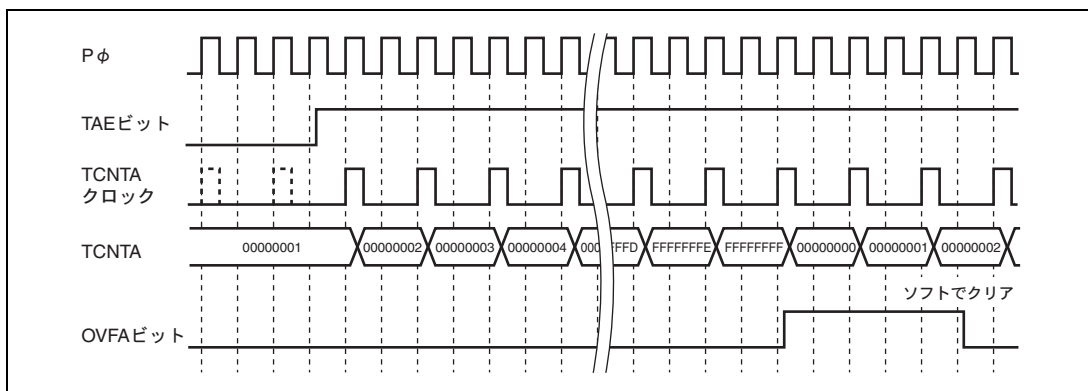


図 13.9 タイマ A フリーランニング動作、オーバーフロータイミング

13.11.3 インプットキャプチャ動作

インプットキャプチャレジスタ A0~5 (ICRA0~5) は、タイマ I/O コントロールレジスタ 1A (TIOR1A) の IOA5~0 ビットにインプットキャプチャ動作を指定することにより、対応する外部入力端子 (TIA00~05) からのエッジ入力でインプットキャプチャ動作を行います。

外部信号入力端子からのエッジは、ノイズキャンセル機能を使用してノイズをキャンセルすることができます。

ATUENR の TAE ビットの設定により、フリーランニングカウンタ A (TCNTA) がカウントアップを開始します。ICRA の対応する外部信号入力端子のエッジが入力されると、対応するタイムステータスレジスタ A (TSRA) のビットがセットされ、TCNTA の値が ICRA に転送されます。入力されるエッジは、立ち上がり/立ち下がり/両エッジから選択できます。このとき、インタラプトイネーブルレジスタ A (TIERA) の設定により CPU へ割り込みを要求することができます。さらに、A-DMAC を設定することで割り込み要求で DMA 転送を開始することも可能です。

インプットキャプチャレジスタ A (ICRA) とフリーランニングカウンタ A (TCNTA) への書き込みが同時に発生した場合、キャプチャされる値は書き込み前のカウンタ値となります。

図 13.10 に、TIA00 を立ち上がりエッジ、TIA01 を立ち下がりエッジ、TIA02 を両エッジトリガと指定したときのインプットキャプチャ動作を示します。

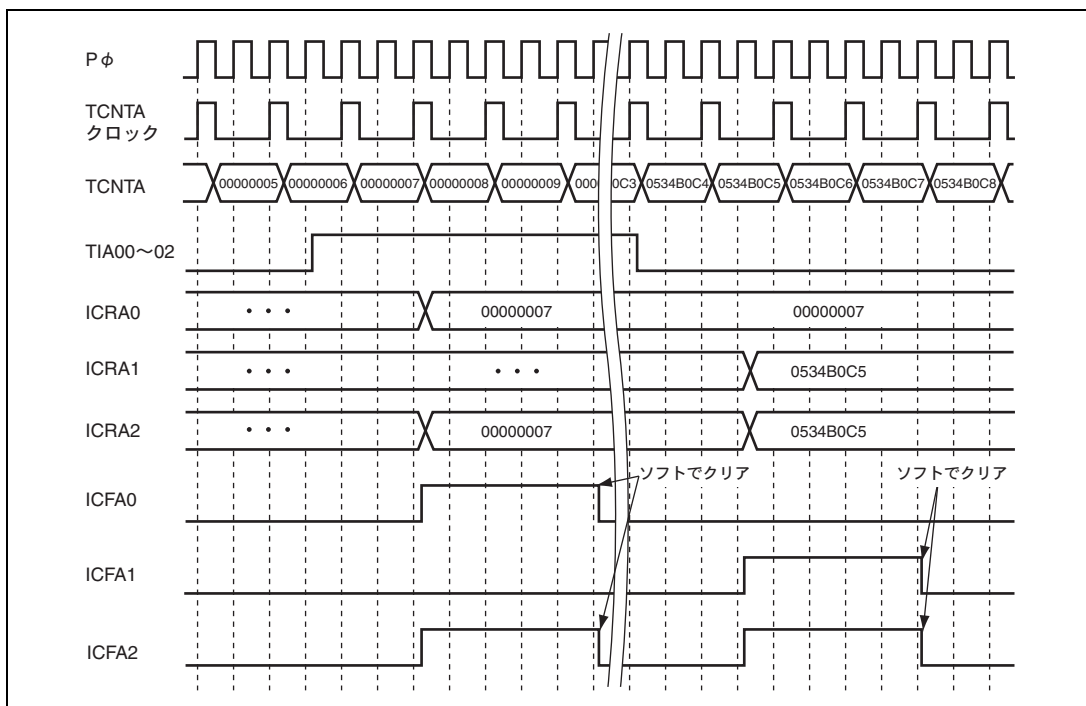


図 13.10 タイマ A のインプットキャプチャ動作

タイマコントロールレジスタ A (TCRA) の EVOSEL1 ビットを設定することにより、外部入力端子 TIA00~02 のノイズキャンセル、エッジ検出後の信号をタイマ B へ出力することができます。また、EVOSEL2 ビットを設定することにより、TIA01、TIA02 (ノイズキャンセル、エッジ検出後の信号) のいずれかをタイマ D へイベント出力することができます。

図 13.11 では、EVOSEL1 を B'001 (TIA00 の入力エッジを出力)、B'010 (TIA01 の入力エッジを出力)、B'100 (TIA02 を出力) と指定したときのイベント出力動作の例を示します。

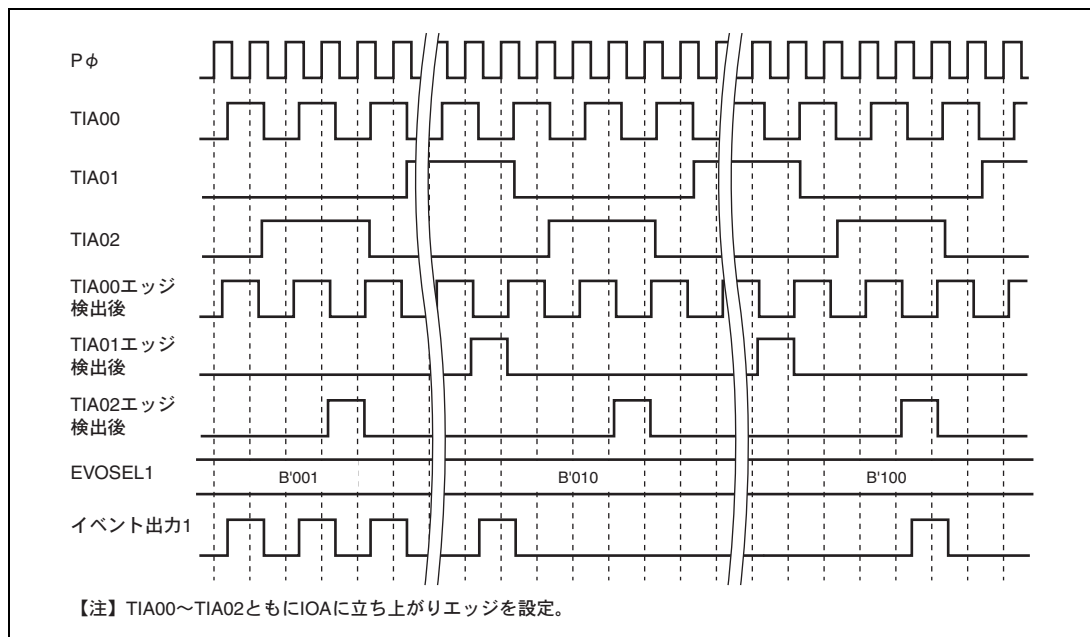


図 13.11 イベント出力動作の例

13.11.4 DMA 転送

A-DMAC を設定することで、タイマ A のインプットキャプチャ割り込み要求で A-DMAC の起動が可能です。A-DMAC による DMA 転送では、インプットキャプチャレジスタ、内蔵 RAM 間の転送が行われます。A-DMAC は、内部に 32 ビットのバッファレジスタを 6 本備えており、DMA 転送で読み出したインプットキャプチャレジスタの値をバッファレジスタで保持します。A-DMAC は、1 回の DMA 転送要求に対して、バッファレジスタに保持した前回のキャプチャレジスタの値とタイマ A から読み出した現在のインプットキャプチャレジスタの値を、それぞれ内蔵 RAM へ転送します。

13.12 タイマ B の概要

タイマ B は、外部イベント入力をベースにした倍周補正クロックを生成し、クロックバス経由で他のタイマブロックに供給します。タイマ B は、エッジ間計測ブロック、倍周クロック生成ブロック、倍周クロック補正ブロックの3つのブロックから構成されます。

(1) エッジ間計測ブロック

エッジ間計測ブロックでは、タイマ A 経由で入力される外部イベントの入力エッジ間の時間計測を行います。入力エッジ間計測カウンタ B0 (TCNTB0) とアウトプットコンペアレジスタ B0 (OCRB0) とのコンペアマッチにより、CPU への割り込み要求出力が可能です。また、外部イベント入力をカウントソースとするイベントカウンタ B1 (TCNTB1) とアウトプットコンペアレジスタ B1 (OCRB1) とのコンペアマッチにより、TCNTB0 の値を ICRB1 経由で ICRB2 へキャプチャすることもでき、複数イベント間の時間計測も可能です。TCNTB0 のカウント値は、外部イベント入力ごとにクリアされるため、ICRB1 が TCNTB0 の値を累積してキャプチャしており、ICRB2 は外部イベントカウンタのコンペアマッチでこの値を取り込みます。

(2) 倍周クロック生成ブロック

倍周クロック生成ブロックでは、外部イベント入力を 1~4095 通倍した倍周クロックを生成します。エッジ間計測ブロックの入力エッジ間計測カウンタ B0 (TCNTB0) のキャプチャ値に対して、リロード付きのダウンカウントを行います。ダウンカウントは分周比設定値で行います。倍周クロック (AGCK1) は、このダウンカウンタのアンダフローで生成します。ただし倍周クロックはタイマ B の内部クロックであり、タイマ B 外部へは出力されません。

TCNTB6 は、倍周クロックベースの計測カウンタで OCRB6 とのコンペアマッチで CPU へ割り込み要求出力が可能です。

(3) 倍周クロック補正ブロック

倍周クロック生成ブロックで生成する AGCK1 は、1 つ前の入力エッジ間隔を参考にして生成されるため、連続する 2 つのエッジ間隔に変化が生じた場合は補正が必要になります。その補正を行うのが倍周補正ブロックであり、TCNTB3、TCNTB4、TCNTB5 の 3 つの補正カウンタと、補正カウンタクリアレジスタ (TCCLRB) を用いて倍周補正クロック (AGCKM) を生成します。倍周補正クロックは、クロックバスコントロールレジスタ (CBCNT) を設定することでクロックバス 5 へ出力することができ、他のタイマモジュールは倍周補正クロックをカウントソースとして使用できます。

13.12.1 ブロック図

図 13.12 に、タイマ B のブロック図を示します。

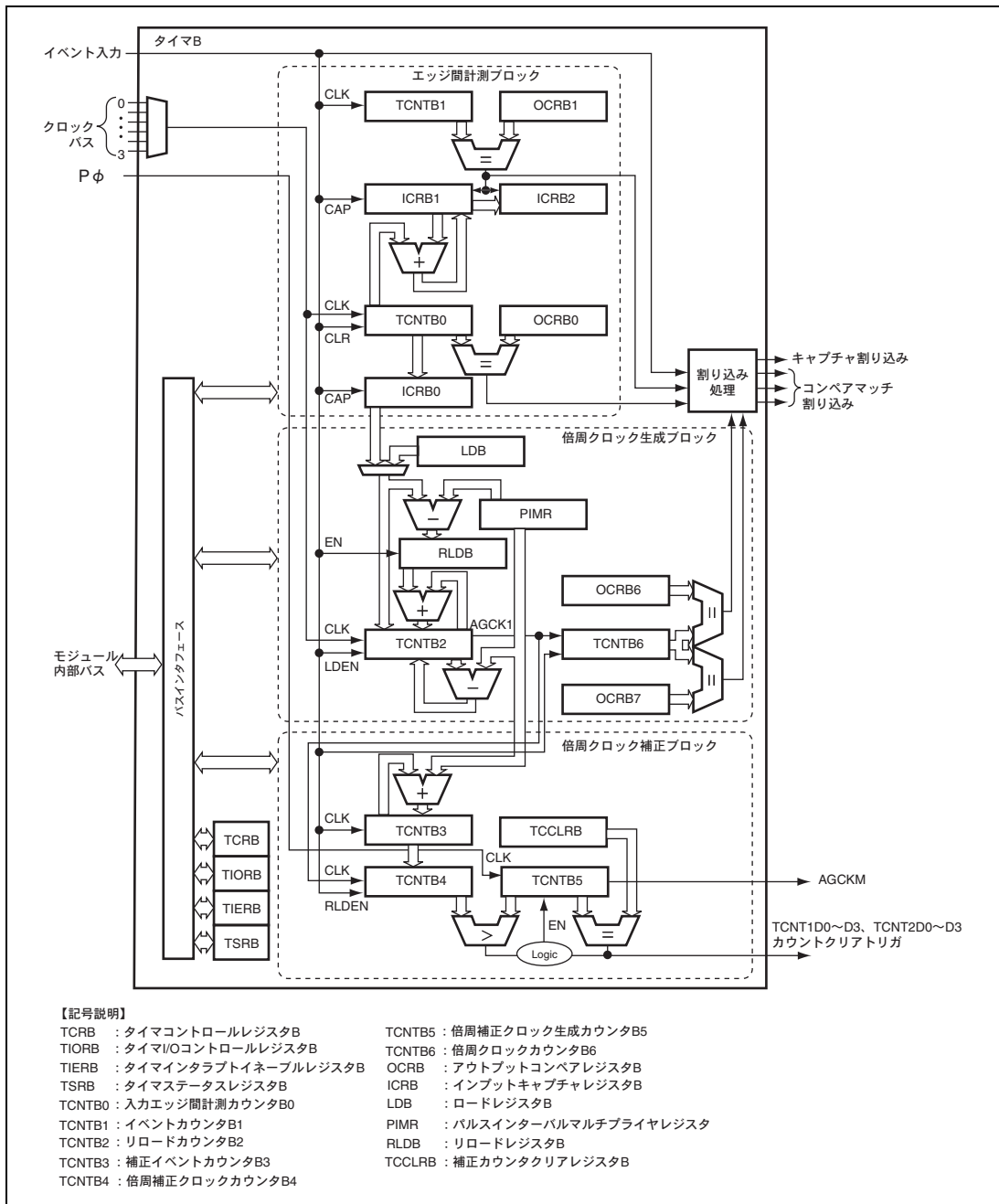


図 13.12 タイマ B のブロック図

13.13 タイマ B のレジスタの説明

13.13.1 タイマコントロールレジスタ B (TCRB)

TCRB は、8 ビットの読み出し／書き込み可能なレジスタで、入力エッジ間計測カウンタ B0 (TCNTB0)、ロードカウンタ B2 (TCNTB2) のカウントソースの選択を行います。

TCRB は、バイト単位で読み出し／書き込みが可能です。

TCRB は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時に H'00 に初期化されます。

ビット :	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	CKSELB	
初期値 :	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W :	R	R	R	R	R	R	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7~2	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
1, 0	CKSELB	00	R/W	クロックセレクト B TCNTB0、TCNTB2 のカウントクロックとしてクロックバス 0~3 のいずれかを選択します。クロックバス 0~3 はプリスケアラ 0~3 の出力する分周クロックです。カウントクロックのエッジ検出は立ち上がり固定です。カウントクロックの選択は、タイマ B の動作が停止している状態で行ってください。 00 : カウントソースにクロックバス 0 を選択 01 : カウントソースにクロックバス 1 を選択 10 : カウントソースにクロックバス 2 を選択 11 : カウントソースにクロックバス 3 を選択

13.13.2 タイマ I/O コントロールレジスタ B (TIORB)

TIORB は、8 ビットの読み出し/書き込み可能なレジスタで、倍周クロックの元データの選択、外部入力の有効/無効、データロードの許可/禁止、補正の設定などを行います。また、倍周補正クロック生成カウンタ B5 (TCNTB5) やアウトプットコンペアレジスタ B6 (OCRB6) の制御も行います。

TIORB は、バイト単位で読み出し/書き込みが可能です。

TIORB は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時に H'00 に初期化されます。

ビット:	7	6	5	4	3	2	1	0
	LD SEL	CTC NTB5	EVC NTB	LDEN	CCS	—	—	IOB6
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R	R	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
7	LDSEL	0	R/W	ロードデータセレクト リロードカウンタ B2 (TCNTB2) にロードする値およびリロードレジスタ B (RLDB) にロードする値の計算値として、ICRB0 値を用いるか、LDB 値を用いるかを選択できます。 0: TCNTB2 のロードデータ、RLDB のロードデータの計算に ICRB0 値を用いる 1: TCNTB2 のロードデータ、RLDB のロードデータの計算に LDB 値を用いる
6	CTCNTB5	0	R/W	カウントコントロール B5 倍周補正クロック生成カウンタ B5 (TCNTB5) のカウント動作を許可、あるいは停止させることができます。 本ビットを 1 にすると、TCNTB5 のカウントが停止し、他タイマへ出力する補正倍周クロックも停止します。カウント動作停止によるカウンタのクリアは行われません。動作停止後、本ビットを 0 に設定した場合、TCNTB5 は補正カウント動作を再開し、倍周補正クロックも発振を再開します。 0: TCNTB5 のカウント動作を許可 1: TCNTB5 のカウント動作を停止
5	EVCNTB	0	R/W	イベントコントロール B 外部イベントの入力を許可、あるいは禁止を選択することができます。本ビットを 0 にクリアした場合、外部イベントは入力されません。本ビットを 1 にセットしたとき、選択したエッジをもとにインプットキャプチャや倍周補正クロックの生成が行われます。 0: 外部イベントの入力を禁止 1: 外部イベントの入力を許可

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
4	LDEN	0	R/W	<p>ロードイネーブル</p> <p>ICRB0のインプットキャプチャ時に、リロードカウンタ B2 (TCNTB2) およびリロードレジスタ B (RLDB) の値を更新するかどうかを選択します。</p> <p>0 : ICRB0のインプットキャプチャ時に TCNTB2、RLDB の値を更新する 1 : ICRB0のインプットキャプチャ時に TCNTB2、RLDB の値を更新しない</p>
3	CCS	0	R/W	<p>カウンタコレクションセレクト</p> <p>倍周補正クロックカウンタ B4 (TCNTB4) の動作を選択します。TCNTB3=TCNTB4 のとき、TCNTB4 のカウント動作を停止するかどうかを選択することができます。</p> <p>0 : TCNTB3=TCNTB4 のとき、TCNTB4 のカウント動作を停止しない 1 : TCNTB3=TCNTB4 のとき、TCNTB4 のカウント動作を停止する</p>
2、1	—	すべて 0	R	<p>リザーブビット</p> <p>読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。</p>
0	IOB6	0	R/W	<p>I/O コントロール B6</p> <p>アウトプットコンペアレジスタ B6 (OCRB6) の機能を選択します。本ビットを 0 に設定したとき、OCRB6 は倍周クロックカウンタ B6 (TCNTB6) とのコンペアマッチを行いません。1 に設定すると TCNTB6 とのコンペアマッチ動作を行います。このとき、タイマインタラプトイネーブルレジスタ B (TIERB) の CMEB6 ビットが 1 であれば、コンペアマッチで CPU へ割り込み要求が出力されます。</p> <p>0 : TCNTB6 と OCRB6 とのコンペアマッチ禁止 1 : TCNTB6 と OCRB6 とのコンペアマッチ許可</p>

13.13.3 タイマステータスレジスタ B (TSRB)

TSRB は、8 ビットの読み出し／書き込み可能なレジスタで、インプットキャプチャ／コンペアマッチの発生を示します。これらのフラグは割り込み要因であり、タイマインタラプトイネーブルレジスタ B (TIERB) の対応するビットにより割り込みが許可されていれば、CPU へ割り込みを要求します。

TSRB は、バイト単位で読み出し／書き込みが可能です。

TSRB は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時に H'00 に初期化されます。

ビット:	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	CMFB6	CMFB1	ICFB0	CMFB0
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R	R	R/(W)*	R/(W)*	R/(W)*	R/(W)*

【注】 * フラグをクリアするため、1を読み出した後に0を書き込むことのみ可能です。
1の書き込みは無効です。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
7~4	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
3	CMFB6	0	R/(W)*	<p>コンペアマッチフラグ B6</p> <p>アウトプットコンペアレジスタ B6 (OCRB6) のコンペアマッチ発生を示すステータスフラグです。本フラグの読み出し値が 1 であるとき、CMFB6 でコンペアマッチが発生したことがわかります。</p> <p>本フラグをソフトウェアにより 1 にセットすることはできません。</p> <p>本フラグは、CMFB6 が 1 であることを読み出した後 0 を書き込むことによってフラグのクリアが可能です。1 を読み出さずに 0 を書き込んだ場合、その書き込みは無視されます。また、TIERB の IREG ビットを B'10 に設定しているときにかぎり、OCRB7 のコンペアマッチ発生によって自動的にクリアされます。</p> <p style="margin-left: 20px;">0 : コンペアマッチなし</p> <p>[クリア条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • CMPB6=1 の状態を読み出した後、CMFB6 に 0 を書き込んだとき • IREG=B'10 設定時、OCRB7 コンペアマッチ発生で自動的にクリアされる <p style="margin-left: 20px;">1 : コンペアマッチ発生</p> <p>[セット条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • TCNTB6 のカウント値が OCRB6 の値と一致したとき

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
2	CMFB1	0	R/(W)*	<p>コンペアマッチフラグ B1</p> <p>アウトプットコンペアレジスタ B1 (OCRB1) のコンペアマッチ発生を示すステータスフラグです。本フラグの読み出し値が 1 であるとき、CMFB1 でコンペアマッチが発生したことがわかります。</p> <p>本フラグをソフトウェアにより 1 にセットすることはできません。</p> <p>本フラグは、CMFB1 が 1 であることを読み出した後 0 を書き込むことによってフラグのクリアが可能です。1 を読み出さずに 0 を書き込んだ場合、その書き込みは無視されます。</p> <p>0 : コンペアマッチなし</p> <p>[クリア条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • CMPB1=1 の状態を読み出した後、CMFB1 に 0 を書き込んだとき 1 : コンペアマッチ発生 <p>[セット条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • TCNTB1 のカウント値が OCRB1 の値と一致したとき
1	ICFB0	0	R/(W)*	<p>インプットキャプチャフラグ B0</p> <p>インプットキャプチャレジスタ B0 (ICRB0) のインプットキャプチャ発生を示すステータスフラグです。本フラグの読み出し値が 1 であるとき、ICRB0 でインプットキャプチャが発生したことがわかります。</p> <p>本フラグをソフトウェアにより 1 にセットすることはできません。</p> <p>本フラグは、ICFB0 が 1 であることを読み出した後 0 を書き込むことによってクリアが可能です。1 を読み出さずに 0 を書き込んだ場合、その書き込みは無視されます。</p> <p>0 : インプットキャプチャなし</p> <p>[クリア条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • ICFB0=1 の状態を読み出した後、ICFB0 に 0 を書き込んだとき 1 : インプットキャプチャ発生 <p>[セット条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • 外部イベントによるインプットキャプチャトリガにより TCNTB0 の値が ICRB0 に転送されたとき

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
0	CMFB0	0	R/(W)*	<p>コンペアマッチフラグ B0</p> <p>アウトプットコンペアレジスタ B0 (OCRB0) のコンペアマッチ発生を示すステータスフラグです。本フラグの読み出し値が 1 であるとき、CMFB0 でコンペアマッチが発生したことがわかります。</p> <p>本フラグをソフトウェアにより 1 にセットすることはできません。</p> <p>本フラグは、CMFB0 が 1 であることを読み出した後 0 を書き込むことによってフラグのクリアが可能です。1 を読み出さずに 0 を書き込んだ場合、その書き込みは無視されます。</p> <p>0 : コンペアマッチなし</p> <p>[クリア条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • CMPB0=1 の状態を読み出した後、CMFB0 に 0 を書き込んだとき 1 : コンペアマッチ発生 <p>[セット条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • TCNTB0 のカウント値が OCRB0 の値と一致したとき

【注】 * フラグをクリアするため、1 を読み出した後に 0 を書き込むことのみ可能です。1 の書き込みは無効です。

13.13.4 タイマインタラプトイネーブルレジスタ B (TIERB)

TIERB は、8 ビットの読み出し／書き込み可能なレジスタで、インプットキャプチャ／コンペアマッチの割り込み要求の許可／禁止を制御します。

TIERB は、バイト単位で読み出し／書き込みが可能です。

TIERB は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時に H'00 に初期化されます。

ビット :	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	IREG	CMEB6	CMEB1	ICEB0	CMEB0	
初期値 :	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W :	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
7, 6	—	すべて 0	R	<p>リザーブビット</p> <p>読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。</p>
5, 4	IREG	00	R/W	<p>インタラプトイネーブルエッジ</p> <p>TSRB の CMFB6 の割り込み要求出力タイミングを選択します。</p> <p>00 : CMFB6 が有効になったタイミングで割り込み要求出力</p> <p>01 : CMFB6 が有効になった後、次の外部イベント入力タイミングで割り込み要求出力</p> <p>10 : CMFB6 が有効になった後、2 回目の外部イベント入力タイミングで割り込み要求出力。ただし、2 回の外部イベントが入力されるまでにコンペアマッチ B7 が発生した場合は、割り込み要求を出力しない</p> <p>11 : 設定禁止</p>

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
3	CMEB6	0	R/W	<p>コンペアマッチインタラプト B6 イネーブル</p> <p>TSRB のコンペアマッチフラグ B6 (CMFB6) が 1 にセットされているとき、CMFB6 による割り込み要求の出力を許可または禁止します。割り込み要求を出力するタイミングは、IREG を設定することで選択できます。</p> <p>0 : コンペアマッチ割り込み B6 要求の出力を禁止</p> <p>1 : コンペアマッチ割り込み B6 要求の出力を許可</p>
2	CMEB1	0	R/W	<p>コンペアマッチインタラプト B1 イネーブル</p> <p>TSRB のコンペアマッチフラグ B1 (CMFB1) が 1 にセットされているとき、CMFB1 による割り込み要求の出力を許可または禁止します。</p> <p>0 : コンペアマッチ割り込み B1 要求の出力を禁止</p> <p>1 : コンペアマッチ割り込み B1 要求の出力を許可</p>
1	ICEB0	0	R/W	<p>インプットキャプチャインタラプト B0 イネーブル</p> <p>TSRB のインプットキャプチャフラグ B0 (ICFB0) が 1 にセットされているとき、ICFB0 による割り込み要求の出力を許可または禁止します。</p> <p>0 : インプットキャプチャ割り込み B0 要求の出力を禁止</p> <p>1 : インプットキャプチャ割り込み B0 要求の出力を許可</p>
0	CMEB0	0	R/W	<p>コンペアマッチインタラプト B0 イネーブル</p> <p>TSRB のコンペアマッチフラグ B0 (CMFB0) が 1 にセットされているとき、CMFB0 による割り込み要求の出力を許可または禁止します。</p> <p>0 : コンペアマッチ割り込み B0 要求の出力を禁止</p> <p>1 : コンペアマッチ割り込み B0 要求の出力を許可</p>

13.13.5 入力エッジ間計測カウンタ B0 (TCNTB0)

TCNTB0は、32ビットの読み出し/書き込み可能なレジスタで、タイマコントロールレジスタ B (TCRB) のクロックセレクトビット B (CKSELB) で選択した入力クロックによりカウント動作を行います。また、TCNTB0は、外部イベント入力によるインプットキャプチャタイミングでクリア (H'0000 0001) されます。

ATU-III マスタイネーブルレジスタ (ATUENR) のタイマ B イネーブルビット (TBE) が 1 にセットされるとカウント動作を行います。TBE ビットを 0 にクリアするとカウント動作は停止しますが、カウンタ値はクリアされません。

TCNTB0は、ロングワード単位でのみ読み出し/書き込みが可能です。

TCNTB0は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時に H'0000 0001 に初期化されます。

ビット:	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	CNTB0															
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	CNTB0															
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
31~0	CNTB0	H'00000001	R/W	入力エッジ間計測カウンタ 32ビットカウンタ値

13.13.6 インプットキャプチャレジスタ B0 (ICRB0)

ICRB0 は、32 ビットの読み出し専用レジスタで、外部イベントの入力タイミングで TCNTB0 の値が転送されます。このとき、同時にタイマステータスレジスタ B (TSRB) の ICFB0 ビットが 1 にセットされます。

ICRB0 のインプットキャプチャのタイミングで、TCNTB0 は H'00000001 にクリアされます。

ICRB0 は、ロングワード単位でのみ読み出しが可能です。

ICRB0 は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時に H'0000 0000 に初期化されます。

ビット:	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	ICRB0															
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R
ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	ICRB0															
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
31~0	ICRB0	すべて 0	R	インプットキャプチャ B0 32 ビットインプットキャプチャ値

13.13.7 アウトプットコンペアレジスタ B0 (OCRB0)

OCRB0 は、32 ビットの読み出し/書き込み可能なレジスタで、常にフリーランニングカウンタ B0 (TCNTB0) と比較されています。両者の値が一致するとタイマステータスレジスタ B (TSRB) の CMFB0 ビットが 1 にセットされます。タイマインタラプトイネーブルレジスタ B (TIERB) の CMEB0 ビットを 1 にセットすることで、コンペアマッチで CPU へ割り込み要求を出力することができます。

OCRB0 は、ロングワード単位でのみ読み出し/書き込みが可能です。

OCRB0 は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時に H'FFFFFFF に初期化されます。

ビット:	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	OCRB0															
初期値:	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	OCRB0															
初期値:	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

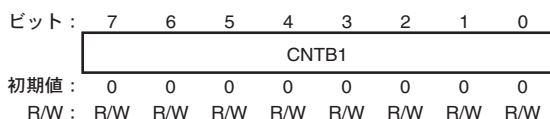
ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
31~0	OCRB0	すべて 1	R/W	アウトプットコンペア B0 32 ビットコンペア値

13.13.8 イベントカウンタ B1 (TCNTB1)

TCNTB1 は、8 ビットの読み出し／書き込み可能なレジスタで、外部イベントのカウンタ動作を行います。
ATU-III マスタイネーブルレジスタ (ATUENR) の TBE ビットがカウンタ動作許可に設定されていなければ、外部イベント入力があってもカウンタ動作を行いません。

TCNTB1 は、バイト単位で読み出し／書き込みが可能です。

TCNTB1 は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時に H'00 に初期化されます。



ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
7~0	CNTB1	すべて0	R/W	イベントカウンタ B1 8 ビットカウンタ値

13.13.9 アウトプットコンペアレジスタ B1 (OCRB1)

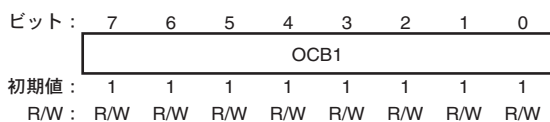
OCRB1 は、8 ビットの読み出し／書き込み可能なレジスタで、常にイベントカウンタ B1 (TCNTB1) と比較されています。両者の値が一致すると、次の Pφクロックに同期して、タイマステータスレジスタ B (TSRB) の CMFB1 ビットが 1 にセットされます。

タイマインタラプトイネーブルレジスタ B (TIERB) の CMEB1 ビットを 1 にセットすることで、コンペアマッチで CPU へ割り込み要求を出力することができます。

このコンペアマッチのタイミングでインプットキャプチャレジスタ B1 (ICRB1) の値がインプットキャプチャレジスタ B2 (ICRB2) に転送されるとともに、ICRB1 はクリアされます。

OCRB1 は、バイト単位で読み出し／書き込みが可能です。

OCRB1 は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時に H'FF に初期化されます。



ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
7~0	OCB1	すべて1	R/W	アウトプットコンペア B1 8 ビットコンペア値

13.13.10 インプットキャプチャレジスタ B1 (ICRB1)

ICRB1 は、32 ビットの読み出し専用レジスタです。外部イベントの入力タイミングで、入力エッジ間計測カウンタ B0 (TCNTB0) の値を ICRB1 に累積して取り込みます。ICRB1 のクリアは、イベントカウンタ B1 (TCNTB1) とアウトプットコンペアレジスタ B1 (OCRB1) でのコンペアマッチ発生時に行われます。

ICRB1 は、ロングワード単位でのみ読み出しが可能です。

ICRB1 は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時に H'00000000 に初期化されます。

ビット :	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	ICRB1															
初期値 :	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W :	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R
ビット :	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	ICRB1															
初期値 :	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W :	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
31~0	ICRB1	すべて0	R	インプットキャプチャ B1 32 ビットインプットキャプチャ値

13.13.11 インプットキャプチャレジスタ B2 (ICRB2)

ICRB2 は、32 ビットの読み出し専用レジスタで、イベントカウンタ B1 (TCNTB1) とアウトプットコンペアレジスタ B1 (OCRB1) でのコンペアマッチ発生時に、インプットキャプチャレジスタ B1 (ICRB1) の値を取り込みます。

ICRB2 は、ロングワード単位でのみ読み出しが可能です。

ICRB2 は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時に H'00000000 に初期化されます。

ビット :	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	ICRB2															
初期値 :	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W :	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R
ビット :	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	ICRB2															
初期値 :	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W :	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
31~0	ICRB2	すべて0	R	インプットキャプチャ B2 32 ビットインプットキャプチャ値

13.13.12 ロードレジスタ B (LDB)

LDB は、32 ビットの読み出し／書き込み可能なレジスタで、ロングワード境界の下位 24 ビットにマッピングされています。

タイマ I/O コントロールレジスタ B (TIORB) の LDSEL ビットが 1 のとき、LDB 値がリロードカウンタ B2 (TCNTB2)、リロードレジスタ B (RLDB) の更新に用いられます。

LDB は、ロングワード単位でのみ読み出し／書き込みが可能です。

LDB は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時に H'00000000 に初期化されます。

ビット:	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	LDVAL							
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R	R	R	R	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	LDVAL															
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
31~24	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
23~0	LDVAL	すべて 0	R/W	ロード値 24 ビットロード値

13.13.13 リロードレジスタ B (RLDB)

RLDB は、32 ビットの読み出し/書き込み可能なレジスタで、ロングワード境界の上位 24 ビットにマッピングされています。

タイマ I/O コントロールレジスタ B (TIORB) の LDEN ビットが 0 のとき、外部イベント入力により RLDB の値が更新されます。

更新データは、インプットキャプチャレジスタ B0 (ICRB0) 値またはロードレジスタ B (LDB) の値から、パルスインターバルマルチプライヤレジスタ (PIMR) の値を減算した値になります。ICRB0 または LDB の値のどちらを用いるかは、TIORB の LDSEL ビットで選択できます。ICRB0-PIMR の計算は、ICRB0 の下位 24 ビットのデータと、PIM の値を上位 12 ビット 0 拡張した 24 ビットデータで行われます。

リロードレジスタ B (RLDB) の内容は、リロードカウンタ B2 ビット (CNTB2) の値がパルスインターバルマルチプライヤ値 (PIM) 以下になると、次のカウントタイミングで TCNTB2 に加算されます。

RLDB は、ロングワード単位でのみ読み出し/書き込みが可能です。

RLDB は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時に H'00000000 に初期化されます。

ビット:	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	RLDVAL															
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	RLDVAL								—	—	—	—	—	—	—	—
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
31~8	RLDVAL	すべて 0	R/W	リロード値 24 ビットリロード値
7~0	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。

13.13.14 リロードカウンタ B2 (TCNTB2)

TCNTB2は、32ビットの読み出し/書き込み可能なレジスタで、タイマコントロールレジスタ B (TCRB) のクロックセレクトビット B (CKSELB) で選択した入力クロックによりカウント動作を行います。ダウンカウントは、パルスインターバルマルチプライヤレジスタ (PIMR) に設定された値で行われます。

ATU-III マスタイネーブルレジスタ (ATUENR) の TBE ビットが 1 にセットされていなければ、カウント動作は行いません。また TBE ビットが 0 にクリアされても、カウンタ値はクリアされません。

タイマ I/O コントロールレジスタ B (TIORB) の LDEN ビットが 0 のとき、外部イベント入力により TCNTB2 の値が更新されます。

更新データは、インプットキャプチャレジスタ B0 (ICRB0) 値もしくはロードレジスタ B (LDB) の値になります。ICRB0 または LDB の値のどちらを用いるかは、TIORB の LDSEL ビットで選択できます。

また、TCNTB2 はダウンカウント動作で、 $CNTB2 \leq PIM$ となったとき、次のカウントタイミングでリロードレジスタ B (RLDB) の値を TCNTB2 に加算します。このリロードタイミングに P klok の 1 サイクル分のパルスを出力することで、倍周クロック (AGCK1) を生成します。

TCNTB2 は、ロングワード単位でのみ読み出し/書き込みが可能です。

TCNTB2 は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時に H'00000000 に初期化されます。

ビット:	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	CNTB2															
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	CNTB2								—	—	—	—	—	—	—	—
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
31~8	CNTB2	すべて 0	R/W	リロードカウンタ B2 24 ビットリロードカウンタ値
7~0	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。

13.13.15 パルスインターバルマルチプライヤレジスタ (PIMR)

PIMR は、16 ビットの読み出し／書き込み可能なレジスタで、外部入力周期に対する倍周クロックの逡倍比を設定します。

逡倍比には、1 (H'001) ～4095 (H'FFF) まで設定可能です。ただし、PIM に H'000 を設定しないでください。PIM に H'000 を設定した場合、その後の動作は保証されません。

リロードカウンタ B2 (TCNTB2) は、PIMR の設定値 (PIM) でダウンカウントを行います。また、PIMR の値は、リロードレジスタ B (RLDB) の入力値の計算および補正イベントカウンタ B3 (TCNTB3) の入力値の計算にも用いられます。

PIMR は、ワード単位でのみ読み出し／書き込みが可能です。

PIMR は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時に H'0001 に初期化されます。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	PIM											
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
R/W:	R	R	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15～12	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
11～0	PIM	H'001	R/W	パルスインターバルマルチプライヤ 倍周クロックの逡倍比を設定します。逡倍比は、1～4095 逡倍の間で設定できます。

13.13.16 倍周クロックカウンタ B6 (TCNTB6)

TCNTB6は、32ビットの読み出し/書き込み可能なレジスタで、倍周クロック (AGCK1) でカウントアップ動作を行います。外部イベント入力により TCNTB6 は H'00000000 に初期化されます。

ATU-III マスタイネーブルレジスタ (ATUENR) の TBE ビットが 1 にセットされるとカウント動作を行います。TBE ビットを 0 にクリアするとカウント動作は停止しますが、カウンタ値はクリアされません。

TCNTB6 は、ロングワード単位でのみ読み出し/書き込みが可能です。

TCNTB6 は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時に H'0000 0000 に初期化されます。

ビット:	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	CNTB6															
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	CNTB6															
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
31~12	CNTB6	すべて 0	R/W	倍周クロックカウンタ B6 20 ビット倍周クロックカウンタ値
11~0	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。

13.13.17 アウトプットコンペアレジスタ B6 (OCRB6)

OCRB6 は、32 ビットの読み出し/書き込み可能なレジスタで、ロングワードの上位 20 ビットにアウトプットコンペア B6 (OCRB6) がマッピングされています。タイマ I/O コントロールレジスタ B (TIORB) の IOB6 ビットの設定により、倍周クロックカウンタ B6 (TCNTB6) と OCRB6 のコンペアマッチを行うかどうかを選択できます。

IOB6 ビットがコンペアマッチ許可に設定されているとき、OCRB6 と TCNTB6 の両者が一致した状態で倍周クロック (AGCK1) が入力されると、タイマステータスレジスタ B (TSRB) の CMFB6 ビットが 1 にセットされます。タイマインタラプトイネーブルレジスタ B (TIERB) の CMEB6 ビットを 1 に設定することで、このコンペアマッチで CPU に割り込み要求を出力することが可能です。

OCRB6 は、ロングワード単位でのみ読み出し/書き込みが可能です。

OCRB6 は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時に H'FFFFFF000 に初期化されます。

ビット:	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	OCRB6															
初期値:	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	OCRB6				—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値:	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
31~12	OCRB6	すべて 1	R/W	アウトプットコンペア B6 20 ビットコンペア値
11~0	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。

13.13.18 アウトプットコンペアレジスタ B7 (OCRB7)

OCRB7は、32ビットの読み出し/書き込み可能なレジスタで、ロングワードの上位20ビットにアウトプットコンペア B7 (OCB7) がマッピングされています。

OCRB7とTCNTB6の両者が一致した状態で、倍周クロック (AGCK1) が入力されると、コンペアマッチを発生します。タイムインタラプトイネーブルレジスタ B (TIERB) の IREG ビットが B'10 に設定されていれば、このコンペアマッチ発生により、タイムステータスレジスタ B (TSRB) の CMFB6 は 0 にクリアされます。

OCRB7には、OCRB7のコンペアマッチ発生を示すステータスフラグおよび割り込み要求はありません。

OCRB7は、ロングワード単位でのみ読み出し/書き込みが可能です。

OCRB7は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時に H'FFFFFF00 に初期化されます。

ビット:	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	OCB7															
初期値:	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	OCB7															
初期値:	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
31~12	OCB7	すべて 1	R/W	アウトプットコンペア B7 20 ビットコンペア値
11~0	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。

13.13.19 補正イベントカウンタ B3 (TCNTB3)

TCNTB3は、32ビットの読み出し/書き込み可能なレジスタです。

外部イベント入力のタイミングで、カウンタ値を倍周補正クロックカウンタ B4 (TCNTB4) に転送後、アップカウンタ動作を行います。アップカウンタは、パルスインターバルマルチプライヤレジスタ (PIMR) の値で行います。

ATU-III マスタイネーブルレジスタ (ATUENR) の TBE ビットが 1 にセットされていなければカウンタ動作は行いません。また、TBE ビットが 0 にクリアされてもカウンタ値はクリアされません。

TCNTB3 は、ロングワード単位でのみ読み出し/書き込みが可能です。

TCNTB3 は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時に H'00000000 に初期化されます。

ビット:	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	CNTB3															
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	CNTB3															
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
31~12	CNTB3	すべて 0	R/W	補正イベントカウンタ B3 20 ビットイベントカウンタ値
11~0	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。

13.13.20 倍周補正クロックカウンタ B4 (TCNTB4)

TCNTB4は、32ビットの読み出し／書き込み可能なレジスタで、20ビットのアップカウンタです。TCNTB4は、外部イベント入力のタイミングでTCNTB3の値をロードします。

TCNTB4は、リロードカウンタ B2 (TCNTB2) が出力する倍周クロック (AGCK1) でアップカウント動作を行います。CNTB4は、CNTB3=H'00000のときに外部イベントが入力されるとH'00000に初期化されます。

タイマ I/O コントロールレジスタ B (TIORB) の CCS ビットが 1 の場合、TCNTB4 のカウント値と TCNTB3 の値が一致するとカウント動作を停止します。CCS ビットが 0 の場合は、カウント動作を停止しません。

ATU-III マスタイネーブルレジスタ (ATUENR) の TBE ビットが 1 にセットされていなければカウント動作を行いません。また、TBE ビットを 0 にクリアするとカウント動作は停止しますが、カウンタ値はクリアされません。

TCNTB4は、ロングワード単位でのみ読み出し／書き込みが可能です。

TCNTB4は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時にH'0000 0000に初期化されます。

ビット:	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	CNTB4															
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	CNTB4															
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
31~12	CNTB4	すべて0	R/W	補正倍周クロックカウンタ B4 20 ビット倍周クロックカウンタ値
11~0	—	すべて0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。

13.13.21 倍周補正クロック生成カウンタ B5 (TCNTB5)

TCNTB5 は、32 ビットの読み出し／書き込み可能なレジスタです。TCNTB5 は、ATU-III マスタイネーブルレジスタ (ATUENR) の TBE ビットがカウンタ動作許可で、タイマ I/O コントロールレジスタ B (TIORB) のカウントコントロール B5 ビット (CTCNTB5) がカウント許可に設定されているとき、カウント値が倍周補正クロックカウンタ B4 (TCNTB4) よりも小さければ Pφクロックでカウントアップ動作を行い、補正カウンタクリアレジスタ B (TCCLRB) の設定値と一致した時点でカウント動作を停止します。

また、CNTB3=H'00000 のときに外部イベントが入力されると、TCNTB5 のカウント値の補正およびクリアが行われます。このときの動作は、TCNTB5 のカウント値によって下記ようになります。

- TCNTB5=TCCLRB のとき

TCNTB5はH'0000 1000にクリアされます。

- TCNTB5≠TCCLRB のとき

TCNTB5はTCCLRBの値まで自動的にカウントアップした後、H'0000 1000にクリアされます。

なお、本カウンタのカウントアップごとに倍周補正クロック (AGCKM) が生成されます。AGCKM は、クロックバスコントロールレジスタ (CBCNT) の CB5SEL ビットを 1 に設定することで、クロックバス 5 に出力することが可能です。また、カウント動作中に、TIORB の CTCNTB5 ビットをカウント動作停止、許可と順に設定することにより、AGCKM の出力を一時的に停止させることが可能です。

TCNTB5 は、ロングワード単位でのみ読み出し／書き込みが可能です。

TCNTB5 は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時に H'0000 1000 に初期化されます。

ビット:	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	CNTB5															
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	CNTB5			—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値:	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
31~12	CNTB5	H'00001	R/W	倍周補正クロック生成カウンタ B5 20 ビット倍周補正クロックカウンタ値
11~0	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。

13.13.22 補正カウンタクリアレジスタ B (TCCLRB)

TCCLRB は、32 ビットの読み出し／書き込み可能なレジスタです。

TCCLRB は TCNTB5 と常に比較されており、両者が一致すると TCNTB5 はカウント動作を停止します。このとき、タイマ D に対してカウンタクリアトリガを出力します。タイマ D のタイマコントロールレジスタ Dn (TCRDn) の対応するカウンタクリアイネーブルを設定することにより、タイマ D の TCNT1Dn、TCNT2Dn を個別にクリアすることが可能です。

TCCLRB は、ロングワード単位でのみ読み出し／書き込みが可能です。

TCCLRB は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時に H'00000000 に初期化されます。

ビット:	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	CCLRB															
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	CCLRB				—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
31~12	CCLRB	すべて0	R/W	補正カウンタクリア B 20 ビット補正カウンタクリア値
11~0	—	すべて0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。

13.14 タイマ B の動作説明

13.14.1 エッジ間計測機能およびエッジ入力停止検出機能

タイマ B のインプットキャプチャレジスタ B0 (ICRB0) およびアウトプットコンペアレジスタ B0 (OCRB0) は、無条件でそれぞれインプットキャプチャ/コンペアマッチ動作を行います。これらはフリーランニングカウンタ B0 (TCNTB0) に接続されています。

ATU-III マスタイネーブルレジスタ (ATUENR) の TBE ビットを 1 に設定すると、タイマ B が動作を開始します。

タイマ A 経由で入力されるイベント (AGCK) 入力により、ICRB0 は TCNTB0 の値をキャプチャします。また、キャプチャと同時に TCNTB0 は H'00000001 にクリアされます。

タイマインタラプトイネーブルレジスタ B (TIERB) を設定することにより、このキャプチャタイミングで CPU に割り込み要求を出力することができます。これにより外部イベントエッジ間の時間計測が可能になります。

また、ICRB0 にキャプチャされた値は、倍周クロック生成ブロックに転送され、リロードカウンタ B2 (TCNTB2)、リロードレジスタ B (RLDB) の入力値として使われます。

TCNTB0 が OCRB0 に設定された値に達したとき、TIERB の設定よりコンペアマッチによる割り込み要求出力が可能です。これにより OCRB0 に設定された時間以上にエッジ入力が停止したことを検出することができます。

図 13.13 に、TCNTB0 のインプットキャプチャ動作とコンペアマッチ動作を示します。

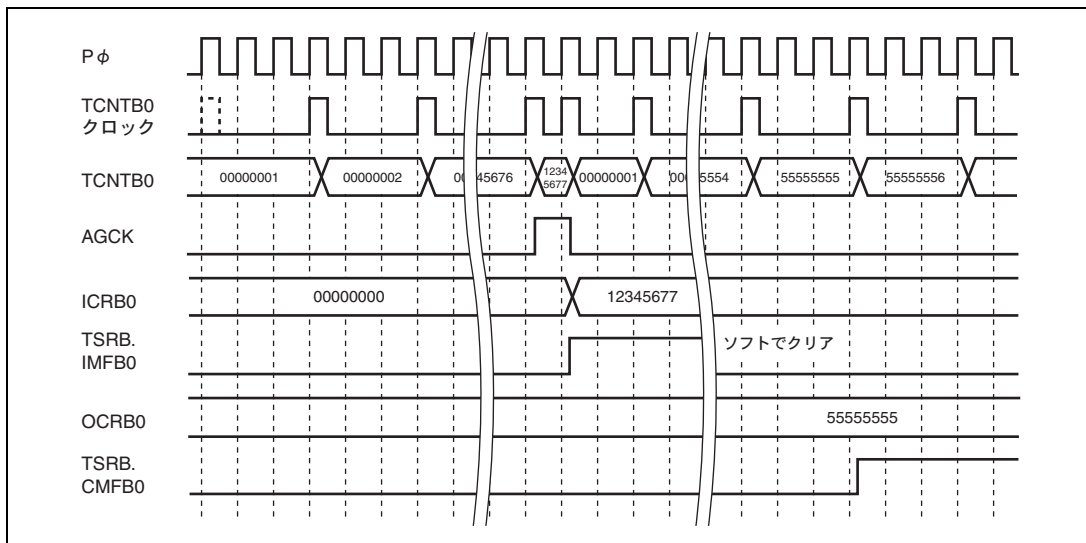


図 13.13 TCNTB0 のインプットキャプチャ動作とコンペアマッチ動作

外部イベント (AGCK) は、イベントカウンタ B1 (TCNTB1) でカウントされます。あらかじめアウトプットコンペアレジスタ B1 (OCRB1) に値を設定しておく、TCNTB1 が OCRB1 に一致したときにコンペアマッチが発生します。このコンペアマッチのタイミングでインプットキャプチャレジスタ B2 (ICRB2) はインプットキャプチャレジスタ B1 (ICRB1) の値をキャプチャすることができます。また、TIER の CMEB1 ビットを 1 にセットしておく、CPU へ割り込み要求を出力することが可能です。これにより、外部イベントのエッジ入力停止を検出することができます。

ICRB1 は、外部イベント (AGCK) をトリガとして TCNTB0 の値を ICRB1 の値に累積してキャプチャするレジスタです。この ICRB1 の値は、TCNTB1 と OCRB1 のコンペアマッチで ICRB2 に取り込むことができ、これにより複数エッジ間の時間計測が行えます。

図 13.14 に、TCNTB1 のコンペアマッチ動作および ICRB1 と ICRB2 のキャプチャ動作を示します。

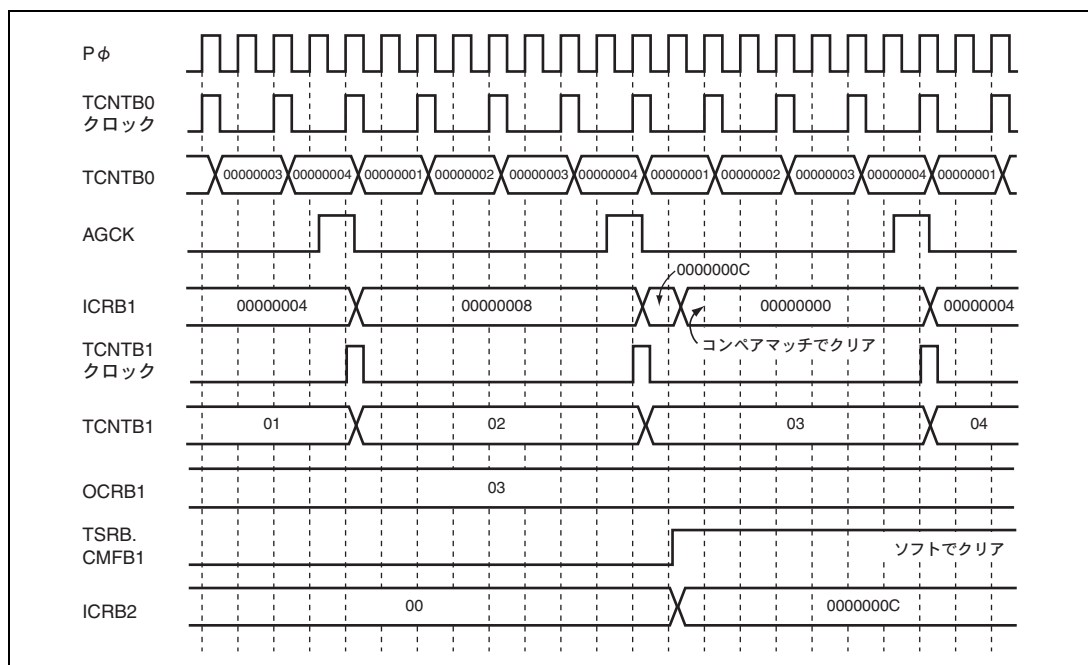


図 13.14 TCNTB1 のコンペアマッチ動作および ICRB1 と ICRB2 のキャプチャ動作

13.14.2 倍周クロック生成機能

倍周クロック生成ブロックは、外部イベント (AGCK) の入力エッジ間を、パルスインターバルマルチプライヤレジスタ (PIMR) で設定した値で逡倍した倍周クロック (AGCK1) を生成します。

外部イベント入力タイミングで、エッジ間計測ブロックの ICRB0 でキャプチャされた値 (下位 24 ビット) が、リロードカウンタ B2 (TCNTB2) に転送されます。また、リロードレジスタ B (RLDB) にも、ICRB0 でキャプチャされた値 (下位 24 ビット) から PIMR レジスタに設定された値 (PIM) を減算した値が取り込まれます。

タイマ I/O コントロールレジスタ B (TIORB) の LDSEL ビットを設定することにより、ICRB0 値の代わりにロードデータレジスタ (LDB) の値を、TCNTB2、RLDB の入力データとして用いることもできます。

リロードカウンタ B2 (TCNTB2) は、タイマコントロールレジスタ B (TCRB) の CKSELB ビットで選択したクロックによりダウンカウントを行います。ダウンカウントは PIM 値で行われます。このカウンタは、カウント値が PIM の設定値以下に達すると、自動的に RLDB から値を読み込み再度ダウンカウント動作を繰り返します。このリロードタイミングに入力クロック 1 サイクル分のパルスを出力することで、倍周クロック信号 (AGCK1) を生成します。

また、アウトプットコンペアレジスタ B6 (OCRB6) と、倍周クロックカウンタ B6 (TCNTB6) を用いて倍周クロック (AGCK1) によるコンペアマッチ動作が可能です。

TCNTB6 は無条件に AGCK1 でカウントアップを行います。タイマインタラプトイネーブルレジスタ B (TIERB) の設定により、TCNTB6 が OCRB6 と一致したとき CPU へ割り込み要求を出力することができます。この割り込みタイミングは、TIERB の IREG ビットを設定することにより、コンペアマッチ発生時、コンペアマッチ発生後の AGCK 入力時、あるいはコンペアマッチ発生後 2 回目の AGCK 入力時から選択することができます。

AGCK1 は、1 つ前の入力エッジ間隔を参考にして生成されているため、連続する 2 つのエッジ間隔に変化が生じた場合は、PIM で設定したとおりに正しく逡倍されません。このため、AGCK1 は「13.14.3 倍周クロック補正機能」で説明する倍周クロック補正機能により補正され、倍周補正クロック (AGCKM) に変換されます。

図 13.15、図 13.16 にリロードカウンタ動作と倍周クロック出力を、図 13.17、図 13.18 に TCNTB6 のコンペアマッチ動作および各 IREG 設定による CMFB6 割り込み要求出力を示します。

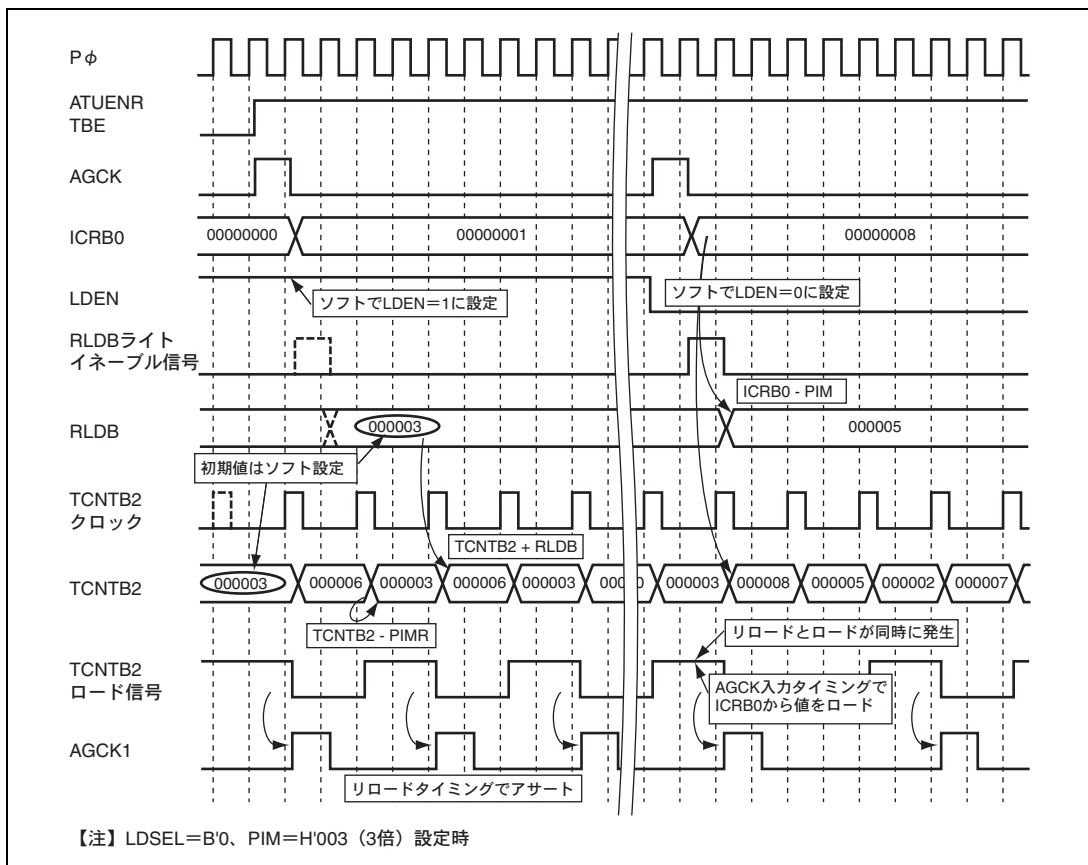


図 13.15 リロードカウント動作と倍周クロック出力 (1)

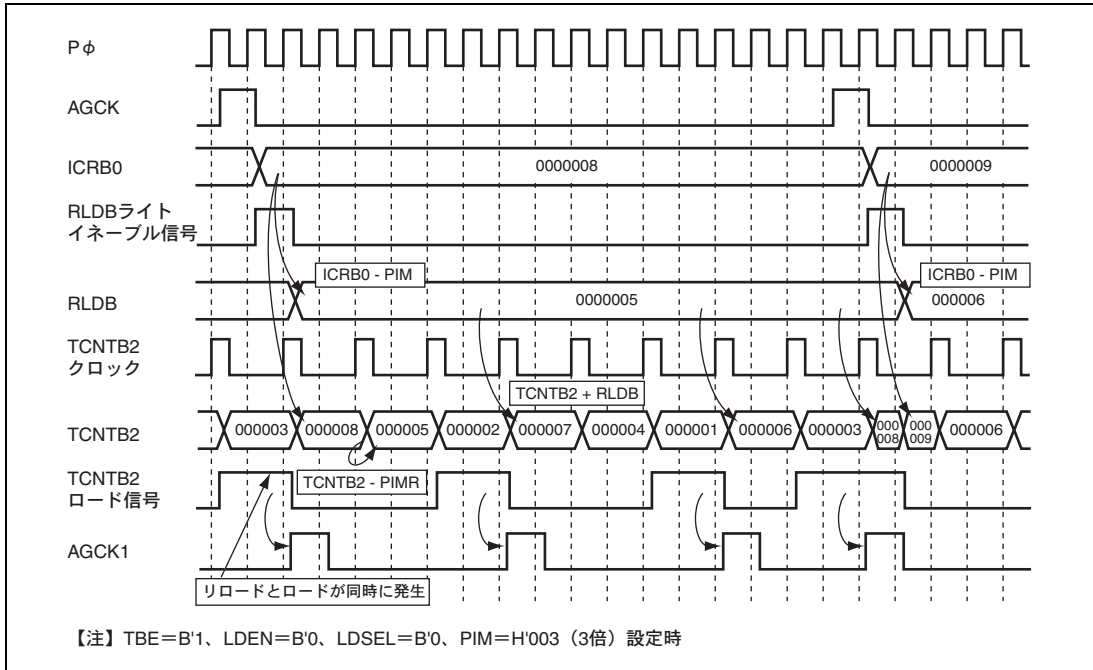


図 13.16 リロードカウント動作と倍周クロック出力 (2)

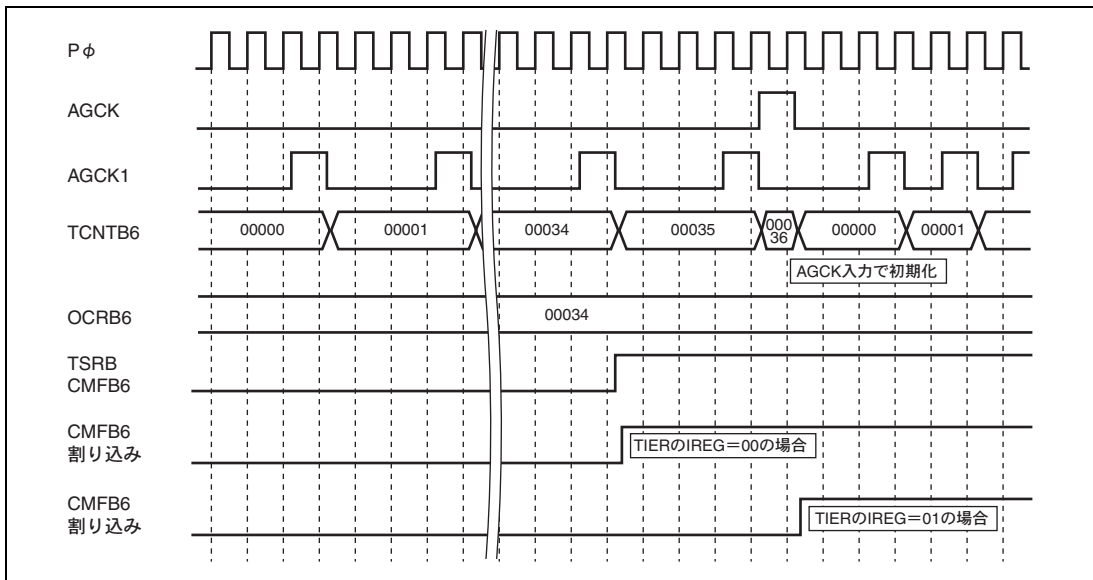


図 13.17 TCNTB6 のコンペアマッチ動作および CMFB6 割り込み出力 (IREG=B'00、B'01)

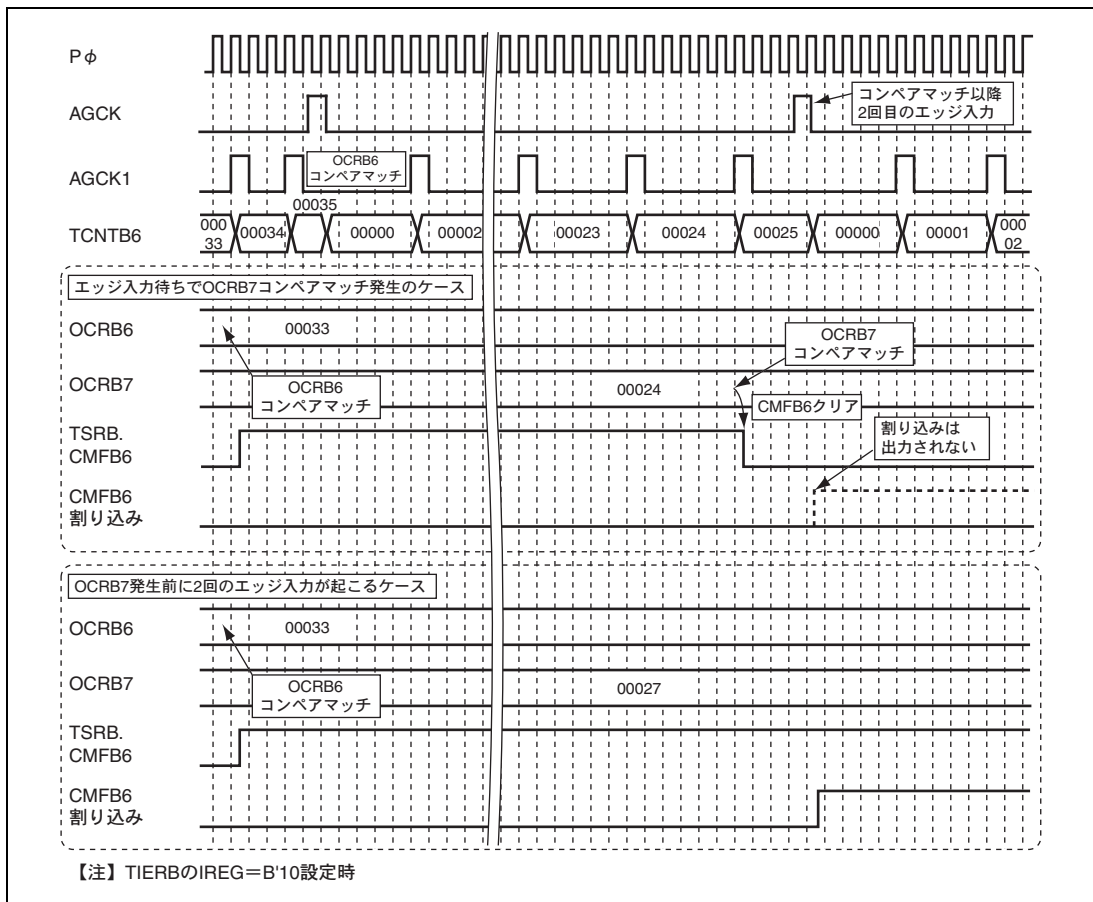


図 13.18 IREG=B'10 設定時の CMFB6 割り込み出力

13.14.3 倍周クロック補正機能

補正イベントカウンタ B3 (TCNTB3)、倍周補正クロックカウンタ B4 (TCNTB4)、倍周補正クロック生成カウンタ B5 (TCNTB5)、補正カウンタクリアレジスタ B (TCCLRB) は、外部イベントの入力エッジ間を PIMR の PIM ビットで設定された倍周値に補正する機能を持っています。

TCNTB3 は、外部イベント (AGCK) をカウントソースとする 20 ビットのアップカウンタです。AGCK が入力されると、TCNTB3 値が TCNTB4 に転送され、その後 TCNTB3 は PIM 値でアップカウントを行います。

TCNTB4 は、倍周クロック (AGCK1) をカウントソースとする 20 ビットのアップカウンタです。TCNTB4 は、AGCK をトリガとして TCNTB3 をロードし、AGCK1 によりカウントアップします。

TIORB のカウンタコレクションセレクトビット (CCS) は、TCNTB4 のアップカウント動作の設定を行うものです。TCNTB3 のカウント値と、TCNTB4 のカウント値が一致した場合に、TCNTB4 のアップカウント動作を停止するかしないかを選択できます。

TCNTB5 は、Pφクロックをカウントソースとする 20 ビットのアップカウンタであり、高速にカウント動作を行います。TCNTB5 の値は常に TCNTB4 と比較されており、TCNTB5 のカウント値が TCNTB4 のものより小さいときのみカウントアップを行います。TCNTB5 は、このカウントアップ時に周辺クロック 1 サイクル分のパルスを出力します。これが倍周補正クロック信号 (AGCKM) であり、クロックバスコントロールレジスタ (CBCNT) の CB5SEL ビットの設定によりクロックバス 5 に出力することが可能です。他のタイマモジュールは、クロックバス 5 経由で AGCKM をカウントソースとして使用できます。

TCNTB5 が TCNTB4 の値を上回ったときには (TCNTB4 が TCNTB3 をロードしたときに起こりえる)、カウントアップ動作を行いません。また、タイマ I/O コントロールレジスタ B (TIORB) のカウントコントロール B5 ビット (CTCNTB5) の設定により、TCNTB5 のカウント動作を許可または禁止することができ、AGCKM の出力を制御することが可能です。

TCNTB5 のカウント動作は、補正カウンタクリアレジスタ B (TCCLRB) の値と一致するまで行われます。TCNTB5 が TCCLRB と一致すると、TCNTB4 の値にかかわらずカウント動作は行われません。さらに、タイマ D のタイマコントロールレジスタ Dn (TCRDn) の対応するカウンタクリアイネーブル (C1CEDn、C2CEDn) を 1 に設定することで、この一致をトリガとしてタイマ D のカウンタ (TCNT1Dn、TCNT2Dn) を個別にクリアすることができます。

TCNTB4 の値は、TCNTB3 が H'00000000 のときに外部イベント (AGCK) が入力されると無条件で H'00000000 にクリアされます。また、TCNTB5 の値は、TCNTB3 が H'00000000 のときに外部イベント (AGCK) が入力されると H'00001000 にクリアされます。このとき、TCNTB5 のカウント値が、TCCLRB の値と一致してなければ、いったん TCNTB5 を TCCLRB と一致するまでカウントアップした後でカウンタのクリアを行います。

図 13.19 に TCNTB3 および TCNTB4 の動作、図 13.20 に TCNTB5 の動作 (起動時)、図 13.21 に TCNTB5 の動作 (サイクル終了、補正あり)、図 13.22 に TCNTB5 の動作 (サイクル終了、補正なし) を示します。

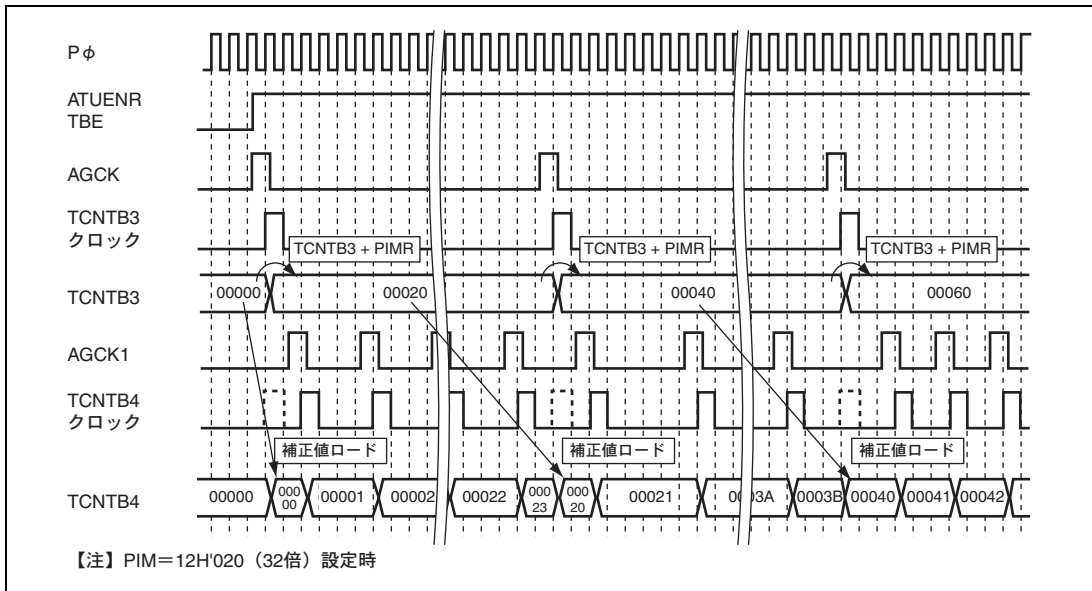


図 13.19 TCNTB3、TCNTB4 の動作

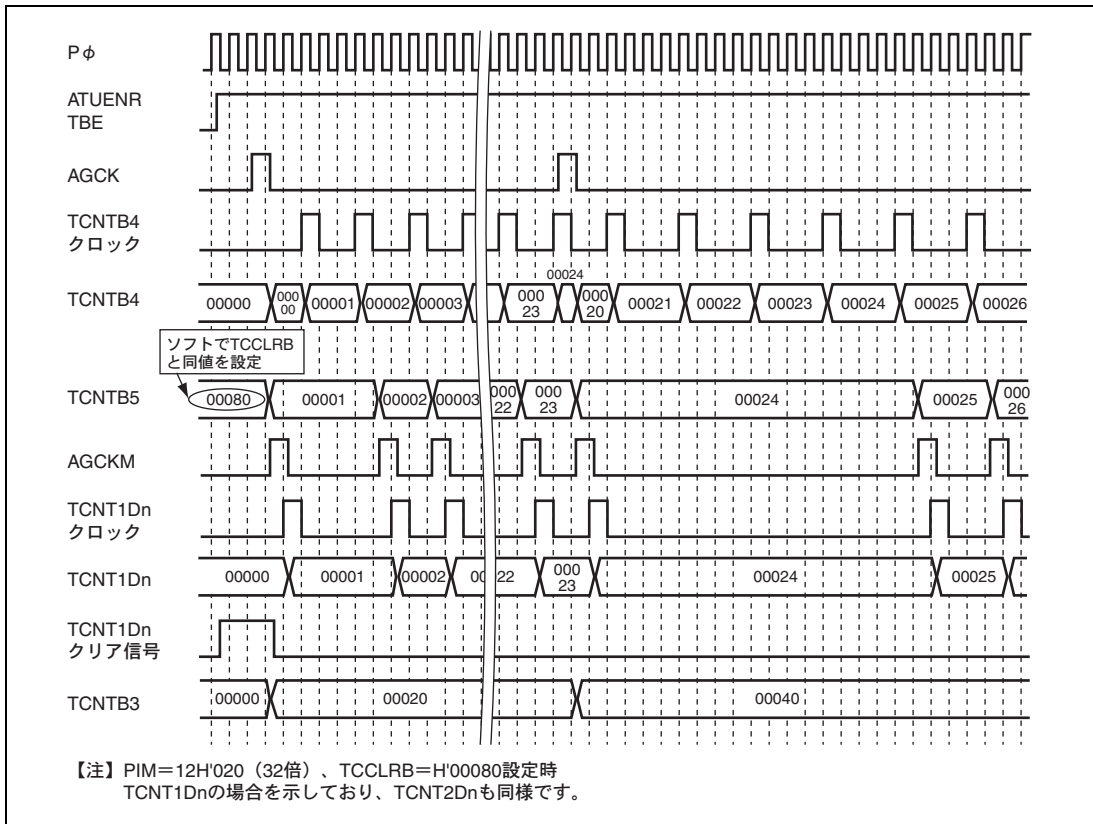


図 13.20 TCNTB5 の動作 (起動時)

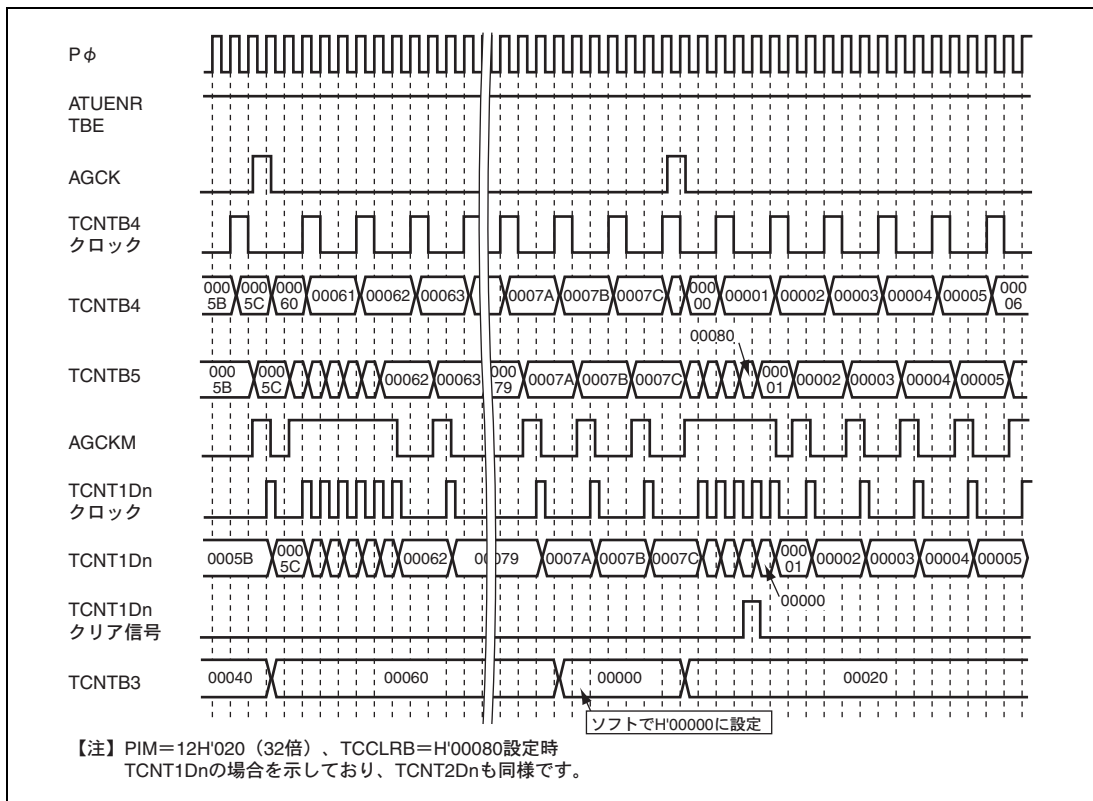


図 13.21 TCNTB5 の動作 (サイクル終了、補正あり)

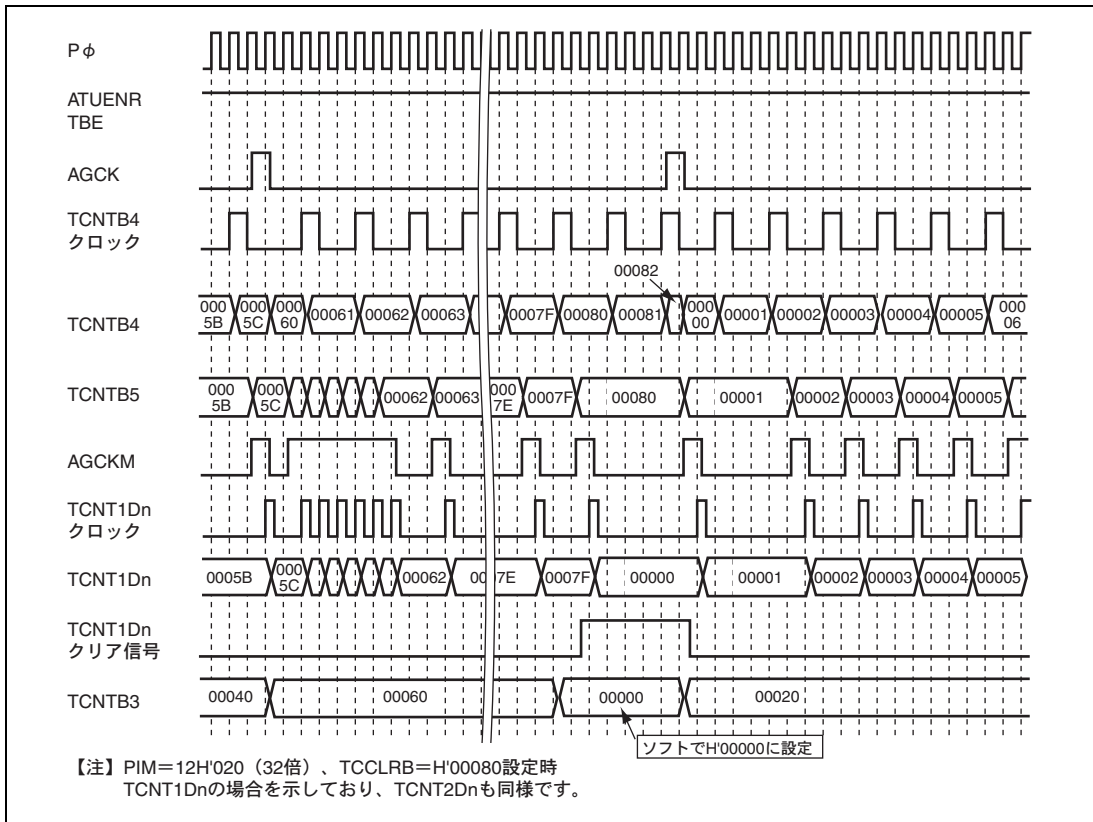


図 13.22 TCNTB5 の動作 (サイクル終了、補正なし)

13.15 タイマ C の概要

タイマ C は、5 個のサブブロックによって構成される汎用タイマで、以下の機能を実現することができます。

- インพุットキャプチャ、アウトプットコンペアの選択が可能です。
- インพุットキャプチャの検出エッジを立ち上がり／立ち下がり／両エッジから選択可能です。
- コンペアマッチで波形出力が可能です。出力はレジスタ設定により1出力／0出力／トグル出力から選択できます。
- キャプチャタイミング／コンペアマッチタイミングで、割り込み要求の出力が可能です。

DMACへの割り込み要求として使用されるC00、C10、C20、C30、C40のみACKによるステータスクリアが可能です。

- タイマカウントオーバフローで割り込み要求の出力ができます。
- コンペアマッチでカウンタのクリアが可能です（ただしGRCn0のみ。GRCn1～3は未対応）。
- 強制コンペアマッチビットを設定することで強制的にコンペアマッチを発生させることが可能です。
- 各インพุットキャプチャトリガ入力にノイズキャンセル機能を搭載

13.15.1 ブロック図

タイマCは、5個のサブブロックで構成されます。各サブブロックは、1本のタイマカウンタC (TCNTC) と、4本の汎用レジスタC (GRC)、および制御部などで構成されています。汎用レジスタはインプットキャプチャ/コンペアマッチとして使用でき、インプットキャプチャトリガ入力/アウトプットコンペア出力としての入出力端子 (TIOcnm) を備えています。

アウトプットコンペアとして使用する場合の TIOcnm 出力の初期値は0です。それ以降は、直前の動作状態が反映されます。

図 13.23 に、タイマCのブロック図を示します。

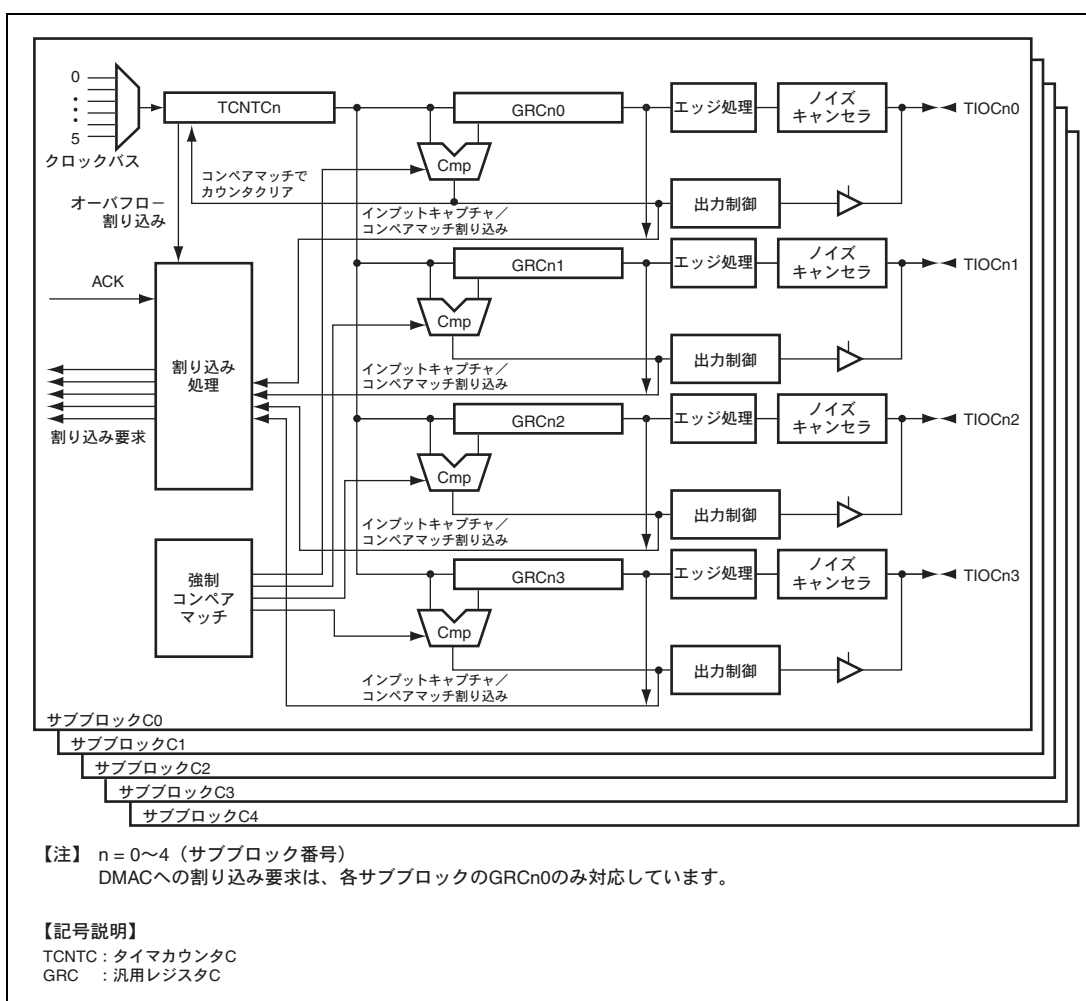


図 13.23 タイマCのブロック図

13.16 タイマ C のレジスタの説明

13.16.1 タイマスタートレジスタ C (TSTRC)

TSTRC は、8 ビットの読み出し／書き込み可能なレジスタで、5 つのサブブロック C0～C4 のタイマカウンタ C (TCNTC) の動作／停止を設定します。ただし、STRC ビットを 1 にセットしていても、ATU-III マスタイネープルレジスタ (ATUENR) の TCE ビットがイネーブルに設定されていなければ、カウント動作は行われません。

TSTRC は、バイト単位で読み出し／書き込みが可能です。

TSTRC は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時に H'00 に初期化されます。

ビット:	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	STRC4	STRC3	STRC2	STRC1	STRC0
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
7～5	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
4	STRC4	0	R/W	カウンタ C4 スタート サブブロックのタイマカウンタ Cn (TCNTCn) を動作させるか停止させるかを設定します。 STRCn ビットを 0 にクリアした場合、TCNTCn は動作を停止します。停止時はカウンタ値をそのまま保持し、再度本ビットを 1 にセットした場合には、その値から動作を再開します。 ただし、本ビットを 1 にセットしても、ATUENR の TCE ビットが 1 にセットされていなければカウント動作は開始されません。 0 : TCNTCn のカウント動作を停止 1 : TCNTCn のカウント動作を許可 【注】 プリスケアラはカウンタ Cn スタートビットの設定に関係なく動作しており、TCNTCn の動作開始時にも初期化は行われません。したがって、起動から実際に TCNTCn がカウント動作を開始するまでの時間には、選択されたカウントソースの周期 (分解能) 以下のハードウェア的な不確定さが伴います。
3	STRC3	0	R/W	
2	STRC2	0	R/W	
1	STRC1	0	R/W	
0	STRC0	0	R/W	

【注】 n=0～4

13.16.2 ノイズキャンセラコントロールレジスタ C0~4 (NCCRC0~4)

NCCRC0~4は、8ビットの読み出し/書き込み可能なレジスタです。本レジスタの設定により、サブブロックC0~4のTIOCnm端子からのインプットキャプチャトリガ入力信号に対してノイズキャンセル処理が可能となります。ノイズキャンセル処理には2つのモードがあり、NCCRCnで切り替え可能です。

NCCRC0~4は、バイト単位で読み出し/書き込みが可能です。

NCCRC0~4は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時にH'00に初期化されます。

ビット:	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	NCEC n3	NCEC n2	NCEC n1	NCEC n0
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
7~4	—	すべて0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。
3	NCECn3	0	R/W	ノイズキャンセララインナップ Cn3~n0 サブブロック C0~4 の入出力端子 TIOCnm に対してノイズキャンセル機能の有効/無効を設定します。 0 : TIOCnm 入力のノイズキャンセル機能を無効に設定 1 : TIOCnm 入力のノイズキャンセル機能を有効に設定 本ビットを1にセットした後、TIOCnmからの入力信号のレベル変化を検出すると、共通制御部内のNCMRレジスタの設定にあわせて、後続エッジキャンセルモードまたは先行エッジキャンセルモードのいずれかの処理を開始します。 後続エッジキャンセルモードでは、入力信号のレベル変化を検出すると、ノイズキャンセル後の信号として、その変化を出力します。また同時に、対応するNCNTCnmがアップカウントを開始します。このノイズキャンセルカウンタがノイズキャンセルレジスタCnm(NCRCnm)の値とコンペアマッチするまでの間、入力信号のレベル変化はマスクされます。コンペアマッチ時には、そのときの入力信号のレベルがノイズキャンセル後の信号として出力されます。 NCNTCnmがカウント動作中にこれらのビットを0にクリアした場合、クリアした後もコンペアマッチするまでカウント動作は停止せず、その間も入力信号のレベル変化はマスクされ続けます。 先行エッジキャンセルモードでは、入力信号のレベル変化を検出すると、対応するNCNTCnmがアップカウントを開始します。NCNTCnmの値がNCRCnmの値とコンペアマッチするまでの間に入力信号のレベルに変化がなければ、コンペアマッチタイミングで初めてレベル変化をノイズキャンセル後の信号として出力します。コンペアマッチまでに入力信号レベルが変化した場合はノイズとみなされ、ノイズキャンセラは入力信号のレベル変化がなかったものとしてノイズキャンセル後の信号を変化させません。 NCNTCnmがカウント動作中にこれらのビットを0にクリアした場合、クリアした後もコンペアマッチするか、あるいは入力信号レベルに変化があるまでの間、カウント動作は停止せずノイズキャンセル処理を継続します。 各キャンセルモードの動作例は、図13.1および図13.2を参照してください。
2	NCECn2	0	R/W	
1	NCECn1	0	R/W	
0	NCECn0	0	R/W	

【注】 n=0~4、m=0~3。

13.16.3 タイマコントロールレジスタ C0~4 (TCRC0~4)

TCRC0~4 は、8 ビットの読み出し／書き込み可能なレジスタで、サブブロック C0~C4 のカウントクロックの選択、動作モードの設定、および強制コンペアマッチの設定を行います。

TCRC0~4 は、バイト単位で読み出し／書き込みが可能です。

TCRC0~4 は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時に H'00 に初期化されます。

ビット:	7	6	5	4	3	2	1	0
	FCMC _{n3}	FCMC _{n2}	FCMC _{n1}	FCMC _{n0}	PWM _{n0}	CKSEL _{Cn} [2:0]		
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

【注】 n=0~4: サブブロックC0~C4に対応。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
7	FCMC _{n3}	0	R/W	強制コンペアマッチ Cnm 汎用レジスタ Cnm をコンペアマッチレジスタとして使用している場合、FCMC _n m を 1 にセットすることにより強制的にコンペアマッチを発生させます。 0: 汎用レジスタ GRC _n m での強制コンペアマッチ禁止 1: 汎用レジスタ GRC _n m で強制的にコンペアマッチ発生 FCMC _n m ビットを 1 にセットすると、セットされた次の Pφクロックサイクルで TSR _{Cn} (タイムステータスレジスタ Cn) の IMFC _n m ビット (コンペアマッチフラグ) を 1 にセットします。また、TIO _{Cn} m からの出力もコンペアマッチ発生時と同様に変化します。 本ビットが 1 にセットされている間は、GRC _n m と TCNT _{Cn} の値にかかわらず常にコンペアマッチ発生状態を維持します。この間も、TCNT _{Cn} はカウントクロックに応じてカウントアップ動作を続けます。 TSR _{Cn} (タイムステータスレジスタ Cn) の IMFC _n m ビット (コンペアマッチフラグ) が 0 にクリアされると、本ビットも自動的に 0 にクリアされます。本ビットが 0 にクリアされるまでの間、汎用レジスタとカウンタにおけるコンペアマッチは無視されます。 FCMC _n m ビットがクリアされた後は、TCNT _{Cn} と GRC _n m によるコンペアマッチは可能となります。 PWM _{n0} ビット、FCMC _{n0} ビットをともに 1 にセットした場合、強制コンペアマッチによりカウンタクリアおよび TIO _{Cn} m への IO _{Cn0} 設定値の出力が行われます。その後、TCNT _{Cn} は H'0000 00 からカウントアップを再開します。この後、FCMC _{n0} ビットが 1 であるかぎり新たなコンペアマッチは検出しません (コンペアマッチによるカウンタクリアは各サブブロックのチャネル 0 のみ対応)。
6	FCMC _{n2}	0	R/W	
5	FCMC _{n1}	0	R/W	
4	FCMC _{n0}	0	R/W	

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
3	PWMn0	0	R/W	<p>PWM モード</p> <p>サブブロック Cn を PWM モードで動作させるとき、本ビットに 1 を設定します。PWM モードに設定すると、汎用レジスタ Cn0 (GRCn0) のコンペアマッチ発生によって TCNTCn がクリアされます。GRCn0 がコンペアマッチとして機能しているときのみ有効です。</p> <p>また、GRCn1、GRCn2、GRCn3 のうちコンペアマッチとして機能しているものについては、TCNTCn のクリアと同時に、その出力端子 (TIOCn1、TIOCn2、TIOCn3 端子) に TIORCn の IOCn0 設定値が出力されます。</p> <p>GRCn0 がサイクルコンペアマッチで 1 出力、GRCn1~GRCn3 はデューティコンペアマッチで 0 出力となるよう動作させることが可能です。</p> <p>PWM モードビットに 1 をセットするだけでは、PWM として動作させることはできません。タイマ I/O コントロールレジスタ C (TIORCn) の IOCnm ビットで、GRCn0、および GRCn1~3 (PWM 出力を行うもの) をそれぞれコンペアマッチに設定する必要があります。また、GRCn1~3 については、コンペアマッチで 0 出力となるよう設定してください。</p> <p>0 : PWM モードで動作させない 1 : PWM モードで動作させる</p> <p>PWMn0 が 1 の場合、TCNTCn と GRCn0 との一致を検出するとカウンタクリアを行います。ただし、コンペアマッチによるカウンタのクリアとカウントアップのタイミングが一致する場合のみ、TCNTCn は H'000001 にクリアされます。これは TCNTCn が Pφ の 1 分周クロックでカウントする場合のみ起こります。</p> <p>また、PWM モードでは GRCn0~GRCn3 には H'000000 を設定しないでください。H'000000 を設定した場合、不正な周期でコンペアマッチが発生することになりますのでご注意ください。</p>
2~0	CKSELn[2:0]	000	R/W	<p>TCNTCn クロックセレクト</p> <p>サブブロック Cn のカウントクロックを選択します。各サブブロック Cn のカウンタ (TCNTCn) はここで選択されたクロックに同期してカウントアップを行います。</p> <p>000 : クロックバス 0 でカウント 001 : クロックバス 1 でカウント 010 : クロックバス 2 でカウント 011 : クロックバス 3 でカウント 100 : クロックバス 4 でカウント 101 : クロックバス 5 でカウント 11x : リザーブ</p> <p>【注】 x=Don't care</p>

【注】 n=0~4。サブブロック C0~C4 に対応。m=0~3 : 汎用レジスタ Cn0~Cn3 に対応。

13.16.4 タイマステータスレジスタ C0~4 (TSRC0~4)

TSRC0~4は、8ビットの読み出し／書き込み可能なレジスタです。サブブロック C0~C4 の持つタイマカウンタ Cn (TCNTCn) のオーバーフローの発生、汎用レジスタ C00~43 (GRC00~43) でのインプットキャプチャ、コンペアマッチの発生を示します。

これらのフラグは割り込み要因であり、タイマインタラプトイネーブルレジスタ C (TIERC) の対応するビットにより割り込みが許可されていれば、割り込み要求を出力します。

TSRC0~4は、バイト単位で読み出し／書き込みが可能です。

TSRC0~4は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時に H'00 に初期化されます。

ビット:	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	OVFCn	IMFCn3	IMFCn2	IMFCn1	IMFCn0
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R	R/(W)*R/(W)*R/(W)*R/(W)*R/(W)*R/(W)*	R/(W)*R/(W)*R/(W)*R/(W)*R/(W)*	R/(W)*R/(W)*R/(W)*R/(W)*R/(W)*	R/(W)*R/(W)*R/(W)*R/(W)*R/(W)*	R/(W)*R/(W)*R/(W)*R/(W)*R/(W)*

【注】 n=0~4 : サブブロック C0~C4 に対応。

* フラグをクリアするため、1を読み出した後に0を書き込むことのみ可能です。
1の書き込みは無効です。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
7~5	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
4	OVFCn	0	R/W	<p>オーバーフローフラグ Cn</p> <p>本フラグにより、タイマカウンタ Cn (TCNTCn) のオーバーフローの状態を参照することができます。本フラグをソフトウェアにより 1 にセットすることはできません。</p> <p style="padding-left: 20px;">0 : オーバーフローなし</p> <p>[クリア条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • OVFCn=1 の状態を読み出した後、OVFCn に 0 を書き込んだとき 1 : オーバーフロー発生 <p>[セット条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • TCNTCn の値がオーバーフロー (H'FFFFFF→H'000000) したとき <p>オーバーフローフラグは、TCNTCn が H'FFFFFF の状態でカウントアップクロックが入力されたときに発生します。TCNTCn への H'000000 書き込み、TCNTCn 初期値 (H'000000) で起動しても OVFCn はセットされません。</p> <p>カウンタ値が H'FFFFFF の状態で、カウントアップクロックと同時に TCNTCn への書き込みを行った場合、オーバーフローフラグは 1 にセットされますが、TCNTCn 値は H'000000 ではなく、書き込まれた値に更新されます。</p>

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
3~0	IMFCn3~ IMFCn0	すべて 0	R/W	<p>インプットキャプチャ/コンペアマッチフラグ Cnm</p> <p>汎用レジスタ nm (GRCnm) のインプットキャプチャ、コンペアマッチの発生を示すステータスフラグです。このフラグをソフトウェアにより 1 にセットすることはできません。セット条件、クリア条件は以下のとおりです。</p> <p>0 : インプットキャプチャ、コンペアマッチなし</p> <p>[クリア条件 : インプットキャプチャ/アウトプットコンペア]</p> <ul style="list-style-type: none"> • IMFCnm=1 の状態を読み出した後、IMFCnm に 0 を書き込んだとき • DMAC からの ACK 信号によるステータスクリア (C00、C10、C20、C30、C40 のみ) <p>[クリア条件 : インプットキャプチャ]</p> <ul style="list-style-type: none"> • A-DMAC による汎用レジスタ nm (GRCnm) 読み出しにより自動的に IMFCnm ステータスをクリア <p>1 : インプットキャプチャ、コンペアマッチ発生</p> <p>[セット条件 : インプットキャプチャ]</p> <ul style="list-style-type: none"> • GRCnm がインプットキャプチャとして機能している場合、インプットキャプチャ信号より TCNTCn の値が GRCnm に転送されたとき <p>[セット条件 : アウトプットコンペア]</p> <ul style="list-style-type: none"> • GRCnm がアウトプットコンペアとして機能している場合、TCNTCnm の値が GRCnm と等しくなったとき • TCRCn の FCMCnm (強制コンペアマッチビット) が 1 にセットされている場合 <p>インプットキャプチャ/コンペアマッチフラグ (IMFCnm) が 1 の状態 (フラグがクリアされていない状態) でも、次のインプットキャプチャ/アウトプットコンペア処理は実施可能です。このとき、IMFCnm には 1 がオーバーライトされます。</p> <p>コンペアマッチ検出後、TCNTCn、IMFCnm の値が一致したままの状態でもコンペアマッチステータスをクリアしても、新たにステータスはセットされません。</p> <p>C00、C10、C20、C30、C40 のみ DMAC への割り込みとしても使用されます。これら 5 ビットの DMAC からの ACK 信号によるステータスの自動クリアが可能です。</p>

【注】 n=0~4 : サブブロック C0~C4 に対応。m=0~3 : チャネル 0~3 に対応。

* フラグをクリアするため、1 を読み出した後に 0 を書き込むことのみ可能です。1 の書き込みは無効です。

13.16.5 タイマインタラプトイネーブルレジスタ C0~4 (TIERC0~4)

TIERC0~4は、8ビットの読み出し/書き込み可能なレジスタで、タイマCへのインプットキャプチャ、アウトプットコンペア、およびオーバーフロー割り込み要求の許可/禁止を制御します。

TIERC0~4は、バイト単位で読み出し/書き込みが可能です。

TIERC0~4は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時にH'00に初期化されます。

ビット :	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	OVECn	IMECn3	IMECn2	IMECn1	IMECn0
初期値 :	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W :	R	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

【注】 n=0~4 : サブブロックC0~C4に対応。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
7~5	—	すべて0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。
4	OVECn	0	R/W	オーバーフローインタラプトイネーブル Cn タイマステータスレジスタ Cn (TSRCn) のオーバーフローフラグ (OVFCn) が1にセットされたとき、OVFCnによる割り込み要求の許可/禁止を設定します。 0 : OVFCnによる割り込み要求を禁止 1 : OVFCnによる割り込み要求を許可
3	IMECn3	0	R/W	インプットキャプチャ/コンペアマッチインタラプトイネーブル nm タイマステータスレジスタ Cn (TSRCn) のインプットキャプチャ/コンペアマッチフラグ (IMFCnm) が1にセットされたとき、IMFCnmによる割り込み要求の許可/禁止を設定します。 0 : IMFCnmによる割り込み要求を禁止 1 : IMFCnmによる割り込み要求を許可
2	IMECn2	0	R/W	
1	IMECn1	0	R/W	
0	IMECn0	0	R/W	

【注】 n=0~4 : サブブロック C0~C4 に対応。m=0~3 : チャネル 0~3 に対応。

13.16.6 タイマ I/O コントロールレジスタ C0~4 (TIORC0~4)

TIORC0~4 は、16 ビットの読み出し/書き込み可能なレジスタです。IOCNm[2]ビットの設定により、コンペアマッチモード/インプットキャプチャモードの切り替えを行います。モード切り替えは、インプットキャプチャ/コンペアマッチ禁止状態 (IOCNm[1:0]=B'00) で実施してください。その後、コンペアマッチ出力設定、インプットキャプチャエッジ設定を行ってください。

コンペアマッチモードへ切り替えたとき、コンペアマッチ出力は初期値のゼロに設定されます。それ以降は、直前のコンペアマッチによる値を維持し続けます。また、動作モード切り替えは、カウンタ停止状態で行ってください。カウンタ動作中にモード切り替えを行った場合の動作は保証できません。

TIORC0~4 は、バイトおよびワード単位で読み出し/書き込みが可能です。

TIORC0~4 は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時に H'0000 に初期化されます。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	IOCN3[2:0]			—	IOCN2[2:0]			—	IOCN1[2:0]			—	IOCN0[2:0]		
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R/W	R/W	R/W	R	R/W	R/W	R/W	R	R/W	R/W	R/W	R	R/W	R/W	R/W

【注】 n=0~4 : サブブロックC0~C4に対応。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15	—	0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。
14~12	IOCN3[2:0]	000	R/W	I/O コントロール 汎用レジスタ n3 (GRCn3) の機能を設定します。 <ul style="list-style-type: none"> GRCn3 をアウトプットコンペアレジスタとして利用するとき 000 : コンペアマッチ禁止 001 : コンペアマッチで0出力 010 : コンペアマッチで1出力 011 : コンペアマッチでトルグ出力 GRCn3 をインプットキャプチャレジスタとして利用するとき 100 : インプットキャプチャ禁止 101 : TIOCNm の立ち上がりエッジでキャプチャ 110 : TIOCNm の立ち下がりエッジでキャプチャ 111 : TIOCNm の立ち上がり、立ち下がりの両エッジでキャプチャ
11	—	0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
10~8	IOcn2[2:0]	000	R/W	I/O コントロール 汎用レジスタ n2 (GRCn2) の機能を設定します。 <ul style="list-style-type: none"> • GRCn2 をアウトプットコンペアレジスタとして利用するとき 000 : コンペアマッチ禁止 001 : コンペアマッチで 0 出力 010 : コンペアマッチで 1 出力 011 : コンペアマッチでトグル出力 • GRCn2 をインプットキャプチャレジスタとして利用するとき 100 : インプットキャプチャ禁止 101 : TIOcnm の立ち上がりエッジでキャプチャ 110 : TIOcnm の立ち下がりエッジでキャプチャ 111 : TIOcnm の立ち上がり、立ち下がりの両エッジでキャプチャ
7	—	0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
6~4	IOcn1[2:0]	000	R/W	I/O コントロール 汎用レジスタ n1 (GRCn1) の機能を設定します。 <ul style="list-style-type: none"> • GRCn1 をアウトプットコンペアレジスタとして利用するとき 000 : コンペアマッチ禁止 001 : コンペアマッチで 0 出力 010 : コンペアマッチで 1 出力 011 : コンペアマッチでトグル出力 • GRCn1 をインプットキャプチャレジスタとして利用するとき 100 : インプットキャプチャ禁止 101 : TIOcnm の立ち上がりエッジでキャプチャ 110 : TIOcnm の立ち下がりエッジでキャプチャ 111 : TIOcnm の立ち上がり、立ち下がりの両エッジでキャプチャ
3	—	0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
2~0	IOcn0[2:0]	000	R/W	I/O コントロール 汎用レジスタ n0 (GRCn0) の機能を設定します。 <ul style="list-style-type: none"> • GRCn0 をアウトプットコンペアレジスタとして利用するとき 000 : コンペアマッチ禁止 001 : コンペアマッチで 0 出力 010 : コンペアマッチで 1 出力 011 : コンペアマッチでトグル出力 • GRCn0 をインプットキャプチャレジスタとして利用するとき 100 : インプットキャプチャ禁止 101 : TIOcnm の立ち上がりエッジでキャプチャ 110 : TIOcnm の立ち下がりエッジでキャプチャ 111 : TIOcnm の立ち上がり、立ち下がりの両エッジでキャプチャ

【注】 n=0~4 : サブブロック C0~C4 に対応。m=0~3 : チャネル 0~3 に対応。

13.16.7 タイマカウンタ C0~4 (TCNTC0~4)

TCNTC0~4は、32ビットの読み出し/書き込み可能なレジスタで、入力したクロックによりカウント動作を行います。読み出し/書き込みはカウンタ動作中でも可能です。

タイマカウンタ Cn (TCNTCn) は、タイマスタートレジスタ C (TSTRC) の対応するビットを1にセットすると、カウントを開始します。入力するクロックはタイマコントロールレジスタ Cn (TCRCn) のクロック選択ビット (CKSEL) によって設定します。タイマがオーバフローすると、タイマステータスレジスタ Cn (TSRCn) のオーバフローフラグ (OVFCn) が1にセットされます。

TCNTC0~4は、ロングワード単位でのみ読み出し/書き込みが可能です。

TCNTC0~4は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時に H'00000000 に初期化されます。

ビット:	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R	R	R	R	R	R	R	R

13.16.8 汎用レジスタ C00~43 (GRC00~43)

GRC00~43は、32ビットの読み出し/書き込み可能なレジスタで、インプットキャプチャレジスタとアウトプットコンペアレジスタの両方の機能を持っています。機能の切り替えはタイマ I/O コントロールレジスタ Cn (TIORCn) により行います。

インプットキャプチャレジスタとして使用しているときは、外部からのインプットキャプチャ信号を検出して、TCNTCnの値を格納します。このとき対応するタイマステータスレジスタ Cn (TSRCn) のIMFCビットが1にセットされます。インプットキャプチャ信号の検出エッジは対応する TIORCn により設定します。

カウンタが停止状態 (ATUENR レジスタの TCE ビットが0もしくは TSTRC レジスタの STRCn ビットが0) でもインプットキャプチャ動作は行われます。停止状態のカウント値を GRCnm に取り込みます。

アウトプットコンペアレジスタとして使用しているときは、GRCnm の値とタイマカウンタ (TCNTCn) の値は常に比較されています。両者の値が一致すると、次の Pφクロックサイクルでタイマステータスレジスタ (TSRCn) のIMFCビットが1にセットされます。同時に TIORCn で設定した方式 (0出力、1出力、トグル出力) で TIOCNm 出力を変化させます。TIOCNm 出力の初期値 (リセット後およびアウトプットコンペアモード切り替え後) は0、それ以降は直前のコンペアマッチ出力値を維持し続けます。

GRC00~43は、ロングワード単位でのみ読み出し/書き込みが可能です。

GRC00~43は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時に H'FFFF FF00 に初期化されます。

ビット:	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
初期値:	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
初期値:	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R	R	R	R	R	R	R	R

13.16.9 ノイズキャンセルカウンタ C00~43 (NCNTC00~43)

NCNTC00~43 は、8 ビットの読み出し/書き込み可能なレジスタです。

タイマ I/O コントロールレジスタ C0~4 (TIORC0~4) のノイズキャンセルイネーブルビット (NCEC00~43) でノイズキャンセラ機能を有効にしたとき、外部入出力端子 (TIOC00~43) からの入力信号をトリガとしてアップカウンタ動作を開始します。動作開始後のカウントアップは、プリスケアラから供給される Pφクロックあるいは Pφクロックの 1/128 分周クロックに同期して行われます。

NCNTCnm は ATU-III マスタイネーブルレジスタ (ATUENR) のタイマ C イネーブルビット (TCE)、TSTRC の設定にかかわらず (TCNTCn の動作状態にかかわらず) カウント動作を行います。

共通制御部にあるノイズキャンセルモードレジスタ (NCMR) のタイマ C ノイズキャンセルモードビット (NCMC) の設定によって、後続エッジキャンセルモードおよび先行エッジキャンセルモードの 2 通りの動作を行います。

● 後続エッジキャンセルモード

NCECnm ビットが 1 であり NCNTCnm がカウント停止しているとき、TIOCnm の入力信号レベルが変化すると、NCNTCnm はアップカウンタ動作を開始します。カウント値がノイズキャンセルレジスタ nm (NCRcnm) と一致すると、次の Pφクロックに同期してカウント値を H'00 にクリアしてカウント動作を停止します。

NCNTCnm は、ATU-III マスタイネーブルレジスタ (ATUENR) の TCE ビットの設定にかかわらずカウント動作を行います。

カウント動作開始時のレベル変化は、そのままノイズキャンセル後の信号として出力されエッジ検出の対象となりますが、以降カウント値が NCRcnm と一致するまでの間、すべての入力レベルの変化がマスクされるためノイズキャンセル後の信号は変化しません。カウント値が NCRcnm と一致した次の Pφクロックから、そのときの入力信号レベルをノイズキャンセル後の信号として出力します。

カウント動作中に NCECnm ビットがクリアされても、カウント値が NCRcnm と一致するまでの間はカウント動作を継続します。その間も入力信号はマスクされ続けます。

● 先行エッジキャンセルモード

NCnECnmビットが1でありNCnTnCnmがカウント停止しているとき、TIOcnmの入力信号レベルが変化すると、NCnTnCnmはアップカウント動作を開始します。カウント動作中に入力信号のレベルが変化するか、あるいはカウント値がノイズキャンセルレジスタnm (NCnRCnm) と一致した場合には、次のPφクロックに同期してカウント値をH'00にクリアしカウント動作を停止します。

NCnTnCnmは、ATU-IIIマスタイネーブルレジスタ (ATUENR) のTCEビットの設定にかかわらずカウント動作を行います。

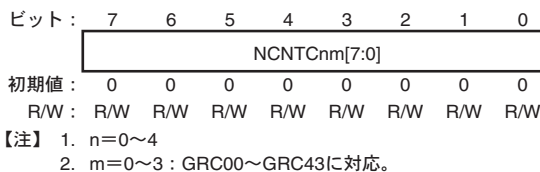
ノイズキャンセル後の信号は、カウント値がNCnRCnmと一致したときのみ、カウント開始時のレベル変化にあわせて変化します。NCnRCnmと一致する前にカウント動作が停止した場合には、カウント開始時のレベル変化およびカウント停止時のレベル変化はマスクされるため、ノイズキャンセル後の信号は変化しません。

カウント動作中にNCnECnmビットがクリアされても、コンペアマッチあるいは入力信号レベルに変化があるまでの間、カウント動作は停止せずノイズキャンセル処理を継続します。

NCnTnCnmは動作/停止状態にかかわらず、随時、値を書き込むことが可能であり、その値からカウント動作を行うことができます。また、NCnRCnmより大きい値を設定することも可能です。その場合、NCnTnCnmはH'FF→H'00とオーバフロー、カウンタクリアを経て、NCnRCnmとコンペアマッチを行います。

NCnTnC00~43は、バイト単位で読み出し/書き込みが可能です。

NCnTnC00~43は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時にH'00に初期化されます。



ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
7~0	NCnTnCnm[7:0]	すべて0	R/W	ノイズキャンセルカウント Cnm 8ビットカウント値

【注】 n=0~4。m=0~3: GRC00~GRC43に対応。

13.16.10 ノイズキャンセルレジスタ C00~43 (NCRC00~43)

NCRC00~43 は、8 ビットの読み出し／書き込み可能なレジスタです。本レジスタは、各サブブロックに搭載されており、ノイズキャンセルカウンタ C00~43 (NCNTC00~43) の上限値を設定します。

H'FF 設定で、最大 1.64msec (=50ns×128 分周×256 カウント) のノイズをキャンセルすることができます。

共通制御部にあるノイズキャンセルモードレジスタ (NCMR) のタイマ C ノイズキャンセルモードビット (NCMC) の設定によって、後続エッジキャンセルモードおよび先行エッジキャンセルモードの 2 通りの動作を行います。

- 後続エッジキャンセルモード

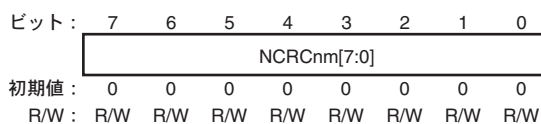
NCNTCnmのカウント動作中、後続する入力信号のレベル変化がマスクされます。NCNTCnmとNCRCnmの値は常に比較されています。コンペアマッチが発生すると、次のPφクロックに同期してNCNTCnmのカウント値をクリアし、カウント動作を停止させて入力信号のマスク解除を行います。

- 先行エッジキャンセルモード

NCNTCnmのカウント動作中は、ノイズキャンセラの処理待ち状態となります。NCNTCnmとNCRCnmの値は常に比較されており、コンペアマッチが発生すると、次のPφクロックに同期してNCNTCnmのカウント値をクリアし、カウント動作を停止させると同時に、ノイズキャンセラはノイズキャンセル後の入力信号の出力を行います。

NCRC00~43 は、バイト単位で読み出し／書き込みが可能です。

NCRC00~43 は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時に H'00 に初期化されます。



- 【注】 1. n=0~4
2. m=0~3 : GRC00~GRC43に対応。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
7~0	NCRCnm[7:0]	すべて0	R/W	ノイズキャンセルタイム Cnm TIOCnm ノイズキャンセル期間 (8 ビットコンペア値)

13.17 タイマ C の動作説明

13.17.1 インプットキャプチャ機能

タイマ C の汎用レジスタ Cnm (GRCnm) はタイマ I/O コントロールレジスタ Cn (TIORCn) にインプットキャプチャ動作を設定することにより、対応する外部端子 (TIOCnm) からエッジが入力されるとインプットキャプチャ動作を行います。

タイマスタートレジスタ C (TSTRC) への設定により、タイマカウンタ Cn (TCNTCn) がカウントアップを開始します。GRCnm の対応する外部端子のエッジが入力されると、対応するタイマステータスレジスタ C (TSRC) のビット (IMFCnm) がセットされ、カウンタ値が GRCnm に転送されます。TIOCnm の変化エッジを取り込んでから Pφクロックの 2 サイクル後にインプットキャプチャステータスフラグ、割り込み出力が変化します。

入力されるエッジは、TIORCn レジスタの IOC ビットにより、立ち上がり/立ち下がり/両エッジから選択できます。また、タイマインタラプトイネーブルレジスタ Cn (TIERCn) の設定により、割り込み要求の出力が可能です。

インプットキャプチャフラグ (TSRCn レジスタの IMFCnm ビット) のクリア方法は、1 の状態を読み出した後の 0 書き込み、A-DMAC による GRCnm レジスタ読み出しによる自動クリア、DMAC からの ACK 信号によるクリアの 3 通りがあります。

図 13.24 に、ブロック C0 でのインプットキャプチャの動作例を示します。TIOC00 は両エッジ、TIOC01 は立ち上がり、TIOC02 は立ち下がりエッジで波形を取り込んでいます。

インプットキャプチャ動作は、TCNTCn が停止状態 (ATUENR レジスタの TCE ビットが 0、もしくは TSTRC レジスタの STRCn ビットが 0) でも実施され、停止状態のカウンタ値が GRCnm にキャプチャされます。

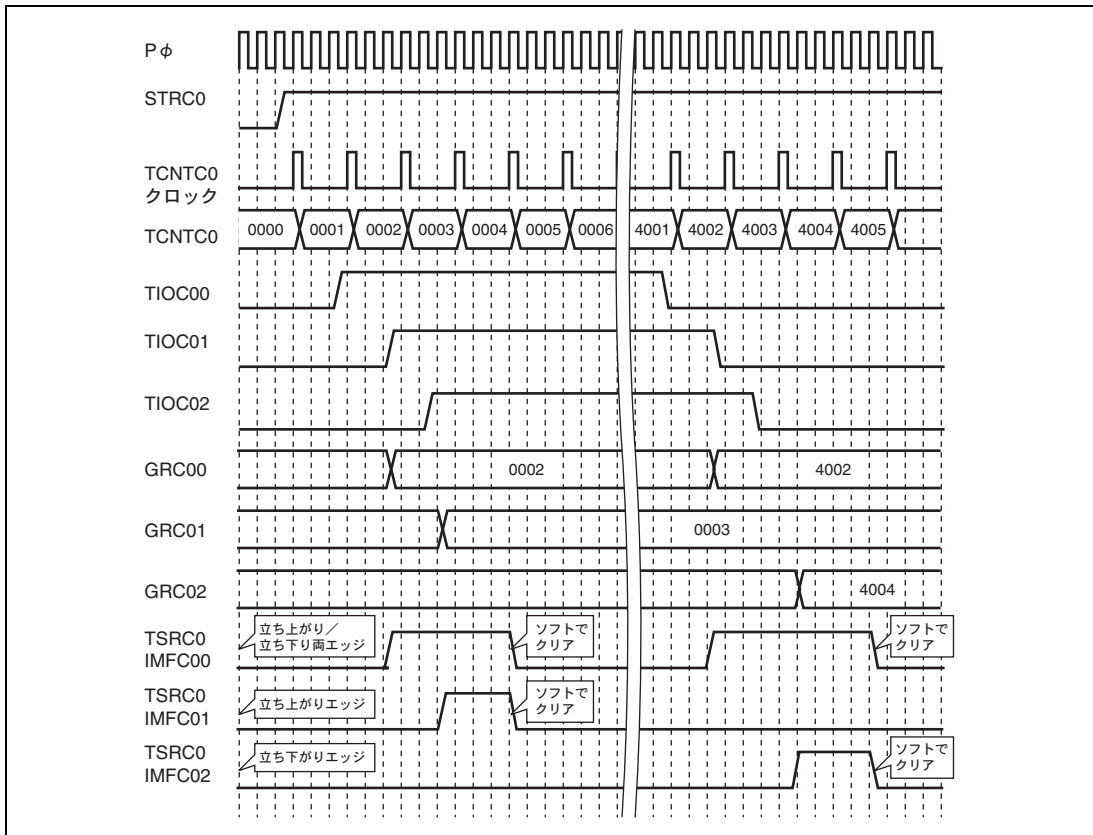


図 13.24 インプットキャプチャの動作例

13.17.2 コンペアマッチ機能

タイマCの汎用レジスタCnm (GRCnm)はタイマI/OコントロールレジスタCn (TIORCn)にコンペアマッチ動作を設定することにより、対応する外部端子 (TIOCnm) からコンペアマッチ出力を行います。

タイマスタートレジスタC (TSTRC) への設定により、タイマカウンタCn (TCNTCn) がカウントアップを開始します。あらかじめGRCnmに値を設定しておきます。GRCnmの値とTCNTCnとが一致すると、GRCnmに対応するタイマステータスレジスタCn (TSRCn) のビット (IMFCnm) をセットし、対応する外部端子 (TIOCnm) から波形を出力します。

コンペアマッチフラグのセットおよびTIOCnmへの出力変化は、GRCnmとTCNTCnの値が一致した直後のPφクロックに同期して行います。

出力 (TIOCnm) は、TIORCnのIOCビットの設定により1出力/0出力/トグル出力から選択できます。

また、タイマインタラプトイネーブルレジスタC (TIERC) への設定により、コンペアマッチ発生時に割り込み要求の出力が可能です。

図13.25に、ブロックC0でのコンペアマッチの動作例を示します。GRC00をトグル出力、GRC01を1出力、GRC02を0出力に設定し、外部出力させたときの例です。GRC0mには004004が設定されており、TCNTC0と一致した後、次のPφクロックでステータスフラグおよびTIOC0mの出力を変化させています。

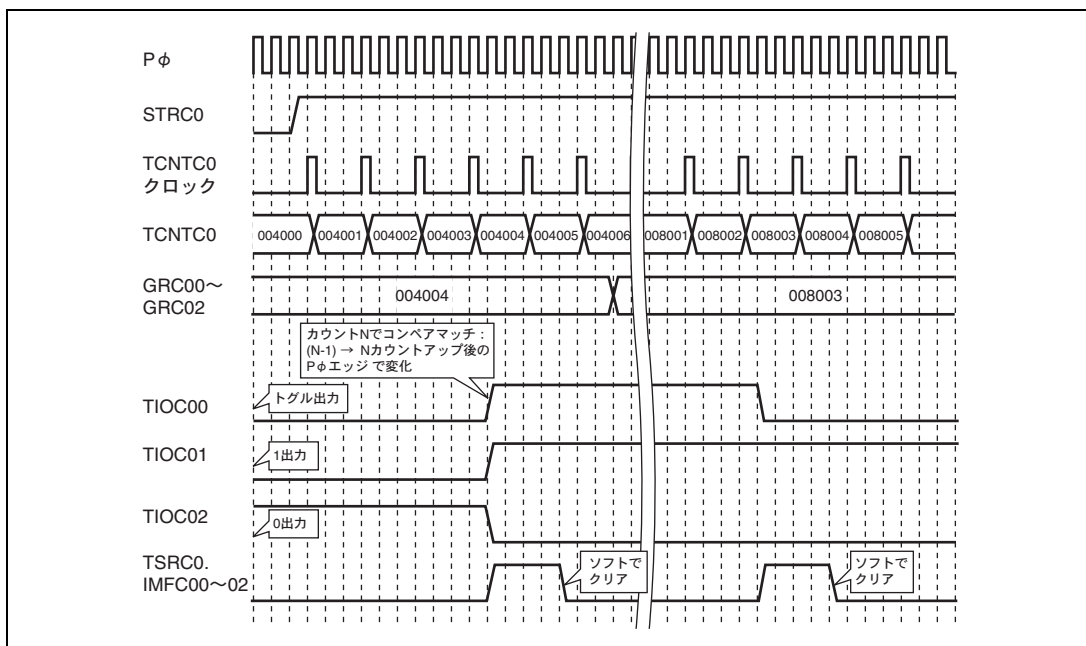


図 13.25 コンペアマッチの動作例

タイマコントロールレジスタCn (TCRCn)の強制コンペアマッチビット (FCMCnm)を1にセットすると、GRCnmとTCNTCnの一致を待たずにコンペアマッチを発生させることができます。FCMCnmビットを1にセットした次のPφクロックサイクルでコンペアマッチフラグおよびTIOCnm出力に反映されます。強制コンペアマッチを発生させると、コンペアマッチフラグ (IMFCnm)をクリアするまでGRCnmとTCNTCnとのコンペアマ

ッチは行われません。FCMCnm ビットは、TSRCn の IMFCnm ビットがクリアされるときに同時にクリアされます。

コンペアマッチフラグのクリアは、ステータス 1 を読み出し後、0 をライトすることで可能の他、C00、C10、C20、C30、C40 の 5 本は、DMAC からの割り込みクリア信号でも可能です。

コンペアマッチの検出は、次の 3 つのうち、いずれかが起こったときに行われます。

- TCNTCn と GRCnm が不一致から一致になったとき（ただし強制コンペアマッチは OFF 状態）
- 強制コンペアマッチビット（TCRCn レジスタの FCMCnm ビット）を 0 から 1 に書き換えたとき
- GRCn0 のコンペアマッチによるカウンタクリアにより TCNTCn と GRCnm が一致したとき

これらを検出した次の Pφ クロックサイクルに、コンペアマッチステータスのセット、TIOCnm からのコンペアマッチ出力変化が実施されます。ただし、前もってコンペアマッチ許可設定（TIORCn レジスタの IOCnm[2:0] ビットで設定）がされていることが条件です。TCNTCn と GRCnm を同一値に設定もしくは強制コンペアマッチビットを 1 に設定した後にコンペアマッチ許可設定を行ってもコンペアマッチは検出されません。

また、コンペアマッチ検出はカウンタの動作/停止に依存しません。カウンタ停止状態であっても、上記の条件が満たされればコンペアマッチを発生します。

コンペアマッチが発生した状態で GRCnm 値、TCNTCn 値が変化していない状態（カウントアップ前、カウンタ停止状態など）でステータスクリアを行った場合には、新たにコンペアマッチを検出しません。

13.17.3 PWM 機能

タイマコントロールレジスタ Cn (TCRCn) の PWMn ビットに 1 を設定することにより、各サブブロックのチャンネル 1~3 を周期が同じ PWM タイマとして動作させることができます。PWM モードでは、GRCn0 を周期レジスタとして、GRCn1~3 をデューティレジスタとして使用します。デューティレジスタに使用する GRCn それぞれに対応する外部端子 (TIOCn1~3) を PWM 出力として使用できます。ただし、PWMn ビットの設定だけでなく、TIOCn の IOCnm ビットで GRCn0~3 をコンペアマッチに設定しておく必要があります。

タイマスタートレジスタ C (TSTRC) への設定によりタイマカウンタ Cn (TCNTCn) を動作させ、TCNTCn が周期レジスタ (GRCn0) に達するとコンペアマッチが発生し、タイマステータスレジスタ C (TSRCn) の該当するビットをセットします。このとき PWM モードでは、TCNTCn をクリアし、同時に外部端子 (TIOCn1~n3) から IOCn0 の設定値を出力します (TIOCn0 端子出力も IOCn0 ビットの設定に従います)。

TCNTCn がデューティレジスタ (GRCn1~3) に達すると、タイマステータスレジスタ Cn (TSRCn) の該当するビットをセットし、IOCn1~3 ビットの設定値をそれぞれの外部端子 (TIOCn1~n3) に出力します。

周期とデューティに同じ値を設定した場合、周期レジスタコンペアマッチによる IOCn0 の設定値の出力が優先されます。

図 13.26 に、サブブロック C0 の PWM モードの動作例を示します。

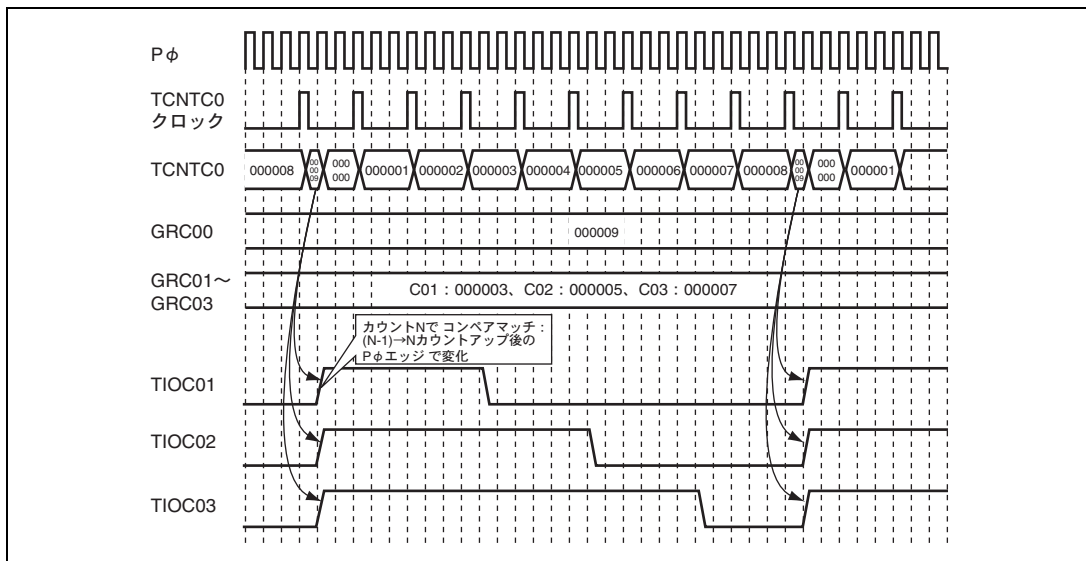


図 13.26 PWM モードの動作例

13.18 タイマ D の概要

タイマ D は、同一機能を持つ 4 個のサブブロックによって構成されるワンショットパルス出力タイマです。

タイマ D は、以下の機能を実現することができます。

- アウトプットコンペアレジスタのコンペアマッチAとジェネラルレジスタのコンペアマッチB、あるいはダウンカウンタスタートレジスタのカウントスタートビット書き込みによりダウンカウントを開始することができます、オフセット付きワンショットパルスの出力が可能です。
- ジェネラルレジスタのコンペアマッチBにより、ダウンカウント値にかかわらず出力波形の強制遮断が可能です（コンペアマッチAあるいはカウントスタートビット書き込みと、コンペアマッチB同時発生時は出力遮断が優先）。
- ジェネラルレジスタは、コンペアマッチAをトリガとしてTCNT2Dn値をキャプチャすることが可能です。
- コンペアマッチA、B検出パルス（A/D起動用）が出力可能（サブブロックD0、D1の計16本が対応）。
- コンペアマッチ割り込みの発生が可能です（コンペアマッチA、BをORで出力、計16本）。
- TCNT1Dn（4本）、TCNT2Dn（4本）のそれぞれでカウンタオーバフロー割り込み（計8本）の発生が可能です。
- ダウンカウンタアンダフロー割り込み（計16本）の発生が可能です。このアンダフロー割り込みでDMACにDMA転送を要求することもできます。このとき、DMACのACK信号によりコンペアマッチフラグのクリアが可能です（DMA転送要求は、サブブロックD0～D3のダウンカウンタ、計16本が対応）。
- タイマAからのトリガ信号により、オフセットベースレジスタへのカウンタ値キャプチャが可能です。

13.18.1 ブロック図

各サブブロックは、2本のタイマカウンタ (TCNT1Dn, TCNT2Dn)、1本のオフセットベースレジスタ (OSBRDn) と、4本のアウトプットコンペアレジスタ (OCRDnm)、4本の汎用レジスタ (GRDnm)、4本のタイマダウンカウンタ (DCNTDnm)、および制御部などで構成されています。また各チャンネルに TODnmA (コンペアマッチ出力) と TODnmB (ワンショットパルス出力) の2本の出力端子を備えています。

TODnmA、TODnmB 出力の初期値はともに 0 です。

コンペアマッチ A、コンペアマッチ B 検出時には、割り込み変換開始トリガとして A/D にパルスを出力します。

図 13.27 に、タイマ D のブロック図を示します。

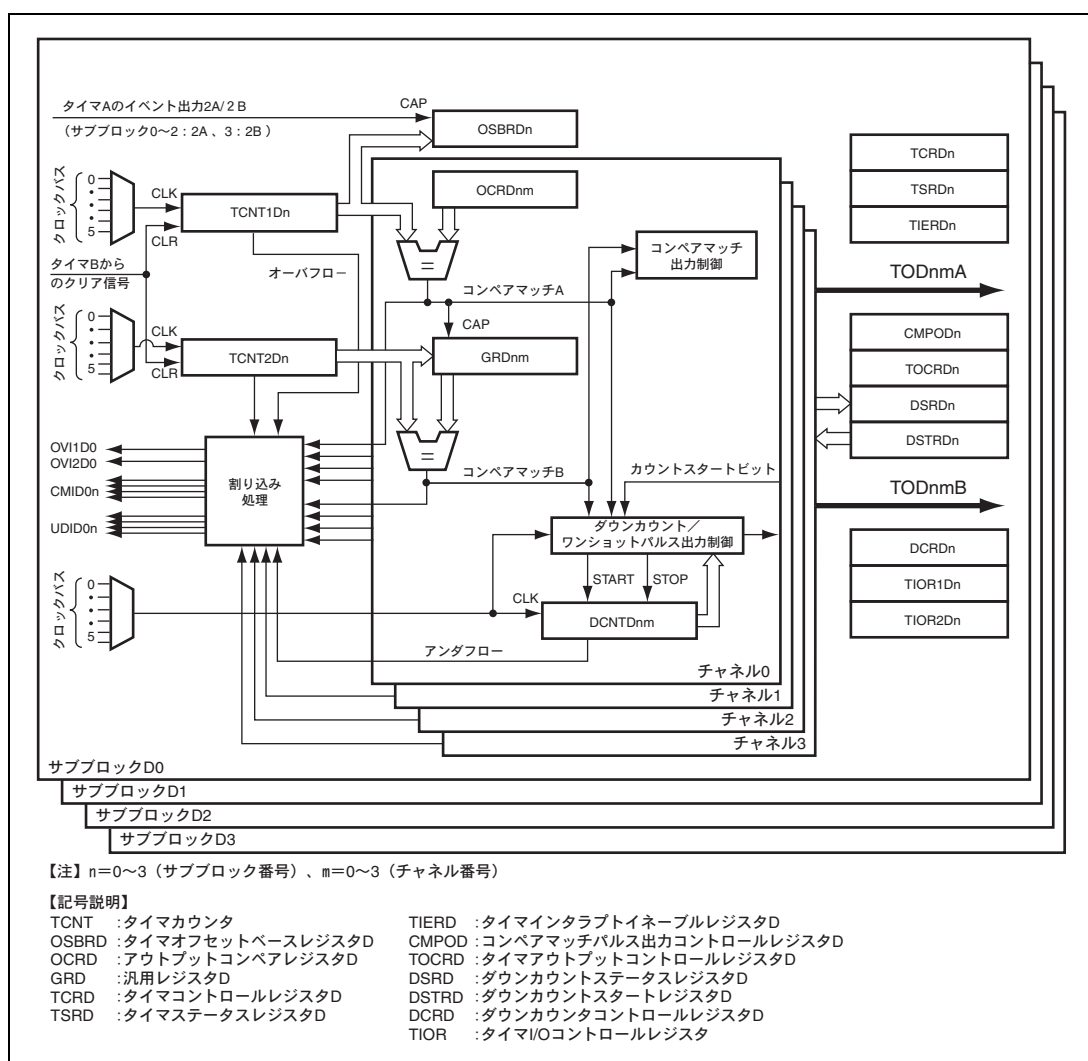


図 13.27 タイマ D のブロック図

13.19 タイマ D のレジスタの説明

13.19.1 タイマスタートレジスタ (TSTRD)

TSTRD は、8 ビットの読み出し／書き込み可能なレジスタです。4 つのサブブロック D0～D3 の 2 つのタイマカウンタ (TCNT1Dn、TCNT2Dn)、タイマダウンカウンタ (DCNTDnm) を動作させるか、停止させるかを設定します。ただし、カウンタ Dn スタートビットをカウント動作許可に設定していても、ATU-III マスタイネーブルレジスタ (ATUENR) の TDE ビットがイネーブルに設定されていなければ、カウント動作は行われません。

TSTRD は、バイト単位で読み出し／書き込みが可能です。

TSTRD は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時に H'00 に初期化されます。

ビット :	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	STRD3	STRD2	STRD1	STRD0
初期値 :	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W :	R	R	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
7～4	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込み値も常に 0 にしてください。
3	STRD3	0	R/W	カウンタ Dn スタート タイマカウンタ 1Dn、2Dn (TCNT1Dn、TCNT2Dn)、タイマダウンカウンタ (DCNTDnm) を動作させるか、停止させるかを設定します。 停止時はカウンタ値をそのまま保持し、再度本ビットを 1 にセットした場合には、その値から動作を再開します。ただし、本ビットを 1 にセットしても、ATUENR の TDE ビットが 1 にセットされていなければカウント動作は開始されません。 0 : TCNT1Dn、TCNT2Dn、DCNTDnm のカウント動作を停止 1 : TCNT1Dn、TCNT2Dn、DCNTDnm のカウント動作を許可 【注】 プリスケーラは、カウンタ Dn スタートビットの設定に関係なく動作しており、TCNT1Dn、TCNT2Dn の動作開始時にも初期化は行われません。したがって起動から実際に TCNT1Dn、TCNT2Dn がカウント動作を開始するまでの時間には、選択されたカウントソースの周期 (分解能) 以下のハードウェア的な不確定さが伴います。
2	STRD2	0	R/W	
1	STRD1	0	R/W	
0	STRD0	0	R/W	

【注】 n=0～3 : サブブロック D0～D3 に対応。m=0～3 : チャンネル Dn0～Dn3 に対応。

13.19.2 タイマコントロールレジスタ D0~3 (TCRD0~3)

TCRD0~3は、16ビットの読み出し/書き込み可能なレジスタです。TCRDnは、サブブロック Dn のタイマカウンタ 1 (TCNT1Dn) のカウントクロック、タイマカウンタ 2 (TCNT2Dn) のカウントクロック、およびタイマダウンカウンタ (DCNTDnm) のカウントクロックをそれぞれクロックバス 0~5 から選択します。また、タイマオフセットベースレジスタへのインプットキャプチャ許可/禁止、タイマ B からの TCNT1Dn、TCNT2Dn のカウンタ値のクリア要求の許可/禁止を設定します。

TCRD0~3は、バイトおよびワード単位で読み出し/書き込みが可能です。

TCRD0~3は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時に H'00 に初期化されます。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	OBR EDn	C2C EDn	C1C EDn	—	CKSEL2Dn[2:0]			—	CKSEL1Dn[2:0]			—	DCSELn[2:0]		
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R/W	R/W	R/W	R	R/W	R/W	R/W	R	R/W	R/W	R/W	R	R/W	R/W	R/W

【注】 n=0~3 : サブブロックD0~D3に対応。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15	—	0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
14	OBREDn	0	R/W	タイマオフセットベースレジスタイネーブル タイマオフセットベースレジスタ Dn (OSBRDn) のインプットキャプチャ動作の許可/禁止を選択します。許可設定値、タイマ A からのイベント入力 が 1 である Pφクロックサイクルの TCNT1Dn 値を、次の Pφクロックサイクルで OSBRDn にキャプチャします。イベント入力パルス幅が 1 Pφクロックサイクルを超える場合、その毎サイクルにキャプチャ動作を行います。 0 : OSBRDn のインプットキャプチャ動作を許可 1 : OSBRDn のインプットキャプチャ動作を禁止
13	C2CEDn	0	R/W	カウンタ 2 クリアイネーブル タイマ B からの TCNT2Dn カウンタ値クリアの許可/禁止を選択します。C2CEDn ビットが 1 のとき、タイマ B から出力されるカウンタクリア信号の立ち上がりを検出すると、以下のタイミングで TCNT2Dn カウンタのクリアを行います。 クリア信号の立ち上がり変化と同じサイクルに TCNT2Dn カウントアップクロックが入力されている場合は、そのカウントアップのタイミングでカウンタクリアが行われます。クリア信号立ち上がりサイクルにカウントアップクロックが入力されていない場合は、その後に入力される最初のカウントアップクロックによるカウントアップタイミングでクリアを行います。なお、初期設定ではカウンタクリア要求を受け付けません。 0 : タイマ B からの TCNT2Dn カウンタ値クリア要求を禁止 1 : タイマ B からの TCNT2Dn カウンタ値クリア要求を許可

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
12	C1CEDn	0	R/W	<p>カウンタ 1 クリアイネーブル</p> <p>タイマ B からの TCNT1Dn カウンタ値クリアの許可/禁止を選択します。C1CEDn ビットが 1 のとき、タイマ B から出力されるカウンタクリア信号の立ち上がりを検出すると、以下のタイミングで TCNT1Dn カウンタのクリアを行います。</p> <p>クリア信号の立ち上がり変化と同じサイクルに TCNT1Dn カウントアップクロックが入力されている場合は、そのカウントアップのタイミングでカウンタクリアが行われます。クリア信号立ち上がりサイクルにカウントアップクロックが入力されていない場合は、その後に入力される最初のカウントアップクロックによるカウントアップタイミングでクリアを行います。なお、初期設定ではカウンタクリア要求を受け付けません。</p> <p>0 : タイマ B からの TCNT1Dn カウンタ値クリア要求を禁止 1 : タイマ B からの TCNT1Dn カウンタ値クリア要求を許可</p>
11	—	0	R	<p>リザーブビット</p> <p>読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。</p>
10~8	CKSEL2Dn[2:0]	000	R/W	<p>TCNT2Dn クロックセレクト</p> <p>クロックセレクト 2Dn (CKSEL2Dn[2:0]) は、TCNT2Dn のカウントアップクロックを選択します。</p> <p>000 : クロックバス 0 で TCNT2Dn をアップカウント 001 : クロックバス 1 で TCNT2Dn をアップカウント 010 : クロックバス 2 で TCNT2Dn をアップカウント 011 : クロックバス 3 で TCNT2Dn をアップカウント 100 : クロックバス 4 で TCNT2Dn をアップカウント 101 : クロックバス 5 で TCNT2Dn をアップカウント 11x : リザーブ</p>
7	—	0	R	<p>リザーブビット</p> <p>読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。</p>
6~4	CKSEL1Dn[2:0]	000	R/W	<p>TCNT1Dn クロックセレクト</p> <p>クロックセレクト 1Dn (CKSEL1Dn[2:0]) は、TCNT1Dn のカウントアップクロックを選択します。</p> <p>000 : クロックバス 0 で TCNT1Dn をアップカウント 001 : クロックバス 1 で TCNT1Dn をアップカウント 010 : クロックバス 2 で TCNT1Dn をアップカウント 011 : クロックバス 3 で TCNT1Dn をアップカウント 100 : クロックバス 4 で TCNT1Dn をアップカウント 101 : クロックバス 5 で TCNT1Dn をアップカウント 11x : リザーブ</p>
3	—	0	R	<p>リザーブビット</p> <p>読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。</p>

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
2~0	DCSELDn[2:0]	000	R/W	<p>DCNTDnm クロックセレクト</p> <p>DCNTDnm クロックセレクト (DCSELDn[2:0]) は、サブブロック Dn のタイマダウンカウンタ (DCNTDnm) のカウントダウンクロックを選択します。ワンショットパルス出力 (TODnmB) は本ビットで選択したクロックに同期して制御されます。</p> <p>000 : クロックバス 0 で DCNTDnm をダウンカウント 001 : クロックバス 1 で DCNTDnm をダウンカウント 010 : クロックバス 2 で DCNTDnm をダウンカウント 011 : クロックバス 3 で DCNTDnm をダウンカウント 100 : クロックバス 4 で DCNTDnm をダウンカウント 101 : クロックバス 5 で DCNTDnm をダウンカウント 11x : リザーブ</p>

【記号説明】 x=Don't care

【注】 n=0~3 : サブブロック D0~D3 に対応。m=0~3 : チャネル 0~3 に対応。サブブロック内チャネル 0~3 のカウントクロックは共通。

13.19.3 タイマ I/O コントロールレジスタ 1D0~3 (TIOR1D0~3)

TIOR1D0~3 は、16 ビットの読み出し/書き込み可能なレジスタです。

本レジスタは、コンペアマッチ出力端子 (TODnmA) の出力要因を設定するビット、コンペアマッチレジスタ (OCRnDnm) のコンペアマッチ許可/禁止設定ビット、およびコンペアマッチ A 発生時の TODnA 端子出力値設定ビットで構成されます。

TIOR1D0~3 は、バイトおよびワード単位で読み出し/書き込みが可能です。

TIOR1D0~3 は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時に H'0000 に初期化されます。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	OSSDn3[1:0]		OSSDn2[1:0]		OSSDn1[1:0]		OSSDn0[1:0]		IOADn3[1:0]		IOADn2[1:0]		IOADn1[1:0]		IOADn0[1:0]	
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

【注】 n=0~3 : サブブロック D0~D3 に対応。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15, 14	OSSDn3[1:0]	00	R/W	コンペアマッチ出力要因選択
13, 12	OSSDn2[1:0]	00	R/W	コンペアマッチ出力端子 (TODnmA) の出力要因を設定します。コンペアマッチ A、コンペアマッチ B のいずれか、あるいは双方で TODnmA 端子の出力を制御できます。
11, 10	OSSDn1[1:0]	00	R/W	
9, 8	OSSDn0[1:0]	00	R/W	
				コンペアマッチの片方をタイマダウンカウンタ D (DCNTDnm) のスタート/ストップトリガとして使用し、他方をコンペアマッチ出力とすることが可能です。またコンペアマッチ A、B の両方で出力を制御し、片方で出力アサート、他方で出力ネゲートとすることで、TODnmA からワンショットパルスを出力することもできます。
				コンペアマッチ A と、コンペアマッチ B の両方を出力要因として設定しており、この二つの要因が同時に発生した場合には、コンペアマッチ B が優先され、TIOR2Dn の IOBnm ビットで設定されたコンペアマッチ値が出力されます。
				TODnmA の出力初期値は 0 です。このビットが B'00 である間は、コンペアマッチ A、B が発生しても TODnmA の出力値は変化しません。
				00 : TODnmA 端子出力なし。
				01 : コンペアマッチ A 発生時、TODnmA 端子に I/O コントロールビット A での設定値を出力
				10 : コンペアマッチ B 発生時、TODnmA 端子に I/O コントロールビット B での設定値を出力
				11 : コンペアマッチ A あるいはコンペアマッチ B 発生時、TODnmA 端子に I/O コントロールビット A、I/O コントロールビット B それぞれの設定値を出力

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7、6	IOADn3[1:0]	00	R/W	I/O コントロール A アウトプットコンペアレジスタ (OCRDNm) の機能を選択します。このビットに B'00 を設定したとき、OCRDNm はタイマカウンタ 1 (TCNT1Dn) とのコンペアマッチを行いません。B'00 以外に設定すると TCNT1Dn とのコンペアマッチ動作を行います。このとき、タイマインタラプトイネーブルレジスタ (TIERDn) の CMEADnm ビットが 1 であれば、コンペアマッチで割り込み要求が出力されます。また、コンペアマッチパルス出力コントロールレジスタの CMPADnm ビットが 1 であれば、AD 割り込み変換起動トリガが出力されます (サブブロック D0、D1 のみ)。 コンペアマッチ発生時、コンペアマッチ出力要因選択ビット (OSSDnm) でコンペアマッチ A が出力要因に選択されていれば、IOADnm で設定したコンペアマッチ出力値が TODnmA 端子に出力されます。 00 : コンペアマッチ禁止 01 : コンペアマッチで 0 出力 10 : コンペアマッチで 1 出力 11 : コンペアマッチでトグル出力
5、4	IOADn2[1:0]	00	R/W	
3、2	IOADn1[1:0]	00	R/W	
1、0	IOADn0[1:0]	00	R/W	

【注】 n=0~3 : サブブロック D0~D3 に対応。m=0~3 : チャネル 0~3 に対応。

13.19.4 タイマ I/O コントロールレジスタ 2D0~3 (TIOR2D0~3)

TIOR2D0~3 は、16 ビットの読み出し/書き込み可能なレジスタです。

本レジスタは、汎用レジスタ (GRDnm) の機能を設定するビットを持っています。キャプチャレジスタとして動作させるか、あるいはコンペアマッチとして動作させるかを選択でき、またコンペアマッチ許可/禁止、およびコンペアマッチ B 発生時の TODnA 端子出力値を設定できます。

I/O コントロール B ビット (IOBDnm) は、汎用レジスタ (GRDnm) をコンペアマッチレジスタとして使用するか、キャプチャレジスタとして使用するかを選択できます。

コンペアマッチレジスタとして使用する場合 (IOBDnm[2]=0)、IOBDnm[1:0]が B'00 であれば、GRDnm はタイマカウンタ 2 (TCNT2Dn) とのコンペアマッチを行いません。00 以外に設定すると TCNT2Dn とのコンペアマッチ動作を行います。このとき、タイマインタラプトイネーブルレジスタ (TIERDn) の CMEBDnm ビットが 1 であれば、コンペアマッチで割り込み要求が出力されます。また、コンペアマッチパルス出力コントロールレジスタの CMPBDnm ビットが 1 であれば、AD 割り込み変換起動トリガが出力されます (サブブロック D0、D1 のみ)。

コンペアマッチ発生時、コンペアマッチ出力要因選択ビット (OSSDnm) でコンペアマッチ B が出力要因に選択されていれば、IOBDnm で設定したコンペアマッチ出力値が TODnA 端子に出力されます。

キャプチャレジスタとして使用しているときは (IOBDnm[2:0]=B'101)、コンペアマッチ A の発生を検出して、タイマカウンタ 2 (TCNT2Dn) の値を格納します。TCNT2Dn が停止していても、コンペアマッチ A が発生すれば、そのときの値をキャプチャします。IOBDnm[2:0]が B'100 のときは、コンペアマッチ A が発生しても TCNT2Dn 値を取り込みません。

ジェネラルレジスタが TCNT2Dn 値をキャプチャしたタイミングなど、TCNT2Dn と GRDnm 値が同じときに機能をコンペアマッチに切り替えてもコンペアマッチ B は発生しません。

ジェネラルレジスタをコンペアマッチとして使用しており、また OSSDnm ビットの設定でコンペアマッチ B を出力要因としている場合に、機能をキャプチャレジスタに切り替えても TODnA 端子出力は変化しません。逆も同様に、キャプチャレジスタからコンペアマッチレジスタに切り替えても TODnA 端子は変化しません。

TIOR2D0~3 は、バイトおよびワード単位で読み出し/書き込みが可能です。

TIOR2D0~3 は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時に H'0000 に初期化されます。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	IOBDn3[2:0]			—	IOBDn2[2:0]			—	IOBDn1[2:0]			—	IOBDn0[2:0]		
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R/W	R/W	R/W	R	R/W	R/W	R/W	R	R/W	R/W	R/W	R	R/W	R/W	R/W

【注】 n=0~3: サブブロックD0~D3に対応。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15	—	0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
14~12	IOBDn3[2:0]	000	R/W	<p>I/O コントロール B</p> <ul style="list-style-type: none"> GRDn3 をアウトプットコンペアレジスタとして利用するとき <ul style="list-style-type: none"> 000 : コンペアマッチ禁止 001 : コンペアマッチで 0 出力 010 : コンペアマッチで 1 出力 011 : コンペアマッチでトグル出力 GRDn3 をキャプチャレジスタとして利用するとき <ul style="list-style-type: none"> 100 : キャプチャ禁止 101 : コンペアマッチ A のタイミングで TCNT2Dn 値をキャプチャ 110 : 設定禁止 111 : 設定禁止
11	—	0	R	<p>リザーブビット</p> <p>読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。</p>
10~8	IOBDn2[2:0]	000	R/W	<p>I/O コントロール B</p> <ul style="list-style-type: none"> GRDn2 をアウトプットコンペアレジスタとして利用するとき <ul style="list-style-type: none"> 000 : コンペアマッチ禁止 001 : コンペアマッチで 0 出力 010 : コンペアマッチで 1 出力 011 : コンペアマッチでトグル出力 GRDn2 をキャプチャレジスタとして利用するとき <ul style="list-style-type: none"> 100 : キャプチャ禁止 101 : コンペアマッチ A のタイミングで TCNT2Dn 値をキャプチャ 110 : 設定禁止 111 : 設定禁止
7	—	0	R	<p>リザーブビット</p> <p>読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。</p>
6~4	IOBDn1[2:0]	000	R/W	<p>I/O コントロール B</p> <ul style="list-style-type: none"> GRDn1 をアウトプットコンペアレジスタとして利用するとき <ul style="list-style-type: none"> 000 : コンペアマッチ禁止 001 : コンペアマッチで 0 出力 010 : コンペアマッチで 1 出力 011 : コンペアマッチでトグル出力 GRDn1 をキャプチャレジスタとして利用するとき <ul style="list-style-type: none"> 100 : キャプチャ禁止 101 : コンペアマッチ A のタイミングで TCNT2Dn 値をキャプチャ 110 : 設定禁止 111 : 設定禁止
3	—	0	R	<p>リザーブビット</p> <p>読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。</p>

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
2~0	IOBDn0[2:0]	000	R/W	I/O コントロール B <ul style="list-style-type: none"> GRDn0 をアウトプットコンペアレジスタとして利用するとき <ul style="list-style-type: none"> 000 : コンペアマッチ禁止 001 : コンペアマッチで 0 出力 010 : コンペアマッチで 1 出力 011 : コンペアマッチでトグル出力 GRDn0 をキャプチャレジスタとして利用するとき <ul style="list-style-type: none"> 100 : キャプチャ禁止 101 : コンペアマッチ A のタイミングで TCNT2Dn 値をキャプチャ 110 : 設定禁止 111 : 設定禁止

【注】 n=0~3 : サブブロック D0~D3 に対応。m=0~3 : チャンネル 0~3 に対応。

13.19.5 ダウンカウントスタートレジスタ D0~3 (DSTRD0~3)

DSTRD0~3 は、8 ビットの読み出し/書き込み可能なレジスタです。ダウンカウンタのスタートビットを持ち、ソフトで値を書き込むことでダウンカウント動作を開始させることができます。

DSTRD0~3 は、バイト単位で読み出し/書き込みが可能です。

DSTRD0~3 は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時に H'00 に初期化されます。

ビット :	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	DSTD _{n3}	DSTD _{n2}	DSTD _{n1}	DSTD _{n0}
初期値 :	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W :	R	R	R	R	R/(W)*	R/(W)*	R/(W)*	R/(W)*

【注】 n=0~3 : サブブロック D0~D3 に対応。

* 0書き込み無効。1を書き込みデータは保持されません。読み出し値は常に0になります。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
7~4	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
3	DSTDn3	0	R/(W)*	ダウンカウントスタート Dnm
2	DSTDn2	0	R/(W)*	本ビットに 1 を書き込むことにより、ダウンカウンタ Dn (DCNTDnm) のカウントを開始することができます。ダウンカウントスタートビットによるダウンカウント開始は、ダウンカウントコントロールレジスタのスタートトリガの設定に関係なく常に有効です。ただし、コンペアマッチ B によるダウンカウンタの停止が設定されていて、ダウンカウントスタートビットへの 1 書き込みと、コンペアマッチ B が同時に発生した場合は、コンペアマッチ B によるカウント停止が優先されるため、ダウンカウントは開始されません。DCNTDn 値が H'000000 であるときは、ダウンカウントスタートビットへ 1 書き込みを行ってもダウンカウントは開始されません。 0 : 何もしない 1 : ダウンカウンタ (DCNTDn0~3) のカウント開始
1	DSTDn1	0	R/(W)*	
0	DSTDn0	0	R/(W)*	

13.19.6 ダウンカウンタステータスレジスタ D0~3 (DSRD0~3)

DSRD0~3は、8ビットの読み出し／書き込み可能なレジスタです。本レジスタは、タイマダウンカウンタ (DCNTDnm) の状態を示すフラグを持っています。

DSRD0~3は、バイト単位で読み出し／書き込みが可能です。

DSRD0~3は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時にH'00に初期化されます。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	DSFD n3	DSFD n2	DSFD n1	DSFD n0
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R*	R*	R*	R*

【注】 n=0~3：サブブロックD0~D3に対応。

* DSFDnmは読み出し専用のフラグです。このビットへの書き込みはすべて無視されます。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
7~4	—	すべて0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。
3	DSFDn3	0	R*	ダウンカウンタステータスフラグ Dnm ダウンカウンタ Dnm (DCNTDnm) 動作の有効、無効を示すステータスフラグです。このフラグの読み出し値が1であるとき、DCNTDnmのダウンカウンタ動作は有効であり、ATUENRのTDEビットが1でTSTRDのSTRDnビットが1であれば、DCNTDnmがダウンカウンタ動作中であることがわかります。 また読み出し値が0であるときは、DCNTDnmはダウンカウンタ動作無効であり、ダウンカウンタ停止中であることがわかります。 0：ダウンカウンタ無効状態 [クリア条件] <ul style="list-style-type: none"> ● ダウンカウンタのアンダフローによってカウンタ停止したとき。 ● ダウンカウンタストップトリガとして設定された条件(コンペアマッチ B)が発生し、ダウンカウンタがカウンタ停止したとき。 1：ダウンカウンタ有効状態 [セット条件] <ul style="list-style-type: none"> ● ダウンカウンタスタートレジスタ (DSTRDn) のダウンカウンタスタートビットに1を書いたとき。 ● ダウンカウンタスタートトリガとして設定された条件(コンペアマッチ A、コンペアマッチ B)が発生したとき 【注】本フラグは、ATUENRのTDEビットおよびTSTRDのSTRDnビットの設定値にかかわらず、セット、クリアされます。したがって、TDEビットまたはSTRDnビットがカウンタ許可に設定されていない場合は、ダウンカウンタ有効状態であってもダウンカウンタ停止中であることに注意してください。
2	DSFDn2	0	R*	
1	DSFDn1	0	R*	
0	DSFDn0	0	R*	

13.19.7 ダウンカウンタコントロールレジスタ D0~3 (DCRD0~3)

DCRD0~3は、16ビットの読み出し/書き込み可能なレジスタです。本レジスタは、ダウンカウントスタート/ストップトリガ設定ビットを持っており、タイマダウンカウンタ (DCNTDnm) の開始、停止のトリガとしてコンペアマッチ A、あるいはコンペアマッチ B を設定することができます。ただし、TRGSELDn ビットの変更は、カウンタ停止状態で行ってください。カウンタ動作中にトリガ要因の変更を行った場合の動作は保証できません。

TRGSELD ビットは、タイマダウンカウンタ (DCNTDnm) のカウントスタート、カウントストップのトリガとなる要因を設定します。カウントスタートのトリガには、コンペアマッチ A、あるいはコンペアマッチ B を設定できます。カウントストップのトリガにはコンペアマッチ B を設定できます。

ダウンカウンタのスタートトリガとしては、ここで設定した要因以外に、ダウンカウンタスタートビットへの書き込みがあります。ダウンカウンタスタートビットでのカウントスタートは、TRGSELDnm の設定にかかわらず常に有効です。ダウンカウンタのスタートトリガと、ストップトリガとなる要因が同時に発生した場合には、カウントストップが優先されます。

DCRD0~3は、バイトおよびワード単位で読み出し/書き込みが可能です。

DCRD0~3は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時に H'0000 に初期化されます。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	TRGSELDn3[2:0]			—	TRGSELDn2[2:0]			—	TRGSELDn1[2:0]			—	TRGSELDn0[2:0]		
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R/W	R/W	R/W	R	R/W	R/W	R/W	R	R/W	R/W	R/W	R	R/W	R/W	R/W

【注】 n=0~3: サブブロックD0~D3に対応。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15	—	0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。
14~12	TRGSELDn3 [2:0]	000	R/W	ダウンカウントスタート/ストップトリガ選択 Dn3 [カウントスタートトリガ] [カウントストップトリガ] 000: なし 000: なし 001: なし 001: コンペアマッチ B 010: コンペアマッチ A 010: なし 011: コンペアマッチ A 011: コンペアマッチ B 100: コンペアマッチ B 100: なし 101: 設定禁止 101: 設定禁止 110: 設定禁止 110: 設定禁止 111: 設定禁止 111: 設定禁止
11	—	0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
10~8	TRGSELDn2 [2:0]	000	R/W	ダウンカウントスタート/ストップトリガ選択 Dn2 [カウントスタートトリガ] [カウントストップトリガ] 000 : なし 000 : なし 001 : なし 001 : コンペアマッチ B 010 : コンペアマッチ A 010 : なし 011 : コンペアマッチ A 011 : コンペアマッチ B 100 : コンペアマッチ B 100 : なし 101 : 設定禁止 101 : 設定禁止 110 : 設定禁止 110 : 設定禁止 111 : 設定禁止 111 : 設定禁止
7	—	0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
6~4	TRGSELDn1 [2:0]	000	R/W	ダウンカウントスタート/ストップトリガ選択 Dn1 [カウントスタートトリガ] [カウントストップトリガ] 000 : なし 000 : なし 001 : なし 001 : コンペアマッチ B 010 : コンペアマッチ A 010 : なし 011 : コンペアマッチ A 011 : コンペアマッチ B 100 : コンペアマッチ B 100 : なし 101 : 設定禁止 101 : 設定禁止 110 : 設定禁止 110 : 設定禁止 111 : 設定禁止 111 : 設定禁止
3	—	0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
2~0	TRGSELDn0 [2:0]	000	R/W	ダウンカウントスタート/ストップトリガ選択 Dn0 [カウントスタートトリガ] [カウントストップトリガ] 000 : なし 000 : なし 001 : なし 001 : コンペアマッチ B 010 : コンペアマッチ A 010 : なし 011 : コンペアマッチ A 011 : コンペアマッチ B 100 : コンペアマッチ B 100 : なし 101 : 設定禁止 101 : 設定禁止 110 : 設定禁止 110 : 設定禁止 111 : 設定禁止 111 : 設定禁止

【注】 n=0~3 : サブブロック D0~D3 に対応。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
12	OVF1Dn	0	R/(W)*	<p>オーバーフローフラグ 1Dn</p> <p>このフラグによりタイマカウンタ 1Dn (TCNT1Dn) のオーバーフローの状態を参照することができます。このフラグをソフトウェアにより 1 にセットすることはできません。</p> <p>オーバーフローフラグは、TCNT1Dn が H'FFFF FF の状態でカウントアップクロックが入力されたときにセットされます。TCNT1Dn への H'0000 00 書き込み、および TCNT1Dn 初期値 (H'0000 00) で起動しても OVF1Dn はセットされません。</p> <p>カウンタ値が H'FFFF FF の状態で、カウントアップクロックと同時に TCNT1Dn への書き込みを行った場合、オーバーフローフラグは 1 にセットされますが、TCNT1Dn 値は H'0000 00 ではなく、書き込まれた値に更新されます。</p> <p>タイマ B からのカウンタクリアとオーバーフローが同時に発生した場合、オーバーフローは検出されません。タイマインタラプトイネーブルレジスタ Dn (TIERDn) のオーバーフローイネーブルフラグ (OVE1Dn) を 1 にセットすることでオーバーフロー割り込みを出力します。</p> <p>0 : TCNT1Dn でオーバーフローなし</p> <p>[クリア条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • OVF1Dn=1 の状態を読み出した後、OVF1Dn に 0 を書き込んだとき 1 : TCNT1Dn でオーバーフロー発生 <p>[セット条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • TCNT1Dn の値がオーバーフロー (H'FFFF FF→H'0000 00) したとき
11	UDFDn3	0	R/(W)*	<p>アンダフローフラグ Dnm</p>
10	UDFDn2	0	R/(W)*	<p>サブブロック Dn、チャネル m のタイマダウンカウンタ (DCNTDnm) のアンダフロー状態を参照することができます。アンダフローは、DCNTDnm が H'0000 00 の状態でダウンカウントクロックが入力されたときに検出されます。アンダフロー検出時、DCNTDnm は H'0000 00 のまま変化しません。また、DCNTDnm に H'FFFF FF を書き込んでもアンダフローフラグはセットされません。</p>
9	UDFDn1	0	R/(W)*	<p>このフラグをソフトウェアにより 1 にセットすることはできません。サブブロック D0~D3 内の計 16 チャネルに関しては、DMAC からの ACK 信号によりステータスのクリアが可能です。</p>
8	UDFDn0	0	R/(W)*	<p>リセット直後のアンダフローフラグは 0 です (DCNTDnm の値は初期値の H'0000 00 ですが、DCNTDnm が未動作状態のため、アンダフローを検出しません。DCNTDnm 動作制御はタイマダウンカウンタの項を参照願います)。</p> <p>0 : アンダフローなし</p> <p>[クリア条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • UDFDnm=1 の状態を読み出した後、UDFDnm に 0 を書き込んだとき • DMAC からの ACK 信号によるクリア (サブブロック 0~3 のみ対応) 1 : アンダフロー発生 <p>[セット条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • DCNTDnm の値がアンダフロー (カウンタ値が H'0000 00 の状態で次のダウンカウントクロックが入力) したとき

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
7	CMFADn3	0	R/(W)*	コンペアマッチ A フラグ Dnm
6	CMFADn2	0	R/(W)*	<p>サブブロック Dn、チャンネル m のアウトプットコンペアレジスタ (OCRDNm) のコンペアマッチ発生を示すステータスフラグです。このフラグをソフトウェアにより 1 にセットすることはできません。</p> <p>タイマ I/O コントロールレジスタ 1 (TIOR1Dn) の設定により、OCRDN がコンペアマッチ許可と設定されていれば、TCNT1Dn の動作状態に関係なく、TCNT1Dn と OCRDNm の値が一致したとき、次の Pφクロックサイクルでコンペアマッチ A フラグがセットされます。コンペアマッチ A 検出後、TCNT1Dn、OCRDNm の値が一致したままの状態、コンペアマッチ A ステータスをクリアしても新たにステータスはセットされません。</p> <p>また、A/D 起動用にコンペアマッチ A 検出を示す 1 Pφクロック幅のパルスを出力します (サブブロック D0、D1 の計 8 チャンネルのみ対応)。</p> <p>本ステータスは 1 の状態であることを読み出した後の 0 書き込みによりクリアが可能です。</p> <p>本ステータスをクリアせず 1 の状態のままであっても、新たに TCNT1Dn と OCRDNm が一致すればコンペアマッチ A を検出します。ステータスは 1 を上書きします。</p> <p>タイマインタラプトイネーブルレジスタ Dn (TIERDn) のコンペアマッチ A イネーブル (CMEADn) を 1 にセットすることで、コンペアマッチ A 発生を示す割り込み要求信号を出力可能です。ただし、CPU への割り込み出力はコンペアマッチ B フラグと共用です。コンペアマッチ A フラグとコンペアマッチ A イネーブルがともにセット、もしくはコンペアマッチ B フラグとコンペアマッチ B イネーブルがともにセットされているとき、コンペアマッチ割り込みを出力します。</p> <p>0 : コンペアマッチ A なし</p> <p>[クリア条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • CMFADnm=1 の状態を読み出した後、CMFADnm に 0 を書き込んだとき <p>1 : コンペアマッチ A 発生</p> <p>[セット条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • アウトプットコンペアレジスタ (OCRDNm) がコンペアマッチ許可と設定されている場合に、タイマカウンタ 1 (TCNT1Dn) の値が OCRDNm と等しくなったとき
5	CMFADn1	0	R/(W)*	
4	CMFADn0	0	R/(W)*	

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
3	CMFBDn3	0	R/(W)*	<p>コンペアマッチ B フラグ Dnm</p> <p>サブブロック Dn、チャンネル m のアウトプットコンペア B レジスタ (OCBRDnm) のコンペアマッチ発生を示すステータスフラグです。このフラグをソフトウェアにより 1 にセットすることはできません。</p> <p>タイマ I/O コントロールレジスタ 2 (TIOR2Dn) の設定により、GRDn がコンペアマッチ許可と設定されていれば、TCNT2Dn の動作状態に関係なく、TCNT2Dn と GRDnm の値が一致したとき、次の Pφクロックサイクルでコンペアマッチ B フラグがセットされます。コンペアマッチ B 検出後、TCNT2Dn、GRDnm の値が一致したままの状態でもコンペアマッチ B ステータスをクリアしても、新たにステータスはセットされません。</p> <p>また、A/D 起動用にコンペアマッチ B 検出を示す 1 Pφクロック幅のパルスを出力します (サブブロック D0、D1 の計 8 チャンネルのみ対応)。</p> <p>本ステータスは 1 の状態であることを読み出した後の 0 書き込みによりクリアが可能です。</p> <p>本ステータスをクリアせず 1 の状態のままであっても、新たに TCNT2Dn と GRDnm が一致すればコンペアマッチ B を検出します。ステータスは 1 を上書きします。</p> <p>タイマインタラプトイネーブルレジスタ Dn (TIERDn) のコンペアマッチ B イネーブル (CMEBDn) を 1 にセットすることで、コンペアマッチ B 発生を示す割り込み要求信号を出力可能です。ただし、CPU への割り込み出力はコンペアマッチ A フラグと共用です。コンペアマッチ A フラグとコンペアマッチ A イネーブルがともにセット、もしくはコンペアマッチ B フラグとコンペアマッチ B イネーブルがともにセットされているとき、コンペアマッチ割り込みを出力します。</p> <p>0 : コンペアマッチ B なし</p> <p>[クリア条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • CMFBDnm=1 の状態を読み出した後、CMFBDnm に 0 を書き込んだとき <p>1 : コンペアマッチ B 発生</p> <p>[セット条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • 汎用レジスタ (GRDnm) がコンペアマッチ許可として設定されている場合、タイマカウンタ 2 (TCNT2Dn) の値が GRDnm と等しくなったとき
2	CMFBDn2	0	R/(W)*	
1	CMFBDn1	0	R/(W)*	
0	CMFBDn0	0	R/(W)*	

【注】 n=0~3 : サブブロック D0~D3 に対応。m=0~3 : チャンネル 0~3 に対応。

* フラグをクリアするため、1 を読み出した後に 0 を書き込むことのみ可能です。1 の書き込みは無効です。

13.19.9 タイマインタラプトイネーブルレジスタ D0~3 (TIERD0~3)

TIERD0~3 は、16 ビットの読み出し／書き込み可能なレジスタです。本レジスタは、2つのタイマカウンタ (TCNT2Dn、TCNT1Dn) のオーバーフロー割り込み、TCNT1Dn とアウトプットコンペアレジスタ (OCRDnm) とのコンペアマッチ割り込み、および TCNT2Dn と汎用レジスタ (GRDnm) とのコンペアマッチ割り込み要求の許可／禁止を制御します。

TIERD0~3 は、バイトおよびワード単位で読み出し／書き込みが可能です。

TIERD0~3 は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時に H'0000 に初期化されます。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	OVE2 Dn	OVE1 Dn	UDE Dn3	UDE Dn2	UDE Dn1	UDE Dn0	CME ADn3	CME ADn2	CME ADn1	CME ADn0	CME BDn3	CME BDn2	CME BDn1	CME BDn0
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

【注】 n=0~3: サブブロックD0~D3に対応。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15, 14	—	すべて0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。
13	OVE2Dn	0	R/W	オーバーフローインタラプトイネーブル 2Dn タイマカウンタ 2Dn (TCNT2Dn) のオーバーフロー発生による割り込み要求の許可／禁止を設定します。本ビットを設定することでタイムステータスレジスタ (TSRDn) のオーバーフローフラグ 2 (OVF2Dn) を割り込みとして出力することが可能です。 0: OVF2Dn による割り込み要求を禁止 1: OVF2Dn による割り込み要求を許可
12	OVE1Dn	0	R/W	オーバーフローインタラプトイネーブル 1Dn タイマカウンタ 1Dn (TCNT1Dn) のオーバーフロー発生による割り込み要求の許可／禁止を設定します。本ビットを設定することでタイムステータスレジスタ (TSRDn) のオーバーフローフラグ 1 (OVF1Dn) を割り込みとして出力することが可能です。 0: OVF1Dn による割り込み要求を禁止 1: OVF1Dn による割り込み要求を許可
11	UDEDn3	0	R/W	アンドフローインタラプトイネーブル Dnm タイマダウンカウンタ Dnm (DCNTDnm) のアンドフロー発生による割り込み要求の許可／禁止を設定します。本ビットを設定することでタイムステータスレジスタ (TSRDn) のアンドフローフラグ (UDFDnm) を割り込みとして出力することが可能です。 0: UDFDnm による割り込み要求を禁止 1: UDFDnm による割り込み要求を許可
10	UDEDn2	0	R/W	
9	UDEDn1	0	R/W	
8	UDEDn0	0	R/W	

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
7	CMEADn3	0	R/W	コンペアマッチ A インタラプトイネーブル Dnm アウトプットコンペアレジスタ (OCRDnm) のコンペアマッチ発生による割り込み要求の許可/禁止を設定します。本ビットを設定することでタイムステータスレジスタ (TSRDn) のコンペアマッチ A フラグ (CMFADn) を割り込みとして出力することが可能です。ただし割り込み出力はコンペアマッチ B 割り込みと共通化して出力されます。 0 : CMFADnm による割り込み要求を禁止 1 : CMFADnm による割り込み要求を許可
6	CMEADn2	0	R/W	
5	CMEADn1	0	R/W	
4	CMEADn0	0	R/W	
3	CMEBDn3	0	R/W	コンペアマッチ B インタラプトイネーブル Dnm 汎用レジスタ (GRDnm) のコンペアマッチ発生による割り込み要求の許可/禁止を設定します。本ビットを設定することでタイムステータスレジスタ (TSRDn) のコンペアマッチ B フラグ (CMFBDn) を割り込みとして出力することが可能です。ただし割り込み出力はコンペアマッチ A 割り込みと共通化して出力されます。 0 : CMFBDnm による割り込み要求を禁止 1 : CMFBDnm による割り込み要求を許可
2	CMEBDn2	0	R/W	
1	CMEBDn1	0	R/W	
0	CMEBDn0	0	R/W	

【注】 n=0~3 : サブブロック D0~D3 に対応。m=0~3 : チャネル 0~3 に対応。

13.19.10 コンペアマッチパルス出力コントロールレジスタ D0、1 (CMPOD0、CMPOD1)

CMPOD0、1 は、8 ビットの読み出し/書き込み可能なレジスタで、コンペアマッチ A および B 検出時に A/D 割り込み変換起動用にパルスを出力するか否かを設定します。

CMPOD0、1 は、バイト単位で読み出し/書き込みが可能です。

CMPOD0、1 は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時には H'00 に初期化されます。

ビット: 7 6 5 4 3 2 1 0

CMP	CMP	CMP	CMP	CMP	CMP	CMP	CMP
BDn3	BDn2	BDn1	BDn0	ADn3	ADn2	ADn1	ADn0

初期値: 0 0 0 0 0 0 0 0

R/W: R/W R/W R/W R/W R/W R/W R/W R/W

【注】 n=0、1 : サブブロック D0、D1 に対応。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
7	CMPBDn3	0	R/W	コンペアマッチ B パルス出力制御 コンペアマッチ B 検出パルスを出力するか否かを設定します。本ビットを 1 に設定した場合、コンペアマッチ B 検出時に 1 Pφクロック幅の負論理パルスを出力します。 0 : コンペアマッチ B 検出パルス出力 OFF 1 : コンペアマッチ B 検出パルス出力 ON (1 Pφクロック幅のパルスを出力)
6	CMPBDn2	0	R/W	
5	CMPBDn1	0	R/W	
4	CMPBDn0	0	R/W	

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
3	CMPADn3	0	R/W	コンペアマッチ A パルス出力制御 コンペアマッチ A 検出パルスを出力するか否かを設定します。本ビットを 1 に設定した場合、コンペアマッチ A 検出時に 1 Pφクロック幅の負論理パルスを出力します。 0 : コンペアマッチ A 検出パルス出力 OFF 1 : コンペアマッチ A 検出パルス出力 ON (1 Pφクロック幅のパルスを出力)
2	CMPADn2	0	R/W	
1	CMPADn1	0	R/W	
0	CMPADn0	0	R/W	

【注】 n=0~3 : サブブロック D0~D3 に対応。

13.19.11 タイマアウトプットコントロールレジスタ D0~3 (TOCRD0~TOCRD3)

TOCRD0~3は、8ビットの読み出し/書き込み可能なレジスタで、各サブブロック Dn の持つ出力端子 (TODnmA、TODnmB) の信号を反転するか否かを設定します。

出力反転セレクト Dn ビットを変更すると、次の Pφクロックサイクルで TODnmB、TODnmA の出力が反転します。タイマカウンタ 1Dn、2Dn (TCNT1Dn、TCNT2Dn) の動作/停止状態は出力反転切り替えに影響を与えません。

TONEBDn はサブブロック Dn の持つ 4 出力 (TODn0B、TODn1B、TODn2B、TODn3B) すべてを制御します。TONEADn も同様に 4 出力 (TODn0A、TODn1A、TODn2A、TODn3A) すべてを共通に制御します。TODnmB、TODnmA とともにチャンネル単位での制御はできません。

初期状態 (TONEADn=0、TONEBDn=0) での TODnmA、TODnmB 出力は 0 です。

TOCRD0~3 は、バイト単位で読み出し/書き込みが可能です。

TOCRD0~3 は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時には H'00 に初期化されます。

ビット:	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	TONE BDn	TONE ADn
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R	R	R	R	R/W	R/W

【注】 n=0~3 : サブブロック D0~D3 に対応。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
7~2	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
1	TONEBDn	0	R/W	出力反転セレクト TODnmB TODnmB からの出力を反転するか否かを設定します。 0 : 出力端子 (TODnmB) から通常出力 1 : 出力端子 (TODnmB) から反転信号を出力
0	TONEADn	0	R/W	出力反転セレクト TODnmA TODnmA からの出力を反転するか否かを設定します。 0 : 出力端子 (TODnmA) から通常出力 1 : 出力端子 (TODnmA) から反転信号を出力

【注】 n=0~3 : サブブロック D0~D3 に対応。m=0~3 : チャンネル 0~3 に対応。

13.19.12 タイマオフセットベースレジスタ D0~3 (OSBRD0~3)

OSBRD0~3は、32ビット読み出し専用レジスタです。本レジスタは、入力キャプチャ専用レジスタで、タイマAからのトリガ信号によりタイマカウンタ1Dn (TCNT1Dn) の値をキャプチャして格納します。トリガ信号は、TIA01もしくはTIA02から選択可能です。サブブロックD0~D2用のトリガ信号設定は、TCRAレジスタのビット7(EVOSEL2A)、D3の設定はTCRAレジスタのビット6(EVOSEL2B)で行ってください。詳細は「13.10.1 タイマコントロールレジスタA (TCRA)」を参照してください。

OSBRD0~3は、ロングワード単位でのみ読み出しが可能です。

OSBRD0~3は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時にH'00000000に初期化されます。

ビット:	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R
ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
									—	—	—	—	—	—	—	—
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

13.19.13 タイマカウンタ1D0~3 (TCNT1D0~3)

TCNT1D0~3は、32ビットの読み出し/書き込み可能なレジスタです。タイマコントロールレジスタDn (TCRDn) のCKSEL1Dn[2:0]ビットにより、選択されたカウントクロックによりカウント動作を行います。タイマスタートレジスタ (TSTRD) の対応するビットを1にセットすると、カウントを開始します。

タイマがオーバーフローすると、タイマステータスレジスタDn (TSRDn) のオーバーフラグ (OVF1Dn) が1にセットされます。

TCNT1D0~3は、ロングワード単位でのみ読み出し/書き込みが可能です。

TCNT1D0~3は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時にH'0000 0000に初期化されます。

ビット:	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
									—	—	—	—	—	—	—	—
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R	R	R	R	R	R	R	R

13.19.14 タイマカウンタ 2D0~3 (TCNT2D0~3)

TCNT2D0~3 は、32 ビットの読み出し／書き込み可能なレジスタです。タイマコントロールレジスタ Dn (TCRDn) の CKSEL2Dn[2:0]ビットにより、選択されたカウントクロックによりカウント動作を行います。タイマスタートレジスタ (TSTRD) の対応するビットを 1 にセットすると、カウントを開始します。

タイマがオーバーフローすると、タイマステータスレジスタ Dn (TSRDn) のオーバーフラグ (OVF2Dn) が 1 にセットされます。

TCNT2D0~3 は、ロングワード単位でのみ読み出し／書き込みが可能です。

TCNT2D0~3 は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時に H'00000000 に初期化されます。

ビット:	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
									—	—	—	—	—	—	—	—
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R	R	R	R	R	R	R	R

13.19.15 アウトプットコンペアレジスタ D00~33 (OCRD00~33)

OCRD00~33は、32ビットの読み出し／書き込み可能なレジスタで、上位24ビットにマッピングされています。

OCRDnmはアップカウンタ TCNT1Dn と常に比較されており、TIOR1Dn レジスタの IOADnm ビットでコンペアマッチ許可に設定されていれば、TCNT1Dn の値と OCRDnm の値との一致を検出し、次の Pφクロックに同期して TSRDn レジスタの CMFADnm ビット (コンペアマッチ A フラグ) を 1 にセットします。このとき、OSSDnm ビットでコンペアマッチ A が出力要因に設定されていれば、TODnmA 端子へのコンペアマッチ出力も行います。

また、DCRDnm の TRGSELDnm ビットでコンペアマッチ A がダウンカウントスタートトリガに設定されていれば、コンペアマッチ A の検出と同時に DCNTDnm はダウンカウント可能状態となります。

ダウンカウント可能状態になると、DCNTDnm はダウンカウント用クロックに同期してダウンカウントを行います。また、ダウンカウント開始と同時に TODnmB 出力をアサート (ワンショットパルス出力開始) します。ただし、コンペアマッチ A と、ダウンカウントストップトリガに設定されたコンペアマッチ B が同時に発生した場合は、出力遮断が優先されパルスを出力せずに終了します。

TCNT1Dn がカウンタオーバフローで H'FFFF FF から H'0000 00 に変化したとき、OCRDnm に H'0000 00 が設定されていればコンペアマッチを検出します。

タイマインタラプトイネーブルレジスタ Dn (TIERDn) の CMEADn ビットを 1 に設定しておくことで、コンペアマッチ A 検出による割り込みを発生させることができます (割り込み出力はコンペアマッチ B と共通出力です。コンペアマッチ A、B いずれの割り込みであるかは TSRDn レジスタを確認してください)。

OCRD00~33 は、ロングワード単位でのみ読み出し／書き込みが可能です。

OCRD00~33 は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時に H'FFFFFF00 に初期化されます。

ビット:	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
初期値:	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
									—	—	—	—	—	—	—	—
初期値:	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R	R	R	R	R	R	R	R

13.19.16 汎用レジスタ D00~33 (GRD00~33)

GRD00~33 は、32 ビットの読み出し／書き込み可能なレジスタです。キャプチャレジスタとコンペアマッチレジスタの両方の機能を持っており、機能の切り替えはタイマ I/O コントロールレジスタ 2Dn (TIOR2Dn) で行います。

キャプチャレジスタとして使用しているときは、コンペアマッチ A を検出して TCNT2Dn の値を取り込みます。TCNT2Dn がカウント停止状態 (ATUENR レジスタの TDE ビットが 0、もしくは TSTRD レジスタの STRDn ビットが 0) でもキャプチャ動作は行われ、停止状態のカウント値を GRDnm に取り込みます。

アウトプットコンペアレジスタとして使用しているとき、GRDnm は TCNT2Dn と常に比較されています。TIOR2Dn レジスタの IOBDnm ビットがコンペアマッチ許可に設定されていれば、TCNT2Dn の値と GRDnm の値が一致すると次の Pφクロックに同期して、TSRDn レジスタの CMFBDnm ビットが 1 にセットされます。このとき、OSSDnm ビットでコンペアマッチ B が出力要因に設定されていれば、TODnmA 端子へのコンペアマッチ出力も行います。

DCRDnm の TRGSELDnm ビットでコンペアマッチ B がダウンカウントスタートトリガに設定されていれば、コンペアマッチ B の検出と同時に DCNTDnm はダウンカウント可能状態となります。

ダウンカウント可能状態になると、DCNTDnm はダウンカウント用クロックに同期してダウンカウントを行います。また、ダウンカウント開始と同時に TODnmB 出力をアサート (ワンショットパルス出力開始) します。

DCRDnm の TRGSELDnm ビットでコンペアマッチ B がダウンカウントストップトリガに設定されていれば、コンペアマッチ B 検出によってダウンカウント可能状態でなくなります。その後、次のダウンカウント用クロックに同期してダウンカウンタのゼロクリア、TODnmB 出力ネゲート (ワンショットパルス終了) を行います。

TCN2TDn がカウンタオーバフローで H'FFFF FF から H'0000 00 に変化したとき、GRDnm に H'0000 00 が設定されていればコンペアマッチを検出します。

タイムインタラプトイネーブルレジスタ Dn (TIERDn) の CMEBDn ビットを 1 に設定しておくことでコンペアマッチ B 検出による割り込みを発生させることができます (割り込み出力はコンペアマッチ A と共通出力です。コンペアマッチ A、B いずれの割り込みであるかは TSRDn レジスタを確認してください。)

GRD00~33 は、ロングワード単位でのみ読み出し／書き込みが可能です。

GRD00~33 は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時に H'FFFF FF00 に初期化されます。

ビット:	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
初期値:	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
									—	—	—	—	—	—	—	—
初期値:	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R	R	R	R	R	R	R	R

13.19.17 タイマダウンカウンタ D00~33 (DCNTD00~33)

DCNTD00~33 は、32 ビットの読み出し／書き込み可能なレジスタです。タイマコントロールレジスタ Dn (TCRDn) の DCSELDn[2:0] ビットにより選択したクロックによりカウント動作を行います。

DCNTDnm の動作は、ダウンカウンタコントロールレジスタ Dn (DCRDn) によって制御することができます。コンペアマッチ A 検出、コンペアマッチ B 検出、あるいは DSTRDn レジスタの DSTDnm ビットへの 1 書き込みによってダウンカウントを開始し、DCNTDnm のアンダフローでカウント停止もしくはコンペアマッチ B 検出によりカウントを停止させることができます。ダウンカウントが許可されている期間中、ダウンカウントクロックが入力される度にダウンカウントを行います。

ダウンカウント動作は、TCNT1Dn と OCRDnm が同じ値となった次の Pφクロック（コンペアマッチ A 検出と同じタイミング）、TCNT2Dn と GRDnm が同じ値となった次の Pφクロック（コンペアマッチ B 検出と同じタイミング）、あるいは DSTDnm ビットが 1 になったときから許可されます。そこから DCNTDnm がアンダフローするまでの間、あるいは TCNT2Dn と GRDnm が同じ値となった次の Pφクロック（コンペアマッチ B 検出と同じタイミング）までの間がダウンカウント許可状態となります。その間にダウンカウントクロックが入力されれば、ダウンカウントを行います。

いったん許可状態になれば、DCNTDnm のアンダフローあるいはコンペアマッチ B の検出（カウントストップトリガに設定されているとき）までは、ダウンカウント許可状態が継続します。許可状態において、再度カウントスタートトリガ要因が発生したり、DSTDnm ビットへの 1 書き込みが行われたりしても、許可状態に変化はありません。

コンペアマッチ B を検出（カウントストップトリガに設定されているとき）すると、次のダウンカウント用クロックに同期してダウンカウントを停止し、カウンタ値は H'0000 00 にクリアされます。コンペアマッチ A や DSTDnm への 1 書き込みによるダウンカウント開始と、コンペアマッチ B によるダウンカウント停止を同時に検出した場合には、カウント停止が優先されます。ダウンカウント動作を行わずに終了し、TODnmB は出力されません。また、コンペアマッチ A や DSTDnm への 1 書き込みによるダウンカウント開始と、コンペアマッチ B 発生によるカウント停止の間に、一度もダウンカウントクロックの入力がない場合もダウンカウントを行わずに終了します。ダウンカウント停止状態では DCNTDnm 値にかかわらずダウンカウント動作を行いません。アンダフローでダウンカウント終了した後、DCNTDnm に新たに H'0000 00 以外の値を設定しても、次のカウント開始要因が発生するまではダウンカウントは行われません。

DCNTD00~33 は、ロングワード単位でのみ読み出し／書き込みが可能です。

DCNTD00~33 は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時に H'00000000 に初期化されます

ビット :	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
初期値 :	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W :	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ビット :	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
									—	—	—	—	—	—	—	—
初期値 :	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W :	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R	R	R	R	R	R	R	R

13.20 タイマ D の動作説明

タイマ D はワンショットパルスの生成が可能です。コンペアマッチ A あるいはコンペアマッチ B をダウンカウンタのスタートトリガに用いることによって、オフセット付きのワンショットパルスの出力も可能です。

ATUENR レジスタの TDE ビットおよびタイマスタートレジスタ (TSTRD) の STRDn ビットを 1 にセットすると、サブブロック Dn の 2 つのアップカウンタ (TCNT1Dn, TCNT2Dn) がアップカウント動作を開始します。

ダウンカウンタのカウントスタート要因としては、ダウンカウントスタートレジスタ D (DSTRD) の DSTDnm ビットへの 1 セット、およびダウンカウンタコントロールレジスタ D (DCRD) の TRGSELnm ビットで設定したコンペアマッチ A、コンペアマッチ B の 3 つがあります。これらのカウントスタート要因が発生すると、DCNTDnm はダウンカウント用クロックに同期してダウンカウント動作を開始します。

ダウンカウンタのカウントストップ要因としては、ダウンカウンタのアンダフローおよび TRGSELnm ビットで設定したコンペアマッチ B の 2 つがあります。アンダフロー時 (カウント値が H'0000 00 の状態でダウンカウント) は即時、コンペアマッチ B の場合には、次のダウンカウント用クロックに同期してダウンカウンタ (DCNTDnm) の値を H'0000 00 にクリアしダウンカウント動作を終了させます。

TCNT1Dn と OCRDnm とのコンペアマッチ A および TCNT2Dn と GRDnm とのコンペアマッチ B は、両レジスタ値が一致した次の Pφクロックに同期して行われます。Pφクロックに同期して TSRDn レジスタの CMFADnm、CMFBDnm ビットを 1 にセットします。

コンペアマッチ出力 (TODnmA) は、タイマ I/O コントロールレジスタ 1D (TIOR1Dn) の OSSDnm ビットで選択した出力要因 (コンペアマッチ A、あるいはコンペアマッチ B) の発生時に行われます。たとえば、コンペアマッチ A が選択させていた場合には、TCNT1Dn と OCRDnm の値が一致した次の Pφクロックサイクルで、IOAnm ビットに設定された値が TODnmA に出力されます。

ワンショットパルス出力 (TODnmB) の出力タイミングは、ダウンカウンタのカウント動作同様、ダウンカウントクロックに同期しています。3 つのカウントスタート要因はすべて Pφクロック同期で発生する事象であるため、TODnmB はカウントスタート要因発生後、最初のダウンカウントクロックを待ってアサートされます。カウントストップ要因であるダウンカウンタアンダフローはダウンカウントクロック同期、コンペアマッチ B は Pφクロックで発生します。ダウンカウンタアンダフロー時は、そのタイミングで TODnmB をネゲートします。コンペアマッチ B の場合は、コンペアマッチ発生後、最初のダウンカウントクロックを待って TODnmB のネゲートを行います。

表 13.14 ワンショットパルス出力 (TODnmB) の出力タイミング

出力端子	アサートタイミング	ネゲートタイミング	初期値
TODnmB	カウントスタート要因発生後、最初のダウンダウンカウントクロック。	コンペアマッチ B 発生後、最初のダウンカウントクロックまたは DCNTDnm アンダフロー時。	0 (TOCRDn によって反転)

【注】 アサートとネゲートが同時に発生した場合にはネゲートの処理が優先されます。

TODnmA、TODnmBともに初期値は0です。ただし、アウトプットコントロールレジスタ Dn (TOCRDn) により出力の反転が可能です。TONEADn ビットを1にするとサブブロック Dn 内の TODnmA 出力が反転、TONEBDn ビットを1にセットすると TODnmB 出力が反転します。

コンペアマッチ A、B フラグは割り込み出力が可能です。TIERDn の CMEADnm ビット、CMEBDnm ビットを1にセットすることで割り込みを出力可能です (コンペアマッチ A、B の割り込み出力は共通です。A、B のいずれかのステータスとインタラプトイネーブルビットがセットされているとき、割り込み出力はゼロ (ローアクティブ) となります)。

TCNT1Dn 用クロック設定、TCNT2Dn 用クロック設定、DCNTDnm 用クロック設定、また DCNTDnm、OCRDnm、GRDnm などの各レジスタ値の設定を TCNT1Dn、TCNT2Dn の動作中に行うときは、それぞれの値にご注意ください。コンペアマッチ値設定中にカウンタ値が意図したコンペアマッチ値を超えてしまうなどの動作不具合を引き起こす可能性があります。

図 13.28 にサブブロック D0、チャンネル 0 を使用した場合のワンショットパルス発生動作を示します。

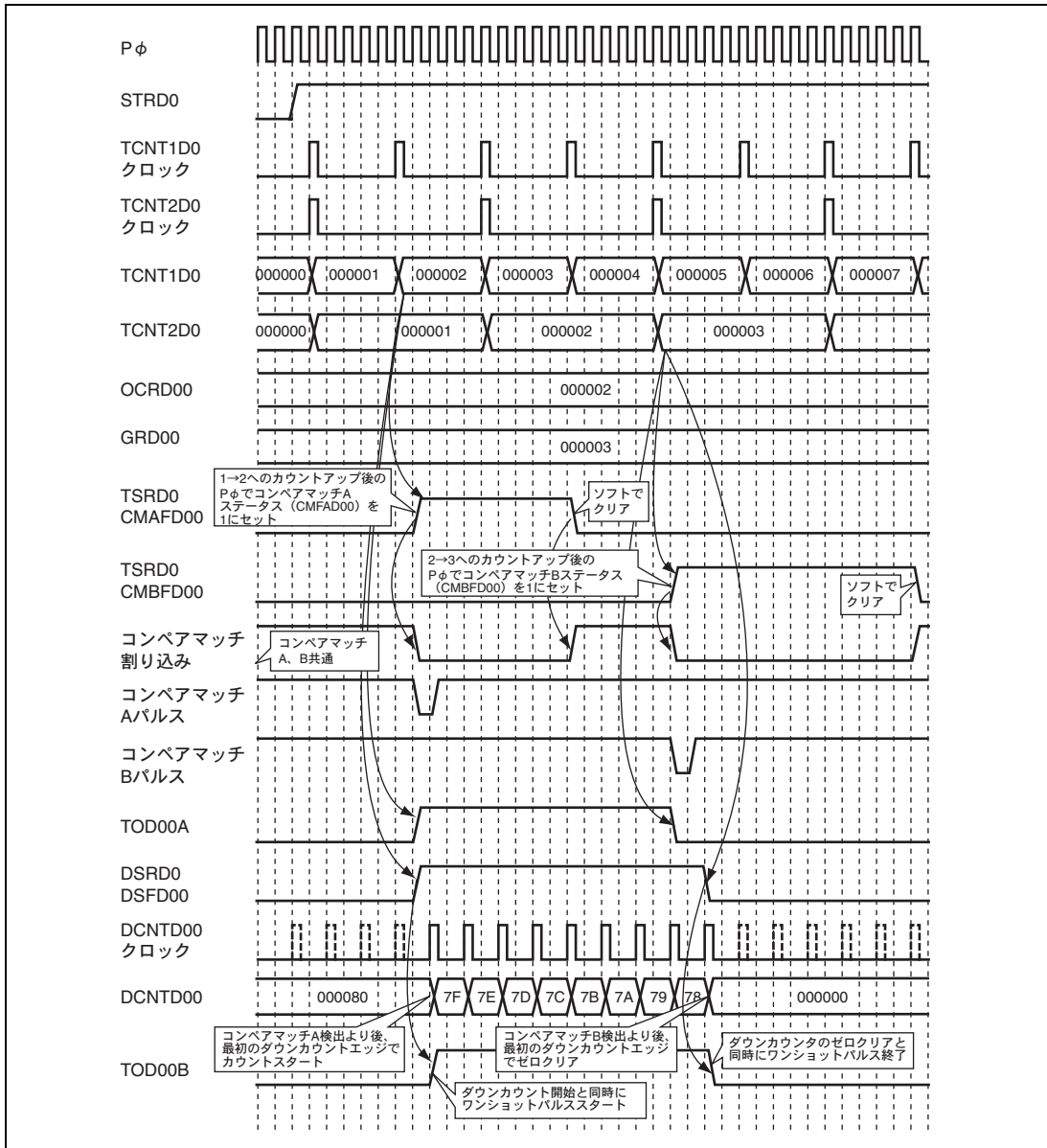


図 13.28 ワンショットパルス動作 (1)
(コンペアマッチ A でカウント開始、コンペアマッチ B でカウント終了)

図 13.28 は、コンペアマッチ A でカウント開始、コンペアマッチ B でカウント終了するときのダウンカウント動作、およびワンショットパルスの開始/停止状態を表しています。DCRD0 の TRGSEL00 でカウントスタートトリガにコンペアマッチ A、カウントストップトリガにコンペアマッチ B を設定しています。また、TIOR1D0 の OSSD00 でコンペアマッチ A、コンペアマッチ B の両方を出力要因に設定し、IOAD00 ビットにコンペアマッチ許

可で 0 出力、IOBD00 ビットにコンペアマッチ許可で 1 出力と設定しています。

タイマスタートレジスタ (TSTRD) を 1 にセットすると、その直後の TCNT1D0、TCNT2D0 用カウンタクロックで TCNT1D0、TCNT2D0 のそれぞれがカウントアップを開始します。TCNT1D0 がアウトプットコンペアレジスタ (OCRD00) と一致すると次の Pφクロックでコンペアマッチ A ステータスフラグ (CMFAD00) が 1 にセットされます。同時に TOD00A が 1 を出力し、またダウンカウンタステータスフラグ (DSFD00) にも 1 がセットされ、ダウンカウンタ許可状態に入ります。このダウンカウンタ許可状態はコンペアマッチ B 検出もしくは DCNTD00 アンダフローが検出されるまで継続します。この状態でダウンカウンタクロックが入力されると DCNTD00 がダウンカウンタを行います。最初のダウンカウンタクロックと同時に TOD00B から 1 を出力します。

汎用レジスタ (GRD00) が TCNT2D0 と一致すると、直後の Pφクロックに同期してコンペアマッチ B フラグ (CMFBD00) が 1 にセットされます。同時に TOD00A 出力が 0 となります。また、直後のダウンカウンタ用クロックに同期してダウンカウンタをゼロクリアし、ワンショットパルス出力 (TOD00B) も終了します。

タイマインタラプトイネーブルレジスタ D0 (TIREDD0) の CMEAD00 ビットの設定により、コンペアマッチ A 発生による割り込み要求の出力が、CMEBD00 ビットの設定により、コンペアマッチ B 発生による割り込み要求の出力が可能です。ただし、コンペアマッチ A、コンペアマッチ B は、ひとつの割り込み信号として ATU-III から出力されます。どちらの割り込みであるかは、TSRD0 レジスタの CMAFD00 ビット、CMBFD00 ビットを確認してください。

また、コンペアマッチパルス出力コントロールレジスタ D0 (CMPOD0) の設定により、A/D 起動用パルスの出力が可能です。1 Pφクロックサイクル幅のローパルスが、割り込みと同じタイミングで出力されます。

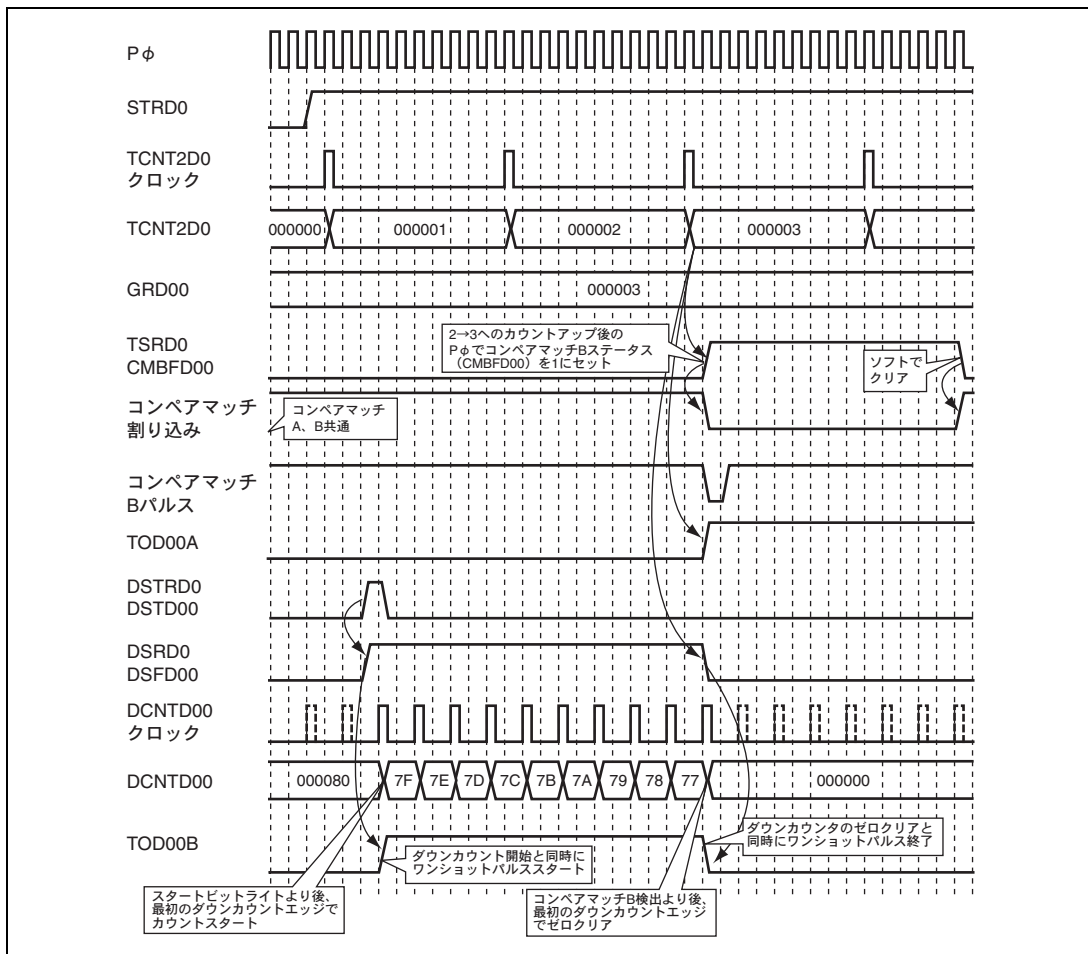


図 13.29 ワンショットパルス動作 (2)

(カウントスタートビット1ライトでカウント開始、コンペアマッチ B でカウント終了)

図 13.29 は、ダウンカウントスタートビットにソフトウェアで書き込みを行ってダウンカウントを開始させる動作を示しています。ここでは、DCRD0 の TRGSELD00 でカウントスタートトリガになし、カウントストップトリガにコンペアマッチ B を設定しています。また、TIOR1D0 の OSSD00 でコンペアマッチ B のみを出力要因に設定し、IOBD00 ビットにコンペアマッチ許可で 1 出力と設定しています。

以下にサブブロック D0、チャンネル 0 を使用した場合のワンショットパルス発生動作を示します。

ダウンカウントスタートレジスタ (DSTRD0) の DSTD00 ビットに 1 を書き込むと、同時にダウンカウントスタートフラグ (DSFD00) にも 1 がセットされ、ダウンカウント許可状態に入ります。DCNTD00 は、DSFD00 が 1 になった後の最初のダウンカウントクロックでダウンカウントを行います。また、最初のダウンカウントクロックと同時に TOD00B から 1 を出力します。

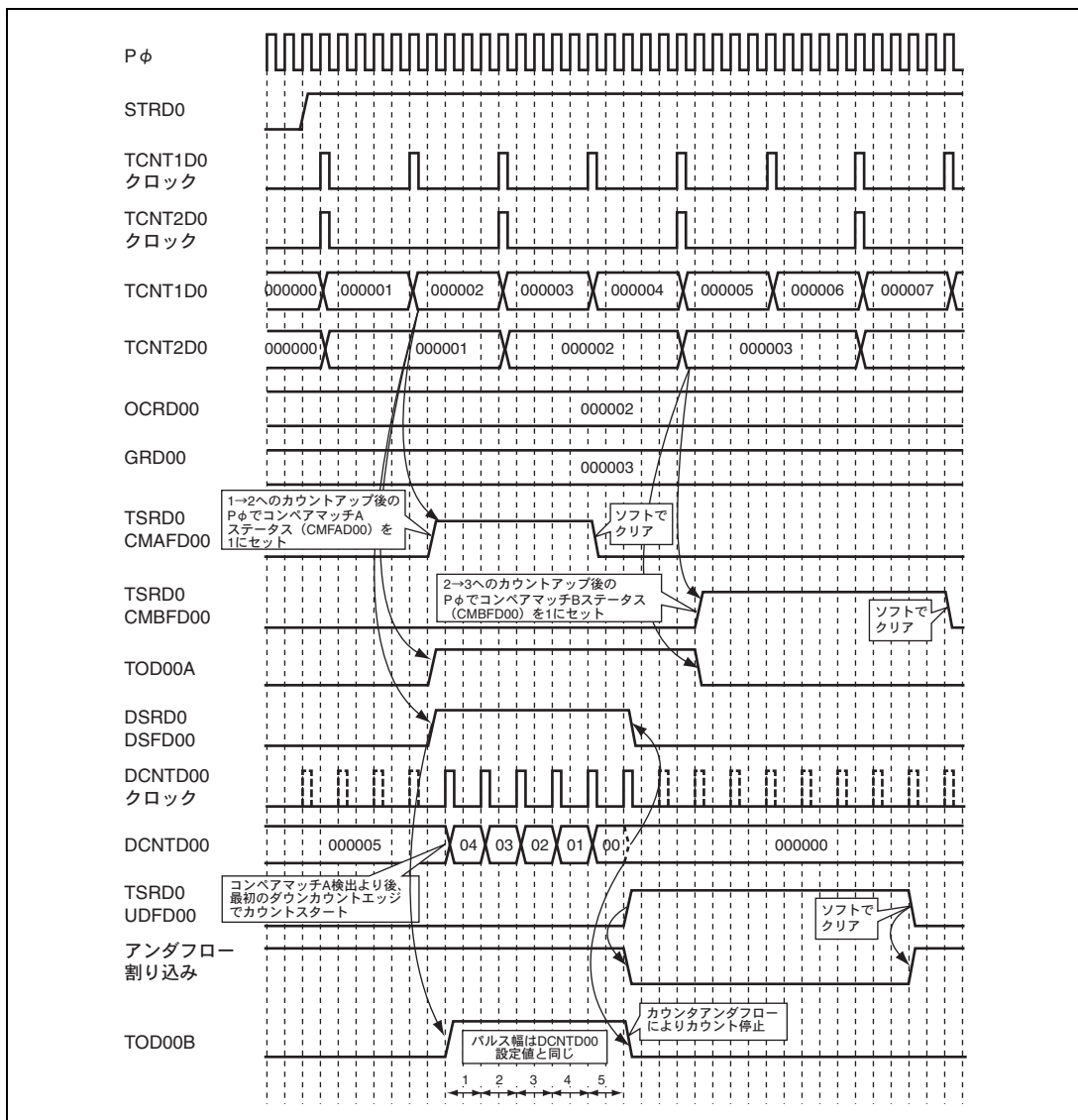


図 13.30 ワンショットパルス動作 (3) (アンダフロー発生の場合)

図 13.30 はアンダフローでのワンショットパルス終了の動作を示しています。ここでは、DCRD0 の TRGSELD00 でカウントスタートトリガにコンペアマッチ A、カウントストップトリガなしと設定しています。また、TIOR1D0 の OSSD00 でコンペアマッチ A、コンペアマッチ B の両方を出力要因に設定し、IOAD00 ビットにコンペアマッチ許可で 0 出力、IOBD00 ビットにコンペアマッチ許可で 1 出力と設定しています。

タイマダウンカウンタ D00 (DCNTD00) 値が H'00_0000 になった直後のダウンカウントクロックでアンダフローを検出し、TSRD0 のアンダフローフラグ (UDFD00) がセットされます。同時に TOD00B のワンショット出力も遮断されます。TOD00B に出力されるパルス幅は、ダウンカウント前に DCNTD00 に設定した値と同じです。

13.21 タイマ E の概要

タイマ E は、同一の機能を持つ 6 個のサブブロックによって構成される PWM 出力タイマで、以下の機能を実現することができます。

- サイクルレジスタ、デューティレジスタを設定することにより、デューティ 0~100% の波形が生成できます。
- サイクルレジスタ、デューティレジスタの値は、PWM サイクル終了ごとにサイクルリロードレジスタ、デューティリロードレジスタからリロードさせることができます。リロード機能の有効/無効も制御できます。
- カウンタへの H'0000 の書き込みで PWM サイクルの強制終了ができます。
- オンデューティ/オフデューティの切り替えが可能です。
- サイクルレジスタのコンペアマッチ (サイクルマッチ) で周期ごとに割り込み要求を生成できます。
- チャンネル 0 のサイクルマッチは DMAC 起動割り込みとして使用できます (ACK 信号による割り込み自動クリア)。

13.21.1 ブロック図

タイマEは、6個のサブブロックで構成されます。各サブブロックは、4本のチャンネルから構成されています。各チャンネルは、タイマカウンタE (TCNTE)、サイクルレジスタE (CYLRE)、デューティレジスタE (DTRE)、サイクルリロードレジスタE (CRLDE)、デューティリロードレジスタE (DRLDE)、および制御部などで構成されています。また、各チャンネルにPWM出力端子 (TOE) を備えています。

図 13.31 に、タイマEのブロック図を示します。

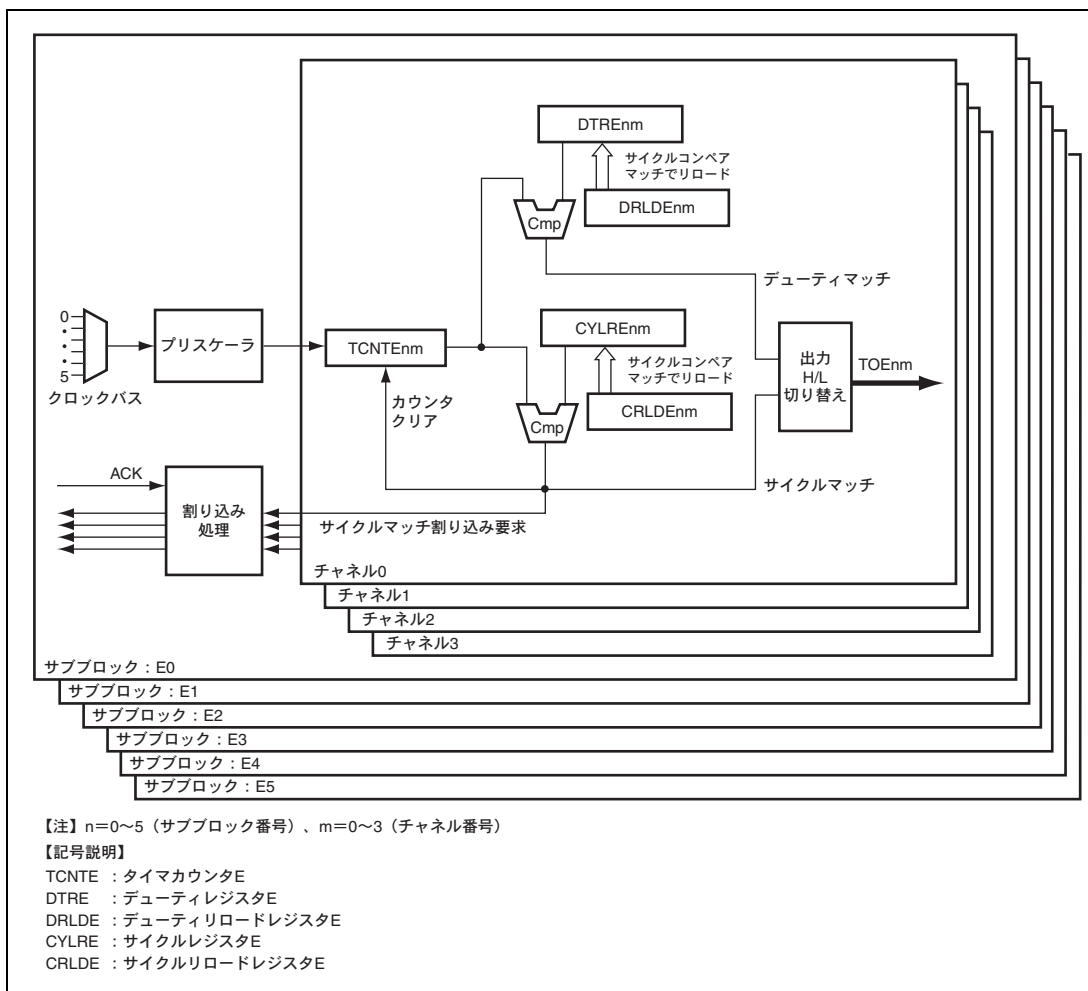


図 13.31 タイマEのブロック図

13.22 タイマ E のレジスタの説明

13.22.1 タイマスタートレジスタ E (TSTRE)

TSTRE は、8 ビットの読み出し／書き込み可能なレジスタで、サブブロック E0～E5 の動作の制御を行います。タイマ E のカウンタを動作させるには、ATU-III マスタイネーブルレジスタ (ATUENR) のタイマ E イネーブルビット (TEE)、タイマスタートレジスタ E (TSTRE)、サブブロックスタートレジスタ E (SSTRE) の設定が必要となります。

TSTRE は、バイト単位で読み出し／書き込みが可能です。

TSTRE は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時に H'00 に初期化されます。

ビット :	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	STRE5	STRE4	STRE3	STRE2	STRE1	STRE0
初期値 :	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W :	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
7, 6	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
5	STRE5	0	R/W	サブブロック E5 スタート 0 : サブブロック E5 の動作を禁止 1 : サブブロック E5 の動作を許可
4	STRE4	0	R/W	サブブロック E4 スタート 0 : サブブロック E4 の動作を禁止 1 : サブブロック E4 の動作を許可
3	STRE3	0	R/W	サブブロック E3 スタート 0 : サブブロック E3 の動作を禁止 1 : サブブロック E3 の動作を許可
2	STRE2	0	R/W	サブブロック E2 スタート 0 : サブブロック E2 の動作を禁止 1 : サブブロック E2 の動作を許可
1	STRE1	0	R/W	サブブロック E1 スタート 0 : サブブロック E1 の動作を禁止 1 : サブブロック E1 の動作を許可
0	STRE0	0	R/W	サブブロック E0 スタート 0 : サブブロック E0 の動作を禁止 1 : サブブロック E0 の動作を許可

13.22.2 サブブロックスタートレジスタ E0~5 (SSTRE0~5)

SSTRE0~5 は、8 ビットの読み出し/書き込み可能なレジスタで、サブブロックの持つ 4 本のチャンネルそれぞれについて、タイマカウンタの動作/停止を指定します。タイマスタートレジスタ E (TSTRE) で指定されたサブブロックのみ有効となります。ただし、SSTRE ビットを 1 にセットしても、ATUENR の TEE ビットが 1 にセットされていない場合は、カウント動作は開始されません。

プリスケータは、カウンタ Enm スタートビットの設定に関係なく動作しており、TCNTEnm の動作開始時にも初期化は行われません。したがって、起動から実際に TCNTEnm がカウント動作を開始するまでの時間には、選択されたカウントソースの周期 (分解能) 以下のハードウェア的な不確定性が伴います。

SSTRE0~5 は、バイト単位で読み出し/書き込みが可能です。

SSTRE0~5 は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時に H'00 に初期化されます。

ビット:	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	SSTR En3	SSTR En2	SSTR En1	SSTR En0
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W

【注】 n=0~5。サブブロックE0~E5に対応。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
7~4	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
3	SSTREn3	0	R/W	カウンタ En3 スタート タイマカウンタ En3 (TCNTEn3) を動作させるか、停止させるかを設定します。本ビットを 0 にクリアした場合、TCNTEn3 は動作を停止します。停止時はカウンタ値をそのまま保持し、再度本ビットを 1 にセットした場合には、その値から動作を再開します。 0: サブブロック En のチャンネル 3 のカウント動作を停止 1: サブブロック En のチャンネル 3 のカウント動作を許可
2	SSTREn2	0	R/W	カウンタ En2 スタート タイマカウンタ En2 (TCNTEn2) を動作させるか、停止させるかを設定します。本ビットを 0 にクリアした場合、TCNTEn2 は動作を停止します。停止時はカウンタ値をそのまま保持し、再度本ビットを 1 にセットした場合には、その値から動作を開始します。 0: サブブロック En のチャンネル 2 のカウント動作を停止 1: サブブロック En のチャンネル 2 のカウント動作を許可
1	SSTREn1	0	R/W	カウンタ En1 スタート タイマカウンタ En1 (TCNTEn1) を動作させるか、停止させるかを設定します。本ビットを 0 にクリアした場合、TCNTEn1 は動作を停止します。停止時はカウンタ値をそのまま保持し、再度本ビットを 1 にセットした場合には、その値から動作を開始します。 0: サブブロック En のチャンネル 1 のカウント動作を停止 1: サブブロック En のチャンネル 1 のカウント動作を許可

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
0	SSTREn0	0	R/W	カウンタ En0 スタート タイマカウンタ En0 (TCNTEn0) を動作させるか、停止させるかを設定します。本ビットを 0 にクリアした場合、TCNTEn0 は動作を停止します。停止時はカウンタ値をそのまま保持し、再度本ビットを 1 にセットした場合には、その値から動作を開始します。 0 : サブブロック En のチャンネル 0 のカウント動作を停止 1 : サブブロック En のチャンネル 0 のカウント動作を許可

【注】 n=0~5 : サブブロック E0~E5 に対応。

13.22.3 プリスケアラレジスタ E0~5 (PSCRE0~5)

PSCRE0~5 は、8 ビットの読み出し/書き込み可能なレジスタです。タイマ E は各サブブロックに 1 つのプリスケアラを内蔵しており、クロックバスから選択したクロックをさらに分周して使用することが可能です。本レジスタは、各サブブロックの持つプリスケアラの分周比の設定を行います。

プリスケアラレジスタ E (PSCRE) の設定値を書き換えると、プリスケアラのアンダフローに同期して、その書き換え値による動作を開始します。プリスケアラ E の出力により同一サブブロック内のタイマカウンタ E (TCNTE) はカウント動作を行います。

プリスケアラレジスタ E (PSCRE) には、H'0 から H'7 の値を設定することができます。プリスケアラの分周比は次の計算式で求められます。

$$\text{プリスケアラ分周比} = \frac{1}{\text{PSCEn}[2:0] + 1} \quad (\text{分周設定範囲 : } 1/1 \sim 1/8)$$

また、プリスケアラ E の出力するクロックは 50% のデューティを保証していません。Pφクロックの 1 サイクル期間のみハイレベル (H) であり、残りの期間はすべてローレベル (L) となります。

プリスケアラ E は、ATU-III マスタイネーブルレジスタ (ATUENR) の TEE ビット、タイマスタートレジスタ E (TSTRE) のサブブロック E スタートビット (STRE) が 1 に設定されている場合に動作を行います。

PSCRE0~5 は、バイト単位で読み出し/書き込みが可能です。

PSCRE0~5 は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時に H'00 に初期化されます。

ビット :	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	PSCEn[2:0]		
初期値 :	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W :	R	R	R	R	R	R/W	R/W	R/W

【注】 n=0~5。サブブロック E0~E5 に対応。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
7~3	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
2~0	PSCEn[2:0]	000	R/W	分周比 プリスケアラの分周比を設定します。

13.22.4 タイマコントロールレジスタ E0~5 (TCRE0~5)

TCRE0~5 は、8 ビットの読み出し/書き込み可能なレジスタで、プリスケアラ E のカウントソースをクロックバス 0~5 から選択します。プリスケアラ出力により 16 ビットのタイマカウンタ E (TCNTE) はカウント動作を行います。

TCRE0~5 は、バイト単位で読み出し/書き込みが可能です。

TCRE0~5 は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時に H'00 に初期化されます。

ビット :	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	CKSELEn[2:0]		
初期値 :	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W :	R	R	R	R	R	R/W	R/W	R/W
【注】 n=0~5。サブブロックE0~E5に対応。								

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7~3	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
2~0	CKSELEn[2:0]	000	R/W	TCNTE _n クロックセレクト プリスケアラ E のカウントソースをクロックバス 0~5 から選択します。 000 : クロックバス 0 をプリスケアラ E _n のカウントソースに選択 001 : クロックバス 1 をプリスケアラ E _n のカウントソースに選択 010 : クロックバス 2 をプリスケアラ E _n のカウントソースに選択 011 : クロックバス 3 をプリスケアラ E _n のカウントソースに選択 100 : クロックバス 4 をプリスケアラ E _n のカウントソースに選択 101 : クロックバス 5 をプリスケアラ E _n のカウントソースに選択 11x : リザーブ

【記号説明】 x : Don't care

13.22.5 リロードコントロールレジスタ E0~5 (RLDCRE0~5)

RLDCRE0~5 は、8 ビットの読み出し／書き込み可能なレジスタで、リロード機能の有効／無効を制御します。

RLDCRE0~5 は、バイト単位で読み出し／書き込みが可能です。

RLDCRE0~5 は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時に H'00 に初期化されます。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	RLDEN En3	RLDEN En2	RLDEN En1	RLDEN En0
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W

【注】 n=0~5。サブブロックE0~E5に対応。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7~4	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
3	RLDENEn3	0	R/W	リロードイネーブル Enm サイクルマッチ時のデューティレジスタ、サイクルレジスタのリロード機能の有効／無効を指定します。 0：サイクルマッチ時のデューティレジスタ、サイクルレジスタのリロード機能を無効にする 1：サイクルマッチ時のデューティレジスタ、サイクルレジスタのリロード機能を有効にする
2	RLDENEn2	0	R/W	
1	RLDENEn1	0	R/W	
0	RLDENEn0	0	R/W	

【注】 n=0~5：サブブロック E0~E5 に対応。m=0~3：チャンネル 0~3 に対応。

13.22.6 タイマステータスレジスタ E0~5 (TSRE0~5)

TSRE0~5は、8ビットの読み出し/書き込み可能なレジスタで、サブブロック E のサイクルレジスタ E (CYLRE) とタイマカウンタ E (TCNTE) とのコンペアマッチ (サイクルマッチ) 発生、および TCNTE でのオーバフロー発生を示します。

TSRE0~5は、バイト単位で読み出し/書き込みが可能です。

TSRE0~5は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時に H'00 に初期化されます。

ビット:	7	6	5	4	3	2	1	0
	OVF En3	OVF En2	OVF En1	OVF En0	CMF En3	CMF En2	CMF En1	CMF En0
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/(W)*R/(W)*R/(W)*R/(W)*R/(W)*R/(W)*R/(W)*R/(W)*							

【注】 n=0~5: サブブロックE0~E5に対応。

* フラグをクリアするため、1を読み出した後に0を書き込むことのみ可能です。
1の書き込みは無効です。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
7	OVFEn3	0	R/(W)*	オーバフローフラグ Enm
6	OVFEn2	0	R/(W)*	タイマカウンタ E (TCNTE) でオーバフローが発生した場合、本フラグが 1 にセットされます。本フラグをソフトウェアにより 1 にセットすることはできません。
5	OVFEn1	0	R/(W)*	オーバフローフラグは TCNTEnm が H'FFFF の状態でカウントアップクロックが入力されたときに発生します。TCNTEnm への H'0000 書き込みでは OVFEnm はセットされません。
4	OVFEn0	0	R/(W)*	<p>カウンタ値が H'FFFF の状態で、カウントアップクロックと同時に TCNTEnm への書き込みを行った場合、オーバフローフラグは 1 にセットされますが、TCNTEnm 値は H'0000 ではなく、書き込まれた値に更新されます。</p> <p>このフラグに対応する割り込みはありません。サイクルマッチ発生でカウンタ値は H'0001 にクリアされるため、通常動作ではオーバフローは発生しません。カウンタ動作中にサイクルレジスタ値を変更した場合にのみ、オーバフロー発生の可能性があります。</p> <p>また、オーバフローとサイクルマッチが同時に起こる場合 (CYLREn を H'FFFF に設定し、TCNTEnm が H'FFFF の状態でカウントアップクロックが入力された場合)、オーバフローは検出されません。この場合、サイクルマッチ検出時の処理が実施されます (カウンタ値が H'0001 となり、リロード有効であれば、サイクルリロード、デューティリロードが発生します)。</p> <p>0: オーバフローなし</p> <p>[クリア条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> OVFEnm=1 の状態を読み出した後、OVFEnm に 0 を書き込んだとき <p>1: オーバフロー発生</p> <p>[セット条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> アップカウンタ (TCNTEnm) の値が H'FFFF から H'0000 と変化したとき

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
3	CMFEn3	0	R/(W)*	サイクルマッチフラグ Enm 本フラグをソフトウェアにより 1 にセットすることはできません。CMFEnm が 1 の状態（フラグがクリアされていない状態）でも、次のサイクルマッチ処理は実施可能です。このとき CMFEnm には 1 がオーバーライトされます。タイムインタラプトイネーブルレジスタ En (TIEREn) のサイクルマッチインタラプトイネーブル E ビット (CMEEEnm) ビットが 1 にセットされていると、サイクルマッチによる割り込みを出力することができます。 ステータスのクリアは CMFEnm が 1 の状態をリードした後の 0 書き込みで行います。また、各ブロックのチャンネル 0 のフラグ (CMFEn0) は DMAC からの ACK 信号により自動的にクリアされます。 0 : サイクルマッチなし [クリア条件] <ul style="list-style-type: none"> • CMFEnm=1 の状態を読み出した後、CMFEnm に 0 を書き込んだとき • DMAC からの ACK (ステータスクリア) 信号によるクリア (チャンネル 0 のみ) 1 : サイクルマッチ発生 [セット条件] <ul style="list-style-type: none"> • アップカウンタ (TCNTEnm) の値がサイクルレジスタ (CYLREnm) と一致した状態でカウントクロックが入力されたとき
2	CMFEn2	0	R/(W)*	
1	CMFEn1	0	R/(W)*	
0	CMFEn0	0	R/(W)*	

【注】 n=0~5 : サブブロック E0~E5 に対応。m=0~3 : チャンネル 0~3 に対応。

* フラグをクリアするため、1 を読み出した後に 0 を書き込むことのみ可能です。1 の書き込みは無効です。

13.22.7 タイマインタラプトイネーブルレジスタ E0~5 (TIERE0~5)

TIERE0~5 は、8 ビットの読み出し／書き込み可能なレジスタで、サイクルレジスタ E (CYLRE) とタイマカウンタ E (TCNTE) とのコンペアマッチ (サイクルマッチ) による割り込み要求の許可／禁止を制御します。

TIERE0~5 は、バイト単位で読み出し／書き込みが可能です。

TIERE0~5 は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時に H'00 に初期化されます。

ビット :	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	CME En3	CME En2	CME En1	CME En0
初期値 :	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W :	R	R	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W

【注】 n=0~5 : サブブロック E0~E5 に対応。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
7~4	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
3~0	CMEEn3~ CMEEn0	すべて 0	R/W	サイクルマッチインタラプトイネーブル Enm CYLREnm のサイクルマッチ発生による割り込み要求の許可／禁止を設定します。本ビットを設定することで、タイムステータスレジスタ En (TSREn) のサイクルマッチフラグ Enm (CMFEnm) を割り込みとして出力することが可能です。 0 : CMFEnm による割り込み要求を禁止 1 : CMFEnm による割り込み要求を許可

【注】 n=0~5 : サブブロック E0~E5 に対応。m=0~3 : チャンネル 0~3 に対応。

13.22.8 タイマアウトプットコントロールレジスタ E0~5 (TOCRE0~5)

TOCRE0~5は、8ビットの読み出し/書き込み可能なレジスタで、各サブブロック E の持つ PWM 出力端子 (TOE) からの信号を反転するか否かを設定します。

TOCRE0~5は、バイト単位で読み出し/書き込みが可能です。

TOCRE0~5は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時に H'00 に初期化されます。

ビット :	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	TONE En3	TONE En2	TONE En1	TONE En0
初期値 :	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W :	R	R	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W

【注】 n=0~5 : サブブロック E0~E5 に対応。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
7~4	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
3	TONEEn3	0	R/W	TOEnm 出力反転セレクト PWM 出力端子 (TOE) からの PWM 出力を反転するか否かを設定します。 タイマアウトプットコントロールレジスタのオンデューティ/オフデューティ設定を変更した場合、次の Pφクロックサイクルで TOEnm 出力が反転します。カウンタ (TCNTEnm) の動作/停止状態は、オンデューティ/オフデューティの切り替えに影響を与えません。 なお、初期状態 (TONEEnm=0) での PWM 出力はローレベルです。 0 : PWM 出力端子 (TOEnm) から通常出力 1 : PWM 出力端子 (TOEnm) から反転信号を出力
2	TONEEn2	0	R/W	
1	TONEEn1	0	R/W	
0	TONEEn0	0	R/W	

【注】 n=0~5 : サブブロック E0~E5 に対応。m=0~3 : チャネル 0~3 に対応。

13.22.9 タイマカウンタ E00~53 (TCNTE00~53)

TCNTE00~53 は、サブブロック En、チャンネル m に配置された 16 ビットの読み出し/書き込み可能なレジスタです。ATU-III マスタイネーブルレジスタ (ATUENR) の TEE ビット、タイマスタートレジスタ E (TSTRE) のサブブロック En スタートビット (STREn)、およびサブブロックスタートレジスタ En (SSTREn) のカウンタ Enm スタートビット (SSTREnm) をセットすることにより動作可能となります。

カウントクロックは、タイマコントロールレジスタ En (TCREn) の TCNTEn クロックセレクト (CKSELEn[2:0])、およびタイマ E 内蔵のプリスケアラレジスタ En (PSCREn) によって設定します。

TCNTEnm は、サイクルレジスタ Enm (CYLREnm) とのサイクルマッチにより H'0001 に初期化されます。サイクルレジスタの値が N のとき、カウンタが N から (N+1) にカウントアップするタイミングで、(N+1) ではなく 1 にクリアします。すなわち、1 から N までのカウントを行い N 周期の PWM パルス出力に対応します。

TCNTEnm は、H'0001 から H'FFFF の間でカウント動作が可能です (サイクルレジスタに H'FFFF 設定時)。

TCNTEnm に H'0000 を書き込んだときは、PWM サイクルを強制終了し、次のカウントクロックで再び H'0001 から新たな PWM サイクルを開始します。カウント値が H'0000 である期間の PWM 出力は、直前の値を保持しており、新たな PWM サイクル開始と同時に 1 出力が行われます。デューティマッチ以前に PWM サイクルを強制終了した場合、その PWM サイクルは 100% デューティ (PWM サイクル期間中常に 1) となり、新たな PWM サイクルとの境界に 0 が出力されることはありません。カウンタへの H'0000 書き込み時の詳細動作は図 13.33 を参照してください。

カウンタ動作中に TCNTEnm または CYLREnm レジスタに書き込みを行った場合、カウンタ値が H'FFFF に到達してもサイクルマッチを起さない場合があります。その場合、次のカウントクロックでカウンタ値は H'FFFF から H'0000 に移行します。このときも H'0000 書き込みと同様、PWM サイクルは中断されます。次のカウントクロックでカウンタ値は H'0001 となり、新たな PWM サイクルを開始します。このとき、リロード機能が有効であればサイクルリロード、デューティリロードも発生します。

TCNTE00~53 は、ワード単位でのみ読み出し/書き込みが可能です。

TCNTE00~53 は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時に H'0001 に初期化されます。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	TCNTEnm[15:0]															
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

- 【注】
1. n=0~5: サブブロック E0~E5 に対応。
 2. m=0~3: チャンネル 0~3 に対応。

13.22.10 サイクルレジスタ E00~53 (CYLRE00~53)

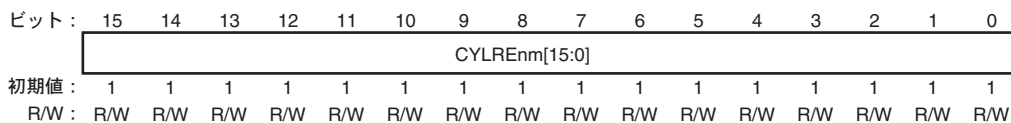
CYLRE00~53 は、16 ビットの読み出し/書き込み可能なレジスタで、PWM の周期格納レジスタです。H'0001 ~H'FFFF の範囲で PWM 周期を設定することが可能です。

CYLREnm の値と対応するタイマカウンタ (TCNTEnm) の値は常に比較されています。両者の値が一致すると、対応するタイムステータスレジスタ (TSRE) のビットが 1 にセットされ、TCNTEnm は H'0001 にクリアされます。このとき、リロードコントロールレジスタ (RLDCREnm) の RLDEnNm ビットが 1 にセットされていれば、サイクルリロードレジスタ (CRLDEnm)、デューティリロードレジスタ (DRLDEnm) の値を、それぞれサイクルレジスタ (CYLREnm)、デューティレジスタ (DTREnm) に転送します。

TCNTEnm 動作中に CYLREnm に書き込みを行う際は、書き込み値に注意してください。TCNTEnm 動作中に書き込みを行った場合、TCNTEnm がサイクルマッチを検出せずに CYLREnm 設定値を超えてカウントアップを続ける可能性があります。その場合、所望の PWM 出力は得られません。

CYLRE00~53 は、ワード単位でのみ読み出し/書き込みが可能です。

CYLRE00~53 は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時に H'FFFF に初期化されます。



- 【注】 1. n=0~5 : サブブロックE0~E5に対応。
2. m=0~3 : チャネル0~3に対応。

13.22.11 デューティレジスタ E00~53 (DTRE00~53)

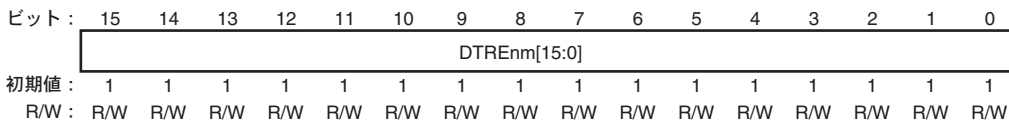
DTRE00~53 は、16 ビットの読み出し／書き込み可能なレジスタで、PWM のデューティ格納レジスタです。H'0000~H'FFFF の範囲でデューティ設定が可能です。

DTREnm の値と対応するタイマカウンタ (TCNTEnm) の値は常に比較されており、両者の値が一致すると、対応するチャンネルの出力端子 (TOEnm) はローレベル出力になります。また、RLDENm ビットが 1 に設定されている場合に CYLREnm と TCNTEnm が一致すると、対応する DRLDENm の値が DTREnm にリロードされます。

DTREnm には 0~CYLREnm の範囲の値を設定してください。0 を設定したときはデューティ 0% に、CYLREnm と同じ値を設定したときはデューティ 100% になります。DTREnm には CYLREnm より大きい値は設定しないでください。TCNTEnm 動作中に DTREnm に書き込みを行う際は、書き込み値に注意してください。TCNTEnm 動作中に書き込みを行った場合、TCNTEnm と DTREnm とのデューティマッチが検出できない可能性があります。その場合、所望の PWM 波形を得られません。

DTRE00~53 は、ワード単位でのみ読み出し／書き込みが可能です。

DTRE00~53 は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時に H'FFFF に初期化されます。



- 【注】 1. n=0~5: サブブロックE0~E5に対応。
2. m=0~3: チャンネル0~3に対応。

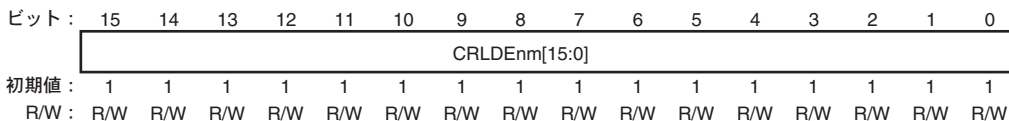
13.22.12 サイクルリロードレジスタ E00~53 (CRLDE00~53)

CRLDE00~53 は、16 ビットの読み出し／書き込み可能なレジスタです。H'0001~H'FFFF の範囲で PWM 周期を設定することが可能です。

リロード機能が有効になっていれば、サイクルレジスタ (CYLREnm) のサイクルマッチ時に、本レジスタ値がサイクルレジスタ (CYLREnm) に転送されます。

CRLDE00~53 は、ワード単位でのみ読み出し／書き込みが可能です。

CRLDE00~53 は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時に H'FFFF に初期化されます。



- 【注】 1. n=0~5: サブブロックE0~E5に対応。
2. m=0~3: チャンネル0~3に対応。

13.22.13 デューティリロードレジスタ E00~53 (DRLDE00~53)

DRLDE00~53 は、16 ビットの読み出し／書き込み可能なレジスタです。H'0000~H'FFFF の範囲でデューティ設定が可能です。

リロード機能が有効になっていれば、サイクルレジスタ (CYLREnm) のサイクルマッチ時、本レジスタ値がデューティレジスタ (DTREnm) に転送されます。

DRLDE00~53 は、ワード単位でのみ読み出し／書き込みが可能です。

DRLDE00~53 は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時に H'FFFF に初期化されます。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	DRLDEnm[15:0]															
初期値:	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

- 【注】
1. n=0~5: サブブロックE0~E5に対応。
 2. m=0~3: チャネル0~3に対応。

13.23 タイマ E の動作説明

タイマ E は、タイマカウンタ Enm (TCNTEnm)、サイクルレジスタ Enm (CYLREnm)、デューティレジスタ Enm (DTREnm)、サイクルリロードレジスタ Enm (CRLDENm)、デューティリロードレジスタ Enm (DRLDENm) で構成されており、PWM タイマとして使用できます。

タイマスタートレジスタ E (TSTRE) で動作対象サブブロックを、サブブロックスタートレジスタ En (SSTREn) でチャンネルを選択することで、TCNTEnm はカウントアップ動作を開始します。TCNTEnm がデューティレジスタ Enm (DTREnm) と一致すると次の TCNTEnm カウントクロック入力時に TOEnm 出力を 0 に、サイクルレジスタ Enm (CYLREnm) と一致すると次の TCNTEnm カウントクロック入力時に TOEnm 出力を 1 に変化させます。サイクルレジスタと一致すると、次のカウントクロックでカウント値を H'0001 にクリアし、そこから再びアップカウントを開始します。

以降、デューティマッチ、サイクルマッチを繰り返し TOEnm 端子から PWM 出力を行います。

ただしカウンタを起動してから最初のサイクルマッチまでの 1 周期の間は、外部出力は 0 (初期値) のままです。

PWM 周期は H'0001~H'FFFF の期間が設定可能です。一方、デューティは 0%~100%までが設定できます。それぞれサイクルレジスタ、デューティレジスタに設定した値がサイクル幅、デューティ幅となります。デューティレジスタの値が H'0000 の場合は、出力は 0 のまま変化しません (デューティ 0%)。デューティレジスタの値がサイクルレジスタと同じ場合はデューティ 100%となり、1 を出力し続けます。なお、デューティレジスタにはサイクルレジスタを超える値を設定しないでください。

図 13.32 に、サブブロック E0、チャンネル 0 での PWM タイマ出力の動作の例を示します。図中では、デューティ比を 75%→67%→0%→100%と、サイクルごとに変更している状態を示しています。

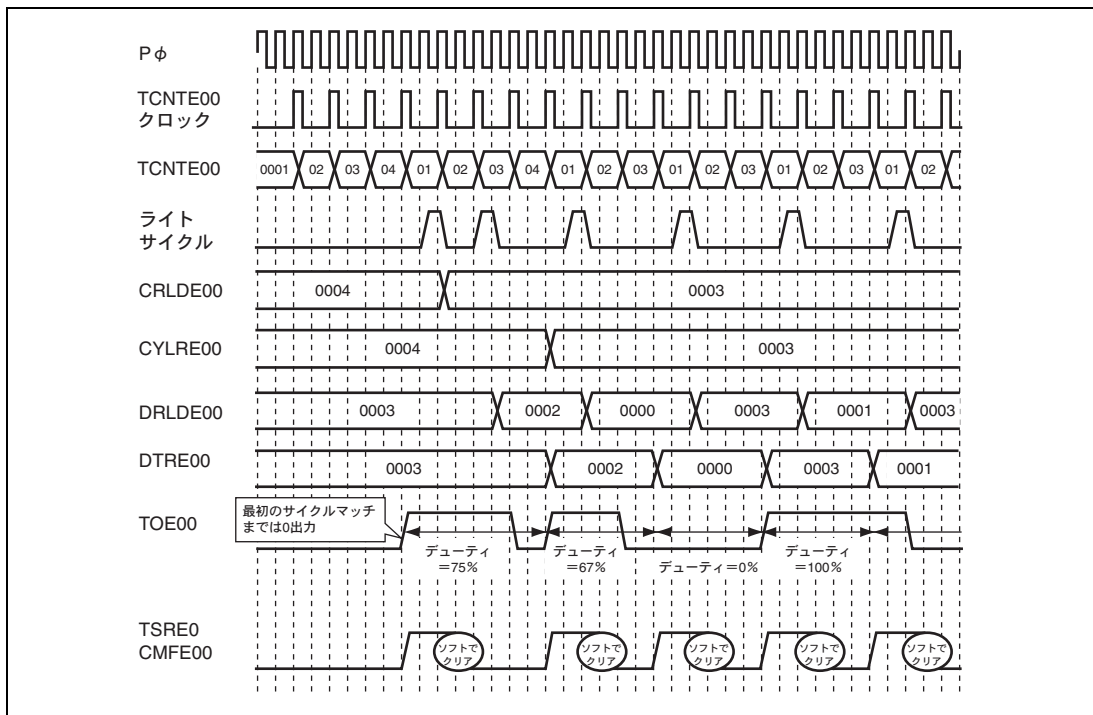


図 13.32 PWM タイマ動作 (1)

デューティレジスタ、サイクルレジスタはそれぞれリロードレジスタを持っており、アップカウンタがサイクルレジスタの値と一致したときにデューティリロードレジスタからデューティレジスタへ、サイクルリロードレジスタからサイクルレジスタへ転送されます。デューティリロードレジスタ/サイクルリロードレジスタに書き込まれた値がデューティ/サイクルに反映されるのは、書き込んだ PWM 周期の次の周期からです。このリロード機能の有効/無効は、リロードコントロールレジスタ (RLDCREn) のリロードイネーブルビット (RLDENEnm) によって制御できます。

タイマ E はカウンタ (TCNTEnm) に H'0000 を書き込むことで、強制的に PWM 出力サイクルを終了することができます。カウンタ値は、次のカウントクロック入力で H'0000 から H'0001 に遷移しカウントを再開します。カウンタが H'0001 へ遷移するタイミングで、サイクルリロードレジスタからサイクルレジスタ、デューティリロードレジスタからデューティレジスタへ値が転送されます。

図 13.33 は、カウンタに H'0000 を書き込むことで PWM 出力サイクルを強制終了させ、再起動している状態を表しています。カウンタへの H'0000 書き込みにより、カウンタが H'0000 になります。出力波形 (TOE00) は変化しません。H'0000 を書き込み後のカウントクロック入力によりリロード機能が有効に設定されていれば、サイクルリロードレジスタ/デューティリロードレジスタからサイクルレジスタ/デューティレジスタへ値が転送されます。同時にカウント動作を再開し、PWM 出力も開始します。

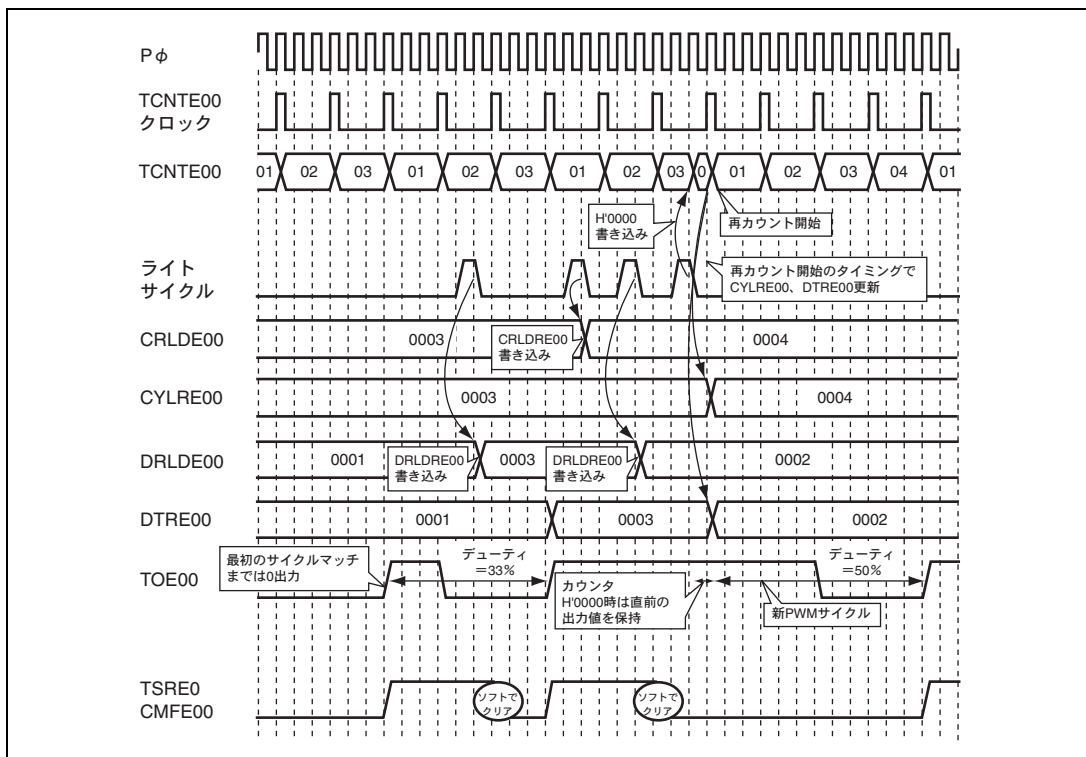


図 13.33 PWM タイマ動作 (2)

出力波形のオフデューティ設定は、タイマアウトプットコントロールレジスタ En (TOCREn) の該当ビットをオフデューティに設定をすることで可能です。設定した次の Pφ クロックサイクルから出力端子 (TOEnm) からの出力は反転します。

図 13.34 に、オンデューティ/オフデューティを切り替えた場合の出力波形を示します。カウント動作前にオフデューティ設定にすることで、PWM 出力端子 (TOE00) の初期値は 1 となります。カウント開始から最初のサイクルマッチまでの間、TOE00 は 1 を出力します。その後、サイクルマッチ、デューティマッチで 0、1 出力を繰り返します。カウンタへの H'0000 書き込みによる強制サイクル終了が発生した場合、TOE00 は直前の出力値を保持します。カウンタが H'0001 に遷移するタイミングから再び新たな PWM サイクルを開始します。

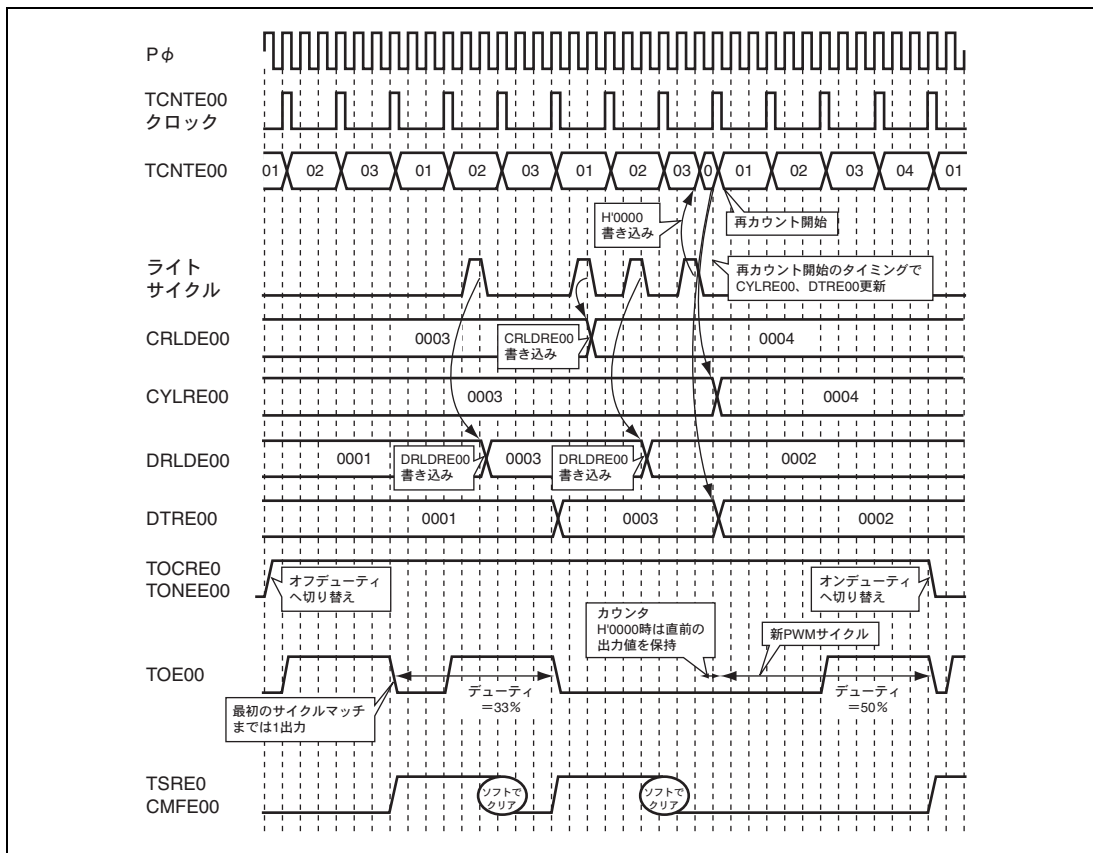


図 13.34 PWM タイマ動作 (3)

13.24 タイマ F の概要

タイマ F は、20 個のサブブロックによって構成され、以下の機能を実現することができます。

- 一定時間内エッジカウント

所定の時間内に外部入力端子 (TIFnA) に与えられたエッジをカウントします。

- 有効エッジ入力間隔計測

外部入力端子 (TIFnA) に所定回数のエッジが与えられるまでに経過した時間を計測します。

- 入力ハイ/ローレベル期間計測

外部入力端子 (TIFnA) にハイ (ロー) レベルの信号が与えられている時間を計測します。計測する期間は、外部入力端子に与えられるパルスの個数で指定することができます。

- PWM入力波形計測

外部入力端子 (TIFnA) に与えられるPWM波形のオフデューティ、サイクル時間を計測します。計測する期間は、外部入力端子に与えられるPWMサイクル数で指定することができます。

- 回転速度/パルス計測 (サブブロック12~15のみ)

外部入力端子 (TIFnA) にエッジ入力を与えられるたびに、エッジカウント値、エッジ入力時のタイムスタンプ、エッジ入力間隔 (サイクル)、直前のハイ (ロー) レベル入力期間を保持します。

- アップ/ダウンイベントカウント (サブブロック0~2のみ)

2本の外部入力端子 (TIFnA、TIFnB) のうち、TIFnAをカウントソースとしてカウント動作を行います。TIFnBでアップカウント、ダウンカウントを切り替えます。

- 4通倍イベントカウント (サブブロック0~2のみ)

2本の外部入力端子 (TIFnA、TIFnB) をカウントソースとしてカウント動作を行います。2本の信号の入力状態によって、アップカウント、ダウンカウントを切り替えます。

各外部信号入力端子 TIFnA、TIFnB からの入力は、入力キャンセル機能を使用してノイズをキャンセルすることができます。

13.24.1 ブロック図

タイマ F は、20 個のサブブロックで構成されます。各サブブロックは、2 本の 24 ビット時間計測カウンタ (ECNTAFn、ECNTCFn)、3 本の 24 ビット汎用レジスタ (GRAFn、GRCFn、GRDFn)、16 ビットイベントカウンタ (ENCTBFn)、16 ビット汎用レジスタ (GRBFn)、入力処理部 (エッジ検出、ノイズキャンセラ)、および制御部などで構成されています。

図 13.35 に、タイマ F のブロック図を示します。

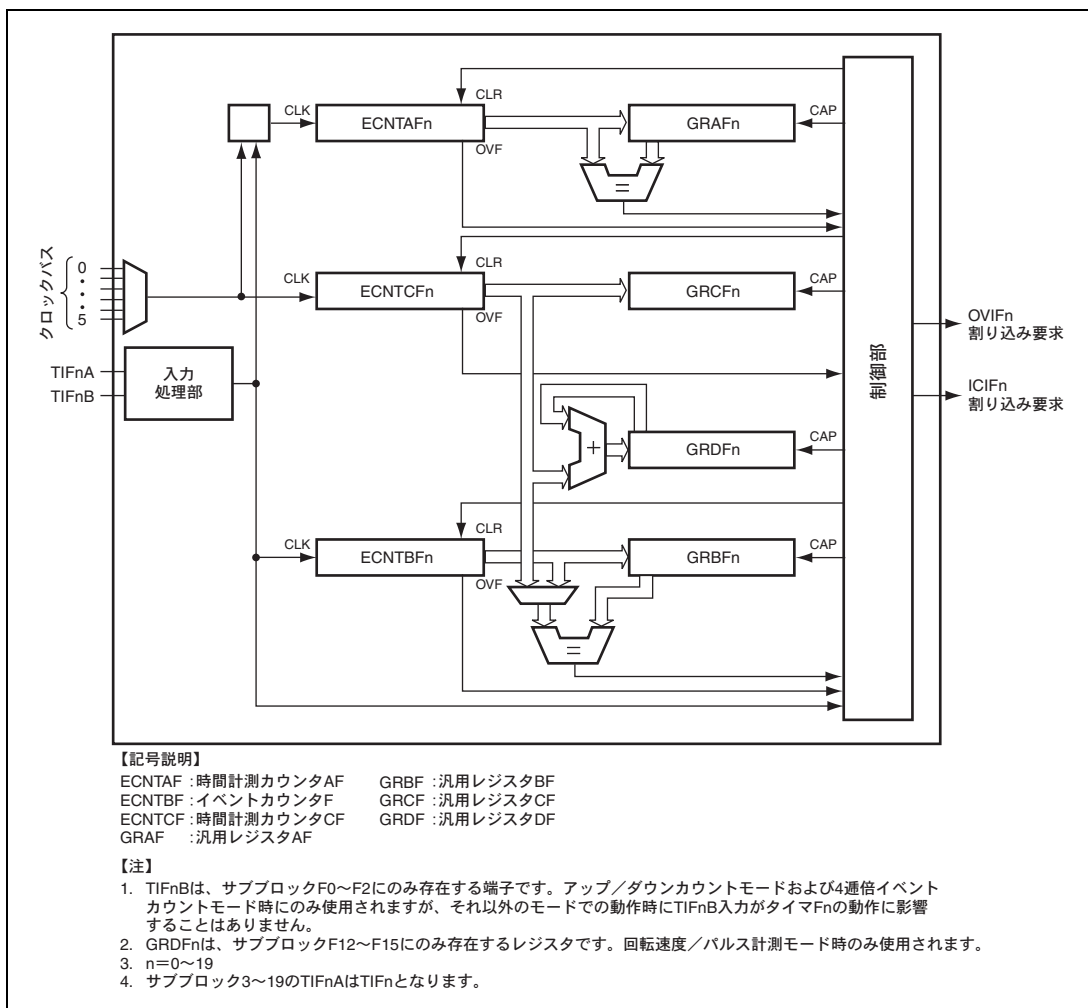


図 13.35 タイマ F のサブブロック図

13.24.2 割り込み

タイマ F は以下に示す 2 種類、計 40 本の割り込み要求を出力することができます。

- OVIF0～19割り込み

サブブロックFnの備える3個のカウンタ (ECNTAFn、ECNTBFn、ECNTCFn) のいずれかがオーバフローまたはアンダフロー (ECNTBFnのみ) した場合に出力されます。タイムステータレジスタF (ISRF) を参照することで、どのカウンタによる割り込みか識別することができます。この要求はINTCモジュールによって受け取られ、所定の処理が行われます。

- ICIF0～19割り込み

サブブロックFnでカウント値のキャプチャが生じると出力されます。この要求はA-DMACまたはINTCモジュールによって受け取られます。A-DMACによるDMA転送によって、コンペアマッチをトリガとして得られたキャプチャデータを内蔵SRAMに転送することも、あるいは割り込みによって所定の処理を行うことも可能です。A-DMACによるDMA転送の詳細については、「第12章 専用ダイレクトメモリアクセスコントローラ (A-DMAC)」を参照してください。

13.25 タイマ F のレジスタの説明

13.25.1 タイマスタートレジスタ F (TSTRF)

TSTRF は、32 ビットの読み出し/書き込み可能なレジスタで、タイマ F に含まれる各サブブロック (タイマ F0~タイマ F19) を動作させるか停止させるかを指定します。ただし、タイマ F のスタートビットをカウント動作許可に設定していても、ATU-III マスタイネーブルレジスタ (ATUENR) の TFE ビットがイネーブルに設定されていなければカウント動作は行われません。

TSTRF は、バイト、ワード、およびロングワード単位で読み出し/書き込みが可能です。ただし、ロングワード単位での読み出し/書き込みは、2 回のワード読み出し/書き込みに分割されて実行されます。そのため、上位ワードと下位ワードのビット値を同一クロックサイクルで読み出ししたり、書き込んだりすることはできませんのでご注意ください。

TSTRF は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時に H'00000000 に初期化されます。

ビット :	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	STRF19	STRF18	STRF17	STRF16
初期値 :	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W :	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W
ビット :	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	STRF15	STRF14	STRF13	STRF12	STRF11	STRF10	STRF9	STRF8	STRF7	STRF6	STRF5	STRF4	STRF3	STRF2	STRF1	STRF0
初期値 :	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W :	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
31~20	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
19~0	STRF19~ STRF0	すべて 0	R/W	カウンタ Fn スタート サブブロックの 2 本の時間計測カウンタ (ECNTAFn, ECNTCFn) およびイベントカウンタ (ECNTBFn) を動作させるか、停止させるかを設定します。停止時はカウンタ値をそのまま保持し、再度本ビットを 1 にセットした場合には、その値から動作を再開します。 ただし、本ビットを 1 にセットしても、ATUENR の TFE ビットが 1 にセットされていなければカウント動作は開始されません。 0 : ECNTAFn, ECNTBFn, および ECNTCFn のカウンタ動作を停止 1 : ECNTAFn, ECNTBFn, および ECNTCFn のカウンタ動作を許可 【注】 プリスケールは、カウンタ F スタートビットの設定に関係なく動作しており、上記カウンタの動作開始時にも初期化は行われません。したがって、起動から実際に上記カウンタがカウント動作を開始するまでの時間には、選択されたカウンタソースの周期 (分解能) 以下のハードウェア的な不確定さが伴います。

【注】 n=0~19 : サブブロック F0~F19 に対応。

13.25.2 ノイズキャンセラコントロールレジスタ F (NCCRF)

NCCRF は、32 ビットの読み出し/書き込み可能なレジスタで、サブブロック F0~F19 のノイズキャンセラ機能の有効/無効を設定します。

NCCRF は、バイト、ワード、およびロングワード単位で読み出し/書き込みが可能です。ただし、ロングワード単位での読み出し/書き込みは、2 回のワード読み出し/書き込みに分割されて実行されます。そのため、上位ワードと下位ワードのビット値を同一クロックサイクルで読み出したり、書き込んだりすることはできませんのでご注意ください。

NCCRF は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時に H'0000 0000 に初期化されます。

ビット:	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	NCEF 19	NCEF 18	NCEF 17	NCEF 16
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W
ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	NCEF 15	NCEF 14	NCEF 13	NCEF 12	NCEF 11	NCEF 10	NCEF 9	NCEF 8	NCEF 7	NCEF 6	NCEF 5	NCEF 4	NCEF 3	NCEF 2	NCEF 1	NCEF 0
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
31~20	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
19~0	NCEF19~ NCEF0	すべて 0	R/W	<p>ノイズキャンセライネーブル Fn</p> <p>各サブブロックのノイズキャンセル機能の有効/無効を選択します。サブブロック F2~F0 に関しては、TIFnA と TIFnB それぞれのノイズキャンセラがありますが、個別に有効/無効を設定することはできません。NCEFn ビットを 1 にすると、TIFnA、TIFnB それぞれのノイズキャンセラが有効になります。</p> <p>ノイズキャンセル機能を有効にした場合、外部入力 (TIFnA、TIFnB) の入力信号のレベル変化を検出すると、共通制御部内のノイズキャンセルモードレジスタ (NCMR) の設定にあわせて、後続エッジキャンセルモードあるいは先行エッジキャンセルモードのいずれかの処理を開始します。</p> <p>後続エッジキャンセルモードでは、入力信号のレベル変化を検出すると、ノイズキャンセル後の信号として、その変化を出力します。また同時に、対応するノイズキャンセルカウンタ (NCNTFA19~0、NCNTFB2~0) がアップカウントを開始します。このノイズキャンセルカウンタの値が、ノイズキャンセルレジスタ (NCRFA19~0、NCRFB2~0) の値とコンペアマッチするまでの間、入力信号のレベル変化はマスクされます。コンペアマッチ時には、そのときの入力信号のレベルがノイズキャンセル後の信号として出力されます。</p> <p>NCNTFAn、NCNTFBn がカウント動作中にこれらのビットを 0 にクリアした場合、クリア後もコンペアマッチするまでカウント動作は停止せず、その間も対応する外部入力 (TIFAn、TIFBn) のレベル変化はマスクされ続けます。</p> <p>先行エッジキャンセルモードでは、入力信号のレベル変化を検出すると、対応するノイズキャンセルカウンタ (NCNTFA19~0、NCNTFB2~0) がアップカウントを開始し、ノイズキャンセルレジスタ (NCRFA19~0、NCRFB2~0) の値とコンペアマッチするまでの間に、入力信号のレベルに変化がなければ、コンペアマッチタイミングで初めてレベル変化をノイズキャンセル後の信号として出力します。コンペアマッチまでに入力信号レベルが変化した場合は、ノイズとみなされ、ノイズキャンセラは入力信号のレベルに変化がなかったものとしてノイズキャンセル後の信号を変化させません。</p> <p>NCNTFn、NCNTFBn がカウント動作中にこれらのビットを 0 にクリアした場合、クリア後もコンペアマッチするか、あるいは入力信号レベルに変化があるまでの間、カウント動作は停止せずノイズキャンセル処理を継続します。各キャンセルモードの動作例は、図 13.1 および図 13.2 を参照してください。</p> <p>0 : TIFnA、TIFnB のノイズキャンセル機能無効 1 : TIFnA、TIFnB のノイズキャンセル機能有効</p>

【注】 n=0~19 : サブブロック F0~F19 に対応。

13.25.3 タイマコントロールレジスタ F0~19 (TCRF0~19)

TCRF0~19 は、8 ビットの読み出し/書き込み可能なレジスタで、サブブロック F0~F19 の動作モードを指定します。

TCRF0~19 は、バイト単位で読み出し/書き込みが可能です。

TCRF0~19 は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時に H'00 に初期化されます。

ビット :	7	6	5	4	3	2	1	0
	CKSELF _n [2:0]			MDF _n [2:0]			EGSELF _n [1:0]	
初期値 :	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W :	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

【注】 n=0~19 : サブブロックF0~F19に対応。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
7~5	CKSELF _n [2:0]	000	R/W	クロックセレクト Fn サブブロック F0~F19 の 2 本の時間計測カウンタ (ECNTAF _n , ECNTCF _n) のクロックソースを指定します。ただし、B'110、B'111 を指定しないでください。誤って指定した場合の動作は保証されません。 000 : クロックバス 0 001 : クロックバス 1 010 : クロックバス 2 011 : クロックバス 3 100 : クロックバス 4 101 : クロックバス 5 110 : リザーブ 111 : リザーブ
4~2	MDF _n [2:0]	000	R/W	タイマ動作モード Fn 対応するサブブロック F0~F19 の動作モードを指定します。動作モードには、アップ/ダウンイベントカウント、4 連倍イベントカウント、一定時間内エッジカウント、有効エッジ入力間隔計測、入力ハイ/ローレベル期間計測、PWM 入力波形計測、回転速度/パルス計測の計 7 つのモードがあります。 000 : 一定時間内エッジカウント 001 : 有効エッジ入力間隔計測 010 : 入力ハイ/ローレベル期間計測 011 : リザーブ 100 : PWM 入力波形計測 101 : 回転速度/パルス計測 110 : アップ/ダウンイベントカウント 111 : 4 連倍イベントカウント 【注】 サブブロック 12~15 以外では、回転速度/パルス計測モードを設定しないでください。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
1, 0	EGSELEFn[1:0]	00	R/W	<p>エッジセレクト Fn</p> <p>サブブロック F0~F19 のイベント入力 (TIFnA) のエッジセンスモードを指定します。エッジ検出は、ノイズキャンセラ通過後の信号に対して行われます。ノイズキャンセル機能が無効であれば、外部入力 (TIFnA、TIFnB) に対して、ノイズキャンセル機能が有効であればノイズキャンセル後の信号に対してエッジ検出が行われることになります。</p> <p>入力ハイ/ローレベル期間計測に指定した場合、本ビットで立ち下がりエッジを選択するとハイレベル期間計測となり、立ち上がりエッジを選択するとローレベル期間計測を行います。両エッジは選択しないでください。</p> <p>PWM 入力波形計測および回転速度/パルス計測に指定した場合、本ビットで立ち上がりエッジを選択すると2つの立ち上がりエッジ間を PWM サイクルとみなし、ローレベル期間をオフデューティサイクルとみなして計測を行います。また、立ち下がりエッジを選択した場合は、2つの立ち下がりエッジ間を PWM サイクル、ハイレベル期間をオフデューティサイクルと計測します。両エッジは選択しないでください。</p> <p>また、アップ/ダウンイベントカウントモード、および4 通倍イベントカウントモード指定時には、必ず立ち上がり/立ち下がり両エッジを指定してください。誤って他のエッジを選択した場合の動作は保証されません。</p> <p>00 : エッジ検出無効 01 : 立ち上がりエッジ 10 : 立ち下がりエッジ 11 : 両エッジ</p> <p>【注】 TIFnB は、アップ/ダウンイベントカウント、4 通倍イベントカウントモードにおいてのみ有効な端子です。常に立ち上がり/立ち下がり両エッジを検出して動作します。それ以外のモードでは TIFnB のエッジ検出は行われません。</p>

【注】 n=0~19 : サブブロック F0~F19 に対応。

13.25.4 タイマインタラプトイネーブルレジスタ F0~19 (TIERF0~19)

TIERF0~19は、8ビットの読み出し/書き込み可能なレジスタで、タイマステータスレジスタ F (TSRF) のステータスフラグに対応する割り込みを許可するか禁止するか指定します。

TIERF0~19は、バイト単位で読み出し/書き込みが可能です。

TIERF0~19は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時に H'00 に初期化されます。

ビット :	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	OVE CFn	OVE BFn	OVE AFn	ICEFn
初期値 :	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W :	R	R	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W

【注】 n=0~19 : サブブロックF0~F19に対応。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
7~4	—	すべて0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。
3	OVECFn	0	R/W	オーバーフローインタラプトイネーブル CFn* 時間計測カウンタ CFn (ECNTCFn) のオーバーフロー (PWM 入力波形計測モード時)、あるいは ECNTCFn と GRBFn のコンペアマッチ (回転速度/パルス計測モード時) に対応するステータス (OVFCFn) の割り込みを許可するか禁止するか指定します。 0 : OVFCFn による割り込みを禁止 1 : OVFCFn による割り込みを許可
2	OVEBFn	0	R/W	オーバーフローインタラプトイネーブル BFn* イベントカウンタ BFn (ECNTBFn) のオーバーフロー/アンダフローに対応するステータス (OVFBFn) の割り込みを許可するか禁止するか指定します。 0 : OVFBFn による割り込みを禁止 1 : OVFBFn による割り込みを許可
1	OVEAFn	0	R/W	オーバーフローインタラプトイネーブル AFn* 時間計測カウンタ AFn (ECNTAFn) のオーバーフローに対応するステータス (OVFAFn) の割り込みを許可するか禁止するか指定します。 0 : OVFAFn による割り込みを禁止 1 : OVFAFn による割り込みを許可
0	ICEFn	0	R/W	インプットキャプチャインタラプトイネーブル Fn サブブロック Fn におけるインプットキャプチャの検出に対応するステータス (ICFFn) の割り込みを許可するか禁止するか指定します。 0 : ICFFn による割り込みを禁止 1 : ICFFn による割り込みを許可

【注】 * サブブロック Fn のオーバーフロー割り込みは、OVFAFn、OVFBFn、OVFCFn による割り込みの論理和として要求されます。TSRFn を参照することによって、どのカウンタのオーバーフローまたはアンダフローによる割り込みかを判断することができます。

13.25.5 タイマステータスレジスタ F0~19 (TSRF0~19)

TSRF0~19 は、8 ビットの読み出し／書き込み可能なレジスタで、時間計測カウンタ A、C のオーバフローの発生や、イベントカウンタのオーバフローあるいはアンダフローの発生、およびインプットキャプチャの発生を示します。

これらのフラグは割り込み要因であり、タイマインタラプトイネーブルレジスタ F0~19 (TIERF0~19) の対応するビットにより割り込みが許可されていれば、CPU に割り込みを要求します。

TSRF0~19 は、バイト単位で読み出し／書き込みが可能です。

TSRF0~19 は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時に H'00 に初期化されます。

ビット:	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	OVF CFn	OVF BFn	OVF AFn	ICFFn
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R	R	R/(W)*	R/(W)*	R/(W)*	R/(W)*

【注】 n=0~19 : サブブロックF0~F19に対応。

* フラグをクリアするため、1を読み出した後に0を書き込むことのみ可能です。
1の書き込みは無効です。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
7~4	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
3	OVFCFn	0	R/(W)*	<p>オーバフロー／コンペアマッチフラグ CFn</p> <p>このフラグは動作モードによって、その値が示す状態が異なります。PWM 入力波形計測モード時には、時間計測カウンタ C (ECNTCFn) のオーバフローの状態を示します。また、回転速度／パルス計測モード時には、ECNTCFn と GRBFn とのコンペアマッチ発生を示します。</p> <p>なお、このフラグをソフトウェアにより 1 にセットすることはできません。</p> <p style="padding-left: 20px;">0 : ECNTCFn にオーバフローなし</p> <p>[クリア条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • OVFCFn=1 の状態を読み出した後、OVFCFn に 0 を書き込んだとき 1 : ECNTCFn にオーバフロー発生 <p>[セット条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • PWM 入力波形計測モード ECNTCFn の値がオーバフロー (H'FFFF FF→H'0000 00) したとき • 回転速度／パルス計測モード ECNTCFn と GRBFn (下位 8 ビットにゼロ拡張した値) が一致したとき

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
2	OVBFn	0	R/(W)*	<p>オーバーフローフラグ BF_n</p> <p>イベントカウンタ BF_n (ECNTBF_n) のオーバーフローあるいはアンダフローの状態を参照することができます。このフラグをソフトウェアにより 1 にセットすることはできません。</p> <p>0 : ECNTBF_n にオーバーフロー/アンダフローなし</p> <p>[クリア条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • OVBF_n=1 の状態を読み出した後、OVBF_n に 0 を書き込んだとき 1 : ECNTBF_n にオーバーフロー/アンダフロー発生 <p>[セット条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • ECNTBF_n の値がオーバーフロー (H'FFFF→H'0000) あるいはアンダフロー (H'0000→H'FFFF) したとき
1	OVFAFn	0	R/(W)*	<p>オーバーフローフラグ AF_n</p> <p>時間計測カウンタ AF_n (ECNTAF_n) のオーバーフローの状態を参照することができます。このフラグをソフトウェアにより 1 にセットすることはできません。</p> <p>0 : ECNTAF_n にオーバーフローなし</p> <p>[クリア条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • OVFAFn=1 の状態を読み出した後、OVFAFn に 0 を書き込んだとき 1 : ECNTAF_n にオーバーフロー発生 <p>[セット条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • ECNTAF_n の値がオーバーフロー (H'FFFF FF→H'0000 00) したとき
0	ICFFn	0	R/(W)*	<p>インプットキャプチャフラグ F_n</p> <p>サブブロック F_n においてインプットキャプチャの検出状態を参照することができます。このフラグをソフトウェアにより 1 にセットすることはできません。</p> <p>0 : サブブロック F_n にインプットキャプチャの検出なし</p> <p>[クリア条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • ICFF_n=1 を読み出した後、ICFF_n に 0 を書き込んだとき • キャプチャ出力レジスタ (CDRF0~19) が A-DMAC アクセスによって読み出されたとき 1 : サブブロック F_n にインプットキャプチャを検出 <p>[セット条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • サブブロック F_n でインプットキャプチャを検出したとき

【注】 n=0~19 : サブブロック F0~F19 に対応。

* フラグをクリアするため、1 を読み出した後に 0 を書き込むことのみ可能です。1 の書き込みは無効です。

13.25.6 時間計測カウンタ AF0~19 (ECNTAF0~19)

ECNTAF0~19 は、32 ビットの読み出し／書き込み可能なレジスタです。

本レジスタは各サブブロックに1個ずつ用意されており、入力クロックによりアップカウント動作を行います。対応するコントロールレジスタの設定に応じて、入力クロックにクロックバス 0~5 のいずれかを選ぶことができます。ECNTAFn と ECNTCFn の入力クロックは同一です。個別にクロックソースを設定することはできません。

カウンタのクリアがカウントアップのタイミングで行われる場合、ECNTAFn は H'00000100 にクリアされ、それ以外の場合では H'00000000 にクリアされます。

ECNTAF0~19 は、ロングワード単位でのみ読み出し／書き込みが可能です。

ECNTAF0~19 は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時に H'0000 0000 に初期化されます。

ビット:	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	ECNTAFn[23:8]															
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	ECNTAFn[7:0]								—	—	—	—	—	—	—	—
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R	R	R	R	R	R	R	R

【注】 n=0~19: サブブロックF0~F19に対応。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
31~8	ECNTAFn [23:0]	すべて0	R/W	時間計測カウンタ AFn アップカウンタ A
7~0	—	すべて0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。

13.25.7 イベントカウンタ BF0~19 (ECNTBF0~19)

ECNTBF0~19は、16ビットの読み出し/書き込み可能なレジスタです。本レジスタは各サブブロックに1個ずつ用意されており、入カクロックによりアップ/ダウンイベントカウンタ動作を行います。入カクロックには、2本の外部入力端子 (TIFnA、TIFnB) が与えられ、対応するコントロールレジスタの設定 (動作モードおよびエッジセレクト) に応じて、カウンタ対象とする外部入力端子およびエッジが異なります。各モードにおける入カクロックは、表 13.15 のとおりです。

カウンタのクリアがカウンタアップのタイミングで行われる場合、ECNTBFnはH'0001にクリアされ、それ以外の場合ではH'0000にクリアされます。

ECNTBF0~19は、ワード単位でのみ読み出し/書き込みが可能です。

ECNTBF0~19は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時にH'0000に初期化されます。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	ECNTBFn[15:0]															
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

【注】 n=0~19: サブブロックF0~F19に対応。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~0	ECNTBFn [15:0]	すべて0	R/W	イベントカウンタ Fn アップ/ダウンイベントカウンタ

表 13.15 タイマF動作モードごとのイベントカウンタ入カクロック、およびカウンタエッジ

動作モード	入カクロック	カウンタエッジ
一定時間内エッジカウンタ	TIFnA	EGSELFnで選択可
有効エッジ入力間隔計測	TIFnA	EGSELFnで選択可
入力ハイ/ローレベル期間計測	TIFnA	EGSELFnで選択可 (両エッジ以外)
PWM 入力波形計測	TIFnA	EGSELFnで選択可 (両エッジ以外)
回転速度/パルス計測	TIFnA	EGSELFnで選択可 (両エッジ以外)
アップ/ダウンイベント カウンタ	TIFnA (TIFnBのレベルでカウンタ方向を指定)	立ち上がり/立ち下がり両エッジ
4 連倍イベントカウンタ	TIFnA、TIFnB	立ち上がり/立ち下がり両エッジ

13.25.8 時間計測カウンタ CF0~19 (ECNTCF0~19)

ECNTCF0~19 は、32 ビットの読み出し／書き込み可能なレジスタです。

本レジスタは各サブブロックに 1 個ずつ用意されており、PWM 入力波形計測および回転速度／パルス計測モード時のみ有効になるレジスタです。その他のモードではカウント動作を行いません。また、本レジスタは、入力クロックによりアップカウント動作を行います。対応するコントロールレジスタの設定に応じて、入力クロックにクロックバス 0~5 のいずれかを選ぶことができます。ECNTAFn と ECNTCFn の入力クロックは同一です。個別にクロックソースを設定することはできません。

外部入力のタイミングや ECNTBFn のコンペアマッチをトリガとするカウント値のクリアは、ECNTCFn のカウントクロックに同期して行われます。このとき ECNTCFn は H'00000100 にクリアされます。

ECNTCF0~19 は、ロングワード単位でのみ読み出し／書き込みが可能です。

ECNTCF0~19 は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時に H'0000 0000 に初期化されます。

ビット:	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	ECNTCFn[23:8]															
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	ECNTCFn[7:0]								—	—	—	—	—	—	—	—
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R	R	R	R	R	R	R	R

【注】 n=0~19 : サブブロックF0~F19に対応。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
31~8	ECNTCFn [23:0]	すべて 0	R/W	時間計測カウンタ CFn アップカウンタ C
7~0	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。

13.25.9 汎用レジスタ AF0~19 (GRAF0~19)

GRAF0~19は、32ビットの読み出し/書き込み可能なレジスタです。

本レジスタは各サブブロックに1個ずつ用意されており、時間計測カウンタ Afn (ECNTAFn) に対するインプットキャプチャレジスタとアウトプットコンペアレジスタの両方の機能を持っています。

コンペアマッチレジスタとして機能させるとき、GRAFnにはH'00000000を設定しないでください。H'00000000を設定した場合、正しく計測が行われなくなることがありますのでご注意ください。

GRAF0~19は、ロングワード単位でのみ読み出し/書き込みが可能です。

GRAF0~19は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時にH'FFFF FF00に初期化されます。

ビット:	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	GRAFn[23:8]															
初期値:	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	GRAFn[7:0]								—	—	—	—	—	—	—	—
初期値:	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R	R	R	R	R	R	R	R

【注】 n=0~19: サブブロックF0~F19に対応。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
31~8	GRAFn [23:0]	すべて1	R/W	汎用レジスタ AFn 時間計測カウンタ A のインプットキャプチャ値またはアウトプットコンペア値
7~0	—	すべて0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。

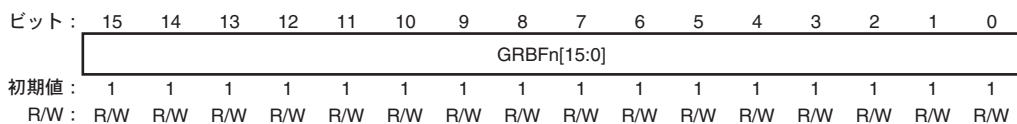
13.25.10 汎用レジスタ BF0~19 (GRBF0~19)

GRBF0~19 は、16 ビットの読み出し／書き込み可能なレジスタです。本レジスタは各サブブロックに 1 個ずつ用意されており、イベントカウンタ (ECNTBFn) に対するインプットキャプチャレジスタとアウトプットコンペアレジスタの両方の機能を持っています。

コンペアマッチレジスタとして機能させるとき、GRBFn には H'0000 を設定しないでください。H'0000 を設定した場合、正しく計測が行われなくなることがありますのでご注意ください。

GRBF0~19 は、ワード単位でのみ読み出し／書き込みが可能です。

GRBF0~19 は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時に H'FFFF に初期化されます。



【注】 n=0~19: サブブロックF0~F19に対応。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~0	GRBFn [15:0]	すべて 1	R/W	汎用レジスタ BFn イベントカウンタのインプットキャプチャ値またはアウトプットコンペア値

13.25.11 汎用レジスタ CF0~19 (GRCF0~19)

GRCF0~19は、32ビットの読み出し/書き込み可能なレジスタです。本レジスタは各サブブロックに1個ずつ用意されており、時間計測カウンタC (ECNTCFn) に対するインプットキャプチャレジスタの機能を持っています。ECNTBFnとGRBFnとのコンペアマッチ (PWM入力波形計測モード) あるいはTIFnA端子のエッジ入力 (回転速度/パルス計測モード) をトリガとして、次のECNTCFnカウントアップタイミングでECNTCFnのカウント値を取り込みます。

PWM入力波形計測および回転速度/パルス計測モード時のみ有効になるレジスタであり、その他のモードではキャプチャ動作を行いません。

GRCF0~19は、ロングワード単位でのみ読み出し/書き込みが可能です。

GRCF0~19は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時にH'FFFFFF00に初期化されます。

ビット:	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	GRCFn[23:8]															
初期値:	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	GRCFn[7:0]								—	—	—	—	—	—	—	—
初期値:	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R	R	R	R	R	R	R	R

【注】 n=0~19: サブブロックF0~F19に対応。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
31~8	GRCFn [23:0]	すべて1	R/W	汎用レジスタ CFn 時間計測カウンタCのインプットキャプチャ値
7~0	—	すべて0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。

13.25.12 汎用レジスタ DF12~15 (GRDF12~15)

GRDF12~15 は、32 ビットの読み出し／書き込み可能なレジスタです。本レジスタはサブブロック F12~F15 のみに 1 個ずつ用意されています。TIFn 端子のエッジ入力をトリガとして、次の ECNTAFn カウントアップタイミングで、時間計測カウンタ CFn (ECNTCFn) の値を累積して取り込みます。

回転速度／パルス計測モード時のみ有効になるレジスタです。その他のモードではキャプチャ動作を行いません。

GRDF12~15 は、ロングワード単位でのみ読み出し／書き込みが可能です。

GRDF12~15 は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時に H'FFFFFF00 に初期化されます。

ビット:	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	GRDFn[23:8]															
初期値:	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	GRDFn[7:0]								—	—	—	—	—	—	—	—
初期値:	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R	R	R	R	R	R	R	R

【注】 n=12~15 : サブブロックF12~F15に対応。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
31~8	GRDFn [23:0]	すべて 1	R/W	汎用レジスタ DFn 時間計測カウンタ A のインプットキャプチャ値
7~0	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。

13.25.13 キャプチャ出力レジスタ F0~19 (CDRF0~19)

CDRF0~19 は、32 ビットの読み出し専用レジスタです。本レジスタは各サブブロックに 1 個ずつ用意されています。本レジスタの読み出しを行うと、動作モードに応じて、GRAFn、GRBFn、または ECNTBFn の値が読み出されます。16 ビットの GRBFn 値は、CDRFn の上位 16 ビットから読み出されます。このとき CDRFn の下位 8 ビットには 0 が読み出されます。

CDRF0~19 は、ロングワード単位でのみ読み出し/書き込みが可能です。

CDRF0~19 は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時に H'FFFF0000 に初期化されます。

ビット:	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	CDRFn[23:8]															
初期値:	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
R/W:	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R
ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	CDRFn[7:0]								—	—	—	—	—	—	—	—
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

【注】 n=0~19: サブブロックF0~F19に対応。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
31~8	CDRFn [23:0]	H'FFFF00	R	キャプチャ出力レジスタ Fn 動作モードに応じて、GRAFn または GRBFn に保持しているデータが読み出されます。各動作モードに対応するレジスタは以下のとおりです。また、本レジスタへの書き込みは無視されます。 一定時間内エッジカウントモード: GRBFn 有効エッジ入力間隔計測モード: GRAFn 入力ハイレベル期間計測モード: GRAFn 入力ローレベル期間計測モード: GRAFn PWM 入力波形計測モード: GRAFn 回転速度/パルス計測モード: ECNTBFn アップ/ダウンイベントカウントモード: GRBFn 4 通倍イベントカウントモード: GRBFn
7~0	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。

13.25.14 ノイズキャンセルカウンタ FA0~19 (NCNTFA0~19)

NCNTFA0~19は、8ビットの読み出し/書き込み可能なレジスタです。

ノイズキャンセラコントロールレジスタ Fn (NCCRFn) でノイズキャンセラ機能を有効にしたとき、外部入力端子 (TIFnA) のレベル変化をトリガとして、プリスケラから供給されるノイズキャンセラ用カウントクロックでアップカウント動作を行います。

共通制御部にあるノイズキャンセルモードレジスタ (NCMR) のタイムFノイズキャンセルモードビット (NCMF) の設定によって、後続エッジキャンセルモード、および先行エッジキャンセルモードの2通りの動作を行います。

● 後続エッジキャンセルモード

NCFnビットが1であり、NCNTFAnがカウント停止しているとき、TIFnAの入力信号レベルが変化すると、NCNTFAnはアップカウント動作を開始します。カウント値がノイズキャンセルレジスタFAn (NCRFAn) と一致すると、次のPφクロックに同期してカウント値をH'00にクリアしてカウント動作を停止します。

NCNTFAnは、ATU-IIIマスタイネーブルレジスタ (ATUENR) のTFEビットの設定にかかわらずカウント動作を行います。

カウント動作開始時のレベル変化は、そのままノイズキャンセル後の信号として出力され、エッジ検出の対象となりますが、以降カウント値がNCRFAnと一致するまでの間、すべての入力レベルの変化がマスクされるため、ノイズキャンセル後の信号は変化しません。

カウント動作中にNCFnビットがクリアされても、カウント値がNCRFAnと一致するまでの間はカウント動作を継続します。その間も入力信号はマスクされ続けます。

● 先行エッジキャンセルモード

NCFnビットが1であり、NCNTFAnがカウント停止しているとき、TIFnAの入力信号レベルが変化すると、NCNTFAnはアップカウント動作を開始します。カウント動作中に入力信号のレベルが変化するか、あるいはカウント値がノイズキャンセルレジスタFAn (NCRFAn) と一致した場合には、次のPφクロックに同期してカウント値をH'00にクリアしカウント動作を停止します。

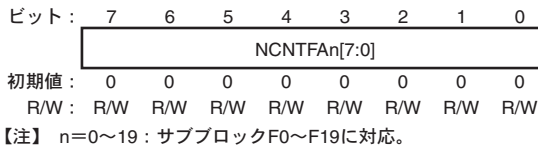
NCNTFAnは、ATU-IIIマスタイネーブルレジスタ (ATUENR) のTFEビットの設定にかかわらずカウント動作を行います。

ノイズキャンセル後の信号は、カウント値がNCRFAnと一致したときのみ、カウント開始時のレベル変化にあわせて変化します。NCRFAnと一致する前にカウント動作が停止した場合には、カウント開始時のレベル変化およびカウント停止時のレベル変化はマスクされるため、ノイズキャンセル後の信号は変化しません。

カウント動作中にNCFnビットがクリアされても、コンペアマッチあるいは入力信号レベルに変化があるまでの間、カウント動作は停止せず、ノイズキャンセル処理を継続します。

NCNTFA0~19 は、バイト単位で読み出し／書き込みが可能です。

NCNTFA0~19 は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時に H'00 に初期化されます。



ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
7~0	NCNTFAn [7:0]	すべて 0	R/W	ノイズキャンセルカウンタ FAn 8 ビットカウンタ値

13.25.15 ノイズキャンセルカウンタ FB0~2 (NCNTFB0~2)

NCNTFB0~2 は、8 ビットの読み出し／書き込み可能なレジスタです。

アップ／ダウンイベントカウンタ、4 通倍イベントカウンタモード時のみ有効なレジスタです。

ノイズキャンセラコントロールレジスタ Fn (NCCRFn) でノイズキャンセラ機能を有効にしたとき、外部入力端子 (TIFnB) のレベル変化をトリガとして、プリスケラから供給されるノイズキャンセラ用カウンタクロックでアップカウンタ動作を行います。

共通制御部にあるノイズキャンセルモードレジスタ (NCMR) のタイマ F ノイズキャンセルモードビット (NCMF) の設定によって、後続エッジキャンセルモード、および先行エッジキャンセルモードの 2 通りの動作を行います。

● 後続エッジキャンセルモード

NCEFn ビットが 1 であり NCNTFBn がカウンタ停止しているとき、TIFnB の入力レベルが変化すると、NCNTFBn はアップカウンタ動作を開始します。カウンタ値がノイズキャンセルレジスタ FBn (NCRFBn) と一致すると、次の Pφ クロックに同期してカウンタ値を H'00 にクリアしてカウンタ動作を停止します。

NCNTFBn は、ATU-III マスタイネーブルレジスタ (ATUENR) の TFE ビットの設定にかかわらずカウンタ動作を行います。

カウンタ動作開始時のレベル変化は、そのままノイズキャンセル後の信号として出力されエッジ検出の対象となりますが、以降カウンタ値が NCRFBn と一致するまでの間、すべての入力レベルの変化がマスクされるため、ノイズキャンセル後の信号は変化しません。

カウンタ動作中に NCEFn ビットがクリアされても、カウンタ値が NCRFBn と一致するまでの間はカウンタ動作を継続します。その間も入力信号はマスクされ続けます。

- 先行エッジキャンセルモード

NCEFnビットが1であり、NCNTBFnがカウント停止しているとき、TIFnBの入力信号レベルが変化すると、NCNTFBnはアップカウント動作を開始します。カウント動作中に入力信号のレベルが変化するか、あるいはカウント値がノイズキャンセルレジスタFBn (NCRFBn) と一致した場合には、次のPφクロックに同期してカウント値をH'00にクリアしカウント動作を停止します。

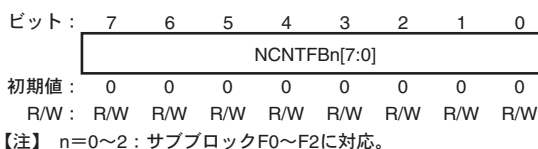
NCNTFBnは、ATU-IIIマスタイネーブルレジスタ (ATUENR) のTFEビットの設定にかかわらずカウント動作を行います。

ノイズキャンセル後の信号は、カウント値がNCRFBnと一致したときのみ、カウント開始時のレベル変化にあわせて変化します。NCRFBnと一致する前にカウント動作が停止した場合には、カウント開始時のレベル変化およびカウント停止時のレベル変化はマスクされるため、ノイズキャンセル後の信号は変化しません。

カウント動作中にNCEFnビットがクリアされても、コンペアマッチあるいは入力信号レベルに変化があるまでの間、カウント動作は停止せずノイズキャンセル処理を継続します。

NCNTFB0~2は、バイト単位で読み出し/書き込みが可能です。

NCNTFB0~2は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時にH'00に初期化されます。



ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
7~0	NCNTFBn [7:0]	すべて0	R/W	ノイズキャンセルカウント FBn 8ビットカウント値

13.25.16 ノイズキャンセルレジスタ FA0~19 (NCRFA0~19)

NCRFA0~19は、8ビットの読み出し／書き込み可能なレジスタで、ノイズキャンセルカウンタ (NCNTFAn) の上限値を設定します。H'FF 設定で、最大 1.64msec (Pφ=20MHz 時) のノイズをキャンセルすることができます。

共通制御部にあるノイズキャンセルモードレジスタ (NCMR) のタイマFノイズキャンセルモードビット (NCMF) の設定によって、後続エッジキャンセルモードおよび先行エッジキャンセルモードの2通りの動作を行います。

- 後続エッジキャンセルモード

NCNTFAnのカウンタ動作中、後続する入力信号のレベル変化がマスクされます。NCNTFAnとNCRFAnの値は常時比較されており、コンペアマッチが発生すると、次のPφクロックに同期してNCNTFAnのカウンタ値をクリアし、カウンタ動作を停止させて入力信号のマスク解除を行います。

- 先行エッジキャンセルモード

NCNTFAnのカウンタ動作中、ノイズキャンセラの処理待ち状態となります。NCNTFAnとNCRFAnの値は常時比較されており、コンペアマッチが発生すると、次のPφクロックに同期してNCNTFAnのカウンタ値をクリアし、カウンタ動作を停止させると同時に、ノイズキャンセラはノイズキャンセル後の入力信号の出力を行います。

NCRFA0~19は、バイト単位で読み出し／書き込みが可能です。

NCRFA0~19は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時に H'00 に初期化されます。



ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
7~0	NCTFAn [7:0]	すべて0	R/W	ノイズキャンセルタイム FAn TIFnA ノイズキャンセル期間 (8ビットコンペア値)

13.25.17 ノイズキャンセルレジスタ FB0~2 (NCRFB0~2)

NCRFB0~2は、8ビットの読み出し/書き込み可能なレジスタで、ノイズキャンセルカウンタ (NCNTFBn) の上限値を設定します。H'FF設定で、最大 1.64msec (Pφ=20MHz時) のノイズをキャンセルすることができます。アップダウンカウント、4 通倍イベントカウントモード時のみ有効なレジスタです。

共通制御部にあるノイズキャンセルモードレジスタ (NCMR) のタイムFノイズキャンセルモードビット (NCMF) の設定によって、後続エッジキャンセルモードおよび先行エッジキャンセルモードの2通りの動作を行います。

- 後続エッジキャンセルモード

NCNTFBnのカウント動作中、後続する入力信号のレベル変化がマスクされます。NCNTFBnとNCRFBnの値は常時比較されており、コンペアマッチが発生すると、次のPφクロックに同期してNCNTFBnのカウント値をクリアし、カウント動作を停止させて入力信号のマスク解除を行います。

- 先行エッジキャンセルモード

NCNTFBnのカウント動作中、ノイズキャンセラの処理待ち状態となります。NCNTFBnとNCRFBnの値は常時比較されており、コンペアマッチが発生すると、次のPφクロックに同期してNCNTFBnのカウント値をクリアし、カウント動作を停止させると同時に、ノイズキャンセラはノイズキャンセル後の入力信号の出力を行います。

NCRFB0~2は、バイト単位で読み出し/書き込みが可能です。

NCRFB0~2は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時に H'00 に初期化されます。



ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
7~0	NCTFBn [7:0]	すべて0	R/W	ノイズキャンセルタイム FBn TIFnB ノイズキャンセル期間 (8ビットコンペア値)

13.26 タイマ F の動作説明

13.26.1 一定時間内エッジカウント

GRAFn にエッジをカウントする期間を指定すると、GRBFn に指定期間内のエッジカウント数が得られます。まったくエッジがカウントされなかった場合は 0 が得られます。カウントする期間は、ECNTAFn カウントソースクロックの周期 (GRAFn の値) となります。このときのタイマ Fn の動作は以下のとおりです。また動作例を図 13.36 に示します。これは、カウントソースクロックの 12 周期間に、8 個のエッジが与えられた例です。ここでの ECNTAFn クロックと ECNTBFn クロックは、それぞれ時間計測カウンタ ECNTAFn とイベントカウンタ ECNTBFn がカウント動作やクリア動作を行うタイミングを示しています。

一定時間内エッジカウントの動作モードのときの各レジスタの動作は、以下のとおりです。

- ECNTAFn : クロックバス0~5のいずれかをカウントソースとして時間を計測します。コンペアマッチが検出されると、次のPφクロックに同期してカウント値をクリアします。
- ECNTBFn : TIFnA入力より与えられた信号のエッジをカウントします。カウント対象のエッジは、立ち上がり、立ち下がり、両エッジのいずれかを選択可能です。この例では立ち下がりエッジをカウントします。また、同期化処理のためにTIFnAには2サイクルの遅れが生じます。ECNTAFnのコンペアマッチの検出後、次のPφクロックに同期してカウント値をクリアします。コンペアマッチによるカウントクリアと同時にカウント対象エッジが与えられた場合は、カウンタクリアとエッジカウントを1サイクルの間に行ったものと見なし、カウント値はH'0001となります。この例を図13.38に示します。
- GRAFn : ECNTAFnに対するコンペアマッチレジスタとして機能し、ECNTAFnのカウント値がGRAFnと一致すると、コンペアマッチを検出します。
- GRBFn : ECNTBFnに対するキャプチャレジスタとして機能します。ECNTAFnのコンペアマッチの検出後、次のPφクロックに同期してECNTBFnのカウント値をキャプチャします。
- ICFFnフラグ : ECNTAFnのコンペアマッチの検出後、次のPφクロックに同期してICFFnフラグをセットします。
- ECNTCFn、GRCFn、GRDFn : 機能しません。

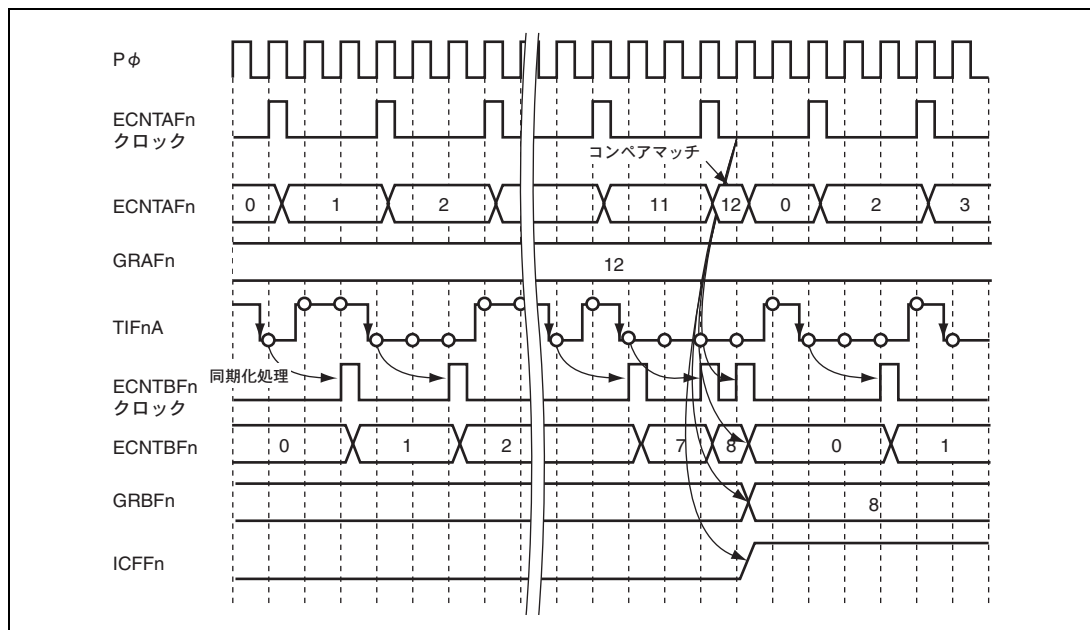


図 13.36 一定時間内エッジカウントの動作例

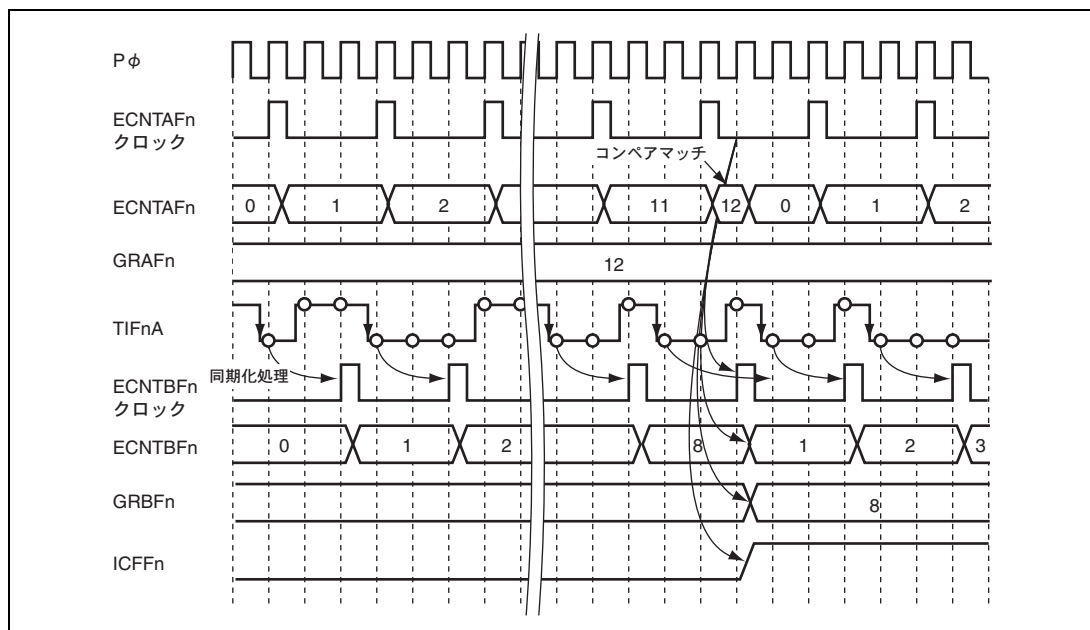


図 13.37 一定時間内エッジカウントの動作例 (コンペアマッチとイベントが同時)

13.26.2 有効エッジ入力間隔計測

GRBFnに対象とするエッジの数 (GRBFn の値) を指定すると、それだけのエッジをカウントするのに要した時間が GRAFn に得られます。この時間を対象とするエッジの数で割ることによって、エッジ入力間隔の平均値を得ることができます。得られる時間は、ECNTAFn のカウントソースクロックの周期 (GRAFn の値) として示されます。このときのタイマ Fn の動作は次のとおりです。また動作例を図 13.38 に示します。これは、12 個のエッジをを入力するのにカウントソースクロック 13 周期を要した例です。ここでの ECNTAFn クロックと ECNTBFn クロックは、それぞれ時間計測カウンタ ECNTAFn とイベントカウンタ ECNTBFn がカウント動作やクリア動作を行うタイミングを示しています。

有効エッジ入力間隔計測の動作モードのときの各レジスタの動作は、以下のとおりです。

- ECNTAFn : クロックバス0~5のいずれかをカウントソースとして時間を計測します。ECNTBFnとGRBFnのコンペアマッチを検出すると、次のECNTAFnクロックに同期してカウント値をクリアします。ECNTAFnのカウントクリアはカウントアップと同じタイミングとなるため、クリア値はH'00000100となります。
- ECNTBFn : TIFnAより与えられたエッジをカウントします。カウント対象のエッジは、立ち上がり、立ち下がり、両エッジのいずれかを選択可能です。この例では立ち下がりエッジをカウントします。また、同期化処理のためにTIFnAには2サイクルの遅れが生じます。コンペアマッチを検出すると、次のPφクロックに同期してカウント値をクリアします。
- GRAFn : ECNTAFnに対するキャプチャレジスタとして機能します。ECNTBFnのコンペアマッチの検出後、次のECNTAFnクロックに同期してECNTAFnのカウント値をキャプチャします。
- GRBFn : ECNTBFnに対するコンペアマッチレジスタとして機能し、ECNTBFnのカウント値がGRBFnと一致すると、コンペアマッチを検出します。
- ICFnフラグ : ECNTBFnのコンペアマッチの検出後、次のECNTAFnクロックに同期してICFnフラグをセットします。
- ECNTCFn、GRCFn、GRDFn : 機能しません。

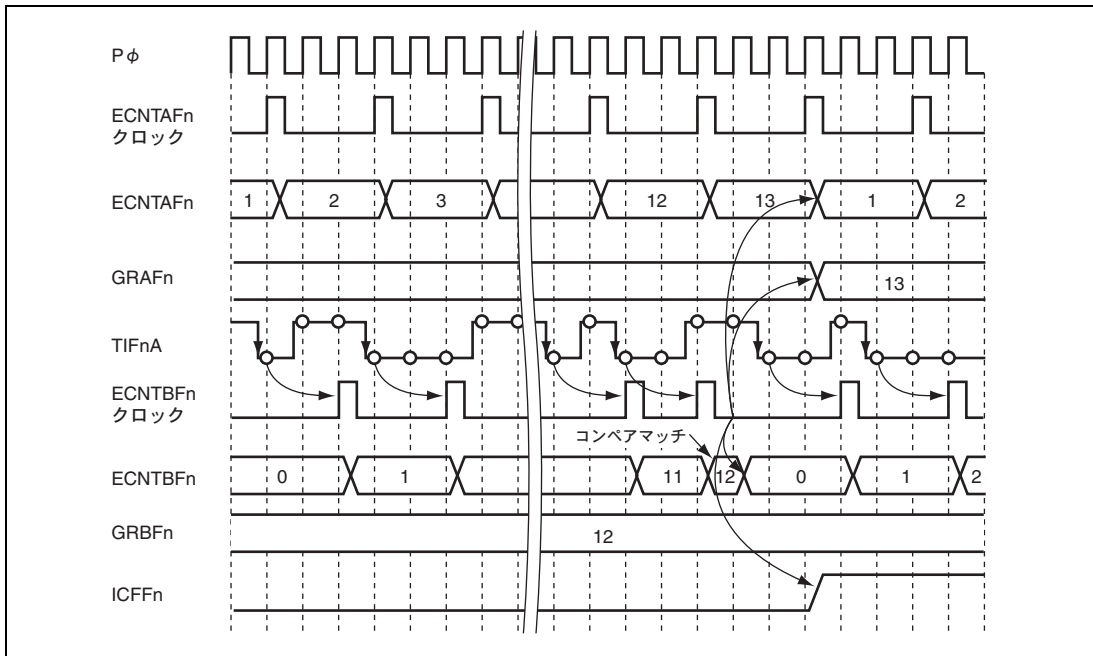


図 13.38 有効エッジ入力間隔計測の動作例

13.26.3 入力ハイ/ローレベル期間計測

TIFnA にハイまたはローレベルが与えられた時間を計測します。得られる時間は、ECNTAFn のクロックソースを基準として示されます。GRBFn には、時間を計測する範囲を、TIFnA に与えられるパルス数 (GRBFn の値) として指定します。このときのタイマ F の動作は次のようになります。また動作例を図 13.39 に示します。これは、3 個のパルスのハイレベル期間がカウントソースクロック 9 周期と計測された例です。ここでの ECNTAFn クロックと ECNTBFn クロックは、それぞれ時間計測カウンタ ECNTAFn とイベントカウンタ ECNTBFn が、カウント動作やクリア動作を行うタイミングを示しています。

入力ハイ/ローレベル期間計測の動作モードのときの各レジスタの動作は、以下のとおりです。

- ECNTAFn : クロックバス 0~5 のいずれかをカウントソースとし、TIFnA をイネーブルとしてカウントアップを行います。すなわち、TIFnA にハイレベルが与えられている時間を計測します。ECNTBFn のコンペアマッチの検出後、次のカウントソースクロックに同期してカウント値をクリアします。コンペアマッチによるカウントクリアの際に、TIFnA にハイレベルが与えられていた場合は、カウント値は H'00000100 となります。この例を図 13.40 に示します。
- ECNTBFn : TIFnA の立ち下がりエッジをカウントします。また、同期化処理のために TIFnA には 2 サイクルの遅れが生じます。コンペアマッチを検出すると、次の Pφ クロックに同期してカウント値をクリアします。
- GRAFn : ECNTAFn に対するキャプチャレジスタとして機能します。ECNTBFn のコンペアマッチの検出後、次の ECNTAFn クロックに同期して ECNTAFn のカウント値をキャプチャします。
- GRBFn : ECNTBFn に対するコンペアマッチレジスタとして機能し、ECNTBFn のカウント値が GRBFn と一致すると、コンペアマッチを検出します。
- ICFn フラグ : ECNTBFn のコンペアマッチの検出後、次の ECNTAFn クロックに同期して ICFn フラグをセットします。
- ECNTCFn、GRCFn、GRDFn : 機能しません。

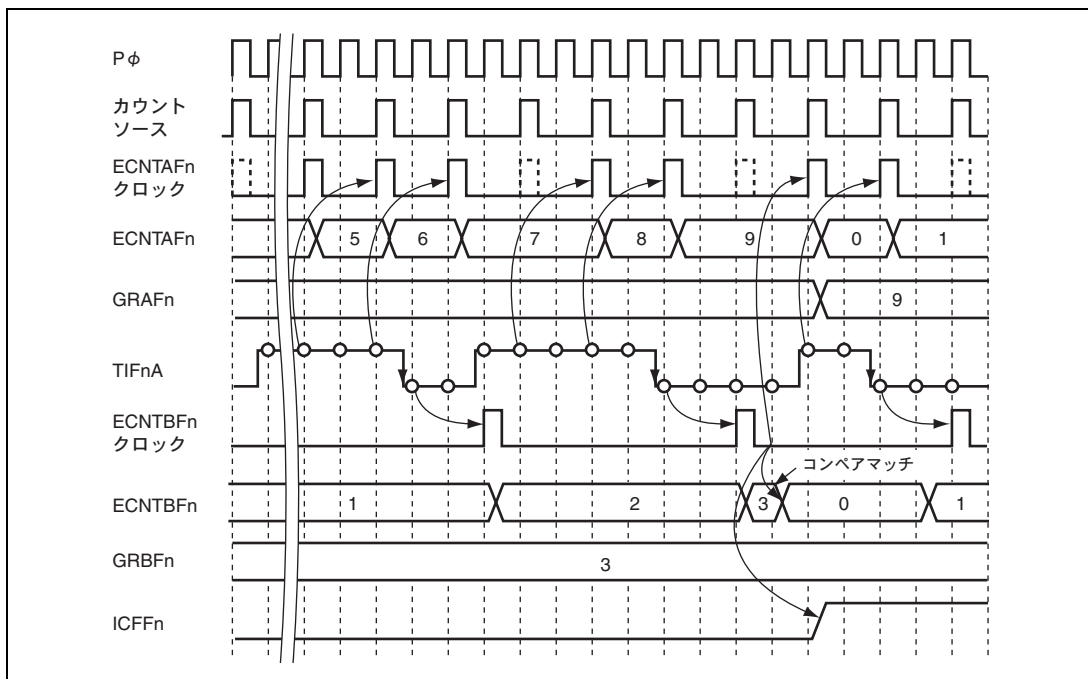


図 13.39 入力ハイレベル期間計測の動作例

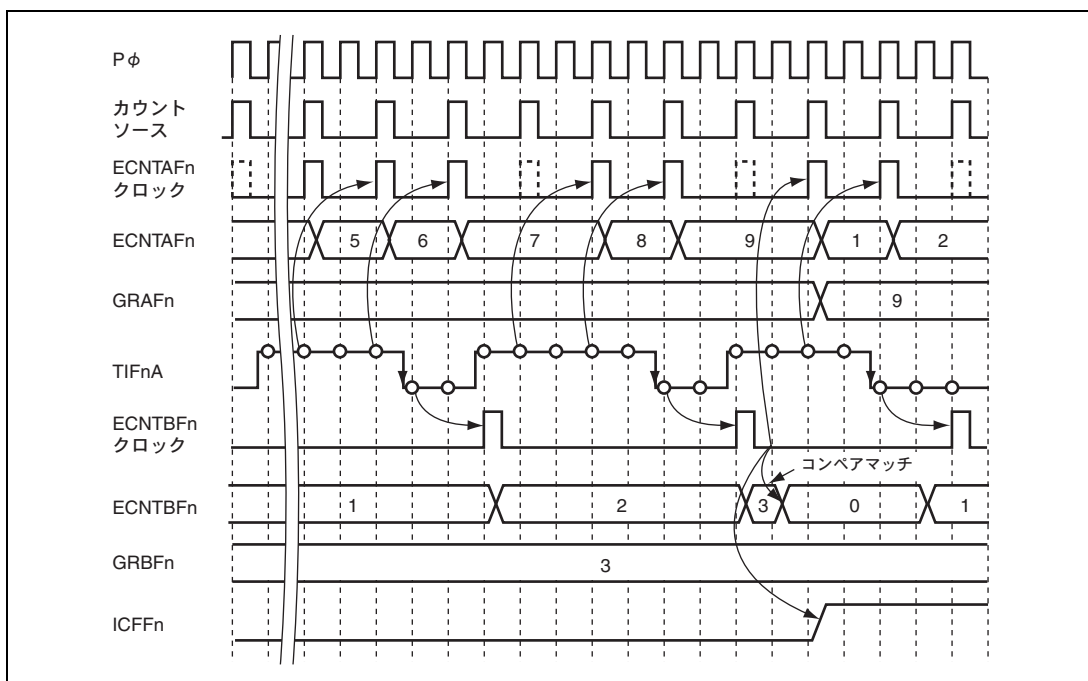


図 13.40 入力ハイレベル期間計測の動作例 (キャプチャ動作時に TIFnA がハイレベル)

13.26.4 PWM 入力波形計測

TIFnA に入力された PWM 波形のオフデューティと PWM サイクルを計測します。TIFnA にローまたはハイレベルが与えられた時間をオフデューティとして、エッジ入力の間隔を PWM サイクルとして同時に計測します。得られる時間は、ECNTAFn のクロックソースを基準として示されます。GRBFn には、時間を計測する範囲を TIFnA に与えられる PWM 波形の数 (GRBFn の値) として指定します。

このときのタイマ F の動作は次のようになります。また動作例を図 13.41 に示します。これは、2 個の PWM 波形の PWM サイクルがカウントソースクロック 6 周期、オフデューティ期間 (ロー期間) がカウントソースクロック 4 周期と計測された例です。

ここでの ECNTAFn クロックは、時間計測カウンタ ECNTAFn、ECNTBFn クロックはイベントカウンタ ECNTBFn、ECNTBFn クロックは ECNTCFn がカウント動作やクリア動作を行うタイミングを示しています。

PWM 入力波形計測の動作モードのときの各レジスタの動作は、以下のとおりです。

- ECNTAFn : クロックバス 0~5 のいずれかをカウントソースとし、TIFnA の入力レベルをイネーブルとしてカウントアップを行います。すなわち、TIFnA にローレベルが与えられている時間を計測します。ECNTBFn のコンペアマッチ検出後、次のカウントソースクロックに同期してカウント値をクリアします。コンペアマッチによるカウントクリアの際に、TIFnA にローレベルが与えられていた場合は、カウント値は H'00000100 となります。
- ECNTBFn : TIFnA の立ち上がりエッジをカウントします。また、同期化処理のために TIFnA には 2 サイクルの遅れが生じます。コンペアマッチを検出すると、次の Pφ クロックに同期してカウント値をクリアします。
- GRAFn : ECNTAFn に対するキャプチャレジスタとして機能します。ECNTBFn のコンペアマッチ検出後、次の ECNTAFn クロックに同期して ECNTAFn のカウント値をキャプチャします。
- GRBFn : ECNTBFn に対するコンペアマッチレジスタとして機能し、ECNTBFn のカウント値が GRBFn と一致すると、コンペアマッチを検出します。
- ECNTCFn : ECNTAFn と同じカウントソースで時間を計測します。ECNTBFn のコンペアマッチ検出後、次の ECNTAFn クロックに同期してカウント値をクリアします。ECNTCFn のカウントクリアは、カウントアップと同じタイミングとなるため、クリア値は H'00000100 となります。
- GRCFn : ECNTCFn に対するキャプチャレジスタとして機能します。ECNTBFn のコンペアマッチ検出後、次の ECNTAFn クロックに同期して ECNTCFn のカウント値をキャプチャします。
- ICFn フラグ : ECNTBFn のコンペアマッチ検出後、次の ECNTAFn クロックに同期して ICFn フラグをセットします。
- GRDFn : 機能しません。

すなわち、ECNTBFn (GRBFn) と ECNTAFn (GRAFn) がローレベル期間計測モードで動作し、ECNTBFn (GRBFn) と ECNTCFn (GRCFn) が有効エッジ入力間隔計測モードで動作していることとなります。

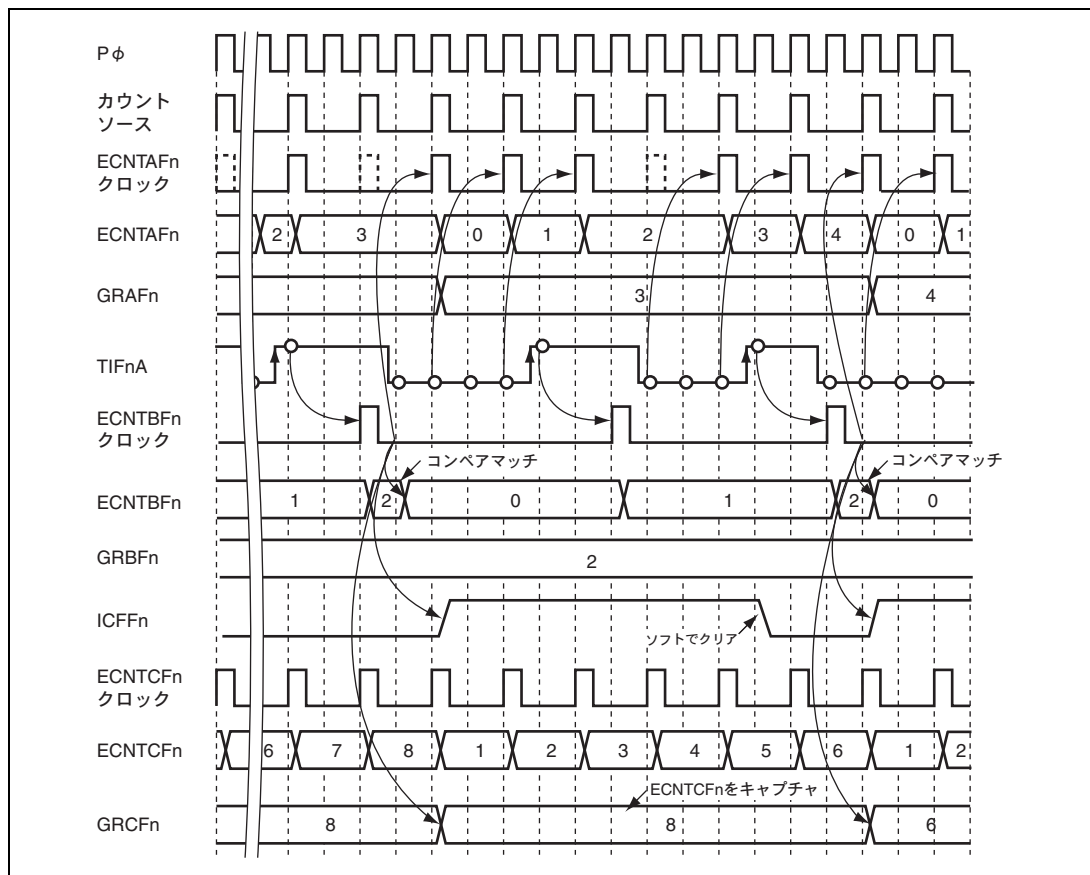


図 13.41 PWM 入力波形期間計測の動作例

13.26.5 回転速度／パルス計測

TIFnAに入力されたエッジ数およびエッジ入力時刻（タイムスタンプ）を計測し、また直前の入力エッジとの間に現れるPWM波形のオフデューティとPWMサイクルを計測します。

得られる時間は、ECNTAFnのクロックソースを基準として示されます。また、GRBFnには、エッジ入力間隔の最大値を設定でき、エッジ入力間隔が最大値を超えた場合に割り込み要求を出力することができます。

このときのタイマFの動作は次のようになります。また動作例を図13.42に示します。

ここでのECNTAFnクロックは、時間計測カウンタECNTAFn、ECNTBFnクロックはイベントカウンタECNTBFn、ECNTCFnクロックはECNTCFnがカウント動作やクリア動作を行うタイミングを示しています。

回転速度／パルス計測の動作モードのときの各レジスタの動作は、以下のとおりです。

- ECNTAFn：クロックバス0～5のいずれかをカウントソースとし、TIFnAの入力レベルをイネーブルとしてカウントアップを行います。すなわち、TIFnAにローレベルが与えられている時間を計測します。TIFnAへのエッジ入力後、次のカウントソースクロックに同期してカウント値をクリアします。カウントクリアの際に、TIFnAにローレベルが与えられていた場合は、カウント値はH'00000100となります。
- ECNTBFn：TIFnAの立ち上がりエッジをカウントします。また、同期化処理のためにTIFnAには2サイクルの遅れが生じます。
- GRAFn：ECNTAFnに対するキャプチャレジスタとして機能します。TIFnAへのエッジ入力後、次のECNTAFnクロックに同期してECNTAFnのカウント値をキャプチャします。
- GRBFn：ECNTCFnに対するコンペアマッチレジスタとして機能します。ECNTCFnのカウント値と、GRBFnの下位8ビットをゼロ拡張した値が一致すると、コンペアマッチを検出しOVFCFnフラグを1にセットします。
- ECNTCFn：ECNTAFnと同じカウントソースで時間を計測します。TIFnAへのエッジ入力後、次のECNTAFnクロックに同期してカウント値をクリアします。ECNTCFnのカウントクリアは、カウントアップと同じタイミングとなるため、クリア値はH'00000100となります。
- GRCFn：ECNTCFnに対するキャプチャレジスタとして機能します。TIFnAへのエッジ入力後、次のECNTAFnクロックに同期してECNTCFnのカウント値をキャプチャします。
- GRDFn：ECNTCFnに対するキャプチャレジスタとして機能します。TIFnAへのエッジ入力後、次のECNTAFnクロックに同期して、ECNTCFnのカウント値をGRDFnの値に累算してキャプチャします。加算する値は、クリア前のECNTCFnの値となります。
- ICFnフラグ：TIFnAへのエッジ入力後、次のECNTAFnクロックに同期してICFnフラグをセットします。
- OVFCFnフラグ：ECNTCFnとGRBFnの値（下位8ビットをゼロ拡張した値）が一致した次のPφクロックに同期してOVFCFnフラグをセットします。

ICFFn フラグの 1 セット時に、ECNTBFn、GRAFn、GRCFn、GRDFn を読み出すことで、それぞれからエッジ数、オフデューティサイクル、PWM サイクル、およびエッジ入力時刻を得ることができます。

GRAFn、GRCFn、GRDFn のキャプチャタイミングは、ECNTAFn のカウントクロックに同期します。TIFn へのエッジ入力周期が、ECNTAFn のカウントクロック周期よりも短くなると正しく計測できませんので、ご注意ください。

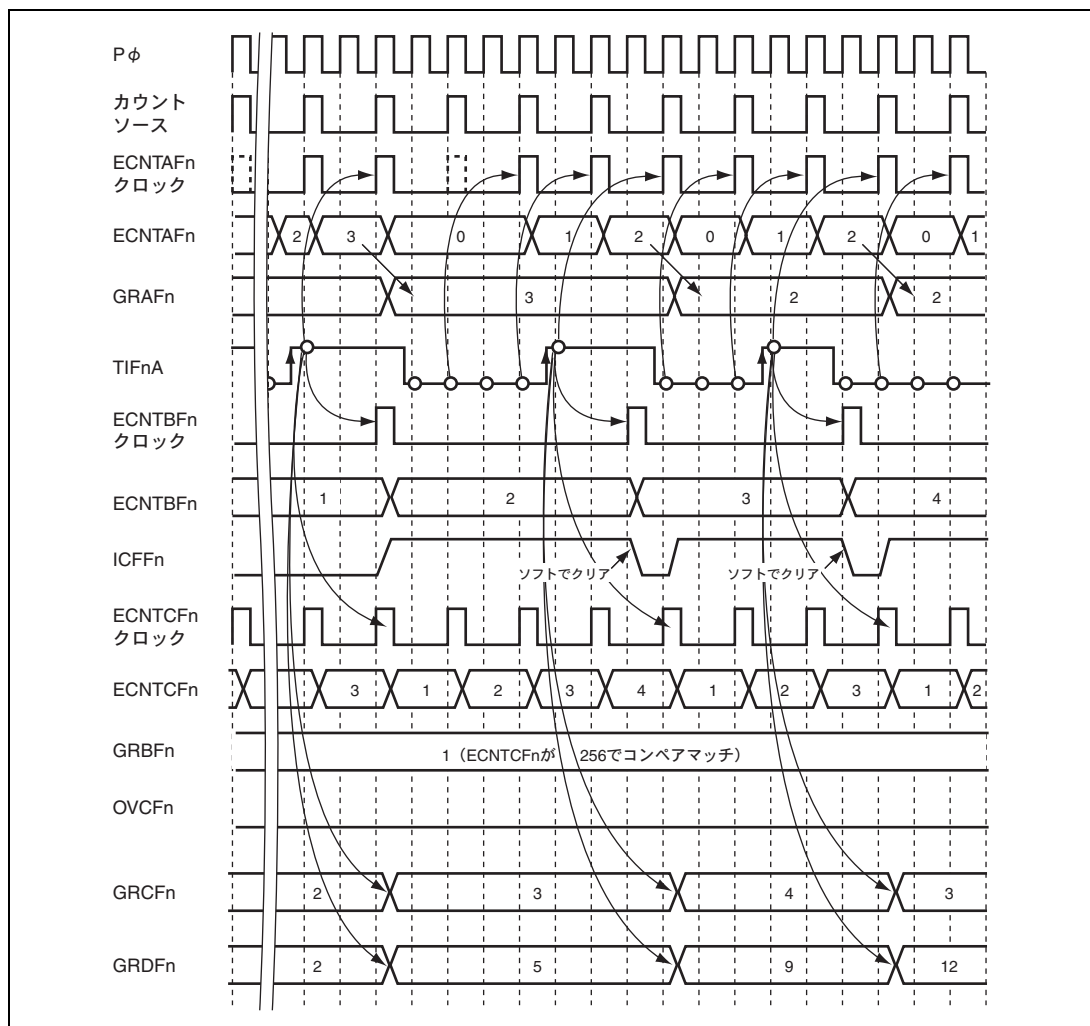


図 13.42 回転速度/パルス計測の動作例





13.26.6 アップ/ダウンイベントカウント

2本の外部入力端子 (TIFnA、TIFnB) のうち、TIFnA をカウントソースとしてカウント動作を行い、TIFnB でアップカウント、ダウンカウントを切り替えます。また、GRAFn にカウントする期間を指定すると、GRBFn に指定期間後のカウント値が得られます。カウントする期間は、ECNTAFn カウントソースクロックの周期 (GRAFn の値) となります。このときのタイマ F の動作は次のようになります。また動作例を図 13.43 に示します。ここでの ECNTAFn クロックと ECNTBFn クロックは、それぞれ時間計測カウンタ ECNTAFn とイベントカウンタ ECNTBFn がカウント動作やクリア動作を行うタイミングを示しています。

アップ/ダウンイベントカウントの動作モードのときの各レジスタ動作は、以下のとおりです。

- ECNTAFn : クロックバス0~5のいずれかをカウントソースとして時間を計測します。コンペアマッチが検出されると、次のPφクロックに同期してカウント値をクリアします。
- ECNTBFn : TIFnAの立ち上がり/立ち下がりエッジの両エッジでアップ/ダウンカウント動作を行います。カウントの方向は、TIFnBの入力レベルにより決定されます (表13.16を参照ください)。また、同期化処理のためにTIFnA、TIFnBには2サイクルの遅れが生じます。
- GRAFn : ECNTAFnに対するコンペアマッチレジスタとして機能し、ECNTAFnのカウント値がGRAFnと一致すると、コンペアマッチを検出します。
- GRBFn : ECNTBFnに対するキャプチャレジスタとして機能します。ECNTAFnのコンペアマッチ検出後、次のPφクロックに同期してECNTBFnのカウント値をキャプチャします。
- ICFnフラグ: ECNTAFnのコンペアマッチ検出後、次のPφクロックに同期してICFnフラグをセットします。
- ECNTCFn、GRCFn、GRDFn : 機能しません。

表 13.16 アップ/ダウンイベントカウントモード時のカウント方向

入力	カウント方向			
	アップカウント		ダウンカウント	
TIFnA				
TIFnB	ローレベル		ハイレベル	

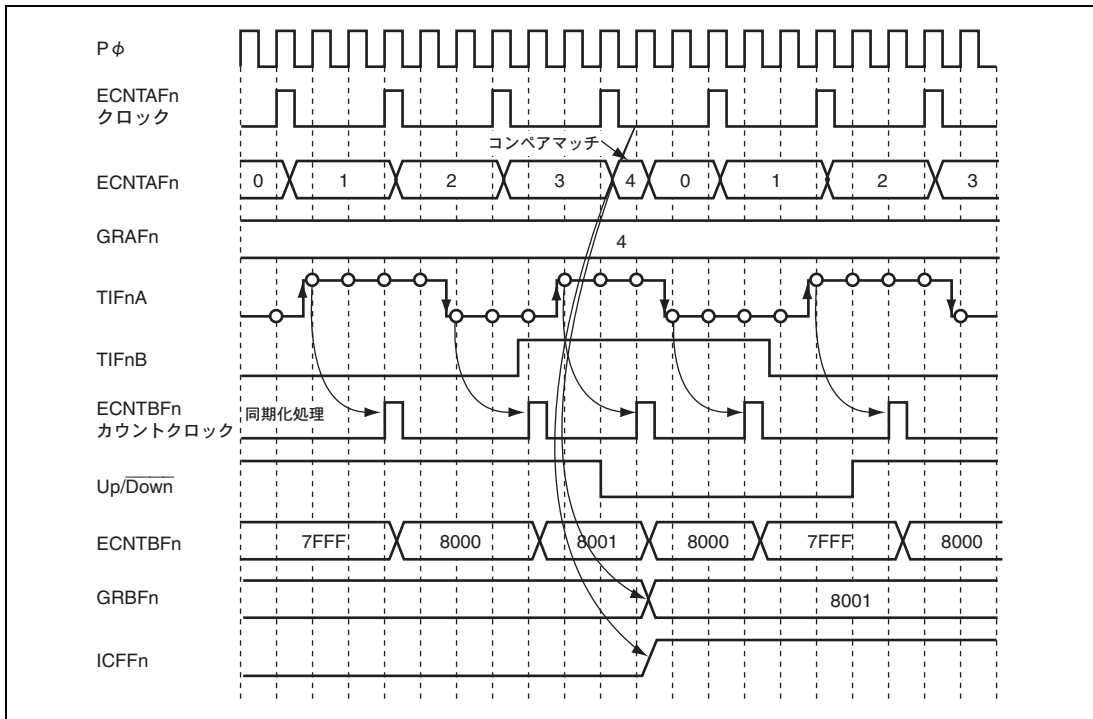


図 13.43 アップ/ダウンイベントカウンタの動作例

13.26.7 4 通倍イベントカウント









2本の外部入力端子 (TIFnA、TIFnB) をカウントソースとしてカウント動作を行い、その2本の入力状態によってアップカウント、ダウンカウントを切り替えます。また、GRAFnにカウントする期間を指定するとGRBFnに指定期間後のカウント値が得られます。カウントする期間は、ECNTAFn カウントソースクロックの周期 (GRAFnの値) となります。

このときのタイマFの動作は次のようになります。また動作例を図 13.44 に示します。ここでの ECNTAFn クロックと ECNTBFn クロックは、それぞれ時間計測カウンタ ECNTAFn とイベントカウンタ ECNTBFn が、カウント動作やクリア動作を行うタイミングを示しています。

4 通倍イベントカウントの動作モードのときの各レジスタの動作は、以下のとおりです。

- ECNTAFn : クロックバス0~5のいずれかをカウントソースとして時間を計測します。コンペアマッチが検出されると、次のPφクロックに同期してカウント値をクリアします。
- ECNTBFn : TIFnA、TIFnBそれぞれの立ち上がり/立ち下がりエッジの両エッジでアップ/ダウンカウント動作を行います。カウントの方向は、他方の信号の入カレベルにより決定されます (表13.17を参照ください)。また、同期化処理のためにTIFnA、TIFnBには2サイクルの遅れが生じます。
- GRAFn : ECNTAFnに対するコンペアマッチレジスタとして機能し、ECNTAFnのカウント値がGRAFnと一致すると、コンペアマッチを検出します。
- GRBFn : ECNTBFnに対するキャプチャレジスタとして機能します。ECNTAFnのコンペアマッチ検出後、次のPφクロックに同期してECNTBFnのカウント値をキャプチャします。
- ICFnフラグ : ECNTAFnのコンペアマッチ検出後、次のPφクロックに同期してICFnフラグをセットします。
- ECNTCFn、GRCFn、GRDFn : 機能しません。

表 13.17 4 通倍イベントカウントモード時のカウント方向

入力	カウント方向							
	アップカウント				ダウンカウント			
TIFnA	ハイレベル		ローレベル		ハイレベル		ローレベル	
TIFnB		ハイレベル		ローレベル		ローレベル		ハイレベル

【注】 TIFnA と TIFnB のエッジ入力を同時に検出した場合の動作は保証されません。TIFnA と TIFnB のエッジ入力間隔は、必ず 1.5 サイクル (Pφクロック) 以上となるようにしてください。

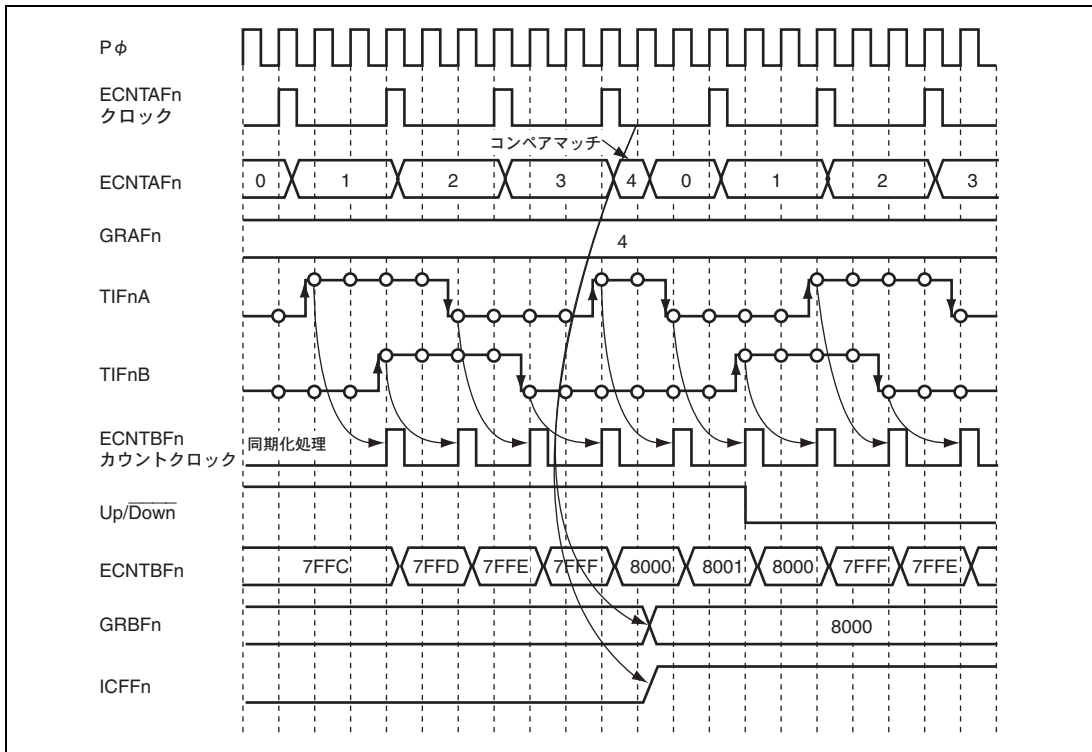


図 13.44 4 逓倍イベントカウンタの動作例

13.26.8 オーバフロー／アンダフロー

カウンタクリア処理以外でカウント値が H'FFFFFF00 (ECNTAFn、ECNTCFn) → H'00000000 (ECNTAFn、ECNTCFn)、あるいは H'FFFF (ECNTBFn) → H'0000 (ECNTBFn) となった場合にオーバフローを検出します。この場合、カウント値が H'00000000 (または H'0000) になると同時にフラグをセットします (図は省略)。ECNTAFn でオーバフローを検出した場合は OVFAFn を、ECNTBFn のときは OVFBFn を、ECNTCFn のときは OVFCFn をセットします。

また、カウント値が H'0000 (ECNTBFn) → H'FFFF (ECNTBFn) となった場合にアンダフローを検出します。この場合、カウント値が H'FFFF となると同時にフラグをセットします (図は省略)。アンダフローは ECNTBFn でのみ発生し、OVFBFn をセットします。

13.27 タイマ G の概要

タイマ G は、同一の機能を持つ 6 個のサブブロックによって構成されます。

サブブロックは、入力クロックをカウントし、所定の時間が経過すると Pφクロックで 1 サイクル期間の負論理パルス信号を生成します。生成した信号は、A/D 変換器の起動/割り込みトリガとして使用することができます。また、パルス信号とは別に割り込み要求も出力することができ、DMAC に DMA 転送の起動を要求することも可能です。なお、カウンタの入力クロックは、クロックバス上の 6 本のクロックから選択できます。

13.27.1 ブロック図

タイマ G のサブブロックは、1 本の 16 ビットタイマカウンタ G (TCNTG) と、1 本のコンペアマッチレジスタ G (OCRG)、制御部などで構成されています。

図 13.45 に、タイマ G のブロック図を示します。

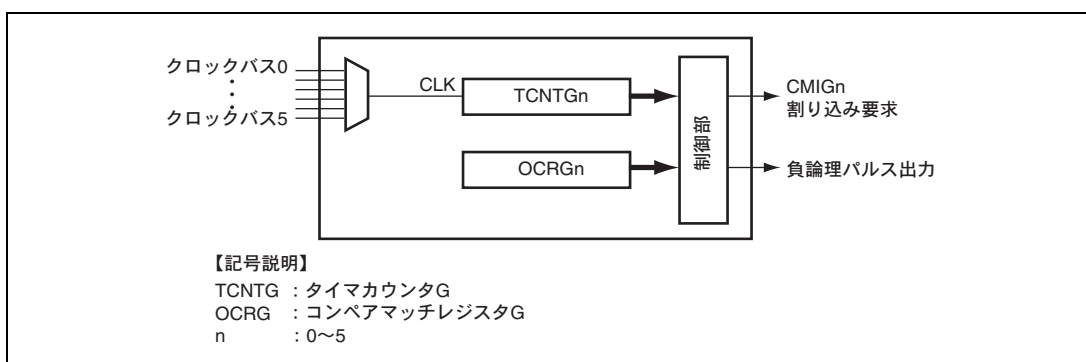


図 13.45 タイマ G のブロック図

13.27.2 割り込み

タイマ G の割り込みは、CMIG0~5 の 6 本あります。サブブロックでコンペアマッチが検出されると、割り込み要求は出力されます。この要求は、ダイレクトメモリアクセスコントローラ (DMAC) および割り込みコントローラ (INTC) が受け取り、それぞれの設定に従って所定の処理を行います。

13.28 タイマ G のレジスタの説明

13.28.1 タイマスタートレジスタ G (TSTRG)

TSTRG は、8 ビットの読み出し／書き込み可能なレジスタで、タイマ G の各サブブロックを動作させるか停止させるかを指定します。ただし、STRG ビットを 1 にセットしても、ATU-III マスタイネーブルレジスタ (ATUENR) の TGE ビットがイネーブルに設定されていなければカウント動作は行われません。

TSTRG は、バイト単位で読み出し／書き込みが可能です。

TSTRG は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時に H'00 に初期化されます。

ビット:	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	STRG5	STRG4	STRG3	STRG2	STRG1	STRG0
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7, 6	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
5	STRG5	0	R/W	カウンタ G スタート サブブロックのタイマカウンタ Gn (TCNTGn) を動作させるか停止させるかを設定します。 STRGn ビットを 0 にクリアした場合、TCNTGn は動作を停止します。停止時はカウンタ値をそのまま保持し、再度本ビットを 1 にセットした場合には、その値から動作を再開します。ただし、本ビットを 1 にセットしても、ATUENR の TGE ビットが 1 にセットされていなければカウント動作は開始されません。 0 : TCNTGn のカウント動作を停止 1 : TCNTGn のカウント動作を許可 【注】プリスケアラは、カウンタ G スタートビットの設定に関係なく動作しており、上記カウンタの動作開始時にも初期化は行われません。したがって、起動から実際に上記カウンタがカウント動作を開始するまでの時間には、選択されたカウントソースの周期 (分解能) 以下のハードウェア的な不確定さが伴います。
4	STRG4	0	R/W	
3	STRG3	0	R/W	
2	STRG2	0	R/W	
1	STRG1	0	R/W	
0	STRG0	0	R/W	

【注】 n=0~5 : サブブロック G0~G5 に対応。

13.28.2 タイマコントロールレジスタ G0~5 (TCRG0~5)

TCRG0~5は、8ビットの読み出し／書き込み可能なレジスタで、タイマGの各サブブロックの動作モードを指定します。

TCRG0~5は、バイト単位で読み出し／書き込みが可能です。

TCRG0~5は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時にH'00に初期化されます。

ビット:	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	CKSELGn[2:0]			—	—	CMP OEGn	CM EGn
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R/W	R/W	R/W	R	R	R/W	R/W

【注】 n=0~5。サブブロックG0~G5に対応。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
7	—	0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。
6~4	CKSELGn [2:0]	000	R/W	クロックセレクト Gn サブブロックのタイマカウンタ Gn (TCNTGn) のクロックソースを指定します。ただし、B'110およびB'111を指定しないでください。誤って指定した場合の動作は保証されません。 000: クロックバス 0 001: クロックバス 1 010: クロックバス 2 011: クロックバス 3 100: クロックバス 4 101: クロックバス 5 110: 設定禁止 111: 設定禁止
3, 2	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。
1	CMPOEGn	0	R/W	パルス出力イネーブル Gn サブブロックのタイマカウンタ Gn (TCNTGn) とコンペアマッチレジスタ (OCRGn) の値が一致したときに、コンペアマッチパルスを外部へ出力するかどうかを設定します。 0: TCNTGn と OCRGn のコンペアマッチでパルス出力しない 1: TCNTGn と OCRGn のコンペアマッチでパルス出力する
0	CMEGn	0	R/W	コンペアマッチインタラプトイネーブル Gn 本フラグにより、サブブロックにおけるタイマステータスレジスタ Gn (TSRGn) のコンペアマッチフラグ Gn (CMFGn) に対応する割り込みの許可／禁止を指定します。 0: CMFGn による割り込みを禁止 1: CMFGn による割り込みを許可

13.28.3 タイマステータスレジスタ G0~5 (TSRG0~5)

TSRG0~5 は、8 ビットの読み出し/書き込み可能なレジスタで、時間計測カウンタやイベントカウンタのオーバフローの発生、コンペアマッチの発生を示します。

これらのフラグは割り込み要因であり、タイマコントロールレジスタ G0~5 (TCRG0~5) の対応するビットにより割り込みが許可されていれば、CPU に割り込みあるいは DMAC に DMA 転送の起動を要求します。

TSRG0~5 は、バイト単位で読み出し/書き込みが可能です。

TSRG0~5 は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時に H'00 に初期化されます。

ビット:	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	OVFGn	CMFGn
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R	R	R	R	R/(W)*	R/(W)*

【注】 n=0~5: サブブロック G0~G5 に対応。

* フラグをクリアするため、1を読み出した後に0を書き込むことのみ可能です。
1の書き込みは無効です。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
7~2	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
1	OVFGn	0	R/(W)*	オーバフローフラグ Gn 本フラグにより、タイマカウンタ Gn (TCNTGn) のオーバフローの状態を参照することができます。本フラグをソフトウェアにより 1 にセットすることはできません。また、このフラグに対応した割り込みはありません。 0: TCNTGn にオーバフローなし [クリア条件] • OVFGn=1 の状態を読み出した後、OVFGn に 0 を書き込んだとき 1: TCNTGn にオーバフロー発生 [セット条件] • TCNTGn の値がオーバフロー (H'FFFF→H'0000) したとき
0	CMFGn	0	R/(W)*	コンペアマッチフラグ Gn 本フラグにより、サブブロック Gn (G0~G5) においてコンペアマッチの検出状態を参照することができます。このフラグをソフトウェアにより 1 にセットすることはできません。タイマコントロールレジスタの CMEGn ビットがセットされている場合、本フラグがセットされるとコンペアマッチ割り込みが出力されます。 0: サブブロック Gn にコンペアマッチの検出なし [クリア条件] • CMFGn=1 の状態を読み出した後、CMFGn に 0 を書き込んだとき • コンペアマッチ割り込みによる DMA 転送要求が DMAC によって受け付けられたとき 1: サブブロック Gn にコンペアマッチを検出 [セット条件] • サブブロック Gn でコンペアマッチを検出したとき

13.28.4 タイマカウンタ G0~5 (TCNTG0~5)

TCNTG0~5は、16ビットの読み出し/書き込み可能なレジスタです。本レジスタは各サブブロックに1個ずつ用意されており、入力クロックによりアップカウント動作を行います。対応するコントロールレジスタの設定に応じて、入力クロックにクロックバス0~5のいずれかを選ぶことができます。

カウンタ値はコンペアマッチレジスタG (OCRG)と比較されています。値が一致すると、次のPφクロックでコンペアマッチフラグG (CMFG)がセットされ、カウンタ値はH'0000にクリアされます。ただし、コンペアマッチによるカウンタのクリアとカウントアップのタイミングが一致する場合のみ、TCNTGはH'0001にクリアされます。これは、TCNTGがPφの1分周クロックでカウントする場合にのみ起こります。

TCNTG0~5は、ワード単位でのみ読み出し/書き込みが可能です。

TCNTG0~5は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時にH'0000に初期化されます。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	TCNTGn[15:0]															
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

【注】 n=0~5: サブブロックG0~G5に対応。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~0	TCNTGn[15:0]	すべて0	R/W	タイマカウンタ Gn アップカウンタ

13.28.5 コンペアマッチレジスタ G0~5 (OCRG0~5)

OCRG0~5は、16ビットの読み出し/書き込み可能なレジスタです。本レジスタは各サブブロックに1個ずつ用意されており、タイマカウンタG (TCNTG)に対するアウトプットコンペアレジスタの機能を持っています。

OCRGにはH'0000を設定しないでください。H'0000を設定した場合、不正な周期でコンペアマッチが発生することになりますのでご注意ください。

OCRG0~5は、ワード単位でのみ読み出し/書き込みが可能です。

OCRG0~5は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイによってH'FFFFに初期化されます。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	OCRGn[15:0]															
初期値:	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

【注】 n=0~5: サブブロックG0~G5に対応。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~0	OCRGn[15:0]	すべて1	R/W	コンペアマッチ Gn コンペアマッチ値を指定します。

13.29 タイマ G の動作説明

OCRG に時間を指定すると、指定した時間経過後に Pφ クロックの 1 サイクル期間の負論理パルスを得ることができます。出力信号の初期値は 1 です。カウントする期間は、TCNTG のクロックソースを基準として指定します。

タイマコントロールレジスタ G (TCRG) のコンペアマッチパルス出力イネーブルビット (CMPOEG) の設定により、生成した信号を A/D 変換器に出力することができ、A/D 起動/割り込みトリガとして使用できます。

また、コンペアマッチ時は、タイマステータスレジスタ G (TSRG) のコンペアマッチフラグ (CMFG) がセットされ、TCRG のコンペアマッチインタラプトイネーブルビット (CMEG) の設定により、DMAC および CPU に対して、それぞれ DMA 起動、割り込みを要求することができます。

図 13.46 にカウント動作とコンペアマッチ動作の例を示します。ここで TCNTG クロックは、TCNTG がカウント動作やクリア動作を行うタイミングを示した仮想的な信号です。

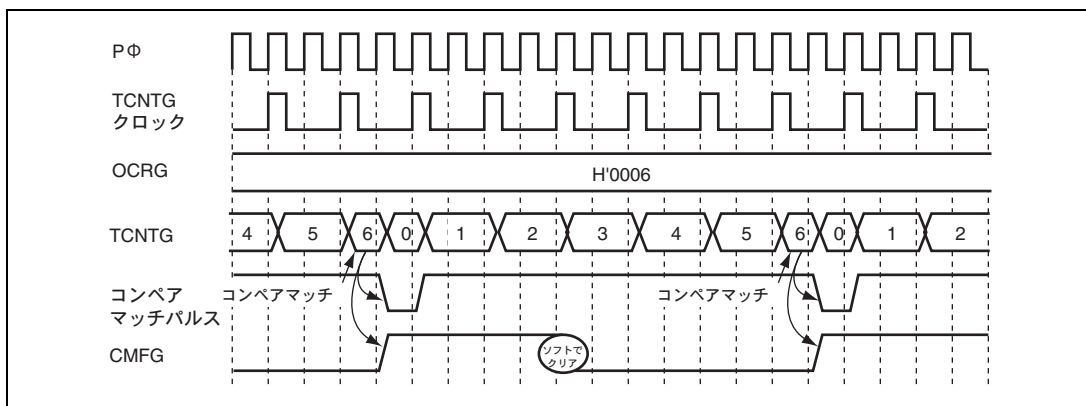


図 13.46 カウント動作とコンペアマッチ動作の例

13.30 タイマHの概要

タイマHは、入力クロックをカウントし、所定の時間を繰り返し計測するカウンタです。

タイマカウンタ1H (TCNT1H) は、16ビットのカウンタで、クロックバス上の6本から選択したクロックによりカウントアップを行います。TCNT1Hは、コンペアマッチレジスタ1H (OCR1H) 値に到達するとH'0000にクリアされ、再びカウントアップを開始します。

タイマカウンタ2H (TCNT2H) は、32ビットのカウンタで、TCNT1HとOCR1Hとのコンペアマッチ発生によってインクリメントを行い、コンペアマッチの発生回数をカウントします。

TCNT2Hのカウントアップのタイミングで割り込みを発生することが可能です。

13.30.1 ブロック図

タイマHは、1本の16ビットタイマカウンタ1H (TCNT1H)、1本のコンペアマッチレジスタ1H (OCR1H)、1本の32ビットタイマカウンタ2H (TCNT2H)、および制御部で構成されています。

図13.47に、タイマHのブロック図を示します。

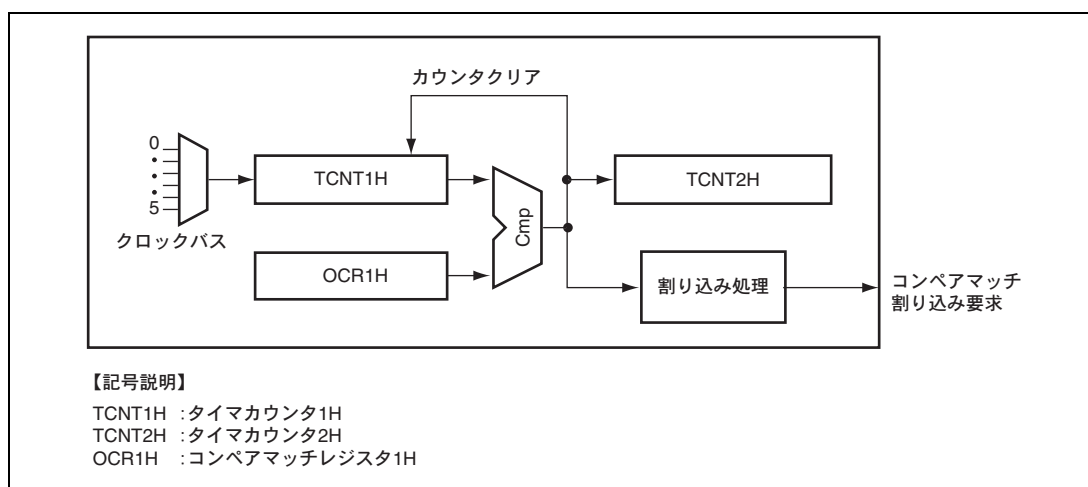


図 13.47 タイマHのブロック図

13.30.2 割り込み

タイマHの割り込みは、CMIHの1本があります。TCNT1HとOCR1Hとのコンペアマッチ発生により割り込みを出力します。

13.31 タイマ H のレジスタの説明

13.31.1 タイマコントロールレジスタ H (TCRH)

TCRH は、8 ビットの読み出し／書き込み可能なレジスタで、カウントソースの選択およびコンペアマッチ割り込み出力の制御を行います。

TCRH は、バイト単位で読み出し／書き込みが可能です。

TCRH は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時に H'00 に初期化されます。

ビット :	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	CKSELH[2:0]			—	—	—	CMEH
初期値 :	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W :	R	R/W	R/W	R/W	R	R	R	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7	—	0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
6~4	CKSELH[2:0]	000	R/W	クロックセレクト H タイマカウンタ 1H (TCNT1H) のクロックソースを指定します。 000 : クロックバス 0 001 : クロックバス 1 010 : クロックバス 2 011 : クロックバス 3 100 : クロックバス 4 101 : クロックバス 5 110 : 設定禁止 111 : 設定禁止
3~1	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
0	CMEH	0	R/W	コンペアマッチインタラプトイネーブル H 本フラグにより、タイマステータスレジスタ H (TSRH) のコンペアマッチフラグ H (CMFH) に対応する割り込みの許可／禁止を指定します。 0 : CMFH による割り込みを禁止 1 : CMFH による割り込みを許可

13.31.2 タイマステータスレジスタ H (TSRH)

TSRH は、8 ビットの読み出し／書き込み可能なレジスタで、タイマカウンタ 1H (TCNT1H) とコンペアマッチレジスタ (OCR1H) とのコンペアマッチ発生、TCNT1H のオーバーフロー発生、タイマカウンタ 2H (TCNT2H) のオーバーフローの発生を示します。

コンペアマッチフラグは割り込み要因であり、タイマコントロールレジスタ F (TCRH) の対応するビットにより割り込みが許可されていれば、CPU に割り込みを出力します。

TSRH は、バイト単位で読み出し／書き込みが可能です。

TSRH は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時に H'00 に初期化されます。

ビット :	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	OVF2H	OVF1H	CMFH
初期値 :	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W :	R	R	R	R	R	R/(W)*	R/(W)*	R/(W)*

【注】 * フラグをクリアするため、1を読み出した後に0を書き込むことのみ可能です。
1の書き込みは無効です。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
7~3	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
2	OVF2H	0	R/(W)*	<p>オーバーフローフラグ 2H</p> <p>本フラグにより、タイマカウンタ 2H (TCNT2H) のオーバーフローの状態を参照することができます。本フラグをソフトウェアにより 1 にセットすることはできません。また、本フラグに対応した割り込みはありません。</p> <p style="margin-left: 20px;">0 : TCNT2H にオーバーフローなし</p> <p>[クリア条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • OVF2H=1 の状態を読み出した後、OVF2H に 0 を書き込んだとき 1 : TCNT2H にオーバーフロー発生 <p>[セット条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • TCNT2H の値がオーバーフロー (H'FFFFFFFF→H'00000000) したとき TCNT2H への H'00000000 の書き込み、TCNT2H を初期値 (H'00000000) で起動しても OVF2H ビットはセットされません。 <p>カウンタ値が H'FFFFFFFF の状態で、カウントアップクロックと同時に TCNT2H への書き込みを行った場合、オーバーフローフラグは 1 にセットされますが、TCNT2H 値は H'00000000 ではなく、書き込まれた値に更新されます。</p>

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
1	OVF1H	0	R/(W)*	<p>オーバーフローフラグ 1H</p> <p>本フラグにより、タイマカウンタ 1H (TCNT1H) のオーバーフローの状態を参照することができます。本フラグをソフトウェアにより 1 にセットすることはできません。また、本フラグに対応した割り込みはありません。</p> <p>0 : TCNT1H にオーバーフローなし</p> <p>[クリア条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • OVF1H=1 を読み出した後、OVF1H に 0 を書き込んだとき <p>1 : TCNT1H にオーバーフロー発生</p> <p>[セット条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • TCNT1H の値がオーバーフロー (H'FFFF→H'0000) したとき <p>TCNT1H への H'0000 書き込み、および TCNT1H を初期値 (H'0000) で起動しても OVF1H はセットされません。</p> <p>カウンタ値が H'FFFF の状態で、カウントアップクロックと同時に TCNT1H への書き込みを行った場合、オーバーフローフラグは 1 にセットされますが、TCNT1H 値は H'0000 ではなく、書き込まれた値に更新されます。</p>
0	CMFH	0	R/(W)*	<p>コンペアマッチフラグ H</p> <p>本フラグにより、TCNT1H と OCR1H とのコンペアマッチ検出状態を参照することができます。本フラグをソフトウェアにより 1 にセットすることはできません。TCRH の CMEH ビットがセットされている場合、本フラグがセットされるとコンペアマッチ割り込みが出力されます。</p> <p>0 : TCNT1H と OCR1H のコンペアマッチ発生なし</p> <p>[クリア条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • CMFH=1 の状態を読み出した後、CMFH に 0 を書き込んだとき <p>1 : TCNT1H と OCR1H のコンペアマッチ発生</p> <p>[セット条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • TCNT1H と OCR1H の値が一致したとき <p>CMFH が 1 の状態 (フラグがクリアされていない状態) でも、次のコンペアマッチ処理は実施可能です。このとき CMFH には 1 がオーバライトされます。</p>

【注】 * フラグをクリアするため、1 を読み出した後に 0 を書き込むことのみ可能です。1 の書き込みは無効です。

13.31.3 タイマカウンタ 1H (TCNT1H)

TCNT1H は、16 ビットの読み出し／書き込み可能なレジスタです。TCNT1H は、ATU-III マスタイネーブルレジスタ (ATUENR) の THE ビットが 1 にセットされている場合のみ動作可能です。タイマコントロールレジスタ H (TCRH) の CKSELH ビットで選択された入力クロックによりアップカウント動作を行います。

TCNT1H がオーバフロー (H'FFFF→H'0000) を発生すると、タイマステータスレジスタ H (TSRH) のオーバフローフラグ 1H (OVFIH) は 1 にセットされます。

TCNT1H カウンタ値は、コンペアマッチレジスタ 1H (OCR1H) と比較されています。値が一致すると、次の Pφクロックでコンペアマッチステータス (TSRH レジスタの CMFH ビット) がセットされ、TCNT1H カウンタ値は H'0000 にクリアされます。ただし、コンペアマッチによるカウンタのクリアとカウントアップのタイミングが一致する場合のみ、TCNT1H は H'0001 にクリアされます。これは TCNT1H が Pφクロックの 1 分周クロックでカウントする場合にのみ起こります。

また、コンペアマッチと同時に、タイマカウンタ 2H (TCNT2H) はカウントアップを行います。

TCNT1H は、ワード単位でのみ読み出し／書き込みが可能です。

TCNT1H は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時に H'0000 に初期化されます。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	TCNT1H[15:0]															
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~0	TCNT1H[15:0]	すべて 0	R/W	タイマカウンタ 1H 16 ビットアップカウンタ

13.31.4 コンペアマッチレジスタ 1H (OCR1H)

OCR1H は、16 ビットの読み出し／書き込み可能なレジスタで、タイマカウンタ 1H (TCNT1H) に対するアウトプットコンペアレジスタの機能を持っています。次の周期でコンペアマッチが発生します。

コンペアマッチ発生周期＝

$$\text{TCNT1H カウントクロック周期 (TCRH レジスタの CKSELH ビットで設定)} \times \text{OCR1H 値}$$

この周期で TCNT2H はカウントアップを行います。また、割り込み許可設定時には割り込みを出力します。

OCR1H は、H'0000 に設定しないでください。H'0000 を設定した場合、不正な周期でコンペアマッチが発生することになりますので注意してください。

OCR1H は、ワード単位でのみ読み出し／書き込みが可能です。

OCR1H は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイによって H'FFFF に初期化されます。

ビット： 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 0

OCR1H[15:0]															
初期値：	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~0	OCR1H[15:0]	すべて 1	R/W	コンペアマッチ 1H コンペアマッチ値を指定します。

13.31.5 タイマカウンタ 2H (TCNT2H)

TCNT2H は、32 ビットの読み出し／書き込み可能なレジスタです。TCNT2H は、タイマカウンタ 1H (TCNT1H) とコンペアマッチレジスタ 1H (OCR1H) とのコンペアマッチ発生によってカウントアップ動作を行います。

TCNT2H は、ATU-III マスタイネーブルレジスタ (ATUENR) の THE ビットが 1 にセットされている場合のみ動作可能です。

TCNT2H がオーバーフロー (H'FFFF FFFF→H'0000 0000) を発生すると、タイマステータスレジスタ H (TSRH) のオーバーフローフラグ 2H (OVF2H) は 1 にセットされます。

TCNT2H は、ロングワード単位でのみ読み出し／書き込みが可能です。

TCNT2H は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時に H'0000 0000 に初期化されます。

ビット:	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	TCNT2H[31:16]															
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	TCNT2H[15:0]															
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
31~0	TCNT2H[31:0]	すべて 0	R/W	タイマカウンタ 2H 32 ビットカウンタ値

13.32 タイマ H の動作説明

コンペアマッチレジスタ (OCR1H) に時間を指定すると、指定した時間経過後に TCNT1H とのコンペアマッチによりコンペアマッチフラグ H (CMFH) がセットされます。同時に、32 ビットタイマカウンタの TCNT2H がカウントアップし、TCNT1H のカウンタ値は H'0000 にクリアされます。

TCNT1H のカウントクロックのクロックソースは、TCRH の CKSELH ビットによって選択します。ATUENR レジスタの THE ビットが 1 のとき、TCNT1H、TCNT2H は動作可能となります。カウンタ動作中に THE ビットを 0 にした場合、TCNT1H、TCNT2H はその状態を保持したまま停止します。再び THE ビットを 1 にすると、停止した状態からカウントを再開します。

タイマコントロールレジスタ H (TCRH) のコンペアマッチインタラプトイネーブル H ビット (CMEH) の設定により、割り込み出力が可能です。

図 13.48 にタイマ H の動作の例を示します。ここで TCNT1H カウントクロックは、TCNT1H がカウント動作やクリア動作を行うタイミングを示した仮想的な信号です。

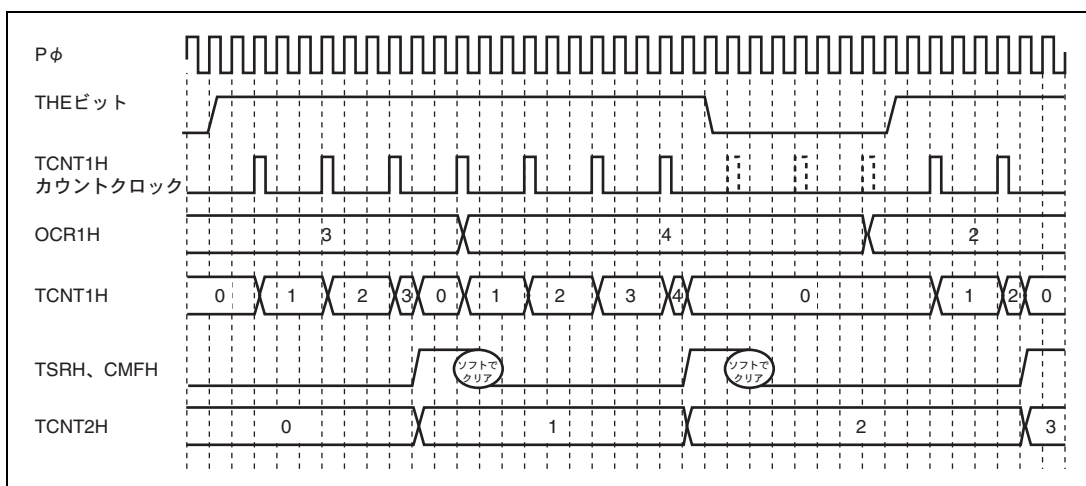


図 13.48 タイマ H の動作

13.33 タイマ J の概要

タイマ J は、同一の機能を持つ 2 個のサブブロックによって構成されます。

タイマ J のサブブロックは、入力クロックをカウントし、所定の時間を繰り返し計測するカウンタです。

タイマカウンタ J (TCNTJ) は、16 ビットのカウンタで、クロックバス上の 6 本から選択したクロックによりカウントアップを行います。TCNTJ は、TIJ 端子のエッジ入力によってクリアされます。また、タイマ J は 9 段 (16 ビット×9) の FIFO レジスタを持っており、エッジ入力ごとに FIFO へ TCNTJ 値を取り込むことができます。FIFO レジスタがフルになったタイミングで DMAC の起動および割り込み要求が可能です。

またタイマ J は、FIFO レジスタの有効期間を、コンペアマッチレジスタ J (OCRJ) でのコンペアマッチ後、FIFO レジスタがフルになるまでの間として制御することが可能です。

外部信号入力端子 (TIJ) からの入力は、入力キャンセル機能を使用してノイズをキャンセルすることができます。

13.33.1 ブロック図

タイマ J は、2 個のサブブロックで構成されます。各サブブロックは、1 本の 16 ビットタイマカウンタ J (TCNTJ) と、1 本のコンペアマッチレジスタ J (OCRJ)、9 段の FIFO レジスタ (16 ビット×9)、入力処理部 (エッジ検出、ノイズキャンセラ)、および制御部などで構成されています。

図 13.49 に、タイマ J のブロック図を示します。

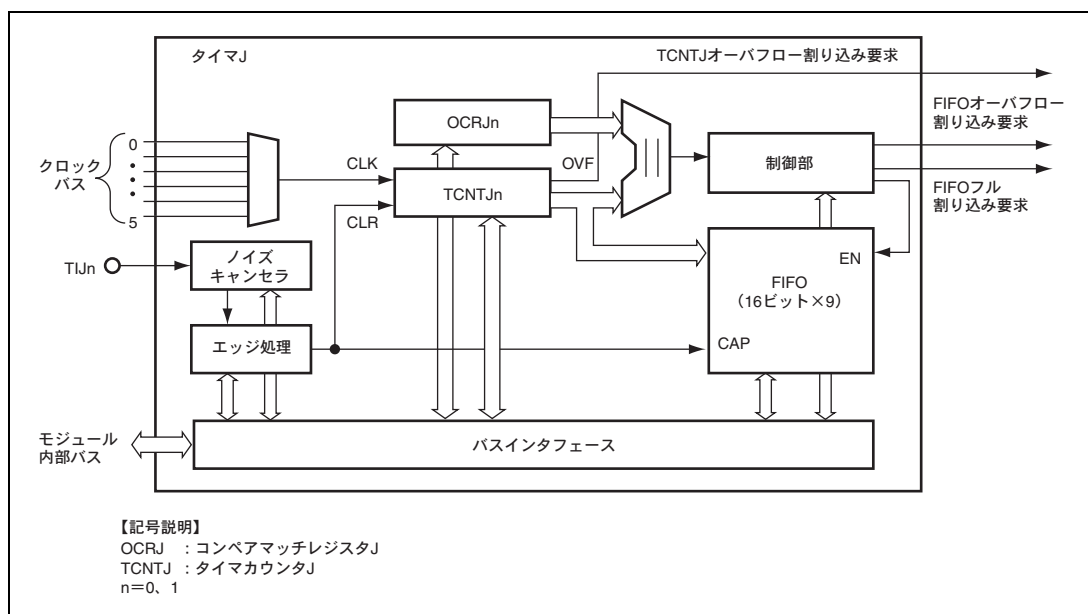


図 13.49 タイマ J のブロック図

13.34 タイマ J のレジスタの説明

13.34.1 タイマスタートレジスタ J (TSTRJ)

TSTRJ は、8 ビットの読み出し／書き込み可能なレジスタで、タイマ J に含まれる各サブブロック (タイマ J0、タイマ J1) を動作させるか停止させるかを指定します。ただし、タイマ J のカウンタ J スタートビット (STRJ) をカウント動作許可に設定していても、ATU-III マスタイネーブルレジスタ (ATUENR) のタイマ J イネーブルビット (TJE) がイネーブルに設定されていなければカウント動作は行われません。プリスケアラは、カウンタ J スタートビットの設定に関係なく動作しており、TCNTJn の動作開始時にも初期化は行われません。したがって、起動から実際に上記カウンタがカウント動作を開始するまでの時間には、選択されたカウントソースの周期 (分解能) 以下のハードウェア的な不確定さが伴います。

TSTRJ は、バイト単位で読み出し／書き込みが可能です。

TSTRJ は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時に H'00 に初期化されます。

ビット :	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	STRJ1	STRJ0
初期値 :	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W :	R	R	R	R	R	R	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
7~2	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
1	STRJ1	0	R/W	カウンタ Jn スタート
0	STRJ0	0	R/W	タイマカウンタ Jn (TCNTJn) を動作させるか、停止させるかを設定します。 本ビットを 0 にクリアした場合、TCNTJn は動作を停止します。停止時はカウンタ値をそのまま保持し、再度本ビットを 1 にセットした場合には、その値から動作を再開します。 0 : TCNTJn のカウント動作を停止 1 : TCNTJn のカウント動作を許可

【注】 n=0, 1

13.34.2 タイマコントロールレジスタ J0、1 (TCRJ0、1)

TCRJ0、1は、8ビットの読み出し/書き込み可能なレジスタで、タイマJに含まれる各サブブロック（タイマJ0、タイマJ1）の動作モードを指定します。

TCRJ0、1は、バイト単位で読み出し/書き込みが可能です。

TCRJ0、1は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時にH'00に初期化されます。

ビット :	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	CKSELJn[2:0]			—	NCEJn	IOJn[1:0]	
初期値 :	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W :	R	R/W	R/W	R/W	R	R/W	R/W	R/W
【注】	n = 0、1							

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
7	—	0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。
6~4	CKSELJn[2:0]	000	R/W	クロックセレクト Jn サブブロックのタイマカウンタ Jn (TCNTJn) のクロックソースを指定します。ただし、B'110 および B'111 を指定しないでください。誤って指定した場合の動作は保証されません。 000 : クロックバス 0 001 : クロックバス 1 010 : クロックバス 2 011 : クロックバス 3 100 : クロックバス 4 101 : クロックバス 5 110 : 設定禁止 111 : 設定禁止
3	—	0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
2	NCEJn	0	R/W	<p>ノイズキャンセライネーブル Jn</p> <p>外部入力 (TIJn) に対してノイズキャンセル機能の有効/無効を選択します。本ビットを 1 にセットした後、外部入力 (TIJn) のレベル変化を検出すると、共通制御部内のノイズキャンセルモードレジスタ (NCMR) の設定にあわせて、後続エッジキャンセルモードあるいは先行エッジキャンセルモードのいずれかの処理を開始します。</p> <p>後続エッジキャンセルモードでは、入力信号のレベル変化を検出すると、ノイズキャンセル後の信号として、その変化を出力します。また同時に、対応するノイズキャンセルカウンタ Jn (NCNTJn) がアップカウントを開始します。このノイズキャンセルカウンタがノイズキャンセルレジスタ Jn (NCRJn) の値とコンペアマッチするまでの間、入力信号のレベル変化はマスクされます。コンペアマッチ時には、そのときの入力信号のレベルがノイズキャンセル後の信号として出力されます。</p> <p>NCNTJn がカウント動作中に本ビットを 0 にクリアした場合、クリア後もコンペアマッチするまでカウント動作は停止せず、その間も入力信号のレベル変化はマスクされ続けます。</p> <p>先行エッジキャンセルモードでは、入力信号のレベル変化を検出すると、対応するノイズキャンセルカウンタ Jn (NCNTJn) がアップカウントを開始します。NCNTJn の値がノイズキャンセルレジスタ Jn (NCRJn) の値とコンペアマッチするまでの間に入力信号のレベルに変化がなければ、コンペアマッチタイミングで初めてレベル変化をノイズキャンセル後の信号として出力します。コンペアマッチまでに入力信号レベルが変化した場合はノイズとみなされ、ノイズキャンセラは入力信号のレベル変化がなかったものとしてノイズキャンセル後の信号を変化させません。</p> <p>NCNTJn がカウント動作中にこれらのビットを 0 にクリアした場合、クリア後もコンペアマッチするか、あるいは入力信号レベルに変化があるまでの間、カウント動作は停止せずノイズキャンセル処理を継続します。各キャンセルモードの動作例は、図 13.1 および図 13.2 を参照してください。</p> <p>0 : TIJn 入力のノイズキャンセラ機能を無効にする 1 : TIJn 入力のノイズキャンセラ機能を有効にする</p>

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
1、0	IOJn[1:0]	00	R/W	<p>I/O コントロール Jn</p> <p>インプットキャプチャのトリガとなる外部入力 (TIJn) のエッジ検出を選択します。本ビットで選択したエッジを検出すると、タイマカウンタ Jn (TCNTJn) の値が、対応する FIFO レジスタ J (FIFOJn) に転送されます。エッジ検出は、ノイズキャンセラ通過後の信号に対して行われます。ノイズキャンセル機能が無効であれば外部入力 (TIJn) に対して、ノイズキャンセル機能が有効であればノイズキャンセル後の信号に対してエッジ検出が行われることとなります。</p> <p>エッジの検出は、Pφクロックに同期して行われます。また、外部入力信号の周期が、Pφクロック周期の2倍以上でなければ正しくエッジ検出は行われませんのでご注意ください。</p> <p>00 : TIJn のインプットキャプチャ禁止 01 : TIJn の立ち上がりでインプットキャプチャ 10 : TIJn の立ち下がりでインプットキャプチャ 11 : TIJn の立ち上がり/立ち下がり両エッジでインプットキャプチャ</p>

【注】 n=0、1

13.34.3 FIFO コントロールレジスタ J0、1 (FCRJ0、1)

FCRJ0、1は、8ビットの読み出し／書き込み可能なレジスタで、タイマJに含まれる各サブブロック（タイマJ0、タイマJ1）のFIFOレジスタ動作を制御します。

FCRJ0、1は、バイト単位で読み出し／書き込みが可能です。

FCRJ0、1は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時にH'00に初期化されます。

ビット:	7	6	5	4	3	2	1	0
	FIFO ENJn	—	FVCR ENJn	FRS TJn	—	—	FDFT RJn[1:0]	
初期値:	0	0	0	0*	0	0	0	0
R/W:	R/W	R	R/W	W	R	R	R/W	R/W

【注】 n=0、1

* 0の書き込みは無効です。また、1を書き込んでも値は保持されません。
なお、読み出し値は常に0になります。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
7	FIFOENJn	0	R/W	FIFOレジスタイネーブルJn タイマサブブロックJ0、J1のFIFOレジスタJn (FIFOJn)の有効／無効を設定します。本ビットが0でFIFOレジスタが無効となっていれば、TIJn端子にエッジ入力があっても、TCNTJn値はFIFOレジスタに取り込まれません。ただし、FVCRENJnが1に設定されている場合は、本ビットが0であっても、OCRJnコンペアマッチ後、FIFOがフルになるまでの間は、エッジ入力ごとにTCNTJn値をFIFOレジスタに取り込みます。 0: FIFOレジスタJnは無効 1: FIFOレジスタJnは有効
6	—	0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。
5	FVCRENJn	0	R/W	FIFO有効化制御イネーブルJn FIFOENJnが0でFIFOレジスタが無効であるとき、コンペアマッチレジスタJn (OCRJn)のコンペアマッチタイミングから、FIFOがフル(FDFTRGJnによってフルとする基準のデータ数を設定可能)になるまでの間、FIFOレジスタを有効にすることができます。なお、FIFOENJnが1であれば、本ビットの設定にかかわらず、常にFIFOレジスタは有効になります。 0: OCRJnでのコンペアマッチでFIFOを有効にしない 1: OCRJnのコンペアマッチ後、FIFOフルまでFIFOレジスタを有効にする
4	FRSTJn	0*	W	FIFOデータレジスタリセットJn FIFOレジスタ内のキャプチャデータを無効にし、データが空の状態にFIFOレジスタをリセットします。ただし、FIFOレジスタはリセットされても、1にセットされたFDFFJnフラグ、FDOVFJnフラグのクリアは行いません。 0: 何の動作もしない 1: FIFOレジスタをリセットする
3、2	—	すべて0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
1, 0	FDFTRGJn [1:0]	00	R/W	<p>FIFO データフルトリガ Jn</p> <p>タイマ J ステータスレジスタ (TSRJn) の FDFJn フラグをセットする基準となるデータ数を指定します。FIFO レジスタが有効であるとき、FIFO レジスタに格納されたキャプチャデータが設定トリガ数以上になったとき、FDFJn は 1 にセットされます。また、FIFOENJn が 0、FVCRENJn が 1 であり、コンペアマッチによって FIFO レジスタが有効になっていれば、キャプチャデータが設定トリガ数以上になったとき、FIFO レジスタは無効になります。</p> <p>00 : 9 個 01 : 6 個 10 : 4 個 11 : 2 個</p>

【注】 n=0, 1

- *1 0 の書き込みは無効です。また、1 を書き込んででも値は保持されません。なお、読み出し値は常に 0 になります。
- *2 FIFOENJn を 0、かつ FVCRENJn を 1 にセットしたときは、FIFO データフル割り込みを CPU で発生させる場合のみ FDFTRGJn[1:0] を 00 に設定可能です。このとき、FIFO データフル割り込み発生時は、サービスクリーン内で、全 FIFO データを読み出した後、FRSTJn ビットで FIFO レジスタをリセットし、その後、FDFJn をクリアしてください。

13.34.4 タイマステータスレジスタ J0、1 (TSRJ0、1)

TSRJ0、1 は、8 ビットの読み出し/書き込み可能なレジスタで、タイマカウンタ Jn (TCNTJn) のオーバフローの発生、コンペアマッチレジスタ Jn (OCRJn) でのコンペアマッチの発生を示します。また、FIFO レジスタがオーバフローしたこと、FIFO レジスタ内のデータが設定値以上になったことを示すフラグがあります。

本レジスタの FIFO ステータスフラグ Jn (FVLDFJn) およびコンペアマッチフラグ Jn (CMFJn) を除いたフラグは割り込み要因であり、タイマインタラプトイネーブルレジスタ Jn (TIERJn) の対応するビットの設定によって割り込みが許可されていれば、DMAC へ DMA 転送を要求したり、DMAC 経由で CPU に割り込みを要求したりすることができます。

TSRJ0、1 は、バイト単位で読み出し/書き込みが可能です。

TSRJ0、1 は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時に H'00 に初期化されます。

ビット:	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	FVLD FJn	CMF Jn	OVFJn	FDOV FJn	DFD FJn
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R	R	R/(W)*R/(W)*R/(W)*R/(W)*			

【注】 n=0, 1

- * フラグをクリアするため、1を読み出した後に0を書き込むことのみ可能です。1の書き込みは無効です。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
7~5	—	すべて 0	R	<p>リザーブビット</p> <p>読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。</p>

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
4	FVLDFJn	0	R	<p>FIFO ステータスフラグ Jn</p> <p>FIFO レジスタの有効/無効状態を示します。本ビットは読み出し専用であり、ソフトウェアで1にセットしたり、0にクリアしたりすることはできません。</p> <p>本ビットの読み出し値が1であるとき、本ビットに対応する FIFO レジスタ Jn (FIFOJn) が有効状態であることがわかります。このとき、TIJn 端子のエッジ入力によって、TCNTJn 値を FIFO レジスタに取り込みます。</p> <p>FIFOENJn ビットが1であれば、本ビットは常に1となります。FIFOENJn ビットが0であり、FVCRENJn が1であるときは、OCRJn のコンペアマッチによって FVLDFJn が1にセットされ、FIFO レジスタがフルになると0にクリアされます。FIFOENJn と FVCRENJn の両方が0であれば、本ビットは常に0となります。</p> <p>0 : FIFO レジスタが有効状態でない</p> <p>[クリア条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • FIFOENJn を0にクリアしたとき • FIFOENJn が0で、FVCRENJn が1の場合で、FIFO レジスタに FDFTRGJn の設定値以上のキャプチャデータが格納されたとき <p>1 : FIFO レジスタが有効状態である</p> <p>[セット条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • FIFOENJn を1にセットしたとき • FIFOENJn が0で FVCRENJn が1の場合に、OCRJn でコンペアマッチが発生したとき
3	CMFJn	0	R(W)*	<p>コンペアマッチフラグ Jn</p> <p>TCNTJn と OCRJn とのコンペアマッチの検出を示します。本ビットの読み出し値が1であるとき、本ビットに対応するコンペアマッチレジスタ Jn (OCRJn) でコンペアマッチが発生したことがわかります。なお、本ビットをソフトウェアにより1にセットすることはできません。</p> <p>0 : OCRJn と TCNTJn のコンペアマッチの検出なし</p> <p>[クリア条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • CMFJn=1の状態を読み出した後、CMFJn に0を書き込んだとき <p>1 : OCRJn と TCNTJn のコンペアマッチを検出</p> <p>[セット条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • TCNTJn の値と OCRJn の値が一致したとき

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
2	OVFJn	0	R/(W)*	<p>オーバーフローフラグ Jn</p> <p>タイマカウンタ Jn (TCNTJn) のオーバーフローの発生を示します。本ビットの読み出し値が1であるとき、TCNTJn でオーバーフローが発生したことがわかります。なお、本ビットをソフトウェアにより1にセットすることはできません。</p> <p>0 : TCNTJn にオーバーフローなし</p> <p>[クリア条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • OVFJn=1 の状態を読み出した後、OVFJn に0を書き込んだとき 1 : TCNTJn にオーバーフロー発生 <p>[セット条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • TCNTJn の値がオーバーフロー (H'FFFF→H'0000) したとき
1	FDOVFJn	0	R/(W)*	<p>FIFO データオーバーフローフラグ Jn</p> <p>FIFO レジスタにキャプチャデータが9個埋まっている状態で、次のキャプチャが発生したことを示します。本ビットの読み出し値が1であるとき、FIFOJn でデータのオーバーフローが発生し、キャプチャデータが失われたことがわかります。なお、本ビットをソフトウェアにより1にセットすることはできません。</p> <p>0 : FIFO 内のデータは正常であることを示す</p> <p>[クリア条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • FDOVFJn=1 の状態を読み出した後、FDOVFJn に0を書き込んだとき 1 : FIFO が9個のキャプチャデータで埋まっている状態で、次のキャプチャが起こったことを示す <p>[セット条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • FIFOJn に9個のキャプチャデータが格納された状態で、次のキャプチャ動作が行われたとき

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
0	FDFJn	0	R/(W)*	<p>FIFO データフルフラグ Jn</p> <p>FIFO レジスタに FIFO コントロールレジスタ Jn (FCRJn) の FDFTRGJn ビットで指定した数以上のキャプチャデータが格納されたことを示します。本ビットの読み出し値が 1 であるとき、FIFOJn 内に指定値以上のキャプチャデータが格納されており、FIFO レジスタからキャプチャデータを読み出すことが可能であることがわかります。</p> <p>なお、本ビットをソフトウェアにより 1 にセットすることはできません。</p> <p>フラグのクリアは、FDFJn が 1 の状態でフラグを読み出した後に 0 を書き込むことで行います。ただし、FIFOJn 内のキャプチャデータを読み出すことによって、FIFO レジスタ内の格納データを FDFTRGJn ビットで指定した数よりも少なくしておく必要があります。また、1 を読み出さずに 0 を書き込んだ場合、その書き込みは無視されます。</p> <p>また、FIFO データフル割り込みによる DMA 転送要求によって、FIFO レジスタから DMA 転送による読み出しが行われた場合にも本ビットは 0 にクリアされます。ただし、DMA 転送による読み出し後も、FIFO レジスタ内の格納データが FDFTRGJn ビットで指定した数を超過している場合には、再度本ビットは 1 にセットされます。</p> <p>0 : FIFO 内のデータ数が FDFTRGJn の設定値より少ないことを示す [クリア条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • FDFJn=1 の状態を読み出した後、FDFJn に 0 を書き込んだとき • FIFO データフル割り込みによる DMA 転送要求が DMAC によって受け付けられたとき <p>1 : FIFO 内のデータ数が FDFTRGJn の設定値以上であることを示す [セット条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • FIFOJn に FTRGJn ビットの指定値以上のキャプチャデータが格納される とき

【注】 n=0、1

* フラグをクリアするため、1 を読み出した後に 0 を書き込むことのみ可能です。1 の書き込みは無効です。

13.34.5 タイマインタラプトイネーブルレジスタ J0、1 (TIERJ0、1)

TIERJ0、1 は、8 ビットの読み出し/書き込み可能なレジスタで、タイムステータスレジスタ J (TSRJ) のステータスフラグに対応する割り込みを許可するか禁止するかを指定します。また DMAC を設定することにより、この FIFO データフル割り込み要求で、FIFO レジスタの値を DMA 転送によって読み出すことが可能です。

TIERJ0、1 は、バイト単位で読み出し/書き込みが可能です。

TIERJ0、1 は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時に H'00 に初期化されます。

ビット:	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	OV EJn	FDOV EJn	FDF EJn
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R	R	R	R/W	R/W	R/W
【注】	n = 0、1							

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
7~3	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込み値も常に 0 にしてください。
2	OVEJn	0	R/W	オーバーフローインタラプトイネーブル Jn このフラグにより、タイマカウンタ Jn (TCNTJn) のオーバーフローに対応するステータス (OVEJn) の割り込みを許可するか禁止するかを指定します。 0 : OVEJn による割り込みを禁止 1 : OVEJn による割り込みを許可
1	FDOVEJn	0	R/W	FIFO データオーバーフローインタラプトイネーブル Jn このフラグにより、FIFO レジスタ Jn (FIFOJn) のオーバーフローに対応するステータス (FDOVEJn) の割り込みを許可するか禁止するかを指定します。 0 : FDOVEJn による割り込みを禁止 1 : FDOVEJn による割り込みを許可
0	FDFEJn	0	R/W	FIFO データフルインタラプトイネーブル Jn このフラグにより、FIFO レジスタ Jn (FIFOJn) のデータフルに対応するステータス (FDFEJn) の割り込みを許可するか禁止するかを指定します。また、割り込み要求出力許可状態で DMAC を設定することにより、割り込み要求による DMA 転送の起動が行えます。 0 : FDFEJn による割り込みを禁止 1 : FDFEJn による割り込みを許可

13.34.6 タイマカウンタ J0、1 (TCNTJ0、1)

TCNTJ0、1は、16ビットの読み出し／書き込み可能なレジスタです。本レジスタは各サブブロックに1個ずつ用意されており、入カクロックによりアップカウンタ動作を行います。対応するコントロールレジスタの設定に応じて、入カクロックにクロックバス0~5のいずれかを選ぶことができます。また、TIJn端子のエッジ入力によって、カウント値はH'0000にクリアされます。

TCNTJ0、1は、ワード単位でのみ読み出し／書き込みが可能です。

TCNTJ0、1は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時にH'0000に初期化されます。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	TCNTJn[15:0]															
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

【注】 n=0、1

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~0	TCNTJn[15:0]	すべて0	R/W	タイマカウンタ Jn アップカウンタ

13.34.7 コンペアマッチレジスタ J0、1 (OCRJ0、1)

OCRJ0、1は、16ビットの読み出し／書き込み可能なレジスタです。本レジスタは各サブブロックに1個ずつ用意されており、タイマカウンタ Jn (TCNTJn) に対するアウトプットコンペアレジスタの機能を持っています。

FIFOコントロールレジスタ Jn (FCRJn) のFIFOENJnが0、FVCRENJnが1のとき、OCRJnのコンペアマッチによってFIFOレジスタは有効状態 (FVLDFJnに1セット) となります。

OCRJ0、1は、ワード単位でのみ読み出し／書き込みが可能です。

OCRJ0、1は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイによってH'FFFFに初期化されます。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	OCRJn[15:0]															
初期値:	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

【注】 n=0、1

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~0	OCRJn[15:0]	すべて1	R/W	コンペアマッチ Jn コンペアマッチ値を指定します。

13.34.8 FIFO レジスタ J0、1 (FIFOJ0、1)

FIFOJ0、1 は、16 ビットの読み出し専用レジスタです。本レジスタは各サブブロックに 1 個ずつ用意されており、タイマカウンタ Jn (TCNTJn) 9 個分のキャプチャデータを格納できます。CPU は、FIFOJn から読み出しはできますが、書き込みはできません。FIFOJn にキャプチャデータがない状態でデータを読み出した場合、読み出し値は不定になります。

FIFO レジスタに 9 個のキャプチャデータが格納された状態で、それ以降にキャプチャが発生すると、新たなキャプチャデータは失われます。新たなキャプチャが発生する前に FIFO レジスタの値を読み出して、空き領域を確保するようにしてください。

FIFOJ0、1 は、ワード単位でのみ読み出し可能です。

FIFOJ0、1 は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時に H'0000 に初期化されます。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	FIFODJn[15:0]															
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

【注】 n = 0、1

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~0	FIFODJn[15:0]	すべて 0	R	FIFO データ Jn FIFO レジスタの格納データ

13.34.9 FIFO データ数レジスタ J0、1 (FDNRJ0、1)

FDNRJ0、1は、8ビットの読み出し専用レジスタです。本レジスタは各サブブロックに1個ずつ用意されており、FIFOJに格納されているキャプチャデータの数を示します。本レジスタに値を書き込むことはできません。

FIFOレジスタへのキャプチャが行われると、FIFOデータ数は1インクリメントし、FIFOレジスタからの読み出し（1ワードリード）が行われると1デクリメントされます。

FIFOコントロールレジスタJn (FCRJn)のFRSTJnビットでFIFOレジスタをリセットすると、FIFOデータ数もH'0にリセットされます。

FDNRJ0、1は、バイト単位で読み出しが可能です。

FDNRJ0、1は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時にH'00に初期化されます。

ビット :	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	FDNJn[3:0]			
初期値 :	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W :	R	R	R	R	R	R	R	R
【注】 n=0、1								

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7~4	—	すべて0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。
3~0	FDNJn[3:0]	0000	R	FIFOデータ数 Jn FIFOレジスタ内に格納されたキャプチャデータ数を示します。 H'0~H'9の値をとります。H'0はキャプチャデータが存在しないことを、H'9はキャプチャデータでFIFOJnが埋まっていることを示します。

13.34.10 ノイズキャンセルカウンタ J0、1 (NCNTJ0、1)

NCNTJ0、1は、8ビットの読み出し/書き込み可能なレジスタです。

タイムコントロールレジスタJ (TCRJn)のノイズキャンセルイネーブルビット (NCEJ1、NCEJ0)でノイズキャンセラ機能を有効にしたとき、外部入力端子 (TIJ0、TIJ1)からの信号をトリガとして、アップカウント動作を行います。プリスケラから供給されるノイズキャンセラ用カウントクロックをカウントソースとして動作します。

共通制御部にあるノイズキャンセルモードレジスタ(NCMR)のタイムJノイズキャンセルモードビット(NCMJ)の設定によって、後続エッジキャンセルモード、および先行エッジキャンセルモードの2通りの動作を行います。

● 後続エッジキャンセルモード

NCEJnビットが1であり、NCNTJnがカウント停止しているとき、TIJnの入力信号レベルが変化すると、NCNTJnはアップカウント動作を開始します。カウント値がノイズキャンセルレジスタJn (NCRJn)と一致すると、次のPφクロックに同期してカウント値をH'00にクリアしてカウント動作を停止します。

NCNTJnは、ATU-IIIマスタイネーブルレジスタ (ATUENR)のTJEビットの設定にかかわらずカウント動作を行います。

カウント動作開始時のレベル変化は、そのままノイズキャンセル後の信号として出力されエッジ検出の対象となりますが、以降カウント値がNCRJnと一致するまでの間、すべての入力レベルの変化がマスクされるため、ノイズキャンセル後の信号は変化しません。カウント値がNCRJnと一致したときは、そのときの入力信号レベルをノイズキャンセル後の信号として出力します。

カウント動作中にNCEJnビットがクリアされても、カウント値がNCRJnと一致するまでの間はカウント動作を継続します。その間も入力信号はマスクされ続けます。

• 先行エッジキャンセルモード

NCEJnビットが1でありNCNTJnがカウント停止しているとき、TIJnの入力信号レベルが変化すると、NCNTJnはアップカウント動作を開始します。カウント動作中に入力信号のレベルが変化するか、あるいはカウント値がノイズキャンセルレジスタJn (NCRJn) と一致した場合には、次のPφクロックに同期してカウント値をH'00にクリアしカウント動作を停止します。

NCNTJnは、ATU-IIIマスタイネーブルレジスタ (ATUENR) のTJEビットの設定にかかわらずカウント動作を行います。

ノイズキャンセル後の信号は、カウント値がNCRJnと一致したときのみ、カウント開始時のレベル変化にあわせて変化します。NCRJnと一致する前にカウント動作が停止した場合には、カウント開始時のレベル変化およびカウント停止時のレベル変化はマスクされるため、ノイズキャンセル後の信号は変化しません。

カウント動作中にNCEJnビットがクリアされても、コンペアマッチあるいは入力信号レベルに変化があるまでの間、カウント動作は停止せずノイズキャンセル処理を継続します。

NCNTJ0、1は、バイト単位で読み出し／書き込みが可能です。

NCNTJ0、1は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時にH'00に初期化されます。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	NCCNTJn[7:0]							
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
【注】	n = 0, 1							

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
7~0	NCCNTJn[7:0]	すべて0	R/W	ノイズキャンセルカウント Jn 8ビットカウント値

13.34.11 ノイズキャンセルレジスタ 0、1 (NCRJ0、1)

NCRJ0、1は、8ビットの読み出し／書き込み可能なレジスタで、ノイズキャンセルカウンタ (NCNTJ1、NCNTJ0) の上限値を設定します。H'FF を設定することにより、最大 1.64msec (Pφ=20MHz 時) のノイズをキャンセルすることができます。

共通制御部にあるノイズキャンセルモードレジスタ (NCMR) のタイマJノイズキャンセルモードビット (NCMJ) の設定によって、後続エッジキャンセルモードおよび先行エッジキャンセルモードの2通りの動作を行います。

- 後続エッジキャンセルモード

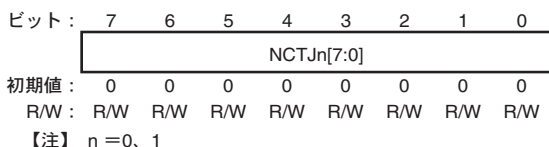
NCNTJ1、NCNTJ0のカウント動作中、後続する入力信号のレベル変化がマスクされます。NCNTJ1、NCNTJ0とNCRJ1、NCRJ0の値は常時比較されており、コンペアマッチが発生すると、次のPφクロックに同期してNCNTJ1、NCNTJ0のカウント値をクリアし、カウント動作を停止させて入力信号のマスク解除を行います。

- 先行エッジキャンセルモード

NCNTJ1、NCNTJ0のカウント動作中は、ノイズキャンセラの処理待ち状態となります。NCNTJ1、NCNTJ0とNCRJ1、NCRJ0の値は常時比較されており、コンペアマッチが発生すると、次のPφクロックに同期してNCNTJ1、NCNTJ0のカウント値をクリアし、カウント動作を停止させると同時に、ノイズキャンセラはノイズキャンセル後の入力信号の出力を行います。

NCRJ0、1は、バイト単位で読み出し／書き込みが可能です。

NCRJ0、1は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイ時にH'00に初期化されます。



ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
7~0	NCTJn[7:0]	すべて0	R/W	ノイズキャンセルタイム Jn TJn ノイズキャンセル期間 (8 ビットコンペア値)

13.35 タイマ J の動作説明

TCNTJn のカウントクロックはクロックバスから TCRJn レジスタによって選択します。ATUENR レジスタの TJE ビット、および TSTR の STRJn ビットが 1 のとき、TCNTJn は動作可能となります。また、TCNTJn は、TIJn 端子からのエッジ入力により H'00 にクリアされます。TIJn 端子のエッジ検出は、TCRJn の IOJn ビットによって、立ち上がり、立ち下がり、立ち上がり/立ち下がりの両エッジのいずれかを設定できます。

FCRFJn の FIFOEN ビットを 1 にすると、TIJn 端子からのエッジ入力により、TCNTJn のカウント値を FIFOJn に格納 (キャプチャ) します。FIFO 内に格納されているキャプチャデータ数は、FDNRn レジスタで参照できません。

FCRJn の FDFTRGJn ビットに設定した数以上のキャプチャデータを FIFOJn が取り込んだとき、TSRJn の FDFFJn が 1 にセットされます。

FCRFJn の FIFOENJn ビットが 0、FVCRENJn ビットが 1 のとき、TCNTJn と OCRJn とのコンペアマッチにより FIFOJn は有効状態 (TSRJn の FVLDFJn が 1) となります。この状態で、TIJn 端子からのエッジ入力により FIFOJn が FDFTRGJn ビットの設定値以上のキャプチャデータを取り込むと、FIFOJn の有効状態は解除されます。

以下にサブブロック 0 での動作例を示します。ここで TCNTJ0 カウントクロックは、カウンタ TCNTJ0 がカウント動作やクリア動作を行うタイミングを示した仮想的な信号です。

図 13.50 は、立ち下がりエッジ検出で、FIFOEN ビットを 1、FDFTRGJ0 ビットを B'11 に設定したとき、エッジ入力により FDFFJ0 がセットされるまでの動作例です。

図 13.51 は、立ち下がりエッジ検出で、FIFOEN ビットが 0、FVCRENJ0 ビットが 1、FDFTRGJ0 が B'00 設定のとき、エッジ入力により FDFF0 フラグがセットされる動作例です。

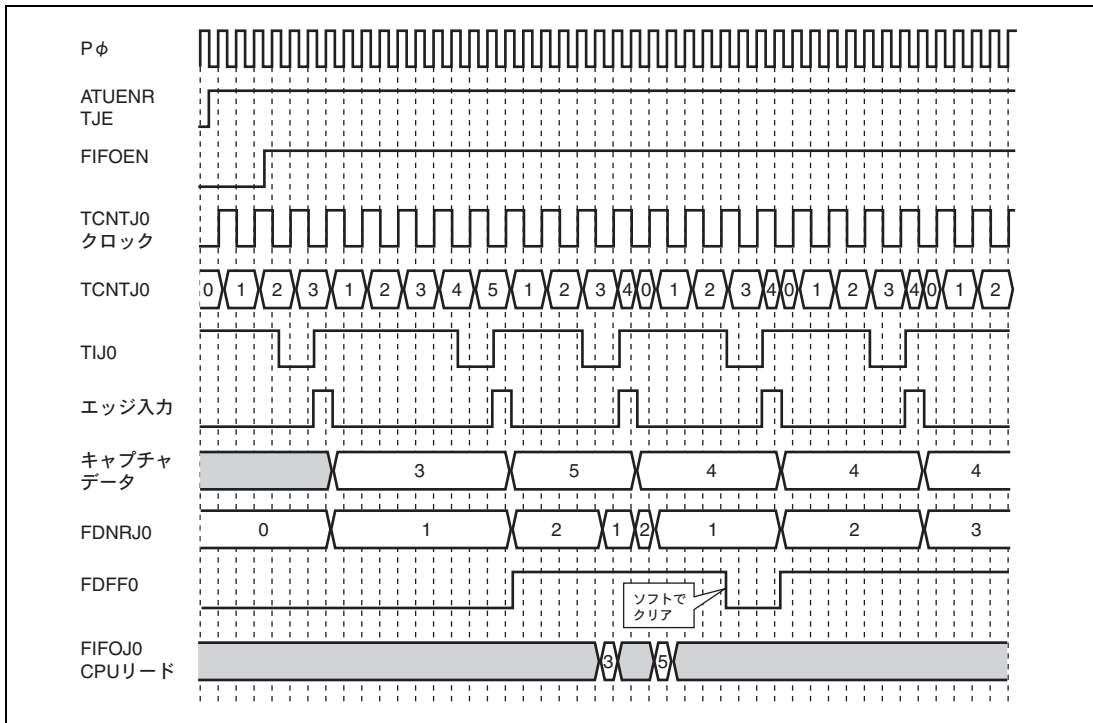


図 13.50 タイマ J 動作例 (1)

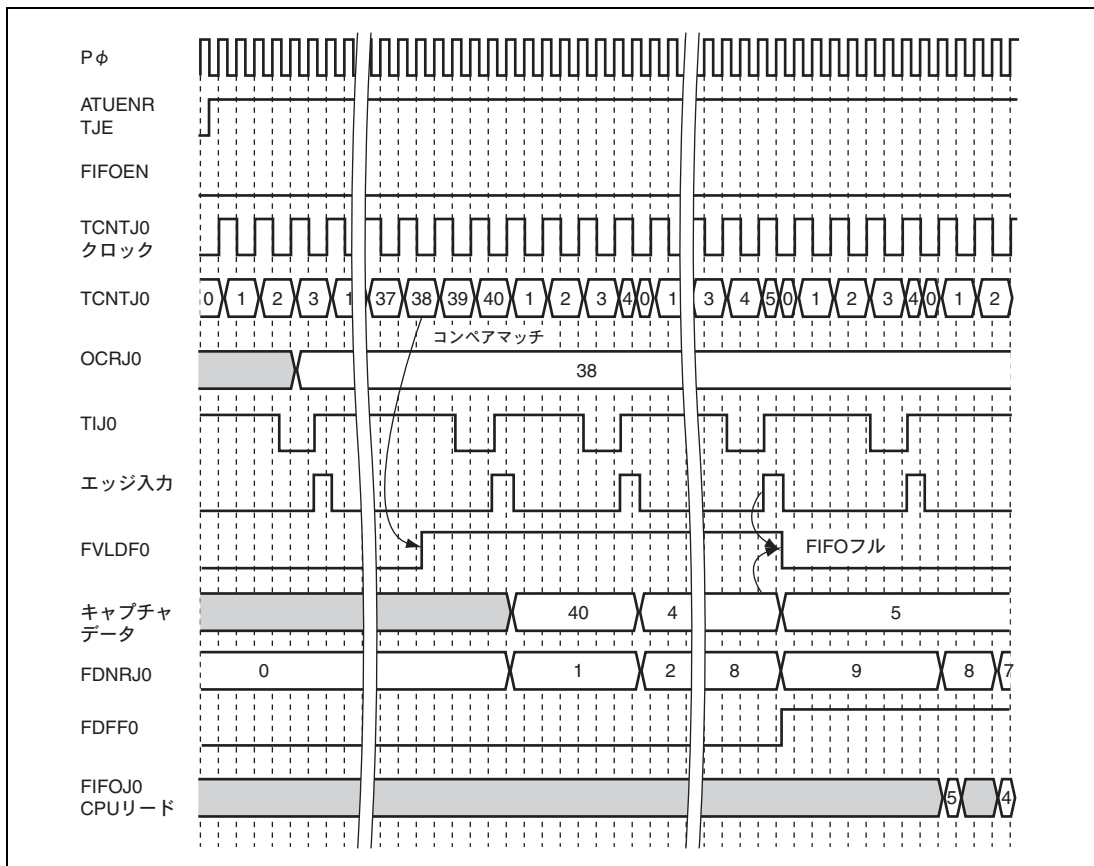


図 13.51 タイマ J 動作例 (2)

13.36 使用上の注意事項

ATU-III 動作中、次のような競合や動作が起きますので注意してください。

本節では、各タイマのサブブロック番号、チャンネル番号を、それぞれ n 、 m と表記しています。 n 、 m それぞれの値はタイマによって異なりますので、詳細については各タイマの説明を参照してください。

13.36.1 インพุットキャプチャ競合動作

(1) 汎用レジスタへの書き込みとインพุットキャプチャの競合

汎用レジスタへの書き込みとインพุットキャプチャが同時に発生した場合には書き込みが優先されます (図 13.52 の左側に示す波形)。ただし、インพุットキャプチャステータスを備える場合、インพุットキャプチャフラグはセットされます。

図 13.52 の右側に示す波形は、書き込みがインพุットキャプチャよりも 1Pφ サイクル先に起こった場合を表しています。

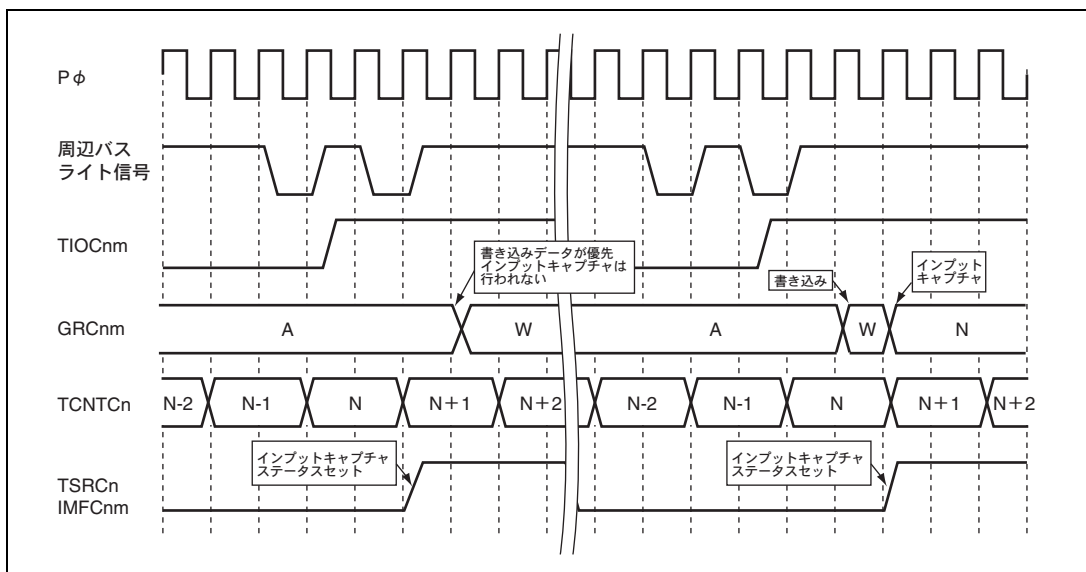


図 13.52 GRCnm 書き込みとインพุットキャプチャの競合

表 13.18 汎用レジスタへの書き込みとインพุットキャプチャの競合動作関連リソース一覧

対象タイマ	カウンタ (キャプチャ対象)	キャプチャレジスタ	ステータス
タイマ C	TCNTCn	GRCnm	IMFCnm
タイマ D	TCNT2Dn	GRDnm	CMFBDnm
タイマ F	ECNTAFn	GRAFn	ICFFn
	ECNTBFn	GRBFn	
	ECNTCFn	GRCFn	
	ECNTCFn+GRDFn	GRDFn	

(2) カウンタへの書き込みと入力キャプチャの競合

カウンタへの書き込みと入力キャプチャが同時に発生した場合、書き込まれる直前の値がキャプチャされず (図 13.53 の左側に示す波形)。図 13.53 の右側に示す波形は、書き込みが入力キャプチャよりも 1Pφ サイクル先に起こった場合で、書き込んだ値がキャプチャされる様子を表しています。

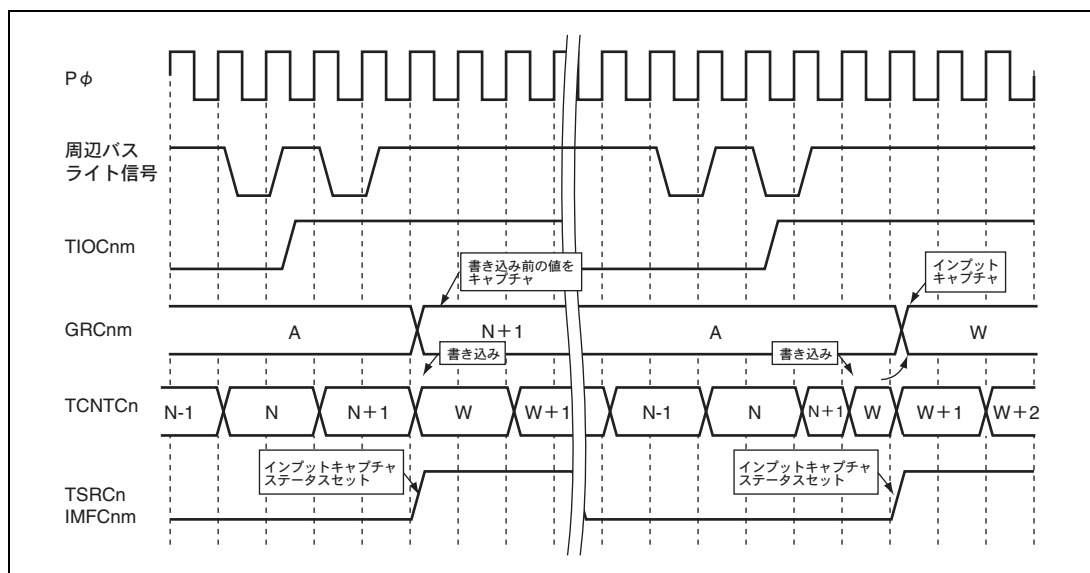


図 13.53 TCNTCn 書き込みと入力キャプチャの競合

表 13.19 カウンタへの書き込みと入力キャプチャの競合動作関連リソース一覧

対象タイマ	カウンタ (キャプチャ対象)	キャプチャレジスタ	ステータス
タイマ A	TCNTAn	ICRAn	ICFAn
タイマ B	TCNTB0	ICRB0	ICFB0
	TCNTB0+ICRB1	ICRB1	
タイマ C	TCNTCn	GRCnm	IMFCnm
タイマ D	TCNT1Dn	OSBRDn	—
	TCNT2Dn	GRDnm	—
タイマ F	ECNTAFn	GRAFn	ICFFn
	ECNTBFn	GRBFn	
	ECNTCFn	GRCFn	
	ECNTCFn+GRDFn	GRDFn	
タイマ J	TCNTJn	FIFOJn	FDOVFJn, FDFJn

(3) インットキャプチャステータスのセットとクリアの競合

1を読み出した後の0の書き込みまたはDMACのACKによるクリアが、インットキャプチャによるフラグセットよりも優先して処理されます。図13.54の左側に示す波形は、インットキャプチャと0の書き込みによるクリアが同時に発生し、クリアが行われた例を表しています。一方、図13.54の右側に示す波形は、クリアされた直後にインットキャプチャが起こった例を表しています。

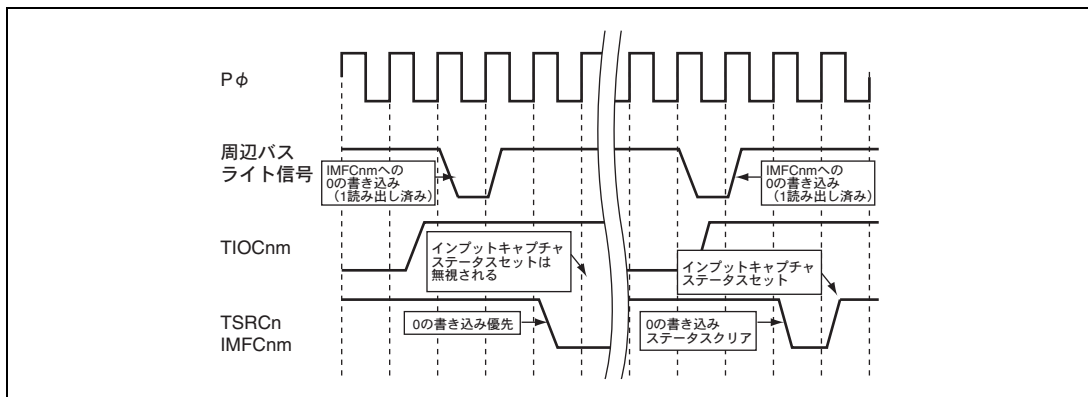


図 13.54 0の書き込みによるステータスクリアとインットキャプチャの競合

表 13.20 0の書き込みによるステータスクリアとインットキャプチャの競合動作関連リソース一覧

対象フラグ		対象フラグ	
タイマ A	ICFAn	タイマ B	ICFB0
タイマ C	IMFCnm	タイマ F	ICFFn
タイマ J	FDOVFJn, FDFJn	—	—

図13.55に示す例は、インットキャプチャとDMACからのACK信号によるステータスクリアとの競合の場合です。

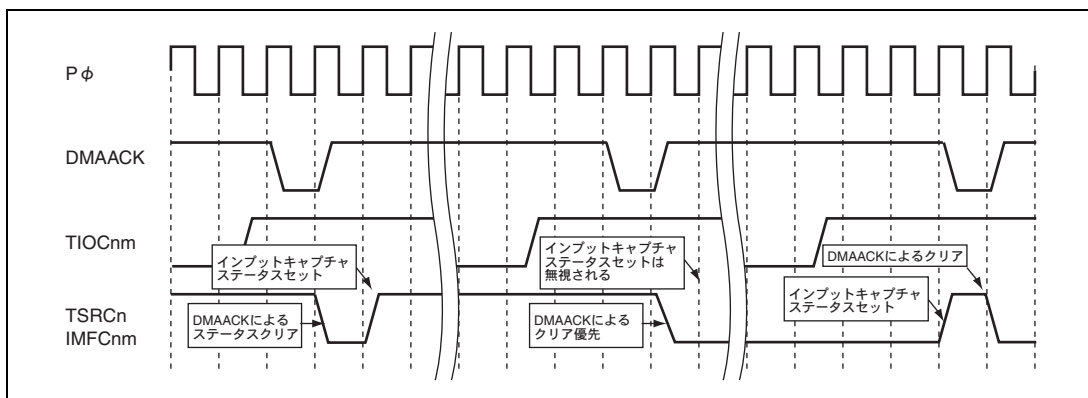


図 13.55 DMAACKによるステータスクリアとインットキャプチャの競合

表 13.21 DMAACK によるステータスクリアとインプットキャプチャの競合動作関連リソース一覧

対象フラグ	
タイマ C	IMFCn0
タイマ J	FDFJn

13.36.2 コンペアマッチ競合動作

(1) コンペアマッチ/汎用レジスタへの書き込みとコンペアマッチの競合

コンペアマッチ機能を持つレジスタへの書き込みとコンペアマッチの競合について、タイマ C を例に説明します。

GRCnm と TCNTCn が一致した後に書き込みが行われた場合（図 13.56 の左側に示す波形）は、コンペアマッチステータスはセットされます。GRCnm と TCNTCn が 1Pφ サイクルも一致していない場合（図 13.56 の右側に示す波形）にはコンペアマッチは検出されません。

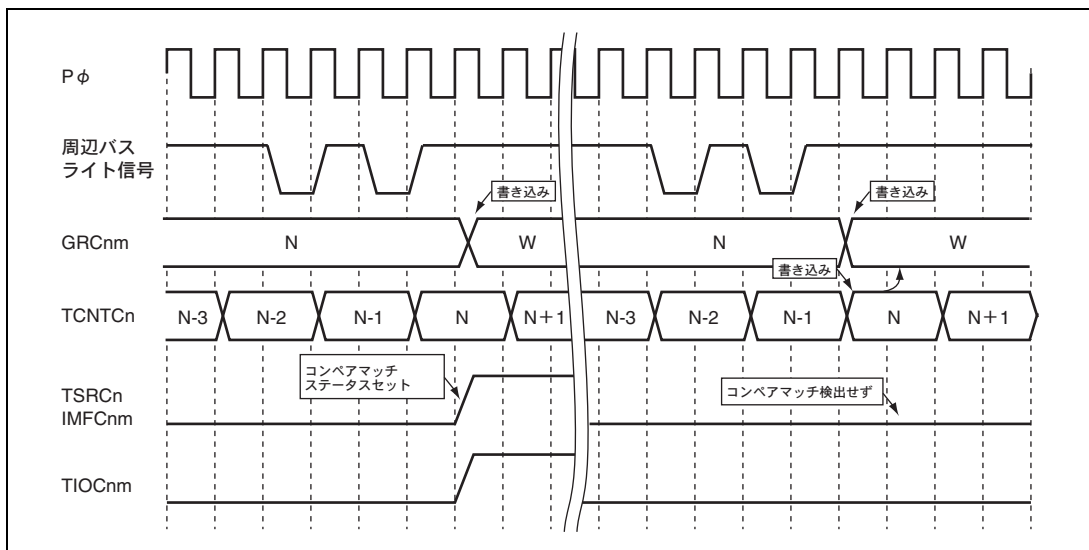


図 13.56 GRCnm への書き込みとコンペアマッチの競合

表 13.22 コンペアマッチ/汎用レジスタへの書き込みとコンペアマッチの競合動作関連リソース一覧

対象タイマ	カウンタ	コンペアマッチレジスタ	ステータス
タイマ B	TCNTB1	OCRB1	CMFB1
タイマ C	TCNTCn	GRCnm	IMFCnm
タイマ D	TCNT1Dn	OCRDnm	CMFADnm
	TCNT2Dn	GRDnm	CMFBDnm
タイマ F	ECNTAFn	GRAFn	—
	ECNTBFn	GRBFn	—
	ECNTCFn	GRBFn	OVFCFn
タイマ G	TCNTGn	OCRGn	CMFGn
タイマ H	TCNT1H	OCR1H	CMFH
タイマ J	TCNTJn	OCRJn	CMFJn

【注】 タイマ B のコンペアマッチ B0、コンペアマッチ B6、およびタイマ E のサイクルマッチタイミングはこれらのコンペアマッチと異なります。詳細については、「13.36.2 (2) CYLREnm への書き込みと TCNTEnm とのサイクルマッチの競合」を参照してください。

(2) CYLREnm への書き込みと TCNTEnm とのサイクルマッチの競合

CYLREnm への書き込みと TCNTEnm とのコンペアマッチ (サイクルマッチ) が同時に発生した場合の動作を以下に示します。図 13.57 の左側に示す波形のとおり、サイクルマッチカウンタクリアのタイミングで CYLREnm に書き込まれた場合、TCNTEnm は通常のサイクルマッチ時と同様にカウンタクリアされ、サイクルマッチステータス、PWM 出力も変化します。図 13.57 の右側に示す波形は、カウンタクリアされるタイミングより早く CYLREnm に書き込まれた場合を示しています。このとき、サイクルマッチは検出されず、TCNTEnm はカウントアップを続けます。

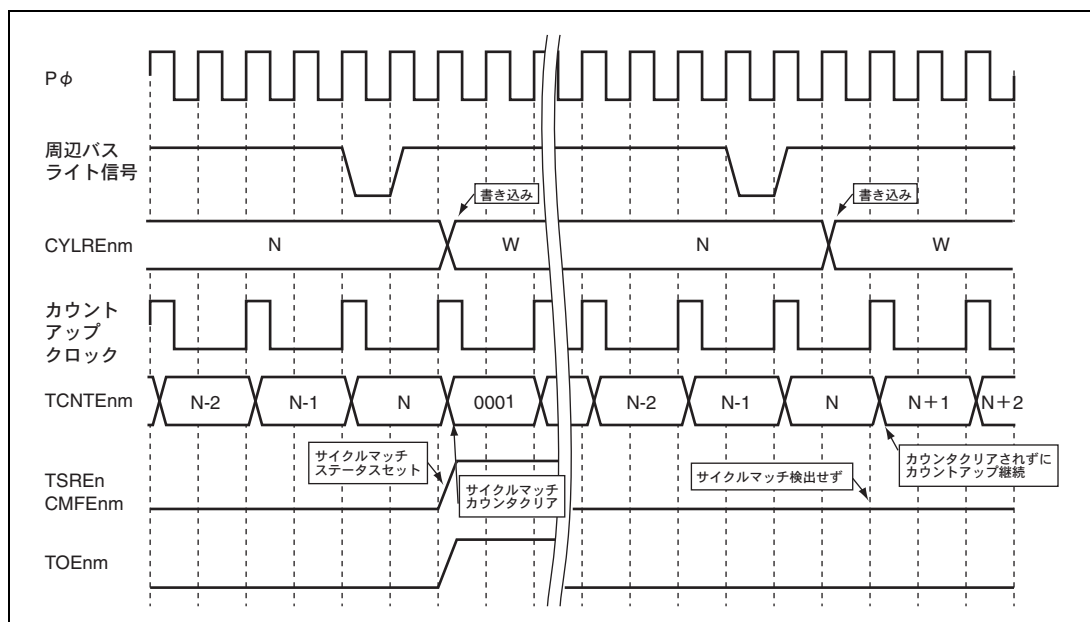


図 13.57 CYLREnm への書き込みとサイクルマッチの競合

表 13.23 サイクルレジスタへの書き込みとタイマカウンタとのサイクルマッチの競合動作関連リソース一覧

対象タイマ	カウンタ	コンペア (サイクル) マッチレジスタ	ステータス
タイマ B	TCNTB0	OCRB0	CMFB0
	TCNTB6	OCRB6/OCRB7	CMFB6
タイマ E	TCNTEnm	CYLREnm	CMFEnm

(3) カウンタへの書き込みとコンペアマッチの競合

カウンタへの書き込みとコンペアマッチの競合を以下に示します。コンペアマッチレジスタとカウンタが一致した後に書き込みが行われた場合（図 13.58 の左側に示す波形）は、コンペアマッチステータスはセットされます。コンペアマッチレジスタとカウンタが IPφ サイクルも一致していない場合（図 13.58 の右側に示す波形）にはコンペアマッチは検出されません。

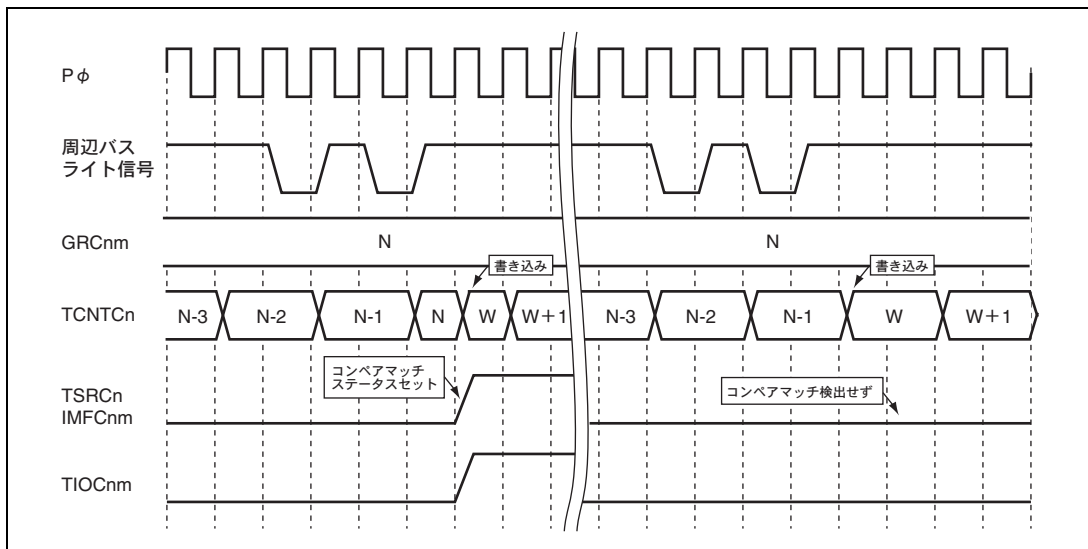


図 13.58 TCNTCn への書き込みとコンペアマッチの競合

表 13.24 カウンタへの書き込みとコンペアマッチの競合動作関連リソース一覧

対象タイマ	カウンタ	コンペアマッチレジスタ	ステータス
タイマ B	TCNTB1	OCRB1	CMFB1
タイマ C	TCNTCn	GRCnm	IMFCnm
タイマ D	TCNT1Dn	OCRDnm	CMFADnm
	TCNT2Dn	GRDnm	CMFBDnm
タイマ F	ECNTAFn	GRAFn	—
	ECNTBFn	GRBFn	—
	ECNTCFn	GRBFn	OVFCFn
タイマ G	TCNTGn	OCRGn	CMFGn
タイマ H	TCNT1H	OCR1H	CMFH
タイマ J	TCNTJn	OCRJn	CMFJn

【注】 タイマ B のコンペアマッチ B0、コンペアマッチ B6、およびタイマ E のサイクルマッチタイミングはこれらのコンペアマッチと異なります。詳細については、「13.36.2 (5) TCNTEnm への書き込みとサイクルマッチによるカウンタクリアの競合」を参照してください。

(4) カウンタへの書き込みとコンペアマッチカウンタクリアの競合

コンペアマッチカウンタクリア機能がある場合の波形を以下に示します。カウンタへの書き込みとコンペアマッチによるカウンタクリアが同時に発生した場合、カウンタクリアは行われずに書き込みが優先されます（図 13.59 の左側に示す波形）。ただし、コンペアマッチステータスはセットされます。図 13.59 の右側に示す波形は、TCNTCn への書き込みが IPφ サイクル後ろにずれた場合の動作を示しています。

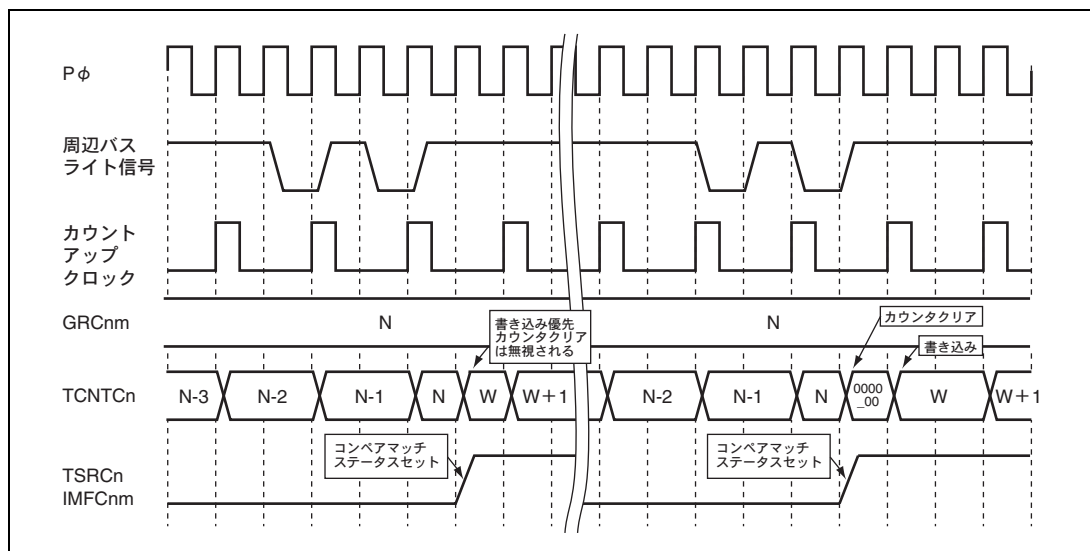


図 13.59 TCNTCn への書き込みとコンペアマッチカウンタクリアの競合

表 13.25 カウンタへの書き込みとコンペアマッチによるカウンタクリアの競合動作関連リソース一覧

対象タイマ	カウンタ	コンペアマッチレジスタ	ステータス
タイマ C	TCNTCn	GRCnm	IMFCnm
タイマ F	ECNTAFn	GRAFn	—
	ECNTBFn	GRBFn	—
タイマ G	TCNTGn	OCRGn	CMFGn
タイマ H	TCNT1H	OCR1H	CMFH

(5) TCNTEnm への書き込みとサイクルマッチによるカウンタクリアの競合

TCNTEnm への書き込みとサイクルマッチによるカウンタクリアが同時に発生した場合、カウンタクリアは行われず TCNTEnm への書き込みが行われます。ただし、サイクルマッチのステータスセット、サイクルレジスタ、デューティレジスタへのリロードは行われます (図 13.60 の右側に示す波形)。PWM 波形出力もサイクルマッチ時の動作を行います。

一方、図 13.60 の左側に示す波形は、カウントアップクロックより 1Pφ サイクル早く書き込みが行われたときの動作を示しています。

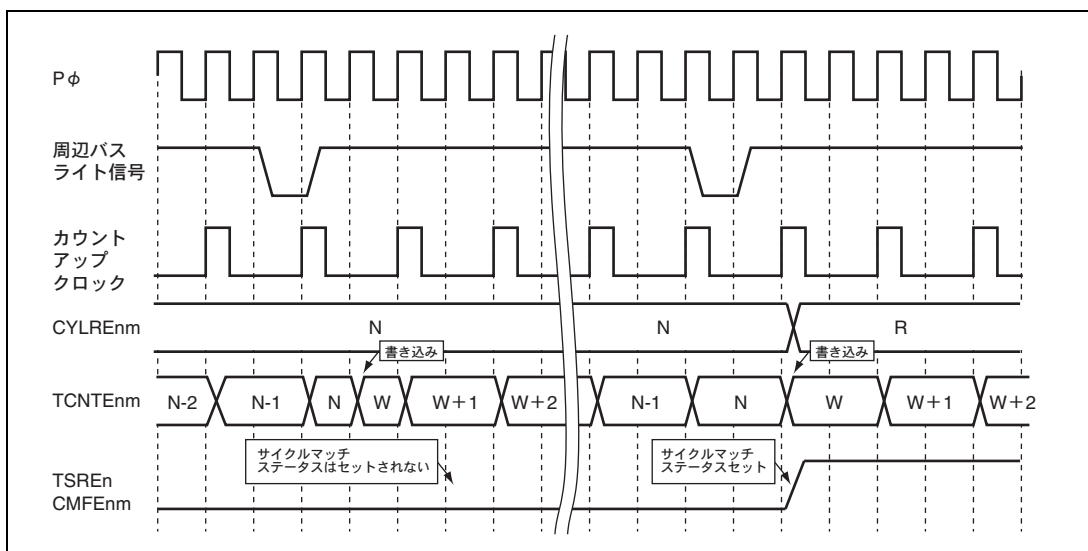


図 13.60 TCNTEnm への書き込みとサイクルマッチによるカウンタクリアの競合

表 13.26 カウンタへの書き込みとサイクルマッチによるカウンタクリアの競合動作関連リソース一覧

対象タイマ	カウンタ	コンペア (サイクル) マッチレジスタ	ステータス
タイマ B	TCNTB0	OCRB0	CMFB0
	TCNTB6	OCRB6/OCRB7	CMFB6
タイマ E	TCNTEnm	CYLREnm	CMFEnm

(6) コンペアマッチステータスのセットとクリアの競合

1を読み出した後の0の書き込みによるクリアがコンペアマッチによるフラグセットに優先して処理されます(図13.61の左側に示す波形)。図13.61の右側に示す波形は、0の書き込みによるステータスクリア直後にコンペアマッチが発生した様子を示しています。

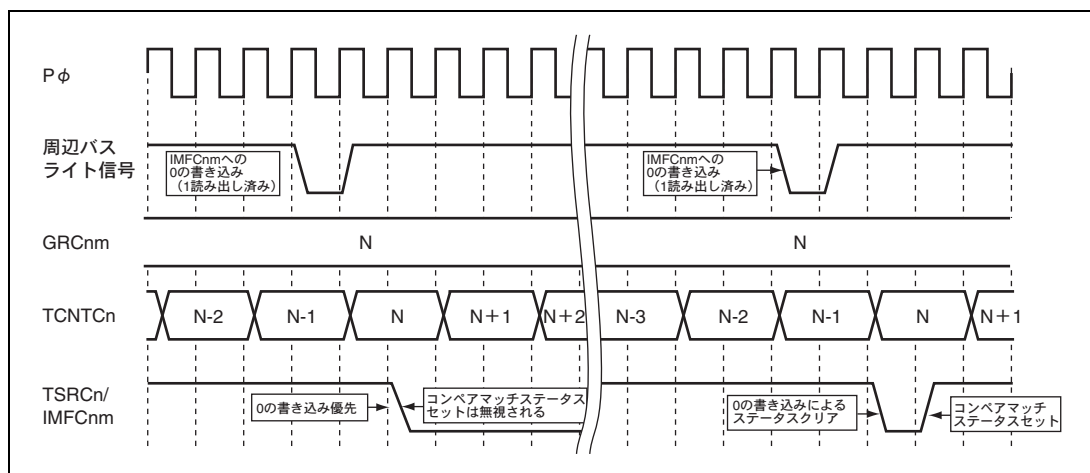


図 13.61 コンペアマッチステータスのセットとクリアの競合

表 13.27 コンペアマッチステータスのセットとクリアの競合動作関連リソース一覧

対象タイマ	カウンタ	コンペアマッチレジスタ	ステータス
タイマ B	TCNTB1	OCRB1	CMFB1
タイマ C	TCNTCn	GRCnm	IMFCnm
タイマ D	TCNT1Dn	OCRDnm	CMFADnm
	TCNT2Dn	GRDnm	CMFBDnm
タイマ G	TCNTGn	OCRGn	CMFGn
タイマ H	TCNT1H	OCR1H	CMFH
タイマ J	TCNTJn	OCRJn	CMFJn

【注】 タイマ B のコンペアマッチ B0、コンペアマッチ B6、およびタイマ E のサイクルマッチタイミングはこれらのコンペアマッチと異なります。詳細については「13.36.2 (8) サイクルマッチステータスのセットと 0 の書き込みによるクリアの競合」を参照してください。

(7) コンペアマッチステータスのセットと DMAACK によるクリアの競合

コンペアマッチステータスのセットと DMAACK 信号が同時に発生した場合、DMAACK によるステータスクリアが優先して行われます。

表 13.28 コンペアマッチステータスのセットと DMAACK によるクリアの競合動作関連リソース一覧

対象タイマ	カウンタ	サイクルマッチレジスタ	ステータス
タイマ G	TCNTGn	OCRGn	CMFGn

(8) サイクルマッチステータスのセットと 0 の書き込みによるクリアの競合

サイクルマッチステータスのセット（サイクルマッチ）と 1 を読み出した後の 0 の書き込みが同時に発生した場合、0 の書き込みが優先して行われます。図 13.62 の左側に示す波形は、サイクルマッチによるフラグセットと 0 の書き込みによるクリアが同時に発生した例を表しています。図 13.62 の右側に示す波形は、クリアが 1 サイクル先に発生した例を示しています。

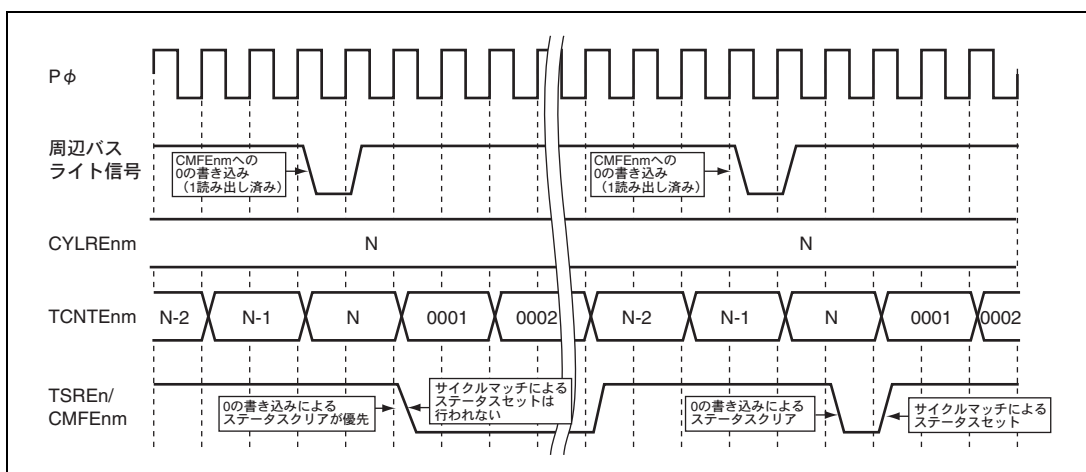


図 13.62 0 の書き込みによるサイクルマッチステータスクリアとサイクルマッチの競合

表 13.29 サイクルマッチステータスのセットと 0 の書き込みによるクリアの競合動作関連リソース一覧

対象タイマ	カウンタ	コンペア (サイクル) マッチレジスタ	ステータス
タイマ B	TCNTB0	OCRB0	CMFB0
	TCNTB6	OCRB6	CMFB6
タイマ E	TCNTEn	CYLREn	CMFEn

(9) サイクルマッチステータスのセットと DMAACK によるクリアの競合

サイクルマッチステータスのセット（サイクルマッチ）と DMAACK 信号が同時に発生した場合、DMAACK によるステータスクリアが優先して行われます。

表 13.30 サイクルマッチステータスのセットと DMAACK によるクリアの競合動作関連リソース一覧

対象タイマ	カウンタ	サイクルマッチレジスタ	ステータス
タイマ E	TCNTEnm	CYLREnm	CMFEnm

(10) 強制コンペアマッチによるステータスセットと DMAACK によるステータスクリアの競合

強制コンペアマッチによるステータスセットと DMAACK によるステータスクリアが同時に発生した場合、ステータスクリアが優先して処理されます（図 13.63 の左側に示す波形）。一方、図 13.63 の右側に示す波形は、強制コンペアマッチビットに 1 の書き込みを行っているサイクルに DMAACK によるステータスクリアが入力された場合です。この場合、強制コンペアマッチビットへの 1 の書き込みは無視され、ステータスとともにクリアされます。

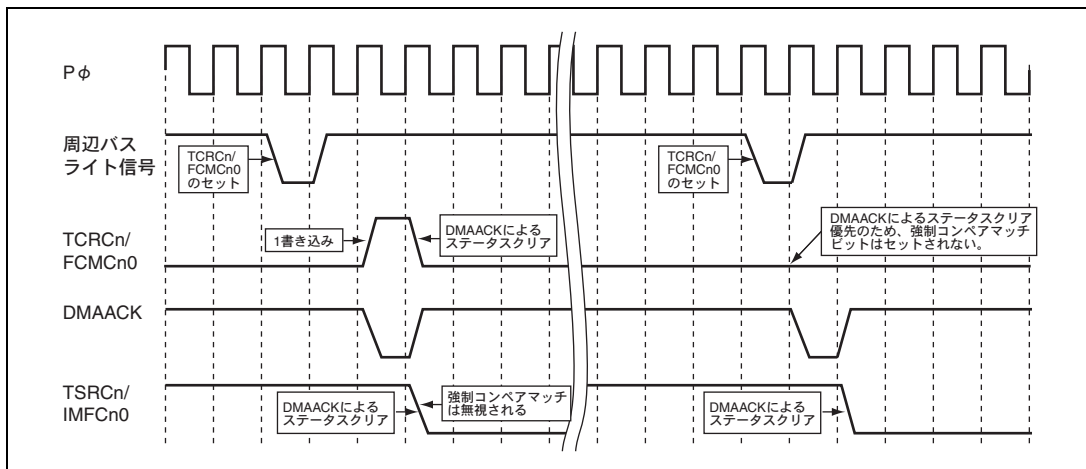


図 13.63 強制コンペアマッチと DMAACK によるステータスクリアの競合

表 13.31 強制コンペアマッチによるステータスセットと DMAACK によるステータスクリアの競合動作関連リソース一覧

対象タイマ	カウンタ	コンペアマッチレジスタ	ステータス
タイマ C	TCNTCn	GRCnm	IMFCnm

(11) コンペアマッチ 1H 検出と ATUENR オフ切り替えの競合

TCNT1H と OCR1H とのコンペアマッチ検出と同時にカウンタイネーブル (ATUENR の各ビット) を 0 に切り替えた場合、コンペアマッチは検出されますが TCNT2H のカウントアップは行われません (図 13.64 の左側に示す波形)。その後、カウンタイネーブルを 1 に設定しても次のコンペアマッチ発生まで TCNT2H のカウントアップは行われません。

図 13.64 の右側に示す波形は、コンペアマッチ検出の 1Pφ サイクル後にカウンタイネーブルをオフにした場合を示しています。

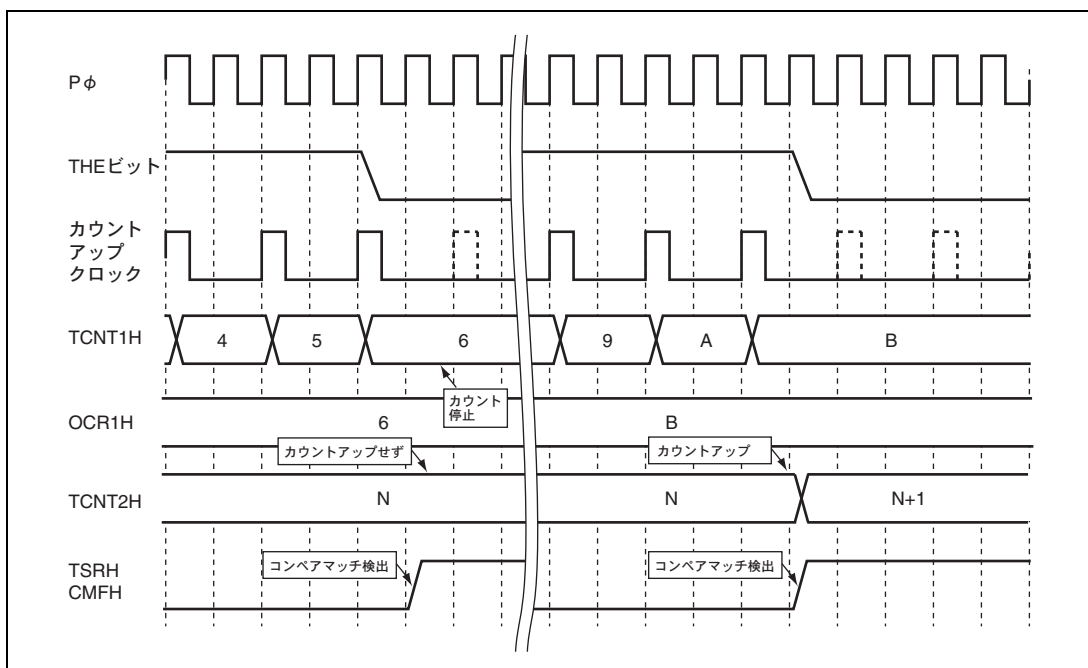


図 13.64 コンペアマッチ検出とカウンタイネーブルオフ切り替えの競合

表 13.32 コンペアマッチ検出とカウンタイネーブルオフ切り替えの競合動作関連リソース一覧

対象タイマ	カウンタ	コンペアマッチレジスタ	ステータス
タイマ H	TCNT1H	OCR1H	CMFH

(12) TCNTEnm への 0 の書き込みとサイクルマッチの競合

サイクルマッチのタイミングで TCNTEnm に 0 の書き込みを行った場合の動作を以下に示します。図 13.65 の左側に示す波形は、サイクルマッチにより TCNTEnm が H'0001 にクリアされるタイミングで、TCNTEnm に H'0000 を書き込んだ様子を示しています。サイクルマッチステータスはセットされますが、PWM 出力は 0 の書き込みが優先されるので開始しません。TCNTEnm が H'0001 にカウントアップするときに PWM 出力を再開します。

図 13.65 の中央部分に示す波形は、サイクルマッチカウンタクリアが発生した 1Pφ サイクル後に TCNTEnm に 0 の書き込みを行った状態を表しています。TCNTEnm カウンタ値が N から 1 に変化するタイミングでサイクルマッチ検出、PWM 出力を再開します。一方、図 13.65 の右側の波形は、サイクルマッチ検出の 1Pφ サイクル前に 0 の書き込みを行った例です。この場合、サイクルマッチは検出されず PWM 出力も再開せず、前の状態を保持したままです。

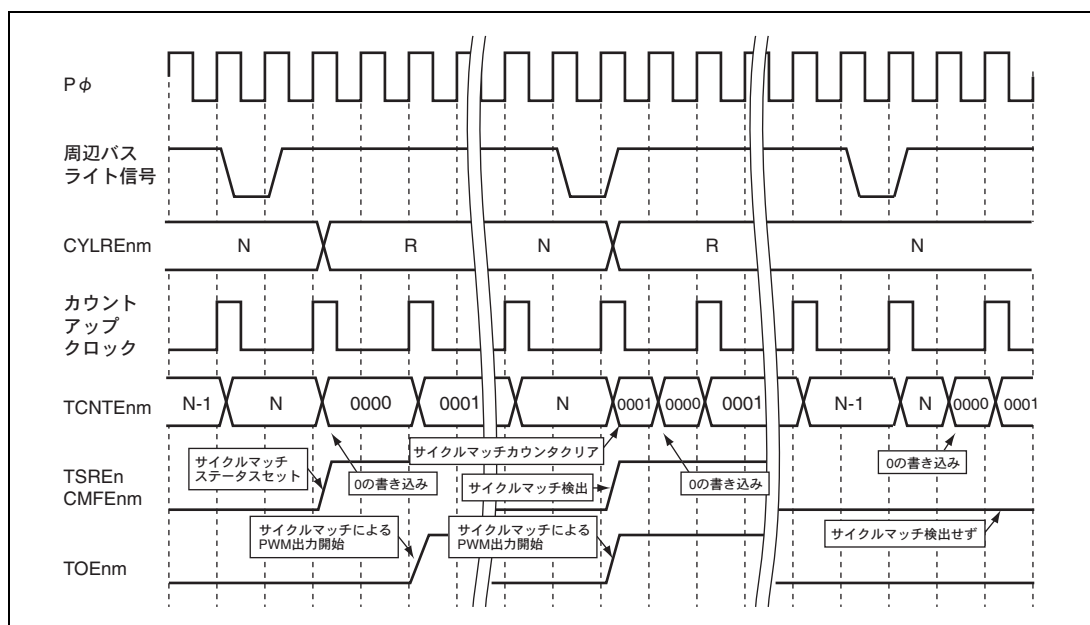


図 13.65 TCNTEnm への 0 の書き込みとサイクルマッチの競合

13.36.3 ロード／リロード競合動作

(1) データ転送と転送先レジスタへの書き込みとの競合

レジスタ間のデータ転送と転送先レジスタへの周辺バス書き込みとの競合を以下に説明します。

データ転送と転送先レジスタへの書き込みが同時に発生した場合、書き込みが優先され、データ転送は無視されます。図 13.66 は、タイマ E の CYLREnm へのリロードと書き込みの競合を示しています。

図 13.66 の左側に示す波形のとおり、サイクルリロードのタイミングで CYLREnm への書き込みが発生した場合、書き込みが優先して行われます。図 13.66 の右側に示す波形は、サイクルリロード直後に CYLREnm への書き込みが行われた場合を表しています。

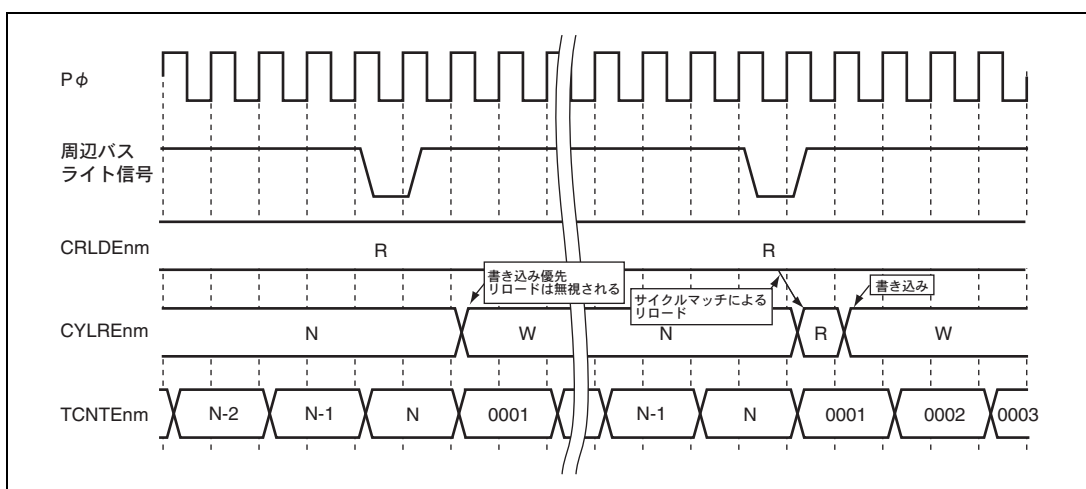


図 13.66 CYLREnm 書き込みとサイクルリロードの競合

表 13.33 データ転送と転送先レジスタへの書き込みの競合動作関連リソース一覧

対象タイマ	転送データ	転送先レジスタ	転送タイミング
タイマ B	ICRB0 LDB TCNTB2-PIMR TCNTB2+RLDB	TCNTB2	外部イベント
	ICRB0-PIMR LDB-PIMR	RLDB	外部イベント
	TCNTB3+PIMR	TCNTB3	外部イベント
	TCNTB3	TCNTB4	外部イベント
タイマ E	CRLDEnm	CYLREnm	サイクルマッチ
	DRLDEnm	DTREnm	サイクルマッチ

(2) データ転送と転送元レジスタへの書き込みの競合

レジスタ間のデータ転送と転送元レジスタへの周辺バス書き込みとの競合を以下に説明します。データ転送と転送元レジスタへの書き込みが同時に発生した場合、書き込み前の値が転送されます。同時に転送元レジスタ値は書き換えられます。サイクルリロードのタイミングでCRLDEnmへの書き込みが発生した場合の動作を以下に示します。CRLDEnmへの書き込みとサイクルリロードが同一タイミングで発生した場合(図13.67の左側に示す波形)、書き込み直前の値がリロードされます。一方、図13.67の右側に示す波形の例は、CRLDEnmへの書き込みが1サイクル早く発生した場合を示しています。

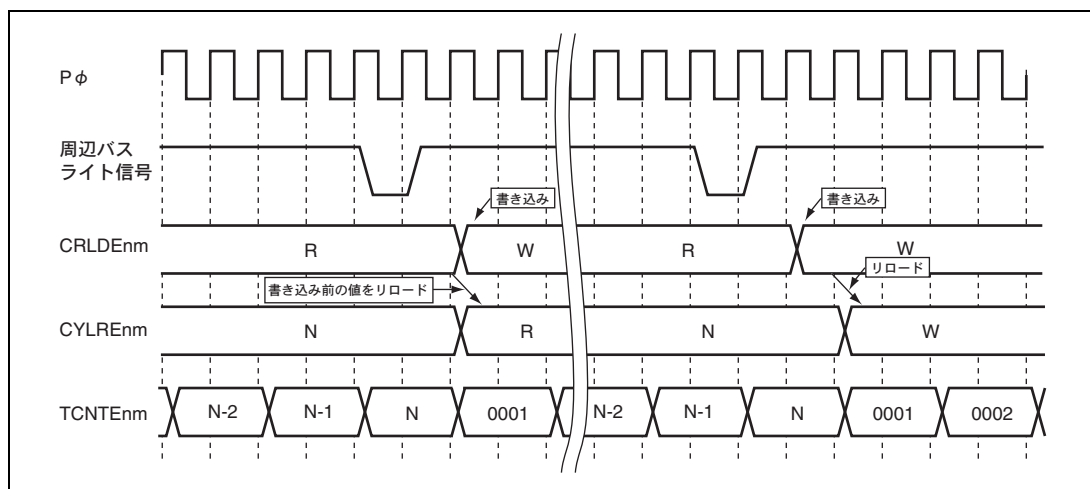


図 13.67 CRLDEnm 書き込みとサイクルリロードの競合

表 13.34 データ転送と転送元レジスタへの書き込みの競合動作関連リソース一覧

対象タイマ	転送元レジスタ	転送値	転送先レジスタ	転送タイミング
タイマ B	LDB	LDB-PIMR	RLDB	外部イベント
		LDB	TCNTB2	外部イベント
	PIMR	ICRB0-PIMR	RLDB	外部イベント
		LDB-PIMR	TCNTB2	外部イベント
		TCNTB2-PIMR	TCNTB3	外部イベント
	RLDB	TCNTB2+RLDB	TCNTB2	外部イベント
TCNTB3	TCNTB3	TCNTB4	外部イベント	
タイマ E	CRLDEnm	CRLDEnm	CYLREnm	サイクルマッチ
	DRLDEnm	DRLDEnm	DTREnm	サイクルマッチ

13.36.4 カウンタ競合動作

(1) カウンタの書き込みとカウントアップ/カウントダウンの競合

カウンタへの書き込みとカウントアップ/ダウンが同時に発生した場合には、カウンタへの書き込みが優先されます。カウントアップは無視され、次のカウントクロックで書き込まれた値から、再びカウントアップ/ダウンを再開します。

(2) カウントアップとカウンタクリアの競合

カウンタのカウントアップとカウンタクリアが同時に発生した場合、カウンタは0にクリアされず1にクリアされます。

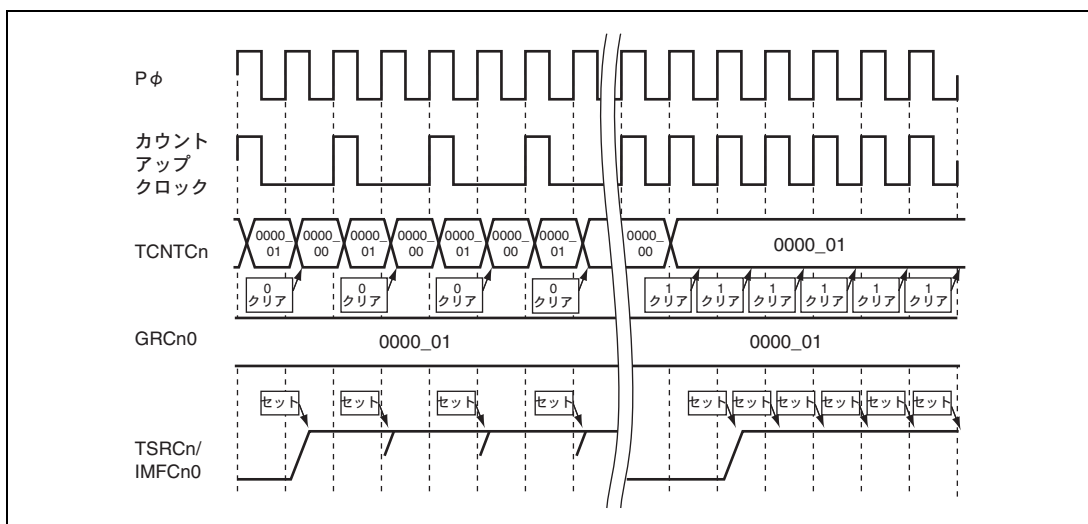


図 13.68 カウントアップとカウンタクリア同時発生

表 13.35 カウントアップとカウンタクリアの競合動作関連リソース一覧

対象タイマ	カウンタ	コンペアマッチレジスタ	備考
タイマ C	TCNTCn	GRCn0	PWMn0=1 のときのみ
タイマ F	ECNTAFn	GRAFn	MDFn=000, 110, 111 設定時のみ
	ECNTBFn	GRBFn	MDFn=001 設定時のみ
タイマ G	TCNTGn	OCRGn	
タイマ H	TCNT1H	OCR1H	

(3) カウンタへの書き込みとオーバーフローの競合

カウンタオーバーフローと TCNTCn への書き込みが同時に発生した場合、TCNTCn への書き込みが優先して行われます。ただし、オーバーフローステータスはセットされます (図 13.69 の左側に示す波形)。一方、カウンタへの書き込みタイミングがカウントアップより早い場合 (図 13.69 の右側に示す波形) には、オーバーフローステータスはセットされません。

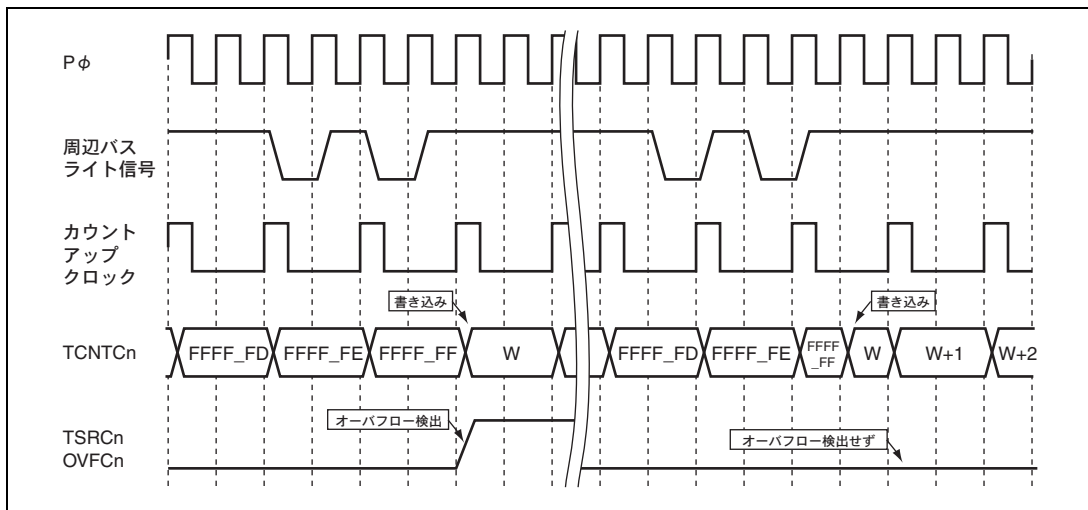


図 13.69 TCNTCn への書き込みとオーバーフローカウンタクリアの競合

表 13.36 カウンタへの書き込みとオーバーフローの競合動作関連リソース一覧

対象タイマ	カウンタ	ステータス
タイマ A	TCNTA	OVFA
タイマ C	TCNTCn	OVFCn
タイマ D	TCNT1Dn	OVF1Dn
	TCNT2Dn	OVF2Dn
タイマ E	TCNTEnm	OVFEnm
タイマ F	ECNTAFn	OVFAFn
	ECNTBFn	OVFBFn
	ECNTCFn	OVFCFn
タイマ G	TCNTGn	OVFGn
タイマ H	TCNT1H	OVF1H
	TCNT2H	OVF2H
タイマ J	TCNTJn	OVFJn

(4) オーバフローステータスのセットとクリアの競合

オーバフローステータスのクリアとセットが同時に発生した場合、クリアが優先して処理されます。以下はカウンタ値 H'FFFF FF から H'0000 00 へのオーバーフローによるステータスセットと、0 の書き込みによるステータスクリアが同時に発生した例を示しています (図 13.70 の左側に示す波形)。図 13.70 の右側に示す波形は、ステータスクリア直後に再びオーバーフローがセットされる状態を示しています。

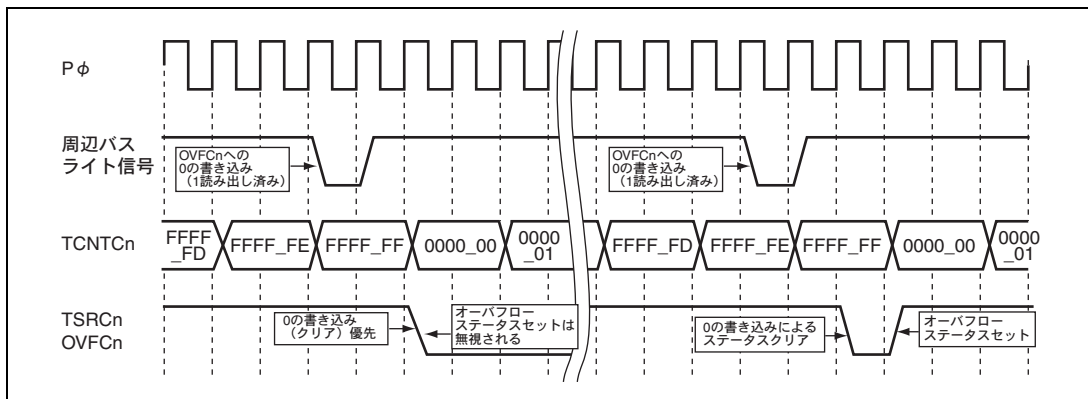


図 13.70 オーバフローステータスのセットとクリアの競合

表 13.37 オーバフローステータスのセットとクリアの競合動作関連リソース一覧

対象タイマ	カウンタ	ステータス
タイマ A	TCNTA	OVFA
タイマ C	TCNTCn	OVFCn
タイマ D	TCNT1Dn	OVF1Dn
	TCNT2Dn	OVF2Dn
タイマ E	TCNTEnm	OVFEnm
タイマ F	ECNTAFn	OVFAFn
	ECNTBFn	OVFBFn
	ECNTCFn	OVFCFn
タイマ G	TCNTGn	OVFGn
タイマ H	TCNT1H	OVF1H
	TCNT2H	OVF2H
タイマ J	TCNTJn	OVFJn

(5) オーバフローとコンペアマッチカウンタクリアの競合

コンペアマッチカウンタクリア機能を持ち、かつその機能が有効な場合に、コンペアマッチレジスタに最大値を設定した場合、カウンタが最大値に達するとカウンタクリアが発生します。そのとき、カウンタクロックが1/IPφであったとしてもオーバフローは検出されません。

タイマHのTCNT1HとOCR1Hでの例を図13.71に示します。OCR1HにH'FFFFを設定し、カウントアップクロックが1/IPφでない場合(図13.71の左側に示す波形)と、1/IPφの場合(図13.71の右側に示す波形)を表しています。

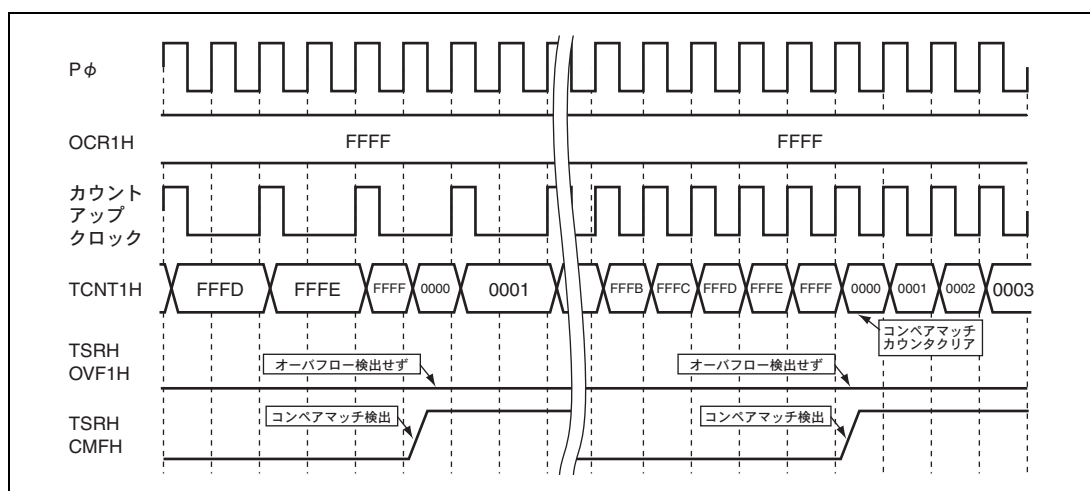


図 13.71 TCNT1H カウンタオーバフローとコンペアマッチの競合

表 13.38 カウンタのオーバフローとコンペアマッチの競合動作関連リソース一覧

対象タイマ	カウンタ	ステータス	備考
タイマC	TCNTCn	OVFCn	PWMn0=1 のときのみ
タイマF	ECNTAFn	OVFAFn	MDFn=000、110、111 設定時のみ
	ECNTBFn	OVFBFn	MDFn=001 設定時のみ
タイマG	TCNTGn	OVFGn	
タイマH	TCNT1H	OVF1H	

コンペアマッチカウンタクリア機能のないもの、機能をオフにしている場合にはオーバフלוーステータスがセットされます。タイマCのPWMnビットが1のとき(カウンタクリア有効)、PWMn0ビットが0のとき(カウンタクリア無効)の動作を図13.72に示します。

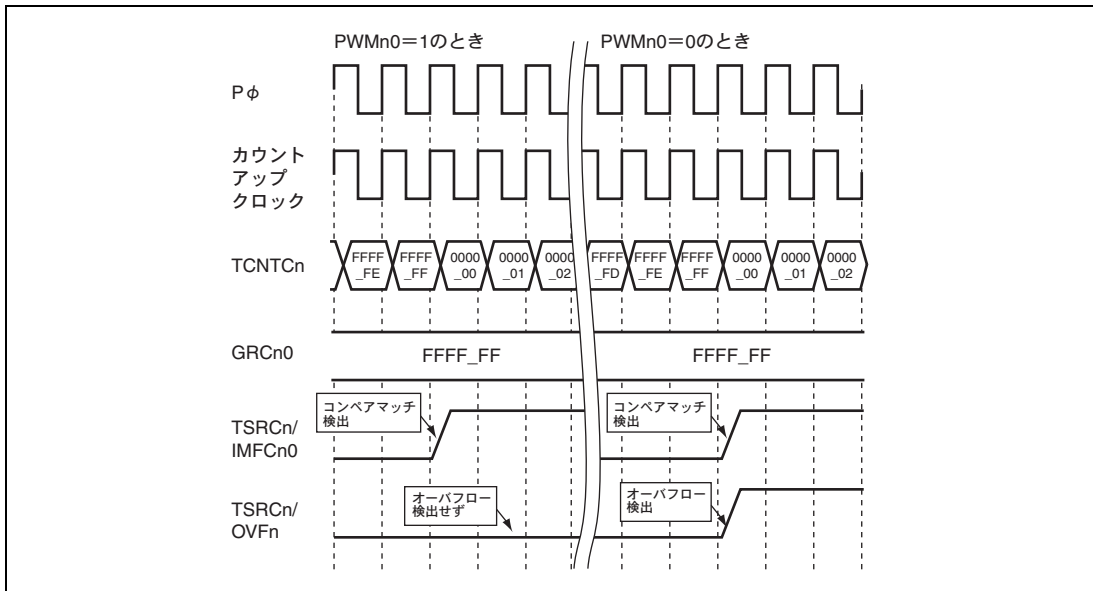


図 13.72 タイマ C コンペアマッチカウンタクリアとオーバーフローの競合 (PWMn0=1/0)

13.36.5 ノイズキャンセラ競合動作

ノイズキャンセラにおける競合を説明します。

表 13.39 ノイズキャンセラカウンタへの書き込みとノイズキャンセラレジスタとのコンペアマッチの競合動作関連リソース一覧

対象タイマ	カウンタ	コンペアマッチレジスタ
タイマ A	NCNTAn	NCRAn
タイマ C	NCNTCnm	NCRcnm
タイマ F	NCNTAFn	NCRAFn
	NCNTBFn	NCRBFn
タイマ J	NCNTJn	NCRJn

(1) ノイズキャンセラカウンタへの書き込みとノイズキャンセラレジスタとのコンペアマッチの競合

NCNT への書き込みと NCR とのコンペアマッチが同時に発生した場合、書き込みが優先して処理されます。先行エッジキャンセルモードでの例を以下に示します。図 13.73 の左側に示す例では、書き込みによってコンペアマッチが発生しないため、インプットキャプチャも行われません。図 13.73 の右側に示す例は、1Pφサイクル遅れて書き込みを行った場合を示しています。この場合はコンペアマッチが発生し、インプットキャプチャ処理が行われます。

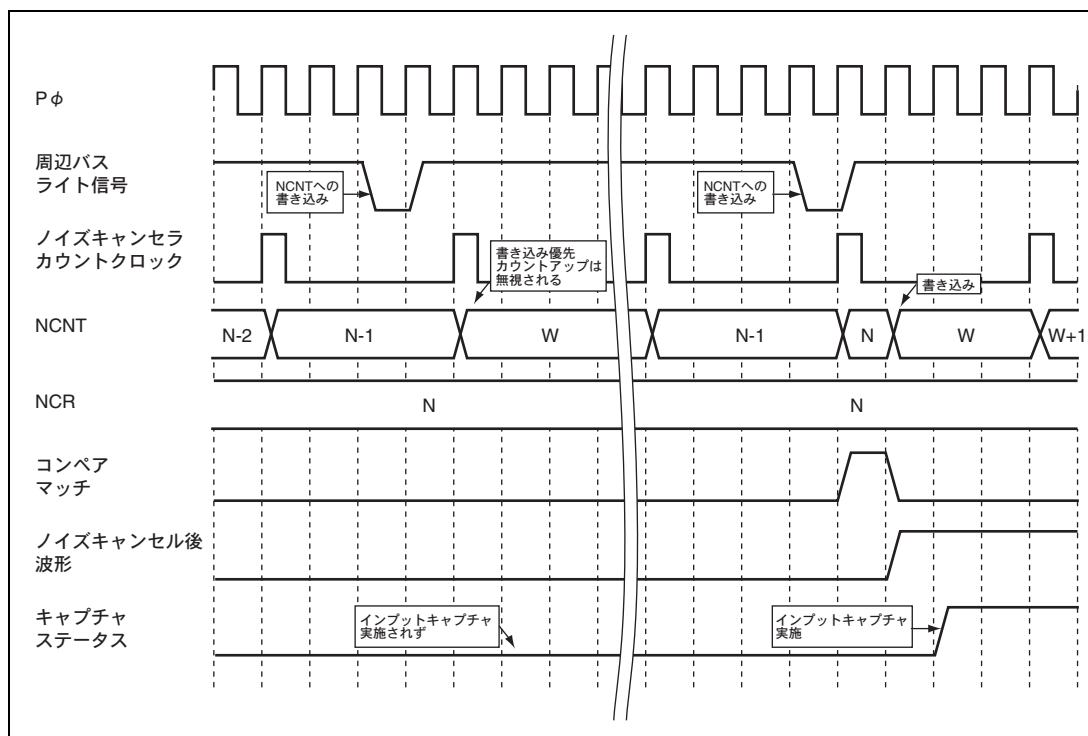


図 13.73 NCNT への書き込みと NCNT-NCR コンペアマッチの競合 (先行エッジキャンセルモードの例)

(2) ノイズキャンセラレジスタへの書き込みとノイズキャンセラカウンタとのコンペアマッチの競合

NCR への書き込みと NCNT とのコンペアマッチが同時に発生した場合、書き込みが優先して処理されます。先行エッジキャンセルモードでの例を以下に示します。図 13.74 の左側に示す例では、書き込みによりコンペアマッチが発生しないため、インプットキャプチャも行われません。図 13.74 の右側に示す例は 1Pφ サイクル遅れて書き込みを行った場合を示しています。この場合はコンペアマッチが発生し、インプットキャプチャ処理が行われます。

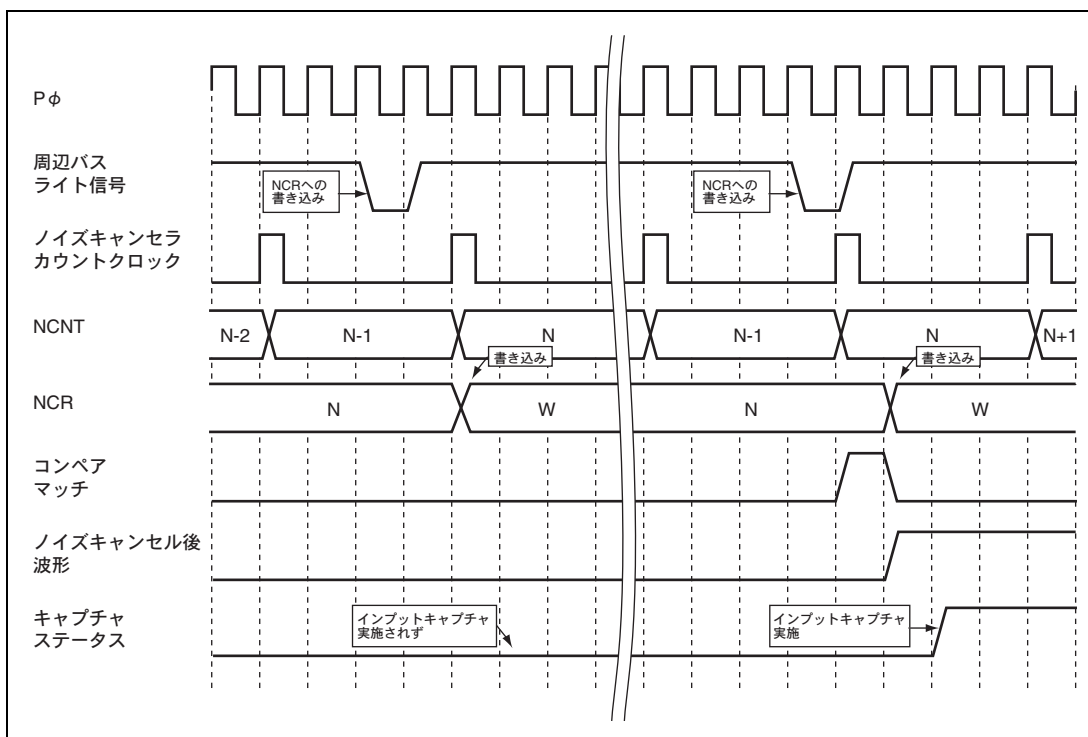


図 13.74 NCR への書き込みと NCNT とのコンペアマッチの競合（先行エッジキャンセルモードの例）

13.36.6 ダウンカウンタ D の競合

DCNTDnm における競合を説明します。

(1) DCNTDnm カウンタへの書き込みとカウントダウンの競合

DCNTDnm への書き込みとカウントダウンが同時に発生した場合には、DCNTDnm への書き込みが行われます。カウントダウンは無視され、次のカウントダウンクロックで書き込まれた値からカウントダウンを再開します。

(2) DCNTDnm カウンタへの書き込みとアンダフローの競合

DCNTDnm への書き込みとアンダフローが同時に発生した場合には、DCNTDnm への書き込みが行われます。

図 13.75 の左側に示す例は、DCNTDnm が H'0000 00 の状態でカウントダウンクロックと書き込みが同時に発生した場合の動作を表しています。DCNTDnm には新たな値が書き込まれますが、アンダフロー検出によりカウントダウン動作は停止します。アンダフローフラグはセットされます。図 13.75 の右側に示す波形は、1Pφサイクル前に DCNTDnm への書き込みを行った場合であり、このときアンダフローは検出されません。

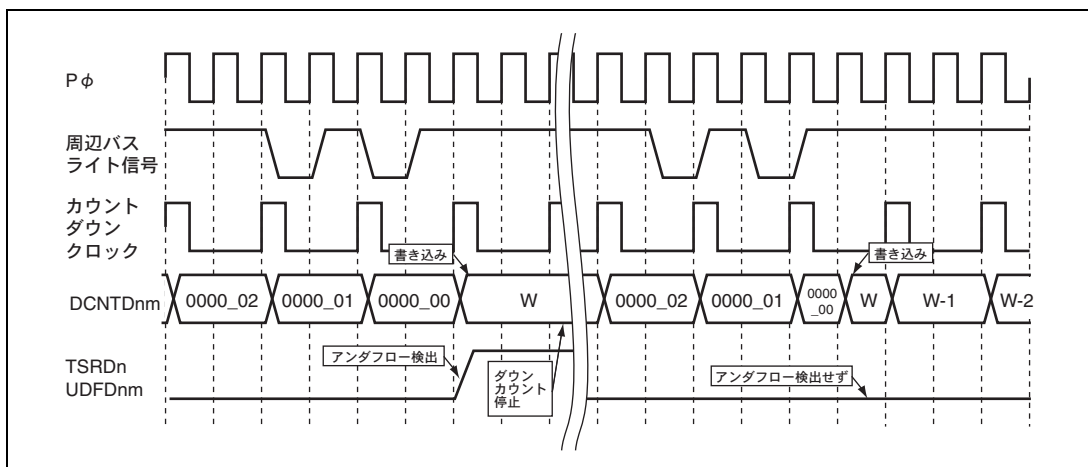


図 13.75 DCNTDnm 書き込みとアンダフローの競合

(3) DCNTDnm カウンタへの書き込みとコンペアマッチ B (カウント停止トリガ) の競合

DCNTDnm への書き込みとコンペアマッチ B が同時に発生した場合、DCNTDnm への書き込みが行われます (ダウンカウント停止要因としてコンペアマッチ B が選択されている場合)。

図 13.76 の中央部分は、DCNTDnm への 0 の書き込みとコンペアマッチ B 検出によるカウンタクリアが同時に起こった場合を表しています。コンペアマッチ B による DCNTDnm カウンタクリアは無視され、書き込みが優先されます。しかし、コンペアマッチ B により TODnmB 出力は遮断され、DCNTDnm は書き込まれた値のまま停止します。

図 13.76 の右側に示す波形は、書き込みサイクルが 1Pφ サイクル先に発生した場合を表しています。DCNTDnm に書き込みを行った次の Pφ サイクルでコンペアマッチ B によりカウンタはクリアされます。

図 13.76 の左側に示す波形は、コンペアマッチ B によるカウンタクリア直後に書き込みを行った例を表しています。

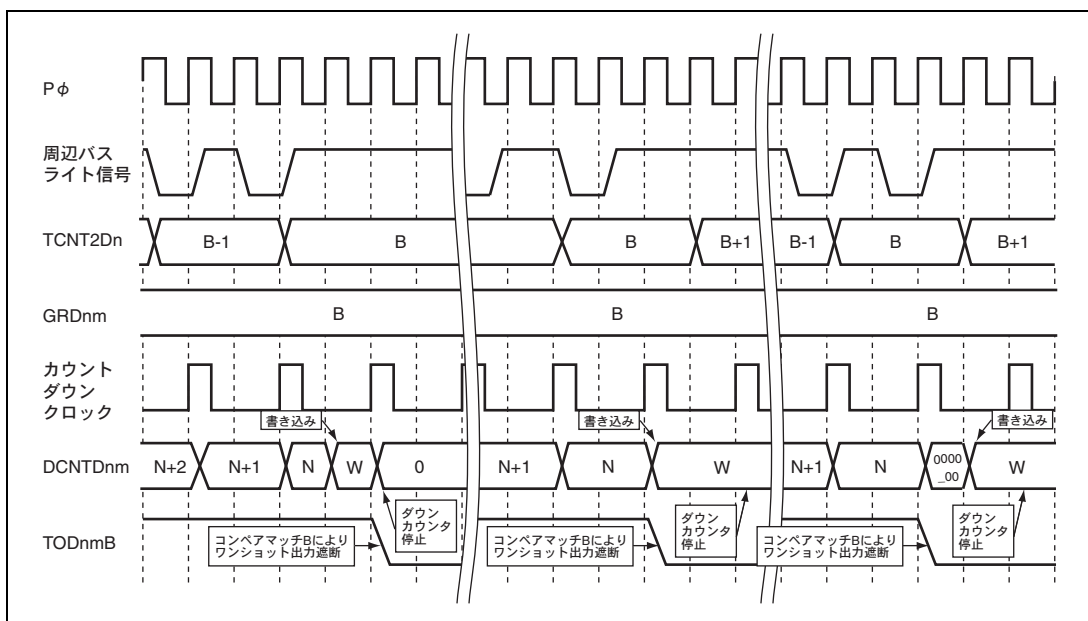


図 13.76 DCNTDnm 書き込みとコンペアマッチ B によるカウンタクリアの競合

(4) アンダフローステータスのセットと0の書き込みクリアの競合

アンダフローステータスの0の書き込みクリアとアンダフローが同時に発生した場合、クリアが行われます。以下は DCNTDnm カウンタ値のアンダフローによるステータスセットと0の書き込みによるステータスクリアが同時に発生した例を示しています (図 13.77 の左側に示す波形)。図 13.77 の右側に示す波形は、ステータスクリア直後に再びアンダフロー発生によりステータスセットがされる状態を示しています。

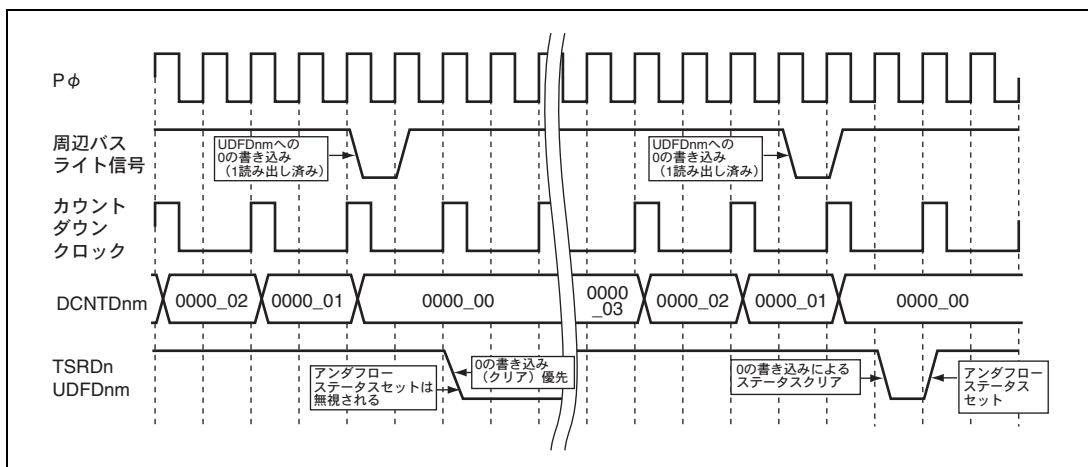


図 13.77 アンダフローステータスのセットとクリアの競合

(5) アンダフローステータスのセットと DMAACK によるクリアの競合

アンダフローステータスの DMAACK によるクリアとアンダフローが同時に発生した場合、クリアが行われます。

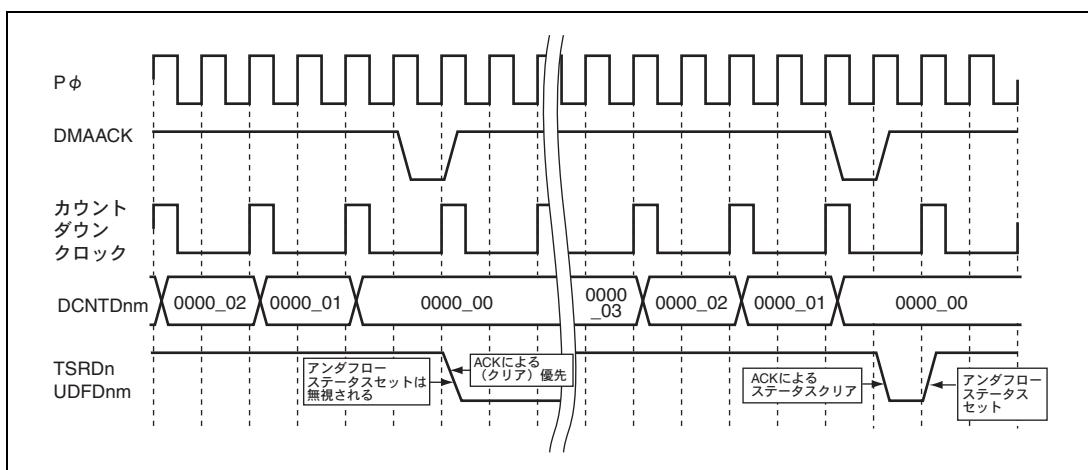


図 13.78 アンダフローステータスのセットと DMAACK によるステータスクリアの競合

(6) ダウンカウンタ値 H'0000 00 時のダウンカウンタスタートトリガ発生による TODnmB 出力

TODnmB 出力はダウンカウンタアンダフローにより開始せずに終了します。

(7) ダウンカウンタスタートトリガ、ストップトリガが同時に発生した場合の TODnmB 出力

ダウンカウンタスタートトリガ、ダウンカウンタストップトリガが同時に発生した場合、ストップトリガにより、ダウンカウンタはゼロクリアされます。TODnmB 出力も開始せずに終了します。

ダウンカウンタスタートトリガ発生後、最初のダウンカウンタクロックが入力される前にダウンカウンタストップトリガが発生した場合も同様に、ダウンカウンタは一度もダウンカウントをすることなくゼロクリアされ、TODnmB 出力も開始せずに終了します。

(8) ダウンカウンタスタートトリガとアンダフローの競合

ダウンカウンタスタートトリガとアンダフローが同時に発生した場合、DCNTDnm は H'0000 00 で停止した状態を保ちます (図 13.79 の中央部分の波形)。その前の状態がダウンカウント中であれば TODnmB 出力はアンダフローにより遮断します (図 13.79 の左側の波形)。ダウンカウント停止中 (DCNTDnm=H'0000 00) にコンペアマッチ A が発生した場合には TODnmB 出力はネグート状態を維持します (図 13.79 の右側の波形)。いずれの場合も、アンダフローフラグはダウンカウンタスタートトリガ検出と同時にまたは検出後の最初のダウンカウンタクロックに同期してセットされます。

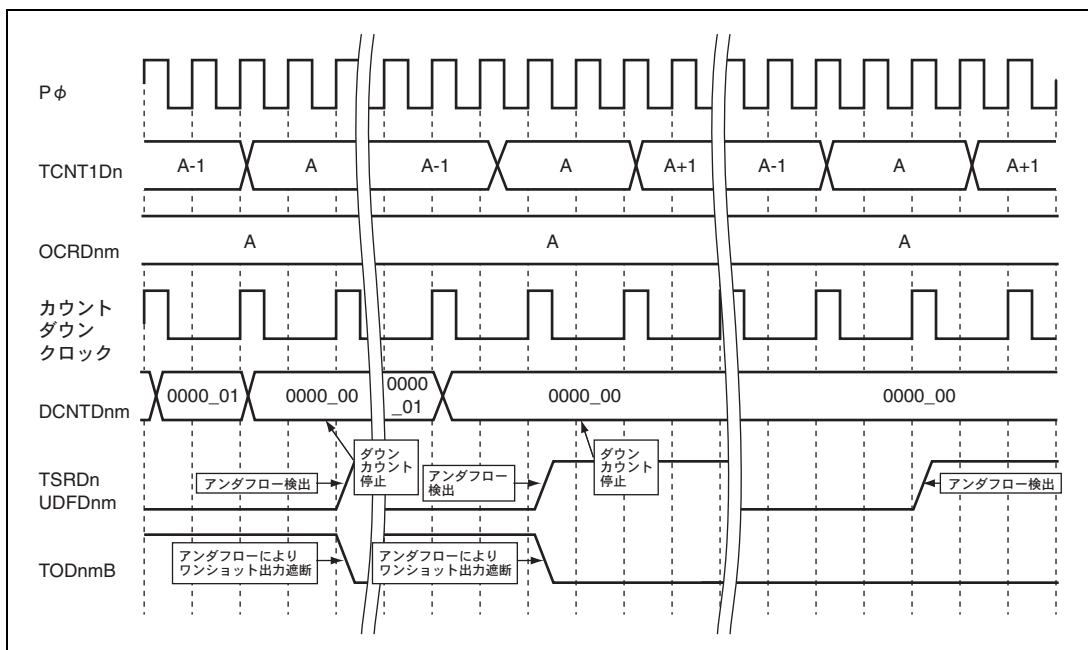


図 13.79 コンペアマッチ A とアンダフローの競合

13.36.7 タイマ B とタイマ D の競合

タイマ B からのカウンタクリア要求と、TCNT1Dn、TCNT2Dn との競合を説明します。

(1) TCNT1Dn、TCNT2Dn カウンタクリアとコンペアマッチの競合

タイマ B からのカウンタクリア信号による TCNT1Dn、TCNT2Dn カウンタクリアとコンペアマッチが同時に発生した場合の動作を以下に示します。図 13.80 の左側の波形は、コンペアマッチ発生前にカウンタクリアが行われた場合を示しています。一方、図 13.80 の右側の波形は、コンペアマッチ発生と同時にカウンタクリアが発生した場合を示しています。

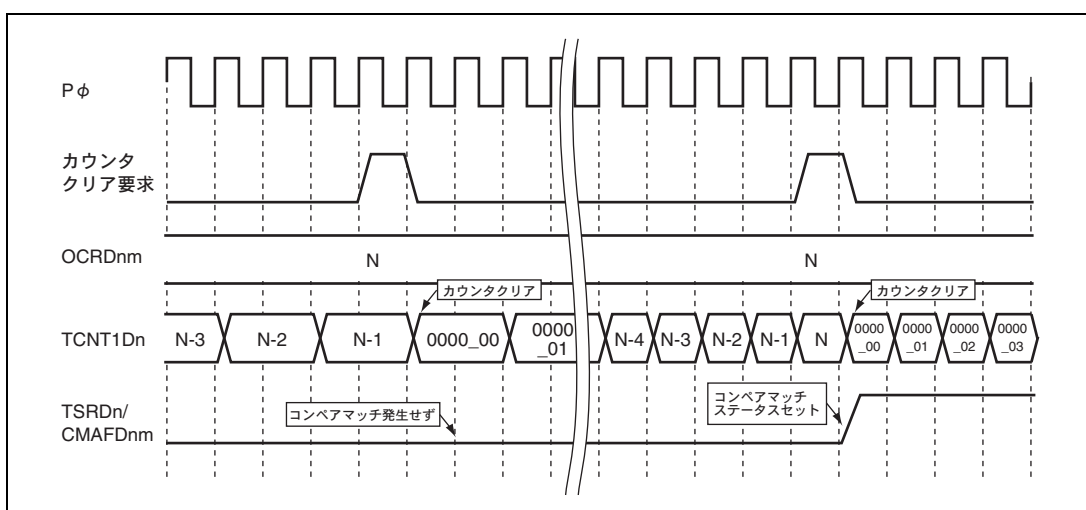


図 13.80 タイマ B からのカウンタクリアとコンペアマッチの競合

表 13.40 カウンタクリアとコンペアマッチの競合動作関連リソース一覧

対象タイマ	カウンタ	カウンタクリア要因	コンペアマッチレジスタ	ステータス
タイマ D	TCNT1Dn	タイマ B からの TCNT1Dn、TCNT2Dn クリア要求	OCRdNm	CMFADNm
	TCNT2Dn		GRDnm	CMFBDNm

(2) TCNT1Dn、TCNT2Dn カウンタへの書き込みとタイマ B からのカウンタクリアの競合

TCNT1Dn、TCNT2Dn への書き込みとタイマ B からのカウンタクリア信号が同時に発生した場合、カウンタクリアは行われずカウンタには書き込みが行われます (図 13.81 の左側の波形)。図 13.81 の右側の波形は、TCNT1Dn への書き込みが 1Pφ サイクル後にずれた場合を表しています。TCNT2Dn も同様です。

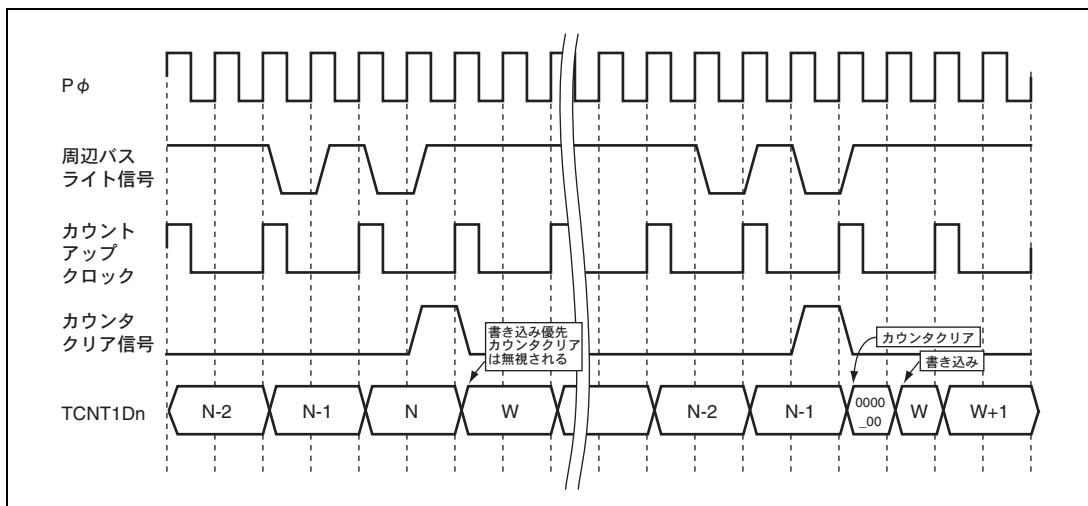


図 13.81 TCNT1Dn 書き込みとカウンタクリアの競合

(3) TCNT1Dn、TCNT2Dn カウンタオーバーフローとタイマ B からのカウンタクリアの競合

TCNT1Dn オーバーフローとタイマ B からの TCNT1Dn カウンタクリアが同時に発生した場合、カウンタ値はクリア信号により H'0000 00 にクリアされます。このとき、オーバーフローフラグはセットされません (ただし C1CEDn = 1 のときのみ)。TCNT2Dn オーバーフローも同様です。

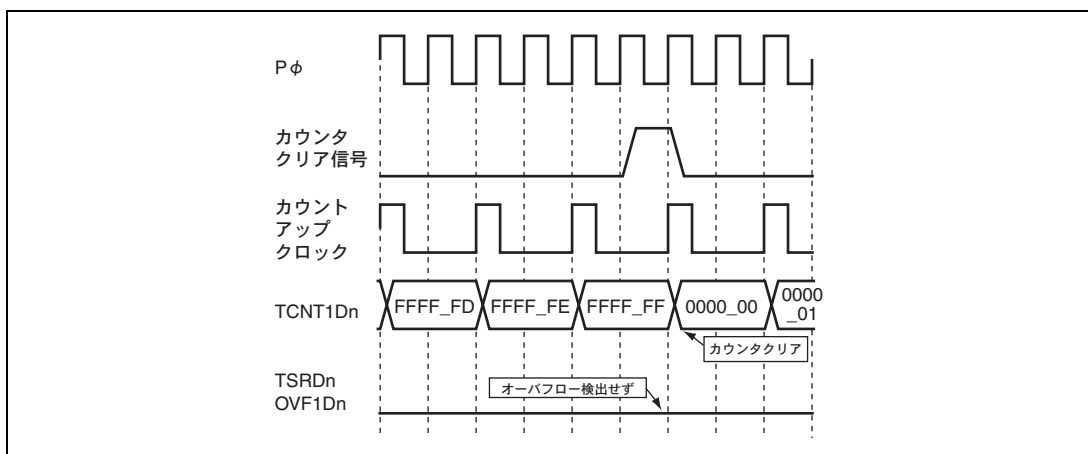


図 13.82 カウンタクリアとオーバーフローの競合

(4) タイマ B からのクリア信号による TCNT1Dn クリアと OSBRDn へのインプットキャプチャの競合

タイマ B からの TCNT1Dn カウンタクリアとオフセットベースレジスタへのインプットキャプチャが同時に発生したときの動作を以下に示します。キャプチャとカウンタクリアが同時に発生した場合、クリア前のカウンタ値が OSBRDn に取り込まれます。同時に、TCNT1Dn カウンタはクリアされます（図 13.83 の左側の波形）。

図 13.83 の右側の波形は、カウンタクリアされた 1Pφ サイクル後にキャプチャが行われ、OSBRDn にクリア後の値が取り込まれた様子を表しています。

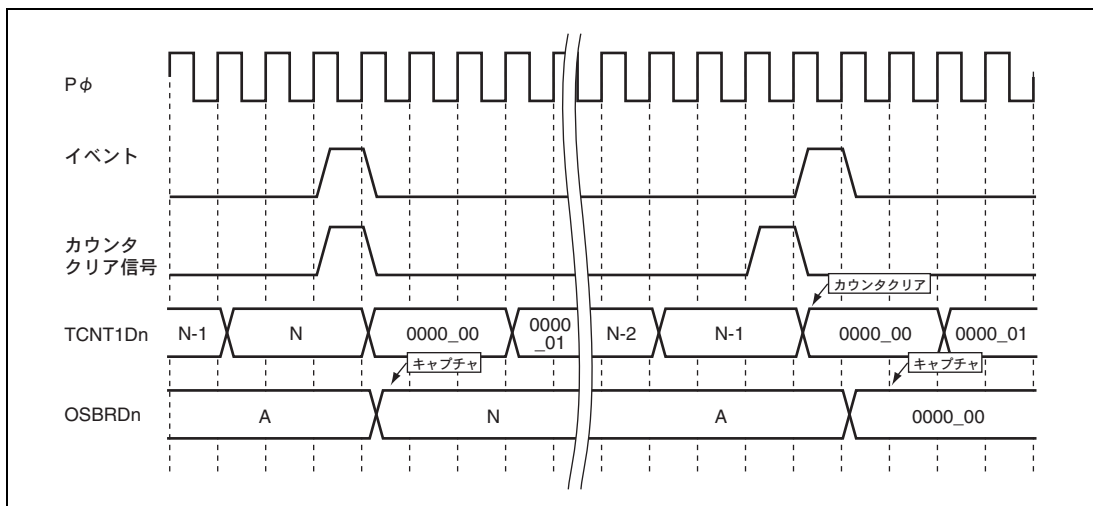


図 13.83 TCNT1Dn カウンタクリアと OSBRDn へのインプットキャプチャの競合

13.36.8 コンペアマッチ動作仕様の混在

タイマごとにコンペアマッチ動作の仕様が異なります。コンペアマッチ発生タイミングと検出条件の違いによって、以下3種類の動作仕様が存在します。

- Type1

タイマカウンタとコンペアマッチレジスタの値が一致した次のPφでコンペアマッチを発生する。

コンペアマッチの検出はPφごとに実施する。

タイマカウンタ、コンペアマッチレジスタへの書き込みタイミングでもコンペアマッチを検出する。

- Type2

タイマカウンタとコンペアマッチレジスタの値が一致した次のPφでコンペアマッチを発生する。

コンペアマッチの検出はタイマカウンタがカウントアップあるいはカウントダウンしたPφで実施する。

タイマカウンタ、コンペアマッチレジスタへの書き込みタイミングではコンペアマッチを検出しない。

- Type3

タイマカウンタとコンペアマッチレジスタの値が一致した次のカウントクロックでコンペアマッチ発生する。

コンペアマッチの検出はカウントクロックごとに実施する。

タイマカウンタ、コンペアマッチレジスタへの書き込みタイミングではコンペアマッチを検出しない。

表 13.41 コンペアマッチ動作の仕様

対象タイマ	カウンタ	コンペアマッチレジスタ	コンペアマッチ仕様
タイマ B	TCNTB0	OCRB0	Type3
	TCNTB1	OCRB1	Type1
	TCNTB6	OCRB6/OCRB7	Type3
タイマ C	TCNTCn	GRCnm	Type1
タイマ D	TCNT1Dn	OCRDnm	Type2
	TCNT2Dn	GRDnm	Type2
タイマ E	TCNTEnm	CYLREnm	Type3
タイマ F	ECNTAFn	GRAFn	Type1
	ECNTBFn	GRBFn	Type1
	ECNTCFn	GRBFn	Type1
タイマ G	TCNTGn	OCRGn	Type1
タイマ H	TCNT1H	OCR1H	Type1
タイマ J	TCNTJn	OCRJn	Type1

14. ウォッチドッグタイマ (WDT)

本 LSI は、ウォッチドッグタイマ (WDT) を内蔵しており、システムの暴走などによりカウンタ値が書き換えられずにオーバーフローした場合、外部にオーバーフロー信号 ($\overline{\text{WDTOVF}}$) を出力します。同時に、本 LSI の内部リセット信号を発生することができます。

ウォッチドッグタイマとして使用しないときは、インターバルタイマとして使用することもできます。インターバルタイマとして使用した場合は、カウンタがオーバーフローするごとにインターバルタイマ割り込みを発生します。

14.1 特長

- ウォッチドッグタイマモードとインターバルタイマモードを切り換え可能
- ウォッチドッグタイマモード時、 $\overline{\text{WDTOVF}}$ 信号を出力
カウンタがオーバーフローすると、外部に $\overline{\text{WDTOVF}}$ 信号を出力します。このとき、同時に本LSI内部をリセットするかどうかを選択できます。
- インターバルタイマモード時、割り込みを発生
カウンタオーバーフローにより、インターバルタイマ割り込みを発生します。
- 8種類のカウンタ入力クロックを選択可能
周辺クロックを分周した8種類のクロック ($P\phi \times 1 \sim \times 1/16384$) から選択できます。

図 14.1 に WDT のブロック図を示します。

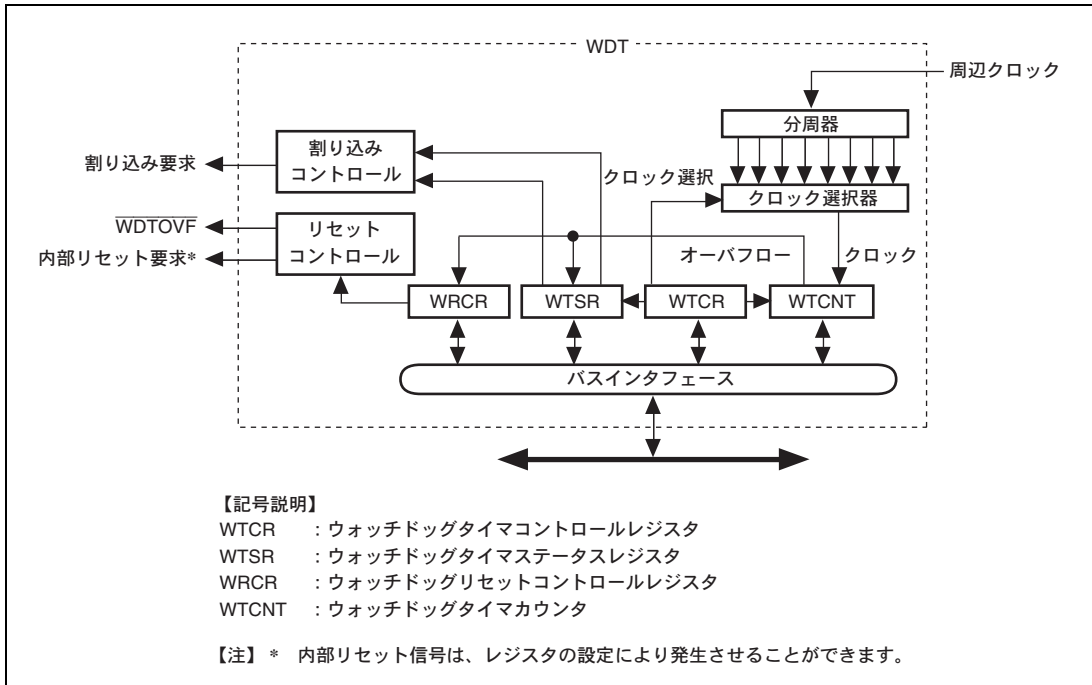


図 14.1 WDT のブロック図

14.2 入出力端子

WDT の端子を表 14.1 に示します。

表 14.1 端子構成

名称	端子名	入出力	機能
ウォッチドッグタイマ オーバーフロー	WDTOVF	出力	ウォッチドッグタイマモード時のカウンタオーバーフロー 信号出力

14.3 レジスタの説明

WDT には以下のレジスタがあります。

表 14.2 レジスタ構成

レジスタ名	略称	R/W	初期値	アドレス	アクセス サイズ
ウォッチドッグタイムコントロール レジスタ	WTCR	R/W	H'0000	H'FFFE0000	8、16
ウォッチドッグタイムカウンタ	WTCNT	R/W	H'0000	H'FFFE0002	8、16
ウォッチドッグタイムステータスレジスタ	WTSR	R/W	H'0000	H'FFFE0004	8、16
ウォッチドッグリセットコントロール レジスタ	WRCR	R/W	H'0000	H'FFFE0006	8、16

14.3.1 ウォッチドッグタイムコントロールレジスタ (WTCR)

WTCR は、読み出し/書き込み可能な 16 ビットのレジスタで、8 ビットのライトキー、動作モードの選択ビット、WTCNT のカウントに使用するクロックの選択を行うビット、およびイネーブルビットからなります。

WTCR は、 $\overline{\text{RES}}$ 端子によるパワーオンリセットやハードウェアスタンバイモード時およびウォッチドッグタイムモードでの WTCNT のオーバフロー発生時に初期化されます。

WTCR への書き込みはワード単位で行う必要があります。WT/ $\overline{\text{IT}}$ 、TME、CKS ビットの値を書き換える際には、同時に TCRKEY ビットに H'A5 を書き込んでください。TCRKEY ビットに H'A5 以外の値が書き込まれた場合やバイト単位での書き込みは無視されます。

WTCR の読み出しはワード単位、バイト単位のどちらでも可能です。ただし、TCRKEY ビットへの書き込みデータは保持されませんので、TCRKEY ビットの読み出し値は常に H'00 になります。

【注】 本レジスタは、誤って書き換えられないように、書き込み方法が一般のレジスタと異なります。詳しくは、「14.3.5 レジスタアクセス時の注意」を参照してください。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	TCRKEY[7:0]								–	WT/ $\overline{\text{IT}}$	TME	–	–	CKS[2:0]		
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R	R/W	R/W	R	R	R/W	R/W	R/W

【注】 * 書き込みデータは保持されません。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~8	TCRKEY [7:0]	H'00	R/W*	WTCR ライトキーコード WT/ $\overline{\text{IT}}$ 、TME、CKS ビットの書き換えの可否を制御します。本ビットへの書き込みデータは保持されませんので、読み出し値は常に H'00 になります。 H'A5 : WT/ $\overline{\text{IT}}$ 、TME、CKS ビットの書き換え可能 H'A5 以外 : WT/ $\overline{\text{IT}}$ 、TME、CKS ビットの書き換え不可

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明																													
7	—	0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。																													
6	WT/ \bar{W}	0	R/W	タイマモードセレクト ウォッチドッグタイマとして使用するか、インターバルタイマとして使用するかを指定します。 0: インターバルタイマモード 1: ウォッチドッグタイマモード 【注】 ウォッチドッグタイマモードでは、WTCNT がオーバフローしたとき WDTOVF 信号を外部へ出力 WDT の動作中に WT/ \bar{W} を書き換えるとカウントアップが正しく行われなことがあります。																													
5	TME	0	R/W	WTCNT イネーブル WTCNT のカウント動作の開始または停止を設定します。 0: カウントディスエーブル カウントアップを停止し、WTCNT の値を保持する。 1: カウントイネーブル																													
4, 3	—	すべて0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。																													
2~0	CKS[2:0]	000	R/W	クロックセレクト 周辺クロック (P ϕ) を分周して得られる8種類のクロックから、WTCNT のカウントに使用するクロックを選択します。下表に P ϕ = 20MHz および P ϕ = 40MHz のときのオーバフロー周期を示します。 <table border="1" data-bbox="587 1097 1201 1483"> <thead> <tr> <th rowspan="2">クロック分周比</th> <th colspan="2">オーバフロー周期</th> </tr> <tr> <th>Pϕ = 20MHz</th> <th>Pϕ = 40MHz</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>000 : 1 x Pϕ</td> <td>12.8 μs</td> <td>6.4 μs</td> </tr> <tr> <td>001 : 1/64 x Pϕ</td> <td>819.2 μs</td> <td>409.6 μs</td> </tr> <tr> <td>010 : 1/128 x Pϕ</td> <td>1.6ms</td> <td>0.8ms</td> </tr> <tr> <td>011 : 1/256 x Pϕ</td> <td>3.3ms</td> <td>1.65ms</td> </tr> <tr> <td>100 : 1/512 x Pϕ</td> <td>6.6ms</td> <td>3.3ms</td> </tr> <tr> <td>101 : 1/1024 x Pϕ</td> <td>13.1ms</td> <td>6.55ms</td> </tr> <tr> <td>110 : 1/4096 x Pϕ</td> <td>52.4ms</td> <td>26.2ms</td> </tr> <tr> <td>111 : 1/16384 x Pϕ</td> <td>209.7ms</td> <td>104.35ms</td> </tr> </tbody> </table> 【注】 WTCNT のカウント動作中に CKS2~CKS0 ビットを書き換えると、カウントアップが正しく行われな場合があります。CKS2~CKS0 ビットを書き換える場合は、必ず WTCNT を停止させてください。	クロック分周比	オーバフロー周期		P ϕ = 20MHz	P ϕ = 40MHz	000 : 1 x P ϕ	12.8 μ s	6.4 μ s	001 : 1/64 x P ϕ	819.2 μ s	409.6 μ s	010 : 1/128 x P ϕ	1.6ms	0.8ms	011 : 1/256 x P ϕ	3.3ms	1.65ms	100 : 1/512 x P ϕ	6.6ms	3.3ms	101 : 1/1024 x P ϕ	13.1ms	6.55ms	110 : 1/4096 x P ϕ	52.4ms	26.2ms	111 : 1/16384 x P ϕ	209.7ms	104.35ms
クロック分周比	オーバフロー周期																																
	P ϕ = 20MHz	P ϕ = 40MHz																															
000 : 1 x P ϕ	12.8 μ s	6.4 μ s																															
001 : 1/64 x P ϕ	819.2 μ s	409.6 μ s																															
010 : 1/128 x P ϕ	1.6ms	0.8ms																															
011 : 1/256 x P ϕ	3.3ms	1.65ms																															
100 : 1/512 x P ϕ	6.6ms	3.3ms																															
101 : 1/1024 x P ϕ	13.1ms	6.55ms																															
110 : 1/4096 x P ϕ	52.4ms	26.2ms																															
111 : 1/16384 x P ϕ	209.7ms	104.35ms																															

【注】 * 書き込みデータは保持されません。

14.3.2 ウォッチドッグタイマカウンタ (WTCNT)

WTCNT は、読み出し／書き込み可能な 16 ビットのレジスタで、8 ビットのライトキーと 8 ビットのカウンタで構成されます。WTCR の TME ビットを 1 にセットすると、WTCR の CKS2～0 ビットで選択した内部クロックにより、WTCNT はカウントアップを開始します。

WTCNT がオーバフローすると、ウォッチドッグタイマモードのときはウォッチドッグタイマオーバフロー信号 ($\overline{\text{WDTOVF}}$) が発生し、インターバルタイマモードのときはインターバルタイマ割り込み (ITI) が発生します。WTCNT は、 $\overline{\text{RES}}$ 端子によるパワーオンリセットやハードウェアスタンバイモード時およびウォッチドッグタイマモードでの WTCNT のオーバフロー発生時に H'0000 に初期化されます。

WTCNT への書き込みはワード単位で行う必要があります。TCNT ビットの値を書き換える際には、同時に TCNTKEY ビットへ H'5A を書き込んでください。TCNTKEY ビットに H'5A 以外の値が書き込まれた場合やバイト単位での書き込みは無視されます。

WTCNT の読み出しはワード単位、バイト単位のどちらでも可能です。ただし、TCNTKEY ビットへの書き込みデータは保持されませんので、TCNTKEY ビットの読み出し値は常に H'00 になります。

【注】 本レジスタは、誤って書き換えられないように、書き込み方法が一般のレジスタと異なっています。詳しくは、「14.3.5 レジスタアクセス時の注意」を参照してください。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	TCNTKEY[7:0]								TCNT[7:0]							
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

【注】 * 書き込みデータは保持されません。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15～8	TCNTKEY [7:0]	H'00	R/W*	WTCNT ライトキーコード TCNT ビットの書き換えの可否を制御します。本ビットへの書き込みデータは保持されませんので、読み出し値は常に H'00 になります。 H'5A : TCNT ビットの書き換え可能 H'5A 以外 : TCNT ビットの書き換え不可
7～0	TCNT[7:0]	H'00	R/W	8 ビットタイマカウンタ値 TCNT ビットの値が H'FF から H'00 になるタイミングでオーバフローを検出します。

14.3.3 ウォッチドッグタイマステータスレジスタ (WTSR)

WTSR は、読み出し／書き込み可能な 16 ビットのレジスタで、8 ビットのライトキー、ウォッチドッグタイマモードでのオーバフローフラグ、およびインターバルタイマモードでのオーバフローフラグで構成されます。

WTSR は、 \overline{RES} 端子によるパワーオンリセットやハードウェアスタンバイモード時、H'0000 に初期化されます。ウォッチドッグタイマモードでの WTCNT のオーバフローおよび WTCNT のオーバフローによる内部リセットでは初期化されません。

WTSR への書き込みはワード単位で行う必要があります。WOVF、IOVF ビットの値を書き換える際には、同時に TSRKEY ビットへ H'A5 を書き込んでください。TSRKEY ビットに H'A5 以外の値が書き込まれた場合やバイト単位での書き込みは無視されます。

WTSR の読み出しはワード単位、バイト単位のどちらでも可能です。ただし、TSRKEY ビットへの書き込みデータは保持されませんので、TSRKEY ビットの読み出し値は常に H'00 になります。

【注】 本レジスタは、誤って書き換えられないように、書き込み方法が一般のレジスタと異なっています。詳しくは、「14.3.5 レジスタアクセス時の注意」を参照してください。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	TSRKEY[7:0]								WOVF	—	—	—	IOVF	—	—	—
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W*1	R/W*1	R/W*1	R/W*1	R/W*1	R/W*1	R/W*1	R/W*1	R/W*1	R/W*2	R	R	R	R/W*2	R	R

【注】 *1 書き込みデータは保持されません。

*2 フラグをクリアするために0のみ書き込むことができます。1を書き込むことは無効です。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~8	TSRKEY [7:0]	H'00	R/W*1	WTSR ライトキーコード WOVF、IOVF ビットの書き換えの可否を制御します。本ビットへの書き込みデータは保持されませんので、読み出し値は常に H'00 になります。 H'A5 : WOVF、IOVF ビットの書き換え可能 H'A5 以外 : WOVF、IOVF ビットの書き換え不可
7	WOVF	0	R/W*2	ウォッチドッグタイマオーバフロー ウォッチドッグタイマモードで WTCNT がオーバフローしたことを示します。本ビットは、インターバルタイマモードではセットされません。 0 : オーバフローなし 1 : ウォッチドッグタイマモードで WTCNT がオーバフローした [クリア条件] • WOVF ビットが 1 の状態を読み出してから 0 を書き込む
6~4	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
3	IOVF	0	R/W* ²	インターバルタイマオーバフロー インターバルタイマモードでWTCNTがオーバフローしたことを示します。 本ビットは、ウォッチドッグタイマモードではセットされません。 0: オーバフローなし 1: インターバルタイマモードでWTCNTがオーバフローした [クリア条件] • IOVF ビットが1の状態を読み出してから0を書き込む
2~0	—	すべて0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。

【注】 *1 書き込みデータは保持されません。

*2 フラグをクリアするために0のみ書き込むことができます。1を書き込むことは無効です。

14.3.4 ウォッチドッグリセットコントロールレジスタ (WRCR)

WRCRは、読み出し/書き込み可能な16ビットのレジスタで、8ビットのライトキー、WTCNTのオーバフローによる内部リセットの発生を制御するビットで構成されます。

WRCRは、 $\overline{\text{RES}}$ 端子によるパワーオンリセットやハードウェアスタンバイモード時、H'0000に初期化されます。ウォッチドッグタイマモードでのWTCNTのオーバフローおよびWTCNTのオーバフローによる内部リセットでは初期化されません。

WRCRへの書き込みはワード単位で行う必要があります。RSTEビットの値を書き換える際には、同時にRCRKEYビットへH'5Aを書き込んでください。RCRKEYビットにH'5A以外の値が書き込まれた場合やバイト単位での書き込みは無視されます。

WRCRの読み出しはワード単位、バイト単位のどちらでも可能です。ただし、RCRKEYビットへの書き込みデータは保持されませんので、RCRKEYビットの読み出し値は常にH'00になります。

【注】 本レジスタは、誤って書き換えられないように、書き込み方法が一般のレジスタと異なります。詳しくは、「14.3.5 レジスタアクセス時の注意」を参照してください。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	RCRKEY[7:0]								RSTE	—	—	—	—	—	—	—
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W	R	R	R	R	R	R

【注】 * 書き込みデータは保持されません。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~8	RCRKEY [7:0]	H'00	R/W*	WRCR ライトキーコード RSTE ビットの書き換えの可否を制御します。本ビットへの書き込みデータは保持されませんので、読み出し値は常に H'00 になります。 H'5A : RSTE ビットの書き換え可能 H'5A 以外 : RSTE ビットの書き換え不可
7	RSTE	0	R/W	リセットイネーブル ウォッチドッグタイマモードで WTCNT がオーバフローしたとき、本 LSI 内部をリセットするかどうかを選択します。インターバルタイマモードの場合、本ビットの設定値は無視されます。 0 : WTCNT がオーバフローしたとき、内部リセットしない 1 : WTCNT がオーバフローしたとき、内部リセットする 【注】 RSTE ビットが 0 のとき、本 LSI 内部はリセットされませんが、WDT 内の WTCNT、WTCR は、WTCNT のオーバフローでリセットされます。
6~0	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。

【注】 * 書き込みデータは保持されません。

14.3.5 レジスタアクセス時の注意

ウォッチドッグタイマカウンタ (WTCNT)、ウォッチドッグタイマコントロールレジスタ (WTCR)、ウォッチドッグタイマステータスレジスタ (WTSR)、ウォッチドッグリセットコントロールレジスタ (WRCR) は、容易に書き換えられないように、書き込み方法が一般のレジスタと異なっています。次の方法で、読み出しまたは書き込みを行ってください。

(1) WTCNT、WTCR、WTSR、および WRCR への書き込み

WTCNT、WTCR、WTSR、および WRCR へ書き込むときは、必ずワード転送命令を使用してください。バイト転送命令では書き込めません。

図 14.2 に示すように、WTCNT および WRCR へ書き込むときは上位バイトを H'5A にし、下位バイトを書き込みデータにして転送してください。WTCR および WTSR へ書き込むときは上位バイトを H'A5 にし、下位バイトを書き込みデータにして転送してください。このように転送すると、下位バイトのデータが WTCNT、WTCR、WTSR、および WRCR へ書き込まれます。

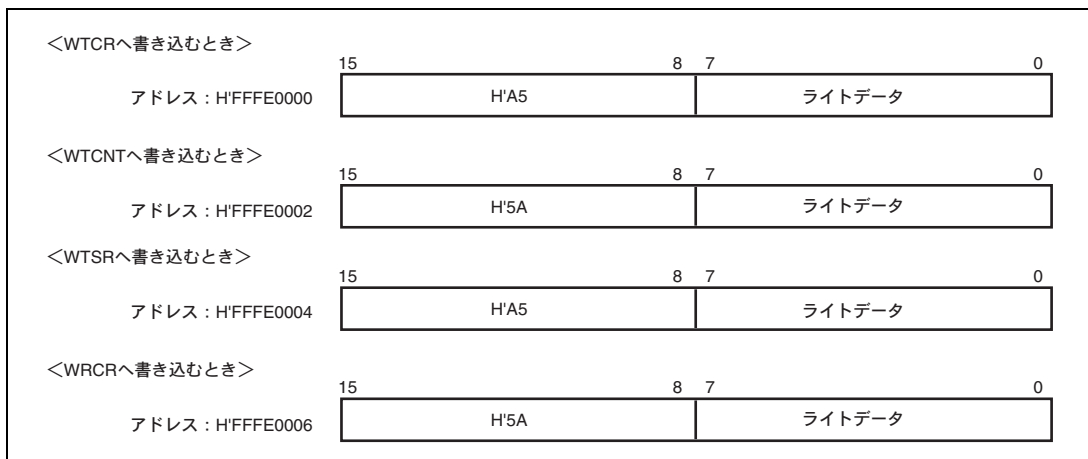


図 14.2 WTCNT、WTCR、WTSR、および WRCR への書き込み

(2) WTCNT、WTCR、WTSR、および WRCR からの読み出し

読み出しは、一般のレジスタと同様の方法で行うことができ、バイト転送命令、ワード転送命令のどちらも使用可能です。

14.4 WDT の使用方法

14.4.1 ウォッチドッグタイマモードの使用法

1. WTCRのWT/ITビットに1を設定して、CKS2~0にカウントクロックの種類、WRCRのRSTEビットに本LSIの内部をリセットするかしないか、およびWTCNTに初期値を設定します。
2. WTCRのTMEビットに1をセットすると、ウォッチドッグタイマモードでカウントを開始します。
3. ウォッチドッグタイマモードで動作中は、カウンタがオーバフローしないように定期的にカウンタをH'00に書き換えてください。
4. カウンタがオーバフローすると、WDTはWTSRのWOVFを1にセットして、 $\overline{\text{WDTOVF}}$ 信号を外部に出力します。これを図14.3に示します。この $\overline{\text{WDTOVF}}$ 信号を用いて、システムをリセットすることができます。 $\overline{\text{WDTOVF}}$ 信号は、 $64 \times P\phi$ クロックの間出力されます。
5. WRCRのRSTEビットを1にセットしておく、と、 $\overline{\text{WDTOVF}}$ 信号と同時に本LSIの内部をリセットする信号を発生させることができます。内部リセット信号は、 $128 \times P\phi$ クロックの間出力されます。
6. $\overline{\text{RES}}$ 端子からの入力信号によるリセットとWTCNTのオーバフローによるリセットが同時に発生したときは、 $\overline{\text{RES}}$ 端子によるリセットが優先され、WTSRのWOVFビットは0にクリアされます。

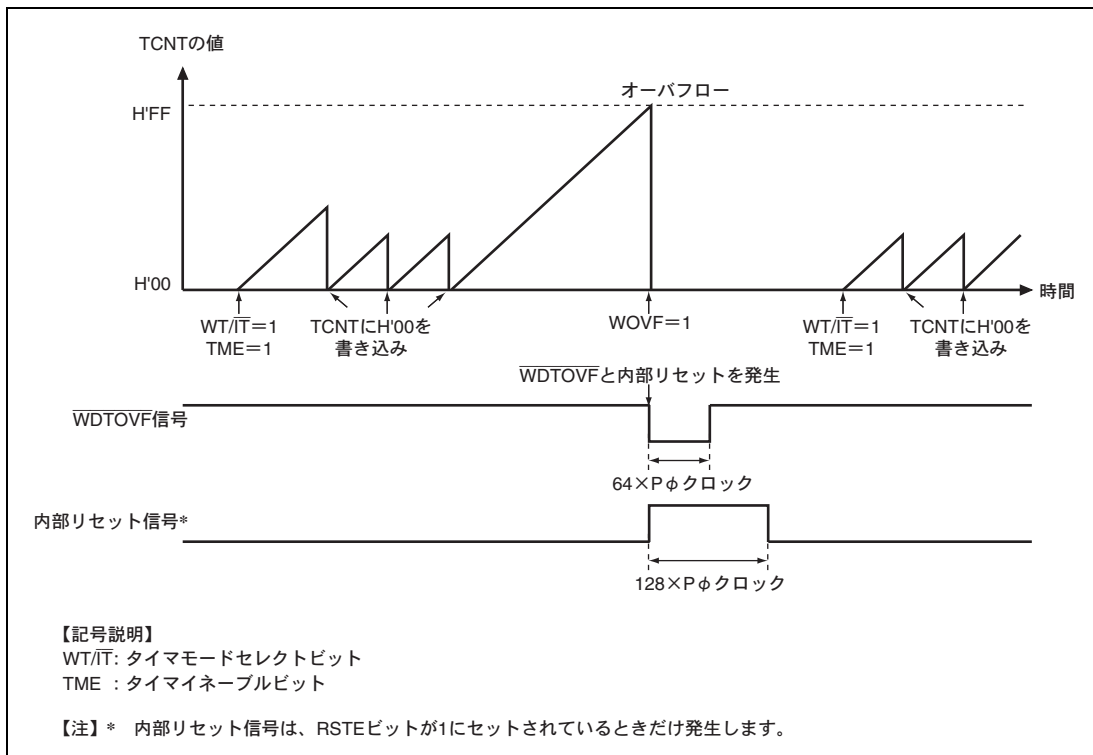


図 14.3 ウォッチドッグタイマモード時の動作

14.4.2 インターバルタイマモードの使用法

インターバルタイマモードで動作中は、カウンタがオーバーフローするたびにインターバルタイマ割り込み (ITI) を発生します。したがって、一定時間ごとに割り込みを発生させることができます。

1. WTCRのWT/ITビットに0をセットして、CKS2~0ビットにカウントクロックの種類、TCNTに初期値を設定します。
2. WTCRのTMEビットに1をセットするとインターバルタイマモードでカウントを開始します。
3. WDTは、カウンタがオーバーフローするとWTSRのIOVFに1をセットし、インターバルタイマ割り込み要求 (ITI) をINTCに送ります。カウンタはカウントを続行します。

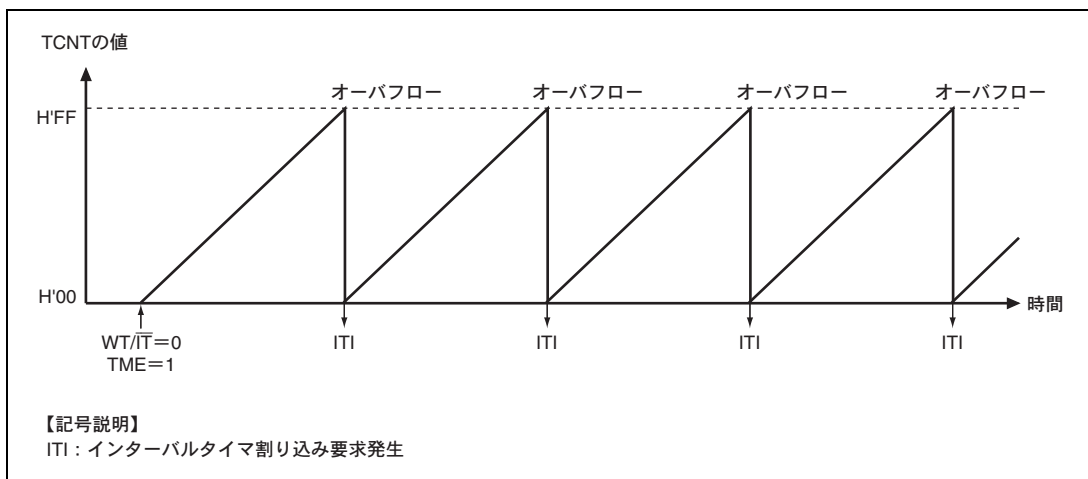


図 14.4 インターバルタイマモード時の動作

14.5 使用上の注意事項

インターバルタイマモードおよびウォッチドッグタイマモードにおいて、以下の注意事項があります。

14.5.1 タイマ誤差

タイマ動作開始後の WTCNT レジスタの最初のカウントアップタイミングは、パワーオンリセットを基点とした WTCR レジスタの TME ビットのセットタイミングによって、Pφの1サイクル後（最短）から、CKS2~0 で選択した分周タイミング（最長）までの間となります。2回目以降のカウントアップタイミングは選択した分周タイミングとなります。したがって、上記の最初のカウントアップまでの時間差がタイマ誤差となります。タイマ動作中、WTCNT レジスタ書き換え後、最初のカウントアップタイミングも同様です。

14.5.2 分周比の変更

WTCNT のカウント動作中に WTCR の CKS2~0 ビットの値を変更すると、カウントアップが正しく行われなかった場合があります。CKS2~0 ビットを書き換えるときは、必ず WDT を停止させてから（TME ビットを 0 にクリアしてから）行ってください。

14.5.3 ウォッチドッグタイマモードとインターバルタイマモードの切り替え

WDT の動作中にウォッチドッグタイマモードとインターバルタイマモードを切り替えると、正しい動作が行われない場合があります。タイマモードの切り替えは、必ず WDT を停止させてから（TME ビットを 0 にクリアしてから）行ってください。

14.5.4 $\overline{\text{WDTOVF}}$ 信号によるシステムリセット

$\overline{\text{WDTOVF}}$ 信号を本 LSI の $\overline{\text{RES}}$ 端子に入力すると、本 LSI を正しく初期化できません。

$\overline{\text{WDTOVF}}$ 信号は、本 LSI の $\overline{\text{RES}}$ 端子に論理的に入力しないようにしてください。 $\overline{\text{WDTOVF}}$ 信号でシステム全体をリセットするときは、図 14.5 に示すような回路で行ってください。

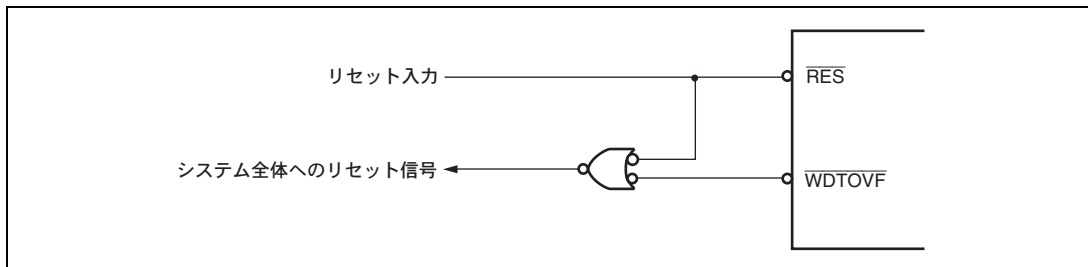


図 14.5 $\overline{\text{WDTOVF}}$ 信号によるシステムリセット回路例

15. コンペアマッチタイマ (CMT)

本 LSI は、2 チャンネルの 16 ビットタイマにより構成されるコンペアマッチタイマ (CMT) を内蔵しています。CMT は 16 ビットのカウンタを持ち、設定した周期ごとに割り込みを発生することができます。

15.1 特長

- 4種類のカウント入力クロックを2チャンネル独立で選択可能
4種類の内部クロック (Pφ/8、Pφ/32、Pφ/128、Pφ/512) を選択可能
- コンペアマッチ時、DMAC設定により、DMA転送要求または割り込み要求の発生を選択可能

図 15.1 に CMT のブロック図を示します。

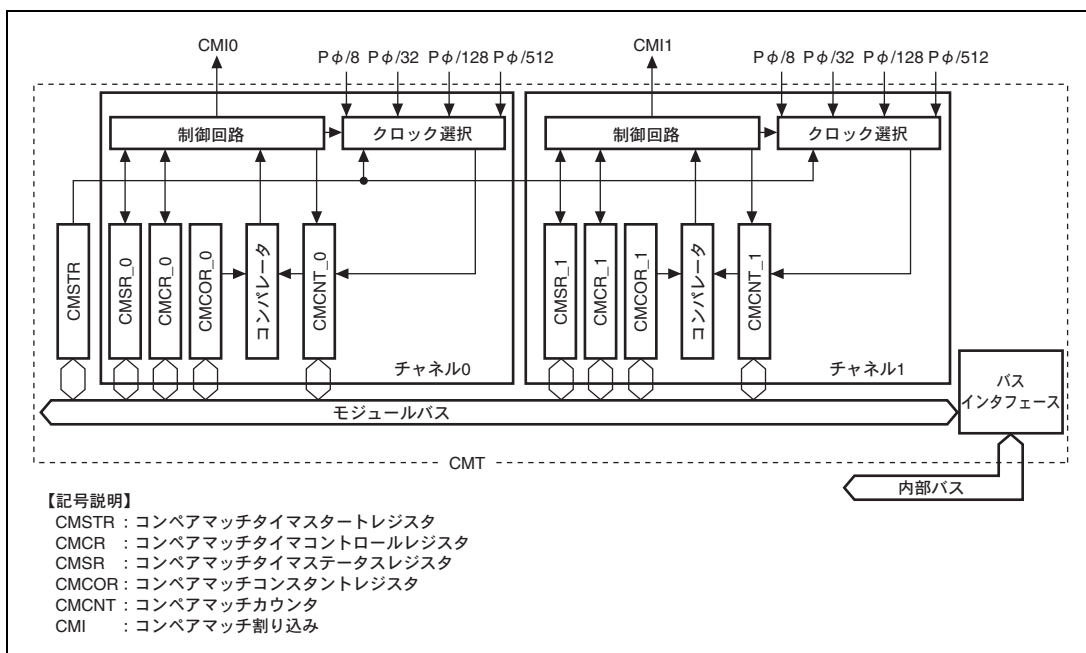


図 15.1 CMT のブロック図

15.2 レジスタの説明

CMT には以下のレジスタがあります。

表 15.1 レジスタ構成

チャンネル	レジスタ名	略称	R/W	初期値	アドレス	アクセス サイズ
共通	コンペアマッチタイマスタートレジスタ	CMSTR	R/W	H'0000	H'FFFEC000	16
0	コンペアマッチタイマコントロール レジスタ_0	CMCR_0	R/W	H'00	H'FFFEC010	8
	コンペアマッチタイマステータス レジスタ_0	CMSR_0	R/(W)*	H'00	H'FFFEC011	8
	コンペアマッチカウンタ_0	CMCNT_0	R/W	H'0000	H'FFFEC012	16
	コンペアマッチコンスタントレジスタ_0	CMCOR_0	R/W	H'FFFF	H'FFFEC014	16
1	コンペアマッチタイマコントロール レジスタ_1	CMCR_1	R/W	H'00	H'FFFEC020	8
	コンペアマッチタイマステータス レジスタ_1	CMSR_1	R/(W)*	H'00	H'FFFEC021	8
	コンペアマッチカウンタ_1	CMCNT_1	R/W	H'0000	H'FFFEC022	16
	コンペアマッチコンスタントレジスタ_1	CMCOR_1	R/W	H'FFFF	H'FFFEC024	16

15.2.1 コンペアマッチタイマスタートレジスタ (CMSTR)

CMSTR は 16 ビットのレジスタで、コンペアマッチカウンタ (CMCNT) の動作/停止を選択します。

CMSTR はパワーオンリセット時およびスタンバイモード時に H'0000 に初期化されます。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	STR1	STR0
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~2	-	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
1	STR1	0	R/W	カウントスタート 1 コンペアマッチカウンタ_1 の動作/停止を選択します。 0 : CMCNT_1 はカウントを停止* 1 : CMCNT_1 はカウントを開始
0	STR0	0	R/W	カウントスタート 0 コンペアマッチカウンタ_0 の動作/停止を選択します。 0 : CMCNT_0 はカウントを停止* 1 : CMCNT_0 はカウントを開始

【注】 * カウントを停止した場合は、CMCNT の値は保持されます。

15.2.2 コンペアマッチタイマコントロールレジスタ (CMCR)

CMCR は 8 ビットのレジスタで、割り込み、DMA 転送要求の許可、およびカウンタ入力クロックの設定を行います。

CMCR はパワーオンリセット時およびスタンバイモード時に H'00 に初期化されます。

ビット :	7	6	5	4	3	2	1	0
	-	CMIE	-	-	-	-	CKS[1:0]	
初期値 :	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W :	R	R/W	R	R	R	R	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7	-	0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
6	CMIE	0	R/W	コンペアマッチ割り込みイネーブル CMCNT と CMCOR の値が一致したとき (CMF=1)、コンペアマッチ割り込み (CMI) の発生を許可するか禁止するかを選択します。 0 : コンペアマッチ割り込み (CMI) を禁止 1 : コンペアマッチ割り込み (CMI) を許可
5~2	-	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
1, 0	CKS[1:0]	00	R/W	クロックセレクト 周辺クロック (Pφ) を分周した 4 種類の内部クロックから CMCNT に入力するクロックを選択します。CMSTR の STR ビットが 1 にセットされると、CMCNT は CKS1、CKS0 ビットにより選択されたクロックでカウントを開始します。 00 : Pφ/8 01 : Pφ/32 10 : Pφ/128 11 : Pφ/512

15.2.3 コンペアマッチタイムステータスレジスタ (CMSR)

CMSR は 8 ビットのレジスタで、コンペアマッチの発生を表示します。

CMSR はパワーオンリセット時およびスタンバイモード時に H'00 に初期化されます。

ビット :	7	6	5	4	3	2	1	0
	-	-	-	-	-	-	-	CMF
初期値 :	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W :	R	R	R	R	R	R	R	R/(W)*

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7~1	-	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
0	CMF	0	R/(W)*	コンペアマッチフラグ CMCNT と CMCOR の値が一致したか否かを示すフラグです。 0 : CMCNT と CMCOR の値は不一致 [クリア条件] • CMF=1 を読み出し後、CMF に 0 を書き込んだとき 1 : CMCNT と CMCOR の値が一致*

【注】 * CMCNT に CMCOR と同じ値を書き込んで一致した場合にも、CMF はセットされます。

15.2.4 コンペアマッチカウンタ (CMCNT)

CMCNT は 16 ビットのレジスタで、アップカウンタとして使用されます。カウンタ入力クロックが CMCR の CKS1、CKS0 ビットにより選択され、CMSTR の STR ビットが 1 にセットされると、CMCNT は選択されたクロックによりカウントを開始します。CMCNT の値がコンペアマッチコンスタントレジスタ (CMCOR) の値と一致すると、CMCNT は H'0000 にクリアされ CMSR の CMF フラグが 1 にセットされます。

CMCNT はパワーオンリセット時およびスタンバイモード時に H'0000 に初期化されます。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

15.2.5 コンペアマッチコンスタントレジスタ (CMCOR)

CMCOR は 16 ビットのレジスタで CMCNT とコンペアマッチするまでの期間を設定します。

CMCOR はパワーオンリセット時およびスタンバイモード時に H'FFFF に初期化されます。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
初期値:	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

15.3 動作説明

15.3.1 期間カウント動作

内部クロックがCMCRのCKS1、CKS0ビットにより選択され、CMSTRのSTRビットが1にセットされると、CMCNTは選択されたクロックによりインクリメントを開始します。CMCNTの値がCMCORの値と一致すると、CMCNTはH'0000にクリアされCMSRのCMFフラグが1にセットされます。このとき、CMCRレジスタのCMIEビットが1に設定されていると、コンペアマッチ割り込み(CMI)を要求します。CMCNTはH'0000からカウントアップを再開します。

図15.2にコンペアマッチカウンタ動作を示します。

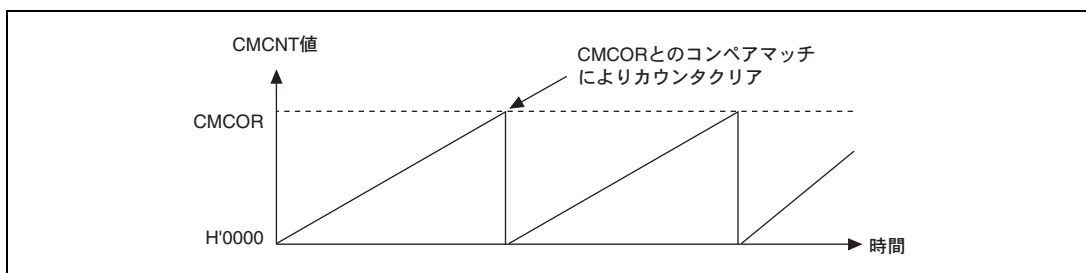


図 15.2 カウンタ動作

15.3.2 CMCNT カウントタイミング

周辺クロック(Pφ)を分周して得られた4種類のクロック(Pφ/8、Pφ/32、Pφ/128、Pφ/512)のうち1つをCMCRのCKS1、CKS0ビットにより選択することができます。図15.3にそのタイミングを示します。

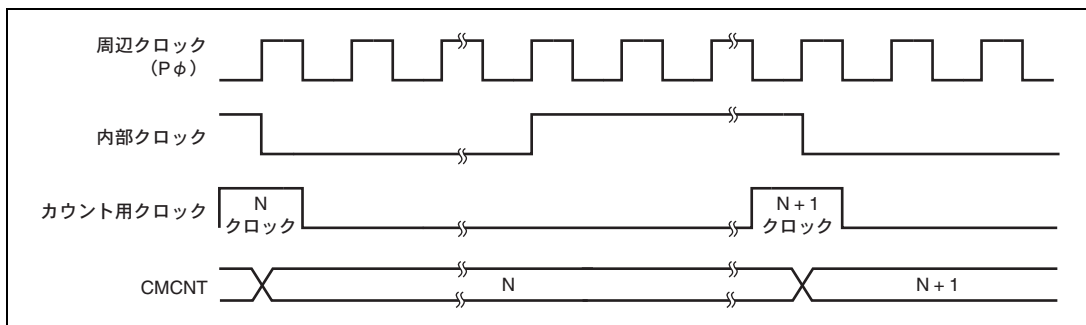


図 15.3 カウントタイミング

15.4 割り込み

15.4.1 割り込み要因と DMA 転送要求

CMT はチャンネルごとにコンペアマッチ割り込みを持ち、それぞれ独立なベクタアドレスが割り当てられています。割り込み要求フラグ (CMF) が 1 にセットされ、かつ割り込み許可ビット (CMIE) が 1 にセットされているとき、該当する割り込み要求が出力されます。割り込み要求により CPU 割り込みを起動する場合、チャンネル間の優先順位は割り込みコントローラの設定により変更可能です。詳細は「第 8 章 割り込みコントローラ (INTC)」を参照してください。

ユーザ例外処理ルーチン中に CMF ビットをクリアする動作を行ってください。この動作を行わないと再度割り込みが発生してしまいます。また、コンペアマッチ割り込み要求時に、ダイレクトメモリアクセスコントローラ (DMAC) の設定により、DMAC を起動することができます。このとき、CPU へ割り込み発生はしません。DMAC の起動設定を行わない場合は、CPU へ割り込み要求が発生します。DMAC によるデータ転送時に CMF ビットは自動的にクリアされます。

15.4.2 コンペアマッチフラグのセットタイミング

CMCOR と CMCNT が一致するとコンペアマッチ信号が発生し、CMSR の CMF ビットが 1 にセットされます。コンペアマッチ信号は、一致の最終ステート (CMCNT の値が H'0000 に更新されるタイミング) で発生します。つまり、CMCOR と CMCNT の一致後、CMCNT のカウンタ用クロックが入力されないとコンペアマッチ信号は発生しません。図 15.4 に CMF ビットのセットタイミングを示します。

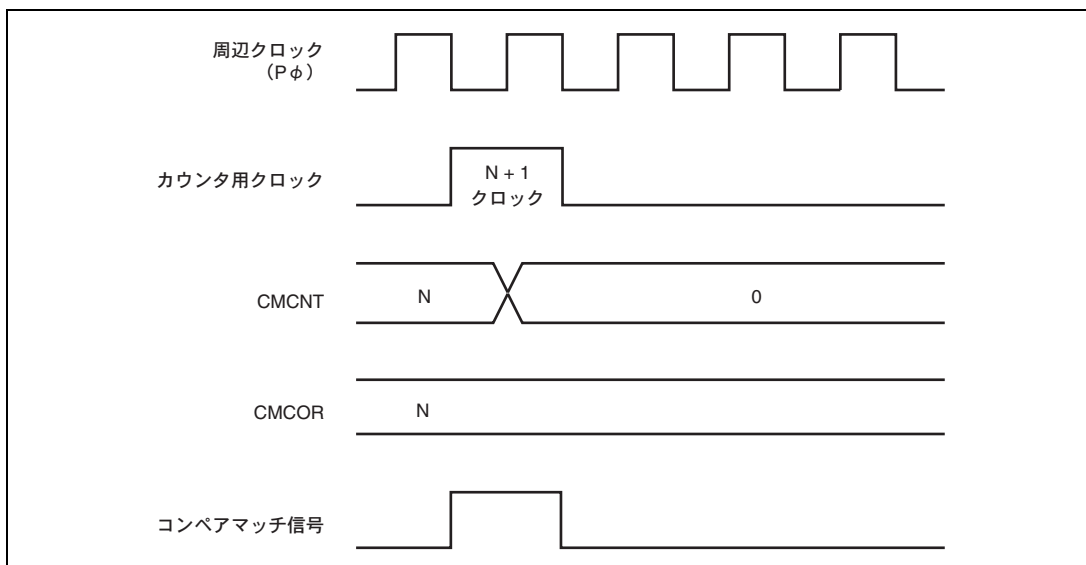


図 15.4 CMF セットタイミング

15.4.3 コンペアマッチフラグのクリアタイミング

CMSR の CMF ビットは、CMF=1 を読み出した後に 0 を書き込むことでクリアされます。ただし、DMAC を起動した場合、DMAC がデータ転送を行った時点で、CMF ビットは自動的にクリアされます。

なお、フラグのクリアは、カウンタの動作状態によらずに実施されます。カウント停止中でも、CPU によるレジスタライトおよび DMAC からの ACK 信号によってフラグはクリアされます。

15.5 使用上の注意事項

15.5.1 CMCNT の書き込みとコンペアマッチの競合

CMCNT カウンタのライトサイクル中の T2 ステートでコンペアマッチ信号が発生すると、CMCNT カウンタへの書き込みは行われず CMCNT カウンタのクリアが優先されます。このタイミングを図 15.5 に示します。

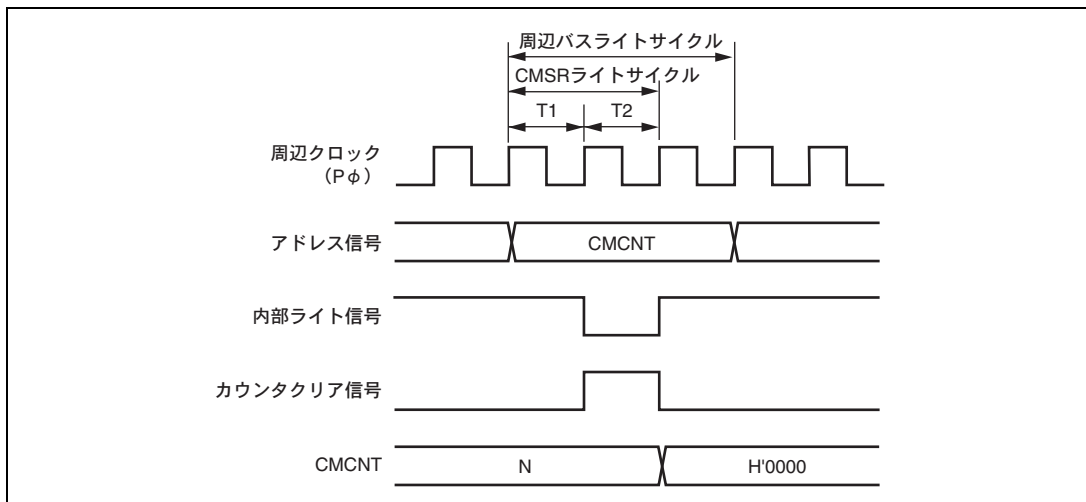


図 15.5 CMCNT の書き込みとコンペアマッチの競合

15.5.2 CMCNT のワード書き込みとカウントアップの競合

CMCNT カウンタのワードライトサイクル中の T2 ステートでカウントアップが発生しても、カウントアップせずにカウンタ書き込みが優先されます。このタイミングを図 15.6 に示します。

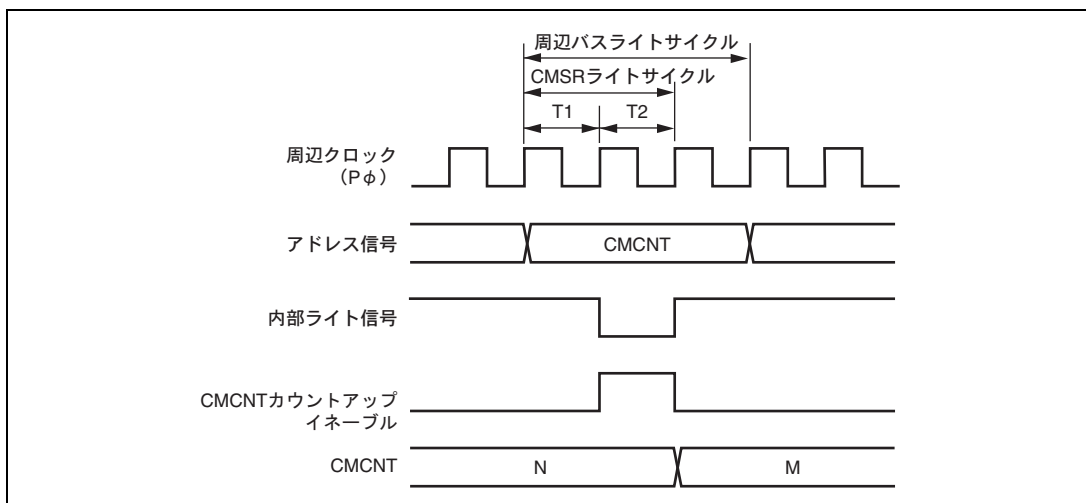


図 15.6 CMCNT のワード書き込みとカウントアップの競合

15.5.3 CPU によるコンペアマッチフラグのクリアとセットの競合

コンペアマッチフラグがセットされた状態で、コンペアマッチフラグの 1 読み出し後の 0 書き込みによるフラグクリア (CMSR レジスタのライトサイクル中の T2 ステート) とコンペアマッチによるフラグセットが同時に発生した場合、フラグセットが優先されます。また、フラグの 1 読み出しから 0 書き込みまでの間にコンペアマッチが発生すると、0 書き込みによるフラグクリアは実行されません。

このタイミングを図 15.7 に示します。左がフラグのセットとクリアが同時に発生した場合であり、右がフラグの 1 読み出しから 0 書き込みまでの間にコンペアマッチが発生した場合です。

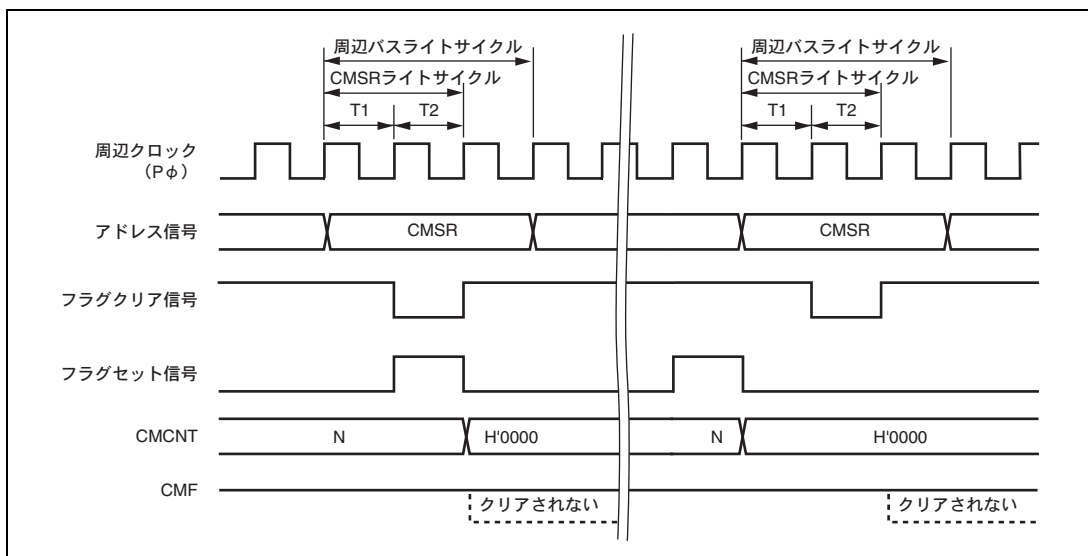


図 15.7 CPU によるコンペアマッチフラグのクリアとセットの競合

16. シリアルコミュニケーションインタフェース (SCI)

SCIは、調歩同期式通信とクロック同期式通信の2方式でシリアル通信ができます。

16.1 特長

- シリアル通信モードを調歩同期式モード、またはクロック同期式モードから選択可能
- 調歩同期式モード

キャラクタ単位で同期をとる調歩同期方式でシリアルデータの通信を行います。Universal Asynchronous Receiver/Transmitter (UART) や Asynchronous Communications Interface Adapter (ACIA) などの標準の調歩同期式通信LSIとのシリアルデータ通信が可能です。

シリアルデータ通信フォーマットを12種類のフォーマットから選択できます。

データ長：7ビット、または8ビット

ストップビット長：1ビット、または2ビット

パリティ：偶数パリティ、奇数パリティ、またはパリティなし

受信エラーの検出：パリティエラー、オーバランエラー、フレーミングエラーを検出

ブレークの検出：フレーミングエラー発生時にRxD端子のレベルを直接読み出すことによりブレークを検出できます。

- クロック同期式モード

クロックに同期してシリアルデータ通信を行います。クロック同期式通信機能を持つ他のLSIとのシリアルデータ通信が可能です。

シリアルデータ通信フォーマットは1種類です。

データ長：8ビット

受信エラーの検出：オーバランエラーを検出

- 全二重通信が可能

独立した送信部と受信部を備えているので、送信と受信を同時に行うことができます。

また、送信部、および受信部ともにダブルバッファ構造になっていますのでシリアルデータの連続送信、連続受信ができます。

- 内蔵ボーレートジェネレータにより任意のビットレートを選択可能
- クロック同期式モードでは、送受信クロックソースを、ボーレートジェネレータからの内部クロック、またはSCK端子からの外部クロックから選択可能
- 4種類の割り込み要因

送信データエンプティ、送信終了、受信データフル、受信エラーの4種類の割り込み要因があり、それぞれ独立に要求することができます。また、送信データエンプティ要求と受信データフル要求により、専用ダイレクトメモリアクセスコントローラ (A-DMAC) を起動させてデータの転送を行うことができます。

図 16.1 に SCI のブロック図を示します。

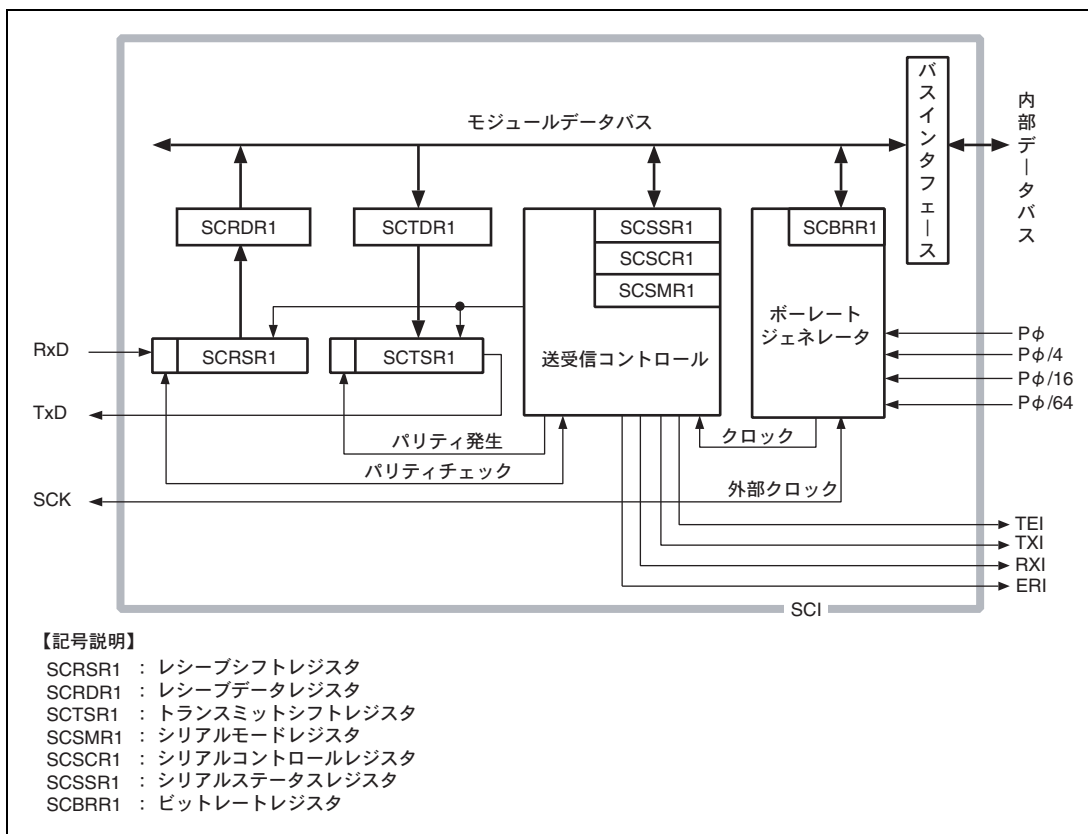


図 16.1 SCI のブロック図

16.2 入出力端子

SCI の端子構成を表 16.1 に示します。

表 16.1 端子構成

チャンネル	名称	端子名	入出力	機能
A	シリアルクロック端子	SCK_A	入出力	クロック入出力
	レシーブデータ端子	RxD_A	入力	受信データ入力
	トランスミットデータ端子	TxD_A	出力	送信データ出力
B	シリアルクロック端子	SCK_B	入出力	クロック入出力
	レシーブデータ端子	RxD_B	入力	受信データ入力
	トランスミットデータ端子	TxD_B	出力	送信データ出力
C	シリアルクロック端子	SCK_C	入出力	クロック入出力
	レシーブデータ端子	RxD_C	入力	受信データ入力
	トランスミットデータ端子	TxD_C	出力	送信データ出力
D	シリアルクロック端子	SCK_D	入出力	クロック入出力
	レシーブデータ端子	RxD_D	入力	受信データ入力
	トランスミットデータ端子	TxD_D	出力	送信データ出力
E	シリアルクロック端子	SCK_E	入出力	クロック入出力
	レシーブデータ端子	RxD_E	入力	受信データ入力
	トランスミットデータ端子	TxD_E	出力	送信データ出力

- 【注】
1. SCI の動作設定を SCSCR1 の TE、RE、CKE1 ビット、および SCSMR1 の C/ \bar{A} ビットで行うことにより、シリアル端子として機能します。
 2. 本文中ではチャンネルを省略し、それぞれ SCK、RxD、TxD と略称します。

16.3 レジスタの説明

SCIには表 16.2 に示すレジスタがあります。これらのレジスタにより調歩同期式モード/クロック同期式モードの指定、データフォーマットの指定、ビットレートの指定、および送信部/受信部の制御を行うことができます。これらのレジスタのアドレスおよび各処理状態におけるレジスタの状態については「第 31 章 レジスタ一覧」を参照してください。

表 16.2 レジスタ構成

チャネル	レジスタ名	略称 ^{*1}	R/W	初期値	アドレス	アクセス サイズ
A	シリアルモードレジスタ	SCSMR1A	R/W	H'00	H'FFFF8000	8
	ビットレートレジスタ	SCBRR1A	R/W	H'FF	H'FFFF8004	8
	シリアルコントロールレジスタ	SCSCR1A	R/W	H'00	H'FFFF8008	8
	トランスミットデータレジスタ	SCTDR1A	R/W	H'FF	H'FFFF800C	8
	シリアルステータスレジスタ	SCSSR1A	R/(W) ^{*2}	H'84	H'FFFF8010	8
	レシーブデータレジスタ	SCRDR1A	R	H'00	H'FFFF8014	8
B	シリアルモードレジスタ	SCSMR1B	R/W	H'00	H'FFFF8800	8
	ビットレートレジスタ	SCBRR1B	R/W	H'FF	H'FFFF8804	8
	シリアルコントロールレジスタ	SCSCR1B	R/W	H'00	H'FFFF8808	8
	トランスミットデータレジスタ	SCTDR1B	R/W	H'FF	H'FFFF880C	8
	シリアルステータスレジスタ	SCSSR1B	R/(W) ^{*2}	H'84	H'FFFF8810	8
	レシーブデータレジスタ	SCRDR1B	R	H'00	H'FFFF8814	8
C	シリアルモードレジスタ	SCSMR1C	R/W	H'00	H'FFFF9000	8
	ビットレートレジスタ	SCBRR1C	R/W	H'FF	H'FFFF9004	8
	シリアルコントロールレジスタ	SCSCR1C	R/W	H'00	H'FFFF9008	8
	トランスミットデータレジスタ	SCTDR1C	R/W	H'FF	H'FFFF900C	8
	シリアルステータスレジスタ	SCSSR1C	R/(W) ^{*2}	H'84	H'FFFF9010	8
	レシーブデータレジスタ	SCRDR1C	R	H'00	H'FFFF9014	8
D	シリアルモードレジスタ	SCSMR1D	R/W	H'00	H'FFFF9800	8
	ビットレートレジスタ	SCBRR1D	R/W	H'FF	H'FFFF9804	8
	シリアルコントロールレジスタ	SCSCR1D	R/W	H'00	H'FFFF9808	8
	トランスミットデータレジスタ	SCTDR1D	R/W	H'FF	H'FFFF980C	8
	シリアルステータスレジスタ	SCSSR1D	R/(W) ^{*2}	H'84	H'FFFF9810	8
	レシーブデータレジスタ	SCRDR1D	R	H'00	H'FFFF9814	8

チャンネル	レジスタ名	略称*1	R/W	初期値	アドレス	アクセス サイズ
E	シリアルモードレジスタ	SCSMR1E	R/W	H'00	H'FFFA000	8
	ビットレートレジスタ	SCBRR1E	R/W	H'FF	H'FFFA004	8
	シリアルコントロールレジスタ	SCSCR1E	R/W	H'00	H'FFFA008	8
	トランスミットデータレジスタ	SCTDR1E	R/W	H'FF	H'FFFA00C	8
	シリアルステータスレジスタ	SCSSR1E	R/(W)*2	H'84	H'FFFA010	8
	レシーブデータレジスタ	SCRDR1E	R	H'00	H'FFFA014	8

【注】 *1 本文中では、チャンネル名を省略してレジスタ名を記述しています。

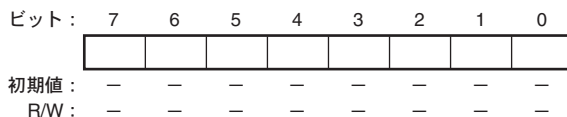
*2 フラグをクリアするために0のみ書き込むことができます。

16.3.1 レシーブシフトレジスタ (SCRSR1)

SCRSR1 は、シリアルデータを受信するためのレジスタです。

SCI は、SCRSR1 に RxD 端子から入力されたシリアルデータを LSB (ビット 0) から受信した順にセットし、パラレルデータに変換します。1 バイトのデータ受信を終了すると、データは自動的に SCRDR1 へ転送されます。

CPU から直接 SCRSR1 の読み出し/書き込みをすることはできません。



16.3.2 レシーブデータレジスタ (SCRDR1)

SCRDR1 は、受信したシリアルデータを格納するレジスタです。

SCI は、1 バイトのシリアルデータの受信が終了すると、レシーブシフトレジスタ (SCRSR1) から SCRDR1 へ受信したシリアルデータを転送して格納し、受信動作を完了します。この後、SCRSR1 は受信可能になります。

このように、SCRSR1 と SCRDR1 はダブルバッファになっているため連続した受信動作が可能です。

SCRDR1 は、読み出し専用レジスタですので CPU から書き込むことはできません。

SCRDR1 は、パワーオンリセット時およびスタンバイモード時に H'00 に初期化されます。



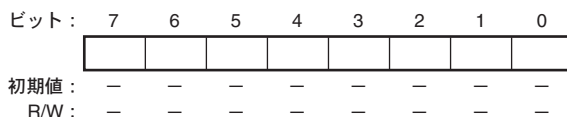
16.3.3 トランスミットシフトレジスタ (SCTSR1)

SCTSR1 は、シリアルデータを送信するためのレジスタです。

SCI は、トランスミットデータレジスタ (SCTDR1) から送信データをいったん SCTSR1 に転送し、LSB (ビット 0) から順に TxD 端子に送り出すことでシリアルデータ送信を行います。

1 バイトのデータ送信を終了すると自動的に SCTDR1 から SCTSR1 へ次の送信データを転送し、送信を開始します。ただし、シリアルステータスレジスタ (SCSSR1) の TDRE フラグが 1 にセットされている場合には、SCTDR1 から SCTSR1 へのデータ転送は行いません。

CPU から直接 SCTSR1 の読み出し/書き込みをすることはできません。



16.3.4 トランスミットデータレジスタ (SCTDR1)

SCTDR1 は、シリアル送信するデータを格納する 8 ビットのレジスタです。

SCI は、トランスミットシフトレジスタ (SCTSR1) の空を検出すると、SCTDR1 に書き込まれた送信データを SCTSR1 に転送してシリアル送信を開始します。SCTSR1 のシリアルデータ送信中に SCTDR1 に次の送信データを書き込んでおくと、連続シリアル送信ができます。

SCTDR1 は、常に CPU による読み出し／書き込みが可能です。

SCTDR1 は、パワーオンリセット時およびスタンバイモード時に H'FF に初期化されます。

ビット:	7	6	5	4	3	2	1	0
初期値:	1	1	1	1	1	1	1	1
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

16.3.5 シリアルモードレジスタ (SCSMR1)

SCSMR1 は、SCI のシリアル通信フォーマットの設定と、ポーレートジェネレータのクロックソースを選択するための 8 ビットのレジスタです。

SCSMR1 は、常に CPU による読み出し／書き込みが可能です。

SCSMR1 は、パワーオンリセット時およびスタンバイモード時に H'00 に初期化されます。

ビット:	7	6	5	4	3	2	1	0
	C/ \bar{A}	CHR	PE	O/ \bar{E}	STOP	-	CKS[1:0]	
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7	C/ \bar{A}	0	R/W	コミュニケーションモード SCI の動作モードを調歩同期式モードとクロック同期式モードのいずれかから選択します。 0 : 調歩同期式モード 1 : クロック同期式モード
6	CHR	0	R/W	キャラクタレンクス 調歩同期式モードのデータ長を 7 ビット／8 ビットデータのいずれかから選択します。クロック同期式モードでは CHR ビットの設定にかかわらず、データ長は 8 ビットデータ固定です。7 ビットデータを選択した場合、トランスミットデータレジスタ (SCTDR1) の MSB (ビット 7) は送信されません。 0 : 8 ビットデータ 1 : 7 ビットデータ

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
5	PE	0	R/W	<p>パリティネーブル</p> <p>調歩同期モードでは、送信時にパリティビットの付加を、受信時にパリティビットのチェックを行うかどうかを選択します。クロック同期モードでは、PE ビットの設定にかかわらずパリティビットの付加、およびチェックは行いません。</p> <p>0: パリティビットの付加、およびチェックを禁止 1: パリティビットの付加、およびチェックを許可*</p> <p>【注】* PE ビットに1をセットすると送信時には、O/E ビットで指定した偶数、または奇数パリティを送信データに付加して送信します。受信時には、受信したパリティビットが O/E ビットで指定した偶数、または奇数パリティになっているかどうかをチェックします。</p>
4	O/E	0	R/W	<p>パリティモード</p> <p>パリティの付加やチェックを偶数パリティ、または奇数パリティのいずれで行うかを選択します。O/E ビットの設定は、調歩同期モードで PE ビットに1を設定しパリティビットの付加やチェックを許可したときのみ有効になります。クロック同期モードや、調歩同期モードでパリティの付加やチェックを禁止している場合には、O/E ビットの設定は無効です。</p> <p>0: 偶数パリティ 1: 奇数パリティ</p> <p>偶数パリティに設定すると送信時には、パリティビットと送信キャラクタをあわせて、その中の1の数の合計が偶数になるようにパリティビットを付加して送信します。受信時には、パリティビットと受信キャラクタを合わせて、その中の1の数の合計が偶数であるかどうかをチェックします。</p> <p>奇数パリティに設定すると送信時には、パリティビットと送信キャラクタを合わせて、その中の1の数の合計が奇数になるようにパリティビットを付加して送信します。受信時には、パリティビットと受信キャラクタを合わせて、その中の1の数の合計が奇数であるかどうかをチェックします。</p>
3	STOP	0	R/W	<p>ストップビットレングス</p> <p>調歩同期モードでのストップビットの長さを1ビット/2ビットのいずれかから選択します。STOP ビットの設定は調歩同期モードでのみ有効になります。クロック同期モードに設定した場合にはストップビットは付加されませんので、このビットの設定は無効です。</p> <p>0: 1ストップビット*¹ 1: 2ストップビット*²</p> <p>なお、受信時には STOP ビットの設定にかかわらず、受信したストップビットの1ビット目のみをチェックします。ストップビットの2ビット目が1の場合は、ストップビットとして扱いますが、0の場合は、次の送信キャラクタのスタートビットとして扱います。</p> <p>【注】*¹ 送信時には、送信キャラクタの最後尾に1ビットの1（ストップビット）を付加して送信します。 *² 送信時には、送信キャラクタの最後尾に2ビットの1（ストップビット）を付加して送信します。</p>

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
2	—	0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。
1, 0	CKS[1:0]	00	R/W	<p>クロックセレクト 1, 0</p> <p>内蔵ボーレートジェネレータのクロックソースを選択します。CKS1、CKS0 ビットの設定で Pφ、Pφ/4、Pφ/16、Pφ/64 の 4 種類からクロックソースを選択できます。</p> <p>クロックソースと、ビットレートレジスタの設定値、およびボーレートの関係については、「16.3.8 ビットレートレジスタ (SCBRR1)」を参照してください。</p> <p>00 : Pφ クロック 01 : Pφ/4 クロック 10 : Pφ/16 クロック 11 : Pφ/64 クロック</p> <p>【注】 Pφ : 周辺クロック</p>

16.3.6 シリアルコントロールレジスタ (SCSCR1)

SCSCR1 は、SCI の送信/受信動作、割り込み要求の許可/禁止、および送信/受信クロックソースの選択を行うレジスタです。

SCSCR1 は、常に CPU による読み出し/書き込みが可能です。

SCSCR1 は、パワーオンリセット時およびスタンバイモード時に H'00 に初期化されます。

ビット :	7	6	5	4	3	2	1	0
	TIE	RIE	TE	RE	—	TEIE	CKE1	—
初期値 :	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W :	R/W	R/W	R/W	R/W	R	R/W	R/W	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
7	TIE	0	R/W	<p>トランスミットインタラプトイネーブル</p> <p>トランスミットデータレジスタ (SCTDR1) からトランスミットシフトレジスタ (SCTSR1) へシリアル送信データが転送されシリアルステータスレジスタ (SCSSR1) の TDRE フラグが 1 にセットされたときに、送信データエンプティ割り込み (TXI) 要求の発生を許可/禁止します。</p> <p>0 : 送信データエンプティ割り込み (TXI) 要求を禁止*</p> <p>1 : 送信データエンプティ割り込み (TXI) 要求を許可</p> <p>【注】* TXI の解除は、TDRE フラグの 1 を読み出した後、0 にクリアするか、または TIE を 0 にクリアすることで行うことができます。また、A-DMAC で SCTDR1 へデータを書き込んだときにも TXI 要求は解除されます。</p>

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
6	RIE	0	R/W	<p>レシーブインタラプトイネーブル</p> <p>シリアル受信データがレシーブシフトレジスタ (SCRSR1) からレシーブデータレジスタ (SCRDR1) へ転送されて SCSSR1 の RDRF フラグが 1 にセットされたとき、受信データフル割り込み (RXI) 要求、および受信エラー割り込み (ERI) 要求の発生を許可/禁止します。</p> <p>0: 受信データフル割り込み (RXI) 要求、および受信エラー割り込み (ERI) 要求を禁止*</p> <p>1: 受信データフル割り込み (RXI) 要求、および受信エラー割り込み (ERI) 要求を許可</p> <p>【注】* RXI 要求の解除は、RDRF フラグが 1 の状態を読み出した後、0 にクリアするか、RIE ビットを 0 にクリアすることで行えます。また A-DMAC で SCRDR1 のデータを読み出したときにも RXI 要求は解除されます。ERI 割り込み要求の解除は、FER、PER、ORER フラグの 1 を読み出した後、0 にクリアするか、RIE ビットを 0 にクリアすることで行えます。</p>
5	TE	0	R/W	<p>トランスミットイネーブル</p> <p>SCI のシリアル送信動作の開始を許可/禁止します。</p> <p>0: 送信動作を禁止*¹</p> <p>1: 送信動作を許可*²</p> <p>【注】 *1 SCSSR1 の TDRE フラグは 1 に固定されます。送信動作の禁止と同時に送信データフル割り込み (TXI) 要求を禁止したい場合は、TE ビットを 0 にクリアすると同時に TIE ビットも 0 にクリアしてください。</p> <p>*2 この状態で、SCTDR1 に送信データを書き込んで、SCSSR1 の TDRE フラグを 0 にクリアするとシリアル送信を開始します。なお、TE ビットを 1 にセットする前に必ずシリアルモードレジスタ (SCSMR1) の設定を行い送信フォーマットを決定してください。</p>
4	RE	0	R/W	<p>レシーブイネーブル</p> <p>SCI のシリアル受信動作の開始を許可/禁止します。</p> <p>0: 受信動作を禁止*¹</p> <p>1: 受信動作を許可*²</p> <p>【注】 *1 RE ビットを 0 にクリアしても RDRF、FER、PER、ORER の各フラグは影響を受けず、状態を保持しますので注意してください。また、受信動作の禁止と同時に受信データフル割り込み (RXI) 要求を禁止したい場合は、RE ビットを 0 にクリアすると同時に、RIE ビットも 0 にクリアしてください。</p> <p>*2 この状態で調歩同期モードの場合はスタートビットを、クロック同期モードの場合は同期クロック入力をそれぞれ検出すると、シリアル受信を開始します。なお、RE ビットを 1 にセットする前に必ず SCSMR1 の設定を行い、受信フォーマットを決定してください。</p>
3	—	0	R	<p>リザーブビット</p> <p>読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。</p>

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
2	TEIE	0	R/W	<p>トランスミットエンドインタラプトイネーブル</p> <p>MSB データ送出時に有効な送信データが SCTDR1 にないとき、送信終了割り込み (TEI) 要求の発生を許可/禁止します。</p> <p>TEI の解除は、SCSSR1 の TDRE フラグの 1 を読み出した後、0 にクリアして TEND フラグを 0 にクリアするか、TEIE ビットを 0 にクリアすることで行うことができます。また、A-DMAC で SCTDR1 へデータを書き込んだときにも TEI 要求は解除されます。</p> <p>0 : 送信終了割り込み (TEI) 要求を禁止 1 : 送信終了割り込み (TEI) 要求を許可</p>
1	CKE1	0	R/W	<p>クロックイネーブル 1</p> <p>SCI のクロック同期モード時のクロックソースの選択および SCK 端子の入力、出力機能を設定します。</p> <p>CKE1 を設定する場合は SCSSMR1 の C/A\bar{A} ビットを 1 に設定してから CKE1 ビットを設定してください。SCI のクロックソースの選択についての詳細は「16.4 動作説明」の表 16.10 を参照してください。</p> <p>0 : 内部クロック/SCK 端子は同期クロック出力 1 : 外部クロック/SCK 端子は同期クロック入力*</p> <p>【注】 * 調歩同期モード設定時 (C/A\bar{A}=0) は、CKE1 ビットを 1 に設定しないでください。設定した場合の動作は保証されません。</p>
0	—	0	R	<p>リザーブビット</p> <p>読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。</p>

16.3.7 シリアルステータスレジスタ (SCSSR1)

SCSSR1 は、SCI の動作状態を示すステータスフラグを内蔵した 8 ビットのレジスタです。

SCSSR1 は常に CPU から読み出し／書き込みができます。ただし、TDRE、RDRF、ORER、PER、FER の各フラグへ 1 を書き込むことはできません。また、これらを 0 にクリアするためには、あらかじめ 1 を読み出ししておく必要があります。また、TEND フラグは読み出し専用であり、書き込むことはできません。

SCSSR1 は、パワーオンリセット時およびスタンバイモード時に H'84 に初期化されます。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	TDRE	RDRF	ORER	FER	PER	TEND	-	-
初期値：	1	0	0	0	0	1	0	0
R/W：	R/(W)*	R/(W)*	R/(W)*	R/(W)*	R/(W)*	R	R	R

【注】* フラグをクリアするため、1を読み出した後に0を書き込むことのみ可能です。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7	TDRE	1	R/(W)*	トランスミットデータレジスタエンプティ トランスミットデータレジスタ (SCTDR1) からトランスミットシフトレジスタ (SCTSR1) にデータ転送が行われ SCTDR1 に次のシリアル送信データを書き込むことが可能になったことを示します。 0 : SCTDR1 に有効な送信データが書き込まれていることを表示 [クリア条件] <ul style="list-style-type: none"> • TDRE=1 の状態を読み出した後、0 を書き込んだとき • A-DMAC で SCTDR1 へデータを書き込んだとき 1 : SCTDR1 に有効な送信データがないことを表示 [セット条件] <ul style="list-style-type: none"> • パワーオンリセット • SCSSR1 の TE ビットが 0 のとき • SCTDR1 から SCTSR1 にデータ転送が行われ SCTDR1 にデータの書き込みが可能になったとき

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
6	RDRF	0	R/(W)*	<p>レシーブデータレジスタフル</p> <p>受信したデータがレシーブデータレジスタ (SCRDR1) に格納されていることを示します。</p> <p>0 : SCRDR1 に有効な受信データが格納されていないことを表示</p> <p>[クリア条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • パワーオンリセット • RDRF=1 の状態を読み出した後、0 を書き込んだとき • A-DMAC で SCRDR1 のデータを読み出したとき <p>1 : SCRDR1 に有効な受信データが格納されていることを表示</p> <p>[セット条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • シリアル受信が正常終了し、SCRDR1 から SCRDR1 へ受信データが転送されたとき <p>【注】 受信時にエラーを検出したとき、およびシリアルコントロールレジスタ (SCSCR1) の RE ビットを 0 にクリアしたときには SCRDR1 および RDRF フラグは影響を受けず以前の状態を保持します。</p> <p>RDRF フラグが 1 にセットされたまま次のデータを受信完了するとオーバーランエラーが発生し、受信データが失われますので注意してください。</p>
5	ORER	0	R/(W)*	<p>オーバーランエラー</p> <p>受信時にオーバーランエラーが発生して異常終了したことを示します。</p> <p>0 : 受信中、または正常に受信を完了したことを表示^{*1}</p> <p>[クリア条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • パワーオンリセット • ORER=1 の状態を読み出した後、0 を書き込んだとき <p>1 : 受信時にオーバーランエラーが発生したことを表示^{*2}</p> <p>[セット条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • RDRF=1 の状態で次のシリアル受信を完了したとき <p>【注】 *1 SCSCR1 の RE ビットを 0 にクリアしたときには、ORER フラグは影響を受けず以前の状態を保持します。</p> <p>*2 SCRDR1 ではオーバーランエラーが発生する前の受信データを保持し、後から受信したデータが失われます。さらに、ORER=1 にセットされた状態で、以降のシリアル受信を続けることはできません。</p>

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
4	FER	0	R/(W)*	<p>フレーミングエラー</p> <p>調歩同期モードで受信時にフレーミングエラーが発生して異常終了したことを示します。</p> <p>0: 受信中、または正常に受信を完了したことを表示*¹</p> <p>[クリア条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • パワーオンリセット • FER=1の状態を読み出した後、0を書き込んだとき <p>1: 受信時にフレーミングエラーが発生したことを表示</p> <p>[セット条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • SCIが受信終了時に受信データの最後尾のストップビットが1であるかどうかをチェックし、ストップビットが0であったとき*² <p>【注】 *1 SCSCR1のREビットを0にクリアしたときには、FERフラグは影響を受けず以前の状態を保持します。</p> <p>*2 2ストップビットモードのときは、1ビット目のストップビットが1であるかどうかのみを判定し、2ビット目のストップビットはチェックしません。なお、フレーミングエラーが発生したときの受信データはSCRDR1に転送されますが、RDRFフラグはセットされません。さらに、FERフラグが1にセットされた状態においては、以降のシリアル受信を続けることはできません。</p>
3	PER	0	R/(W)*	<p>パリティエラー</p> <p>調歩同期モードで、パリティを付加した受信時にパリティエラーが発生して異常終了したことを表示します。</p> <p>0: 受信中、または正常に受信を完了したことを表示*¹</p> <p>[クリア条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • パワーオンリセット • PER=1の状態を読み出した後、0を書き込んだとき <p>1: 受信時にパリティエラーが発生したことを表示*²</p> <p>[セット条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • 受信時の受信データとパリティビットを合わせた1の数が、シリアルモードレジスタ(SCSMR1)のO/Eビットで指定した偶数パリティ/奇数パリティの設定と一致しなかったとき <p>【注】 *1 SCSCR1のREビットを0にクリアしたときには、PERフラグは影響を受けず以前の状態を保持します。</p> <p>*2 パリティエラーが発生したときの受信データはSCRDR1に転送されますが、RDRFフラグはセットされません。なお、PERフラグが1にセットされた状態では、以降のシリアル受信を続けることはできません。</p>

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
2	TEND	1	R	<p>トランスミットエンド</p> <p>送信キャラクタの最後尾ビットの送信時に SCTDR1 に有効なデータがなく、送信を終了したことを示します。</p> <p>TEND フラグは読み出し専用ですので、書き込むことはできません。</p> <p>0 : 送信中であることを表示</p> <p>[クリア条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • TDRE=1 の状態を読み出した後、TDRE フラグに 0 を書き込んだとき <p>1 : 送信を終了したことを表示</p> <p>[セット条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • パワーオンリセット • SCSCR1 の TE ビットが 0 のとき • 1 バイトのシリアル送信キャラクタの最後尾ビットの送信時に TDRE=1 であったとき <p>【注】 A-DMAC への TXI 割り込み要求で SCTDR1 にデータを書き込んだ場合、送信終了フラグとして本フラグを使用しないでください。</p>
1、0	—	すべて 0	R	<p>リザーブビット</p> <p>読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。</p>

【注】 * フラグをクリアするため、1 を読み出した後に 0 を書き込むことのみ可能です。

16.3.8 ビットレートレジスタ (SCBRR1)

SCBRR1 は、シリアルモードレジスタ (SCSMR1) の CKS1、CKS0 ビットで選択されるボーレートジェネレータの動作クロックと合わせて、シリアル送信/受信のビットレートを設定する 8 ビットのレジスタです。

SCBRR1 は、常に CPU による読み出し/書き込みが可能です。

SCBRR1 は、パワーオンリセット時およびスタンバイモード時に H'FF に初期化されます。調歩同期式モードでの最大ビットレートは 1.25Mbit/s です。SCBRR1 には最大ビットレートを超える値を設定しないでください。設定した場合の動作は保証されません。

SCBRR1 の設定値は以下の計算式で求められます。

ビット:	7	6	5	4	3	2	1	0
初期値:	1	1	1	1	1	1	1	1
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

[調歩同期式モード]

$$N = \frac{P\phi}{32 \times 2^{2n-1} \times B} \times 10^6 - 1$$

[クロック同期式モード]

$$N = \frac{P\phi}{8 \times 2^{2n-1} \times B} \times 10^6 - 1$$

B: ビットレート (bit/s)

N: ボーレートジェネレータの SCBRR1 の設定値 ($0 \leq N \leq 255$)

(電気的特性を満足する設定値としてください)

Pφ: 周辺モジュール用動作周波数 (MHz)

n: ボーレートジェネレータ入力クロック (n=0, 1, 2, 3)

(n とクロックの関係は、表 16.3 を参照してください)

表 16.3 SCSMR1 の設定値

n	クロック	SCSMR1 の設定値	
		CKS1	CKS0
0	Pφ	0	0
1	Pφ/4	0	1
2	Pφ/16	1	0
3	Pφ/64	1	1

調歩同期式モードのビットレート誤差は、以下の計算式で求められます。

$$\text{誤差 (\%)} = \left\{ \frac{P\phi \times 10^6}{(N+1) \times B \times 32 \times 2^{2n-1}} - 1 \right\} \times 100$$

表 16.4 に調歩同期式モードの SCBRR1 の設定例を、表 16.5 にクロック同期式モードの SCBRR1 の設定例を示します。

表 16.4 ビットレートに対する SCBRR1 の設定例 (調歩同期式モード)

ビットレート (bit/s)	P ϕ (MHz)					
	16			18		
	n	N	誤差 (%)	n	N	誤差 (%)
110	3	141	0.03	3	159	-0.12
150	3	103	0.16	3	116	0.16
300	3	51	0.16	2	233	0.16
600	3	25	0.16	2	116	0.16
1200	3	12	0.16	1	233	0.16
2400	2	25	0.16	1	116	0.16
4800	2	12	0.16	0	233	0.16
9600	1	25	0.16	0	116	0.16
19200	1	12	0.16	0	58	-0.69
31250	1	7	0	0	35	0
38400	0	25	0.16	0	28	1.02

ビットレート (bit/s)	P ϕ (MHz)					
	20			32		
	n	N	誤差 (%)	n	N	誤差 (%)
110	3	177	-0.25	—	—	—
150	3	129	0.16	3	207	0.16
300	3	64	0.16	3	103	0.16
600	2	129	0.16	2	207	0.16
1200	2	64	0.16	2	103	0.16
2400	1	129	0.16	1	207	0.16
4800	1	64	0.16	1	103	0.16
9600	0	129	0.16	0	207	0.16
19200	0	64	0.16	0	103	0.16
31250	0	39	0	0	63	0
38400	0	32	-1.36	0	51	0.16

ビットレート (bit/s)	Pφ (MHz)					
	36			40		
	n	N	誤差 (%)	n	N	誤差 (%)
110	—	—	—	—	—	—
150	3	233	0.16	—	—	—
300	3	116	0.16	3	129	0.16
600	2	233	0.16	3	64	0.16
1200	2	116	0.16	2	129	0.16
2400	1	233	0.16	2	64	0.16
4800	1	116	0.16	1	129	0.16
9600	0	233	0.16	1	64	0.16
19200	0	116	0.16	0	129	0.16
31250	0	71	0	0	79	0
38400	0	58	-0.68	0	64	0.16

表 16.5 ビットレートに対する SCBRR1 の設定例 (クロック同期式モード)

ビットレート (bit/s)	Pφ (MHz)					
	16		18		20	
	n	N	n	N	n	N
10	—	—	—	—	—	—
250	3	249	—	—	—	—
500	3	124	—	—	—	—
1k	2	249	—	—	—	—
2.5k	2	99	—	—	2	124
5k	1	199	1	224	1	249
10k	1	99	—	—	—	—
25k	0	159	1	44	1	49
50k	0	79	0	89	1	24
100k	0	39	0	44	0	49
250k	0	15	0	17	0	19
500k	0	7	0	8	0	9
1M	0	3	—	—	0	4
2.5M	—	—	—	—	0	1

ビットレート (bit/s)	Pφ (MHz)					
	32		36		40	
	n	N	n	N	n	N
10	—	—	—	—	—	—
250	—	—	—	—	—	—
500	3	249	—	—	—	—
1k	3	124	—	—	—	—
2.5k	2	199	2	224	2	249
5k	2	99	—	—	2	124
10k	1	199	1	224	1	249
25k	1	79	1	89	1	99
50k	0	159	0	179	1	49
100k	0	79	0	89	1	24
250k	0	31	0	35	0	39
500k	0	15	0	17	0	19
1M	0	7	0	8	0	9
2.5M	—	—	—	—	0	3

【注】 誤差は、なるべく1%以内になるように設定してください。

【記号説明】

空欄：設定できません。

—：設定可能ですが誤差がでます。

表 16.6 にボーレートジェネレータを使用する場合の調歩同期式モードの各周波数における最大ビットレートを示します。また、表 16.7、表 16.8 に外部クロック入力時の最大ビットレートを示します。

表 16.6 ボーレートジェネレータを使用する場合の各周波数における最大ビットレート (調歩同期式モード)

Pφ (MHz)	最大ビットレート (bit/s)	設定値	
		n	N
16	1000000	0	0
18	1125000	0	0
20	1250000	0	0
32	1000000	0	1
36	1125000	0	1
40	1250000	0	1

表 16.7 外部クロック入力時の最大ビットレート (クロック同期式モード : $t_{\text{sync}} = 12_{\text{cyc}}$ 時)

Pφ (MHz)	外部入力クロック (MHz)	最大ビットレート (bit/s)
16	1.33	1333333
18	1.5	1500000
20	1.67	1666666

表 16.8 外部クロック入力時の最大ビットレート (クロック同期式モード : $t_{\text{sync}} = 16_{\text{cyc}}$ 時)

Pφ (MHz)	外部入力クロック (MHz)	最大ビットレート (bit/s)
32	2	2000000
36	2.25	2250000
40	2.5	2500000

16.4 動作説明

16.4.1 概要

SCIは、キャラクタ単位で同期をとりながら通信する調歩同期式モードと、クロックパルスにより同期をとりながら通信するクロック同期式モードの2方式で、シリアル通信ができます。

調歩同期式モードと、クロック同期式モードの選択および送信フォーマットの選択は、シリアルモードレジスタ (SCSMR1)で行います。これを表 16.9 に示します。また、SCIのクロックソースは、SCSMR1のC/Aビットおよびシリアルコントロールレジスタ (SCSCR1)のCKE1ビットの組み合わせで決まります。これを表 16.10 に示します。

(1) 調歩同期式モード

- データ長：7ビット/8ビットから選択可能
- パリティの付加および1ビット/2ビットのストップビットの付加を選択可能（これらの組み合わせにより送信/受信フォーマット、およびキャラクタ長を決定）
- 受信時にフレーミングエラー、パリティエラー、オーバランエラー、およびブレークの検出が可能
- SCIのクロックソース：内部ポーレートジェネレータのクロックで動作

(2) クロック同期式モード

- 送信/受信フォーマット：8ビットデータ固定
- 受信時にオーバランエラーの検出可能
- SCIのクロックソース：内部クロック/外部クロックから選択可能
内部クロックを選択した場合：SCIはポーレートジェネレータのクロックで動作し、同期クロックを外部へ出力
外部クロックを選択した場合：内部ポーレートジェネレータを使用せず、入力された同期クロックで動作

表 16.9 SCSMR1 の設定値とシリアル送信/受信フォーマット

SCSMR1 の設定値				モード	SCI の送信/受信フォーマット		
ビット 7	ビット 6	ビット 5	ビット 3		データ長	パリティビット	ストップビット長
C/ \bar{A}	CHR	PE	STOP				
0	0	0	0	調歩同期式モード	8 ビットデータ	なし	1 ビット
			1				2 ビット
		1	0				1 ビット
			1				2 ビット
	1	0	0		7 ビットデータ	なし	1 ビット
			1				2 ビット
		1	0				1 ビット
			1				2 ビット
1	x	x	x	クロック同期式モード	8 ビットデータ	なし	なし

【記号説明】 x : Don't care

表 16.10 SCSMR1、SCSCR1 の設定と SCI のクロックソースの選択

SCSMR1	SCSCR1 の設定値	モード	クロック ソース	SCK 端子の機能
ビット 7	ビット 1			
C/ \bar{A}	CKE1			
0	0*	調歩同期式モード	内部	SCI は SCK 端子を使用しません
1	0	クロック同期式モード	内部	同期クロックを出力
	1		外部	同期クロックを入力

【注】 * 調歩同期式モード設定時には、CKE1 ビットを 1 に設定しないでください。設定した場合の動作は保証されません。

16.4.2 調歩同期式モード時の動作

調歩同期式モードは、通信開始を意味するスタートビットと通信終了を意味するストップビットとをデータに付加したキャラクタを送信/受信し、1キャラクタ単位で同期をとりながらシリアル通信を行うモードです。

SCI 内部では、送信部と受信部は独立していますので、全二重通信を行うことができます。また、送信部と受信部がともにダブルバッファ構造になっていますので、送信/受信中にデータの読み出し/書き込みができるので、連続送信/受信が可能です。

調歩同期式シリアル通信の一般的なフォーマットを図 16.2 に示します。

調歩同期式シリアル通信では、通信回線は通常、マーク状態（ハイレベル）に保たれています。SCI は通信回線を監視し、スペース（ローレベル）になったところをスタートビットとみなしてシリアル通信を開始します。

シリアル通信の1キャラクタは、スタートビット（ローレベル）から始まり、データ（LSB ファースト：最下位ビットから）、パリティビット（ハイ/ローレベル）、最後にストップビット（ハイレベル）の順で構成されています。

調歩同期式モードでは、SCI は受信時にスタートビットの立ち下がりエッジで同期化を行います。また SCI は、データを1ビット期間の16倍の周波数のクロックの8番目でサンプリングしますので、各ビットの中央で通信データが取り込まれます。

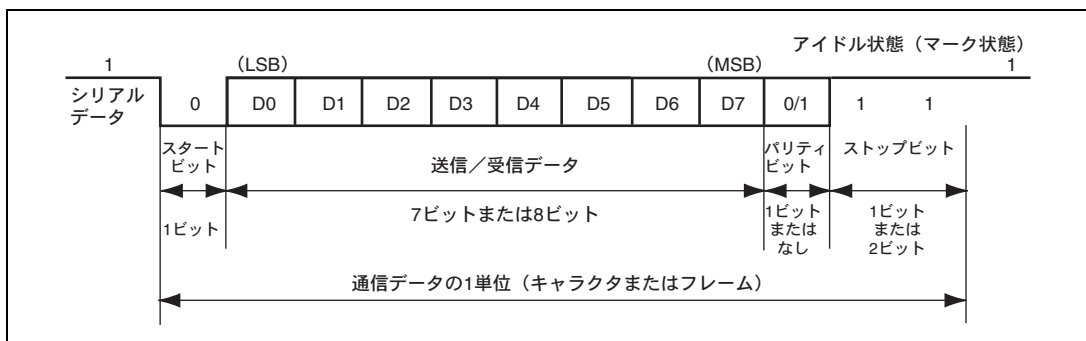


図 16.2 調歩同期式通信のデータフォーマット
(8ビットデータ/パリティあり/2ストップビットの例)

(1) 送信/受信フォーマット

調歩同期式モードで設定できる送信/受信フォーマットを、表 16.11 に示します。

送信/受信フォーマットは 8 種類あり、シリアルモードレジスタ (SCSMR1) の設定により選択できます。

表 16.11 シリアル送信/受信フォーマット (調歩同期式モード)

SCSMR1の設定			シリアル送信/受信フォーマットとフレーム長												
CHR	PE	STOP	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
0	0	0	S	8ビットデータ								STOP			
0	0	1	S	8ビットデータ								STOP	STOP		
0	1	0	S	8ビットデータ								P	STOP		
0	1	1	S	8ビットデータ								P	STOP	STOP	
1	0	0	S	7ビットデータ							STOP				
1	0	1	S	7ビットデータ							STOP	STOP			
1	1	0	S	7ビットデータ							P	STOP			
1	1	1	S	7ビットデータ							P	STOP	STOP		

【記号説明】

S : スタートビット

STOP : ストップビット

P : パリティビット

(2) クロック

SCI の送受信クロックは、内蔵ポーレートジェネレータの生成した内部クロックを使用します。調歩同期式モード設定時は、必ずシリアルコントロールレジスタ (SCSCR1) の CKE1 ビットを 0 に設定してください。CKE1 ビットを 1 に設定した場合、動作の保証はできません。SCI のクロックソースの選択については表 16.10 を参照してください。

(3) データの送信/受信動作

• SCIの初期化 (調歩同期式モード)

データの送信/受信前には、まず SCSCR1 の TE ビット、および RE ビットを 0 にクリアした後、以下の順で SCI を初期化してください。

TE ビットが 0 で、SCSCR1 の TIE ビットが 1 にセットされている場合、送信データエンプティ割り込み (TXI) 要求が発生します。SCI の初期化時に TXI 要求を禁止したい場合は、TE ビットを 0 にクリアすると同時に TIE ビットも 0 にクリアしてください。また、RE ビットが 0 であっても、SCSCR1 の RIE ビットが 1 で RDRF フラグが 1 の場合、受信データフル割り込み (RXI) 要求が発生します。SCI の初期化時に RXI 要求を禁止したい場合は、RE ビットを 0 にクリアすると同時に、RIE ビットも 0 にクリアしてください。

動作モードの変更、通信フォーマットの変更などの場合には必ず、TE ビットおよび RE ビットを 0 にクリアしてから次の手順で変更を行ってください。TE ビットを 0 にクリアすると TDRE フラグは 1 にセットされ、トランスミットシフトレジスタ (SCTSR1) が初期化されます。RE ビットを 0 にクリアしても、RDRF、PER、FER、ORER の各フラグ、およびレシープデータレジスタ (SCRDR1) の内容は保持されますので注意してください。

外部クロックを使用している場合には、動作が不確実になりますので初期化を含めた動作中にクロックを止めないでください。

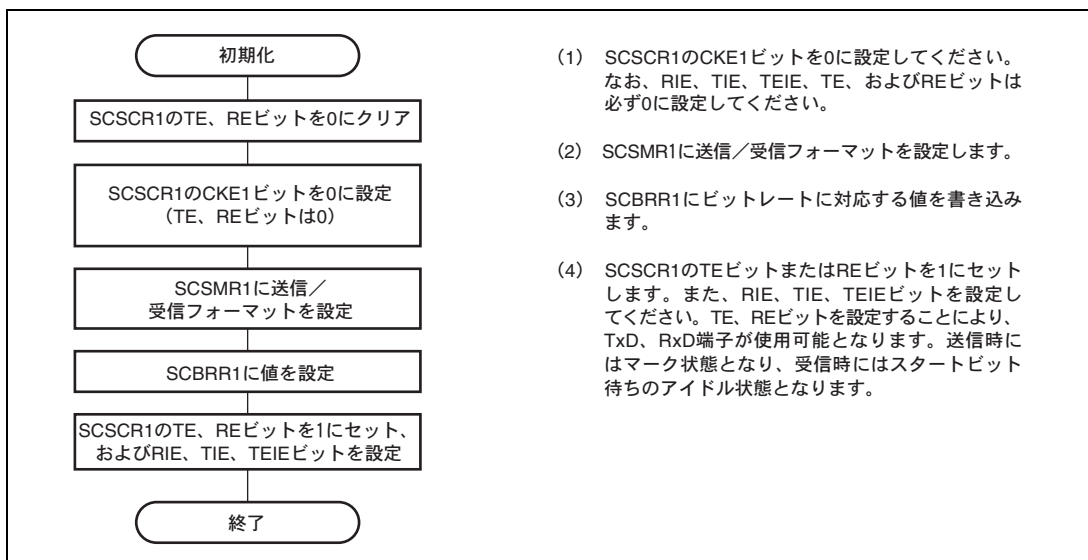


図 16.3 SCI の初期化フローチャートの例

● シリアルデータ送信（調歩同期式モード）

図 16.4 にシリアル送信のフローチャートの例を示します。

シリアルデータ送信は、SCI を送信動作可能状態に設定した後、以下の手順に従って行ってください。

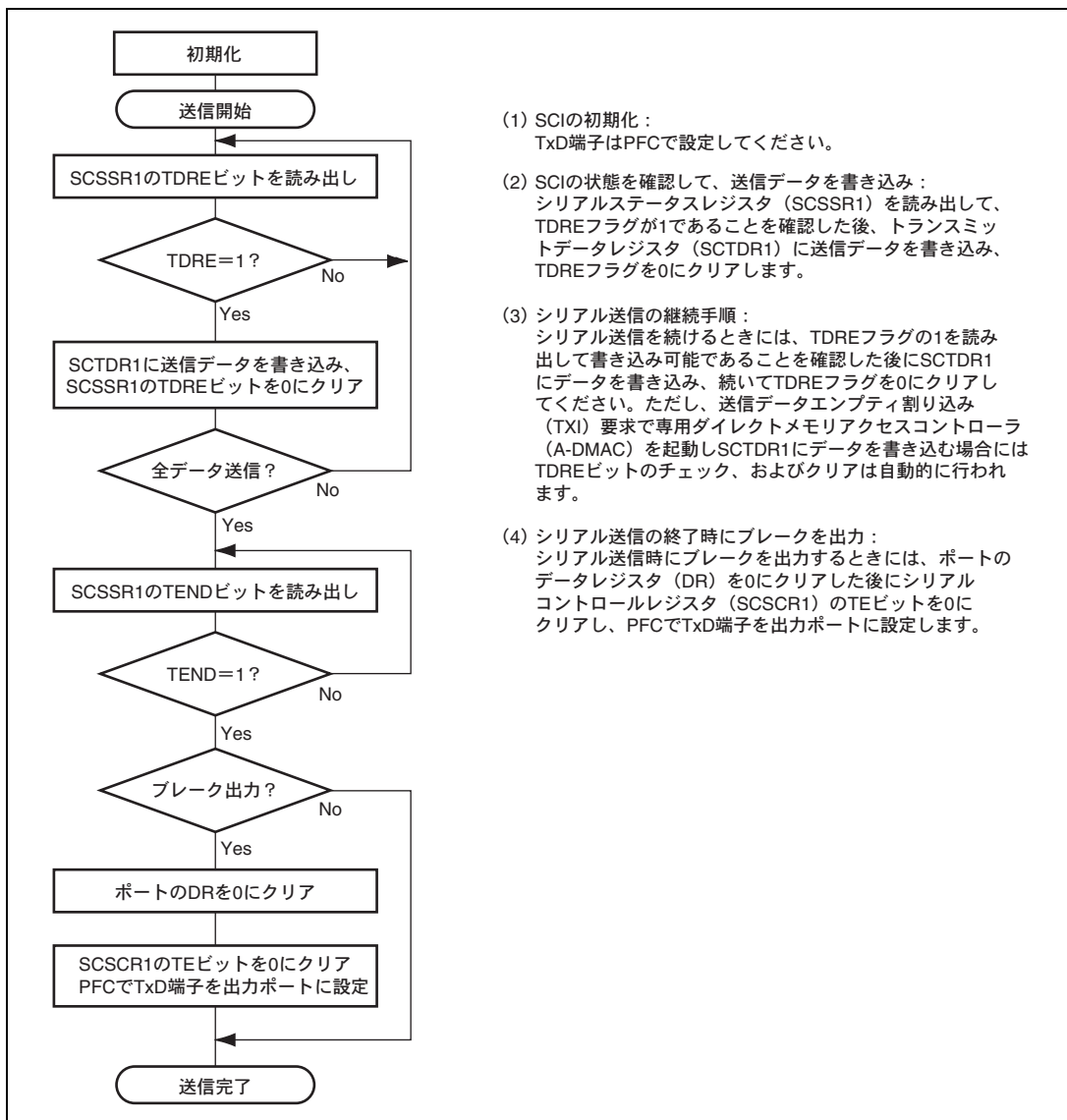


図 16.4 シリアル送信のフローチャートの例

SCIはシリアル送信時に以下のように動作します。

1. SCIは、シリアルステータスレジスタ (SCSSR1) のTDREフラグを監視し、0であるとトランスミットデータレジスタ (SCTDR1) にデータが書き込まれたと認識し、SCTDR1からトランスミットシフトレジスタ (SCTSR1) にデータを転送します。
2. SCTDR1からSCTSR1へデータを転送した後にTDREフラグを1にセットし、送信を開始します。
このとき、シリアルコントロールレジスタ (SCSCR1) のTIEビットが1にセットされていると送信データエンプティ割り込み (TXI) 要求が発生します。

シリアル送信データは、以下の順に TxD 端子から送り出されます。

- (a) スタートビット：1ビットの0が出力されます。
 - (b) 送信データ：8ビット、または7ビットのデータがLSBから順に出力されます。
 - (c) パリティビット：1ビットのパリティビット（偶数パリティ、または奇数パリティ）が出力されます。
なお、パリティビットを出力しないフォーマットも選択できます。
 - (d) ストップビット：1ビットまたは2ビットの1（ストップビット）が出力されます。
 - (e) マーク状態：次の送信を開始するスタートビットを送り出すまで1を出力し続けます。
3. SCIは、ストップビットを送出するタイミングでTDREフラグをチェックします。

TDREフラグが0であるとSCTDR1からSCTSR1にデータを転送し、ストップビットを送り出した後、次フレームのシリアル送信を開始します。

TDREフラグが1であるとシリアルステータスレジスタ (SCSSR1) のTENDフラグに1をセットし、ストップビットを送り出した後、1を出力するマーク状態になります。このときSCSCR1のTEIEビットが1にセットされているとTEI要求が発生します。

調歩同期式モードでの送信時の動作例を図 16.5 に示します。

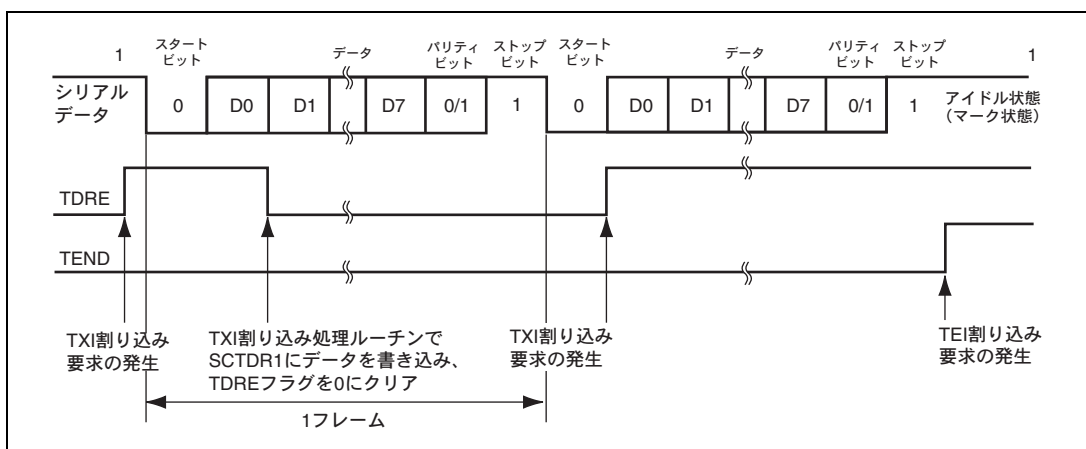


図 16.5 調歩同期式モードでの送信時の動作例
(8ビットデータ/パリティあり/1ストップビットの例)

● シリアルデータ受信（調歩同期モード）

図 16.6 にシリアル受信フローチャートの例を示します。

シリアルデータ受信は、SCIを受信動作可能状態に設定した後、以下の手順に従って行ってください。

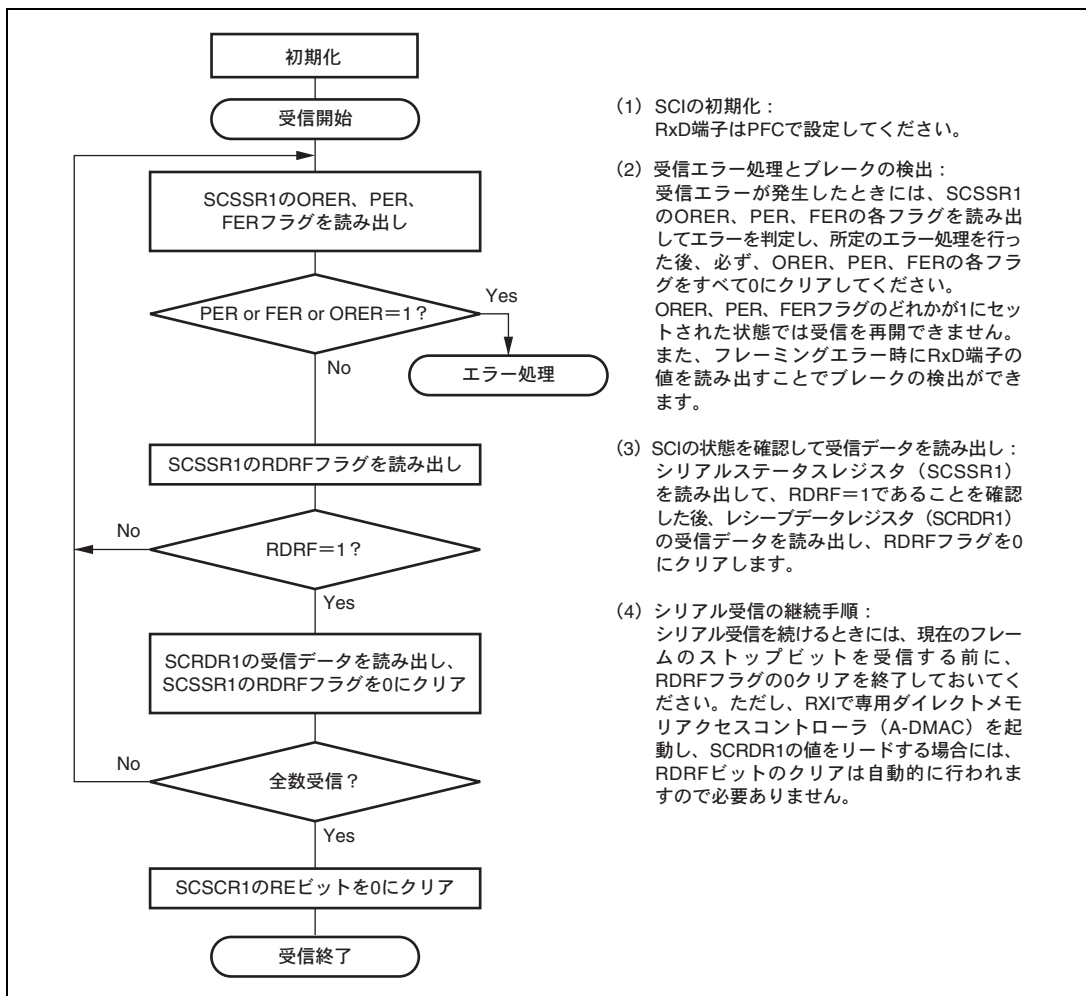


図 16.6 シリアル受信のフローチャートの例 (1)

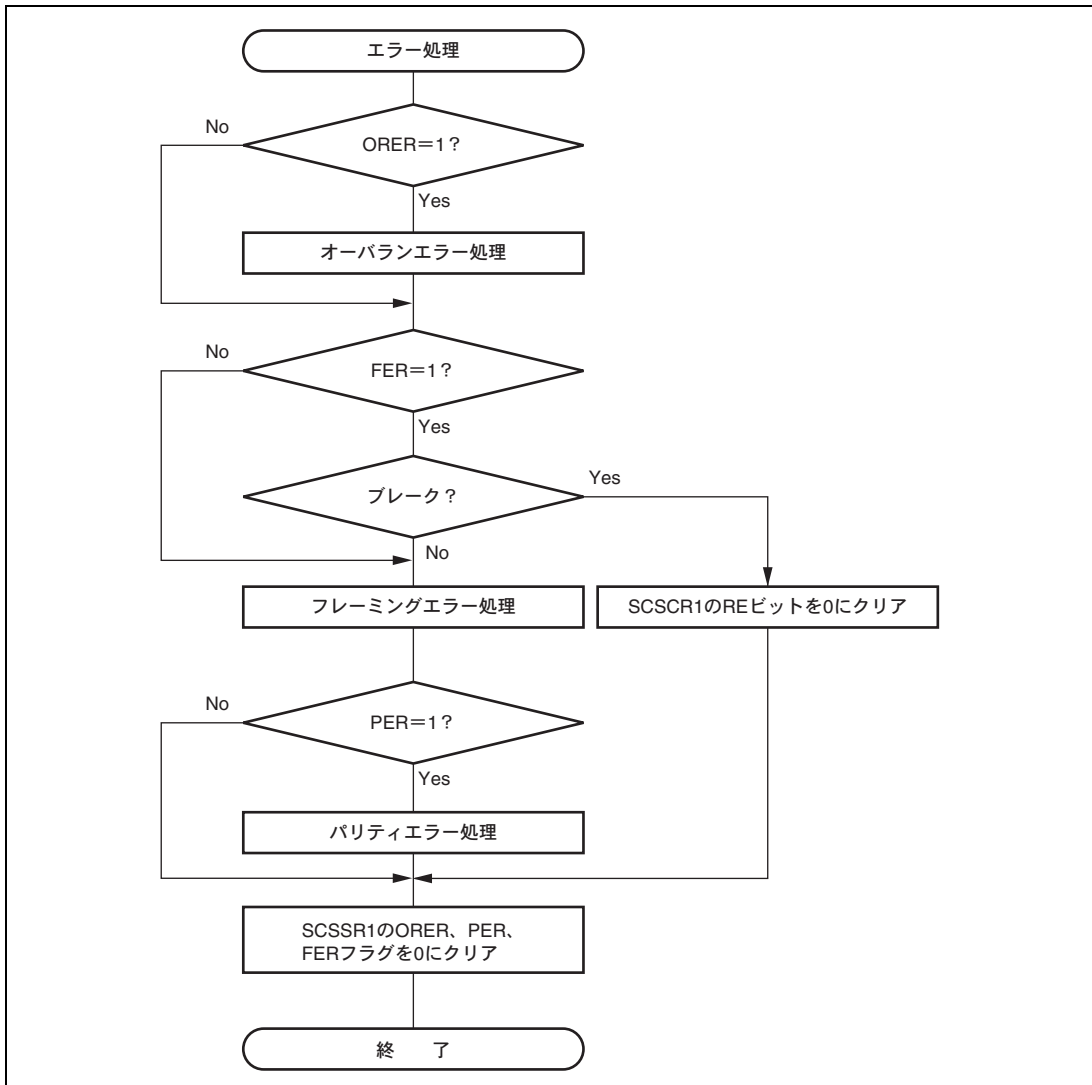


図 16.6 シリアル受信のフローチャートの例 (2)

SCIは受信時に以下のように動作します。

1. SCIは通信回線を監視し、スタートビットの0を検出すると内部を同期化し、受信を開始します。
2. 受信したデータをSCSSR1のLSBからMSBの順に格納します。
3. パリティビット、およびストップビットを受信します。

受信後、SCI は以下のチェックを行います。

- (a) パリティチェック：受信データの1の数をチェックし、これがシリアルモードレジスタ (SCSMR1) の O/E ビットで設定した偶数／奇数パリティになっているかをチェックします。
- (b) ストップビットチェック：ストップビットが1であるかをチェックします。
ただし、2ストップビットの場合、1ビット目のストップビットのみをチェックします。
- (c) ステータスチェック：RDRF フラグが0であり、受信データをレシブシフトレジスタ (SCRSR1) から SCRDR1 に転送できる状態であるかをチェックします。

以上のチェックがすべてパスしたとき、RDRF フラグが1にセットされ、SCRDR1 に受信データが格納されま
す。

エラーチェックで受信エラーが発生すると表 16.12 のように動作します。

【注】 受信エラーが発生した状態では、以後の受信動作ができません。

また、受信時に RDRF フラグが1にセットされませんので、必ずエラーフラグを0にクリアしてください。

- 4. RDRFフラグが1になったとき、SCSCR1のRIEビットが1にセットされていると受信データフル割り込み (RXI) 要求が発生します。

また、ORER、PER、FERフラグのどれかが1になったとき、SCSCR1のRIEビットが1にセットされていると受信エラー割り込み (ERI) 要求が発生します。

表 16.12 受信エラーと発生条件

受信エラー名	略称	発生条件	データ転送
オーバランエラー	ORER	SCSSR1 の RDRF フラグが1にセットされたまま次のデータ受信を完了したとき	SCRSR1 から SCRDR1 に受信データは転送されません
フレーミングエラー	FER	ストップビットが0のとき	SCRSR1 から SCRDR1 に受信データが転送されず
パリティエラー	PER	SCSMR1 で設定した偶数／奇数パリティの設定と受信したデータが異なるとき	SCRSR1 から SCRDR1 に受信データが転送されず

調歩同期式モード受信時の動作例を図 16.7 に示します。

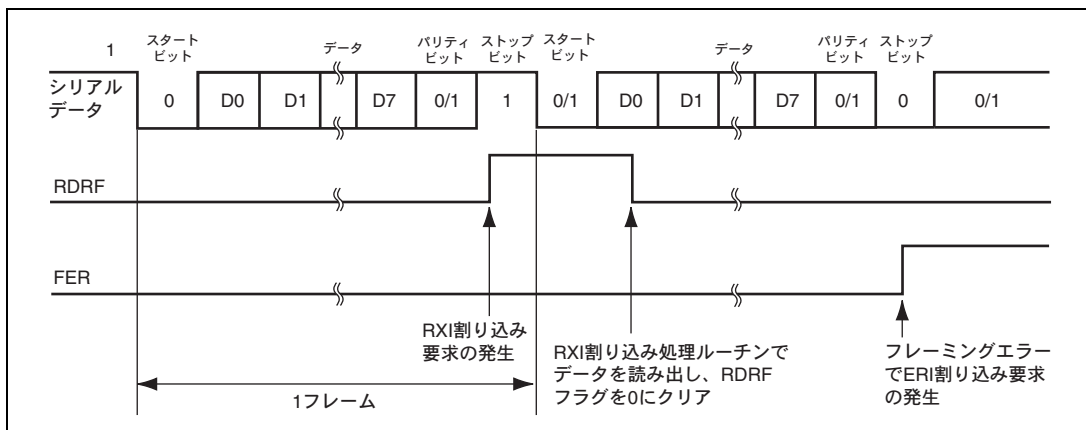


図 16.7 SCI の受信時の動作例
(8 ビットデータ/パリティあり/1 ストップビットの例)

16.4.3 クロック同期式モード時の動作

クロック同期式モードは、クロックパルスに同期してデータを送信/受信するモードで、高速シリアル通信に適しています。

SCI 内部では、送信部と受信部は独立していますので、クロックを共有することで全二重通信ができます。

また、送信部と受信部がともにダブルバッファ構造になっていますので送信/受信中にデータの読み出し/書き込みができ、連続送信/受信が可能です。

クロック同期式シリアル通信の一般的なフォーマットを図 16.8 に示します。

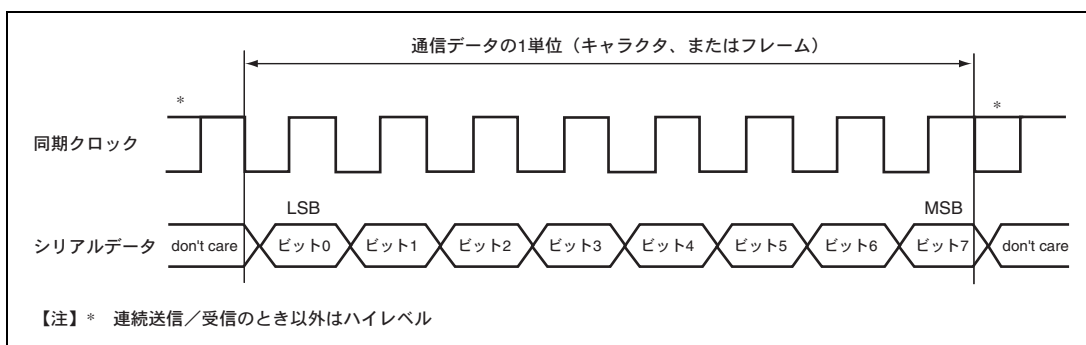


図 16.8 クロック同期式通信のデータフォーマット

クロック同期式シリアル通信では、通信回線のデータは同期クロックの立ち下がりから次の立ち上がりまで出力されます。また、同期クロックの立ち上がりでデータの確定が保証されます。

シリアル通信の 1 キャラクタは、データの LSB から始まり最後に MSB が出力されます。MSB 出力後の通信回線の状態は MSB の状態を保ちます。

クロック同期式モードでは、SCI は同期クロックの立ち上がりに同期してデータを受信します。

(1) 送信/受信フォーマット

8ビットデータ固定です。

パリティビットの付加はできません。

(2) クロック

SCSMR1の C/\bar{A} ビットとSCSCR1のCKE1ビットの設定により内蔵ボーレートジェネレータの生成した内部クロック、または、SCK端子から入力された外部同期クロックの2種類から選択できます。SCIのクロックソースの選択については表16.10を参照してください。

内部クロックで動作させるとき、SCK端子から同期クロックが出力されます。

同期クロックは1キャラクタの送受信で8パルス出力され、送信/受信を行わないときにはハイレベルに固定されます。

(3) データの送信/受信動作

• SCIの初期化 (クロック同期モード)

データの送信/受信前にシリアルコントロールレジスタ (SCSCR1) のTEおよびREビットを0にクリアした後、以下の手順でSCIを初期化してください。

TEビットが0で、SCSCR1のTIEビットが1にセットされている場合、送信データエンプティ割り込み (TXI) 要求が発生します。SCIの初期化時にTXI要求を禁止したい場合は、TEビットを0にクリアすると同時に、TIEビットも0にクリアしてください。また、REビットが0であっても、SCSCR1のRIEビットが1でRDRFフラグが1の場合、受信データフル割り込み (RXI) 要求が発生します。SCIの初期化時にRXI要求を禁止したい場合は、REビットを0にクリアすると同時に、RIEビットも0にクリアしてください。

モードの変更、通信フォーマットの変更などの場合には必ずTEおよびREビットを0にクリアしてから下記手順で変更してください。TEビットを0にクリアするとTDREフラグは1にセットされ、トランスミットシフトレジスタ (SCTSR1) が初期化されます。

REビットを0にクリアしてもRDRF、PER、FER、ORERの各フラグ、およびレシーブデータレジスタ (SCRDR1) の内容は保持されますので注意してください。

図16.9にSCIの初期化フローチャートの例を示します。

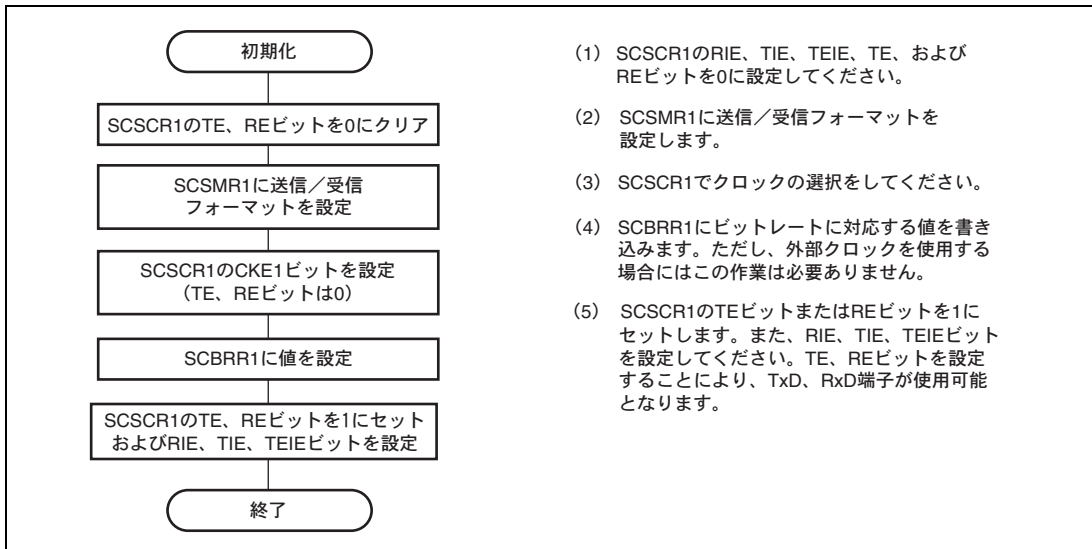


図 16.9 SCI の初期化フローチャートの例

● シリアルデータ送信 (クロック同期式モード)

図 16.10 にシリアル送信のフローチャートの例を示します。

シリアルデータ送信は、SCI を送信動作可能状態に設定した後、以下の手順で行ってください。

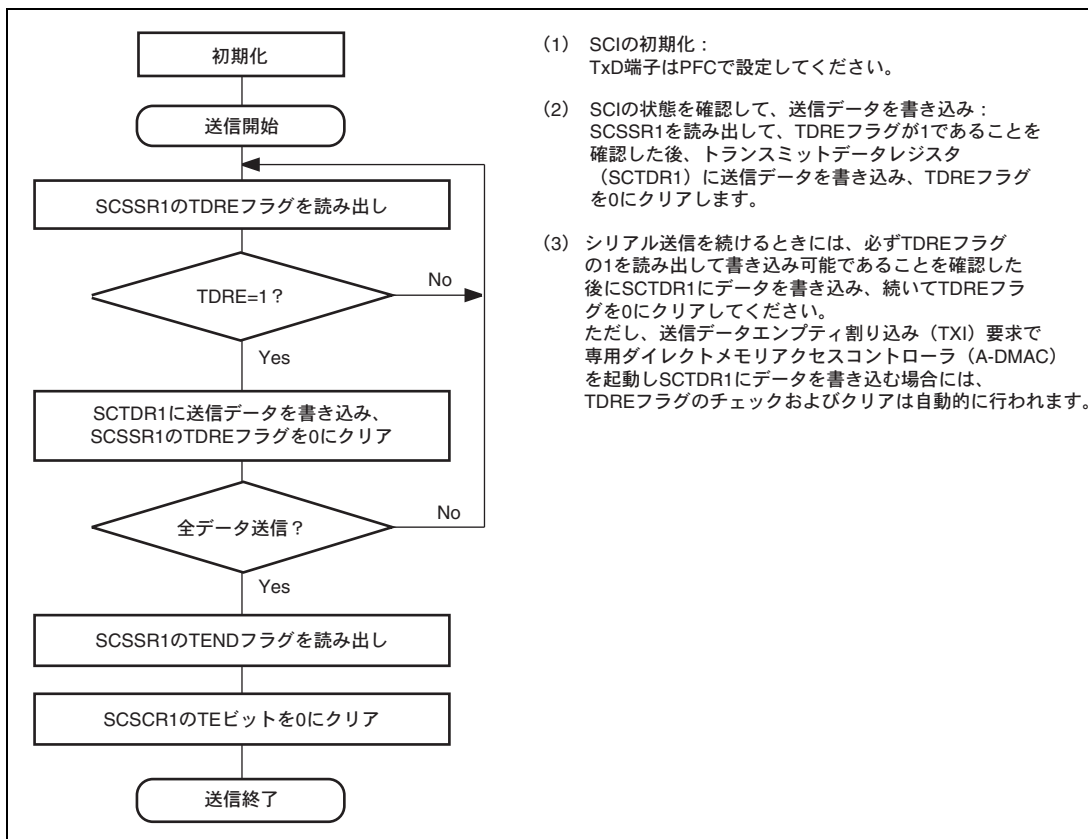


図 16.10 シリアル送信のフローチャートの例

SCIはシリアル送信時に以下のように動作します。

1. SCIは、シリアルステータスレジスタ (SCSSR1) のTDREフラグを監視し、0であるとトランスミットデータレジスタ (SCTDR1) にデータが書き込まれたと認識し、SCTDR1からトランスミットシフトレジスタ (SCTSR1) にデータを転送します。
2. SCTDR1からSCTSR1へデータを転送した後にTDREフラグを1にセットし、送信を開始します。
このとき、シリアルコントロールレジスタ (SCSCR1) の送信データエンプティ割り込みイネーブルビット (TIE) が1にセットされていると送信データエンプティ割り込み (TXI) 要求を発生します。
クロック出力モードに設定したときには、SCIは同期クロックを8パルス出力します。
外部クロックに設定したときには、入力クロックに同期してデータを出力します。
シリアル送信データは、LSB (ビット0) ~MSB (ビット7) の順にTxD端子から送り出されます。
3. SCIは、MSB (ビット7) を送り出すタイミングでTDREフラグをチェックします。
TDREフラグが0であるとSCTDR1からSCTSR1にデータを転送し、次フレームのシリアル送信を開始します。
TDREフラグが1であるとシリアルステータスレジスタ (SCSSR1) のTENDフラグを1にセットし、MSB (ビット7) を送り出した後、トランスミットデータ端子 (TxD端子) は状態を保持します。
このときSCSCR1の送信終了割り込みイネーブルビット (TEIE) が1にセットされていると送信終了割り込み要求 (TEI) を発生します。
4. シリアル送信終了後は、SCK端子はハイレベル固定になります。

図 16.11 に SCI の送信時の動作例を示します。

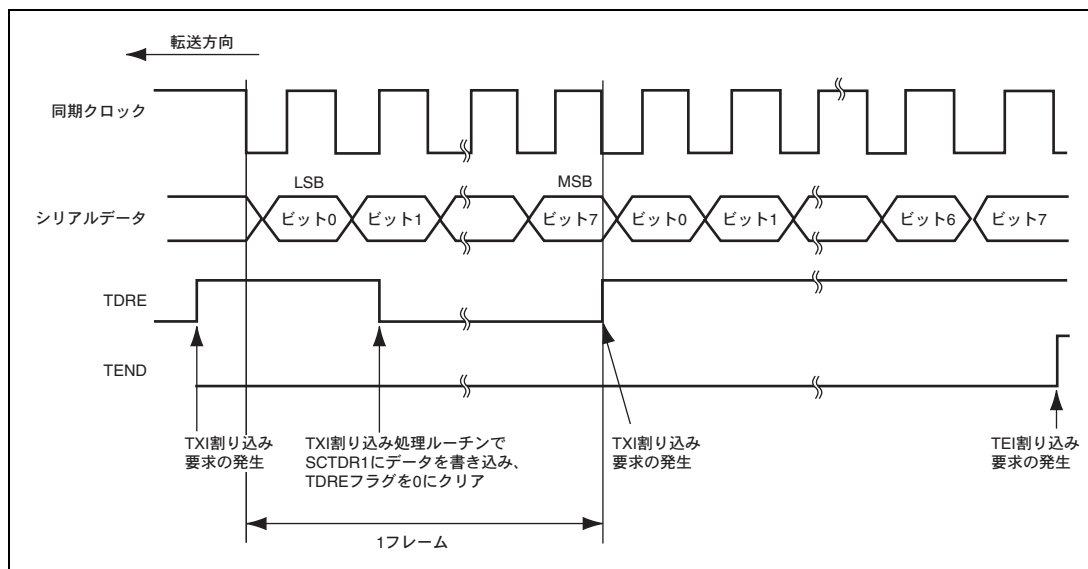


図 16.11 SCI の送信時の動作例

● シリアルデータ受信 (クロック同期式モード)

図 16.12 にシリアル受信のフローチャートの例を示します。

シリアルデータ受信は、SCIを受信動作可能状態に設定した後、以下の手順に従って行ってください。

動作モードを調歩同期式モードからクロック同期式モードに切り換える際には、必ず、ORER、PER、FERの各フラグが0にクリアされていることを確認してください。

FER、PERフラグが1にセットされているとRDRFフラグがセットされません。また、受信動作が行えません。

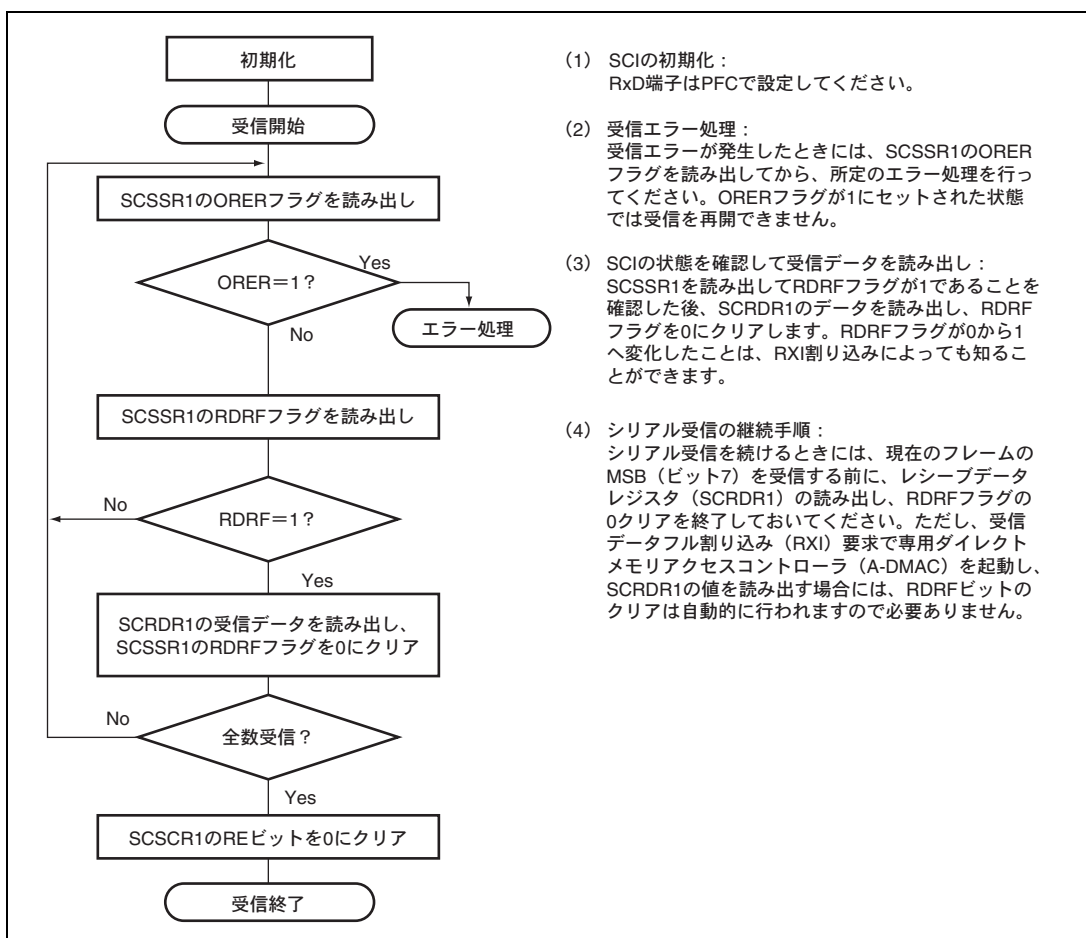


図 16.12 シリアルデータ受信フローチャートの例 (1)

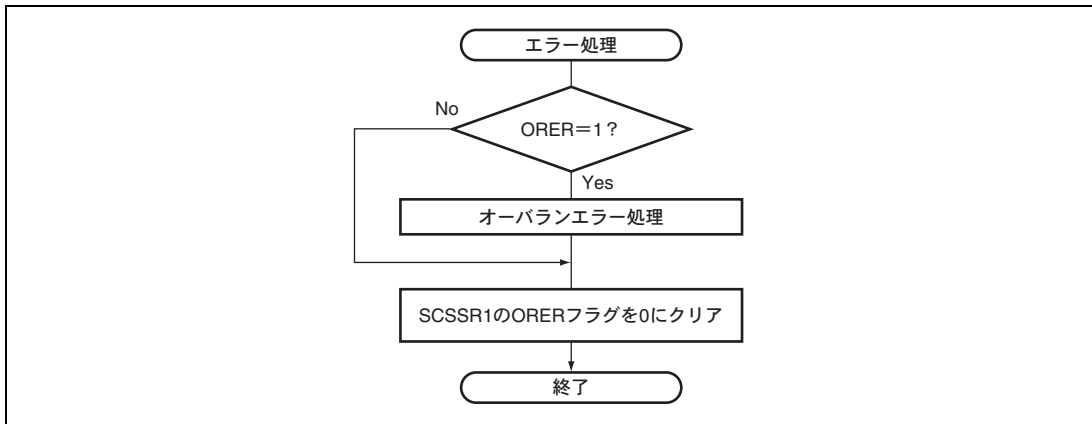


図 16.12 シリアルデータ受信フローチャートの例 (2)

SCIは受信時に以下のように動作します。

1. SCIは同期クロックの入力または出力に同期して受信を開始します。
2. 受信したデータをレシーブシフトレジスタ (SCRSR1) のLSBからMSBの順に格納します。
受信後、SCIはRDRFフラグが0であり、受信データをSCRSR1からレシーブデータレジスタ (SCRDR1) に転送できる状態であるかをチェックします。
このチェックがパスしたときRDRFフラグが1にセットされ、SCRDR1に受信データが格納されます。
エラーチェックで受信エラーが発生すると表16.11のように動作し、この状態では以後の送信、受信動作ができません。
また、受信時にRDRFフラグが1にセットされますので、必ずフラグを0にクリアしてください。
3. RDRFフラグが1になったとき、シリアルコントロールレジスタ (SCSCR1) のRIEビットが1にセットされていると受信データフル割り込み (RXI) 要求が発生します。
また、ORERフラグが1になったとき、SCSCR1のRIEビットが1にセットされていると受信エラー割り込み (ERI) 要求が発生します。

図 16.13 に SCI の受信時の動作例を示します。

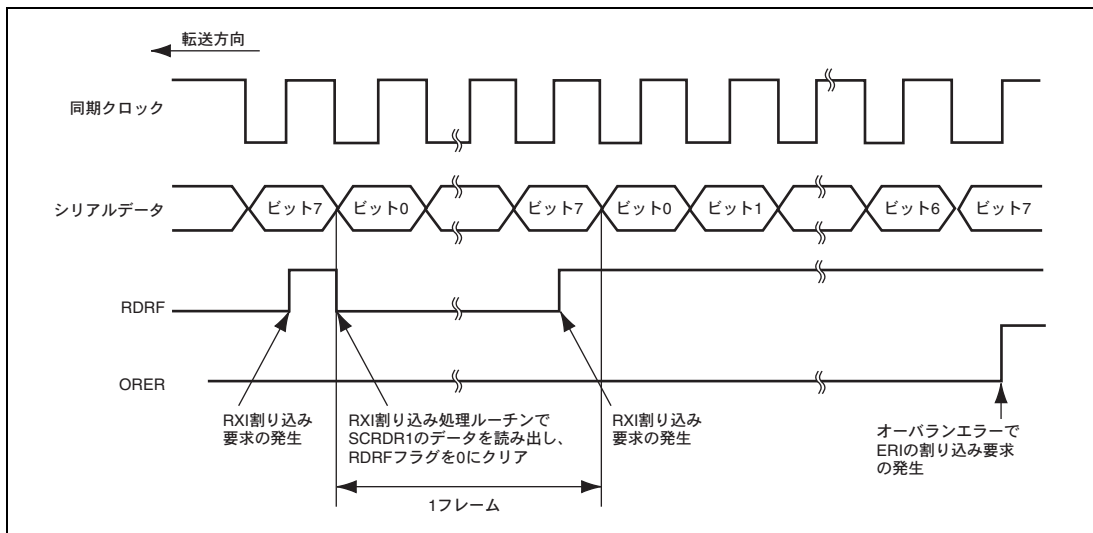


図 16.13 SCI の受信時の動作例

● シリアルデータ送受信同時動作 (クロック同期式モード)

図 16.14 にシリアル送受信同時動作のフローチャートの例を示します。

シリアルデータ送受信同時動作は、SCI を送受信動作可能状態に設定した後、以下の手順に従って行ってください。

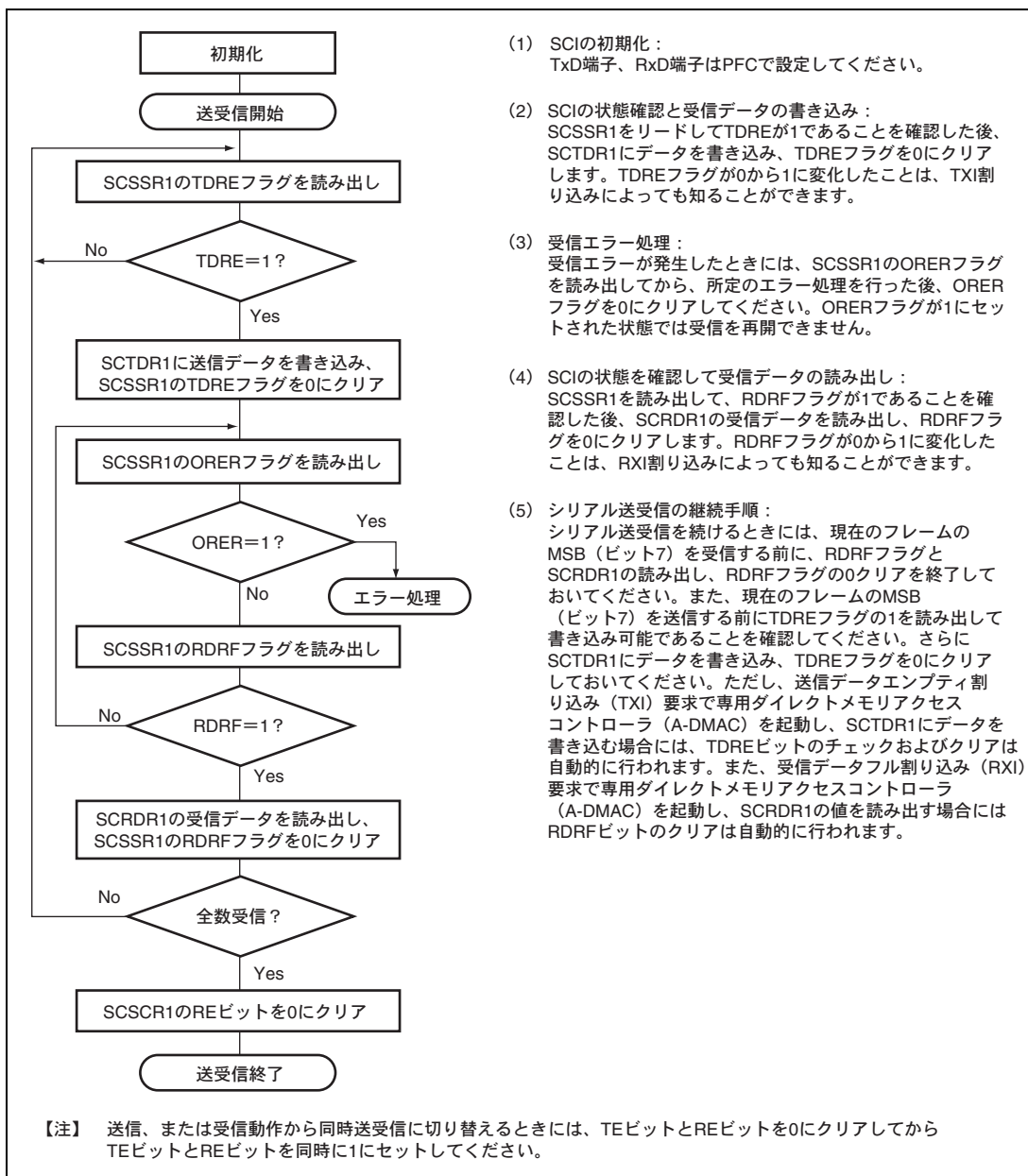


図 16.14 シリアルデータ送受信フローチャートの例

16.5 SCI の割り込み要因と A-DMAC

SCI は、送信終了割り込み (TEI) 要求、受信エラー割り込み (ERI) 要求、受信データフル割り込み (RXI) 要求、送信データエンプティ割り込み (TXI) 要求の 4 種類の割り込み要因を持っています。A-DMAC への DMA 転送が許可されていない場合は、4 種類の割り込み要因はそれぞれ独立に割り込みコントローラに送られます。また、DMA 転送が許可されている場合は、RXI 要求と TXI 要求は DMA 要求として使用されます。

表 16.13 に各割り込み要因と優先順位を示します。各割り込み要因は、SCSCR1 の TIE、RIE、TEIE ビットで許可または禁止ができます。DMA 要求は SCSCR1 の TIE、RIE ビットで許可または禁止ができます。

SCSCR1 の TIE ビットが 1 にセットされている状態で、シリアルステータスレジスタ (SCSSR1) の TDRE フラグが 1 にセットされると、送信データエンプティ割り込み (TXI) 要求が発生します。この TXI 要求で、A-DMAC を起動しデータ転送を行うことができます。A-DMAC への TXI 要求を禁止したい場合は、TIE ビットを 0 にクリアしてください。TDRE フラグは A-DMAC によるトランスミットデータレジスタ (SCTDR1) への書き込みが行われると自動的に 0 にクリアされます。

SCSCR1 の RIE ビットが 1 にセットされている状態で SCSSR1 の RDRF フラグが 1 にセットされると、受信データフル割り込み (RXI) 要求が発生します。この RXI 要求で、A-DMAC を起動して、データ転送を行うことができます。A-DMAC への RXI 要求を禁止したい場合は、RIE ビットを 0 に設定してください。

RDRF フラグは A-DMAC によるレシーブデータレジスタ (SCRDR1) の読み出しが行われると、自動的に 0 にクリアされます。

また、SCSSR1 の ORER、FER フラグまたは PER が 1 にセットされると、ERI 割り込み要求が発生します。この ERI 割り込み要求で A-DMAC の起動はできません。A-DMAC で受信データの処理を行い、CPU への割り込みで受信エラー処理を行う場合、RIE ビットを 1 に設定するようにしてください。

さらに、SCSSR1 の TEND フラグが 1 にセットされると、TEI 割り込み要求が発生します。この TEI 割り込み要求で A-DMAC の起動はできません。

なお、TXI 割り込みは送信データを書き込み可能なことを示し、TEI 割り込みは送信動作が終了したことを示しています。

表 16.13 SCI 割り込み要因

割り込み要因	内 容	A-DMAC の起動	リセット解除時の優先順位
ERI	受信エラー (ORER、FER、PER) による割り込み	不可	高 ↑ ↓ 低
RXI	受信データフル (RDRF) による割り込み	可	
TXI	送信データエンプティ (TDRE) による割り込み	可	
TEI	送信終了 (TEND) による割り込み	不可	

16.6 使用上の注意事項

16.6.1 SCTDR1 への書き込みと TDRE フラグの関係について

シリアルステータスレジスタ (SCSSR1) の TDRE フラグはトランスミットデータレジスタ (SCTDR1) からトランスミットシフトレジスタ (SCTSR1) に送信データの転送が行われたことを示すステータスフラグです。SCI が SCTDR1 から SCTSR1 にデータを転送すると、TDRE フラグが 1 にセットされます。

SCTDR1 へのデータの書き込みは、TDRE フラグの状態にかかわらず行うことができます。しかし、TDRE フラグが 0 の状態で新しいデータを SCTDR1 に書き込むと、SCTDR1 に格納されていたデータは、まだ SCTSR1 に転送されていないため失われてしまいます。したがって SCTDR1 への送信データの書き込みは、必ず TDRE フラグが 1 にセットされていることを確認してから行ってください。

16.6.2 複数の受信エラーが同時に発生した場合の動作について

複数の受信エラーが同時に発生した場合、SCSSR1 の各ステータスフラグの状態は、表 16.14 のようになります。また、オーバランエラーが発生した場合にはレシーブシフトレジスタ (SCRSR1) からレシーブデータレジスタ (SCRDR1) へのデータ転送は行われず、受信データは失われます。

表 16.14 SCSSR1 のステータスフラグの状態と受信データの転送

受信エラーの状態	SCSSR1 のステータスフラグ				受信データ転送 SCRSR1→ SCRDR1
	RDRF	ORER	FER	PER	
オーバランエラー	1	1	0	0	×
フレーミングエラー	0	0	1	0	○
パリティエラー	0	0	0	1	○
オーバランエラー+フレーミングエラー	1	1	1	0	×
オーバランエラー+パリティエラー	1	1	0	1	×
フレーミングエラー+パリティエラー	0	0	1	1	○
オーバランエラー+フレーミングエラー+パリティエラー	1	1	1	1	×

【記号説明】

- : SCRSR1→SCRDR1 に受信データを転送します。
- ×

16.6.3 ブレークの検出と処理について

フレーミングエラー (FER) 検出時に RxD 端子の値を直接読み出すことで、ブレークを検出できます。ブレークでは、RxD 端子からの入力がすべて 0 になりますので FER フラグがセットされ、またパリティエラー (PER) もセットされる場合があります。

SCI は、ブレークを受信した後は、SCRDR1 への受信データの転送は停止しますが、受信動作は続けています。

16.6.4 ブレークの送り出し

TxD 端子は、I/O ポートのデータレジスタ (DR) とピンファンクションコントローラ (PFC) のコントロールレジスタにより入出力方向とレベルが決まる汎用入出力端子になります。これを利用してブレークの送り出しができます。

シリアル送信の初期化から TE ビットを 1 にセット (送信可能) するまでは、TxD 端子として機能しません。

PFC の設定を行うまではマーク状態を DR の値で代替します。このため、最初は 1 を出力する出力ポートに設定しておきます。シリアル送信時にブレークを送り出したいときは DR を 0 にクリアした後、PFC で TxD 端子を出力ポートに設定します。TE ビットを 0 にクリアすると現在の送信状態とは無関係に送信部は初期化されます。

16.6.5 調歩同期式モードの受信データサンプリングタイミングと受信マージン

調歩同期式モードでは、SCI は転送レートの 16 倍の周波数の基本クロックで動作しています。

受信時に SCI は、スタートビットの立ち下がり基本クロックでサンプリングして、内部を同期化します。また、受信データを基本クロックの 8 クロック目の立ち上がりエッジで内部に取り込みます。

これを図 16.15 に示します。

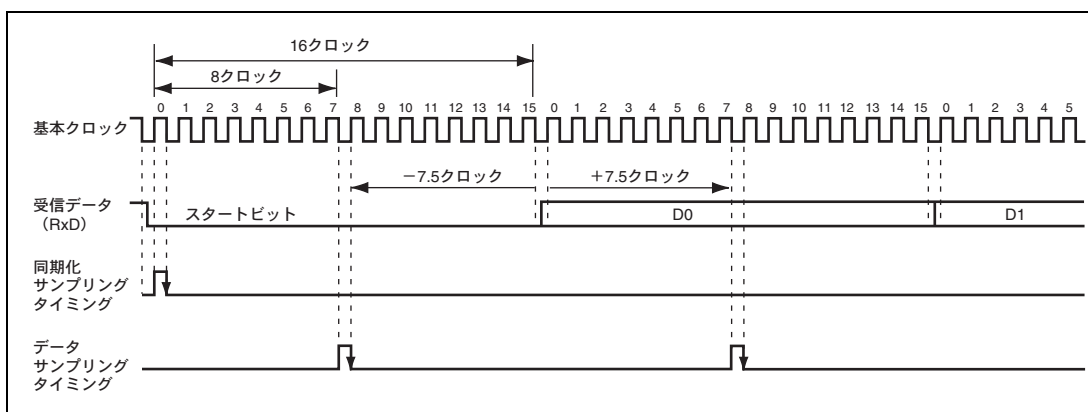


図 16.15 調歩同期式モードの受信データサンプリングタイミング

したがって、調歩同期モードでの受信マージンは式 (1) のように表すことができます。

$$M = \left| \left(0.5 - \frac{1}{2N} \right) - (L - 0.5) F - \frac{|D - 0.5|}{N} (1 + F) \right| \times 100[\%] \quad \dots \text{式 (1)}$$

M : 受信マージン (%)

N : クロックに対するビットレートの比 (N=16)

D : クロックデューティ (D=0~1.0)

L : フレーム長 (L=9~12)

F : クロック周波数の偏差の絶対値

式 (1) で、F=0、D=0.5 とすると、受信マージンは式 (2) より 46.875% となります。

D = 0.5、F = 0 のとき

$$M = (0.5 - 1 / (2 \times 16)) \times 100\%$$

$$= 46.875\%$$

…式 (2)

ただし、この値はあくまでも計算上の値ですので、システム設計の際には 20~30% の余裕を持たせてください。

16.6.6 A-DMAC 使用上の注意事項

A-DMAC への TXI 要求で SCTDR1 にデータを書き込んだ場合、トランスミットエンドフラグ (TEND) の状態は不定となります。したがって、この場合 TEND フラグを転送終了フラグとして使用しないでください。

同期クロックに外部クロックソースを使用する場合、A-DMAC による SCTDR1 の更新後、Pφ が 5 サイクル以上経過した後に外部クロックを入力してください。SCTDR1 の更新後 4 サイクル以内に送信クロックを入力すると誤動作することがあります (図 16.16 参照)。

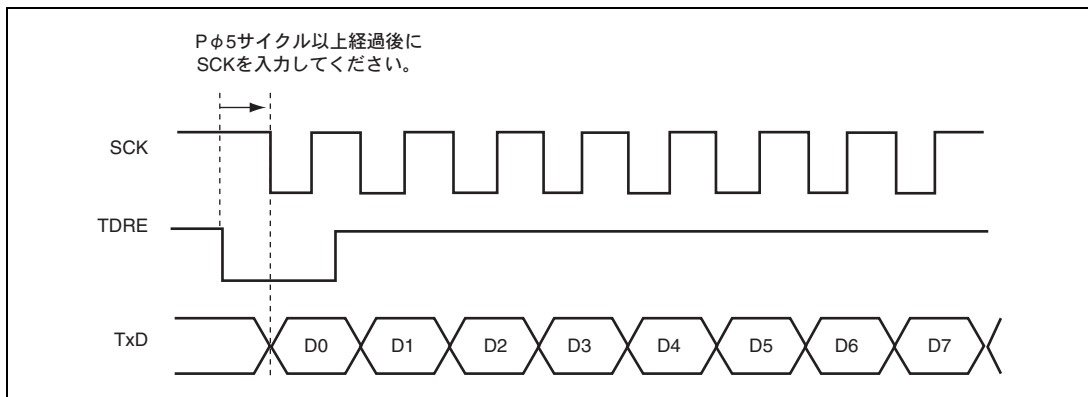


図 16.16 A-DMAC による同期クロック転送例

16.6.7 クロック同期外部クロックモード時の注意事項

TE=1、RE=1 に設定するのは、外部クロック SCK を 0→1 にしてから Pφ が 4 クロック以上経過後にしてください。

TE=RE=1 に設定するのは、必ず外部クロック SCK が 1 のときにしてください。

16.6.8 A-DMAC 使用時の注意事項

A-DMAC を使って送信を行う場合は、SCSCR1 の TIE ビットを 1 にセットして、送信データエンプティ割り込み (TXI) 要求を許可してください。また A-DMAC を使って受信を行う場合は、SCSCR1 の RIE ビットを 1 にセットして、受信データフル割り込み (RXI) 要求を許可に設定してください。

16.6.9 シリアルポート

シリアルポートを使用して SCI 端子の値を読み出す場合、Pφ の 2 サイクル前の値を読み出しますので注意してください。

16.6.10 クロック同期式モードにおける SCK 出力、受信のみでの使用時の注意事項

クロック同期式モードにおいて SCK 出力、受信のみでの設定で通信を行う場合のみ、設定可能ボーレートは 1.25Mbps までとなります。

17. ルネサスシリアルペリフェラルインタフェース (RSPI)

本 LSI は、独立した 3 チャンネルのルネサスシリアルペリフェラルインタフェース (RSPI) を備えています。RSPI は、全二重同期式のシリアル通信ができます。複数のプロセッサや周辺デバイスとの高速なシリアル通信機能を備えています。

17.1 特長

- 4線式のシリアルインタフェースです。信号線の構成は下記のとおりです。
 - RSPCK (RSPI Clock)
 - SSL (Slave Select)
 - MOSI (Master Out Slave In)
 - MISO (Master In Slave Out)
- マルチマスタ、シングルマスタ、スレーブモードでのシリアル通信が可能。
- ビットレート
 - マスタモード時：最大10.0MHz@Pφ20MHz/40MHz。
 - 内蔵ポーレートジェネレータでPφを分周してRSPCKを生成 (2~4096分周)
 - スレーブモード時：最大2.5MHz@Pφ20MHz/40MHz。
 - 外部入力クロックをシリアルクロックとして使用 (8分周@周辺クロック1逓倍設定時、16分周@周辺クロック2逓倍設定時)
- 送信バッファ、受信バッファはダブルバッファ構成。
- データフォーマット
 - MSBファースト/LSBファーストの切り替え可能。
 - 転送ビット長を8~16ビットに変更可能。
- RSPCKの極性/位相を変更可能。
- SSL制御機能
 - SSL0~SSL7の極性を変更可能。
 - シングルマスタモード時には、SSL0~SSL7信号は出力。
 - マルチマスタモード時には、SSL0信号は入力、SSL1~SSL7信号は出力またはHi-Z。
 - スレーブモード時には、SSL0信号は入力、SSL1~SSL7信号はHi-Z。
- マスタモードの場合、SSLネゲート時のMOSI信号値を設定可能。

- CMOS出力、オープンドレイン出力の切り替え可能。
- シリアル転送をシーケンシャルにループ実行可能。

ループは最大 8コマンドで構成。

各コマンドに対して、下記の転送フォーマットを設定可能：

SSL0～SSL7信号の出力値

データフォーマット

バースト転送

SSL出力のアサートからRSPCK動作までの遅延 (RSPCK遅延)

RSPCK停止からSSL出力のネゲートまでの遅延 (SSLネゲート遅延)

次アクセスのSSL出力アサートのウェイト (次アクセス遅延)

RSPCKの極性と位相

ビットレート

- 受信バッファフルフラグあり (割り込み/A-DMAC起動要因として使用可能)
- 送信バッファエンプティフラグあり (割り込み/A-DMAC起動要因として使用可能)
- モードフォルトエラーフラグあり (割り込み要求として使用可能)
- オーバランエラーフラグあり (割り込み要求として使用可能)

図 17.1 に、1 チャネル分の RSPI 内部ブロック図を示します。CPU による RSPI 制御レジスタへのアクセスには、周辺バス (P バス) が使用されます。A-DMAC による RSPI データレジスタ (SPDR) アクセスには、専用バス (RSPI バス) が使用されます。

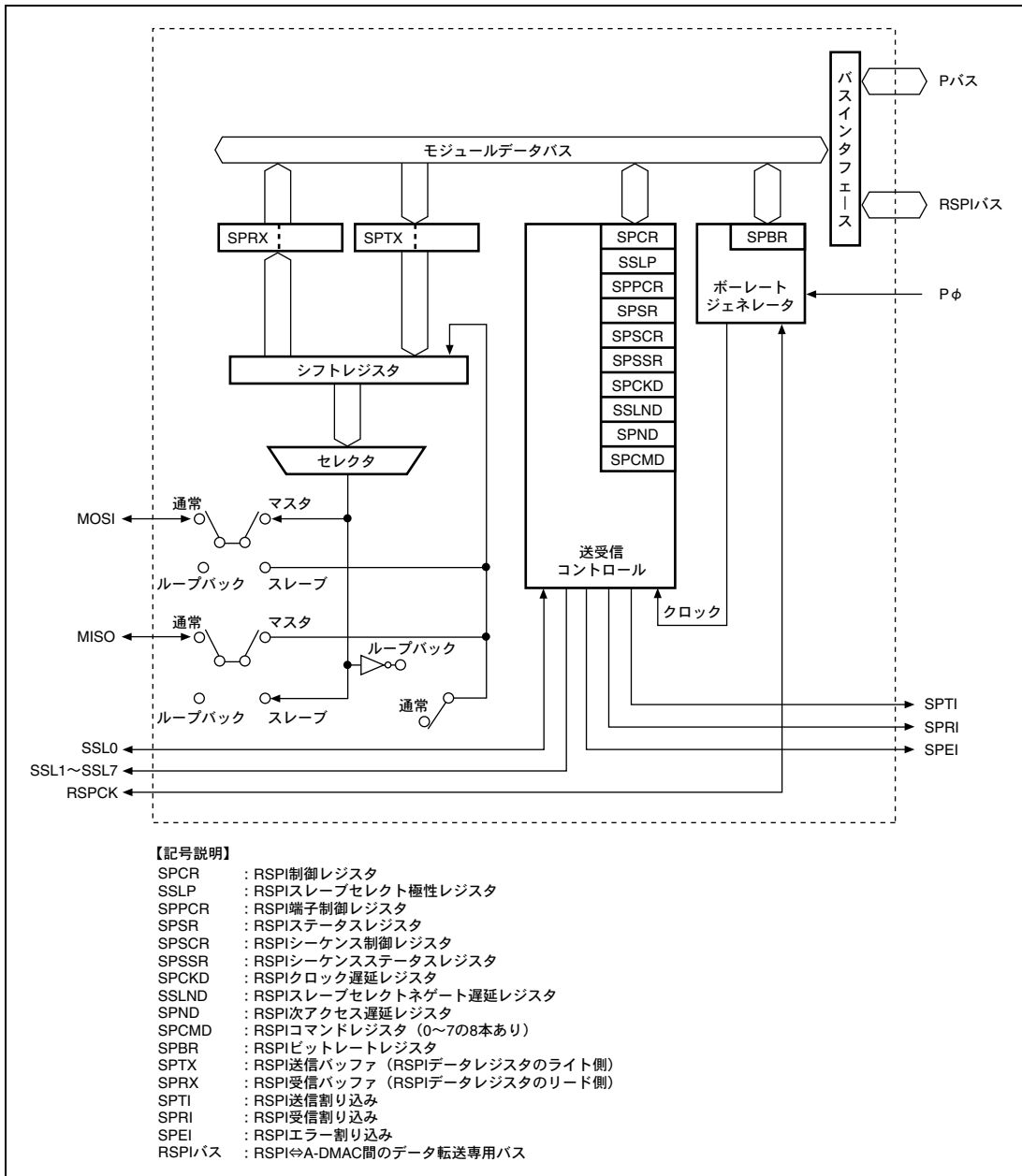


図 17.1 RSPI のブロック図 (1 チャンネル分)

17.2 入出力端子

RSPI は、チャンネルごとに表 17.1 に示すシリアル端子を持っています。SSLA0、SSLB0、SSLC0 端子の入出力方向は、シングルマスタ設定の場合には出力、マルチマスタ設定とスレーブ設定の場合には入力に RSPI が自動的に切り替えます。RSPCKA、MOSIA、MISOA、RSPCKB、MOSIB、MISOB、RSPCKC、MOSIC、MISOC の入出力方向は、マスタ/スレーブ設定と SSLA0、SSLB0、SSLC0 入力レベルに応じて、RSPI が自動的に切り替えます（「17.4.2 RSPI 端子の制御」を参照）。

表 17.1 端子構成

チャンネル	名 称	端子名	入出力	機 能
A	RSPI クロック端子	RSPCKA	入出力	RSPI_A のクロック入出力
	マスタ送出データ端子	MOSIA	入出力	RSPI_A のマスタ送出データ
	スレーブ送出データ端子	MISOA	入出力	RSPI_A のスレーブ送出データ
	スレーブセレクト 0 端子	SSLA0	入出力	RSPI_A のスレーブセレクト
	スレーブセレクト 1 端子	SSLA1	出力	RSPI_A のスレーブセレクト
	スレーブセレクト 2 端子	SSLA2	出力	RSPI_A のスレーブセレクト
	スレーブセレクト 3 端子	SSLA3	出力	RSPI_A のスレーブセレクト
	スレーブセレクト 4 端子	SSLA4	出力	RSPI_A のスレーブセレクト
	スレーブセレクト 5 端子	SSLA5	出力	RSPI_A のスレーブセレクト
	スレーブセレクト 6 端子	SSLA6	出力	RSPI_A のスレーブセレクト
	スレーブセレクト 7 端子	SSLA7	出力	RSPI_A のスレーブセレクト
B	RSPI クロック端子	RSPCKB	入出力	RSPI_B のクロック入出力
	マスタ送出データ端子	MOSIB	入出力	RSPI_B のマスタ送出データ
	スレーブ送出データ端子	MISOB	入出力	RSPI_B のスレーブ送出データ
	スレーブセレクト 0 端子	SSLB0	入出力	RSPI_B のスレーブセレクト
	スレーブセレクト 1 端子	SSLB1	出力	RSPI_B のスレーブセレクト
	スレーブセレクト 2 端子	SSLB2	出力	RSPI_B のスレーブセレクト
	スレーブセレクト 3 端子	SSLB3	出力	RSPI_B のスレーブセレクト
C	RSPI クロック端子	RSPCKC	入出力	RSPI_C のクロック入出力
	マスタ送出データ端子	MOSIC	入出力	RSPI_C のマスタ送出データ
	スレーブ送出データ端子	MISOC	入出力	RSPI_C のスレーブ送出データ
	スレーブセレクト 0 端子	SSLC0	入出力	RSPI_C のスレーブセレクト
	スレーブセレクト 1 端子	SSLC1	出力	RSPI_C のスレーブセレクト
	スレーブセレクト 2 端子	SSLC2	出力	RSPI_C のスレーブセレクト
	スレーブセレクト 3 端子	SSLC3	出力	RSPI_C のスレーブセレクト

【注】 本文中ではチャンネルを省略し、RSPCK、MOSI、MISO、SSL0～SSL7 と略称します。

17.3 レジスタの説明

RSPI には、表 17.2 に示す内部レジスタがあります。これらのレジスタにより、マスタ/スレーブモードの指定、転送フォーマットの指定、および送信部/受信部の制御を行うことができます。

表 17.2 レジスタ構成

チャンネル	レジスタ名	略称* ¹	R/W	初期値	アドレス	アクセス サイズ
A	RSPI 制御レジスタ A	SPCRA	R/W	H'00	H'FFFFB000	8、16
	RSPI スレーブセレクト極性 レジスタ A	SSLPA	R/W	H'00	H'FFFFB001	8
	RSPI 端子制御レジスタ A	SPPCRA	R/W	H'00	H'FFFFB002	8、16
	RSPI ステータスレジスタ A	SPSRA	R/(W)* ²	H'20	H'FFFFB003	8
	RSPI データレジスタ A	SPDRA	R/W	H'0000	H'FFFFB004	16
	RSPI シーケンス制御レジスタ A	SPSCRA	R/W	H'00	H'FFFFB008	8、16
	RSPI シーケンスステータス レジスタ A	SPSSRA	R	H'00	H'FFFFB009	8
	RSPI ビットレートレジスタ A	SPBRA	R/W	H'FF	H'FFFFB00A	8
	RSPI クロック遅延レジスタ A	SPCKDA	R/W	H'00	H'FFFFB00C	8、16
	RSPI スレーブセレクトネゲート遅延 レジスタ A	SSLNDA	R/W	H'00	H'FFFFB00D	8
	RSPI 次アクセス遅延レジスタ A	SPNDA	R/W	H'00	H'FFFFB00E	8
	RSPI コマンドレジスタ A0	SPCMDA0	R/W	H'070D	H'FFFFB010	16
	RSPI コマンドレジスタ A1	SPCMDA1	R/W	H'070D	H'FFFFB012	16
	RSPI コマンドレジスタ A2	SPCMDA2	R/W	H'070D	H'FFFFB014	16
	RSPI コマンドレジスタ A3	SPCMDA3	R/W	H'070D	H'FFFFB016	16
	RSPI コマンドレジスタ A4	SPCMDA4	R/W	H'070D	H'FFFFB018	16
	RSPI コマンドレジスタ A5	SPCMDA5	R/W	H'070D	H'FFFFB01A	16
	RSPI コマンドレジスタ A6	SPCMDA6	R/W	H'070D	H'FFFFB01C	16
	RSPI コマンドレジスタ A7	SPCMDA7	R/W	H'070D	H'FFFFB01E	16
B	RSPI 制御レジスタ B	SPCRB	R/W	H'00	H'FFFFB800	8、16
	RSPI スレーブセレクト極性設定 レジスタ B	SSLPB	R/W	H'00	H'FFFFB801	8
	RSPI 端子制御レジスタ B	SPPCRB	R/W	H'00	H'FFFFB802	8、16
	RSPI ステータスレジスタ B	SPSRB	R/(W)* ²	H'20	H'FFFFB803	8
	RSPI データレジスタ B	SPDRB	R/W	H'0000	H'FFFFB804	16
	RSPI シーケンス制御レジスタ B	SPSCRB	R/W	H'00	H'FFFFB808	8、16
	RSPI シーケンスステータス レジスタ B	SPSSRB	R	H'00	H'FFFFB809	8

チャンネル	レジスタ名	略称*1	R/W	初期値	アドレス	アクセス サイズ
B	RSPI ビットレートレジスタ B	SPBRB	R/W	H'FF	H'FFFFB80A	8
	RSPI クロック遅延値レジスタ B	SPCKDB	R/W	H'00	H'FFFFB80C	8、16
	RSPI スレーブセレクトネゲート遅延 レジスタ B	SSLNDB	R/W	H'00	H'FFFFB80D	8
	RSPI 次アクセス遅延レジスタ B	SPNDB	R/W	H'00	H'FFFFB80E	8
	RSPI コマンドレジスタ B0	SPCMDB0	R/W	H'070D	H'FFFFB810	16
	RSPI コマンドレジスタ B1	SPCMDB1	R/W	H'070D	H'FFFFB812	16
	RSPI コマンドレジスタ B2	SPCMDB2	R/W	H'070D	H'FFFFB814	16
	RSPI コマンドレジスタ B3	SPCMDB3	R/W	H'070D	H'FFFFB816	16
	RSPI コマンドレジスタ B4	SPCMDB4	R/W	H'070D	H'FFFFB818	16
	RSPI コマンドレジスタ B5	SPCMDB5	R/W	H'070D	H'FFFFB81A	16
	RSPI コマンドレジスタ B6	SPCMDB6	R/W	H'070D	H'FFFFB81C	16
	RSPI コマンドレジスタ B7	SPCMDB7	R/W	H'070D	H'FFFFB81E	16
C	RSPI 制御レジスタ C	SPCRC	R/W	H'00	H'FFFFC000	8、16
	RSPI スレーブセレクト極性 設定レジスタ C	SSLPC	R/W	H'00	H'FFFFC001	8
	RSPI 端子制御レジスタ C	SPPCRC	R/W	H'00	H'FFFFC002	8、16
	RSPI ステータスレジスタ C	SPSRC	R/(W)*2	H'20	H'FFFFC003	8
	RSPI データレジスタ C	SPDRC	R/W	H'0000	H'FFFFC004	16
	RSPI シーケンス制御レジスタ C	SPSCRC	R/W	H'00	H'FFFFC008	8、16
	RSPI シーケンスステータス レジスタ C	SPSSRC	R	H'00	H'FFFFC009	8
	RSPI ビットレートレジスタ C	SPBRC	R/W	H'FF	H'FFFFC00A	8
	RSPI クロック遅延値レジスタ C	SPCKDC	R/W	H'00	H'FFFFC00C	8、16
	RSPI スレーブセレクトネゲート遅延 レジスタ C	SSLNDC	R/W	H'00	H'FFFFC00D	8
	RSPI 次アクセス遅延レジスタ C	SPNDC	R/W	H'00	H'FFFFC00E	8
	RSPI コマンドレジスタ C0	SPCMDC0	R/W	H'070D	H'FFFFC010	16
	RSPI コマンドレジスタ C1	SPCMDC1	R/W	H'070D	H'FFFFC012	16
	RSPI コマンドレジスタ C2	SPCMDC2	R/W	H'070D	H'FFFFC014	16
	RSPI コマンドレジスタ C3	SPCMDC3	R/W	H'070D	H'FFFFC016	16
	RSPI コマンドレジスタ C4	SPCMDC4	R/W	H'070D	H'FFFFC018	16
	RSPI コマンドレジスタ C5	SPCMDC5	R/W	H'070D	H'FFFFC01A	16
	RSPI コマンドレジスタ C6	SPCMDC6	R/W	H'070D	H'FFFFC01C	16
RSPI コマンドレジスタ C7	SPCMDC7	R/W	H'070D	H'FFFFC01E	16	

【注】 *1 本文中ではチャンネルを省略してレジスタ名を表記しています。

*2 フラグをクリアするために0のみ書き込むことができます。

17.3.1 RSPI 制御レジスタ (SPCR)

SPCR は、RSPI の動作モードを設定するためのレジスタです。SPCR は、常に CPU による読み出し／書き込みが可能です。SPE ビットが 1 で RSPI 機能がイネーブルである状態において、MSTR ビット、MODFEN ビットの設定値を変更した場合には、以降の動作は保証されません。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	SPRIE	SPE	SPTIE	SPEIE	MSTR	MODFEN	—	—
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7	SPRIE	0	R/W	RSPI 受信割り込みイネーブル RSPI がシリアル転送完了後の受信バッファ書き込みを検出し、RSPI ステータスレジスタ (SPSR) の SPRF ビットを 1 にした場合の RSPI 受信割り込み要求の発生を許可／禁止するためのビットです。 0：RSPI 受信割り込み要求の発生を禁止する 1：RSPI 受信割り込み要求の発生を許可する
6	SPE	0	R/W	RSPI 機能イネーブル 本ビットを 1 にすることにより、RSPI 機能が有効になります。RSPI ステータスレジスタ (SPSR) の MODF ビットが 1 の場合には、SPE ビットを 1 に設定することはできません（「17.4.7 エラー検出」を参照）。SPE ビットを 0 にすると、RSPI 機能は無効化されて、モジュール機能の一部が初期化されます（「17.4.8 RSPI の初期化」を参照）。 0：RSPI 機能は無効化する 1：RSPI 機能を有効化する
5	SPTIE	0	R/W	RSPI 送信割り込みイネーブル RSPI が送信バッファエンプティを検出し、RSPI ステータスレジスタ (SPSR) の SPTEF ビットを 1 にした場合の RSPI 送信割り込み要求の発生を許可／禁止するためのビットです。 RSPI ディスエーブル (SPE ビットが 0) の状態では、SPTEF ビットが 1 になります。このため、RSPI ディスエーブル状態で SPTIE を 1 に設定すると、RSPI 送信割り込み要求が発生することに注意してください。 0：RSPI 送信割り込み要求の発生を禁止する 1：RSPI 送信割り込み要求の発生を許可する

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
4	SPEIE	0	R/W	<p>RSPI エラー割り込みイネーブル</p> <p>RSPI がモードフォルトエラーを検出して RSPI ステータスレジスタ (SPSR) の MODF ビットを 1 にした場合、または RSPI がオーバランエラーを検出して SPSR の OVRF ビットを 1 にした場合の RSPI エラー割り込み要求の発生を許可/禁止するためのビットです(「17.4.7 エラー検出」を参照)。</p> <p>0 : RSPI エラー割り込み要求の発生を禁止する 1 : RSPI エラー割り込み要求の発生を許可する</p>
3	MSTR	0	R/W	<p>RSPI マスタ/スレーブモード選択</p> <p>RSPI のマスタ/スレーブモードを選択するためのビットです。また、RSPI は MSTR ビットの設定に従って、RSPCK、MOSI、MISO、SSL1~SSL7 端子の方向を決定します。</p> <p>0 : スレーブモード 1 : マスタモード</p>
2	MODFEN	0	R/W	<p>モードフォルトエラー検出イネーブル</p> <p>モードフォルトエラーの検出を許可/禁止するためのビットです(「17.4.7 エラー検出」を参照)。また、RSPI は MODFEN ビットと MSTR ビットとの組み合わせに従って、SSL0 端子の入出力方向を決定します(「17.4.2 RSPI 端子の制御」を参照)。</p> <p>0 : モードフォルトエラー検出を禁止する 1 : モードフォルトエラー検出を許可する</p>
1、0	—	すべて 0	R	<p>リザーブビット</p> <p>書き込む値は常に 0 にしてください。1 を書き込んだ場合の動作は保証しません。</p>

17.3.2 RSPI スレーブセレクト極性レジスタ (SSLP)

SSLP は、RSPI の SSL0~7 信号の極性を設定するためのレジスタです。SSLP は、常に CPU による読み出し/書き込みが可能です。RSPI 制御レジスタ (SPCR) の SPE ビットが 1 で RSPI 機能がイネーブルである状態において、CPU が SSLP を書き換えた場合には、以降の動作は保証されません。

チャンネル B、C には、SSL4~SSL7 端子はありません。このため、SSLPB、SSLPC レジスタの SSL4P~SSL7P ビットの設定で、チャンネル B、C の SSL 端子の極性を変更することはできません。

ビット :	7	6	5	4	3	2	1	0
	SSL7P	SSL6P	SSL5P	SSL4P	SSL3P	SSL2P	SSL1P	SSL0P
初期値 :	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W :	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7	SSL7P	0	R/W	SSL 信号極性設定 SSL 信号の極性を設定するためのビットです。 0 : SSLi 信号は 0 アクティブ 1 : SSLi 信号は 1 アクティブ
6	SSL6P	0	R/W	
5	SSL5P	0	R/W	
4	SSL4P	0	R/W	
3	SSL3P	0	R/W	
2	SSL2P	0	R/W	
1	SSL1P	0	R/W	
0	SSL0P	0	R/W	

【注】 i=0~7

17.3.3 RSPI 端子制御レジスタ (SPPCR)

SPPCR は、RSPI の端子モードを設定するために使用されるレジスタです。SPPCR は、常に CPU による読み出し/書き込みが可能です。RSPI 制御レジスタ (SPCR) の SPE ビットが 1 で RSPI 機能がイネーブルである状態において、CPU が SPPCR を書き換えた場合には、以降の動作は保証されません。

ビット :	7	6	5	4	3	2	1	0
	-	-	MOIFE	MOIFV	-	SPOM	-	SPLP
初期値 :	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W :	R	R	R/W	R/W	R	R/W	R	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7, 6	-	すべて 0	R	リザーブビット 書き込む値は常に 0 にしてください。1 を書き込んだ場合の動作は保証されません。
5	MOIFE	0	R/W	MOSI アイドル値固定イネーブル マスタモードの RSPI が、SSL ネゲート期間（バースト転送における SSL 保持期間を含む）に MOSI 出力値を固定するために使用するビットです。MOIFE が 0 の場合には、RSPI は SSL ネゲート期間中に前回のシリアル転送の最終データを MOSI に出力します。MOIFE が 1 の場合には、RSPI は MOIFV ビットに設定された固定値を MOSI に出力します。 0 : MOSI 出力値は前回転送の最終データ 1 : MOSI 出力値は MOIFV ビットの設定値
4	MOIFV	0	R/W	MOSI アイドル固定値 マスタモードで MOIFE ビットが 1 の場合には、RSPI は MOIFV ビットの設定に従って、SSL ネゲート期間（バースト転送における SSL 保持期間を含む）の MOSI 信号値を決定します。 0 : MOSI アイドル固定値は 0 1 : MOSI アイドル固定値は 1
3	-	0	R	リザーブビット 書き込む値は常に 0 にしてください。1 を書き込んだ場合の動作は保証されません。
2	SPOM	0	R/W	RSPI 出力端子モード RSPI の出力端子を CMOS 出力/オープンドレイン出力に設定するためのビットです。 0 : CMOS 出力 1 : オープンドレイン出力
1	-	0	R	リザーブビット 書き込む値は常に 0 にしてください。1 を書き込んだ場合の動作は保証されません。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
0	SPLP	0	R/W	RSPI ループバック SPLP ビットを 1 にすると、RSPI は MISO 端子とシフトレジスタ間、MOSI 端子とシフトレジスタ間の経路を遮断し、シフトレジスタの入力経路と出力経路（反転）を接続します。 0：通常モード 1：ループバックモード

17.3.4 RSPI ステータスレジスタ (SPSR)

SPSR は、RSPI の動作状態を示すフラグを格納したレジスタです。SPSR は、常に CPU による読み出しが可能です。CPU から SPSR の SPRF、SPTEF、MODF、OVRF ビットに 1 を書き込むことはできません。また、これらのフラグを 0 にクリアするためには、あらかじめ 1 を読み出ししておく必要があります。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	SPRF	—	SPTEF	—	—	MODF	—	OVRF
初期値：	0	0	1	0	0	0	0	0
R/W：	R/(W)*	R	R/(W)*	R	R	R/(W)*	R	R/(W)*

【注】* フラグをクリアするため、1を読み出した後に0を書き込むことのみ可能です。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
7	SPRF	0	R/(W)*	RSPI 受信バッファフルフラグ RSPI データレジスタ (SPDR) の受信バッファの状態を示すビットです。SPRF ビットが 0 の状態でシリアル転送が終了すると、RSPI はシフトレジスタから SPDR に受信データを転送して、このビットを 1 にします。SPRF ビットを 0 にクリアする条件は以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • SPRF が 1 にされた状態の SPSR を CPU が読み出した後、CPU が SPRF に 0 を書き込む • A-DMAC が SPDR から受信データを読み出す • パワーオンリセット/スタンバイ SPRF ビットが 1 の状態でシリアル転送が終了した場合には、RSPI はシフトレジスタから SPDR に受信データを転送しません。SPSR の OVRF ビットが 1 の状態では、SPRF ビットを 0 から 1 に変化させることができません（「17.4.7 エラー検出」を参照）。 0：SPDR に有効な受信データなし 1：SPDR に有効な受信データあり
6	—	0	R	リザーブビット 書き込む値は常に 0 にしてください。1 を書き込んだ場合の動作は保証しません。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
5	SPTEF	1	R/(W)*	<p>RSPI 送信バッファエンプティフラグ</p> <p>RSPI データレジスタ (SPDR) の送信バッファの状態を示すビットです。RSPI の初期化後、または送信バッファからシフトレジスタに送信データが転送された場合に、RSPI が SPTEF ビットを 1 にします。SPTEF ビットを 0 にクリアする条件は以下のとおりです。SPTEF クリア状態で、かつシフトレジスタが空の場合、送信バッファからシフトレジスタへデータがコピーされます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • SPTEF が 1 にされた状態の SPSR を CPU が読み出した後、CPU が SPTEF に 0 を書き込む • A-DMAC が SPDR に送信データを書き込む <p>CPU、A-DMAC による SPDR に対する書き込みは、SPTEF ビットが 1 の場合にのみ有効です。SPTEF が 0 の状態で、CPU、A-DMAC が SPDR の送信バッファを書き込んだ場合には、送信バッファのデータは更新されません。</p> <p>0 : 送信バッファにデータあり 1 : 送信バッファにデータなし</p>
4, 3	—	すべて 0	R	<p>リザーブビット</p> <p>書き込む値は常に 0 にしてください。1 を書き込んだ場合の動作は保証しません。</p>
2	MODF	0	R/(W)*	<p>モードフォルトエラーフラグ</p> <p>モードフォルトエラーの発生状況を示すビットです。RSPI 制御レジスタ (SPCR) の MSTR ビットが 1、MODFEN ビットが 1 で RSPI がマルチマスタモードの場合に、SSL0 端子の入力レベルがアクティブレベルになると、RSPI がモードフォルトエラー検出し MODF ビットを 1 にします。また、MSTR ビットが 0 で RSPI がスレーブモードの場合に MODFEN ビットに 1 を設定すると、データ転送に必要な RSPCK サイクルが終了する前に SSL0 端子がネゲートされると、RSPI がモードフォルトエラーを検出します。なお、SSL0 信号のアクティブレベルは、RSPI スレーブセレクト極性レジスタ (SSLP) の SSL0P ビットによって決定されます。MODF ビットのクリア条件は以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • MODF が 1 にされた状態の SPSR を CPU が読み出した後、CPU が MODF に 0 を書き込む • パワーオンリセット/スタンバイ <p>0 : モードフォルトエラーなし 1 : モードフォルトエラー発生</p>
1	—	0	R	<p>リザーブビット</p> <p>書き込む値は常に 0 にしてください。1 を書き込んだ場合の動作は保証しません。</p>

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
0	OVRF	0	R/(W)*	<p>オーバランエラーフラグ</p> <p>オーバランエラーの発生状況を示すビットです。SPRF ビットが 1 にされた状態でシリアル転送が終了した場合に、RSPI はオーバランエラーを検出し、OVRF ビットを 1 にします。OVRF ビットのクリア条件は、以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • OVRF が 1 にされた状態の SPSR を CPU が読み出した後、CPU が OVRF に 0 を書き込む • パワーオンリセット/スタンバイ <p>0 : オーバランエラーなし 1 : オーバランエラー発生</p>

【注】 * フラグをクリアするため、1 を読み出した後に 0 を書き込むことのみ可能です。

17.3.5 RSPI データレジスタ (SPDR)

SPDR は、RSPI 送受信のデータを格納するバッファです。送信用バッファと受信バッファは独立したレジスタで、これらのレジスタが同じアドレスにマッピングされています。

CPU、A-DMAC が SPDR への書き込みを要求した場合には、RSPI ステータスレジスタ (SPSR) の SPTEF ビットが 1 にされていれば、RSPI が SPDR の送信バッファにデータを書き込みます。SPTEF ビットが 0 の状態では、RSPI は SPDR の送信バッファを更新しません。

CPU、A-DMAC による SPDR の受信バッファの読み出しは常に有効です。通常的使用方法では、SPSR の SPRF ビットの 1 状態 (受信バッファに未リードのデータが格納された状態) で、CPU、A-DMAC による受信バッファ読み出しを実行します。SPSR の SPRF ビットまたは OVRF ビットが 1 の状態では、RSPI はシリアル転送終了時に SPDR の受信バッファを更新しません。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	SPD15	SPD14	SPD13	SPD12	SPD11	SPD10	SPD9	SPD8	SPD7	SPD6	SPD5	SPD4	SPD3	SPD2	SPD1	SPD0
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

17.3.6 RSPI シーケンス制御レジスタ (SPSCR)

SPSCR は、RSPI がマスタ動作する場合のシーケンス制御方式を設定するためのレジスタです。SPSCR は、常に CPU による読み出し/書き込みが可能です。RSPI 制御レジスタ (SPCR) の MSTR ビットと SPE ビットが 1 で、マスタモードの RSPI 機能がイネーブルである状態において、CPU が SPSCR を書き換えた場合には、以降の動作は保証されません。

ビット :	7	6	5	4	3	2	1	0
	-	-	-	-	-	SPSLN[2:0]		
初期値 :	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W :	R	R	R	R	R	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明																											
7~3	-	すべて 0	R	リザーブビット 書き込む値は常に 0 にしてください。1 を書き込んだ場合の動作は保証されません。																											
2~0	SPSLN[2:0]	000	R/W	<p>RSPI シーケンス長設定</p> <p>マスタモードの RSPI がシーケンス動作する場合のシーケンス長を設定するためのビットです。マスタモードの RSPI は SPSLN2~SPSLN0 に設定されたシーケンス長に応じて、参照する RSPI コマンドレジスタ 0~7 (SPCMD0~7) と参照順を変更します。なお、スレーブモードの RSPI では、常に SPCMD0 が参照されます。</p> <table style="margin-left: 40px; border: none;"> <tr> <td style="padding-right: 20px;">シーケンス長</td> <td style="padding-right: 20px;">参照する SPCMD レジスタ (番号)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>000 :</td> <td>1</td> <td>0→0→...</td> </tr> <tr> <td>001 :</td> <td>2</td> <td>0→1→0→...</td> </tr> <tr> <td>010 :</td> <td>3</td> <td>0→1→2→0→...</td> </tr> <tr> <td>011 :</td> <td>4</td> <td>0→1→2→3→0→...</td> </tr> <tr> <td>100 :</td> <td>5</td> <td>0→1→2→3→4→0→...</td> </tr> <tr> <td>101 :</td> <td>6</td> <td>0→1→2→3→4→5→0→...</td> </tr> <tr> <td>110 :</td> <td>7</td> <td>0→1→2→3→4→5→6→0→...</td> </tr> <tr> <td>111 :</td> <td>8</td> <td>0→1→2→3→4→5→6→7→0→...</td> </tr> </table>	シーケンス長	参照する SPCMD レジスタ (番号)		000 :	1	0→0→...	001 :	2	0→1→0→...	010 :	3	0→1→2→0→...	011 :	4	0→1→2→3→0→...	100 :	5	0→1→2→3→4→0→...	101 :	6	0→1→2→3→4→5→0→...	110 :	7	0→1→2→3→4→5→6→0→...	111 :	8	0→1→2→3→4→5→6→7→0→...
シーケンス長	参照する SPCMD レジスタ (番号)																														
000 :	1	0→0→...																													
001 :	2	0→1→0→...																													
010 :	3	0→1→2→0→...																													
011 :	4	0→1→2→3→0→...																													
100 :	5	0→1→2→3→4→0→...																													
101 :	6	0→1→2→3→4→5→0→...																													
110 :	7	0→1→2→3→4→5→6→0→...																													
111 :	8	0→1→2→3→4→5→6→7→0→...																													

17.3.7 RSPI シーケンスステータスレジスタ (SPSSR)

SPSSR は、RSPI がマスタ動作する場合のシーケンス制御の状態を示すレジスタです。SPSSR は、常に CPU による読み出しが可能です。CPU から SPSSR への書き込みは無視されます。

ビット :	7	6	5	4	3	2	1	0
	-	SPECM[2:0]			-	SPCP[2:0]		
初期値 :	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W :	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7	-	0	R	リザーブビット 書き込む値は常に 0 にしてください。1 を書き込んだ場合の動作は保証しません。
6~4	SPECM[2:0]	000	R	RSPI エラーコマンド RSPI のシーケンス制御で、エラー検出時にコマンドポインタ (SPCP2~SPCP0 ビット) で指されていた RSPI コマンドレジスタ 0~7 (SPCMD0~SPCMD7) を示すビットです。RSPI はエラー検出時にのみ SPECM2~SPECM0 を更新します。RSPI ステータスレジスタ (SPSR) の OVRF ビットと MODF ビットがともに 0 で、エラーが発生していない場合には、SPECM2~SPECM0 の値には意味がありません。 なお、RSPI のエラー検出機能については、「17.4.7 エラー検出」を参照してください。また、RSPI のシーケンス制御については、「17.4.9 マスタモード動作」を参照してください。 000 : SPCMD0 001 : SPCMD1 010 : SPCMD2 011 : SPCMD3 100 : SPCMD4 101 : SPCMD5 110 : SPCMD6 111 : SPCMD7
3	-	0	R	リザーブビット 書き込む値は常に 0 にしてください。1 を書き込んだ場合の動作は保証しません。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
2~0	SPCP[2:0]	000	R	<p>RSPI コマンドポインタ</p> <p>RSPI のシーケンス制御で、現在ポインタで指されている RSPI コマンドレジスタ 0~7 (SPCMD0~7) を示すビットです。</p> <p>なお、RSPI のシーケンス制御については、「17.4.9 マスタモード動作」を参照してください。</p> <p>000 : SPCMD0 001 : SPCMD1 010 : SPCMD2 011 : SPCMD3 100 : SPCMD4 101 : SPCMD5 110 : SPCMD6 111 : SPCMD7</p>

17.3.8 RSPI ビットレートレジスタ (SPBR)

SPBR は、マスタモード時のビットレート設定に使用するレジスタです。SPBR は、常に CPU による読み出し／書き込みが可能です。RSPI 制御レジスタ (SPCR) の MSTR ビットと SPE ビットが 1 で、マスタモードの RSPI 機能がイネーブルである状態において、CPU が SPBR を書き換えた場合には、以降の動作は保証されません。

ビット :	7	6	5	4	3	2	1	0
	SPR7	SPR6	SPR5	SPR4	SPR3	SPR2	SPR1	SPR0
初期値 :	1	1	1	1	1	1	1	1
R/W :	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビットレートは SPBR の設定値と RSPI コマンドレジスタ (SPCMD0~7) の BRDV1~0 ビットの設定値の組み合わせで決定されます。ビットレートの計算式は下記のとおりです。計算式中で n は SPBR の設定値 (0、1、2、…、255)、N は BRDV1~0 ビットの設定値 (0、1、2、3) です。マスタモード時の最大ビットレートは 10.0Mbps です。10.0Mbps を超える設定を行った場合の動作は保証されません。

$$\text{ビットレート} = \frac{f(P\phi)}{2 \times (n+1) \times 2^N}$$

SPBR レジスタ、BRDV[1:0]ビットの設定値とビットレートの関係の例を表 17.3 に示します。

表 17.3 SPBR レジスタ、BRDV[1:0]ビットの設定値とビットレート

SPBR の設定値 (n)	BRDV[1:0]の設定値 (N)	分周比	ビットレート			
			Pφ = 16MHz	Pφ = 20MHz	Pφ = 32MHz	Pφ = 40MHz
0	0	2	8.0 Mbps	10.0 Mbps	—	—
1	0	4	4.0 Mbps	5.0 Mbps	8.0 Mbps	10.0 Mbps
2	0	6	2.67 Mbps	3.3 Mbps	5.33 Mbps	6.67 Mbps
3	0	8	2.0 Mbps	2.5 Mbps	4.0 Mbps	5.0 Mbps
4	0	10	1.6 Mbps	2.0 Mbps	3.2 Mbps	4.0 Mbps
5	0	12	1.33 Mbps	1.67 Mbps	2.67 Mbps	3.33 Mbps
5	1	24	667 kbps	833 kbps	1.33 Mbps	1.67 Mbps
5	2	48	333 kbps	417 kbps	667 kbps	8.33 kbps
5	3	96	167 kbps	208 kbps	333 kbps	417 kbps
255	3	4096	3.9 kbps	4.9 kbps	7.8 kbps	9.8 kbps

【注】 — : 設定禁止

17.3.9 RSPCK 遅延レジスタ (SPCKD)

SPCKD は、RSPI コマンドレジスタ (SPCMD) の SCKDEN ビットが 1 の状態における、SSL 信号アサート開始から RSPCK 発振までの期間 (RSPCK 遅延) を設定するためのレジスタです。SPCKD は、常に CPU による読み出し/書き込みが可能です。RSPI 制御レジスタ (SPCR) の MSTR ビットと SPE ビットが 1 で、マスタモードの RSPI がイネーブルである状態において、CPU が SPCKD を書き換えた場合には、以降の動作は保証されません。

ビット :	7	6	5	4	3	2	1	0
	-	-	-	-	-	SCKDL[2:0]		
初期値 :	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W :	R	R	R	R	R	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
7~3	-	すべて 0	R	リザーブビット 書き込む値は常に 0 にしてください。1 を書き込んだ場合の動作は保証しません。
2~0	SCKDL[2:0]	000	R/W	RSPCK 遅延設定 SPCMD の SCKDEN ビットが 1 の場合の RSPCK 遅延値を設定するためのビットです。 000 : 1RSPCK 001 : 2RSPCK 010 : 3RSPCK 011 : 4RSPCK 100 : 5RSPCK 101 : 6RSPCK 110 : 7RSPCK 111 : 8RSPCK

17.3.10 RSPI スレーブセレクトネゲート遅延レジスタ (SSLND)

SSLND は、マスタモードの RSPI がシリアル転送の最終 RSPCK エッジを送出してから SSL 信号をネゲートするまでの期間 (SSL ネゲート遅延) を設定するためのレジスタです。SSLND は、常に CPU による読み出し/書き込みが可能です。RSPI 制御レジスタ (SPCR) の MSTR ビットと SPE ビットが 1 で、マスタモードの RSPI がイネーブルである状態において、CPU が SSLND を書き換えた場合には、以降の動作は保証されません。

ビット :	7	6	5	4	3	2	1	0
	-	-	-	-	-	SLNDL[2:0]		
初期値 :	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W :	R	R	R	R	R	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
7~3	-	すべて 0	R	リザーブビット 書き込む値は常に 0 にしてください。1 を書き込んだ場合の動作は保証しません。
2~0	SLNDL[2:0]	000	R/W	SSL ネゲート遅延設定 マスタモードの RSPI の SSL ネゲート遅延値を設定するためのビットです。 000 : 1RSPCK 001 : 2RSPCK 010 : 3RSPCK 011 : 4RSPCK 100 : 5RSPCK 101 : 6RSPCK 110 : 7RSPCK 111 : 8RSPCK

17.3.11 RSPI 次アクセス遅延レジスタ (SPND)

SPND は、RSPI コマンドレジスタ (SPCMD) の SPNDEN ビットが 1 の状態における、シリアル転送終了後の SSL 信号の非アクティブ期間 (次アクセス遅延) を設定するためのレジスタです。SPND は、常に CPU による読み出し/書き込みが可能です。RSPI 制御レジスタ (SPCR) の MSTR ビットと SPE ビットが 1 で、マスタモードの RSPI がイネーブルである状態において、CPU が SPND を書き換えた場合には、以降の動作は保証されません。

ビット :	7	6	5	4	3	2	1	0
	-	-	-	-	-	SPNDL[2:0]		
初期値 :	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W :	R	R	R	R	R	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
7~3	-	すべて 0	R	リザーブビット 書き込む値は常に 0 にしてください。1 を書き込んだ場合の動作は保証しません。
2~0	SPNDL[2:0]	000	R/W	RSPI 次アクセス遅延設定 SPCMD の SPNDEN ビットが 1 の場合の次アクセス遅延を設定するためのビットです。 000 : 1RSPCK+2Pφ 001 : 2RSPCK+2Pφ 010 : 3RSPCK+2Pφ 011 : 4RSPCK+2Pφ 100 : 5RSPCK+2Pφ 101 : 6RSPCK+2Pφ 110 : 7RSPCK+2Pφ 111 : 8RSPCK+2Pφ

17.3.12 RSPI コマンドレジスタ (SPCMD)

1 チャネルの RSPI には、RSPI コマンドレジスタ (SPCMD) が 8 本あります (SPCMD0~SPCMD7)。SPCMD0 ~SPCMD7 は、マスタモードの RSPI の転送フォーマットを設定するために使用されます。また、SPCMD0 の一部のビットは、スレーブモードの RSPI の転送フォーマットを設定するためにも使用されます。マスタモードの RSPI は RSPI シーケンス制御レジスタ (SPSCR) の SPSLN2~SPSLN0 ビットの設定に従ってシーケンシャルに SPCMD0~7 を参照し、参照した SPCMD に設定されたシリアル転送を実行します。

SPCMD は、常に CPU による読み出し/書き込みが可能です。RSPI がマスタモードでシリアル転送中/SSL ネットワーク遅延期間中/次アクセス遅延期間中に、RSPI が参照している SPCMD を CPU が書き換えた場合には、以降の動作は保証されません。マスタモードの RSPI が参照している SPCMD は、RSPI シーケンスステータスレジスタ (SPSSR) の SPCP2~0 ビットにより確認できます。また、スレーブモードの RSPI がイネーブルな状態において、SPCMD0 を CPU が書き換えた場合には、以降の動作は保証されません。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	SCKDEN	SLNDEN	SPNDEN	LSBF	SPB[3:0]			SSLKP	SSLA[2:0]			BRDV[1:0]		CPOL	CPHA	
初期値:	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	1	1	0	1
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15	SCKDEN	0	R/W	<p>RSPCK 遅延設定イネーブル</p> <p>マスタモードの RSPI が、SSL 信号をアクティブにしてから RSPCK を発振するまでの期間 (RSPCK 遅延) を設定するためのビットです。SCKDEN が 0 の場合には、RSPI は RSPCK 遅延を 1RSPCK にします。SCKDEN が 1 の場合には、RSPI は RSPCK 遅延レジスタ (SPCKD) の設定に従った RSPCK 遅延で RSPCK の発振を開始します。</p> <p>RSPI をスレーブモードで使用する場合には、SCKDEN に 0 を設定してください。</p> <p>0 : RSPCK 遅延は 1RSPCK 1 : RSPCK 遅延は RSPCK 遅延レジスタ (SPCKD) の設定値</p>
14	SLNDEN	0	R/W	<p>SSL ネットワーク遅延設定イネーブル</p> <p>マスタモードの RSPI が、RSPCK を発振停止してから SSL 信号を非アクティブにするまでの期間 (SSL ネットワーク遅延) を設定するためのビットです。SLNDEN が 0 の場合には、RSPI は SSL ネットワーク遅延を 1RSPCK にします。SLNDEN が 1 の場合には、RSPI はスレーブセレクトネットワーク遅延レジスタ (SSLND) の設定に従った RSPCK 遅延で SSL をネグートします。</p> <p>RSPI をスレーブモードで使用する場合には、SLNDEN に 0 を設定してください。</p> <p>0 : SSL ネットワーク遅延は 1RSPCK 1 : SSL ネットワーク遅延はスレーブセレクトネットワーク遅延レジスタ (SSLND) の設定値</p>

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
13	SPNDEN	0	R/W	<p>RSPI 次アクセス遅延イネーブル</p> <p>マスタモードの RSPI がシリアル転送を終了して SSL 信号を非アクティブにしてから、次アクセスの SSL 信号アサートを可能にするまでの期間（次アクセス遅延）を設定するためのビットです。SPNDEN が 0 の場合には、RSPI は次アクセス遅延を 1RSPCK+2Pφ にします。SPNDEN が 1 の場合には、RSPI は RSPI 次アクセス遅延レジスタ（SPND）の設定に従った次アクセス遅延を挿入します。</p> <p>RSPI をスレープモードで使用するには、SPNDEN に 0 を設定してください。</p> <p>0 : 次アクセス遅延は 1RSPCK+2Pφ 1 : 次アクセス遅延は RSPI 次アクセス遅延レジスタ（SPND）の設定値</p>
12	LSBF	0	R/W	<p>RSPI LSB ファースト</p> <p>マスタモード/スレープモードの RSPI のデータフォーマットを、MSB ファースト/LSB ファーストに設定するためのビットです。</p> <p>0 : MSB ファースト 1 : LSB ファースト</p>
11~8	SPB[3:0]	0111	R/W	<p>RSPI データ長設定</p> <p>マスタモード/スレープモードの RSPI の転送データ長を設定するためのビットです。</p> <p>0000~0111 : 8 ビット 1000 : 9 ビット 1001 : 10 ビット 1010 : 11 ビット 1011 : 12 ビット 1100 : 13 ビット 1101 : 14 ビット 1110 : 15 ビット 1111 : 16 ビット</p>
7	SSLKP	0	R/W	<p>SSL 信号レベル保持</p> <p>マスタモードの RSPI がシリアル転送する場合に、現コマンドに対応する SSL ネグートタイミングから次コマンドに対応する SSL アサートタイミングの間に、現コマンドの SSL 信号レベルを保持するか、ネグートするかを設定するビットです。</p> <p>RSPI をスレープモードで使用するには、SSLKP に 0 を設定してください。</p> <p>0 : 転送終了時に全 SSL 信号をネグート 1 : 転送終了後から次アクセス開始まで SSL 信号レベルを保持</p>

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
6~4	SSLA[2:0]	000	R/W	<p>SSL 信号アサート設定</p> <p>マスタモードの RSPI がシリアル転送する場合の SSL 信号のアサートを制御するためのビットです。SSLA_i (i は 2~0) の設定値が、SSL7~SSL0 信号のアサートを制御します。SSL 信号アサート時の信号極性は、RSPI スレーブセレクト極性レジスタ (SSLP) の設定値に依存します。マルチマスタモードで SSLA2~SSLA0 に B'000 を設定した場合には、全 SSL 信号がネゲート状態でシリアル転送が実行されます (SSL0 は入力になるため)。</p> <p>また、SPCMDB0~SPCMDB7、SPCMDC0~SPCMDC7 レジスタの SSLA[2:0] ビットに B'100 から B'111 に設定した場合にも、チャンネル B、C の全 SSL 信号はネゲート状態でシリアル転送が実行されます (チャンネル B、C に SSL4~SSL7 がいないため)。</p> <p>RSPI をスレーブモードで使用する場合には、SSLA2~SSLA0 に B'000 を設定してください。</p> <p>000 : SSL0 001 : SSL1 010 : SSL2 011 : SSL3 100 : SSL4 101 : SSL5 110 : SSL6 111 : SSL7</p>
3、2	BRDV[1:0]	11	R/W	<p>ビットレート分周設定</p> <p>ビットレートを決定するために使用するレジスタです。BRDV1、0 ビットと RSPI ビットレートレジスタ (SPBR) の設定値の組み合わせでビットレートを決定します (「17.3.8 RSPI ビットレートレジスタ (SPBR)」を参照)。SPBR の設定値は、ベースとなるビットレートを決定します。BRDV1~0 ビットの設定値は、ベースのビットレートに対して 分周なし/2 分周/4 分周/8 分周したビットレートを選択するために使用します。SPCMD0~7 にはそれぞれ異なる BRDV1、0 の設定を行うことができます。このため、コマンドごとに異なるビットレートでシリアル転送を実行することが可能です。</p> <p>00 : ベースのビットレートを選択 01 : ベースのビットレートの 2 分周を選択 10 : ベースのビットレートの 4 分周を選択 11 : ベースのビットレートの 8 分周を選択</p>
1	CPOL	0	R/W	<p>RSPCK 極性設定</p> <p>マスタモード/スレーブモードの RSPI の RSPCK 極性を設定するためのビットです。RSPI モジュール間のデータ通信を行う場合、モジュール間で同一の RSPCK 極性を設定する必要があります。</p> <p>0 : アイドル時の RSPCK が 0 1 : アイドル時の RSPCK が 1</p>

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
0	CPHA	1	R/W	<p>RSPCK 位相設定</p> <p>マスタモード/スレーブモードのRSPIのRSPCK位相を設定するためのビットです。RSPI モジュール間のデータ通信を行う場合、モジュール間で同一のRSPCK 位相を設定する必要があります。</p> <p>0 : 奇数エッジでデータサンプル、偶数エッジでデータ変化 1 : 奇数エッジでデータ変化、偶数エッジでデータサンプル</p>

17.4 動作説明

本章では、シリアル転送期間という用語を、有効データのドライブ開始から最終有効データの取り込みまでの期間を意味する用語として使用しています。

17.4.1 RSPI 動作の概要

RSPI は、スレーブモード、シングルマスタモード、マルチマスタモードでの同期式のシリアル転送が可能です。RSPI のモードは、RSPI 制御レジスタ (SPCR) の MSTR ビットと MODFEN ビットによって設定可能です。表 17.4 に RSPI のモードと SPCR 設定の関係および各モードの概要をまとめます。

表 17.4 RSPI のモードと SPCR 設定の関係および各モードの概要

項目		スレーブモード	シングルマスタモード	マルチマスタモード
MSTR ビットの設定		0	1	1
MODFEN ビットの設定		0、1	0	1
RSPCK 信号		入力	出力	出力/Hi-Z
MOSI 信号		入力	出力	出力/Hi-Z
MISO 信号		出力/Hi-Z	入力	入力
SSL0 信号		入力	出力	入力
SSL1~SSL7 信号		Hi-Z	出力	出力/Hi-Z
出力端子モード		CMOS/オープンドレイン	CMOS/オープンドレイン	CMOS/オープンドレイン
SSL 極性変更機能		あり	あり	あり
転送レート	周辺クロック 1 逓倍設定時	~2.5 MHz	~10.0 MHz	~10.0 MHz
	周辺クロック 2 逓倍設定時	~2.5 MHz	~10.0 MHz	~10.0 MHz
クロックソース		RSPCK 入力	内蔵ポーレートジェネレータ	内蔵ポーレートジェネレータ
クロック極性		2 種	2 種	2 種
クロック位相		2 種	2 種	2 種
先頭転送ビット		MSB/LSB	MSB/LSB	MSB/LSB
転送データ長		8~16 ビット	8~16 ビット	8~16 ビット
バースト転送		可能 (CPHA=1)	可能 (CPHA=0、1)	可能 (CPHA=0、1)
RSPCK 遅延制御		なし	あり	あり
SSL ネゲート遅延制御		なし	あり	あり
次アクセス遅延制御		なし	あり	あり
転送起動方法		SSL 入力アクティブ または RSPCK 発振	A-DMAC で起動： SPDR ライト CPU で起動： SPTEF クリア	A-DMAC で起動： SPDR ライト CPU で起動： SPTEF クリア

項目	スレーブモード	シングルマスタモード	マルチマスタモード
シーケンス制御	なし	あり	あり
送信バッファエンプティ検出	あり	あり	あり
受信バッファフル検出	あり	あり	あり
オーバランエラー検出	あり	あり	あり
モードフォルトエラー検出	あり (MODFEN=1)	なし	あり

17.4.2 RSPI 端子の制御

RSPI は、RSPI 制御レジスタ (SPCR) の MSTR ビット、MODFEN ビットと RSPI 端子制御レジスタ (SPPCR) の SPOM ビットの設定に従って、端子方向と出力モードを自動的に切り替えます。端子状態と各ビットの設定値の関係を表 17.5 に示します。

表 17.5 RSPI 端子の状態と制御ビット設定値の関係

モード	端子	端子状態*1	
		SPOM=0	SPOM=1
シングルマスタモード (MSTR=1、MODFEN=0)	RSPCK	CMOS 出力	オープンドレイン出力
	SSL0~7	CMOS 出力	オープンドレイン出力
	MOSI	CMOS 出力	オープンドレイン出力
	MISO	入力	入力
マルチマスタモード (MSTR=1、MODFEN=1)	RSPCK*2	CMOS 出力/Hi-Z	オープンドレイン出力/Hi-Z
	SSL0	入力	入力
	SSL1~7*2	CMOS 出力/Hi-Z	オープンドレイン出力/Hi-Z
	MOSI*2	CMOS 出力/Hi-Z	オープンドレイン出力/Hi-Z
スリープモード (MSTR=0)	RSPCK	入力	入力
	SSL0	入力	入力
	SSL1~7	Hi-Z	Hi-Z
	MOSI	入力	入力
	MISO*3	CMOS 出力/Hi-Z	オープンドレイン出力/Hi-Z

【注】 *1 RSPI 機能が選択されていないマルチプレクス端子には RSPI の設定値は反映されません。

*2 SSL0 がアクティブレベルの場合、端子状態が Hi-Z になります。

*3 SSL0 が非アクティブレベルまたは SPCR の SPE ビットが 0 の場合、端子状態が Hi-Z になります。

マスタモードの RSPI は、SPPCR の MOIFE ビットと MOIFV ビットの設定に従って、SSL ネゲート期間（パースト転送における SSL 保持期間を含む）の MOSI 信号値を表 17.6 のように決定します。

表 17.6 SSL ネゲート期間の MOSI 信号値の決定方法

MOIFE	MOIFV	SSL ネゲート期間の MOSI 信号値
0	0、1	前回転送の最終データ
1	0	常に 0
1	1	常に 1

17.4.3 RSPI システム構成例

(1) シングルマスタ/シングルスレーブ (本 LSI をマスタとして使用した場合)

図 17.2 に、本 LSI をマスタとして使用した場合のシングルマスタ/シングルスレーブの RSPI システムの構成例を示します。シングルマスタ/シングルスレーブの構成では、本 LSI (マスタ) の SSL0~SSL7 出力は使用しません。RSPI スレーブの SSL 入力 is アクティブレベルに固定して、RSPI スレーブを常にセレクト状態にします。RSPI 制御レジスタ (SPCR) の CPHA ビットが 0 の場合に相当する転送フォーマットでは、SSL 信号をアクティブレベルに固定することができないスレーブデバイスも存在します。SSL 信号を固定にできない場合には、本 LSI の SSL 出力をスレーブデバイスの SSL 入力に接続してください。

本 LSI (マスタ) は、RSPCK と MOSI を常にドライブします。RSPI スレーブは、MISO を常にドライブします。

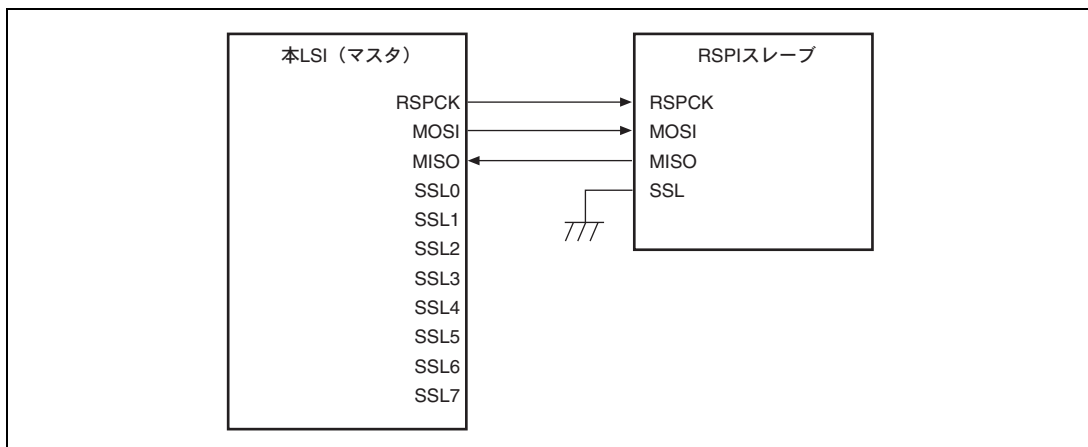


図 17.2 シングルマスタ/シングルスレーブの構成例 (本 LSI=マスタ)

(2) シングルマスタ/シングルスレーブ (本 LSI をスレーブとして使用した場合)

図 17.3 に、本 LSI をスレーブとして使用した場合のシングルマスタ/シングルスレーブの RSPI システム構成例を示します。本 LSI をスレーブとして使用する場合には、SSL0 端子を SSL 入力として使用します。RSPI マスタは、RSPCK と MOSI を常にドライブします。本 LSI (スレーブ) は、MISO を常にドライブします。

RSPI コマンドレジスタ (SPCMD) の CPHA ビットを 1 に設定したシングルスレーブ構成の場合には、本 LSI (スレーブ) の SSL0 入力をアクティブレベルに固定して本 LSI (スレーブ) を常に選択状態とし、シリアル転送を実行することも可能です (図 17.4)。

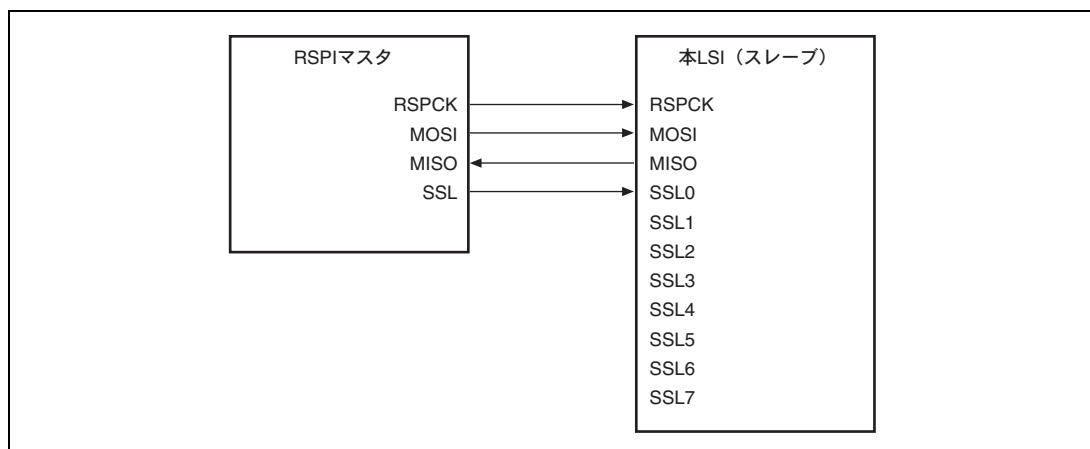


図 17.3 シングルマスタ/シングルスレーブの構成例 (本 LSI=スレーブ)

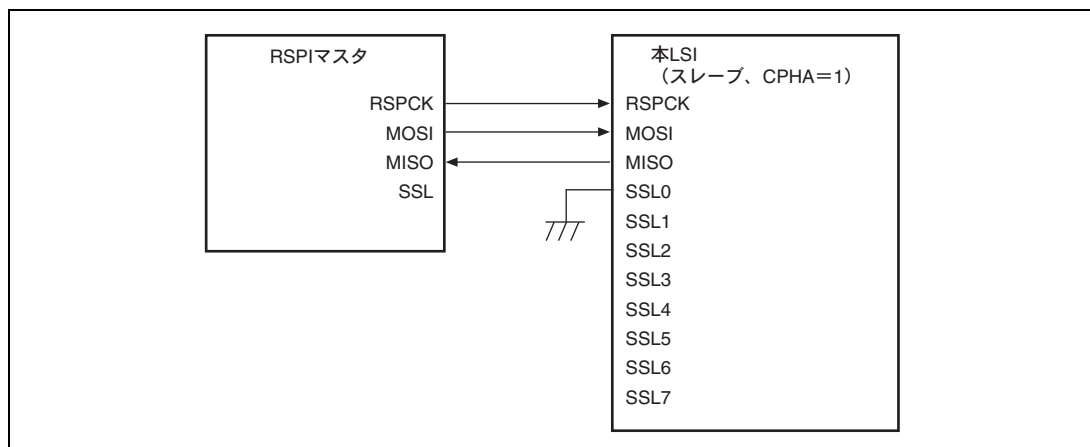


図 17.4 シングルマスタ/シングルスレーブの構成例 (本 LSI=スレーブ、CPHA=1)

(3) シングルマスタ/マルチスレーブ (本 LSI をマスタとして使用した場合)

図 17.5 に、本 LSI をマスタとして使用した場合のシングルマスタ/マルチスレーブの RSPI システム構成例を示します。図 17.5 の例では、本 LSI (マスタ) と 4 つのスレーブ (RSPI スレーブ 0~RSPI スレーブ 3) から RSPI システムを構成しています。

本 LSI (マスタ) の RSPCK 出力と MOSI 出力は、RSPI スレーブ 0~RSPI スレーブ 3 の RSPCK 入力と MOSI 入力に接続します。RSPI スレーブ 0~RSPI スレーブ 3 の MISO 出力は、すべて本 LSI (マスタ) の MISO 入力に接続します。本 LSI (マスタ) の SSL0~SSL3 出力は、それぞれ RSPI スレーブ 0~RSPI スレーブ 3 の SSL 入力に接続します。この構成例では、RSPI スレーブが 4 つであるので、本 LSI (マスタ) の SSL4~SSL7 出力を使用していません。

本 LSI (マスタ) は、RSPCK、MOSI、SSL0~SSL3 を常にドライブします。RSPI スレーブ 0~RSPI スレーブ 3 のうち、SSL 入力にアクティブレベルを入力されているスレーブが MISO をドライブします。

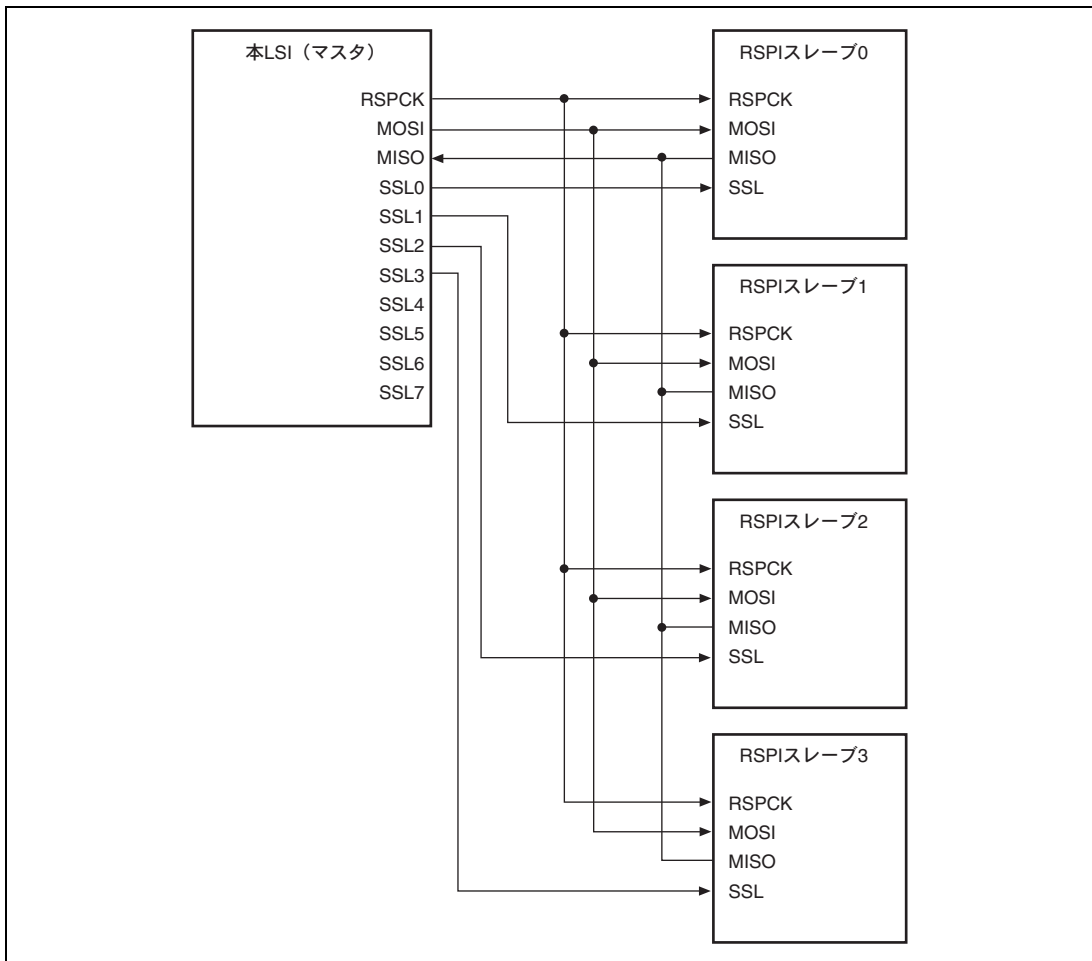


図 17.5 シングルマスタ/マルチスレーブの構成例 (本 LSI=マスタ)

(4) シングルマスタ/マルチスレーブ (本 LSI をスレーブとして使用した場合)

図 17.6 に、本 LSI をスレーブとして使用した場合のシングルマスタ/マルチスレーブの RSPI システム構成例を示します。図 17.6 の例では、RSPI マスタと 2 つの本 LSI (スレーブ X、スレーブ Y) から RSPI システムを構成しています。

RSPI マスタの RSPCK 出力と MOSI 出力は、本 LSI (スレーブ X、スレーブ Y) の RSPCK 入力と MOSI 入力に接続します。本 LSI (スレーブ X、スレーブ Y) の MISO 出力は、RSPI マスタの MISO 入力に接続します。RSPI マスタの SSLX 出力、SSLY 出力は、本 LSI (スレーブ X、スレーブ Y) の SSL0 入力に接続します。

RSPI マスタは、RSPCK、MOSI、SSLX、SSLY を常にドライブします。本 LSI (スレーブ X、スレーブ Y) のうち、SSL0 入みにアクティブレベルを入力されているスレーブが、MISO をドライブします。

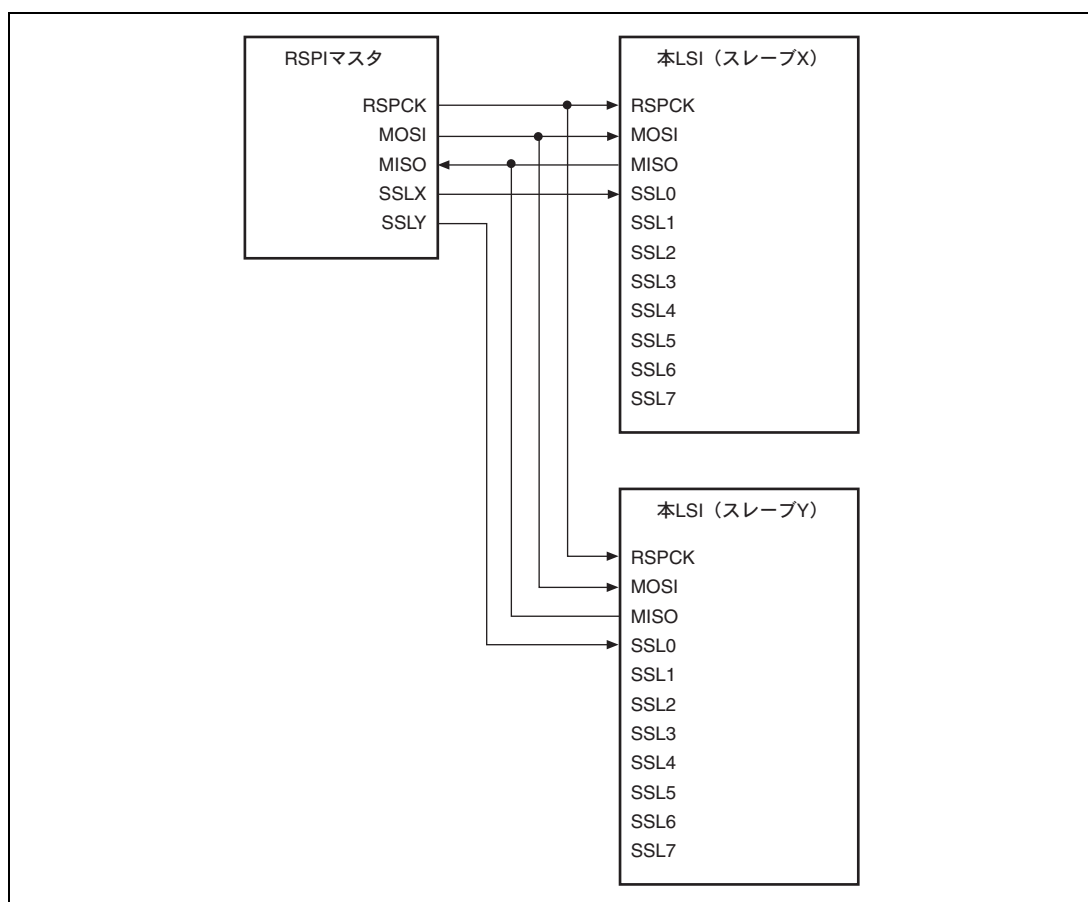


図 17.6 シングルマスタ/マルチスレーブの構成例 (本 LSI=スレーブ)

(5) マルチマスタ/マルチスレーブ (本 LSI をマスタとして使用した場合)

図 17.7 に、本 LSI をマスタとして使用した場合のマルチマスタ/マルチスレーブの RSPI システム構成例を示します。図 17.7 の例では、2 つの本 LSI (マスタ X、マスタ Y) と 2 つの RSPI スレーブ (RSPI スレーブ 1、RSPI スレーブ 2) から RSPI システムを構成しています。

本 LSI (マスタ X、マスタ Y) の RSPCK 出力と MOSI 出力は、RSPI スレーブ 1、RSPI スレーブ 2 の RSPCK 入力と MOSI 入力に接続します。RSPI スレーブ 1、RSPI スレーブ 2 の MISO 出力は、本 LSI (マスタ X、マスタ Y) の MISO 入力に接続します。本 LSI (マスタ X) の任意の汎用ポート Y 出力は、本 LSI (マスタ Y) の SSL0 入力に接続します。本 LSI (マスタ Y) の任意の汎用ポート X 出力は、本 LSI (マスタ X) の SSL0 入力に接続します。本 LSI (マスタ X、マスタ Y) の SSL1 出力と SSL2 出力は、RSPI スレーブ 1、RSPI スレーブ 2 の SSL 入力に接続します。この構成例では、SSL0 入力、スレーブ接続用の SSL1 出力、SSL2 出力のみでシステムを構成できるので、本 LSI の SSL3~SSL7 出力を使用していません。

本 LSI は、SSL0 入力が非アクティブレベルの場合には、RSPCK、MOSI、SSL1、SSL2 をドライブします。SSL0 入力がアクティブレベルの場合には、モードフォルトエラーを検出し、RSPCK、MOSI、SSL1、SSL2 を Hi-Z にして、他方のマスタに RSPI バス権を解放します。RSPI スレーブ 1、RSPI スレーブ 2 のうち、SSL 入力にアクティブレベルを入力されているスレーブが、MISO をドライブします。

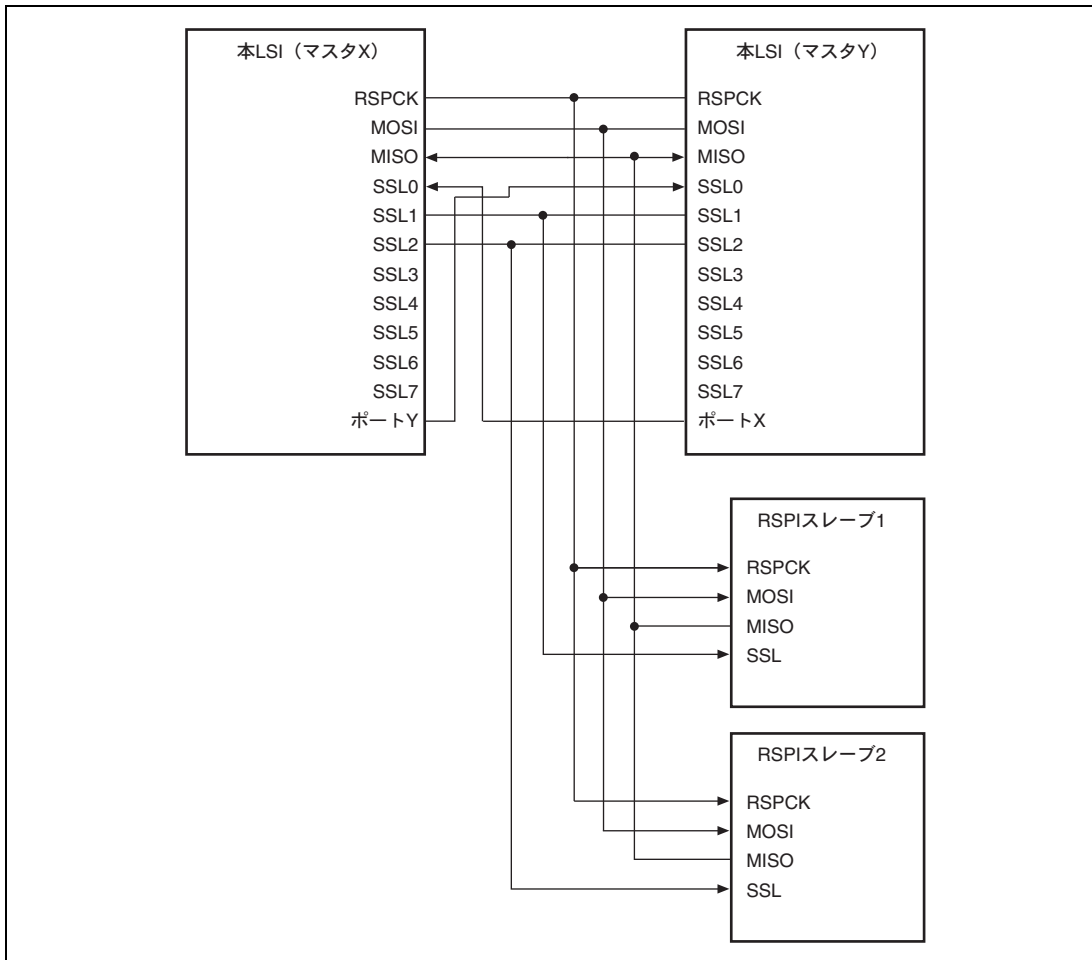


図 17.7 マルチマスタ/マルチスレーブの構成例 (本LSI=マスタ)

17.4.4 転送フォーマット

(1) CPHA=0 の場合

図 17.8 に RSPI コマンドレジスタ (SPCMD) の CPHA ビットが 0 の場合に、8 ビットのデータをシリアル転送した場合の転送フォーマット例を示します。図 17.8 において、RSPCK (CPOL=0) は SPCMD の CPOL ビットが 0 の場合、RSPCK (CPOL=1) は CPOL ビットが 1 の場合の RSPCK 信号波形です。サンプリングタイミングは、RSPI がシフトレジスタにシリアル転送データを取り込むタイミングを示しています。各信号の入出力方向は、RSPI の設定に依存します。詳細は「17.4.2 RSPI 端子の制御」を参照してください。

CPHA ビットが 0 の場合には、SSL 信号のアサートタイミングで、MOSI 信号と MISO 信号への有効データのドライブが開始されます。SSL 信号のアサート後に発生する最初の RSPCK 信号変化タイミングが最初の転送データ取り込みタイミングになり、このタイミング以降 1RSPCK 周期ごとにデータがサンプリングされます。MOSI 信号と MISO 信号の変化タイミングは、常に転送データ取り込みタイミングの 1/2RSPCK 周期後になります。CPOL ビットの設定値は、RSPCK 信号の動作タイミングには影響を与えず、信号極性のみに影響を与えます。

t1 は、SSL 信号のアサートから RSPCK 発振までの期間 (RSPCK 遅延) です。t2 は、RSPCK 発振停止から SSL 信号のネゲートまでの期間 (SSL ネゲート遅延) です。t3 は、シリアル転送終了後に次転送のための SSL 信号アサートを抑制するための期間 (次アクセス遅延) です。t1、t2、t3 は、RSPI システム上のマスタデバイスによって制御されます。本 LSI の RSPI がマスタモードである場合の t1、t2、t3 については、「17.4.9 マスタモード動作」を参照してください。

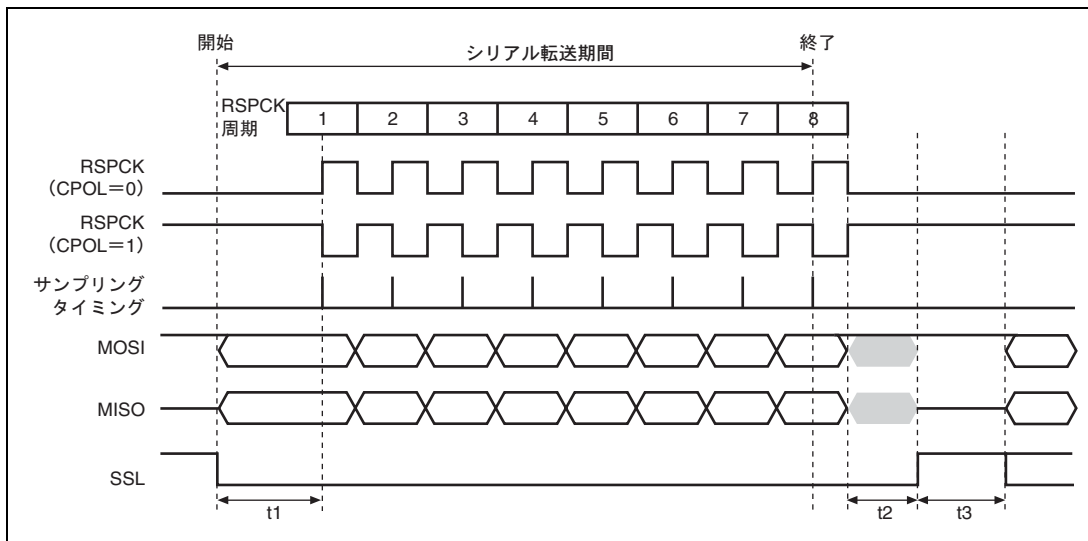


図 17.8 RSPI 転送フォーマット (CPHA=0)

(2) CPHA=1 の場合

図 17.9 に RSPI コマンドレジスタ (SPCMD) の CPHA ビットが 1 の場合に、8 ビットのデータをシリアル転送した場合の転送フォーマット例を示します。図 17.9 において、RSPCK (CPOL=0) は SPCMD の CPOL ビットが 0 の場合、RSPCK (CPOL=1) は CPOL ビットが 1 の場合の RSPCK 信号波形です。サンプリングタイミングは、RSPI がシフトレジスタにシリアル転送データを取り込むタイミングを示しています。各信号の入出力方向は、RSPI のモード (マスター/スレーブ) に依存します。詳細は「17.4.2 RSPI 端子の制御」を参照してください。

CPHA ビットが 1 の場合には、SSL 信号のアサートタイミングで、MOSI 信号と MISO 信号に無効データのドライブが開始されます。SSL 信号のアサート後に発生する最初の RSPCK 信号変化タイミングで、MOSI 信号と MISO 信号への有効データのドライブが開始され、このタイミング以降 1RSPCK 周期ごとにデータが更新されます。転送データの取り込みは、常にこのタイミングの 1/2RSPCK 周期後になります。CPOL ビットの設定値は RSPCK 信号の動作タイミングには影響を与えず、信号極性のみに影響を与えます。

t1、t2、t3 の内容は、CPHA=0 の場合と同様です。本 LSI の RSPI がマスターモードである場合の t1、t2、t3 については、「17.4.9 マスタモード動作」を参照してください。

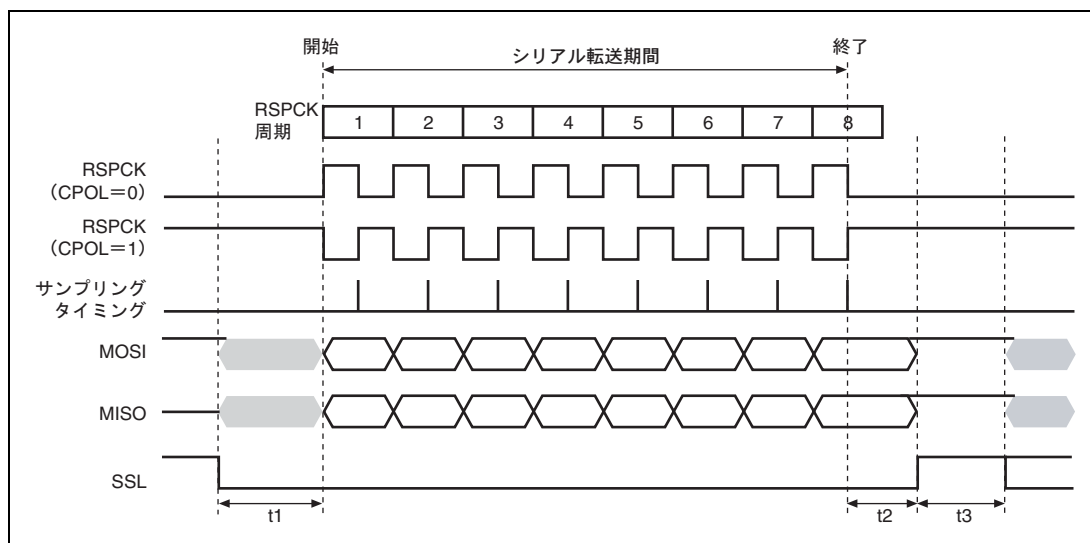


図 17.9 RSPI 転送フォーマット (CPHA=1)

17.4.5 データフォーマット

RSPI のデータフォーマットは、RSPI コマンドレジスタ (SPCMD) の設定値に依存します。MSB/LSB ファーストにかかわらず、RSPI は RSPI データレジスタ (SPDR) の LSB から設定データ長分の範囲を転送データとして扱います。

(1) MSB ファースト転送 (16 ビットデータ)

図 17.10 に、RSPI がデータ長 16 ビットの MSB ファースト転送を実施する場合の RSPI データレジスタ (SPDR) とシフトレジスタの動作内容を示します。

CPU または A-DMAC は、SPDR の送信バッファに T15~T00 を書き込みます。RSPI ステータスレジスタ (SPSR) の SPTEF ビットが 0 かつシフトレジスタが空であれば、RSPI が送信バッファのデータをシフトレジスタにコピーし、シフトレジスタをフルにします。シリアル転送が開始されると、RSPI はシフトレジスタの MSB (ビット 15) からデータを出力し、シフトレジスタの LSB (ビット 0) からデータをシフトインします。16 ビット分のシリアル転送に必要な RSPCK 周期を経過すると、シフトレジスタにはデータ R15~R00 が格納されます。この状態で、RSPI はシフトレジスタから SPDR の受信バッファにデータをコピーし、シフトレジスタを空にします。

なお、CPU または A-DMAC が SPDR の送信バッファを書き込む前に、次のシリアル転送が起動されると、受信データ R15~R00 がシフトレジスタからシフトアウトされます。

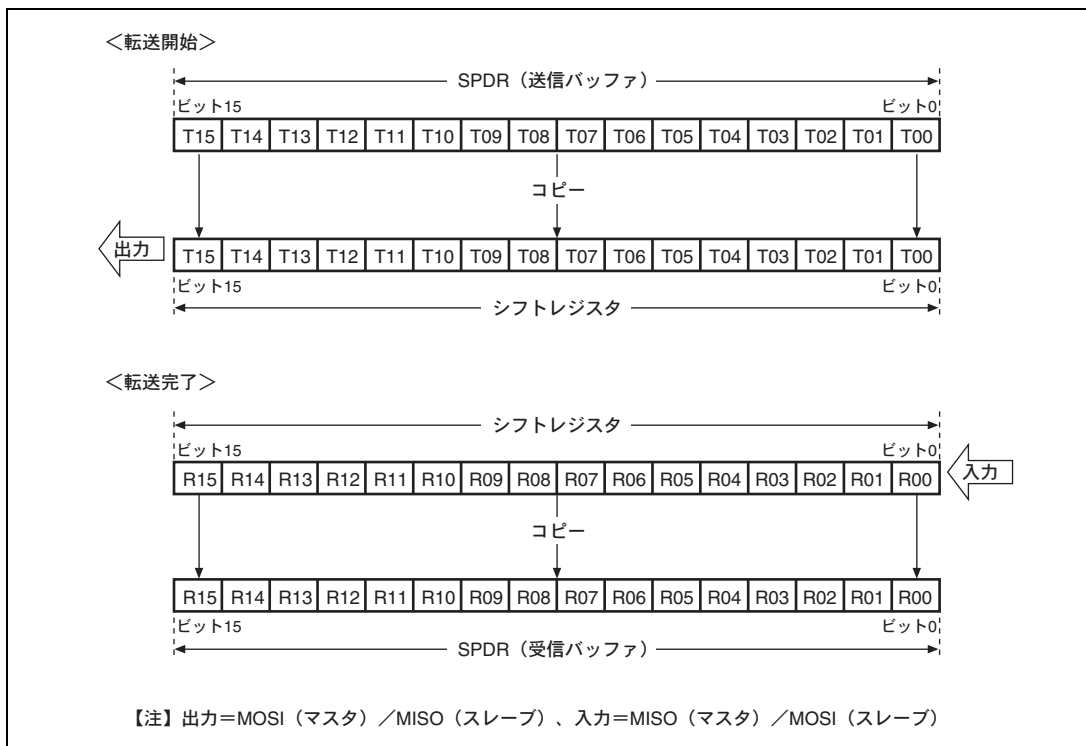


図 17.10 MSB ファースト転送 (16 ビットデータ)

(2) MSB ファースト転送 (10 ビットデータ)

図 17.11 に、RSPI が 16 ビット以外のデータを MSB ファースト転送する例として、10 ビットのデータ転送を実施する場合の RSPI データレジスタ (SPDR) とシフトレジスタの動作内容を示します。

CPU または A-DMAC は、SPDR の送信バッファに T15~T00 を書き込みます。RSPI ステータスレジスタ (SPSR) の SPTEF ビットが 0 かつシフトレジスタが空であれば、RSPI が SPDR の送信バッファのデータをシフトレジスタにコピーし、シフトレジスタをフルにします。シリアル転送が開始されると、RSPI はシフトレジスタのビット 9 からデータを出力し、シフトレジスタの LSB (ビット 0) からデータをシフトインします。10 ビット分のシリアル転送に必要な RSPCK 周期を経過すると、シフトレジスタのビット 9~0 には受信データ R09~R00 が格納されます。シリアル転送完了後のシフトレジスタのビット 15~10 には、転送前のデータが保持されています。この状態で、RSPI がシフトレジスタから SPDR の受信バッファにデータをコピーし、シフトレジスタを空にします。

なお、CPU または A-DMAC が SPDR の送信バッファを書き込む前に、次のシリアル転送が起動されると、受信データ R09~R00 がシフトレジスタからシフトアウトされます。

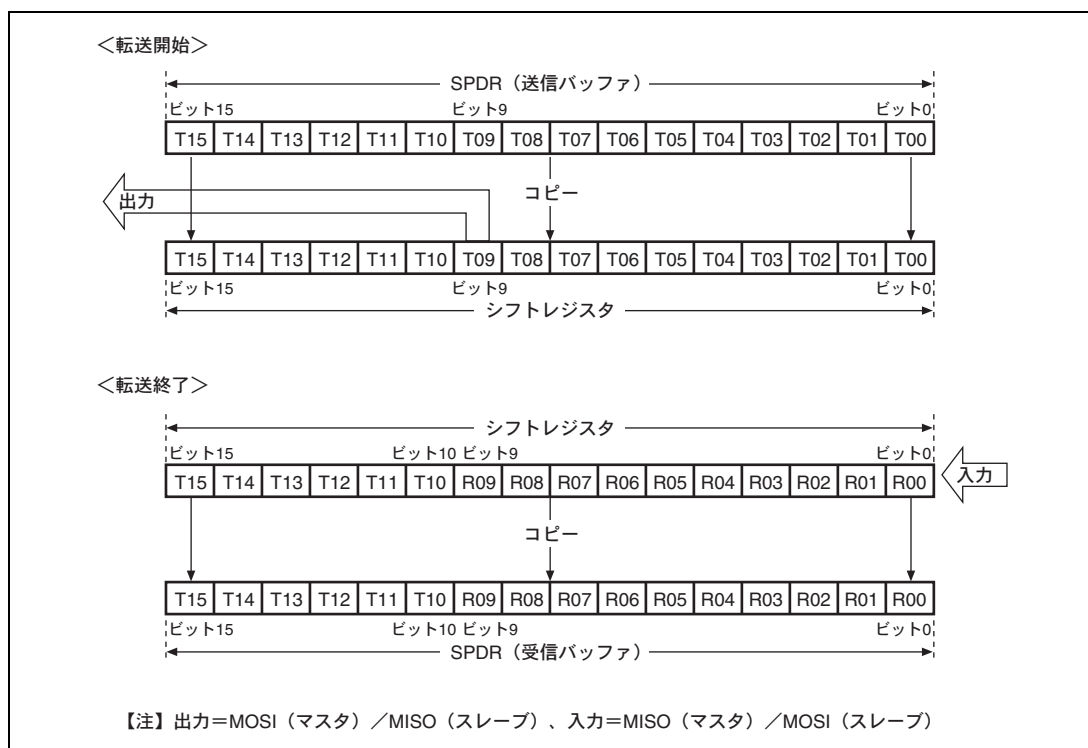


図 17.11 MSB ファースト転送 (10 ビットデータ)

(3) LSB ファースト転送 (16 ビットデータ)

図 17.12 に、RSPI がデータ長 16 ビットの LSB ファースト転送を実施する場合の RSPI データレジスタ (SPDR) とシフトレジスタの動作内容を示します。

CPU または A-DMAC は、SPDR の送信バッファに T15~T00 を書き込みます。RSPI ステータスレジスタ (SPSR) の SPTEF ビットが 0 かつシフトレジスタが空であれば、RSPI が SPDR の送信バッファのデータをシフトレジスタにビット順を逆転してコピーし、シフトレジスタをフルにします。シリアル転送が開始されると、RSPI はシフトレジスタの MSB (ビット 15) からデータを出力し、シフトレジスタの LSB (ビット 0) からデータをシフトインします。16 ビット分のシリアル転送に必要な RSPCK 周期を経過すると、シフトレジスタにはデータ R00~R15 が格納されます。この状態で、RSPI はシフトレジスタから SPDR の受信バッファにビット順を逆転したデータをコピーし、シフトレジスタを空にします。

なお、CPU または A-DMAC が SPDR の送信バッファを書き込む前に、次のシリアル転送が起動されると、受信データ R00~R15 がシフトレジスタからシフトアウトされます。

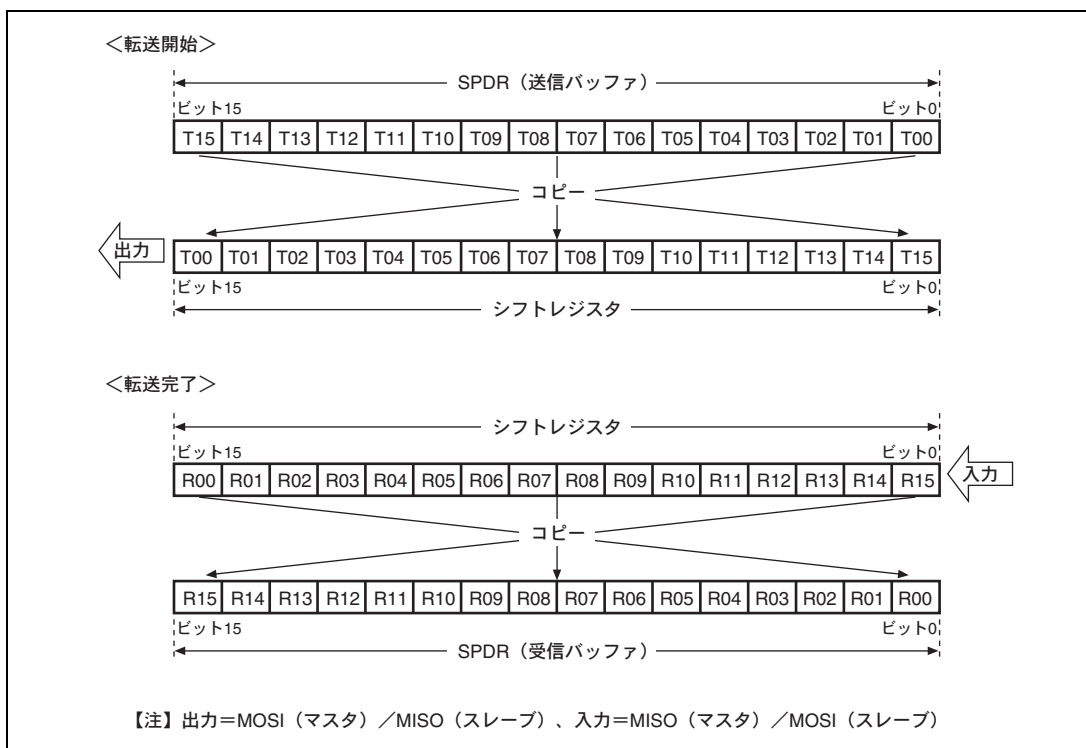


図 17.12 LSB ファースト転送 (16 ビットデータ)

(4) LSB ファースト転送 (10 ビットデータ)

図 17.13 に、RSPI が 16 ビット以外のデータを LSB ファースト転送する例として、10 ビットのデータ転送を実施する場合の RSPI データレジスタ (SPDR) とシフトレジスタの動作内容を示します。

CPU または A-DMAC は、SPDR の送信バッファに T15~T00 を書き込みます。RSPI ステータスレジスタ (SPSR) の SPTEF ビットが 0 かつシフトレジスタが空であれば、RSPI が SPDR の送信バッファのデータをシフトレジスタにビット順を逆転してコピーし、シフトレジスタをフルにします。シリアル転送が開始されると、RSPI はシフトレジスタの MSB (ビット 15) からデータを出力し、シフトレジスタのビット 6 からデータをシフトインします。10 ビット分のシリアル転送に必要な RSPCK 周期を経過すると、シフトレジスタのビット 15~6 には受信データ R00~R09 が格納されます。シリアル転送完了後のシフトレジスタのビット 5~0 には、転送前のデータが保持されています。この状態で、RSPI がシフトレジスタから SPDR の受信バッファにビット順を逆転したデータをコピーし、シフトレジスタを空にします。

なお、CPU または A-DMAC が SPDR の送信バッファを書き込む前に、次のシリアル転送が起動されると、受信データ R00~R09 がシフトレジスタからシフトアウトされます。

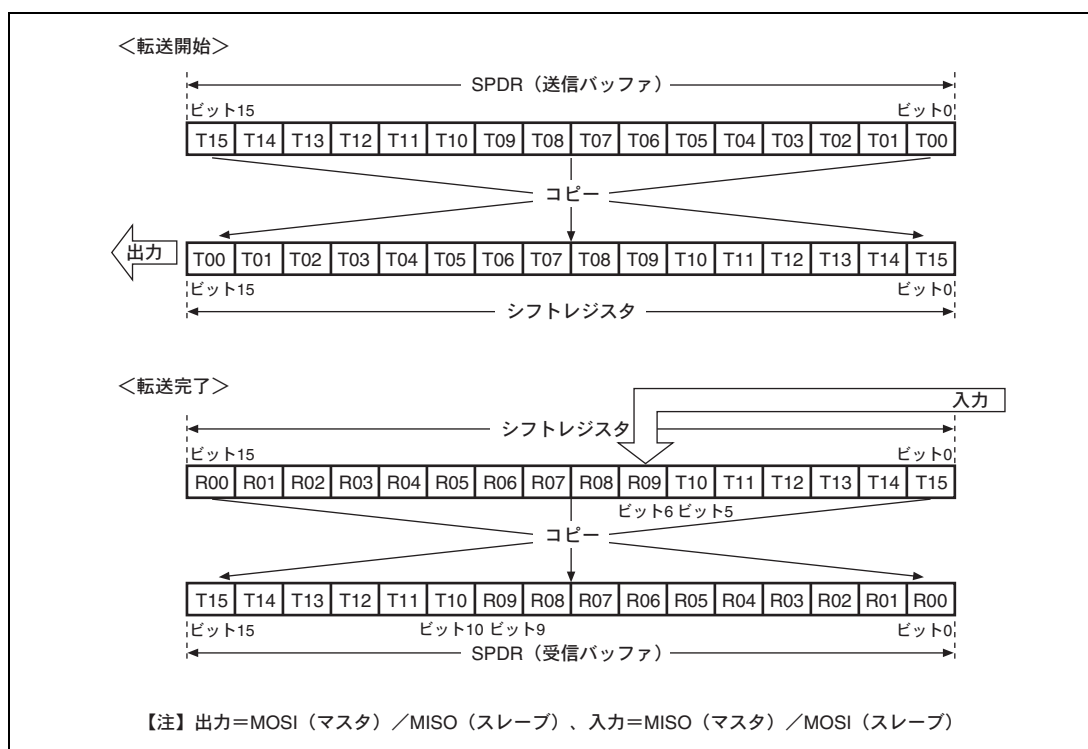


図 17.13 LSB ファースト (10 ビットデータ)

17.4.6 送信バッファエンプティ/受信バッファフルフラグ

図 17.14 に RSPI ステータスレジスタ (SPSR) の RSPI 送信バッファエンプティフラグ (SPTEF) と RSPI 受信バッファフルフラグ (SPRF) の動作例を示します。図 17.14 に記載した SPDR アクセスは、A-DMAC から RSPI データレジスタ (SPDR) へのアクセス状況を示しています。I はアイドルサイクル、W は書き込みサイクル、R は読み出しサイクルを示しています。図 17.14 の例では、RSPI コマンドレジスタ (SPCMD) の CPHA が 1、CPOL が 0 の設定で、RSPI が 8 ビットのシリアル転送を実行しています。RSPCK 波形の下に記載した数字は RSPCK サイクル数 (= 転送ビット数) を示しています。

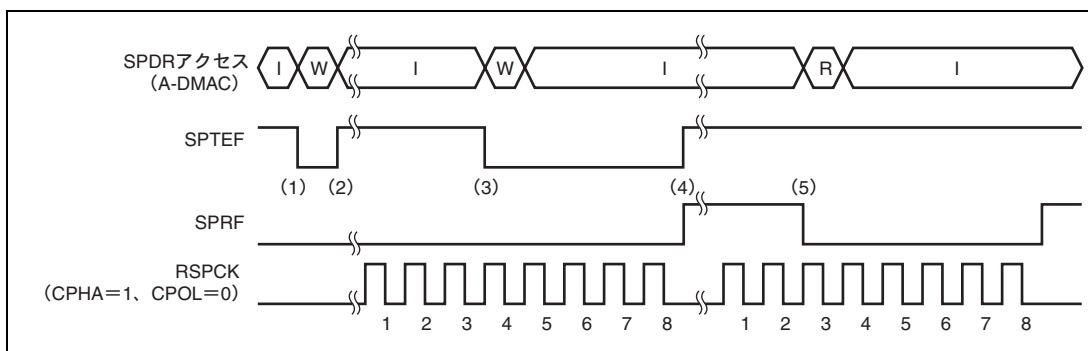


図 17.14 SPTEF、SPRF ビットの動作例

以下に、図中の (1) ~ (5) に示したタイミングでのフラグの動作内容を説明します。

1. SPDRの送信バッファが空の状態、A-DMACがSPDRに送信データを書き込むと、RSPIはSPTEFビットを0にして送信バッファにデータを書き込みます。SPRFフラグは変化しません。
2. シフトレジスタが空の場合には、RSPIはSPTEFビットを1にして送信バッファのデータをシフトレジスタにコピーします。SPRFフラグは変化しません。なお、シリアル転送の開始方法は、RSPIのモードに依存します。詳細は、「17.4.9 マスタモード動作」および「17.4.10 スレーブモード動作」を参照してください。
3. SPDRの送信バッファが空の状態、A-DMACがSPDRに送信データを書き込むと、RSPIがSPTEFビットを0にして送信バッファにデータを書き込みます。SPRFフラグは変化しません。シフトレジスタにはシリアル転送中のデータが格納されているため、RSPIは送信バッファのデータをシフトレジスタにコピーしません。
4. SPDRの受信バッファが空の状態、シリアル転送が終了すると、RSPIはSPRFを1にしてシフトレジスタの受信データを受信バッファにコピーします。また、シリアル転送が終了するとシフトレジスタが空になるため、シリアル転送が終了する前に送信バッファがフルであった場合には、RSPIがSPTEFビットを1にして送信バッファのデータをシフトレジスタにコピーします。なお、オーバランエラー発生状態で、シフトレジスタから受信バッファへ受信データをコピーしなかった場合でも、シリアル転送が終了するとRSPIはシフトレジスタを空であると判定し、送信バッファからシフトレジスタへのデータ転送は可能な状態になります。

5. 受信バッファフルの状態、A-DMACがSPDRを読み出すと、RSPIはSPRFを0にして、受信バッファのデータをチップ内部バスに送出します。

SPTEF ビットが0の状態、CPU または A-DMAC が SPDR を書き込んだ場合には、RSPI は送信バッファのデータを更新しません。SPDR を書き込む場合には、必ず SPTEF が 1 であることを確認してください。SPTEF が 1 であることは、SPSR の読み出し、あるいは RSPI 送信割り込みの利用によって確認できます。RSPI 送信割り込みを利用する場合には、SPCR の SPTIE ビットを 1 にしてください。

RSPI ディスエーブル (SPCR の SPE ビットが 0) の場合には、SPTEF ビットが 1 に初期化されます。このため RSPI ディスエーブル状態で SPCR の SPTIE ビットを 1 にすると、RSPI 送信割り込みが発生します。

SPRF ビットが 1 の状態で、シリアル転送が終了した場合には、RSPI はシフトレジスタから受信バッファへのデータのコピーを行わず、オーバランエラーを検出します (「17.4.7 エラー検出」を参照)。受信データのオーバランを防ぐためには、シリアル転送の終了よりも前に SPRF ビットを 0 にしてください。SPRF が 1 であることは、SPSR の読み出し、あるいは RSPI 受信割り込みの利用によって確認できます。RSPI 受信割り込みを利用する場合には、SPCR の SPRIE ビットを 1 にしてください。

17.4.7 エラー検出

通常のRSPIのシリアル転送では、CPUまたはA-DMACがRSPIデータレジスタ（SPDR）の送信バッファに書き込んだデータがシリアル送信され、シリアル受信されたデータをCPUまたはA-DMACがSPDRの受信バッファから読み出すことができます。CPUまたはA-DMACからSPDRへアクセスした場合の送受信バッファの状態やシリアル転送の開始／終了時のRSPIの状態によっては、通常以外の転送が実行される場合があります。

一部の通常以外の転送動作が発生した場合には、RSPIはオーバランエラーまたはモードフォルトエラーとして検出します。表 17.7 に、通常以外の転送動作とRSPIのエラー検出機能の関係を示します。

表 17.7 通常以外の転送の発生条件とRSPIのエラー検出機能

	発生条件	RSPI 動作	エラー検出
A	送信バッファフルの状態で、CPUまたはA-DMACがSPDRを書き込み。	送信バッファ内容を保持。 書き込みデータ欠落。	なし
B	スリープモードで送信データをシフトレジスタにセットしていない状態で、シリアル転送開始。	前回シリアル転送時の受信データをシリアル送信。	なし
C	受信バッファエンプティの状態で、CPUまたはA-DMACがSPDRを読み出し。	前回シリアル受信データをCPUまたはA-DMACへ出力。	なし
D	受信バッファフルの状態で、シリアル転送が終了。	受信バッファ内容を保持。 シリアル受信データ欠落。	オーバランエラー検出
E	マルチマスタモードでシリアル転送アイドル時にSSL0入力信号アサート。	RSPI ディスエーブル。	モードフォルトエラー検出
F	マルチマスタモードでシリアル転送中にSSL0入力信号アサート。	シリアル転送を中断。 送受信データ欠落。 RSPCK、MOSI、SSL1～7出力信号のドライブ停止。 RSPI ディスエーブル。	モードフォルトエラー検出
G	スリープモードでシリアル転送中にSSL0入力信号がネゲート。	シリアル転送を中断。 送受信データ欠落。 MISO出力信号のドライブ停止。 RSPI ディスエーブル。	モードフォルトエラー検出

表 17.7 の A に示した動作に対しては、RSPIはエラーを検出しません。CPUまたはA-DMACからのSPDR書き込み時にデータを欠落させないために、必ずRSPIステータスレジスタ（SPSR）のSPTEFビットが1の状態ですべてのSPDRへの書き込みを実施してください。

Bに示した動作に対しても、RSPIはエラーを検出しません。RSPIでは、シフトレジスタの更新前に起動されたシリアル転送において、前回シリアル転送時の受信データを送信し、Bに示した動作をエラーとして扱いません。なお、前回シリアル転送時の受信データは、SPDRの受信バッファに保持されているので、CPUまたはA-DMACから正しく読み出されます（シリアル転送が終了する前にSPDRを読み出さないと、オーバランエラーが発生します）。

Cに示した動作に対しても、RSPIはエラーを検出しません。CPUまたはA-DMACが不必要なデータを読み出

さないようにするためには、SPSR の SPRF ビットが 1 の状態で SPDR の読み出しを実行するようにしてください。

D に示したオーバランエラーについては、「17.4.7 (1) オーバランエラー」で詳しく説明します。また、E ~G に示したモードフォルトエラーについては、「17.4.7 (2) モードフォルトエラー」で説明します。なお、SPSR の SPTEF ビットと SPRF ビットの動作については、「17.4.6 送信バッファEMPTY/受信バッファフルフラグ」を参照してください。

(1) オーバランエラー

RSPI データレジスタ (SPDR) の受信バッファフル状態でシリアル転送が終了すると、RSPI はオーバランエラーを検出して SPSR の OVRF ビットを 1 にします。OVRF ビットが 1 の状態では、RSPI はシフトレジスタのデータを受信バッファにコピーしないので、受信バッファにはエラー発生前のデータが保持されます。SPSR の OVRF ビットを 0 にするためには、パワーオンリセット/スタンバイを実施するか、OVRF ビットが 1 にセットされた状態の SPSR を CPU が読み出した後に、OVRF に 0 を書き込む必要があります。

図 17.15 に、SPSR の SPRF ビットと OVRF ビットの動作を示します。図 17.15 に記載した SPSR アクセスと SPDR アクセスは、それぞれ CPU から SPSR、A-DMAC から SPDR へのアクセス状況を示しています。I はアイドル状態、W は書き込みサイクル、R は読み出しサイクルを示しています。図 17.15 の例では、RSPI コマンドレジスタ (SPCMD) の CPHA が 1、CPOL が 0 の設定で、RSPI が 8 ビットのシリアル転送を実行しています。RSPCK 波形の下に記載した数字は RSPCK サイクル数 (=転送ビット数) を示しています。

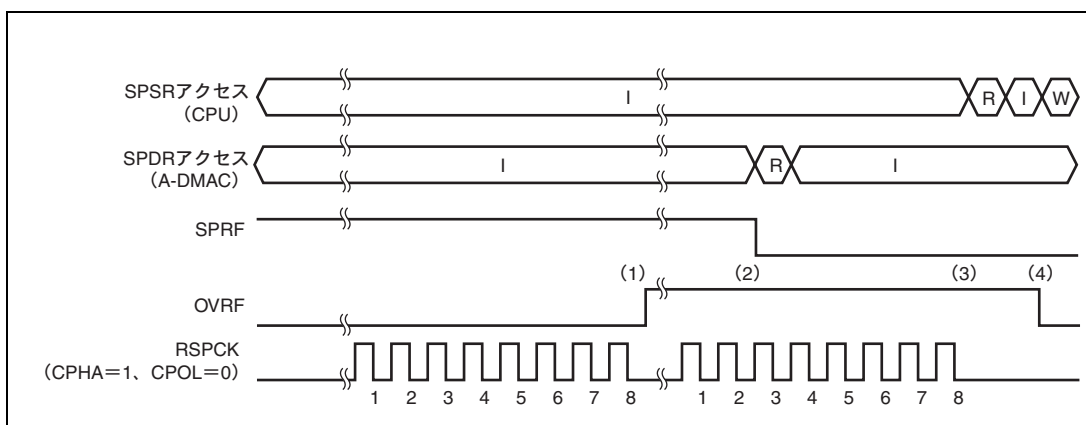


図 17.15 SPRF、OVRF ビットの動作例

以下に、図中の (1) ~ (4) に示したタイミングでのフラグの動作内容を説明します。

1. SPRF ビットが 1 の状態 (受信バッファフル) でシリアル転送が終了すると、RSPI がオーバランエラーを検出し、OVRF ビットを 1 にします。RSPI はシフトレジスタのデータを受信バッファにコピーしません。また、マスターモードの場合には、RSPI は RSPI シーケンスステータスレジスタ (SPSSR) の SPECM2 ~ 0 ビットに、RSPI コマンドレジスタ (SPCMD) に対するポインタの値をコピーします。
2. A-DMAC が SPDR を読み出すと、RSPI は SPRF ビットを 0 にして受信バッファのデータを内部バスに出力します。受信バッファが空になっても、OVRF ビットはクリアされません。
3. OVRF ビットが 1 の状態 (オーバランエラー) でシリアル転送が終了した場合には、RSPI は SPRF ビットを 0 の

まま更新しません。また、RSPIはシフトレジスタのデータを受信バッファにコピーしません。マスタモードのRSPIの場合に、RSPIはSPSSRのSPECM2～SPECM0ビットを更新しません。オーバランエラー発生状態で、シフトレジスタから受信バッファへ受信データをコピーしなかった場合でも、シリアル転送が終了するとRSPIはシフトレジスタを空であると判定し、送信バッファからシフトレジスタへのデータ転送は可能な状態になります。

4. OVRFビットが1の状態CPUがSPSRを読み出した後、CPUがOVRFに0を書き込むと、RSPIはOVRFビットをクリアします。

オーバランの発生は、SPSRの読み出しあるいはRSPIエラー割り込みとSPSRの読み出しによって確認できます。RSPIエラー割り込みを利用する場合には、RSPI制御レジスタ (SPCR) のSPEIEビットを1にしてください。RSPIエラー割り込みを利用せずにシリアル転送を実行する場合には、SPDRの読み出し直後にSPSRを読み出すなどの方法で、オーバランエラー発生を早期に検出できるように対処してください。RSPIをマスタモードで使用する場合、SPSSRのSPECM2～0ビットを読み出すことで、エラー発生時のSPCMDに対するポインタ値を確認できます。

オーバランエラーが発生してOVRFビットが1になると、OVRFビットをクリアするまで正常な受信動作ができなくなります。OVRFビットを0にクリアする条件は以下のとおりです。

- OVRFが1にされた状態のSPSRをCPUが読み出した後、CPUがOVRFに0を書き込む
- パワーオンリセット／スタンバイ

(2) モードフォルトエラー

RSPI制御レジスタ (SPCR) のMSTRビットが1でMODFENビットが1の場合には、RSPIはマルチマスタモードで動作します。マルチマスタモードのRSPIのSSL0入力信号に対してアクティブレベルが入力されると、シリアル転送状態にかかわらず、RSPIはモードフォルトエラーを検出してRSPIステータスレジスタ (SPSR) のMODFビットを1にします。モードフォルトエラーを検出すると、RSPIはRSPIシーケンスステータスレジスタ (SPSSR) のSPECM2～0ビットに、RSPIコマンドレジスタ (SPCMD) に対するポインタの値をコピーします。なお、SSL0信号のアクティブレベルは、RSPIスレーブセレクト極性レジスタ (SSLP) のSSL0Pビットによって決定されます。

MSTRビットが0の場合には、RSPIはスレーブモードで動作します。スレーブモードのRSPIのMODFENビットが1の場合、シリアル転送期間 (有効データのドライブ開始から最終有効データの取り込みまで) にSSL0入力信号がネゲートされると、RSPIはモードフォルトエラーを検出します。

RSPIはモードフォルトエラーを検出すると、出力信号のドライブ停止およびSPCRレジスタのSPEビットのクリアを実施します。SPEビットがクリアされるとRSPI機能は無効化されます (「17.4.8 RSPIの初期化」を参照)。マルチマスタ構成の場合には、モードフォルトエラーを利用して出力信号のドライブとRSPI機能を停止させ、マスタ権の解放を実現することが可能です。

モードフォルトエラーの発生は、SPSRの読み出し、あるいはRSPIエラー割り込みとSPSRの読み出しによって確認できます。RSPIエラー割り込みを利用する場合には、RSPI制御レジスタ (SPCR) のSPEIEビットを1にしてください。RSPIエラー割り込みを利用せずにモードフォルトエラーを検出するためには、SPSRをポーリングする必要があります。RSPIをマスタモードで使用する場合、SPSSRのSPECM2～0ビットを読み出すことで、

エラー発生時の SPCMD に対するポインタ値を確認できます。

MODF ビットが 1 の状態では、RSPI は CPU による SPE ビットへの 1 の書き込みを無視します。モードフォルトエラー検出後に RSPI 機能を有効にするためには、必ず MODF ビットを 0 にしてください。MODF ビットを 0 にクリアする条件は以下のとおりです。

- MODFが1にされた状態のSPSRをCPUが読み出した後、CPUがMODFに0を書き込む
- システムリセット

17.4.8 RSPI の初期化

CPU が RSPI 制御レジスタ (SPCR) の SPE ビットに 0 を書き込んだ場合、またはモードフォルトエラー検出により RSPI が SPE ビットを 0 にクリアした場合には、RSPI は RSPI 機能を無効化し、モジュール機能の一部を初期化します。また、パワーオンリセットおよびスタンバイ時には、RSPI はモジュール機能をすべて初期化します。以下に、SPE ビットのクリアによる初期化とパワーオンリセット/スタンバイによる初期化について説明します。

(1) SPE ビットのクリアによる初期化

SPCR の SPE ビットがクリアされた場合には、RSPI は以下に示す初期化を実施します。

- 実行中のシリアル転送を中断
- スレープモードの場合、出力信号のドライブ停止 (Hi-Z)
- RSPI内部ステートの初期化
- RSPIステータスレジスタ (SPSR) のSPTEFビットの初期化

SPE ビットのクリアによる初期化では、RSPI の制御ビットは初期化されません。このため、CPU が SPE ビットに 1 を再設定すれば初期化前と同じ転送モードで RSPI を起動できます。

SPSR の SPRF ビット、OVRF ビット、MODF ビットの値は初期化されません。また、RSPI シーケンスステータスレジスタ (SPSSR) の値も初期化されません。このため、RSPI の初期化後も受信バッファのデータの読み出し、RSPI 転送時のエラー発生状況の確認が可能です。

SPSR の SPTEF ビットの値は、1 に初期化されます。このため、RSPI 初期化後に SPCR の SPTIE ビットが 1 に設定されていると、RSPI 送信割り込みが発生します。CPU で RSPI を初期化する場合に、RSPI 送信割り込みを禁止するためには、SPE ビットへの 0 書き込みと同時に SPTIE ビットにも 0 を書き込んでください。モードフォルトエラー検出後の RSPI 送信割り込みを禁止するためには、エラー処理ルーチンで SPTIE ビットに 0 を書き込んでください。

(2) パワーオンリセット/スタンバイ

パワーオンリセット/スタンバイによる初期化では、「17.4.8 (1) SPE ビットのクリアによる初期化」に記載の事項に加え、RSPI 制御用の全ビットの初期化、ステータスビットの初期化、データレジスタの初期化が実施され、RSPI が完全に初期化されます。

17.4.9 マスタモード動作

シングルマスタモード動作とマルチマスタモード動作の違いは、モードフォルトエラー検出（「17.4.7 エラー検出」を参照）のみです。シングルマスタモードの RSPI ではモードフォルトエラーを検出しません。マルチマスタモードの RSPI ではモードフォルトエラーを検出します。本節では、シングル/マルチマスタモードで共通する動作について説明します。

(1) シリアル転送の開始

RSPI ステータスレジスタ (SPSR) の SPTEF ビットが 1 の状態で、CPU または A-DMAC が RSPI データレジスタ (SPDR) へデータを書き込むと、RSPI は SPDR の送信バッファのデータを更新します。A-DMAC からの SPDR への書き込み、または CPU から SPTEF の 1 を読み出した後の 0 の書き込みによって SPTEF ビットを 0 にクリアした状態で、シフトレジスタが空の場合には、RSPI は送信バッファのデータをシフトレジスタにコピーしてシリアル転送を開始します。RSPI は、シフトレジスタに送信データをコピーするとシフトレジスタのステータスをフルに変更し、シリアル転送が終了するとシフトレジスタのステータスを空に変更します。シフトレジスタのステータスを CPU から参照することはできません。

なお、RSPI の転送フォーマットの詳細については「17.4.4 転送フォーマット」を参照してください。

(2) シリアル転送の終了

RSPI コマンドレジスタ (SPCMD) の CPHA ビットにかかわらず、RSPI は最終サンプリングタイミングに対応する RSPCK エッジを送出するとシリアル転送を終了します。RSPI ステータスレジスタ (SPSR) の SPRF ビットが 0 で受信バッファに空きがある場合には、シリアル転送終了後にシフトレジスタから RSPI データレジスタ (SPDR) の受信バッファにデータをコピーします。

なお、最終サンプリングタイミングは転送データのビット長に依存して変化します。マスタモードの RSPI のデータ長は、RSPI コマンドレジスタ (SPCMD) の SPB3~SPB0 ビットの設定値に依存します。RSPI の転送フォーマットの詳細については「17.4.4 転送フォーマット」を参照してください。

(3) シーケンス制御

マスタモード時の転送フォーマットは、RSPI シーケンス制御レジスタ (SPSCR)、RSPI コマンドレジスタ 0~7 (SPCMD0~7)、RSPI ビットレートレジスタ (SPBR)、RSPI クロック遅延値レジスタ (SPCKD)、RSPI スレーブセレクトネゲート遅延レジスタ (SSLND)、RSPI 次アクセス遅延値レジスタ (SPND) によって決定されます。

SPSCR は、マスタモードの RSPI で実行するシリアル転送のシーケンス構成を決定するためのレジスタです。SPCMD0~7 には、SSL 出力信号値、MSB/LSB ファースト、データ長、ビットレート設定の一部、RSPCK 極性/位相、SPCKD の参照要否、SSLND の参照要否、SPND の参照要否が設定されています。SPBR にはビットレート設定の一部、SPCKD には RSPI クロック遅延値、SSLND には SSL ネゲート遅延、SPND には次アクセス遅延値が設定されています。

RSPI は、SPSCR に設定されたシーケンス長に従って、SPCMD0~7 の一部/全部からなるシーケンスを構成します。RSPI には、シーケンスを構成している SPCMD に対するポインタが存在します。このポインタの値は、RSPI シーケンスステータスレジスタ (SPSSR) の SPCP2~0 ビットの読み出しによって CPU から確認可能です。RSPI

制御レジスタ (SPCR) の SPE ビットを 1 にして RSPI 機能をイネーブルにすると、RSPI はコマンドに対するポインタを SPCMD0 にセットし、シリアル転送の開始時に SPCMD0 の設定内容を転送フォーマットに反映します。RSPI は、各データ転送の次アクセス遅延期間が終了するたびにポインタをインクリメントします。シーケンスを構成している最終コマンドに対応するシリアル転送が終了すると、RSPI はポインタを SPCMD0 にセットするので、シーケンスは繰り返し実行されます。

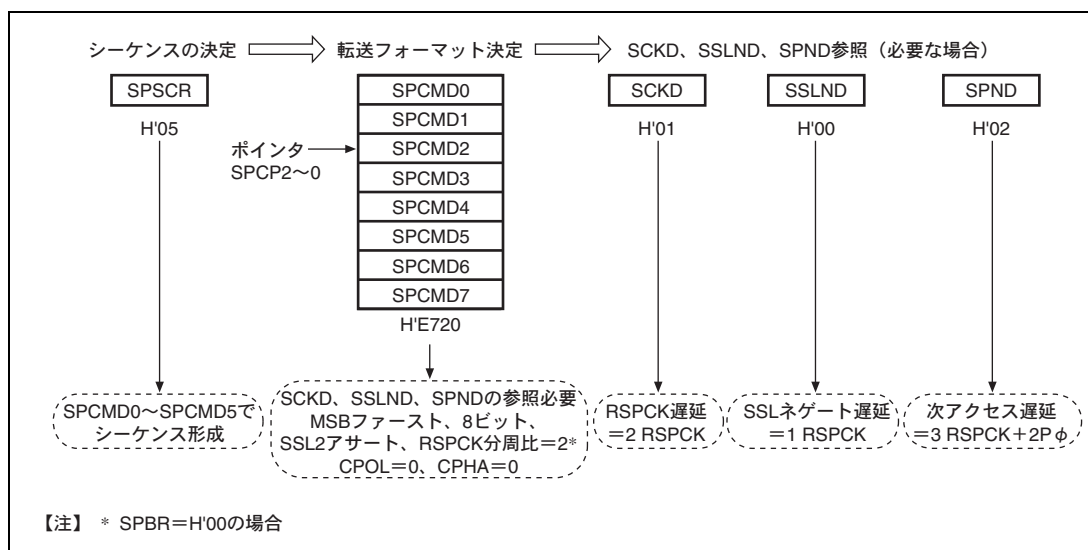


図 17.16 マスタモードでのシリアル転送方式の決定方法

(4) バースト転送

RSPI が現在のシリアル転送で参照している RSPI コマンドレジスタ (SPCMD) の SSLKP ビットが 1 の場合には、RSPI はシリアル転送中の SSL 信号レベルを次のシリアル転送の SSL 信号アサート開始まで保持します。次のシリアル転送での SSL 信号レベルが、現在のシリアル転送での SSL 信号レベルと同じであれば、RSPI は SSL 信号アサート状態を保持したまま連続的にシリアル転送を実行することができます (バースト転送)。

図 17.17 に、SPCMD0、1 の設定を使用してバースト転送を実現した場合の SSL 信号動作例を示します。図 17.17 に記載した (1) ~ (7) の RSPI 動作内容について、以下に説明します。なお、SSL 出力信号の極性は、RSPI スレーブセレクト極性レジスタ (SSLP) の設定値に依存します。

1. SPCMD0に従ったSSL信号のアサートとRSPCK遅延の挿入を実施します。
2. SPCMD0に従ったシリアル転送を実行します。
3. SSLネゲート遅延を挿入します。
4. SPCMD0のSSLKPビットが1であるため、SPCMD0でのSSL信号値を保持します。この期間は、最短の場合にはSPCMD0の次アクセス遅延と同じ期間だけ継続されます。最短期間を経過後にシフトレジスタが空の場合には、次転送のための送信データがシフトレジスタに格納されるまで、この期間を継続します。
5. SPCMD1に従ったSSL信号のアサートとRSPCK遅延の挿入を実施します。

6. SPCMD1に従ったシリアル転送を実行します。
7. SPCMD1のSSLKPビットが0であるため、SSL信号をネゲートします。また、SPCMD1に従った次アクセス遅延が挿入されます。

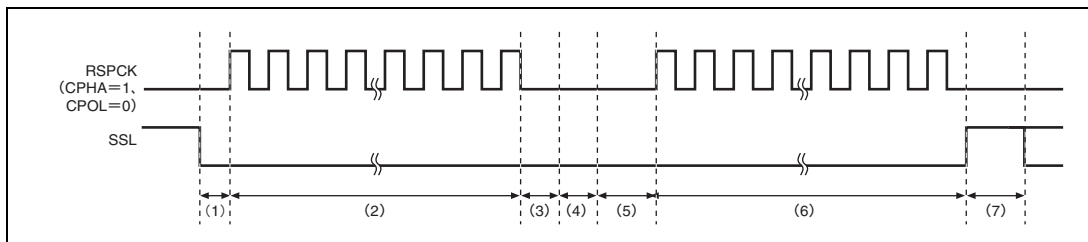


図 17.17 SSLKP ビットを利用したバースト転送動作の例

SSLKP ビットに 1 を設定した SPCMD での SSL 信号出力設定と、次転送で使用する SPCMD での SSL 信号出力設定が異なる場合、RSPI は次転送のコマンドに対応した SSL 信号のアサート時（図 17.17 の (5)）に SSL 信号状態を切り替えます。このような SSL 信号の切り替えが発生した場合、MISO をドライブするスレーブが競合して信号レベルの衝突が発生する可能性があるので注意してください。

マスタモードの RSPI は、SSLKP を使用しない場合の SSL 信号動作をモジュール内部で参照しています。SPCMD の CPHA ビットが 0 の場合でも、RSPI は内部で検出した次転送の SSL 信号のアサートを使用してシリアル転送を正確に開始できます。このため、マスタモードのバースト転送は、CPHA ビットの設定値にかかわらず実行できます（「17.4.10 スレーブモード動作」を参照）。

(5) RSPCK 遅延 (t1)

マスタモードの RSPI の RSPCK 遅延値は、RSPI コマンドレジスタ (SPCMD) の SCKDEN ビットの設定と RSPCK 遅延レジスタ (SPCKD) の設定に依存します。RSPI は、シリアル転送で参照する SPCMD をポインタ制御によって決定し、選択した SPCMD の SCKDEN ビットと SPCKD を使用して、表 17.8 のようにシリアル転送時の RSPCK 遅延値を決定します。なお、RSPCK 遅延の定義については、「17.4.4 転送フォーマット」を参照してください。

表 17.8 SCKDEN、SPCKD と RSPCK 遅延値の関係

SCKDEN	SPCKD	RSPCK 遅延値
0	000~111	1RSPCK
1	000	1RSPCK
	001	2RSPCK
	010	3RSPCK
	011	4RSPCK
	100	5RSPCK
	101	6RSPCK
	110	7RSPCK
	111	8RSPCK

(6) SSL ネゲート遅延 (t2)

マスタモードの RSPI の SSL ネゲート遅延値は、RSPI コマンドレジスタ (SPCMD) の SLNDEN ビットの設定と SSL ネゲート遅延レジスタ (SSLND) の設定に依存します。RSPI は、シリアル転送で参照する SPCMD をポインタ制御によって決定し、選択した SPCMD の SLNDEN ビットと SSLND を使用して、表 17.9 ようにシリアル転送時の SSL ネゲート遅延値を決定します。なお、SSL ネゲート遅延の定義については、「17.4.4 転送フォーマット」を参照してください。

表 17.9 SSLND と SSL ネゲート遅延値の関係

SLNDEN	SSLND	SSL ネゲート遅延値
0	000~111	1RSPCK
1	000	1RSPCK
	001	2RSPCK
	010	3RSPCK
	011	4RSPCK
	100	5RSPCK
	101	6RSPCK
	110	7RSPCK
	111	8RSPCK

(7) 次アクセス遅延 (t3)

マスタモードの RSPI の次アクセス遅延は、RSPI コマンドレジスタ (SPCMD) の SPNDEN ビットの設定と RSPI 次アクセス遅延レジスタ (SPND) の設定に依存します。RSPI は、シリアル転送で参照する SPCMD をポインタ制御によって決定し、選択した SPCMD の SPNDEN ビットと SPND を使用して、表 17.10 のようにシリアル転送時の RSPCK 遅延を決定します。なお、次アクセス遅延の定義については、「17.4.4 転送フォーマット」を参照してください。

表 17.10 SPNDEN、SPND と次アクセス遅延値の関係

SPNDEN	SPND	次アクセス遅延値
0	000~111	1RSPCK+2Pφ
1	000	1RSPCK+2Pφ
	001	2RSPCK+2Pφ
	010	3RSPCK+2Pφ
	011	4RSPCK+2Pφ
	100	5RSPCK+2Pφ
	101	6RSPCK+2Pφ
	110	7RSPCK+2Pφ
	111	8RSPCK+2Pφ

(8) 初期化フロー

図 17.18 に、RSPI をマスタモードで使用する場合の初期化フローの例を示します。なお、割り込みコントローラ、A-DMAC、入出力ポートの設定方法については各ブロックの説明を参照してください。

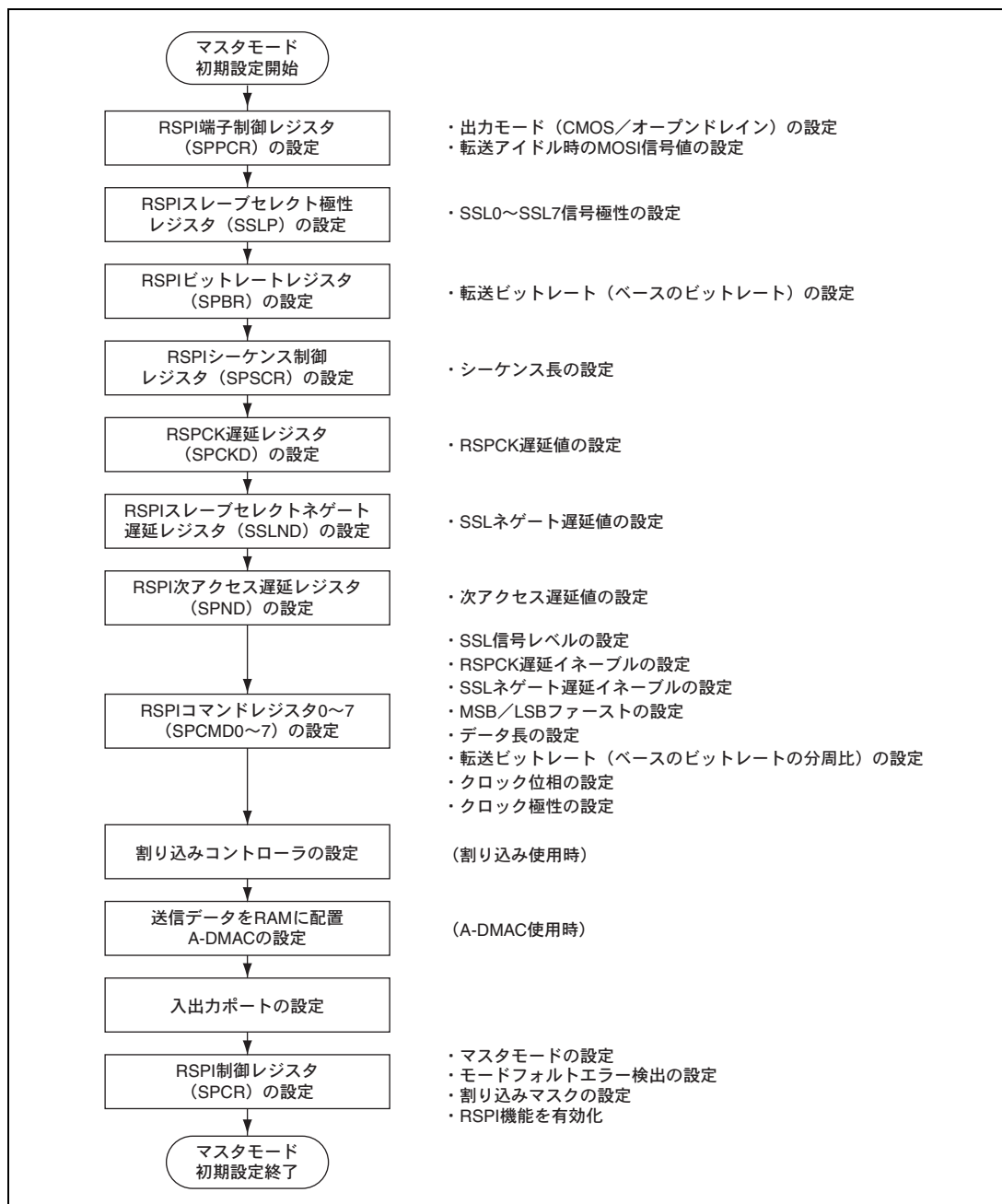


図 17.18 マスタモード時の初期化フロー例

(9) 転送動作フロー

図 17.19 に、マスタモードの RSPI の転送動作フローを示します。

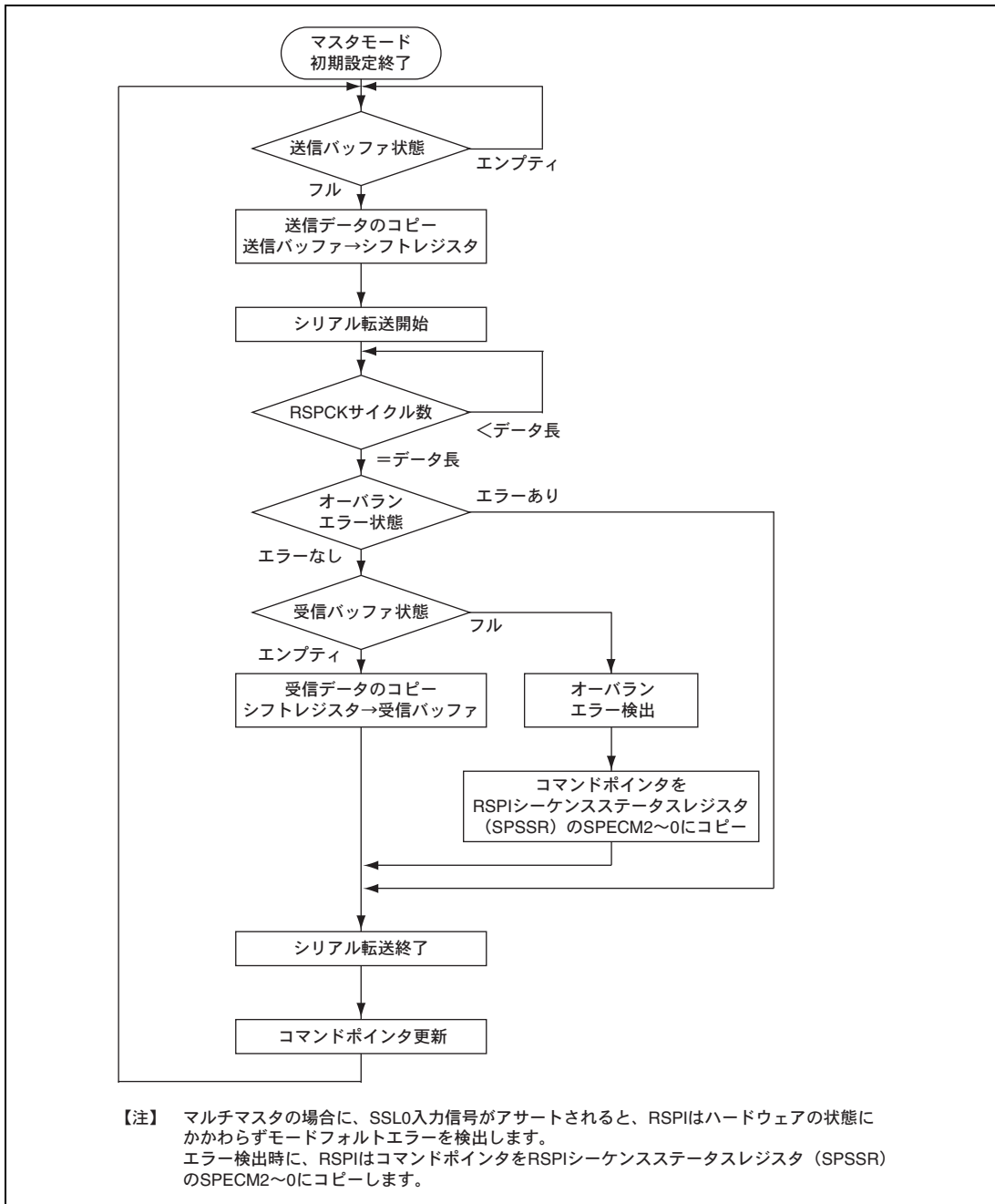


図 17.19 マスタモード時の転送動作フロー

17.4.10 スレーブモード動作

(1) シリアル転送の開始

RSPI コマンドレジスタ 0 (SPCMD0) の CPHA ビットが 0 の場合、RSPI は SSL0 入力信号のアサートを検出すると、MISO 出力信号への有効データのドライブを開始する必要があります。このため、CPHA が 0 の場合には、SSL0 入力信号のアサートがシリアル転送開始のトリガになります。

CPHA ビットが 1 の場合には、RSPI は SSL0 入力信号のアサート状態で最初の RSPCK エッジを検出すると、MISO 出力信号への有効データのドライブを開始する必要があります。このため、CPHA が 1 の場合には、SSL0 信号アサート状態における最初の RSPCK エッジがシリアル転送開始のトリガになります。

RSPI は、シフトレジスタが空の状態ではシリアル転送の開始を検出した場合、シフトレジスタの状態をフルに変更し、シリアル転送中に送信バッファからシフトレジスタにデータがコピーできないようにします。シリアル転送の開始よりも前にシフトレジスタがフルであった場合、RSPI はシフトレジスタの状態をフルのまま変更しません。

CPHA ビットの設定に依存せず、RSPI が MISO 出力信号のドライブを開始するタイミングは、SSL0 信号アサートタイミングです。CPHA ビットの設定によって、RSPI が出力するデータの有効/無効が異なります。

なお、RSPI の転送フォーマットの詳細については、「17.4.4 転送フォーマット」を参照してください。SSL0 入力信号の極性は、RSPI スレーブセレクト極性レジスタ (SSLP) の SSL0P ビットの設定値に依存します。

(2) シリアル転送の終了

RSPI コマンドレジスタ 0 (SPCMD0) の CPHA ビットにかかわらず、RSPI は最終サンプリングタイミングに相当する RSPCK エッジを検出するとシリアル転送を終了します。RSPI ステータスレジスタ (SPSR) の SPRF ビットが 0 で受信バッファに空きがある場合には、シリアル転送の終了後に、RSPI はシフトレジスタから RSPI データレジスタ (SPDR) の受信バッファに受信データをコピーします。また、SPRF ビットの値にかかわらず、RSPI はシリアル転送の終了後にシフトレジスタの状態を空に変更します。RSPI 制御レジスタ (SPCR) の MODFEN ビットが 1 の場合、シリアル転送開始からシリアル転送終了の間に RSPI が SSL0 入力信号のネゲートを検出するとモードフォルトエラーが発生します（「17.4.7 エラー検出」を参照）。

なお、最終サンプリングタイミングは転送データのビット長に依存して変化します。スレーブモードの RSPI のデータ長は SPCMD0 の SPB3~SPB0 ビットの設定値に依存します。SSL0 入力信号の極性は、RSPI スレーブセレクト極性レジスタ (SSLP) の SSL0P ビットの設定値に依存します。RSPI の転送フォーマットの詳細については、「17.4.4 転送フォーマット」を参照してください。

(3) シングルスレーブ時の注意点

RSPI コマンドレジスタ 0 (SPCMD0) の CPHA ビットが 0 の場合には、RSPI は SSL0 入力信号のアサートエッジを検出するとシリアル転送を開始します。図 17.4 の例に示したような構成で RSPI をシングルスレーブで使用する場合には、SSL0 入力信号が常にアクティブ状態に固定されるため、CPHA を 0 に設定した RSPI ではシリアル転送を正しく開始できません。SSL0 入力信号をアクティブ状態に固定する構成で、スレーブモード RSPI の送受信を正しく実行するためには、CPHA ビットを 1 にしてください。CPHA ビットを 0 にする必要がある場合には、SSL0 入力信号を固定しないでください。

(4) バースト転送

RSPI コマンドレジスタ 0 (SPCMD0) の CPHA ビットが 1 の場合には、SSL0 入力信号のアサート状態を保持したままで連続的なシリアル転送 (バースト転送) を実行することが可能です。CPHA ビットが 1 の場合には、SSL0 入力信号アクティブ状態における最初の RSPCK エッジから最終ビット受信のためのサンプリングタイミングまで、シリアル転送期間に相当します。SSL0 入力信号がアクティブレベルのままであっても、アクセスの開始を検出可能であるので、バースト転送に対応可能です。

CPHA ビットが 0 の場合には、「17.4.10 (3) シングルスレーブ時の注意点」と同じ理由のために、バースト転送の 2 回目以降のシリアル転送を正しく実行できません。

(5) 初期化フロー

図 17.20 に、RSPI をスレーブモードで使用する場合の初期化フローの例を示します。なお、割り込みコントローラ、A-DMAC、入出力ポートの設定方法については各ブロックの説明を参照してください。

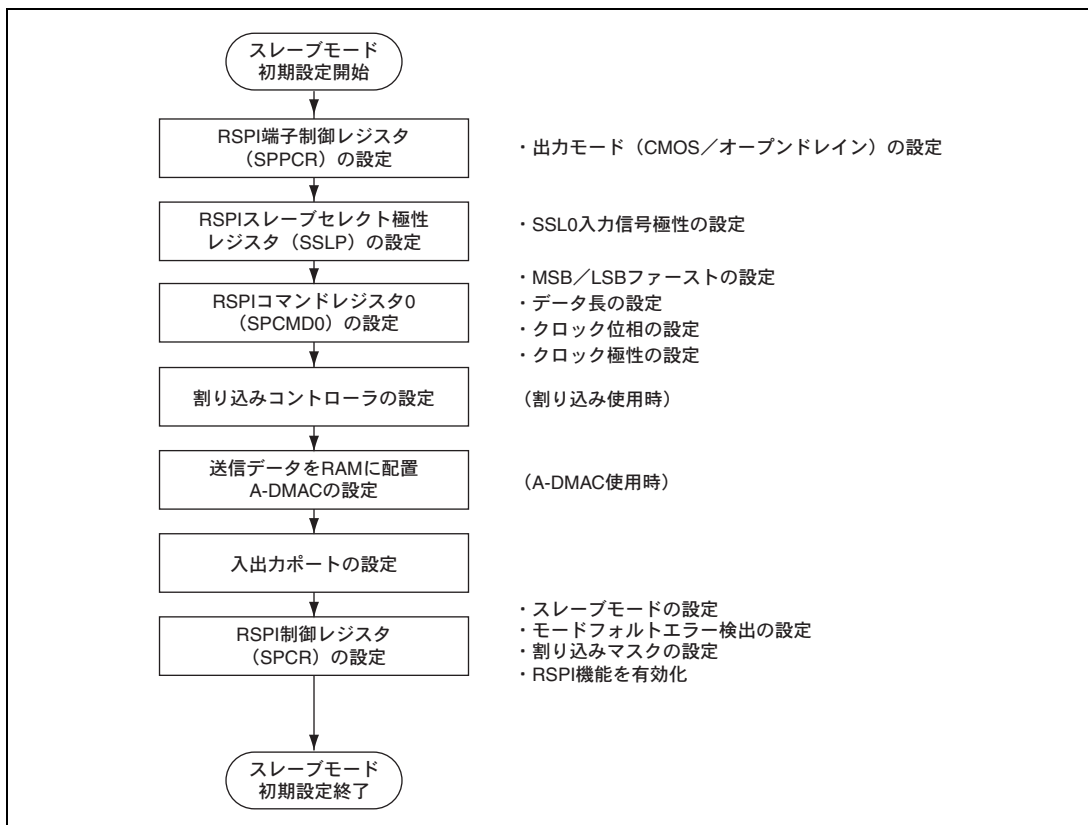


図 17.20 スレーブモード時の初期化フロー例

(6) 転送動作フロー (CPHA=0)

図 17.21 に、RSPi コマンドレジスタ 0 (SPCMD0) の CPHA ビットを 0、RSPi 制御レジスタ (SPCR) の MODFEN ビットを 1 に設定したスレーブモードの RSPi の転送動作フローを示します。MODFEN ビットを 0 に設定した状態でシリアル転送を開始し、RSPCK サイクル数がデータ長より短い状態で SSL0 入力レベルがネゲートされた場合、以降の動作は保証されません。

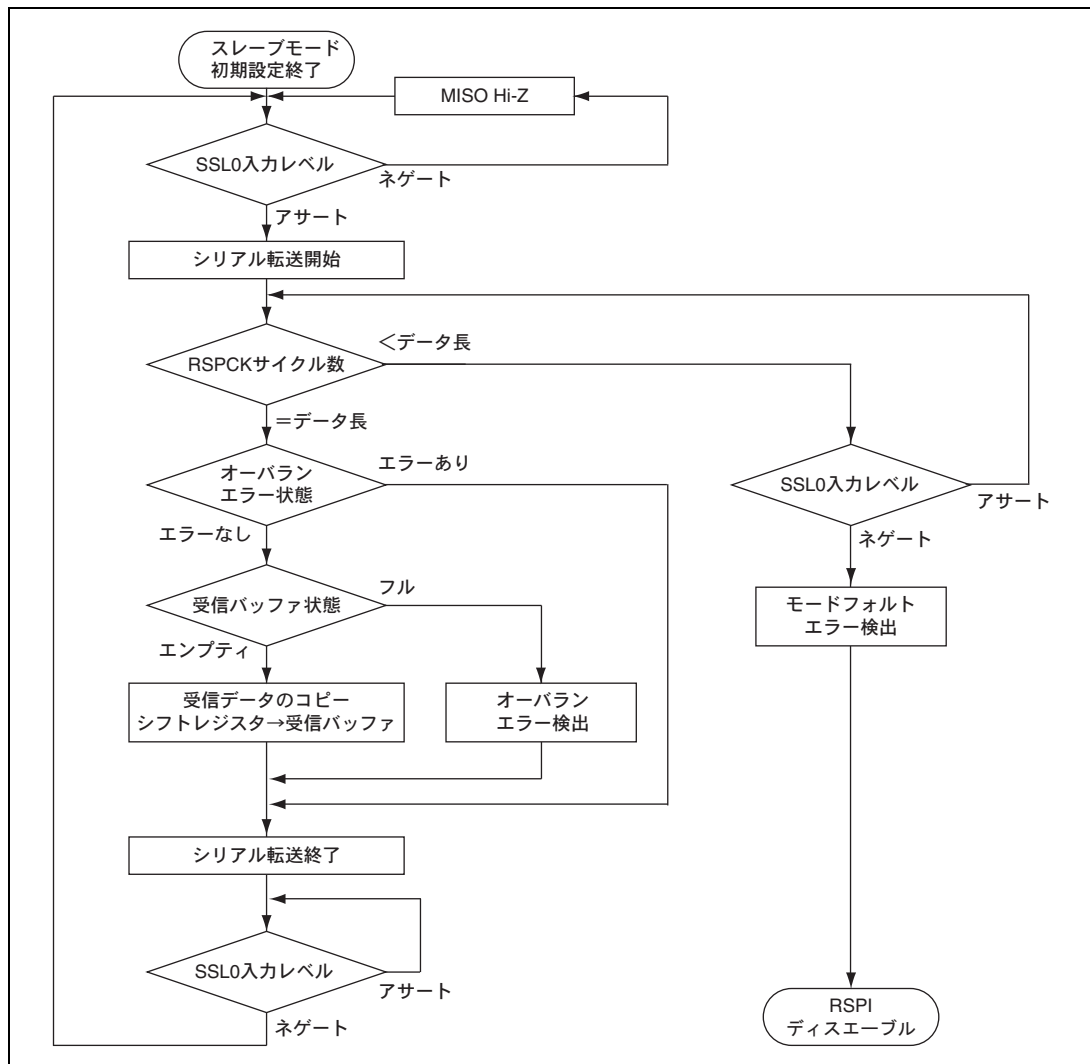


図 17.21 スレーブモード時の転送動作フロー (CPHA=0、MODFEN=1)

(7) 転送動作フロー (CPHA=1)

図 17.22 に、RSPI コマンドレジスタ 0 (SPCMD0) の CPHA ビットを 1、RSPI 制御レジスタ (SPCR) の MODFEN ビットを 1 に設定したスレーブモードの RSPI の転送動作フローを示します。MODFEN ビットを 0 に設定した状態でシリアル転送を開始し、RSPCK サイクル数がデータ長より短い状態で SSL0 入力レベルがネゲートされた場合、以降の動作は保証されません。

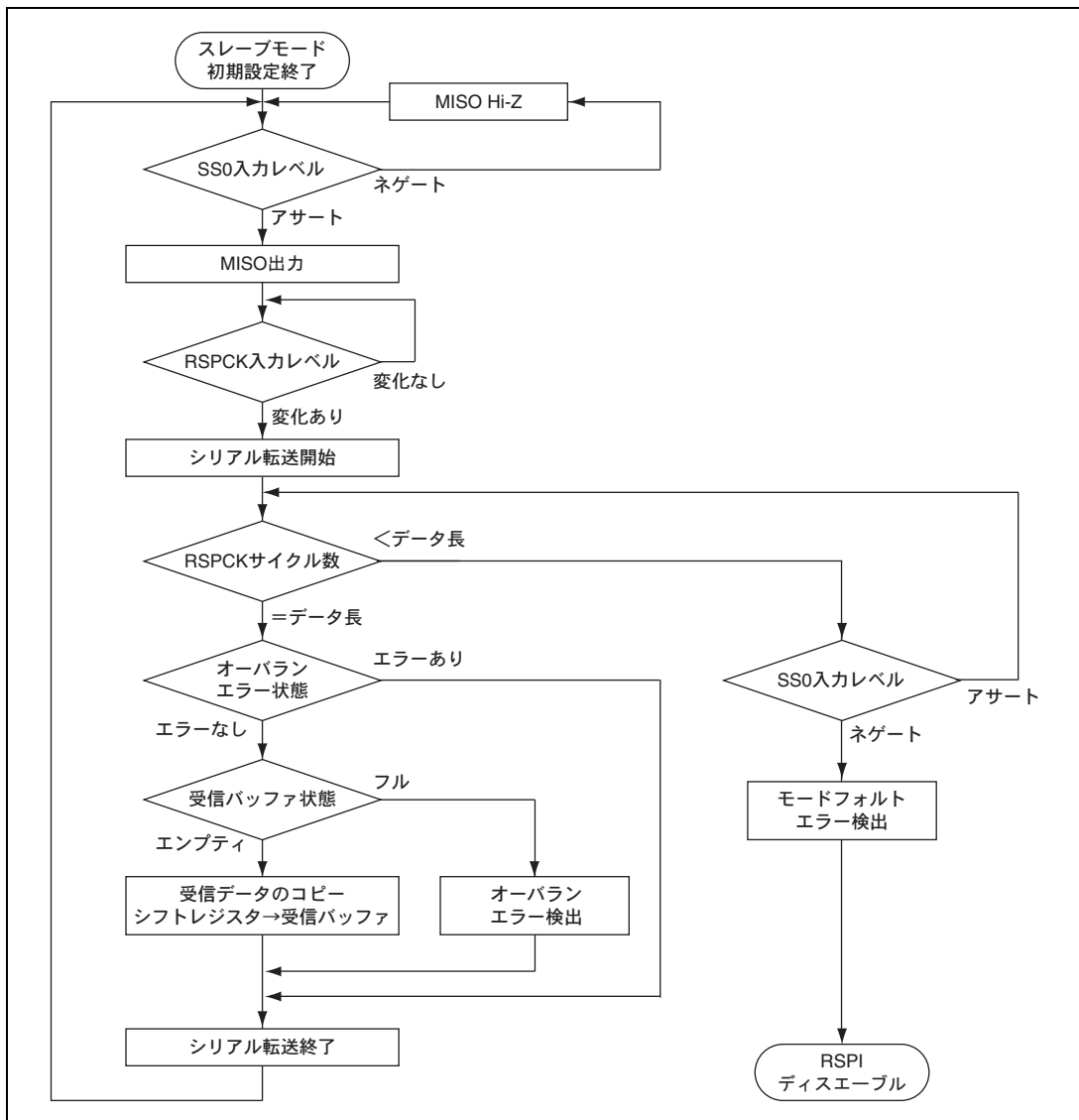


図 17.22 スレーブモード時の転送動作フロー (CPHA=1、MODFEN=1)

17.4.11 ループバックモード

CPUがRSPI端子制御レジスタ(SPPCR)のSPLPビットに1を書き込むと、RSPIはMISO端子とシフトレジスタ間、MOSI端子とシフトレジスタ間の経路を遮断し、シフトレジスタの入力経路と出力経路(反転)を接続します。これをループバックモードと呼びます。ループバックモードでシリアル転送を実行すると、RSPIの送信データがRSPIの受信データになります。図17.23に、マスタモードのRSPIをループバックモードに設定した場合のシフトレジスタ入出力経路の構成を示します。

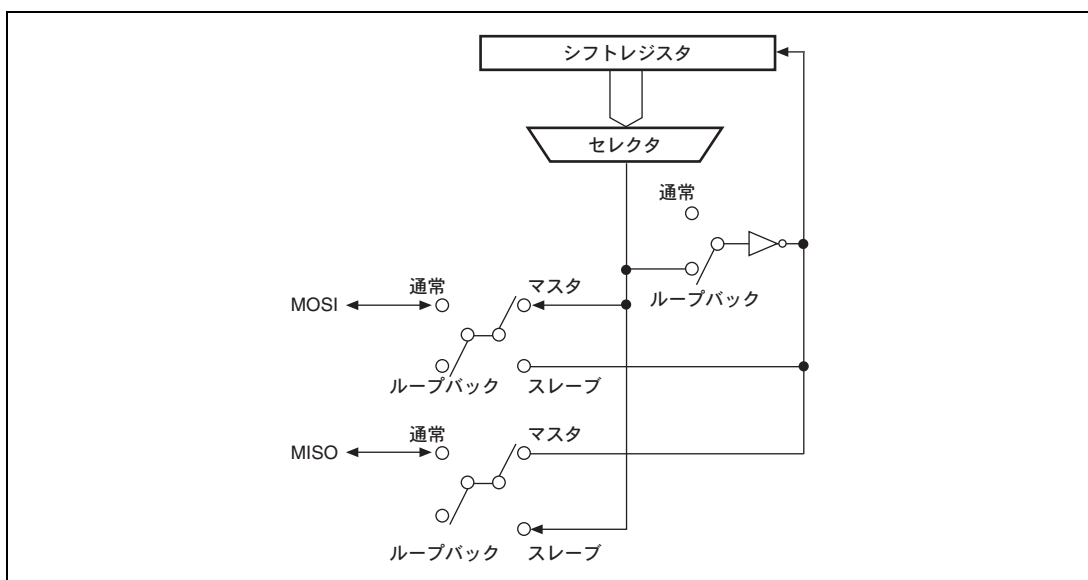


図 17.23 ループバックモード時のシフトレジスタ入出力構成 (マスタモード)

18. コントローラエリアネットワーク (RCAN-TL1)

コントローラエリアネットワーク (RCAN-TL1 : Renesas CAN Time Trigger Level 1) は自動車および産業機器システム等でのリアルタイム通信を目的とした CAN (Controller Area Network) を制御するためのモジュールです。

本章は RCAN-TL1 のプログラムインタフェースについて説明します。

また CAN のデータリンクコントローラの機能については下記参考文献を参照してください。

[参考文献]

1. CAN Specification Version 2.0 part A, Robert Bosch GmbH, 1991
2. CAN Specification Version 2.0 part B, Robert Bosch GmbH, 1991
3. Implementation Guide for the CAN Protocol, CAN Specification 2.0 Addendum, CAN In Automation, Erlangen, Germany, 1997
4. Road vehicles-Controller area network (CAN) : Part 1: Data link layer and physical signaling (ISO-11898-1, 2003)
5. Road vehicles - Controller area network (CAN): Part 4: Time triggered communication (ISO-11898-4, 2004)

18.1 特長

18.1.1 RCAN-TL1 の特長

- CAN規格2.0B対応
- ビットタイミングはISO-11898規格に準拠
- 32個のメールボックス
- クロック周波数 : 16~20MHz、32~40MHz
- プログラム可能な31個の送受信メールボックスおよび1個の受信メールボックス
- 低消費電力のCANスリープモードおよびCANバスアクティビティを検出してCANスリープモードを自動解除
- すべてのメールボックスにも対応したプログラム可能な受信フィルタマスク (スタンダードIDおよびエクステンデッドID)
- 最大1Mbpsのプログラム可能なCANデータレート
- リアルタイムアプリケーション起因による優先順位逆転防止のために、優先順位の内部区分機能を備えた転送メッセージのキューを用意
- 豊富な割り込み要因
- テスト機能を内蔵 (リスンオンリモード、エラーパッシブモード)

- 16ビットのフリーランニングタイマ (多様なクロックソース、プリスケアラ、3個のタイマコンペアマッチレジスタ)
- タイムトリガ送信用の6ビットサイクルカウンタ (Basic Cycle)
- タイマのコンペアマッチレジスタによる割り込み
- タイマカウンタのクリアおよび設定が可能
- タイムトリガ用レジスタ: Local_Time、Cycle_time、Ref_Mark、Tx_Enable_Window、Ref_Trigger_Offset
- SOFでのフレキシブルなタイムスタンプ機能を送信、受信ともにサポート
- イベントトリガ送信に加え、タイムトリガ送信および定周期送信もサポート
- サイクルカウンタ (Basic Cycle) をCANフレームに組み込んで送信可能
- パリティ: 8ビットデータに対して1ビットのパリティビットを付加し、32ビット単位で検出を行う
エラー発生時にそれを示すフラグを持つ

18.1.2 本マイコンにおける特長

- 32メールボックスRCAN×3チャンネル搭載 (RCAN_A、B、C)
- RCAN3チャンネルはピンファンクションコントローラ (PFC) の設定により、次の接続による使用が可能
32メールボックス×3チャンネル (RCAN_A、B、C)
64メールボックス*×1チャンネル (RCAN_A、B) と32バッファ×1チャンネル (RCAN_C)
96メールボックス*×1チャンネル (RCAN_A、B、C)
- RCAN_A、B、Cともにメールボックス0の受信メッセージによりDMAC起動可能
- RCAN_A、B、Cの全メールボックスの受信メッセージによりA-DMAC起動可能

【注】 * 64メールボックス/96メールボックス構成においては使用上の注意事項があります。「18.14 使用上の注意事項」を参照ください。

18.2 構成

18.2.1 ブロック図

RCAN-TL1 は、CAN2.0B Active と ISO-11898 をサポートする CAN フレームを構成、制御する自由度の大きい洗練された方法を提供します。RCAN-TL1 は機能的に、マイクロプロセッサインタフェース (MPI)、メールボックス、メールボックスコントロール、タイマ、CAN インタフェース、パリティコントロール、パリティ回路の 7 種類のブロックからなります。

図 18.1 に RCAN-TL1 のブロック図を示します。

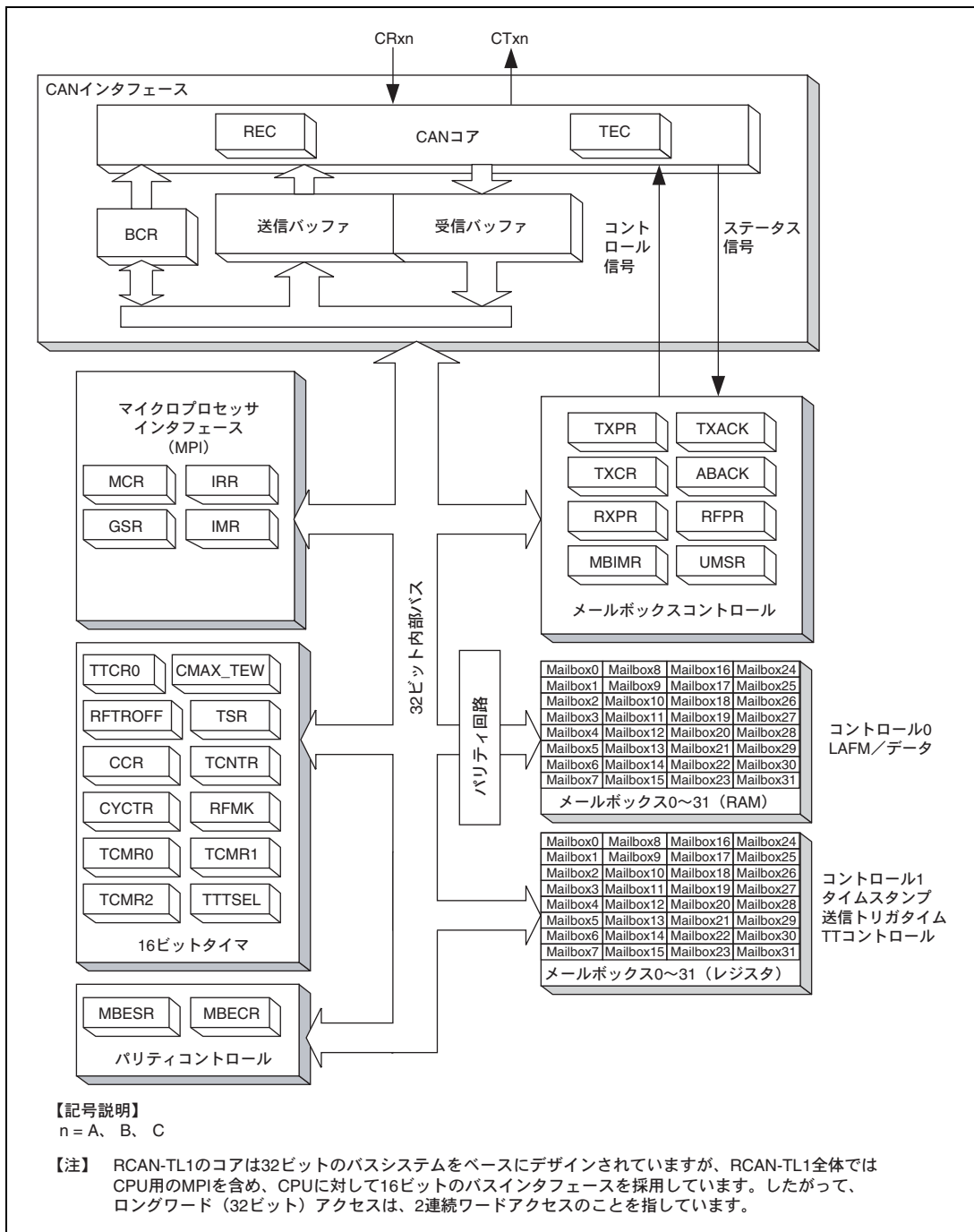


図 18.1 RCAN-TL1 のブロック図 (1チャンネルあたり)

18.2.2 各ブロックの機能

(1) マイクロプロセッサインタフェース (MPI)

MPI は、CPU と RCAN-TL1 のレジスタやメールボックスとの間の通信を可能にし、メモリインタフェースを制御します。また MPI は CAN バスのアクティブを検出し、MPI 自身や RCAN-TL1 の他のモジュールにも CAN バスのアクティブを通知するウェイクアップコントロールロジックを持っているので、RCAN-TL1 は自動的に CAN スリープモードを解除することができます。なお MPI のレジスタには、MCR、IRR、GSR、および IMR があります。

(2) メールボックス

メールボックスは、メッセージバッファとして RAM およびレジスタに配列されています。RAM とレジスタ内には、それぞれ 32 個のメールボックスがあり、以下の情報を格納します。

[RAM]

- CANメッセージコントロール (ID、RTR、IDEなど)
- CANメッセージデータ (CANデータフレーム用)
- 受信用のローカルアクセプタンスフィルタマスク (LAFM)

[レジスタ]

- CANメッセージコントロール (DLC)
- メッセージ送信/受信タイムスタンプ
- 3ビットのメールボックスコンフィギュレーション、自動再送信無効ビット、リモートリクエスト用自動送信ビット、ニューメッセージコントロールビット
- 送信トリガタイム

(3) メールボックスコントロール

メールボックスコントロールは以下のような機能を持ちます。

- メッセージ受信時は、IDを比較しCANインタフェースからのメッセージをメールボックスに格納するためのRAMアドレスとデータを生成し、対応するレジスタをセット/クリアします。
- イベントトリガメッセージ送信時は、内部アービトレーションを動作させて正しい優先順位のメッセージを選択し、メールボックスからCANインタフェースの送信バッファにメッセージをロードします。その後、対応するレジスタをセット/クリアします。タイムトリガ送信の場合は、送信トリガタイムのコンペアマッチでメッセージをロードします。
- CPUとメールボックスコントロール間のメールボックスアクセスのアービトレーションを行います。
- レジスタは、TXPR、TXCR、TXACK、ABACK、RXPR、RFPR、MBIMR、およびUMSRがあります。

(4) タイマ

本タイマは、特定の時間枠でメッセージを送信し、結果を記録するための機能ブロックです。16ビットのフリーランニングアップカウンタで、CPUで制御することができます。ローカルタイムと比較する16ビットのコンペアマッチレジスタが1個と、サイクルタイムと比較するコンペアマッチレジスタが2個あります。これらのコンペアマッチレジスタは、割り込み信号を発生し、カウンタをクリアすることができます。本タイマのクロックは、システムクロックから生成する多数のクロック周期から選択することができますが、CANバスの1ビットタイミングでカウントするようにプログラムすることも可能です。本タイマのレジスタには、TCNTR、TTCR0、CMAX_TEW、RETROFF、TSR、CCR、CYCTR、RFMK、TCMR0、TCMR1、TCMR2、およびTTTSELがあります。

(5) CAN インタフェース

本ブロックは参考文献[2]と[4]のCANバスデータリンクコントローラ仕様をサポートしています。これはOSIモデルで規定されるデータリンクコントローラの全機能を満たします。また、CANバスに特化したレジスタやロジックも提供します。具体的には、受信エラーカウンタ、送信エラーカウンタ、ビットコンフィギュレーションレジスタ、種々のテストモードなどです。さらに、CANデータリンクコントローラの送受信を格納する機能もあります。

(6) パリティコントロール

パリティコントロールブロックは、CPUとパリティ制御のレジスタとの通信を行うことができます。パリティ制御レジスタには、MBESR、MBECRの2つのレジスタがあります。

(7) パリティ回路

メールボックス (RAM 部分) に書き込まれるデータに対して、8ビットごとに1ビットのパリティビットを付加します。メールボックス (RAM 部分) から読み出されるデータに対して、32ビット単位でパリティチェックを行います。メールボックス (RAM 部分) はすべて初期化する必要があります。初期化せずに読み出しを行うと、パリティエラーが発生する可能性があります。MBECRレジスタの設定により、パリティエラー割り込みを発生させる/発生させないの選択が可能です。

18.2.3 端子構成

RCAN-TL1の端子構成を表18.1に示します。

表 18.1 端子構成

名称	端子名	入出力	機能
送信データ端子	CTxn	出力	CANバス送信用端子です。
受信データ端子	CRxn	入力	CANバス受信用端子です。

【注】 n = A、B、C

18.2.4 メモリマップ

RCAN-TL1 のメモリマップを図 18.2 に示します。

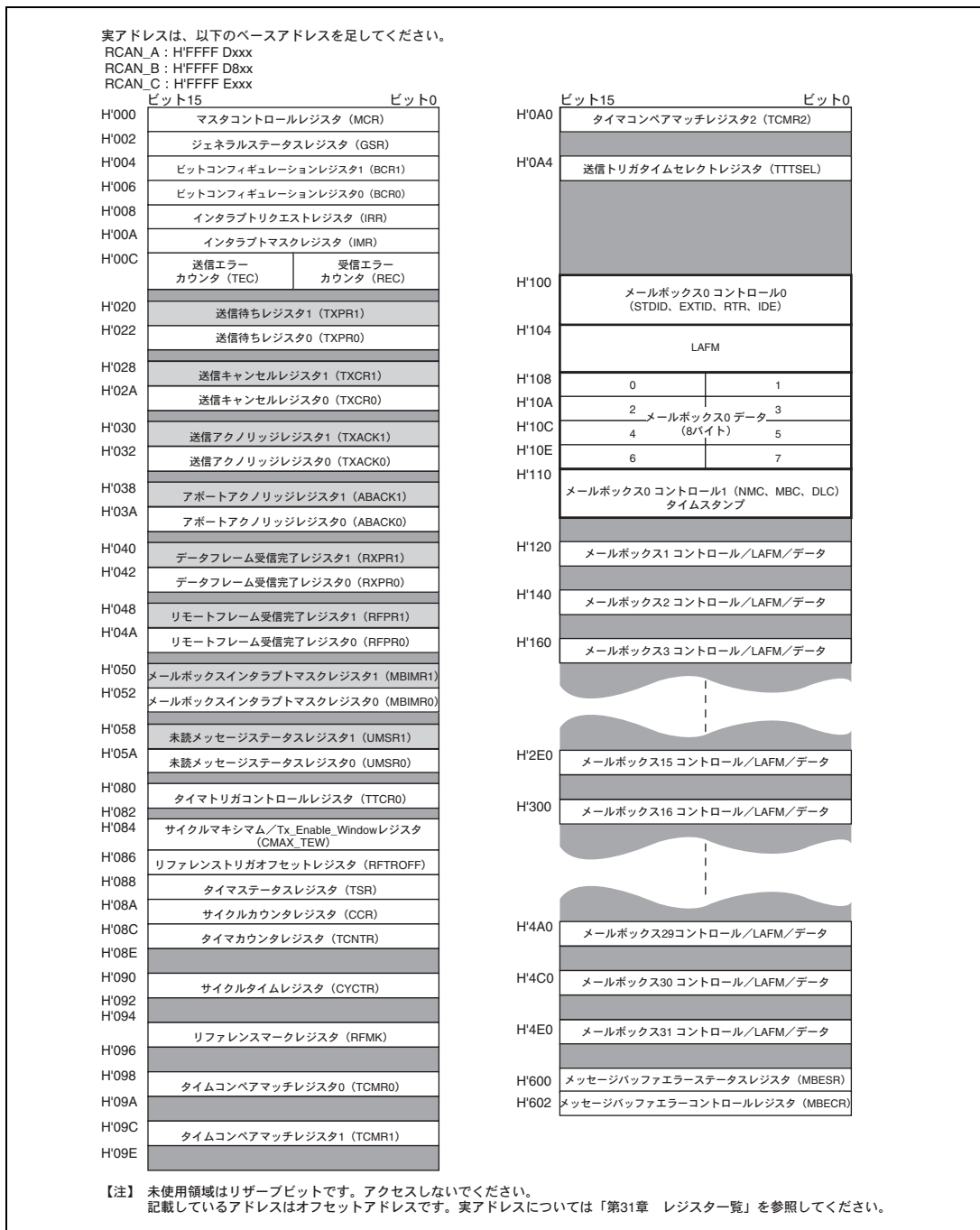


図 18.2 RCAN-TL1 のメモリマップ (1チャンネルあたり)

18.3 メールボックス

18.3.1 メールボックスの構成

メールボックスはCAN フレームを受送信するためのメッセージバッファとして動作します。各メールボックスは、メッセージコントロール、ローカルアクセプタンスフィルタマスク (LAFM)、メッセージデータの3個の格納フィールドからなります。さらに、タイムスタンプ、タイムトリガコンフィギュレーション、およびタイムトリガコントロールのフィールドを持つメールボックスもあります。

表 18.2 に各メールボックスに対するメッセージコントロール、LAFM、メッセージデータ、タイムスタンプ、送信トリガタイム、およびタイムトリガコントロールのアドレスマップを示します。

表中のアドレスはオフセットアドレスです。実アドレスは、以下のベースアドレスを足してください。

RCAN_A : H'FFFF Dxxx

RCAN_B : H'FFFF D8xx

RCAN_C : H'FFFF Exxx

実アドレスの詳細については、「第 31 章 レジスタ一覧」を参照してください。

表 18.2 各メールボックスのアドレスマップ (1 チャンネルあたり)

メール ボックス	アドレス						
	コントロール 0	LAFM	データ	コントロール 1	タイム スタンプ	トリガタイム	TT コントロール
	4 バイト	4 バイト	8 バイト	2 バイト	2 バイト	2 バイト	2 バイト
0 (受信のみ)	H'100-H'103	H'104-H'107	H'108-H'10F	H'110-H'111	H'112-H'113	-	-
1	H'120-H'123	H'124-H'127	H'128-H'12F	H'130-H'131	H'132-H'133	-	-
2	H'140-H'143	H'144-H'147	H'148-H'14F	H'150-H'151	H'152-H'153	-	-
3	H'160-H'163	H'164-H'167	H'168-H'16F	H'170-H'171	H'172-H'173	-	-
4	H'180-H'183	H'184-H'187	H'188-H'18F	H'190-H'191	H'192-H'193	-	-
5	H'1A0-H'1A3	H'1A4-H'1A7	H'1A8-H'1AF	H'1B0-H'1B1	H'1B2-H'1B3	-	-
6	H'1C0-H'1C3	H'1C4-H'1C7	H'1C8-H'1CF	H'1D0-H'1D1	H'1D2-H'1D3	-	-
7	H'1E0-H'1E3	H'1E4-H'1E7	H'1E8-H'1EF	H'1F0-H'1F1	H'1F2-H'1F3	-	-
8	H'200-H'203	H'204-H'207	H'208-H'20F	H'210-H'211	H'212-H'213	-	-
9	H'220-H'223	H'224-H'227	H'228-H'22F	H'230-H'231	H'232-H'233	-	-
10	H'240-H'243	H'244-H'247	H'248-H'24F	H'250-H'251	H'252-H'253	-	-
11	H'260-H'263	H'264-H'267	H'268-H'26F	H'270-H'271	H'272-H'273	-	-
12	H'280-H'283	H'284-H'287	H'288-H'28F	H'290-H'291	H'292-H'293	-	-
13	H'2A0-H'2A3	H'2A4-H'2A7	H'2A8-H'2AF	H'2B0-H'2B1	H'2B2-H'2B3	-	-
14	H'2C0-H'2C3	H'2C4-H'2C7	H'2C8-H'2CF	H'2D0-H'2D1	H'2D2-H'2D3	-	-
15	H'2E0-H'2E3	H'2E4-H'2E7	H'2E8-H'2EF	H'2F0-H'2F1	H'2F2-H'2F3	-	-
16	H'300-H'303	H'304-H'307	H'308-H'30F	H'310-H'311	-	-	-
17	H'320-H'323	H'324-H'327	H'328-H'32F	H'330-H'331	-	-	-

メールボックス	アドレス						
	コントロール0	LAFM	データ	コントロール1	タイムスタンプ	トリガタイム	TT コントロール
	4バイト	4バイト	8バイト	2バイト	2バイト	2バイト	2バイト
18	H'340-H'343	H'344-H'347	H'348-H'34F	H'350-H'351	-	-	-
19	H'360-H'363	H'364-H'367	H'368-H'36F	H'370-H'371	-	-	-
20	H'380-H'383	H'384-H'387	H'388-H'38F	H'390-H'391	-	-	-
21	H'3A0-H'3A3	H'3A4-H'3A7	H'3A8-H'3AF	H'3B0-H'3B1	-	-	-
22	H'3C0-H'3C3	H'3C4-H'3C7	H'3C8-H'3CF	H'3D0-H'3D1	-	-	-
23	H'3E0-H'3E3	H'3E4-H'3E7	H'3E8-H'3EF	H'3F0-H'3F1	-	-	-
24	H'400-H'403	H'404-H'407	H'408-H'40F	H'410-H'411	-	H'414-H'415	H'416-H'417
25	H'420-H'423	H'424-H'427	H'428-H'42F	H'430-H'431	-	H'434-H'435	H'436-H'437
26	H'440-H'443	H'444-H'447	H'448-H'44F	H'450-H'451	-	H'454-H'455	H'456-H'457
27	H'460-H'463	H'464-H'467	H'468-H'46F	H'470-H'471	-	H'474-H'475	H'476-H'477
28	H'480-H'483	H'484-H'487	H'488-H'48F	H'490-H'491	-	H'494-H'495	H'496-H'497
29	H'4A0-H'4A3	H'4A4-H'4A7	H'4A8-H'4AF	H'4B0-H'4B1	-	H'4B4-H'4B5	H'4B6-H'4B7
30	H'4C0-H'4C3	H'4C4-H'4C7	H'4C8-H'4CF	H'4D0-H'4D1	H'4D2-H'4D3 (ローカル タイム)	H'4D4-H'4D5	-
31	H'4E0-H'4E3	H'4E4-H'4E7	H'4E8-H'4EF	H'4F0-H'4F1	H'4F2-H'4F3 (ローカル タイム)	-	-

メールボックス0は受信専用です。他のすべてのメールボックスは、メッセージコントロールのMBC（メールボックス構成）ビットの設定により、送信、受信ともに可能です。メールボックスの構成の詳細を図18.3～図18.5に示します。

表 18.3 メールボックスの役割

	イベントトリガ		タイムトリガ		備考	
	送信	受信	送信	受信	タイムスタンプレジスタ	送信トリガタイムレジスタ
MB31	設定可	設定可	-	タイムリファレンス受信	有	-
MB30	設定可	設定可	タイムマスタモード時 タイムリファレンス送信	タイムスレーブ モード時受信	有	有
MB29～MB24	設定可	設定可	設定可	設定可	-	有
MB23～MB16	設定可	設定可	- (ET)	設定可	-	-
MB15～MB1	設定可	設定可	- (ET)	設定可	有	-
MB0	-	設定可	-	設定可	有	-

【注】 ET：タイムトリガモード時のマージドアービトレーティングウィンドウ内で送信動作可能です。

・ MB0 (タイムスタンプ付き受信用メールボックス)

アドレス	データバス																アクセスサイズ	フィールド名
	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0		
H'100	IDE	RTR	0	STDID[10:0]										EXTID[17:16]		16/32	コントロール0	
H'102	EXTID[15:0]																	16
H'104	IDE	LAFM	0	0	STDID_LAFM[10:0]										EXTID_LAFM[17:16]		16/32	LAFM
H'106	EXTID_LAFM[15:0]																16	
H'108	MSG_DATA_0 (最初のRx/Tx バイト)								MSG_DATA_1								8/16/32	データ
H'10A	MSG_DATA_2								MSG_DATA_3								8/16	
H'10C	MSG_DATA_4								MSG_DATA_5								8/16/32	
H'10E	MSG_DATA_6								MSG_DATA_7								8/16	
H'110	0	0	NMC	0	0	MBC[2:0]*		0	0	0	0	DLC[3:0]		8/16	コントロール1			
H'112	TimeStamp[15:0] (CYCTR[15:0] or CCR[5:0]/CYCTR[15:6] at SOF)																16	タイムスタンプ

・ MB15~1 (タイムスタンプ付きメールボックス)

アドレス	データバス																アクセスサイズ	フィールド名
	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0		
H'100+n*32	IDE	RTR	0	STDID[10:0]										EXTID[17:16]		16/32	コントロール0	
H'102+n*32	EXTID[15:0]																	16
H'104+n*32	IDE	LAFM	0	0	STDID_LAFM[10:0]										EXTID_LAFM[17:16]		16/32	LAFM
H'106+n*32	EXTID_LAFM[15:0]																16	
H'108+n*32	MSG_DATA_0 (最初のRx/Tx バイト)								MSG_DATA_1								8/16/32	データ
H'10A+n*32	MSG_DATA_2								MSG_DATA_3								8/16	
H'10C+n*32	MSG_DATA_4								MSG_DATA_5								8/16/32	
H'10E+n*32	MSG_DATA_6								MSG_DATA_7								8/16	
H'110+n*32	0	0	NMC	ATX	DART	MBC[2:0]		0	0	0	0	DLC[3:0]		8/16	コントロール1			
H'112+n*32	TimeStamp[15:0] (CYCTR[15:0] or CCR[5:0]/CYCTR[15:6] at SOF)																16	タイムスタンプ

【記号説明】 n=1~15

【注】 * MBC[1]=1固定

- グレー表示のビットはリザーブビットです。書き込み値は0にしてください。読み出し値は必ずしも0ではなく、また保証もされません。
- ATXとDARTはメールボックス0ではサポートされません。また、メールボックス0のMBCの設定値は限られています。
- MCR15ビットの初期値が1のため、メッセージコントロールおよびLAFMのSTDID、RTR、IDE、EXTIDの順序はHCAN2と異なる順序です。

図 18.3 メールボックス (0~15) の構成

・ MB23~16 (メールボックス: タイムスタンプなし)

アドレス	データバス																アクセスサイズ	フィールド名
	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0		
H*100+n*32	IDE	RTR	0	STDID[10:0]										EXTID[17:16]		16/32	コントロール0	
H*102+n*32	EXTID[15:0]																16	
H*104+n*32	IDE	LAFM	0	0	STDID_LAFM[10:0]										EXTID_LAFM[17:16]		16/32	LAFM
H*106+n*32	EXTID_LAFM[15:0]																16	
H*108+n*32	MSG_DATA_0 (最初のRx/Tx バイト)								MSG_DATA_1								8/16/32	データ
H*10A+n*32	MSG_DATA_2								MSG_DATA_3								8/16	
H*10C+n*32	MSG_DATA_4								MSG_DATA_5								8/16/32	
H*10E+n*32	MSG_DATA_6								MSG_DATA_7								8/16	
H*110+n*32	0	0	NMC	ATX	DART	MBC[2:0]		0	0	0	0	0	DLC[3:0]			8/16	コントロール1	

・ MB29~24 (タイムトリガモード時タイムトリガ送信)

アドレス	データバス																アクセスサイズ	フィールド名		
	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0				
H*100+n*32	IDE	RTR	0	STDID[10:0]										EXTID[17:16]		16/32	コントロール0			
H*102+n*32	EXTID[15:0]																16			
H*104+n*32	IDE	LAFM	0	0	STDID_LAFM[10:0]										EXTID_LAFM[17:16]		16/32	LAFM		
H*106+n*32	EXTID_LAFM[15:0]																16			
H*108+n*32	MSG_DATA_0 (最初のRx/Tx バイト)								MSG_DATA_1								8/16/32	データ		
H*10A+n*32	MSG_DATA_2								MSG_DATA_3								8/16			
H*10C+n*32	MSG_DATA_4								MSG_DATA_5								8/16/32			
H*10E+n*32	MSG_DATA_6								MSG_DATA_7								8/16			
H*110+n*32	0	0	NMC	ATX	DART	MBC[2:0]		0	0	0	0	0	DLC[3:0]			8/16	コントロール1			
H*112+n*32	リザーブ																—	—		
H*114+n*32	送信トリガタイム (TTT)																16	トリガタイム		
H*116+n*32	TTW[1:0]	オフセット										0	0	0	0	0	0	Rep_Factor	16	TTコントロール

【記号説明】 n=16~29
【注】 1. グレー表示のビットはリザーブビットです。書き込み値は0にしてください。読み出し値は必ずしも0ではなく、また保証もされません。
2. MCR15ビットの初期値が1のため、メッセージコントロールおよびLAFMのSTDID、RTR、IDE、EXTIDの順序はHCAN2と異なる順序です。

図 18.4 メールボックス (16~29) の構成

・MB30 (タイムトリガモード時タイムリファレンス送信)

アドレス	データバス																アクセスサイズ	フィールド名
	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0		
H*100+n*32	IDE	RTR	0	STDID[10:0]										EXTID[17:16]		16/32	コントロール0	
H*102+n*32	EXTID[15:0]																16	
H*104+n*32	IDE LAFM	0	0	STDID_LAFM[10:0]										EXTID_LAFM[17:16]		16/32	LAFM	
H*106+n*32	EXTID_LAFM[15:0]																16	
H*108+n*32	MSG_DATA_0 (最初のRx/Tx バイト)								MSG_DATA_1								8/16/32	データ
H*10A+n*32	MSG_DATA_2								MSG_DATA_3								8/16	
H*10C+n*32	MSG_DATA_4								MSG_DATA_5								8/16/32	
H*10E+n*32	MSG_DATA_6								MSG_DATA_7								8/16	
H*110+n*32	0	0	NMC	ATX	DART	MBC[2:0]		0	0	0	0	DLC[3:0]			8/16	コントロール1		
H*112+n*32	TimeStamp[15:0] (SOFでのTCNTR値)																16	タイムスタンプ
H*114+n*32	タイムリファレンスとしての送信トリガタイム (TTT)																16	トリガタイム

・MB31 (タイムトリガモード時タイムリファレンス受信)

アドレス	データバス																アクセスサイズ	フィールド名
	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0		
H*100+n*32	IDE	RTR	0	STDID[10:0]										EXTID[17:16]		16/32	コントロール0	
H*102+n*32	EXTID[15:0]																16	
H*104+n*32	IDE LAFM	0	0	STDID_LAFM[10:0]										EXTID_LAFM[17:16]		16/32	LAFM	
H*106+n*32	EXTID_LAFM[15:0]																16	
H*108+n*32	MSG_DATA_0 (最初のRx/Tx バイト)								MSG_DATA_1								8/16/32	データ
H*10A+n*32	MSG_DATA_2								MSG_DATA_3								8/16	
H*10C+n*32	MSG_DATA_4								MSG_DATA_5								8/16/32	
H*10E+n*32	MSG_DATA_6								MSG_DATA_7								8/16	
H*110+n*32	0	0	NMC	ATX	DART	MBC[2:0]		0	0	0	0	DLC[3:0]			8/16	コントロール1		
H*112+n*32	TimeStamp[15:0] (SOFでのTCNTR値)																16	タイムスタンプ

【記号説明】 n=30, 31
 【注】 1. グレー表示のビットはリザーブビットです。書き込み値は0にしてください。読み出し値は必ずしも0ではなく、また保証もされません。
 2. MCR15ビットの初期値が1のため、メッセージコントロールおよびLAFMのSTDID、RTR、IDE、EXTIDの順序はHCAN2と異なる順序です。

図 18.5 メールボックス (30、31) の構成

18.3.2 メッセージコントロールフィールド

レジスタ名	アドレス	ビット	ビット名	説明
MB[n]. CONTROL0H	H'100+n*32	15	IDE	ID 拡張 CAN データフレームとリモートフレームがスタンダードフォーマットかエクステンデッドフォーマットかを区別します。 0: スタンダードフォーマット 1: エクステンデッドフォーマット
		14	RTR	リモート送信リクエスト データフレームとリモートフレームを区別します。データフレームかリモートフレームかによって受信 CAN フレームがこのビットを書き替えます。 【重要】 MBC=B'001 でデータフレーム自動送信 (ATX) ビットをセットすると RTR はセットできません。リモートフレームを受信すると、CPU は対応する RFPR ビットまたは IRR2 (リモートフレーム受信割り込み) ビットによって通知されますが、RCAN-TL1 は現在のメッセージをデータフレームとして送信する必要があるため RTR ビットは変化しません。 【重要】 MBC=B'001 で ATX=1 を設定し、リモートフレームを受信したメールボックスは自動的に送信設定されます。そのときデータフレームが送信されるように、RTR は 0 に設定しなければなりません。 0: データフレーム 1: リモートフレーム
		13	—	リザーブビット 初期値は不定です。書き込む値は常に 0 にしてください。
		12~2	STDID [10:0]	スタンダード ID データフレームとリモートフレームの ID (スタンダード ID) を設定するビットです。
		1, 0	EXTID [17:16]	エクステンデッド ID データフレームとリモートフレームの ID (エクステンデッド ID) を設定するビットです。
MB[n]. CONTROL0L	H'102+n*32	15~0	EXTID [15:0]	

【記号説明】 n=0~31 (メールボックス番号)

● メールボックス0

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	0	0	NMC	0	0	MBC[2:0]			0	0	0	0	DLC[3:0]			
初期値:	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R/W	R	R	R/W	R	R/W	R	R	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W

【注】 MBC[1]の値は常に1です。

● メールボックス1～31

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	0	0	NMC	ATX	DART	MBC[2:0]			0	0	0	0	DLC[3:0]			
初期値:	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R	R	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W

レジスタ名	アドレス	ビット	ビット名	説明
MB[n]. CONTROL1	H'110+n*32	15, 14	—	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値は常に0にしてください。
		13	NMC	<p>ニューメッセージコントロール</p> <p>このビットが0にセットされると、RXPRあるいはRFPRがすでにセットされているメールボックスは新しいメッセージを格納せず、前のメッセージを保持しUMSRの対応するビットをセットします。</p> <p>このビットが1にセットされると、RXPRあるいはRFPRがすでにセットされているメールボックスは新しいメッセージをオーバーライトし、UMSRの対応するビットをセットします。</p> <p>【重要】 もしリモートフレームがデータフレームで書き換えられたり、あるいはその逆の場合には、RXPRおよびRFPRフラグは(USMRと一緒に)同一メールボックスにセットされる可能性があります。この場合、メールボックスコントロールフィールド内にあるRTRビットも上書きされます。</p> <p>【重要】 タイムトリガモード使用時には、メールボックス31のNMCを必ず1にセットし、RXPR[31]がクリアされなくてもすべてのリファレンスメッセージを受信できるようにしてください。</p> <p>0: オーバランモード 1: オーバライトモード</p>

レジスタ名	アドレス	ビット	ビット名	説明
MB[n]. CONTROL1	H'110+n*32	12	ATX	<p>データフレーム自動送信</p> <p>本ビットが1にセットされ、リモートフレームがメールボックスで受信されると、DLCが格納され、TXPRは自動的にセットされます。同じメールボックスから書き換えられたDLCを使用し、自動的にデータフレームが送信されます。</p> <p>自動送信設定されたメールボックスは、メッセージ送信プライオリティビット (MCR2) の設定に従って、ID優先順位あるいはメールボックス優先順位にスケジューリングされます。本機能を使用するにはMBC[2:0]をB'001に設定してください。この機能を用いて送信を行うとき、用いるデータ長コード (DLC) は受信されたものが使用されます。これを適用するには、リモートフレームのDLCは要求されているデータフレームのDLCに対応したものであることが必要です。</p> <p>【重要】 1. ATXが使用され、MBCがB'001のとき、リモートフレームのIDは、応答メッセージの場合と同じく、データフレームのIDと完全に同じでなくてはならないため、IDEビットのフィルタは使用できません。</p> <p>2. 本機能を使用する場合、リモートフレームを受信するにもかかわらず、RTRビットはセットされません。リモートフレームを受信するとCPUはセット済みRFPRによって通知されますが、RCAN-TL1は現在のメッセージをデータフレームとして送信する必要があるためRTRビットは変更されません。</p> <p>3. リモートフレームの自動送信が開始されないこともあります。オーバランの状態(NMC=0のときのUMSRセット)に注意してください。</p> <p>4. ATX=1に設定されたメールボックスがリモートフレームによりオーバラン状態になった場合、旧メッセージの自動送信の要求が受け付けられる場合があります。</p> <p>0: データフレームの自動送信無効 1: データフレームの自動送信有効</p> <p>【注】 本ビットはメールボックス1~31にのみあります。メールボックス0ではリザーブビットとなります。</p>
		11	DART	<p>自動再送信無効</p> <p>このビットが1にセットされると、CANバスエラーのイベントが発生した場合や、CANバスのアービトレーションで負けた場合、メッセージの自動再送信を無効にします。実際に、本機能が使用されるときは、対応するTXCRビットが送信の最初に自動的にセットされます。このビットが0にセットされると、RCAN-TL1は、TXCRで送信リクエストをキャンセルされるか、送信が正常終了されるまで送信をリクエストします。</p> <p>0: 再送信有効 1: 再送信無効</p> <p>【注】 本ビットはメールボックス1~31にのみあります。メールボックス0ではリザーブビットとなります。</p>

レジスタ名	アドレス	ビット	ビット名	説明
MB[n]. CONTROL1	H'110+n*32	10~8	MBC[2:0]	<p>メールボックスコンフィギュレーション</p> <p>これらのビットは各メールボックスの機能を表 18.4 のように設定します。MBC が B'111 のとき、メールボックスはアクティブでなくなります。つまり TXPR やその他の設定にかかわらずメッセージの送受信を行いません。</p> <p>MBC を B'100、B'101、B'110 に設定することは禁止されています。MBC の値を B'000 とそれ以外に設定すれば、LAFM フィールドは使用可能となります。</p> <p>MBC が受信に設定されているとき、TXPR はセットしないでください。ハードウェア保護機能はなく、TXPR はセットされたままになります。メールボックス 0 の MBC[1]は受信専用のため、ハードウェアによって 1 に固定されています。</p>
		7~4	—	<p>リザーブビット</p> <p>読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値は常に 0 にしてください。</p>
		3~0	DLC[3:0]	<p>データ長コード</p> <p>データフレームで送信されるデータのバイト数 (0~8) をエンコードします。</p> <p>0000 : データ長 0 バイト 0001 : データ長 1 バイト 0010 : データ長 2 バイト 0011 : データ長 3 バイト 0100 : データ長 4 バイト 0101 : データ長 5 バイト 0110 : データ長 6 バイト 0111 : データ長 7 バイト 1xxx : データ長 8 バイト</p> <p>【注】 x : Don't care</p>

【記号説明】 n=0~31 (メールボックス番号)

表 18.4 メールボックスの機能の設定

MBC2	MBC1	MBC0	データ フレーム送信	リモート フレーム送信	データ フレーム受信	リモート フレーム受信	説明	
0	0	0	可	可	不可	不可	<ul style="list-style-type: none"> • メールボックス 0 は使用不可能 • タイムトリガ送信は使用可能 	
0	0	1	可	可	不可	可	<ul style="list-style-type: none"> • ATX で使用可能* • メールボックス 0 は使用不可能 • LAFM は使用可能 	
0	1	0	不可	不可	可	可	<ul style="list-style-type: none"> • メールボックス 0 は使用可能 • LAFM は使用可能 	
0	1	1	不可	不可	可	不可	<ul style="list-style-type: none"> • メールボックス 0 は使用可能 • LAFM は使用可能 	
1	0	0	設定禁止					
1	0	1	設定禁止					
1	1	0	設定禁止					
1	1	1	メールボックスインアクティブ (初期値)					

【注】 * 自動再送信をサポートするために、MBC が B'001 で ATX が 1 のとき RTR は 0 にしてください。ATX が 1 の設定で使用するときは IDE のフィルタは使用しないでください。

18.3.3 ローカルアクセプタンスフィルタマスク (LAFM)

MBC が B'001、B'010、B'011 の値の場合、このフィールドは受信用の LAFM として使用されます。LAFM はメールボックスが複数の受信 ID を受け入れることを許可します。LAFM は、図 18.6 に示すとおり、2 つの 16 ビットの読み出し/書き込み可能なエリアから成ります。

レジスタ名	アドレス	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0	アクセスサイズ	フィールド名
MB[n].LAFMH	H'104+n*32	IDE_LAFM	0	0	STDID_LAFM[10:0]												EXTID_LAFM[17:16]	16/32	LAFM
MB[n].LAFML	H'106+n*32	EXTID_LAFM[15:0]															16		

【記号説明】 n=0~31 (メールボックス番号)

図 18.6 ローカルアクセプタンスフィルタマスク (LAFM)

1 つのビットが LAFM にセットされている場合、RCAN-TL1 が一致する CAN-ID でメールボックスを検索するとき、受信された CAN の ID の対応するビットは無視されます。ビットがクリアされている場合、受信された CAN の ID の対応するビットは格納されるメールボックスに設定されている STDID/IDE/EXTID と一致していません。LAFM の構造はメールボックスのメッセージコントロールと同じです。この機能を使用しない場合は 0 で埋める必要があります。

- 【注】
1. RCAN-TL1 は、メールボックス 31 からメールボックス 0 まで、一致する ID の検索を行います。RCAN-TL1 は一致する ID を検知すると、そのメッセージは NMC や RXPR/RFPR フラグによらず、ただちに検索を終了します。これは、LAFM を使用していても受信メッセージは 1 つのメールボックスにのみ格納されることを示します。
 2. 1 つのメッセージが受信され一致するメールボックスが見つかったら、メッセージ全体がメールボックスに格納されます。LAFM を使用している場合、STDID、RTR、IDE、EXTID は受信されたメッセージの STDID、RTR、IDE、EXTID に更新されるので、受信前に設定されていたものと異なることがあります。

レジスタ名	アドレス	ビット	ビット名	説明
MB[n]. LAFMH	H'104+n*32	15	IDE_LAFM	IDE ビットのフィルタマスクビット 0 : 対応する IDE ビットが有効 1 : 対応する IDE ビットが無効
		14, 13	—	リザーブビット 初期値は不定です。書き込む値は常に 0 にしてください。
		12~2	STDID_LAFM [10:0]	STDID[10:0]のフィルタマスクビット 0 : 対応する STDID ビットが有効 1 : 対応する STDID ビットが無効
		1, 0	EXTID_LAFM [17:16]	EXTID[17:0]のフィルタマスクビット 0 : 対応する EXTID ビットが有効 1 : 対応する EXTID ビットが無効
MB[n]. LAFML	H'106+n*32	15~0	EXTID_LAFM [15:0]	1 : 対応する EXTID ビットが無効

【記号説明】 n=0~31 (メールボックス番号)

18.3.4 メッセージデータフィールド

送受信される CAN メッセージを格納します。MSG_DATA_0 は送受信が行われる最初のデータバイトに対応します。CAN バス上のビットの並び順はビット 7 からビット 0 です。

- タイムトリガ送信時の注意事項

メールボックス 30 は、 $C_{MAX} \neq B'111$ 、 $MBC[30] = B'000$ で $TXPR[30]$ を 1 に設定すると、タイムリファレンス送信用に設定できます。この際、必ず DLC には 0 より大きい値を設定し、RTR は 0 に設定してください (TTCAN Level 1 にて規定)。メールボックス 30 の送信開始時に、データフィールドの先頭バイトの $MSG_DATA_0[5:0]$ にサイクルカウンタ値 (CCR) が埋め込まれてメッセージを送信します。

$MSG_DATA_0[7:6]$ は、メールボックスに格納された値が送信されます。

$Next_is_Gap$ を送信する必要がある場合は、ユーザは $MSG_DATA_0[7]$ を 1 に設定することで送信できます。

このとき、CCR の値は送信されるフレームに入りますが、メールボックス 30 のメッセージデータフィールドには格納されませんのでご注意ください。

メールボックス 31 は、 $C_{MAX} \neq B'111$ 、 $MBC[31] = B'011$ で設定するとタイムリファレンス受信用に設定されます。有効なリファレンスメッセージを受信すると (ID 一致、 $DLC > 0$)、RCAN-TL1 は RFMK およびサイクルカウンタ (CCR) を書き換えることにより、 $Cycle_Time$ と $Basic_Cycle$ を同期化します。

MB30, 31		15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0		
$H'108+n*32$	Next_is_Gap/Cycle_Counter (最初のRx/Txバイト)										MSG_DATA_1				8/16/32ビット				データ
$H'10A+n*32$	MSG_DATA_2										MSG_DATA_3				8/16ビット				
$H'10C+n*32$	MSG_DATA_4										MSG_DATA_5				8/16/32ビット				
$H'10E+n*32$	MSG_DATA_6										MSG_DATA_7				8/16ビット				

【記号説明】 n=30, 31 (メールボックス番号)

図 18.7 メッセージデータフィールド

18.3.5 タイムスタンプ

送信/受信メッセージに記録されたタイムスタンプを格納します。タイムスタンプは、メッセージがスケジュールどおりに送信/受信されたかどうかをモニタするのに役立ちます。

- タイムスタンプ

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	TS15	TS14	TS13	TS12	TS11	TS10	TS9	TS8	TS7	TS6	TS5	TS4	TS3	TS2	TS1	TS0
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

(1) メッセージ受信

メールボックス0~15の受信メッセージのタイムスタンプには、タイムトリガコントロールレジスタ0

(TTCR0) のビット14の設定により、CYCTR[15:0] (サイクルタイムレジスタ) の値またはCCR[5:0] (サイクルカウンタ) + CYCTR[15:6] (サイクルタイムレジスタ) の値が受信メッセージのSOFでキャプチャされ、タイムスタンプに格納されます。

メールボックス30, 31の受信メッセージのタイムスタンプには、タイマカウンタレジスタ (TCNTR) の値が受信メッセージのSOFでキャプチャされ、タイムスタンプに格納されます。

(2) メッセージ送信

メールボックス1~15の送信メッセージのタイムスタンプには、タイムトリガコントロールレジスタ0

(TTCR0) のビット14の設定により、CYCTR[15:0] (サイクルタイムレジスタ) の値またはCCR[5:0] (サイクルカウンタ) + CYCTR[15:6] (サイクルタイムレジスタ) の値が送信メッセージのSOFでキャプチャされ、タイムスタンプに格納されます。

メールボックス30, 31の送信メッセージのタイムスタンプには、タイマカウンタレジスタ (TCNTR) の値が送信メッセージのSOFでキャプチャされ、タイムスタンプに格納されます。

【重要】 タイムスタンプはテンポラリレジスタに格納されます。送信または受信が正常に行われると、その値がメールボックスのフィールドにコピーされます。また、オーバーランによって UMSR がセットされると同時に CPU が RXPR/RFPR をクリアしたとき、タイムスタンプのみが更新されることがあります。したがって、RXPR/RFPR がクリアされる前の正しいタイムスタンプ値をリードすることができます。

18.3.6 送信トリガタイム (TTT) とタイムトリガコントロール

メールボックス 24~29 では、タイムトリガモード (C_{MAX}≠B'111) で MBC を B'000 に設定すると、送信トリガタイムはタイムウィンドウ間の境界を決定するための Time_Mark として機能します。

送信トリガタイム (TTT) とタイムトリガコントロール (TT コントロール) は、以下に示す 2 つの 16 ビットリード/ライトレジスタで構成されています。

メールボックス 30 にはタイムトリガコントロール (TT コントロール) がなく、Time_Ref として機能します。

メールボックス 24~30 をタイムトリガモード送信に使用しない場合は、受信用メールボックスとして使用することができます。ただし、タイムトリガモードを使用する場合は、イベントトリガ送信の対象にはなりません。

• 送信トリガタイム (TTT)

送信トリガタイム (TTT) は、サイクルタイム内でメッセージの送信を開始する時間を指定します。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	TTT15	TTT14	TTT13	TTT12	TTT11	TTT10	TTT9	TTT8	TTT7	TTT6	TTT5	TTT4	TTT3	TTT2	TTT1	TTT0
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

• タイムトリガコントロール (TTコントロール)

タイムトリガコントロール (TT コントロール) は、ウィンドウの属性、送信を開始するシステムマトリックス内のサイクルカウント (Basic Cycle) および定周期送信の頻度を指定します。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	TTW[1:0]					Offset[5:0]					0	0	0	0	0	rep_factor[2:0]
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R	R	R	R	R	R/W	R/W	R/W

タイムトリガモードをサポートするすべてのメールボックス間の相違点を図 18.8 に示します。

MB29~24																			
	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0			
H'114+n*32	送信トリガタイム (サイクルタイム)															16ビット	トリガタイム		
H'116+n*32	TTW[1:0]	Offset[5:0]					0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16ビット	TTコントロール
MB30																			
	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0			
H'114+n*32	送信トリガタイム (サイクルタイム)															16ビット	トリガタイム		
【記号説明】 n=24~30 (メールボックス番号)																			

図 18.8 送信トリガコントロールフィールド

• TTW[1:0] (タイムトリガウィンドウ)

タイムウィンドウの属性を示します。TTW=B'10 設定でスタートしたマージドアービトラリングウィンドウ (Merged Arbitrating Window) は、必ず TTW=B'11 設定によって終了してください。マージドアービトラリングウィンドウの先頭から最後まで間に TTW=B'10 設定のメッセージを数個使用することができます。

TTW[1]	TTW[0]	説 明
0	0	エクスクルーシブウィンドウ : exclusive window (初期値)
0	1	アービトレーティングウィンドウ : arbitrating window
1	0	マージドアービトレーティングウィンドウの開始 : Start of Merged arbitrating window
1	1	マージドアービトレーティングウィンドウの終了 : End of Merged arbitrating window

TT レジスタの値が CYCTR の値と一致し、Offset の値が CCR の値と一致すると、対応するメールボックスから送信を試みます。この機能を有効にするには、 $C_{MAX} \neq B'111$ に設定し、タイマ (TCNTR) を動作させ (TTCR0 のビット 15 が 1)、対応するメールボックスの $MBC = B'000$ に設定し、対応する TXPR のビットを 1 に設定してください。TXPR のビットをソフトウェアでセットした後は、定周期送信を続けるために、RCAN-TL1 はその TXPR のビット (メールボックス 24~30) をクリアしません。

定周期送信を停止するには、TXCR で TXPR をクリアしてください。この場合、送信完了直後に TXACK をクリアしないと、同じメールボックスの TXACK と ABACK の両方がセットされる可能性があります (図 18.9 参照)。

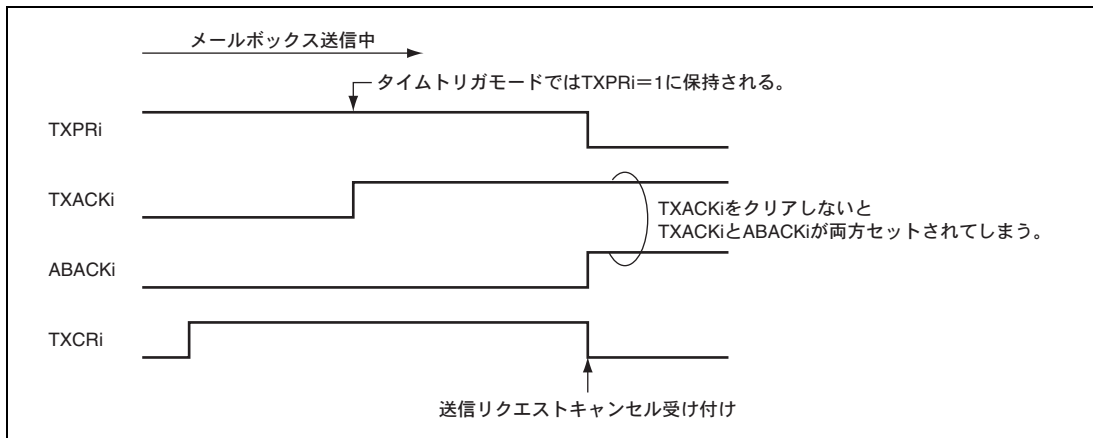


図 18.9 タイムトリガ送信時の TXACK と ABACK

なお、メールボックス 30 では $TTW=B'01$ 、 $Offset=B'000000$ 、 $rep_factor=B'000$ に固定です。以下の表に rep_factor と $Offset$ の組み合わせを示します。

rep_factor	説 明
B'000	サイクルカウントごと (初期値)
B'001	2 サイクルカウントごと
B'010	4 サイクルカウントごと
B'011	8 サイクルカウントごと
B'100	16 サイクルカウントごと
B'101	32 サイクルカウントごと
B'110	64 サイクルカウントごと(システムマトリックスごとに1回)
B'111	リザーブ

$Offset$ フィールドは、タイムトリガメールボックスがメッセージの送信を開始できる最初のサイクルカウンタ値を決定します。

Offset	説 明
B'000000	オフセット (Offset) = 最初のサイクルカウント (初期値)
B'000001	オフセット (Offset) = 2 番目のサイクルカウント
B'000010	オフセット (Offset) = 3 番目のサイクルカウント
B'000011	オフセット (Offset) = 4 番目のサイクルカウント
B'000100	オフセット (Offset) = 5 番目のサイクルカウント
...	...
B'111110	オフセット (Offset) = 63 番目のサイクルカウント
B'111111	オフセット (Offset) = 64 番目のサイクルカウント

以下の関係を満たさなければなりません。

$$\text{Cycle_Count_Maximum} + 1 > \text{Repeat_Factor} > \text{Offset}$$

$$\text{Cycle_Count_Maximum} = 2^{\text{CMAX}} - 1$$

$$\text{Repeat_Factor} = 2^{\text{rep_factor}}$$

CMAX、Repeat_Factor、および Offset はレジスタ値です。

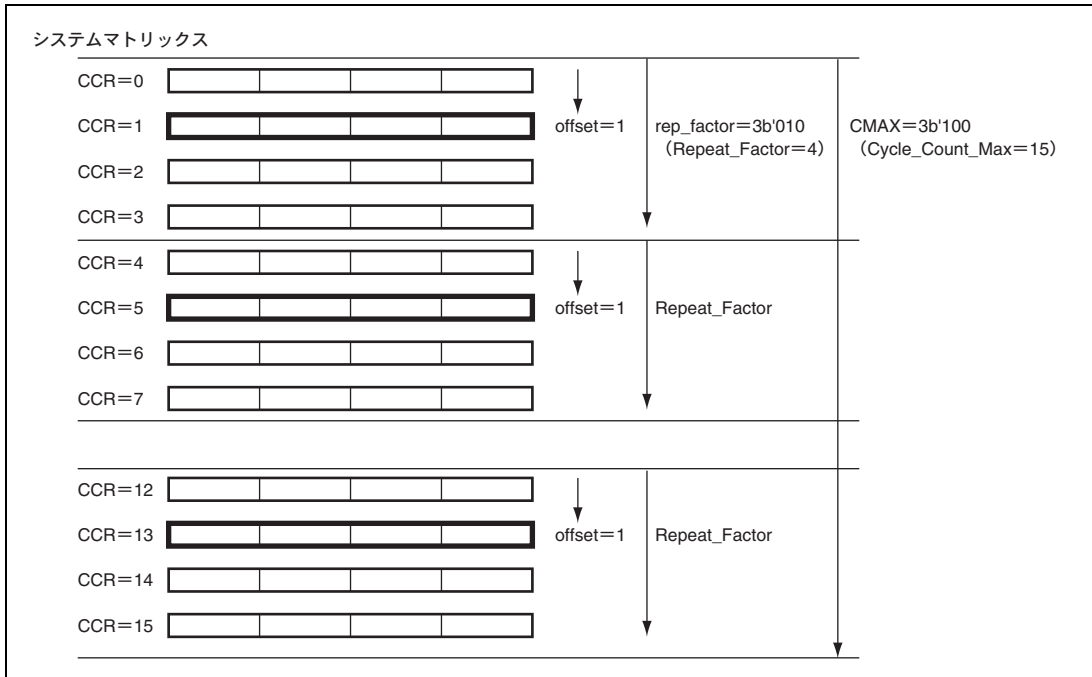


図 18.10 システムマトリックス

送信トリガタイムは昇順に設定してください。送信トリガタイム間の差は、 $TTT(\text{メールボックス } i) - TTT(\text{メールボックス } i-1) > TEW + \text{最大フレーム長} + 9$ を満たすように設定してください。

18.4 RCAN-TL1 のコントロールレジスタ

RCAN-TL1 のコントロールレジスタについて説明します。RCAN-TL1 のコントロールレジスタはワードサイズ (16 ビット) でのみアクセスできます。

表 18.5 に RCAN-TL1 のコントロールレジスタを示します。

表 18.5 RCAN-TL1 のコントロールレジスタの構成

レジスタ名	略称	アドレス	アクセスサイズ (ビット)
マスタコントロールレジスタ	MCR	H'000	16
ジェネラルステータスレジスタ	GSR	H'002	16
ビットコンフィギュレーションレジスタ 1	BCR1	H'004	16
ビットコンフィギュレーションレジスタ 0	BCR0	H'006	16
インタラプトリクエストレジスタ	IRR	H'008	16
インタラプトマスクレジスタ	IMR	H'00A	16
送信エラーカウンタ/受信エラーカウンタ	TEC/REC	H'00C	16
メッセージバッファエラーステータスレジスタ	MBESR	H'600	16
メッセージバッファエラーコントロールレジスタ	MBECR	H'602	16

18.4.1 マスタコントロールレジスタ (MCR)

MCR は、16 ビットの読み出し/書き込み可能なレジスタで、RCAN-TL1 を制御します。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	MCR15	MCR14	—	—	—	TST[2:0]		MCR7	MCR6	MCR5	—	—	MCR2	MCR1	MCR0	
初期値:	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
R/W:	R/W	R/W	R	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R	R	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15	MCR15	1	R/W	ID 並べ替え 本ビットは HCAN2 と互換性のあるメッセージコントロールおよび LAFM の STDID、RTR、IDE、EXTID の順序を設定できます。なお本ビットはリセットモードでのみ変更可能です。ID 並び替えの順序については図 18.11 を参照してください。 0 : RCAN-TL1 と HCAN2 は同等の順序 1 : RCAN-TL1 と HCAN2 は異なる順序

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
14	MCR14	0	R/W	<p>自動バスオフホルト</p> <p>本ビットと MCR6 がともに設定された場合、RCAN-TL1 がバスオフ状態に入ると MCR1 はただちに自動的にセットされます。本ビットはリセットモードでのみ変更可能です。</p> <p>0 : 通常の復帰シーケンス (128×11 レセツピビット) で RCAN-TL1 バスオフ状態を維持</p> <p>1 : MCR6 がセットされると RCAN-TL1 はバスオフ状態のあと、ただちにホルトモードに入ります</p>
13~11	—	すべて 0	R	<p>リザーブビット</p> <p>読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値は常に 0 にしてください。</p>
10~8	TST[2:0]	000	R/W	<p>テストモード</p> <p>本ビットはテストモードを有効/無効にします。テストモードを起動する前に、RCAN-TL1 をホルトモードあるいはリセットモードにする必要がありますので注意してください。これは、テストモードへの遷移が進行中の送受信に影響することを回避するためです。詳細については「18.7.2 テストモードの設定」を参照してください。</p> <p>テストモードは診断およびテストのためだけに用いるもので、RCAN-TL1 が通常動作時には使用できません。</p> <p>000 : ノーマルモード</p> <p>001 : リスンオンリモード (受信専用モード)</p> <p>010 : セルフテストモード 1 (外部)</p> <p>011 : セルフテストモード 2 (内部)</p> <p>100 : ライトエラーカウンタ</p> <p>101 : エラーパッシブモード</p> <p>110 : 設定禁止</p> <p>111 : 設定禁止</p>
7	MCR7	0	R/W	<p>自動ウェイクモード</p> <p>本ビットは CAN スリープモードの自動ウェイクモードを有効/無効にします。本ビットが設定されると、RCAN-TL1 は CAN バスアクティビティ (ドミナントビット) を検出して自動的に CAN スリープモード (MCR5) を解除します。本ビットがクリアされると RCAN-TL1 は自動的に CAN スリープモードを解除しません。</p> <p>RCAN-TL1 は、RCAN-TL1 をウェイクアップしたメッセージを格納できません。</p> <p>0 : CAN バスのアクティビティによる自動ウェイクモードが無効</p> <p>1 : CAN バスのアクティビティによる自動ウェイクモードが有効</p> <p>【注】 CAN スリープモード中は MCR7 ビットを変更できません。</p>

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
6	MCR6	0	R/W	<p>バスオフ時ホルト</p> <p>本ビットは、バスオフ時に MCR1 がセットされるとただちにホルトモードに入ることを有効にするか無効にするかを設定します。本ビットはリセットあるいはホルトモードでのみ変更可能です。バスオフ時にホルトモードに入った場合、CAN コントローラもただちにエラーアクティブモードに復帰するので注意してください。</p> <p>0: バスオフ時にホルトモードには入らず、復帰シーケンスが終了するのを待ちます</p> <p>1: バスオフ時に MCR1 設定によるホルトモード遷移を有効にします</p>
5	MCR5	0	R/W	<p>CAN スリープモード</p> <p>本ビットは CAN スリープモードへの遷移を有効/無効にします。RCAN-TL1 がホルトモード時に本ビットがセットされると、CAN スリープモードへの遷移が有効になります。本ビットの設定は、ホルトモードに入った後に許可されます。2つのエラーカウンタ (REC、TEC) は CAN スリープモードの間は変化しません。CAN スリープモードを解除するには2つの方法があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • MCR5 ビットに 0 を書き込む • MCR7 が有効の場合、CAN バス上のドミナントビットを検出する <p>自動スリープ解除モードが無効であれば、CAN スリープモードが終了するまで RCAN-TL1 はすべての CAN バスの動作を無視します。CAN スリープモードを解除するときは、RCAN-TL1 は CAN バス動作に入る前に 11 レセツピットをチェックすることで CAN バスと同期を取ります。これは 2 番目の方法が使用されているときに RCAN-TL1 が最初のメッセージを受信できないことを意味します。同様に CAN トランシーバもスタンバイモードを終了するときには最初のメッセージを受信できませんので、ソフトウェアはこの方法で設計する必要があります。</p> <p>CAN スリープモード中は MCR、GSR、IRR、IMR レジスタだけがアクセス可能です。詳細は「18.7.1 (3) CAN スリープモード」を参照してください。</p> <p>0: CAN スリープモードが解除されています</p> <p>1: CAN スリープモードへの遷移が有効です</p> <p>【注】 RCAN-TL1 は、最初にホルトモードに設定してから CAN スリープモードに遷移できます。これにより、CAN スリープモードに遷移する前に CPU が待ち状態のすべての割り込みをクリアすることができます。すべての割り込みがクリアされてしまうと同時に RCAN-TL1 はホルトモードから CAN スリープモードに遷移しなければなりません。(具体的には MCR5 に 1 を、MCR1 に 0 を同時にライトします。)</p>
4、3	—	すべて 0	R	<p>リザーブビット</p> <p>読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値は常に 0 にしてください。</p>

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
2	MCR2	0	R/W	<p>メッセージ送信プライオリティ</p> <p>本ビットはペンディング中の送信データの送信順序を選択します。本ビットを1にセットした場合、送信データは送信待ちレジスタ (TXPR) のビット順で送信されます。</p> <p>送信はメールボックス 31 を最優先で開始し、メールボックス 1 まで続けます (メールボックスが送信用に設定されている場合)。</p> <p>本機能は、メールボックス 24~30 のタイムトリガ送信には使用できませんのでご注意ください。もし本ビットがクリアされると、すべての送信メッセージは (内部アービトレーションを走らせることにより) ID 優先順位どおり送信されます。最優先のメッセージは最小の数字のアービトレーションフィールド (STDID + IDE ビット+ EXTID (IDE=1 の場合) + RTR ビット) を持ち、最初に送信されます。</p> <p>内部アービトレーションは RTR ビットと IDE ビットを含みます (内部アービトレーションは、2 つの CAN ノード間の CAN バス上にあるアービトレーションが同時に遷移を開始するのと同じ方法で動作します)。</p> <p>本ビットはリセットあるいはホルトモードでのみ変更可能です。</p> <p>0 : メッセージ ID 優先順に送信 1 : メールボックス番号順 (メールボックス 31→メールボックス 1) に送信</p>

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
1	MCR1	0	R/W	<p>ホルトリクエスト</p> <p>本ビットをセットするとCANコントローラは現在の動作を終了したのちホルトモードに入ります（ここでCANバスからは切り離されます）。RCAN-TL1は本ビットがクリアされるまでホルトモードのままになります。</p> <p>ホルトモード中、CANインタフェースはCANバス動作に関係せず、メッセージの格納や送信も行いません。ホルト状態をCPUに通知するためのIRR0とGSR4を除き、ユーザレジスタ（メールボックスの内容およびTEC/RECを含みます）の内容は保持されます。</p> <p>CANバスがアイドルまたはインタミッション状態の場合は、MCR6にかかわらずRCAN-TL1は1ビット時間内にホルトモードになります。MCR6がセットされていると、バスオフ中のホルトリクエストも1ビット時間内に動作します。それ以外ではバスオフ復帰シーケンスが完了するまではホルトモードに入りません。ホルトモードになるとIRR0とGSR4によって通知されます。</p> <p>MCR14とMCR6がセットされていると、本ビットはRCAN-TL1がバスオフ状態に移移するとすぐに自動的にセットされます。</p> <p>ホルトモード中、RCAN-TL1はバス動作に関係しないため、ビットタイミング設定を除きRCAN-TL1の構成を変更することができます。CANバス動作に再び参加するには、本ビットを0にクリアする必要があります。クリア後、RCAN-TL1は11レセシブビットが検出されるまで待ち、CANバスに参加します。</p> <p>0: ホルトモードリクエストをクリア 1: ホルトモード遷移リクエスト</p> <p>【注】 1. ホルトリクエストが発行された後は、CPUはホルトモードへの遷移が完了するまで(IRR0とGSR4で通知されます)TXPRとTXCRにアクセスおよび本ビットをクリアすることができません。MCR1がセットされた後、この状態はホルトモードに入ってからか、(ソフトウェアまたハードウェアでの)リセット動作でのみ解除できます。</p> <p>2. ホルトモードへのあるいはホルトモードからの遷移が可能なのは、BCR1とBCR0レジスタが適切なポーレートに設定されているときだけです。</p>

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
0	MCR0	1	R/W	<p>リセットリクエスト</p> <p>本ビットは RCAN-TL1 モジュールのリセットを制御します。本ビットが 0 から 1 に変わったとき、RCAN-TL1 コントローラはリセットルーチンに入り、内部ロジックを初期化して、リセットモードを通知するため GSR3 と IRR0 をセットします。すべてのユーザレジスタが初期化されます。(パリティコントロール関連のレジスタである MBESR と MBECR レジスタは初期化されません)。</p> <p>本ビットがセットされている間、RCAN-TL1 は再構成することができます。CAN バスに参加するために本ビットは 0 をライトしてクリアする必要があります。クリア後、RCAN-TL1 モジュールは、11 レセシブビットの検出を待って CAN バスに参加します。</p> <p>CAN バス上の値をサンプリングするためにポーレートを適切な値にセットする必要があります。パワーオンリセット後には、このビットと GSR3 は常にセットされます。これはリセットがリクエストされ RCAN-TL1 を構成する必要があることを示します。</p> <p>リセットリクエストはパワーオンリセットに相当しますがソフトウェアで制御されます。</p> <p>0 : リセットモードリクエストをクリア [クリア条件] RCAN-TL1 をリセットした後に 0 が書き込まれたとき 1 : CAN インタフェースのリセットモード遷移リクエスト</p>

・ MCR15 (ID並べ替え) =0

アドレス	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0	アクセスサイズ	フィールド名
H*100+n*32	0	STDID[10:0]											RTR	IDE	EXTID[17:16]	16/32	コントロール0	
H*102+n*32	EXTID[15:0]															16		
H*104+n*32	0	STDID_LAFM[10:0]											0	IDE_LAFM	EXTID_LAFM[17:16]	16/32	LAFMフィールド	
H*106+n*32	EXTID_LAFM[15:0]															16		

・ MCR15 (ID並べ替え) =1

アドレス	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0	アクセスサイズ	フィールド名
H*100+n*32	IED	RTR	0	STDID[10:0]											EXTID[17:16]		16/32	コントロール0
H*102+n*32	EXTID[15:0]															16		
H*104+n*32	IDE_LAFM	0	0	STDID_LAFM[10:0]											EXTID_LAFM[17:16]		16/32	LAFMフィールド
H*106+n*32	EXTID_LAFM[15:0]															16		

【記号説明】 n=0~31 (メールボックス番号)

図 18.11 ID 並べ替え

18.4.2 ジェネラルステータスレジスタ (GSR)

GSR は、16 ビットの読み出し専用レジスタで、RCAN-TL1 の状態を示します。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	GSR5	GSR4	GSR3	GSR2	GSR1	GSR0
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0
R/W:	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~6	—	すべて0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値は常に0にしてください。
5	GSR5	0	R	エラーパッシブステータス CAN インタフェースがエラーパッシブかどうかを示します。本ビットは RCAN-TL1 がエラーパッシブ状態になるとすぐに1にセットされ、再びエラーアクティブ状態になるとクリアされます。これは、エラーパッシブ中とバスオフ中は、GSR5は1を保持することを意味します。したがって、正確な状態を知るには GSR5 と GSR0 の両方を調べてください。 0: RCAN-TL1 はエラーパッシブあるいはバスオフ状態ではありません [クリア条件] RCAN-TL1 がエラーアクティブ状態の間 1: RCAN-TL1 がエラーパッシブ (ただし GSR0=0 の場合) あるいはバスオフ (ただし GSR0=1 の場合) です [セット条件] TEC \geq 128 または REC \geq 128 またはテストモードでエラーパッシブモード選択時
4	GSR4	0	R	ホルト/スリープステータス CAN コントローラがホルト/スリープかどうかを示します。本フラグのクリア時間は IRR12 のセッティング時間とは同じではありませんので留意してください。このフラグは CAN コントローラの状態を反映するもので、RCAN-TL1 の状態をフルに反映するものではありません。RCAN-TL1 は CAN スリープモードを終了し MCR5 がクリアされるとアクセス可能になります。CAN コントローラの CAN スリープモードは、転送クロック 2 ビット分経過後に終了します。 0: RCAN-TL1 はホルトモードでも CAN スリープモードでもありません 1: ホルトモード (MCR1=1 の場合) または CAN スリープモード (MCR5=1 の場合) です [セット条件] MCR1 がセットされ CAN バスがインタミッションまたはアイドルの場合、または MCR5 がセットされ RCAN-TL1 がホルトモードのとき、または MCR14 と MCR6 が両者ともセットされて RCAN-TL1 がバスオフへ遷移したとき

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
3	GSR3	1	R	リセットステータス RCAN-TL1 がリセット状態かどうかを示します。 0 : RCAN-TL1 はリセット状態ではありません 1 : RCAN-TL1 がリセット状態です [セット条件] RCAN-TL1 のソフトウェアまたはハードウェアリセットの後
2	GSR2	1	R	メッセージ送信中フラグ RCAN-TL1 がバスオフ状態にあるのか、メッセージを送信中なのかまたは送信中に検出されたエラー起因によるエラー／オーバロードのフラグを送信中なのかを CPU に示すフラグです。TXACK をセットするタイミングと GSR2 をクリアするタイミングとは異なります。TXACK は EOF の 7 番目のビットにセットされます。GSR2 については、送信待ちのメッセージがない場合には、インタミッションの 3 番目のビットでセットされます。また、アービトレーションロスト、バスアイドル、受信、リセット、ホルト遷移でもセットされます。 0 : RCAN-TL1 はバスオフ状態またはメッセージを送信中です 1 : [セット条件] バスオフ状態でない、またはメッセージを送信中でない
1	GSR1	0	R	送信／受信ワーニングフラグ エラーワーニングを示すフラグです。 0 : [クリア条件] $TEC < 96$ かつ $REC < 96$ またはバスオフのとき 1 : [セット条件] $96 \leq TEC < 256$ または $96 \leq REC < 256$ のとき 【注】 REC は、バスオフ復帰シーケンスに必要な 11 レセップビットの繰り返し回数をカウントするために、バスオフ中は増加します。ただし、本ビットはバスオフ中にはセットされません。
0	GSR0	0	R	バスオフフラグ RCAN-TL1 がバスオフ状態であることを示します。 0 : [クリア条件] バスオフ状態から復帰またはハードウェアあるいはソフトウェアリセットの後 1 : [セット条件] $TEC \geq 256$ (バスオフ状態)

18.4.3 ビットコンフィギュレーションレジスタ 0、1 (BCR0、BCR1)

BCR0、BCR1 は、それぞれ 16 ビットの読み出し／書き込み可能なレジスタで、CAN ビットタイミングパラメータと CAN インタフェースのボーレートプリスケアラを設定します。

以下、タイムクオンタを以下のとおり定義します。

$$\text{タイムクオンタ} = 2 \times \text{BRP} / f_{\text{clk}}$$

BRP (ボーレートプリスケアラ) は BCR0 格納値+1 の値です。f_{clk} は周辺バスクロック周波数です。

(1) BCR1

TSEG1 と TSEG2 の設定については表 18.6 を参照してください。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0	
	TSG1[3:0]				—	TSG2[2:0]				—	—	SJW[1:0]		—	—	—	BSP
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R	R/W	R/W	R/W	R	R	R/W	R/W	R	R	R	R/W	

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~12	TSG1[3:0]	0000	R/W	タイムセグメント 1 これらのビットは、CAN バス上のエッジをポジティブフェーズエラーで補償するため、セグメント TSEG1 (=PRSEG + PHSEG1) を設定するために使用します。4~16 タイムクオンタが設定できます。 0000 : 設定禁止 0001 : 設定禁止 0010 : 設定禁止 0011 : PRSEG + PHSEG1=4 タイムクオンタ 0100 : PRSEG + PHSEG1=5 タイムクオンタ : : 1111 : PRSEG + PHSEG1=16 タイムクオンタ
11	—	0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値は常に 0 にしてください。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
10~8	TSG2[2:0]	000	R/W	<p>タイムセグメント 2</p> <p>これらのビットは、CAN バス上のエッジをネガティブフェーズエラーで補償するため、セグメント TSEG2 (=PHSEG2) を設定することに使用します。2~8 タイムクオンタが設定できます。</p> <p>000 : 設定禁止</p> <p>001 : PHSEG2=2 タイムクオンタ (条件によっては設定禁止です。表 18.6 を参照してください)</p> <p>010 : PHSEG2=3 タイムクオンタ</p> <p>011 : PHSEG2=4 タイムクオンタ</p> <p>100 : PHSEG2=5 タイムクオンタ</p> <p>101 : PHSEG2=6 タイムクオンタ</p> <p>110 : PHSEG2=7 タイムクオンタ</p> <p>111 : PHSEG2=8 タイムクオンタ</p>
7、6	—	すべて 0	R	<p>リザーブビット</p> <p>読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値は常に 0 にしてください。</p>
5、4	SJW[1:0]	00	R/W	<p>再同期ジャンプ幅</p> <p>同期ジャンプ幅を設定します。</p> <p>00 : 同期ジャンプ幅=1 タイムクオンタ</p> <p>01 : 同期ジャンプ幅=2 タイムクオンタ</p> <p>10 : 同期ジャンプ幅=3 タイムクオンタ</p> <p>11 : 同期ジャンプ幅=4 タイムクオンタ</p>
3~1	—	すべて 0	R	<p>リザーブビット</p> <p>読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値は常に 0 にしてください。</p>
0	BSP	0	R/W	<p>ビットサンプルポイント</p> <p>データがサンプリングされるポイントを設定します。</p> <p>0 : 1 か所でビットサンプリングが行われます (タイムセグメント 1 の最後)</p> <p>1 : 3 か所でビットサンプリングが行われます (PHSEG1 の最終 3 クロックサイクルの立ち上がりエッジ)</p>

(2) BCR0

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	-	-	-	-	-	-	-	-	BRP[7:0]							
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R	R	R	R	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~8	-	すべて0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値は常に0にしてください。
7~0	BRP[7:0]	00000000	R/W	ポーレートプリスケラ これらのビットは、1 タイムクオンタに対応する周辺バスクロック数を設定します。 00000000 : 2×周辺バスクロック 00000001 : 4×周辺バスクロック 00000010 : 6×周辺バスクロック : 2× (レジスタ値+1) ×周辺バスクロック 11111111 : 512×周辺バスクロック

- ビットコンフィギュレーションレジスタについて

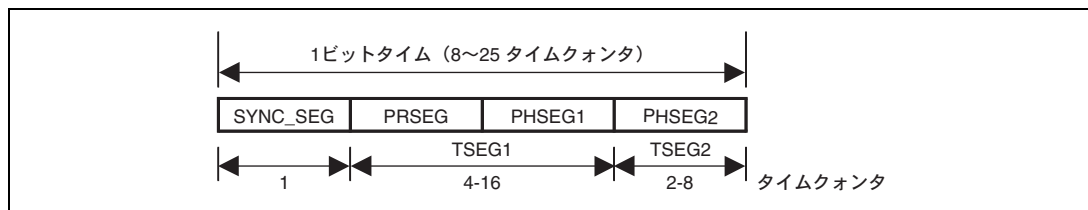


図 18.12 1 ビットタイムの構成

SYNC_SEG : CAN バス上のノードの同期をするセグメント

(通常のビットエッジ遷移がこのセグメントで発生します)

PRSEG : ネットワーク間の物理的な遅延を調整するセグメント

PHSEG1 : フェーズドリフト (正方向) のバッファセグメント (同期または再同期の際、拡張されます)

PHSEG2 : フェーズドリフト (負方向) のバッファセグメント (同期または再同期の際、縮小されます)

TSEG1 : TSG1+1

TSEG2 : TSG2+1

RCAN-TL1 ビットレートは以下のとおり計算されます。

$$\text{ビットレート} = f_{clk} / (2 \times (\text{BRP} + 1) \times (\text{TSEG1} + \text{TSEG2} + 1))$$

BRP はレジスタ値で与えられ、また TSEG1 および TSEG2 は上述の表から算出した値であって実際の設定値ではありません。前記ビットレート計算式のタイムセグメントの「+1」は SYNC_SEG の 1 タイムクオンタであること

によります。

f_{clk} = 周辺バスクロック

BCR 設定上の制約となる事項

$$TSEG1 \text{ (Min.)} > TSEG2 \geq SJW \text{ (Max.)} \quad (SJW=1\sim 4)$$

$$8 \leq TSEG1 + TSEG2 + 1 \leq 25 \text{ タイムクオンタ (TSEG1 + TSEG2 + 1 = 7 は不可)}$$

$$TSEG2 \geq 2$$

ビットコンフィギュレーションレジスタの TSEG1 および TSEG2 の値が表 18.6 に示される設定値の範囲であれば、上述の制限事項を満たします。表 18.6 の値は SJW の設定可能値を示したものです。「不可」で示されたところは TSEG1 と TSEG2 との組み合わせがとれません。

表 18.6 TSG と TSEG の設定

		001	010	011	100	101	110	111	TSG2
		2	3	4	5	6	7	8	TSEG2
TSG1	TSEG1								
0011	4	不可	1-3	不可	不可	不可	不可	不可	
0100	5	1-2	1-3	1-4	不可	不可	不可	不可	
0101	6	1-2	1-3	1-4	1-4	不可	不可	不可	
0110	7	1-2	1-3	1-4	1-4	1-4	不可	不可	
0111	8	1-2	1-3	1-4	1-4	1-4	1-4	不可	
1000	9	1-2	1-3	1-4	1-4	1-4	1-4	1-4	
1001	10	1-2	1-3	1-4	1-4	1-4	1-4	1-4	
1010	11	1-2	1-3	1-4	1-4	1-4	1-4	1-4	
1011	12	1-2	1-3	1-4	1-4	1-4	1-4	1-4	
1100	13	1-2	1-3	1-4	1-4	1-4	1-4	1-4	
1101	14	1-2	1-3	1-4	1-4	1-4	1-4	1-4	
1110	15	1-2	1-3	1-4	1-4	1-4	1-4	1-4	
1111	16	1-2	1-3	1-4	1-4	1-4	1-4	1-4	

例 1: f_{clk} が 40MHz でビットレートを 500kbps とする場合、BRP=3、TSEG1=6、TSEG2=3 が条件を満たします。この場合、BCR1 には H'5200、BCR0 には H'0003 をライトすることになります。

例 2: f_{clk} が 35MHz でビットレートを 250kbps とする場合、BRP=4、TSEG1=8、TSEG2=5 が条件を満たします。この場合、BCR1 には H'7400、BCR0 には H'0004 をライトすることになります。

例 3: f_{clk} が 32MHz でビットレートを 500kbps とする場合、BRP=1、TSEG1=11、TSEG2=4 が条件を満たします。この場合、BCR1 には H'A300、BCR0 には H'0001 をライトすることになります。

例 4: f_{clk} が 20MHz でビットレートを 500kbps とする場合、BRP=1、TSEG1=6、TSEG2=3 が条件を満たします。この場合、BCR1 には H'5200、BCR0 には H'0001 をライトすることになります。

18.4.4 インタラプトリクエストレジスタ (IRR)

IRR は、16 ビットの読み出し／書き込み可能なレジスタで、各種割り込み要因のステータスフラグで構成されています。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	IRR15	IRR14	IRR13	IRR12	IRR11	IRR10	IRR9	IRR8	IRR7	IRR6	IRR5	IRR4	IRR3	IRR2	IRR1	IRR0
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R	R	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15	IRR15	0	R/W	<p>タイマコンペアマッチ割り込み 1</p> <p>タイマコンペアマッチレジスタ 1 (TCMR1) のコンペアマッチが発生したことを示します。TCMR1 の設定値がサイクルタイムと一致すると (TCMR1=CYCTR)、本ビットがセットされます。</p> <p>0: TCMR1 のタイマコンペアマッチが発生していない [クリア条件] 1 を書き込む</p> <p>1: TCMR1 のタイマコンペアマッチが発生 [セット条件] TCMR1 がサイクルタイムと一致 (TCMR1=CYCTR)</p>
14	IRR14	0	R/W	<p>タイマコンペアマッチ割り込み 0</p> <p>タイマコンペアマッチレジスタ 0 (TCMR0) のコンペアマッチが発生したことを示します。TCMR0 の設定値がローカルタイムと一致すると (TCMR0=TCNTR)、本ビットがセットされます。</p> <p>0: TCMR0 のタイマコンペアマッチが発生していない [クリア条件] 1 を書き込む</p> <p>1: TCMR0 のタイマコンペアマッチが発生 [セット条件] TCMR0 がタイム値と一致 (TCMR0=TCNTR)</p>

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
13	IRR13	0	R/W	<p>タイマオーバラン割り込み/Next_is_Gap 受信割り込み/メッセージエラー割り込み</p> <p>本割り込みは RCAN-TL1 のモードにより異なった意味を持ち、以下の状態を示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • イベントトリガモード (テストモードを含む) で動作中、タイマ (TCNTR) オーバランが発生。 • タイムトリガモード (テストモードを含む) で動作中、Next_is_Gap がセットされたタイムリファレンスメッセージを受信。 • テストモードでメッセージエラーが発生。ただし、テストモード中にメッセージオーバロード条件が発生しても、本ビットはセットされません。 <p>0: イベントトリガモード (テストモードを含む) でタイマ (TCNTR) オーバランが発生していない タイムトリガモード (テストモードを含む) で Next_is_Gap 付きタイムリファレンスメッセージを受信していない テストモードでメッセージエラーが発生していない</p> <p>[クリア条件] 1 を書き込む</p> <p>1: [セット条件] イベントトリガモード(テストモードを含む)でタイマ (TCNTR) オーバランが発生し、H'FFFF から H'0000 に変化 タイムトリガモード (テストモードを含む) で Next_is_Gap 付きタイムリファレンスメッセージを受信 テストモードでメッセージエラーが発生</p>
12	IRR12	0	R/W	<p>CAN スリープモード時バスアクティビティ</p> <p>本ビットは CAN バスアクティビティの存在を示します。RCAN-TL1 が CAN スリープモードのとき、CAN バス上でドミナントビットを検出すると、本ビットがセットされます。本ビットに 1 を書き込むと割り込みがクリアされず、0 を書き込むと無視されます。オートウェイクアップ機能を使用せず本割り込みを受け付けない場合は、対応するマスクビットで必ず本割り込みを無効にしてください。オートウェイクアップ機能不使用時に本割り込みが要求された場合は、CAN スリープモードから復帰した後に本ビットをクリアしてください。これは、受信ライン上の新しい立ち下がりエッジにより、再び割り込みがセットされるのを防ぐためです。</p> <p>本割り込みのセット時間は、GSR4 のクリア時間と異なりますので注意してください。</p> <p>0: バスアイドル状態</p> <p>[クリア条件] 1 を書き込む</p> <p>1: CAN バスアクティビティを CAN スリープモード中に検出</p> <p>[セット条件] CAN スリープモード中に CRxn 上でドミナントへのビット状態変化を検出</p>

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
11	IRR11	0	R/W	<p>タイマコンペアマッチ割り込み 2</p> <p>タイマコンペアマッチレジスタ 2 (TCMR2) のコンペアマッチが発生したことを示します。TCMR2 の設定値がサイクルタイムと一致すると (TCMR2=CYCTR)、本ビットがセットされます。</p> <p>0 : TCMR2 のタイマコンペアマッチが発生していない</p> <p>[クリア条件] 1 を書き込む</p> <p>1 : TCMR2 のタイマコンペアマッチが発生</p> <p>[セット条件] TCMR2 がサイクルタイムと一致 (TCMR2=CYCTR)</p>
10	IRR10	0	R/W	<p>スタートシステムマトリックス割り込み</p> <p>次のシステムマトリックスが開始したことを示します。CCR=0 のとき、タイムリファレンスメッセージの送信/受信完了時に本ビットがセットされます。CMAX=0 の場合は、本割り込みはサイクルカウント (Basic Cycle) ごとにセットされます。</p> <p>0 : 新しいシステムマトリックスの先頭でない</p> <p>[クリア条件] 1 を書き込む</p> <p>1 : サイクルカウンタが 0 になった</p> <p>[セット条件]</p> <p>CMAX!=B'111 かつ CCR=0 のとき、タイムリファレンスメッセージの送信/受信が完了</p>
9	IRR9	0	R	<p>メッセージオーバラン/オーバーライト割り込みフラグ</p> <p>本ビットは、メッセージを受信したが、対応する RXPR または RFPR がすでに 1 にセットされているためメールボックス内のメッセージが読み出されず、CPU によってクリアされていないことにより新しく受信されたメッセージは NMC ビットの設定によって、捨てられる (オーバラン) か上書き (オーバーライト) されたことを示します。本ビットは UMSR レジスタの対応するビットに 1 を書き込むとクリアされます。また、MBIMR の対応するすべてのビットに 1 を書き込むことでもクリアできます。本ビットに対する書き込みは無効です。</p> <p>0 : メッセージオーバラン/オーバーライト通知がない</p> <p>[クリア条件] UMSR のすべてのビットがクリアまたはセットされたすべての UMSR に対応する MBIMR がセット</p> <p>1 : オーバランが発生したため、受信メッセージが捨てられた。またはメッセージがオーバーライトされた</p> <p>[セット条件] 対応する PXPR または RFPR=1 かつ MBIMR=0 のときにメッセージを受信</p>

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
8	IRR8	0	R	<p>メールボックスエンプティ割り込みフラグ</p> <p>送信用に設定されたメッセージの1つが正常に送信(対応する TXACK フラグがセット)または送信アボート(送信キャンセルが実行されたメッセージに対応する ABACK フラグがセット)されると、本ビットがセットされます。</p> <p>このときイベントトリガモードでは、対応する TXPR がクリアされ、メールボックスが次の送信用のメッセージデータを受け入れられるようになります。</p> <p>タイムトリガモードでは、プログラムされたサイクルカウント (Basic Cycle) ごとの送信を続けるため、メールボックス 24~30 の TXPR は送信完了後にクリアされません。</p> <p>実際には、本ビットは MBIMR フラグによってマスクされていない TXACK と ABACK ビットの OR を取った信号によってセットされます。したがって、すべての TXACK および ABACK ビットがクリアされると、本ビットは自動的にクリアされます。また、MBIMR の対応するすべてのビットに 1 を書き込むことでもクリアできます。本ビットに対する書き込みは無効です。</p> <p>0: 送信または送信キャンセルするメッセージが処理中でない</p> <p>[クリア条件] すべての TXACK および ABACK ビットがクリアまたは、セットされたすべての TXACK および ABACK ビットに対応する MBIMR がセット</p> <p>1: メッセージが送信または送信アボート(送信キャンセル)され、次のメッセージの格納が可能となった(タイムトリガモードでは、メールボックス 24~30 はアボート時のみ次のメッセージを格納可能)</p> <p>[セット条件] TXACK または ABACK ビットがセットされたとき (対応する MBIMR=0 の場合)</p>
7	IRR7	0	R/W	<p>オーバーロードフレーム</p> <p>RCAN-TL1 がオーバーロードフレーム送信を検出したことを示すフラグです。IRR7 に 1 を書き込むとクリアされます。0 を書き込むと無視されます。</p> <p>0: [クリア条件] 1 を書き込む</p> <p>1: [セット条件] オーバロード条件を検出</p>

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
6	IRR6	0	R/W	<p>バスオフ割り込みフラグ</p> <p>本ビットは、RCAN-TL1 がバスオフ状態になったとき、またはバスオフ状態からエラーアクティブ状態に戻ったときセットされます。したがって、ノードの TEC \geq 256、バスオフ復帰シーケンスの終了 (11 レセツピビットを 128 回連続受信) またはバスオフから停止状態への遷移 (オートまたはマニュアル) が要因となります。</p> <p>本ビットは RCAN-TL1 がバスオフ解除となった後もセットされた状態となりますので、ソフトウェアでクリアする必要があります。ソフトウェアで GSR0 をリードして、RCAN-TL1 がバスオフ状態かエラーアクティブ状態か判定してください。本ビットはノードがまだバスオフ状態であっても 1 を書き込むとクリアされます。0 を書き込むと無視されます。</p> <p>0 : [クリア条件] 1 を書き込む 1 : 送信エラーによりバスオフ状態に遷移した、またはバスオフ状態からエラーアクティブ状態に復帰した</p> <p>[セット条件] TEC \geq 256 または 11 レセツピビットを 128 回連続受信した後バスオフ終了またはバスオフから停止状態へ遷移</p>
5	IRR5	0	R/W	<p>エラーパッシブ割り込みフラグ</p> <p>受信または送信エラーカウンタによるエラーパッシブ状態、またはテストモードによって強制的にエラーパッシブ状態になったことを示します。本ビットに 1 を書き込むとクリアされ、0 を書き込むと無視されます。本ビットがクリアされてもノードはエラーパッシブ状態のままとなる場合があります。ソフトウェアで GSR0 および GSR5 をチェックし、RCAN-TL1 がエラーパッシブ状態であるかバスオフ状態であるか判定する必要があります。</p> <p>0 : [クリア条件] 1 を書き込む 1 : 送信/受信エラーによるエラーパッシブ状態</p> <p>[セット条件] TEC \geq 128 または REC \geq 128 またはエラーパッシブテストモードを使用</p>
4	IRR4	0	R/W	<p>受信エラーカウンタワーニング割り込みフラグ</p> <p>RCAN-TL1 がバスオフ状態でないときに受信エラーカウンタ (REC) が 95 を超えるとセットされます。本ビットに 1 を書き込むと割り込みはクリアされ、0 を書き込むと無視されます。</p> <p>0 : [クリア条件] 1 を書き込む 1 : 受信エラーによるエラーワーニング状態</p> <p>[セット条件] RCAN-TL1 がバスオフ状態以外で REC \geq 96</p>

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
3	IRR3	0	R/W	<p>送信エラーカウンタワーニング割り込みフラグ</p> <p>RCAN-TL1 がバスオフ状態でないときに送信エラーカウンタ (TEC) が 95 を超えるとセットされます。本ビットに 1 を書き込むと割り込みはクリアされ、0 を書き込むと無視されます。</p> <p>0 : [クリア条件] 1 を書き込む 1 : 送信エラーによるエラーワーニング状態</p> <p>[セット条件] TEC ≥ 96</p>
2	IRR2	0	R	<p>リモートフレーム受信割り込みフラグ</p> <p>メールボックスがリモートフレームを受信したことを示します。対応する MBIMR がセットされていない少なくとも 1 つのメールボックスに、リモートフレーム送信リクエストが格納されているとセットされます。本ビットは、リモートフレーム受信完了レジスタ (RFPR) のすべてのビットがクリアされるとクリアされます。また、MBIMR の対応するすべてのビットに 1 を書き込むとクリアされます。本ビットに対する書き込みは無効です。</p> <p>0 : [クリア条件] RFPR のすべてのビットがクリア 1 : 少なくとも 1 つのリモートフレームリクエストが処理待ち状態</p> <p>[セット条件] 対応する MBIMR=0 のときリモートフレームを受信</p>
1	IRR1	0	R	<p>データフレーム受信割り込みフラグ</p> <p>処理待ち状態の受信データフレームが存在することを示します。本ビットが 1 のとき、少なくとも 1 つのメールボックスに未処理のメッセージが格納されています。本ビットは、データフレーム受信完了レジスタ (RXPR) のすべてのビットがクリアされると (どの受信メールボックスにも未処理のメッセージがない) クリアされます。MBIMR が 0 でない各受信メールボックスの RXPR フラグの論理和が設定されます。</p> <p>また、MBIMR の対応するすべてのビットに 1 を書き込むとクリアされます。本ビットに対する書き込みは無効です。</p> <p>0 : [クリア条件] RXPR のすべてのビットがクリア 1 : データフレームを受信しメールボックスに格納した</p> <p>[セット条件] 対応する MBIMR=0 のときデータを受信</p>

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
0	IRR0	1	R/W	<p>リセット/ホルト/スリープ割り込みフラグ 下記の3つの要因によってセットされます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ソフトウェアリセット (MCR0) またはハードウェアリセット後、リセットモードに遷移 ホルトリクエスト (MCR1) の後、ホルトモードに遷移 ホルトモードでスリープリクエスト (MCR5) 発行後、CAN スリープモードに遷移 <p>本ビットがセットされた後 GSR をリードして、RCAN-TL1 の状態を知ることができます。</p> <p>【注】 スリープモードリクエストを発行する必要がある場合、事前にホルトモードを使用してください。MCR5 の説明および図 18.17 を参照してください。</p> <p>IRR0 は GSR3 または GSR4 が 0 から 1 に変化したとき、またはホルトモードから CAN スリープモードに遷移したときにセットされます。したがって、RCAN-TL1 がホルトモード解除の直後に再びホルトモードに遷移した場合は GSR4 がクリアされないため、IRR0 はセットされません。同様に、CAN スリープモードからホルトモードに直接遷移した場合も IRR0 はセットされません。ホルトモード/CAN スリープモードから送信/受信動作に遷移する際、GSR4 がクリアされるまでに[1 ビット時間-TSEG2]~[1 ビット時間×2-TSEG2] の時間が必要です。</p> <p>リセットモードの場合、IRR0 はセットされますが初期化によって IMR0 が自動的にセットされるため、CPU への割り込みはアサートされません。</p> <p>0 : [クリア条件] 1 を書き込む 1 : ソフトウェアリセットモードまたはホルトモードまたは CAN スリープモードへ遷移</p> <p>【セット条件】 リセット (MCR0 またはハードウェア) またはホルトモード (MCR1) または CAN スリープモード (MCR5) リクエストの後、リセット/ホルト/CAN スリープモードへの遷移が完了</p>

18.4.5 メッセージバッファエラーステータスレジスタ (MBESR)

メッセージバッファのRAMで構成されたコントロール0、LAFM、データ部分に書き込まれたデータに対して読み出し時にパリティエラーが発生した際のステータスレジスタです。パリティエラー発生時は1にセットされます。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0	
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	MBEF
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~1	—	すべて0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値は常に0にしてください。
0	MBEF	0	R/W	メッセージバッファパリティエラー検出ステータスフラグ データ転送によりパリティエラーが発生したことを示します。1を書き込むとクリアされ、0を書き込むと無視されます。 0: パリティエラーが発生していない 1: パリティエラーが発生

【注】 マスタコントロールレジスタ (MCR) のリセットリクエストビット (MCR0) が0から1に変わっても、MBESRレジスタは初期化されません。

18.4.6 インタラプトマスクレジスタ (IMR)

IMRは、16ビットの読み出し/書き込み可能なレジスタで、インタラプトリクエストレジスタ (IRR) の各ビットに対応する割り込みのIRQ出力信号の生成をマスクします。ビットを1に設定すると対応する割り込み要求がマスクされます。IMRはIRQの生成を直接制御しますが、IRRの対応するビットのセットを禁止しません。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	IMR15	IMR14	IMR13	IMR12	IMR11	IMR10	IMR9	IMR8	IMR7	IMR6	IMR5	IMR4	IMR3	IMR2	IMR1	IMR0
初期値:	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~0	IMR[15:0]	すべて1	R/W	IRR[15:0]の各ビットに対応する割り込み要因マスク 本ビットをセットすると、IRRの対応するビットがセットされてもその割り込み信号は生成されません。 0: 対応するIRRをマスクしない (割り込み要因が発生するとIRQが生成される) 1: IRRの対応する割り込みをマスクする

18.4.7 メッセージバッファエラーコントロールレジスタ (MBECCR)

MBECCR は、1 ビットの読み出し/書き込み可能なレジスタで、メッセージバッファエラーステータスレジスタ (MBESR) の MBEF の割り込みをマスクします。MBIM ビットを 1 に設定すると割り込み要求がマスクされます。MBIM は MBEF の割り込み要求をマスクしますが、ビットセットはコントロールしません。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	MBIM
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
R/W:	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~1	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値は常に 0 にしてください。
0	MBIM	1	R/W	メッセージバッファパリティエラー検出割り込みマスク 本ビットを 1 にセットすると、MBEF のビットがセットされてもその割り込み信号は生成されません。 0 : MBEF の割り込みをマスクしない 1 : MBEF の割り込みをマスクする

【注】 マスタコントロールレジスタ (MCR) のリセットリクエストビット (MCR0) が 0 から 1 に変わっても、MBECCR レジスタは初期化されません。

18.4.8 送信エラーカウンタ (TEC) / 受信エラーカウンタ (REC)

TEC および REC は、読み出し／条件付き書き込み可能な 16 ビットのレジスタで、CAN インタフェースにおける送信／受信メッセージエラー数を示すカウンタです。カウント値は前述した参考文献の[1]、[2]、[3]、[4]に規定されています。ライトエラーカウンタテストモード以外では本レジスタはリード専用で、CAN インタフェースによってのみ書き替え可能です。本レジスタは、リセットリクエスト (MCR0) またはバスオフ状態への遷移によってクリアされます。

ライトエラーカウンタテストモード (TST[2:0]=B'100) では、本レジスタへの書き込みが可能です。TEC および REC には同じ値しか書き込めません。TEC に書き込まれた値は TEC および REC に設定されます。本レジスタに書き込む際は、RCAN-TL1 をホルトモードにする必要があります。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	TEC7	TEC6	TEC5	TEC4	TEC3	TEC2	TEC1	TEC0	REC7	REC6	REC5	REC4	REC3	REC2	REC1	REC0
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*

【注】 * MCR の TST[2:0]=B'100 によるテストモードのときのみ書き込み可能です。REC はバスオフ状態において、バスオフ復帰シーケンスに必要な 11 レセシブビットの受信回数をカウントします。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~8	TEC[7:0]	すべて 0	R/W*	送信エラーカウンタ 送信中に CAN 仕様に基づくエラーが検出されると本レジスタの値はインクリメントされます。
7~0	REC[7:0]	すべて 0	R/W*	受信エラーカウンタ 受信中に CAN 仕様に基づくエラーが検出されると本レジスタの値はインクリメントされます。

18.5 RCAN-TL1 のメールボックスレジスタ

RCAN-TL1 のメールボックスレジスタについて説明します。RCAN-TL1 のメールボックスレジスタは、各メールボックスを制御し、メールボックスの状態を示します。

表 18.7 に RCAN-TL1 のメールボックスレジスタを示します。

【重要】 ロングワードアクセスは、2つの連続したワードアクセスとして行われます。

表 18.7 RCAN-TL1 のメールボックスレジスタ

レジスタ名	略称	アドレス	アクセスサイズ (ビット)
送信待ちレジスタ 1	TXPR1	H'020	32
送信待ちレジスタ 0	TXPR0	H'022	—
		H'024	
		H'026	
送信キャンセルレジスタ 1	TXCR1	H'028	16/32
送信キャンセルレジスタ 0	TXCR0	H'02A	16
		H'02C	
		H'02E	
送信アクノリッジレジスタ 1	TXACK1	H'030	16/32
送信アクノリッジレジスタ 0	TXACK0	H'032	16
		H'034	
		H'036	
アボートアクノリッジレジスタ 1	ABACK1	H'038	16/32
アボートアクノリッジレジスタ 0	ABACK0	H'03A	16
		H'03C	
		H'03E	
データフレーム受信完了レジスタ 1	RXPR1	H'040	16/32
データフレーム受信完了レジスタ 0	RXPR0	H'042	16
		H'044	
		H'046	
リモートフレーム受信完了レジスタ 1	RFPR1	H'048	16/32
リモートフレーム受信完了レジスタ 0	RFPR0	H'04A	16
		H'04C	
		H'04E	
メールボックスインタラプトマスクレジスタ 1	MBIMR1	H'050	16/32
メールボックスインタラプトマスクレジスタ 0	MBIMR0	H'052	16
		H'054	
		H'056	
未読メッセージステータスレジスタ 1	UMSR1	H'058	16/32

レジスタ名	略称	アドレス	アクセスサイズ (ビット)
未読メッセージステータスレジスタ 0	UMSR0	H'05A	16
		H'05C	
		H'05E	

18.5.1 送信待ちレジスタ 1、0 (TXPR1、TXPR0)

TXPR1 と TXPR0 は連結され、CAN モジュールの送信待ちフラグを格納する 32 ビットのレジスタを構成します。16 ビットバスインタフェースの場合、ロングワードアクセスは、2 つの連続したワードアクセスとして行われます。

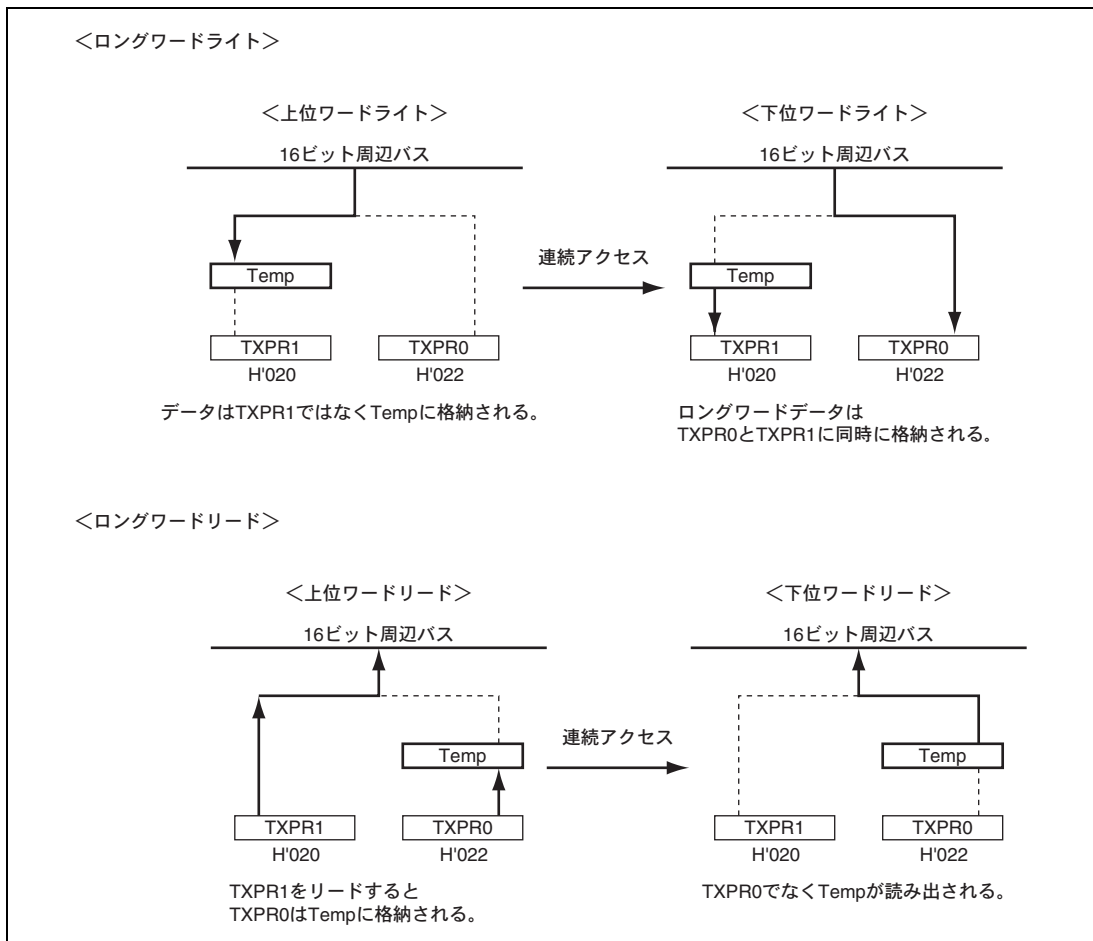


図 18.13 16 ビットバスインタフェース時のロングワードアクセス

TXPR1 レジスタはメールボックス 31~16 を制御し、TXPR0 レジスタはメールボックス 15~1 を制御します。CPU はビットに 1 を書き込むことで対応する送信メッセージに対して操作することができます。0 書き込みは無効で、TXPR をクリアするには TXCR の対応するビットをセットしなければなりません。CPU は TXPR をリードして、送信待ちのメールボックスおよび送信中のメールボックスを知ることができます。実際には、メールボックス 0 以外のすべてのメールボックスについて送信待ちビットが存在します。また、送信に設定されていないメールボックスに対するビットに 1 を書き込むことは禁止されています。

イベントトリガモードでは、メッセージが正常に送信された後または TXCR からの送信アボートが行われた後、RCAN-TL1 は対応する送信待ちフラグをクリアします。タイムトリガモードでは、プログラムされたサイクルカウント (Basic Cycle) ごとの送信を続けるため、メールボックス 30~24 の TXPR は送信完了後にクリアされません。TXPR のフラグは、CAN ノードがアービトレーションに負けたり CAN バス上にエラーが発生したために、メッセージが送信されなかった場合はクリアされません。このとき対応するメールボックスのメッセージコントロールフィールドの DART (自動再送信無効) ビットがセットされていないと、RCAN-TL1 は自動的に再送信を試みます。DART がセットされていると送信はクリアされ、メールボックスエンプティ割り込みフラグ (IRR8) とアボートアクノリッジレジスタ (ABACK) の対応するビットによって CPU に通知されます。

TXPR の状態が変化したときは、バスアービトレーションに負けたり CAN バス上にエラーが発生した場合でも、ID が示す優先順位 (MCR2=0) が最も高いメッセージが常に送信されるように処理します。詳細については「18.7 動作説明」を参照してください。

RCAN-TL1 が TXPR のビットの状態を 0 に変更したとき、メールボックスエンプティ割り込みフラグ (IRR8) が生成されることがあります。これはメールボックスの送信が正常終了したかアボートされたことを示します。メッセージの送信が正常終了した場合は、TXACK に示され、メッセージ送信がアボートされた場合は ABACK に示されます。これらのレジスタをチェックすることによって対応するメールボックスのメッセージデータフィールドの内容を次の送信用書き替えることができます。

(1) TXPR1

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	TXPR1[15:0]															
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*

【注】 * 送信用に設定されたメールボックスに対応するビットには、1 のみ書き込むことができます。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~0	TXPR1[15:0]	H'0000	R/W	<p>対応するメールボックスに対して CAN フレーム送信をリクエストします。ビット 15~0 はメールボックス 31~16 に対応しています。複数のビットがセットされた場合の送信順序は、MCR2 ビットの設定によりメッセージ ID 優先順またはメールボックス番号順に送信されます。</p> <p>0: 対応するメールボックスが送信メッセージアイドル状態 [クリア条件] メッセージ送信終了(イベントトリガメッセージの場合)またはメッセージ送信アボート (自動的にクリアされます)</p> <p>1: 対応するメールボックスに送信リクエストが発生</p>

(2) TXPR0

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	TXPR0[15:1]															-
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R

【注】 * 送信用に設定されたメールボックスに対応するビットには、1のみ書き込むことができます。
TXPR1/TXPR0のリード/ライトは、必ずロングワードアクセスで行ってください。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~1	TXPR0[15:1]	H'0000	R/W	<p>対応するメールボックスにCANフレーム送信リクエストが発生していることを示します。ビット15~1はメールボックス15~1に対応しています。複数のビットがセットされた場合の送信順序は、MCR2ビットの設定によりメッセージID優先順またはメールボックス番号順に送信されます。</p> <p>0: 対応するメールボックスが送信メッセージアイドル状態 [クリア条件] メッセージ送信終了(イベントトリガメッセージの場合)またはメッセージ送信アポート (自動的にクリアされます)</p> <p>1: 対応するメールボックスに送信リクエストが発生</p>
0	-	0	R	<p>リザーブビット</p> <p>受信専用メールボックスのため、本ビットは常に0となります。1を書き込むと無視されます。読み出し値は0です。</p>

18.5.2 送信キャンセルレジスタ 1、0 (TXCR1、TXCR0)

TXCR1とTXCR0は、16ビットの読み出し/条件付き書き込み可能なレジスタで、TXCR1はメールボックス31~16を制御し、TXCR0はメールボックス15~1を制御します。CPUはTXCRを使用して、TXPRの送信リクエストをキャンセルします。TXPRのビットをクリアするには、CPUから対応するTXCRのビットに1を書き込んでください。0を書き込むと無視されます。

アボートが正常に行われると、CANコントローラは対応するTXPRとTXCRのビットをクリアし、ABACKのビットをセットします。しかし、メールボックスが送信を開始した後は、本レジスタのビットでキャンセルすることはできません。このような場合、送信が正常終了するとCANコントローラはTXPRとTXCRのビットをクリアし、TXACKのビットをセットします。しかし、アービトレーションに負けたりバス上にエラーが発生したことによって送信が行われなかった場合は、CANコントローラは対応するTXPRとTXCRのビットをクリアし、対応するABACKのビットをセットします。CPUが送信待ち状態でないメールボックスの送信をクリアしようとしても無視されます。この場合、CPUはTXCRのフラグをセットすることはできません。

(1) TXCR1

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	TXCR1[15:0]															
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*

【注】 * 送信リクエストを受けた送信メールボックスに対応するビットには1のみ書き込むことができます。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~0	TXCR1[15:0]	H'0000	R/W	<p>送信用キューに入っているメールボックスに対し、送信キャンセルをリクエストします。ビット15~0はメールボックス31~16（およびTXPR1[15:0]）に対応しています。</p> <p>0：対応するメールボックスが送信メッセージキャンセルアイドル状態 [クリア条件] 送信メッセージキャンセルが終了 （自動的にクリアされます）</p> <p>1：対応するメールボックスに対して送信キャンセルを要求</p>

(2) TXCR0

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	TXCR0[15:1]															-
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R

【注】 * 送信リクエストを受けた送信メールボックスに対応するビットには1のみ書き込むことができます。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~1	TXCR0[15:1]	H'0000	R/W	<p>送信用キューに入っているメールボックスに対し、送信キャンセルをリクエストします。ビット 15~1 はメールボックス 15~1 (および TXPR0[15:1]) に対応しています。</p> <p>0 : 対応するメールボックスが送信メッセージキャンセルアイドル状態 [クリア条件] 送信メッセージキャンセルが終了 (自動的にクリアされます)</p> <p>1 : 対応するメールボックスに対して送信キャンセルを要求</p>
0	—	0	R	<p>リザーブビット</p> <p>受信専用メールボックスのため、本ビットは常に0となります。1を書き込むと無視され、読み出し値は常に0です。</p>

18.5.3 送信アクノリッジレジスタ 1、0 (TXACK1、TXACK0)

TXACK1 と TXACK0 は、16 ビットの読み出し/条件付き書き込み可能なレジスタで、メールボックスの送信が正常に行われたことを CPU に通知するために使用します。送信が正常に行われると、RCAN-TL1 は TXACK レジスタの対応するビットをセットします。CPU は、1 を書き込むことによって TXACK のビットをクリアすることができます。0 を書き込むと無視されます。

(1) TXACK1

ビット :	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	TXACK1[15:0]															
初期値 :	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W :	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*

【注】 * ビットをクリアするために1のみ書き込むことができます。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~0	TXACK1[15:0]	H'0000	R/W	<p>対応するメールボックスに要求された送信が正常に行われたことを通知します。ビット 15~0 はメールボックス 31~16 に対応しています。</p> <p>0 : [クリア条件] 1 を書き込む</p> <p>1 : 対応するメールボックスのメッセージ (データフレームまたはリモートフレーム) が正常に送信された</p> <p>[セット条件] 対応するメールボックスのメッセージ送信が完了</p>

(2) TXACK0

ビット :	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0	
	TXACK0[15:1]															—	
初期値 :	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W :	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	—

【注】 * ビットをクリアするために1のみ書き込むことができます。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~1	TXACK0[15:1]	H'0000	R/W	対応するメールボックスに要求された送信が正常に行われたことを通知します。ビット 15~1 はメールボックス 15~1 に対応しています。 0: [クリア条件] 1 を書き込む 1: 対応するメールボックスのメッセージ (データフレームまたはリモートフレーム) が正常に送信された [セット条件] 対応するメールボックスのメッセージ送信が完了
0	—	0	R	リザーブビット 受信専用メールボックスのため、本ビットは常に 0 となります。1 を書き込むと無視され、読み出し値は常に 0 です。

18.5.4 アポートアクノリッジレジスタ 1、0 (ABACK1、ABACK0)

ABACK1 と ABACK0 は、16 ビットの読み出し/条件付き書き込み可能なレジスタで、要求に応じてメールボックスの送信がアポートされたことを CPU に通知するために使用します。アポートが行われると、RCAN-TL1 は ABACK レジスタの対応するビットをセットします。CPU は、1 を書き込むことによって ABACK のビットをクリアすることができます。0 を書き込むと無視されます。RCAN-TL1 が ABACK のビットをセットすることにより、対応する TXCR ビットによって TXPR ビットがクリアされたことを認識します。

(1) ABACK1

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	ABACK1[15:0]															
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*

【注】 * ビットをクリアするために 1 のみ書き込むことができます。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~0	ABACK1[15:0]	H'0000	R/W	対応するメールボックスに要求された送信キャンセルが正常に行われたことを通知します。ビット 15~0 はメールボックス 31~16 に対応しています。 0: [クリア条件] 1 を書き込む 1: 対応するメールボックスのメッセージ (データフレームまたはリモートフレーム) の送信がキャンセルされた [セット条件] 対応するメールボックスのメッセージ送信をキャンセル

(2) ABACK0

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	ABACK0[15:1]															—
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R

【注】 * ビットをクリアするために 1 のみ書き込むことができます。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~1	ABACK0[15:1]	H'0000	R/W	対応するメールボックスに要求された送信キャンセルが正常に行われたことを通知します。ビット 15~1 はメールボックス 15~1 に対応しています。 0: [クリア条件] 1 を書き込む 1: 対応するメールボックスのメッセージ (データフレームまたはリモートフレーム) の送信がキャンセルされた [セット条件] 対応するメールボックスのメッセージ送信をキャンセル
0	—	0	R	リザーブビット 受信専用メールボックスのため、本ビットは常に 0 となります。1 を書き込むと無視され、読み出し値は常に 0 です。

18.5.5 データフレーム受信完了レジスタ 1、0 (RXPR1、RXPR0)

RXPR1 と RXPR0 は、16 ビットの読み出し/条件付き書き込み可能なレジスタで、受信用に設定されたメールボックスがデータフレームを受信したことを示すフラグで構成されています。CAN データフレームが正常に受信メールボックスに格納されると、RXPR の対応するビットがセットされます。1 を書き込むと対応するビットがクリアされます。0 を書き込むと無効とされます。ただし、メールボックスが MBC (メールボックスコンフィギュレーション) によってデータフレームを受信するように設定されている場合のみビットがセットされます。RXPR のビットがセットされると、対応する MBIMR がセットされていなければ IRR1 (データフレーム受信割り込みフラグ) もセットされ、さらに IMR1 がセットされていなければ割り込み信号が生成されます。本レジスタのビットはデータフレームの受信によってのみセットされ、リモートフレーム受信ではセットされません。

(1) RXPR1

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	RXPR1[15:0]															
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*

【注】 * ビットをクリアするために 1 のみ書き込むことができます。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~0	RXPR1[15:0]	H'0000	R/W	ビット 15~0 はメールボックス番号 31~16 の受信用に設定されたメールボックスに対応します。 0: [クリア条件] 1 を書き込む 1: 対応するメールボックスが CAN データフレームを受信した [セット条件] 対応するメールボックスのデータフレーム受信終了

(2) RXPR0

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	RXPR0[15:0]															
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*

【注】 * ビットをクリアするために1のみ書き込むことができます。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~0	RXPR0[15:0]	H'0000	R/W	ビット 15~0 はメールボックス番号 15~0 の受信用に設定されたメールボックスに対応します。 0: [クリア条件] 1 を書き込む 1: 対応するメールボックスが CAN データフレームを受信した [セット条件] 対応するメールボックスのデータフレーム受信終了

18.5.6 リモートフレーム受信完了レジスタ 1、0 (RFPR1、RFPR0)

RFPR1 と RFPR0 は、16 ビットの読み出し/条件付き書き込み可能なレジスタで、受信用に設定されたメールボックスがリモートフレームを受信したことを示すフラグで構成されています。CAN リモートフレームが正常に受信メールボックスに格納されると、RFPR の対応するビットがセットされます。1 を書き込むと対応するビットがクリアされます。0 を書き込むと無効となります。すべてのメールボックスに対してビットが存在しますが、メールボックスが MBC (メールボックスコンフィギュレーション) によってリモートフレームを受信するように設定されている場合のみビットがセットされます。RFPR のビットがセットされると、対応する MBIMR がセットされていなければ IRR2 (リモートフレーム受信割り込みフラグ) もセットされ、さらに IMR2 がセットされていなければ割り込み信号が生成されます。本レジスタのビットはリモートフレームの受信によってのみセットされ、データフレーム受信ではセットされません。

(1) RFPR1

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	RFPR1[15:0]															
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*

【注】 * ビットをクリアするために1のみ書き込むことができます。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~0	RFPR1[15:0]	H'0000	R/W	メールボックス 31~16 のリモートリクエスト受信フラグです。 0: [クリア条件] 1 を書き込む 1: 対応するメールボックスが CAN リモートフレームを受信した [セット条件] 対応するメールボックスのリモートフレーム受信終了

(2) RFPR0

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	RFPR0[15:0]															
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*

【注】 * ビットをクリアするために1のみ書き込むことができます。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~0	RFPR0[15:0]	H'0000	R/W	メールボックス 15~0 のリモートリクエスト受信フラグです。 0: [クリア条件] 1 を書き込む 1: 対応するメールボックスが CAN リモートフレームを受信した [セット条件] 対応するメールボックスのリモートフレーム受信終了

18.5.7 メールボックスインタラプトマスクレジスタ 1, 0 (MBIMR1、MBIMR0)

MBIMR1 と MBIMR0 は、16 ビットの読み出し/書き込み可能なレジスタです。MBIMR は、メールボックスの動作に関連する IRR (IRR1: データフレーム受信割り込み、IRR2: リモートフレーム受信割り込み、IRR8: メールボックスエンプティ割り込み、IRR9: メッセージオーバラン/オーバーライト割り込み) をマスクするレジスタです。メールボックスが受信に設定されている場合、受信割り込みフラグ (IRR1、IRR2、IRR9) による割り込みをマスクします。RXPR、RFPR、UMSR ビットのセットには影響しません。メールボックスが送信に設定されている場合は、送信や送信アポート (IRR8) による割り込みやメールボックスエンプティ割り込みをマスクします。送信による TXPR/TXCR ビットのクリアと TXACK ビットのセット、送信アポートによる TXPR/TXCR ビットのクリアと ABACK ビットのセットには影響しません。

マスクするメールボックスに対応するビットに 1 を書き込むことでマスクが設定されます。リセット時はすべてのメールボックス割り込みがマスクされます

(1) MBIMR1

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	MBIMR1[15:0]															
初期値:	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~0	MBIMR1[15:0]	H'FFFF	R/W	メールボックス 31~16 からの割り込み要求を許可/禁止します。 0: IRR1、IRR2、IRR8、IRR9 の割り込み要求を許可 1: IRR1、IRR2、IRR8、IRR9 の割り込み要求を禁止

(2) MBIMR0

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	MBIMR0[15:0]															
初期値:	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~0	MBIMR0[15:0]	H'FFFF	R/W	メールボックス 15~0 からの割り込み要求を許可/禁止します。 0 : IRR1、IRR2、IRR8、IRR9 の割り込み要求を許可 1 : IRR1、IRR2、IRR8、IRR9 の割り込み要求を禁止

18.5.8 未読メッセージステータスレジスタ 1、0 (UMSR1、UMSR0)

UMSR1 と UMSR0 は、16 ビットの読み出し/条件付き書き込み可能なレジスタで、新しいメッセージを受信する際に CPU/DMAC/A-DMAC によって内容がアクセスされていない受信メールボックスを記録します。メールボックスの新しいメッセージを受信するときに、RXPR または RFPR の対応するビットが CPU によってクリアされていないと、UMSR のビットがセットされます。1 を書き込むとクリアされます。0 を書き込むと無効とされます。

メールボックスが送信に設定されている場合は、対応する UMSR のビットはセットされません。

(1) UMSR1

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	UMSR1[15:0]															
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*

【注】 * ビットをクリアするために 1 のみ書き込むことができます。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~0	UMSR1[15:0]	H'0000	R/W	メールボックス 31~16 の未読受信メッセージがオーバーライトされたかオーバーランが発生したことを示します。 0 : [クリア条件] 1 を書き込む 1 : 未読受信メッセージが新しいメッセージでオーバーライトされた、またはオーバーランが発生した [セット条件] RXPR または RFPR がクリアされる前に新しいメッセージを受信

(2) UMSR0

ビット： 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 0

UMSR0[15:0]															
-------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

初期値： 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0

R/W： R/W* R/W* R/W* R/W* R/W* R/W* R/W* R/W* R/W* R/W* R/W* R/W* R/W* R/W* R/W*

【注】 * ビットをクリアするために1のみ書き込むことができます。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~0	UMSR0[15:0]	H'0000	R/W	<p>メールボックス 15~0 の未読受信メッセージがオーバーライトされたかオーバーランが発生したことを示します。</p> <p>0： [クリア条件] 1 を書き込む</p> <p>1： 未読受信メッセージが新しいメッセージでオーバーライトされた、またはオーバーランが発生した</p> <p>[セット条件] RXPR または RFPR がクリアされる前に新しいメッセージを受信</p>

18.6 タイマレジスタ

RCAN-TL1 のタイマは 16 ビットのタイマで、数種のクロックソースをサポートしています。プリスケールカウンタにより、クロックの速度を落とすことができます。また、3 個のコンペアマッチレジスタ (TCMR2、TCMR1、TCMR0) を備えています。アドレスマップを以下に示します。

【重要】 タイマレジスタはすべてワード (16 ビット) アクセスのみ可能です。

表 18.8 RCAN-TL1 のタイマレジスタの構成

レジスタ名	略称	アドレス	アクセスサイズ (ビット)
タイムトリガコントロールレジスタ 0	TTCR0	H'080	16
サイクルマキシマム/Tx_Enable_Window レジスタ	CMAX_TEW	H'084	16
リファレンストリガオフセットレジスタ	RFTR0FF	H'086	16
タイマステータスレジスタ	TSR	H'088	16
サイクルカウンタレジスタ	CCR	H'08A	16
タイマカウンタレジスタ	TCNTR	H'08C	16
サイクルタイムレジスタ	CYCTR	H'090	16
リファレンスマークレジスタ	RFMK	H'094	16
タイマコンペアマッチレジスタ 0	TCMR0	H'098	16
タイマコンペアマッチレジスタ 1	TCMR1	H'09C	16
タイマコンペアマッチレジスタ 2	TCMR2	H'0A0	16
送信トリガタイムセレクトレジスタ	TTTSEL	H'0A4	16

18.6.1 タイムトリガコントロールレジスタ 0 (TTCR0)

TTCR0 は、16 ビットの読み出し/書き込み可能なレジスタです。

タイマの動作を制御します。定周期送信や監視用レジスタの設定は、本レジスタを設定し、タイマを動作させてから行ってください。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	TCR15	TCR14	TCR13	TCR12	TCR11	TCR10	-	-	-	TCR6	TPSC5	TPSC4	TPSC3	TPSC2	TPSC1	TPSC0
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15	TCR15	0	R/W	タイマイネーブル 本ビットをセットすると TCNTR は動作し、クリアすると TCNTR と CCR がクリアされます。 0 : TCNTR と CCR をクリアし、動作停止 1 : タイマ動作
14	TCR14	0	R/W	タイムスタンプ値 メールボックス 15~0 の送信および受信用タイムスタンプとして、サイクルタイム (CYCTR) を使用するか CCR[5:0]+CYCTR[15:6]を使用するか指定します。本機能は、タイムトリガモードで Rx_Trigger をモニタするのに便利です。 本レジスタはメールボックス 30 および 31 のタイムスタンプには影響しません。 0 : メールボックス 15~0 のタイムスタンプに CYCTR[15:0]を使用 1 : メールボックス 15~0 のタイムスタンプに CCR[5:0] + CYCTR[15:6]を使用
13	TCR13	0	R/W	TCMR2 によるキャンセル 本ビットおよびビット 12 がセットされた状態で、RCAN-TL1 がホルトモード以外でコンペアマッチが発生したときに、当該 TXPR ビットに対応するすべての TXCR ビットを自動セットします。それにより送信キュー内のメッセージをキャンセルします。 0 : TCMR2 のコンペアマッチによる送信キャンセル禁止 1 : TCMR2 のコンペアマッチによる送信キャンセル許可
12	TCR12	0	R/W	コンペアマッチイネーブル 本ビットをセットすると TCMR2 のコンペアマッチで IRR11 がセットされます。 0 : TCMR2 のコンペアマッチで IRR11 がセットされない 1 : TCMR2 のコンペアマッチで IRR11 がセットされる

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
11	TCR11	0	R/W	コンペアマッチイネーブル 本ビットをセットすると TCMR1 のコンペアマッチで IRR15 がセットされます。 0 : TCMR1 のコンペアマッチで IRR15 がセットされない 1 : TCMR1 のコンペアマッチで IRR15 がセットされる
10	TCR10	0	R/W	コンペアマッチイネーブル 本ビットをセットすると TCMR0 のコンペアマッチで IRR14 がセットされます。 0 : TCMR0 のコンペアマッチで IRR14 がセットされない 1 : TCMR0 のコンペアマッチで IRR14 がセットされる
9~7	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値は常に 0 にしてください。
6	TCR6	0	R/W	TCMR0 によるタイムクリア制御 TCNTR が TCMR0 と一致したときにタイマを H'0000 にクリアするか指定します。また、TCMR0 は IRR14 により CPU に対して割り込み信号を発生することもできます。 【注】RCAN-TL1 が TTCAN モードで動作中(CMAX≠B'111)は、本ビットを 0 に設定しローカルタイムがクリアされないようにしてください。 0 : TCMR0 でタイムクリアしない 1 : TCMR0 でタイムクリア
5~0	TPSC5~ TPSC0	すべて 0	R/W	タイムプリスケアラ 本ビットの設定により、タイマのソースクロック (4×[RCAN-TL1 のシステムクロック]) を分周して使用することができます。プリスケアラはイベントトリガモードでのみ有効です。TTCAN モードで (CMAX≠B'111) は、自動的に 1 ビットタイミング (=CAN バス上の 1 ビット長) が TCNTR のソースクロックとして選択されます。 ソースクロック周期とタイマ周期の関係を以下に示します。 000000 : 1X ソースクロック 000001 : 2X ソースクロック 000010 : 3X ソースクロック 000011 : 4X ソースクロック 000100 : 5X ソースクロック : 111111 : 64X ソースクロック

18.6.2 サイクルマキシマム/Tx_Enable_Window レジスタ (CMAX_TEW)

CMAX_TEW は、16 ビットの読み出し／書き込み可能なレジスタです。

CMAX はタイムトリガ送信用のサイクルカウンタ (CCR) の最大値を指定し、これによりシステムマトリックスのサイクルカウンタ数 (Basic Cycle) が設定されます。サイクルカウンタが最大値になると (CCR=CMAX)、1 サイクルカウント後にサイクルカウンタは 0 にクリアされ、IRR10 割り込みが発生します。

TEW は Tx_Enable_Window 幅を指定します。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	-	-	-	-	-	CMAX[2:0]			-	-	-	-	TEW[3:0]			
初期値:	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R	R	R	R/W	R/W	R/W	R	R	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~11	-	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値は常に 0 にしてください。
10~8	CMAX[2:0]	111	R/W	サイクルカウンタ最大値 CCR の最大値を示します。 サイクルカウンタ最大値 = $2^{\text{CMAX}} - 1$ (CMAX = レジスタ値) タイムトリガ送信用のマトリックスサイクル内で可能なサイクルカウンタ数は、(サイクルカウンタ最大値 + 1) となります。 CMAX ≠ B'111 設定時、RCAN-TL1 はタイムトリガモードであり、タイムトリガ機能を使用できます。 CMAX = B'111 設定時、RCAN-TL1 はイベントトリガモードです。 000: サイクルカウンタ最大値 = 0 001: サイクルカウンタ最大値 = 1 010: サイクルカウンタ最大値 = 3 011: サイクルカウンタ最大値 = 7 100: サイクルカウンタ最大値 = 15 101: サイクルカウンタ最大値 = 31 110: サイクルカウンタ最大値 = 63 111: RCAN-TL1 はイベントトリガモード (CCR はクリア) 【注】 イベントトリガモードを使用する場合は、CMAX = B'111 に設定してください。
7~4	-	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値は常に 0 にしてください。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
3~0	TEW[3:0]	0000	R/W	<p>Tx_Enable_Window</p> <p>Tx_Enable_Window 幅を設定します。</p> <p>TEW=B'0000 のとき、ウィンドウ幅は 1 ビットタイミングとなります。</p> <p>B'0000~B'1111 のすべての値を設定することができます。</p> <p>0000 : Tx_Enable_Window 幅=1</p> <p>0001 : Tx_Enable_Window 幅=2</p> <p>0010 : Tx_Enable_Window 幅=3</p> <p>0011 : Tx_Enable_Window 幅=4</p> <p>：</p> <p>1111 : Tx_Enable_Window 幅=16</p> <p>【注】RCAN-TL1 の CAN データリンクコントローラは、送信リクエストから送信を開始するのに常に CAN バス 1~2 ビットタイミングを必要とします。したがって、上記の値はこの精度を考慮していません。</p>

18.6.3 リファレンストリガオフセットレジスタ (RFTROFF)

RFTROFF は、8 ビットの読み出し/書き込み可能なレジスタです。

メールボックス 30 の送信トリガタイム (TTT) に -127~+127 までオフセットを設定することができます。メールボックス 30 の TTT は、RFTROFF レジスタ値の符号拡張値を付加した後、CYCTR と比較されます。

ただし、TTT の値は変更されません。本オフセット値はメールボックス 30 にのみ影響します。

ビット :	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	RFTROFF[7:0]								-	-	-	-	-	-	-	-
初期値 :	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W :	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~8	RFTROFF [7:0]	すべて 0	R/W	<p>リファレンストリガオフセット値を示します。</p> <p>00000000 : ref_trigger_offset=+0</p> <p>00000001 : ref_trigger_offset=+1</p> <p>00000010 : ref_trigger_offset=+2</p> <p>：</p> <p>01111111 : ref_trigger_offset=+127</p> <p>：</p> <p>11111111 : ref_trigger_offset=-1</p> <p>11111110 : ref_trigger_offset=-2</p> <p>：</p> <p>10000001 : ref_trigger_offset=-127</p>
7~0	-	すべて 0	R	<p>リザーブビット</p> <p>読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値は常に 0 にしてください。</p>

18.6.4 タイマステータスレジスタ (TSR)

TSR は、16 ビットの読み出し専用レジスタで、これにより CPU はタイマコンペアマッチ状態およびタイマオーバラン状態を監視することができます。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	TSR4	TSR3	TSR2	TSR1	TSR0
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~5	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値は常に 0 にしてください。
4	TSR4	0	R*	スタートシステムマトリックス 次のシステムマトリックスが開始したことを示します。 CCR=0 のとき、本ビットはタイムリファレンスメッセージの送信/受信完了時にセットされます。 0: 次のシステムマトリックスの先頭でない [クリア条件] IRR10 (サイクルカウンタオーバフロー割り込みフラグ) に 1 を書き込む 1: サイクルカウンタが 0 になった [セット条件] サイクルカウンタの値が最大値 (CMAX) から H'0 に変化 CMAX!=B'111 かつ CCR=0 のとき、タイムリファレンスメッセージの送信/受信が完了
3	TSR3	0	R*	タイマコンペアマッチフラグ 2 タイマコンペアマッチレジスタ 2 (TCMR2) のコンペアマッチが発生したことを示します。TCMR2 に設定した値がサイクルタイムレジスタと一致 (TCMR2=CYCTR) したとき、TTCR0 のビット 12 が 1 に設定されていれば本ビットがセットされます。本ビットは読み出し専用で、IRR11 (タイマコンペアマッチ割り込み 2 フラグ) がクリアされるとクリアされます。 0: TCMR2 のタイマコンペアマッチが発生していない [クリア条件] IRR11 (タイマコンペアマッチ割り込み 2 フラグ) に 1 を書き込む 1: TCMR2 のタイマコンペアマッチが発生 [セット条件] TTCR0 のビット 12 が 1 のとき TCMR2 がサイクルタイムと一致 (TCMR2=CYCTR)

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
2	TSR2	0	R*	<p>タイマコンペアマッチフラグ 1</p> <p>タイマコンペアマッチレジスタ 1 (TCMR1) のコンペアマッチが発生したことを示します。TCMR1 に設定した値がサイクルタイムレジスタと一致 (TCMR1=CYCTR) したとき、TTCR0 のビット 11 が 1 に設定されていれば本ビットがセットされます。本ビットは読み出し専用で、IRR15 (タイマコンペアマッチ割り込み 1 フラグ) がクリアされるとクリアされます。</p> <p>0 : TCMR1 のタイマコンペアマッチが発生していない</p> <p>[クリア条件]</p> <p>IRR15 (タイマコンペアマッチ割り込み 1 フラグ) に 1 を書き込む</p> <p>1 : TCMR1 のタイマコンペアマッチが発生</p> <p>[セット条件]</p> <p>TTCR0 のビット 11 が 1 のとき TCMR1 がサイクルタイムと一致 (TCMR1=CYCTR)</p>
1	TSR1	0	R*	<p>タイマコンペアマッチフラグ 0</p> <p>タイマコンペアマッチレジスタ 0 (TCMR0) のコンペアマッチが発生したことを示します。TCM02 に設定した値がタイマ値と一致 (TCMR0=TCNTR) したとき、TTCR0 のビット 10 が 1 に設定されていれば本ビットがセットされます。本ビットは読み出し専用で、IRR14 (タイマコンペアマッチ割り込み 0 フラグ) がクリアされるとクリアされます。</p> <p>0 : TCMR0 のタイマコンペアマッチが発生していない</p> <p>[クリア条件]</p> <p>IRR14 (タイマコンペアマッチ割り込み 0 フラグ) に 1 を書き込む</p> <p>1 : TCMR0 のタイマコンペアマッチが発生</p> <p>[セット条件]</p> <p>TTCR0 のビット 10 が 1 のとき TCMR0 がタイマ値と一致 (TCMR0=TCNTR)</p>

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
0	TSR0	0	R*	<p>タイマオーバーラン/Next_is_Gap 受信/メッセージエラー</p> <p>本フラグは3つの異なる機能が割り付けられています。イベントトリガモードで動作中にタイマオーバーランが発生、タイムトリガモードで動作中にNext_is_Gap がセットされたタイムリファレンスメッセージを受信、およびテストモード中に CAN バス上で検出されたエラーが発生したことを示します。テストモードは他の設定よりも高い優先度を持ちます。</p> <p>0: イベントトリガモードでタイマ(TCNTR)オーバーランが発生していない タイムトリガモードで Next_is_Gap 付きタイムリファレンスメッセージを受信していない テストモードでメッセージエラーが発生していない</p> <p>[クリア条件] IRR13 に 1 を書き込む</p> <p>1: [セット条件] イベントトリガモードでタイマ (TCNTR) オーバーランが発生し、H'FFFF から H'0000 に変化 タイムトリガモードで Next_is_Gap 付きタイムリファレンスメッセージを受信 テストモードでメッセージエラーが発生</p>

【注】 * 本ビットは読み出し専用で、CPU はサイクルカウンタ、タイマ、およびコンペアマッチレジスタの状態を監視することができます。本ビットに対する書き込みは無効です。

18.6.5 サイクルカウンタレジスタ (CCR)

CCR は、6 ビットの読み出し/書き込み可能なレジスタです。

タイムトリガ送信のサイクルカウント値 (Basic Cycle) を表示するためのレジスタです。

CCR の値は、RCAN-TL1 がポテンシャルタイムマスタとして動作するか、タイムスレーブとして動作するかにより、更新方法が変わります。CCR は以下のように更新されます。

RCAN-TL1 がタイムマスタ (ポテンシャル) として動作する場合：

- サイクルタイム (CYCTR) がメールボックス30の送信トリガタイムと一致するたびに+1増加
または
- 有効なりファレンスメッセージを受信するたびにメールボックス31のMSG_DATA_0[5:0]の値を上書き

RCAN-TL1 がタイムスレーブとして動作する場合：

- 有効なりファレンスメッセージを受信するたびにメールボックス31のMSG_DATA_0[5:0]の値で上書き

CMAX=B'111 かつ TTCR0[15]=0 の場合：

- CCRの値は常にB'000000

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	CCR[5:0]					
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~6	-	すべて0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値は常に0にしてください。
5~0	CCR[5:0]	すべて0	R/W	サイクルカウンタレジスタ タイムトリガ送信用マトリックスサイクルの現在のサイクルカウント数を示します。

18.6.6 タイマカウンタレジスタ (TCNTR)

TCNTR は、16 ビットの読み出し/書き込み可能なレジスタです。

TCNTR はフリーランニングタイマカウンタです。TTCR0[15]=1 に設定することでタイマがカウントします。

タイマカウンタのプリスケアラは、RCAN-TL1 のトリガモードにより変わります。

- イベントトリガモード時 (C_{MAX}=B'111) : TTCR0[5:0]のTPSC値
- タイムトリガモード時 (C_{MAX}≠B'111) : CANバス1ビットタイミング

TTCR0[6]=1 を設定時、TCNTR の値がタイマコンペアマッチレジスタ 0 (TCMR0) と一致すると、TCNTR は H'0000 にクリアされカウントアップします。

タイムトリガモードでは、TCNTR はローカルタイム (Local time) として使用します。したがって、TTCR0[6]=0 に設定してフリーランニングタイマとして動作させます。

- 【注】
1. TTCR0[15]=0 の場合、TCNTR は常に H'0000 です。
 2. タイマをイネーブル設定(TTCR0[15]=1)してから TCNTR がカウントを開始するまで、数クロックサイクルの遅延があります。これはプリスケアラの内部論理に起因するものです。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	TCNTR[15:0]															
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*

- 【注】 * 本レジスタへの書き込みは、タイマイネーブル設定 (TTCR0[15]=1) されたときのみ可能です。
タイムトリガモード (C_{MAX} が B'111 以外) では、書き込みは禁止です。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~0	TCNTR[15:0]	H'0000	R/W	フリーランニングタイマの値を示します。

18.6.7 サイクルタイムレジスタ (CYCTR)

CYCTR は、サイクルタイムを示す 16 ビットの読み出し専用レジスタです。

$Cycle_Time (CYCTR) = Local_Time (TCNTR) - Reference_Mark (RFMK)$

イベントトリガモードでは、RFMK は 0 に固定されるので本レジスタは TCNTR のコピーとなります。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	CYCTR[15:0]															
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~0	CYCTR[15:0]	H'0000	R	サイクルタイムを示します。

18.6.8 リファレンスマークレジスタ (RFMK)

RFMK は、16 ビットの読み出し専用レジスタです。リファレンスメッセージが正常に送信または受信されたときに、リファレンスメッセージの SOF におけるローカルタイム (TCNTR) をキャプチャするためのレジスタです。イベントトリガモードでは本レジスタは使用せず、常に 0 にクリアされます。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	RFMK[15:0]															
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~0	RFMK[15:0]	H'0000	R	リファレンスマークレジスタ タイムリファレンスメッセージの SOF における TCNTR の値を示します。

18.6.9 タイマコンペアマッチレジスタ 0~2 (TCMR0~2)

TCMR0~2 は、16 ビットの読み出し/書き込み可能なレジスタです。

割り込み信号の発生、タイマ値のクリア (TCMR0 のみサポート)、送信リクエストのクリア (TCMR2 のみサポート) を行うことが可能です。

TCMR0 は TCNTR と比較し、TCMR1 と TCMR2 は CYCTR と比較します。各コンペアマッチレジスタの比較値はそれぞれ独立に設定することができます。コンペアマッチのフラグをセットするには、TTCR0 のビット 12~10 をセットする必要があります。タイムトリガモードでは、TCMR0 は Init_Watch_Trigger、TCMR2 は Watch_Trigger に使用します。

(1) 割り込み機能

各レジスタの割り込みフラグは、TTCR0 のビット 12、ビット 11、ビット 10 を設定することで許可します。

コンペアマッチが発生すると、IRR の対応する割り込みフラグ (ビット 11、ビット 15、ビット 14) をセットします。

割り込み信号の発生は、IMR のビット 11、ビット 15、ビット 14 で抑止することができます。

コンペアマッチ発生時に IRR11 (または IRR15 か IRR14) がセットされると、タイムステータスレジスタ (TSR) のビット 3、ビット 2、またはビット 1 もセットされます。また、IRR のビットをクリアすると、対応する TSR のビットもクリアされます。

(2) タイマクリア機能

TCMR0 のみコンペアマッチによるタイマ値 (TCNTR) のクリア機能があります。TTCR0[6]=1 設定時に有効です。TCMR1 と TCMR2 には本機能はありません。

(3) 送信リクエストされたメッセージのキャンセル機能

TCMR2 は、TTCR0[13:12]=B'11 設定時に、ホルトモード以外で TCMR2 のコンペアマッチ発生時に TXPR 設定に対応する TXCR 設定を行います。したがって、送信中のメッセージを除き、送信待ちリクエストをキャンセルします。

TCMR1 と TCMR0 には本機能はありません。

• TCMR0

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	TCMR0[15:0]															
初期値:	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~0	TCMR0[15:0]	H'FFFF	R/W	タイマコンペアマッチレジスタ コンペアマッチ発生時の TCNTR の値を示します。

• TCMR1

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	TCMR1[15:0]															
初期値:	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~0	TCMR1 [15:0]	H'FFFF	R/W	タイマコンペアマッチレジスタ コンペアマッチ発生時の CYCTR の値を示します。

- TCMR2

ビット： 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 0

TCMR2[15:0]

初期値： 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1

R/W： R/W R/W R/W R/W R/W R/W R/W R/W R/W R/W R/W R/W R/W R/W R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~0	TCMR2[15:0]	H'FFFF	R/W	タイマコンペアマッチレジスタ コンペアマッチ発生時の CYCTR の値を示します。

18.6.10 送信トリガタイムセレクトレジスタ (TTTSEL)

TTTSEL は、16 ビットの読み出し／書き込み可能なレジスタで、サイクルタイムとコンペアマッチさせる送信トリガタイムを指定します。1 ビットのみセットできます。複数のビットをセットしないでください。また、すべてのビットをクリアしないでください。本レジスタは、コンフィギュレーションモードでのみ変更することができます。変更時のアルゴリズムを図 18.14 に示します。

TTTSEL はテストおよび診断専用です。通常動作時は書き込まないでください。また、読み出し値は保証されません。

ビット： 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 0

TTTSEL[14:8]

初期値： 0 1 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0

R/W： R R/W R/W R/W R/W R/W R/W R/W R R R R R R R R

【注】 1 ビットのみセット可能。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15	—	0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値は常に 0 にしてください。
14~8	TTTSEL [14:8]	B'1000000	R/W	CYCTR とコンペアマッチさせる送信トリガタイムを指定します。ビット 14~8 は、メールボックス 30~24 に対応しています。
7~0	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値は常に 0 にしてください。

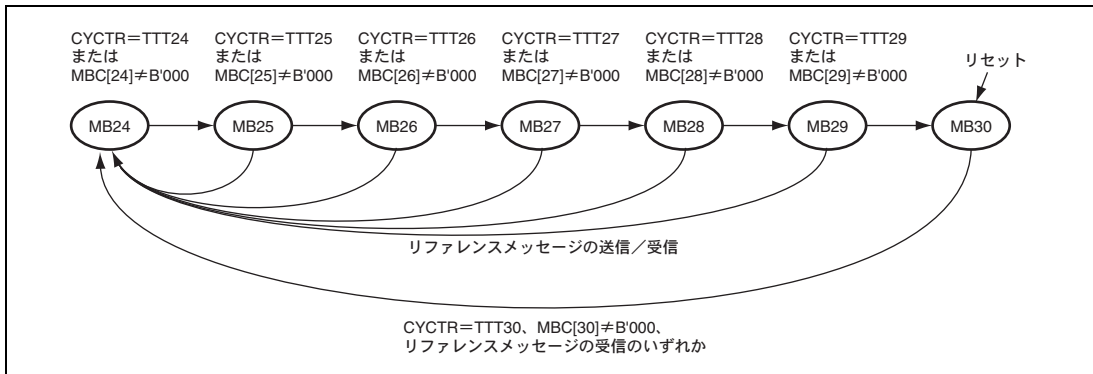


図 18.14 TTTSEL 変更アルゴリズム

18.7 動作説明

18.7.1 RCAN-TL1 の設定

ハードウェアリセット（パワーオンリセット）またはソフトウェアリセット（MCR0）後のコンフィギュレーションモードおよびホルトモード時の RCAN-TL1 の設定について説明します。どちらの場合も RCAN-TL1 は CAN バスアクティビティに参加できません。また、RCAN-TL1 の設定の変更が CAN バス上の通信に影響を与えることはありません。

(1) リセットシーケンス

図 18.15 にソフトウェアリセットまたはハードウェアリセット後の RCAN-TL1 の設定手順を示します。リセット後すべてのレジスタは初期化されます。したがって、CAN バスアクティビティに参加する前に RCAN-TL1 を設定する必要があります。詳細については図中の注を参照してください。

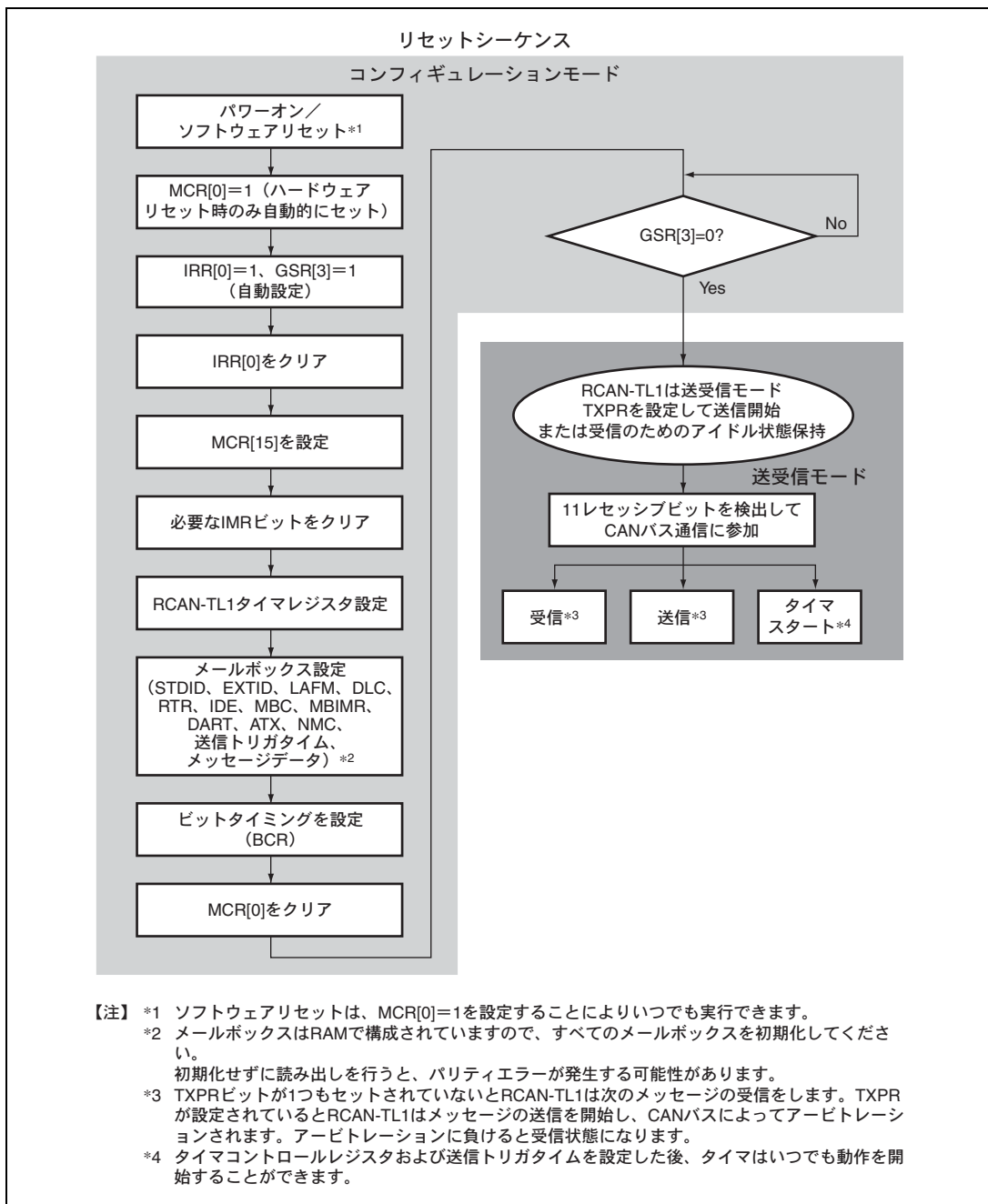


図 18.15 リセットシーケンス

(2) ホルトモード

RCAN-TL1 はホルトモードのとき、CAN バスアクティビティに参加することができません。したがってユーザは、CAN バス上の通信に影響を与えることなく必要なレジスタの設定を変更することができます。ここで重要なのは、レジスタを変更する前に RCAN-TL1 がホルトモードになるまで待つことです。ホルトモードへの遷移はかならずしも即時に行われるとはかぎりません (CAN バスがアイドルまたは休止状態のときに遷移します)。

RCAN-TL1 がホルトモードに遷移すると GSR4 ビットがセットされます。

レジスタ設定終了後はホルトリクエストを解除する必要があります。ホルトリクエスト解除後 (MCR1=0 か GSR4=0) に RCAN-TL1 は CAN バス上で 11 レセシブビットを検出した後 CAN バスアクティビティに参加します。

(3) CAN スリープモード

CAN スリープモード中では、RCAN-TL1 の主要なモジュールのクロックは消費電流を低減するために停止しますが、MCR、GSR、IRR、および IMR レジスタのみアクセスできます。なお、送信と受信に関連する割り込みは、CAN スリープモード中ではクリアできませんので、あらかじめクリアしてください。

図 18.16 に RCAN-TL1 の CAN スリープモードのフローチャートを示します。

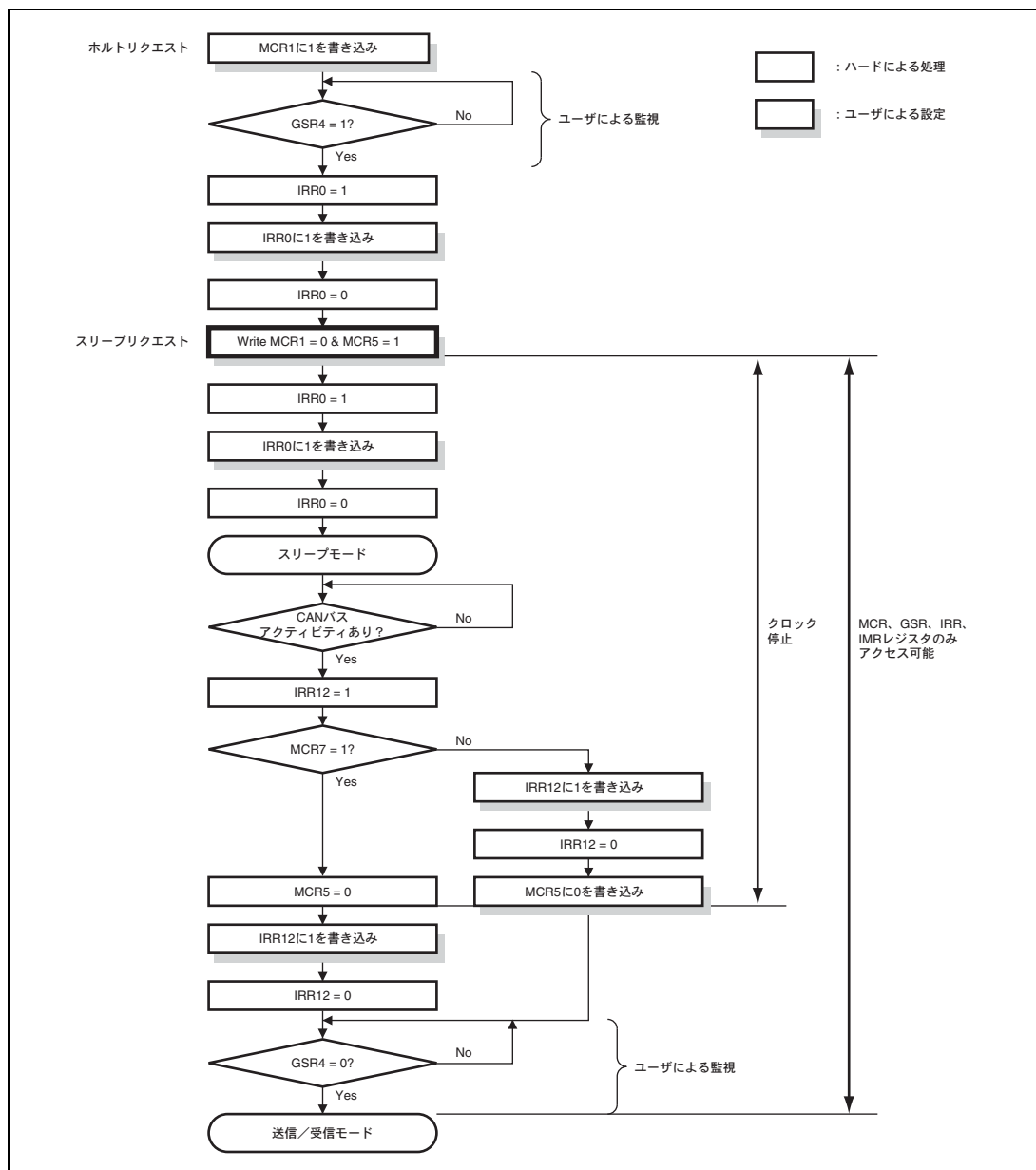


図 18.16 CAN スリープモードのフローチャート

図 18.17 に可能な状態遷移を示します。

なお、ホルトモード以外で MCR5 (CAN スリープモード) ビットをセットしないでください。

また、MCR1 ビットをセットした後は、MCR1 をクリアする前に必ず GSR4 がセットされ、RCAN-TL1 がホルトモードになっていることを確認してください。

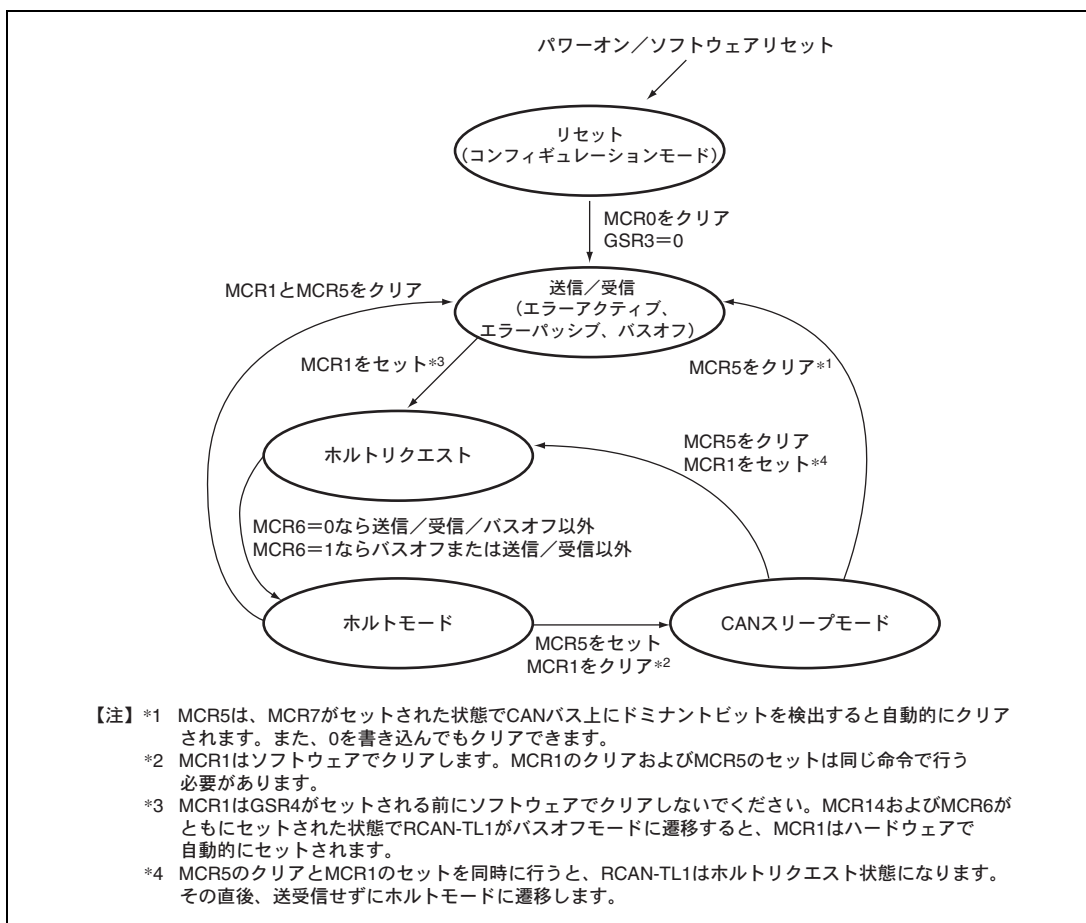


図 18.17 状態遷移図

各モードでの書き換えを許可する条件を表 18.9 に示します。

表 18.9 レジスタ書き換え許可条件

ステータス モード	レジスタ										
	MCR、 GSR	IRR、 IMR	BCR	MBIMR タイマ TTレジ スタ	フラグ レジスタ	メール ボックス (コント ロール0、 LAFM)	メール ボックス (データ)	メール ボックス (コント ロール1)	メール ボックス (トリガ タイム、 TTコント ロール)		
リセット	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	
送信/ 受信	Yes	Yes	No	Yes	Yes	No	Yes *	Yes*	No	Yes *	Yes*
ホルト リクエスト	Yes	Yes	No	Yes	Yes	No	Yes *	Yes*	No	Yes *	Yes*
ホルト モード	Yes	Yes	No	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes
CAN スリープ モード	Yes	Yes	No	No	No	No	No	No	No	No	No

【記号説明】

Yes : 書き換えを許可するレジスタ

No : 書き換えを禁止するレジスタ

【注】 * TXPR がセットされていない場合

18.7.2 テストモードの設定

RCAN-TL1には種々のテストモードがあります。テストモードの選択はMCRレジスタのTST[2:0]ビットで行います。RCAN-TL1は、デフォルト（初期値）ではノーマルモードで動作します。

表 18.10 にテストモード設定を示します。

テストモードの選択はコンフィギュレーションモードでのみ可能です。選択したテストモードを実行するには、テストモードを選択した後コンフィギュレーションモードを解除（BCR0/BCR1が設定されていることを確認）してください。

表 18.10 テストモードの設定

TST2	TST1	TST0	モード
0	0	0	ノーマルモード
0	0	1	リスンオンリモード（受信専用モード）
0	1	0	セルフテストモード 1（外部）
0	1	1	セルフテストモード 2（内部）
1	0	0	ライトエラーカウンタ
1	0	1	エラーパッシブモード
1	1	0	設定禁止
1	1	1	設定禁止

- ノーマルモード

RCAN-TL1は通常の動作をします。

- リスンオンリモード

ボーレート検出用にISO-11898で要求されているモードです。エラーカウンタはクリアされた後に動作禁止となり、TEC/RECの値が増加しないようになります。また、CTxn（n=A、B、C）出力を禁止し、RCAN-TL1によるエラーフレームやアクノリッジビットの生成を抑止します。メッセージエラーが発生するとIRR13がセットされます。

- セルフテストモード（外部）

RCAN-TL1自身でアクノリッジビットを生成し、必要ならばメッセージをRCAN-TL1の受信メールボックスに格納します。CRxn/CTxn（n=A、B、C）端子は必ずCANバスに接続してください。

- セルフテストモード（内部）

RCAN-TL1自身でアクノリッジビットを生成し、必要ならばメッセージをRCAN-TL1の受信メールボックスに格納します。内部CTxn（n=A、B、C）が内部CRxn（n=A、B、C）にループバックされるため、CRxn/CTxn（n=A、B、C）端子はCANバスその他の外部デバイスに接続する必要はありません。CTxn（n=A、B、C）端子はレセティブビットのみ出力し、CRxn（n=A、B、C）端子は無効となります。

- ライトエラーカウンタ

TEC/RECは本モードで書き込み可能です。エラーカウンタに127より大きい値を書き込むことにより、RCAN-TL1を強制的にエラーパッシブモードにすることができます。TECに書き込まれた値はRECに書き込

まれるので、TECとRECは常に同じ値に設定されます。同様に、95より大きい値を書き込むことにより、RCAN-TL1を強制的にエラーワーニングモードにすることができます。

TEC/RECに書き込む際はRCAN-TL1がホルトモードでなければなりません（エラーカウンタ書き込み時にMCR1=1）。さらにCAN仕様により、ホルトモードを解除する前に本テストモードを解除してTEC/RECを再び動作可能にする必要があります。

- エラーパッシブモード

RCAN-TL1は強制的にエラーパッシブモードにすることができます。

エラーパッシブモードを実行することによってRECの値が変わることはありませんが、一度エラーパッシブモードで動作すると、エラーを受信すればRECの値は通常どおり増加します。本モードでは、TECの値が256に達するとRCAN-TL1はバスオフ状態になりますが、本モードを使用するとRCAN-TL1はエラーアクティブになることができません。したがってRCAN-TL1はバスオフ復帰シーケンスの最後に、エラーアクティブではなくエラーパッシブに遷移します。

メッセージエラー発生時には、すべてのテストモードでIRR13ビットがセットされます。

18.7.3 メッセージ送信シーケンス

(1) メッセージ送信リクエスト

バス上に CAN フレームを送信するシーケンスの例を図 18.18 に示します。

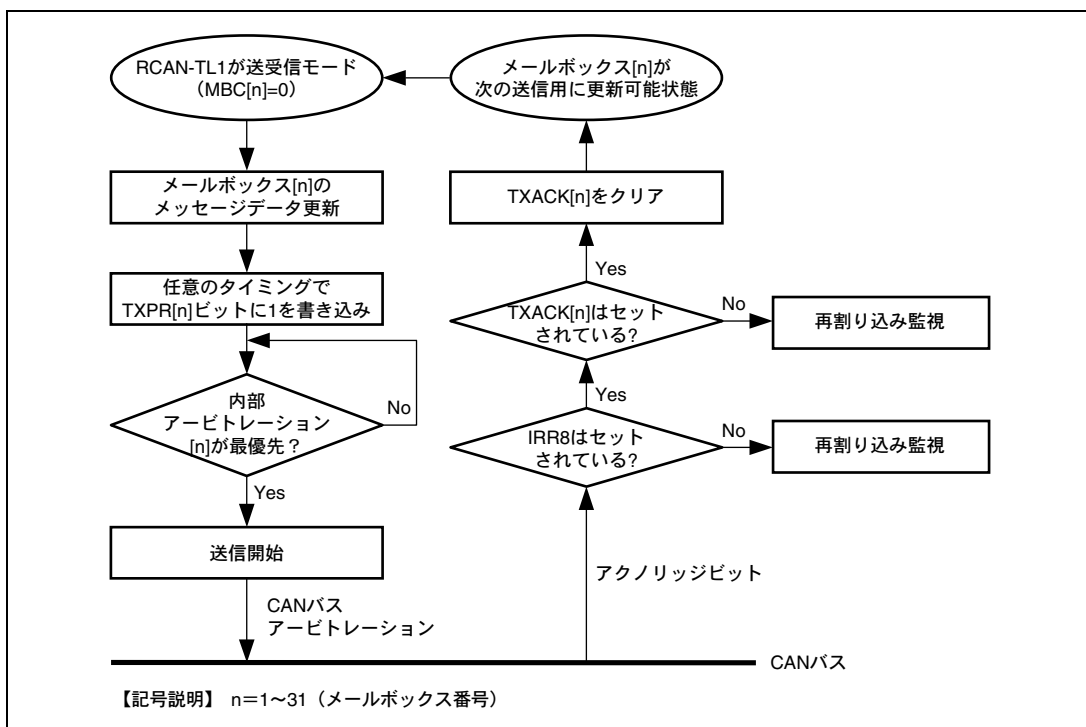


図 18.18 メッセージ送信リクエスト

レジスタの章で説明したとおり、TXACK または ABACK ビットのいずれかがセットされると、IRR8 がセットされることにご注意ください。これはいずれかのメールボックスが送信または送信アボートを終了し、次の送信用に更新可能状態であることを意味しています。一方、GSR2 は現在送信リクエストが発生していない (すべての TXPR フラグがセットされていない) ことを示しています。

(2) 送信用内部アービトレーション

図 18.19 は、RCAN-TL1 がどのようにしてメッセージ ID に従った順序で送信リクエストされたメッセージのスケジューリングを行うかを説明しています。内部アービトレーションでは、送信リクエストされたメッセージのうち最も優先度の高いものを取り出します。

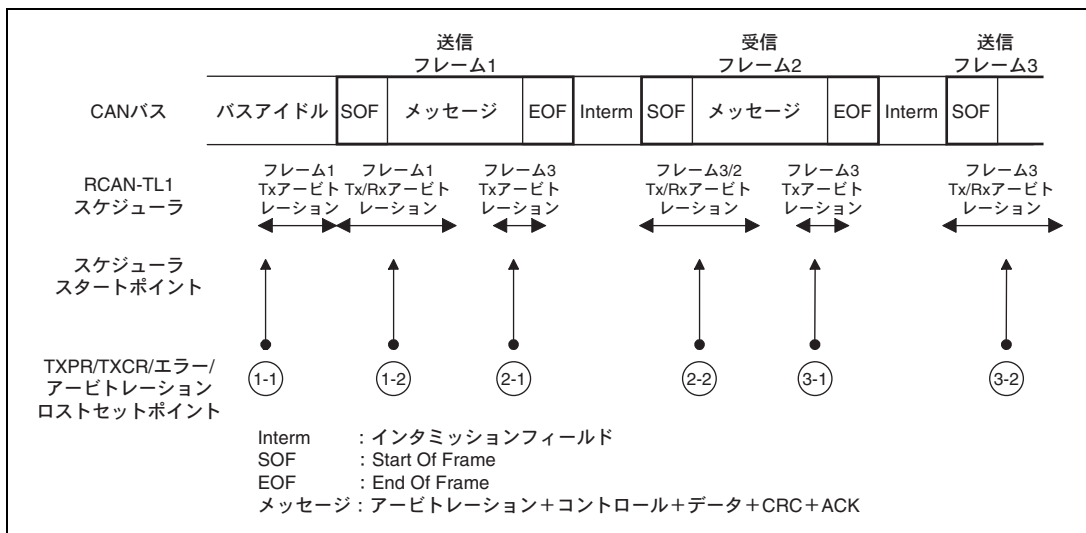


図 18.19 送信用内部アービトレーション

- 1-1 : CANバスがアイドル状態のときTXPRビットがセットされると、ただちに内部アービトレーションを実行し、送信を開始します。
- 1-2 : SOFで送信、受信の両方の動作を開始します。受信フレームでないため、RCAN-TL1は送信を行います。
- 2-1 : CRCのデリミタで内部アービトレーションが開始し、次に送信するメッセージを探します。
- 2-2 : SOFで送信、受信の両方の動作を開始します。優先度の高い受信フレームであるため、RCAN-TL1は受信を行います。このため、フレーム3を送信せずに受信を行います。
- 3-1 : CRCのデリミタで内部アービトレーションが開始し、次に送信するメッセージを探します。
- 3-2 : SOFで送信、受信の両方の動作を開始します。送信フレームの優先度が受信フレームよりも高いため、RCAN-TL1は送信を行います。

CANバス上でエラーが検出された場合、次の送信用の内部アービトレーションは各エラーデリミタの先頭でも行われます。また、オーバーロードフレームの後のエラーデリミタの先頭でも行われます。

送信用アービトレーションはCRCのデリミタで行われるため、ATX=1のメールボックスがリモートフレームリクエストを受信した場合、そのリクエストに応じて送信するメッセージが送信用アービトレーションに参加するタイミングは、その後のバスアイドルまたはCRCデリミタまたはエラーデリミタになります。

CANバスの状態により、TXCRがセットされてから最大1CANフレームの遅延後に対応するメッセージのアポート処理が行われます。

(3) タイムトリガ送信

RCAN-TL1は、ISO-11898-4 TTCAN Level 1の仕様に準拠したタイムトリガモード通信を、ハードウェアでサポートしています。

ここでは、タイムトリガモードを使用するための基本的な手順を記します。

- タイムトリガモードの設定

タイムトリガモードをセットアップするには以下の設定が必要です。

- CMAX_TEWのCMAXをB'111以外の値に設定
- TTCR0のビット15をセットし、TCNTRの動作を開始
- コンペアマッチでTCNTRがクリアされないように、TTCR0のビット6をクリア
- タイムトリガ送信をするメールボックスのTXPRは、定周期送信を行うためにクリアされません。

- 各レジスタの役割

RCAN-TL1 のユーザレジスタを使用して、TTCAN 規格が要求する主な機能を扱うことができます。

TCNTR	Local_Time
RFMK	Ref_Mark
CYCTR	サイクルタイム=TCNTR - RFMK
RFTROFF	メールボックス 30 の Ref_Trigger_Offset
メールボックス 31	タイムリファレンスメッセージ専用受信メールボックス
メールボックス 30	タイムリファレンスメッセージ専用送信メールボックス (ポテンシャルタイムマスタとして動作する場合)
メールボックス 29~24	タイムトリガ送信対応のメールボックス
メールボックス 23~16	タイムスタンプなしの受信対応のメールボックス (イベントトリガ送信用メールボックスとして使用することもできます。)
メールボックス 15~0	タイムスタンプ付き受信対応のメールボックス (イベントトリガ送信用メールボックスとして使用することもできます。)
Tx-Trigger Time	メッセージを送信するタイミングを指定する Time_Mark
CMAX	ポテンシャルタイムマスタとして動作する場合のサイクルカウント数(Basic Cycle) の最大値を指定
TEW	Tx_Enable_Window 幅を指定
TCMR0	Init_Watch_Trigger (ローカルタイムとコンペアマッチ)
TCMR1	ユーザ指定イベント監視用にサイクルタイムとコンペアマッチ
TCMR2	Watch_Trigger (サイクルタイムとコンペアマッチ) 待ち状態にある送信をすべてアボートするように設定することができます。
TTW	送信に使用するタイムウィンドウの属性を指定
TTTSEL	次の送信待ちメールボックスを指定

• タイムマスタ/タイムスレーブ

RCAN-TL1 は、ネットワークのポテンシャルタイムマスタまたはタイムスレーブとして動作するように設定することができます。各モードに必要な設定と RCAN-TL1 が自動的に行う処理を下記の表に示します。

モード	設定	機能
タイムスレーブ	TXPR[30]=0 & MBC[30]≠B'000 & CMAX≠B'111 & MBC[31]=B'011	CAN バス上で SOF が検出される度に TCNTR をサンプリングし、内部レジスタに格納します。メールボックス 31 が有効なタイムリファレンスメッセージを受信すると、TCNTR の値(SOF で格納)を Ref_Mark (RFMK) にコピーします。受信したリファレンスメッセージのサイクルカウンタ値 (CCR) を自ノードのサイクルカウンタレジスタ (CCR) にコピーします。 Next_is_Gap=1 ならば IRR13 をセットします。
(ポテンシャル)タイムマスタ	TXPR[30]=1 & MBC[30]=B'000 & DLC[30]>0 & CMAX≠B'111 & MBC[31]=B'011	以下の 2 つの場合があります。 (1)メールボックス 31 が有効なタイムリファレンスメッセージを受信すると、SOF で内部レジスタに格納した TCNTR の値を Ref_Mark (RFMK) にコピーします。受信したリファレンスメッセージのサイクルカウンタ値 (CCR) を自ノードのサイクルカウンタレジスタ (CCR) にコピーし、Next_is_Gap=1 ならば IRR13 をセットします。 (2) メールボックス 30 からタイムリファレンスメッセージが送信されると、SOF で内部レジスタに格納した TCNTR の値を Ref_Mark (RFMK) にコピーします。メールボックス 30 の TTT が CYCTR に一致するとサイクルカウンタ (CCR) をインクリメントします。 サイクルカウンタ (CCR) はタイムリファレンスメッセージの最初のデータバイト (Data0[7:6], CCR[5:0]) に組み込まれます。

• 送信トリガタイムの設定

送信トリガタイム (TTT) は、以下に示すように昇順に設定してください。TTT 間の差分は、次の式を満たす必要があります。式中の TEW はレジスタ値です。

$$\begin{aligned} & \text{TTT (メールボックス 24)} < \text{TTT (メールボックス 25)} < \text{TTT (メールボックス 26)} < \\ & \text{TTT (メールボックス 27)} < \text{TTT (メールボックス 28)} < \text{TTT (メールボックス 29)} < \\ & \text{TTT (メールボックス 30)} \end{aligned}$$

かつ

$$\begin{aligned} & \text{TTT (メールボックス } n) - \text{TTT (メールボックス } n-1) > \text{TEW} + \text{最大フレーム長} + 9 \\ & n = 25 \sim 30 \end{aligned}$$

ポテンシャルタイムマスタとして動作する場合、TTT (メールボックス 24) ~ TTT (メールボックス 29) は Time_Mark に、TTT (メールボックス 30) は Basic_Cycle length を示す Time_Ref に対応しています。

上記の制約は、タイムトリガ送信に設定されたメールボックスにのみ適用されます。

【重要】 送信トリガタイム設定の制約により、1 つのタイムウィンドウに割り付けることのできるメールボックスは 1 つのみとなります。

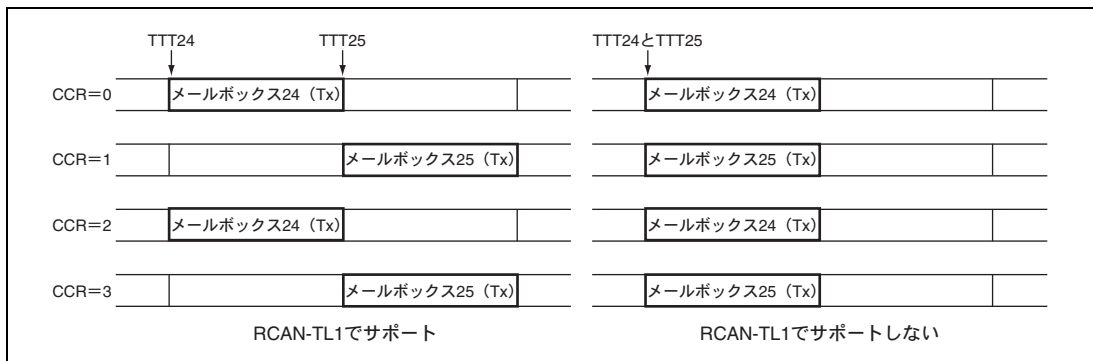


図 18.20 送信トリガタイムの制約

Watch_Trigger としての TCMR2 の値は、1Basic_Cycle length を示す TTT (メールボックス 30) より大きくなければなりません。

図 18.21、図 18.22 に、(ポテンシャル) タイムマスタおよびタイムスレーブの設定例を示します。図中の L は、タイムリファレンスメッセージの時間長です。

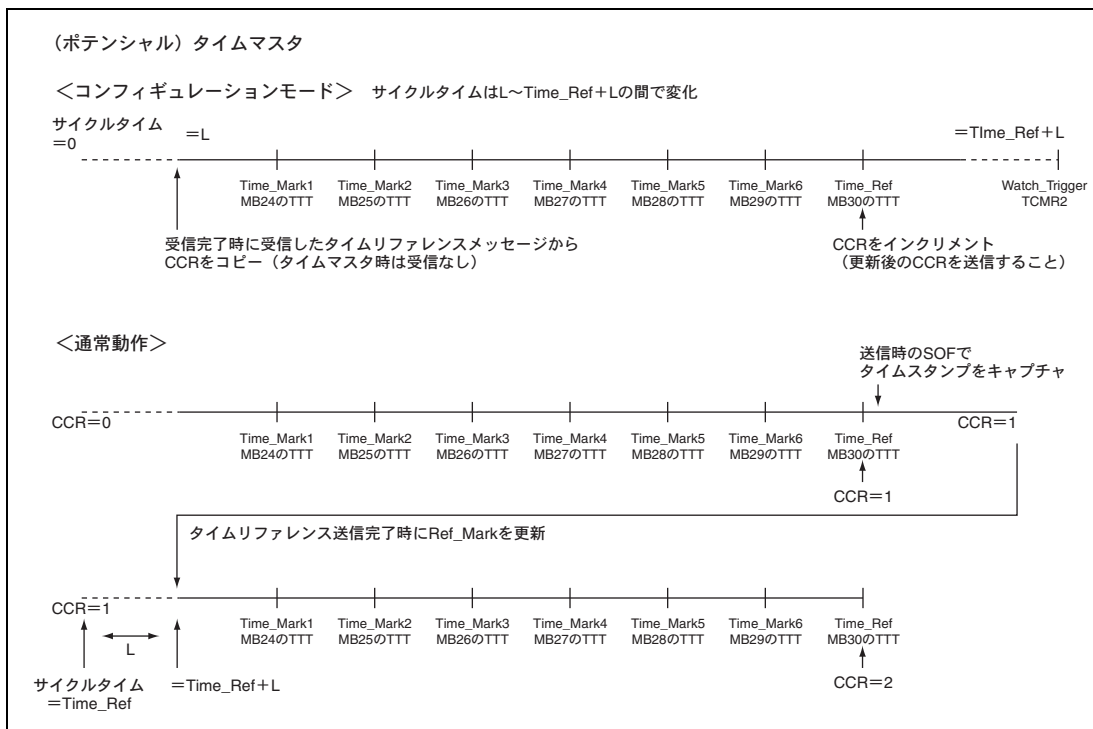


図 18.21 (ポテンシャル) タイムマスタ

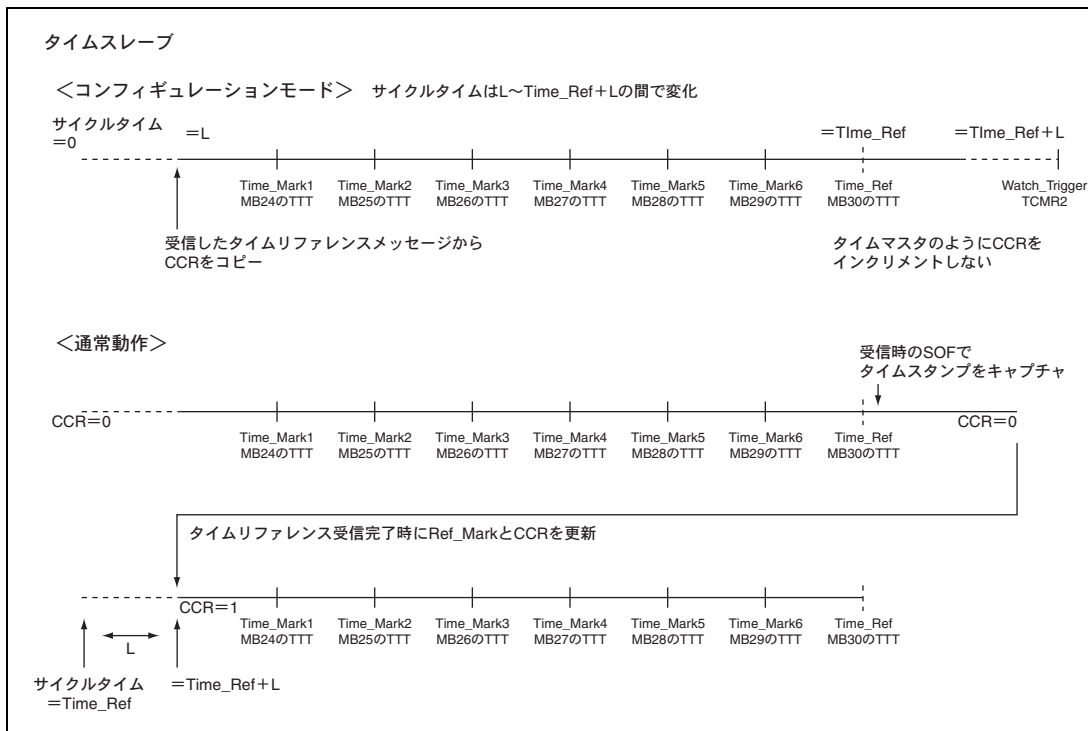


図 18.22 タイムスレープ

- ソフトウェアで実装する機能

TTCAN の機能には、ソフトウェアで実装する必要のあるものがあります。主な機能を以下に示します。詳細は ISO-11898-4 を参照してください。

- Init_Watch_TriggerからWatch_Triggerへの変更

RCAN-TL1 では、Init_Watch_Trigger および Watch_Trigger のハードウェアサポートとしてそれぞれ TCMR0 レジスタと TCMR2 レジスタを用意しています。CAN バス上で最初のリファレンスメッセージが検出されるまで TCMR0 を有効かつ TCMR2 を無効にし、その後 TCMR0 を無効かつ TCMR2 を有効にする制御はソフトウェアで行います。(スケジュール同期化ステートマシン)

Next_is_Gap 受信割り込みのみサポートしています。アプリケーションにて、対応する TXCR フラグをセットすることにより、現在の Basic_Cycle の終了時にすべての送信を停止する必要があります。

マスタ/スレープモード制御

自動サイクルタイム同期と CCR のインクリメントのみサポートしています。

- メッセージステータスカウント

エクスクルーシブウィンドウの定周期メッセージに関するスケジュールエラーを、ソフトウェアでカウントする必要があります。

- タイムトリガ通信のメッセージ送信リクエスト

タイムトリガモードを使用する場合、ISO11898-4 の要求事項を満たさなければなりません。

以下の手順を行ってください。

1. RCAN-TL1をリセットまたはホルトモードにする
2. TCMR0にInit_Watch_Trigger (H'FFFF) を設定
3. TTCR0のビット10でTCMR0によるコンペアマッチを有効に設定
4. TCMR2に指定のWatch_Trigger 値を設定
5. TTCR0のビット12を0に保持し、TCMR2によるコンペアマッチを無効にする。
6. CMAXに必要な値を設定 (B'111以外)
7. TEWに必要な値を設定
8. メールボックスをタイムトリガ送信および受信に設定する
9. メールボックス31のLAFMを下位3ビットに対して設定
10. MCR、BCR1、BCR0に必要な値を設定
11. ポテンシャルタイムマスタとして動作する場合は下記を設定
 - RFTROFFに必要なInit_Ref_Offset値を設定
 - メールボックス30のTXPRをセット
 - TTTSELにH'4000を書き込む
12. TTCR0のビット15でタイムTCNTRをイネーブルにする
13. 通常モードに移行
14. 有効なリファレンスメッセージが送信または受信されるのを待つ、もしくはTCMR0のコンペアマッチを待つ
15. ローカルタイム (TCNTR) がTCMR0の値に一致したら、Init_Watch_Triggerに到達したことを意味し、アプリケーションでメールボックス30のTXCRをセットし再び開始する
16. リファレンスメッセージが送信されたら (TXACK[30] がセットされた)、RFTROFFを0に設定
17. 有効なリファレンスメッセージを受信したら (RXPR[31] がセットされた)、下記を行う
 - メールボックス31のIDの下位3ビットの優先度がメールボックス30の下位3ビットよりも高ければ (ポテンシャルタイムマスタとして動作する場合)、RFTROFFの値をInit_Ref_Offsetに保持
 - メールボックス31のIDの下位3ビットの優先度がメールボックス30の下位3ビットよりも低ければ (ポテンシャルタイムマスタとして動作する場合)、RFTROFFの値を1デクリメント
18. TTCR0のビット10をクリアし、TCMR0 によるコンペアマッチを無効にする
19. TTCR0のビット12をセットし、TCMR2 によるコンペアマッチを有効にする
20. CANバス上でリファレンスメッセージを2個検出 (送信または受信) した後、アプリケーションで他のタイムトリガメールボックスのTXPRをセットすることができます。

CANバス上でリファレンスメッセージが検出されずに、サイクルタイム CYCTR が TCMR2 の値に到達した場合はいつでも、RCAN-TL1 は待ち状態の送信 (リファレンスメッセージを含む) をすべて自動的にアボートします。

タイムトリガモードでさらに送信を要求するときのシーケンスを以下に示します。

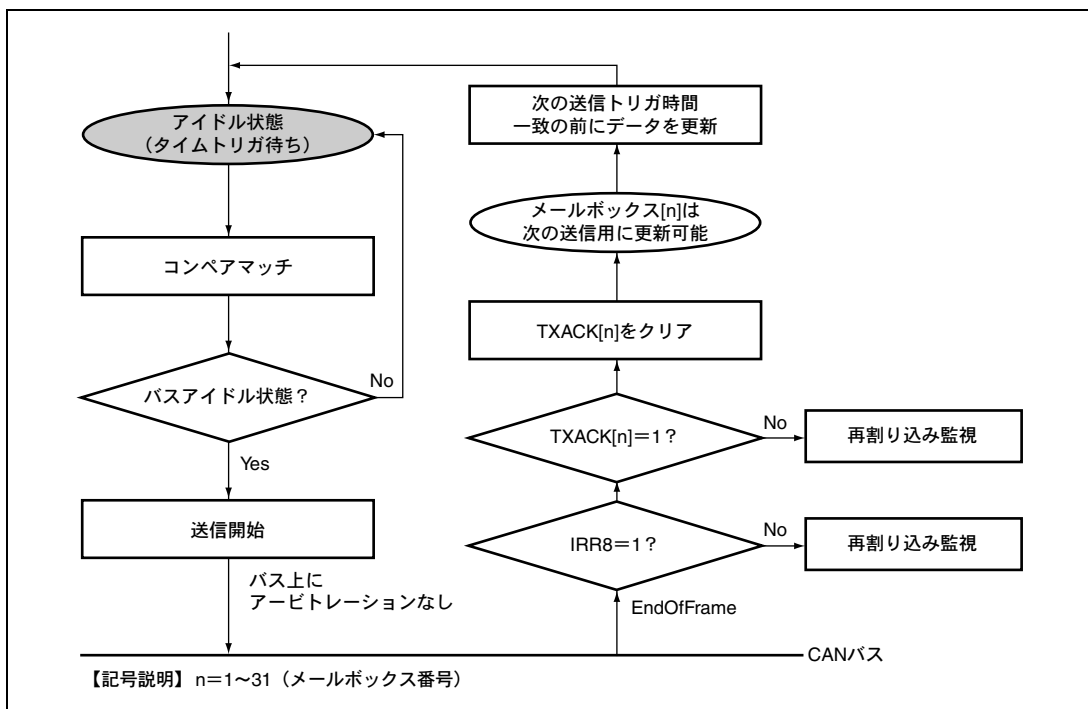


図 18.23 メッセージ送信リクエスト

ソフトウェアは、送信トリガが発生する前にメッセージの更新が確実に行われるようにしなければなりません。CYCTR がメールボックスの TTT (送信トリガタイム) に到達し、CCR がプログラムされた送信用サイクルに一致すると、RCAN-TL1 はただちに送信バッファにメッセージを転送します。

この時点で、RCAN-TL1 は指定された Tx_Enable Window 内で送信を試みます。このタイムスロットを逃すと、送信が定周期の場合 (メールボックス 24~30)、RCAN-TL1 は対応する TXPR ビットを 1 に保持し送信リクエストを次の送信トリガまで保留します。

RCAN-TL1 が上記のタイムスロットを逃す 3 つの要因があります。

1. CANバスが使用中
2. タイムトリガメッセージ送信中にCANバス上にエラーが発生
3. タイムトリガメッセージ送信中にアービトレーションロストが発生

マージドアービトレーティングウィンドウ (Merged Arbitrating Window) の場合、この送信スロットは、ウィンドウを開始した(TTW=B'10)メールボックスの送信トリガから、ウィンドウを終了する (TTW=B'11) メールボックスの TEW の最後までです。TXPR はいつでも変更可能です。RCAN-TL1 は、タイムトリガメッセージの送信が常に正しくスケジュールされるようにしますが、正確なスケジュールを保证するため、以下に示す重要な規則があります。

- TTT (送信トリガタイム) は、コンフィギュレーションモードで変更可能。
- Basic_Cycle length サイクルカウンタ (Basic Cycle) 長を指定する Time_Ref を超える TTT の設定は不可。違反すると、スケジューリングで問題が発生します。
- 定周期送信では、TXPR は自動的にクリアされません。定周期送信をキャンセルする必要がある場合は、アプリケーションで対応する TXCR ビットをセットします。

• タイムトリガシステムの例

タイムスレープモードの RCAN-TL1 を使用して、タイムトリガシステムが動作する簡単な例を下図に示します。

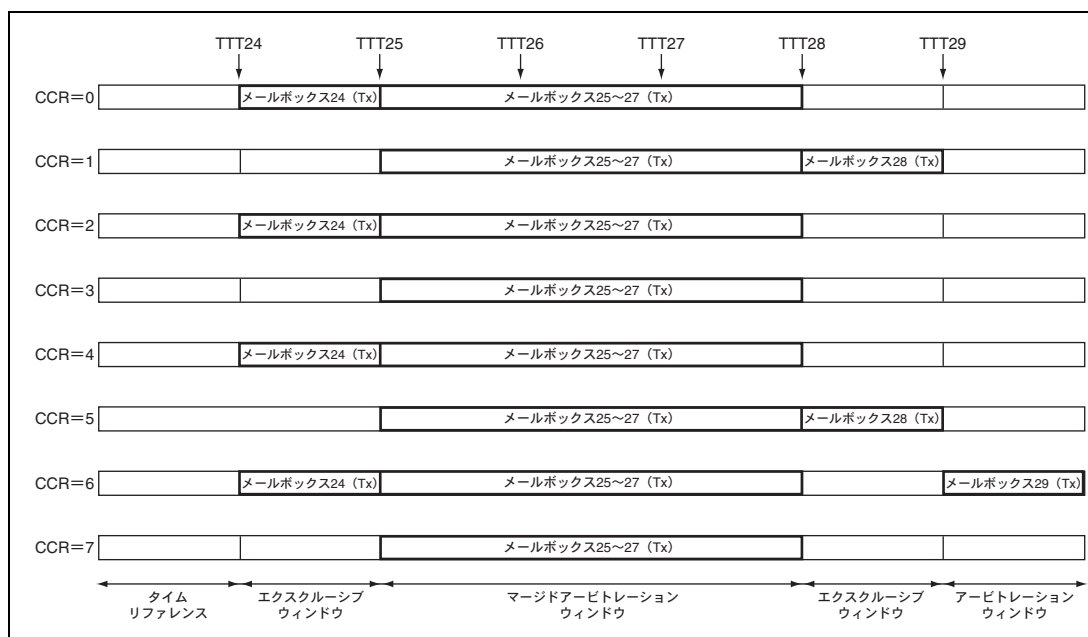


図 18.24 タイムスレープとしてのタイムトリガシステム例

図 18.24 の例で使用する値を表 18.11 に示します。

表 18.11 例で使用する設定値

	rep_factor (レジスタ)	Offset		TTW[1:0]	MBC[2:0]
メールボックス 24	B'001	B'000000		B'00	B'000
メールボックス 25	B'000	B'000000		B'10	B'000
メールボックス 26	B'000	B'000000		B'10	B'000
メールボックス 27	B'000	B'000000		B'11	B'000
メールボックス 28	B'010	B'000001		B'00	B'000
メールボックス 29	B'011	B'000110		B'01	B'000
メールボックス 30	-	-		-	B'111
メールボックス 31	-	-		-	B'011

【注】 CMAX=B'011, TXPR[30]=0

マージドアービトレイティングウィンドウ内では、タイムトリガ送信リクエストは FCFS (First Come First Served) で処理されます。たとえば、メールボックス 25 が送信トリガタイム 25 (TTT25) と送信トリガタイム 26 (TTT26) の間で送信できなかった場合、TTT26-TTT28 間ではメールボックス 25 はメールボックス 26 より優先度が高くなります。

タイムトリガ送信を無効にするには、MBC を B'111 に設定します。RCAN-TL1 がタイムマスタの場合、MBC[30]=B'000 としなければならず、タイムリファレンスウィンドウは自動的にアービトレイティングウィンドウと認識されます。

- タイマ動作

図 18.25 にタイマのタイミング図を示します。送信トリガタイム= n と設定すると、タイムトリガ送信は、CYCTR= $n+2$ から CYCTR= $n+3$ の間に開始します。

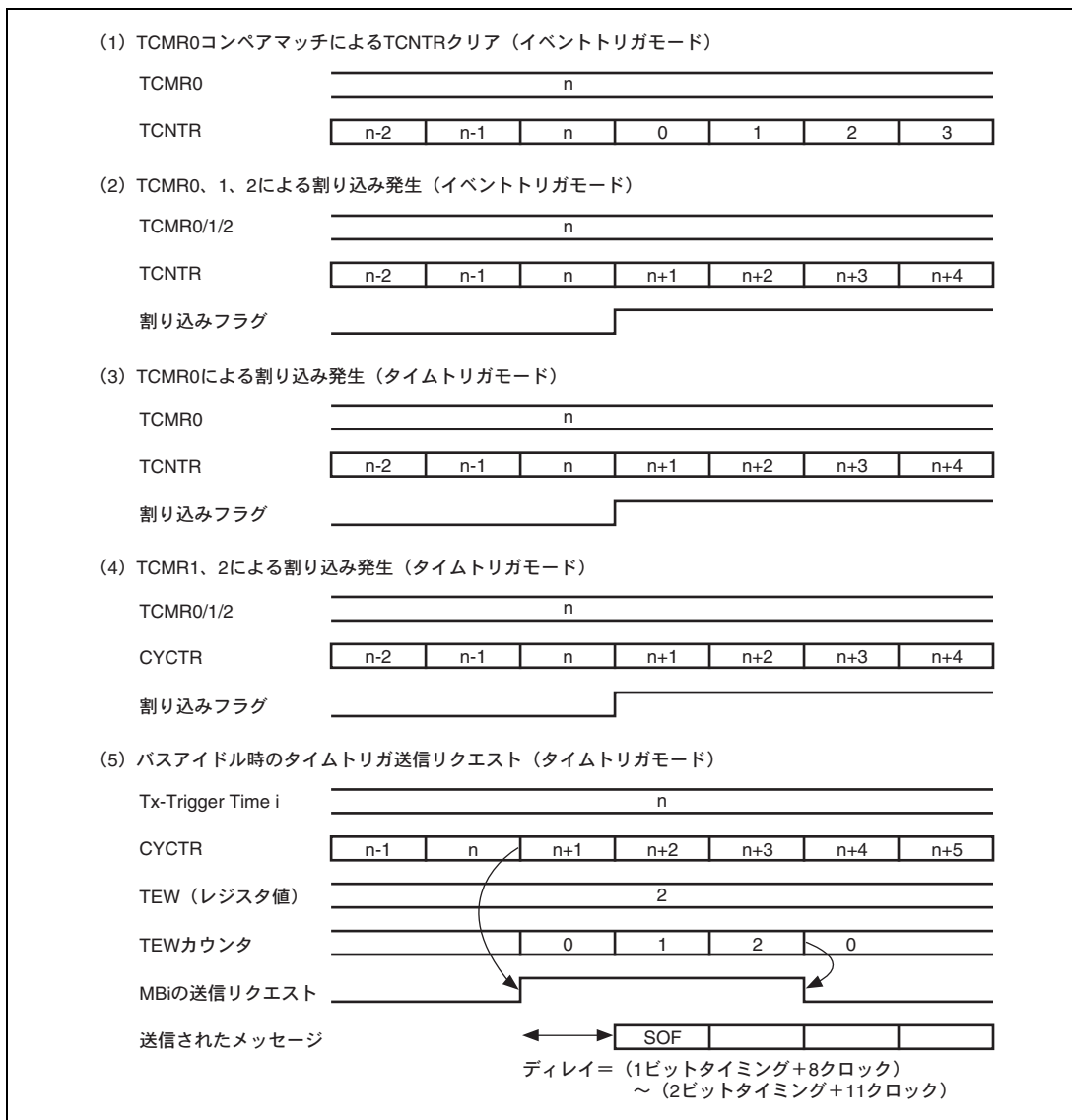


図 18.25 タイマのタイミング図

マージドアービトレイティングウィンドウ内では、イベントトリガ送信はタイマトリガ送信完了後に処理されます。たとえば、メールボックス 25 の送信が完了したときに CYCTR が TTT26 に到達していないと、MCR2 で指定したメッセージ送信の優先順位により、イベントトリガ送信が開始します。タイマトリガ送信の TXPR は送信完了後にクリアされませんが、イベントトリガ送信の TXPR は送信完了後にクリアされます。

マージドアービトレイティングウィンドウを閉じるメールボックスの TXPR がセットされない場合は、そのメールボックスの TTT の後に続く TEW の最後でマージドアービトレイティングウィンドウが閉じます。

「18.3.1 メールボックスの構成」の表 18.3 を参照してください。.

18.7.4 メッセージ受信シーケンス

メッセージ受信シーケンスを図 18.26 に示します。

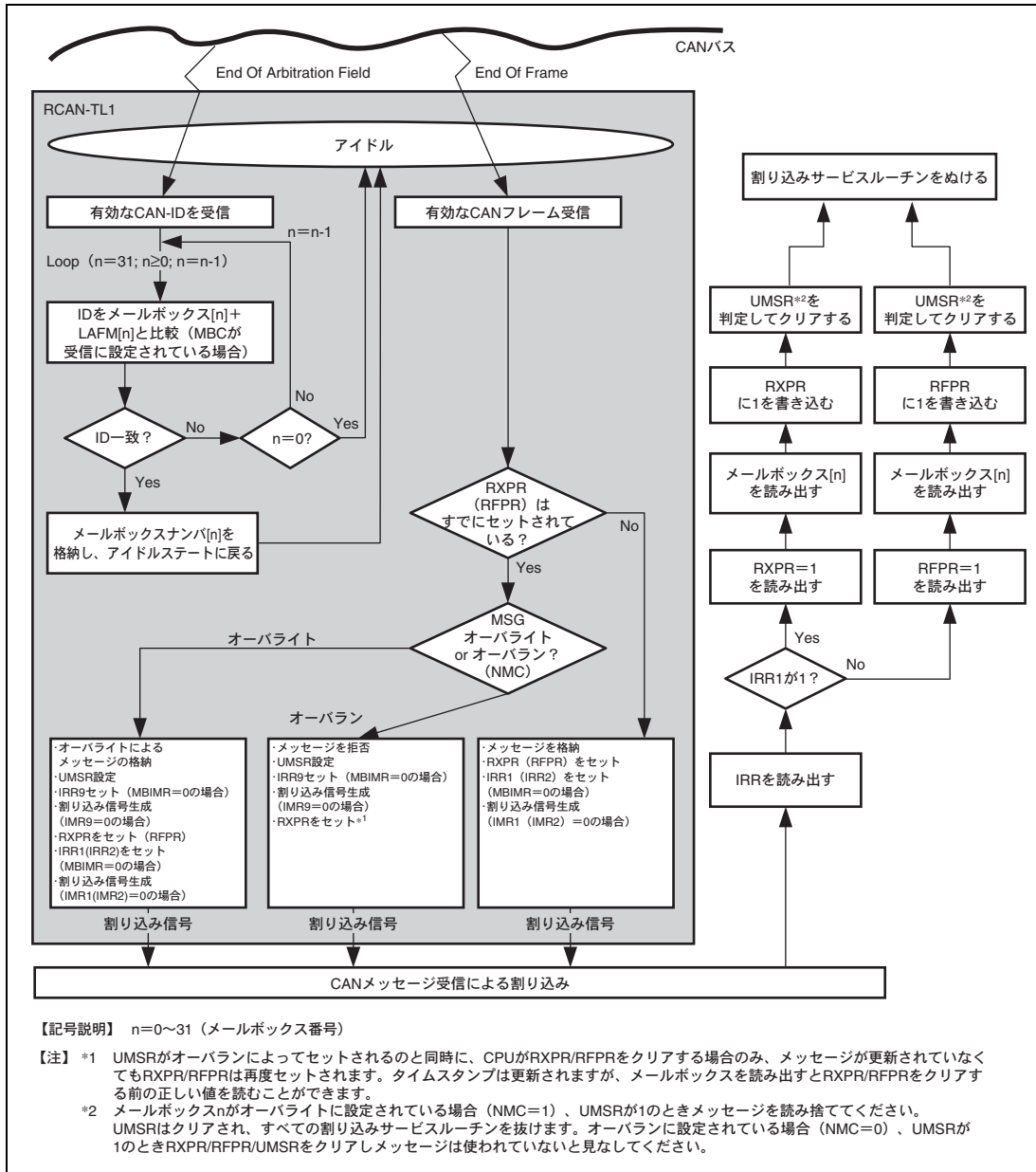


図 18.26 メッセージ受信シーケンス

メッセージを受信中に RCAN-TL1 がアービトラージフィールドの最後を認識すると、受信した ID とメールボックスに設定された ID の比較を始めます。比較する順序はメールボックス 31 からメールボックス 0 の順です。まず MBC をチェックし、メールボックスが受信に設定されているか調べます。その後 LAFM を読み込み、続いてメールボックス 31 (受信用に設定されている場合) の ID を読み込み、受信した ID と比較します。一致しない場合は、メールボックス 30 (受信用に設定されている場合) に対して同じチェックを行います。一致する ID を見つけると RCAN-TL1 はそのメールボックス番号 (n) を内部バッファに格納し、サーチを停止した後アイドル状態に戻り EOF (End Of Frame) を待ちます。EOF の 6 ビット目が通知されると、受信メッセージは NMC ビットの設定により書き込まれるか廃棄されます。

通信中に RCAN-TL1 のメッセージ ID と LAFM の設定を変更することはできません。設定変更する手段の 1 つとしてホルトモードおよびコンフィギュレーションモードがあります。受信メッセージを対応するメールボックスに書き込むときに、メッセージ ID を含めて書き込まれるため、LAFM を使用するときは CAN-ID が異なる CAN-ID でオーバライトされることがあります。これはまた、受信したメッセージの ID が複数のメールボックスの ID+LAFM と一致する場合には、受信メッセージは常にメールボックス番号の一番大きいメールボックスに格納され、小さい番号のメールボックスにはメッセージが格納されなくなってしまうことを意味しています。したがって、ID と LAFM の設定値は注意深く選択する必要があります。

図 18.26 に示すデータおよびリモートフレームの受信で、IRR をリードした後に UMSR フラグをクリアするのは、割り込みサービスルーチンの実行中にメッセージが同じメールボックスに格納された新しいメッセージでオーバライトされること (NMC が 1 のとき) を検出するためです。UMSR の最後のチェック中にオーバライトが検出された場合、メッセージを破棄し再度読み込む必要があります。

メールボックスがオーバランに (NMC=0) 設定されているときは、UMSR がセットされた場合のメッセージは有効です。しかし、CAN バスでモニタされた最新のメッセージではなく古いメッセージです。メッセージの読み出しは、関連する RXPR/RFPR フラグをクリアする前に行ってください。

受信したリモートフレームがデータフレームでオーバライトされた場合、リモートフレーム受信割り込み (IRR2) およびデータフレーム受信割り込み (IRR1) がセットされ、受信フラグ (RXPR、RFPR) もセットされますので、ご注意ください。同様にデータフレームがリモートフレームでオーバライトされた場合も IRR2 と IRR1 がセットされます。

メッセージを受信しメールボックスに格納すると、受信されなかったデータフィールドはすべて 0 として格納されます。スタンダード ID を受信した場合も同様です。エクステンデッド ID (EXTID[17:0]) には 0 が書き込まれます。

18.7.5 メールボックスの再設定

メールボックスの再設定が必要な場合は、下記の手順に従ってください。

(1) 送信ボックスの設定変更

下記の2つの場合があります。

- ID、RTR、IDE、LAFM、データ、DLC、NMC、ATX、DARTの変更

MBC=B'000の場合のみ変更可能です。対応するTXPRビットがセットされていないことを確認してください。設定（MBCを除く）はいつでも変更することができます。

- 送信ボックスから受信ボックスへの変更

対応するTXPRビットがセットされていないことを確認してください。ホルトモードまたはリセット状態でのみ変更可能です。RCAN-TL1がメッセージを受信中または送信中の場合、ホルト状態に移移するのに時間がかかることがあります（受信/送信が終了するのを待ってからホルト状態に移移するためです）。また、ホルト状態ではメッセージの送受信ができませんのでご注意ください。

RCAN-TL1がバスオフ状態の場合、ホルト状態への移移はMCRレジスタのビット6およびビット14の設定に従います。

(2) 受信ボックスのID、RTR、IDE、LAFM、データ、DLC、NMC、ATX、DART、MBCの設定変更および受信ボックスから送信ボックスへの変更

設定変更はホルトモードでのみ可能です。メッセージがCANバス上にありRCAN-TL1が受信モードの場合、そのメッセージを逃すことはありません。RCAN-TL1は現在行っている受信を完了してからホルトモードに移移します。RCAN-TL1がメッセージを受信中または送信中の場合、ホルト状態に移移するのに時間がかかることがあります（受信/送信が終了するのを待ってからホルト状態に移移するためです）。また、ホルト状態ではメッセージの送受信ができませんのでご注意ください。

RCAN-TL1がバスオフ状態の場合、ホルト状態への移移はMCRレジスタのビット6およびビット14の設定に従います。

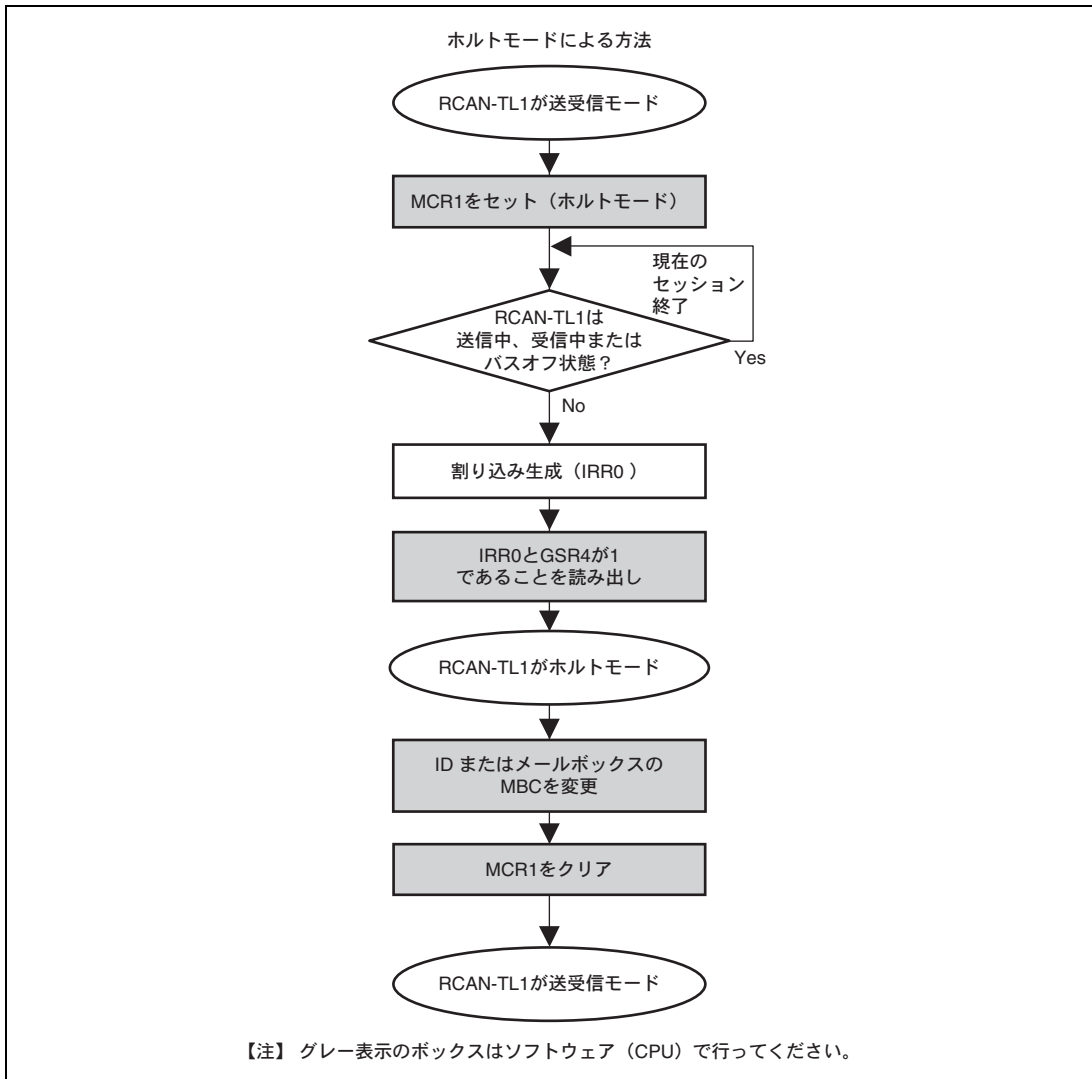


図 18.27 受信ボックスの ID 変更/受信ボックスから送信ボックスへの変更

18.8 パリティ検出

メールボックス (RAM) への書き込みに対して、パリティを付加し、読み出しのときにエラー検出を行います。パリティエラー発生時は MBECR の設定により、割り込みを発生させる／発生させないの選択が可能です。

パリティ付加：8 ビットごとに 1 ビットのパリティを付加します。

パリティ検出：32 ビットごとにパリティ検出を行います。

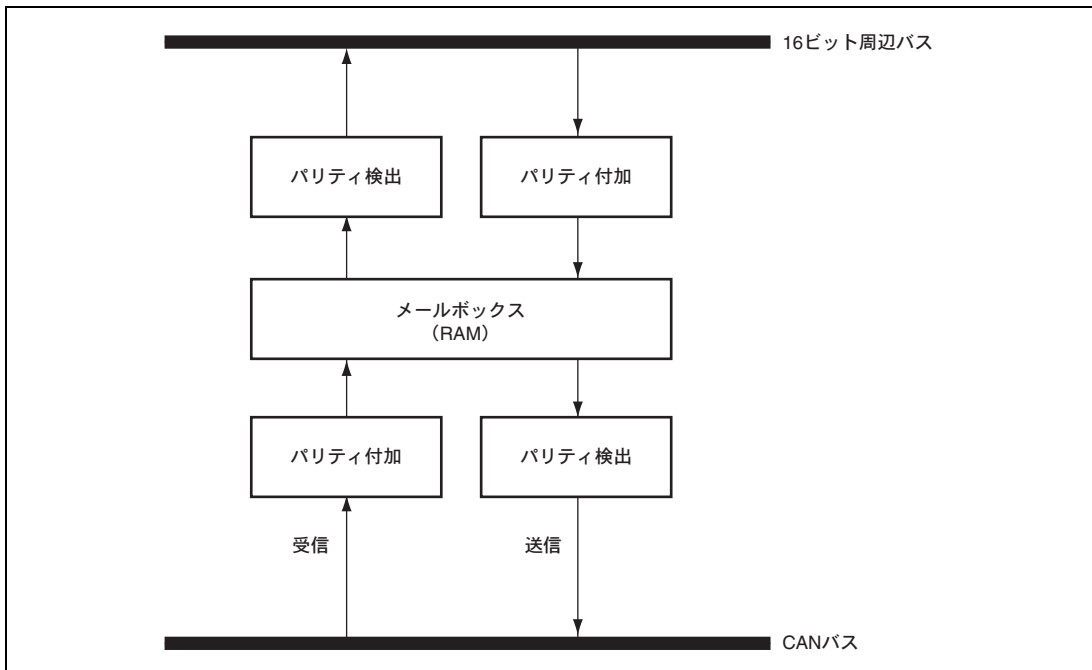


図 18.28 パリティ付加、検出ブロック図

18.9 割り込み要因

RCAN-TL1には表 18.12 に示す割り込み要因があります。これらの要因はマスクすることができます。マスクには、メールボックスインタラプトマスクレジスタ (MBIMR) およびインタラプトマスクレジスタ (IMR) を使用します。各割り込み要求の割り込みベクタについては「第 8 章 割り込みコントローラ (INTC)」を参照してください。

表 18.12 RCAN-TL1 の割り込み要因

モジュール名	名称	要 因	割り込み フラグ	DMAC の起動	A-DMAC の起動		
RCANn* ¹	ERSn* ¹	エラーパッシブ (TEC \geq 128 または REC \geq 128)	IRR5	不可	不可		
		バスオフ (TEC \geq 256) / バスオフからの復帰	IRR6				
		エラーワーニング (TEC \geq 96)	IRR3				
		エラーワーニング (REC \geq 96)	IRR4				
	OVRn* ¹	リセット/ホルト/CAN スリープ遷移	IRR0				
		オーバロードフレーム送信	IRR7				
		未読メッセージのオーバライト (オーバラン)	IRR9				
		スタートシステムマトリックス	IRR10				
		TCMR2 コンペアマッチ	IRR11				
		CAN スリープ中 CAN バス動作の検出	IRR12				
		タイマオーバラン/Next_is_Gap/メッセージエラー	IRR13				
		TCMR0 コンペアマッチ	IRR14				
		TCMR1 コンペアマッチ	IRR15				
	RMn0* ¹ * ²	データフレーム受信	IRR1* ³			可* ⁴	可* ⁵
		リモートフレーム受信	IRR2* ³				
	SLEn* ¹	メッセージの送信/送信取り消し (スロットエンプティ)	IRR8	不可	不可		
	MBEn* ¹	メッセージバッファエラー	MBEF	不可	不可		

【注】 *1 n=A、B、C

*2 RM0 はメールボックス 0 のリモートフレーム受信フラグ (RFPR0[0]) またはデータフレーム受信フラグ (RXPR0[0]) による割り込み、RM1 はメールボックス 1~31 のリモートフレーム受信フラグ (RFPR1/RFPR0) またはデータフレーム受信フラグ (RXPR1/RXPR0) による割り込みです。

*3 IRR1 はメールボックス 0~31 のデータフレーム受信フラグ、IRR2 はメールボックス 0~31 のリモートフレーム受信フラグです。

*4 RMn0 割り込みのみ DMAC を起動できます。

*5 全メールボックスにおいて A-DMAC を起動できます。

18.10 DMAC インタフェース

各 RCAN-TL1 のメールボックス 0 にメッセージを受信すると、DMAC を起動することができます。なお、DMAC 起動を設定し、DMAC による転送が終了すると、自動的に RXPR0 と RFPR0 レジスタのフラグはクリアされます。このとき、RCAN-TL1 からの受信割り込みで CPU への割り込みは発生しません。図 18.29 に DMAC の転送フローチャートを示します。

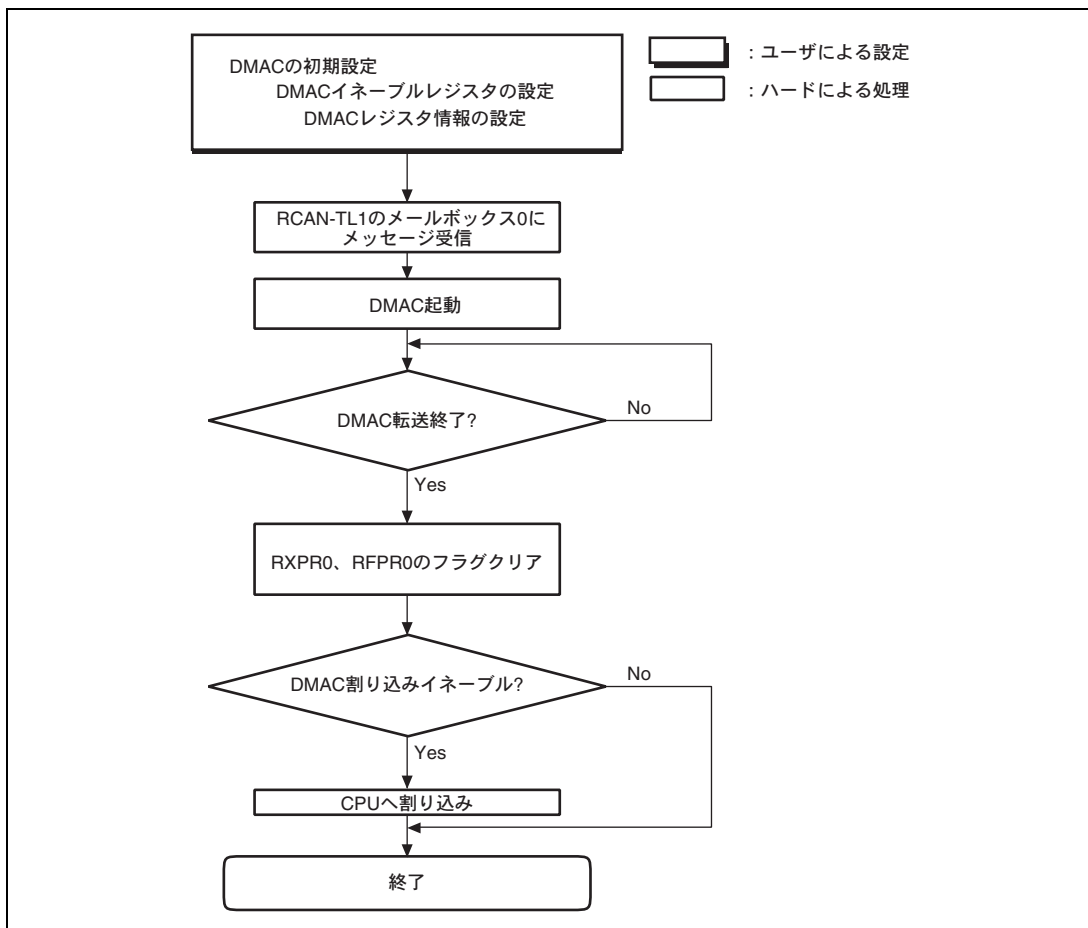


図 18.29 DMAC の転送フローチャート

18.11 CAN バスインタフェース

本 LSI と CAN バスを接続するためにはバスターンシーバ IC が必要になります。トランシーバ IC はルネサス HA13721 を推奨します。HA13721 以外の製品を使用する場合は、HA13721 とコンパチブルな製品を使用してください。図 18.30 に接続例を示します。

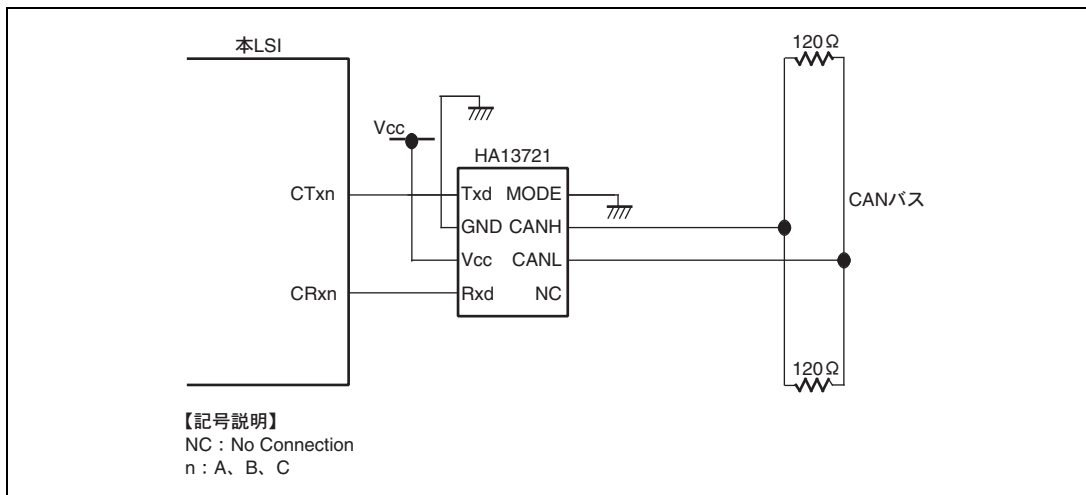


図 18.30 HA13721 を用いた高速 CAN インタフェース

18.12 A-DMAC インタフェース

RCAN_A、B、C の 3 チャンネルのすべてのメールボックスにおいてメッセージの受信により、A-DMAC を起動することができます。

A-DMAC 起動の初期設定を行い、メールボックスにメッセージが受信されると A-DMAC が起動し、メールボックスのメッセージデータを RAM 領域に転送して、RCAN の RXPR/RFPFR フラグをクリアします。このとき、RCAN から CPU へ受信割り込みは設定しません (IMR にてマスクされます)。

A-DMAC の設定については「第 12 章 専用ダイレクトメモリアクセスコントローラ (A-DMAC)」を参照してください。

18.13 RCAN-TL1 端子ポート設定

RCAN-TL1 ポート設定は、必ずコンフィギュレーションモード中またはそれ以前に行ってください。ポート設定方法の詳細は「第22章 ピンファンクションコントローラ (PFC)」を参照してください。本 LSI は 3 チャンネルの RCAN-TL1 を内蔵しており、3 種類の使用方法があります。

- 3チャンネルの32メールボックス (RCAN_A、B、C)
- 2チャンネルの64メールボックス+1チャンネルの32メールボックス (RCAN_A+B、RCAN_C)
- 1チャンネルの96メールボックス (RCAN_A+B+C)

【注】 64 メールボックスまたは 96 メールボックス使用時には注意が必要です。「18.14.1 1チャンネル 64/96 メールボックスでのポート設定についての注意事項」を必ずお読みください。

図 18.31～図 18.33 に各ポート設定での接続例を示します。

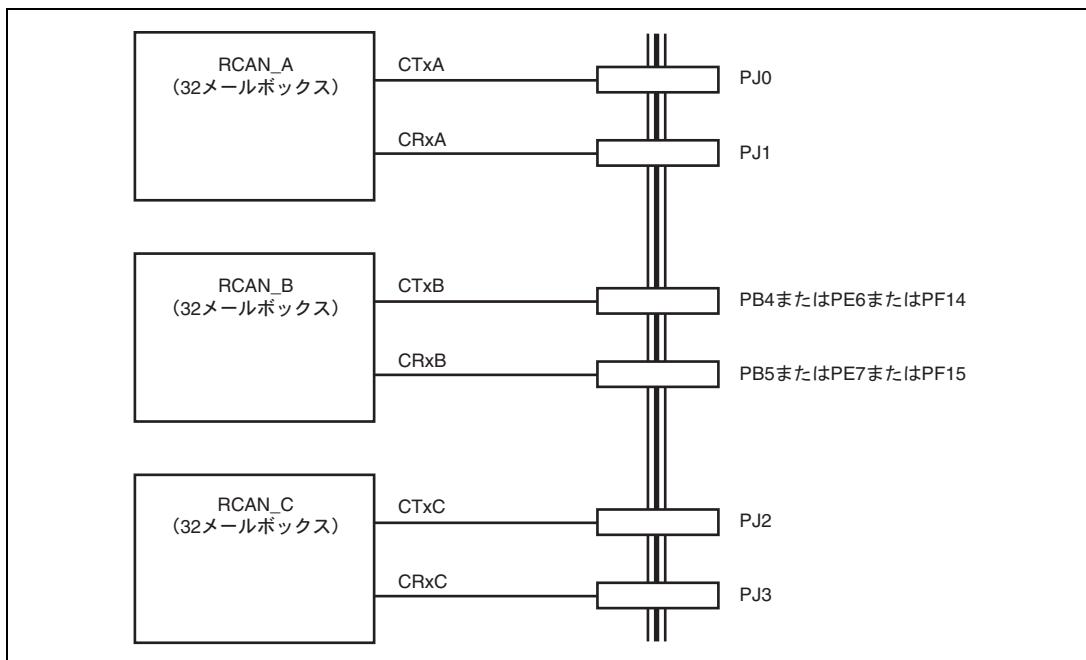


図 18.31 RCAN_A、B、C を個別のチャンネルとして使用する際の接続例

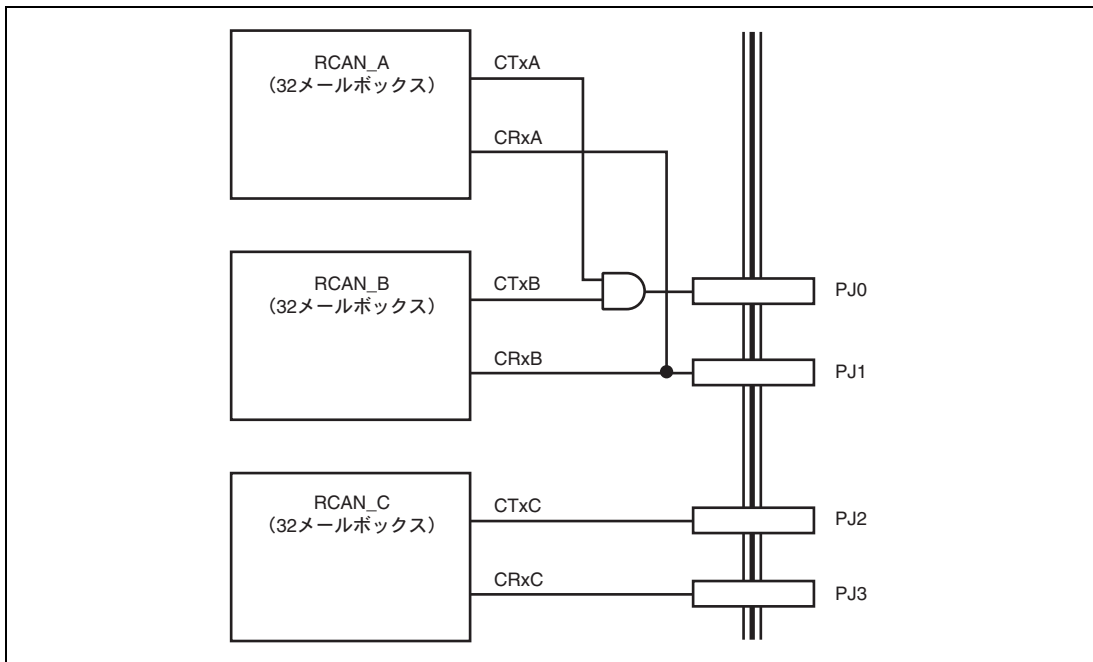


図 18.32 RCAN_A、B を 64 メールボックスの 1 チャンネル、RCAN_C を 32 メールボックスの 1 チャンネルとして使用するときの接続例

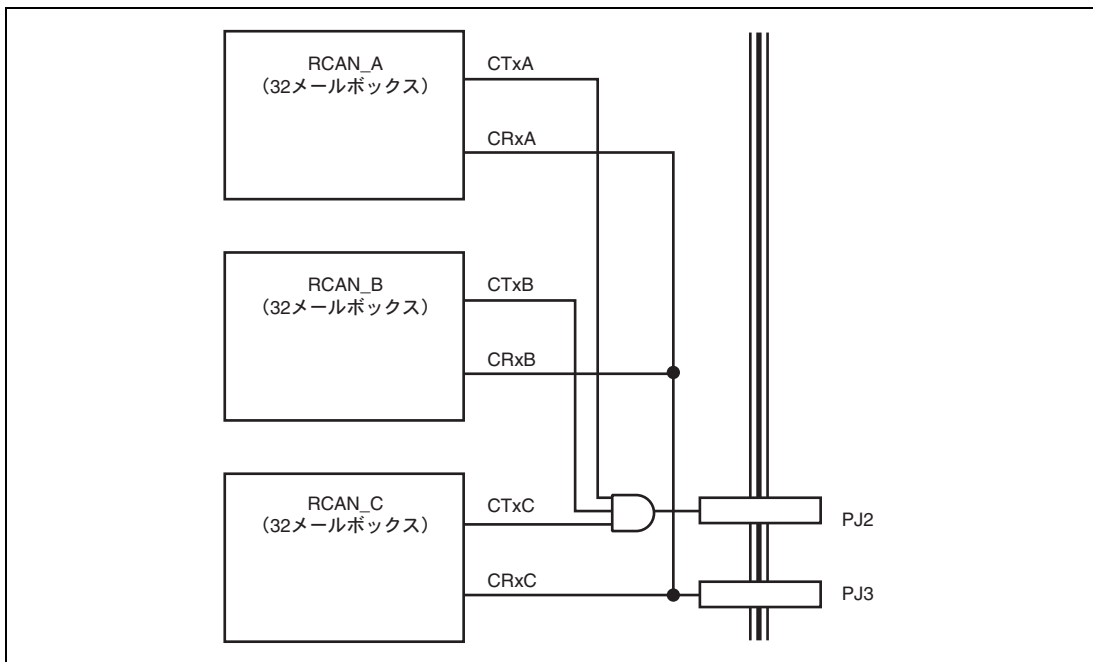


図 18.33 RCAN_A、B、C を 96 メールボックスの 1 チャンネルとして使用するときの接続例

18.14 使用上の注意事項

18.14.1 1チャンネル 64/96 メールボックスでのポート設定についての注意事項

本 LSI は、3チャンネルの RCAN-TL1 を内蔵しています。1チャンネルで 64 または 96 メールボックスの設定で使用する際、以下の注意事項があります。

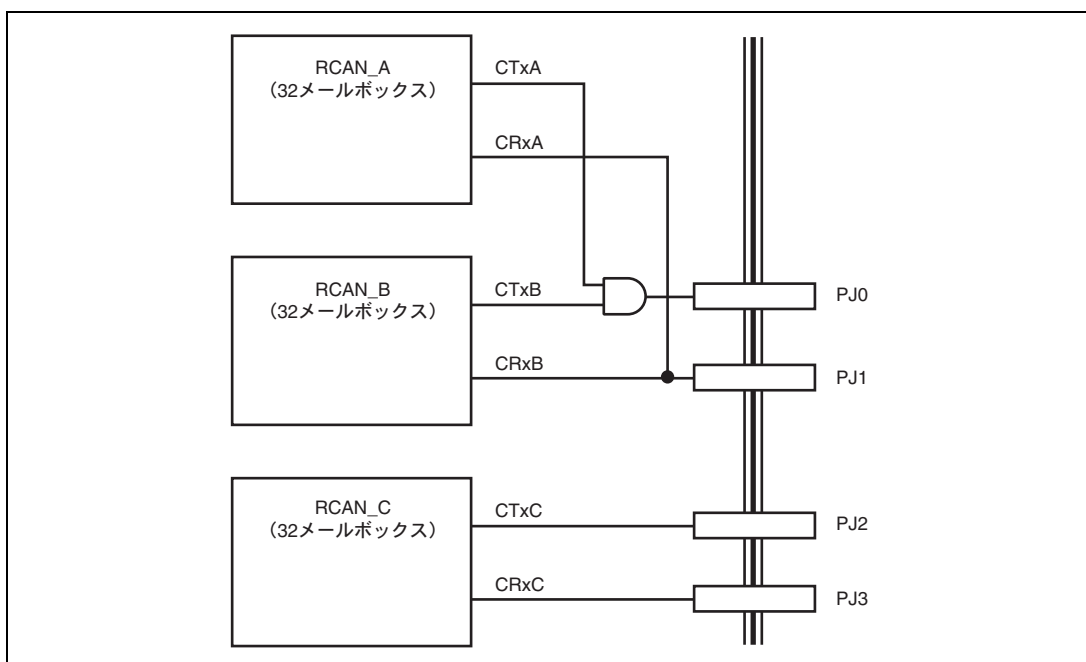


図 18.34 RCAN_A、B を 64 メールボックスの 1チャンネル、RCAN_C を 32 メールボックスの 1チャンネルとして使用するときの接続例

1. CANバスに他ノードを接続しない状態でメッセージ送信した場合、ACKエラーが発生しません。上図の RCAN_A からメッセージを送信した場合、ACK フィールドで RCAN_B が ACK を送信するためです。RCAN_B は CANバス上のメッセージを受信しており、CAN プロトコルに従い ACK フィールドで ACK を送信し、その ACK を RCAN_A が受信します。
対応方法は、メッセージを送信しない RCAN_B をテストモードのリスンオンリモード状態 (TST[2:0]=B'001) またはリセット状態 (MCR0=1 設定) にしてください。これにより、メッセージを受信するチャンネルから ACK を送信しません。
2. 送信順位を決定する内部アービトレーションは、それぞれ RCAN_A と RCAN_B で独立に実施します。送信可能バッファは、RCAN-TL1 には 31 メールボックス/チャンネルありますが、62 バッファの範囲で内部アービトレーションは実施しません。
3. 同一送信メッセージ ID を RCAN_A と RCAN_B に設定しないでください。CANバス上でのアービトレーション実施後、2つのチャンネルからメッセージを送信することになります。

19. A/D 変換器 (ADC)

本 LSI は、逐次比較方式の 12 ビット A/D 変換器を内蔵しています。A/D 変換器は、独立した 2 つのモジュール (ADC_A、ADC_B) により構成されています。また、ソフトウェアにより最大 37 チャンネルのアナログ入力を選択することができます。

19.1 特長

- 分解能：12ビット
- 入力チャンネル：37チャンネル (ADC_A：28チャンネル (AN0~27)、ADC_B：9チャンネル (AN40~48))
- 最小変換時間
Pφ=40MHz動作時：1チャンネル当たり最小1.25μs (変換ステート=50ステート)
低速設定時：1チャンネル当たり2.5μs (Pφ=20MHz動作時、変換ステート=50ステート)
高速設定時：1チャンネル当たり1.25μs (Pφ=20MHz動作時、変換ステート=25ステート)
- 2種類のスキャン変換モード
1サイクルスキャンモード：スキャンを1回だけ実施
連続スキャンモード：スキャンを無制限に繰り返し実施
スキャン変換の対象チャンネルは任意に選択可能で、若いチャンネル順 (ADC_AはAN0→27、ADC_BはAN40→48) にA/D変換します。
- A/D変換値加算モード
同じチャンネルを2~4回連続でA/D変換し、その変換値の合計をA/Dデータレジスタに保持します。A/D変換値加算モードは、AN0~7、40~47がサポートしています。
この結果の平均値を使用することで、ノイズ成分によってはA/D変換精度が良くなります。ただし、必ずA/D変換精度が良くなることを保証する機能ではありません。
- 21本の12ビットA/Dデータレジスタと16本の14ビットA/Dデータレジスタ
- サンプル&ホールド機能
サンプル&ホールド回路を各A/D変換器 (ADC_A、ADC_B) に内蔵しています。
- 2種類のスキャン変換の開始
ADC_A：ソフトウェア (ADCSR0のADSTビット) /外部トリガ (ADTRG_A)、ATU-IIIのタイマトリガ (タイマG4) の選択が可能
ADC_B：ソフトウェア (ADCSR1のADSTビット) /外部トリガ (ADTRG_B)、ATU-IIIのタイマトリガ (タイマG5) の選択が可能

- 割り込み変換

スキャン変換とは独立して、ATU-IIIのタイマトリガまたはソフトウェアトリガで要求されたチャンネルを優先的にA/D変換することが可能です。AN0～15、40～47がサポートしています。

割り込み変換がスキャン変換と競合した場合、スキャン変換でA/D変換しているチャンネルを途中で中断し、割り込み変換が要求されたチャンネルを優先的にA/D変換します。また、割り込み変換終了後、スキャン変換で中断されたチャンネルのA/D変換から再開します。

- スキャン変換終了割り込み (ADI) と割り込み変換終了割り込み (ADID) とDMA転送機能をサポート

スキャン変換の各スキャン終了時に、スキャン変換終了割り込み要求 (ADI) の発生またはDMACの起動が可能です。また、AN0～15、40～47の割り込み変換終了時に、割り込み変換終了割り込み要求 (ADID0～15、40～47) の発生またはA-DMACの起動 (ADID0)、DMACの起動 (ADID40～47) が可能です。

- A/D変換器の自己診断機能

内部で生成する電圧値 ($AV_{ref} (AV_{refh_A}, AV_{refh_B}) \times 0, AV_{ref} \times 1/2, AV_{ref} \times 1$) をA/D変換し、A/DデータレジスタDiag0、Diag1にA/D変換値と変換した電圧の情報を返します。その後ソフトウェアでA/DデータレジスタDiag0、Diag1を読み出し、A/D変換値が正常範囲にあるか異常範囲にあるかをソフトウェアで判定し、A/D変換器の故障を検出します。

- アナログ変換の電圧の範囲を設定可能

AV_{refh_A} 、B端子により、アナログ変換の電圧の範囲を設定可能です。

- ADEND出力

ADEND_A、B出力端子より、AN0とAN40をスキャン変換で使用する場合の変換タイミングを出力します。

図 19.1 に A/D 変換器のブロック図を示します。

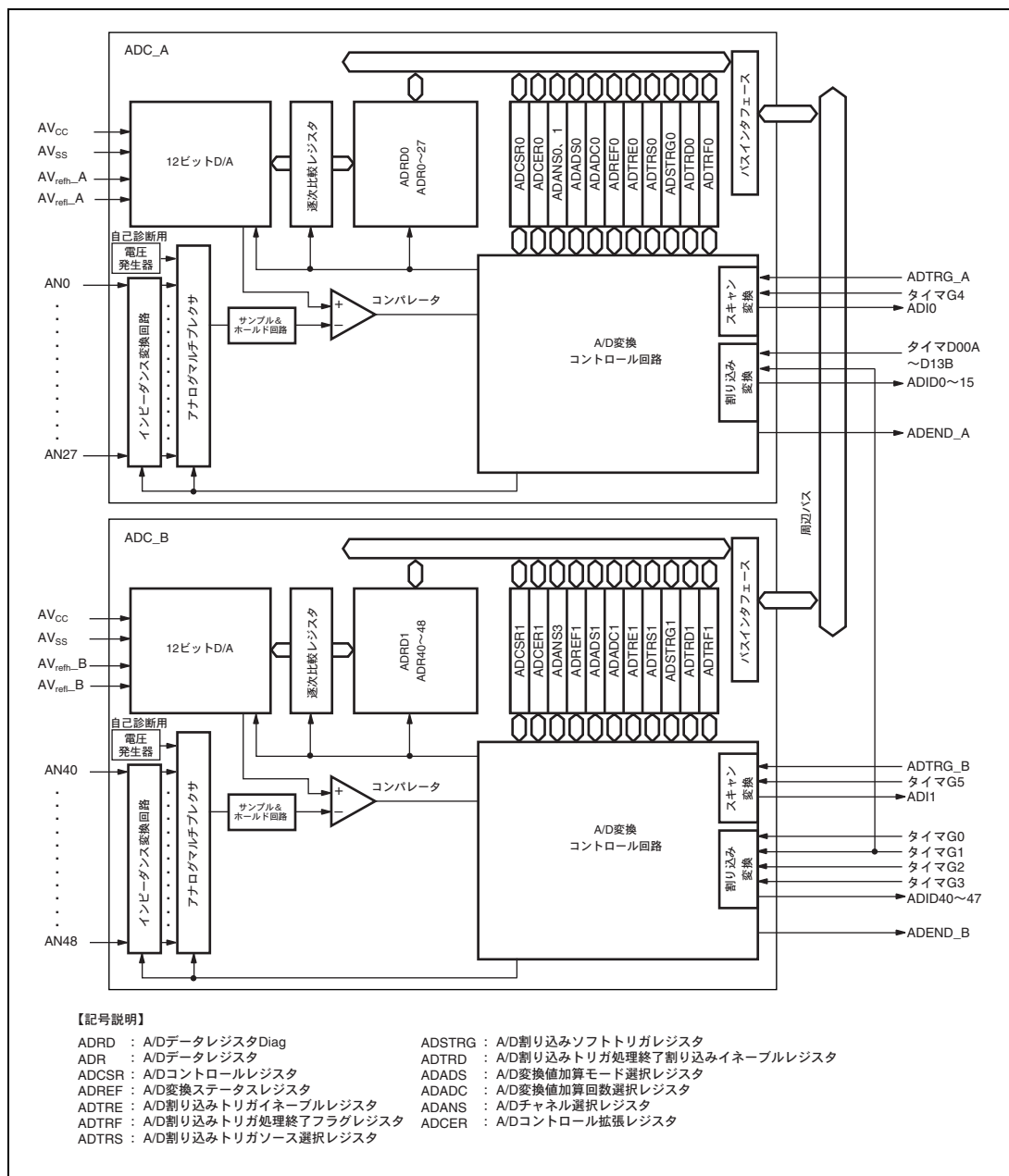


図 19.1 A/D 変換器のブロック図

19.2 入出力端子

表 19.1 に A/D 変換器の端子構成を示します。

LSI の信頼性確保のため、A/D 変換器を使用するときは、AVcc、AVss と Vcc、Vss との関係は、下記のとおり
にしてください。

$$AVcc = 5.0V \pm 0.5V, AVss = Vss$$

一方、A/D 変換器を使用しないときは、AVcc、AVss 端子を決してオープンにしないでください。

また、アナログ入力端子に印加する電圧は、下記の範囲としてください。

$$AVrefl_A/B \leq ANn \quad (n=0\sim 27, 40\sim 48) \leq AVrefh_A/B$$

表 19.1 端子構成

端子名	略称	入出力	機能
AVcc	AVcc	入力	アナログ部の電源端子
AVss	AVss	入力	アナログ部のグランド端子
AVREFL_A	AVrefl_A	入力	ADC_A のアナログ部の基準電圧端子 (AVrefl_A < AVrefh_A)
AVREFH_A	AVrefh_A	入力	ADC_A のアナログ部の基準電圧端子 (AVrefl_A < AVrefh_A)
AVREFL_B	AVrefl_B	入力	ADC_B のアナログ部の基準電圧端子 (AVrefl_B < AVrefh_B)
AVREFH_B	AVrefh_B	入力	ADC_B のアナログ部の基準電圧端子 (AVrefl_B < AVrefh_B)
AN_A0	AN0	入力	アナログ入力端子 0
AN_A1	AN1	入力	アナログ入力端子 1
AN_A2	AN2	入力	アナログ入力端子 2
AN_A3	AN3	入力	アナログ入力端子 3
AN_A4	AN4	入力	アナログ入力端子 4
AN_A5	AN5	入力	アナログ入力端子 5
AN_A6	AN6	入力	アナログ入力端子 6
AN_A7	AN7	入力	アナログ入力端子 7
AN_A8	AN8	入力	アナログ入力端子 8
AN_A9	AN9	入力	アナログ入力端子 9
AN_A10	AN10	入力	アナログ入力端子 10
AN_A11	AN11	入力	アナログ入力端子 11
AN_A12	AN12	入力	アナログ入力端子 12
AN_A13	AN13	入力	アナログ入力端子 13
AN_A14	AN14	入力	アナログ入力端子 14
AN_A15	AN15	入力	アナログ入力端子 15
AN_A16	AN16	入力	アナログ入力端子 16
AN_A17	AN17	入力	アナログ入力端子 17
AN_A18	AN18	入力	アナログ入力端子 18
AN_A19	AN19	入力	アナログ入力端子 19

端子名	略称	入出力	機能
AN_A20	AN20	入力	アナログ入力端子 20
AN_A21	AN21	入力	アナログ入力端子 21
AN_A22	AN22	入力	アナログ入力端子 22
AN_A23	AN23	入力	アナログ入力端子 23
AN_A24	AN24	入力	アナログ入力端子 24
AN_A25	AN25	入力	アナログ入力端子 25
AN_A26	AN26	入力	アナログ入力端子 26
AN_A27	AN27	入力	アナログ入力端子 27
AN_B40	AN40	入力	アナログ入力端子 40
AN_B41	AN41	入力	アナログ入力端子 41
AN_B42	AN42	入力	アナログ入力端子 42
AN_B43	AN43	入力	アナログ入力端子 43
AN_B44	AN44	入力	アナログ入力端子 44
AN_B45	AN45	入力	アナログ入力端子 45
AN_B46	AN46	入力	アナログ入力端子 46
AN_B47	AN47	入力	アナログ入力端子 47
AN_B48	AN48	入力	アナログ入力端子 48
ADTRG_A	ADTRG_A	入力	ADC_A のスキャン変換起動トリガ入力端子
ADTRG_B	ADTRG_B	入力	ADC_B のスキャン変換起動トリガ入力端子
ADEND_A	ADEND_A	出力	ADC_A の AN0 の変換タイミングモニタ出力端子
ADEND_B	ADEND_B	出力	ADC_B の AN40 の変換タイミングモニタ出力端子

19.3 チャンネル別割り当て機能一覧表

表 19.2 に、チャンネル別割り当て機能一覧を示します。

表 19.2 チャンネル別割り当て機能一覧表

A/D変換器 A/D変換時間(1チャンネル当たり)	A/D変換チャンネル		スキャン変換										割り込み変換													
			起動トリガ		自己診断選択 または チャンネル選択		スキャン変換モード		DMA転送機能(DMAC)		終了フラグ(1スキャン終了)		A/D変換加算モード		起動トリガ		DMA転送機能		イーネープル (チャンネル選択)		トリガソース選択		終了フラグ		終了割り込み イーネープル	
			ソース1	ソース2	ソース3	ADCCER0. 1	または	ADANS0. 1	終了割り込み兼DMA転送要求信号	DMA転送機能(DMAC)	終了フラグ(1スキャン終了)	ADADSO. 1	A/D変換タイミントラッキングモード(ADEND. A, B)	ソース1	ソース2	ソース3	終了割り込み兼DMA転送要求信号	DMAC	A-DMAC	イーネープル. 1	ADTRSO. 1	ADTRFO. 1	ADTRDO. 1	終了割り込み イーネープル		
			ソフト	LSI端子	ATUIII	ADCCER0. 1	または	ADANS0. 1	スキャン変換モード	DMA転送機能(DMAC)	終了フラグ(1スキャン終了)	ADADSO. 1	A/D変換タイミントラッキングモード(ADEND. A, B)	ソース1	ソース2	ソース3	終了割り込み兼DMA転送要求信号	DMAC	A-DMAC	イーネープル. 1	ADTRSO. 1	ADTRFO. 1	ADTRDO. 1	終了割り込み イーネープル		
A/D変換器 A(ADC A) 2.5μs/80C/125μs/80C	自己診断0	DIAG0	DIAGM (ADCCER0)									ADRD0	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
	アナログ入力端子0	AN0	ANS0									ADR0	ADS0	○	タイマD00A	タイマG1	ADSTRG0	ADID0	×	×	○	ADTRGE0	ADTRSO	ADTF0	ADIDE0	
	アナログ入力端子1	AN1	ANS1									ADR1	ADS1	×	タイマD00B	×	ADSTRG1	ADID1	×	×	×	ADTRGE1	ADTRSO	ADTF1	ADIDE1	
	アナログ入力端子2	AN2	ANS2									ADR2	ADS2	×	タイマD01A	×	ADSTRG2	ADID2	×	×	×	ADTRGE2	ADTRSO	ADTF2	ADIDE2	
	アナログ入力端子3	AN3	ANS3									ADR3	ADS3	×	タイマD01B	×	ADSTRG3	ADID3	×	×	×	ADTRGE3	ADTRSO	ADTF3	ADIDE3	
	アナログ入力端子4	AN4	ANS4									ADR4	ADS4	×	タイマD02A	×	ADSTRG4	ADID4	×	×	×	ADTRGE4	ADTRSO	ADTF4	ADIDE4	
	アナログ入力端子5	AN5	ANS5									ADR5	ADS5	×	タイマD02B	×	ADSTRG5	ADID5	×	×	×	ADTRGE5	ADTRSO	ADTF5	ADIDE5	
	アナログ入力端子6	AN6	ANS6									ADR6	ADS6	×	タイマD03A	×	ADSTRG6	ADID6	×	×	×	ADTRGE6	ADTRSO	ADTF6	ADIDE6	
	アナログ入力端子7	AN7	ANS7									ADR7	ADS7	×	タイマD03B	×	ADSTRG7	ADID7	×	×	×	ADTRGE7	ADTRSO	ADTF7	ADIDE7	
	アナログ入力端子8	AN8	ANS8									ADR8	×	×	タイマD10A	×	ADSTRG8	ADID8	×	×	×	ADTRGE8	ADTRSO	ADTF8	ADIDE8	
	アナログ入力端子9	AN9	ANS9									ADR9	×	×	タイマD10B	×	ADSTRG9	ADID9	×	×	×	ADTRGE9	ADTRSO	ADTF9	ADIDE9	
	アナログ入力端子10	AN10	ANS10									ADR10	×	×	タイマD11A	×	ADSTRG10	ADID10	×	×	×	ADTRGE10	ADTRSO	ADTF10	ADIDE10	
	アナログ入力端子11	AN11	ANS11									ADR11	×	×	タイマD11B	×	ADSTRG11	ADID11	×	×	×	ADTRGE11	ADTRSO	ADTF11	ADIDE11	
	アナログ入力端子12	AN12	ANS12									ADR12	×	×	タイマD12A	×	ADSTRG12	ADID12	×	×	×	ADTRGE12	ADTRSO	ADTF12	ADIDE12	
	アナログ入力端子13	AN13	ANS13									ADR13	×	×	タイマD12B	×	ADSTRG13	ADID13	×	×	×	ADTRGE13	ADTRSO	ADTF13	ADIDE13	
	アナログ入力端子14	AN14	ANS14									ADR14	×	×	タイマD13A	×	ADSTRG14	ADID14	×	×	×	ADTRGE14	ADTRSO	ADTF14	ADIDE14	
	アナログ入力端子15	AN15	ANS15									ADR15	×	×	タイマD13B	×	ADSTRG15	ADID15	×	×	×	ADTRGE15	ADTRSO	ADTF15	ADIDE15	
	アナログ入力端子16	AN16	ANS16									ADR16	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	アナログ入力端子17	AN17	ANS17									ADR17	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	アナログ入力端子18	AN18	ANS18									ADR18	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	アナログ入力端子19	AN19	ANS19									ADR19	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	アナログ入力端子20	AN20	ANS20									ADR20	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	アナログ入力端子21	AN21	ANS21									ADR21	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	アナログ入力端子22	AN22	ANS22									ADR22	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	アナログ入力端子23	AN23	ANS23									ADR23	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	アナログ入力端子24	AN24	ANS24									ADR24	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	アナログ入力端子25	AN25	ANS25									ADR25	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
アナログ入力端子26	AN26	ANS26									ADR26	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
アナログ入力端子27	AN27	ANS27									ADR27	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
A/D変換器 B(ADC B) 2.5μs/80C/125μs/80C	自己診断1	DIAG1	DIAGM (ADCCER1)									ADRD1	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
	アナログ入力端子40	AN40	ANS40									ADR40	ADS40	○	タイマG0	×	ADSTRG40	ADID40	○	×	ADTRGE40	ADTRSO	ADTF40	ADIDE40		
	アナログ入力端子41	AN41	ANS41									ADR41	ADS41	×	タイマG1	×	ADSTRG41	ADID41	○	×	ADTRGE41	ADTRSO	ADTF41	ADIDE41		
	アナログ入力端子42	AN42	ANS42									ADR42	ADS42	×	タイマG2	×	ADSTRG42	ADID42	○	×	ADTRGE42	ADTRSO	ADTF42	ADIDE42		
	アナログ入力端子43	AN43	ANS43									ADR43	ADS43	×	タイマG3	×	ADSTRG43	ADID43	○	×	ADTRGE43	ADTRSO	ADTF43	ADIDE43		
	アナログ入力端子44	AN44	ANS44									ADR44	ADS44	×	タイマG0	×	ADSTRG44	ADID44	○	×	ADTRGE44	ADTRSO	ADTF44	ADIDE44		
	アナログ入力端子45	AN45	ANS45									ADR45	ADS45	×	タイマG1	×	ADSTRG45	ADID45	○	×	ADTRGE45	ADTRSO	ADTF45	ADIDE45		
	アナログ入力端子46	AN46	ANS46									ADR46	ADS46	×	タイマG2	×	ADSTRG46	ADID46	○	×	ADTRGE46	ADTRSO	ADTF46	ADIDE46		
	アナログ入力端子47	AN47	ANS47									ADR47	ADS47	×	タイマG3	×	ADSTRG47	ADID47	○	×	ADTRGE47	ADTRSO	ADTF47	ADIDE47		
	アナログ入力端子48	AN48	ANS48									ADR48	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×

19.4 レジスタの説明

A/D 変換器には以下のレジスタがあります。

表 19.3 レジスタ構成

レジスタ名	略称	R/W	初期値	アドレス	A/D 変換器	アクセス サイズ ^{*1}
A/D データレジスタ Diag0	ADR0	R	H'0000	H'FFFFE83E	ADC_A	16
A/D データレジスタ 0	ADR0	R	H'0000	H'FFFFE840	ADC_A	16
A/D データレジスタ 1	ADR1	R	H'0000	H'FFFFE842	ADC_A	16
A/D データレジスタ 2	ADR2	R	H'0000	H'FFFFE844	ADC_A	16
A/D データレジスタ 3	ADR3	R	H'0000	H'FFFFE846	ADC_A	16
A/D データレジスタ 4	ADR4	R	H'0000	H'FFFFE848	ADC_A	16
A/D データレジスタ 5	ADR5	R	H'0000	H'FFFFE84A	ADC_A	16
A/D データレジスタ 6	ADR6	R	H'0000	H'FFFFE84C	ADC_A	16
A/D データレジスタ 7	ADR7	R	H'0000	H'FFFFE84E	ADC_A	16
A/D データレジスタ 8	ADR8	R	H'0000	H'FFFFE850	ADC_A	16
A/D データレジスタ 9	ADR9	R	H'0000	H'FFFFE852	ADC_A	16
A/D データレジスタ 10	ADR10	R	H'0000	H'FFFFE854	ADC_A	16
A/D データレジスタ 11	ADR11	R	H'0000	H'FFFFE856	ADC_A	16
A/D データレジスタ 12	ADR12	R	H'0000	H'FFFFE858	ADC_A	16
A/D データレジスタ 13	ADR13	R	H'0000	H'FFFFE85A	ADC_A	16
A/D データレジスタ 14	ADR14	R	H'0000	H'FFFFE85C	ADC_A	16
A/D データレジスタ 15	ADR15	R	H'0000	H'FFFFE85E	ADC_A	16
A/D データレジスタ 16	ADR16	R	H'0000	H'FFFFE860	ADC_A	16
A/D データレジスタ 17	ADR17	R	H'0000	H'FFFFE862	ADC_A	16
A/D データレジスタ 18	ADR18	R	H'0000	H'FFFFE864	ADC_A	16
A/D データレジスタ 19	ADR19	R	H'0000	H'FFFFE866	ADC_A	16
A/D データレジスタ 20	ADR20	R	H'0000	H'FFFFE868	ADC_A	16
A/D データレジスタ 21	ADR21	R	H'0000	H'FFFFE86A	ADC_A	16
A/D データレジスタ 22	ADR22	R	H'0000	H'FFFFE86C	ADC_A	16
A/D データレジスタ 23	ADR23	R	H'0000	H'FFFFE86E	ADC_A	16
A/D データレジスタ 24	ADR24	R	H'0000	H'FFFFE870	ADC_A	16
A/D データレジスタ 25	ADR25	R	H'0000	H'FFFFE872	ADC_A	16
A/D データレジスタ 26	ADR26	R	H'0000	H'FFFFE874	ADC_A	16
A/D データレジスタ 27	ADR27	R	H'0000	H'FFFFE876	ADC_A	16
A/D データレジスタ Diag1	ADR1	R	H'0000	H'FFFFEC3E	ADC_B	16
A/D データレジスタ 40	ADR40	R	H'0000	H'FFFFEC40	ADC_B	16
A/D データレジスタ 41	ADR41	R	H'0000	H'FFFFEC42	ADC_B	16

レジスタ名	略称	R/W	初期値	アドレス	A/D 変換器	アクセス サイズ*1
A/D データレジスタ 42	ADR42	R	H'0000	H'FFFFEC44	ADC_B	16
A/D データレジスタ 43	ADR43	R	H'0000	H'FFFFEC46	ADC_B	16
A/D データレジスタ 44	ADR44	R	H'0000	H'FFFFEC48	ADC_B	16
A/D データレジスタ 45	ADR45	R	H'0000	H'FFFFEC4A	ADC_B	16
A/D データレジスタ 46	ADR46	R	H'0000	H'FFFFEC4C	ADC_B	16
A/D データレジスタ 47	ADR47	R	H'0000	H'FFFFEC4E	ADC_B	16
A/D データレジスタ 48	ADR48	R	H'0000	H'FFFFEC50	ADC_B	16
A/D コントロールレジスタ 0	ADCSR0	R/W	H'00	H'FFFFE800	ADC_A	8
A/D コントロールレジスタ 1	ADCSR1	R/W	H'00	H'FFFFEC00	ADC_B	8
A/D 変換ステータスレジスタ 0	ADREF0	R/(W)*2	H'00	H'FFFFE802	ADC_A	8
A/D 変換ステータスレジスタ 1	ADREF1	R/(W)*2	H'00	H'FFFFEC02	ADC_B	8
A/D 割り込みトリガインエーブルレジスタ 0	ADTRE0	R/W	H'0000	H'FFFFE804	ADC_A	8、16
A/D 割り込みトリガインエーブルレジスタ 1	ADTRE1	R/W	H'00	H'FFFFEC10	ADC_B	8
A/D 割り込みトリガ処理終了フラグ レジスタ 0	ADTRF0	R/(W)*2	H'0000	H'FFFFE806	ADC_A	8、16
A/D 割り込みトリガ処理終了フラグ レジスタ 1	ADTRF1	R/(W)*2	H'00	H'FFFFEC12	ADC_B	8
A/D 割り込みトリガソース選択レジスタ 0	ADTRS0	R/W	H'0000	H'FFFFE808	ADC_A	8、16
A/D 割り込みトリガソース選択レジスタ 1	ADTRS1	R/W	H'00	H'FFFFEC14	ADC_B	8
A/D 割り込みソフトトリガレジスタ 0	ADSTRG0	W	H'0000	H'FFFFE80A	ADC_A	8、16
A/D 割り込みソフトトリガレジスタ 1	ADSTRG1	W	H'00	H'FFFFEC16	ADC_B	8
A/D 割り込みトリガ処理終了割り込み インエーブルレジスタ 0	ADTRD0	R/W	H'0000	H'FFFFE80C	ADC_A	8、16
A/D 割り込みトリガ処理終了割り込み インエーブルレジスタ 1	ADTRD1	R/W	H'00	H'FFFFEC18	ADC_B	8
A/D 変換値加算モード選択レジスタ 0	ADADS0	R/W	H'00	H'FFFFE81C	ADC_A	8
A/D 変換値加算モード選択レジスタ 1	ADADS1	R/W	H'00	H'FFFFEC1C	ADC_B	8
A/D 変換値加算回数選択レジスタ 0	ADADC0	R/W	H'00	H'FFFFE81E	ADC_A	8
A/D 変換値加算回数選択レジスタ 1	ADADC1	R/W	H'00	H'FFFFEC1E	ADC_B	8
A/D チャネル選択レジスタ 0	ADANS0	R/W	H'0000	H'FFFFE820	ADC_A	8、16、32
A/D チャネル選択レジスタ 1	ADANS1	R/W	H'0000	H'FFFFE822	ADC_A	8、16、32
A/D チャネル選択レジスタ 3	ADANS3	R/W	H'0000	H'FFFFEC20	ADC_B	8、16
A/D コントロール拡張レジスタ 0	ADCER0	R/W	H'0000	H'FFFFE830	ADC_A	8、16
A/D コントロール拡張レジスタ 1	ADCER1	R/W	H'0000	H'FFFFEC30	ADC_B	8、16

【注】 *1 16 ビットアクセスはワード境界のみ可能で、32 ビットアクセスはロングワード境界のみ可能です。

*2 フラグをクリアするために 0 のみ書き込むことができます。

19.4.1 A/D データレジスタ 0~27、40~48、Diag0、Diag1 (ADR0~27、40~48、ADRD0、1)

ADR0~27、40~48 は、AN0~27、40~48 を A/D 変換した結果を格納する 16 ビットの読み出し専用レジスタです。ADRD0、1 は、ADC_A、ADC_B の自己診断で A/D 変換した結果を格納する 16 ビットの読み出し専用レジスタです。ADR0~27、40~48、ADRD0、1 は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイモード時に H'0000 に初期化されます。

ADR0~27、40~48、ADRD0、1 は、A/D データレジスタフォーマット選択ビット (ADRFMT) および A/D 変換値加算モード選択ビット (ADS0~7、40~47) の設定値によってフォーマットが異なります。ただし、A/D 変換値加算モードは、ADR0~7、40~47 のみ設定できます。なお、ADRD0、1 には、自己診断のステータスビットが付加されます。

(1) ADR0~7、40~47

ADRFMT ビットの設定により、左詰めまたは右詰めのフォーマットのどちらかを設定できます。このとき、AD11~0 ビットは、12 ビットの A/D 変換値を示します。それ以外のビットはリザーブビットです。読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。

A/D 変換値加算モードに設定したときは、ADRFMT ビットの設定は無効となります。このとき、AD13~0 ビットは、A/D 変換値加算モード時の全変換値を加算した値を示します。それ以外のビットはリザーブビットです。読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。

A/D 変換値加算モードを選択したチャンネルに対しての最小値と最大値を次に示します。

1回変換時：H'0000 ≤ ADR_n (n=0~7、40~47) ≤ H'3FFC

2回変換時：H'0000 ≤ ADR_n (n=0~7、40~47) ≤ H'7FF8

3回変換時：H'0000 ≤ ADR_n (n=0~7、40~47) ≤ H'BFF4

4回変換時：H'0000 ≤ ADR_n (n=0~7、40~47) ≤ H'FFF0

• 左詰めのフォーマットに設定したとき

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	AD11	AD10	AD9	AD8	AD7	AD6	AD5	AD4	AD3	AD2	AD1	AD0	—	—	—	—
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

• 右詰めのフォーマットに設定したとき

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	AD11	AD10	AD9	AD8	AD7	AD6	AD5	AD4	AD3	AD2	AD1	AD0
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

• A/D変換値加算モードに設定したとき

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	AD13	AD12	AD11	AD10	AD9	AD8	AD7	AD6	AD5	AD4	AD3	AD2	AD1	AD0	—	—
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

(2) ADR8~27, 48

ADRFMT ビットの設定により、左詰めまたは右詰めのフォーマットのどちらかを設定できます。このとき、AD11~0 ビットは、12 ビットの A/D 変換値を示します。それ以外のビットはリザーブビットです。読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。

なお、ADR8~27, 48 は、A/D 変換値加算モードに設定することはできません。

- 左詰めのフォーマットに設定したとき

ビット: 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 0

AD11	AD10	AD9	AD8	AD7	AD6	AD5	AD4	AD3	AD2	AD1	AD0	—	—	—	—
------	------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	---	---	---	---

初期値: 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0

R/W: R R R R R R R R R R R R R R

- 右詰めのフォーマットに設定したとき

ビット: 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 0

—	—	—	—	AD11	AD10	AD9	AD8	AD7	AD6	AD5	AD4	AD3	AD2	AD1	AD0
---	---	---	---	------	------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

初期値: 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0

R/W: R R R R R R R R R R R R R R

(3) ADRD0、1

ADRFMT ビットの設定により、左詰めまたは右詰めフォーマットのどちらかを設定できます。このとき、AD11～0 ビットは、12 ビットの A/D 変換値を示します。また、自己診断のステータスビット (DIAGST) が付加されます。それ以外のビットはリザーブビットです。読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。なお、ADRD0、1 は、A/D 変換値加算モードに設定することはできません。

● 左詰めフォーマットに設定したとき

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	AD11	AD10	AD9	AD8	AD7	AD6	AD5	AD4	AD3	AD2	AD1	AD0	—	—	DIAGST[1:0]	
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15～4	AD11～AD0	すべて 0	R	12 ビットの A/D 変換値を示します。
3、2	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
1、0	DIAGST[1:0]	00	R	自己診断ステータス 自己診断の変換電圧を示します。自己診断の詳細は「19.4.3 A/D コントロール拡張レジスタ 0、1 (ADCER0、1)」を参照してください。 00: パワーオンから 1 度も自己診断を実施していないことを示します。 01: AVref×0 の電圧値の自己診断を実施したことを示します。 10: AVref×1/2 の電圧値の自己診断を実施したことを示します。 11: AVref×1 の電圧値の自己診断を実施したことを示します。

● 右詰めフォーマットに設定したとき

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	DIAGST[1:0]	—	—	AD11	AD10	AD9	AD8	AD7	AD6	AD5	AD4	AD3	AD2	AD1	AD0	
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15、14	DIAGST[1:0]	00	R	自己診断ステータス 自己診断の変換電圧を示します。自己診断の詳細は「19.4.3 A/D コントロール拡張レジスタ 0、1 (ADCER0、1)」を参照してください。 00: パワーオンから 1 度も自己診断を実施していないことを示します。 01: AVref×0 の電圧値の自己診断を実施したことを示します。 10: AVref×1/2 の電圧値の自己診断を実施したことを示します。 11: AVref×1 の電圧値の自己診断を実施したことを示します。
13、12	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
11～0	AD11～AD0	すべて 0	R	12 ビットの A/D 変換値を示します。

19.4.2 A/D コントロールレジスタ 0、1 (ADCSR0、1)

ADCSR0、1 は、スキャン変換モードなどの設定を行う 8 ビットの読み出し/書き込み可能なレジスタです。ADCSR0、1 は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイモード時に H'00 に初期化されます。

ビット :	7	6	5	4	3	2	1	0
	ADST	ADCS	—	ADIE	—	—	TRGE	EXTRG
初期値 :	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W :	R/W	R/W	R	R/W	R	R	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
7	ADST	0	R/W	<p>スキャン変換開始</p> <p>スキャン変換の開始/停止を制御します。</p> <p>ADST を 0 の状態から 1 にセットすると、ADST の立ち上がりエッジを検出してスキャン変換を開始します。ADST を 1 の状態から 0 にクリアすると、ADST の立ち下がりエッジを検出してスキャン変換を停止します。また、ADST は割り込み変換には影響しません。スキャン変換が実施されていることを確認するには、ADREF の ADSCACT ビットを読み出してください。</p> <p style="margin-left: 20px;">0 : スキャン変換停止 1 : スキャン変換開始</p>
6	ADCS	0	R/W	<p>スキャン変換モード選択</p> <p>スキャン変換のモードを選択します。なお、誤動作を防ぐため、ADCS の切り替えは、必ず ADREF の ADSCACT ビットが 0 の状態で行ってください。</p> <p>1 サイクルスキャンモードは、スキャンを 1 回実施し、終了するとスキャン変換を停止します。連続スキャンモードは、無制限にスキャンを繰り返します。ADST ビットが 1 の状態で 0 を書き込むとスキャン変換を停止することができます。スキャン変換は、ADC_A は AN0~27 の若いチャネル順に変換し、ADC_B は AN40~48 の若いチャネル順に変換を実施します。連続スキャンモードの場合、選択されたすべてのチャネルの変換が終了すると、最初のチャネルに戻ります。</p> <p style="margin-left: 20px;">0 : 1 サイクルスキャンモード 1 : 連続スキャンモード</p>
5	—	0	R	<p>リザーブビット</p> <p>読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。</p>
4	ADIE	0	R/W	<p>インタラプトイネーブル</p> <p>A/D スキャン変換終了割り込み (ADI) の発生を許可/禁止します。なお、誤動作を防ぐため、ADIE の切り替えは、必ず ADREF の ADSCACT ビットが 0 の状態で行ってください。</p> <p>スキャン変換の各スキャンが終了して ADREF の ADF ビットが 1 にセットされたとき、ADIE が 1 にセットされていると ADI 割り込みが発生します。ADF を 0 にクリアするか、ADIE を 0 にクリアすることで、ADI 割り込みのクリアが可能です。</p> <p style="margin-left: 20px;">0 : スキャン終了後の ADI 割り込み発生禁止 1 : スキャン終了後の ADI 割り込み発生許可</p>

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
3, 2	—	すべて0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。
1	TRGE	0	R/W	トリガイネーブル 外部トリガ (ADTGR_A, B) あるいは ATU-III のタイマトリガ (ADC_A はタイマ G4, ADC_B はタイマ G5) によるスキャン変換の起動を許可/禁止します。 0: 外部トリガまたは ATU-III のタイマトリガによるスキャン変換の起動を禁止 1: 外部トリガまたは ATU-III のタイマトリガによるスキャン変換の起動を許可
0	EXTRG	0	R/W	トリガ選択 スキャン変換のトリガソースを選択します。トリガソースとして外部トリガ (ADTGR_A, B) あるいは ATU-III のタイマトリガ (ADC_A はタイマ G4, ADC_B はタイマ G5) のどちらかを選択します。 0: ATU-III のタイマトリガによるスキャン変換の起動を行います。 1: 外部トリガによるスキャン変換の起動を行います。

- 【注】
- ADC_A と ADC_B のスキャン変換を同時に起動する方法。
ADC_A, ADC_B の TRGE に 1, EXTRG に 0 を設定し、ATU-III のタイマ G4 トリガおよびタイマ G5 トリガを同時に入れると、ADC_A, ADC_B のスキャン変換を同時に起動することができます。タイマ G の詳しい設定は、「第 13 章 アドバンスドタイムユニット-III (ATU-III)」を参照してください。
 - ADC_A と ADC_B のスキャン変換の開始タイミングを変えて起動する方法。
ADC_A, ADC_B の TRGE に 1, EXTRG に 0 を設定し、ATU-III のタイマ G4 トリガとタイマ G5 トリガのタイミングの与え方を変えると、ADC_A, ADC_B の開始タイミングを変えて起動することができます。タイマ G の詳しい設定は、「第 13 章 アドバンスドタイムユニット-III (ATU-III)」を参照してください。
 - 割り込み変換とスキャン変換を同時に起動する方法。
ADC_B の TRGE に 1, EXTRG に 0 を設定し、A/D 割り込みトリガイネーブルレジスタ 1 (ADTRE1) の ADTRGE40 ビットに 1, ADTRGE44 ビットに 1 を設定して、ATU-III のタイマ G5 トリガとタイマ G0 トリガを同時に入れると、ADC_B は AN40 の割り込み変換→AN44 の割り込み変換→スキャン変換の順番に実施します。スキャン変換のみ実施したい場合は、ADTRGE40, ADTRGE44 のどちらも 0 にしてください。AN40, 44 のどちらか 1 チャンネルのみの割り込み変換も実施することができます。ATU-III のタイマ G4 トリガとタイマ G1 トリガで ADC_A のスキャン変換、AN0 の割り込み変換の組み合わせでも同様な動作ができます。
 - 外部トリガでスキャン変換を起動する方法。
外部トリガ端子 (ADTRG_A, ADTRG_B) にハイレベルを入力した状態で、TRGE に 1, EXTRG に 1 を設定します。その後、ADTRG_A または ADTRG_B にローレベルのパルスを入力すると、ADC_A または ADC_B はパルスの立ち上がりエッジを検出し、スキャン変換を開始します。このときのローパルス幅は、1.5Pφクロック以上であることが必要です。
 - ADST ビット、外部トリガ、ATU-III のタイマトリガによらずスキャン変換の起動は、A/D 変換ステータスレジスタ (ADREF) の ADSCACT ビットが 0 の状態であるときに有効です。スキャン変換の起動要因は保持されません。
 - ATU-III のタイマトリガによるスキャン変換の起動周期および割り込み変換の起動周期について、スキャン変換時間 (例えば 1 チャンネルを変換する場合、CKS ビット=0 のとき 56 ステート、CKS ビット=1 のとき 28 ステート) および割り込み変換時間 (例えば 1 トリガソースで 1 チャンネルを変換する場合、CKS ビット=0 のとき 50 ステート、CKS ビット=1 のとき 25 ステート) を超えるように ATU-III のタイマトリガ周期を設定してください。タイマトリガ周期の詳しい設定は、「第 13 章 アドバンスドタイムユニット-III (ATU-III)」を参照してください。

19.4.3 A/D コントロール拡張レジスタ 0、1 (ADCER0、1)

ADCER0、1は、自己診断モードなどの設定をする16ビットの読み出し/書き込み可能なレジスタです。ADCER0、1は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイモード時にH'0000に初期化されます。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	ADRFMT	—	—	—	DIAGM	DIAGLD	DIAGVAL[1:0]	CKS	—	—	—	—	—	—	—	ITTRGS*
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R	R	R	R	R	R	R/W

【注】 * ADCER0 (ADC_A) のみにあります。ADCER1 (ADC_B) ではリザーブビットとなります。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15	ADRFMT	0	R/W	A/D データレジスタフォーマット選択 A/D 変換値加算モードが選択されているチャンネルに対応する A/D データレジスタのフォーマットは、ADRFMT ビットの設定によらず左詰めに固定です。A/D データレジスタのフォーマットの詳細は、「19.4.1 A/D データレジスタ 0~27、40~48、Diag0、Diag1 (ADRD0、1) 」を参照してください。 0 : A/D データレジスタのフォーマットを左詰めにします 1 : A/D データレジスタのフォーマットを右詰めにします
14~12	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
11	DIAGM	0	R/W	自己診断イネーブル 自己診断は、A/D 変換器 (ADC_A、ADC_B) の故障を検出するための機能です。内部で生成する AVref (AVrefh_A、AVrefh_B) ×0、AVref×1/2、AVref×1 の 3 つの電圧値を ADC_A、ADC_B で変換します。変換が終了すると A/D データレジスタ Diag0、1 (ADRD0、1) に変換した電圧の情報と変換値を格納します。その後、ソフトウェアで ADRD0、1 を読み出し、変換値が正常の範囲にある (正常) かない (異常) かを判断します。 自己診断は、スキャン変換にて最も若いチャンネルを変換する前に実施されます。一度の自己診断の実行で、3 つの電圧値のうち 1 つが変換され、3 つの電圧値は自己診断が実行されるたびに自動的にローテーションしていきます。自己診断の実行時間は、1 チャンネルの A/D 変換時間と同じです。 なお、誤動作を防ぐため、DIAGM の切り替えは、必ず ADREF の ADSCACT ビットが 0 の状態で行ってください。 0 : A/D 変換器の自己診断を実施しません 1 : A/D 変換器の自己診断を実施します

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
10	DIAGLD	0	R/W	<p>自己診断モード選択</p> <p>自己診断で変換する3つの電圧値をローテーションするか電圧値を固定するかを選択します。</p> <p>DIAGLD ビットを0に設定すると、AVref×0 → AVref×1/2 → AVref×1の順番に電圧値をローテーションして変換していきます。パワーオンリセットでAVref×0から自己診断を行った場合、スキャン変換が終了してもAVref×0に戻らず、再びスキャン変換を実施すると、前回の続きからローテーションします。</p> <p>DIAGLD ビットを1に設定すると、ADCERのDIAGVAL[1:0]ビットで選択した電圧に固定して変換します(自動ローテーションを行いません)。また、再度DIAGLD ビットを0に設定すると固定した電圧値からローテーションを開始します(ロード機能)。</p> <p>0: 自己診断は自動的にローテーションして実施します 1: 自己診断はDIAGVAL[1:0]の設定に固定して実施します</p>
9, 8	DIAGVAL[1:0]	00	R/W	<p>自己診断変換電圧選択</p> <p>詳しくはDIAGLD ビットの説明を参照してください。また、本ビットの値がB'00の状態ではDIAGLD ビットを1に設定して、自己診断を実施しないでください。</p> <p>00: リザーブ 01: AVref×0の電圧値の自己診断を実施します 10: AVref×1/2の電圧値の自己診断を実施します 11: AVref×1の電圧値の自己診断を実施します</p>
7	CKS	0	R/W	<p>クロック選択</p> <p>A/D変換時間を選択します。誤動作を防ぐためCKS ビットの切り替えは、必ずADREFのADSCACT ビットとADITACT ビットの値がどちらも0の状態で行ってください。</p> <p>0: A/D変換時間=50 ステート (Pφ換算) 1: A/D変換時間=25 ステート (Pφ換算) (周辺クロック2 逡倍設定時 設定禁止)</p>
6~1	—	すべて0	R	<p>リザーブビット</p> <p>読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。</p>
0	ITTRGS*	0	R/W	<p>割り込み変換トリガソース選択拡張</p> <p>AN0の割り込み変換トリガソースをATU-IIIのタイマD00AにするかATU-IIIのタイマG1にするかを選択します。ITTRGS ビットは、ADTREG0レジスタのADTRGE0 ビットが1、ADTRS0レジスタのADTRS0 ビットが0のときのみ有効です。</p> <p>0: ATU-IIIのタイマD00A トリガによるAN0の割り込み変換の起動を行います 1: ATU-IIIのタイマG1 トリガによるAN0の割り込み変換の起動を行います</p>

【注】 * ADCER0 (ADC_A) のみにあります。ADCER1 (ADC_B) ではリザーブビットとなります。

19.4.4 A/D チャンネル選択レジスタ 0、1、3 (ADANS0、1、3)

ADANS0、1、3 は、スキャン変換で変換するチャンネルを選択するレジスタです。ADANS0、1、3 は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイモード時に H'0000 に初期化されます。

誤動作を防ぐために、ADANS レジスタの変更は、必ず ADREF の ADSCACT ビットが 0 の状態で実施してください。

【注】 ADANS0、1、3 は、スキャン変換のチャンネルを選択するレジスタであり、割り込み変換のチャンネルの選択とは関係がありません。割り込み変換のチャンネルの選択は、A/D 割り込みトリガインエーブルレジスタ (ADTRE) で選択します。また、ADANS レジスタと ADTRE レジスタの両方で選択されたチャンネルは、スキャン変換と割り込み変換の両方で実施されます。さらに、ADTRE レジスタでのみ選択されたチャンネルは、スキャン変換の対象から外れ、割り込み変換でのみ実施されます。

• ADANS0

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	ANS15	ANS14	ANS13	ANS12	ANS11	ANS10	ANS9	ANS8	ANS7	ANS6	ANS5	ANS4	ANS3	ANS2	ANS1	ANS0
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~0	ANS15~ ANS0	すべて 0	R/W	ANSn ビットを 1 に選択することにより ANn が選択されます。ANn と ANSn ビットの対応については表 19.2 を参照してください。 0 : ANn の非選択 1 : ANn の選択

【注】 n=0~15

• ADANS1

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	ANS27	ANS26	ANS25	ANS24	ANS23	ANS22	ANS21	ANS20	ANS19	ANS18	ANS17	ANS16
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~12	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
11~0	ANS27~ ANS16	すべて 0	R/W	ANSn ビットを 1 に選択することにより ANn が選択されます。ANn と ANSn ビットの対応については表 19.2 を参照してください。 0 : ANn の非選択 1 : ANn の選択

【注】 n=16~27

• ADANS3

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	ANS48	ANS47	ANS46	ANS45	ANS44	ANS43	ANS42	ANS41	ANS40
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R	R	R	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~9	—	すべて0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。
8~0	ANS48~ ANS40	すべて0	R/W	ANSn ビットを1に選択することにより ANn が選択されます。ANn と ANSn ビットの対応については表 19.2 を参照してください。 0: ANn の非選択 1: ANn の選択

【注】 n=40~48

19.4.5 A/D 変換ステータスレジスタ 0、1 (ADREF0、1)

ADREF0、1 は、A/D 変換器の状態を示すレジスタです。ADREF0、1 は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイモード時に H'00 に初期化されます。

ビット:	7	6	5	4	3	2	1	0
	ADSCACT	ADITACT	—	—	—	—	—	ADF
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R	R	R	R	R	R/(W)*

【注】 * フラグをクリアするため、1を読み出した後に0を書き込むことのみ可能です。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
7	ADSCACT	0	R	スキャン変換ステータス スキャン変換がアイドル状態か変換中かを示します。本ビットは読み出し専用ビットですので、書き込みはできません。 スキャン変換中に割り込み変換が起動された場合、スキャン変換を中断し、割り込み変換を優先的に実行しますが、スキャン変換のすべての処理が終了するまで ADSCACT は 1 を維持し、0 にクリアされません。 0: スキャン変換がアイドル状態であることを示します 1: スキャン変換中であることを示します
6	ADITACT	0	R	割り込み変換ステータス 割り込み変換がアイドル状態か変換中かを示します。本ビットは読み出し専用ビットですので、書き込みはできません。 ADSCACT ビットと ADITACT ビットの状態と ADC_A、ADC_B の状態を把握することができます。詳細については表 19.4 を参照してください。 0: 割り込み変換がアイドル状態であることを示します 1: 割り込み変換中であることを示します

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
5~1	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
0	ADF	0	R/(W)*	<p>1 スキャン終了フラグ</p> <p>スキャン変換でスキャンが終了する（選択されたすべてのチャンネルを一通り変換する）たびに 1 がセットされます。なお、ADF ビットに 1 を書き込むことはできません。</p> <p>ADF ビットに 1 がセットされたときにスキャン変換終了割り込みか DMAC への DMA 転送要求のどちらかを発生することができます。これにより A/D データレジスタを RAM などに退避するといった処理を、ソフトウェアまたは DMAC で実現することができます。</p> <p>0 : スキャン変換がアイドル状態であることを示します</p> <p>[クリア条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • ADF=1 の状態を読み出した後、0 を書き込んだとき • ADI により DMAC が起動されたとき <p>1 : 1 スキャンが終了し、選択されたすべての ANn の A/D 変換値が ADRn に転送されたことを示します</p> <p>[セット条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • スキャン変換の各スキャンにおいて、すべてのアナログ変換が終了したとき

表 19.4 ADSCACT ビットと ADITACT ビットの設定による ADC_A と ADC_B の状態についての関係

ADSCACT	ADITACT	ADC_A と ADC_B の状態	スキャン変換要因	割り込み変換要因
0	0	アイドル状態	なし	なし
	1	割り込み変換	なし	あり
1	0	スキャン変換	あり	なし
	1	割り込み変換	あり	あり

19.4.6 A/D 変換値加算モード選択レジスタ 0、1 (ADADS0、1)

ADADS0、1 は、A/D 変換を連続 2~4 回実施して加算 (積算) する ANn (n=0~7、40~47) を選択するレジスタです。ADADS0、1 は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイモード時に H'00 に初期化されません。

- ADADS0

ビット :	7	6	5	4	3	2	1	0
	ADS7	ADS6	ADS5	ADS4	ADS3	ADS2	ADS1	ADS0
初期値 :	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W :	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7~0	ADS7~ ADS0	すべて 0	R/W	<p>A/D 変換値加算チャンネル選択</p> <p>ADS_n ビットを 1 にセットすると、AN_n を連続 2~4 回変換し加算 (積算) した値を A/D データレジスタに返します。ADS_n が 0 の AN_n に関しては、通常の 1 回変換を実施し、A/D データレジスタに値を返します。また、スキャン変換および割り込み変換にかかわらず、ADS_n の設定により加算するかしないかが決定されます。誤動作を防ぐため ADS_n の切り替えは、必ず ADREF の ADSCACT ビットと ADITACT ビットの値がどちらも 0 の状態で実施してください。</p> <p>AN_n と ADS_n ビットの対応については表 19.2 を参照してください。加算回数の選択については、「19.4.7 A/D 変換値加算回数選択レジスタ 0、1 (ADADC0、1)」の説明を参照してください。</p> <p>0 : A/D 変換値加算モード非選択 1 : A/D 変換値 2~4 回連続加算モード選択</p>

【注】 n=0~7

- ADADS1

ビット :	7	6	5	4	3	2	1	0
	ADS47	ADS46	ADS45	ADS44	ADS43	ADS42	ADS41	ADS40
初期値 :	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W :	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7~0	ADS47~ ADS40	すべて 0	R/W	<p>A/D 変換値加算チャンネル選択</p> <p>ADS_n ビットを 1 にセットすると、AN_n を連続 2~4 回変換し加算（積算）した値を A/D データレジスタに返します。ADS_n が 0 の AN_n に関しては、通常の 1 回変換を実施し、A/D データレジスタに値を返します。また、スキャン変換および割り込み変換にかかわらず、ADS_n の設定により加算するかしないかが決定されます。誤動作を防ぐため ADS_n の切り替えは、必ず ADREF の ADSCACT ビットと ADITACT ビットの値がどちらも 0 の状態で実施してください。</p> <p>AN_n と ADS_n ビットの対応については表 19.2 を参照してください。加算回数の選択については、「19.4.7 A/D 変換値加算回数選択レジスタ 0、1（ADADC0、1）」の説明を参照してください。</p> <p>0 : A/D 変換値加算モード非選択 1 : A/D 変換値 2~4 回連続加算モード選択</p>

【注】 n=40~47

図 19.2 に ADS42 ビットと ADS46 ビットを 1 にセットしたときのスキャン変換シーケンスを示します。加算回数は 4 回に設定、AN40~47 が選択されているものとします。AN40 から変換を開始します。AN42 の変換は、4 回連続変換し、加算（積算）値をデータレジスタに返します。その後、AN43 の変換を開始します。

スキャン変換中に割り込み変換が要求された場合は、スキャン変換を途中で中断し、割り込み変換要求のチャンネルの変換を開始します。割り込み変換が終了すると、中断されたスキャン変換で A/D 変換中であったチャンネルから、スキャン変換を再開します。ただし、中断されたチャンネル（AN_n）の ADS_n ビットが 1 に設定されていた場合、2~4 回の途中まで A/D 変換されていたとしても 1 回目の変換から実施なおします。

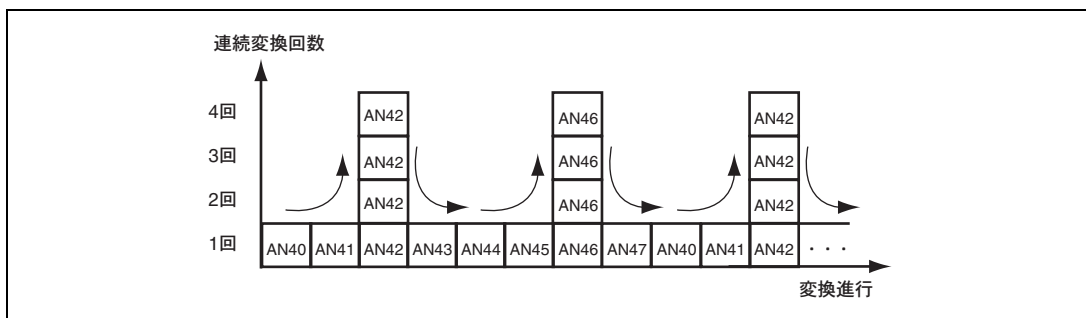


図 19.2 ADS42 ビットと ADS46 ビットを 1 にセットしたときのスキャン変換シーケンス

19.4.7 A/D変換値加算回数選択レジスタ 0、1 (ADADC0、1)

ADADC0、1は、A/D変換値加算モードが選択されたチャンネルに対して加算回数を設定するレジスタです。
ADADC0、1は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイモード時にH'00に初期化されます。

ビット :	7	6	5	4	3	2	1	0
	-	-	-	-	-	-	ADC[1:0]	
初期値 :	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W :	R	R	R	R	R	R	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7~2	-	すべて0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。
1、0	ADC[1:0]	00	R/W	加算回数選択 A/D変換値加算モードでの加算回数を選択します。ただし、A/D変換値加算モードが選択されていないチャンネルのA/D変換では、本ビットの設定は無効です。 また、誤動作を防ぐため、本ビットの切り替えは、必ずADREFのADSCACTビットとADITACTビットの値がどちらも0の状態を実施してください。 00 : 1回変換 (通常の変換と同じ) 01 : 2回変換 10 : 3回変換 11 : 4回変換

19.4.8 A/D 割り込みトリガイネーブルレジスタ 0、1 (ADTRE0、1)

ADTRE0、1 は、AN0～15、40～47 に対しての割り込み変換要求を禁止／許可を設定するレジスタです。割り込み変換を許可しているチャンネルは、対応した割り込み変換要求が入ると割り込み変換されます。パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイモード時に、ADTRE0 は H'0000、ADTRE1 は H'00 に初期化されます。

• ADTRE0

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	ADTRGE ₁₅	ADTRGE ₁₄	ADTRGE ₁₃	ADTRGE ₁₂	ADTRGE ₁₁	ADTRGE ₁₀	ADTRGE ₉	ADTRGE ₈	ADTRGE ₇	ADTRGE ₆	ADTRGE ₅	ADTRGE ₄	ADTRGE ₃	ADTRGE ₂	ADTRGE ₁	ADTRGE ₀
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15～0	ADTRGE15 ～ ADTRGE0	すべて 0	R/W	割り込み変換要求イネーブル ADTRGE _n ビットを 1 にセットすると、そのビットに対応した AN _n の割り込み変換要求を許可します。ADTRGE _n ビットと AN _n および割り込み要求トリガソースの対応については表 19.2 を参照してください。 0 : AN _n に対して ATU-III のタイマまたはソフトトリガ (ADSTRG _n) からの割り込み変換要求禁止 1 : AN _n に対して ATU-III のタイマまたはソフトトリガ (ADSTRG _n) からの割り込み変換要求許可

【注】 n=0～15

- ADTRE1

ビット :	7	6	5	4	3	2	1	0
	ADTRGE 47	ADTRGE 46	ADTRGE 45	ADTRGE 44	ADTRGE 43	ADTRGE 42	ADTRGE 41	ADTRGE 40
初期値 :	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W :	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7~0	ADTRGE47 ~ ADTRGE40	すべて 0	R/W	<p>割り込み変換要求イネーブル</p> <p>ADTRGE_n ビットを 1 にセットすると、そのビットに対応した AN_n の割り込み変換要求を許可します。ADTRGE_n ビットと AN_n および割り込み要求トリガソースの対応については表 19.2 を参照してください。</p> <p>ADTRE1 の ADTRGE40 が 1、ADTRGE44 が 1 に設定され、さらに割り込み要求が ATU-III のタイマ G0 に設定されているときにタイマ G0 が入力された場合は、AN40 を変換した後に AN44 の変換を行います。タイマ G1 で AN41 と AN45、タイマ G2 で AN42 と AN46、タイマ G3 で AN43 と AN47 の割り込み変換も同様な動作ができます。</p> <p>0 : AN_n に対して ATU-III のタイマまたはソフトトリガ (ADSTRG_n) からの割り込み変換要求禁止</p> <p>1 : AN_n に対して ATU-III のタイマまたはソフトトリガ (ADSTRG_n) からの割り込み変換要求許可</p>

【注】 n=40~47

19.4.9 A/D 割り込みトリガソース選択レジスタ 0、1 (ADTRS0、1)

ADTRS0、1 は、割り込み変換のトリガソースを選択するレジスタです。トリガソースとして、ATU-III のタイマトリガまたは ADSTRG0、1 レジスタのライトによるソフトトリガのどちらかを選択できます。パワーオンセットおよびハードウェアスタンバイモード時に、ADTRS0 は H'0000、ADTRS1 は H'00 に初期化されます。

• ADTRS0

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	ADTRS15	ADTRS14	ADTRS13	ADTRS12	ADTRS11	ADTRS10	ADTRS9	ADTRS8	ADTRS7	ADTRS6	ADTRS5	ADTRS4	ADTRS3	ADTRS2	ADTRS1	ADTRS0
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~1	ADTRS15 ~ ADTRS1	すべて 0	R/W	<p>割り込み変換トリガソース選択</p> <p>ADTRS_n ビットを 0 にセットし、さらに A/D 割り込みトリガイネーブルレジスタの ADTR_{En} ビットを 1 にしたときは、ATU-III のタイマトリガが入るとエッジを検出して AN_n の割り込み変換を開始します。ADTRS_n ビットを 1 にセットしたときは、A/D 割り込みソフトトリガレジスタの ADSTRG_n ビットに 1 をライトするとエッジを検出して AN_n の割り込み変換を開始します。ADTRS_n ビットと AN_n および割り込み要求トリガソースの対応は、表 19.2 を参照してください。</p> <p>0 : AN_n の割り込み変換要求として ATU-III のタイマ D を選択</p> <p>1 : AN_n の割り込み変換要求としてソフトトリガ (ADSTRG_n) を選択</p>
0	ADTRS0	0	R/W	<p>割り込み変換トリガソース選択</p> <p>AN0 に関しては、ATU-III のタイマトリガとしてタイマ D00A とタイマ G1 があり、ADTRS0 ビットを 0 に、ADCER0 の ITTRGS ビットを 0 にそれぞれ設定すると、タイマ D00A が割り込み変換要求トリガに選択され、ADTRS0 ビットを 0 に、ITTRGS ビットを 1 にそれぞれ設定すると、タイマ G1 が割り込み変換要求トリガに選択されます。</p> <p>0 : AN0 の割り込み変換要求として ATU-III のタイマ D00A またはタイマ G1 を選択</p> <p>1 : AN0 の割り込み変換要求としてソフトトリガ (ADSTRG0) を選択</p>

【注】 n=1~15

- ADTRS1

ビット :	7	6	5	4	3	2	1	0
	ADTRS47	ADTRS46	ADTRS45	ADTRS44	ADTRS43	ADTRS42	ADTRS41	ADTRS40
初期値 :	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W :	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7~0	ADTRS47 ~ ADTRS40	すべて 0	R/W	<p>割り込み変換トリガソース選択</p> <p>ADTRS_n ビットを 0 にセットし、さらに A/D 割り込みトリガイネーブルレジスタの ADTRE_n ビットを 1 にしたときは、ATU-III のタイマトリガが入るとエッジを検出して AN_n の割り込み変換を開始します。ADTRS_n ビットを 1 にセットしたときは、A/D 割り込みソフトトリガレジスタの ADSTRG_n ビットに 1 をライトするとエッジを検出して AN_n の割り込み変換を開始します。ADTRS_n ビットと AN_n および割り込み要求トリガソースの対応は、表 19.2 を参照してください。</p> <p>0 : AN_n の割り込み変換要求として ATU-III のタイマ G を選択</p> <p>1 : AN_n の割り込み変換要求としてソフトトリガ (ADSTRG_n) を選択</p>

【注】 n=40~47

19.4.10 A/D 割り込みソフトトリガレジスタ 0、1 (ADSTRG0、1)

ADSTRG0、1 は、ソフトウェアで割り込み変換を起動するレジスタです。ADSTRG0、1 は書き込み専用のレジスタで、読み出すと常に 0 が読み出されます。

- ADSTRG0

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	ADSTRG ₁₅	ADSTRG ₁₄	ADSTRG ₁₃	ADSTRG ₁₂	ADSTRG ₁₁	ADSTRG ₁₀	ADSTRG ₉	ADSTRG ₈	ADSTRG ₇	ADSTRG ₆	ADSTRG ₅	ADSTRG ₄	ADSTRG ₃	ADSTRG ₂	ADSTRG ₁	ADSTRG ₀
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	W	W	W	W	W	W	W	W	W	W	W	W	W	W	W	W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~0	ADSTRG15 ~ ADSTRG0	すべて 0	W	<p>割り込み変換ソフトトリガ</p> <p>ANn に対応した A/D 割り込みトリガソース選択レジスタの ADTRSn ビットを 1 にセットし、さらに A/D 割り込みトリガイネーブルレジスタの ADTREN ビットを 1 にしたとき、ADSTRGn ビットに 1 をライトするとエッジを検出して ANn の割り込み変換を開始します。また、割り込み変換の要求をしない ANn には 0 をライトしてください。0 がライトされた ANn は何も影響されません。割り込み変換の要求を行うと内部回路でその要因を ANn 単位に保持します。要因のある ANn の割り込み変換が実施され終了すると ANn の要因をクリアします。したがって、一度 ADSTRGn に 1 をライトすると、その後 0 をライトしても ANn の要因はクリアされず、割り込み変換は実施されます。ただし、要因のある状態でさらに ADSTRGn に 1 をライトしても ANn の割り込み変換を 2 回実施するわけではありません。</p> <p>1 チャネルにつき 1 要因です。これは、ATU-III のタイマトリガの要求で割り込み変換を実施する場合も同様です。ADSTRGn と ANn の対応は、表 19.2 を参照してください。</p> <p>0: ANn に対して割り込み変換要求 (ソフトトリガ) なし 1: ANn に対して割り込み変換要求 (ソフトトリガ) あり</p>

【注】 n=0~15

- ADSTRG1

ビット :	7	6	5	4	3	2	1	0
	ADSTRG 47	ADSTRG 46	ADSTRG 45	ADSTRG 44	ADSTRG 43	ADSTRG 42	ADSTRG 41	ADSTRG 40
初期値 :	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W :	W	W	W	W	W	W	W	W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7~0	ADSTRG47 ~ ADSTRG40	すべて 0	W	<p>割り込み変換ソフトトリガ</p> <p>ANn に対応した A/D 割り込みトリガソース選択レジスタの ADTRSn ビットを 1 にセットし、さらに A/D 割り込みトリガイネーブルレジスタの ADTREN ビットを 1 にしたとき、ADSTRGn ビットに 1 をライトするとエッジを検出して ANn の割り込み変換を開始します。また、割り込み変換の要求をしない ANn には 0 をライトしてください。0 がライトされた ANn は何も影響されません。割り込み変換の要求を行うと内部回路でその要因を ANn 単位に保持します。要因のある ANn の割り込み変換が実施され終了すると ANn の要因をクリアします。したがって、一度 ADSTRGn に 1 をライトすると、その後 0 をライトしても ANn の要因はクリアされず、割り込み変換は実施されます。ただし、要因のある状態でさらに ADSTRGn に 1 をライトしても ANn の割り込み変換を 2 回実施するわけではありません。</p> <p>1 チャンネルにつき 1 要因です。これは、ATU-III のタイマトリガの要求で割り込み変換を実施する場合も同様です。ADSTRGn と ANn の対応は、表 19.2 を参照してください。</p> <p style="margin-left: 20px;">0 : ANn に対して割り込み変換要求 (ソフトトリガ) なし 1 : ANn に対して割り込み変換要求 (ソフトトリガ) あり</p>

【注】 n=40~47

19.4.11 A/D 割り込みトリガ処理終了フラグレジスタ 0、1 (ADTRF0、1)

ADTRF0、1 は、割り込み変換が終了したことを知らせるステータスレジスタです。割り込み変換が終了したら、そのチャンネル (ANn) 対応した ADTFn ビットを 1 にセットします。パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイモード時に、ADTRF0 は H'0000、ADTRF1 は H'00 に初期化されます。

• ADTRF0

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	ADTF15	ADTF14	ADTF13	ADTF12	ADTF11	ADTF10	ADTF9	ADTF8	ADTF7	ADTF6	ADTF5	ADTF4	ADTF3	ADTF2	ADTF1	ADTF0
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/(W)*	R/(W)*	R/(W)*	R/(W)*	R/(W)*	R/(W)*	R/(W)*	R/(W)*	R/(W)*	R/(W)*	R/(W)*	R/(W)*	R/(W)*	R/(W)*	R/(W)*	R/(W)*

【注】 * フラグをクリアするため、1を読み出した後に0を書き込むことのみ可能です。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~1	ADTF15 ~ ADTF1	すべて 0	R/(W)*	<p>割り込み変換終了フラグ</p> <p>ADTFn は、割り込み変換が終了したことを示すステータスフラグです。ADTFn に 1 を書き込むことはできません。ADTFn に 1 がセットされたときに ANn の割り込み変換終了割り込み (ADIDn) を発生することができます。ADTFn と ANn の対応については表 19.2 を参照してください。</p> <p>0 : ANn の割り込み変換がアイドル状態であることを示します。</p> <p>[クリア条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> ADTFn=1 の状態を読み出した後、0 を書き込んだとき 1 : ANn の割り込み変換が終了し、A/D 変換値が ADRn に転送されたことを示します。 <p>[セット条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> ANn の割り込み変換が終了したとき
0	ADTF0	0	R/(W)*	<p>割り込み変換終了フラグ</p> <p>ADTF0 は、割り込み変換が終了したことを示すステータスフラグです。ADTF0 に 1 を書き込むことはできません。ADTF0 に 1 がセットされたときに AN0 の割り込み変換終了割り込み (ADID0) を発生することができます。ADTF0 と AN0 の対応については表 19.2 を参照してください。</p> <p>0 : AN0 の割り込み変換がアイドル状態であることを示します。</p> <p>[クリア条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> ADTF0=1 の状態を読み出した後、0 を書き込んだとき ADID0 により A-DMAC が起動されたとき 1 : AN0 の割り込み変換が終了し、A/D 変換値が ADR0 に転送されたことを示します。 <p>[セット条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> AN0 の割り込み変換が終了したとき

【注】 1. ADTFn を 0 にクリアしなくても ANn の割り込み変換要求は受け付けます。A/D データレジスタ n の退避タイミングは、注意してください。

2. n=1~15

• ADTRF1

ビット: 7 6 5 4 3 2 1 0

ADTF47	ADTF46	ADTF45	ADTF44	ADTF43	ADTF42	ADTF41	ADTF40
--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------

初期値: 0 0 0 0 0 0 0 0
 R/W: R/(W)*R/(W)*R/(W)*R/(W)*R/(W)*R/(W)*R/(W)*R/(W)*

【注】 * フラグをクリアするため、1を読み出した後に0を書き込むことのみ可能です。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7~0	ADTF47 ~ ADTF40	すべて 0	R/(W)*	<p>割り込み変換終了フラグ</p> <p>ADTFn は、割り込み変換が終了したことを示すステータスフラグです。ADTFn に 1 を書き込むことはできません。ADTFn に 1 がセットされたときに ANn の割り込み変換終了割り込み (ADIDn) を発生することができます。また、ANn は、DMAC の DMA 転送要求を発生することができます。ADTFn と ANn の対応については表 19.2 を参照してください。</p> <p>0: ANn の割り込み変換がアイドル状態であることを示します。</p> <p>[クリア条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • ADTFn=1 の状態を読み出した後、0 を書き込んだとき • ADIDn により DMAC が起動されたとき <p>1: ANn の割り込み変換が終了し、A/D 変換値が ADRn に転送されたことを示します。</p> <p>[セット条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • ANn の割り込み変換が終了したとき

- 【注】 1. ADTFn を 0 にクリアしなくても ANn の割り込み変換要求は受け付けます。A/D データレジスタ n の回避タイミングは、注意してください。
2. n=40~47

19.4.12 A/D 割り込みトリガ処理終了割り込みイネーブルレジスタ 0、1 (ADTRD0、1)

ADTRD0、1 は、ADTRF の ADTF ビットが 1 にセットされたときに A/D 割り込み変換終了割り込みの発生を禁止/許可をするレジスタです。パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイモード時に、ADTRD0 は H'0000、ADTRD1 は H'00 に初期化されます。

- ADTRD0

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	ADIDE15	ADIDE14	ADIDE13	ADIDE12	ADIDE11	ADIDE10	ADIDE9	ADIDE8	ADIDE7	ADIDE6	ADIDE5	ADIDE4	ADIDE3	ADIDE2	ADIDE1	ADIDE0
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~1	ADIDE15 ~ADIDE1	すべて 0	R/W	<p>割り込み変換終了割り込みイネーブル</p> <p>ADIDE_n ビットは、AN_n の割り込み変換終了割り込み (ADID_n) の発生を許可/禁止するビットです。なお、誤動作を防ぐため、ADIDE_n の切り替えは、必ず ADREF0 の ADITACT ビットが 0 の状態で行ってください。AN_n の割り込み変換が終了して、割り込み変換終了フラグレジスタの ADTF_n ビットが 1 にセットされたとき、ADIDE_n が 1 にセットされていると ADID_n 信号が発生します。ADTF_n を 0 にクリアするか、ADIDE_n を 0 にクリアすることで、ADID_n 信号のクリアが可能です。</p> <p>ADIDE_n と AN_n および ADID_n の対応は、表 19.2 を参照してください。</p> <p>0 : AN_n の割り込み変換終了後の割り込み要求 (ADID_n) を禁止 1 : AN_n の割り込み変換終了後の割り込み要求 (ADID_n) を許可</p>
0	ADIDE0	0	R/W	<p>割り込み変換終了割り込みイネーブル</p> <p>ADIDE0 ビットは、AN0 の割り込み変換終了割り込み (ADID0) の発生を許可/禁止するビットです。なお、誤動作を防ぐため、ADIDE0 の切り替えは、必ず ADREF0 の ADITACT ビットが 0 の状態で行ってください。AN0 の割り込み変換が終了して、割り込み変換終了フラグレジスタの ADTF0 ビットが 1 にセットされたとき、ADIDE0 が 1 にセットされていると ADID0 信号が発生します。ADTF0 を 0 にクリアするか、ADIDE0 を 0 にクリアすることで、ADID0 信号のクリアが可能です。</p> <p>さらに、AN0 は ADID0 で A-DMAC による DMA 転送を実行することができます。ADIDE0 と AN0 および ADID0 の対応は、表 19.2 を参照してください。</p> <p>0 : AN0 の割り込み変換終了後の割り込み要求 (ADID0) または DMA 転送要求を禁止 1 : AN0 の割り込み変換終了後の割り込み要求 (ADID0) または DMA 転送要求を許可</p>

【注】 n=1~15

- ADTRD1

ビット :	7	6	5	4	3	2	1	0
	ADIDE47	ADIDE46	ADIDE45	ADIDE44	ADIDE43	ADIDE42	ADIDE41	ADIDE40
初期値 :	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W :	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7~0	ADIDE47 ~ ADIDE40	すべて 0	R/W	<p>割り込み変換終了割り込みイネーブル</p> <p>ADIDEn ビットは、ANn の割り込み変換終了割り込み (ADIDn) の発生を許可/禁止するビットです。なお、誤動作を防ぐため、ADIDEn の切り替えは、必ず ADREF1 の ADITACT ビットが 0 の状態で行ってください。ANn の割り込み変換が終了して、割り込み変換終了フラグレジスタの ADTFn ビットが 1 にセットされたとき、ADIDEn が 1 にセットされていると ADIDn 信号が発生します。ADTFn を 0 にクリアするか、ADIDEn を 0 にクリアすることで、ADIDn 信号のクリアが可能です。</p> <p>さらに、AN40~47 は ADID40~47 で DMAC による DMA 転送を実行することができます。ADIDEn と ANn および ADIDn の対応は、表 19.2 を参照してください。</p> <p>0 : ANn の割り込み変換終了後の割り込み要求 (ADIDn) または DMA 転送要求を禁止</p> <p>1 : ANn の割り込み変換終了後の割り込み要求 (ADIDn) または DMA 転送要求を許可</p>

【注】 n=40~47

19.4.13 CPU とのインタフェース

A/D データレジスタは 16 ビットのレジスタであり、CPU と結合している周辺バスも 16 ビット幅です。A/D データレジスタの読み出しは、必ずワード単位で行ってください。バイト単位で上位バイト/下位バイトの 2 回に分けて読み出すことにより、1 回目に読み出した A/D 変換値と 2 回目に読み出した A/D 変換値が変化するのを避けるため、バイト単位の読み出しは行わないでください。

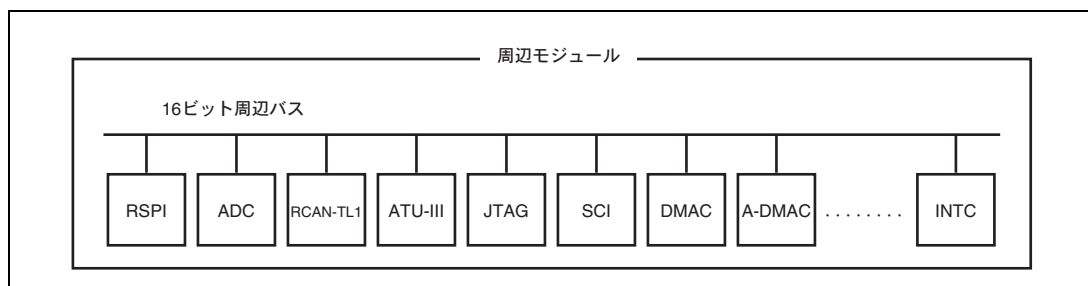


図 19.3 CPU と A/D 変換器 (ADC) のインタフェース

19.5 動作説明

19.5.1 スキャン変換動作

スキャン変換の動作モードには、1 サイクルスキャンモードと連続スキャンモードの2種類の動作モードがあります。1 サイクルスキャンモードは、指定した1チャンネル以上のスキャンを1回実施して終了するモードです。連続スキャンモードは指定した1チャンネル以上のスキャンをソフトウェアでADSTビットを0(1の状態から0)にクリアするまで無制限に繰り返し実施するモードです。

1 サイクルスキャンモードの選択は、ADCSRのADCSビットを0にセットすることにより行います。連続スキャンモードの選択は、ADCSビットを1にセットすることにより行います。スキャン変換は、ADC_AはAN0~27の若いチャンネル順、ADC_BはAN40~48の若いチャンネル順に実施されます。

1 サイクルスキャンの場合、選択したすべてのチャンネルを1通りA/D変換(スキャン)するとADREFレジスタのADFビットを1にセット、ADREFレジスタのADSCACTビットを0にクリアしてスキャン変換を終了します。連続スキャンの場合、選択したすべてのチャンネルを1通りA/D変換(スキャン)するとADFビットを1にセットし、さらにスキャン変換を続けます。ADFビットは、各スキャンが終了するたびに1にセットされます。

スキャン変換を停止する場合、ADSTビットが1の状態のときに0を書き込んでください。ADSTビットが0の状態でも0を書き込んでも、A/D変換器には何も影響しません。同様に、ADSTビットが1の状態のときに1を書き込んでも、A/D変換器には何も影響しません。したがって、ADSTビット以外のスキャン変換要求でスキャン変換を起動し、途中でスキャン変換を停止させる場合は、一度ADSTビットに1を書き込んでから0を書き込んでください。

ADFビットが1にセットされたとき、ADCSRのADIEビットが1にセットされているとADI割り込み要求が発生します。ADFビットを0にクリアするときには、ADFビットが1の状態を読み出した後、0を書き込んでください。ただし、ADI割り込みでDMACを起動した場合には自動的に0にクリアされ、ADI割り込みもクリアされます。

19.5.2 1 サイクルスキャンモード

AN0、AN3、AN9を選択し、さらにADI0割り込みを許可し3チャンネルの1サイクルスキャンモードでスキャン変換を行う場合の動作例を次に示します。ADC_Bに関しても操作は同じです。

1. A/Dコントロールレジスタ0(ADCSR0)のADCSビットに0を、ADIEビットに1を設定します。
2. A/Dチャンネル選択レジスタ0(ADANS0)のANS0、ANS3、ANS9ビットにそれぞれ1を設定します。
3. A/Dコントロールレジスタ0(ADCSR0)のADSTビットに1をセットし、スキャン変換を開始します。すでにADSTビットが1にセットされている場合は、一度0にクリアしてから1をセットします。
4. スキャン変換が開始すると、ADSCACTビットが1にセットされます。次にAN0のA/D変換が開始されます。A/D変換が終了すると、A/D変換値をADR0に転送します。その後は、AN3→AN9の順番でAN0と同じように順次処理されていきます。

5. 設定したすべてのチャンネル (AN0、AN3、AN9) のA/D変換値がADR_nに転送されると、ADFビットが1にセットされます。このとき、ADIEビットが1に設定されているため、ADI0割り込みが発生します。また、ADSCACTビットは0にクリアされ、スキャン変換が終了します。
6. ADI0の割り込みルーチンが開始されます。割り込みルーチンでADFビットの1を読み出した後に0を書き込んでADI0をクリアします。次にADR0、ADR3、ADR9を読み出し、処理します。
7. ADI0の割り込みルーチンを終了します。

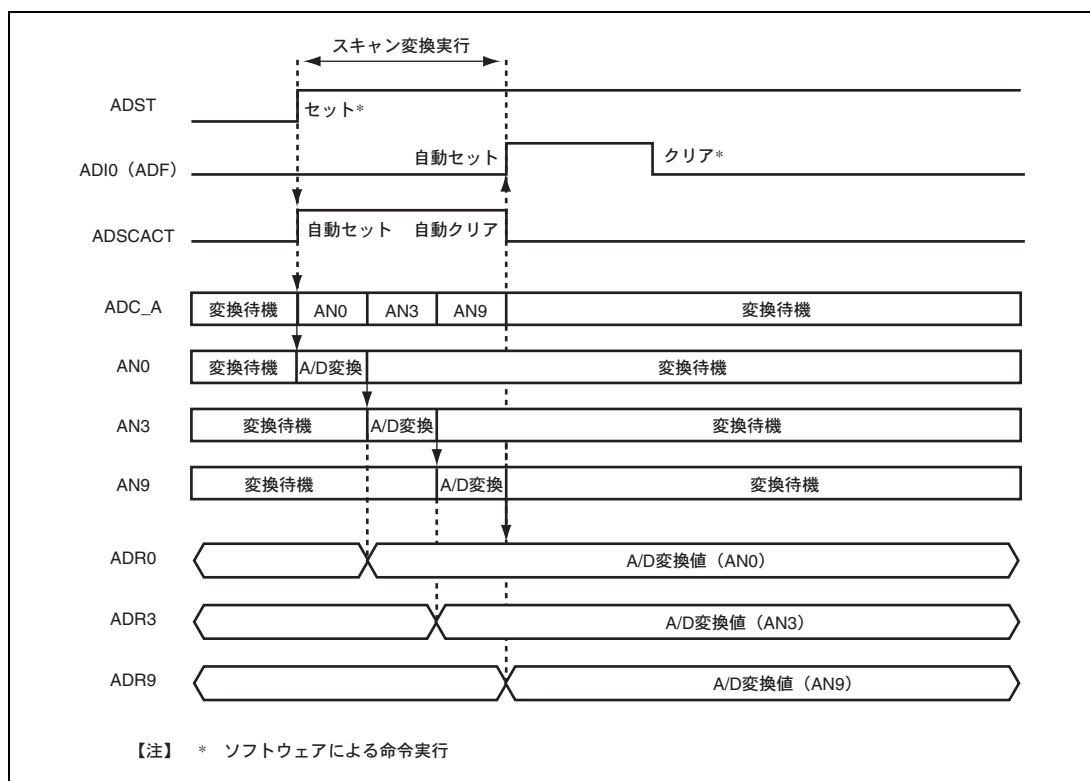


図 19.4 1 サイクルスキャンモードの動作例

19.5.3 連続スキャンモード

AN0、AN3、AN9 を選択し、さらに ADI0 割り込みを許可し、3 チャンネルの連続スキャンモードでスキャン変換を行う場合の動作例を次に示します。ADC_B に関しても操作は同じです。

1. A/Dコントロールレジスタ0 (ADCSR0) のADCSビットに1を、ADIEビットに1を設定します。
2. A/Dチャンネル選択レジスタ0 (ADANS0) のANS0、ANS3、ANS9ビットにそれぞれ1を設定します。
3. A/Dコントロールレジスタ0 (ADCSR0) のADSTビットに1をセットし、スキャン変換を開始します。すでにADSTが1にセットされている場合は、一度0にクリアしてから1をセットします。
4. スキャン変換が開始すると、ADSCACTビットが1にセットされます。次にAN0のA/D変換が開始されます。A/D変換が終了すると、A/D変換値をADR0に転送します。その後は、AN3→AN9の順番でAN0と同じように順次処理されていきます。
5. 設定したすべてのチャンネル (AN0、AN3、AN9) のA/D変換値がADRnに転送されると、ADFビットが1にセットされます。このとき、ADIEビットが1に設定されているため、ADI0割り込みを発生します。また、スキャン変換は、スキャンの先頭に戻ります。
6. ADI0の割り込みルーチンが開始されます。割り込みルーチンでADFビットの1を読み出した後0を書き込んでADI0をクリアします。次にADR0、ADR3、ADR9を読み出し、処理します。
7. ADI0の割り込みルーチンを終了します。
8. ADSTビットが1にセットされている間は、4.~7.を繰り返します。ADSTビットを0 にクリアすると、ADSCACTビットが0にクリアされ、スキャン変換が終了します。その後、ADSTビットを1にセットすると再びスキャン変換を開始します。

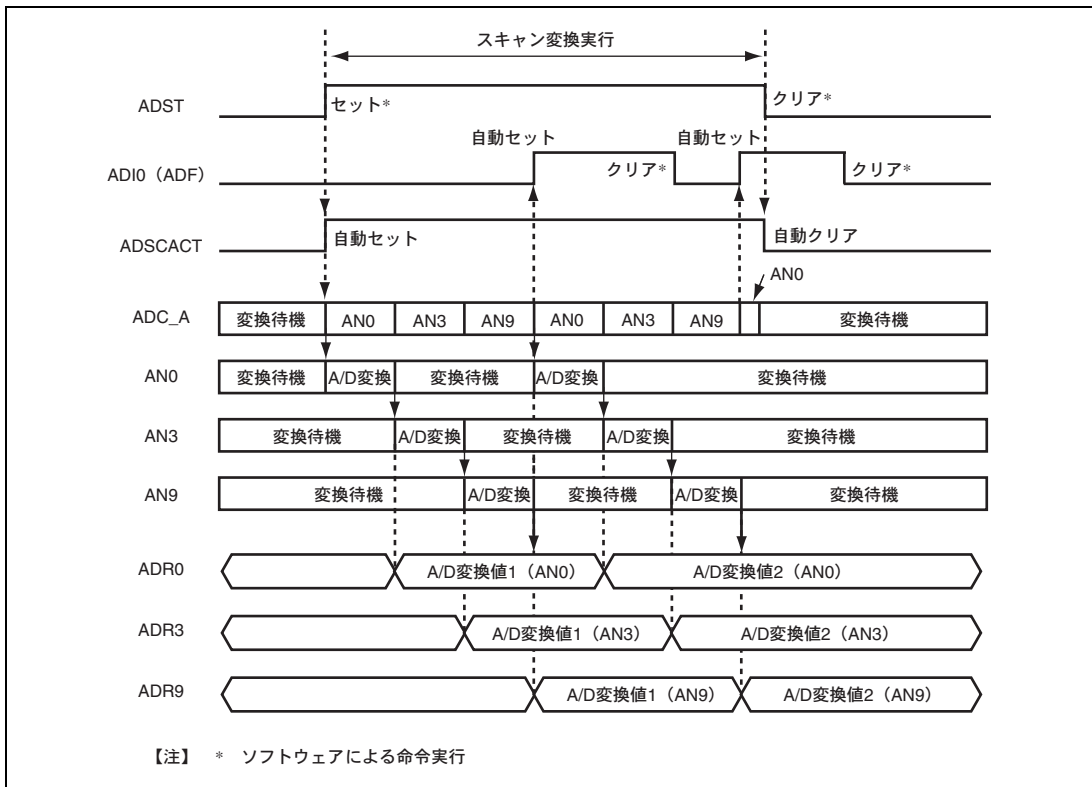


図 19.5 連続スキャンモードの動作例

19.5.4 割り込み変換

割り込み変換は、AN0~15、40~47 に対して、ATU-III のタイマトリガまたはソフトトリガの要求が発生した場合、要求のあったチャンネルを A/D 変換します。スキャン変換が、要求により選択されたすべてのチャンネルを変換するのに対して、割り込み変換は、各要求によりチャンネル単位の変換をするという特徴があります。

割り込み変換を行う場合、ADTRE レジスタの ADTRGE ビットに 1 を設定し、ADTRS レジスタの ADTRS ビットによりトリガソースを選択します。この状態で選択したトリガソースから割り込み変換要求が入ると、対応する AN の A/D 変換を実施します。AN の割り込み変換が終了すると ADTRF レジスタの ADTF ビットを 1 にセットします。ADTF ビットは、AN の割り込み変換が終了するたびに 1 にセットされます。さらに、いずれかの割り込み変換が実施されると、ADREF レジスタの ADITACT ビットは 1 にセットされます。割り込み変換要求のあるすべての AN の A/D 変換が終了すると、ADITACT ビットは 0 にクリアされます。

割り込み変換が競合した場合、優先順位に従って A/D 変換します。ADC_A は、AN0>AN1>・・・>AN14>AN15 のように、優先順位は若いチャンネルが高くなります。ADC_B は、AN40>AN44>AN41>AN45>AN42>AN46>AN43>AN47 のように、優先順位は AN40 が 1 番高く、AN47 が 1 番低くなります。このとき、若いチャンネル順でないことに注意してください。ただし、あるチャンネル (AN_i) の割り込み変換中に別のチャンネル (AN_j, AN_k) の割り込み変換要求が入った場合、優先順位にかかわらず途中で A/D 変換を中断しません。この場合には、A/D 変換中の AN_i が終了した後に、処理されていない割り込み変換要求のあるすべてのチャンネル(この場合 AN_j, AN_k) を優先順位に従った順番で A/D 変換します。したがって、割り込み変換の優先順位は、次に処理する割り込み変換のチャンネルを決定するものです。一つのトリガソースで 2 チャンネルに対して割り込み変換要求を発生した場合や、複数のトリガソースが同時に割り込み変換要求を発生した場合にも、この優先順位に従った順番で A/D 変換します。

スキャン変換中に割り込み変換を行う場合、スキャン変換で A/D 変換中のチャンネル (AN_i) を途中で中断し、割り込み変換要求のあったチャンネル (AN_j) の A/D 変換を実施します。AN_j の割り込み変換が終了すると、途中で中断されたチャンネル (AN_i) の A/D 変換からスキャン変換を再開します。これにより、割り込み変換要求から割り込み変換終了までの時間は常に同じ時間となります。たとえば、LSI 外部の A/D 変換ソースの動作に同期させ、ピンポイントで A/D 変換を実施するというようなことが可能となります。

ADTF ビットが 1 にセットされたとき、ADTRD レジスタの ADIDE ビットが 1 にセットされていると、ADID 割り込み要求を発生します。ADTF ビットを 0 にクリアするときには、ADTF ビットが 1 の状態を読み出した後、0 を書き込んでください。ただし、ADID 割り込みで DMAC または A-DMAC を起動した場合には自動的に 0 にクリアされ、ADID 割り込みもクリアされます。DMAC の DMA 転送がサポートされているのは、AN40 (ADID40) ~AN47 (ADID47) で、A-DMAC の DMA 転送がサポートされているのは、AN0 (ADID0) です。

19.5.5 割り込み変換の動作例

AN40 のトリガソースをタイマ G0 に、AN42/AN46 のトリガソースをタイマ G2 に選択し、割り込み変換を行う場合の動作例を次に示します。

1. A/D 割り込みトリガイネーブルレジスタ1 (ADTRE1) の ADTRGE40、ADTRGE42、ADTRGE46 にそれぞれ 1 を設定します。
2. A/D 割り込みトリガソース選択レジスタ1 (ADTRS1) の ADTRS40、ADTRS42、ADTRS46 にそれぞれ 0 を設定します。
3. 以降は、ATU-III のレジスタの設定に従った周期で、タイマ G0、タイマ G2 の割り込み変換要求が発生します。ATU-III のレジスタについては、「第13章 アドバンスドタイマユニット-III (ATU-III)」を参照してください。
4. タイマ G0 の割り込み変換要求が発生すると、ADITACT ビットが 1 にセットされ、AN40 の割り込み変換が実施されます。AN40 の A/D 変換が終了すると、AN40 の A/D 変換値を ADR40 に転送し、ADTRF1 の ADTF40 ビットを 1 にセットします。また、ADITACT ビットが 0 にクリアされ、割り込み変換が終了します。さらに、ADTRD1 の ADIDE40 ビットが 1 にセットされていると、CPU に対して ADID40 割り込みを発生します。
5. タイマ G2 の割り込み変換要求が発生すると、ADITACT ビットが 1 にセットされ、AN42 と AN46 の割り込み変換が実施されます。AN42 の A/D 変換が実施され、終了すると、AN42 の A/D 変換値を ADR42 に転送し、ADTRF1 の ADTF42 ビットを 1 にセットします。次に AN46 の A/D 変換が実施され終了すると、AN46 の A/D 変換値を ADR46 に転送し、ADTRF1 の ADTF46 ビットを 1 にセットします。また、ADITACT ビットが 0 にクリアされ、割り込み変換を終了します。さらに、ADTF42 ビットまたは ADTF46 ビットが 1 にセットされたときに、ADTRD1 の ADIDE42 ビットと ADIDE46 ビットが 1 にセットされていると、CPU に対してそれぞれ ADID42、ADID46 の割り込みを発生します。
6. 以降は 4.~5. を繰り返します。タイマ G0 とタイマ G2 が競合したときの動作例を次に示します。

(1) 動作例 1

タイマ G2 の割り込み変換要求による AN42 の A/D 変換中に、タイマ G0 の割り込み変換要求が入った場合、次のように処理します。

タイマ G0 の要因を A/D 内部で保持します。AN42 が処理されるのを待ちます。AN42 の A/D 変換が終了すると、現時点の要因である AN46 と AN40 に優先順位が適用され、AN40→AN46 の順に A/D 変換されます。

(2) 動作例 2

タイマ G0 の割り込み変換要求とタイマ G2 の割り込み変換要求が同時に入った場合、次のように処理します。タイマ G0 の要因とタイマ G2 の要因を A/D 内部で保持します。現時点の要因である AN40、AN42、および AN46 に優先順位が適用され、AN40→AN42→AN46 の順に A/D 変換されます。

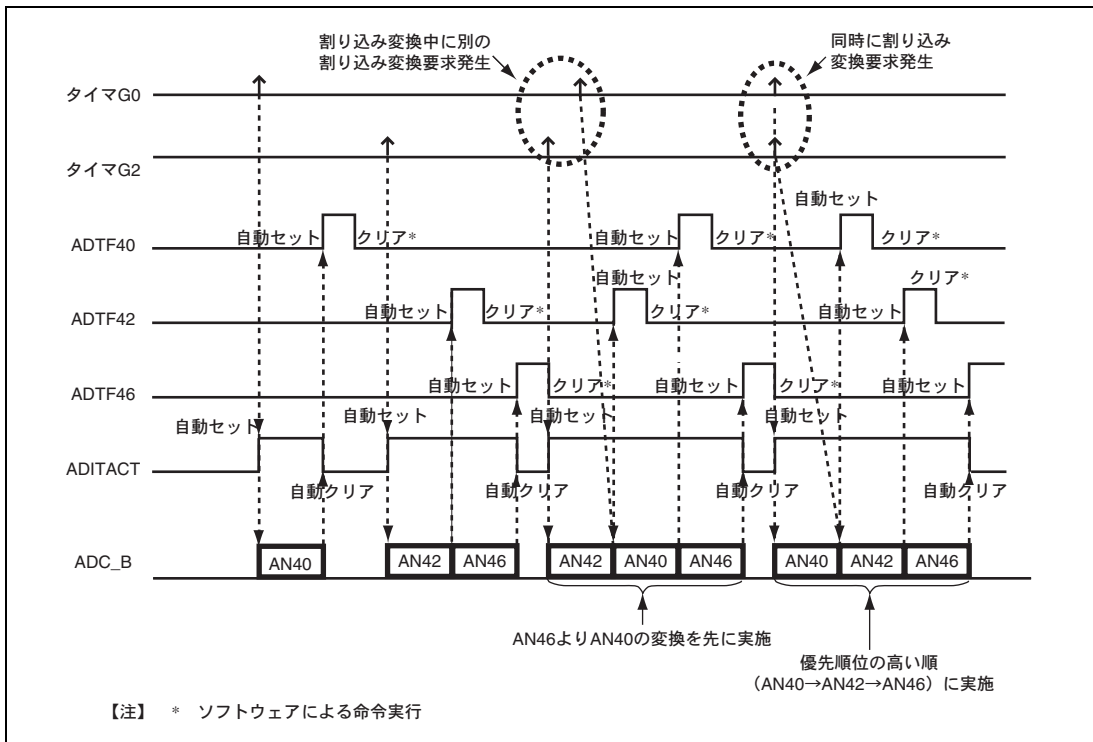


図 19.6 割り込み変換の動作例

19.5.6 スキャン変換中の割り込み変換

AN0、AN3、AN9 を選択し、3チャンネルの1サイクルスキャンモードをタイマG4のスキャン変換要求で起動し、AN6のトリガソースをタイマD03Aに選択し、割り込み変換を行う場合の動作例を次に示します。

1. A/Dコントロールレジスタ0 (ADCSR0) のADCSに0、TRGEに1、EXTRGに0を設定します。
2. A/Dチャンネル選択レジスタ0 (ADANS0) のANS0、ANS3、ANS9にそれぞれ1を設定します。
3. A/D割り込みトリガイネーブルレジスタ0 (ADTRE0) のADTRGE6ビットに1を設定します。
4. A/D割り込みトリガソース選択レジスタ0 (ADTRS0) のADTRS6ビットに0を設定します。
5. 以降は、ATU-IIIのレジスタの設定に従った周期でタイマG4のスキャン変換要求、タイマD03Aの割り込み変換要求が発生します。ATU-IIIのレジスタについては、「第13章 アドバンスドタイマユニット-III (ATU-III)」を参照してください。
6. タイマG4のスキャン変換要求が発生すると、ADSCACTビットが1にセットされます。次に、AN0→AN3→AN9の順にA/D変換を実施し終了すると、ADFビットを1にセットし、ADSCACTビットを0にクリアしてスキャン変換が終了します。
7. タイマD03Aの割り込み変換要求が発生すると、ADITACTビットが1にセットされ、AN6の割り込み変換が実施されます。AN6のA/D変換を実施し終了すると、ADTRF0のADTF6ビットを1にセットし、ADITACTビットを0にクリアして割り込み変換が終了します。
8. 以降は6.~7.を繰り返します。スキャン変換と割り込み変換が競合したときの動作例を次に示します。

(1) 動作例

タイマG4のスキャン変換要求によるスキャン変換でAN3のA/D変換中に、タイマD03Aの割り込み変換要求が入った場合、次のように処理します。

タイマD03Aの要因をA/D内部で保持し、スキャン変換のAN3のA/D変換を中断します。現時点の未処理であるスキャン変換のAN3とAN9および現時点の要因である割り込み変換のAN6に優先順位が適用され、AN6→AN3→AN9の順にA/D変換されます。

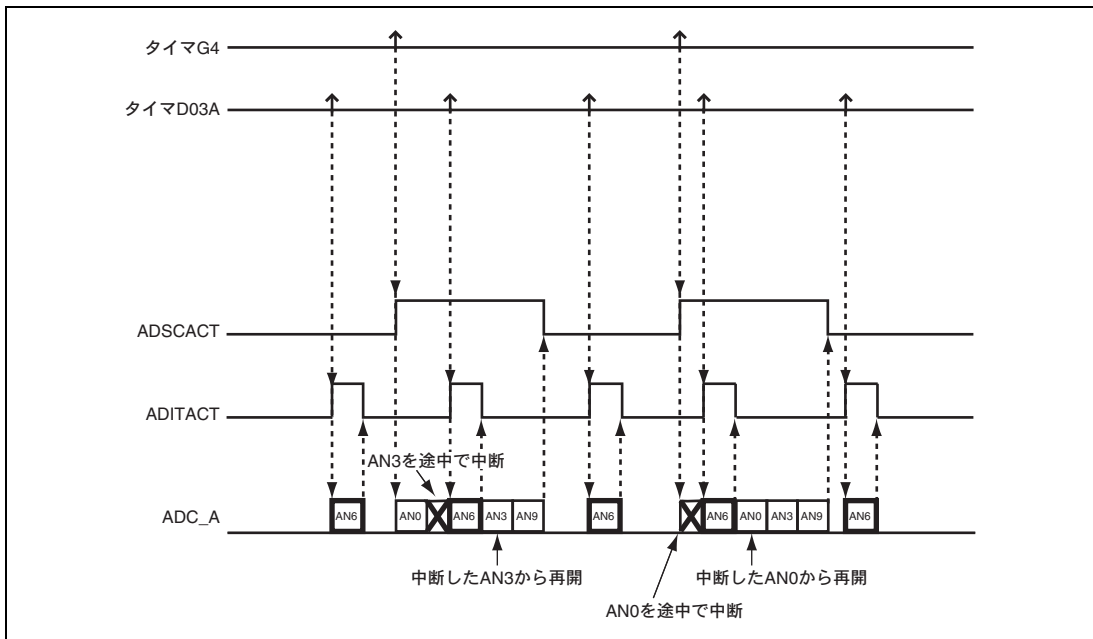


図 19.7 スキャン変換中の割り込み変換の動作例

19.5.7 アナログ入力のサンプリングとスキャン変換時間

A/D 変換器には、サンプル&ホールド回路が内蔵されています。A/D 変換器は、ADCSR の ADST ビットが 1 にセットされてから、スキャン変換開始遅延時間 (t_d) の経過後にアナログ入力のサンプリングを行い、その後変換を開始します。

図 19.8 に、1 チャンルの 1 サイクルスキャンでスキャン変換を行う場合のタイミングを示します。スキャン変換時間 (t_{SCAN}) は、スキャン変換開始遅延時間 (t_d)、アナログ入力サンプリング時間 (t_{SPL})、A/D 変換処理時間 (t_{CONV})、スキャン変換終了遅延時間 (t_{ED}) を含めた時間となります。スキャン変換時間を表 19.5 に示します。

選択チャンネル数が n の 1 サイクルスキャンのスキャン変換時間 (t_{SCAN}) は、以下の計算式で求められます。

$$t_{SCAN} = t_d + \{(t_{SPL} + t_{CONV}) \times n\} + t_{ED}$$

連続スキャンの 1 サイクル目のスキャン変換時間は、1 サイクルスキャンの t_{SCAN} から t_{ED} を省いた時間です。

連続スキャンの 2 サイクル目以降のスキャン変換時間は、 $\{(t_{SPL} + t_{CONV}) \times n\}$ に固定された時間となります。

表 19.5 スキャン変換時間

項目	記号	Pφ 換算		単位
		低速 (CKS=0)	高速 (CKS=1)	
スキャン変換開始遅延時間	t_d	7	5	ステート
アナログ入力サンプリング時間	t_{SPL}	20	10	
A/D 変換処理時間	t_{CONV}	30	15	
スキャン変換終了遅延時間	t_{ED}	4	2	
スキャン変換時間	t_{SCAN}	61	32	

【注】 周辺クロック 2 通信設定時の CKS=1 の設定は禁止です。

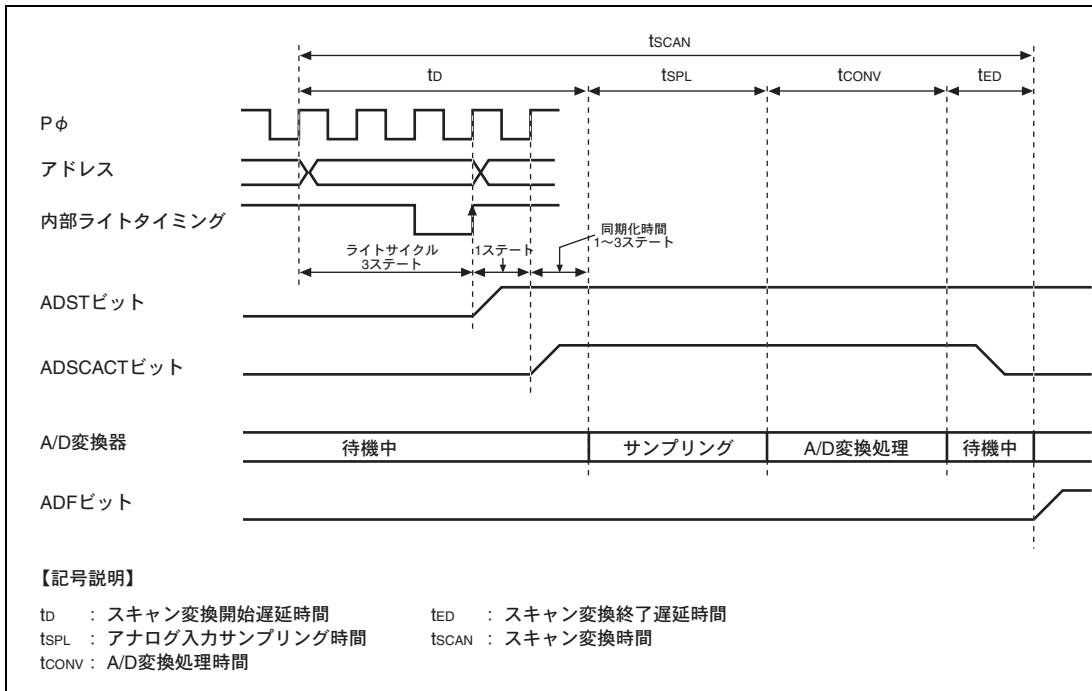


図 19.8 スキャン変換のタイミング (1チャンネル、1サイクルスキャン)

19.5.8 外部トリガによるスキャン変換の起動

外部トリガの入力で、A/D 変換器を起動することができます。外部トリガで A/D 変換器を起動するときには、ピンファンクションコントローラ (PFC) で端子機能を設定します。ADTRG 端子にハイレベルを入力した後、A/D コントロールレジスタ (ADCSR) の TRGE ビットを 1、EXTRG ビットを 1 にセットします。この状態で ADTRG 端子にローレベルを入力すると、A/D 変換器はパルスの立ち下がりエッジを検出して ADSCACT ビットを 1 にセットします。

図 19.9 に外部トリガ入力タイミングを示します。ADSCACT ビットが 1 にセットされるタイミングは、低速設定時 (CKS=0) には、ADTRG 端子の立ち下がりエッジをサンプリングしてから 4 ステート、高速設定時 (CKS=1) には、ADTRG 端子の立ち下がりエッジをサンプリングしてから 3 ステートです。

ADSCACT ビットが 1 にセットされてからスキャン変換が開始されるまでのタイミングは、ソフトウェアで ADST ビットが 0 の状態で 1 にセットされた場合と同じです。端子機能の設定については、「第 22 章 ピンファンクションコントローラ (PFC)」を参照してください。

また、途中でスキャン変換を停止させる場合は、一度 ADST ビットに 1 を書き込んでから 0 を書き込んでください。

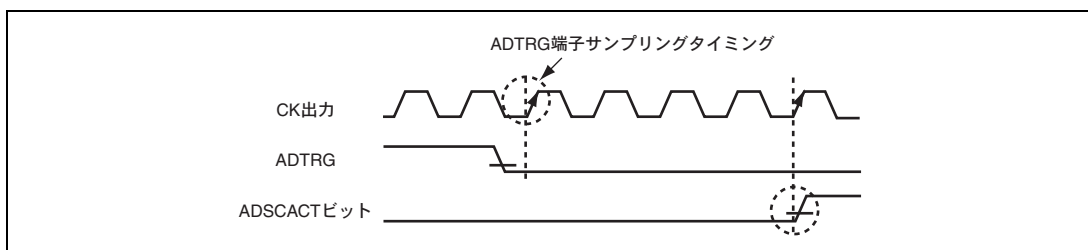


図 19.9 外部トリガ入力タイミング

19.5.9 ATU-III のタイマトリガによるスキャン変換の起動

ATU-III のタイマトリガによって、スキャン変換を起動することができます。ATU-III のタイマトリガでスキャン変換を起動するときには、A/D コントロールレジスタ (ADCSR) の TRGE ビットを 1、EXTRG ビットを 0 にセットします。この状態でタイマトリガ (タイマ G4、タイマ G5) が入ると、ADSCACT ビットを 1 にセットします。ADSCACT ビットが 1 にセットされてからスキャン変換が開始されるまでのタイミングは、ソフトウェアで ADST ビットが 0 の状態で 1 にセットされた場合と同じです。

また、途中でスキャン変換を停止させる場合は、一度 ADST ビットに 1 を書き込んでから 0 を書き込んでください。

19.5.10 ADEND_A、ADEND_B 出力端子によるモニタ機能

ADEND_A、ADEND_B 出力端子によって、AN0、AN40 をスキャン変換で使用する場合の変換タイミングをモニタすることができます。端子の設定に関しては、「第 22 章 ピンファンクションコントローラ (PFC)」を参照してください。

図 19.10 に ADEND_A、ADEND_B の出力例を示します。PFC で、ADEND_A、ADEND_B 出力を選択した場合は、AN0、AN40 の変換処理中に、ADEND_A、ADEND_B 出力端子からそれぞれモニタ信号を出力します。AN0、AN40 のサンプリング終了した時点で、ADEND_A、ADEND_B がそれぞれ出力されます。

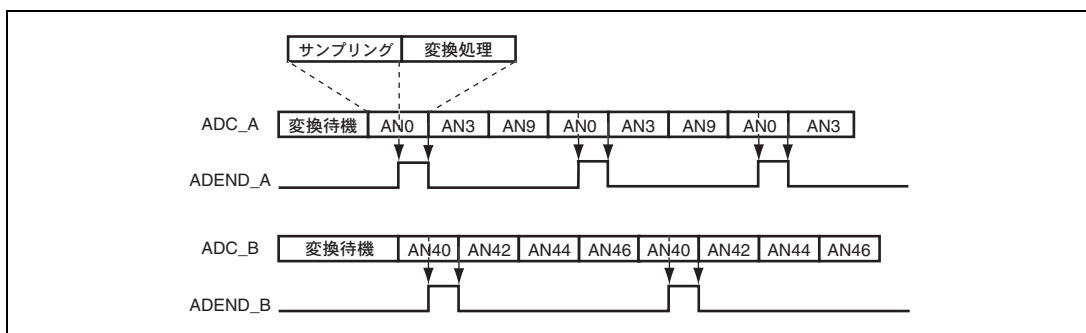


図 19.10 ADEND_A、ADEND_B 端子の出力例

【注】 ADEND_A、ADEND_B がハイレベルを出力しているときに割り込み変換が実施された場合、一度ローレベルを出力します。そのあとに再度スキャン変換で AN0、AN40 が変換されるため、ADEND_A、ADEND_B は再びハイレベルを出力します。また、割り込み変換で AN0、AN40 を変換した場合も、ADEND_A、ADEND_B からハイレベルが出力されます。さらに、AN0、AN40 が A/D 変換値加算モードに設定されている場合は、最後の A/D 変換（4 回変換の場合、4 回目の変換）でのみ ADEND_A、ADEND_B からハイレベルが出力されます。

19.6 割り込み要因と DMA 転送要求

19.6.1 スキャン変換終了時の割り込み要求

A/D変換器は、CPUへのスキャン変換終了割り込み要求 (ADI) を発生することができます。A/Dコントローラレジスタ (ADCSR) の ADIE ビットを 1 にセットすると、ADI 割り込みを許可、0 にクリアすると ADI 割り込みを禁止することができます。また、ADI 割り込み発生時に DMAC を起動することができます。このとき、CPU への割り込みは発生しません。ADI 割り込みで DMAC を起動する場合、DMAC によるデータ転送時に A/D 変換ステータスレジスタ (ADREF) の ADF ビットは自動的に 0 にクリアされます。

DMAC の設定については「第 11 章 ダイレクトメモリアクセスコントローラ (DMAC)」を参照してください。

【注】 ADF ビットは、CPU への割り込み要求ではクリアされません。

19.6.2 割り込み変換終了時の割り込み要求

割り込み変換終了時に、CPU への割り込み変換終了割り込み要求 (ADID0~15、40~47) を発生することができます。A/D 割り込みトリガ処理終了割り込みイネーブルレジスタ (ADTRD) の ADIDE0~15、40~47 ビットをそれぞれ 1 にセットすると ADID0~15、40~47 を許可、0 にクリアすると ADID0~15、40~47 を禁止することができます。また、ADID40~47 で DMAC を起動する場合、DMAC によるデータ転送時に A/D 割り込みトリガ処理終了フラグレジスタ 1 (ADTRF1) の ADTF40~47 ビットは自動的に 0 にクリアされます。さらに、ADID0 で A-DMAC を起動する場合、A-DMAC によるデータ転送時に A/D 割り込みトリガ処理終了フラグレジスタ 0 (ADTRF0) の ADTF0 ビットは自動的に 0 にクリアされます。

DMAC の設定については「第 11 章 ダイレクトメモリアクセスコントローラ (DMAC)」および「第 12 章 専用ダイレクトメモリアクセスコントローラ (A-DMAC)」を参照してください。

【注】 ADTF ビットは、CPU への割り込み要求ではクリアされません。

19.7 A/D 変換精度の定義

以下に、A/D 変換精度の定義を示します。

- 分解能

A/D変換器のデジタル変換出力コード数

- 量子化誤差

A/D変換器が本質的に有する誤差であり、1/2LSBで与えられる (図19.11)。

- オフセット誤差

デジタル出力が最小電圧値B'000000000000からB'000000000001に変化する時のアナログ入力電圧値の理想A/D変換特性からの偏差。ただし、量子化誤差を含まない (図19.11)。

- フルスケール誤差

デジタル出力がB'111111111110からB'111111111111に変化する時のアナログ入力電圧値の理想A/D変換特性からの偏差。ただし、量子化誤差を含まない (図19.11)。

- 非直線性誤差

ゼロ電圧からフルスケール電圧までの間の理想A/D変換特性からの誤差。ただし、オフセット誤差、フルスケール誤差、および量子化誤差を含まない (図19.11)。

- 絶対精度

デジタル値とアナログ入力値との偏差。オフセット誤差、フルスケール誤差、量子化誤差、および非直線性誤差を含む。

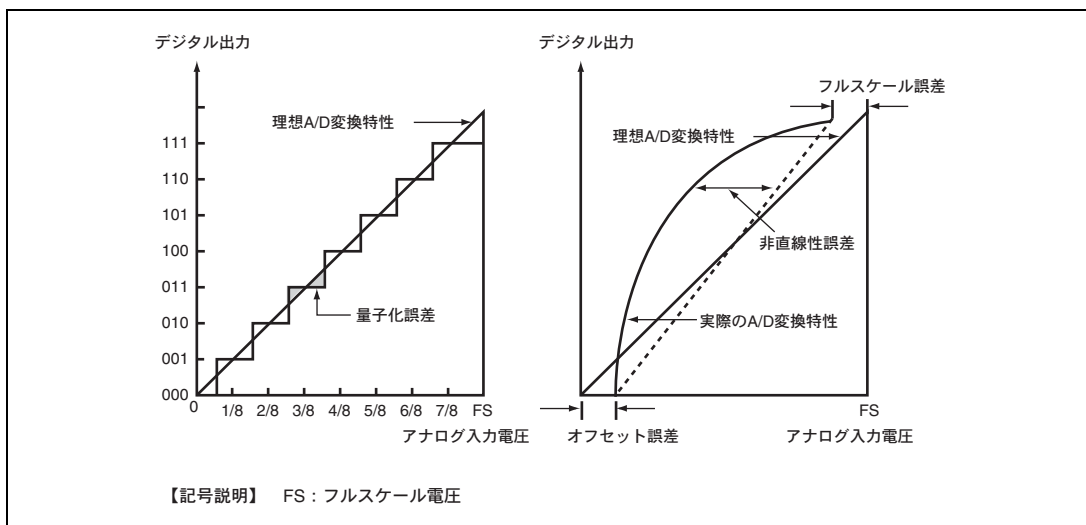


図 19.11 A/D 変換精度の定義

19.8 使用上の注意事項

19.8.1 アナログ入力電圧の範囲

A/D 変換中、アナログ入力端子 (ANn) に印加する電圧は、 $AVrefh_A/B \leq ANn (n=0\sim 27, 40\sim 48) \leq AVrefh_A/B$ の範囲としてください。

19.8.2 AVcc、AVss と Vcc、Vss の関係

A/D 変換器を使用するときは、AVcc、AVss と Vcc、Vss の関係は、 $AVcc=5.0V \pm 0.5V$ 、 $AVss=Vss$ としてください。

一方、A/D 変換器を使用しないときは、 $AVss=Vss$ としてください。また、AVcc 端子はオープンにしないでください。

19.8.3 AVrefh_A/B、AVrefl_A/B 端子の設定範囲

AVrefh_A/B の設定範囲は、次のとおりです。

A/D 変換器を使用するとき： $AVrefh_A/B=4.5V \sim AVcc$

A/D 変換器を使用しないとき： $AVrefh_A/B \leq AVcc$

上記した範囲以外の値を設定した場合、LSI の信頼性に悪影響を及ぼすことがあります。また、AVrefl_A/B に関しては、 $AVrefl_A/B=AVss=Vss$ としてください。

19.8.4 ボード設計上の注意事項

ボード設計時には、デジタル回路とアナログ回路をできるだけ分離してレイアウトしてください。また、デジタル回路の信号配線とアナログ回路の信号配線を交差させたり、近接させたりするようなレイアウトは極力避けてください。誘導などにより、アナログ回路の誤動作や、A/D 変換値に悪影響を及ぼします。

なお、アナログ入力端子 (AN0~27、40~48)、アナログ基準電圧 (AVrefh_A/B、AVrefl_A/B)、アナログ電源 (AVcc) は、アナロググランド (AVss) で、デジタル回路を必ず分離してください。さらにアナロググランド (AVss) は、ボード上の安定したデジタルグランド (Vss) に一点接続してください。

過大なサージなどの異常電圧によるアナログ入力端子 (AN0~27、40~48) の破壊を防ぐための保護回路として、**図 19.12 (1) ~ 図 19.12 (3)** に示すように、 $AVcc - AVss$ 間および $AVrefh_A/B - AVrefl_A/B$ 間にバイパスコンデンサを接続してください。また、アナログ入力端子 (ANn) に接続するフィルタのコンデンサは、AVss に接続してください。なお、**図 19.12 (1) ~ 図 19.12 (3)** に示す $AVcc - AVss$ 間および $AVrefh_A/B - AVrefl_A/B$ 間のバイパスコンデンサの容量値は参考値ですので、ボード設計時に十分ご検討のうえ決定してください。さらに、**図 19.12 (1) ~ 図 19.12 (3)** のようにフィルタ用のコンデンサを接続するとアナログ入力端子 (ANn) の入力電流が平均化されるため、誤差を生じることがあります。したがって、回路定数は十分ご検討のうえ決定してください。基本構成の電源接続例を**図 19.12 (1)** に示します。ボードの影響を受けにくい構成の電源接続例を**図 19.12 (2)** に示します。AVcc と AVrefh_A/B に電位差をつけることが可能な構成の電源接続例を**図 19.12 (3)** に示します。

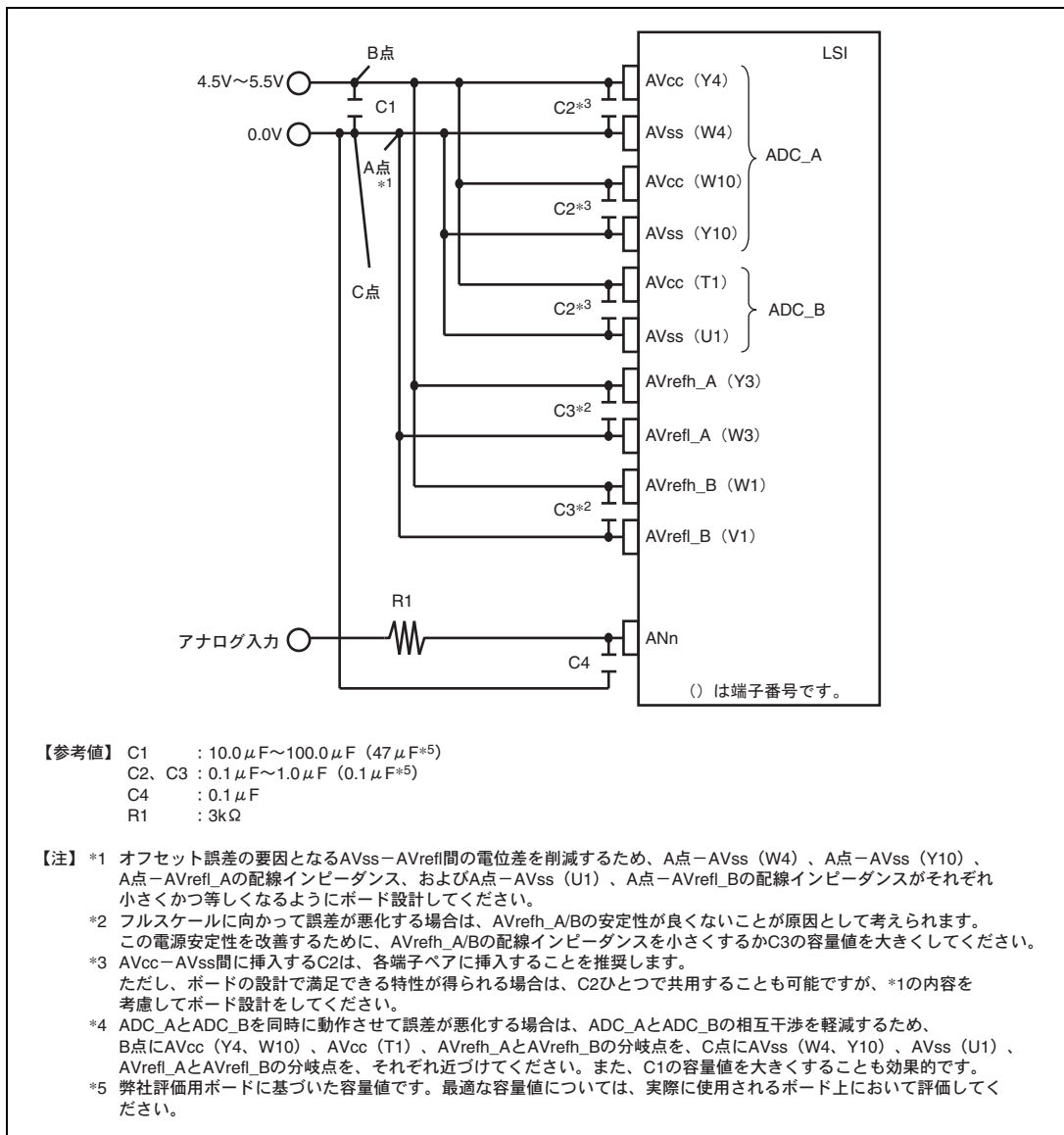


図 19.12 (1) アナログ電源と入力端子の接続例 (基本構成)

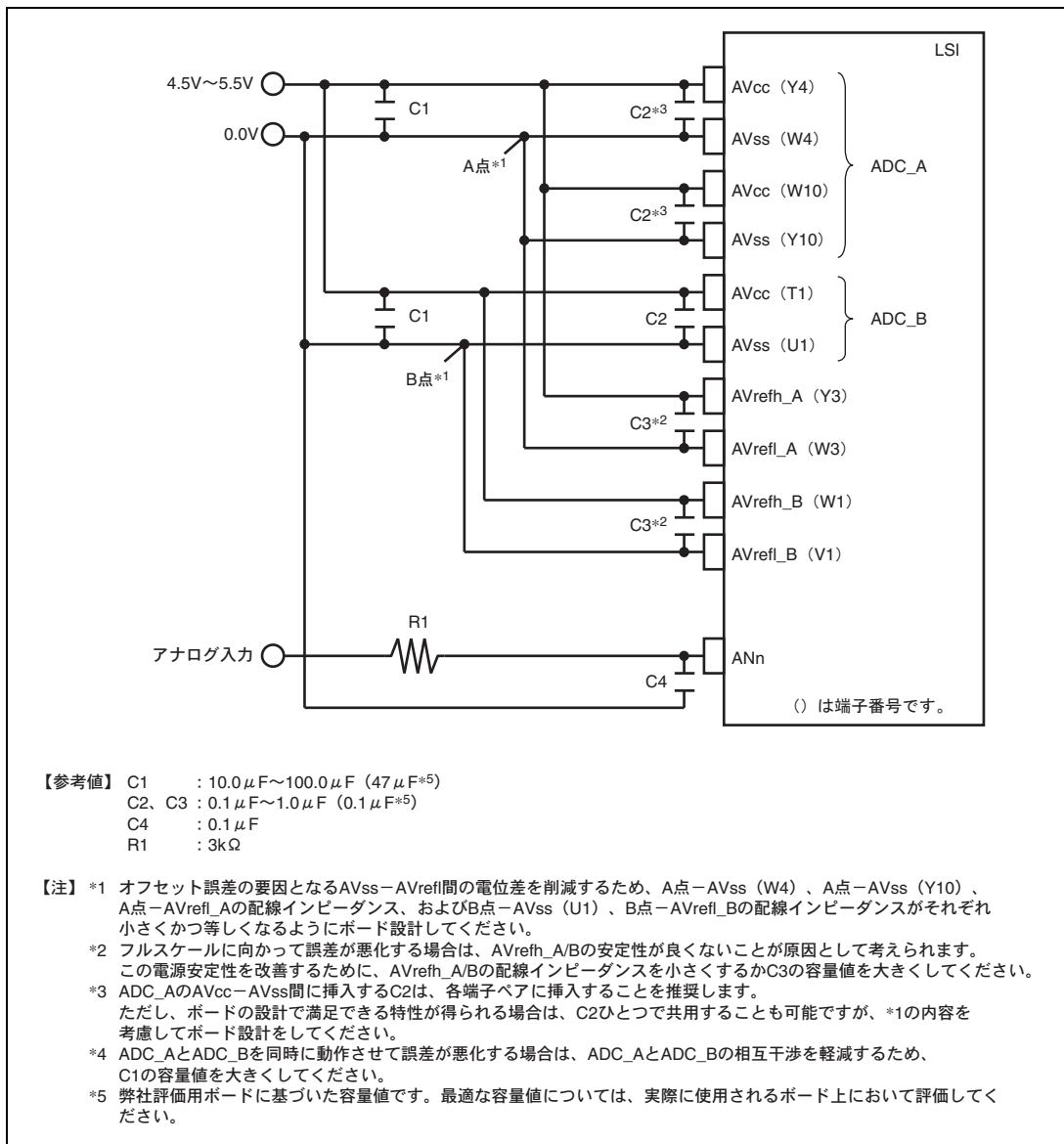


図 19.12 (2) アナログ電源と入力端子の接続例 (ボードの影響を受けにくい構成)

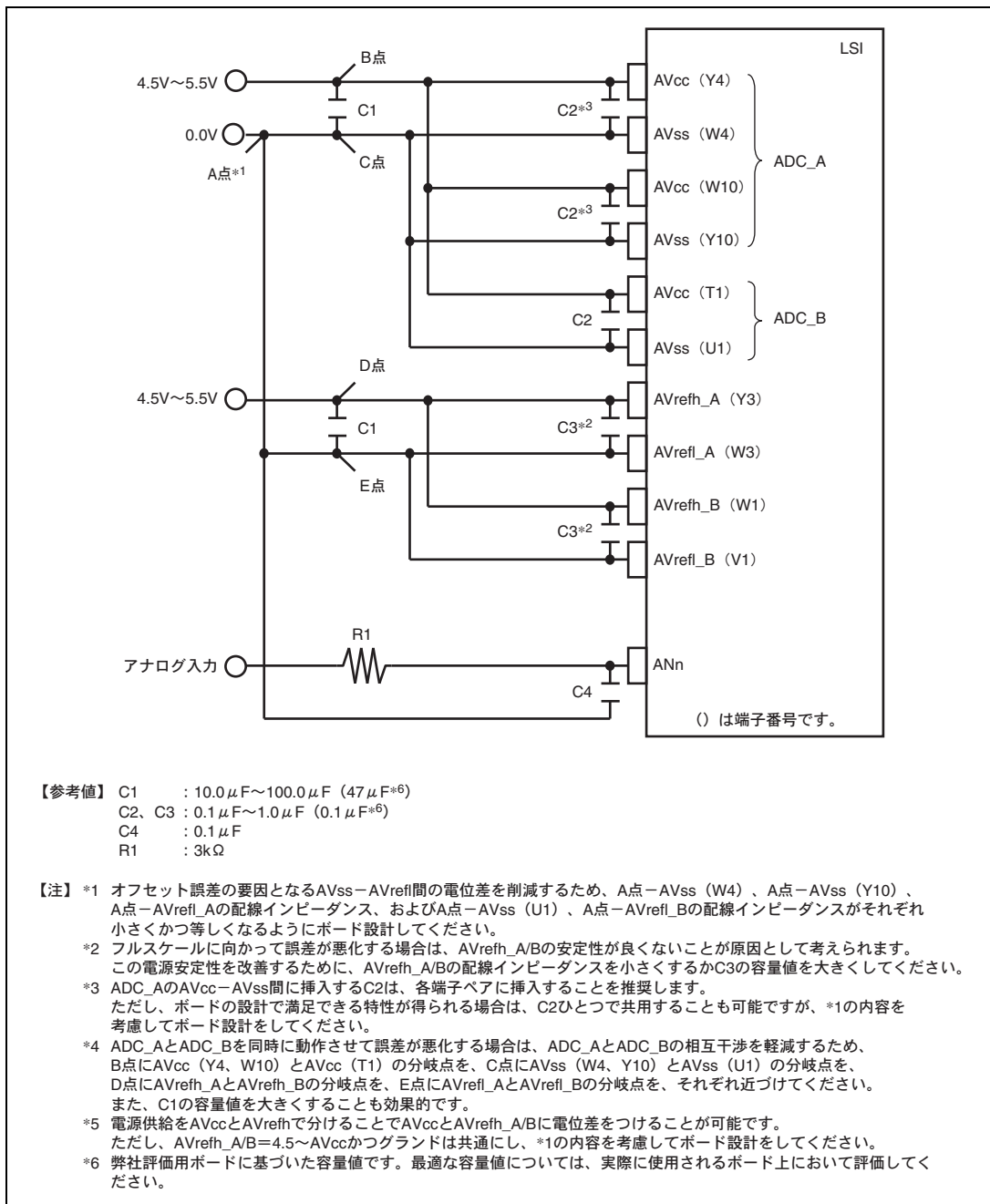


図 19.12 (3) アナログ電源と入力端子の接続例
 (AVcc と AVrefh_A/B に電位差をつけることが可能な構成)

20. JTAG インタフェース

本 LSI は JTAG インタフェースを持ち、IEEE1149.1 規格に準拠したバウンダリスキャン機能を提供します。

20.1 特長

- 5本のテスト信号：TCK、TDI、TDO、TMS、および $\overline{\text{TRST}}$
- TAPコントローラ
- 4本のレジスタ：インストラクションレジスタ (SDIR)、IDレジスタ (SDID)、バイパスレジスタ (SDBPR)、バウンダリスキャンレジスタ (SDBSR)
- JTAGインタフェースは6つのコマンドを備えています。いずれのコマンドもIEEE1149.1に対応しています。

BYPASSコマンド

EXTESTコマンド

SAMPLE/PRELOADコマンド

CLAMPコマンド

HIGHZコマンド

IDCODEコマンド

図 20.1 に JTAG インタフェースのブロック図を示します。

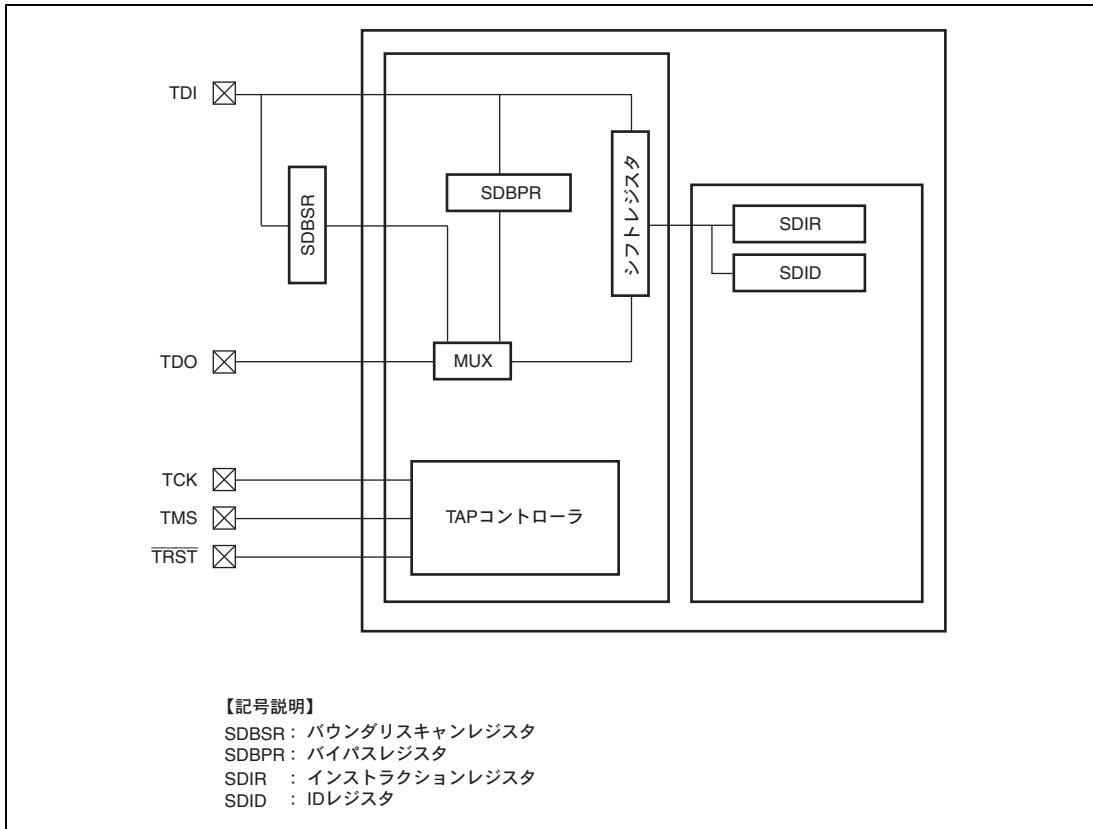


図 20.1 JTAG インタフェースのブロック図

20.2 入出力端子

表 20.1 端子構成

名称	説明
TCK	シリアルデータ入出力用クロック端子 データはこのクロックに同期してデータ入力端子（TDI）から供給され、データ出力端子（TDO）から出力されます。
TMS	モードセレクト入力端子 TCK に同期してこの信号を変化させることによって TAP コントローラの状態が決まります。プロトコルは図 20.2 を参照してください。
TRST	リセット入力端子 TCK とは非同期で入力を受け付け、ローレベルで JTAG インタフェースをリセットします。JTAG インタフェース機能の利用の有無にかかわらず、電源投入時に TRST を一定期間ローレベルにしなければなりません。
TDI	シリアルデータ入力端子 TCK に同期してこの端子を変化させることによって JTAG インタフェースにデータを送ります。
TDO	シリアルデータ出力端子 TCK に同期してこの端子を読み出すことによって JTAG インタフェースからデータを読み取ります。

20.3 レジスタの説明

JTAG インタフェースは次のレジスタを内蔵しています。すべてのレジスタは CPU からアクセスできません。

表 20.2 レジスタ構成

レジスタ名	略称	初期値* ¹	サイズ
インストラクションレジスタ	SDIR	H'4	4
ID レジスタ	SDID	R5F72546R : H'08085447 R5E72556R/R5E72546R/R5E72531R : H'0805F447	32
バイパスレジスタ	SDBPR	不定* ²	1
バウンダリスキャンレジスタ	SDBSR	不定	—

【注】 *¹ TAP コントローラが Test-Logic-Reset 状態のときに初期化されます。

*² BYPASS 命令の Capture-DR ステートで 0 クリアされます。

コマンドは、シリアルデータ入力端子 (TDI) からシリアル転送によりインストラクションレジスタ (SDIR) へ入力できます。バイパスレジスタ (SDBPR) は 1 ビットのレジスタで、BYPASS モード、CLAMP モード、および HIGHZ モード時、TDI と TDO の間に接続されます。また、バウンダリスキャンレジスタ (SDBSR) は 457 ビットのレジスタで、SAMPLE/PRELOAD モードおよび EXTEST モード時、TDI と TDO の間に接続されます。ID レジスタ (SDID) は 32 ビットのレジスタで IDCODE モード時、TDO を通じて固定コードが出力できます。

表 20.3 に JTAG インタフェースの各レジスタで可能なシリアル転送の種類を示します。

表 20.3 JTAG インタフェースのレジスタのシリアル転送

レジスタ名	シリアル入力	シリアル出力
SDIR	可能	不可*
SDBPR	可能	可能
SDBSR	可能	可能
SDID	不可	可能

【注】 * 固定値 (B'1101) が読み出されます。

20.3.1 インストラクションレジスタ (SDIR)

SDIR はバウンダリスキャンのコマンドを保持する 4 ビットのレジスタです。 $\overline{\text{TRST}}$ のアサートまたは TAP コントローラが Test-Logic-Reset 状態のときに初期化されます。SDIR レジスタに予約となっているコマンドをセットした場合、BYPASS 命令が実行されます。

表 20.4 バウンダリスキャンコマンド

コマンドコード				説 明
0	0	0	0	JTAG EXTEST
0	0	0	1	JTAG SAMPLE/PRELOAD
0	1	1	0	JTAG CLAMP
0	1	1	1	JTAG HIGHZ
0	1	0	0	JTAG IDCODE (初期値)
1	1	1	1	JTAG BYPASS
上記以外				予約

20.3.2 ID レジスタ (SDID)

SDID は、32 ビットのレジスタで、LSI 固有の ID を持ちます。JTAG インタフェースの端子側からは、IDCODE コマンドがセットされたときに読み出し可能で、書き込みはできません。

読み出される値は H'08085447 (R5F72546R) または H'0805F447 (R5E72556R, R5E72546R, R5E72531R) ですが、チップのバージョンにより上位 4 ビットが変更されることがあります。

20.3.3 バイパスレジスタ (SDBPR)

SDBPR は 1 ビットのレジスタです。SDIR を BYPASS モードにセットすると、SDBPR は TDI 端子と TDO 端子の間に接続されます。SDBPR レジスタは、パワーオンリセットあるいは $\overline{\text{TRST}}$ のアサートでは初期化されませんが、BYPASS 命令の Capture-DR ステートで 0 にクリアされるため、同命令での先頭読み出しデータは必ず 0 になります。

20.3.4 バウンダリスキャンレジスタ (SDBSR)

SDBSR は、外部入出力端子の制御を行うために PAD 上に配置されたシフトレジスタです。SDIR に SAMPLE/PRELOAD、EXTEST コマンドがセットされると、TDI 端子と TDO 端子の間に SDBSR が接続されます。初期値は不定です。なお、SDBSR レジスタは、パワーオンリセットあるいは $\overline{\text{TRST}}$ のアサートでも初期化されません。

表 20.5 に本 LSI の端子とバウンダリスキャンレジスタの対応を示します。

表 20.5 端子とバウンダリスキャンレジスタの対応

端子番号	端子名	入出力	ビット番号
from TDI			
C15	NMI	入力	456
B16	MD_CLK1	入力	455
D14	MD_CLK0	入力	454
B15	MD_CLKP	入力	453
C13	MD3	入力	452
A11	FWE	入力	451
B11	WDTOVF	出カインェーブル	450
		出力	449
C11	PD13/TCLKB/TIJ1	出カインェーブル	448
		出力	447
		入力	446
D10	PD12/TCLKA/TIOC41/TIJ0	出カインェーブル	445
		出力	444
		入力	443
A9	PD11/TIOC23/TIF2B/TOE51	出カインェーブル	442
		出力	441
		入力	440
C10	PD10/TIOC22/TIF1B/TOE50	出カインェーブル	439
		出力	438
		入力	437
B9	PD9/TIOC21/TIF0B/TOE43	出カインェーブル	436
		出力	435
		入力	434
A8	PD8/TIOC20/TIOC33/TOE53	出カインェーブル	433
		出力	432
		入力	431
A7	PD7/TIOC13/TOE42	出カインェーブル	430
		出力	429
		入力	428
A6	PD6/TIOC12/TOE41	出カインェーブル	427
		出力	426
		入力	425
B8	PD5/TIOC11/TOE23/TOE40	出カインェーブル	424
		出力	423
		入力	422

端子番号	端子名	入出力	ビット番号
C9	PD4/TIOC10/TIOC32/TOE52	出カインェーブル	421
		出力	420
		入力	419
A5	PD3/TIOC03/TOE22/TOE53	出カインェーブル	418
		出力	417
		入力	416
A4	PD2/TIOC02/TOE21/TOE52	出カインェーブル	415
		出力	414
		入力	413
B7	PD1/TIOC01/TOE20	出カインェーブル	412
		出力	411
		入力	410
B6	PD0/TIOC00/TIOC31	出カインェーブル	409
		出力	408
		入力	407
D8	PE13/TOE13	出カインェーブル	406
		出力	405
		入力	404
C8	PE12/TOE12	出カインェーブル	403
		出力	402
		入力	401
A3	PE11/TOE11	出カインェーブル	400
		出力	399
		入力	398
A2	PE10/TOE10	出カインェーブル	397
		出力	396
		入力	395
C7	PE9/TOE03	出カインェーブル	394
		出力	393
		入力	392
B5	PE8/TOE02	出カインェーブル	391
		出力	390
		入力	389
D6	PE7/TOE01/CRx_B	出カインェーブル	388
		出力	387
		入力	386

端子番号	端子名	入出力	ビット番号
B4	PE6/TOE00/CTx_B	出カインェーブル	385
		出力	384
		入力	383
B3	PE5/TIA05	出カインェーブル	382
		出力	381
		入力	380
C4	PE4/TIA04	出カインェーブル	379
		出力	378
		入力	377
C5	PE3/TIA03	出カインェーブル	376
		出力	375
		入力	374
C6	PE2/TIA02/TIOC43/TIOC30	出カインェーブル	373
		出力	372
		入力	371
D5	PE1/TIA01/TIOC42/TIOC40	出カインェーブル	370
		出力	369
		入力	368
D4	PE0/TIA00	出カインェーブル	367
		出力	366
		入力	365
C3	PH5/TIF5	出カインェーブル	364
		出力	363
		入力	362
D3	PH4/TIF4	出カインェーブル	361
		出力	360
		入力	359
B2	PH3/TIF3	出カインェーブル	358
		出力	357
		入力	356
F4	PH2/TIF2A	出カインェーブル	355
		出力	354
		入力	353
E3	PH1/ADTRG_B/TIF1A	出カインェーブル	352
		出力	351
		入力	350

端子番号	端子名	入出力	ビット番号
B1	PH0/ADTRG_A/TIF0A	出カインェーブル	349
		出力	348
		入力	347
C2	PK11/MISOC	出カインェーブル	346
		出力	345
		入力	344
D2	PK10/MOSIC	出カインェーブル	343
		出力	342
		入力	341
F3	PK9/RSPCKC	出カインェーブル	340
		出力	339
		入力	338
E2	PK8/RxD_E	出カインェーブル	337
		出力	336
		入力	335
C1	PK7/TxD_E	出カインェーブル	334
		出力	333
		入力	332
D1	PK6/SCK_E	出カインェーブル	331
		出力	330
		入力	329
F2	PK5/RxD_D/MISOB	出カインェーブル	328
		出力	327
		入力	326
G3	PK4/TxD_D/MOSIB	出カインェーブル	325
		出力	324
		入力	323
E1	PK3/SCK_D/RSPCKB	出カインェーブル	322
		出力	321
		入力	320
F1	PK2/RxD_C/MISOA	出カインェーブル	319
		出力	318
		入力	317
H4	PK1/TxD_C/MOSIA	出カインェーブル	316
		出力	315
		入力	314

端子番号	端子名	入出力	ビット番号
G2	PK0/SCK_C/RSPCKA/UBCTRG	出カインェーブル	313
		出力	312
		入力	311
G1	PG0/TOD00A/SSLA0	出カインェーブル	310
		出力	309
		入力	308
H3	PG1/TOD01A/SSLA1	出カインェーブル	307
		出力	306
		入力	305
H2	PG2/TOD02A/SSLA2	出カインェーブル	304
		出力	303
		入力	302
H1	PG3/TOD03A/SSLA3	出カインェーブル	301
		出力	300
		入力	299
J1	PG4/TOD10A/SSLA4/SSLB3	出カインェーブル	298
		出力	297
		入力	296
J3	PG5/TOD11A/SSLA5/SSLC3	出カインェーブル	295
		出力	294
		入力	293
J2	PG6/TOD12A/SSLB0	出カインェーブル	292
		出力	291
		入力	290
K4	PG7/TOD13A/SSLB1	出カインェーブル	289
		出力	288
		入力	287
L1	PG8/TOD20A/SSLB2/TIF6	出カインェーブル	286
		出力	285
		入力	284
K3	PG9/TOD21A/SSLC0/TIF7	出カインェーブル	283
		出力	282
		入力	281
L2	PG10/TOD22A/SSLC1/TIF8	出カインェーブル	280
		出力	279
		入力	278

端子番号	端子名	入出力	ビット番号
L3	PG11/TOD23A/SSLC2/TIF9	出カインェーブル	277
		出力	276
		入力	275
M1	PG12/TOD30A/SSLA4/TIF10	出カインェーブル	274
		出力	273
		入力	272
M4	PG13/TOD31A/SSLA5/TIF11	出カインェーブル	271
		出力	270
		入力	269
M2	PG14/TOD32A/SSLA6/TIF12	出カインェーブル	268
		出力	267
		入力	266
N1	PG15/TOD33A/SSLA7/TIF13	出カインェーブル	265
		出力	264
		入力	263
P1	PL8/TOE33	出カインェーブル	262
		出力	261
		入力	260
M3	PL7/TOE32/ $\overline{\text{IRQ7}}$	出カインェーブル	259
		出力	258
		入力	257
N2	PL6/TOE31/ $\overline{\text{IRQ6}}$	出カインェーブル	256
		出力	255
		入力	254
R1	PL5/TOE30/ $\overline{\text{IRQ5}}$	出カインェーブル	253
		出力	252
		入力	251
P2	PL4/TOE23/ $\overline{\text{IRQ4}}$	出カインェーブル	250
		出力	249
		入力	248
R2	PL3/TOE22/ $\overline{\text{IRQ3}}$	出カインェーブル	247
		出力	246
		入力	245
N3	PL2/TOE21/ $\overline{\text{IRQ2}}$	出カインェーブル	244
		出力	243
		入力	242

端子番号	端子名	入出力	ビット番号
P4	PL1/TOE20/IRQ1/P0D	出カインェーブル	241
		出力	240
		入力	239
P3	PL0/IRQ0	出カインェーブル	238
		出力	237
		入力	236
V11	PF0/TOD00B/TIF6	出カインェーブル	235
		出力	234
		入力	233
Y13	PF1/TOD01B/TIF7	出カインェーブル	232
		出力	231
		入力	230
Y14	PF2/TOD02B/TIF8	出カインェーブル	229
		出力	228
		入力	227
W13	PF3/TOD03B/TIF9	出カインェーブル	226
		出力	225
		入力	224
V12	PF4/TOD10B/TIF10	出カインェーブル	223
		出力	222
		入力	221
Y15	PF5/TOD11B/TIF11	出カインェーブル	220
		出力	219
		入力	218
Y16	PF6/TOD12B/TIF12	出カインェーブル	217
		出力	216
		入力	215
U13	PF7/TOD13B/TIF13	出カインェーブル	214
		出力	213
		入力	212
W14	PF8/TOD20B/TIF14	出カインェーブル	211
		出力	210
		入力	209
Y17	PF9/TOD21B/TIF15	出カインェーブル	208
		出力	207
		入力	206

端子番号	端子名	入出力	ビット番号
V13	PF10/TOD22B/TIF16	出カインェーブル	205
		出力	204
		入力	203
Y18	PF11/TOD23B/TIF17	出カインェーブル	202
		出力	201
		入力	200
V14	PF12/TOD30B/TIF18	出カインェーブル	199
		出力	198
		入力	197
W15	PF13/TOD31B/TIF19	出カインェーブル	196
		出力	195
		入力	194
Y19	PF14/TOD32B/CTx_B/TxD_A	出カインェーブル	193
		出力	192
		入力	191
W16	PF15/TOD33B/CRx_B/RxD_A	出カインェーブル	190
		出力	189
		入力	188
W17	PJ9/RxD_B	出カインェーブル	187
		出力	186
		入力	185
W18	PJ8/TxD_B	出カインェーブル	184
		出力	183
		入力	182
U15	PJ7/SCK_B/ADEND_A/TIJ1	出カインェーブル	181
		出力	180
		入力	179
W19	PJ6/RxD_A	出カインェーブル	178
		出力	177
		入力	176
V15	PJ5/TxD_A	出カインェーブル	175
		出力	174
		入力	173
T17	PJ4/SCK_A/ADEND_B/TIJ0	出カインェーブル	172
		出力	171
		入力	170

端子番号	端子名	入出力	ビット番号
U17	PJ3/RxD_A/CRx_C/CRx_A&CRx_B&CRx_C	出カインェーブル	169
		出力	168
		入力	167
V16	PJ2/TxD_A/CTx_C/CTx_A&CTx_B&CTx_C	出カインェーブル	166
		出力	165
		入力	164
V17	PJ1/RxD_A/CRx_A/CRx_A&CRx_B	出カインェーブル	163
		出力	162
		入力	161
V18	PJ0/TxD_A/CTx_A/CTx_A&CTx_B	出カインェーブル	160
		出力	159
		入力	158
T18	PC15/D15	出カインェーブル	157
		出力	156
		入力	155
U18	PC14/D14	出カインェーブル	154
		出力	153
		入力	152
V19	PC13/D13	出カインェーブル	151
		出力	150
		入力	149
W20	PC12/D12	出カインェーブル	148
		出力	147
		入力	146
V20	PC11/D11	出カインェーブル	145
		出力	144
		入力	143
R18	PC10/D10	出カインェーブル	142
		出力	141
		入力	140
U19	PC9/D9	出カインェーブル	139
		出力	138
		入力	137
U20	PC8/D8	出カインェーブル	136
		出力	135
		入力	134

端子番号	端子名	入出力	ビット番号
P18	PC7/D7	出カインェーブル	133
		出力	132
		入力	131
T19	PC6/D6	出カインェーブル	130
		出力	129
		入力	128
R19	PC5/D5	出カインェーブル	127
		出力	126
		入力	125
T20	PC4/D4	出カインェーブル	124
		出力	123
		入力	122
N17	PC3/D3	出カインェーブル	121
		出力	120
		入力	119
P19	PC2/D2	出カインェーブル	118
		出力	117
		入力	116
R20	PC1/D1	出カインェーブル	115
		出力	114
		入力	113
N18	PC0/D0	出カインェーブル	112
		出力	111
		入力	110
P20	PB14/RD/ \overline{WR}	出カインェーブル	109
		出力	108
		入力	107
N19	PB13/ $\overline{CS3}$ /RSPCKB	出カインェーブル	106
		出力	105
		入力	104
N20	PB12/ $\overline{CS2}$ /RSPCKA	出カインェーブル	103
		出力	102
		入力	101
M20	PB11/ $\overline{CS1}$ /TOE21	出カインェーブル	100
		出力	99
		入力	98

端子番号	端子名	入出力	ビット番号
M18	PB10/CS0	出カインェーブル	97
		出力	96
		入力	95
M19	PB9/RD	出カインェーブル	94
		出力	93
		入力	92
K20	PB8/WAIT/TOE20	出カインェーブル	91
		出力	90
		入力	89
L17	PB7/WE1	出カインェーブル	88
		出力	87
		入力	86
K19	PB6/WE0	出カインェーブル	85
		出力	84
		入力	83
J20	PB5/A21/CRx_B/TIF7	出カインェーブル	82
		出力	81
		入力	80
H20	PB4/A20/CTx_B/TIF6	出カインェーブル	79
		出力	78
		入力	77
L18	PB3/A19/MISOB	出カインェーブル	76
		出力	75
		入力	74
J19	PB2/A18/MOSIB	出カインェーブル	73
		出力	72
		入力	71
K18	PB1/A17/MISOA	出カインェーブル	70
		出力	69
		入力	68
G20	PB0/A16/MOSIA	出カインェーブル	67
		出力	66
		入力	65
F20	PA15/A15	出カインェーブル	64
		出力	63
		入力	62

端子番号	端子名	入出力	ビット番号
H19	PA14/A14	出カイネーブル	61
		出力	60
		入力	59
E20	PA13/A13	出カイネーブル	58
		出力	57
		入力	56
D20	PA12/A12	出カイネーブル	55
		出力	54
		入力	53
G19	PA11/A11	出カイネーブル	52
		出力	51
		入力	50
J18	PA10/A10	出カイネーブル	49
		出力	48
		入力	47
C20	PA9/A9	出カイネーブル	46
		出力	45
		入力	44
H18	PA8/A8	出カイネーブル	43
		出力	42
		入力	41
B20	PA7/A7	出カイネーブル	40
		出力	39
		入力	38
F19	PA6/A6	出カイネーブル	37
		出力	36
		入力	35
G17	PA5/A5	出カイネーブル	34
		出力	33
		入力	32
D19	PA4/A4	出カイネーブル	31
		出力	30
		入力	29
E19	PA3/A3	出カイネーブル	28
		出力	27
		入力	26

端子番号	端子名	入出力	ビット番号
C19	PA2/A2	出カイネーブル	25
		出力	24
		入力	23
B19	PA1/A1	出カイネーブル	22
		出力	21
		入力	20
C18	PA0/A0	出カイネーブル	19
		出力	18
		入力	17
D18	AUDSYNC	出力	16
		出カイネーブル	15
		入力	14
E18	AUDATA0	出力	13
		出カイネーブル	12
		入力	11
E17	AUDATA1	出力	10
		出カイネーブル	9
		入力	8
F18	AUDATA2	出力	7
		出カイネーブル	6
		入力	5
D17	AUDATA3	出力	4
		出カイネーブル	3
		入力	2
C17	AUDMD	入力	1
D16	AUDRST	入力	0
To TDO			

20.4 動作説明

20.4.1 TAP コントローラ

図 20.2 に TAP コントローラの内部状態を示します。

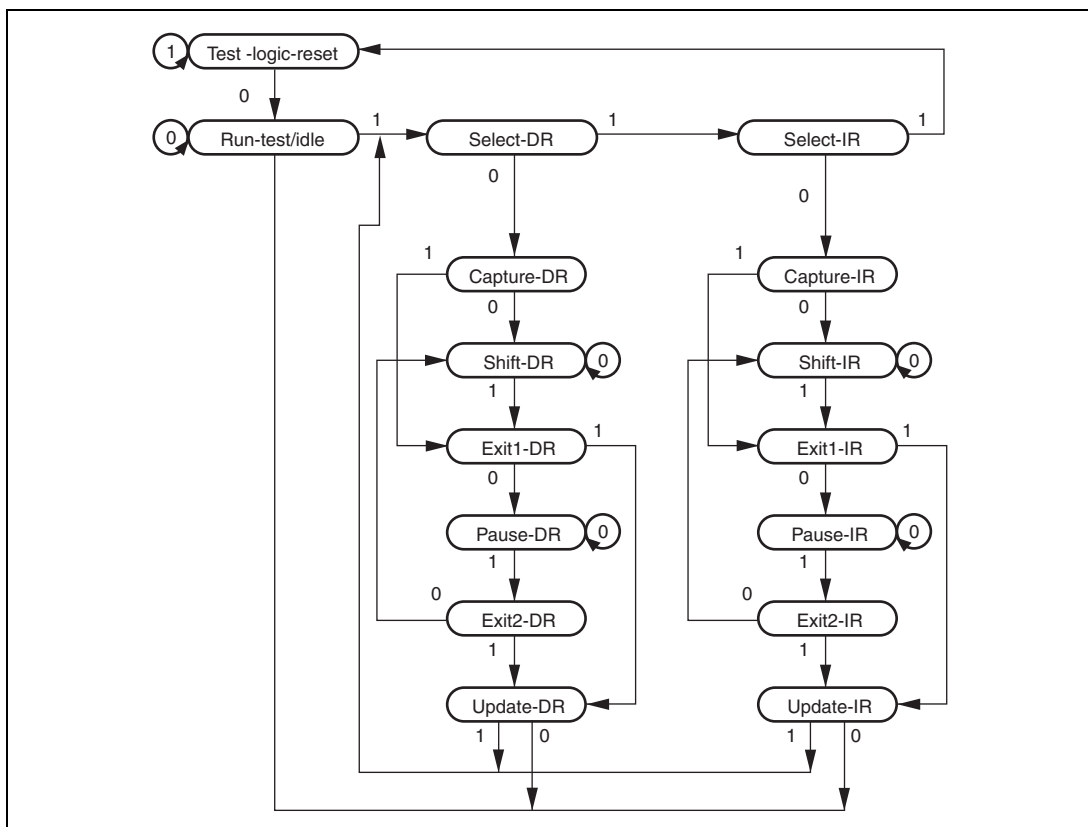


図 20.2 TAP コントローラ状態遷移図

【注】 遷移条件は TCK の立ち上がりエッジにおける TMS 値です。TDI 値は TCK の立ち上がりエッジでサンプリングし、TCK の立ち下がりエッジでシフトします。TDO は Shift-DR、Shift-IR 状態以外ではハイインピーダンス状態です。TRST のアサートにより TCK とは非同期で Test-Logic-Reset 状態へ遷移します。

20.4.2 サポートするコマンド

(1) BYPASS

BYPASS コマンドは、バイパスレジスタを動作させる必須の標準コマンドです。このコマンドはシフトパスを短縮してプリント基板上の他の LSI のシリアルデータを転送高速化するためのものです。このコマンドの実行中、テスト回路はシステム回路に何も影響を与えません。

(2) SAMPLE/PRELOAD

SAMPLE/PRELOAD コマンドは本 LSI の内部回路からバウンダリスキャンレジスタに値を入力し、スキャンパスから出力したり、スキャンパスにデータをロードしたりするコマンドです。本コマンド実行中、本 LSI の入力端子はそのまま内部回路に伝達され、内部回路の値はそのまま出力端子から外部へ出力されます。本コマンドの実行により本 LSI のシステム回路は何の影響も受けません。

SAMPLE 動作では、入力端子から内部回路へ転送される値や内部回路から出力端子へ転送される値のスナッフショットをバウンダリスキャンレジスタに取り込み、スキャンパスから読み出します。スナッフショットの取り込みは、本 LSI の通常動作を妨げずに行われます。

PRELOAD 動作では、EXTEST コマンドに先立ち、スキャンパスからバウンダリスキャンレジスタの平行出力ラッチに初期値を設定します。PRELOAD 動作がないと、EXTEST コマンドを実行するとき、最初のスキャンシーケンスが完了する（出力ラッチへの転送）までの間、出力端子から不定値が出力される（EXTEST コマンドでは出力端子に常に平行出力ラッチを出力する）ことになります。

(3) EXTEST

EXTEST コマンドは、本 LSI をプリント基板に実装したときに外部回路をテストするためのコマンドです。本コマンドの実行時、出力端子はバウンダリスキャンレジスタからテストデータ（SAMPLE/PRELOAD コマンドですでに設定されています）をプリント基板へ出力するために使用され、入力端子はプリント基板からバウンダリスキャンレジスタにテスト結果を取り込むために使用されます。EXTEST コマンドを N 回用いてテストを行うとき、N 回目のテストデータは (N-1) 回目のスキャンアウトのときにスキャンインされます。

本コマンドの Capture-DR 状態で出力端子のバウンダリスキャンレジスタにロードされたデータは、外部回路のテストには使用されません（シフト動作で入れ替えます）。

(4) CLAMP

CLAMP コマンドが選択されると、出力端子はあらかじめ SAMPLE/PRELOAD コマンドによって設定されたバウンダリスキャンレジスタの値を出力します。CLAMP コマンドが選択されている間、バウンダリスキャンレジスタの状態は TAP コントローラの状態に関係なく前の状態が保持されます。

TDI と TDO の間にはバイパスレジスタが接続され、BYPASS コマンドが選択されたときと同様の動作をします。

(5) HIGHZ

HIGHZ コマンドが選択されると、すべての出力端子はハイインピーダンス状態となります。HIGHZ コマンドが選択されている間、バウンダリスキャンレジスタの状態は TAP コントローラの状態に関係なく前の状態が保持されます。

TDI と TDO の間にはバイパスレジスタが接続され、BYPASS コマンドが選択されたときと同様の動作をします。

(6) IDCODE

JTAG インタフェースの端子を JTAG で規定されている IDCODE モードに設定できます。JTAG インタフェースを初期化した場合 ($\overline{\text{TRST}}$ のアサートまたは TAP コントローラを Test-Logic-Reset 状態にする)、IDCODE モードになります。

20.4.3 注意事項

本 LSI の JTAG インタフェースには以下のような制限があります。

- クロック関連信号 (EXTAL、XTAL) はバウンダリスキャンの対象外です。
- リセット関連信号 ($\overline{\text{RES}}$ 、 $\overline{\text{HSTBY}}$) はバウンダリスキャンの対象外です。
- JTAG インタフェース関連信号 (TCK、TDI、TDO、TMS、 $\overline{\text{TRST}}$) はバウンダリスキャンの対象外です。
- ADC 関係端子 (AN0~27、AN40~48) はバウンダリスキャン対象外です。
- MD0、MD1、MD2、MD4、ASEMD、AUDCK、CK は、バウンダリスキャン対象外です。
- ASEMD、MD0、MD1、MD2、MD4 は 0 の状態、 $\overline{\text{RES}}$ 、 $\overline{\text{HSTBY}}$ は 1 の状態で動作させてください。
- 以下の端子はプルアップ/プルダウンされるため、HIGHZ コマンドは無効です。

常に無効：AUDMD、 $\overline{\text{AUDSYNC}}$ 、AUDATA、 $\overline{\text{AUDRST}}$

I/O ポートによりプルアップ/プルダウンと設定されているときは無効（「第23章 I/Oポート」を参照）：

PB1、PB3、PF15、PJ1、PJ3、PJ6、PJ9、PK2、PK5、PK8、PK11

20.5 使用上の注意事項

1. コマンドは、いったんセットされると他のコマンドが再発行されないかぎり変更されません。同じコマンドを連続して与える場合は、チップ動作に影響のないコマンド（BYPASSモードなど）をいったん設定してから再度コマンドを設定する必要があります。
2. ハードウェアスタンバイモード中ではコマンドは受け付けられません。
3. JTAGインタフェースを使用する、使用しないにかかわらず、必ず $\overline{\text{TRST}}$ 信号をローレベルにしてリセットしてください。この際、 $\overline{\text{TRST}}$ はTCKに対して20クロック分、ローレベルに保持してください。詳細は「**第32章 電気的特性**」を参照してください。
4. TCKに入力可能な最大周波数は2MHzです。TCKに2MHzを超える周波数を入力した場合の動作は保証できません。詳細は「**第32章 電気的特性**」を参照してください。
5. TDIとTDOの間に接続されるレジスタのビット数を超えてシリアル転送した場合、レジスタのビット数を超えてTDOから出力されるシリアルデータは、TDIから入力されたデータとなります。
6. シリアル転送シーケンスがくずれた場合、必ず $\overline{\text{TRST}}$ のリセットを行ってください。このとき、転送動作にかかわらず、再度転送し直してください。
7. TDOの出力タイミングはTCKの立ち下がりからになります。
8. デバッグ容易化のため、 $\overline{\text{TRST}}$ の基板上の配線はパターンカットが容易なように配慮してください。
9. バウンダリスキャンの動作中に、モジュールスタンバイ機能を用いて本モジュールを停止することは禁止です。バウンダリスキャンを実施する場合は、リセット直後にスリープモードに遷移することを推奨します。モジュールスタンバイ機能およびスリープモードは、「**第29章 低消費電力モード**」を参照してください。

21. アドバンストユーザデバッガ-II (AUD-II)

AUD-II は、製品チップが実装された状態でユーザプログラムのデバッグを支援するための機能を提供します。AUD-II を用いて AUD トレースデータの取得や内蔵 RAM データのモニタリング/チューニングなどの簡易エミュレータを構築することが可能です。

21.1 特長

AUD-II は、AUDMD を切り替えることで、次の 2 つのモードが使用できます。

- AUD トレースモード
- RAM モニタモード

(1) AUD トレースモード

- 計 8 本の入出力端子
- 分岐トレース機能：分岐元、分岐先の両トレース、または分岐元、分岐先のどちらかのみの特レースを選択可能
- ウィンドウデータトレース機能：ウィンドウ A とウィンドウ B の 2 チャンネルのウィンドウサポート。その範囲内で発生した CPU、DMAC などのメモリアクセスのアドレス、およびそのデータをトレースする機能。8/16/32 ビットのデータ長サポート。トレース対象バスは、Mバス、Iバス。
- アドレス情報の出力時、出力情報をアドレスの差異部分情報のみにして少ないビット数で出力する機能
- 8 レベルの FIFO 内蔵
- フルトレース機能：トレースデータの出力が間に合わない場合でも、CPU をストールさせながらすべてのトレースデータを出力する機能
- リアルタイムトレース機能：CPU をストールさせない範囲で出力可能なトレースデータを出力する機能
- AUD 出力クロック比選択機能：内部クロック (ϕ) 比で $\times 1/4$ 、 $\times 1/8$ 、 $\times 1/10$ をサポート

(2) RAM モニタモード

- 内部/外部バスに接続されているメモリマップされたモジュールを読み出し/書き込みする機能
- 外部から AUDATA にアドレスを書き込むと、そのアドレスに対応したデータ出力します。
- 外部から AUDATA にアドレス、データを書き込むと、そのアドレスにデータを転送します。

【注】本章において、AUDATA [3:0] は AUDATA3~0 を示します。

図 21.1 に AUD-II のブロック図を示します。

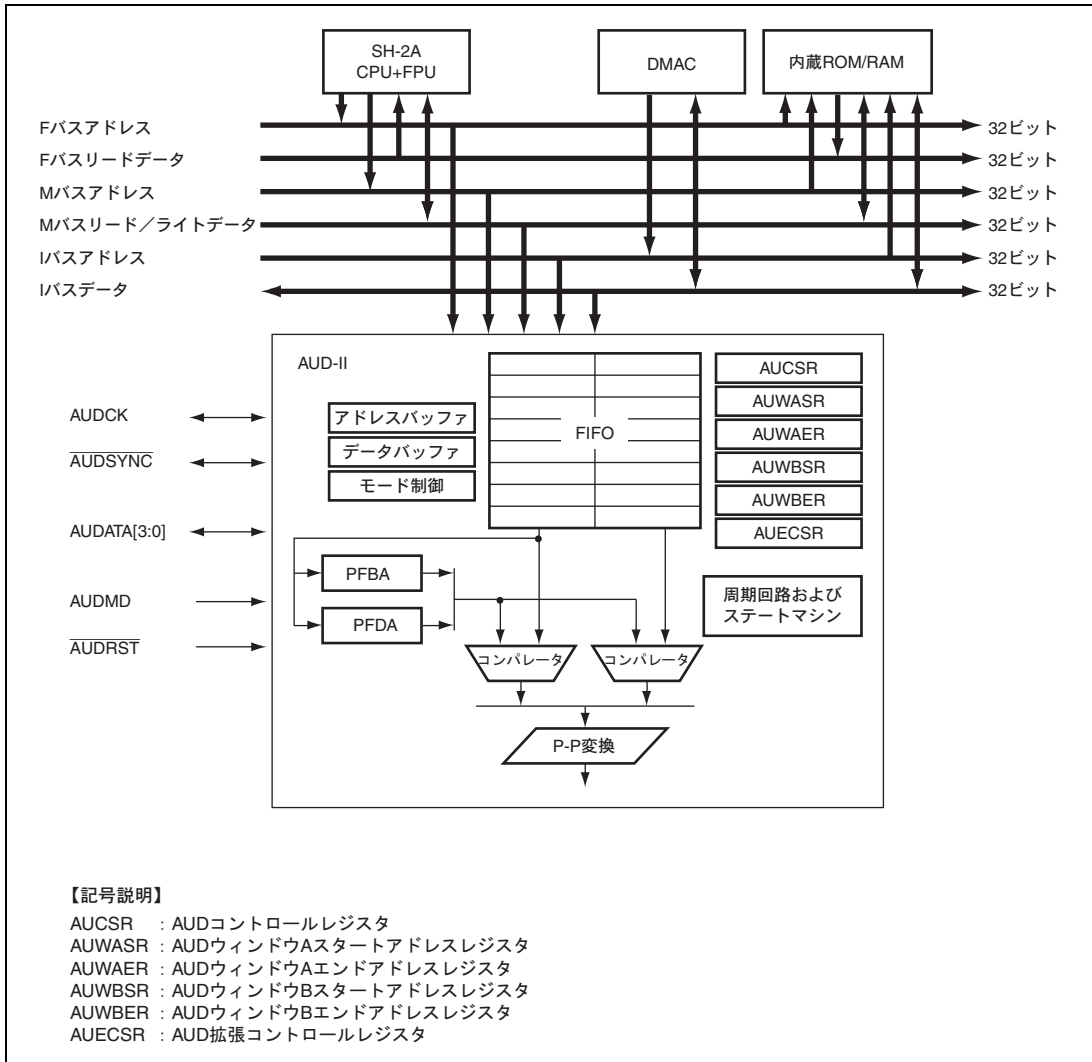


図 21.1 AUD-II のブロック図

21.2 入出力端子

AUD-II は表 21.1 に示す入出力端子を持っています。

表 21.1 端子構成

名称	端子名	機 能	
		AUD トレースモード	RAM モニタモード
AUD リセット	$\overline{\text{AUDRST}}$	AUD リセット入力	AUD リセット入力
AUD 同期信号	$\overline{\text{AUDSYNC}}$	データ先頭位置認識信号出力	データ先頭位置認識信号入力
AUD クロック	AUDCK	AUD クロック出力	外部入力クロック
AUD モード	AUDMD	モード選択入力 (L)	モード選択入力 (H)
AUD データ	AUDATA[3:0]	トレースデータ/アドレス出力	モニタアドレス入力/データ入出力

21.2.1 共通に使用する端子の説明

表 21.2 共通に使用する端子

端子名	説 明
AUDMD	本端子の入カレベルを切り替えることにより、モード選択します。 L : AUD トレースモード H : RAM モニタモード 本端子の切り替えは $\overline{\text{AUDRST}}$ が L の状態で実施してください。また、何も接続されないときは内部でプルアップします。
$\overline{\text{AUDRST}}$	本端子に L を入力時は AUD がリセット状態となり、AUD 内のバッファおよび処理状態はリセットされます。AUDMD のレベル確定後 H に戻すと選択されたモードで動作します。また、何も接続しないときは内部でプルダウンします。

21.2.2 AUD トレースモードでの端子説明

表 21.3 AUD トレースモードでの端子説明

端子名	説明
AUDCK	本端子は AUDATA の同期をとるためのクロックです。 AUD 出力クロック比は、CPU コアのクロックに対して×1/4、×1/8、×1/10 です。
AUDSYNC	AUD バスコマンド有効信号です。 1 : AUD バスコマンド 1 出力時 0 : AUD バスコマンド 2、アドレス、データを出力しているとき なお、LOST コマンドが出力された次のサイクルは、出力内容によらず 0 となります。
AUDATA[3:0]	下記情報が時分割で出力されます。 <ul style="list-style-type: none"> • AUD バスコマンド • 分岐先/分岐元アドレス • ウィンドウデータアドレス、データ

21.2.3 RAM モニタモードでの端子説明

表 21.4 RAM モニタモードでの端子説明

端子名	説明
AUDCK	本端子は外部クロック入力です。デバッグに使用するクロックを入力してください。 入力できる周波数は、EXTAL 端子から入力される周波数より低い周波数です。また、何も接続されないときは内部でプルアップします。
AUDSYNC	AUD バスコマンド有効信号です。 1 : 読み出しデータを出力 0 : 書き込みアドレス、データ、DIR コマンドを入力 Ready フラグを出力 また、何も接続されないときは内部でプルアップします。 【注】本端子は外部から AUDATA にコマンドが入力されて、必要なデータが準備できるまでアサートしないでください。詳細は後述のプロトコルを参照してください。
AUDATA[3:0]	下記情報が時分割で出力されます。 <ul style="list-style-type: none"> • AUD バスコマンド • アドレス • データ 外部からコマンドを入力すると Ready 送信後データを出力します。出力は AUDSYNC がネゲートされてから開始します。詳細は後述のプロトコルを参照してください。また、何も接続されていないときは、内部でプルアップします。

21.3 AUD トレースモード

21.3.1 レジスタの説明

AUD-II の各機能を制御する AUCSR および AUECSR、ウィンドウの設定を行うための AUWASR、AUWBSR、AUWAER、AUWBER があります。これら 6 本のレジスタの詳細を表 21.5 に示します。

表 21.5 レジスタ構成

レジスタ名	略称	R/W	初期値	アドレス	アクセスサイズ
AUD コントロールレジスタ	AUCSR	R/W	H'0000	H'FFFC0C00	8、16
AUD ウィンドウ A スタートアドレスレジスタ	AUWASR	R/W	未定義	H'FFFC0C04	8、16、32
AUD ウィンドウ A エンドアドレスレジスタ	AUWAER	R/W	未定義	H'FFFC0C08	8、16、32
AUD ウィンドウ B スタートアドレスレジスタ	AUWBSR	R/W	未定義	H'FFFC0C0C	8、16、32
AUD ウィンドウ B エンドアドレスレジスタ	AUWBER	R/W	未定義	H'FFFC0C10	8、16、32
AUD 拡張コントロールレジスタ	AUECSR	R/W	H'0000	H'FFFC0C14	8、16

21.3.2 AUD コントロールレジスタ (AUCSR)

AUCSR は、読み出し／書き込み可能な 16 ビットのレジスタです。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	CLK[1:0]	BW[1:0]	OC[1:0]	BR[1:0]	WA[1:0]	WB[1:0]	—	TM	—	EN						
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15、14	CLK[1:0]	00	R/W	<p>AUD クロックセレクト</p> <p>AUDCK から出力されるクロックを内部クロック (ϕ) 比で設定します。なお、AUDCK のクロック比の制限については、「21.3.9 (2) AUDCK の規定」を参照してください。</p> <p>00: 内部クロック比 1/8 を選択します</p> <p>01: 内部クロック比 1/4 を選択します</p> <p>10: 内部クロック比 1/10 を選択します</p> <p>11: リザーブ</p> <p>【注】 CLK[1:0]は必ず AUCSR の EN ビットが 0 の状態で変更してください。</p>

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
13, 12	BW[1:0]	00	R/W	<p>AUD 出力バス幅</p> <p>AUDATA のバス幅を指定します。本ビットは、将来の拡張のために設けたビットですので、実際にはまだ実装されていません。他のリザーブビットと同じく、書き込みを行う場合は必ず 0 を書き込んでください。また、読み出すと 0 が読めます。</p> <p>00 : 4 ビットモード。AUDATA[3:0]よりトレース情報が出力されます。</p> <p>01 : リザーブ</p> <p>10 : リザーブ</p> <p>11 : リザーブ</p>
11, 10	OC[1:0]	00	R/W	<p>出力カウンタモード</p> <p>分岐トレースなどで出力されるトレース情報は、通常、アドレス部の変化した下位ビット部分のみが出力されますが、ある一定周期で 32 ビットすべてのアドレスを出力することができます。OC[1:0]ビットは 32 ビットすべてのアドレス情報を出力する周期を指定します。AUCSR の OC[1:0]ビットが B'11 のとき、AUDATA のトレースアドレス出力は、リセット後の最初の 1 回を除き、常にアドレスの差異部分が出力されます。OC[1:0]ビットが B'00 のときは 128 個のトレース情報を出力するごとに 32 ビットすべてのアドレスを出力します。</p> <p>00 : 128 個のトレース情報を出力するごとに 32 ビットすべてのアドレスを出力します</p> <p>01 : リザーブ</p> <p>10 : リザーブ</p> <p>11 : 常時アドレス部の変化した下部ビット部分のみ出力</p>
9, 8	BR[1:0]	00	R/W	<p>分岐トレース機能</p> <p>本ビットの設定により、分岐先、分岐元のアドレスをトレースします。</p> <p>00 : 分岐トレース無効</p> <p>01 : 分岐トレース有効、分岐元/分岐先とも出力</p> <p>10 : 分岐トレース有効、分岐元のみ出力</p> <p>11 : 分岐トレース有効、分岐先のみ出力</p> <p>BR[1:0]ビットの設定は、出力中のデータの次の次のデータを出力するときから反映されます。</p>

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
7, 6	WA[1:0]	00	R/W	<p>ウィンドウ A データトレース機能</p> <p>本モードを設定することで、AUD-II はウィンドウ A で指定された領域のメモリアクセスをトレースします。トレース条件として、リードアクセス、ライトアクセス、その両方を指定できます。</p> <p>本製品は複数バスを内蔵するので、どのバスをトレースするかを指定できません。詳細は、「21.3.7 AUD 拡張コントロールレジスタ (AUECSR)」を参照してください。</p> <p>00 : ウィンドウ A データトレース機能は無効です 01 : ライトアクセスのみトレース対象にします 10 : リードアクセスのみトレース対象にします 11 : リード/ライトともにトレース対象にします</p>
5, 4	WB[1:0]	00	R/W	<p>ウィンドウ B データトレース機能</p> <p>本モードを設定することで、AUD-II はウィンドウ B で指定された領域のメモリアクセスをトレースします。トレース条件として、リードアクセス、ライトアクセス、その両方を指定できます。</p> <p>本製品は複数バスを内蔵するので、どのバスをトレースするかを指定できません。詳細は、「21.3.7 AUD 拡張コントロールレジスタ (AUECSR)」を参照してください。</p> <p>00 : ウィンドウ B データトレース機能は無効です 01 : ライトアクセスのみトレース対象にします 10 : リードアクセスのみトレース対象にします 11 : リード/ライトともにトレース対象にします</p>
3	—	0	R/W	<p>リザーブビット</p> <p>読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。</p>
2	TM	0	R/W	<p>トレースモード</p> <p>AUD-II の各種トレース情報を格納するための FIFO バッファが満杯になったときの CPU の動作を指定します。</p> <p>0 : フルトレースモード : 発生したすべてのトレースを出力するモードです。 1 : リアルタイムトレースモード : CPU を停止させることなく、リアルタイムでトレース情報を出力します。</p>
1	—	0	R/W	<p>リザーブビット</p> <p>読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。</p>
0	EN	0	R/W	<p>AUD トレースイネーブル</p> <p>本ビットを 1 にすることで AUD-II は、BR[1:0]、WA[1:0]、WB[1:0] ビットで指定されたトレースの機能を選択します。</p> <p>本ビットが 0 の場合、BR[1:0]、WA[1:0]、WB[1:0] ビットで指定されたトレースは実行されません。</p> <p>0 : AUD トレースの機能は無効です。 1 : AUD トレースの機能は有効です。</p>

21.3.3 AUD ウィンドウ A スタートアドレスレジスタ (AUWASR)

AUWASR は、読み出し／書き込み可能な 32 ビットのレジスタで、トレース対象となるウィンドウ A の開始アドレスを論理アドレスで指定します。終了アドレスは、AUD ウィンドウ A エンドアドレスレジスタ (AUWAER) で指定します。ウィンドウ A は、 $AUWASR \leq \text{ウィンドウ A} \leq AUWAER$ を満たす領域と定義します。

ビット:	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
初期値:	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
初期値:	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

21.3.4 AUD ウィンドウ A エンドアドレスレジスタ (AUWAER)

AUWAER は、読み出し／書き込み可能な 32 ビットのレジスタで、AUWASR とともにウィンドウ A 領域を指定するために用います。

ビット:	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
初期値:	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
初期値:	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

21.3.5 AUD ウィンドウ B スタートアドレスレジスタ (AUWBSR)

AUWBSR は、読み出し／書き込み可能な 32 ビットのレジスタで、トレース対象となるウィンドウ B の開始アドレスを論理アドレスで指定します。終了アドレスは、AUD ウィンドウ B エンドアドレスレジスタ (AUWBER) で指定します。ウィンドウ B は、 $AUWBSR \leq \text{ウィンドウ B} \leq AUWBER$ を満たす領域と定義します。

ビット:	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
初期値:	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
初期値:	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

21.3.6 AUD ウィンドウ B エンドアドレスレジスタ (AUWBER)

AUWBER は、読み出し／書き込み可能な 32 ビットのレジスタで、AUWBSR とともにウィンドウ B 領域を指定するために用います。

ビット:	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
初期値:	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
初期値:	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

21.3.7 AUD 拡張コントロールレジスタ (AUECSR)

AUECSR は、読み出し/書き込み可能な 16 ビットのレジスタです。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	WA0B[2:0]		WB0B[2:0]		TREX	TRSB	TRGN	—		
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~10	—	すべて 0	R/W	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
9~7	WA0B [2:0]	000	R/W	ウィンドウ A 用トレースバスセレクト どの内蔵バスのデータトレースを行うかを指定します。 000: リザーブ 001: M バスを指定します 010: リザーブ 011: リザーブ 100: I バスを指定します 101: リザーブ 110: リザーブ 111: リザーブ 【注】 WA0B[2:0] ビットは、必ず AUCSR の EN ビットが 0 の状態で変更してください。
6~4	WB0B [2:0]	000	R/W	ウィンドウ B 用トレースバスセレクト どの内蔵バスのデータトレースを行うかを指定します。 000: リザーブ 001: M バスを指定します 010: リザーブ 011: リザーブ 100: I バスを指定します 101: リザーブ 110: リザーブ 111: リザーブ 【注】 WB0B[2:0] ビットは、必ず AUCSR の EN ビットが 0 の状態で変更してください。
3	TREX	0	R/W	例外分岐トレースセレクト 分岐トレース機能有効時に、例外分岐をトレースするかどうかを指定します。 0: 例外分岐をトレースします 1: 例外分岐をトレースしません

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
2	TRSB	0	R/W	サブルーチン分岐トレースセレクト 分岐トレース機能有効時に、サブルーチン分岐をトレースするかどうかを指定します。 0：サブルーチン分岐をトレースします 1：サブルーチン分岐をトレースしません
1	TRGN	0	R/W	一般分岐トレースセレクト 分岐トレース機能有効時に、一般分岐をトレースするかどうかを指定します。 0：一般分岐をトレースします 1：一般分岐をトレースしません 【注】分岐の種類は、下記のように定義します。 例外分岐：一般不当命令、スロット不当命令、バンクアンドフロー、 割り込み動作、TRAPA 命令、RTE 命令、UBC ブレーク (PC)、パワーオンリセット サブルーチン分岐：BSR、BSRF、JSR、JSR/N、RTS、RTS/N、RTV/N 命令 一般分岐：BF、BT、BF/S、BT/S、BRA、BRA/F、JMP 命令
0	—	0	R/W	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。

21.3.8 動作説明

AUDトレース機能を使用するためには、 $\overline{\text{AUDRST}}$ をアサートした状態で AUDMD を L にして $\overline{\text{AUDRST}}$ をネゲートにします。その後、 AUCSR 、 AUWASR 、 AUWAER 、 AUWBSR 、 AUWBERR 、 AUECSR レジスタに任意の値をセットしてください。 AUCSR の EN ビットには 1 をセットしてください。

AUD-II は、分岐トレース機能、ウィンドウデータトレース機能をサポートします。これらの機能は独立して動作させることが可能です。さらに、本機能によって得られたトレースデータを外部に出力するモードとして、リアルタイムトレースモード、フルトレースモードを選択することができます。これら AUDトレースの詳細な動作について説明します。

(1) AUD バスコマンド

AUD-II によって得られたトレース情報は、 $\text{AUDATA}[3:0]$ 、 $\overline{\text{AUDSYNC}}$ を通じ、 AUDCK に同期してパケット形式で出力されます。パケットは、コマンド部と 0~16 個のデータ部から構成されており、 $\text{AUDATA}[3:0]$ から連続して出力されます。通常コマンド部は、パケットの種類を示す CMD1 、データ部のパケット長を示す CMD2 より構成されています。それ以外に、AUD-II のステータスを表す CMD1 のみで構成された特殊なパケットもあります。 $\overline{\text{AUDSYNC}}$ は、アイドル時および CMD1 が $\text{AUDATA}[3:0]$ から出力されるとき H、 CMD2 、アドレス、およびデータが出力されるとき L になります。コマンドの詳細を表 21.6 に示します。

表 21.6 AUD バスコマンド一覧

コマンド	CMD1	CMD2	説 明
STDBY	B'0000	—	スタンバイ状態を示します。 続いて出力されるデータ部はありません。
LOST	B'0001	—	リアルタイムトレースモードでは出力するデータが失われたことを示します。 フルトレースモードでは AUD-II の FIFO がフルになるか、複数のトレースが同時に発生して CPU の動作は一時的に停止したことを示します。
BGC	B'0010	(sda) (ssa)	分岐トレース情報（一般分岐）を出力します。データ部は本コマンドに続き、分岐先アドレス、分岐元アドレスの順で出力されます。 sda : 分岐先アドレスのサイズを示します。ただし、分岐元のみトレースの場合はゴミとなります。 ssa : 分岐元アドレスのサイズを示します。ただし、分岐先のみトレースの場合はゴミとなります。 sda/ssa=B'00 : アドレスの下位 4 ビット sda/ssa=B'01 : アドレスの下位 8 ビット sda/ssa=B'10 : アドレスの下位 16 ビット sda/ssa=B'11 : 32 ビットフルアドレス
BSC	B'0011	(sda) (ssa)	分岐トレース情報（サブルーチン）を出力します。データ部は本コマンドに続き、分岐先アドレス、分岐元アドレスの順で出力されます。 sda : 分岐先アドレスのサイズを示します。BGC の sda と同じです。 ssa : 分岐元アドレスのサイズを示します。BGC の ssa と同じです。
BEC	B'0100	(sda) (ssa)	分岐トレース情報（例外分岐）を出力します。データ部は本コマンドに続き、分岐先アドレス、分岐元アドレスの順で出力されます。 sda : 分岐先アドレスのサイズを示します。BGC の sda と同じです。 ssa : 分岐元アドレスのサイズを示します。BGC の ssa と同じです。
WDWM	B'1000	(sa) (sd)	ウィンドウデータトレース（M バス）のストアアクセス情報を出力します。 データ部は本コマンドに続き、ストアアドレス、ストアデータの順に出力されます。 sa : ストアアドレスのサイズを示します。 sa=B'00 : アドレスの下位 4 ビット sa=B'01 : アドレスの下位 8 ビット sa=B'10 : アドレスの下位 16 ビット sa=B'11 : 32 ビットフルアドレス sd : ストアデータのサイズを示します。 sd=B'01 : バイト型データ（8 ビット） sd=B'10 : ワード型データ（16 ビット） sd=B'11 : ロングワード型データ（32 ビット）
WDWI	B'1001	(sa) (sd)	ウィンドウデータトレース（I バス）のストアアクセス情報を出力します。 データ部は本コマンドに続き、ストアアドレス、ストアデータの順に出力されます。 sa : ストアアドレスのサイズを示します。WDWM の sa と同一です。 sd : ストアデータのサイズを示します。WDWM の sd と同一です。

コマンド	CMD1	CMD2	説明
WDRM	B'1101	(sa) (sd)	ウィンドウデータトレース (Mバス) のリードアクセス情報を出力します。 データ部は本コマンドに続き、リードアドレス、リードデータの順に出力されます。 sa : リードアドレスのサイズを示します。WDWM の sa と同一です。 sd : リードデータのサイズを示します。WDWM の sd と同一です。
WDRI	B'1110	(sa) (sd)	ウィンドウデータトレース (Iバス) のリードアクセス情報を出力します。 データ部は本コマンドに続き、リードアドレス、リードデータの順に出力されます。 sa : リードアドレスのサイズを示します。WDWM の sa と同一です。 sd : リードデータのサイズを示します。WDWM の sd と同一です。

(2) 分岐トレース

分岐命令の実行や割り込みの発生などによって PC が変化する事象を捕え、分岐元、分岐先のアドレスを外部に出力します。AUCSR の BR[1:0]、EN ビット、AUECSR の TREX、TRSB、TRGN ビットを設定することで、ユーザプログラムの分岐情報がトレースされます。

図 21.2～図 21.4 に分岐トレースの出力例を示します。

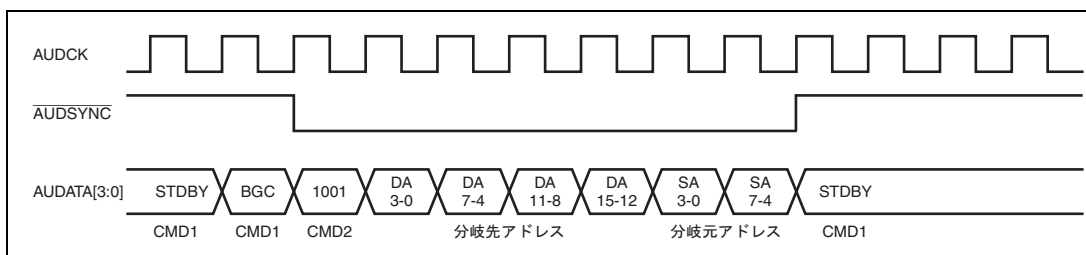


図 21.2 BGC コマンドによる分岐トレース (分岐先/分岐元)
(分岐先アドレス下位 16 ビット、分岐元アドレス下位 8 ビット)

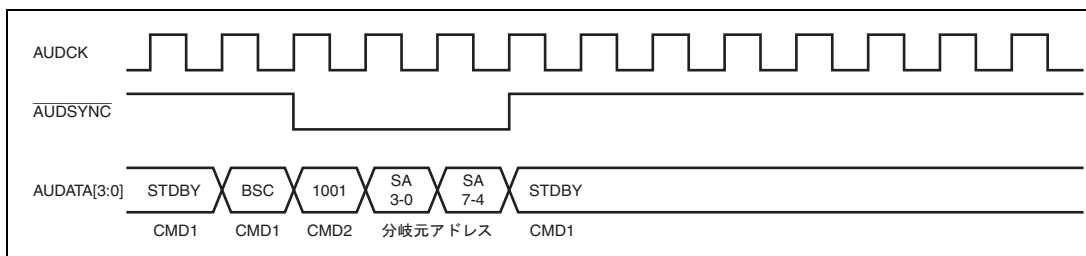


図 21.3 BSC コマンドによる分岐トレース (分岐元のみ)
(分岐元アドレス下位 8 ビット)

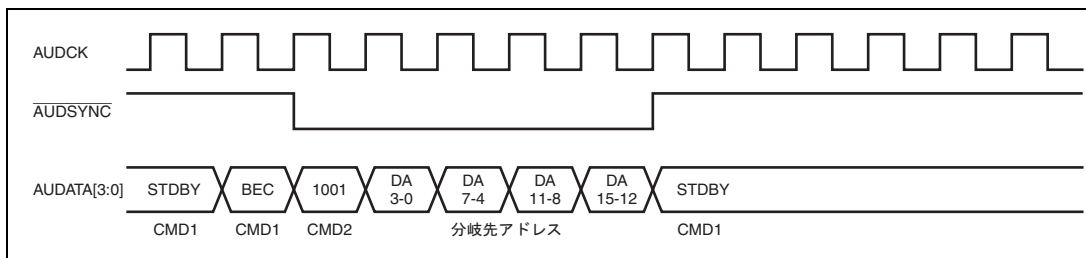


図 21.4 BEC コマンドによる分岐トレース (分岐先のみ)
(分岐先アドレス下位 16 ビット)

分岐先/分岐元と両出力時にアドレスの差異部分の比較対象となるのは、前回の分岐先アドレスとなります。分岐元のみ出力時にアドレスの差異部分の比較対象となるのは、前回の分岐元アドレスとなります。分岐先のみ出力時にアドレスの差異部分の比較対象となるのは、前回の分岐先アドレスとなります。

ユーザプログラムにおいて、分岐イベント (分岐命令の実行および割り込みなど) が発生しない間、分岐情報は出力されません (STDBY コマンドが出力されます)。分岐先/分岐元両方のアドレスを出力する設定で分岐イベントが発生したとき、コマンドに続き分岐先アドレス、分岐元アドレスの順序でトレース情報が AUDATA[3:0] から出力されます。出力される分岐先、分岐元の両アドレスサイズ (4/8/16/32 ビット) は、PFBA の値 (前回出力された分岐先アドレス) をもとに、両アドレスの上位ビットを一致比較することで決定されます。

本アルゴリズムを図 21.5 に示します。

定義:

PFBA: 前回出力された分岐先アドレス (32ビット分すべて保持)
(分岐元のみトレースするときは分岐元アドレス)

CDA: 今回出力される分岐先アドレス

CSA: 今回出力される分岐元アドレス

```

/* PFBA:initial value = H'00000000 */
if (PFBA[31:0] == 0x00000000) {output32bit(CDA[31:0]);}
else if (PFBA[31:4] == CDA[31:4]) {output4bit(CDA[3:0]);}
else if (PFBA[31:8] == CDA[31:8]) {output8bit(CDA[7:0]);}
else if (PFBA[31:16] == CDA[31:16]) {output16bit(CDA[15:0]);}
else {output32bit(CDA[31:0]);}

if (PFBA[31:0] == 0x00000000) {output32bit(CSA[31:0]);}
else if (PFBA[31:4] == CSA[31:4]) {output4bit(CSA[3:0]);}
else if (PFBA[31:8] == CSA[31:8]) {output8bit(CSA[7:0]);}
else if (PFBA[31:16] == CSA[31:16]) {output16bit(CSA[15:0]);}
else {output32bit(CSA[31:0]);}

PFBA = CDA; /* update PFBA */

```

図 21.5 分岐トレースのアルゴリズム

本アルゴリズムを用いることで、出力すべきトレースデータ量を大幅に削減することができます。分岐トレース情報はFIFOに空きがあるかぎり蓄えられます。FIFOが満杯になったときの動作は、AUCSRのTMビット（トレースモード）の設定値によって異なります。

【注】 分岐元アドレスの定義

分岐元アドレス（TSA）がどこを指すのかは、分岐の種類によって異なります。

- 分岐命令（一般分岐、サブルーチン分岐）：

TSAは、分岐命令のアドレスを指します。
- 命令非同期型例外（16ビット命令、32ビット命令）：

TSAは、例外に置き換わった命令のアドレスを指します。
- 命令同期型例外（TRAPA、RTE）

TSAは、その命令のアドレスを指します。

表 21.7 分岐元アドレスの定義

分岐の種類	一般分岐	サブルーチン分岐	命令非同期型例外 (16ビット)	命令非同期型例外 (32ビット)	命令同期型例外
1000	BRA	BSR	NOP* ¹	32ビット命令* ¹ NOP* ² NOP	TRAPA
1002	NOP	NOP	NOP* ²		NOP
1004	NOP	NOP	NOP		NOP
1006	NOP	NOP	NOP		NOP
TSA	1000	1000	1002	1004	1000

【注】 *1 命令が実行されたことを示します。

*2 例外に置き換わったことを示します。

(3) ウィンドウデータトレース

ウィンドウデータトレース機能は、2つのアドレスポインタで指定した領域内（ウィンドウと呼びます）で発生したメモリアクセス情報を外部に出力します。AUD-IIはA、Bの2チャンネルのウィンドウをサポートします。ウィンドウAの範囲はAUWASRとAUWAER、ウィンドウBの範囲はAUWBSRとAUWB ERで指定します。AUCSRのWA[1:0]、WB[1:0]ビットを設定した後、ENビットを1にセットすることで、ユーザプログラムのメモリアクセス情報がトレースされます。

図 21.6 は、ウィンドウデータトレースの例を示しています。

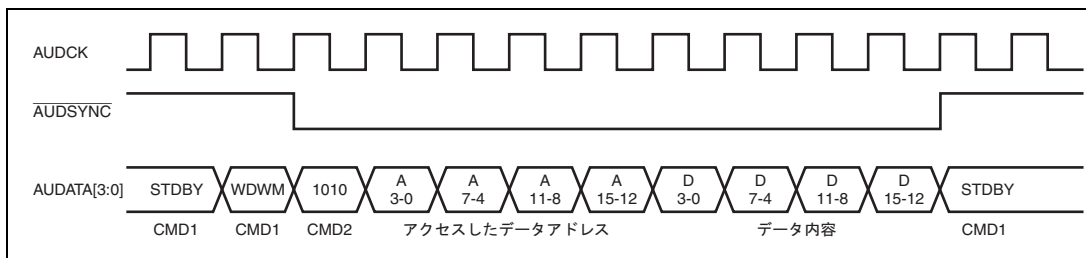


図 21.6 WDDM コマンドによるウィンドウデータトレース
(M バストレース、アドレス下位 16 ビット、ワードサイズデータ)

ユーザプログラムにおいて、ウィンドウ領域に対するデータアクセスが発生したとき、コマンドに続き、アクセスしたデータアドレス、データ内容の順序でトレース情報が AUDATA[3:0] から出力されます。分岐トレースと同様に、出力されるアドレスサイズ (4/8/16/32 ビット) は、PFDA の値 (前回出力されたアドレス) をもとに両アドレスの上位ビットを一致比較することで決定されます。データ内容は、アクセスサイズ (8/16/32) に応じてそのまま出力されます。本アルゴリズムを図 21.7 に示します。

定義:

PFDA: 前回出力されたデータアドレス (32 ビット分すべて保持)

CDA: 今回出力されるデータアドレス

```
/* PFDA : initial value = H'00000000 */
if(PFDA[31:0] == 0x00000000) {output32bit(CDA[31:0]);}
else if(PFDA[31:4] == CDA[31:4]) {output4bit(CDA[3:0]);}
else if(PFDA[31:8] == CDA[31:8]) {output8bit(CDA[7:0]);}
else if(PFDA[31:16] == CDA[31:16]) {output16bit(CDA[15:0]);}
else {output32bit(CDA[31:0]);}
```

```
PFDA = CDA; /* update PFDA */
```

図 21.7 ウィンドウデータトレースのアルゴリズム

本アルゴリズムを用いることで、出力すべきトレースデータ量を大幅に削減することができます。データトレース情報は FIFO に空きがあるかぎり蓄えられます。FIFO が満杯になったときの動作は、AUCSR の TM ビット (トレースモード) の設定値によって異なります。

(4) リアルタイムトレースモード

リアルタイムトレースモードは、分岐トレース、ウィンドウデータトレースによって得られた各種トレースデータをリアルタイムで AUDATA[3:0] 経由により外部に出力するモードです。AUCSR の TM ビットを 1 にすることにより、本モードが選択されます。

本モードでは、トレースデータ出力中も、CPU はトレース機能を使わない場合とまったく同様に動作し続けます。発生した各種トレースイベントは、AUD-II 内蔵の FIFO に空きがあるかぎり順次格納されて外部に出力されます。FIFO に空きがない場合、発生したトレースイベントは無視され、外部に出力されません。ただし、取りこぼしが発生したことを LOST コマンドで外部に通知します。LOST コマンド出力時は、常に LOST コマンド出力の次のサイクルで $\overline{\text{AUDSYNC}} = \text{L}$ になります。

2つ以上の複数イベントが同時に発生した場合、ウィンドウデータトレース (Mバス>Iバス)、分岐トレースの順序でFIFOに格納されます。

図 21.8 に、出力される2つの分岐トレースイベントの間で、何らかのトレース情報が1個以上失われた場合の例を示します。図 21.9 に、LOST コマンドの後 LOST および STDBY になった例を示します。

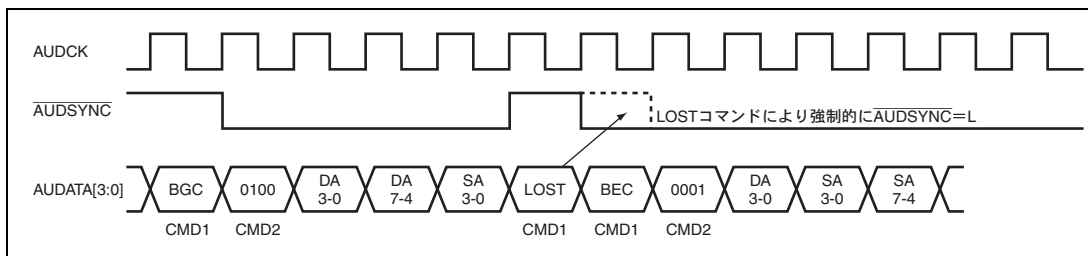


図 21.8 リアルタイムトレース時にトレースデータを取りこぼした例

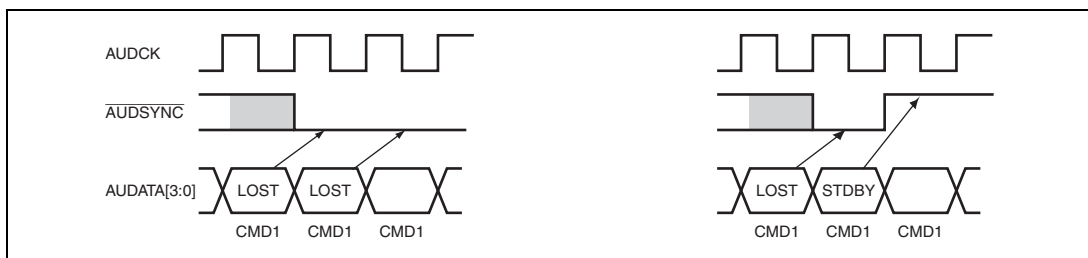


図 21.9 LOST コマンドの後 LOST および STDBY になった例

(5) フルトレースモード

フルトレースモードは、すべてのトレースデータを損なうことなく外部に出力するモードです。本モードは、AUCSR の TM ビットを 0 にすることで選択されます。フルトレースモード選択下で発生した各種トレース情報は、AUD-II に内蔵されている FIFO を経由して外部に出力されます。FIFO が満杯になったとき、CPU は FIFO 内のトレースデータが外部に出力されるまで動作を停止します。

このとき、リアルタイムトレースモードのようにトレースデータを失うことはありませんが、FIFO が満杯になって CPU の動作が一時的に停止した場合は、CPU が動作を一時停止したことを示す LOST コマンドが出力されます。その際、リアルタイムトレースモード時と同様、図 21.9 のように LOST コマンド出力の次のサイクルは常に $\overline{\text{AUDSYNC}}=\text{L}$ となります。

(6) アドレス比較とそのアドレスの差異部位出力

AUDATA 出力の少ないビット幅を有効に活用するために、トレース情報のアドレス部は、PFBA、PFDA レジスタに保持されている前回出力されたアドレスをもとに、必要な下位ビット部分のみが選択され出力されます。

分岐トレースで出力される分岐先、分岐元の両アドレス情報部分のサイズ (4/8/16/32 ビット) は、PFBA レジスタの値をもとに、両アドレスの上位ビットの一致を比較することで決定されます。また、ウィンドウデータトレースで出力されるデータアドレスは、PFDA レジスタの値をもとに、両アドレスの上位ビットの一致を比較することで決定されます。比較に用いた PFBA、PFDA レジスタは、比較対象となるトレース情報が出力されるごとに更新されます。

PFBA、PFDA レジスタは、AUCSR の EN ビットが 0 から 1 に更新されたとき、またはアウトプットカウンタがオーバフローしたとき、無効化 (H'00000000) されます。PFBA、PFDA レジスタが無効であるとき、トレース情報のアドレス部は 32 ビット長で出力されます。アウトプットカウンタはトレースイベントが発生するごとにインクリメントされ、128 個のトレースデータが出力されるごとに、PFBA、PFDA レジスタを無効化します。また、AUCSR の EN が 0 から 1 に更新されたときも、アウトプットカウンタは 0 にクリアされます。アウトプットカウンタは、AUD-II が出力するトレース情報が何らかの要因によって破壊されたときのリカバリ手段として機能します。図 21.10 にアドレスの一致比較の例を示します。

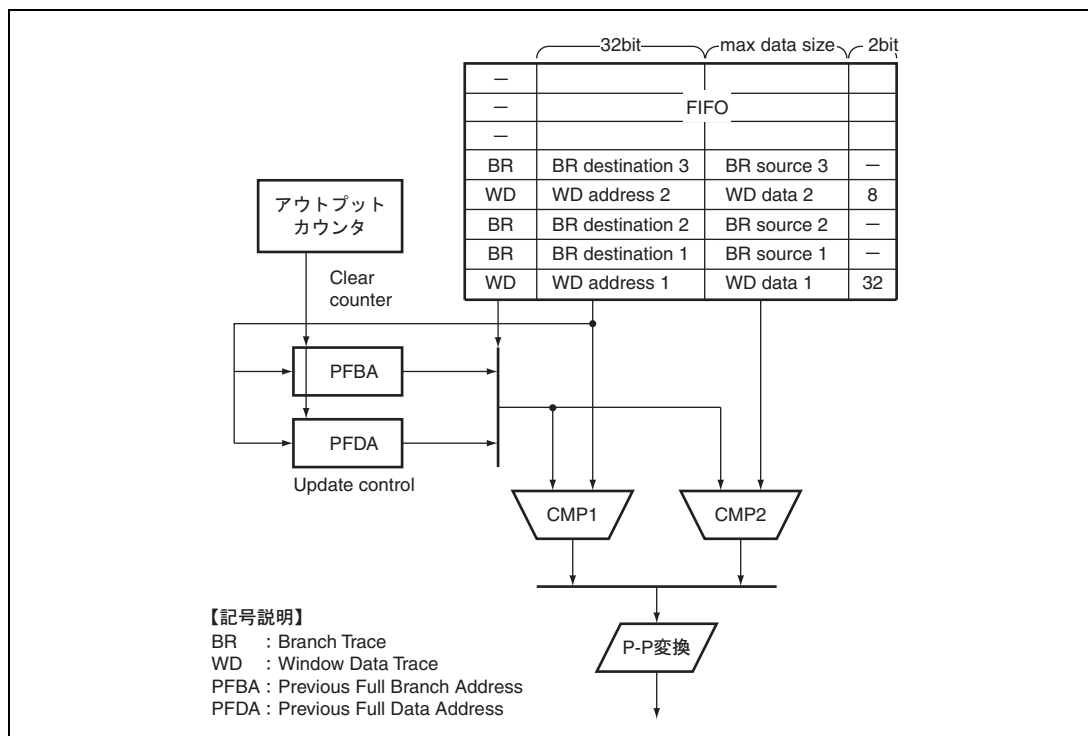


図 21.10 アドレスの一致比較の例

1. はじめにWD address 1とPFDAレジスタがCMP1にて一致比較されます。比較結果に応じてWD address 1の下位部分 (4/8/16/32ビット) が出力されます。引き続き、32ビット長のWD data 1がそのままのビット長で出力されます。その後、PFDAレジスタはWD address 1に更新されます。
2. 次に、BR destination 1とPFBAがCMP1にて、BR source 1とPFBAがCMP2にて比較されます。CMP1の比較結果に応じてBR destination 1の下位部分 (4/8/16/32ビット) が出力されます。引き続き、CMP2の比較結果に応じてBR source 1の下位部分 (4/8/16/32ビット) が出力されます。その後、PFBAレジスタはBR destination 1に更新されます。
3. BR destination 2とPFBAがCMP1にて、BR source 2とPFBAがCMP2にて比較されます。PFBAは上記2で格納された値であるBR destination 1を保持しています。CMP1の比較結果に応じてBR destination 2の下位部分 (4/8/16/32ビット) が出力されます。引き続き、CMP2の比較結果に応じてBR source 2の下位部分 (4/8/16/32ビット) が出力されます。その後、PFBAレジスタはBR destination 2に更新されます。
4. WD address 2とPFDAレジスタがCMP1にて比較されます。PFDAは上記1.で格納された値であるWD address 1を保持しています。比較結果に応じてWD address 2の下位部分 (4/8/16/32ビット) が出力されます。引き続き、8ビット長のWD data 2がそのままのビット長で出力されます。その後、PFDAレジスタはWD address 2に更新されます。
5. BR destination 3とPFBAがCMP1にて、BR source 3とPFBAがCMP2にて比較されます。PFBAは上記3.で格納された値であるBR destination 2を保持しています。CMP1の比較結果に応じてBR destination 3の下位部分 (4/8/16/32ビット) が出力されます。引き続き、CMP2の比較結果に応じてBR source 3の下位部分 (4/8/16/32ビット) が出力されます。その後、PFBAレジスタはBR destination 3に更新されます。
6. アウトプットカウンタが、オーバフローしたとき、PFBA、PFDAの値は無効化されます。そのとき、トレース情報中の分岐先、分岐元、データアドレス部は、常に32ビット長で出力されます。

21.3.9 AUD トレースモードに関する使用上の注意事項

(1) AUD トレースモードの初期化に関する規定

AUD-II は以下に示す条件で初期化されます。

パワーオンリセット、 $\overline{\text{AUDRST}}$ 端子に L レベル印加、モジュールスタンバイにより、AUCSR、AUECSR レジスタは H'0000 に初期化されます。また、このとき AUDATA[3:0] は H'0、 $\overline{\text{AUDSYNC}}$ は B'1、AUDCK は B'1 を出力します。

- パワーオンリセット
- $\overline{\text{AUDRST}}$ 端子に L レベル印加
- モジュールスタンバイ

ただし、以下の状態においてはモジュールスタンバイに入りません。

- AUCSR の EN=0 でない場合。
- 取得したデータが FIFO に残っている場合。
- AUCSR レジスタの EN ビットが 0 から 1 へ遷移したとき

AUD-II 内蔵の FIFO をクリア (空) し、PFBA、PFDA、アウトプットカウンタが初期化されます。

- アウトプットカウンタがオーバーフローしたとき
PFBA、PFDA レジスタの値を無効化 (H'00000000) します。

(2) AUDCK の規定

- AUCSR の EN ビットが 1 のとき、AUDCK からクロックを出力します。EN ビットが 0 のとき、クロックは出力されません。ただし、FIFO に有効なデータがあった場合、すべて送信し終えてからこのような状態になります。
- AUCSR の CK[1:0] ビットの変更は、必ず AUCSR の EN ビットが 0 の状態で行ってください。
- AUDCK は、EXTAL 端子からの入力クロック周波数を超える周波数には設定しないでください。設定可能な AUDCK クロック比は以下のとおりです。

表 21.8 設定可能な AUDCK クロック比

内部クロック (ϕ) の PLL 逡倍比	設定可能な AUDCK クロック比
×4	1/4、1/8、1/10
×6、×8	1/8、1/10
×10	1/10

(3) AUD-II レジスタへの書き込み

- AUD-II レジスタの値は、Iバスを經由して書き込まれます。したがって、AUD-II レジスタを書き換えて直後のサイクルではその変更した条件によるトレースが発生しない場合があります。AUD-II レジスタの条件が変更されたタイミングを知るためには最後に書き換えたレジスタを 1 回読み出した後に NOP 命令を 5 個以上実行してください。それ以降のトレースは、新しく書き込んだレジスタ値に対して有効です。

- AUD-IIレジスタの設定変更は、必ずAUCSRのENが0の状態で行ってください。

(4) その他の注意事項

- AUD-II内のFIFOに有効なデータがあった場合、トレース機能が無効化された後もFIFOに残っているデータを出力してから無効化された状態になります。このFIFOに残っているデータを出力中にトレース機能を有効にしないでください。AUD-IIからデータが出力されていないことを確認して、AUD-IIのトレース機能を有効にしてください。
- AUDトレース機能は、スリープ中に使用できます。

21.4 RAM モニタモード

RAM モニタモードは、内部／外部バスに接続されているすべてのメモリマップされたモジュールを読み出し／書き込みする機能です。本機能により RAM モニタ／チューニングができます。

21.4.1 通信プロトコル

AUD-II は、 $\overline{\text{AUDSYNC}}$ がアサートされると AUDATA を取り込みます。AUDATA は以下のフォーマットで入力してください。

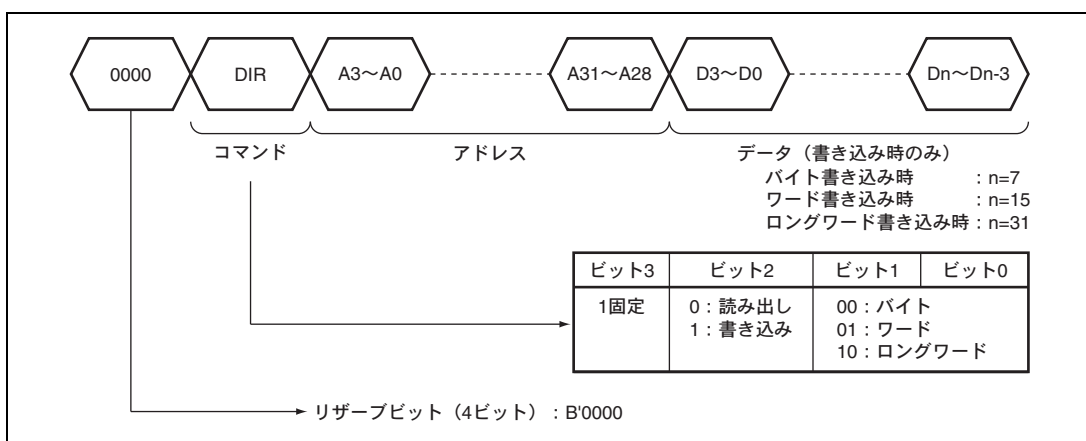


図 21.11 AUDATA 入力フォーマット

21.4.2 動作説明

RAM モニタ機能を使用するためには、 $\overline{\text{AUDRST}}$ をアサートした状態で AUDMD を H にして $\overline{\text{AUDRST}}$ をネゲートすると、RAM モニタモードで動作します。図 21.12 にリード動作の例、図 21.13 にライト動作の例を示します。

$\overline{\text{AUDSYNC}}$ がアサートされると、AUDATA から入力を開始します。図 21.11 に示すフォーマットでコマンド、アドレス、データ（書き込み時のみ）が入力されると、指定されたアドレスの読み出し／書き込みの実行を開始します。内部実行中 AUD-II は Not Ready (B'0000) を返します。実行が完了すると、Ready フラグ (B'0001) を返します（図 21.12、図 21.13）。表 21.9 に Ready フラグのフォーマットを示します。

読み出し時は、このフラグの検出後、 $\overline{\text{AUDSYNC}}$ をネゲートすると指定されたサイズのデータを出力します（図 21.12）。DIR に上記以外のコマンドが入力された場合、AUD-II はコマンドエラーとして処理を無効にし、Ready フラグ内のビット 1 を 1 にセットします。また、DIR 内で指定されたコマンドによる読み出し／書き込み動作がバスエラーを起こすとき、処理を無効にし Ready フラグ内ビット 2 を 1 にセットします（図 21.14）。

以下にバスエラー条件を示します。

1. $4n+1$ 、 $4n+3$ 番地にワードアクセス
2. $4n+1$ 、 $4n+2$ 、 $4n+3$ 番地にロングワードアクセス
3. シングルチップモード時に外部空間をアクセス

表 21.9 Ready フラグフォーマット

ビット 3	ビット 2	ビット 1	ビット 0
0 固定	0 : 正常状態 1 : バスエラー発生	0 : 正常状態 1 : コマンドエラー発生	0 : Not Ready 1 : Ready

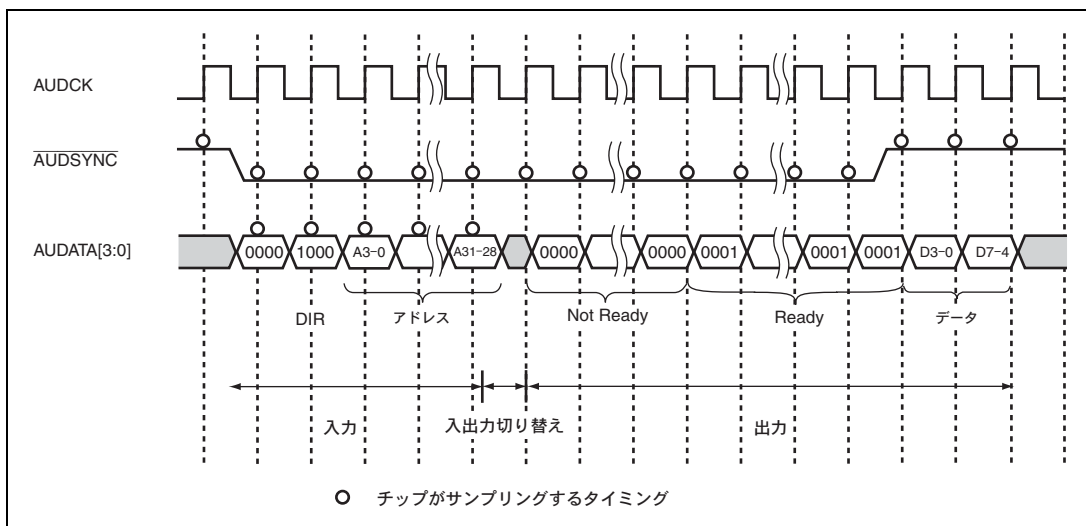


図 21.12 リード動作例 (バイトリード)

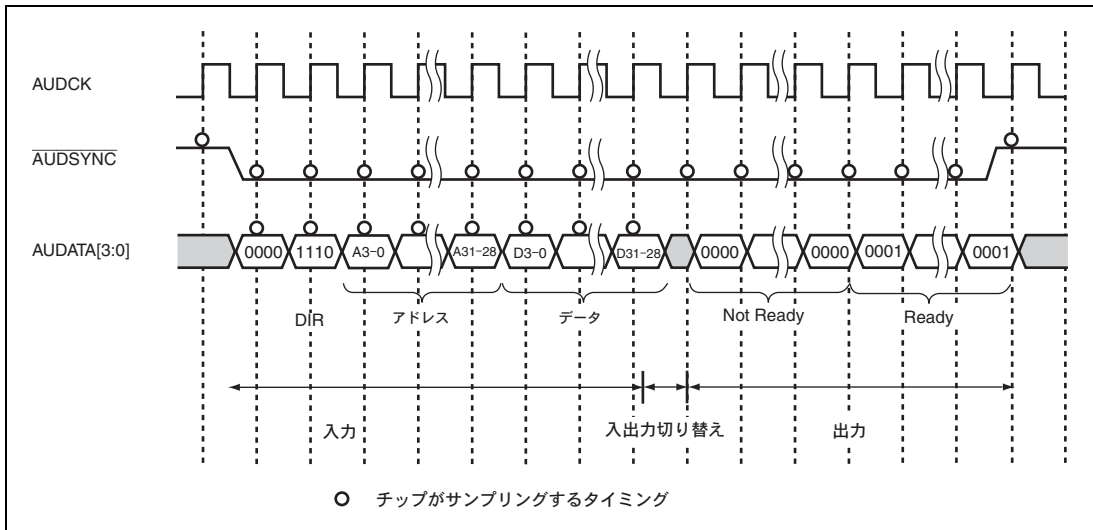


図 21.13 ライト動作例 (ロングワードライト)

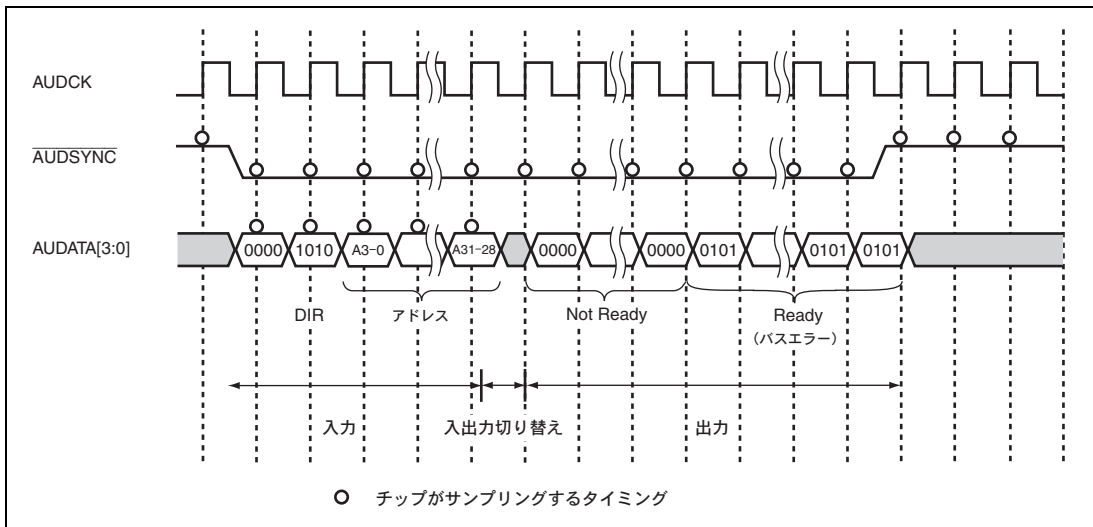


図 21.14 エラー発生例 (ロングワードリード)

21.4.3 RAM モニタモードに関しての使用上の注意事項

(1) RAM モニタモードの初期化に関する規定

本デバッグに内蔵しているバッファおよび処理状態は、以下の条件に入ると初期化されます。

- パワーオンリセット
- $\overline{\text{AUDRST}}$ 端子にLレベル印加
- モジュールスタンバイ

(2) AUDCK の規定

AUDCK は外部クロック入力です。AUDCK は、EXTAL 端子からの入力クロック周波数より低い周波数で入力してください。

(3) その他の注意事項

- $\overline{\text{AUDSYNC}}$ はAUDATAにコマンドが入力されて、Readyが返されるまではネゲートしないでください。
- RAMモニタ機能は、スリープ中に使用できます。

22. ピンファンクションコントローラ (PFC)

ピンファンクションコントローラ (PFC) は、マルチプレクス端子の機能とその入出力の方向を選ぶためのレジスタで構成されています。表 22.1～表 22.11 に本 LSI のマルチプレクス端子を示します。

表 22.1 マルチプレクス一覧表 (ポート A)

機能 1 (関連モジュール)	機能 2 (関連モジュール)	機能 3 (関連モジュール)	機能 4 (関連モジュール)
PA0 (ポート)	A0 (BSC)	—	—
PA1 (ポート)	A1 (BSC)	—	—
PA2 (ポート)	A2 (BSC)	—	—
PA3 (ポート)	A3 (BSC)	—	—
PA4 (ポート)	A4 (BSC)	—	—
PA5 (ポート)	A5 (BSC)	—	—
PA6 (ポート)	A6 (BSC)	—	—
PA7 (ポート)	A7 (BSC)	—	—
PA8 (ポート)	A8 (BSC)	—	—
PA9 (ポート)	A9 (BSC)	—	—
PA10 (ポート)	A10 (BSC)	—	—
PA11 (ポート)	A11 (BSC)	—	—
PA12 (ポート)	A12 (BSC)	—	—
PA13 (ポート)	A13 (BSC)	—	—
PA14 (ポート)	A14 (BSC)	—	—
PA15 (ポート)	A15 (BSC)	—	—

表 22.2 マルチプレクス一覧表 (ポート B)

機能 1 (関連モジュール)	機能 2 (関連モジュール)	機能 3 (関連モジュール)	機能 4 (関連モジュール)
PB0 (ポート)	A16 (BSC)	MOSIA (RSPI)	—
PB1 (ポート)	A17 (BSC)	MISOA (RSPI)	—
PB2 (ポート)	A18 (BSC)	MOSIB (RSPI)	—
PB3 (ポート)	A19 (BSC)	MISOB (RSPI)	—
PB4 (ポート)	A20 (BSC)	CTx_B (RCAN-TL1)	TIF6 (ATU-III)
PB5 (ポート)	A21 (BSC)	CRx_B (RCAN-TL1)	TIF7 (ATU-III)
PB6 (ポート)	$\overline{WE0}$ (BSC)	—	—
PB7 (ポート)	$\overline{WE1}$ (BSC)	—	—
PB8 (ポート)	\overline{WAIT} (BSC)	TOE20 (ATU-III)	—
PB9 (ポート)	\overline{RD} (BSC)	—	—
PB10 (ポート)	$\overline{CS0}$ (BSC)	—	—
PB11 (ポート)	$\overline{CS1}$ (BSC)	TOE21 (ATU-III)	—
PB12 (ポート)	$\overline{CS2}$ (BSC)	RSPCKA (RSPI)	—
PB13 (ポート)	$\overline{CS3}$ (BSC)	RSPCKB (RSPI)	—
PB14 (ポート)	$\overline{RD/WR}$ (BSC)	—	—

表 22.3 マルチプレクス一覧表 (ポート C)

機能 1 (関連モジュール)	機能 2 (関連モジュール)	機能 3 (関連モジュール)	機能 4 (関連モジュール)
PC0 (ポート)	D0 (BSC)	—	—
PC1 (ポート)	D1 (BSC)	—	—
PC2 (ポート)	D2 (BSC)	—	—
PC3 (ポート)	D3 (BSC)	—	—
PC4 (ポート)	D4 (BSC)	—	—
PC5 (ポート)	D5 (BSC)	—	—
PC6 (ポート)	D6 (BSC)	—	—
PC7 (ポート)	D7 (BSC)	—	—
PC8 (ポート)	D8 (BSC)	—	—
PC9 (ポート)	D9 (BSC)	—	—
PC10 (ポート)	D10 (BSC)	—	—
PC11 (ポート)	D11 (BSC)	—	—
PC12 (ポート)	D12 (BSC)	—	—
PC13 (ポート)	D13 (BSC)	—	—
PC14 (ポート)	D14 (BSC)	—	—
PC15 (ポート)	D15 (BSC)	—	—

表 22.4 マルチプレクス一覧表 (ポート D)

機能 1 (関連モジュール)	機能 2 (関連モジュール)	機能 3 (関連モジュール)	機能 4 (関連モジュール)
PD0 (ポート)	TIOC00 (ATU-III)	TIOC31 (ATU-III)	—
PD1 (ポート)	TIOC01 (ATU-III)	TOE20 (ATU-III)	—
PD2 (ポート)	TIOC02 (ATU-III)	TOE21 (ATU-III)	TOE52 (ATU-III)
PD3 (ポート)	TIOC03 (ATU-III)	TOE22 (ATU-III)	TOE53 (ATU-III)
PD4 (ポート)	TIOC10 (ATU-III)	TIOC32 (ATU-III)	TOE52 (ATU-III)
PD5 (ポート)	TIOC11 (ATU-III)	TOE23 (ATU-III)	TOE40 (ATU-III)
PD6 (ポート)	TIOC12 (ATU-III)	—	TOE41 (ATU-III)
PD7 (ポート)	TIOC13 (ATU-III)	—	TOE42 (ATU-III)
PD8 (ポート)	TIOC20 (ATU-III)	TIOC33 (ATU-III)	TOE53 (ATU-III)
PD9 (ポート)	TIOC21 (ATU-III)	TIF0B (ATU-III)	TOE43 (ATU-III)
PD10 (ポート)	TIOC22 (ATU-III)	TIF1B (ATU-III)	TOE50 (ATU-III)
PD11 (ポート)	TIOC23 (ATU-III)	TIF2B (ATU-III)	TOE51 (ATU-III)
PD12 (ポート)	TCLKA (ATU-III)	TIOC41 (ATU-III)	TIJ0 (ATU-III)
PD13 (ポート)	TCLKB (ATU-III)	—	TIJ1 (ATU-III)

表 22.5 マルチプレクス一覧表 (ポート E)

機能 1 (関連モジュール)	機能 2 (関連モジュール)	機能 3 (関連モジュール)	機能 4 (関連モジュール)
PE0 (ポート)	TIA00 (ATU-III)	—	—
PE1 (ポート)	TIA01 (ATU-III)	TIOC42 (ATU-III)	TIOC40 (ATU-III)
PE2 (ポート)	TIA02 (ATU-III)	TIOC43 (ATU-III)	TIOC30 (ATU-III)
PE3 (ポート)	TIA03 (ATU-III)	—	—
PE4 (ポート)	TIA04 (ATU-III)	—	—
PE5 (ポート)	TIA05 (ATU-III)	—	—
PE6 (ポート)	TOE00 (ATU-III)	CTx_B (RCAN-TL1)	—
PE7 (ポート)	TOE01 (ATU-III)	CRx_B (RCAN-TL1)	—
PE8 (ポート)	TOE02 (ATU-III)	—	—
PE9 (ポート)	TOE03 (ATU-III)	—	—
PE10 (ポート)	TOE10 (ATU-III)	—	—
PE11 (ポート)	TOE11 (ATU-III)	—	—
PE12 (ポート)	TOE12 (ATU-III)	—	—
PE13 (ポート)	TOE13 (ATU-III)	—	—

表 22.6 マルチプレクス一覧表 (ポート F)

機能 1 (関連モジュール)	機能 2 (関連モジュール)	機能 3 (関連モジュール)	機能 4 (関連モジュール)
PF0 (ポート)	TOD00B (ATU-III)	—	TIF6 (ATU-III)
PF1 (ポート)	TOD01B (ATU-III)	—	TIF7 (ATU-III)
PF2 (ポート)	TOD02B (ATU-III)	—	TIF8 (ATU-III)
PF3 (ポート)	TOD03B (ATU-III)	—	TIF9 (ATU-III)
PF4 (ポート)	TOD10B (ATU-III)	—	TIF10 (ATU-III)
PF5 (ポート)	TOD11B (ATU-III)	—	TIF11 (ATU-III)
PF6 (ポート)	TOD12B (ATU-III)	—	TIF12 (ATU-III)
PF7 (ポート)	TOD13B (ATU-III)	—	TIF13 (ATU-III)
PF8 (ポート)	TOD20B (ATU-III)	—	TIF14 (ATU-III)
PF9 (ポート)	TOD21B (ATU-III)	—	TIF15 (ATU-III)
PF10 (ポート)	TOD22B (ATU-III)	—	TIF16 (ATU-III)
PF11 (ポート)	TOD23B (ATU-III)	—	TIF17 (ATU-III)
PF12 (ポート)	TOD30B (ATU-III)	—	TIF18 (ATU-III)
PF13 (ポート)	TOD31B (ATU-III)	—	TIF19 (ATU-III)
PF14 (ポート)	TOD32B (ATU-III)	CTx_B (RCAN-TL1)	TxD_A (SCI)
PF15 (ポート)	TOD33B (ATU-III)	CRx_B (RCAN-TL1)	RxD_A (SCI)

表 22.7 マルチプレクス一覧表 (ポート G)

機能 1 (関連モジュール)	機能 2 (関連モジュール)	機能 3 (関連モジュール)	機能 4 (関連モジュール)
PG0 (ポート)	TOD00A (ATU-III)	SSLA0 (RSPI)	—
PG1 (ポート)	TOD01A (ATU-III)	SSLA1 (RSPI)	—
PG2 (ポート)	TOD02A (ATU-III)	SSLA2 (RSPI)	—
PG3 (ポート)	TOD03A (ATU-III)	SSLA3 (RSPI)	—
PG4 (ポート)	TOD10A (ATU-III)	SSLA4 (RSPI)	SSLB3 (RSPI)
PG5 (ポート)	TOD11A (ATU-III)	SSLA5 (RSPI)	SSLC3 (RSPI)
PG6 (ポート)	TOD12A (ATU-III)	SSLB0 (RSPI)	—
PG7 (ポート)	TOD13A (ATU-III)	SSLB1 (RSPI)	—
PG8 (ポート)	TOD20A (ATU-III)	SSLB2 (RSPI)	TIF6 (ATU-III)
PG9 (ポート)	TOD21A (ATU-III)	SSLC0 (RSPI)	TIF7 (ATU-III)
PG10 (ポート)	TOD22A (ATU-III)	SSLC1 (RSPI)	TIF8 (ATU-III)
PG11 (ポート)	TOD23A (ATU-III)	SSLC2 (RSPI)	TIF9 (ATU-III)
PG12 (ポート)	TOD30A (ATU-III)	SSLA4 (RSPI)	TIF10 (ATU-III)
PG13 (ポート)	TOD31A (ATU-III)	SSLA5 (RSPI)	TIF11 (ATU-III)
PG14 (ポート)	TOD32A (ATU-III)	SSLA6 (RSPI)	TIF12 (ATU-III)
PG15 (ポート)	TOD33A (ATU-III)	SSLA7 (RSPI)	TIF13 (ATU-III)

表 22.8 マルチプレクス一覧表 (ポート H)

機能 1 (関連モジュール)	機能 2 (関連モジュール)	機能 3 (関連モジュール)	機能 4 (関連モジュール)
PH0 (ポート)	—	ADTRG_A (ADC)	TIF0A (ATU-III)
PH1 (ポート)	—	ADTRG_B (ADC)	TIF1A (ATU-III)
PH2 (ポート)	—	—	TIF2A (ATU-III)
PH3 (ポート)	—	—	TIF3 (ATU-III)
PH4 (ポート)	—	—	TIF4 (ATU-III)
PH5 (ポート)	—	—	TIF5 (ATU-III)

表 22.9 マルチプレクス一覧表 (ポート J)

機能 1 (関連モジュール)	機能 2 (関連モジュール)	機能 3 (関連モジュール)	機能 4 (関連モジュール)
PJ0 (ポート)	TxD_A (SCI)	CTx_A (RCAN-TL1)	CTx_A&CTx_B (RCAN-TL1)
PJ1 (ポート)	RxD_A (SCI)	CRx_A (RCAN-TL1)	CRx_A&CRx_B (RCAN-TL1)
PJ2 (ポート)	TxD_A (SCI)	CTx_C (RCAN-TL1)	CTx_A&CTx_B&CTx_C (RCAN-TL1)
PJ3 (ポート)	RxD_A (SCI)	CRx_C (RCAN-TL1)	CRx_A&CRx_B&CRx_C (RCAN-TL1)
PJ4 (ポート)	SCK_A (SCI)	ADEND_B (ADC)	TIJ0 (ATU-III)
PJ5 (ポート)	TxD_A (SCI)	—	—
PJ6 (ポート)	RxD_A (SCI)	—	—
PJ7 (ポート)	SCK_B (SCI)	ADEND_A (ADC)	TIJ1 (ATU-III)
PJ8 (ポート)	TxD_B (SCI)	—	—
PJ9 (ポート)	RxD_B (SCI)	—	—

表 22.10 マルチプレクス一覧表 (ポート K)

機能 1 (関連モジュール)	機能 2 (関連モジュール)	機能 3 (関連モジュール)	機能 4 (関連モジュール)
PK0 (ポート)	SCK_C (SCI)	RSPCKA (RSPI)	UBCTRĠ (UBC)
PK1 (ポート)	TxD_C (SCI)	MOSIA (RSPI)	—
PK2 (ポート)	RxD_C (SCI)	MISOA (RSPI)	—
PK3 (ポート)	SCK_D (SCI)	RSPCKB (RSPI)	—
PK4 (ポート)	TxD_D (SCI)	MOSIB (RSPI)	—
PK5 (ポート)	RxD_D (SCI)	MISOB (RSPI)	—
PK6 (ポート)	SCK_E (SCI)	—	—
PK7 (ポート)	TxD_E (SCI)	—	—
PK8 (ポート)	RxD_E (SCI)	—	—
PK9 (ポート)	—	RSPCKC (RSPI)	—
PK10 (ポート)	—	MOSIC (RSPI)	—
PK11 (ポート)	—	MISOC (RSPI)	—

表 22.11 マルチプレクス一覧表 (ポート L)

機能 1 (関連モジュール)	機能 2 (関連モジュール)	機能 3 (関連モジュール)	機能 4 (関連モジュール)
PL0 (ポート)	—	$\overline{\text{IRQ0}}$ (INTC)	—
PL1 (ポート)	TOE20 (ATU-III)	$\overline{\text{IRQ1}}$ (INTC)	POD (ポート)
PL2 (ポート)	TOE21 (ATU-III)	$\overline{\text{IRQ2}}$ (INTC)	—
PL3 (ポート)	TOE22 (ATU-III)	$\overline{\text{IRQ3}}$ (INTC)	—
PL4 (ポート)	TOE23 (ATU-III)	$\overline{\text{IRQ4}}$ (INTC)	—
PL5 (ポート)	TOE30 (ATU-III)	$\overline{\text{IRQ5}}$ (INTC)	—
PL6 (ポート)	TOE31 (ATU-III)	$\overline{\text{IRQ6}}$ (INTC)	—
PL7 (ポート)	TOE32 (ATU-III)	$\overline{\text{IRQ7}}$ (INTC)	—
PL8 (ポート)	TOE33 (ATU-III)	—	—

22.1 レジスタの説明

PFC のレジスタを表 22.12 に示します。

表 22.12 レジスタ構成

レジスタ名	略称	R/W	初期値	アドレス	アクセス サイズ
ポート A・IO レジスタ	PAIOR	R/W	H'0000	H'FFFE3806	8、16
ポート A コントロールレジスタ 4	PACR4	R/W	H'1111* ¹ H'1111* ² H'1111* ³ H'0000* ⁴	H'FFFE3810	8、16、32
ポート A コントロールレジスタ 3	PACR3	R/W	H'1111* ¹ H'1111* ² H'1111* ³ H'0000* ⁴	H'FFFE3812	8、16
ポート A コントロールレジスタ 2	PACR2	R/W	H'1111* ¹ H'1111* ² H'1111* ³ H'0000* ⁴	H'FFFE3814	8、16、32
ポート A コントロールレジスタ 1	PACR1	R/W	H'1111* ¹ H'1111* ² H'1111* ³ H'0000* ⁴	H'FFFE3816	8、16
ポート B・IO レジスタ	PBIOR	R/W	H'0000	H'FFFE3886	8、16
ポート B コントロールレジスタ 4	PBCR4	R/W	H'0400* ¹ H'0400* ² H'0400* ³ H'0000* ⁴	H'FFFE3890	8、16、32
ポート B コントロールレジスタ 3	PBCR3	R/W	H'0110* ¹ H'0110* ² H'0112* ³ H'0000* ⁴	H'FFFE3892	8、16
ポート B コントロールレジスタ 2	PBCR2	R/W	H'0122* ¹ H'1122* ² H'1122* ³ H'0000* ⁴	H'FFFE3894	8、16、32
ポート B コントロールレジスタ 1	PBCR1	R/W	H'2222* ¹ H'2222* ² H'2222* ³ H'0000* ⁴	H'FFFE3896	8、16
ポート C・IO レジスタ	PCIOR	R/W	H'0000	H'FFFE3906	8、16

レジスタ名	略称	R/W	初期値	アドレス	アクセス サイズ
ポートCコントロールレジスタ4	PCCR4	R/W	H'0000* ¹ H'1111* ² H'1111* ³ H'0000* ⁴	H'FFFE3910	8、16、32
ポートCコントロールレジスタ3	PCCR3	R/W	H'0000* ¹ H'1111* ² H'1111* ³ H'0000* ⁴	H'FFFE3912	8、16
ポートCコントロールレジスタ2	PCCR2	R/W	H'1111* ¹ H'1111* ² H'1111* ³ H'0000* ⁴	H'FFFE3914	8、16、32
ポートCコントロールレジスタ1	PCCR1	R/W	H'1111* ¹ H'1111* ² H'1111* ³ H'0000* ⁴	H'FFFE3916	8、16
ポートD・IOレジスタ	PDIOR	R/W	H'0000	H'FFFFC808	8、16
ポートDコントロールレジスタ2	PDCR2	R/W	H'0000	H'FFFFC80C	8、16、32
ポートDコントロールレジスタ1	PDCR1	R/W	H'0000	H'FFFFC80E	8、16
ポートE・IOレジスタ	PEIOR	R/W	H'0000	H'FFFFC818	8、16
ポートEコントロールレジスタ2	PECR2	R/W	H'0000	H'FFFFC81C	8、16、32
ポートEコントロールレジスタ1	PECR1	R/W	H'0000	H'FFFFC81E	8、16
ポートF・IOレジスタ	PFIOR	R/W	H'0000	H'FFFFC82A	8、16
ポートFコントロールレジスタ2	PFCR2	R/W	H'0000	H'FFFFC82C	8、16、32
ポートFコントロールレジスタ1	PFCR1	R/W	H'0000	H'FFFFC82E	8、16
ポートG・IOレジスタ	PGIOR	R/W	H'0000	H'FFFFC83C	8、16
ポートGコントロールレジスタ2	PGCR2	R/W	H'0000	H'FFFFC840	8、16、32
ポートGコントロールレジスタ1	PGCR1	R/W	H'0000	H'FFFFC842	8、16
ポートH・IOレジスタ	PHIOR	R/W	H'0000	H'FFFFC854	8、16
ポートHコントロールレジスタ	PHCR	R/W	H'0000	H'FFFFC858	8、16
ポートJ・IOレジスタ	PJIOR	R/W	H'0000	H'FFFFC86C	8、16
ポートJコントロールレジスタ2	PJCR2	R/W	H'0000	H'FFFFC870	8、16、32
ポートJコントロールレジスタ1	PJCR1	R/W	H'0000	H'FFFFC872	8、16
ポートK・IOレジスタ	PKIOR	R/W	H'0000	H'FFFFC88C	8、16
ポートKコントロールレジスタ2	PKCR2	R/W	H'0000	H'FFFFC890	8、16、32
ポートKコントロールレジスタ1	PKCR1	R/W	H'0000	H'FFFFC892	8、16
ポートL・IOレジスタ	PLIOR	R/W	H'0000	H'FFFFC8A8	8、16

レジスタ名	略称	R/W	初期値	アドレス	アクセス サイズ
ポートLコントロールレジスタ2	PLCR2	R/W	H'0000	H'FFFFFFC8AC	8、16、32
ポートLコントロールレジスタ1	PLCR1	R/W	H'0000	H'FFFFFFC8AE	8、16

- 【注】 *1 内蔵ROM無効拡張モード (エリア0:8ビット)
 *2 内蔵ROM無効拡張モード (エリア0:16ビット)
 *3 内蔵ROM有効拡張モード
 *4 シングルチップモード

22.1.1 ポートA・IOレジスタ (PAIOR)

PAIORは、読み出し/書き込み可能な16ビットのレジスタで、ポートAにある端子の入出力方向を選びます。PAIORはポートAの端子機能が汎用入出力 (PA15~PA0) の場合に有効で、それ以外の場合は端子の状態に影響しません。

PAIORは、パワーオンリセット、ハードウェアスタンバイ、およびWDTによるパワーオンリセットでH'0000に初期化されます。しかし、スリープモード時には初期化されません。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	PA15 IOR	PA14 IOR	PA13 IOR	PA12 IOR	PA11 IOR	PA10 IOR	PA9 IOR	PA8 IOR	PA7 IOR	PA6 IOR	PA5 IOR	PA4 IOR	PA3 IOR	PA2 IOR	PA1 IOR	PA0 IOR
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~0	PA15IOR ~PA0IOR	すべて0	R/W	PA15IOR~PA0IORビットは、それぞれPA15~PA0端子 (端子名からポート以外のマルチプレクス端子名を省略) に対応しています。本ビットを設定することにより、対応する端子の入出力方向を選択できます。 0: 対応する端子を入力にする 1: 対応する端子を出力にする

22.1.2 ポートAコントロールレジスタ1~4 (PACR1~PACR4)

PACR1~PACR4は、それぞれ16ビットの読み出し/書き込み可能なレジスタで、ポートAにあるマルチプレクス端子の機能を選びます。PACR1~PACR4は、パワーオンリセット、ハードウェアスタンバイ、およびWDTによるパワーオンリセットで表22.13に示す値に初期化されます。しかし、スリープモード時には初期化されません。

表 22.13 ポートAコントロールレジスタの初期値

レジスタ	初期値		
	内蔵ROM無効拡張モード	内蔵ROM有効拡張モード	シングルチップモード
PACR4	H'1111	H'1111	H'0000
PACR3	H'1111	H'1111	H'0000
PACR2	H'1111	H'1111	H'0000
PACR1	H'1111	H'1111	H'0000

(1) ポート A コントロールレジスタ 4 (PACR4)

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	PA15 MD	—	—	—	PA14 MD	—	—	—	PA13 MD	—	—	—	PA12 MD
初期値:	0	0	0	0/1*	0	0	0	0/1*	0	0	0	0/1*	0	0	0	0/1*
R/W:	R	R	R	R/W	R	R	R	R/W	R	R	R	R/W	R	R	R	R/W

【注】* LSIの動作モードにより初期値が異なります。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~13	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
12	PA15MD	0/1*	R/W	PA15 モード PA15/A15 端子の機能を制御します。 <ul style="list-style-type: none"> 内蔵 ROM 無効拡張モード 0: A15 出力 (BSC) 1: A15 出力 (BSC) (初期値) 内蔵 ROM 有効拡張モード 0: PA15 入出力 (ポート) 1: A15 出力 (BSC) (初期値) シングルチップモード 0: PA15 入出力 (ポート) (初期値) 1: PA15 入出力 (ポート)
11~9	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
8	PA14MD	0/1*	R/W	PA14 モード PA14/A14 端子の機能を制御します。 <ul style="list-style-type: none"> 内蔵 ROM 無効拡張モード 0: A14 出力 (BSC) 1: A14 出力 (BSC) (初期値) 内蔵 ROM 有効拡張モード 0: PA14 入出力 (ポート) 1: A14 出力 (BSC) (初期値) シングルチップモード 0: PA14 入出力 (ポート) (初期値) 1: PA14 入出力 (ポート)
7~5	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
4	PA13MD	0/1*	R/W	PA13 モード PA13/A13 端子の機能を制御します。 <ul style="list-style-type: none"> • 内蔵 ROM 無効拡張モード 0 : A13 出力 (BSC) 1 : A13 出力 (BSC) (初期値) • 内蔵 ROM 有効拡張モード 0 : PA13 入出力 (ポート) 1 : A13 出力 (BSC) (初期値) • シングルチップモード 0 : PA13 入出力 (ポート) (初期値) 1 : PA13 入出力 (ポート)
3~1	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
0	PA12MD	0/1*	R/W	PA12 モード PA12/A12 端子の機能を制御します。 <ul style="list-style-type: none"> • 内蔵 ROM 無効拡張モード 0 : A12 出力 (BSC) 1 : A12 出力 (BSC) (初期値) • 内蔵 ROM 有効拡張モード 0 : PA12 入出力 (ポート) 1 : A12 出力 (BSC) (初期値) • シングルチップモード 0 : PA12 入出力 (ポート) (初期値) 1 : PA12 入出力 (ポート)

【注】 * LSI の動作モードにより初期値が異なります。

(2) ポート A コントロールレジスタ 3 (PACR3)

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	PA11 MD	—	—	—	PA10 MD	—	—	—	PA9 MD	—	—	—	PA8 MD
初期値:	0	0	0	0/1*	0	0	0	0/1*	0	0	0	0/1*	0	0	0	0/1*
R/W:	R	R	R	R/W	R	R	R	R/W	R	R	R	R/W	R	R	R	R/W

【注】* LSIの動作モードにより初期値が異なります。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~13	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
12	PA11MD	0/1*	R/W	PA11 モード PA11/A11 端子の機能を制御します。 <ul style="list-style-type: none"> 内蔵 ROM 無効拡張モード 0: A11 出力 (BSC) 1: A11 出力 (BSC) (初期値) 内蔵 ROM 有効拡張モード 0: PA11 入出力 (ポート) 1: A11 出力 (BSC) (初期値) シングルチップモード 0: PA11 入出力 (ポート) (初期値) 1: PA11 入出力 (ポート)
11~9	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
8	PA10MD	0/1*	R/W	PA10 モード PA10/A10 端子の機能を制御します。 <ul style="list-style-type: none"> 内蔵 ROM 無効拡張モード 0: A10 出力 (BSC) 1: A10 出力 (BSC) (初期値) 内蔵 ROM 有効拡張モード 0: PA10 入出力 (ポート) 1: A10 出力 (BSC) (初期値) シングルチップモード 0: PA10 入出力 (ポート) (初期値) 1: PA10 入出力 (ポート)
7~5	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
4	PA9MD	0/1*	R/W	PA9 モード PA9/A9 端子の機能を制御します。 内蔵 ROM 無効拡張モード 0 : A9 出力 (BSC) 1 : A9 出力 (BSC) (初期値) 内蔵 ROM 有効拡張モード 0 : PA9 入出力 (ポート) 1 : A9 出力 (BSC) (初期値) シングルチップモード 0 : PA9 入出力 (ポート) (初期値) 1 : PA9 入出力 (ポート)
3~1	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
0	PA8MD	0/1*	R/W	PA8 モード PA8/A8 端子の機能を制御します。 • 内蔵 ROM 無効拡張モード 0 : A8 出力 (BSC) 1 : A8 出力 (BSC) (初期値) • 内蔵 ROM 有効拡張モード 0 : PA8 入出力 (ポート) 1 : A8 出力 (BSC) (初期値) • シングルチップモード 0 : PA8 入出力 (ポート) (初期値) 1 : PA8 入出力 (ポート)

【注】 * LSI の動作モードにより初期値が異なります。

(3) ポート A コントロールレジスタ 2 (PACR2)

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	PA7 MD	—	—	—	PA6 MD	—	—	—	PA5 MD	—	—	—	PA4 MD
初期値:	0	0	0	0/1*	0	0	0	0/1*	0	0	0	0/1*	0	0	0	0/1*
R/W:	R	R	R	R/W	R	R	R	R/W	R	R	R	R/W	R	R	R	R/W

【注】* LSIの動作モードにより初期値が異なります。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~13	—	すべて0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。
12	PA7MD	0/1*	R/W	PA7 モード PA7/A7 端子の機能を制御します。 <ul style="list-style-type: none"> 内蔵 ROM 無効拡張モード 0: A7 出力 (BSC) 1: A7 出力 (BSC) (初期値) 内蔵 ROM 有効拡張モード 0: PA7 入出力 (ポート) 1: A7 出力 (BSC) (初期値) シングルチップモード 0: PA7 入出力 (ポート) (初期値) 1: PA7 入出力 (ポート)
11~9	—	すべて0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。
8	PA6MD	0/1*	R/W	PA6 モード PA6/A6 端子の機能を制御します。 <ul style="list-style-type: none"> 内蔵 ROM 無効拡張モード 0: A6 出力 (BSC) 1: A6 出力 (BSC) (初期値) 内蔵 ROM 有効拡張モード 0: PA6 入出力 (ポート) 1: A6 出力 (BSC) (初期値) シングルチップモード 0: PA6 入出力 (ポート) (初期値) 1: PA6 入出力 (ポート)
7~5	—	すべて0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
4	PA5MD	0/1*	R/W	PA5 モード PA5/A5 端子の機能を制御します。 <ul style="list-style-type: none"> • 内蔵 ROM 無効拡張モード 0 : A5 出力 (BSC) 1 : A5 出力 (BSC) (初期値) • 内蔵 ROM 有効拡張モード 0 : PA5 入出力 (ポート) 1 : A5 出力 (BSC) (初期値) • シングルチップモード 0 : PA5 入出力 (ポート) (初期値) 1 : PA5 入出力 (ポート)
3~1	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
0	PA4MD	0/1*	R/W	PA4 モード PA4/A4 端子の機能を制御します。 <ul style="list-style-type: none"> • 内蔵 ROM 無効拡張モード 0 : A4 出力 (BSC) 1 : A4 出力 (BSC) (初期値) • 内蔵 ROM 有効拡張モード 0 : PA4 入出力 (ポート) 1 : A4 出力 (BSC) (初期値) • シングルチップモード 0 : PA4 入出力 (ポート) (初期値) 1 : PA4 入出力 (ポート)

【注】 * LSI の動作モードにより初期値が異なります。

(4) ポート A コントロールレジスタ 1 (PACR1)

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	PA3 MD	—	—	—	PA2 MD	—	—	—	PA1 MD	—	—	—	PA0 MD
初期値:	0	0	0	0/1*	0	0	0	0/1*	0	0	0	0/1*	0	0	0	0/1*
R/W:	R	R	R	R/W	R	R	R	R/W	R	R	R	R/W	R	R	R	R/W

【注】* LSIの動作モードにより初期値が異なります。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~13	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
12	PA3MD	0/1*	R/W	PA3 モード PA3/A3 端子の機能を制御します。 <ul style="list-style-type: none"> 内蔵 ROM 無効拡張モード 0: A3 出力 (BSC) 1: A3 出力 (BSC) (初期値) 内蔵 ROM 有効拡張モード 0: PA3 入出力 (ポート) 1: A3 出力 (BSC) (初期値) シングルチップモード 0: PA3 入出力 (ポート) (初期値) 1: PA3 入出力 (ポート)
11~9	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
8	PA2MD	0/1*	R/W	PA2 モード PA2/A2 端子の機能を制御します。 <ul style="list-style-type: none"> 内蔵 ROM 無効拡張モード 0: A2 出力 (BSC) 1: A2 出力 (BSC) (初期値) 内蔵 ROM 有効拡張モード 0: PA2 入出力 (ポート) 1: A2 出力 (BSC) (初期値) シングルチップモード 0: PA2 入出力 (ポート) (初期値) 1: PA2 入出力 (ポート)
7~5	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
4	PA1MD	0/1*	R/W	PA1 モード PA1/A1 端子の機能を制御します。 <ul style="list-style-type: none"> • 内蔵 ROM 無効拡張モード 0 : A1 出力 (BSC) 1 : A1 出力 (BSC) (初期値) • 内蔵 ROM 有効拡張モード 0 : PA1 入出力 (ポート) 1 : A1 出力 (BSC) (初期値) • シングルチップモード 0 : PA1 入出力 (ポート) (初期値) 1 : PA1 入出力 (ポート)
3~1	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
0	PA0MD	0/1*	R/W	PA0 モード PA0/A0 端子の機能を制御します。 <ul style="list-style-type: none"> • 内蔵 ROM 無効拡張モード 0 : A0 出力 (BSC) 1 : A0 出力 (BSC) (初期値) • 内蔵 ROM 有効拡張モード 0 : PA0 入出力 (ポート) 1 : A0 出力 (BSC) (初期値) • シングルチップモード 0 : PA0 入出力 (ポート) (初期値) 1 : PA0 入出力 (ポート)

【注】 * LSI の動作モードにより初期値が異なります。

22.1.3 ポート B・IO レジスタ (PBIOR)

PBIOR は、読み出し／書き込み可能な 16 ビットのレジスタで、ポート B にある端子の入出力方向を選びます。PBIOR はポート B の端子機能が汎用入出力 (PB14~PB0) の場合に有効で、それ以外の場合は端子の状態に影響しません。

PBIOR は、パワーオンリセット、ハードウェアスタンバイ、および WDT によるパワーオンリセットで H'0000 に初期化されます。しかし、スリープモード時には初期化されません。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	PB14 IOR	PB13 IOR	PB12 IOR	PB11 IOR	PB10 IOR	PB9 IOR	PB8 IOR	PB7 IOR	PB6 IOR	PB5 IOR	PB4 IOR	PB3 IOR	PB2 IOR	PB1 IOR	PB0 IOR
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15	—	0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
14~0	PB14IOR ~PB0IOR	すべて 0	R/W	PB14IOR~PB0IOR ビットは、それぞれ PB14~PB0 端子 (端子名からポート以外のマルチプレクス端子名を省略) に対応しています。本ビットを設定することにより、対応する端子の入出力方向を選択できます。 0: 対応する端子を入力にする 1: 対応する端子を出力にする

22.1.4 ポート B コントロールレジスタ 1~4 (PBCR1~PBCR4)

PBCR1~PBCR4 は、それぞれ 16 ビットの読み出し／書き込み可能なレジスタで、ポート B にあるマルチプレクス端子の機能を選びます。

PBCR1~PBCR4 は、パワーオンリセット、ハードウェアスタンバイ、および WDT によるパワーオンリセットで表 22.14 に示す値に初期化されます。しかし、スリープモード時には初期化されません。

表 22.14 ポート B コントロールレジスタの初期値

レジスタ	初期値			
	内蔵 ROM 無効拡張モード		内蔵 ROM 有効拡張モード	シングルチップモード
	エリア 0: 8 ビット	エリア 0: 16 ビット		
PBCR4	H'0400	H'0400	H'0400	H'0000
PBCR3	H'0110	H'0110	H'0112	H'0000
PBCR2	H'0122	H'1122	H'1122	H'0000
PBCR1	H'2222	H'2222	H'2222	H'0000

(1) ポート B コントロールレジスタ 4 (PBCR4)

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	PB14MD[2:0]		—	—	PB13MD[1:0]		—	—	PB12MD[1:0]		
初期値:	0	0	0	0	0	0/1*	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R	R	R	R/W	R/W	R/W	R	R	R/W	R/W	R	R	R/W	R/W

【注】* LSIの動作モードにより初期値が異なります。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~11	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。
10~8	PB14MD[2:0]	000/100*	R/W	<p>PB14 モード</p> <p>PB14/RD\overline{WR} 端子の機能を制御します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 内蔵 ROM 無効拡張モード <ul style="list-style-type: none"> 000: RD\overline{WR} 出力 (BSC) 001: 設定禁止 010: 設定禁止 011: 設定禁止 100: RD\overline{WR} 出力 (BSC) (初期値) 101: 設定禁止 110: 設定禁止 111: 設定禁止 内蔵 ROM 有効拡張モード <ul style="list-style-type: none"> 000: PB14 入出力 (ポート) 001: 設定禁止 010: 設定禁止 011: 設定禁止 100: RD\overline{WR} 出力 (BSC) (初期値) 101: 設定禁止 110: 設定禁止 111: 設定禁止 シングルチップモード <ul style="list-style-type: none"> 000: PB14 入出力 (ポート) (初期値) 001: 設定禁止 010: 設定禁止 011: 設定禁止 100: PB14 入出力 (ポート) 101: 設定禁止 110: 設定禁止 111: 設定禁止

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
7、6	—	すべて0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。
5、4	PB13MD[1:0]	00	R/W	PB13 モード PB13/ $\overline{CS3}$ /RSPCKB 端子の機能を制御します。 <ul style="list-style-type: none"> • 拡張モード <ul style="list-style-type: none"> 00: PB13 入出力 (ポート) (初期値) 01: 設定禁止 10: $\overline{CS3}$ 出力 (BSC) 11: RSPCKB 入出力 (RSPI) • シングルチップモード <ul style="list-style-type: none"> 00: PB13 入出力 (ポート) (初期値) 01: 設定禁止 10: PB13 入出力 (ポート) 11: RSPCKB 入出力 (RSPI)
3、2	—	すべて0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。
1、0	PB12MD[1:0]	00	R/W	PB12 モード PB12/ $\overline{CS2}$ /RSPCKA 端子の機能を制御します。 <ul style="list-style-type: none"> • 拡張モード <ul style="list-style-type: none"> 00: PB12 入出力 (ポート) (初期値) 01: 設定禁止 10: $\overline{CS2}$ 出力 (BSC) 11: RSPCKA 入出力 (RSPI) • シングルチップモード <ul style="list-style-type: none"> 00: PB12 入出力 (ポート) (初期値) 01: 設定禁止 10: PB12 入出力 (ポート) 11: RSPCKA 入出力 (RSPI)

【注】 * LSI の動作モードにより初期値が異なります。

(2) ポート B コントロールレジスタ 3 (PBCR3)

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0	
	—	—	PB11MD[1:0]	—	—	—	—	PB10 MD	—	—	—	PB9 MD	—	—	—	PB8MD[1:0]	
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0/1*	0	0	0	0/1*	0	0	0	0/1*	0
R/W:	R	R	R/W	R/W	R	R	R	R/W	R	R	R	R/W	R	R	R	R/W	R/W

【注】* LSIの動作モードにより初期値が異なります。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15、14	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
13、12	PB11MD[1:0]	00	R/W	PB11 モード PB11/ $\overline{CS1}$ /TOE21 端子の機能を制御します。 <ul style="list-style-type: none"> 拡張モード 00: PB11 入出力 (ポート) (初期値) 01: 設定禁止 10: $\overline{CS1}$ 出力 (BSC) 11: TOE21 出力 (ATU-III) シングルチップモード 00: PB11 入出力 (ポート) (初期値) 01: 設定禁止 10: PB11 入出力 (ポート) 11: TOE21 出力 (ATU-III)
11~9	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
8	PB10MD	0/1*	R/W	PB10 モード PB10/ $\overline{CS0}$ 端子の機能を制御します。 <ul style="list-style-type: none"> 内蔵 ROM 無効拡張モード 0: $\overline{CS0}$ 出力 (BSC) 1: $\overline{CS0}$ 出力 (BSC) (初期値) 内蔵 ROM 有効拡張モード 0: PB10 入出力 (ポート) 1: $\overline{CS0}$ 出力 (BSC) (初期値) シングルチップモード 0: PB10 入出力 (ポート) (初期値) 1: PB10 入出力 (ポート)
7~5	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
4	PB9MD	0/1*	R/W	<p>PB9 モード PB9/\overline{RD} 端子の機能を制御します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 内蔵 ROM 無効拡張モード <ul style="list-style-type: none"> 0: \overline{RD} 出力 (BSC) 1: \overline{RD} 出力 (BSC) (初期値) 内蔵 ROM 有効拡張モード <ul style="list-style-type: none"> 0: PB9 入出力 (ポート) 1: \overline{RD} 出力 (BSC) (初期値) シングルチップモード <ul style="list-style-type: none"> 0: PB9 入出力 (ポート) (初期値) 1: PB9 入出力 (ポート)
3、2	—	すべて 0	R	<p>リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。</p>
1、0	PB8MD[1:0]	00/10*	R/W	<p>PB8 モード PB8/\overline{WAIT}/TOE20 端子の機能を制御します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 内蔵 ROM 無効拡張モード <ul style="list-style-type: none"> 00: \overline{WAIT} 入力 (BSC) (初期値) 01: 設定禁止 10: \overline{WAIT} 入力 (BSC) 11: \overline{WAIT} 入力 (BSC) 内蔵 ROM 有効拡張モード <ul style="list-style-type: none"> 00: PB8 入出力 (ポート) 01: 設定禁止 10: \overline{WAIT} 入力 (BSC) (初期値) 11: TOE20 出力 (ATU-III) シングルチップモード <ul style="list-style-type: none"> 00: PB8 入出力 (ポート) (初期値) 01: 設定禁止 10: PB8 入出力 (ポート) 11: TOE20 出力 (ATU-III)

【注】 * LSI の動作モードにより初期値が異なります。

(3) ポート B コントロールレジスタ 2 (PBCR2)

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	PB7 MD	—	—	—	PB6 MD	—	PB5MD[2:0]		—	PB4MD[2:0]			
初期値:	0	0	0	0/1*	0	0	0	0/1*	0	0	0/1*	0	0	0	0/1*	0
R/W:	R	R	R	R/W	R	R	R	R/W	R	R/W	R/W	R/W	R	R/W	R/W	R/W

【注】* LSIの動作モードにより初期値が異なります。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~13	—	すべて0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。
12	PB7MD	0/1*	R/W	PB7 モード PB7/ $\overline{WE1}$ 端子の機能を制御します。 <ul style="list-style-type: none"> 内蔵 ROM 無効拡張モード (エリア 0 : 8 ビット) 0 : PB7 入出力 (ポート) (初期値) 1 : $\overline{WE1}$ 出力 (BSC) 内蔵 ROM 無効拡張モード (エリア 0 : 16 ビット) 0 : $\overline{WE1}$ 出力 (BSC) 1 : $\overline{WE1}$ 出力 (BSC) (初期値) 内蔵 ROM 有効拡張モード 0 : PB7 入出力 (ポート) 1 : $\overline{WE1}$ 出力 (BSC) (初期値) シングルチップモード 0 : PB7 入出力 (ポート) (初期値) 1 : PB7 入出力 (ポート)
11~9	—	すべて0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。
8	PB6MD	0/1*	R/W	PB6 モード PB6/ $\overline{WE0}$ 端子の機能を制御します。 <ul style="list-style-type: none"> 内蔵 ROM 無効拡張モード 0 : $\overline{WE0}$ 出力 (BSC) 1 : $\overline{WE0}$ 出力 (BSC) (初期値) 内蔵 ROM 有効拡張モード 0 : PB6 入出力 (ポート) 1 : $\overline{WE0}$ 出力 (BSC) (初期値) シングルチップモード 0 : PB6 入出力 (ポート) (初期値) 1 : PB6 入出力 (ポート)
7	—	0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
6~4	PB5MD[2:0]	000/010*	R/W	<p>PB5 モード</p> <p>PB5/A21/CRx_B/TIF7 端子の機能を制御します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 内蔵 ROM 無効拡張モード <ul style="list-style-type: none"> 000 : A21 出力 (アドレス) 001 : 設定禁止 010 : A21 出力 (アドレス) (初期値) 011 : A21 出力 (アドレス) 100 : A21 出力 (アドレス) 101 : 設定禁止 110 : 設定禁止 111 : 設定禁止 • 内蔵 ROM 有効拡張モード <ul style="list-style-type: none"> 000 : PB5 入出力 (ポート) 001 : 設定禁止 010 : A21 出力 (アドレス) (初期値) 011 : CRx_B 入力 (RCAN-TL1) 100 : TIF7 入力 (ATU-III) 101 : 設定禁止 110 : 設定禁止 111 : 設定禁止 • シングルチップモード <ul style="list-style-type: none"> 000 : PB5 入出力 (ポート) (初期値) 001 : 設定禁止 010 : PB5 入出力 (ポート) 011 : CRx_B 入力 (RCAN-TL1) 100 : TIF7 入力 (ATU-III) 101 : 設定禁止 110 : 設定禁止 111 : 設定禁止
3	—	0	R	<p>リザーブビット</p> <p>読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。</p>

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
2~0	PB4MD[2:0]	000/010*	R/W	<p>PB4 モード</p> <p>PB4/A20/CTx_B/TIF6 端子の機能を制御します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 内蔵 ROM 無効拡張モード <ul style="list-style-type: none"> 000 : A20 出力 (アドレス) 001 : 設定禁止 010 : A20 出力 (アドレス) (初期値) 011 : A20 出力 (アドレス) 100 : A20 出力 (アドレス) 101 : 設定禁止 110 : 設定禁止 111 : 設定禁止 • 内蔵 ROM 有効拡張モード <ul style="list-style-type: none"> 000 : PB4 入出力 (ポート) 001 : 設定禁止 010 : A20 出力 (アドレス) (初期値) 011 : CTx_B 出力 (RCAN-TL1) 100 : TIF6 入力 (ATU-III) 101 : 設定禁止 110 : 設定禁止 111 : 設定禁止 • シングルチップモード <ul style="list-style-type: none"> 000 : PB4 入出力 (ポート) (初期値) 001 : 設定禁止 010 : PB4 入出力 (ポート) 011 : CTx_B 出力 (RCAN-TL1) 100 : TIF6 入力 (ATU-III) 101 : 設定禁止 110 : 設定禁止 111 : 設定禁止

【注】 * LSI の動作モードにより初期値が異なります。

(4) ポート B コントロールレジスタ 1 (PBCR1)

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	PB3MD[1:0]	—	—	PB2MD[1:0]	—	—	PB1MD[1:0]	—	—	PB0MD[1:0]	—	—	—	—
初期値:	0	0	0/1*	0	0	0	0/1*	0	0	0	0/1*	0	0	0	0/1*	0
R/W:	R	R	R/W	R/W	R	R	R/W	R/W	R	R	R/W	R/W	R	R	R/W	R/W

【注】* LSIの動作モードにより初期値が異なります。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15、14	—	すべて0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。
13、12	PB3MD[1:0]	00/10*	R/W	PB3モード PB3/A19/MISOB 端子の機能を制御します。 <ul style="list-style-type: none"> • 内蔵 ROM 無効拡張モード <ul style="list-style-type: none"> 00 : A19 出力 (アドレス) 01 : 設定禁止 10 : A19 出力 (アドレス) (初期値) 11 : A19 出力 (アドレス) • 内蔵 ROM 有効拡張モード <ul style="list-style-type: none"> 00 : PB3 入出力 (ポート) 01 : 設定禁止 10 : A19 出力 (アドレス) (初期値) 11 : MISOB 入出力 (RSPI) • シングルチップモード <ul style="list-style-type: none"> 00 : PB3 入出力 (ポート) (初期値) 01 : 設定禁止 10 : PB3 入出力 (ポート) 11 : MISOB 入出力 (RSPI)
11、10	—	すべて0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
9、8	PB2MD[1:0]	00/10*	R/W	<p>PB2 モード</p> <p>PB2/A18/MOSIB 端子の機能を制御します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 内蔵 ROM 無効拡張モード <ul style="list-style-type: none"> 00 : A18 出力 (アドレス) 01 : 設定禁止 10 : A18 出力 (アドレス) (初期値) 11 : A18 出力 (アドレス) 内蔵 ROM 有効拡張モード <ul style="list-style-type: none"> 00 : PB2 入出力 (ポート) 01 : 設定禁止 10 : A18 出力 (アドレス) (初期値) 11 : MOSIB 入出力 (RSPI) シングルチップモード <ul style="list-style-type: none"> 00 : PB2 入出力 (ポート) (初期値) 01 : 設定禁止 10 : PB2 入出力 (ポート) 11 : MOSIB 入出力 (RSPI)
7、6	—	すべて0	R	<p>リザーブビット</p> <p>読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。</p>
5、4	PB1MD[1:0]	00/10*	R/W	<p>PB1 モード</p> <p>PB1/A17/MISOA 端子の機能を制御します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 内蔵 ROM 無効拡張モード <ul style="list-style-type: none"> 00 : A17 出力 (アドレス) 01 : 設定禁止 10 : A17 出力 (アドレス) (初期値) 11 : A17 出力 (アドレス) 内蔵 ROM 有効拡張モード <ul style="list-style-type: none"> 00 : PB1 入出力 (ポート) 01 : 設定禁止 10 : A17 出力 (アドレス) (初期値) 11 : MISOA 入出力 (RSPI) シングルチップモード <ul style="list-style-type: none"> 00 : PB1 入出力 (ポート) (初期値) 01 : 設定禁止 10 : PB1 入出力 (ポート) 11 : MISOA 入出力 (RSPI)
3、2	—	すべて0	R	<p>リザーブビット</p> <p>読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。</p>

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
1, 0	PB0MD[1:0]	00/10*	R/W	PB0 モード PB0/A16/MOSIA 端子の機能を制御します。 <ul style="list-style-type: none"> • 内蔵 ROM 無効拡張モード <ul style="list-style-type: none"> 00 : A16 出力 (アドレス) 01 : 設定禁止 10 : A16 出力 (アドレス) (初期値) 11 : A16 出力 (アドレス) • 内蔵 ROM 有効拡張モード <ul style="list-style-type: none"> 00 : PB0 入出力 (ポート) 01 : 設定禁止 10 : A16 出力 (アドレス) (初期値) 11 : MOSIA 入出力 (RSPI) • シングルチップモード <ul style="list-style-type: none"> 00 : PB0 入出力 (ポート) (初期値) 01 : 設定禁止 10 : PB0 入出力 (ポート) 11 : MOSIA 入出力 (RSPI)

【注】 * LSI の動作モードにより初期値が異なります。

22.1.5 ポート C・IO レジスタ (PCIOR)

PCIOR は、読み出し／書き込み可能な 16 ビットのレジスタで、ポート C にある端子の入出力方向を選びます。PCIOR はポート C の端子機能が汎用入出力 (PC15~PC0) の場合に有効で、それ以外の場合は端子の状態に影響しません。

PCIOR は、パワーオンリセット、ハードウェアスタンバイ、および WDT によるパワーオンリセットで H'0000 に初期化されます。しかし、スリープモード時には初期化されません。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	PC15 IOR	PC14 IOR	PC13 IOR	PC12 IOR	PC11 IOR	PC10 IOR	PC9 IOR	PC8 IOR	PC7 IOR	PC6 IOR	PC5 IOR	PC4 IOR	PC3 IOR	PC2 IOR	PC1 IOR	PC0 IOR
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~0	PC15IOR ~PC0IOR	すべて 0	R/W	PC15IOR~PC0IOR ビットは、それぞれ PC15~PC0 端子 (端子名からポート以外のマルチプレクス端子名を省略) に対応しています。本ビットを設定することにより、対応する端子の入出力方向を選択できます。 0: 対応する端子を入力にする 1: 対応する端子を出力にする

22.1.6 ポート C コントロールレジスタ 1~4 (PCCR1~PCCR4)

PCCR1~PCCR4 は、それぞれ 16 ビットの読み出し／書き込み可能なレジスタで、ポート C にあるマルチプレクス端子の機能を選びます。

PCCR1~PCCR4 は、パワーオンリセット、ハードウェアスタンバイ、および WDT によるパワーオンリセットで表 22.15 に示す値に初期化されます。しかし、スリープモード時には初期化されません。

表 22.15 ポート C コントロールレジスタの初期値

レジスタ	初期値			
	内蔵 ROM 無効拡張モード		内蔵 ROM 有効拡張モード	シングルチップモード
	エリア 0: 8 ビット	エリア 0: 16 ビット		
PCCR4	H'0000	H'1111	H'1111	H'0000
PCCR3	H'0000	H'1111	H'1111	H'0000
PCCR2	H'1111	H'1111	H'1111	H'0000
PCCR1	H'1111	H'1111	H'1111	H'0000

(1) ポート C コントロールレジスタ 4 (PCCR4)

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	PC15 MD	—	—	—	PC14 MD	—	—	—	PC13 MD	—	—	—	PC12 MD
初期値:	0	0	0	0/1*1	0	0	0	0/1*1	0	0	0	0/1*1	0	0	0	0/1*1
R/W:	R	R	R	R/W	R	R	R	R/W	R	R	R	R/W	R	R	R	R/W

【注】*1 LSIの動作モードにより初期値が異なります。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~13	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
12	PC15MD	0/1*1	R/W	PC15 モード PC15/D15 端子の機能を制御します。 <ul style="list-style-type: none"> 内蔵 ROM 無効拡張モード (エリア 0 : 8 ビット) 0 : PC15 入出力 (ポート) (初期値) 1*2 : D15 入出力 (BSC) 内蔵 ROM 無効拡張モード (エリア 0 : 16 ビット) 0*2 : D15 入出力 (BSC) 1*2 : D15 入出力 (BSC) (初期値) 内蔵 ROM 有効拡張モード 0 : PC15 入出力 (ポート) 1*2 : D15 入出力 (BSC) (初期値) シングルチップモード 0 : PC15 入出力 (ポート) (初期値) 1 : PC15 入出力 (ポート)
11~9	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
8	PC14MD	0/1*1	R/W	PC14 モード PC14/D14 端子の機能を制御します。 <ul style="list-style-type: none"> 内蔵 ROM 無効拡張モード (エリア 0 : 8 ビット) 0 : PC14 入出力 (ポート) (初期値) 1*2 : D14 入出力 (BSC) 内蔵 ROM 無効拡張モード (エリア 0 : 16 ビット) 0*2 : D14 入出力 (BSC) 1*2 : D14 入出力 (BSC) (初期値) 内蔵 ROM 有効拡張モード 0 : PC14 入出力 (ポート) 1*2 : D14 入出力 (BSC) (初期値) シングルチップモード 0 : PC14 入出力 (ポート) (初期値) 1 : PC14 入出力 (ポート)

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
7~5	—	すべて0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。
4	PC13MD	0/1*1	R/W	PC13 モード PC13/D13 端子の機能を制御します。 <ul style="list-style-type: none"> • 内蔵 ROM 無効拡張モード (エリア 0 : 8 ビット) 0 : PC13 入出力 (ポート) (初期値) 1*2 : D13 入出力 (BSC) • 内蔵 ROM 無効拡張モード (エリア 0 : 16 ビット) 0*2 : D13 入出力 (BSC) 1*2 : D13 入出力 (BSC) (初期値) • 内蔵 ROM 有効拡張モード 0 : PC13 入出力 (ポート) 1*2 : D13 入出力 (BSC) (初期値) • シングルチップモード 0 : PC13 入出力 (ポート) (初期値) 1 : PC13 入出力 (ポート)
3~1	—	すべて0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。
0	PC12MD	0/1*1	R/W	PC12 モード PC12/D12 端子の機能を制御します。 <ul style="list-style-type: none"> • 内蔵 ROM 無効拡張モード (エリア 0 : 8 ビット) 0 : PC12 入出力 (ポート) (初期値) 1*2 : D12 入出力 (BSC) • 内蔵 ROM 無効拡張モード (エリア 0 : 16 ビット) 0*2 : D12 入出力 (BSC) 1*2 : D12 入出力 (BSC) (初期値) • 内蔵 ROM 有効拡張モード 0 : PC12 入出力 (ポート) 1*2 : D12 入出力 (BSC) (初期値) • シングルチップモード 0 : PC12 入出力 (ポート) (初期値) 1 : PC12 入出力 (ポート)

【注】 *1 LSI の動作モードにより初期値が異なります。

*2 端子はプルアップ状態に設定されます。

(2) ポート C コントロールレジスタ 3 (PCCR3)

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	PC11 MD	—	—	—	PC10 MD	—	—	—	PC9 MD	—	—	—	PC8 MD
初期値:	0	0	0	0/1*1	0	0	0	0/1*1	0	0	0	0/1*1	0	0	0	0/1*1
R/W:	R	R	R	R/W	R	R	R	R/W	R	R	R	R/W	R	R	R	R/W

【注】*1 LSIの動作モードにより初期値が異なります。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~13	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
12	PC11MD	0/1*1	R/W	PC11 モード PC11/D11 端子の機能を制御します。 <ul style="list-style-type: none"> 内蔵 ROM 無効拡張モード (エリア 0 : 8 ビット) 0 : PC11 入出力 (ポート) (初期値) 1*2 : D11 入出力 (BSC) 内蔵 ROM 無効拡張モード (エリア 0 : 16 ビット) 0*2 : D11 入出力 (BSC) 1*2 : D11 入出力 (BSC) (初期値) 内蔵 ROM 有効拡張モード 0 : PC11 入出力 (ポート) 1*2 : D11 入出力 (BSC) (初期値) シングルチップモード 0 : PC11 入出力 (ポート) (初期値) 1 : PC11 入出力 (ポート)
11~9	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
8	PC10MD	0/1*1	R/W	PC10 モード PC10/D10 端子の機能を制御します。 <ul style="list-style-type: none"> 内蔵 ROM 無効拡張モード (エリア 0 : 8 ビット) 0 : PC10 入出力 (ポート) (初期値) 1*2 : D10 入出力 (BSC) 内蔵 ROM 無効拡張モード (エリア 0 : 16 ビット) 0*2 : D10 入出力 (BSC) 1*2 : D10 入出力 (BSC) (初期値) 内蔵 ROM 有効拡張モード 0 : PC10 入出力 (ポート) 1*2 : D10 入出力 (BSC) (初期値) シングルチップモード 0 : PC10 入出力 (ポート) (初期値) 1 : PC10 入出力 (ポート)

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
7~5	—	すべて0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。
4	PC9MD	0/1*1	R/W	PC9 モード PC9/D9 端子の機能を制御します。 <ul style="list-style-type: none"> • 内蔵 ROM 無効拡張モード (エリア 0 : 8 ビット) 0 : PC9 入出力 (ポート) (初期値) 1*2 : D9 入出力 (BSC) • 内蔵 ROM 無効拡張モード (エリア 0 : 16 ビット) 0*2 : D9 入出力 (BSC) 1*2 : D9 入出力 (BSC) (初期値) • 内蔵 ROM 有効拡張モード 0 : PC9 入出力 (ポート) 1*2 : D9 入出力 (BSC) (初期値) • シングルチップモード 0 : PC9 入出力 (ポート) (初期値) 1 : PC9 入出力 (ポート)
3~1	—	すべて0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。
0	PC8MD	0/1*1	R/W	PC8 モード PC8/D8 端子の機能を制御します。 <ul style="list-style-type: none"> • 内蔵 ROM 無効拡張モード (エリア 0 : 8 ビット) 0 : PC8 入出力 (ポート) (初期値) 1*2 : D8 入出力 (BSC) • 内蔵 ROM 無効拡張モード (エリア 0 : 16 ビット) 0*2 : D8 入出力 (BSC) 1*2 : D8 入出力 (BSC) (初期値) • 内蔵 ROM 有効拡張モード 0 : PC8 入出力 (ポート) 1*2 : D8 入出力 (BSC) (初期値) • シングルチップモード 0 : PC8 入出力 (ポート) (初期値) 1 : PC8 入出力 (ポート)

【注】 *1 LSI の動作モードにより初期値が異なります。

*2 端子はプルアップ状態に設定されます。

(3) ポート C コントロールレジスタ 2 (PCCR2)

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	PC7 MD	—	—	—	PC6 MD	—	—	—	PC5 MD	—	—	—	PC4 MD
初期値:	0	0	0	0/1*1	0	0	0	0/1*1	0	0	0	0/1*1	0	0	0	0/1*1
R/W:	R	R	R	R/W	R	R	R	R/W	R	R	R	R/W	R	R	R	R/W

【注】*1 LSIの動作モードにより初期値が異なります。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~13	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
12	PC7MD	0/1*1	R/W	PC7 モード PC7/D7 端子の機能を制御します。 <ul style="list-style-type: none"> 内蔵 ROM 無効拡張モード 0*2: D7 入出力 (BSC) 1*2: D7 入出力 (BSC) (初期値) 内蔵 ROM 有効拡張モード 0: PC7 入出力 (ポート) 1*2: D7 入出力 (BSC) (初期値) シングルチップモード 0: PC7 入出力 (ポート) (初期値) 1: PC7 入出力 (ポート)
11~9	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
8	PC6MD	0/1*1	R/W	PC6 モード PC6/D6 端子の機能を制御します。 <ul style="list-style-type: none"> 内蔵 ROM 無効拡張モード 0*2: D6 入出力 (BSC) 1*2: D6 入出力 (BSC) (初期値) 内蔵 ROM 有効拡張モード 0: PC6 入出力 (ポート) 1*2: D6 入出力 (BSC) (初期値) シングルチップモード 0: PC6 入出力 (ポート) (初期値) 1: PC6 入出力 (ポート)
7~5	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
4	PC5MD	0/1* ¹	R/W	PC5 モード PC5/D5 端子の機能を制御します。 <ul style="list-style-type: none"> • 内蔵 ROM 無効拡張モード <ul style="list-style-type: none"> 0*² : D5 入出力 (BSC) 1*² : D5 入出力 (BSC) (初期値) • 内蔵 ROM 有効拡張モード <ul style="list-style-type: none"> 0 : PC5 入出力 (ポート) 1*² : D5 入出力 (BSC) (初期値) • シングルチップモード <ul style="list-style-type: none"> 0 : PC5 入出力 (ポート) (初期値) 1 : PC5 入出力 (ポート)
3~1	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
0	PC4MD	0/1* ¹	R/W	PC4 モード PC4/D4 端子の機能を制御します。 <ul style="list-style-type: none"> • 内蔵 ROM 無効拡張モード <ul style="list-style-type: none"> 0*² : D4 入出力 (BSC) 1*² : D4 入出力 (BSC) (初期値) • 内蔵 ROM 有効拡張モード <ul style="list-style-type: none"> 0 : PC4 入出力 (ポート) 1*² : D4 入出力 (BSC) (初期値) • シングルチップモード <ul style="list-style-type: none"> 0 : PC4 入出力 (ポート) (初期値) 1 : PC4 入出力 (ポート)

【注】 *1 LSI の動作モードにより初期値が異なります。

*2 端子はプルアップ状態に設定されます。

(4) ポート C コントロールレジスタ 1 (PCCR1)

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	PC3 MD	—	—	—	PC2 MD	—	—	—	PC1 MD	—	—	—	PC0 MD
初期値:	0	0	0	0/1*1	0	0	0	0/1*1	0	0	0	0/1*1	0	0	0	0/1*1
R/W:	R	R	R	R/W	R	R	R	R/W	R	R	R	R/W	R	R	R	R/W

【注】*1 LSIの動作モードにより初期値が異なります。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~13	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
12	PC3MD	0/1*1	R/W	PC3 モード PC3/D3 端子の機能を制御します。 <ul style="list-style-type: none"> 内蔵 ROM 無効拡張モード 0*2: D3 入出力 (BSC) 1*2: D3 入出力 (BSC) (初期値) 内蔵 ROM 有効拡張モード 0: PC3 入出力 (ポート) 1*2: D3 入出力 (BSC) (初期値) シングルチップモード 0: PC3 入出力 (ポート) (初期値) 1: PC3 入出力 (ポート)
11~9	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
8	PC2MD	0/1*1	R/W	PC2 モード PC2/D2 端子の機能を制御します。 <ul style="list-style-type: none"> 内蔵 ROM 無効拡張モード 0*2: D2 入出力 (BSC) 1*2: D2 入出力 (BSC) (初期値) 内蔵 ROM 有効拡張モード 0: PC2 入出力 (ポート) 1*2: D2 入出力 (BSC) (初期値) シングルチップモード 0: PC2 入出力 (ポート) (初期値) 1: PC2 入出力 (ポート)
7~5	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
4	PC1MD	0/1* ¹	R/W	PC1 モード PC1/D1 端子の機能を制御します。 <ul style="list-style-type: none"> • 内蔵 ROM 無効拡張モード <ul style="list-style-type: none"> 0*² : D1 入出力 (BSC) 1*² : D1 入出力 (BSC) (初期値) • 内蔵 ROM 有効拡張モード <ul style="list-style-type: none"> 0 : PC1 入出力 (ポート) 1*² : D1 入出力 (BSC) (初期値) • シングルチップモード <ul style="list-style-type: none"> 0 : PC1 入出力 (ポート) (初期値) 1 : PC1 入出力 (ポート)
3~1	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
0	PC0MD	0/1* ¹	R/W	PC0 モード PC0/D0 端子の機能を制御します。 <ul style="list-style-type: none"> • 内蔵 ROM 無効拡張モード <ul style="list-style-type: none"> 0*² : D0 入出力 (BSC) 1*² : D0 入出力 (BSC) (初期値) • 内蔵 ROM 有効拡張モード <ul style="list-style-type: none"> 0 : PC0 入出力 (ポート) 1*² : D0 入出力 (BSC) (初期値) • シングルチップモード <ul style="list-style-type: none"> 0 : PC0 入出力 (ポート) (初期値) 1 : PC0 入出力 (ポート)

【注】 *1 LSI の動作モードにより初期値が異なります。

*2 端子はプルアップ状態に設定されます。

22.1.7 ポート D・IO レジスタ (PDIOR)

PDIOR は、読み出し／書き込み可能な 16 ビットのレジスタで、ポート D にある端子の入出力方向を選びます。PDIOR はポート D の端子機能が汎用入出力 (PD13~PD0) の場合に有効で、それ以外の場合は端子の状態に影響しません。

PDIOR は、パワーオンリセット、ハードウェアスタンバイ、および WDT によるパワーオンリセットで H'0000 に初期化されます。しかし、スリープモード時には初期化されません。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	PD13 IOR	PD12 IOR	PD11 IOR	PD10 IOR	PD9 IOR	PD8 IOR	PD7 IOR	PD6 IOR	PD5 IOR	PD4 IOR	PD3 IOR	PD2 IOR	PD1 IOR	PD0 IOR
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15、14	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
13~0	PD13IOR ~PD0IOR	すべて 0	R/W	PD13IOR~PD0IOR ビットは、それぞれ PD13~PD0 端子 (端子名からポート以外のマルチプレクス端子名を省略) に対応しています。本ビットを設定することにより、対応する端子の入出力方向を選択できます。 0: 対応する端子を入力にする 1: 対応する端子を出力にする

22.1.8 ポート D コントロールレジスタ 1、2 (PDCR1、PDCR2)

PDCR1、PDCR2 は、それぞれ 16 ビットの読み出し／書き込み可能なレジスタで、ポート D にあるマルチプレクス端子の機能を選びます。

PDCR1、PDCR2 は、パワーオンリセット、ハードウェアスタンバイ、および WDT によるパワーオンリセットで H'0000 に初期化されます。しかし、スリープモード時には初期化されません。

(1) ポート D コントロールレジスタ 2 (PDCR2)

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	PD13MD[1:0]	PD12MD[1:0]	PD11MD[1:0]	PD10MD[1:0]	PD9MD[1:0]	PD8MD[1:0]	PD7MD[1:0]	PD6MD[1:0]	PD5MD[1:0]	PD4MD[1:0]	PD3MD[1:0]	PD2MD[1:0]
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~12	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
11、10	PD13MD[1:0]	00	R/W	PD13 モード PD13/TCLKB/TIJ1 端子の機能を制御します。 00 : PD13 入出力 (ポート) 01 : TCLKB 入力 (ATU-III) 10 : 設定禁止 11 : TIJ1 入力 (ATU-III)
9、8	PD12MD[1:0]	00	R/W	PD12 モード PD12/TCLKA/TIOC41/TIJ0 端子の機能を制御します。 00 : PD12 入出力 (ポート) 01 : TCLKA 入力 (ATU-III) 10 : TIOC41 入出力 (ATU-III) 11 : TIJ0 入力 (ATU-III)
7、6	PD11MD[1:0]	00	R/W	PD11 モード PD11/TIOC23/TIF2B/TOE51 端子の機能を制御します。 00 : PD11 入出力 (ポート) 01 : TIOC23 入出力 (ATU-III) 10 : TIF2B 入力 (ATU-III) 11 : TOE51 出力 (ATU-III)
5、4	PD10MD[1:0]	00	R/W	PD10 モード PD10/TIOC22/TIF1B/TOE50 端子の機能を制御します。 00 : PD10 入出力 (ポート) 01 : TIOC22 入出力 (ATU-III) 10 : TIF1B 入力 (ATU-III) 11 : TOE50 出力 (ATU-III)
3、2	PD9MD[1:0]	00	R/W	PD9 モード PD9/TIOC21/TIF0B/TOE43 端子の機能を制御します。 00 : PD9 入出力 (ポート) 01 : TIOC21 入出力 (ATU-III) 10 : TIF0B 入力 (ATU-III) 11 : TOE43 出力 (ATU-III)
1、0	PD8MD[1:0]	00	R/W	PD8 モード PD8/TIOC20/TIOC33/TOE53 端子の機能を制御します。 00 : PD8 入出力 (ポート) 01 : TIOC20 入出力 (ATU-III) 10 : TIOC33 入出力 (ATU-III) 11 : TOE53 出力 (ATU-III)

(2) ポート D コントロールレジスタ 1 (PDCR1)

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	PD7MD[1:0]	PD6MD[1:0]	PD5MD[1:0]	PD4MD[1:0]	PD3MD[1:0]	PD2MD[1:0]	PD1MD[1:0]	PD0MD[1:0]								
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
15、14	PD7MD[1:0]	00	R/W	PD7 モード PD7/TIOC13/TOE42 端子の機能を制御します。 00 : PD7 入出力 (ポート) 01 : TIOC13 入出力 (ATU-III) 10 : 設定禁止 11 : TOE42 出力 (ATU-III)
13、12	PD6MD[1:0]	00	R/W	PD6 モード PD6/TIOC12/TOE41 端子の機能を制御します。 00 : PD6 入出力 (ポート) 01 : TIOC12 入出力 (ATU-III) 10 : 設定禁止 11 : TOE41 出力 (ATU-III)
11、10	PD5MD[1:0]	00	R/W	PD5 モード PD5/TIOC11/TOE23/TOE40 端子の機能を制御します。 00 : PD5 入出力 (ポート) 01 : TIOC11 入出力 (ATU-III) 10 : TOE23 出力 (ATU-III) 11 : TOE40 出力 (ATU-III)
9、8	PD4MD[1:0]	00	R/W	PD4 モード PD4/TIOC10/TIOC32/TOE52 端子の機能を制御します。 00 : PD4 入出力 (ポート) 01 : TIOC10 入出力 (ATU-III) 10 : TIOC32 入出力 (ATU-III) 11 : TOE52 出力 (ATU-III)
7、6	PD3MD[1:0]	00	R/W	PD3 モード PD3/TIOC03/TOE22/TOE53 端子の機能を制御します。 00 : PD3 入出力 (ポート) 01 : TIOC03 入出力 (ATU-III) 10 : TOE22 出力 (ATU-III) 11 : TOE53 出力 (ATU-III)

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
5、4	PD2MD[1:0]	00	R/W	PD2 モード PD2/TIOC02/TOE21/TOE52 端子の機能を制御します。 00 : PD2 入出力 (ポート) 01 : TIOC02 入出力 (ATU-III) 10 : TOE21 出力 (ATU-III) 11 : TOE52 出力 (ATU-III)
3、2	PD1MD[1:0]	00	R/W	PD1 モード PD1/TIOC01/TOE20 端子の機能を制御します。 00 : PD1 入出力 (ポート) 01 : TIOC01 入出力 (ATU-III) 10 : TOE20 出力 (ATU-III) 11 : 設定禁止
1、0	PD0MD[1:0]	00	R/W	PD0 モード PD0/TIOC00/TIOC31 端子の機能を制御します。 00 : PD0 入出力 (ポート) 01 : TIOC00 入出力 (ATU-III) 10 : TIOC31 入出力 (ATU-III) 11 : 設定禁止

22.1.9 ポート E・IO レジスタ (PEIOR)

PEIOR は、読み出し／書き込み可能な 16 ビットのレジスタで、ポート E にある端子の入出力方向を選びます。PEIOR はポート E の端子機能が汎用入出力 (PE13～PE0) の場合に有効で、それ以外の場合は端子の状態に影響しません。

PEIOR は、パワーオンリセット、ハードウェアスタンバイ、および WDT によるパワーオンリセットで H'0000 に初期化されます。しかし、スリープモード時には初期化されません。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	PE13 IOR	PE12 IOR	PE11 IOR	PE10 IOR	PE9 IOR	PE8 IOR	PE7 IOR	PE6 IOR	PE5 IOR	PE4 IOR	PE3 IOR	PE2 IOR	PE1 IOR	PE0 IOR
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15, 14	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
13～0	PE13IOR ～PE0IOR	すべて 0	R/W	PE13IOR～PE0IOR ビットは、それぞれ PE13～PE0 端子 (端子名からポート以外のマルチプレクス端子名を省略) に対応しています。本ビットを設定することにより、対応する端子の入出力方向を選択できます。 0: 対応する端子を入力にする 1: 対応する端子を出力にする

22.1.10 ポート E コントロールレジスタ 1, 2 (PECR1, PECR2)

PECR1, PECR2 は、それぞれ 16 ビットの読み出し／書き込み可能なレジスタで、ポート E にあるマルチプレクス端子の機能を選びます。

PECR1, PECR2 は、パワーオンリセット、ハードウェアスタンバイ、および WDT によるパワーオンリセットで H'0000 に初期化されます。しかし、スリープモード時には初期化されません。

(1) ポート E コントロールレジスタ 2 (PECR2)

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	PE13 MD	—	PE12 MD	—	PE11 MD	—	PE10 MD	—	PE9 MD	—	PE8 MD
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R	R	R	R/W	R	R/W	R	R/W	R	R/W	R	R/W	R	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15～11	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
10	PE13MD	0	R/W	PE13 モード PE13/TOE13 端子の機能を制御します。 0: PE13 入出力 (ポート) 1: TOE13 出力 (ATU-III)

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
9	—	0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。
8	PE12MD	0	R/W	PE12 モード PE12/TOE12 端子の機能を制御します。 0 : PE12 入出力 (ポート) 1 : TOE12 出力 (ATU-III)
7	—	0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。
6	PE11MD	0	R/W	PE11 モード PE11/TOE11 端子の機能を制御します。 0 : PE11 入出力 (ポート) 1 : TOE11 出力 (ATU-III)
5	—	0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。
4	PE10MD	0	R/W	PE10 モード PE10/TOE10 端子の機能を制御します。 0 : PE10 入出力 (ポート) 1 : TOE10 出力 (ATU-III)
3	—	0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。
2	PE9MD	0	R/W	PE9 モード PE9/TOE03 端子の機能を制御します。 0 : PE9 入出力 (ポート) 1 : TOE03 出力 (ATU-III)
1	—	0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。
0	PE8MD	0	R/W	PE8 モード PE8/TOE02 端子の機能を制御します。 0 : PE8 入出力 (ポート) 1 : TOE02 出力 (ATU-III)

(2) ポートEコントロールレジスタ1 (PECR1)

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	PE7MD[1:0]	PE6MD[1:0]	—	PE5MD	—	PE4MD	—	PE3MD	PE2MD[1:0]	PE1MD[1:0]	—	PE0MD				
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R	R/W	R	R/W	R	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15、14	PE7MD[1:0]	00	R/W	PE7モード PE7/TOE01/CRx_B端子の機能を制御します。 00: PE7入出力 (ポート) 01: TOE01出力 (ATU-III) 10: CRx_B入力 (RCAN-TL1) 11: 設定禁止
13、12	PE6MD[1:0]	00	R/W	PE6モード PE6/TOE00/CTx_B端子の機能を制御します。 00: PE6入出力 (ポート) 01: TOE00出力 (ATU-III) 10: CTx_B出力 (RCAN-TL1) 11: 設定禁止
11	—	0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。
10	PE5MD	0	R/W	PE5モード PE5/TIA05端子の機能を制御します。 0: PE5入出力 (ポート) 1: TIA05入力 (ATU-III)
9	—	0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。
8	PE4MD	0	R/W	PE4モード PE4/TIA04端子の機能を制御します。 0: PE4入出力 (ポート) 1: TIA04入力 (ATU-III)
7	—	0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。
6	PE3MD	0	R/W	PE3モード PE3/TIA03端子の機能を制御します。 0: PE3入出力 (ポート) 1: TIA03入力 (ATU-III)

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
5、4	PE2MD[1:0]	00	R/W	PE2 モード PE2/TIA02/TIOC43/TIOC30 端子の機能を制御します。 00 : PE2 入出力 (ポート) 01 : TIA02 入力 (ATU-III) 10 : TIOC43 入出力 (ATU-III) 11 : TIOC30 入出力 (ATU-III)
3、2	PE1MD[1:0]	00	R/W	PE1 モード PE1/TIA01/TIOC42/TIOC40 端子の機能を制御します。 00 : PE1 入出力 (ポート) 01 : TIA01 入力 (ATU-III) 10 : TIOC42 入出力 (ATU-III) 11 : TIOC40 入出力 (ATU-III)
1	—	0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
0	PE0MD	0	R/W	PE0 モード PE0/TIA00 端子の機能を制御します。 0 : PE0 入出力 (ポート) 1 : TIA00 入力 (ATU-III)

22.1.11 ポート F・IO レジスタ (PFIOR)

PFIOR は、読み出し／書き込み可能な 16 ビットのレジスタで、ポート F にある端子の入出力方向を選びます。PFIOR はポート F の端子機能が汎用入出力 (PF15~PF0) の場合に有効で、それ以外の場合は端子の状態に影響しません。

PFIOR は、パワーオンリセット、ハードウェアスタンバイ、および WDT によるパワーオンリセットで H'0000 に初期化されます。しかし、スリープモード時には初期化されません。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	PF15 IOR	PF14 IOR	PF13 IOR	PF12 IOR	PF11 IOR	PF10 IOR	PF9 IOR	PF8 IOR	PF7 IOR	PF6 IOR	PF5 IOR	PF4 IOR	PF3 IOR	PF2 IOR	PF1 IOR	PF0 IOR
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~0	PF15IOR ~PF0IOR	すべて 0	R/W	PF15IOR~PF0IOR ビットは、それぞれ PF15~PF0 端子 (端子名からポート以外のマルチプレクス端子名を省略) に対応しています。本ビットを設定することにより、対応する端子の入出力方向を選択できます。 0: 対応する端子を入力にする 1: 対応する端子を出力にする

22.1.12 ポート F コントロールレジスタ 1、2 (PFCR1、PFCR2)

PFCR1、PFCR2 は、それぞれ 16 ビットの読み出し／書き込み可能なレジスタで、ポート F にあるマルチプレクス端子の機能を選びます。

PFCR1、PFCR2 は、パワーオンリセット、ハードウェアスタンバイ、および WDT によるパワーオンリセットで H'0000 に初期化されます。しかし、スリープモード時には初期化されません。

(1) ポート F コントロールレジスタ 2 (PFCR2)

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	PF15MD[1:0]	PF14MD[1:0]	PF13MD[1:0]	PF12MD[1:0]	PF11MD[1:0]	PF10MD[1:0]	PF9MD[1:0]	PF8MD[1:0]	PF7MD[1:0]	PF6MD[1:0]	PF5MD[1:0]	PF4MD[1:0]	PF3MD[1:0]	PF2MD[1:0]	PF1MD[1:0]	PF0MD[1:0]
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15、14	PF15MD[1:0]	00	R/W	PF15 モード PF15/TOD33B/CRx_B/RxD_A 端子の機能を制御します。 00: PF15 入出力 (ポート) 01: TOD33B 出力 (ATU-III) 10: CRx_B 入力 (RCAN-TL1) 11: RxD_A 入力 (SCI)

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
13、12	PF14MD[1:0]	00	R/W	PF14 モード PF14/TOD32B/CTx_B/TxD_A 端子の機能を制御します。 00 : PF14 入出力 (ポート) 01 : TOD32B 出力 (ATU-III) 10 : CTx_B 出力 (RCAN-TL1) 11 : TxD_A 出力 (SCI)
11、10	PF13MD[1:0]	00	R/W	PF13 モード PF13/TOD31B/TIF19 端子の機能を制御します。 00 : PF13 入出力 (ポート) 01 : TOD31B 出力 (ATU-III) 10 : 設定禁止 11 : TIF19 入力 (ATU-III)
9、8	PF12MD[1:0]	00	R/W	PF12 モード PF12/TOD30B/TIF18 端子の機能を制御します。 00 : PF12 入出力 (ポート) 01 : TOD30B 出力 (ATU-III) 10 : 設定禁止 11 : TIF18 入力 (ATU-III)
7、6	PF11MD[1:0]	00	R/W	PF11 モード PF11/TOD23B/TIF17 端子の機能を制御します。 00 : PF11 入出力 (ポート) 01 : TOD23B 出力 (ATU-III) 10 : 設定禁止 11 : TIF17 入力 (ATU-III)
5、4	PF10MD[1:0]	00	R/W	PF10 モード PF10/TOD22B/TIF16 端子の機能を制御します。 00 : PF10 入出力 (ポート) 01 : TOD22B 出力 (ATU-III) 10 : 設定禁止 11 : TIF16 入力 (ATU-III)
3、2	PF9MD[1:0]	00	R/W	PF9 モード PF9/TOD21B/TIF15 端子の機能を制御します。 00 : PF9 入出力 (ポート) 01 : TOD21B 出力 (ATU-III) 10 : 設定禁止 11 : TIF15 入力 (ATU-III)

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
1、0	PF8MD[1:0]	00	R/W	PF8 モード PF8/TOD20B/TIF14 端子の機能を制御します。 00 : PF8 入出力 (ポート) 01 : TOD20B 出力 (ATU-III) 10 : 設定禁止 11 : TIF14 入力 (ATU-III)

(2) ポートFコントロールレジスタ 1 (PFCR1)

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	PF7MD[1:0]		PF6MD[1:0]		PF5MD[1:0]		PF4MD[1:0]		PF3MD[1:0]		PF2MD[1:0]		PF1MD[1:0]		PF0MD[1:0]	
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15、14	PF7MD[1:0]	00	R/W	PF7 モード PF7/TOD13B/TIF13 端子の機能を制御します。 00 : PF7 入出力 (ポート) 01 : TOD13B 出力 (ATU-III) 10 : 設定禁止 11 : TIF13 入力 (ATU-III)
13、12	PF6MD[1:0]	00	R/W	PF6 モード PF6/TOD12B/TIF12 端子の機能を制御します。 00 : PF6 入出力 (ポート) 01 : TOD12B 出力 (ATU-III) 10 : 設定禁止 11 : TIF12 入力 (ATU-III)
11、10	PF5MD[1:0]	00	R/W	PF5 モード PF5/TOD11B/TIF11 端子の機能を制御します。 00 : PF5 入出力 (ポート) 01 : TOD11B 出力 (ATU-III) 10 : 設定禁止 11 : TIF11 入力 (ATU-III)
9、8	PF4MD[1:0]	00	R/W	PF4 モード PF4/TOD10B/TIF10 端子の機能を制御します。 00 : PF4 入出力 (ポート) 01 : TOD10B 出力 (ATU-III) 10 : 設定禁止 11 : TIF10 入力 (ATU-III)

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
7、6	PF3MD[1:0]	00	R/W	PF3 モード PF3/TOD03B/TIF9 端子の機能を制御します。 00 : PF3 入出力 (ポート) 01 : TOD03B 出力 (ATU-III) 10 : 設定禁止 11 : TIF9 入力 (ATU-III)
5、4	PF2MD[1:0]	00	R/W	PF2 モード PF2/TOD02B/TIF8 端子の機能を制御します。 00 : PF2 入出力 (ポート) 01 : TOD02B 出力 (ATU-III) 10 : 設定禁止 11 : TIF8 入力 (ATU-III)
3、2	PF1MD[1:0]	00	R/W	PF1 モード PF1/TOD01B/TIF7 端子の機能を制御します。 00 : PF1 入出力 (ポート) 01 : TOD01B 出力 (ATU-III) 10 : 設定禁止 11 : TIF7 入力 (ATU-III)
1、0	PF0MD[1:0]	00	R/W	PF0 モード PF0/TOD00B/TIF6 端子の機能を制御します。 00 : PF0 入出力 (ポート) 01 : TOD00B 出力 (ATU-III) 10 : 設定禁止 11 : TIF6 入力 (ATU-III)

22.1.13 ポート G・IO レジスタ (PGIOR)

PGIOR は、読み出し／書き込み可能な 16 ビットのレジスタで、ポート G にある端子の入出力方向を選びます。PGIOR はポート G の端子機能が汎用入出力 (PG15~PG0) の場合に有効で、それ以外の場合は端子の状態に影響しません。

PGIOR は、パワーオンリセット、ハードウェアスタンバイ、および WDT によるパワーオンリセットで H'0000 に初期化されます。しかし、スリープモード時には初期化されません。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	PG15 IOR	PG14 IOR	PG13 IOR	PG12 IOR	PG11 IOR	PG10 IOR	PG9 IOR	PG8 IOR	PG7 IOR	PG6 IOR	PG5 IOR	PG4 IOR	PG3 IOR	PG2 IOR	PG1 IOR	PG0 IOR
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~0	PG15IOR ~PG0IOR	すべて 0	R/W	PG15IOR~PG0IOR ビットは、それぞれ PG15~PG0 端子 (端子名からポート以外のマルチプレクス端子名を省略) に対応しています。本ビットを設定することにより、対応する端子の入出力方向を選択できます。 0: 対応する端子を入力にする 1: 対応する端子を出力にする

22.1.14 ポート G コントロールレジスタ 1、2 (PGCR1、PGCR2)

PGCR1、PGCR2 は、それぞれ 16 ビットの読み出し／書き込み可能なレジスタで、ポート G にあるマルチプレクス端子の機能を選びます。

PGCR1、PGCR2 は、パワーオンリセット、ハードウェアスタンバイ、および WDT によるパワーオンリセットで H'0000 に初期化されます。しかし、スリープモード時には初期化されません。

(1) ポート G コントロールレジスタ 2 (PGCR2)

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	PG15MD[1:0]	PG14MD[1:0]	PG13MD[1:0]	PG12MD[1:0]	PG11MD[1:0]	PG10MD[1:0]	PG9MD[1:0]	PG8MD[1:0]	PG7MD[1:0]	PG6MD[1:0]	PG5MD[1:0]	PG4MD[1:0]	PG3MD[1:0]	PG2MD[1:0]	PG1MD[1:0]	PG0MD[1:0]
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15、14	PG15MD[1:0]	00	R/W	PG15 モード PG15/TOD33A/SSLA7/TIF13 端子の機能を制御します。 00: PG15 入出力 (ポート) 01: TOD33A 出力 (ATU-III) 10: SSLA7 出力 (RSPI) 11: TIF13 入力 (ATU-III)

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
13、12	PG14MD[1:0]	00	R/W	PG14 モード PG14/TOD32A/SSLA6/TIF12 端子の機能を制御します。 00 : PG14 入出力 (ポート) 01 : TOD32A 出力 (ATU-III) 10 : SSLA6 出力 (RSPI) 11 : TIF12 入力 (ATU-III)
11、10	PG13MD[1:0]	00	R/W	PG13 モード PG13/TOD31A/SSLA5/TIF11 端子の機能を制御します。 00 : PG13 入出力 (ポート) 01 : TOD31A 出力 (ATU-III) 10 : SSLA5 出力 (RSPI) 11 : TIF11 入力 (ATU-III)
9、8	PG12MD[1:0]	00	R/W	PG12 モード PG12/TOD30A/SSLA4/TIF10 端子の機能を制御します。 00 : PG12 入出力 (ポート) 01 : TOD30A 出力 (ATU-III) 10 : SSLA4 出力 (RSPI) 11 : TIF10 入力 (ATU-III)
7、6	PG11MD[1:0]	00	R/W	PG11 モード PG11/TOD23A/SSLC2/TIF9 端子の機能を制御します。 00 : PG11 入出力 (ポート) 01 : TOD23A 出力 (ATU-III) 10 : SSLC2 出力 (RSPI) 11 : TIF9 入力 (ATU-III)
5、4	PG10MD[1:0]	00	R/W	PG10 モード PG10/TOD22A/SSLC1/TIF8 端子の機能を制御します。 00 : PG10 入出力 (ポート) 01 : TOD22A 出力 (ATU-III) 10 : SSLC1 出力 (RSPI) 11 : TIF8 入力 (ATU-III)
3、2	PG9MD[1:0]	00	R/W	PG9 モード PG9/TOD21A/SSLC0/TIF7 端子の機能を制御します。 00 : PG9 入出力 (ポート) 01 : TOD21A 出力 (ATU-III) 10 : SSLC0 入出力 (RSPI) 11 : TIF7 入力 (ATU-III)

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
1, 0	PG8MD[1:0]	00	R/W	PG8 モード PG8/TOD20A/SSLB2/TIF6 端子の機能を制御します。 00 : PG8 入出力 (ポート) 01 : TOD20A 出力 (ATU-III) 10 : SSLB2 出力 (RSPI) 11 : TIF6 入力 (ATU-III)

(2) ポート G コントロールレジスタ 1 (PGCR1)

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	PG7MD[1:0]		PG6MD[1:0]		PG5MD[1:0]		PG4MD[1:0]		PG3MD[1:0]		PG2MD[1:0]		PG1MD[1:0]		PG0MD[1:0]	
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15, 14	PG7MD[1:0]	00	R/W	PG7 モード PG7/TOD13A/SSLB1 端子の機能を制御します。 00 : PG7 入出力 (ポート) 01 : TOD13A 出力 (ATU-III) 10 : SSLB1 出力 (RSPI) 11 : 設定禁止
13, 12	PG6MD[1:0]	00	R/W	PG6 モード PG6/TOD12A/SSLB0 端子の機能を制御します。 00 : PG6 入出力 (ポート) 01 : TOD12A 出力 (ATU-III) 10 : SSLB0 入出力 (RSPI) 11 : 設定禁止
11, 10	PG5MD[1:0]	00	R/W	PG5 モード PG5/TOD11A/SSLA5/SSLC3 端子の機能を制御します。 00 : PG5 入出力 (ポート) 01 : TOD11A 出力 (ATU-III) 10 : SSLA5 出力 (RSPI) 11 : SSLC3 出力 (RSPI)
9, 8	PG4MD[1:0]	00	R/W	PG4 モード PG4/TOD10A/SSLA4/SSLB3 端子の機能を制御します。 00 : PG4 入出力 (ポート) 01 : TOD10A 出力 (ATU-III) 10 : SSLA4 出力 (RSPI) 11 : SSLB3 出力 (RSPI)

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
7、6	PG3MD[1:0]	00	R/W	PG3 モード PG3/TOD03A/SSLA3 端子の機能を制御します。 00 : PG3 入出力 (ポート) 01 : TOD03A 出力 (ATU-III) 10 : SSLA3 出力 (RSPI) 11 : 設定禁止
5、4	PG2MD[1:0]	00	R/W	PG2 モード PG2/TOD02A/SSLA2 端子の機能を制御します。 00 : PG2 入出力 (ポート) 01 : TOD02A 出力 (ATU-III) 10 : SSLA2 出力 (RSPI) 11 : 設定禁止
3、2	PG1MD[1:0]	00	R/W	PG1 モード PG1/TOD01A/SSLA1 端子の機能を制御します。 00 : PG1 入出力 (ポート) 01 : TOD01A 出力 (ATU-III) 10 : SSLA1 出力 (RSPI) 11 : 設定禁止
1、0	PG0MD[1:0]	00	R/W	PG0 モード PG0/TOD00A/SSLA0 端子の機能を制御します。 00 : PG0 入出力 (ポート) 01 : TOD00A 出力 (ATU-III) 10 : SSLA0 入出力 (RSPI) 11 : 設定禁止

22.1.15 ポート H・IO レジスタ (PHIOR)

PHIOR は、読み出し／書き込み可能な 16 ビットのレジスタで、ポート H にある端子の入出力方向を選びます。PHIOR はポート H の端子機能が汎用入出力 (PH5~PH0) の場合に有効で、それ以外の場合は端子の状態に影響しません。

PHIOR は、パワーオンリセット、ハードウェアスタンバイ、および WDT によるパワーオンリセットで H'0000 に初期化されます。しかし、スリープモード時には初期化されません。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	PH5 IOR	PH4 IOR	PH3 IOR	PH2 IOR	PH1 IOR	PH0 IOR
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~6	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
5~0	PH5IOR~PH0IOR	すべて 0	R/W	PH5IOR~PH0IOR ビットは、それぞれ PH5~PH0 端子（端子名からポート以外のマルチプレクス端子名を省略）に対応しています。本ビットを設定することにより、対応する端子の入出力方向を選択できます。 0: 対応する端子を入力にする 1: 対応する端子を出力にする

22.1.16 ポート H コントロールレジスタ (PHCR)

PHCR は、それぞれ 16 ビットの読み出し／書き込み可能なレジスタで、ポート H にあるマルチプレクス端子の機能を選びます。

PHCR は、パワーオンリセット、ハードウェアスタンバイ、および WDT によるパワーオンリセットで H'0000 に初期化されます。しかし、スリープモード時には初期化されません。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	PH5MD[1:0]	PH4MD[1:0]	PH3MD[1:0]	PH2MD[1:0]	PH1MD[1:0]	PH0MD[1:0]						
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~12	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
11, 10	PH5MD[1:0]	00	R/W	PH5 モード PH5/TIF5 端子の機能を制御します。 00: PH5 入出力 (ポート) 01: 設定禁止 10: 設定禁止 11: TIF5 入力 (ATU-III)

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
9、8	PH4MD[1:0]	00	R/W	PH4 モード PH4/TIF4 端子の機能を制御します。 00 : PH4 入出力 (ポート) 01 : 設定禁止 10 : 設定禁止 11 : TIF4 入力 (ATU-III)
7、6	PH3MD[1:0]	00	R/W	PH3 モード PH3/TIF3 端子の機能を制御します。 00 : PH3 入出力 (ポート) 01 : 設定禁止 10 : 設定禁止 11 : TIF3 入力 (ATU-III)
5、4	PH2MD[1:0]	00	R/W	PH2 モード PH2/TIF2A 端子の機能を制御します。 00 : PH2 入出力 (ポート) 01 : 設定禁止 10 : 設定禁止 11 : TIF2A 入力 (ATU-III)
3、2	PH1MD[1:0]	00	R/W	PH1 モード PH1/ADTRG_B/TIF1A 端子の機能を制御します。 00 : PH1 入出力 (ポート) 01 : 設定禁止 10 : ADTRG_B 入力 (ADC) 11 : TIF1A 入力 (ATU-III)
1、0	PH0MD[1:0]	00	R/W	PH0 モード PH0/ADTRG_A/TIF0A 端子の機能を制御します。 00 : PH0 入出力 (ポート) 01 : 設定禁止 10 : ADTRG_A 入力 (ADC) 11 : TIF0A 入力 (ATU-III)

22.1.17 ポート J・IO レジスタ (PJIOR)

PJIOR は、読み出し／書き込み可能な 16 ビットのレジスタで、ポート J にある端子の入出力方向を選びます。PJIOR はポート J の端子機能が汎用入出力 (PJ9～PJ0) の場合に有効で、それ以外の場合は端子の状態に影響しません。

PJIOR は、パワーオンリセット、ハードウェアスタンバイ、および WDT によるパワーオンリセットで H'0000 に初期化されます。しかし、スリープモード時には初期化されません。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	PJ9 IOR	PJ8 IOR	PJ7 IOR	PJ6 IOR	PJ5 IOR	PJ4 IOR	PJ3 IOR	PJ2 IOR	PJ1 IOR	PJ0 IOR
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R	R	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15～10	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
9～0	PJ9IOR～ PJ0IOR	すべて 0	R/W	PJ9IOR～PJ0IOR ビットは、それぞれ PJ9～PJ0 端子（端子名からポート以外のマルチプレクス端子名を省略）に対応しています。本ビットを設定することにより、対応する端子の入出力方向を選択できます。 0: 対応する端子を入力にする 1: 対応する端子を出力にする

22.1.18 ポート J コントロールレジスタ 1、2 (PJCR1、PJCR2)

PJCR1、PJCR2 は、それぞれ 16 ビットの読み出し／書き込み可能なレジスタで、ポート J にあるマルチプレクス端子の機能を選びます。

PJCR1、PJCR2 は、パワーオンリセット、ハードウェアスタンバイ、および WDT によるパワーオンリセットで H'0000 に初期化されます。しかし、スリープモード時には初期化されません。

(1) ポート J コントロールレジスタ 2 (PJCR2)

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	PJ9 MD	—	PJ8 MD
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R/W	R	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15～3	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
2	PJ9MD	0	R/W	PJ9 モード PJ9/RxD_B 端子の機能を制御します。 0: PJ9 入出力 (ポート) 1: RxD_B 入力 (SCI)

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
1	—	0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。
0	PJ8MD	0	R/W	PJ8 モード PJ8/TxD_B 端子の機能を制御します。 0 : PJ8 入出力 (ポート) 1 : TxD_B 出力 (SCI)

(2) ポートJコントロールレジスタ 1 (PJCR1)

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	PJ7MD[1:0]	—	PJ6MD	—	PJ5MD	PJ4MD[1:0]	PJ3MD[1:0]	PJ2MD[1:0]	PJ1MD[1:0]	PJ0MD[1:0]						
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R	R/W	R	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15, 14	PJ7MD[1:0]	00	R/W	PJ7 モード PJ7/SCK_B/ADEND_A/TIJ1 端子の機能を制御します。 00 : PJ7 入出力 (ポート) 01 : SCK_B 入出力 (SCI) 10 : ADEND_A 出力 (ADC) 11 : TIJ1 入力 (ATU-III)
13	—	0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。
12	PJ6MD	0	R/W	PJ6 モード PJ6/RxD_A 端子の機能を制御します。 0 : PJ6 入出力 (ポート) 1 : RxD_A 入力 (SCI)
11	—	0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。
10	PJ5MD	0	R/W	PJ5 モード PJ5/TxD_A 端子の機能を制御します。 0 : PJ5 入出力 (ポート) 1 : TxD_A 出力 (SCI)
9, 8	PJ4MD[1:0]	00	R/W	PJ4 モード PJ4/SCK_A/ADEND_B/TIJ0 端子の機能を制御します。 00 : PJ4 入出力 (ポート) 01 : SCK_A 入出力 (SCI) 10 : ADEND_B 出力 (ADC) 11 : TIJ0 入力 (ATU-III)

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
7, 6	PJ3MD[1:0]	00	R/W	PJ3 モード PJ3/RxD_A/CRx_C/CRx_A&CRx_B&CRx_C 端子の機能を制御します。 00 : PJ3 入出力 (ポート) 01 : RxD_A 入力 (SCI) 10 : CRx_C 入力 (RCAN-TL1) 11 : CRx_A&CRx_B&CRx_C 入力 (RCAN-TL1)
5, 4	PJ2MD[1:0]	00	R/W	PJ2 モード PJ2/TxD_A/CTx_C/CTx_A&CTx_B&CTx_C 端子の機能を制御します。 00 : PJ2 入出力 (ポート) 01 : TxD_A 出力 (SCI) 10 : CTx_C 出力 (RCAN-TL1) 11 : CTx_A&CTx_B&CTx_C 出力 (RCAN-TL1)
3, 2	PJ1MD[1:0]	00	R/W	PJ1 モード PJ1/RxD_A/CRx_A/CRx_A&CRx_B 端子の機能を制御します。 00 : PJ1 入出力 (ポート) 01 : RxD_A 入力 (SCI) 10 : CRx_A 入力 (RCAN-TL1) 11 : CRx_A&CRx_B 入力 (RCAN-TL1)
1, 0	PJ0MD[1:0]	00	R/W	PJ0 モード PJ0/TxD_A/CTx_A/CTx_A&CTx_B 端子の機能を制御します。 00 : PJ0 入出力 (ポート) 01 : TxD_A 出力 (SCI) 10 : CTx_A 出力 (RCAN-TL1) 11 : CTx_A&CTx_B 出力 (RCAN-TL1)

22.1.19 ポート K・IO レジスタ (PKIOR)

PKIOR は、読み出し／書き込み可能な 16 ビットのレジスタで、ポート K にある端子の入出力方向を選びます。PKIOR はポート K の端子機能が汎用入出力 (PK11~PK0) の場合に有効で、それ以外の場合は端子の状態に影響しません。

PKIOR は、パワーオンリセット、ハードウェアスタンバイ、および WDT によるパワーオンリセットで H'0000 に初期化されます。しかし、スリープモード時には初期化されません。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	PK11 IOR	PK10 IOR	PK9 IOR	PK8 IOR	PK7 IOR	PK6 IOR	PK5 IOR	PK4 IOR	PK3 IOR	PK2 IOR	PK1 IOR	PK0 IOR
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~12	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
11~0	PK11IOR ~PK0IOR	すべて 0	R/W	PK11IOR~PK0IOR ビットは、それぞれ PK11~PK0 端子 (端子名からポート以外のマルチプレクス端子名を省略) に対応しています。本ビットを設定することにより、対応する端子の入出力方向を選択できます。 0: 対応する端子を入力にする 1: 対応する端子を出力にする

22.1.20 ポート K コントロールレジスタ 1、2 (PKCR1、PKCR2)

PKCR1、PKCR2 は、それぞれ 16 ビットの読み出し／書き込み可能なレジスタで、ポート K にあるマルチプレクス端子の機能を選びます。

PKCR1、PKCR2 は、パワーオンリセット、ハードウェアスタンバイ、および WDT によるパワーオンリセットで H'0000 に初期化されます。しかし、スリープモード時には初期化されません。

(1) ポート K コントロールレジスタ 2 (PKCR2)

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	PK11MD[1:0]	PK10MD[1:0]	PK9MD[1:0]	—	—	—	—	PK8 MD
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R	R	R	R	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~8	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
7、6	PK11MD[1:0]	00	R/W	PK11 モード PK11/MISOC 端子の機能を制御します。 00: PK11 入出力 (ポート) 01: 設定禁止 10: MISOC 入出力 (RSPI) 11: 設定禁止

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
5, 4	PK10MD[1:0]	00	R/W	PK10 モード PK10/MOSIC 端子の機能を制御します。 00 : PK10 入出力 (ポート) 01 : 設定禁止 10 : MOSIC 入出力 (RSPI) 11 : 設定禁止
3, 2	PK9MD[1:0]	00	R/W	PK9 モード PK9/RSPCKC 端子の機能を制御します。 00 : PK9 入出力 (ポート) 01 : 設定禁止 10 : RSPCKC 入出力 (RSPI) 11 : 設定禁止
1	—	0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。
0	PK8MD	0	R/W	PK8 モード PK8/RxD_E 端子の機能を制御します。 0 : PK8 入出力 (ポート) 1 : RxD_E 入力 (SCI)

(2) ポート K コントロールレジスタ 1 (PKCR1)

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	PK7 MD	—	PK6 MD	PK5MD[1:0]	PK4MD[1:0]	PK3MD[1:0]	PK2MD[1:0]	PK1MD[1:0]	PK0MD[1:0]						
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R/W	R	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15	—	0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。
14	PK7MD	0	R/W	PK7 モード PK7/TxD_E 端子の機能を制御します。 0 : PK7 入出力 (ポート) 1 : TxD_E 出力 (SCI)
13	—	0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。
12	PK6MD	0	R/W	PK6 モード PK6/SCK_E 端子の機能を制御します。 0 : PK6 入出力 (ポート) 1 : SCK_E 入出力 (SCI)

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
11、10	PK5MD[1:0]	00	R/W	PK5 モード PK5/RxD_D/MISOB 端子の機能を制御します。 00 : PK5 入出力 (ポート) 01 : RxD_D 入力 (SCI) 10 : MISOB 入出力 (RSPI) 11 : 設定禁止
9、8	PK4MD[1:0]	00	R/W	PK4 モード PK4/TxD_D/MOSIB 端子の機能を制御します。 00 : PK4 入出力 (ポート) 01 : TxD_D 出力 (SCI) 10 : MOSIB 入出力 (RSPI) 11 : 設定禁止
7、6	PK3MD[1:0]	00	R/W	PK3 モード PK3/SCK_D/RSPCKB 端子の機能を制御します。 00 : PK3 入出力 (ポート) 01 : SCK_D 入出力 (SCI) 10 : RSPCKB 入出力 (RSPI) 11 : 設定禁止
5、4	PK2MD[1:0]	00	R/W	PK2 モード PK2/RxD_C/MISOA 端子の機能を制御します。 00 : PK2 入出力 (ポート) 01 : RxD_C 入力 (SCI) 10 : MISOA 入出力 (RSPI) 11 : 設定禁止
3、2	PK1MD[1:0]	00	R/W	PK1 モード PK1/TxD_C/MOSIA 端子の機能を制御します。 00 : PK1 入出力 (ポート) 01 : TxD_C 出力 (SCI) 10 : MOSIA 入出力 (RSPI) 11 : 設定禁止
1、0	PK0MD[1:0]	00	R/W	PK0 モード PK0/SCK_C/RSPCKA/ <u>UBCTR\overline{G}</u> 端子の機能を制御します。 00 : PK0 入出力 (ポート) 01 : SCK_C 入出力 (SCI) 10 : RSPCKA 入出力 (RSPI) 11 : <u>UBCTR\overline{G}</u> 出力 (UBC)

22.1.21 ポート L・IO レジスタ (PLIOR)

PLIOR は、読み出し／書き込み可能な 16 ビットのレジスタで、ポート L にある端子の入出力方向を選びます。PLIOR はポート L の端子機能が汎用入出力 (PL8~PL0) の場合に有効で、それ以外の場合は端子の状態に影響しません。

PLIOR は、パワーオンリセット、ハードウェアスタンバイ、および WDT によるパワーオンリセットで H'0000 に初期化されます。しかし、スリープモード時には初期化されません。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	PL8 IOR	PL7 IOR	PL6 IOR	PL5 IOR	PL4 IOR	PL3 IOR	PL2 IOR	PL1 IOR	PL0 IOR
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R	R	R	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~9	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
8~0	PL8IOR~ PL0IOR	すべて 0	R/W	PL8IOR~PL0IOR ビットは、それぞれ PL8~PL0 端子（端子名からポート以外のマルチプレクス端子名を省略）に対応しています。本ビットを設定することにより、対応する端子の入出力方向を選択できます。 0: 対応する端子を入力にする 1: 対応する端子を出力にする

22.1.22 ポート L コントロールレジスタ 1、2 (PLCR1、PLCR2)

PLCR1、PLCR2 は、それぞれ 16 ビットの読み出し／書き込み可能なレジスタで、ポート L にあるマルチプレクス端子の機能を選びます。

PLCR1、PLCR2 は、パワーオンリセット、ハードウェアスタンバイ、および WDT によるパワーオンリセットで H'0000 に初期化されます。しかし、スリープモード時には初期化されません。

(1) ポート L コントロールレジスタ 2 (PLCR2)

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	PL8 MD
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~1	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
0	PL8MD	0	R/W	PL8 モード PL8/TOE33 端子の機能を制御します。 0: PL8 入出力 (ポート) 1: TOE33 出力 (ATU-III)

(2) ポートLコントロールレジスタ 1 (PLCR1)

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	PL7MD[1:0]		PL6MD[1:0]		PL5MD[1:0]		PL4MD[1:0]		PL3MD[1:0]		PL2MD[1:0]		PL1MD[1:0]		PLOMD[1:0]	
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15、14	PL7MD[1:0]	00	R/W	PL7モード PL7/TOE32/ $\overline{\text{IRQ}}7$ 端子の機能を制御します。 00: PL7 入出力 (ポート) 01: TOE32 出力 (ATU-III) 10: $\overline{\text{IRQ}}7$ 入力 (INTC) 11: 設定禁止
13、12	PL6MD[1:0]	00	R/W	PL6モード PL6/TOE31/ $\overline{\text{IRQ}}6$ 端子の機能を制御します。 00: PL6 入出力 (ポート) 01: TOE31 出力 (ATU-III) 10: $\overline{\text{IRQ}}6$ 入力 (INTC) 11: 設定禁止
11、10	PL5MD[1:0]	00	R/W	PL5モード PL5/TOE30/ $\overline{\text{IRQ}}5$ 端子の機能を制御します。 00: PL5 入出力 (ポート) 01: TOE30 出力 (ATU-III) 10: $\overline{\text{IRQ}}5$ 入力 (INTC) 11: 設定禁止
9、8	PL4MD[1:0]	00	R/W	PL4モード PL4/TOE23/ $\overline{\text{IRQ}}4$ 端子の機能を制御します。 00: PL4 入出力 (ポート) 01: TOE23 出力 (ATU-III) 10: $\overline{\text{IRQ}}4$ 入力 (INTC) 11: 設定禁止
7、6	PL3MD[1:0]	00	R/W	PL3モード PL3/TOE22/ $\overline{\text{IRQ}}3$ 端子の機能を制御します。 00: PL3 入出力 (ポート) 01: TOE22 出力 (ATU-III) 10: $\overline{\text{IRQ}}3$ 入力 (INTC) 11: 設定禁止

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
5、4	PL2MD[1:0]	00	R/W	PL2 モード PL2/TOE21/ $\overline{\text{IRQ2}}$ 端子の機能を制御します。 00 : PL2 入出力 (ポート) 01 : TOE21 出力 (ATU-III) 10 : $\overline{\text{IRQ2}}$ 入力 (INTC) 11 : 設定禁止
3、2	PL1MD[1:0]	00	R/W	PL1 モード PL1/TOE20/ $\overline{\text{IRQ1}}$ / $\overline{\text{POD}}$ 端子の機能を制御します。 00 : PL1 入出力 (ポート) 01 : TOE20 出力 (ATU-III) 10 : $\overline{\text{IRQ1}}$ 入力 (INTC) 11 : $\overline{\text{POD}}$ 入力 (ポート)
1、0	PL0MD[1:0]	00	R/W	PL0 モード PL0/ $\overline{\text{IRQ0}}$ 端子の機能を制御します。 00 : PL0 入出力 (ポート) 01 : 設定禁止 10 : $\overline{\text{IRQ0}}$ 入力 (INTC) 11 : 設定禁止

23. I/O ポート

23.1 概要

ポートは、A、B、C、D、E、F、G、H、J、K、L の 11 本から構成されています。

ポート A は 16 ビット、ポート B は 15 ビット、ポート C は 16 ビット、ポート D は 14 ビット、ポート E は 14 ビット、ポート F は 16 ビット、ポート G は 16 ビット、ポート H は 6 ビット、ポート J は 10 ビット、ポート K は 12 ビット、ポート L は 9 ビットの入出力サポートです。

ポートの各端子は、すべて汎用入出力と、そのほかの機能とを兼ねているマルチプレクス端子です。マルチプレクス端子の機能の選択は、ピンファンクションコントローラ (PFC) で行います。

ポートはそれぞれ、端子のデータを格納するためのデータレジスタと、端子の値をリードするためのポートレジスタを 1 本ずつ持っています。

ポート B、D、E、F、G、J、K、L は、端子の出力値を反転する機能を設定するためのインバートレジスタをそれぞれ 1 本ずつ持っています。

ポート G は、端子のエッジ入力を検出することができるポートです。検出するエッジを選択するため、エッジ選択レジスタを 1 本持っています。

ポート B、E、F、G、J、K は、端子のドライブ能力を設定できるポートです。ドライバビリティ設定のため、ドライバビリティ設定レジスタをそれぞれ 1 本ずつ持っています。

ポート B、F、J、K は、端子のプルダウンを設定できるポートです。端子のプルダウン設定のため、端子状態設定レジスタをそれぞれ 1 本ずつ持っています。

また、CK 端子の出力の有無を決定するための CK コントロールレジスタ (CKCR) を一本持っています。

23.2 レジスタの説明

I/Oポートのレジスタを表 23.1 に示します。

表 23.1 レジスタ構成

レジスタ名	略称	R/W	初期値	アドレス	アクセスサイズ
ポート A データレジスタ	PADR	R/W	H'0000	H'FFFE3802	8、16
ポート A ポートレジスタ	PAPR	R	端子の値	H'FFFE381E	8、16
ポート B データレジスタ	PBDR	R/W	H'0000	H'FFFE3882	8、16
ポート B ポートレジスタ	PBPR	R	端子の値	H'FFFE389E	8、16
ポート B インポートレジスタ	PBIR	R/W	H'0000	H'FFFE3898	8、16、32
ポート B ドライバビリティ設定レジスタ	PBDSR	R/W	H'0000	H'FFFE389A	8、16
ポート B 端子状態設定レジスタ	PBPSR	R/W	H'0000	H'FFFE389C	8、16、32
ポート C データレジスタ	PCDR	R/W	H'0000	H'FFFE3902	8、16
ポート C ポートレジスタ	PCPR	R	端子の値	H'FFFE391E	8、16
ポート D データレジスタ	PDDR	R/W	H'0000	H'FFFC800	8、16、32
ポート D ポートレジスタ	PDPR	R	端子の値	H'FFFC802	8、16
ポート D インポートレジスタ	PDIR	R/W	H'0000	H'FFFC804	8、16
ポート E データレジスタ	PEDR	R/W	H'0000	H'FFFC810	8、16、32
ポート E ポートレジスタ	PEPR	R	端子の値	H'FFFC812	8、16
ポート E インポートレジスタ	PEIR	R/W	H'0000	H'FFFC814	8、16、32
ポート E ドライバビリティ設定レジスタ	PEDSR	R/W	H'0000	H'FFFC816	8、16
ポート F データレジスタ	PFDR	R/W	H'0000	H'FFFC820	8、16、32
ポート F ポートレジスタ	PFPR	R	端子の値	H'FFFC822	8、16
ポート F インポートレジスタ	PFIR	R/W	H'0000	H'FFFC824	8、16、32
ポート F ドライバビリティ設定レジスタ	PFDSR	R/W	H'0000	H'FFFC826	8、16
ポート F 端子状態設定レジスタ	PFPSR	R/W	H'0000	H'FFFC828	8、16、32
ポート G データレジスタ	PGDR	R/W	H'0000	H'FFFC830	8、16、32
ポート G ポートレジスタ	PGPR	R	端子の値	H'FFFC832	8、16
ポート G インポートレジスタ	PGIR	R/W	H'0000	H'FFFC834	8、16、32
ポート G ドライバビリティ設定レジスタ	PGDSR	R/W	H'0000	H'FFFC836	8、16
ポート G エッジ選択レジスタ	PGER	R/W	H'0000	H'FFFC838	8、16
ポート H データレジスタ	PHDR	R/W	H'0000	H'FFFC850	8、16、32
ポート H ポートレジスタ	PHPR	R	端子の値	H'FFFC852	8、16
ポート J データレジスタ	PJDR	R/W	H'0000	H'FFFC860	8、16、32
ポート J ポートレジスタ	PJPR	R	端子の値	H'FFFC862	8、16
ポート J インポートレジスタ	PJIR	R/W	H'0000	H'FFFC864	8、16、32
ポート J ドライバビリティ設定レジスタ	PJDSR	R/W	H'0000	H'FFFC866	8、16

レジスタ名	略称	R/W	初期値	アドレス	アクセスサイズ
ポートJ端子状態設定レジスタ	PJPSR	R/W	H'0000	H'FFFFFFC868	8、16
ポートKデータレジスタ	PKDR	R/W	H'0000	H'FFFFFFC880	8、16、32
ポートKポートレジスタ	PKPR	R	端子の値	H'FFFFFFC882	8、16
ポートKインバートレジスタ	PKIR	R/W	H'0000	H'FFFFFFC884	8、16、32
ポートKドライバピリティ設定レジスタ	PKDSR	R/W	H'0000	H'FFFFFFC886	8、16
ポートK端子状態設定レジスタ	PKPSR	R/W	H'0000	H'FFFFFFC888	8、16
ポートLデータレジスタ	PLDR	R/W	H'0000	H'FFFFFFC8A0	8、16、32
ポートLポートレジスタ	PLPR	R	端子の値	H'FFFFFFC8A2	8、16
ポートLインバートレジスタ	PLIR	R/W	H'0000	H'FFFFFFC8A4	8、16
CKコントロールレジスタ	CKCR	R/W	H'0000	H'FFFFFFC920	8、16

23.3 ポート A

ポート A は、図 23.1 に示すような、16 本の端子を持つ入出力ポートです。

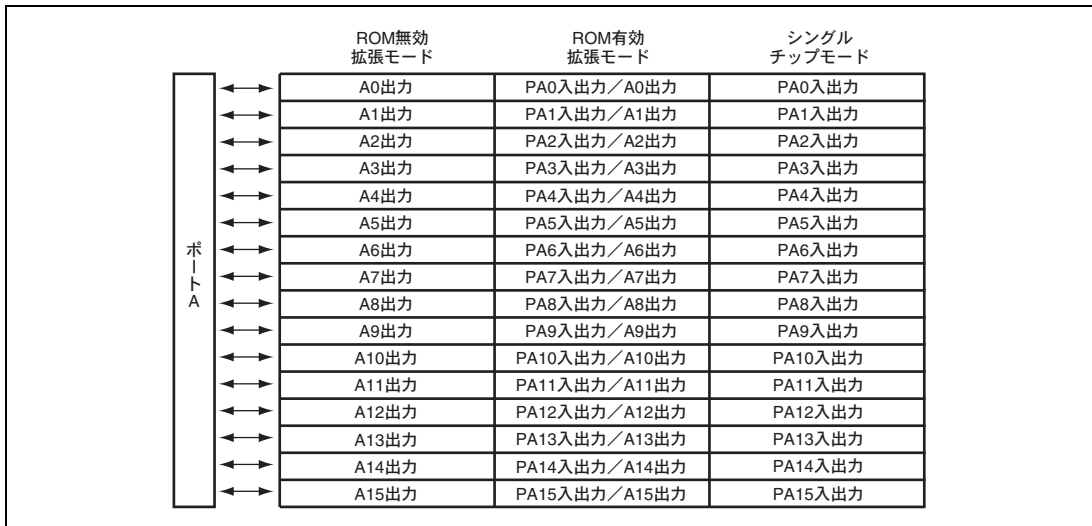


図 23.1 ポート A

23.3.1 ポートAデータレジスタ (PADR)

PADRは、読み出し／書き込み可能な16ビットのレジスタで、ポートAのデータを格納します。PA15DR～PA0DRは、それぞれPA15/A15～PA0/A0端子に対応しています。

端子機能が汎用出力の場合には、PADRに値を書き込むと端子からその値が出力され、PADRを読み出すと端子の状態に関係なくレジスタの値が直接読み出されます。

端子機能が汎用入力の場合には、PADRを読み出すとレジスタの値ではなく端子の状態が直接読み出されます。またPADRに値を書き込むと、PADRにその値を書き込みますが、端子の状態には影響しません。表23.2にPADRの読み出し／書き込み動作を示します。

PADRは、パワーオンリセット、ハードウェアスタンバイモード、およびWDTによるパワーオンリセットでH'0000に初期化されます。しかし、スリープモード時には初期化されません。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	PA15DR	PA14DR	PA13DR	PA12DR	PA11DR	PA10DR	PA9DR	PA8DR	PA7DR	PA6DR	PA5DR	PA4DR	PA3DR	PA2DR	PA1DR	PA0DR
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15	PA15DR	0	R/W	表 23.2 参照
14	PA14DR	0	R/W	
13	PA13DR	0	R/W	
12	PA12DR	0	R/W	
11	PA11DR	0	R/W	
10	PA10DR	0	R/W	
9	PA9DR	0	R/W	
8	PA8DR	0	R/W	
7	PA7DR	0	R/W	
6	PA6DR	0	R/W	
5	PA5DR	0	R/W	
4	PA4DR	0	R/W	
3	PA3DR	0	R/W	
2	PA2DR	0	R/W	
1	PA1DR	0	R/W	
0	PA0DR	0	R/W	

表 23.2 ポート A データレジスタ (PADR) の読み出し/書き込み動作

- PADRのビット15~0

PAIOR	端子機能	読み出し	書き込み
0	汎用入力	端子の状態	PADR に書き込めるが、端子の状態に影響しない
	汎用入力以外	端子の状態	PADR に書き込めるが、端子の状態に影響しない
1	汎用出力	PADR の値	書き込み値が端子から出力される
	汎用出力以外	PADR の値	PADR に書き込めるが、端子の状態に影響しない

23.3.2 ポート A ポートレジスタ (PAPR)

PAPR は、読み出し専用の 16 ビットのレジスタで、常にポート A の端子の値を格納しますので、CPU から値を書き込むことはできません。PA15PR~PA0PR ビットは、それぞれ PA15/A15~PA0/A0 端子に対応しています。PAPR は読み出すと端子の値が読み出されます。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	PA15PR	PA14PR	PA13PR	PA12PR	PA11PR	PA10PR	PA9PR	PA8PR	PA7PR	PA6PR	PA5PR	PA4PR	PA3PR	PA2PR	PA1PR	PA0PR
初期値:	PA15	PA14	PA13	PA12	PA11	PA10	PA9	PA8	PA7	PA6	PA5	PA4	PA3	PA2	PA1	PA0
R/W:	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
15	PA15PR	端子の値	R	読み出すと端子の値が読み出されます。書き込みは無効です。
14	PA14PR	端子の値	R	
13	PA13PR	端子の値	R	
12	PA12PR	端子の値	R	
11	PA11PR	端子の値	R	
10	PA10PR	端子の値	R	
9	PA9PR	端子の値	R	
8	PA8PR	端子の値	R	
7	PA7PR	端子の値	R	
6	PA6PR	端子の値	R	
5	PA5PR	端子の値	R	
4	PA4PR	端子の値	R	
3	PA3PR	端子の値	R	
2	PA2PR	端子の値	R	
1	PA1PR	端子の値	R	
0	PA0PR	端子の値	R	

23.4 ポート B

ポート B は、図 23.2 に示すような、15 本の端子を持つ入出力ポートです。

ポート B	ROM無効拡張モード (エリア0: 8ビット) (エリア0: 16ビット)		ROM有効拡張モード	シングルチップモード
	↔	A16出力		PB0入出力/A16出力/MOSIA入出力
↔	A17出力		PB1入出力/A17出力/MISOA入出力	PB1入出力/MISOA入出力
↔	A18出力		PB2入出力/A18出力/MOSIB入出力	PB2入出力/MOSIB入出力
↔	A19出力		PB3入出力/A19出力/MISOB入出力	PB3入出力/MISOB入出力
↔	A20出力		PB4入出力/A20出力/CTx_B出力/TIF6入力	PB4入出力/CTx_B出力/TIF6入力
↔	A21出力		PB5入出力/A21出力/CRx_B入力/TIF7入力	PB5入出力/CRx_B入力/TIF7入力
↔	WE0出力		PB6入出力/WE0出力	PB6入出力
↔	PB7入出力/WE1出力	WE1出力	PB7入出力/WE1出力	PB7入出力
↔	WAIT入力		PB8入出力/WAIT入力/TOE20出力	PB8入出力/TOE20出力
↔	RD出力		PB9入出力/RD出力	PB9入出力
↔	CS0出力		PB10入出力/CS0出力	PB10入出力
↔	PB11入出力/CS1出力/TOE21出力		PB11入出力/TOE21出力	
↔	PB12入出力/CS2出力/RSPCKA入出力		PB12入出力/RSPCKA入出力	
↔	PB13入出力/CS3出力/RSPCKB入出力		PB13入出力/RSPCKB入出力	
↔	RD/WR出力		PB14入出力/RD/WR出力	
↔			PB14入出力	

図 23.2 ポート B

23.4.1 ポート B データレジスタ (PBDR)

PBDRは、読み出し／書き込み可能な16ビットのレジスタで、ポートBのデータを格納します。PB14DR～PB0DRは、それぞれPB14/RD/WR～PB0/A16/MOSIA端子に対応しています。

端子機能が汎用出力の場合には、PBDRに値を書き込むと端子からその値が出力され、PBDRを読み出すと端子の状態に関係なくレジスタの値が直接読み出されます。

端子機能が汎用入力の場合には、PBDRを読み出すとレジスタの値ではなく端子の状態が直接読み出されます。またPBDRに値を書き込むと、PBDRにその値を書き込みますが、端子の状態には影響しません。表23.3にPBDRの読み出し／書き込み動作を示します。

PBDRは、パワーオンリセット、ハードウェアスタンバイモード、およびWDTによるパワーオンリセットでH'0000に初期化されます。しかし、スリープモード時には初期化されません。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	PB14DR	PB13DR	PB12DR	PB11DR	PB10DR	PB9DR	PB8DR	PB7DR	PB6DR	PB5DR	PB4DR	PB3DR	PB2DR	PB1DR	PB0DR
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15	—	0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。
14	PB14DR	0	R/W	表 23.3 参照
13	PB13DR	0	R/W	
12	PB12DR	0	R/W	
11	PB11DR	0	R/W	
10	PB10DR	0	R/W	
9	PB9DR	0	R/W	
8	PB8DR	0	R/W	
7	PB7DR	0	R/W	
6	PB6DR	0	R/W	
5	PB5DR	0	R/W	
4	PB4DR	0	R/W	
3	PB3DR	0	R/W	
2	PB2DR	0	R/W	
1	PB1DR	0	R/W	
0	PB0DR	0	R/W	

表 23.3 ポート B データレジスタ (PBDR) の読み出し/書き込み動作

- PBDRのビット15~0

PBIOR	端子機能	読み出し	書き込み
0	汎用入力	端子の状態	PBDR に書き込めるが、端子の状態に影響しない
	汎用入力以外	端子の状態	PBDR に書き込めるが、端子の状態に影響しない
1	汎用出力	PBDR の値	書き込み値が端子から出力される
	汎用出力以外	PBDR の値	PBDR に書き込めるが、端子の状態に影響しない

23.4.2 ポート B ポートレジスタ (PBPR)

PBPR は、読み出し専用の 16 ビットのレジスタで、常にポート B の端子の値を格納しますので、CPU から値を書き込むことはできません。PB14PR~PB0PR ビットは、それぞれ PB14/RD/ \overline{WR} ~PB0/A16/MOSIA 端子に対応しています。PBPR は読み出すと端子の値が読み出されます。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	PB14PR	PB13PR	PB12PR	PB11PR	PB10PR	PB9PR	PB8PR	PB7PR	PB6PR	PB5PR	PB4PR	PB3PR	PB2PR	PB1PR	PB0PR
初期値:	0	PB14	PB13	PB12	PB11	PB10	PB9	PB8	PB7	PB6	PB5	PB4	PB3	PB2	PB1	PB0
R/W:	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15	—	0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込み値も常に 0 にしてください。
14	PB14PR	端子の値	R	読み出すと端子の値が読み出されます。書き込みは無効です。
13	PB13PR	端子の値	R	
12	PB12PR	端子の値	R	
11	PB11PR	端子の値	R	
10	PB10PR	端子の値	R	
9	PB9PR	端子の値	R	
8	PB8PR	端子の値	R	
7	PB7PR	端子の値	R	
6	PB6PR	端子の値	R	
5	PB5PR	端子の値	R	
4	PB4PR	端子の値	R	
3	PB3PR	端子の値	R	
2	PB2PR	端子の値	R	
1	PB1PR	端子の値	R	
0	PB0PR	端子の値	R	

23.4.3 ポートBインバートレジスタ (PBIR)

PBIRは、読み出し/書き込み可能な16ビットのレジスタで、ポートBの反転機能を設定します。PB13IR～PB11IR、PB8IR、PB4IR～PB0IRビットが、それぞれPB13/ $\overline{CS3}$ /RSPCKB～PB11/ $\overline{CS1}$ /TOE21、PB8/ \overline{WAIT} /TOE20、PB4/A20/CTx_B/TIF6～PB0/A16/MOSIA端子に対応しています。なお、PBIRの設定は、対象端子の機能がバス機能(A16～A20、 \overline{WAIT} 、 $\overline{CS1}$ ～ $\overline{CS3}$)に選択されている場合は無効です。

PBIRのビットを1にすると、対応する端子の出力値が反転します。

PBIRは、パワーオンリセット、ハードウェアスタンバイモード、およびWDTによるパワーオンリセットでH'0000に初期化されます。しかし、スリープモード時には初期化されません。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	PB13IR	PB12IR	PB11IR	—	—	PB8IR	—	—	—	PB4IR	PB3IR	PB2IR	PB1IR	PB0IR
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R/W	R/W	R/W	R	R	R/W	R	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15, 14	—	すべて0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。
13	PB13IR	0	R/W	本ビットを1にすると対応する端子の出力値を反転します。 0: 出力値を反転しない 1: 出力値を反転する
12	PB12IR	0	R/W	
11	PB11IR	0	R/W	
10, 9	—	すべて0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。
8	PB8IR	0	R/W	本ビットを1にすると対応する端子の出力値を反転します。 0: 出力値を反転しない 1: 出力値を反転する
7~5	—	すべて0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。
4	PB4IR	0	R/W	本ビットを1にすると対応する端子の出力値を反転します。 0: 出力値を反転しない 1: 出力値を反転する
3	PB3IR	0	R/W	
2	PB2IR	0	R/W	
1	PB1IR	0	R/W	
0	PB0IR	0	R/W	

23.4.4 ポート B ドライバリティ設定レジスタ (PBDSR)

PBDSR は、読み出し／書き込み可能な 16 ビットのレジスタで、ポート B のドライブ能力を設定します。PB13DSR、PB12DSR、PB4DSR～PB0DSR ビットが、それぞれ PB13/ $\overline{CS3}$ /RSPCKB、PB12/ $\overline{CS2}$ /RSPCKA、PB4/A20/CTx_B/TIF6～PB0/A16/MOSIA 端子に対応しています。PBDSR の設定は、対象端子の機能がパス機能 (A16～A20、 $\overline{CS2}$ 、 $\overline{CS3}$) に選択されている場合は無効です。

PBDSR のビットを 1 にすると、対応する端子のドライブ能力が増加します。

PBDSR は、パワーオンリセット、ハードウェアスタンバイモード、および WDT によるパワーオンリセットで H'0000 に初期化されます。しかし、スリープモード時には初期化されません。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	PB13DSR	PB12DSR	—	—	—	—	—	—	—	PB4DSR	PB3DSR	PB2DSR	PB1DSR	PB0DSR
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R/W	R/W	R	R	R	R	R	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15, 14	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
13	PB13DSR	0	R/W	本ビットを 1 にすると、対応する端子のドライブ能力が大きくなります。 0: 通常出力 (スロースルーレート) 1: 出力端子のドライブ能力が増加する (ファストスルーレート) 【注】ドライブ能力の特性については、「32.3.14 出力スルーレート」を参照してください。
12	PB12DSR	0	R/W	
11~5	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
4	PB4DSR	0	R/W	本ビットを 1 にすると、対応する端子のドライブ能力が大きくなります。 0: 通常出力 (スロースルーレート) 1: 出力端子のドライブ能力が増加する (ファストスルーレート) 【注】ドライブ能力の特性については、「32.3.14 出力スルーレート」を参照してください。
3	PB3DSR	0	R/W	
2	PB2DSR	0	R/W	
1	PB1DSR	0	R/W	
0	PB0DSR	0	R/W	

23.4.5 ポート B 端子状態設定レジスタ (PBPSR)

PBPSR は、読み出し／書き込み可能な 16 ビットのレジスタで、ポート B のプルダウン／プルダウンオフを設定します。PB3PSR、PB1PSR ビットが、それぞれ PB3/A19/MISOB、PB1/A17/MISOA 端子に対応しています。PBPSR の設定は、対象端子の機能がバス機能（A19、A17）に選択されている場合は無効です。

PBPSR のビットを 1 にすると、対応する端子がプルダウン状態に設定されます。

PBPSR は、パワーオンリセット、ハードウェアスタンバイモード、および WDT によるパワーオンリセットで H'0000 に初期化されます。しかし、スリープモード時には初期化されません。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	PB3PSR	—	PB1PSR	—
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R/W	R	R/W	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~4	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
3	PB3PSR	0	R/W	本ビットを 1 にすると、対応する端子がプルダウン状態に設定されます。 0: プルダウンなし 1: プルダウン状態に設定する
2	—	0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
1	PB1PSR	0	R/W	本ビットを 1 にすると、対応する端子がプルダウン状態に設定されます。 0: プルダウンなし 1: プルダウン状態に設定する
0	—	0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。

23.5 ポート C

ポート C は、図 23.3 に示すような、16 本の端子を持つ入出力ポートです。



図 23.3 ポート C

23.5.1 ポートCデータレジスタ (PCDR)

PCDRは、読み出し／書き込み可能な16ビットのレジスタで、ポートCのデータを格納します。PC15DR～PC0DRは、それぞれPC15/D15～PC0/D0端子に対応しています。

端子機能が汎用出力の場合には、PCDRに値を書き込むと端子からその値が出力され、PCDRを読み出すと端子の状態に関係なくレジスタの値が直接読み出されます。

端子機能が汎用入力の場合には、PCDRを読み出すとレジスタの値ではなく端子の状態が直接読み出されます。またPCDRに値を書き込むと、PCDRにその値を書き込みますが、端子の状態には影響しません。表23.4にPCDRの読み出し／書き込み動作を示します。

PCDRは、パワーオンリセット、ハードウェアスタンバイモード、およびWDTによるパワーオンリセットでH'0000に初期化されます。しかし、スリープモード時には初期化されません。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	PC15DR	PC14DR	PC13DR	PC12DR	PC11DR	PC10DR	PC9DR	PC8DR	PC7DR	PC6DR	PC5DR	PC4DR	PC3DR	PC2DR	PC1DR	PC0DR
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15	PC15DR	0	R/W	表 23.4 参照
14	PC14DR	0	R/W	
13	PC13DR	0	R/W	
12	PC12DR	0	R/W	
11	PC11DR	0	R/W	
10	PC10DR	0	R/W	
9	PC9DR	0	R/W	
8	PC8DR	0	R/W	
7	PC7DR	0	R/W	
6	PC6DR	0	R/W	
5	PC5DR	0	R/W	
4	PC4DR	0	R/W	
3	PC3DR	0	R/W	
2	PC2DR	0	R/W	
1	PC1DR	0	R/W	
0	PC0DR	0	R/W	

表 23.4 ポート C データレジスタ (PCDR) の読み出し/書き込み動作

- PCDRのビット15~0

PCIOR	端子機能	読み出し	書き込み
0	汎用入力	端子の状態	PCDR に書き込めるが、端子の状態に影響しない
	汎用入力以外	端子の状態	PCDR に書き込めるが、端子の状態に影響しない
1	汎用出力	PCDR の値	書き込み値が端子から出力される
	汎用出力以外	PCDR の値	PCDR に書き込めるが、端子の状態に影響しない

23.5.2 ポート C ポートレジスタ (PCPR)

PCPR は、読み出し専用の 16 ビットのレジスタで、常にポート C の端子の値を格納しますので、CPU から値を書き込むことはできません。PC15PR~PC0PR ビットは、それぞれ PC15/D15~PC0/D0 端子に対応しています。PCPR は読み出すと端子の値が読み出されます。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	PC15PR	PC14PR	PC13PR	PC12PR	PC11PR	PC10PR	PC9PR	PC8PR	PC7PR	PC6PR	PC5PR	PC4PR	PC3PR	PC2PR	PC1PR	PC0PR
初期値:	PC15	PC14	PC13	PC12	PC11	PC10	PC9	PC8	PC7	PC6	PC5	PC4	PC3	PC2	PC1	PC0
R/W:	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
15	PC15PR	端子の値	R	読み出すと端子の値が読み出されます。書き込みは無効です。
14	PC14PR	端子の値	R	
13	PC13PR	端子の値	R	
12	PC12PR	端子の値	R	
11	PC11PR	端子の値	R	
10	PC10PR	端子の値	R	
9	PC9PR	端子の値	R	
8	PC8PR	端子の値	R	
7	PC7PR	端子の値	R	
6	PC6PR	端子の値	R	
5	PC5PR	端子の値	R	
4	PC4PR	端子の値	R	
3	PC3PR	端子の値	R	
2	PC2PR	端子の値	R	
1	PC1PR	端子の値	R	
0	PC0PR	端子の値	R	

23.6 ポート D

ポート D は、図 23.4 に示すような、14 本の端子を持つ入出力ポートです。

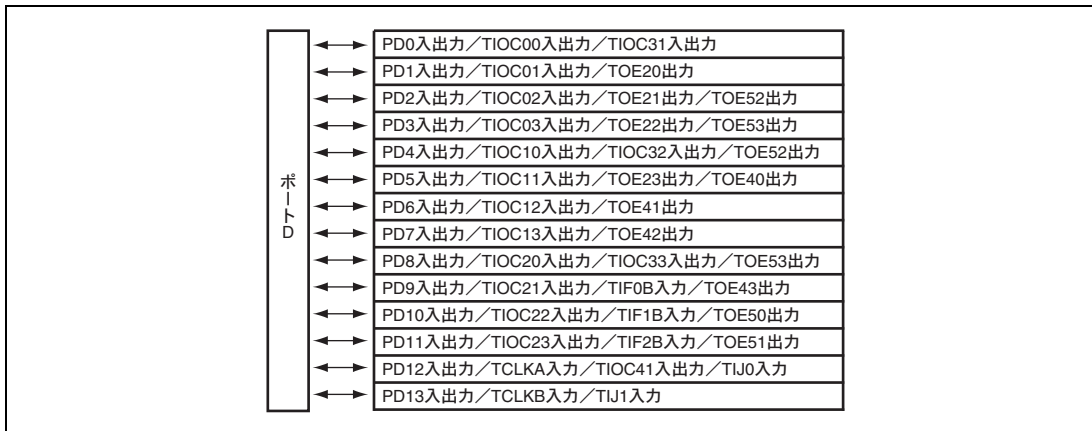


図 23.4 ポート D

23.6.1 ポート D データレジスタ (PDDR)

PDDR は、読み出し／書き込み可能な 16 ビットのレジスタで、ポート D のデータを格納します。PD13DR～PD0DR は、それぞれ PD13/TCLKB/TIJ1～PD0/TIOC00/TIOC31 端子に対応しています。

端子機能が汎用出力の場合には、PDDR に値を書き込むと端子からその値が出力され、PDDR を読み出すと端子の状態に関係なくレジスタの値が直接読み出されます。

端子機能が汎用入力の場合には、PDDR を読み出すとレジスタの値ではなく端子の状態が直接読み出されます。また PDDR に値を書き込むと、PDDR にその値を書き込めますが、端子の状態には影響しません。表 23.5 に PDDR の読み出し／書き込み動作を示します。

PDDR は、パワーオンリセット、ハードウェアスタンバイモード、および WDT によるパワーオンリセットで H'0000 に初期化されます。しかし、スリープモード時には初期化されません。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	PD13DR	PD12DR	PD11DR	PD10DR	PD9DR	PD8DR	PD7DR	PD6DR	PD5DR	PD4DR	PD3DR	PD2DR	PD1DR	PD0DR
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15、14	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
13	PD13DR	0	R/W	表 23.5 参照
12	PD12DR	0	R/W	
11	PD11DR	0	R/W	
10	PD10DR	0	R/W	
9	PD9DR	0	R/W	
8	PD8DR	0	R/W	
7	PD7DR	0	R/W	
6	PD6DR	0	R/W	
5	PD5DR	0	R/W	
4	PD4DR	0	R/W	
3	PD3DR	0	R/W	
2	PD2DR	0	R/W	
1	PD1DR	0	R/W	
0	PD0DR	0	R/W	

表 23.5 ポート D データレジスタ (PDDR) の読み出し/書き込み動作

- PDDRのビット13~0

PDIOR	端子機能	読み出し	書き込み
0	汎用入力	端子の状態	PDDRに書き込めるが、端子の状態に影響しない
	汎用入力以外	端子の状態	PDDRに書き込めるが、端子の状態に影響しない
1	汎用出力	PDDRの値	書き込み値が端子から出力される
	汎用出力以外	PDDRの値	PDDRに書き込めるが、端子の状態に影響しない

23.6.2 ポート D ポートレジスタ (PDPR)

PDPRは、読み出し専用の16ビットのレジスタで、常にポートDの端子の値を格納しますので、CPUから値を書き込むことはできません。PD13PR~PD0PRビットは、それぞれPD13/TCLKB/TIJ1~PD0/TIOC00/TIOC31端子に対応しています。PDPRは読み出すと端子の値が読み出されます。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	PD13PR	PD12PR	PD11PR	PD10PR	PD9PR	PD8PR	PD7PR	PD6PR	PD5PR	PD4PR	PD3PR	PD2PR	PD1PR	PD0PR
初期値:	0	0	PD13	PD12	PD11	PD10	PD9	PD8	PD7	PD6	PD5	PD4	PD3	PD2	PD1	PD0
R/W:	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15, 14	—	すべて0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。
13	PD13PR	端子の値	R	読み出すと端子の値が読み出されます。書き込みは無効です。
12	PD12PR	端子の値	R	
11	PD11PR	端子の値	R	
10	PD10PR	端子の値	R	
9	PD9PR	端子の値	R	
8	PD8PR	端子の値	R	
7	PD7PR	端子の値	R	
6	PD6PR	端子の値	R	
5	PD5PR	端子の値	R	
4	PD4PR	端子の値	R	
3	PD3PR	端子の値	R	
2	PD2PR	端子の値	R	
1	PD1PR	端子の値	R	
0	PD0PR	端子の値	R	

23.6.3 ポートDインバートレジスタ (PDIR)

PDIRは、読み出し／書き込み可能な16ビットのレジスタで、ポートDの反転機能を設定します。PD12IR～PD0IRビットが、それぞれPD12/TCLKA/TIOC41/TIJ0～PD0/TIOC00/TIOC31端子に対応しています。PDIRはポートDの端子機能にかかわらず有効です。

PDIRのビットを1にすると、対応する端子の出力値が反転します。

PDIRは、パワーオンリセット、ハードウェアスタンバイモード、およびWDTによるパワーオンリセットでH'0000に初期化されます。しかし、スリープモード時には初期化されません。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	PD12IR	PD11IR	PD10IR	PD9IR	PD8IR	PD7IR	PD6IR	PD5IR	PD4IR	PD3IR	PD2IR	PD1IR	PD0IR
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15～13	—	すべて0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。
12	PD12IR	0	R/W	本ビットを1にすると対応する端子の出力値を反転します。 0：出力値を反転しない 1：出力値を反転する
11	PD11IR	0	R/W	
10	PD10IR	0	R/W	
9	PD9IR	0	R/W	
8	PD8IR	0	R/W	
7	PD7IR	0	R/W	
6	PD6IR	0	R/W	
5	PD5IR	0	R/W	
4	PD4IR	0	R/W	
3	PD3IR	0	R/W	
2	PD2IR	0	R/W	
1	PD1IR	0	R/W	
0	PD0IR	0	R/W	

23.7 ポート E

ポート E は、図 23.5 に示すような、14 本の端子を持つ入出力ポートです。

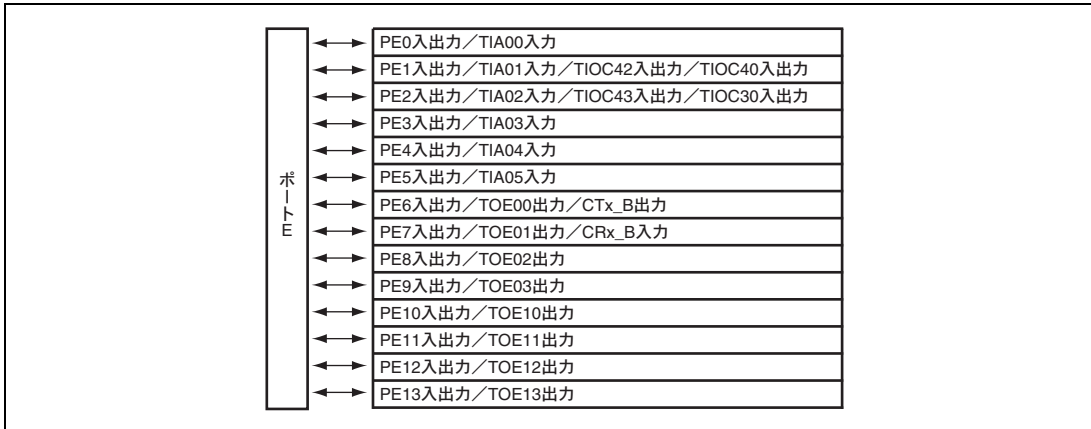


図 23.5 ポート E

23.7.1 ポートEデータレジスタ (PEDR)

PEDRは、読み出し／書き込み可能な16ビットのレジスタで、ポートEのデータを格納します。PE13DR～PE1DRは、それぞれPE13/TOE13～PE0/TIA00端子に対応しています。

端子機能が汎用出力の場合には、PEDRに値を書き込むと端子からその値が出力され、PEDRを読み出すと端子の状態に関係なくレジスタの値が直接読み出されます。

端子機能が汎用入力の場合には、PEDRを読み出すとレジスタの値ではなく端子の状態が直接読み出されます。またPEDRに値を書き込むと、PEDRにその値を書き込めますが、端子の状態には影響しません。表23.6にPEDRの読み出し／書き込み動作を示します。

PEDRは、パワーオンリセット、ハードウェアスタンバイモード、およびWDTによるパワーオンリセットでH'0000に初期化されます。しかし、スリープモード時には初期化されません。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	PE13DR	PE12DR	PE11DR	PE10DR	PE9DR	PE8DR	PE7DR	PE6DR	PE5DR	PE4DR	PE3DR	PE2DR	PE1DR	PE0DR
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15、14	—	すべて0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。
13	PE13DR	0	R/W	表23.6 参照
12	PE12DR	0	R/W	
11	PE11DR	0	R/W	
10	PE10DR	0	R/W	
9	PE9DR	0	R/W	
8	PE8DR	0	R/W	
7	PE7DR	0	R/W	
6	PE6DR	0	R/W	
5	PE5DR	0	R/W	
4	PE4DR	0	R/W	
3	PE3DR	0	R/W	
2	PE2DR	0	R/W	
1	PE1DR	0	R/W	
0	PE0DR	0	R/W	

表 23.6 ポート E データレジスタ (PEDR) の読み出し/書き込み動作

• PEDRのビット13~0

PEIOR	端子機能	読み出し	書き込み
0	汎用入力	端子の状態	PEDR に書き込めるが、端子の状態に影響しない
	汎用入力以外	端子の状態	PEDR に書き込めるが、端子の状態に影響しない
1	汎用出力	PEDR の値	書き込み値が端子から出力される
	汎用出力以外	PEDR の値	PEDR に書き込めるが、端子の状態に影響しない

23.7.2 ポート E ポートレジスタ (PEPR)

PEPR は、読み出し専用の 16 ビットのレジスタで、常にポート E の端子の値を格納しますので、CPU から値を書き込むことはできません。PE13PR~PE0PR ビットは、それぞれ PE13/TOE13~PE0/TIA00 端子に対応しています。PEPR は読み出すと端子の値が読み出されます。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	PE13PR	PE12PR	PE11PR	PE10PR	PE9PR	PE8PR	PE7PR	PE6PR	PE5PR	PE4PR	PE3PR	PE2PR	PE1PR	PE0PR
初期値:	0	0	PE13	PE12	PE11	PE10	PE9	PE8	PE7	PE6	PE5	PE4	PE3	PE2	PE1	PE0
R/W:	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15, 14	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
13	PE13PR	端子の値	R	読み出すと端子の値が読み出されます。書き込みは無効です。
12	PE12PR	端子の値	R	
11	PE11PR	端子の値	R	
10	PE10PR	端子の値	R	
9	PE9PR	端子の値	R	
8	PE8PR	端子の値	R	
7	PE7PR	端子の値	R	
6	PE6PR	端子の値	R	
5	PE5PR	端子の値	R	
4	PE4PR	端子の値	R	
3	PE3PR	端子の値	R	
2	PE2PR	端子の値	R	
1	PE1PR	端子の値	R	
0	PE0PR	端子の値	R	

23.7.3 ポートEインバートレジスタ (PEIR)

PEIRは、読み出し／書き込み可能な16ビットのレジスタで、ポートEの反転機能を設定します。PE13IR～PE6IR、PE2IR、PE1IRビットが、それぞれPE13/TOE13～PE6/TOE00/CTx_B、PE2/TIA02/TIOC43/TIOC30、PE1/TIA01/TIOC42/TIOC40端子に対応しています。PEIRはポートEの端子機能にかかわらず有効です。

PEIRのビットを1にすると、対応する端子の出力値が反転します。

PEIRは、パワーオンリセット、ハードウェアスタンバイモード、およびWDTによるパワーオンリセットでH'0000に初期化されます。しかし、スリープモード時には初期化されません。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	PE13IR	PE12IR	PE11IR	PE10IR	PE9IR	PE8IR	PE7IR	PE6IR	—	—	—	PE2IR	PE1IR	—
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R	R	R	R/W	R/W	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15, 14	—	すべて0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。
13	PE13IR	0	R/W	本ビットを1にすると対応する端子の出力値を反転します。 0: 出力値を反転しない 1: 出力値を反転する
12	PE12IR	0	R/W	
11	PE11IR	0	R/W	
10	PE10IR	0	R/W	
9	PE9IR	0	R/W	
8	PE8IR	0	R/W	
7	PE7IR	0	R/W	
6	PE6IR	0	R/W	
5~3	—	すべて0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。
2	PE2IR	0	R/W	本ビットを1にすると対応する端子の出力値を反転します。 0: 出力値を反転しない 1: 出力値を反転する
1	PE1IR	0	R/W	
0	—	0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。

23.7.4 ポートEドライバリティ設定レジスタ (PEDSR)

PEDSRは、読み出し／書き込み可能な16ビットのレジスタで、ポートEのドライブ能力を設定します。PE10DSR～PE6DSRビットが、PE10/TOE10～PE6/TOE00/CTx_B端子に対応しています。PEDSRの設定は、選択されている機能に関係なく常に有効になります。

PEDSRのビットを1にすると、対応する端子のドライブ能力が増加します。

PEDSRは、パワーオンリセット、ハードウェアスタンバイモード、およびWDTによるパワーオンリセットでH'0000に初期化されます。しかし、スリープモード時には初期化されません。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	PE10DSR	PE9DSR	PE8DSR	PE7DSR	PE6DSR	—	—	—	—	—	—
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15～11	—	すべて0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。
10	PE10DSR	0	R/W	本ビットを1にすると、対応する端子のドライブ能力が大きくなります。 0：通常出力（スロースルーレート） 1：出力端子のドライブ能力が増加する（ファストスルーレート） 【注】ドライブ能力の特性については、「32.3.14 出力スルーレート」を参照してください。
9	PE9DSR	0	R/W	
8	PE8DSR	0	R/W	
7	PE7DSR	0	R/W	
6	PE6DSR	0	R/W	
5～0	—	すべて0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。

23.8 ポート F

ポート F は、図 23.6 に示すような、16 本の端子を持つ入出力ポートです。

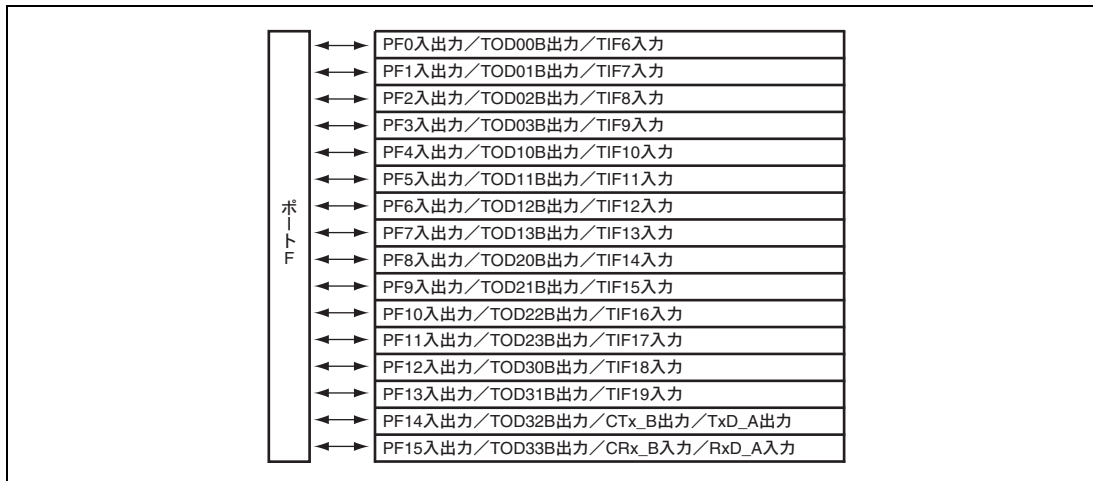


図 23.6 ポート F

23.8.1 ポートFデータレジスタ (PFDR)

PFDRは、読み出し／書き込み可能な16ビットのレジスタで、ポートFのデータを格納します。PF15DR～PF0DRは、それぞれPF15/TOD33B/CRx_B/RxD_A～PF0/TOD00B/TIF6端子に対応しています。

端子機能が汎用出力の場合には、PFDRに値を書き込むと端子からその値が出力され、PFDRを読み出すと端子の状態に関係なくレジスタの値が直接読み出されます。

端子機能が汎用入力の場合には、PFDRを読み出すとレジスタの値ではなく端子の状態が直接読み出されます。またPFDRに値を書き込むと、PFDRにその値を書き込みますが、端子の状態には影響しません。表23.7にPFDRの読み出し／書き込み動作を示します。

PFDRは、パワーオンリセット、ハードウェアスタンバイモード、およびWDTによるパワーオンリセットでH'0000に初期化されます。しかし、スリープモード時には初期化されません。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	PF15DR	PF14DR	PF13DR	PF12DR	PF11DR	PF10DR	PF9DR	PF8DR	PF7DR	PF6DR	PF5DR	PF4DR	PF3DR	PF2DR	PF1DR	PF0DR
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15	PF15DR	0	R/W	表 23.7 参照
14	PF14DR	0	R/W	
13	PF13DR	0	R/W	
12	PF12DR	0	R/W	
11	PF11DR	0	R/W	
10	PF10DR	0	R/W	
9	PF9DR	0	R/W	
8	PF8DR	0	R/W	
7	PF7DR	0	R/W	
6	PF6DR	0	R/W	
5	PF5DR	0	R/W	
4	PF4DR	0	R/W	
3	PF3DR	0	R/W	
2	PF2DR	0	R/W	
1	PF1DR	0	R/W	
0	PF0DR	0	R/W	

表 23.7 ポート F データレジスタ (PFDR) の読み出し/書き込み動作

- PFDRのビット15~0

PFIOR	端子機能	読み出し	書き込み
0	汎用入力	端子の状態	PFDR に書き込めるが、端子の状態に影響しない
	汎用入力以外	端子の状態	PFDR に書き込めるが、端子の状態に影響しない
1	汎用出力	PFDR の値	書き込み値が端子から出力される
	汎用出力以外	PFDR の値	PFDR に書き込めるが、端子の状態に影響しない

23.8.2 ポート F ポートレジスタ (PFPR)

PFPR は、読み出し専用の 16 ビットレジスタで、常にポート F の端子の値を格納しますので、CPU から値を書き込むことはできません。PF15PR~PF0PR ビットは、それぞれ PF15/TOD33B/CRx_B/RxD_A~PF0/TOD00B/TIF6 端子に対応しています。PFPR は読み出すと端子の値が読み出されます。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	PF15PR	PF14PR	PF13PR	PF12PR	PF11PR	PF10PR	PF9PR	PF8PR	PF7PR	PF6PR	PF5PR	PF4PR	PF3PR	PF2PR	PF1PR	PF0PR
初期値:	PF15	PF14	PF13	PF12	PF11	PF10	PF9	PF8	PF7	PF6	PF5	PF4	PF3	PF2	PF1	PF0
R/W:	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
15	PF15PR	端子の値	R	読み出すと端子の値が読み出されます。書き込みは無効です。
14	PF14PR	端子の値	R	
13	PF13PR	端子の値	R	
12	PF12PR	端子の値	R	
11	PF11PR	端子の値	R	
10	PF10PR	端子の値	R	
9	PF9PR	端子の値	R	
8	PF8PR	端子の値	R	
7	PF7PR	端子の値	R	
6	PF6PR	端子の値	R	
5	PF5PR	端子の値	R	
4	PF4PR	端子の値	R	
3	PF3PR	端子の値	R	
2	PF2PR	端子の値	R	
1	PF1PR	端子の値	R	
0	PF0PR	端子の値	R	

23.8.3 ポートFインバートレジスタ (PFIR)

PFIRは、読み出し／書き込み可能な16ビットのレジスタで、ポートFの反転機能を設定します。PF15IR～PF0IRビットが、それぞれPF15/TOD33B/CRx_B/RxD_A～PF0/TOD00B/TIF6端子に対応しています。PFIRはポートFの端子機能にかかわらず有効です。

PFIRのビットを1にすると、対応する端子の出力値が反転します。

PFIRは、パワーオンリセット、ハードウェアスタンバイモード、およびWDTによるパワーオンリセットでH'0000に初期化されます。しかし、スリープモード時には初期化されません。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	PF15IR	PF14IR	PF13IR	PF12IR	PF11IR	PF10IR	PF9IR	PF8IR	PF7IR	PF6IR	PF5IR	PF4IR	PF3IR	PF2IR	PF1IR	PF0IR
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
15	PF15IR	0	R/W	本ビットを1にすると対応する端子の出力値を反転します。 0: 出力値を反転しない 1: 出力値を反転する
14	PF14IR	0	R/W	
13	PF13IR	0	R/W	
12	PF12IR	0	R/W	
11	PF11IR	0	R/W	
10	PF10IR	0	R/W	
9	PF9IR	0	R/W	
8	PF8IR	0	R/W	
7	PF7IR	0	R/W	
6	PF6IR	0	R/W	
5	PF5IR	0	R/W	
4	PF4IR	0	R/W	
3	PF3IR	0	R/W	
2	PF2IR	0	R/W	
1	PF1IR	0	R/W	
0	PF0IR	0	R/W	

23.8.4 ポート F ドライバビリティ設定レジスタ (PFDSR)

PFDSR は、読み出し／書き込み可能な 16 ビットのレジスタで、ポート F のドライブ能力を設定します。PF14DSR ビットが、PF14/TOD32B/CTx_B/TxD_A 端子に対応しています。PFDSR の設定は、選択されている機能に関係なく常に有効になります。

PFDSR のビットを 1 にすると、対応する端子のドライブ能力が増加します。

PFDSR は、パワーオンリセット、ハードウェアスタンバイモード、および WDT によるパワーオンリセットで H'0000 に初期化されます。しかし、スリープモード時には初期化されません。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	PF14DSR	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R/W	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15	—	0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
14	PF14DSR	0	R/W	本ビットを 1 にすると、対応する端子のドライブ能力が大きくなります。 0: 通常出力 (スロースルーレート) 1: 出力端子のドライブ能力が増加する (ファストスルーレート) 【注】ドライブ能力の特性については、「32.3.14 出力スルーレート」を参照してください。
13~0	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。

23.8.5 ポート F 端子状態設定レジスタ (PFPSR)

PFPSR は、読み出し／書き込み可能な 16 ビットのレジスタで、ポート F のプルダウンを設定します。PF15PSR ビットが、PF15/TOD33B/CRx_B/RxD_A 端子に対応しています。

PFPSR のビットを 1 にすると、対応する端子がプルダウン状態に設定されます。

PFPSR は、パワーオンリセット、ハードウェアスタンバイモード、および WDT によるパワーオンリセットで H'0000 に初期化されます。しかし、スリープモード時には初期化されません。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	PF15PSR	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15	PF15PSR	0	R/W	本ビットを 1 にすると、対応する端子がプルダウン状態に設定されます。 0: プルダウンなし 1: プルダウン状態に設定する
14~0	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。

23.9 ポート G

ポート G は、図 23.7 に示すような、16 本の端子を持つ入出力ポートです。

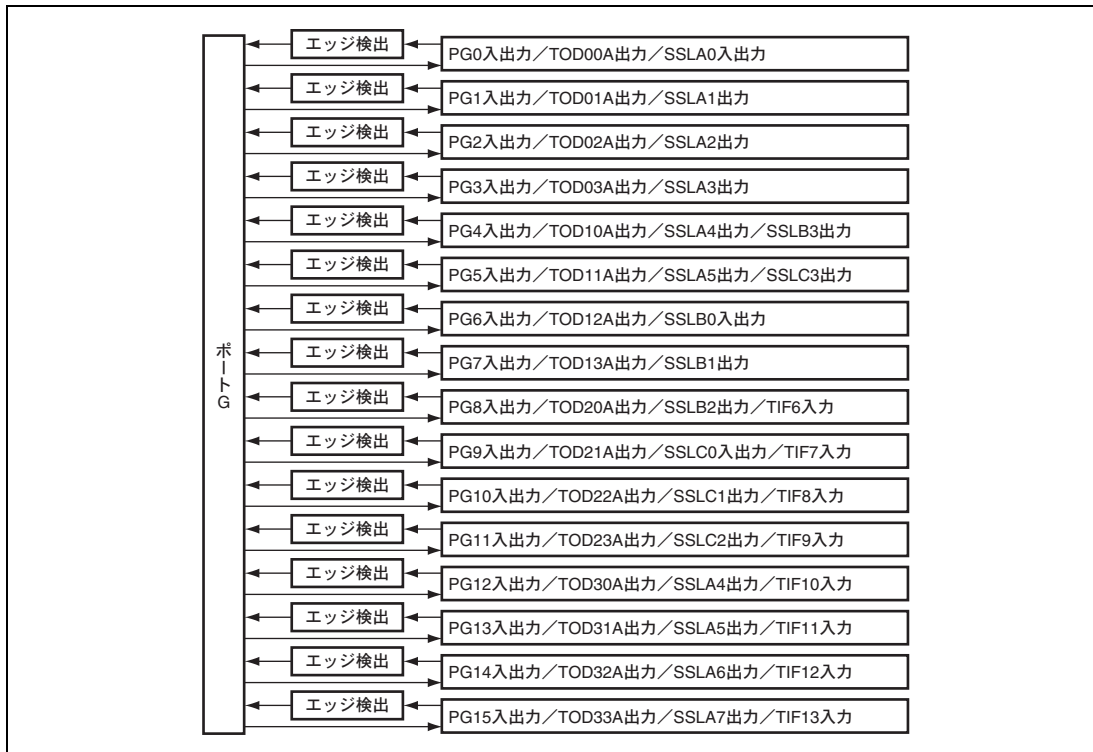


図 23.7 ポート G

23.9.1 ポート G データレジスタ (PGDR)

PGDR は、読み出し／書き込み可能な 16 ビットのレジスタで、ポート G のデータを格納します。PG15DR～PG0DR は、それぞれ PG15/TOD33A/SSLA7/TIF13～PG0/TOD00A/SSLA0 端子に対応しています。

端子機能が汎用出力の場合には、PGDR に値を書き込むと端子からその値が出力され、PGDR を読み出すと端子の状態に関係なくレジスタの値が直接読み出されます。

端子機能が汎用入力の場合には、PGDR を読み出すとレジスタの値が読み出されます。PGDR の各ビットの値は、対応する端子入力において、ポート G エッジ選択レジスタ (PGER) で指定したエッジの入力を検出したとき 1 にセットされます。PGDR への書き込みは、各ビット 1 を読み出した後に 0 を書き込むことのみ有効です。1 を書き込みあるいは 1 を読み出してないビットへの 0 の書き込みは無視されます。また PGDR へ 0 の書き込みを行っても、端子の状態には影響しません。

表 23.8 に PGDR の読み出し／書き込み動作を示します。

PGDR は、パワーオンリセット、ハードウェアスタンバイモード、および WDT によるパワーオンリセットで H'0000 に初期化されます。しかし、スリープモード時には初期化されません。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	PG15DR	PG14DR	PG13DR	PG12DR	PG11DR	PG10DR	PG9DR	PG8DR	PG7DR	PG6DR	PG5DR	PG4DR	PG3DR	PG2DR	PG1DR	PG0DR
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15	PG15DR	0	R/W	表 23.8 参照
14	PG14DR	0	R/W	
13	PG13DR	0	R/W	
12	PG12DR	0	R/W	
11	PG11DR	0	R/W	
10	PG10DR	0	R/W	
9	PG9DR	0	R/W	
8	PG8DR	0	R/W	
7	PG7DR	0	R/W	
6	PG6DR	0	R/W	
5	PG5DR	0	R/W	
4	PG4DR	0	R/W	
3	PG3DR	0	R/W	
2	PG2DR	0	R/W	
1	PG1DR	0	R/W	
0	PG0DR	0	R/W	

表 23.8 ポート G データレジスタ (PGDR) の読み出し/書き込み動作

- PGDRのビット15~0

PGIOR	端子機能	読み出し	書き込み
0	汎用入力	PGDR の値	1 の書き込みは無効。各ビットは、1 を読み出した後に 0 の書き込みのみ可能。 0 の書き込みは、端子の状態に影響しない。 各ビットの 1 セットは、対応する端子より、PGER で設定したエッジが入力されることによって行われる。
	汎用入力以外	PGDR の値	1 の書き込みは無効。各ビットは 1 を読み出した後に 0 の書き込みのみ可能。 0 の書き込みは、端子の状態に影響しない。 各ビットの 1 セットは、対応する端子に、PGER で設定したエッジが入力/出力されることによって行われる。
1	汎用出力	PGDR の値	書き込み値が端子から出力される
	汎用出力以外	PGDR の値	PGDR に書き込めるが、端子の状態に影響しない

23.9.2 ポート G ポートレジスタ (PGPR)

PGPR は、読み出し専用の 16 ビットのレジスタで、常にポート G の端子の値を格納しますので、CPU から値を書き込むことはできません。PG15PR～PG0PR ビットは、それぞれ PG15/TOD33A/SSLA7/TIF13～PG0/TOD00A/SSLA0 端子に対応しています。PGPR は読み出すと端子の値が読み出されます。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	PG15PR	PG14PR	PG13PR	PG12PR	PG11PR	PG10PR	PG9PR	PG8PR	PG7PR	PG6PR	PG5PR	PG4PR	PG3PR	PG2PR	PG1PR	PG0PR
初期値:	PG15	PG14	PG13	PG12	PG11	PG10	PG9	PG8	PG7	PG6	PG5	PG4	PG3	PG2	PG1	PG0
R/W:	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
15	PG15PR	端子の値	R	読み出すと端子の値が読み出されます。書き込みは無効です。
14	PG14PR	端子の値	R	
13	PG13PR	端子の値	R	
12	PG12PR	端子の値	R	
11	PG11PR	端子の値	R	
10	PG10PR	端子の値	R	
9	PG9PR	端子の値	R	
8	PG8PR	端子の値	R	
7	PG7PR	端子の値	R	
6	PG6PR	端子の値	R	
5	PG5PR	端子の値	R	
4	PG4PR	端子の値	R	
3	PG3PR	端子の値	R	
2	PG2PR	端子の値	R	
1	PG1PR	端子の値	R	
0	PG0PR	端子の値	R	

23.9.3 ポートGインバートレジスタ (PGIR)

PGIRは、読み出し/書き込み可能な16ビットのレジスタで、ポートGの反転機能を設定します。PG15IR～PG0IRビットが、それぞれPG15/TOD33A/SSLA7/TIF13～PG0/TOD00A/SSLA0端子に対応しています。PGIRはポートGの端子機能にかかわらず有効です。

PGIRのビットを1にすると、対応する端子の出力値が反転します。

PGIRは、パワーオンリセット、ハードウェアスタンバイモード、およびWDTによるパワーオンリセットでH'0000に初期化されます。しかし、スリープモード時には初期化されません。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	PG15IR	PG14IR	PG13IR	PG12IR	PG11IR	PG10IR	PG9IR	PG8IR	PG7IR	PG6IR	PG5IR	PG4IR	PG3IR	PG2IR	PG1IR	PG0IR
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15	PG15IR	0	R/W	本ビットを1にすると対応する端子の出力値を反転します。 0: 出力値を反転しない 1: 出力値を反転する
14	PG14IR	0	R/W	
13	PG13IR	0	R/W	
12	PG12IR	0	R/W	
11	PG11IR	0	R/W	
10	PG10IR	0	R/W	
9	PG9IR	0	R/W	
8	PG8IR	0	R/W	
7	PG7IR	0	R/W	
6	PG6IR	0	R/W	
5	PG5IR	0	R/W	
4	PG4IR	0	R/W	
3	PG3IR	0	R/W	
2	PG2IR	0	R/W	
1	PG1IR	0	R/W	
0	PG0IR	0	R/W	

23.9.4 ポートGドライバビリティ設定レジスタ (PGDSR)

PGDSRは、読み出し／書き込み可能な16ビットのレジスタで、ポートGのドライブ能力を設定します。PG15DSR～PG0DSRビットが、それぞれPG15/TOD33A/SSLA7/TIF13～PG0/TOD00A/SSLA0端子に対応しています。PGDSRの設定は、選択されている機能に関係なく常に有効になります。

PGDSRのビットを1にすると、対応する端子のドライブ能力が大きくなります。

PGDSRは、パワーオンリセット、ハードウェアスタンバイモード、およびWDTによるパワーオンリセットでH'0000に初期化されます。しかし、スリープモード時には初期化されません。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	PG15DSR	PG14DSR	PG13DSR	PG12DSR	PG11DSR	PG10DSR	PG9DSR	PG8DSR	PG7DSR	PG6DSR	PG5DSR	PG4DSR	PG3DSR	PG2DSR	PG1DSR	PG0DSR
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15	PG15DSR	0	R/W	本ビットを1にすると、対応する端子のドライブ能力が大きくなります。 0: 通常出力 (スロースルーレート) 1: 出力端子のドライブ能力が増加する (ファーストスルーレート) 【注】 ドライブ能力の特性については、「32.3.14 出力スルーレート」を参照してください。
14	PG14DSR	0	R/W	
13	PG13DSR	0	R/W	
12	PG12DSR	0	R/W	
11	PG11DSR	0	R/W	
10	PG10DSR	0	R/W	
9	PG9DSR	0	R/W	
8	PG8DSR	0	R/W	
7	PG7DSR	0	R/W	
6	PG6DSR	0	R/W	
5	PG5DSR	0	R/W	
4	PG4DSR	0	R/W	
3	PG3DSR	0	R/W	
2	PG2DSR	0	R/W	
1	PG1DSR	0	R/W	
0	PG0DSR	0	R/W	

23.9.5 ポート G エッジ選択レジスタ (PGER)

PGER は、読み出し／書き込み可能な 16 ビットのレジスタで、ポート G で検出する入力エッジの設定値を格納します。PGHES[1:0]は、PG15/TOD33A/SSLA7/TIF13～PG8/TOD20A/SSLB/TIF6 端子に、PGLES[1:0]は、PG7/TOD13A/SSLB1～PG0/TOD00A/SSLA0 端子に対応しています。

端子機能が汎用入力の場合、ポート G データレジスタの各ビットは、それぞれ設定したエッジ入力を検出したことを示すステータスフラグとして動作します。

PGER は、パワーオンリセット、ハードウェアスタンバイモード、および WDT によるパワーオンリセットで H'0000 に初期化されます。しかし、スリープモード時には初期化されません。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	PGHES[1:0]	—	—	—	—	—	—	—	—	PGLES[1:0]
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R	R	R	R	R/W	R/W	R	R	R	R	R	R	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15～10	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
9、8	PGHES[1:0]	00	R/W	対象とする端子は、PG15/TOD33A/SSLA7/TIF13～PG8/TOD20A/SSLB2/TIF6 端子です。 00*: エッジ検出機能なし 01: 立ち上がりエッジ検出 10: 立ち下がりエッジ検出 11: 立ち上がり／立ち下がり両エッジ検出
7～2	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
1、0	PGLES[1:0]	00	R/W	対象とする端子は、PG7/TOD13A/SSLB1～PG0/TOD00A/SSLA0 端子です。 00*: エッジ検出機能なし 01: 立ち上がりエッジ検出 10: 立ち下がりエッジ検出 11: 立ち上がり／立ち下がり両エッジ検出

23.10 ポート H

ポート H は、図 23.8 に示すような、6 本の端子を持つ入出力ポートです。



図 23.8 ポート H

23.10.1 ポート H データレジスタ (PHDR)

PHDR は、読み出し／書き込み可能な 16 ビットのレジスタで、ポート H のデータを格納します。PH5DR～PH0DR は、それぞれ PH5/TIF5～PH0/ADTRG_A/TIF0A 端子に対応しています。

端子機能が汎用出力の場合には、PHDR に値を書き込むと端子からその値が出力され、PHDR を読み出すと端子の状態に関係なくレジスタの値が直接読み出されます。

端子機能が汎用入力の場合には、PHDR を読み出すとレジスタの値ではなく端子の状態が直接読み出されます。また PHDR に値を書き込むと、PHDR にその値を書き込みますが、端子の状態には影響しません。表 23.9 に PHDR の読み出し／書き込み動作を示します。

PHDR は、パワーオンリセット、ハードウェアスタンバイモード、および WDT によるパワーオンリセットで H'0000 に初期化されます。しかし、スリープモード時には初期化されません。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	PH5DR	PH4DR	PH3DR	PH2DR	PH1DR	PH0DR
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15～6	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
5	PH5DR	0	R/W	表 23.9 参照
4	PH4DR	0	R/W	
3	PH3DR	0	R/W	
2	PH2DR	0	R/W	
1	PH1DR	0	R/W	
0	PH0DR	0	R/W	

表 23.9 ポート H データレジスタ (PHDR) の読み出し/書き込み動作

- PHDRのビット5~0

PHIOR	端子機能	読み出し	書き込み
0	汎用入力	端子の状態	PHDR に書き込めるが、端子の状態に影響しない
	汎用入力以外	端子の状態	PHDR に書き込めるが、端子の状態に影響しない
1	汎用出力	PHDR の値	書き込み値が端子から出力される
	汎用出力以外	PHDR の値	PHDR に書き込めるが、端子の状態に影響しない

23.10.2 ポート H ポートレジスタ (PHPR)

PHPR は、読み出し専用の 16 ビットのレジスタで、常にポート H の端子の値を格納しますので、CPU から値を書き込むことはできません。PH5PR~PH0PR ビットは、それぞれ PH5/TIF5~PH0/ADTRG_A/TIF0A 端子に対応しています。PHPR は読み出すと端子の値が読み出されます。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	PH5PR	PH4PR	PH3PR	PH2PR	PH1PR	PH0PR
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	PH5	PH4	PH3	PH2	PH1	PH0
R/W:	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~6	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
5	PH5PR	端子の値	R	読み出すと端子の値が読み出されます。書き込みは無効です。
4	PH4PR	端子の値	R	
3	PH3PR	端子の値	R	
2	PH2PR	端子の値	R	
1	PH1PR	端子の値	R	
0	PH0PR	端子の値	R	

23.11 ポート J

ポート J は、図 23.9 に示すような、10 本の端子を持つ入出力ポートです。

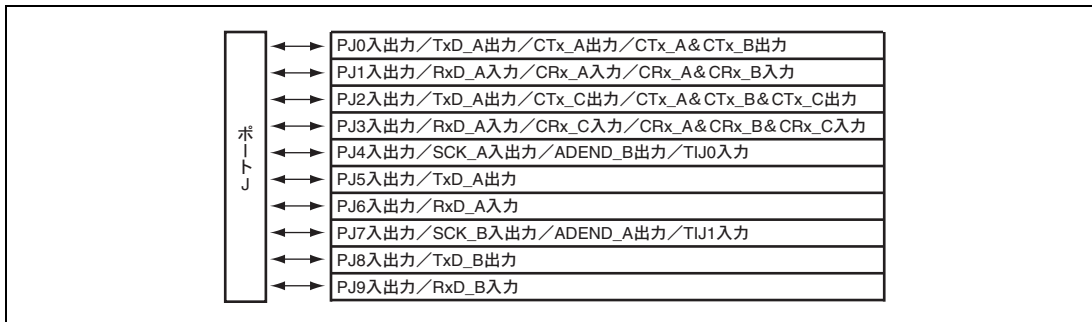


図 23.9 ポート J

23.11.1 ポートJデータレジスタ (PJDR)

PJDR は、読み出し／書き込み可能な 16 ビットのレジスタで、ポート J のデータを格納します。PJ9DR～PJ0DR は、それぞれ PJ9/RxD_B～PJ0/TxD_A/CTx_A/CTx_A&CTx_B 端子に対応しています。

端子機能が汎用出力の場合には、PJDR に値を書き込むと端子からその値が出力され、PJDR を読み出すと端子の状態に関係なくレジスタの値が直接読み出されます。

端子機能が汎用入力の場合には、PJDR を読み出すとレジスタの値ではなく端子の状態が直接読み出されます。また PJDR に値を書き込むと、PJDR にその値を書き込みますが、端子の状態には影響しません。表 23.10 に PJDR の読み出し／書き込み動作を示します。

PJDR は、パワーオンリセット、ハードウェアスタンバイモード、および WDT によるパワーオンリセットで H'0000 に初期化されます。しかし、スリープモード時には初期化されません。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	PJ9DR	PJ8DR	PJ7DR	PJ6DR	PJ5DR	PJ4DR	PJ3DR	PJ2DR	PJ1DR	PJ0DR
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R	R	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15～10	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
9	PJ9DR	0	R/W	表 23.10 参照
8	PJ8DR	0	R/W	
7	PJ7DR	0	R/W	
6	PJ6DR	0	R/W	
5	PJ5DR	0	R/W	
4	PJ4DR	0	R/W	
3	PJ3DR	0	R/W	
2	PJ2DR	0	R/W	
1	PJ1DR	0	R/W	
0	PJ0DR	0	R/W	

表 23.10 ポート J データレジスタ (PJDR) の読み出し／書き込み動作

• PJDRのビット9～0

PJIOR	端子機能	読み出し	書き込み
0	汎用入力	端子の状態	PJDR に書き込めるが、端子の状態に影響しない
	汎用入力以外	端子の状態	PJDR に書き込めるが、端子の状態に影響しない
1	汎用出力	PJDR の値	書き込み値が端子から出力される
	汎用出力以外	PJDR の値	PJDR に書き込めるが、端子の状態に影響しない

23.11.2 ポートJポートレジスタ (PJPR)

PJPRは、読み出し専用の16ビットのレジスタで、常にポートJの端子の値を格納しますので、CPUから値を書き込むことはできません。PJ9PR～PJ0PRビットは、それぞれPJ9/RxD_B～PJ0/TxD_A/CTx_A/CTx_A&CTx_B端子に対応しています。PJPRは読み出すと端子の値が読み出されます。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	PJ9PR	PJ8PR	PJ7PR	PJ6PR	PJ5PR	PJ4PR	PJ3PR	PJ2PR	PJ1PR	PJ0PR
初期値:	0	0	0	0	0	0	PJ9	PJ8	PJ7	PJ6	PJ5	PJ4	PJ3	PJ2	PJ1	PJ0
R/W:	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15～10	—	すべて0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。
9	PJ9PR	端子の値	R	読み出すと端子の値が読み出されます。書き込みは無効です。
8	PJ8PR	端子の値	R	
7	PJ7PR	端子の値	R	
6	PJ6PR	端子の値	R	
5	PJ5PR	端子の値	R	
4	PJ4PR	端子の値	R	
3	PJ3PR	端子の値	R	
2	PJ2PR	端子の値	R	
1	PJ1PR	端子の値	R	
0	PJ0PR	端子の値	R	

23.11.3 ポートJインバートレジスタ (PJIR)

PJIR は、読み出し/書き込み可能な 16 ビットのレジスタで、ポート J の反転機能を設定します。PJ8IR、PJ7IR、PJ5IR、PJ4IR、PJ2IR、PJ0IR ビットが、それぞれ PJ8/TxD_B、PJ7/SCK_B/ADEND_A/TIJ1、PJ5/TxD_A、PJ4/SCK_A/ADEND_B/TIJ0、PJ2/TxD_A/CTx_C/CTx_A&CTx_B&CTx_C、PJ0/TxD_A/CTx_A/CTx_A&CTx_B 端子に対応しています。PJIR はポート J の端子機能にかかわらず有効です。

PJIR のビットを 1 にすると、対応する端子の出力値が反転します。

PJIR は、パワーオンリセット、ハードウェアスタンバイモード、および WDT によるパワーオンリセットで H'0000 に初期化されます。しかし、スリープモード時には初期化されません。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	PJ8IR	PJ7IR	—	PJ5IR	PJ4IR	—	PJ2IR	—	PJ0IR
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R	R	R	R	R	R/W	R/W	R	R/W	R/W	R	R/W	R	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~9	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
8	PJ8IR	0	R/W	本ビットを 1 にすると対応する端子の出力値を反転します。 0: 出力値を反転しない 1: 出力値を反転する
7	PJ7IR	0	R/W	
6	—	0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
5	PJ5IR	0	R/W	本ビットを 1 にすると対応する端子の出力値を反転します。 0: 出力値を反転しない 1: 出力値を反転する
4	PJ4IR	0	R/W	
3	—	0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
2	PJ2IR	0	R/W	本ビットを 1 にすると対応する端子の出力値を反転します。 0: 出力値を反転しない 1: 出力値を反転する
1	—	0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
0	PJ0IR	0	R/W	本ビットを 1 にすると対応する端子の出力値を反転します。 0: 出力値を反転しない 1: 出力値を反転する

23.11.4 ポートJドライバビリティ設定レジスタ (PJDSR)

PJDSRは、読み出し／書き込み可能な16ビットのレジスタで、ポートJのドライブ能力を設定します。PJ8DSR、PJ7DSR、PJ5DSR、PJ4DSR、PJ2DSR、PJ0DSRビットが、それぞれPJ8/TxD_B、PJ7/SCK_B/ADEND_A/TIJ1、PJ5/TxD_A、PJ4/SCK_A/ADEND_B/TIJ0、PJ2/TxD_A/CTx_C/CTx_A&CTx_B&CTx_C、PJ0/TxD_A/CTx_A/CTx_A&CTx_B端子に対応しています。PJDSRの設定は、選択されている機能に関係なく常に有効になります。

PJDSRのビットを1にすると、対応する端子のドライブ能力が増加します。

PJDSRは、パワーオンリセット、ハードウェアスタンバイモード、およびWDTによるパワーオンリセットでH'0000に初期化されます。しかし、スリープモード時には初期化されません。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	PJ8DSR	PJ7DSR	—	PJ5DSR	PJ4DSR	—	PJ2DSR	—	PJ0DSR
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R	R	R	R	R	R/W	R/W	R	R/W	R/W	R	R/W	R	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~9	—	すべて0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。
8	PJ8DSR	0	R/W	本ビットを1にすると、対応する端子のドライブ能力が大きくなります。 0: 通常出力 (スロースルーレート) 1: 出力端子のドライブ能力が増加する (ファストスルーレート) 【注】ドライブ能力の特性については、「32.3.14 出力スルーレート」を参照してください。
7	PJ7DSR	0	R/W	
6	—	0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。
5	PJ5DSR	0	R/W	本ビットを1にすると、対応する端子のドライブ能力が大きくなります。 0: 通常出力 (スロースルーレート) 1: 出力端子のドライブ能力が増加する (ファストスルーレート) 【注】ドライブ能力の特性については、「32.3.14 出力スルーレート」を参照してください。
4	PJ4DSR	0	R/W	
3	—	0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。
2	PJ2DSR	0	R/W	本ビットを1にすると、対応する端子のドライブ能力が大きくなります。 0: 通常出力 (スロースルーレート) 1: 出力端子のドライブ能力が増加する (ファストスルーレート) 【注】ドライブ能力の特性については、「32.3.14 出力スルーレート」を参照してください。
1	—	0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
0	PJ0DSR	0	R/W	本ビットを 1 にすると、対応する端子のドライブ能力が大きくなります。 0：通常出力（スロースルーレート） 1：出力端子のドライブ能力が増加する（ファストスルーレート） 【注】ドライブ能力の特性については、「32.3.14 出力スルーレート」を参照してください。

23.11.5 ポート J 端子状態設定レジスタ (PJPSR)

PJPSR は、読み出し／書き込み可能な 16 ビットのレジスタで、ポート J のプルダウンを設定します。PJ9PSR、PJ6PSR、PJ3PSR、PJ1PSR ビットが、それぞれ PJ9/RxD_B、PJ6/RxD_A、PJ3/RxD_A/CRx_C/CRx_A&CRx_B&CRx_C、PJ1/RxD_A/CRx_A/CRx_A&CRx_B 端子に対応しています。PJPSR は選択されている機能に関係なく常に有効になります。

PJPSR のビットを 1 にすると、対応する端子がプルダウン状態に設定されます。

PJPSR は、パワーオンリセット、ハードウェアスタンバイモード、および WDT によるパワーオンリセットで H'0000 に初期化されます。しかし、スリープモード時には初期化されません。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	PJ9PSR	—	—	PJ6PSR	—	—	PJ3PSR	—	PJ1PSR	—
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R	R	R	R	R/W	R	R	R/W	R	R	R/W	R	R/W	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~10	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込み値も常に 0 にしてください。
9	PJ9PSR	0	R/W	本ビットを 1 にすると、対応する端子がプルダウン状態に設定されます。 0: プルダウンなし 1: プルダウン状態に設定する
8, 7	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込み値も常に 0 にしてください。
6	PJ6PSR	0	R/W	本ビットを 1 にすると、対応する端子がプルダウン状態に設定されます。 0: プルダウンなし 1: プルダウン状態に設定する
5, 4	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込み値も常に 0 にしてください。
3	PJ3PSR	0	R/W	本ビットを 1 にすると、対応する端子がプルダウン状態に設定されます。 0: プルダウンなし 1: プルダウン状態に設定する
2	—	0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込み値も常に 0 にしてください。
1	PJ1PSR	0	R/W	本ビットを 1 にすると、対応する端子がプルダウン状態に設定されます。 0: プルダウンなし 1: プルダウン状態に設定する
0	—	0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込み値も常に 0 にしてください。

23.12 ポート K

ポート K は、図 23.10 に示すような、12 本の端子を持つ入出力ポートです。

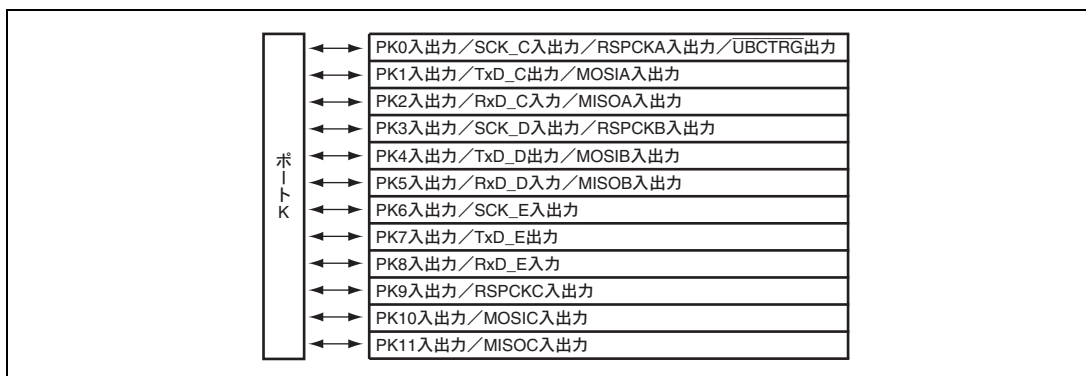


図 23.10 ポート K

23.12.1 ポートKデータレジスタ (PKDR)

PKDR は、読み出し／書き込み可能な 16 ビットのレジスタで、ポート K のデータを格納します。PK11DR～PK0DR は、それぞれ PK11/MISOC～PK0/SCK_C/RSPCKA/UBCTR \bar{G} 端子に対応しています。

端子機能が汎用出力の場合には、PKDR に値を書き込むと端子からその値が出力され、PKDR を読み出すと端子の状態に関係なくレジスタの値が直接読み出されます。

端子機能が汎用入力の場合には、PKDR を読み出すとレジスタの値ではなく端子の状態が直接読み出されます。また PKDR に値を書き込むと、PKDR にその値を書き込めますが、端子の状態には影響しません。表 23.11 に PKDR の読み出し／書き込み動作を示します。

PKDR は、パワーオンリセット、ハードウェアスタンバイモード、および WDT によるパワーオンリセットで H'0000 に初期化されます。しかし、スリープモード時には初期化されません。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	PK11DR	PK10DR	PK9DR	PK8DR	PK7DR	PK6DR	PK5DR	PK4DR	PK3DR	PK2DR	PK1DR	PK0DR
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15～12	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
11	PK11DR	0	R/W	表 23.11 参照
10	PK10DR	0	R/W	
9	PK9DR	0	R/W	
8	PK8DR	0	R/W	
7	PK7DR	0	R/W	
6	PK6DR	0	R/W	
5	PK5DR	0	R/W	
4	PK4DR	0	R/W	
3	PK3DR	0	R/W	
2	PK2DR	0	R/W	
1	PK1DR	0	R/W	
0	PK0DR	0	R/W	

表 23.11 ポート K データレジスタ (PKDR) の読み出し／書き込み動作

● PKDRのビット11～0

PKIOR	端子機能	読み出し	書き込み
0	汎用入力	端子の状態	PKDR に書き込めるが、端子の状態に影響しない
	汎用入力以外	端子の状態	PKDR に書き込めるが、端子の状態に影響しない
1	汎用出力	PKDR の値	書き込み値が端子から出力される
	汎用出力以外	PKDR の値	PKDR に書き込めるが、端子の状態に影響しない

23.12.2 ポート K ポートレジスタ (PKPR)

PKPR は、読み出し専用の 16 ビットのレジスタで、常にポート K の端子の値を格納しますので、CPU から値を書き込むことはできません。PK11PR~PK0PR ビットは、それぞれ PK11/MISOC~PK0/SCK_C/RSPCKA/UBCTRG 端子に対応しています。PKPR は読み出すと端子の値が読み出されます。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	PK11PR	PK10PR	PK9PR	PK8PR	PK7PR	PK6PR	PK5PR	PK4PR	PK3PR	PK2PR	PK1PR	PK0PR
初期値:	0	0	0	0	PK11	PK10	PK9	PK8	PK7	PK6	PK5	PK4	PK3	PK2	PK1	PK0
R/W:	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~12	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
11	PK11PR	端子の値	R	読み出すと端子の値が読み出されます。書き込みは無効です。
10	PK10PR	端子の値	R	
9	PK9PR	端子の値	R	
8	PK8PR	端子の値	R	
7	PK7PR	端子の値	R	
6	PK6PR	端子の値	R	
5	PK5PR	端子の値	R	
4	PK4PR	端子の値	R	
3	PK3PR	端子の値	R	
2	PK2PR	端子の値	R	
1	PK1PR	端子の値	R	
0	PK0PR	端子の値	R	

23.12.3 ポートKインバートレジスタ (PKIR)

PKIRは、読み出し/書き込み可能な16ビットのレジスタで、ポートKの反転機能を設定します。PK11IR~PK9IR、PK7IR~PK0IRビットが、それぞれPK11/MISOC~PK9/RSPCKC、PK7/TxD_E~PK0/SCK_C/RSPCKA/UBCTR \overline{G} 端子に対応しています。PKIRはポートKの端子機能にかかわらず有効です。

PKIRのビットを1にすると、対応する端子の出力値が反転します。

PKIRは、パワーオンリセット、ハードウェアスタンバイモード、およびWDTによるパワーオンリセットでH'0000に初期化されます。しかし、スリープモード時には初期化されません。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	PK11IR	PK10IR	PK9IR	—	PK7IR	PK6IR	PK5IR	PK4IR	PK3IR	PK2IR	PK1IR	PK0IR
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R	R	R/W	R/W	R/W	R	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~12	—	すべて0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。
11	PK11IR	0	R/W	本ビットを1にすると対応する端子の出力値を反転します。 0: 出力値を反転しない 1: 出力値を反転する
10	PK10IR	0	R/W	
9	PK9IR	0	R/W	
8	—	0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。
7	PK7IR	0	R/W	本ビットを1にすると対応する端子の出力値を反転します。 0: 出力値を反転しない 1: 出力値を反転する
6	PK6IR	0	R/W	
5	PK5IR	0	R/W	
4	PK4IR	0	R/W	
3	PK3IR	0	R/W	
2	PK2IR	0	R/W	
1	PK1IR	0	R/W	
0	PK0IR	0	R/W	

23.12.4 ポートK ドライバリティ設定レジスタ (PKDSR)

PKDSRは、読み出し／書き込み可能な16ビットのレジスタで、ポートKのドライブ能力を設定します。PK11DSR～PK9DSR、PK7DSR～PK0DSR ビットが、それぞれPK11/MISOC～PK9/RSPCKC、PK7/TxD_E～PK0/SCK_C/RSPCKA/ $\overline{\text{UBCTR}}\overline{\text{G}}$ 端子に対応しています。PKDSR の設定は、選択されている機能に関係なく常に有効になります。

PKDSR のビットを1にすると、対応する端子のドライブ能力が増加します。

PKDSR は、パワーオンリセット、ハードウェアスタンバイモード、およびWDTによるパワーオンリセットでH'0000に初期化されます。しかし、スリープモード時には初期化されません。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	PK11DSR	PK10DSR	PK9DSR	—	PK7DSR	PK6DSR	PK5DSR	PK4DSR	PK3DSR	PK2DSR	PK1DSR	PK0DSR
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R	R	R/W	R/W	R/W	R	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15～12	—	すべて0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。
11	PK11DSR	0	R/W	本ビットを1にすると、対応する端子のドライブ能力が大きくなります。 0: 通常出力 (スロースルーレート) 1: 出力端子のドライブ能力が増加する (ファストスルーレート) 【注】ドライブ能力の特性については、「32.3.14 出力スルーレート」を参照してください。
10	PK10DSR	0	R/W	
9	PK9DSR	0	R/W	
8	—	0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。
7	PK7DSR	0	R/W	本ビットを1にすると、対応する端子のドライブ能力が大きくなります。 0: 通常出力 (スロースルーレート) 1: 出力端子のドライブ能力が増加する (ファストスルーレート) 【注】ドライブ能力の特性については、「32.3.14 出力スルーレート」を参照してください。
6	PK6DSR	0	R/W	
5	PK5DSR	0	R/W	
4	PK4DSR	0	R/W	
3	PK3DSR	0	R/W	
2	PK2DSR	0	R/W	
1	PK1DSR	0	R/W	
0	PK0DSR	0	R/W	

23.12.5 ポート K 端子状態設定レジスタ (PKPSR)

PKPSRは、読み出し／書き込み可能な16ビットのレジスタで、ポートKのプルダウンを設定します。PK11PSR、PK8PSR、PK5PSR、PK2PSRビットが、それぞれPK11/MISOC、PK8/RxD_E、PK5/RxD_D/MISOB、PK2/RxD_C/MISOA端子に対応しています。PKPSRは選択されている機能に関係なく常に有効になります。

PKPSRのビットを1にすると、対応する端子がプルダウン状態に設定されます。

PKPSRは、パワーオンリセット、ハードウェアスタンバイモード、およびWDTによるパワーオンリセットでH'0000に初期化されます。しかし、スリープモード時には初期化されません。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	PK11PSR	—	—	PK8PSR	—	—	PK5PSR	—	—	PK2PSR	—	—
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R	R	R/W	R	R	R/W	R	R	R/W	R	R	R/W	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~12	—	すべて0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。
11	PK11PSR	0	R/W	本ビットを1にすると、対応する端子がプルダウン状態に設定されます。 0: プルダウンなし 1: プルダウン状態に設定する
10, 9	—	すべて0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。
8	PK8PSR	0	R/W	本ビットを1にすると、対応する端子がプルダウン状態に設定されます。 0: プルダウンなし 1: プルダウン状態に設定する
7, 6	—	すべて0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。
5	PK5PSR	0	R/W	本ビットを1にすると、対応する端子がプルダウン状態に設定されます。 0: プルダウンなし 1: プルダウン状態に設定する
4, 3	—	すべて0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。
2	PK2PSR	0	R/W	本ビットを1にすると、対応する端子がプルダウン状態に設定されます。 0: プルダウンなし 1: プルダウン状態に設定する
1, 0	—	すべて0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。

23.13 ポート L

ポート L は、図 23.11 に示すような、9 本の端子を持つ入出力ポートです。



図 23.11 ポート L

23.13.1 ポートLデータレジスタ (PLDR)

PLDR は、読み出し／書き込み可能な 16 ビットのレジスタで、ポート L のデータを格納します。PL8DR～PL0DR は、それぞれ PL8/TOE33～PL0/ $\overline{IRQ0}$ 端子に対応しています。

端子機能が汎用出力の場合には、PLDR に値を書き込むと端子からその値が出力され、PLDR を読み出すと端子の状態に関係なくレジスタの値が直接読み出されます。

端子機能が汎用入力の場合には、PLDR を読み出すとレジスタの値ではなく端子の状態が直接読み出されます。また PLDR に値を書き込むと、PLDR にその値を書き込めますが、端子の状態には影響しません。表 23.12 に PLDR の読み出し／書き込み動作を示します。

PLDR は、パワーオンリセット、ハードウェアスタンバイモード、および WDT によるパワーオンリセットで H'0000 に初期化されます。しかし、スリープモード時には初期化されません。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	PL8DR	PL7DR	PL6DR	PL5DR	PL4DR	PL3DR	PL2DR	PL1DR	PL0DR
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R	R	R	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15～9	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
8	PL8DR	0	R/W	表 23.12 参照
7	PL7DR	0	R/W	
6	PL6DR	0	R/W	
5	PL5DR	0	R/W	
4	PL4DR	0	R/W	
3	PL3DR	0	R/W	
2	PL2DR	0	R/W	
1	PL1DR	0	R/W	
0	PL0DR	0	R/W	

表 23.12 ポート L データレジスタ (PLDR) の読み出し／書き込み動作

• PLDRのビット8～0

PLIOR	端子機能	読み出し	書き込み
0	汎用入力	端子の状態	PLDR に書き込めるが、端子の状態に影響しない
	汎用入力以外	端子の状態	PLDR に書き込めるが、端子の状態に影響しない
1	汎用出力	PLDR の値	書き込み値が端子から出力される
	汎用出力以外	PLDR の値	PLDR に書き込めるが、端子の状態に影響しない

23.13.2 ポートLポートレジスタ (PLPR)

PLPRは、読み出し専用の16ビットのレジスタで、常にポートLの端子の値を格納しますので、CPUから値を書き込むことはできません。PL8PR~PL0PRビットは、それぞれPL8/TOE33~PL0/ $\overline{IRQ0}$ 端子に対応しています。PLPRは読み出すと端子の値が読み出されます。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	PL8PR	PL7PR	PL6PR	PL5PR	PL4PR	PL3PR	PL2PR	PL1PR	PL0PR
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	PL8	PL7	PL6	PL5	PL4	PL3	PL2	PL1	PL0
R/W:	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~9	—	すべて0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。
8	PL8PR	端子の値	R	読み出すと端子の値が読み出されます。書き込みは無効です。
7	PL7PR	端子の値	R	
6	PL6PR	端子の値	R	
5	PL5PR	端子の値	R	
4	PL4PR	端子の値	R	
3	PL3PR	端子の値	R	
2	PL2PR	端子の値	R	
1	PL1PR	端子の値	R	
0	PL0PR	端子の値	R	

23.13.3 ポートLインバートレジスタ (PLIR)

PLIRは、読み出し/書き込み可能な16ビットのレジスタで、ポートLの反転機能を設定します。PL8IR~PL1IRビットが、それぞれPL8/TOE33~PL1/TOE20/ $\overline{\text{IRQ1}}/\overline{\text{POD}}$ 端子に対応しています。PLIRはポートLの端子機能にかかわらず有効です。

PLIRのビットを1にすると、対応する端子の出力値が反転します。

PLIRは、パワーオンリセット、ハードウェアスタンバイモード、およびWDTによるパワーオンリセットでH'0000に初期化されます。しかし、スリープモード時には初期化されません。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	PL8IR	PL7IR	PL6IR	PL5IR	PL4IR	PL3IR	PL2IR	PL1IR	—
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R	R	R	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~9	—	すべて0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。
8	PL8IR	0	R/W	本ビットを1にすると対応する端子の出力値を反転します。 0: 出力値を反転しない 1: 出力値を反転する
7	PL7IR	0	R/W	
6	PL6IR	0	R/W	
5	PL5IR	0	R/W	
4	PL4IR	0	R/W	
3	PL3IR	0	R/W	
2	PL2IR	0	R/W	
1	PL1IR	0	R/W	
0	—	0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。

23.14 CK コントロールレジスタ (CKCR)

CKCR は、読み出し／書き込み可能な 16 ビットのレジスタで、CK 端子の出力の有無の設定値を格納します。

CKCR は、パワーオンリセット、ハードウェアスタンバイモード、および WDT によるパワーオンリセットで H'0000 に初期化されます。しかし、スリープモード時には初期化されません。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	CKOE
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~1	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
0	CKOE	0	R/W	本ビットは CK 端子の出力の有効／無効を設定するビットです。 0 : 端子出力は有効 (CK 端子出力) 1 : 端子出力は無効 (Hi-Z)

23.15 $\overline{\text{POD}}$ (ポートアウトプットディスエーブル)

$\overline{\text{POD}}$ (ポートアウトプットディスエーブル) 端子の入力レベルにより、表 23.13 に示す関連端子の出力バッファを制御できます。この機能は、対象となる端子が出力に設定されているとき、選択されている機能に関係なく常に有効となります。 $\overline{\text{POD}}$ による出力バッファの制御は、バスサイクルとは非同期に行います。

表 23.13 関連端子一覧

関連端子
PB11/ $\overline{\text{CS1}}$ /TOE21、PB8/ $\overline{\text{WAIT}}$ /TOE20、 PD12/TCLKA/TIOC41/TIJ0~PD0/TIOC00/TIOC31、 PE13/TOE13~PE6/TOE00/CTx_B、PE2/TIA02/TIOC43/TIOC30~PE1/TIA01/TIOC42/TIOC40、 PF15/TOD33B/CRx_B/RxD_A~PF0/TOD00B/TIF6、 PG15/TOD33A/SSLA7/TIF13~PG0/TOD00A/SSLA0、 PL8/TOE33~PL2/TOE21/ $\overline{\text{IRQ2}}$

表 23.14 $\overline{\text{POD}}$ 端子の状態

$\overline{\text{POD}}$	説明
0	端子出力無効 (ハイインピーダンス)
1	端子出力有効 (各設定機能)

23.16 使用上の注意

23.16.1 リセット直後の状態に関する注意点

リセット直後は入出力端子が入力状態になっています。このときの入出力端子が、オープン状態であるなどの原因で中間電位になっていると、貫通電流が流れてしまいます。この貫通電流を抑制するには、起動直後に汎用入出力端子をローレベル出力に設定してください。この対策により入出力端子の状態が安定し、貫通電流を抑制することができます。

23.16.2 内部要因リセット時の入出力端子動作に関する注意点

内部要因によるリセットの発生によって入出力端子の状態が動作状態からリセット状態に遷移する際に、最大で周辺クロック（Pφ）の1サイクルの間、入出力端子が不定状態となります。上記不定状態においては、ハイレベル出力、ローレベル出力、ハイインピーダンス状態のいずれかの状態となります。

上記のとおり入出力端子は一時的に不定状態となりますが、その後はマイコン全体が所定のリセット状態に遷移します。

内部要因によるリセットとしては、WDTのオーバフローによる内部リセット、エミュレータを使ったH-UDIリセットが該当します。

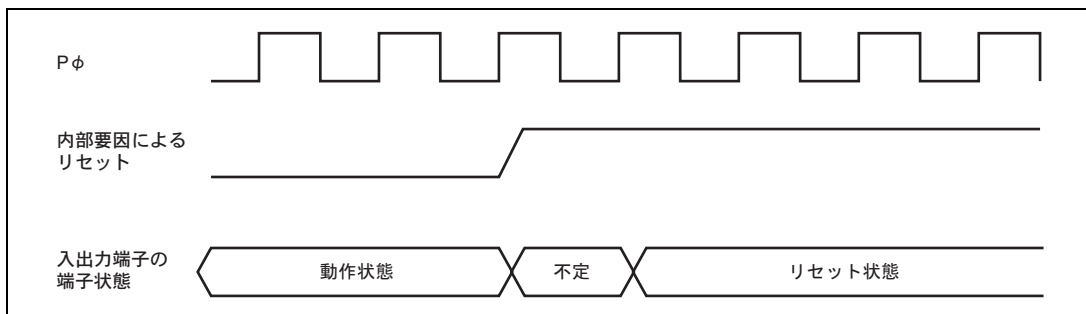


図 23.12 内部要因リセット時の入出力端子動作

【注】 入力専用端子や出力専用端子では上記現象は発生しません。

$\overline{\text{RES}}$ 端子にローレベルを入力することによるリセットは内部要因リセットには該当しません。

24. マルチインプットシグネチャジェネレータ (MISG)

24.1 概要

本 LSI は、LSI の自己診断機能として、マルチインプットシグネチャジェネレータ (MISG) を搭載しています。MISG は、CPU によるカルキュレーションデータレジスタ (MISRCDR) へのライトアクセスを監視し、そのライトデータを用いて 32 ビットのシグネチャを生成し、マルチプルインプットシグネチャレジスタ (MISR) に保持します。MISRCDR へのライトアクセスが行われるたびに、そのライトデータと MISR に保持された値 (通常は前回のライトアクセスで生成されたシグネチャですが、初期値である場合や MISR レジスタに直接書き込まれた値であることもあります) から生成される新しいシグネチャで、MISR の値が更新されます。シグネチャは、以下の多項式に基づいて生成されます。

$$G(x) = x^{32} + x^{26} + x^{23} + x^{22} + x^{16} + x^{12} + x^{11} + x^{10} + x^8 + x^7 + x^5 + x^4 + x^2 + x + 1$$

また、MISR コントロールレジスタ (MISRCR) のイネーブルビットにより、シグネチャ生成の有効/無効を制御できます。リセット後の初期状態では、シグネチャの生成は無効であり、MISRCDR への書き込みを行っても MISR の値は更新されません。

MISR は内蔵 I/O レジスタ空間にアドレスマップされたレジスタであり、値を直接読み出し/書き込みをすることが可能です。生成されたシグネチャを読み出して期待値と比較したり、あるいは任意のシード値 (シグネチャの元になる値) を設定したりすることができます。

図 24.1 に MISG のブロック図を示します。

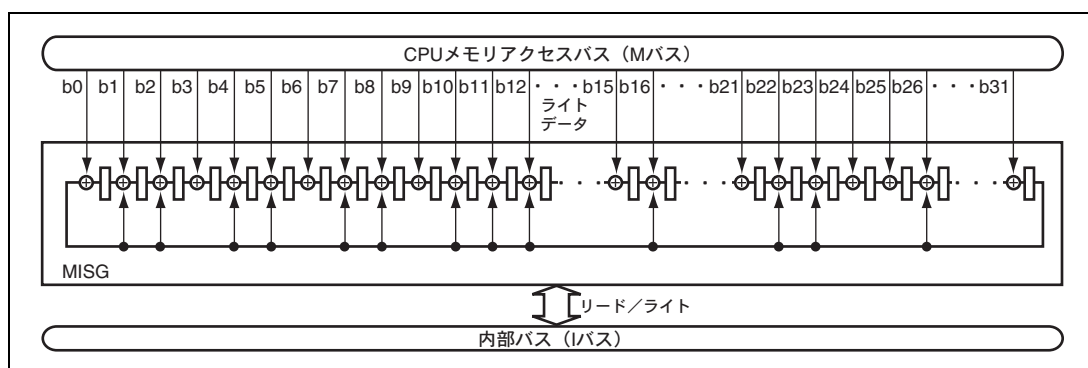


図 24.1 MISG のブロック図

24.2 レジスタの説明

MISG には以下のレジスタがあります。

表 24.1 レジスタ構成

レジスタ名	略称	R/W	初期値	アドレス	アクセス サイズ
カルキュレーションデータレジスタ	MISRCDR	W	—	H'FFF7FFFC	8、16、32
MISR コントロールレジスタ	MISRCR	R/W	H'00	H'FFFC1C00	8
マルチインプットシグネチャレジスタ	MISR	R/W	H'00000000	H'FFFC1C04	32

24.2.1 カルキュレーションデータレジスタ (MISRCDR)

MISRCDR は、書き込み専用の 32 ビットレジスタです。MISRCDR への書き込みは、CPU のみ実行可能です。MISRCDR は、常にライト 1 サイクル (CPUCLK) でアクセスできます。MISRCDR に書き込んだデータは、マルチインプットシグネチャレジスタ (MISR) の入力データとして用いられます。

MISRCDR への書き込みは、ワード、バイト、およびロングワード単位で実行可能です。ただし、バイト、ワード単位での書き込みの場合でも書き込みが行われない残りのビットは 0 として扱われ、常に 32 ビットのデータが MISR レジスタへ入力されます。

【注】 本レジスタの読み出しは行わないでください。読み出しを行った場合、以降の動作は保証されません。

ビット:	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	MISRCD[31:16]															
初期値:	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
R/W:	W	W	W	W	W	W	W	W	W	W	W	W	W	W	W	W
ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	MISRCD[15:0]															
初期値:	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
R/W:	W	W	W	W	W	W	W	W	W	W	W	W	W	W	W	W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
31~0	MISRCD [31:0]	—	W	カルキュレートデータ MISR への入力データ。カルキュレートデータの書き込みが行われるたびに、新たなシグネチャが生成され MISR に保持されます。

24.2.2 マルチインプットシグネチャレジスタ (MISR)

MISR は、読み出し／書き込みが可能な 32 ビットレジスタです。MISR コントロールレジスタ (MISRCR) の MISR イネーブルビット (MISREN) を 1 にすると、MISRCDR レジスタへの書き込みが行われるたびに、新たなシグネチャを生成し、生成した値を保持します。

シグネチャは、以下の多項式に基づいて生成されます。

$$G(x) = x^{32} + x^{26} + x^{23} + x^{22} + x^{16} + x^{12} + x^{11} + x^{10} + x^8 + x^7 + x^5 + x^4 + x^2 + x + 1$$

MISR は、パワーオンリセットやハードウェアスタンバイモード時、H'00000000 に初期化されます。

【注】 本レジスタへの書き込みを行った後、MISRCDR への書き込みを行う場合には、MISRCDR への書き込み前に必ず MISR の読み出しを実行してください。実行しない場合、MISRCDR への書き込みによるシグネチャ生成が正しく行われなことがある場合があります。

内部クロック (ϕ) が 4 通倍かつ周辺クロック ($P\phi$) が 2 通倍のとき、MISRCDR レジスタへの書き込みから MISR レジスタ読み出しまでの間隔が短いと、MISRCDR 書き込みによるシグネチャ生成結果を正しく読み出せないことがあります。MISRCDR レジスタへの書き込み後すぐに MISR レジスタを読み出す必要がある場合には、MISR レジスタの読み出しを行う前に任意の命令を 3 個以上実行するか、あるいは MISR レジスタを 2 度読み出して 2 度目の読み出し結果を用いるようにしてください。

ビット:	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	MISR[31:16]															
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	MISR[15:0]															
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
31~0	MISR [31:0]	H'00000000	R/W	シグネチャレジスタ 読み出すと、常に最新のシグネチャが得られます。

24.2.3 MISR コントロールレジスタ (MISRCR)

MISRCR は、読み出し／書き込みが可能な 8 ビットレジスタで、MISR レジスタでのシグネチャ生成の有無を制御します。MISR イネーブルビット (MISREN) を 1 にすると、MISR レジスタはシグネチャを生成し、生成したシグネチャを保持します。MISREN ビットが 0 であれば、MISRCDR への書き込みが行われても、MISR レジスタの値は更新されません。

MISRCR は、パワーオンリセットやハードウェアスタンバイモード時、H'00 に初期化されます。

【注】 本レジスタへの書き込みを行った後、MISRCDR への書き込みを行う場合には、MISRCDR への書き込み前に必ず下記 1、2 のどちらかを実行してください。どちらも実行されずに書き込みが行われた場合、MISRCDR への書き込みによるシグネチャ生成が正しく行われなことがあります。

1. MISRCR レジスタを 2 回リードする。
2. MISRCR レジスタをリードした後、任意の命令を 3 個以上実行する。

ビット :	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	MISREN
初期値 :	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W :	R	R	R	R	R	R	R	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7~1	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
0	MISREN	0	R/W	MISR イネーブル 0 : MISRCDR への書き込みを行っても、シグネチャの生成、MISR レジスタ値の更新が行われない 1 : MISRCDR への書き込みで、シグネチャの生成、MISR レジスタ値の更新が行われる

25. ROM

本 LSI は 3.75MB のコード格納用フラッシュメモリ (ROM) を内蔵しています。ROM の特長を以下に示します。

25.1 特長

- 2種類のフラッシュメモリマット

ROMには、同一アドレス空間に配置される2種類のメモリ空間（以下メモリマットと呼びます）があります。起動モードの選択および制御レジスタを使用したバンク切り替えでマットを切り替えることができます。ユーザブートマット選択時のH'00008000~H'003BFFFF領域の読み出し値は不定、書き込み/消去は無効です。

ユーザマット：3.75MB

ユーザブートマット：32KB

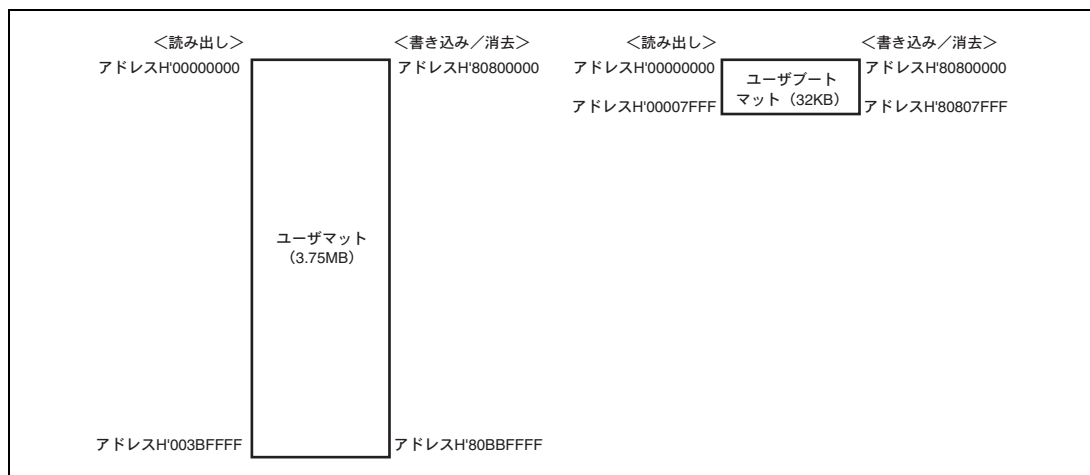


図 25.1 ROM のメモリマット構成

- ROMキャッシュ経由で高速読み出し可能

ユーザマット、ユーザブートマットともにROMキャッシュ経由で高速読み出し可能です。ユーザマット/ユーザブートマットは、すべての内蔵ROM有効モードで読み出し可能です。

- 書き込み/消去方式

周辺バス (Pバス) 経由でROM/EEPROM専用のシーケンサ (FCU) にコマンドを発行することにより、ROMの書き込み/消去を実行可能です。FCUがROMの書き込み/消去を実行している期間でも、CPUはROM以外の領域に配置したプログラムを実行可能です。FCUがEEPROMの書き込み/消去を実行している期間は、ROM領域に配置したプログラムを実行可能です。また、FCUによるROM書き込み/消去動作を中断してCPU

がROM領域のプログラムを実行した後、ROM書き込み/消去を再開可能です。消去を中断した場合には、中断した消去の対象ではない領域に書き込みを実施することも可能です。

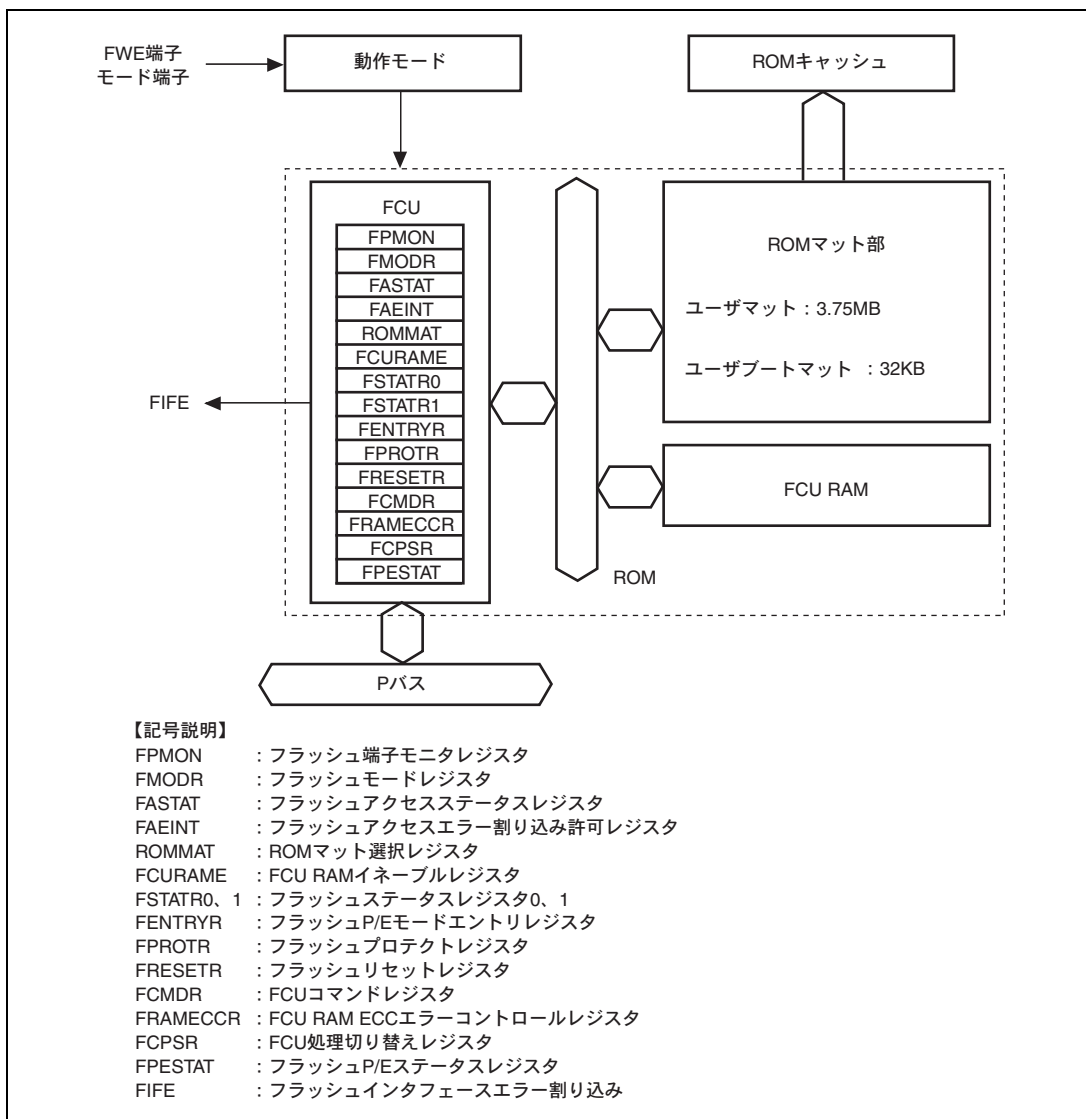


図 25.2 ROM のブロック図

- 書き込み/消去単位

ユーザマトとユーザブートマトの書き込み単位は256バイトです。ユーザブートマトの消去単位は、ユーザブートマト全面です。

図25.3にユーザマットのブロック分割を示します。ユーザマットは、8KB（8ブロック）、64KB（9ブロック）、128KB（25ブロック）にそれぞれ分割されています。

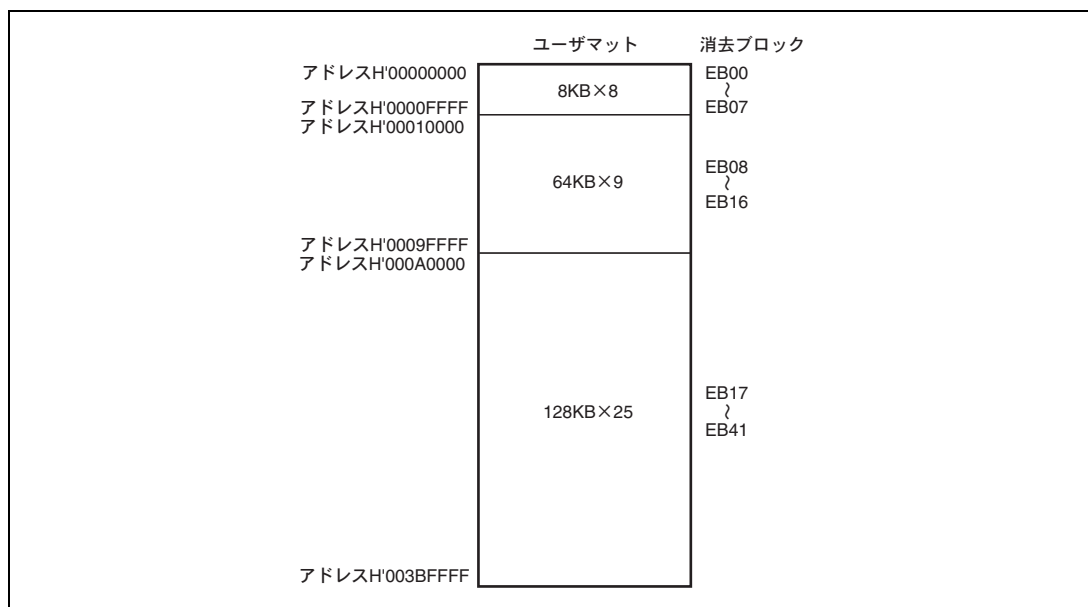


図 25.3 ユーザマットのブロック分割

- オンボードプログラミングモード（3種類）

ブートモード：SCIを使用してユーザマットとユーザブートマットを書き換え可能なプログラムモードです。
ホストと本LSI間のSCI通信のビットレートは自動調整可能です。

ユーザプログラムモード：任意のインタフェースで、ユーザマットを書き換え可能なプログラムモードです。
FWE端子値の設定変更のみで、モード2（MCU拡張モード）／モード3（MCUシングルチップモード）から遷移可能なモードです。

ユーザブートモード：任意のインタフェースで、ユーザマットを書き換え可能なプログラムモードです。
ユーザブートモードへの遷移にはリセット起動が必要です。

- プロテクトモード

FWE端子／モード端子によるハードウェアプロテクトとFENTRY5～0ビット／ロックビットによるソフトウェアプロテクトの2種類のプロテクトモードがあり、書き込み／消去に対するプロテクト状態を設定することができます。FENTRY5～0ビットはFCUによるROM書き込み／消去処理の許可／禁止を制御するためのビットです。ロックビットはユーザマットの各消去ブロック内に1ビットずつ設置されている書き込み／消去プロテクト用のビットです。

書き込み／消去中に異常動作を検出した場合、書き込み／消去処理を中断する機能もあります。

- 書き込み時間／消去時間／書き換え回数

「第32章 電気的特性」を参照してください。

25.2 入出力端子

表 25.1 に ROM 関連の入出力端子を示します。MD4～MD0 端子、FWE 端子の組み合わせによって、ROM のプログラミングモードを決定します（「25.4 ROM 関連モード概要」を参照）。ブートモード時には、PJ6/RxD_A、PJ5/TxD_A にホストを接続して ROM を書き込み／消去することが可能です（「25.5 ブートモード」を参照）。

表 25.1 端子構成

名称	端子名	入出力	機能
パワーオンリセット	RES	入力	この端子がローレベルになるとパワーオンリセット状態になります。
モード設定	MD4～MD0	入力	動作モードを決定します。
フラッシュ書き込みイネーブル	FWE	入力	ROM の書き込み許可／禁止を決定します。
SCI チャンネル A 受信データ	PJ6/RxD_A	入力	SCI チャンネル A の受信データ（ホスト通信用）
SCI チャンネル A 送信データ	PJ5/TxD_A	出力	SCI チャンネル A の送信データ（ホスト通信用）

25.3 レジスタの説明

表 25.2 に ROM 関連のレジスタを示します。一部のレジスタは EEPROM 関連のビットも持ちますが、本章では ROM 機能に関連するビットの説明のみ記載しています。EEPROM 関連ビットの機能の詳細は、「第 26 章 EEPROM」の「26.3 レジスタの説明」を参照してください。ROM 関連のレジスタは、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイによって初期化されます。

表 25.2 レジスタ構成

レジスタ名	略称	R/W ^{*1}	初期値	アドレス	アクセス サイズ
フラッシュ端子モニタレジスタ	FPMON	R	H'00 H'80	H'FFFFA800	8
フラッシュモードレジスタ	FMODR	R/W	H'00	H'FFFFA802	8
フラッシュアクセスステータスレジスタ	FASTAT	R/(W) ^{*2}	H'00	H'FFFFA810	8
フラッシュアクセスエラー割り込み許可 レジスタ	FAEINT	R/W	H'9F	H'FFFFA811	8
ROM マット選択レジスタ	ROMMAT	R/(W) ^{*3}	H'0000 H'0001	H'FFFFA820	8、16
FCU RAM イネーブルレジスタ	FCURAME	R/(W) ^{*3}	H'0000	H'FFFFA854	8、16
フラッシュステータスレジスタ 0	FSTATR0	R	H'80 ^{*5}	H'FFFFA900	8、16
フラッシュステータスレジスタ 1	FSTATR1	R	H'00 ^{*5}	H'FFFFA901	8、16
フラッシュ P/E モードエントリレジスタ	FENTRYR	R/(W) ^{*4}	H'0000 ^{*5}	H'FFFFA902	8、16
フラッシュプロテクトレジスタ	FPROTR	R/(W) ^{*4}	H'0000 ^{*5}	H'FFFFA904	8、16
フラッシュリセットレジスタ	FRESETR	R/(W) ^{*3}	H'0000	H'FFFFA906	8、16
FCU コマンドレジスタ	FCMDR	R	H'FFFF ^{*5}	H'FFFFA90A	8、16
FCU RAM ECC エラーコントロールレジスタ	FRAMECCR	R/W	H'02 ^{*5}	H'FFFFA90C	8
FCU 処理切り替えレジスタ	FCPSR	R/W	H'0000 ^{*5}	H'FFFFA918	8、16
フラッシュ P/E ステータスレジスタ	FPESTAT	R	H'0000 ^{*5}	H'FFFFA91C	8、16

- 【注】 *1 内蔵 ROM が無効なモードでは、ROM 関連レジスタの読み出しデータは 0 に固定され、書き込みは無効化されません。
- *2 フラグをクリアするために 0 のみ書き込むことができるビットと読み出し専用ビットによって構成されています。
- *3 ワードアクセスで上位バイトに特定の値を書き込んだ場合のみ書き込み有効です。上位バイトへの書き込みデータは保持されません。
- *4 ワードアクセスで上位バイトに特定の値を書き込んだ場合のみ書き込み有効で、それ以外の書き込みを行った場合には初期化されます。上位バイトへの書き込みデータは保持されません。
- *5 パワーオンリセット、ハードウェアスタンバイおよび FRESETR レジスタの FRESET ビットを 1 にすることによって初期化することができます。

25.3.1 フラッシュ端子モニタレジスタ (FPMON)

FPMON は、FWE 端子状態をモニタするためのレジスタです。内蔵 ROM が無効なモードでは、FPMON の読み出しデータは H'00 になります。FPMON は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイによって初期化されます。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	FWE	-	-	-	-	-	-	-
初期値：	1/0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7	FWE	1/0	R	フラッシュ書き込みイネーブル FWE 端子の値をモニタするためのビットです。チップを起動した際の FWE 端子値に依存して初期値が変化します。 0：ROM の書き込み／消去禁止 1：ROM の書き込み／消去許可
6~0	-	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。

25.3.2 フラッシュモードレジスタ (FMODR)

FMODR は、FCU の動作モードを指定するレジスタです。内蔵 ROM が無効なモードでは、FMODR の読み出しデータは H'00 になり、書き込みは無効化されます。FMODR は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイによって初期化されます。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	-	-	-	FR DMD	-	-	-	-
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R/W	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7~5	-	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込み値も常に 0 にしてください。
4	FRDMD	0	R/W	FCU リードモードセレクトビット FCU を使用した ROM/EEPROM 読み出し処理の方法を選択するためのビットです。ROM の場合には、ロックビットの確認方法を指定するビットとして使用します。（「25.6.1 FCU コマンド一覧」、「25.6.3 (11) ロックビットの読み出し」を参照）。EEPROM の場合には、ブランクチェックコマンド使用時に設定する必要があります（「第 26 章 EEPROM」を参照）。 0：メモリ領域リードモード ROM ロックビットリードモードで ROM のロックビットを読み出す場合にメモリ領域リードモードに設定します。 1：レジスタリードモード ロックビットリード 2 コマンドを使用して ROM のロックビットを読み出す場合にレジスタリードモードに設定します。
3~0	-	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込み値も常に 0 にしてください。

25.3.3 フラッシュアクセスステータスレジスタ (FASTAT)

FASTAT は、ROM/EEPROM に対するアクセス違反の有無を確認するためのレジスタです。内蔵 ROM が無効なモードでは、FASTAT の読み出しデータは H'00 になり、書き込みは無効化されます。FASTAT レジスタのいずれかのビットが 1 にセットされると、FCU はコマンドロック状態になります（「25.8.3 エラープロテクト」を参照）。コマンドロック状態を解除するためには、FASTAT レジスタを H'10 に設定した後、FCU にステータスクリアコマンドを発行する必要があります。FASTAT は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイによって初期化されます。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	RO MAE	-	-	CM DLK	EE PAE	EEP IFE	EEP RPE	EEP WPE
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/(W)*	R	R	R	R/(W)*	R/(W)*	R/(W)*	R/(W)*

【注】 * フラグをクリアするため、1を読み出した後に0を書き込むことのみ可能です。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
7	ROMAE	0	R/(W)*	<p>アクセス違反ビット</p> <p>ROMに対するアクセス違反の有無を示すビットです。ROMAE ビットが1になると、FSTATR0 レジスタの IGLERR ビットが1にセットされ、FCU はコマンドロック状態になります。</p> <p>0 : ROM アクセスエラーなし 1 : ROM アクセスエラーあり</p> <p>[セット条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • FENTRYR レジスタの FENTRY5 ビットが1かつ ROM P/E ノーマルモードの状態、ROM 書き込み/消去用アドレス H'80B80000~H'80BBFFFF に対してリードアクセスを発行 • FENTRYR レジスタの FENTRY4 ビットが1かつ ROM P/E ノーマルモードの状態、ROM 書き込み/消去用アドレス H'80B40000~H'80B7FFFF に対してリードアクセスを発行 • FENTRYR レジスタの FENTRY3 ビットが1かつ ROM P/E ノーマルモードの状態、ROM 書き込み/消去用アドレス H'80B00000~H'80B3FFFF に対してリードアクセスを発行 • FENTRYR レジスタの FENTRY2 ビットが1かつ ROM P/E ノーマルモードの状態、ROM 書き込み/消去用アドレス H'80A00000~H'80AFFFFF に対してリードアクセスを発行 • FENTRYR レジスタの FENTRY1 ビットが1かつ ROM P/E ノーマルモードの状態、ROM 書き込み/消去用アドレス H'80900000~H'809FFFFF に対してリードアクセスを発行 • FENTRYR レジスタの FENTRY0 ビットが1かつ ROM P/E ノーマルモードの状態、ROM 書き込み/消去用アドレス H'80800000~H'808FFFFF に対してリードアクセスを発行 • FENTRYR レジスタの FENTRY5 ビットが0の状態、ROM 書き込み/消去用アドレス H'80B80000~H'80BBFFFF に対するアクセスを発行 • FENTRYR レジスタの FENTRY4 ビットが0の状態、ROM 書き込み/消去用アドレス H'80B40000~H'80B7FFFF に対するアクセスを発行 • FENTRYR レジスタの FENTRY3 ビットが0の状態、ROM 書き込み/消去用アドレス H'80B00000~H'80B3FFFF に対するアクセスを発行 • FENTRYR レジスタの FENTRY2 ビットが0の状態、ROM 書き込み/消去用アドレス H'80A00000~H'80AFFFFF に対するアクセスを発行 • FENTRYR レジスタの FENTRY1 ビットが0の状態、ROM 書き込み/消去用アドレス H'80900000~H'809FFFFF に対するアクセスを発行 • FENTRYR レジスタの FENTRY0 ビットが0の状態、ROM 書き込み/消去用アドレス H'80800000~H'808FFFFF に対するアクセスを発行

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
7	ROMAE	0	R/(W)*	<ul style="list-style-type: none"> • FENTRYR レジスタが H'0000 以外の状態で、ROM 読み出し用アドレス H'00000000~H'003BFFFF に対してリードアクセスを発行 • ユーザブートマット選択時に ROM に対してブロックイレーズ、プログラム、ロックビットプログラムコマンドを発行 • ユーザブートマット選択時に ROM 書き込み/消去用アドレス H'80800000~H'80807FFF 以外に対するアクセスを発行 [クリア条件] <ul style="list-style-type: none"> • ROMAE=1 を読み出した後に、0 を書き込み
6、5	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
4	CMDLK	0	R	FCU コマンドロックビット FCU がコマンドロック状態であることを示すビットです（「25.8.3 エラープロテクト」を参照）。 <ul style="list-style-type: none"> 0 : FCU はコマンドロック状態ではない 1 : FCU はコマンドロック状態 [セット条件] <ul style="list-style-type: none"> • FCU がエラーを検出してコマンドロック状態に遷移後 [クリア条件] <ul style="list-style-type: none"> • FASTAT レジスタが H'10 の状態で、FCU がステータスクリアコマンドを処理後
3	EEPAE	0	R/(W)*	EEPROM アクセス違反ビット 「第 26 章 EEPROM」を参照してください。
2	EEPIFE	0	R/(W)*	EEPROM 命令フェッチ違反ビット 「第 26 章 EEPROM」を参照してください。
1	EEPRPE	0	R/(W)*	EEPROM リードプロテクト違反ビット 「第 26 章 EEPROM」を参照してください。
0	EEPWPE	0	R/(W)*	EEPROM 書き込み/消去プロテクト違反ビット 「第 26 章 EEPROM」を参照してください。

【注】 * フラグをクリアするため、1 を読み出した後に 0 を書き込むことのみ可能です。

25.3.4 フラッシュアクセスエラー割り込み許可レジスタ (FAEINT)

FAEINT は、フラッシュインタフェースエラー割り込み (FIFE) の出力許可/禁止を設定するためのレジスタです。内蔵 ROM が無効なモードでは、FAEINT の読み出しデータは H'00 になり、書き込みは無効化されます。FAEINT は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイによって初期化されます。

ビット:	7	6	5	4	3	2	1	0
	ROM AEIE	-	-	CMD LKIE	EEP AEIE	EPI FEIE	EPR PEIE	EPW PEIE
初期値:	1	0	0	1	1	1	1	1
R/W:	R/W	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
7	ROMAEIE	1	R/W	ROM アクセス違反割り込みイネーブル ROM アクセス違反が発生し、FASTAT レジスタの ROMAE ビットが 1 になった場合の FIFE 割り込み要求の発生を許可/禁止するためのビットです。 0: ROMAE=1 で FIFE 割り込み要求を発生しない 1: ROMAE=1 で FIFE 割り込み要求を発生する
6, 5	-	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
4	CMDLKIE	1	R/W	FCU コマンドロック割り込みイネーブル FCU コマンドロックが発生し、FASTAT レジスタの CMDLK ビットが 1 になった場合の FIFE 割り込み要求の発生を許可/禁止するためのビットです。 0: CMDLK=1 で FIFE 割り込み要求を発生しない 1: CMDLK=1 で FIFE 割り込み要求を発生する
3	EEPAEIE	1	R/W	EEPROM アクセス違反割り込みイネーブル 「第 26 章 EEPROM」を参照してください。
2	EEPIFEIE	1	R/W	EEPROM 命令フェッチ違反割り込みイネーブル 「第 26 章 EEPROM」を参照してください。
1	EEPRPEIE	1	R/W	EEPROM リードプロテクト違反割り込みイネーブル 「第 26 章 EEPROM」を参照してください。
0	EEPWPEIE	1	R/W	EEPROM 書き込み/消去プロテクト違反割り込みイネーブル 「第 26 章 EEPROM」を参照してください。

25.3.5 ROM マット選択レジスタ (ROMMAT)

ROMMAT は、ROM のマットを切り替えるために使用するレジスタです。内蔵 ROM が無効なモードでは、ROMMAT の読み出しデータは H'0000 になり、書き込みは無効化されます。ROMMAT は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイによって初期化されます。

ROMMAT レジスタの設定を変更しマットを切り替える場合は、ROMMAT レジスタに書き込み、ROMMAT レジスタのダミーリード後、NOP 命令を 5 個以上実行してください。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	KEY								—	—	—	—	—	—	—	ROMSEL
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0/1
R/W:	R/(W)*R/(W)*R/(W)*R/(W)*R/(W)*R/(W)*R/(W)*R/(W)*	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R/W

【注】 * 書き込みデータは保持されません。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~8	KEY	すべて 0	R/(W)*	キーコード ROMSEL ビットの書き換えの可否を制御します。本ビットへの書き込みデータは保持されません。
7~1	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
0	ROMSEL	0/1	R/W	ROM マット選択ビット ROM のマットを選択するためのビットです。ユーザブートモードで起動した場合には、初期値が 1 になります。それ以外の場合のモードで起動した場合には、初期値が 0 になります。 ROMSEL ビットへの書き込みは、ワードアクセスで KEY が H'3B の場合のみ有効です。 0: ユーザマット選択 1: ユーザブートマット選択

【注】 * 書き込みデータは保持されません。

25.3.6 FCU RAM イネーブルレジスタ (FCURAME)

FCURAME は、FCU RAM 領域へのアクセスを許可／禁止するためのレジスタです。内蔵 ROM が無効なモードでは、FCURAME の読み出しデータは H'00 になり、書き込みは無効化されます。FCURAME は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイによって初期化されます。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	KEY								—	—	—	—	—	—	—	FCRME
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/(W)*R/(W)*R/(W)*R/(W)*R/(W)*R/(W)*R/(W)*R/(W)*	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R/W

【注】 * 書き込みデータは保持されません。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~8	KEY	すべて 0	R/(W)*	キーコード FCRME ビットの書き換えの可否を制御します。本ビットへの書き込みデータは保持されません。
7~1	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
0	FCRME	0	R/W	FCU RAM イネーブル FCU RAM へのアクセスを許可／禁止するためのビットです。FCRME ビットへの書き込みは、ワードアクセスで KEY が H'C4 の場合のみ有効です。FCU RAM に書き込む場合は、FENTRYR レジスタを H'0000 に設定して FCU を停止してください。 0 : FCU RAM へのアクセス禁止 1 : FCU RAM へのアクセス許可

【注】 * 書き込みデータは保持されません。

25.3.7 フラッシュステータスレジスタ 0 (FSTATR0)

FSTATR0 は、FCU の状態を確認するためのレジスタです。内蔵 ROM が無効なモードでは、FSTATR0 の読み出しデータは H'00 になります。FSTATR0 は、パワーオンリセット、ハードウェアスタンバイ、および FRESETR レジスタの FRESET ビットを 1 にすることによって初期化されます。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	FRDY	ILGL ERR	ERS ERR	PRG ERR	SUS RDY	—	ERS SPD	PRG SPD
初期値：	1	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7	FRDY	1	R	フラッシュレディビット FCU の処理状態を確認するためのビットです。 0：書き込み／消去処理中 書き込み／消去の中断処理中 ロックビットリード 2 コマンド処理中 EEPROM のブランクチェック処理中（「第 26 章 EEPROM」を参照） 1：上記の処理を実行していない
6	ILGLERR	0	R	イリーガルコマンドエラービット FCU が不正なコマンドや不正な ROM/EEPROM アクセスなどを検出したことを示すビットです。このビットが 1 の場合には、FCU はコマンドロック状態になります（「25.8.3 エラープロテクト」を参照）。 0：FCU は不正なコマンドや ROM/EEPROM アクセスを検出して いない 1：FCU は不正なコマンドや ROM/EEPROM アクセスを検出した [セット条件] <ul style="list-style-type: none"> • FCU が不正なコマンドを検出した • FCU が不正な ROM/EEPROM アクセスを検出した（FASTAT レジスタの ROMAЕ、EЕPAЕ、EЕPIFE、EЕPRPE、EЕPWPE ビットのいずれかが 1) • FENTRYR の設定が不正 [クリア条件] <ul style="list-style-type: none"> • FASTAT レジスタが H'10 の状態で FCU がステータスクリアコマンドを処理後

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
5	ERSERR	0	R	<p>消去エラービット</p> <p>FCUによるROM/EEPROM消去処理の結果を示すビットです。このビットが1の場合には、FCUはコマンドロック状態になります(「25.8.3 エラープロテクト」を参照)。</p> <p>0: 消去処理は正常終了 1: 消去処理中にエラー発生</p> <p>[セット条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> 消去中にエラーが発生した ロックビットでプロテクトされた領域に対するブロックイレーズコマンドを発行した <p>[クリア条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> FCUがステータスクリアコマンドを処理後
4	PRGERR	0	R	<p>書き込みエラービット</p> <p>FCUによるROM/EEPROM書き込み処理の結果を示すビットです。このビットが1の場合には、FCUはコマンドロック状態になります(「25.8.3 エラープロテクト」を参照)。</p> <p>0: 書き込み処理は正常終了 1: 書き込み処理中にエラー発生</p> <p>[セット条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> 書き込み中にエラーが発生した ロックビットでプロテクトされた領域に対する書き込みコマンドを発行した <p>[クリア条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> FCUがステータスクリアコマンドを処理後
3	SUSRDY	0	R	<p>サスペンドレディビット</p> <p>FCUがP/Eサスペンドコマンドを受け付け可能であることを示すビットです。</p> <p>0: P/Eサスペンドコマンド受け付け不可能 1: P/Eサスペンドコマンド受け付け可能</p> <p>[セット条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> 書き込み/消去処理を開始後、P/Eサスペンドコマンドの受け付けが可能な状態に移した <p>[クリア条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> P/Eサスペンドコマンドを受け付けた 書き込み/消去処理中に、コマンドロック状態に移した
2	—	0	R	<p>リザーブビット</p> <p>読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。</p>

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
1	ERSSPD	0	R	<p>消去サスペンドステータスビット</p> <p>FCU が消去の中断処理中または消去サスペンド状態に移移したことを示すビットです（「25.6.4 サスペンド動作」を参照）。</p> <p>0：下記以外の状態 1：消去の中断処理中または消去サスペンド中</p> <p>[セット条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> 消去の中断処理を開始した <p>[クリア条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> レジュームコマンドを受け付けた
0	PRGSPD	0	R	<p>書き込みサスペンドステータスビット</p> <p>FCU が書き込みの中断処理中または書き込みサスペンド状態に移移したことを示すビットです（「25.6.4 サスペンド動作」を参照）。</p> <p>0：下記以外の状態 1：書き込みの中断処理中または書き込みサスペンド中</p> <p>[セット条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> 書き込みの中断処理を開始した <p>[クリア条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> レジュームコマンドを受け付けた

25.3.8 フラッシュステータスレジスタ 1 (FSTATR1)

FSTATR1 は、FCU の状態を確認するためのレジスタです。内蔵 ROM が無効なモードでは、FSTATR1 の読み出しデータは H'00 になります。FSTATR1 は、パワーオンリセット、ハードウェアスタンバイ、および FRESETR レジスタの FRESET ビットを 1 にすることによって初期化されます。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	FCU ERR	—	—	FLO CKST	—	—	FRD TCT	FRC RCT
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
7	FCUERR	0	R	<p>FCU エラービット</p> <p>FCU 内部の CPU 処理においてエラーが発生したことを示すビットです。</p> <p>0：FCU の CPU 処理でエラー未発生 1：FCU の CPU 処理でエラー発生</p> <p>[クリア条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> FRESETR レジスタの FRESET ビットが 1 <p>FCUERR が 1 の場合には、FRESET ビットを 1 にして、FCU を初期化してください。また、FCU ファームウェアを FCU ファーム領域から FCU RAM 領域へ再コピーしてください。</p>

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
6, 5	—	すべて0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。
4	FLOCKST	0	R	ロックビットステータスビット ロックビットリード2コマンドを使用した場合に、ロックビットのリードデータが反映されるビットです。ロックビットリード2コマンド発行後に、FRDY ビットが1になった時点で、FLOCKST ビットに有効なデータが格納されます。FLOCKST ビットの値は、次のロックビットリード2コマンドの終了まで保持されます。 0 : プロテクト状態 1 : 非プロテクト状態
3, 2	—	すべて0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。
1	FRDTCT	0	R	FCU RAM 2 ビット誤り検出モニタビット FCU RAM の読み出し時に2ビット誤りを検出したことを示すビットです。 0 : 2 ビット誤りを検出していない 1 : 2 ビット誤りを検出した FRDTCT が1の場合には、FRESET ビットを1にして、FCUを初期化してください。また、FCU ファームウェアをFCU ファーム領域からFCU RAM 領域へ再コピーしてください。
0	FRCRCT	0	R	FCU RAM 1 ビット誤り訂正モニタビット FCU RAM の読み出し時に1ビット誤りを訂正したことを示すビットです。 0 : 1 ビット誤りを訂正していない 1 : 1 ビット誤りを訂正した FRCRCT が1の場合には、FRESET ビットを1にして、FCUを初期化してください。また、FCU ファームウェアをFCU ファーム領域からFCU RAM 領域へ再コピーしてください。

25.3.9 FCU RAM ECC エラーコントロールレジスタ (FRAMECCR)

FRAMECCR は、FCU RAM の読み出し時に 1 ビット誤り訂正、2 ビット誤り検出が発生した場合の FCU コマンドロックへの要求を、有効/無効に設定するためのレジスタです。FRAMECCR は、FCU コマンドロック要求の有効/無効を設定しますがフラッシュステータスレジスタ 1 (FSTATR1) の FRDTC と FRCRC のビットセットはコントロールしません。内蔵 ROM が無効なモードでは、FRAMECCR の読み出しデータは H'00 になり、書き込みは無効化されます。FRAMECCR は、パワーオンリセット、ハードウェアスタンバイによって初期化されます。

ビット :	7	6	5	4	3	2	1	0
	-	-	-	-	-	-	FRD CLE	FRC CLE
初期値 :	0	0	0	0	0	0	1	0
R/W :	R	R	R	R	R	R	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
7~2	-	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
1	FRDCLE	1	R/W	FCU RAM 2 ビット誤り検出 FCU コマンドロックイネーブルビット FCU RAM の読み出し時に 2 ビット誤り検出が発生した場合の FCU コマンドロックへの要求を、有効/無効に設定するためのビットです。本ビットを 1 にして 2 ビット誤りが検出された場合、FASTAT レジスタの CMDLK ビットは 1 にセットされます。 0 : 2 ビット誤り検出時に FCU コマンドロック要求を発生しない (設定禁止) 1 : 2 ビット誤り検出時に FCU コマンドロック要求を発生する
0	FRCCLE	0	R/W	FCU RAM 1 ビット誤り訂正 FCU コマンドロックイネーブルビット FCU RAM の読み出し時に 1 ビット誤り訂正が発生した場合の FCU コマンドロックへの要求を、有効/無効に設定するためのビットです。本ビットを 1 にして 1 ビット誤り訂正が発生した場合、FASTAT レジスタの CMDLK ビットは 1 にセットされます。 0 : 1 ビット誤り訂正時に FCU コマンドロック要求を発生しない 1 : 1 ビット誤り訂正時に FCU コマンドロック要求を発生する

25.3.10 フラッシュ P/E モードエントリレジスタ (FENTRYR)

FENTRYR は、ROM/EEPROM を P/E モードに設定するために使用するレジスタです。ROM/EEPROM を P/E モードにして FCU のコマンド受け付けを可能にするためには、FENTRYD、FENTRY5~0 のいずれかのビットに 1 を設定する必要があります。ただし、本レジスタに H'0001、H'0002、H'0004、H'0008、H'0010、H'0020、H'0080 以外の値を設定した場合、FSTATR0 レジスタの IGLERR ビットがセットされて、FCU はコマンドロック状態になります。内蔵 ROM が無効なモードでは、FENTRYR の読み出しデータは H'0000 になり、書き込みは無効化されます。FENTRYR は、パワーオンリセット、ハードウェアスタンバイ、および FRESETR レジスタの FRESET ビットを 1 にすることによって初期化されます。

FENTRYR レジスタの FENTRY5~0 ビットを 1 から 0 に変更し ROM リードモードに遷移させる場合は、FENTRY5~0 ビットに 0 を書き込み、FENTRYR レジスタのダミーリード後、NOP 命令を 5 個以上実行してください。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	FEKEY								FEN TRYD	—	FEN TRY5	FEN TRY4	FEN TRY3	FEN TRY2	FEN TRY1	FEN TRY0
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/(W)*	R/(W)*	R/(W)*	R/(W)*	R/(W)*	R/(W)*	R/(W)*	R/(W)*	R/W	R	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

【注】 * 書き込みデータは保持されません。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~8	FEKEY	すべて 0	R/(W)*	キーコード FENTRYD、FENTRY5~0 ビットの書き換えの可否を制御します。本ビットへの書き込みデータは保持されません。
7	FENTRYD	0	R/W	EEPROM P/E モードエントリビット 「第 26 章 EEPROM」を参照してください。
6	—	0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
5	FENTRY5	0	R/W	<p>ROM P/E モードエントリビット 5</p> <p>ROM 0.25MB（読み出し用アドレス：H'00380000～H'003BFFFF、書き込み／消去用アドレス：H'80B80000～H'80BBFFFF）を P/E モードに設定するためのビットです。</p> <p>0：ROM 0.25MB はリードモード</p> <p>1：ROM 0.25MB は P/E モード</p> <p>書き込みは、以下の条件をすべて満たす場合に有効です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 内蔵 ROM が有効なモード • FPMON レジスタの FWE ビットが 1 • FSTATR0 レジスタの FRDY ビットが 1 • ワードアクセスで FEKEY に H'AA 書き込み <p>[セット条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • 書き込み条件を満たし、かつ FENTRYR レジスタが H'0000 の状態で、FENTRY5 に 1 を書き込んだ場合 <p>[クリア条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • FSTATR0 レジスタの FRDY ビットが 1、かつ FPMON レジスタの FWE ビットが 0 の場合 • バイトアクセスで書き込んだ場合 • ワードアクセスで FEKEY が H'AA 以外の状態で書き込んだ場合 • 書き込み有効条件を満たした状態で、FENTRY5 に 0 を書き込んだ場合 • 書き込み有効条件を満たし、かつ FENTRYR レジスタが H'0000 以外の状態で、FENTRYR レジスタを書き込んだ場合

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
4	FENTRY4	0	R/W	<p>ROM P/E モードエントリビット 4</p> <p>ROM 0.25MB（読み出し用アドレス：H'00340000～H'0037FFFF、書き込み／消去用アドレス：H'80B40000～H'80B7FFFF）を P/E モードに設定するためのビットです。</p> <p>0：ROM 0.25MB はリードモード</p> <p>1：ROM 0.25MB は P/E モード</p> <p>書き込みは、以下の条件をすべて満たす場合に有効です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 内蔵 ROM が有効なモード • FPMON レジスタの FWE ビットが 1 • FSTATR0 レジスタの FRDY ビットが 1 • ワードアクセスで FEKEY に H'AA 書き込み <p>[セット条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • 書き込み有効条件を満たし、かつ FENTRYR レジスタが H'0000 の状態で、FENTRY4 に 1 を書き込んだ場合 <p>[クリア条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • FSTATR0 レジスタの FRDY ビットが 1、かつ FPMON レジスタの FWE ビットが 0 の場合 • バイトアクセスで書き込んだ場合 • ワードアクセスで FEKEY が H'AA 以外の状態で書き込んだ場合 • 書き込み有効条件を満たした状態で、FENTRY4 に 0 を書き込んだ場合 • 書き込み有効条件を満たし、かつ FENTRYR レジスタが H'0000 以外の状態で、FENTRYR レジスタを書き込んだ場合

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
3	FENTRY3	0	R/W	<p>ROM P/E モードエントリビット 3</p> <p>ROM 0.25MB（読み出し用アドレス：H'00300000～H'0033FFFF、書き込み／消去用アドレス：H'80B00000～H'80B3FFFF）を P/E モードに設定するためのビットです。</p> <p>0：ROM 0.25MB はリードモード</p> <p>1：ROM 0.25MB は P/E モード</p> <p>書き込みは、以下の条件をすべて満たす場合に有効です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 内蔵 ROM が有効なモード • FPMON レジスタの FWE ビットが 1 • FSTATR0 レジスタの FRDY ビットが 1 • ワードアクセスで FEKEY に H'AA 書き込み <p>[セット条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • 書き込み有効条件を満たし、かつ FENTRYR レジスタが H'0000 の状態で、FENTRY3 に 1 を書き込んだ場合 <p>[クリア条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • FSTATR0 レジスタの FRDY ビットが 1、かつ FPMON レジスタの FWE ビットが 0 の場合 • バイトアクセスで書き込んだ場合 • ワードアクセスで FEKEY が H'AA 以外の状態で書き込んだ場合 • 書き込み有効条件を満たした状態で、FENTRY3 に 0 を書き込んだ場合 • 書き込み有効条件を満たし、かつ FENTRYR レジスタが H'0000 以外の状態で、FENTRYR レジスタを書き込んだ場合

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
2	FENTRY2	0	R/W	<p>ROM P/E モードエントリビット 2</p> <p>ROM 1MB（読み出し用アドレス：H'00200000~H'002FFFFFF、書き込み／消去用アドレス：H'80A00000~H'80AFFFFFF）を P/E モードに設定するためのビットです。</p> <p>0：ROM 1MB はリードモード 1：ROM 1MB は P/E モード</p> <p>書き込みは、以下の条件をすべて満たす場合に有効です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 内蔵 ROM が有効なモード • FPMON レジスタの FWE ビットが 1 • FSTATR0 レジスタの FRDY ビットが 1 • ワードアクセスで FEKEY に H'AA 書き込み <p>[セット条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • 書き込み有効条件を満たし、かつ FENTRYR レジスタが H'0000 の状態で、FENTRY2 に 1 を書き込んだ場合 <p>[クリア条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • FSTATR0 レジスタの FRDY ビットが 1、かつ FPMON レジスタの FWE ビットが 0 の場合 • バイトアクセスで書き込んだ場合 • ワードアクセスで FEKEY が H'AA 以外の状態で書き込んだ場合 • 書き込み有効条件を満たした状態で、FENTRY2 に 0 を書き込んだ場合 • 書き込み有効条件を満たし、かつ FENTRYR レジスタが H'0000 以外の状態で、FENTRYR レジスタを書き込んだ場合

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
1	FENTRY1	0	R/W	<p>ROM P/E モードエントリビット 1</p> <p>ROM 1MB (読み出し用アドレス: H'00100000~H'001FFFFFF、書き込み/消去用アドレス: H'80900000~H'809FFFFFF) を P/E モードに設定するためのビットです。</p> <p>0: ROM 1MB はリードモード 1: ROM 1MB は P/E モード</p> <p>書き込みは、以下の条件をすべて満たす場合に有効です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 内蔵 ROM が有効なモード • FPMON レジスタの FWE ビットが 1 • FSTATR0 レジスタの FRDY ビットが 1 • ワードアクセスで FEKEY に H'AA 書き込み <p>[セット条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • 書き込み有効条件を満たし、かつ FENTRYR レジスタが H'0000 の状態で、FENTRY1 に 1 を書き込んだ場合 <p>[クリア条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • FSTATR0 レジスタの FRDY ビットが 1、かつ FPMON レジスタの FWE ビットが 0 の場合 • バイトアクセスで書き込んだ場合 • ワードアクセスで FEKEY が H'AA 以外の状態で書き込んだ場合 • 書き込み有効条件を満たした状態で、FENTRY1 に 0 を書き込んだ場合 • 書き込み有効条件を満たし、かつ FENTRYR レジスタが H'0000 以外の状態で、FENTRYR レジスタを書き込んだ場合
0	FENTRY0	0	R/W	<p>ROM P/E モードエントリビット 0</p> <p>ROM 1MB (読み出し用アドレス: H'00000000~H'000FFFFFF、書き込み/消去用アドレス: H'80800000~H'808FFFFFF) を P/E モードに設定するためのビットです。</p> <p>0: ROM 1MB はリードモード 1: ROM 1MB は P/E モード</p> <p>書き込みは、以下の条件をすべて満たす場合に有効です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 内蔵 ROM が有効なモード • FPMON レジスタの FWE ビットが 1 • FSTATR0 レジスタの FRDY ビットが 1 • ワードアクセスで FEKEY に H'AA 書き込み <p>[セット条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • 書き込み有効条件を満たし、かつ FENTRYR レジスタが H'0000 の状態で、FENTRY0 に 1 を書き込んだ場合 <p>[クリア条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • FSTATR0 レジスタの FRDY ビットが 1、かつ FPMON レジスタの FWE ビットが 0 の場合 • バイトアクセスで書き込んだ場合 • ワードアクセスで FEKEY が H'AA 以外の状態で書き込んだ場合 • 書き込み有効条件を満たした状態で、FENTRY0 に 0 を書き込んだ場合 • 書き込み有効条件を満たし、かつ FENTRYR レジスタが H'0000 以外の状態で、FENTRYR レジスタを書き込んだ場合

【注】 * 書き込みデータは保持されません。

25.3.11 フラッシュプロテクトレジスタ (FPROTR)

FPROTR は、ロックビットによる書き込み/消去プロテクト機能の有効/無効を設定するためのレジスタです。内蔵 ROM が無効なモードでは、FPROTR の読み出しデータは H'0000 になり、書き込みは無効化されます。FPROTR は、パワーオンリセット、ハードウェアスタンバイ、および FRESETR レジスタの FRESET ビットを 1 にすることによって初期化されます。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	FPKEY								—	—	—	—	—	—	—	FPROTCN
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/(W)*	R/(W)*	R/(W)*	R/(W)*	R/(W)*	R/(W)*	R/(W)*	R/(W)*	R	R	R	R	R	R	R	R/W

【注】 * 書き込みデータは保持されません。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~8	FPKEY	すべて 0	R/(W)*	キーコード FPROTCN ビットの書き換えの可否を制御します。本ビットへの書き込みデータは保持されません。
7~1	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
0	FPROTCN	0	R/W	ロックビットプロテクトキャンセルビット ロックビットによる書き込み/消去プロテクトを有効/無効化するためのビットです。 0: ロックビットによるプロテクト有効 1: ロックビットによるプロテクト無効 [セット条件] • FENTRYR レジスタの値が H'0000 以外の状態で、ワードアクセスで FPKEY に H'55、FPROTCN に 1 を書き込んだ場合 [クリア条件] • バイトアクセスで書き込んだ場合 • ワードアクセスで FPKEY が H'55 以外の状態で書き込んだ場合 • ワードアクセスで FPKEY に H'55、FPROTCN に 0 を書き込んだ場合 • FENTRYR レジスタの値が H'0000 の場合

【注】 * 書き込みデータは保持されません。

25.3.12 フラッシュリセットレジスタ (FRESETR)

FRESETR は、FCU の初期化のために使用するレジスタです。内蔵 ROM が無効なモードでは、FRESETR の読み出しデータは H'0000 になり、書き込みは無効化されます。FRESETR は、パワーオンリセット、およびハードウェアスタンバイによって初期化されます。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0	
	FRKEY								—	—	—	—	—	—	—	—	FRE SET
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/(W)*R/(W)*R/(W)*R/(W)*R/(W)*R/(W)*R/(W)*R/(W)*	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R/W

【注】 * 書き込みデータは保持されません。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~8	FRKEY	すべて 0	R/(W)*	キーコード FRESET ビットの書き換えの可否を制御します。本ビットへの書き込みデータは保持されません。
7~1	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
0	FRESET	0	R/W	フラッシュリセットビット FRESET ビットを 1 に設定すると、ROM/EEPROM の書き込み/消去動作が強制終了され、FCU が初期化されます。書き込み/消去中の ROM/EEPROM のメモリには高電圧が印加されています。メモリに印加された電圧の降下に必要な期間を確保するために、FCU を初期化する場合には、FRESET を 1 にセットした状態を t_{RESW2} (「第 32 章 電気的特性」を参照) 保持してください。FRESET を 1 に保持している期間は ROM/EEPROM への読み出しを禁止してください。また、FRESET が 1 の状態では、FENTRYR レジスタが初期化されているため、FCU コマンドを使用することはできません。 FRESET ビットへの書き込みは、ワードアクセスで FRKEY が H'CC の場合のみ有効です。 0: FCU はリセットされない 1: FCU はリセットされる

【注】 * 書き込みデータは保持されません。

25.3.13 FCU コマンドレジスタ (FCMDR)

FCMDR は、FCU が受け付けたコマンドを格納するレジスタです。内蔵 ROM が無効なモードでは、FCMDR の読み出しデータは H'0000 になり、書き込みは無効化されます。FCMDR は、パワーオンリセット、ハードウェアスタンバイ、および FRESETR レジスタの FRESET ビットを 1 にすることによって初期化されます。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	CMDR								PCMDR							
初期値:	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
R/W:	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~8	CMDR	H'FF	R	コマンドレジスタ FCU が受け付けた最新のコマンドを格納するレジスタです。
7~0	PCMDR	H'FF	R	プレコマンドレジスタ FCU が受け付けた 1 つ前のコマンドを格納するレジスタです。

表 25.3 に各コマンド受け付け後の FCMDR レジスタの状態を示します。ブランクチェックの内容は、「26.6 ユーザモード/ユーザプログラムモード/ユーザブートモード」を参照してください。

表 25.3 各コマンド受け付け後の FCMDR レジスタの状態

コマンド	CMDR	PCMDR
ノーマルモード移行	H'FF	前回コマンド
ステータスリードモード移行	H'70	前回コマンド
ロックビットリードモード移行 (ロックビットリード 1)	H'71	前回コマンド
プログラム	H'E8	前回コマンド
ブロックイレーズ	H'D0	H'20
P/E サスペンド	H'B0	前回コマンド
P/E レジューム	H'D0	前回コマンド
ステータスレジスタクリア	H'50	前回コマンド
ロックビットリード 2、ブランクチェック	H'D0	H'71
ロックビットプログラム	H'D0	H'77

25.3.14 FCU 処理切り替えレジスタ (FCPSR)

FCPSR レジスタは、FCU の消去処理のサスペンド方法を選択するためのレジスタです。内蔵 ROM が無効なモードでは、FCPSR の読み出しデータは H'0000 になり、書き込みは無効化されます。FCPSR は、パワーオンリセット、ハードウェアスタンバイ、および FRESETR レジスタの FRESET ビットを 1 にすることによって初期化されます。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	ESUSPMD
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~1	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
0	ESUSPMD	0	R/W	消去サスペンドモード FCU が ROM/EEPROM の消去処理を実行中に P/E サスペンドコマンドが発行された場合の消去中断処理モードを選択するためのビットです（「25.6.4 サスペンド動作」を参照）。 0: サスペンド優先モード 1: 消去優先モード

25.3.15 フラッシュ P/E ステータスレジスタ (FPESTAT)

FPESTAT は、ROM/EEPROM の書き込み／消去処理結果を示すレジスタです。内蔵 ROM が無効なモードでは、FPESTAT の読み出しデータは H'0000 になり、書き込みは無効化されます。FPESTAT は、パワーオンリセット、ハードウェアスタンバイ、および FRESETR レジスタの FRESET ビットを 1 にすることによって初期化されます。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	PEERRST							
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~8	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
7~0	PEERRST	H'00	R	P/E エラーステータスビット ROM/EEPROM の書き込み／消去処理中にエラーが発生した場合のエラー原因を示すビットです。PEERRST ビットの値は、FSTATR0 レジスタの PRGERR ビットまたは ERSERR ビットが 1 の状態でのみ有効です。ERSERR ビットと PRGERR ビットが 0 の場合の PEERRST ビットには、過去に発生したエラー原因の値が保持されます。 H'01: ロックビットでプロテクトされた領域に対する書き込みエラー H'02: ロックビットプロテクト以外の要因による書き込みエラー H'11: ロックビットでプロテクトされた領域に対する消去によるエラー H'12: ロックビットプロテクト以外の要因による消去エラー 上記以外: 予約

25.4 ROM 関連モード概要

図 25.4 に本 LSI のモード遷移図 (ROM 関連) を示します。MD4~MD0 端子と FWE 端子の設定値と本 LSI の動作モードの関係については「第 3 章 動作モード」を参照してください。

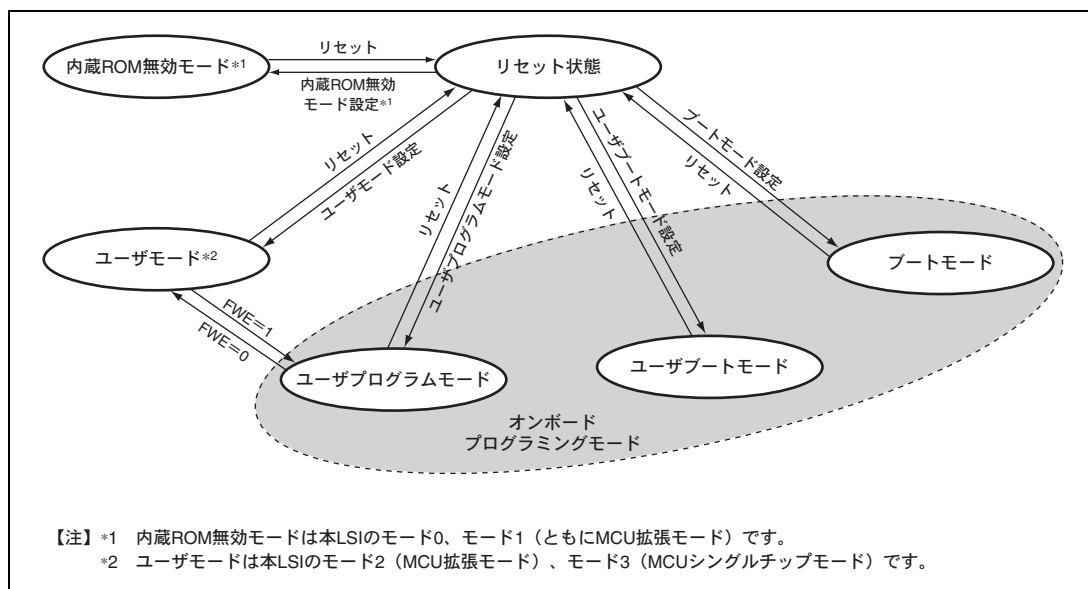


図 25.4 ROM に関するモード遷移図

- 内蔵ROM無効モードでは、ROMの読み出し／書き込み／消去は実施できません。
- ユーザモードでは、ROMの読み出しは可能ですが、書き込み／消去は実施できません。
- ユーザプログラムモード／ユーザブートモード／ブートモードでは、オンボードでROMの読み出し／書き込み／消去を実施できます。

表 25.4 に、ブートモード、ユーザプログラムモード、ユーザブートモード書き込み／消去関連項目の比較表を示します。

表 25.4 プログラミングモードの比較

項目	ブートモード	ユーザプログラムモード	ユーザブートモード
書き込み／消去 可能マット	ユーザマット ユーザブートマット	ユーザマット	ユーザマット
書き込み／消去制御	ホスト	FCU	FCU
書き込みデータ転送	ホストから SCI 経由	任意のデバイスから RAM 経由	任意のデバイスから RAM 経由
リセット時の起動マット	組み込みプログラム 格納マット	ユーザマット	ユーザブートマット*
MCU 動作モードへの遷移	モード設定変更& リセット	FWE 設定変更	モード設定変更& リセット

【注】 * 組み込みプログラム格納マットから起動し、製品に内蔵された組み込みプログラムを実行した後にユーザブートマットのリセットベクタから起動します。

- ユーザブートマットの書き込み／消去は、ブートモードでのみ可能です。
- ユーザブートモードでは、ユーザプログラムモードと異なるモード端子設定で、任意のインタフェースのブート動作を実現できます。
- ブートモード／ユーザブートモードでは製品に内蔵された組み込みプログラムで内蔵RAMのH'FFF88000～H'FFF8FFFFを使用します。このため、RAMイネーブルレジスタ（RAMEN）の設定で内蔵RAMを無効にしてリセットし、ブートモード／ユーザブートモードで起動した場合には、リセット前に内蔵RAMの当該領域に格納されていたデータは保持されません（「第28章 RAM」を参照）。

25.5 ブートモード

25.5.1 システム構成

ブートモードでは、ホストから制御コマンドや書き込みデータを送信してユーザマット/ユーザブートマットの書き込み/消去を実行可能です。ホストと本 LSI 間の通信には、本 LSI 内蔵の SCI を調歩同期モードで使用します。ホスト上には制御コマンドを送信するためのツールと書き込みデータを準備する必要があります。本 LSI をブートモードで起動すると、組み込みプログラム格納マット上のプログラムが実行されます。組み込みプログラム格納マット上のプログラムでは、SCI のビットレートの自動調整と制御コマンド方式でのホスト⇄本 LSI 間の通信が実現されます。

図 25.5 にブートモード時のシステム構成を示します。ブートモードでは NMI、 $\overline{IRQ7} \sim \overline{IRQ0}$ の割り込みは無視されますが、端子のレベルは非アクティブ状態に固定してください。また、ブートモード時には AUD は使用できませんのでご注意ください。

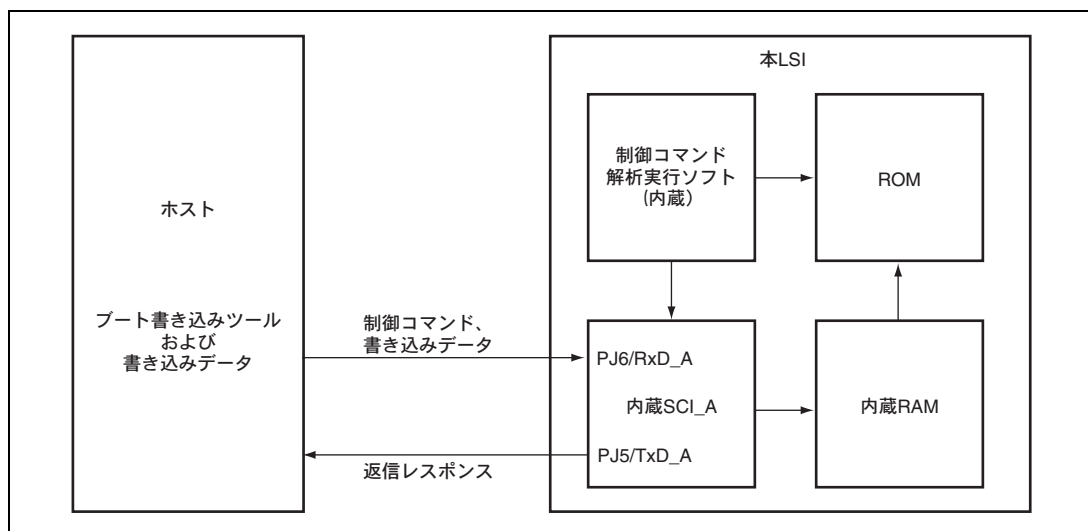


図 25.5 ブートモード時のシステム構成

25.5.2 ブートモードの状態遷移

図 25.6 にブートモードの状態遷移図を示します。

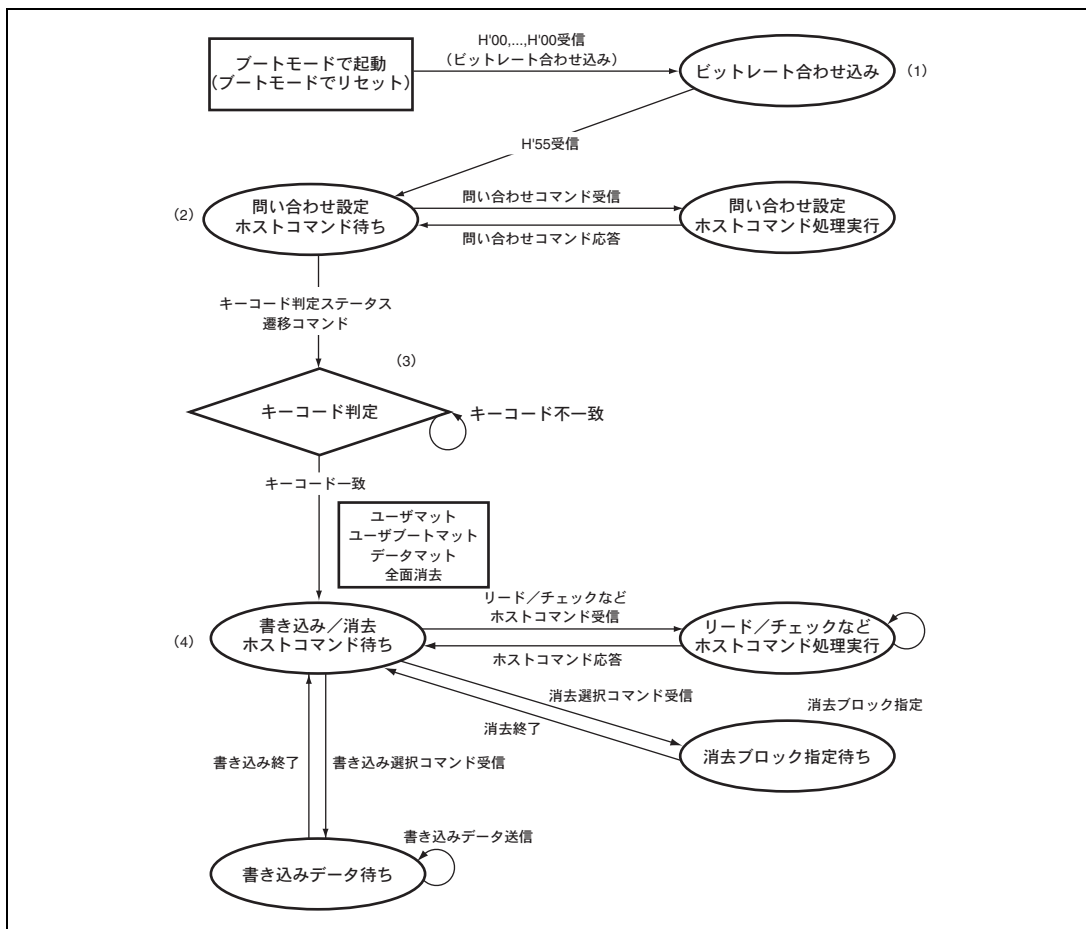


図 25.6 ブートモードの状態遷移図

(1) ビットレート合わせ込み

本 LSI をブートモードで起動すると、ホストと SCI_A のビットレート自動調整を実行します。ビットレートの自動調整が終了すると、本 LSI からホストへ H'00 を送信します。その後、ホストから送信された H'55 を本 LSI が正しく受信すると問い合わせ設定ホストコマンド待ち状態に遷移します。ビットレート合わせ込みの詳細は、「25.5.3 ビットレートの自動調整」を参照してください。

(2) 問い合わせ設定ホストコマンド待ち

マットサイズ、マット構成、マット先頭アドレス、サポート状況などの問い合わせや、デバイス、クロックモード、ビットレートを選択するための状態です。ホストからキーコード判定ステータス遷移コマンドを発行すると、本 LSI はキーコード判定状態に遷移します。問い合わせ設定ホストコマンドの詳細は「25.5.4 問い合わせ設定ホストコマンド待ち状態」を参照してください。

(3) キーコード判定

本 LSI に書き込まれたキーコードと一致するかを判定するための状態です。ホストからキーコードが送信され、それが本 LSI に書き込まれたキーコードと一致するかを判定します。一致した場合はユーザマット、ユーザブートマット、データマットの全面消去を行い、書き込み/消去コマンド待ち状態に遷移します。また、本 LSI のキーコードが初期状態（書き込まれていない状態）のときは、任意のキーコードで認証可能となります。

(4) 書き込み/消去ホストコマンド待ち

ホストからのコマンドに従って、書き込み/消去を実行する状態です。本 LSI が受信したコマンドに応じて、書き込みデータ待ち状態、消去ブロック指定待ち状態、リード/チェックなどコマンド処理実行状態に遷移します。

本 LSI が書き込み選択コマンドを受信した場合には、書き込みデータ待ち状態に遷移します。ホストから書き込み選択コマンドに続けて、書き込み先頭アドレス、書き込みデータを送信してください。書き込み先頭アドレスを H'FFFFFFF と設定すると、書き込みが終了して書き込みデータ待ち状態から書き込み/消去コマンド待ち状態に遷移します。

本 LSI が消去選択コマンドを受信すると消去ブロック指定待ち状態に遷移します。ホストから消去選択コマンドに続けて、消去ブロック番号を送信してください。消去ブロック番号を H'FF と設定すると、消去が終了して消去ブロック指定待ち状態から書き込み/消去コマンド待ち状態に遷移します。ブートモードで起動してから書き込み/消去ホストコマンド状態に遷移する間にユーザマット/ユーザブートマット/EEPROM のデータマットの全面が消去されていますので、ブートモードで新たに書き込んだデータをリセットせずに消去したい場合以外には消去を実行する必要はありません。

書き込み/消去以外に、ユーザマット/ユーザブートマットのサムチェック、ブランクチェック（消去チェック）*、メモリリード、ステータス情報取得のためのホストコマンドもあります。書き込み/消去ホストコマンド待ち状態で実行できるホストコマンドの詳細は「25.5.5 書き込み/消去ホストコマンド待ち状態」を参照してください。

【注】 * ブランクチェックは、正常に消去が完了した領域に対し、消去状態を確認する機能です。書き込み/消去が中断（例：リセット入力、電源瞬断）された場合は、ブランクチェックによる消去状態の確認はできません。

25.5.3 ビットレートの自動調整

本 LSI をブートモードで起動すると、ホストから連続送信される調歩同期式 SCI 通信のデータ H'00 のローレベル期間を測定します。ローレベル期間測定時のホストの SCI 送受信フォーマットは 8 ビットデータ、1 ストップビット、パリティなし、ビットレートは 9,600bps または 19,200bps に設定してください。本 LSI は測定したローレベル期間からホストの SCI のビットレートを計算し、ビットレート調整が終了すると H'00 をホストへ送信します。ホストが H'00 を正常に受信した場合には、ホストから本 LSI に H'55 を送信してください。H'00 を正常に受信できなかった場合には、本 LSI をブートモードで再起動し、ビットレートの自動調整を再実行してください。本 LSI は H'55 を正常に受信すると H'E6 を送信し、H'55 を正常に受信できなかった場合には H'FF を送信します。



図 25.7 ビットレート自動調整時の SCI 送受信フォーマット

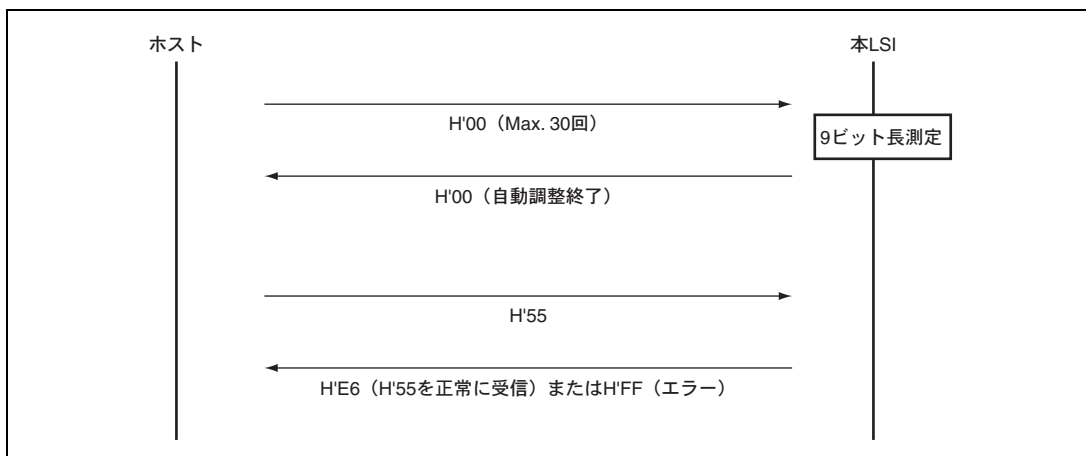


図 25.8 ホストと本 LSI 間の通信シーケンス

ホストの SCI のビットレートや本 LSI の周辺クロックの周波数に依存してビットレートを正常に調整できない場合がありますので、表 25.5 に示した条件で SCI の通信を行うようにしてください。

表 25.5 ビットレート自動調整が可能な条件

ホストの SCI のビットレート	周辺クロックの周波数
9,600bps	16~20MHz、32~40MHz
19,200bps	

25.5.4 問い合わせ設定ホストコマンド待ち状態

表 25.6 に、問い合わせ設定ホストコマンド待ち状態で使用可能なホストコマンドの一覧を示します。ブートプログラムステータス問い合わせコマンドは、書き込み/消去ホストコマンド待ち状態でも使用可能です。その他のコマンドは、問い合わせ設定ホストコマンド待ち状態でのみ使用可能です。

表 25.6 問い合わせ設定ホストコマンド

ホストコマンド名	機能
サポートデバイス問い合わせ	デバイスコードと組み込みプログラム型名の問い合わせ
デバイス選択	デバイスコードの選択
クロックモード問い合わせ	クロックモードの問い合わせ
クロックモード選択	クロックモードの選択
逡倍比問い合わせ	クロック種類、逡倍比/分周比の種類、逡倍比/分周比の問い合わせ
動作周波数問い合わせ	クロック種類、最大/最低動作周波数の問い合わせ
ユーザブートマット情報問い合わせ	ユーザブートマットの個数、先頭/最終アドレスの問い合わせ
ユーザマット情報問い合わせ	ユーザマットの個数、先頭/最終アドレスの問い合わせ
消去ブロック情報問い合わせ	ブロック数、先頭/最終アドレスの問い合わせ
書き込みサイズ問い合わせ	書き込み時のデータ長の問い合わせ
新ビットレート選択	ホスト⇄本 LSI 間の SCI 通信のビットレートを変更
キーコード判定ステータス遷移	キーコード判定ステータスに遷移
キーコードチェックコマンド	キーコードを送信
ブートプログラムステータス問い合わせ	本 LSI の状態の問い合わせ

ホストが未定義のコマンドを送信した場合は、本 LSI がコマンドエラーのレスポンスを送信します。コマンドエラーのレスポンスの内容は以下のとおりです。コマンドには、ホストが送信したコマンドの先頭バイトが格納されています。

エラーレスポンス	H'80	コマンド
----------	------	------

問い合わせ設定ホストコマンド待ち状態では、問い合わせコマンドのレスポンスを参考にして、デバイス選択→クロックモード選択→新ビットレート選択の順にホストから選択コマンドを送信し、本 LSI の設定を行ってください。また、サポートデバイス問い合わせ/クロックモード問い合わせ以外の問い合わせコマンドは、クロックモード選択コマンドを発行前には使用できません。誤った順番でコマンドを送信した場合には、本 LSI がコマンドエラーのレスポンスを送信します。図 25.9 に問い合わせ設定ホストコマンド待ち状態でのホストコマンド使用例を示します。

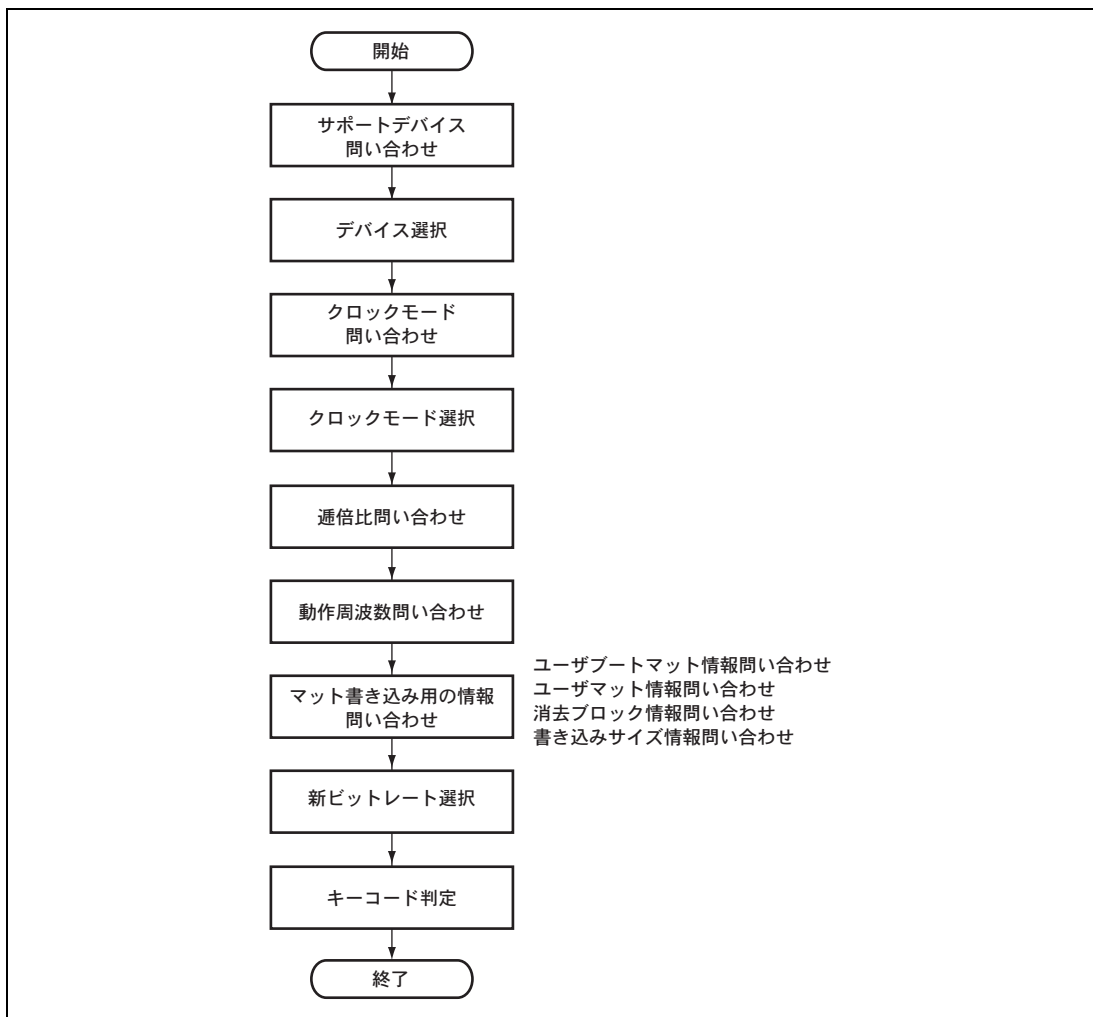


図 25.9 問い合わせ設定ホストコマンドの使用例

各ホストコマンドの詳細を以下に説明します。説明文中の「コマンド」はホストから本 LSI に送信するコマンド、「レスポンス」は本 LSI からホストに送信する応答です。「サムチェック」は、本 LSI が送信した各バイトを合計した場合に H'00 になるように計算されたバイトデータを指します。

(1) サポートデバイス問い合わせ

ホストがサポートデバイス問い合わせコマンドを送信すると、ブートモード用の組み込みプログラムでサポート可能なデバイス情報を本 LSI が送信します。ホストがデバイスを選択した後に、サポートデバイス問い合わせコマンドを送信した場合には、本 LSI は選択したデバイスの情報のみ送信します。

コマンド	H'20			
レスポンス	H'30	サイズ	デバイス数	
	文字数	デバイスコード		品名
	文字数	デバイスコード		品名

	文字数	デバイスコード		品名
	SUM			

【記号説明】

サイズ (1 バイト) : デバイス数、文字数、デバイスコード、品名のデータの総バイト数

デバイス数 (1 バイト) : ブートモード用の組み込みプログラムがサポートする品種数

文字数 (1 バイト) : デバイスコードと品名の文字数

デバイスコード (4 バイト) : チップ品名の ASCII コード

品名 (n バイト) : サポートデバイス名の ASCII コード

SUM (1 バイト) : サムチェック

(2) デバイス選択

ホストがデバイス選択コマンドを送信すると、本 LSI は指定されたデバイスがサポート可能なデバイスかチェックします。サポート可能なデバイスの場合、本 LSI はサポートデバイスを指定したデバイスに変更し、レスポンス (H'06) を送信します。サポート可能なデバイスでなかった場合や、送信されたコマンドが不正であった場合には、本 LSI はエラーレスポンス (H'90) を送信します。

サポートデバイス問い合わせの結果、デバイス数が H'01 であった場合も、デバイス選択コマンドで問い合わせ結果のデバイスコードの値を設定してください。

コマンド	H'10	サイズ	デバイスコード	SUM
レスポンス	H'06			
エラーレスポンス	H'90	エラー		

【記号説明】

サイズ (1 バイト) : デバイスコードの文字数 (固定値で 4)

デバイスコード (4 バイト) : チップ品名の ASCII コード (サポートデバイス問い合わせコマンドの応答と同一のコード)

SUM (1 バイト) : サムチェック

エラー (1 バイト) : エラーコード

H'11 : サムチェックエラー (コマンドが不正)

H'21 : デバイスコード不一致

(3) クロックモード問い合わせ

ホストがクロックモード問い合わせコマンドを送信すると、選択可能なクロックモードを本 LSI が送信します。ホストがクロックモードを選択した後に、クロックモード問い合わせコマンドを送信した場合には、本 LSI は選択したクロックモードの情報のみ送信します。

コマンド	H'21			
レスポンス	H'31	サイズ		
	モード	モード	...	モード
	SUM			

【記号説明】

サイズ (1 バイト) : モード数、モードのデータの総バイト数

モード (1 バイト) : 選択可能なクロックモード (例 : H'01 クロックモード 1)

SUM (1 バイト) : サムチェック

(4) クロックモード選択

ホストがクロックモード選択コマンドを送信すると、本 LSI は指定されたクロックモードがサポート可能なモードかを確認します。サポート可能なモードの場合、本 LSI はクロックモードを指定したモードに変更し、レスポンス (H'06) を送信します。サポート可能なモードではなかった場合や、送信されたコマンドが不正であった場合には、本 LSI はエラーレスポンス (H'91) を送信します。

クロックモード選択コマンドは、デバイス選択コマンドを送信した後に送信してください。クロックモード問い合わせの結果、クロックモード数が H'00 または H'01 であった場合も、クロックモード選択コマンドで、問い合わせ結果のモードの値を設定してください。

コマンド	H'11	サイズ	モード	SUM
レスポンス	H'06			
エラーレスポンス	H'91	エラー		

【記号説明】

サイズ (1 バイト) : モードの文字数 (固定値で 1)

モード (1 バイト) : クロックモード (クロックモード問い合わせコマンドの応答と同一のモード)

SUM (1 バイト) : サムチェック

エラー (1 バイト) : エラーコード

H'11 : サムチェックエラー (コマンドが不正)

H'22 : クロックモード不一致

(5) 通倍比問い合わせ

ホストが通倍比問い合わせコマンドを送信すると、クロック種類、通倍比/分周比の種類、通倍比/分周比の情報を本 LSI が送信します。

コマンド	H'22				
レスポンス	H'32	サイズ	クロック数		
	通倍比種類	通倍比	通倍比	...	通倍比
	通倍比種類	通倍比	通倍比	...	通倍比

	通倍比種類	通倍比	通倍比	...	通倍比
	SUM				

【記号説明】

サイズ (1 バイト) : クロック数、通倍比種類、通倍比のデータの総バイト数

クロック数 (1 バイト) : クロックの種類 (例 : H'02 内部クロックと周辺クロックの 2 種類)

通倍比種類 (1 バイト) : 選択可能な通倍比/分周比の種類 (例 : H'03 内部クロックは 4 通倍、6 通倍、8 通倍の 3 種類)

通倍比 (1 バイト) : 通倍比 (例 : H'04=4 4 通倍) ← 正の数で指定

分周比 (例 : HFE=-2 2 分周) ← 負の数で指定

SUM (1 バイト) : サムチェック

(6) 動作周波数問い合わせ

ホストが動作周波数問い合わせコマンドを送信すると、各クロックの動作周波数の最小値と最大値の情報を本 LSI が送信します。

コマンド	H'23		
レスポンス	H'33	サイズ	クロック数
	最小周波数		最大周波数
	最小周波数		最大周波数

	最小周波数		最大周波数
	SUM		

【記号説明】

サイズ (1 バイト) : クロック数、最小周波数、最大周波数のデータの総バイト数

クロック数 (1 バイト) : クロックの種類 (例 : H'02 内部クロックと周辺クロックの 2 種類)

最小周波数 (2 バイト) : 動作周波数の最小値 (例 : H'07D0 20.00MHz)

周波数 (MHz) の小数点第 2 位までの値を 100 倍した値

最大周波数 (2 バイト) : 動作周波数の最大値で、書式は最小周波数と同様

SUM (1 バイト) : サムチェック

(7) ユーザブートマット情報問い合わせ

ホストがユーザブートマット情報を問い合わせると、ユーザブートマットのエリア数とアドレスの情報を本 LSI が送信します。

コマンド	H'24		
レスポンス	H'34	サイズ	エリア数
	エリア先頭アドレス		
	エリア最終アドレス		
	エリア先頭アドレス		
	エリア最終アドレス		
	...		
	エリア先頭アドレス		
	エリア最終アドレス		
SUM			

【記号説明】

サイズ (1 バイト) : エリア数、エリア先頭アドレス、エリア最終アドレスのデータの総バイト数

エリア数 (1 バイト) : ユーザブートマットのエリア数 (連続したエリアは 1 エリアと数えます)

エリア先頭アドレス (4 バイト) : ユーザブートマットエリアの先頭アドレス

エリア最終アドレス (4 バイト) : ユーザブートマットエリアの最終アドレス

SUM (1 バイト) : サムチェック

(8) ユーザマット情報問い合わせ

ホストがユーザマット情報を問い合わせると、ユーザマットのエリア数とアドレスの情報を本 LSI が送信します。

コマンド	H'25		
レスポンス	H'35	サイズ	エリア数
	エリア先頭アドレス		
	エリア最終アドレス		
	エリア先頭アドレス		
	エリア最終アドレス		
	...		
	エリア先頭アドレス		
	エリア最終アドレス		
	SUM		

【記号説明】

サイズ (1 バイト) : エリア数、エリア先頭アドレス、エリア最終アドレスのデータの総バイト数

エリア数 (1 バイト) : ユーザマットのエリア数 (連続したエリアは 1 エリアと数えます)

エリア先頭アドレス (4 バイト) : ユーザマットエリアの先頭アドレス

エリア最終アドレス (4 バイト) : ユーザマットエリアの最終アドレス

SUM (1 バイト) : サムチェック

(9) 消去ブロック情報問い合わせ

ホストが消去ブロック情報を問い合わせると、ユーザマットの消去ブロック数とアドレスの情報を本 LSI が送信します。

コマンド	H'26		
レスポンス	H'36	サイズ	ブロック数
	ブロック先頭アドレス		
	ブロック最終アドレス		
	ブロック先頭アドレス		
	ブロック最終アドレス		
	...		
	ブロック先頭アドレス		
	ブロック最終アドレス		
	SUM		

【記号説明】

サイズ (2 バイト) : ブロック数、ブロック先頭アドレス、ブロック最終アドレスのデータの総バイト数

ブロック数 (1 バイト) : ユーザマットの消去ブロック数

エリア先頭アドレス (4 バイト) : 消去ブロックの先頭アドレス

エリア最終アドレス (4 バイト) : 消去ブロックの最終アドレス

SUM (1 バイト) : サムチェック

(10) 書き込みサイズ問い合わせ

ホストが書き込みサイズを問い合わせると、本 LSI が書き込みサイズの情報を送信します。

コマンド	H'27			
レスポンス	H'37	サイズ	書き込みサイズ	SUM

【記号説明】

サイズ (1 バイト) : 書き込みサイズの文字数 (固定値で 2)

書き込みサイズ (2 バイト) : 書き込み単位 (バイト数単位)

SUM (1 バイト) : サムチェック

(11) 新ビットレート選択

ホストが新ビットレート選択コマンドを送信すると、本 LSI は内蔵 SCI を指定された新ビットレートに設定可能かをチェックします。新ビットレートの設定が可能な場合、本 LSI はレスポンス (H'06) を送信し、SCI を新ビットレートに設定します。新ビットレートの設定ができない場合や、送信されたコマンドが不正であった場合には、本 LSI はエラーレスポンス (H'BF) を送信します。ホストはレスポンス (H'06) を受信すると、新ビットレート選択コマンド送信時のビットレートで 1 ビット期間ウェイトし、ホストのビットレートを新ビットレートに変更します。その後、ホストは新ビットレートで確認用のデータ (H'06) を送信し、本 LSI は確認データをレスポンス (H'06) を送信します。

新ビットレート選択コマンドは、クロックモード選択コマンドを送信した後に送信してください。



図 25.10 新ビットレート選択のシーケンス

コマンド	H'3F	サイズ	ビットレート	入力周波数
	クロック数	通倍比 1	通倍比 2	
	SUM			
レスポンス	H'06			
エラーレスポンス	H'BF	エラー		
確認	H'06			
レスポンス	H'06			

【記号説明】

サイズ (1 バイト) : ビットレート、入力周波数、クロック数、通倍比のデータの総バイト数

ビットレート (2 バイト) : 新ビットレート (例 : H'00C0 19200bps)
ビットレート値を 1/100 した値を設定

入力周波数 (2 バイト) : 本 LSI の入力周波数 (例 : H'07D0 20.00MHz)
入力周波数の小数点第 2 位までを 100 倍した値を設定

クロック数 (1 バイト) : クロックの種類 (例: H'02 内部クロックと周辺クロックの2種類)

通倍比 1 (1 バイト) : 入力周波数に対する内部クロックの通倍比/分周比

通倍比 (例: H'04=4 4 通倍) ←正の数で指定

分周比 (例: HFE=-2 2分周) ←負の数で指定

通倍比 2 (1 バイト) : 入力周波数に対する周辺クロックの通倍比/分周比

通倍比 1 と同じフォーマット

SUM (1 バイト) : サムチェック

エラー: エラーコード H'11: サムチェックエラー

H'24: ビットレート選択不可エラー

H'25: 入力周波数エラー

H'26: 通倍比エラー

H'27: 動作周波数エラー

• ビットレート選択不可エラー

新ビットレート選択コマンドで指定したビットレートを、本 LSI の SCI が誤差 4%未満で設定できない場合にビットレート選択不可エラーが発生します。新ビットレート選択コマンドで指定したビットレートを B、入力周波数を fEX、通倍比 2 を MPφ、SCI_A の SCBRR1A レジスタの設定値を N、SCSMR1A レジスタの CKS[1:0]ビットの設定値を n とした場合のビットレート誤差は、以下の計算式で求められます。

$$\text{誤差 (\%)} = \left\{ \frac{f_{EX} \times M_{P\phi} \times 10^6}{(N+1) \times B \times 32 \times 2^{2n-1}} - 1 \right\} \times 100$$

• 入力周波数エラー

新ビットレート選択コマンドで指定した入力周波数が、クロックモード選択コマンドで指定したクロックモードに対応する入力周波数の最小値と最大値の範囲外であった場合に、入力周波数エラーが発生します。

• 通倍比エラー

新ビットレート選択コマンドで指定した通倍比が、クロックモード選択コマンドで指定したクロックモードに対応する通倍比でなかった場合に、通倍比エラーが発生します。選択可能な通倍比を確認するためには通倍比問い合わせコマンドを使用してください。

• 動作周波数エラー

新ビットレート選択コマンドで指定した動作周波数で本 LSI が動作できない場合に動作周波数エラーが発生します。本 LSI は、新ビットレート選択コマンドで指定された入力周波数、通倍比から動作周波数を計算し、計算結果が各クロックの動作周波数の最小値から最大値の範囲内であるかをチェックします。各クロックの動作周波数の最小値と最大値を確認するためには、動作周波数問い合わせコマンドを使用してください。

(12) キーコード判定ステータス遷移

キーコード判定ステータス遷移コマンドに対して、本 LSI はキーコード判定状態へ遷移します。

コマンド	H'40
レスポンス	H'16

(13) キーコードチェックコマンド

キーコードチェックコマンドに対して、本 LSI はホストから送信されたキーコードとマット上のキーコードとを比較し、一致したときレスポンス (H'26) を送信し、ユーザマット、ユーザブートマット、データマットの全面消去を行い、書き込み消去ステータスになります。キーコードが一致しなかった場合はエラーレスポンス (H'E0) を送信します。

また、本 LSI のキーコードが初期状態 (書き込まれていない状態) のときは、任意のキーコードでレスポンス (H'26) を送信し、ユーザマット、ユーザブートマット、データマットの全面消去を行い、書き込み消去ステータスに遷移します。

コマンド	H'60	サイズ	キーコード
	SUM		
レスポンス	H'26		
エラーレスポンス	H'E0	エラー	

【記号説明】

サイズ (1 バイト) : キーコードの文字数 (固定値で 16)

キーコード (16 バイト) : ブートモード認証のためのキーコード (上位側の不要な部分は H'FF で埋めてください)

SUM (1 バイト) : サムチェック (コマンドから SUM まで加算し、H'00 となるように設定)

エラー (1 バイト) : エラーコード

H'11 : サムチェックエラー

H'61 : キーコード不一致エラー

H'51 : 消去エラーが発生して消去できない

(14) ブートプログラムステータス問い合わせ

ホストがブートプログラムステータス問い合わせコマンドを送信すると、本 LSI は現在のステータスを送信します。ブートプログラムステータス問い合わせコマンドは、問い合わせ設定ホストコマンド待ち状態と書き込み消去ホストコマンド待ち状態で使用可能です。

コマンド	H'4F				
レスポンス	H'5F	サイズ	ステータス	エラー	SUM

【記号説明】

サイズ (1 バイト) : ステータス、エラーのデータの総バイト数 (固定値で 2)

ステータス (1 バイト) : 本 LSI の状態 (表 25.7 を参照)

エラー (1 バイト) : 本 LSI のエラー発生状況 (表 25.8 を参照)

SUM (1 バイト) : サムチェック

表 25.7 ステータスの内容

コード	内 容
H'11	デバイス選択待ち
H'12	クロックモード選択待ち
H'13	新ビットレート選択待ち
H'1F	キーコード判定ステータスへの遷移待ち（新ビットレート選択完了）
H'3F	書き込み消去ホストコマンド待ち
H'4F	書き込みデータ受信待ち
H'5F	消去ブロック指定待ち

表 25.8 エラーの内容

コード	内 容
H'00	エラーなし
H'11	サムチェックエラー
H'21	デバイスコード不一致エラー
H'22	クロックモード不一致エラー
H'24	ビットレート選択不可エラー
H'25	入力周波数エラー
H'26	逡倍比エラー
H'27	動作周波数エラー
H'29	ブロック番号エラー
H'2A	アドレスエラー
H'2B	データ長エラー
H'51	消去エラー
H'52	未消去エラー
H'53	書き込みエラー
H'61	キーコード不一致エラー
H'80	コマンドエラー
H'FF	ビットレート合わせ込み確認エラー

25.5.5 書き込み／消去ホストコマンド待ち状態

表 25.9 に、書き込み／消去ホストコマンド待ち状態で使用可能なホストコマンドの一覧を示します。

表 25.9 書き込み／消去ホストコマンド

ホストコマンド名	機 能
ユーザブートマット書き込み選択	本 LSI はユーザブートマット書き込みプログラムを選択
ユーザマット書き込み選択	本 LSI はユーザマット書き込みプログラムを選択
256 バイト書き込み	256 バイト書き込み
消去選択	本 LSI は消去用プログラムを選択
ブロック消去	ブロックデータの消去
メモリリード	メモリの読み出し
ユーザブートマットサムチェック	ユーザブートマットのサムチェック
ユーザマットサムチェック	ユーザマットのサムチェック
ユーザブートマットブランクチェック	ユーザブートマットのブランクチェック
ユーザマットブランクチェック	ユーザマットのブランクチェック
リードロックビットステータス	ロックビットの読み出し
ロックビットプログラム	ロックビットの書き込み
ロックビット有効	ロックビットプロテクト有効設定
ロックビット無効	ロックビットプロテクト無効設定
ブートプログラムステータス問い合わせ	本 LSI の状態の問い合わせ

ホストが未定義のコマンドを送信した場合は、本 LSI がコマンドエラーのレスポンスを送信します。コマンドエラーの内容は、「25.5.4 問い合わせ設定ホストコマンド待ち状態」を参照してください。

ROM の書き込みを実行する場合には、ホストから書き込み選択コマンド（ユーザブートマット書き込み選択／ユーザマット書き込み選択）を送信後、256 バイト書き込みコマンドを送信します。ホストが書き込み選択コマンドを送信すると、本 LSI は書き込みデータ待ち状態になります（「25.5.2 ブートモードの状態遷移」を参照）。書き込みデータ待ちの状態、ホストが 256 バイト書き込みコマンドを送信すると、本 LSI は ROM にデータを書き込みます。ホストが書き込み先のアドレスを H'FFFFFFF に設定して 256 バイト書き込みコマンドを送信すると、本 LSI は書き込み終了と判定し、書き込み／消去ホストコマンド待ち状態に遷移します。

ROM の消去を実行する場合には、ホストから消去選択コマンドを送信後、ブロック消去コマンドを送信します。ホストが消去選択コマンドを送信すると、本 LSI は消去ブロック指定待ち状態になります（「25.5.2 ブートモードの状態遷移」を参照）。消去ブロック指定待ちの状態、ホストがブロック消去コマンドを送信すると、本 LSI は ROM をブロック消去します。ホストがブロック番号に H'FF を設定してブロック消去コマンドを送信すると、本 LSI は消去終了と判定し、書き込み／消去ホストコマンド待ち状態に遷移します。

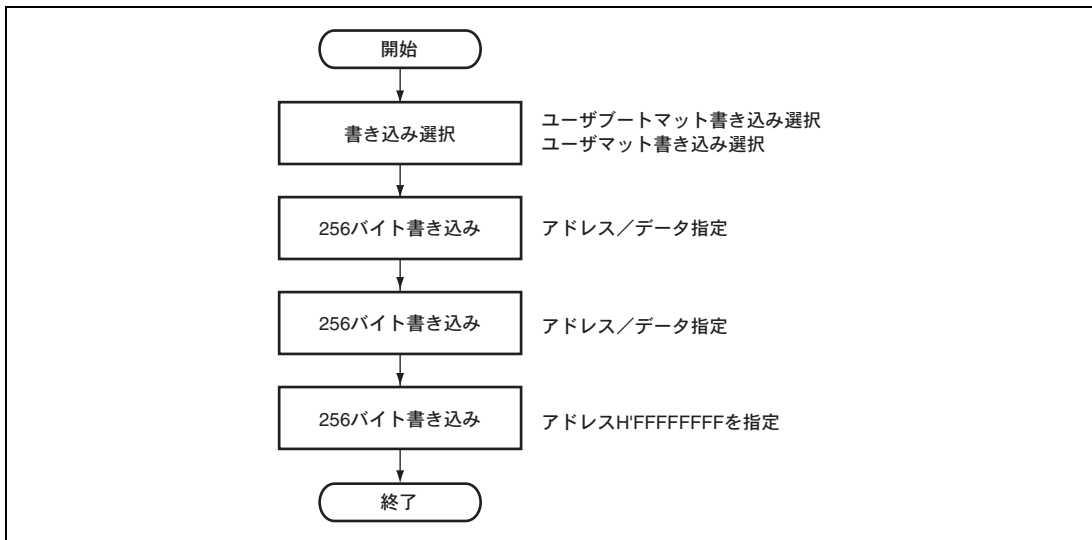


図 25.11 ブートモードでの ROM 書き込み方法

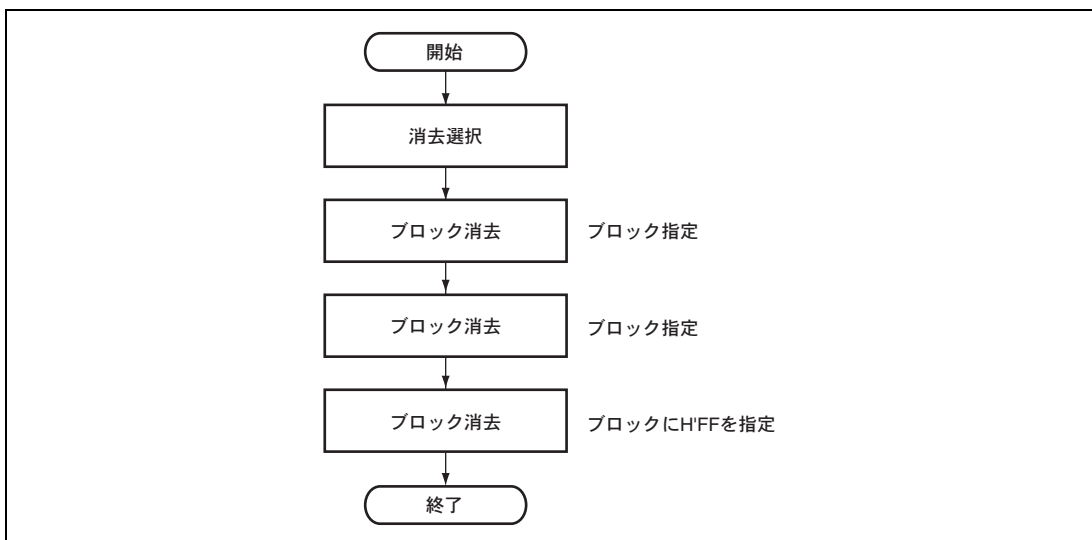


図 25.12 ブートモードでの ROM 消去方法

各ホストコマンドの詳細を以下に説明します。説明文中の「コマンド」はホストから本 LSI に送信するコマンド、「レスポンス」は本 LSI からホストに送信する応答です。「サムチェック」は、送信した各バイトを合計した場合に H'00 になるように計算されたバイトデータを指します。

(1) ユーザブートマット書き込み選択

ホストがユーザブートマット書き込み選択コマンドを送信すると、本 LSI はユーザブートマット書き込みプログラムを選択し、書き込みデータ待ち状態になります。

コマンド

H'42

レスポンス

H'06

(2) ユーザマット書き込み選択

ホストがユーザマット書き込み選択コマンドを送信すると、本 LSI はユーザマット書き込みプログラムを選択し、書き込みデータ待ち状態になります。

コマンド

H'43

レスポンス

H'06

(3) 256 バイト書き込み

ホストが 256 バイト書き込みコマンドを送信すると、本 LSI は ROM の書き込みを実行します。ROM の書き込みが正常に終了すると、本 LSI はレスポンス (H'06) を送信します。書き込み処理中にエラーが発生すると、本 LSI はエラーレスポンス (H'D0) を送信します。

コマンド	H'50	書き込みアドレス		
	データ	データ	...	データ
	SUM			
レスポンス	H'06			
エラーレスポンス	H'D0	エラー		

【記号説明】

書き込みアドレス (4 バイト) : 書き込み先のアドレス

書き込み実行時には 256 バイト境界にアラインしたアドレス

書き込み終了を指定する場合には H'FFFFFF を送信

データ (256 バイト) : 書き込みデータ

書き込み不要なバイトには H'FF を指定

書き込み終了を指定する場合にはデータの送信は不要 (書き込みアドレス→SUM の順で送信する)

SUM (1 バイト) : サムチェック

エラー (1 バイト) : エラーコード

H'11 : サムチェックエラー

H'2A : アドレスエラー (アドレスが指定のマット内でない)

H'53 : 書き込みエラーが発生して書き込めない

(4) 消去選択

ホストが消去選択コマンドを送信すると、本 LSI は消去プログラムを選択し、消去ブロック指定待ち状態になります。

コマンド	H'48
レスポンス	H'06

(5) ブロック消去

ホストがブロック消去コマンドを送信すると、本 LSI は ROM の消去を実行します。ROM の消去が正常に終了すると、本 LSI はレスポンス (H'06) を送信します。消去処理中にエラーが発生すると、本 LSI はエラーレスポンス (H'D8) を送信します。

コマンド	H'58	サイズ	ブロック	SUM
レスポンス	H'06			
エラーレスポンス	H'D8	エラー		

【記号説明】

サイズ (1 バイト) : ブロックのデータのバイト数 (固定値で 1)

ブロック (1 バイト) : 消去する消去ブロックの番号
消去終了を指定する場合には H'FF を送信

SUM (1 バイト) : サムチェック

エラー (1 バイト) : エラーコード

H'11 : サムチェックエラー

H'29 : ブロック番号エラー (ブロック番号が正しくない)

H'51 : 消去エラーが発生して消去できない

(6) メモリリード

ホストがメモリリードコマンドを送信すると、本 LSI は ROM に対するリードを実行します。正常にリードが実行された場合には、本 LSI はメモリリードコマンドで指定されたアドレスのデータを送信します。リードが実行されなかった場合には、本 LSI はエラーレスポンス (H'D2) を送信します。

コマンド	H'52	サイズ	エリア	読み出し先頭アドレス	
	読み出しサイズ			SUM	
レスポンス	H'52	読み出しサイズ			
	データ	データ	...	データ	
	SUM				
エラーレスポンス	H'D2		エラー		

【記号説明】

サイズ (1 バイト) : エリア、読み出しアドレス、読み出しサイズのデータの総バイト数

エリア (1 バイト) : 読み出し対象のマット

H'00 : ユーザブートマット

H'01 : ユーザマット

読み出し先頭アドレス (4 バイト) : 読み出し対象領域の先頭アドレス

読み出しサイズ (4 バイト) : 読み出すデータのサイズ (バイト単位)

SUM (1 バイト) : サムチェック

データ (1 バイト) : ROM から読み出したデータ

エラー（1バイト）：エラーコード

H'11：サムチェックエラー

H'2A：アドレスエラー

- ・エリアの選択でH'00、H'01以外を指定
- ・読み出し先頭アドレスが指定したマットの領域外

H'2B：サイズエラー

- ・読み出しサイズの選択でH'00を指定
- ・読み出しサイズがマットのサイズを超えている
- ・読み出し先頭アドレスと読み出しサイズから計算されたアドレスがマットの領域外

(7) ユーザブートマットサムチェック

ホストがユーザブートマットサムチェックコマンドを送信すると、本 LSI はユーザブートマットのデータをバイト単位で加算した結果（サムチェック）を送信します。

コマンド	H'4A			
レスポンス	H'5A	サイズ	マットのサムチェック	SUM

【記号説明】

サイズ（1バイト）：マットのサムチェックのバイト数（固定値で4）

マットのサムチェック（4バイト）：ユーザブートマットのサムチェック結果

SUM（1バイト）：サムチェック（レスポンスデータのサムチェック）

(8) ユーザマットサムチェック

ホストがユーザマットサムチェックコマンドを送信すると、本 LSI はユーザマットのデータをバイト単位で加算した結果（サムチェック）を送信します。

コマンド	H'4B			
レスポンス	H'5B	サイズ	マットのサムチェック	SUM

【記号説明】

サイズ（1バイト）：マットのサムチェックのバイト数（固定値で4）

マットのサムチェック（4バイト）：ユーザマットのサムチェック結果

ユーザマットにはブートモード／デバッグ機能認証用のキーコードも含まれています。加算結果にキーコード値が含まれることに注意してください。

また、4MB 分のサムチェックの結果が表示されます。本 LSI のユーザマットは 3.75MB であるため、余りの 0.25MB は、H'FF として加算された結果が表示されます。

SUM（1バイト）：サムチェック（レスポンスデータのサムチェック）

(9) ユーザブートマットブランクチェック

ホストがユーザブートマットブランクチェックコマンドを送信すると、本 LSI はユーザブートマットがすべて消去状態であるかをチェックします。ユーザブートマットがすべて消去状態であった場合には、本 LSI はレスポンス (H'06) を送信します。ユーザブートマットに未消去領域が存在した場合には、本 LSI はエラーレスポンス (H'CC→H'52) を送信します。

コマンド	H'4C	
レスポンス	H'06	
エラーレスポンス	H'CC	H'52

書き込み／消去の中断（例：リセット入力、電源瞬断）により、データが不定となった領域の書き込み／消去状態を確認するバリファイ手段はありません。したがって、不定となった領域を再度使用する場合は、消去処理を行い、完全な消去状態にしてから使用してください。

(10) ユーザマットブランクチェック

ホストがユーザマットブランクチェックコマンドを送信すると、本 LSI はユーザマットがすべて消去状態であるかをチェックします。ユーザマットがすべて消去状態であった場合には、本 LSI はレスポンス (H'06) を送信します。ユーザマットに未消去領域が存在した場合には、本 LSI はエラーレスポンス (H'CD→H'52) を送信します。

コマンド	H'4D	
レスポンス	H'06	
エラーレスポンス	H'CD	H'52

書き込み／消去の中断（例：リセット入力、電源瞬断）により、データが不定となった領域の書き込み／消去状態を確認するバリファイ手段はありません。したがって、不定となった領域を再度使用する場合は、消去処理を行い、完全な消去状態にしてから使用してください。

(11) リードロックビットステータス

ホストがリードロックビットステータスコマンドを送信すると、本 LSI はロックビットに対するリードを実行します。正常にリードが実行された場合には、本 LSI はリードロックビットステータスコマンドで指定されたアドレスのデータを送信します。リードが実行されなかった場合には、本 LSI はエラーレスポンス (HF1) を送信します。

コマンド	H'71	サイズ	エリア	中位アドレス	上位アドレス	SUM
レスポンス	ステータス					
エラーレスポンス	HF1	エラー				

【記号説明】

サイズ (1 バイト) : エリア、中位アドレス、上位アドレスのデータの総バイト数 (本 LSI では固定値で 3)

エリア (1 バイト) : 読み出し対象のマット

H'00 : ユーザブートマット

H'01 : ユーザマット

中位アドレス (1 バイト) : 指定ブロックの最後尾のアドレスの中位アドレス (8~15 ビット)

上位アドレス (1 バイト) : 指定ブロックの最後尾のアドレスの上位アドレス (16~23 ビット)

SUM (1 バイト) : サムチェック

ステータス (1 バイト) : ビット 6 が "0" でロック状態

: ビット 6 が "1" でアンロック状態

エラー (1 バイト) : エラーコード

H'11 : サムチェックエラー

H'2A : アドレスエラー (アドレスが指定のマット内でない)

(12) ロックビットプログラム

ホストがロックビットプログラムコマンドを送信すると、本 LSI はロックビットの書き込みを行い、指定ブロックをロック状態にします。正常にロックされた場合には、本 LSI はレスポンス (H'06) を送信します。ロックされなかった場合には、本 LSI はエラーレスポンス (HF7) を送信します。

コマンド	H'77	サイズ	エリア	中位アドレス	上位アドレス	SUM
レスポンス	H'06					
エラーレスポンス	HF7	エラー				

【記号説明】

サイズ (1 バイト) : エリア、中位アドレス、上位アドレスのデータの総バイト数 (本 LSI では固定値で 3)

エリア (1 バイト) : ロック対象のマット

H'00 : ユーザブートマット

H'01 : ユーザマット

中位アドレス (1 バイト) : 指定ブロックの最後尾のアドレスの中位アドレス (8~15 ビット)

上位アドレス (1 バイト) : 指定ブロックの最後尾のアドレスの上位アドレス (16~23 ビット)

SUM (1 バイト) : サムチェック

エラー (1 バイト) : エラーコード

H'11 : サムチェックエラー

H'2A : アドレスエラー (アドレスが指定のマット内がない)

H'53 : 書き込みエラーが発生しロック状態にできない

(13) ロックビット有効

ホストがロックビット有効コマンドを送信すると、本 LSI はロックビットを有効にします。

コマンド

H'7A

レスポンス

H'06

(14) ロックビット無効

ホストがロックビット無効コマンドを送信すると、本 LSI はロックビットを無効にします。

コマンド

H'75

レスポンス

H'06

(15) ブートプログラムステータス問い合わせ

詳細については「25.5.4 問い合わせ設定ホストコマンド待ち状態」を参照してください。

25.6 ユーザプログラムモード

25.6.1 FCU コマンド一覧

ユーザプログラムモードでは、FCU へ FCU コマンドを発行してユーザメモリの書き込み/消去を実行します。表 25.10 に、ROM 書き込み/消去で使用可能な FCU コマンドの一覧を示します。

表 25.10 FCU コマンド一覧 (ROM 関連)

コマンド	機能
ノーマルモード移行	ノーマルモードに遷移 (「25.6.2 FCU コマンド受け付け条件」を参照)
ステータスリードモード移行	ステータスリードモードに遷移 (「25.6.2 FCU コマンド受け付け条件」を参照)
ロックビットリードモード移行 (ロックビットリード 1)	ロックビットリードモードに遷移 (「25.6.2 FCU コマンド受け付け条件」を参照)
プログラム	ROM 書き込み (256 バイト単位)
ブロックイレーズ	ROM 消去 (ブロック単位。ロックビットも同時に消去)
P/E サスペンド	書き込み/消去の中断
P/E レジューム	書き込み/消去の再開
ステータスレジスタクリア	FSTATR0 レジスタの ILGLERR、ERSERR、PRGERR ビットのクリアとコマンドロック状態の解除
ロックビットリード 2	指定した消去ブロックのロックビット読み出し (FSTATR1 レジスタの FLOCKST ビットにロックビットを反映)
ロックビットプログラム	指定した消去ブロックのロックビットを書き込み

ロックビットリード 2/ロックビットプログラム以外の FCU コマンドは、EEPROM 書き込み/消去でも使用可能です。EEPROM に対してロックビットリード 2 コマンドを発行した場合には、EEPROM のブランクチェックが実行されます。また、EEPROM に対してロックビットプログラムコマンドを発行した場合には、不正コマンド検出によるエラーが発生します (「第 26 章 EEPROM」を参照)。

FCU へのコマンド発行は、ROM 書き込み/消去用のアドレスに対する P バスライトアクセスで実現されます。表 25.11 に FCU コマンドのフォーマットを示します。表 25.11 に示した P バスライトアクセスを特定条件下で実行すると、FCU は各コマンドに対応した処理を実行します。FCU のコマンド受け付け条件については、「25.6.2 FCU コマンド受け付け条件」を参照してください。各 FCU コマンドの使用方法については、「25.6.3 FCU コマンド使用方法」を参照してください。

FRDMD ビットが 0 (メモリ領域リードモード) で FCU コマンドの 1 サイクル目が H'71 の場合には、FCU はロックビットリードモード移行コマンド (ロックビットリード 1) を受け付けます。ロックビットリードモードに移行後に ROM 書き込み/消去用のアドレスに対して P バスリードアクセスを実行すると、アクセス先に対応する消去ブロックのロックビットが読み出しデータの全ビットにコピーされます。FRDMD ビットが 1 (レジスタリードモード) で FCU コマンドの 1 サイクル目が H'71 の場合には、FCU はロックビットリード 2 コマンドの 2 サイクル目のコマンド (H'D0) 待ちの状態になります。この状態で、ROM 書き込み/消去用のアドレスに対して P バスライトアクセスで H'D0 を書き込むと、FCU はアクセス先に対応する消去ブロックのロックビットを FSTATR1 レジスタの FLOCKST ビットにコピーします。

P/E サスペンドコマンド発行時のサスペンド動作には、サスペンド優先モードと消去優先モードがあります。各モードでの動作の詳細は「25.6.4 サスペンド動作」を参照してください。

表 25.11 FCU コマンドのフォーマット

コマンド	バス サイクル数	1 サイクル目		2 サイクル目		3 サイクル目		4~130 サイクル目		131 サイクル目	
		アドレス	データ	アドレス	データ	アドレス	データ	アドレス	データ	アドレス	データ
ノーマルモード移行	1	RA	H'FF	-	-	-	-	-	-	-	-
ステータスリードモード移行	1	RA	H'70	-	-	-	-	-	-	-	-
ロックビットリードモード移行 (ロックビットリード 1)	1	RA	H'71	-	-	-	-	-	-	-	-
プログラム	131	RA	H'E8	RA	H'80	WA	WD1	RA	WDn	RA	H'D0
ブロックイレーズ	2	RA	H'20	BA	H'D0	-	-	-	-	-	-
P/E サスペンド	1	RA	H'B0	-	-	-	-	-	-	-	-
P/E レジューム	1	RA	H'D0	-	-	-	-	-	-	-	-
ステータスレジスタクリア	1	RA	H'50	-	-	-	-	-	-	-	-
ロックビットリード 2	2	RA	H'71	BA	H'D0	-	-	-	-	-	-
ロックビットプログラム	2	RA	H'77	BA	H'D0	-	-	-	-	-	-

【記号説明】

RA : ROM 書き込み/消去用のアドレス

FENTRY0 が 1 の場合 : H'80800000~H'808FFFFFF の任意アドレス
 FENTRY1 が 1 の場合 : H'80900000~H'809FFFFFF の任意アドレス
 FENTRY2 が 1 の場合 : H'80A00000~H'80AFFFFFF の任意アドレス
 FENTRY3 が 1 の場合 : H'80B00000~H'80B3FFFF の任意アドレス
 FENTRY4 が 1 の場合 : H'80B40000~H'80B7FFFF の任意アドレス
 FENTRY5 が 1 の場合 : H'80B80000~H'80BBFFFF の任意アドレス

WA : ROM 書き込み先アドレス

書き込みデータ 256 バイトの先頭アドレス

BA : ROM 消去ブロックアドレス

対象消去ブロック内の任意アドレス (書き込み/消去用アドレスで指定)

WDn : 書き込みデータ n ワード目 (n=1~128)

25.6.2 FCU コマンド受け付け条件

FCU コマンドの受け付け可否は、FCU のモード／状態に依存します。図 25.13 に FCU のモード遷移図を示します。

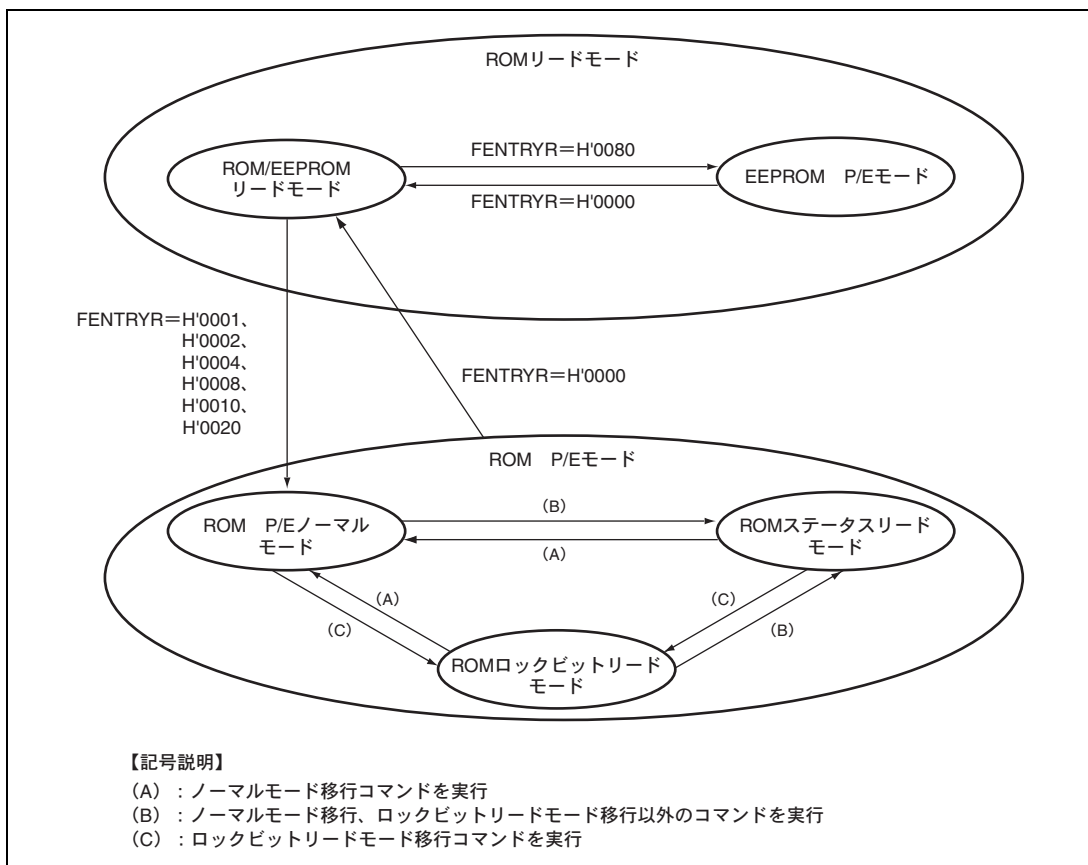


図 25.13 FCU のモード遷移図 (ROM 関連)

(1) ROM リードモード

• ROM/EEPROMリードモード

ROMキャッシュ経由でROMを、周辺バス経由でEEPROMを高速読み出し可能なモードです。FCUコマンドは受け付けられません。FENTRYRレジスタのFENTRY5～0ビットを000000、かつFENTRYDビットを0に設定した場合に、このモードに遷移します。

なお、FENTRYRレジスタのFENTRY5～0ビットを1から0に変更しROMリードモードに遷移させる場合は、FENTRY5～0ビットに0を書き込み、FENTRYRレジスタのダミーリード後、NOP命令を5個以上実行してください。

• EEPROM P/Eモード

ROMキャッシュ経由でROMを高速読み出し可能なモードです。FCUはEEPROM関連のFCUコマンドを受け付けますが、ROMに対するFCUコマンドは受け付けません。FENTRY5～0ビットを000000、かつFENTRYDビットを1に設定した場合に、このモードに遷移します。EEPROM P/Eモードの詳細は、「26.6.2 FCUコマンド受け付け条件」を参照してください。

(2) ROM P/E モード

• ROM P/Eノーマルモード

ROMリードモード時にFENTRYDビットを0、かつFENTRY5～0ビットのいずれかを1に設定した場合、またはROM P/Eモードでノーマルモード移行コマンドを受け付けた場合に遷移するモードです。表25.12に受け付け可能なコマンドを示します。ROMの高速読み出しは実行できません。FENTRY5ビットが1の状態ではH'80B80000～H'80BBFFFFFに対してPバスリードアクセスを発行した場合、FENTRY4ビットが1の状態ではH'80B40000～H'80B7FFFFFに対してPバスリードアクセスを発行した場合、FENTRY3ビットが1の状態ではH'80B00000～H'80B3FFFFFに対してPバスリードアクセスを発行した場合、FENTRY2ビットが1の状態ではH'80A00000～H'80AFFFFFFFに対してPバスリードアクセスを発行した場合、FENTRY1ビットが1の状態ではH'80900000～H'809FFFFFに対してPバスリードアクセスを発行した場合、またはFENTRY0ビットが1の状態ではH'80800000～H'808FFFFFに対してPバスリードアクセスを発行した場合には、ROMアクセス違反が発生してFCUはコマンドロック状態になります（「25.8.3 エラープロテクト」を参照）。

• ROMステータスリードモード

ROM P/Eモードでノーマルモード移行、ロックビットリードモード移行以外のコマンドを受け付けた場合に遷移するモードです。FSTATR0レジスタのFRDYビットが0の状態やエラー発生後のコマンドロック状態も、ROMステータスリードモード中の状態です。表25.12に受け付け可能なコマンドを示します。ROMの高速読み出しは実行できません。FENTRYRレジスタの値は、ROM P/Eノーマルモードと同じ値です。FENTRY5ビットが1の状態ではH'80B80000～H'80BBFFFFFに対してPバスリードアクセスを発行した場合、FENTRY4ビットが1の状態ではH'80B40000～H'80B7FFFFFに対してPバスリードアクセスを発行した場合、FENTRY3ビットが1の状態ではH'80B00000～H'80B3FFFFFに対してPバスリードアクセスを発行した場合、FENTRY2ビットが1の状態ではH'80A00000～H'80AFFFFFFFに対してPバスリードアクセスを発行した場合、FENTRY1ビットが1の状態では

H'80900000~H'809FFFFFFFに対してPバスリードアクセスを発行した場合、またはFENTRY0ビットが1の状態
でH'80800000~H'808FFFFFFFに対してPバスリードアクセスを発行した場合には、FSTATR0レジスタの値が読
み出されます。

- ROMロックビットリードモード

ROM P/Eモードでロックビットリードモード移行コマンドを受け付けた場合に遷移するモードです。表25.12
に受け付け可能なコマンドを示します。ROMの高速読み出しは実行できません。FENTRYRレジスタの値は、
ROM P/Eノーマルモードと同じ値です。FENTRY5ビットが1の状態H'80B80000~H'80BBFFFFに対してPバ
スリードアクセスを発行した場合、FENTRY4ビットが1の状態H'80B40000~H'80B7FFFFに対してPバスリ
ードアクセスを発行した場合、FENTRY3ビットが1の状態H'80B00000~H'80B3FFFFに対してPバスリード
アクセスを発行した場合、FENTRY2ビットが1の状態H'80A00000~H'80AFFFFFFFに対してPバスリードアク
セスを発行した場合、FENTRY1ビットが1の状態H'80900000~H'809FFFFFFFに対してPバスリードアクセス
を発行した場合、FENTRY0ビットが1の状態H'80800000~H'808FFFFFFFに対してPバスリードアクセスを発
行した場合には、読み出しデータの全ビットがアクセス先の消去ブロックのロックビット値になります。

表 25.12 に ROM P/E モードの各モード/状態と受け付け可能なコマンドの関係を示します。受け付け不可能な
コマンドが発行された場合には、FCU はコマンドロック状態になります(「25.8.3 エラープロテクト」を参照)。

FCU コマンドを確実に受け付けさせたい場合には、発行するコマンドを受け付け可能なモードに移行し、
FSTATR0 レジスタの FRDY、ILGLERR、ERSERR、PRGERR ビットと FSTATR1 レジスタの FCUERR、FRDTCT、
FRCRCT ビットの値を確認した後に FCU コマンドを発行してください。FASTAT レジスタの CMDLK ビットの値
は、FSTATR0 レジスタの ILGLERR、ERSERR、PRGERR と FSTATR1 レジスタの FCUERR、FRDTCT、FRCRCT
ビットの値の論理和です。このため、CMDLK ビットを確認して FCU のエラー発生状況を確認することもできま
す。次ページの表 25.12 では、エラー発生状況を表すビットに CMDLK ビットを使用しています。書き込み/消
去の処理中、書き込み/中断処理の処理中、ロックビットリード 2 処理中には FSTATR0 レジスタの FRDY ビ
ットが 0 になります。FRDY ビットが 0 の場合で P/E サスペンドコマンドが受け付け可能な状態は、FSTATR0 レジ
スタの SUSRDY ビットが 1 の場合のみです。

表 25.12 では、表を簡素化するために ERSSPD ビット、PRGSPD ビット、FRDY ビットの値を 0/1 と表記して
います。ERSSPD ビットは、消去の中断処理中の場合には 1、書き込みの中断処理中の場合には 0 になります。
PRGSPD ビットは、書き込みの中断処理中の場合には 1、消去の中断処理中の場合には 0 になります。コマンドロ
ック状態の FRDY ビットの値は、コマンドロック状態に遷移する前の FRDY ビットの値が保持されます。

表 25.12 FCU のモード/状態と受け付け可能なコマンドの関係

項 目	P/E ノーマルモード			ステータスリードモード									ロックビット リードモード		
	書き込みサスペンド中	消去サスペンド中	その他の状態	書き込み/消去の処理中	消去サスペンド中の書き込み処理中	書き込み/消去の中断処理中	ロックビットリード処理中	書き込みサスペンド中	消去サスペンド中	コマンドロック状態 (FRDY=0)	コマンドロック状態 (FRDY=1)	その他の状態	書き込みサスペンド中	消去サスペンド中	その他の状態
FSTATR0 レジスタの FRDY ビット	1	1	1	0	0	0	0	1	1	0	1	1	1	1	1
FSTATR0 レジスタの SUSRDY ビット	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
FSTATR0 レジスタの ERSSPD ビット	0	1	0	0	1	0/1	0/1	0	1	0/1	0/1	0	0	1	0
FSTATR0 レジスタの PRGSPD ビット	1	0	0	0	0	0/1	0/1	1	0	0/1	0/1	0	1	0	0
FASTAT レジスタの CMDLK ビット	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0
ノーマルモード移行	○	○	○	×	×	×	×	○	○	×	×	○	○	○	○
ステータスリードモード移行	○	○	○	×	×	×	×	○	○	×	×	○	○	○	○
ロックビットリードモード移行 (ロックビットリード1)	○	○	○	×	×	×	×	○	○	×	×	○	○	○	○
プログラム	×	△	○	×	×	×	×	×	△	×	×	○	×	△	○
ブロックイレーズ	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	○
P/E サスペンド	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
P/E レジューム	○	○	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	○	○	×
ステータスレジスタクリア	○	○	○	×	×	×	×	○	○	×	○	○	○	○	○
ロックビットリード2	○	○	○	×	×	×	×	○	○	×	×	○	○	○	○
ロックビットプログラム	×	△	○	×	×	×	×	×	△	×	×	○	×	△	○

【記号説明】

○: 受け付け可能

△: 消去中断したブロック以外への書き込みのみ受け付け可能

×: 受け付け不可能

25.6.3 FCU コマンド使用方法

FCU RAM へのファームウェア転送および FCU コマンド発行時のユーザ処理フロー例を示します。本節で紹介するフローでは、FCU コマンド発行前の FCU 状態確認は実施せず、フロー終了前にコマンド実行結果を確認している場合があります。FCU コマンドを確実に受け付けさせたい場合には、フロー開始前に FCU 状態を確認してください（「25.6.2 FCU コマンド受け付け条件」を参照）。

本節で紹介するフローでは、FSTATR0 レジスタの FRDY/ILGLERR/ERSERR/PRGERR/SUSRDY/ERSSPD/PRGSPD ビットと FSTATR1 レジスタの FCUERR/FRDTCT/FRCRCT ビットを使用して、FCU のコマンド処理状況とエラー発生状況を確認しています。FSTATR0 と FSTATR1 はワードアクセスで同時に読み出し可能であるため、1 回のレジスタアクセスで FCU の状態を確認できます。FSTATR0 レジスタの FRDY ビットと FSTATR1 レジスタの CMDLK ビットを使用して FCU の状態を確認する方法を使用する場合には、2 回のレジスタアクセスが必要になりますが、CMDLK ビットのみでエラーの有無を判定可能です。

FCU がコマンド処理中に FCUERR が 1 または FRDCLC/FRCCLC が 1 にセットされた状態で FRDTCT/FRCRCT が 1 にセットされてコマンドロック状態に遷移した場合には、FRDY ビットは 0 を保持します。コマンドロック状態では FCU の処理が停止するため、FRDY ビットが 0 から 1 にセットされることはありません。書き込み/消去時間やサスペンド遅延時間（「第 32 章 電気的特性」参照）よりも長期間にわたって FRDY が 0 に保持される場合は、コマンドロック状態で FCU の処理が停止するなどの異常動作が発生している可能性があるため、FCU リセットによって FCU を初期化してください。FRDCLC/FRCCLC が 1 にセットされた状態で FCU のコマンド処理が完了して FRDY が 1 にセットされた場合には、FCUERR と FRDTCT/FRCRCT は必ず 0 の状態です。このため、コマンド処理完了後のエラー発生状況は、ILGLERR ビット、ERSERR ビット、PRGERR ビットで確認可能です。

(1) FCU RAM へのファームウェア転送方法

FCU コマンドを使用するためには、FCU RAM に FCU 用のファームウェアを格納する必要があります。チップ起動時には FCU RAM に FCU のファームウェアが格納されていないため、FCU ファーム領域に格納された FCU ファームウェアを FCU RAM にコピーする必要があります。また、FSTATR1 レジスタの FCUERR ビットまたは FRDTCT/FRCRCT ビットが 1 の場合には、FCU RAM に格納されたファームウェアが破壊されている可能性があるため、FCU をリセットし FCU ファームを再コピーする必要があります。

図 25.14 に FCU RAM へのファームウェア転送フローを示します。FCU RAM にデータを書き込む場合には、FENTRYR レジスタを H'0000 に設定して FCU を停止してください。DMAC 設定方法の詳細は、「第 11 章 ダイレクトメモリアクセスコントローラ (DMAC)」を参照してください。

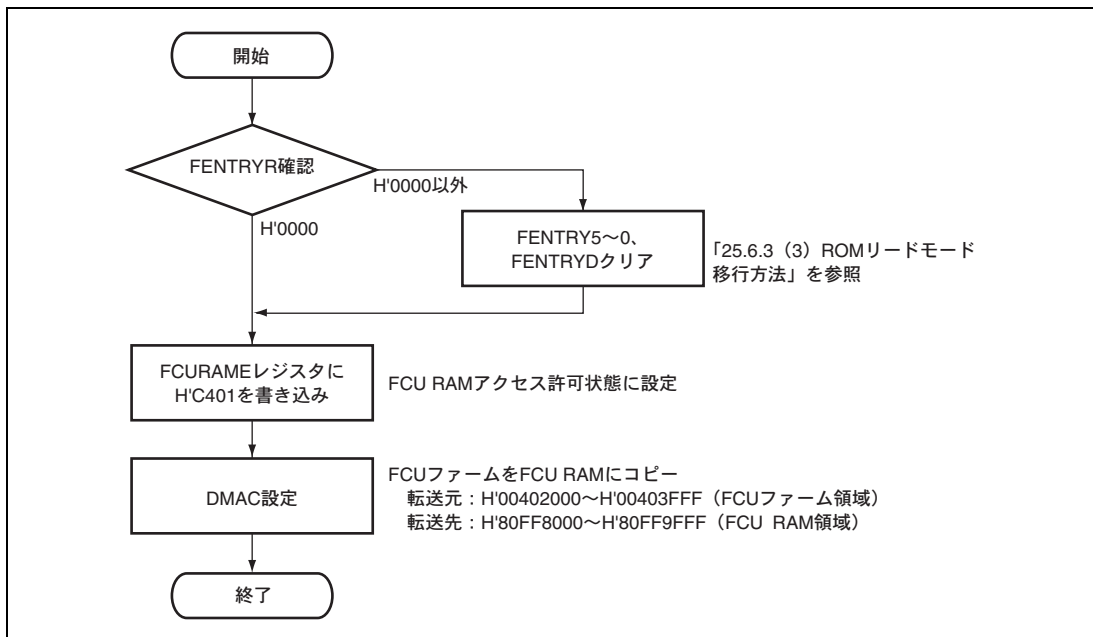


図 25.14 FCU RAM へのファームウェア転送フロー

(2) ROM P/E モード移行方法

ROM 関連の FCU コマンドを実行するためには、FENTRYR レジスタの FENTRY5~0 ビットを設定して、FCU を ROM P/E モードに設定する必要があります（「25.6.2 FCU コマンド受け付け条件」を参照）。ROM に対する FCU コマンドを使用したい場合には、対応した FENTRY5~0 ビットを 1 に設定します。FENTRY5~0 ビットの書き込み条件については、「25.3.10 フラッシュ P/E モードエントリレジスタ (FENTRYR)」を参照してください。

ROM リードモードから ROM P/E モードに移行した場合には、ROM P/E ノーマルモードになります。

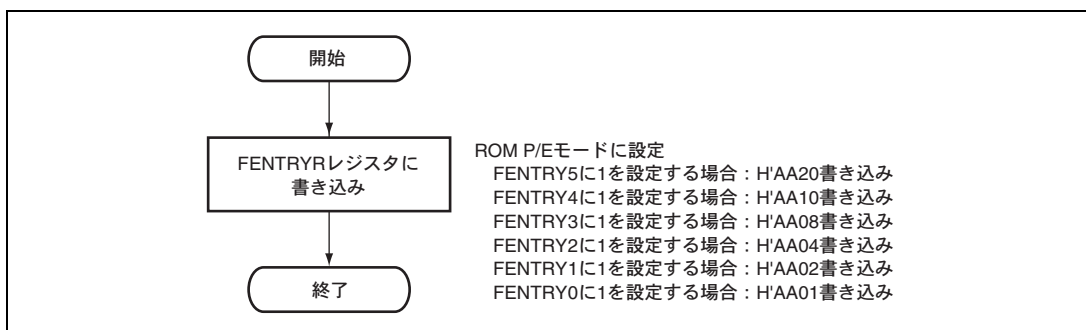


図 25.15 ROM P/E モード移行フロー

(3) ROM リードモード移行方法

ROM キャッシュ経由で ROM を高速読み出しするためには、FENTRYR レジスタの FENTRY5~0 ビットをクリアして、FCU を ROM リードモードに設定する必要があります（「25.6.2 FCU コマンド受け付け条件」を参照）。ROM P/E モードから ROM リードモードへの移行は、FCU のコマンド処理が完了し、かつ FCU がエラー検出していない状態で実施してください。

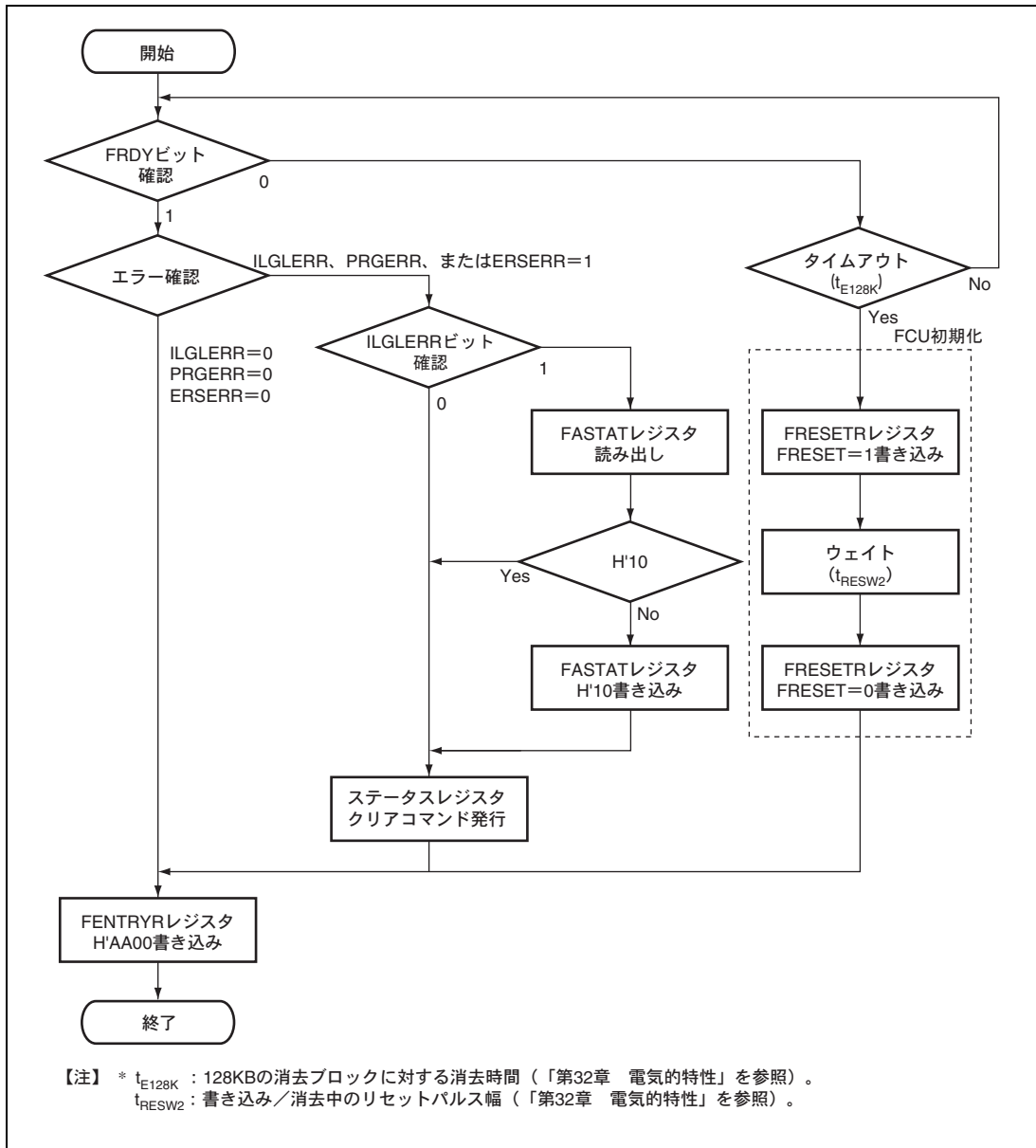


図 25.16 ROM リードモード移行フロー

(4) ROM P/E ノーマルモード移行コマンド使用方法

ROM P/E ノーマルモードへの移行方法には、ROM リードモード時に FENTRYR レジスタを設定する方法（「25.6.3 (1) FCU RAM へのファームウェア転送方法」を参照）と ROM P/E モード時にノーマルモード移行コマンドを発行する方法（図 25.17）があります。ステータスリードモード移行、ロックビットリードモード移行コマンドの使用方法もノーマルモード移行コマンドの使用方法和同様です。

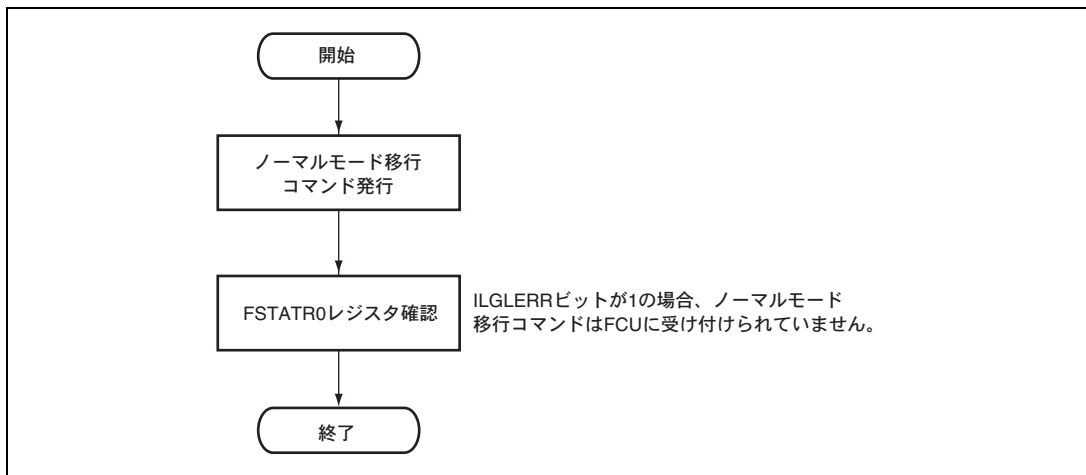


図 25.17 ROM P/E ノーマルモード移行コマンド使用方法

(5) 書き込み方法

ROM へのデータ書き込みには、プログラムコマンドを使用します。プログラムコマンドの第 1 サイクルでは H'E8 を、第 2 サイクルでは H'80 を、ROM 書き込み/消去用のアドレスにバイト書き込みします。コマンドの第 3~130 サイクルでは、ワードサイズで P バスアクセスを実行します。第 3 サイクルのアクセスでは、プログラム対象領域の先頭アドレスに対して書き込みデータを書き込んでください。この際、先頭アドレスは 256 バイト境界にアラインしたアドレスを使用してください。ROM 書き込み/消去用のアドレスに対して 127 回のワード書き込みを実行後、第 131 サイクルで ROM 書き込み/消去用のアドレスに対して H'D0 をバイト書き込みすると FCU が ROM の書き込み処理を開始します。書き込みの完了は、FSTATR0 レジスタの FRDY ビットで確認可能です。

第 1~第 131 サイクルで指定可能なアドレスは、FENTRYR レジスタの FENTRY5~0 ビットの設定によって異なります。FENTRY5 を 1 に設定した場合にはアドレス H'80B80000~H'80BBFFFF、FENTRY4 を 1 に設定した場合にはアドレス H'80B40000~H'80B7FFFF、FENTRY3 を 1 に設定した場合にはアドレス H'80B00000~H'80B3FFFF、FENTRY2 を 1 に設定した場合にはアドレス H'80A00000~H'80AFFFFF、FENTRY1 を 1 に設定した場合にはアドレス H'80900000~H'809FFFFF、FENTRY0 を 1 に設定した場合にはアドレス H'80800000~H'808FFFFF を指定可能です。誤った FENTRY5~0 ビットとアドレス指定の組み合わせでコマンドを発行した場合には、FCU はエラーを検出しコマンドロック状態になります（「25.8.3 エラープロテクト」を参照）。

第 3~第 130 サイクルでアクセスする領域に書き込み不要なアドレスが含まれる場合は、該当アドレスに対する書き込みデータを H'FFFF にしてください。ロックビットによるプロテクトを無効化して書き込みを実施したい場合には、FPROTR レジスタの FPROTCN ビットを 1 にセットしてから書き込みを行ってください。

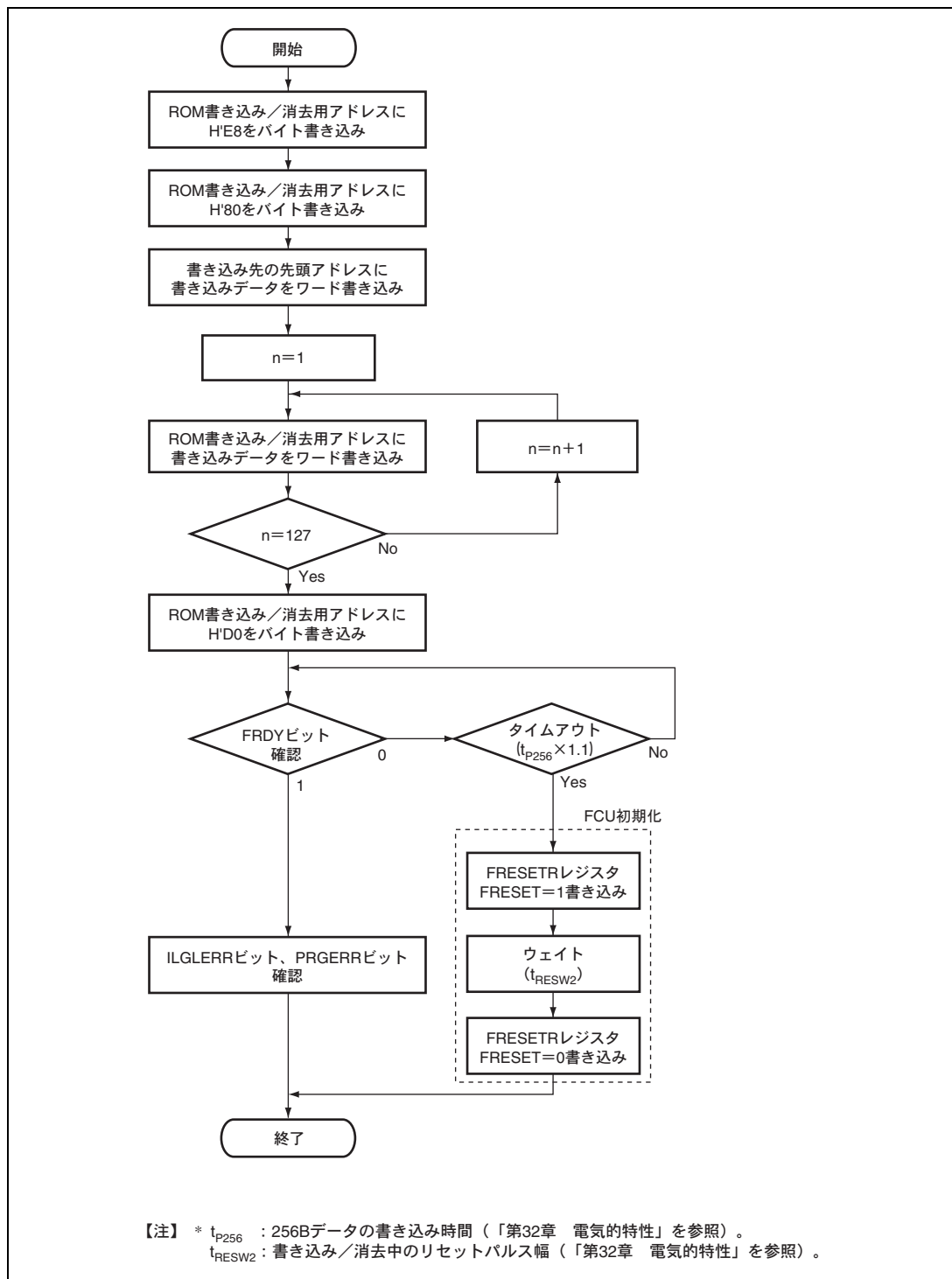


図 25.18 ROM 書き込み方法

(6) 消去方法

ROMの消去には、ブロックイレーズコマンドを使用します。ブロックイレーズコマンドの第1サイクルではH'20をROM書き込み/消去用アドレスにバイト書き込みします。第2サイクルでH'D0を消去対象ブロック内の任意アドレスにバイト書き込みするとFCUがROMの消去処理を開始します。消去の完了は、FSTATR0レジスタのFRDYビットで確認可能です。

ロックビットによるプロテクトを無効化して消去を実施したい場合には、FPROTRレジスタのFPROTCNビットを1にセットしてから消去を行ってください。

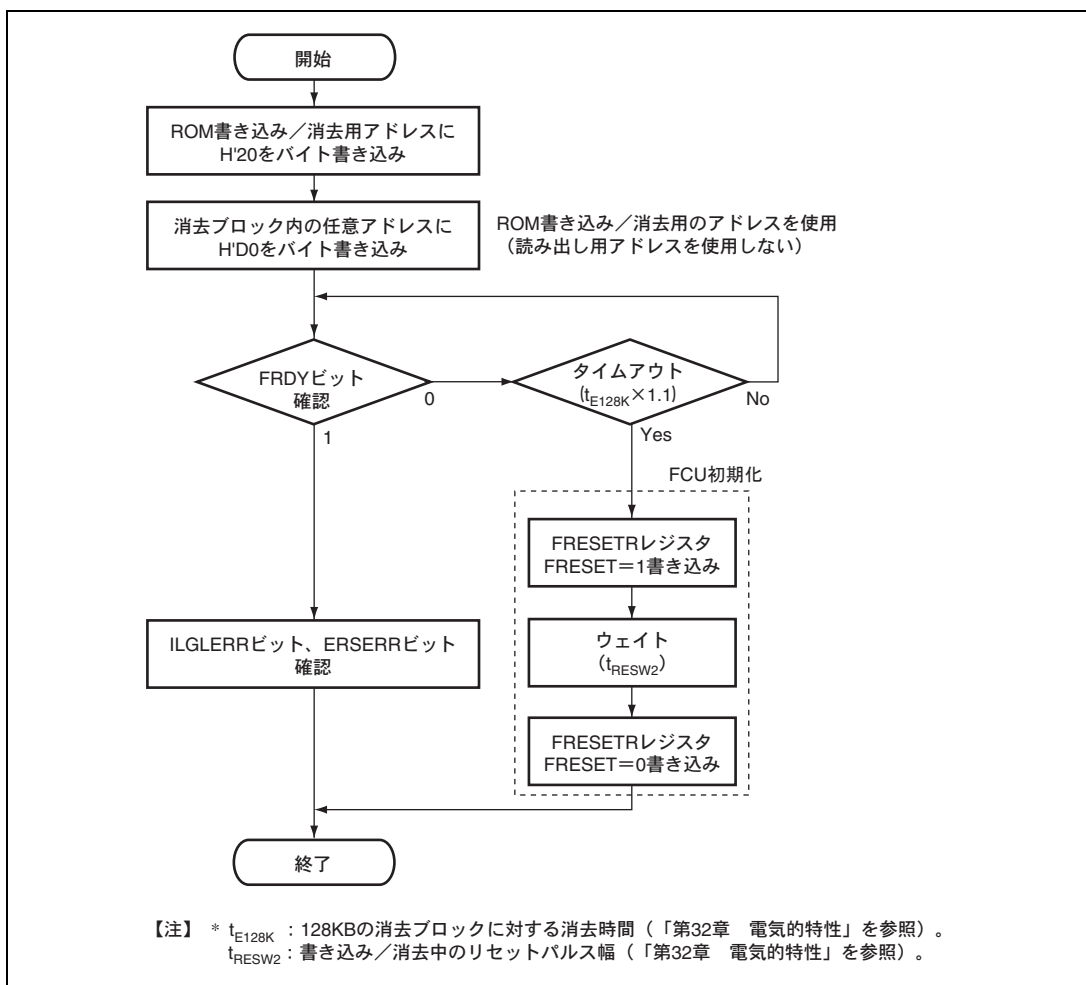


図 25.19 ROM 消去方法

(7) 書き込み/消去のサスペンド方法

ROMの書き込み/消去の中断には、P/Eサスペンドコマンドを使用します。P/Eサスペンドコマンドを発行する場合には、事前にFSTATR0レジスタのILGLERR/ERSERR/PRGERRビットとFSTATR1レジスタのFCUERR/FRDTCT/FRCRCTビットが0で書き込み/消去処理が正常に実行されていることを確認してください。また、サスペンドコマンドが受け付け可能であることを確認するために、FSTATR1レジスタのSUSRDYビットが1であることも確認してください。P/Eサスペンドコマンドの発行後は、FSTATR0レジスタとFSTATR1レジスタを読み出してエラーが発生していないことを確認してください。書き込み/消去処理中に異常が発生した場合には、ILGLERR/PRGERR/ERSERR/FCUERR/FRDTCT/FRCRCTビットのうち少なくとも1つのビットが1になります。また、SUSRDYビットが1であることを確認してからP/Eサスペンドコマンドが受け付けられるまでの間に書き込み/消去処理が完了していた場合には、発行したP/Eサスペンドコマンドが不正コマンドとして検出されるためILGLERRビットが1になります。P/Eサスペンドコマンドの受け付けと書き込み/消去処理の完了が同時であった場合には、エラーは発生せず、サスペンド状態にも遷移しません（FRDYビットが1かつERSSPDビットとPRGSPDビットが0）。P/Eサスペンドコマンドが受け付けられて、書き込み/消去の中断処理が正常に終了した場合には、FCUがサスペンド状態に遷移してFRDYビットが1かつERSSPDビットまたはPRGSPDビットが1になります。P/Eサスペンドコマンドの発行後は、サスペンド状態に遷移していることを確認した後に、後続するフローを決定してください。サスペンド状態に遷移していないにもかかわらず、後続するフローでP/Eレジュームコマンドを発行すると、不正コマンドエラーが発生しFCUがコマンドロック状態に遷移します（「25.8.3 エラープロテクト」を参照）。

消去サスペンド状態に遷移した場合には、消去対象外のブロックに対する書き込みを実行することができます。また、書き込み/消去サスペンド状態ともに、FENTRYRレジスタをクリアすることにより、ROMリードモードに遷移することも可能です。

なお、P/Eサスペンドコマンド受け付け時のFCU動作の内容については、「25.6.4 サスペンド動作」を参照してください。

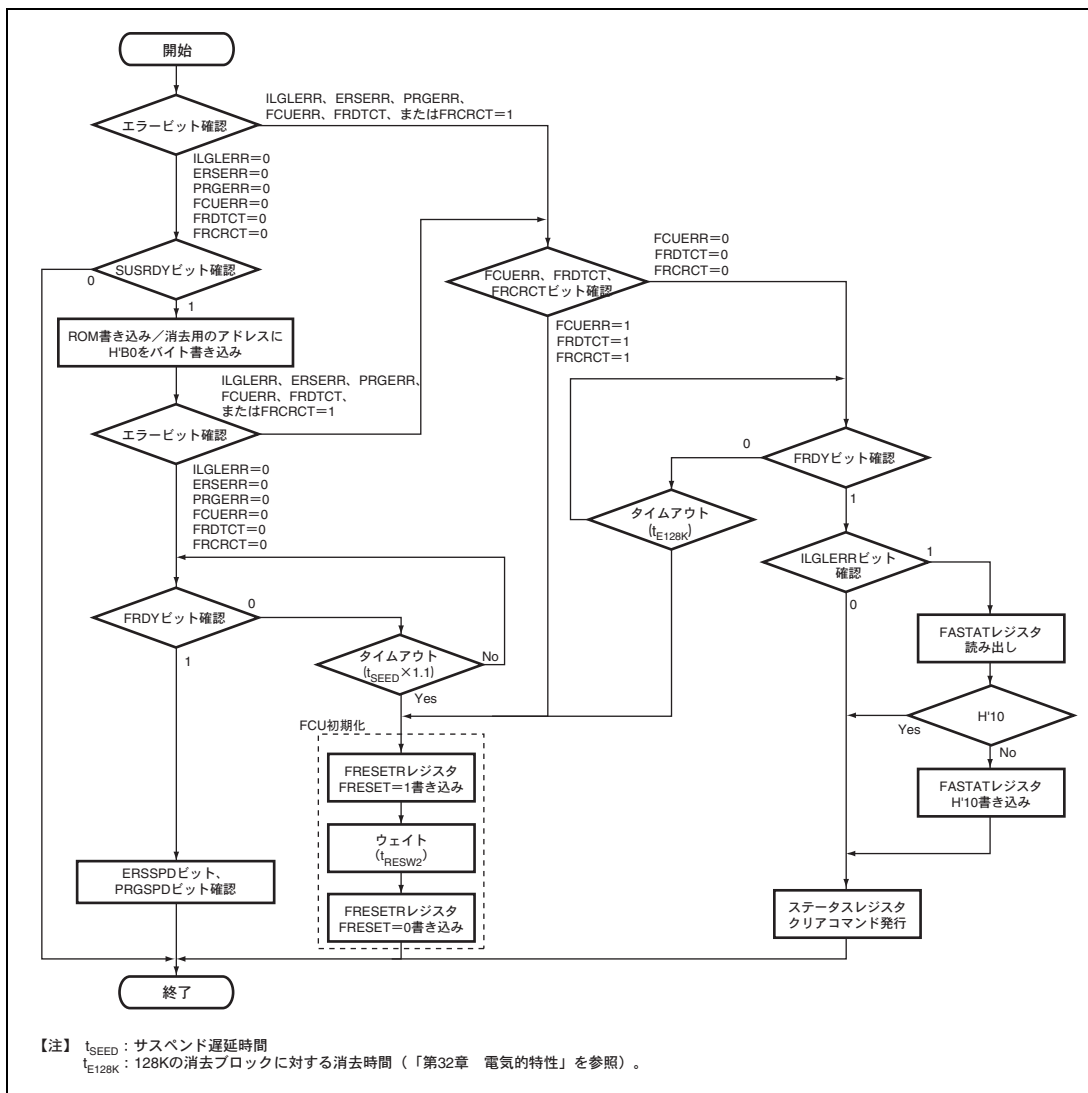


図 25.20 書き込み/消去のサスペンド方法

(8) P/E レジューム

サスペンドした書き込み/消去処理を再開したい場合には、P/E レジュームコマンドを使用します。サスペンド中に FENTRYR レジスタの設定を変更した場合には、P/E レジュームコマンドを発行する前に FENTRYR を P/E サスペンドコマンド発行直前の値に再設定してください。

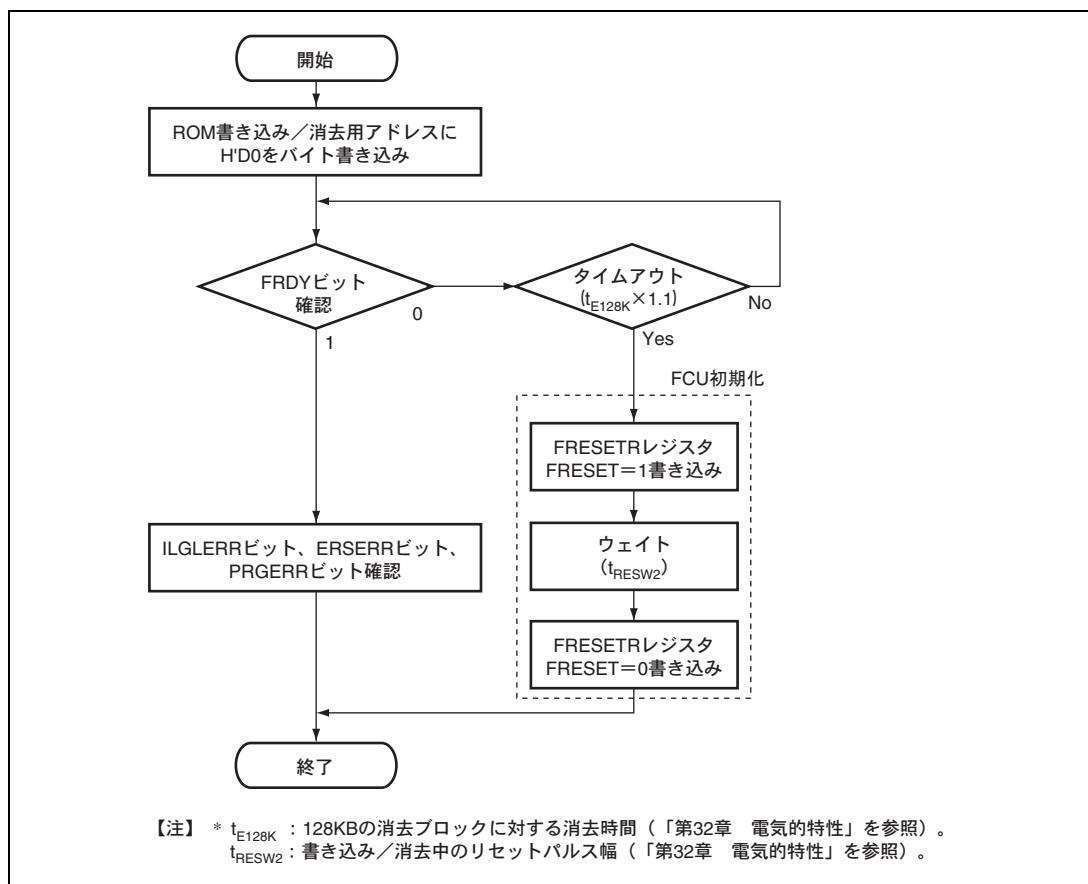


図 25.21 書き込み/消去のレジューム方法

(9) ステータスレジスタ 0 (FSTATR0) のクリア方法

FSTATR0 レジスタの ILGLERR/PRGER/ERSERR ビットをクリアしたい場合には、ステータスレジスタクリアコマンドを使用します。ILGLERR/PRGER/ERSERR ビットのいずれかが 1 である場合、FCU はコマンドロック状態になりステータスレジスタクリアコマンド以外の FCU コマンドを受け付けません。ILGLERR ビットが 1 の場合には、FASTAT レジスタの ROMAЕ、EЕPAЕ、EЕPIFE、EЕPRPE、および EЕPWPE ビットの値も確認してください。これらのビットをクリアせずにステータスレジスタクリアコマンドを発行しても、ILGLERR ビットはクリアされません。

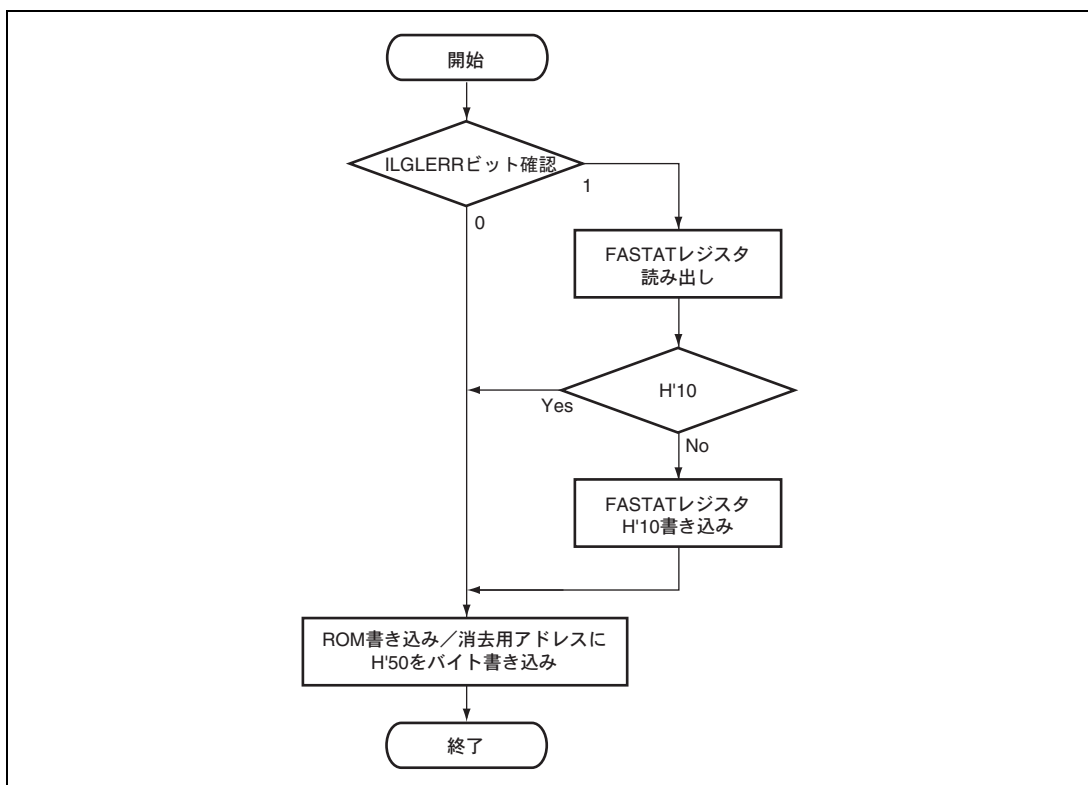


図 25.22 ステータスレジスタ 0 のクリア方法

(10) ステータスレジスタ 0 (FSTATR0) の確認方法

FSTATR0 レジスタの確認方法には、FSTATR0 を直接読み出す方法と ROM ステータスリードモードで ROM 書き込み/消去用アドレスを読み出す方法があります。ノーマルモード移行、ロックビットリードモード移行以外の FCU コマンド発行後には、FCU は ROM ステータスリードモードに遷移しています。図 25.23 の例では、ステータスリードモード移行コマンドを発行して ROM ステータスリードモードに移行し、ROM 書き込み/消去用アドレスを読み出して FSTATR0 の内容を確認しています。

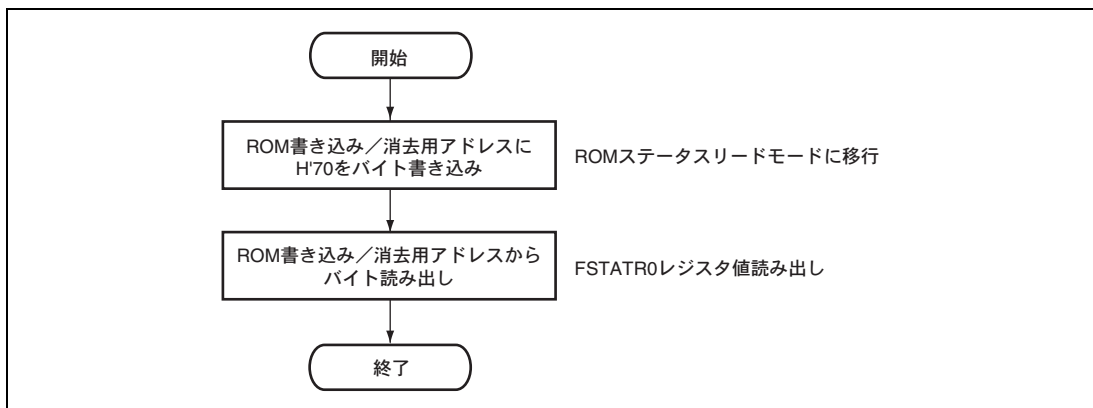


図 25.23 ステータスレジスタ 0 の確認方法

(11) ロックビットの読み出し

ユーザマットの各消去ブロックにはロックビットが内蔵されています。FPROTR レジスタの FPROTCN ビットが 0 の状態では、ロックビットが 0 に設定された消去ブロックを書き込み/消去することができません。

ロックビットの確認方法には、メモリ領域リードモードとレジスタリードモードがあります。メモリ領域リードモード（FMODR レジスタの FRDMD ビットが 0）の場合には、ROM ロックビットリードモードで ROM 書き込み/消去用のアドレスに対する読み出しを実行すると、指定した消去ブロックのロックビットが P バス読み出しデータの全ビットにコピーされます。レジスタリードモード（FMODR の FRDMD が 1）の場合には、ロックビットリード 2 コマンドを発行すると、指定した消去ブロックのロックビットが FSTATR1 レジスタの FLOCKST ビットにコピーされます。

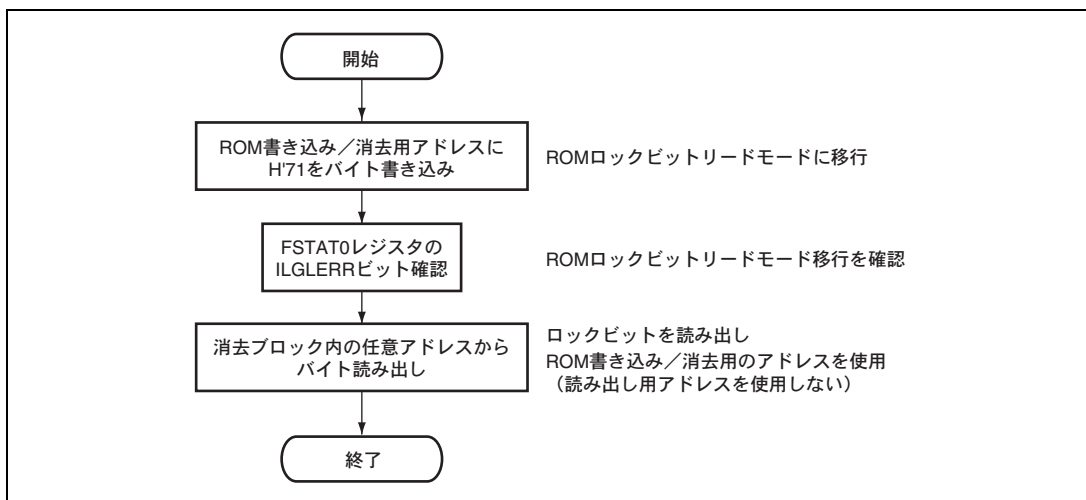


図 25.24 メモリ領域リードモードでロックビットを読み出す方法

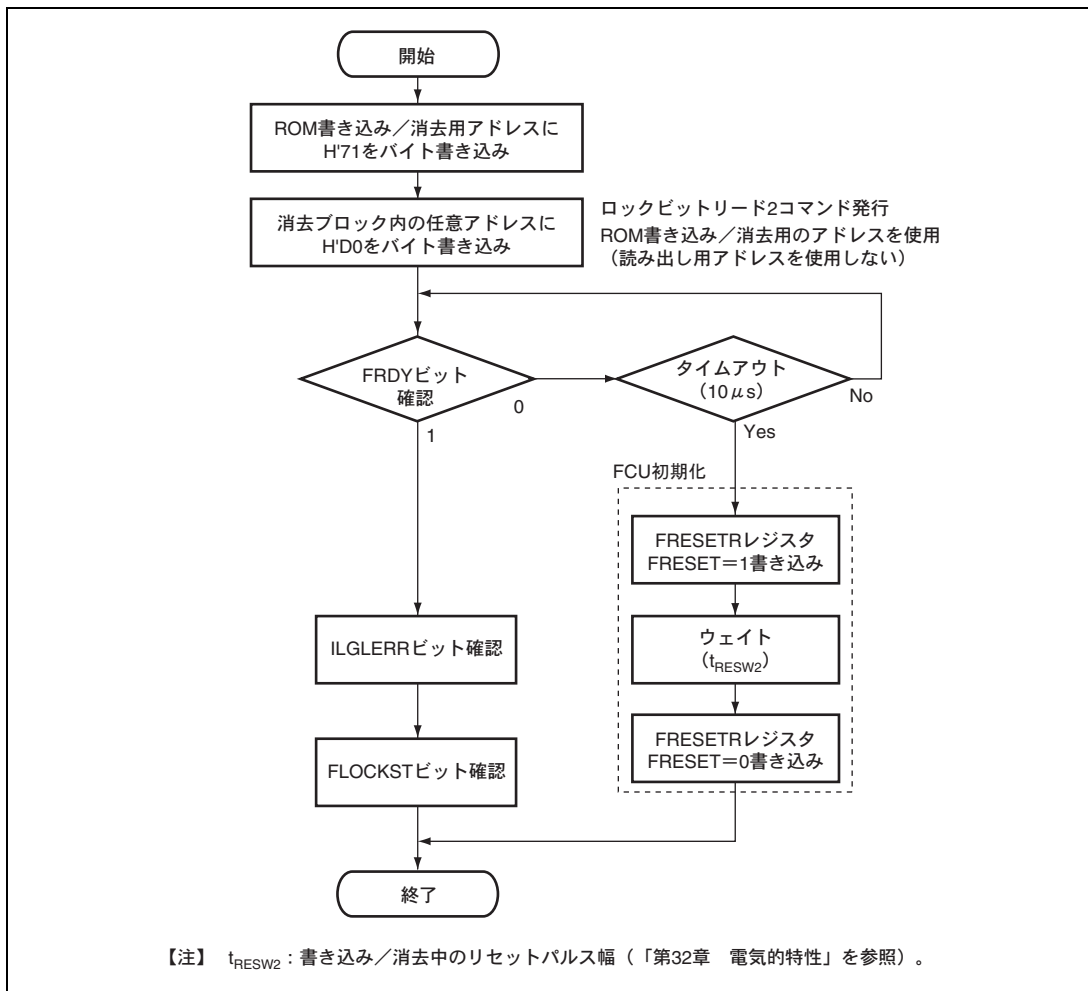


図 25.25 レジスタリードモードでロックビットを読み出す方法

(12) ロックビットの書き込み

ユーザマットの各消去ブロックにはロックビットが内蔵されています。ロックビットに書き込みを行いたい場合にはロックビットプログラムコマンドを使用します。ロックビットプログラムコマンドの第1サイクルではH'77をROM書き込み/消去用アドレスにバイト書き込みします。第2サイクルでロックビットを書き込みたい消去ブロック内の任意アドレスに対してH'D0をバイト書き込みするとFCUがロックビットの書き込み処理を開始します。書き込みの完了は、FSTATR0レジスタのFRDYビットで確認可能です。

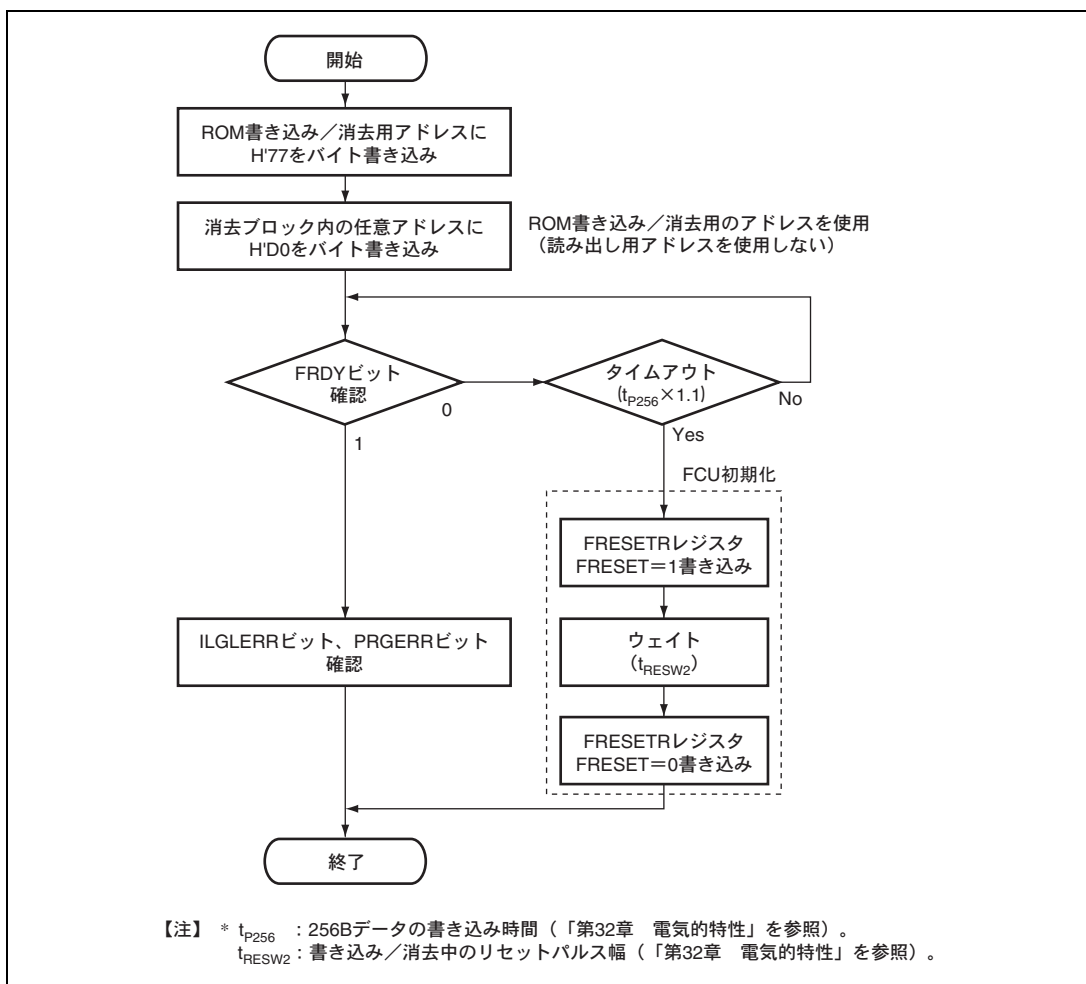


図 25.26 ロックビットのプログラム方法

ロックビットの消去には、ブロックイレーズコマンドを使用します。FPROTRレジスタのFPROTCNビットが0の状態ではロックビットが0に設定された消去ブロックを消去することができません。ロックビットを消去する場合には、FPROTCNビットを1にセットした状態でブロックイレーズコマンドを発行してください。ブロックイレーズコマンドを使用すると消去ブロック内の全データが消去されます。ロックビットのみを消去することはできません。

25.6.4 サスペンド動作

ROMの書き込み/消去中にP/Eサスペンドコマンドを発行すると、FCUは書き込み/消去処理を中断します。図25.27に書き込み処理の中断動作を示します。FCUは書き込み系のコマンドを受け付けるとFSTATR0レジスタのFRDYビットを0にクリアして書き込み処理を開始します。書き込み処理の開始後にFCUがP/Eサスペンドコマンドを受け付け可能な状態に移行すると、SUSRDYビットが1にセットされます。P/Eサスペンドコマンドが発行されると、FCUはサスペンドコマンドを受け付けてSUSRDYビットをクリアします。書き込みパルス印加中に、FCUがP/Eサスペンドコマンドを受け付けた場合には、FCUはパルスの印加を継続します。所定のパルス印加時間を経過するとFCUはパルスの印加を完了し、書き込みの中断処理を開始してPRGSPDビットを1にセットします。中断処理が完了すると、FCUはFRDYビットを1にセットして、書き込みサスペンド状態に移行します。書き込みサスペンド状態で、FCUがP/Eレジュームコマンドを受け付けた場合には、FCUはFRDYビットとPRGSPDビットを0にクリアして、書き込み処理を再開します。

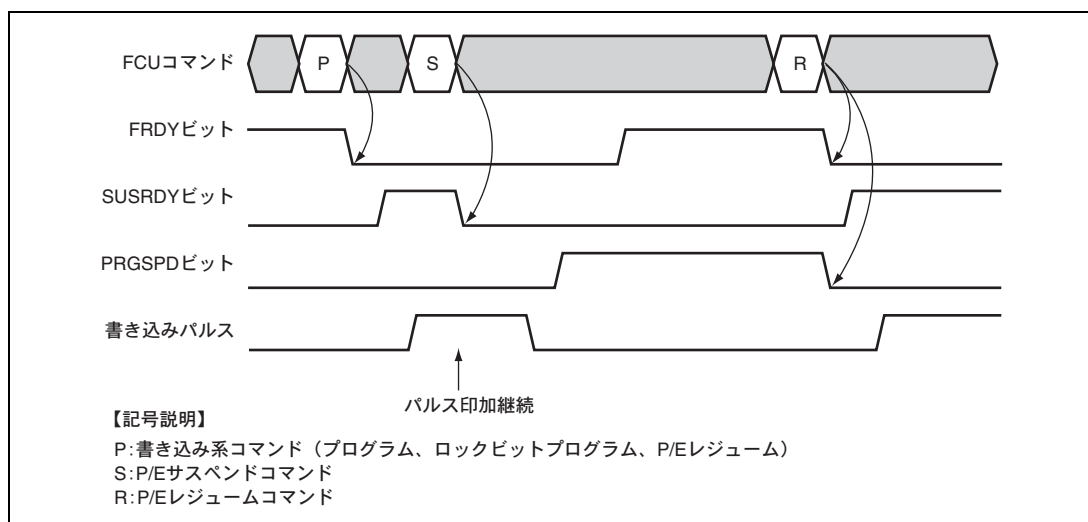


図 25.27 書き込み処理の中断動作

図25.28に消去サスペンドモードがサスペンド優先モード（FCPSRレジスタのESUSPMDビットが0）の場合の消去処理の中断動作を示します。FCUは消去系のコマンドを受け付けるとFRDYビットを0にクリアして消去処理を開始します。消去処理の開始後にFCUがP/Eサスペンドコマンドを受け付け可能な状態に移行すると、SUSRDYビットが1にセットされます。P/Eサスペンドコマンドが発行されると、FCUはサスペンドコマンドを受け付けてSUSRDYビットをクリアします。消去処理中にサスペンドコマンドを受け付けた場合には、FCUはパルス印加中でも中断処理を開始してERSSPDビットを1にセットします。中断処理が完了すると、FCUはFRDYビットを1にセットして、消去サスペンド状態に移行します。消去サスペンド状態で、FCUがP/Eレジュームコマンドを受け付けた場合には、FCUはFRDYビットとERSSPDビットを0にクリアして、消去処理を再開します。消去処理の中断/再開時のFRDYビット/SUSRDYビット/ERSSPDビット動作は、消去サスペンドモードに依存せず同様です。

消去サスペンドモードの設定は、消去パルスの制御方式に影響を与えます。サスペンド優先モードでは、過去に中断されたことのない消去パルス A を印加中に FCU が P/E サスペンドコマンドを受け付けた場合には、消去パルス A の印加を中断して消去サスペンド状態に移移します。P/E レジュームコマンドにより消去が再開され、消去パルス A を再印加している期間に、FCU が P/E サスペンドコマンドを受け付けた場合には、FCU は消去パルス A の印加を継続します。所定のパルス印加時間を経過すると、FCU は消去パルスの印加を完了して消去サスペンド状態に移移します。次に FCU が P/E レジュームコマンドを受け付けて、新たな消去パルス B の印加が開始された後に、再び FCU が P/E サスペンドコマンドを受け付けた場合には、消去パルス B の印加は中断されます。サスペンド優先モードでは、1 パルスあたり 1 回の割合で消去パルスの印加を中断してサスペンド処理を優先するため、サスペンドの遅延を小さくできる場合があります。

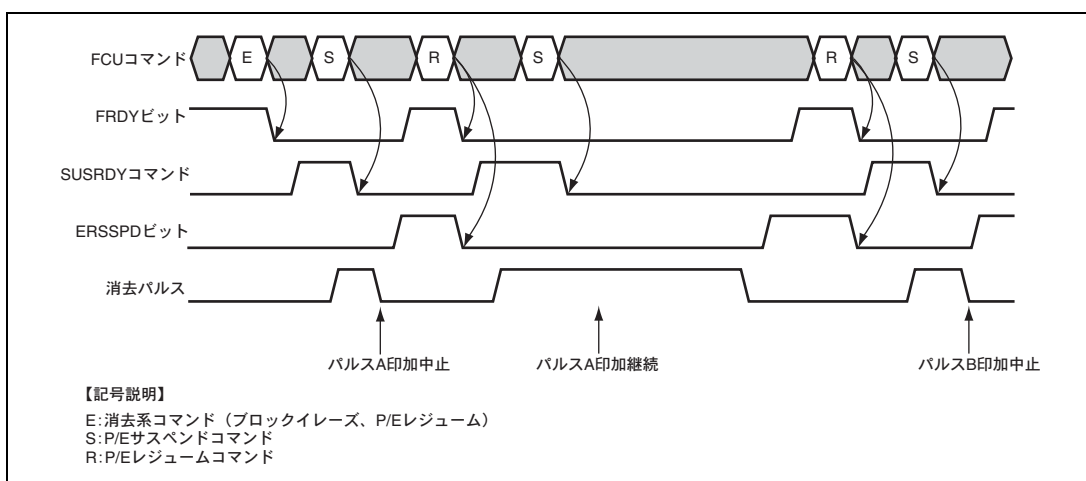


図 25.28 消去処理の中断動作 (サスペンド優先モード)

図 25.29 に消去優先モード (FCPSR レジスタの ESUSPMD ビットが 1) の場合の消去処理の中断動作を示します。消去優先モードの消去パルス制御方式は、書き込み中断処理の書き込みパルス制御方式と同様です。

FCU が消去パルス印加中に P/E サスペンドコマンドを受け付けた場合には、必ず消去パルスの印加を継続します。このモードでは消去パルスの再印加が発生しないため、サスペンド優先モードと比較して消去処理全体に必要な時間を短縮可能です。

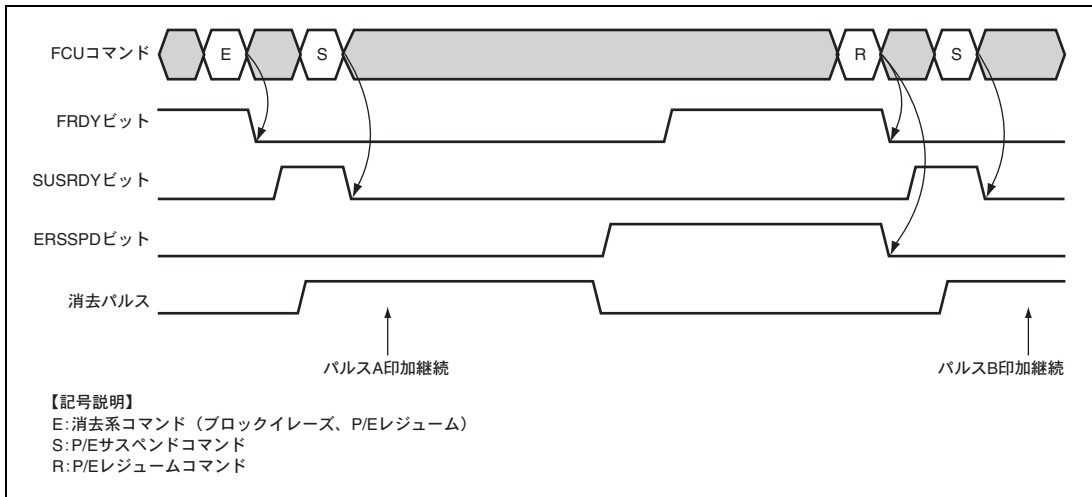


図 25.29 消去処理の中断動作 (消去優先モード)

25.7 ユーザブートモード

ユーザブートモードでは、FCUへFCUコマンドを発行してユーザマットの書き込み／消去を実行します。任意の通信インターフェースによるROMの書き込み／消去ルーチンをユーザブートマットに書き込んだ後にユーザブートモードで本LSIを起動することによって、ユーザ任意のブートモードを実現できます。ユーザブートマットの書き込みは、ブートモードで実施してください。

25.7.1 ユーザブートモードの起動シーケンス

本LSIをユーザブートモードで起動すると、組み込みプログラム格納マットから起動して、FCU RAMへのFCUファーム転送などの処理を実施後、ユーザブートマットのリセットベクタにジャンプします。図25.30にブートシーケンスの概要を示します。

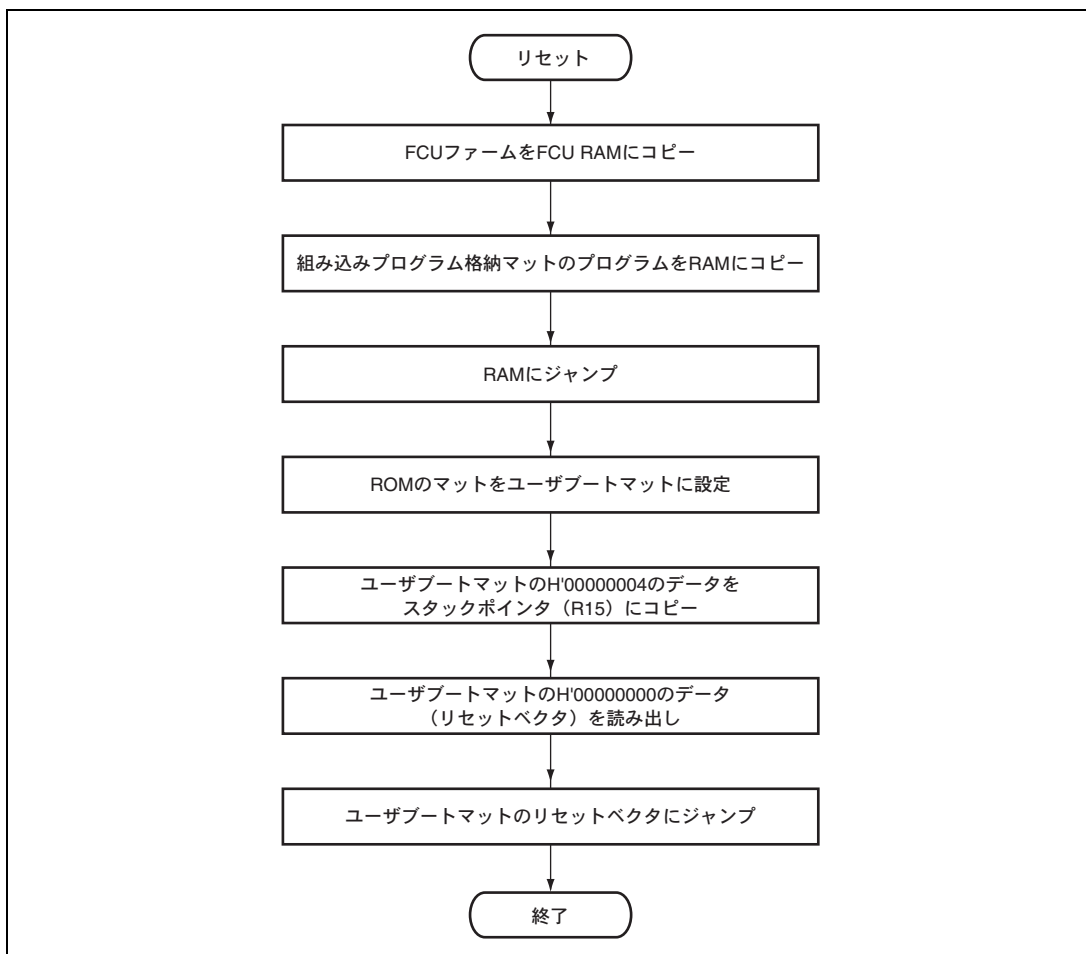


図 25.30 ユーザブートモードのブートシーケンス概要

25.7.2 ユーザマットのプログラミング方法

ユーザブートマットにユーザが作成したユーザマット書き込み/消去ルーチンを格納した状態で、本 LSI をユーザブートモードで起動することにより、ユーザマットのプログラミングを実施することができます。ユーザマット書き込み/消去ルーチンは、RAM にコピーした後に RAM 上で実行してください。ユーザブートモードの初期状態ではユーザブートマットが選択されていますので、必ず ROM のマットをユーザマットに切り替えてからプログラミングを実行してください。ユーザブートマット選択状態で ROM の書き込み/消去用の FCU コマンドを発行しても、FCU は ROM の書き込み/消去を実行しません。図 25.31 にユーザマットのプログラミング用のフロー例を示します。

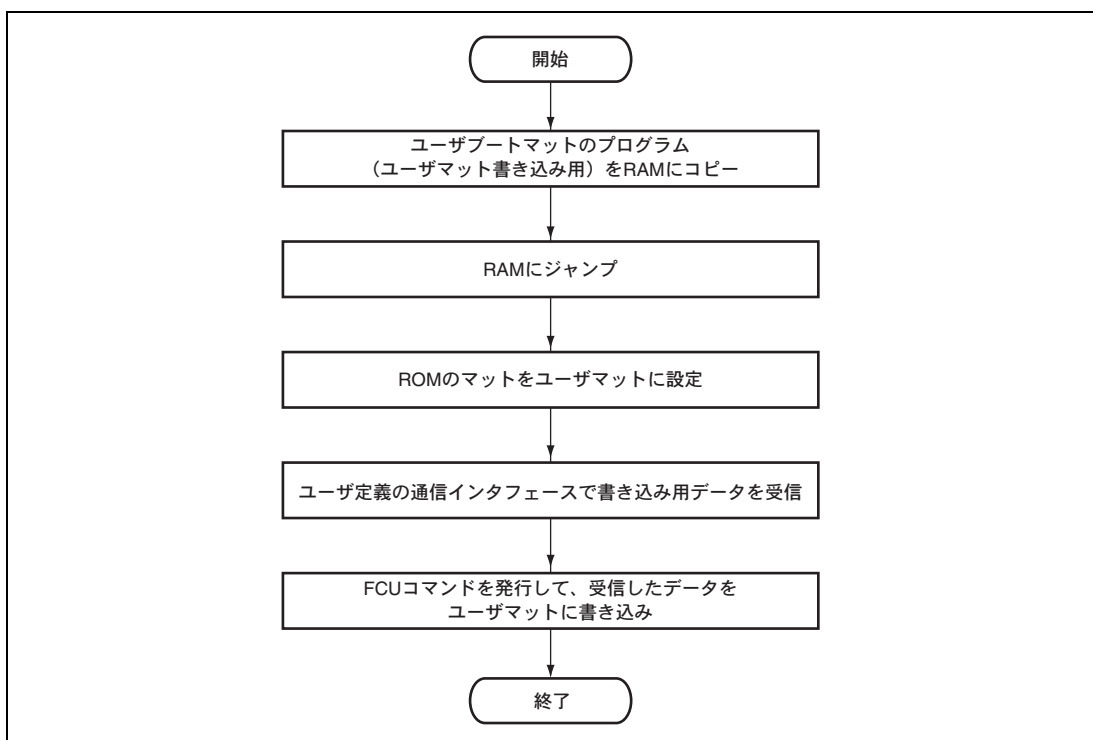


図 25.31 ユーザマットのプログラミング例

25.8 プロテクト

ROM に対する書き込み／消去のプロテクトには、ハードウェアプロテクト、ソフトウェアプロテクト、エラープロテクトの 3 種類があります。

25.8.1 ハードウェアプロテクト

ハードウェアプロテクトは、チップ端子の設定によって ROM に対する書き込み／消去が禁止された状態です。

(1) FWE 端子によるプロテクト

FWE 端子にローレベルが入力されている状態では、FPMON レジスタの FWE ビットが 0 になります。FWE ビットが 0 の場合には、FENTRYR レジスタの FENTRY5~0 ビットに 1 を書き込みません。ROM P/E モードに移行できないため、ROM の書き込み／消去が禁止された状態になります。

FRDY ビットが 1 かつ FWE 端子がローレベルの状態では、FCU は FENTRY5~0 ビットをクリアして ROM の書き込み／消去を禁止します。FWE 端子をローレベルに変更した時点で FSTATR0 レジスタの FRDY ビットが 0 の場合には、FCU はコマンド処理を継続します。コマンド処理を継続している状態でも、FCU は P/E サスペンドを受け付け可能です。書き込み／消去を再開する場合には、FENTRY5~0 ビットをクリア前の設定値に再設定して P/E レジュームコマンドを発行してください。

FWE 端子によるプロテクトに違反して、ROM に対する書き込み／消去系コマンドを発行した場合には、FCU がエラーを検出してコマンドロック状態になります。

(2) モード端子によるプロテクト

内蔵 ROM が無効な設定の場合には、ROM の書き込み／消去／読み出しが禁止された状態になります。本 LSI の動作モードと端子設定の関係は「**第 3 章 動作モード**」を参照してください。ユーザブートモード／ユーザプログラムモードの場合には、ユーザブートマットの書き込み／消去は禁止された状態になります。

25.8.2 ソフトウェアプロテクト

ソフトウェアプロテクトは、制御レジスタ設定やユーザマットのロックビット設定によってROMに対する書き込み/消去が禁止された状態です。ソフトウェアプロテクトに違反して、ROMに対する書き込み/消去系コマンドを発行した場合には、FCUがエラーを検出してコマンドロック状態になります。

(1) FENTRYRによるプロテクト

FENTRYRレジスタのFENTRY5ビットが0の場合には、ROM 0.25MB（読み出し用アドレス：H'00380000～H'003BFFFF、書き込み/消去用アドレス：H'80B80000～H'80BBFFFF）はROMリードモードになります。FENTRY4ビットが0の場合には、ROM 0.25MB（読み出し用アドレス：H'00340000～H'0037FFFF、書き込み/消去用アドレス：H'80B40000～H'80B7FFFF）はROMリードモードになります。

FENTRY3ビットが0の場合には、ROM 0.25MB（読み出し用アドレス：H'00300000～H'0033FFFF、書き込み/消去用アドレス：H'80B00000～H'80B3FFFF）はROMリードモードになります。FENTRY2ビットが0の場合には、ROM 1MB（読み出し用アドレス：H'00200000～H'002FFFFF、書き込み/消去用アドレス：H'80A00000～H'80AFFFFF）はROMリードモードになります。FENTRY1ビットが0の場合には、ROM 1MB（読み出し用アドレス：H'00100000～H'001FFFFF、書き込み/消去用アドレス：H'80900000～H'809FFFFF）はROMリードモードになります。FENTRY0ビットが0の場合には、ROM 1MB（読み出し用アドレス：H'00000000～H'000FFFFF、書き込み/消去用アドレス：H'80800000～H'808FFFFF）はROMリードモードになります。ROMリードモードではFCUコマンドが受け付けられないため、ROMの書き込み/消去は禁止状態になります。ROMリードモードでFCUコマンドを発行すると、FCUはイリーガルコマンドエラーを検出してコマンドロック状態になります（「25.8.3 エラープロテクト」を参照）。

(2) ロックビットによるプロテクト

ユーザマットの各消去ブロックにはロックビットが内蔵されています。FPROTRレジスタのFPROTCNビットが0の場合には、ロックビットが0に設定された消去ブロックに対する書き込み/消去は禁止状態になります。ロックビットが0に設定された消去ブロックを書き込み/消去したい場合には、FPROTCNビットを1に設定してください。ロックビットによるプロテクトに違反して、ROMに対する書き込み/消去系コマンドを発行すると、FCUは書き込み/消去エラーを検出してコマンドロック状態になります（「25.8.3 エラープロテクト」を参照）。

25.8.3 エラープロテクト

エラープロテクトは、FCUコマンドの誤発行/禁止アクセスの発生/FCUの誤動作を検出してFCUコマンドの受け付けを禁止する状態（コマンドロック状態）です。FCUをコマンドロック状態にすることにより、ROMの書き込み/消去が禁止されます。コマンドロック状態を解除するためには、FASTATレジスタがH'10の状態ですテータスレジスタクリアコマンドを発行する必要があります。

FAEINTレジスタのCMDLKIEビットが1の場合には、FCUがコマンドロック状態（FASTATレジスタのCMDLKビットが1）になるとフラッシュインタフェースエラー（FIFE）割り込みが発生します。また、FAEINTレジスタのROMAEINTが1の場合には、FASTATレジスタのROMAEビットが1になるとFIFE割り込みが発生します。

表 25.13 に ROM 専用および ROM と EEPROM 共通のエラープロテクト内容とエラー検出後のステータスビッ

ト値 (FSTATR0 レジスタの IGLERR/ERSERR/PRGERR ビット、FSTATR1 レジスタの FCUERR/FRDTC/FRRCCT ビット、FASTAT レジスタの ROMAE ビット) の関係を示します。書き込み/消去処理中にサスペンド以外のコマンドが発行されてコマンドロック状態に遷移した場合には、FCU は書き込み/消去処理を継続します。この状態で P/E サスペンドコマンドを発行して書き込み/消去を中断することはできません。コマンドロック状態でコマンドが発行された場合には、ILGLERR ビット値は 1 になり、その他のビットの値は以前のエラー検出時に設定された値を保持します。

表 25.13 エラープロテクト一覧

分類	内 容	ILGLERR	ERSERR	PRGERR	FCUERR	FRDTC	FRRCCT	ROMAE
FENTRYR 設定エラー	FENTRYR レジスタに H'0001、H'0002、H'0004、H'0008、H'0010、H'0020、H'0080 以外の値を設定	1	0	0	0	0	0	0
	サスペンド時とレジューム時で FENTRYR レジスタ設定が不一致	1	0	0	0	0	0	0
不正コマンドエラー	FCU コマンドの 1 サイクル目で未定義コードを指定	1	0	0	0	0	0	0
	複数サイクルの FCU コマンドの最終サイクルで HD0 以外を指定	1	0	0	0	0	0	0
	書き込み/消去処理中にサスペンド以外のコマンドを発行	1	0	0	0	0	0	0
	書き込み/消去以外の処理中にサスペンドコマンドを発行	1	0	0	0	0	0	0
	サスペンド状態でサスペンドコマンドを発行	1	0	0	0	0	0	0
	サスペンド以外の状態でレジュームコマンドを発行	1	0	0	0	0	0	0
	書き込みサスペンド状態で書き込み/消去系 (プログラム/ロックビットプログラム/ブロックイレーズ) コマンドを発行	1	0	0	0	0	0	0
	消去サスペンド状態でブロックイレーズコマンド発行	1	0	0	0	0	0	0
	消去サスペンド状態で消去サスペンド対象領域へのプログラム/ロックビットプログラムコマンドを発行	1	0	0	0	0	0	0
	プログラムコマンドの 2 サイクル目で H'80 以外を指定	1	0	0	0	0	0	0
	コマンドロック状態でコマンド発行	1	0/1	0/1	0/1	0/1* ¹	0/1* ²	0/1
消去エラー	消去処理中のエラー発生	0	1	0	0	0	0	0
	FPROTR レジスタの FPROTCN ビットが 0 の場合に、ロックビットが 0 に設定された消去ブロックにブロックイレーズコマンドを発行	0	1	0	0	0	0	0
書き込みエラー	書き込み処理中のエラー発生	0	0	1	0	0	0	0
	FPROTR レジスタの FPROTCN ビットが 0 の場合に、ロックビットが 0 に設定された消去ブロックに対してプログラム/ロックビットプログラムコマンドを発行	0	0	1	0	0	0	0
FCU エラー	FCU 内部の CPU 処理でエラー発生	0	0	0	1	0	0	0
FCU RAM ECC エラー	FCU RAM 読み出し時に 1 ビット誤り訂正発生	0	0	0	0	0	1	0
	FCU RAM 読み出し時に 2 ビット誤り検出発生	0	0	0	0	1	0	0

分類	内 容	ILGLERR	ERSERR	PRGERR	FCUERR	FRDTCT	FRCRCT	ROMAE
ROM アクセス違反	FENTRY5=1 かつ ROM P/E ノーマルモードの場合に、H'80B80000～H'80BBFFFF に対するリードアクセスを発行。	1	0	0	0	0	0	1
	FENTRY4=1 かつ ROM P/E ノーマルモードの場合に、H'80B40000～H'80B7FFFF に対するリードアクセスを発行。	1	0	0	0	0	0	1
	FENTRY3=1 かつ ROM P/E ノーマルモードの場合に、H'80B00000～H'80B3FFFF に対するリードアクセスを発行。	1	0	0	0	0	0	1
	FENTRY2=1 かつ ROM P/E ノーマルモードの場合に、H'80A00000～H'80AFFFFF に対するリードアクセスを発行。	1	0	0	0	0	0	1
	FENTRY1=1 かつ ROM P/E ノーマルモードの場合に、H'80900000～H'809FFFFF に対するリードアクセスを発行。	1	0	0	0	0	0	1
	FENTRY0=1 かつ ROM P/E ノーマルモードの場合に、H'80800000～H'808FFFFF に対するリードアクセスを発行。	1	0	0	0	0	0	1
	FENTRY5=0 で H'80B80000～H'80BBFFFF に対するアクセスを発行	1	0	0	0	0	0	1
	FENTRY4=0 で H'80B40000～H'80B7FFFF に対するアクセスを発行	1	0	0	0	0	0	1
	FENTRY3=0 で H'80B00000～H'80B3FFFF に対するアクセスを発行	1	0	0	0	0	0	1
	FENTRY2=0 で H'80A00000～H'80AFFFFF に対するアクセスを発行	1	0	0	0	0	0	1
	FENTRY1=0 で H'80900000～H'809FFFFF に対するアクセスを発行	1	0	0	0	0	0	1
	FENTRY0=0 で H'80800000～H'808FFFFF に対するアクセスを発行	1	0	0	0	0	0	1
	FENTRYR レジスタが H'0000 以外の状態で、H'00000000～H'003BFFFF に対してリードアクセスを発行	1	0	0	0	0	0	1
	ユーザブートマット選択時に ROM 書き込み/消去系コマンド（プログラム/ロックビットプログラム/ブロックイレーズ）を発行	1	0	0	0	0	0	1
	ユーザブートマット選択時に ROM 書き込み/消去用アドレス H'80800000～H'80807FFF 以外に対するアクセスを発行	1	0	0	0	0	0	1

【注】 *1 FRAMECCR の FRDCLE ビットが 1 にセットされていた場合

*2 FRAMECCR の FRCCLC ビットが 1 にセットされていた場合

25.9 使用上の注意事項

25.9.1 ユーザマットとユーザブートマットの切り替え

ユーザマットとユーザブートマットは同じアドレス領域に配置されています。内部バスの状態によってROM領域アクセスに要するサイクル数が異なるため、マット切り替え時にROM領域をアクセスした場合に常に同一のマットが使用されるとは限らないことに注意してください。また、ROMキャッシュ機能が有効な場合には、マット切り替え後もROMキャッシュ内にマット切り替え前のデータが格納されているため、同一アドレスの異なるマットをアクセスした場合にキャッシュヒットする可能性があることに注意してください。これらの注意事項に関連した誤動作を回避するために、マット切り替え前後に以下の処理を実施してください。

1. マット切り替え前に割り込み設定を変更

マット切り替え時の割り込み発生によるROM領域へのアクセスを回避する方法には、CPUのベクタベースレジスタ（VBR）の設定によって割り込みベクタのフェッチ先をROM領域以外に設定する方法と割り込みをマスクする方法があります。本LSI内部ではNMI割り込みをマスクすることができないため、割り込みをマスクする方法を採用する場合には、マット切り替え時にNMI割り込みが発生しないようにシステムを構成してください。

2. マット切り替え処理はROM領域以外のプログラムで実施

マット切り替え時にROM領域に対するCPUの命令フェッチを発生させないために、マット切り替え処理はROM領域以外の領域で実行してください。

3. ROMMATレジスタのダミーリード

ROMMATレジスタをライトしてマットを切り替えた後にROMMATレジスタをダミーリードして、レジスタ値の書き換えを完了させてください。

4. マット切り替え時にROMキャッシュをフラッシュ

RCCRレジスタのRCFビットに1を書き込んでROMキャッシュの全ラインをフラッシュしてください（「第27章 ROMキャッシュ（ROMC）」を参照）。

5. NOP命令を5個以上実行

ROMMATレジスタのダミーリード後、NOP命令を5個以上実行してください。

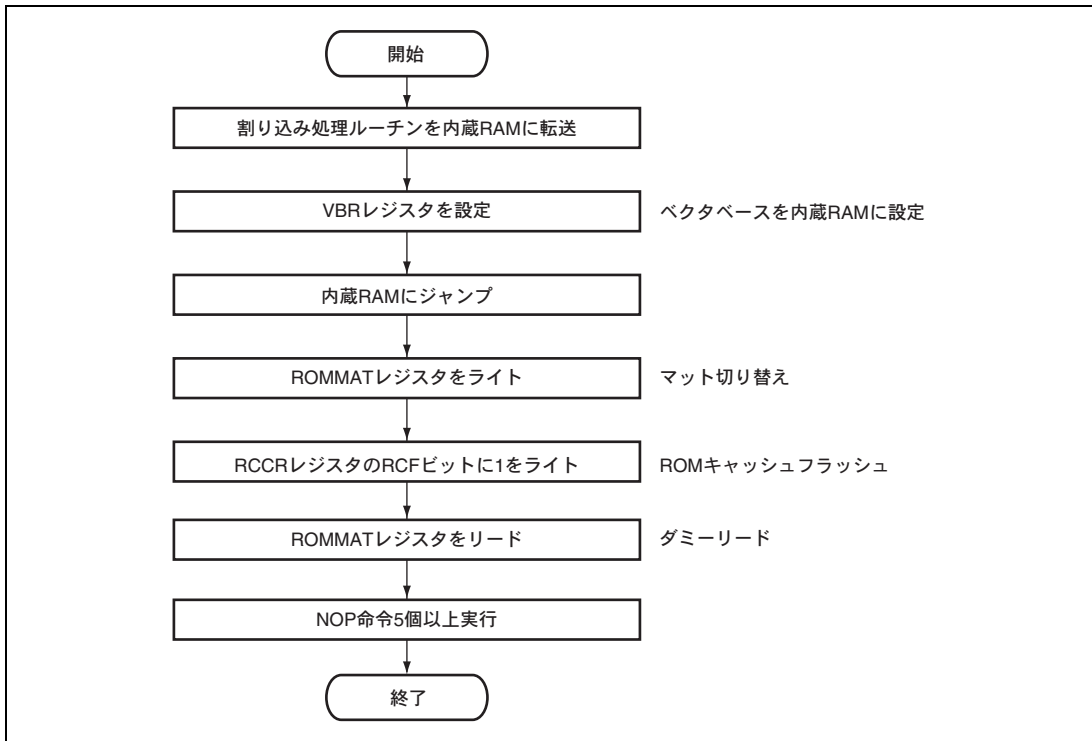


図 25.32 マット切り替え処理例

25.9.2 その他のご注意

(1) AUD 動作不可状態、割り込み無視状態

以下の状態では、AUD はモジュールスタンバイ状態となり動作しません。また、NMI やマスクブル割り込みが発生しても無視されます。

- ブートモード動作中
- ユーザブートモード起動直後で、組み込みプログラム格納マットのプログラムを処理中

(2) キーコード格納領域

ユーザマットの H'00000060~H'00000067 の領域には、ブートモードの認証とオンチップデバッグを使用した場合のデバッグ機能認証用のキーコードを格納します。ブートモード機能およびデバッグ機能を制限したい場合には、この領域にキーコードを書き込んでください。デバッグでキーコードを設定した場合には、この領域にキーコードが書き込まれていますので、サムチェックなどの実行時には注意してください。

(3) 書き込み/消去サスペンド対象領域

書き込み/消去サスペンド中の領域の格納データは不定です。不定データの読み出しが原因で発生する誤動作を回避するために、書き込み/消去サスペンド対象領域の命令実行や、データ読み出しが発生しないように注意してください。

ROM キャッシュのプリフェッチによって、書き込み/消去サスペンド対象領域に対する命令フェッチが発生しないようにするために、書き込み/消去サスペンド対象領域の先頭アドレスから 32 バイト以内の領域から命令をフェッチしないように注意してください。

ROM キャッシュのプリフェッチでは、分岐命令の分岐先へのアクセスも実行されます。分岐先が書き込み/消去サスペンド対象領域に該当する可能性がある場合には、ROM キャッシュのプリフェッチ機能を無効化してください。

(4) 従来の F-ZTAT SH マイコンとの書き込み/消去プログラムの互換性

従来の F-ZTAT SH マイコンで使用していたフラッシュメモリの書き込み/消去プログラムは、本 LSI では動作しません。

(5) FWE 端子の状態

書き込み/消去処理中に FWE 端子の値が変化しないように注意してください。FWE 端子値がローレベルになった場合でも処理中の書き込み/消去は継続されますが、処理完了後に FENTRYR レジスタがクリアされます。FENTRYR レジスタを再設定せずに新たな FCU コマンドを発行すると、FCU が ROM アクセス違反を検出してコマンドロック状態に移移します。

(6) 書き込み/消去中のリセット

書き込み/消去処理中に FRESETR レジスタの FRESET ビットをセットして FCU をリセットする場合には、FCU のリセット状態を t_{RESW2} （「第 32 章 電気的特性」を参照）保持してください。書き込み/消去中の ROM には高電圧が印加されているため、メモリに印加された電圧の降下に必要な期間を確保するために FCU のリセット状態を保持する必要があります。FCU をリセットしている期間は ROM の読み出しを行わないでください。

書き込み/消去処理中に \overline{RES} 端子のアサートによってパワーオンリセットを発生させた場合には、リセット期間を t_{RESW2} （「第 32 章 電気的特性」を参照）保持してください。パワーオンリセットでは、メモリに印加された電圧の降下に必要な期間だけでなく、ROM 用電源の初期化や ROM 内部回路の初期化に必要な期間を確保する必要があります。FCU のリセットよりも長期間のリセット状態の保持が必要になります。

書き込み/消去処理中には、WDT のカウンタのオーバフローによる内部リセットは発生しないようにしてください。WDT によるリセットでは、メモリ電圧の降下/ROM 用電源の初期化/ROM 内部の初期化に必要な期間を確保することができません。

書き込み/消去処理中に、 \overline{RES} 端子のアサートによるパワーオンリセット、または FRESETR レジスタの FRESET ビットをセットしての FCU リセットを実行すると、書き込み/消去対象領域の全データは不定となります。

(7) 追加書き込み禁止

同一領域に 2 回以上の書き込みを行うことはできません。書き込み済みの領域を書き換えたい場合には、必ず該当領域を消去してください。

(8) 書き込み/消去サスペンドによる中断

書き込み/消去サスペンドコマンドによって書き込み/消去処理を中断した場合は、必ずレジュームコマンドにより動作を完了させてください。

(9) 書き込み/消去中の電源切断

書き込み/消去処理中に電源を切断しないでください。

書き込み/消去中の ROM には高電圧が印加されているため、メモリに印加された電圧の降下に必要な期間を確保する必要があります。そのため、止むを得ず電源が遮断される場合でも、 \overline{HSTBY} 端子のアサートによってハードウェアスタンバイ状態にして、スイッチオフ時の V_{CC} と PV_{CC} のホールド時間 t_{VCC} （「第 32 章 電気的特性」を参照）を確保してから電源が切断されるように、システム設計を行ってください。

(10) FRDCLC ビットの 0 設定禁止

FSTATR1 の FRDTCT ビットが 1 にセットされた場合、FCU のコマンド処理の動作を保証できません。したがって、FRDTCT ビットが 1 にセットされたら必ずコマンドロック状態にさせるため、FRAMECCR の FRDCLC ビットを 0 に設定しないでください。

(11) ROM リードモード遷移時の注意事項

FENTRYR レジスタの FENTRY5~0 ビットを 1 から 0 に変更し ROM リードモードに遷移させる場合は、FENTRY5~0 ビットに 0 を書き込み、FENTRYR レジスタのダミーリード後、NOP 命令を 5 個以上実行してください。

26. EEPROM

本 LSI は、128KB のデータ格納用のフラッシュメモリ（EEPROM）を内蔵しています。EEPROM の特長を以下に示します。

26.1 特長

- フラッシュメモリマット

EEPROMには、同一アドレス空間に配置される2種類のメモリ空間（以下メモリマットと呼びます）があり、制御レジスタを使用したバンク切り替えでマットを切り替えることができます。製品情報マット選択時の場合でも、H'80100080～H'8011FFFF領域を読み出すとデータマットの内容が読み出されます。製品情報マットは書き込み／消去できません。

データマット：128KB

製品情報マット：128バイト

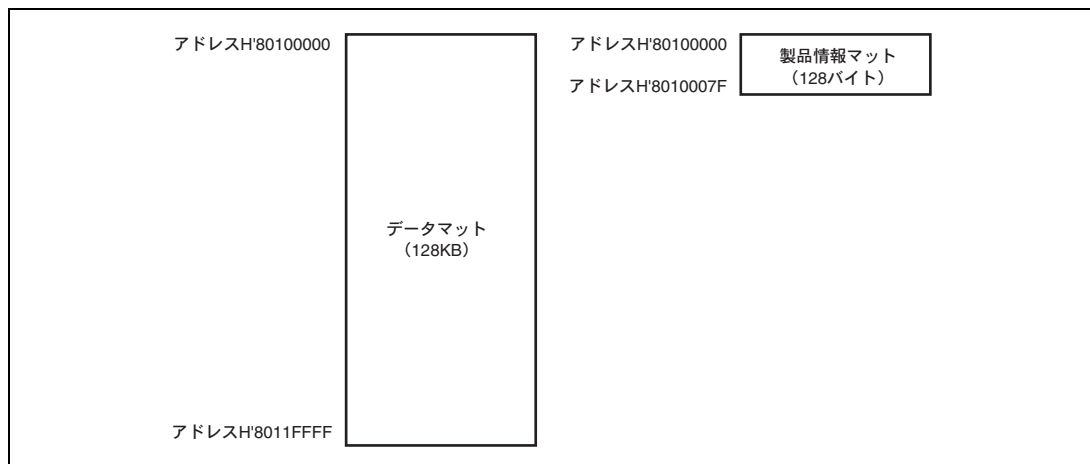


図 26.1 EEPROM のメモリマット構成

- 周辺バス（Pバス）経由で読み出し可能

データマット、製品情報マットともに、周辺クロック（Pφ）が16～20MHzの場合、ワード、バイトアクセス時には3Pφサイクル、ロングワードアクセス時には5Pφサイクルで、Pバス経由の読み出しが可能です。周辺クロック（Pφ）が32～40MHzの場合、ワード、バイトアクセス時には4Pφサイクル、ロングワードアクセス時には7Pφサイクルで、Pバス経由の読み出しが可能です。

- 書き込み／消去方式

周辺バス（Pバス）経由でROM／EEPROM専用のシーケンサ（FCU）にコマンドを発行することにより、データマットの書き込み／消去を実行可能です。FCUがデータマットの書き込み／消去を実行している期間でも、CPUはROM／RAM／外部アドレス空間の領域に配置したプログラムを実行可能です。FCUがROM／データマットの書き込み／消去を実行している期間に、データマットを読み出すことはできません。FCUによるデータマット書き込み／消去動作を中断してCPUでデータマットを読み出した後、データマット書き込み／消去を再開することは可能です。消去を中断した場合には、中断した消去の対象ではない領域に書き込みを実施することも可能です。

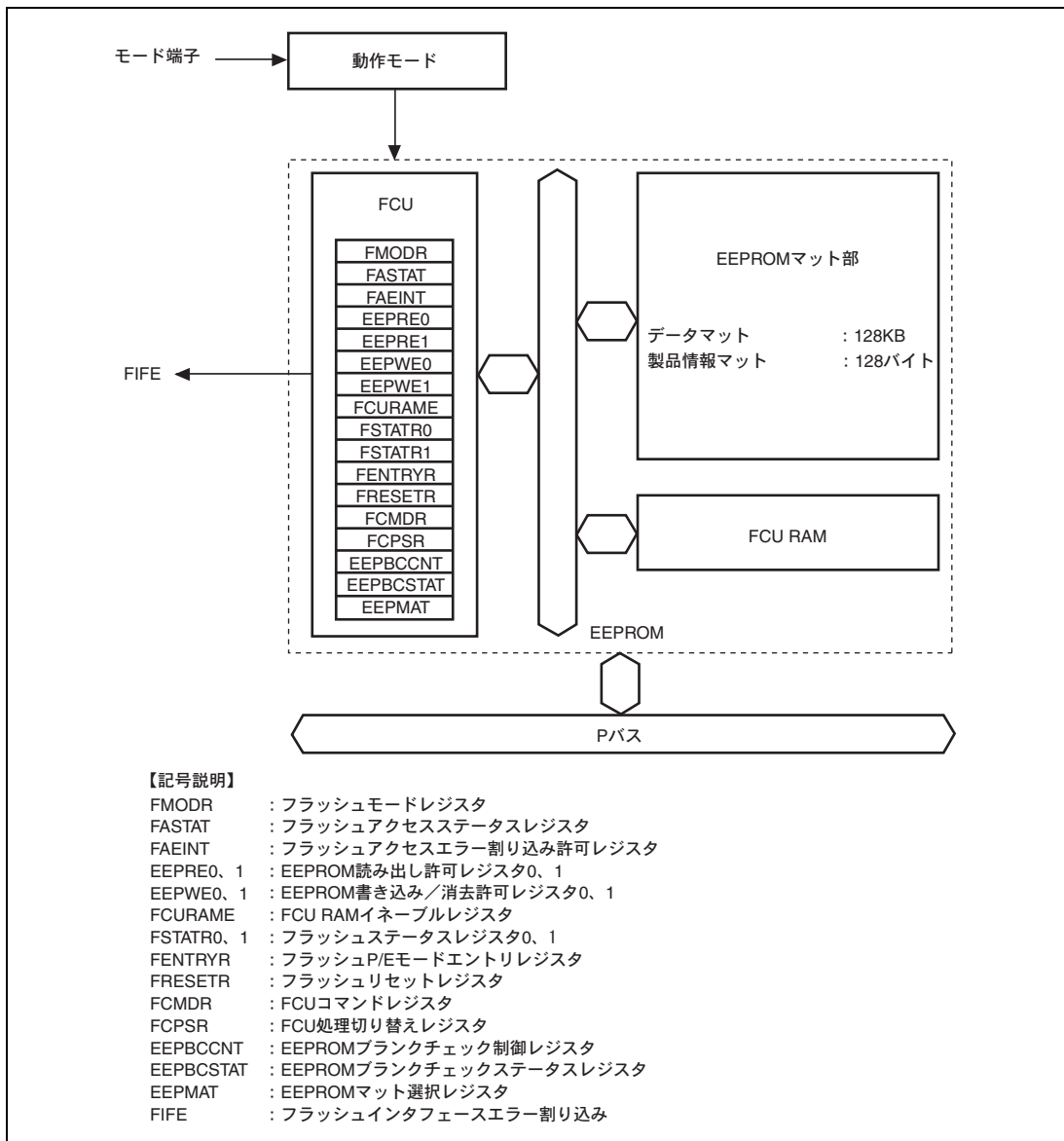


図 26.2 EEPROM のブロック図

- 書き込み/消去単位

ユーザモード/ユーザプログラムモード/ユーザブートモードでのデータマットの書き込み単位は8バイトまたは128バイト、消去単位はブロック単位（8KB）です。ブートモードでのデータマット書き込み単位は256バイト、消去単位はブロック単位（8KB）です。製品情報マットは読み出し専用で、書き込み/消去はできません。図26.3に本LSIのデータマットのブロック分割を示します。データマットは、8KB（16ブロック：DB00～DB15）に分割されています。

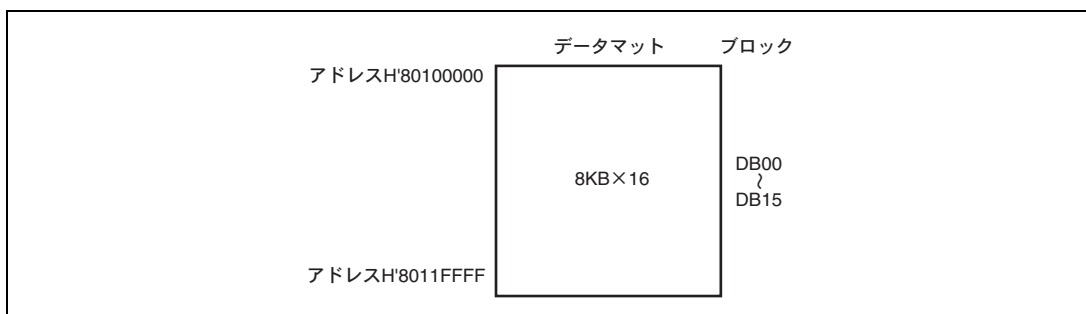


図 26.3 データマットのブロック分割

- ブランクチェック機能

消去状態のEEPROMをCPUから読み出すと不定データが読み出されます。FCUのブランクチェックコマンドを使用すると、EEPROMが消去状態（ブランク状態）であるかどうかを確認することができます。1回のブランクチェックコマンドで確認可能な領域のサイズは8Kバイト（1消去ブロック）または8バイトです。

ブランクチェックは、正常に消去が完了した領域に対し、消去状態を確認する機能です。書き込み/消去が中断（例：リセット入力、電源瞬断）された場合は、ブランクチェックによる消去状態の確認はできません。

- オンボードプログラミングモード（3種類）

ブートモード：SCIを使用してデータマットを書き換え可能なプログラムモードです。ホストと本LSI間のSCI通信のビットレートは自動調整可能です。

ユーザモード/ユーザプログラムモード：任意のインタフェースで、データマットを書き換え可能なプログラムモードです。ユーザモードは、内蔵ROMが有効なMCU拡張モード/MCUシングルチップモード（モード2/モード3）です。

ユーザブートモード：任意のインタフェースで、データマットを書き換え可能なプログラムモードです。ユーザブートモードへの遷移にはリセット起動が必要です。

- プロテクトモード

モード端子によるハードウェアプロテクトとFENTRYDビット／EEPWE0、1レジスタ／EEPWE0、1レジスタによるソフトウェアプロテクトの2種類のプロテクトモードがあり、書き込み／消去／読み出しに対するプロテクト状態を設定することができます。FENTRYDビットはFCUによるデータマツ書き込み／消去処理の許可／禁止を制御するためのビットです。EEPWE0、1レジスタはデータマツの各ブロックの読み出しプロテクトを制御するためのレジスタです。EEPWE0、1レジスタはデータマツの各ブロックの書き込み／消去プロテクトを制御するためのレジスタです。

書き込み／消去中に異常動作を検出した場合、書き込み／消去処理を中断する機能もあります。また、CPUがEEPROM領域から命令をフェッチした場合、読み出しプロテクトする機能もあります。

- 書き込み時間／消去時間／書き換え回数

「第32章 電氣的特性」を参照してください。

26.2 入出力端子

表 26.1 に EEPROM 関連の入出力端子を示します。MD4～MD0 端子の組み合わせによって、EEPROM のプログラミングモードを決定します（「26.4 EEPROM 関連モード概要」を参照）。ブートモード時には、PJ6/RxD_A、PJ5/TxD_A にホストを接続して EEPROM を書き込み／消去することが可能です（「26.5 ブートモード」を参照）。

表 26.1 端子構成

名称	端子名	入出力	機能
パワーオンリセット	$\overline{\text{RES}}$	入力	この端子がローレベルになるとパワーオンリセット状態になります。
モード設定	MD4～MD0	入力	動作モードを決定します。
SCI チャンネル A 受信データ	PJ6/RxD_A	入力	SCI チャンネル A の受信データ（ホスト通信用）
SCI チャンネル A 送信データ	PJ5/TxD_A	出力	SCI チャンネル A の送信データ（ホスト通信用）

26.3 レジスタの説明

表 26.2 に EEPROM 関連のレジスタを示します。一部のレジスタは ROM 関連のビットも持ちますが、本章では EEPROM 機能に関連するビットの説明のみ記載しています。ROM/EEPROM 共用ビットのみで構成されるレジスタ (FCURAME、FSTATR0、FSTATR1、FRESETR、FCMDR、FCPSR) の仕様と ROM 専用ビットの機能の詳細は、「第 25 章 ROM」の「25.3 レジスタの説明」を参照してください。EEPROM 関連のレジスタは、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイによって初期化されます。

表 26.2 レジスタ構成

レジスタ名	略称	R/W ^{*1}	初期値	アドレス	アクセスサイズ
フラッシュモードレジスタ	FMODR	R/W	H'00	H'FFFFA802	8
フラッシュアクセスステータスレジスタ	FASTAT	R/(W) ^{*2}	H'00	H'FFFFA810	8
フラッシュアクセスエラー割り込み許可レジスタ	FAEINT	R/W	H'9F	H'FFFFA811	8
EEPROM 読み出し許可レジスタ 0	EEPRE0	R/(W) ^{*3}	H'0000	H'FFFFA840	8、16
EEPROM 読み出し許可レジスタ 1	EEPRE1	R/(W) ^{*3}	H'0000	H'FFFFA842	8、16
EEPROM 書き込み/消去許可レジスタ 0	EEPWE0	R/(W) ^{*3}	H'0000	H'FFFFA850	8、16
EEPROM 書き込み/消去許可レジスタ 1	EEPWE1	R/(W) ^{*3}	H'0000	H'FFFFA852	8、16
FCU RAM イネーブルレジスタ	FCURAME	R/(W) ^{*3}	H'0000	H'FFFFA854	8、16
フラッシュステータスレジスタ 0	FSTATR0	R ^{*5}	H'80	H'FFFFA900	8、16
フラッシュステータスレジスタ 1	FSTATR1	R ^{*5}	H'00	H'FFFFA901	8、16
フラッシュ P/E モードエントリレジスタ	FENTRYR	R/(W) ^{*4*5}	H'0000	H'FFFFA902	8、16
フラッシュリセットレジスタ	FRESETR	R/(W) ^{*3}	H'0000	H'FFFFA906	8、16
FCU コマンドレジスタ	FCMDR	R ^{*5}	H'FFFF	H'FFFFA90A	8、16
FCU 処理切り替えレジスタ	FCPSR	R/W ^{*5}	H'0000	H'FFFFA918	8、16
EEPROM ブランクチェック制御レジスタ	EEPBCCNT	R/W ^{*5}	H'0000	H'FFFFA91A	8、16
EEPROM ブランクチェックステータスレジスタ	EEPBCSTAT	R ^{*5}	H'0000	H'FFFFA91E	8、16
EEPROM マット選択レジスタ	EEPMAT	R/(W) ^{*3}	H'0000	H'FFFFAB00	8、16

- 【注】
- *1 内蔵 ROM が無効なモードでは、EEPROM 関連レジスタの読み出しデータは 0 に固定され、書き込みは無効化されます。
 - *2 フラグをクリアするために 0 のみ書き込むことができるビットと読み出し専用ビットによって構成されています。
 - *3 ワードアクセスで上位バイトに特定の値を書き込んだ場合のみ書き込み有効です。上位バイトへの書き込みデータは保持されません。
 - *4 ワードアクセスで上位バイトに特定の値を書き込んだ場合のみ書き込み有効で、それ以外の書き込みを行った場合には初期化されます。上位バイトへの書き込みデータは保持されません。
 - *5 パワーオンリセット、ハードウェアスタンバイ、および FRESETR レジスタの FRESET ビットを 1 にすることによって初期化することができます。

26.3.1 フラッシュモードレジスタ (FMODR)

FMODR レジスタは、FCU の動作モードを指定するレジスタです。内蔵 ROM が無効なモードでは、FMODR の読み出しデータは H'00 になり、書き込みは無効化されます。FMODR は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイによって初期化されます。

ビット :	7	6	5	4	3	2	1	0
	-	-	-	FR DMD	-	-	-	-
初期値 :	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W :	R	R	R	R/W	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
7~5	-	すべて 0	R	リザーブビット 書き込む値は 0 にしてください。1 を書き込んだ場合の動作は保証しません。
4	FRDMD	0	R/W	FCU リードモードセレクトビット FCU を使用した ROM/EEPROM 読み出し処理の方法を選択するためのビットです。EEPROM の場合には、EEPROM ロックビットリードモード移行処理かブランクチェック処理を選択するために使用します（「26.6.1 FCU コマンド一覧」、「26.6.3 FCU コマンド使用方法」を参照）。ROM の場合には、ロックビット読み出し方法を選択するために FRDMD ビットを使用します（「第 25 章 ROM」を参照）。 0: メモリ領域リードモード EEPROM ロックビットリードモードに移行する場合には、メモリ領域モードに設定します。EEPROM にはロックビットが存在しないため、ロックビットリードモードに移行して EEPROM 領域から読み出しを実行した場合、不定データが読み出されます。 1: レジスタリードモード ブランクチェックコマンドを使用する場合には、レジスタリードモードに設定します。
3~0	-	すべて 0	R	リザーブビット 書き込む値は 0 にしてください。1 を書き込んだ場合の動作は保証しません。

26.3.2 フラッシュアクセスステータスレジスタ (FASTAT)

FASTATは、ROM/EEPROMに対するアクセス違反の有無を確認するためのレジスタです。内蔵ROMが無効なモードでは、FASTATの読み出しデータはH'00になり、書き込みは無効化されます。FASTATレジスタのいずれかのビットが1にセットされると、FCUはコマンドロック状態になります（「26.7.3 エラープロテクト」を参照）。コマンドロック状態を解除するためには、FASTATレジスタをH'10に設定した後、FCUにステータスクリアコマンドを発行する必要があります。FASTATは、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイによって初期化されます。

ビット：	7	6	5	4	3	2	1	0
	RO MAE	-	-	CM DLK	EE PAE	EEP IFE	EEP RPE	EEP WPE
初期値：	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W：	R/(W)*	R	R	R	R/(W)*	R/(W)*	R/(W)*	R/(W)*

【注】 * フラグをクリアするため、1を読み出した後に0を書き込むことのみ可能です。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
7	ROMAE	0	R/(W)*	ROMアクセス違反ビット 「第25章 ROM」を参照してください。
6、5	—	すべて0	R	リザーブビット 書き込む値は0にしてください。1を書き込んだ場合の動作は保証しません。
4	CMDLK	0	R	FCUコマンドロックビット FCUがコマンドロック状態であることを示すビットです（「26.7.3 エラープロテクト」を参照）。 0：FCUはコマンドロック状態ではない 1：FCUはコマンドロック状態 [セット条件] • FCUがエラーを検出してコマンドロック状態に遷移後 [クリア条件] • FCUがステータスクリアコマンドを処理後

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
3	EEPAE	0	R/(W)*	<p>EEPROM アクセス違反ビット</p> <p>EEPROM に対するアクセス違反の有無を示すビットです。EEPAE ビットが1になるとFSTATR0レジスタのILGLERRビットが1にセットされ、FCUはコマンドロック状態になります。</p> <p>0: EEPROM アクセス違反なし 1: EEPROM アクセス違反あり</p> <p>[セット条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • FENTRYR レジスタのFENTRYD ビットが1、かつ EEPROM P/E ノーマルモードで、EEPROM 領域に対してリードアクセスを発行 • FENTRYD ビットが0の状態、EEPROM 領域に対してライトアクセスを発行 • FENTRYR レジスタのFENTRY5~0ビットのいずれかが1の状態、EEPROM 領域に対するアクセスを発行 <p>[クリア条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • EEPAE=1を読み出した後に、0を書き込み
2	EEPIFE	0	R/(W)*	<p>EEPROM 命令フェッチ違反ビット</p> <p>EEPROM 命令フェッチ違反の有無を示すビットです。</p> <p>0: EEPROM 命令フェッチ違反なし 1: EEPROM 命令フェッチ違反あり</p> <p>[セット条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • EEPROM に対する命令フェッチを発行 <p>[クリア条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • EEPIFE=1を読み出した後に、0を書き込み
1	EEPRPE	0	R/(W)*	<p>EEPROM リードプロテクト違反ビット</p> <p>EEPROM0、1レジスタで設定した読み出しプロテクトに対する違反の有無を示すビットです。</p> <p>0: EEPROM0、1設定に違反したEEPROM読み出しなし 1: EEPROM0、1設定に違反したEEPROM読み出しあり</p> <p>[セット条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • EEPROM0、1レジスタで読み出し禁止に設定したEEPROM領域に対してリードアクセスを発行 <p>[クリア条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • EEPRPE=1を読み出した後に、0を書き込み

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
0	EEPWPE	0	R/(W)*	<p>EEPROM 書き込み/消去プロテクト違反ビット</p> <p>EEPWE0、1 レジスタで設定した書き込み/消去プロテクトに対する違反の有無を示すビットです。</p> <p>0 : EEPWE0、1 設定に違反した EEPROM 書き込み/消去系コマンドの発行なし</p> <p>1 : EEPWE0、1 設定に違反した EEPROM 書き込み/消去系コマンドの発行あり</p> <p>[セット条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> EEPWE0、1 レジスタで書き込み/消去禁止に設定した EEPROM 領域に対して書き込み/消去系コマンドを発行 <p>[クリア条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> EEPWPE=1 を読み出した後に、0 を書き込み

【注】 * フラグをクリアするため、1 を読み出した後に 0 を書き込むことのみ可能です。

26.3.3 フラッシュアクセスエラー割り込み許可レジスタ (FAEINT)

FAEINT は、フラッシュインタフェースエラー割り込み (FIFE) の出力許可/禁止を設定するためのレジスタです。内蔵 ROM が無効なモードでは、FAEINT の読み出しデータは H'00 になり、書き込みは無効化されます。FAEINT は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイによって初期化されます。

ビット :	7	6	5	4	3	2	1	0
	ROM AEIE	-	-	CMD LKIE	EEP AEIE	EET FEIE	EEPR PEIE	EEPW PEIE
初期値 :	1	0	0	1	1	1	1	1
R/W :	R/W	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
7	ROMAEIE	1	R/W	ROM アクセス違反割り込みイネーブル 「第 25 章 ROM」を参照してください。
6, 5	-	すべて 0	R	リザーブビット 書き込み値は 0 にしてください。1 を書き込んだ場合の動作は保証しません。
4	CMDLKIE	1	R/W	FCU コマンドロック割り込みイネーブル FCU コマンドロックが発生し、FASTAT レジスタの CMDLK ビットが 1 になった場合の FIFE 割り込み要求の発生を許可/禁止するためのビットです。 0 : CMDLK=1 で FIFE 割り込み要求を発生しない 1 : CMDLK=1 で FIFE 割り込み要求を発生する
3	EEPAAEIE	1	R/W	EEPROM アクセス違反割り込みイネーブル EEPROM アクセス違反が発生し、FASTAT レジスタの EEPAAE ビットが 1 になった場合の FIFE 割り込み要求の発生を許可/禁止するためのビットです。 0 : EEPAAE=1 で FIFE 割り込み要求を発生しない 1 : EEPAAE=1 で FIFE 割り込み要求を発生する
2	EEPIFEIE	1	R/W	EEPROM 命令フェッチ違反割り込みイネーブル EEPROM 命令フェッチ違反が発生し、FASTAT レジスタの EEPIFE ビットが 1 になった場合の FIFE 割り込み要求の発生を許可/禁止するためのビットです。 0 : EEPIFE=1 で FIFE 割り込み要求を発生しない 1 : EEPIFE=1 で FIFE 割り込み要求を発生する
1	EEPRPEIE	1	R/W	EEPROM リードプロテクト違反割り込みイネーブル EEPROM リードプロテクト違反が発生し、FASTAT レジスタの EEPRPE ビットが 1 になった場合の FIFE 割り込み要求の発生を許可/禁止するためのビットです。 0 : EEPRPE=1 で FIFE 割り込み要求を発生しない 1 : EEPRPE=1 で FIFE 割り込み要求を発生する

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
0	EEPWPEIE	1	R/W	<p>EEPROM 書き込み/消去プロテクト違反割り込みイネーブル EEPROM 書き込み/消去プロテクト違反が発生し、FASTAT レジスタの EEPWPE ビットが 1 になった場合の FIFE 割り込み要求の発生を許可/禁止するためのビットです。</p> <p>0 : EEPWPE=1 で FIFE 割り込み要求を発生しない 1 : EEPWPE=1 で FIFE 割り込み要求を発生する</p>

26.3.4 EEPROM 読み出し許可レジスタ 0 (EEPRE0)

EEPRE0 は、データマットの DB00～DB07 ブロック (図 26.3 を参照) の読み出しを許可/禁止するためのレジスタです。内蔵 ROM が無効なモードでは、EEPRE0 の読み出しデータは H'0000 になり、書き込みは無効化されます。EEPRE0 は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイによって初期化されます。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	KEY								DBR E07	DBR E06	DBR E05	DBR E04	DBR E03	DBR E02	DBR E01	DBR E00
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/(W)*	R/(W)*	R/(W)*	R/(W)*	R/(W)*	R/(W)*	R/(W)*	R/(W)*	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

【注】 * 書き込みデータは保持されません。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15～8	KEY	すべて 0	R/(W)*	キーコード DBRE[07:00]ビットの書き換えの可否を制御します。本ビットへの書き込みデータは保持されません。
7	DBRE07	0	R/W	DB07～DB00 ブロック読み出し許可ビット データマットの DB07～DB00 ブロックに対する読み出しの許可/禁止を設定するビットです。DBREi ビット (i=07～00) を DBi ブロックの読み出し制御に使用します。DBRE[07:00]ビットへの書き込みは、ワードアクセスで KEY が H'2D の場合のみ有効です。 0: 読み出し禁止 1: 読み出し許可
6	DBRE06	0	R/W	
5	DBRE05	0	R/W	
4	DBRE04	0	R/W	
3	DBRE03	0	R/W	
2	DBRE02	0	R/W	
1	DBRE01	0	R/W	
0	DBRE00	0	R/W	

26.3.5 EEPROM 読み出し許可レジスタ 1 (EEPRE1)

EEPRE1 は、データマットの DB08～DB15 ブロック (図 26.3 を参照) の読み出しを許可/禁止するためのレジスタです。内蔵 ROM が無効なモードでは、EEPRE1 の読み出しデータは H'0000 になり、書き込みは無効化されます。EEPRE1 は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイによって初期化されます。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	KEY								DBR E15	DBR E14	DBR E13	DBR E12	DBR E11	DBR E10	DBR E09	DBR E08
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/(W)*	R/(W)*	R/(W)*	R/(W)*	R/(W)*	R/(W)*	R/(W)*	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

【注】 * 書き込みデータは保持されません。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15～8	KEY	すべて 0	R/(W)*	キーコード DBRE[15:08]ビットの書き換えの可否を制御します。本ビットへの書き込みデータは保持されません。
7	DBRE15	0	R/W	DB15～DB08 ブロック読み出し許可ビット
6	DBRE14	0	R/W	データマットの DB15～DB08 ブロックに対する読み出しの許可/禁止を設定するビットです。DBRE _i ビット (i=15～08) を DB _i ブロックの読み出し制御に使用します。
5	DBRE13	0	R/W	
4	DBRE12	0	R/W	DBRE[15:08]ビットへの書き込みは、ワードアクセスで KEY が H'D2 の場合のみ有効です。 0: 読み出し禁止 1: 読み出し許可
3	DBRE11	0	R/W	
2	DBRE10	0	R/W	
1	DBRE09	0	R/W	
0	DBRE08	0	R/W	

26.3.6 EEPROM 書き込み／消去許可レジスタ 0 (EEPWE0)

EEPWE0 は、データマットの DB00～DB07 ブロック（図 26.3 を参照）の書き込み／消去を許可／禁止するためのレジスタです。内蔵 ROM が無効なモードでは、EEPWE0 の読み出しデータは H'0000 になり、書き込みは無効化されます。EEPWE0 は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイによって初期化されます。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	KEY								DBW E07	DBW E06	DBW E05	DBW E04	DBW E03	DBW E02	DBW E01	DBW E00
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/(W)*	R/(W)*	R/(W)*	R/(W)*	R/(W)*	R/(W)*	R/(W)*	R/(W)*	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

【注】 * 書き込みデータは保持されません。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15～8	KEY	すべて 0	R/(W)*	キーコード DBWE[07:00]ビットの書き換えの可否を制御します。本ビットへの書き込みデータは保持されません。
7	DBWE07	0	R/W	DB07～DB00 ブロック書き込み／消去許可ビット データマットの DB07～DB00 ブロックに対する書き込み／消去の許可／禁止を設定するビットです。DBWE _i ビット (i=07～00) を DBi ブロックの書き込み／消去制御に使用します。 DBWE[07:00]ビットへの書き込みは、ワードアクセスで KEY が H'1E の場合のみ有効です。 0 : 書き込み／消去禁止 1 : 書き込み／消去許可
6	DBWE06	0	R/W	
5	DBWE05	0	R/W	
4	DBWE04	0	R/W	
3	DBWE03	0	R/W	
2	DBWE02	0	R/W	
1	DBWE01	0	R/W	
0	DBWE00	0	R/W	

26.3.7 EEPROM 書き込み／消去許可レジスタ 1 (EEPWE1)

EEPWE1 は、データマットの DB08～DB15 ブロック (図 26.3 を参照) の書き込み／消去を許可／禁止するためのレジスタです。内蔵 ROM が無効なモードでは、EEPWE1 の読み出しデータは H'0000 になり、書き込みは無効化されます。EEPWE1 は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイによって初期化されます。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	KEY								DBW E15	DBW E14	DBW E13	DBW E12	DBW E11	DBW E10	DBW E09	DBW E08
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/(W)*	R/(W)*	R/(W)*	R/(W)*	R/(W)*	R/(W)*	R/(W)*	R/(W)*	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

【注】 * 書き込みデータは保持されません。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15～8	KEY	すべて 0	R/(W)*	キーコード DBWE[15:08]ビットの書き換えの可否を制御します。本ビットへの書き込みデータは保持されません。
7	DBWE15	0	R/W	DB15～DB08 ブロック書き込み／消去許可ビット データマットの DB15～DB08 ブロックに対する書き込み／消去の許可／禁止を設定するビットです。DBWE _i ビット (i=15～08) を DBi ブロックの書き込み／消去制御に使用します。 DBWE[15:08]ビットへの書き込みは、ワードアクセスで KEY が H'E1 の場合のみ有効です。 0 : 書き込み／消去禁止 1 : 書き込み／消去許可
6	DBWE14	0	R/W	
5	DBWE13	0	R/W	
4	DBWE12	0	R/W	
3	DBWE11	0	R/W	
2	DBWE10	0	R/W	
1	DBWE09	0	R/W	
0	DBWE08	0	R/W	

26.3.8 フラッシュ P/E モードエントリレジスタ (FENTRYR)

FENTRYR は、ROM/EEPROM を P/E モードに設定するために使用するレジスタです。ROM/EEPROM を P/E モードにして FCU のコマンド受け付けを可能にするためには、FENTRYD、FENTRY5~0 ビットのいずれかのビットに 1 を設定する必要があります。ただし、本レジスタに H'0001、H'0002、H'0004、H'0008、H'0010、H'0020、H'0080 以外の値を設定した場合、FSTATR0 レジスタの IGLERR ビットがセットされて、FCU はコマンドロック状態になります。内蔵 ROM が無効なモードでは、FENTRYR の読み出しデータは H'0000 になり、書き込みは無効化されます。FENTRYR は、パワーオンリセット、ハードウェアスタンバイ、および FRESETR レジスタの FRESET ビットを 1 にすることによって初期化されます。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	FEKEY								FEN TRYD	—	FEN TRY5	FEN TRY4	FEN TRY3	FEN TRY2	FEN TRY1	FEN TRY0
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/(W)*R/(W)*R/(W)*R/(W)*R/(W)*R/(W)*R/(W)*R/(W)*	R/W	R	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

【注】 * 書き込みデータは保持されません。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~8	FEKEY	すべて 0	R/(W)*	キーコード FENTRYD、FENTRY5~0 ビットの書き換えの可否を制御します。本ビットへの書き込みデータは保持されません。
7	FENTRYD	0	R/W	EEPROM P/E モードエントリビット EEPROM を P/E モードに設定するためのビットです。 0: EEPROM はリードモード 1: EEPROM は P/E モード [書き込み有効条件] 以下の全条件を満たす場合 <ul style="list-style-type: none"> 内蔵 ROM が有効なモード FSTATR0 レジスタの FRDY ビットが 1 ワードアクセスで FEKEY に H'AA 書き込み [セット条件] <ul style="list-style-type: none"> 書き込み有効条件を満たし、かつ FENTRYR レジスタが H'0000 の状態で、FENTRYD に 1 を書き込んだ場合 [クリア条件] <ul style="list-style-type: none"> バイトアクセスで書き込んだ場合 ワードアクセスで FEKEY が H'AA 以外の状態で書き込んだ場合 書き込み有効条件を満たした状態で、FENTRYD に 0 を書き込んだ場合 書き込み有効条件を満たし、かつ FENTRYR レジスタが H'0000 以外の状態で、FENTRYR レジスタを書き込んだ場合

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
6	—	0	R	リザーブビット 書き込む値は0にしてください。1を書き込んだ場合の動作は保証しません。
5~0	FENTRY5~0	すべて0	R/W	ROM P/E モードエントリビット 5~0 「第 25 章 ROM」を参照してください。

26.3.9 EEPROM ブランクチェック制御レジスタ (EEPBCCNT)

EEPBCCNT は、ブランクチェックコマンドのチェック対象領域のアドレスとサイズを指定するためのレジスタです。内蔵 ROM が無効なモードでは、EEPBCCNT の読み出しデータは H'0000 になり、書き込みは無効化されません。EEPBCCNT は、パワーオンリセット、ハードウェアスタンバイ、および FRESETR レジスタの FRESET ビットを 1 にすることによって初期化されます。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0	
	—	—	—	BCADR										—	—	BC SIZE	
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R	R	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
15~13	—	すべて0	R	リザーブビット 書き込む値は0にしてください。1を書き込んだ場合の動作は保証しません。
12~3	BCADR	すべて0	R/W	ブランクチェックアドレス設定ビット ブランクチェックコマンドのチェック対象領域のサイズが8バイト (BCSIZE ビットが0) の場合に、チェック対象領域のアドレスを設定するためのビットです。BCSIZE が0の場合には、EEPBCCNT レジスタの設定値 (BCADR の設定値を MSB 側に3ビットシフトした値) とブランクチェックコマンド発行時に指定した消去ブロック先頭アドレスを加算した値がチェック対象領域の先頭アドレスになります。
2, 1	—	すべて0	R	リザーブビット 書き込む値は0にしてください。1を書き込んだ場合の動作は保証しません。
0	BCSIZE	0	R/W	ブランクチェックサイズ設定ビット ブランクチェックコマンドのチェック対象領域のサイズを設定するためのビットです。 0: ブランクチェック対象領域は8バイト 1: ブランクチェック対象領域は8Kバイト

26.3.10 EEPROM ブランクチェックステータスレジスタ (EEPBCSTAT)

EEPBCSTAT は、ブランクチェックコマンドの処理結果が格納されるレジスタです。内蔵 ROM が無効なモードでは、EEPBCSTAT の読み出しデータは H'0000 になり、書き込みは無効化されます。EEPBCSTAT は、パワーオンリセット、ハードウェアスタンバイ、および FRESETR レジスタの FRESET ビットを 1 にすることによって初期化されます。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	BCST
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~1	—	すべて 0	R	リザーブビット 書き込む値は 0 にしてください。1 を書き込んだ場合の動作は保証しません。
0	BCST	0	R	ブランクチェックステータスビット ブランクチェックの結果を示すビットです。 0: ブランクチェック対象領域は消去状態 (ブランク) 1: ブランクチェック対象領域は 0 データか 1 データが書き込まれた状態

26.3.11 EEPROM マット選択レジスタ (EEPSTAT)

EEPSTAT は、EEPROM のマットを切り替えるために使用するレジスタです。内蔵 ROM が無効なモードでは、EEPSTAT の読み出しデータは H'0000 になり、書き込みは無効化されます。EEPSTAT は、パワーオンリセットおよびハードウェアスタンバイによって初期化されます。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	KEY								—	—	—	—	—	—	—	EEPSEL
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/(W)*1	R/(W)*1	R/(W)*1	R/(W)*1	R/(W)*1	R/(W)*1	R/(W)*1	R/(W)*1	R	R	R	R	R	R	R	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~8	KEY	すべて 0	R/(W)*1	キーコード EEPSEL ビットの書き換えの可否を制御します。本ビットへの書き込みデータは保持されません。
7~1	—	すべて 0	R	リザーブビット 書き込み値は 0 にしてください。1 を書き込んだ場合の動作は保証しません。
0	EEPSEL	0	R/W	EEPROM マット選択ビット EEPROM のマットを選択するためのビットです。EEPSTAT ビットへの書き込みは、ワードアクセスで KEY が H'B3 の場合のみ有効です。 0: データマット選択 1: 製品情報マット選択*2

【注】 *1 書き込みデータは保持されません。

*2 製品情報マットは読み出し専用で、書き込み/消去はできません。

26.4 EEPROM 関連モード概要

図 26.4 に本 LSI のモード遷移図（EEPROM 関連）を示します。MD4～MD0 端子と FWE の設定値と本 LSI の動作モードの関係については「第 3 章 動作モード」を参照してください。

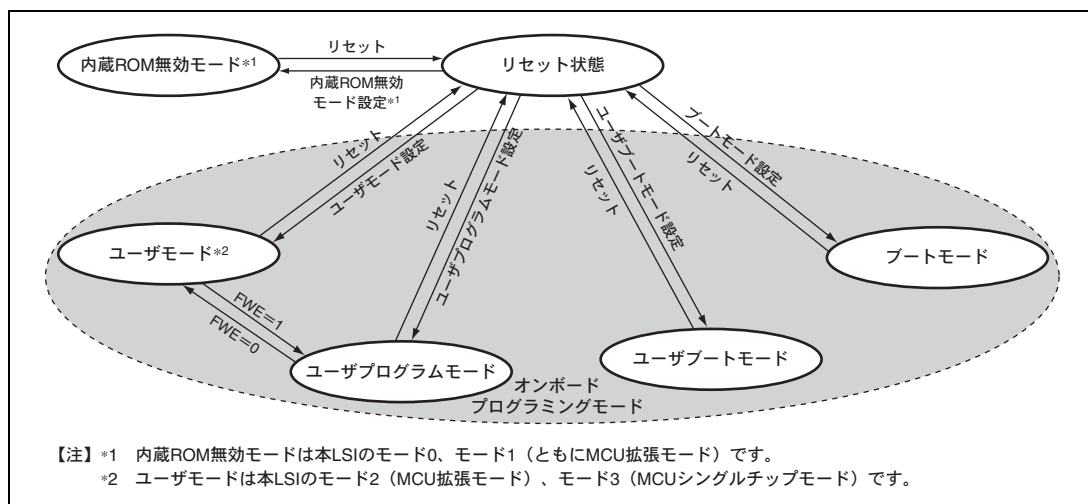


図 26.4 EEPROM に関するモード遷移図

- 内蔵ROM無効モードでは、EEPROMの読み出し／書き込み／消去は実施できません。
- ユーザモード／ユーザプログラムモード／ユーザブートモード／ブートモードでは、オンボードでデータマットの読み出し／書き込み／消去を実施できます。
- ユーザモードではROMを書き込み／消去できませんが、EEPROMを書き込み／消去できます。また、EEPROMの書き込み／消去中にはROMを読み出すことができます。このため、書き込み／消去プロテクトされたROM上のアプリケーションプログラムを実行しながら、データをEEPROMに書き込むことができます。

表 26.3 に、ブートモード、ユーザモード、ユーザプログラムモード、ユーザブートモード書き込み/消去関連項目の比較を示します。

表 26.3 プログラミングモードの比較

項目	ブートモード	ユーザモード	ユーザプログラムモード	ユーザブートモード
書き込み/消去可能マット	データマット	データマット	データマット	データマット
書き込み/消去制御	ホスト	FCU	FCU	FCU
書き込みデータ転送	ホストから SCI 経由	任意のデバイスから RAM 経由	任意のデバイスから RAM 経由	任意のデバイスから RAM 経由
リセット時の起動マット	組み込みプログラム格納マット	ユーザマット	ユーザマット	ユーザブートマット*

【注】 * 組み込みプログラム格納マットから起動し、製品に内蔵された組み込みプログラムを実行した後にユーザブートマットのリセットベクタから起動します。

- ユーザブートモードでは、ユーザモード/ユーザプログラムモードと異なるモード端子設定で、任意のインタフェースのブート動作を実現できます。
- ブートモード/ユーザブートモードでは製品に内蔵された組み込みプログラムで内蔵RAMのH'FFF88000～H'FFF8FFFFを使用します。このため、RAMイネーブルレジスタ (RAMEN) の設定で内蔵RAMを無効にしてリセットし、ブートモード/ユーザブートモードで起動した場合には、リセット前に内蔵RAMの当該領域に格納されていたデータは保持されません（「第28章 RAM」を参照）。

26.5 ブートモード

ブートモードでは、ホストから制御コマンドや書き込みデータを送信してデータマットの書き込み／消去を実行可能です。ブートモードのシステム構成や使用方法の詳細は、「第25章 ROM」を参照してください。本節では、EEPROM 専用のコマンドの説明を記載します。

26.5.1 問い合わせ設定ホストコマンド

表 26.4 に、EEPROM 専用の問い合わせ設定ホストコマンド一覧を示します。データマット有無問い合わせ／データマット情報問い合わせコマンドは、「25.5.4 問い合わせ設定ホストコマンド待ち状態」の図 25.9 に示したフロー中の「マット書き込み用の情報問い合わせ」を実施する箇所で使用します。

表 26.4 問い合わせ設定ホストコマンド (EEPROM 専用)

ホストコマンド名	機能
データマット有無問い合わせ	データマット有無の問い合わせ
データマット情報問い合わせ	データマットの個数、先頭／最終アドレスの問い合わせ

各ホストコマンドの詳細を以下に説明します。説明文中の「コマンド」はホストから本 LSI に送信するコマンド、「レスポンス」は本 LSI からホストに送信する応答です。「サムチェック」は、本 LSI が送信した各バイトを合計した場合に H'00 になるように計算されたバイトデータを指します。

(1) データマット有無問い合わせ

ホストがデータマット有無問い合わせコマンドを送信すると、データマットがあることを示す情報を本 LSI が送信します。

コマンド	H'2A			
レスポンス	H'3A	サイズ	マット有無	SUM

【記号説明】

サイズ (1 バイト) : マット有無の文字数 (固定値で 1)

マット有無 (1 バイト) : データマットの有無 (固定値で H'01)

H'00 : データマットなし

H'01 : データマットあり

SUM (1 バイト) : サムチェック

(2) データマット情報問い合わせ

ホストがデータマット情報問い合わせコマンドを送信すると、データマットのエリア数とアドレスの情報を本LSI が送信します。

コマンド	H'2B		
レスポンス	H'3B	サイズ	エリア数
	エリア先頭アドレス		
	エリア最終アドレス		
	エリア先頭アドレス		
	エリア最終アドレス		
	...		
	エリア先頭アドレス		
	エリア最終アドレス		
	SUM		

【記号説明】

サイズ (1 バイト) : エリア数、エリア先頭アドレス、エリア最終アドレスのデータの総バイト数

エリア数 (1 バイト) : データマットのエリア数 (連続したエリアは 1 エリアと数えます)

エリア先頭アドレス (4 バイト) : データマットエリアの先頭アドレス

エリア最終アドレス (4 バイト) : データマットエリアの最終アドレス

SUM (1 バイト) : サムチェック

データマットのブロック構成の情報は、消去ブロック情報問い合わせコマンド (「25.5.4 問い合わせ設定ホストコマンド待ち状態」を参照) のレスポンスに含まれます。

26.5.2 書き込み／消去ホストコマンド

表 26.5 に、EEPROM 専用の書き込み／消去ホストコマンド一覧を示します。EEPROM 専用のホストコマンドはデータマットのサムチェック／ブランクチェック用のコマンドのみで、書き込み／消去／読み出し用のコマンドは ROM と共用です。

データマットの書き込みを行う場合は、ユーザマット書き込み選択コマンドを発行後、256 バイト書き込みコマンドで書き込みアドレスにデータマットのアドレスを指定します。データマットの消去を行う場合は、消去選択コマンド発行後、ブロック消去コマンドでデータマットの消去ブロックを指定します。データマットの消去ブロック情報は、消去ブロック問い合わせコマンドのレスポンスに含まれます。データマットの読み出しを行う場合は、メモリーリードコマンドでユーザマットを選択し、読み出し対象アドレスにデータマットのアドレスを指定します。

ユーザマット書き込み選択コマンド／ユーザブートマット書き込み選択コマンド／256 バイト書き込みコマンド／消去選択コマンド／ブロック消去コマンド／メモリーリードコマンドの詳細は、「25.5.5 書き込み／消去ホストコマンド待ち状態」を参照してください。消去ブロック問い合わせコマンドの詳細は、「25.5.4 問い合わせ設定ホストコマンド待ち状態」を参照してください。

表 26.5 書き込み／消去ホストコマンド（EEPROM 専用）

ホストコマンド名	機能
データマットサムチェック	データマットのサムチェック
データマットブランクチェック	データマットのブランクチェック

各ホストコマンドの詳細を以下に説明します。説明文中の「コマンド」はホストから本 LSI に送信するコマンド、「レスポンス」は本 LSI からホストに送信する応答です。「サムチェック」は、本 LSI が送信した各バイトを合計した場合に H'00 になるように計算されたバイトデータを指します。

(1) データマットサムチェック

ホストがデータマットサムチェックコマンドを送信すると、本 LSI はデータマットのデータをバイト単位で加算した結果（サムチェック）を送信します。

コマンド	H'61			
レスポンス	H'71	サイズ	マットのサムチェック	SUM

【記号説明】

サイズ（1 バイト）：マットのサムチェックのバイト数（固定値で 4）

マットのサムチェック（4 バイト）：データマットのサムチェック結果

SUM（1 バイト）：サムチェック（レスポンスデータのサムチェック）

(2) データマットブランクチェック

ホストがデータマットブランクチェックコマンドを送信すると、本 LSI はデータマットがすべて消去状態であるかをチェックします。データマットがすべて消去状態であった場合には、本 LSI はレスポンス (H'06) を送信します。データマットに未消去領域が存在した場合には、本 LSI はエラーレスポンス (H'E2→H'52) を送信します。

コマンド	H'62	
レスポンス	H'06	
エラーレスポンス	H'E2	H'52

26.6 ユーザモード／ユーザプログラムモード／ユーザブートモード

26.6.1 FCU コマンド一覧

ユーザモード／ユーザプログラムモード／ユーザブートモードでは、FCU へ FCU コマンドを発行してデータマットの書き込み／消去を実行します。表 26.6 に、EEPROM 書き込み／消去で使用可能な FCU コマンドの一覧を示します。

表 26.6 FCU コマンド一覧 (EEPROM 関連)

コマンド	機能
ノーマルモード移行	ノーマルモードに遷移 (「26.6.2 FCU コマンド受け付け条件」を参照)
ステータスリードモード移行	ステータスリードモードに遷移 (「26.6.2 FCU コマンド受け付け条件」を参照)
ロックビットリードモード移行 (ロックビットリード1)	ロックビットリードモードに遷移 (「26.6.2 FCU コマンド受け付け条件」を参照)
プログラム	EEPROM 書き込み (8 バイトまたは 128 バイト単位)
ブロックイレーズ	EEPROM 消去 (ブロック単位)
P/E サスペンド	書き込み／消去の中断
P/E レジューム	書き込み／消去の再開
ステータスレジスタクリア	FSTATR0 レジスタの IGLERR、ERSERR、PRGERR ビットのクリアとコマンドロック状態の解除
ブランクチェック	指定した領域が消去状態 (ブランク) であるか確認

ブランクチェックコマンド以外の FCU コマンドは、ROM でも使用します。ROM に対してブランクチェックコマンドを発行した場合には、ROM のロックビット読み出しが実行されます。

FCU へのコマンド発行は、EEPROM 領域に対する P バスアクセスで実現されます。次ページの表 26.7 にプログラムコマンドとブランクチェックコマンドのフォーマットを示します。プログラムコマンドとブランクチェックコマンド以外の FCU コマンドのフォーマットは、「25.6.1 FCU コマンド一覧」を参照してください。表 26.7 に示した P バスアクセスを特定条件下で実行すると、FCU は各コマンドに対応した処理を実行します。FCU コマンドの受け付け条件については、「26.6.2 FCU コマンド受け付け条件」を参照してください。また、コマンドの使用方法については、「26.6.3 FCU コマンド使用方法」を参照してください。

FRDMD ビットが 0 (メモリ領域モード) で FCU コマンドの 1 サイクル目が H'71 の場合には、FCU はロックビットリードモード移行コマンド (ロックビットリード 1) を受け付けます。EEPROM にはロックビットが存在しないため、ロックビットリードモードに移行後に EEPROM 領域に対して P バスリードアクセスを実行すると不定データが読み出されます。この不定データ読み出し時には、FCU はエラーを検出しません。FRDMD が 1 (レジスタリードモード) で FCU コマンドの 1 サイクル目が H'71 の場合には、FCU はブランクチェックコマンドの 2 サイクル目のコマンド (H'D0) 待ちの状態になります。この状態で、EEPROM 領域に対して P バスライトアクセスで H'D0 を書き込むと、FCU は EEPBCNT レジスタの設定値に従ったブランクチェック処理を実行し、ブランクチェック完了後に EEPBCSTAT レジスタに結果を反映します。

P/E サスペンドコマンド発行時のサスペンド動作には、サスペンド優先モードと消去優先モードがあります。各

モードでの動作の詳細は「25.6.4 サスペンド動作」を参照してください。

表 26.7 FCU コマンドのフォーマット (EEPROM 専用コマンド)

コマンド	バス サイクル数	1 サイクル目		2 サイクル目		3 サイクル目		4~N+2 サイクル目		N+3 サイクル目	
		アドレス	データ	アドレス	データ	アドレス	データ	アドレス	データ	アドレス	データ
プログラム (8 バイト書き込み : N=4)	7	EA	H'E8	EA	H'04	WA	WD1	EA	WDn	EA	H'D0
プログラム (128 バイト書き込み : N=64)	67	EA	H'E8	EA	H'40	WA	WD1	EA	WDn	EA	H'D0
ブランクチェック	2	EA	H'71	BA	H'D0	-	-	-	-	-	-

【記号説明】

EA : EEPROM 領域のアドレス

H'8010000~H'8011FFFF の任意アドレス

WA : 書き込みデータの先頭アドレス

BA : EEPROM 消去ブロックアドレス

対象消去ブロックの任意アドレス

WDn : 書き込みデータ n ワード目 (n=1~N)

26.6.2 FCU コマンド受け付け条件

FCU コマンドの受け付け可否は、FCU のモード／状態に依存します。図 26.5 に FCU のモード遷移図を示します。

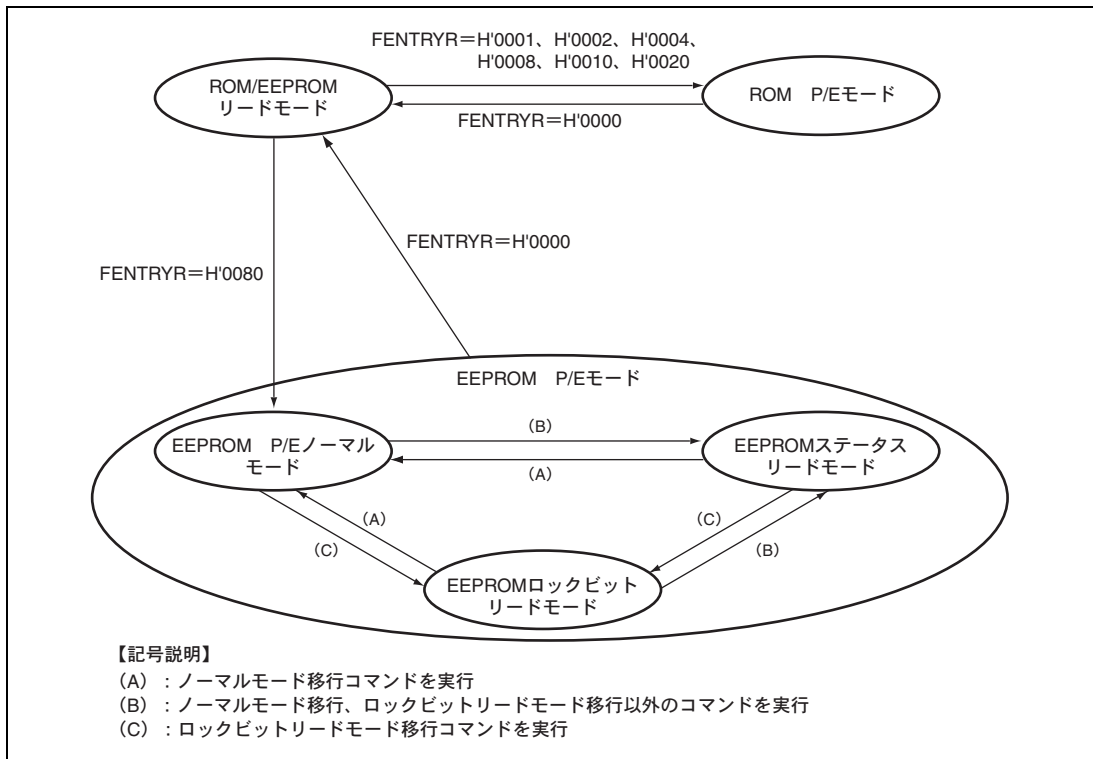


図 26.5 FCU のモード遷移図 (EEPROM 関連)

(1) ROM P/E モード

ROM書き込み／消去用のFCUコマンドを受け付け可能なモードです。EEPROMを読み出すことはできません。FENTRYRレジスタのFENTRYDビットを0、かつFENTRY5～0ビットのいずれかを1に設定した場合に遷移するモードです。ROM P/E モードの詳細は、「25.6.2 FCU コマンド受け付け条件」を参照してください。

(2) ROM/EEPROM リードモード

周辺バス経由でEEPROMを、ROM キャッシュ経由でROMを高速読み出し可能なモードです。FCUコマンドは受け付けられません。FENTRYDビットを0、かつFENTRY5～0ビットを000000に設定した場合に、このモードに遷移します。

(3) EEPROM P/E モード

• EEPROM P/Eノーマルモード

ROM/EEPROMリードモードまたはROM P/Eモード時にFENTRYDビットを1かつFENTRY5～0ビットを000000に設定した場合、またはEEPROM P/Eモードでノーマルモード移行コマンドを受け付けた場合に遷移するモードです。表26.8に受け付け可能なコマンドを示します。EEPROM領域に対してPバスリードアクセスを発行した場合には、EEPROMアクセス違反が発生してFCUはコマンドロック状態になります。ROMは高速読み出し可能です。

• EEPROMステータスリードモード

EEPROM P/Eモードでノーマルモード移行、ロックビットリードモード移行以外のコマンドを受け付けた場合に遷移するモードです。FSTATR0レジスタのFRDYビットが0の状態やエラー発生後のコマンドロック状態も、EEPROMステータスリードモード中の状態です。表26.8に受け付け可能なコマンドを示します。EEPROM領域に対してPバスリードアクセスを発行した場合には、FSTATR0レジスタの値が読み出されます。ROMは高速読み出し可能です。

• EEPROMロックビットリードモード

EEPROM P/Eモードでロックビットリードモード移行コマンドを受け付けた場合に遷移するモードです。表26.8に受け付け可能なコマンドを示します。EEPROMにはロックビットが存在しないため、EEPROM領域に対してPバスリードアクセスを発行した場合には、読み出しデータは不定値になりますが、EEPROMアクセス違反は発生しません。ROMは高速読み出し可能です。

表 26.8 に EEPROM P/E モードの各モード／状態と受け付け可能なコマンドの関係を示します。受け付け不可能なコマンドが発行された場合には、FCU はコマンドロック状態になります（「26.7.3 エラープロテクト」を参照）。

FCU コマンドを確実に受け付けさせたい場合には、発行するコマンドを受け付け可能なモードに移行し、FSTATR0 レジスタの FRDY、ILGLERR、ERSERR、PRGERR ビットと FSTATR1 レジスタの FCUERR と FRDTCCT/FRCRCT ビットの値を確認した後に FCU コマンドを発行してください。FASTAT レジスタの CMDLK ビットの値は、FSTATR0 レジスタの ILGLERR、ERSERR、PRGERR と FSTATR1 レジスタの FCUERR、FRDTCCT/FRCRCT ビットの値の論理和です。このため、CMDLK ビットを確認して FCU のエラー発生状況を確認することもできます。表 26.8 では、エラー発生状況を表すビットに CMDLK ビットを使用しています。書き込み／消去の処理中、書き込み／中断処理の処理中、ブランクチェック処理中には FSTATR0 レジスタの FRDY ビットが 0 になります。FRDY ビットが 0 の場合で P/E サスペンドコマンドが受け付け可能な状態は、FSTATR0 レジスタの SUSRDY ビットが 1 の場合のみです。

表 26.8 では、表を簡素化するために ERSSPD、PRGSPD、FRDY ビットの値を 0/1 と表記しています。ERSSPD ビットは、消去の中断処理中の場合には 1、書き込みの中断処理中の場合には 0 になります。PRGSPD ビットは、書き込みの中断処理中の場合には 1、消去の中断処理中の場合には 0 になります。コマンドロック状態の FRDY ビットの値は、コマンドロック状態に遷移する前の FRDY ビットの値が保持されます。

表 26.8 FCU のモード/状態と受け付け可能なコマンドの関係

項目	P/E ノーマルモード			ステータスリードモード									ロックビット リードモード		
	書き込みサスペンド中	消去サスペンド中	その他の状態	書き込み/消去の処理中	消去サスペンド中の書き込み処理中	書き込み/消去の中断処理中	ブランクチェック処理中	書き込みサスペンド中	消去サスペンド中	コマンドロック状態 (FRDY=0)	コマンドロック状態 (FRDY=1)	その他の状態	書き込みサスペンド中	消去サスペンド中	その他の状態
FSTATR0 レジスタの FRDY ビット	1	1	1	0	0	0	0	1	1	0	1	1	1	1	1
FSTATR0 レジスタの SUSRDY ビット	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
FSTATR0 レジスタの ERSSPD ビット	0	1	0	0	1	0/1	0/1	0	1	0/1	0/1	0	0	1	0
FSTATR0 レジスタの PRGSPD ビット	1	0	0	0	0	0/1	0/1	1	0	0/1	0/1	0	1	0	0
FASTAT レジスタの CMDLK ビット	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0
ノーマルモード移行	○	○	○	×	×	×	×	○	○	×	×	○	○	○	○
ステータスリードモード移行	○	○	○	×	×	×	×	○	○	×	×	○	○	○	○
ロックビットリードモード移行 (ロックビットリード1)	○	○	○	×	×	×	×	○	○	×	×	○	○	○	○
プログラム	×	△	○	×	×	×	×	×	△	×	×	○	×	△	○
ブロックイレーズ	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	○
P/E サスペンド	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
P/E レジューム	○	○	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	○	○	×
ステータスレジスタクリア	○	○	○	×	×	×	×	○	○	×	○	○	○	○	○
ブランクチェック	○	○	○	×	×	×	×	○	○	×	×	○	○	○	○

【記号説明】

○：受け付け可能

△：消去中断したブロック以外への書き込みのみ受け付け可能

×：受け付け不可能

26.6.3 FCU コマンド使用方法

プログラムコマンドとブロックイレーズコマンドを使用して EEPROM を書き込み/消去する方法とブランクチェックコマンドを使用して EEPROM の消去状態を確認する方法を示します。FCU RAM へのファームウェア転送方法やその他の FCU コマンド使用方法については、「25.6.3 FCU コマンド使用方法」を参照してください。

FCU がコマンド処理中に FSTATR1 レジスタの FCUERR ビットまたは FRDTC/FRRCRCT ビットが 1 にセットされてコマンドロック状態に遷移した場合には、FSTATR0 レジスタの FRDY ビットは 0 を保持します。コマンドロック状態では FCU の処理が停止するため、FRDY ビットが 0 から 1 にセットされることはありません。書き込み/消去時間やサスペンド遅延時間（「第 32 章 電気的特性」を参照）よりも長期間にわたって FRDY ビットが 0 に保持される場合は、コマンドロック状態で FCU の処理が停止するなどの異常動作が発生している可能性があるため、FCU リセットによって FCU を初期化してください。FCU のコマンド処理が完了して FRDY ビットが 1 にセットされた場合には、FCUERR ビットと FRDTC/FRRCRCT ビットの値は必ず 0 の状態です。このため、コマンド処理完了後のエラー発生状況は、ILGLERR、ERSERR、PRGERR ビットで確認可能です。

(1) 書き込み方法

EEPROM へのデータ書き込みには、プログラムコマンドを使用します。プログラムコマンドの第 1 サイクルでは H'E8 を、第 2 サイクルでは書き込みワード数 (N) * を EEPROM 領域のアドレスにバイト書き込みします。コマンドの第 3~N+2 サイクルでは、ワードサイズで P バスアクセスを実行します。第 3 サイクルのアクセスでは、プログラム対象領域の先頭アドレスに対して書き込みデータを書き込んでください。先頭アドレスは、8 バイト書き込みの場合には 8 バイト境界、128 バイト書き込みの場合には 128 バイト境界にアラインしてください。EEPROM 領域のアドレスに対して N 回のワード書き込みを実行後、第 N+3 サイクルで EEPROM 領域のアドレスに対して H'D0 をバイト書き込みすると FCU が EEPROM の書き込み処理を開始します。書き込みの完了は、FSTATR0 レジスタの FRDY ビットで確認可能です。

第 3 サイクル~第 N+2 サイクルでアクセスする領域に書き込み不要なアドレスが含まれる場合は、該当アドレスに対する書き込みデータを H'FFFF にしてください。EEPWE0、EEPWE1 レジスタによる書き込み/消去プロテクトを無効化して書き込みを実施したい場合には、書き込み対象ブロック用の書き込み/消去許可ビットを 1 に設定してから書き込みを行ってください。

図 26.6 に、EEPROM の書き込み方法を示します。

【注】* 8 バイト書き込みの場合には N=H'04、128 バイト書き込みの場合には N=H'40 です。

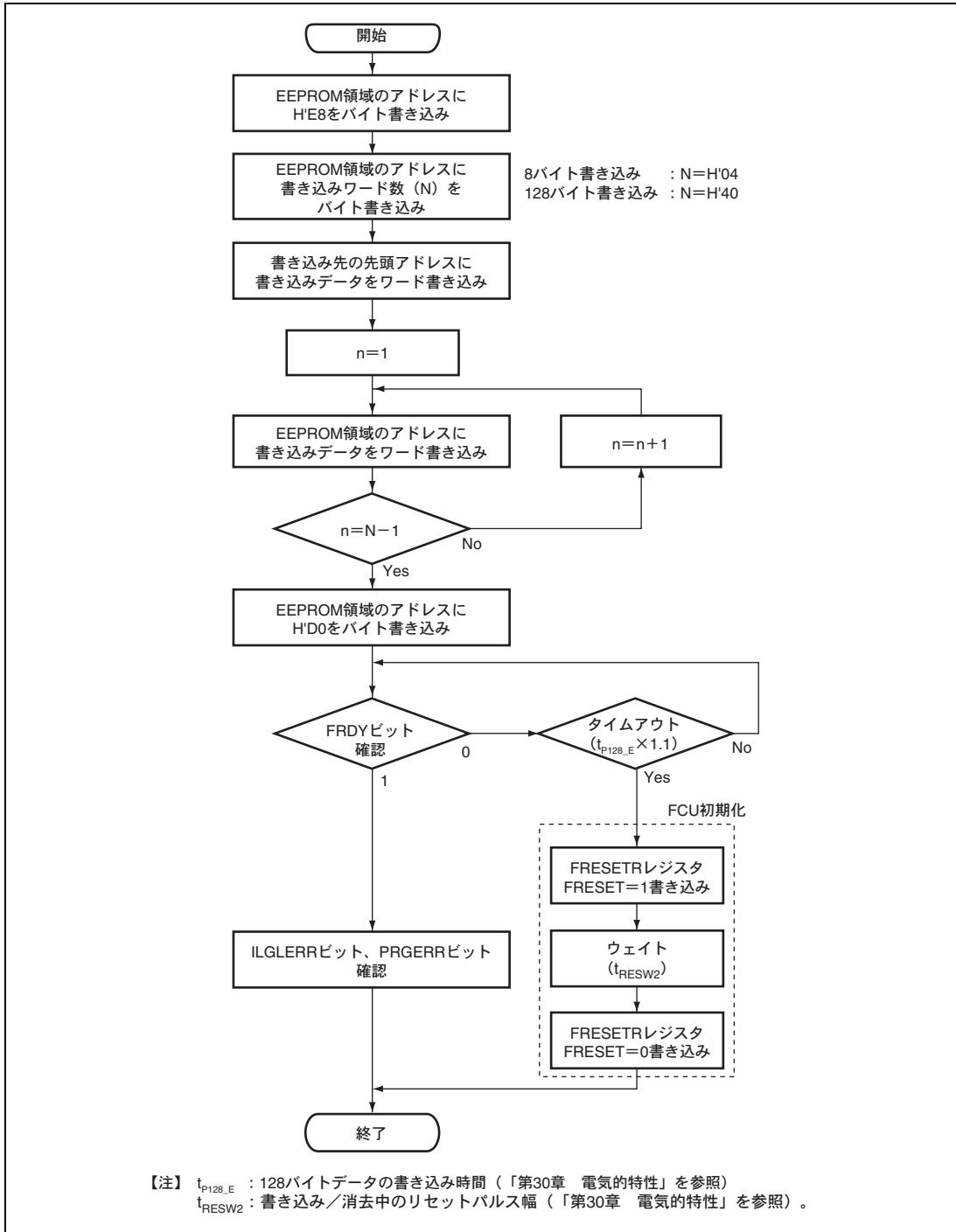


図 26.6 EEPROM の書き込み

(2) 消去方法

EEPROM の消去には、ブロックイレーズコマンドを使用します。ブロックイレーズコマンドを使用した消去方法は、ROM の消去方法と同様です（「第 25 章 ROM」を参照）。EEPROM には、EEPWE0、EEPWE1 レジスタによる書き込み／消去プロテクト機能があることに注意してください。EEPWE0、EEPWE1 によるプロテクトを無効化して消去を実施したい場合には、消去対象ブロック用の書き込み／消去許可ビットを 1 に設定してから消去を行ってください。

(3) 消去状態の確認方法

CPU で消去状態の EEPROM を読み出すと不定値が読み出されますので、消去状態の確認にはブランクチェックコマンドを使用する必要があります。ブランクチェックコマンドを使用する場合には、事前に FMODR レジスタの FRDMD ビットを 1 に設定してブランクチェックコマンドが使用可能な状態にし、EEPBCCNT レジスタにチェック対象領域のサイズとアドレスを設定してください。EEPBCCNT レジスタの BCSIZE ビットが 1 の場合には、ブランクチェックコマンドの第 2 サイクルで指定した消去ブロック全体（8K バイト）のブランクチェックを実行可能です。BCSIZE ビットが 0 の場合には、ブランクチェックコマンドの第 2 サイクルで指定した消去ブロックの先頭アドレスと EEPBCCNT レジスタの値を加算したアドレスから 8 バイト分の領域のブランクチェックを実行可能です。ブランクチェックコマンドの第 1 サイクルでは、H'71 を EEPROM 領域のアドレスにバイト書き込みします。コマンドの第 2 サイクルでブランクチェック対象領域を含む消去ブロック内の任意アドレスに H'D0 をバイト書き込みすると、FCU が EEPROM のブランクチェック処理を開始します。ブランクチェックの完了は、FSTATR0 レジスタの FRDY ビットで確認可能です。ブランクチェックの完了後に EEPBCSTAT レジスタの BCST ビットの値を確認すると、チェック対象領域が消去状態であるか 0 データか 1 データを書き込んだ状態であるかを確認することができます。

図 26.7 に、EEPROM のブランクチェックを示します。

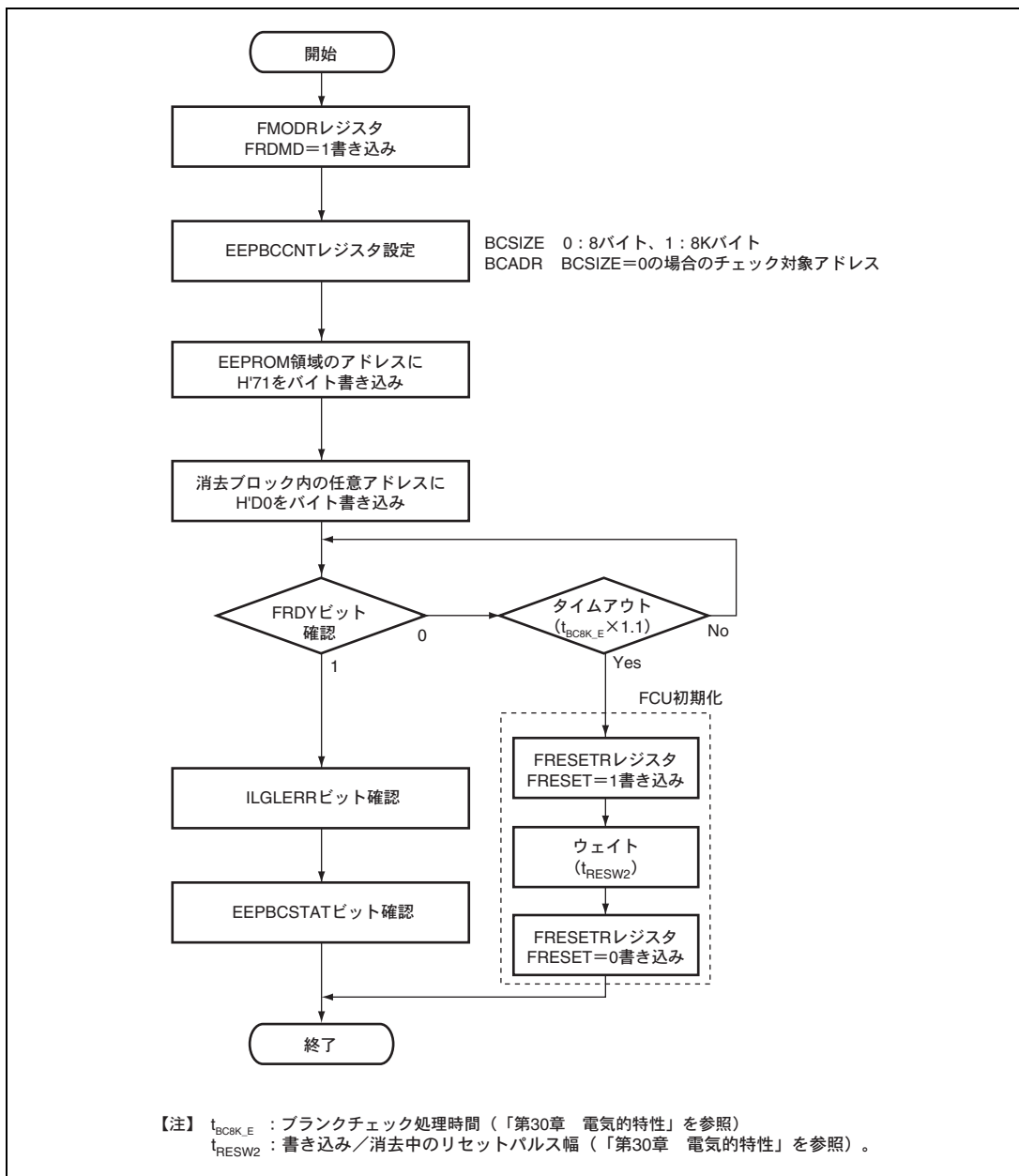


図 26.7 EEPROM のブランクチェック

26.7 プロテクト

EEPROM に対する書き込み/消去のプロテクトには、ハードウェアプロテクト、ソフトウェアプロテクト、エラープロテクトの3種類があります。

26.7.1 ハードウェアプロテクト

ハードウェアプロテクトは、モード端子の設定によって EEPROM に対する書き込み/消去が禁止された状態です。内蔵 ROM が無効な設定の場合には、EEPROM の書き込み/消去/読み出しが禁止された状態になります。本 LSI の動作モードと端子設定の関係は「第3章 動作モード」を参照してください。

26.7.2 ソフトウェアプロテクト

ソフトウェアプロテクトは、制御レジスタ設定によって EEPROM に対する書き込み/消去が禁止された状態です。ソフトウェアプロテクトに違反して、EEPROM に対する書き込み/消去系コマンドを発行した場合には、FCU がエラーを検出してコマンドロック状態になります。

(1) FENTRYR によるプロテクト

FENTRYR レジスタの FENTRYD ビットが0の場合には、EEPROM に対する FCU コマンドが受け付けられないため、EEPROM の書き込み/消去は禁止状態になります。FENTRYD ビットが0の状態では EEPROM に対する FCU コマンドを発行すると、FCU はイリーガルコマンドエラーを検出してコマンドロック状態になります（「26.7.3 エラープロテクト」を参照）。

(2) EEPWE0、EEPWE1 レジスタによるプロテクト

EEPWE0、EEPWE1 レジスタの DBWE_i (i=00~15) ビットが0の場合には、データマットの DB_i ブロックの書き込み/消去が禁止状態になります。DBWE_i ビットが0の状態では DB_i ブロックに対する書き込み/消去を実行すると、FCU は書き込み/消去プロテクト違反を検出してコマンドロック状態になります（「26.7.3 エラープロテクト」を参照）。

26.7.3 エラープロテクト

エラープロテクトは、FCU コマンドの誤発行／禁止アクセスの発生／FCU の誤動作を検出して FCU コマンドの受け付けを禁止する状態（コマンドロック状態）です。FCU をコマンドロック状態にすることにより、EEPROM の書き込み／消去が禁止されます。コマンドロック状態を解除するためには、FASTAT レジスタが H'10 の状態でステータスレジスタクリアコマンドを発行する必要があります。

FAEINT レジスタの CMDLKIE ビットが 1 の場合には、FCU がコマンドロック状態（FASTAT レジスタの CMDLK ビットが 1）になるとフラッシュインタフェースエラー（FIFE）割り込みが発生します。また、FAEINT レジスタの EEPROM 関連の割り込みイネーブルビット（EEPAAIE/EEPIFEIE/EEPRPEIE/EEPWPEIE ビット）が 1 の場合には、FASTAT レジスタの対応するビット（EEPAAE/EEPIFE/EEPRPE/EEPWPE ビット）が 1 になると FIFE 割り込みが発生します。

表 26.9 に EEPROM 関連のエラープロテクト内容とエラー検出後のステータスビット値（FSTAT0 レジスタの ILGLERR/ERSERR/PRGERR ビット、FASTAT レジスタの EEPAAE/EEPIFE/EEPRPE/EEPWPE ビット）の関係を示します。ROM/EEPROM 共通のエラープロテクト内容（FENTRYR 設定エラー、不正コマンドの大半、消去エラー、書き込みエラー、FCU エラー、FCU RAM ECC エラー）については、「25.8.3 エラープロテクト」を参照してください。書き込み／消去処理中にサスペンド以外のコマンドが発行されてコマンドロック状態に遷移した場合には、FCU は書き込み／消去処理を継続します。この状態で P/E サスペンドコマンドを発行して書き込み／消去を中断することはできません。コマンドロック状態でコマンドが発行された場合には、ILGLERR ビット値は 1 になり、その他のビットの値は以前のエラー検出時に設定された値を保持します。

表 26.9 エラープロテクト一覧（EEPROM 専用）

分類	内 容	ILGLERR	ERSERR	PRGERR	EEPAAE	EEPIFE	EEPRPE	EEPWPE
不正コマンド	プログラムコマンドの 2 サイクル目で H'04、H'40 以外を指定	1	0	0	0	0	0	0
	FENTRYR レジスタの FENTRYD ビットが 1 の状態で、EEPROM 領域に対してロックビットプログラムコマンドを発行	1	0	0	0	0	0	0
EEPROM アクセス違反	FENTRYR レジスタの FENTRYD ビットが 1、かつ EEPROM P/E ノーマルモードで、EEPROM 領域に対してリードアクセスを発行	1	0	0	1	0	0	0
	FENTRYD ビットが 0 の状態で、EEPROM 領域に対してライトアクセスを発行	1	0	0	1	0	0	0
	FENTRYR レジスタの FENTRY5~0 ビットのいずれかが 1 の状態で、EEPROM 領域に対するアクセスを発行	1	0	0	1	0	0	0
EEPROM 命令フェッチ違反	EEPROM に対して命令フェッチを実行	1	0	0	0	1	0	0
EEPROM リードプロテクト違反	EEPPE0、EEPPE1 レジスタで読み出し禁止に設定した EEPROM 領域に対してリードアクセスを発行	1	0	0	0	0	1	0
EEPROM ライトプロテクト違反	EEPWE0、EEPWE1 レジスタで読み出し禁止に設定した EEPROM 領域に対して、プログラム/ブロックイレーズコマンドを発行	1	0	0	0	0	0	1

26.8 製品情報マット

製品情報マットには、デバイス名/デバイスリビジョン/組み込みプログラムリビジョンが ASCII コードで書き込まれています。組み込みプログラムとは、ブートモード/ユーザブートモード時の起動マット（「25.4 ROM 関連モード概要」を参照）に格納されているプログラムです。表 26.10 に製品情報マットに格納される情報の格納アドレスとデータ例を示します。製品情報マット領域（H'80100000～H'8010007F）のうち、表 26.10 にないアドレスは予約領域です。予約領域の読み出しデータは不定です。

表 26.10 製品情報マット格納データ

情報	アドレス	データ例
デバイス名	H'80100000～H'8010000F	H'523546373235343652202020202020= R5F72546R
デバイスリビジョン	H'80100010～H'80100011	H'3031=01
組み込みプログラムリビジョン	H'80100020～H'80100022	H'313030=100 (1.00)

26.9 使用上の注意事項

(1) リセット起動直後のデータマツプロテクト状態

EEPRE0/EEPRE1/EEPWE0/EEPWE1 レジスタの初期値が H'0000 であるため、リセット起動直後のデータマツの読み出し/書き込み/消去は禁止状態です。データマツの読み出しが必要な場合には EEPRE0/EEPRE1 レジスタを設定してからデータマツにアクセスしてください。また、データマツの書き込み/消去が必要な場合には、EEPWE0/EEPWE1 を設定してから書き込み/消去用の FCU コマンドを発行してください。レジスタを設定せずに読み出し/書き込み/消去を実行しようとすると、FCU がエラーを検出してコマンドロック状態になります。

(2) AUD 動作不可状態、割り込み無視状態

以下の状態では、AUD はモジュールスタンバイ状態となり動作しません。また、NMI やマスカブル割り込みが発生しても無視されます。

- ブートモード動作中
- ユーザブートモード起動直後で、組み込みプログラム格納マツのプログラムを処理中

(3) 書き込み/消去サスペンド対象領域

書き込み/消去サスペンド中の領域の格納データは不定です。不定データの読み出しが原因で発生する誤動作を回避するために、書き込み/消去サスペンド対象領域のデータ読み出しが発生しないように注意してください。

(4) 従来の F-ZTAT SH マイコンとの書き込み/消去プログラムの互換性

従来の F-ZTAT SH マイコンで使用していたフラッシュメモリの書き込み/消去プログラムは、本 LSI では動作しません。

(5) 書き込み/消去中のリセット

書き込み/消去処理中に FRESETR レジスタの FRESET ビットをセットして FCU をリセットする場合には、FCU のリセット状態を t_{RESW2} (「第 32 章 電気的特性」を参照) 保持してください。書き込み/消去中の EEPROM には高電圧が印加されているため、メモリに印加された電圧の降下に必要な期間を確保するために FCU のリセットが状態を保持する必要があります。FCU をリセットしている期間は EEPROM の読み出しを行わないでください。

書き込み/消去処理中に $\overline{\text{RES}}$ 端子のアサートによってパワーオンリセットを発生させた場合には、リセット期間を t_{RESW2} (「第 32 章 電気的特性」を参照) 保持してください。パワーオンリセットでは、メモリに印加された電圧の降下に必要な期間だけでなく、EEPROM 用電源の初期化や EEPROM 内部回路の初期化に必要な期間を確保するため、FCU のリセットよりも長期間のリセット状態の保持が必要になります。

書き込み/消去処理中には、WDT カウンタのオーバフローによる内部リセットは発生しないようにしてください。WDT によるリセットでは、メモリ電圧の降下/EEPROM 用電源の初期化/EEPROM 内部の初期化に必要な期間を確保することができません。

書き込み/消去処理中に、 $\overline{\text{RES}}$ 端子のアサートによるパワーオンリセット、または FRESETR レジスタの FRESET ビットをセットしての FCU リセットを実行すると、書き込み/消去対象領域の全データは不定となります。

書き込み／消去の中断（例：リセット入力、電源瞬断）により、データが不定となった領域の書き込み／消去状態を確認するベリファイ手段はありません。したがって、不定となった領域を再度使用する場合は、消去処理を行い、完全な消去状態にしてから使用してください。

(6) 追加書き込み禁止

同一領域に2回以上の書き込みを行うことはできません。書き込み済みの領域を書き換えた場合には、必ず該当領域を消去してください。

(7) 製品情報マットへの書き込み／消去

製品情報マットは読み出し専用で、書き込み／消去はできません。EEPROMレジスタのEEPSELビットを1にセットして書き込み／消去を行った場合、データマットへの書き込み／消去が実行されます。また、EEPROMアクセス違反などのエラーも発生しません。製品情報マットへの書き込み／消去は行わないようにしてください。

(8) 書き込み／消去サスペンドによる中断

書き込み／消去サスペンドコマンドによって書き込み／消去処理を中断した場合は、必ずレジュームコマンドにより動作を完了させてください。

(9) 書き込み／消去中の電源切断

書き込み／消去処理中に電源を切断しないでください。

書き込み／消去中のEEPROMには高電圧が印加されているため、メモリに印加された電圧の降下に必要な期間を確保する必要があります。そのため、止むを得ず電源が遮断される場合でも、 $\overline{\text{HSTBY}}$ 端子のアサートによってハードウェアスタンバイ状態にして、スイッチオフ時の V_{cc} と PV_{cc} のホールド時間 t_{VCH} （「第32章 電気的特性」を参照）を確保してから電源が切断されるように、システム設計を行ってください。

(10) FRDCLC ビットの0設定禁止

FSTATR1のFRDTCTビットが1にセットされた場合、FCUのコマンド処理の動作を保証できません。したがって、FRDTCTビットが1にセットされたら必ずコマンドロック状態にさせるため、FRAMECCRのFRDCLCビットを0に設定しないでください。

27. ROM キャッシュ (ROMC)

ROM キャッシュは、ROM に格納された命令およびデータをキャッシングします。ROM キャッシュにより、ROM 内の命令およびデータの高速度アクセスが可能になります。

27.1 特長

- 構成：命令／データ分離
- プリフェッチキャッシュ：8ライン・4ウェイセットアソシアティブ、LRU方式
- プリフェッチミスキャッシュ：4ライン・フルアソシアティブ、LRU方式
- データキャッシュ：4ライン・フルアソシアティブ、LRU方式
ライト時は、常にライトスルー&ライン自動インバリデート
- ラインサイズ：16バイト（128ビット）／ライン
- ハードウェアプリフェッチ：CPUの命令フェッチに先行してROMを読み出し、プリフェッチキャッシュに格納します。

27.2 構成

ROM キャッシュは、命令／データ分離型です。命令キャッシュは、プリフェッチキャッシュ（命令先読みのためのキャッシュ）、プリフェッチミスキャッシュ（プリフェッチキャッシュとプリフェッチミスキャッシュをとともにミスした場合にROM読み出しデータを格納するキャッシュ）から構成されます。

キャッシュの構成を図 27.1 に示します。プリフェッチキャッシュは8ライン・4ウェイセットアソシアティブ、プリフェッチミスキャッシュとデータキャッシュは4ライン・フルアソシアティブ構成です。すべてのキャッシュのラインサイズは16バイトで、ライン置き換えのアルゴリズムはLRU（Least Recently Used）方式です。各キャッシュのライン置き換え方式については、「27.4.1 データキャッシュの検索」を参照してください。

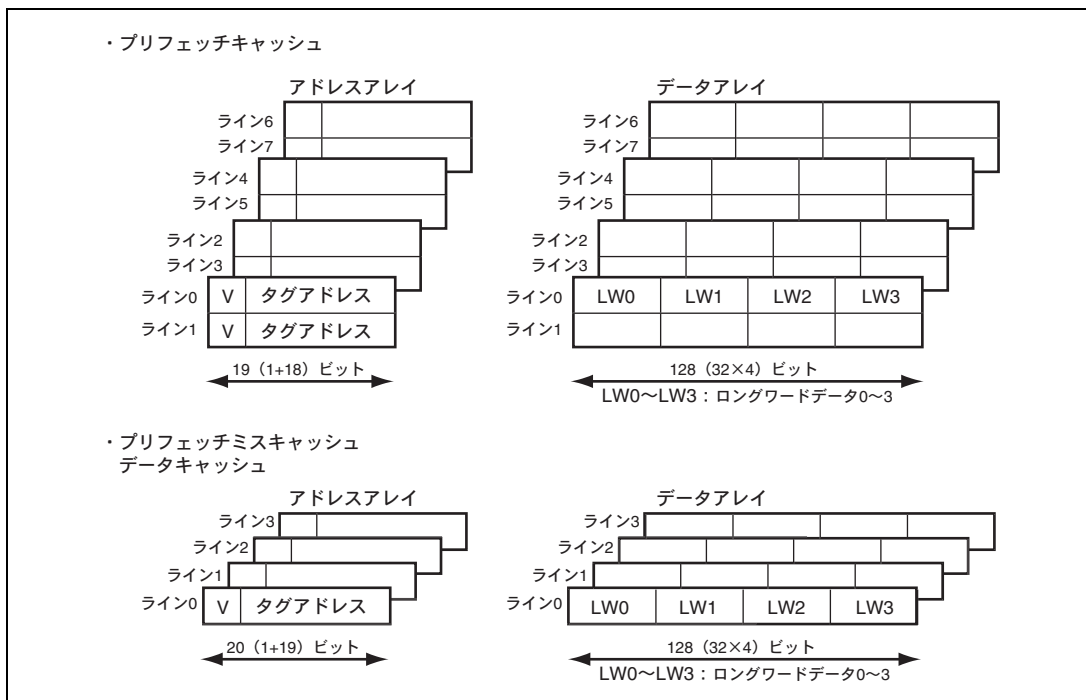


図 27.1 キャッシュ構成

(1) アドレスアレイ

V ビットは、ラインのデータが有効かどうかを示します。V ビットが 1 で有効、0 で無効を示します。

ライトは常にライトスルーとし、同時に該当ラインがキャッシングされている場合は、そのラインを無効化します。

タグアドレスは、ROM キャッシュの検索に使用されるアドレスを保持します。プリフェッチキャッシュの場合には、18 ビット（アクセスアドレスのビット 22～5）から構成されます。プリフェッチミスキャッシュとデータキャッシュの場合には、19 ビット（アクセスアドレスのビット 22～4）から構成されます。アクセスアドレスのビット 31～23 は、空間識別に使用されるため、ROM キャッシュの検索には使用されません。

V ビットは、ROM キャッシュ制御レジスタのビット書き込み、およびリセット/スタンバイで 0 に初期化されます。

(2) データアレイ

16 バイトの命令あるいはデータを保持します。キャッシュへの登録の単位は、ライン単位（16 バイト単位）で行います。

各ラインのデータラインに対応する部分の大きさをラインサイズと称します。本製品のラインサイズは 16 バイト（128 ビット）です。

データアレイは、リセット後は不定となります。

27.3 レジスタの説明

ROM キャッシュには以下のレジスタがあります。これらのレジスタはロングワードでしかアクセスできません。表 27.1 に ROM キャッシュ関連のレジスタ構成を示します。

表 27.1 レジスタ構成

レジスタ名	略称	R/W	初期値	アドレス	アクセス サイズ
ROM キャッシュ制御レジスタ	RCCR	R/W	H'00000001	H'FFFC1400	32
ROM キャッシュ制御レジスタ 2	RCCR2	R/W	H'000000F5	H'FFFC1408	32

27.3.1 ROM キャッシュ制御レジスタ (RCCR)

ROM キャッシュは RCCR の RCE ビットでイネーブル/ディスエーブルを指定します。また、RCCR には、ROM キャッシュの全ラインの無効化を制御する RCF ビット、命令用キャッシュ（プリフェッチキャッシュおよびプリフェッチミスキャッシュ）の全ラインの無効化を制御する RCFI ビット、データ用キャッシュ（データキャッシュ）の全ラインの無効化を制御する RCFD ビット、および ROM キャッシュ機能の使用の有無を選択する RCE ビットがあります。

ビット:	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R
ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	RCFI	RCFI	RCFD	RCE
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
R/W:	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
31~4	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
3	RCF	0	R/W	ROM キャッシュフラッシュ 1 を書き込むと、ROM キャッシュの全ラインの V を 0 にクリア（フラッシュ）します。読み出すと 0 が読み出されます。 0 : ROM キャッシュのラインの V をクリアしない 1 : ROM キャッシュのラインの V をクリアする [クリア条件] • リセット/スタンバイ [セット条件] • 1 を書き込む

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
2	RCFI	0	R/W	<p>命令用キャッシュフラッシュ</p> <p>1を書き込むと、プリフェッチキャッシュおよびプリフェッチミスキャッシュの全ラインのVを0にクリア（フラッシュ）します。読み出すと0が読み出されます。</p> <p>0：命令用キャッシュのラインのVをクリアしない 1：命令用キャッシュのラインのVをクリアする</p> <p>[クリア条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> リセット/スタンバイ <p>[セット条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> 1を書き込む
1	RCFD	0	R/W	<p>データ用キャッシュフラッシュ</p> <p>1を書き込むと、データ用キャッシュの全ラインのVを0にクリア（フラッシュ）します。読み出すと0が読み出されます。</p> <p>0：データ用キャッシュのラインのVをクリアしない 1：データ用キャッシュのラインのVをクリアする</p> <p>[クリア条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> リセット/スタンバイ <p>[セット条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> 1を書き込む
0	RCE	1	R/W	<p>ROM キャッシュイネーブル</p> <p>ROM キャッシュ機能を使用するかどうかを設定します。</p> <p>0：ROM キャッシュ機能を使用しない 1：ROM キャッシュ機能を使用する</p> <p>[クリア条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> 0を書き込む <p>[セット条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> リセット/スタンバイ 1を書き込む

27.3.2 ROM キャッシュ制御レジスタ 2 (RCCR2)

PCE2、PCE0 ビットでそれぞれ、プリフェッチミスキャッシュ、データキャッシュのイネーブル/ディスエーブルを指定します。また、PFE ビットでプリフェッチのイネーブル、ディスエーブルを指定します。

プリフェッチの各機能については、PFECF、PFENB、PFECB の各ビットでそれぞれ連続プリフェッチ、無条件分岐プリフェッチ、条件分岐プリフェッチに対してプリフェッチを行うかどうかを指定することができます。

ビット:	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R
ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	PFECB	PFENB	PFECF	PFE	—	PCE2	—	PCE0
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	0	1	0	1
R/W:	R	R	R	R	R	R	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W	R	R/W	R	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
31~8	—	すべて0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。
7	PFECB	1	R/W	条件分岐プリフェッチイネーブル 条件分岐に対するプリフェッチ機能を使用するかどうかを設定します。 0: 条件分岐に対してプリフェッチ機能を使用しない 1: 条件分岐に対してプリフェッチ機能を使用する [クリア条件] • 0を書き込む [セット条件] • リセット/スタンバイ • 1を書き込む
6	PFENB	1	R/W	無条件分岐プリフェッチイネーブル 無条件分岐に対するプリフェッチ機能を使用するかどうかを設定します。 0: 無条件分岐に対してプリフェッチ機能を使用しない 1: 無条件分岐に対してプリフェッチ機能を使用する [クリア条件] • 0を書き込む [セット条件] • リセット/スタンバイ • 1を書き込む

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
5	PFECF	1	R/W	<p>連続プリフェッチイネーブル</p> <p>連続フェッチに対するプリフェッチ機能を使用するかどうかを設定します。</p> <p>0: 連続フェッチに対してプリフェッチ機能を使用しない</p> <p>1: 連続フェッチに対してプリフェッチ機能を使用する</p> <p>[クリア条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • 0 を書き込む <p>[セット条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • リセット/スタンバイ • 1 を書き込む
4	PFE	1	R/W	<p>プリフェッチキャッシュイネーブル</p> <p>プリフェッチキャッシュ機能を使用するかどうかを設定します。</p> <p>0: プリフェッチキャッシュ機能を使用しない</p> <p>1: プリフェッチキャッシュ機能を使用する</p> <p>[クリア条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • 0 を書き込む <p>[セット条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • リセット/スタンバイ • 1 を書き込む
3	—	0	R	<p>リザーブビット</p> <p>読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。</p>
2	PCE2	1	R/W	<p>プリフェッチミスキャッシュイネーブル</p> <p>プリフェッチミスキャッシュ機能を使用するかどうかを設定します。</p> <p>0: プリフェッチミスキャッシュ機能を使用しない</p> <p>1: プリフェッチミスキャッシュ機能を使用する</p> <p>[クリア条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • 0 を書き込む <p>[セット条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • リセット/スタンバイ • 1 を書き込む
1	—	0	R	<p>リザーブビット</p> <p>読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。</p>

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
0	PCE0	1	R/W	データ用キャッシュイネーブル データキャッシュ機能を使用するかどうかを設定します。 0 : データキャッシュ機能を使用しない 1 : データキャッシュ機能を使用する [クリア条件] • 0 を書き込む [セット条件] • リセット/スタンバイ • 1 を書き込む

27.4 動作説明

27.4.1 データキャッシュの検索

データキャッシュがイネーブルの場合に ROM 領域のデータをリードすると、アドレスアレイのタグアドレス (4 ライン分) とアクセスアドレスのビット 22~4 が比較されます。比較結果が一致し、かつタグアドレスが有効 (V ビットが 1) の場合には、データキャッシュがヒットして同一ラインのデータアレイのデータ LW0~LW3 が読み出されます。アクセスアドレスのビット 3,2 の値が 00 の場合には LW0、01 の場合には LW1、10 の場合には LW2、11 の場合には LW3 が CPU に出力されます。データキャッシュのライン 1 がヒットした場合の概念図を図 27.2 に示します。

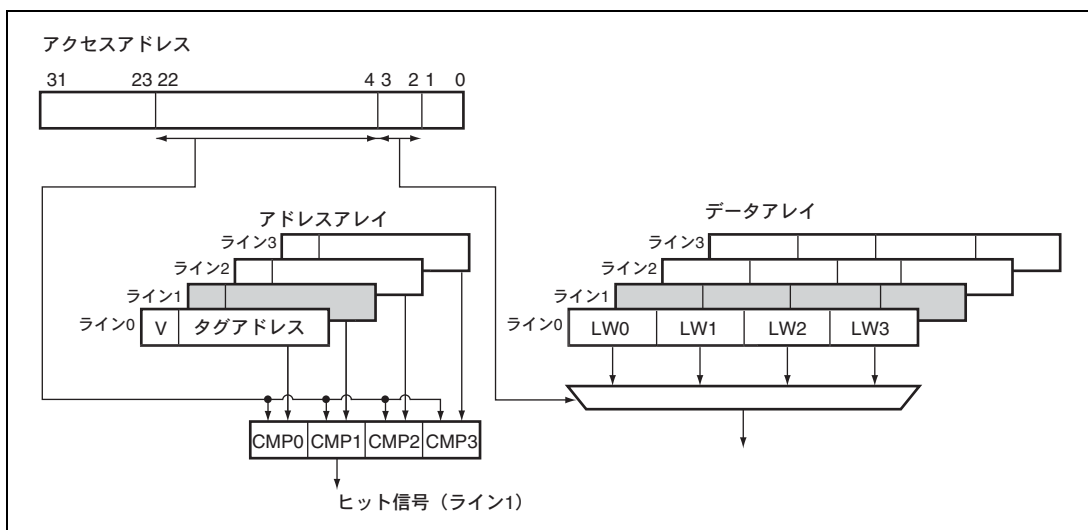


図 27.2 データキャッシュ検索方法の概念図 (ライン 1 ヒット)

データキャッシュがヒットしなかった (ミスした) 場合には、ROM の読み出しが実行され、データキャッシュの最も過去に参照されたラインのアドレスアレイのタグアドレスにリード先アドレスのビット 22~4、データアレイに ROM 読み出しデータが格納されます (LRU 方式)。また、データキャッシュへのデータ格納と同時に、CPU に ROM 読み出しデータが出力されます。

27.4.2 命令キャッシュの検索

プリフェッチキャッシュの検索時には、アクセスアドレスのビット4の値が0の場合に偶数ライン（ライン0、2、4、6）、1の場合に奇数ライン（ライン1、3、5、7）が使用されます。プリフェッチキャッシュがイネーブルの場合にROM領域の命令をフェッチすると、アクセスアドレスのビット4によって選択された4ライン分のタグアドレスと命令フェッチ先のアドレスのビット22~5が比較されます。比較が一致し、かつタグアドレスが有効（Vビットが1）の場合には、プリフェッチキャッシュがヒットして同一ラインのデータアレイのデータLW0~LW3が読み出されます。アクセスアドレスのビット3、2の値が00の場合にはLW0、01の場合にはLW1、10の場合にはLW2、11の場合にはLW3がCPUに出力されます。プリフェッチキャッシュのライン2がヒットした場合の概念図を図27.3に示します。

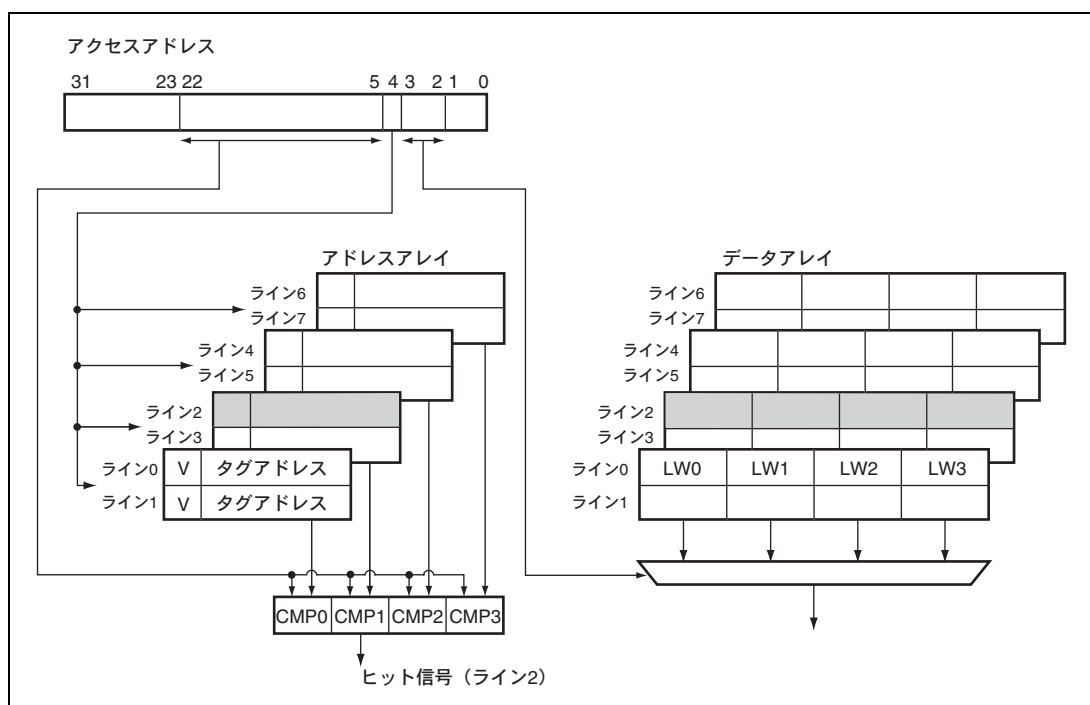


図 27.3 プリフェッチキャッシュ検索方法の概念図（ライン2ヒット）

プリフェッチミスキャッシュの検索方法は、データキャッシュと同様です。プリフェッチキャッシュとプリフェッチミスキャッシュの検索結果がともにミスであった場合には、ROMの読み出しが実行され、プリフェッチミスキャッシュの最も過去に参照されたラインのアドレスアレイのタグアドレスに命令フェッチ先アドレスのビット22~5、データアレイにROM読み出しデータが格納されます（LRU方式）。また、プリフェッチミスキャッシュへのデータ格納と同時に、CPUにもROM読み出しデータが出力されます。

プリフェッチキャッシュは、ハードウェアプリフェッチ時に更新します。プリフェッチ先のアドレスのビット4が0の場合には偶数ライン、1の場合には奇数ラインのうち、最も過去に参照されたラインのアドレスアレイのタグアドレスにプリフェッチ先アドレスのビット22~5、データアレイにROM読み出しデータが格納されます（LRU方式）。

27.4.3 ハードウェアプリフェッチ

プリフェッチキャッシュはハードウェアプリフェッチを行い、キャッシュのヒット率を向上します。ハードウェアプリフェッチには連続プリフェッチと分岐プリフェッチがあります。

(1) 連続プリフェッチ

連続アクセスされる命令について、フェッチにおいてストールを生じないようにプリフェッチを行います。

(2) 分岐プリフェッチ

フェッチされるデータを CPU に返す際、この命令をデコードし、ターゲットアドレスを算出後、プリフェッチを行います。分岐プリフェッチにおいては、さらに細かく分類されています。

- 条件分岐プリフェッチ

条件分岐命令 (BF、BT、BF/S、BT/S) を発見するとプリフェッチを行います。

- BRA、BSR命令

これらの命令に対して無条件分岐プリフェッチを行います。

- JMP、JSR、JSR/N命令を含む命令列

これらの命令列に対して命令列が下記に示す命令順を満たし、かつ各命令のレジスタインデックスが一致した場合、プリフェッチを行います。

【プリフェッチされる命令例 (JMP の例)】

MOVI20 #imm20, Rn JMP @Rn

27.5 使用上の注意事項

ROMC のレジスタへの書き込みと連続して DMAC、AUD-II による ROM のリードが行われた場合、ROM から正常な値を読み出せない場合があります。DMAC、AUD-II による ROM アクセス実行中は、ROMC レジスタへの書き込みを行わないようにしてください。

28. RAM

本 LSI は、256KB の RAM を内蔵しています。内蔵 RAM は、F バス（CPU 命令フェッチバス）、M バス（メモリアクセスバス）、I バス（内部バス）と接続しており、それぞれ独立にアクセスすることができます。

図 28.1 に RAM のブロック図、図 28.2 に RAM のバス接続図を示します。

内蔵 RAM は、アドレス H'FFF80000～H'FFFBFFFF（0～15 ページ）に割り付けられています（表 28.1）。

28.1 特長

- アクセス：CPU/FPU、DMAC、A-DMAC、AUD-IIは、8、16、または32ビット幅で内蔵RAMをアクセスすることができます。内蔵RAMのデータは、高速アクセスが必要なプログラムエリアまたはスタックエリアやデータアクセスとしての使用に適しています。
動作周波数（PLLの通倍比）に対応した範囲内でリード時に1または2サイクル、ライト時に2または3サイクルをレジスタにて設定する必要があります。
- RAM保持：ハードウェアスタンバイ時に、ページ0および1の32Kバイト領域についてRAMの内容が保持されます。
- ECC：レジスタの設定によりECCの有効/無効を選択することができます。初期状態ではECC誤り訂正の機能は有効の状態です。ECCが有効の状態では32ビットデータに対して1ビットの誤り訂正、2ビットの誤り検出が可能です。ECCが無効のときにはパリティエラー検出が可能です。これらの誤り検出、誤り訂正、パリティエラーを総称してRAMエラーと呼びます。また、RAMエラー発生時にそれを示すフラグを持ちます。
- 割り込み：RAMエラー発生時の割り込み要求の有無をレジスタで設定することができます。
- ポート：各ページは2本の独立した読み出し/書き込みポートを持ち、Iバス、Fバス、Mバスと接続されています。ただし、Fバスは読み出しポートのみに接続されています。CPUからのアクセスにはFおよびMバス、CPU以外からのアクセスにはIバスが使用されます。
- 優先順位：同じページに対して異なるバスから同時にアクセス要求があった場合には、優先順位に従ってアクセスが処理されます。優先順位は高い順にIバス、Mバス、Fバスとなります。

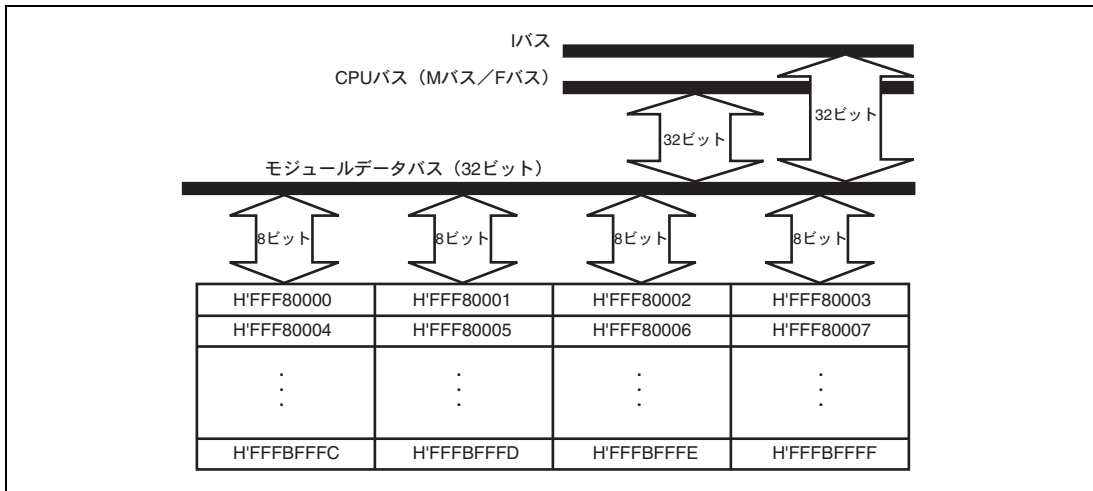


図 28.1 RAM のブロック図

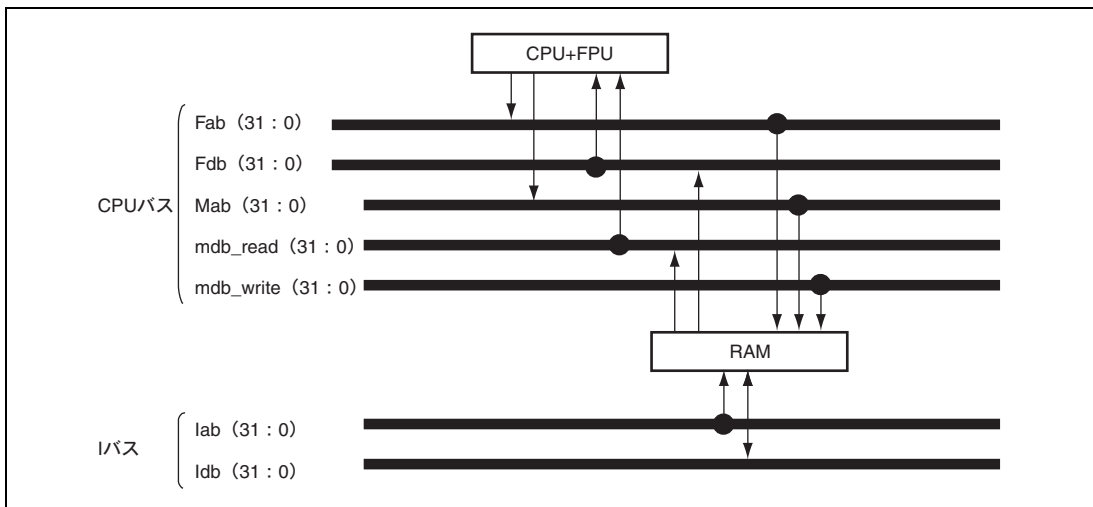


図 28.2 RAM のバス接続図

表 28.1 内蔵 RAM アドレス空間

ページ	アドレス
ページ 0	H'FFF80000~H'FFF83FFF
ページ 1	H'FFF84000~H'FFF87FFF
ページ 2	H'FFF88000~H'FFF8BFFF
ページ 3	H'FFF8C000~H'FFF8FFFF
ページ 4	H'FFF90000~H'FFF93FFF
ページ 5	H'FFF94000~H'FFF97FFF
ページ 6	H'FFF98000~H'FFF9BFFF
ページ 7	H'FFF9C000~H'FFF9FFFF
ページ 8	H'FFFA0000~H'FFFA3FFF
ページ 9	H'FFFA4000~H'FFFA7FFF
ページ 10	H'FFFA8000~H'FFFABFFF
ページ 11	H'FFFAC000~H'FFFACFFF
ページ 12	H'FFFB0000~H'FFFB3FFF
ページ 13	H'FFFB4000~H'FFFB7FFF
ページ 14	H'FFFB8000~H'FFFBBFFF
ページ 15	H'FFFBC000~H'FFFBCFFF

28.2 レジスタの説明

RAM 関連レジスタには以下のレジスタがあります。

表 28.2 レジスタ構成

レジスタ名	略称	R/W	初期値	アドレス	アクセス サイズ
RAM イネーブルコントロールレジスタ0	RAMEN0	R/W	H'00FF	H'FFFF 0800	8、(16)
RAM 書き込みイネーブルコントロールレジスタ 0	RAMWEN0	R/W	H'00FF	H'FFFF 0802	8、(16)
RAM ECC イネーブルコントロールレジスタ	RAMECC	R/W	H'0000	H'FFFF 0804	8、(16)
RAM エラーステータスレジスタ	RAMERR	R/W	H'00	H'FFFF 0806	8
RAM エラー割り込みコントロールレジスタ	RAMINT	R/W	H'00	H'FFFF 0810	8
RAM アクセスサイクル設定レジスタ	RAMACYC	R/W	H'0000	H'FFFF 0812	8、(16)
RAM イネーブルコントロールレジスタ1	RAMEN1	R/W	H'00FF	H'FFFF 0840	8、(16)
RAM 書き込みイネーブルコントロールレジスタ 1	RAMWEN1	R/W	H'00FF	H'FFFF 0842	8、(16)

28.2.1 RAM イネーブルコントロールレジスタ 0、1 (RAMEN0、1)

RAMEN0、1 は、読み出し／書き込み可能な 16 ビットのレジスタで、内蔵 RAM へのアクセス許可／禁止を設定します。RAMEN0、1 は、リセット／スタンバイ時に H'00FF に初期化されます。書き込みはワードアクセスのみ可能で、読み出しはワード、バイトのどちらでも可能です。

アクセスを許可するページに対応する RAME15~0 ビットを 1 にセットすると内蔵 RAM が有効になります。0 にクリアするとアクセスできません。アクセス禁止状態では、対応するページのリードおよび命令フェッチは不定値が読み出され、ライトは無視されます。初期値は 1 です。

なお、RAME15~0 ビットを書き換える場合には、RAMEN0 では上位バイトを H'96 にし、下位バイトを書き込みデータにしてワードサイズで行ってください。RAMEN1 では上位バイトを H'95 にし、下位バイトを書き込みデータにしてワードサイズで行ってください。

RAMEN0、1 の上位バイト（ビット 15~8）の読み出し時には常に H'00 が読み出されます。

RAMEN0、1 へのライト命令の直後に内蔵 RAM をアクセスするような命令を置かないでください。もし内蔵 RAM アクセス命令を置いた場合、正常なアクセスは保証できません。

RAME15~0 ビットを書き換える場合、RAMEN0 へのライト命令の直後に RAMEN0 のリード命令と NOP 命令を 5 個以上、RAMEN1 へのライト命令の直後に RAMEN1 のリード命令と NOP 命令を 5 個以上実行してください。

- RAMEN0

ビット: 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 0

RNOKEY[7:0]								RAME7	RAME6	RAME5	RAME4	RAME3	RAME2	RAME1	RAME0
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1
R/W:	R/(W)	R/(W)	R/(W)	R/(W)	R/(W)	R/(W)	R/(W)	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

【注】 本レジスタは、誤って書き換えられないように、書き込み方法が一般のレジスタと異なります。詳しくは、「28.2.7 レジスタアクセス時の注意」を参照してください。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~8	RNOKEY [7:0]	H'00	R/(W)	RAME ビットの書き換え可否を設定するためのビットです。 H'96: RAME7~0 ビットの書き込み許可。書き込みデータは保持されませんので読み出し値は常に H'00 です。 H'96 以外: RAME7~0 ビットの書き込み不可
7	RAME7	1	R/W	RAM イネーブル 7 内蔵 RAM のページ 7 に対するアクセスの有効/無効を設定するためのビットです。 0: 内蔵 RAM のページ 7 が無効 1: 内蔵 RAM のページ 7 が有効 [クリア条件] • 0 書き込み (上位バイトに H'96 を同時書き込み) [セット条件] • リセット/スタンバイ • 1 書き込み (上位バイトに H'96 を同時書き込み)
6	RAME6	1	R/W	RAM イネーブル 6 内蔵 RAM のページ 6 に対するアクセスの有効/無効を設定するためのビットです。 0: 内蔵 RAM のページ 6 が無効 1: 内蔵 RAM のページ 6 が有効 [クリア条件] • 0 書き込み (上位バイトに H'96 を同時書き込み) [セット条件] • リセット/スタンバイ • 1 書き込み (上位バイトに H'96 を同時書き込み)

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
5	RAME5	1	R/W	<p>RAM イネーブル 5</p> <p>内蔵 RAM のページ 5 に対するアクセスの有効/無効を設定するためのビットです。</p> <p>0 : 内蔵 RAM のページ 5 が無効 1 : 内蔵 RAM のページ 5 が有効</p> <p>[クリア条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • 0 書き込み (上位バイトに H'96 を同時書き込み) <p>[セット条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • リセット/スタンバイ • 1 書き込み (上位バイトに H'96 を同時書き込み)
4	RAME4	1	R/W	<p>RAM イネーブル 4</p> <p>内蔵 RAM のページ 4 に対するアクセスの有効/無効を設定するためのビットです。</p> <p>0 : 内蔵 RAM のページ 4 が無効 1 : 内蔵 RAM のページ 4 が有効</p> <p>[クリア条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • 0 書き込み (上位バイトに H'96 を同時書き込み) <p>[セット条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • リセット/スタンバイ • 1 書き込み (上位バイトに H'96 を同時書き込み)
3	RAME3	1	R/W	<p>RAM イネーブル 3</p> <p>内蔵 RAM のページ 3 に対するアクセスの有効/無効を設定するためのビットです。</p> <p>0 : 内蔵 RAM のページ 3 が無効 1 : 内蔵 RAM のページ 3 が有効</p> <p>[クリア条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • 0 書き込み (上位バイトに H'96 を同時書き込み) <p>[セット条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • リセット/スタンバイ • 1 書き込み (上位バイトに H'96 を同時書き込み)

ビット	ビット名	初期値	R/W	説 明
2	RAME2	1	R/W	<p>RAM イネーブル 2</p> <p>内蔵 RAM のページ 2 に対するアクセスの有効/無効を設定するためのビットです。</p> <p>0: 内蔵 RAM のページ 2 が無効 1: 内蔵 RAM のページ 2 が有効</p> <p>[クリア条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • 0 書き込み (上位バイトに H'96 を同時書き込み) <p>[セット条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • リセット/スタンバイ • 1 書き込み (上位バイトに H'96 を同時書き込み)
1	RAME1	1	R/W	<p>RAM イネーブル 1</p> <p>内蔵 RAM のページ 1 に対するアクセスの有効/無効を設定するためのビットです。</p> <p>0: 内蔵 RAM のページ 1 が無効 1: 内蔵 RAM のページ 1 が有効</p> <p>[クリア条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • 0 書き込み (上位バイトに H'96 を同時書き込み) <p>[セット条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • リセット/スタンバイ • 1 書き込み (上位バイトに H'96 を同時書き込み)
0	RAME0	1	R/W	<p>RAM イネーブル 0</p> <p>内蔵 RAM のページ 0 に対するアクセスの有効/無効を設定するためのビットです。</p> <p>0: 内蔵 RAM のページ 0 が無効 1: 内蔵 RAM のページ 0 が有効</p> <p>[クリア条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • 0 書き込み (上位バイトに H'96 を同時書き込み) <p>[セット条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • リセット/スタンバイ • 1 書き込み (上位バイトに H'96 を同時書き込み)

- RAMEN1

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	RN1KEY[7:0]								RAME15	RAME14	RAME13	RAME12	RAME11	RAME10	RAME9	RAME8
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1
R/W:	R/(W)	R/(W)	R/(W)	R/(W)	R/(W)	R/(W)	R/(W)	R/(W)	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

【注】 本レジスタは、誤って書き換えられないように、書き込み方法が一般のレジスタと異なっています。詳しくは、「28.2.7 レジスタアクセス時の注意」を参照してください。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~8	RN1KEY [7:0]	H'00	R/(W)	RAME ビットの書き換え可否を設定するためのビットです。 H'95 : RAME15~8 ビットの書き込み許可。書き込みデータは保持されませんので読み出し値は常に H'00 です。 H'95 以外 : RAME15~8 ビットの書き込み不可
7	RAME15	1	R/W	RAM イネーブル 15 内蔵 RAM のページ 15 に対するアクセスの有効/無効を設定するためのビットです。 0 : 内蔵 RAM のページ 15 が無効 1 : 内蔵 RAM のページ 15 が有効 [クリア条件] • 0 書き込み (上位バイトに H'95 を同時書き込み) [セット条件] • リセット/スタンバイ • 1 書き込み (上位バイトに H'95 を同時書き込み)
6	RAME14	1	R/W	RAM イネーブル 14 内蔵 RAM のページ 14 に対するアクセスの有効/無効を設定するためのビットです。 0 : 内蔵 RAM のページ 14 が無効 1 : 内蔵 RAM のページ 14 が有効 [クリア条件] • 0 書き込み (上位バイトに H'95 を同時書き込み) [セット条件] • リセット/スタンバイ • 1 書き込み (上位バイトに H'95 を同時書き込み)

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
5	RAME13	1	R/W	<p>RAM イネーブル 13</p> <p>内蔵RAMのページ13に対するアクセスの有効/無効を設定するためのビットです。</p> <p>0: 内蔵 RAM のページ 13 が無効 1: 内蔵 RAM のページ 13 が有効</p> <p>[クリア条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • 0 書き込み (上位バイトに H'95 を同時書き込み) <p>[セット条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • リセット/スタンバイ • 1 書き込み (上位バイトに H'95 を同時書き込み)
4	RAME12	1	R/W	<p>RAM イネーブル 12</p> <p>内蔵RAMのページ12に対するアクセスの有効/無効を設定するためのビットです。</p> <p>0: 内蔵 RAM のページ 12 が無効 1: 内蔵 RAM のページ 12 が有効</p> <p>[クリア条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • 0 書き込み (上位バイトに H'95 を同時書き込み) <p>[セット条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • リセット/スタンバイ • 1 書き込み (上位バイトに H'95 を同時書き込み)
3	RAME11	1	R/W	<p>RAM イネーブル 11</p> <p>内蔵RAMのページ11に対するアクセスの有効/無効を設定するためのビットです。</p> <p>0: 内蔵 RAM のページ 11 が無効 1: 内蔵 RAM のページ 11 が有効</p> <p>[クリア条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • 0 書き込み (上位バイトに H'95 を同時書き込み) <p>[セット条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • リセット/スタンバイ • 1 書き込み (上位バイトに H'95 を同時書き込み)

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
2	RAME10	1	R/W	<p>RAM イネーブル 10</p> <p>内蔵 RAM のページ 10 に対するアクセスの有効/無効を設定するためのビットです。</p> <p>0 : 内蔵 RAM のページ 10 が無効 1 : 内蔵 RAM のページ 10 が有効</p> <p>[クリア条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • 0 書き込み (上位バイトに H'95 を同時書き込み) <p>[セット条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • リセット/スタンバイ • 1 書き込み (上位バイトに H'95 を同時書き込み)
1	RAME9	1	R/W	<p>RAM イネーブル 9</p> <p>内蔵 RAM のページ 9 に対するアクセスの有効/無効を設定するためのビットです。</p> <p>0 : 内蔵 RAM のページ 9 が無効 1 : 内蔵 RAM のページ 9 が有効</p> <p>[クリア条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • 0 書き込み (上位バイトに H'95 を同時書き込み) <p>[セット条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • リセット/スタンバイ • 1 書き込み (上位バイトに H'95 を同時書き込み)
0	RAME8	1	R/W	<p>RAM イネーブル 8</p> <p>内蔵 RAM のページ 8 に対するアクセスの有効/無効を設定するためのビットです。</p> <p>0 : 内蔵 RAM のページ 8 が無効 1 : 内蔵 RAM のページ 8 が有効</p> <p>[クリア条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • 0 書き込み (上位バイトに H'95 を同時書き込み) <p>[セット条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • リセット/スタンバイ • 1 書き込み (上位バイトに H'95 を同時書き込み)

28.2.2 RAM 書き込みイネーブルコントロールレジスタ 0、1 (RAMWEN0、1)

RAMWEN0、1は、読み出し／書き込み可能な16ビットのレジスタで、内蔵RAMへの書き込み許可／禁止を設定します。RAMWEN0、1は、リセット／スタンバイ時にH'00FFに初期化されます。書き込みはワードアクセスのみ可能で、読み出しはワード、バイトのどちらでも可能です。

アクセスを許可するページに対応するRAMWE15~0ビットを1にセットすると内蔵RAMへの書き込みが有効になります。0にクリアすると内蔵RAMへの書き込みはできません。アクセス禁止状態では、内蔵RAMへのライトは無視されます。初期値は1です。

なお、RAMWE15~0ビットを書き換える場合には、RAMWEN0では上位バイトをH'69にし、下位バイトを書き込みデータにしてワードサイズで行ってください。RAMWEN1では上位バイトをH'68にし、下位バイトを書き込みデータにしてワードサイズで行ってください。

RAMWEN0、1の上位バイト（ビット15~8）の読み出し時には常にH'00が読み出されます。

RAMWEN0、1へのライト命令の直後に内蔵RAMをアクセスするような命令を置かないでください。もし内蔵RAMアクセス命令を置いた場合、正常なアクセスは保証できません。

RAMWE15~0ビットを書き換える場合、RAMWEN0へのライト命令の直後にRAMWEN0のリード命令とNOP命令を5個以上、RAMWEN1へのライト命令の直後にRAMWEN1のリード命令とNOP命令を5個以上実行してください。

• RAMWEN0

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	RWNOKEY[7:0]								RAM WE7	RAM WE6	RAM WE5	RAM WE4	RAM WE3	RAM WE2	RAM WE1	RAM WE0
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1
R/W:	R/(W)	R/(W)	R/(W)	R/(W)	R/(W)	R/(W)	R/(W)	R/(W)	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

【注】 本レジスタは、誤って書き換えられないように、書き込み方法が一般のレジスタと異なります。詳しくは、「28.2.7 レジスタアクセス時の注意」を参照してください。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~8	RWNOKEY [7:0]	H'00	R/(W)	RAMWE ビットの書き換え可否を設定するためのビットです。 H'69: RAMWE7~0 ビットへの書き込み許可。書き込みデータは保持されませんので読み出し値は常にH'00です。 H'69 以外: RAMWE7~0 ビットへの書き込み不可

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
7	RAMWE7	1	R/W	<p>RAM 書き込みイネーブル 7</p> <p>内蔵 RAM のページ 7 への書き込みを有効/無効にするためのビットです。</p> <p>0 : 内蔵 RAM のページ 7 への書き込みが無効</p> <p>1 : 内蔵 RAM のページ 7 への書き込みが有効</p> <p>[クリア条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • 0 書き込み (上位バイトに H'69 を同時書き込み) <p>[セット条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • リセット/スタンバイ • 1 書き込み (上位バイトに H'69 を同時書き込み)
6	RAMWE6	1	R/W	<p>RAM 書き込みイネーブル 6</p> <p>内蔵 RAM のページ 6 への書き込みを有効/無効にするためのビットです。</p> <p>0 : 内蔵 RAM のページ 6 への書き込みが無効</p> <p>1 : 内蔵 RAM のページ 6 への書き込みが有効</p> <p>[クリア条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • 0 書き込み (上位バイトに H'69 を同時書き込み) <p>[セット条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • リセット/スタンバイ • 1 書き込み (上位バイトに H'69 を同時書き込み)
5	RAMWE5	1	R/W	<p>RAM 書き込みイネーブル 5</p> <p>内蔵 RAM のページ 5 への書き込みを有効/無効にするためのビットです。</p> <p>0 : 内蔵 RAM のページ 5 への書き込みが無効</p> <p>1 : 内蔵 RAM のページ 5 への書き込みが有効</p> <p>[クリア条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • 0 書き込み (上位バイトに H'69 を同時書き込み) <p>[セット条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • リセット/スタンバイ • 1 書き込み (上位バイトに H'69 を同時書き込み)
4	RAMWE4	1	R/W	<p>RAM 書き込みイネーブル 4</p> <p>内蔵 RAM のページ 4 への書き込みを有効/無効にするためのビットです。</p> <p>0 : 内蔵 RAM のページ 4 への書き込みが無効</p> <p>1 : 内蔵 RAM のページ 4 への書き込みが有効</p> <p>[クリア条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • 0 書き込み (上位バイトに H'69 を同時書き込み) <p>[セット条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • リセット/スタンバイ • 1 書き込み (上位バイトに H'69 を同時書き込み)

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
3	RAMWE3	1	R/W	<p>RAM 書き込みイネーブル 3</p> <p>内蔵 RAM のページ 3 への書き込みを有効/無効にするためのビットです。</p> <p>0: 内蔵 RAM のページ 3 への書き込みが無効</p> <p>1: 内蔵 RAM のページ 3 への書き込みが有効</p> <p>[クリア条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> 0 書き込み (上位バイトに H'69 を同時書き込み) <p>[セット条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> リセット/スタンバイ 1 書き込み (上位バイトに H'69 を同時書き込み)
2	RAMWE2	1	R/W	<p>RAM 書き込みイネーブル 2</p> <p>内蔵 RAM のページ 2 への書き込みを有効/無効にするためのビットです。</p> <p>0: 内蔵 RAM のページ 2 への書き込みが無効</p> <p>1: 内蔵 RAM のページ 2 への書き込みが有効</p> <p>[クリア条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> 0 書き込み (上位バイトに H'69 を同時書き込み) <p>[セット条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> リセット/スタンバイ 1 書き込み (上位バイトに H'69 を同時書き込み)
1	RAMWE1	1	R/W	<p>RAM 書き込みイネーブル 1</p> <p>内蔵 RAM のページ 1 への書き込みを有効/無効にするためのビットです。</p> <p>0: 内蔵 RAM のページ 1 への書き込みが無効</p> <p>1: 内蔵 RAM のページ 1 への書き込みが有効</p> <p>[クリア条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> 0 書き込み (上位バイトに H'69 を同時書き込み) <p>[セット条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> リセット/スタンバイ 1 書き込み (上位バイトに H'69 を同時書き込み)
0	RAMWE0	1	R/W	<p>RAM 書き込みイネーブル 0</p> <p>内蔵 RAM のページ 0 への書き込みを有効/無効にするためのビットです。</p> <p>0: 内蔵 RAM のページ 0 への書き込みが無効</p> <p>1: 内蔵 RAM のページ 0 への書き込みが有効</p> <p>[クリア条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> 0 書き込み (上位バイトに H'69 を同時書き込み) <p>[セット条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> リセット/スタンバイ 1 書き込み (上位バイトに H'69 を同時書き込み)

• RAMWEN1

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	RWN1KEY[7:0]								RAM WE15	RAM WE14	RAM WE13	RAM WE12	RAM WE11	RAM WE10	RAM WE9	RAM WE8
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1
R/W:	R/(W)	R/(W)	R/(W)	R/(W)	R/(W)	R/(W)	R/(W)	R/(W)	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

【注】 本レジスタは、誤って書き換えられないように、書き込み方法が一般のレジスタと異なっています。詳しくは、「28.2.7 レジスタアクセス時の注意」を参照してください。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~8	RWN1KEY [7:0]	H'00	R/(W)	RAMWE ビットの書き換え可否を設定するためのビットです。 H'68 : RAMWE15~8 ビットへの書き込み許可。書き込みデータは保持されませんので読み出し値は常に H'00 です。 H'68 以外 : RAMWE15~8 ビットへの書き込み不可
7	RAMWE15	1	R/W	RAM 書き込みイネーブル 15 内蔵 RAM のページ 15 への書き込みを有効/無効にするためのビットです。 0 : 内蔵 RAM のページ 15 への書き込みが無効 1 : 内蔵 RAM のページ 15 への書き込みが有効 [クリア条件] • 0 書き込み (上位バイトに H'68 を同時書き込み) [セット条件] • リセット/スタンバイ • 1 書き込み (上位バイトに H'68 を同時書き込み)
6	RAMWE14	1	R/W	RAM 書き込みイネーブル 14 内蔵 RAM のページ 14 への書き込みを有効/無効にするためのビットです。 0 : 内蔵 RAM のページ 14 への書き込みが無効 1 : 内蔵 RAM のページ 14 への書き込みが有効 [クリア条件] • 0 書き込み (上位バイトに H'68 を同時書き込み) [セット条件] • リセット/スタンバイ • 1 書き込み (上位バイトに H'68 を同時書き込み)
5	RAMWE13	1	R/W	RAM 書き込みイネーブル 13 内蔵 RAM のページ 13 への書き込みを有効/無効にするためのビットです。 0 : 内蔵 RAM のページ 13 への書き込みが無効 1 : 内蔵 RAM のページ 13 への書き込みが有効 [クリア条件] • 0 書き込み (上位バイトに H'68 を同時書き込み) [セット条件] • リセット/スタンバイ • 1 書き込み (上位バイトに H'68 を同時書き込み)

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
4	RAMWE12	1	R/W	<p>RAM 書き込みイネーブル 12</p> <p>内蔵 RAM のページ 12 への書き込みを有効/無効にするためのビットです。</p> <p>0 : 内蔵 RAM のページ 12 への書き込みが無効</p> <p>1 : 内蔵 RAM のページ 12 への書き込みが有効</p> <p>[クリア条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • 0 書き込み (上位バイトに H'68 を同時書き込み) <p>[セット条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • リセット/スタンバイ • 1 書き込み (上位バイトに H'68 を同時書き込み)
3	RAMWE11	1	R/W	<p>RAM 書き込みイネーブル 11</p> <p>内蔵 RAM のページ 11 への書き込みを有効/無効にするためのビットです。</p> <p>0 : 内蔵 RAM のページ 11 への書き込みが無効</p> <p>1 : 内蔵 RAM のページ 11 への書き込みが有効</p> <p>[クリア条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • 0 書き込み (上位バイトに H'68 を同時書き込み) <p>[セット条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • リセット/スタンバイ • 1 書き込み (上位バイトに H'68 を同時書き込み)
2	RAMWE10	1	R/W	<p>RAM 書き込みイネーブル 10</p> <p>内蔵 RAM のページ 10 への書き込みを有効/無効にするためのビットです。</p> <p>0 : 内蔵 RAM のページ 10 への書き込みが無効</p> <p>1 : 内蔵 RAM のページ 10 への書き込みが有効</p> <p>[クリア条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • 0 書き込み (上位バイトに H'68 を同時書き込み) <p>[セット条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • リセット/スタンバイ • 1 書き込み (上位バイトに H'68 を同時書き込み)
1	RAMWE9	1	R/W	<p>RAM 書き込みイネーブル 9</p> <p>内蔵 RAM のページ 9 への書き込みを有効/無効にするためのビットです。</p> <p>0 : 内蔵 RAM のページ 9 への書き込みが無効</p> <p>1 : 内蔵 RAM のページ 9 への書き込みが有効</p> <p>[クリア条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • 0 書き込み (上位バイトに H'68 を同時書き込み) <p>[セット条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • リセット/スタンバイ • 1 書き込み (上位バイトに H'68 を同時書き込み)

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
0	RAMWE8	1	R/W	RAM 書き込みイネーブル 8 内蔵 RAM のページ 8 への書き込みを有効/無効にするためのビットです。 0 : 内蔵 RAM のページ 8 への書き込みが無効 1 : 内蔵 RAM のページ 8 への書き込みが有効 [クリア条件] • 0 書き込み (上位バイトに H'68 を同時書き込み) [セット条件] • リセット/スタンバイ • 1 書き込み (上位バイトに H'68 を同時書き込み)

28.2.3 RAM ECC イネーブルコントロールレジスタ (RAMECC)

RAMECC は、ECC 誤り訂正の有効／無効を設定するためのレジスタです。RAMECC は、リセット／スタンバイによって初期化されます。

RAMECC への書き込みはワードアクセスのみ可能で、読み出しはワード、バイトのどちらでも可能です。RAMECC への書き込みは、上位バイトを H'76 にし、下位バイトを書き込みデータにしてワードで行ってください。

RAMECC の上位バイト（ビット 15～8）の読み出し時には常に H'00 が読み出されます。

RAMECC へのライト命令の直後に内蔵 RAM をアクセスするような命令を置かないでください。もし内蔵 RAM アクセス命令を置いた場合、正常なアクセスは保証できません。

RECCA ビットを書き換える場合、RAMECC へのライト命令の直後に RAMECC のリード命令と NOP 命令を 5 個以上実行してください。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	REKEY[7:0]								-	-	-	-	-	-	-	RECCA
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/(W)	R/(W)	R/(W)	R/(W)	R/(W)	R/(W)	R/(W)	R/(W)	R	R	R	R	R	R	R	R/W

【注】 本レジスタは、誤って書き換えられないように、書き込み方法が一般のレジスタと異なっています。詳しくは、「28.2.7 レジスタアクセス時の注意」を参照してください。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15～8	REKEY [7:0]	H'00	R/(W)	RECCA ビットを書き換え可否を設定するためのビットです。 H'76 : RECCA ビットへの書き込み可能。書き込みデータは保持されませんので読み出し値は常に H'00 です。 H'76 以外 : RECCA ビットへの書き込み不可
7～1	-	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
0	RECCA	0	R/W	ECC 誤り訂正の有効／無効を設定するためのビットです。 0 : ECC 誤り訂正が有効 1 : ECC 誤り訂正が無効 [クリア条件] • リセット／スタンバイ • 0 書き込み（上位バイトに H'76 を同時書き込み） [セット条件] • 1 書き込み（上位バイトに H'76 を同時書き込み）

28.2.4 RAM エラーステータスレジスタ (RAMERR)

RAMERR は、RAM エラーの発生をモニタするためのレジスタです。

RAMERR は、リセット/スタンバイによって初期化されます。書き込み/読み出しはバイトアクセスのみ可能です。

ECC 誤り訂正が有効に設定された場合の RAM の読み出し時に、ページ 7~0 で 1 ビットの誤り訂正が発生すると RCRCT0 ビットがセットされ、ページ 15~8 で 1 ビットの誤り訂正が発生すると RCRCT1 ビットがセットされます。ページ 7~0 で 2 ビットの誤り検出が発生すると RDTCT0 ビットがセットされ、ページ 15~8 で 2 ビットの誤り検出が発生すると RDTCT1 ビットがセットされます。また、ECC 誤り訂正が無効に設定された場合の RAM の読み出し時および書き込み時に、ページ 7~0 でパリティエラーが発生すると、RPARIO ビットがセットされ、ページ 15~8 でパリティエラーが発生すると、RPARII ビットがセットされます。

RDTCT0、1、RCRCT0、1 ビットがセットされた後に RAM ECC イネーブルコントロールレジスタ (RAMECC) の設定で ECC 誤り訂正を無効にした場合には、RDTCT0、1、RCRCT0、1 ビットはセットされたままとなります。

また、RPARIO、1 ビットがセットされた後に RAMECC イネーブルコントロールレジスタ (RAMECC) の設定で ECC 誤り訂正を有効にした場合には、RPARIO、1 ビットはセットされたままとなります。

RAMERR をクリアする際は、H'00 をライトし直後に RAMERR のリード命令と NOP 命令を 5 個以上実行してください。セットされたステータスビットは、1 を読み出した後に 0 を書き込んでクリアします。ただし、0 を書き込んでクリアできるのは、1 を読み出したビットのみです。

RAMERR のビット 7、6 の読み出し時には常に 0 が読み出されます。

ビット :	7	6	5	4	3	2	1	0
	—	—	RP ARI1	RP ARIO	RD TCT1	RC RCT1	RD TCT0	RC RCT0
初期値 :	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W :	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
7、6	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
5	RPARI1	0	R/W	RAM パリティエラーモニタビット 1 ECC 誤り訂正無効時、ページ 15~8 でパリティエラー発生の有無をモニタするためのビットです。 0 : パリティエラーが未発生 1 : パリティエラーが発生 [クリア条件] • リセット/スタンバイ • 1 を読み出した後に 0 を書き込み [セット条件] • パリティエラーが発生

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
4	RPARIO	0	R/W	<p>RAM パリティエラーモニタビット 0</p> <p>ECC 誤り訂正無効時に、ページ 7~0 でパリティエラー発生の有無をモニタするためのビットです。</p> <p>0 : パリティエラーが未発生 1 : パリティエラーが発生</p> <p>[クリア条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • リセット/スタンバイ • 1 を読み出した後に 0 を書き込み <p>[セット条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • パリティエラーが発生
3	RDTCT1	0	R/W	<p>RAM 2 ビット誤り検出モニタビット 1</p> <p>ECC 誤り訂正有効時に、ページ 15~8 で 2 ビット誤り検出の発生有無をモニタするためのビットです。</p> <p>0 : 2 ビット誤り検出が未発生 1 : 2 ビット誤り検出が発生</p> <p>[クリア条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • リセット/スタンバイ • 1 を読み出した後に 0 を書き込み <p>[セット条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • 2 ビット誤り検出が発生
2	RCRCT1	0	R/W	<p>RAM 1 ビット誤り訂正モニタビット 1</p> <p>ECC 誤り訂正有効時に、ページ 15~8 で 1 ビット誤り訂正発生の有無をモニタするためのビットです。</p> <p>0 : 1 ビット誤り訂正が未発生 1 : 1 ビット誤り訂正が発生</p> <p>[クリア条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • リセット/スタンバイ • 1 を読み出した後に 0 を書き込み <p>[セット条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • 1 ビット誤り訂正が発生

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
1	RDTCT0	0	R/W	<p>RAM 2 ビット誤り検出モニタビット 0</p> <p>ECC 誤り訂正有効時に、ページ 7~0 で 2 ビット誤り検出の発生有無をモニタするためのビットです。</p> <p>0 : 2 ビット誤り検出が未発生 1 : 2 ビット誤り検出が発生</p> <p>[クリア条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • リセット/スタンバイ • 1 を読み出した後に 0 を書き込み <p>[セット条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • 2 ビット誤り検出が発生
0	RRCRCT0	0	R/W	<p>RAM 1 ビット誤り訂正モニタビット 0</p> <p>ECC 誤り訂正有効時に、ページ 7~0 で 1 ビット誤り訂正発生の有無をモニタするためのビットです。</p> <p>0 : 1 ビット誤り訂正が未発生 1 : 1 ビット誤り訂正が発生</p> <p>[クリア条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • リセット/スタンバイ • 1 を読み出した後に 0 を書き込み <p>[セット条件]</p> <ul style="list-style-type: none"> • 1 ビット誤り訂正が発生

28.2.5 RAM エラー割り込みコントロールレジスタ (RAMINT)

RAMINT は、RAM エラー割り込みの有効/無効を設定するためのレジスタです。

RAMECC イネーブルコントロールレジスタ (RAMECC) により ECC 誤り訂正を有効に設定した場合、RAMINT の RECIE0、1 を有効に設定したとき、1 ビット誤り訂正または 2 ビット誤り検出が発生すると割り込みが発生します。また、RAMINT の REDIE0、1 を有効に設定したときに、2 ビット誤り検出が発生すると割り込みが発生します。表 28.3 に ECC 誤り訂正が有効時の割り込み発生条件を示します。RAMECC により ECC 誤り訂正を無効に設定した場合、RAMINT の RPEIE0、1 を有効に設定したときにパリティエラーが発生すると割り込みが発生します。

RECIE0、REDIE0、RPEIE0 はページ 7~0、RECIE1、REDIE1、RPEIE1 はページ 15~8 の RAM 領域に該当します。

RAMINT は、リセット/スタンバイによって初期化されます。

RAMINT への書き込み/読み出しはバイトアクセスのみ可能です。RAMINT を書き換える場合、RAMINT へのライト命令の直後に RAMINT のリード命令と NOP 命令を 5 個以上実行してください。

ビット:	7	6	5	4	3	2	1	0
	-	-	RP EIE1	RP EIE0	RE DIE1	RE CIE1	RE DIE0	RE CIE0
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
7、6	-	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。
5	RPEIE1	0	R/W	RAM パリティエラー割り込みビット 1 ECC 誤り訂正無効時に、ページ 15~8 でパリティエラー発生時の割り込みの有効/無効を設定するためのビットです。 0: パリティエラー発生時の割り込みが無効 1: パリティエラー発生時の割り込みが有効
4	RPEIE0	0	R/W	RAM パリティエラー割り込みビット 0 ECC 誤り訂正無効時に、ページ 7~0 でパリティエラー発生時の割り込みの有効/無効を設定するためのビットです。 0: パリティエラー発生時の割り込みが無効 1: パリティエラー発生時の割り込みが有効
3	REDIE1	0	R/W	RAM2 ビット誤り検出割り込みビット 1 ECC 誤り訂正有効時に、ページ 15~8 で 2 ビット誤り検出発生時の割り込みの有効/無効を設定するためのビットです。 0: 2 ビット誤り検出時の割り込みが無効 1: 2 ビット誤り検出時の割り込みが有効

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
2	RECIE1	0	R/W	RAM1 ビット誤り訂正割り込みビット 1 ECC 誤り訂正有効時に、ページ 15~8 で 1 ビット誤り訂正発生時の割り込みの有効/無効を設定するためのビットです。 0: 1 ビット誤り訂正時の割り込みが無効 1: 1 ビット誤り訂正時の割り込みが有効
1	REDIE0	0	R/W	RAM2 ビット誤り検出割り込みビット 0 ECC 誤り訂正有効時に、ページ 7~0 で 2 ビット誤り検出発生時の割り込みの有効/無効を設定するためのビットです。 0: 2 ビット誤り検出時の割り込みが無効 1: 2 ビット誤り検出時の割り込みが有効
0	RECIE0	0	R/W	RAM1 ビット誤り訂正割り込みビット 0 ECC 誤り訂正有効時に、ページ 7~0 で 1 ビット誤り訂正発生時の割り込みの有効/無効を設定するためのビットです。 0: 1 ビット誤り訂正時の割り込みが無効 1: 1 ビット誤り訂正時の割り込みが有効

表 28.3 ECC 誤り訂正有効時の割り込み発生条件

REDIE ビット	RECIE ビット	割り込みが発生する RAM エラー
0	0	なし
0	1	1 ビット誤り訂正、または 2 ビット誤り検出発生時
1	0	2 ビット誤り検出発生時
1	1	1 ビット誤り訂正、または 2 ビット誤り検出発生時

28.2.6 RAM アクセスサイクル設定レジスタ (RAMACYC)

RAMACYC は、RAM のリード／ライトサイクルを設定するためのレジスタです。PLL クロックの逡倍比と ECC の有効／無効によって、サイクル設定の範囲が決まりますので表 28.4 に示す推奨の設定値の範囲でご使用ください。WRCYC ビット、RDCYC ビットは、リセット／スタンバイによって初期化されます。

RAMACYC への書き込みは、上位バイトを H'78 にし、下位バイトを書き込みデータにしてワードで行ってください。書き込みはワードアクセスのみ可能で、読み出しはワード、バイトのどちらでも可能です。

RAMACYC の上位バイト（ビット 15～8）の読み出し時には常に H'00 が読み出されます。

RAM アクセス中には RAMACYC への書き込みを行わないでください。そのため、RAMACYC レジスタを書き換える場合は、RAM イネーブルコントロールレジスタ (RAMEN) の RAME ビットをすべて 0 にセットし、RAM アクセスを禁止した上で書き換えを行ってください。

また、RAMACYC へのライト命令の直後に内蔵 RAM をアクセスするような命令を置かないでください。もし内蔵 RAM アクセス命令を置いた場合、正常なアクセスは保証できません。

WRCYC1、0 ビットおよび RDCYC ビットを書き換える場合、RAMACYC へのライト命令の直後に RAMACYC のリード命令と NOP 命令を 5 個以上実行してください。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	RAKEY[7:0]								—	—	WRCYC[1:0]		—	—	—	RDCYC
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/(W)	R/(W)	R/(W)	R/(W)	R/(W)	R/(W)	R/(W)	R/(W)	R	R	R/W	R/W	R	R	R	R/W

【注】 本レジスタは、誤って書き換えられないように、書き込み方法が一般のレジスタと異なります。詳しくは、「28.2.7 レジスタアクセス時の注意」を参照してください。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15～8	RAKEY [7:0]	H'00	R/(W)	WRCYC[1]、WRCYC[0]、RDCYC ビットの書き換え可否を設定するためのビットです。 H'78 : WRCYC[1]、WRCYC[0]、RDCYC ビットへの書き込み可能。 書き込みデータは保持されませんので読み出し値は常に H'00 です。 H'78 以外 : WRCYC[1]、WRCYC[0]、RDCYC ビットへの書き込み不可
7、6	—	すべて 0	R	リザーブビット 読み出すと常に 0 が読み出されます。書き込む値も常に 0 にしてください。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
5, 4	WRCYC [1:0]	00	R/W	RAMのライトサイクルを設定するためのビットです。 00: ライトアクセスを4サイクルに設定 01: ライトアクセスを3サイクルに設定 10: ライトアクセスを2サイクルに設定 11: 設定禁止 [クリア条件] • リセット/スタンバイ • B'00書き込み(上位バイトにH'78を同時書き込み) [セット条件] • 上位バイトにH'78を同時書き込み 【注】PLL 通倍比×4のとき以外は、2サイクル設定にしないでください。
3~1	—	すべて0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。
0	RDCYC	0	R/W	RAMのリードサイクルを設定するためのビットです。 0: リードアクセスを2サイクルに設定 1: リードアクセスを1サイクルに設定 [クリア条件] • リセット/スタンバイ • 0書き込み(上位バイトにH'78を同時書き込み) [セット条件] • 1書き込み(上位バイトにH'78を同時書き込み) 【注】PLL 通倍比×4のとき以外は、1サイクル設定にしないでください。

Iバスのアクセスは周辺クロック(Pφ)で行われ、Mバス/Fバスの内部クロック(φ)とは異なります。そのため、Iバスのアクセスサイクル数は、本レジスタの設定値だけでなくPLL通倍比の設定値と周辺クロック通倍比の設定値との組み合わせによって決まります。

PLL通倍比が×4、×6時と、周辺クロック通倍比が×2かつPLL通倍比が×8、×10時のIバスリードアクセス、および周辺クロック通倍比が×2かつPLL通倍比が×4、×6時のIバスライトアクセスでは、コマンド/アドレスの受理に1サイクルを使用するため全体で2サイクル必要となります。

表 28.4 リード/ライトサイクルの設定推奨値

PLL 連倍比	設定推奨値		Fバス/Mバスアクセス(φ)		周辺クロック 連倍比	Iバスサイクル(Pφ)	
	RDCYC	WRCYC[1:0]	リード [サイクル]	ライト [サイクル]		リード [サイクル]	ライト [サイクル]
×4	B'1	B'10	1	2	×1	2	1
					×2	2	2
×6	B'0	B'01	2	3	×1	2	1
					×2	2	2
×8			2	3	×1	1	1
					×2	2	1
×10			2	3	×1	1	1
					×2	2	1

28.2.7 レジスタアクセス時の注意

RAM イネーブルコントロールレジスタ 0、1 (RAMEN0、1)、RAM 書き込みイネーブルコントロールレジスタ 0、1 (RAMWEN0、1)、RAMECC イネーブルコントロールレジスタ (RAMECC)、RAM アクセスサイクル設定レジスタ (RAMACYC) は、容易に書き換えられないように、書き込み方法が一般のレジスタと異なっています。次の方法で書き込みを行ってください。

RAMEN0、1、RAMWEN0、1、RAMECC、および RAMACYC レジスタへ書き込むときは必ずワードでアクセスしてください。バイトおよびロングワード命令では書き込みません。

図 28.3 に示しますように、上位バイトにキーデータを書き込んでください。

- RAMEN0へ書き込むときは上位バイトをH'96にし、下位バイトを書き込みデータにして転送してください。
- RAMEN1へ書き込むときは上位バイトをH'95にし、下位バイトを書き込みデータにして転送してください。
- RAMWEN0へ書き込むときは上位バイトをH'69にし、下位バイトを書き込みデータにして転送してください。
- RAMWEN1へ書き込むときは上位バイトをH'68にし、下位バイトを書き込みデータにして転送してください。
- RAMECCへ書き込むときは上位バイトをH'76にし、下位バイトを書き込みデータにして転送してください。
- RAMACYCへ書き込むときは上位バイトをH'78にし、下位バイトを書き込みデータにして転送してください。

RAMEN0、1、RAMWEN0、1、RAMECC、および RAMACYC の上位バイト (ビット 15~8) の読み出し時には常に H'00 が読み出されます。

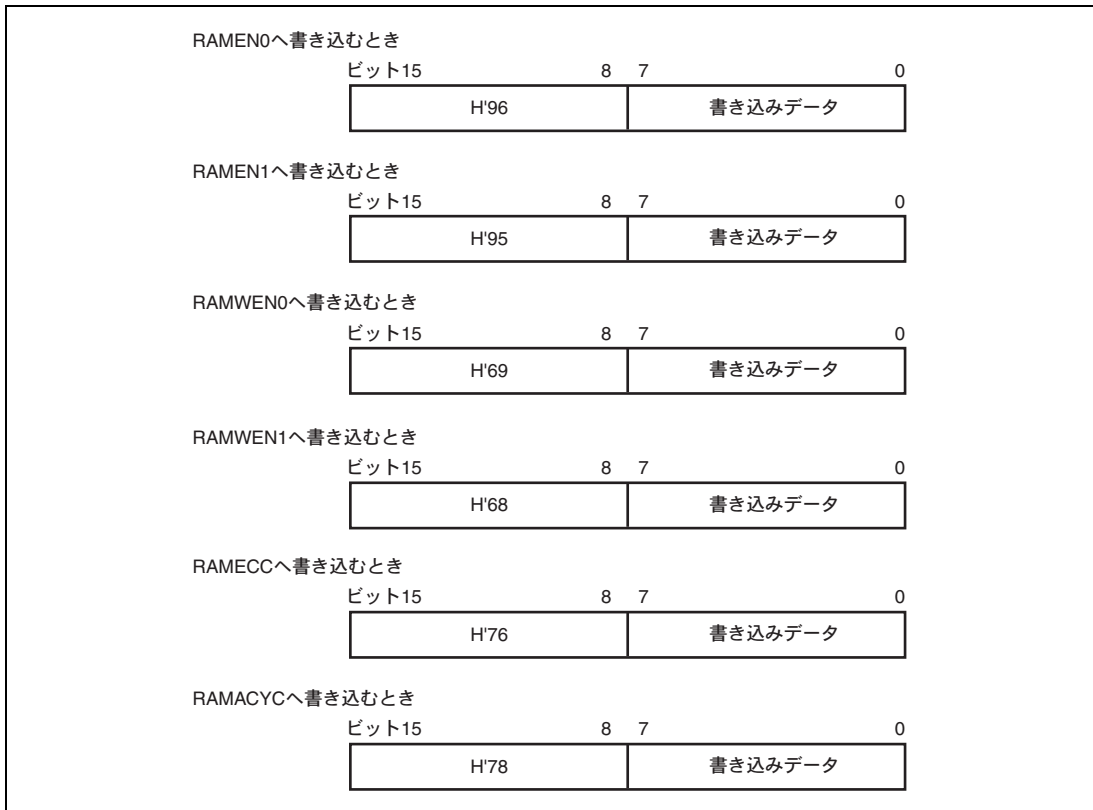


図 28.3 RAMEN0、1、RAMWEN0、1、RAMECC、および RAMACYC レジスタへの書き込み

28.3 動作説明

内蔵 RAM へのアクセスは、RAM イネーブルコントロールレジスタ 0、1 (RAMEN0、1) および RAM 書き込みイネーブルコントロールレジスタ 0、1 (RAMWEN0、1) で制御されます。

RAM アクセスのイネーブル/ディスエーブルは、RAM イネーブルコントロールレジスタ 0、1 (RAMEN0、1) の RAME15~0 ビットによって内蔵 RAM アドレスのエリアごとに設定できます。

RAMEN0、1 レジスタの RAME15~0 ビットを 0 にクリアすると内蔵 RAM はアクセスできません。読み出すと不定値が読み出され、書き込みは無効です。

RAM の書き込みイネーブル/ディスエーブルは、RAM 書き込みイネーブルコントロールレジスタ 0、1 (RAMWEN0、1) の RAMWE15~0 ビットによってエリアごとに設定できます。

レジスタの設定により ECC の有効/無効を選択することができます。初期状態では ECC 誤り訂正の機能は有効の状態です。

ECC が有効のときに 1 ビットの誤り訂正、2 ビットの誤り検出が可能です。

ECC が有効のときに 1 ビットの誤り訂正、2 ビットの誤り検出発生時にそれを示すフラグ (RAM エラーステータスレジスタ) を持ちます。ECC が無効のときにはパリティエラー発生時にそれを示すフラグ (RAM エラーステータスレジスタ) を持ちます。RAM エラーステータスレジスタがセットされたときに RAM エラー (RAME) 割り込みを発生することができます。

割り込み発生のイネーブル/ディスエーブルは、RAM エラー割り込みコントロールレジスタで設定することができます。

28.4 RAM のデータ保持

28.4.1 リセット時のデータ保持

LSI の動作中に外部から $\overline{\text{RES}}$ 端子にローレベル信号を入力すると、LSI はパワーオンリセット状態に遷移します。このとき内蔵 RAM をアクセスしていると、バスサイクルが正常終了しないために当該アドレスの RAM データが破壊されることがあります。

LSI 外部から内蔵 RAM のアクセスを避けてリセットを入力することは困難なため、リセット時にすべてのデータを保持する必要がある場合は RAM イネーブルレジスタ (RAMEN) により、当該 RAM を無効にする必要があります。

ただしパワーオンリセット状態を経てブートモード、ユーザブートモードへ遷移した場合は、LSI 内蔵の組み込みプログラムが RAM を使用するため、RAM の内容は保持されません。

28.4.2 ハードウェアスタンバイ時のデータ保持

本 LSI はハードウェアスタンバイ状態に遷移すると、RAM のページ 0、1 を除いて内部電源を遮断します。したがって、ページ 0、1 以外のページのデータは保持しません。ページ 0、1 のデータをハードウェアスタンバイ中に保持させるためには、図 28.4 に示すシーケンスに従ってハードウェアスタンバイへ遷移する必要があります。

ハードウェアスタンバイ中は V_{CC} 電源に規定の電圧 (V_{RAM}) が供給されているかぎり、ページ 0、1 のデータを保持することができます。

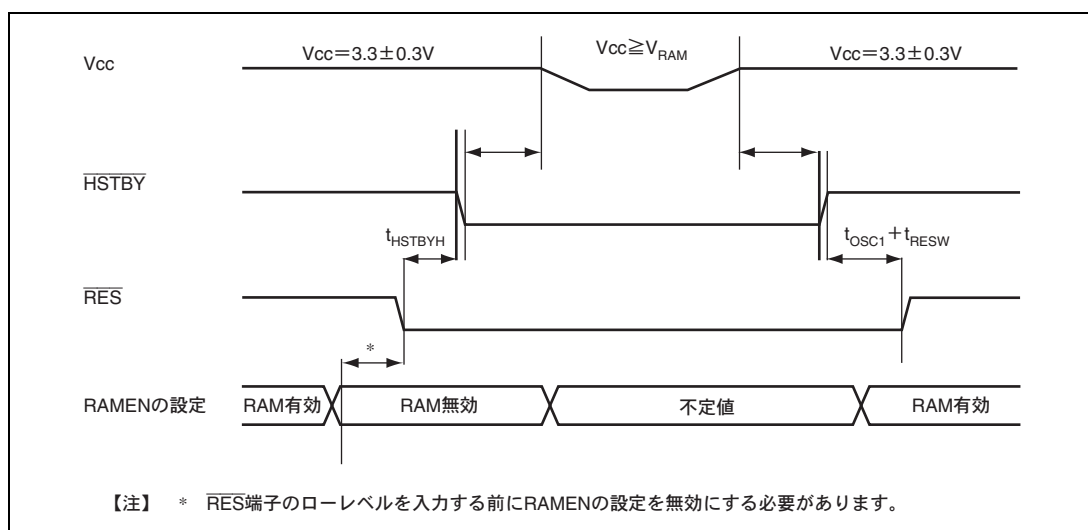


図 28.4 ハードウェアスタンバイ時の RAM データ保持

28.5 使用上の注意事項

28.5.1 ページ競合

同じページに対して異なるバスから同時にアクセス要求が発生した場合、ページ競合となり、優先順位に従ってアクセスが処理されます。優先順位は、高い順に I バス、M バス、F バスとなります。各アクセスは正しく完了しますが、このような競合はメモリアクセスの性能低下を招きます。したがって、できるだけ競合が起こらないようにソフトウェアでの対策を推奨いたします。たとえば、バスごとに異なるメモリ、異なるページをアクセスすると競合は発生しません。

28.5.2 電源立ち上げ後の状態

電源立ち上げ後は、ECC 誤り訂正データやパリティを含むすべての RAM データが不定値です。そのため、RAM データと誤り訂正データやパリティの値の関係は整合が取れていない場合があります。

電源立ち上げ後には RAM データと誤り訂正データの整合をとる（初期化する）ため、使用するすべての RAM エリアについて何らかのデータを書き込む必要があります。もし、初期化せずに RAM の読み出しを行った場合は、RAM エラーが発生することがあります。

なお、RAM の書き込みでは、RAM エラーが発生することはありません。

28.5.3 RAM 書き込み無効設定時の書き込み動作

初期化された RAM において RAM 書き込み無効設定を行ったページに対して書き込み動作を行い、かつそのアドレスに ECC エラーが発生していた場合、ECC エラーを誤検出し、ECC エラーフラグがセットされます。また割り込み有効設定時は割り込みも発生します。ただし、このとき書き込み動作は行われていないためデータが破壊されることはありません。

29. 低消費電力モード

低消費電力モードとして、ハードウェアスタンバイモード、スリープモードの2種類のモードおよび一部のモジュールの動作を停止させることができるモジュールスタンバイ機能があります。アプリケーションに応じて適当なモードを選択することで、LSIの消費電力を低減させることができます。

29.1 特長

29.1.1 低消費電力モードの種類

低消費電力モードには、次のようなモード、機能があります。

- **ハードウェアスタンバイモード**

$\overline{\text{RES}}$ 、 $\overline{\text{HSTBY}}$ 端子の入カレベルによりハードウェアスタンバイモードに遷移します。

ハードウェアスタンバイモード中はLSIの全機能が停止し、LSI内部の大部分の電源を遮断します。この状態からは、パワーオンリセットにより復帰します。

- **スリープモード**

CPUの命令によってスリープモードに遷移します。ただし、CPU以外の内蔵周辺モジュールは動作します。この状態からは、パワーオンリセット、割り込み、DMAアドレスエラーにより復帰します。

- **モジュールスタンバイ機能**

モジュールスタンバイ可能な内蔵周辺モジュール（FPU、UBC、DMAC、AUD-II、JTAGインタフェース）について、クロックの供給を停止してモジュールの動作を停止させることができます。スタンバイコントロールレジスタ（STBCR）の各ビットにより、対象とするモジュールへのクロックの供給をそれぞれ制御することができます。

表 29.1 に各モードでのCPUや周辺モジュールなどの状態、表 29.2 にプログラム実行状態から各モードへ遷移する条件および各モードの解除方法を示します。

表 29.1 低消費電力モードの状態

低消費電力モード	状 態*				
	CPG	CPU	CPU レジスタ	内蔵 RAM	内蔵周辺モジュール
ハードウェアスタンバイモード	停止 (電源遮断)	停止 (電源遮断)	停止 (電源遮断)	一部 (32KB) 領域保持 (保持領域以外は電源遮断)	停止 (電源遮断)
スリープモード	動作	停止	保持	動作	動作
モジュールスタンバイ機能	動作	動作	動作	動作	指定モジュールが停止

【注】 * 端子状態は、保持またはハイインピーダンスです。詳細は「付録 A. 端子状態」を参照してください。

表 29.2 低消費電力モードの遷移条件と解除方法

低消費電力モード	遷移条件	解除方法
ハードウェアスタンバイモード	<ul style="list-style-type: none"> • $\overline{\text{RES}}$ 端子にローレベルが入力された状態で、$\overline{\text{HSTBY}}$ 端子をローレベルにする 	<ul style="list-style-type: none"> • $\overline{\text{HSTBY}}$ 端子にハイレベルを入力して、パワーオンリセット
スリープモード	<ul style="list-style-type: none"> • SLEEP 命令を実行 	<ul style="list-style-type: none"> • パワーオンリセット • 割り込み • DMA アドレスエラー
モジュールスタンバイ機能	<ul style="list-style-type: none"> • STBCR の MSTP ビットを 1 とする 	<ul style="list-style-type: none"> • MSTP ビットを 0 にクリア • パワーオンリセット

29.2 入出力端子

低消費電力モード関連の端子構成を表 29.3 に示します。

表 29.3 端子構成

名称	端子名	入出力	機能
パワーオンリセット	RES	入力	端子にローレベルを入力することにより、パワーオンリセット処理へ移行します。
ハードウェアスタンバイ	HSTBY	入力	RES 端子にローレベルが入力された状態で端子にローレベルを入力することにより、ハードウェアスタンバイモードへ移行します。

29.3 レジスタの説明

低消費電力モード関連で使用するレジスタには、以下のものがあります。

表 29.4 レジスタ構成

レジスタ名	略称	R/W	初期値	アドレス	アクセスサイズ
スタンバイコントロールレジスタ	STBCR	R/W	H'0000	H'FFFE0400	8、16

29.3.1 スタンバイコントロールレジスタ (STBCR)

STBCR は、読み出し/書き込み可能な 16 ビットのレジスタで、低消費電力モード時の各モジュールの動作を制御します。STBCR は、パワーオンリセットやハードウェアスタンバイ時に H'0000 に初期化されます。

STBCR への書き込みはワード単位で行う必要があります。MSTP4~MSTP0 ビットの値を書き換える際には、同時に STBCRKEY ビットに H'3C を書き込んでください。STBCRKEY ビットに H'3C 以外の値が書き込まれた場合やバイト単位での書き込みは無視されます。

STBCR の読み出しは、ワード単位、バイト単位のどちらでも可能です。ただし、STBCRKEY ビットへの書き込みデータは保持されませんので、STBCRKEY ビットの読み出し値は常に H'00 になります。

【注】 本レジスタは、誤って書き換えられないように、書き込み方法が一般のレジスタと異なっています。詳細は、「29.3.2 レジスタアクセス時の注意」を参照してください。

ビット:	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	STBCRKEY								—	—	—	MSTP4	MSTP3	MSTP2	MSTP1	MSTP0
初期値:	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R/W:	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R/W*	R	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

【注】 * 書き込みデータは保持されません。

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
15~8	STBCRKEY	H'00	R/W	STBCR ライトキーコード MSTP4~MSTP0 ビットの書き換えが可能かどうかを制御します。本ビットへの書き込みデータは保持されませんので、読み出し値は常に H'00 になります。 H'3C : MSTP4~MSTP0 ビットの書き換え可能 H'3C 以外 : MSTP4~MSTP0 ビットの書き換え不可
7~5	—	すべて0	R	リザーブビット 読み出すと常に0が読み出されます。書き込む値も常に0にしてください。
4	MSTP4	0	R/W	モジュールストップ4 本ビットが1にセットされている間、JTAG の TAP コントローラはリセット状態となります。0にクリアすると、TAP コントローラのリセットは解除され、JTAG 端子の入力に応じて動作を行います。 0 : JTAG の TAP コントローラは動作 1 : JTAG の TAP コントローラはリセット状態
3	MSTP3	0	R/W	モジュールストップ3 本ビットを1にセットすると DMAC へのクロックの供給を停止、0にクリアすると DMAC へのクロックの供給を再開します。ただし、DMAC へのクロックの供給を停止しても、DMAC のレジスタは初期化されません。 0 : DMAC は動作 1 : DMAC へのクロックの供給を停止
2	MSTP2	0	R/W	モジュールストップ2 本ビットを1にセットすると AUD-II へのクロックの供給を停止、0にクリアすると AUD-II へのクロックの供給を再開します。AUD-II へのクロックの供給を停止すると、AUD-II の内部状態 (レジスタを含む) は初期化されます。ただし、AUD-II をトレースモードで動作させているとき、トレース機能が有効 (AUCSR の EN ビットが1) である場合はモジュールスタンバイ状態になりません。また、トレース機能が無効になっていても、内部の FIFO に取得したトレースデータが残っている間はモジュールスタンバイ状態になりません。FIFO のデータがすべて出力された後にモジュールスタンバイ状態となります。 0 : AUD-II は動作 1 : AUD-II へのクロックの供給を停止
1	MSTP1	0	R/W	モジュールストップ1 本ビットを1にセットすると FPU へのクロックの供給を停止します。ただし、1をセットした後に0をライトしてクリアすることはできません。つまり、本ビットに1をセットして FPU へのクロックの供給をいったん停止した後、本ビットを0にクリアして FPU へのクロックの供給を再開することはできません。FPU へのクロックの供給を停止した後に再開するには、LSI をパワーオンリセットしてください。 0 : FPU は動作 1 : FPU へのクロックの供給を停止

ビット	ビット名	初期値	R/W	説明
0	MSTP0	0	R/W	モジュールストップ0 本ビットを1にセットするとUBCへのクロックの供給を停止、0にクリアするとUBCへのクロックの供給を再開します。ただし、UBCへのクロックの供給を停止しても、UBCのレジスタは初期化されません。 0: UBCは動作 1: UBCへのクロックの供給を停止

29.3.2 レジスタアクセス時の注意

スタンバイコントロールレジスタ (STBCR) は、容易に書き換えられないように、書き込み方法が一般のレジスタと異なります。次の方法で書き込みまたは読み出しを行ってください。

STBCRへ書き込むときは、必ずワード転送命令を使用してください。バイト転送命令では書き込めません。図29.1に示すように、STBCRへ書き込むときは上位バイトをH'3Cにし、下位バイトを書き込みデータにして転送してください。このように転送すると、下位バイトのデータがSTBCRへ書き込まれます。

読み出しは、一般のレジスタと同様の方法で行うことができます。

STBCRは、アドレスH'FFFE0400に割り当てられており、バイト転送命令、ワード転送命令のどちらでも読み出しを行うことができます。

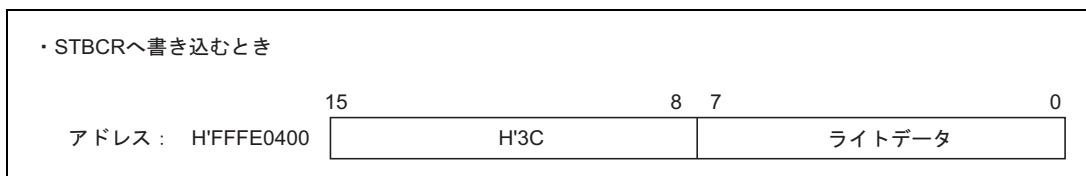


図 29.1 STBCR への書き込み

29.4 動作説明

29.4.1 ハードウェアスタンバイモード

(1) ハードウェアスタンバイモードへの遷移

$\overline{\text{RES}}$ 端子をローレベルにした後に $\overline{\text{HSTBY}}$ 端子をローレベルにすると、ハードウェアスタンバイモードに遷移します。モード端子は「第3章 動作モード」に示す端子設定を行ってください。それ以外の端子設定の場合の動作は保証できません。

ハードウェアスタンバイモード中は LSI の全機能が停止し、内蔵 RAM のページ 0、1 領域以外の内部電源を遮断するので、消費電力は著しく低減されます。この機能は、外部端子入力によりハードウェアスタンバイモードに遷移するため、現在の LSI の状態にかかわらず非同期にこのモードに遷移します。このため、内蔵 RAM のページ 0、1 領域を除き、ハードウェアスタンバイモードに遷移する前の LSI の状態は保持しません。

内蔵 RAM のページ 0、1 領域のデータは、規定の電圧が与えられているかぎり保持することができます。内蔵 RAM のデータを保持するためには、 $\overline{\text{HSTBY}}$ 端子をローレベルにする前に、ページ 0 領域については RAM イネーブルコントロールレジスタ (RAMEN) の RAME0 ビット、ページ 1 領域については RAME1 ビットを 0 にクリアしてください。RAM イネーブルコントロールレジスタ (RAMEN) の詳細については、「第 28 章 RAM」を参照してください。

なお、ハードウェアスタンバイモード中は、 $\overline{\text{HSTBY}}$ 端子をローレベルに保ってください。

ハードウェアスタンバイモード中のレジスタ状態については「第 31 章 レジスタ一覧」、端子状態については「付録 A. 端子状態」を参照してください。

(2) ハードウェアスタンバイモードの解除

ハードウェアスタンバイモードは、 $\overline{\text{HSTBY}}$ 端子および $\overline{\text{RES}}$ 端子でのみ解除できます。

$\overline{\text{RES}}$ 端子をローレベルにした状態で $\overline{\text{HSTBY}}$ 端子をハイレベルにすると、クロックは発振を開始します。このとき $\overline{\text{RES}}$ 端子は、必ずクロックの発振が安定するまでローレベルに保持してください。この後、 $\overline{\text{RES}}$ 端子をハイレベルにすると、CPU がパワーオンリセット例外処理を開始します。

(3) ハードウェアスタンバイモードのタイミング

ハードウェアスタンバイモードの各端子のタイミング例を図 29.2 に示します。

$\overline{\text{RES}}$ 端子をローレベルにした後に $\overline{\text{HSTBY}}$ 端子をローレベルにすると、ハードウェアスタンバイモードに遷移します。解除は、 $\overline{\text{HSTBY}}$ 端子をハイレベルにし、クロックの発振安定時間経過後、 $\overline{\text{RES}}$ 端子をローレベルからハイレベルにすることで行われます。

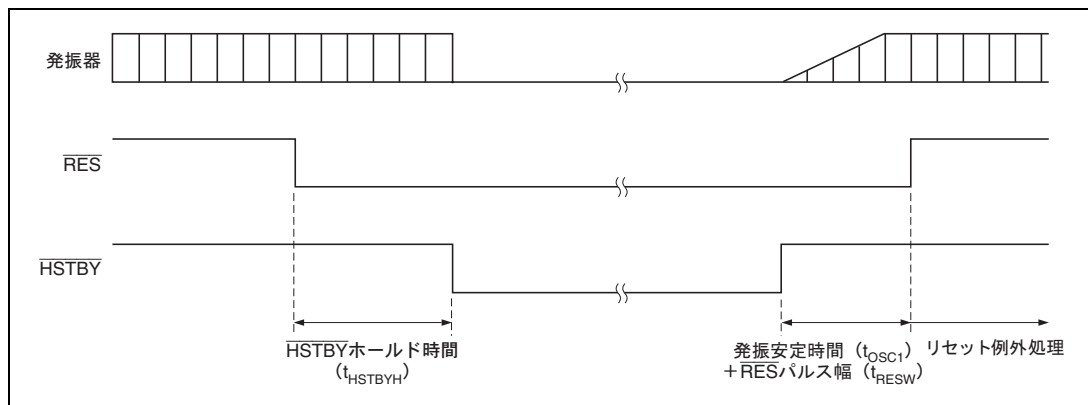


図 29.2 ハードウェアスタンバイモードのタイミング

29.4.2 スリープモード

(1) スリープモードへの遷移

CPU が SLEEP 命令を実行すると、プログラム実行状態からスリープモードに遷移します。CPU は SLEEP 命令実行後に停止しますが、CPU のレジスタ内容は保持されます。内蔵周辺モジュールは動作を続けます。CK コントロールレジスタ (CKCR) の設定により、CK 端子出力が有効となるように設定されていれば、スリープ状態でもクロックが出力され続けます。CKCR の詳細については「第 23 章 I/O ポート」を参照してください。スリープモードでの各レジスタの状態については「第 31 章 レジスタ一覧」を参照してください。

(2) スリープモードの解除

スリープモードは、割り込み (NMI、IRQ、内蔵周辺)、DMA アドレスエラー、およびパワーオンリセットにより解除されます。

- 割り込みによる解除

NMI、IRQ、および内蔵周辺の各割り込みが発生すると、スリープモードが解除され割り込み例外処理が実行されます。発生した割り込みの優先レベルが CPU のステータスレジスタ (SR) に設定されている割り込みマスクレベル以下の場合、および内蔵周辺モジュールによる割り込みがモジュール側で禁止されている場合には、割り込み要求は受け付けられず、スリープモードは解除されません。

- DMA アドレスエラーによる解除

DMA アドレスエラーが発生するとスリープモードが解除され、DMA アドレスエラー例外処理が実行されます。

- リセットによる解除

RES 端子にローレベルを入力するか WDT による内部リセットが発生すると、本 LSI はパワーオンリセット状態に遷移し、スリープモードは解除されます。

29.4.3 モジュールスタンバイ機能

(1) モジュールスタンバイ機能への遷移

スタンバイコントロールレジスタの各 MSTP ビットに 1 をセットすることで、それぞれ対応した内蔵周辺モジュールへのクロック供給を停止させることができます。この機能を使用することで、ノーマルモード時およびスリープ時の消費電力を低減させることができます。遷移前には必ずそのモジュールをディスエーブル状態にした後で、モジュールスタンバイ状態にしてください。また、モジュールスタンバイ状態のモジュールに対するレジスタアクセスなどは行わないでください。

モジュールスタンバイ状態において、スタンバイ対象モジュールの外部端子の状態はモジュールにより異なります。詳細は「付録 A. 端子状態」を参照してください。

UBC、DMAC については、モジュールスタンバイ状態でもレジスタの内容は保持されます。

JTAG の TAP コントローラは、モジュールスタンバイでリセット状態 (Test-Logic-Reset) となります。

AUD-II は、内部状態 (レジスタを含む) がモジュールスタンバイで初期化されます。ただし、AUD-II をトレースモードで動作させているとき、トレース機能が有効 (AUCSR の EN ビットが 1) である場合はモジュールスタンバイ状態になりません。また、トレース機能が無効になっていても、内部の FIFO に取得したトレースデータが残っている間はモジュールスタンバイ状態になりません。FIFO のデータがすべて出力された後にモジュールスタンバイ状態となります。

FPU は、いったんモジュールスタンバイ状態に設定した後、モジュール動作を再開させることはできません。再開させるには、LSI をパワーオンリセットしてください。

(2) モジュールスタンバイ機能の解除

モジュールスタンバイ機能の解除は、各 MSTP ビットを 0 にクリアするか、パワーオンリセットにより行います。各 MSTP ビットを 0 にクリアしてモジュールスタンバイ機能を解除する場合は、該当ビットを読み出して 0 にクリアされたことを確認してください。

30. 信頼性について

30.1 信頼性について

半導体デバイスの信頼性指標は故障率（Failure Rate）で表します。この故障率は図 30.1 に示すように、時間に対してバスタブ（Bathtub）曲線を描くといわれています。この曲線は、故障の発生具合から初期故障期間、偶発故障期間（耐用寿命）、摩耗故障期間と呼ばれる3つの期間に分けられます。初期故障期間に発生する初期故障は、製造工程での異物の付着や局所的な化学汚染などが原因となっており、スクリーニングにより取り除かれます。摩耗故障期間に発生する摩耗故障は、長期間の使用により半導体デバイスを構成する材料が経時的に劣化することが原因となります。偶発故障期間に発生する偶発故障は、わずかな不具合を持った製品がスクリーニングで除去されずに出荷されお客様での製造工程やフィールドで故障に至るものや、製造時のばらつきにより摩耗故障期間で発生すべき故障が早めに発生するものと考えられます。したがって、半導体デバイスの信頼性は、初期故障低減のための適切なスクリーニングと摩耗故障の立ち上がりを抑える高信頼性設計により確保されます。製品の開発にあたっては、量産試作を行い大量データでの初期故障率の確認と、摩耗故障に対して実用時の使用環境を考慮した加速寿命試験により製品の信頼性を確認します。

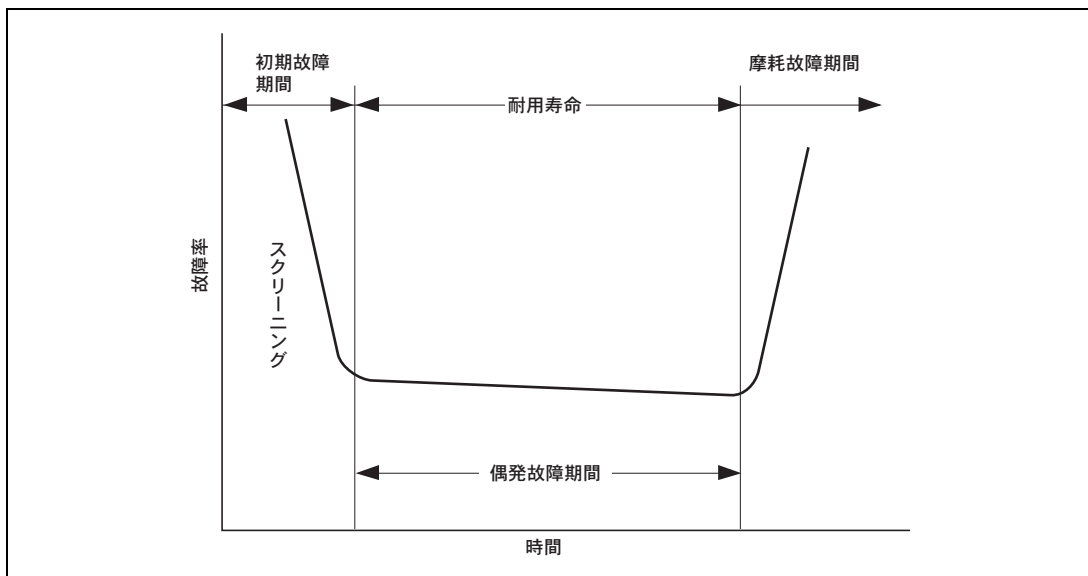


図 30.1 故障率曲線（バスタブカーブ）

自動車分野で使用されることを目的に開発された製品については、民生および産業分野に比べ厳しい環境で使用されることを前提に信頼性の評価を行います。半導体デバイスの代表的な故障現象である酸化膜の絶縁破壊や配線のエレクトロマイグレーションなどは摩耗故障であり、故障のストレス要因としては実用時の電圧または電流と温度があげられます。従来から自動車用の製品については、動作保証温度が -40°C から 125°C であることから、前述の故障現象に対し -40°C から 125°C の範囲で動作したときの信頼性を加速寿命試験により確認しています。 125°C を超える動作においては、半導体デバイスの故障が温度に依存するため、故障が発生するまでの時間が大幅に減少します。

31. レジスタ一覧

レジスタ一覧では、本 LSI の内蔵 I/O レジスタの情報について、以下の構成で説明します。

(1) レジスタアドレス一覧（機能モジュールごと、マニュアル章番号順）

- 機能モジュールごと、マニュアルの章番号順にレジスタを記載します。
- レジスタアドレス一覧に記載されていないリザーブアドレスのアクセスはしないでください。
- アドレスは、16ビットまたは32ビットの場合、ビッグエンディアンを前提として、MSB側のアドレスを記載しています。

(2) レジスタビット一覧

- 「レジスタアドレス一覧（機能モジュールごと、マニュアル章番号順）」の順序で、各レジスタのビットの構成を記載します。
- リザーブビットは、ビット名称部に「-」と表記しています。
- ビット名称部が空白のものは、そのレジスタ全体がカウンタやデータに割り付けられていることを示します。

(3) 各動作モードにおけるレジスタの状態の一覧

- 「レジスタアドレス一覧（機能モジュールごと、マニュアル章番号順）」の順序で、レジスタの状態を記載します。
- 初期化の各ビットの状態は、該当する章のレジスタ説明を参照してください。
- 基本的な動作モード時のレジスタの状態を示しています。内蔵周辺モジュール固有のリセットがある場合は、内蔵周辺モジュールの章を参照してください。

31.1 レジスタアドレス一覧 (機能モジュールごと、マニュアル章番号順)

モジュール名	レジスタ名	略称	ビット数	アドレス	アクセス サイズ
INTC	割り込みコントロールレジスタ 0	ICR0	16	H'FFFE0800	16、32
	割り込みコントロールレジスタ 1	ICR1	16	H'FFFE0802	16、32
	IRQ 割り込み要求レジスタ	IRQRR	16	H'FFFE0806	8、16、32
	バンクコントロールレジスタ	IBCR	16	H'FFFE080C	16、32
	バンク番号レジスタ	IBNR	16	H'FFFE080E	16、32
	ソフトウェア割り込みレジスタ 1	SINTR1	8	H'FFFE0810	8、16、32
	ソフトウェア割り込みレジスタ 2	SINTR2	8	H'FFFE0811	8、16、32
	ソフトウェア割り込みレジスタ 3	SINTR3	8	H'FFFE0812	8、16、32
	ソフトウェア割り込みレジスタ 4	SINTR4	8	H'FFFE0813	8、16、32
	ソフトウェア割り込みレジスタ 5	SINTR5	8	H'FFFE0814	8、16、32
	ソフトウェア割り込みレジスタ 6	SINTR6	8	H'FFFE0815	8、16、32
	ソフトウェア割り込みレジスタ 7	SINTR7	8	H'FFFE0816	8、16、32
	ソフトウェア割り込みレジスタ 8	SINTR8	8	H'FFFE0817	8、16、32
	割り込み優先レベル設定レジスタ 01	IPR01	16	H'FFFE0818	16、32
	割り込み優先レベル設定レジスタ 02	IPR02	16	H'FFFE081A	16、32
	ソフトウェア割り込みレジスタ 9	SINTR9	8	H'FFFE0828	8、16、32
	ソフトウェア割り込みレジスタ 10	SINTR10	8	H'FFFE0829	8、16、32
	ソフトウェア割り込みレジスタ 11	SINTR11	8	H'FFFE082A	8、16、32
	ソフトウェア割り込みレジスタ 12	SINTR12	8	H'FFFE082B	8、16、32
	ソフトウェア割り込みレジスタ 13	SINTR13	8	H'FFFE082C	8、16、32
	ソフトウェア割り込みレジスタ 14	SINTR14	8	H'FFFE082D	8、16、32
	ソフトウェア割り込みレジスタ 15	SINTR15	8	H'FFFE082E	8、16、32
	割り込み優先レベル設定レジスタ 03	IPR03	16	H'FFFE0C00	16、32
	割り込み優先レベル設定レジスタ 04	IPR04	16	H'FFFE0C02	16、32
	割り込み優先レベル設定レジスタ 05	IPR05	16	H'FFFE0C04	16、32
	割り込み優先レベル設定レジスタ 06	IPR06	16	H'FFFE0C06	16、32
	割り込み優先レベル設定レジスタ 07	IPR07	16	H'FFFE0C08	16、32
	割り込み優先レベル設定レジスタ 08	IPR08	16	H'FFFE0C0A	16、32
	割り込み優先レベル設定レジスタ 09	IPR09	16	H'FFFE0C0C	16、32
	割り込み優先レベル設定レジスタ 10	IPR10	16	H'FFFE0C0E	16、32
	割り込み優先レベル設定レジスタ 11	IPR11	16	H'FFFE0C10	16、32
	割り込み優先レベル設定レジスタ 12	IPR12	16	H'FFFE0C12	16、32
	割り込み優先レベル設定レジスタ 13	IPR13	16	H'FFFE0C14	16、32
	割り込み優先レベル設定レジスタ 14	IPR14	16	H'FFFE0C16	16、32

モジュール名	レジスタ名	略称	ビット数	アドレス	アクセス サイズ
INTC	割り込み優先レベル設定レジスタ 15	IPR15	16	H'FFFE0C18	16、32
	割り込み優先レベル設定レジスタ 16	IPR16	16	H'FFFE0C1A	16、32
	割り込み優先レベル設定レジスタ 17	IPR17	16	H'FFFE0C1C	16、32
	割り込み優先レベル設定レジスタ 18	IPR18	16	H'FFFE0C1E	16、32
	割り込み優先レベル設定レジスタ 19	IPR19	16	H'FFFE0C20	16、32
	割り込み優先レベル設定レジスタ 20	IPR20	16	H'FFFE0C22	16、32
	割り込み優先レベル設定レジスタ 21	IPR21	16	H'FFFE0C24	16、32
	割り込み優先レベル設定レジスタ 22	IPR22	16	H'FFFE0C26	16、32
	割り込み優先レベル設定レジスタ 23	IPR23	16	H'FFFE0C28	16、32
	割り込み優先レベル設定レジスタ 24	IPR24	16	H'FFFE0C2A	16、32
	割り込み優先レベル設定レジスタ 25	IPR25	16	H'FFFE0C2C	16、32
	割り込み優先レベル設定レジスタ 26	IPR26	16	H'FFFE0C2E	16、32
	割り込み優先レベル設定レジスタ 27	IPR27	16	H'FFFE0C30	16、32
	割り込み優先レベル設定レジスタ 28	IPR28	16	H'FFFE0C32	16、32
	割り込み優先レベル設定レジスタ 29	IPR29	16	H'FFFE0C34	16、32
UBC	ブ레이크アドレスレジスタ_0	BAR_0	32	H'FFFC0400	32
	ブ레이크アドレスマスクレジスタ_0	BAMR_0	32	H'FFFC0404	32
	ブ레이크バスサイクルレジスタ_0	BBR_0	16	H'FFFC04A0	16
	ブ레이크アドレスレジスタ_1	BAR_1	32	H'FFFC0410	32
	ブ레이크アドレスマスクレジスタ_1	BAMR_1	32	H'FFFC0414	32
	ブ레이크バスサイクルレジスタ_1	BBR_1	16	H'FFFC04B0	16
	ブ레이크アドレスレジスタ_2	BAR_2	32	H'FFFC0420	32
	ブ레이크アドレスマスクレジスタ_2	BAMR_2	32	H'FFFC0424	32
	ブ레이크バスサイクルレジスタ_2	BBR_2	16	H'FFFC04A4	16
	ブ레이크アドレスレジスタ_3	BAR_3	32	H'FFFC0430	32
	ブ레이크アドレスマスクレジスタ_3	BAMR_3	32	H'FFFC0434	32
	ブ레이크バスサイクルレジスタ_3	BBR_3	16	H'FFFC04B4	16
	ブ레이크コントロールレジスタ	BRCR	32	H'FFFC04C0	8、32
BSC	CS0 空間バスコントロールレジスタ	CS0BCR	32	H'FFFC0004	32
	CS1 空間バスコントロールレジスタ	CS1BCR	32	H'FFFC0008	32
	CS2 空間バスコントロールレジスタ	CS2BCR	32	H'FFFC000C	32
	CS3 空間バスコントロールレジスタ	CS3BCR	32	H'FFFC0010	32
	CS0 空間ウェイトコントロールレジスタ	CS0WCR	32	H'FFFC0028	32
	CS1 空間ウェイトコントロールレジスタ	CS1WCR	32	H'FFFC002C	32
	CS2 空間ウェイトコントロールレジスタ	CS2WCR	32	H'FFFC0030	32
	CS3 空間ウェイトコントロールレジスタ	CS3WCR	32	H'FFFC0034	32

モジュール名	レジスタ名	略称	ビット数	アドレス	アクセス サイズ
DMAC	DMA ソースアドレスレジスタ 0	SAR0	32	H'FFFE1000	16、32
	DMA デスティネーションアドレスレジスタ 0	DAR0	32	H'FFFE1004	16、32
	DMA トランスファカウンタレジスタ 0	DMATCR0	32	H'FFFE1008	16、32
	DMA チャンネルコントロールレジスタ 0	CHCR0	32	H'FFFE100C	8、16、32
	DMA チャンネルフラグビットレジスタ 0	CHFR0	8	H'FFFE108C	8
	DMA TE フラグマスク設定レジスタ 0	TEMSK0	16	H'FFFE108E	8、16
	DMA リロードソースアドレスレジスタ 0	RSAR0	32	H'FFFE1100	16、32
	DMA リロードデスティネーション アドレスレジスタ 0	RDAR0	32	H'FFFE1104	16、32
	DMA リロードトランスファカウンタ レジスタ 0	RDMATCR0	32	H'FFFE1108	16、32
	DMA ソースアドレスレジスタ 1	SAR1	32	H'FFFE1010	16、32
	DMA デスティネーションアドレスレジスタ 1	DAR1	32	H'FFFE1014	16、32
	DMA トランスファカウンタレジスタ 1	DMATCR1	32	H'FFFE1018	16、32
	DMA チャンネルコントロールレジスタ 1	CHCR1	32	H'FFFE101C	8、16、32
	DMA チャンネルフラグビットレジスタ 1	CHFR1	8	H'FFFE109C	8
	DMA TE フラグマスク設定レジスタ 1	TEMSK1	16	H'FFFE109E	8、16
	DMA リロードソースアドレスレジスタ 1	RSAR1	32	H'FFFE1110	16、32
	DMA リロードデスティネーション アドレスレジスタ 1	RDAR1	32	H'FFFE1114	16、32
	DMA リロードトランスファカウンタ レジスタ 1	RDMATCR1	32	H'FFFE1118	16、32
	DMA ソースアドレスレジスタ 2	SAR2	32	H'FFFE1020	16、32
	DMA デスティネーションアドレスレジスタ 2	DAR2	32	H'FFFE1024	16、32
	DMA トランスファカウンタレジスタ 2	DMATCR2	32	H'FFFE1028	16、32
	DMA チャンネルコントロールレジスタ 2	CHCR2	32	H'FFFE102C	8、16、32
	DMA チャンネルフラグビットレジスタ 2	CHFR2	8	H'FFFE10AC	8
	DMA TE フラグマスク設定レジスタ 2	TEMSK2	16	H'FFFE10AE	8、16
	DMA リロードソースアドレスレジスタ 2	RSAR2	32	H'FFFE1120	16、32
	DMA リロードデスティネーション アドレスレジスタ 2	RDAR2	32	H'FFFE1124	16、32
	DMA リロードトランスファカウンタ レジスタ 2	RDMATCR2	32	H'FFFE1128	16、32
	DMA ソースアドレスレジスタ 3	SAR3	32	H'FFFE1030	16、32
	DMA デスティネーションアドレスレジスタ 3	DAR3	32	H'FFFE1034	16、32
	DMA トランスファカウンタレジスタ 3	DMATCR3	32	H'FFFE1038	16、32
	DMA チャンネルコントロールレジスタ 3	CHCR3	32	H'FFFE103C	8、16、32

モジュール名	レジスタ名	略称	ビット数	アドレス	アクセス サイズ
DMAC	DMA チャンネルフラグビットレジスタ 3	CHFR3	8	H'FFFE10BC	8
	DMA TE フラグマスク設定レジスタ 3	TEMSK3	16	H'FFFE10BE	8、16
	DMA リロードソースアドレスレジスタ 3	RSAR3	32	H'FFFE1130	16、32
	DMA リロードデスティネーション アドレスレジスタ 3	RDAR3	32	H'FFFE1134	16、32
	DMA リロードトランスファカウント レジスタ 3	RDMATCR3	32	H'FFFE1138	16、32
	DMA ソースアドレスレジスタ 4	SAR4	32	H'FFFE1040	16、32
	DMA デスティネーションアドレスレジスタ 4	DAR4	32	H'FFFE1044	16、32
	DMA トランスファカウントレジスタ 4	DMATCR4	32	H'FFFE1048	16、32
	DMA チャンネルコントロールレジスタ 4	CHCR4	32	H'FFFE104C	8、16、32
	DMA チャンネルフラグビットレジスタ 4	CHFR4	8	H'FFFE10CC	8
	DMA TE フラグマスク設定レジスタ 4	TEMSK4	16	H'FFFE10CE	8、16
	DMA リロードソースアドレスレジスタ 4	RSAR4	32	H'FFFE1140	16、32
	DMA リロードデスティネーション アドレスレジスタ 4	RDAR4	32	H'FFFE1144	16、32
	DMA リロードトランスファカウント レジスタ 4	RDMATCR4	32	H'FFFE1148	16、32
	DMA アドレスリロードカウントレジスタ 4	ARCR4	16	H'FFFE114C	16、32
	DMA リロードアドレスリロード カウントレジスタ 4	RARCR4	16	H'FFFE114E	16
	DMA ソースアドレスレジスタ 5	SAR5	32	H'FFFE1050	16、32
	DMA デスティネーションアドレスレジスタ 5	DAR5	32	H'FFFE1054	16、32
	DMA トランスファカウントレジスタ 5	DMATCR5	32	H'FFFE1058	16、32
	DMA チャンネルコントロールレジスタ 5	CHCR5	32	H'FFFE105C	8、16、32
	DMA チャンネルフラグビットレジスタ 5	CHFR5	8	H'FFFE10DC	8
	DMA TE フラグマスク設定レジスタ 5	TEMSK5	16	H'FFFE10DE	8、16
	DMA リロードソースアドレスレジスタ 5	RSAR5	32	H'FFFE1150	16、32
	DMA リロードデスティネーション アドレスレジスタ 5	RDAR5	32	H'FFFE1154	16、32
	DMA リロードトランスファカウント レジスタ 5	RDMATCR5	32	H'FFFE1158	16、32
	DMA アドレスリロードカウントレジスタ 5	ARCR5	16	H'FFFE115C	16、32
	DMA リロードアドレスリロード カウントレジスタ 5	RARCR5	16	H'FFFE115E	16
	DMA ソースアドレスレジスタ 6	SAR6	32	H'FFFE1060	16、32
	DMA デスティネーションアドレス レジスタ 6	DAR6	32	H'FFFE1064	16、32

モジュール名	レジスタ名	略称	ビット数	アドレス	アクセス サイズ	
DMAC	DMA トランスファカウンタレジスタ 6	DMATCR6	32	H'FFFE1068	16、32	
	DMA チャンネルコントロールレジスタ 6	CHCR6	32	H'FFFE106C	8、16、32	
	DMA チャンネルフラグビットレジスタ 6	CHFR6	8	H'FFFE10EC	8	
	DMA TE フラグマスク設定レジスタ 6	TEMSK6	16	H'FFFE10EE	8、16	
	DMA リロードソースアドレスレジスタ 6	RSAR6	32	H'FFFE1160	16、32	
	DMA リロードデスティネーション アドレスレジスタ 6	RDAR6	32	H'FFFE1164	16、32	
	DMA リロードトランスファカウンタ レジスタ 6	RDMATCR6	32	H'FFFE1168	16、32	
	DMA アドレスリロードカウンタレジスタ 6	ARCR6	16	H'FFFE116C	16、32	
	DMA リロードアドレスリロード カウンタレジスタ 6	RARCR6	16	H'FFFE116E	16	
	DMA ソースアドレスレジスタ 7	SAR7	32	H'FFFE1070	16、32	
	DMA デスティネーションアドレスレジスタ 7	DAR7	32	H'FFFE1074	16、32	
	DMA トランスファカウンタレジスタ 7	DMATCR7	32	H'FFFE1078	16、32	
	DMA チャンネルコントロールレジスタ 7	CHCR7	32	H'FFFE107C	8、16、32	
	DMA チャンネルフラグビットレジスタ 7	CHFR7	8	H'FFFE10FC	8	
	DMA TE フラグマスク設定レジスタ 7	TEMSK7	16	H'FFFE10FE	8、16	
	DMA リロードソースアドレスレジスタ 7	RSAR7	32	H'FFFE1170	16、32	
	DMA リロードデスティネーション アドレスレジスタ 7	RDAR7	32	H'FFFE1174	16、32	
	DMA リロードトランスファカウンタ レジスタ 7	RDMATCR7	32	H'FFFE1178	16、32	
	DMA アドレスリロードカウンタレジスタ 7	ARCR7	16	H'FFFE117C	16、32	
	DMA リロードアドレスリロード カウンタレジスタ 7	RARCR7	16	H'FFFE117E	16	
	DMA オペレーションレジスタ	DMAOR	16	H'FFFE1200	8、16	
	DMA オペレーションフラグビットレジスタ	DMAFR	8	H'FFFE1204	8	
	DMA 拡張リソースセクタ 0	DMARS0	16	H'FFFE1300	8、16	
	DMA 拡張リソースセクタ 1	DMARS1	16	H'FFFE1304	8、16	
	DMA 拡張リソースセクタ 2	DMARS2	16	H'FFFE1308	8、16	
	DMA 拡張リソースセクタ 3	DMARS3	16	H'FFFE130C	8、16	
	A-DMAC	A-DMAC オペレーションレジスタ	ADMAOR	8	H'FFFE6000	8
		A-DMAC エイリアスペースレジスタ	ADMAABR	8	H'FFFE6002	8
A-DMAC 割り込みコントロールレジスタ 0		ADMAIE0	8	H'FFFE6010	8	
A-DMAC 割り込みコントロールレジスタ 1		ADMAIE1	8	H'FFFE6011	8	
A-DMAC 割り込みコントロールレジスタ 2		ADMAIE2	8	H'FFFE6012	8	

モジュール名	レジスタ名	略称	ビット数	アドレス	アクセス サイズ
A-DMAC	A-DMAC 割り込みコントロールレジスタ 3	ADMAIE3	8	H'FFFE6013	8
	A-DMAC 割り込みコントロールレジスタ 4	ADMAIE4	8	H'FFFE6014	8
	A-DMAC 割り込みコントロールレジスタ 5	ADMAIE5	8	H'FFFE6015	8
	A-DMAC 割り込みコントロールレジスタ 7	ADMAIE7	8	H'FFFE6017	8
	A-DMAC 割り込みコントロールレジスタ 8	ADMAIE8	8	H'FFFE6018	8
	A-DMAC 割り込みコントロールレジスタ 9	ADMAIE9	8	H'FFFE6019	8
	A-DMAC データ有効レジスタ 0	ADMADV0	8	H'FFFE6020	8
	A-DMAC データ有効レジスタ 1	ADMADV1	8	H'FFFE6021	8
	A-DMAC データ有効レジスタ 2	ADMADV2	8	H'FFFE6022	8
	A-DMAC データ有効レジスタ 3	ADMADV3	8	H'FFFE6023	8
	A-DMAC データ有効レジスタ 4	ADMADV4	8	H'FFFE6024	8
	A-DMAC データ有効レジスタ 5	ADMADV5	8	H'FFFE6025	8
	A-DMAC トランスファエンドレジスタ 0	ADMATE0	8	H'FFFE6030	8
	A-DMAC トランスファエンドレジスタ 1	ADMATE1	8	H'FFFE6031	8
	A-DMAC トランスファエンドレジスタ 2	ADMATE2	8	H'FFFE6032	8
	A-DMAC イネーブルレジスタ 0	ADMARE0	8	H'FFFE6040	8
	A-DMAC イネーブルレジスタ 1	ADMARE1	8	H'FFFE6041	8
	A-DMAC イネーブルレジスタ 2	ADMARE2	8	H'FFFE6042	8
	A-DMAC イネーブルレジスタ 3	ADMARE3	8	H'FFFE6043	8
	A-DMAC イネーブルレジスタ 4	ADMARE4	8	H'FFFE6044	8
	A-DMAC イネーブルレジスタ 5	ADMARE5	8	H'FFFE6045	8
	A-DMAC イネーブルレジスタ 7	ADMARE7	8	H'FFFE6047	8
	A-DMAC 転送モードレジスタ 0	ADMAMODE0	8	H'FFFE6050	8
	A-DMAC 転送モードレジスタ 1	ADMAMODE1	8	H'FFFE6051	8
	A-DMAC 転送モードレジスタ 2	ADMAMODE2	8	H'FFFE6052	8
	A-DMAC 転送カウントレジスタ 0	ADMATCR0	16	H'FFFE6060	16
	A-DMAC リロード転送カウントレジスタ 0	ADMARTCR0	16	H'FFFE6062	16
	A-DMAC 転送カウントレジスタ 1	ADMATCR1	16	H'FFFE6064	16
	A-DMAC リロード転送カウントレジスタ 1	ADMARTCR1	16	H'FFFE6066	16
	A-DMAC 転送カウントレジスタ 56	ADMATCR56	16	H'FFFE6070	16
	A-DMAC 転送カウントレジスタ 57	ADMATCR57	16	H'FFFE6072	16
	A-DMAC 転送カウントレジスタ 58	ADMATCR58	16	H'FFFE6074	16
	A-DMAC 転送カウントレジスタ 59	ADMATCR59	16	H'FFFE6076	16
	A-DMAC 転送カウントレジスタ 60	ADMATCR60	16	H'FFFE6078	16
A-DMAC 転送カウントレジスタ 61	ADMATCR61	16	H'FFFE607A	16	
A-DMAC 転送カウントレジスタ 62	ADMATCR62	16	H'FFFE607C	16	

モジュール名	レジスタ名	略称	ビット数	アドレス	アクセス サイズ
A-DMAC	A-DMAC 転送カウントレジスタ 63	ADMATCR63	16	H'FFFE607E	16
	A-DMAC 転送カウントレジスタ 64	ADMATCR64	16	H'FFFE6080	16
	A-DMAC 転送カウントレジスタ 65	ADMATCR65	16	H'FFFE6082	16
	A-DMAC 転送カウントレジスタ 66	ADMATCR66	16	H'FFFE6084	16
	A-DMAC 転送カウントレジスタ 67	ADMATCR67	16	H'FFFE6086	16
	A-DMAC 転送カウントレジスタ 68	ADMATCR68	16	H'FFFE6088	16
	A-DMAC 転送カウントレジスタ 69	ADMATCR69	16	H'FFFE608A	16
	A-DMAC 転送カウントレジスタ 70	ADMATCR70	16	H'FFFE608C	16
	A-DMAC 転送カウントレジスタ 71	ADMATCR71	16	H'FFFE608E	16
	A-DMAC エイリアスポインタレジスタ 0	ADMAAR0	16	H'FFFE6090	16
	A-DMAC リロードエイリアスポインタ レジスタ 0	ADMARAR0	16	H'FFFE6092	16
	A-DMAC エイリアスポインタレジスタ 1	ADMAAR1	16	H'FFFE6094	16
	A-DMAC リロードエイリアスポインタ レジスタ 1	ADMARAR1	16	H'FFFE6096	16
	A-DMAC エイリアスポインタレジスタ 56	ADMAAR56	16	H'FFFE60A0	16
	A-DMAC エイリアスポインタレジスタ 57	ADMAAR57	16	H'FFFE60A2	16
	A-DMAC エイリアスポインタレジスタ 58	ADMAAR58	16	H'FFFE60A4	16
	A-DMAC エイリアスポインタレジスタ 59	ADMAAR59	16	H'FFFE60A6	16
	A-DMAC エイリアスポインタレジスタ 60	ADMAAR60	16	H'FFFE60A8	16
	A-DMAC エイリアスポインタレジスタ 61	ADMAAR61	16	H'FFFE60AA	16
	A-DMAC エイリアスポインタレジスタ 62	ADMAAR62	16	H'FFFE60AC	16
	A-DMAC エイリアスポインタレジスタ 63	ADMAAR63	16	H'FFFE60AE	16
	A-DMAC エイリアスポインタレジスタ 64	ADMAAR64	16	H'FFFE60B0	16
	A-DMAC エイリアスポインタレジスタ 65	ADMAAR65	16	H'FFFE60B2	16
	A-DMAC エイリアスポインタレジスタ 66	ADMAAR66	16	H'FFFE60B4	16
	A-DMAC エイリアスポインタレジスタ 67	ADMAAR67	16	H'FFFE60B6	16
	A-DMAC エイリアスポインタレジスタ 68	ADMAAR68	16	H'FFFE60B8	16
	A-DMAC エイリアスポインタレジスタ 69	ADMAAR69	16	H'FFFE60BA	16
	A-DMAC エイリアスポインタレジスタ 70	ADMAAR70	16	H'FFFE60BC	16
	A-DMAC エイリアスポインタレジスタ 71	ADMAAR71	16	H'FFFE60BE	16
	A-DMAC バッファレジスタ 2	ADMABUF2	32	H'FFFE60C0	32
	A-DMAC バッファレジスタ 3	ADMABUF3	32	H'FFFE60C4	32
	A-DMAC バッファレジスタ 4	ADMABUF4	32	H'FFFE60C8	32
	A-DMAC バッファレジスタ 5	ADMABUF5	32	H'FFFE60CC	32
A-DMAC バッファレジスタ 6	ADMABUF6	32	H'FFFE60D0	32	

モジュール名	レジスタ名	略称	ビット数	アドレス	アクセス サイズ
A-DMAC	A-DMAC バッファレジスタ 7	ADMABUF7	32	H'FFFE60D4	32
	A-DMAC 受信待ちレジスタ 0	ADMARVPR0	16	H'FFFE60E0	8、16
	A-DMAC 受信待ちレジスタ 1	ADMARVPR1	16	H'FFFE60E2	8、16
	A-DMAC 受信待ちレジスタ 2	ADMARVPR2	16	H'FFFE60E4	8、16
	A-DMAC 受信待ちレジスタ 3	ADMARVPR3	16	H'FFFE60E6	8、16
	A-DMAC 受信待ちレジスタ 4	ADMARVPR4	16	H'FFFE60E8	8、16
	A-DMAC 受信待ちレジスタ 5	ADMARVPR5	16	H'FFFE60EA	8、16
	A-DMAC 送信待ちレジスタ 0	ADMATVPR0	16	H'FFFE60F0	8、16
	A-DMAC 送信待ちレジスタ 1	ADMATVPR1	16	H'FFFE60F2	8、16
	A-DMAC 送信待ちレジスタ 2	ADMATVPR2	16	H'FFFE60F4	8、16
	A-DMAC 送信待ちレジスタ 3	ADMATVPR3	16	H'FFFE60F6	8、16
	A-DMAC 送信待ちレジスタ 4	ADMATVPR4	16	H'FFFE60F8	8、16
	A-DMAC 送信待ちレジスタ 5	ADMATVPR5	16	H'FFFE60FA	8、16
	ATU-III	ATU-III マスタイネーブルレジスタ	ATUENR	16	H'FFFFF000
クロックバスコントロールレジスタ		CBCNT	8	H'FFFFF002	8
ノイズキャンセルモードレジスタ		NCMR	8	H'FFFFF003	8
プリスケアラレジスタ 0		PSCR0	16	H'FFFFF100	16
プリスケアラレジスタ 1		PSCR1	16	H'FFFFF102	16
プリスケアラレジスタ 2		PSCR2	16	H'FFFFF104	16
プリスケアラレジスタ 3		PSCR3	16	H'FFFFF106	16
タイマコントロールレジスタ A		TCRA	8	H'FFFFF202	8
タイマ I/O コントロールレジスタ 1A		TIOR1A	16	H'FFFFF204	8、16
タイマ I/O コントロールレジスタ 2A		TIOR2A	16	H'FFFFF206	8、16
タイマステータスレジスタ A		TSRA	8	H'FFFFF208	8
タイマインタラプトイネーブルレジスタ A		TIERA	8	H'FFFFF209	8
ノイズキャンセルカウンタ A0		NCNTA0	8	H'FFFFF210	8
ノイズキャンセルレジスタ A0		NCRA0	8	H'FFFFF211	8
ノイズキャンセルカウンタ A1		NCNTA1	8	H'FFFFF212	8
ノイズキャンセルレジスタ A1		NCRA1	8	H'FFFFF213	8
ノイズキャンセルカウンタ A2		NCNTA2	8	H'FFFFF214	8
ノイズキャンセルレジスタ A2		NCRA2	8	H'FFFFF215	8
ノイズキャンセルカウンタ A3		NCNTA3	8	H'FFFFF216	8
ノイズキャンセルレジスタ A3		NCRA3	8	H'FFFFF217	8
ノイズキャンセルカウンタ A4		NCNTA4	8	H'FFFFF218	8
ノイズキャンセルレジスタ A4		NCRA4	8	H'FFFFF219	8
ノイズキャンセルカウンタ A5		NCNTA5	8	H'FFFFF21A	8

モジュール名	レジスタ名	略称	ビット数	アドレス	アクセス サイズ
ATU-III	ノイズキャンセルレジスタ A5	NCRA5	8	H'FFFFFF21B	8
	フリーランニングカウンタ A	TCNTA	32	H'FFFFFF220	32
	インプットキャプチャレジスタ A0	ICRA0	32	H'FFFFFF228	32
	インプットキャプチャレジスタ A1	ICRA1	32	H'FFFFFF22C	32
	インプットキャプチャレジスタ A2	ICRA2	32	H'FFFFFF230	32
	インプットキャプチャレジスタ A3	ICRA3	32	H'FFFFFF234	32
	インプットキャプチャレジスタ A4	ICRA4	32	H'FFFFFF238	32
	インプットキャプチャレジスタ A5	ICRA5	32	H'FFFFFF23C	32
	タイマコントロールレジスタ B	TCRB	8	H'FFFFFF304	8
	タイマ I/O コントロールレジスタ B	TIORB	8	H'FFFFFF305	8
	タイマステータスレジスタ B	TSRB	8	H'FFFFFF306	8
	タイマインタラプトイネーブルレジスタ B	TIERB	8	H'FFFFFF307	8
	入力エッジ間計測カウンタ B0	TCNTB0	32	H'FFFFFF310	32
	インプットキャプチャレジスタ B0	ICRB0	32	H'FFFFFF314	32
	アウトプットコンペアレジスタ B0	OCRB0	32	H'FFFFFF318	32
	イベントカウンタ B1	TCNTB1	8	H'FFFFFF31C	8
	アウトプットコンペアレジスタ B1	OCRB1	8	H'FFFFFF31D	8
	インプットキャプチャレジスタ B1	ICRB1	32	H'FFFFFF320	32
	インプットキャプチャレジスタ B2	ICRB2	32	H'FFFFFF324	32
	ロードレジスタ B	LDB	32	H'FFFFFF330	32
	リロードレジスタ B	RLDB	32	H'FFFFFF334	32
	パルスインターバルマルチプライヤレジスタ	PIMR	16	H'FFFFFF338	16
	リロードカウンタ B2	TCNTB2	32	H'FFFFFF33C	32
	倍周クロックカウンタ B6	TCNTB6	32	H'FFFFFF340	32
	アウトプットコンペアレジスタ B6	OCRB6	32	H'FFFFFF344	32
	アウトプットコンペアレジスタ B7	OCRB7	32	H'FFFFFF348	32
	補正イベントカウンタ B3	TCNTB3	32	H'FFFFFF350	32
	倍周補正クロックカウンタ B4	TCNTB4	32	H'FFFFFF354	32
	倍周補正クロック生成カウンタ B5	TCNTB5	32	H'FFFFFF358	32
	補正カウンタクリアレジスタ B	TCCLR	32	H'FFFFFF35C	32
	タイマスタートレジスタ C	TSTRC	8	H'FFFFFF400	8
	ノイズキャンセラコントロールレジスタ C0	NCCRC0	8	H'FFFFFF402	8
	ノイズキャンセラコントロールレジスタ C1	NCCRC1	8	H'FFFFFF403	8
	ノイズキャンセラコントロールレジスタ C2	NCCRC2	8	H'FFFFFF404	8
ノイズキャンセラコントロールレジスタ C3	NCCRC3	8	H'FFFFFF405	8	
ノイズキャンセラコントロールレジスタ C4	NCCRC4	8	H'FFFFFF406	8	

モジュール名	レジスタ名	略称	ビット数	アドレス	アクセス サイズ
ATU-III	ノイズキャンセルカウンタ C00	NCNTC00	8	H'FFFFFF410	8
	ノイズキャンセルカウンタ C01	NCNTC01	8	H'FFFFFF411	8
	ノイズキャンセルカウンタ C02	NCNTC02	8	H'FFFFFF412	8
	ノイズキャンセルカウンタ C03	NCNTC03	8	H'FFFFFF413	8
	ノイズキャンセルレジスタ C00	NCRC00	8	H'FFFFFF414	8
	ノイズキャンセルレジスタ C01	NCRC01	8	H'FFFFFF415	8
	ノイズキャンセルレジスタ C02	NCRC02	8	H'FFFFFF416	8
	ノイズキャンセルレジスタ C03	NCRC03	8	H'FFFFFF417	8
	ノイズキャンセルカウンタ C10	NCNTC10	8	H'FFFFFF418	8
	ノイズキャンセルカウンタ C11	NCNTC11	8	H'FFFFFF419	8
	ノイズキャンセルカウンタ C12	NCNTC12	8	H'FFFFFF41A	8
	ノイズキャンセルカウンタ C13	NCNTC13	8	H'FFFFFF41B	8
	ノイズキャンセルレジスタ C10	NCRC10	8	H'FFFFFF41C	8
	ノイズキャンセルレジスタ C11	NCRC11	8	H'FFFFFF41D	8
	ノイズキャンセルレジスタ C12	NCRC12	8	H'FFFFFF41E	8
	ノイズキャンセルレジスタ C13	NCRC13	8	H'FFFFFF41F	8
	ノイズキャンセルカウンタ C20	NCNTC20	8	H'FFFFFF420	8
	ノイズキャンセルカウンタ C21	NCNTC21	8	H'FFFFFF421	8
	ノイズキャンセルカウンタ C22	NCNTC22	8	H'FFFFFF422	8
	ノイズキャンセルカウンタ C23	NCNTC23	8	H'FFFFFF423	8
	ノイズキャンセルレジスタ C20	NCRC20	8	H'FFFFFF424	8
	ノイズキャンセルレジスタ C21	NCRC21	8	H'FFFFFF425	8
	ノイズキャンセルレジスタ C22	NCRC22	8	H'FFFFFF426	8
	ノイズキャンセルレジスタ C23	NCRC23	8	H'FFFFFF427	8
	ノイズキャンセルカウンタ C30	NCNTC30	8	H'FFFFFF428	8
	ノイズキャンセルカウンタ C31	NCNTC31	8	H'FFFFFF429	8
	ノイズキャンセルカウンタ C32	NCNTC32	8	H'FFFFFF42A	8
	ノイズキャンセルカウンタ C33	NCNTC33	8	H'FFFFFF42B	8
	ノイズキャンセルレジスタ C30	NCRC30	8	H'FFFFFF42C	8
	ノイズキャンセルレジスタ C31	NCRC31	8	H'FFFFFF42D	8
	ノイズキャンセルレジスタ C32	NCRC32	8	H'FFFFFF42E	8
	ノイズキャンセルレジスタ C33	NCRC33	8	H'FFFFFF42F	8
	ノイズキャンセルカウンタ C40	NCNTC40	8	H'FFFFFF430	8
	ノイズキャンセルカウンタ C41	NCNTC41	8	H'FFFFFF431	8
	ノイズキャンセルカウンタ C42	NCNTC42	8	H'FFFFFF432	8
	ノイズキャンセルカウンタ C43	NCNTC43	8	H'FFFFFF433	8

モジュール名	レジスタ名	略称	ビット数	アドレス	アクセス サイズ
ATU-III	ノイズキャンセルレジスタ C40	NCRC40	8	H'FFFFFF434	8
	ノイズキャンセルレジスタ C41	NCRC41	8	H'FFFFFF435	8
	ノイズキャンセルレジスタ C42	NCRC42	8	H'FFFFFF436	8
	ノイズキャンセルレジスタ C43	NCRC43	8	H'FFFFFF437	8
	タイマコントロールレジスタ C0	TCRC0	8	H'FFFFFF440	8
	タイマインタラプトイネーブルレジスタ C0	TIERC0	8	H'FFFFFF441	8
	タイマ I/O コントロールレジスタ C0	TIORC0	16	H'FFFFFF442	8、16
	タイマステータスレジスタ C0	TSRC0	8	H'FFFFFF444	8
	汎用レジスタ C00	GRC00	32	H'FFFFFF448	32
	汎用レジスタ C01	GRC01	32	H'FFFFFF44C	32
	汎用レジスタ C02	GRC02	32	H'FFFFFF450	32
	汎用レジスタ C03	GRC03	32	H'FFFFFF454	32
	タイマカウンタ C0	TCNTC0	32	H'FFFFFF458	32
	タイマコントロールレジスタ C1	TCRC1	8	H'FFFFFF460	8
	タイマインタラプトイネーブルレジスタ C1	TIERC1	8	H'FFFFFF461	8
	タイマ I/O コントロールレジスタ C1	TIORC1	16	H'FFFFFF462	8、16
	タイマステータスレジスタ C1	TSRC1	8	H'FFFFFF464	8
	汎用レジスタ C10	GRC10	32	H'FFFFFF468	32
	汎用レジスタ C11	GRC11	32	H'FFFFFF46C	32
	汎用レジスタ C12	GRC12	32	H'FFFFFF470	32
	汎用レジスタ C13	GRC13	32	H'FFFFFF474	32
	タイマカウンタ C1	TCNTC1	32	H'FFFFFF478	32
	タイマコントロールレジスタ C2	TCRC2	8	H'FFFFFF480	8
	タイマインタラプトイネーブルレジスタ C2	TIERC2	8	H'FFFFFF481	8
	タイマ I/O コントロールレジスタ C2	TIORC2	16	H'FFFFFF482	8、16
	タイマステータスレジスタ C2	TSRC2	8	H'FFFFFF484	8
	汎用レジスタ C20	GRC20	32	H'FFFFFF488	32
	汎用レジスタ C21	GRC21	32	H'FFFFFF48C	32
	汎用レジスタ C22	GRC22	32	H'FFFFFF490	32
	汎用レジスタ C23	GRC23	32	H'FFFFFF494	32
	タイマカウンタ C2	TCNTC2	32	H'FFFFFF498	32
	タイマコントロールレジスタ C3	TCRC3	8	H'FFFFFF4A0	8
	タイマインタラプトイネーブルレジスタ C3	TIERC3	8	H'FFFFFF4A1	8
	タイマ I/O コントロールレジスタ C3	TIORC3	16	H'FFFFFF4A2	8、16
	タイマステータスレジスタ C3	TSRC3	8	H'FFFFFF4A4	8
	汎用レジスタ C30	GRC30	32	H'FFFFFF4A8	32

モジュール名	レジスタ名	略称	ビット数	アドレス	アクセス サイズ
ATU-III	汎用レジスタ C31	GRC31	32	H'FFFFFF4AC	32
	汎用レジスタ C32	GRC32	32	H'FFFFFF4B0	32
	汎用レジスタ C33	GRC33	32	H'FFFFFF4B4	32
	タイマカウンタ C3	TCNTC3	32	H'FFFFFF4B8	32
	タイマコントロールレジスタ C4	TCRC4	8	H'FFFFFF4C0	8
	タイマインタラプトイネーブルレジスタ C4	TIERC4	8	H'FFFFFF4C1	8
	タイマ I/O コントロールレジスタ C4	TIORC4	16	H'FFFFFF4C2	8、16
	タイマステータスレジスタ C4	TSRC4	8	H'FFFFFF4C4	8
	汎用レジスタ C40	GRC40	32	H'FFFFFF4C8	32
	汎用レジスタ C41	GRC41	32	H'FFFFFF4CC	32
	汎用レジスタ C42	GRC42	32	H'FFFFFF4D0	32
	汎用レジスタ C43	GRC43	32	H'FFFFFF4D4	32
	タイマカウンタ C4	TCNTC4	32	H'FFFFFF4D8	32
	タイマスタートレジスタ D	TSTRD	8	H'FFFFFF500	8
	タイマカウンタ 1D0	TCNT1D0	32	H'FFFFFF520	32
	タイマカウンタ 2D0	TCNT2D0	32	H'FFFFFF524	32
	タイマオフセットベースレジスタ D0	OSBRD0	32	H'FFFFFF528	32
	タイマコントロールレジスタ D0	TCRD0	16	H'FFFFFF52C	8、16
	タイマアウトプットコントロール レジスタ D0	TOCRD0	8	H'FFFFFF52E	8
	コンペアマッチパルス出力コントロール レジスタ D0	CMPOD0	8	H'FFFFFF52F	8
	タイマカウンタ 1D1	TCNT1D1	32	H'FFFFFF530	32
	タイマカウンタ 2D1	TCNT2D1	32	H'FFFFFF534	32
	タイマオフセットベースレジスタ D1	OSBRD1	32	H'FFFFFF538	32
	タイマコントロールレジスタ D1	TCRD1	16	H'FFFFFF53C	8、16
	タイマアウトプットコントロール レジスタ D1	TOCRD1	8	H'FFFFFF53E	8
	コンペアマッチパルス出力コントロール レジスタ D1	CMPOD1	8	H'FFFFFF53F	8
	タイマカウンタ 1D2	TCNT1D2	32	H'FFFFFF540	32
	タイマカウンタ 2D2	TCNT2D2	32	H'FFFFFF544	32
	タイマオフセットベースレジスタ D2	OSBRD2	32	H'FFFFFF548	32
	タイマコントロールレジスタ D2	TCRD2	16	H'FFFFFF54C	8、16
	タイマアウトプットコントロール レジスタ D2	TOCRD2	8	H'FFFFFF54E	8
	タイマカウンタ 1D3	TCNT1D3	32	H'FFFFFF550	32

モジュール名	レジスタ名	略称	ビット数	アドレス	アクセス サイズ
ATU-III	タイマカウンタ 2D3	TCNT2D3	32	H'FFFFFF554	32
	タイマオフセットベースレジスタ D3	OSBRD3	32	H'FFFFFF558	32
	タイマコントロールレジスタ D3	TCRD3	16	H'FFFFFF55C	8、16
	タイマアウトプットコントロールレジスタ D3	TOCRD3	8	H'FFFFFF55E	8
	タイマ I/O コントロールレジスタ 1D0	TIOR1D0	16	H'FFFFFF580	8、16
	タイマ I/O コントロールレジスタ 2D0	TIOR2D0	16	H'FFFFFF582	8、16
	ダウンカウントスタートレジスタ D0	DSTRD0	8	H'FFFFFF585	8
	ダウンカウントステータスレジスタ D0	DSRD0	8	H'FFFFFF587	8
	ダウンカウンタコントロールレジスタ D0	DCRD0	16	H'FFFFFF588	8、16
	タイマステータスレジスタ D0	TSRD0	16	H'FFFFFF58C	8、16
	タイマインタラプトイネーブルレジスタ D0	TIERD0	16	H'FFFFFF58E	8、16
	アウトプットコンペアレジスタ D00	OCRD00	32	H'FFFFFF590	32
	アウトプットコンペアレジスタ D01	OCRD01	32	H'FFFFFF594	32
	アウトプットコンペアレジスタ D02	OCRD02	32	H'FFFFFF598	32
	アウトプットコンペアレジスタ D03	OCRD03	32	H'FFFFFF59C	32
	汎用レジスタ D00	GRD00	32	H'FFFFFF5A0	32
	汎用レジスタ D01	GRD01	32	H'FFFFFF5A4	32
	汎用レジスタ D02	GRD02	32	H'FFFFFF5A8	32
	汎用レジスタ D03	GRD03	32	H'FFFFFF5AC	32
	タイマダウンカウンタ D00	DCNTD00	32	H'FFFFFF5B0	32
	タイマダウンカウンタ D01	DCNTD01	32	H'FFFFFF5B4	32
	タイマダウンカウンタ D02	DCNTD02	32	H'FFFFFF5B8	32
	タイマダウンカウンタ D03	DCNTD03	32	H'FFFFFF5BC	32
	タイマ I/O コントロールレジスタ 1D1	TIOR1D1	16	H'FFFFFF5C0	8、16
	タイマ I/O コントロールレジスタ 2D1	TIOR2D1	16	H'FFFFFF5C2	8、16
	ダウンカウントスタートレジスタ D1	DSTRD1	8	H'FFFFFF5C5	8
	ダウンカウントステータスレジスタ D1	DSRD1	8	H'FFFFFF5C7	8
	ダウンカウンタコントロールレジスタ D1	DCRD1	16	H'FFFFFF5C8	8、16
	タイマステータスレジスタ D1	TSRD1	16	H'FFFFFF5CC	8、16
	タイマインタラプトイネーブルレジスタ D1	TIERD1	16	H'FFFFFF5CE	8、16
	アウトプットコンペアレジスタ D10	OCRD10	32	H'FFFFFF5D0	32
	アウトプットコンペアレジスタ D11	OCRD11	32	H'FFFFFF5D4	32
	アウトプットコンペアレジスタ D12	OCRD12	32	H'FFFFFF5D8	32
	アウトプットコンペアレジスタ D13	OCRD13	32	H'FFFFFF5DC	32
汎用レジスタ D10	GRD10	32	H'FFFFFF5E0	32	

モジュール名	レジスタ名	略称	ビット数	アドレス	アクセス サイズ
ATU-III	汎用レジスタ D11	GRD11	32	H'FFFFFF5E4	32
	汎用レジスタ D12	GRD12	32	H'FFFFFF5E8	32
	汎用レジスタ D13	GRD13	32	H'FFFFFF5EC	32
	タイマダウンカウンタ D10	DCNTD10	32	H'FFFFFF5F0	32
	タイマダウンカウンタ D11	DCNTD11	32	H'FFFFFF5F4	32
	タイマダウンカウンタ D12	DCNTD12	32	H'FFFFFF5F8	32
	タイマダウンカウンタ D13	DCNTD13	32	H'FFFFFF5FC	32
	タイマ I/O コントロールレジスタ 1D2	TIOR1D2	16	H'FFFFFF600	8、16
	タイマ I/O コントロールレジスタ 2D2	TIOR2D2	16	H'FFFFFF602	8、16
	ダウンカウントスタートレジスタ D2	DSTRD2	8	H'FFFFFF605	8
	ダウンカウントステータスレジスタ D2	DSRD2	8	H'FFFFFF607	8
	ダウンカウンタコントロールレジスタ D2	DCRD2	16	H'FFFFFF608	8、16
	タイマステータスレジスタ D2	TSRD2	16	H'FFFFFF60C	8、16
	タイマインタラプトイネーブルレジスタ D2	TIERD2	16	H'FFFFFF60E	8、16
	アウトプットコンペアレジスタ D20	OCRD20	32	H'FFFFFF610	32
	アウトプットコンペアレジスタ D21	OCRD21	32	H'FFFFFF614	32
	アウトプットコンペアレジスタ D22	OCRD22	32	H'FFFFFF618	32
	アウトプットコンペアレジスタ D23	OCRD23	32	H'FFFFFF61C	32
	汎用レジスタ D20	GRD20	32	H'FFFFFF620	32
	汎用レジスタ D21	GRD21	32	H'FFFFFF624	32
	汎用レジスタ D22	GRD22	32	H'FFFFFF628	32
	汎用レジスタ D23	GRD23	32	H'FFFFFF62C	32
	タイマダウンカウンタ D20	DCNTD20	32	H'FFFFFF630	32
	タイマダウンカウンタ D21	DCNTD21	32	H'FFFFFF634	32
	タイマダウンカウンタ D22	DCNTD22	32	H'FFFFFF638	32
	タイマダウンカウンタ D23	DCNTD23	32	H'FFFFFF63C	32
	タイマ I/O コントロールレジスタ 1D3	TIOR1D3	16	H'FFFFFF640	8、16
	タイマ I/O コントロールレジスタ 2D3	TIOR2D3	16	H'FFFFFF642	8、16
	ダウンカウントスタートレジスタ D3	DSTRD3	8	H'FFFFFF645	8
	ダウンカウントステータスレジスタ D3	DSRD3	8	H'FFFFFF647	8
	ダウンカウンタコントロールレジスタ D3	DCRD3	16	H'FFFFFF648	8、16
	タイマステータスレジスタ D3	TSRD3	16	H'FFFFFF64C	8、16
	タイマインタラプトイネーブルレジスタ D3	TIERD3	16	H'FFFFFF64E	8、16
	アウトプットコンペアレジスタ D30	OCRD30	32	H'FFFFFF650	32
	アウトプットコンペアレジスタ D31	OCRD31	32	H'FFFFFF654	32
	アウトプットコンペアレジスタ D32	OCRD32	32	H'FFFFFF658	32

モジュール名	レジスタ名	略称	ビット数	アドレス	アクセス サイズ
ATU-III	アウトプットコンペアレジスタ D33	OCRD33	32	H'FFFFFF65C	32
	汎用レジスタ D30	GRD30	32	H'FFFFFF660	32
	汎用レジスタ D31	GRD31	32	H'FFFFFF664	32
	汎用レジスタ D32	GRD32	32	H'FFFFFF668	32
	汎用レジスタ D33	GRD33	32	H'FFFFFF66C	32
	タイマダウンカウンタ D30	DCNTD30	32	H'FFFFFF670	32
	タイマダウンカウンタ D31	DCNTD31	32	H'FFFFFF674	32
	タイマダウンカウンタ D32	DCNTD32	32	H'FFFFFF678	32
	タイマダウンカウンタ D33	DCNTD33	32	H'FFFFFF67C	32
	タイマスタートレジスタ E	TSTRE	8	H'FFFFFF700	8
	タイマコントロールレジスタ E0	TCRE0	8	H'FFFFFF800	8
	タイマアウトプットコントロール レジスタ E0	TOCRE0	8	H'FFFFFF801	8
	タイマインタラプトイネーブルレジスタ E0	TIERE0	8	H'FFFFFF802	8
	リロードコントロールレジスタ E0	RLDCRE0	8	H'FFFFFF803	8
	タイマステータスレジスタ E0	TSRE0	8	H'FFFFFF804	8
	プリスケアラレジスタ E0	PSCRE0	8	H'FFFFFF808	8
	サブブロックスタートレジスタ E0	SSTRE0	8	H'FFFFFF80C	8
	サイクルレジスタ E00	CYLRE00	16	H'FFFFFF810	16
	サイクルレジスタ E01	CYLRE01	16	H'FFFFFF812	16
	サイクルレジスタ E02	CYLRE02	16	H'FFFFFF814	16
	サイクルレジスタ E03	CYLRE03	16	H'FFFFFF816	16
	デューティレジスタ E00	DTRE00	16	H'FFFFFF818	16
	デューティレジスタ E01	DTRE01	16	H'FFFFFF81A	16
	デューティレジスタ E02	DTRE02	16	H'FFFFFF81C	16
	デューティレジスタ E03	DTRE03	16	H'FFFFFF81E	16
	サイクルリロードレジスタ E00	CRLDE00	16	H'FFFFFF820	16
	サイクルリロードレジスタ E01	CRLDE01	16	H'FFFFFF822	16
	サイクルリロードレジスタ E02	CRLDE02	16	H'FFFFFF824	16
	サイクルリロードレジスタ E03	CRLDE03	16	H'FFFFFF826	16
	デューティリロードレジスタ E00	DRLDE00	16	H'FFFFFF828	16
	デューティリロードレジスタ E01	DRLDE01	16	H'FFFFFF82A	16
	デューティリロードレジスタ E02	DRLDE02	16	H'FFFFFF82C	16
	デューティリロードレジスタ E03	DRLDE03	16	H'FFFFFF82E	16
	タイマカウンタ E00	TCNTE00	16	H'FFFFFF830	16
	タイマカウンタ E01	TCNTE01	16	H'FFFFFF832	16

モジュール名	レジスタ名	略称	ビット数	アドレス	アクセス サイズ
ATU-III	タイマカウンタ E02	TCNTE02	16	H'FFFFFF834	16
	タイマカウンタ E03	TCNTE03	16	H'FFFFFF836	16
	タイマコントロールレジスタ E1	TCRE1	8	H'FFFFFF840	8
	タイマアウトプットコントロール レジスタ E1	TOCRE1	8	H'FFFFFF841	8
	タイマインタラプトイネーブルレジスタ E1	TIERE1	8	H'FFFFFF842	8
	リロードコントロールレジスタ E1	RLDCRE1	8	H'FFFFFF843	8
	タイマステータスレジスタ E1	TSRE1	8	H'FFFFFF844	8
	プリスケアラレジスタ E1	PSCRE1	8	H'FFFFFF848	8
	サブブロックスタートレジスタ E1	SSTRE1	8	H'FFFFFF84C	8
	サイクルレジスタ E10	CYLRE10	16	H'FFFFFF850	16
	サイクルレジスタ E11	CYLRE11	16	H'FFFFFF852	16
	サイクルレジスタ E12	CYLRE12	16	H'FFFFFF854	16
	サイクルレジスタ E13	CYLRE13	16	H'FFFFFF856	16
	デューティレジスタ E10	DTRE10	16	H'FFFFFF858	16
	デューティレジスタ E11	DTRE11	16	H'FFFFFF85A	16
	デューティレジスタ E12	DTRE12	16	H'FFFFFF85C	16
	デューティレジスタ E13	DTRE13	16	H'FFFFFF85E	16
	サイクルリロードレジスタ E10	CRLDE10	16	H'FFFFFF860	16
	サイクルリロードレジスタ E11	CRLDE11	16	H'FFFFFF862	16
	サイクルリロードレジスタ E12	CRLDE12	16	H'FFFFFF864	16
	サイクルリロードレジスタ E13	CRLDE13	16	H'FFFFFF866	16
	デューティリロードレジスタ E10	DRLDE10	16	H'FFFFFF868	16
	デューティリロードレジスタ E11	DRLDE11	16	H'FFFFFF86A	16
	デューティリロードレジスタ E12	DRLDE12	16	H'FFFFFF86C	16
	デューティリロードレジスタ E13	DRLDE13	16	H'FFFFFF86E	16
	タイマカウンタ E10	TCNTE10	16	H'FFFFFF870	16
	タイマカウンタ E11	TCNTE11	16	H'FFFFFF872	16
	タイマカウンタ E12	TCNTE12	16	H'FFFFFF874	16
	タイマカウンタ E13	TCNTE13	16	H'FFFFFF876	16
	タイマコントロールレジスタ E2	TCRE2	8	H'FFFFFF880	8
	タイマアウトプットコントロール レジスタ E2	TOCRE2	8	H'FFFFFF881	8
	タイマインタラプトイネーブルレジスタ E2	TIERE2	8	H'FFFFFF882	8
	リロードコントロールレジスタ E2	RLDCRE2	8	H'FFFFFF883	8
	タイマステータスレジスタ E2	TSRE2	8	H'FFFFFF884	8
	プリスケアラレジスタ E2	PSCRE2	8	H'FFFFFF888	8

モジュール名	レジスタ名	略称	ビット数	アドレス	アクセス サイズ
ATU-III	サブブロックスタートレジスタ E2	SSTRE2	8	H'FFFFFF88C	8
	サイクルレジスタ E20	CYLRE20	16	H'FFFFFF890	16
	サイクルレジスタ E21	CYLRE21	16	H'FFFFFF892	16
	サイクルレジスタ E22	CYLRE22	16	H'FFFFFF894	16
	サイクルレジスタ E23	CYLRE23	16	H'FFFFFF896	16
	デューティレジスタ E20	DTRE20	16	H'FFFFFF898	16
	デューティレジスタ E21	DTRE21	16	H'FFFFFF89A	16
	デューティレジスタ E22	DTRE22	16	H'FFFFFF89C	16
	デューティレジスタ E23	DTRE23	16	H'FFFFFF89E	16
	サイクルリロードレジスタ E20	CRLDE20	16	H'FFFFFF8A0	16
	サイクルリロードレジスタ E21	CRLDE21	16	H'FFFFFF8A2	16
	サイクルリロードレジスタ E22	CRLDE22	16	H'FFFFFF8A4	16
	サイクルリロードレジスタ E23	CRLDE23	16	H'FFFFFF8A6	16
	デューティリロードレジスタ E20	DRLDE20	16	H'FFFFFF8A8	16
	デューティリロードレジスタ E21	DRLDE21	16	H'FFFFFF8AA	16
	デューティリロードレジスタ E22	DRLDE22	16	H'FFFFFF8AC	16
	デューティリロードレジスタ E23	DRLDE23	16	H'FFFFFF8AE	16
	タイマカウンタ E20	TCNTE20	16	H'FFFFFF8B0	16
	タイマカウンタ E21	TCNTE21	16	H'FFFFFF8B2	16
	タイマカウンタ E22	TCNTE22	16	H'FFFFFF8B4	16
	タイマカウンタ E23	TCNTE23	16	H'FFFFFF8B6	16
	タイマコントロールレジスタ E3	TCRE3	8	H'FFFFFF8C0	8
	タイマアウトプットコントロール レジスタ E3	TOCRE3	8	H'FFFFFF8C1	8
	タイマインタラプトイネーブルレジスタ E3	TIERE3	8	H'FFFFFF8C2	8
	リロードコントロールレジスタ E3	RLDCRE3	8	H'FFFFFF8C3	8
	タイマステータスレジスタ E3	TSRE3	8	H'FFFFFF8C4	8
	プリスケアラレジスタ E3	PSCRE3	8	H'FFFFFF8C8	8
	サブブロックスタートレジスタ E3	SSTRE3	8	H'FFFFFF8CC	8
	サイクルレジスタ E30	CYLRE30	16	H'FFFFFF8D0	16
	サイクルレジスタ E31	CYLRE31	16	H'FFFFFF8D2	16
	サイクルレジスタ E32	CYLRE32	16	H'FFFFFF8D4	16
	サイクルレジスタ E33	CYLRE33	16	H'FFFFFF8D6	16
	デューティレジスタ E30	DTRE30	16	H'FFFFFF8D8	16
	デューティレジスタ E31	DTRE31	16	H'FFFFFF8DA	16
デューティレジスタ E32	DTRE32	16	H'FFFFFF8DC	16	

モジュール名	レジスタ名	略称	ビット数	アドレス	アクセス サイズ
ATU-III	デューティレジスタ E33	DTRE33	16	H'FFFFFF8DE	16
	サイクルリロードレジスタ E30	CRLDE30	16	H'FFFFFF8E0	16
	サイクルリロードレジスタ E31	CRLDE31	16	H'FFFFFF8E2	16
	サイクルリロードレジスタ E32	CRLDE32	16	H'FFFFFF8E4	16
	サイクルリロードレジスタ E33	CRLDE33	16	H'FFFFFF8E6	16
	デューティリロードレジスタ E30	DRLDE30	16	H'FFFFFF8E8	16
	デューティリロードレジスタ E31	DRLDE31	16	H'FFFFFF8EA	16
	デューティリロードレジスタ E32	DRLDE32	16	H'FFFFFF8EC	16
	デューティリロードレジスタ E33	DRLDE33	16	H'FFFFFF8EE	16
	タイマカウンタ E30	TCNTE30	16	H'FFFFFF8F0	16
	タイマカウンタ E31	TCNTE31	16	H'FFFFFF8F2	16
	タイマカウンタ E32	TCNTE32	16	H'FFFFFF8F4	16
	タイマカウンタ E33	TCNTE33	16	H'FFFFFF8F6	16
	タイマコントロールレジスタ E4	TCRE4	8	H'FFFFFF900	8
	タイマアウトプットコントロール レジスタ E4	TOCRE4	8	H'FFFFFF901	8
	タイミンタラプトイネーブルレジスタ E4	TIERE4	8	H'FFFFFF902	8
	リロードコントロールレジスタ E4	RLDCRE4	8	H'FFFFFF903	8
	タイムステータスレジスタ E4	TSRE4	8	H'FFFFFF904	8
	プリスケアラレジスタ E4	PSCRE4	8	H'FFFFFF908	8
	サブブロックスタートレジスタ E4	SSTRE4	8	H'FFFFFF90C	8
	サイクルレジスタ E40	CYLRE40	16	H'FFFFFF910	16
	サイクルレジスタ E41	CYLRE41	16	H'FFFFFF912	16
	サイクルレジスタ E42	CYLRE42	16	H'FFFFFF914	16
	サイクルレジスタ E43	CYLRE43	16	H'FFFFFF916	16
	デューティレジスタ E40	DTRE40	16	H'FFFFFF918	16
	デューティレジスタ E41	DTRE41	16	H'FFFFFF91A	16
	デューティレジスタ E42	DTRE42	16	H'FFFFFF91C	16
	デューティレジスタ E43	DTRE43	16	H'FFFFFF91E	16
	サイクルリロードレジスタ E40	CRLDE40	16	H'FFFFFF920	16
	サイクルリロードレジスタ E41	CRLDE41	16	H'FFFFFF922	16
	サイクルリロードレジスタ E42	CRLDE42	16	H'FFFFFF924	16
	サイクルリロードレジスタ E43	CRLDE43	16	H'FFFFFF926	16
	デューティリロードレジスタ E40	DRLDE40	16	H'FFFFFF928	16
	デューティリロードレジスタ E41	DRLDE41	16	H'FFFFFF92A	16
	デューティリロードレジスタ E42	DRLDE42	16	H'FFFFFF92C	16

モジュール名	レジスタ名	略称	ビット数	アドレス	アクセス サイズ
ATU-III	デューティリロードレジスタ E43	DRLDE43	16	H'FFFFFF92E	16
	タイマカウンタ E40	TCNTE40	16	H'FFFFFF930	16
	タイマカウンタ E41	TCNTE41	16	H'FFFFFF932	16
	タイマカウンタ E42	TCNTE42	16	H'FFFFFF934	16
	タイマカウンタ E43	TCNTE43	16	H'FFFFFF936	16
	タイマコントロールレジスタ E5	TCRE5	8	H'FFFFFF940	8
	タイマアウトプットコントロール レジスタ E5	TOCRE5	8	H'FFFFFF941	8
	タイマインタラプトイネーブルレジスタ E5	TIERE5	8	H'FFFFFF942	8
	リロードコントロールレジスタ E5	RLDCRE5	8	H'FFFFFF943	8
	タイマステータスレジスタ E5	TSRE5	8	H'FFFFFF944	8
	プリスケアラレジスタ E5	PSCRE5	8	H'FFFFFF948	8
	サブブロックスタートレジスタ E5	SSTRE5	8	H'FFFFFF94C	8
	サイクルレジスタ E50	CYLRE50	16	H'FFFFFF950	16
	サイクルレジスタ E51	CYLRE51	16	H'FFFFFF952	16
	サイクルレジスタ E52	CYLRE52	16	H'FFFFFF954	16
	サイクルレジスタ E53	CYLRE53	16	H'FFFFFF956	16
	デューティレジスタ E50	DTRE50	16	H'FFFFFF958	16
	デューティレジスタ E51	DTRE51	16	H'FFFFFF95A	16
	デューティレジスタ E52	DTRE52	16	H'FFFFFF95C	16
	デューティレジスタ E53	DTRE53	16	H'FFFFFF95E	16
	サイクルリロードレジスタ E50	CRLDE50	16	H'FFFFFF960	16
	サイクルリロードレジスタ E51	CRLDE51	16	H'FFFFFF962	16
	サイクルリロードレジスタ E52	CRLDE52	16	H'FFFFFF964	16
	サイクルリロードレジスタ E53	CRLDE53	16	H'FFFFFF966	16
	デューティリロードレジスタ E50	DRLDE50	16	H'FFFFFF968	16
	デューティリロードレジスタ E51	DRLDE51	16	H'FFFFFF96A	16
	デューティリロードレジスタ E52	DRLDE52	16	H'FFFFFF96C	16
	デューティリロードレジスタ E53	DRLDE53	16	H'FFFFFF96E	16
	タイマカウンタ E50	TCNTE50	16	H'FFFFFF970	16
	タイマカウンタ E51	TCNTE51	16	H'FFFFFF972	16
	タイマカウンタ E52	TCNTE52	16	H'FFFFFF974	16
	タイマカウンタ E53	TCNTE53	16	H'FFFFFF976	16
	タイマスタートレジスタ F	TSTRF	32	H'FFFFFFA00	8、16、32
	ノイズキャンセラコントロールレジスタ F	NCCRf	32	H'FFFFFFA04	8、16、32
ノイズキャンセルカウンタ FA0	NCNTFA0	8	H'FFFFFFA10	8	

モジュール名	レジスタ名	略称	ビット数	アドレス	アクセス サイズ
ATU-III	ノイズキャンセルレジスタ FA0	NCRFA0	8	H'FFFFFFA11	8
	ノイズキャンセルカウンタ FA1	NCNTFA1	8	H'FFFFFFA12	8
	ノイズキャンセルレジスタ FA1	NCRFA1	8	H'FFFFFFA13	8
	ノイズキャンセルカウンタ FA2	NCNTFA2	8	H'FFFFFFA14	8
	ノイズキャンセルレジスタ FA2	NCRFA2	8	H'FFFFFFA15	8
	ノイズキャンセルカウンタ FA3	NCNTFA3	8	H'FFFFFFA16	8
	ノイズキャンセルレジスタ FA3	NCRFA3	8	H'FFFFFFA17	8
	ノイズキャンセルカウンタ FA4	NCNTFA4	8	H'FFFFFFA18	8
	ノイズキャンセルレジスタ FA4	NCRFA4	8	H'FFFFFFA19	8
	ノイズキャンセルカウンタ FA5	NCNTFA5	8	H'FFFFFFA1A	8
	ノイズキャンセルレジスタ FA5	NCRFA5	8	H'FFFFFFA1B	8
	ノイズキャンセルカウンタ FA6	NCNTFA6	8	H'FFFFFFA1C	8
	ノイズキャンセルレジスタ FA6	NCRFA6	8	H'FFFFFFA1D	8
	ノイズキャンセルカウンタ FA7	NCNTFA7	8	H'FFFFFFA1E	8
	ノイズキャンセルレジスタ FA7	NCRFA7	8	H'FFFFFFA1F	8
	ノイズキャンセルカウンタ FA8	NCNTFA8	8	H'FFFFFFA20	8
	ノイズキャンセルレジスタ FA8	NCRFA8	8	H'FFFFFFA21	8
	ノイズキャンセルカウンタ FA9	NCNTFA9	8	H'FFFFFFA22	8
	ノイズキャンセルレジスタ FA9	NCRFA9	8	H'FFFFFFA23	8
	ノイズキャンセルカウンタ FA10	NCNTFA10	8	H'FFFFFFA24	8
	ノイズキャンセルレジスタ FA10	NCRFA10	8	H'FFFFFFA25	8
	ノイズキャンセルカウンタ FA11	NCNTFA11	8	H'FFFFFFA26	8
	ノイズキャンセルレジスタ FA11	NCRFA11	8	H'FFFFFFA27	8
	ノイズキャンセルカウンタ FA12	NCNTFA12	8	H'FFFFFFA28	8
	ノイズキャンセルレジスタ FA12	NCRFA12	8	H'FFFFFFA29	8
	ノイズキャンセルカウンタ FA13	NCNTFA13	8	H'FFFFFFA2A	8
	ノイズキャンセルレジスタ FA13	NCRFA13	8	H'FFFFFFA2B	8
	ノイズキャンセルカウンタ FA14	NCNTFA14	8	H'FFFFFFA2C	8
	ノイズキャンセルレジスタ FA14	NCRFA14	8	H'FFFFFFA2D	8
	ノイズキャンセルカウンタ FA15	NCNTFA15	8	H'FFFFFFA2E	8
	ノイズキャンセルレジスタ FA15	NCRFA15	8	H'FFFFFFA2F	8
	ノイズキャンセルカウンタ FA16	NCNTFA16	8	H'FFFFFFA30	8
	ノイズキャンセルレジスタ FA16	NCRFA16	8	H'FFFFFFA31	8
	ノイズキャンセルカウンタ FA17	NCNTFA17	8	H'FFFFFFA32	8
ノイズキャンセルレジスタ FA17	NCRFA17	8	H'FFFFFFA33	8	
ノイズキャンセルカウンタ FA18	NCNTFA18	8	H'FFFFFFA34	8	

モジュール名	レジスタ名	略称	ビット数	アドレス	アクセス サイズ
ATU-III	ノイズキャンセルレジスタ FA18	NCRFA18	8	H'FFFFFFA35	8
	ノイズキャンセルカウンタ FA19	NCNTFA19	8	H'FFFFFFA36	8
	ノイズキャンセルレジスタ FA19	NCRFA19	8	H'FFFFFFA37	8
	ノイズキャンセルカウンタ FB0	NCNTFB0	8	H'FFFFFFA50	8
	ノイズキャンセルレジスタ FB0	NCRFB0	8	H'FFFFFFA51	8
	ノイズキャンセルカウンタ FB1	NCNTFB1	8	H'FFFFFFA52	8
	ノイズキャンセルレジスタ FB1	NCRFB1	8	H'FFFFFFA53	8
	ノイズキャンセルカウンタ FB2	NCNTFB2	8	H'FFFFFFA54	8
	ノイズキャンセルレジスタ FB2	NCRFB2	8	H'FFFFFFA55	8
	タイマコントロールレジスタ F0	TCRF0	8	H'FFFFFFA80	8
	タイマインタラプトイネーブルレジスタ F0	TIERF0	8	H'FFFFFFA81	8
	タイマステータスレジスタ F0	TSRF0	8	H'FFFFFFA83	8
	時間計測カウンタ AF0	ECNTAF0	32	H'FFFFFFA84	32
	イベントカウンタ BF0	ECNTBF0	16	H'FFFFFFA88	16
	汎用レジスタ BF0	GRBF0	16	H'FFFFFFA8A	16
	時間計測カウンタ CF0	ECNTCF0	32	H'FFFFFFA8C	32
	汎用レジスタ AF0	GRAF0	32	H'FFFFFFA90	32
	キャプチャ出力レジスタ F0	CDRF0	32	H'FFFFFFA94	32
	汎用レジスタ CF0	GRCF0	32	H'FFFFFFA98	32
	タイマコントロールレジスタ F1	TCRF1	8	H'FFFFFFAA0	8
	タイマインタラプトイネーブルレジスタ F1	TIERF1	8	H'FFFFFFAA1	8
	タイマステータスレジスタ F1	TSRF1	8	H'FFFFFFAA3	8
	時間計測カウンタ AF1	ECNTAF1	32	H'FFFFFFAA4	32
	イベントカウンタ BF1	ECNTBF1	16	H'FFFFFFAA8	16
	汎用レジスタ BF1	GRBF1	16	H'FFFFFFAAA	16
	時間計測カウンタ CF1	ECNTCF1	32	H'FFFFFFAAC	32
	汎用レジスタ AF1	GRAF1	32	H'FFFFFFAB0	32
	キャプチャ出力レジスタ F1	CDRF1	32	H'FFFFFFAB4	32
	汎用レジスタ CF1	GRCF1	32	H'FFFFFFAB8	32
	タイマコントロールレジスタ F2	TCRF2	8	H'FFFFFFAC0	8
	タイマインタラプトイネーブルレジスタ F2	TIERF2	8	H'FFFFFFAC1	8
	タイマステータスレジスタ F2	TSRF2	8	H'FFFFFFAC3	8
	時間計測カウンタ AF2	ECNTAF2	32	H'FFFFFFAC4	32
	イベントカウンタ BF2	ECNTBF2	16	H'FFFFFFAC8	16
	汎用レジスタ BF2	GRBF2	16	H'FFFFFFACA	16
	時間計測カウンタ CF2	ECNTCF2	32	H'FFFFFFACC	32

モジュール名	レジスタ名	略称	ビット数	アドレス	アクセス サイズ
ATU-III	汎用レジスタ AF2	GRAF2	32	H'FFFFFFAD0	32
	キャプチャ出力レジスタ F2	CDRF2	32	H'FFFFFFAD4	32
	汎用レジスタ CF2	GRCF2	32	H'FFFFFFAD8	32
	タイマコントロールレジスタ F3	TCRF3	8	H'FFFFFFAE0	8
	タイマインタラプトイネーブルレジスタ F3	TIERF3	8	H'FFFFFFAE1	8
	タイマステータスレジスタ F3	TSRF3	8	H'FFFFFFAE3	8
	時間計測カウンタ AF3	ECNTAF3	32	H'FFFFFFAE4	32
	イベントカウンタ BF3	ECNTBF3	16	H'FFFFFFAE8	16
	汎用レジスタ BF3	GRBF3	16	H'FFFFFFAEA	16
	時間計測カウンタ CF3	ECNTCF3	32	H'FFFFFFAEC	32
	汎用レジスタ AF3	GRAF3	32	H'FFFFFFAF0	32
	キャプチャ出力レジスタ F3	CDRF3	32	H'FFFFFFAF4	32
	汎用レジスタ CF3	GRCF3	32	H'FFFFFFAF8	32
	タイマコントロールレジスタ F4	TCRF4	8	H'FFFFFFB00	8
	タイマインタラプトイネーブルレジスタ F4	TIERF4	8	H'FFFFFFB01	8
	タイマステータスレジスタ F4	TSRF4	8	H'FFFFFFB03	8
	時間計測カウンタ AF4	ECNTAF4	32	H'FFFFFFB04	32
	イベントカウンタ BF4	ECNTBF4	16	H'FFFFFFB08	16
	汎用レジスタ BF4	GRBF4	16	H'FFFFFFB0A	16
	時間計測カウンタ CF4	ECNTCF4	32	H'FFFFFFB0C	32
	汎用レジスタ AF4	GRAF4	32	H'FFFFFFB10	32
	キャプチャ出力レジスタ F4	CDRF4	32	H'FFFFFFB14	32
	汎用レジスタ CF4	GRCF4	32	H'FFFFFFB18	32
	タイマコントロールレジスタ F5	TCRF5	8	H'FFFFFFB20	8
	タイマインタラプトイネーブルレジスタ F5	TIERF5	8	H'FFFFFFB21	8
	タイマステータスレジスタ F5	TSRF5	8	H'FFFFFFB23	8
	時間計測カウンタ AF5	ECNTAF5	32	H'FFFFFFB24	32
	イベントカウンタ BF5	ECNTBF5	16	H'FFFFFFB28	16
	汎用レジスタ BF5	GRBF5	16	H'FFFFFFB2A	16
	時間計測カウンタ CF5	ECNTCF5	32	H'FFFFFFB2C	32
	汎用レジスタ AF5	GRAF5	32	H'FFFFFFB30	32
	キャプチャ出力レジスタ F5	CDRF5	32	H'FFFFFFB34	32
汎用レジスタ CF5	GRCF5	32	H'FFFFFFB38	32	
タイマコントロールレジスタ F6	TCRF6	8	H'FFFFFFB40	8	
タイマインタラプトイネーブルレジスタ F6	TIERF6	8	H'FFFFFFB41	8	
タイマステータスレジスタ F6	TSRF6	8	H'FFFFFFB43	8	

モジュール名	レジスタ名	略称	ビット数	アドレス	アクセス サイズ
ATU-III	時間計測カウンタ AF6	ECNTAF6	32	H'FFFFFFB44	32
	イベントカウンタ BF6	ECNTBF6	16	H'FFFFFFB48	16
	汎用レジスタ BF6	GRBF6	16	H'FFFFFFB4A	16
	時間計測カウンタ CF6	ECNTCF6	32	H'FFFFFFB4C	32
	汎用レジスタ AF6	GRAF6	32	H'FFFFFFB50	32
	キャプチャ出力レジスタ F6	CDRF6	32	H'FFFFFFB54	32
	汎用レジスタ CF6	GRCF6	32	H'FFFFFFB58	32
	タイマコントロールレジスタ F7	TCRF7	8	H'FFFFFFB60	8
	タイマインタラプトイネーブルレジスタ F7	TIERF7	8	H'FFFFFFB61	8
	タイマステータスレジスタ F7	TSRF7	8	H'FFFFFFB63	8
	時間計測カウンタ AF7	ECNTAF7	32	H'FFFFFFB64	32
	イベントカウンタ BF7	ECNTBF7	16	H'FFFFFFB68	16
	汎用レジスタ BF7	GRBF7	16	H'FFFFFFB6A	16
	時間計測カウンタ CF7	ECNTCF7	32	H'FFFFFFB6C	32
	汎用レジスタ AF7	GRAF7	32	H'FFFFFFB70	32
	キャプチャ出力レジスタ F7	CDRF7	32	H'FFFFFFB74	32
	汎用レジスタ CF7	GRCF7	32	H'FFFFFFB78	32
	タイマコントロールレジスタ F8	TCRF8	8	H'FFFFFFB80	8
	タイマインタラプトイネーブルレジスタ F8	TIERF8	8	H'FFFFFFB81	8
	タイマステータスレジスタ F8	TSRF8	8	H'FFFFFFB83	8
	時間計測カウンタ AF8	ECNTAF8	32	H'FFFFFFB84	32
	イベントカウンタ BF8	ECNTBF8	16	H'FFFFFFB88	16
	汎用レジスタ BF8	GRBF8	16	H'FFFFFFB8A	16
	時間計測カウンタ CF8	ECNTCF8	32	H'FFFFFFB8C	32
	汎用レジスタ AF8	GRAF8	32	H'FFFFFFB90	32
	キャプチャ出力レジスタ F8	CDRF8	32	H'FFFFFFB94	32
	汎用レジスタ CF8	GRCF8	32	H'FFFFFFB98	32
	タイマコントロールレジスタ F9	TCRF9	8	H'FFFFFFBA0	8
	タイマインタラプトイネーブルレジスタ F9	TIERF9	8	H'FFFFFFBA1	8
	タイマステータスレジスタ F9	TSRF9	8	H'FFFFFFBA3	8
	時間計測カウンタ AF9	ECNTAF9	32	H'FFFFFFBA4	32
	イベントカウンタ BF9	ECNTBF9	16	H'FFFFFFBA8	16
汎用レジスタ BF9	GRBF9	16	H'FFFFFFBAA	16	
時間計測カウンタ CF9	ECNTCF9	32	H'FFFFFFBAC	32	
汎用レジスタ AF9	GRAF9	32	H'FFFFFFBB0	32	
キャプチャ出力レジスタ F9	CDRF9	32	H'FFFFFFBB4	32	

モジュール名	レジスタ名	略称	ビット数	アドレス	アクセス サイズ
ATU-III	汎用レジスタ CF9	GRCF9	32	H'FFFFFFBB8	32
	タイマコントロールレジスタ F10	TCRF10	8	H'FFFFFFBC0	8
	タイマインタラプトイネーブルレジスタ F10	TIERF10	8	H'FFFFFFBC1	8
	タイマステータスレジスタ F10	TSRF10	8	H'FFFFFFBC3	8
	時間計測カウンタ AF10	ECNTAF10	32	H'FFFFFFBC4	32
	イベントカウンタ BF10	ECNTBF10	16	H'FFFFFFBC8	16
	汎用レジスタ BF10	GRBF10	16	H'FFFFFFBCA	16
	時間計測カウンタ CF10	ECNTCF10	32	H'FFFFFFBCC	32
	汎用レジスタ AF10	GRAF10	32	H'FFFFFFBD0	32
	キャプチャ出力レジスタ F10	CDRF10	32	H'FFFFFFBD4	32
	汎用レジスタ CF10	GRCF10	32	H'FFFFFFBD8	32
	タイマコントロールレジスタ F11	TCRF11	8	H'FFFFFFBE0	8
	タイマインタラプトイネーブルレジスタ F11	TIERF11	8	H'FFFFFFBE1	8
	タイマステータスレジスタ F11	TSRF11	8	H'FFFFFFBE3	8
	時間計測カウンタ AF11	ECNTAF11	32	H'FFFFFFBE4	32
	イベントカウンタ BF11	ECNTBF11	16	H'FFFFFFBE8	16
	汎用レジスタ BF11	GRBF11	16	H'FFFFFFBEA	16
	時間計測カウンタ CF11	ECNTCF11	32	H'FFFFFFBEC	32
	汎用レジスタ AF11	GRAF11	32	H'FFFFFFBF0	32
	キャプチャ出力レジスタ F11	CDRF11	32	H'FFFFFFBF4	32
	汎用レジスタ CF11	GRCF11	32	H'FFFFFFBF8	32
	タイマコントロールレジスタ F12	TCRF12	8	H'FFFFFFC00	8
	タイマインタラプトイネーブルレジスタ F12	TIERF12	8	H'FFFFFFC01	8
	タイマステータスレジスタ F12	TSRF12	8	H'FFFFFFC03	8
	時間計測カウンタ AF12	ECNTAF12	32	H'FFFFFFC04	32
	イベントカウンタ BF12	ECNTBF12	16	H'FFFFFFC08	16
	汎用レジスタ BF12	GRBF12	16	H'FFFFFFC0A	16
	時間計測カウンタ CF12	ECNTCF12	32	H'FFFFFFC0C	32
	汎用レジスタ AF12	GRAF12	32	H'FFFFFFC10	32
	キャプチャ出力レジスタ F12	CDRF12	32	H'FFFFFFC14	32
	汎用レジスタ CF12	GRCF12	32	H'FFFFFFC18	32
	汎用レジスタ DF12	GRDF12	32	H'FFFFFFC1C	32
タイマコントロールレジスタ F13	TCRF13	8	H'FFFFFFC20	8	
タイマインタラプトイネーブルレジスタ F13	TIERF13	8	H'FFFFFFC21	8	
タイマステータスレジスタ F13	TSRF13	8	H'FFFFFFC23	8	
時間計測カウンタ AF13	ECNTAF13	32	H'FFFFFFC24	32	

モジュール名	レジスタ名	略称	ビット数	アドレス	アクセス サイズ
ATU-III	イベントカウンタ BF13	ECNTBF13	16	H'FFFFFFC28	16
	汎用レジスタ BF13	GRBF13	16	H'FFFFFFC2A	16
	時間計測カウンタ CF13	ECNTCF13	32	H'FFFFFFC2C	32
	汎用レジスタ AF13	GRAF13	32	H'FFFFFFC30	32
	キャプチャ出力レジスタ F13	CDRF13	32	H'FFFFFFC34	32
	汎用レジスタ CF13	GRCF13	32	H'FFFFFFC38	32
	汎用レジスタ DF13	GRDF13	32	H'FFFFFFC3C	32
	タイマコントロールレジスタ F14	TCRF14	8	H'FFFFFFC40	8
	タイマインタラプトイネーブルレジスタ F14	TIERF14	8	H'FFFFFFC41	8
	タイマステータスレジスタ F14	TSRF14	8	H'FFFFFFC43	8
	時間計測カウンタ AF14	ECNTAF14	32	H'FFFFFFC44	32
	イベントカウンタ BF14	ECNTBF14	16	H'FFFFFFC48	16
	汎用レジスタ BF14	GRBF14	16	H'FFFFFFC4A	16
	時間計測カウンタ CF14	ECNTCF14	32	H'FFFFFFC4C	32
	汎用レジスタ AF14	GRAF14	32	H'FFFFFFC50	32
	キャプチャ出力レジスタ F14	CDRF14	32	H'FFFFFFC54	32
	汎用レジスタ CF14	GRCF14	32	H'FFFFFFC58	32
	汎用レジスタ DF14	GRDF14	32	H'FFFFFFC5C	32
	タイマコントロールレジスタ F15	TCRF15	8	H'FFFFFFC60	8
	タイマインタラプトイネーブルレジスタ F15	TIERF15	8	H'FFFFFFC61	8
	タイマステータスレジスタ F15	TSRF15	8	H'FFFFFFC63	8
	時間計測カウンタ AF15	ECNTAF15	32	H'FFFFFFC64	32
	イベントカウンタ BF15	ECNTBF15	16	H'FFFFFFC68	16
	汎用レジスタ BF15	GRBF15	16	H'FFFFFFC6A	16
	時間計測カウンタ CF15	ECNTCF15	32	H'FFFFFFC6C	32
	汎用レジスタ AF15	GRAF15	32	H'FFFFFFC70	32
	キャプチャ出力レジスタ F15	CDRF15	32	H'FFFFFFC74	32
	汎用レジスタ CF15	GRCF15	32	H'FFFFFFC78	32
	汎用レジスタ DF15	GRDF15	32	H'FFFFFFC7C	32
	タイマコントロールレジスタ F16	TCRF16	8	H'FFFFFFC80	8
	タイマインタラプトイネーブルレジスタ F16	TIERF16	8	H'FFFFFFC81	8
	タイマステータスレジスタ F16	TSRF16	8	H'FFFFFFC83	8
	時間計測カウンタ AF16	ECNTAF16	32	H'FFFFFFC84	32
	イベントカウンタ BF16	ECNTBF16	16	H'FFFFFFC88	16
	汎用レジスタ BF16	GRBF16	16	H'FFFFFFC8A	16
	時間計測カウンタ CF16	ECNTCF16	32	H'FFFFFFC8C	32

モジュール名	レジスタ名	略称	ビット数	アドレス	アクセス サイズ
ATU-III	汎用レジスタ AF16	GRAF16	32	H'FFFFFFC90	32
	キャプチャ出力レジスタ F16	CDRF16	32	H'FFFFFFC94	32
	汎用レジスタ CF16	GRCF16	32	H'FFFFFFC98	32
	タイマコントロールレジスタ F17	TCRF17	8	H'FFFFFFCA0	8
	タイマインタラプトイネーブルレジスタ F17	TIERF17	8	H'FFFFFFCA1	8
	タイマステータスレジスタ F17	TSRF17	8	H'FFFFFFCA3	8
	時間計測カウンタ AF17	ECNTAF17	32	H'FFFFFFCA4	32
	イベントカウンタ BF17	ECNTBF17	16	H'FFFFFFCA8	16
	汎用レジスタ BF17	GRBF17	16	H'FFFFFFCAA	16
	時間計測カウンタ CF17	ECNTCF17	32	H'FFFFFFCAC	32
	汎用レジスタ AF17	GRAF17	32	H'FFFFFFCB0	32
	キャプチャ出力レジスタ F17	CDRF17	32	H'FFFFFFCB4	32
	汎用レジスタ CF17	GRCF17	32	H'FFFFFFCB8	32
	タイマコントロールレジスタ F18	TCRF18	8	H'FFFFFFCC0	8
	タイマインタラプトイネーブルレジスタ F18	TIERF18	8	H'FFFFFFCC1	8
	タイマステータスレジスタ F18	TSRF18	8	H'FFFFFFCC3	8
	時間計測カウンタ AF18	ECNTAF18	32	H'FFFFFFCC4	32
	イベントカウンタ BF18	ECNTBF18	16	H'FFFFFFCC8	16
	汎用レジスタ BF18	GRBF18	16	H'FFFFFFCCA	16
	時間計測カウンタ CF18	ECNTCF18	32	H'FFFFFFCCC	32
	汎用レジスタ AF18	GRAF18	32	H'FFFFFFCD0	32
	キャプチャ出力レジスタ F18	CDRF18	32	H'FFFFFFCD4	32
	汎用レジスタ CF18	GRCF18	32	H'FFFFFFCD8	32
	タイマコントロールレジスタ F19	TCRF19	8	H'FFFFFFCE0	8
	タイマインタラプトイネーブルレジスタ F19	TIERF19	8	H'FFFFFFCE1	8
	タイマステータスレジスタ F19	TSRF19	8	H'FFFFFFCE3	8
	時間計測カウンタ AF19	ECNTAF19	32	H'FFFFFFCE4	32
	イベントカウンタ BF19	ECNTBF19	16	H'FFFFFFCE8	16
	汎用レジスタ BF19	GRBF19	16	H'FFFFFFCEA	16
	時間計測カウンタ CF19	ECNTCF19	32	H'FFFFFFCEC	32
	汎用レジスタ AF19	GRAF19	32	H'FFFFFFCF0	32
	キャプチャ出力レジスタ F19	CDRF19	32	H'FFFFFFCF4	32
汎用レジスタ CF19	GRCF19	32	H'FFFFFFCF8	32	
タイマスタートレジスタ G	TSTRG	8	H'FFFFFFE01	8	
タイマコントロールレジスタ G0	TCRG0	8	H'FFFFFFE80	8	
タイマステータスレジスタ G0	TSRG0	8	H'FFFFFFE81	8	

モジュール名	レジスタ名	略称	ビット数	アドレス	アクセス サイズ
ATU-III	タイマカウンタ G0	TCNTG0	16	H'FFFFFFE84	16
	コンペアマッチレジスタ G0	OCRG0	16	H'FFFFFFE86	16
	タイマコントロールレジスタ G1	TCRG1	8	H'FFFFFFE90	8
	タイマステータスレジスタ G1	TSRG1	8	H'FFFFFFE91	8
	タイマカウンタ G1	TCNTG1	16	H'FFFFFFE94	16
	コンペアマッチレジスタ G1	OCRG1	16	H'FFFFFFE96	16
	タイマコントロールレジスタ G2	TCRG2	8	H'FFFFFFEA0	8
	タイマステータスレジスタ G2	TSRG2	8	H'FFFFFFEA1	8
	タイマカウンタ G2	TCNTG2	16	H'FFFFFFEA4	16
	コンペアマッチレジスタ G2	OCRG2	16	H'FFFFFFEA6	16
	タイマコントロールレジスタ G3	TCRG3	8	H'FFFFFFEB0	8
	タイマステータスレジスタ G3	TSRG3	8	H'FFFFFFEB1	8
	タイマカウンタ G3	TCNTG3	16	H'FFFFFFEB4	16
	コンペアマッチレジスタ G3	OCRG3	16	H'FFFFFFEB6	16
	タイマコントロールレジスタ G4	TCRG4	8	H'FFFFFFEC0	8
	タイマステータスレジスタ G4	TSRG4	8	H'FFFFFFEC1	8
	タイマカウンタ G4	TCNTG4	16	H'FFFFFFEC4	16
	コンペアマッチレジスタ G4	OCRG4	16	H'FFFFFFEC6	16
	タイマコントロールレジスタ G5	TCRG5	8	H'FFFFFFED0	8
	タイマステータスレジスタ G5	TSRG5	8	H'FFFFFFED1	8
	タイマカウンタ G5	TCNTG5	16	H'FFFFFFED4	16
	コンペアマッチレジスタ G5	OCRG5	16	H'FFFFFFED6	16
	タイマコントロールレジスタ H	TCRH	8	H'FFFFFFF40	8
	タイマステータスレジスタ H	TSRH	8	H'FFFFFFF41	8
	タイマカウンタ 1H	TCNT1H	16	H'FFFFFFF44	16
	コンペアマッチレジスタ 1H	OCR1H	16	H'FFFFFFF46	16
	タイマカウンタ 2H	TCNT2H	32	H'FFFFFFF48	32
	タイマスタートレジスタ J	TSTRJ	8	H'FFFFFFF80	8
	タイマコントロールレジスタ J0	TCRJ0	8	H'FFFFFFF90	8
	FIFO コントロールレジスタ J0	FCRJ0	8	H'FFFFFFF91	8
	タイマステータスレジスタ J0	TSRJ0	8	H'FFFFFFF92	8
	タイマインタラプトイネーブルレジスタ J0	TIERJ0	8	H'FFFFFFF94	8
FIFO データ数レジスタ J0	FDNRJ0	8	H'FFFFFFF95	8	
ノイズキャンセルカウンタ J0	NCNTJ0	8	H'FFFFFFF96	8	
ノイズキャンセルレジスタ J0	NCRJ0	8	H'FFFFFFF97	8	
タイマカウンタ J0	TCNTJ0	16	H'FFFFFFF98	16	

モジュール名	レジスタ名	略称	ビット数	アドレス	アクセス サイズ
ATU-III	コンペアマッチレジスタ J0	OCRJ0	16	H'FFFFFF9A	16
	FIFO レジスタ J0	FIFOJ0	16	H'FFFFFF9C	16
	タイマコントロールレジスタ J1	TCRJ1	8	H'FFFFFFA0	8
	FIFO コントロールレジスタ J1	FCRJ1	8	H'FFFFFFA1	8
	タイマステータスレジスタ J1	TSRJ1	8	H'FFFFFFA2	8
	タイマインタラプトイネーブルレジスタ J1	TIERJ1	8	H'FFFFFFA4	8
	FIFO データ数レジスタ J1	FDNRJ1	8	H'FFFFFFA5	8
	ノイズキャンセルカウンタ J1	NCNTJ1	8	H'FFFFFFA6	8
	ノイズキャンセルレジスタ J1	NCRJ1	8	H'FFFFFFA7	8
	タイマカウンタ J1	TCNTJ1	16	H'FFFFFFA8	16
	コンペアマッチレジスタ J1	OCRJ1	16	H'FFFFFFAA	16
	FIFO レジスタ J1	FIFOJ1	16	H'FFFFFFAC	16
WDT	ウォッチドッグタイマコントロール レジスタ	WTCR	16	H'FFFE0000	8、16
	ウォッチドッグタイマカウンタ	WTCNT	16	H'FFFE0002	8、16
	ウォッチドッグタイマステータスレジスタ	WTSR	16	H'FFFE0004	8、16
	ウォッチドッグリセットコントロール レジスタ	WRCR	16	H'FFFE0006	8、16
CMT	コンペアマッチタイマスタートレジスタ	CMSTR	16	H'FFFE0000	16
	コンペアマッチタイマコントロール レジスタ_0	CMCR_0	8	H'FFFE0010	8
	コンペアマッチタイマステータス レジスタ_0	CMSR_0	8	H'FFFE0011	8
	コンペアマッチカウンタ_0	CMCNT_0	16	H'FFFE0012	16
	コンペアマッチコンスタントレジスタ_0	CMCOR_0	16	H'FFFE0014	16
	コンペアマッチタイマコントロール レジスタ_1	CMCR_1	8	H'FFFE0020	8
	コンペアマッチタイマステータス レジスタ_1	CMSR_1	8	H'FFFE0021	8
	コンペアマッチカウンタ_1	CMCNT_1	16	H'FFFE0022	16
	コンペアマッチコンスタントレジスタ_1	CMCOR_1	16	H'FFFE0024	16
SCI	シリアルモードレジスタ	SCSMR1A	8	H'FFFF8000	8
	ビットレートレジスタ	SCBRR1A	8	H'FFFF8004	8
	シリアルコントロールレジスタ	SCSCR1A	8	H'FFFF8008	8
	トランスミットデータレジスタ	SCTDR1A	8	H'FFFF800C	8
	シリアルステータスレジスタ	SCSSR1A	8	H'FFFF8010	8
	レシーブデータレジスタ	SCRDR1A	8	H'FFFF8014	8

モジュール名	レジスタ名	略称	ビット数	アドレス	アクセス サイズ
SCI	シリアルモードレジスタ	SCSMR1B	8	H'FFFF8800	8
	ビットレートレジスタ	SCBRR1B	8	H'FFFF8804	8
	シリアルコントロールレジスタ	SCSCR1B	8	H'FFFF8808	8
	トランスミットデータレジスタ	SCTDR1B	8	H'FFFF880C	8
	シリアルステータスレジスタ	SCSSR1B	8	H'FFFF8810	8
	レシーブデータレジスタ	SCRDR1B	8	H'FFFF8814	8
	シリアルモードレジスタ	SCSMR1C	8	H'FFFF9000	8
	ビットレートレジスタ	SCBRR1C	8	H'FFFF9004	8
	シリアルコントロールレジスタ	SCSCR1C	8	H'FFFF9008	8
	トランスミットデータレジスタ	SCTDR1C	8	H'FFFF900C	8
	シリアルステータスレジスタ	SCSSR1C	8	H'FFFF9010	8
	レシーブデータレジスタ	SCRDR1C	8	H'FFFF9014	8
	シリアルモードレジスタ	SCSMR1D	8	H'FFFF9800	8
	ビットレートレジスタ	SCBRR1D	8	H'FFFF9804	8
	シリアルコントロールレジスタ	SCSCR1D	8	H'FFFF9808	8
	トランスミットデータレジスタ	SCTDR1D	8	H'FFFF980C	8
	シリアルステータスレジスタ	SCSSR1D	8	H'FFFF9810	8
	レシーブデータレジスタ	SCRDR1D	8	H'FFFF9814	8
	シリアルモードレジスタ	SCSMR1E	8	H'FFFA000	8
	ビットレートレジスタ	SCBRR1E	8	H'FFFA004	8
シリアルコントロールレジスタ	SCSCR1E	8	H'FFFA008	8	
トランスミットデータレジスタ	SCTDR1E	8	H'FFFA00C	8	
シリアルステータスレジスタ	SCSSR1E	8	H'FFFA010	8	
レシーブデータレジスタ	SCRDR1E	8	H'FFFA014	8	
RSPI	RSPI 制御レジスタ A	SPCRA	8	H'FFFFB000	8、16
	RSPI スレーブセレクト極性レジスタ A	SSLPA	8	H'FFFFB001	8
	RSPI 端子制御レジスタ A	SPPCRA	8	H'FFFFB002	8、16
	RSPI ステータスレジスタ A	SPSRA	8	H'FFFFB003	8
	RSPI データレジスタ A	SPDRA	16	H'FFFFB004	16
	RSPI シーケンス制御レジスタ A	SPSCRA	8	H'FFFFB008	8、16
	RSPI シーケンスステータスレジスタ A	SPSSRA	8	H'FFFFB009	8
	RSPI ビットレートレジスタ A	SPBRA	8	H'FFFFB00A	8
	RSPI クロック遅延レジスタ A	SPCKDA	8	H'FFFFB00C	8、16
	RSPI スレーブセレクトネゲート遅延 レジスタ A	SSLNDA	8	H'FFFFB00D	8
	RSPI 次アクセス遅延レジスタ A	SPNDA	8	H'FFFFB00E	8

モジュール名	レジスタ名	略称	ビット数	アドレス	アクセス サイズ
RSPi	RSPi コマンドレジスタ A0	SPCMDA0	16	H'FFFFB010	16
	RSPi コマンドレジスタ A1	SPCMDA1	16	H'FFFFB012	16
	RSPi コマンドレジスタ A2	SPCMDA2	16	H'FFFFB014	16
	RSPi コマンドレジスタ A3	SPCMDA3	16	H'FFFFB016	16
	RSPi コマンドレジスタ A4	SPCMDA4	16	H'FFFFB018	16
	RSPi コマンドレジスタ A5	SPCMDA5	16	H'FFFFB01A	16
	RSPi コマンドレジスタ A6	SPCMDA6	16	H'FFFFB01C	16
	RSPi コマンドレジスタ A7	SPCMDA7	16	H'FFFFB01E	16
	RSPi 制御レジスタ B	SPCRB	8	H'FFFFB800	8、16
	RSPi スレーブセレクト極性設定レジスタ B	SSLPB	8	H'FFFFB801	8
	RSPi 端子制御レジスタ B	SPPCRB	8	H'FFFFB802	8、16
	RSPi ステータスレジスタ B	SPSRB	8	H'FFFFB803	8
	RSPi データレジスタ B	SPDRB	16	H'FFFFB804	16
	RSPi シーケンス制御レジスタ B	SPSCRB	8	H'FFFFB808	8、16
	RSPi シーケンスステータスレジスタ B	SPSSRB	8	H'FFFFB809	8
	RSPi ビットレートレジスタ B	SPBRB	8	H'FFFFB80A	8
	RSPi クロック遅延値レジスタ B	SPCKDB	8	H'FFFFB80C	8、16
	RSPi スレーブセレクトネゲート遅延 レジスタ B	SSLNDB	8	H'FFFFB80D	8
	RSPi 次アクセス遅延レジスタ B	SPNDB	8	H'FFFFB80E	8
	RSPi コマンドレジスタ B0	SPCMDDB0	16	H'FFFFB810	16
	RSPi コマンドレジスタ B1	SPCMDDB1	16	H'FFFFB812	16
	RSPi コマンドレジスタ B2	SPCMDDB2	16	H'FFFFB814	16
	RSPi コマンドレジスタ B3	SPCMDDB3	16	H'FFFFB816	16
	RSPi コマンドレジスタ B4	SPCMDDB4	16	H'FFFFB818	16
	RSPi コマンドレジスタ B5	SPCMDDB5	16	H'FFFFB81A	16
	RSPi コマンドレジスタ B6	SPCMDDB6	16	H'FFFFB81C	16
	RSPi コマンドレジスタ B7	SPCMDDB7	16	H'FFFFB81E	16
	RSPi 制御レジスタ C	SPCRC	8	H'FFFFC000	8、16
	RSPi スレーブセレクト極性設定レジスタ C	SSLPC	8	H'FFFFC001	8
	RSPi 端子制御レジスタ C	SPPCRC	8	H'FFFFC002	8、16
	RSPi ステータスレジスタ C	SPSRC	8	H'FFFFC003	8
	RSPi データレジスタ C	SPDRC	16	H'FFFFC004	16
	RSPi シーケンス制御レジスタ C	SPSCRC	8	H'FFFFC008	8、16
	RSPi シーケンスステータスレジスタ C	SPSSRC	8	H'FFFFC009	8
	RSPi ビットレートレジスタ C	SPBRC	8	H'FFFFC00A	8

モジュール名	レジスタ名	略称	ビット数	アドレス	アクセス サイズ
RSP1	RSP1 クロック遅延値レジスタ C	SPCKDC	8	H'FFFFFF00C	8、16
	RSP1 スレーブセレクトネゲート遅延 レジスタ C	SSLNDC	8	H'FFFFFF00D	8
	RSP1 次アクセス遅延レジスタ C	SPNDC	8	H'FFFFFF00E	8
	RSP1 コマンドレジスタ C0	SPCMDC0	16	H'FFFFFF010	16
	RSP1 コマンドレジスタ C1	SPCMDC1	16	H'FFFFFF012	16
	RSP1 コマンドレジスタ C2	SPCMDC2	16	H'FFFFFF014	16
	RSP1 コマンドレジスタ C3	SPCMDC3	16	H'FFFFFF016	16
	RSP1 コマンドレジスタ C4	SPCMDC4	16	H'FFFFFF018	16
	RSP1 コマンドレジスタ C5	SPCMDC5	16	H'FFFFFF01A	16
	RSP1 コマンドレジスタ C6	SPCMDC6	16	H'FFFFFF01C	16
	RSP1 コマンドレジスタ C7	SPCMDC7	16	H'FFFFFF01E	16
RCAN-TL1 (RCAN_A)	マスタコントロールレジスタ	MCR	16	H'FFFFFFD000	16
	ジェネラルステータスレジスタ	GSR	16	H'FFFFFFD002	16
	ビットコンフィギュレーションレジスタ 1	BCR1	16	H'FFFFFFD004	16
	ビットコンフィギュレーションレジスタ 0	BCR0	16	H'FFFFFFD006	16
	インタラプトリクエストレジスタ	IRR	16	H'FFFFFFD008	16
	インタラプトマスクレジスタ	IMR	16	H'FFFFFFD00A	16
	送信エラーカウンタ/受信エラーカウンタ	TEC/REC	16	H'FFFFFFD00C	16
	送信待ちレジスタ 1	TXPR1	16	H'FFFFFFD020	32
	送信待ちレジスタ 0	TXPR0	16		
	送信キャンセルレジスタ 1	TXCR1	16	H'FFFFFFD028	16
	送信キャンセルレジスタ 0	TXCR0	16	H'FFFFFFD02A	16
	送信アクノリッジレジスタ 1	TXACK1	16	H'FFFFFFD030	16
	送信アクノリッジレジスタ 0	TXACK0	16	H'FFFFFFD032	16
	アボートアクノリッジレジスタ 1	ABACK1	16	H'FFFFFFD038	16
	アボートアクノリッジレジスタ 0	ABACK0	16	H'FFFFFFD03A	16
	データフレーム受信完了レジスタ 1	RXPR1	16	H'FFFFFFD040	16
	データフレーム受信完了レジスタ 0	RXPR0	16	H'FFFFFFD042	16
	リモートフレーム受信完了レジスタ 1	RFPR1	16	H'FFFFFFD048	16
	リモートフレーム受信完了レジスタ 0	RFPR0	16	H'FFFFFFD04A	16
	メールボックスインタラプトマスク レジスタ 1	MBIMR1	16	H'FFFFFFD050	16
メールボックスインタラプトマスク レジスタ 0	MBIMR0	16	H'FFFFFFD052	16	
未読メッセージステータスレジスタ 1	UMSR1	16	H'FFFFFFD058	16	
未読メッセージステータスレジスタ 0	UMSR0	16	H'FFFFFFD05A	16	

モジュール名	レジスタ名	略称	ビット数	アドレス	アクセス サイズ	
RCAN-TL1 (RCAN_A)	タイムトリガコントロールレジスタ 0	TTCR0	16	H'FFFFD080	16	
	サイクルマキシマム/Tx_Enable_Window レジスタ	CMAX_TEW	16	H'FFFFD084	16	
	リファレンストリガオフセットレジスタ	RFTR0FF	16	H'FFFFD086	16	
	タイムステータスレジスタ	TSR	16	H'FFFFD088	16	
	サイクルカウンタレジスタ	CCR	16	H'FFFFD08A	16	
	タイマカウンタレジスタ	TCNTR	16	H'FFFFD08C	16	
	サイクルタイムレジスタ	CYCTR	16	H'FFFFD090	16	
	リファレンスマークレジスタ	RFMK	16	H'FFFFD094	16	
	タイマコンペアマッチレジスタ 0	TCMR0	16	H'FFFFD098	16	
	タイマコンペアマッチレジスタ 1	TCMR1	16	H'FFFFD09C	16	
	タイマコンペアマッチレジスタ 2	TCMR2	16	H'FFFFD0A0	16	
	送信トリガタイムセレクトレジスタ	TTTSEL	16	H'FFFFD0A4	16	
	MB[0].	CONTROL0_H	—	16	H'FFFFD100	16、32
		CONTROL0_L	—	16	H'FFFFD102	16
		LAFM0	—	16	H'FFFFD104	16、32
		LAFM1	—	16	H'FFFFD106	16
		DATA_01	—	16	H'FFFFD108	8、16、32
		DATA_23	—	16	H'FFFFD10A	8、16
		DATA_45	—	16	H'FFFFD10C	8、16、32
		DATA_67	—	16	H'FFFFD10E	8、16
		CONTROL1	—	16	H'FFFFD110	8、16
		TIMESTAMP	—	16	H'FFFFD112	16
	MB[1].	CONTROL0_H	—	16	H'FFFFD120	16、32
		CONTROL0_L	—	16	H'FFFFD122	16
		LAFM0	—	16	H'FFFFD124	16、32
		LAFM1	—	16	H'FFFFD126	16
		DATA_01	—	16	H'FFFFD128	8、16、32
DATA_23		—	16	H'FFFFD12A	8、16	
DATA_45		—	16	H'FFFFD12C	8、16、32	
DATA_67		—	16	H'FFFFD12E	8、16	
CONTROL1		—	16	H'FFFFD130	8、16	
TIMESTAMP		—	16	H'FFFFD132	16	
MB[2].	CONTROL0_H	—	16	H'FFFFD140	16、32	
	CONTROL0_L	—	16	H'FFFFD142	16	
	LAFM0	—	16	H'FFFFD144	16、32	

モジュール名	レジスタ名		略称	ビット数	アドレス	アクセス サイズ
RCAN-TL1 (RCAN_A)	MB[2].	LAFM1	—	16	H'FFFFD146	16
		DATA_01	—	16	H'FFFFD148	8、16、32
		DATA_23	—	16	H'FFFFD14A	8、16
		DATA_45	—	16	H'FFFFD14C	8、16、32
		DATA_67	—	16	H'FFFFD14E	8、16
		CONTROL1	—	16	H'FFFFD150	8、16
		TIMESTAMP	—	16	H'FFFFD152	16
	MB[3].	CONTROL0_H	—	16	H'FFFFD160	16、32
		CONTROL0_L	—	16	H'FFFFD162	16
		LAFM0	—	16	H'FFFFD164	16、32
		LAFM1	—	16	H'FFFFD166	16
		DATA_01	—	16	H'FFFFD168	8、16、32
		DATA_23	—	16	H'FFFFD16A	8、16
		DATA_45	—	16	H'FFFFD16C	8、16、32
		DATA_67	—	16	H'FFFFD16E	8、16
		CONTROL1	—	16	H'FFFFD170	8、16
	TIMESTAMP	—	16	H'FFFFD172	16	
	MB[4].	CONTROL0_H	—	16	H'FFFFD180	16、32
		CONTROL0_L	—	16	H'FFFFD182	16
		LAFM0	—	16	H'FFFFD184	16、32
		LAFM1	—	16	H'FFFFD186	16
		DATA_01	—	16	H'FFFFD188	8、16、32
		DATA_23	—	16	H'FFFFD18A	8、16
		DATA_45	—	16	H'FFFFD18C	8、16、32
		DATA_67	—	16	H'FFFFD18E	8、16
		CONTROL1	—	16	H'FFFFD190	8、16
	TIMESTAMP	—	16	H'FFFFD192	16	
	MB[5].	CONTROL0_H	—	16	H'FFFFD1A0	16、32
		CONTROL0_L	—	16	H'FFFFD1A2	16
		LAFM0	—	16	H'FFFFD1A4	16、32
		LAFM1	—	16	H'FFFFD1A6	16
		DATA_01	—	16	H'FFFFD1A8	8、16、32
		DATA_23	—	16	H'FFFFD1AA	8、16
		DATA_45	—	16	H'FFFFD1AC	8、16、32
		DATA_67	—	16	H'FFFFD1AE	8、16
		CONTROL1	—	16	H'FFFFD1B0	8、16

モジュール名	レジスタ名		略称	ビット数	アドレス	アクセス サイズ
RCAN-TL1 (RCAN_A)	MB[5].	TIMESTAMP	—	16	H'FFFFD1B2	16
	MB[6].	CONTROL0_H	—	16	H'FFFFD1C0	16、32
		CONTROL0_L	—	16	H'FFFFD1C2	16
		LAFM0	—	16	H'FFFFD1C4	16、32
		LAFM1	—	16	H'FFFFD1C6	16
		DATA_01	—	16	H'FFFFD1C8	8、16、32
		DATA_23	—	16	H'FFFFD1CA	8、16
		DATA_45	—	16	H'FFFFD1CC	8、16、32
		DATA_67	—	16	H'FFFFD1CE	8、16
		CONTROL1	—	16	H'FFFFD1D0	8、16
		TIMESTAMP	—	16	H'FFFFD1D2	16
	MB[7].	CONTROL0_H	—	16	H'FFFFD1E0	16、32
		CONTROL0_L	—	16	H'FFFFD1E2	16
		LAFM0	—	16	H'FFFFD1E4	16、32
		LAFM1	—	16	H'FFFFD1E6	16
		DATA_01	—	16	H'FFFFD1E8	8、16、32
		DATA_23	—	16	H'FFFFD1EA	8、16
		DATA_45	—	16	H'FFFFD1EC	8、16、32
		DATA_67	—	16	H'FFFFD1EE	8、16
		CONTROL1	—	16	H'FFFFD1F0	8、16
		TIMESTAMP	—	16	H'FFFFD1F2	16
	MB[8].	CONTROL0_H	—	16	H'FFFFD200	16、32
		CONTROL0_L	—	16	H'FFFFD202	16
		LAFM0	—	16	H'FFFFD204	16、32
		LAFM1	—	16	H'FFFFD206	16
		DATA_01	—	16	H'FFFFD208	8、16、32
		DATA_23	—	16	H'FFFFD20A	8、16
		DATA_45	—	16	H'FFFFD20C	8、16、32
		DATA_67	—	16	H'FFFFD20E	8、16
		CONTROL1	—	16	H'FFFFD210	8、16
		TIMESTAMP	—	16	H'FFFFD212	16
	MB[9].	CONTROL0_H	—	16	H'FFFFD220	16、32
		CONTROL0_L	—	16	H'FFFFD222	16
		LAFM0	—	16	H'FFFFD224	16、32
		LAFM1	—	16	H'FFFFD226	16
		DATA_01	—	16	H'FFFFD228	8、16、32

モジュール名	レジスタ名		略称	ビット数	アドレス	アクセス サイズ
RCAN-TL1 (RCAN_A)	MB[9].	DATA_23	—	16	H'FFFFD22A	8、16
		DATA_45	—	16	H'FFFFD22C	8、16、32
		DATA_67	—	16	H'FFFFD22E	8、16
		CONTROL1	—	16	H'FFFFD230	8、16
		TIMESTAMP	—	16	H'FFFFD232	16
	MB[10].	CONTROL0_H	—	16	H'FFFFD240	16、32
		CONTROL0_L	—	16	H'FFFFD242	16
		LAFM0	—	16	H'FFFFD244	16、32
		LAFM1	—	16	H'FFFFD246	16
		DATA_01	—	16	H'FFFFD248	8、16、32
		DATA_23	—	16	H'FFFFD24A	8、16
		DATA_45	—	16	H'FFFFD24C	8、16、32
		DATA_67	—	16	H'FFFFD24E	8、16
		CONTROL1	—	16	H'FFFFD250	8、16
		TIMESTAMP	—	16	H'FFFFD252	16
	MB[11].	CONTROL0_H	—	16	H'FFFFD260	16、32
		CONTROL0_L	—	16	H'FFFFD262	16
		LAFM0	—	16	H'FFFFD264	16、32
		LAFM1	—	16	H'FFFFD266	16
		DATA_01	—	16	H'FFFFD268	8、16、32
		DATA_23	—	16	H'FFFFD26A	8、16
		DATA_45	—	16	H'FFFFD26C	8、16、32
		DATA_67	—	16	H'FFFFD26E	8、16
		CONTROL1	—	16	H'FFFFD270	8、16
		TIMESTAMP	—	16	H'FFFFD272	16
	MB[12].	CONTROL0_H	—	16	H'FFFFD280	16、32
		CONTROL0_L	—	16	H'FFFFD282	16
		LAFM0	—	16	H'FFFFD284	16、32
		LAFM1	—	16	H'FFFFD286	16
		DATA_01	—	16	H'FFFFD288	8、16、32
		DATA_23	—	16	H'FFFFD28A	8、16
		DATA_45	—	16	H'FFFFD28C	8、16、32
		DATA_67	—	16	H'FFFFD28E	8、16
		CONTROL1	—	16	H'FFFFD290	8、16
		TIMESTAMP	—	16	H'FFFFD292	16
	MB[13].	CONTROL0_H	—	16	H'FFFFD2A0	16、32

モジュール名	レジスタ名		略称	ビット数	アドレス	アクセス サイズ
RCAN-TL1 (RCAN_A)	MB[13].	CONTROL0_L	—	16	H'FFFFD2A2	16
		LAFM0	—	16	H'FFFFD2A4	16、32
		LAFM1	—	16	H'FFFFD2A6	16
		DATA_01	—	16	H'FFFFD2A8	8、16、32
		DATA_23	—	16	H'FFFFD2AA	8、16
		DATA_45	—	16	H'FFFFD2AC	8、16、32
		DATA_67	—	16	H'FFFFD2AE	8、16
		CONTROL1	—	16	H'FFFFD2B0	8、16
		TIMESTAMP	—	16	H'FFFFD2B2	16
	MB[14].	CONTROL0_H	—	16	H'FFFFD2C0	16、32
		CONTROL0_L	—	16	H'FFFFD2C2	16
		LAFM0	—	16	H'FFFFD2C4	16、32
		LAFM1	—	16	H'FFFFD2C6	16
		DATA_01	—	16	H'FFFFD2C8	8、16、32
		DATA_23	—	16	H'FFFFD2CA	8、16
		DATA_45	—	16	H'FFFFD2CC	8、16、32
		DATA_67	—	16	H'FFFFD2CE	8、16
		CONTROL1	—	16	H'FFFFD2D0	8、16
		TIMESTAMP	—	16	H'FFFFD2D2	16
		MB[15].	CONTROL0_H	—	16	H'FFFFD2E0
	CONTROL0_L		—	16	H'FFFFD2E2	16
	LAFM0		—	16	H'FFFFD2E4	16、32
	LAFM1		—	16	H'FFFFD2E6	16
	DATA_01		—	16	H'FFFFD2E8	8、16、32
	DATA_23		—	16	H'FFFFD2EA	8、16
	DATA_45		—	16	H'FFFFD2EC	8、16、32
	DATA_67		—	16	H'FFFFD2EE	8、16
	CONTROL1		—	16	H'FFFFD2F0	8、16
	TIMESTAMP		—	16	H'FFFFD2F2	16
	MB[16].		CONTROL0_H	—	16	H'FFFFD300
		CONTROL0_L	—	16	H'FFFFD302	16
		LAFM0	—	16	H'FFFFD304	16、32
		LAFM1	—	16	H'FFFFD306	16
		DATA_01	—	16	H'FFFFD308	8、16、32
		DATA_23	—	16	H'FFFFD30A	8、16
		DATA_45	—	16	H'FFFFD30C	8、16、32

モジュール名	レジスタ名		略称	ビット数	アドレス	アクセス サイズ
RCAN-TL1 (RCAN_A)	MB[16].	DATA_67	—	16	H'FFFFD30E	8、16
		CONTROL1	—	16	H'FFFFD310	8、16
	MB[17].	CONTROL0_H	—	16	H'FFFFD320	16、32
		CONTROL0_L	—	16	H'FFFFD322	16
		LAFM0	—	16	H'FFFFD324	16、32
		LAFM1	—	16	H'FFFFD326	16
		DATA_01	—	16	H'FFFFD328	8、16、32
		DATA_23	—	16	H'FFFFD32A	8、16
		DATA_45	—	16	H'FFFFD32C	8、16、32
		DATA_67	—	16	H'FFFFD32E	8、16
		CONTROL1	—	16	H'FFFFD330	8、16
		MB[18].	CONTROL0_H	—	16	H'FFFFD340
	CONTROL0_L		—	16	H'FFFFD342	16
	LAFM0		—	16	H'FFFFD344	16、32
	LAFM1		—	16	H'FFFFD346	16
	DATA_01		—	16	H'FFFFD348	8、16、32
	DATA_23		—	16	H'FFFFD34A	8、16
	DATA_45		—	16	H'FFFFD34C	8、16、32
	DATA_67		—	16	H'FFFFD34E	8、16
	CONTROL1		—	16	H'FFFFD350	8、16
	MB[19].		CONTROL0_H	—	16	H'FFFFD360
		CONTROL0_L	—	16	H'FFFFD362	16
		LAFM0	—	16	H'FFFFD364	16、32
		LAFM1	—	16	H'FFFFD366	16
		DATA_01	—	16	H'FFFFD368	8、16、32
		DATA_23	—	16	H'FFFFD36A	8、16
		DATA_45	—	16	H'FFFFD36C	8、16、32
		DATA_67	—	16	H'FFFFD36E	8、16
		CONTROL1	—	16	H'FFFFD370	8、16
		MB[20].	CONTROL0_H	—	16	H'FFFFD380
	CONTROL0_L		—	16	H'FFFFD382	16
	LAFM0		—	16	H'FFFFD384	16、32
	LAFM1		—	16	H'FFFFD386	16
	DATA_01		—	16	H'FFFFD388	8、16、32
	DATA_23		—	16	H'FFFFD38A	8、16
	DATA_45		—	16	H'FFFFD38C	8、16、32

モジュール名	レジスタ名		略称	ビット数	アドレス	アクセス サイズ
RCAN-TL1 (RCAN_A)	MB[20].	DATA_67	—	16	H'FFFFD38E	8、16
		CONTROL1	—	16	H'FFFFD390	8、16
	MB[21].	CONTROL0_H	—	16	H'FFFFD3A0	16、32
		CONTROL0_L	—	16	H'FFFFD3A2	16
		LAFM0	—	16	H'FFFFD3A4	16、32
		LAFM1	—	16	H'FFFFD3A6	16
		DATA_01	—	16	H'FFFFD3A8	8、16、32
		DATA_23	—	16	H'FFFFD3AA	8、16
		DATA_45	—	16	H'FFFFD3AC	8、16、32
		DATA_67	—	16	H'FFFFD3AE	8、16
		CONTROL1	—	16	H'FFFFD3B0	8、16
		MB[22].	CONTROL0_H	—	16	H'FFFFD3C0
	CONTROL0_L		—	16	H'FFFFD3C2	16
	LAFM0		—	16	H'FFFFD3C4	16、32
	LAFM1		—	16	H'FFFFD3C6	16
	DATA_01		—	16	H'FFFFD3C8	8、16、32
	DATA_23		—	16	H'FFFFD3CA	8、16
	DATA_45		—	16	H'FFFFD3CC	8、16、32
	DATA_67		—	16	H'FFFFD3CE	8、16
	CONTROL1		—	16	H'FFFFD3D0	8、16
	MB[23].		CONTROL0_H	—	16	H'FFFFD3E0
		CONTROL0_L	—	16	H'FFFFD3E2	16
		LAFM0	—	16	H'FFFFD3E4	16、32
		LAFM1	—	16	H'FFFFD3E6	16
		DATA_01	—	16	H'FFFFD3E8	8、16、32
		DATA_23	—	16	H'FFFFD3EA	8、16
		DATA_45	—	16	H'FFFFD3EC	8、16、32
		DATA_67	—	16	H'FFFFD3EE	8、16
		CONTROL1	—	16	H'FFFFD3F0	8、16
		MB[24].	CONTROL0_H	—	16	H'FFFFD400
	CONTROL0_L		—	16	H'FFFFD402	16
	LAFM0		—	16	H'FFFFD404	16、32
	LAFM1		—	16	H'FFFFD406	16
	DATA_01		—	16	H'FFFFD408	8、16、32
	DATA_23		—	16	H'FFFFD40A	8、16
	DATA_45		—	16	H'FFFFD40C	8、16、32

モジュール名	レジスタ名		略称	ビット数	アドレス	アクセス サイズ
RCAN-TL1 (RCAN_A)	MB[24].	DATA_67	—	16	H'FFFFD40E	8、16
		CONTROL1	—	16	H'FFFFD410	8、16
		TTT	—	16	H'FFFFD414	16
		TTCONTROL	—	16	H'FFFFD416	16
	MB[25].	CONTROL0_H	—	16	H'FFFFD420	16、32
		CONTROL0_L	—	16	H'FFFFD422	16
		LAFM0	—	16	H'FFFFD424	16、32
		LAFM1	—	16	H'FFFFD426	16
		DATA_01	—	16	H'FFFFD428	8、16、32
		DATA_23	—	16	H'FFFFD42A	8、16
		DATA_45	—	16	H'FFFFD42C	8、16、32
		DATA_67	—	16	H'FFFFD42E	8、16
		CONTROL1	—	16	H'FFFFD430	8、16
		TTT	—	16	H'FFFFD434	16
		TTCONTROL	—	16	H'FFFFD436	16
		MB[26].	CONTROL0_H	—	16	H'FFFFD440
	CONTROL0_L		—	16	H'FFFFD442	16
	LAFM0		—	16	H'FFFFD444	16、32
	LAFM1		—	16	H'FFFFD446	16
	DATA_01		—	16	H'FFFFD448	8、16、32
	DATA_23		—	16	H'FFFFD44A	8、16
	DATA_45		—	16	H'FFFFD44C	8、16、32
	DATA_67		—	16	H'FFFFD44E	8、16
	CONTROL1		—	16	H'FFFFD450	8、16
	TTT		—	16	H'FFFFD454	16
	TTCONTROL		—	16	H'FFFFD456	16
	MB[27].		CONTROL0_H	—	16	H'FFFFD460
		CONTROL0_L	—	16	H'FFFFD462	16
		LAFM0	—	16	H'FFFFD464	16、32
		LAFM1	—	16	H'FFFFD466	16
		DATA_01	—	16	H'FFFFD468	8、16、32
		DATA_23	—	16	H'FFFFD46A	8、16
		DATA_45	—	16	H'FFFFD46C	8、16、32
DATA_67		—	16	H'FFFFD46E	8、16	
CONTROL1		—	16	H'FFFFD470	8、16	
TTT		—	16	H'FFFFD474	16	

モジュール名	レジスタ名		略称	ビット数	アドレス	アクセス サイズ	
RCAN-TL1 (RCAN_A)	MB[27].	TTCONTROL	—	16	H'FFFFD476	16	
	MB[28].	CONTROL0_H	—	16	H'FFFFD480	16、32	
		CONTROL0_L	—	16	H'FFFFD482	16	
		LAFM0	—	16	H'FFFFD484	16、32	
		LAFM1	—	16	H'FFFFD486	16	
		DATA_01	—	16	H'FFFFD488	8、16、32	
		DATA_23	—	16	H'FFFFD48A	8、16	
		DATA_45	—	16	H'FFFFD48C	8、16、32	
		DATA_67	—	16	H'FFFFD48E	8、16	
		CONTROL1	—	16	H'FFFFD490	8、16	
		TTT	—	16	H'FFFFD494	16	
		TTCONTROL	—	16	H'FFFFD496	16	
	MB[29].	CONTROL0_H	—	16	H'FFFFD4A0	16、32	
		CONTROL0_L	—	16	H'FFFFD4A2	16	
		LAFM0	—	16	H'FFFFD4A4	16、32	
		LAFM1	—	16	H'FFFFD4A6	16	
		DATA_01	—	16	H'FFFFD4A8	8、16、32	
		DATA_23	—	16	H'FFFFD4AA	8、16	
		DATA_45	—	16	H'FFFFD4AC	8、16、32	
		DATA_67	—	16	H'FFFFD4AE	8、16	
		CONTROL1	—	16	H'FFFFD4B0	8、16	
		TTT	—	16	H'FFFFD4B4	16	
		TTCONTROL	—	16	H'FFFFD4B6	16	
	MB[30].	CONTROL0_H	—	16	H'FFFFD4C0	16、32	
		CONTROL0_L	—	16	H'FFFFD4C2	16	
		LAFM0	—	16	H'FFFFD4C4	16、32	
		LAFM1	—	16	H'FFFFD4C6	16	
		DATA_01	—	16	H'FFFFD4C8	8、16、32	
		DATA_23	—	16	H'FFFFD4CA	8、16	
		DATA_45	—	16	H'FFFFD4CC	8、16、32	
		DATA_67	—	16	H'FFFFD4CE	8、16	
		CONTROL1	—	16	H'FFFFD4D0	8、16	
		TIMESTAMP	—	16	H'FFFFD4D2	16	
		TTT	—	16	H'FFFFD4D4	16	
		MB[31].	CONTROL0_H	—	16	H'FFFFD4E0	16、32
			CONTROL0_L	—	16	H'FFFFD4E2	16

モジュール名	レジスタ名		略称	ビット数	アドレス	アクセス サイズ
RCAN-TL1 (RCAN_A)	MB[31]	LAFM0	—	16	H'FFFFD4E4	16、32
		LAFM1	—	16	H'FFFFD4E6	16
		DATA_01	—	16	H'FFFFD4E8	8、16、32
		DATA_23	—	16	H'FFFFD4EA	8、16
		DATA_45	—	16	H'FFFFD4EC	8、16、32
		DATA_67	—	16	H'FFFFD4EE	8、16
		CONTROL1	—	16	H'FFFFD4F0	8、16
		TIMESTAMP	—	16	H'FFFFD4F2	16
	メッセージバッファエラーステータス レジスタ	MBESR	16	H'FFFFD600	16	
メッセージバッファエラーコントロール レジスタ	MBECR	16	H'FFFFD602	16		
RCAN-TL1 (RCAN_B)	マスタコントロールレジスタ		MCR	16	H'FFFFD800	16
	ジェネラルステータスレジスタ		GSR	16	H'FFFFD802	16
	ビットコンフィギュレーションレジスタ 1		BCR1	16	H'FFFFD804	16
	ビットコンフィギュレーションレジスタ 0		BCR0	16	H'FFFFD806	16
	インタラプトリクエストレジスタ		IRR	16	H'FFFFD808	16
	インタラプトマスクレジスタ		IMR	16	H'FFFFD80A	16
	送信エラーカウンタ/受信エラーカウンタ		TEC/REC	16	H'FFFFD80C	16
	送信待ちレジスタ 1		TXPR1	16	H'FFFFD820	32
	送信待ちレジスタ 0		TXPR0	16		
	送信キャンセルレジスタ 1		TXCR1	16	H'FFFFD828	16
	送信キャンセルレジスタ 0		TXCR0	16	H'FFFFD82A	16
	送信アクノリッジレジスタ 1		TXACK1	16	H'FFFFD830	16
	送信アクノリッジレジスタ 0		TXACK0	16	H'FFFFD832	16
	アポートアクノリッジレジスタ 1		ABACK1	16	H'FFFFD838	16
	アポートアクノリッジレジスタ 0		ABACK0	16	H'FFFFD83A	16
	データフレーム受信完了レジスタ 1		RXPR1	16	H'FFFFD840	16
	データフレーム受信完了レジスタ 0		RXPR0	16	H'FFFFD842	16
	リモートフレーム受信完了レジスタ 1		RFPR1	16	H'FFFFD848	16
	リモートフレーム受信完了レジスタ 0		RFPR0	16	H'FFFFD84A	16
	メールボックスインタラプトマスク レジスタ 1		MBIMR1	16	H'FFFFD850	16
	メールボックスインタラプトマスク レジスタ 0		MBIMR0	16	H'FFFFD852	16
	未読メッセージステータスレジスタ 1		UMSR1	16	H'FFFFD858	16
	未読メッセージステータスレジスタ 0		UMSR0	16	H'FFFFD85A	16

モジュール名	レジスタ名	略称	ビット数	アドレス	アクセス サイズ	
RCAN-TL1 (RCAN_B)	タイムトリガコントロールレジスタ 0	TTCR0	16	H'FFFFD880	16	
	サイクルマキシマム/Tx_Enable_Window レジスタ	CMAX_TEW	16	H'FFFFD884	16	
	リファレンストリガオフセットレジスタ	RFTROFF	16	H'FFFFD886	16	
	タイムステータスレジスタ	TSR	16	H'FFFFD888	16	
	サイクルカウンタレジスタ	CCR	16	H'FFFFD88A	16	
	タイマカウンタレジスタ	TCNTR	16	H'FFFFD88C	16	
	サイクルタイムレジスタ	CYCTR	16	H'FFFFD890	16	
	リファレンスマークレジスタ	RFMK	16	H'FFFFD894	16	
	タイマコンペアマッチレジスタ 0	TCMR0	16	H'FFFFD898	16	
	タイマコンペアマッチレジスタ 1	TCMR1	16	H'FFFFD89C	16	
	タイマコンペアマッチレジスタ 2	TCMR2	16	H'FFFFD8A0	16	
	送信トリガタイムセレクトレジスタ	TTTSEL	16	H'FFFFD8A4	16	
	MB[0].	CONTROL0_H	—	16	H'FFFFD900	16、32
		CONTROL0_L	—	16	H'FFFFD902	16
		LAFM0	—	16	H'FFFFD904	16、32
		LAFM1	—	16	H'FFFFD906	16
		DATA_01	—	16	H'FFFFD908	8、16、32
		DATA_23	—	16	H'FFFFD90A	8、16
		DATA_45	—	16	H'FFFFD90C	8、16、32
		DATA_67	—	16	H'FFFFD90E	8、16
		CONTROL1	—	16	H'FFFFD910	8、16
		TIMESTAMP	—	16	H'FFFFD912	16
	MB[1].	CONTROL0_H	—	16	H'FFFFD920	16、32
		CONTROL0_L	—	16	H'FFFFD922	16
		LAFM0	—	16	H'FFFFD924	16、32
		LAFM1	—	16	H'FFFFD926	16
DATA_01		—	16	H'FFFFD928	8、16、32	
DATA_23		—	16	H'FFFFD92A	8、16	
DATA_45		—	16	H'FFFFD92C	8、16、32	
DATA_67		—	16	H'FFFFD92E	8、16	
CONTROL1		—	16	H'FFFFD930	8、16	
TIMESTAMP		—	16	H'FFFFD932	16	
MB[2].	CONTROL0_H	—	16	H'FFFFD940	16、32	
	CONTROL0_L	—	16	H'FFFFD942	16	
	LAFM0	—	16	H'FFFFD944	16、32	
	LAFM1	—	16	H'FFFFD946	16	

モジュール名	レジスタ名		略称	ビット数	アドレス	アクセス サイズ
RCAN-TL1 (RCAN_B)	MB[2].	DATA_01	—	16	H'FFFFD948	8、16、32
		DATA_23	—	16	H'FFFFD94A	8、16
		DATA_45	—	16	H'FFFFD94C	8、16、32
		DATA_67	—	16	H'FFFFD94E	8、16
		CONTROL1	—	16	H'FFFFD950	8、16
		TIMESTAMP	—	16	H'FFFFD952	16
	MB[3].	CONTROL0_H	—	16	H'FFFFD960	16、32
		CONTROL0_L	—	16	H'FFFFD962	16
		LAFM0	—	16	H'FFFFD964	16、32
		LAFM1	—	16	H'FFFFD966	16
		DATA_01	—	16	H'FFFFD968	8、16、32
		DATA_23	—	16	H'FFFFD96A	8、16
		DATA_45	—	16	H'FFFFD96C	8、16、32
		DATA_67	—	16	H'FFFFD96E	8、16
		CONTROL1	—	16	H'FFFFD970	8、16
		TIMESTAMP	—	16	H'FFFFD972	16
	MB[4].	CONTROL0_H	—	16	H'FFFFD980	16、32
		CONTROL0_L	—	16	H'FFFFD982	16
		LAFM0	—	16	H'FFFFD984	16、32
		LAFM1	—	16	H'FFFFD986	16
		DATA_01	—	16	H'FFFFD988	8、16、32
		DATA_23	—	16	H'FFFFD98A	8、16
		DATA_45	—	16	H'FFFFD98C	8、16、32
		DATA_67	—	16	H'FFFFD98E	8、16
		CONTROL1	—	16	H'FFFFD990	8、16
		TIMESTAMP	—	16	H'FFFFD992	16
	MB[5].	CONTROL0_H	—	16	H'FFFFD9A0	16、32
		CONTROL0_L	—	16	H'FFFFD9A2	16
		LAFM0	—	16	H'FFFFD9A4	16、32
		LAFM1	—	16	H'FFFFD9A6	16
		DATA_01	—	16	H'FFFFD9A8	8、16、32
		DATA_23	—	16	H'FFFFD9AA	8、16
		DATA_45	—	16	H'FFFFD9AC	8、16、32
		DATA_67	—	16	H'FFFFD9AE	8、16
		CONTROL1	—	16	H'FFFFD9B0	8、16
		TIMESTAMP	—	16	H'FFFFD9B2	16

モジュール名	レジスタ名	略称	ビット数	アドレス	アクセス サイズ	
RCAN-TL1 (RCAN_B)	MB[6].	CONTROL0_H	—	16	H'FFFFD9C0	16、32
		CONTROL0_L	—	16	H'FFFFD9C2	16
		LAFM0	—	16	H'FFFFD9C4	16、32
		LAFM1	—	16	H'FFFFD9C6	16
		DATA_01	—	16	H'FFFFD9C8	8、16、32
		DATA_23	—	16	H'FFFFD9CA	8、16
		DATA_45	—	16	H'FFFFD9CC	8、16、32
		DATA_67	—	16	H'FFFFD9CE	8、16
		CONTROL1	—	16	H'FFFFD9D0	8、16
		TIMESTAMP	—	16	H'FFFFD9D2	16
	MB[7].	CONTROL0_H	—	16	H'FFFFD9E0	16、32
		CONTROL0_L	—	16	H'FFFFD9E2	16
		LAFM0	—	16	H'FFFFD9E4	16、32
		LAFM1	—	16	H'FFFFD9E6	16
		DATA_01	—	16	H'FFFFD9E8	8、16、32
		DATA_23	—	16	H'FFFFD9EA	8、16
		DATA_45	—	16	H'FFFFD9EC	8、16、32
		DATA_67	—	16	H'FFFFD9EE	8、16
		CONTROL1	—	16	H'FFFFD9F0	8、16
		TIMESTAMP	—	16	H'FFFFD9F2	16
	MB[8].	CONTROL0_H	—	16	H'FFFDA00	16、32
		CONTROL0_L	—	16	H'FFFDA02	16
		LAFM0	—	16	H'FFFDA04	16、32
		LAFM1	—	16	H'FFFDA06	16
		DATA_01	—	16	H'FFFDA08	8、16、32
		DATA_23	—	16	H'FFFDA0A	8、16
		DATA_45	—	16	H'FFFDA0C	8、16、32
		DATA_67	—	16	H'FFFDA0E	8、16
		CONTROL1	—	16	H'FFFDA10	8、16
		TIMESTAMP	—	16	H'FFFDA12	16
	MB[9].	CONTROL0_H	—	16	H'FFFDA20	16、32
		CONTROL0_L	—	16	H'FFFDA22	16
		LAFM0	—	16	H'FFFDA24	16、32
		LAFM1	—	16	H'FFFDA26	16
		DATA_01	—	16	H'FFFDA28	8、16、32
		DATA_23	—	16	H'FFFDA2A	8、16

モジュール名	レジスタ名		略称	ビット数	アドレス	アクセス サイズ
RCAN-TL1 (RCAN_B)	MB[9].	DATA_45	—	16	H'FFFDA2C	8、16、32
		DATA_67	—	16	H'FFFDA2E	8、16
		CONTROL1	—	16	H'FFFDA30	8、16
		TIMESTAMP	—	16	H'FFFDA32	16
	MB[10].	CONTROL0_H	—	16	H'FFFDA40	16、32
		CONTROL0_L	—	16	H'FFFDA42	16
		LAFM0	—	16	H'FFFDA44	16、32
		LAFM1	—	16	H'FFFDA46	16
		DATA_01	—	16	H'FFFDA48	8、16、32
		DATA_23	—	16	H'FFFDA4A	8、16
		DATA_45	—	16	H'FFFDA4C	8、16、32
		DATA_67	—	16	H'FFFDA4E	8、16
		CONTROL1	—	16	H'FFFDA50	8、16
		TIMESTAMP	—	16	H'FFFDA52	16
		MB[11].	CONTROL0_H	—	16	H'FFFDA60
	CONTROL0_L		—	16	H'FFFDA62	16
	LAFM0		—	16	H'FFFDA64	16、32
	LAFM1		—	16	H'FFFDA66	16
	DATA_01		—	16	H'FFFDA68	8、16、32
	DATA_23		—	16	H'FFFDA6A	8、16
	DATA_45		—	16	H'FFFDA6C	8、16、32
	DATA_67		—	16	H'FFFDA6E	8、16
	CONTROL1		—	16	H'FFFDA70	8、16
	TIMESTAMP		—	16	H'FFFDA72	16
	MB[12].		CONTROL0_H	—	16	H'FFFDA80
		CONTROL0_L	—	16	H'FFFDA82	16
		LAFM0	—	16	H'FFFDA84	16、32
		LAFM1	—	16	H'FFFDA86	16
		DATA_01	—	16	H'FFFDA88	8、16、32
		DATA_23	—	16	H'FFFDA8A	8、16
		DATA_45	—	16	H'FFFDA8C	8、16、32
		DATA_67	—	16	H'FFFDA8E	8、16
		CONTROL1	—	16	H'FFFDA90	8、16
		TIMESTAMP	—	16	H'FFFDA92	16
MB[13].		CONTROL0_H	—	16	H'FFFDAA0	16、32
	CONTROL0_L	—	16	H'FFFDAA2	16	

モジュール名	レジスタ名	略称	ビット数	アドレス	アクセス サイズ	
RCAN-TL1 (RCAN_B)	MB[13].	LAFM0	—	16	H'FFFDDAA4	16、32
		LAFM1	—	16	H'FFFDDAA6	16
		DATA_01	—	16	H'FFFDDAA8	8、16、32
		DATA_23	—	16	H'FFFDDAAA	8、16
		DATA_45	—	16	H'FFFDDAAC	8、16、32
		DATA_67	—	16	H'FFFDDAAE	8、16
		CONTROL1	—	16	H'FFFDDAB0	8、16
		TIMESTAMP	—	16	H'FFFDDAB2	16
	MB[14].	CONTROL0_H	—	16	H'FFFDDAC0	16、32
		CONTROL0_L	—	16	H'FFFDDAC2	16
		LAFM0	—	16	H'FFFDDAC4	16、32
		LAFM1	—	16	H'FFFDDAC6	16
		DATA_01	—	16	H'FFFDDAC8	8、16、32
		DATA_23	—	16	H'FFFDDACA	8、16
		DATA_45	—	16	H'FFFDDACC	8、16、32
		DATA_67	—	16	H'FFFDDACE	8、16
		CONTROL1	—	16	H'FFFDDAD0	8、16
		TIMESTAMP	—	16	H'FFFDDAD2	16
	MB[15].	CONTROL0_H	—	16	H'FFFDDAE0	16、32
		CONTROL0_L	—	16	H'FFFDDAE2	16
		LAFM0	—	16	H'FFFDDAE4	16、32
		LAFM1	—	16	H'FFFDDAE6	16
		DATA_01	—	16	H'FFFDDAE8	8、16、32
		DATA_23	—	16	H'FFFDDAEA	8、16
		DATA_45	—	16	H'FFFDDAEC	8、16、32
		DATA_67	—	16	H'FFFDDAEE	8、16
		CONTROL1	—	16	H'FFFDDAF0	8、16
		TIMESTAMP	—	16	H'FFFDDAF2	16
	MB[16].	CONTROL0_H	—	16	H'FFFDDB00	16、32
		CONTROL0_L	—	16	H'FFFDDB02	16
		LAFM0	—	16	H'FFFDDB04	16、32
		LAFM1	—	16	H'FFFDDB06	16
		DATA_01	—	16	H'FFFDDB08	8、16、32
		DATA_23	—	16	H'FFFDDB0A	8、16
		DATA_45	—	16	H'FFFDDB0C	8、16、32
		DATA_67	—	16	H'FFFDDB0E	8、16

モジュール名	レジスタ名		略称	ビット数	アドレス	アクセス サイズ
RCAN-TL1 (RCAN_B)	MB[16].	CONTROL1	—	16	H'FFFDB10	8、16
	MB[17].	CONTROL0_H	—	16	H'FFFDB20	16、32
		CONTROL0_L	—	16	H'FFFDB22	16
		LAFM0	—	16	H'FFFDB24	16、32
		LAFM1	—	16	H'FFFDB26	16
		DATA_01	—	16	H'FFFDB28	8、16、32
		DATA_23	—	16	H'FFFDB2A	8、16
		DATA_45	—	16	H'FFFDB2C	8、16、32
		DATA_67	—	16	H'FFFDB2E	8、16
		CONTROL1	—	16	H'FFFDB30	8、16
	MB[18].	CONTROL0_H	—	16	H'FFFDB40	16、32
		CONTROL0_L	—	16	H'FFFDB42	16
		LAFM0	—	16	H'FFFDB44	16、32
		LAFM1	—	16	H'FFFDB46	16
		DATA_01	—	16	H'FFFDB48	8、16、32
		DATA_23	—	16	H'FFFDB4A	8、16
		DATA_45	—	16	H'FFFDB4C	8、16、32
		DATA_67	—	16	H'FFFDB4E	8、16
		CONTROL1	—	16	H'FFFDB50	8、16
	MB[19].	CONTROL0_H	—	16	H'FFFDB60	16、32
		CONTROL0_L	—	16	H'FFFDB62	16
		LAFM0	—	16	H'FFFDB64	16、32
		LAFM1	—	16	H'FFFDB66	16
		DATA_01	—	16	H'FFFDB68	8、16、32
		DATA_23	—	16	H'FFFDB6A	8、16
		DATA_45	—	16	H'FFFDB6C	8、16、32
		DATA_67	—	16	H'FFFDB6E	8、16
		CONTROL1	—	16	H'FFFDB70	8、16
	MB[20].	CONTROL0_H	—	16	H'FFFDB80	16、32
		CONTROL0_L	—	16	H'FFFDB82	16
		LAFM0	—	16	H'FFFDB84	16、32
		LAFM1	—	16	H'FFFDB86	16
		DATA_01	—	16	H'FFFDB88	8、16、32
		DATA_23	—	16	H'FFFDB8A	8、16
		DATA_45	—	16	H'FFFDB8C	8、16、32
		DATA_67	—	16	H'FFFDB8E	8、16

モジュール名	レジスタ名		略称	ビット数	アドレス	アクセス サイズ	
RCAN-TL1 (RCAN_B)	MB[20].	CONTROL1	—	16	H'FFFDB90	8、16	
		MB[21].	CONTROL0_H	—	16	H'FFFDBA0	16、32
			CONTROL0_L	—	16	H'FFFDBA2	16
			LAFM0	—	16	H'FFFDBA4	16、32
			LAFM1	—	16	H'FFFDBA6	16
			DATA_01	—	16	H'FFFDBA8	8、16、32
			DATA_23	—	16	H'FFFDBAA	8、16
			DATA_45	—	16	H'FFFDBAC	8、16、32
			DATA_67	—	16	H'FFFDBAE	8、16
	CONTROL1	—	16	H'FFFDBB0	8、16		
	MB[22].	CONTROL0_H	—	16	H'FFFDBC0	16、32	
		CONTROL0_L	—	16	H'FFFDBC2	16	
		LAFM0	—	16	H'FFFDBC4	16、32	
		LAFM1	—	16	H'FFFDBC6	16	
		DATA_01	—	16	H'FFFDBC8	8、16、32	
		DATA_23	—	16	H'FFFDBCA	8、16	
		DATA_45	—	16	H'FFFDBCC	8、16、32	
		DATA_67	—	16	H'FFFDBCE	8、16	
		CONTROL1	—	16	H'FFFDBD0	8、16	
	MB[23].	CONTROL0_H	—	16	H'FFFDBE0	16、32	
		CONTROL0_L	—	16	H'FFFDBE2	16	
		LAFM0	—	16	H'FFFDBE4	16、32	
		LAFM1	—	16	H'FFFDBE6	16	
		DATA_01	—	16	H'FFFDBE8	8、16、32	
		DATA_23	—	16	H'FFFDBEA	8、16	
		DATA_45	—	16	H'FFFDBEC	8、16、32	
		DATA_67	—	16	H'FFFDBEE	8、16	
		CONTROL1	—	16	H'FFFDBF0	8、16	
	MB[24].	CONTROL0_H	—	16	H'FFFDC00	16、32	
		CONTROL0_L	—	16	H'FFFDC02	16	
		LAFM0	—	16	H'FFFDC04	16、32	
		LAFM1	—	16	H'FFFDC06	16	
		DATA_01	—	16	H'FFFDC08	8、16、32	
		DATA_23	—	16	H'FFFDC0A	8、16	
		DATA_45	—	16	H'FFFDC0C	8、16、32	
		DATA_67	—	16	H'FFFDC0E	8、16	

モジュール名	レジスタ名		略称	ビット数	アドレス	アクセス サイズ
RCAN-TL1 (RCAN_B)	MB[24].	CONTROL1	—	16	H'FFFDC10	8、16
		TTT	—	16	H'FFFDC14	16
		TTCONTROL	—	16	H'FFFDC16	16
	MB[25].	CONTROL0_H	—	16	H'FFFDC20	16、32
		CONTROL0_L	—	16	H'FFFDC22	16
		LAFM0	—	16	H'FFFDC24	16、32
		LAFM1	—	16	H'FFFDC26	16
		DATA_01	—	16	H'FFFDC28	8、16、32
		DATA_23	—	16	H'FFFDC2A	8、16
		DATA_45	—	16	H'FFFDC2C	8、16、32
		DATA_67	—	16	H'FFFDC2E	8、16
		CONTROL1	—	16	H'FFFDC30	8、16
		TTT	—	16	H'FFFDC34	16
		TTCONTROL	—	16	H'FFFDC36	16
		MB[26].	CONTROL0_H	—	16	H'FFFDC40
	CONTROL0_L		—	16	H'FFFDC42	16
	LAFM0		—	16	H'FFFDC44	16、32
	LAFM1		—	16	H'FFFDC46	16
	DATA_01		—	16	H'FFFDC48	8、16、32
	DATA_23		—	16	H'FFFDC4A	8、16
	DATA_45		—	16	H'FFFDC4C	8、16、32
	DATA_67		—	16	H'FFFDC4E	8、16
	CONTROL1		—	16	H'FFFDC50	8、16
	TTT		—	16	H'FFFDC54	16
	TTCONTROL		—	16	H'FFFDC56	16
	MB[27].		CONTROL0_H	—	16	H'FFFDC60
		CONTROL0_L	—	16	H'FFFDC62	16
		LAFM0	—	16	H'FFFDC64	16、32
		LAFM1	—	16	H'FFFDC66	16
		DATA_01	—	16	H'FFFDC68	8、16、32
		DATA_23	—	16	H'FFFDC6A	8、16
		DATA_45	—	16	H'FFFDC6C	8、16、32
		DATA_67	—	16	H'FFFDC6E	8、16
		CONTROL1	—	16	H'FFFDC70	8、16
		TTT	—	16	H'FFFDC74	16
		TTCONTROL	—	16	H'FFFDC76	16

モジュール名	レジスタ名		略称	ビット数	アドレス	アクセス サイズ
RCAN-TL1 (RCAN_B)	MB[28].	CONTROL0_H	—	16	H'FFFDC80	16、32
		CONTROL0_L	—	16	H'FFFDC82	16
		LAFM0	—	16	H'FFFDC84	16、32
		LAFM1	—	16	H'FFFDC86	16
		DATA_01	—	16	H'FFFDC88	8、16、32
		DATA_23	—	16	H'FFFDC8A	8、16
		DATA_45	—	16	H'FFFDC8C	8、16、32
		DATA_67	—	16	H'FFFDC8E	8、16
		CONTROL1	—	16	H'FFFDC90	8、16
		TTT	—	16	H'FFFDC94	16
		TTCONTROL	—	16	H'FFFDC96	16
	MB[29].	CONTROL0_H	—	16	H'FFFDCA0	16、32
		CONTROL0_L	—	16	H'FFFDCA2	16
		LAFM0	—	16	H'FFFDCA4	16、32
		LAFM1	—	16	H'FFFDCA6	16
		DATA_01	—	16	H'FFFDCA8	8、16、32
		DATA_23	—	16	H'FFFDCAA	8、16
		DATA_45	—	16	H'FFFDCAC	8、16、32
		DATA_67	—	16	H'FFFDCAE	8、16
		CONTROL1	—	16	H'FFFDCB0	8、16
		TTT	—	16	H'FFFDCB4	16
		TTCONTROL	—	16	H'FFFDCB6	16
	MB[30].	CONTROL0_H	—	16	H'FFFDCC0	16、32
		CONTROL0_L	—	16	H'FFFDCC2	16
		LAFM0	—	16	H'FFFDCC4	16、32
		LAFM1	—	16	H'FFFDCC6	16
		DATA_01	—	16	H'FFFDCC8	8、16、32
		DATA_23	—	16	H'FFFDCCA	8、16
		DATA_45	—	16	H'FFFDCCC	8、16、32
		DATA_67	—	16	H'FFFDCCE	8、16
		CONTROL1	—	16	H'FFFDCD0	8、16
		TIMESTAMP	—	16	H'FFFDCD2	16
		TTT	—	16	H'FFFDCD4	16
	MB[31].	CONTROL0_H	—	16	H'FFFDCCE0	16、32
		CONTROL0_L	—	16	H'FFFDCCE2	16
		LAFM0	—	16	H'FFFDCCE4	16、32

モジュール名	レジスタ名		略称	ビット数	アドレス	アクセス サイズ	
RCAN-TL1 (RCAN_B)	MB[31].	LAFM1	—	16	H'FFFFDCE6	16	
		DATA_01	—	16	H'FFFFDCE8	8、16、32	
		DATA_23	—	16	H'FFFFDCEA	8、16	
		DATA_45	—	16	H'FFFFDCEC	8、16、32	
		DATA_67	—	16	H'FFFFDCEE	8、16	
		CONTROL1	—	16	H'FFFFDCF0	8、16	
		TIMESTAMP	—	16	H'FFFFDCF2	16	
	メッセージバッファエラーステータス レジスタ		MBESR	—	16	H'FFFFDE00	16
	メッセージバッファエラーコントロール レジスタ		MBECR	—	16	H'FFFFDE02	16
RCAN-TL1 (RCAN_C)	マスタコントロールレジスタ		MCR	—	16	H'FFFFE000	16
	ジェネラルステータスレジスタ		GSR	—	16	H'FFFFE002	16
	ビットコンフィギュレーションレジスタ 1		BCR1	—	16	H'FFFFE004	16
	ビットコンフィギュレーションレジスタ 0		BCR0	—	16	H'FFFFE006	16
	インタラプトリクエストレジスタ		IRR	—	16	H'FFFFE008	16
	インタラプトマスクレジスタ		IMR	—	16	H'FFFFE00A	16
	送信エラーカウンタ/受信エラーカウンタ		TEC/REC	—	16	H'FFFFE00C	16
	送信待ちレジスタ 1		TXPR1	—	16	H'FFFFE020	32
	送信待ちレジスタ 0		TXPR0	—	16		
	送信キャンセルレジスタ 1		TXCR1	—	16	H'FFFFE028	16
	送信キャンセルレジスタ 0		TXCR0	—	16	H'FFFFE02A	16
	送信アクノリッジレジスタ 1		TXACK1	—	16	H'FFFFE030	16
	送信アクノリッジレジスタ 0		TXACK0	—	16	H'FFFFE032	16
	アボートアクノリッジレジスタ 1		ABACK1	—	16	H'FFFFE038	16
	アボートアクノリッジレジスタ 0		ABACK0	—	16	H'FFFFE03A	16
	データフレーム受信完了レジスタ 1		RXPR1	—	16	H'FFFFE040	16
	データフレーム受信完了レジスタ 0		RXPR0	—	16	H'FFFFE042	16
	リモートフレーム受信完了レジスタ 1		RFPR1	—	16	H'FFFFE048	16
	リモートフレーム受信完了レジスタ 0		RFPR0	—	16	H'FFFFE04A	16
	メールボックスインタラプトマスク レジスタ 1		MBIMR1	—	16	H'FFFFE050	16
	メールボックスインタラプトマスク レジスタ 0		MBIMR0	—	16	H'FFFFE052	16

モジュール名	レジスタ名	略称	ビット数	アドレス	アクセス サイズ	
RCAN-TL1 (RCAN_C)	未読メッセージステータスレジスタ 1	UMSR1	16	H'FFFFFFE058	16	
	未読メッセージステータスレジスタ 0	UMSR0	16	H'FFFFFFE05A	16	
	タイムトリガコントロールレジスタ 0	TTCR0	16	H'FFFFFFE080	16	
	サイクルマキシマム/Tx_Enable_Window レジスタ	CMAX_TEW	16	H'FFFFFFE084	16	
	リファレンストリガオフセットレジスタ	RFTR0FF	16	H'FFFFFFE086	16	
	タイマステータスレジスタ	TSR	16	H'FFFFFFE088	16	
	サイクルカウンタレジスタ	CCR	16	H'FFFFFFE08A	16	
	タイマカウンタレジスタ	TCNTR	16	H'FFFFFFE08C	16	
	サイクルタイムレジスタ	CYCTR	16	H'FFFFFFE090	16	
	リファレンスマークレジスタ	RFMK	16	H'FFFFFFE094	16	
	タイマコンペアマッチレジスタ 0	TCMR0	16	H'FFFFFFE098	16	
	タイマコンペアマッチレジスタ 1	TCMR1	16	H'FFFFFFE09C	16	
	タイマコンペアマッチレジスタ 2	TCMR2	16	H'FFFFFFE0A0	16	
	送信トリガタイムセレクトレジスタ	TTTSEL	16	H'FFFFFFE0A4	16	
	MB[0].	CONTROL0_H	—	16	H'FFFFFFE100	16、32
		CONTROL0_L	—	16	H'FFFFFFE102	16
		LAFM0	—	16	H'FFFFFFE104	16、32
		LAFM1	—	16	H'FFFFFFE106	16
		DATA_01	—	16	H'FFFFFFE108	8、16、32
		DATA_23	—	16	H'FFFFFFE10A	8、16
		DATA_45	—	16	H'FFFFFFE10C	8、16、32
		DATA_67	—	16	H'FFFFFFE10E	8、16
		CONTROL1	—	16	H'FFFFFFE110	8、16
		TIMESTAMP	—	16	H'FFFFFFE112	16
	MB[1].	CONTROL0_H	—	16	H'FFFFFFE120	16、32
		CONTROL0_L	—	16	H'FFFFFFE122	16
		LAFM0	—	16	H'FFFFFFE124	16、32
LAFM1		—	16	H'FFFFFFE126	16	
DATA_01		—	16	H'FFFFFFE128	8、16、32	
DATA_23		—	16	H'FFFFFFE12A	8、16	
DATA_45		—	16	H'FFFFFFE12C	8、16、32	
DATA_67		—	16	H'FFFFFFE12E	8、16	
CONTROL1		—	16	H'FFFFFFE130	8、16	
TIMESTAMP		—	16	H'FFFFFFE132	16	

モジュール名	レジスタ名	略称	ビット数	アドレス	アクセスサイズ	
RCAN-TL1 (RCAN_C)	MB[2].	CONTROL0_H	—	16	H'FFFFFFE140	16、32
		CONTROL0_L	—	16	H'FFFFFFE142	16
		LAFM0	—	16	H'FFFFFFE144	16、32
		LAFM1	—	16	H'FFFFFFE146	16
		DATA_01	—	16	H'FFFFFFE148	8、16、32
		DATA_23	—	16	H'FFFFFFE14A	8、16
		DATA_45	—	16	H'FFFFFFE14C	8、16、32
		DATA_67	—	16	H'FFFFFFE14E	8、16
		CONTROL1	—	16	H'FFFFFFE150	8、16
		TIMESTAMP	—	16	H'FFFFFFE152	16
	MB[3].	CONTROL0_H	—	16	H'FFFFFFE160	16、32
		CONTROL0_L	—	16	H'FFFFFFE162	16
		LAFM0	—	16	H'FFFFFFE164	16、32
		LAFM1	—	16	H'FFFFFFE166	16
		DATA_01	—	16	H'FFFFFFE168	8、16、32
		DATA_23	—	16	H'FFFFFFE16A	8、16
		DATA_45	—	16	H'FFFFFFE16C	8、16、32
		DATA_67	—	16	H'FFFFFFE16E	8、16
		CONTROL1	—	16	H'FFFFFFE170	8、16
		TIMESTAMP	—	16	H'FFFFFFE172	16
	MB[4].	CONTROL0_H	—	16	H'FFFFFFE180	16、32
		CONTROL0_L	—	16	H'FFFFFFE182	16
		LAFM0	—	16	H'FFFFFFE184	16、32
		LAFM1	—	16	H'FFFFFFE186	16
		DATA_01	—	16	H'FFFFFFE188	8、16、32
		DATA_23	—	16	H'FFFFFFE18A	8、16
		DATA_45	—	16	H'FFFFFFE18C	8、16、32
		DATA_67	—	16	H'FFFFFFE18E	8、16
		CONTROL1	—	16	H'FFFFFFE190	8、16
		TIMESTAMP	—	16	H'FFFFFFE192	16
MB[5].	CONTROL0_H	—	16	H'FFFFFFE1A0	16、32	
	CONTROL0_L	—	16	H'FFFFFFE1A2	16	
	LAFM0	—	16	H'FFFFFFE1A4	16、32	
	LAFM1	—	16	H'FFFFFFE1A6	16	
	DATA_01	—	16	H'FFFFFFE1A8	8、16、32	
	DATA_23	—	16	H'FFFFFFE1AA	8、16	

モジュール名	レジスタ名		略称	ビット数	アドレス	アクセス サイズ
RCAN-TL1 (RCAN_C)	MB[5].	DATA_45	—	16	H'FFFFE1AC	8、16、32
		DATA_67	—	16	H'FFFFE1AE	8、16
		CONTROL1	—	16	H'FFFFE1B0	8、16
		TIMESTAMP	—	16	H'FFFFE1B2	16
	MB[6].	CONTROL0_H	—	16	H'FFFFE1C0	16、32
		CONTROL0_L	—	16	H'FFFFE1C2	16
		LAFM0	—	16	H'FFFFE1C4	16、32
		LAFM1	—	16	H'FFFFE1C6	16
		DATA_01	—	16	H'FFFFE1C8	8、16、32
		DATA_23	—	16	H'FFFFE1CA	8、16
		DATA_45	—	16	H'FFFFE1CC	8、16、32
		DATA_67	—	16	H'FFFFE1CE	8、16
		CONTROL1	—	16	H'FFFFE1D0	8、16
		TIMESTAMP	—	16	H'FFFFE1D2	16
	MB[7].	CONTROL0_H	—	16	H'FFFFE1E0	16、32
		CONTROL0_L	—	16	H'FFFFE1E2	16
		LAFM0	—	16	H'FFFFE1E4	16、32
		LAFM1	—	16	H'FFFFE1E6	16
		DATA_01	—	16	H'FFFFE1E8	8、16、32
		DATA_23	—	16	H'FFFFE1EA	8、16
		DATA_45	—	16	H'FFFFE1EC	8、16、32
		DATA_67	—	16	H'FFFFE1EE	8、16
		CONTROL1	—	16	H'FFFFE1F0	8、16
		TIMESTAMP	—	16	H'FFFFE1F2	16
	MB[8].	CONTROL0_H	—	16	H'FFFFE200	16、32
		CONTROL0_L	—	16	H'FFFFE202	16
		LAFM0	—	16	H'FFFFE204	16、32
		LAFM1	—	16	H'FFFFE206	16
		DATA_01	—	16	H'FFFFE208	8、16、32
		DATA_23	—	16	H'FFFFE20A	8、16
		DATA_45	—	16	H'FFFFE20C	8、16、32
		DATA_67	—	16	H'FFFFE20E	8、16
		CONTROL1	—	16	H'FFFFE210	8、16
		TIMESTAMP	—	16	H'FFFFE212	16

モジュール名	レジスタ名		略称	ビット数	アドレス	アクセス サイズ
RCAN-TL1 (RCAN_C)	MB[9].	CONTROL0_H	—	16	H'FFFFE220	16、32
		CONTROL0_L	—	16	H'FFFFE222	16
		LAFM0	—	16	H'FFFE224	16、32
		LAFM1	—	16	H'FFFE226	16
		DATA_01	—	16	H'FFFE228	8、16、32
		DATA_23	—	16	H'FFFE22A	8、16
		DATA_45	—	16	H'FFFE22C	8、16、32
		DATA_67	—	16	H'FFFE22E	8、16
		CONTROL1	—	16	H'FFFE230	8、16
		TIMESTAMP	—	16	H'FFFE232	16
	MB[10].	CONTROL0_H	—	16	H'FFFE240	16、32
		CONTROL0_L	—	16	H'FFFE242	16
		LAFM0	—	16	H'FFFE244	16、32
		LAFM1	—	16	H'FFFE246	16
		DATA_01	—	16	H'FFFE248	8、16、32
		DATA_23	—	16	H'FFFE24A	8、16
		DATA_45	—	16	H'FFFE24C	8、16、32
		DATA_67	—	16	H'FFFE24E	8、16
		CONTROL1	—	16	H'FFFE250	8、16
		TIMESTAMP	—	16	H'FFFE252	16
	MB[11].	CONTROL0_H	—	16	H'FFFE260	16、32
		CONTROL0_L	—	16	H'FFFE262	16
		LAFM0	—	16	H'FFFE264	16、32
		LAFM1	—	16	H'FFFE266	16
		DATA_01	—	16	H'FFFE268	8、16、32
		DATA_23	—	16	H'FFFE26A	8、16
		DATA_45	—	16	H'FFFE26C	8、16、32
		DATA_67	—	16	H'FFFE26E	8、16
		CONTROL1	—	16	H'FFFE270	8、16
		TIMESTAMP	—	16	H'FFFE272	16
	MB[12].	CONTROL0_H	—	16	H'FFFE280	16、32
		CONTROL0_L	—	16	H'FFFE282	16
		LAFM0	—	16	H'FFFE284	16、32
		LAFM1	—	16	H'FFFE286	16
		DATA_01	—	16	H'FFFE288	8、16、32
		DATA_23	—	16	H'FFFE28A	8、16

モジュール名	レジスタ名		略称	ビット数	アドレス	アクセス サイズ	
RCAN-TL1 (RCAN_C)	MB[12].	DATA_45	—	16	H'FFFFE28C	8、16、32	
		DATA_67	—	16	H'FFFFE28E	8、16	
		CONTROL1	—	16	H'FFFFE290	8、16	
		TIMESTAMP	—	16	H'FFFFE292	16	
	MB[13].	CONTROL0_H	—	16	H'FFFFE2A0	16、32	
		CONTROL0_L	—	16	H'FFFFE2A2	16	
		LAFM0	—	16	H'FFFFE2A4	16、32	
		LAFM1	—	16	H'FFFFE2A6	16	
		DATA_01	—	16	H'FFFFE2A8	8、16、32	
		DATA_23	—	16	H'FFFFE2AA	8、16	
		DATA_45	—	16	H'FFFFE2AC	8、16、32	
		DATA_67	—	16	H'FFFFE2AE	8、16	
		CONTROL1	—	16	H'FFFFE2B0	8、16	
		TIMESTAMP	—	16	H'FFFFE2B2	16	
		MB[14].	CONTROL0_H	—	16	H'FFFFE2C0	16、32
			CONTROL0_L	—	16	H'FFFFE2C2	16
	LAFM0		—	16	H'FFFFE2C4	16、32	
	LAFM1		—	16	H'FFFFE2C6	16	
	DATA_01		—	16	H'FFFFE2C8	8、16、32	
	DATA_23		—	16	H'FFFFE2CA	8、16	
	DATA_45		—	16	H'FFFFE2CC	8、16、32	
	DATA_67		—	16	H'FFFFE2CE	8、16	
	CONTROL1		—	16	H'FFFFE2D0	8、16	
	TIMESTAMP		—	16	H'FFFFE2D2	16	
	MB[15].		CONTROL0_H	—	16	H'FFFFE2E0	16、32
			CONTROL0_L	—	16	H'FFFFE2E2	16
		LAFM0	—	16	H'FFFFE2E4	16、32	
		LAFM1	—	16	H'FFFFE2E6	16	
		DATA_01	—	16	H'FFFFE2E8	8、16、32	
		DATA_23	—	16	H'FFFFE2EA	8、16	
		DATA_45	—	16	H'FFFFE2EC	8、16、32	
		DATA_67	—	16	H'FFFFE2EE	8、16	
		CONTROL1	—	16	H'FFFFE2F0	8、16	
		TIMESTAMP	—	16	H'FFFFE2F2	16	
		MB[16].	CONTROL0_H	—	16	H'FFFFE300	16、32
			CONTROL0_L	—	16	H'FFFFE302	16

モジュール名	レジスタ名		略称	ビット数	アドレス	アクセス サイズ
RCAN-TL1 (RCAN_C)	MB[16].	LAFM0	—	16	H'FFFFE304	16、32
		LAFM1	—	16	H'FFFFE306	16
		DATA_01	—	16	H'FFFFE308	8、16、32
		DATA_23	—	16	H'FFFFE30A	8、16
		DATA_45	—	16	H'FFFFE30C	8、16、32
		DATA_67	—	16	H'FFFFE30E	8、16
		CONTROL1	—	16	H'FFFFE310	8、16
	MB[17].	CONTROL0_H	—	16	H'FFFFE320	16、32
		CONTROL0_L	—	16	H'FFFFE322	16
		LAFM0	—	16	H'FFFFE324	16、32
		LAFM1	—	16	H'FFFFE326	16
		DATA_01	—	16	H'FFFFE328	8、16、32
		DATA_23	—	16	H'FFFFE32A	8、16
		DATA_45	—	16	H'FFFFE32C	8、16、32
		DATA_67	—	16	H'FFFFE32E	8、16
		CONTROL1	—	16	H'FFFFE330	8、16
	MB[18].	CONTROL0_H	—	16	H'FFFFE340	16、32
		CONTROL0_L	—	16	H'FFFFE342	16
		LAFM0	—	16	H'FFFFE344	16、32
		LAFM1	—	16	H'FFFFE346	16
		DATA_01	—	16	H'FFFFE348	8、16、32
		DATA_23	—	16	H'FFFFE34A	8、16
		DATA_45	—	16	H'FFFFE34C	8、16、32
		DATA_67	—	16	H'FFFFE34E	8、16
		CONTROL1	—	16	H'FFFFE350	8、16
	MB[19].	CONTROL0_H	—	16	H'FFFFE360	16、32
		CONTROL0_L	—	16	H'FFFFE362	16
		LAFM0	—	16	H'FFFFE364	16、32
		LAFM1	—	16	H'FFFFE366	16
		DATA_01	—	16	H'FFFFE368	8、16、32
		DATA_23	—	16	H'FFFFE36A	8、16
		DATA_45	—	16	H'FFFFE36C	8、16、32
		DATA_67	—	16	H'FFFFE36E	8、16
CONTROL1		—	16	H'FFFFE370	8、16	
MB[20].	CONTROL0_H	—	16	H'FFFFE380	16、32	
	CONTROL0_L	—	16	H'FFFFE382	16	

モジュール名	レジスタ名		略称	ビット数	アドレス	アクセス サイズ
RCAN-TL1 (RCAN_C)	MB[20].	LAFM0	—	16	H'FFFFE384	16、32
		LAFM1	—	16	H'FFFFE386	16
		DATA_01	—	16	H'FFFFE388	8、16、32
		DATA_23	—	16	H'FFFFE38A	8、16
		DATA_45	—	16	H'FFFFE38C	8、16、32
		DATA_67	—	16	H'FFFFE38E	8、16
		CONTROL1	—	16	H'FFFFE390	8、16
	MB[21].	CONTROL0_H	—	16	H'FFFFE3A0	16、32
		CONTROL0_L	—	16	H'FFFFE3A2	16
		LAFM0	—	16	H'FFFFE3A4	16、32
		LAFM1	—	16	H'FFFFE3A6	16
		DATA_01	—	16	H'FFFFE3A8	8、16、32
		DATA_23	—	16	H'FFFFE3AA	8、16
		DATA_45	—	16	H'FFFFE3AC	8、16、32
		DATA_67	—	16	H'FFFFE3AE	8、16
		CONTROL1	—	16	H'FFFFE3B0	8、16
	MB[22].	CONTROL0_H	—	16	H'FFFFE3C0	16、32
		CONTROL0_L	—	16	H'FFFFE3C2	16
		LAFM0	—	16	H'FFFFE3C4	16、32
		LAFM1	—	16	H'FFFFE3C6	16
		DATA_01	—	16	H'FFFFE3C8	8、16、32
		DATA_23	—	16	H'FFFFE3CA	8、16
		DATA_45	—	16	H'FFFFE3CC	8、16、32
		DATA_67	—	16	H'FFFFE3CE	8、16
		CONTROL1	—	16	H'FFFFE3D0	8、16
	MB[23].	CONTROL0_H	—	16	H'FFFFE3E0	16、32
		CONTROL0_L	—	16	H'FFFFE3E2	16
		LAFM0	—	16	H'FFFFE3E4	16、32
		LAFM1	—	16	H'FFFFE3E6	16
		DATA_01	—	16	H'FFFFE3E8	8、16、32
		DATA_23	—	16	H'FFFFE3EA	8、16
		DATA_45	—	16	H'FFFFE3EC	8、16、32
		DATA_67	—	16	H'FFFFE3EE	8、16
		CONTROL1	—	16	H'FFFFE3F0	8、16

モジュール名	レジスタ名	略称	ビット数	アドレス	アクセスサイズ	
RCAN-TL1 (RCAN_C)	MB[24].	CONTROL0_H	—	16	H'FFFFE400	16、32
		CONTROL0_L	—	16	H'FFFFE402	16
		LAFM0	—	16	H'FFFFE404	16、32
		LAFM1	—	16	H'FFFFE406	16
		DATA_01	—	16	H'FFFFE408	8、16、32
		DATA_23	—	16	H'FFFFE40A	8、16
		DATA_45	—	16	H'FFFFE40C	8、16、32
		DATA_67	—	16	H'FFFFE40E	8、16
		CONTROL1	—	16	H'FFFFE410	8、16
		TTT	—	16	H'FFFFE414	16
		TTCONTROL	—	16	H'FFFFE416	16
	MB[25].	CONTROL0_H	—	16	H'FFFFE420	16、32
		CONTROL0_L	—	16	H'FFFFE422	16
		LAFM0	—	16	H'FFFFE424	16、32
		LAFM1	—	16	H'FFFFE426	16
		DATA_01	—	16	H'FFFFE428	8、16、32
		DATA_23	—	16	H'FFFFE42A	8、16
		DATA_45	—	16	H'FFFFE42C	8、16、32
		DATA_67	—	16	H'FFFFE42E	8、16
		CONTROL1	—	16	H'FFFFE430	8、16
		TTT	—	16	H'FFFFE434	16
		TTCONTROL	—	16	H'FFFFE436	16
	MB[26].	CONTROL0_H	—	16	H'FFFFE440	16、32
		CONTROL0_L	—	16	H'FFFFE442	16
		LAFM0	—	16	H'FFFFE444	16、32
		LAFM1	—	16	H'FFFFE446	16
		DATA_01	—	16	H'FFFFE448	8、16、32
		DATA_23	—	16	H'FFFFE44A	8、16
		DATA_45	—	16	H'FFFFE44C	8、16、32
		DATA_67	—	16	H'FFFFE44E	8、16
		CONTROL1	—	16	H'FFFFE450	8、16
		TTT	—	16	H'FFFFE454	16
		TTCONTROL	—	16	H'FFFFE456	16
	MB[27].	CONTROL0_H	—	16	H'FFFFE460	16、32
		CONTROL0_L	—	16	H'FFFFE462	16
		LAFM0	—	16	H'FFFFE464	16、32

モジュール名	レジスタ名		略称	ビット数	アドレス	アクセス サイズ
RCAN-TL1 (RCAN_C)	MB[27].	LAFM1	—	16	H'FFFFE466	16
		DATA_01	—	16	H'FFFFE468	8、16、32
		DATA_23	—	16	H'FFFFE46A	8、16
		DATA_45	—	16	H'FFFFE46C	8、16、32
		DATA_67	—	16	H'FFFFE46E	8、16
		CONTROL1	—	16	H'FFFFE470	8、16
		TTT	—	16	H'FFFFE474	16
		TTCONTROL	—	16	H'FFFFE476	16
	MB[28].	CONTROL0_H	—	16	H'FFFFE480	16、32
		CONTROL0_L	—	16	H'FFFFE482	16
		LAFM0	—	16	H'FFFFE484	16、32
		LAFM1	—	16	H'FFFFE486	16
		DATA_01	—	16	H'FFFFE488	8、16、32
		DATA_23	—	16	H'FFFFE48A	8、16
		DATA_45	—	16	H'FFFFE48C	8、16、32
		DATA_67	—	16	H'FFFFE48E	8、16
		CONTROL1	—	16	H'FFFFE490	8、16
		TTT	—	16	H'FFFFE494	16
		TTCONTROL	—	16	H'FFFFE496	16
		MB[29].	CONTROL0_H	—	16	H'FFFFE4A0
	CONTROL0_L		—	16	H'FFFFE4A2	16
	LAFM0		—	16	H'FFFFE4A4	16、32
	LAFM1		—	16	H'FFFFE4A6	16
	DATA_01		—	16	H'FFFFE4A8	8、16、32
	DATA_23		—	16	H'FFFFE4AA	8、16
	DATA_45		—	16	H'FFFFE4AC	8、16、32
	DATA_67		—	16	H'FFFFE4AE	8、16
	CONTROL1		—	16	H'FFFFE4B0	8、16
	TTT		—	16	H'FFFFE4B4	16
	TTCONTROL		—	16	H'FFFFE4B6	16
	MB[30].		CONTROL0_H	—	16	H'FFFFE4C0
		CONTROL0_L	—	16	H'FFFFE4C2	16
		LAFM0	—	16	H'FFFFE4C4	16、32
		LAFM1	—	16	H'FFFFE4C6	16
		DATA_01	—	16	H'FFFFE4C8	8、16、32
		DATA_23	—	16	H'FFFFE4CA	8、16

モジュール名	レジスタ名		略称	ビット数	アドレス	アクセス サイズ	
RCAN-TL1 (RCAN_C)	MB[30].	DATA_45	—	16	H'FFFE4CC	8、16、32	
		DATA_67	—	16	H'FFFE4CE	8、16	
		CONTROL1	—	16	H'FFFE4D0	8、16	
		TIMESTAMP	—	16	H'FFFE4D2	16	
		TTT	—	16	H'FFFE4D4	16	
	MB[31].	CONTROL0_H	—	16	H'FFFE4E0	16、32	
		CONTROL0_L	—	16	H'FFFE4E2	16	
		LAFM0	—	16	H'FFFE4E4	16、32	
		LAFM1	—	16	H'FFFE4E6	16	
		DATA_01	—	16	H'FFFE4E8	8、16、32	
		DATA_23	—	16	H'FFFE4EA	8、16	
		DATA_45	—	16	H'FFFE4EC	8、16、32	
		DATA_67	—	16	H'FFFE4EE	8、16	
		CONTROL1	—	16	H'FFFE4F0	8、16	
		TIMESTAMP	—	16	H'FFFE4F2	16	
	メッセージバッファエラーステータス レジスタ		MBESR	16	H'FFFE600	16	
	メッセージバッファエラーコントロール レジスタ		MBECR	16	H'FFFE602	16	
	ADC(ADC_A)	A/D データレジスタ Diag0		ADR0	16	H'FFFE83E	16
		A/D データレジスタ 0		ADR0	16	H'FFFE840	16
A/D データレジスタ 1		ADR1	16	H'FFFE842	16		
A/D データレジスタ 2		ADR2	16	H'FFFE844	16		
A/D データレジスタ 3		ADR3	16	H'FFFE846	16		
A/D データレジスタ 4		ADR4	16	H'FFFE848	16		
A/D データレジスタ 5		ADR5	16	H'FFFE84A	16		
A/D データレジスタ 6		ADR6	16	H'FFFE84C	16		
A/D データレジスタ 7		ADR7	16	H'FFFE84E	16		
A/D データレジスタ 8		ADR8	16	H'FFFE850	16		
A/D データレジスタ 9		ADR9	16	H'FFFE852	16		
A/D データレジスタ 10		ADR10	16	H'FFFE854	16		
A/D データレジスタ 11		ADR11	16	H'FFFE856	16		
A/D データレジスタ 12		ADR12	16	H'FFFE858	16		
A/D データレジスタ 13		ADR13	16	H'FFFE85A	16		
A/D データレジスタ 14		ADR14	16	H'FFFE85C	16		
A/D データレジスタ 15		ADR15	16	H'FFFE85E	16		
A/D データレジスタ 16		ADR16	16	H'FFFE860	16		

モジュール名	レジスタ名	略称	ビット数	アドレス	アクセス サイズ
ADC(ADC_A)	A/D データレジスタ 17	ADR17	16	H'FFFFE862	16
	A/D データレジスタ 18	ADR18	16	H'FFFFE864	16
	A/D データレジスタ 19	ADR19	16	H'FFFFE866	16
	A/D データレジスタ 20	ADR20	16	H'FFFFE868	16
	A/D データレジスタ 21	ADR21	16	H'FFFFE86A	16
	A/D データレジスタ 22	ADR22	16	H'FFFFE86C	16
	A/D データレジスタ 23	ADR23	16	H'FFFFE86E	16
	A/D データレジスタ 24	ADR24	16	H'FFFFE870	16
	A/D データレジスタ 25	ADR25	16	H'FFFFE872	16
	A/D データレジスタ 26	ADR26	16	H'FFFFE874	16
	A/D データレジスタ 27	ADR27	16	H'FFFFE876	16
ADC(ADC_B)	A/D データレジスタ Diag1	ADRD1	16	H'FFFFEC3E	16
	A/D データレジスタ 40	ADR40	16	H'FFFFEC40	16
	A/D データレジスタ 41	ADR41	16	H'FFFFEC42	16
	A/D データレジスタ 42	ADR42	16	H'FFFFEC44	16
	A/D データレジスタ 43	ADR43	16	H'FFFFEC46	16
	A/D データレジスタ 44	ADR44	16	H'FFFFEC48	16
	A/D データレジスタ 45	ADR45	16	H'FFFFEC4A	16
	A/D データレジスタ 46	ADR46	16	H'FFFFEC4C	16
	A/D データレジスタ 47	ADR47	16	H'FFFFEC4E	16
A/D データレジスタ 48	ADR48	16	H'FFFFEC50	16	
ADC(ADC_A)	A/D コントロールレジスタ 0	ADCSR0	8	H'FFFFE800	8
ADC(ADC_B)	A/D コントロールレジスタ 1	ADCSR1	8	H'FFFFEC00	8
ADC(ADC_A)	A/D 変換ステータスレジスタ 0	ADREF0	8	H'FFFFE802	8
ADC(ADC_B)	A/D 変換ステータスレジスタ 1	ADREF1	8	H'FFFFEC02	8
ADC(ADC_A)	A/D 割り込みトリガイネーブルレジスタ 0	ADTRE0	16	H'FFFFE804	8、16
ADC(ADC_B)	A/D 割り込みトリガイネーブルレジスタ 1	ADTRE1	8	H'FFFFEC10	8
ADC(ADC_A)	A/D 割り込みトリガ処理終了フラグ レジスタ 0	ADTRF0	16	H'FFFFE806	8、16
ADC(ADC_B)	A/D 割り込みトリガ処理終了フラグ レジスタ 1	ADTRF1	8	H'FFFFEC12	8
ADC(ADC_A)	A/D 割り込みトリガソース選択レジスタ 0	ADTRS0	16	H'FFFFE808	8、16
ADC(ADC_B)	A/D 割り込みトリガソース選択レジスタ 1	ADTRS1	8	H'FFFFEC14	8
ADC(ADC_A)	A/D 割り込みソフトトリガレジスタ 0	ADSTRG0	16	H'FFFFE80A	8、16
ADC(ADC_B)	A/D 割り込みソフトトリガレジスタ 1	ADSTRG1	8	H'FFFFEC16	8
ADC(ADC_A)	A/D 割り込みトリガ処理終了割り込み イネーブルレジスタ 0	ADTRD0	16	H'FFFFE80C	8、16

モジュール名	レジスタ名	略称	ビット数	アドレス	アクセス サイズ
ADC (ADC_B)	A/D 割り込みトリガ処理終了割り込み イネーブルレジスタ 1	ADTRD1	8	H'FFFFFFEC18	8
ADC (ADC_A)	A/D 変換値加算モード選択レジスタ 0	ADADS0	8	H'FFFFFFE81C	8
ADC (ADC_B)	A/D 変換値加算モード選択レジスタ 1	ADADS1	8	H'FFFFFFEC1C	8
ADC (ADC_A)	A/D 変換値加算回数選択レジスタ 0	ADADC0	8	H'FFFFFFE81E	8
ADC (ADC_B)	A/D 変換値加算回数選択レジスタ 1	ADADC1	8	H'FFFFFFEC1E	8
ADC (ADC_A)	A/D チャンネル選択レジスタ 0	ADANS0	16	H'FFFFFFE820	8、16、32
	A/D チャンネル選択レジスタ 1	ADANS1	16	H'FFFFFFE822	8、16、32
ADC (ADC_B)	A/D チャンネル選択レジスタ 3	ADANS3	16	H'FFFFFFEC20	8、16
ADC (ADC_A)	A/D コントロール拡張レジスタ 0	ADCER0	16	H'FFFFFFE830	8、16
ADC (ADC_B)	A/D コントロール拡張レジスタ 1	ADCER1	16	H'FFFFFFEC30	8、16
JTAG	インストラクションレジスタ	SDIR	4	—	—
	ID レジスタ	SDID	32	—	—
	バイパスレジスタ	SDBPR	1	—	—
	バウンダリスキャンレジスタ	SDBSR	—	—	—
AUD-II	AUD コントロールレジスタ	AUCSR	16	H'FFFC0C00	8、16
	AUD ウィンドウ A スタートアドレスレジスタ	AUWASR	32	H'FFFC0C04	8、16、32
	AUD ウィンドウ A エンドアドレスレジスタ	AUWAER	32	H'FFFC0C08	8、16、32
	AUD ウィンドウ B スタートアドレスレジスタ	AUWBSR	32	H'FFFC0C0C	8、16、32
	AUD ウィンドウ B エンドアドレスレジスタ	AUWBER	32	H'FFFC0C10	8、16、32
	AUD 拡張コントロールレジスタ	AUECSR	16	H'FFFC0C14	8、16
PFC	ポート A・IO レジスタ	PAIOR	16	H'FFFE3806	8、16
	ポート A コントロールレジスタ 4	PACR4	16	H'FFFE3810	8、16、32
	ポート A コントロールレジスタ 3	PACR3	16	H'FFFE3812	8、16
	ポート A コントロールレジスタ 2	PACR2	16	H'FFFE3814	8、16、32
	ポート A コントロールレジスタ 1	PACR1	16	H'FFFE3816	8、16
	ポート B・IO レジスタ	PBIOR	16	H'FFFE3886	8、16
	ポート B コントロールレジスタ 4	PBCR4	16	H'FFFE3890	8、16、32
	ポート B コントロールレジスタ 3	PBCR3	16	H'FFFE3892	8、16
	ポート B コントロールレジスタ 2	PBCR2	16	H'FFFE3894	8、16、32
	ポート B コントロールレジスタ 1	PBCR1	16	H'FFFE3896	8、16
	ポート C・IO レジスタ	PCIOR	16	H'FFFE3906	8、16
	ポート C コントロールレジスタ 4	PCCR4	16	H'FFFE3910	8、16、32
	ポート C コントロールレジスタ 3	PCCR3	16	H'FFFE3912	8、16
	ポート C コントロールレジスタ 2	PCCR2	16	H'FFFE3914	8、16、32
	ポート C コントロールレジスタ 1	PCCR1	16	H'FFFE3916	8、16

モジュール名	レジスタ名	略称	ビット数	アドレス	アクセス サイズ
PFC	ポート D・IO レジスタ	PDIOR	16	H'FFFFFFC808	8、16
	ポート D コントロールレジスタ 2	PDQR2	16	H'FFFFFFC80C	8、16、32
	ポート D コントロールレジスタ 1	PDQR1	16	H'FFFFFFC80E	8、16
	ポート E・IO レジスタ	PEIOR	16	H'FFFFFFC818	8、16
	ポート E コントロールレジスタ 2	PEQR2	16	H'FFFFFFC81C	8、16、32
	ポート E コントロールレジスタ 1	PEQR1	16	H'FFFFFFC81E	8、16
	ポート F・IO レジスタ	PFIOR	16	H'FFFFFFC82A	8、16
	ポート F コントロールレジスタ 2	PFQR2	16	H'FFFFFFC82C	8、16、32
	ポート F コントロールレジスタ 1	PFQR1	16	H'FFFFFFC82E	8、16
	ポート G・IO レジスタ	PGIOR	16	H'FFFFFFC83C	8、16
	ポート G コントロールレジスタ 2	PGQR2	16	H'FFFFFFC840	8、16、32
	ポート G コントロールレジスタ 1	PGQR1	16	H'FFFFFFC842	8、16
	ポート H・IO レジスタ	PHIOR	16	H'FFFFFFC854	8、16
	ポート H コントロールレジスタ	PHCR	16	H'FFFFFFC858	8、16
	ポート J・IO レジスタ	PJIOR	16	H'FFFFFFC86C	8、16
	ポート J コントロールレジスタ 2	PJQR2	16	H'FFFFFFC870	8、16、32
	ポート J コントロールレジスタ 1	PJQR1	16	H'FFFFFFC872	8、16
	ポート K・IO レジスタ	PKIOR	16	H'FFFFFFC88C	8、16
	ポート K コントロールレジスタ 2	PKQR2	16	H'FFFFFFC890	8、16、32
	ポート K コントロールレジスタ 1	PKQR1	16	H'FFFFFFC892	8、16
ポート L・IO レジスタ	PLIOR	16	H'FFFFFFC8A8	8、16	
ポート L コントロールレジスタ 2	PLQR2	16	H'FFFFFFC8AC	8、16、32	
ポート L コントロールレジスタ 1	PLQR1	16	H'FFFFFFC8AE	8、16	
I/O ポート	ポート A データレジスタ	PADR	16	H'FFFE3802	8、16
	ポート A ポートレジスタ	PAPR	16	H'FFFE381E	8、16
	ポート B データレジスタ	PBDR	16	H'FFFE3882	8、16
	ポート B ポートレジスタ	PBPR	16	H'FFFE389E	8、16
	ポート B インバートレジスタ	PBIR	16	H'FFFE3898	8、16、32
	ポート B ドライバビリティ設定レジスタ	PBDSR	16	H'FFFE389A	8、16
	ポート B 端子状態設定レジスタ	PBPSR	16	H'FFFE389C	8、16、32
	ポート C データレジスタ	PCDR	16	H'FFFE3902	8、16
	ポート C ポートレジスタ	PCPR	16	H'FFFE391E	8、16
	ポート D データレジスタ	PDDR	16	H'FFFFFFC800	8、16、32
	ポート D ポートレジスタ	PDPR	16	H'FFFFFFC802	8、16
	ポート D インバートレジスタ	PDIR	16	H'FFFFFFC804	8、16
	ポート E データレジスタ	PEDR	16	H'FFFFFFC810	8、16、32

モジュール名	レジスタ名	略称	ビット数	アドレス	アクセス サイズ
I/O ポート	ポート E ポートレジスタ	PEPR	16	H'FFFFFFC812	8、16
	ポート E インバートレジスタ	PEIR	16	H'FFFFFFC814	8、16、32
	ポート E ドライバビリティ設定レジスタ	PEDSR	16	H'FFFFFFC816	8、16
	ポート F データレジスタ	PFDR	16	H'FFFFFFC820	8、16、32
	ポート F ポートレジスタ	PFPR	16	H'FFFFFFC822	8、16
	ポート F インバートレジスタ	PFIR	16	H'FFFFFFC824	8、16、32
	ポート F ドライバビリティ設定レジスタ	PFDSR	16	H'FFFFFFC826	8、16
	ポート F 端子状態設定レジスタ	PFPSR	16	H'FFFFFFC828	8、16、32
	ポート G データレジスタ	PGDR	16	H'FFFFFFC830	8、16、32
	ポート G ポートレジスタ	PGPR	16	H'FFFFFFC832	8、16
	ポート G インバートレジスタ	PGIR	16	H'FFFFFFC834	8、16、32
	ポート G ドライバビリティ設定レジスタ	PGDSR	16	H'FFFFFFC836	8、16
	ポート G エッジ選択レジスタ	PGER	16	H'FFFFFFC838	8、16
	ポート H データレジスタ	PHDR	16	H'FFFFFFC850	8、16、32
	ポート H ポートレジスタ	PHPR	16	H'FFFFFFC852	8、16
	ポート J データレジスタ	PJDR	16	H'FFFFFFC860	8、16、32
	ポート J ポートレジスタ	PJPR	16	H'FFFFFFC862	8、16
	ポート J インバートレジスタ	PJIR	16	H'FFFFFFC864	8、16、32
	ポート J ドライバビリティ設定レジスタ	PJDSR	16	H'FFFFFFC866	8、16
	ポート J 端子状態設定レジスタ	PJPSR	16	H'FFFFFFC868	8、16
	ポート K データレジスタ	PKDR	16	H'FFFFFFC880	8、16、32
	ポート K ポートレジスタ	PKPR	16	H'FFFFFFC882	8、16
	ポート K インバートレジスタ	PKIR	16	H'FFFFFFC884	8、16、32
	ポート K ドライバビリティ設定レジスタ	PKDSR	16	H'FFFFFFC886	8、16
	ポート K 端子状態設定レジスタ	PKPSR	16	H'FFFFFFC888	8、16
	ポート L データレジスタ	PLDR	16	H'FFFFFFC8A0	8、16、32
	ポート L ポートレジスタ	PLPR	16	H'FFFFFFC8A2	8、16
	ポート L インバートレジスタ	PLIR	16	H'FFFFFFC8A4	8、16
CK コントロールレジスタ	CKCR	16	H'FFFFFFC920	8、16	
MISG	カルキュレーションデータレジスタ	MISRCDR	32	H'FFF7FFFC	8、16、32
	MISR コントロールレジスタ	MISRCR	8	H'FFFC1C00	8
	マルチインプットシグネチャレジスタ	MISR	32	H'FFFC1C04	32
ROM/ EEPROM	フラッシュ端子モニタレジスタ	FPMON	8	H'FFFA800	8
	フラッシュモードレジスタ	FMODR	8	H'FFFA802	8
	フラッシュアクセスステータスレジスタ	FASTAT	8	H'FFFA810	8

モジュール名	レジスタ名	略称	ビット数	アドレス	アクセスサイズ
ROM/ EEPROM	フラッシュアクセスエラー割り込み許可レジスタ	FAEINT	8	H'FFFFA811	8
	ROM マット選択レジスタ	ROMMAT	16	H'FFFFA820	8、16
	FCU RAM イネーブルレジスタ	FCURAME	16	H'FFFFA854	8、16
	フラッシュステータスレジスタ 0	FSTATR0	8	H'FFFFA900	8、16
	フラッシュステータスレジスタ 1	FSTATR1	8	H'FFFFA901	8、16
	フラッシュ P/E モードエントリレジスタ	FENTRYR	16	H'FFFFA902	8、16
	フラッシュプロテクトレジスタ	FPROTR	16	H'FFFFA904	8、16
	フラッシュリセットレジスタ	FRESETR	16	H'FFFFA906	8、16
	FCU コマンドレジスタ	FCMDR	16	H'FFFFA90A	8、16
	FCU RAM ECC エラーコントロールレジスタ	FRAMECCR	8	H'FFFFA90C	8
	FCU 処理切り替えレジスタ	FCPSR	16	H'FFFFA918	8、16
	EEPROM ブランクチェック制御レジスタ	EEPBCCNT	16	H'FFFFA91A	8、16
	フラッシュ P/E ステータスレジスタ	FPESTAT	16	H'FFFFA91C	8、16
	EEPROM ブランクチェックステータスレジスタ	EEPBCSTAT	16	H'FFFFA91E	8、16
	EEPROM 読み出し許可レジスタ 0	EEPRE0	16	H'FFFFA840	8、16
	EEPROM 読み出し許可レジスタ 1	EEPRE1	16	H'FFFFA842	8、16
	EEPROM 書き込み/消去許可レジスタ 0	EEPWE0	16	H'FFFFA850	8、16
	EEPROM 書き込み/消去許可レジスタ 1	EEPWE1	16	H'FFFFA852	8、16
EEPROM マット選択レジスタ	EEPMAT	16	H'FFFFAB00	8、16	
ROMC	ROM キャッシュ制御レジスタ	RCCR	32	H'FFFC1400	32
	ROM キャッシュ制御レジスタ 2	RCCR2	32	H'FFFC1408	32
RAM	RAM イネーブルコントロールレジスタ 0	RAMEN0	16	H'FFFF0800	8、(16)
	RAM 書き込みイネーブルコントロールレジスタ 0	RAMWEN0	16	H'FFFF0802	8、(16)
	RAM イネーブルコントロールレジスタ 1	RAMEN1	16	H'FFFF0840	8、(16)
	RAM 書き込みイネーブルコントロールレジスタ 1	RAMWEN1	16	H'FFFF0842	8、(16)
	RAM ECC イネーブルコントロールレジスタ	RAMECC	16	H'FFFF0804	8、(16)
	RAM エラーステータスレジスタ	RAMERR	8	H'FFFF0806	8
	RAM エラー割り込みコントロールレジスタ	RAMINT	8	H'FFFF0810	8
	RAM アクセスサイクル設定レジスタ	RAMACYC	16	H'FFFF0812	8、16
低消費電力モード	スタンバイコントロールレジスタ	STBCR	16	H'FFFE0400	8、16

31.2 レジスタビット一覧

内蔵周辺モジュールのレジスタのアドレスとビット名を以下に示します。

16ビット、32ビットレジスタは、8ビットずつ2段または4段で表しています。

モジュール名	レジスタ名	31/23/15/7	30/22/14/6	29/21/13/5	28/20/12/4	27/19/11/3	26/18/10/2	25/17/9/1	24/16/8/0	
INTC	ICR0	NMIL	—	—	—	—	—	—	NMIE	
		—	—	—	—	—	—	—	—	
	ICR1	IRQ71S	IRQ70S	IRQ61S	IRQ60S	IRQ51S	IRQ50S	IRQ41S	IRQ40S	
		IRQ31S	IRQ30S	IRQ21S	IRQ20S	IRQ11S	IRQ10S	IRQ01S	IRQ00S	
	IRQRR	—	—	—	—	—	—	—	—	
		IRQ7F	IRQ6F	IRQ5F	IRQ4F	IRQ3F	IRQ2F	IRQ1F	IRQ0F	
	IBCR	E15	E14	E13	E12	E11	E10	E9	E8	
		E7	E6	E5	E4	E3	E2	E1	—	
	IBNR	BE[1:0]		BOVE	—	—	—	—	—	
		—	—	—	—	BN[3:0]				
	SINTR1	—	—	—	—	—	—	—	SINTC	
	SINTR2	—	—	—	—	—	—	—	SINTC	
	SINTR3	—	—	—	—	—	—	—	SINTC	
	SINTR4	—	—	—	—	—	—	—	SINTC	
	SINTR5	—	—	—	—	—	—	—	SINTC	
	SINTR6	—	—	—	—	—	—	—	SINTC	
	SINTR7	—	—	—	—	—	—	—	SINTC	
	SINTR8	—	—	—	—	—	—	—	SINTC	
	IPR01	IRQ0				IRQ1				
		IRQ2				IRQ3				
	IPR02	IRQ4				IRQ5				
		IRQ6				IRQ7				
	SINTR9	—	—	—	—	—	—	—	SINTC	
	SINTR10	—	—	—	—	—	—	—	SINTC	
	SINTR11	—	—	—	—	—	—	—	SINTC	
	SINTR12	—	—	—	—	—	—	—	SINTC	
	SINTR13	—	—	—	—	—	—	—	SINTC	
	SINTR14	—	—	—	—	—	—	—	SINTC	
	SINTR15	—	—	—	—	—	—	—	SINTC	

モジュール名	レジスタ名	31/23/15/7	30/22/14/6	29/21/13/5	28/20/12/4	27/19/11/3	26/18/10/2	25/17/9/1	24/16/8/0
INTC	IPR03	DMAC0				DMAC1			
		DMAC2				DMAC3			
	IPR04	DMAC4				DMAC5			
		DMAC6				DMAC7			
	IPR05	CMT0				CMT1			
		予約				WDT			
	IPR06	ATU-A (ICIA0, ICIA1)				ATU-A (ICIA2, ICIA3)			
		ATU-A (ICIA4, ICIA5)				ATU-A (OVIA)			
	IPR07	ATU-B (CMIB0, CMIB1)				ATU-B (CMIB6, ICIB0)			
		ATU-C0 (IMIC00~IMIC03)				ATU-C0 (OVIC0)			
	IPR08	ATU-C1 (IMIC10~IMIC13)				ATU-C1 (OVIC1)			
		ATU-C2 (IMIC20~IMIC23)				ATU-C2 (OVIC2)			
	IPR09	ATU-C3 (IMIC30~IMIC33)				ATU-C3 (OVIC3)			
		ATU-C4 (IMIC40~IMIC43)				ATU-C4 (OVIC4)			
	IPR10	ATU-D0 (CMID00~CMID03)				ATU-D0 (OVI1D0, OVI2D0)			
		ATU-D0 (UDID00~UDID03)				ATU-D1 (CMID10~CMID13)			
	IPR11	ATU-D1 (OVI1D1, OVI2D1)				ATU-D1 (UDID10~UDID13)			
		ATU-D2 (CMID20~CMID23)				ATU-D2 (OVI1D2, OVI2D2)			
	IPR12	ATU-D2 (UDID20~UDID23)				ATU-D3 (CMID30~CMID33)			
		ATU-D3 (OVI1D3, OVI2D3)				ATU-D3 (UDID30~UDID33)			
	IPR13	予約				予約			
		予約				予約			
	IPR14	予約				予約			
		ATU-E0 (CMIE00~CMIE03)				ATU-E1 (CMIE10~CMIE13)			
	IPR15	ATU-E2 (CMIE20~CMIE23)				ATU-E3 (CMIE30~CMIE33)			
		ATU-E4 (CMIE40~CMIE43)				ATU-E5 (CMIE50~CMIE53)			
	IPR16	ATU-F (ICIF0~ICIF3)				ATU-F (ICIF4~ICIF7)			
		ATU-F (ICIF8~ICIF11)				ATU-F (ICIF12~ICIF15)			
	IPR17	ATU-F (ICIF16~ICIF19)				予約			
		予約				予約			
	IPR18	ATU-F (OVIF0~OVIF3)				ATU-F (OVIF4~OVIF7)			
		ATU-F (OVIF8~OVIF11)				ATU-F (OVIF12~OVIF15)			
	IPR19	ATU-F (OVIF16~OVIF19)				予約			
		予約				予約			
	IPR20	ATU-G (CMIG0~CMIG3)				ATU-G (CMIG4, CMIG5)			
		ATU-H (CMIH)				予約			

モジュール名	レジスタ名	31/23/15/7	30/22/14/6	29/21/13/5	28/20/12/4	27/19/11/3	26/18/10/2	25/17/9/1	24/16/8/0	
INTC	IPR21	ATU-J (DFIJ0, DFIJ1)				ATU-J (OVIJ0, OVIJ1)				
		ATU-J (DOVIJ0, DOVIJ1)				予約				
	IPR22	ADC (ADI0)				ADC (ADI1)				
		ADC (ADID0~ADID3)				ADC (ADID4~ADID7)				
	IPR23	ADC (ADID8~ADID11)				ADC (ADID12~ADID15)				
		ADC (ADID40)				ADC (ADID41)				
	IPR24	ADC (ADID42)				ADC (ADID43)				
		ADC (ADID44)				ADC (ADID45)				
	IPR25	ADC (ADID46)				ADC (ADID47)				
		予約				予約				
	IPR26	SCI_A				SCI_B				
		SCI_C				SCI_D				
	IPR27	SCI_E				RSPI_A				
		RSPI_B				RSPI_C				
	IPR28	RCAN_A				RCAN_B				
		RCAN_C				予約				
	IPR29	A-DMAC				予約				
		予約				予約				
	UBC	BAR_0	BA0_31	BA0_30	BA0_29	BA0_28	BA0_27	BA0_26	BA0_25	BA0_24
BA0_23			BA0_22	BA0_21	BA0_20	BA0_19	BA0_18	BA0_17	BA0_16	
BA0_15			BA0_14	BA0_13	BA0_12	BA0_11	BA0_10	BA0_9	BA0_8	
BA0_7			BA0_6	BA0_5	BA0_4	BA0_3	BA0_2	BA0_1	BA0_0	
BAMR_0		BAM0_31	BAM0_30	BAM0_29	BAM0_28	BAM0_27	BAM0_26	BAM0_25	BAM0_24	
		BAM0_23	BAM0_22	BAM0_21	BAM0_20	BAM0_19	BAM0_18	BAM0_17	BAM0_16	
		BAM0_15	BAM0_14	BAM0_13	BAM0_12	BAM0_11	BAM0_10	BAM0_9	BAM0_8	
		BAM0_7	BAM0_6	BAM0_5	BAM0_4	BAM0_3	BAM0_2	BAM0_1	BAM0_0	
BBR_0		-	-	UBID0	-	-	CP0_[2:0]			
		CD0_[1:0]		ID0_[1:0]		RW0_[1:0]		SZ0_[1:0]		
BAR_1		BA1_31	BA1_30	BA1_29	BA1_28	BA1_27	BA1_26	BA1_25	BA1_24	
		BA1_23	BA1_22	BA1_21	BA1_20	BA1_19	BA1_18	BA1_17	BA1_16	
		BA1_15	BA1_14	BA1_13	BA1_12	BA1_11	BA1_10	BA1_9	BA1_8	
		BA1_7	BA1_6	BA1_5	BA1_4	BA1_3	BA1_2	BA1_1	BA1_0	
BAMR_1		BAM1_31	BAM1_30	BAM1_29	BAM1_28	BAM1_27	BAM1_26	BAM1_25	BAM1_24	
		BAM1_23	BAM1_22	BAM1_21	BAM1_20	BAM1_19	BAM1_18	BAM1_17	BAM1_16	
		BAM1_15	BAM1_14	BAM1_13	BAM1_12	BAM1_11	BAM1_10	BAM1_9	BAM1_8	
		BAM1_7	BAM1_6	BAM1_5	BAM1_4	BAM1_3	BAM1_2	BAM1_1	BAM1_0	

モジュール名	レジスタ名	31/23/15/7	30/22/14/6	29/21/13/5	28/20/12/4	27/19/11/3	26/18/10/2	25/17/9/1	24/16/8/0	
UBC	BBR_1	—	—	UBID1	—	—	CP1_[2:0]			
		CD1_[1:0]		ID1_[1:0]		RW1_[1:0]		SZ1_[1:0]		
	BAR_2	BA2_31	BA2_30	BA2_29	BA2_28	BA2_27	BA2_26	BA2_25	BA2_24	
		BA2_23	BA2_22	BA2_21	BA2_20	BA2_19	BA2_18	BA2_17	BA2_16	
		BA2_15	BA2_14	BA2_13	BA2_12	BA2_11	BA2_10	BA2_9	BA2_8	
		BA2_7	BA2_6	BA2_5	BA2_4	BA2_3	BA2_2	BA2_1	BA2_0	
	BAMR_2	BAM2_31	BAM2_30	BAM2_29	BAM2_28	BAM2_27	BAM2_26	BAM2_25	BAM2_24	
		BAM2_23	BAM2_22	BAM2_21	BAM2_20	BAM2_19	BAM2_18	BAM2_17	BAM2_16	
		BAM2_15	BAM2_14	BAM2_13	BAM2_12	BAM2_11	BAM2_10	BAM2_9	BAM2_8	
		BAM2_7	BAM2_6	BAM2_5	BAM2_4	BAM2_3	BAM2_2	BAM2_1	BAM2_0	
	BBR_2	—	—	UBID2	—	—	CP2_[2:0]			
		CD2_[1:0]		ID2_[1:0]		RW2_[1:0]		SZ2_[1:0]		
	BAR_3	BA3_31	BA3_30	BA3_29	BA3_28	BA3_27	BA3_26	BA3_25	BA3_24	
		BA3_23	BA3_22	BA3_21	BA3_20	BA3_19	BA3_18	BA3_17	BA3_16	
		BA3_15	BA3_14	BA3_13	BA3_12	BA3_11	BA3_10	BA3_9	BA3_8	
		BA3_7	BA3_6	BA3_5	BA3_4	BA3_3	BA3_2	BA3_1	BA3_0	
	BAMR_3	BAM3_31	BAM3_30	BAM3_29	BAM3_28	BAM3_27	BAM3_26	BAM3_25	BAM3_24	
		BAM3_23	BAM3_22	BAM3_21	BAM3_20	BAM3_19	BAM3_18	BAM3_17	BAM3_16	
		BAM3_15	BAM3_14	BAM3_13	BAM3_12	BAM3_11	BAM3_10	BAM3_9	BAM3_8	
		BAM3_7	BAM3_6	BAM3_5	BAM3_4	BAM3_3	BAM3_2	BAM3_1	BAM3_0	
	BBR_3	—	—	UBID3	—	—	CP3_[2:0]			
		CD3_[1:0]		ID3_[1:0]		RW3_[1:0]		SZ3_[1:0]		
	BRCR	—	—	—	—	—	—	—	—	
		—	—	UTOD3	UTOD2	UTOD1	UTOD0	CKS[1:0]		
		SCMFC0	SCMFC1	SCMFC2	SCMFC3	SCMFD0	SCMFD1	SCMFD2	SCMFD3	
		PCB3	PCB2	PCB1	PCB0	—	—	—	—	
	BSC	CS0BCR	—	IWW[2:0]			IWRWD[2:0]			IWRWS[2]
			IWRWS[1:0]		IWRRD[2:0]		IWRRS[2:0]			
			—	—	TYPE[1:0]		—	BSZ[1:0]		—
			—	—	—	—	—	—	—	
		CS1BCR	—	IWW[2:0]			IWRWD[2:0]			IWRWS[2]
			IWRWS[1:0]		IWRRD[2:0]		IWRRS[2:0]			
—			—	TYPE[1:0]		—	BSZ[1:0]		—	
—			—	—	—	—	—	—		

モジュール名	レジスタ名	31/23/15/7	30/22/14/6	29/21/13/5	28/20/12/4	27/19/11/3	26/18/10/2	25/17/9/1	24/16/8/0	
BSC	CS2BCR	—	IWW[2:0]			IWRWD[2:0]			IWRWS[2]	
		IWRWS[1:0]		IWRRD[2:0]			IWRRS[2:0]			
		—	—	TYPE[1:0]			—	BSZ[1:0]		—
		—	—	—	—	—	—	—	—	
	CS3BCR	—	IWW[2:0]			IWRWD[2:0]			IWRWS[2]	
		IWRWS[1:0]		IWRRD[2:0]			IWRRS[2:0]			
		—	—	TYPE[1:0]			—	BSZ[1:0]		—
		—	—	—	—	—	—	—	—	
	CS0WCR	—	—	—	—	—	—	—	—	
		—	—	—	BAS	—	WW[2:0]			
		—	—	—	SW[1:0]			WR[3:1]		
		WR[0]	WM	—	—	—	—	HW[1:0]		
	CS1WCR	—	—	—	—	—	—	—	—	
		—	—	—	BAS	—	WW[2:0]			
		—	—	—	SW[1:0]			WR[3:1]		
		WR[0]	WM	—	—	—	—	HW[1:0]		
	CS2WCR	—	—	—	—	—	—	—	—	
		—	—	—	BAS	—	WW[2:0]			
		—	—	—	SW[1:0]			WR[3:1]		
		WR[0]	WM	—	—	—	—	HW[1:0]		
	CS3WCR	—	—	—	—	—	—	—	—	
		—	—	—	BAS	—	WW[2:0]			
		—	—	—	SW[1:0]			WR[3:1]		
		WR[0]	WM	—	—	—	—	HW[1:0]		
DMAC	SAR0									
	DAR0									
	DMATCR0	—	—	—	—	—	—	—	—	

モジュール名	レジスタ名	31/23/15/7	30/22/14/6	29/21/13/5	28/20/12/4	27/19/11/3	26/18/10/2	25/17/9/1	24/16/8/0	
DMAC	CHCR0	TC1	–	–	RLD1	–	–	–	–	
		–	–	–	–	–	HIE	–	–	
		DM[1:0]		SM[1:0]		RS[3:0]				
		–	–	TB	TS[1:0]		IE	–	DE	
	CHFR0	–	–	–	HE	–	–	–	TE	
	TEMSK0	TEMKEY[7:0]								
		–	–	–	–	–	–	–	–	TEMASK
	RSAR0									
	RDAR0									
	RDMATCR0	–	–	–	–	–	–	–	–	–
	SAR1									
	DAR1									
	DMATCR1	–	–	–	–	–	–	–	–	–
CHCR1	TC1	–	–	RLD1	–	–	–	–	–	
	–	–	–	–	–	–	HIE	–	–	
	DM[1:0]		SM[1:0]		RS[3:0]					
	–	–	TB	TS[1:0]		IE	–	DE		
CHFR1	–	–	–	HE	–	–	–	TE		
TEMSK1	TEMKEY[7:0]									
	–	–	–	–	–	–	–	–	TEMASK	

モジュール名	レジスタ名	31/23/15/7	30/22/14/6	29/21/13/5	28/20/12/4	27/19/11/3	26/18/10/2	25/17/9/1	24/16/8/0	
DMAC	RSAR1									
	RDAR1									
	RDMATCR1	-	-	-	-	-	-	-	-	
	SAR2									
	DAR2									
	DMATCR2	-	-	-	-	-	-	-	-	
	CHCR2	TC1	-	-	-	RLD1	-	-	-	
		-	-	-	-	-	-	HIE	-	
		DM[1:0]		SM[1:0]		RS[3:0]				
		-	-	TB	TS[1:0]		IE	-	DE	
	CHFR2	-	-	-	HE	-	-	-	TE	
	TEMSK2	TEMKEY[7:0]								
		-	-	-	-	-	-	-	-	TEMASK
	RSAR2									
	RDAR2									

モジュール名	レジスタ名	31/23/15/7	30/22/14/6	29/21/13/5	28/20/12/4	27/19/11/3	26/18/10/2	25/17/9/1	24/16/8/0	
DMAC	RDMATCR2	–	–	–	–	–	–	–	–	
	SAR3									
	DAR3									
	DMATCR3	–	–	–	–	–	–	–	–	
	CHCR3	TC1	–	–	–	RLD1	–	–	–	–
		–	–	–	–	–	–	HIE	–	–
		DM[1:0]		SM[1:0]		RS[3:0]				
		–	–	TB	TS[1:0]		IE	–	DE	
	CHFR3	–	–	–	HE	–	–	–	TE	
	TEMSK3	TEMKEY[7:0]								
		–	–	–	–	–	–	–	–	TEMASK
	RSAR3									
	RDAR3									
	RDMATCR3	–	–	–	–	–	–	–	–	–
	SAR4									

モジュール名	レジスタ名	31/23/15/7	30/22/14/6	29/21/13/5	28/20/12/4	27/19/11/3	26/18/10/2	25/17/9/1	24/16/8/0	
DMAC	DAR4									
	DMATCR4	-	-	-	-	-	-	-	-	
	CHCR4	TC[1:0]		-	RLD1		RLD2[1:0]		-	IFT
		-	-	-	-	-	HIE	-	-	
		DM[1:0]		SM[1:0]			RS[3:0]			
		-	-	TB		TS[1:0]	IE	-	DE	
	CHFR4	-	-	-	HE	-	-	-	TE	
	TEMSK4	TEMKEY[7:0]								
		-	-	-	-	-	-	-	TEMASK	
	RSAR4									
	RDAR4									
	RDMATCR4	-	-	-	-	-	-	-	-	
	ARCR4	-	-	-	-	-	-	-	-	
	RARCR4	-	-	-	-	-	-	-	-	
	SAR5									
	DAR5									

モジュール名	レジスタ名	31/23/15/7	30/22/14/6	29/21/13/5	28/20/12/4	27/19/11/3	26/18/10/2	25/17/9/1	24/16/8/0	
DMAC	DMATCR5	–	–	–	–	–	–	–	–	
	CHCR5	TC[1:0]		–	RLD1	RLD2[1:0]		–	IFT	
		–	–	–	–	–	HIE	–	–	
		DM[1:0]		SM[1:0]		RS[3:0]				
		–	–	TB	TS[1:0]		IE	–	DE	
	CHFR5	–	–	–	HE	–	–	–	TE	
	TEMSK5	TEMKEY[7:0]								
		–	–	–	–	–	–	–	–	TEMASK
	RSAR5									
	RDAR5									
	RDMATCR5	–	–	–	–	–	–	–	–	–
	ARCR5	–	–	–	–	–	–	–	–	–
	RARCR5	–	–	–	–	–	–	–	–	–
	SAR6									
	DAR6									
	DMATCR6	–	–	–	–	–	–	–	–	–

モジュール名	レジスタ名	31/23/15/7	30/22/14/6	29/21/13/5	28/20/12/4	27/19/11/3	26/18/10/2	25/17/9/1	24/16/8/0	
DMAC	CHCR6	TC[1:0]		–	RLD1	RLD2[1:0]		–	IFT	
		–	–	–	–	–	HIE	–	–	
		DM[1:0]		SM[1:0]		RS[3:0]				
		–	–	TB	TS[1:0]		IE	–	DE	
	CHFR6	–	–	–	HE	–	–	–	TE	
	TEMSK6	TEMKEY[7:0]								
		–	–	–	–	–	–	–	–	TEMASK
	RSAR6									
	RDAR6									
	RDMATCR6	–	–	–	–	–	–	–	–	–
	ARCR6	–	–	–	–	–	–	–	–	–
	RARCR6	–	–	–	–	–	–	–	–	–
SAR7										
DAR7										
DMATCR7	–	–	–	–	–	–	–	–	–	
CHCR7	TC[1:0]		–	RLD1	RLD2[1:0]		–	IFT		
	–	–	–	–	–	HIE	–	–		
	DM[1:0]		SM[1:0]		RS[3:0]					
	–	–	TB	TS[1:0]		IE	–	DE		

モジュール名	レジスタ名	31/23/15/7	30/22/14/6	29/21/13/5	28/20/12/4	27/19/11/3	26/18/10/2	25/17/9/1	24/16/8/0	
DMAC	CHFR7	-	-	-	HE	-	-	-	TE	
	TEMSK7	TEMKEY[7:0]								
		-	-	-	-	-	-	-	-	TEMASK
	RSAR7									
	RDAR7									
	RDMATCR7	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	ARCR7	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	RARCR7	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	DMAOR	-	-	CMS[1:0]			-	-	PR[1:0]	
		-	-	-	-	-	-	-	-	DME
	DMAFR	-	-	-	AE		-	-	-	NMIF
	DMARS0	CH1 MID[5:0]						CH1 RID[1:0]		
		CH0 MID[5:0]						CH0 RID[1:0]		
	DMARS1	CH3 MID[5:0]						CH3 RID[1:0]		
		CH2 MID[5:0]						CH2 RID[1:0]		
	DMARS2	CH5 MID[5:0]						CH5 RID[1:0]		
		CH4 MID[5:0]						CH4 RID[1:0]		
	DMARS3	CH7 MID[5:0]						CH7 RID[1:0]		
CH6 MID[5:0]						CH6 RID[1:0]				
A-DMAC	ADMAOR	-	-	-	-	-	-	-	DME	
	ADMAABR	-	-	-	-	-	AA[2:0]			
	ADMAIE0							-	-	
	ADMAIE1									
	ADMAIE2									
	ADMAIE3									
	ADMAIE4									
	ADMAIE5									
	ADMAIE7									

モジュール名	レジスタ名	31/23/15/7	30/22/14/6	29/21/13/5	28/20/12/4	27/19/11/3	26/18/10/2	25/17/9/1	24/16/8/0	
A-DMAC	ADMAIE8									
	ADMAIE9	-	-	-	-	-		-	-	
	ADMADV0							-	-	
	ADMADV1									
	ADMADV2									
	ADMADV3									
	ADMADV4									
	ADMADV5									
	ADMATE0									
	ADMATE1									
	ADMATE2	-	-	-	-	-			-	-
	ADMADE0								-	-
	ADMADE1									
	ADMADE2									
	ADMADE3									
	ADMADE4									
	ADMADE5									
	ADMADE7	-	-	-	-	-	-		-	
	ADMAMODE0						-	-	-	-
	ADMAMODE1									
	ADMAMODE2									
	ADMATCR0	-	-	-	-	-	-	-		
	ADMARTCR0	-	-	-	-	-	-	-		
	ADMATCR1	-	-	-	-	-	-	-		
	ADMARTCR1	-	-	-	-	-	-	-		
	ADMATCR56	-	-	-	-	-	-	-		
	ADMATCR57	-	-	-	-	-	-	-		
	ADMATCR58	-	-	-	-	-	-	-		
	ADMATCR59	-	-	-	-	-	-	-		

モジュール名	レジスタ名	31/23/15/7	30/22/14/6	29/21/13/5	28/20/12/4	27/19/11/3	26/18/10/2	25/17/9/1	24/16/8/0
A-DMAC	ADMATCR60	-	-	-	-	-	-		
	ADMATCR61	-	-	-	-	-	-		
	ADMATCR62	-	-	-	-	-	-		
	ADMATCR63	-	-	-	-	-	-		
	ADMATCR64	-	-	-	-	-	-		
	ADMATCR65	-	-	-	-	-	-		
	ADMATCR66	-	-	-	-	-	-		
	ADMATCR67	-	-	-	-	-	-		
	ADMATCR68	-	-	-	-	-	-		
	ADMATCR69	-	-	-	-	-	-		
	ADMATCR70	-	-	-	-	-	-		
	ADMATCR71	-	-	-	-	-	-		
	ADMAAR0	-							
	ADMARAR0	-							
	ADMAAR1	-							
	ADMARAR1	-							
	ADMAAR56	-							
	ADMAAR57	-							

モジュール名	レジスタ名	31/23/15/7	30/22/14/6	29/21/13/5	28/20/12/4	27/19/11/3	26/18/10/2	25/17/9/1	24/16/8/0
A-DMAC	ADMAAR58	—							
	ADMAAR59	—							
	ADMAAR60	—							
	ADMAAR61	—							
	ADMAAR62	—							
	ADMAAR63	—							
	ADMAAR64	—							
	ADMAAR65	—							
	ADMAAR66	—							
	ADMAAR67	—							
ADMAAR68	—								
ADMAAR69	—								
ADMAAR70	—								
ADMAAR71	—								
ADMABUF2									
ADMABUF3									

モジュール名	レジスタ名	31/23/15/7	30/22/14/6	29/21/13/5	28/20/12/4	27/19/11/3	26/18/10/2	25/17/9/1	24/16/8/0
A-DMAC	ADMABUF4								
	ADMABUF5								
	ADMABUF6								
	ADMABUF7								
	ADMARVPR0								
	ADMARVPR1								
	ADMARVPR2								
	ADMARVPR3								
	ADMARVPR4								
	ADMARVPR5								
	ADMATVPR0								
	ADMATVPR1								
	ADMATVPR2								
ADMATVPR3									

モジュール名	レジスタ名	31/23/15/7	30/22/14/6	29/21/13/5	28/20/12/4	27/19/11/3	26/18/10/2	25/17/9/1	24/16/8/0	
A-DMAC	ADMATVPR4									
	ADMATVPR5									
ATU-III	ATUENR	–	–	–	–	–	–	TJE	THE	
		TGE	TFE	TEE	TDE	TCE	TBE	TAE	PSCE	
	CBCNT	–	–	CB4EG[1:0]		–	CB5SEL	CB5EG[1:0]		
	NCMR	NCCSEL	–	–	–	NCMJ	NCMF	NCMC	NCMA	
	PSCR0	–	–	–	–	–	–	PSC0[9:8]		
		PSC0[7:0]								
	PSCR1	–	–	–	–	–	–	PSC1[9:8]		
		PSC1[7:0]								
	PSCR2	–	–	–	–	–	–	PSC2[9:8]		
		PSC2[7:0]								
	PSCR3	–	–	–	–	–	–	PSC3[9:8]		
		PSC3[7:0]								
	TCRA	EVOSEL2A	EVOSEL2B	EVOSEL1			CKSELA			
	TIOR1A	–	–	–	–	IOA5		IOA4		
		IOA3		IOA2		IOA1		IOA0		
	TIOR2A	–	–	NCKA5	NCKA4	NCKA3	NCKA2	NCKA1	NCKA0	
		–	–	NCEA5	NCEA4	NCEA3	NCEA2	NCEA1	NCEA0	
	TSRA	OVFA	–	ICFA5	ICFA4	ICFA3	ICFA2	ICFA1	ICFA0	
	TIERA	OVEA	–	ICEA5	ICEA4	ICEA3	ICEA2	ICEA1	ICEA0	
	NCNTA0	NCCNTA0[7:0]								
	NCRA0	NCTA0[7:0]								
	NCNTA1	NCCNTA1[7:0]								
	NCRA1	NCTA1[7:0]								
	NCNTA2	NCCNTA2[7:0]								
	NCRA2	NCTA2[7:0]								
	NCNTA3	NCCNTA3[7:0]								
	NCRA3	NCTA3[7:0]								
	NCNTA4	NCCNTA4[7:0]								
	NCRA4	NCTA4[7:0]								
	NCNTA5	NCCNTA5[7:0]								
	NCRA5	NCTA5[7:0]								

モジュール名	レジスタ名	31/23/15/7	30/22/14/6	29/21/13/5	28/20/12/4	27/19/11/3	26/18/10/2	25/17/9/1	24/16/8/0	
ATU-III	TCNTA	CNTA[31:24]								
		CNTA[23:16]								
		CNTA[15:8]								
		CNTA[7:0]								
	ICRA0	ICA0[31:24]								
		ICA0[23:16]								
		ICA0[15:8]								
		ICA0[7:0]								
	ICRA1	ICA1[31:24]								
		ICA1[23:16]								
		ICA1[15:8]								
		ICA1[7:0]								
	ICRA2	ICA2[31:24]								
		ICA2[23:16]								
		ICA2[15:8]								
		ICA2[7:0]								
	ICRA3	ICA3[31:24]								
		ICA3[23:16]								
		ICA3[15:8]								
		ICA3[7:0]								
	ICRA4	ICA4[31:24]								
		ICA4[23:16]								
		ICA4[15:8]								
		ICA4[7:0]								
	ICRA5	ICA5[31:24]								
		ICA5[23:16]								
		ICA5[15:8]								
		ICA5[7:0]								
	TCRB	–	–	–	–	–	–	–	CKSELB	
	TIORB	LDSEL	CTCNTB5	EVCNTB	LDEN	CCS	–	–	IOB6	
	TSRB	–	–	–	–	CMFB6	CMFB1	ICFB0	CMFB0	
	TIERB	–	–	IREG		CMEB6	CMEB1	ICEB0	CMEB0	
TCNTB0	CNTB0									
	CNTB0									
	CNTB0									
	CNTB0									

モジュール名	レジスタ名	31/23/15/7	30/22/14/6	29/21/13/5	28/20/12/4	27/19/11/3	26/18/10/2	25/17/9/1	24/16/8/0	
ATU-III	ICRB0	ICB0								
		ICB0								
		ICB0								
		ICB0								
	OCRB0	OCB0								
		OCB0								
		OCB0								
		OCB0								
	TCNTB1	CNTB1								
	OCRB1	OCB1								
	ICRB1	ICB1								
		ICB1								
		ICB1								
		ICB1								
	ICRB2	ICB2								
		ICB2								
		ICB2								
		ICB2								
	LDB	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		LDVAL								
		LDVAL								
		LDVAL								
	RLDB	RLDVAL								
		RLDVAL								
		RLDVAL								
		-	-	-	-	-	-	-	-	-
	PIMR	-	-	-	-	PIM				
		PIM								
	TCNTB2	CNTB2								
		CNTB2								
		CNTB2								
		-	-	-	-	-	-	-	-	-
	TCNTB6	CNTB6								
		CNTB6								
		CNTB6				-	-	-	-	
		-	-	-	-	-	-	-	-	

モジュール名	レジスタ名	31/23/15/7	30/22/14/6	29/21/13/5	28/20/12/4	27/19/11/3	26/18/10/2	25/17/9/1	24/16/8/0
ATU-III	OCRB6	OCB6							
		OCB6							
		OCB6				-	-	-	-
		-	-	-	-	-	-	-	-
	OCRB7	OCB7							
		OCB7							
		OCB7				-	-	-	-
		-	-	-	-	-	-	-	-
	TCNTB3	CNTB3							
		CNTB3							
		CNTB3				-	-	-	-
		-	-	-	-	-	-	-	-
	TCNTB4	CNTB4							
		CNTB4							
		CNTB4				-	-	-	-
		-	-	-	-	-	-	-	-
	TCNTB5	CNTB5							
		CNTB5							
		CNTB5				-	-	-	-
		-	-	-	-	-	-	-	-
	TCCLRB	CCLRB							
		CCLRB							
		CCLRB				-	-	-	-
		-	-	-	-	-	-	-	-
	TSTRC	-	-	-	STRC4	STRC3	STRC2	STRC1	STRC0
	NCCRC0	-	-	-	-	NCEC03	NCEC02	NCEC01	NCEC00
	NCCRC1	-	-	-	-	NCEC13	NCEC12	NCEC11	NCEC10
	NCCRC2	-	-	-	-	NCEC23	NCEC22	NCEC21	NCEC20
	NCCRC3	-	-	-	-	NCEC33	NCEC32	NCEC31	NCEC30
	NCCRC4	-	-	-	-	NCEC43	NCEC42	NCEC41	NCEC40
	NCNTC00	NCNTC00[7:0]							
	NCNTC01	NCNTC01[7:0]							
NCNTC02	NCNTC02[7:0]								
NCNTC03	NCNTC03[7:0]								
NCRC00	NCRC00[7:0]								
NCRC01	NCRC01[7:0]								
NCRC02	NCRC02[7:0]								

モジュール名	レジスタ名	31/23/15/7	30/22/14/6	29/21/13/5	28/20/12/4	27/19/11/3	26/18/10/2	25/17/9/1	24/16/8/0
ATU-III	NCRC03	NCRC03[7:0]							
	NCNTC10	NCNTC10[7:0]							
	NCNTC11	NCNTC11[7:0]							
	NCNTC12	NCNTC12[7:0]							
	NCNTC13	NCNTC13[7:0]							
	NCRC10	NCRC10[7:0]							
	NCRC11	NCRC11[7:0]							
	NCRC12	NCRC12[7:0]							
	NCRC13	NCRC13[7:0]							
	NCNTC20	NCNTC20[7:0]							
	NCNTC21	NCNTC21[7:0]							
	NCNTC22	NCNTC22[7:0]							
	NCNTC23	NCNTC23[7:0]							
	NCRC20	NCRC20[7:0]							
	NCRC21	NCRC21[7:0]							
	NCRC22	NCRC22[7:0]							
	NCRC23	NCRC23[7:0]							
	NCNTC30	NCNTC30[7:0]							
	NCNTC31	NCNTC31[7:0]							
	NCNTC32	NCNTC32[7:0]							
	NCNTC33	NCNTC33[7:0]							
	NCRC30	NCRC30[7:0]							
	NCRC31	NCRC31[7:0]							
	NCRC32	NCRC32[7:0]							
	NCRC33	NCRC33[7:0]							
	NCNTC40	NCNTC40[7:0]							
	NCNTC41	NCNTC41[7:0]							
	NCNTC42	NCNTC42[7:0]							
	NCNTC43	NCNTC43[7:0]							
	NCRC40	NCRC40[7:0]							
	NCRC41	NCRC41[7:0]							
	NCRC42	NCRC42[7:0]							
	NCRC43	NCRC43[7:0]							
TCRC0	FCMC03	FCMC02	FCMC01	FCMC00	PWM00	CKSELCO[2:0]			
TIERC0	—	—	—	OVEC0	IMEC03	IMEC02	IMEC01	IMEC00	

モジュール名	レジスタ名	31/23/15/7	30/22/14/6	29/21/13/5	28/20/12/4	27/19/11/3	26/18/10/2	25/17/9/1	24/16/8/0	
ATU-III	TIORC0	—	IOC03[2:0]			—	IOC02[2:0]			
		—	IOC01[2:0]			—	IOC00[2:0]			
	TSRC0	—	—	—	OVFC0	IMFC03	IMFC02	IMFC01	IMFC00	
	GRC00									
		—	—	—	—	—	—	—	—	—
	GRC01									
		—	—	—	—	—	—	—	—	—
	GRC02									
		—	—	—	—	—	—	—	—	—
	GRC03									
		—	—	—	—	—	—	—	—	—
	TCNTC0									
		—	—	—	—	—	—	—	—	—
	TCRC1	FCMC13	FCMC12	FCMC11	FCMC10	PWM10	CKSEL1[2:0]			
	TIERC1	—	—	—	OVEC1	IMEC13	IMEC12	IMEC11	IMEC10	
	TIORC1	—	IOC13[2:0]			—	IOC12[2:0]			
		—	IOC11[2:0]			—	IOC10[2:0]			
	TSRC1	—	—	—	OVFC1	IMFC13	IMFC12	IMFC11	IMFC10	
	GRC10									
		—	—	—	—	—	—	—	—	—
	GRC11									
		—	—	—	—	—	—	—	—	—

モジュール名	レジスタ名	31/23/15/7	30/22/14/6	29/21/13/5	28/20/12/4	27/19/11/3	26/18/10/2	25/17/9/1	24/16/8/0	
ATU-III	GRC12									
		-	-	-	-	-	-	-	-	
	GRC13									
		-	-	-	-	-	-	-	-	-
	TCNTC1									
		-	-	-	-	-	-	-	-	-
	TCRC2	FCMC23	FCMC22	FCMC21	FCMC20	PWM20	CKSEL2[2:0]			
	TIERC2	-	-	-	OVEC2	IMEC23	IMEC22	IMEC21	IMEC20	
	TIORC2	-	IOC23[2:0]			-	IOC22[2:0]			
		-	IOC21[2:0]			-	IOC20[2:0]			
	TSRC2	-	-	-	OVFC2	IMFC23	IMFC22	IMFC21	IMFC20	
	GRC20									
		-	-	-	-	-	-	-	-	-
	GRC21									
		-	-	-	-	-	-	-	-	-
	GRC22									
		-	-	-	-	-	-	-	-	-
	GRC23									
		-	-	-	-	-	-	-	-	-
	TCNTC2									
		-	-	-	-	-	-	-	-	-

モジュール名	レジスタ名	31/23/15/7	30/22/14/6	29/21/13/5	28/20/12/4	27/19/11/3	26/18/10/2	25/17/9/1	24/16/8/0	
ATU-III	TCRC3	FCMC33	FCMC32	FCMC31	FCMC30	PWM30	CKSEL3[2:0]			
	TIERC3	—	—	—	OVEC3	IMEC33	IMEC32	IMEC31	IMEC30	
	TIORC3	—	IOC33[2:0]			—	IOC32[2:0]			
		—	IOC31[2:0]			—	IOC30[2:0]			
	TSRC3	—	—	—	OVFC3	IMFC33	IMFC32	IMFC31	IMFC30	
	GRC30									
		—	—	—	—	—	—	—	—	—
	GRC31									
		—	—	—	—	—	—	—	—	—
	GRC32									
		—	—	—	—	—	—	—	—	—
	GRC33									
		—	—	—	—	—	—	—	—	—
	TCNTC3									
		—	—	—	—	—	—	—	—	—
	TCRC4	FCMC43	FCMC42	FCMC41	FCMC40	PWM40	CKSEL4[2:0]			
	TIERC4	—	—	—	OVEC4	IMEC43	IMEC42	IMEC41	IMEC40	
	TIORC4	—	IOC43[2:0]			—	IOC42[2:0]			
		—	IOC41[2:0]			—	IOC40[2:0]			
	TSRC4	—	—	—	OVFC4	IMFC43	IMFC42	IMFC41	IMFC40	
	GRC40									
		—	—	—	—	—	—	—	—	—

モジュール名	レジスタ名	31/23/15/7	30/22/14/6	29/21/13/5	28/20/12/4	27/19/11/3	26/18/10/2	25/17/9/1	24/16/8/0	
ATU-III	GRC41									
		-	-	-	-	-	-	-	-	
	GRC42									
		-	-	-	-	-	-	-	-	-
	GRC43									
		-	-	-	-	-	-	-	-	-
	TCNTC4									
		-	-	-	-	-	-	-	-	-
	TSTRD	-	-	-	-	STRD3	STRD2	STRD1	STRD0	
	TCNT1D0									
		-	-	-	-	-	-	-	-	-
	TCNT2D0									
		-	-	-	-	-	-	-	-	-
	OSBRD0									
		-	-	-	-	-	-	-	-	-
	TCRD0	-	OBRED0	C2CED0	C1CED0	-	CKSEL2D0[2:0]			
		-	CKSEL1D0[2:0]			-	DCSEL0[2:0]			
	TOCRD0	-	-	-	-	-	-	TONEBD0	TONEAD0	
	CMPOD0	CMPBD03	CMPBD02	CMPBD01	CMPBD00	CMPAD03	CMPAD02	CMPAD01	CMPAD00	
	TCNT1D1									
		-	-	-	-	-	-	-	-	-

モジュール名	レジスタ名	31/23/15/7	30/22/14/6	29/21/13/5	28/20/12/4	27/19/11/3	26/18/10/2	25/17/9/1	24/16/8/0	
ATU-III	TCNT2D1									
		-	-	-	-	-	-	-	-	
	OSBRD1									
		-	-	-	-	-	-	-	-	-
	TCRD1	-	OBRED1	C2CED1	C1CED1	-	CKSEL2D1[2:0]			
		-	CKSEL1D1[2:0]			-	DCSEL1D1[2:0]			
	TOCRD1	-	-	-	-	-	-	TONEBD1	TONEAD1	
	CMPOD1	CMPBD13	CMPBD12	CMPBD11	CMPBD10	CMPAD13	CMPAD12	CMPAD11	CMPAD10	
	TCNT1D2									
		-	-	-	-	-	-	-	-	-
	TCNT2D2									
		-	-	-	-	-	-	-	-	-
	OSBRD2									
		-	-	-	-	-	-	-	-	-
	TCRD2	-	OBRED2	C2CED2	C1CED2	-	CKSEL2D2[2:0]			
		-	CKSEL1D2[2:0]			-	DCSEL2D2[2:0]			
	TOCRD2	-	-	-	-	-	-	TONEBD2	TONEAD2	
	TCNT1D3									
		-	-	-	-	-	-	-	-	-
	TCNT2D3									
		-	-	-	-	-	-	-	-	-

モジュール名	レジスタ名	31/23/15/7	30/22/14/6	29/21/13/5	28/20/12/4	27/19/11/3	26/18/10/2	25/17/9/1	24/16/8/0	
ATU-III	OSBRD3									
		-	-	-	-	-	-	-	-	
	TCRD3	-	OBRED3	C2CED3	C1CED3	-	CKSEL2D3[2:0]			
		-	CKSEL1D3[2:0]			-	DCSEL3[2:0]			
	TOCRD3	-	-	-	-	-	-	TONEBD3	TONEAD3	
	TIOR1D0	OSSD03[1:0]		OSSD02[1:0]		OSSD01[1:0]		OSSD00[1:0]		
		IOAD03[1:0]		IOAD02[1:0]		IOAD01[1:0]		IOAD00[1:0]		
	TIOR2D0	-	IOBD03[2:0]			-	IOBD02[2:0]			
		-	IOBD01[2:0]			-	IOBD00[2:0]			
	DSTRD0	-	-	-	-	DSTD03	DSTD02	DSTD01	DSTD00	
	DSRD0	-	-	-	-	DSFD03	DSFD02	DSFD01	DSFD00	
	DCRD0	-	TRGSEL3[2:0]			-	TRGSEL2[2:0]			
		-	TRGSEL1[2:0]			-	TRGSEL0[2:0]			
	TSRD0	-	-	OVF2D0	OVF1D0	UDFD03	UDFD02	UDFD01	UDFD00	
		CMFAD03	CMFAD02	CMFAD01	CMFAD00	CMFBD03	CMFBD02	CMFBD01	CMFBD00	
	TIERD0	-	-	OVE2D0	OVE1D0	UDED03	UDED02	UDED01	UDED00	
		CMEAD03	CMEAD02	CMEAD01	CMEAD00	CMEBD03	CMEBD02	CMEBD01	CMEBD00	
	OCRD00									
		-	-	-	-	-	-	-	-	
	OCRD01									
		-	-	-	-	-	-	-	-	
	OCRD02									
		-	-	-	-	-	-	-	-	
	OCRD03									
		-	-	-	-	-	-	-	-	

モジュール名	レジスタ名	31/23/15/7	30/22/14/6	29/21/13/5	28/20/12/4	27/19/11/3	26/18/10/2	25/17/9/1	24/16/8/0	
ATU-III	GRD00									
		-	-	-	-	-	-	-	-	
	GRD01									
		-	-	-	-	-	-	-	-	-
	GRD02									
		-	-	-	-	-	-	-	-	-
	GRD03									
		-	-	-	-	-	-	-	-	-
	DCNTD00									
		-	-	-	-	-	-	-	-	-
	DCNTD01									
		-	-	-	-	-	-	-	-	-
	DCNTD02									
		-	-	-	-	-	-	-	-	-
	DCNTD03									
		-	-	-	-	-	-	-	-	-
	TIOR1D1		OSSD13[1:0]		OSSD12[1:0]		OSSD11[1:0]		OSSD10[1:0]	
			IOAD13[1:0]		IOAD12[1:0]		IOAD11[1:0]		IOAD10[1:0]	
	TIOR2D1		-	IOBD13[2:0]			-	IOBD12[2:0]		
			-	IOBD11[2:0]			-	IOBD10[2:0]		

モジュール名	レジスタ名	31/23/15/7	30/22/14/6	29/21/13/5	28/20/12/4	27/19/11/3	26/18/10/2	25/17/9/1	24/16/8/0
ATU-III	DSTRD1	-	-	-	-	DSTD13	DSTD12	DSTD11	DSTD10
	DSRD1	-	-	-	-	DSFD13	DSFD12	DSFD11	DSFD10
	DCRD1	-	TRGSELD13[2:0]			-	TRGSELD12[2:0]		
		-	TRGSELD11[2:0]			-	TRGSELD10[2:0]		
	TSRD1	-	-	OVF2D1	OVF1D1	UDFD13	UDFD12	UDFD11	UDFD10
		CMFAD13	CMFAD12	CMFAD11	CMFAD10	CMFBD13	CMFBD12	CMFBD11	CMFBD10
	TIERD1	-	-	OVE2D1	OVE1D1	UDED13	UDED12	UDED11	UDED10
		CMEAD13	CMEAD12	CMEAD11	CMEAD10	CMEBD13	CMEBD12	CMEBD11	CMEBD10
	OCRD10								
		-	-	-	-	-	-	-	-
	OCRD11								
		-	-	-	-	-	-	-	-
	OCRD12								
		-	-	-	-	-	-	-	-
	OCRD13								
		-	-	-	-	-	-	-	-
	GRD10								
		-	-	-	-	-	-	-	-
	GRD11								
		-	-	-	-	-	-	-	-
	GRD12								
		-	-	-	-	-	-	-	-

モジュール名	レジスタ名	31/23/15/7	30/22/14/6	29/21/13/5	28/20/12/4	27/19/11/3	26/18/10/2	25/17/9/1	24/16/8/0
ATU-III	GRD13								
		-	-	-	-	-	-	-	-
	DCNTD10								
		-	-	-	-	-	-	-	-
	DCNTD11								
		-	-	-	-	-	-	-	-
	DCNTD12								
		-	-	-	-	-	-	-	-
	DCNTD13								
		-	-	-	-	-	-	-	-
	TIOR1D2	OSSD23[1:0]		OSSD22[1:0]		OSSD21[1:0]		OSSD20[1:0]	
		IOAD23[1:0]		IOAD22[1:0]		IOAD21[1:0]		IOAD20[1:0]	
	TIOR2D2	-	IOBD23[2:0]			-	IOBD22[2:0]		
		-	IOBD21[2:0]			-	IOBD20[2:0]		
	DSTRD2	-	-	-	-	DSTD23	DSTD22	DSTD21	DSTD20
	DSRD2	-	-	-	-	DSFD23	DSFD22	DSFD21	DSFD20
	DCRD2	-	TRGSELD23[2:0]			-	TRGSELD22[2:0]		
		-	TRGSELD21[2:0]			-	TRGSELD20[2:0]		
	TSRD2	-	-	OVF2D2	OVF1D2	UDFD23	UDFD22	UDFD21	UDFD20
		CMFAD23	CMFAD22	CMFAD21	CMFAD20	CMFBD23	CMFBD22	CMFBD21	CMFBD20
	TIERD2	-	-	OVE2D2	OVE1D2	UDED23	UDED22	UDED21	UDED20
		CMEAD23	CMEAD22	CMEAD21	CMEAD20	CMEBD23	CMEBD22	CMEBD21	CMEBD20
	OCD20								
		-	-	-	-	-	-	-	-

モジュール名	レジスタ名	31/23/15/7	30/22/14/6	29/21/13/5	28/20/12/4	27/19/11/3	26/18/10/2	25/17/9/1	24/16/8/0	
ATU-III	OCRD21									
		-	-	-	-	-	-	-	-	
	OCRD22									
		-	-	-	-	-	-	-	-	-
	OCRD23									
		-	-	-	-	-	-	-	-	-
	GRD20									
		-	-	-	-	-	-	-	-	-
	GRD21									
		-	-	-	-	-	-	-	-	-
	GRD22									
		-	-	-	-	-	-	-	-	-
	GRD23									
		-	-	-	-	-	-	-	-	-
	DCNTD20									
		-	-	-	-	-	-	-	-	-
	DCNTD21									
		-	-	-	-	-	-	-	-	-

モジュール名	レジスタ名	31/23/15/7	30/22/14/6	29/21/13/5	28/20/12/4	27/19/11/3	26/18/10/2	25/17/9/1	24/16/8/0
ATU-III	DCNTD22								
		-	-	-	-	-	-	-	-
	DCNTD23								
		-	-	-	-	-	-	-	-
	TIOR1D3	OSSD33[1:0]		OSSD32[1:0]		OSSD31[1:0]		OSSD30[1:0]	
		IOAD33[1:0]		IOAD32[1:0]		IOAD31[1:0]		IOAD30[1:0]	
	TIOR2D3	-	IOBD33[2:0]			-	IOBD32[2:0]		
		-	IOBD31[2:0]			-	IOBD30[2:0]		
	DSTRD3	-	-	-	-	DSTD33	DSTD32	DSTD31	DSTD30
	DSRD3	-	-	-	-	DSFD33	DSFD32	DSFD31	DSFD30
	DCRD3	-	TRGSELD33[2:0]			-	TRGSELD32[2:0]		
		-	TRGSELD31[2:0]			-	TRGSELD30[2:0]		
	TSRD3	-	-	OVF2D3	OVF1D3	UDFD33	UDFD32	UDFD31	UDFD30
		CMFAD33	CMFAD32	CMFAD31	CMFAD30	CMFBD33	CMFBD32	CMFBD31	CMFBD30
	TIERD3	-	-	OVE2D3	OVE1D3	UDED33	UDED32	UDED31	UDED30
		CMEAD33	CMEAD32	CMEAD31	CMEAD30	CMEBD33	CMEBD32	CMEBD31	CMEBD30
	OCRD30								
		-	-	-	-	-	-	-	-
	OCRD31								
		-	-	-	-	-	-	-	-
	OCRD32								
		-	-	-	-	-	-	-	-
	OCRD33								
		-	-	-	-	-	-	-	-

モジュール名	レジスタ名	31/23/15/7	30/22/14/6	29/21/13/5	28/20/12/4	27/19/11/3	26/18/10/2	25/17/9/1	24/16/8/0
ATU-III	GRD30								
		-	-	-	-	-	-	-	-
	GRD31								
		-	-	-	-	-	-	-	-
	GRD32								
		-	-	-	-	-	-	-	-
	GRD33								
		-	-	-	-	-	-	-	-
	DCNTD30								
		-	-	-	-	-	-	-	-
	DCNTD31								
		-	-	-	-	-	-	-	-
	DCNTD32								
		-	-	-	-	-	-	-	-
	DCNTD33								
		-	-	-	-	-	-	-	-
	TSTRE	-	-	STRE5	STRE4	STRE3	STRE2	STRE1	STRE0
	TCRE0	-	-	-	-	-	CKSELE0[2:0]		
	TOCRE0	-	-	-	-	TONEE03	TONEE02	TONEE01	TONEE00
	TIERE0	-	-	-	-	CMEE03	CMEE02	CMEE01	CMEE00
	RLDCRE0	-	-	-	-	RLDENE03	RLDENE02	RLDENE01	RLDENE00

モジュール名	レジスタ名	31/23/15/7	30/22/14/6	29/21/13/5	28/20/12/4	27/19/11/3	26/18/10/2	25/17/9/1	24/16/8/0
ATU-III	TSRE0	OVFE03	OVFE02	OVFE01	OVFE00	CMFE03	CMFE02	CMFE01	CMFE00
	PSCRE0	—	—	—	—	—	PSCE0[2:0]		
	SSTRE0	—	—	—	—	SSTRE03	SSTRE02	SSTRE01	SSTRE00
	CYLRE00	CYLRE00[15:8]							
		CYLRE00[7:0]							
	CYLRE01	CYLRE01[15:8]							
		CYLRE01[7:0]							
	CYLRE02	CYLRE02[15:8]							
		CYLRE02[7:0]							
	CYLRE03	CYLRE03[15:8]							
		CYLRE03[7:0]							
	DTRE00	DTRE00[15:8]							
		DTRE00[7:0]							
	DTRE01	DTRE01[15:8]							
		DTRE01[7:0]							
	DTRE02	DTRE02[15:8]							
		DTRE02[7:0]							
	DTRE03	DTRE03[15:8]							
		DTRE03[7:0]							
	CRLDE00	CRLDE00[15:8]							
		CRLDE00[7:0]							
	CRLDE01	CRLDE01[15:8]							
		CRLDE01[7:0]							
	CRLDE02	CRLDE02[15:8]							
		CRLDE02[7:0]							
	CRLDE03	CRLDE03[15:8]							
		CRLDE03[7:0]							
	DRLDE00	DRLDE00[15:8]							
		DRLDE00[7:0]							
	DRLDE01	DRLDE01[15:8]							
		DRLDE01[7:0]							
	DRLDE02	DRLDE02[15:8]							
		DRLDE02[7:0]							
	DRLDE03	DRLDE03[15:8]							
		DRLDE03[7:0]							
	TCNTE00	TCNTE00[15:8]							
		TCNTE00[7:0]							

モジュール名	レジスタ名	31/23/15/7	30/22/14/6	29/21/13/5	28/20/12/4	27/19/11/3	26/18/10/2	25/17/9/1	24/16/8/0	
ATU-III	TCNTE01	TCNTE01[15:8]								
		TCNTE01[7:0]								
	TCNTE02	TCNTE02[15:8]								
		TCNTE02[7:0]								
	TCNTE03	TCNTE03[15:8]								
		TCNTE03[7:0]								
	TCRE1	-	-	-	-	-	CKSELE1[2:0]			
	TOCRE1	-	-	-	-	TONEE13	TONEE12	TONEE11	TONEE10	
	TIERE1	-	-	-	-	CMEE13	CMEE12	CMEE11	CMEE10	
	RLDCRE1	-	-	-	-	RLDENE13	RLDENE12	RLDENE11	RLDENE10	
	TSRE1	OVFE13	OVFE12	OVFE11	OVFE10	CMFE13	CMFE12	CMFE11	CMFE10	
	PSCRE1	-	-	-	-	-	PSCE1[2:0]			
	SSTRE1	-	-	-	-	SSTRE13	SSTRE12	SSTRE11	SSTRE10	
	CYLRE10	CYLRE10[15:8]								
		CYLRE10[7:0]								
	CYLRE11	CYLRE11[15:8]								
		CYLRE11[7:0]								
	CYLRE12	CYLRE12[15:8]								
		CYLRE12[7:0]								
	CYLRE13	CYLRE13[15:8]								
		CYLRE13[7:0]								
	DTRE10	DTRE10[15:8]								
		DTRE10[7:0]								
	DTRE11	DTRE11[15:8]								
		DTRE11[7:0]								
	DTRE12	DTRE12[15:8]								
		DTRE12[7:0]								
	DTRE13	DTRE13[15:8]								
		DTRE13[7:0]								
	CRLDE10	CRLDE10[15:8]								
		CRLDE10[7:0]								
	CRLDE11	CRLDE11[15:8]								
		CRLDE11[7:0]								
	CRLDE12	CRLDE12[15:8]								
		CRLDE12[7:0]								
	CRLDE13	CRLDE13[15:8]								
		CRLDE13[7:0]								

モジュール名	レジスタ名	31/23/15/7	30/22/14/6	29/21/13/5	28/20/12/4	27/19/11/3	26/18/10/2	25/17/9/1	24/16/8/0	
ATU-III	DRLDE10	DRLDE10[15:8]								
		DRLDE10[7:0]								
	DRLDE11	DRLDE11[15:8]								
		DRLDE11[7:0]								
	DRLDE12	DRLDE12[15:8]								
		DRLDE12[7:0]								
	DRLDE13	DRLDE13[15:8]								
		DRLDE13[7:0]								
	TCNTE10	TCNTE10[15:8]								
		TCNTE10[7:0]								
	TCNTE11	TCNTE11[15:8]								
		TCNTE11[7:0]								
	TCNTE12	TCNTE12[15:8]								
		TCNTE12[7:0]								
	TCNTE13	TCNTE13[15:8]								
		TCNTE13[7:0]								
	TCRE2	-	-	-	-	-	CKSELE2[2:0]			
	TOCRE2	-	-	-	-	-	TONEE23	TONEE22	TONEE21	TONEE20
	TIERE2	-	-	-	-	-	CMEE23	CMEE22	CMEE21	CMEE20
	RLDCRE2	-	-	-	-	-	RLDENE23	RLDENE22	RLDENE21	RLDENE20
	TSRE2	OVFE23	OVFE22	OVFE21	OVFE20	CMFE23	CMFE22	CMFE21	CMFE20	
	PSCRE2	-	-	-	-	-	PSCE2[2:0]			
	SSTRE2	-	-	-	-	-	SSTRE23	SSTRE22	SSTRE21	SSTRE20
	CYLRE20	CYLRE20[15:8]								
		CYLRE20[7:0]								
	CYLRE21	CYLRE21[15:8]								
		CYLRE21[7:0]								
	CYLRE22	CYLRE22[15:8]								
		CYLRE22[7:0]								
	CYLRE23	CYLRE23[15:8]								
		CYLRE23[7:0]								
	DTRE20	DTRE20[15:8]								
		DTRE20[7:0]								
DTRE21	DTRE21[15:8]									
	DTRE21[7:0]									
DTRE22	DTRE22[15:8]									
	DTRE22[7:0]									

モジュール名	レジスタ名	31/23/15/7	30/22/14/6	29/21/13/5	28/20/12/4	27/19/11/3	26/18/10/2	25/17/9/1	24/16/8/0	
ATU-III	DTRE23	DTRE23[15:8]								
		DTRE23[7:0]								
	CRLDE20	CRLDE20[15:8]								
		CRLDE20[7:0]								
	CRLDE21	CRLDE21[15:8]								
		CRLDE21[7:0]								
	CRLDE22	CRLDE22[15:8]								
		CRLDE22[7:0]								
	CRLDE23	CRLDE23[15:8]								
		CRLDE23[7:0]								
	DRLDE20	DRLDE20[15:8]								
		DRLDE20[7:0]								
	DRLDE21	DRLDE21[15:8]								
		DRLDE21[7:0]								
	DRLDE22	DRLDE22[15:8]								
		DRLDE22[7:0]								
	DRLDE23	DRLDE23[15:8]								
		DRLDE23[7:0]								
	TCNTE20	TCNTE20[15:8]								
		TCNTE20[7:0]								
	TCNTE21	TCNTE21[15:8]								
		TCNTE21[7:0]								
	TCNTE22	TCNTE22[15:8]								
		TCNTE22[7:0]								
	TCNTE23	TCNTE23[15:8]								
		TCNTE23[7:0]								
	TCRE3	-	-	-	-	-	CKSELE3[2:0]			
	TOCRE3	-	-	-	-	TONEE33	TONEE32	TONEE31	TONEE30	
	TIERE3	-	-	-	-	CMEE33	CMEE32	CMEE31	CMEE30	
	RLDCRE3	-	-	-	-	RLDENE33	RLDENE32	RLDENE31	RLDENE30	
	TSRE3	OVFE33	OVFE32	OVFE31	OVFE30	CMFE33	CMFE32	CMFE31	CMFE30	
	PSCRE3	-	-	-	-	-	PSCE3[2:0]			
	SSTRE3	-	-	-	-	SSTRE33	SSTRE32	SSTRE31	SSTRE30	
CYLRE30	CYLRE30[15:8]									
	CYLRE30[7:0]									
CYLRE31	CYLRE31[15:8]									
	CYLRE31[7:0]									

モジュール名	レジスタ名	31/23/15/7	30/22/14/6	29/21/13/5	28/20/12/4	27/19/11/3	26/18/10/2	25/17/9/1	24/16/8/0	
ATU-III	CYLRE32	CYLRE32[15:8]								
		CYLRE32[7:0]								
	CYLRE33	CYLRE33[15:8]								
		CYLRE33[7:0]								
	DTRE30	DTRE30[15:8]								
		DTRE30[7:0]								
	DTRE31	DTRE31[15:8]								
		DTRE31[7:0]								
	DTRE32	DTRE32[15:8]								
		DTRE32[7:0]								
	DTRE33	DTRE33[15:8]								
		DTRE33[7:0]								
	CRLDE30	CRLDE30[15:8]								
		CRLDE30[7:0]								
	CRLDE31	CRLDE31[15:8]								
		CRLDE31[7:0]								
	CRLDE32	CRLDE32[15:8]								
		CRLDE32[7:0]								
	CRLDE33	CRLDE33[15:8]								
		CRLDE33[7:0]								
	DRLDE30	DRLDE30[15:8]								
		DRLDE30[7:0]								
	DRLDE31	DRLDE31[15:8]								
		DRLDE31[7:0]								
	DRLDE32	DRLDE32[15:8]								
		DRLDE32[7:0]								
	DRLDE33	DRLDE33[15:8]								
		DRLDE33[7:0]								
	TCNTE30	TCNTE30[15:8]								
		TCNTE30[7:0]								
	TCNTE31	TCNTE31[15:8]								
		TCNTE31[7:0]								
	TCNTE32	TCNTE32[15:8]								
		TCNTE32[7:0]								
	TCNTE33	TCNTE33[15:8]								
		TCNTE33[7:0]								
	TCRE4	-	-	-	-	-	-	CKSELE4[2:0]		

モジュール名	レジスタ名	31/23/15/7	30/22/14/6	29/21/13/5	28/20/12/4	27/19/11/3	26/18/10/2	25/17/9/1	24/16/8/0	
ATU-III	TOCRE4	—	—	—	—	TONEE43	TONEE42	TONEE41	TONEE40	
	TIERE4	—	—	—	—	CMEE43	CMEE42	CMEE41	CMEE40	
	RLDCRE4	—	—	—	—	RLDENE43	RLDENE42	RLDENE41	RLDENE40	
	TSRE4	OVFE43	OVFE42	OVFE41	OVFE40	CMFE43	CMFE42	CMFE41	CMFE40	
	PSCRE4	—	—	—	—	—	PSCE4[2:0]			
	SSTRE4	—	—	—	—	SSTRE43	SSTRE42	SSTRE41	SSTRE40	
	CYLRE40	CYLRE40[15:8]								
		CYLRE40[7:0]								
	CYLRE41	CYLRE41[15:8]								
		CYLRE41[7:0]								
	CYLRE42	CYLRE42[15:8]								
		CYLRE42[7:0]								
	CYLRE43	CYLRE43[15:8]								
		CYLRE43[7:0]								
	DTRE40	DTRE40[15:8]								
		DTRE40[7:0]								
	DTRE41	DTRE41[15:8]								
		DTRE41[7:0]								
	DTRE42	DTRE42[15:8]								
		DTRE42[7:0]								
	DTRE43	DTRE43[15:8]								
		DTRE43[7:0]								
	CRLDE40	CRLDE40[15:8]								
		CRLDE40[7:0]								
	CRLDE41	CRLDE41[15:8]								
		CRLDE41[7:0]								
	CRLDE42	CRLDE42[15:8]								
		CRLDE42[7:0]								
	CRLDE43	CRLDE43[15:8]								
		CRLDE43[7:0]								
	DRLDE40	DRLDE40[15:8]								
		DRLDE40[7:0]								
	DRLDE41	DRLDE41[15:8]								
		DRLDE41[7:0]								
DRLDE42	DRLDE42[15:8]									
	DRLDE42[7:0]									

モジュール名	レジスタ名	31/23/15/7	30/22/14/6	29/21/13/5	28/20/12/4	27/19/11/3	26/18/10/2	25/17/9/1	24/16/8/0	
ATU-III	DRLDE43	DRLDE43[15:8]								
		DRLDE43[7:0]								
	TCNTE40	TCNTE40[15:8]								
		TCNTE40[7:0]								
	TCNTE41	TCNTE41[15:8]								
		TCNTE41[7:0]								
	TCNTE42	TCNTE42[15:8]								
		TCNTE42[7:0]								
	TCNTE43	TCNTE43[15:8]								
		TCNTE43[7:0]								
	TCRE5	-	-	-	-	-	-	CKSELE5[2:0]		
	TOCRE5	-	-	-	-	-	TONEE53	TONEE52	TONEE51	TONEE50
	TIERE5	-	-	-	-	-	CMEE53	CMEE52	CMEE51	CMEE50
	RLDCRE5	-	-	-	-	-	RLDENE53	RLDENE52	RLDENE51	RLDENE50
	TSRE5	OVFE53	OVFE52	OVFE51	OVFE50	CMFE53	CMFE52	CMFE51	CMFE50	
	PSCRE5	-	-	-	-	-	-	PSCE5[2:0]		
	SSTRE5	-	-	-	-	-	SSTRE53	SSTRE52	SSTRE51	SSTRE50
	CYLRE50	CYLRE50[15:8]								
		CYLRE50[7:0]								
	CYLRE51	CYLRE51[15:8]								
		CYLRE51[7:0]								
	CYLRE52	CYLRE52[15:8]								
		CYLRE52[7:0]								
	CYLRE53	CYLRE53[15:8]								
		CYLRE53[7:0]								
	DTRE50	DTRE50[15:8]								
		DTRE50[7:0]								
	DTRE51	DTRE51[15:8]								
		DTRE51[7:0]								
	DTRE52	DTRE52[15:8]								
		DTRE52[7:0]								
	DTRE53	DTRE53[15:8]								
DTRE53[7:0]										
CRLDE50	CRLDE50[15:8]									
	CRLDE50[7:0]									
CRLDE51	CRLDE51[15:8]									
	CRLDE51[7:0]									

モジュール名	レジスタ名	31/23/15/7	30/22/14/6	29/21/13/5	28/20/12/4	27/19/11/3	26/18/10/2	25/17/9/1	24/16/8/0	
ATU-III	CRLDE52	CRLDE52[15:8]								
		CRLDE52[7:0]								
	CRLDE53	CRLDE53[15:8]								
		CRLDE53[7:0]								
	DRLDE50	DRLDE50[15:8]								
		DRLDE50[7:0]								
	DRLDE51	DRLDE51[15:8]								
		DRLDE51[7:0]								
	DRLDE52	DRLDE52[15:8]								
		DRLDE52[7:0]								
	DRLDE53	DRLDE53[15:8]								
		DRLDE53[7:0]								
	TCNTE50	TCNTE50[15:8]								
		TCNTE50[7:0]								
	TCNTE51	TCNTE51[15:8]								
		TCNTE51[7:0]								
	TCNTE52	TCNTE52[15:8]								
		TCNTE52[7:0]								
	TCNTE53	TCNTE53[15:8]								
		TCNTE53[7:0]								
	TSTRF	–	–	–	–	–	–	–	–	–
		–	–	–	–	STRF19	STRF18	STRF17	STRF16	–
		STRF15	STRF14	STRF13	STRF12	STRF11	STRF10	STRF9	STRF8	–
		STRF7	STRF6	STRF5	STRF4	STRF3	STRF2	STRF1	STRF0	–
	NCCRF	–	–	–	–	–	–	–	–	–
		–	–	–	–	NCEF19	NCEF18	NCEF17	NCEF16	–
		NCEF15	NCEF14	NCEF13	NCEF12	NCEF11	NCEF10	NCEF9	NCEF8	–
		NCEF7	NCEF6	NCEF5	NCEF4	NCEF3	NCEF2	NCEF1	NCEF0	–
	NCNTFA0	NCNTFA0[7:0]								
	NCRFA0	NCTFA0[7:0]								
	NCNTFA1	NCNTFA1[7:0]								
	NCRFA1	NCTFA1[7:0]								
	NCNTFA2	NCNTFA2[7:0]								
	NCRFA2	NCTFA2[7:0]								
	NCNTFA3	NCNTFA3[7:0]								
	NCRFA3	NCTFA3[7:0]								

モジュール名	レジスタ名	31/23/15/7	30/22/14/6	29/21/13/5	28/20/12/4	27/19/11/3	26/18/10/2	25/17/9/1	24/16/8/0
ATU-III	NCNTFA4	NCNTFA4[7:0]							
	NCRFA4	NCTFA4[7:0]							
	NCNTFA5	NCNTFA5[7:0]							
	NCRFA5	NCTFA5[7:0]							
	NCNTFA6	NCNTFA6[7:0]							
	NCRFA6	NCTFA6[7:0]							
	NCNTFA7	NCNTFA7[7:0]							
	NCRFA7	NCTFA7[7:0]							
	NCNTFA8	NCNTFA8[7:0]							
	NCRFA8	NCTFA8[7:0]							
	NCNTFA9	NCNTFA9[7:0]							
	NCRFA9	NCTFA9[7:0]							
	NCNTFA10	NCNTFA10[7:0]							
	NCRFA10	NCTFA10[7:0]							
	NCNTFA11	NCNTFA11[7:0]							
	NCRFA11	NCTFA11[7:0]							
	NCNTFA12	NCNTFA12[7:0]							
	NCRFA12	NCTFA12[7:0]							
	NCNTFA13	NCNTFA13[7:0]							
	NCRFA13	NCTFA13[7:0]							
	NCNTFA14	NCNTFA14[7:0]							
	NCRFA14	NCTFA14[7:0]							
	NCNTFA15	NCNTFA15[7:0]							
	NCRFA15	NCTFA15[7:0]							
	NCNTFA16	NCNTFA16[7:0]							
	NCRFA16	NCTFA16[7:0]							
	NCNTFA17	NCNTFA17[7:0]							
	NCRFA17	NCTFA17[7:0]							
	NCNTFA18	NCNTFA18[7:0]							
	NCRFA18	NCTFA18[7:0]							
	NCNTFA19	NCNTFA19[7:0]							
	NCRFA19	NCTFA19[7:0]							
NCNTFB0	NCNTFB0[7:0]								
NCRFB0	NCTFB0[7:0]								
NCNTFB1	NCNTFB1[7:0]								
NCRFB1	NCTFB1[7:0]								

モジュール名	レジスタ名	31/23/15/7	30/22/14/6	29/21/13/5	28/20/12/4	27/19/11/3	26/18/10/2	25/17/9/1	24/16/8/0
ATU-III	NCNTFB2	NCNTFB2[7:0]							
	NCRFB2	NCTFB2[7:0]							
	TCRF0	CKSELF0[2:0]			MDF0[2:0]			EGSELF0[1:0]	
	TIERF0	-	-	-	-	OVECF0	OVEBF0	OVEAF0	ICEF0
	TSRF0	-	-	-	-	OVFCF0	OVFBF0	OVFAF0	ICFF0
	ECNTAF0	ECNTAF0[23:16]							
		ECNTAF0[15:8]							
		ECNTAF0[7:0]							
		-	-	-	-	-	-	-	-
	ECNTBF0	ECNTBF0[15:8]							
		ECNTBF0[7:0]							
	GRBF0	GRBF0[15:8]							
		GRBF0[7:0]							
	ECNTCF0	ECNTCF0[23:16]							
		ECNTCF0[15:8]							
		ECNTCF0[7:0]							
		-	-	-	-	-	-	-	-
	GRAF0	GRAF0[23:16]							
		GRAF0[15:8]							
		GRAF0[7:0]							
		-	-	-	-	-	-	-	-
	CDRF0	CDRF0[23:16]							
		CDRF0[15:8]							
		CDRF0[7:0]							
		-	-	-	-	-	-	-	-
	GRCF0	GRCF0[23:16]							
		GRCF0[15:8]							
		GRCF0[7:0]							
		-	-	-	-	-	-	-	-
	TCRF1	CKSELF1[2:0]			MDF1[2:0]			EGSELF1[1:0]	
	TIERF1	-	-	-	-	OVECF1	OVEBF1	OVEAF1	ICEF1
	TSRF1	-	-	-	-	OVFCF1	OVFBF1	OVFAF1	ICFF1
	ECNTAF1	ECNTAF1[23:16]							
ECNTAF1[15:8]									
ECNTAF1[7:0]									
-		-	-	-	-	-	-	-	

モジュール名	レジスタ名	31/23/15/7	30/22/14/6	29/21/13/5	28/20/12/4	27/19/11/3	26/18/10/2	25/17/9/1	24/16/8/0	
ATU-III	ECNTBF1	ECNTBF1[15:8]								
		ECNTBF1[7:0]								
	GRBF1	GRBF1[15:8]								
		GRBF1[7:0]								
	ECNTCF1	ECNTCF1[23:16]								
		ECNTCF1[15:8]								
		ECNTCF1[7:0]								
		-	-	-	-	-	-	-	-	-
	GRAF1	GRAF1[23:16]								
		GRAF1[15:8]								
		GRAF1[7:0]								
		-	-	-	-	-	-	-	-	-
	CDRF1	CDRF1[23:16]								
		CDRF1[15:8]								
		CDRF1[7:0]								
		-	-	-	-	-	-	-	-	-
	GRCF1	GRCF1[23:16]								
		GRCF1[15:8]								
		GRCF1[7:0]								
		-	-	-	-	-	-	-	-	-
	TCRF2	CKSELF2[2:0]			MDF2[2:0]			EGSELF2[1:0]		
	TIERF2	-	-	-	-	OVECF2	OVFBF2	OVEAF2	ICEF2	
	TSRF2	-	-	-	-	OVFCF2	OVFBF2	OVFAF2	ICFF2	
	ECNTAF2	ECNTAF2[23:16]								
		ECNTAF2[15:8]								
		ECNTAF2[7:0]								
		-	-	-	-	-	-	-	-	-
	ECNTBF2	ECNTBF2[15:8]								
		ECNTBF2[7:0]								
	GRBF2	GRBF2[15:8]								
		GRBF2[7:0]								
	ECNTCF2	ECNTCF2[23:16]								
		ECNTCF2[15:8]								
ECNTCF2[7:0]										
-		-	-	-	-	-	-	-	-	

モジュール名	レジスタ名	31/23/15/7	30/22/14/6	29/21/13/5	28/20/12/4	27/19/11/3	26/18/10/2	25/17/9/1	24/16/8/0	
ATU-III	GRAF2	GRAF2[23:16]								
		GRAF2[15:8]								
		GRAF2[7:0]								
		-	-	-	-	-	-	-	-	
	CDRF2	CDRF2[23:16]								
		CDRF2[15:8]								
		CDRF2[7:0]								
		-	-	-	-	-	-	-	-	
	GRCF2	GRCF2[23:16]								
		GRCF2[15:8]								
		GRCF2[7:0]								
		-	-	-	-	-	-	-	-	
	TCRF3	CKSELF3[2:0]			MDF3[2:0]			EGSELF3[1:0]		
	TIERF3	-	-	-	-	OVECF3	OVEBF3	OVEAF3	ICEF3	
	TSRF3	-	-	-	-	OVFCF3	OVFBF3	OVFAF3	ICFF3	
	ECNTAF3	ECNTAF3[23:16]								
		ECNTAF3[15:8]								
		ECNTAF3[7:0]								
		-	-	-	-	-	-	-	-	
	ECNTBF3	ECNTBF3[15:8]								
		ECNTBF3[7:0]								
	GRBF3	GRBF3[15:8]								
		GRBF3[7:0]								
	ECNTCF3	ECNTCF3[23:16]								
		ECNTCF3[15:8]								
		ECNTCF3[7:0]								
		-	-	-	-	-	-	-	-	
	GRAF3	GRAF3[23:16]								
		GRAF3[15:8]								
		GRAF3[7:0]								
		-	-	-	-	-	-	-	-	
	CDRF3	CDRF3[23:16]								
		CDRF3[15:8]								
CDRF3[7:0]										
-		-	-	-	-	-	-	-		

モジュール名	レジスタ名	31/23/15/7	30/22/14/6	29/21/13/5	28/20/12/4	27/19/11/3	26/18/10/2	25/17/9/1	24/16/8/0	
ATU-III	GRCF3	GRCF3[23:16]								
		GRCF3[15:8]								
		GRCF3[7:0]								
		-	-	-	-	-	-	-	-	-
	TCRF4	CKSELF4[2:0]			MDF4[2:0]			EGSELF4[1:0]		
	TIERF4	-	-	-	-	OVECF4	OVEBF4	OVEAF4	ICEF4	
	TSRF4	-	-	-	-	OVFCF4	OVFBF4	OVFAF4	ICFF4	
	ECNTAF4	ECNTAF4[23:16]								
		ECNTAF4[15:8]								
		ECNTAF4[7:0]								
		-	-	-	-	-	-	-	-	-
	ECNTBF4	ECNTBF4[15:8]								
		ECNTBF4[7:0]								
	GRBF4	GRBF4[15:8]								
		GRBF4[7:0]								
	ECNTCF4	ECNTCF4[23:16]								
		ECNTCF4[15:8]								
		ECNTCF4[7:0]								
		-	-	-	-	-	-	-	-	-
	GRAF4	GRAF4[23:16]								
		GRAF4[15:8]								
		GRAF4[7:0]								
		-	-	-	-	-	-	-	-	-
	CDRF4	CDRF4[23:16]								
		CDRF4[15:8]								
		CDRF4[7:0]								
		-	-	-	-	-	-	-	-	-
GRCF4	GRCF4[23:16]									
	GRCF4[15:8]									
	GRCF4[7:0]									
	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
TCRF5	CKSELF5[2:0]			MDF5[2:0]			EGSELF5[1:0]			
TIERF5	-	-	-	-	OVECF5	OVEBF5	OVEAF5	ICEF5		
TSRF5	-	-	-	-	OVFCF5	OVFBF5	OVFAF5	ICFF5		

モジュール名	レジスタ名	31/23/15/7	30/22/14/6	29/21/13/5	28/20/12/4	27/19/11/3	26/18/10/2	25/17/9/1	24/16/8/0	
ATU-III	ECNTAF5	ECNTAF5[23:16]								
		ECNTAF5[15:8]								
		ECNTAF5[7:0]								
		-	-	-	-	-	-	-	-	
	ECNTBF5	ECNTBF5[15:8]								
		ECNTBF5[7:0]								
	GRBF5	GRBF5[15:8]								
		GRBF5[7:0]								
	ECNTCF5	ECNTCF5[23:16]								
		ECNTCF5[15:8]								
		ECNTCF5[7:0]								
		-	-	-	-	-	-	-	-	
	GRAF5	GRAF5[23:16]								
		GRAF5[15:8]								
		GRAF5[7:0]								
		-	-	-	-	-	-	-	-	
	CDRF5	CDRF5[23:16]								
		CDRF5[15:8]								
		CDRF5[7:0]								
		-	-	-	-	-	-	-	-	
	GRCF5	GRCF5[23:16]								
		GRCF5[15:8]								
		GRCF5[7:0]								
		-	-	-	-	-	-	-	-	
	TCRF6	CKSELF6[2:0]			MDF6[2:0]			EGSELF6[1:0]		
	TIERF6	-	-	-	-	OVECF6	OVEBF6	OVEAF6	ICEF6	
	TSRF6	-	-	-	-	OVFCF6	OVFBF6	OVFAF6	ICFF6	
	ECNTAF6	ECNTAF6[23:16]								
		ECNTAF6[15:8]								
		ECNTAF6[7:0]								
		-	-	-	-	-	-	-	-	
	ECNTBF6	ECNTBF6[15:8]								
		ECNTBF6[7:0]								
GRBF6	GRBF6[15:8]									
	GRBF6[7:0]									

モジュール名	レジスタ名	31/23/15/7	30/22/14/6	29/21/13/5	28/20/12/4	27/19/11/3	26/18/10/2	25/17/9/1	24/16/8/0	
ATU-III	ECNTCF6	ECNTCF6[23:16]								
		ECNTCF6[15:8]								
		ECNTCF6[7:0]								
		-	-	-	-	-	-	-	-	
	GRAF6	GRAF6[23:16]								
		GRAF6[15:8]								
		GRAF6[7:0]								
		-	-	-	-	-	-	-	-	
	CDRF6	CDRF6[23:16]								
		CDRF6[15:8]								
		CDRF6[7:0]								
		-	-	-	-	-	-	-	-	
	GRCF6	GRCF6[23:16]								
		GRCF6[15:8]								
		GRCF6[7:0]								
		-	-	-	-	-	-	-	-	
	TCRF7	CKSELF7[2:0]			MDF7[2:0]			EGSELF7[1:0]		
	TIERF7	-	-	-	-	OVECF7	OVEBF7	OVEAF7	ICEF7	
	TSRF7	-	-	-	-	OVFCF7	OVFBF7	OVFAF7	ICFF7	
	ECNTAF7	ECNTAF7[23:16]								
		ECNTAF7[15:8]								
		ECNTAF7[7:0]								
		-	-	-	-	-	-	-	-	
	ECNTBF7	ECNTBF7[15:8]								
		ECNTBF7[7:0]								
	GRBF7	GRBF7[15:8]								
		GRBF7[7:0]								
	ECNTCF7	ECNTCF7[23:16]								
		ECNTCF7[15:8]								
		ECNTCF7[7:0]								
		-	-	-	-	-	-	-	-	
	GRAF7	GRAF7[23:16]								
		GRAF7[15:8]								
GRAF7[7:0]										
-		-	-	-	-	-	-	-		

モジュール名	レジスタ名	31/23/15/7	30/22/14/6	29/21/13/5	28/20/12/4	27/19/11/3	26/18/10/2	25/17/9/1	24/16/8/0	
ATU-III	CDRF7	CDRF7[23:16]								
		CDRF7[15:8]								
		CDRF7[7:0]								
		-	-	-	-	-	-	-	-	
	GRCF7	GRCF7[23:16]								
		GRCF7[15:8]								
		GRCF7[7:0]								
		-	-	-	-	-	-	-	-	
	TCRF8	CKSELF8[2:0]			MDF8[2:0]			EGSELF8[1:0]		
	TIERF8	-	-	-	-	OVECF8	OVEBF8	OVEAF8	ICEF8	
	TSRF8	-	-	-	-	OVFCF8	OVFBF8	OVFAF8	ICFF8	
	ECNTAF8	ECNTAF8[23:16]								
		ECNTAF8[15:8]								
		ECNTAF8[7:0]								
		-	-	-	-	-	-	-	-	
	ECNTBF8	ECNTBF8[15:8]								
		ECNTBF8[7:0]								
	GRBF8	GRBF8[15:8]								
		GRBF8[7:0]								
	ECNTCF8	ECNTCF8[23:16]								
		ECNTCF8[15:8]								
		ECNTCF8[7:0]								
		-	-	-	-	-	-	-	-	
	GRAF8	GRAF8[23:16]								
		GRAF8[15:8]								
		GRAF8[7:0]								
		-	-	-	-	-	-	-	-	
	CDRF8	CDRF8[23:16]								
		CDRF8[15:8]								
		CDRF8[7:0]								
		-	-	-	-	-	-	-	-	
	GRCF8	GRCF8[23:16]								
		GRCF8[15:8]								
GRCF8[7:0]										
-		-	-	-	-	-	-	-		
TCRF9	CKSELF9[2:0]			MDF9[2:0]			EGSELF9[1:0]			
TIERF9	-	-	-	-	OVECF9	OVEBF9	OVEAF9	ICEF9		

モジュール名	レジスタ名	31/23/15/7	30/22/14/6	29/21/13/5	28/20/12/4	27/19/11/3	26/18/10/2	25/17/9/1	24/16/8/0	
ATU-III	TSRF9	-	-	-	-	OVFCF9	OVFBF9	OVFAF9	ICFF9	
	ECNTAF9	ECNTAF9[23:16]								
		ECNTAF9[15:8]								
		ECNTAF9[7:0]								
		-	-	-	-	-	-	-	-	-
	ECNTBF9	ECNTBF9[15:8]								
		ECNTBF9[7:0]								
	GRBF9	GRBF9[15:8]								
		GRBF9[7:0]								
	ECNTCF9	ECNTCF9[23:16]								
		ECNTCF9[15:8]								
		ECNTCF9[7:0]								
		-	-	-	-	-	-	-	-	-
	GRAF9	GRAF9[23:16]								
		GRAF9[15:8]								
		GRAF9[7:0]								
		-	-	-	-	-	-	-	-	-
	CDRF9	CDRF9[23:16]								
		CDRF9[15:8]								
		CDRF9[7:0]								
		-	-	-	-	-	-	-	-	-
	GRCF9	GRCF9[23:16]								
		GRCF9[15:8]								
		GRCF9[7:0]								
		-	-	-	-	-	-	-	-	-
	TCRF10	CKSELF10[2:0]			MDF10[2:0]			EGSELF10[1:0]		
	TIERF10	-	-	-	-	OVECF10	OVEBF10	OVEAF10	ICEF10	
	TSRF10	-	-	-	-	OVFCF10	OVFBF10	OVFAF10	ICFF10	
	ECNTAF10	ECNTAF10[23:16]								
		ECNTAF10[15:8]								
		ECNTAF10[7:0]								
		-	-	-	-	-	-	-	-	-
	ECNTBF10	ECNTBF10[15:8]								
		ECNTBF10[7:0]								
	GRBF10	GRBF10[15:8]								
		GRBF10[7:0]								

モジュール名	レジスタ名	31/23/15/7	30/22/14/6	29/21/13/5	28/20/12/4	27/19/11/3	26/18/10/2	25/17/9/1	24/16/8/0	
ATU-III	ECNTCF10	ECNTCF10[23:16]								
		ECNTCF10[15:8]								
		ECNTCF10[7:0]								
		-	-	-	-	-	-	-	-	
	GRAF10	GRAF10[23:16]								
		GRAF10[15:8]								
		GRAF10[7:0]								
		-	-	-	-	-	-	-	-	
	CDRF10	CDRF10[23:16]								
		CDRF10[15:8]								
		CDRF10[7:0]								
		-	-	-	-	-	-	-	-	
	GRCF10	GRCF10[23:16]								
		GRCF10[15:8]								
		GRCF10[7:0]								
		-	-	-	-	-	-	-	-	
	TCRF11	CKSELF11[2:0]			MDF11[2:0]			EGSELF11[1:0]		
	TIERF11	-	-	-	-	OVECF11	OVEBF11	OVEAF11	ICEF11	
	TSRF11	-	-	-	-	OVFCF11	OVFBF11	OVFAF11	ICFF11	
	ECNTAF11	ECNTAF11[23:16]								
		ECNTAF11[15:8]								
		ECNTAF11[7:0]								
		-	-	-	-	-	-	-	-	
	ECNTBF11	ECNTBF11[15:8]								
		ECNTBF11[7:0]								
	GRBF11	GRBF11[15:8]								
		GRBF11[7:0]								
	ECNTCF11	ECNTCF11[23:16]								
		ECNTCF11[15:8]								
		ECNTCF11[7:0]								
		-	-	-	-	-	-	-	-	
	GRAF11	GRAF11[23:16]								
		GRAF11[15:8]								
GRAF11[7:0]										
-		-	-	-	-	-	-	-		

モジュール名	レジスタ名	31/23/15/7	30/22/14/6	29/21/13/5	28/20/12/4	27/19/11/3	26/18/10/2	25/17/9/1	24/16/8/0
ATU-III	CDRF11	CDRF11[23:16]							
		CDRF11[15:8]							
		CDRF11[7:0]							
		-	-	-	-	-	-	-	-
	GRCF11	GRCF11[23:16]							
		GRCF11[15:8]							
		GRCF11[7:0]							
		-	-	-	-	-	-	-	-
	TCRF12	CKSELF12[2:0]			MDF12[2:0]			EGSELF12[1:0]	
	TIERF12	-	-	-	-	OVECF12	OVEBF12	OVEAF12	ICEF12
	TSRF12	-	-	-	-	OVFCF12	OVFBF12	OVFAF12	ICFF12
	ECNTAF12	ECNTAF12[23:16]							
		ECNTAF12[15:8]							
		ECNTAF12[7:0]							
		-	-	-	-	-	-	-	-
	ECNTBF12	ECNTBF12[15:8]							
		ECNTBF12[7:0]							
	GRBF12	GRBF12[15:8]							
		GRBF12[7:0]							
	ECNTCF12	ECNTCF12[23:16]							
		ECNTCF12[15:8]							
		ECNTCF12[7:0]							
		-	-	-	-	-	-	-	-
	GRAF12	GRAF12[23:16]							
		GRAF12[15:8]							
		GRAF12[7:0]							
		-	-	-	-	-	-	-	-
	CDRF12	CDRF12[23:16]							
		CDRF12[15:8]							
		CDRF12[7:0]							
		-	-	-	-	-	-	-	-
	GRCF12	GRCF12[23:16]							
		GRCF12[15:8]							
GRCF12[7:0]									
-		-	-	-	-	-	-	-	

モジュール名	レジスタ名	31/23/15/7	30/22/14/6	29/21/13/5	28/20/12/4	27/19/11/3	26/18/10/2	25/17/9/1	24/16/8/0	
ATU-III	GRDF12	GRDF12[23:16]								
		GRDF12[15:8]								
		GRDF12[7:0]								
		-	-	-	-	-	-	-	-	-
	TCRF13	CKSELF13[2:0]			MDF13[2:0]			EGSELF13[1:0]		
	TIERF13	-	-	-	-	OVECF13	OVEBF13	OVEAF13	ICEF13	
	TSRF13	-	-	-	-	OVFCF13	OVFBF13	OVFAF13	ICFF13	
	ECNTAF13	ECNTAF13[23:16]								
		ECNTAF13[15:8]								
		ECNTAF13[7:0]								
		-	-	-	-	-	-	-	-	-
	ECNTBF13	ECNTBF13[15:8]								
		ECNTBF13[7:0]								
	GRBF13	GRBF13[15:8]								
		GRBF13[7:0]								
	ECNTCF13	ECNTCF13[23:16]								
		ECNTCF13[15:8]								
		ECNTCF13[7:0]								
		-	-	-	-	-	-	-	-	-
	GRAF13	GRAF13[23:16]								
		GRAF13[15:8]								
		GRAF13[7:0]								
		-	-	-	-	-	-	-	-	-
	CDRF13	CDRF13[23:16]								
		CDRF13[15:8]								
		CDRF13[7:0]								
		-	-	-	-	-	-	-	-	-
	GRCF13	GRCF13[23:16]								
		GRCF13[15:8]								
		GRCF13[7:0]								
		-	-	-	-	-	-	-	-	-
	GRDF13	GRDF13[23:16]								
		GRDF13[15:8]								
GRDF13[7:0]										
-		-	-	-	-	-	-	-	-	
TCRF14	CKSELF14[2:0]			MDF14[2:0]			EGSELF14[1:0]			
TIERF14	-	-	-	-	OVECF14	OVEBF14	OVEAF14	ICEF14		

モジュール名	レジスタ名	31/23/15/7	30/22/14/6	29/21/13/5	28/20/12/4	27/19/11/3	26/18/10/2	25/17/9/1	24/16/8/0	
ATU-III	TSRF14	-	-	-	-	OVFCF14	OVFBF14	OVFAF14	ICFF14	
	ECNTAF14	ECNTAF14[23:16]								
		ECNTAF14[15:8]								
		ECNTAF14[7:0]								
		-	-	-	-	-	-	-	-	-
	ECNTBF14	ECNTBF14[15:8]								
		ECNTBF14[7:0]								
	GRBF14	GRBF14[15:8]								
		GRBF14[7:0]								
	ECNTCF14	ECNTCF14[23:16]								
		ECNTCF14[15:8]								
		ECNTCF14[7:0]								
		-	-	-	-	-	-	-	-	-
	GRAF14	GRAF14[23:16]								
		GRAF14[15:8]								
		GRAF14[7:0]								
		-	-	-	-	-	-	-	-	-
	CDRF14	CDRF14[23:16]								
		CDRF14[15:8]								
		CDRF14[7:0]								
		-	-	-	-	-	-	-	-	-
	GRCF14	GRCF14[23:16]								
		GRCF14[15:8]								
		GRCF14[7:0]								
		-	-	-	-	-	-	-	-	-
	GRDF14	GRDF14[23:16]								
		GRDF14[15:8]								
		GRDF14[7:0]								
		-	-	-	-	-	-	-	-	-
	TCRF15	CKSELF15[2:0]			MDF15[2:0]			EGSELF15[1:0]		
	TIERF15	-	-	-	-	OVECF15	OVEBF15	OVEAF15	ICEF15	
	TSRF15	-	-	-	-	OVFCF15	OVFBF15	OVFAF15	ICFF15	
	ECNTAF15	ECNTAF15[23:16]								
		ECNTAF15[15:8]								
		ECNTAF15[7:0]								
		-	-	-	-	-	-	-	-	-

モジュール名	レジスタ名	31/23/15/7	30/22/14/6	29/21/13/5	28/20/12/4	27/19/11/3	26/18/10/2	25/17/9/1	24/16/8/0	
ATU-III	ECNTBF15	ECNTBF15[15:8]								
		ECNTBF15[7:0]								
	GRBF15	GRBF15[15:8]								
		GRBF15[7:0]								
	ECNTCF15	ECNTCF15[23:16]								
		ECNTCF15[15:8]								
		ECNTCF15[7:0]								
		-	-	-	-	-	-	-	-	
	GRAF15	GRAF15[23:16]								
		GRAF15[15:8]								
		GRAF15[7:0]								
		-	-	-	-	-	-	-	-	
	CDRF15	CDRF15[23:16]								
		CDRF15[15:8]								
		CDRF15[7:0]								
		-	-	-	-	-	-	-	-	
	GRCF15	GRCF15[23:16]								
		GRCF15[15:8]								
		GRCF15[7:0]								
		-	-	-	-	-	-	-	-	
	GRDF15	GRDF15[23:16]								
		GRDF15[15:8]								
		GRDF15[7:0]								
		-	-	-	-	-	-	-	-	
	TCRF16	CKSELF16[2:0]			MDF16[2:0]			EGSELF16[1:0]		
	TIERF16	-	-	-	-	OVECF16	OVEBF16	OVEAF16	ICEF16	
	TSRF16	-	-	-	-	OVFCF16	OVFBF16	OVFAF16	ICFF16	
	ECNTAF16	ECNTAF16[23:16]								
		ECNTAF16[15:8]								
		ECNTAF16[7:0]								
		-	-	-	-	-	-	-	-	
	ECNTBF16	ECNTBF16[15:8]								
		ECNTBF16[7:0]								
GRBF16	GRBF16[15:8]									
	GRBF16[7:0]									

モジュール名	レジスタ名	31/23/15/7	30/22/14/6	29/21/13/5	28/20/12/4	27/19/11/3	26/18/10/2	25/17/9/1	24/16/8/0	
ATU-III	ECNTCF16	ECNTCF16[23:16]								
		ECNTCF16[15:8]								
		ECNTCF16[7:0]								
		-	-	-	-	-	-	-	-	
	GRAF16	GRAF16[23:16]								
		GRAF16[15:8]								
		GRAF16[7:0]								
		-	-	-	-	-	-	-	-	
	CDRF16	CDRF16[23:16]								
		CDRF16[15:8]								
		CDRF16[7:0]								
		-	-	-	-	-	-	-	-	
	GRCF16	GRCF16[23:16]								
		GRCF16[15:8]								
		GRCF16[7:0]								
		-	-	-	-	-	-	-	-	
	TCRF17	CKSELF17[2:0]			MDF17[2:0]			EGSELF17[1:0]		
	TIERF17	-	-	-	-	OVECF17	OVEBF17	OVEAF17	ICEF17	
	TSRF17	-	-	-	-	OVFCF17	OVFBF17	OVFAF17	ICFF17	
	ECNTAF17	ECNTAF17[23:16]								
		ECNTAF17[15:8]								
		ECNTAF17[7:0]								
		-	-	-	-	-	-	-	-	
	ECNTBF17	ECNTBF17[15:8]								
		ECNTBF17[7:0]								
	GRBF17	GRBF17[15:8]								
		GRBF17[7:0]								
	ECNTCF17	ECNTCF17[23:16]								
		ECNTCF17[15:8]								
		ECNTCF17[7:0]								
		-	-	-	-	-	-	-	-	
	GRAF17	GRAF17[23:16]								
		GRAF17[15:8]								
GRAF17[7:0]										
-		-	-	-	-	-	-	-		

モジュール名	レジスタ名	31/23/15/7	30/22/14/6	29/21/13/5	28/20/12/4	27/19/11/3	26/18/10/2	25/17/9/1	24/16/8/0	
ATU-III	CDRF17	CDRF17[23:16]								
		CDRF17[15:8]								
		CDRF17[7:0]								
		-	-	-	-	-	-	-	-	
	GRCF17	GRCF17[23:16]								
		GRCF17[15:8]								
		GRCF17[7:0]								
		-	-	-	-	-	-	-	-	
	TCRF18	CKSELF18[2:0]			MDF18[2:0]			EGSELF18[1:0]		
	TIERF18	-	-	-	-	OVECF18	OVEBF18	OVEAF18	ICEF18	
	TSRF18	-	-	-	-	OVFCF18	OVFBF18	OVFAF18	ICFF18	
	ECNTAF18	ECNTAF18[23:16]								
		ECNTAF18[15:8]								
		ECNTAF18[7:0]								
		-	-	-	-	-	-	-	-	
	ECNTBF18	ECNTBF18[15:8]								
		ECNTBF18[7:0]								
	GRBF18	GRBF18[15:8]								
		GRBF18[7:0]								
	ECNTCF18	ECNTCF18[23:16]								
		ECNTCF18[15:8]								
		ECNTCF18[7:0]								
		-	-	-	-	-	-	-	-	
	GRAF18	GRAF18[23:16]								
		GRAF18[15:8]								
		GRAF18[7:0]								
		-	-	-	-	-	-	-	-	
	CDRF18	CDRF18[23:16]								
		CDRF18[15:8]								
		CDRF18[7:0]								
		-	-	-	-	-	-	-	-	
	GRCF18	GRCF18[23:16]								
GRCF18[15:8]										
GRCF18[7:0]										
-		-	-	-	-	-	-	-		
TCRF19	CKSELF19[2:0]			MDF19[2:0]			EGSELF19[1:0]			
TIERF19	-	-	-	-	OVECF19	OVEBF19	OVEAF19	ICEF19		

モジュール名	レジスタ名	31/23/15/7	30/22/14/6	29/21/13/5	28/20/12/4	27/19/11/3	26/18/10/2	25/17/9/1	24/16/8/0	
ATU-III	TSRF19	-	-	-	-	OVFCF9	OVFBF9	OVFAF9	ICFF9	
	ECNTAF19	ECNTAF19[23:16]								
		ECNTAF19[15:8]								
		ECNTAF19[7:0]								
		-	-	-	-	-	-	-	-	-
	ECNTBF19	ECNTBF19[15:8]								
		ECNTBF19[7:0]								
	GRBF19	GRBF19[15:8]								
		GRBF19[7:0]								
	ECNTCF19	ECNTCF19[23:16]								
		ECNTCF19[15:8]								
		ECNTCF19[7:0]								
		-	-	-	-	-	-	-	-	-
	GRAF19	GRAF19[23:16]								
		GRAF19[15:8]								
		GRAF19[7:0]								
		-	-	-	-	-	-	-	-	-
	CDRF19	CDRF19[23:16]								
		CDRF19[15:8]								
		CDRF19[7:0]								
		-	-	-	-	-	-	-	-	-
	GRCF19	GRCF19[23:16]								
		GRCF19[15:8]								
		GRCF19[7:0]								
		-	-	-	-	-	-	-	-	-
	TSTRG	-	-	STRG5	STRG	STRG3	STRG2	STRG1	STRG0	
	TCRG0	-	CKSELG0[2:0]			-	-	CMPOEG0	CMEG0	
	TSRG0	-	-	-	-	-	-	OVFG0	CMFG0	
	TCNTG0	TCNTG0[15:8]								
		TCNTG0[7:0]								
	OCRG0	OCRG0[15:8]								
		OCRG0[7:0]								
	TCRG1	-	CKSELG1[2:0]			-	-	CMPOEG1	CMEG1	
	TSRG1	-	-	-	-	-	-	OVFG1	CMFG1	
	TCNTG1	TCNTG1[15:8]								
		TCNTG1[7:0]								

モジュール名	レジスタ名	31/23/15/7	30/22/14/6	29/21/13/5	28/20/12/4	27/19/11/3	26/18/10/2	25/17/9/1	24/16/8/0
ATU-III	OCR1G	OCR1G[15:8]							
		OCR1G[7:0]							
	TCRG2	-	CKSELG2[2:0]			-	-	CMPOEG2	CMEG2
	TSRG2	-	-	-	-	-	-	OVFG2	CMFG2
	TCNTG2	TCNTG2[15:8]							
		TCNTG2[7:0]							
	OCR2G	OCR2G[15:8]							
		OCR2G[7:0]							
	TCRG3	-	CKSELG3[2:0]			-	-	CMPOEG3	CMEG3
	TSRG3	-	-	-	-	-	-	OVFG3	CMFG3
	TCNTG3	TCNTG3[15:8]							
		TCNTG3[7:0]							
	OCR3G	OCR3G[15:8]							
		OCR3G[7:0]							
	TCRG4	-	CKSELG4[2:0]			-	-	CMPOEG4	CMEG4
	TSRG4	-	-	-	-	-	-	OVFG4	CMFG4
	TCNTG4	TCNTG4[15:8]							
		TCNTG4[7:0]							
	OCR4G	OCR4G[15:8]							
		OCR4G[7:0]							
	TCRG5	-	CKSELG5[2:0]			-	-	CMPOEG5	CMEG5
	TSRG5	-	-	-	-	-	-	OVFG5	CMFG5
	TCNTG5	TCNTG5[15:8]							
		TCNTG5[7:0]							
	OCR5G	OCR5G[15:8]							
		OCR5G[7:0]							
	TCRH	-	CKSELH0[2:0]			-	-	-	CMEH
	TSRH	-	-	-	-	-	OVF2H	OVF1H	CMFH
	TCNT1H	TCNT1H[15:8]							
		TCNT1H[7:0]							
	OCR1H	OCR1H[15:8]							
		OCR1H[7:0]							
TCNT2H	TCNT2H[31:24]								
	TCNT2H[23:16]								
	TCNT2H[15:8]								
	TCNT2H[7:0]								
TSTRJ	-	-	-	-	-	-	STRJ1	STRJ0	
TCRJ0	-	CKSELJ0[2:0]			-	NCEJ0	IOJ0[1:0]		

モジュール名	レジスタ名	31/23/15/7	30/22/14/6	29/21/13/5	28/20/12/4	27/19/11/3	26/18/10/2	25/17/9/1	24/16/8/0
ATU-III	FCRJ0	FIFOENJ0	—	FVCRENJ0	FRSTJ0	—	—	FDFTRGJ0[1:0]	
	TSRJ0	—	—	—	FVLDFJ0	CMFJ0	OVFJ0	FDOVFJ0	FDFJ0
	TIERJ0	—	—	—	—	—	OVEJ0	FDOVEJ0	FDJEJ0
	FDNRJ0	—	—	—	—	FDNJ0[3:0]			
	NCNTJ0	NCCNTJ0[7:0]							
	NCRJ0	NCTJ0[7:0]							
	TCNTJ0	TCNTJ0[15:8]							
		TCNTJ0[7:0]							
	OCRJ0	OCRJ0[15:8]							
		OCRJ0[7:0]							
	FIFOJ0	FIFODJ0[15:8]							
		FIFODJ0[7:0]							
	TCRJ1	—	CKSELJ1[2:0]			—	NCEJ1	IOJ1[1:0]	
	FCRJ1	FIFOENJ1	—	FVCRENJ1	FRSTJ1	—	—	FDFTRGJ1[1:0]	
	TSRJ1	—	—	—	FVLDFJ1	CMFJ1	OVFJ1	FDOVFJ1	FDFJ1
	TIERJ1	—	—	—	—	—	OVEJ1	FDOVEJ1	FDJEJ1
	FDNRJ1	—	—	—	—	FDNJ1[3:0]			
	NCNTJ1	NCCNTJ1[7:0]							
	NCRJ1	NCTJ1[7:0]							
	TCNTJ1	TCNTJ1[15:8]							
		TCNTJ1[7:0]							
	OCRJ1	OCRJ1[15:8]							
		OCRJ1[7:0]							
	FIFOJ1	FIFODJ1[15:8]							
FIFODJ1[7:0]									
WDT	WTCR	TCRKEY[7:0]							
		—	WT/ \bar{I} T	TME	—	—	CKS[2:0]		
	WTCNT	TCNTKEY[7:0]							
		TCNT[7:0]							
	WTSR	TSRKEY[7:0]							
		WVDF	—	—	—	IOVF	—	—	—
WRCR	RCRKEY[7:0]								
	RSTE	—	—	—	—	—	—	—	
CMT	CMSTR	—	—	—	—	—	—	—	
		—	—	—	—	—	STR1	STR0	
	CMCR_0	—	CMIE	—	—	—	CKS[1:0]		
	CMSR_0	—	—	—	—	—	—	CMF	

モジュール名	レジスタ名	31/23/15/7	30/22/14/6	29/21/13/5	28/20/12/4	27/19/11/3	26/18/10/2	25/17/9/1	24/16/8/0
CMT	CMCNT_0								
	CMCOR_0								
	CMCR_1	—	CMIE	—	—	—	—	CKS[1:0]	
	CMSR_1	—	—	—	—	—	—	—	CMF
	CMCNT_1								
	CMCOR_1								
	SCI	SCSMR1A	C/ \bar{A}	CHR	PE	O/ \bar{E}	STOP	—	CKS[1:0]
SCBRR1A									
SCSCR1A		TIE	RIE	TE	RE	—	TEIE	CKE1	—
SCTDR1A									
SCSSR1A		TDRE	RDRF	ORER	FER	PER	TEND	—	—
SCRDR1A									
SCSMR1B		C/ \bar{A}	CHR	PE	O/ \bar{E}	STOP	—	CKS[1:0]	
SCBRR1B									
SCSCR1B		TIE	RIE	TE	RE	—	TEIE	CKE1	—
SCTDR1B									
SCSSR1B		TDRE	RDRF	ORER	FER	PER	TEND	—	—
SCRDR1B									
SCSMR1C		C/ \bar{A}	CHR	PE	O/ \bar{E}	STOP	—	CKS[1:0]	
SCBRR1C									
SCSCR1C		TIE	RIE	TE	RE	—	TEIE	CKE1	—
SCTDR1C									
SCSSR1C		TDRE	RDRF	ORER	FER	PER	TEND	—	—
SCRDR1C									
SCSMR1D		C/ \bar{A}	CHR	PE	O/ \bar{E}	STOP	—	CKS[1:0]	
SCBRR1D									
SCSCR1D		TIE	RIE	TE	RE	—	TEIE	CKE1	—
SCTDR1D									
SCSSR1D		TDRE	RDRF	ORER	FER	PER	TEND	—	—
SCRDR1D									
SCSMR1E	C/ \bar{A}	CHR	PE	O/ \bar{E}	STOP	—	CKS[1:0]		
SCBRR1E									
SCSCR1E	TIE	RIE	TE	RE	—	TEIE	CKE1	—	

モジュール名	レジスタ名	31/23/15/7	30/22/14/6	29/21/13/5	28/20/12/4	27/19/11/3	26/18/10/2	25/17/9/1	24/16/8/0	
SCI	SCTDR1E									
	SCSSR1E	TDRE	RDRF	ORER	FER	PER	TEND	—	—	
	SCRDR1E									
RSPI	SPCRA	SPRIE	SPE	SPTIE	SPEIE	MSTR	MODFEN	—	—	
	SSLPA	SSL7P	SSL6P	SSL5P	SSL4P	SSL3P	SSL2P	SSL1P	SSL0P	
	SPPCRA	—	—	MOIFE	MOIFV	—	SPOM	—	SPLP	
	SPSRA	SPRF	—	SPTEF	—	—	MODF	—	OVRF	
	SPDRA	SPD15	SPD14	SPD13	SPD12	SPD11	SPD10	SPD9	SPD8	
		SPD7	SPD6	SPD5	SPD4	SPD3	SPD2	SPD1	SPD0	
	SPSCRA	—	—	—	—	—	SPSLN[2:0]			
	SPSSRA	—	SPECM[2:0]			—	SPCP[2:0]			
	SPBRA	SPR7	SPR6	SPR5	SPR4	SPR3	SPR2	SPR1	SPR0	
	SPCKDA	—	—	—	—	—	SCKDL[2:0]			
	SSLNDA	—	—	—	—	—	SLNDL[2:0]			
	SPNDA	—	—	—	—	—	SPNDL[2:0]			
	SPCMDA0	SCKDEN	SLNDEN	SPNDEN	LSBF	SPB[3:0]				
		SSLKP	SSLA[2:0]			BRDV[1:0]		CPOL	CPHA	
	SPCMDA1	SCKDEN	SLNDEN	SPNDEN	LSBF	SPB[3:0]				
		SSLKP	SSLA[2:0]			BRDV[1:0]		CPOL	CPHA	
	SPCMDA2	SCKDEN	SLNDEN	SPNDEN	LSBF	SPB[3:0]				
		SSLKP	SSLA[2:0]			BRDV[1:0]		CPOL	CPHA	
	SPCMDA3	SCKDEN	SLNDEN	SPNDEN	LSBF	SPB[3:0]				
		SSLKP	SSLA[2:0]			BRDV[1:0]		CPOL	CPHA	
	SPCMDA4	SCKDEN	SLNDEN	SPNDEN	LSBF	SPB[3:0]				
		SSLKP	SSLA[2:0]			BRDV[1:0]		CPOL	CPHA	
	SPCMDA5	SCKDEN	SLNDEN	SPNDEN	LSBF	SPB[3:0]				
		SSLKP	SSLA[2:0]			BRDV[1:0]		CPOL	CPHA	
	SPCMDA6	SCKDEN	SLNDEN	SPNDEN	LSBF	SPB[3:0]				
		SSLKP	SSLA[2:0]			BRDV[1:0]		CPOL	CPHA	
	SPCMDA7	SCKDEN	SLNDEN	SPNDEN	LSBF	SPB[3:0]				
		SSLKP	SSLA[2:0]			BRDV[1:0]		CPOL	CPHA	
	SPCRB	SPRIE	SPE	SPTIE	SPEIE	MSTR	MODFEN	—	—	
	SSLPB	SSL7P	SSL6P	SSL5P	SSL4P	SSL3P	SSL2P	SSL1P	SSL0P	
	SPPCRB	—	—	MOIFE	MOIFV	—	SPOM	—	SPLP	
	SPSRB	SPRF	—	SPTEF	—	—	MODF	—	OVRF	
SPDRB	SPD15	SPD14	SPD13	SPD12	SPD11	SPD10	SPD9	SPD8		
	SPD7	SPD6	SPD5	SPD4	SPD3	SPD2	SPD1	SPD0		

モジュール名	レジスタ名	31/23/15/7	30/22/14/6	29/21/13/5	28/20/12/4	27/19/11/3	26/18/10/2	25/17/9/1	24/16/8/0	
RSPI	SPSCRB	—	—	—	—	—	SPSLN[2:0]			
	SPSSRB	—	SPECM[2:0]			—	SPCP[2:0]			
	SPBRB	SPR7	SPR6	SPR5	SPR4	SPR3	SPR2	SPR1	SPR0	
	SPCKDB	—	—	—	—	—	SCKDL[2:0]			
	SSLNDB	—	—	—	—	—	SLNDL[2:0]			
	SPNDB	—	—	—	—	—	SPNDL[2:0]			
	SPCMDB0	SCKDEN	SLNDEN	SPNDEN	LSBF	SPB[3:0]				
		SSLKP	SSLA[2:0]			BRDV[1:0]	CPOL	CPHA		
	SPCMDB1	SCKDEN	SLNDEN	SPNDEN	LSBF	SPB[3:0]				
		SSLKP	SSLA[2:0]			BRDV[1:0]	CPOL	CPHA		
	SPCMDB2	SCKDEN	SLNDEN	SPNDEN	LSBF	SPB[3:0]				
		SSLKP	SSLA[2:0]			BRDV[1:0]	CPOL	CPHA		
	SPCMDB3	SCKDEN	SLNDEN	SPNDEN	LSBF	SPB[3:0]				
		SSLKP	SSLA[2:0]			BRDV[1:0]	CPOL	CPHA		
	SPCMDB4	SCKDEN	SLNDEN	SPNDEN	LSBF	SPB[3:0]				
		SSLKP	SSLA[2:0]			BRDV[1:0]	CPOL	CPHA		
	SPCMDB5	SCKDEN	SLNDEN	SPNDEN	LSBF	SPB[3:0]				
		SSLKP	SSLA[2:0]			BRDV[1:0]	CPOL	CPHA		
	SPCMDB6	SCKDEN	SLNDEN	SPNDEN	LSBF	SPB[3:0]				
		SSLKP	SSLA[2:0]			BRDV[1:0]	CPOL	CPHA		
	SPCMDB7	SCKDEN	SLNDEN	SPNDEN	LSBF	SPB[3:0]				
		SSLKP	SSLA[2:0]			BRDV[1:0]	CPOL	CPHA		
	SPCRC	SPRIE	SPE	SPTIE	SPEIE	MSTR	MODFEN	—	—	
	SSLPC	SSL7P	SSL6P	SSL5P	SSL4P	SSL3P	SSL2P	SSL1P	SSL0P	
	SPPCRC	—	—	MOIFE	MOIFV	—	SPOM	—	SPLP	
	SPSRC	SPRF	—	SPTFEF	—	—	MODF	—	OVRF	
	SPDRC	SPD15	SPD14	SPD13	SPD12	SPD11	SPD10	SPD9	SPD8	
		SPD7	SPD6	SPD5	SPD4	SPD3	SPD2	SPD1	SPD0	
	SPSCRC	—	—	—	—	—	SPSLN[2:0]			
	SPSSRC	—	SPECM[2:0]			—	SPCP[2:0]			
	SPBRC	SPR7	SPR6	SPR5	SPR4	SPR3	SPR2	SPR1	SPR0	
	SPCKDC	—	—	—	—	—	SCKDL[2:0]			
	SSLNDC	—	—	—	—	—	SLNDL[2:0]			
	SPNDC	—	—	—	—	—	SPNDL[2:0]			
	SPCMDC0	SCKDEN	SLNDEN	SPNDEN	LSBF	SPB[3:0]				
		SSLKP	SSLA[2:0]			BRDV[1:0]	CPOL	CPHA		

モジュール名	レジスタ名	31/23/15/7	30/22/14/6	29/21/13/5	28/20/12/4	27/19/11/3	26/18/10/2	25/17/9/1	24/16/8/0	
RSPI	SPCMDC1	SCKDEN	SLNDEN	SPNDEN	LSBF	SPB[3:0]				
		SSLKP	SSLA[2:0]			BRDV[1:0]	CPOL	CPHA		
	SPCMDC2	SCKDEN	SLNDEN	SPNDEN	LSBF	SPB[3:0]				
		SSLKP	SSLA[2:0]			BRDV[1:0]	CPOL	CPHA		
	SPCMDC3	SCKDEN	SLNDEN	SPNDEN	LSBF	SPB[3:0]				
		SSLKP	SSLA[2:0]			BRDV[1:0]	CPOL	CPHA		
	SPCMDC4	SCKDEN	SLNDEN	SPNDEN	LSBF	SPB[3:0]				
		SSLKP	SSLA[2:0]			BRDV[1:0]	CPOL	CPHA		
	SPCMDC5	SCKDEN	SLNDEN	SPNDEN	LSBF	SPB[3:0]				
		SSLKP	SSLA[2:0]			BRDV[1:0]	CPOL	CPHA		
	SPCMDC6	SCKDEN	SLNDEN	SPNDEN	LSBF	SPB[3:0]				
		SSLKP	SSLA[2:0]			BRDV[1:0]	CPOL	CPHA		
	SPCMDC7	SCKDEN	SLNDEN	SPNDEN	LSBF	SPB[3:0]				
		SSLKP	SSLA[2:0]			BRDV[1:0]	CPOL	CPHA		
RCAN-TL1 (RCAN_A)	MCR	MCR15	MCR14	—	—	—	TST[2:0]			
		MCR7	MCR6	MCR5	—	—	MCR2	MCR1	MCR0	
	GSR	—	—	—	—	—	—	—	—	
		—	—	GSR5	GSR4	GSR3	GSR2	GSR1	GSR0	
	BCR1	TSG1[3:0]				—	TSG2[2:0]			
		—	—	SJW[1:0]		—	—	—	BSP	
	BCR0	—	—	—	—	—	—	—	—	
		BRP[7:0]								
	IRR	IRR15	IRR14	IRR13	IRR12	IRR11	IRR10	IRR9	IRR8	
		IRR7	IRR6	IRR5	IRR4	IRR3	IRR2	IRR1	IRR0	
	IMR	IMR15	IMR14	IMR13	IMR12	IMR11	IMR10	IMR9	IMR8	
		IMR7	IMR6	IMR5	IMR4	IMR3	IMR2	IMR1	IMR0	
	TEC/REC	TEC7	TEC6	TEC5	TEC4	TEC3	TEC2	TEC1	TEC0	
		REC7	REC6	REC5	REC4	REC3	REC2	REC1	REC0	
	TXPR1	TXPR1[15:8]								
		TXPR1[7:0]								
	TXPR0	TXPR0[15:8]								
		TXPR0[7:1]								—
	TXCR1	TXCR1[15:8]								
		TXCR1[7:0]								

モジュール名	レジスタ名	31/23/15/7	30/22/14/6	29/21/13/5	28/20/12/4	27/19/11/3	26/18/10/2	25/17/9/1	24/16/8/0
RCAN-TL1 (RCAN_A)	TXCR0	TXCR0[15:8]							
		TXCR0[7:1]							-
	TXACK1	TXACK1[15:8]							
		TXACK1[7:0]							
	TXACK0	TXACK0[15:8]							
		TXACK0[7:1]							-
	ABACK1	ABACK1[15:8]							
		ABACK1[7:0]							
	ABACK0	ABACK0[15:8]							
		ABACK0[7:1]							-
	RXPR1	RXPR1[15:8]							
		RXPR1[7:0]							
	RXPR0	RXPR0[15:8]							
		RXPR0[7:0]							
	RFPR1	RFPR1[15:8]							
		RFPR1[7:0]							
	RFPR0	RFPR0[15:8]							
		RFPR0[7:0]							
	MBIMR1	MBIMR1[15:8]							
		MBIMR1[7:0]							
	MBIMR0	MBIMR0[15:8]							
		MBIMR0[7:0]							
	UMSR1	UMSR1[15:8]							
		UMSR1[7:0]							
	UMSR0	UMSR0[15:8]							
		UMSR0[7:0]							
	TTCR0	TCR15	TCR14	TCR13	TCR12	TCR11	TCR10	-	-
		-	TCR6	TPSC5	TPSC4	TPSC3	TPSC2	TPSC1	TPSC0
	CMAX_TEW	-	-	-	-	-	CMAX[2:0]		
		-	-	-	-	TEW[3:0]			
	RFTROFF	RFTROFF[7:0]							
		-	-	-	-	-	-	-	-
	TSR	-	-	-	-	-	-	-	-
-		-	-	TSR4	TSR3	TSR2	TSR1	TSR0	
CCR	-	-	-	-	-	-	-	-	
	-	-	CCR[5:0]						

モジュール名	レジスタ名	31/23/15/7	30/22/14/6	29/21/13/5	28/20/12/4	27/19/11/3	26/18/10/2	25/17/9/1	24/16/8/0	
RCAN-TL1 (RCAN_A)	TCNTR	TCNTR[15:8]								
		TCNTR[7:0]								
	CYCTR	CYCTR[15:8]								
		CYCTR[7:0]								
	RFMK	RFMK[15:8]								
		RFMK[7:0]								
	TCMR0	TCMR0[15:8]								
		TCMR0[7:0]								
	TCMR1	TCMR1[15:8]								
		TCMR1[7:0]								
	TCMR2	TCMR2[15:8]								
		TCMR2[7:0]								
	TTTSEL	-	TTTSEL[14:8]							
		-	-	-	-	-	-	-	-	
	MB[0]. CONTROL0_H	IDE	RTR	-	STDID[10:6]					
		STDID[5:0]						EXTID[17:16]		
	MB[0]. CONTROL0_L	EXTID[15:8]								
		EXTID[7:0]								
	MB[0]. LAFM0	IDE_LAFM	-	-	STDID_LAFM[10:6]					
		STDID_LAFM[5:0]						EXTID_LAFM[17:16]		
	MB[0]. LAFM1	EXTID_LAFM[15:8]								
		EXTID_LAFM[7:0]								
	MB[0]. DATA_01	MSG_DATA_0								
		MSG_DATA_1								
	MB[0]. DATA_23	MSG_DATA_2								
		MSG_DATA_3								
	MB[0]. DATA_45	MSG_DATA_4								
		MSG_DATA_5								
	MB[0]. DATA_67	MSG_DATA_6								
		MSG_DATA_7								
	MB[0]. CONTROL1	-	-	NMC	-	-	MBC[2:0]			
		-	-	-	-	DLC[3:0]				
	MB[0]. TIMESTAMP	TimeStamp[15:8]								
		TimeStamp[7:0]								
	MB[1]. CONTROL0_H	IDE	RTR	-	STDID[10:6]					
		STDID[5:0]						EXTID[17:16]		
	MB[1]. CONTROL0_L	EXTID[15:8]								
		EXTID[7:0]								

モジュール名	レジスタ名	31/23/15/7	30/22/14/6	29/21/13/5	28/20/12/4	27/19/11/3	26/18/10/2	25/17/9/1	24/16/8/0
RCAN-TL1 (RCAN_A)	MB[1]. LAFM0	IDE_LAFM	-	-	STDID_LAFM[10:6]				
		STDID_LAFM[5:0]						EXTID_LAFM[17:16]	
	MB[1]. LAFM1	EXTID_LAFM[15:8]							
		EXTID_LAFM[7:0]							
	MB[1]. DATA_01	MSG_DATA_0							
		MSG_DATA_1							
	MB[1]. DATA_23	MSG_DATA_2							
		MSG_DATA_3							
	MB[1]. DATA_45	MSG_DATA_4							
		MSG_DATA_5							
	MB[1]. DATA_67	MSG_DATA_6							
		MSG_DATA_7							
	MB[1]. CONTROL1	-	-	NMC	ATX	DART	MBC[2:0]		
		-	-	-	-	DLC[3:0]			
	MB[1]. TIMESTAMP	TimeStamp[15:8]							
		TimeStamp[7:0]							
	MB[2]	MB[1]と同じビット構成							
	:	:							
	MB[15]	MB[1]と同じビット構成							
	MB[16]. CONTROL0_H	IDE	RTR	-	STDID[10:6]				
		STDID[5:0]						EXTID[17:16]	
	MB[16]. CONTROL0_L	EXTID[15:8]							
		EXTID[7:0]							
	MB[16]. LAFM0	IDE_LAFM	-	-	STDID_LAFM[10:6]				
		STDID_LAFM[5:0]						EXTID_LAFM[17:16]	
	MB[16]. LAFM1	EXTID_LAFM[15:8]							
		EXTID_LAFM[7:0]							
MB[16]. DATA_01	MSG_DATA_0								
	MSG_DATA_1								
MB[16]. DATA_23	MSG_DATA_2								
	MSG_DATA_3								
MB[16]. DATA_45	MSG_DATA_4								
	MSG_DATA_5								
MB[16]. DATA_67	MSG_DATA_6								
	MSG_DATA_7								
MB[16]. CONTROL1	-	-	NMC	ATX	DART	MBC[2:0]			
	-	-	-	-	DLC[3:0]				

モジュール名	レジスタ名	31/23/15/7	30/22/14/6	29/21/13/5	28/20/12/4	27/19/11/3	26/18/10/2	25/17/9/1	24/16/8/0	
RCAN-TL1 (RCAN_A)	MB[17]	MB[16]と同じビット構成								
	:	:								
	MB[23]	MB[16]と同じビット構成								
	MB[24]. CONTROL0_H	IDE	RTR	-	STDID[10:6]					
		STDID[5:0]					EXTID[17:16]			
	MB[24]. CONTROL0_L	EXTID[15:8]								
		EXTID[7:0]								
	MB[24]. LAFM0	IDE_LAFM	-	-	STDID_LAFM[10:6]					
		STDID_LAFM[5:0]					EXTID_LAFM[17:16]			
	MB[24]. LAFM1	EXTID_LAFM[15:8]								
		EXTID_LAFM[7:0]								
	MB[24]. DATA_01	MSG_DATA_0								
		MSG_DATA_1								
	MB[24]. DATA_23	MSG_DATA_2								
		MSG_DATA_3								
	MB[24]. DATA_45	MSG_DATA_4								
		MSG_DATA_5								
	MB[24]. DATA_67	MSG_DATA_6								
		MSG_DATA_7								
	MB[24]. CONTROL1	-	-	NMC	ATX	DART	MBC[2:0]			
		-	-	-	-	DLC[3:0]				
	MB[24]. TTT	TTT								
		TTT								
	MB[24]. TTCONTROL	TTW[1:0]		Offset						
		-	-	-	-	-	Rep_Factor			
	MB[25]	MB[24]と同じビット構成								
	:	:								
	MB[29]	MB[24]と同じビット構成								
	MB[30]. CONTROL0_H	IDE	RTR	-	STDID[10:6]					
		STDID[5:0]					EXTID[17:16]			
	MB[30]. CONTROL0_L	EXTID[15:8]								
		EXTID[7:0]								
	MB[30]. LAFM0	IDE_LAFM	-	-	STDID_LAFM[10:6]					
		STDID_LAFM[5:0]					EXTID_LAFM[17:16]			
	MB[30]. LAFM1	EXTID_LAFM[15:8]								
		EXTID_LAFM[7:0]								
	MB[30]. DATA_01	MSG_DATA_0								
		MSG_DATA_1								

モジュール名	レジスタ名	31/23/15/7	30/22/14/6	29/21/13/5	28/20/12/4	27/19/11/3	26/18/10/2	25/17/9/1	24/16/8/0	
RCAN-TL1 (RCAN_A)	MB[30]. DATA_23	MSG_DATA_2								
		MSG_DATA_3								
	MB[30]. DATA_45	MSG_DATA_4								
		MSG_DATA_5								
	MB[30]. DATA_67	MSG_DATA_6								
		MSG_DATA_7								
	MB[30]. CONTROL1	-	-	NMC	ATX	DART	MBC[2:0]			
		-	-	-	-	DLC[3:0]				
	MB[30]. TIMESTAMP	TimeStamp[15:8]								
		TimeStamp[7:0]								
	MB[30]. TTT	TTT								
		TTT								
	MB[31]. CONTROL0_H	IDE	RTR	-	STDID[10:6]					
		STDID[5:0]						EXTID[17:16]		
	MB[31]. CONTROL0_L	EXTID[15:8]								
		EXTID[7:0]								
	MB[31]. LAFM0	IDE_LAFM	-	-	STDID_LAFM[10:6]					
		STDID_LAFM[5:0]						EXTID_LAFM[17:16]		
	MB[31]. LAFM1	EXTID_LAFM[15:8]								
		EXTID_LAFM[7:0]								
	MB[31]. DATA_01	MSG_DATA_0								
		MSG_DATA_1								
	MB[31]. DATA_23	MSG_DATA_2								
		MSG_DATA_3								
	MB[31]. DATA_45	MSG_DATA_4								
		MSG_DATA_5								
	MB[31]. DATA_67	MSG_DATA_6								
		MSG_DATA_7								
	MB[31]. CONTROL1	-	-	NMC	ATX	DART	MBC[2:0]			
		-	-	-	-	DLC[3:0]				
	MB[31]. TIMESTAMP	TimeStamp[15:8]								
		TimeStamp[7:0]								
	MBESR	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		-	-	-	-	-	-	-	-	MBEF
	MBECR	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		-	-	-	-	-	-	-	-	MBIM

モジュール名	レジスタ名	31/23/15/7	30/22/14/6	29/21/13/5	28/20/12/4	27/19/11/3	26/18/10/2	25/17/9/1	24/16/8/0	
RCAN-TL1 (RCAN_B)	MCR	MCR15	MCR14	—	—	—	TST[2:0]			
		MCR7	MCR6	MCR5	—	—	MCR2	MCR1	MCR0	
	GSR	—	—	—	—	—	—	—	—	
		—	—	GSR5	GSR4	GSR3	GSR2	GSR1	GSR0	
	BCR1	TSG1[3:0]				—	TSG2[2:0]			
		—	—	SJW[1:0]		—	—	—	BSP	
	BCR0	—	—	—	—	—	—	—	—	
		BRP[7:0]								
	IRR	IRR15	IRR14	IRR13	IRR12	IRR11	IRR10	IRR9	IRR8	
		IRR7	IRR6	IRR5	IRR4	IRR3	IRR2	IRR1	IRR0	
	IMR	IMR15	IMR14	IMR13	IMR12	IMR11	IMR10	IMR9	IMR8	
		IMR7	IMR6	IMR5	IMR4	IMR3	IMR2	IMR1	IMR0	
	TEC/REC	TEC7	TEC6	TEC5	TEC4	TEC3	TEC2	TEC1	TEC0	
		REC7	REC6	REC5	REC4	REC3	REC2	REC1	REC0	
	TXPR1	TXPR1[15:8]								
		TXPR1[7:0]								
	TXPR0	TXPR0[15:8]								
		TXPR0[7:1]								—
	TXCR1	TXCR1[15:8]								
		TXCR1[7:0]								
	TXCR0	TXCR0[15:8]								
		TXCR0[7:1]								—
	TXACK1	TXACK1[15:8]								
		TXACK1[7:0]								
	TXACK0	TXACK0[15:8]								
		TXACK0[7:1]								—
	ABACK1	ABACK1[15:8]								
		ABACK1[7:0]								
	ABACK0	ABACK0[15:8]								
		ABACK0[7:1]								—
	RXPR1	RXPR1[15:8]								
		RXPR1[7:0]								
	RXPR0	RXPR0[15:8]								
RXPR0[7:0]										
RFPR1	RFPR1[15:8]									
	RFPR1[7:0]									
RFPR0	RFPR0[15:8]									
	RFPR0[7:0]									

モジュール名	レジスタ名	31/23/15/7	30/22/14/6	29/21/13/5	28/20/12/4	27/19/11/3	26/18/10/2	25/17/9/1	24/16/8/0
RCAN-TL1 (RCAN_B)	MBIMR1	MBIMR1[15:8]							
		MBIMR1[7:0]							
	MBIMR0	MBIMR0[15:8]							
		MBIMR0[7:0]							
	UMSR1	UMSR1[15:8]							
		UMSR1[7:0]							
	UMSR0	UMSR0[15:8]							
		UMSR0[7:0]							
	TCR0	TCR15	TCR14	TCR13	TCR12	TCR11	TCR10	—	—
		—	TCR6	TPSC5	TPSC4	TPSC3	TPSC2	TPSC1	TPSC0
	CMAX_TEW	—	—	—	—	—	CMAX[2:0]		
		—	—	—	—	TEW[3:0]			
	RFTROFF	RFTROFF[7:0]							
		—	—	—	—	—	—	—	—
	TSR	—	—	—	—	—	—	—	—
		—	—	—	TSR4	TSR3	TSR2	TSR1	TSR0
	CCR	—	—	—	—	—	—	—	—
		—	—	CCR[5:0]					
	TCNTR	TCNTR[15:8]							
		TCNTR[7:0]							
	CYCTR	CYCTR[15:8]							
		CYCTR[7:0]							
	RFMK	RFMK[15:8]							
		RFMK[7:0]							
	TCMR0	TCMR0[15:8]							
		TCMR0[7:0]							
	TCMR1	TCMR1[15:8]							
		TCMR1[7:0]							
	TCMR2	TCMR2[15:8]							
		TCMR2[7:0]							
	TTTSEL	—	TTTSEL[14:8]						
		—	—	—	—	—	—	—	—
	MB[0]	RCAN_A の MB[0]と同じビット構成							
MB[1]	RCAN_A の MB[1]と同じビット構成								
MB[2]	RCAN_A の MB[2]と同じビット構成								
:	:								
MB[29]	RCAN_A の MB[29]と同じビット構成								
MB[30]	RCAN_A の MB[30]と同じビット構成								

モジュール名	レジスタ名	31/23/15/7	30/22/14/6	29/21/13/5	28/20/12/4	27/19/11/3	26/18/10/2	25/17/9/1	24/16/8/0
RCAN-TL1 (RCAN_B)	MB[31]	RCAN_A の MB[31]と同じビット構成							
	MBESR	—	—	—	—	—	—	—	—
		—	—	—	—	—	—	—	MBEF
	MBECCR	—	—	—	—	—	—	—	—
—		—	—	—	—	—	—	MBIM	
RCAN-TL1 (RCAN_C)	MCR	MCR15	MCR14	—	—	—	TST[2:0]		
		MCR7	MCR6	MCR5	—	—	MCR2	MCR1	MCR0
	GSR	—	—	—	—	—	—	—	—
		—	—	GSR5	GSR4	GSR3	GSR2	GSR1	GSR0
	BCR1	TSG1[3:0]			—	TSG2[2:0]			
		—	—	SJW[1:0]		—	—	—	BSP
	BCR0	—	—	—	—	—	—	—	—
		BRP[7:0]							
	IRR	IRR15	IRR14	IRR13	IRR12	IRR11	IRR10	IRR9	IRR8
		IRR7	IRR6	IRR5	IRR4	IRR3	IRR2	IRR1	IRR0
	IMR	IMR15	IMR14	IMR13	IMR12	IMR11	IMR10	IMR9	IMR8
		IMR7	IMR6	IMR5	IMR4	IMR3	IMR2	IMR1	IMR0
	TEC/REC	TEC7	TEC6	TEC5	TEC4	TEC3	TEC2	TEC1	TEC0
		REC7	REC6	REC5	REC4	REC3	REC2	REC1	REC0
	TXPR1	TXPR1[15:8]							
		TXPR1[7:0]							
	TXPR0	TXPR0[15:8]							
		TXPR0[7:1]							—
	TXCR1	TXCR1[15:8]							
		TXCR1[7:0]							
	TXCR0	TXCR0[15:8]							
		TXCR0[7:1]							—
	TXACK1	TXACK1[15:8]							
		TXACK1[7:0]							
TXACK0	TXACK0[15:8]								
	TXACK0[7:1]							—	
ABACK1	ABACK1[15:8]								
	ABACK1[7:0]								
ABACK0	ABACK0[15:8]								
	ABACK0[7:1]							—	
RXPR1	RXPR1[15:8]								
	RXPR1[7:0]								

モジュール名	レジスタ名	31/23/15/7	30/22/14/6	29/21/13/5	28/20/12/4	27/19/11/3	26/18/10/2	25/17/9/1	24/16/8/0	
RCAN-TL1 (RCAN_C)	RXPR0	RXPR0[15:8]								
		RXPR0[7:0]								
	RFPR1	RFPR1[15:8]								
		RFPR1[7:0]								
	RFPR0	RFPR0[15:8]								
		RFPR0[7:0]								
	MBIMR1	MBIMR1[15:8]								
		MBIMR1[7:0]								
	MBIMR0	MBIMR0[15:8]								
		MBIMR0[7:0]								
	UMSR1	UMSR1[15:8]								
		UMSR1[7:0]								
	UMSR0	UMSR0[15:8]								
		UMSR0[7:0]								
	TCR0	TCR15	TCR14	TCR13	TCR12	TCR11	TCR10	—	—	
		—	TCR6	TPSC5	TPSC4	TPSC3	TPSC2	TPSC1	TPSC0	
	CMAX_TEW	—	—	—	—	—	CMAX[2:0]			
		—	—	—	—	TEW[3:0]				
	RFTROFF	RFTROFF[7:0]								
		—	—	—	—	—	—	—	—	
	TSR	—	—	—	—	—	—	—	—	
		—	—	—	TSR4	TSR3	TSR2	TSR1	TSR0	
	CCR	—	—	—	—	—	—	—	—	
		—	—	CCR[5:0]						
	TCNTR	TCNTR[15:8]								
		TCNTR[7:0]								
	CYCTR	CYCTR[15:8]								
		CYCTR[7:0]								
	RFMK	RFMK[15:8]								
		RFMK[7:0]								
	TCMR0	TCMR0[15:8]								
		TCMR0[7:0]								
	TCMR1	TCMR1[15:8]								
TCMR1[7:0]										
TCMR2	TCMR2[15:8]									
	TCMR2[7:0]									
TTTSEL	—	TTTSEL[14:8]								
	—	—	—	—	—	—	—	—		

モジュール名	レジスタ名	31/23/15/7	30/22/14/6	29/21/13/5	28/20/12/4	27/19/11/3	26/18/10/2	25/17/9/1	24/16/8/0	
RCAN-TL1 (RCAN_C)	MB[0]	RCAN_A の MB[0]と同じビット構成								
	MB[1]	RCAN_A の MB[1]と同じビット構成								
	MB[2]	RCAN_A の MB[2]と同じビット構成								
	:	:								
	MB[29]	RCAN_A の MB[29]と同じビット構成								
	MB[30]	RCAN_A の MB[30]と同じビット構成								
	MB[31]	RCAN_A の MB[31]と同じビット構成								
	MBESR		-	-	-	-	-	-	-	-
			-	-	-	-	-	-	-	MBEF
	MBECSR		-	-	-	-	-	-	-	-
		-	-	-	-	-	-	-	MBIM	
ADC (ADC_A)	ADR00									
	ADR0									
	ADR1									
	ADR2									
	ADR3									
	ADR4									
	ADR5									
ADR6										
ADR7										
ADR8										
ADR9										
ADR10										
ADR11										

モジュール名	レジスタ名	31/23/15/7	30/22/14/6	29/21/13/5	28/20/12/4	27/19/11/3	26/18/10/2	25/17/9/1	24/16/8/0
ADC (ADC_A)	ADR12								
	ADR13								
	ADR14								
	ADR15								
	ADR16								
	ADR17								
	ADR18								
	ADR19								
	ADR20								
	ADR21								
	ADR22								
	ADR23								
	ADR24								
	ADR25								
	ADR26								
	ADR27								
ADC (ADC_B)	ADR1								
	ADR40								

モジュール名	レジスタ名	31/23/15/7	30/22/14/6	29/21/13/5	28/20/12/4	27/19/11/3	26/18/10/2	25/17/9/1	24/16/8/0
ADC (ADC_B)	ADR41								
	ADR42								
	ADR43								
	ADR44								
	ADR45								
	ADR46								
	ADR47								
	ADR48								
ADC (ADC_A)	ADCSR0	ADST	ADCS	—	ADIE	—	—	TRGE	EXTRG
ADC (ADC_B)	ADCSR1	ADST	ADCS	—	ADIE	—	—	TRGE	EXTRG
ADC (ADC_A)	ADREF0	ADSCACT	ADITACT	—	—	—	—	—	ADF
ADC (ADC_B)	ADREF1	ADSCACT	ADITACT	—	—	—	—	—	ADF
ADC (ADC_A)	ADTRE0	ADTRGE15	ADTRGE14	ADTRGE13	ADTRGE12	ADTRGE11	ADTRGE10	ADTRGE9	ADTRGE8
		ADTRGE7	ADTRGE6	ADTRGE5	ADTRGE4	ADTRGE3	ADTRGE2	ADTRGE1	ADTRGE0
ADC (ADC_B)	ADTRE1	ADTRGE47	ADTRGE46	ADTRGE45	ADTRGE44	ADTRGE43	ADTRGE42	ADTRGE41	ADTRGE40
ADC (ADC_A)	ADTRF0	ADTF15	ADTF14	ADTF13	ADTF12	ADTF11	ADTF10	ADTF9	ADTF8
		ADTF7	ADTF6	ADTF5	ADTF4	ADTF3	ADTF2	ADTF1	ADTF0
ADC (ADC_B)	ADTRF1	ADTF47	ADTF46	ADTF45	ADTF44	ADTF43	ADTF42	ADTF41	ADTF40
ADC (ADC_A)	ADTRS0	ADTRS15	ADTRS14	ADTRS13	ADTRS12	ADTRS11	ADTRS10	ADTRS9	ADTRS8
		ADTRS7	ADTRS6	ADTRS5	ADTRS4	ADTRS3	ADTRS2	ADTRS1	ADTRS0
ADC (ADC_B)	ADTRS1	ADTRS47	ADTRS46	ADTRS45	ADTRS44	ADTRS43	ADTRS42	ADTRS41	ADTRS40
ADC (ADC_A)	ADSTRG0	ADSTRG15	ADSTRG14	ADSTRG13	ADSTRG12	ADSTRG11	ADSTRG10	ADSTRG9	ADSTRG8
		ADSTRG7	ADSTRG6	ADSTRG5	ADSTRG4	ADSTRG3	ADSTRG2	ADSTRG1	ADSTRG0
ADC (ADC_B)	ADSTRG1	ADSTRG47	ADSTRG46	ADSTRG45	ADSTRG44	ADSTRG43	ADSTRG42	ADSTRG41	ADSTRG40
ADC (ADC_A)	ADTRD0	ADIDE15	ADIDE14	ADIDE13	ADIDE12	ADIDE11	ADIDE10	ADIDE9	ADIDE8
		ADIDE7	ADIDE6	ADIDE5	ADIDE4	ADIDE3	ADIDE2	ADIDE1	ADIDE0

モジュール名	レジスタ名	31/23/15/7	30/22/14/6	29/21/13/5	28/20/12/4	27/19/11/3	26/18/10/2	25/17/9/1	24/16/8/0
ADC (ADC_B)	ADTRD1	ADIDE47	ADIDE46	ADIDE45	ADIDE44	ADIDE43	ADIDE42	ADIDE41	ADIDE40
ADC (ADC_A)	ADADS0	ADS7	ADS6	ADS5	ADS4	ADS3	ADS2	ADS1	ADS0
ADC (ADC_B)	ADADS1	ADS47	ADS46	ADS45	ADS44	ADS43	ADS42	ADS41	ADS40
ADC (ADC_A)	ADADC0	—	—	—	—	—	—	ADC[1:0]	
ADC (ADC_B)	ADADC1	—	—	—	—	—	—	ADC[1:0]	
ADC (ADC_A)	ADANS0	ANS15	ANS14	ANS13	ANS12	ANS11	ANS10	ANS9	ANS8
		ANS7	ANS6	ANS5	ANS4	ANS3	ANS2	ANS1	ANS0
	ADANS1	—	—	—	—	ANS27	ANS26	ANS25	ANS24
		ANS23	ANS22	ANS21	ANS20	ANS19	ANS18	ANS17	ANS16
ADC (ADC_B)	ADANS3	—	—	—	—	—	—	—	ANS48
		ANS47	ANS46	ANS45	ANS44	ANS43	ANS42	ANS41	ANS40
ADC (ADC_A)	ADCER0	ADRFMT	—	—	—	DIAGM	DIAGLD	DIAGVAL[1:0]	
		CKS	—	—	—	—	—	—	ITTRGS
ADC (ADC_B)	ADCER1	ADRFMT	—	—	—	DIAGM	DIAGLD	DIAGVAL[1:0]	
		CKS	—	—	—	—	—	—	—
JTAG	SDIR								
	SDID								
	SDBPR								
	SDBSR								
AUD-II	AUCSR	CLK[1:0]		BW[1:0]		OC[1:0]		BR[1:0]	
		WA[1:0]		WB[1:0]		—	TM	—	EN
	AUWASR								
	AUWAER								

モジュール名	レジスタ名	31/23/15/7	30/22/14/6	29/21/13/5	28/20/12/4	27/19/11/3	26/18/10/2	25/17/9/1	24/16/8/0	
AUD-II	AUWBSR									
	AUWBER									
	AUECSR	–	–	–	–	–	–	WA0B[2:1]		
WA0B[0]		WB0B[2:0]			TREX	TRSB	TRGN	–		
PFC	PAIOR	PA15IOR	PA14IOR	PA13IOR	PA12IOR	PA11IOR	PA10IOR	PA9IOR	PA8IOR	
		PA7IOR	PA6IOR	PA5IOR	PA4IOR	PA3IOR	PA2IOR	PA1IOR	PA0IOR	
	PACR4	–	–	–	PA15MD	–	–	–	PA14MD	
		–	–	–	PA13MD	–	–	–	PA12MD	
	PACR3	–	–	–	PA11MD	–	–	–	PA10MD	
		–	–	–	PA9MD	–	–	–	PA8MD	
	PACR2	–	–	–	PA7MD	–	–	–	PA6MD	
		–	–	–	PA5MD	–	–	–	PA4MD	
	PACR1	–	–	–	PA3MD	–	–	–	PA2MD	
		–	–	–	PA1MD	–	–	–	PA0MD	
	PBIOR	–	PB14IOR	PB13IOR	PB12IOR	PB11IOR	PB10IOR	PB9IOR	PB8IOR	
		PB7IOR	PB6IOR	PB5IOR	PB4IOR	PB3IOR	PB2IOR	PB1IOR	PB0IOR	
	PBCR4	–	–	–	–	–	PB14MD[2:0]			
		–	–	PB13MD[1:0]		–	–	PB12MD[1:0]		
	PBCR3	–	–	PB11MD[1:0]		–	–	–	PB10MD	
		–	–	–	PB9MD	–	–	PB8MD[1:0]		
	PBCR2	–	–	–	PB7MD	–	–	–	PB6MD	
		–	PB5MD[2:0]			–	PB4MD[2:0]			
	PBCR1	–	–	PB3MD[1:0]		–	–	PB2MD[1:0]		
		–	–	PB1MD[1:0]		–	–	PB0MD[1:0]		
	PCIOR	PC15IOR	PC14IOR	PC13IOR	PC12IOR	PC11IOR	PC10IOR	PC9IOR	PC8IOR	
		PC7IOR	PC6IOR	PC5IOR	PC4IOR	PC3IOR	PC2IOR	PC1IOR	PC0IOR	
	PCCR4	–	–	–	PC15MD	–	–	–	PC14MD	
		–	–	–	PC13MD	–	–	–	PC12MD	
	PCCR3	–	–	–	PC11MD	–	–	–	PC10MD	
		–	–	–	PC9MD	–	–	–	PC8MD	

モジュール名	レジスタ名	31/23/15/7	30/22/14/6	29/21/13/5	28/20/12/4	27/19/11/3	26/18/10/2	25/17/9/1	24/16/8/0
PFC	PCCR2	—	—	—	PC7MD	—	—	—	PC6MD
		—	—	—	PC5MD	—	—	—	PC4MD
	PCCR1	—	—	—	PC3MD	—	—	—	PC2MD
		—	—	—	PC1MD	—	—	—	PC0MD
	PDIOR	—	—	PD13IOR	PD12IOR	PD11IOR	PD10IOR	PD9IOR	PD8IOR
		PD7IOR	PD6IOR	PD5IOR	PD4IOR	PD3IOR	PD2IOR	PD1IOR	PD0IOR
	PDCR2	—	—	—	—	PD13MD[1:0]		PD12MD[1:0]	
		PD11MD[1:0]		PD10MD[1:0]		PD9MD[1:0]		PD8MD[1:0]	
	PDCR1	PD7MD[1:0]		PD6MD[1:0]		PD5MD[1:0]		PD4MD[1:0]	
		PD3MD[1:0]		PD2MD[1:0]		PD1MD[1:0]		PD0MD[1:0]	
	PEIOR	—	—	PE13IOR	PE12IOR	PE11IOR	PE10IOR	PE9IOR	PE8IOR
		PE7IOR	PE6IOR	PE5IOR	PE4IOR	PE3IOR	PE2IOR	PE1IOR	PE0IOR
	PECR2	—	—	—	—	—	PE13MD	—	PE12MD
		—	PE11MD	—	PE10MD	—	PE9MD	—	PE8MD
	PECR1	PE7MD[1:0]		PE6MD[1:0]		—	PE5MD	—	PE4MD
		—	PE3MD	PE2MD[1:0]		PE1MD[1:0]		—	PE0MD
	PFIOR	PF15IOR	PF14IOR	PF13IOR	PF12IOR	PF11IOR	PF10IOR	PF9IOR	PF8IOR
		PF7IOR	PF6IOR	PF5IOR	PF4IOR	PF3IOR	PF2IOR	PF1IOR	PF0IOR
	PFCR2	PF15MD[1:0]		PF14MD[1:0]		PF13MD[1:0]		PF12MD[1:0]	
		PF11MD[1:0]		PF10MD[1:0]		PF9MD[1:0]		PF8MD[1:0]	
	PFCR1	PF7MD[1:0]		PF6MD[1:0]		PF5MD[1:0]		PF4MD[1:0]	
		PF3MD[1:0]		PF2MD[1:0]		PF1MD[1:0]		PF0MD[1:0]	
	PGIOR	PG15IOR	PG14IOR	PG13IOR	PG12IOR	PG11IOR	PG10IOR	PG9IOR	PG8IOR
		PG7IOR	PG6IOR	PG5IOR	PG4IOR	PG3IOR	PG2IOR	PG1IOR	PG0IOR
	PGCR2	PG15MD[1:0]		PG14MD[1:0]		PG13MD[1:0]		PG12MD[1:0]	
		PG11MD[1:0]		PG10MD[1:0]		PG9MD[1:0]		PG8MD[1:0]	
	PGCR1	PG7MD[1:0]		PG6MD[1:0]		PG5MD[1:0]		PG4MD[1:0]	
		PG3MD[1:0]		PG2MD[1:0]		PG1MD[1:0]		PG0MD[1:0]	
	PHIOR	—	—	—	—	—	—	—	—
		—	—	PH5IOR	PH4IOR	PH3IOR	PH2IOR	PH1IOR	PH0IOR
	PHCR	—	—	—	—	PH5MD[1:0]		PH4MD[1:0]	
		PH3MD[1:0]		PH2MD[1:0]		PH1MD[1:0]		PH0MD[1:0]	
	PJIOR	—	—	—	—	—	—	PJ9IOR	PJ8IOR
		PJ7IOR	PJ6IOR	PJ5IOR	PJ4IOR	PJ3IOR	PJ2IOR	PJ1IOR	PJ0IOR
	PJCR2	—	—	—	—	—	—	—	—
		—	—	—	—	—	PJ9MD	—	PJ8MD

モジュール名	レジスタ名	31/23/15/7	30/22/14/6	29/21/13/5	28/20/12/4	27/19/11/3	26/18/10/2	25/17/9/1	24/16/8/0
PFC	PJCR1	PJ7MD[1:0]		—	PJ6MD	—	PJ5MD	PJ4MD[1:0]	
		PJ3MD[1:0]		PJ2MD[1:0]		PJ1MD[1:0]		PJ0MD[1:0]	
	PKIOR	—	—	—	—	PK11IOR	PK10IOR	PK9IOR	PK8IOR
		PK7IOR	PK6IOR	PK5IOR	PK4IOR	PK3IOR	PK2IOR	PK1IOR	PK0IOR
	PKCR2	—	—	—	—	—	—	—	—
		PK11MD[1:0]		PK10MD[1:0]		PK9MD[1:0]		—	PK8MD
	PKCR1	—	PK7MD	—	PK6MD	PK5MD[1:0]		PK4MD[1:0]	
		PK3MD[1:0]		PK2MD[1:0]		PK1MD[1:0]		PK0MD[1:0]	
	PLIOR	—	—	—	—	—	—	—	PL8IOR
		PL7IOR	PL6IOR	PL5IOR	PL4IOR	PL3IOR	PL2IOR	PL1IOR	PL0IOR
	PLCR2	—	—	—	—	—	—	—	—
		—	—	—	—	—	—	—	PL8MD
	PLCR1	PL7MD[1:0]		PL6MD[1:0]		PL5MD[1:0]		PL4MD[1:0]	
		PL3MD[1:0]		PL2MD[1:0]		PL1MD[1:0]		PL0MD[1:0]	
I/O ポート	PADR	PA15DR	PA14DR	PA13DR	PA12DR	PA11DR	PA10DR	PA9DR	PA8DR
		PA7DR	PA6DR	PA5DR	PA4DR	PA3DR	PA2DR	PA1DR	PA0DR
	PAPR	PA15PR	PA14PR	PA13PR	PA12PR	PA11PR	PA10PR	PA9PR	PA8PR
		PA7PR	PA6PR	PA5PR	PA4PR	PA3PR	PA2PR	PA1PR	PA0PR
	PBDR	—	PB14DR	PB13DR	PB12DR	PB11DR	PB10DR	PB9DR	PB8DR
		PB7DR	PB6DR	PB5DR	PB4DR	PB3DR	PB2DR	PB1DR	PB0DR
	PBPR	—	PB14PR	PB13PR	PB12PR	PB11PR	PB10PR	PB9PR	PB8PR
		PB7PR	PB6PR	PB5PR	PB4PR	PB3PR	PB2PR	PB1PR	PB0PR
	PBIR	—	—	PB13IR	PB12IR	PB11IR	—	—	PB8IR
		—	—	—	PB4IR	PB3IR	PB2IR	PB1IR	PB0IR
	PBDSR	—	—	PB13DSR	PB12DSR	—	—	—	—
		—	—	—	PB4DSR	PB3DSR	PB2DSR	PB1DSR	PB0DSR
	PBPSR	—	—	—	—	—	—	—	—
		—	—	—	—	PB3PSR	—	PB1PSR	—
	PCDR	PC15DR	PC14DR	PC13DR	PC12DR	PC11DR	PC10DR	PC9DR	PC8DR
		PC7DR	PC6DR	PC5DR	PC4DR	PC3DR	PC2DR	PC1DR	PC0DR
	PCPR	PC15PR	PC14PR	PC13PR	PC12PR	PC11PR	PC10PR	PC9PR	PC8PR
		PC7PR	PC6PR	PC5PR	PC4PR	PC3PR	PC2PR	PC1PR	PC0PR
	PDDR	—	—	PD13DR	PD12DR	PD11DR	PD10DR	PD9DR	PD8DR
		PD7DR	PD6DR	PD5DR	PD4DR	PD3DR	PD2DR	PD1DR	PD0DR
	PDPR	—	—	PD13PR	PD12PR	PD11PR	PD10PR	PD9PR	PD8PR
		PD7PR	PD6PR	PD5PR	PD4PR	PD3PR	PD2PR	PD1PR	PD0PR

モジュール名	レジスタ名	31/23/15/7	30/22/14/6	29/21/13/5	28/20/12/4	27/19/11/3	26/18/10/2	25/17/9/1	24/16/8/0
I/O ポート	PDIR	—	—	—	PD12IR	PD11IR	PD10IR	PD9IR	PD8IR
		PD7IR	PD6IR	PD5IR	PD4IR	PD3IR	PD2IR	PD1IR	PD0IR
	PEDR	—	—	PE13DR	PE12DR	PE11DR	PE10DR	PE9DR	PE8DR
		PE7DR	PE6DR	PE5DR	PE4DR	PE3DR	PE2DR	PE1DR	PE0DR
	PEPR	—	—	PE13PR	PE12PR	PE11PR	PE10PR	PE9PR	PE8PR
		PE7PR	PE6PR	PE5PR	PE4PR	PE3PR	PE2PR	PE1PR	PE0PR
	PEIR	—	—	PE13IR	PE12IR	PE11IR	PE10IR	PE9IR	PE8IR
		PE7IR	PE6IR	—	—	—	PE2IR	PE1IR	—
	PEDSR	—	—	—	—	—	PE10DSR	PE9DSR	PE8DSR
		PE7DSR	PE6DSR	—	—	—	—	—	—
	PFDR	PF15DR	PF14DR	PF13DR	PF12DR	PF11DR	PF10DR	PF9DR	PF8DR
		PF7DR	PF6DR	PF5DR	PF4DR	PF3DR	PF2DR	PF1DR	PF0DR
	PFPR	PF15PR	PF14PR	PF13PR	PF12PR	PF11PR	PF10PR	PF9PR	PF8PR
		PF7PR	PF6PR	PF5PR	PF4PR	PF3PR	PF2PR	PF1PR	PF0PR
	PFIR	PF15IR	PF14IR	PF13IR	PF12IR	PF11IR	PF10IR	PF9IR	PF8IR
		PF7IR	PF6IR	PF5IR	PF4IR	PF3IR	PF2IR	PF1IR	PF0IR
	PFDSR	—	PF14DSR	—	—	—	—	—	—
		—	—	—	—	—	—	—	—
	PFPSR	PF15PSR	—	—	—	—	—	—	—
		—	—	—	—	—	—	—	—
	PGDR	PG15DR	PG14DR	PG13DR	PG12DR	PG11DR	PG10DR	PG9DR	PG8DR
		PG7DR	PG6DR	PG5DR	PG4DR	PG3DR	PG2DR	PG1DR	PG0DR
	PGPR	PG15PR	PG14PR	PG13PR	PG12PR	PG11PR	PG10PR	PG9PR	PG8PR
		PG7PR	PG6PR	PG5PR	PG4PR	PG3PR	PG2PR	PG1PR	PG0PR
	PGIR	PG15IR	PG14IR	PG13IR	PG12IR	PG11IR	PG10IR	PG9IR	PG8IR
		PG7IR	PG6IR	PG5IR	PG4IR	PG3IR	PG2IR	PG1IR	PG0IR
	PGDSR	PG15DSR	PG14DSR	PG13DSR	PG12DSR	PG11DSR	PG10DSR	PG9DSR	PG8DSR
		PG7DSR	PG6DSR	PG5DSR	PG4DSR	PG3DSR	PG2DSR	PG1DSR	PG0DSR
	PGER	—	—	—	—	—	—	PGHES[1:0]	
		—	—	—	—	—	—	PGLES[1:0]	
	PHDR	—	—	—	—	—	—	—	—
		—	—	PH5DR	PH4DR	PH3DR	PH2DR	PH1DR	PH0DR
	PHPR	—	—	—	—	—	—	—	—
		—	—	PH5PR	PH4PR	PH3PR	PH2PR	PH1PR	PH0PR
	PJDR	—	—	—	—	—	—	PJ9DR	PJ8DR
		PJ7DR	PJ6DR	PJ5DR	PJ4DR	PJ3DR	PJ2DR	PJ1DR	PJ0DR

モジュール名	レジスタ名	31/23/15/7	30/22/14/6	29/21/13/5	28/20/12/4	27/19/11/3	26/18/10/2	25/17/9/1	24/16/8/0	
I/O ポート	PJPR	—	—	—	—	—	—	PJ9PR	PJ8PR	
		PJ7PR	PJ6PR	PJ5PR	PJ4PR	PJ3PR	PJ2PR	PJ1PR	PJ0PR	
	PJIR	—	—	—	—	—	—	—	PJ8IR	
		PJ7IR	—	PJ5IR	PJ4IR	—	PJ2IR	—	PJ0IR	
	PJDSR	—	—	—	—	—	—	—	PJ8DSR	
		PJ7DSR	—	PJ5DSR	PJ4DSR	—	PJ2DSR	—	PJ0DSR	
	PJPSR	—	—	—	—	—	—	PJ9PSR	—	
		—	PJ6PSR	—	—	PJ3PSR	—	PJ1PSR	—	
	PKDR	—	—	—	—	PK11DR	PK10DR	PK9DR	PK8DR	
		PK7DR	PK6DR	PK5DR	PK4DR	PK3DR	PK2DR	PK1DR	PK0DR	
	PKPR	—	—	—	—	PK11PR	PK10PR	PK9PR	PK8PR	
		PK7PR	PK6PR	PK5PR	PK4PR	PK3PR	PK2PR	PK1PR	PK0PR	
	PKIR	—	—	—	—	PK11IR	PK10IR	PK9IR	—	
		PK7IR	PK6IR	PK5IR	PK4IR	PK3IR	PK2IR	PK1IR	PK0IR	
	PKDSR	—	—	—	—	PK11DSR	PK10DSR	PK9DSR	—	
		PK7DSR	PK6DSR	PK5DSR	PK4DSR	PK3DSR	PK2DSR	PK1DSR	PK0DSR	
	PKPSR	—	—	—	—	PK11PSR	—	—	PK8PSR	
		—	—	PK5PSR	—	—	PK2PSR	—	—	
	PLDR	—	—	—	—	—	—	—	PL8DR	
		PL7DR	PL6DR	PL5DR	PL4DR	PL3DR	PL2DR	PL1DR	PL0DR	
	PLPR	—	—	—	—	—	—	—	PL8PR	
		PL7PR	PL6PR	PL5PR	PL4PR	PL3PR	PL2PR	PL1PR	PL0PR	
	PLIR	—	—	—	—	—	—	—	PL8IR	
		PL7IR	PL6IR	PL5IR	PL4IR	PL3IR	PL2IR	PL1IR	—	
	CKCR	—	—	—	—	—	—	—	—	
		—	—	—	—	—	—	—	CKOE	
	MISG	MISRCDR	MISRCD[31:24]							
			MISRCD[23:16]							
			MISRCD[15:8]							
			MISRCD[7:0]							
		MISRCR	—	—	—	—	—	—	—	MISREN
		MISR	MISR[31:24]							
MISR[23:16]										
MISR[15:8]										
MISR[7:0]										

モジュール名	レジスタ名	31/23/15/7	30/22/14/6	29/21/13/5	28/20/12/4	27/19/11/3	26/18/10/2	25/17/9/1	24/16/8/0	
ROM/ EEPROM	FPMON	FWE	-	-	-	-	-	-	-	
	FMODR	-	-	-	FRDMD	-	-	-	-	
	FASTAT	ROMAE	-	-	CMDLK	EEPAE	EEPIFE	EEPRPE	EEPWPE	
	FAEINT	ROMAEIE	-	-	CMDLKIE	EEPAEIE	EEPIFEIE	EEPRPEIE	EEPWPEIE	
	ROMMAT	KEY								
		-	-	-	-	-	-	-	ROMSEL	
	FCURAME	KEY								
		-	-	-	-	-	-	-	FCRME	
	FSTATR0	FRDY	ILGLERR	ERSERR	PRGERR	SUSRDY	-	ERSSPD	PRGSPD	
	FSTATR1	FCUERR	-	-	FLOCKST	-	-	FRDTCT	FRCRCT	
	FENTRYR	FEKEY								
		FENTRYD	-	FENTRY5	FENTRY4	FENTRY3	FENTRY2	FENTRY1	FENTRY0	
	FPROTR	FPKEY								
		-	-	-	-	-	-	-	FPROTCN	
	FRESETR	FRKEY								
		-	-	-	-	-	-	-	FRESET	
	FCMDR	CMDR								
		PCMDR								
	FRAMECCR	-	-	-	-	-	-	FRDCLE	FRCCLE	
	FCPSR	-	-	-	-	-	-	-	-	
		-	-	-	-	-	-	-	ESUSPMD	
	EEPBCCNT	-	-	-	BCADR				-	-
		BCADR						-	-	BCSIZE
	FPESTAT	-	-	-	-	-	-	-	-	
		PEERRST								
	EEPBCSTAT	-	-	-	-	-	-	-	-	
		-	-	-	-	-	-	-	BCST	
	EEPRE0	KEY								
		DBRE07	DBRE06	DBRE05	DBRE04	DBRE03	DBRE02	DBRE01	DBRE00	
	EEPRE1	KEY								
		DBRE15	DBRE14	DBRE13	DBRE12	DBRE11	DBRE10	DBRE09	DBRE08	
	EEPWE0	KEY								
		DBWE07	DBWE06	DBWE05	DBWE04	DBWE03	DBWE02	DBWE01	DBWE00	
	EEPWE1	KEY								
DBWE15		DBWE14	DBWE13	DBWE12	DBWE11	DBWE10	DBWE09	DBWE08		
EEPMAT	KEY									
	-	-	-	-	-	-	-	EEPSEL		

モジュール名	レジスタ名	31/23/15/7	30/22/14/6	29/21/13/5	28/20/12/4	27/19/11/3	26/18/10/2	25/17/9/1	24/16/8/0
ROMC	RCCR	—	—	—	—	—	—	—	—
		—	—	—	—	—	—	—	—
		—	—	—	—	—	—	—	—
		—	—	—	—	RCF	RCFI	RCFD	RCE
	RCCR2	—	—	—	—	—	—	—	—
		—	—	—	—	—	—	—	—
		—	—	—	—	—	—	—	—
		PFECB	PFENB	PFECF	PFE	—	PCE2	—	PCE0
RAM	RAMEN0	RNOKEY[7:0]							
		RAME7	RAME6	RAME5	RAME4	RAME3	RAME2	RAME1	RAME0
	RAMWEN0	RWN0KEY[7:0]							
		RAMWE7	RAMWE6	RAMWE5	RAMWE4	RAMWE3	RAMWE2	RAMWE1	RAMWE0
	RAMEN1	RN1KEY[7:0]							
		RAME15	RAME14	RAME13	RAME12	RAME11	RAME10	RAME9	RAME8
	RAMWEN1	RWN1KEY[7:0]							
		RAMWE15	RAMWE14	RAMWE13	RAMWE12	RAMWE11	RAMWE10	RAMWE9	RAMWE8
	RAMECC	REKEY[7:0]							
		—	—	—	—	—	—	—	RECCA
	RAMERR	—	—	RPAR1	RPARI	RDTCT1	RCRCT1	RDTCT	RCRCT
	RAMINT	—	—	RPEIE1	RPEIE0	REDIE1	RECIE1	REDIE0	RECIE0
	RAMACYC	RAKEY[7:0]							
		—	—	WRCYC[1:0]		—	—	—	RDCYC
低消費電力 モード	STBCR	STBCRKEY							
		—	—	—	MSTP4	MSTP3	MSTP2	MSTP1	MSTP0

31.3 各動作モードにおけるレジスタの状態の一覧

モジュール名	略称	リセット状態	低消費電力状態	
		パワーオン	ハードウェアスタンバイ	スリープ
INTC	ICR0	初期化	初期化	保持
	ICR1	初期化	初期化	保持
	IRQRR	初期化	初期化	保持
	IBCR	初期化	初期化	保持
	IBNR	初期化	初期化	保持
	SINTR1	初期化	初期化	保持
	SINTR2	初期化	初期化	保持
	SINTR3	初期化	初期化	保持
	SINTR4	初期化	初期化	保持
	SINTR5	初期化	初期化	保持
	SINTR6	初期化	初期化	保持
	SINTR7	初期化	初期化	保持
	SINTR8	初期化	初期化	保持
	IPR01	初期化	初期化	保持
	IPR02	初期化	初期化	保持
	SINTR9	初期化	初期化	保持
	SINTR10	初期化	初期化	保持
	SINTR11	初期化	初期化	保持
	SINTR12	初期化	初期化	保持
	SINTR13	初期化	初期化	保持
	SINTR14	初期化	初期化	保持
	SINTR15	初期化	初期化	保持
	IPR03	初期化	初期化	保持
	IPR04	初期化	初期化	保持
	IPR05	初期化	初期化	保持
	IPR06	初期化	初期化	保持
	IPR07	初期化	初期化	保持
	IPR08	初期化	初期化	保持
	IPR09	初期化	初期化	保持
	IPR10	初期化	初期化	保持
IPR11	初期化	初期化	保持	
IPR12	初期化	初期化	保持	
IPR13	初期化	初期化	保持	
IPR14	初期化	初期化	保持	

モジュール名	略称	リセット状態	低消費電力状態	
		パワーオン	ハードウェアスタンバイ	スリープ
INTC	IPR15	初期化	初期化	保持
	IPR16	初期化	初期化	保持
	IPR17	初期化	初期化	保持
	IPR18	初期化	初期化	保持
	IPR19	初期化	初期化	保持
	IPR20	初期化	初期化	保持
	IPR21	初期化	初期化	保持
	IPR22	初期化	初期化	保持
	IPR23	初期化	初期化	保持
	IPR24	初期化	初期化	保持
	IPR25	初期化	初期化	保持
	IPR26	初期化	初期化	保持
	IPR27	初期化	初期化	保持
	IPR28	初期化	初期化	保持
	IPR29	初期化	初期化	保持
UBC	BAR_0	初期化	初期化	保持
	BAMR_0	初期化	初期化	保持
	BBR_0	初期化	初期化	保持
	BAR_1	初期化	初期化	保持
	BAMR_1	初期化	初期化	保持
	BBR_1	初期化	初期化	保持
	BAR_2	初期化	初期化	保持
	BAMR_2	初期化	初期化	保持
	BBR_2	初期化	初期化	保持
	BAR_3	初期化	初期化	保持
	BAMR_3	初期化	初期化	保持
	BBR_3	初期化	初期化	保持
	BRCR	初期化	初期化	保持
BSC	CS0BCR	初期化	初期化	保持
	CS1BCR	初期化	初期化	保持
	CS2BCR	初期化	初期化	保持
	CS3BCR	初期化	初期化	保持
	CS0WCR	初期化	初期化	保持
	CS1WCR	初期化	初期化	保持
	CS2WCR	初期化	初期化	保持
	CS3WCR	初期化	初期化	保持

モジュール名	略称	リセット状態	低消費電力状態	
		パワーオン	ハードウェアスタンバイ	スリープ
DMAC	SAR0	初期化	初期化	保持
	DAR0	初期化	初期化	保持
	DMATCR0	初期化	初期化	保持
	CHCR0	初期化	初期化	保持
	CHFR0	初期化	初期化	保持
	TEMSK0	初期化	初期化	保持
	RSAR0	初期化	初期化	保持
	RDAR0	初期化	初期化	保持
	RDMATCR0	初期化	初期化	保持
	SAR1	初期化	初期化	保持
	DAR1	初期化	初期化	保持
	DMATCR1	初期化	初期化	保持
	CHCR1	初期化	初期化	保持
	CHFR1	初期化	初期化	保持
	TEMSK1	初期化	初期化	保持
	RSAR1	初期化	初期化	保持
	RDAR1	初期化	初期化	保持
	RDMATCR1	初期化	初期化	保持
	SAR2	初期化	初期化	保持
	DAR2	初期化	初期化	保持
	DMATCR2	初期化	初期化	保持
	CHCR2	初期化	初期化	保持
	CHFR2	初期化	初期化	保持
	TEMSK2	初期化	初期化	保持
	RSAR2	初期化	初期化	保持
	RDAR2	初期化	初期化	保持
	RDMATCR2	初期化	初期化	保持
	SAR3	初期化	初期化	保持
	DAR3	初期化	初期化	保持
	DMATCR3	初期化	初期化	保持
	CHCR3	初期化	初期化	保持
	CHFR3	初期化	初期化	保持
	TEMSK3	初期化	初期化	保持
RSAR3	初期化	初期化	保持	
RDAR3	初期化	初期化	保持	
RDMATCR3	初期化	初期化	保持	

モジュール名	略称	リセット状態	低消費電力状態		
		パワーオン	ハードウェアスタンバイ	スリープ	
DMAC	SAR4	初期化	初期化	保持	
	DAR4	初期化	初期化	保持	
	DMATCR4	初期化	初期化	保持	
	CHCR4	初期化	初期化	保持	
	CHFR4	初期化	初期化	保持	
	TEMSK4	初期化	初期化	保持	
	RSAR4	初期化	初期化	保持	
	RDAR4	初期化	初期化	保持	
	RDMATCR4	初期化	初期化	保持	
	ARCR4	初期化	初期化	保持	
	RARCR4	初期化	初期化	保持	
	SAR5	初期化	初期化	初期化	保持
	DAR5	初期化	初期化	初期化	保持
	DMATCR5	初期化	初期化	初期化	保持
	CHCR5	初期化	初期化	初期化	保持
	CHFR5	初期化	初期化	初期化	保持
	TEMSK5	初期化	初期化	初期化	保持
	RSAR5	初期化	初期化	初期化	保持
	RDAR5	初期化	初期化	初期化	保持
	RDMATCR5	初期化	初期化	初期化	保持
	ARCR5	初期化	初期化	初期化	保持
	RARCR5	初期化	初期化	初期化	保持
	SAR6	初期化	初期化	初期化	保持
	DAR6	初期化	初期化	初期化	保持
	DMATCR6	初期化	初期化	初期化	保持
	CHCR6	初期化	初期化	初期化	保持
	CHFR6	初期化	初期化	初期化	保持
	TEMSK6	初期化	初期化	初期化	保持
	RSAR6	初期化	初期化	初期化	保持
	RDAR6	初期化	初期化	初期化	保持
	RDMATCR6	初期化	初期化	初期化	保持
	ARCR6	初期化	初期化	初期化	保持
	RARCR6	初期化	初期化	初期化	保持
SAR7	初期化	初期化	初期化	保持	
DAR7	初期化	初期化	初期化	保持	
DMATCR7	初期化	初期化	初期化	保持	

モジュール名	略称	リセット状態	低消費電力状態	
		パワーオン	ハードウェアスタンバイ	スリープ
DMAC	CHCR7	初期化	初期化	保持
	CHFR7	初期化	初期化	保持
	TEMSK7	初期化	初期化	保持
	RSAR7	初期化	初期化	保持
	RDAR7	初期化	初期化	保持
	RDMATCR7	初期化	初期化	保持
	ARCR7	初期化	初期化	保持
	RARCR7	初期化	初期化	保持
	DMAOR	初期化	初期化	保持
	DMAFR	初期化	初期化	保持
	DMARS0	初期化	初期化	保持
	DMARS1	初期化	初期化	保持
	DMARS2	初期化	初期化	保持
	DMARS3	初期化	初期化	保持
A-DMAC	ADMAOR	初期化	初期化	保持
	ADMAABR	初期化	初期化	保持
	ADMAIE0	初期化	初期化	保持
	ADMAIE1	初期化	初期化	保持
	ADMAIE2	初期化	初期化	保持
	ADMAIE3	初期化	初期化	保持
	ADMAIE4	初期化	初期化	保持
	ADMAIE5	初期化	初期化	保持
	ADMAIE7	初期化	初期化	保持
	ADMAIE8	初期化	初期化	保持
	ADMAIE9	初期化	初期化	保持
	ADMADV0	初期化	初期化	保持
	ADMADV1	初期化	初期化	保持
	ADMADV2	初期化	初期化	保持
	ADMADV3	初期化	初期化	保持
	ADMADV4	初期化	初期化	保持
	ADMADV5	初期化	初期化	保持
	ADMATE0	初期化	初期化	保持
	ADMATE1	初期化	初期化	保持
	ADMATE2	初期化	初期化	保持
ADMADVE0	初期化	初期化	保持	
ADMADVE1	初期化	初期化	保持	

モジュール名	略称	リセット状態	低消費電力状態	
		パワーオン	ハードウェアスタンバイ	スリープ
A-DMAC	ADMADE2	初期化	初期化	保持
	ADMADE3	初期化	初期化	保持
	ADMADE4	初期化	初期化	保持
	ADMADE5	初期化	初期化	保持
	ADMADE7	初期化	初期化	保持
	ADMAMODE0	初期化	初期化	保持
	ADMAMODE1	初期化	初期化	保持
	ADMAMODE2	初期化	初期化	保持
	ADMATCR0	初期化	初期化	保持
	ADMARTCR0	初期化	初期化	保持
	ADMATCR1	初期化	初期化	保持
	ADMARTCR1	初期化	初期化	保持
	ADMATCR56	初期化	初期化	保持
	ADMATCR57	初期化	初期化	保持
	ADMATCR58	初期化	初期化	保持
	ADMATCR59	初期化	初期化	保持
	ADMATCR60	初期化	初期化	保持
	ADMATCR61	初期化	初期化	保持
	ADMATCR62	初期化	初期化	保持
	ADMATCR63	初期化	初期化	保持
	ADMATCR64	初期化	初期化	保持
	ADMATCR65	初期化	初期化	保持
	ADMATCR66	初期化	初期化	保持
	ADMATCR67	初期化	初期化	保持
	ADMATCR68	初期化	初期化	保持
	ADMATCR69	初期化	初期化	保持
	ADMATCR70	初期化	初期化	保持
	ADMATCR71	初期化	初期化	保持
	ADMAAR0	初期化	初期化	保持
	ADMARAR0	初期化	初期化	保持
	ADMAAR1	初期化	初期化	保持
	ADMARAR1	初期化	初期化	保持
ADMAAR56	初期化	初期化	保持	
ADMAAR57	初期化	初期化	保持	
ADMAAR58	初期化	初期化	保持	
ADMAAR59	初期化	初期化	保持	

モジュール名	略称	リセット状態	低消費電力状態	
		パワーオン	ハードウェアスタンバイ	スリープ
A-DMAC	ADMAAR60	初期化	初期化	保持
	ADMAAR61	初期化	初期化	保持
	ADMAAR62	初期化	初期化	保持
	ADMAAR63	初期化	初期化	保持
	ADMAAR64	初期化	初期化	保持
	ADMAAR65	初期化	初期化	保持
	ADMAAR66	初期化	初期化	保持
	ADMAAR67	初期化	初期化	保持
	ADMAAR68	初期化	初期化	保持
	ADMAAR69	初期化	初期化	保持
	ADMAAR70	初期化	初期化	保持
	ADMAAR71	初期化	初期化	保持
	ADMABUF2	初期化	初期化	保持
	ADMABUF3	初期化	初期化	保持
	ADMABUF4	初期化	初期化	保持
	ADMABUF5	初期化	初期化	保持
	ADMABUF6	初期化	初期化	保持
	ADMABUF7	初期化	初期化	保持
	ADMARVPR0	初期化	初期化	保持
	ADMARVPR1	初期化	初期化	保持
	ADMARVPR2	初期化	初期化	保持
	ADMARVPR3	初期化	初期化	保持
	ADMARVPR4	初期化	初期化	保持
	ADMARVPR5	初期化	初期化	保持
	ADMATVPR0	初期化	初期化	保持
	ADMATVPR1	初期化	初期化	保持
	ADMATVPR2	初期化	初期化	保持
	ADMATVPR3	初期化	初期化	保持
ADMATVPR4	初期化	初期化	保持	
ADMATVPR5	初期化	初期化	保持	
ATU-III	ATUENR	初期化	初期化	保持
	CBCNT	初期化	初期化	保持
	NCMR	初期化	初期化	保持
	PSCR0	初期化	初期化	保持
	PSCR1	初期化	初期化	保持
	PSCR2	初期化	初期化	保持

モジュール名	略称	リセット状態	低消費電力状態	
		パワーオン	ハードウェアスタンバイ	スリープ
ATU-III	PSCR3	初期化	初期化	保持
	TCRA	初期化	初期化	保持
	TIOR1A	初期化	初期化	保持
	TIOR2A	初期化	初期化	保持
	TSRA	初期化	初期化	保持
	TIERA	初期化	初期化	保持
	NCNTA0	初期化	初期化	保持
	NCRA0	初期化	初期化	保持
	NCNTA1	初期化	初期化	保持
	NCRA1	初期化	初期化	保持
	NCNTA2	初期化	初期化	保持
	NCRA2	初期化	初期化	保持
	NCNTA3	初期化	初期化	保持
	NCRA3	初期化	初期化	保持
	NCNTA4	初期化	初期化	保持
	NCRA4	初期化	初期化	保持
	NCNTA5	初期化	初期化	保持
	NCRA5	初期化	初期化	保持
	TCNTA	初期化	初期化	保持
	ICRA0	初期化	初期化	保持
	ICRA1	初期化	初期化	保持
	ICRA2	初期化	初期化	保持
	ICRA3	初期化	初期化	保持
	ICRA4	初期化	初期化	保持
	ICRA5	初期化	初期化	保持
	TCRB	初期化	初期化	保持
	TIORB	初期化	初期化	保持
	TSRB	初期化	初期化	保持
	TIERB	初期化	初期化	保持
	TCNTB0	初期化	初期化	保持
	ICRB0	初期化	初期化	保持
	OCRB0	初期化	初期化	保持
	TCNTB1	初期化	初期化	保持
	OCRB1	初期化	初期化	保持
ICRB1	初期化	初期化	保持	
ICRB2	初期化	初期化	保持	

モジュール名	略称	リセット状態	低消費電力状態	
		パワーオン	ハードウェアスタンバイ	スリープ
ATU-III	LDB	初期化	初期化	保持
	RLDB	初期化	初期化	保持
	PIMR	初期化	初期化	保持
	TCNTB2	初期化	初期化	保持
	TCNTB6	初期化	初期化	保持
	OCRB6	初期化	初期化	保持
	OCRB7	初期化	初期化	保持
	TCNTB3	初期化	初期化	保持
	TCNTB4	初期化	初期化	保持
	TCNTB5	初期化	初期化	保持
	TCCLRB	初期化	初期化	保持
	TSTRC	初期化	初期化	保持
	NCCRC0	初期化	初期化	保持
	NCCRC1	初期化	初期化	保持
	NCCRC2	初期化	初期化	保持
	NCCRC3	初期化	初期化	保持
	NCCRC4	初期化	初期化	保持
	NCNTC00	初期化	初期化	保持
	NCNTC01	初期化	初期化	保持
	NCNTC02	初期化	初期化	保持
	NCNTC03	初期化	初期化	保持
	NCRC00	初期化	初期化	保持
	NCRC01	初期化	初期化	保持
	NCRC02	初期化	初期化	保持
	NCRC03	初期化	初期化	保持
	NCNTC10	初期化	初期化	保持
	NCNTC11	初期化	初期化	保持
	NCNTC12	初期化	初期化	保持
	NCNTC13	初期化	初期化	保持
	NCRC10	初期化	初期化	保持
	NCRC11	初期化	初期化	保持
	NCRC12	初期化	初期化	保持
NCRC13	初期化	初期化	保持	
NCNTC20	初期化	初期化	保持	
NCNTC21	初期化	初期化	保持	
NCNTC22	初期化	初期化	保持	

モジュール名	略称	リセット状態	低消費電力状態	
		パワーオン	ハードウェアスタンバイ	スリープ
ATU-III	NCNTC23	初期化	初期化	保持
	NCRC20	初期化	初期化	保持
	NCRC21	初期化	初期化	保持
	NCRC22	初期化	初期化	保持
	NCRC23	初期化	初期化	保持
	NCNTC30	初期化	初期化	保持
	NCNTC31	初期化	初期化	保持
	NCNTC32	初期化	初期化	保持
	NCNTC33	初期化	初期化	保持
	NCRC30	初期化	初期化	保持
	NCRC31	初期化	初期化	保持
	NCRC32	初期化	初期化	保持
	NCRC33	初期化	初期化	保持
	NCNTC40	初期化	初期化	保持
	NCNTC41	初期化	初期化	保持
	NCNTC42	初期化	初期化	保持
	NCNTC43	初期化	初期化	保持
	NCRC40	初期化	初期化	保持
	NCRC41	初期化	初期化	保持
	NCRC42	初期化	初期化	保持
	NCRC43	初期化	初期化	保持
	TCRC0	初期化	初期化	保持
	TIERC0	初期化	初期化	保持
	TIORC0	初期化	初期化	保持
	TSRC0	初期化	初期化	保持
	GRC00	初期化	初期化	保持
	GRC01	初期化	初期化	保持
	GRC02	初期化	初期化	保持
	GRC03	初期化	初期化	保持
	TCNTC0	初期化	初期化	保持
	TCRC1	初期化	初期化	保持
	TIERC1	初期化	初期化	保持
	TIORC1	初期化	初期化	保持
TSRC1	初期化	初期化	保持	
GRC10	初期化	初期化	保持	
GRC11	初期化	初期化	保持	

モジュール名	略称	リセット状態		
		リセット状態	低消費電力状態	
		パワーオン	ハードウェアスタンバイ	スリープ
ATU-III	GRC12	初期化	初期化	保持
	GRC13	初期化	初期化	保持
	TCNTC1	初期化	初期化	保持
	TCRC2	初期化	初期化	保持
	TIERC2	初期化	初期化	保持
	TIORC2	初期化	初期化	保持
	TSRC2	初期化	初期化	保持
	GRC20	初期化	初期化	保持
	GRC21	初期化	初期化	保持
	GRC22	初期化	初期化	保持
	GRC23	初期化	初期化	保持
	TCNTC2	初期化	初期化	保持
	TCRC3	初期化	初期化	保持
	TIERC3	初期化	初期化	保持
	TIORC3	初期化	初期化	保持
	TSRC3	初期化	初期化	保持
	GRC30	初期化	初期化	保持
	GRC31	初期化	初期化	保持
	GRC32	初期化	初期化	保持
	GRC33	初期化	初期化	保持
	TCNTC3	初期化	初期化	保持
	TCRC4	初期化	初期化	保持
	TIERC4	初期化	初期化	保持
	TIORC4	初期化	初期化	保持
	TSRC4	初期化	初期化	保持
	GRC40	初期化	初期化	保持
	GRC41	初期化	初期化	保持
	GRC42	初期化	初期化	保持
	GRC43	初期化	初期化	保持
	TCNTC4	初期化	初期化	保持
	TSTRD	初期化	初期化	保持
	TCNT1D0	初期化	初期化	保持
TCNT2D0	初期化	初期化	保持	
OSBRD0	初期化	初期化	保持	
TCRD0	初期化	初期化	保持	
TOCRD0	初期化	初期化	保持	

モジュール名	略称	リセット状態	低消費電力状態	
		パワーオン	ハードウェアスタンバイ	スリープ
ATU-III	CMPOD0	初期化	初期化	保持
	TCNT1D1	初期化	初期化	保持
	TCNT2D1	初期化	初期化	保持
	OSBRD1	初期化	初期化	保持
	TCRD1	初期化	初期化	保持
	TOCRD1	初期化	初期化	保持
	CMPOD1	初期化	初期化	保持
	TCNT1D2	初期化	初期化	保持
	TCNT2D2	初期化	初期化	保持
	OSBRD2	初期化	初期化	保持
	TCRD2	初期化	初期化	保持
	TOCRD2	初期化	初期化	保持
	TCNT1D3	初期化	初期化	保持
	TCNT2D3	初期化	初期化	保持
	OSBRD3	初期化	初期化	保持
	TCRD3	初期化	初期化	保持
	TOCRD3	初期化	初期化	保持
	TIOR1D0	初期化	初期化	保持
	TIOR2D0	初期化	初期化	保持
	DSTRD0	初期化	初期化	保持
	DSRD0	初期化	初期化	保持
	DCRD0	初期化	初期化	保持
	TSRD0	初期化	初期化	保持
	TIERD0	初期化	初期化	保持
	OCRD00	初期化	初期化	保持
	OCRD01	初期化	初期化	保持
	OCRD02	初期化	初期化	保持
	OCRD03	初期化	初期化	保持
	GRD00	初期化	初期化	保持
	GRD01	初期化	初期化	保持
	GRD02	初期化	初期化	保持
	GRD03	初期化	初期化	保持
DCNTD00	初期化	初期化	保持	
DCNTD01	初期化	初期化	保持	
DCNTD02	初期化	初期化	保持	
DCNTD03	初期化	初期化	保持	

モジュール名	略称	リセット状態	低消費電力状態	
		パワーオン	ハードウェアスタンバイ	スリープ
ATU-III	TIOR1D1	初期化	初期化	保持
	TIOR2D1	初期化	初期化	保持
	DSTRD1	初期化	初期化	保持
	DSRD1	初期化	初期化	保持
	DCRD1	初期化	初期化	保持
	TSRD1	初期化	初期化	保持
	TIERD1	初期化	初期化	保持
	OCRD10	初期化	初期化	保持
	OCRD11	初期化	初期化	保持
	OCRD12	初期化	初期化	保持
	OCRD13	初期化	初期化	保持
	GRD10	初期化	初期化	保持
	GRD11	初期化	初期化	保持
	GRD12	初期化	初期化	保持
	GRD13	初期化	初期化	保持
	DCNTD10	初期化	初期化	保持
	DCNTD11	初期化	初期化	保持
	DCNTD12	初期化	初期化	保持
	DCNTD13	初期化	初期化	保持
	TIOR1D2	初期化	初期化	保持
	TIOR2D2	初期化	初期化	保持
	DSTRD2	初期化	初期化	保持
	DSRD2	初期化	初期化	保持
	DCRD2	初期化	初期化	保持
	TSRD2	初期化	初期化	保持
	TIERD2	初期化	初期化	保持
	OCRD20	初期化	初期化	保持
	OCRD21	初期化	初期化	保持
	OCRD22	初期化	初期化	保持
	OCRD23	初期化	初期化	保持
	GRD20	初期化	初期化	保持
	GRD21	初期化	初期化	保持
	GRD22	初期化	初期化	保持
GRD23	初期化	初期化	保持	
DCNTD20	初期化	初期化	保持	
DCNTD21	初期化	初期化	保持	

モジュール名	略称	リセット状態	低消費電力状態	
		パワーオン	ハードウェアスタンバイ	スリープ
ATU-III	DCNTD22	初期化	初期化	保持
	DCNTD23	初期化	初期化	保持
	TIOR1D3	初期化	初期化	保持
	TIOR2D3	初期化	初期化	保持
	DSTRD3	初期化	初期化	保持
	DSRD3	初期化	初期化	保持
	DCRD3	初期化	初期化	保持
	TSRD3	初期化	初期化	保持
	TIERD3	初期化	初期化	保持
	OCRD30	初期化	初期化	保持
	OCRD31	初期化	初期化	保持
	OCRD32	初期化	初期化	保持
	OCRD33	初期化	初期化	保持
	GRD30	初期化	初期化	保持
	GRD31	初期化	初期化	保持
	GRD32	初期化	初期化	保持
	GRD33	初期化	初期化	保持
	DCNTD30	初期化	初期化	保持
	DCNTD31	初期化	初期化	保持
	DCNTD32	初期化	初期化	保持
	DCNTD33	初期化	初期化	保持
	TSTRE	初期化	初期化	保持
	TCRE0	初期化	初期化	保持
	TOCRE0	初期化	初期化	保持
	TIERE0	初期化	初期化	保持
	RLDCRE0	初期化	初期化	保持
	TSRE0	初期化	初期化	保持
	PSCRE0	初期化	初期化	保持
	SSTRE0	初期化	初期化	保持
	CYLRE00	初期化	初期化	保持
	CYLRE01	初期化	初期化	保持
	CYLRE02	初期化	初期化	保持
	CYLRE03	初期化	初期化	保持
DTRE00	初期化	初期化	保持	
DTRE01	初期化	初期化	保持	
DTRE02	初期化	初期化	保持	

モジュール名	略称	リセット状態	低消費電力状態	
		パワーオン	ハードウェアスタンバイ	スリープ
ATU-III	DTRE03	初期化	初期化	保持
	CRLDE00	初期化	初期化	保持
	CRLDE01	初期化	初期化	保持
	CRLDE02	初期化	初期化	保持
	CRLDE03	初期化	初期化	保持
	DRLDE00	初期化	初期化	保持
	DRLDE01	初期化	初期化	保持
	DRLDE02	初期化	初期化	保持
	DRLDE03	初期化	初期化	保持
	TCNTE00	初期化	初期化	保持
	TCNTE01	初期化	初期化	保持
	TCNTE02	初期化	初期化	保持
	TCNTE03	初期化	初期化	保持
	TCRE1	初期化	初期化	保持
	TOCRE1	初期化	初期化	保持
	TIERE1	初期化	初期化	保持
	RLDCRE1	初期化	初期化	保持
	TSRE1	初期化	初期化	保持
	PSCRE1	初期化	初期化	保持
	SSTRE1	初期化	初期化	保持
	CYLRE10	初期化	初期化	保持
	CYLRE11	初期化	初期化	保持
	CYLRE12	初期化	初期化	保持
	CYLRE13	初期化	初期化	保持
	DTRE10	初期化	初期化	保持
	DTRE11	初期化	初期化	保持
	DTRE12	初期化	初期化	保持
	DTRE13	初期化	初期化	保持
	CRLDE10	初期化	初期化	保持
	CRLDE11	初期化	初期化	保持
	CRLDE12	初期化	初期化	保持
	CRLDE13	初期化	初期化	保持
	DRLDE10	初期化	初期化	保持
DRLDE11	初期化	初期化	保持	
DRLDE12	初期化	初期化	保持	
DRLDE13	初期化	初期化	保持	

モジュール名	略称	リセット状態	低消費電力状態	
		パワーオン	ハードウェアスタンバイ	スリープ
ATU-III	TCNTE10	初期化	初期化	保持
	TCNTE11	初期化	初期化	保持
	TCNTE12	初期化	初期化	保持
	TCNTE13	初期化	初期化	保持
	TCRE2	初期化	初期化	保持
	TOCRE2	初期化	初期化	保持
	TIERE2	初期化	初期化	保持
	RLDCRE2	初期化	初期化	保持
	TSRE2	初期化	初期化	保持
	PSCRE2	初期化	初期化	保持
	SSTRE2	初期化	初期化	保持
	CYLRE20	初期化	初期化	保持
	CYLRE21	初期化	初期化	保持
	CYLRE22	初期化	初期化	保持
	CYLRE23	初期化	初期化	保持
	DTRE20	初期化	初期化	保持
	DTRE21	初期化	初期化	保持
	DTRE22	初期化	初期化	保持
	DTRE23	初期化	初期化	保持
	CRLDE20	初期化	初期化	保持
	CRLDE21	初期化	初期化	保持
	CRLDE22	初期化	初期化	保持
	CRLDE23	初期化	初期化	保持
	DRLDE20	初期化	初期化	保持
	DRLDE21	初期化	初期化	保持
	DRLDE22	初期化	初期化	保持
	DRLDE23	初期化	初期化	保持
	TCNTE20	初期化	初期化	保持
	TCNTE21	初期化	初期化	保持
	TCNTE22	初期化	初期化	保持
	TCNTE23	初期化	初期化	保持
	TCRE3	初期化	初期化	保持
	TOCRE3	初期化	初期化	保持
	TIERE3	初期化	初期化	保持
RLDCRE3	初期化	初期化	保持	
TSRE3	初期化	初期化	保持	

モジュール名	略称	リセット状態	低消費電力状態	
		パワーオン	ハードウェアスタンバイ	スリープ
ATU-III	PSCRE3	初期化	初期化	保持
	SSTRE3	初期化	初期化	保持
	CYLRE30	初期化	初期化	保持
	CYLRE31	初期化	初期化	保持
	CYLRE32	初期化	初期化	保持
	CYLRE33	初期化	初期化	保持
	DTRE30	初期化	初期化	保持
	DTRE31	初期化	初期化	保持
	DTRE32	初期化	初期化	保持
	DTRE33	初期化	初期化	保持
	CRLDE30	初期化	初期化	保持
	CRLDE31	初期化	初期化	保持
	CRLDE32	初期化	初期化	保持
	CRLDE33	初期化	初期化	保持
	DRLDE30	初期化	初期化	保持
	DRLDE31	初期化	初期化	保持
	DRLDE32	初期化	初期化	保持
	DRLDE33	初期化	初期化	保持
	TCNTE30	初期化	初期化	保持
	TCNTE31	初期化	初期化	保持
	TCNTE32	初期化	初期化	保持
	TCNTE33	初期化	初期化	保持
	TCRE4	初期化	初期化	保持
	TOCRE4	初期化	初期化	保持
	TIERE4	初期化	初期化	保持
	RLDCRE4	初期化	初期化	保持
	TSRE4	初期化	初期化	保持
	PSCRE4	初期化	初期化	保持
	SSTRE4	初期化	初期化	保持
	CYLRE40	初期化	初期化	保持
	CYLRE41	初期化	初期化	保持
	CYLRE42	初期化	初期化	保持
	CYLRE43	初期化	初期化	保持
	DTRE40	初期化	初期化	保持
DTRE41	初期化	初期化	保持	
DTRE42	初期化	初期化	保持	

モジュール名	略称	リセット状態	低消費電力状態	
		パワーオン	ハードウェアスタンバイ	スリープ
ATU-III	DTRE43	初期化	初期化	保持
	CRLDE40	初期化	初期化	保持
	CRLDE41	初期化	初期化	保持
	CRLDE42	初期化	初期化	保持
	CRLDE43	初期化	初期化	保持
	DRLDE40	初期化	初期化	保持
	DRLDE41	初期化	初期化	保持
	DRLDE42	初期化	初期化	保持
	DRLDE43	初期化	初期化	保持
	TCNTE40	初期化	初期化	保持
	TCNTE41	初期化	初期化	保持
	TCNTE42	初期化	初期化	保持
	TCNTE43	初期化	初期化	保持
	TCRE5	初期化	初期化	保持
	TOCRE5	初期化	初期化	保持
	TIERE5	初期化	初期化	保持
	RLDCRE5	初期化	初期化	保持
	TSRE5	初期化	初期化	保持
	PSCRE5	初期化	初期化	保持
	SSTRE5	初期化	初期化	保持
	CYLRE50	初期化	初期化	保持
	CYLRE51	初期化	初期化	保持
	CYLRE52	初期化	初期化	保持
	CYLRE53	初期化	初期化	保持
	DTRE50	初期化	初期化	保持
	DTRE51	初期化	初期化	保持
	DTRE52	初期化	初期化	保持
	DTRE53	初期化	初期化	保持
	CRLDE50	初期化	初期化	保持
	CRLDE51	初期化	初期化	保持
	CRLDE52	初期化	初期化	保持
	CRLDE53	初期化	初期化	保持
	DRLDE50	初期化	初期化	保持
DRLDE51	初期化	初期化	保持	
DRLDE52	初期化	初期化	保持	
DRLDE53	初期化	初期化	保持	

モジュール名	略称	リセット状態	低消費電力状態	
		パワーオン	ハードウェアスタンバイ	スリープ
ATU-III	TCNTE50	初期化	初期化	保持
	TCNTE51	初期化	初期化	保持
	TCNTE52	初期化	初期化	保持
	TCNTE53	初期化	初期化	保持
	TSTRF	初期化	初期化	保持
	NCCRF	初期化	初期化	保持
	NCNTFA0	初期化	初期化	保持
	NCRFA0	初期化	初期化	保持
	NCNTFA1	初期化	初期化	保持
	NCRFA1	初期化	初期化	保持
	NCNTFA2	初期化	初期化	保持
	NCRFA2	初期化	初期化	保持
	NCNTFA3	初期化	初期化	保持
	NCRFA3	初期化	初期化	保持
	NCNTFA4	初期化	初期化	保持
	NCRFA4	初期化	初期化	保持
	NCNTFA5	初期化	初期化	保持
	NCRFA5	初期化	初期化	保持
	NCNTFA6	初期化	初期化	保持
	NCRFA6	初期化	初期化	保持
	NCNTFA7	初期化	初期化	保持
	NCRFA7	初期化	初期化	保持
	NCNTFA8	初期化	初期化	保持
	NCRFA8	初期化	初期化	保持
	NCNTFA9	初期化	初期化	保持
	NCRFA9	初期化	初期化	保持
	NCNTFA10	初期化	初期化	保持
	NCRFA10	初期化	初期化	保持
	NCNTFA11	初期化	初期化	保持
	NCRFA11	初期化	初期化	保持
	NCNTFA12	初期化	初期化	保持
	NCRFA12	初期化	初期化	保持
NCNTFA13	初期化	初期化	保持	
NCRFA13	初期化	初期化	保持	
NCNTFA14	初期化	初期化	保持	
NCRFA14	初期化	初期化	保持	

モジュール名	略称	リセット状態	低消費電力状態	
		パワーオン	ハードウェアスタンバイ	スリープ
ATU-III	NCNTFA15	初期化	初期化	保持
	NCRFA15	初期化	初期化	保持
	NCNTFA16	初期化	初期化	保持
	NCRFA16	初期化	初期化	保持
	NCNTFA17	初期化	初期化	保持
	NCRFA17	初期化	初期化	保持
	NCNTFA18	初期化	初期化	保持
	NCRFA18	初期化	初期化	保持
	NCNTFA19	初期化	初期化	保持
	NCRFA19	初期化	初期化	保持
	NCNTFB0	初期化	初期化	保持
	NCRFB0	初期化	初期化	保持
	NCNTFB1	初期化	初期化	保持
	NCRFB1	初期化	初期化	保持
	NCNTFB2	初期化	初期化	保持
	NCRFB2	初期化	初期化	保持
	TCRF0	初期化	初期化	保持
	TIERF0	初期化	初期化	保持
	TSRF0	初期化	初期化	保持
	ECNTAF0	初期化	初期化	保持
	ECNTBF0	初期化	初期化	保持
	GRBF0	初期化	初期化	保持
	ECNTCF0	初期化	初期化	保持
	GRAF0	初期化	初期化	保持
	CDRF0	初期化	初期化	保持
	GRCF0	初期化	初期化	保持
	TCRF1	初期化	初期化	保持
	TIERF1	初期化	初期化	保持
	TSRF1	初期化	初期化	保持
	ECNTAF1	初期化	初期化	保持
	ECNTBF1	初期化	初期化	保持
	GRBF1	初期化	初期化	保持
ECNTCF1	初期化	初期化	保持	
GRAF1	初期化	初期化	保持	
CDRF1	初期化	初期化	保持	
GRCF1	初期化	初期化	保持	

モジュール名	略称	リセット状態	低消費電力状態	
		パワーオン	ハードウェアスタンバイ	スリープ
ATU-III	TCRF2	初期化	初期化	保持
	TIERF2	初期化	初期化	保持
	TSRF2	初期化	初期化	保持
	ECNTAF2	初期化	初期化	保持
	ECNTBF2	初期化	初期化	保持
	GRBF2	初期化	初期化	保持
	ECNTCF2	初期化	初期化	保持
	GRAF2	初期化	初期化	保持
	CDRF2	初期化	初期化	保持
	GRCF2	初期化	初期化	保持
	TCRF3	初期化	初期化	保持
	TIERF3	初期化	初期化	保持
	TSRF3	初期化	初期化	保持
	ECNTAF3	初期化	初期化	保持
	ECNTBF3	初期化	初期化	保持
	GRBF3	初期化	初期化	保持
	ECNTCF3	初期化	初期化	保持
	GRAF3	初期化	初期化	保持
	CDRF3	初期化	初期化	保持
	GRCF3	初期化	初期化	保持
	TCRF4	初期化	初期化	保持
	TIERF4	初期化	初期化	保持
	TSRF4	初期化	初期化	保持
	ECNTAF4	初期化	初期化	保持
	ECNTBF4	初期化	初期化	保持
	GRBF4	初期化	初期化	保持
	ECNTCF4	初期化	初期化	保持
	GRAF4	初期化	初期化	保持
	CDRF4	初期化	初期化	保持
	GRCF4	初期化	初期化	保持
TCRF5	初期化	初期化	保持	
TIERF5	初期化	初期化	保持	
TSRF5	初期化	初期化	保持	
ECNTAF5	初期化	初期化	保持	
ECNTBF5	初期化	初期化	保持	
GRBF5	初期化	初期化	保持	

モジュール名	略称	リセット状態	低消費電力状態	
		パワーオン	ハードウェアスタンバイ	スリープ
ATU-III	ECNTCF5	初期化	初期化	保持
	GRAF5	初期化	初期化	保持
	CDRF5	初期化	初期化	保持
	GRCF5	初期化	初期化	保持
	TCRF6	初期化	初期化	保持
	TIERF6	初期化	初期化	保持
	TSRF6	初期化	初期化	保持
	ECNTAF6	初期化	初期化	保持
	ECNTBF6	初期化	初期化	保持
	GRBF6	初期化	初期化	保持
	ECNTCF6	初期化	初期化	保持
	GRAF6	初期化	初期化	保持
	CDRF6	初期化	初期化	保持
	GRCF6	初期化	初期化	保持
	TCRF7	初期化	初期化	保持
	TIERF7	初期化	初期化	保持
	TSRF7	初期化	初期化	保持
	ECNTAF7	初期化	初期化	保持
	ECNTBF7	初期化	初期化	保持
	GRBF7	初期化	初期化	保持
	ECNTCF7	初期化	初期化	保持
	GRAF7	初期化	初期化	保持
	CDRF7	初期化	初期化	保持
	GRCF7	初期化	初期化	保持
	TCRF8	初期化	初期化	保持
	TIERF8	初期化	初期化	保持
	TSRF8	初期化	初期化	保持
	ECNTAF8	初期化	初期化	保持
	ECNTBF8	初期化	初期化	保持
	GRBF8	初期化	初期化	保持
ECNTCF8	初期化	初期化	保持	
GRAF8	初期化	初期化	保持	
CDRF8	初期化	初期化	保持	
GRCF8	初期化	初期化	保持	
TCRF9	初期化	初期化	保持	
TIERF9	初期化	初期化	保持	

モジュール名	略称	リセット状態	低消費電力状態	
		パワーオン	ハードウェアスタンバイ	スリープ
ATU-III	TSRF9	初期化	初期化	保持
	ECNTAF9	初期化	初期化	保持
	ECNTBF9	初期化	初期化	保持
	GRBF9	初期化	初期化	保持
	ECNTCF9	初期化	初期化	保持
	GRAF9	初期化	初期化	保持
	CDRF9	初期化	初期化	保持
	GRCF9	初期化	初期化	保持
	TCRF10	初期化	初期化	保持
	TIERF10	初期化	初期化	保持
	TSRF10	初期化	初期化	保持
	ECNTAF10	初期化	初期化	保持
	ECNTBF10	初期化	初期化	保持
	GRBF10	初期化	初期化	保持
	ECNTCF10	初期化	初期化	保持
	GRAF10	初期化	初期化	保持
	CDRF10	初期化	初期化	保持
	GRCF10	初期化	初期化	保持
	TCRF11	初期化	初期化	保持
	TIERF11	初期化	初期化	保持
	TSRF11	初期化	初期化	保持
	ECNTAF11	初期化	初期化	保持
	ECNTBF11	初期化	初期化	保持
	GRBF11	初期化	初期化	保持
	ECNTCF11	初期化	初期化	保持
	GRAF11	初期化	初期化	保持
	CDRF11	初期化	初期化	保持
	GRCF11	初期化	初期化	保持
	TCRF12	初期化	初期化	保持
	TIERF12	初期化	初期化	保持
	TSRF12	初期化	初期化	保持
	ECNTAF12	初期化	初期化	保持
	ECNTBF12	初期化	初期化	保持
	GRBF12	初期化	初期化	保持
	ECNTCF12	初期化	初期化	保持
	GRAF12	初期化	初期化	保持

モジュール名	略称	リセット状態	低消費電力状態	
		パワーオン	ハードウェアスタンバイ	スリープ
ATU-III	CDRF12	初期化	初期化	保持
	GRCF12	初期化	初期化	保持
	GRDF12	初期化	初期化	保持
	TCRF13	初期化	初期化	保持
	TIERF13	初期化	初期化	保持
	TSRF13	初期化	初期化	保持
	ECNTAF13	初期化	初期化	保持
	ECNTBF13	初期化	初期化	保持
	GRBF13	初期化	初期化	保持
	ECNTCF13	初期化	初期化	保持
	GRAF13	初期化	初期化	保持
	CDRF13	初期化	初期化	保持
	GRCF13	初期化	初期化	保持
	GRDF13	初期化	初期化	保持
	TCRF14	初期化	初期化	保持
	TIERF14	初期化	初期化	保持
	TSRF14	初期化	初期化	保持
	ECNTAF14	初期化	初期化	保持
	ECNTBF14	初期化	初期化	保持
	GRBF14	初期化	初期化	保持
	ECNTCF14	初期化	初期化	保持
	GRAF14	初期化	初期化	保持
	CDRF14	初期化	初期化	保持
	GRCF14	初期化	初期化	保持
	GRDF14	初期化	初期化	保持
	TCRF15	初期化	初期化	保持
	TIERF15	初期化	初期化	保持
	TSRF15	初期化	初期化	保持
	ECNTAF15	初期化	初期化	保持
	ECNTBF15	初期化	初期化	保持
GRBF15	初期化	初期化	保持	
ECNTCF15	初期化	初期化	保持	
GRAF15	初期化	初期化	保持	
CDRF15	初期化	初期化	保持	
GRCF15	初期化	初期化	保持	
GRDF15	初期化	初期化	保持	

モジュール名	略称	リセット状態		
		リセット状態	低消費電力状態	
		パワーオン	ハードウェアスタンバイ	スリープ
ATU-III	TCRF16	初期化	初期化	保持
	TIERF16	初期化	初期化	保持
	TSRF16	初期化	初期化	保持
	ECNTAF16	初期化	初期化	保持
	ECNTBF16	初期化	初期化	保持
	GRBF16	初期化	初期化	保持
	ECNTCF16	初期化	初期化	保持
	GRAF16	初期化	初期化	保持
	CDRF16	初期化	初期化	保持
	GRCF16	初期化	初期化	保持
	TCRF17	初期化	初期化	保持
	TIERF17	初期化	初期化	保持
	TSRF17	初期化	初期化	保持
	ECNTAF17	初期化	初期化	保持
	ECNTBF17	初期化	初期化	保持
	GRBF17	初期化	初期化	保持
	ECNTCF17	初期化	初期化	保持
	GRAF17	初期化	初期化	保持
	CDRF17	初期化	初期化	保持
	GRCF17	初期化	初期化	保持
	TCRF18	初期化	初期化	保持
	TIERF18	初期化	初期化	保持
	TSRF18	初期化	初期化	保持
	ECNTAF18	初期化	初期化	保持
	ECNTBF18	初期化	初期化	保持
	GRBF18	初期化	初期化	保持
	ECNTCF18	初期化	初期化	保持
	GRAF18	初期化	初期化	保持
	CDRF18	初期化	初期化	保持
	GRCF18	初期化	初期化	保持
TCRF19	初期化	初期化	保持	
TIERF19	初期化	初期化	保持	
TSRF19	初期化	初期化	保持	
ECNTAF19	初期化	初期化	保持	
ECNTBF19	初期化	初期化	保持	
GRBF19	初期化	初期化	保持	

モジュール名	略称	リセット状態	低消費電力状態	
		パワーオン	ハードウェアスタンバイ	スリープ
ATU-III	ECNTCF19	初期化	初期化	保持
	GRAF19	初期化	初期化	保持
	CDRF19	初期化	初期化	保持
	GRCF19	初期化	初期化	保持
	TSTRG	初期化	初期化	保持
	TCRG0	初期化	初期化	保持
	TSRG0	初期化	初期化	保持
	TCNTG0	初期化	初期化	保持
	OCRG0	初期化	初期化	保持
	TCRG1	初期化	初期化	保持
	TSRG1	初期化	初期化	保持
	TCNTG1	初期化	初期化	保持
	OCRG1	初期化	初期化	保持
	TCRG2	初期化	初期化	保持
	TSRG2	初期化	初期化	保持
	TCNTG2	初期化	初期化	保持
	OCRG2	初期化	初期化	保持
	TCRG3	初期化	初期化	保持
	TSRG3	初期化	初期化	保持
	TCNTG3	初期化	初期化	保持
	OCRG3	初期化	初期化	保持
	TCRG4	初期化	初期化	保持
	TSRG4	初期化	初期化	保持
	TCNTG4	初期化	初期化	保持
	OCRG4	初期化	初期化	保持
	TCRG5	初期化	初期化	保持
	TSRG5	初期化	初期化	保持
	TCNTG5	初期化	初期化	保持
	OCRG5	初期化	初期化	保持
	TCRH	初期化	初期化	保持
TSRH	初期化	初期化	保持	
TCNT1H	初期化	初期化	保持	
OCR1H	初期化	初期化	保持	
TCNT2H	初期化	初期化	保持	
TSTRJ	初期化	初期化	保持	
TCRJ0	初期化	初期化	保持	

モジュール名	略称	リセット状態	低消費電力状態	
		パワーオン	ハードウェアスタンバイ	スリープ
ATU-III	FCRJ0	初期化	初期化	保持
	TSRJ0	初期化	初期化	保持
	TIERJ0	初期化	初期化	保持
	FDNRJ0	初期化	初期化	保持
	NCNTJ0	初期化	初期化	保持
	NCRJ0	初期化	初期化	保持
	TCNTJ0	初期化	初期化	保持
	OCRJ0	初期化	初期化	保持
	FIFOJ0	初期化	初期化	保持
	TCRJ1	初期化	初期化	保持
	FCRJ1	初期化	初期化	保持
	TSRJ1	初期化	初期化	保持
	TIERJ1	初期化	初期化	保持
	FDNRJ1	初期化	初期化	保持
	NCNTJ1	初期化	初期化	保持
	NCRJ1	初期化	初期化	保持
	TCNTJ1	初期化	初期化	保持
	OCRJ1	初期化	初期化	保持
	FIFOJ1	初期化	初期化	保持
WDT	WTCR	初期化	初期化	保持
	WTCNT	初期化	初期化	保持
	WTSR	初期化	初期化	保持
	WRCR	初期化	初期化	保持
CMT	CMSTR	初期化	初期化	保持
	CMCR_0	初期化	初期化	保持
	CMSR_0	初期化	初期化	保持
	CMCNT_0	初期化	初期化	保持
	CMCOR_0	初期化	初期化	保持
	CMCR_1	初期化	初期化	保持
	CMSR_1	初期化	初期化	保持
	CMCNT_1	初期化	初期化	保持
	CMCOR_1	初期化	初期化	保持
SCI	SCSMR1A	初期化	初期化	保持
	SCBRR1A	初期化	初期化	保持
	SCSCR1A	初期化	初期化	保持
	SCTDR1A	初期化	初期化	保持

モジュール名	略称	リセット状態	低消費電力状態	
		パワーオン	ハードウェアスタンバイ	スリープ
SCI	SCSSR1A	初期化	初期化	保持
	SCRDR1A	初期化	初期化	保持
	SCSMR1B	初期化	初期化	保持
	SCBRR1B	初期化	初期化	保持
	SCSCR1B	初期化	初期化	保持
	SCTDR1B	初期化	初期化	保持
	SCSSR1B	初期化	初期化	保持
	SCRDR1B	初期化	初期化	保持
	SCSMR1C	初期化	初期化	保持
	SCBRR1C	初期化	初期化	保持
	SCSCR1C	初期化	初期化	保持
	SCTDR1C	初期化	初期化	保持
	SCSSR1C	初期化	初期化	保持
	SCRDR1C	初期化	初期化	保持
	SCSMR1D	初期化	初期化	保持
	SCBRR1D	初期化	初期化	保持
	SCSCR1D	初期化	初期化	保持
	SCTDR1D	初期化	初期化	保持
	SCSSR1D	初期化	初期化	保持
	SCRDR1D	初期化	初期化	保持
	SCSMR1E	初期化	初期化	保持
	SCBRR1E	初期化	初期化	保持
	SCSCR1E	初期化	初期化	保持
	SCTDR1E	初期化	初期化	保持
SCSSR1E	初期化	初期化	保持	
SCRDR1E	初期化	初期化	保持	
RSPI	SPCRA	初期化	初期化	保持
	SSLPA	初期化	初期化	保持
	SPPCRA	初期化	初期化	保持
	SPSRA	初期化	初期化	保持
	SPDRA	初期化	初期化	保持
	SPSCRA	初期化	初期化	保持
	SPSSRA	初期化	初期化	保持
	SPBRA	初期化	初期化	保持
	SPCKDA	初期化	初期化	保持
	SSLNDA	初期化	初期化	保持

モジュール名	略称	リセット状態	低消費電力状態	
		パワーオン	ハードウェアスタンバイ	スリープ
RSPI	SPNDA	初期化	初期化	保持
	SPCMDA0	初期化	初期化	保持
	SPCMDA1	初期化	初期化	保持
	SPCMDA2	初期化	初期化	保持
	SPCMDA3	初期化	初期化	保持
	SPCMDA4	初期化	初期化	保持
	SPCMDA5	初期化	初期化	保持
	SPCMDA6	初期化	初期化	保持
	SPCMDA7	初期化	初期化	保持
	SPCRB	初期化	初期化	保持
	SSLPB	初期化	初期化	保持
	SPPCRB	初期化	初期化	保持
	SPSRB	初期化	初期化	保持
	SPDRB	初期化	初期化	保持
	SPSCRB	初期化	初期化	保持
	SPSSRB	初期化	初期化	保持
	SPBRB	初期化	初期化	保持
	SPCKDB	初期化	初期化	保持
	SSLNDB	初期化	初期化	保持
	SPNDB	初期化	初期化	保持
	SPCMDB0	初期化	初期化	保持
	SPCMDB1	初期化	初期化	保持
	SPCMDB2	初期化	初期化	保持
	SPCMDB3	初期化	初期化	保持
	SPCMDB4	初期化	初期化	保持
	SPCMDB5	初期化	初期化	保持
	SPCMDB6	初期化	初期化	保持
	SPCMDB7	初期化	初期化	保持
	SPCRC	初期化	初期化	保持
	SSLPC	初期化	初期化	保持
	SPPCRC	初期化	初期化	保持
	SPSRC	初期化	初期化	保持
	SPDRC	初期化	初期化	保持
SPSCRC	初期化	初期化	保持	
SPSSRC	初期化	初期化	保持	
SPBRC	初期化	初期化	保持	

モジュール名	略称	リセット状態	低消費電力状態	
		パワーオン	ハードウェアスタンバイ	スリープ
RSPI	SPCKDC	初期化	初期化	保持
	SSLNDC	初期化	初期化	保持
	SPNDC	初期化	初期化	保持
	SPCMDC0	初期化	初期化	保持
	SPCMDC1	初期化	初期化	保持
	SPCMDC2	初期化	初期化	保持
	SPCMDC3	初期化	初期化	保持
	SPCMDC4	初期化	初期化	保持
	SPCMDC5	初期化	初期化	保持
	SPCMDC6	初期化	初期化	保持
	SPCMDC7	初期化	初期化	保持
RCAN-TL1 (RCAN_A)	MCR	初期化	初期化	保持
	GSR	初期化	初期化	保持
	BCR1	初期化	初期化	保持
	BCR0	初期化	初期化	保持
	IRR	初期化	初期化	保持
	IMR	初期化	初期化	保持
	TEC/REC	初期化	初期化	保持
	TXPR1	初期化	初期化	保持
	TXPR0	初期化	初期化	保持
	TXCR1	初期化	初期化	保持
	TXCR0	初期化	初期化	保持
	TXACK1	初期化	初期化	保持
	TXACK0	初期化	初期化	保持
	ABACK1	初期化	初期化	保持
	ABACK0	初期化	初期化	保持
	RXPR1	初期化	初期化	保持
	RXPR0	初期化	初期化	保持
	RFPR1	初期化	初期化	保持
	RFPR0	初期化	初期化	保持
	MBIMR1	初期化	初期化	保持
	MBIMR0	初期化	初期化	保持
	UMSR1	初期化	初期化	保持
	UMSR0	初期化	初期化	保持
TTCR0	初期化	初期化	保持	
CMAX_TEW	初期化	初期化	保持	

モジュール名	略称	リセット状態			
		リセット状態	低消費電力状態		
		パワーオン	ハードウェアスタンバイ	スリープ	
RCAN-TL1 (RCAN_A)	RFTROFF	初期化	初期化	保持	
	TSR	初期化	初期化	保持	
	CCR	初期化	初期化	保持	
	TCNTR	初期化	初期化	保持	
	CYCTR	初期化	初期化	保持	
	RFMK	初期化	初期化	保持	
	TCMR0	初期化	初期化	保持	
	TCMR1	初期化	初期化	保持	
	TCMR2	初期化	初期化	保持	
	TTTSEL	初期化	初期化	保持	
	MB[0].	CONTROL0_H	不定	不定	保持
		CONTROL0_L	不定	不定	保持
		LAFM0	不定	不定	保持
		LAFM1	不定	不定	保持
		DATA_01	不定	不定	保持
		DATA_23	不定	不定	保持
		DATA_45	不定	不定	保持
		DATA_67	不定	不定	保持
		CONTROL1	初期化	初期化	保持
		TIMESTAMP	初期化	初期化	保持
	MB[1].	CONTROL0_H	不定	不定	保持
		CONTROL0_L	不定	不定	保持
		LAFM0	不定	不定	保持
		LAFM1	不定	不定	保持
		DATA_01	不定	不定	保持
		DATA_23	不定	不定	保持
		DATA_45	不定	不定	保持
		DATA_67	不定	不定	保持
		CONTROL1	初期化	初期化	保持
		TIMESTAMP	初期化	初期化	保持
	MB[2].	CONTROL0_H	不定	不定	保持
		CONTROL0_L	不定	不定	保持
		LAFM0	不定	不定	保持
LAFM1		不定	不定	保持	
DATA_01		不定	不定	保持	
DATA_23		不定	不定	保持	

モジュール名	略称		リセット状態	低消費電力状態	
			パワーオン	ハードウェアスタンバイ	スリープ
RCAN-TL1 (RCAN_A)	MB[2].	DATA_45	不定	不定	保持
		DATA_67	不定	不定	保持
		CONTROL1	初期化	初期化	保持
		TIMESTAMP	初期化	初期化	保持
	MB[3].	CONTROL0_H	不定	不定	保持
		CONTROL0_L	不定	不定	保持
		LAFM0	不定	不定	保持
		LAFM1	不定	不定	保持
		DATA_01	不定	不定	保持
		DATA_23	不定	不定	保持
		DATA_45	不定	不定	保持
		DATA_67	不定	不定	保持
		CONTROL1	初期化	初期化	保持
		TIMESTAMP	初期化	初期化	保持
	MB[4].	CONTROL0_H	不定	不定	保持
		CONTROL0_L	不定	不定	保持
		LAFM0	不定	不定	保持
		LAFM1	不定	不定	保持
		DATA_01	不定	不定	保持
		DATA_23	不定	不定	保持
		DATA_45	不定	不定	保持
		DATA_67	不定	不定	保持
		CONTROL1	初期化	初期化	保持
		TIMESTAMP	初期化	初期化	保持
	MB[5].	CONTROL0_H	不定	不定	保持
		CONTROL0_L	不定	不定	保持
		LAFM0	不定	不定	保持
		LAFM1	不定	不定	保持
		DATA_01	不定	不定	保持
		DATA_23	不定	不定	保持
		DATA_45	不定	不定	保持
		DATA_67	不定	不定	保持
		CONTROL1	初期化	初期化	保持
		TIMESTAMP	初期化	初期化	保持
	MB[6].	CONTROL0_H	不定	不定	保持
		CONTROL0_L	不定	不定	保持

モジュール名	略称		リセット状態	低消費電力状態	
			パワーオン	ハードウェアスタンバイ	スリープ
RCAN-TL1 (RCAN_A)	MB[6].	LAFM0	不定	不定	保持
		LAFM1	不定	不定	保持
		DATA_01	不定	不定	保持
		DATA_23	不定	不定	保持
		DATA_45	不定	不定	保持
		DATA_67	不定	不定	保持
		CONTROL1	初期化	初期化	保持
		TIMESTAMP	初期化	初期化	保持
	MB[7].	CONTROL0_H	不定	不定	保持
		CONTROL0_L	不定	不定	保持
		LAFM0	不定	不定	保持
		LAFM1	不定	不定	保持
		DATA_01	不定	不定	保持
		DATA_23	不定	不定	保持
		DATA_45	不定	不定	保持
		DATA_67	不定	不定	保持
		CONTROL1	初期化	初期化	保持
		TIMESTAMP	初期化	初期化	保持
	MB[8].	CONTROL0_H	不定	不定	保持
		CONTROL0_L	不定	不定	保持
		LAFM0	不定	不定	保持
		LAFM1	不定	不定	保持
		DATA_01	不定	不定	保持
		DATA_23	不定	不定	保持
		DATA_45	不定	不定	保持
		DATA_67	不定	不定	保持
		CONTROL1	初期化	初期化	保持
		TIMESTAMP	初期化	初期化	保持
	MB[9].	CONTROL0_H	不定	不定	保持
		CONTROL0_L	不定	不定	保持
		LAFM0	不定	不定	保持
		LAFM1	不定	不定	保持
		DATA_01	不定	不定	保持
		DATA_23	不定	不定	保持
		DATA_45	不定	不定	保持

モジュール名	略称		リセット状態		
			リセット状態	低消費電力状態	
			パワーオン	ハードウェアスタンバイ	スリープ
RCAN-TL1 (RCAN_A)	MB[9].	DATA_67	不定	不定	保持
		CONTROL1	初期化	初期化	保持
		TIMESTAMP	初期化	初期化	保持
	MB[10].	CONTROL0_H	不定	不定	保持
		CONTROL0_L	不定	不定	保持
		LAFM0	不定	不定	保持
		LAFM1	不定	不定	保持
		DATA_01	不定	不定	保持
		DATA_23	不定	不定	保持
		DATA_45	不定	不定	保持
		DATA_67	不定	不定	保持
		CONTROL1	初期化	初期化	保持
		TIMESTAMP	初期化	初期化	保持
	MB[11].	CONTROL0_H	不定	不定	保持
		CONTROL0_L	不定	不定	保持
		LAFM0	不定	不定	保持
		LAFM1	不定	不定	保持
		DATA_01	不定	不定	保持
		DATA_23	不定	不定	保持
		DATA_45	不定	不定	保持
		DATA_67	不定	不定	保持
		CONTROL1	初期化	初期化	保持
		TIMESTAMP	初期化	初期化	保持
	MB[12].	CONTROL0_H	不定	不定	保持
		CONTROL0_L	不定	不定	保持
		LAFM0	不定	不定	保持
		LAFM1	不定	不定	保持
		DATA_01	不定	不定	保持
		DATA_23	不定	不定	保持
		DATA_45	不定	不定	保持
		DATA_67	不定	不定	保持
		CONTROL1	初期化	初期化	保持
		TIMESTAMP	初期化	初期化	保持
	MB[13].	CONTROL0_H	不定	不定	保持
		CONTROL0_L	不定	不定	保持
		LAFM0	不定	不定	保持
		LAFM1	不定	不定	保持

モジュール名	略称		リセット状態	低消費電力状態	
			パワーオン	ハードウェアスタンバイ	スリープ
RCAN-TL1 (RCAN_A)	MB[13].	DATA_01	不定	不定	保持
		DATA_23	不定	不定	保持
		DATA_45	不定	不定	保持
		DATA_67	不定	不定	保持
		CONTROL1	初期化	初期化	保持
		TIMESTAMP	初期化	初期化	保持
	MB[14].	CONTROL0_H	不定	不定	保持
		CONTROL0_L	不定	不定	保持
		LAFM0	不定	不定	保持
		LAFM1	不定	不定	保持
		DATA_01	不定	不定	保持
		DATA_23	不定	不定	保持
		DATA_45	不定	不定	保持
		DATA_67	不定	不定	保持
		CONTROL1	初期化	初期化	保持
		TIMESTAMP	初期化	初期化	保持
	MB[15].	CONTROL0_H	不定	不定	保持
		CONTROL0_L	不定	不定	保持
		LAFM0	不定	不定	保持
		LAFM1	不定	不定	保持
		DATA_01	不定	不定	保持
		DATA_23	不定	不定	保持
		DATA_45	不定	不定	保持
		DATA_67	不定	不定	保持
		CONTROL1	初期化	初期化	保持
		TIMESTAMP	初期化	初期化	保持
	MB[16].	CONTROL0_H	不定	不定	保持
		CONTROL0_L	不定	不定	保持
		LAFM0	不定	不定	保持
		LAFM1	不定	不定	保持
		DATA_01	不定	不定	保持
		DATA_23	不定	不定	保持
		DATA_45	不定	不定	保持
		DATA_67	不定	不定	保持
		CONTROL1	初期化	初期化	保持

モジュール名	略称		リセット状態	低消費電力状態	
			パワーオン	ハードウェアスタンバイ	スリープ
RCAN-TL1 (RCAN_A)	MB[17].	CONTROL0_H	不定	不定	保持
		CONTROL0_L	不定	不定	保持
		LAFM0	不定	不定	保持
		LAFM1	不定	不定	保持
		DATA_01	不定	不定	保持
		DATA_23	不定	不定	保持
		DATA_45	不定	不定	保持
		DATA_67	不定	不定	保持
		CONTROL1	初期化	初期化	保持
	MB[18].	CONTROL0_H	不定	不定	保持
		CONTROL0_L	不定	不定	保持
		LAFM0	不定	不定	保持
		LAFM1	不定	不定	保持
		DATA_01	不定	不定	保持
		DATA_23	不定	不定	保持
		DATA_45	不定	不定	保持
		DATA_67	不定	不定	保持
		CONTROL1	初期化	初期化	保持
	MB[19].	CONTROL0_H	不定	不定	保持
		CONTROL0_L	不定	不定	保持
		LAFM0	不定	不定	保持
		LAFM1	不定	不定	保持
		DATA_01	不定	不定	保持
		DATA_23	不定	不定	保持
		DATA_45	不定	不定	保持
		DATA_67	不定	不定	保持
		CONTROL1	初期化	初期化	保持
	MB[20].	CONTROL0_H	不定	不定	保持
		CONTROL0_L	不定	不定	保持
		LAFM0	不定	不定	保持
		LAFM1	不定	不定	保持
		DATA_01	不定	不定	保持
		DATA_23	不定	不定	保持
		DATA_45	不定	不定	保持
		DATA_67	不定	不定	保持
		CONTROL1	初期化	初期化	保持

モジュール名	略称		リセット状態	低消費電力状態	
			パワーオン	ハードウェアスタンバイ	スリープ
RCAN-TL1 (RCAN_A)	MB[21].	CONTROL0_H	不定	不定	保持
		CONTROL0_L	不定	不定	保持
		LAFM0	不定	不定	保持
		LAFM1	不定	不定	保持
		DATA_01	不定	不定	保持
		DATA_23	不定	不定	保持
		DATA_45	不定	不定	保持
		DATA_67	不定	不定	保持
		CONTROL1	初期化	初期化	保持
	MB[22].	CONTROL0_H	不定	不定	保持
		CONTROL0_L	不定	不定	保持
		LAFM0	不定	不定	保持
		LAFM1	不定	不定	保持
		DATA_01	不定	不定	保持
		DATA_23	不定	不定	保持
		DATA_45	不定	不定	保持
		DATA_67	不定	不定	保持
		CONTROL1	初期化	初期化	保持
	MB[23].	CONTROL0_H	不定	不定	保持
		CONTROL0_L	不定	不定	保持
		LAFM0	不定	不定	保持
		LAFM1	不定	不定	保持
		DATA_01	不定	不定	保持
		DATA_23	不定	不定	保持
		DATA_45	不定	不定	保持
		DATA_67	不定	不定	保持
		CONTROL1	初期化	初期化	保持
	MB[24].	CONTROL0_H	不定	不定	保持
		CONTROL0_L	不定	不定	保持
		LAFM0	不定	不定	保持
		LAFM1	不定	不定	保持
		DATA_01	不定	不定	保持
		DATA_23	不定	不定	保持
		DATA_45	不定	不定	保持
		DATA_67	不定	不定	保持
		CONTROL1	初期化	初期化	保持

モジュール名	略称		リセット状態		
			リセット状態	低消費電力状態	
			パワーオン	ハードウェアスタンバイ	スリープ
RCAN-TL1 (RCAN_A)	MB[24].	TTT	初期化	初期化	保持
		TTCONTROL	初期化	初期化	保持
	MB[25].	CONTROL0_H	不定	不定	保持
		CONTROL0_L	不定	不定	保持
		LAFM0	不定	不定	保持
		LAFM1	不定	不定	保持
		DATA_01	不定	不定	保持
		DATA_23	不定	不定	保持
		DATA_45	不定	不定	保持
		DATA_67	不定	不定	保持
		CONTROL1	初期化	初期化	保持
		TTT	初期化	初期化	保持
		TTCONTROL	初期化	初期化	保持
		MB[26].	CONTROL0_H	不定	不定
	CONTROL0_L		不定	不定	保持
	LAFM0		不定	不定	保持
	LAFM1		不定	不定	保持
	DATA_01		不定	不定	保持
	DATA_23		不定	不定	保持
	DATA_45		不定	不定	保持
	DATA_67		不定	不定	保持
	CONTROL1		初期化	初期化	保持
	TTT		初期化	初期化	保持
	TTCONTROL		初期化	初期化	保持
	MB[27].		CONTROL0_H	不定	不定
		CONTROL0_L	不定	不定	保持
		LAFM0	不定	不定	保持
		LAFM1	不定	不定	保持
		DATA_01	不定	不定	保持
		DATA_23	不定	不定	保持
		DATA_45	不定	不定	保持
		DATA_67	不定	不定	保持
		CONTROL1	初期化	初期化	保持
		TTT	初期化	初期化	保持
		TTCONTROL	初期化	初期化	保持
		MB[28].	CONTROL0_H	不定	不定

モジュール名	略称		リセット状態	低消費電力状態	
			パワーオン	ハードウェアスタンバイ	スリープ
RCAN-TL1 (RCAN_A)	MB[28].	CONTROL0_L	不定	不定	保持
		LAFM0	不定	不定	保持
		LAFM1	不定	不定	保持
		DATA_01	不定	不定	保持
		DATA_23	不定	不定	保持
		DATA_45	不定	不定	保持
		DATA_67	不定	不定	保持
		CONTROL1	初期化	初期化	保持
		TTT	初期化	初期化	保持
		TTCONTROL	初期化	初期化	保持
	MB[29].	CONTROL0_H	不定	不定	保持
		CONTROL0_L	不定	不定	保持
		LAFM0	不定	不定	保持
		LAFM1	不定	不定	保持
		DATA_01	不定	不定	保持
		DATA_23	不定	不定	保持
		DATA_45	不定	不定	保持
		DATA_67	不定	不定	保持
		CONTROL1	初期化	初期化	保持
		TTT	初期化	初期化	保持
	TTCONTROL	初期化	初期化	保持	
	MB[30].	CONTROL0_H	不定	不定	保持
		CONTROL0_L	不定	不定	保持
		LAFM0	不定	不定	保持
		LAFM1	不定	不定	保持
		DATA_01	不定	不定	保持
		DATA_23	不定	不定	保持
		DATA_45	不定	不定	保持
		DATA_67	不定	不定	保持
		CONTROL1	初期化	初期化	保持
		TIMESTAMP	初期化	初期化	保持
	TTT	初期化	初期化	保持	
	MB[31].	CONTROL0_H	不定	不定	保持
		CONTROL0_L	不定	不定	保持
		LAFM0	不定	不定	保持
		LAFM1	不定	不定	保持
		DATA_01	不定	不定	保持

モジュール名	略称		リセット状態	低消費電力状態	
			パワーオン	ハードウェアスタンバイ	スリープ
RCAN-TL1 (RCAN_A)	MB[31].	DATA_23	不定	不定	保持
		DATA_45	不定	不定	保持
		DATA_67	不定	不定	保持
		CONTROL1	初期化	初期化	保持
		TIMESTAMP	初期化	初期化	保持
	MBESR	初期化	初期化	保持	
	MBECSR	初期化	初期化	保持	
RCAN-TL1 (RCAN_B)	MCR	初期化	初期化	保持	
	GSR	初期化	初期化	保持	
	BCR1	初期化	初期化	保持	
	BCR0	初期化	初期化	保持	
	IRR	初期化	初期化	保持	
	IMR	初期化	初期化	保持	
	TEC/REC	初期化	初期化	保持	
	TXPR1	初期化	初期化	保持	
	TXPR0	初期化	初期化	保持	
	TXCR1	初期化	初期化	保持	
	TXCR0	初期化	初期化	保持	
	TXACK1	初期化	初期化	保持	
	TXACK0	初期化	初期化	保持	
	ABACK1	初期化	初期化	保持	
	ABACK0	初期化	初期化	保持	
	RXPR1	初期化	初期化	保持	
	RXPR0	初期化	初期化	保持	
	RFPR1	初期化	初期化	保持	
	RFPR0	初期化	初期化	保持	
	MBIMR1	初期化	初期化	保持	
	MBIMR0	初期化	初期化	保持	
	UMSR1	初期化	初期化	保持	
	UMSR0	初期化	初期化	保持	
	TTCR0	初期化	初期化	保持	
	CMAX_TEW	初期化	初期化	保持	
	RFTROFF	初期化	初期化	保持	
	TSR	初期化	初期化	保持	
	CCR	初期化	初期化	保持	
	TCNTR	初期化	初期化	保持	
	CYCTR	初期化	初期化	保持	

モジュール名	略称	リセット状態			
		リセット状態	低消費電力状態		
		パワーオン	ハードウェアスタンバイ	スリープ	
RCAN-TL1 (RCAN_B)	RFMK	初期化	初期化	保持	
	TCMR0	初期化	初期化	保持	
	TCMR1	初期化	初期化	保持	
	TCMR2	初期化	初期化	保持	
	TTTSEL	初期化	初期化	保持	
	MB[0].	CONTROL0_H	不定	不定	保持
		CONTROL0_L	不定	不定	保持
		LAFM0	不定	不定	保持
		LAFM1	不定	不定	保持
		DATA_01	不定	不定	保持
		DATA_23	不定	不定	保持
		DATA_45	不定	不定	保持
		DATA_67	不定	不定	保持
		CONTROL1	初期化	初期化	保持
		TIMESTAMP	初期化	初期化	保持
	MB[1].	CONTROL0_H	不定	不定	保持
		CONTROL0_L	不定	不定	保持
		LAFM0	不定	不定	保持
		LAFM1	不定	不定	保持
		DATA_01	不定	不定	保持
		DATA_23	不定	不定	保持
		DATA_45	不定	不定	保持
		DATA_67	不定	不定	保持
		CONTROL1	初期化	初期化	保持
		TIMESTAMP	初期化	初期化	保持
	MB[2].	CONTROL0_H	不定	不定	保持
		CONTROL0_L	不定	不定	保持
		LAFM0	不定	不定	保持
		LAFM1	不定	不定	保持
		DATA_01	不定	不定	保持
		DATA_23	不定	不定	保持
		DATA_45	不定	不定	保持
		DATA_67	不定	不定	保持
		CONTROL1	初期化	初期化	保持
		TIMESTAMP	初期化	初期化	保持

モジュール名	略称		リセット状態	低消費電力状態	
			パワーオン	ハードウェアスタンバイ	スリープ
RCAN-TL1 (RCAN_B)	MB[3].	CONTROL0_H	不定	不定	保持
		CONTROL0_L	不定	不定	保持
		LAFM0	不定	不定	保持
		LAFM1	不定	不定	保持
		DATA_01	不定	不定	保持
		DATA_23	不定	不定	保持
		DATA_45	不定	不定	保持
		DATA_67	不定	不定	保持
		CONTROL1	初期化	初期化	保持
		TIMESTAMP	初期化	初期化	保持
	MB[4].	CONTROL0_H	不定	不定	保持
		CONTROL0_L	不定	不定	保持
		LAFM0	不定	不定	保持
		LAFM1	不定	不定	保持
		DATA_01	不定	不定	保持
		DATA_23	不定	不定	保持
		DATA_45	不定	不定	保持
		DATA_67	不定	不定	保持
		CONTROL1	初期化	初期化	保持
		TIMESTAMP	初期化	初期化	保持
	MB[5].	CONTROL0_H	不定	不定	保持
		CONTROL0_L	不定	不定	保持
		LAFM0	不定	不定	保持
		LAFM1	不定	不定	保持
		DATA_01	不定	不定	保持
		DATA_23	不定	不定	保持
		DATA_45	不定	不定	保持
		DATA_67	不定	不定	保持
		CONTROL1	初期化	初期化	保持
		TIMESTAMP	初期化	初期化	保持
	MB[6].	CONTROL0_H	不定	不定	保持
		CONTROL0_L	不定	不定	保持
		LAFM0	不定	不定	保持
		LAFM1	不定	不定	保持
		DATA_01	不定	不定	保持
		DATA_23	不定	不定	保持

モジュール名	略称		リセット状態	低消費電力状態	
			パワーオン	ハードウェアスタンバイ	スリープ
RCAN-TL1 (RCAN_B)	MB[6].	DATA_45	不定	不定	保持
		DATA_67	不定	不定	保持
		CONTROL1	初期化	初期化	保持
		TIMESTAMP	初期化	初期化	保持
	MB[7].	CONTROL0_H	不定	不定	保持
		CONTROL0_L	不定	不定	保持
		LAFM0	不定	不定	保持
		LAFM1	不定	不定	保持
		DATA_01	不定	不定	保持
		DATA_23	不定	不定	保持
		DATA_45	不定	不定	保持
		DATA_67	不定	不定	保持
		CONTROL1	初期化	初期化	保持
		TIMESTAMP	初期化	初期化	保持
	MB[8].	CONTROL0_H	不定	不定	保持
		CONTROL0_L	不定	不定	保持
		LAFM0	不定	不定	保持
		LAFM1	不定	不定	保持
		DATA_01	不定	不定	保持
		DATA_23	不定	不定	保持
		DATA_45	不定	不定	保持
		DATA_67	不定	不定	保持
		CONTROL1	初期化	初期化	保持
		TIMESTAMP	初期化	初期化	保持
	MB[9].	CONTROL0_H	不定	不定	保持
		CONTROL0_L	不定	不定	保持
		LAFM0	不定	不定	保持
		LAFM1	不定	不定	保持
		DATA_01	不定	不定	保持
		DATA_23	不定	不定	保持
		DATA_45	不定	不定	保持
		DATA_67	不定	不定	保持
		CONTROL1	初期化	初期化	保持
		TIMESTAMP	初期化	初期化	保持
	MB[10].	CONTROL0_H	不定	不定	保持
		CONTROL0_L	不定	不定	保持

モジュール名	略称		リセット状態		
			リセット状態	低消費電力状態	
			パワーオン	ハードウェアスタンバイ	スリープ
RCAN-TL1 (RCAN_B)	MB[10].	LAFM0	不定	不定	保持
		LAFM1	不定	不定	保持
		DATA_01	不定	不定	保持
		DATA_23	不定	不定	保持
		DATA_45	不定	不定	保持
		DATA_67	不定	不定	保持
		CONTROL1	初期化	初期化	保持
		TIMESTAMP	初期化	初期化	保持
	MB[11].	CONTROL0_H	不定	不定	保持
		CONTROL0_L	不定	不定	保持
		LAFM0	不定	不定	保持
		LAFM1	不定	不定	保持
		DATA_01	不定	不定	保持
		DATA_23	不定	不定	保持
		DATA_45	不定	不定	保持
		DATA_67	不定	不定	保持
		CONTROL1	初期化	初期化	保持
		TIMESTAMP	初期化	初期化	保持
	MB[12].	CONTROL0_H	不定	不定	保持
		CONTROL0_L	不定	不定	保持
		LAFM0	不定	不定	保持
		LAFM1	不定	不定	保持
		DATA_01	不定	不定	保持
		DATA_23	不定	不定	保持
		DATA_45	不定	不定	保持
		DATA_67	不定	不定	保持
		CONTROL1	初期化	初期化	保持
		TIMESTAMP	初期化	初期化	保持
	MB[13].	CONTROL0_H	不定	不定	保持
		CONTROL0_L	不定	不定	保持
		LAFM0	不定	不定	保持
		LAFM1	不定	不定	保持
		DATA_01	不定	不定	保持
		DATA_23	不定	不定	保持
		DATA_45	不定	不定	保持
		DATA_67	不定	不定	保持

モジュール名	略称		リセット状態	低消費電力状態	
			パワーオン	ハードウェアスタンバイ	スリープ
RCAN-TL1 (RCAN_B)	MB[13].	CONTROL1	初期化	初期化	保持
		TIMESTAMP	初期化	初期化	保持
	MB[14].	CONTROL0_H	不定	不定	保持
		CONTROL0_L	不定	不定	保持
		LAFM0	不定	不定	保持
		LAFM1	不定	不定	保持
		DATA_01	不定	不定	保持
		DATA_23	不定	不定	保持
		DATA_45	不定	不定	保持
		DATA_67	不定	不定	保持
		CONTROL1	初期化	初期化	保持
		TIMESTAMP	初期化	初期化	保持
	MB[15].	CONTROL0_H	不定	不定	保持
		CONTROL0_L	不定	不定	保持
		LAFM0	不定	不定	保持
		LAFM1	不定	不定	保持
		DATA_01	不定	不定	保持
		DATA_23	不定	不定	保持
		DATA_45	不定	不定	保持
		DATA_67	不定	不定	保持
		CONTROL1	初期化	初期化	保持
		TIMESTAMP	初期化	初期化	保持
	MB[16].	CONTROL0_H	不定	不定	保持
		CONTROL0_L	不定	不定	保持
		LAFM0	不定	不定	保持
		LAFM1	不定	不定	保持
		DATA_01	不定	不定	保持
		DATA_23	不定	不定	保持
		DATA_45	不定	不定	保持
		DATA_67	不定	不定	保持
		CONTROL1	初期化	初期化	保持
		TIMESTAMP	初期化	初期化	保持
	MB[17].	CONTROL0_H	不定	不定	保持
		CONTROL0_L	不定	不定	保持
		LAFM0	不定	不定	保持
		LAFM1	不定	不定	保持
		DATA_01	不定	不定	保持

モジュール名	略称		リセット状態	低消費電力状態	
			パワーオン	ハードウェアスタンバイ	スリープ
RCAN-TL1 (RCAN_B)	MB[17].	DATA_23	不定	不定	保持
		DATA_45	不定	不定	保持
		DATA_67	不定	不定	保持
		CONTROL1	初期化	初期化	保持
	MB[18].	CONTROL0_H	不定	不定	保持
		CONTROL0_L	不定	不定	保持
		LAFM0	不定	不定	保持
		LAFM1	不定	不定	保持
		DATA_01	不定	不定	保持
		DATA_23	不定	不定	保持
		DATA_45	不定	不定	保持
		DATA_67	不定	不定	保持
		CONTROL1	初期化	初期化	保持
	MB[19].	CONTROL0_H	不定	不定	保持
		CONTROL0_L	不定	不定	保持
		LAFM0	不定	不定	保持
		LAFM1	不定	不定	保持
		DATA_01	不定	不定	保持
		DATA_23	不定	不定	保持
		DATA_45	不定	不定	保持
		DATA_67	不定	不定	保持
		CONTROL1	初期化	初期化	保持
	MB[20].	CONTROL0_H	不定	不定	保持
		CONTROL0_L	不定	不定	保持
		LAFM0	不定	不定	保持
		LAFM1	不定	不定	保持
		DATA_01	不定	不定	保持
		DATA_23	不定	不定	保持
		DATA_45	不定	不定	保持
		DATA_67	不定	不定	保持
		CONTROL1	初期化	初期化	保持
	MB[21].	CONTROL0_H	不定	不定	保持
		CONTROL0_L	不定	不定	保持
		LAFM0	不定	不定	保持
		LAFM1	不定	不定	保持
		DATA_01	不定	不定	保持

モジュール名	略称		リセット状態	低消費電力状態	
			パワーオン	ハードウェアスタンバイ	スリープ
RCAN-TL1 (RCAN_B)	MB[21].	DATA_23	不定	不定	保持
		DATA_45	不定	不定	保持
		DATA_67	不定	不定	保持
		CONTROL1	初期化	初期化	保持
	MB[22].	CONTROL0_H	不定	不定	保持
		CONTROL0_L	不定	不定	保持
		LAFM0	不定	不定	保持
		LAFM1	不定	不定	保持
		DATA_01	不定	不定	保持
		DATA_23	不定	不定	保持
		DATA_45	不定	不定	保持
		DATA_67	不定	不定	保持
		CONTROL1	初期化	初期化	保持
	MB[23].	CONTROL0_H	不定	不定	保持
		CONTROL0_L	不定	不定	保持
		LAFM0	不定	不定	保持
		LAFM1	不定	不定	保持
		DATA_01	不定	不定	保持
		DATA_23	不定	不定	保持
		DATA_45	不定	不定	保持
		DATA_67	不定	不定	保持
		CONTROL1	初期化	初期化	保持
	MB[24].	CONTROL0_H	不定	不定	保持
		CONTROL0_L	不定	不定	保持
		LAFM0	不定	不定	保持
		LAFM1	不定	不定	保持
		DATA_01	不定	不定	保持
		DATA_23	不定	不定	保持
		DATA_45	不定	不定	保持
		DATA_67	不定	不定	保持
		CONTROL1	初期化	初期化	保持
		TTT	初期化	初期化	保持
		TTCONTROL	初期化	初期化	保持
	MB[25].	CONTROL0_H	不定	不定	保持
		CONTROL0_L	不定	不定	保持
		LAFM0	不定	不定	保持
		LAFM1	不定	不定	保持

モジュール名	略称		リセット状態	低消費電力状態	
			パワーオン	ハードウェアスタンバイ	スリープ
RCAN-TL1 (RCAN_B)	MB[25].	DATA_01	不定	不定	保持
		DATA_23	不定	不定	保持
		DATA_45	不定	不定	保持
		DATA_67	不定	不定	保持
		CONTROL1	初期化	初期化	保持
		TTT	初期化	初期化	保持
		TTCONTROL	初期化	初期化	保持
	MB[26].	CONTROL0_H	不定	不定	保持
		CONTROL0_L	不定	不定	保持
		LAFM0	不定	不定	保持
		LAFM1	不定	不定	保持
		DATA_01	不定	不定	保持
		DATA_23	不定	不定	保持
		DATA_45	不定	不定	保持
		DATA_67	不定	不定	保持
		CONTROL1	初期化	初期化	保持
		TTT	初期化	初期化	保持
		TTCONTROL	初期化	初期化	保持
	MB[27].	CONTROL0_H	不定	不定	保持
		CONTROL0_L	不定	不定	保持
		LAFM0	不定	不定	保持
		LAFM1	不定	不定	保持
		DATA_01	不定	不定	保持
		DATA_23	不定	不定	保持
		DATA_45	不定	不定	保持
		DATA_67	不定	不定	保持
		CONTROL1	初期化	初期化	保持
		TTT	初期化	初期化	保持
		TTCONTROL	初期化	初期化	保持
	MB[28].	CONTROL0_H	不定	不定	保持
		CONTROL0_L	不定	不定	保持
		LAFM0	不定	不定	保持
		LAFM1	不定	不定	保持
		DATA_01	不定	不定	保持
		DATA_23	不定	不定	保持
		DATA_45	不定	不定	保持
	DATA_67	不定	不定	保持	

モジュール名	略称		リセット状態		
			リセット状態	低消費電力状態	
			パワーオン	ハードウェアスタンバイ	スリープ
RCAN-TL1 (RCAN_B)	MB[28].	CONTROL1	初期化	初期化	保持
		TTT	初期化	初期化	保持
		TTCONTROL	初期化	初期化	保持
	MB[29].	CONTROL0_H	不定	不定	保持
		CONTROL0_L	不定	不定	保持
		LAFM0	不定	不定	保持
		LAFM1	不定	不定	保持
		DATA_01	不定	不定	保持
		DATA_23	不定	不定	保持
		DATA_45	不定	不定	保持
		DATA_67	不定	不定	保持
		CONTROL1	初期化	初期化	保持
		TTT	初期化	初期化	保持
		TTCONTROL	初期化	初期化	保持
		MB[30].	CONTROL0_H	不定	不定
	CONTROL0_L		不定	不定	保持
	LAFM0		不定	不定	保持
	LAFM1		不定	不定	保持
	DATA_01		不定	不定	保持
	DATA_23		不定	不定	保持
	DATA_45		不定	不定	保持
	DATA_67		不定	不定	保持
	CONTROL1		初期化	初期化	保持
	TIMESTAMP		初期化	初期化	保持
	TTT		初期化	初期化	保持
	MB[31].		CONTROL0_H	不定	不定
		CONTROL0_L	不定	不定	保持
		LAFM0	不定	不定	保持
		LAFM1	不定	不定	保持
		DATA_01	不定	不定	保持
		DATA_23	不定	不定	保持
		DATA_45	不定	不定	保持
		DATA_67	不定	不定	保持
		CONTROL1	初期化	初期化	保持
		TIMESTAMP	初期化	初期化	保持
	MBESR		初期化	初期化	保持
	MBECCR		初期化	初期化	保持

モジュール名	略称	リセット状態		
		リセット状態	低消費電力状態	
		パワーオン	ハードウェアスタンバイ	スリープ
RCAN-TL1 (RCAN_C)	MCR	初期化	初期化	保持
	GSR	初期化	初期化	保持
	BCR1	初期化	初期化	保持
	BCR0	初期化	初期化	保持
	IRR	初期化	初期化	保持
	IMR	初期化	初期化	保持
	TEC/REC	初期化	初期化	保持
	TXPR1	初期化	初期化	保持
	TXPR0	初期化	初期化	保持
	TXCR1	初期化	初期化	保持
	TXCR0	初期化	初期化	保持
	TXACK1	初期化	初期化	保持
	TXACK0	初期化	初期化	保持
	ABACK1	初期化	初期化	保持
	ABACK0	初期化	初期化	保持
	RXPR1	初期化	初期化	保持
	RXPR0	初期化	初期化	保持
	RFPR1	初期化	初期化	保持
	RFPR0	初期化	初期化	保持
	MBIMR1	初期化	初期化	保持
	MBIMR0	初期化	初期化	保持
	UMSR1	初期化	初期化	保持
	UMSR0	初期化	初期化	保持
	TTCR0	初期化	初期化	保持
	CMAX_TEW	初期化	初期化	保持
	RFTR0FF	初期化	初期化	保持
	TSR	初期化	初期化	保持
	CCR	初期化	初期化	保持
	TCNTR	初期化	初期化	保持
	CYCTR	初期化	初期化	保持
	RFMK	初期化	初期化	保持
	TCMR0	初期化	初期化	保持
TCMR1	初期化	初期化	保持	
TCMR2	初期化	初期化	保持	
TTTSEL	初期化	初期化	保持	

モジュール名	略称		リセット状態	低消費電力状態	
			パワーオン	ハードウェアスタンバイ	スリープ
RCAN-TL1 (RCAN_C)	MB[0].	CONTROL0_H	不定	不定	保持
		CONTROL0_L	不定	不定	保持
		LAFM0	不定	不定	保持
		LAFM1	不定	不定	保持
		DATA_01	不定	不定	保持
		DATA_23	不定	不定	保持
		DATA_45	不定	不定	保持
		DATA_67	不定	不定	保持
		CONTROL1	初期化	初期化	保持
		TIMESTAMP	初期化	初期化	保持
	MB[1].	CONTROL0_H	不定	不定	保持
		CONTROL0_L	不定	不定	保持
		LAFM0	不定	不定	保持
		LAFM1	不定	不定	保持
		DATA_01	不定	不定	保持
		DATA_23	不定	不定	保持
		DATA_45	不定	不定	保持
		DATA_67	不定	不定	保持
		CONTROL1	初期化	初期化	保持
		TIMESTAMP	初期化	初期化	保持
	MB[2].	CONTROL0_H	不定	不定	保持
		CONTROL0_L	不定	不定	保持
		LAFM0	不定	不定	保持
		LAFM1	不定	不定	保持
		DATA_01	不定	不定	保持
		DATA_23	不定	不定	保持
		DATA_45	不定	不定	保持
		DATA_67	不定	不定	保持
		CONTROL1	初期化	初期化	保持
		TIMESTAMP	初期化	初期化	保持
	MB[3].	CONTROL0_H	不定	不定	保持
		CONTROL0_L	不定	不定	保持
		LAFM0	不定	不定	保持
		LAFM1	不定	不定	保持
		DATA_01	不定	不定	保持
		DATA_23	不定	不定	保持

モジュール名	略称		リセット状態	低消費電力状態	
			パワーオン	ハードウェアスタンバイ	スリープ
RCAN-TL1 (RCAN_C)	MB[3].	DATA_45	不定	不定	保持
		DATA_67	不定	不定	保持
		CONTROL1	初期化	初期化	保持
		TIMESTAMP	初期化	初期化	保持
	MB[4].	CONTROL0_H	不定	不定	保持
		CONTROL0_L	不定	不定	保持
		LAFM0	不定	不定	保持
		LAFM1	不定	不定	保持
		DATA_01	不定	不定	保持
		DATA_23	不定	不定	保持
		DATA_45	不定	不定	保持
		DATA_67	不定	不定	保持
		CONTROL1	初期化	初期化	保持
		TIMESTAMP	初期化	初期化	保持
	MB[5].	CONTROL0_H	不定	不定	保持
		CONTROL0_L	不定	不定	保持
		LAFM0	不定	不定	保持
		LAFM1	不定	不定	保持
		DATA_01	不定	不定	保持
		DATA_23	不定	不定	保持
		DATA_45	不定	不定	保持
		DATA_67	不定	不定	保持
		CONTROL1	初期化	初期化	保持
		TIMESTAMP	初期化	初期化	保持
	MB[6].	CONTROL0_H	不定	不定	保持
		CONTROL0_L	不定	不定	保持
		LAFM0	不定	不定	保持
		LAFM1	不定	不定	保持
		DATA_01	不定	不定	保持
		DATA_23	不定	不定	保持
		DATA_45	不定	不定	保持
		DATA_67	不定	不定	保持
		CONTROL1	初期化	初期化	保持
		TIMESTAMP	初期化	初期化	保持
	MB[7].	CONTROL0_H	不定	不定	保持
		CONTROL0_L	不定	不定	保持

モジュール名	略称		リセット状態	低消費電力状態	
			パワーオン	ハードウェアスタンバイ	スリープ
RCAN-TL1 (RCAN_C)	MB[7].	LAFM0	不定	不定	保持
		LAFM1	不定	不定	保持
		DATA_01	不定	不定	保持
		DATA_23	不定	不定	保持
		DATA_45	不定	不定	保持
		DATA_67	不定	不定	保持
		CONTROL1	初期化	初期化	保持
		TIMESTAMP	初期化	初期化	保持
	MB[8].	CONTROL0_H	不定	不定	保持
		CONTROL0_L	不定	不定	保持
		LAFM0	不定	不定	保持
		LAFM1	不定	不定	保持
		DATA_01	不定	不定	保持
		DATA_23	不定	不定	保持
		DATA_45	不定	不定	保持
		DATA_67	不定	不定	保持
		CONTROL1	初期化	初期化	保持
		TIMESTAMP	初期化	初期化	保持
	MB[9].	CONTROL0_H	不定	不定	保持
		CONTROL0_L	不定	不定	保持
		LAFM0	不定	不定	保持
		LAFM1	不定	不定	保持
		DATA_01	不定	不定	保持
		DATA_23	不定	不定	保持
		DATA_45	不定	不定	保持
		DATA_67	不定	不定	保持
		CONTROL1	初期化	初期化	保持
		TIMESTAMP	初期化	初期化	保持
	MB[10].	CONTROL0_H	不定	不定	保持
		CONTROL0_L	不定	不定	保持
		LAFM0	不定	不定	保持
		LAFM1	不定	不定	保持
		DATA_01	不定	不定	保持
		DATA_23	不定	不定	保持
		DATA_45	不定	不定	保持
		DATA_67	不定	不定	保持

モジュール名	略称		リセット状態	低消費電力状態	
			パワーオン	ハードウェアスタンバイ	スリープ
RCAN-TL1 (RCAN_C)	MB[10].	CONTROL1	初期化	初期化	保持
		TIMESTAMP	初期化	初期化	保持
	MB[11].	CONTROL0_H	不定	不定	保持
		CONTROL0_L	不定	不定	保持
		LAFM0	不定	不定	保持
		LAFM1	不定	不定	保持
		DATA_01	不定	不定	保持
		DATA_23	不定	不定	保持
		DATA_45	不定	不定	保持
		DATA_67	不定	不定	保持
		CONTROL1	初期化	初期化	保持
		TIMESTAMP	初期化	初期化	保持
	MB[12].	CONTROL0_H	不定	不定	保持
		CONTROL0_L	不定	不定	保持
		LAFM0	不定	不定	保持
		LAFM1	不定	不定	保持
		DATA_01	不定	不定	保持
		DATA_23	不定	不定	保持
		DATA_45	不定	不定	保持
		DATA_67	不定	不定	保持
		CONTROL1	初期化	初期化	保持
		TIMESTAMP	初期化	初期化	保持
	MB[13].	CONTROL0_H	不定	不定	保持
		CONTROL0_L	不定	不定	保持
		LAFM0	不定	不定	保持
		LAFM1	不定	不定	保持
		DATA_01	不定	不定	保持
		DATA_23	不定	不定	保持
		DATA_45	不定	不定	保持
		DATA_67	不定	不定	保持
		CONTROL1	初期化	初期化	保持
		TIMESTAMP	初期化	初期化	保持
	MB[14].	CONTROL0_H	不定	不定	保持
		CONTROL0_L	不定	不定	保持
		LAFM0	不定	不定	保持
		LAFM1	不定	不定	保持

モジュール名	略称		リセット状態	低消費電力状態	
			パワーオン	ハードウェアスタンバイ	スリープ
RCAN-TL1 (RCAN_C)	MB[14].	DATA_01	不定	不定	保持
		DATA_23	不定	不定	保持
		DATA_45	不定	不定	保持
		DATA_67	不定	不定	保持
		CONTROL1	初期化	初期化	保持
		TIMESTAMP	初期化	初期化	保持
	MB[15].	CONTROL0_H	不定	不定	保持
		CONTROL0_L	不定	不定	保持
		LAFM0	不定	不定	保持
		LAFM1	不定	不定	保持
		DATA_01	不定	不定	保持
		DATA_23	不定	不定	保持
		DATA_45	不定	不定	保持
		DATA_67	不定	不定	保持
		CONTROL1	初期化	初期化	保持
		TIMESTAMP	初期化	初期化	保持
	MB[16].	CONTROL0_H	不定	不定	保持
		CONTROL0_L	不定	不定	保持
		LAFM0	不定	不定	保持
		LAFM1	不定	不定	保持
		DATA_01	不定	不定	保持
		DATA_23	不定	不定	保持
		DATA_45	不定	不定	保持
		DATA_67	不定	不定	保持
		CONTROL1	初期化	初期化	保持
		MB[17].	CONTROL0_H	不定	不定
	CONTROL0_L		不定	不定	保持
	LAFM0		不定	不定	保持
	LAFM1		不定	不定	保持
	DATA_01		不定	不定	保持
	DATA_23		不定	不定	保持
	DATA_45		不定	不定	保持
	DATA_67		不定	不定	保持
	CONTROL1		初期化	初期化	保持
	MB[18].	CONTROL0_H	不定	不定	保持
		CONTROL0_L	不定	不定	保持

モジュール名	略称		リセット状態		
			リセット状態	低消費電力状態	
			パワーオン	ハードウェアスタンバイ	スリープ
RCAN-TL1 (RCAN_C)	MB[18].	LAFM0	不定	不定	保持
		LAFM1	不定	不定	保持
		DATA_01	不定	不定	保持
		DATA_23	不定	不定	保持
		DATA_45	不定	不定	保持
		DATA_67	不定	不定	保持
		CONTROL1	初期化	初期化	保持
	MB[19].	CONTROL0_H	不定	不定	保持
		CONTROL0_L	不定	不定	保持
		LAFM0	不定	不定	保持
		LAFM1	不定	不定	保持
		DATA_01	不定	不定	保持
		DATA_23	不定	不定	保持
		DATA_45	不定	不定	保持
		DATA_67	不定	不定	保持
		CONTROL1	初期化	初期化	保持
	MB[20].	CONTROL0_H	不定	不定	保持
		CONTROL0_L	不定	不定	保持
		LAFM0	不定	不定	保持
		LAFM1	不定	不定	保持
		DATA_01	不定	不定	保持
		DATA_23	不定	不定	保持
		DATA_45	不定	不定	保持
		DATA_67	不定	不定	保持
		CONTROL1	初期化	初期化	保持
	MB[21].	CONTROL0_H	不定	不定	保持
		CONTROL0_L	不定	不定	保持
		LAFM0	不定	不定	保持
		LAFM1	不定	不定	保持
		DATA_01	不定	不定	保持
		DATA_23	不定	不定	保持
		DATA_45	不定	不定	保持
		DATA_67	不定	不定	保持
		CONTROL1	初期化	初期化	保持
	MB[22].	CONTROL0_H	不定	不定	保持
		CONTROL0_L	不定	不定	保持

モジュール名	略称		リセット状態	低消費電力状態	
			パワーオン	ハードウェアスタンバイ	スリープ
RCAN-TL1 (RCAN_C)	MB[22].	LAFM0	不定	不定	保持
		LAFM1	不定	不定	保持
		DATA_01	不定	不定	保持
		DATA_23	不定	不定	保持
		DATA_45	不定	不定	保持
		DATA_67	不定	不定	保持
		CONTROL1	初期化	初期化	保持
	MB[23].	CONTROL0_H	不定	不定	保持
		CONTROL0_L	不定	不定	保持
		LAFM0	不定	不定	保持
		LAFM1	不定	不定	保持
		DATA_01	不定	不定	保持
		DATA_23	不定	不定	保持
		DATA_45	不定	不定	保持
		DATA_67	不定	不定	保持
		CONTROL1	初期化	初期化	保持
	MB[24].	CONTROL0_H	不定	不定	保持
		CONTROL0_L	不定	不定	保持
		LAFM0	不定	不定	保持
		LAFM1	不定	不定	保持
		DATA_01	不定	不定	保持
		DATA_23	不定	不定	保持
		DATA_45	不定	不定	保持
		DATA_67	不定	不定	保持
		CONTROL1	初期化	初期化	保持
		TTT	初期化	初期化	保持
		TTCONTROL	初期化	初期化	保持
	MB[25].	CONTROL0_H	不定	不定	保持
		CONTROL0_L	不定	不定	保持
		LAFM0	不定	不定	保持
		LAFM1	不定	不定	保持
		DATA_01	不定	不定	保持
		DATA_23	不定	不定	保持
		DATA_45	不定	不定	保持
		DATA_67	不定	不定	保持
		CONTROL1	初期化	初期化	保持

モジュール名	略称		リセット状態	低消費電力状態	
			パワーオン	ハードウェアスタンバイ	スリープ
RCAN-TL1 (RCAN_C)	MB[25].	TTT	初期化	初期化	保持
		TTCONTROL	初期化	初期化	保持
	MB[26].	CONTROL0_H	不定	不定	保持
		CONTROL0_L	不定	不定	保持
		LAFM0	不定	不定	保持
		LAFM1	不定	不定	保持
		DATA_01	不定	不定	保持
		DATA_23	不定	不定	保持
		DATA_45	不定	不定	保持
		DATA_67	不定	不定	保持
		CONTROL1	初期化	初期化	保持
		TTT	初期化	初期化	保持
		TTCONTROL	初期化	初期化	保持
		MB[27].	CONTROL0_H	不定	不定
	CONTROL0_L		不定	不定	保持
	LAFM0		不定	不定	保持
	LAFM1		不定	不定	保持
	DATA_01		不定	不定	保持
	DATA_23		不定	不定	保持
	DATA_45		不定	不定	保持
	DATA_67		不定	不定	保持
	CONTROL1		初期化	初期化	保持
	TTT		初期化	初期化	保持
	TTCONTROL		初期化	初期化	保持
	MB[28].		CONTROL0_H	不定	不定
		CONTROL0_L	不定	不定	保持
		LAFM0	不定	不定	保持
		LAFM1	不定	不定	保持
		DATA_01	不定	不定	保持
		DATA_23	不定	不定	保持
		DATA_45	不定	不定	保持
		DATA_67	不定	不定	保持
		CONTROL1	初期化	初期化	保持
		TTT	初期化	初期化	保持
		TTCONTROL	初期化	初期化	保持

モジュール名	略称		リセット状態	低消費電力状態	
			パワーオン	ハードウェアスタンバイ	スリープ
RCAN-TL1 (RCAN_C)	MB[29].	CONTROL0_H	不定	不定	保持
		CONTROL0_L	不定	不定	保持
		LAFM0	不定	不定	保持
		LAFM1	不定	不定	保持
		DATA_01	不定	不定	保持
		DATA_23	不定	不定	保持
		DATA_45	不定	不定	保持
		DATA_67	不定	不定	保持
		CONTROL1	初期化	初期化	保持
		TTT	初期化	初期化	保持
		TTCONTROL	初期化	初期化	保持
	MB[30].	CONTROL0_H	不定	不定	保持
		CONTROL0_L	不定	不定	保持
		LAFM0	不定	不定	保持
		LAFM1	不定	不定	保持
		DATA_01	不定	不定	保持
		DATA_23	不定	不定	保持
		DATA_45	不定	不定	保持
		DATA_67	不定	不定	保持
		CONTROL1	初期化	初期化	保持
		TIMESTAMP	初期化	初期化	保持
		TTT	初期化	初期化	保持
	MB[31].	CONTROL0_H	不定	不定	保持
		CONTROL0_L	不定	不定	保持
		LAFM0	不定	不定	保持
		LAFM1	不定	不定	保持
		DATA_01	不定	不定	保持
		DATA_23	不定	不定	保持
		DATA_45	不定	不定	保持
		DATA_67	不定	不定	保持
		CONTROL1	初期化	初期化	保持
		TIMESTAMP	初期化	初期化	保持
		MBESR	初期化	初期化	保持
	MBECR	初期化	初期化	保持	
	ADC (ADC_A)	ADR00	初期化	初期化	保持
		ADR0	初期化	初期化	保持
		ADR1	初期化	初期化	保持

モジュール名	略称	リセット状態		
		リセット状態	低消費電力状態	
		パワーオン	ハードウェアスタンバイ	スリープ
ADC (ADC_A)	ADR2	初期化	初期化	保持
	ADR3	初期化	初期化	保持
	ADR4	初期化	初期化	保持
	ADR5	初期化	初期化	保持
	ADR6	初期化	初期化	保持
	ADR7	初期化	初期化	保持
	ADR8	初期化	初期化	保持
	ADR9	初期化	初期化	保持
	ADR10	初期化	初期化	保持
	ADR11	初期化	初期化	保持
	ADR12	初期化	初期化	保持
	ADR13	初期化	初期化	保持
	ADR14	初期化	初期化	保持
	ADR15	初期化	初期化	保持
	ADR16	初期化	初期化	保持
	ADR17	初期化	初期化	保持
	ADR18	初期化	初期化	保持
	ADR19	初期化	初期化	保持
	ADR20	初期化	初期化	保持
	ADR21	初期化	初期化	保持
	ADR22	初期化	初期化	保持
	ADR23	初期化	初期化	保持
	ADR24	初期化	初期化	保持
	ADR25	初期化	初期化	保持
	ADR26	初期化	初期化	保持
	ADR27	初期化	初期化	保持
	ADC (ADC_B)	ADRD1	初期化	初期化
ADR40		初期化	初期化	保持
ADR41		初期化	初期化	保持
ADR42		初期化	初期化	保持
ADR43		初期化	初期化	保持
ADR44		初期化	初期化	保持
ADR45		初期化	初期化	保持
ADR46		初期化	初期化	保持
ADR47		初期化	初期化	保持
ADR48		初期化	初期化	保持
ADC (ADC_A)	ADCSR0	初期化	初期化	保持

モジュール名	略称	リセット状態		
		リセット状態	低消費電力状態	
		パワーオン	ハードウェアスタンバイ	スリープ
ADC (ADC_B)	ADCSR1	初期化	初期化	保持
ADC (ADC_A)	ADREF0	初期化	初期化	保持
ADC (ADC_B)	ADREF1	初期化	初期化	保持
ADC (ADC_A)	ADTRE0	初期化	初期化	保持
ADC (ADC_B)	ADTRE1	初期化	初期化	保持
ADC (ADC_A)	ADTRF0	初期化	初期化	保持
ADC (ADC_B)	ADTRF1	初期化	初期化	保持
ADC (ADC_A)	ADTRS0	初期化	初期化	保持
ADC (ADC_B)	ADTRS1	初期化	初期化	保持
ADC (ADC_A)	ADSTRG0	初期化	初期化	保持
ADC (ADC_B)	ADSTRG1	初期化	初期化	保持
ADC (ADC_A)	ADTRD0	初期化	初期化	保持
ADC (ADC_B)	ADTRD1	初期化	初期化	保持
ADC (ADC_A)	ADADS0	初期化	初期化	保持
ADC (ADC_B)	ADADS1	初期化	初期化	保持
ADC (ADC_A)	ADADC0	初期化	初期化	保持
ADC (ADC_B)	ADADC1	初期化	初期化	保持
ADC (ADC_A)	ADANS0	初期化	初期化	保持
	ADANS1	初期化	初期化	保持
ADC (ADC_B)	ADANS3	初期化	初期化	保持
ADC (ADC_A)	ADCER0	初期化	初期化	保持
ADC (ADC_B)	ADCER1	初期化	初期化	保持
JTAG	SDIR	不定	不定	保持
	SDID	保持	保持	保持
	SDBPR	不定	不定	保持
	SDBSR	不定	不定	保持
AUD-II	AUCSR	初期化	初期化	保持
	AUWASR	不定	不定	保持
	AUWAER	不定	不定	保持
	AUWBSR	不定	不定	保持
	AUWBBER	不定	不定	保持
	AUECSR	初期化	初期化	保持
PFC	PAIOR	初期化	初期化	保持
	PACR4	初期化	初期化	保持
	PACR3	初期化	初期化	保持
	PACR2	初期化	初期化	保持

モジュール名	略称	リセット状態	低消費電力状態	
		パワーオン	ハードウェアスタンバイ	スリープ
PFC	PACR1	初期化	初期化	保持
	PBIOR	初期化	初期化	保持
	PBCR4	初期化	初期化	保持
	PBCR3	初期化	初期化	保持
	PBCR2	初期化	初期化	保持
	PBCR1	初期化	初期化	保持
	PCIOR	初期化	初期化	保持
	PCCR4	初期化	初期化	保持
	PCCR3	初期化	初期化	保持
	PCCR2	初期化	初期化	保持
	PCCR1	初期化	初期化	保持
	PDIOR	初期化	初期化	保持
	PDOR2	初期化	初期化	保持
	PDOR1	初期化	初期化	保持
	PEIOR	初期化	初期化	保持
	PECR2	初期化	初期化	保持
	PECR1	初期化	初期化	保持
	PFIOR	初期化	初期化	保持
	PFOR2	初期化	初期化	保持
	PFOR1	初期化	初期化	保持
	PGIOR	初期化	初期化	保持
	PGOR2	初期化	初期化	保持
	PGOR1	初期化	初期化	保持
	PHIOR	初期化	初期化	保持
	PHOR	初期化	初期化	保持
	PJIOR	初期化	初期化	保持
	PJOR2	初期化	初期化	保持
	PJOR1	初期化	初期化	保持
	PKIOR	初期化	初期化	保持
	PKOR2	初期化	初期化	保持
PKOR1	初期化	初期化	保持	
PLIOR	初期化	初期化	保持	
PLOR2	初期化	初期化	保持	
PLOR1	初期化	初期化	保持	
I/O ポート	PADR	初期化	初期化	保持
	PAPR	端子の値	端子の値	保持
	PBDR	初期化	初期化	保持

モジュール名	略称	リセット状態		
		リセット状態	低消費電力状態	
		パワーオン	ハードウェアスタンバイ	スリープ
I/O ポート	PBPR	端子の値	端子の値	保持
	PBIR	初期化	初期化	保持
	PBDSR	初期化	初期化	保持
	PBPSR	初期化	初期化	保持
	PCDR	初期化	初期化	保持
	PCPR	端子の値	端子の値	保持
	PDDR	初期化	初期化	保持
	PDPR	端子の値	端子の値	保持
	PDIR	初期化	初期化	保持
	PEDR	初期化	初期化	保持
	PEPR	端子の値	端子の値	保持
	PEIR	初期化	初期化	保持
	PEDSR	初期化	初期化	保持
	PFDR	初期化	初期化	保持
	PFPR	端子の値	端子の値	保持
	PFIR	初期化	初期化	保持
	PFDSR	初期化	初期化	保持
	PFPSR	初期化	初期化	保持
	PGDR	初期化	初期化	保持
	PGPR	端子の値	端子の値	保持
	PGIR	初期化	初期化	保持
	PGDSR	初期化	初期化	保持
	PGER	初期化	初期化	保持
	PHDR	初期化	初期化	保持
	PHPR	端子の値	端子の値	保持
	PJDR	初期化	初期化	保持
	PJPR	端子の値	端子の値	保持
	PJIR	初期化	初期化	保持
	PJDSR	初期化	初期化	保持
	PJPSR	初期化	初期化	保持
	PKDR	初期化	初期化	保持
	PKPR	端子の値	端子の値	保持
PKIR	初期化	初期化	保持	
PKDSR	初期化	初期化	保持	
PKPSR	初期化	初期化	保持	
PLDR	初期化	初期化	保持	

モジュール名	略称	リセット状態	低消費電力状態	
		パワーオン	ハードウェアスタンバイ	スリープ
I/O ポート	PLPR	端子の値	端子の値	保持
	PLIR	初期化	初期化	保持
	CKCR	初期化	初期化	保持
MISG	MISRCDR	初期化	初期化	保持
	MISRCCR	初期化	初期化	保持
	MISR	初期化	初期化	保持
ROM/ EEPROM	FPMON	初期化	初期化	保持
	FMODR	初期化	初期化	保持
	FASTAT	初期化	初期化	保持
	FAEINT	初期化	初期化	保持
	ROMMAT	初期化	初期化	保持
	FCURAME	初期化	初期化	保持
	FSTATR0	初期化	初期化	保持
	FSTATR1	初期化	初期化	保持
	FENTRYR	初期化	初期化	保持
	FPROTR	初期化	初期化	保持
	FRESETR	初期化	初期化	保持
	FCMDR	初期化	初期化	保持
	FRAMECCR	初期化	初期化	保持
	FCPSR	初期化	初期化	保持
	EEPBCCNT	初期化	初期化	保持
	FPESTAT	初期化	初期化	保持
	EEPBCSTAT	初期化	初期化	保持
	EEPRE0	初期化	初期化	保持
	EEPRE1	初期化	初期化	保持
	EEPWE0	初期化	初期化	保持
EEPWE1	初期化	初期化	保持	
EEPMAT	初期化	初期化	保持	
ROMC	RCCR	初期化	初期化	保持
	RCCR2	初期化	初期化	保持
RAM	RAMEN0	初期化	初期化	保持
	RAMWEN0	初期化	初期化	保持
	RAMECC	初期化	初期化	保持
	RAMERR	初期化	初期化	保持
	RAMINT	初期化	初期化	保持
	RAMACYC	初期化	初期化	保持

モジュール名	略称	リセット状態	低消費電力状態	
		パワーオン	ハードウェアスタンバイ	スリープ
RAM	RAMEN1	初期化	初期化	保持
	RAMWEN1	初期化	初期化	保持
低消費電力モード	STBCR	初期化	初期化	保持

32. 電気的特性

R5F72546R の電気的特性を示します。

32.1 絶対最大定格

絶対最大定格を表 32.1 に示します。

表 32.1 絶対最大定格

項 目		記号	定格値	単位	備考	
電源 電圧 ^{*1}	Vcc、PLLVcc	Vcc	-0.3~+4.3	V		
	PVcc1、PVcc2	PVcc	-0.3~+6.5	V		
入力 電圧	電源 関連 端子	EXTAL、JTAG、AUD-II 端子	Vin	-0.3~Vcc+0.3	V	表 32.2 を 参照してく ださい。
		HSTBY、RES、NMI、FWE、MD0、MD1、MD2 端子 ^{*4}	Vin	-0.3~5.5+0.3	V	
		ASEMD、MD4、MD3、MD_CLK1、MD_CLK0、MD_CLKP 端子 ^{*5}	Vin	-0.3~Vcc+0.3	V	
		ASEMD、MD4、MD3、MD_CLK1、MD_CLK0、MD_CLKP 端子 ^{*3}	Vin	-0.3~5.5+0.3	V	
	PVcc 電源関連端子	Vin	-0.3~PVcc+0.3	V		
アナログ電源電圧		AVcc	-0.3~+6.5	V		
アナログ基準電圧		AVREFH	-0.3~AVcc+0.3	V	AVREFH>	
		AVREFL	-0.3~AVss+0.3	V	AVREFL	
アナログ入力電圧		VAN	-0.3~AVcc+0.3	V		
Vss 差動電圧		Vss- PLLVss	-0.1~0.1	V		
		Vss- AVss	-0.1~0.1	V		
		PLLVss - AVss	-0.1~0.1	V		
最大入力電流 (1 端子当たり)	デジタル入力端子	I _{max}	-25~+25	mA	同時に	
	アナログ入力端子	I _{max}	-25~+25	mA	1 端子のみ	
動作温度 ^{*2}		Topr	-40~+125	°C		
保存温度		Tstg	-55~+125	°C	実装前	

【使用上の注意】

絶対最大定格を超えてLSIを使用した場合、LSIの永久破壊となることがあります。

PVcc、Vccの5/3V系の2電源電圧を同時に使用することがある製品です。マニュアルに規定する電源端子の接続、印加電源電圧の組み合わせ条件と、各端子に印加可能な電圧、出力される電圧の条件を守って使用してください。規定と異なる電源の接続や電圧でのLSIの使用はLSIの永久破壊、LSIを実装したシステムへのダメージを生じる場合があります。

- 【注】
- *1 V_{CL} 端子に電源電圧を印加しないでください。外付けのコンデンサを介してグラウンドに接続してください。
 - *2 本 LSI を 85°C 以上、125°C までの範囲で動作させる場合は、累積動作時間を 3000 時間以内にしてください。
 - *3 $V_{CC} + 0.3V$ より高い電圧を入力する場合は全端子の合成抵抗 200k Ω 以上の抵抗を介して端子に接続することを推奨します。
ただし、外付けの V_{CC} (3V 系) レギュレータのシンク電流によっては、抵抗値を低くすることが可能ですが、合成抵抗値を 33k Ω 以下にしないでください。
抵抗値を変更した場合は、スタンバイ時に V_{CC} 電圧が 3.6V を超えないことを確認してください。
 - *4 ASEMD、MD4、MD3、MD_CLK1、MD_CLK0、MD_CLKP 端子を 5V トレラント入力したときは、 \overline{HSTBY} 、 \overline{RES} 、NMI、FWE、MD0、MD1、MD2 端子を 5V 振幅入力にすることを推奨します。
 - *5 ASEMD、MD4、MD3、MD_CLK1、MD_CLK0、MD_CLKP 端子を 3.3V 入力したときは、 \overline{HSTBY} 、 \overline{RES} 、NMI、FWE、MD0、MD1、MD2 端子は、3.3V または 5V 振幅入力も可能です。

32.2 DC 特性

電源名と端子の関係を表 32.2 に示します。

表 32.2 電源名と端子の関係

ピン No.	電源端子 電源名	端子名	ユーザ端子				回路電源名	入力電圧 最大値(V)	入力 バッファ タイプ	出力 駆動 能力	備考
			機能 1	機能 2	機能 3	機能 4					
A18		ASEMD					Vcc	Vcc+0.3, 5.5+0.3*	シュミット A		
C14		MD4					Vcc	Vcc+0.3, 5.5+0.3*	シュミット A		
C13		MD3					Vcc	Vcc+0.3, 5.5+0.3*	シュミット A		
D12		MD2					Vcc	5.5+0.3	シュミット A		
A12		MD1					Vcc	5.5+0.3	シュミット A		
C12		MD0					Vcc	5.5+0.3	シュミット A		
A11		FWE					Vcc	5.5+0.3	シュミット A		
B16		MD_CLK1					Vcc	Vcc+0.3, 5.5+0.3*	シュミット A		
D14		MD_CLK0					Vcc	Vcc+0.3, 5.5+0.3*	シュミット A		
B15		MD_CLKP					Vcc	Vcc+0.3, 5.5+0.3*	シュミット A		
D11		HSTBY					Vcc	5.5+0.3	シュミット A		
B12		RES					Vcc	5.5+0.3	シュミット A		
C15		NMI					Vcc	5.5+0.3	シュミット A		
A14		EXTAL					Vcc	Vcc+0.3	CMOS		
A15		XTAL					Vcc				
A13		CK					Vcc				
B11		WDTOVF					Vcc				
B17		TRST					Vcc	Vcc+0.3	シュミット A		
B18		TCK					Vcc	Vcc+0.3	TTL		
D15		TMS					Vcc	Vcc+0.3	TTL/ シュミット B		
A19		TDI					Vcc	Vcc+0.3	TTL/ シュミット B		
C16		TDO					Vcc				
C17		AUDMD					Vcc	Vcc+0.3	シュミット A		
D16		AUDRST					Vcc	Vcc+0.3	シュミット A		
G18		AUDCK					Vcc	Vcc+0.3	TTL		

ピン No.	電源端子 電源名	端子名	ユーザ端子				回路電源名	入力電圧 最大値(V)	入力 バッファ タイプ	出力 駆動 能力	備考
			機能 1	機能 2	機能 3	機能 4					
D18		$\overline{\text{AUDSYNC}}$					Vcc	Vcc+0.3	TTL		
D17		AUDATA3					Vcc	Vcc+0.3	TTL		
F18		AUDATA2					Vcc	Vcc+0.3	TTL		
E17		AUDATA1					Vcc	Vcc+0.3	TTL		
E18		AUDATA0					Vcc	Vcc+0.3	TTL		
C18			PA0	A0			PVcc1	PVcc1+0.3	シュミット B		
B19			PA1	A1			PVcc1	PVcc1+0.3	シュミット B		
C19			PA2	A2			PVcc1	PVcc1+0.3	シュミット B		
E19			PA3	A3			PVcc1	PVcc1+0.3	シュミット B		
D19			PA4	A4			PVcc1	PVcc1+0.3	シュミット B		
G17			PA5	A5			PVcc1	PVcc1+0.3	シュミット B		
F19			PA6	A6			PVcc1	PVcc1+0.3	シュミット B		
B20			PA7	A7			PVcc1	PVcc1+0.3	シュミット B		
H18			PA8	A8			PVcc1	PVcc1+0.3	シュミット B		
C20			PA9	A9			PVcc1	PVcc1+0.3	シュミット B		
J18			PA10	A10			PVcc1	PVcc1+0.3	シュミット B		
G19			PA11	A11			PVcc1	PVcc1+0.3	シュミット B		
D20			PA12	A12			PVcc1	PVcc1+0.3	シュミット B		
E20			PA13	A13			PVcc1	PVcc1+0.3	シュミット B		
H19			PA14	A14			PVcc1	PVcc1+0.3	シュミット B		
F20			PA15	A15			PVcc1	PVcc1+0.3	シュミット B		
G20			PB0	A16	MOSIA		PVcc1	PVcc1+0.3	シュミット B	○	
K18			PB1	A17	MISOA		PVcc1	PVcc1+0.3	シュミット B	○	
J19			PB2	A18	MOSIB		PVcc1	PVcc1+0.3	シュミット B	○	
L18			PB3	A19	MISOB		PVcc1	PVcc1+0.3	シュミット B	○	
H20			PB4	A20	CTx_B	TIF6	PVcc1	PVcc1+0.3	シュミット B	○	
J20			PB5	A21	CRx_B	TIF7	PVcc1	PVcc1+0.3	シュミット B		
K19			PB6	$\overline{\text{WE0}}$			PVcc1	PVcc1+0.3	シュミット B		
L17			PB7	$\overline{\text{WE1}}$			PVcc1	PVcc1+0.3	シュミット B		
K20			PB8	$\overline{\text{WAIT}}$	TOE20		PVcc1	PVcc1+0.3	シュミット B		
M19			PB9	$\overline{\text{RD}}$			PVcc1	PVcc1+0.3	シュミット B		
M18			PB10	$\overline{\text{CS0}}$			PVcc1	PVcc1+0.3	シュミット B		
M20			PB11	$\overline{\text{CS1}}$	TOE21		PVcc1	PVcc1+0.3	シュミット B		
N20			PB12	$\overline{\text{CS2}}$	RSPCKA		PVcc1	PVcc1+0.3	シュミット B	○	
N19			PB13	$\overline{\text{CS3}}$	RSPCKB		PVcc1	PVcc1+0.3	シュミット B	○	
P20			PB14	$\overline{\text{RD/WR}}$			PVcc1	PVcc1+0.3	シュミット B		

ピン No.	電源端子 電源名	端子名	ユーザ端子				回路電源名	入力電圧 最大値(V)	入力 バッファ タイプ	出力 駆動 能力	備考
			機能 1	機能 2	機能 3	機能 4					
N18			PC0	D0			PVcc1	PVcc1+0.3	TTL		
R20			PC1	D1			PVcc1	PVcc1+0.3	TTL		
P19			PC2	D2			PVcc1	PVcc1+0.3	TTL		
N17			PC3	D3			PVcc1	PVcc1+0.3	TTL		
T20			PC4	D4			PVcc1	PVcc1+0.3	TTL		
R19			PC5	D5			PVcc1	PVcc1+0.3	TTL		
T19			PC6	D6			PVcc1	PVcc1+0.3	TTL		
P18			PC7	D7			PVcc1	PVcc1+0.3	TTL		
U20			PC8	D8			PVcc1	PVcc1+0.3	TTL		
U19			PC9	D9			PVcc1	PVcc1+0.3	TTL		
R18			PC10	D10			PVcc1	PVcc1+0.3	TTL		
V20			PC11	D11			PVcc1	PVcc1+0.3	TTL		
W20			PC12	D12			PVcc1	PVcc1+0.3	TTL		
V19			PC13	D13			PVcc1	PVcc1+0.3	TTL		
U18			PC14	D14			PVcc1	PVcc1+0.3	TTL		
T18			PC15	D15			PVcc1	PVcc1+0.3	TTL		
B6			PD0	TIOC00	TIOC31		PVcc2	PVcc2+0.3	シュミット B		
B7			PD1	TIOC01	TOE20		PVcc2	PVcc2+0.3	シュミット B		
A4			PD2	TIOC02	TOE21	TOE52	PVcc2	PVcc2+0.3	シュミット B		
A5			PD3	TIOC03	TOE22	TOE53	PVcc2	PVcc2+0.3	シュミット B		
C9			PD4	TIOC10	TIOC32	TOE52	PVcc2	PVcc2+0.3	シュミット B		
B8			PD5	TIOC11	TOE23	TOE40	PVcc2	PVcc2+0.3	シュミット B		
A6			PD6	TIOC12		TOE41	PVcc2	PVcc2+0.3	シュミット B		
A7			PD7	TIOC13		TOE42	PVcc2	PVcc2+0.3	シュミット B		
A8			PD8	TIOC20	TIOC33	TOE53	PVcc2	PVcc2+0.3	シュミット B		
B9			PD9	TIOC21	TIF0B	TOE43	PVcc2	PVcc2+0.3	シュミット B		
C10			PD10	TIOC22	TIF1B	TOE50	PVcc2	PVcc2+0.3	シュミット B		
A9			PD11	TIOC23	TIF2B	TOE51	PVcc2	PVcc2+0.3	シュミット B		
D10			PD12	TCLKA	TIOC41	TIJ0	PVcc2	PVcc2+0.3	シュミット B		
C11			PD13	TCLKB		TIJ1	PVcc2	PVcc2+0.3	シュミット B		
D4			PE0	TIA00			PVcc2	PVcc2+0.3	シュミット B		
D5			PE1	TIA01	TIOC42	TIOC40	PVcc2	PVcc2+0.3	シュミット B		
C6			PE2	TIA02	TIOC43	TIOC30	PVcc2	PVcc2+0.3	シュミット B		
C5			PE3	TIA03			PVcc2	PVcc2+0.3	シュミット B		
C4			PE4	TIA04			PVcc2	PVcc2+0.3	シュミット B		
B3			PE5	TIA05			PVcc2	PVcc2+0.3	シュミット B		

ピン No.	電源端子 電源名	端子名	ユーザ端子				回路電源名	入力電圧 最大値(V)	入力 バッファ タイプ	出力 駆動 能力	備考
			機能 1	機能 2	機能 3	機能 4					
B4			PE6	TOE00	CTX_B		PVcc2	PVcc2+0.3	シュミット B	○	
D6			PE7	TOE01	CRx_B		PVcc2	PVcc2+0.3	シュミット B	○	
B5			PE8	TOE02			PVcc2	PVcc2+0.3	シュミット B	○	
C7			PE9	TOE03			PVcc2	PVcc2+0.3	シュミット B	○	
A2			PE10	TOE10			PVcc2	PVcc2+0.3	シュミット B	○	
A3			PE11	TOE11			PVcc2	PVcc2+0.3	シュミット B		
C8			PE12	TOE12			PVcc2	PVcc2+0.3	シュミット B		
D8			PE13	TOE13			PVcc2	PVcc2+0.3	シュミット B		
V11			PF0	TOD00B		TIF6	PVcc2	PVcc2+0.3	シュミット B		
Y13			PF1	TOD01B		TIF7	PVcc2	PVcc2+0.3	シュミット B		
Y14			PF2	TOD02B		TIF8	PVcc2	PVcc2+0.3	シュミット B		
W13			PF3	TOD03B		TIF9	PVcc2	PVcc2+0.3	シュミット B		
V12			PF4	TOD10B		TIF10	PVcc2	PVcc2+0.3	シュミット B		
Y15			PF5	TOD11B		TIF11	PVcc2	PVcc2+0.3	シュミット B		
Y16			PF6	TOD12B		TIF12	PVcc2	PVcc2+0.3	シュミット B		
U13			PF7	TOD13B		TIF13	PVcc2	PVcc2+0.3	シュミット B		
W14			PF8	TOD20B		TIF14	PVcc2	PVcc2+0.3	シュミット B		
Y17			PF9	TOD21B		TIF15	PVcc2	PVcc2+0.3	シュミット B		
V13			PF10	TOD22B		TIF16	PVcc2	PVcc2+0.3	シュミット B		
Y18			PF11	TOD23B		TIF17	PVcc2	PVcc2+0.3	シュミット B		
V14			PF12	TOD30B		TIF18	PVcc2	PVcc2+0.3	シュミット B		
W15			PF13	TOD31B		TIF19	PVcc2	PVcc2+0.3	シュミット B		
Y19			PF14	TOD32B	CTX_B	TxD_A	PVcc2	PVcc2+0.3	シュミット B	○	
W16			PF15	TOD33B	CRx_B	RxD_A	PVcc2	PVcc2+0.3	シュミット B		
G1			PG0	TOD00A	SSLA0		PVcc2	PVcc2+0.3	シュミット B	○	
H3			PG1	TOD01A	SSLA1		PVcc2	PVcc2+0.3	シュミット B	○	
H2			PG2	TOD02A	SSLA2		PVcc2	PVcc2+0.3	シュミット B	○	
H1			PG3	TOD03A	SSLA3		PVcc2	PVcc2+0.3	シュミット B	○	
J1			PG4	TOD10A	SSLA4	SSLB3	PVcc2	PVcc2+0.3	シュミット B	○	
J3			PG5	TOD11A	SSLA5	SSLC3	PVcc2	PVcc2+0.3	シュミット B	○	
J2			PG6	TOD12A	SSLB0		PVcc2	PVcc2+0.3	シュミット B	○	
K4			PG7	TOD13A	SSLB1		PVcc2	PVcc2+0.3	シュミット B	○	
L1			PG8	TOD20A	SSLB2	TIF6	PVcc2	PVcc2+0.3	シュミット B	○	
K3			PG9	TOD21A	SSLC0	TIF7	PVcc2	PVcc2+0.3	シュミット B	○	
L2			PG10	TOD22A	SSLC1	TIF8	PVcc2	PVcc2+0.3	シュミット B	○	
L3			PG11	TOD23A	SSLC2	TIF9	PVcc2	PVcc2+0.3	シュミット B	○	

ピン No.	電源端子 電源名	端子名	ユーザ端子				回路電源名	入力電圧 最大値(V)	入力 バッファ タイプ	出力 駆動 能力	備考
			機能 1	機能 2	機能 3	機能 4					
M1			PG12	TOD30A	SSLA4	TIF10	PVcc2	PVcc2+0.3	シュミット B	○	
M4			PG13	TOD31A	SSLA5	TIF11	PVcc2	PVcc2+0.3	シュミット B	○	
M2			PG14	TOD32A	SSLA6	TIF12	PVcc2	PVcc2+0.3	シュミット B	○	
N1			PG15	TOD33A	SSLA7	TIF13	PVcc2	PVcc2+0.3	シュミット B	○	
B1			PH0		ADTRG_A	TIF0A	PVcc2	PVcc2+0.3	シュミット B		
E3			PH1		ADTRG_B	TIF1A	PVcc2	PVcc2+0.3	シュミット B		
F4			PH2			TIF2A	PVcc2	PVcc2+0.3	シュミット B		
B2			PH3			TIF3	PVcc2	PVcc2+0.3	シュミット B		
D3			PH4			TIF4	PVcc2	PVcc2+0.3	シュミット B		
C3			PH5			TIF5	PVcc2	PVcc2+0.3	シュミット B		
V18			PJ0	TxD_A	CTX_A	CTX_A& CTX_B	PVcc2	PVcc2+0.3	シュミット B	○	
V17			PJ1	RxD_A	CRx_A	CRx_A& CRx_B	PVcc2	PVcc2+0.3	シュミット B		
V16			PJ2	TxD_A	CTX_C	CTX_A& CTX_B& CTX_C	PVcc2	PVcc2+0.3	シュミット B	○	
U17			PJ3	RxD_A	CRx_C	CRx_A& CRx_B& CRx_C	PVcc2	PVcc2+0.3	シュミット B		
T17			PJ4	SCK_A	ADEND_B	TIJ0	PVcc2	PVcc2+0.3	シュミット B	○	
V15			PJ5	TxD_A			PVcc2	PVcc2+0.3	シュミット B	○	
W19			PJ6	RxD_A			PVcc2	PVcc2+0.3	シュミット B		
U15			PJ7	SCK_B	ADEND_A	TIJ1	PVcc2	PVcc2+0.3	シュミット B	○	
W18			PJ8	TxD_B			PVcc2	PVcc2+0.3	シュミット B	○	
W17			PJ9	RxD_B			PVcc2	PVcc2+0.3	シュミット B		
G2			PK0	SCK_C	RSPCKA	UBCTR \bar{G}	PVcc2	PVcc2+0.3	シュミット B	○	
H4			PK1	TxD_C	MOSIA		PVcc2	PVcc2+0.3	シュミット B	○	
F1			PK2	RxD_C	MISOA		PVcc2	PVcc2+0.3	シュミット B	○	
E1			PK3	SCK_D	RSPCKB		PVcc2	PVcc2+0.3	シュミット B	○	
G3			PK4	TxD_D	MOSIB		PVcc2	PVcc2+0.3	シュミット B	○	
F2			PK5	RxD_D	MISOB		PVcc2	PVcc2+0.3	シュミット B	○	
D1			PK6	SCK_E			PVcc2	PVcc2+0.3	シュミット B	○	
C1			PK7	TxD_E			PVcc2	PVcc2+0.3	シュミット B	○	
E2			PK8	RxD_E			PVcc2	PVcc2+0.3	シュミット B		
F3			PK9		RSPCKC		PVcc2	PVcc2+0.3	シュミット B	○	
D2			PK10		MOSIC		PVcc2	PVcc2+0.3	シュミット B	○	

ピン No.	電源端子 電源名	端子名	ユーザ端子				回路電源名	入力電圧 最大値(V)	入力 バッファ タイプ	出力 駆動 能力	備考
			機能 1	機能 2	機能 3	機能 4					
C2			PK11		MISOC		PVcc2	PVcc2+0.3	シュミット B	○	
P3			PL0		$\overline{\text{IRQ0}}$		PVcc2	PVcc2+0.3	シュミット B		
P4			PL1	TOE20	$\overline{\text{IRQ1}}$	POD	PVcc2	PVcc2+0.3	シュミット B		
N3			PL2	TOE21	$\overline{\text{IRQ2}}$		PVcc2	PVcc2+0.3	シュミット B		
R2			PL3	TOE22	$\overline{\text{IRQ3}}$		PVcc2	PVcc2+0.3	シュミット B		
P2			PL4	TOE23	$\overline{\text{IRQ4}}$		PVcc2	PVcc2+0.3	シュミット B		
R1			PL5	TOE30	$\overline{\text{IRQ5}}$		PVcc2	PVcc2+0.3	シュミット B		
N2			PL6	TOE31	$\overline{\text{IRQ6}}$		PVcc2	PVcc2+0.3	シュミット B		
M3			PL7	TOE32	$\overline{\text{IRQ7}}$		PVcc2	PVcc2+0.3	シュミット B		
P1			PL8	TOE33			PVcc2	PVcc2+0.3	シュミット B		
W11		AN_A0					AVcc	AVcc+0.3	アナログ		
U11		AN_A1					AVcc	AVcc+0.3	アナログ		
Y11		AN_A2					AVcc	AVcc+0.3	アナログ		
V10		AN_A3					AVcc	AVcc+0.3	アナログ		
U10		AN_A4					AVcc	AVcc+0.3	アナログ		
Y9		AN_A5					AVcc	AVcc+0.3	アナログ		
V9		AN_A6					AVcc	AVcc+0.3	アナログ		
W9		AN_A7					AVcc	AVcc+0.3	アナログ		
U9		AN_A8					AVcc	AVcc+0.3	アナログ		
Y8		AN_A9					AVcc	AVcc+0.3	アナログ		
Y7		AN_A10					AVcc	AVcc+0.3	アナログ		
Y6		AN_A11					AVcc	AVcc+0.3	アナログ		
W8		AN_A12					AVcc	AVcc+0.3	アナログ		
V8		AN_A13					AVcc	AVcc+0.3	アナログ		
Y5		AN_A14					AVcc	AVcc+0.3	アナログ		
V7		AN_A15					AVcc	AVcc+0.3	アナログ		
W7		AN_A16					AVcc	AVcc+0.3	アナログ		
W6		AN_A17					AVcc	AVcc+0.3	アナログ		
W5		AN_A18					AVcc	AVcc+0.3	アナログ		
U7		AN_A19					AVcc	AVcc+0.3	アナログ		
V6		AN_A20					AVcc	AVcc+0.3	アナログ		
U6		AN_A21					AVcc	AVcc+0.3	アナログ		
V5		AN_A22					AVcc	AVcc+0.3	アナログ		
U5		AN_A23					AVcc	AVcc+0.3	アナログ		
Y2		AN_A24					AVcc	AVcc+0.3	アナログ		
W2		AN_A25					AVcc	AVcc+0.3	アナログ		

ピン No.	電源端子 電源名	端子名	ユーザ端子				回路電源名	入力電圧 最大値(V)	入力 バッファ タイプ	出力 駆動 能力	備考
			機能 1	機能 2	機能 3	機能 4					
V3		AN_A26					AVcc	AVcc+0.3	アナログ		
V4		AN_A27					AVcc	AVcc+0.3	アナログ		
Y3		AVREFH_A					AVcc	AVcc+0.3	アナログ		
W3		AVREFL_A					AVcc	AVSS+0.3	アナログ		
T3		AN_B40					AVcc	AVcc+0.3	アナログ		
U4		AN_B41					AVcc	AVcc+0.3	アナログ		
U3		AN_B42					AVcc	AVcc+0.3	アナログ		
T4		AN_B43					AVcc	AVcc+0.3	アナログ		
R3		AN_B44					AVcc	AVcc+0.3	アナログ		
V2		AN_B45					AVcc	AVcc+0.3	アナログ		
R4		AN_B46					AVcc	AVcc+0.3	アナログ		
U2		AN_B47					AVcc	AVcc+0.3	アナログ		
T2		AN_B48					AVcc	AVcc+0.3	アナログ		
W1		AVREFH_B					AVcc	AVcc+0.3	アナログ		
V1		AVREFL_B					AVcc	AVSS+0.3	アナログ		
A17	PLLVcc										
A16	PLLVss										
B10	VCL										
K2	Vcl										
L19	VCL										
W12	VCL										
B14	Vcc										
D7	Vcc										
D13	Vcc										
F17	Vcc										
G4	Vcc										
L4	Vcc										
M17	Vcc										
U8	Vcc										
U14	Vcc										
H17	PVcc1										
J17	PVcc1										
K17	PVcc1										
P17	PVcc1										
R17	PVcc1										
D9	PVcc2										

ピン No.	電源端子 電源名	端子名	ユーザ端子				回路電源名	入力電圧 最大値(V)	入力 バッファ タイプ	出力 駆動 能力	備考
			機能 1	機能 2	機能 3	機能 4					
E4	PVcc2										
J4	PVcc2										
N4	PVcc2										
U12	PVcc2										
U16	PVcc2										
A1	Vss										
A10	Vss										
A20	Vss										
B13	Vss										
J9	Vss										
J10	Vss										
J11	Vss										
J12	Vss										
K1	Vss										
K9	Vss										
K10	Vss										
K11	Vss										
K12	Vss										
L9	Vss										
L10	Vss										
L11	Vss										
L12	Vss										
L20	Vss										
M9	Vss										
M10	Vss										
M11	Vss										
M12	Vss										
Y12	Vss										
Y20	Vss										
T1	AVcc										
W10	AVcc										
Y4	AVcc										
U1	AVss										
W4	AVss										
Y10	AVss										
Y1	NC										

【注】 * $V_{CC} + 0.3V$ より高い電圧を入力する場合は全端子の合成抵抗 $200k\Omega$ 以上の抵抗を介して端子に接続することを推奨します。

ただし、外付けの V_{CC} (3V系) レギュレータのシンク電流によっては、抵抗値を低くすることが可能ですが、合成抵抗値を $33k\Omega$ 以下にしないでください。

抵抗値を変更した場合は、スタンバイ時に V_{CC} 電圧が $3.6V$ を超えないことを確認してください。

【使用上の注意】

本 LSI 動作中の電源電圧は以下のとおりとしてください。

$V_{cc} = PLLV_{cc} = 3.3\text{ V} \pm 0.3\text{ V}$ 、 $PV_{cc1} = 5.0\text{ V} \pm 0.5\text{ V}/3.3\text{ V} \pm 0.3\text{ V}$ 、 $PV_{cc2} = 5.0\text{ V} \pm 0.5\text{ V}$ 、

$AV_{cc} = 5.0\text{ V} \pm 0.5\text{ V}$ 、 $AVREFH_A = AVREFH_B = 4.5\text{ V} \sim AV_{cc}$ 、

$V_{ss} = PLLV_{ss} = AV_{ss} = AVREFL_A = AVREFL_B = 0\text{ V}$

$PV_{cc1} = 3.3\text{ V} \pm 0.3\text{ V}$ のとき $V_{cc} = PV_{cc1}$

PV_{cc1} 電源電圧は動作モードによって異なります。動作モードを以下に示します。これ以外の PV_{cc1} 電源電圧を使用した場合の動作は保証されません。

表 32.3 各動作モードにおける PV_{cc1} 電圧

動作モード	端子設定						モード名	PV_{cc1} 電圧
	MD4	MD3	FWE	MD2	MD1	MD0		
モード 0	0	0	0*	1	1	1	MCU 拡張モード	3.3 V \pm 0.3 V
モード 1	0	0	1*	1	1	1		
モード 2	0	0	0	0	0	1		
モード 3	0	0	0	0	0	0	MCU シングルチップモード	5.0 V \pm 0.5 V
モード 4	0	0	1	0	1	1	ブートモード	3.3 V \pm 0.3 V
モード 5	0	0	1	0	1	0		5.0 V \pm 0.5 V
モード 6	0	0	1	0	0	1	ユーザプログラムモード	3.3 V \pm 0.3 V
モード 7	0	0	1	0	0	0		5.0 V \pm 0.5 V
モード 8	0	0	1	1	0	1	ユーザブートモード	3.3 V \pm 0.3 V
モード 9	0	0	1	1	0	0		5.0 V \pm 0.5 V

【注】 * 内蔵 ROM 無効 MCU 拡張モードのとき、外部バスの幅は FWE 端子によって決定されます。

DC 特性を表 32.4～表 32.12 に示します。

表 32.4 DC 特性（入力電圧）

条件：V_{CC} = PLLV_{CC} = 3.3 V ± 0.3 V、PV_{CC1} = 5.0 V ± 0.5 V/3.3 V ± 0.3 V、

PV_{CC2} = 5.0 V ± 0.5 V、AV_{CC} = 5.0 V ± 0.5 V、

AVREFH_A = AVREFH_B = 4.5 V ~ AV_{CC}、

V_{SS} = PLLV_{SS} = AV_{SS} = AVREFL_A = AVREFL_B = 0 V

PV_{CC1} = 3.3 V ± 0.3 V のとき V_{CC} = PV_{CC1}

T_a = -40°C ~ 125°C

項目	記号	Min.	Typ.	Max.	単位	測定条件	
シュミットトリガ入力電圧（モード端子および制御端子用バッファタイプ A）	HSTBY、RES、NMI、FWE、MD2～MD0	V _T ⁺ (V _{IH})	V _{CC} × 0.83	—	5.5 + 0.3*2	V	表 32.2 参照 （入力バッファタイプがシュミット A の項目）
	ASEMD、MD4、MD3、MD_CLK1、MD_CLK0、MD_CLKP	V _T ⁺ (V _{IH})	V _{CC} × 0.83	—	V _{CC} + 0.3*3	V	
		V _T ⁺ (V _{IH})	V _{CC} × 0.83	—	5.5 + 0.3*1	V	
	HSTBY、RES、NMI、ASEMD、FWE、MD4～MD0、MD_CLK1、MD_CLK0、MD_CLKP	V _T ⁻ (V _{IL})	- 0.3	—	V _{CC} × 0.2	V	
		V _{HS}	V _{CC} × 0.15	—	—	V	
	TRST、AUDMD、AUDRST	V _T ⁺ (V _{IH})	V _{CC} × 0.83	—	V _{CC} + 0.3	V	
		V _T ⁻ (V _{IL})	- 0.3	—	V _{CC} × 0.2	V	
		V _{HS}	V _{CC} × 0.15	—	—	V	
	シュミットトリガ入力電圧（GPIO 端子および周辺 I/O 端子用バッファタイプ B）	PA15～PA0、PB14～PB0、PD13～PD0、PE13～PE0、PF15～PF0、PG15～PG0、PH5～PH0、PJ9～PJ0、PK11～PK0、PL8～PL0	V _T ⁺ (V _{IH})	PV _{CC} × 0.7	—	PV _{CC} + 0.3	
V _T ⁻ (V _{IL})		- 0.3	—	PV _{CC} × 0.42	V		
V _{HS}		PV _{CC} × 0.082	—	—	V		
TTL 入力電圧（GPIO 端子）	PC15～PC0	V _{IH}	PV _{CC1} × 0.7	—	PV _{CC1} + 0.3	V	PV _{CC1} = PV _{CC2} = 5.0 V ± 0.5 V
		V _{IL}	- 0.3	—	PV _{CC1} × 0.3	V	
TTL 入力電圧（拡張データバス端子）	D15～D0 （MCU 拡張モード時）	V _{IH}	2.2	—	PV _{CC1} + 0.3	V	PV _{CC1} = V _{CC} = 3.3 V ± 0.3 V
		V _{IL}	- 0.3	—	0.8	V	
クロック入力端子電圧	EXTAL	V _{IH}	V _{CC} × 0.7	—	V _{CC} + 0.3	V	

項目	記号	Min.	Typ.	Max.	単位	測定条件
	V_{IL}	- 0.3	—	$V_{CC} \times 0.2$	V	
TTL 入力電圧 (AUD-II および H-UDI)	V_{IH}	2.2	—	$V_{CC} + 0.3$	V	
	V_{IL}	- 0.3	—	0.8	V	
シュミットトリガ入力電圧 (JTAG、バッファタイプ B)	V_T^+ (V_{IH})	$V_{CC} \times 0.7$	—	$V_{CC} + 0.3$	V	表 32.2 参照 (入力バッファタイプがシュミット B の項目)
	V_T^- (V_{IL})	- 0.3	—	$V_{CC} \times 0.42$	V	
	V_{HS}	$V_{CC} \times 0.082$	—	—	V	

- 【注】 *1 $V_{CC} + 0.3V$ より高い電圧を入力する場合は全端子の合成抵抗 200k Ω 以上の抵抗を介して端子に接続することを推奨します。
ただし、外付けの V_{CC} (3V 系) レギュレータのシンク電流によっては、抵抗値を低くすることが可能ですが、合成抵抗値を 33k Ω 以下にしないでください。
抵抗値を変更した場合は、スタンバイ時に V_{CC} 電圧が 3.6V を超えないことを確認してください。
- *2 ASEMD、MD4、MD3、MD_CLK1、MD_CLK0、MD_CLKP 端子を 5V トレラント入力したときは、 \overline{HSTBY} 、 \overline{RES} 、NMI、FWE、MD0、MD1、MD2 端子を 5V 振幅入力にすることを推奨します。
- *3 ASEMD、MD4、MD3、MD_CLK1、MD_CLK0、MD_CLKP 端子を 3.3V 入力したときは、 \overline{HSTBY} 、 \overline{RES} 、NMI、FWE、MD0、MD1、MD2 端子は、3.3V または 5V 振幅入力も可能です。

表 32.5 DC 特性 (入力リーク電流)

条件 : $V_{CC} = PLLV_{CC} = 3.3\text{ V} \pm 0.3\text{ V}$ 、 $PV_{CC1} = 5.0\text{ V} \pm 0.5\text{ V}/3.3\text{ V} \pm 0.3\text{ V}$ 、 $PV_{CC2} = 5.0\text{ V} \pm 0.5\text{ V}$ 、 $AV_{CC} = 5.0\text{ V} \pm 0.5\text{ V}$ 、 $AVREFH_A = AVREFH_B = 4.5\text{ V} \sim AV_{CC}$ 、 $V_{SS} = PLLV_{SS} = AV_{SS} = AVREFL_A = AVREFL_B = 0\text{ V}$ $PV_{CC1} = 3.3\text{ V} \pm 0.3\text{ V}$ のとき $V_{CC} = PV_{CC1}$ $T_a = -40^\circ\text{C} \sim 125^\circ\text{C}$

項 目	記号	Min.	Typ.	Max.	単位	測定条件	
入力リーク電流	HSTBY、RES、NMI、 ASEMD、FWE、 MD4~MD0、 MD_CLK1、MD_CLK0、 MD_CLKP、EXTAL	in	—	—	2.0	μA	$V_{in} = 0.3\text{ V} \sim V_{CC} - 0.3\text{ V}$
	$\overline{\text{TRST}}$ 、TMS、TDI、TCK、 $\overline{\text{AUDMD}}$ 、 $\overline{\text{AUDRST}}$ 、 $\overline{\text{AUDCK}}$ 、 $\overline{\text{AUDSYNC}}$ 、 AUDATA3~AUDATA0 (ブルアップまたはブルダ ウン抵抗オフ時)		—	—	2.0	μA	$V_{in} = 0.3\text{ V} \sim V_{CC} - 0.3\text{ V}$
	PA15~PA0、PB14~PB0 (拡張バスモード時)		—	—	2.0	μA	$V_{in} = 0.3\text{ V} \sim PV_{CC1} - 0.3\text{ V}$ 、 $PV_{CC1} = V_{CC} = 3.3\text{ V} \pm 0.3\text{ V}$
	PC15~PC0 (D15~D0) (拡張バスモードでスタン バイ時)		—	—	2.0	μA	$V_{in} = 0.3\text{ V} \sim PV_{CC1} - 0.3\text{ V}$ 、 $PV_{CC1} = V_{CC} = 3.3\text{ V} \pm 0.3\text{ V}$
	PA15~PA0、PB14~PB0、 PC15~PC0 (拡張バスモード時以外)		—	—	2.0	μA	$V_{in} = 0.3\text{ V} \sim PV_{CC1} - 0.3\text{ V}$ 、 $PV_{CC1} = PV_{CC2} = 5.0\text{ V} \pm 0.5\text{ V}$
	PD13~PD0、PE13~PE0、 PF15~PF0、PG15~PG0、 PH5~PH0、PJ9~PJ0、 PK11~PK0、PL8~PL0		—	—	2.0	μA	$V_{in} = 0.3\text{ V} \sim PV_{CC2} - 0.3\text{ V}$
	A/D ポート		—	—	0.1	μA	$V_{in} = 0.3\text{ V} \sim AV_{CC} - 0.3\text{ V}$ 、 $T_a = -40^\circ\text{C} \sim 105^\circ\text{C}$
			—	—	0.2	μA	$V_{in} = 0.3\text{ V} \sim AV_{CC} - 0.3\text{ V}$ 、 $T_a = 105^\circ\text{C} \sim 125^\circ\text{C}$

表 32.6 DC 特性 (プルアップ/プルダウン MOS 電流)

条件 : $V_{CC} = PLLV_{CC} = 3.3\text{ V} \pm 0.3\text{ V}$ 、 $PV_{CC1} = 5.0\text{ V} \pm 0.5\text{ V}/3.3\text{ V} \pm 0.3\text{ V}$ 、 $PV_{CC2} = 5.0\text{ V} \pm 0.5\text{ V}$ 、 $AV_{CC} = 5.0\text{ V} \pm 0.5\text{ V}$ 、 $AVREFH_A = AVREFH_B = 4.5\text{ V} \sim AV_{CC}$ 、 $V_{SS} = PLLV_{SS} = AV_{SS} = AVREFL_A = AVREFL_B = 0\text{ V}$ $PV_{CC1} = 3.3\text{ V} \pm 0.3\text{ V}$ のとき $V_{CC} = PV_{CC1}$ $T_a = -40^\circ\text{C} \sim 125^\circ\text{C}$

項 目	記号	Min.	Typ.	Max.	単位	測定条件	
入力プルアップ MOS 電流	TMS、 $\overline{\text{TRST}}$ 、TDI、TCK	- I_{pu}	—	—	350	μA	$V_{in} = 0\text{ V}$
	AUDMD、AUDCK、 $\overline{\text{AUDSYNC}}$ 、 AUDATA3~AUDATA0		—	—	350	μA	$V_{in} = 0\text{ V}$
	D15~D0 (MCU 拡張モード時)		—	—	160	μA	$V_{in} = 0\text{ V}$
入力プルダウン MOS 電流	$\overline{\text{AUDRST}}$	I_{pd}	—	—	350	μA	$V_{in} = V_{CC}$
	RxD_A~RxD_E		—	—	350	μA	$V_{in} = PV_{CC}$
	MISOA~MISOC		—	—	350	μA	$V_{in} = PV_{CC}$
	ASEMD		—	—	200	μA	$V_{in} = V_{CC}$

表 32.7 DC 特性 (出力電圧)

条件 : $V_{CC} = PLLV_{CC} = 3.3\text{ V} \pm 0.3\text{ V}$ 、 $PV_{CC1} = 5.0\text{ V} \pm 0.5\text{ V}/3.3\text{ V} \pm 0.3\text{ V}$ 、 $PV_{CC2} = 5.0\text{ V} \pm 0.5\text{ V}$ 、 $AV_{CC} = 5.0\text{ V} \pm 0.5\text{ V}$ 、 $AVREFH_A = AVREFH_B = 4.5\text{ V} \sim AV_{CC}$ 、 $V_{SS} = PLLV_{SS} = AV_{SS} = AVREFL_A = AVREFL_B = 0\text{ V}$ $PV_{CC1} = 3.3\text{ V} \pm 0.3\text{ V}$ のとき $V_{CC} = PV_{CC1}$ $T_a = -40^\circ\text{C} \sim 125^\circ\text{C}$

項 目		記号	Min.	Typ.	Max.	単位	測定条件
出力ハイ レベル電圧	PA15~PA0、PB14、PB13、 PB11~PB1、PC15~PC0 (MCU 拡張モード時)	V_{OH}	$PV_{CC1} - 0.5$	—	—	V	$I_{OH} = 200\ \mu\text{A}$ 、 $PV_{CC1} = V_{CC} = 3.3\text{ V} \pm 0.3\text{ V}$
	PA15~PA0、PB14、PB13、 PB11~PB1、PC15~PC0 (MCU 拡張モード時以外)		$PV_{CC1} - 0.5$	—	—	V	$I_{OH} = 200\ \mu\text{A}$ 、 $PV_{CC1} = PV_{CC2} = 5.0\text{ V} \pm 0.5\text{ V}$
			$PV_{CC1} - 1.0$	—	—	V	$I_{OH} = 1\text{ mA}$ 、 $PV_{CC1} = PV_{CC2} = 5.0\text{ V} \pm 0.5\text{ V}$
	PD13~PD0、PE13~PE0、 PF15、PF13~PF0、 PG15~PG0、PH5~PH0、 PJ9、PJ8、PJ6~PJ1、 PK11~PK0、PL8~PL0、 PJ0、PB0、PF14、PJ7、PB12		$PV_{CC2} - 0.5$	—	—	V	$I_{OH} = 200\ \mu\text{A}$
			$PV_{CC2} - 1.0$	—	—	V	$I_{OH} = 1\text{ mA}$
	CK		$V_{CC} - 0.5$	—	—	V	$I_{OH} = 200\ \mu\text{A}$
	WDTOVF		$V_{CC} - 0.5$	—	—	V	$I_{OH} = 200\ \mu\text{A}$
	TDO		$V_{CC} - 0.5$	—	—	V	$I_{OH} = 200\ \mu\text{A}$
AUDCK、AUDSYNC、 AUDATA3~AUDATA0	$V_{CC} - 0.5$	—	—	V	$I_{OH} = 200\ \mu\text{A}$		
出力ロー レベル電圧	PA15~PA0、PB14、PB13、 PB11~PB1、PC15~PC0 (MCU 拡張モード時)	V_{OL}	—	—	0.4	V	$I_{OL} = 1.6\text{ mA}$ 、 $PV_{CC1} = V_{CC} = 3.3\text{ V} \pm 0.3\text{ V}$
	PA15~PA0、PB14、PB13、 PB11~PB1、PC15~PC0 (MCU 拡張モード時以外)		—	—	0.4	V	$I_{OL} = 1.6\text{ mA}$ 、 $PV_{CC1} = PV_{CC2} = 5.0\text{ V} \pm 0.5\text{ V}$
			—	—	1.2	V	$I_{OL} = 4\text{ mA}$ 、 $PV_{CC1} = PV_{CC2} = 5.0\text{ V} \pm 0.5\text{ V}$
	PD13~PD0、PE13~PE0、 PF15、PF13~PF0、 PG15~PG0、PH5~PH0、 PJ9、PJ8、PJ6~PJ1、 PK11~PK0、PL8~PL0、 PJ0、PB0、PF14、PJ7、PB12		—	—	0.4	V	$I_{OL} = 1.6\text{ mA}$
			—	—	1.2	V	$I_{OL} = 4\text{ mA}$

項目		記号	Min.	Typ.	Max.	単位	測定条件
出力ローレベル電圧	CK	VoL	—	—	0.4	V	IoL = 1.6 mA
	WDTOVF		—	—	0.4	V	IoL = 1 mA
	TDO		—	—	0.4	V	IoL = 1.6 mA
	AUDCK、AUDSYNC、 AUDATA3~AUDATA0		—	—	0.4	V	IoL = 1.6 mA

表 32.8 DC 特性（許容出力電流）

条件：Vcc = PLLVcc = 3.3 V ± 0.3 V、PVcc1 = 5.0 V ± 0.5 V/3.3 V ± 0.3 V、

PVcc2 = 5.0 V ± 0.5 V、AVcc = 5.0 V ± 0.5 V、

AVREFH_A = AVREFH_B = 4.5 V ~ AVcc、

Vss = PLLVss = AVss = AVREFL_A = AVREFL_B = 0 V

PVcc1 = 3.3 V ± 0.3 V のとき Vcc = PVcc1

Ta = -40°C ~ 125°C

項目	記号	Min.	Typ.	Max.	単位
出力ローレベル許容電流（1端子当たり）	IoL	—	—	4.0	mA
出力ローレベル許容電流（総和）	Σ IoL	—	—	80	mA
出力ハイレベル許容電流（1端子当たり）	IoH	—	—	2.0	mA
出力ハイレベル許容電流（総和）	Σ IoH	—	—	25	mA

【使用上の注意】

LSI の信頼性を確保するため、出力電流値は表 32.8 の値を超えないようにしてください。

表 32.9 DC 特性（注入電流）

条件：Vcc = PLLVcc = 3.3 V ± 0.3 V、PVcc1 = 5.0 V ± 0.5 V/3.3 V ± 0.3 V、

PVcc2 = 5.0 V ± 0.5 V、AVcc = 5.0 V ± 0.5 V、

AVREFH_A = AVREFH_B = 4.5 V ~ AVcc、

Vss = PLLVss = AVss = AVREFL_A = AVREFL_B = 0 V

PVcc1 = 3.3 V ± 0.3 V のとき Vcc = PVcc1

Ta = -40°C ~ 125°C

項目	記号	Min.	Typ.	Max.	単位	
DC 注入電流（1端子当たり）	ロジック端子	Iic	-1.0	—	2.0	mA
	アナログ端子		-3.0	—	3.0	mA
DC 注入電流（総和）	Σ Iic	—	—	50.0	mA	

【注】 端子の電圧は 5.8V を超えないようにしてください。

表 32.10 DC 特性 (入力容量)

条件 : $V_{CC} = PLLV_{CC} = 3.3 \text{ V} \pm 0.3 \text{ V}$ 、 $PV_{CC1} = 5.0 \text{ V} \pm 0.5 \text{ V}/3.3 \text{ V} \pm 0.3 \text{ V}$ 、

$PV_{CC2} = 5.0 \text{ V} \pm 0.5 \text{ V}$ 、 $AV_{CC} = 5.0 \text{ V} \pm 0.5 \text{ V}$ 、

$AVREFH_A = AVREFH_B = 4.5 \text{ V} \sim AV_{CC}$ 、

$V_{SS} = PLLV_{SS} = AV_{SS} = AVREFL_A = AVREFL_B = 0 \text{ V}$

$PV_{CC1} = 3.3 \text{ V} \pm 0.3 \text{ V}$ のとき $V_{CC} = PV_{CC1}$

項 目	記号	Min.	Typ.	Max.	単位	測定条件
入力容量	すべての端子 C_{in}	—	10	20	pF	$V_{in} = 0 \text{ V}$ 、 $f = 1 \text{ MHz}$ 、 $T_a = 25^\circ\text{C}$

表 32.11 DC 特性 (消費電流)

条件 : $V_{CC} = PLLV_{CC} = 3.3 V \pm 0.3 V$ 、 $PV_{CC1} = 5.0 V \pm 0.5 V / 3.3 V \pm 0.3 V$ 、

$PV_{CC2} = 5.0 V \pm 0.5 V$ 、 $AV_{CC} = 5.0 V \pm 0.5 V$ 、

$AVREFH_A = AVREFH_B = 4.5 V \sim AV_{CC}$ 、

$V_{SS} = PLLV_{SS} = AV_{SS} = AVREFL_A = AVREFL_B = 0 V$

$PV_{CC1} = 3.3 V \pm 0.3 V$ のとき $V_{CC} = PV_{CC1}$

$T_a = -40^\circ C \sim 125^\circ C$

項目	記号	Min.	Typ.*	Max.	単位	測定条件	
消費電流 (V_{CC} 電源)	通常動作 (フラッシュ メモリ書き込み/消去 動作を含む)	I _{CC}	—	99	165	mA	f = 80 MHz
			—	122	188	mA	f = 120 MHz
			—	145	211	mA	f = 160 MHz
			—	169	234	mA	f = 200 MHz
	スリープ	I _{SLP}	—	53	112	mA	f = 80 MHz
			—	59	118	mA	f = 120 MHz
			—	65	124	mA	f = 160 MHz
			—	70	130	mA	f = 200 MHz
	リセット時電流	I _{RST}	30	66	129	mA	f = 80 MHz
			40	75	138	mA	f = 120 MHz
			50	85	148	mA	f = 160 MHz
			60	94	157	mA	f = 200 MHz
PLL 消費電流 ($PLL V_{CC}$ 電源)	I _{PLL}	—	4.0	7.5	mA		
アナログ電源電流 (AV_{CC} 電源)	A/D 変換中	I _{AVCC}	—	7.4	9.8	mA	2 モジュール
	A/D 変換待機中		—	65	120	μA	
	スタンバイ		—	5.0	100	μA	
ADC 基準電源電流 ($AVREF$)	A/D 変換中	I _{AVREF}	—	2.5	4.0	mA	2 モジュール
	A/D 変換待機中		—	2.2	3.5	mA	
	スタンバイ		—	0.1	1.0	μA	

【注】 * $V_{CC} = 3.3V$ 、 $T_a = 25^\circ C$ のとき

【使用上の注意】

1. A/D 変換器を使用しないときおよび A/D 変換器がスタンバイのとき、 AV_{CC} 端子、 AV_{ref} 端子、 AV_{SS} 端子を開放しないでください。
2. 消費電流値はすべての出力端子を無負荷状態で、 $V_{IHmin} = V_{CC} - 0.5 V / PV_{CC} - 0.5 V$ 、 $V_{IL} = 0.5 V$ のときの値です。
3. MCU 拡張モードで PV_{CC1} 電源の保証動作範囲は $PV_{CC1} = 3.3 V \pm 0.3 V$ のときです。この範囲外で使用しないでください。
4. MCU シングルチップモードで PV_{CC1} 電源の保証動作範囲は $PV_{CC1} = 5.0 V \pm 0.5 V$ のときです。この範囲外で使用しないでください。

表 32.12 DC 特性 (スタンバイ)

条件 : $V_{CC} = PLLV_{CC} = 3.3 \text{ V} \pm 0.3 \text{ V}$ 、 $PV_{CC1} = 5.0 \text{ V} \pm 0.5 \text{ V}/3.3 \text{ V} \pm 0.3 \text{ V}$ 、

$PV_{CC2} = 5.0 \text{ V} \pm 0.5 \text{ V}$ 、 $AV_{CC} = 5.0 \text{ V} \pm 0.5 \text{ V}$ 、

$AVREFH_A = AVREFH_B = 4.5 \text{ V} \sim AV_{CC}$ 、

$V_{SS} = PLLV_{SS} = AV_{SS} = AVREFL_A = AVREFL_B = 0 \text{ V}$

$PV_{CC1} = 3.3 \text{ V} \pm 0.3 \text{ V}$ のとき $V_{CC} = PV_{CC1}$

$T_a = -40^\circ\text{C} \sim 125^\circ\text{C}$

項 目		記号	Min.	Typ.	Max.	単位	測定条件
消費電流 (V_{CC} 電源)	スタンバイ	ISB	—	—	300	μA	$-40^\circ\text{C} \leq T_a \leq 50^\circ\text{C}$
			—	—	750	μA	$50^\circ\text{C} < T_a \leq 105^\circ\text{C}$
			—	—	1000	μA	$105^\circ\text{C} < T_a \leq 125^\circ\text{C}$
RAMスタンバイ電圧 (V_{CC} 電源)	RAMの内容保持	V_{RAM}	2.7	—	—	V	

32.3 AC 特性

32.3.1 電源投入・切断タイミング

表 32.13 に電源投入・切断タイミングを示します。

表 32.13 電源投入・切断タイミング

条件 : $V_{CC} = PLLV_{CC} = 3.3\text{ V} \pm 0.3\text{ V}$ 、 $PV_{CC1} = 5.0\text{ V} \pm 0.5\text{ V}/3.3\text{ V} \pm 0.3\text{ V}$ 、 $PV_{CC2} = 5.0\text{ V} \pm 0.5\text{ V}$ 、
 $AV_{CC} = 5.0\text{ V} \pm 0.5\text{ V}$ 、 $AVREFH_A = AVREFH_B = 4.5\text{ V} \sim AV_{CC}$ 、
 $V_{SS} = PLLV_{SS} = AV_{SS} = AVREFL_A = AVREFL_B = 0\text{ V}$ 、
 $PV_{CC1} = 3.3\text{ V} \pm 0.3\text{ V}$ のとき $V_{CC} = PV_{CC1}$
 $T_a = -40^\circ\text{C} \sim 125^\circ\text{C}$

項目	記号	Min.	Max.	単位	参照図
V _{CC} 先行投入時間	t _{VCCS}	0	—	ms	図 32.1
PV _{CC} 切断時 V _{CC} ホールド時間	t _{VCC1}	0	—	ms	

【注】 t_{VCCS} または t_{VCC1} が満たせない場合は、PV_{CC1} もしくは PV_{CC2} で動作する端子状態について不確定になります。

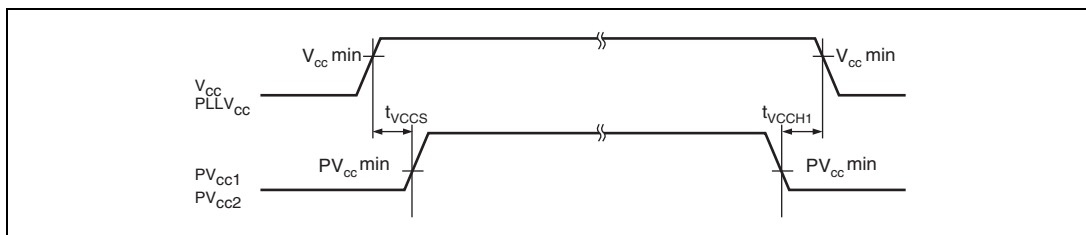


図 32.1 電源投入・切断タイミング

32.3.2 動作モードと発振タイミング

表 32.14 に動作モードと発振タイミングを示します。

表 32.14 動作モードと発振タイミング

条件 : $V_{cc} = PLLV_{cc} = 3.3 \text{ V} \pm 0.3 \text{ V}$ 、 $PV_{cc1} = 5.0 \text{ V} \pm 0.5 \text{ V} / 3.3 \text{ V} \pm 0.3 \text{ V}$ 、 $PV_{cc2} = 5.0 \text{ V} \pm 0.5 \text{ V}$ 、
 $AV_{cc} = 5.0 \text{ V} \pm 0.5 \text{ V}$ 、 $AVREFH_A = AVREFH_B = 4.5 \text{ V} \sim AV_{cc}$ 、
 $V_{ss} = PLLV_{ss} = AV_{ss} = AVREFL_A = AVREFL_B = 0 \text{ V}$ 、
 $PV_{cc1} = 3.3 \text{ V} \pm 0.3 \text{ V}$ のとき $V_{cc} = PV_{cc1}$
 $T_a = -40^\circ\text{C} \sim 125^\circ\text{C}$

項目	記号	Min.	Max.	単位	参照図
発振安定時間	t _{OSC1}	10	—	ms	図 32.2
動作モードセットアップ時間 (スタートアップ時)	t _{MDS1}	10	—	ms	
動作モードセットアップ時間 (動作中)	MD_CLKP=0	10	—	tcyc	
	MD_CLKP=1	20	—		
動作モードホールド時間 (リセット解除後)	MD_CLKP=0	30	—	tcyc	
	MD_CLKP=1	60	—		
動作モードホールド時間 (パワーダウン時)	t _{MDH2}	0	—	ms	
スイッチオフ時の V _{cc} のホールド時間 (内蔵フラッシュの書き込み・消去中の破壊を避けるため)	t _{VCCH2}	22	—	μs	
リセット後の HSTBY ホールド時間 (リセット状態での RAM 内容の維持)	t _{HSTBYH}	1	—	μs	
HSTBY パルス幅 (内蔵レギュレータの電源遮断と再給電のため)	t _{HSTBYW}	1	—	ms	図 32.3

【注】 パワーオン、パワーオフ時も含め、常に $AVREFH_A \leq AV_{cc} + 0.3\text{V}$ かつ $AVREFH_B \leq AV_{cc} + 0.3\text{V}$ を満足する必要があります。

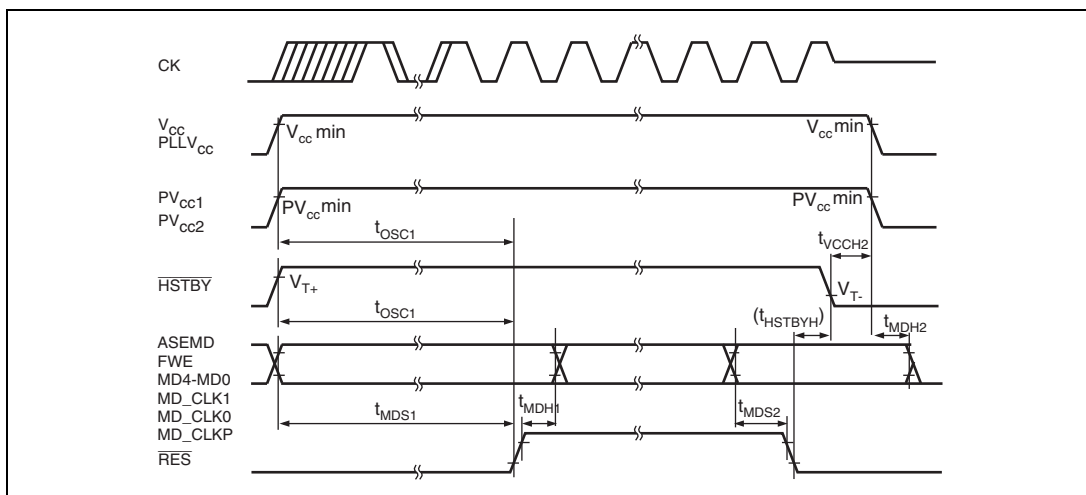


図 32.2 パワーオン/オフ時の動作モードと発振タイミング

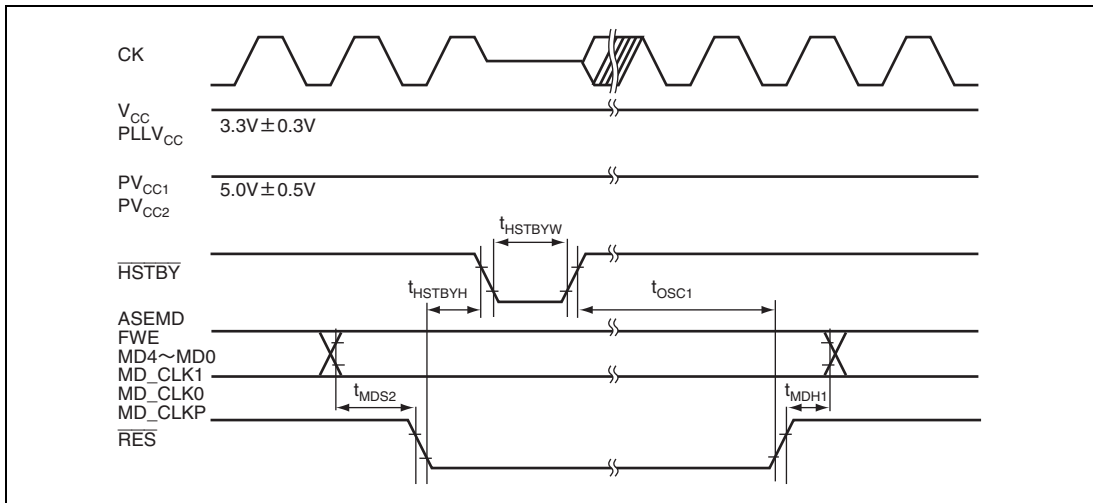


図 32.3 動作中の動作モードと発振タイミング

32.3.3 クロックタイミング

表 32.15 にクロックタイミングを示します。

表 32.15 クロックタイミング

条件 : $V_{CC} = PLLV_{CC} = 3.3\text{ V} \pm 0.3\text{ V}$ 、 $PV_{CC1} = 5.0\text{ V} \pm 0.5\text{ V}/3.3\text{ V} \pm 0.3\text{ V}$ 、 $PV_{CC2} = 5.0\text{ V} \pm 0.5\text{ V}$ 、
 $AV_{CC} = 5.0\text{ V} \pm 0.5\text{ V}$ 、 $AVREFH_A = AVREFH_B = 4.5\text{ V} \sim AV_{CC}$ 、
 $V_{SS} = PLLV_{SS} = AV_{SS} = AVREFL_A = AVREFL_B = 0\text{ V}$ 、
 $PV_{CC1} = 3.3\text{ V} \pm 0.3\text{ V}$ のとき $V_{CC} = PV_{CC1}$
 $T_a = -40^\circ\text{C} \sim 125^\circ\text{C}$

項目	記号	Min.	Max.	単位	参照図	
EXTAL クロック入力周波数	fEX	16	20	MHz	図 32.4	
EXTAL クロック入力サイクル時間	tEXCyc	50	62.5	ns		
EXTAL クロック入力ローレベルパルス幅	tEXL	15	—	ns		
EXTAL クロック入力ハイレベルパルス幅	tEXH	15	—	ns		
EXTAL クロック入力立ち上がり時間	tEXR	—	4	ns		
EXTAL クロック入力立ち下がり時間	tEXF	—	4	ns		
クロック周波数*1	MD_CLKP=0	fop	16	20	MHz	図 32.5
クロックサイクル時間		tCyc	50	62.5	ns	
クロックローレベルパルス幅		tCL	12	—	ns	
クロックハイレベルパルス幅		tCH	12	—	ns	
クロック周波数*1	MD_CLKP=1	fop	32	40	MHz	
クロックサイクル時間		tCyc	25	31.25	ns	
クロックローレベルパルス幅		tCL	4	—	ns	
クロックハイレベルパルス幅		tCH	4	—	ns	
クロック立ち上がり時間	tCR	—	8	ns		
クロック立ち下がり時間	tCF	—	8	ns		
クロックジッタ (平均値 1 μs) *2	fJIT	—	0.3	%	Not tested	

【注】 *1 CK 端子から出力するクロックは周辺クロック (P ϕ) です。

*2 クロックジッタの値はボード設計に依存します。

【使用上の注意】

EXTAL、XTAL、CK 端子は $V_{CC}=3.3\text{ V} \pm 0.3\text{ V}$ 電源の回路です。DC 特性に規定されている入力、出力電圧の規定値で使用してください。

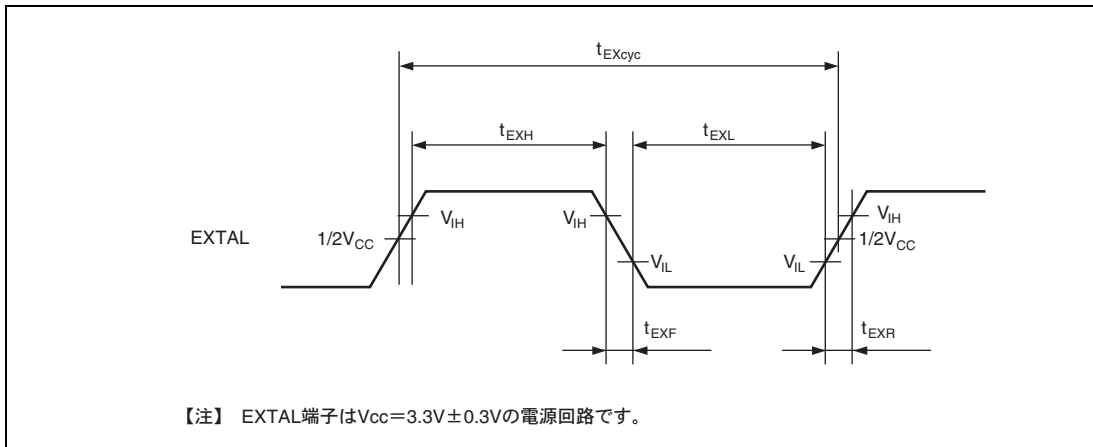


図 32.4 EXTERNAL クロック入力タイミング

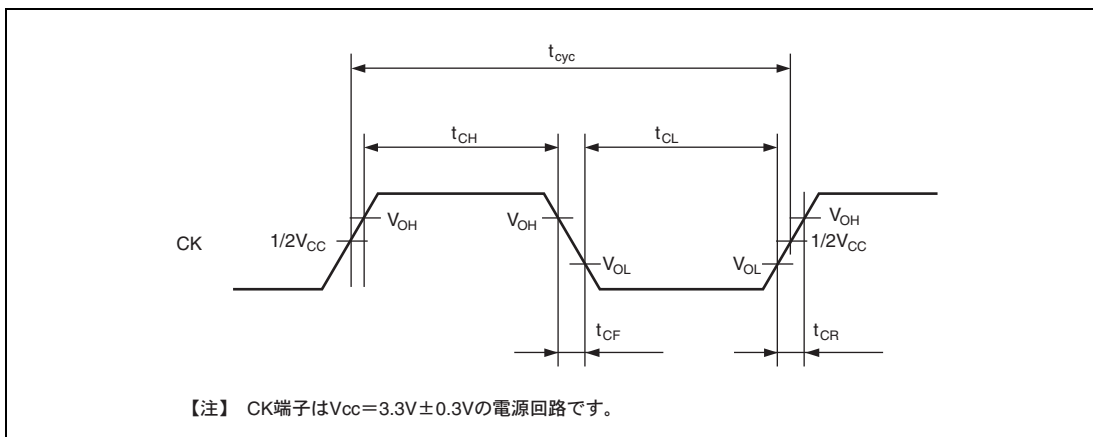


図 32.5 システムクロックタイミング

32.3.4 制御信号タイミング

表 32.16 に制御信号タイミングを示します。

表 32.16 制御信号タイミング

条件 : $V_{CC} = PLLV_{CC} = 3.3\text{ V} \pm 0.3\text{ V}$ 、 $PV_{CC1} = 5.0\text{ V} \pm 0.5\text{ V}/3.3\text{ V} \pm 0.3\text{ V}$ 、 $PV_{CC2} = 5.0\text{ V} \pm 0.5\text{ V}$ 、
 $AV_{CC} = 5.0\text{ V} \pm 0.5\text{ V}$ 、 $AVREFH_A = AVREFH_B = 4.5\text{ V} \sim AV_{CC}$ 、
 $V_{SS} = PLLV_{SS} = AV_{SS} = AVREFL_A = AVREFL_B = 0\text{ V}$ 、
 $PV_{CC1} = 3.3\text{ V} \pm 0.3\text{ V}$ のとき $V_{CC} = PV_{CC1}$
 $T_a = -40^\circ\text{C} \sim 125^\circ\text{C}$

項 目		記号	Min.	Max.	単位	参照図	
RES バルス幅 (フラッシュメモリ書き込み/消去を除く)	MD_CLKP=0	tRESW1	30	—	tcyc	図 32.6	
	MD_CLKP=1		60	—			
RES バルス幅 (フラッシュメモリ書き込み/消去中) *		tRESW2	20	—	μs		
RES ノイズキャンセル幅		tRESNCW	0.2	1.3	μs		
RES セットアップ時間		tRESS	1.3	—	μs		
NMI セットアップ時間		tNMIS	330	—	ns		図 32.7
NMI ホールド時間		tNMIH	330	—	ns		
IRQ7~IRQ0 セットアップ時間		tIRQS	24	—	ns		
IRQ7~IRQ0 ホールド時間 (エッジ検出時)		tIRQH	24	—	ns		

【注】 * 内蔵フラッシュの書き込み・消去中に発生する LSI 内部の高電圧を放電するための待ち時間。

【使用上の注意】

- RES 端子によるパワーオンリセット中のモードセットアップ時間は FWE、MD4~MD0、MD_CLK1、MD_CLK0、および MD_CLKP 端子に入力された信号の組み合わせに依存します。もし、表 32.3 で指定された信号の組み合わせを FWE、MD4~MD0、MD_CLK1、MD_CLK0、および MD_CLKP 端子に入力することで本 LSI が動作している間にローレベル信号が RES 端子に入力された場合、モードセットアップ時間は t_{MDS2} で定義されます。もし、表 32.3 (未定義モード) で指定された信号の組み合わせ以外の信号が FWE、MD4~MD0、MD_CLK0、MD_CLK1、および MD_CLKP 端子に入力された場合、モードセットアップ時間は t_{MDS1} で定義されます。
- RES、NMI、および IRQ7~IRQ0 信号は非同期入力ですが、ここに示されたセットアップが守られた場合、クロックの立ち上がりで変化が生じたものとして判定されます。セットアップを守れない場合、次のクロックの立ち上がりまで認識が遅れることがあります。

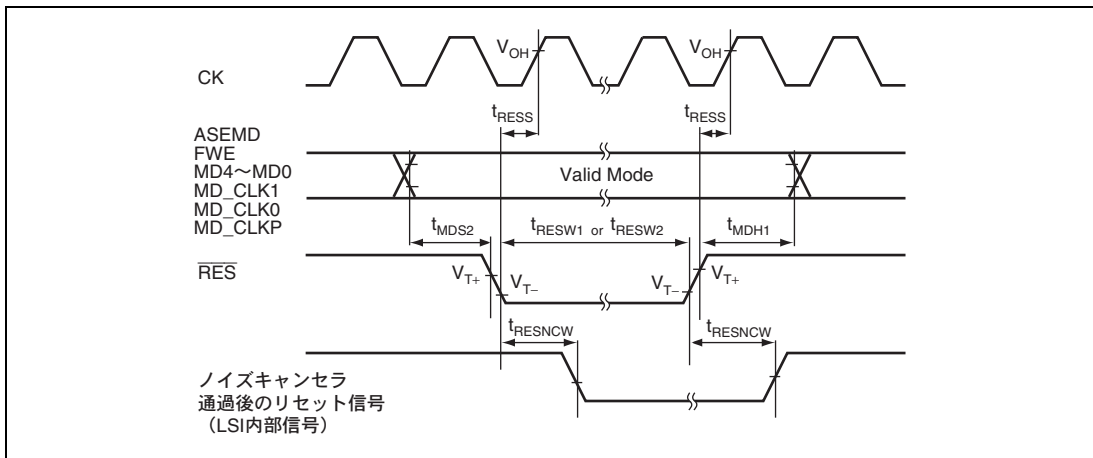


図 32.6 リセット入力タイミング

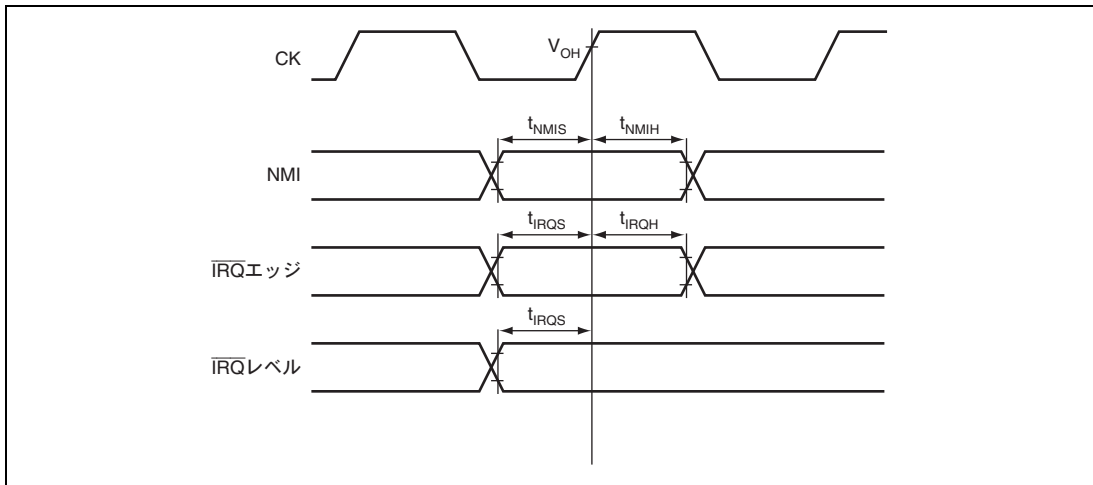


図 32.7 割り込み信号入力タイミング

32.3.5 バスタイミング

表 32.17 にバスタイミングを示します。

表 32.17 バスタイミング

条件 : $V_{CC} = PLLV_{CC} = 3.3\text{ V} \pm 0.3\text{ V}$ 、 $PV_{CC1} = 5.0\text{ V} \pm 0.5\text{ V}/3.3\text{ V} \pm 0.3\text{ V}$ 、 $PV_{CC2} = 5.0\text{ V} \pm 0.5\text{ V}$ 、
 $AV_{CC} = 5.0\text{ V} \pm 0.5\text{ V}$ 、 $AVREFH_A = AVREFH_B = 4.5\text{ V} \sim AV_{CC}$ 、
 $V_{SS} = PLLV_{SS} = AV_{SS} = AVREFL_A = AVREFL_B = 0\text{ V}$ 、
 $PV_{CC1} = 3.3\text{ V} \pm 0.3\text{ V}$ のとき $V_{CC} = PV_{CC1}$
 $T_a = -40^\circ\text{C} \sim 125^\circ\text{C}$

項目	記号	Min.	Max.	単位	参照図
アドレス遅延時間	tAD	—	35	ns	図 32.8~32.13
アドレスセットアップ時間	tAS	0	—	ns	図 32.8~32.11
アドレスホールド時間	tAH	0	—	ns	
\overline{CS} 遅延時間	tCSD	—	30	ns	
リード/ライト遅延時間	trWD	—	30	ns	図 32.8~32.13
リードストロブ遅延時間	trSD	$1/2t_{cyc}$	$1/2t_{cyc} + 30$	ns	
リードデータセットアップ時間	trDS	$1/2t_{cyc} + 15$	—	ns	
リードデータホールド時間	trDH	0	—	ns	
ライトイネーブル遅延時間 1	twED1	$1/2t_{cyc}$	$1/2t_{cyc} + 30$	ns	
ライトイネーブル遅延時間 2	twED2	—	30	ns	図 32.13
ライトデータ遅延時間	twDD	—	30	ns	図 32.8~32.13
ライトデータホールド時間	twDH	0	—	ns	
WAIT セットアップ時間	twTS	$1/2t_{cyc} + 15$	—	ns	図 32.9~32.13
WAIT ホールド時間	twTH	$1/2t_{cyc} + 0$	—	ns	

【使用上の注意】

MCU 拡張モード時の電源 PV_{CC1} の動作保証電圧は $PV_{CC1} = 3.3\text{ V} \pm 0.3\text{ V}$ のみです。これ以外の電圧で使用しないでください。

【注】 遅延時間やセットアップ、ホールド時間の $1/2t_{cyc}$ の記述は、クロックの立ち下がり基準であることを表現しています。

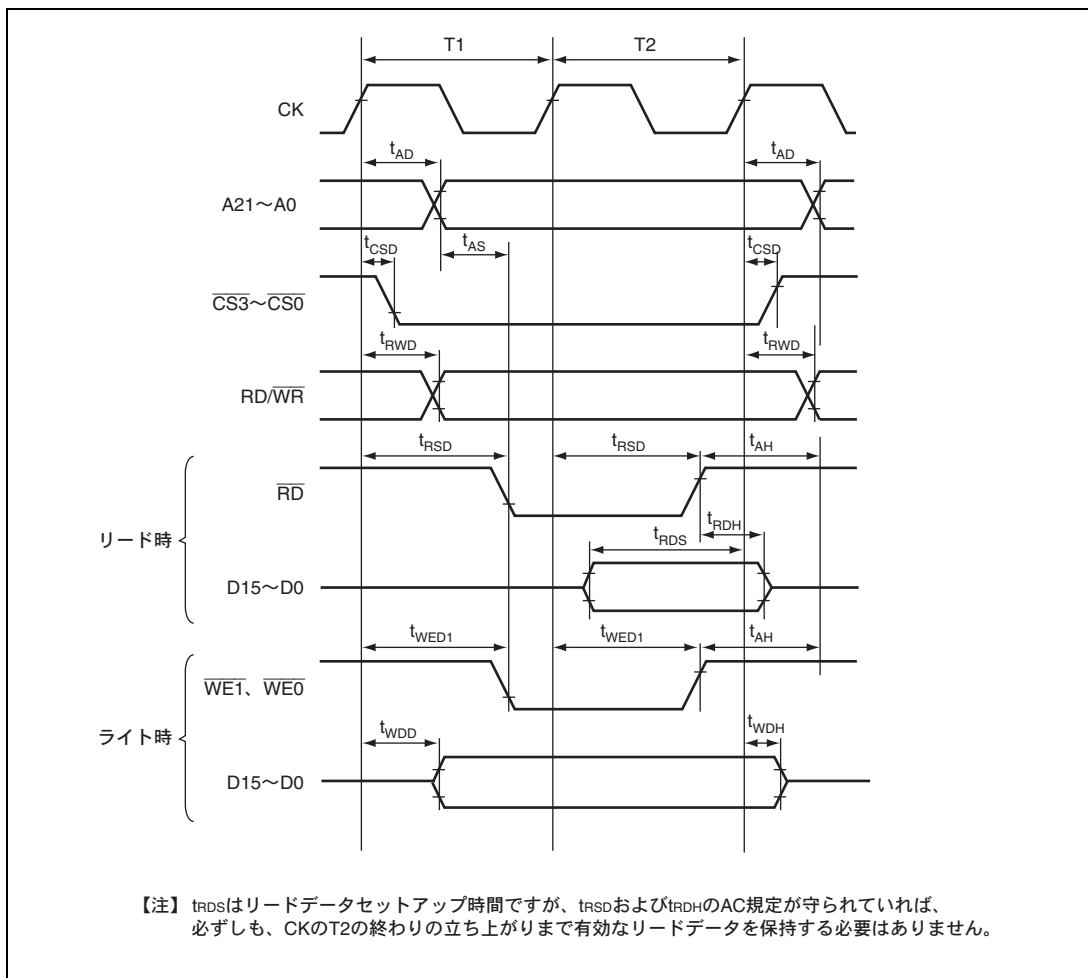


図 32.8 バスサイクル（ノーウェイト）

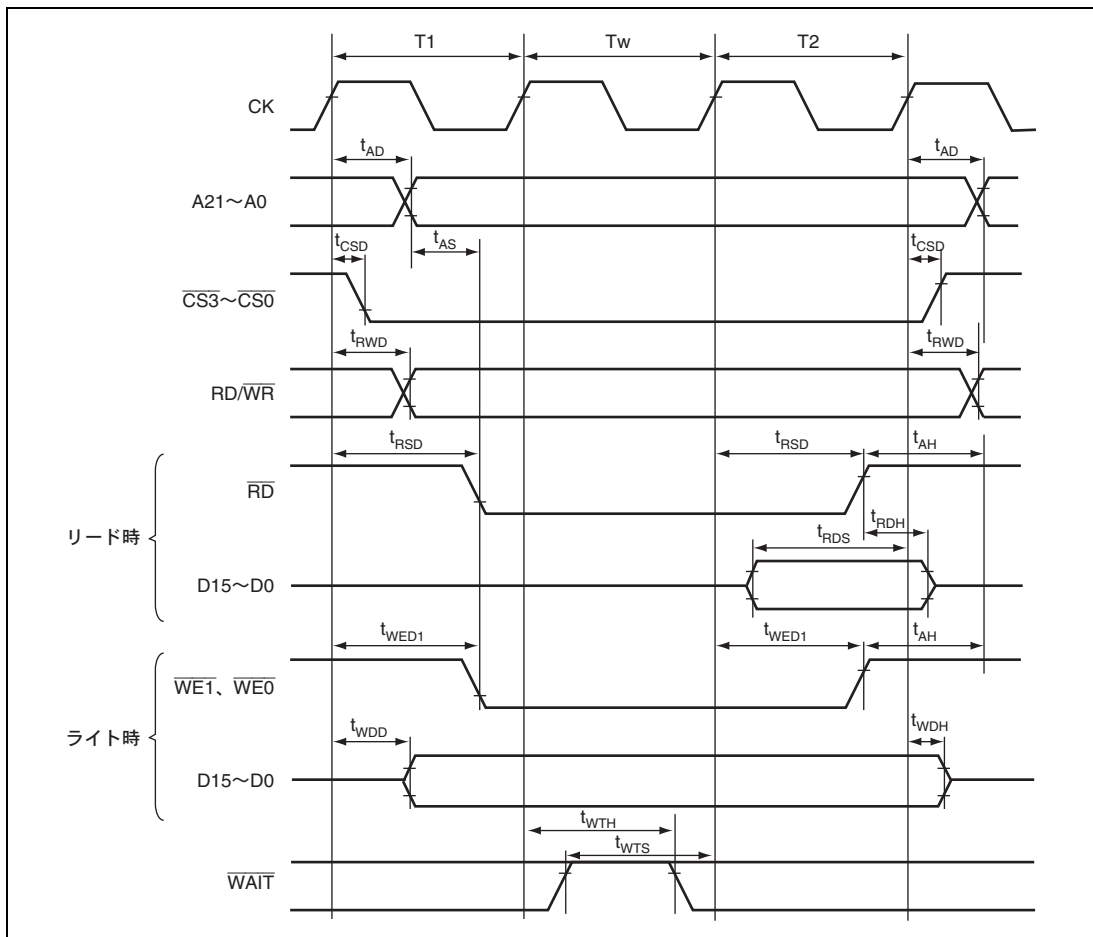


図 32.9 バスサイクル (ソフトウェアウェイト1)

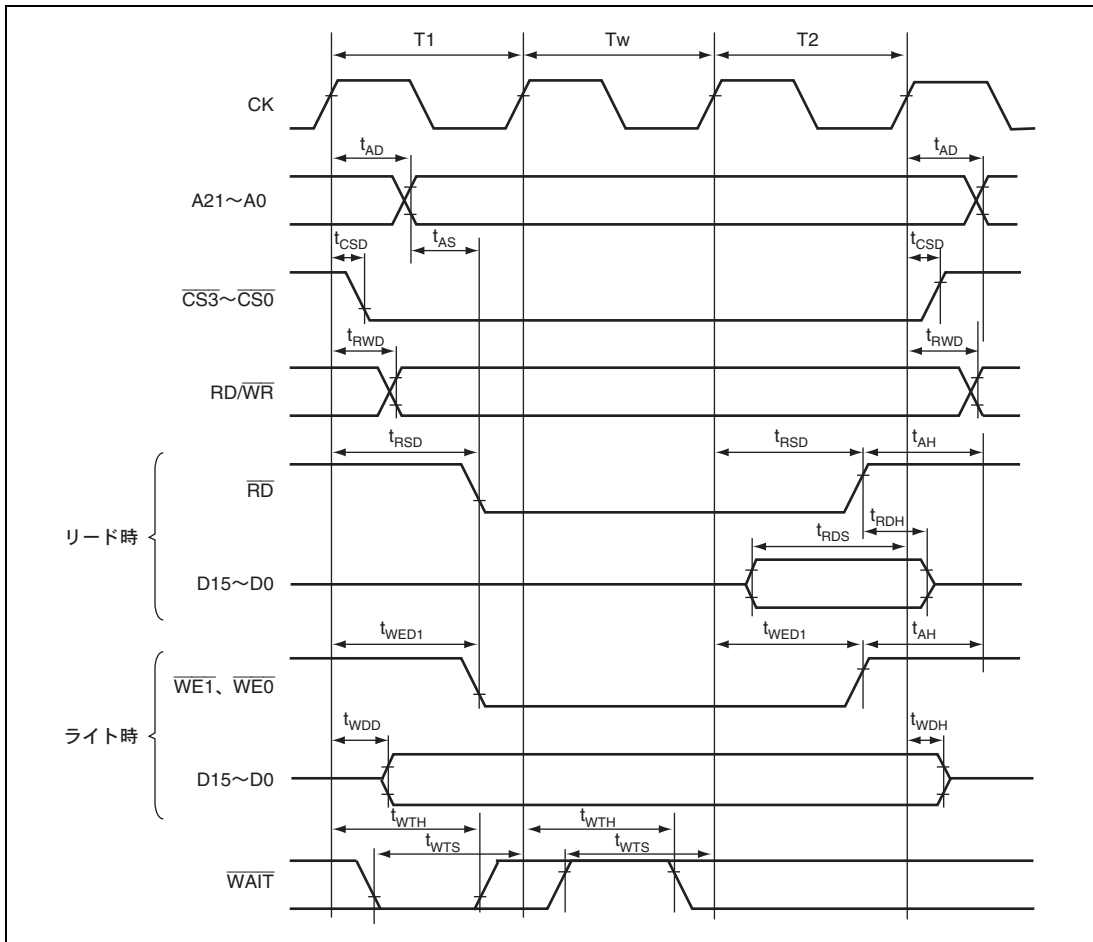


図 32.10 バスサイクル (外部ウェイト1挿入)

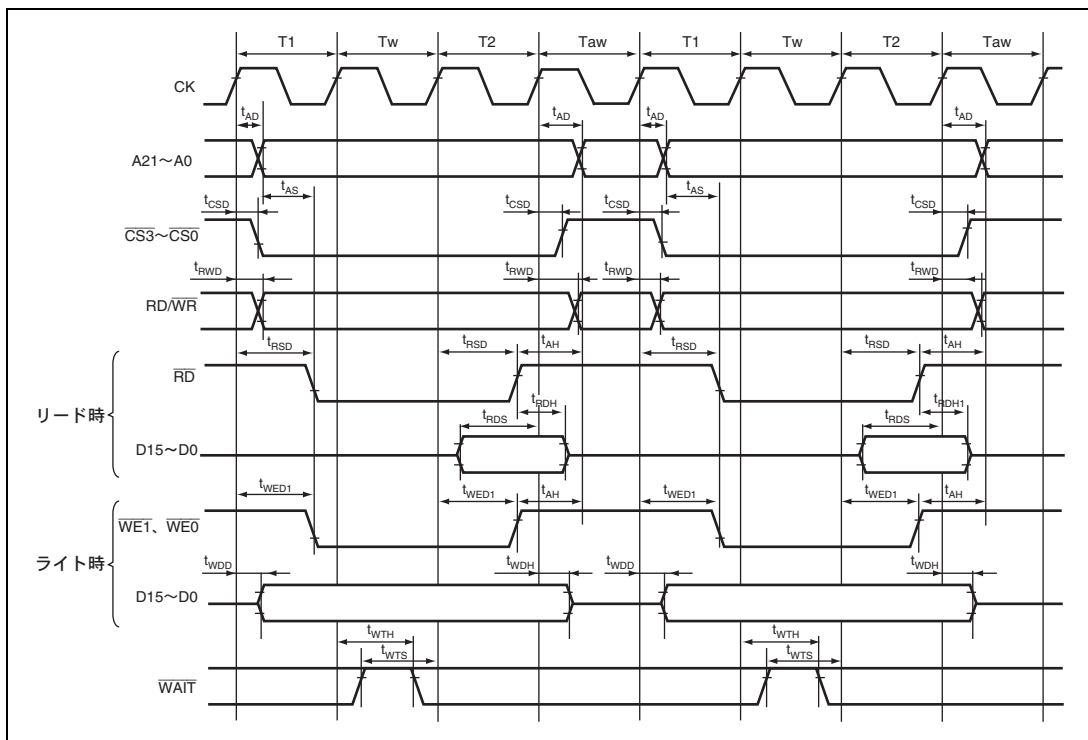


図 32.11 バスサイクル (ソフトウェアウェイト 1、外部ウェイト 1 有効 (WM ビット=0)、
アイドルサイクルなし)

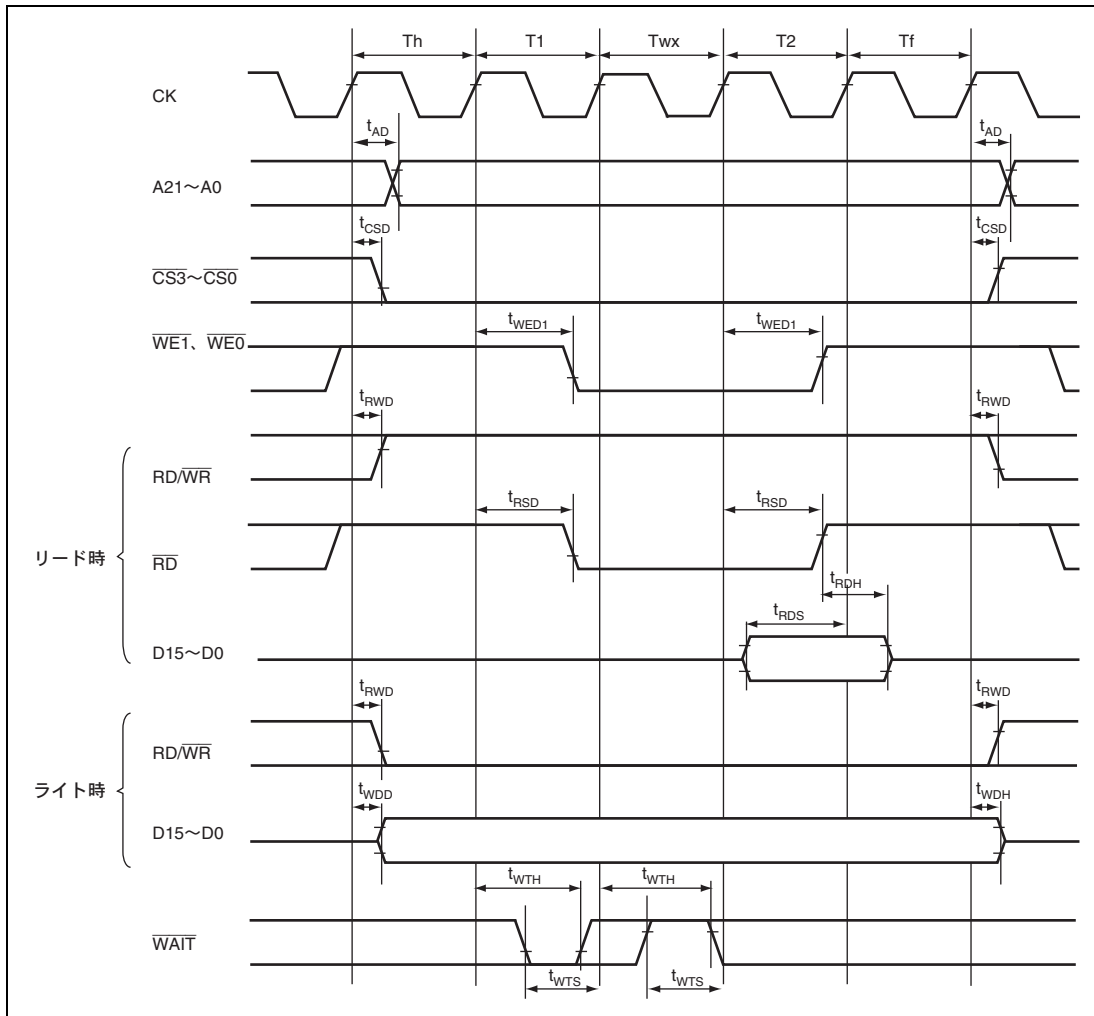


図 32.12 バイト選択付き SRAM バスサイクル (SW=1 サイクル、HW=1 サイクル、非同期外部ウェイト 1 挿入、BAS=0 (ライトサイクル UB/LB コントロール))

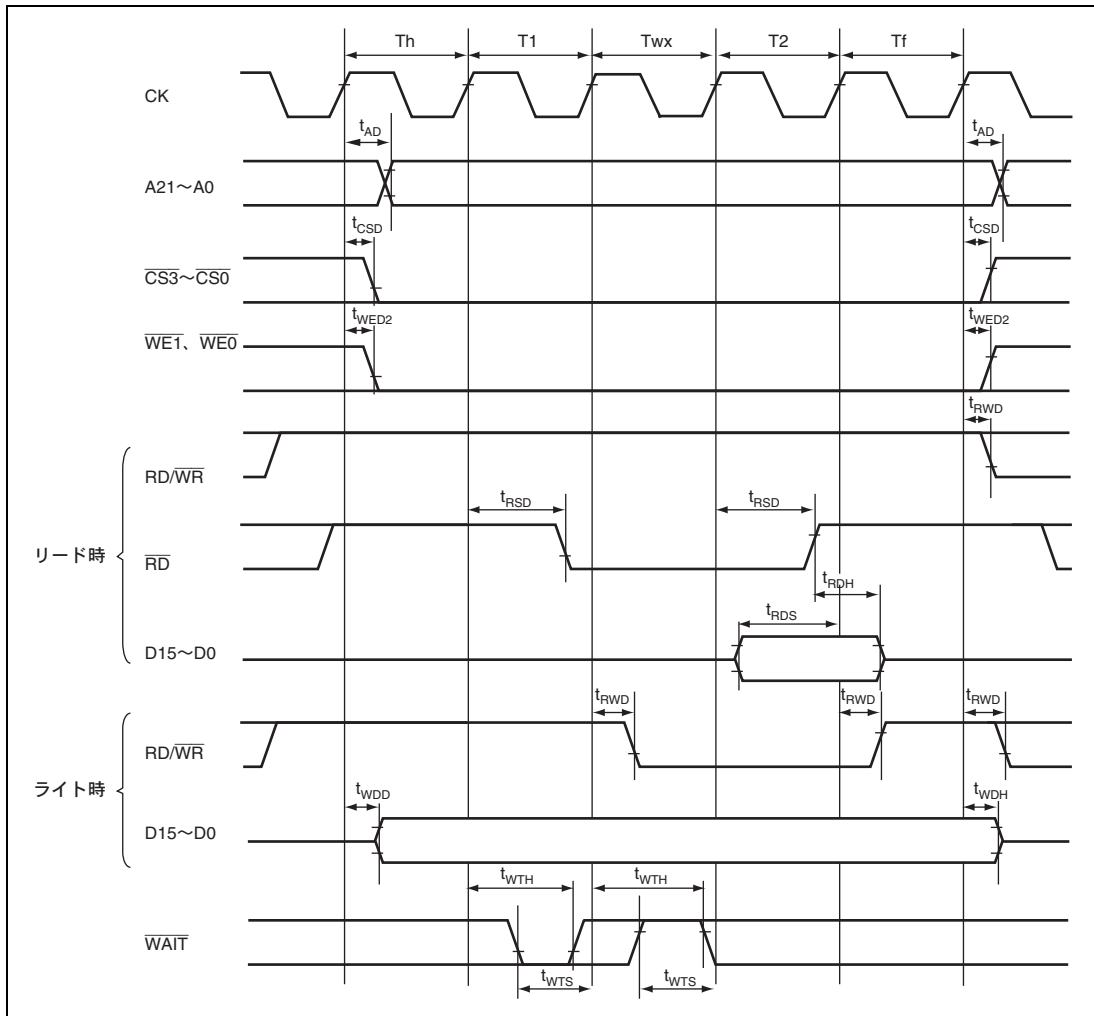


図 32.13 バイト選択付き SRAM バスサイクル (SW=1 サイクル、HW=1 サイクル、非同期外部ウェイト 1 挿入、BAS=1 (ライトサイクル WE コントロール))

32.3.6 アドバンストタイムユニットタイミング、アドバンストパルスコントローラタイミング

表 32.18 にアドバンストタイムユニットタイミング、アドバンストパルスコントローラタイミングを示します。

表 32.18 アドバンストタイムユニットタイミング

条件 : $V_{CC} = PLLV_{CC} = 3.3\text{ V} \pm 0.3\text{ V}$ 、 $PV_{CC1} = 5.0\text{ V} \pm 0.5\text{ V}/3.3\text{ V} \pm 0.3\text{ V}$ 、 $PV_{CC2} = 5.0\text{ V} \pm 0.5\text{ V}$ 、
 $AV_{CC} = 5.0\text{ V} \pm 0.5\text{ V}$ 、 $AVREFH_A = AVREFH_B = 4.5\text{ V} \sim AV_{CC}$ 、
 $V_{SS} = PLLV_{SS} = AV_{SS} = AVREFL_A = AVREFL_B = 0\text{ V}$ 、
 $PV_{CC1} = 3.3\text{ V} \pm 0.3\text{ V}$ のとき $V_{CC} = PV_{CC1}$
 $T_a = -40^\circ\text{C} \sim 125^\circ\text{C}$

項目	記号	Min.	Typ.* ¹	Max.	単位	参照図
アウトプットコンペア出力遅延時間	t _{TOCD}	—	—	100	ns	図 32.14
アウトプットコンペア立ち上がり/ 立ち下がり時間* ²	スロー	t _{SR} 、t _{SF}	—	50	ns	図 32.29
	ファスト	t _{FR} 、t _{FF}	—	6		
インプットキャプチャ入力セットアップ時間	t _{TICS}	24	—	—	ns	図 32.14
タイムクロック入力セットアップ時間	t _{TCKS}	24	—	—	ns	図 32.15
タイムクロックパルス幅 (単エッジ指定)	t _{TCKWH} 、 t _{TCKWL}	1.5	—	—	t _{cy}	
タイムクロックパルス幅 (両エッジ指定)	t _{TCKWH} 、 t _{TCKWL}	2.5	—	—	t _{cy}	

【注】 *1 Typ.値の条件は、 $V_{CC}=3.3\text{V}$ 、 $PV_{CC1}=PV_{CC2}=5.0\text{V}$ 、 $T_a=25^\circ\text{C}$ です。

*2 ファストスルーレートに切り換え可能な端子については表 32.2 を参照してください。 .

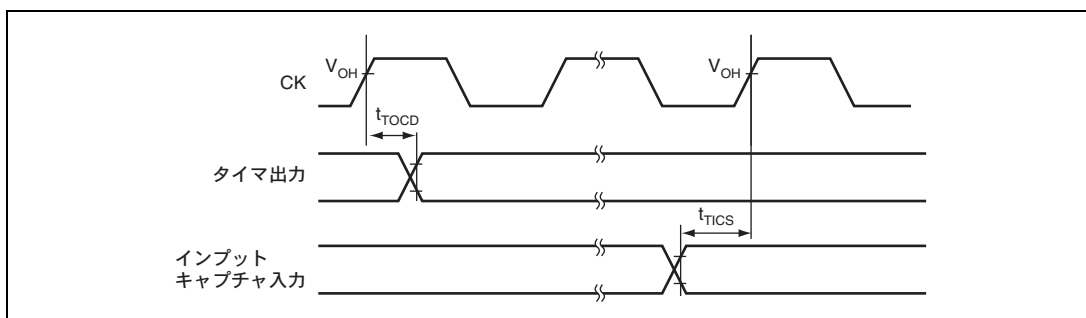


図 32.14 ATU 入出力タイミング

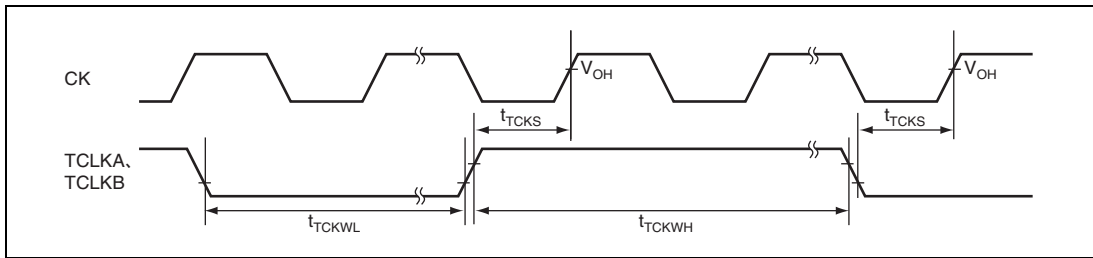


図 32.15 ATU クロック入力タイミング

32.3.7 I/O ポートタイミング

表 32.19 に I/O ポートタイミングを示します。

表 32.19 I/O ポートタイミング

条件 : $V_{CC} = PLLV_{CC} = 3.3\text{ V} \pm 0.3\text{ V}$ 、 $PV_{CC1} = 5.0\text{ V} \pm 0.5\text{ V}/3.3\text{ V} \pm 0.3\text{ V}$ 、 $PV_{CC2} = 5.0\text{ V} \pm 0.5\text{ V}$ 、
 $AV_{CC} = 5.0\text{ V} \pm 0.5\text{ V}$ 、 $AVREFH_A = AVREFH_B = 4.5\text{ V} \sim AV_{CC}$ 、
 $V_{SS} = PLLV_{SS} = AV_{SS} = AVREFL_A = AVREFL_B = 0\text{ V}$ 、
 $PV_{CC1} = 3.3\text{ V} \pm 0.3\text{ V}$ のとき $V_{CC} = PV_{CC1}$
 $T_a = -40^\circ\text{C} \sim 125^\circ\text{C}$

項目	記号	Min.	Typ.* ¹	Max.	単位	参照図	
ポート出力データ遅延時間	t_{PWD}	—	—	100	ns	図 32.16	
ポート出力データ立ち上がり/ 立ち下がり時間* ²	スロー	t_{SR} 、 t_{SF}	—	50	100	ns	図 32.29
	ファスト	t_{FR} 、 t_{FF}	—	6	12		
ポート入力セットアップ時間	t_{PRS}	24	—	—	ns	図 32.16	
ポート入力ホールド時間 (ポート G 以外のレベル入力)	t_{PRH}	24	—	—	ns		
ポート入力ホールド時間(ポート G エッジ入力)	t_{PRH}	$t_{cyc} + 24$	—	—	ns		

【注】 *1 Typ.値の条件は、 $V_{CC}=3.3\text{V}$ 、 $PV_{CC1}=PV_{CC2}=5.0\text{V}$ 、 $T_a=25^\circ\text{C}$ です。

*2 ファストスルーレートに切り換え可能な端子については表 32.2 を参照してください。 .

【使用上の注意】

MCU シングルチップモード時の電源 PV_{CC1} の動作保証電圧は $PV_{CC1}=5.0\text{ V} \pm 0.5\text{ V}$ のみです。これ以外の電圧で使用しないでください。

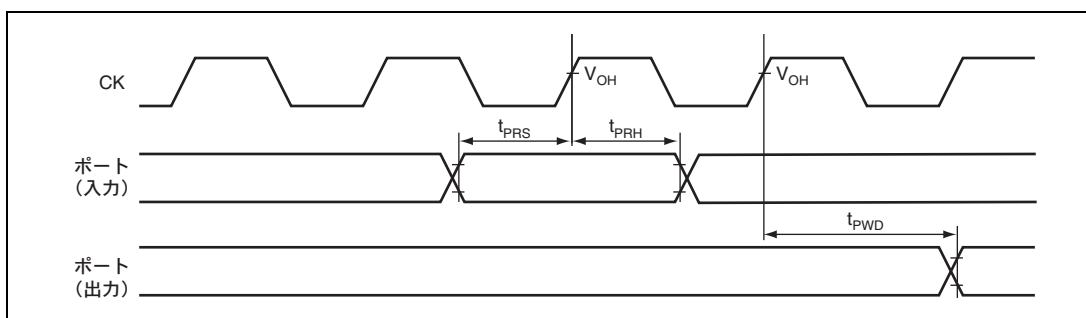


図 32.16 I/O ポート入出力タイミング

32.3.8 ウォッチドッグタイマタイミング

表 32.20 にウォッチドッグタイマタイミングを示します。

表 32.20 ウォッチドッグタイマタイミング

条件 : $V_{CC} = PLLV_{CC} = 3.3 \text{ V} \pm 0.3 \text{ V}$ 、 $PV_{CC1} = 5.0 \text{ V} \pm 0.5 \text{ V}/3.3 \text{ V} \pm 0.3 \text{ V}$ 、 $PV_{CC2} = 5.0 \text{ V} \pm 0.5 \text{ V}$ 、
 $AV_{CC} = 5.0 \text{ V} \pm 0.5 \text{ V}$ 、 $AVREFH_A = AVREFH_B = 4.5 \text{ V} \sim AV_{CC}$ 、
 $V_{SS} = PLLV_{SS} = AV_{SS} = AVREFL_A = AVREFL_B = 0 \text{ V}$ 、
 $PV_{CC1} = 3.3 \text{ V} \pm 0.3 \text{ V}$ のとき $V_{CC} = PV_{CC1}$
 $T_a = -40^\circ\text{C} \sim 125^\circ\text{C}$

項目	記号	Min.	Max.	単位	参照図
WDTOVF 遅延時間	tWOVD	—	100	ns	図 32.17

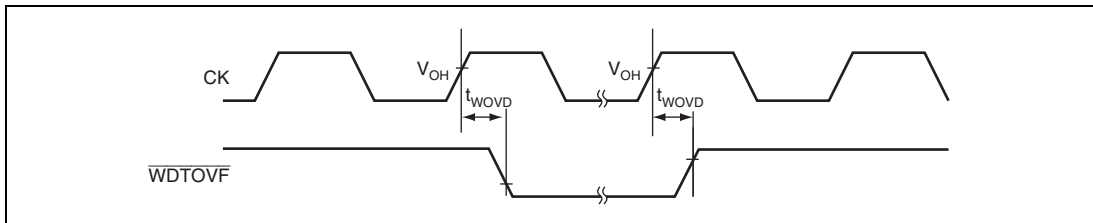


図 32.17 ウォッチドッグタイマタイミング

32.3.9 シリアルコミュニケーションインタフェースタイミング

表 32.21 にシリアルコミュニケーションインタフェースタイミングを示します。

表 32.21 シリアルコミュニケーションインタフェースタイミング

条件 : $V_{CC} = PLLV_{CC} = 3.3\text{ V} \pm 0.3\text{ V}$ 、 $PV_{CC1} = 5.0\text{ V} \pm 0.5\text{ V}/3.3\text{ V} \pm 0.3\text{ V}$ 、 $PV_{CC2} = 5.0\text{ V} \pm 0.5\text{ V}$ 、

$AV_{CC} = 5.0\text{ V} \pm 0.5\text{ V}$ 、 $AVREFH_A = AVREFH_B = 4.5\text{ V} \sim AV_{CC}$ 、

$V_{SS} = PLLV_{SS} = AV_{SS} = AVREFL_A = AVREFL_B = 0\text{ V}$ 、

$PV_{CC1} = 3.3\text{ V} \pm 0.3\text{ V}$ のとき $V_{CC} = PV_{CC1}$

$T_a = -40^\circ\text{C} \sim 125^\circ\text{C}$

項目		記号	Min.	Typ.*	Max.	単位	参照図
クロックサイクル (クロック同期:クロック入力)	MD_CLKP=0	t _{scyc}	12	—	—	t _{cyc}	図 32.18
		t _{scyc}	8	—	—	t _{cyc}	
クロックサイクル (クロック同期:クロック出力)	MD_CLKP=1	t _{scyc}	16	—	—	t _{cyc}	
		t _{scyc}	16	—	—	t _{cyc}	
クロックパルス幅		t _{sckw}	0.4	—	0.6	t _{scyc}	
入力クロック立ち上がり時間	MD_CLKP=0	t _{sckr}	—	—	0.8	t _{cyc}	
入力クロック立ち下がり時間		t _{sckf}	—	—	0.8	t _{cyc}	
入力クロック立ち上がり時間	MD_CLKP=1	t _{sckr}	—	—	1.6	t _{cyc}	
入力クロック立ち下がり時間		t _{sckf}	—	—	1.6	t _{cyc}	
クロック同期モード送信データ 遅延時間 (SCK 入力)	MD_CLKP=0	t _{TxD}	—	—	$3 \times t_{cyc} + 100$	ns	
	MD_CLKP=1		—	—	$3 \times t_{cyc} + 75$		
クロック同期モード受信データセットアップ時間 (SCK 入力)		t _{RxS}	$-1 \times t_{cyc} + 30$	—	—	ns	
クロック同期モード受信データホールド時間 (SCK 入力)		t _{RxH}	$2 \times t_{cyc} + 30$	—	—	ns	
クロック同期モード送信データ遅延時間 (SCK 出力)		t _{TxD}	—	—	70	ns	
クロック同期モード 受信データセットアップ 時間 (SCK 出力)	送受信または送信のみ	スロー	120	—	—	ns	
		ファスト	30	—	—		
	受信のみ	スロー	$120 + 3 \times t_{cyc}$	—	—		
		ファスト	$30 + 3 \times t_{cyc}$	—	—		
クロック同期モード受信データホールド時間 (SCK 出力)		t _{RxH}	$1 \times t_{cyc} + 30$	—	—	ns	

項目	記号	Min.	Typ.*	Max.	単位	参照図	
調歩同期式モード送信データ遅延時間	t _{TxD}	—	—	100	ns	図 32.19	
調歩同期式モード受信データセットアップ時間	t _{RxS}	100	—	—	ns		
調歩同期式モード受信データホールド時間	t _{RxH}	100	—	—	ns		
SCK クロック出力立ち上がり／ 立ち下がり時間	スロー	t _{SR} 、t _{SF}	—	50	100	図 32.29	
	ファスト	t _{FR} 、t _{FF}	—	6	12		
TxD 送信データ出力立ち上がり／ 立ち下がり時間	スロー	t _{SR} 、t _{SF}	—	50	100		ns
	ファスト	t _{FR} 、t _{FF}	—	6	12		

【注】 * Typ.値の条件は、V_{CC}=3.3V、PV_{CC1}=PV_{CC2}=5.0V、T_a=25°Cです。

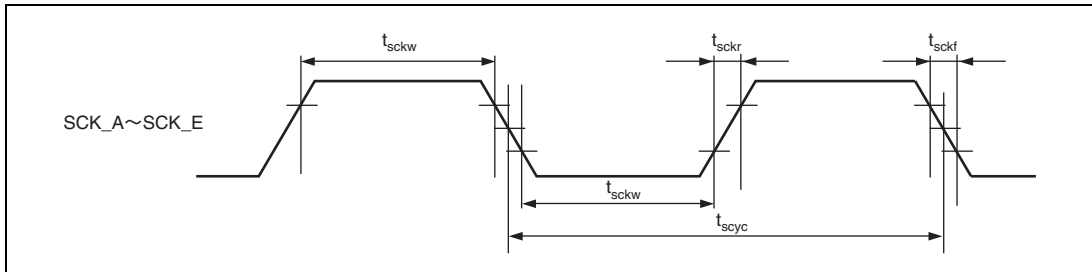


図 32.18 SCK 入力タイミング

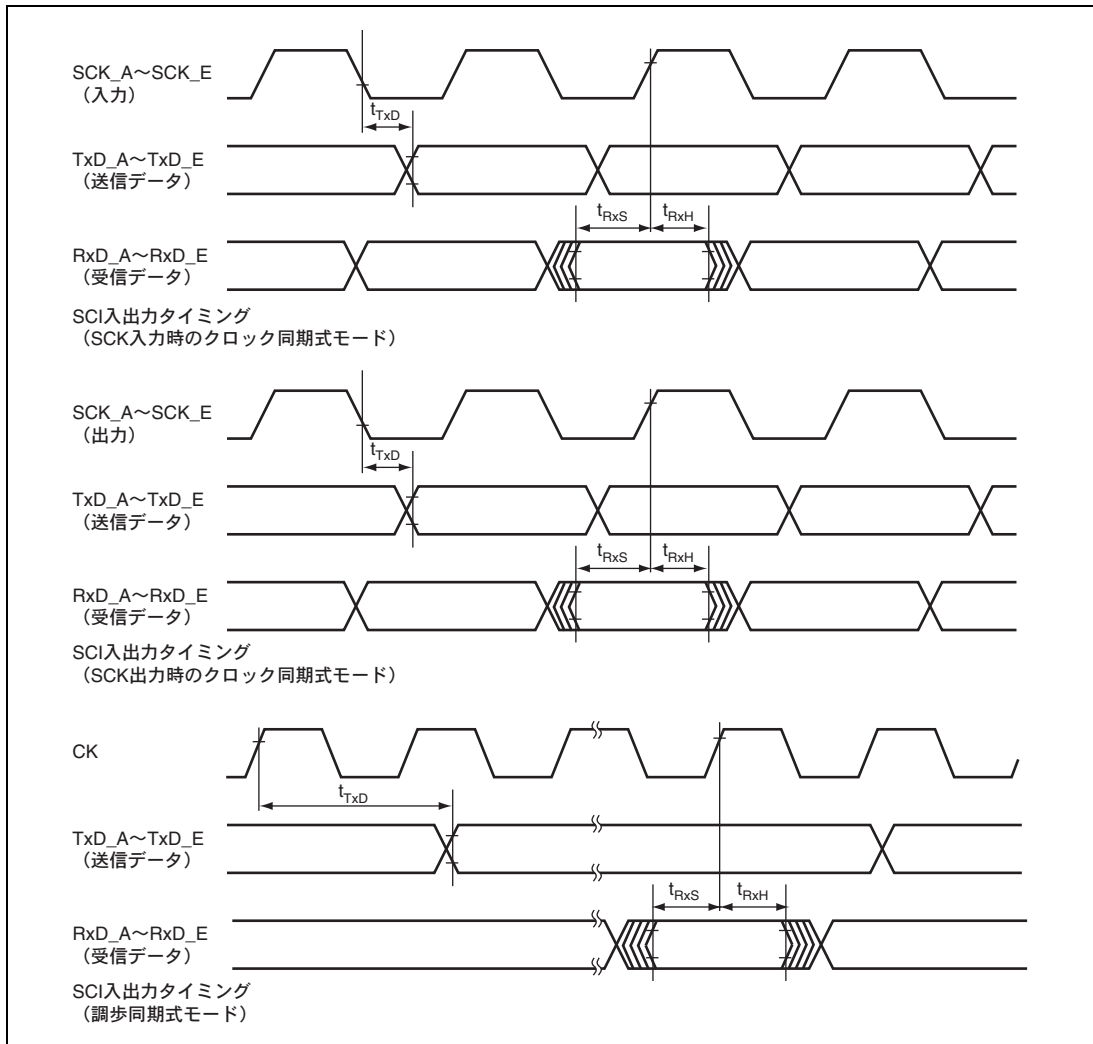


図 32.19 SCI 入出力タイミング

32.3.10 CAN タイミング

表 32.22 に CAN タイミングを示します。

表 32.22 CAN タイミング

条件 : $V_{CC} = PLLV_{CC} = 3.3 \text{ V} \pm 0.3 \text{ V}$ 、 $PV_{CC1} = 5.0 \text{ V} \pm 0.5 \text{ V}/3.3 \text{ V} \pm 0.3 \text{ V}$ 、 $PV_{CC2} = 5.0 \text{ V} \pm 0.5 \text{ V}$ 、
 $AV_{CC} = 5.0 \text{ V} \pm 0.5 \text{ V}$ 、 $AVREFH_A = AVREFH_B = 4.5 \text{ V} \sim AV_{CC}$ 、
 $V_{SS} = PLLV_{SS} = AV_{SS} = AVREFL_A = AVREFL_B = 0 \text{ V}$ 、
 $PV_{CC1} = 3.3 \text{ V} \pm 0.3 \text{ V}$ のとき $V_{CC} = PV_{CC1}$
 $T_a = -40^\circ\text{C} \sim 125^\circ\text{C}$

項目	記号	Min.	Typ.* ¹	Max.	単位	参照図	
CAN 送信データ遅延時間	t_{CTxD}	—	—	100	ns	図 32.20	
CTx 送信データ出力立ち上がり/ 立ち下がり時間	スロー	t_{SR} 、 t_{SF}	—	50	100	ns	図 32.29
	ファスト	t_{FR} 、 t_{FF}	—	6	12		
CAN 受信データセットアップ時間	t_{CRxS}	100	—	—	ns	図 32.20	
CAN 受信データホールド時間	t_{CRxH}	100	—	—	ns		
CAN バスジッタ* ³	1 μs 期間	f_{CANJIT}	—	0.13* ²	—	%	1Mbps/1-bit
	2 μs 期間		—	0.08* ²	0.1	%	500kbps/1-bit
	10 μs 期間		—	0.02* ²	—	%	1Mbps/10-bit
	20 μs 期間		—	0.01* ²	0.1	%	500kbps/10-bit

【注】 *1 Typ.値の条件は、 $V_{CC}=3.3\text{V}$ 、 $PV_{CC1}=PV_{CC2}=5.0\text{V}$ 、 $T_a=25^\circ\text{C}$ です。

*2 CAN バスジッタの Typ.値は代表サンプルの水晶誤差を除いた測定値です。全数テストされた保証値ではありません。

*3 水晶の誤差は含まれていません。

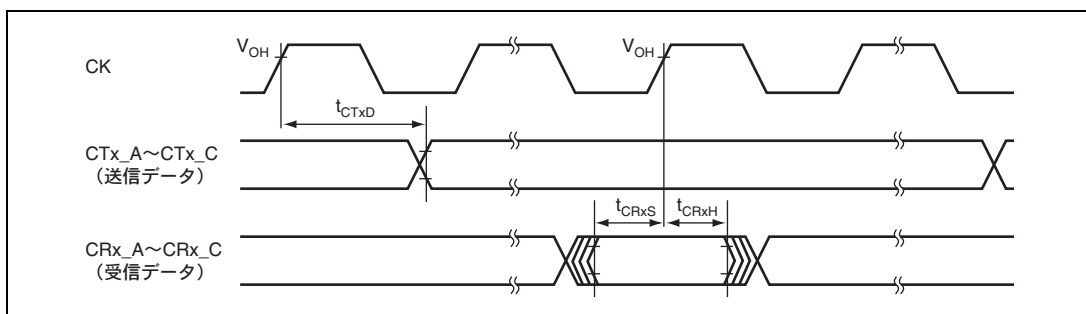


図 32.20 CAN 入出力タイミング

32.3.11 SPI タイミング

表 32.23 に SPI タイミングを示します。

表 32.23 (1) SPI タイミング (出力スルーレートファスト時のタイミング)

条件 : $V_{CC} = PLLV_{CC} = 3.3 \text{ V} \pm 0.3 \text{ V}$ 、 $PV_{CC1} = 5.0 \text{ V} \pm 0.5 \text{ V} / 3.3 \text{ V} \pm 0.3 \text{ V}$ 、 $PV_{CC2} = 5.0 \text{ V} \pm 0.5 \text{ V}$ 、

$AV_{CC} = 5.0 \text{ V} \pm 0.5 \text{ V}$ 、 $AVREFH_A = AVREFH_B = 4.5 \text{ V} \sim AV_{CC}$ 、

$V_{SS} = PLLV_{SS} = AV_{SS} = AVREFL_A = AVREFL_B = 0 \text{ V}$ 、

$PV_{CC1} = 3.3 \text{ V} \pm 0.3 \text{ V}$ のとき $V_{CC} = PV_{CC1}$

$T_a = -40^\circ\text{C} \sim 125^\circ\text{C}$

項 目			記号	Min.	Typ.	Max.	単位	参照図
RSPCK クロック サイクル	MD_CLKP=0	マスタ	tSPyc	2	—	4096	t _{cyc}	図 32.21
		スレーブ		8	—	4096		
	MD_CLKP=1	マスタ		4	—	4096	t _{cyc}	
		スレーブ		16	—	4096		
RSPCK クロックハイレベルパルス幅	マスタ	tSPCKWH	(tSPyc - tSPCKR - tSPCKF) / 2 - 5	—	—	ns		
	スレーブ		(tSPyc - tSPCKR - tSPCKF) / 2	—	—			
RSPCK クロックローレベルパルス幅	マスタ	tSPCKWL	(tSPyc - tSPCKR - tSPCKF) / 2 - 5	—	—	ns		
	スレーブ		(tSPyc - tSPCKR - tSPCKF) / 2	—	—			
RSPCK クロック 立ち上がり/立ち下がり時間	出力	tSPCKR	—	3	5	ns		
	入力	tSPCKF	—	—	1	μs		
データ入力セットアップ時間	マスタ	t _{SU}	18	—	—	ns	図 32.22 ~ 32.25	
	スレーブ		$20 - 2 \times t_{cyc}$	—	—	ns		
データ入力ホールド時間	マスタ	t _H	0	—	—	ns		
	スレーブ		$20 + 2 \times t_{cyc}$	—	—	ns		
SSL セットアップ時間	マスタ	t _{LEAD}	1	—	8	tSPyc		
	スレーブ		4	—	—	t _{cyc}		
SSL ホールド時間	マスタ	t _{LAG}	1	—	8	tSPyc		
	スレーブ		4	—	—	t _{cyc}		
データ出力遅延時間	マスタ	t _{OD}	—	—	15	ns		
	スレーブ		—	—	$25 + 3 \times t_{cyc}$			
データ出力ホールド時間	マスタ	t _{OH}	0	—	—	ns		
	スレーブ		0	—	—			

項 目		記号	Min.	Typ.	Max.	単位	参照図	
連続送信遅延時間	マスタ	tTD	$tSP_{cyc} + 2 \times t_{cyc}$	—	$8 \times tSP_{cyc} + 2 \times t_{cyc}$	ns	図 32.22～ 32.25	
	スレーブ		$4 \times t_{cyc}$	—	—			
MOSI、MISO 立ち上がり/立ち下がり時間	出力	tDR、	—	3	5	ns		
	入力	tDF	—	—	1			μs
SSL 立ち上がり/立ち下がり時間	出力	tSSLR、	—	3	5	ns		
	入力	tSSLF	—	—	1			μs
スレーブアクセス時間		tSA	—	—	4	t _{cyc}		図 32.24、 32.25
スレーブ出力解放時間		tREL	—	—	3	t _{cyc}		

【注】 * Typ.値の条件は、V_{cc}=3.3V、PV_{cc1}=PV_{cc2}=5.0V、T_a=25°C です。

RSPCK、MISO/MOSI、SSLのスルーレート設定がすべてファストの場合のタイミングです。

表 32.23 (2) SPI タイミング (出力スルーレートを遅くする時のタイミング)

条件：V_{cc} = PLLV_{cc} = 3.3 V ±0.3 V、PV_{cc1} = 5.0 V ±0.5 V/3.3 V ±0.3 V、PV_{cc2} = 5.0 V ±0.5 V、

AV_{cc} = 5.0 V ±0.5 V、AVREFH_A = AVREFH_B = 4.5 V～AV_{cc}、

V_{ss} = PLLV_{ss} = AV_{ss} = AVREFL_A = AVREFL_B = 0 V、

PV_{cc1} = 3.3 V ±0.3 V のとき V_{cc} = PV_{cc1}

T_a = -40°C～125°C

項 目		記号	Min.	Typ.	Max.	単位	参照図	
RSPCK クロック サイクル	MD_CLKP=0	マスタ	tSP _{cyc}	8	—	4096	t _{cyc}	図 32.21
		スレーブ		8	—	4096		
	MD_CLKP=1	マスタ		16	—	4096	t _{cyc}	
		スレーブ		16	—	4096		
RSPCK クロックハイレベルパルス幅	マスタ	tSPCKWH	$(tSP_{cyc} - tSPCKR - tSPCKF) / 2 - 5$	—	—	ns		
	スレーブ			$(tSP_{cyc} - tSPCKR - tSPCKF) / 2$	—		—	
RSPCK クロックローレベルパルス幅	マスタ	tSPCKWL	$(tSP_{cyc} - tSPCKR - tSPCKF) / 2 - 5$	—	—	ns		
	スレーブ			$(tSP_{cyc} - tSPCKR - tSPCKF) / 2$	—		—	
RSPCK クロック 立ち上がり/立ち下がり時間	出力	tSPCKR、	—	20	40	ns		
	入力	tSPCKF	—	—	1		μs	
データ入力セットアップ時間	マスタ	tSU	100	—	—	ns	図 32.22～ 32.25	
	スレーブ		$20 - 2 \times t_{cyc}$	—	—			ns
データ入力ホールド時間	マスタ	tH	0	—	—	ns		
	スレーブ		$20 + 2 \times t_{cyc}$	—	—			

項目		記号	Min.	Typ.	Max.	単位	参照図
SSL セットアップ時間	マスタ	tLEAD	1	—	8	tSPcyc	図 32.22~ 32.25
	スレーブ		4	—	—	t _{cyc}	
SSL ホールド時間	マスタ	tLAG	1	—	8	tSPcyc	
	スレーブ		4	—	—	t _{cyc}	
データ出力遅延時間	マスタ	tOD	—	—	20	ns	
	スレーブ		—	—	100+3 ×t _{cyc}		
データ出力ホールド時間	マスタ	tOH	-10	—	—	ns	
	スレーブ		0	—	—		
連続送信遅延時間	マスタ	tTD	tSPcyc + 2 × t _{cyc}	—	8 × tSPcyc + 2 × t _{cyc}	ns	
	スレーブ		4 × t _{cyc}	—	—		
MOSI, MISO 立ち上がり/立ち下がり時間	出力	tDR,	—	20	40	ns	
	入力	tDF	—	—	1		μs
SSL 立ち上がり/立ち下がり時間	出力	tSSLR,	—	20	40	ns	
	入力	tSSLF	—	—	1		μs
スレーブアクセス時間		tSA	—	—	4	t _{cyc}	図 32.24、
スレーブ出力解放時間		tREL	—	—	3	t _{cyc}	32.25

【注】 * Typ.値の条件は、V_{cc}=3.3V、PV_{cc}1=PV_{cc}2=5.0V、T_a=25°Cです。

RSPCK、MISO/MOSI、SSLのスルーレート設定がすべてスローの場合のタイミングです。

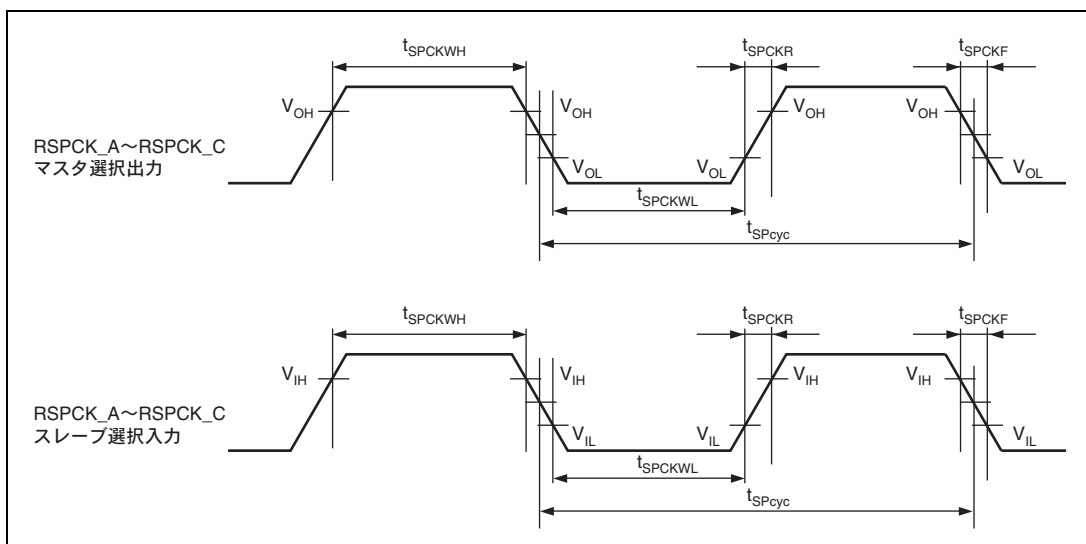


図 32.21 SPI クロックタイミング

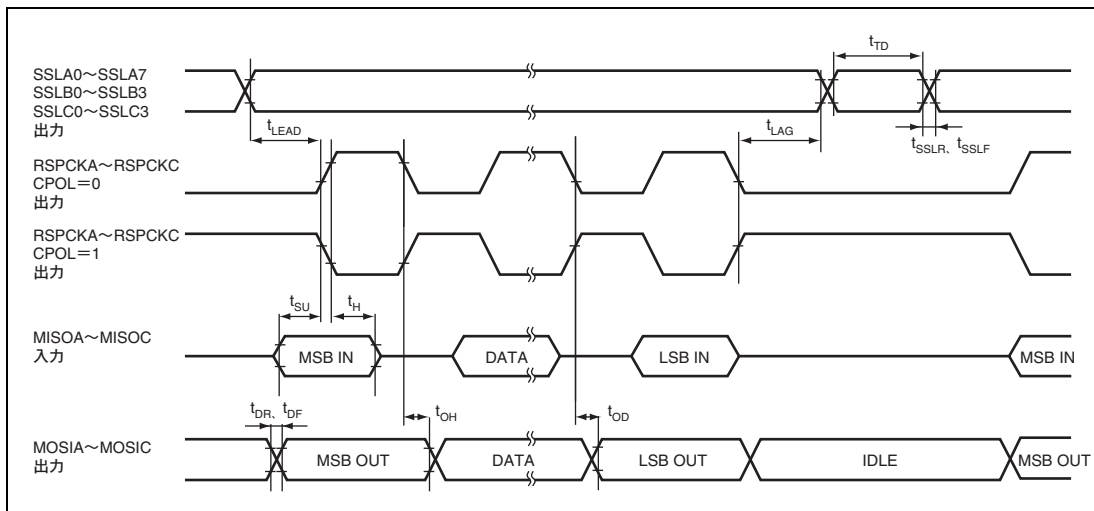


図 32.22 SPI タイミング (マスタ、CPHA=0)

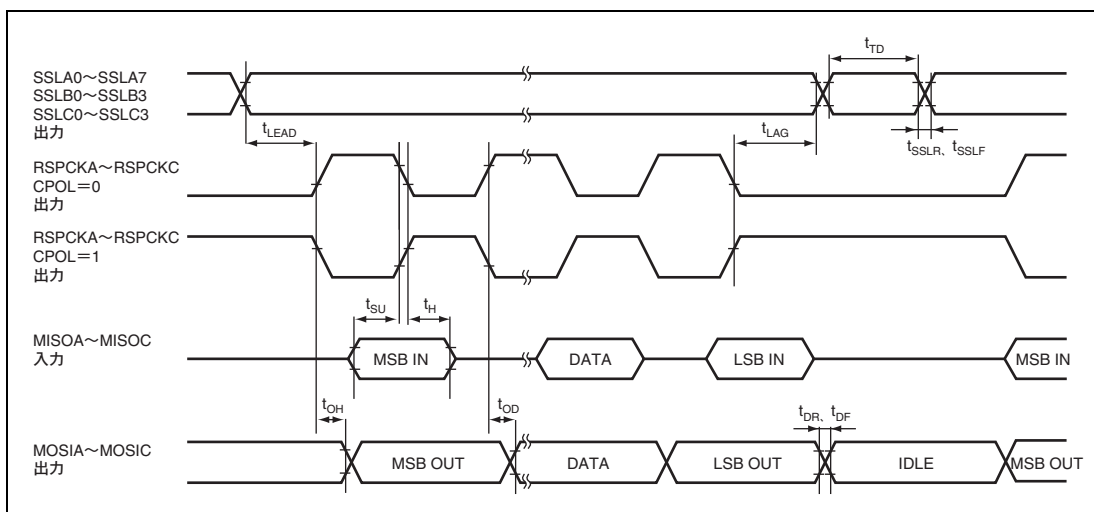


図 32.23 SPI タイミング (マスタ、CPHA=1)

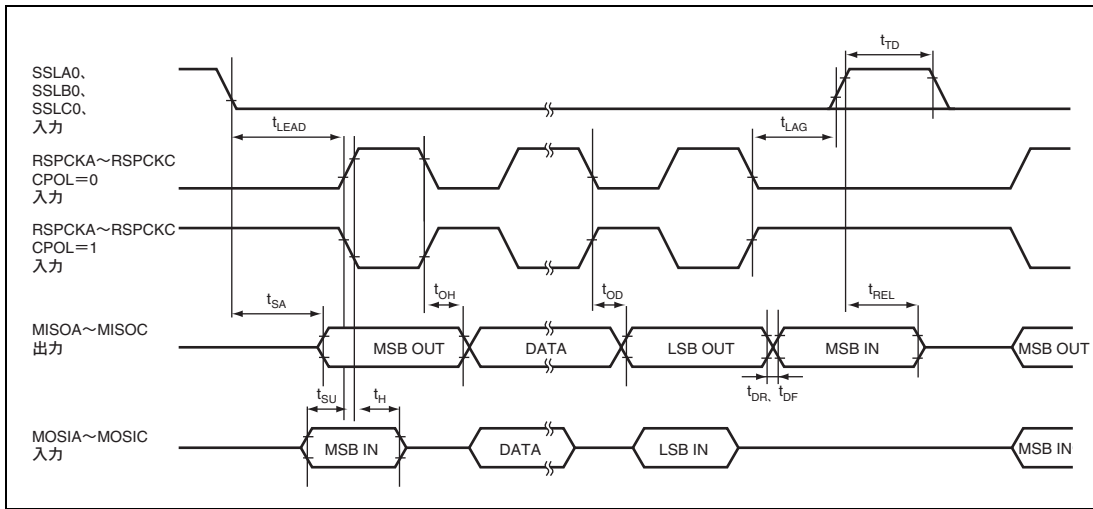


図 32.24 SPI タイミング (スレーブ、CPHA=0)

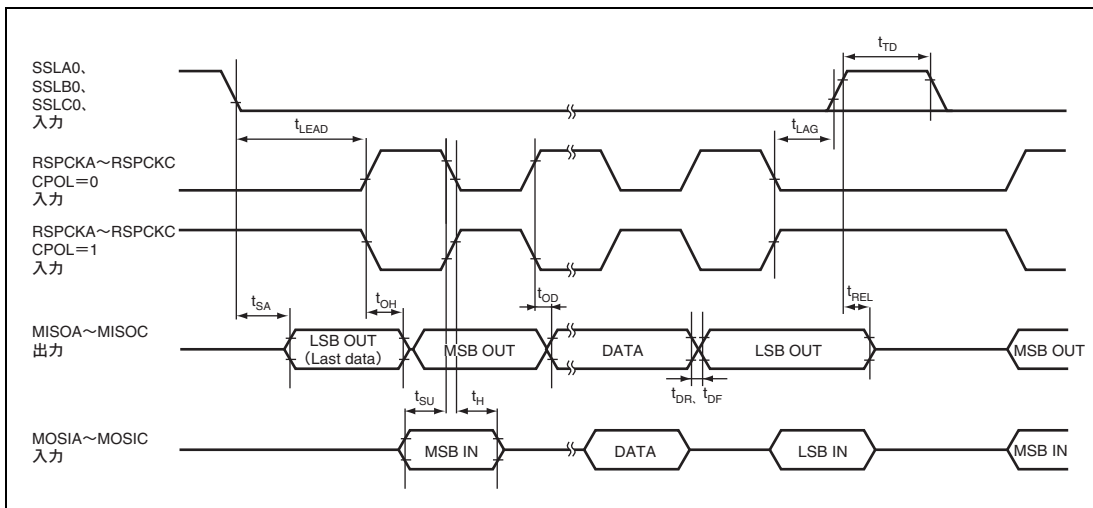


図 32.25 SPI タイミング (スレーブ、CPHA=1)

32.3.12 A/D 変換器タイミング

表 32.24 に A/D 変換器タイミングを示します。

表 32.24 A/D 変換器タイミング

条件 : $V_{CC} = PLLV_{CC} = 3.3\text{ V} \pm 0.3\text{ V}$ 、 $PV_{CC1} = 5.0\text{ V} \pm 0.5\text{ V}/3.3\text{ V} \pm 0.3\text{ V}$ 、 $PV_{CC2} = 5.0\text{ V} \pm 0.5\text{ V}$ 、
 $AV_{CC} = 5.0\text{ V} \pm 0.5\text{ V}$ 、 $AVREFH_A = AVREFH_B = 4.5\text{ V} \sim AV_{CC}$ 、
 $V_{SS} = PLLV_{SS} = AV_{SS} = AVREFL_A = AVREFL_B = 0\text{ V}$ 、
 $PV_{CC1} = 3.3\text{ V} \pm 0.3\text{ V}$ のとき $V_{CC} = PV_{CC1}$
 $T_a = -40^\circ\text{C} \sim 125^\circ\text{C}$

項目	記号	Min.	Typ.*	Max.	単位	参照図
外部トリガ入力開始遅延時間	t_{TRGS}	50	—	—	ns	図 32.26
ADEND 出力遅延時間	t_{ADENDD}	—	—	100	ns	図 32.27
ADEND 出力立ち上がり／ 立ち下がり時間	スロー	t_{SR} 、 t_{SF}	—	100	ns	図 32.29
	ファスト	t_{FR} 、 t_{FF}	—	12		

【注】 * Typ.値の条件は、 $V_{CC}=3.3\text{V}$ 、 $PV_{CC1}=PV_{CC2}=5.0\text{V}$ 、 $T_a=25^\circ\text{C}$ です。

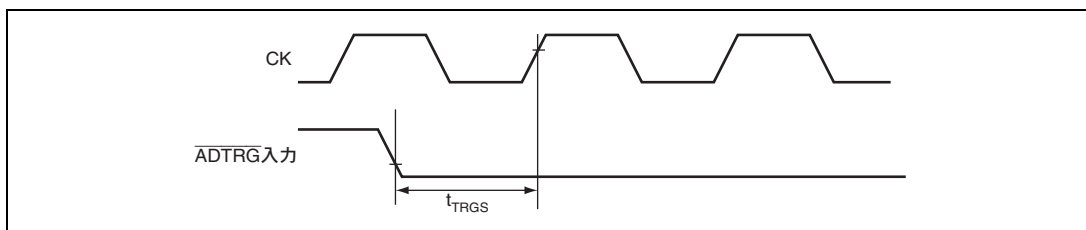


図 32.26 外部トリガ入力タイミング

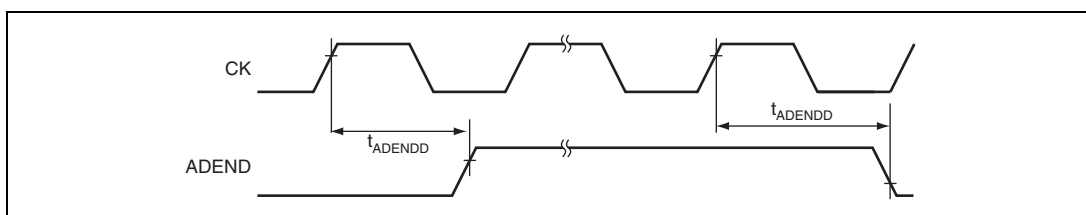


図 32.27 アナログ変換タイミング

32.3.13 UBC トリガタイミング

表 32.25 に UBC トリガタイミングを示します。

表 32.25 UBC トリガタイミング

条件 : $V_{CC} = PLLV_{CC} = 3.3 \text{ V} \pm 0.3 \text{ V}$ 、 $PV_{CC1} = 5.0 \text{ V} \pm 0.5 \text{ V}/3.3 \text{ V} \pm 0.3 \text{ V}$ 、 $PV_{CC2} = 5.0 \text{ V} \pm 0.5 \text{ V}$ 、
 $AV_{CC} = 5.0 \text{ V} \pm 0.5 \text{ V}$ 、 $AVREFH_A = AVREFH_B = 4.5 \text{ V} \sim AV_{CC}$ 、
 $V_{SS} = PLLV_{SS} = AV_{SS} = AVREFL_A = AVREFL_B = 0 \text{ V}$ 、
 $PV_{CC1} = 3.3 \text{ V} \pm 0.3 \text{ V}$ のとき $V_{CC} = PV_{CC1}$
 $T_a = -40^\circ\text{C} \sim 125^\circ\text{C}$

項 目	記号	Min.	Typ.*	Max.	単位	参照図
UBCTRG 遅延時間	t_{UBCTGD}	—	—	100	ns	図 32.28
UBCTRG 出力立ち上がり/立ち下がり 時間	スロー	—	50	100	ns	図 32.29
	ファスト	—	6	12		

【注】 * Typ.値の条件は、 $V_{CC}=3.3\text{V}$ 、 $PV_{CC1}=PV_{CC2}=5.0\text{V}$ 、 $T_a=25^\circ\text{C}$ です。

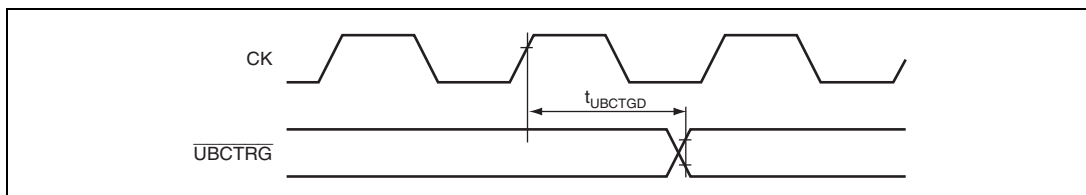


図 32.28 UBC トリガタイミング

32.3.14 出力スルーレート

表 32.26 に出力スルーレートタイミングを示します。

表 32.26 出力スルーレートタイミング

条件 : $V_{CC} = PLLV_{CC} = 3.3\text{ V} \pm 0.3\text{ V}$ 、 $PV_{CC1} = 5.0\text{ V} \pm 0.5\text{ V} / 3.3\text{ V} \pm 0.3\text{ V}$ 、 $PV_{CC2} = 5.0\text{ V} \pm 0.5\text{ V}$ 、
 $AV_{CC} = 5.0\text{ V} \pm 0.5\text{ V}$ 、 $AVREFH_A = AVREFH_B = 4.5\text{ V} \sim AV_{CC}$ 、
 $V_{SS} = PLLV_{SS} = AV_{SS} = AVREFL_A = AVREFL_B = 0\text{ V}$ 、
 $PV_{CC1} = 3.3\text{ V} \pm 0.3\text{ V}$ のとき $V_{CC} = PV_{CC1}$
 $T_a = -40^\circ\text{C} \sim 125^\circ\text{C}$

項目	記号	条件	Min.	Typ.	Max.	単位	参照図
出力立ち上がり／立ち下がり時間 スロースルーレート	tsr、tsf	Load 25[pF]	—	25	50	ns	図 32.29
		Load 50[pF]	—	50	100		
		Load 75[pF]	—	75	150		
		Load 100[pF]	—	100	200		
出力立ち上がり／立ち下がり時間 ファストスルーレート	tfr、tff	Load 25[pF]	—	4	6	ns	
		Load 50[pF]	—	6	12		
		Load 75[pF]	—	8	18		
		Load 100[pF]	—	10	24		

- 【注】 1. Typ.値の条件は、 $V_{CC}=3.3\text{V}$ 、 $PV_{CC1}=PV_{CC2}=5.0\text{V}$ 、 $T_a=25^\circ\text{C}$ です。
 2. ファストスルーレートに切り換え可能な端子については表 32.2 を参照してください。

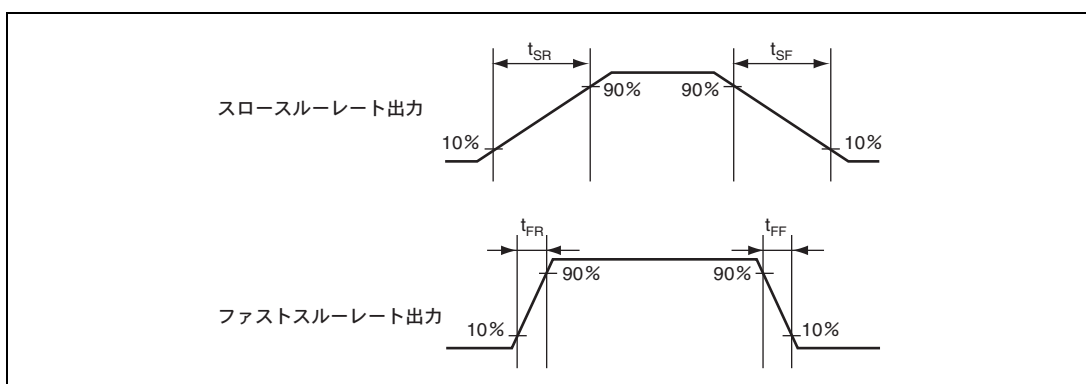


図 32.29 出力スルーレートタイミング

32.3.15 JTAG インタフェースタイミング

表 32.27 に JTAG インタフェースタイミングを示します。

表 32.27 JTAG インタフェースタイミング

条件 : $V_{CC} = PLLV_{CC} = 3.3\text{ V} \pm 0.3\text{ V}$ 、 $PV_{CC1} = 5.0\text{ V} \pm 0.5\text{ V} / 3.3\text{ V} \pm 0.3\text{ V}$ 、 $PV_{CC2} = 5.0\text{ V} \pm 0.5\text{ V}$ 、
 $AV_{CC} = 5.0\text{ V} \pm 0.5\text{ V}$ 、 $AVREFH_A = AVREFH_B = 4.5\text{ V} \sim AV_{CC}$ 、
 $V_{SS} = PLLV_{SS} = AV_{SS} = AVREFL_A = AVREFL_B = 0\text{ V}$ 、
 $PV_{CC1} = 3.3\text{ V} \pm 0.3\text{ V}$ のとき $V_{CC} = PV_{CC1}$
 $T_a = -40^\circ\text{C} \sim 125^\circ\text{C}$

項目	記号	Min.	Max.	単位	参照図
TCK クロックサイクル	MD_CLKP=0	10	—	t _{cyc}	図 32.30
	MD_CLKP=1	20	—		
TCK クロックハイレベル幅	t _{TCKH}	0.4	0.6	t _{TCKKeyc}	
TCK クロックローレベル幅	t _{TCKL}	0.4	0.6	t _{TCKKeyc}	
TRST パルス幅	t _{TRSW}	20	—	t _{TCKKeyc}	図 32.31
TMS セットアップ時間	t _{TMSS}	30	—	ns	図 32.32
TMS ホールド時間	t _{TMSH}	30	—	ns	
TDI セットアップ時間	t _{TDIS}	30	—	ns	
TDI ホールド時間	t _{TDIH}	30	—	ns	
TDO 遅延時間	t _{TDOD}	—	45	ns	

【使用上の注意】

JTAG インタフェース端子は $V_{CC} = 3.3\text{ V} \pm 0.3\text{ V}$ 電源の回路です。DC 特性に規定されている入力、出力電圧の規定値で使用してください。

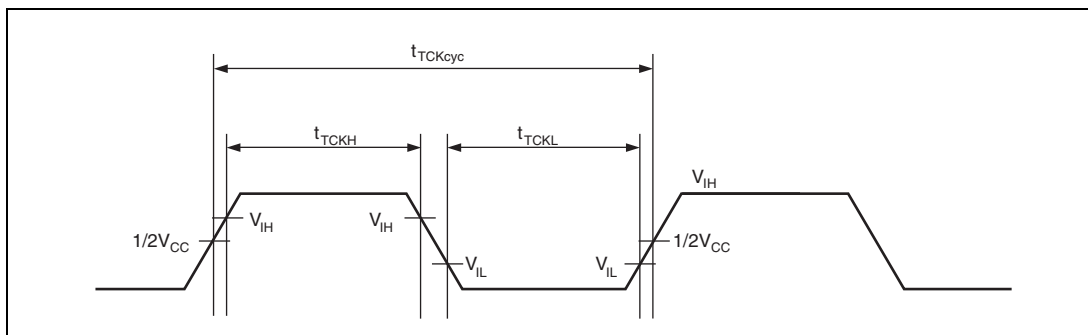


図 32.30 JTAG インタフェースクロックタイミング

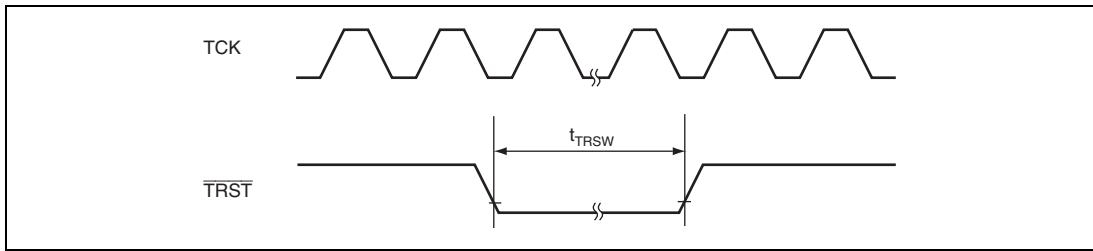
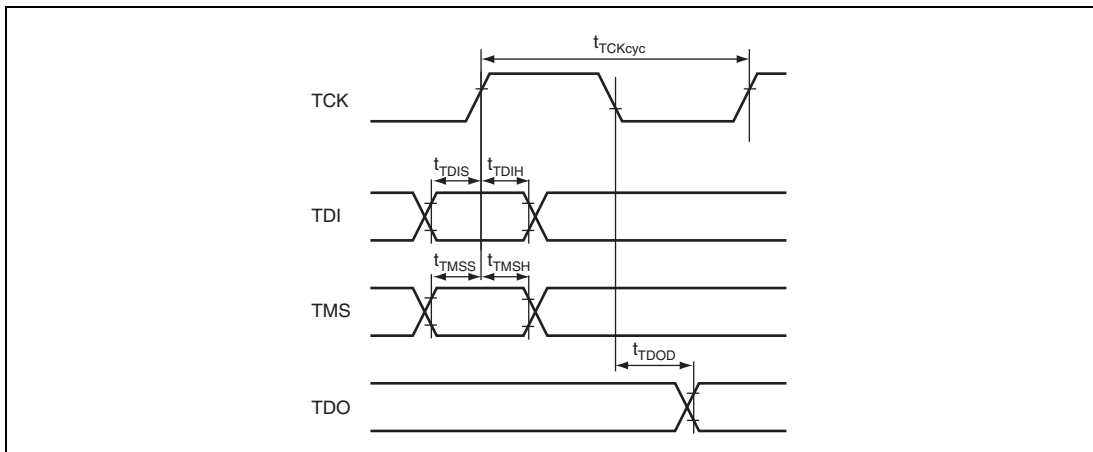
図 32.31 JTAG インタフェース $\overline{\text{TRST}}$ タイミング

図 32.32 JTAG インタフェース入出力タイミング

32.3.16 AUD タイミング

表 32.28 に AUD タイミングを示します。

表 32.28 AUD タイミング

条件 : $V_{cc} = PLLV_{cc} = 3.3\text{ V} \pm 0.3\text{ V}$ 、 $PV_{cc1} = 5.0\text{ V} \pm 0.5\text{ V}/3.3\text{ V} \pm 0.3\text{ V}$ 、 $PV_{cc2} = 5.0\text{ V} \pm 0.5\text{ V}$ 、
 $AV_{cc} = 5.0\text{ V} \pm 0.5\text{ V}$ 、 $AVREFH_A = AVREFH_B = 4.5\text{ V} \sim AV_{cc}$ 、
 $V_{ss} = PLLV_{ss} = AV_{ss} = AVREFL_A = AVREFL_B = 0\text{ V}$ 、
 $PV_{cc1} = 3.3\text{ V} \pm 0.3\text{ V}$ のとき $V_{cc} = PV_{cc1}$
 $T_a = -40^\circ\text{C} \sim 125^\circ\text{C}$

項目	記号	Min.	Max.	単位	参照図	
AUDRST セットアップ時間 (トレースモード)	tAURSTTS	30	—	ns	図 32.33	
AUDRST パルス幅 (トレースモード)	MD_CLKP=0 tAURSTTW	10	—	tcyc		
		MD_CLKP=1	20			—
AUDMD セットアップ時間 (トレースモード)	MD_CLKP=0 tAUMDTS	10	—	tcyc		
		MD_CLKP=1	20			—
AUDCK サイクル時間 (トレースモード)	MD_CLKP=0 tAUCKTcyc	1	2.5	tcyc		
		MD_CLKP=1	2			5
AUDCK ハイレベル幅 (トレースモード)	tAUCKTH	0.4	0.6	tAUCKTcyc		
AUDCK ローレベル幅 (トレースモード)	tAUCKTL	0.4	0.6	tAUCKTcyc		
トレースデータ出力遅延時間	tAUDTTD	—	20	ns		図 32.34
AUDSYNC 出力遅延時間	tAUSYTD	—	20	ns		
AUDCK サイクル時間 (モニタモード)	MD_CLKP=0 tAUCKMycyc	1	—	tcyc	図 32.35	
		MD_CLKP=1	2			—
AUDCK ハイレベル幅 (モニタモード)	tAUCKMH	0.4	—	tAUCKMycyc		
AUDCK ローレベル幅 (モニタモード)	tAUCKML	0.4	—	tAUCKMycyc		
AUDRST セットアップ時間 (モニタモード)	tAURSTMS	30	—	ns		
AUDRST パルス幅 (モニタモード)	tAURSTMW	5	—	tAUCKMycyc		
AUDMD セットアップ時間 (モニタモード)	tAUMDMS	5	—	tAUCKMycyc		
モニタデータ出力遅延時間	tAUDTMD	—	35	ns		図 32.36
モニタデータ入力セットアップ時間	tAUDTMS	15	—	ns		
モニタデータ入力ホールド時間	tAUDTMH	5	—	ns		
AUDSYNC 入力セットアップ時間	tAUSYS	15	—	ns		
AUDSYNC 入力ホールド時間	tAUSYH	5	—	ns		

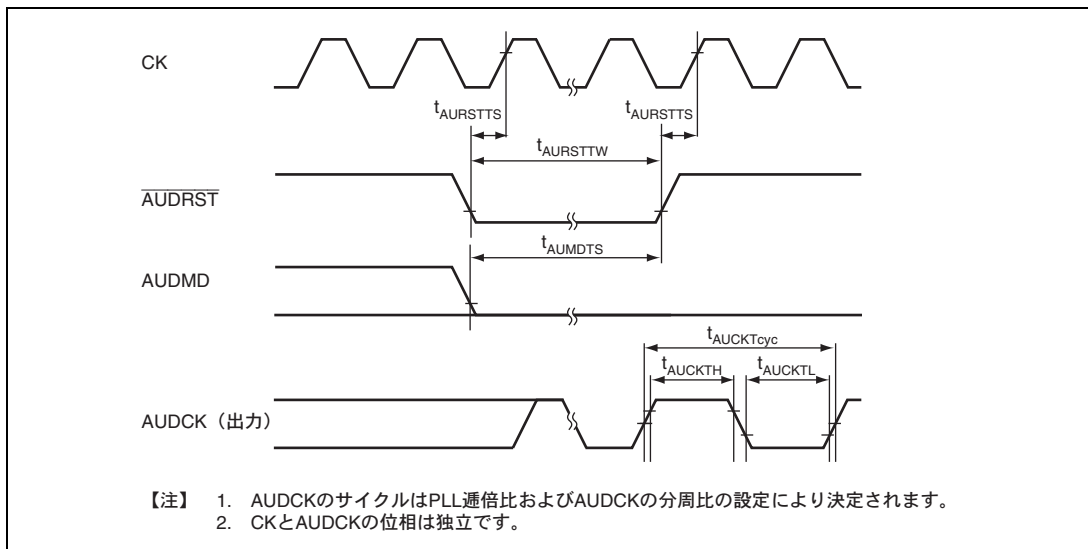


図 32.33 トレースモードリセットタイミング

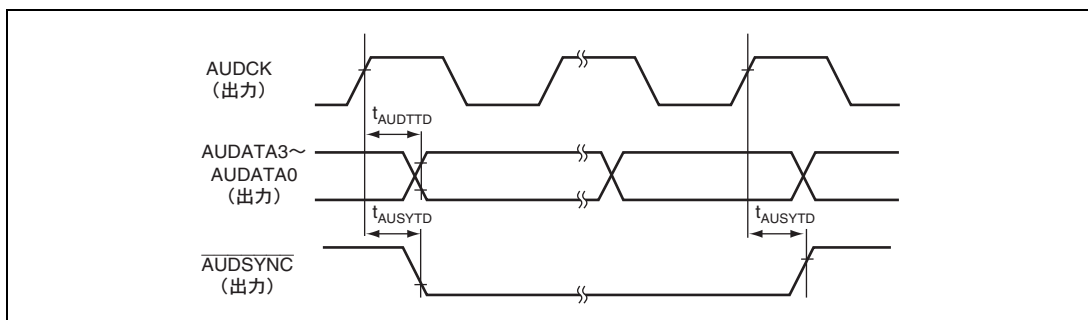


図 32.34 トレースモードタイミング

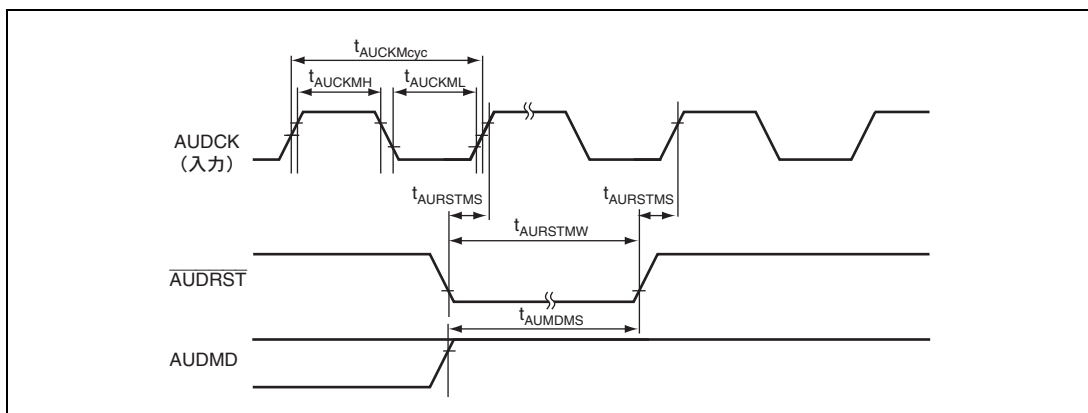


図 32.35 モニタモードリセットタイミング

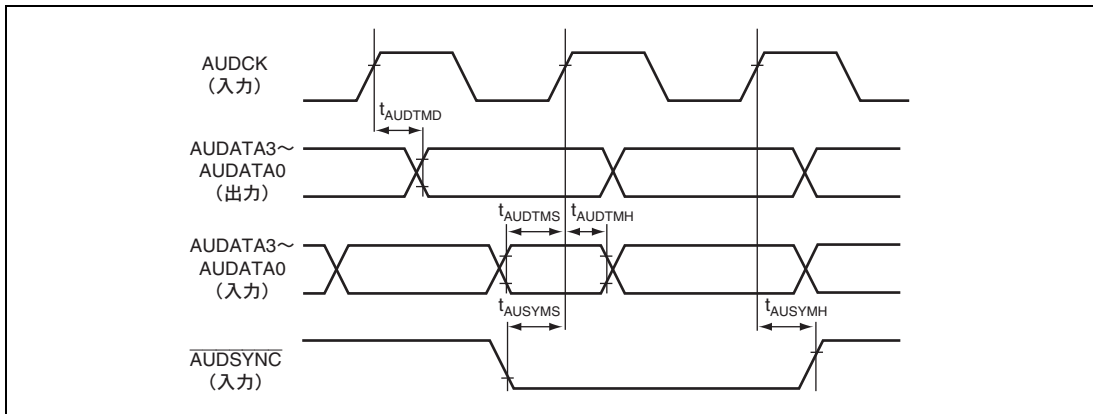


図 32.36 モニタモードタイミング

32.3.17 AC 特性測定条件

- 入力参照レベル ハイレベル : V_{IH} Min.値、ローレベル : V_{IL} Max.値
- 出力参照レベル ハイレベル : 2.0 V、ローレベル : 0.8 V
- 入力立ち上がり、立ち下がり時間 : 1ns

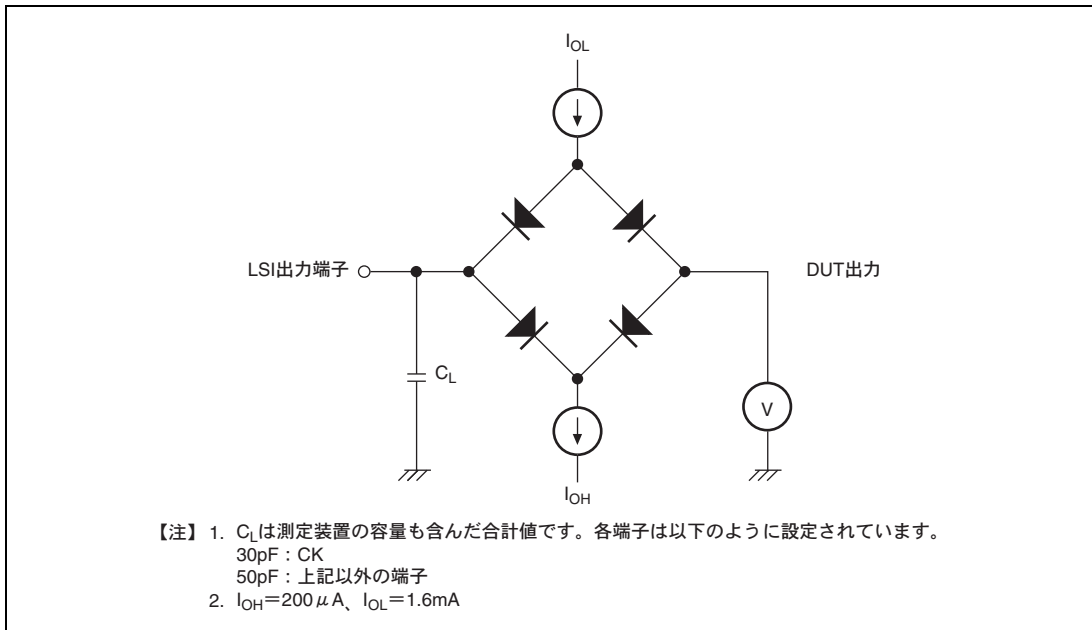


図 32.37 出力負荷回路

32.4 A/D 変換器特性

表 32.29 に A/D 変換器特性を示します。

表 32.29 A/D 変換器特性

条件 : $V_{CC} = PLLV_{CC} = 3.3 \text{ V} \pm 0.3 \text{ V}$ 、 $PV_{CC1} = 5.0 \text{ V} \pm 0.5 \text{ V}/3.3 \text{ V} \pm 0.3 \text{ V}$ 、 $PV_{CC2} = 5.0 \text{ V} \pm 0.5 \text{ V}$ 、
 $AV_{CC} = 5.0 \text{ V} \pm 0.5 \text{ V}$ 、 $AVREFH_A = AVREFH_B = 4.5 \text{ V} \sim AV_{CC}$ 、
 $V_{SS} = PLLV_{SS} = AV_{SS} = AVREFL_A = AVREFL_B = 0 \text{ V}$ 、
 $PV_{CC1} = 3.3 \text{ V} \pm 0.3 \text{ V}$ のとき $V_{CC} = PV_{CC1}$
 $T_a = -40^\circ\text{C} \sim 125^\circ\text{C}$

項 目	記号	Min.	Max.	単位	参照図
デジタル分解能	—	12	12	bit	
電圧分解能*1	—	1.10	1.34	mV	
A/D 変換サイクル*2	—	25	50	t _{cy}	
A/D 変換時間 (f _{OP} =20MHz、40MHz)	—	1.25	2.5	μs	
非直線性誤差	—	—	±4.0	LSB	
オフセット誤差	—	—	±7.5	LSB	
フルスケール誤差	—	—	±7.5	LSB	
量子化誤差	—	—	±0.5	LSB	
絶対誤差	—	—	±8.0	LSB	
自己診断時の絶対誤差	—	—	±8.0	LSB	
アナログ入力容量	待機中	—	20	pF	
	サンプリング中	—	40	pF	
許容アナログ信号源インピーダンス	—	—	3	kΩ	

【注】 *1 AVREFH-AVREFL=4.5 V の場合、分解能は 1.10 mV です。AVREFH-AVREFL=5.5 V の場合、分解能は 1.34 mV です。

*2 A/D 変換サイクルは、ADCER0、1 レジスタの CKS ビットの設定に基づきます。

32.5 フラッシュメモリ特性

表 32.30 にフラッシュメモリ特性を示します。本特性は EXTAL 端子からの入力クロック周波数が 20MHz の場合の時間です。

表 32.30 フラッシュメモリ特性

条件 : $V_{CC} = PLLV_{CC} = 3.3 \text{ V} \pm 0.3 \text{ V}$ 、 $PV_{CC1} = 5.0 \text{ V} \pm 0.5 \text{ V}/3.3 \text{ V} \pm 0.3 \text{ V}$ 、 $PV_{CC2} = 5.0 \text{ V} \pm 0.5 \text{ V}$ 、
 $AV_{CC} = 5.0 \text{ V} \pm 0.5 \text{ V}$ 、 $AVREFH_A = AVREFH_B = 4.5 \text{ V} \sim AV_{CC}$ 、
 $V_{SS} = PLLV_{SS} = AV_{SS} = AVREFL_A = AVREFL_B = 0 \text{ V}$ 、
 $PV_{CC1} = 3.3 \text{ V} \pm 0.3 \text{ V}$ のとき $V_{CC} = PV_{CC1}$
 $T_a = -40^\circ\text{C} \sim 125^\circ\text{C}$

項 目			記号	Min.	Typ.	Max.	単位	参照図
書き込み時間	256 バイト	書き込み/消去 100 回以下	tP256	—	2	12	ms	
		書き込み/消去 101~1000 回		—	2.4	14.4		
	8KB	書き込み/消去 100 回以下	tP8K	—	45	100	ms	
		書き込み/消去 101~1000 回		—	54	120		
消去時間	8KB	書き込み/消去 100 回以下	tE8K	—	50	120	ms	
		書き込み/消去 101~1000 回		—	60	144		
	64KB	書き込み/消去 100 回以下	tE64K	—	400	875	ms	
		書き込み/消去 101~1000 回		—	480	1050		
	128KB	書き込み/消去 100 回以下	tE128K	—	800	1750	ms	
		書き込み/消去 101~1000 回		—	960	2100		
	32KB*	書き込み/消去 100 回以下	tE32K	—	200	480	ms	
		書き込み/消去 101~1000 回		—	240	576		
再書き込み/消去サイクル			NPEC	—	—	1000	回	
書き込み中のサスペンド遅延時間			tSPD	—	—	120	μs	図 32.38
消去中の 1 回目のサスペンド遅延時間 (サスペンド優先モード時)			tSESD1	—	—	120	μs	
消去中の 2 回目のサスペンド遅延時間 (サスペンド優先モード時)			tSESD2	—	—	1.7	ms	
消去中のサスペンド遅延時間 (消去優先モード時)			tSEED	—	—	1.7	ms	

【注】 * ユーザブートマットのサイズは 32KB です。

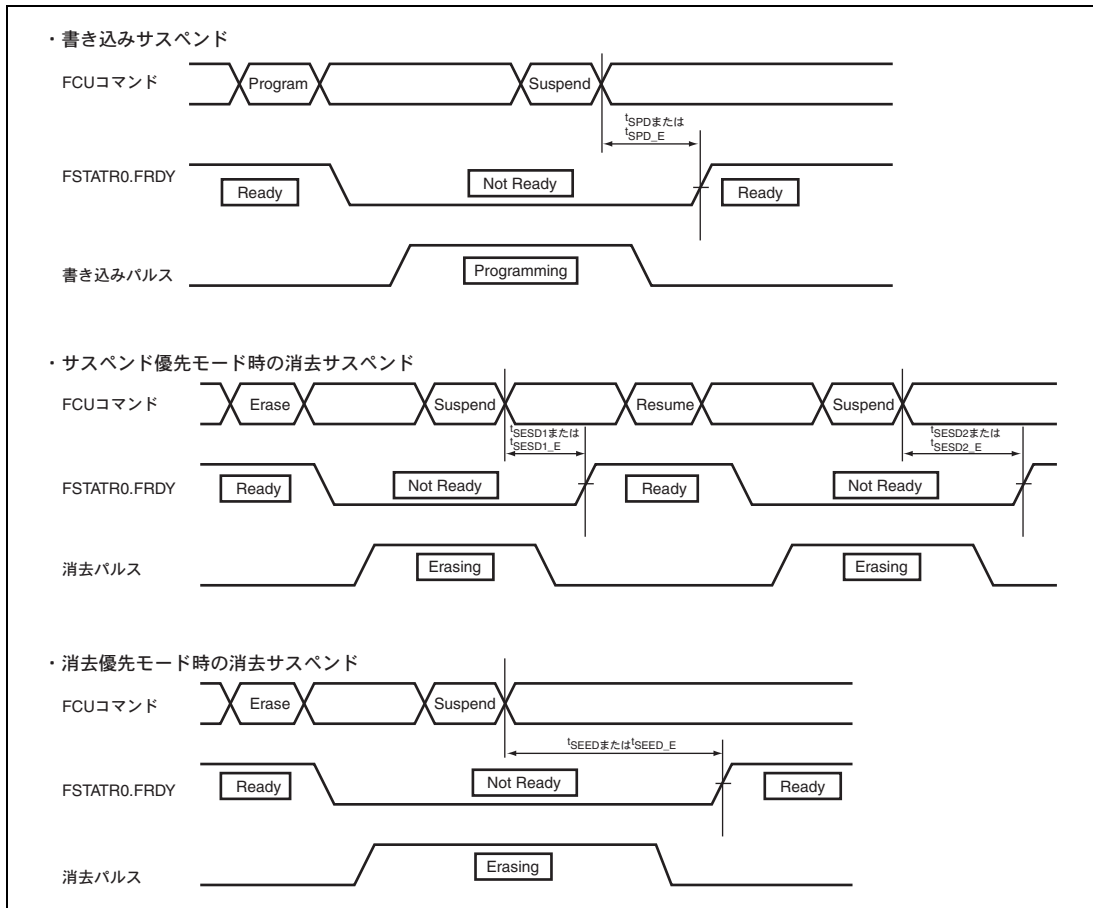


図 32.38 フラッシュメモリ書き込み/消去サスペンドタイミング

32.6 EEPROM 特性

表 32.31 に EEPROM 特性を示します。本特性は EXTAL 端子からの入力クロック周波数が 20MHz の場合の時間です。

表 32.31 EEPROM 特性

条件 : $V_{CC} = PLLV_{CC} = 3.3 \text{ V} \pm 0.3 \text{ V}$ 、 $PV_{CC1} = 5.0 \text{ V} \pm 0.5 \text{ V} / 3.3 \text{ V} \pm 0.3 \text{ V}$ 、 $PV_{CC2} = 5.0 \text{ V} \pm 0.5 \text{ V}$ 、
 $AV_{CC} = 5.0 \text{ V} \pm 0.5 \text{ V}$ 、 $AVREFH_A = AVREFH_B = 4.5 \text{ V} \sim AV_{CC}$ 、
 $V_{SS} = PLLV_{SS} = AV_{SS} = AVREFL_A = AVREFL_B = 0 \text{ V}$ 、
 $PV_{CC1} = 3.3 \text{ V} \pm 0.3 \text{ V}$ のとき $V_{CC} = PV_{CC1}$
 $T_a = -40^\circ\text{C} \sim 125^\circ\text{C}$

項 目		記号	Min.	Typ.	Max.	単位	参照図
書き込み時間	8 バイト	t_{P8_E}	—	0.4	2	ms	
	128 バイト	t_{P128_E}	—	1.0	5.0	ms	
消去時間	8KB	書き込み/消去 100 回以下	—	80	250	ms	
		書き込み/消去 101~50000 回	—	250	750		
ブランクチェック 時間	8 バイト	t_{bC8_E}	—	—	30	μs	
	8K バイト	t_{bC8K_E}	—	—	2.5	ms	
再書き込み/消去サイクル		N_{PEC_E}	—	—	50000*	回	
書き込み中のサスペンド遅延時間		t_{SPD_E}	—	—	120	μs	図 32.38
消去中の 1 回目のサスペンド遅延時間 (サスペンド優先モード時)		t_{SES1_E}	—	—	120	μs	
消去中の 2 回目のサスペンド遅延時間 (サスペンド優先モード時)		t_{SES2_E}	—	—	1.7	ms	
消去中のサスペンド遅延時間 (消去優先モード時)		t_{SEED_E}	—	—	1.7	ms	

【注】 * 書き込み/消去サイクルが 30000 回以下のデータ保持期間は 15 年です。
 書き込み/消去サイクルが 30001~50000 回のデータ保持期間は 2 年となります。

32.7 使用上の注意事項

32.7.1 電流安定用の外部外付けコンデンサの接続に関する注意

本 LSI では、マイコン内部の電源電圧を自動的に最適なレベルに電圧降下するための内部降圧回路を内蔵しています。この内部降圧電源 (V_{CL} 端子) と V_{SS} 端子の間には、内部電圧安定用のコンデンサを接続する必要があります。外付けコンデンサ接続方法を図 32.39 に示します。外付けコンデンサは端子の近くに配置してください。 V_{CL} 端子には電源電圧を印加しないでください。

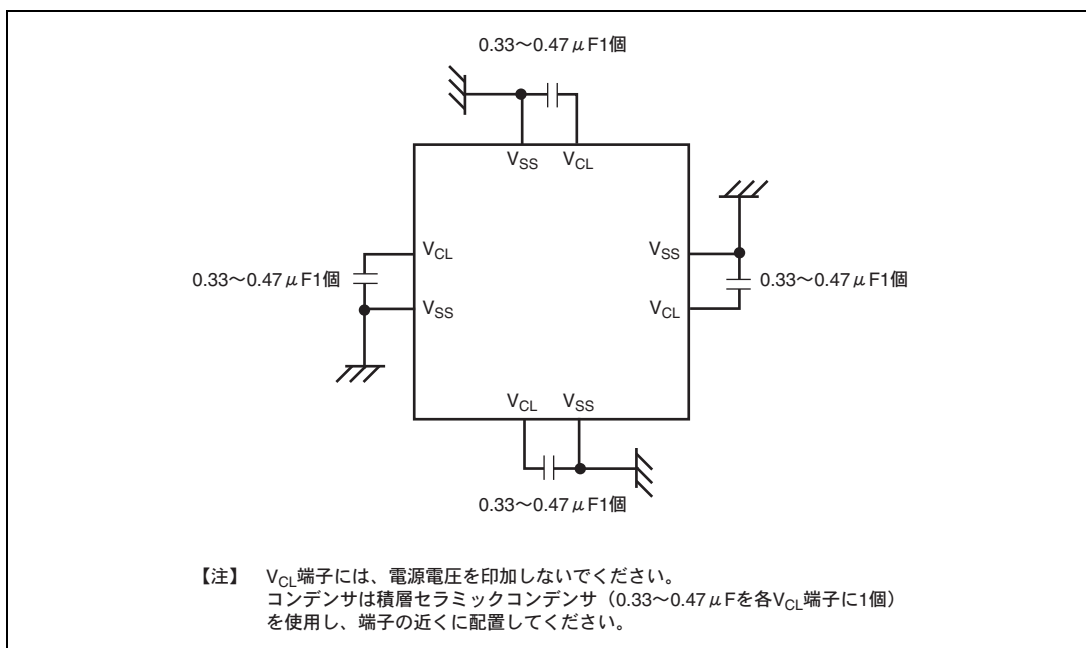


図 32.39 V_{CL} コンデンサ接続方法

表 32.32 内部電圧安定用コンデンサ容量

項目	記号	Min.	Max.	単位	
内部電圧安定用コンデンサ容量 (V_{CL} 端子)	各端子ごと	CV_{CL}	0.33	0.47	μ F
	V_{CL} 端子合計	ΣCV_{CL}	1.32	1.88	μ F

付録

A. 端子状態

表 A.1～表 A.3 に SH72546R の端子状態を示します。

表 A.1 端子状態

端子機能		端子状態				
分類	端子名	パワーオンリセット状態			低消費電力状態	
		ROM なし拡張モード		ROM あり 拡張モード	シングルチップ モード	ハードウェア スタンバイ
		8 ビット	16 ビット			
クロック	CK	O			Z	
	XTAL	O			L	
	EXTAL	I			I	
システム制御	HSTBY	I			I	
	RES	I			Z	
	ASEMD	I (Pull-down)			I	
	MD_CLKP	I			I	
	MD_CLK1、0	I			I	
	MD4	I			I	
	MD3	I			I	
	FWE	I			I	
	MD2～0	I			I	
	WDTOVF	O			Z	
割り込み	NMI	I			Z	
	IRQ7～IRQ0	-			-	
アドレスバス	A21～A0	O		-	Z	
データバス	D7～D0	I (Pull-up)		-	Z	
	D15～D8	-	I (Pull-up)	-	Z	
バス制御	WAIT	I		-	Z	
	WE1	-	H	-	Z	
	WE0	H		-	Z	
	RD	H		-	Z	
	RD/WR	H		-	Z	
	CS3～CS1	-		-	-	
	CS0	H		-	Z	

端子機能		端子状態				
分類	端子名	パワーオンリセット状態				低消費電力状態
		ROM なし拡張モード		ROM あり 拡張モード	シングルチップ モード	ハードウェア スタンバイ
		8 ビット	16 ビット			
ポート	\overline{POD}	-				-
ATU-III	TIA05~00	-				-
	TIOC43~40, 33~30, 23~20, 13~10, 03~00	-				-
	TOD33A~30A, 23A~20A, 13A~10A, 03A~00A	-				-
	TOD33B~30B, 23B~20B, 13B~10B, 03B~00B	-				-
	TOE53~50, 43~40, 33~30, 23~20, 13~10, 03~00	-				-
	TIF2A~TIF0A	-				-
	TIF2B~TIF0B	-				-
	TIF19~TIF3	-				-
	TIJ1, 0	-				-
	TCLKA, TCLKB	-				-
SCI	SCK_A~SCK_E	-				-
	TxD_A~TxD_E	-				-
	RxD_A~RxD_E	-				-
RSPI	RSPCKA~ RSPCKC	-				-
	MOSIA~MOSIC	-				-
	MISOA~MISOC	-				-
	SSLA0~SSLC0	-				-
	SSLA1~SSLA7	-				-
	SSLB1~SSLB3	-				-
	SSLC1~SSLC3	-				-

端子機能		端子状態				
分類	端子名	パワーオンリセット状態				低消費電力状態
		ROM なし拡張モード		ROM あり 拡張モード	シングルチップ モード	ハードウェア スタンバイ
		8 ビット	16 ビット			
A/D 変換器	AN_A27~AN_A0	Z				Z
	AN_B48~AN_B40	Z				Z
	ADTRG_A, ADTRG_B	-				-
	ADEND_A, ADEND_B	-				-
	AVREFH_A, AVREFH_B	I				I
	AVREFL_A, AVREFL_B	I				I
RCAN	CTx_A~CTx_C	-				-
	CRx_A~CRx_C	-				-
UBC	UBCTRG	-				-
I/O ポート	PA15~0	-			I	Z
	PB14	-			I	Z
	PB13~11			I		Z
	PB10~8	-			I	Z
	PB7	I		-		Z
	PB6	-			I	Z
	PB5~0	-			I	Z
	PC15~8	I		-		Z
	PC7~0	-			I	Z
	PD13~0			I		Z
	PE13~0			I		Z
	PF15~0			I		Z
	PG15~0			I		Z
	PH5~0			I		Z
	PJ9~0			I		Z
	PK11~0			I		Z
PL8~0			I		Z	

表 A.2 JTAG インタフェースの端子状態

端子機能		端子状態						
分類	端子名	リセット状態				低消費電力状態		何も接続していない
		パワーオン				ハードウェア スタンバイ	モジュール スタンバイ	
		ROM なし拡張モード		ROM あり 拡張モード	シングルチップ モード			
		8 ビット	16 ビット					
JTAG	TMS	I				Z		Pull-up
	TRST	I				Z		Pull-up
	TDI	I				Z		Pull-up
	TDO	O/Z				Z		O/Z
	TCK	I				Z		Pull-up

表 A.3 アドバンストユーザデバッグ (AUD) の端子状態

端子機能		端子状態						
分類	端子名	低消費電力状態		AUD リセット (AUDRST=L)		AUD 動作		何も接続していない
		ハードウェア スタンバイ	AUD モジュール スタンバイ	AUDMD=H	AUDMD=L	AUDMD=H	AUDMD=L	
AUD	AUDRST	Z		L 入力 (Pull-down)		H 入力 (Pull-down)		Pull-down
	AUDMD	Z		I (Pull-up)		I (Pull-up)		Pull-up
	AUDATA3~0	Z		I (Pull-up)	Pull-up	I/O (Pull-up)	O	Pull-up
	AUDCK	Z		I (Pull-up)	Pull-up	I (Pull-up)	O	Pull-up
	AUDSYNC	Z		I (Pull-up)	Pull-up	I (Pull-up)	O	Pull-up

【記号説明】

- : 初期値なし

I : 入力

O : 出力

H : ハイレベル出力

L : ローレベル出力

Z : ハイインピーダンス

Pull-up : LSI 内部の抵抗でプルアップ

Pull-down : LSI 内部の抵抗でプルダウン

B. 型名一覧

表 B.1 型名一覧

製品分類	製品型名	パッケージ
SH72546R	R5F72546RKBGV	PRBG0272FA-A (BP-272)

C. 外形寸法図

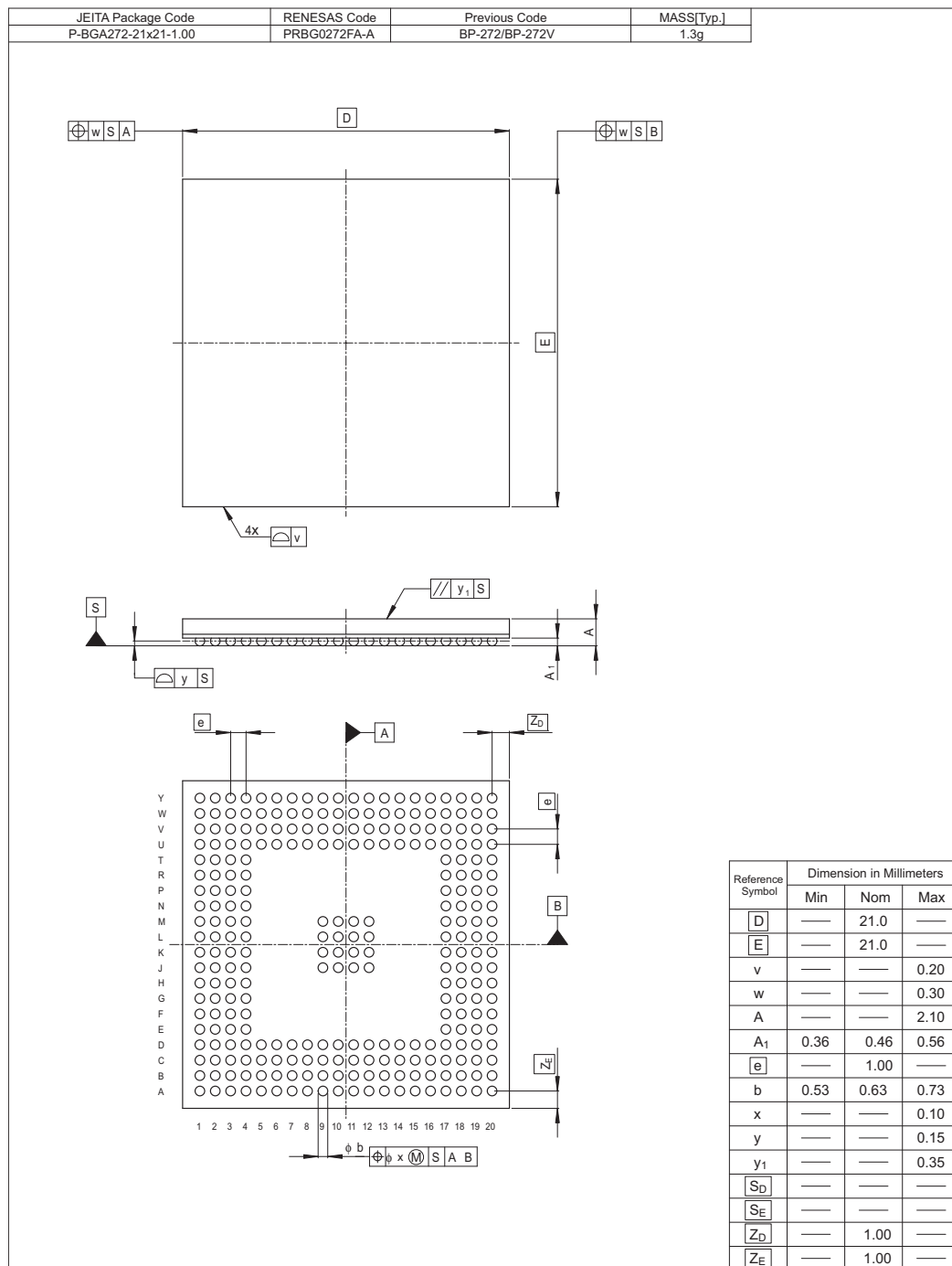


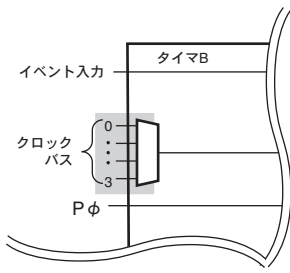
図 C.1 外形寸法図

本版で修正または追加された箇所

項 目	ページ	修正箇所						
-	-	用語を修正 (修正前) SCIA → (修正後) SCI_A (修正前) SCIB → (修正後) SCI_B (修正前) SCIC → (修正後) SCI_C (修正前) SCID → (修正後) SCI_D (修正前) SCIE → (修正後) SCI_E (修正前) RSPIA → (修正後) RSPI_A (修正前) RSPIB → (修正後) RSPI_B (修正前) RSPIC → (修正後) RSPI_C (修正前) RCANA → (修正後) RCAN_A (修正前) RCANB → (修正後) RCAN_B (修正前) RCANC → (修正後) RCAN_C						
-	-	端子名を修正 (修正前) RDWR → (修正後) RD/WR						
1.1 SH72546R の特長	1-1	修正 【注】 F-ZTAT™はルネサス エレクトロニクス株式会社の商標です。						
表 1.1 SH72546R の特長	1-6	削除 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">項目</th> <th style="text-align: center;">特 長</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="vertical-align: top;">シリアルコミュニケーションインタフェース (SCI)</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ● 最大ボーレート 調歩同期式：1.25Mbps クロック同期式：2.5Mbps ● 1.25MbpsのSCHチャネルはRCAN端子とマルチプレクスされています </td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">コントローラエリアネットワーク (RCAN-TL1)</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ● 32チャネル入力のバッファを増やすために複数のRCANチャネルを1つのバスに割り当て可能 ● CANバスのジッター：0.3% (目標値) ● メッセージバッファ 8 ビットにつき 1 ビットのパリティエラー検出が可能 </td> </tr> </tbody> </table>	項目	特 長	シリアルコミュニケーションインタフェース (SCI)	<ul style="list-style-type: none"> ● 最大ボーレート 調歩同期式：1.25Mbps クロック同期式：2.5Mbps ● 1.25MbpsのSCHチャネルはRCAN端子とマルチプレクスされています 	コントローラエリアネットワーク (RCAN-TL1)	<ul style="list-style-type: none"> ● 32チャネル入力のバッファを増やすために複数のRCANチャネルを1つのバスに割り当て可能 ● CANバスのジッター：0.3% (目標値) ● メッセージバッファ 8 ビットにつき 1 ビットのパリティエラー検出が可能
項目	特 長							
シリアルコミュニケーションインタフェース (SCI)	<ul style="list-style-type: none"> ● 最大ボーレート 調歩同期式：1.25Mbps クロック同期式：2.5Mbps ● 1.25MbpsのSCHチャネルはRCAN端子とマルチプレクスされています 							
コントローラエリアネットワーク (RCAN-TL1)	<ul style="list-style-type: none"> ● 32チャネル入力のバッファを増やすために複数のRCANチャネルを1つのバスに割り当て可能 ● CANバスのジッター：0.3% (目標値) ● メッセージバッファ 8 ビットにつき 1 ビットのパリティエラー検出が可能 							

項目	ページ	修正箇所								
図 1.1 ブロック図	1-9	<p>クロックパルス発振器 (CPG) のポート入出力を修正 (修正前) CK 入出力 → (修正後) CK 出力 修正</p>								
図 1.2 ピン配置図	1-10	<p>記述を追加 TOP View</p>								
2.2 レジスタ構成	2-1	<p>追加 レジスタは、汎用レジスタ (32 ビット×16 本)、コントロールレジスタ (32 ビット×4 本)、システムレジスタ (32 ビット×4 本)、浮動小数点レジスタ、浮動小数点システムレジスタの 5 種類があります。</p>								
2.2.3 システムレジスタ (3) プログラムカウンタ (PC)	2-4	<p>修正 PC は現在実行中の命令の 4 バイト先を示しています。</p>								
3. 動作モード	3-1	<p>追加 本 LSI は JTAG インタフェースを搭載しているため、通常動作モードであっても JTAG インタフェース機能の利用の有無にかかわらず、電源投入時に TRST を一定期間ローレベルにしなければなりません。</p>								
3.1 動作モードの種類と選択	3-1	<p>追加 本 LSI には、6 種類の動作モードがあります。動作モードは、MD4～MD0、FWE 端子で設定します。モード設定端子は、LSI の動作中に変化させないでください。ただし、内蔵 ROM 有効の MCU 拡張モード、および MCU シングルチップモードと、ユーザプログラムモード間の遷移については、FWE 端子のみ動作中の変更が可能です。また、表 3.2 ない組み合わせは設定しないでください。</p>								
図 4.1 クロック発振器のブロック図	4-1	<p>矢印の向きを修正 (修正前) XTAL → 発振回路 → (修正後) XTAL ← 発振回路</p>								
表 4.1 端子構成	4-2	<p>修正</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>端子名</th> <th>入出力</th> <th>機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>クリスタル</td> <td>XTAL</td> <td>出力</td> <td>水晶発振子を接続</td> </tr> </tbody> </table>	名称	端子名	入出力	機能	クリスタル	XTAL	出力	水晶発振子を接続
名称	端子名	入出力	機能							
クリスタル	XTAL	出力	水晶発振子を接続							

項目	ページ	修正箇所
表 4.4 水晶発振子の特性 (推奨値)	4-5	パラメータを修正 Rs- Max : (Ω) Co- Max : (pF)
4.4.2 外部クロックの入力方法	4-5	修正 XTAL 端子をオープン状態にしてください。XTAL 端子の寄生容量は 1pF 以下としてください。
表 8.4 割り込み例外ベクタと優先順位	8-24	割り込み要因番号を修正 (修正前) ADMA → (修正後) A-DMAC
8.10.1 割り込み要因クリアのタイミング	8-41	追加 …誤って再度受け付けることはありません。また、LDC 命令により割り込みレベルを変更する際には、割り込み要因フラグをダミーリード後、NOP 命令を最低 3 つ実行してから LDC 命令を実行してください。
9.5 使用上の注意事項	9-28	修正および削除 1. UBC のレジスタの読み出しまたは書き込みは、1 バス経由で行われます。したがって、UBC のレジスタを書き換える命令を実行してから実際にその値が反映されるまでの期間は、所望のブレークが発生しない場合があります。UBC レジスタが変更されるタイミングを知るためには、最後に書き込んだレジスタを読み出し後、NOP 命令を 5 個以上実行してください。それ以降の命令は、新しく書き込んだレジスタ値に対して有効です。 : 9. DIVU、DIVS 命令の次命令に命令実行前ブレークを設定しないでください。DIVU、DIVS 命令の次命令に対して命令実行前ブレークを設定した場合、DIVU、DIVS 命令実行中に例外、割り込みが発生し、DIVU、DIVS 命令の実行が中断されても、次命令の命令実行前ブレークが発生します。 10. DIVU、DIVS 命令に命令実行後ブレークを設定しないでください。DIVU、DIVS 命令に対して命令実行後ブレークを設定した場合、実行中に例外または割り込みが発生し、DIVU、DIVS 実行が中断されても命令実行後ブレークが発生します。
図 11.1 DMAC のブロック図	11-3	【記号説明】を修正 DMAFR : DMA オペレーションフラグビットレジスタ
表 11.1 レジスタ構成	11-7	DMAFR のレジスタ名を修正 DMA オペレーションフラグビットレジスタ
12.2.1 A-DMAC オペレーションレジスタ (ADMAOR)	12-8	【注】を修正 A-DMAC は NMI が発生すると DMA 転送禁止状態になりますが (「12.3.3 転送の中断と再開」を参照)、転送を再開するための制御ビットは ADMAOR 内に持たず、DMAC の DMA オペレーションフラグビットレジスタ (DMAFR) の NMIF ビットを利用します (「第 11 章 ダイレクトメモリアクセスコントローラ (DMAC)」を参照)。DMAC の NMIF ビットをクリアすることで、A-DMAC の DMA 転送もあわせて許可されます。

項 目	ページ	修正箇所
12.3.2 各チャンネルの動作 (4) RCAN用チャネルの動作 •動作の詳細と転送フロー	12-30	修正 4. 上記 2 と 3 のステップが、すべての TV ビットが 0 になるまで行われます。
13. アドバンスドタイマユニット-III (ATU-III)	—	用語を修正 (修正前) PCLK → (修正後) Pφ
13.10.4 タイマステータスレジスタ A (TSRA)	13-40	ビット 5~0 の説明を修正 [セット条件] • インプットキャプチャ信号 (TIA) により TCNTAn の値が ICRA _n に転送されたとき
13.12 タイマ B の概要 (2) 倍周クロック生成ブロック	13-52	修正 倍周クロック生成ブロックでは、外部イベント入力を 1~4095 通倍した倍周クロックを生成します。エッジ間計測ブロックの…
図 13.12 タイマ B のブロック図	13-53	修正  倍周クロック補正ブロックからの出力を修正 TCNT1D0~D3、TCNT2D0~D3
13.13.22 補正カウンタクリアレジスタ B (TCCLRB)	13-75	修正および追加 TCCLRB は TCNTB5 と常に比較されており、両者が一致すると TCNTB5 はカウント動作を停止します。このとき、タイマ D に対してカウンタクリアトリガを出力します。タイマ D のタイマコントロールレジスタ D _n (TCRD _n) の対応するカウンタクリアイネーブルを設定することにより、タイマ D の TCNT1D _n 、TCNT2D _n を個別にクリアすることが可能です。
図 13.13 TCNTB0 のインプットキャプチャ動作とコンパーマッチ動作	13-76	レジスタの値を修正 TCNTB0 : (修正前) 05676 → (修正後) 45676 (修正前) 0554 → (修正後) 5554

項目	ページ	修正箇所
13.14.3 倍周クロック補正機能	13-82	<p>修正、追加および削除</p> <p>TCNTB3は、外部イベント (AGCK) をカウントソースとする 20 ビットのアップカウンタです。AGCKが入力されると、TCNTB3 値が TCNTB4 に転送され、その後 TCNTB3 は PIM 値でアップカウントを行います。</p> <p>：</p> <p>TCNTB5 のカウント動作は、補正カウンタクリアレジスタ B (TCCLRB) の値と一致するまで行われます。TCNTB5 が TCCLRB と一致すると、TCNTB4 の値にかかわらずカウント動作は行われません。さらに、タイマ D のタイマコントロールレジスタ Dn (TCRDn) の対応するカウンタクリアイネーブル (C1CEDn、C2CEDn) を 1 に設定することで、この一致をトリガとしてタイマ D のカウンタ (TCNT1Dn、TCNT2Dn) を個別にクリアすることができます。</p>
<p>図 13.20 TCNTB5 の動作 (起動時)</p> <p>図 13.21 TCNTB5 の動作 (サイクル終了、補正あり)</p> <p>図 13.22 TCNTB5 の動作 (サイクル終了、補正なし)</p>	13-84、 13-85、 13-86	<p>用語を修正</p> <p>(修正前) TCNTDn → (修正後) TCNT1Dn</p> <p>追加</p> <p>【注】 PIM=12H'020 (32 倍)、TCCLRB=H'00080 設定時 TCNT1Dn の場合を示しており、TCNT2Dn も同様です。</p>
13.16.1 タイマスタートレジスタ C (TSTRC)	13-89	<p>ビット 4~0 の説明を修正</p> <p>サブブロックのタイマカウンタ Cn (TCNTCn) を動作させるか停止させるかを設定します。</p>
13.16.3 タイマコントロールレジスタ C0 ~4 (TCRC0~4)	13-91	<p>ビット 7~4 の説明を修正</p> <p>PWMn0 ビット、FCMCn0 ビットをともに 1 にセットした場合、強制コンペアマッチによりカウンタクリアおよび TIOCnm への IOcn0 設定値の出力が行われます。その後、TCNTCn は H'0000 00 からカウントアップを再開します。この後、FCMCn0 ビットが 1 であるかぎり新たなコンペアマッチは検出しません (コンペアマッチによるカウンタクリアは各サブブロックのチャンネル 0 のみ対応)。</p>
	13-92	<p>ビット 3 の説明を修正</p> <p>また、PWM モードでは GRCn0~GRCn3 には H'000000 を設定しないでください。H'000000 を設定した場合、不正な周期でコンペアマッチが発生することになりますのでご注意ください。</p>
図 13.26 PWM モードの動作例	13-106	<p>レジスタ名の記述を修正</p> <p>GRC01~GRC03 :</p> <p>(修正前) C01 : 000003、C01 : 000005、C03 : 000007 →</p> <p>(修正後) C01 : 000003、C02 : 000005、C03 : 000007</p>
13.18 タイマ D の概要	13-107	<p>修正</p> <ul style="list-style-type: none"> • TCNT1Dn (4 本)、TCNT2Dn (4 本) のそれぞれでカウンタオーバーフロー割り込み (計 8 本) の発生が可能です。
13.18.1 ブロック図	13-108	<p>修正</p> <p>各サブブロックは、2 本のタイマカウンタ (TCNT1Dn、TCNT2Dn)、1 本のオフセットベースレジスタ (OSBRDn) と、4 本の…</p>

項 目	ページ	修正箇所
13.19.1 タイマスタートレジスタ (TSTRD)	13-109	ビット 3~0 の説明を修正 【注】 プリスケアラは、カウンタ Dn スタートビットの設定に関係なく動作しており、TCNT1Dn、TCNT2Dn の動作開始時にも初期化は行われません。したがって起動から実際に TCNT1Dn、TCNT2Dn がカウント動作を開始するまでの時間には、選択されたカウントソースの周期（分解能）以下のハードウェア的な不確定さが伴います。
13.19.2 タイマコントロールレジスタ D0 ~3 (TCRD0~3)	13-110	修正 …それぞれクロックバス 0~5 から選択します。また、タイマオフセットベースレジスタへのインプットキャプチャ許可/禁止、タイマ B からの TCNT1Dn、TCNT2Dn のカウンタ値のクリア要求の許可/禁止を設定します。
13.19.3 タイマ I/O コントロールレジスタ 1D0~3 (TIOR1D0~3)	13-114	削除 アウトプットコンペアレジスタ (OCRDnm) の機能を選択します。このビットに B'00 を設定したとき、OCRDnm はタイマカウンタ 1 (TCNT1Dnm) とのコンペアマッチを行いません。B'00 以外に設定すると TCNT1Dnm とのコンペアマッチ動作を行います。このとき、タイマインタラプトイネーブルレジスタ (TIERDn) の…
13.19.4 タイマ I/O コントロールレジスタ 2D0~3 (TIOR2D0~3)	13-115	削除 コンペアマッチレジスタとして使用する場合 (IOBDnm[2]=0)、IOBDnm[1:0] が B'00 であれば、GRDnm はタイマカウンタ 2 (TCNT2Dnm) とのコンペアマッチを行いません。00 以外に設定すると TCNT2Dnm とのコンペアマッチ動作を行います。このとき、タイマインタラプトイネーブルレジスタ (TIERDn) の…
13.19.11 タイマアウトプットコントロールレジスタ D0~3 (TOCRD0~TOCRD3)	13-127	修正 出力反転セレクト Dn ビットを変更すると、次の Pφ クロックサイクルで TODnmB、TODnmA の出力が反転します。タイマカウンタ 1Dn、2Dn (TCNT1Dn、TCNT2Dn) の動作/停止状態は出力反転切り替えに影響を与えません。
13.20 タイマ D の動作説明	13-134	修正 TCNT1Dn 用クロック設定、TCNT2Dn 用クロック設定、DCNTDnm 用クロック設定、また DCNTDnm、OCRDnm、GRDnm などの各レジスタ値の設定を…
図 13.35 タイマ F のサブブロック図	13-159	レジスタ名を修正 (修正前) ECNTBF : イベントカウンタ BF → (修正後) ECNTBF : イベントカウンタ F
13.25.3 タイマコントロールレジスタ F0 ~19 (TCRF0~19)	13-165	ビット 1、0 の説明を修正 00 : エッジ検出無効 01 : 立ち上がりエッジ 10 : 立ち下がりエッジ 11 : 両エッジ
13.25.5 タイマステータスレジスタ F0~19 (TSRF0~19)	13-167	削除 TSRF0~19 は、8 ビットの読み出し/書き込み可能なレジスタで、時間計測カウンタ A、C の…

項 目	ページ	修正箇所							
13.25.12 汎用レジスタ DF12~15 (GRDF12~15)	13-175	修正 GRDF12~15は、32ビットの読み出し/書き込み可能なレジスタです。本レジスタはサブブロック F12~F15 のみに1個ずつ用意されています。TIFn 端子のエッジ入力をトリガとして、次の ECNTAFn カウントアップタイミングで、時間計測カウンタ CFn (ECNTCFn) の値を累積して取り込みます。							
13.26.3 入力ハイ/ローレベル期間計測	13-186	修正 • ECNTAFn : クロックバス 0~5 のいずれかをカウントソースとし、TIFnA をイネーブルとしてカウントアップを行います。すなわち、TIFnA にハイレベルが与えられている時間を計測します。ECNTBFn のコンペアマッチの検出後、次のカウントソースクロックに同期してカウント値をクリアします。コンペアマッチによるカウントクリアの際に、TIFnA にハイレベルが与えられていた場合は、カウント値は H'00000100 となります。この例を図 13.40 に示します。							
13.27.2 割り込み	13-197	修正 タイマ G の割り込みは、CMIG0~5 の 6 本あります。サブブロックでコンペアマッチが検出されると、割り込み要求は出力されます。この要求は、ダイレクトメモリアクセスコントローラ (DMAC) および割り込みコントローラ (INTC) が受け取り、それぞれの設定に従って所定の処理を行います。							
13.34.3 FIFO コントロールレジスタ J0、1 (FCRJ0、1)	13-217	【注】*2 を追加							
図 13.51 タイマ J 動作例 (2)	13-229	データの値を修正 キャプチャデータ : (修正前) 5 4 5 → (修正後) 4 0 4 5							
13.36.3 ロード/リロード競合動作 (1) データ転送と転送先レジスタへの書き込みとの競合	13-244	修正 レジスタ間のデータ転送と転送先レジスタへの周辺バス書き込みとの競合を以下に説明します。							
(2) データ転送と転送元レジスタへの書き込みの競合	13-245	修正 レジスタ間のデータ転送と転送元レジスタへの周辺バス書き込みとの競合を以下に説明します。データ転送と…							
表 13.40 カウンタクリアとコンペアマッチの競合動作関連リソース一覧	13-257	修正 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;">対象タイマ</th> <th style="width: 20%;">カウンタ</th> <th style="width: 60%;">カウンタクリア要因</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">タイマ D</td> <td style="text-align: center;">TCNT1Dn</td> <td rowspan="2" style="text-align: center;">タイマ B からの TCNT1Dn、TCNT2Dn クリア要求</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">TCNT2Dn</td> </tr> </tbody> </table>	対象タイマ	カウンタ	カウンタクリア要因	タイマ D	TCNT1Dn	タイマ B からの TCNT1Dn、TCNT2Dn クリア要求	TCNT2Dn
対象タイマ	カウンタ	カウンタクリア要因							
タイマ D	TCNT1Dn	タイマ B からの TCNT1Dn、TCNT2Dn クリア要求							
	TCNT2Dn								

項目	ページ	修正箇所
13.36.7 タイマ B と タイマ D の競合 (2) TCNT1Dn、 TCNT2Dn カウンタ への書き込みとタイ マ B からのカウンタ クリアの競合	13-258	タイトルを修正
16.1 特長	16-1	追加 <ul style="list-style-type: none"> 調歩同期式モード キャラクタ単位で同期をとる調歩同期方式でシリアルデータの通信を行います。 Universal Asynchronous Receiver/Transmitter (UART) や Asynchronous Communications Interface Adapter (ACIA) などの標準の調歩同期式通信 LSI とのシリアルデータ通信が 可能です。 シリアルデータ通信フォーマットを 12 種類のフォーマットから選択できます。 データ長 : 7 ビット、または 8 ビット ストップビット長 : 1 ビット、または 2 ビット
16.3.6 シリアルコン トロールレジスタ (SCSCR1)	16-12	ビット 1 の説明を修正 CKE1 を設定する場合は SCSMR1 の C/A ビットを 1 に設定してから CKE1 ビットを設定 してください。SCI のクロックソースの選択についての詳細は「16.4 動作説明」の表 16.10 を参照してください。
図 16.5 調歩同期式モ ードでの送信時の動 作例 (8 ビットデー タ / パリティあり / 1 ストップビットの例)	16-28	図を差し替え
図 16.11 SCI の送信 時の動作例	16-36	図を差し替え
17. ルネサスシリア ルペリフェラルイン タフェース (RSPI)	—	用語を修正 (修正前) SH72546R → (修正後) 本 LSI
表 17.2 レジスタ構成	17-5、 17-6	レジスタ SSLPA/B/C、SPSRA/B/C、SPSSRA/B/C、SSLNDA/B/C のアクセスサイズを修 正 (修正前) 8、16 → (修正後) 8
図 17.14 SPTEF、 SPRF ビットの動作 例	17-40	図を差し替え
図 18.3 メールボック ス (0~15) の構成	18-10	修正 【記号説明】 n=1~15
図 18.4 メールボック ス (16~29) の構成	18-11	修正 【記号説明】 n=16~29
図 18.5 メールボック ス (30、31) の構成	18-12	修正 【記号説明】 n=30、31

項 目	ページ	修正箇所
18.3.2 メッセージコントロールフィールド	18-13	レジスタ名、アドレスおよび記号説明を修正 MB[n].CONTROL0H MB[n].CONTROL0L H'100+n*32 H'102+n*32 【記号説明】 n=0~31 (メールボックス番号)
	18-14~ 18-16	レジスタ名、アドレスおよび記号説明を修正 MB[n].CONTROL1 H'110+n*32 【記号説明】 n=0~31 (メールボックス番号)
図 18.6 ローカルアクセプタンスフィルタマスク (LAFM)	18-18	レジスタ名、アドレスおよび記号説明を修正 MB[n].LAFMH MB[n].LAFML H'104+n*32 H'106+n*32 【記号説明】 n=0~31 (メールボックス番号)
18.3.3 ローカルアクセプタンスフィルタマスク (LAFM)	18-18	レジスタ名、アドレスおよび記号説明を修正 MB[n].LAFMH MB[n].LAFML H'104+n*32 H'106+n*32 【記号説明】 n=0~31 (メールボックス番号)
図 18.7 メッセージデータフィールド	18-19	修正 【記号説明】 n=30, 31 (メールボックス番号)
18.3.5 タイムスタンプ	18-20	削除 【重要】 タイムスタンプはテンポラリレジスタに格納されます。送信または受信が正常に行われると、その値がメールボックスのフィールドにコピーされます。また、オーバランによって UMSR[n]がセットされるのと同時に CPU が RXPR[n]/RFPR[n]をクリアしたとき、タイムスタンプのみが更新されることがあります。したがって、RXPR[n]/RFPR[n]がクリアされる前の正しいタイムスタンプ値をリードすることができます。
図 18.8 送信トリガコントロールフィールド	18-21	修正 【記号説明】 n=24~30 (メールボックス番号)
図 18.11 ID 並べ替え	18-30	修正 【記号説明】 n=0~31 (メールボックス番号)
18.4.3 ビットコンフィギュレーションレジスタ 0、1 (BCR0、BCR1)	18-34	ビット 10~8 の説明を修正 これらのビットは、CAN バス上のエッジをネガティブフェーズエラーで補償するため、セグメント TSEG2 (=PHSEG2) を設定することに使用します。2~8 タイムクオンタが設定できます。

項 目	ページ	修正箇所
18.7.1 RCAN-TL1 の設定 (3) CAN スリープモード	18-76	修正 各モードでの書き換えを許可する条件を表 18.9 に示します。
表 18.9 レジスタ書き換え許可条件	18-76	表タイトルを修正 修正および削除 【記号説明】 Yes : 書き換えを許可するレジスタ No : 書き換えを禁止するレジスタ 【注】 * TXPR0がセットされていない場合
図 18.18 メッセージ送信リクエスト	18-79	修正 【記号説明】 $n=1\sim 31$ (メールボックス番号)
18.7.3 メッセージ送信シーケンス (3) タイムトリガ送信 • 送信トリガタイムの設定	18-82	修正および追加 TTT (メールボックス n) - TTT (メールボックス $n-1$) > TEW + 最大フレーム長 + 9 $n=25\sim 30$
図 18.23 メッセージ送信リクエスト	18-86	修正 【記号説明】 $n=1\sim 31$ (メールボックス番号)
図 18.26 メッセージ受信シーケンス	18-91	図を差し替え
18.7.4 メッセージ受信シーケンス	18-92	修正 …受信した ID と比較します。一致しない場合は、メールボックス 30 (受信用に設定されている場合) に対して同じチェックを行います。一致する ID を見つけると RCAN-TL1 はそのメールボックス番号 (n) を内部バッファに格納し、サーチを停止した後アイドル状態に戻り EOF (End Of Frame) を待ちます。EOF の 6 ビット目が通知されると、受信メッセージは NMC ビットの設定により書き込まれるか廃棄されます。 : 図 18.26 に示すデータおよびリモートフレームの受信で、IRR をリードした後に UMSR フラグをクリアするのは、割り込みサービスルーチンの実行中にメッセージが同じメールボックスに格納された新しいメッセージでオーバライトされること (NMC が 1 のとき) を検出するためです。UMSR の最後のチェック中にオーバライトが検出された場合、メッセージを破棄し再度読み込む必要があります。
表 18.12 RCAN-TL1 の割り込み要因	18-96	修正 【注】 *2 RM0 はメールボックス 0 のリモートフレーム受信フラグ (RFPR0[0]) またはデータフレーム受信フラグ (RXPR0[0]) による割り込み、RM1 はメールボックス 1~31 のリモートフレーム受信フラグ (RFPR1/RFPR0) またはデータフレーム受信フラグ (RXPR1/RXPR0) による割り込みです。

項 目	ページ	修正箇所						
表 19.3 レジスタ構成	19-7、 19-8	レジスタ ADREF0/1、ADTRF0/1 の R/W を修正 (修正前) R/W → (修正後) R/(W)* 【注】*2 を追加						
19.4.5 A/D 変換ステータスレジスタ 0、1 (ADREF0、1)	19-17、 19-18	ビット 0 の R/W を修正 (修正前) R/W → (修正後) R/(W)* 【注】を追加						
19.4.11 A/D 割り込みトリガ処理終了フラグレジスタ 0、1 (ADTRF0、1) • ADTRF0	19-28	ビット 15~0 の R/W を修正 (修正前) R/W → (修正後) R/(W)* 【注】を追加						
• ADTRF1	19-29	ビット 7~0 の R/W を修正 (修正前) R/W → (修正後) R/(W)* 【注】を追加						
図 19.3 CPU と A/D 変換器 (ADC) のインタフェース	19-31	モジュール名を修正 (修正前) SCIF → (修正後) SCI						
19.5.8 外部トリガによるスキャン変換の起動	19-43	削除 図 19.9 に外部トリガ入力タイミングを示します。ADSCACT ビットが 1 にセットされるタイミングは、低速設定時 (CKS=0) には、ADTRG 端子の立ち下がりエッジをサンプリングしてから 4 (TBD) ステート、高速設定時 (CKS=1) には、ADTRG 端子の立ち下がりエッジをサンプリングしてから 3 (TBD) ステートです。						
19.8.4 ボード設計上の注意事項	19-47~ 19-50	項目を差し替え						
19.8.5 ノイズ対策上の注意事項	—	項目を削除						
表 20.2 レジスタ構成	20-4	削除 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>略称</th> <th>初期値*1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>SDBPR</td> <td>不定*2</td> </tr> <tr> <td>SDBSR</td> <td>不定*3</td> </tr> </tbody> </table>	略称	初期値*1	SDBPR	不定*2	SDBSR	不定*3
略称	初期値*1							
SDBPR	不定*2							
SDBSR	不定*3							
20.5 使用上の注意事項	20-22	修正 3. JTAG インタフェースを使用する、使用しないにかかわらず、必ず TRST 信号をローレベルにしてリセットしてください。この際、TRST は TCK に対して 20 クロック分、ローレベルに保持してください。詳細は「第 32 章 電気的特性」を参照してください。						
表 23.1 レジスタ構成	23-2、 23-3	初期値を修正 (修正前) H'xxxx → (修正後) 端子の値						

項目	ページ	修正箇所
23.4.4 ポート B ドライバビリティ設定レジスタ (PBDSR)	23-11	修正 PBDSR は、読み出し／書き込み可能な 16 ビットのレジスタで、ポート B のドライブ能力を設定します。PB13DSR、PB12DSR、PB4DSR～PB0DSR ビットが、それぞれ PB13/ $\overline{CS3}$ /RSPCKB、PB12/ $\overline{CS2}$ /RSPCKA、PB4/A20/CTx_B/TIF6～PB0/A16/MOSIA 端子に対応しています。PBDSR の設定は、対象端子の機能がバス機能 (A16～A20、 $\overline{CS2}$ 、 $\overline{CS3}$) に選択されている場合は無効です。
23.4.4 ポート B ドライバビリティ設定レジスタ (PBDSR) 23.7.4 ポート E ドライバビリティ設定レジスタ (PEDSR) 23.8.4 ポート F ドライバビリティ設定レジスタ (PFDSR) 23.9.4 ポート G ドライバビリティ設定レジスタ (PGDSR) 23.11.4 ポート J ドライバビリティ設定レジスタ (PJDSR) 23.12.4 ポート K ドライバビリティ設定レジスタ (PKDSR)	23-11、 23-24、 23-29、 23-36、 23-44、 23-45、 23-51	リザーブビット以外の説明を修正 本ビットを 1 にすると、対応する端子のドライブ能力が大きくなります。 0：通常出力 (スロースルーレート) 1：出力端子のドライブ能力が増加する (ファストスルーレート) 【注】ドライブ能力の特性については、「32.3.14 出力スルーレート」を参照してください。
23.9.5 ポート G エッジ選択レジスタ (PGER)	23-37	削除 【注】* エッジ検出が行われないため、ポート G データレジスタ (PGDR) の値は常に 0 となります。
23.16.2 内部要因リセット時の入出力端子動作に関する注意点	23-58	項目を追加
25. ROM	—	用語を修正 (修正前) SH72546R → (修正後) 本 LSI
25.3.5 ROM マット選択レジスタ (ROMMAT)	25-11	追加 ROMMAT レジスタの設定を変更しマットを切り替える場合は、ROMMAT レジスタに書き込み、ROMMAT レジスタのダミーリード後、NOP 命令を 5 個以上実行してください。
25.3.10 フラッシュ P/E モードエントリレジスタ (FENTRYR)	25-18	追加 FENTRYR レジスタの FENTRY5～0 ビットを 1 から 0 に変更し ROM リードモードに移行させる場合は、FENTRY5～0 ビットに 0 を書き込み、FENTRYR レジスタのダミーリード後、NOP 命令を 5 個以上実行してください。

項目	ページ	修正箇所
25.3.11 フラッシュ プロテクトレジスタ (FPROTR)	25-24	ビット0の説明を修正 [セット条件] • FENTRYR レジスタの値が H'0000 以外の状態で、ワードアクセスで FPKEY に H'55、FPROTCN に 1 を書き込んだ場合
25.4 ROM 関連モード概要	25-30	削除 • ユーザブートマットの書き込み/消去は、ブートモードでのみ可能です。 • ブートモードでは、起動直後にユーザマット/ユーザブートマット/EEPROMのデータマットが全面消去されます。その後、ホストから SGI 経由でのユーザマット/ユーザブートマット/データマットの書き込みが可能になります。ROM 内容の読み出しも、起動直後の全面消去後に可能になります。 • ユーザブートモードでは、ユーザプログラムモードと異なるモード端子設定で、任意のインタフェースのブート動作を実現できます。
25.5.2 ブートモードの状態遷移 (4) 書き込み/消去 ホストコマンド待ち	25-33	【注】を追加
25.5.4 問い合わせ設定 ホストコマンド待ち状態 (9) 消去ブロック情報問い合わせ	25-43	レスポンスの表示を修正 修正 サイズ (2 バイト) : ブロック数、ブロック先頭アドレス、ブロック最終アドレスのデータの総バイト数
(11) 新ビットレート選択 • ビットレート選択不可エラー	25-45	追加 $\text{誤差 (\%)} = \left[\frac{f_{EX} \times M_{P\phi} \times 10^6}{(N+1) \times B \times 32 \times 2^{2n-1}} - 1 \right] \times 100$
(13) キーコードチェックコマンド	25-46	追加 キーコードチェックコマンドに対して、本 LSI はホストから送信されたキーコードとマット上のキーコードとを比較し、一致したときレスポンス (H'26) を送信し、ユーザマット、ユーザブートマット、データマットの全面消去を行い、書き込み消去ステータスになります。キーコードが一致しなかった場合はエラーレスポンス (H'E0) を送信します。 また、本 LSI のキーコードが初期状態 (書き込まれていない状態) のときは、任意のキーコードでレスポンス (H'26) を送信し、ユーザマット、ユーザブートマット、データマットの全面消去を行い、書き込み消去ステータスに遷移します。 : キーコード (16 バイト) : ブートモード認証のためのキーコード (上位側の不要な部分は H'FF で埋めてください) : エラー (1 バイト) : エラーコード H'11 : サムチェックエラー H'61 : キーコード不一致エラー H'51 : 消去エラーが発生して消去できない

項 目	ページ	修正箇所
(14) ブートプログラマステータス問い合わせ	25-47	レスポンスの表示を修正 追加 SUM (1 バイト) : サムチェック
表 25.8 エラーの内容	25-48	H'54、選択処理エラーを削除
25.5.5 書き込み/消去ホストコマンド待ち状態 (8) ユーザマットサムチェック	25-54	追加 ユーザマットにはブートモード/デバッグ機能認証用のキーコードも含まれています。加算結果にキーコード値が含まれることに注意してください。
(9) ユーザブートマットブランクチェック (10) ユーザマットブランクチェック	25-55	追加 書き込み/消去の中断(例:リセット入力、電源瞬断)により、データが不定となった領域の書き込み/消去状態を確認するベリファイ手段はありません。したがって、不定となった領域を再度使用する場合は、消去処理を行い、完全な消去状態にしてから使用してください。
(11) リードロックビットステータス (12) ロックビットプログラム	25-56、 25-57	レスポンスの表示を修正 修正 中位アドレス (1 バイト) : 指定ブロックの最後尾のアドレスの中位アドレス (8~15 ビット) 上位アドレス (1 バイト) : 指定ブロックの最後尾のアドレスの上位アドレス (16~23 ビット)
25.6.2 FCU コマンド受け付け条件 (1) ROM リードモード • ROM/EEPROM リードモード	25-61	修正および追加 ROM キャッシュ経由で ROM を、周辺バス経由で EEPROM を高速読み出し可能なモードです。FCU コマンドは受け付けられません。FENTRYR レジスタの FENTRY5~0 ビットを 000000、かつ FENTRYD ビットを 0 に設定した場合に、このモードに遷移します。 なお、FENTRYR レジスタの FENTRY5~0 ビットを 1 から 0 に変更し ROM リードモードに遷移させる場合は、FENTRY5~0 ビットに 0 を書き込み、FENTRYR レジスタのダミーリード後、NOP 命令を 5 個以上実行してください。
(2) ROM P/E モード • ROM P/E ノーマルモード	25-61	追加 ROM リードモード時に FENTRYD ビットを 0、かつ FENTRY5~0 ビットのいずれかを 1 に設定した場合、または ROM P/E モードでノーマルモード移行コマンドを受け付けた場合に遷移するモードです。表 25.12 に…
表 25.12 FCU のモード/状態と受け付け可能なコマンドの関係	25-63	表を差し替え

項 目	ページ	修正箇所
25.6.3 FCU コマンド 使用方法	25-64	修正および追加 FCU がコマンド処理中に FCUERR が 1 または FRDCLC/FRCCLE が 1 にセットされた状態 で FRDTCT/FRRCRCT が 1 にセットされてコマンドロック状態に遷移した場合には、 FRDY ビットは 0 を保持します。コマンドロック状態では FCU の処理が停止するため、 FRDY ビットが 0 から 1 にセットされることはありません。書き込み/消去時間やサスペ ンド遅延時間（「第 32 章 電気的特性」参照）よりも長期間にわたって FRDY が 0 に保 持される場合は、コマンドロック状態で FCU の処理が停止するなどの異常動作が発生して いる可能性があるため、FCU リセットによって FCU を初期化してください。 FRDCLC/FRCCLE が 1 にセットされた状態で FCU のコマンド処理が完了して FRDY が 1 にセットされた場合には、FCUERR と FRDTCT/FRRCRCT は必ず 0 の状態です。このため、 コマンド処理完了後のエラー発生状況は、ILGLERR ビット、ERSERR ビット、PRGERR ビットで確認可能です。
図 25.17 ROM P/E ノ ーマルモード移行コ マンド使用方法	25-68	用語を修正 ノーマルモード移行 コマンド発行
(5) 書き込み方法	25-68	追加 第 3～第 130 サイクルでアクセスする領域に書き込み不要なアドレスが含まれる場合は、 該当アドレスに対する書き込みデータを H'FFFF にしてください。ロックビットによるプ ロテクトを無効化して書き込みを実施したい場合には、FPROTR レジスタの FPROTCN ビ ットを 1 にセットしてから書き込みを行ってください。
(6) 消去方法	25-70	追加 ロックビットによるプロテクトを無効化して消去を実施したい場合には、FPROTR レジス タの FPROTCN ビットを 1 にセットしてから消去を行ってください。
25.9.1 ユーザマット とユーザブートマッ トの切り替え	25-88	修正 4. マット切り替え時に ROM キャッシュをフラッシュ 追加 5. NOP 命令を 5 個以上実行 ROMMAT レジスタのダミーリード後、NOP 命令を 5 個以上実行してください。
図 25.32 マット切り 替え処理例	25-89	図を差し替え
25.9.2 其他のご注 意 (9) 書き込み/消去 中の電源切断 (10) FRDCLC ビッ トの 0 設定禁止 (11) ROM リードモ ード遷移時の注意事 項	25-91、 25-92	項目を追加
26. EEPROM	—	用語を修正 (修正前) SH72546R → (修正後) 本 LSI

項目	ページ	修正箇所
26.1 特長 • ブランクチェック機能	26-4	追加 ブランクチェックは、正常に消去が完了した領域に対し、消去状態を確認する機能です。書き込み/消去が中断（例：リセット入力、電源瞬断）された場合は、ブランクチェックによる消去状態の確認はできません。
26.3.9 EEPROM ブランクチェック制御レジスタ (EEPBCCNT)	26-18	タイトルを修正
26.4 EEPROM 関連モード概要	26-22	削除 • ブートモードでは、起動直後にROMのユーザマット/ユーザブートマットとデータマットが全面消去されます。その後、ホストからSCI経由でのデータマットの書き込みが可能になります。データマットの読み出しも、起動直後の全面消去後に可能になります。 • ユーザブートモードでは、ユーザモード/ユーザプログラムモードと異なるモード端子設定で、任意のインタフェースのブート動作を実現できます。
26.5.2 書き込み/消去ホストコマンド	26-25	修正 SUM (1バイト) : サムチェック (レスポンスデータのサムチェック)
26.6.2 FCU コマンド受け付け条件 (2) ROM/EEPROM リードモード	26-30	修正 周辺バス経由でEEPROMを、ROMキャッシュ経由でROMを高速読み出し可能なモードです。FCUコマンドは受け付けられません。FENTRYDビットを0、かつFENTRY5~0ビットを000000に設定した場合に、このモードに遷移します。
(3) EEPROM P/Eモード • EEPROM P/E ノーマルモード	26-30	追加 ROM/EEPROM リードモードまたはROM P/Eモード時にFENTRYDビットを1かつFENTRY5~0ビットを000000に設定した場合、またはEEPROM P/Eモードでノーマルモード移行コマンドを受け付けた場合に遷移するモードです。表26.8に…
表26.8 FCUのモード/状態と受け付け可能なコマンドの関係	26-32	表を差し替え
図26.6 EEPROMの書き込み	26-34	用語の修正 (修正前) t_{P128} → (修正後) $t_{P128,E}$
図26.7 EEPROMのブランクチェック	26-36	用語の修正 (修正前) t_{BCBK} → (修正後) $t_{BCBK,E}$
26.9 使用上の注意事項 (5) 書き込み/消去中のリセット	26-41	追加 書き込み/消去の中断（例：リセット入力、電源瞬断）により、データが不定となった領域の書き込み/消去状態を確認するペリファイ手段はありません。したがって、不定となった領域を再度使用する場合は、消去処理を行い、完全な消去状態にしてから使用してください。
(9) 書き込み/消去中の電源切断 (10) FRDCLEビットの0設定禁止	26-41	項目を追加

項 目	ページ	修正箇所
27.3.1 ROM キャッシュ制御レジスタ (RCCR)	27-4	ビット 0 の説明を修正 0: ROM キャッシュ機能を使用しない 1: ROM キャッシュ機能を使用する
27.3.2 ROM キャッシュ制御レジスタ 2 (RCCR2)	27-7	ビット 0 の説明を修正 0: データキャッシュ機能を使用しない 1: データキャッシュ機能を使用する
28. RAM	—	用語を修正 (修正前) 通信率 → (修正後) 通信比 (修正前) オン → (修正後) 有効 (修正前) オフ → (修正後) 無効 (修正前) PCLK → (修正後) 周辺クロック
	28-1	追加 本 LSI は、256KB の RAM を内蔵しています。内蔵 RAM は、F バス (CPU 命令フェッチバス)、M バス (メモリアクセスバス)、I バス (内部バス) と接続しており、それぞれ独立にアクセスすることができます。
28.1 特長	28-1	修正 • ポート: 各ページは 2 本の独立した読み出し/書き込みポートを持ち、I バス、F バス、M バスと接続されています。ただし、F バスは読み出しポートのみに接続されています。CPU からのアクセスには F および M バス、CPU 以外からのアクセスには I バスが使用されます。
28.2.1 RAM イネーブルコントロールレジスタ 0、1 (RAMEN0、1)	28-4	修正 RAMEN0、1 は、読み出し/書き込み可能な 16 ビットのレジスタで、内蔵 RAM へのアクセス許可/禁止を設定します。RAMEN0、1 は、リセット/スタンバイ時に H'00FF に初期化されます。書き込みはワードアクセスのみ可能で、読み出しはワード、バイトのどちらでも可能です。 アクセスを許可するページに対応する RAME15~0 ビットを 1 にセットすると内蔵 RAM が有効になります。0 にクリアするとアクセスできません。アクセス禁止状態では、対応するページのリードおよび命令フェッチは不定値が読み出され、ライトは無視されます。初期値は 1 です。 なお、RAME15~0 ビットを書き換える場合には、RAMEN0 では上位バイトを H'96 にし、下位バイトを書き込みデータにしてワードサイズで行ってください。RAMEN1 では上位バイトを H'95 にし、下位バイトを書き込みデータにしてワードサイズで行ってください。 RAMEN0、1 の上位バイト (ビット 15~8) の読み出し時には常に H'00 が読み出されます。RAMEN0、1 へのライト命令の直後に内蔵 RAM をアクセスするような命令を置かないでください。もし内蔵 RAM アクセス命令を置いた場合、正常なアクセスは保証できません。 RAME15~0 ビットを書き換える場合、RAMEN0 へのライト命令の直後に RAMEN0 のリード命令と NOP 命令を 5 個以上、RAMEN1 へのライト命令の直後に RAMEN1 のリード命令と NOP 命令を 5 個以上実行してください。

項 目	ページ	修正箇所
28.2.2 RAM 書き込みイネーブルコントロールレジスタ 0、1 (RAMWEN0、1)	28-11	<p>修正</p> <p>RAMWEN0、1 は、読み出し／書き込み可能な 16 ビットのレジスタで、内蔵 RAM への書き込み許可／禁止を設定します。RAMWEN0、1 は、リセット／スタンバイ時に H'00FF に初期化されます。書き込みはワードアクセスのみ可能で、読み出しはワード、バイトのどちらでも可能です。</p> <p>アクセスを許可するページに対応する RAMWE15~0 ビットを 1 にセットすると内蔵 RAM への書き込みが有効になります。0 にクリアすると内蔵 RAM への書き込みはできません。アクセス禁止状態では、内蔵 RAM へのライトは無視されます。初期値は 1 です。</p> <p>なお、RAMWE15~0 ビットを書き換える場合には、RAMWEN0 では上位バイトを H'69 にし、下位バイトを書き込みデータにしてワードサイズで行ってください。RAMWEN1 では上位バイトを H'68 にし、下位バイトを書き込みデータにしてワードサイズで行ってください。</p> <p>RAMWEN0、1 の上位バイト（ビット 15~8）の読み出し時には常に H'00 が読み出されません。</p> <p>RAMWEN0、1 へのライト命令の直後に内蔵 RAM をアクセスするような命令を置かないでください。もし内蔵 RAM アクセス命令を置いた場合、正常なアクセスは保証できません。</p> <p>RAMWE15~0 ビットを書き換える場合、RAMWEN0 へのライト命令の直後に RAMWEN0 のリード命令と NOP 命令を 5 個以上、RAMWEN1 へのライト命令の直後に RAMWEN1 のリード命令と NOP 命令を 5 個以上実行してください。</p>
28.2.6 RAM アクセスサイクル設定レジスタ (RAMACYC)	28-23	<p>修正</p> <p>RAMACYC は、RAM のリード／ライトサイクルを設定するためのレジスタです。PLL クロックの逡倍比と ECC の有効／無効によって、サイクル設定の範囲が決まりますので表 28.4 に示す推奨の設定値の範囲でご使用ください。WRCYC ビット、RDCYC ビットは、リセット／スタンバイによって初期化されます。</p>
表 28.4 リード／ライトサイクルの設定推奨値	28-25	<p>項目名を修正</p> <p>(修正前) 推奨設定値 → (修正後) 設定推奨値</p>

項 目	ページ	修正箇所
28.3 動作説明	28-28	<p>修正および追加</p> <p>内蔵 RAM へのアクセスは、RAM イネーブルコントロールレジスタ 0、1 (RAMEN0、1) および RAM 書き込みイネーブルコントロールレジスタ 0、1 (RAMWEN0、1) で制御されます。</p> <p>RAM アクセスのイネーブル/ディスエーブルは、RAM イネーブルコントロールレジスタ 0、1 (RAMEN0、1) の RAME15~0 ビットによって内蔵 RAM アドレスのエリアごとに設定できます。</p> <p>RAMEN0、1 レジスタの RAME15~0 ビットを 0 にクリアすると内蔵 RAM はアクセスできません。読み出すと不定値が読み出され、書き込みは無効です。</p> <p>RAM の書き込みイネーブル/ディスエーブルは、RAM 書き込みイネーブルコントロールレジスタ 0、1 (RAMWEN0、1) の RAMWE15~0 ビットによってエリアごとに設定できます。</p> <p>:</p> <p>ECC が有効のときに 1 ビットの誤り訂正、2 ビットの誤り検出が可能です。</p> <p>ECC が有効のときに 1 ビットの誤り訂正、2 ビットの誤り検出発生時にそれを示すフラグ (RAM エラーステータスレジスタ) を持ちます。ECC が無効のときにはパリティエラー発生時にそれを示すフラグ (RAM エラーステータスレジスタ) を持ちます。RAM エラーステータスレジスタがセットされたときに RAM エラー (RAME) 割り込みが発生することができます。</p>
28.5.2 電源立ち上げ後の状態	28-30	<p>削除</p> <p>電源立ち上げ後には RAM データと誤り訂正データの整合をとる (初期化する) ため、使用するすべての RAM エリアについて何らかのデータをロングワード (32 ビット) で書き込む必要があります。もし、初期化せずに RAM の読み出しを行った場合は、RAM エラーが発生することがあります。</p>
28.5.3 RAM 書き込み無効設定時の書き込み動作	28-30	<p>修正</p> <p>初期化された RAM において RAM 書き込み無効設定を行ったページに対して書き込み動作を行い、かつそのアドレスに ECC エラーが発生していた場合、ECC エラーを誤検出し、ECC エラーフラグがセットされます。また割り込み有効設定時は割り込みも発生します。ただし、このとき書き込み動作は行われていないためデータが破壊されることはありません。</p>
31.1 レジスタアドレス一覧 (機能モジュールごと、マニュアル章番号順)	31-6	<p>DMAFR のレジスタ名を修正</p> <p>DMA オペレーションフラグビットレジスタ</p>
	31-30~ 31-32	<p>レジスタ SSLPA/B/C、SPSRA/B/C、SPSSRA/B/C、SSLNDA/B/C のアクセスサイズを修正</p> <p>(修正前) 8、16 → (修正後) 8</p>
	31-67	<p>レジスタ RAMEN0、RAMWEN0、RAMEN1、RAMWEN1、RAMECC のアクセスサイズを修正</p> <p>(修正前) 8、16 → (修正後) 8、(16)</p>

項 目	ページ	修正箇所																
31.3 各動作モードにおけるレジスタの状態の一覧	31-212	修正 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">モジュール名</th> <th rowspan="2">略称</th> <th>リセット状態</th> <th colspan="2">低消費電力状態</th> </tr> <tr> <th>パワーオン</th> <th>ハードウェアスタンバイ</th> <th>スリープ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>JTAG</td> <td>SDIR</td> <td>不定</td> <td>不定</td> <td>保持</td> </tr> </tbody> </table>	モジュール名	略称	リセット状態	低消費電力状態		パワーオン	ハードウェアスタンバイ	スリープ	JTAG	SDIR	不定	不定	保持			
モジュール名	略称	リセット状態			低消費電力状態													
		パワーオン	ハードウェアスタンバイ	スリープ														
JTAG	SDIR	不定	不定	保持														
表 32.4 DC 特性 (入力電圧)	32-13	修正 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th colspan="2">項 目</th> <th>記号</th> <th>Min.</th> <th>Typ.</th> <th>Max.</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">TTL 入力電圧 (GPIO 端子)</td> <td rowspan="2">PC15~PC0</td> <td>V_{IH}</td> <td>PV_{CC1} × 0.7</td> <td>—</td> <td>PV_{CC1} + 0.3</td> </tr> <tr> <td>V_{IL}</td> <td>- 0.3</td> <td>—</td> <td>PV_{CC1} × 0.3</td> </tr> </tbody> </table>	項 目		記号	Min.	Typ.	Max.	TTL 入力電圧 (GPIO 端子)	PC15~PC0	V _{IH}	PV _{CC1} × 0.7	—	PV _{CC1} + 0.3	V _{IL}	- 0.3	—	PV _{CC1} × 0.3
項 目		記号	Min.	Typ.	Max.													
TTL 入力電圧 (GPIO 端子)	PC15~PC0	V _{IH}	PV _{CC1} × 0.7	—	PV _{CC1} + 0.3													
		V _{IL}	- 0.3	—	PV _{CC1} × 0.3													
表 32.12 DC 特性 (スタンバイ)	32-21	修正 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th colspan="2">項 目</th> <th>測定条件</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>消費電流 (V_{CC} 電源)</td> <td>スタンバイ</td> <td>-40°C ≤ Ta ≤ 50°C</td> </tr> </tbody> </table>	項 目		測定条件	消費電流 (V _{CC} 電源)	スタンバイ	-40°C ≤ Ta ≤ 50°C										
項 目		測定条件																
消費電流 (V _{CC} 電源)	スタンバイ	-40°C ≤ Ta ≤ 50°C																
表 32.16 制御信号タイミング	32-27	追加 <p>【使用上の注意】</p> <p>1. …t_{MDS2} で定義されます。もし、表 32.3 (未定義モード) で指定された信号の組み合わせ以外の信号が FWE、MD4~MD0、MD_CLK0、MD_CLK1、および MD_CLKP 端子に入力された場合、モードセットアップ時間は t_{MDS1} で定義されます。</p>																

索引

【数字／記号】

16ビット／32ビットディスプレイメント	2-14
1 サイクルスキャンモード	19-32
4 通倍イベントカウント	13-194

【A】

A/D 変換器 (ADC)	19-1
A/D 変換精度の定義	19-46
ADEND_A、ADEND_B 出力端子による モニタ機能	19-44
A-DMAC インタフェース	18-98
A-DMAC によるデータ転送でのバス動作	12-34
ATU-III (タイマ A、C、F) 用チャネルの 転送許可／禁止の条件	12-40
ATU-III (タイマ A、C、F) 用チャネルの動作	12-22
ATU-III (タイマ G) 用チャネル、 ADC 用チャネルの転送許可／禁止の条件	12-40
ATU-III (タイマ G) 用チャネル、 ADC 用チャネルの動作	12-19
ATU-III のタイマトリガによる スキャン変換の起動	19-43
AUD トレースモード	21-5
AUD トレースモードでの端子説明	21-4
AUD バスコマンド	21-11
AUD バスコマンド一覧	21-12
AVrefh_A/B、AVrefl_A/B 端子の設定範囲	19-47

【B】

BYPASS コマンド	20-20
-------------------	-------

【C】

CAN インタフェース	18-6
CAN スリープモード	18-74
CAN バスインタフェース	18-98
CLAMP コマンド	20-20
CMCNT カウントタイミング	15-7
CMCNT の書き込みとコンペアマッチの競合	15-10
CMCNT のワード書き込みと カウントアップの競合	15-10
CPU	2-1

CPU と A/D 変換器 (ADC) のインタフェース	19-31
CSn アサート期間拡張	10-23

【D】

DC 特性 (スタンバイ)	32-21
DC 特性 (プルアップ／プルダウン MOS 電流)	32-16
DC 特性 (許容出力電流)	32-18
DC 特性 (出力電圧)	32-17
DC 特性 (消費電流)	32-20
DC 特性 (注入電流)	32-18
DC 特性 (入力リーク電流)	32-15
DC 特性 (入力電圧)	32-13
DC 特性 (入力容量)	32-19
DMAC インタフェース	18-97
DMA 転送フローチャート	11-31, 12-28
DMA 転送要求	11-32

【E】

EEPROM	26-1
EXTTEST コマンド	20-20

【F】

FCU コマンド一覧	25-58
FCU コマンド使用方法	25-64, 26-33
FPU に関する CPU 命令	2-39
FPU 例外	7-16

【H】

HIGHZ コマンド	20-21
------------------	-------

【I】

I/O ポート	23-1
IDCODE モード	20-21
ID 並べ替え	18-30
Integer→Floating-point 変換の動作	11-45
IRQ 割り込み	8-14

【J】

JTAG インタフェース	20-1
--------------------	------

【N】	
NMI 割り込み	8-14

【P】	
PLL 発振器用電源接続時の注意	4-6
POD (ポートアウトブットディスエーブル)	23-57
PWM タイマ動作	13-155, 13-156, 13-157
PWM 機能	13-106
PWM 入力波形計測	13-188

【R】	
RAM	28-1
RAM のデータ保持	28-29
RAM のバス接続図	28-2
RAM のブロック図	28-2
RAM モニタモード	21-22
RAM モニタモードでの端子説明	21-4
RCAN-TL1 のコントロールレジスタ	18-25
RCAN-TL1 のタイマレジスタ	18-58
RCAN-TL1 のメールボックスレジスタ	18-47
RCAN-TL1 のメモリマップ	18-7
RCAN-TL1 の割り込み要因	18-96
RCAN-TL1 の設定	18-71
RCAN-TL1 端子ポート設定	18-99
RCAN 用チャンネルの動作	12-29
RI5C 方式	2-11
ROM	25-1
ROM キャッシュ (ROMC)	27-1
RSPI システム構成例	17-28
RSPI データフォーマット	17-36
RSPI のエラー検出機能	17-42
RSPI のモードと SPCR 設定の関係	17-25
RSPI の初期化	17-45
RSPI 端子の制御	17-27
RSPI 転送フォーマット	17-34, 17-35
RSPI 用チャンネル、SCI 用チャンネルの 転送許可/禁止の条件	12-41
RSPI 用チャンネル、SCI 用チャンネルの動作	12-25

【S】	
SAMPLE/PRELOAD コマンド	20-20
SCI の割り込み要因と A-DMAC	16-41
SCTDR1 への書き込みと TDRE フラグの関係	16-42
SH72546R の特長	1-1
SH72546R のピン配置図	1-10
SH72546R のブロック図	1-9
SH72546R の端子機能	1-11

SRAM アクセスタイミング	10-32
SSL ネゲート期間の MOSI 信号値の決定方法	17-27

【T】	
TAP コントローラ	20-19
TAP コントローラ状態遷移図	20-19
TSG と TSEG の設定	18-36
TTW[1:0] (タイムトリガウィンドウ)	18-21
T ビット	2-12

【あ】	
アイドルサイクル数を定める項目	10-30
アクセスウェイト制御	10-21
アクセスサイクル間アイドル	10-29
アクセスサイズとデータアライメント	10-14
アップ/ダウンイベントカウント	13-192
アドバンスドタイマユニット-III (ATU-III)	13-1
アドバンスドユーザデバッガ-II (AUD-II)	21-1
アドレスアレイ	27-2
アドレスエラー	7-8
アドレスの一致比較の例	21-18
アドレスマップ	10-4
アドレッシングモード	2-15
アナログ入力電圧の範囲	19-47
アナログ入力のサンプリングとスキャン変換時間	19-41
一定時間内エッジカウント	13-182
一般不当命令	7-15
イミディエイトデータ	2-13
イミディエイトデータによる参照	2-13
イミディエイトデータのデータ形式	2-10
インターバルタイマモードの使用法	14-11
インプットキャプチャ動作	13-50, 13-102
ウィンドウデータトレース	21-15
ウォッチドッグタイマ (WDT)	14-1
ウォッチドッグタイマモードの使用法	14-10
エイリアス領域	12-18
エッジ間計測機能	13-76
エッジ間計測ブロック	13-52
エッジ入力停止検出機能	13-76
エラープロテクト	25-85, 26-38
エラープロテクト一覧	25-86, 26-38
エンディアン	10-14
オートリクエストモード	11-32
オーバフロー/アンダフロー	13-196
オフセット誤差	19-46

【か】		スキャン変換終了時の割り込み要求.....	19-45
外形寸法図	付録-6	スキャン変換中の割り込み変換.....	19-39
回転速度/パルス計測.....	13-190	スタックからの復帰.....	8-36
外部空間インタフェース.....	10-15	スタックへの退避.....	8-36
外部クロックの入力方法.....	4-5	ステータスレジスタ (SR)	2-3
外部トリガによるスキャン変換の起動.....	19-43	スリープモード	29-7
書き込み/消去ホストコマンド待ち状態.....	25-49	スリープモード動作.....	17-53
各動作モードにおける PV _{oc} 電圧.....	32-12	スロット不当命令.....	7-15
型名一覧.....	付録-5	整数除算例外.....	7-15
期間カウント動作.....	15-7	製品情報マット	26-39
キャッシュ構成.....	27-2	積和下位レジスタ (MACL)	2-4
共通制御部関連レジスタ.....	13-5	積和上位レジスタ (MACH)	2-4
共通制御部の概要.....	13-21	絶対アドレス.....	2-13
グローバルベースレジスタ (GBR)	2-3	絶対アドレスによる参照.....	2-14
クロックソース.....	4-4	絶対最大定格.....	32-1
クロック同期式モード.....	16-1, 16-32	絶対精度.....	19-46
クロック発振器 (CPG)	4-1	設定可能な AUDCK クロック比.....	21-20
後続エッジキャンセルモード.....	13-44, 13-45, 13-99,13-101, 13-177, 13-178,13-180, 13-181, 13-224,13-226	先行エッジキャンセルモード.....	13-44, 13-45, 13-100,13-101, 13-177, 13-179,13-180, 13-181, 13-225,13-226
故障率曲線 (バスタブカーブ)	30-1	専用ダイレクトメモリアクセスコントローラ (A-DMAC)	12-1
固定モード.....	11-35	送信トリガコントロールフィールド.....	18-21
コントローラエリアネットワーク (RCAN-TL1)	18-1	送信トリガタイム (TTT)	18-21
コントロールレジスタの初期値.....	2-8	送信バッファエンプティ/ 受信バッファフルフラグ.....	17-40
コンペアマッチタイマ (CMT)	15-1	送信用内部アービトレーション.....	18-79
コンペアマッチ動作.....	13-104	ソフトウェアプロテクト.....	25-85, 26-37
コンペアマッチフラグのクリアタイミング.....	15-9	ソフトウェア割り込み (SINT)	8-15
コンペアマッチフラグのセットタイミング.....	15-8		
【さ】		【た】	
サイクルスチールモード.....	11-40	回避されるプログラムカウンタの値.....	9-25
サスペンド動作.....	25-79	タイマ A 関連レジスタ.....	13-6
サポートできる DMA 転送.....	11-38	タイマ A の概要.....	13-32
算術演算命令.....	2-31	タイマ A の動作説明.....	13-46
システム制御命令.....	2-36	タイマ A のブロック図.....	13-33
システムマトリックス.....	18-24	タイマ A のレジスタの説明.....	13-34
システムレジスタの初期値.....	2-8	タイマ B 関連レジスタ.....	13-7
実効アドレスの計算方法.....	2-15	タイマ B の概要.....	13-52
シフト命令.....	2-34	タイマ B の動作説明.....	13-76
ジャンプテーブルベースレジスタ (TBR)	2-3	タイマ B のブロック図.....	13-53
周波数範囲とクロック選択.....	4-3	タイマ B のレジスタの説明.....	13-54
乗算/積和演算.....	2-12	タイマ C 関連レジスタ.....	13-8
シリアルコミュニケーションインタフェース (SCI)	16-1	タイマ C の概要.....	13-87
信頼性について.....	30-1	タイマ C の動作説明.....	13-102
水晶発振子の接続方法.....	4-4	タイマ C のブロック図.....	13-88

タイマ C のレジスタの説明.....	13-89	調歩同期式モードの	
タイマ D 関連レジスタ.....	13-10	受信データサンプリングタイミングと	
タイマ D の概要.....	13-107	受信マージン.....	16-43
タイマ D の動作説明.....	13-133	低消費電力状態.....	2-42
タイマ D のブロック図.....	13-108	低消費電力モード.....	29-1
タイマ D のレジスタの説明.....	13-109	ディスプレイメントによる参照.....	2-14
タイマ E 関連レジスタ.....	13-13	データアクセスサイクルでのブレイク.....	9-24
タイマ E の概要.....	13-139	データアレイ.....	27-2
タイマ E の動作説明.....	13-154	データ転送命令.....	2-28
タイマ E のブロック図.....	13-140	データフォーマット.....	2-1
タイマ E のレジスタの説明.....	13-141	テストモードの設定.....	18-77
タイマ F 関連レジスタ.....	13-16	デュアルアドレスモード.....	11-39
タイマ F の概要.....	13-158	電气的特性.....	32-1
タイマ F のサブブロック図.....	13-159	電源投入時のリセット.....	6-2
タイマ F の動作説明.....	13-182	電源名と端子の関係.....	32-3
タイマ F のレジスタの説明.....	13-161	動作中のリセット.....	6-2
タイマ G 関連レジスタ.....	13-18	動作モード.....	3-1
タイマ G の概要.....	13-197	動作モードと CS0 空間のデータバス幅.....	10-6
タイマ G の動作説明.....	13-202	トラップ命令.....	7-14
タイマ G のブロック図.....	13-197		
タイマ G のレジスタの説明.....	13-198	【な】	
タイマ H 関連レジスタ.....	13-19	内蔵 RAM アドレス空間.....	28-3
タイマ H の概要.....	13-203	内蔵周辺モジュールリクエストモード.....	11-32
タイマ H の動作説明.....	13-210	内蔵周辺モジュール割り込み.....	8-15
タイマ H のブロック図.....	13-203	入力ハイ/ローレベル期間計測.....	13-186
タイマ H のレジスタの説明.....	13-204	ノイズキャンセル動作.....	13-46
タイマ J 関連レジスタ.....	13-19		
タイマ J の概要.....	13-211	【は】	
タイマ J の動作説明.....	13-227	バーストモード.....	11-42
タイマ J のブロック図.....	13-211	ハードウェアスタンバイ時のデータ保持.....	28-29
タイマ J のレジスタの説明.....	13-212	ハードウェアスタンバイモード.....	29-6
タイムスタンプ.....	18-20	ハードウェアプリフェッチ.....	27-10
タイムスレープ.....	18-84	ハードウェアプロテクト.....	25-84, 26-37
タイムトリガコントロール (TT コントロール).....	18-21	倍周クロック生成機能.....	13-78
タイムトリガシステムの例.....	18-87	倍周クロック生成ブロック.....	13-52
タイムトリガ送信.....	18-80	倍周クロック補正機能.....	13-82
ダイレクトメモリアクセスコントローラ		倍周クロック補正ブロック.....	13-52
(DMAC).....	11-1	バイト選択付き SRAM インタフェース.....	10-24
端子状態.....	付録-1	バウンダリスキャンコマンド.....	20-5
遅延スロットなし無条件分岐命令.....	2-12	バスステートコントローラ (BSC).....	10-1
遅延分岐命令.....	2-12	パワーオンリセット.....	7-6
遅延分岐命令の直後の例外要因発生.....	7-17	バンクからの復帰.....	8-35
チャンネルの優先順位.....	11-35, 12-39	バンクの対象レジスタと入出力方式.....	8-33
チャンネル別割り当て機能一覧表.....	19-6	バンクへの退避.....	8-34
調歩同期式モード.....	16-1, 16-24	汎用レジスタ.....	2-1
		汎用レジスタの初期値.....	2-8
		非直線性誤差.....	19-46

ビット操作命令	2-39
ピンファンクションコントローラ (PFC)	22-1
ブートモード	25-31, 26-23
ブートモードの状態遷移	25-32
複数の受信エラーが同時に発生した場合の動作	16-42
浮動小数点演算命令	2-37
浮動小数点システムレジスタ	2-6
浮動小数点システムレジスタの初期値	2-8
浮動小数点レジスタ	2-5
浮動小数点レジスタの初期値	2-8
フリーランニング動作	13-49
プリスケアラ関連レジスタ	13-5
プリスケアラの概要	13-29
プリスケアラの動作開始	13-31
プリスケアラの動作停止	13-31
フルスケール誤差	19-46
フルトレースモード	21-17
ブレイクの送り出し	16-43
ブレイクの検出と処理	16-43
プログラムカウンタ (PC)	2-4
プログラム実行状態	2-42
プロシージャレジスタ (PR)	2-4
プロテクト	25-84, 26-37
分岐トレース	21-13
分岐命令	2-35
分岐元アドレスの定義	21-15
ページ競合	28-30
ベクタベースレジスタ (VBR)	2-3
ポート A	23-4
ポート A コントロールレジスタの初期値	22-9
ポート B	23-7
ポート B コントロールレジスタの初期値	22-18
ポート C	23-13
ポート C コントロールレジスタの初期値	22-29
ポート D	23-16
ポート E	23-20
ポート F	23-25
ポート G	23-31
ポート H	23-38
ポート J	23-40
ポート K	23-47
ポート L	23-53
ボード設計上の注意	4-6, 19-47
ホルトモード	18-73

【ま】

マイクロプロセッサインタフェース (MPI)	18-5
------------------------	------

マスタモード動作	17-46
マルチインプットシグネチャジェネレータ (MISG)	24-1
マルチプレクス一覧表	22-1, 22-2, 22-3, 22-4, 22-5, 22-6
命令形式	2-19
命令セット	2-23
命令による例外	7-14
命令の特長	2-11
命令フェッチサイクルでのブレイク	9-23
メールボックス	18-5, 18-8
メールボックスコントロール	18-5
メールボックスの機能の設定	18-17
メールボックスの再設定	18-93
メールボックスの役割	18-9
メッセージコントロールフィールド	18-13
メッセージ受信シーケンス	18-91
メッセージ送信リクエスト	18-79, 18-86
メッセージデータフィールド	18-19
メモリエラー割り込み	8-15
メモリのデータ形式	2-9
モジュールスタンバイ機能	29-8

【や】

有効エッジ入力間隔計測	13-184
ユーザブートモード	25-82
ユーザブレイクコントローラ (UBC)	9-1
ユーザブレイク割り込み	8-14
ユーザプログラムモード	25-58

【ら】

ラウンドロビンモード	11-35
リアルタイムトレースモード	21-16
リセット解除時の内部状態	6-3
リセットシーケンス	6-2, 18-72
リセット時の内蔵 RAM データ保持	6-2
リセット状態	2-41
リセット動作	6-1
リセット時の内蔵 RAM データ保持	28-29
量子化誤差	19-46
ループバックモード	17-57
ルネサスシリアルペリフェラルインタフェース (RSPI)	17-1
例外処理	7-1
例外処理後のスタックの状態	7-18
例外処理状態	2-41
例外処理ベクタテーブル	7-4

例外処理ベクタテーブルアドレスの算出法.....	7-5	BAMR.....	9-5, 9-9, 9-12, 9-16
例外要因の種類と優先順位	7-1	BAR.....	9-4, 9-8, 9-11, 9-15
レジスタ		BBR.....	9-6, 9-10, 9-13, 9-17
ABACK0.....	18-53	BCR0.....	18-35
ABACK1.....	18-53	BCR1.....	18-33
ADADC0、1.....	19-21	BRCR.....	9-19
ADADS0.....	19-19	CBCNT.....	13-25
ADADS1.....	19-20	CCR.....	18-65
ADANS0.....	19-16	CDRF0~19.....	13-176
ADANS1.....	19-16	CHCR0~CHCR7.....	11-10
ADANS3.....	19-17	CHFR0~CHFR7.....	11-14
ADCER0、1.....	19-14	CKCR.....	23-57
ADCSR0、1.....	19-12	CMAX_TEW.....	18-61
ADMAABR.....	12-8	CMCNT.....	15-6
ADMAAR.....	12-14	CMCOR.....	15-6
ADMABUF.....	12-15	CMCR.....	15-4
ADMADE.....	12-12	CMPOD0、CMPOD1.....	13-126
ADMADV.....	12-10	CMSR.....	15-5
ADMAIE.....	12-9	CMSTR.....	15-3
ADMAMODE.....	12-13	CRLDE00~53.....	13-152
ADMAOR.....	12-8	CSnBCR (n=0~3).....	10-7
ADMARAR.....	12-15	CSnWCR (n=0~3).....	10-10
ADMARTCR.....	12-15	CYCTR.....	18-67
ADMARVPR.....	12-16	CYLRE00~53.....	13-151
ADMATCR.....	12-14	DAR0~DAR7.....	11-9
ADMATE.....	12-11	DCNTD00~33.....	13-132
ADMATVPR.....	12-17	DCRD0~3.....	13-119
ADR0~27、40~48、ADRD0、1.....	19-9	DMAFR.....	11-24
ADREF0、1.....	19-17	DMAOR.....	11-22
ADSTRG0.....	19-26	DMARS0~DMARS3.....	11-26
ADSTRG1.....	19-27	DMATCR0~DMATCR7.....	11-9
ADTRD0.....	19-30	DRLDE00~53.....	13-153
ADTRD1.....	19-31	DSRD0~3.....	13-118
ADTRE0.....	19-22	DSTRD0~3.....	13-117
ADTRE1.....	19-23	DTRE00~53.....	13-152
ADTRF0.....	19-28	ECNTAF0~19.....	13-169
ADTRF1.....	19-29	ECNTBF0~19.....	13-170
ADTRS0.....	19-24	ECNTCF0~19.....	13-171
ADTRS1.....	19-25	EEPBCCNT.....	26-18
ARCR4~ARCR7.....	11-21	EEPBCSTAT.....	26-19
ATUENR.....	13-22	EEPSTAT.....	26-20
AUCSR.....	21-5	EEPPE0.....	26-13
AUECSR.....	21-10	EEPPE1.....	26-14
AUWAER.....	21-8	EEPWE0.....	26-15
AUWASR.....	21-8	EEPWE1.....	26-16
AUWBER.....	21-9	FAEINT.....	25-10, 26-11
AUWBSR.....	21-9	FASTAT.....	25-7, 26-8

FCPSR.....	25-27	NCNTA0~5.....	13-44
FCRJ0、1.....	13-216	NCNTC00~43.....	13-99
FCURAME.....	25-12	NCNTFA0~19.....	13-177
FDNRJ0、1.....	13-224	NCNTFB0~2.....	13-178
FENTRYR.....	25-18, 26-17	NCNTJ0、1.....	13-224
FIFOJ0、1.....	13-223	NCRA0~5.....	13-45
FMODR.....	25-7, 26-7	NCRC00~43.....	13-101
FPESTAT.....	25-28	NCRFA0~19.....	13-180
FPMON.....	25-6	NCRFB0~2.....	13-181
FPROTR.....	25-24	NCRJ0、1.....	13-226
FPSCR.....	2-6	OCR1H.....	13-208
FPUL.....	2-6	OCRB0.....	13-62
FRAMECCR.....	25-17	OCRB1.....	13-63
FRESETR.....	25-25	OCRB6.....	13-70
FSTATR0.....	25-13	OCRB7.....	13-71
FSTATR1.....	25-15	OCRD00~33.....	13-130
GRAF0~19.....	13-172	OCRG0~5.....	13-201
GRBF0~19.....	13-173	OCRJ0、1.....	13-222
GRC00~43.....	13-98	OSBRD0~3.....	13-128
GRCF0~19.....	13-174	PACR1.....	22-16
GRD00~33.....	13-131	PACR2.....	22-14
GRDF12~15.....	13-175	PACR3.....	22-12
GSR.....	18-31	PACR4.....	22-10
IBCR.....	8-11	PADR.....	23-5
IBNR.....	8-12	PAIOR.....	22-9
ICR0.....	8-8	PAPR.....	23-6
ICR1.....	8-9	PBCR1.....	22-26
ICRA0~5.....	13-42	PBCR2.....	22-23
ICRB0.....	13-62	PBCR3.....	22-21
ICRB1.....	13-64	PBCR4.....	22-19
ICRB2.....	13-64	PBDR.....	23-8
IMR.....	18-44	PBDSR.....	23-11
IPR01~IPR29.....	8-6	PBIOR.....	22-18
IRQRR.....	8-10	PBIR.....	23-10
IRR.....	18-37	PBPR.....	23-9
LDB.....	13-65	PBPSR.....	23-12
MBECEC.....	18-45	PCCR1.....	22-36
MBESR.....	18-44	PCCR2.....	22-34
MBIMR0.....	18-57	PCCR3.....	22-32
MBIMR1.....	18-56	PCCR4.....	22-30
MCR.....	18-25	PCDR.....	23-14
MISR.....	24-3	PCIOR.....	22-29
MISRCDR.....	24-2	PCPR.....	23-15
MISRRC.....	24-4	PDCR1.....	22-40
NCCRC0~4.....	13-90	PDCR2.....	22-38
NCCRF.....	13-162	PDDR.....	23-17
NCMR.....	13-26	PDIOR.....	22-38

PDIR	23-19	PLCR2.....	22-62
P DPR	23-18	PLDR	23-54
PECR1	22-44	PLIOR.....	22-62
PECR2	22-42	PLIR	23-56
PEDR	23-21	PLPR	23-55
PEDSR.....	23-24	PSCR0~3.....	13-30
PEIOR	22-42	PSCRE0~5	13-143
PEIR	23-23	RAMACYC	28-23
PEPR	23-22	RAMECC.....	28-17
PFCR1	22-48	RAMEN0、1.....	28-4
PFCR2	22-46	RAMERR.....	28-18
PFDR	23-26	RAMINT.....	28-21
PFDSR.....	23-29	RAMWEN0、1.....	28-11
PFIOR	22-46	RARCR4~RARCR7.....	11-21
PFIR	23-28	RCCR	27-3
PFPR	23-27	RCCR2.....	27-5
PFPSR	23-30	RDAR0~RDAR7.....	11-19
PGCR1.....	22-52	RDMATCR0~RDMATCR7	11-20
PGCR2.....	22-50	REC.....	18-46
PGDR.....	23-32	RFMK	18-67
PGDSR	23-36	RFPR0.....	18-56
PGER.....	23-37	RFPR1.....	18-55
PGIOR	22-50	RFTROFF.....	18-62
PGIR	23-35	RLDB.....	13-66
PGPR.....	23-34	RLDCRE0~5	13-145
PHCR.....	22-54	ROMMAT	25-11
PHDR.....	23-38	RSAR0~RSAR7	11-18
PHIOR.....	22-54	RXPR0	18-55
PHPR	23-39	RXPR1	18-54
PIMR	13-68	SAR0~SAR7	11-8
PJCR1.....	22-57	SCBRR1.....	16-17
PJCR2.....	22-56	SCRDR1.....	16-7
PJDR.....	23-41	SCRSR1.....	16-7
PJDSR	23-44	SCSCR1.....	16-10
PJIOR	22-56	SCSMR1	16-8
PJIR	23-43	SCSSR1	16-13
PJPR.....	23-42	SCTDR1	16-8
PJPSR	23-46	SCTSR1	16-7
PKCR1	22-60	SDBPR.....	20-5
PKCR2	22-59	SDBSR.....	20-5
PKDR	23-48	SDID.....	20-5
PKDSR.....	23-51	SDIR.....	20-5
PKIOR.....	22-59	SINTR1~SINTR15	8-13
PKIR	23-50	SPBR	17-17
PKPR	23-49	SPCKD	17-18
PKPSR.....	23-52	SPCMD	17-21
PLCR1	22-63	SPCR	17-7

SPDR.....	17-13	TIOR1A	13-36
SPND.....	17-20	TIOR1D0~3.....	13-113
SPPCR.....	17-10	TIOR2A	13-37
SPSCR.....	17-14	TIOR2D0~3.....	13-115
SPSR	17-11	TIORB	13-55
SPSSR.....	17-15	TIORC0~4.....	13-96
SSLND.....	17-19	TOCRD0~TOCRD3.....	13-127
SSLP	17-9	TOCRE0~5	13-149
SSTRE0~5.....	13-142	TSR	18-63
STBCR.....	29-3	TSRA	13-39
TCCLRB.....	13-75	TSRB	13-57
TCMR0~2	18-67	TSRC0~4	13-93
TCNT1D0~3	13-128	TSRD0~3.....	13-121
TCNT1H	13-207	TSRE0~5	13-146
TCNT2D0~3	13-129	TSRF0~19	13-167
TCNT2H.....	13-209	TSRG0~5.....	13-200
TCNTA	13-43	TSRH	13-205
TCNTB0.....	13-61	TSRJ0、1.....	13-217
TCNTB1.....	13-63	TSTRC	13-89
TCNTB2.....	13-67	TSTRD	13-109
TCNTB3.....	13-72	TSTRE.....	13-141
TCNTB4.....	13-73	TSTRF.....	13-161
TCNTB5.....	13-74	TSTRG	13-198
TCNTB6.....	13-69	TSTRJ	13-212
TCNTC0~4	13-98	TTCR0.....	18-59
TCNTE00~53.....	13-150	TTTSEL	18-69
TCNTG0~5	13-201	TXACK0	18-52
TCNTJ0、1	13-222	TXACK1	18-52
TCNTR.....	18-66	TXCR0.....	18-51
TCRA	13-34	TXCR1.....	18-51
TCRB	13-54	TXPR0.....	18-50
TCRC0~4.....	13-91	TXPR1.....	18-49
TCRD0~3.....	13-110	UMSR0	18-58
TCRE0~5.....	13-144	UMSR1	18-57
TCRF0~19.....	13-164	WRCR	14-7
TCRG0~5	13-199	WTCNT	14-5
TCRH	13-204	WTCR.....	14-3
TCRJ0、1	13-213	WTSR.....	14-6
TEC.....	18-46	レジスタのデータ形式.....	2-9
TEMSK0~TEMSK7	11-16	レジスタバンク	2-7, 8-33
TIERA	13-41	レジスタバンクエラー	7-10
TIERB	13-59	レジスタバンクエラー例外処理.....	8-37
TIERC0~4.....	13-95	レジスタバンクの例外.....	8-37
TIERD0~3.....	13-125	連続スキャンモード	19-34
TIERE0~5.....	13-148	ローカルアクセプタンスフィルタマスク	
TIERF0~19	13-166	(LAFM)	18-18
TIERJ0、1.....	13-221	ロードストアアーキテクチャ	2-11

論理演算命令 2-33

【わ】

ワードデータの符号拡張 2-11

割り込み 7-11

割り込み応答時間 8-28

割り込みコントローラ (INTC) 8-1

割り込み変換終了時の割り込み要求 19-45

割り込み優先順位 7-12

割り込み要因クリアのタイミング 8-41

割り込み要求信号によるデータ転送 8-38

割り込み例外処理 7-13

割り込み例外処理終了後のスタックの状態 8-27

割り込み例外ベクタと優先順位 8-17

ワンショットパルス動作 13-135, 13-137, 13-138

SH72546R ユーザーズマニュアル
ハードウェア編

発行年月日 2011年3月10日 Rev.1.00
2014年4月1日 Rev.2.00

発行 ルネサス エレクトロニクス株式会社
〒211-8668 神奈川県川崎市中原区下沼部1753



ルネサスエレクトロニクス株式会社

■営業お問合せ窓口

<http://www.renesas.com>

※営業お問合せ窓口の住所は変更になることがあります。最新情報につきましては、弊社ホームページをご覧ください。

ルネサス エレクトロニクス株式会社 〒100-0004 千代田区大手町2-6-2 (日本ビル)

■技術的なお問合せおよび資料のご請求は下記へどうぞ。

総合お問合せ窓口：<http://japan.renesas.com/contact/>

SH72546R